年度	2017	授業コード	A80000101
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放った．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる予定であったが、「世界経済のリスク」を考慮して見送られた．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	A80000102
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	特に使用しない		
教材（その他）	講義用レジュメを京学ナビに upload します。		
評価方法	学期末試験（100%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を経済学の視点で理解すること。		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認すること。		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されています。それらを報道評価する新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につけ、それらをうのみにしないで批判的に評価する視点を常にもちましょう。

講義の順序とポイント

最初の講義の際により詳しい目次をお知らせします。

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	A80000301
科目名	ビジネスデータの見方	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
講義の順序とポイント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2017	授業コード	A80000901
科目名	京都のビジネス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	京都は伝統と進取の気質に富むまちであり、観光などのサービス産業だけでなく、中小・中堅企業を中心にした「ものづくり産業」が地域経済を支えている。本講義「京都のビジネス」は、地域金融、観光、情報、医療、ものづくりなどの各分野で京都経済界を担う経営者などをゲストスピーカーとして招き、京都経済の特徴と魅力を論じる。これにより、企業を見る眼を養うとともに、ビジネスシーンへの理解を深め、各専門分野における学修への動機づけを与える。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業中に毎回課すレポート（100%）。		
到達目標	１．各業界のビジネスシーンの理解を深めるとともに、企業を見る眼を養う。 ２．企業が、さまざまな状況の中で、どのような問題をどのように解決しようとし、どのような人材を求めているのかということを把握する。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に原則、授業１週間前までにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。前回授業内容を前提としたレポートも課すので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
各業界の動向について、新聞などのニュースソースから自分なりに把握するよう心掛けてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．京都のビジネス概観その１ ２．京都のビジネス概観その２ ３．京都の精密機械製造業界 ４．京都の電子部品製造業界その１ ５．京都の電子部品製造業界その２ ６．京都の和菓子製造業界 ７．京都の金属精密加工業界 ８．京都の農産物生産業界 ９．京料理業界 10.京都の印刷業界 11.京都の染色業界 12.京都の絹織物製造業界 13.宇治茶製造業界 14.京都の漬物製造業界 15.京都の清酒製造業界			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	A81000102
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
講義の順序とポイント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2017	授業コード	A81000103
科目名	マクロ経済入門 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	経済学 B
講義概要	マクロ経済学は，日常的に新聞やテレビを通じて関心を持っている問題を扱っています。そして，何がいま日本経済で起こっているのか，そして何が問題なのかを分析し解決する道具と指針を与えてくれます。 経済・経営・商学系の学生が必須の内容となっており，特に景気・失業・物価といった経済学の 3 つのテーマを考えて行く上で必要な基礎を本講義では取り上げて行きます。その舞台でどのような登場人物が活躍しているか経済学的なストーリー展開の中から考察して行きます。		
教材（テキスト）	福田慎一・照山博司　「マクロ経済学・入門　第 5 版」　有斐閣アルマ ISBN-13: 978-4641220669		
教材（参考文献）	伊藤元重　「入門　経済学　第 4 版」　日本評論社 他，適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜授業等で配布します。		
評価方法	授業中の演習，レポート，試験（中間・期末）で総合的に評価する。 配分割合は個別に選択してもらいます。		
到達目標	（1）経済学的な物の見方考え方を学ぶ。 （2）グラフや式による経済学的な表現を学ぶ。 （3）順序立てて経済的な因果関係を説明できるようになる。		
準備学習	事前に教科書を読むことを薦めます。なお，授業でそれぞれのトピックの概要を説明しますので，確認と質疑によりより深い学習効果が得られると思います。		
受講者への要望			
授業中は講義スライドを配布する予定です。理論の解説を順序良く理解することとポイントをメモするようにして下さい。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 GDP とは何だろうか？ 第 3 回 消費と貯蓄はどのようにして決まるか？ 第 4 回 設備投資と在庫投資 第 5 回 金融と株価 第 6 回 貨幣の需要と供給 第 7 回 乗数理論と IS-LM 分析 第 8 回 経済政策はなぜ必要か？ 第 9 回 振り返り学習 第 10 回 財政政策と国債 第 11 回 インフレとデフレ 第 12 回 失業 第 13 回 経済成長理論 第 14 回 オープン・マクロ経済 第 15 回 アドバンストトピック			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	A81000104
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小田　勇一	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，経済成長、物価の計算、需要の役割などマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『入門　経済学　第 4 版』　伊藤元重　日本評論社 ※ 第 3 版も可		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した資料		
評価方法	授業中の課題、中間・期末試験で総合的に評価する。		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと財政政策について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）経済活動における需要の役割を理解する。 （3）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産 第 4 回 国内総生産と物価 第 5 回 物価の計算方法 第 6 回 経済成長率の計算 第 7 回 支出面と分配面の国内総生産 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 マクロ経済の需要と供給 第 10 回 経済成長と寄与度 第 11 回 マクロ経済学で用いる数学 第 12 回 需要の波及と乗数プロセス 第 13 回 消費関数 第 14 回 マクロ経済の均衡 第 15 回 45 度線モデルで見る財政政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2017	授業コード	A81000202
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	経済学 A
講義概要	ミクロ経済学とは何かという説明から一般均衡理論までを本講義で取り扱うトピックとする。家計や企業がどの ような行動原理に基づいて財・サービスの消費や生産を行っているのかを解説する。家計のとる行動と企業の とる行動によって財・サービスの価格と供給量が市場でどのように決定されるのかについて理解することを最 終的な目標とする。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第 2 版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%）。定期テスト(60%)		
到達目標	ミクロ経済学における各経済主体の行動原理を理解する。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
各講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．経済の全体像 ２．効率的な買い物：効用概念と予算制約 ３．所得変化と価格変化 ４．財の分類：弾力性という概念 ５．労働と余暇 ６．消費者行動のまとめ ７．効率的な生産①：限界生産力と利潤最大化 ８．効率的な生産②：等費用線と費用最小化 ９．費用の分類：固定費用と可変費用 １０．企業がつぶれるタイミング：損益分岐点と操業停止点 １１．長期的な生産計画 １２．完全競争市場：市場均衡 １３．余剰分析 １４．効率的な資源配分 １５．講義の総括と演習問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	−	★★

年度	2017	授業コード	A81000203
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	経済学 A
講義概要	ミクロ経済学とは何かという説明から一般均衡理論までを本講義で取り扱うトピックとする。家計や企業がどの ような行動原理に基づいて財・サービスの消費や生産を行っているのかを解説する。家計のとる行動と企業の とる行動によって財・サービスの価格と供給量が市場でどのように決定されるのかについて理解することを最 終的な目標とする。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第 2 版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%）。定期テスト(60%)		
到達目標	ミクロ経済学における各経済主体の行動原理を理解する。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
各講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．経済の全体像 ２．効率的な買い物：効用概念と予算制約 ３．所得変化と価格変化 ４．財の分類：弾力性という概念 ５．労働と余暇 ６．消費者行動のまとめ ７．効率的な生産①：限界生産力と利潤最大化 ８．効率的な生産②：等費用線と費用最小化 ９．費用の分類：固定費用と可変費用 １０．企業がつぶれるタイミング：損益分岐点と操業停止点 １１．長期的な生産計画 １２．完全競争市場：市場均衡 １３．余剰分析 １４．効率的な資源配分 １５．講義の総括と演習問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	−	★★

年度	2017	授業コード	A81000204
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	経済学 A
講義概要	ミクロ経済学とは何かという説明から一般均衡理論までを本講義で取り扱うトピックとする。家計や企業がどの ような行動原理に基づいて財・サービスの消費や生産を行っているのかを解説する。家計のとる行動と企業の とる行動によって財・サービスの価格と供給量が市場でどのように決定されるのかについて理解することを最 終的な目標とする。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第 2 版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%）。定期テスト(60%)		
到達目標	ミクロ経済学における各経済主体の行動原理を理解する。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

１．経済の全体像
２．効率的な買い物：効用概念と予算制約
３．所得変化と価格変化
４．財の分類：弾力性という概念
５．労働と余暇
６．消費者行動のまとめ
７．効率的な生産①：限界生産力と利潤最大化
８．効率的な生産②：等費用線と費用最小化
９．費用の分類：固定費用と可変費用
１０．企業がつぶれるタイミング：損益分岐点と操業停止点
１１．長期的な生産計画
１２．完全競争市場：市場均衡
１３．余剰分析
１４．効率的な資源配分
１５．講義の総括と演習問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	−	★★

年度	2017	授業コード	A81000301
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済入門では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデル，例えば，部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．加えて，近年，TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが，関税が賦課されていると，１国の国益がどのように損なわれるかも説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	1 回生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	A81000302
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済入門では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデル，例えば，部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．加えて，近年，TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが，関税が賦課されていると，１国の国益がどのように損なわれるかも説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	1 回生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	A81000303
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済入門では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデル，例えば，部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．加えて，近年，TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが，関税が賦課されていると，１国の国益がどのように損なわれるかも説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	1 回生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	A81000402
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される事になる．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠である． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（1） 3.　日本経済の現況と政策課題（2） 4.　日本経済の現況と政策課題（3） 5.　市場社会の変容と三重秩序（1） 6.　市場社会の変容と三重秩序（2） 7.　市場社会の変容と三重秩序（3） 8.　市場社会の変容と三重秩序（4） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（1） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（2） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（3） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（1） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（2） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（3） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	A81000502
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の課題、中間・期末試験で総合的に評価する。		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1.市場と政府の役割
2.財政の 3 機能
3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性
4.経済安定化機能(2):需要と景気
5.経済安定化機能(3):政府の景気対策①
6.経済安定化機能(4):政府の景気対策②
7.所得再分配(1):再分配の必要性
8.所得再分配(2):再分配の方法
9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差
10.資源の効率的配分(1):需要と供給
11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム
12.資源の効率的配分(3):市場の失敗
13.租税(1):租税三原則
14.租税(2):所得税と消費税①
15.租税(3):所得税と消費税②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	–	★★	★

年度	2017	授業コード	A81000503
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	林　智子	旧科目名称	
講義概要	我々の日常生活では、毎日、お金のやり取りが行われる。そのお金の出入りを政府活動を通じてみたものが財政である。政府活動は、道路建設など我々の日常において身近に感じられるものから、国防・外交など身近に感じられないものまで様々ある。それら様々な政府活動により国民の生活は支えられている。 講義では、財政の理論と制度、政策をわかりやすく説明する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	神野直彦　『財政学』　有斐閣 橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の課題、試験等で総合的に判断する。		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。 政府活動を身近に考えることができるようになること。 自らの問題として財政問題を考え、応用力や実践力を養成することを目的とする。		
準備学習	普段からニュース等、積極的に見聞きして、政治経済、財政問題に関心をもつこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1. 財政とは何か
2. 財政学の歩み
3. 市場と政府の役割
4. 日本財政の現状
5. 財政３機能
6. 資源配分機能
7. 所得再分配機能
8. 経済安定機能
9. 予算制度
10. 租税の意義と租税原則
11. 租税制度（１）所得税
12. 租税制度（２）消費税
13. 公債
14. 地方財政
15. 総まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	A81000601
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は日本証券業協会の協力で実施されます。現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義が主となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。 当然のことながら、外部の人が講師として来られますので、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講者への要望

毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。　受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

講義の順序とポイント

1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて
2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み
3．　マネープランの必要性と金融商品
4．　債券の基礎知識
5．　債券投資の実際
6．　株式投資の魅力とリスク
7．　株価の変動要因
8．　決算書の見方
9．　主な投資指標の見方
10．　株式投資の判断
11．　投資信託をの基礎知識
12．　投資信託を選ぶポイント
13．　資産運用の概要
14．　資産運用はどうあるべきか
15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	A81000602
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は日本証券業協会の協力で実施されます。現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義が主となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。 当然のことながら、外部の人が講師として来られますので、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講者への要望

毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。　受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

講義の順序とポイント

1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて
2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み
3．　マネープランの必要性と金融商品
4．　債券の基礎知識
5．　債券投資の実際
6．　株式投資の魅力とリスク
7．　株価の変動要因
8．　決算書の見方
9．　主な投資指標の見方
10．　株式投資の判断
11．　投資信託をの基礎知識
12．　投資信託を選ぶポイント
13．　資産運用の概要
14．　資産運用はどうあるべきか
15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	A81001301
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
講義の順序とポイント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2017	授業コード	A81001302
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②中間試験および授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		
受講者への要望			
１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 ２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 ３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
講義の順序とポイント			
１．講義の順序 第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か 第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第８回：前半の白書の要点整理とその確認テスト 第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第１５回：後半の白書の要点整理とレポート課題の案内 ２．昨年 2016 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 「経済財政白書」（内閣府）　「労働経済白書」（厚生労働省）　「消防白書」（消防庁）　「国土交通白書」（国土交通省） 「食料・農業・農村白書」（農林水産省）　「防衛白書」（防衛省）　「外交青書」（外務省）　「観光白書」（観光庁） 「情報通信白書」（総務省）　「京都市地域創生計画」（京都市）　など			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	A85000301
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	A85000302
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	A85000401
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。 また当日の講義内容については、復習を行うと共に、事前に配布する次回の授業用資料については、熟読の上、内容の把握に努めること。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商業の発展(商業・商人学の観点から）　① 3　商業の発展(商業・商人学の観点から）　② 4　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 5　②（伝統的・近代的接近方法） 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構の現状と課題 9　小売り機構の業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街と中小企業 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	A85000402
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。 また当日の講義内容については、復習を行うと共に、事前に配布する次回の授業用資料については、熟読の上、内容の把握に努めること。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商業の発展(商業・商人学の観点から）　① 3　商業の発展(商業・商人学の観点から）　② 4　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 5　②（伝統的・近代的接近方法） 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構の現状と課題 9　小売り機構の業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街と中小企業 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	A85000501
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家）精神が求められるようになった。 新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで講義では、幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の事業や経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は激しくかつ急速に変化し、、市場や提供する財・サービスもきわめて細分化・短命化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境変化の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しくかつ急速に変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えて行けば良いのか、原理原則と基本を明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）	必要の都度指示する		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	随時プリントを配付する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考える。 この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標としたい。		
準備学習	事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには,単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれたい。 また教科書、配布資料などについては事前に熟読するとともに、適宜実施するレポート作成のため、復習にも心がけられたい。		
受講者への要望			
受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　経営をめぐる環境の変化 3　事業構想の概念・構想策定の視点(j 事業とは、構想とは)① 4　事業構想の概念・構想策定の視点(j 事業とは、構想とは)② 5　事業構想に求められる思考プロセス① 6　事業構想に求められる思考プロセス② 7　事業構想とアントレプレナー（起業家）① 8　事業構想とアントレプレナー（起業家）② 9　構想と経営認識（創造力・効率性・リスクの回避・リーダーシップ 10　事業構想（起業）策定のプロセスの基本 11　事業機会の認識・経営資源の調達・ビジネスシステムの構築 12　戦略的コスト・リスク・市場への対応 13　事業構想の評価 14　日本の公的創業支援制度 15　これからの事業構想へ向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	A85000502
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家）精神が求められるようになった。 新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで講義では、幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の事業や経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は激しくかつ急速に変化し、、市場や提供する財・サービスもきわめて細分化・短命化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境変化の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しくかつ急速に変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えて行けば良いのか、原理原則と基本を明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）	必要の都度指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	随時プリントを配付する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考える。 この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標としたい。		
準備学習	事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには,単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれたい。 また教科書、配布資料などについては事前に熟読するとともに、適宜実施するレポート作成のため、復習にも心がけられたい。		
受講者への要望			
受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　経営をめぐる環境の変化 3　事業構想の概念・構想策定の視点(j 事業とは、構想とは)① 4　事業構想の概念・構想策定の視点(j 事業とは、構想とは)② 5　事業構想に求められる思考プロセス① 6　事業構想に求められる思考プロセス② 7　事業構想とアントレプレナー（起業家）① 8　事業構想とアントレプレナー（起業家）② 9　構想と経営認識（創造力・効率性・リスクの回避・リーダーシップ 10　事業構想（起業）策定のプロセスの基本 11　事業機会の認識・経営資源の調達・ビジネスシステムの構築 12　戦略的コスト・リスク・市場への対応 13　事業構想の評価 14　日本の公的創業支援制度 15　これからの事業構想へ向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	A85000701
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 ビジネスモデル 2 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	A85000702
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 ビジネスモデル 2 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	A85000801
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 経営情報概論では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（テキスト）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(サイズは主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(35%)、 レポート(30%)、 定期試験(35%) で評価する。		
到達目標	経営情報は・企業経営にとってどのような意味をもつのか、経営的視点および情報システムの観点から考察する。 特に戦略論・組織論・ビジネスプロセスと情報システムの関わりを学ぶ。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．　受講ガイダンス
2.　経営情報論の基礎
3.　経営情報論の基礎理論
4.　経営情報システムの変遷
5. 反転学習(理解度確認)
6.　情報通信技術の進展
7.　経営情報システムの設計・開発
8.　経営情報システムの管理
9.　情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10. 反転学習(理解度確認)
11.　ネット・ビジネス
12.　情報通信技術と組織変革
13.　情報通信技術と組織コミュニケーション
14.　情報通信技術と社会
15.　まとめと今後の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	A85000802
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 経営情報概論では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（テキスト）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(サイズは主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(35%)、 レポート(30%)、 定期試験(35%) で評価する。		
到達目標	経営情報は・企業経営にとってどのような意味をもつのか、経営的視点および情報システムの観点から考察する。 特に戦略論・組織論・ビジネスプロセスと情報システムの関わりを学ぶ。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		
受講者への要望			
授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1．　受講ガイダンス 2.　経営情報論の基礎 3.　経営情報論の基礎理論 4.　経営情報システムの変遷 5. 反転学習(理解度確認) 6.　情報通信技術の進展 7.　経営情報システムの設計・開発 8.　経営情報システムの管理 9.　情報通信技術とビジネス・プロセス革新 10. 反転学習(理解度確認) 11.　ネット・ビジネス 12.　情報通信技術と組織変革 13.　情報通信技術と組織コミュニケーション 14.　情報通信技術と社会 15.　まとめと今後の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	A90010001
科目名	栄養学	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Nutrition		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	栄養とは、生物が食物を摂取することによって、生命および健康の維持、発育・成長などの生命活動に必要な物質、すなわち栄養素を体内に取り込み、利用する営みである。本講義では、栄養素の種類とそれらの構造および生理機能、消化・吸収、エネルギー代謝などの基本的概念を正しく理解することを目的とする。さらに、健康の保持・増進、疾病予防と回復促進、体づくりのために必要な栄養と食生活など、実践的な栄養学についても紹介する。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	『ポケットアトラス栄養学』（ガイアブックス）　ハンス・コンラート・ビーザルスキ 著 2,808 円 『基礎栄養学（健康・栄養科学シリーズ）改訂第 4 版』（南江堂）　奥恒行、柴田克己 編 3,024 円		
教材（その他）	授業中にプリントを配布する。 京学なびおよび共通ドライブによりファイルを提供する。		
評価方法	定期テスト（50%）、授業内小テスト（30%）、レポート（20%）		
到達目標	健康づくり・体づくりなどの実践の礎とするために、栄養の基礎知識を正しく理解する。		
準備学習	毎回、京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず、関連分野についても発展的に調べておく。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。 日頃から新聞等のメディアを意識し、自分自身が摂取している食事や食品成分に関心を持っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．はじめに　-栄養学とは-：9/28（木）② 2．栄養成分の消化吸収：10/5（木）② 3．糖質の機能と代謝：10/12（木）② 4．アミノ酸とタンパク質の機能と代謝：10/19（木）② 5．脂質の機能と代謝：10/26（木）② 6．エネルギー代謝：11/2（木）② 7．ビタミン、ミネラルおよび水の生理作用：11/9② 8．疾病予防や健康づくり・体づくりのための食生活：11/16⑤			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	A90012001
科目名	内科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Internal Medicine		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	内科学
講義概要	ここ半世紀、日本を含む先進国では、その疾病・死亡構造は感染症から生活習慣病へと大きく変貌してきた。がん、脳血管障害、心臓病、糖尿病などの代謝疾患、アレルギー性疾患などの生活習慣病は、個々人の誕生から現在に至る数十年間にわたる環境履歴により形成されたライフスタイルと遺伝素因が複雑に交絡しあい、加齢による効果と相まって発症する。しかもその発症率は 40~50 歳代から大きく増加することから、我が国のように少子高齢化が急激に進行する社会では、大きな健康脅威となっている。本講義では、このような生活習慣病増加の制御を中心に講義を行う。		
教材（テキスト）	『図解病態治療学』　（診断と治療社）　丹羽利充　3,300 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	スライド		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	生活習慣病を中心に、今日発症頻度の多い疾患について、十分に理解すること。		
準備学習	授業の前に、テキストを読んで予習をしておくこと。また、授業では、触れていない分野に於いても、テキストで自習すること。		

受講者への要望

教科書（テキスト）は、わかりやすく疾患の病態と治療について簡潔にまとめてあるので、この教科書を暗記するくらい、繰り返し読んでいただきたい。また、授業では、ポイントとなる所を講義するので、必ず出席してもらいたい。

講義の順序とポイント

１．健康と疾患、およびその主な症状・徴候
２．虚血性心疾患
３．高血圧と脂質異常症
４．肺炎と気管支喘息
５．肺癌
６．食道、胃、十二指腸の疾患とピロリ菌感染
７．肝臓の疾患(1)
８．肝臓の疾患（２）
９．膵臓の疾患
１０．急性腎不全と慢性腎不全
１１．糖尿病とメタボリックシンドローム
１２．生活習慣病と健康寿命
１３．脳血管障害
１４．感染症
１５．中高年の健康的な食事と栄養

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	A90013001
科目名	小児科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatrics		
担当者名	全　有耳	旧科目名称	
講義概要	子どもは、出生から身体の成長と発達を経て大人になる。小児科学は、出生から思春期までの、身体の構造と機能の異常を扱う診療科目である。本講義では、新生児と幼児期・学童期の成長と発達、出生時や赤ちゃんの観察と神経心理学的評価、運動・言語・適応行動の発達の指標を学ぶ。また、小児の健康障害として先天異常（ダウン症等)、脳性麻痺、呼吸・循環器疾患、感染症等、各種疾患の原因および経過と症状、治療について解説をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	『小児科学・発達障害学第２版』（医学書院）　宮尾益知　編　3,500 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内の小テスト等(30%)、授業中に課すレポート(70%)		
到達目標	出生から成人に至るまでの身体および精神の成長と発達を正常及び異常である疾患の両面から理解することを目標とする。		
準備学習	8 つの単元について授業内に小テストを行うので復習すること。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．小児の発達と成長（冨井）：11/14（火） ２．胎児医学と出生前医学、周産期医学（髙井）：11/21（火） ３．脳性麻痺と運動器疾患（太田）：11/28（火） ４．てんかんと痙攣性疾患（阪上）：12/5（火） ５．中枢神経の奇形、変性疾患、脳腫瘍など（河辺）：12/12（火） ６．感染症（金田）：12/19（火） ７．発達障害の診断と障害特性（全）：1/16（火） ８．その他[循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病・アレルギー疾患、血液疾患、泌尿生殖器疾患、精　　神疾患（心身症を含む）（金山）：1/23（火）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	A90014001
科目名	精神医学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatry		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
講義概要	精神医学は、精神の異常あるいは病的な状態の理解と治療を行なう診療科目である。本講義では、意識・思考形式・思考内容・欲動・気分・感情・自我意識などの精神症候に関する基本的概念と、小児・思春期・成人・高齢者の精神心理的特徴、パーソナリティ（人格）、精神評価、診断分類（ＩＣＤ、ＤＳＭ）、ならびに主要な精神疾患（統合失調症、気分障害、不安障害、物質関連障害、てんかん、摂食障害、睡眠障害）の特徴と治療、薬剤の副作用、メンタルヘルスについて概説する。		
教材（テキスト）	『精神医学 マイテキスト 改訂 2 版』（金芳堂） 武田雅俊 監　3,800 円		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	1．基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 2．精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 3．代表的な精神疾患の特徴と病態、治療方針が理解できる。		
準備学習	講義終了時に次回に講義する範囲（教科書 p. **から p.***まで）を指定するので、熟読しておくこと。		
受講者への要望			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. はじめに（精神医学・医療の重要性、精神医学の方法的特性）：6/13（火）⑤ 2. 精神症候学（意識障害・幻覚・妄想・躁状態・うつ状態・自我意識障害）：6/20（火）⑤ 3. 精神疾患各論①　統合失調症：6/20（火）⑥ 4. 精神疾患各論②　気分障害（うつ病、双極性障害）：6/27（火）⑤　（※教室変更→N303） 5. 精神疾患各論③　神経症性障害（不安障害、解離性障害、身体化障害）：7/11（火）⑤ 6. 精神疾患各論④　小児・思春期精神障害（自閉症スペクトラム、てんかん、摂食障害、パーソナリティ障害）：7/11（火）⑥ 7. 精神疾患各論⑤　器質性精神障害その他（物質関連性障害、認知症、睡眠障害）7/18（火）⑤ 8. 精神科治療総論（薬物療法、精神療法、身体療法）7/18（火）⑥			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	A90015001
科目名	リハビリテーション概論	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Rehabilitation		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーションは、外傷および疾病により生じた機能障害、能力低下、社会的不利に対して、訓練や指導、社会的支援により、障害の回復と自立を促し、全人的な社会復帰を目指す取り組みである。本講義では、リハビリテーションの理念と歴史について、医療的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、現代の日本の医療および福祉とリハビリテーションの現状を取り上げ、その課題について解説をする。		
教材（テキスト）	『リハビリテーション総論 ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のための要点整理と用語解説　改訂第 2 版』　（診断と治療社） 椿原彰夫 著 3,888 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義内容のスライド		
評価方法	1．講義と臨床実習では必ず出席をとる。適時実施される小テスト、レポートを評価に加味する。 ２．系統講義終了時の定期試験を行う。追再試験も同様とする。 ３．総合成績評価		
到達目標	１．リハビリテーションの概念を理解する。 ２．運動器障害、脳血管障害、内部障害、摂食嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を理解する。 ３．リハビリテーションチーム医療の重要性について理解する。 ４．最新のリハビリテーション医療について理解する。		
準備学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい 各講義後に確認の小テストを実施する			
講義の順序とポイント			
１．リハビリテーション概論 1 ２．リハビリテーション概論 2 ３．リハシステム ４．障害評価 1 ５．障害評価 2 ６．理学療法 ７．作業療法 ８．義肢装具療法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	A90016001
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Rehabilitation Medicine		
担当者名	山﨑　隆仁	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーション医学は、疾病の医学的治療によって回復できない、身体および精神の能力低下や社会的不利に対して、専門的な訓練と指導により、社会復帰と参加を促進する取り組みである。本講義では、リハビリテーションの評価と治療の枠組み、チーム・アプローチと各職種の役割（医師、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、メディカルソーシャルワーカー、運動指導士他)、リハビリテーションでの基本的な評価と治療 の方法を解説する。また理学療法士、作業療法士、義肢装具士に講義に来ていただいて、実務について理解を深める。		
教材（テキスト）	『リハビリテーション総論 ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のための要点整理と用語解説　改訂第 2 版』　（診断と治療社） 椿原彰夫 著 3,888 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	1. 講義と臨床実習では必ず出席をとる。適時実施される小テスト、レポートを評価に加味する。 ２．系統講義終了時の定期試験を行う。追再試験も同様とする。 ３．総合成績評価		
到達目標	1. リハビリテーションに関与する各疾患について理解を深める。 2. 運動器リハビリテーションについては特に知識を得る。 3. リハビリテーション関連職種（理学療法士、作業療法士）の業務内容について理解を深める。		
準備学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		
受講者への要望			
講義中は私語は行わない。 質問事項があれば適宜これを受ける。 各講義後に確認の小テストを実施する。 リハビリテーションについて興味を抱いていただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 運動器リハビリテーション（1）（奥田）：4/13（木） 2. 作業療法の実際　作業療法士にて(1)（内座）：4/20 （木） 3.関節リウマチ（山崎）：4/27（木） 4. 理学療法の実際　理学療法士にて（山崎）：5/11（木） 5.作業療法の実際　作業療法士にて(2)（内座）： 5/18（木） 6. 切断・神経筋疾患（山崎）：5/25（木） 7. 高次脳機能障害（山崎）：6/1（木） 8. 発達障害・CP（山崎）：6/8（木） 9. 骨粗鬆症（奥田）：6/15（木） 10. 作業療法の実際　作業療法士にて(3)（内座）：6/22（木） 11.脊髄損傷（山崎）：6/29（木） 12. 運動器リハビリテーション（２）（山崎）：7/6（木） 13. 関節疾患・アスリハ・障碍者スポーツ（山崎）：7/13（木） 14. 慢性疼痛・生活習慣病（山崎）：7/20（木） 15. 講義内容まとめ（山崎）：7/27（木）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2017	授業コード	A90017001
科目名	音声学	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	ヒトが話すことは、社会生活を送るうえで欠かせない。話すことは、言語という信号を話し手が発信することであり、聞き手が受信をすることで音声コミュニケーションは成立する。音声学は、ヒトの話し言葉（音声言語）の科学であり、音声言語の生成と知覚についての学問である。音声言語の特徴を理解することで、日常や仕事での良好なやりとりのための条件を知ることができる。本講義では、ヒト音声の基本的事項（分節と変動）と日本語音声の特徴（母音と子音、超分節）を提示する。ヒトの身体がどのように音声信号を生み出すのか、ヒトはどのようにして連続的な音信号から言葉を解読するのか、代表的な実験を紹介しながら、科学的な疑問と解決の筋道を提示する。		
教材（テキスト）	『基礎から学ぶ 音声学講義』 （研究社）加藤重広、安藤智子 著 2,700 円＋税		
教材（参考文献）	『実践音声学入門』(大修館） ジョン・キャットフォード 著 2,700 円 『新ことばの科学入門（医学書院)』 廣瀬肇 訳 6, 696 円		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	1．音声学の基本的事項（母音と子音、言語音の生成と知覚）を理解する。 2．ヒト音声の理解のために行われてきた諸実験（方法、結果、考察）を知る。 3．日常の音声言語コミュニケーションの現象を説明できる。		
準備学習	講義の内容を復習する。		

受講者への要望

毎回の講義で示される内容（背景、疑問と実験、用語等の解説、現象の説明）を整理しておくこと。

講義の順序とポイント

（1）音声学 phonetics の世界

1．　音声学の領域と応用、音声学者　　シネマ：「マイフェアレディ」（前半）
2．　音素と音声、異音、音声記号 IPA　　シネマ：「マイフェアレディ」（後半）
3．　音声生成の仕組み：　呼吸・発声、共鳴、構音　　神経系・運動・声道空気力学
4．　言語音（母音と子音）の生成と知覚　　音声信号を見る、「分節の問題」と逆転音声

（2）音声生成と知覚の諸実験

5．　母音の生成　　音声の音響理論、声道モデル、音響分析、Fant の研究
6．　子音の出し分けと識別　　調音点が異なる子音の音響情報の違い　　Stevens らの実験
7．　音環境（前後の音）の影響　　パラトグラムでの観察、構音（運動）の変動　Daniloff の実験
8．　連続音声の理解　　知覚修復　　Warren の実験、視聴覚情報の統合　McGurk 効果
9．　選択的注意と適応行動　　Cocktail Party 効果、騒音下での声＝　Lombard 効果

（3）日常の音声言語コミュニケーションの諸現象

10．　音声（言語）の発達　　子音　Eimas の実験　、母音　Kihl の実験 、子音の獲得（順序性）
11．　話しことばの速さ　　News キャスター、最大能力との関係、話芸　『志の輔落語』
12．　言い誤りの起源　　スピーチエラーの種別、　早口言葉、　いいまつがい（糸井重里）
13．　言語特有の分節・超分節特徴　　2L 学習（特殊音素と抑揚)、外国人の日本語発話、世界言語
14．　音声情報からの話者認識　　犯罪捜査での利用、話者の年齢当て、老人音声の特徴
15．　音声の自動認識　　機械・ソフトウエアによる音声認識、日本語辞書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2017	授業コード	A90018001
科目名	高次脳科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Higher Brain Mechanism		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
講義概要	大脳は、ヒトが複雑な社会を発展させ、その環境に適応した生活を営む過程で進化してきた器官であり、思考、言語、記憶、認知、行為などの高次の機能を司っている。脳の活動と働きは、ｆＭＲＩ 等の画像診断法や検査課題により、近年飛躍的に理解が進んでいる。本講義では、脳神経系の階層的な構造と機能分化に関する基本的知識を解説し、大脳半球の機能的特異性、言語・記憶や認知・行為の実現と異常、未知の課題について論じる。		
教材（テキスト）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』（医学書院） 平山惠造・田川皓一 編 12,960 円		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	１．大脳の解剖生理学的概説が理解できる。 ２．高次脳機能障害の原因病巣と症状、診察方法が理解できる。		
準備学習	講義の内容について、事前にテキストを読んで予習しておくこと。		
受講者への要望			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに、神経系の進化・発達概説：4/11（火）⑤ ２．大脳の解剖生理学的概説（4 つの頭葉の機能分化、大脳の階層構造、主要な機能系）：4/18（火）⑤ ３．病因からみた神経心理学（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血と高次脳機能）：4/25（火）⑤ ４．病変部位別の高次脳機能障害の症状①　前頭葉：5/9（火）⑤ ５．病変部位別の高次脳機能障害の症状②　頭頂葉：5/16（火）⑤ ６．病変部位別の高次脳機能障害の症状③　後頭葉：5/23（火）⑤ ７．病変部位別の高次脳機能障害の症状④　側頭葉：5/30（火）⑤ ８．画像診断：5/30（火）⑥			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	A90019001
科目名	臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学は、病気や障害を経験した、または、している人に働きかける事を焦点化した心理的な処遇に関する心理学である。つまり、心の健康について、人間の一生を通しての心理的、生物的、社会的、そしてスピリチュアルな側面から、人間の健康の促進、パフォーマンスや適応スキルの向上、人格の成長等についての心理学的理論と実践方法を学ぶ。一方で、様々な現代日本人が抱えている心理的病気や不適応上の問題に関するアセスメント方法、治療方法、そして予防方法についての様々な理論と実践について学ぶ。		
教材（テキスト）	『臨床心理学のすべてがわかる本』（ナツメ社）　松原達哉 著 1,728 円		
教材（参考文献）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術　理論と実践』（金子書房）　山添正 訳 4,104 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを使用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト（５０％）　。授業中に課すレポート（５０％）		
到達目標	臨床心理学の全ての領域の基礎知識を学び、臨床心理学に対する興味と関心を持ち、現代日本人のかかえる臨床心理学的問題の解決へのヒントを得る。		
準備学習	講義修了時に、次回の範囲（教科書の章とページについて）を指定するので、予習しておくこと。		

受講者への要望

授業の最後に実施する小テストを重視しているので、予習をきちんと実行し、授業中は後で何を書くか、これを書くか、あれを書くか考えながら聞く必要があります。講義終了後、しばらく質疑応答し、その後教科書を写すのではなく、授業中考えた事を書くように努力してください。

講義の順序とポイント

1 はじめに（なぜ臨床心理を学ぶのか）
2 臨床心理学の理解（臨床心理学の定義と歴史）
3 臨床心理学の基礎知識（力動論フロイトとユング）
4 心理的な諸問題１（神経症・精神障害）
5 心理的な諸問題２（依存症・適応障害）
6 心理的な諸問題３（トラウマ・発達障害）
7 心理アセスメント１（知能検査）
8 心理アセスメント２（性格検査）
9 心理アセスメント３（その他の心理検査と判定）
10 心理療法の諸技法１（体験・関係的アプローチ）
11 心理療法の諸技法２（認知・行動的アプローチ）
12 心理療法の諸技法３（家族システム的アプローチ）
13 コミュニティ援助１（子育て支援）
14 コミュニティ援助２（危機介入）
15 おわりに（臨床心理の要点）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	A90020001
科目名	発達心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Psychology		
担当者名	吉田　絵美	旧科目名称	
講義概要	発達心理学は、人の心の発達的変化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の道筋が含まれる。発達は、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達的な視点から捉える姿勢を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	『よくわかる発達心理学　第 2 版』（ミネルヴァ書房）　無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）　2,700 円		
教材（参考文献）	『図で理解する発達 新しい発達心理学への招待』（福村出版）　川島一夫（編）　2,484 円 『キーワードコレクション 発達心理学　改訂版』（新曜社）　子安増生・二宮克美（編）　2,592 円 『よくわかる認知発達とその支援』（ミネルヴァ書房）　子安増生（編）　2,592 円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（50%），授業内小テスト（50%）		
到達目標	1. 人間の発達に関する基礎的な考え方を理解する 2. 人間の誕生から死に至るまでの発達の過程を理解する 3. 各々の発達段階（乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期）の特徴を理解する		
準備学習	1.教材（テキスト）を講義の前後に読み、ノートをつくること。 2.講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		
受講者への要望			
上記の到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1.　発達心理学とは何か 2.　発達の規定要因：発達の持つ性質、発達における遺伝と環境の問題 3.　発達段階と発達課題：初期経験の重要性、発達段階と発達課題の考え方 4.　新生児期・乳児期(1)：乳児の認知能力の発達、視覚の発達、行動の特徴 5.　新生児期・乳児期(2)：人見知り、乳児の気質、愛着の形成と親子関係 6.　幼児期(1)：乳児期～幼児期のことばの発達過程 7.　幼児期(2)：乳児期～幼児期の自我・自己の発達、第一反抗期 8.　幼児期(3)：認知・思考の発達、ピアジェの認知発達論、幼児期の思考の特徴 9.　幼児期(4)：遊びの発達と心の理論 10.　児童期(1)：児童期の仲間関係の発達、集団成員間の人間関係 11.　児童期(2)：「読み書き計算」の能力の発達、道徳性の発達 12.　思春期・青年期(1)：思春期・青年期の認知の発達 13.　思春期・青年期(2)：自我同一性と社会性の発達 14.　成人期・老年期(1)：　成人期、老年期の特徴、家庭生活と職業生活 15.　成人期・老年期(2)：成人期・老年期の知的機能、死への準備		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	A90021001
科目名	学習・認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning and Cognitive Psychology		
担当者名	齊藤　章江	旧科目名称	
講義概要	人は、学習によって知識やスキルを身につけ、環境に適応している。本講義では、人間がどのように外的環境を捉えているのか、それに基づいてどのように新しい行動や知識を獲得していくのか、という問題が扱われている。本講義では、感覚・知覚、学習、記憶、思考、言語といった、学習・認知心理学の主要なトピックについて取り上げ、人間の認知システムの仕組みおよび特性について理解を深める。人間および日常生活について、認知心理学的な視点から理解を深めることを目標とする。		
教材（テキスト）	『認知と感情の心理学』 高橋雅延 著 岩波書店 2600 円		
教材（参考文献）	『認知心理学』 箱田裕司・都築誉史・川端秀明・萩原茂 著 有斐閣 3400 円 『スタンダード認知心理学』 原田悦子（編） サイエンス社 2500 円		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、授業内小テスト等による評価。定期試験（５０％）		
到達目標	1. 認知心理学的研究方法（考え方）を理解する。 2. 人間の認知機能についての仮説、理論を理解する思考力を身につける。 3. 人間の認知機能について身につけた知識や考え方を日常に活かす。		
準備学習	単元の区切りごとに小テストを実施するので復習をしておくこと。		
受講者への要望			
上記三つの到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。なお、授業計画は予定である。受講状況等に応じてある程度変更する可能性がある。			
講義の順序とポイント			
1. 授業のガイダンス・心理学の歴史とその研究方法 2. 学習（1)：古典的条件づけとオペラント条件づけ 3. 学習（2)：学習の般化・観察学習 4. 視覚と認知(1): 視覚認知の特徴・錯視 5. 視覚と認知(1): 高次な視覚認知 6. 認知と感情：表情の認知・感情の認知への影響 7. 注意と意識：注意の仕組み・注意の制御的側面と自動的側面 8. 記憶と学習(1)：短期記憶とワーキングメモリ 9. 記憶と学習(2): 処理水準・テスト効果 10. 記憶と学習(3): 潜在学習・忘却の仕組み 11. 記憶と学習(4): 長期記憶（顕在記憶と潜在記憶） 12. 知識と表象：スキーマとスクリプト 13. 言語：言語の理解と獲得・言語の産出 14. 思考(1)：問題解決 15. 思考(2)：意志決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	★★

年度	2017	授業コード	A90025001
科目名	バイオメカニクス	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomechanics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	地球上における人体の運動動作は物理的な作用を受ける。筋肉によって生み出された力は関節を介して骨に伝達され、重力に抗した様々な運動動作が生み出される。本講義では骨格筋の働きの仕組みから、骨の構造、巧みな関節の働きを学び、骨格筋の起始と停止を知ることで発揮される協調的な動きを理解する。これらの学びを基に、身近な運動動作を例題にして、人間の身体構造とその動きの素晴らしさを認識するとともに、身体運動発現のメカニズムを運動学および運動力学の両面から理解する。この講義は、学科関連系科目として設定されており、看護学科教員が、看護現場でのバイオメカニクス的な問題についても触れる。		
教材（テキスト）	『スポーツバイオメカニクス』（化学同人） はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ４　宮西智久著 毎回の授業時に使うスライドは京学ナビからダウンロードの上、各自で印刷して授業に臨むこと。その他、表在筋肉・主な骨格・関節の起始・停止、働きなどについて著した資料を配布する場合がある。		
教材（参考文献）	解剖生理で用いたテキスト。『目で見る動きの解剖学』（大修館書店）　ロルフ・ヴィルヘード 著 2,592 円、適時、講義内容に適した資料を紹介する。		
教材（その他）	毎時間の授業に使用するスライドを京学ナビからダウンロードできるようにするので、各自印刷して毎回の授業に用意すること。		
評価方法	定期試験（70%）、小テスト（30%）、		
到達目標	人体の骨格や筋肉の名称、関節の働きについての理解を深める。日常生活における例えば歩行やランニングにおける骨格筋の働きや、外部に発揮した力の変化を観察して、これらのメカニズムが説明できる。		
準備学習	前期開講の「健康医療学概論」や、「解剖生理学」が基礎的な講義となるので、十分理解して本講義の受講に備えること。各回の授業終わりに次回の講義内容について説明するので、テキストに目を通して、不明な点などについて確認しておく。あるいは質問の準備とすること。講義の後はあらかじめ不明に思った個所や、専門用語について覚えるように工夫すること。		
受講者への要望			
物理学における力学が関係するが、理解しやすいように努める。スライドを中心に授業が進むが、ノートに書き留めること。必要な部分についてノートすることを指示するが、関心のある部分についてもしっかりノートすること。			
講義の順序とポイント			
１．スポーツバイオメカニクスの基礎１ バイオメカニクスとは？、人の運動と”てこ”の関係、筋の付着部と関節軸との距離、筋肉って？、関節運動動作の定義、 ２．スポーツバイオメカニクスの基礎２ 骨格筋の収縮様式、筋電図って？、筋放電と力、運動単位、単収縮と強縮、骨格筋線維のタイプ ３．スポーツバイオメカニクスの基礎３ 骨格筋線維の種類と特徴、運動強度と運動単位の動員様式（サイズの原理）、筋の長さと張力との関係、筋の起始と停止、 ４．スポーツバイオメカニクスの基礎４ 見かけの力と真の力、骨の役割、骨のリモデリング、骨の構造と機能、関節の種類と構造、運動と力学の基礎、国際単位 ５．スポーツバイオメカニクスの基礎５ 力の合成と分解、内力と外力、運動量と力積、運動の力学的エネルギー、関節トルクと関節パワー ６．スポーツバイオメカニクスの基礎６ 身体重心とは？、身体と重心および重心線、身体重心を求める方法、 ７．スポーツバイオメカニクスの応用 良い動きのバイオメカニクス的原則：反動動作と振込動作、緩衝動作、歩行運動における効率、経済性と有効性 ８．力学的エネルギーの基礎知識と動態 ９．関節・運動器の機能（実際の身体動作と関連させて） 跳ぶということのバイオメカニクス（反動動作、ドロップジャンプホッピングなど） １０．脳の構造と運動を支配する脳 脳動静脈、体性感覚野、１次運動野、神経のコントロール（動きのコントロールと反射による動作の調整） １１．スポーツバイオメカニクスの実際１ 陸上での運動・動作、歩行・走行運動のバイオメカニクス １２．スポーツバイオメカニクスの実際２		

水泳・水中運動のバイオメカニクス １３．スポーツバイオメカニクスの実際３ 跳躍運動・投球運動のバイオメカニクス １４．スポーツ医学とバイオメカニクスによる貢献 １５．スポーツバイオメカニクス分析結果データーから理解できる事 A/D変換って？、力積、筋電図積分値

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	AC1000101
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済システムの仕組みを学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」、そして「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕 ＊担当者が異なる別クラスの授業では、教科書も異なる場合があるので注意してください。		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋中間レポート試験（３０％）＋学期末レポート試験（４０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1) 「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって異なる場合がある。それゆえ別クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講してください。
(2)日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	AC1000601
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
講義の順序とポイント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2017	授業コード	AC1130403
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	AC1140138
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	AC1140139
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	AC1210305
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	AC1220164
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力を養成する。社会と娯楽、文化と環境、ビジネスと技術の4つのジャンルから、さまざまなトピックに取り組む。 1．２２０語程度の英文を読んで、リーディング力を強める。 2．本文の内容について、語彙の意味、T/F 問題、応答問題、60 語程度の要約文で内容理解度を確認する。 3．英文を完成することで、ライティング力を補強する。 4．８０語程度の TOEIC 形式の長文空所補充問題で、リーディングの基本的な表現を確認する。 5．７０語程度の会話文により、リスニング力を強化する。 6．写真を説明した６０語程度の英文を完成することで、語彙力を定着する。		
教材（テキスト）	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>　南雲堂　2,160 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。 なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3分の2の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の声（もちろん日本語の声も）自信をもって出す。		
準備学習	テキストの英文を音読・黙読し、単語の意味と発音を調べる。		
受講者への要望			
積極的な学習態度で授業に参加する。テキストとノート、筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・他科目の課題作業など等は厳禁。積極的に質問してほしい。発音・音読の際には、声を出してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. Our Aging Society―ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2. Holiday Memories―母音と子音 1 3. Sport―母音と子音 2 4. Foreign Workers―母音と子音 3 5. Lifestyles―内容語と機能語 1 6. Sizes―内容語と機能語 2 7. Bathrooms―内容語と機能語 3 8. Weather and Global Warming―省エネ発音 1 9. Recycling―省エネ発音 2 10. Commuting―省エネ発音 3 11. Crumbling Britain―分詞と文分け 1 12. Advertising―分詞と文分け 2 13. Technology and Us―分詞と文分け 3 14. Cars: Transport or Status―復習 1 15. Our Education―復習 2			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	AC1220265
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な総合教材を使用し、ボキャブラリーや文法事項を学習して「読む、書く、聞く、話す」という四技能の活用力を育成します。各課で扱われる事項は少しずつ難易度が上がりますが、それらを一つずつ習得することで、徐々に発展的な内容を英語で伝えられるようになりましょう。		
教材（テキスト）	Michael Hood, Takako Moroi 著 World in Motion: Life in the 21st Century （金星堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教材（その他）	音声 CD を用います。		
評価方法	レポート課題 70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	ボキャブラリーや文法事項の確認や補強をして、英語の基礎固めを行います。自分の考えを英語でまとめ、表現する能力や、相手が英語で伝える内容を理解する能力を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎回、授業で扱った範囲に関する短いレポート課題を出します。学んだことを十分に復習した上で、テキストを参考にしながら書いて、提出してください。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講者への要望

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

講義の順序とポイント

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
毎回、授業内容に関するレポート課題を出題します。

第一回：イントロダクション/University Lifestyles
　　文法事項「類似と対照を表す時に使われる談話標識」「比較表現の使い方(1)」
第二回：Career Choices
　　文法事項「助動詞 will, can, may の使い方」「名詞・代名詞を修飾する関係代名詞 who の使い方」
第三回：Telecommuting
　　文法事項「直接話法の使い方」「間接話法の使い方」
第四回：Slow Food
　　文法事項「That で始まる名詞節」「Wh で始まる疑問文」
第五回：The Lost Art of Conversation
　　文法事項「命令文の使い方」「not only A but also B の使い方」
第六回：See You in Cyberspace!
　　文法事項「同格表現の使い方」「条件を提示する If 節の使い方」
第七回：Love in the Virtual World
　　文法事項「過去の習慣を表す would の使い方」「副詞（句）の使い方」
第八回：The Wonderful World of English(es)
　　文法事項「There 構文（〜がある・いる）の使い方」「as の基本的な用法」
第九回：The Wisdom of Crowds
　　文法事項「動詞の後に用いる動名詞と不定詞の使い方」「比較表現の使い方(2)」

第十回：Be a Critical News Consumer
文法事項「仮定法過去の使い方」「可算名詞と不可算名詞の使い方」
第十一回：What's Your Carbon Footprint?
文法事項「動詞句の使い方」「間接目的語の使い方」
第十二回：Ecotourism
文法事項「冠詞（a/ the）の使い方」「受動態の使い方」
第十三回：Authentic Happiness
文法事項「数を表す単位の使い方」「数量を表す表現の使い方」
第十四回：Volunteerism & Philanthropy
文法事項「some と any の複合語の使い方」「even if / unless の使い方」
第十五回：Rethinking Retirement
文法事項「現在完了形（主語＋have /has ＋過去分詞）4 つの使い方」「形容詞になった過去分詞と現在分詞の使い方」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	AC1220266
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
講義の順序とポイント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2017	授業コード	AC1220268
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
講義の順序とポイント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待						

年度	2017	授業コード	AC1220269
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経済学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
   Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	AC1220277
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経済学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
   Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J20001A0A
科目名	ミクロ経済学基礎 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Microeconomics		
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	経済学 A
講義概要	ミクロ経済学とは何かという説明から一般均衡理論までを本講義で取り扱うトピックとする。家計や企業がどの ような行動原理に基づいて財・サービスの消費や生産を行っているのかを解説する。家計のとる行動と企業の とる行動によって財・サービスの価格と供給量が市場でどのように決定されるのかについて理解することを最 終的な目標とする。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第 2 版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%）。定期テスト(60%)		
到達目標	ミクロ経済学における各経済主体の行動原理を理解する。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
各講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．経済の全体像 ２．効率的な買い物：効用概念と予算制約 ３．所得変化と価格変化 ４．財の分類：弾力性という概念 ５．労働と余暇 ６．消費者行動のまとめ ７．効率的な生産①：限界生産力と利潤最大化 ８．効率的な生産②：等費用線と費用最小化 ９．費用の分類：固定費用と可変費用 １０．企業がつぶれるタイミング：損益分岐点と操業停止点 １１．長期的な生産計画 １２．完全競争市場：市場均衡 １３．余剰分析 １４．効率的な資源配分 １５．講義の総括と演習問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J20001A0B
科目名	ミクロ経済学基礎 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Microeconomics		
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	経済学 A
講義概要	ミクロ経済学とは何かという説明から一般均衡理論までを本講義で取り扱うトピックとする。家計や企業がどの ような行動原理に基づいて財・サービスの消費や生産を行っているのかを解説する。家計のとる行動と企業の とる行動によって財・サービスの価格と供給量が市場でどのように決定されるのかについて理解することを最 終的な目標とする。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第 2 版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%）。定期テスト(60%)		
到達目標	ミクロ経済学における各経済主体の行動原理を理解する。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

１．経済の全体像
２．効率的な買い物：効用概念と予算制約
３．所得変化と価格変化
４．財の分類：弾力性という概念
５．労働と余暇
６．消費者行動のまとめ
７．効率的な生産①：限界生産力と利潤最大化
８．効率的な生産②：等費用線と費用最小化
９．費用の分類：固定費用と可変費用
１０．企業がつぶれるタイミング：損益分岐点と操業停止点
１１．長期的な生産計画
１２．完全競争市場：市場均衡
１３．余剰分析
１４．効率的な資源配分
１５．講義の総括と演習問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J20001B0A
科目名	マクロ経済学基礎 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Macroeconomics		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，国民所得、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『私大文系のマクロ経済学』　高橋知也　中央経済社		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した資料		
評価方法	中間試験 40%、期末試験 60%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと所得決定について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
テキストとノートは毎回持参すること。説明に図を多く使うので、色エンピツも忘れない事。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産とは何か 第 4 回 国民経済計算の基礎概念 第 5 回 名目と実質の違い 第 6 回 乗数理論の考え方 第 7 回 均衡国民所得の決まり方 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 45 線モデルで見る、インフレとデフレ 第 10 回 45 度線モデルでみる財政政策 第 11 回 資産市場とは 第 12 回 貨幣の需要と供給 第 13 回 投資、消費関数 第 14 回 資産市場と財市場の同時均衡 第 15 回 簡単な応用としての財政金融政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2017	授業コード	J20001B0C
科目名	マクロ経済学基礎 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Macroeconomics		
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	経済学 B
講義概要	マクロ経済学は，新聞やニュースで耳にする言葉や世の中で関心を持たれている問題を取り扱うことがしばしばです。そのため，基礎的な道具を論じているミクロ経済学よりもとっつき易いという学生が多いです。本講義では，そこで論じられる日常をどうやって考えているのか，経済学的な考えを学んでいきます。また，マクロ経済学の 3 つの大きなテーマは景気・物価・失業の問題を解決することと言われています。その舞台でどのような登場人物が活躍しているか経済学的なストーリー展開の中から考察して行きます。		
教材（テキスト）	福田慎一・照山博司　『マクロ経済学・入門 第 5 版』　有斐閣アルマ ISBN-13: 978-4641220669		
教材（参考文献）	伊藤元重　「入門　経済学　第 4 版」　日本評論社 他，適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜授業等で配布します。		
評価方法	授業中の演習・課題・試験（中間・期末）より総合的に評価する。 配分割合は個別に選択してもらいます。		
到達目標	（1）経済学的な物の見方考え方を学ぶ。 （2）グラフや式による経済学的な表現を学ぶ。 （3）順序立てて経済的な因果関係を説明できるようになる。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
授業中は講義スライドを配布する予定です。理論の解説を順序良く理解することとポイントをメモするようにして下さい。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 GDP とは何だろうか？ 第 3 回 消費と貯蓄はどのようにして決まるか？ 第 4 回 設備投資と在庫投資 第 5 回 金融と株価 第 6 回 貨幣の需要と供給 第 7 回 乗数理論と IS-LM 分析 第 8 回 経済政策はなぜ必要か？ 第 9 回 振り返り学習 第 10 回 財政政策と国債 第 11 回 インフレとデフレ 第 12 回 失業 第 13 回 経済成長理論 第 14 回 オープン・マクロ経済 第 15 回 アドバンストトピック			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★	★	−

年度	2017	授業コード	J20019002
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②中間試験および授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		
受講者への要望			
１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 ２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 ３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
講義の順序とポイント			
１．講義の順序 第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か 第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第８回：前半の白書の要点整理とその確認テスト 第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第１５回：後半の白書の要点整理とレポート課題の案内 ２．昨年 2016 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 「経済財政白書」（内閣府）　「労働経済白書」（厚生労働省）　「消防白書」（消防庁）　「国土交通白書」（国土交通省） 「食料・農業・農村白書」（農林水産省）　「防衛白書」（防衛省）　「外交青書」（外務省）　「観光白書」（観光庁） 「情報通信白書」（総務省）　「京都市地域創生計画」（京都市）　など			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J20021A01
科目名	デリバティブ入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Derivatives A		
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	資産運用の必要性が強調される時代において、金融商品が多様化している。 伝統的な金融商品はもちろん、今日においては、金融派生商品を利用した商品が数多く販売されている。 金融派生商品（デリバティブ）の内容を理解せずに、投資行動を起こすことは、 人生をリスクにさらしていると同義である。 この講義では、代表的なデリバティブである、先物・オプション・スワップの各取引形態を、 その背景や機能について理解し、その利点とリスクについて入門的解説を行う。 先物価格の決定方法やオプションプレミアム(価格の決定）を、 実例に置き換えて、数式や複雑な数学を使うことなく、図式を中心に 直感的に理解できるように工夫して解説を行う。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	授業中に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%）		
到達目標	先物取引、オプション取引、スワップ取引、それぞれの意味と内容を理解し、 金融の世界で、どのように活用されているかを把握できるようになるまでを目標とする。		
準備学習	日本経済新聞のマーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式・コモディティの各代表指数の数値を記録しておくのが望ましい。 講義開始から終了までの半期で金融市場とデリバティブの関係が理解できるようになる。		

受講者への要望

各回の講義内容は難しいものではありません。
履修動機は問いませんが、成績は、公表している評価方法により厳密に判定します。

経済状況を知る上で、新聞は必読です。購読が無理でも図書館で確認してください。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。
半期続ければ、今後の展開に自分なりの意見が持てるようになります。

講義の順序とポイント

1.デリバティブの概念
2.デリバティブ市場の規模
3.デリバティブの歴史
4.金融市場の知識１（金融市場取引．相対取引）
5.金融市場の知識２（株式と株価指数、金利と債券、外国為替市場と商品市場）
6.先物取引の基礎１（先渡取引と先物取引、価格決定のメカニズム）
7.先物取引の基礎２（先物価格と現物価格、為替予約）
8.先物取引の基礎３（レバレッジ、決済方法、裁定取引）
9.オプション取引の基礎１（オプションとは、保険や手付金など）
10.オプション取引の基礎２（オプション価格の決定、コールとプット）
11.オプション取引の基礎３（リスクと行使期間、レバレッジ）
12.スワップ取引の基礎１（キャッシュフロー）
13.スワップ取引の基礎２（金利スワップの仕組み）
14.スワップ取引の基礎３（通貨スワップの仕組み）
15.デリバティブを利用して（天候や物価デリバティブ）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20021B01
科目名	デリバティブ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Derivatives B		
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	デリバティブ市場の発達によって、従来の金融機関の区別や役割が大きく変化している。 その変化に伴い、個別の金融機関・各国家ごとの金融規制では対応できない事例も表面化している。 デリバティブの有効性を理解し、適切に利用・活用するためにはどのような対応が必要なのかを、 確認および検討する講義となる。 新しい時代に対応した金融行政、金融規制はどのようなものが適切なのかを 既存のデリバティブ商品を参考にしながら、講義する。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義内にて適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	授業中に行う確認テスト（40%） レポート課題（20%） 定期試験（40%）		
到達目標	今日の世界経済において、デリバティブがどのように活用され、また役割を果たしているかを理解し、 今後の情勢に合わせ、どのように各デリバティブを利用し、ポジションを取ったほうがよいかを 自分で判断できるようになるまでを目標とする。		
準備学習	日本経済新聞等、マーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式の各市場動向と、終値などの数値を記録しておくのが望ましい。 講義開始から終了までの半期で、金融市場とデリバティブの関係が理解できるようになる。		

受講者への要望

前期「デリバティブ論基礎」の内容を踏まえての講義となるので、基本的知識がなければかなり負担のかかる講義となります。

金融情勢は日々変化しており、デリバティブ取引においても講義期間内に大きな変動は想定されます。
時々の情勢を認識しながら、その先に取るべきポジションを考えるなど、論理的な思考や想像力を求める講義となります。

デリバティブに限りませんが、特に投資理論は「推察→実証→検証→推論」を繰り返す必要があります。
いろいろな情報にアンテナを張り、情報感度を高めなければなりません。

毎回の確認テストにて、質問をしていきますので、新聞の経済ニュースは必読とします。

講義の順序とポイント

1.デリバティブ商品とは
2.デリバティブを利用しているケーススタディ
3.サブプライム危機とデリバティブの関係
4.デリバティブを活用したヘッジ
5.株式信用取引、為替証拠金取引とデリバティブ
6.先物取引の実際（国債と債券先物、株式と株価指数先物）
7.オプションによるヘッジと利用（株式を中心に）
8.スワップの利用（金利スワップと為替スワップ）
9.コモディティデリバティブと応用
10.デリバティブを使った金融商品 1（EB.DC.満期選択などの仕組債）
11.デリバティブを使った金融商品 2（カバードワラントを使って）
12.伝統的金融商品と金融派生商品
13.リスク対応にデリバティブをどのように活用するか
14.デリバティブによる商品組成
15.今後のデリバティブ展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20029A01
科目名	日本経済論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	日本では家族のあり方が急激に変化しています。それと同時に雇用形態も多様化が進んでおり、両者の変化は表裏一体の関係にあります。そこで、家族と雇用形態の面から、日本経済の歩みについて考察します。さらに日本と近隣諸国の関係について検討を加えます。日本と近隣諸国の間には難しい問題がいろいろありますが、日本が経済面で近隣諸国に貢献した面が多々あることを取り上げたいと考えています。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	山田昌弘塚崎公義（2012）『家族の衰退が招く未来』東洋経済新報社。		
教材（その他）	授業時にプリントを配布します。		
評価方法	授業内試験（100％）		
到達目標	第２次世界大戦後に日本経済がたどった変化について理解する。		
準備学習	上記の参考文献を前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
配布する資料を繰り返し読んで読解力を身につけてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　標準世帯の形成と高度成長（その１） 3　標準世帯の形成と高度成長（その２） 4　バブル期におけるパラサイトシングルの消費行動 5　バブル崩壊後における非正規雇用の増加と消費行動の変化 6　生涯未婚率の上昇と消費行動の変化 7　高齢化の進行と消費行動の変化 8　バーチャルリアリティと若者の消費行動の変化 9　家族観の国際比較と経済 10　日本のものづくり全盛期における技術と雇用形態 11　日本のものづくりが行き詰まった理由 13　日本と近隣諸国の関係（その１） 14　日本と近隣諸国の関係（その２） 15　日本と近隣諸国の関係（その３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20029B01
科目名	日本経済論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後の日本経済は、戦後復興期、高度経済成長期、オイルショックと円高不況期、バブル経済の崩壊と失われた１０年（あるいは２０年）の時期を経て、大きく変化してきた。その結果、経済成長の目標も生産の量的拡大から生活の質的向上を重視する方向へとシフトしつつある。しかし一方では、近年急速に進む経済のグローバル化と少子高齢化のなかで、日本経済の将来に対する深刻な不安材料が指摘されており、これまでの社会システムでは対応しきれない、さまざまな問題が生じている。 本講義は、必要に応じて各種の統計資料を用いながら、日本経済の仕組みと日本経済が抱えている今日的課題について、わかりやすく理論的かつ総合的に解説することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	片岡剛士『アベノミクスのゆくえ――現在・過去・未来の視点から考える』（光文社新書）2013 年 服部茂幸『アベノミクスの終焉』（岩波新書）2014 年		
教材（その他）	毎回プリント配布（毎回の講義ファイルは事前に「京学なび」の授業資料としてアップする）		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋授業内評価（１０％）＋定期試験（６０％）		
到達目標	自分の身の周りで日々生じている経済変化を自分の感性で感じ取り、授業で学んだ経済知識と経済情報を使って理解できる学習能力を、受講生自身に身につけてもらうことを到達目標とする。		
準備学習	指定された教科書の、講義にかかわるところを事前に読んで授業に出席すること。		
受講者への要望			
①「日本経済論Ａ」とは内容が重ならないように調整しているので、「日本経済論Ａ」とあわせて受講することが望ましい。 ②授業への意欲的な受講を望む。受講生から教員への質問、あるいは教員から受講生への問いかけにたいする積極的応答は、「授業内評価」として加点する。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス（講義の目標、成績評価） ２．日本経済の TODAY（最近の日本経済の動向） ３．景気の謎を解く①（景気循環など） ４　景気の謎を解く② ５．新成長の設計①（経済成長の理論、国民所得の決定など） ６．新成長の設計② ７．物価と市場経済①（デフレ経済とインフレ経済、日本の物価問題など） ８．物価と市場経済② ９．人口減少時代の財政①（財政の役割、日本の財政問題など） １０．人口減少時代の財政② １１．金融システムの再構築①（金融問題と金融政策） １２．金融システムの再構築② １３．アベノミクスについて考える① １４．アベノミクスについて考える② １５．アベノミクスについて考える③			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20039002
科目名	情報システム設計実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practice of Information System Design		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	現代の情報社会はそれ自体がシステムであり、産業、地域社会、家庭などもそれぞれシステムとして機能している。このような時代背景のもとで必要とされるシステムの設計、運用に関する基本的な知識・技術などについて実習をふまえて習得を目指す。 　本講義では、情報処理システムがどのような仕組みなのか、実際にシステムを開発する立場となって必要な基本設計、外部設計、内部設計、プログラミング、テスト、保守・管理の基礎知識を学ぶ。 実習では、システムの設計を経験して、高度情報社会に対応できる基本的な想像能力と実践的な技術の習得を目標とする		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	木暮　仁　著「情報システム設計論」　日科技連 加藤　英雄　著　「SE のための図解システム設計の基礎」　　共立出版株式会社		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「課題演習+レポート」(30%)+「システム設計実習」(30%)+授業内小テスト等による平常点(40%)		
到達目標	1.　情報システムの設計、運用に関する基本的な知識、技術の習得。 2.　基本的なシステム設計の実習により、情報社会で必要な実践的な技術の習得。		
準備学習	1.　どのような情報システムがあるのか学習しておくこと。		

受講者への要望

1.　第１回はガイダンスを行うので必ず出席すること。欠席の場合は「受講の意思がない」とみなす。
2.　毎回講義の最後に、当日の講義のまとめと次回の実習内容に関して説明を行うので各自復習および予習を行うこと。
3.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める

講義の順序とポイント

1.　情報システム設計実習の学び方
2.　システム設計とは
3.　システムの開発について
4.　システムの開発手順
5.　基本設計
6.　外部設計
7.　内部設計
8.　プログラミング設計
9.　システムの試験
10.　システムの保守管理
11.　システム設計実習(1)
12.　システム設計実習(2)
13.　システム設計実習(3)
14.　システム設計実習(4)
15.　設計実習したシステムの検証と考察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20055A01
科目名	経済政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される事になる．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠である． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J20055A02
科目名	経済政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される事になる．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠である． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J20055A03
科目名	経済政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される事になる．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠である． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J20055B01
科目名	経済政策Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われている．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系が根本的に見直されなければならない．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980 年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されている． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考える．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における社会保障保を巡る諸問題の理解を目標とする		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J20056A01
科目名	社会政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目では、まず雇用・労働、福祉・介護、年金といった分野において政府が対応を求められてきた代表的な「社会問題」を取り上げ、それらを引き起こしている要因について考える。その上で、それらの問題を解決するために実際にどのような手段が講じられているか、またその際にどのような課題に直面しているかについて説明する。 こうして、政府による社会問題解決に向けた政策、すなわち社会政策の実例を考察することを通じて、社会政策の意義と必要性、および今日的課題についての理解を促す。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会政策の概要とそれに関する今日の社会問題について理解すること。		
準備学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方と概要：社会政策とは
2．少子化と人口減少：少子社会の現状と課題
3．高齢化の進行：高齢社会の現状と将来
4．労働と雇用①：労働時間をめぐる課題
5．労働と雇用②：若年者の雇用問題
6．貧困と格差①：生活保護制度
7．貧困と格差②：格差社会の現状
8．高齢者介護問題①：介護をめぐる状況
9．高齢者介護問題②：介護保険制度
10．医療問題①：国民皆保険制度
11．医療問題②：医療保障の危機
12．年金問題①：国民皆年金制度
13．年金問題②：年金の危機
14．社会保障の給付と負担：社会保障給付費の増加
15．少子高齢社会：政策的対応のあり方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J20056B01
科目名	社会政策Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目では、社会政策実践の歴史について、その源流から今日までを振り返り、それらがいかなる事情と目的の下に展開されてきたかを説明する。さらに、その間に社会政策の対象や概念がどのように変化してきたかに着目することを通じて、社会政策の意義と必要性、そしてその体系について理解を深める。また、少子高齢化や人口減少など、わが国が直面している社会構造の変化を念頭に置きつつ、今日の社会政策に期待される役割とそこに生じている課題について検討を行う。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45％）、学期末試験（55％）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・「社会政策入門」を受講済みであることが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．わが国における社会保障の概念
６．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
７．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
８．社会保障の必要性：歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１１．社会保障の源流
１２．社会保障の登場と発展
１３．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
１４．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J20062A01
科目名	財政学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance A		
担当者名	林　智子	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義ではミクロ的な視点から、日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。その上で政府の活動が、我々の日常生活に、どのような影響を及ぼすのか、そして観測される諸問題の解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適適宜指示する。		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題、中間・期末試験で総合的に評価する。		
到達目標	税金が家計や企業に与える影響や公共財の役割を理解する。		
準備学習	・ミクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したミクロ経済学基礎の講義ノートを読み返し　　ておくこと。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.財政学で学ぶ内容とは 2.需要と供給 3.市場メカニズム(1) 4.市場メカニズム(2) 5.余剰分析 6.課税と超過損失(1) 7.課税と超過損失(2) 8.公共財とは 9.公共財の最適供給(1) 10.公共財の最適供給(2) 11.公共財の最適供給(3) 12.外部性とは 13.外部性：ピグー税とコースの定理(1) 14.外部性：ピグー税とコースの定理(2) 15.外部性：ピグー税とコースの定理(3)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J20062B01
科目名	財政学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance B		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	現在の我が国はバブル崩壊後に長期の不況に陥り、その一方で少子高齢化に伴う社会保障問題や多額の政府債務残高に直面し、2014 年 4 月から消費税の引き上げが行われた。本講義ではマクロ的な視点から、日本や諸外国の財政状況や政府の役割に注目する。その上で政府の活動が、我々の日常生活に、どのような影響を及ぼすのか、そして観測される諸問題の解決方法をモデルや現実に観測されるデータを用い理解する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適適宜指示する。		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題、中間・期末試験で総合的に評価する。		
到達目標	政府の役割、経済政策の効果、我が国の年金制度が直面する問題を理解すること。		
準備学習	・マクロ経済学の知識があることが望ましいので、１年次に履修したマクロ経済学基礎の講義ノートを読み返しておくこと ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
・積極的な質問を歓迎します。 ・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。			
講義の順序とポイント			
1.財政学 B で学ぶ内容 2.財政の 3 機能 3.GDP と三面等価の定理 4.需要と景気の相関 5.45 度線分析 6.45 度線分析と財政政策 7.フィスカルポリシーと 3 つのラグ 8.振り返り学習 9.ビルトインスタビライザー 10.社会保障と所得再分配機能 11.我が国の医療制度 12.公的教育の役割 13.年金①我が国の年金制度 14.年金②少子高齢化と年金制度 15.振り返り学習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J20064A01
科目名	金融論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融政策論も併せて受講してほしい。		
教材（テキスト）	第 1 回目の講義時に紹介する。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身につける。		
準備学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融政策論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい

講義の順序とポイント

1.貨幣とは何か
2.銀行の役割
3.中央銀行の役割
4.金融政策の方法
5.信用創造について
6.金融政策はどのように経済に影響するのか
7.短期金融市場の役割
8.債券について I
9.債券について II
10 株式について I
11 株式について II
12.為替レートについて I
13..為替レートについて II
14.物価の決定理論 I
15.物価の決定理論 II

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J20064B01
科目名	金融論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、アベノミクスを中心に日本の長期デフレ不況と日銀の金融政策について解説する。身近な事例を紹介しつつ、金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（テキスト）	最初の講義時に紹介します。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、および小テスト 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解でき、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようにする。		
準備学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融論」(旧「金融論」Ａ）を併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラールール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネビュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20065001
科目名	ファイナンスの数理	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。特に、先物とオプションに関しては、離散時間型の簡単な 2 項モデルを紹介し、このモデルを基に、裁定取引の考え方およびオプション価格(プレミアム)の決定方法を学ぶ。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考文献）	・ 藤林/岡村/矢野（2009）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 第 3 版, 金融財政事情研究会. ・ 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. ・ 野口 悠紀雄（2000）『金融工学、こんなに面白い』文春新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	・ 平常点(30%)；複数回のレポート等による。 ・ 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく 。		
準備学習	・ 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 ・ 複数回、小テストを行うので前回の講義内容を復習すること。 ・ ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		

受講者への要望

・ 統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。
・ レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。

講義の順序とポイント

1．ポートフォリオのリターンとリスク
2．同上
3．マーケット・モデル
4．同上
5．資本資産価格モデル（CAPM）
6．同上
7．債券の価格と利回り
8．同上
9．イールドカーブの特性
１０．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ
１１．同上
１２．先物の理論価格とヘッジ
１３．オプションの概要
１４．同上
１５．まとめ： 演習の復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J20066A01
科目名	時系列データ分析 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （2）経済データが定常か非定常かを単位根検定できる。 （3）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
準備学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

講義の順序とポイント

（1）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示
（2）季節調整、平均化、smoothing、記述統計
（3）最小二乗法による推定――回帰直線
（4）最小二乗法による推定――重回帰
（5）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響）
（6）自己相関、相互相関
（7） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（8）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（9）系列相関の考え方
（10）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定
（11）単位根検定――日本のデータ
（12） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ
（13）レベル変数間の推定
（14）階差変数（成長率）間の推定
（15）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J20066B01
科目名	時系列データ分析Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、主として、最小二乗推定を用いて、マクロ経済システムを推定する。経済時系列手法により、GDP、マネー、金利、株式などの変数からなる VAR モデルを推定する。インパルス応答によるモデルの動きを調べて、作成したモデルの検証方法も調べる。		
教材（テキスト）	毎回、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで事前配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と２回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（１）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果の経済的な意味合いを理解できる。 （２）VAR モデルの推定ができる。 （３）インパルス応答によるモデルの検証ができる。		
準備学習	経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回、EXCEL によって資料と課題を事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料配布時に、資料の最後に課題（発展問題）を入れておくので、次回の授業までに、課題を解いて「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		
受講者への要望			
数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。 経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。			
講義の順序とポイント			
（１）EViews の基本操作とグラフ表示 （２）最小二乗法による推定――その１ （３）最小二乗法による推定――その２ （４）最小二乗法による推定――その３ （５）自己相関、相互相関 （６） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響） （７）レベル変数（非定常）と階差変数（定常） （８）物価の特徴（インフレ率）と Phillips 曲線 （９）金利の特徴（短期金利、長期金利） （１０）推定と AIC 規範 （１１）VAR モデルの推定、level 変数 （１２）VAR モデルの推定、成長率モデル （１３）インパルス応答 （１４）GDP とマネーと金利の関係 （１５）日本・USA・ヨーロッパ諸国の具体例と相違点			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J20069001
科目名	リスク・マネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）	Risk Management		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	金融工学とは、金融市場で資金を運用する際に生じるリスクを工学的な手法を用いて計測し、適切に管理することを目的して発展してきた学問である。当該分野は、数学、統計学、経済学等の手法を駆使してリスク測定・管理を行う。本講義では、金融・経済で用いられる統計学に焦点を当てながら、金融工学におけるリスク測定・管理の手法を理解していく。ただし、数学が苦手な文系の受講者を想定しており、初歩から理解を深めていく予定である。		
教材（テキスト）	・藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社.		
教材（参考文献）	・田渕 直也（2015）『カラー図解でわかる金融工学「超」入門』 サイエンス・アイ新書. ・足立 光生（2004）『金融工学を勉強しよう』 日本評論社.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	・平常点(30%)；複数回のレポート等による。 ・定期試験(70%)。		
到達目標	本講義を通じて、データ整理の基本から、ブラック・ショールズ・モデルまでを理解すること。統計学を使って、安く買って高く売る、しかもリスクを減らす方法を理解すること。		
準備学習	・事前に各回のテキストを読んで、自分なりの解釈をして講義に臨むこと。 ・参考文献欄に挙げた文献すべてを学期中に読破すること。 ・ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		
受講者への要望			
授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。			
講義の順序とポイント			
1. データ整理の基本： 平均と分散、標準偏差 2. データ整理の基本： 共分散と相関係数 3. ポートフォリオの適切な組合せ方： 収益率の平均と標準偏差 4. ポートフォリオの適切な組合せ方： 資本資産評価モデル（CAPM）と$\sqrt{t}$ルール 5. 「めったにない安値」で買い、「めったにない高値」で売る： 確率分布とは？ 6. 「めったにない安値」で買い、「めったにない高値」で売る： めったにない安値と高値の計算 7. 最悪の損失を最小化する方法： バリュー・アット・リスク(VaR)とは？ 8. 最悪の損失を最小化する方法： ポートフォリオの VaR を求める 9. 「よくある価格」を知るための方法： 「よくある価格」の推定 10. 「よくある価格」を知るための方法： 「よくある価格」が変化したかを検定する 11. 売買する権利の価格を求める： オプションとは？ 12. 売買する権利の価格を求める： オプションの価格を求める 13. ブラック・ショールズ・モデル： 連続時間における元利合計を求める 14. ブラック・ショールズ・モデル： ブラック・ショールズ・モデルでオプション価格を求める 15. まとめ： 演習の復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J20070001
科目名	金融市場論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Financial Market		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
講義概要	当講義は受講生が金融市場、資本市場の仕組みを基本から理解することを目的とし、「お金」の仕組みを根本から、実用まで深く理解することを根底に持つこととする。 「算数」の基礎知識と「意欲」を持ってすれば学べる「場」とし、基本出席を前提とする。また講義を通じて株式銘柄を選定し、擬似ポートフォリオを作成し、そのパフォーマンスと分析の深さを競うことも行う。 日本語、英語で講義するか？また証券アナリスト１次試験レベルまで議論を進めるかは受講生の基礎理解力を見て判断するものとする。 This course is designed for the attendants to understand the system of capital market and security market, and deeply recognize the fundamentals of “what is Money?” from the theory to the practical manor. Expected all attendants to bring a skill of “arithmetic” and “passion to learn” to the classroom. Also setting stock picking and will run hypothetical stock portfolio through the whole sessions, the all attendants will be examined on their performance and depth of analysis. Japanese class or English class? Or extending into CFA level one level would be determined after checking the attendant’s skill level.		
教材（テキスト）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
教材（参考文献）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
教材（その他）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
評価方法	50 % Class Contribution 35% Presentation / Portfolio at the last session 15% Quiz at each session		
到達目標	証券、金融市場の用語を理解すると共に、「お金」の仕組みを理解する On top of understanding of fundamental terms of capital and security market, also expected to understand fundamental system of Money.		
準備学習	算数のスキルを確認すること To check the skill of arithmetic		
受講者への要望			
Be Passionate Be Hungry			
講義の順序とポイント			
事前に自らの今までの履歴、バックグラウンドを説明できるようにすること To prepare to be able to explain your Bio. Session 1 Orientation オリエンテーション Session 2 On Market マーケットとは？そのメカニズムの基礎 Session 3　On Money 「貨幣」「貨幣価値」の定義			

Session 4　On Stock
「株式」の仕組み

Session 5　On Bond, FX, Commodity
債券、為替、商品市場の仕組み

Session 6　On Portofolio
ポートフォリオの仕組み

Session 7　On Stock Picking
銘柄選択の方法

Session 8　Portfolio Setting
擬似ポートフォリオの選定：中間評価

Session 9　On Capital Market
資本市場、調達の仕組み

Session 10　On Fund Raising / IPO
資金調達、IPO に関して

Session 11　On Venture Capital
ベンチャーキャピタルに関して

Session 12　On Valuation
投資評価に関して

Session 13　On Corporate Analysis 1
受講者が興味ある企業をあげてその企業分析 Part 1

Session 14　On Corporate Analysis 2
受講者が興味ある企業をあげてその企業分析 Part 2

Session 15
Presentation

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J20075A01
科目名	国際金融論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である．国際金融論 A では，国際金融取引の現状から比較的初歩的な為替レート決定理論について説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の初歩的な内容である国際金融取引の基礎や外国為替の仕組み，為替レートと貿易収支の関係についてまず学習し，最終的に初歩的な為替レート決定理論である購買力平価や金利平価を理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．国際金融取引の基礎：グローバル化するモノ・おカネの動き 3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 4．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 5．国際金融取引の基礎：国際収支表の見方・書き方 6．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由 7．外国為替の基礎：外国為替の仕組み，外国為替市場の特徴 8．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート 9．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支 10．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件 11．為替レートと貿易収支の調整：J カーブ効果 12．為替レートの決定：購買力平価（絶対的購買力平価） 13．為替レートの決定：購買力平価（相対的購買力平価） 14．為替レートの決定：購買力平価不成立に関する理論（バラッサ・サミュエルソンの定理） 15．為替レートの決定：金利平価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J20075B01
科目名	国際金融論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国際間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である．国際金融論 B では，主要な為替レート決定モデルから為替レート変動が実体経済に与える影響について説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際金融論の主要な内容である為替レートの決定と為替変動がマクロ経済に与える影響について理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学と国際金融論 A の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．為替レート決定理論を分析するための準備 3．為替レート決定理論を分析するための準備 4．為替レート決定理論：フローアプローチ 5．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル 6．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル 7．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム 8．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル 9．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路 10．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習 11．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習 12．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース） 13．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース） 14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動がないケース） 15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動がないケース）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J20078A01
科目名	簿記原理Ｉｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping I (s)		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってよいでしょう。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、個人企業（主に商店）の簿記の構造と理論をわかりやすく解説するとともに、練習問題等を多く取り入れ、実際の簿記の技術を身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	TAC 簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記３級　Ver.8.0』（TAC 出版）		
教材（参考文献）	必要に応じて授業の中で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	日商簿記検定３級の範囲の知識の習得を目指します。		
準備学習	準備学習というより、次の授業までに必ず前回の授業内容の復習を心掛けるようにしてください。		
受講者への要望			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１，簿記って何！ ２，簿記の流れ ３，簿記上の取引 ４，日常の手続き ５，商品売買１ ６，商品売買２ ７，商品売買３ ８，現金、当座預金 ９，小口現金、手形 １０，期中の取引１ １１，期中の取引２ １２，期中の取引３ １３，期中の取引４ １４，期中の取引５ １５，試算表の作成と復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2017	授業コード	J20085A01
科目名	マーケティングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing I		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	マーケティング・マインドを身につけるための講座です。 マーケティング・マインドとは、普段日常として見ている現実を意識的に要素に細分化し、要素を組みなおして再構築、さらに新しいアイデアによってデザインし直すための思考能力です。 デザインする対象は商品であったり、コミュニケーションであったり、世代や嗜好で分類される人であったり、様々なものが対象となり、社会に夢を作っていきます。 前期はマーケティングの学問としての枠組みを学び、後期は様々な題材をテーマにしながら戦略的マーケティングからソーシャルマーケティングまでカバーする予定です。社会に役立つマーケティングの科学を実感します。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第４版）』有斐閣アルマ　2,160 円		
教材（参考文献）	適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●マーケティングの独特の考え方を身につける ●マーケティングの視点で現実を分析できるようにする ●マーケティングの基礎的な理論から最近の理論までを網羅的に知ることができる		
準備学習	ホットトピックスについてその都度授業で解説しますので、ネットや新聞で常にチェックしておいてください。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		

受講者への要望

授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加）、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. マーケティング・マインドとは
2. マーケティングと問題解決
3. 標的市場と市場細分化
4. 市場細分化の体系
5. 市場データ分析
6. 消費者行動論
7. 消費者理解の方法
8. マーケティングの４Ｐ理論
9. 商品と価格
10. 流通分析　売り場の科学
11. マーケティング・コミュニケーション
12. 競争戦略
13.ブランド・エクイティ論
14. 経験経済　モノからコトへ
15. ネット時代のマーケティング

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J20085B01
科目名	マーケティングII	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing II		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	現在の消費の多様化に対して進化する、戦略的マーケティングの考え方についての講座です。基本的なマーケティングを基礎として、その応用編かつ実践編になります。 大衆によるマス消費から、個人による消費対象の多様化、さらに社会の課題を共有するコミュニティによる消費行動の多様化に至る道を、事例を通して包括的に学びます。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第 4 版)』有斐閣アルマ　2000 円＋税		
教材（参考文献）	授業の進行とともに、参考文献を提示します		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●マーケティングのダイナミクスを実感する ●マーケティングの最先端の課題を知り、それに応じて進化するマーケティングを学べる ●マーケティングを活用して「社会を変える」「社会を良くする」ことを考えられる企画頭になる		
準備学習	その時のホットトピックスを解説しますので、意見を言えるように、常に新聞や情報番組で社会で起きていることにアンテナを張っていてください。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		
受講者への要望			
●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。 ●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。			
講義の順序とポイント			
1. 戦略的マーケティングとは 2. 企業の成長と事業戦略 3. 競争戦略 4. 消費者の進化 5. トレンドとヒット商品 6. モノからコトへ　サービスのマーケティング 7. 満足化のマーケティング 8. マイクロトレンド　小さいけれど社会を変える市場 9. スペンド・シフト　お金の使い方の変化 10. ソーシャル消費 11. キュレーション　消費者同士が盛り立てる市場 12. マイクロファイナンス　社会を変える投資的消費 13. メイカーズ・ムーブメント　プロシューマーと呼ばれる「作る消費者」 14. マーケティング 3.0　消費者が商品を通して社会をデザインする共創消費 15. 社会を変えるマーケティング			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J20190A01
科目名	西洋経済史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	農耕と文明の始まりから産業革命に至るまでの経済の歴史を通観します。まず、西アジアで始まったムギを栽培してパンを焼く営みがヨーロッパに伝わり発達していった過程を跡付けます。ムギの栽培に不可欠の肥料と火薬の間にあった奇妙なつながりについて解説します。次いで大航海時代の到来に伴うヨーロッパ諸国の海外進出が産業革命へと連なっていく過程を追います。		
教材（テキスト）	授業時にプリントを配布します。		
教材（参考文献）	鵜飼保雄・大澤良（2010 年）『品種改良の世界史　作物編』悠書館。		
教材（その他）			
評価方法	授業内試験（75%）、レポート（15%）、授業内発表（10%）		
到達目標	経済の歴史について、大きな流れを理解する。		
準備学習	上記の参考文献が図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

この科目は経済の歴史を扱う科目なので、歴史に関心のある学生が履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　農耕と文明の始まり
3　火薬と化学肥料の歴史①
4　火薬と化学肥料の歴史②
5　イタリア諸都市の興隆
6　キリスト教世界の膨張（レコンキスタ）
7　大航海時代
8　コロンブスとはどのような人物だったのか
9　移民の歴史
10　アメリカ大陸から来た栽培植物
11　ヨーロッパにおける生活革命①飲み物
12　ヨーロッパにおける生活革命②磁器
13　ヨーロッパにおける生活革命③衣料
14　環大西洋経済圏の成立
15　産業革命（工業化）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J20190B01
科目名	西洋経済史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	コーヒーと絹（生糸）の２つの物産を通して経済の歴史について考えます。現在の日本では大手コーヒー・チェーン店が各地にあるため、コーヒーは欧米のものだと思い込んでいる人がいるようです。しかし、コーヒーを世界で最初に飲んだのはイスラーム世界の人びとでした。その後、ヨーロッパ諸国が植民地でコーヒーを生産するようになり、ジャワやサントスといったブランドが誕生した過程をたどります。　絹（シルク）を世界で最初に利用したのは中国ですが、絹織物の原料になる生糸を器械的に生産する技術はヨーロッパで確立されました。日本は器械製糸の技術を富岡製糸場などを通じて知り、世界最大の生糸輸出国へと成長したのですが、その過程で様々な困難を解決しなければなりませんでした。生糸の輸出をめぐって日本がイタリアや中国を相手に展開した国際競争について考えます。		
教材（テキスト）	授業時にプリントを配布します。		
教材（参考文献）	玉川寛治（2002 年）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教材（その他）			
評価方法	授業内試験（75%）、レポート（15%）、授業内発表（10%）		
到達目標	経済学のツールを使って歴史を理解できるようになること。		
準備学習	上記の参考文献が図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

この科目は経済の歴史を扱う科目なので、歴史に関心のある学生が履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　コーヒーに関する予備知識
3　イスラーム世界におけるコーヒーの発見と普及
4　ヨーロッパ諸国へのコーヒーの伝播
5　コーヒーを巡るイギリスとアメリカの関係
6　ヨーロッパ諸国の植民地におけるコーヒーの生産
7　ポルトガルの海外進出とブラジル
8　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展①
9　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展②
10　シルクロードと絹の西漸
11　19 世紀の生糸輸出国（機会費用との関連で）
12　19 世紀の生糸輸入国（投入物の相対価格との関連で）
13　世界遺産・富岡製糸場
14　モラルハザードへの対応
15　風土と蚕品種（ヨーロッパ・日本・中国の比較）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J2020100A
科目名	経済データの見方	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Analysis of Economic Data		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられています。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要です。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深めます。		
教材（テキスト）	資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	何回か授業内テストをします。このテストは出席調査も兼ねています。その成績が 30%。（毎回必ず出席しなければ得点できません） 期末試験が残りの 70%です。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。 企業関連データの実際を知る。		
準備学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。 受講者への要望 ①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする		

受講者への要望

①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない
②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする

講義の順序とポイント

1　講義の全体構成
2　付加価値とＧＤＰ
3　ＧＤＰと需要項目
4　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か
5　経済成長と需要の寄与度
6　景気変動と景気動向
7　物価指数
8　物価指数の実際
9　人口 、労働人口、失業
１０　マネー
１１　為替と貿易
１２　産業構造、事業所
１３　利益の構造
１４　企業の世界展開
１５　ブラック企業

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J20206A01
科目名	経済学史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも１６世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで 200 年以上の歴史をへて発展してきた。 経済学史Ａでは、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第１部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）と第２部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち－先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人－ 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社）		
教材（その他）	毎回の講義資料は、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」⇒「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該章をしっかり予習してから授業に出席すること。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ａの課題
２．重商主義の定義
３．重商主義の経済政策論
４．重商主義の経済学説
５．重農主義成立の歴史的背景
６．ケネー『経済表』の分析(1)
７．ケネー『経済表』の分析(2)
８．アダム・スミスの生涯と著作
９．『国富論』解説(1)
１０．『国富論』解説(2)
１１．『国富論』解説(3)
１２．マルサス人口論
１３．リカードウの経済学(1)
１４．リカードウの経済学(2)
１５．Ｊ・Ｓ・ミルと現代

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J20206B01
科目名	経済学史 B	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、経済学史Ｂでは、そのスミスに始まるイギリス古典派経済学の解体にともなう近代経済学成立と、「ケインズ革命」を経て現代に至るまでの現代経済学の発展史を概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『現代経済学の巨人たち―20 世紀の人・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人』（日本経済新聞社）		
教材（その他）	毎回の講義資料は、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」⇒「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の出発点は 1870 年代の「限界革命」理論の確立に求められる。この「限界革命」と 1930 年代の「ケインズ革命」によって飛躍的な発展をとげた現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定されたテキストを予習してから授業に出席すること。テキストに記載がない項目については、事前に授業資料を「京学なび」にアップしておくので、予習しておくことを求める。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ｂの課題――古典派経済学から近代経済学へ
２．マルクスと現代(1)
３．マルクスと現代(2)
４．マルクスと現代(3)
５．近代経済学の成立(1)
６．近代経済学の成立(2)
７．イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー）
８．シュンペーターの経済学
９．ソースタイン・ヴェブレンの制度主義経済学
１０．ケインズ革命(1)
１１．ケインズ革命(2)
１２．ケインズ革命(3)
１３．ケインズ以降の現代経済学の展開(1)
１４．ケインズ以降の現代経済学の展開(2)
１５．現代経済学の新潮流

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20207A01
科目名	計量経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析するための統計手法の学習、データ分析の実際を学ぶ。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 とくに最小 2 乗法や検定（t 検定）を理解することが重要である。また、実際の分析には重回帰分析や、要因分析、これらを駆使したデータマイニングの課題を解いていくことが重要である。 こういった分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。 出席は当然であり、1/3 回以上欠席した場合は不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講者への要望

ノートを必ず作り書き込むことが重要である。
積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすること。
授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退席は厳禁である。

講義の順序とポイント

1　講義の全体構成
2　平均と分散
3　平均と分散の実例
4　課題（1）の分析
5～7　課題（1）の修正と完成
8　回帰分析その 1
9　回帰分析その 2
10　より進んだ回帰分析
11　回帰分析と評価
12　回帰分析と評価その 2
13　回帰分析と評価その 3
14　課題（2）の分析
15　課題（2）の修正と完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J20209A01
科目名	マクロ経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics A		
担当者名	東　良彰	旧科目名称	経済学 A
講義概要	本講義はマクロ経済学の入門的内容に続く講義である。入門的な内容では GDP に関する議論から始まり、財・サービス市場の取引のみに注目した 45 度線分析を学んだ。そして議論の単純化のため、貨幣の存在を捨象した。マクロ経済学 A の授業では、新たに貨幣について理解を深める。その上で、45 度線分析に貨幣市場の均衡を考慮した IS-LM 分析を学び、モデルから得られる政策的含意を検証する。		
教材（テキスト）	『マクロ経済学の視点』[改訂版]　清川義友、他　八千代出版		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	授業で配布する資料		
評価方法	中間試験 50% 期末試験 50%		
到達目標	まず最初は、マクロ経済学の講義を貨幣の存在しない財・サービス市場だけからなるモデルから始める。本講義ではそこに貨幣が登場するが、そもそも貨幣とは何であるのかを理解できることが第一の目標である。そして、貨幣と同時に導入されるのが利子率であり、貨幣市場で決まる利子率が、財・サービス市場において投資行動に影響するという相互作用を理解することが第二の目標である。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。なお本講義で用いられる数学の知識は、高等学校までで学習するものの一部分だけである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済学 A で学ぶ内容 第 2 回 マクロ経済学基礎の復習①GDP と三面等価の原則 第 3 回 マクロ経済学基礎の復習②45 度線分析と財政政策の効果 第 4 回 貨幣の役割とその定義 第 5 回 ハイパワードマネーと貨幣乗数 第 6 回 貨幣と資産市場 第 7 回 貨幣市場の均衡と利子率の決定 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 投資関数と IS 曲線の導出 第 10 回 貨幣市場と LM 曲線の導出 第 11 回 IS-LM 分析の均衡 第 12 回 財政政策と金融政策の効果 第 13 回 クラウディングアウトと流動性のワナ 第 14 回 リカードの等価定理・バローの中立命題 第 15 回 失業に関する新古典派とケインズ派の見解			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J20209B01
科目名	マクロ経済学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics B		
担当者名	東　良彰	旧科目名称	
講義概要	本講義はマクロ経済学Ａと同様に、財・サービス市場を対象とした 45 度線分析と金融資産市場を対象としたIS-LM 分析を中心にケインズ経済学について学ぶ。 ただし、マクロ経済学Ａに続く講義として、（新）古典派経済学との考え方の違い、最近のケインズ経済学の動向、1990 年代から生じている日本のデフレ不況に関する議論に力点をおく予定である。		
教材（テキスト）	『マクロ経済学の視点』[改訂版]　清川義友、他　八千代出版		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	授業で配布する資料		
評価方法	期末試験（予定） 出席点を加味する可能性がある。		
到達目標	（１）毎日の新聞報道に登場する経済事象を、マクロ経済モデルを用いて説明できるようになること。 （２）本授業で学ぶモデルで何が説明でき、何が説明できないのか理解する。		
準備学習	マクロ経済の様々な動きに対して日頃から十分な注意を払うことが、理論的な分析にとってもよい準備となる。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第　１回　経済体制とマクロ経済学　－資本主義市場経済の功罪－ 第　２回　国民所得の概念 第　３回　ＩＳバランスと国民所得勘定 第　４回　４５度線モデル：ケインズ経済学の財市場均衡 第　５回　４５度線モデル（問題演習） 第　６回　財市場均衡：ケインズ経済学と古典派経済学 第　７回　貯蓄のパラドクス 第　８回　ケインズ経済学の資産市場均衡 第　９回　ＩＳ－ＬＭモデル 第１０回　ＩＳ－ＬＭモデル（問題演習） 第１１回　古典派経済学の資産市場均衡 第１２回　資産市場均衡：ケインズ経済学と古典派経済学 第１３回　デフレ不況：1930 年代の大恐慌と 1990 年代の日本経済 第１４回　デフレ期待を含むＩＳ－ＬＭモデル 第１５回　流動性の罠と非伝統的な金融政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20211A01
科目名	ミクロ経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics A		
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	
講義概要	経済や企業は絶えず変化しているから、この科目の目標は、生涯に亘ってさまざまな問題に対処できる汎用性のある問題解決能力を身につけることである。そしてそのような能力は、ミクロ経済学・マクロ経済学という基礎的な経済学のトレーニングによって培うことができる。この講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を学びことを目的としており、なかでも １．消費者と企業の行動を経済学的な観点からどのように表現するか理解する。 ２．競争市場とその均衡の経済学的な意味を理解する。 ３．不完全競争下の企業行動がどのように経済に影響するか理解する。 ４．不確実性下の問題とゲーム理論によるアプローチの基礎を理解する。 の 4 点に注力を注ぎます。		
教材（テキスト）	神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』　日本評論社　￥3,456 円　ISBN-13: 978-4535557567		
教材（参考文献）	武隈慎一（1999）『ミクロ経済学　増補版』　新世社　￥2,850 円　ISBN-13: 978-4883840045 伊藤元重（2003）『ミクロ経済学　第 2 版』　日本評論社　￥3,000 円　ISBN-13: 978-4535552616 家森信善・小川光（2016/3 月発刊予定）　『ミクロ経済学の基礎』　中央経済社　￥未定　ISBN-13: 978-4502179518		
教材（その他）	授業中に，適宜指示します。		
評価方法	授業内演習（40%）・レポート（30%）・試験（30%）により総合的に評価します。		
到達目標	ミクロ経済学は経済学的な考え方の基礎的な道具となっていますので，この授業では基本概念と分析方法をおさえ，応用分野で利用できるようにすることを目標とします。		
準備学習	適宜講義の終わりに指示しますが基本的には教科書に従って進めますので，次の講義に必要な基本的な用語を事前に認識し，何を目的としてどのような範囲を対象としているかを留意して概観を捉えてくることを薦めます。授業中はポイントや考え方導き方のコツを涵養してもらいますし，準備学習で気付いた疑問点を解決していきたいと思います。		
受講者への要望			
１）積極的な姿勢で講義に臨むことが望ましい。 ２）質問が無ければ全て理解していると判断しますので，分からないことは後回しにせずにいつでも聞いて下さい。			
講義の順序とポイント			
1)　基本概念と分析手法 2)　消費者行動（１）－効用関数と需要曲線 3)　消費者行動（２）－需要の変化と双対性アプローチ 4)　企業行動（１）－生産技術の数学的表現 5)　企業行動（２）－利潤最大化と費用最小化 6)　競争経済の均衡（１）－需要と供給の調整 7)　競争経済の均衡（２）－交換経済の均衡 8)　経済厚生（１）－パレート効率性 9)　経済厚生（２）－厚生経済学の基本定理 10)　不完全競争（１）－独占企業の利潤最大化 11)　不完全競争（２）－クールノーの均衡 12)　不確実性 I 13)　不確実性 II 14)　ゲーム理論 I 15)　ゲーム理論 II			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J20214001
科目名	やさしい税の話	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Theory of Tax		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。		
教材（テキスト）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考文献）	初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。		
評価方法	定期テスト　60% レポート・復習テスト　20% 平常点(講義への取組み、講義内容への質問や理解の状況等)　20%		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。		
準備学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当頁を記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分のテキスト該当頁を予習しておくこと。 授業中に配布したプリント(毎回配布)の重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを実施予定。		
受講者への要望			
税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス　導入、租税と税法 2.　総論１　租税の意義と根拠 3.　総論２　租税法律主義・租税平等主義 4.　総論３　租税法の解釈と適用 5.　所得税１　所得税の概要、納税義務者 6.　所得税２　所得概念、帰属 7.　所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準 8.　所得税４　収入金額 9.　所得税５　必要経費 10.　所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習 11.　法人税１　法人税の概要 12.　法人税２　納税義務者、課税所得 13.　法人税３　益金及び損金の原則 14.　法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1) 15.　法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	J20219A01
科目名	公共経済学　A	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。まず、「資源配分の効率性」に関する判断基準を学び、市場が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて考察する。そのうえで、政府が果たすべき役割を、社会的厚生から見た理論的な経済政策と、実行可能性から見た現実的な経済政策の 2 つの観点から検討する。また、政府の失敗についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（テキスト）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （2）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （3）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （2）市場の失敗において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （3）市場の失敗への政府の政策対応がもたらす資源配分上の効果について理解する。 （4）政府の失敗が生じるメカニズムについて理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にして講義に臨むことが望ましい。		

受講者への要望

（1）現代社会の公共経済学的課題とその背景を理解しよう。
（2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考えよう。

講義の順序とポイント

1．公共経済学とはどのような学問か　：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府部門拡大のメカニズム
2．公共経済学における政府の役割　：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
3．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
4．資源配分の効率性（1)：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
5．資源配分の効率性（2)：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
6．資源配分の効率性（3)：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
7．資源配分の効率性（4)：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
8．市場の失敗（1)：独占、費用逓減産業
9．市場の失敗（2)：外部効果の内部化、ピグー税
10.市場の失敗（3)：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
11．政府の失敗（1)：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
12．政府の失敗（2)：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
13．公共選択論（1)：民主主義の失敗、投票の理論、政治家と選挙の問題
14．公共選択論（2)：官僚機構の問題、レント・シーキングの問題
15．現代日本における公共経済学的課題：震災からの復興、社会保障制度改革、税制改革

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20219B01
科目名	公共経済学 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では、政治過程を市場として捉え、民主主義的な政治運営の限界を理解する。 まず、社会的意思決定の方法としての様々な投票制度の性質を検討する。次に、社会的意思決定過程に影響を与える有権者、政治家、官僚、圧力団体などの各主体の行動原理について考察する。そのうえで、非効率な資源配分をもたらす「市場の失敗」を補完すべき役割にある政府が最適な政策の選択に失敗するメカニズムについて理解する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）加藤寛『入門公共選択：政治の経済学』勁草書房 （2）フェルドマン＆セラーノ 『厚生経済学と社会的選択』ｼｰｴｰﾋﾞｰ出版 （3）谷口洋志『公共経済学』創成社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1） 政府を構成する各主体、およびその外部から影響を与えうる各主体の行動原理、およびその行動が政府の意思決定に与える影響とそのメカニズムについて理解する。 （2） 政府の失敗がもたらす資源配分上の非効率性を理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所を事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にしてから講義に臨むことが望ましい。		
受講者への要望			
（1）講義前の予習が重要である。記憶よりも理解を優先して学ぶ姿勢が近道である。 （2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考える習慣を身に着けよう。			
講義の順序とポイント			
1．公共選択論とはどのような学問か？：公共選択論の分析対象と範囲 2．政府とは何か？：政府の誕生、政府の範囲と類型 3．投票（1）：集合的意思決定、投票のルール 4．投票（2）：各種の投票ルール、各種投票ルールの論理的非整合性 5．投票（3）：ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ、戦略的投票 6．投票（4）：投票のパラドックス、中位投票者定理、単峰性選好 7．投票（5）：アローの一般不可能性定理 8．選挙（1）：有権者の投票行動、棄権、政党とイデオロギー 9．選挙（2）：小選挙区制と比例代表制、政治的景気循環、足による投票 10．官僚制（1）：官僚制、ニスカネン・モデル 11．官僚制（2）：ミギュエ＝ベランジェ・モデル、日本の官僚制 12．レント・シーキング：レント・シーキングとその類型、日本の財政投融資制度 13．圧力団体：圧力団体の定義と類型、日本の圧力団体、政権交代と圧力団体 14．財政赤字の政治経済学：J.M.ブキャナン、立憲的政治経済学 15．現代日本における公共選択論的課題：高齢化と選挙、財政赤字、地方分権			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J2023600C
科目名	ゼミ５	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅴ		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	２回生までに得た知識と各自の関心をもとに各自の研究テーマを決定し、６セメで提出する「ゼミ論文」の完成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択した文献について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（テキスト）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済・社会問題に対して自らの視点から意見を述べられること。		
準備学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。
・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション：ゼミの内容・方針・進め方について
2.各自の学習テーマの決定
3.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(1)
4.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(2)
5.各自の学習テーマに関する報告(1-1)
6.各自の学習テーマに関する報告(1-2)
7.各自の学習テーマに関する報告(1-3)
8.各自の学習テーマに関する報告(2-1)
9.各自の学習テーマに関する報告(2-2)
10.各自の学習テーマに関する報告(2-3)
11.各自の学習テーマに関する報告(3-1)
12.各自の学習テーマに関する報告(3-2)
13.各自の学習テーマに関する報告(3-3)
14.各自の学習テーマに関する報告(3-4)
15.今学期のまとめと来学期に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2017	授業コード	J2023800C
科目名	ゼミ 6	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar VI		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	ゼミ 5 に引き続き、各自の設定したテーマに沿って「ゼミ論文」の完成を目指す。そのために、各自の選択した文献について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。あるいは、学期後半には「ゼミ論文」作成の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。		
準備学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の 3 分の 1 以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず 1 回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。
・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション
2.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-1)
3.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-2)
4.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-3)
5.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-4)
6.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-1)
7.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-2)
8.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-3)
9.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-4)
10.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-1)
11.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-2)
12.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-3)
13.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-4)
14.ゼミ論文についての最終報告(1)
15.ゼミ論文についての最終報告(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★★	★

年度	2017	授業コード	J20265002
科目名	ネットワークセキュリティ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J20328001
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は日本証券業協会の協力で実施されます。現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義が主となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。 当然のことながら、外部の人が講師として来られますので、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講者への要望

毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。　受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

講義の順序とポイント

1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて
2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み
3．　マネープランの必要性と金融商品
4．　債券の基礎知識
5．　債券投資の実際
6．株式投資の魅力とリスク
7．　株価の変動要因
8．　決算書の見方
9．　主な投資指標の見方
10．　株式投資の判断
11．　投資信託をの基礎知識
12．　投資信託を選ぶポイント
13．　資産運用の概要
14．　資産運用はどうあるべきか
15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J20328002
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は日本証券業協会の協力で実施されます。現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義が主となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。 当然のことながら、外部の人が講師として来られますので、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		
受講者への要望			
毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。　受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。			
講義の順序とポイント			
１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて ２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み ３．　マネープランの必要性と金融商品 ４．　債券の基礎知識 ５．　債券投資の実際 ６．株式投資の魅力とリスク ７．　株価の変動要因 ８．　決算書の見方 ９．　主な投資指標の見方 １０．　株式投資の判断 １１．　投資信託をの基礎知識 １２．　投資信託を選ぶポイント １３．　資産運用の概要 １４．　資産運用はどうあるべきか １５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J20329001
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の課題、中間・期末試験で総合的に評価する。		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1.市場と政府の役割
2.財政の 3 機能
3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性
4.経済安定化機能(2):需要と景気
5.経済安定化機能(3):政府の景気対策①
6.経済安定化機能(4):政府の景気対策②
7.所得再分配(1):再分配の必要性
8.所得再分配(2):再分配の方法
9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差
10.資源の効率的配分(1):需要と供給
11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム
12.資源の効率的配分(3):市場の失敗
13.租税 3 原則(1):水平的公平とクロヨン問題
14.租税 3 原則(2):中立の原則と弾力性
15.振り返り学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J20329002
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	渡邉　稔	旧科目名称	
講義概要	景気の低迷、所得格差、少子高齢化など、今日の我が国はさまざまな問題を抱えている。そして、こうした問題を解決していくために、改めて政府の役割やあるべき姿を見直す必要がある。本講義では政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深めることを目的とする。講義の前半では、主にマクロ経済学の視点から講義を進め、後半では主にミクロ経済学の視点から講義を進める。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	「コンパクト財政学　第 2 版」　上村 敏之　新世社		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の課題、中間・期末試験で総合的に評価する。		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。		
準備学習	・経済学に関する基礎科目を並行して受講することが望ましい。 ・方程式や関数など最低限の数学を使うので、事前に復習しておくこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1.市場と政府の役割
2.財政の 3 機能
3.経済安定化機能(1):経済安定化の必要性
4.経済安定化機能(2):需要と景気
5.経済安定化機能(3):政府の景気対策①
6.経済安定化機能(4):政府の景気対策②
7.所得再分配(1):再分配の必要性
8.所得再分配(2):再分配の方法
9.所得再分配(3):ジニ係数と所得格差
10.資源の効率的配分(1):需要と供給
11.資源の効率的配分(2):市場メカニズム
12.資源の効率的配分(3):市場の失敗
13.租税 3 原則(1):水平的公平とクロヨン問題
14.租税 3 原則(2):中立の原則と弾力性
15.振り返り学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J20330001
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	京学なびから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J20330002
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	京学なびから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J20374001
科目名	現代アメリカ事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in the U.S.A.		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後、アメリカ合衆国は日本にとって最も身近な存在の一つとなっています。しかし、今世紀に入り、9･11 同時多発テロ、イラク戦争勃発、トランプ大統領就任などの出来事があり、アメリカの実情は複雑なものと言えます。でもこのことは決して突発的なことではなく、宗教的、歴史的なものをはじめとしたアメリカの様々な背景があってのことです。本講義ではアメリカの家族、教育、宗教、経済、地域文化など様々な観点で現代アメリカをとらえていきます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。毎回授業後にコメントを書いてもらいますので、受講生は講義内容のメモを取ることができるようにしておいてください。		
教材（参考文献）	なし。授業中に指示します。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー30%、学期末レポート 70%で評価。なお、欠席 6 回で失格とします。		
到達目標	アメリカの諸問題について関心をもち、様々な角度から問題点などを考察することができるようにします。		
準備学習	新聞やテレビなどを通じてアメリカでのさまざまな出来事に関心を持っておくと同時に、どうしてそのようなことが起こったのかを考察するように心がけてください。授業中でも講義で取り上げるテーマにあわせて説明します。		

受講者への要望

アメリカに対するイメージをあれこれ頭に思い浮かべてください。（もちろんみなさんが持つイメージは現状と違っていいです。）講義中にコメントや意見を言っていただくこともあります。（ちなみに「答え」ではないですから「正解」を出す必要はありません。）講義はしっかり聴いてメモをとるように心がけてください。

講義の順序とポイント

ここに講義の順序を記載します。もし授業中での学生のコメント、意見や議論が活発になれば、授業進行が変更になることも考えられます。

1. 授業の説明、アメリカ概説～自由の国アメリカ
2. 地域文化～中西部アメリカと西部アメリカ
3. 地域文化～東部アメリカと南部アメリカ
4. 人種問題～移民の国アメリカ
5. 人種問題～同一民族のコミュニティーは何のため？
6. 宗教問題～神への強い信仰心
7. 宗教問題～アメリカ人はオカルト好き？
8. ここまでのまとめ
9. アメリカの家族～夫婦関係は？いつ子どもは成人に？
10. アメリカの教育～教育現場でのいじめは？義務教育でも学校行かず？
11. 銃規制～何のための銃？
12. テロの脅威～９・１１の余波
13. 軍事問題～イラク戦争の意義は？
14. アメリカ企業のしくみ
15. まとめ、期末レポートの説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J2056200A
科目名	世界経済入門 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the World Economy		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	経済のグローバル化が急速に進展する今日、世界経済の動向および実情を的確に理解することは極めて重要です。この講義はヨーロッパ、アジア、アメリカを中心にして、いま世界経済はどのような状況になっているのか、世界経済の潮流が分析、紹介されます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	講義進度に応じて紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	毎回講義内で講義理解度を見ます(100%)。		
到達目標	世界経済の現状をおおまかに把握でき、自分なりに世界経済の現状について語れること。		
準備学習	事前に資料を配布する、また参考文献を紹介するので、講義前にそれらの文献、資料をよく読んでおくこと。		

受講者への要望

この講義では出席も重視されるので、病気以外は絶対に休まないこと。

講義の順序とポイント

受講者が少数のため、受講者と相談のうえ、変更することがあります。

1．　世界の中の EU
2．　欧州統合の歴史---拡大の歴史---
3．　欧州統合の歴史---深化の歴史---
4．　EU の政治機構と経済
5．　リスボン戦略から新経済成長戦略「欧州２０２０」へ
6．　世界の中のアジア
7．　巨大国家、中国とインドの躍進
8．　東アジアの国々と社会
9．　奇蹟の経済成長と経済危機
10. 変貌する貿易・産業構造、日本・中国・アメリカ
11. 世界の中のアメリカ
12.「大草原の小さな家」時代のアメリカ
13. 大恐慌のアメリカ
14. 偉大な社会、ケネディの時代からインフレと戦うレーガンの時代
15. サブプライムショックとアメリカ経済

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J20565001
科目名	情報処理技術	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing Technology		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	社会人には、一定の情報に関する知識と情報技術が求められている。データの特徴に応じた情報の整理・分類、必要に応じた表・グラフの作成、さらに、業務・処理フローを把握し、改善を加え、情報処理が行える情報技術である。これら、知識・技術を習得するための講座である。		
教材（テキスト）	なし　各講義で資料をネットワークから配布する。		
教材（参考文献）	教材から指示する。		
教材（その他）	ネットワークから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況と提出物（40%）等,e-learning により課す課題評価（60%）		
到達目標	社会人として必要なコンピュータ操作が行え、機能を把握し、データから表・関係データベースを作成し、業務に活用できる。		
準備学習	新技術・機器等の推移を知ることを心がけ、情報関連機器等に用いられている技術等を調べ、概要を把握する。また、関連するソフトウエアは単純な例を用い、実際に使用し、特性等を理解しておく。		

受講者への要望

能動的な姿勢で課題に取り組むことを期待する。

講義の順序とポイント

1.講義の概要、e-learning の進め方
　セキュリティ問題と対策
　　セキュリティと暗号技術、ディジタル署名
　システムの信頼性、ネットワークの接続と信頼性
2.基本的なデータ構造
　各種データ構造の特徴
　線形構造と木構造、表・スタック・キュー・2 分探索木
　表計算
　　表計算を使った集計・統合処理および検索・抽出処理
3.SQL 文から見たデータベース
　　テーブル作成からサブクエリ
4.データベース
　データベースの種類と特徴
　ファイル 正規化演習
5.リレーショナルデータベース
　構造と正規化、設計
6.データベースを使ったデータ処理（１　正規化作業）
　データ整理、集計、分析
7.データベースを使ったデータ処理（２　Select 文の基本）
　データ整理、集計、分析
8.データベースと SQL（１　データ処理演習）
　SQL 言語による操作
　　問い合わせ、副問い合わせ
9.データベースと SQL（２　流れのある処理）
　SQL 言語による定義・生成と修正
　　表の設計、表・ビューの定義
10.データベースの設計・利用
　　演習　ＳＱＬ操作理解確認演習
11.SQL によるデータベースの定義・利用
　　演習　SQL・データベースまとめ課題
12.スクリプト(java)
　スクリプト記述の基本

基本処理手順のスクリプト記述 13.スクリプトと基本アルゴリズム 連接・繰り返し・判断 イベント処理 14.基本的なアルゴリズム 並べ替え処理と記述、関数作成・割り込み スクリプト演習：バブルソート 15.総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20569001
科目名	Ｗｅｂ技術応用	単位数	1
科目名（英語表記）	Web Technological Application Theory		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Web アプリケーションを構築するために必要な機能を解説し、Web ページ作成と効果的な Web ページ技法の修得をねらいとする。ホームページを記述する HTML 言語、またホームページ作成ソフトを用いてホームページを作成し、HTML の構造・特徴、運用上必要な事項、スクリプトによる動的なページの作成について説明する。インターネット技術の多様性と Web 技術を体系的に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料をネットワークドライブから配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ネットワークドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	授業中に課す課題（70%）および課題 Web ページ作成（30%）により評価する。（課題 Web ページ作成は必修）		
到達目標	目的に応じた Web ページの製作が行え、効果的な情報発信が行える。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、Web ページ記述言語等の仕様の推移を調べ、追加された事項等を把握し、可能ならば試用する。試用できない場合は、仮記述を講義時に確認することとし、記述のみを行う。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

１．ホームページとインターネット
　インターネット技術の多様性
２．ホームページ閲覧ソフト、公開ソフトの解説
　Web アプリケーションを構築するために必要な機能
３．ホームページ作成ソフトと HTML の解説
４．タグを用いたページの作成
　基本的なタグの解説、画像を含むページの作成
５．ページ間リンク記述
演習：基本的なタグ、各種リンクタグの適用
６．ページの公開
　ウエブサーバ機能の解説
演習：サイト管理
７．ホームページ作成ソフトを用いたページの作成
　スタイルシートと適用
演習：スタイルシートの作成と適用
８．フレームを持つページの作成、各種リンクの作成
演習：フレームを持つページの作成
９．マルチメディアの組み込み
演習：マルチメディアを含んだページの作成
１０．HTML とスクリプト
　スクリプトの基礎、HTML の生成、マウス処理
演習：スクリプトによる動的なページの作成
１１．フォームとスクリプト処理
　フォームとスクリプトの利用、データベースの利用
演習：データベースとの連携
演習：アンケートページの作成
１２．情報モラルについて
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、
プライバシーの保護
１３．既存資料から Web ページの作成　（携帯端末の利用）

演習：既存資料から Web ページの作成 １４．Web ページの作成と提出 演習：課題 Web ページ作成 １５．Web ページの作成と提出 演習：Web ページの改善

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J20570A01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Planning Ⅰ		
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
講義概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（テキスト）	『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2017～2018 年度版』(6 月上旬発刊予定)　FPK 研修センター		
教材（参考文献）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 3 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』（日本 FP 協会）、宮口定雄『税務ハンドブック　平成 29 年度版』　コントロール社		
教材（その他）	問題集の使用を予定		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)			
講義の順序とポイント			
1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味 2　FP の社会的役割 3 社会的責任とコンプライアンス 4 不動産の見方 5 不動産の動向と分析 6 金融・経済の知識 7 最近の金融動向 8 利回り計算と割引現在価値 9 株式と債券 10 投資信託 11 金融派生商品 12 生命保険 13 損害保険 14 リタイヤメントプラントと年金問題 15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★★

年度	2017	授業コード	J20570B01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ	単位数	4
科目名（英語表記）	Financial PlanningⅡ		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	税法の改正に伴い、最新の知識を得るため、本講義ではタックスプランニングを基軸としての講義となる。日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	3 級 FP テキスト第 2 分冊：タックスプランニング、不動産、相続・事業承継(FPK 研修センター)		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」（平成 28 年度版） 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」「ファイナンシャル・プランニングⅢ」４科目を併せて AFP 認定の講義の要件となっているので、FP 資格に興味のある学生は必ず４科目を同時に履修することをお願いしたい。

講義の順序とポイント

1　租税法律主義と税法体系
2　申告納税方式と賦課課税方式
3　利子所得
4　不動産所得
5　給与所得
6　山林所得
7　一時所得
8　非課税所得
9　相続税
10　贈与税
11　金融商品売買に関わる税金
12　不動産に関わる税金①
13　不動産に関わる税金②
14　公的年金等の税金
15　実例の考察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J20572A02
科目名	情報処理概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウエア、ソフトウエアの基本的構成」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+授業内小テスト等による平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　コンピュータの歴史
3.　コンピュータの種類
4.　ディジタルとアナログ
5.　ハードウエアとソフトウエア
6.　情報の表現　10 進数と 2 進数
7.　コンピュータの計算の仕組みー2 進数による計算
8.　　コンピュータの基本論理回路
9.　　コンピュータの構成装置(1) 入力装置　出力装置
10.　コンピュータの構成装置(2) 制御装置　演算装置　　記憶装置
11.　コンピュータの情報処理方式(1)　コンピュータシステムと信頼性
12.　コンピュータの情報処理方式(2)　集中処理と分散処理
13.　　コンピュータの情報処理方式(3)　シンプレックス、デュプレックス、デュアルシステム等
14.　　情報技術と通信技術の結合
15.　これからの情報処理技術

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J20572B02
科目名	情報処理概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「OS」、「情報システム」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教材（その他）	レジュメを適時配布		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+授業内小テスト等による平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講者への要望

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1.　講義の内容と進め方
2.　OS について
3.　情報システム（1）　勘定系システム、　POS システム、
4.　情報システム（2）　地理情報システム、図書館システム
5.　情報ネットワークシステム　LAN WAN PAN
6.　電話ネットワークとインターネット
7.　SNS
8.　個人情報
9.　情報社会での知的財産権
10. 反社会的情報
11.　コンピュータウイルス
12. 情報社会での危険
13. 情報倫理とネチケット
14. 企業での情報セキュリティ
15　高度情報社会への発展（暮らしのなかの情報処理）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J20573A01
科目名	国際経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済学 A では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J20573A02
科目名	国際経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済学 A では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J20573A03
科目名	国際経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済学 A では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J20573B01
科目名	国際経済学 B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年，グローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつのかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済学 B では，まず，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，応用的な貿易モデルから貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．また，別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に当たる影響についても説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，生産要素移動の経済に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学と国際経済学 A の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの科目を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. リカード・モデル：絶対優位と比較優位 3. リカード・モデル：生産可能性フロンティア 4. リカード・モデル：相対価格と貿易パターン 5. リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定 6. リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益 7. ヘクシャー=オリーン・モデル：リカード・モデルとヘクシャー=オリーン・モデル 8. ヘクシャー=オリーン・モデル：固定係数モデル 9. ヘクシャー=オリーン・モデル：リプチンスキー定理 10. ヘクシャー=オリーン・モデル：ヘクシャー=オリーン定理 11. ヘクシャー=オリーン・モデル：ストルパー=サミュエルソン定理 12. ヘクシャー=オリーン・モデル：要素価格均等化定理 13. 生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは 14. 生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果 15. 生産要素の国際移動：2 生産要素モデルでの資本移動の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J20574A01
科目名	福祉社会論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	社会保障入門編集委員会『社会保障入門』　（中央法規出版） 足立正樹、井上久子『社会保障の光と陰』　（高菅出版）		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
準備学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講者への要望

１．授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
２．出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
３．資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J20574B01
科目名	福祉社会論 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	戦後、西側各国が政策目標として掲げた「福祉国家」は、高度経済成長期にその黄金期を迎えた。しかし、高度成長が終わりを告げ、加えて人口構造の高齢化が進む中で、従来の福祉国家路線を歩み続けることが困難であるということは誰の目にも明らかになっていった。こうした状況の下で、福祉国家をめぐっては様々な方向から議論が展開されてきたが、近年、それらの中でも、福祉国家をたんに再生させようとするのではなく、それを超えようとする議論、すなわち「福祉社会」への移行の道を探る動きが活発になっている。 そこで本講義では、現代の少子高齢社会日本における労働のあり方、さらには少子化、高齢化の要因とその影響について考察することを通じて、来たるべき「福祉社会」を展望したい。 なお、本講義は「福祉社会論」であって、「社会福祉論」ではないので、受講（予定）者には誤解のないよう注意してもらいたい。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	(1)足立正樹『高齢社会と福祉社会』高管出版 (2)社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	高齢化の進行とともに先進諸国にどのような問題が発生しているのか、その背景も含めて理解し、今後のわが国の社会のあり方について考える視座を得ること。		
準備学習	・日ごろから広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方と講義の概要：「福祉」とは
2．国民生活と社会保障
3．少子・高齢社会の到来①　（参考文献(1)の第１章）
4．少子・高齢社会の到来②　（同上）
5．労働時間の短縮　（参考文献(1)の第３章）
6．労働と自由時間　（同上）
7．わが国の勤労観　（同上）
8．自由時間の意識と活用形態　（同上）
9．無償労働と自由時間の使途　（同上）
１０．少子社会の問題　（参考文献(1)の第４章）
１１．少子化の趨勢　（同上）
１２．　「近代」の原理と人口動態　（同上）
１３．社会保障の限界　（同上）
１４．福祉国家の誕生と経済社会問題　（参考文献(1)の第５章）
１５．福祉国家批判と福祉社会の展望　（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J20575001
科目名	技術移転論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。２０世紀におけるわが国の企業における技術経営戦略の一つであった「追いつき、追い越せ」のキャッチアップ時代とは異なり、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は２１世紀における重要な位置付けであると考えられている。 　本講義では「技術移転」についての基礎知識を習得し、産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携事例を学習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	「産学官連携推進の知恵」、文部科学省産学官連携企画編集員会 「産学官連携の新たな展開に向けて」、文部科学省研究振興局		
教材（その他）			
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)＋「レポート＋試験」(50%）＋授業内小テスト等による平常点(30%)		
到達目標	技術移転に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
１）　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1.　講義の内容と進め方 2.　技術移転とは？　産学官連携とは？ 3.　産学官連携支援体制づくり 4.　大学の「知」の発掘・発信と産業界のニーズ把握 5.　マッチング 6.　共同研究契約と知的財産権 7.　イノベーションを誘発する仕組み 8.　大学発ベンチャーの育成と支援 9.　産学官の連携事例（その１） 10.　産学官の連携事例（その２） 11.　産学官の連携事例（その３） 12.　地域と大学の連携事例（その１） 13.　地域と大学の連携事例（その２） 14.　地域と大学の連携事例（その３） 15.　これからの連携と技術移転			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J20577001
科目名	幸福指標論	単位数	2
科目名（英語表記）	Happiness Index Designing		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	経済的な豊かさだけでなく、現在では心の豊かさや生きる実感がより求められ、結果として幸福に関する関心が高まっています。 人が幸福感を高めることができる社会にするためには、どのような制度設計やソーシャル・デザインが必要なのか。行動経済学や心理学、社会学、マーケティングの知見を総合的に紹介します。 いま世界で行われている幸福のカタチを幸福指標として表現する取り組など、幸福に関するすべてがわかる授業です。		
教材（テキスト）	初回に関連文献を紹介しますので、その中から自分の興味のあるものを選んでください		
教材（参考文献）	キャロル・グラハム著　多田洋介訳『幸福の経済学―人々を豊かにするものは何か』日本経済新聞出版社 2,160 円 山田昌弘＋電通チームハピネス『幸福の方程式』ディスカヴァー携書　1,080 円		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●2000 年代から論じられている「幸福論」の切実な議論を理解し、これからの社会に求められている社会のデザインに重要な指標であることを理解する ●幸福論や行動経済学で論じられている主要な学説や論点を理解する ●各国や自治体が作成している幸福指標の考え方と内容について理解する		
準備学習	次回の授業に関連する資料を事前に配布しますので、事前に資料を熟読することを求めます。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 幸福論ブームの現状
2. 幸福論の系譜　アリストテレスから行動経済学まで
3. 日本における幸福感の変遷
4. 幸福の種類
5. プロスペクト理論
6. 幸福と経済の関係
7. 幸福と労働との関係
8. 消費と幸福の関係
9. 各国の幸福指標の取り組み　OECD、ブータン、日本、フランス、イギリス
10. 幸福と不況や災害
11. コミュニティの力
12. ナッジ（選びたい選択を選ぶことが社会を良くすることになるしかけ）
13. SNS を社会の幸福に役立てる
14. 京都の幸福指標　京都幸福宣言
15. 幸福指標を政策に適用することの是非

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30009001
科目名	アントレプレナー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Entrepreneurship		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004 年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007 年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。 ビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）		
到達目標	アントレプレナーの現状と課題を知り、新しく事業を起こすことの意味を知り、そのために必要な考え方とステップを理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる新聞や雑誌等を読んでおくこと。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業参加をしてもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. アントレプレナーの定義と役割
2. 産業構造の変化とアントレプレナー
3. 労働市場から見た起業の意味
4. 新規開業調査に見る起業の実態
5. さまざまな支援体制
6. 海外のアントレプレナー
7. アメリカのアントレプレナー
8. 起業のステップ
9. ケーススタディ　事業機会の認識
10. 〃　経営資源の調達
11. 〃　資金調達
12. 〃　組織の作り方
13. 〃　人材確保と育成
14. 〃　創業時のマーケティング
15. 起業に関わる動向と課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30011001
科目名	インターネットビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Internet Business		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	今日のビジネスはインターネットの利用を抜きに成り立たないほど、インターネットは企業にとって重要なツールになっています。そのなかで、インターネットを活用して新しいビジネスモデルの構築に成功した企業は、企業間での競争優位を獲得しています。 本講義では、インターネットがどのようにビジネスで利用・活用されているのかを、具体的な事例をまじえながら学んでいきます。その上で、インターネットを利用したビジネスの成功要因や問題点について考察します。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	中村忠之著『ネットビジネス進化論　第 2 版』中央経済社、2015 年 安達房子著『ＩＣＴを活用した組織変革』晃洋書房、2016 年 総務省『情報通信白書 平成 28 年版』日経印刷株式会社、2016 年（インターネットでダウンロード可能）		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。ビデオ教材やパワーポイントを活用します。		
評価方法	授業中に課すレポート等による平常点（40%）。試験（60%）。		
到達目標	インターネットの普及とともに企業のビジネスモデルがどのように進化したのかを理解します。 企業がインターネットを使ってビジネスを行う上で、何が重要な要因になっているのかを理解します。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておいてください。 新聞等のメディアを活用し、インターネットを利用したビジネスの動向に関心を持つようにしてください。		
受講者への要望			
私語や遅刻は厳禁です。私語が過ぎれば、退出を求めます。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス（授業の進め方、目的の説明等、インターネットビジネスとは） 2　インターネットビジネスの基礎条件 3　消費者向けネットビジネスの特徴 4　消費者向けネットビジネスの歴史 5　競争優位を巡る争い（アマゾンの事例） 6　人工知能とビジネス 7　ソーシャルメディアとビジネス① 8　ソーシャルメディアとビジネス② 9　インターネット広告 10　ネットショップにおける検索戦略（グーグルの事例） 11　インターネットビジネスが社会に与えた影響 ①（コンテンツ産業の変化） 12　インターネットビジネスが社会に与えた影響 ②（働き方の変革） 13　安全なインターネットビジネスのために（インターネットビジネスの安全性のために） 14　電子決済と電子マネー 15　インターネットビジネスの展望 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J30061001
科目名	ベンチャー・ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Venture Business Management		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム（流行）の都度盛んに論じられてきた。しかし今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹とした、ベンチャービジネスの側面があると捉えることも可能である。その意味において、本講座ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面からの接近も行いたい。このためベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの本質およびベンチャービジネスをになう企業家(起業家）の理念・戦略・組織を中心に実践的な側面も併せ講義をする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』（嵯峨野書院、2004 年） 井形浩治共著『ベンチャー型新規開業事業の新展開』（嵯峨野書院、2007） Ｐ.Ｆ.ドラッカー著上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』（ダイヤモンド社、2007）		
教材（その他）	必要に応じて講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」についての理解を目標として、社会においてもその知識およびその思考プロセスについて、活用が図れることを目的に学習を行う。		
準備学習	日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心掛ける。 　授業で用いる資料については事前配布を行うので熟読されたい。		
受講者への要望			
ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに(本講義の概要) 2　ベンチャービジネス(以下 VB という）の定義 3　VB の変遷の歴史(一次～四次までの流行）① 4　VB の変遷の歴史(一次～四次までの流行）② 5　VB の根幹にあるイノベーション・企業（起業）家精神について① 6　VB の根幹にあるイノベーション・企業（起業）家精神について② 7　VB の根幹にあるイノベーション・企業（起業）家精神について③ 8　VB の経営理念 9　VB の組織と戦略 10　VB とリーダーシップ 11　VB における資本政策と資金調達 12　VB 創造の実際（VB のデザインからプランニングへ） 13　VB の事業機会の認識(ビジネスチャンスの発見） 14　VB の経営資源の調達(ベンチャー支援策の活用） 15　　本論の将来展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30069001
科目名	リーダーシップ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Leadership		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには，その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって１つにまとめなければならないが，そのような働きかけの１つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動態的な今日，このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では，リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって，リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで１度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。		
準備学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第 3 回目の講義がはじまるまでに、「リーダーシップの特性論」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ
3. リーダーシップの特性論
4. リーダーシップの行動論① －ミシガン・オハイオ研究－
5. リーダーシップの行動論② －マネジリアル・グリッド－
6. リーダーシップの行動論③ －PM 理論－
7. 個人の動機とリーダーシップ
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）
9. リーダーシップの条件適合理論① －リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル－
10. リーダーシップの条件適合理論② －目標経路理論－
11. リーダーシップの条件適合理論③ －3 次元リーダー効果性モデル－
12. リーダーシップ論のその後の動向① －リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ－
13. リーダーシップ論のその後の動向② －EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど－
14. リーダーシップ論のその後の動向③ －リーダーシップとフォロワーシップ－
15. リーダーシップ論の講義を通して学んだこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J30076001
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30076002
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30098001
科目名	管理会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting		
担当者名	佐々木　多恵	旧科目名称	
講義概要	管理会計は組織内部のための会計である。予算管理や業績評価などの管理会計技法を効果的・効率的に使えることは，組織の成功に結びつく。そのため，管理会計の知識は組織活動を行う上で不可欠である。また，管理会計は会計学であるが，経営学や経済学など他の学問とも関連する学問である。本講義では，基本的な管理会計の知識を学び，簡単な計算ができるようになることを目指す。		
教材（テキスト）	谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計(第 3 版)』中央経済社		
教材（参考文献）	櫻井通晴(2012)『管理会計(第五版)』同文館出版		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	定期試験(70%)，レポート(30%)		
到達目標	管理会計の意義・概念を理解している。 意思決定のためのアプローチを理解している。 業績管理のためのアプローチを理解している。 実務における管理会計の活用について理解している。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので、予習・復習をしておくこと。		

受講者への要望

積極的に講義に参加し，講義後の復習に努めてください。
原価計算論と併せて受講すると理解が深まります。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション
2. 管理会計の基礎概念
3. 意思決定アプローチ
4. 業績管理アプローチ
5. 原価管理(1)
6. 原価管理(2)・長期経営計画
7. 設備投資計画(1)
8. 設備投資計画(2)
9. 利益計画
10. 予算管理
11. 事業部業績管理
12. ABC／ABM
13. バランスト・スコアカード
14. 原価企画
15. アメーバ経営

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J30103001
科目名	企業家史	単位数	2
科目名（英語表記）	Great Entrepreneurs		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り 上げる。可能であれば、いま少し取り上げる企業家を増やしたいと考えている。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社 宇田川・生島編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣		
評価方法	試験（100％）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、企業家の行動原理を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をすること。		

受講者への要望

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。
日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。

講義の順序とポイント

1.企業家史の課題、企業家・企業者と革新
2.財閥組織者の企業家活動(中上川彦次郎)
3.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)
4.電気鉄道網の形成(小林一三)
5.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)
6.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)
7.重化学工業の成長(野口 遵)
8.電気機械国産化の道のり(小平浪平)
9.家庭電器産業の興隆(松下幸之助)
10.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介)
11.本田宗一郎･藤沢武夫と「世界のホンダ」
12.井深 大･盛田昭夫とソニー
13.日本型生産システムの構築(大野耐一)
14.流通のイノベーション(中内功・鈴木敏文)
15.大量生産時代と大量消費時代の担い手

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J30140001
科目名	経営学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、多角的視点の涵養と温故知新につながると捉えている。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（その他）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等）
2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等）
4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等）　　中間課題 について。
6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等）
11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。　　期末課題について。
14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等）
15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	J30150B01
科目名	経営管理論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Ⅱ		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	経営学は主として企業を対象とした社会科学であり、企業を管理する上で生じるさまざまな課題を解決するのに必要とされる知識を修得する学問である。 本講義では、経営学の経験対象である企業の特徴や考え方を理解し、その後、アメリカとドイツのマネジメントに関する学説を検討することによって、経営管理の本質について検討してみたいと考えている。 本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで１度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 企業とはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. マネジメントとはどのようなものか説明することができる。 3. 代表的な経営管理論を簡単に説明することができる。		
準備学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常において経営管理に関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

第１回 オリエンテーション（講義の概要）
第２回 経営学の生成と発展
第３回 企業の特徴
第４回 企業の分類
第５回 株式会社の特徴と仕組み
第６回 所有と経営の分離
第７回 コーポレート・ガバナンス
第８回 前半のまとめと理解度の確認
第９回 テイラーの管理論
第１０回 ファヨールの管理論
第１１回 バーナードの近代管理論①個人・公式組織・非公式組織
第１２回 バーナードの近代管理論②組織の均衡
第１３回 グーテンベルクの管理論①グーテンベルク経営学の体系
第１４回 グーテンベルクの管理論②グーテンベルクの管理論
第１５回 後半のまとめと理解度の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J30163A01
科目名	経営戦略論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy I		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 ビジネスモデル 2 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J30163B01
科目名	経営戦略論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy Ⅱ		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 成長マトリックス 3 多角化戦略 4 多角化戦略 2 5 選択と集中 6 ブランド戦略 7 ブランド戦略 2 8 PPM 9 PPM2 10 事例研究：アシックス 11 組織と戦略 12 サンクコスト 13 事例研究：デジカメ 14 ブルーオーシャン戦略 15 経営者とは 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J30166A01
科目名	経営組織論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory I		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	経営とは経営組織内の資源を活用することによってはじめて成立する。本講義では、経営の基盤となる組織についての理論、組織内におけるヒトの活用において重要になる理論についての基礎的知識を学習する。 具体的には、組織設計・組織編成、組織と個人の関係、リーダーシップ、組織とジェンダーや組織的公正などの組織を考える上で欠かせない知識を習得する。また、近年の経営組織において重要なトピックとなっているダイバーシティ・マネジメントやストレス（メンタルヘルス）などについての基礎的知識についても学習する。		
教材（テキスト）	なし 教員作成の資料を配布する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テストなど（４０%）、定期テスト（６０%）		
到達目標	経営組織及び組織内でのマネジメントを考えるために必要となる基礎知識を習得する。		
準備学習	毎回授業の翌日までに、「京学なび」内に次回授業レジュメをアップロードするので、穴埋め部分以外に目を通しておくこと。		

受講者への要望

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、オフィスアワーなどを積極的に活用してもらいたい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、イントロダクション：組織とは何か
2. 企業組織の基本①：組織を取り巻く環境と組織、組織設計の方法
3. 企業組織の基本②：機能別組織、事業部組織、マトリックス型組織、及びそれらのメリット・デメリット
4. 組織と個人の統合①：変化する組織像・個人像①
5. 組織と個人の統合②：変化する組織像・個人像②、マネジメントの変化と経営組織
6. ワーク・グループ①：ワーク・グループとは何か、ワーク・グループの理論①
7. ワーク・グループ②：ワーク・グループの理論②、少数派・多数派の形成と問題
8. 組織とジェンダー：ジェンダーと組織の関係
9. ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティ・マネジメントとは何か、ダイバーシティ・マネジメントの基本・実際
10. リーダーシップ①：リーダーシップとは何か
11. リーダーシップ②：リーダーシップの理論①
12. リーダーシップ③：リーダーシップの理論②
13. 組織ストレス①：組織ストレスとは何か
14. 組織ストレス②：組織ストレスの課題、メンタルヘルス
15. 組織的公正：組織における公正、組織的公正の実際

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J30170001
科目名	経営特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Studies A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師としてお迎えし、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。 ※女子学生だけでなく、男子学生にも有益な講座です。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	未定		
教材（その他）	メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモしてください。		
評価方法	各回の講義内容についての感想文（100%）。		
到達目標	経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。		
準備学習	各講師の所属されている会社のホームページなどを読み、予備知識をもって受講してください。		

受講者への要望

企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁、マナーを守れない学生は退出を求めることがあります。
質疑応答のときには、積極的に質問してください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 女性企業家を取り巻く環境
3. （4 /25） 浦中 順子 氏
   花プラス株式会社 代表取締役社長
4. (5/9)　生駒 京子 氏
   株式会社　プロアシスト　代表取締役社長
5. （5/16）　いしい 佳子氏
   関西女性起業家研究会 、Office・苑　代表
6. まとめと予習
7. （5 /30） 松村 敦子氏
   有限会社アクティア　代表取締役
8. （6/6）　赤松 由里子氏
   赤松税務会計事務所　税理士・社会保険労務士
9. （6/13） 大奈氏
   Office Daina 代表　兼　ボイストレーナー・歌手
10. まとめと予習
11. (6/27) 西山 裕子　氏
    一般社団法人みんなの手　代表理事
12. (7/4)　未定
13. (7/11) 未定
14. (7/18)　未定
15. 女性企業家講座を通して学んだことの展望

講師の都合などにより変更になる可能性があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J30173001
科目名	経営分析論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statement Analysis		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	みなさんにとって良い会社とはどのような会社を意味するのでしょうか。技術力があってユニークな製品やサービスを提供している会社、それは消費者の視点からみると確かに良い会社です。給料が高くて休みがたくさんあって福利厚生が充実している会社、就職先としては理想的かもしれません。これらは極端な例ですが、つまるところ、会社に対する視点が変わればよい会社の判断基準も変わってくるのです。 企業を評価する手法として知られる経営分析は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に代表される会計情報をもとに、収益性、安全性、成長性といった観点から企業の業績や状態を見極める有力な方法です。そのような分析を進めるためにはまず、財務諸表の構造と基本的な性質を理解しておく必要があります。さらには経営学全般にわたる知識も必要になります。 本講義では、このような財務分析の特質をふまえ、経営分析を総合的に把握することから開始し、続いて財務諸表分析の手法について解説していく予定です。		
教材（テキスト）	内藤文雄　『会計学エッセンス』中央経済社　2600 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	会計情報の読み方を理解している。 会計情報の開示制度を理解し、利用できる。 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。		
準備学習	毎回授業の最後に次回の内容を紹介するので、教科書の指定ページを読んでくること		
受講者への要望			
積極的な講義への参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.　企業分析の意義 2.　会計の役割と株式会社 3.　ディスクロージャー制度 4.　貸借対照表の見方 5.　損益計算書の見方 6.　いくつかの業種の財務諸表 7.　収益性の分析(1) 8.　収益性の分析(2) 9.　 損益分岐点分析(1) 10. 損益分岐点分析(2) 11. 安全性分析 12. 資金繰りの分析 13. キャッシュフロー計算書の見方 14. 企業グループと連結決算 15. 企業の総合評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J3017700B
科目名	研究ゼミナールⅠ	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar I		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	実在の企業の戦略をまとめたケースを参考にしながら、自分でいろいろと情報収集・分析し、その企業の戦略をまとめます。 専門ゼミで学んだ知識やスキルを活用しながら、さらに高度なレベルを目指します。 ケースは一応用意しますが、希望する企業や業界があればそれにも応じます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	平常点（受講姿勢やグループワークでの貢献度など）50%。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	書籍、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析することができる。		
準備学習	ゼミの時間は発表が中心になるので、事前に発表のための調査や資料準備をしておくこと。		

受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。
なお、経営戦略論Ⅰ、Ⅱを事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

研究ゼミナールⅠでは、専門ゼミナールで学んだことを活かして、さらに深く企業の経営戦略を分析します。
また、毎回の講義の中で一定の時間を割いて、社会での生活や就職活動の際に必要な基礎的な能力を伸ばすための学習も行う予定です。

1. 春学期オリエンテーション
2. 企業の選択、参考文献の紹介
3. 参考文献の要点整理
4. 参考文献の要点整理
5. 中間発表、ディスカッション
6. 中間発表、ディスカッション
7. 情報収集と分析
8. 情報収集と分析
9. 中間発表、ディスカッション
10. 中間発表、ディスカッション
11. 追加調査
12. 追加調査
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 春学期まとめと秋学期への課題提示
16. 秋学期オリエンテーション
17. 企業の選択、参考文献の紹介
18. 参考文献の要点整理
19. 参考文献の要点整理
20. 中間発表、ディスカッション
21. 中間発表、ディスカッション
22. 情報収集と分析
23. 情報収集と分析
24. 中間発表、ディスカッション
25. 中間発表、ディスカッション
26. 追加調査
27. 追加調査
28. 発表、ディスカッション

29.　発表、ディスカッション 30.　発表、ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J30181014
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIIでは、ゼミ生の興味を主体にスポーツだけでなく、あらゆるビジネスを研究対象に、文献やインターネットからの情報などの研究成果を学び、学生自身が課題を見つけることを出発とします。 しかし、それまでに総合学問としての経営学の基礎を学び、 組織経営や人的管理、心理学や生理学など、スポーツに関連する多様な学びを深め、研究の視点を広げてください。 　さらに組織の行動と個人の行動の本質を探り、スポーツビジネスに応用するというビジネスマインドを持ってください。ビジネスは今後さらに進化していくと考えられますが、それをけん引するシステムを構築するぐらいの気持ちで取り組みたいものです。 　本研究ゼミナールは担当者の専門とするスポーツビジネス研究というテーマだけでなく、多様なビジネスを対象として調査研究・実践を行います。企業が果たす社会的使命とは何か?何が必要なのか？新しい公共の理念に沿った企業の発展に何が大切なのか。そんなことも大きな研究テーマのひとつです。特に将来、経営を専門に学んで世に出て行く皆さん、企業の仕組みを学びつつ、担当者の専門とするスポーツに親しみながら「スポーツの未来」を考える時間を学生の時期に作ってほしいと願っています。次年度の研究ゼミナールIIに向かって、実践と理論を結び付けていきましょう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	スポーツビジネスの最前線（平田竹男・中村好男編著、講談社）		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	レポート(50%)。発表とゼミナールへの積極的関与(50%)。		
到達目標	1. 経営学の基礎的な知識の習得に努める。 2. スポーツ・その他のビジネスの文献を検索し、内容を要約できる。 3. ２つの文献から、ビジネスの課題を把握し、自らのテーマとすることができる。 4. みんなの前で、プレゼンテーションができる。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、配布用のレジュメを準備する。 3. わからない専門用語は前もって調べておく。		

受講者への要望

1. ゼミには積極的に参加する。
2. 遅刻や無断欠席をしない。
3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。

講義の順序とポイント

１．春学期オリエンテーション、スポーツビジネスの世界
２．日本のスポーツビジネスの現状を発表しよう
３．アメリカの４大スポーツリーグの現状を発表しよう
４．欧米のリーグ構造と特徴について知ろう
５．欧米のプロスポーツクラブについて知ろう
６．プロ野球の球団比較
７．Ｊリーグの理念と１００年構想
８．Ｊリーグのチーム比較をしよう
９．ｂｊリーグについて調べよう
１０.個人競技のスポーツビジネス
１１.メディアとスポーツ
１２.スポーツとインターネット
１３.スポーツとスポンサーシップ
１４.スポーツ産業の動向
１５.スポーツ産業の動向
１６.秋学期オリエンテーション
１７.スポーツ基本法を読み解く

１８.スポーツ基本法を読み解く
１９.スポーツ基本法を読み解く
２０.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２１.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２２.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２３.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２４.研究論文の検索と概要報告・デスカッション・レポート作成
２５.個人研究と報告・レポート作成
２６.個人研究と報告・レポート作成
２７.個人研究と報告・レポート作成
２８.論文の書き方①
２９.論文の書き方②
３０.研究計画の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30185001
科目名	原価計算論	単位数	2
科目名（英語表記）	Cost Accounting		
担当者名	小山　真実	旧科目名称	
講義概要	本講義では、原価計算のなかでも個別原価計算の手続き、およびそのような計算手続きをなぜ行うのかに関して説明を行います。加えて、講義内で演習問題を解くことを通じて、実際に個別原価計算を行うことができるようになることを目指します。本講義の内容は、日商簿記 2 級の試験内容のうち、工業簿記と関連しています。		
教材（テキスト）	滝澤ななみ, (2017), 「みんなが欲しかった簿記の教科書　日商 2 級　工業簿記　第 4 版」, TAC 出版.		
教材（参考文献）	滝澤ななみ, (2017), 「みんなが欲しかった簿記の問題集　日商 2 級　工業簿記　第 6 版」, TAC 出版. 谷武幸, (2012), 「エッセンシャル原価計算」, 中央経済社.		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（10%）、小テスト（20%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	原価計算の目的および意義について理解している。 個別原価計算の手続きを理解し、実際に計算することができる。		
準備学習	本講義の内容は積み上げであるので、教科書の問題に取り組むなどして復習に力を入れてください。 加えて、毎回の講義終了時に次回内容を指示しますので、教科書の該当範囲を予習しておいてください。		

受講者への要望

講義において問題演習を行うため、電卓を持参してください。
また、必須ではありませんが、日商簿記 3 級の内容をある程度理解していると講義の理解がスムーズになるかと思います。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション（授業の概要・簿記の基礎知識）
2．原価計算の基礎知識
3．材料費（1）
4．材料費（2）
5．材料費（3）
6．労務費（1）
7．労務費（2）
8．経費（1）
9．経費（2）
10．製造間接費：配賦（1）
11．製造間接費：配賦（2）
12．製造間接費：部門別計算（1）
13．製造間接費：部門別計算（2）
14．個別原価計算（1）
15．個別原価計算（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2017	授業コード	J30194A01
科目名	工業簿記Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping I		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）（複式）簿記において使用される用語は、ビジネス社会における「共通言語」である。したがって、その習得は将来のビジネス人としての基礎知識獲得の意味で非常に有用であるといえる。こうした観点から、本講義においては、①「入門簿記」②「簿記原理」③「商業簿記」と段階的に科目履修し、習得してきた日商簿記検定３級程度の「商業簿記知識」をベースに、上級簿記（２級程度）に挑戦することを目標として、その一部分をなす「工業簿記」について演習形式を活用して効率的に学習することにしたい。工業簿記は製造業に適用される簿記であり、材料等の購入から製造工程を含み、製品等の販売に至るまでの取引を対象とする。 （２）具体的には、日商簿記検定２級に対応する工業簿記の内容を演習形式で展開する、「工業簿記学習のワークショップ」である。ただ、こうした２級程度の工業簿記内容に関する講義が不足している現状から、今回は、工業簿記の基礎から標準原価計算に至る基本問題を内容とする「課題演習」重視のワークショップ形式で展開する。 （３）本講義での工業簿記演習を通じて、検定２級の一部である工業簿記に関する基礎知識を確かなものとし、同時並行で開講される「商業簿記ワークショップ」をも履修することによって、年間３回実施されている日商簿記検定試験の２級にも是非挑戦し、貴重な成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を着実に身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）検定簿記講義 2級 工業簿記（中央経済社） （2）検定簿記ワークブック 2級 工業簿記（中央経済社）		
教材（参考文献）	講義時に指示する。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	（１）定期試験の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （２）原則として、定期試験（筆記：50%）の成績と平常成績（提出物・小テスト等を含む：50%）との総合評価で判定する。		
到達目標	（１）日商簿記検定２級の工業簿記に関する基本的な内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （２）製造業における「工業簿記と原価計算の関係」および「原価計算制度の基礎」を理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、指示されたテキスト等を活用した予習を必ず事前に行っておくよう要望する。 （２）このような準備学習によって、簿記知識が深化され、さらなる学習意識が高揚し、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講者への要望

（１）工業簿記も商業簿記と同じく「簿記」であり、その学習には簿記検定３級程度の知識が前提として求められる。したがって、当該レベルの知識が無ければ理解は困難と思われるため、受講（履修）にあたっては「簿記原理」「商業簿記」双方を履修済みか、もしくは日商簿記検定試験３級を取得済みであることを強く求めたい。この点、充分に注意してください。
（２）本講義と「商業簿記ワークショップ」の内容を総合して「日商簿記検定２級」程度の内容となることを意識し、双方のワークショップを履修することで「簿記２級」の実力をつけ、是非、検定試験へも挑戦してください。
（３）工業簿記学習の深化のため、「原価計算論」の並行履修が望ましい。なお、受講時には、上記２冊のテキストと電卓を毎回忘れずに持参すること。
（４）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるよう、講義に対しては常に能動的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

１．　本講義のガイダンス（講義概要、講義計画、成績評価方法等の説明）
２．　工業簿記と原価計算
３．　工業簿記のしくみ

4．材料費の計算と記帳
5．労務費の計算と記帳
6．経費の計算と記帳
7．個別原価計算（1）
8．個別原価計算（2）
9．総合原価計算（1）
10．総合原価計算（2）
11．総合原価計算（3）
12．製造業の財務諸表
13．標準原価計算
14．直接原価計算と CVP 分析
15．工場会計の独立

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J30196001
科目名	広告ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advertising Business Studies		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	「説明」ではなく「説得」のビジネスとしての広告ビジネスへの理解を学びます。 広告メッセージの作り方を知るためのコンセプトづくりの技術、伝える相手（ターゲット）に有効に伝えるために徹底的にターゲットを研究する手法としてのセグメンテーション(細分化)とポジショニング、買ってもらうためのコミュニケーションから買い続けるためのコミュニケーションを提唱するブランド論、そしてインターネットが登場して以降のオムニチャネル対応など、広告の有効性と限界、その特性について学びます。 普段何気なく見ている広告の裏にも緻密な戦略や企画、アイデアがあることを知り、面白さを追求しただけに見える広告コミュニケーションにも単なる思い付きではなくビジネスとしての厳しい戦略性、コスト意識、リスクテイクを求められていることを学びます。		
教材（テキスト）	岸志津江・田中洋・島村和恵『現代広告論　新版』有斐閣アルマ 2,268 円		
教材（参考文献）	電通「日本の広告費」　電通ホームページ		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●広告の裏にあるビジネスとしての広告業を理解する ●アイデアを提案するためのロジックが使えるようにする ●社会課題のソリューションとしての広告ビジネスの現状を理解する		
準備学習	テレビ広告を話題にすることが多いので、意識的にテレビ広告を見るようにしてください。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 広告コミュニケーションとは　広告の種類と機能
2. 広告ビジネスの流れ　オリエンから媒体計画まで
3. マーケティング調査
4. 広告戦略の構築
5. コンセプトと広告表現
6. 杉山登志の広告
7. テレビ広告表現分析 80 年代①
8. テレビ広告表現分析 80 年代②
9. テレビ広告表現分析 90 年代
10. テレビ広告分析 90 年代
11. インターネットと連動した広告
12. ビッグデータの時代
13. イベントのプロデュース
14. 広告ビジネスの課題
15.広告のための アイデア発想の手法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J30201A01
科目名	国際経営論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	グローバリゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。「国際経営論」での中心的な研究対象である「企業の活動」はもちろんのこと、観光や犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。 なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、近年の変化はあるし、それらの現象の底に何があるのかは、簡単には説明しにくい。 そこで「国際経営論 A」ではまず、経済や企業行動を中心におきながら欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較をしてみたい。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。 非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。		
教材（テキスト）	長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	・上記の教科書を補う教材としては、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上に資料をアップロード　しておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「国際経営論 A」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第 1 回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて確認をしてください。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（その他）	そのつど、指示します。		
評価方法	ときどき行う小テスト（20%）、期末試験（80%）		
到達目標	世界の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成		
準備学習	教科書の該当箇所を読んでおくことと、上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと		

受講者への要望

・私語は厳禁する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。
・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。

講義の順序とポイント

０１．はじめに、講義のテーマと方法論
０２．欧米の経済発展　①科学技術の発展
０３．欧米の経済発展　②自動車産業の発展
０４．欧米の経済発展　③大衆消費社会の到来
０５．マックス・ヴェーバーの「近代資本主義」論
０６．中国　①秦の始皇帝ー中国の最初の統一
０７．中国　②秦の始皇帝ー秦の崩壊
０８．M. ヴェーバーの中国論　①中国の社会構造
０９．M. ヴェーバーの中国論　②儒教と道教
１０．現代中国の企業経営
１１．台湾　①矛盾と分裂の台湾
１２．台湾　②戦後台湾の経済と経営
１３．東アジアと技術革新　①
１４．東アジアと技術革新　②
１５．華人と日本企業

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J30226001
科目名	女性経営者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Women Own's Businesses		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④ＩＴ化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	毎回レジュメプリントと資料を配布する。		
教材（その他）	必要に応じてビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）。		
到達目標	女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を知り、企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を学ぶ。 また、属性にとらわれない人材活用の意味と効果について理解する。		
準備学習	・マスコミに登場する女性経営者や、身近な女性経営者についての情報を収集しておくこと。 ・授業終了時に課したレポートテーマについて、配布資料に基づき次回までに書けるようにしておくこと。		
受講者への要望			
他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業に参加してもらいたい。 女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。			
講義の順序とポイント			
1 .女性経営者の社会的役割と現状 2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方 3. 女性経営者の競争優位性 4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題 5. ケーススタディ　事業機会の認識 6. 〃　起業プロセス 7. 〃　資金調達 8. 〃　マーケティング 9. 〃　人材活用 10. 女性が中心となるＮＰＯ 11. ＳＯＨＯと在宅ワーク 12. アメリカの女性経営者 13. ヨーロッパの女性経営者 14. アジアの女性経営者 15. 女性経営者に関わる課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30230001
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商業の発展(商業・商人学の観点から）　① 3　商業の発展(商業・商人学の観点から）　② 4　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 5　②（伝統的・近代的接近方法） 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構の現状と課題 9　小売り機構の業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街と中小企業 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J30231A02
科目名	商業簿記Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm I		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義では、前段階の「簿記原理」における複式簿記の基本原則と記帳技法をベースとして確認した上で、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容を完成することを目的とする。 （2）特に、手形の会計処理と決算整理に関連する事項の会計処理などの諸問題を中心に説明し、既履修科目である「簿記原理」での学習事項の再確認と補充をすることによって、簿記検定３級内容の完成を目指すこととする。 （3）前段階の「簿記原理」の内容と本講義の内容に関する十分な理解により、、簿記の基礎知識を確かなものとしたうえで、年間３回実施されている日商簿記検定試験の３級にも是非挑戦して、成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記講義 ３級商業簿記』 （中央経済社） （2）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記ワークブック ３級商業簿記』 （中央経済社）		
教材（参考文献）	必要に応じて、講義中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	（1）定期試験（筆記試験）の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：80%）の成績に平常成績（提出物・小テスト等を含む：20%）を加味して評価する。		
到達目標	（1）商業簿記に関する基本的な期中取引の内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （2）決算処理や財務諸表の作成ができ、伝票会計の基礎を理解している。 （3）日商簿記検定試験３級の基本的内容に関して理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、関係するテキスト個所の予習を事前に行っておくことを要望する。 （2）このような準備学習によって、問題意識が目覚め、学習意識が高揚することが、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講者への要望

（1）本講義では、上記テキストを活用して、複式簿記の基礎についての理論面および実践面双方の実力が身に付くように努めたい。それゆえ、毎回、必ず上記２冊のテキストを持参して、積極的に講義に臨むことを期待する。
（2）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

１．①講義のガイダンス、②簿記一巡の手続きに関する再確認
２．仕訳・転記・試算表の作成演習
３．その他の債権と債務
４．受取手形と支払手形
５．有価証券
６．固定資産と減価償却
７．貸倒損失と貸倒引当金
８．資本金と引出金
９．決算整理（１） ： 費用・収益の繰延べ
１０．決算整理（２） ： 費用・収益の見越し
１１．元帳の締切り
１２．８桁精算表の作成
１３．財務諸表の作成（１）
１４．財務諸表の作成（２）

１５．伝票会計

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30231B01
科目名	商業簿記Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm Ⅱ		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）（複式）簿記において使用される用語は、ビジネス社会における「共通言語」である。したがって、その習得は将来のビジネス人としての基礎知識獲得の意味で非常に有用であるといえる。こうした観点から、本講義においては、①「入門簿記」②「簿記原理」③「商業簿記」と段階的に科目履修し、習得してきた日商簿記検定３級程度の「商業簿記知識」をベースに、さらに上級の商業簿記に関する基礎知識の習得を目標として、演習形式を活用して効率的に学習することにしたい。 （2）具体的には、日商簿記検定２級程度の商業簿記に関する学習内容を、可能な限りの問題演習形式で展開する。なお、過去の検定２級内容の特徴をなす項目、たとえば、各種手形取引・特殊商品売買取引・社債取引・本支店会計・帳簿組織などに関しては、大幅な削減と追加が行われており、今年度も更なる追加変更があるので、その点も確認しながら、効果的な講義展開を行うようにしたい。 （3）本講義での商業簿記演習を通じて、検定２級の商業簿記に関する基礎知識を確かなものとし、また、同時並行で開講される「工業簿記ワークショップ」をも履修し、双方を合わせた知識習得をもって、年間３回実施されている日商簿記検定試験の２級にも是非挑戦し、貴重な成功体験を実感して頂くよう希望するところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を着実に身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記講義　２級・商業簿記』　中央経済社 （2）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記ワークブック　２級・商業簿記』　中央経済社		
教材（参考文献）	講義時に指示する。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	（1）定期試験の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：50%）の成績と平常成績（提出物・小テスト等を含む：50%）との総合評価で判定する。		
到達目標	（1）日商簿記検定２級の商業簿記に関する基本的な内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （2）貸借対照表や損益計算書などの財務諸表の作成ができ、伝票会計の基礎も理解している。 （3）日商簿記検定試験２級の基本的内容に関する習得を通じて、株式会社簿記の基礎を理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、指示されたテキスト等を活用した予習を必ず事前に行っておくよう要望する。 （2）このような準備学習によって、簿記知識が深化され、さらなる学習意識が高揚し、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講者への要望

（1）本講義では、簿記検定３級程度の知識を前提とした講義展開となり、当該レベルの知識が無ければ理解は困難と思われるため、受講（履修）にあたっては「簿記原理」「商業簿記Ⅰ」双方を履修済みか、もしくは日商簿記検定試験３級を取得済みであること、を求めたい。この点は特に注意してください。
（2）上記２冊のテキストと電卓を、毎回忘れずに持参すること。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては常に能動的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

原則的に、次のような計画で講義を展開する予定である。

1．　本講義のガイダンス（講義の概要と計画、評価方法等の説明）
2．　現金預金
3．　手形
4．　有価証券

5． その他の債権債務
6． 商品売買（1）
7． 商品売買（2）
8． ①固定資産　②既習内容に関する Quiz
9． 引当金
10. 収益と費用
11. 株式会社の純資産
12. 税金
13. 決算
14. 本支店会計
15. 総括（決算と財務諸表演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30248001
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30248003
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期
の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30256A01
科目名	情報科学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science I		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ⅰ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義の資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．情報科学について 2．アルゴリズムと流れ図 3．数のアルゴリズム 4．変数 5．入力と出力 6．基本的な流れ図 7．カウンタと見張り役 8．部分文字列の探索 9．算術式 10．データの表現 11．まるめ 12．最大値を求めるアルゴリズム 1 13．最大値を求めるアルゴリズム 2 14．集計のアルゴリズム 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J30256B01
科目名	情報科学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science II		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、すべてのプログラミング言語の中心的な概念を取り扱っている流れ図言語で表現される。流れ図言語を理解すれば、ＦＯＲＴＲＡＮ、C、Ｊａｖａ、Ruby などの言語を容易に学ぶことができる。この講義では、まず流れ図言語について学び、続いてこの流れ図言語を用いて、種々の問題に対してのアルゴリズムの作成法について考察する。また、それぞれの問題に対して、パソコンを用いて Ruby のプログラムを作成し、実行を行ってもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	A.I.フォーサイス他著、浦昭二訳『改訂コンピュータサイエンス入門Ｉ』培風館		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	情報処理の知識についての理解を深め、アルゴリズムを学ぶことにより論理的思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了後、次回の講義資料を京学なびにアップロードするので、復習と予習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内において、適宜、練習問題を説いて、レポートとして提出する事が要求される。			
講義の順序とポイント			
1．情報科学IIについて 2．ユークリッドのアルゴリズム１ 3．ユークリッドのアルゴリズム２ 4．平方根のアルゴリズム１ 5．平方根のアルゴリズム２ 6．一次元配列 7．整列のアルゴリズム１ 8．整列のアルゴリズム２ 9．整列のアルゴリズム３ 10．探索のアルゴリズム１ 11．探索のアルゴリズム２ 12．探索のアルゴリズム３ 13．二次元配列１ 14．二次元配列２ 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J30260A02
科目名	情報管理論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	『情報管理学』　　深井裕二(著)　コロナ社		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等を用意することが望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1. 受講ガイダンス
2. インターネット社会と情報管理
3. 情報収集
4. コンピュータ技術
5. 反転学習
6. インターネット技術
7. インターネットの活用
8. 情報倫理と関連法規 1
9. 情報倫理と関連法規 2
10. 反転学習
11. 情報セキュリティ 1
12. 情報セキュリティ 2
13. 企業と情報システム
14. データの運用と管理
15. システム開発とプログラミング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J30260B02
科目名	情報管理論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management II		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等の準備が望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及びテストほか(35%)、レポート(30%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報システムの種類
3．IT ソリューションの調達方法
4．IT ソリューションの活用
5．反転学習
6．システム化計画の立案
7．システム要求の分析と要件定義 I
8．システム要求の分析と要件定義 II
9．システム開発におけるその他の業務
10．システムの運用
11．反転学習
12．情報セキュリティ I
13．情報セキュリティ II
14．情報システム導入の失敗の原因
15．システム面からの課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J30260B03
科目名	情報管理論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management II		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等の準備が望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及びテストほか(35%)、レポート(30%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2．情報システムの種類
3．IT ソリューションの調達方法
4．IT ソリューションの活用
5．反転学習
6．システム化計画の立案
7．システム要求の分析と要件定義 I
8．システム要求の分析と要件定義 II
9．システム開発におけるその他の業務
10．システムの運用
11．反転学習
12．情報セキュリティ I
13．情報セキュリティ II
14．情報システム導入の失敗の原因
15．システム面からの課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J30270001
科目名	人的資源管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	人的資源管理[HRM(Human Resources Management)]というコンセプトはアメリカで生まれた。人事管理[PM（Personnel Management）]と HRM の相違については未だ同意は築かれてはいないが、広範囲にわたる論点を含みつつ、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。 　経営戦略と人材管理･開発の制度や実践との適合性が考察される場合もあれば、能力や知識とは何か,それらをどのように測定し,育むか,等の観点からの論文もある。はたまた、外部労働市場の動向に焦点を合わせる研究もある。これらをできるだけ分かり易く解説することを通して、また受講者のキャリア設計に役立つように進めていくことによって、人財という財宝に向けて講義していきたい。		
教材（テキスト）	青井 倫一,監修『通勤大学 MBA〈6〉ヒューマンリソース』総合法令出版,2002。 適時プリントを配布する。 ビデオ教材やパワーポイントまたは OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時,指示する。		
教材（その他）	適時,指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを『人』と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		
受講者への要望			
遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。			
講義の順序とポイント			
1)受講・学習・評価の仕方について。人生の大半を何らかの仕事に費やす…HRM を学ぶ重要性について。Taylor の科学的管理法から人事管理論への展開について。人事管理論から HRM になるに至った理由…ドラッカーと人間関係論を用いて…。 2)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]①：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。 3)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]②：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。 4)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]③：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。中間課題の告知・説明。 5)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]④：国民年金、厚生年金、厚生年金基金、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料、児童手当拠出金、労災保険料、雇用保険料,等について。中間課題の告知・説明。 6)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]⑤：国民年金、厚生年金、厚生年金基金、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料、児童手当拠出金、労災保険料、雇用保険料,等について。中間課題の告知・説明。 7)若年労働市場の現状と課題①:文系と理系、大企業志向、ブラック企業、就職率,離職率,失業率、フリーター,ニート、等について。 8)若年労働市場の現状と課題②:文系と理系、大企業志向、ブラック企業、就職率,離職率,失業率、フリーター,ニート、等について。 9)上記における課題解決に向けて①…モチベーション理論、欲求階層説、X-Y 理論、動機付け―衛生理論、連結ピン、システム 4、等（研究者：マズロー、アージリス、マグレガー、ハーズバーグ、リッカート、等)を中心にして。 10)上記における課題解決に向けて②…組織開発論、マネジリアル･グリッド、ソシオ＝テクニカル・システム論、タビストック研究所、チームコンセプト、等（研究者：ブレーク、ムートン、トリスト、ライス、エメリー、等）を中心にして。 11)上記における課題解決に向けて③…期待理論(研究者：ブルーム、ポーター＆ローラーⅢ）を中心にして。 12)上記における課題解決に向けて④…人は資源か、費用か？経営戦略と HRM の関係①：戦略の定義に関する議論（研究者：アンゾフ、チャンドラー、ミンツバーグ)、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（研究機関：BCG)、等を中心にして。期末課		

題の告知・説明。
13)上記における課題解決に向けて⑤…経営戦略と HRM の関係②：ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論,等（研究者：ポーター、ハメル＆プラハラード,等）を中心にして。 期末課題の告知・説明。
14)上記における課題解決に向けて⑥…経営戦略と HRM の関係③：知識創造の理論、暗黙知と形式知、HR アーキテクチャー、コンピテンシー、ナレッジマネジメント,等（研究者：野中、竹内、Lepak & Snell 、Quinn,等）を中心にして。 期末課題の告知・説明。
15)資格と HRM, 情報戦争と就職活動, これからの HRM について。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★

年度	2017	授業コード	J30282001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。　したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（テキスト）	小池敏範『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考文献）	渡辺淑夫『法人税法　平成 29 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教材（その他）	随時、法人税申告書の記載例や参考資料を配布する。		
評価方法	授業中の取組姿勢（30%）、授業中の小テスト（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	事前にテキストを読んで予習しておくこと。		

受講者への要望

税制に関連するマスコミ報道等に関心を持つこと。

講義の順序とポイント

1.　法人の区分と課税の範囲、法人税の体系
2.　課税所得の計算構造
3.　損益の期間帰属、受取配当等
4.　外貨建取引、減価償却資産、繰延資産
5.　給与、寄附金、交際費、その他の損金
6.　引当金・準備金制度、圧縮記帳制度
7.　税額の計算
8.　税効果会計（1）
9.　税効果会計（2）
10.　新会計基準と法人税（1）
11.　新会計基準と法人税（2）
12.　新会計基準と法人税（3）
13　中小企業の会計
14.　グループ法人税制
15.　法人税申告書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J30401A01
科目名	中小企業経営論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Small & Medium Business Management I		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	学習内容は、以下のとおりです。 （1）中小企業のビジネス現場において、小売業、卸売業、製造業、それぞれのビジネスに必要なマーケティン グ戦略とは何か？ （2）なぜ、中小企業のマーケティング戦略を学ぶことが必要なのか？ （3）中小企業のマーケティング戦略とは、大企業の戦略と具体的に何が違うのか？ （4）中小企業経営におけるマーケティング戦略が、企業業績にどう結び付くのか？		
教材（テキスト）	講義資料配布。その他、講義開始時に指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて、参考文献などを紹介する。.		
教材（その他）	講義用資料や参考資料を配布または紹介する。		
評価方法	講義の途中で指示する「課題」の提出とその内容を評価する。(20%) 講義に対する積極的な取り組みを評価する。(20%) 講義中に可能な範囲でチェックし、成績は、定期試験(60%)と上記の総合評価を示す。		
到達目標	実社会で通用するビジネス・リーダーを養成することが目標で、主に中小企業における ビジネス・マーケティング戦略について分析・判断できる実践的な能力を体得させる。		
準備学習	経営に関する興味があれば、実際の企業や商店を観察して、分からないとか、もっと詳しく 知りたい事柄を講義中に質問してください。「毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと」		

受講者への要望

「学生だから楽しく遊びましょう」、「学生時代にしか遊べないので、今のうちに思いきり旅行がしたい」・・・と同様の
会話を多く聞くことがありますが、結果は惨めな人生につながります。
事実、「若い間に苦労をして頑張っていれば、後が楽」です。
その反対は、「若い間に楽しく遊んでいれば後が苦しい」と考えられるが、実際は「・・・後が無い」のです。
また、面白く楽しく興味があることをランダムに学ぶのは勉強でも趣味や雑学に近いと考えて下さい。
人生計画を立てて、自分の将来に必要なことを系統立てて学ぶのが勉強です。すなわち、人生計画が無ければ、
何を、どの順に学べばよいか？それすらも分からない学生時代となります。そして優先順位を明確にして生活し、
チェック・リストを作成して、学生生活を自分でコントロールしてください。（できれば、定年退職後も計画してください）

講義の順序とポイント

経営の基本的な知識として、企業経営を８つのマネジメント要素に分けてそのエッセンスを体系的に説明する。すなわち、
以下の８要素を統合的にマネージすることによって、経営の合理性、実現性、納得性が担保される。

1.2
経営理念と企業の価値観：企業活動の最上位に位置付けられる経営の基本思想であり、活動上の求心力となる考え方や思い。
3.4
戦略のマネジメント：どのような持続的優位性を構築し、差別化された付加価値を生み出すのかを明示する企業活動の羅針盤となるシナリオ。
5.6
マーケティングのマネジメント：独自の付加価値を顧客や市場に伝達、浸透させ、顧客の購買を誘引するための「売れるしくみ」づくり。
7.8
組織のマネジメント：企業活動を効果的、効率的に行うための最適組織設計の考え方とグループ経営、コーポレート・ガバナンスのあり方。

9.10
人材のマネジメント：企業経営における最重要資源である人材の効果的な育成・活用・処遇のしくみづくり。
11.12
資金のマネジメント：企業活動の実態を正確かつ公正に公開する会計のしくみと企業経営の「血液」である資金を潤滑に循環させるメカニズム。
13.14
オペレーションのマネジメント：戦略を実行し、成果を生み出す役割を担うオペレーションにおける組織能力の開発。
15
成長と再生のマネジメント：持続的な成長と事業再生を実現する視点としくみ。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J30410A01
科目名	日本経営史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History I		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	江戸時代より昭和戦後時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。 20 世紀に入って大企業社会の成長と日本型企業経営の発展について講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎･岡部桂史･平野恭平『１からの経営史』中央経済社 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポート実施する。		
受講者への要望			
おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。			
講義の順序とポイント			
1.日本経営史の課題 2..豪商の企業者活動(上方商人・三井家) 3.近江商人の企業家活動 4.滋賀県企業家の多角的出資と役員兼任 5.会社制度の導入と発展 6.三井家の家政改革と財閥の形成過程 7.近代産業企業の誕生と専門経営者の成長 8.大企業時代の到来と企業間関係の変化 9.日本的労務関係の形成 10.市場・百貨店の発展と「商業革命」 11.重化学工業化の進展とコンツェルンの発展 12.戦前から戦後へ、「財界追放」と新経営者の登場 13.消費社会の到来と家電産業 14.自動車産業の発展と日本的生産システム 15.流通の革新と流通企業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J3042200C
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30452001
科目名	コーチング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Theory of Sport Coaching		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スポーツコーチングは、運動学、スポーツ社会学、心理学、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、栄養学などの科学や歴史、経験に裏づけられた技術指導に加え、選手との信頼関係を確立するためのコミュニケーションスキルや環境を整備するためのマネジメントスキルなど様々な要素が必要とされる。 そこで、コーチング論ではサッカーを中心に、指導者及び選手からの観点を理解し、すべてのスポーツに共通するメンタル、テクニック、フィジカルの知識を学び、トレーニングに活用する能力を身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意。「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
評価方法	平常点５０％（授業態度含む）、レポート２５％、確認テスト２５％		
到達目標	さまざまな世代にスポーツを指導するためのコーチングの基礎を学ぶ。		
準備学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
指導を志す学生として、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．コーチングとは ３．コーチングとスポーツ界の歴史 ４．競技スポーツと生涯スポーツのコーチング ５．各年代の発育発達によるコーチング ６．トレーニングの原理・原則 ７．トレーニング処方 ８．動機づけとその工夫 ９．各種目のトレーニング計画、発表 １０．各種目のトレーニング計画、発表 １１．コーチングの実践 １２．コーチングの実践 １３．コーチングの実践 １４．理想のコーチ像 １５．コーチングの講義を通して学んだこと（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J30454001
科目名	生産管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Production Management		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	生産活動は、材料等をインプットして、加工・組立を行い、製品をアウトプットする活動である。この過程には、企画・設計・生産・諸管理・改善などがある。本生産管理論は、これら一連の諸活動を効果的に行うことを目的としている。実際には、工程管理（モノの作り方）、品質管理（予定の品質を確保）、原価管理（正しい原価を見つける）を中心としている。それらについて、具体例を述べて理解しやすく講義する。		
教材（テキスト）	講義開始時に指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	演習問題を課題にする		
評価方法	取り組み姿勢や受講態度（10%）、レポート提出（30%）、定期試験（60%）で評価する。		
到達目標	1．実際の生産管理がイメージできるように具体例を用いて体得させる 2．生産管理のためのに主な手法を説明し、理解できるようにする 3．実際の生産活動に興味を持ち、それらの概要をある程度説明できるように指導する。		
準備学習	1．生産管理に関する予備知識を、ネット検索で調べて理解すること 2．生産方法や生産現場の動画を探して見ておくこと 3．インターネットを通じてバーチャル工場見学を行うこと		
受講者への要望			
学生らしく真面目に受講し、覚えるのではなくて正しく理解すること			
講義の順序とポイント			
1．生産管理の概要 2．生産計画と工程管理 3．品質管理 4．設備管理の基礎 5．安全管理 6．資材・購買管理 7．新製品企画開発、研究開発、製品設計 8．原価管理とコストダウン 9．生産の合理化 １０．生産情報の活用と見える化 １１．人材開発 １２．環境配慮 １３．ロボットと生産管理 １４．バーチャル工場の生産管理 １５．生産管理と経営自動化システムの将来展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J30459001
科目名	財務管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Management		
担当者名	秋口　達也	旧科目名称	
講義概要	本講義では、①財務管理の基本理念と財務諸表の基本的な見方、分析方法について　②資本調達から運用、資金の管理までの流れ　③企業の成り立ちと多様な資金調達方法、株式市場、企業再編について　④株式投資に必要な分析方法、企業価値について取り扱う。本講義では、財務管理にかかわる基礎的な考え方や理論を理解してもらうために、多様な教材を用いる。本講義は講義中に多様な分析について演習を行うことで理解を深めてもらう。		
教材（テキスト）	なし。独自の資料を使います。		
教材（参考文献）	中小企業の財務管理入門（中央経済社）		
教材（その他）	分析の演習をするため、電卓があることが望ましい（携帯・スマホの電卓でも可）		
評価方法	講義内の演習に基づく評価（70%）。テスト（30%）		
到達目標	財務管理論にかかわる基本的な考え方と理論を理解すること。企業経営に財務管理がどのような意味を持つのか理解すること。株式投資の基本的な考え方を理解すること。		
準備学習	講義終了時に今回・次回の範囲で質問をするので、資料等を調べ自分なりの回答を準備しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁とする。講義内で電卓を使うことがあるので準備しておくこと。　数学の基本的な知識、簿記・会計について基本的な知識があることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．財務管理の基礎概念 ２．財務管理と会計 ３．貸借対照表 ４．損益計算書 ５．その他の計算書（キャッシュ・フロー計算書・原価計算） ６．財務分析 ７．利益管理 ８．資本調達管理 ９．資本運用管理 １０．資金管理 １１．企業・会社とは何か １２．資本調達の多様化と株式市場 １３．株式投資分析 １４．企業価値の算定方法 １５．総括-財務管理と企業評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J30460001
科目名	財務諸表論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業などの経営活動の成果を表す「決算書」(財務諸表)の作成とその読み方については、春学期の「会計 学入門」でその基礎を学んできた。こうした財務諸表の公表を通じて、企業の外部利害関係者の意思決定 に有用な会計情報を提供する会計分野は、いわゆる「財務会計」と呼ばれる分野である。財務会計の主た る内容は、財務諸表の作成及び表示に関する諸原則の展開である。 （2）このような観点から、本講義では「会計学入門」で習得した基礎知識を踏まえて、さらに「財務諸表を読むた めのエッセンス」として、財務会計の基本的な仕組みを企業経営と結び付けて詳解することにしたい。 （3）そこでは、主要財務諸表としての貸借対照表と損益計算書、さらには、キャッシュ・フロー計算書や株主資 本等変動計算書との関連性をも視野に入れながら、全体像を概観する。 （4）春学期の「会計学入門」と本科目により修得できる財務会計の基礎知識は、経営学科における原価計算論・管理会計論・税務会計論など、各種会計分野の専門科目を履修する道しるべとしても有用なものとなろう。		
教材（テキスト）	井出健二郎・高久隆太・成岡浩一・山内 暁 編　『入門会計学―財務諸表を読むためのエッセンス―』 実教出版		
教材（参考文献）	（1）明神信夫・笹倉淳史・水野一郎編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』同文舘出版 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが説明できる。 （2）財務諸表の意義・特徴を説明できる。 （3）財務会計の必要性と内容を説明できる。 （4）会計情報の読み方が説明できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		
受講者への要望			
（1）春学期の「会計学入門」で使用したような基本的テキストを十分に読みこなしたうえで、本講義を受講されるよう希望する。 （2）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。			
講義の順序とポイント			
講義は、大体次の順序で展開する予定である。 1．講義展開のガイダンスと財務会計の意義 2．企業経営と会計制度 3．企業会計と複式簿記システム 4．会計の情報利用者とグローバル化 5．会計情報のディスクロージャーと入手方法 6．財務諸表の体系 7．貸借対照表の意義・様式・構成 8．資産の意義・区分・内容と評価 9．負債及び純資産の意義・区分・内容と評価 10．損益計算書の意義・様式・区分 11．各区分の利益計算構造			

12. キャッシュ・フロー計算書の意義・様式と内容
13. 株主資本等変動計算書の意義・様式と内容
14. 主要財務諸表の関連性
15. ケーススタディ「会計情報を読む」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J30463001
科目名	スポーツ指導者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Sports Leader		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」　（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（その他）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
評価方法	課題解決レポートの評価を 30%、学習態度、テストなどを 70%とする。		
到達目標	スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解すること。		
準備学習	スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと.。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに、文化としてのスポーツ・レクリエーション 2　指導者の役割①－人を支える「支援者」にとってのスポーツ・レクリエーション－ 3　指導者の役割②－スポーツ・レクリエーション支援の考え方－ 4　トレーニング論① 5　トレーニング論② 6　成長・発育のスキルの発達 7　スポーツ指導の方法と運動の学習理論 8　スポーツ指導の方法と運動の学習理論 9　指導計画のたて方 １０　性，年齢に応じたスポーツ指導計画 １１　スポーツ・レクリエーション活動と安全管理 １２　スポーツと栄養 １３　スポーツと心理的な要因 １４　スポーツと法 １５　スポーツ・レクリエーション支援者の資格と期待される役割			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J30468001
科目名	フィールドワーク京都（スポーツ活動研究）	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (Sports Activity Rese arch)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット等のメディアを通してスポーツや生涯学習に関する報道がなされない日はない。スポーツ・レクリエーションなどの競技や生涯学習系の活動は人々の生活に活力を与えるだけでなく、さまざまな話題を提供し、人とのコミュニケーションを深めるなどのコンテンツとなりうる。また、実践活動は学び・健康・社会性を育てる・人間ドラマを作る・絆を深めるなど日常生活になくてはならないものとなっている。 フィールドワーク京都（スポーツ活動研研究）では、スポーツ・レクリエーション・スポーツビジネス・生涯学習に関する実践活動や行政施策・ビジネス・世界の動向を題材として、人間の成長に着目し、「情報」「戦略」「コミュニケーション」をキーワードに文献とフィールドワークから、学びを深め、研究活動につなげていく。 各自の学びの成果は毎回の発表とし、スポーツ・レクリエーション・生涯学習に関するビジネスがどのような要素で成立しているかを考えていこう。また、実際のフィールドワークも実施する。スポーツイベントの観察・分析で理解を深め、報告書を作成したり、課題を発見・解決するための調査の方法を学ぶことを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
教材（参考文献）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
教材（その他）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
評価方法	毎回の発表とプレゼンテーション資料、課題レポートによる総合評価		
到達目標	1．プレゼンテーション資料が作成できる。 2．みんなの前で、わかりやすく発表できるようになる。 3．報告書を作成できるようにする。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		

受講者への要望

土曜日の 2 時間連続講義となっており、フィールドワークへの参加が求められる場合があります。また、交通費等の実費負担が発生する場合があります。
スポーツイベントを視察し、報告書を作成します。
また、報告書を作成するために興味のあるスポーツイベントについては事前に調べて発表してもらいます。

講義の順序とポイント

1. 授業ガイダンス
2. さまざまなスポーツ成立の歴史を調べよう
3.スポーツ競技者人口の動向グラフの作成
4. スポーツ組織と競技大会
5. スポーツ観戦者の動向とグラフの作成
6. スポーツで世界 1 になるために監督・選手たちがどのように取り組んだのか?
7. フィールドワーク①
8. スポーツ観戦レポート作成
9. 競技スポーツの展開と視察、ビジネスとして観察しよう
10. スポーツビジネスのしくみ
11. フィールドワーク ②
12. スポーツ観戦レポート発表
13. スポーツ基本法について
14. 都道府県のスポーツ施策を調べて発表する。
15. 2020 東京オリンピックについて－オリンピックの歴史と未来－　（レポート作成）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	J30482A01
科目名	スポーツ生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology of Physical Exercise		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの１つ。 スポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示または配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、期末試験（５０%）。		
到達目標	生理学と解剖学の基礎を修得する。		
準備学習	常に健康や運動について関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

１.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。
２.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
３.教室内は飲食禁止。
４.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であるため、遅刻・早退は認めない。

講義の順序とポイント

１.授業ガイダンス
２.骨・骨格について
３.関節、靱帯、腱について
４.身体運動に関係する骨（その１）
５.身体運動に関係する骨（その２）
６.筋肉について
７.骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構
８.筋線維タイプと収縮特性
９.筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋
１０.身体運動に関係する筋（その１）
１１.身体運動に関係する筋（その２）
１２.身体運動の基礎理論（その１）
１３.身体運動の基礎理論（その２）
１４.救命救急
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J30484001
科目名	スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business Theory		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、市場と組織という経営学の基本概念を用いながらスポーツビジネスを解説する。より具体的には、①スポーツビジネスと呼ばれる業界の構造および②スポーツというサービスの流通の仕方を解説する。その主たる問いは、①スポーツビジネスと呼ばれる業界とは何なのかであり、②なぜそのような業界構造が生まれたのかである。 現実のスポーツビジネスはきわめて複雑である。それは、商品化された身体技能の流通に関わるからである。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	松岡憲司『スポーツ・エコノミクスの発見』法律文化社 1996　1,575 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツビジネスとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題を市場と組織という視点で説明することができる。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツビジネスの分析視座を解説する
3.「説明するということ」：社会科学の立場からスポーツを説明する方法を解説する
4.「市場 1」：スポーツの勝敗と販売市場を解説する
5.「市場 2」：スポーツ選手と労働市場を解説する
6.「市場 3」：スポーツの市場における利益率を解説する
7.「組織 1」：強化部と事業部の分業を解説する
8.「組織 2」：試合というサービスの性質を解説する
9.「組織 3」：リーグという市場構造を解説する
10.「中間総括」：これまでの講義を振り返り、ポイントをまとめる
11.「スポーツマネジメント論入門」：スポーツマネジメント論が答える問いを解説する
12.「スポーツマーケティング論入門」：スポーツマーケティング論が答える問いを解説する
13.「スポーツビジネス論の今後」：最新の研究成果および業界事情を解説する
14.「スポーツビジネス論の最新動向」：これまでの講義を総括し、最新の業界動向を解説する
15.「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J30502001
科目名	事業承継論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study for Business Succession		
担当者名	長谷川　佐喜男	旧科目名称	
講義概要	日本経済の下支えをしている中小企業の経営者においても高齢化が進み、5 年から 10 年の間に多くの経営者が事業承継の時期を迎えることが想定されています。しかし、事業承継に向けた具体的な取り組みに着手している企業は 4 割程度だと言われています。現状のままでは、経営者交代の際に競争力の低下、最悪の場合は廃業の危機に直面する可能性もあります。大世代交代時期を迎える前に、事業承継の円滑化に向けた取り組みを更に強化していくことが、求められます。このような現状を踏まえて、事業承継の背景、財産承継だけではなく、経営の承継、特に経営理念・人材及び後継者教育、技術の承継等について、現状の問題点や課題を認識し、その対処法を出来るだけ事例を通じて学んで頂きたいと思います。		
教材（テキスト）	『事業承継対策の立て方・進め方』（名南ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ ネットワーク著）日本実業出版社２０１６を予定しているが、第 1 回目の講義において指示します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	取り組み姿勢 30 点　　期末レポート 70 点		
到達目標	１．事業承継が直面している問題点を探り、それぞれの課題を整理する。 ２．財務の承継については、具体的なスキームを理解する。 ３．円滑な事業承継を行うには、何が必要か各人が検討する。		
準備学習	教材の該当項目の章を事前に読むこと。 講義での配賦資料は、復習してくること。		
受講者への要望			
中小企業の事業承継が抱える多くの問題点を、財務面・経営面・人材面から学んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．事業承継の意味 ２．事業承継における重要な問題点 ３．親族内承継 ４．第三者における承継（従業員承継・M&A） ５．資産承継（相続との関係） ６．相続の基礎知識 ７．相続税の計算方法 ８．経営の承継 ９．経営承継円滑法 １０．事業承継ガイドライン １１．人の承継 １２．後継者教育 １３．理念・技術の承継 １４．老舗の事業承継 １５．事業承継計画			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J30504A01
科目名	京都商業特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture on Commerce in Kyoto A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講義は、基本的には過去に大学コンソーシアム京都で開講された「学生ベンチャー・スタートアップスクール」「アントレプレナーシップ養成講座」「京都起業家実践講座」「京都社会起業家養成講座」の各講座の成果をも踏まえ、新たに開講されるものである。 　このため京都商業特別講義 A は、「理論編」としてベーシックの位置付けで、京都商業特別講義 B は「実践編」としてアドバンスの位置付けで開講する。 　京都は伝統と革新のはざまに生き抜いてきたブランド都市である。その強みについてのキーワードは「文化力」であり「夢・誇り・もてなし力」である。特に内外からの年間約 5 千万人に上る観光客を「もてなす」京都における総合的パワーは、1 次産業から 3 次産業と幅広い産業によって支えられている。取り分けて 3 次産業、特に商業が京都の都市機能を果たす上で,内向け、外向けを問わず、担ってきた役割には多大なものがある。そこで本講座においては、京都を構成する様々な産業分野の中において、商業分野に焦点を定め考察を進めたい。 　考察は京都における商業を中心とした歴史的側面、京都ビジネスの特質（老舗からベンチャービジネス）、京都地域資源の活用、農工商連携、商業集積を活用した地域の活性化などについて、流通論・商学・マーケティング論の観点からの知見を踏まえ、京都商業における現状と課題と将来像に接近したい。 　また京都学園大学は、1925 年辻本光楠先生により京都上京区において開校された、京都商業学校をルーツとしており、大学の存する亀岡市は、石門心学で商業の社会的地位を高めた、石田梅岩先生の生家の存するところでもあり、従来より、商業に関する研究については、深く取り組んできたところでもある。 　なお講義に当たっては、中小企業診断士・税理士など実際の商業経営に造詣の深い現役コンサルタントの知見を踏まえた講義も、織り込んでおり、また講義においては、課題を設定したグループワーク、質疑応答などを適宜に踏まえて、双方向性のある授業により、京都商業におけるリアルで、有意義な知見を得ることができる講座を目指す。		
教材（テキスト）	必要の都度プリントなど資料配布を行う。		
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	受講態度(グループワークへの取り組み姿勢を含む。)（50 点)、レポート（50 点）		
到達目標	商業及び周辺学問領域における基本的な知識の習得（流通・商業・マーケティング）を図るとともに、習得した知識などを活用して、今後の京都における商業の発展のための方向性や在り方についての教養を身につける。また商業領域におけるマネジメント能力の涵養を図る。		
準備学習	自分自身を取り巻く商業環境に興味を持ち、商業に関する知識や情報については,積極的に新聞、雑誌、インターネットなどのメディアを通じて収集行うとともに、今後京都における、商業のより一層の活性化及び発展方向を見定めるという、問題意識を持って受講されたい。		
受講者への要望			
積極的に授業に参加することを希望いたします。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（講義概要、到達目標など） 2　商業を対象とする関連学問領域における基礎知識の概要（流通論・商学・マーケティング論） 3　商業における基本理念①～商業の存立基盤 4　商業における基本理念②～石門心学（石田梅岩）に学ぶ商業 5　京都の歴史・文化・産業～商業との関連において 6　京都ビジネスにおける現状と課題①（老舗編） 7　京都ビジネスにおける現状と課題②（ベンチャービジネス編） 8　京都地域産業資源と商業 9　地域商業ガイドラインと商業活性化アクションプラン（京都を中心として） 10　特別講義①			

11　特別講義②
12　特別講義③
13　特別講義④
14　特別講義⑤
15　京都商業の展望

（注）特別講義においては、京都における商業振興策・支援制度、商業に関する簿記・会計及び税法、事例研究など予定している。
本講義はキャンパスプラザ京都　4 講時(14 時 30 分～16 時 00 分)で行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J30504B01
科目名	京都商業特別講義Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture on Commerce in Kyoto B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講座は、基本的には、京都商業特別講義Ａにおいて習得した知識などを活かして行う、少人数制の演習講座となっている。このため講義については、オリエンテーション的なものを除き最小限にとどめ、京都における商業を担うべく、起業家精神を持ち、ブランド都市京都における、商業の果たす機能の重要性を踏まえたうえで、実際に商業にどのような形で関わりを持っていくかについての事業構想及び事業計画を考察する講座である。 国際観光都市を目指す京都商業の方向性には、内向け（地域住民向け）と外向け（観光客向けなど）、日用品・身の回り品（食料・衣料など）と専門品（伝統工芸品、土産物など）、京都地域資源を活用した商業モデル、農工商連携による商業モデル、商店街など商業集積の促進による地域活性化モデルなど、幅広い観点からさまざまに、商業への接近が可能である。 このように幅広い観点から京都における新たな商業モデルを構想し、事業計画、提言を策定することが、本講座の主眼とするところである。 具体的には、新たな商業モデルのデザイン、新たな商店街のデザイン、地域資源の活用による商業のデザイン、農商工連携による商業のデザインなどなどを、実現可能性を踏まえたデザインいわゆる構想を行う講座である。 なお研究を進めるにあったっては、担当教員はもとより、複数のコンサルタントが各受講生およびグループに対して個別具体的な指導を行う。 よって当該講座における研究方法は、グループを中心とした、文献研究、事例研究、フィールドワークなどを各グループごとに計画し、実践し、進捗管理を行い、最終的には成果として商業にかかるデザインおよびプランニングを練り上げていくものである。このため本講座は、単なる知識、実践力の修得に留まらず、その過程を通じて研究における自主的な進捗管理、リーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションなどに関する能力やスキルを修得することも視野に入れている。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜提供を行う。		
評価方法	取組姿勢（２０点）、プレゼンテーション　（３０点）、研究成果（５０点）		
到達目標	商業に必要とされるマネジメントにかかる基本と原則を修得するとともに、グループ研究の過程を通じてリーダーシップ力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの涵養を図るとともに、京都商業におけるイノベーションを踏まえた、構想、計画を通じて、革新力、創造力などの修得も行いたい。		
準備学習	自分自身を取り巻く商業環境に興味を持ち、商業に関する知識や情報については,積極的に新聞、雑誌、インターネットなどのメディアを通じて収集行うとともに、今後京都における、商業のより一層の活性化及び発展方向を見定めるという、問題意識を持って受講されたい。 また授業用の資料は事前に配布するので、授業後には理解を深めると共に授業前には次回の資料の理解を進めておくこと。		

受講者への要望

積極的なグループワークへの参加はもとより、京都商業への興味を持ち、京都商業における,イノベーション、活性化、商業機会などを見据えて、問題意識を持って、参加されたい。

なお可能な受講生は、ノート型パソコンを受講時持参されたい。

講義の順序とポイント

第一日目　8/8(火)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)

1　講座についてのガイダンス

2　グループ分けおよび事業構想、事業計画への組織作り、役割分担など

3　グループ討議による商業領域におけるビジネスチャンス、活性化策の発見およびそのための計画策定への進め方についての検討

4　各受講者、グループからの質疑応答（以下質疑応答という）、コンサルタントの個別指導①（以下個別指導という）

5　各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導②

第二日目　8/9(水)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)
6　　研究の進め方についての打ち合わせ
7　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導③
8　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導④
9　　情報収集、文献研究、フィールドワーク、討議など、質疑応答、個別指導⑤
１０　各グループからの進捗状況についての報告、質疑応答、個別指導⑥

第三日目　8/10(木)　キャンパスプラザ京都　1～5 講時(9 時 00 分～17 時 50 分)
１１　各グループ研究結果のまとめおよびプレゼンテーションの準備
１２　各グループ研究成果のまとめおよびプレゼンテーションの準備
１３　研究成果発表会①
１４　研究成果発表会②
15　まとめ（コンサルタントからの講評など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J30506001
科目名	スポーツチームマネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	講義では、スポーツチームマネジメントの基礎的な考え方と共に、スポーツチームマネジメントに必要な知識と技術について学ぶ。また、プロスポーツ組織のマネジメントとアマチュア組織のマネジメントの差異を考察し、「人財」「資材」「財源」を生み出すチーム運営について学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜プリント配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	適宜プリント配布する。		
評価方法	平常点（参加態度等）５０％　レポート２５％　発表２５％		
到達目標	スポーツチームマネジメントを題材に、社会組織でも応用できる基礎を学ぶ。		
準備学習	講義で学んだ内容を復習し、次回の講義予習を毎回指示する。		

受講者への要望

授業に積極的に参加し、遅刻等しないこと。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、
２．スポーツチームマネジメントとは
３．学生スポーツをめぐる社会的背景
４．プロスポーツをめぐる社会的背景
５．スポーツ組織のマネジメント概要
６．スポーツクラブマネジメント
７．総合型地域スポーツクラブ
８．中間まとめ
９．スポーツチームマネジメント
１０．スポーツチームマネジメント
１１．研究作成
１２．研究作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５．スポーツチームマネジメントの講義を通して学んだこと（ディスカッション方式）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J30509A01
科目名	フィールドワークゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J30509B01
科目名	フィールドワークゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J4000400K
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学ぶ。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉』（成文堂）。		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007） 遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』（勁草書房） 民法判例百選Ⅰ		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	・取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 ・１５回出席することを前提として（やむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、レポート 15%、宿題の実施状況 15%。		
到達目標	・法学部生として求められる最低限度の内容でレジュメが作成できるようになる。 ・他人に対して自分の意見を正しく伝えることができるようになる。 ・自らのスケジュールをしっかり管理し、事前連絡・事後報告ができるようになる。 ・民法がおもしろいと思えるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。―もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。		

受講者への要望

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得すること。ゼミと平行していても構わない。
・ゼミはコミュニケーションの場であり、恥ずかしがらずに、色々質問しよう。
・やむを得ないものを除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁！！
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をすること。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価の際に減点する。

講義の順序とポイント

【進め方】
担当者は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】
1．ガイダンス 1 ―ゼミでの心構え、ゼミの運営方法等の確認、参加者の自己紹介、報告者（ないし報告班）の決定、ゼミでの報告について
渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110 頁～114 頁
《課題》
・自分の報告日を確認し、その 1 週間前に事前確認をするとして、いつまでにレジュメを仕上げなければならないか、いつまでに文献を収集し、読まなければならないか、計画しよう。
・生活の乱れを防止するために、まず時間割を基本にして 1 週間の生活を考えよう。
2．ガイダンス 2 ―情報の調べ方、レジュメの作り方、
新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87 頁～109 頁
判決文には何が書かれているのかの確認
3．94 条 2 項・110 条の類推適用（最判平 18・2・23 判時 1925 号 92 頁）（百選１ 22 事件）

事件に関する事実の概要
民法の制度の確認

4．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

5．無権代理人の本人相続（最判平 5・1・21 判時 1478 号 107 頁）（百選 1　36 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認

6．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

7．賃貸借契約の終了と転借人への対抗（最判平 14・3・28 判時 1787 号 119 頁）（百選 1　3 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認

8．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

9．民法 194 条に該当する善意占有者の使用収益権（最判平 12・6・27 判時 1715 号 12 頁）（百選 1　66 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認

10．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

11．分筆後の残余地の特定承継と袋地所有者の通行権（最判平 2・11・20 判時 1398 号 60 頁）（百選 1　68 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認

12．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

13．ゼミレポートを書く 1― 卒業論文を念頭に
脚注の付け方の確認、参考文献の書き方の再確認
今まで読んできた文献の形をまねしながら、発表した判例についてレポートにしましょう。

14．ゼミレポートを書く 2― 卒業論文を念頭に
レポート作成中の質問・相談を行う時間

15．ゼミレポートを書く 3― 卒業論文を念頭に
書いたもののチェックを受けて、修正。
（宿題）　レポートを提出期限までに完成させる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J4000600B
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習Ⅰ
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方など基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート等による平常点 70％　報告・発表 30％		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した判例百選の該当頁を読んでくること。 講義終了時に次回の判例、参考文献を指定するので読んでおくこと。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．裁判制度、判例の調べ方、レジュメの作成方法 ３．行政権の濫用 ４．委任立法の範囲 ５．公衆浴場の営業許可 ６．行政行為の効力 ７．行政裁量 ８．行政行為の撤回 ９．行政契約 10.行政指導 11．行政計画 12．行政強制 13．行政調査 14．行政罰 15.行政手続			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J4000600D
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法総論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） その他授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法総論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．罪刑法定主義（刑罰法規の解釈、刑罰法規の明確性など）
３．構成要件該当性（１）（実行行為論ー不作為による殺人、不作為による放火など）
４．構成要件該当性（２）（因果関係論－被害者の行為の介在、第三者の行為の介在など）
５．構成要件該当性（３）（錯誤論－方法の錯誤、因果関係の錯誤など）
６．構成要件該当性（４）（過失論－危険の引き受け、管理・監督過失など）
７．違法性（１）（正当行為、緊急行為）
８．違法性（２）（被害者の同意）
９．違法性（３）（安楽死、治療行為の中止）
１０．有責性（１）（実行行為と責任能力、原因において自由な行為など）
１１．有責性（２）（違法性の錯誤、期待可能性など）
１２．未遂犯論（１）（実行の着手の時期、不能犯など）
１３．未遂犯論（２）（中止未遂）
１４．共犯論（１）（共謀共同正犯、承継的共同正犯など）
１５．共犯論（２）（共犯からの離脱、共犯と中止未遂）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J4000600G
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	受講生がこれまで取り組んできた国際法のテーマについて、掘り下げた検討を行い、報告での討論等を踏まえてレポートにまとめる。また、国際法に関する時事問題等も適宜取り上げて、検討を行いたい。		
教材（テキスト）	講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	位田隆一・最上俊樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年）		
評価方法	平常点（発言状況、受講態度など）５０点、報告３０点、レポート２０点。 ただし、報告を無断で怠った場合または出席状況が 2/3 に満たない場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題を通じて、国際法の基本的な性質やはたらきを理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのかを理解する。 ２．国際法の問題について集団で討論することができるようになる。 ３．これまで取り組んできたテーマについて、レポートにまとめる。		
準備学習	授業が終了する際に次回の授業内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．与えられた課題について、投げ出さずに、根気強く最後まで取り組むこと。
２．就活で忙しいとは思うが、無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．国際法に関する時事問題等の解説
３．受講生の報告
４．受講生の報告
５．受講生の報告
６．国際法に関する時事問題等の解説
７．受講生の報告
８．受講生の報告
９．受講生の報告
１０．国際法に関する時事問題等の解説
１１．受講生の報告
１２．受講生の報告
１３．受講生の報告
１４．国際法に関する時事問題等の解説
１５．国際法に関する時事問題等の解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J4000600H
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	専門演習３では、労働判例百選および水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』掲載されている重要判例の報告を中心に演習を進めていく予定である。 　個別的労働関係法の領域における判例を主たる対象としつつも、集団的労働関係法の領域における判例も対象とする。毎回ゼミ生に一事案を報告してもらい、その事案に含まれている法律上の争点などに関してゼミ生全員で考え、議論しながら検討していく。 　報告者には必ず判決原文に当たったうえで、争点や当該判決等についての考え方などを発表してもらう。判例を素材に現実社会での事例を通じて、単なる知識の習得というだけではなく、企業等実務においても役立つことができる活きた知識の習得を目的に、考察を加えていく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第９版〕」（有斐閣、2016 年）2400 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
評価方法	出席・報告・授業内レポートなど（５０％）と期末レポート（５０％）とで評価する予定である。		
到達目標	労働法の基本的な構成並びに各論点および判例法理を理解することを目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
演習開始までに再度労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下の内容で進める予定であるが、春学期にゼミ生と相談のうえテーマ等を組み替える場合がある。 ただし、判例百選および事例演習労働法掲載のものに限定する。 第１回　横浜南労基署長（旭紙業）事件 第２回　朝日放送事件 第３回　全農林警職法事件 第４回　ルフトハンザドイツ航空事件 第５回　三菱樹脂事件 第６回　大日本印刷事件 第７回　三菱樹脂事件 第８回　東京電力（千葉）事件 第９回　岩手銀行事件 第 10 回　野村證券事件 第 11 回　丸子警報機事件 第 12 回　福岡セクシュアル・ハラスメント事件 第 13 回　秋北バス事件 第 14 回　オリンパス光学工業事件 第 15 回　松下電器産業（年金減額）事件			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J4000600J
科目名	専門演習 3	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法に関わる主要判例をテーマに設定し、議論を行いながら、引き続き理解を深めていく。報告担当者に修得済の知識を活かしながら報告を行ってもらい、これを踏まえて受講者全員で議論を進めていく。受講者には自らの研究テーマを設定し、卒業研究（1 万 2 千字程度）に積極的にチャレンジしてもらいたい。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）、報告への取り組み、討論における発言・質問内容等による。レポート内容（30%）。		
到達目標	会社法に関わる知識を応用する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。卒業研究に取り組む。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		

受講者への要望

自分の興味・関心に応じて、研究テーマを設定すること。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション
2．議決権行使阻止工作と利益供与
3．失念株と不当利得
4．譲渡制限株式の評価
5．募集新株予約権の有利発行
6．取締役選任決議の不存在とその後の取締役選任決議の効力
7．取締役の責任と法令違反
8．銀行の取締役の善管注意義務
9．検査役選任請求と持株要件
10．違法行為の差止請求権
11．取締役の報酬の変更
12．取締役会決議が必要な重要な財産の処分
13．株主代表訴訟の対象となる取締役の責任
14．株主代表訴訟の被告側への会社の補助参加の可否
15．帳簿閲覧請求の要件

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J4000600K
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

１．演習の進め方等についてのガイダンス
２．文献検索・引用の仕方の復習
３．小論文の書き方
４．発表、報告の仕方について
５．判例研究報告（１）
６．判例研究報告（２）
７．判例研究報告（３）
８．判例研究報告（４）
９．　卒業研究テーマ探し　（１）
１０．卒業研究テーマ探し（２）
１１．参考文献収集（１）
１２．　参考文献収集（２）
１３．目次作成（１）
１４．目次作成（２）
１５．進路に関してー夏休みにしておくべきことー

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J4000600L
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分の選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 ４回生の春学期では、秋学期に卒業研究またはゼミ論を執筆することを念頭に置き、各受講生が関心のある経済法に関する分野を中心に、内容を掘り下げて学ぶ。経済法の内容に関する学びだけでなく、論文作成に向けて、文章力を鍛えることを目的とします。 さらに、春学期の専門演習で取り上げた、経済の概念について確認し理解を深めます。 ３回生との合同ゼミとなるので、先輩として、見本となる報告や議論をすることを通じて、より一層、人前で分かりやすく説明する能力を鍛えることも目指します。		
教材（テキスト）	専門演習１及び経済法Ⅰと同じ		
教材（参考文献）	適宜、プリントを配布する。		
教材（その他）	授業中に指示する。		
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）　２０％ 報告　　５０％ 学期末レポート　３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点する。		
到達目標	経済法全般および経済の重要概念についての理解をより確実なものとし、自分の選んだテーマについての理解を深める。		
準備学習	各回の授業において、次回までにすべき予習・復習のための課題を指示するので、 それを次回に提出すること。 報告担当者は、教科書や資料をよく読み、図式を使ったレジュメを作成し、分かりやすく説明できるように準備しておくこと。授業で指示する内容の予習や報告の準備を行うこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

講義の順序の目安

１　オリエンテーション
２　入札談合１
３　入札談合２
４　入札談合３
５　入札談合４
６　入札談合５
７　企業結合１
８　企業結合２
９　企業結合３
１０　企業結合４
１１　不公正な取引方法１
１２　不公正な取引方法２
１３　不公正な取引方法３
１４　不公正な取引方法４
１５　独占禁止法の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J4000600M
科目名	専門演習３	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅲ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学びながら、最新の法状況を知る。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）	京都学園大学法学会編『法学の扉』（誠文堂）。		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 １５回出席することを前提として（もちろんやむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）40%、質疑・議論への参加 40%、レポート 20%。		
到達目標	・より多くの情報を収集して報告でき、質疑に対して的確に回答できるようになる。 ・議論を誘導したり、盛り上げたりできるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。― もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・事件の論点を明確に押さえてくること。		

受講者への要望

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得してください。ゼミと平行していても構いません。
・ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問しましょう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁です。
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をしなさい。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価にマイナスに作用します。
・就職活動によりやむを得ず欠席する場合にも、事前に連絡しなければ、怠慢による欠席と扱うので、心得ておくこと。

講義の順序とポイント

民法の勉強がある程度進んでいることを前提とし、下記のテーマを扱う。今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。また、受講者の提案も受け付ける。

【進め方】
担当者は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】
1．ガイダンス 1―ゼミでの心構え、ゼミの運営方法等の確認、参加者の自己紹介、報告者（ないし報告班）の決定、ゼミでの報告について
渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110 頁～114 頁
《課題》
・自分の報告日を確認し、その 1 週間前に事前確認をするとして、いつまでにレジュメを仕上げなければならないか、いつまでに文献を収集し、読まなければならないか、計画しよう。
・生活の乱れを防止するために、まず時間割を基本にして 1 週間の生活を考えよう。
2．ガイダンス 2 ―情報の調べ方、レジュメの作り方、
新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87 頁～109 頁

判決文には何が書かれているのかの確認
3．意見ないし論評の表明と名誉毀損（最判平 9・9・9 判時 1618 号 52 頁）（百選２ 87 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
4．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
5．景観利益（最判平 18・3・30 判時 1931 号 3 頁）（百選２ ８６事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
6．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
7．賃貸借契約の終了と転借人への対抗（最判平 14・3・28 判時 1787 号 119 頁）（百選１ 3 事件）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
8．同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
9．未成年者と監督義務者の責任（最判平 27・4・9 民集 69 巻 3 号 455 頁）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
10. 同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
11. 預貯金債権と遺産分割（最大判平 28・12・19）
事件に関する事実の概要
民法の制度の確認
12. 同上
事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
13. ゼミレポートを書く１― 卒業論文を念頭に
脚注の付け方の確認、参考文献の書き方の再確認
今まで読んできた文献の形をまねしながら、発表した判例についてレポートにしましょう。
14. ゼミレポートを書く２― 卒業論文を念頭に
執筆中の質問
15. ゼミレポートを書く３― 卒業論文を念頭に
書いたもののチェックを受けて、修正。
（宿題） レポートを提出期限までに完成させる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J4000700A
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	専門演習Ⅳ
講義概要	専門演習４では、大学４年間の総括として労働法全般の中から重要テーマにつき総合的検討を加えていく。取り扱うテーマについては、秋学期開講時にゼミ生の希望等も聞いたうえで決定する。卒業研究を履修するゼミ生には各自の希望テーマに応じて論文指導等していく。		
教材（テキスト）	開講時に指示するもののほか、村中孝史ほか編「労働判例百選〔第９版〕」（有斐閣、2016 年）2400 円＋税、および、水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第２版〕』（有斐閣、2011 年）2700 円＋税を必携のこと。		
教材（参考文献）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、20１４年）2600 円＋税		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
評価方法	出席・報告・授業内レポートなど（５０％）と期末レポート試験（５０％）とで評価する予定である。		
到達目標	労働法の基本的な構成並びに各論点および判例法理を、多角的に、しかも高度に理解することを目標とする。		
準備学習	次回の項目について、報告者以外のゼミ生も判例評釈および論文を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
演習開始までに再度労働法のテキストを通読しておくことが望ましい。ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下の内容で進める予定であるが、秋学期開講時にゼミ生と相談のうえテーマ等を組み替える場合がある。ただし、判例百選掲載のものに限定する。 第１回　日立製作所武蔵工場事件 第２回　白石営林署事件 第３回　時事通信社事件 第４回　陸上自衛隊八戸車両整備工場事件 第５回　電通事件 第６回　炭研精工事件 第７回　東亜ペイント事件 第８回　高知放送事件 第９回　国労広島地本事件 第 10 回　国鉄札幌運転区事件 第 11 回　都南自動車教習所事件 第 12 回　弘南バス事件 第 13 回　丸島水門事件 第 14 回　中労委（オリエンタルモーター）事件 第 15 回　国鉄事件			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J4000700B
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論における問題について重要判例を取り上げて検討する。演習においては、判例の論点についてまとめたレジュメを報告者が作成し、参加者全員がその論点について議論することを原則とする。 また、参加者との相談の上、事例問題を解く回を設ける予定である。このことから、資格試験受験予定者、ロースクルール進学志望者、警察官・消防官をはじめとする公務員志望者の参加も歓迎する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１） その他授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	刑法各論上の争点について理解を深めると同時に、議論や討論を通じて、問題を整理・分析し、判断する能力を身につけることを目標とする。また、報告・レジュメ作成を通じて、何が問題となっているのか、それに対して自身がどのように考えているかを他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることも目標とする。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、事前に指定された判例について、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、判例の内容について理解すること。		

受講者への要望

判例についての報告とそれに基づく議論を中心に行っていく予定のため、演習に積極的に参加し、発言することが望まれる。
また、無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

おおよそ以下の通りに進める予定であるが、受講生の希望によっては、内容、順序については変更の場合がある。

１．ガイダンス（判例と文献の調査方法、レジュメの作成及び文献引用の仕方など）
２．生命および身体に対する罪（１）（自殺関与罪と殺人罪の限界、偽装心中と殺人罪など）
３．生命および身体に対する罪（２）（暴行によらない傷害、PTSD と傷害の成否など）
４．生命および身体に対する罪（３）（自動車運転に関する犯罪）
５．生命および身体に対する罪（４）（遺棄の概念、胎児と人の限界など）
６．自由および私生活の平穏に対する罪（親権者による未成年者略取、ビラ配布行為と邸宅侵入罪など）
７．名誉および信用に対する罪（名誉毀損罪における公然性の意義、名誉毀損罪における事実の真実性に関する錯誤）
８．財産に対する罪（１）（窃盗罪の保護法益、刑法上の占有、死者の占有など）
９．財産に対する罪（２）（暴行後の領得意思、二項強盗と処分意思、事後強盗罪における窃盗機会の継続性など）
１０．財産に対する罪（３）（無銭飲食と二項詐欺、クレジットカードの不正使用と詐欺、誤振込、権利行使と恐喝罪など）
１１．財産に対する罪（４）（不動産の二重売買と横領罪、背任罪における（「図利加害目的」、背任と横領の区別など）
１２．公衆の平穏および安全に対する罪（難燃性建造物における放火罪の既遂時期など）
１３．公共の信用に対する罪（写真コピーの文書性、ファックスの文書性など）
１４．国家作用に対する罪（１）（職務行為の適法性、公務執行妨害罪における暴行、犯人の死亡と犯人隠避罪の成否など）
１５．国家作用に対する罪（２）（社交儀礼と賄賂罪、賄賂罪における「職務に関し」の意義、あっせん収賄罪の成否など）罪の成否など）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J4000700C
科目名	専門演習 4	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	専門演習 II
講義概要	行政法の基本判例を素材に、判決文の読み方、法令の適用、裁判制度、判例解説、判例批評の読み方などの基礎的な学習をする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート等による平常点 70％　報告・発表 30％		
到達目標	行政法の講義で学んだ基礎知識の復習と、判例を読むことにより、行政書士試験や公務員試験の試験対策を目指す。		
準備学習	事前に配布した行政判例百選の該当頁を読んでくるここと。 講義終了時に次週の判例の参考文献を指定するので読んでくること。		
受講者への要望			
憲法、行政法の関連科目は事前に履修すること、あるいは専門演習と同時に履修すること。 公務員・行政書士をめざしている者歓迎するが、必ずしもその者に限定しない。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2．行政不服申立て① 3．行政不服申立て② 4．司法審査とその限界 5．行政訴訟と民事訴訟 6．取消訴訟の対象① 7．取消訴訟の対象② 8．原告適格① 9．原告適格② 10．訴えの利益 11．国家賠償法 1 条責任① 12．国家賠償法 1 条責任② 13．国家賠償法 2 条責任① 14.国家賠償法 2 条責任② 15.損失補償			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J4000700H
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	受講生がこれまで取り組んできた国際法のテーマについて、掘り下げた検討を行い、報告での討論等を踏まえてレポートにまとめる。また、国際法に関する時事問題等についても適宜検討を行う。		
教材（テキスト）	資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	位田隆一・最上俊樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年）		
評価方法	平常点（発言状況、受講態度など）５０点、報告３０点、レポート２０点。 ただし、報告を無断で怠った場合または出席状況が 2/3 に満たない場合は単位認定をしない。		
到達目標	１．日本に関わる国際法の諸問題等を通じて、国際法の基本的な性質やはたらきを理解し、私たちの日常生活に国際法がどのように関わっているのかを理解する。 ２．国際法の問題について集団で討論することができるようになる。 ３．これまで取り組んできたテーマについて、レポートにまとめる。		
準備学習	授業が終了する際に次回の授業内容と予習範囲を指定するので、予習課題を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．与えられた課題について、投げ出さずに、根気強く最後まで取り組むこと。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．国際法に関する時事問題等の解説
３．受講生の報告
４．受講生の報告
５．受講生の報告
６．国際法に関する時事問題等の解説
７．受講生の報告
８．受講生の報告
９．受講生の報告
１０．国際法に関する時事問題等の解説
１１．受講生の報告
１２．受講生の報告
１３．受講生の報告
１４．国際法に関する時事問題等の解説
１５．国際法に関する時事問題等の解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J4000700J
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法・消費者法に関わる生きた方を学ぶ。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 １５回出席することを前提として（もちろんやむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）40%、質疑・議論への参加 40%、レポート 20%。		
到達目標	・より多くの情報を収集して報告でき、質疑に対して的確に回答できるようになる。 ・議論を誘導したり、盛り上げたりできるようになる。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。― もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・事件の論点を明確に押さえてくること。		

受講者への要望

・あわせて「卒業研究」も登録すること。
・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得してください。ゼミと平行していても構いません。
・ゼミはコミュニケーションの場です。恥ずかしがらずに、色々質問しましょう。
・教室移動に関わる遅刻（5 分程度）ややむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁です。
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をしなさい。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価にマイナスに作用します。
・就職活動によりやむを得ず欠席する場合にも、事前に連絡しなければ、怠慢による欠席と扱うので、心得ておくこと。

講義の順序とポイント

民法の勉強がある程度進んでいることを前提とし、下記のテーマを扱う。今後の状況によりテーマが変わる可能性があるが、現時点においては、次のことを考えている。また、受講者の提案も受け付ける。

【進め方】

担当者は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】

1．報告判例・日程の決定；レポートの講評。
2．就職活動に関する状況報告及び今後の予定について報告及び個別面談。
3．賃貸人の修繕義務不履行と賃借人の損害回避減少措置（最判平 21・1・19 判時 2032 号 45 頁）（百選２　６事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認
4．同上
　　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
5．民法 915 条 1 項の「自己のために相続の開始があったことを知った時」の意義（最判昭 59・4・27 判時 1116 号 29 頁）（百選

3　75 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認
6．同上
　　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
7．遺産分割協議と詐害行為取消権（最判平 11・6・11 判時 1682 号 54 頁）（百選 3　68 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認
8．同上
　　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
9．卒業研究進捗状況報告（卒業研究不履修者との議論）
10. 性同一性障害による性別変更と嫡出推定（最判平 25 年 12 月 10 日民集 67 巻 9 号 1847 頁）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認
11. 同上
　　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
12. 所有権返還請求権と民法 708 条（最大判昭 45・10・21 判時 609 号 3 頁）（百選 2　79 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認
13. 同上
　　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
14. 卒業ゼミレポート報告会 1
15. 卒業ゼミレポート報告会 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J4000700K
科目名	専門演習 4	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法・金融商品取引法に関わる主要判例をテーマに設定し、議論を行いながら、引き続き理解を深めていく。報告担当者に修得済の知識を活かしながら報告を行ってもらい、これを踏まえて受講者全員で議論を進めていく。受講者には自らの研究テーマに基づき卒業研究（1 万 2 千字程度）を積極的に進めてもらいたい。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）。最新版を用いる。 岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』（別冊ジュリスト、有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教材（参考文献）	なし。プリントを配布する。		
教材（その他）	六法必携。		
評価方法	平常点（70%）、報告への取り組み、討論における発言・質問内容等による。レポート内容（30%）。		
到達目標	会社法あるいは金融商品取引法に関わる知識を応用する中で、課題について問題点を整理し、適切な解決方法を考える力を養う。他人の考えを理解し、自らの考えを口頭及び文章で他人に伝える力を向上させる。卒業研究の完成に取り組む。		
準備学習	各回の演習終了時に教科書の次回関連範囲を指定するので、予習しておくこと。また、演習終了時に課題を指定するので、次回演習開始時に提出すること。特に報告者は、十分に資料を収集し、報告に備えること。		
受講者への要望			
自分の研究テーマについて意欲的に文献を読破すること。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 【会社法分野】 2. 会社の設立 3. 株主平等の原則 4. 自己株式の取得 5. 募集株式の発行の差止め 6. 株主提案権 7. 取締役の利益相反取引 8. 会計帳簿閲覧謄写請求 9. 合併と差止め 10. 会社分割における債権者保護 【金融商品取引法分野】 11. 公開買付規制 12. 説明義務 13. 不公正取引（1） 14. 不公正取引（2） 15. 不公正取引（3）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J4000700L
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習では、主に、刑事手続の重要な判例を取り上げて検討する。それぞれ受講者が報告者となって、どのような事例か、どのような問題かということについて、レジュメにまとめ、報告してもらい、それに基づいて討論をしていく形式である。また、必要に応じて、少年法や犯罪被害者などの刑事政策や最近の法改正なども検討の対象とする。また、学期ごとにゼミ論文として刑事法に関連するテーマでレポート作成する。なお、受講者の意向を聞いたうえで、裁判所見学などの課外授業や模擬裁判も行う予定である。		
教材（テキスト）	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業の中でそのつど個別のものを指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、レジュメおよび資料などを配布する。		
評価方法	原則、欠席は認めない（特に無断欠席）。ただし、やむを得ない理由で欠席する場合には、例外的にレポート提出で代替することもある。また、学期ごとに、ゼミ論文としてレポートを作成し提出してもらう。 ゼミ論文の提出およびゼミ報告の内容（６０％）、ゼミでの発言、授業への取り組み態度などの平常点（４０％）によって評価する。		
到達目標	刑事手続の流れを正確に理解し、刑事訴訟法の基礎的な知識をもとに、刑事訴訟法における法的問題についての報告・討論を重ねることで、迅速かつ的確に事案を処理するための 判断力、思考力等を基礎から身につけることができる。最終的にはゼミ論文の集大成として４年次には「卒業研究」を完成させる。		
準備学習	報告を担当する際には、事前に参考文献を収集したうえで、レジュメを作成しその内容を理解し、準備するなどの予習が必要である。また、報告後は、その報告について指摘があったところに関して調べ直すなどの復習も必要になる。		

受講者への要望

このゼミでは、担当者を決め、報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、刑法、刑事訴訟法等の講義を受講していることが望ましい。刑事事件や刑事訴訟法、刑事政策等に興味をもって、日々のニュースや新聞等を見てほしい。

講義の順序とポイント

取り扱うテーマは、受講者の理解度や希望などを考慮にいれたうえで、内容や順序を若干変更することがある。

１．夏休み中取り組みの報告発表
２．卒業研究の書き方
３．卒業研究テーマ報告会
４．卒業研究テーマ報告会（２）
５．卒業研究添削作業（１）
６．卒業研究添削作業（２）
７．中間報告会（１）
８．　中間報告会（２）
９．　卒業研究添削作業（３）
１０．卒業研究添削作業（４）
１１．卒業研究添削作業（５）
１２．　卒業研究報告会（１）
１３．卒業研究報告会（２）
１４　卒業研究提出と総評
１５　ゼミの総まとめと社会人になるにあたっての取り組みについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J4000700M
科目名	専門演習４	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅳ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分の選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 ４回生の秋学期は、卒業研究またはゼミ論を執筆が中心となる。それと並行して、経済法の講義で取り上げる内容をさらに掘り下げて学びます。論文作成のための、資料収集なども行います。 ３回生との合同ゼミとなるので、先輩として、見本となる報告や議論をすることを通じて、より一層、人前で分かりやすく説明する能力を鍛えることも目指します。		
教材（テキスト）	第１回目の授業で指示します。		
教材（参考文献）	第１回目の授業で指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポートを中心とし、発言・受講態度を加味する）２０％ 報告５０％ 学期末レポート３０％ 欠席は、事前連絡の有無、理由に応じて減点します。		
到達目標	経済法全般および経済の重要概念についての理解をより確実なものとし、自分の選んだテーマについての理解を深める。		
準備学習	授業で指示する内容の予習や報告の準備を行うこと。		

受講者への要望

１　「経済法」を受講すること
２　課題に積極的に取り組むこと
３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

講義の順序の目安
以下は目安である。受講生の卒業研究またはゼミ論文のテーマに応じた内容を中心とする。

１　オリエンテーション
２　独占禁止法の目的と全体像
３　カルテル
４　カルテル
５　カルテル
６　カルテル
７　私的独占
８　私的独占
９　企業結合
１０　企業結合
１１　不当な取引制限（取引拒絶）
１２　不当な取引制限（拘束条件付き取引）
１３　不当な取引制限（抱き合わせ）
１４　不当な取引制限（優越的地位の濫用）
１５　独占禁止法の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J40009000
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	卒業研究は、大学における学業の総まとめである。これまでに講義およびゼミで学んだ知識を用いて、「労働法」の卒業論文を執筆する。ただし、執筆を希望するゼミ生に限られる。 論文を執筆する場合には、(3 回生の秋学期もしくは)4 回生の春学期から準備が必要となる。希望者は、できる限り早い時期に執筆の意思を示すこと。		
教材（テキスト）	テーマに合わせたものを指示する。		
教材（参考文献）	テーマに合わせたものを指示する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
評価方法	卒業論文の形式および内容の基準を満たした論文を提出した場合に単位を認定する。		
到達目標	労働法のテーマを設定し、関係する資料を収集して、読解し、自分の見解を展開できること。		
準備学習	春学期から研究テーマについて考え、文献資料を収集しておくこと。報告者は、事前に文献を熟読して、適切なレヴェルのレジュメを作成すること。 報告者以外の者も、事前に判例を熟読して、議論に参加できるレヴェルになっておくこと。		
受講者への要望			
テーマを決定し、できる限り文献を収集して、論文を執筆すること。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のとおりであるが、各自の論文執筆状況に応じて、適宜指導する。中間報告では、文章化したものを報告すること。 第１回　卒業研究の進め方・方法 第２回　テーマ設定・資料収集 第３回　テーマ設定・資料収集 第４回　目次作成　その１ 第５回　目次作成　その２ 第６回　中間報告　その１ 第７回　指導　（校正） 第８回　指導　（校正） 第９回　指導　（校正） 第１０回　指導（校正） 第１１回　中間報告　その２ 第１２回　個人指導（校正） 第１３回　個人指導（校正） 第１４回　個人指導（校正） 第１５回　報告			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J40009001
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	専門演習で取り扱ったテーマあるいは大学 4 年間のまとめとしたいテーマを使って、卒業研究論文の執筆に取り組む。 刑事法分野から各自取り扱いたいテーマを設定し、問題点の整理、資料の調査、論文執筆の指導を行う。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜紹介する。		
評価方法	卒業研究論文によって評価する。		
到達目標	論文執筆を通じて、問題の取り上げ方、整理・分析の方法、また、他者にわかりやすく表現する能力を身につけることを目標とする。		
準備学習	春学期からテーマを設定し、これに沿った文献資料を用意し、問題を整理すること。 また、報告時に指摘された疑問に次回までに答えられる準備をすること。		

受講者への要望

卒業研究論文の執筆は大変労力の必要な作業である。地道な作業も多く要求され、生半可な気持ちでは完成させることは難しい。しかし、その達成感には大きなものがある。大学生活の総まとめとして、積極的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．テーマ設定・資料収集
3．テーマ設定・資料収集
4．目次作成　その１
5．目次作成　その２
6．中間報告　その１
7．論文執筆指導
8．論文執筆指導
9．論文執筆指導
１０．論文執筆指導
１１．中間報告　その２
１２。論文執筆指導
１３。論文執筆指導
１４．論文執筆指導
１５．最終報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40009002
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	専門演習での研究の最終仕上げと大学生活のまとめとして卒業研究に取り組む。 行政法の現代的課題の中からテーマを設定して、文献や資料を収集して研究をまとめる。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	テーマに応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート等による平常点 20％　卒業研究の提出 80％		
到達目標	各人でテーマを設定して、文献、資料をまとめて論文を完成できるようになることを目標にする。		
準備学習	原稿執筆計画に基づいて、事前に課題を与えるので、次回までにレジュメや原稿にして、毎回提出すること。		

受講者への要望

大学生活最後の仕上げの機会なので、ぜひ登録して卒業研究を完成させること。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション
2．研究テーマの設定
3．研究テーマに関する先行業績と学会動向
4．研究の計画・方法
5．文献収集・資料収集
6．初稿の執筆①
7．初稿の執筆②
8．中間報告
9．指摘された部分の修正
10．原稿修正と参考文献の追加
11．最終報告準備
12．最終報告
13．指摘された部分の修正
14．推敲と最終チェック
15.原稿の完成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40009008
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	受講生が専門演習で作成したレポートを基にして卒業研究論文を執筆し、担当教員が論文指導を行う。受講生は進捗状況に応じて中間報告を行い、集団での討論を通じて、完成までの課題を発見する。		
教材（テキスト）	適宜資料等を配布する。		
教材（参考文献）	授業で適宜紹介する。		
教材（その他）	位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年）		
評価方法	平常点、中間報告および卒業研究の提出を総合して評価を行う。		
到達目標	１．国際法に関する論文執筆を通じて、筋道だった論文構成および論理展開を身ににつける。 ２．書き言葉の正しい日本語を身につける。		
準備学習	中間報告を行うにあたり、事前に出される課題を調べてくること。		

受講者への要望

１．卒業研究の完成には忍耐力が求められるが、途中で投げ出さないこと。
２．無断欠席はしないこと（とくに報告があたっている場合)。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．卒業研究の構成の検討
３．卒業研究の構成の検討
４．受講生の中間報告
５．受講生の中間報告
６．受講生の中間報告
７．受講生の中間報告
８．受講生の中間報告
９．受講生の中間報告
１０．受講生の中間報告
１１．受講生の中間報告
１２．受講生の中間報告
１３．受講生の中間報告
１４．残された課題の検討
１５．残された課題の検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40009009
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の執筆に向け、論文執筆の基礎知識を教授し、執筆状況報告を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	図書館の請求記号 816.5 あたりが論文の書き方に関する文献である。 少し難解ではあるが、大村敦志ほか『民法研究ハンドブック』（有斐閣、2000）がある（請求記号 324.07/O64m）。その 258 頁から 285 頁を参照のこと。		
教材（その他）			
評価方法	執筆に対する熱意(30%)と執筆された卒業論文の内容(70%)とを評価する。		
到達目標	卒業論文を完成させ、文章を書くという能力の他、文章の理解をする能力をさらに高める。		
準備学習	他の講義においても、民法及びその周辺領域においてどのような問題があるのか、気に掛けておくこと。		
受講者への要望			
専門演習 4 の受講生は登録すること。就職活動の状況によっては、すぐに取り組めないこともあると思われるが、資料収集はしておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. 論文執筆のための基礎知識 ― データベースの使い方（再確認） 2. 論文執筆のための基礎知識 ― 引用文献の記載方法と資料収集に際しての注意 3. 各自のテーマと問題点についての発表 4. 論文執筆のための基礎知識 ― 脚注の付け方（ワープロソフトの使い方も含む）及び脚注の諸注意 5. 論文執筆のための基礎知識 ― 引用と盗作 6. 中間報告会 1 （取り扱う論点の説明） 7. 進度確認 8. 進度確認 9. 文章の書き方・章立ての確認 10. 文章の書き方・章立ての確認 11. 文章の書き方・章立ての確認 12. 中間報告会 2 ・締め切りに向けて― 冬休みの過ごし方 13. 提出前最終チェック ― 誤字脱字、形式、引用文献・参考文献の記載 14. 論集への提出後の校正の仕方 15. 4 年間を振り返って ― 卒論の出来具合も含めて 4 年を振り返る			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J40009010
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	専門演習 1-4 の集大成として、商法・会社法・金融商品取引法に関わるテーマを選択して卒業論文（1 万 2 千字程度）を執筆する者に対する個別的指導を行なう。なお、受講生は進捗状況に応じて中間報告を行うことになる。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	特に定めない。		
評価方法	卒業論文(80%)、平常点（20%）中間報告内容等による。		
到達目標	論理的な文章構成力を身につけ、卒業論文を完成させる。		
準備学習	講義終了時に卒業論文テーマに応じ文献・判例を指示するので、次回までに読了・検討すること。		
受講者への要望			
卒業論文の執筆は、将来の社会生活において必要な能力を養うこともできる。大学生活の総仕上げとして、意欲的に取組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
①　イントロダクション ②　テーマ設定・資料収集 ③　テーマ設定・資料収集 ④　目次作成 ⑤　目次作成 ⑥　中間報告（その 1） ⑦　個別指導 ⑧　個別指導 ⑨　中間報告（その 2） ⑩　個別指導 ⑪　個別指導 ⑫　個別指導 ⑬　個別指導 ⑭　最終報告（その 1） ⑮　最終報告（その 2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J40009011
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	専門演習での研究あるいは大学生活のまとめとして、卒業研究に取り組む。 テーマについては各自が関心のあるテーマを刑事法分野から設定し、資料を調べ、問題点を明らかにするとともにそれらにつき考察し、論文という形にする。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	テーマに応じて指示する		
教材（その他）	テーマに応じて指示する		
評価方法	卒業研究によって評価する		
到達目標	自ら設定したテーマについて、問題点を明らかにし、文献および資料等を精査し、まとめる能力を養う。学術論文の書き方だけでなく、文章の読み方書き方を修得することができる。		
準備学習	自らのテーマについて、事前に資料を捜し、卒業研究の材料を探し、読むなどの予習をしておく必要がある。また、教員から指導、修正の指摘があった部分については、さらに資料を収集し、復習を積み重ねる必要がある。		

受講者への要望

卒業研究は大学生活の総まとめである。自らが書いた文章が、１つの論文として形づけるということは大変労力を要するが、その分、達成感もある。専門演習での学習の総まとめとして是非積極的に取り組んでほしい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション
２．　研究テーマの題材を探す
３．　研究テーマにおける問題点を考える
４．　研究テーマの設定
５．　研究計画の策定
６．　文献収集方法について
７．　引用の仕方
８．　目次作成
９．　中間報告①
１０．　中間報告②
１１．　論文作成①（随時提出してチェック）
１２．　論文作成②（随時提出してチェック）
１３．　論文作成③（随時提出してチェック）
１４．　最終報告
１５．　論文完成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40009012
科目名	卒業研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	大学での４年間の学び、そして２年間の経済法の学びの集大成として、１万２千字程度の卒業研究を執筆します。各自のテーマと進度にあわせた個別指導が主となります。まず最初に、過去の先輩たちが執筆した卒業研究を参考に執筆する論文のイメージをつかみます。そのうえで、論文のテーマの選定、資料収集、アウトラインの作成、資料の読み込み、執筆と、段階的に論文の作成方法を学びます。この過程を通じて、論理的な文章とはどのようなものか理解し、論理的な文章が書くための課題をこなしていきます。		
教材（テキスト）	最初の授業で指示します。		
教材（参考文献）	受講生各自の卒業研究のテーマに応じて、個別に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（論文執筆過程での努力）　３０％ 卒業研究　　７０％		
到達目標	自分が選んだテーマについて研究し、論理的な構成の卒業論文を完成させる。		
準備学習	その都度指示される課題を行うこと。		
受講者への要望			
自分の選んだテーマに粘り強く取り組むこと 論理的で、読みやすい文章を書く努力を続けること			
講義の順序とポイント			
講義の順序の目安 １　　オリエンテーション ２　　論文の構造 ３　　論文のテーマの選び方 ４　　分かりやすい文章とは① ５　　分かりやすい文章とは② ６　　資料収集の方法① ７　　資料収集の方法② ８　　論文のアウトラインの作成① ９　　論文のアウトラインの作成② １０　　中間発表 １１　論文の作成① １２　論文の作成② １３　論文の作成③ １４　論文の作成④ １５　論文の作成⑤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J40012001
科目名	法哲学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy I		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が 6 割未満だった場合には、再レポートを課す。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学なび）で確認すること。）

1．　初めに
2．　序論　§１　法哲学とは？（法を哲学するとは？）
3．　　§２　法の目的とは？
4．（第１回授業内レポート）
　　第１章　悪法といえども法？
　　§３　ソクラテスの法論
5．　　同上
6．　　同上
7．（第２回授業内レポート）
　　第２章　各自のものは各自へ
　　§４　アリストテレス
8．　　同上
9．　　同上
１０．（第３回授業内レポート）
　　第３章　自律の原理
　　§５　カント
１１．　　同上
１２．　　同上
　　§６　ベッカリーヤとカント―死刑制度を巡って
１３．　　同上
１４．（第４回授業内レポート）
　　第４章　功利性原理
　　§７　Ｊ．Ｓ．ミル
１５．　　同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40012002
科目名	法哲学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal Philosophy I		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	法哲学
講義概要	本講義の受講対象になる者は、実定法の基礎的な部分は既に履修した者であることが、予想される。その履修の過程において、「そもそも法律とは何か」という疑問を抱いた者もいるのではないであろうか。本講義は、その問をめぐって共に思考を深めるために展開される。 本講義では、法の目的とされる「正義」についての議論を中心に展開する。法哲学における「正義論」の位置づけ、正義概念の歴史的展開を確認しつつ、これらの正義論と法体系の相互関係（例えば立法精神）、正義論と実定法解釈のあり方にも言及する予定である。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせてその都度紹介する。		
教材（その他）	講義のレジュメを用意する。京学なびに登録するので、事前に各自プリントアウトしておくこと。		
評価方法	授業中に小論文を書いていただく。実施日は事前に講義並びに京学なびで告知する。 この小論文の素点の合計が成績となる。 それぞれの小論文の素点が 6 割未満だった場合には、再レポートを課す。		
到達目標	法学に関わる問題を媒介として哲学的思考を身につける。 正義論から法律を批判的に考察できるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
安易に結論に飛びつくことなく、あるいは自明性に逃げ込むことなく、じっくり腰を据えて思考するよう心がけてください。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。事前連絡（講義時と京学なび）で確認すること。）

1．　初めに
2．　序論　§１　法哲学とは？（法を哲学するとは？）
3．　　§２　法の目的とは？
4．（第１回授業内レポート）
　　第１章　悪法といえども法？
　　§３　ソクラテスの法論
5．　　同上
6．　　同上
7．（第２回授業内レポート）
　　第２章　各自のものは各自へ
　　§４　アリストテレス
8．　　同上
9．　　同上
１０．（第３回授業内レポート）
　　第３章　自律の原理
　　§５　カント
１１．　　同上
１２．　　同上
　　§６　ベッカリーヤとカント―死刑制度を巡って
１３．　　同上
１４．（第４回授業内レポート）
　　第４章　功利性原理
　　§７　Ｊ．Ｓ．ミル
１５．　　同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40014001
科目名	法社会学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law Ⅰ		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学
講義概要	春学期は、まず序論として日本・欧米の法社会学の歴史をたどる中から、「法社会学とは何か」という問いへの基礎知識の獲得を行う。次に、各論として裁判をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・生命をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・宗教をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）のテーマの下で「法社会学とは何か」と言う問いへの各自の総論的視座の形成をめざす。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）、講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	裁判・生命・宗教と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切り抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って望むこと。			
講義の順序とポイント			
１．開講にあたって　―春・秋の講義全体のアウトライン― ２．法社会学とは何か　Ⅰ　日本の法社会学（１） ３．法社会学とは何か　Ⅱ　欧米の法社会学（１） ４．裁判をめぐる法社会学　Ⅰ　民事裁判・行政裁判・刑事裁判 ５．裁判をめぐる法社会学　Ⅱ　冤罪 ６．裁判をめぐる法社会学　Ⅲ　死刑制度（１） ７．裁判をめぐる法社会学　Ⅳ 死刑制度（２） ８．裁判をめぐる法社会学　Ⅴ　裁判員制度（１） ９．裁判をめぐる法社会学　Ⅵ　裁判員制度（２） １０．生命をめぐる法社会学　Ⅰ　生殖技術と法 １１．生命をめぐる法社会学　Ⅱ　脳死・臓器移植と法 １２．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　安楽死・尊厳死と法 １３．宗教をめぐる法社会学　Ⅰ　政治と宗教と法 １４．宗教をめぐる法社会学　Ⅱ　政教分離 １５．宗教をめぐる法社会学　Ⅲ　愛媛玉串料訴訟最高裁判決の分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40017001
科目名	税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。		
教材（テキスト）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考文献）	初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。		
評価方法	定期テスト　60% レポート・復習テスト　20% 平常点(講義への取組み、講義内容への質問や理解の状況等)　20%		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。		
準備学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当頁を記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分のテキスト該当頁を予習しておくこと。 授業中に配布したプリント(毎回配布)の重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを実施予定。		

受講者への要望

税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　導入、租税と税法
2. 総論１　租税の意義と根拠
3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義
4. 総論３　租税法の解釈と適用
5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者
6. 所得税２　所得概念、帰属
7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準
8. 所得税４　収入金額
9. 所得税５　必要経費
10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習
11. 法人税１　法人税の概要
12. 法人税２　納税義務者、課税所得
13. 法人税３　益金及び損金の原則
14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1)
15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	J40027001
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社） 日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。特に民法総則の知識があるのが望ましい。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法 1
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界 1
5. 消費者契約と民事法 2
   民法の契約ルールとその限界 2
6. 消費者契約と民事法 3
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法 4
   消費者契約法の内容 1
8. 消費者契約と民事法 5
   消費者契約法の内容 2
9. 消費者契約と民事法 6
   事業者の責任
10. 特定商取引法 1
   特定商取引法とは何か
   訪問販売 1
11. 特定商取引法 2
   訪問販売 2 ―クーリング・オフ
12. 特定商取引法 3
   マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法 4
   通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法 1

個別信用購入あっせんとクーリングオフ 15. 割賦販売法 2 個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J40038A01
科目名	会社法 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law I		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法 A」では、企業・会社の諸形態、株式会社の設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制や、計算に関する規定などの範囲を扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）、最新版を用いる。六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第 3 版』（有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 新株予約権 14. 社債 15. 計算			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J40038B01
科目名	会社法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law II		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法 B」では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）と会社の組織再編について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）、最新版を用いる。六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第 3 版』（有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．指名委員会等設置会社 １２．役員等の責任 １３．責任追及訴訟（株主代表訴訟） １４．合併 １５．会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J40043001
科目名	金融商品取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借りる場合、たとえ赤字でも借りた資金は利子をつけて返さなければなりません。しかし、株式を発行して集めた資金は、その企業が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を渡せばよいのです。リスクがつきもののビジネスにとっては、株式による資金調達が非常に適していることは明らかです。 　しかし、投資が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしています。 　この講義では金融商品取引法の基本的な仕組みを中心に学びます。		
教材（テキスト）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法　（第３版）　』（弘文堂、２０１５年）		
教材（参考文献）	黒沼悦郎『金融商品取引法入門　（第６版）』（日経文庫、２０１５年）		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート等）　30% 期末テスト　70%		
到達目標	金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に関係するニュースに関心を持ち、何が問題になっているのか、理解できるようになる。		
準備学習	次回の内容を予告するので、教科書の該当部分を読んでおくこと。		

受講者への要望

企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

1　金融商品市場の基本的な仕組み
2　金融商品取引法の目的と全体像
3　有価証券の取引方法
4　企業内容の開示規制①（発行開示制度）
5　企業内容の開示規制②（継続開示制度）
6　企業内容の開示規制③（違反の場合の責任）
7　金融商品取引業者の規制
8　企業支配に関する開示制度①（公開買い付け）
9　企業支配に関する開示制度②（株券等の大量保有状況の開示）
１０　投資信託および集団投資スキーム
１１　不公正な取引の規制①（インサイダー取引）
１２　不公正な取引の規制②（相場操縦）
１３　不公正な取引の規制③（金融商品取引業者による不公正な取引）
１４　罰則と課徴金
１５　 金融商品取引法の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40050001
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年）		
教材（参考文献）	指定教科書が難しいと感じられる学生には、具体例を豊富に用い、わかりやすく説明したものとして、 佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） また、判例教材として、 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む）、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40052001
科目名	犯罪学	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminology		
担当者名	笹山　文徳	旧科目名称	
講義概要	新聞・TV・スマートフォンを通して、犯罪に関する報道を目にしない日はないだろう。では、なぜ人は犯罪を犯すのか？犯罪を予防するにはどうすればよいか？犯罪者はどのような処遇を受けているのか？について、考えてみたことはあるだろうか。 このことを考察するのが刑事政策である。講義の前半部分（犯罪学）では、わが国の犯罪状況を概観し、犯罪を犯す原因とは何かについて、説明する。後半部分（刑事政策）では、犯罪者を罰するのはなぜか、犯罪者をどのように処遇するのが適切かに焦点を当てて取り扱う。		
教材（テキスト）	テキストは指定しない。		
教材（参考文献）	三井誠・曽根威彦・瀬川晃編『入門刑事法〔第 6 版〕』（有斐閣、2017） 法務省法務総合研究所『平成 28 年版 犯罪白書』（日経印刷、2016）		
教材（その他）	各講義でレジュメを配付する。		
評価方法	講義毎の提出物（確認テストや感想等）による平常点（30%）、学期末試験（70%）によって、成績を評価する。		
到達目標	わが国の犯罪状況および犯罪の原因を把握し、犯罪対策の現状と課題を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義に関する資料を配付するので、読んで来ること。 各講義で配布するレジュメを用いて、復習をすること。 新聞やニュースを見て、刑事事件・刑事裁判に関心を持ち、予備知識としてほしい。		

受講者への要望

毎回講義に出席し、真剣に取り組むことを心がけてもらいたい。
理由のない遅刻・欠席や私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション　-　犯罪学・刑事政策とは何か。
2．わが国の犯罪状況　-　わが国の犯罪状況はどうか。凶悪化しているのか。
3．犯罪学の誕生　-　なぜ人は犯罪を犯すのか。
4．犯罪の原因（1）生物学的要因　-　犯罪の原因は犯罪者に特有の素質にあるのか。

5．犯罪の原因（2）心理学的要因　-　犯罪の原因は犯罪者の心理的な部分にあるのか。
6．犯罪の原因（3）社会学的要因　-　犯罪の原因は環境的な要素にあるのか。
7．これからの犯罪学　-　各回（第 2〜6 講）を振り返り、犯罪学の展望を試みる。

8．犯罪の予防　-　どのように犯罪を予防するか。
9．刑罰制度　-　なぜ人を罰するのか。どんな刑罰が適当か。
10．犯罪者の処遇（1）司法的処遇　-　警察・検察段階でどのように事件は処理されるか。
11．犯罪者の処遇（2）施設内処遇　-　犯罪者は刑務所でどのような処遇を受けるか。

12．犯罪者の処遇（3）社会内処遇　-　犯罪者は社会内でどのような処遇を受けるか。

13．少年非行　-　大人とは違う少年犯罪者をどのように取り扱うか。
14．犯罪被害者　-　犯罪被害者の支援をどのように実現するか。
15．これからの刑事政策　-　各回（第 8〜14 講）を振り返り、刑事政策の展望を試みる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J40054001
科目名	刑事訴訟法 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure I		
担当者名	笹山　文徳	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	新聞・TV・スマートフォンなどを通して、「X が殺人を犯した疑いで逮捕された」とか、「Y が強盗の罪で起訴された」など、事件に関する報道を目にすることがあるだろう。ドラマ・映画や小説・漫画などでも、刑事事件をテーマにしたものが多くみられる。では、実際に、どのような流れで事件は処理されていくのか？考えてみてほしい。 犯罪が起こった場合には、その事実を解明し、犯人に対して適切な刑罰を科すことが求められる。その一連の手続に関するルールを定めたものが刑事訴訟法である。 講義では、刑事手続の流れ（捜査→公訴→公判）を順に説明し、それぞれの段階で生じる重要な問題についても、検討する。		
教材（テキスト）	テキストは指定しない。		
教材（参考文献）	三井誠・酒巻匡『入門刑事手続法〔第 7 版〕』（有斐閣、2017）		
教材（その他）	各講義でレジュメを配付する。		
評価方法	講義毎の提出物（確認テストや感想等）による平常点（30%）、学期末試験（70%）によって、成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れを正確に把握し、捜査・公訴・公判における基本的なルールを身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義に関する資料を配付するので、読んで来ること。 各講義で配布するレジュメを用いて、復習をすること。 新聞やニュースを見て、刑事事件・刑事裁判に関心を持ち、予備知識としてほしい。		

受講者への要望

毎回講義に出席し、真剣に取り組むことを心がけてもらいたい。
理由のない遅刻・欠席や私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

１．イントロダクション　-　犯罪が発生すると、どのような流れで事件は処理されるか。
２．刑事訴訟法とは　-　刑事訴訟法の目的は何か。刑事訴訟の登場人物とは誰か。
３．捜査法（１）捜査の原則　-　犯罪の捜査はどのようなルールに従って行われるか。
４．捜査法（２）捜査の端緒　-　捜査が始められる「きっかけ」には何があるか。
５．犯人の身柄の確保（１）逮捕　-　逮捕は何のために行われるか。
６．犯人の身柄の確保（２）勾留　-　逮捕後、勾留が認められるのはどのような場合か。
７．証拠の収集（１）物的証拠　-　犯罪に関する物的証拠をどのように収集するか。

８．証拠の収集（２）供述証拠　-　被疑者の取調べはどのように行なわれるか。
９．被疑者の権利・防御活動　-　被疑者はどのような防御活動を行えるか。
１０．これからの犯罪捜査　-　各回（第 3〜9 講）を振り返り、今後の捜査のあり方を考察する。

１１．公訴提起　-　捜査終結後、公訴提起はどのように進められるか。
１２．公判手続　-　公判ではどのように有罪・無罪を判断するのか。
１３．証拠法（１）自白法則　-　強制的に獲得された自白を証拠として良いか。
１４．証拠法（２）違法収集証拠排除法則　-　違法に獲得された物を証拠として良いか。
１５．これからの刑事裁判　-　各回（第 11〜14 講）を振り返り、刑事裁判の課題を考察する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J40056001
科目名	国際法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law I		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅰでは、国際法の総論、国際法における国家、ならびに国際社会の空間秩序について講義する。導入部では、国際社会と国際法の独自の基本的な性格や国際法の法主体について概観する。第１部では、国際法の中心的な法主体である国家について講義する。国家がどのようにして成立するのか、国家は国際法に基づいて何をすることができ、何をしなければならないのかなどについて検討する。第２部では、国家領域や海洋法などを中心にして、地球上の空間が国際法上どのように構成されているのかについて講義する。 講義では、冒頭で具体例を提示して、ポイントを明確にする。その上で、メディアで取り上げられる国際問題や北方領土など日本に関わる問題にも随時言及しながら、国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかイメージできるように話を進めていきたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。定期試験は受講生の数によってレポートに変更がありうる。 詳細は、初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会ならびに国際法の独自の基本的性格を理解する。 ２．国際法の中心的な主体である国家について理解する。 ３．世界の空間秩序（陸・海・空）が国際法上どのように構成されているのか理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語をつつしむこと。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部　総論
１．受講ガイダンス、国際社会の性質と国際法
２．国際社会の性質と国際法（つづき）
３．国際法の主体

第１部　国際法における国家
４．国家の成立と変動（１）ー国家承認
５．国家の成立と変動（２）ー国家承継

６．国家の機関
７．国家の基本的権利義務
８．国家管轄権の規律
９．主権免除

第２部　国際社会の空間秩序
１０．国家領域（１）ー国家領域の構造
１１．国家領域（２）ー日本の領土問題
１２．海の国際法（１）ー現代の海洋秩序の構造
１３．海の国際法（２）ー航行利用制度
１４．海の国際法（３）ー海域の境界画定など
１５．空の国際法

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40058001
科目名	国際法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law II		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法 II では、分権的な国際社会における国際法の形成ならびに適用・実施について講義する。第 1 部では、国際法の法源である慣習法や条約がどのように作られるのかなどについて説明する。第 2 部では、国内社会と国際社会における国際法の適用・実施について講義し、国際違法行為に対する国家責任の成立・追及や国際裁判所などによる紛争の平和的処理などについて説明する。また、国際司法裁判所についての DVD 鑑賞も行う予定である。 講義では、冒頭で具体例を提示して、ポイントを明確にする。その上で、国際社会と国内社会の相違を踏まえ、日本などの具体的事例なども頻繁に取り上げながら国際法の形成や適用・実施のプロセスを通じて国際法秩序の独自の性格を分かりやすく説明するようにしたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門〜逆から学ぶ〜』（法律文化社、２０１４年） 毎回講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国際司法裁判所の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。定期試験は受講生の数によってレポートに変更がありうる。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．分権的な国際社会で国際法（条約や慣習法）がどのように形成されるのか理解する。 ２．国際紛争の平和的処理の全体像を把握する。 ３．分権的な国際社会における国際裁判の役割、手続ならびに課題について把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、適宜休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際法の成立
１．受講ガイダンス、国際法の法源
２．国際法の法源（つづき）
３．条約法（１）ー条約の成立
４．条約法（２）ー留保
５．条約法（３）ー条約の無効など

第２部　国際法の適用・実施
６．国際法の国内的適用ー日本の場合を中心に
７．国家責任（１）ー国家責任の成立
８．国家責任（２）ー国家責任の追及
９．紛争の平和的処理
１０．紛争の司法的解決（１）－国際司法裁判所の手続
１１．紛争の司法的解決（２）ー国際司法裁判所の活動
１２．国際司法裁判所についての DVD 鑑賞
１３．紛争の司法的解決（３）ー紛争処理の「司法化」
１４．日本と国際裁判
１５．国連の政治的機関による紛争処理

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40060001
科目名	国際法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法Ⅲでは、国連などの国際機構を中心にして国際社会の公益を保護するための協力の国際法について講義する。国家間の相互依存が深まる現在の国際社会では、平和の維持などの国際社会の共通・一般の利益を保護するために、諸国家が場合によっては国益を犠牲にしてまで連帯し協力しあうことが求められる。そこで重要な役割を担うのが国際機構である。本講義では、まず国連を中心として国際機構の役割について説明し（第１部）、次に平和の維持、貿易および環境保全などの分野における国際法について講義する（第２部）。また、国連の活動に関する DVD 鑑賞も予定している。 講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にする。その上で、各分野における具体例や実態にもできるだけ触れながら、諸国家の国際協力がいかに重要でかつ困難であるのか分かりやすく理解できるように心がけたい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）	国連の活動に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。定期試験は受講生の数によってレポートに変更がありうる。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．相互依存が深まる国際社会の中での国際機構の意義や組織構造を理解する。 ２．国連の集団安全保障体制の仕組みと展開を把握する。 ３．条約などを通じた環境保全の仕組みと国際協力の意義を把握する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		
受講者への要望			
１．六法を必ず持参すること。 ２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。 ３．講義では、休憩を取ることもあるので、集中力を切らさずに臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第１部　国際社会の組織化と国際機構 １．受講ガイダンス、国際機構の展開（１）ー第二次大戦まで ２．国際機構の展開（２）ー第二次大戦以降 ３．国際機構の設立および組織構造－国連を中心に ４．国際機構の表決手続 ５．国連の活動に関する DVD 鑑賞			

６．地域的国際機構の活動

第２部　国際公益のための国際協力
７．平和の維持（１）ー国際連盟における戦争の禁止と集団安全保障
８．平和の維持（２）ー国連における武力行使の禁止との集団安全保障
９．平和の維持（３）ー自衛権、国連の平和維持活動
１０．平和の維持（４）ー軍縮、国際人道法
１１．国際公域における国際協力
１２．経済的国際協力
１３．環境保全（１）ー展開・基本原則
１４．環境保全（２）ー地球温暖化の防止
１５．環境保全（３）－生物多様性の保全

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40065001
科目名	国際経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心にして国際経済に関わる国際法について講義する。日本は世界でも有数の貿易大国であり、多くの日本企業が国境を越えた事業を展開している。このことから、日本の法令や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。 講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にする。その上で、日本に関わる具体的な事例などの時事問題にも触れながら、WTO 体制、海外投資、国際金融・通貨を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版]』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版]』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集［第２版]』（東信堂、２００２年）		
教材（その他）			
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みを理解する。 ３．海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。		
準備学習	講義を終了する際に、次回の講義内容を指定し、レジュメを配布するので、事前に目を通してくること。		

受講者への要望

１．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
２．講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部
１．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法

第１部　国際貿易と国際法
２．貿易に関する国際法の展開
３．GATT の成立と展開
４．WTO 体制の成立と概要
５．WTO の紛争解決手続
６．WTO におけるサービス貿易
７．WTO における知的財産権
８．WTO における農業貿易
９．WTO と地域経済統合
１０．WTO と途上国
１１．WTO と非貿易的価値

第２部　海外投資および国際金融と国際法
１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40068A01
科目名	労働法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law I		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら基礎的な展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち「労働法Ⅰ」を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第６版〕』（有斐閣、2016 年）価格未定 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第９版〕」（有斐閣、2016 年）2400 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則１回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定
第８回　男女雇用平等
第９回　解雇・労働契約の終了（１）
第 10 回　解雇・労働関係の終了（２）
第 11 回　賃金・退職金（１）
第 12 回　賃金・退職金（２）
第 13 回　労働時間（１）
第 14 回　労働時間（２）
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J40068B01
科目名	労働法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law II		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法 I」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。 法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第 6 版〕』（有斐閣、2016 年）価格未定 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 9 版〕」（有斐閣、2016 年）2400 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（７0%）およびレポート等（３0%）で評価する予定である。		
到達目標	社会人として求められる労働法の基礎知識を判例等も踏まえたうえで理解すること。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。できれば講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持っていただきたい。
　また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　配置転換・出向
第 3 回　時間外労働・休日労働（１）
第 4 回　時間外労働・休日労働（２）
第 5 回　年次有給休暇
第 6 回　派遣労働（１）
第 7 回　派遣労働（２）
第 8 回　パートタイム労働
第 9 回　女性労働・年少労働
第 10 回　外国人労働
第 11 回　職場規律・懲戒
第 12 回　災害補償（１）
第 13 回　災害補償（２）
第 14 回　労働関係紛争の解決手続
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40070001
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税 岩村正彦編「社会保障判例百選〔第 5 版〕」(有斐閣、2016 年)2500 円＋税		
教材（参考文献）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示する。		
評価方法	出席を前提に、期末レポート（70%）および授業内小テスト等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目について、関連する新聞記事を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。 また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系 第３回　医療保険法（１）　健康保険法 第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法 第５回　年金保険法（１）　国民年金法 第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法 第７回　介護保険法 第８回　授業内小テスト 第９回　労災保険法 第 10 回　雇用保険法 第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉 第 12 回　高齢者福祉　生活保護法 第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約 第 14 回　社会保障法総論　権利救済 第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J40071001
科目名	経済法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law I		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第４版)』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・泉水文雄・長澤哲也編　『実務に効く公正取引審決判例精選』（ジュリスト増刊、２０１４年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等）　３０％ 期末テスト　７０％		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と全体像 ３．不当な取引制限①（入札談合） ４．不当な取引制限②（入札談合に対する規制） ５．不当な取引制限③（形態） ６．不当な取引制限④（行為要件） ７．不当な取引制限⑤（弊害要件） ８．不当な取引制限.⑥（応用問題：事業者団体規制、ハードコアカルテルと非ハードコアカルテル） ９．課徴金制度 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２．私的独占③（支配型私的独占） １３．企業結合 １４．不公正な取引方法 １５．エンフォースメント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40076001
科目名	地方自治論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Autonomy		
担当者名	長澤　高明	旧科目名称	
講義概要	本講義は現代日本の自治体が抱えている問題点を理解し、解決の糸口を探るための基礎的な知識を提供することを目的としています。話が抽象的にならないように、常に具体的な問題を提示しながら説明します。まだ社会人としての生活を送っていない学生諸君にとって地方自治はピンとこない分野かもしれませんが、諸君の生活に密接にかかわる分野であるということをきちんと理解できる講義にしたいと思います。新聞記事も題材に取り上げます。		
教材（テキスト）	テキストは使用しません。毎回レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	その都度指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テストによる平常点（30%）。授業中に課すレポート（70%）.。		
到達目標	自分の住んでいる自治体の広報を読んで理解できるようになること。また、新聞の地方版を読んで理解できるようになること。		
準備学習	毎日、新聞を読む習慣を身につけ、疑問に感じた事柄を調べておくこと。それらを講義中に報告してもらいたい。		
受講者への要望			
諸君とともに考える講義にしたい。諸君の意見なども聞きながら講義を進めるので、常に頭をフル回転の状態にしておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　地方自治体についての私たちの知識と意識の確認 2　地方自治体についての基礎知識。住民自治と団体自治。 3　自治体の権力とサービス。自治体の仕事について考える。 4　自治体の成立過程とその必然性について。 5　明治期以降の自治体の変遷。版籍奉還や廃藩置県の意味の再確認。 6　第二次世界大戦以降の自治体の変遷。戦後改革の意味を考える。 7　自治体の政策と手段①：都市型社会の到来とそれへの対応。少子高齢化問題を考える。 8　自治体の政策と手段②：公共事業と政策評価。ダム問題や空港問題についても考える。 9　自治体の経営と条例。条例について具体的に考える。 １０　財務と運営。国税と地方税。直接税と間接税。補助金問題。 １１　直接請求権と常設型住民投票について考える。 １２　市民活動と NPO について考える。 １３　地方議会と地方公務員の役割について考える。 １４　首長のリーダーシップについて考える。 １５　講義全体をふりかえり、今後何をしなければならないか、皆で議論する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	–

年度	2017	授業コード	J40081001
科目名	憲法Ⅱ（基本的人権）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅱ (Fundamental Human Rights)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における「基本的人権」に関する部分を取り扱います。 まずは基本的人権論で問題となっていることについて具体的なイメージをもってもらうために、個別の人権規定に関する理解を深めていきます。次いで、基本的人権一般に関わる総論部分（基本的人権の歴史、分類とその享有主体、限界）について学びます。 憲法の条文や関連する専門的概念には抽象的で曖昧なものが数多くありますが、その意味は各々の時代や社会を生きる人々によって具体的な現実の中でどのように解釈されてきたかを理解することでより一層明らかになるものです。そこで本講義では、具体的な事例や判例を取り上げることによって、個々の局面における各々の人権の内容やその限界について検討していきます。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１　人権［第 6 版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣） 各回の個別分野に関連する上記以外の文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	最終講義試験 60%、講義中の確認テスト 20%、課題の提出 20%		
到達目標	（１）憲法学における基本的人権および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）基本的人権をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することは復習として非常に有効です。最終講義試験の準備にもつながりますのでお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
   講義のスケジュールと到達目標、基本的人権の特質、様々な人権
2. 人身の自由（１）
   居住・移転の自由、奴隷的拘束からの自由
3. 人身の自由（２）と国務請求権
   被疑者・被告人の権利、裁判を受ける権利
4. 生存権
   生存権を具体化する様々な法律、生存権の法的性格
5. 教育を受ける権利、労働基本権
   学習権、教育権の所在、労働基本権の保障内容
6. 職業選択の自由
   営業の自由、規制の諸類型、規制目的二分論
7. 財産権の保障
   私有財産制と所有権、「正当な補償」
8. 思想・良心の自由、学問の自由
   思想・良心の自由の意義と保障内容、先端科学技術と研究の自由、大学の自治
9. 表現の自由
   表現の自由の価値、表現の自由の保障内容、表現の自由規制の諸法理
10. 信教の自由
    信教の自由の保障内容とその限界、政教分離原則
11. 包括的基本権
    幸福追求権、新しい人権
12. 法の下の平等
    何を平等とするのか、平等保障の具体的制度、差別をめぐる諸問題

13. 基本的人権の歴史
　人権思想はどのような歴史をたどってきたのか、人権の社会化・国際化
14. 基本的人権の分類とその享有主体
　人権の観念とその内容、人権は誰に帰属するのか―外国人や法人の場合
15. 基本的人権の限界
　人権を制約するための根拠、特別権力関係、人権の私人間効力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J40082001
科目名	憲法Ⅲ（統治機構）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law Ⅲ (Frame of Governm ent)		
担当者名	大西　貴之	旧科目名称	
講義概要	本講義では、憲法学における統治機構に関する部分を取り扱います。 まず具体的な制度（議院内閣制、両院制）や機関（国会、内閣、裁判所、地方自治）のあり方について学びます。その際、制度の趣旨や各機関の相互関係まで掘り下げて検討します。そしてそれを踏まえて、統治機構を含めた憲法全体に関わる基本的な考え方（立憲主義）や構成原理（法の支配、権力分立、国民主権）について学びます。 国の制度や機関というものは少し縁遠いもののように感じられるかもしれませんが、政治や社会に関する時事問題には実は統治機構論が関係していることがあります。本講義は、機関・制度が実際にどのように実施・運用されているのかという点も意識しながら、進めていきます。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法２ 統治［第 6 版］』（有斐閣） 野中俊彦・江橋崇『憲法判例集［第 10 版］』（有斐閣） 各回の個別分野に関連する上記以外の文献については、講義の中でその都度指示します。		
教材（その他）	講義用のレジュメを配布します。		
評価方法	最終講義試験 60%、講義中の確認テスト 20%、課題の提出 20%		
到達目標	（１）憲法学における統治機構および関連する学説や判例についての基本的理解を深めること （２）統治機構をめぐる諸問題について、自らの意見を（１）を踏まえて説得的に論じること		
準備学習	毎回の講義内容やレジュメをまとめた自分専用のノートを作成することは復習として非常に有効です。最終講義試験の準備にもつながりますのでお勧めします。		

受講者への要望

受講に際しては積極的な態度で臨んでください。また日々の生活でもニュースや新聞に目を通す時など、憲法との関わりを意識して下さい。
私語など講義を妨害する行為については厳正な対応をします。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
　講義のスケジュールと到達目標、憲法の基礎を振り返る、立憲主義という考え方
2. 議院内閣制
　議会と行政部の関係、内閣総辞職と衆議院の解散
3. 国会
　立法の概念、国の唯一の立法機関、法律制定過程
4. 両院制
　議院の権限、議員の地位と権限、内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
5. 内閣
　行政の概念、独立行政委員会の仕組み、内閣の権限
6. 裁判所（１）
　司法権の意義、法律上の争訟、司法権の限界
7. 裁判所（２）
　司法権の独立、裁判所の組織と構成
8. 裁判所（３）
　違憲審査制の意義と性格、司法積極主義と消極主義
9. 地方自治（１）
　地方自治の本旨、地方公共団体の機関
10. 地方自治（２）
　地方公共団体の権能、条例制定権の範囲
11. 統治機構の構成原理（１）
　立憲主義の歴史的展開、法の支配
12. 統治機構の構成原理（２）
　権力分立

13. 統治機構の構成原理（３）
　国民主権
14. 選挙と政党
　選挙制度、代表の概念、政党の地位
15. 立憲主義再訪
　憲法規範の特質

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J40085001
科目名	行政法Ⅰ（総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law I (Introduction)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	行政と法の関係に関する重要な原理について学習する。行政により私人・私企業の権利・義務が変動する際の基本的な仕組みを理解する。		
教材（テキスト）	櫻井敬子・橋本博之『行政法［第5版］』（弘文堂、2016年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ［第6版］』（有斐閣、2012年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として25点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、75点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨んでください。		
受講者への要望			
テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参してください。			
講義の順序とポイント			
以下の順で講義を行う（教科書の順番と異なる部分があるので、注意してください）。 第1回　行政法の基本構造（1） 第2回　行政法の基本構造（2） 第3回　法律による行政の原理（1） 第4回　法律による行政の原理（2） 第5回　行政法の一般原則 第6回　行政組織法（1） 第7回　行政組織法（2） 第8回　行政基準（1） 第9回　行政基準（2） 第10回　行政行為の意義・種類 第11回　「申請に対する処分」の手続 第12回　「不利益処分」の手続 第13回　行政行為の効力 第14回　行政行為の瑕疵 第15回　行政行為の取消しと撤回			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40088001
科目名	行政法Ⅲ（救済法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Ⅲ (Remedies)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	本学部の行政法は、総論、作用法、救済法の３つの講義で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選Ⅰ[第６版]』、『行政判例百選Ⅱ[第６版]』（有斐閣、2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 60%　授業内テスト 20%　、授業内レポート等による平常点 20%		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
準備学習	教科書はあらかじめ全部を通読し、次週の講義部分は必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

公務員試験や行政書士などの資格試験を目指している人は必ず受講すること。
行政法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは必ずすべて履修すること。当然、憲法の科目も必修である。
地方自治法も履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション－行政法の学び方、行政救済法の体系
２．　行政不服申立て①
３．　行政不服申立て②
４．　行政事件訴訟の概観、種類
５．　取消訴訟の訴訟要件①
６．　取消訴訟の訴訟要件②
７．　取消訴訟の訴訟要件③
８．　取消訴訟の審理、判決、教示
９．　行政事件訴訟法のその他の論点
１０．国家賠償制度
１１．国家賠償法１条
１２．国家賠償法２条
１３．損失補償制度①
１４．損失補償制度②
１５．行政救済法の改正課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40090001
科目名	民法Ⅰ（総則）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law I (General Provisions)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。また、民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、物権法、契約・不法行為法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。

講義の順序とポイント

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　権利の主体（３）　法人
５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫
８．　無効と取消し
９．　代理（１）　代理権
１０．代理（２）　無権代理
１１．代理（３）　表見代理
１２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１５．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40091001
科目名	民法Ⅱ（物権法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅱ (Law of Real Estates)		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権を扱う。内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権及び担保物権を扱うことになる。		
教材（テキスト）	石田剛ほか『LEGAL QUEST 民法 2 物権』（有斐閣）		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 後半は土地に対する権利について言及する。どうして土地だけが問題となっているのかを理解する。		
準備学習	・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス
2. 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
3. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
4. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
5. 共同所有 ― 意義・発生・内容・消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有 1 ― 占有の保護・占有と本権
7. 占有 2 ― 不適法占有者と所有者間の法律関係
8. 物権変動 1 ― 物権変動とは・不動産物権変動・対抗問題
9. 物権変動 2 ― 登記を要する物権変動 1
10. 物権変動 3 ― 登記を要する物権変動 2
11. 物権変動 4 ― 177 条の第三者
12. 物権変動 5 ― 動産物権変動の対抗要件・即時取得
13. 担保物権 1 ― 債権者平等の原則・担保物権の種類と性質・抵当権 1（設定・効力の及ぶ範囲、物上代位）
14. 担保物権 2 ― 抵当権 2（法定地上権、抵当不動産の第三取得者と賃借人）
15. 担保物権 3 ― 根抵当権・譲渡担保・仮登記担保

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J40094A01
科目名	法制史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History I		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｓ
講義概要	この授業では、主に中世から近代にいたるヨーロッパ法の歴史について学びます。特にフランス・ドイツの近代法の成立と発展について重点を置きます。ヨーロッパ法が明治以降の日本近代法の形成に大きな影響を与えたことを念頭におきつつ、日本とは異なる文化をもつヨーロッパにおける法の発展過程を、当時の社会とのかかわりを含めて考察します。また最後に、明治維新以降の日本における近代法の成立過程を、憲法・民法を中心に考察します。図版や映像などの資料も活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等、三成賢次、三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で適宜紹介します。		
教材（その他）	毎回レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％ 、平常点（小テスト・レポートなどの課題）４０％		
到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに日本における近代法成立の過程を学ぶことを目的とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス（近代日本における西洋文化の受容） 第２回　中世の社会と法①（中世におけるローマ法の復活） 第３回　中世の社会と法②（中世ヨーロッパ社会の市民と農民） 第４回　近世の社会と法（自然法思想の成立） 第５回　啓蒙期の社会と法 第６回　フランス革命①（旧制度の解体） 第７回　フランス革命②（民法典の成立） 第８回　１９世紀フランスの社会と近代法① 第９回　１９世紀フランスの社会と近代法② 第１０回　１９世紀ドイツの社会と近代法①（法典論争） 第１１回　１９世紀ドイツの社会と近代法②（民法典の成立） 第１２回　フランス・ドイツの戦間期の法 第１３回　明治維新と西洋近代法の受容①（憲法典の成立） 第１４回　明治維新と西洋近代法の受容②（民法典の成立） 第１５回　戦後、社会の変化と法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40094B01
科目名	法制史Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Legal History Ⅱ		
担当者名	小宮山　直子	旧科目名称	法制史ｆ
講義概要	この授業では、ヨーロッパそして近代日本の裁判制度の歴史を学びます。ヨーロッパ法は、明治以降の日本における近代法形成に大きな影響を与えましたが、裁判制度も同様です。ヨーロッパについては、ギリシア・ローマ時代、そしてヨーロッパ中世から現代までの裁判を、具体的事件を取りあげながら説明し、最後に明治以降の日本の裁判の展開について考察します。図版や映像資料などを活用しつつ、授業を進めていきます。		
教材（テキスト）	特に指定しません。		
教材（参考文献）	岩村等・三成賢次・三成美保著『法制史入門』（ナカニシヤ出版） その他は、講義の中で随時紹介します。		
教材（その他）	毎回、レジュメや資料を配布します。必要に応じて映像資料を活用します。		
評価方法	期末試験６０％、平常点（授業内の小テスト・レポートなど）４０％		
到達目標	ヨーロッパにおける裁判の歴史および日本近代における裁判制度の特徴について基礎的な知識を習得することを目標とします。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業内容にかかわる小テスト（もしくは小レポート）を実施するので、復習しておくこと。		

受講者への要望

毎回、レジュメを配布しますが、教員の口述内容もしっかりとノートにまとめてください。
春学期の続編ですが、秋学期のみの受講も可能です。

講義の順序とポイント

第１回　ガイダンス（日本と西洋の裁判の比較）
第２回　ギリシア・ローマの裁判
第３回　古代ゲルマン社会の裁判
第４回　イングランドの裁判（陪審制度の成立）
第５回　近世の裁判①（教会裁判の発展、魔女裁判）
第６回　近世の裁判②（フランス・アンシャンレジーム期）
第７回　フランス革命期
第８回　１９世紀における裁判①（１９世紀、フランス・ドイツの概観）
第９回　１９世紀におけるる裁判②（フランス、ドレフェス事件）
第１０回　２０世紀の裁判①（戦前・戦中）
第１１回　２０世紀の裁判②（戦後）
第１２回　日本・明治維新と西洋近代法の受容
第１３回　明治以降の日本における裁判制度①（刑事裁判）
第１４回　明治以降の日本における裁判制度②（民事裁判）
第１５回　裁判への市民参加制度の国際比較

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J4010100A
科目名	ケーススタディ	単位数	2
科目名（英語表記）	Case Study Seminar		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	独占禁止法に関する判例を取り上げる。独占禁止法の内容は基本的に経済法Ⅰ及びⅡで学ぶ。この演習では、独占禁止法の内容と手続きを確認するした上で、個々の判例について検討する。		
教材（テキスト）	経済法Ⅰと同じ		
教材（参考文献）	船田正之・金井貴嗣・泉水文雄編『経済法判例・審決百選』（有斐閣、２０１０年）金井貴嗣・川濵昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法　第３版』（弘文堂、２０１３年）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート・授業への積極的な参加）３０％ 報告４０％　　学期末レポート３０％		
到達目標	事実関係を正確に読み取り、分かりやすくまとめることができる。 独占禁止法についての理解を深める。		
準備学習	毎回の授業で指示する。		
受講者への要望			
経済法Ⅰを同時に受講すること 十分な予習の時間を確保すること			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション・独占禁止法の基礎知識① ２．独占禁止法の基礎知識② ３．東芝ケミカル事件① ４．　同② ５．　石油価格カルテル事件 ６．　同② ７．日本遊技銃協同組合事件（エアガン事件） ８．　同② ９．東洋製缶事件 １０．同② １１．日本音楽著作権協会事件（JASRAC 事件） １２．同② １３．インテル事件① １４．　同② １５．総復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	★	-	-	★★

年度	2017	授業コード	J40103001
科目名	民法Ⅴ（家族法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅴ (Family and Inheritance)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
講義概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容を学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。講義にあたっては「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．家族法の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．家族法の主要論点に関する学説・判例を理解する。 3．家族法の問題を把握し、その解決の方向を考える。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分および関連する財産法の部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法総則、契約・不法行為法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
1．　受講にあたっての注意／家族法序説 2．　離婚の成立 3．　離婚の効果（1）子に関する効果 4．　離婚の効果（2）財産に関する効果 5．　親子（1）嫡出推定・嫡出否認制度（1） 6．　親子（2）嫡出推定・嫡出否認制度（2） 7．　親子（3）認知／現代的な問題 8．　相続法序説 9．　相続人／法定相続分 10．相続資格の剥奪／相続の選択 11．相続財産 12．具体的相続分（1）特別受益・寄与分 13．具体的相続分（2）計算問題 14．遺産分割 15．遺言			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40103002
科目名	民法Ⅴ（家族法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅴ (Family and Inheritance)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
講義概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容を学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。講義にあたっては「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．家族法の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．家族法の主要論点に関する学説・判例を理解する。 3．家族法の問題を把握し、その解決の方向を考える。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分および関連する財産法の部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法総則、契約・不法行為法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
1．　受講にあたっての注意／家族法序説 2．　離婚の成立 3．　離婚の効果（1）子に関する効果 4．　離婚の効果（2）財産に関する効果 5．　親子（1）嫡出推定・嫡出否認制度（1） 6．　親子（2）嫡出推定・嫡出否認制度（2） 7．　親子（3）認知／現代的な問題 8．　相続法序説 9．　相続人／法定相続分 10．相続資格の剥奪／相続の選択 11．相続財産 12．具体的相続分（1）特別受益・寄与分 13．具体的相続分（2）計算問題 14．遺産分割 15．遺言			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40104001
科目名	民法Ⅳ（債権総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	2014 年度生民法Ⅲ（債権総論）
講義概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法（3）債権総論』（有斐閣） 《有斐閣 S シリーズ》		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社） 角紀代恵『基本講義 債権総論』（新世社） 中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）			
評価方法	各講義の最後に行う理解度確認の評価（30%）と期末試験の評価（70%）に従う。		
到達目標	・発生した債権がいかなる事由により消滅するかを理解する。 ・債務不履行があった場合の、損害賠償について理解する。 ・世の中で利用される保証制度について理解する。 ・債権譲渡についての基本を理解する。 ・債権の対外的効力について理解する。		
準備学習	・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 5 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 6 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解）、損害賠償、受領遅滞
第 7 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 8 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 9 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2）
第 10 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 12 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 13 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受）
第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40104002
科目名	民法Ⅳ（債権総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	2014 年度生民法Ⅲ（債権総論）
講義概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法（3）債権総論』（有斐閣） 《有斐閣 S シリーズ》		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社） 角紀代恵『基本講義 債権総論』（新世社） 中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）			
評価方法	各講義の最後に行う理解度確認の評価（30%）と期末試験の評価（70%）に従う。		
到達目標	・発生した債権がいかなる事由により消滅するかを理解する。 ・債務不履行があった場合の、損害賠償について理解する。 ・世の中で利用される保証制度について理解する。 ・債権譲渡についての基本を理解する。 ・債権の対外的効力について理解する。		
準備学習	・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 5 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 6 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解）、損害賠償、受領遅滞
第 7 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 8 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 9 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2）
第 10 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 12 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 13 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受）
第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40113001
科目名	経済法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law Ⅱ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、独占禁止法の全体像と、合併などの「企業結合」と「不公正な取引方法」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法(第４版)』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・泉水文雄・長澤哲也編 『実務に効く　公正取引　審決判例精選経済法』（ジュリスト増刊　２０１４年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等）30% 期末テスト　70%		
到達目標	合併の理由およびメリット・デメリットを理解し、独占禁止法上の立場から分析できるようになる。 さまざまな種類の不公正な取引方法について、どのような行為か理解し、独占禁止法の視点から考えることができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．市場経済と競争・独禁法の全体像 ２．企業結合規制①（企業結合の目的と形態） ３．企業結合規制②（市場画定） ４．企業結合規制③（競争の実質的制限） ５．企業結合規制④（企業結合の規制手続と一般集中規制） ６．企業結合規制⑤（企業結合規制の課題） ７．不公正な取引方法①（全体像） ８．不公正な取引方法②（取引拒絶） ９．不公正な取引方法③（不当廉売） １０．不公正な取引方法④（抱き合わせ販売） １１．不公正な取引方法⑤（排他条件付取引） １２．不公正な取引方法⑥（拘束条件付き取引） １３．不公正な取引方法⑦（再販売価格維持） １４．不公正な取引方法⑧（優越的地位の乱用） １５．　独禁法のエンフォースメント（公正取引委員会・行政処分）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40116001
科目名	法社会学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Law II		
担当者名	沼口　智則	旧科目名称	法社会学特別講義
講義概要	秋学期は、これまでの春学期の成果の上に日本・欧米の法社会学の現状を概観し、さらに各論的テーマとしてフェミニズムをめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅳ）・天皇制をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅲ）・正義をめぐる法社会学（Ⅰ～Ⅱ）を取り上げる。最後に講義全体の総括として、法社会学の役割と任務に及び、二十一世紀前半を法社会学の視座から展望する。		
教材（テキスト）	竹下賢・角田猛之編著『改訂版マルチ・リーガル・カルチャー』晃洋書房		
教材（参考文献）	講義の都度紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	学期末試験（80%）・講義の際の小レポート（20%）による総合評価。		
到達目標	フェミニズム・天皇制・正義と法との関係をしっかり把握させ、法社会学の学問的意義と課題を自覚させる。		
準備学習	法にかかわる記事は新聞の切抜きを行い、講義ノートにはりつけていくこと。		
受講者への要望			
現代社会の様々な事件や問題に積極的関心を持って臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．法社会学の現状　Ⅰ　日本の法社会学（２） ２．　〃　Ⅱ　欧米の法社会学（２） ３．フェミニズムをめぐる法社会学　Ⅰ　女性の権利の歴史（１） ４．　〃　Ⅱ　〃　（２） ５．　〃　Ⅲ　〃　（３） ６．　〃　Ⅳ　男女平等－特に憲法１４条と第２４条－ ７．　〃　Ⅴ　男女平等－夫婦別氏（姓）論議－ ８．天皇制をめぐる法社会学　Ⅰ　天皇制とは？ ９．　〃　Ⅱ　近代神権的天皇制 １０．　〃　Ⅲ　象徴天皇制 １１．　〃　Ⅳ　ビデオ学習「日本国憲法の誕生」（ＮＨＫ） １２．正義をめぐる法社会学　Ⅰ法哲学と法社会学 １３．　〃　Ⅱ　正義と法 １４．法社会学の役割と任務　Ⅰ　－全体の総括－ １５．　〃　Ⅱ　〃			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40121001
科目名	刑事訴訟法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure Ⅱ		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法特別講義
講義概要	２００９年５月から裁判員制度が始まり、刑事手続に関しての国民の感心が高まってきているなかで、刑事裁判はどのような流れで進んでいくのか、どのようなルールがあるのか、誰もが裁判員になり、刑事裁判に参加する可能性がある今、知っておくべきである。また、刑事手続における問題解決のためには、判例やそれに対する学説の対立などによって、どのような相違が生じるのかといった発展的な議論についての知識も重要となる。そこで、この講義では、捜査から公判までの刑事手続の全体の流れを把握したうえで、刑事訴訟法のさまざまな基本ルールを概観しながら、憲法や刑事訴訟法の条文解釈、重要判例、学説の対立などの重要論点を解説する。主として公訴提起後の段階について解説する。		
教材（テキスト）	井上正仁編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第９版、2011）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。六法を毎回持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事手続に関する基礎知識を身につけ、刑事手続上の問題について具体例事例を素材に、条文に即し、主要な判例・学説の基本的な考え方を踏まえて説明することができるようになること、また、重要判例および学説の意義を深く正確に理解したうえで、それを前提に事例について妥当な解決策を導き出すことができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回取り扱う判例百選の関係箇所をを指定するので、読んで予習しておくこと。また、授業の最初に、前回の授業内容に係る小テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

「刑事訴訟法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。
捜査に関する基本知識を理解していることを前提に授業を進めるので、より刑事訴訟法について理解を深めたいと考えている意欲的な受講生を望む。

講義の順序とポイント

1　　刑事手続の流れ
2　　任意捜査と強制捜査の区別
3　　任意捜査
4　　令状呈示前の立入り・電話検証
5　　強制採尿
6　　違法収集証拠排除法則①
7　違法収集証拠排除法則②
8　　接見交通
9　　起訴状
１０　　訴因変更
１１　証拠開示
１２　自白法則
１３　伝聞法則①
１４　伝聞法則②
１５　裁判員制度

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J40122001
科目名	国際人権法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Human Rights Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	人権は伝統的に個人対国家の脈絡で語られ、国家による保障が基本である。他方で、国際人権保障は国連の基本目的の１つとなり、国連の７０年に及ぶ活動の中で大きな成果をあげた分野であるといっても過言ではない。それでは、国際人権保障の意義やはたらき、限界は何なのであろうか。また、国際人権保障から見て日本おける人権保障はどのように捉えられるであろうか。この授業では、このような問題意識を念頭に置きながら、第１部で国際人権保障の意義や特徴さらには仕組みなどについて講義する。第２部では、日本における具体的な人権問題を取り上げ、人権条約規定の日本の裁判所と条約機関の解釈を比較検討しながら、国際人権法の観点から日本の人権問題についてともに考えていきたい。 ＊国際人権保障は、教員採用試験では頻出分野なので、教職志望の学生には受講を勧める。		
教材（テキスト）	芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』（信山社、２００８年） ＊２０１７年春に改訂版が出版される予定。 毎回、講義レジュメ・資料を配付する。		
教材（参考文献）	【教科書・概説書】 田畑茂二郎『国際化時代の人権問題』（岩波書店、１９８８年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法〔第３版〕』（日本評論社、２００９年） 畑　博行・水上千之編『国際人権法概論〔第４版〕』（有信堂、２００６年） 薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック　国際人権法』（日本評論社、２００６年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 松井芳郎ほか編『国際人権条約・宣言集〔第３版〕』（東信堂、２００６年）		
教材（その他）	世界人権宣言に関するビデオ教材を用いる。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト６０点、レポート４０点。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際人権保障の意義と限界を理解する。 ２．人権条約や国連における国際人権保障の仕組みを理解する。 ３．日本の人権問題に対して国際人権法がどのような役割を果たすことができるのか考える。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．六法を必ず持参すること。
２．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
３．講義では、休憩も取るので、集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

第１部　国際人権保障の仕組み
１．受講ガイダンス、国際人権保障の意義と展開
２．国際人権保障の理念と特徴
３．国連による人権保護活動（世界人権宣言に関するＤＶＤ鑑賞も行う）
４．国連による人権保護活動（つづき）
５．人権条約の実施措置（１）－普遍的人権条約
６．人権条約の実施措置（２）－地域的人権条約
７．個人の国際刑事責任（１）－国際犯罪の成立と展開
８．個人の国際刑事責任（２）－国際刑事裁判所の活動

第２部　日本における国際人権法の実施

９．総論、国籍
１０．外国人の出入国管理と人権
１１．難民の保護
１２．非嫡出子の人権
１３．刑事施設における被拘禁者の処遇
１４．少数者の権利
１５．社会権、男女平等

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40136001
科目名	現代日本政治	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern Japanese Politics		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	日本政治に関するニュースや新聞の記事がわかるような知識の習得を目指す。そのために、日本政治の仕組みと現状についての基礎知識を確認しつつ、解説を進めてゆく。そして、最終的に、日本政治の課題と政治とは何かということを見通す力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	北山・久米・真淵編『初めて出会う政治学』（有斐閣　２００３年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布します。		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本を取り巻く政治問題について、自分なりの理性と価値観に基づいて理解し判断する力をつける。		
準備学習	可能な限り、テキストを読んでから出席することが望ましい。		

受講者への要望

現代日本の政治問題を論じるので、常に政治問題に関心を持って欲しい。具体的には、教科書とともに、常に新聞の社会面、政治面を読んだり、テレビのニュースを見たりしておくこと。授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止します。

講義の順序とポイント

1	明治憲法体制	戦前日本政治と官僚主導体制の成立について
2	新憲法体制	戦後日本政治の特徴について
3	国会と立法過程	立法過程の特徴とその問題について
4	国会と予算成立過程	予算成立過程とその問題について
5	官僚制	日本における官僚制の特徴について
6	政治家・官僚・財界	日本政治における癒着の問題について
7	日本の政党１	各政党の特徴について
8	日本の政党２	
9	選挙１	選挙制度とその特徴について
１０	選挙２	
１１	地方自治１	日本における地方自治の歴史とその現状について
１２	地方自治２	
１３	政治とマス・メディア	政治とマス・メディアの関係について
１４	日本と国際政治	戦後日本の外交政策とその課題について
１５	福祉政策	福祉政策の現状とその問題点について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40137001
科目名	外交史	単位数	2
科目名（英語表記）	Diplomatic History		
担当者名	服部　聡	旧科目名称	
講義概要	外交の基本的な仕組みと日本外交の歴史に関する基本的な知識の習得を目指す。具体的には、鎖国によって国際社会との関わりを制限していた日本が、いかにして国際社会に参入していったのか、その歴史的展開を論 じる。それを踏まえたうえで、今、日本外交について考える力を養うことを目指す。		
教材（テキスト）	入江昭『日本の外交』（中公新書）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布する		
評価方法	レポートによる。		
到達目標	日本外交史に関する基礎知識を習得する。同時に、ヨーロッパ外交史にも留意する。		
準備学習	テキストをよく読んでおくこと。		
受講者への要望			
本講義は「史」という名前がついているように、基本的に歴史の話が中心となるので、明治維新以降の日本史について、高校で学習した程度の知識をつけておいて欲しい。 授業中に携帯電話やスマートフォンを使用することは禁止する。			
講義の順序とポイント			
1　外交とは　外交の歴史と基本的な仕組みについて 2　様々な国際秩序　国際秩序について 3　開国と近代化　江戸時代の特徴と開国以後の日本について 4　日清戦争とその意味　日清戦争の意味について 5　日露戦争とその意味　日露戦争の意味について 6　欧米との対等化の達成　日露戦争後の日本外交と条約改正について 7　第一次世界大戦　第一次世界大戦と日本の対応 8　ベルサイユ体制の成立　ベルサイユ体制の成立とその実態について 9　ワシントン体制の成立　ワシントン体制の成立とその実態について １０　満州事変と満州国建国　満州事変の原因とその結果について １１　華北分離工作と日中戦争　日中戦争の原因とその展開 １２　太平洋戦争　太平洋戦争の原因とその展開について １３　敗戦と占領　アメリカの対日占領政策について １４　戦後日本の再出発　戦後日本外交の展開について １５　冷戦と日本外交			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40167001
科目名	少年法	単位数	2
科目名（英語表記）	Juvenile Law		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	過去数十年の間だけでも、神戸の児童連続殺傷事件、佐世保小６女自殺害事件、山口県光市母子殺害事件、そして裁判員裁判で死刑が問題となった石巻男女殺傷事件などの少年事件が報道で大きく取り上げられている。しかし、事件を犯した少年が、どのような手続を経て、どのような処分を受けるのかということを正確に理解しているだろうか。「少年法」という言葉は知っていてもその法律の理念・全体像を理解しているだろうか。 警察官や法曹など、犯罪に関わっていく職業はもちろん、裁判員制度が施行された今では、少年法に関する基本的知識は不可欠になってくるだろう。そこで、この講義では、少年法の意義や少年法による手続の流れなどを概観したうえで、警察や家庭裁判所等の役割および少年法をめぐる問題について理解を深めてもらう。		
教材（テキスト）	レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。毎回六法を持参すること。		
評価方法	学期末試験の結果（８０％）、そのほかに授業の中で実施する小テスト（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	少年事件や少年審判の流れについて理解し、少年法に関する体系的な基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、授業の最初に前回の授業内容に係るおさらいテストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

この講義では、少年事件の手続を中心に解説するので、少年非行の実態やその原因などについて学びたいという学生はこの講義ではなく「犯罪学」を受講すること。
学期末試験や小テストのためにも、少年事件の手続全体および少年法の意義を理解する必要がある。したがって、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。

講義の順序とポイント

1　　少年法とは
2　　少年法制の沿革
3　　少年法の目的と対象
4　　少年保護事件の対象と手続
5　　警察による捜査・予防活動（1）
6　　警察による捜査・予防活動（2）
7　　小テストと解説
8　　警察における非行防止活動
9　　家庭裁判所における事件受理
１０　観護措置
１１　調査
１２　少年審判
１３　試験観察・終局決定①
１４　終局決定②
１５　検察官送致（逆送）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40183001
科目名	現代社会と法３	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 3		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	前期の現代社会と法に引き続き、経済刑法について学び、経済分野において刑法がどのような役割を果たしているかを報告してもらい、議論する予定である。		
教材（テキスト）	神山敏雄・斉藤豊治・浅田和茂・松宮孝明『新経済刑法入門［第２版］』（成文堂・2013）（3500 円＋税）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	現代の経済刑法についての理解を深め、その知識を実社会で活かせるようにすることが目標である。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、内容について理解すること。		

受講者への要望

本ゼミでは、刑法についての基礎知識があることを前提とした上で、経済刑法は刑法典以外の法律も対象としていくことから、事前準備において幅広く勉強することが必要である。またゼミでは指定した教科書を中心として進めていくことから、受講者は教科書を必ず購入すること。

講義の順序とポイント

１．第 10 章　経済事犯の発見と監視機構
２．第 10 章に対する報告
３．第 11 章　経済事犯の捜査
４．第 11 章に対する報告
５．第 12 章　経済事犯の裁判
６．第 12 章に対する報告
７．第 13 章　会社法上の罰則
８．第 13 章に対する報告
９．第 14 章　証券取引をめぐる犯罪
１０．第 14 章に対する報告
１１．第 15 章　独占禁止法違反の犯罪
１２．第 15 章に対する報告
１３．第 16 章　企業の倒産をめぐる犯罪
１４．第 16 章に対する報告
１５．今学期学んだ経済犯罪に対する議論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40184001
科目名	現代社会と法４	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 4		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	前期の現代社会と法に引き続き、経済刑法について学び、経済分野において刑法がどのような役割を果たしているかを報告してもらい、議論する予定である。		
教材（テキスト）	神山敏雄・斉藤豊治・浅田和茂・松宮孝明『新経済刑法入門［第２版］』（成文堂・2013）（3500 円＋税）		
教材（参考文献）	授業において適宜指示する。		
教材（その他）	各自所有の六法を必ず持参すること。		
評価方法	報告の内容（４０％）、報告された問題に対する議論への参加状況（６０％）を評価の対象とする。		
到達目標	現代の経済刑法についての理解を深め、その知識を実社会で活かせるようにすることが目標である。		
準備学習	報告担当者は、報告当日までにレジュメを作成すること。 報告担当者以外は、テキストもしくは授業中に指示された教材を読み、内容について理解すること。		

受講者への要望

本ゼミでは、刑法についての基礎知識があることを前提とした上で、経済刑法は刑法典以外の法律も対象としていくことから、事前準備において幅広く勉強することが必要である。またゼミでは指定した教科書を中心として進めていくことから、受講者は教科書を必ず購入すること。

講義の順序とポイント

１．第 17 章　民事執行制度をめぐる犯罪
２．第 17 章に対する報告
３．第 18 章　悪質商法と消費者保護
４．第 18 章に対する報告
５．第 19 章　利殖商法と消費者金融の規制
６．第 19 章に対する報告
７．第 20 章　欠陥商品・不当表示をめぐる犯罪
８．第 20 章に対する報告
９．第 21 章　補助金・公的資金の不正受給
１０．第 21 章に対する報告
１１．第 22 章　政財官の癒着をめぐる犯罪
１２．第 22 章に対する報告
１３．第 23 章　脱税
１４．第 23 章に対する報告
１５．今学期学んだ経済犯罪に対する議論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J40211001
科目名	行政法 II （作用法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law II (Actions)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	国や自治体による行政と私たち私人・私企業の間の法律関係について、契約による場合など応用的な場面につき学習する。		
教材（テキスト）	櫻井敬子・橋本博之『行政法［第 5 版］』（弘文堂、2016 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選 I［第 6 版］』（有斐閣、2012 年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として 25 点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、75 点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨んでください。		

受講者への要望

テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参してください。

講義の順序とポイント

次の順で講義を行う（教科書の順番と異なる部分があるので、注意してください）。

1. 行政裁量(1)
2. 行政裁量(2)
3. 行政契約(1)
4. 行政契約(2)
5. 行政指導(1)
6. 行政指導(2)
7. 行政計画
8. 行政調査
9. 行政の義務履行確保(1)
10. 行政の義務履行確保(2)
11. 行政罰
12. 行政手続法の意義
13. 情報公開・個人情報保護(1)
14. 情報公開・個人情報保護(2)
15. 行政上の法律関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J40211002
科目名	行政法 II （作用法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law II (Actions)		
担当者名	石塚　武志	旧科目名称	
講義概要	国や自治体による行政と私たち私人・私企業の間の法律関係について、契約による場合など応用的な場面につき学習する。		
教材（テキスト）	櫻井敬子・橋本博之『行政法［第 5 版］』（弘文堂、2016 年）		
教材（参考文献）	宇賀克也ほか編『行政判例百選 I［第 6 版］』（有斐閣、2012 年） 高橋滋編著『行政法 Visual Materials』（有斐閣、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	時おり課題を提出してもらい、それを平常点として 25 点分として評価します。 定期試験ないしレポート課題を学期末に実施し、75 点分として評価します。		
到達目標	「行政法」は、公務員試験等の試験科目となっている場合があります。そのような試験の受験勉強を進める基礎となる学力を習得することを目標とします。		
準備学習	授業予定を示しますので、テキストの該当箇所を通読してから授業に臨んでください。		

受講者への要望

テキストに指定するものに限りませんが、『行政法』に関する教科書・体系書を何か一つ手にして、学習を進めるようにしてください。授業中に法律の条文を参照することがありますので、六法を持参してください。

講義の順序とポイント

次の順で講義を行う（教科書の順番と異なる部分があるので、注意してください）。

1. 行政裁量(1)
2. 行政裁量(2)
3. 行政契約(1)
4. 行政契約(2)
5. 行政指導(1)
6. 行政指導(2)
7. 行政計画
8. 行政調査
9. 行政の義務履行確保(1)
10. 行政の義務履行確保(2)
11. 行政罰
12. 行政手続法の意義
13. 情報公開・個人情報保護(1)
14. 情報公開・個人情報保護(2)
15. 行政上の法律関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J40221001
科目名	商法総則・商行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Code (General Provisions and Commercial　Transaction)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	本講義では、商法分野のうち、「商法総則・商行為法」を中心に講義し、商法上の制度や商取引の仕組みについて基本的な知識を修得する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する「会社法総則」についても適宜触れる。民法上の契約は、商人でない者同士の取引を想定するのに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為は、商人間の取引および商人と消費者の取引が想定される。これらをモデル・ケースを提示しつつ講義し、法的なものの見方を養成する。		
教材（テキスト）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円。 六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年）　2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法総則、契約・不法行為法を履修済であるか、並行して履修すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．商法の法源、商人の意義 3．商人資格の得喪 4．営業 5．商号規制 6．商業帳簿、資産の評価 7．商業使用人、代理商 8．商業登記 9．商行為概念とその効果 10.商行為の代理・商事契約の成立 11.商事担保 12.企業取引の補助者 13.商事売買 14.問屋営業・運送営業 15.場屋営業・倉庫営業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J40227001
科目名	民法Ⅳ（契約・不法行為法）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法第３編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第５版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、民法総則、物権法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
１．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説 ２．　契約の成立 ３．　契約の効力（１）同時履行の抗弁権 ４．　契約の効力（２）危険負担 ５．　契約の解除 ６．　契約総則の復習（練習問題） ７．　売買（１） ８．　売買（２）売主の担保責任 ９．　贈与 １０．賃貸借（１） １１．賃貸借（２） １２．不動産賃貸借～借地借家法 １３．その他の典型契約 １４．不法行為（１） １５．不法行為（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J40230001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。　したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（テキスト）	小池敏範『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考文献）	渡辺淑夫『法人税法　平成 29 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教材（その他）	随時、法人税申告書の記載例や参考資料を配布する。		
評価方法	授業中の取組姿勢（30%）、授業中の小テスト（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	事前にテキストを読んで予習しておくこと。		

受講者への要望

税制に関連するマスコミ報道等に関心を持つこと。

講義の順序とポイント

1.　法人の区分と課税の範囲、法人税の体系
2.　課税所得の計算構造
3.　損益の期間帰属、受取配当等
4.　外貨建取引、減価償却資産、繰延資産
5.　給与、寄附金、交際費、その他の損金
6.　引当金・準備金制度、圧縮記帳制度
7.　税額の計算
8.　税効果会計（1）
9.　税効果会計（2）
10.　新会計基準と法人税（1）
11.　新会計基準と法人税（2）
12.　新会計基準と法人税（3）
13　中小企業の会計
14.　グループ法人税制
15.　法人税申告書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50001001
科目名	ＣＭ表現論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Commercial Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	この科目は、教員による講義と、それをふまえ、受講者による広告や CM 表現の制作実習（学生がじっさいに広告表現案を作成し、発表する）を組み合わせて行う参加型の授業である。 日本は世界第二の広告大国であり、半世紀の歴史をもつ CM は、時代変化の波にさらされつつ成熟した表現文化を作っている。 限られたスペース・時間の枠内で視聴者に強い印象やインパクトを残す広告や CM 作品には必ず、マーケティングやコミュニケーション活動における何らかの課題解決に向けた送り手（企業、行政、団体、個人……）の強い意思とメッセージ（「誰に何を伝えたいのか！？」）が込められている。 マーケティング計画やコミュニケーション戦略の中での広告・CM 表現の制作の実際や、送り手の課題解決に適したさまざまな表現手法があることを知り、「戦略と表現」「メッセージとそのプレゼンテーション技法」のあり方について考え、受講生が自分なりの方法でそれらをデザインしていく手がかりを探す。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 中山幸雄・丸山顕・杉本健二・渡部秀人『CM プランナー入門』、電通、2007 年 山田奨治編『文化としてのテレビ・コマーシャル』世界思想社、2007 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内での広告制作課題（２回程度）、期末レポートないし広告作品の制作（60%）		
到達目標	広告・CM の制作プロセスと表現手法について知り、マーケティングや PR 活動における課題解決に向けたさまざまな戦略をどのようにメディア表現に落とし込むかを、実際の制作実習を通じて体験し、考える。		
準備学習	１）授業内で出される広告・CM 表現の制作課題を持ち帰り、各自がじっさいに広告や CM の企画や作品を作成し、授業で発表すること（＝授業時間外の作業が必要となる）。このため、前年度までに（あるいは並行して）「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などの制作実習科目を履修しておくことが必要である。 2）日頃、テレビやインターネット、印刷媒体などでさまざまな広告表現に意図的に接しておくこと。 3）さまざまな広告表現を受け手の立場で漫然と眺めるのではなく、作り手の立場に立って分析的にとらえる発想転換のトレーニングをしておくこと。		

受講者への要望

受講生は人間文化学部配当の「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などで、映像制作、グラフィック制作などの基礎技術を習得しておくことが望ましい。コマーシャル、広告表現や、その制作や奥深さに好奇心を抱き、広告作品の制作に強い意欲を持つ人の受講を求めます。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　広告・コマーシャルの基礎知識：さまざまな広告・CM 表現を見て、考える
第 3 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（1）：広告クリエイターの制作の実際を見る
第 4 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（2）：広告事例にもとづき、制作プロセスを学ぶ
第 5 回　マーケティング戦略と広告表現：特定製品分野の CM 表現戦略（シャンプーなど）
第 6 回　CM 表現のイメージ構成手法（「反復」と「比較」など）
第 7 回　広告・CM 制作課題の発表（1）
第 8 回　CM クリエイターの手法研究（1）：佐藤雅彦
第 9 回　CM クリエイターの手法研究（2）：佐藤可士和
第 10 回　CM クリエイターの手法研究（3）：箭内道彦
第 11 回　CM クリエイターの手法研究（4）：堀井組と市川準
第 12 回　広告・CM 制作課題の発表（2）
第 13 回　CM 音楽の役割と効果：近年の秀作 CM 音楽
第 14 回　日本と世界の CM 作品
第 15 回　最終制作作品・レポートの発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50002001
科目名	デジタル出版編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Publication Edit Practice		
担当者名	中本　真由美	旧科目名称	
講義概要	雑誌や書籍などの出版物ができるまでには多くの過程があり、さまざまな人が関わっています。この講座ではそれぞれの過程を解説し、なかでも『制作』過程を集中的に実習します。プロの制作の現場でも使用されているグラフィックソフトを実際に使いながら、ソフトウエアの種類やその特長、そして使い方を習得していきます。 また、実習を通して出版物を中心としたレイアウトデザインの基礎も学んでいきます。		
教材（テキスト）	講義の進行に応じて解説用のプリント配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義で使用するデータはこちらで用意します。		
評価方法	出席率と課題作品の提出 作品のクオリティは問いませんが、学んだことを使って積極的にチャレンジしてみましょう。		
到達目標	アドビのソフトウエア「インデザイン」「イラストレーター」「フォトショップ」の使い方を理解する。 デジタル画像の特性を理解し、ソフトウエアを使い分ける。 雑誌の紙面レイアウトの方法を知る。		
準備学習	ゼロから解説していきますので、特にありません。		

受講者への要望

基本的なパソコンの使い方はマスターしておくことが望ましいです。
初めてのソフトウエアの場合、知らない用語や用法がたくさんでてきて、戸惑うことも多いですが、使えば使うほど、どんどん制作実習が楽しくなってきます。
よく手を動かして実際に触って動きや結果を確かめて見てください。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
　雑誌ができるまで
　デジタルデータとグラフィックソフトの特性を知る

2.インデザインを使ってみよう
　自由に文字を扱う

3.レイアウトの基本
　編集で使われている用語とレイアウトの基本的な考え方

4.レイアウトレッスン/文字だけでレイアウトを仕上げる
　タイトルを工夫する

5.写真を組み合わせる
　インデザインで写真を扱う方法

6.写真を加工する
　6-1　フォトショップの使い方
　6-2　フォトショップを使って写真データを加工する

7.図やイラストを追加する
　7-1　イラストレーターの使い方
　7-2　レイアウトに必要なパーツを作ってみる

8.インデザインの便利な使い方/自動化して作業効率を上げる
　8-1　複数ページの扱い方

8-2　マスターページやスタイル設定など

9.製作実習/上記のソフトウエアを使って雑誌の紙面作りを行う
自分で意図したレイアウトをつくる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J50002002
科目名	デジタル出版編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Publication Edit Practice		
担当者名	中本　真由美	旧科目名称	
講義概要	雑誌や書籍などの出版物ができるまでには多くの過程があり、さまざまな人が関わっています。この講座ではそれぞれの過程を解説し、なかでも『制作』過程を集中的に実習します。プロの制作の現場でも使用されているグラフィックソフトを実際に使いながら、ソフトウエアの種類やその特長、そして使い方を習得していきます。 また、実習を通して出版物を中心としたレイアウトデザインの基礎も学んでいきます。		
教材（テキスト）	講義の進行に応じて解説用のプリント配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義で使用するデータはこちらで用意します。		
評価方法	出席率と課題作品の提出 作品のクオリティは問いませんが、学んだことを使って積極的にチャレンジしてみましょう。		
到達目標	アドビのソフトウエア「インデザイン」「イラストレーター」「フォトショップ」の使い方を理解する。 デジタル画像の特性を理解し、ソフトウエアを使い分ける。 雑誌の紙面レイアウトの方法を知る。		
準備学習	ゼロから解説していきますので、特にありません。		

受講者への要望

基本的なパソコンの使い方はマスターしておくことが望ましいです。
初めてのソフトウエアの場合、知らない用語や用法がたくさんでてきて、戸惑うことも多いですが、使えば使うほど、どんどん制作実習が楽しくなってきます。
よく手を動かして実際に触って動きや結果を確かめて見てください。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
　雑誌ができるまで
　デジタルデータとグラフィックソフトの特性を知る

2.インデザインを使ってみよう
　自由に文字を扱う

3.レイアウトの基本
　編集で使われている用語とレイアウトの基本的な考え方

4.レイアウトレッスン/文字だけでレイアウトを仕上げる
　タイトルを工夫する

5.写真を組み合わせる
　インデザインで写真を扱う方法

6.写真を加工する
　6-1　フォトショップの使い方
　6-2　フォトショップを使って写真データを加工する

7.図やイラストを追加する
　7-1　イラストレーターの使い方
　7-2　レイアウトに必要なパーツを作ってみる

8.インデザインの便利な使い方/自動化して作業効率を上げる
　8-1　複数ページの扱い方

8-2　マスターページやスタイル設定など

9.製作実習/上記のソフトウエアを使って雑誌の紙面作りを行う
自分で意図したレイアウトをつくる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J50003A01
科目名	アートギャラリー実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Art Gallery I		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	
講義概要	この授業は、共同のプロジェクトとして展覧会を自分たちで企画・制作・運営し、この経験をつうじて社会性と感性を育むことを目標としています。この取り組みは、コンヴィヴィアリティ(自律共生･共愉)を探究する社会美学の実践です。今年度は、これまで 7 年(回)にわたっておこなわれてきた「亀岡プロジェクト」(2010～16 年度）を検証・継承しながら新たな展開を探求します。 アートがたんなるモノではなく、社会との関わりの中で生まれる出来事であることを体験的に理解することが重要です。アートとは、作品とその制作を通じて社会的な場や状況それ自体を美的・感性的（aesthetic）に問いかけるものです。 J.ボイスは、「人はそれぞれ芸術家である」という言葉を遺しました。このメッセージが意味するのは、だれもが美的・感性的な協働・共働によって「美しい=よい」社会を共につくっていくことができるということであり、その実践をボイスは「社会彫塑」とよびました。こうして造形(形成)される「社会」とは、国や地域といった大きなものだけでなく、家族や友人、ゼミやサークルといった身近な人間関係としての「小さな社会」を含みます。 授業では、個人の作品制作だけでなく、人びとの交わりとしての「小さな社会」としての授業への関わりを重視します。授業に関係するさまざまな人たち（教員・アーティスト・ゲスト・地域の人びと・各種関係者）との関わり合いを通じて、展覧会を共につくりあげることを自覚し、「生きた社会」としての展覧会を制作し、一連の取り組みを報告書にまとめます。 その準備として、画像・映像を用いたレクチャー、ワークショップ、開催場所へのフィールドワーク、作品制作や展覧会企画（プランニングとプレゼンテーション)、広報などをおこないます。展覧会の開催はその総仕上げとなります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します。		
評価方法	平常点（60%）：出席状況・学外実習参加・展覧会協力等を含む。 作品（30%)。レポート（10%）		
到達目標	「生きた（リアルな）社会」としての展覧会を、共に企画、運営することを通じて、社会性と感性を育むこと。日常における美的・感性的（aesthetic）なものごとのあじわい（taste）とその社会的意義への理解を深めること。		
準備学習	準備学習は授業ごとに提示します：下調べや資料収集、作品制作のための用具や材料の準備など。		
受講者への要望			
＊「アートギャラリー実習Ⅱ」(5 講時)とセット（4 ・ 5 講時 連続）で履修すること。 ＊この授業は、特殊なスケジュールでおこなわれることをよくふまえたうえで受講してください。 ＊第 8 回となる今年度の展覧会は、2017 年 12 月 2 日（土)「One Day Exhibition」を予定しています。展覧会中の会場運営は授業の一環ですので、必ず参加してください。 ＊通常授業は金曜日ですが、展覧会場と周辺のフィールドワーク、会場の準備・現場での作品制作・展示、会場運営、作品の搬入・搬出等の授業は、土曜日／日曜日などに振り替えておこなわれます。 ＊この授業は受講者が協力して「展覧会」を制作することをめざしています。連絡なしに無断欠席したり、授業への自主的・協働的　な参加態度がない場合は、展覧会へ出品・参加が認められません。 ＊学外実習にかかる交通費、作品の制作費等は自己負担となります。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．プロジェクト･レクチャー			

３．ワークショップ
４．フィールドワーク〈学外学習〉
５．作品構想／ディスカッション
６．プレゼンテーション／ディスカッション〈学外学習〉
７．プロジェクト･ミーティング
８．会場の整備と作品の準備・制作〈学外学習〉
９．作品の制作・展示〈学外学習〉
１０．内覧会（プレオープン）【12/1（金)】〈学外学習〉
１１・１２．展覧会【12/2（土)】〈学外学習〉
１３．作品の搬出と会場の清掃〈学外学習〉
１４．報告書のためのレポート作成
１５．報告書制作と振り返りのプレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50003B01
科目名	アートギャラリー実習II	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Art Gallery II		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	
講義概要	この授業は、共同のプロジェクトとして展覧会を自分たちで企画・制作・運営し、この経験をつうじて社会性と感性を育むことを目標としています。この取り組みは、コンヴィヴィアリティ(自律共生･共愉)を探究する社会美学の実践です。今年度は、これまで 7 年(回)にわたっておこなわれてきた「亀岡プロジェクト」(2010〜16 年度）を検証・継承しながら新たな展開を探求します。 アートがたんなるモノではなく、社会との関わりの中で生まれる出来事であることを体験的に理解することが重要です。アートとは、作品とその制作を通じて社会的な場や状況それ自体を美的・感性的（aesthetic）に問いかけるものです。 J.ボイスは、「人はそれぞれ芸術家である」という言葉を遺しました。このメッセージが意味するのは、だれもが美的・感性的な協働・共働によって「美しい=よい」社会を共につくっていくことができるということであり、その実践をボイスは「社会彫塑」とよびました。こうして造形(形成)される「社会」とは、国や地域といった大きなものだけでなく、家族や友人、ゼミやサークルといった身近な人間関係としての「小さな社会」を含みます。 授業では、個人の作品制作だけでなく、人びとの交わりとしての「小さな社会」としての授業への関わりを重視します。授業に関係するさまざまな人たち（教員・アーティスト・ゲスト・地域の人びと・各種関係者）との関わり合いを通じて、展覧会を共につくりあげることを自覚し、「生きた社会」としての展覧会を制作し、一連の取り組みを報告書にまとめます。 その準備として、画像・映像を用いたレクチャー、ワークショップ、開催場所へのフィールドワーク、作品制作や展覧会企画（プランニングとプレゼンテーション)、広報などをおこないます。展覧会の開催はその総仕上げとなります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します。		
評価方法	平常点（60%）：出席状況・学外実習参加・展覧会協力等を含む。 作品（30%）。レポート（10%）		
到達目標	「生きた（リアルな）社会」としての展覧会を、共に企画、運営することを通じて、社会性と感性を育むこと。日常における美的・感性的（aesthetic）なものごとのあじわい（taste）とその社会的意義への理解を深めること。		
準備学習	準備学習は授業ごとに提示します：下調べや資料収集、作品制作のための用具や材料の準備など。		
受講者への要望			
＊「アートギャラリー実習Ⅰ」(4 講時)とセット（4 ・ 5 講時 連続）で履修すること。 ＊この授業は、特殊なスケジュールでおこなわれることをよくふまえたうえで受講してください。 ＊第 8 回となる今年度の展覧会は、2017 年 12 月 2 日（土）「One Day Exhibition」を予定しています。展覧会中の会場運営は授業の一環ですので、必ず参加してください。 ＊通常授業は金曜日ですが、展覧会場と周辺のフィールドワーク、会場の準備・現場での作品制作・展示、会場運営、作品の搬入・搬出等の授業は、土曜日／日曜日などに振り替えておこなわれます。 ＊この授業は受講者が協力して「展覧会」を制作することをめざしています。連絡なしに無断欠席したり、授業への自主的・協働的　な参加態度がない場合は、展覧会へ出品・参加が認められません。 ＊学外実習にかかる交通費、作品の制作費等は自己負担となります。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．プロジェクト･レクチャー			

３．ワークショップ
４．フィールドワーク〈学外学習〉
５．作品構想／ディスカッション
６．プレゼンテーション／ディスカッション〈学外学習〉
７．プロジェクト･ミーティング
８．会場の整備と作品の準備・制作〈学外学習〉
９．作品の制作・展示〈学外学習〉
１０．内覧会（プレオープン）【12/1（金)】〈学外学習〉
１１・１２．展覧会【12/2（土)】〈学外学習〉
１３．作品の搬出と会場の清掃〈学外学習〉
１４．報告書のためのレポート作成
１５．報告書制作と振り返りのプレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50010001
科目名	アニメ制作実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Making Animations		
担当者名	有吉　末充	旧科目名称	
講義概要	本実習では、まず「なぜアニメは動くのか」の基本原理を理解することから始める。それに基づいて「動き」分解する練習を行い、動画用紙を使って各自動画を描き、その動画を撮影して、動きを描くコツをつかむ。基本的なアニメートの技術が習得できたところで、授業後半では、受講者の希望に応じて、絵(ドローイングアニメ)、立体物（粘土、人形など）を動かして短編アニメーションを制作する。機材の操作法、撮影のためのセッティングも学習する。テレビアニメのようなセル・アニメについては技法は紹介するが課題としての制作はしない。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。授業で必要なことはレジュメで配布する。		
教材（参考文献）	プレストン・ブレア著『アニメーション・イラスト入門』マール社、『アニメーションベーシックス』BNN、ほか必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）	過去の受講生の作品など参考作品を上映する。		
評価方法	実習参加態度 50%、課題作品 40%、授業への質問など 10%		
到達目標	基本的なアニメーションが自分で作れるようになる。		
準備学習	人物やものの動き方について興味を持って観察する習慣を身につけること。鉛筆で紙に絵を描く練習をしておくこと。いわゆる「アニメ絵」の描き方は練習する必要はない。		
受講者への要望			
自由な発想で「動き」を作り出していけるような想像力を身につけること。細かい作業に集中して取り組むので体調管理に気をつけること。			
講義の順序とポイント			
1 日目 1、オリエンテーション 2、アニメーションの原理 3、「動き」を分解する 4、平面アニメーションの制作法 5、動画制作練習と撮影テスト 2 日目 1、立体アニメーションの制作法(受講生の希望に応じてドローイングアニメを継続する場合もある） 2、立体物（粘土、人形）の制作 3、撮影機材の操作法 4、撮影のためのセッティング 5、立体アニメーションの制作練習 3 日目 1、自主作品（短編アニメ）制作 2、発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50011002
科目名	アニメ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Anime Cultures		
担当者名	有吉　末充	旧科目名称	
講義概要	アニメーションとマンガは今や世界的な日本の文化となっている。本講座では、まずアニメーションの歴史と様々な技法を俯瞰した上で、日本のアニメーションの黎明期から現在までの発達史をたどりながら、日本のアニメーションの特徴を分析し、なぜアニメーションがここまで発達したのか、その文化的背景や、表現としての将来の可能性について検討する。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。		
教材（参考文献）	五味洋子『アニメーションの宝箱』ふゅーじょんぷろだくと。その他必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）	ビデオなどの副教材を使用		
評価方法	平常点（40%）出席状況等による（そのうち受講態度 30%、質問等授業参加度 10%。）小レポート（60%）		
到達目標	アニメに関する視野をひろげ、文化としてのアニメについて様々な角度から考察できる視点を獲得することを目的とする。		
準備学習	開講 1 週間前に https://allifrex02.wixsite.com/mysite 「レクチャー」に掲載のレジメを事前に読んで概要を把握しておくこと。疑問があれば質問できるようにしておくこと。		

受講者への要望

映像をたくさん見ることになるが、比較検討の材料とするので漫然と見ないように。私語は禁止。できれば授業中に紹介した作品のうち何本かは後で通しで観ることが望ましい。小レポートは必ず提出すること。

講義の順序とポイント

1、アニメーションとは何か
2、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（1）
3、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（2）
4、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（3）
5、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（4）
6、アニメーションの様々な技法（1）（平面的な技法）
7、アニメーションの様々な技法（2）（立体的な技法）
8、アニメーションの様々な技法（3）（ＣＧ、その他の技法）
9、日本のアニメーションの歴史（1）黎明期から政岡憲三へ
10、日本のアニメーションの歴史（2）東映動画の誕生とそのスタイルの成立
11、日本のアニメーションの歴史（3）テレビアニメの誕生と発展
12、日本のアニメーションの歴史（4）テレビアニメの発展・メカと戦闘
13、日本のアニメーションの歴史（5）テレビアニメの発展・アニメとヒロイン
14、日本のアニメーションの歴史（6）東映動画からジブリへ
15、日本アニメの現在から未来へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	★★	★★

年度	2017	授業コード	J50022001
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories and Methods of Counseling		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングとは「相談」という意味であり、歴史的には職業指導のためのガイダンス（助言指導）から発展してきた。1940 年代のカール・ロジャーズによる非指示的心理療法・来談者中心療法はカウンセリングの土台を作ったと言える。フロイトによる精神分析に端を発する心理療法は「患者を治療する」という枠組みであったのに対して、カウンセリングは一定以上健康な人が「対話を通して自らよりよい状態へと変化していく」プロセスを援助する営みだと考えられる。しかし対象者が広がるにつれて心理療法とカウンセリングの境界は曖昧なものとなり、カウンセリングにおいても様々な技法が利用されるようになってきた。 本講義ではカウンセリングで用いられる様々な技法を学ぶと共に、実際のカウンセリング場面のＶＴＲを視聴してそのあり方についてグループディスカッションを行い、カウンセラーのあり方と治療の流れの関連について考えを深める。またロールプレイを通して、カウンセラーとクライエントのやりとり・感情体験を具体的に学ぶ。		
教材（テキスト）	佐々木正宏・大貫敬一共著　『適応と援助の心理学／援助編』　培風館		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(出席および課題)　５０％　及び　レポート提出　５０％。		
到達目標	カウンセリングで用いられる治療技法とその理論的基礎の概略を学ぶと共に、初歩的なカウンセリング的応答の技法を経験する。		
準備学習	第一回授業までに「臨床心理学Ⅱ」の教科書を再読し、カウンセリングの基本となるロジャーズの理論について復習しておくこと。また、講義終了時に、来週までに実施すべき課題を出すので、それをきちんとこなして次週授業開始時に提出すること。		
受講者への要望			
遅刻・早退せず主体的に参加すること。臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を取得済みであることが必要。カウンセリングのロールプレイをやるため、学期に 1、2 回土曜ないし休日に授業を実施するので、予定しておくこと。初回の授業時に日程の決定をするため、必ず出席のこと。			
講義の順序とポイント			
１～２．カウンセリングとは ３～４．カウンセリングの基本的技法－－マイクロ・カウンセリング ５．カウンセリングの実際－－　ａ．ロジャーズの来談者中心療法 ６．　ｂ．パールズのゲシュタルト療法 ７．　ｃ．エリスの論理療法 ８～10．紙上応答練習 11～14．ロールプレイ－－－（ロールの設定・ロールプレイの実施・話し合い） 15．各グループ毎の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J50025001
科目名	コミュニケーション社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 A では、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などについて述べる。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《記号と社会――日常世界を意味づける》
2. 記号
3. ファッション
4. 二元論(1)
5. 二元論(2)
6. ラベリング(1)
7. ラベリング(2)
8. 復習と補足(1)

《現代社会のコミュニケーション》
9. 近代化と人々の関係性(1)
10. 近代化と人々の関係性(2)
11. 空気と共感
12. 地域のコミュニケーション
13. グローバルなコミュニケーション
14. 観光
15. 復習と補足(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50026A01
科目名	コミュニケーション社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 A では、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などについて述べる。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《記号と社会――日常世界を意味づける》
2. 記号
3. ファッション
4. 二元論(1)
5. 二元論(2)
6. ラベリング(1)
7. ラベリング(2)
8. 復習と補足(1)

《現代社会のコミュニケーション》
9. 近代化と人々の関係性(1)
10. 近代化と人々の関係性(2)
11. 空気と共感
12. 地域のコミュニケーション
13. グローバルなコミュニケーション
14. 観光
15. 復習と補足(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50026A02
科目名	コミュニケーション社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 A では、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などについて述べる。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《記号と社会――日常世界を意味づける》
2. 記号
3. ファッション
4. 二元論(1)
5. 二元論(2)
6. ラベリング(1)
7. ラベリング(2)
8. 復習と補足(1)

《現代社会のコミュニケーション》
9. 近代化と人々の関係性(1)
10. 近代化と人々の関係性(2)
11. 空気と共感
12. 地域のコミュニケーション
13. グローバルなコミュニケーション
14. 観光
15. 復習と補足(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50026B01
科目名	コミュニケーション社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 B のサブテーマは「現代社会のコミュニケーション」。現代の、特に若者のコミュニケーションが希薄なったという説がある。確かに、社会学の研究の中にも希薄化を示すものがある。しかし、そうした研究もよく読めば、希薄化している一面もある一方で濃密化している面もあることを示している。また、一般にコミュニケーションが希薄化することは悪いことと思われているが、社会学の諸研究が示しているのは、希薄化・濃密化ともに、良い面もあれば悪い面もあるということである。講義では、この希薄化説という観点から、現代社会のコミュニケーションを考える。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	各回の終わりに次回分を指示する。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《現代人の相互行為》
2. 都市のストレンジャー(1)
3. 都市のストレンジャー(2)
4. 相互行為儀礼
5. ぼかし表現

《大衆社会のコミュニケーション》
6. 大衆と中間集団
7. 大衆の社会心理
8. 「盗撮ソング」論

《応用問題――郊外とメディア》
9. 郊外(1)
10. 郊外(2)
11. ネット社会
12. 大衆社会とソーシャルメディア
13. 流言

《復習と補足》
14. 復習と補足（1）
15. 復習と補足（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50026B02
科目名	コミュニケーション社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 コミュニケーション社会学 B のサブテーマは「現代社会のコミュニケーション」。現代の、特に若者のコミュニケーションが希薄なったという説がある。確かに、社会学の研究の中にも希薄化を示すものがある。しかし、そうした研究もよく読めば、希薄化している一面もある一方で濃密化している面もあることを示している。また、一般にコミュニケーションが希薄化することは悪いことと思われているが、社会学の諸研究が示しているのは、希薄化・濃密化ともに、良い面もあれば悪い面もあるということである。講義では、この希薄化説という観点から、現代社会のコミュニケーションを考える。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	授業内レポート（50%）、定期試験（50%）。		
到達目標	日々体験しているさまざまなコミュニケーションを社会学的に分析するという方法を理解すること。		
準備学習	各回の終わりに次回分を指示する。		

受講者への要望

ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

講義の順序とポイント

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《現代人の相互行為》
2. 都市のストレンジャー(1)
3. 都市のストレンジャー(2)
4. 相互行為儀礼
5. ぼかし表現

《大衆社会のコミュニケーション》
6. 大衆と中間集団
7. 大衆の社会心理
8. 「盗撮ソング」論

《応用問題――郊外とメディア》
9. 郊外(1)
10. 郊外(2)
11. ネット社会
12. 大衆社会とソーシャルメディア
13. 流言

《復習と補足》
14. 復習と補足（1）
15. 復習と補足（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50030001
科目名	シミュレーション・ゲーム	単位数	2
科目名（英語表記）	Simulation and Gaming		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	この授業では、集団を用いた実験をいくつか体験しながら集団心理学についての理解を深める。扱うテーマは集団の意思決定、CMC（コンピュータを媒介するコミュニケーション）と FTF（対面コミュニケーション）による協同作業の効率性、集団間関係などである。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	Slack などを用いて教材・データ配布を行うほか、適宜プリントを配布する		
評価方法	平常点 40%出席状況などによる。レポート 60%		
到達目標	多くの社会現象は原因となる要因を特定できない複雑系現象である。しかし私たちは、どこかに原因となる要因やリーダーがいるという考え方に慣れているため、社会や人間に対して誤った原因を求める傾向がある。この授業は、このような因果関係の認知を脱して柔軟な視点で社会や他者を眺める視点を得ることを目的としている。		
準備学習	各講義時間中に参考資料をプリントあるいは、教員個人の教材フォルダから配布する。この資料を、次の授業までに読んで準備をしておくこと。		

受講者への要望

一般的な IT リテラシー（インターネット・PC 使用経験）を持っておくこと。
出席重視なので、遅刻、欠席のないように。
やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡をしてください。

講義の順序とポイント

1．　概論
2．　Edmodo,Slack の使い方
3．　囚人のジレンマゲーム
4．　ジレンマゲームのシミュレーション
5．　FTF 集合知実験
6．　CMC 集合知実験
7．　FTF 社会的共有認知
8．　CMC 社会的共有認知
9．　FTF　空間認知の共有
10．CMC　空間認知の共有
11．仮想空間の制作
12．人工知能ボット
13．　ゲーミニフィケーション
14．　集団間関係のシミュレーション
15．　集合知

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50032001
科目名	ジェンダー論	単位数	4
科目名（英語表記）	Gender and Society		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ただし注意が必要なのは、ジェンダー論で女性問題だけを論じるのではありません。現代の男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。本講義では、ジェンダーの各論トピックスを扱います。		
教材（テキスト）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	『女性のデータブック』第 4 版　有斐閣、『女性学事典』岩波書店、(『図解雑学　ジェンダー』ナツメ社（すべて図書館に所蔵）		
教材（その他）	DVD などを使います		
評価方法	平常点（出席状況と授業内課題など）:40%、テスト：60%		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業最後に次回の準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
1.　イントロダクション 2.男性学：なぜ男性は「生きづらい」 3. 「男らしさ」というジェンダー 4. 近代家族 1 5. 近代家族 2 6.　格差社会とジェンダー：　恋愛・結婚・仕事 7. DVD 「恋愛と若者」 8. 教育とジェンダー 9. メディアのなかのジェンダー 10. ジェンダーリテラシーでメディアを見ると 11.　言葉とジェンダー 12.　男と女の涙を読み解くー 「感情の社会学」 13. 宗教とジェンダー 14. 少子化社会とジェンダー役割 15.. 超高齢社会とライフコースの変化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50036A01
科目名	ジャーナリズム論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	ジャーナリズム論を学ぶ目的は現代社会の仕組みを知り、それらに対する健全な批判精神を養う点にあります。そのために日々、私たちの周りで起きている様々な出来事や社会事象を正確に理解し、その本質を見抜くことが不可欠で、そのような観点から新聞やテレビ、雑誌などの報道を仔細に検証します。そのことによって、より高度な社会常識が醸成されると同時に、マスコミに就職したい学生諸君にとっては入社試験対策の一助になると思います。それと併せて、メディアに限らず、一般企業に就職する際にも培われた社会常識は役立つと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」について、各種新聞記事やデータ、さらに国内・海外のテレビ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	プロのジャーナリストでもある私のニュース解説や分析を聴いてもらいたいので、是非とも積極的、能動的に授業に出席して講義に耳を傾けてください。就職の際にもきっと役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内に実施する行う「小テスト」2 回(計 60%)です。		
到達目標	ジャーナリストになることを希望する学生にとって、この授業がその基礎知識になることは言うに及ばず、社会人としての最低限の常識を養うという点において、就職する際にかなり役立つと思います。つまり、いま問題になっている社会事象を正確に理解し、それに対する的確な批判力を身に付けることが目標なわけで、是非ともそのような感度の高い情報人になってほしいと思います		
準備学習	授業では新聞やテレビで報道されているその時々のニュースを具体的に教材として取り上げ、そのことを通してジャーナリズム原論に迫るのが第一の目標です。そのために次の授業のために教科書や事前配布の資料を読み込んで予習をすることが肝要です。それに加えて、その時々のニュースを新聞や新聞社のウェブサイト、さらにテレビのニュースなどを通じてよく把握、理解しておいてほしいと思います。また、授業終了時に課題を出してその日の授業の復習をしてもらい、次回の授業で提出してもらいます。 1.「ジャーナリズムの社会的存在意義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「ネット時代のジャーナリズム」「知と情報の公共圏との論壇ジャーナリズム」の項を読んで概要を把握しておきてください。 2.「民主主義と国民の知る権利、報道の自由」については、教科書の「疑わしきは報道すべき」「知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」「社会の道標としてのジャーナリズム」の項を中心に予習しておいてください。 3.「マス・メディアにおけるニュースの定義」については、事前に配布した各種資料を熟読して理解を含めておくことと、教科書の第３章「ニュースの大衆化」「視聴者本位のニュース」（49 ページ～69 ページ）などを読んでおくこと。 4.「発表ジャーナリズムとメディア・スクラムの功罪」につては、配布した新聞記事と併せて、教科書の第８章「発表ジャーナリズムとメディア・スクラム」全体に目を通しておいてください。 5.「松本サリン事件と誤報」については、教科書の「松本サリン事件における集団誤報道」（170 ページ～174 ページ）と、そのうちの「犯人と疑われた河野義行」の項に関する新聞記事資料をよく読んでおいてください。 6.「坂本弁護士一家拉致殺害事件とオウム」については、教科書の「坂本事件と TBS の責任」（174 ページ～179 ページ）を読んで理解しておいてください。 7.「所沢ダイオキシン報道」にｔついては、教科書の「所沢ダイオキシン報道による風評被害と裁判」（185 ページ～196 ページ）をよく読んで、事実関係と専門用語の理解に努めてください。 8.「雑誌ジャーナリズムとプライバシー侵害報道」については、事前配布の名誉棄損裁判の判決資料と教科書「第９章」に掲載したプライバシー侵害判決例をチェックすると同時に、国民の知る権利と個人情報保護の法的な関係を予習しておいてください。 9.「週刊文春の出版禁止仮処分」については、教科書の「週刊文春をめぐる報道の自由とプライバシーの侵害」（202 ページ～221 ページ）を事前に読んで事実関係と法的意味をよく理解しておくこと。 １０.「東電女性社員殺人事件報道」については、配布資料に加えて教科書の「死者の尊厳を冒す東電女性社員殺人事件の暴露報道」（197 ページ～202 ページ）をよく読んで理解しておくこと。		

	１１.「実名、匿名報道」については、参考に事前配布した新聞記事と教科書の第１０章「メディアによる実名・匿名報道と個人情報」全体に目を通しておいてください。 １２.「週刊誌の実名報道と少年法」については、教科書の「神戸小学生連続殺傷事件」「週刊新潮の顔写真掲載」「インターネットによる少年の個人情報」などの項（222 ページ～229 ページ）を読んで事実関係を理解しておくこと。 １３.「個人情報保護法と取材報道の自由」については、事前配布の各種資料と教科書の「個人情報保護法によって大きな制約を受ける報道」（232 ページ～238 ページ）に記載されている実例について理解を深めておくこと。 １４.「警察権力による匿名発表」については、事前配布データと同時に教科書の「国民の知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」（229 ページ～232 ページ）をよく読んで、警察発表になぜメディアが反発ｓｊひたのか予習しておいてください。 １５「ジャーナリストを目指すためには」については、教科書全体をもう一度目を通すとともに、第１２章「ジャーナリズムとアカデミズムは連携できるか」、その中でも「ジャーナリスト志望学生のニーズに合わない教育内容」や「大学院におけるプロフェッショナル研修」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」の項に記した予習と復習を確実に行ってください。講義者は３２年間のジャーナリスト経験のあるプロなので、ともかく授業に積極的に出席して、そのニュース分析や解説などに熱心に耳を傾けてほしい。それは、いわば新聞社におけるデスク会の再現のようなもので、そのような体験の積み重ねがジャーナリストとしての感性を養うことに繋がると思います。遅刻や私語は厳禁とします。私語が過ぎれば退出を求めることもあります。ともかく、常識や偏見にとらわれない自由な発想を育成したいと思っています。このジャーナリズム論を受講する学生諸君には、教科書が同一で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　ジャーナリズム、メディア、ジャーナリストの社会的存在意義
2　民主主義の根幹としての「国民の知る権利」と取材・報道の自由
3　新聞・テレビなどマス・メディアにおける「ニュースの定義」とその時代的変容
4　発表ジャーナリズムとメディア・スクラム（集団的過熱取材）の罪
5　「松本サリン事件」におけるメディアの集団的「誤」報道
6　坂本弁護士一家を死に追いやった「TBS」の責任
7　「所沢ダイオキシン報道」に象徴される風評被害と司法の判断
8　社会を鋭くえぐる雑誌ジャーナリズムとそのプライバシー侵害報道
9　「週刊文春」のプライバシー報道とそれに対する出版禁止仮処分
１０　全国紙も報じた死者の尊厳を冒涜する「東電女性社員殺人事件」報道
１１　メディアによる「実名」「匿名」報道の意義と個人情報の保護
１２　週刊誌などの実名報道によって形骸化する「少年法」と人権侵害
１３　「個人情報保護法」によって制約を受ける取材の自由と報道の自由
１４　「国民の知る権利」を阻害する警察権力による匿名発表
１５　ジャーナリストを志す学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50036B01
科目名	ジャーナリズム論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー一岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々、話題になっている「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布、さらに国内・海外のニューズ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	授業に積極的、能動的に出席して、プロのジャーナリストである私のニュース解説や分析を是非とも聴いて下さい。それは、必ずや就職の際に役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内で実施する「小テスト」2 回（計 60％）です。		
到達目標	現代社会において問題化している事象を正確に理解し、それに対する客観的な判断力の養成を目標とする。つまり、一般常識や情報感覚を養うことになるが、マスコミ志望者にとっては、その希望がかなうようになってもらいたい。そのような目的意識を持ってメディアリテラシー力も醸成してもらいたいと思います。		
準備学習	授業ではジャーナリズム理論を学ぶのが第一の目標なので、教科書や事前配布資料の読み込みなどによる専門用語や事実関係の理解のための予習が欠かせません。それに加えて、この授業ではその時々のニュース報道を分析することも大事で、そのために新聞やテレビのニュース、さらにはメディアのウェブサイトへのアクセスによって、いま、世の中で何が起き、何が問題になっているのか、情報に敏感になっておいてください。また、講義終了時に宿題を出しますので、次回の授業時に復習の課題文を提出してもらいます。 １.「ジャーナリズムと商業主義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「新聞ジャーナリズムの存在価値」「利益追求と公益性」の項などを読んで予備知識を得ておいてください。 ２.「放送の自律性の危機」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「朝日新聞による NHK 番組改変報道」（129 ページ～139 ページ）をよく読んで予習しておいてください。 ３.「「政治報道とメディア」ついては、事前配布した椿報道局長発言問題の資料と教科書の「政治報道における不偏不党性と公平性」（139 ページ～152 ページ）の項を読んで事実関係を把握しておくこと。 ４.「メディアと戦争」については、教科書の第Ⅳ部「社会の道標としてのジャーナリズムに求められる課題」全体を読み、戦争報道においてメディアに何が課されているのかを理解しておいてください。 ５.「大本営発表」とイラク戦争」については、双方に関する新聞記事資料に加えて、教科書の「正義の戦争に仕立てる国際世論操作」の項（241 ページ～244 ページ）を予習しておいてください。 ６.「「見せる戦争と見せない戦争」については、軍当局による取材報道規制について言及している教科書の「見せる戦争、見せない戦争と発表ジャーナリズム」（244 ページ～247 ページ）を読んで理解しておくこと。 ７.「アル・ジャジーラの戦争」については、かつて「ＣＮＮの戦争」と形容された湾岸戦争との報道比較をした教科書の「アル・ジャジーラの戦争としてのイラク戦争報道」（254 ページ～262 ページ）を読んで、両者の相違を予習しておくこと。 ８.「ナショナリズムとアメリカ・メディア」については、事前配布資料と教科書の「ナショナリズムの鼓舞に利用された米国メディア」（262 ページ～264 ページ）を読んで予習しておいてください。 ９.「戦争の真実に肉薄するフリージャーナリスト」については、各種フリージャーナリストの関係資料と教科書の「パレスチナホテルで記者が死傷」「従軍記者」「フリーランス」の項を読んで予備知識を得ておいてください。 １０.「日本マス・メディアとイラク戦争」については、教科書の「戦場から撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”」（264 ページ～267 ページ）をよく読んで事実関係を把握しておくこと。 １１.「ジャーナリズムと知識人」については、事前配布の資料とともに教科書の「情報化社会における知の		

	大衆化と知識人の役割」（274 ページ～276 ページ）を読んで予習しておいてください。 １２.「「朝まで生テレビと知識人」については、同番組の常連出演者の名前や経歴に加えて、教科書の「朝まで生テレビに常連出演する知性の人々」（283 ページ～288 ページ）、その中でも「衆愚的なマスを意識した論点の単純化」の項をよく読んで理解しておいてください。 １３.「知と情報」の公共圏」については、中身がかなり難しいので、教科書の「論壇知識人」「論壇ジャーナリズム」「知のトライアングル」の項をよく読んで理解しておくこと。 １４.「ウォルター・リップマン」については、これも難解な理論が展開されているので教科書の「論議を呼ぶウォルター・リップマンの大衆論」、中でも彼が主張する「世論」「疑似環境」「軟弱な大衆」の項を重点的に読んで理解を深めておくこと。 15.「大学におけるジャーナリズム研究」については、教科書全体の主題であると同時に第１２章に集約されているので、のとりわけ同章後半の「ジャーナリスト養成教育」「大学院の在り方」「インターンシップ」「プロフェショナル研修」「米国大学との比較」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」に記した予習や復習を確実に行ってください。私はプロのジャーナリストなので、ともかく能動的に出席して、日々のニュースをどのように分析するのかを体験して勉強してもらいたい。ジャーナリズムは社会事象に対する認識力と批判力が根本といえます。その意味で、世の中で一体、何が起きているのか、出来るだけ日々のニュース報道を自身の頭で考え、友人たちと議論するなど“情報感度”を磨いておいてください。授業中の私語、遅刻、早退などはほかの受講生の迷惑になるので退出を求めることもあります。ともかく、問題意識をもって社会に対する見識を磨いてください。それから、この科目を受講する学生諸君には、教科書が一緒で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　「衰退するジャーナリズム」を取り巻く商業主義的な諸現象
2　放送の自律性の危機ーー「NHK 番組改変」において政治権力の介入はあったのか
3　「政治報道」におけるメディアの不偏不党性と公正・公平性
4　メディアは本当に「戦争の真実」を伝えているのか
5　「大本営発表」とイラク戦争を「正義の戦争」に仕立てた国際世論操作
6　「見せる戦争」「見せない戦争」と当局による取材規制・発表ジャーナリズム
7　欧米メディア中心の「CNN の戦争」から「アル・ジャジーラの戦争」報道へ
8　当局によってナショナリズムの高揚に利用されたアメリカ・メディアの失態
9　戦争の真実に肉薄するフリージャーナリストたちの活躍と悲劇
１０　戦場から総撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”
１１　情報化社会におけるジャーナリズムと知識人の連携は可能か
１２　「朝まで生テレビ」（テレビ朝日）に常連出演する“知性の人々”
１３　「知と情報」の公共圏としての論壇ジャーナリズムの存在意義
１４　論議を呼ぶウォルター・リップマンの「大衆論」とジャーナリズム
１５　大学におけるジャーナリズム研究と不十分なジャーナリスト養成教育

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50044001
科目名	スタジオ放送実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Studio Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	「放送」は情報伝達手段、娯楽提供手段として、デジタル時代に益々その重要性を高めている。デジタル放送で多チャンネル、双方向、高画質、データ放送などのサービスが期待されるが、そこでは何より重要視されるのが”コンテンツ”の中身である。本実習では受講生で担当スタッフを編成し、メッセージ性のあるラジオ番組とニュースショー形式のテレビ番組の企画・構成、取材・撮影、編集などを行い、最終的に放送実施することで、「スタジオ放送」の技術と知識を習得する。 なお本実習は地域貢献のために、学生と地域とが協働し、まちづくりに役立つ発信を行うことをめざす授業でもある。		
教材（テキスト）	プリントを随時配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	本学マルチスタジオを使って、「ラジオ」と「テレビ」放送の基礎的な知識と技術を習得する。		
準備学習	日常的にラジオ、テレビ番組を制作者の視点で視聴すること。		

受講者への要望

放送（ラジオ、テレビ）と映像制作に関心があり、チーム作業ができること。実習時間外も使って行うこともある。少人数参加型の実習のため希望者多数の場合は選考を行うことがある。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

秋学期
①ラジオスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成
②ラジオ副調整室の音響機器操作
③ラジオ番組の企画・構成、選曲
④　　同
⑤ラジオ番組放送・リハーサル
⑥ラジオ番組放送・本番(校内放送ほか）実習ラジオ作品の審査と合評
⑦テレビスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成
⑧テレビスタジオの映像・音声機器操作
⑨「ニュースワイド」番組の企画・構成
⑩　　同
⑪～⑬「ニュースワイド」のニュース映像取材ニュース映像編集作業
⑭テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・リハーサル
⑮テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・本番　（校内放送ほか)、実習テレビ作品の審査と合評

協働概要
・学生と市民との共同企画会議
・学生・市民による共同取材、制作

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J50045001
科目名	テレビ局番組制作実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical TV Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	本実習は、ＫＢＳ京都（京都放送）テレビが毎週月～金,午後 5 時 45 分～6 時に放送しているニュース情報番組「news フェイス」の学生スタッフとしてアシスタント、テロッパー、カメラマン助手など実際のニュース情報番組の制作などに携わりながら、テレビ番組の制作ノウハウを体験的に学ぶものである。 「news フェイス」は京都で起きた出来事や歳時記を中心に伝えるニュースと暮らしや生活に役立つ情報を届ける番組で、速報はもちろん、わかりやすく、的確に、伝えることをモットーにしている。 主な実習内容は 毎週１曜日午後 4 時～6 時半までの番組のスタッフとして参加。報道局のデスク、番組ディレクターの指示に従う。（お茶汲みやコピー、タクシーの手配など雑用も多く、社会体験を学ぶことにもなる） 準備等を含める時間としてテレビ局での実習時間は毎週１曜日午後 4 時から 6 時半までとなるが,場合によっては時間を超えることもある。（デスク・ディレクターの判断に委ねる） よって本実習は、上記内容に合わせて行うもので、拘束時間は通常の講義時間に合わせることは不可能であることを認識しておくことが必要。		
教材（テキスト）	報道で体験実習で学ぶ		
教材（参考文献）	現場の指示に従い、体験実習を得る。		
教材（その他）	現場責任者から指導等も受ける。		
評価方法	定期レポート及びテレビ局報道責任者の報告などによって評価する。		
到達目標	報道と番組制作の現場を知ることによって、見る側と作る側の視点から、メディアリテラシーを学ぶとともに時間の大切さ、番組作りにおけるチームワークの必要性などを体得する。		
準備学習	日頃から新聞、ニュース番組などメディアを通して、社会の出来事に高い関心を持つこと。		
受講者への要望			
定員は１名（面談で選考する） テレビ放送、報道・制作に強い意欲と関心を持っていること。 期間は４月から７月で、実習日は週１曜日(調整）のみとなる。 テレビ局の実習において迷惑行為はもちろん遅刻・欠席（余程の事情がない限り）をしてはならない。 交通費など諸費用は各自が持つこと。 保険等は大学と交わすこと。			
講義の順序とポイント			
春学期 ①　　実習ガイダンス（ＫＢＳ京都テレビ局見学兼） ②～⑭　　ＫＢＳ京都「news フェイス」ニュース情報番組実習 ⑮　　まとめ（実習成果発表）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J50047001
科目名	テレビ放送論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of TV-Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	テレビ放送のデジタル化は、視聴者に多種多用な番組の選択のチャンスを与えることを期待されているが、現実にはチャンネルの急激な増加に番組ソフトが追いつかず、視聴率競争激化の中で過去の人気映画と過激な報道、バラエティ番組が主流を占めるのではないかと危惧されている。現に、感動的なドキュメンタリーがある一方で、悲惨な戦争映像に胸を痛めている隣で不倫、離婚と大騒ぎする情報系番組、やらせ演出や集団的過熱取材の問題と今やテレビ放送は厳しい批判と選択の目にさらされている。本講義ではテレビ放送の特性と機能から、特に「報道番組」と「娯楽番組」が社会や人々に与えている様々な影響について、ＮＨＫと民間放送の番組から実証的に検証し、報道の娯楽化と娯楽の過激化がもたらす重大な危険性とその対応について学ぶ。また現役のメディア関係者も招き、業界の動き、取り組みなどを探っていく。 尚、近年その社会的影響力の大きさから注目を浴びているテレビコマーシャル映像についても、毎年 12 月頃に開催される「全日本ＣＭ大賞入賞作品」の鑑賞を通じて学ぶ。		
教材（テキスト）	教材プリントを随時配付する。		
教材（参考文献）	北川泰三著『新版・テレビ映像論』(2000 年版）比叡書房　２５００円 NHK 放送研究と調査（NHK 出版） ビデオ教材を使用する		
教材（その他）	適宜プリントを配付する		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。定期テスト（７０％）		
到達目標	多チャンネル化するテレビ放送の課題（視聴率の激化、報道の娯楽化、娯楽の過激化）とその対応について理解を深める。		
準備学習	日常的にテレビ放送に関心をもち、問題意識をもって視聴すること。		
受講者への要望			
「ＡＣＣ全日本ＣＭ大賞入賞作品発表会」見学実習（12 月頃、於ＫＢＳホール）の入場料（300 円）が必要。ただし受け入れ態勢や参加人数によって判断する。			
講義の順序とポイント			
秋学期 1.テレビ放送の歴史とデジタル化の課題 2. テレビ放送の定義　　人間の拡張－マクルーハンの世界　媒体特性からみた優位性、映像化される放送の使命 3. テレビ放送の機能　　マスメディアの顕在的機能－報道から娯楽まで－ 4. 報道番組の役割①　　情報伝達－真実の報道　その 1－ 5. 報道番組の役割②　　情報伝達－真実の報道　その 2－ 6. 報道番組の役割③　　情報伝達－真実の報道　その 3－ 7. 報道番組の役割④　　環境監視－権力監視－ 8. 報道番組の役割⑤　　世論形成－民意の代弁－ 9. テレビ放送の潜在的機能①　　印象化－イメージ付け－ 10.学外学習　全日本ＣＭフェスティバル入賞作品鑑賞会(但し開催状況による） 11. テレビ放送の潜在的機能②　　慢性化－感覚の麻痺－ 12.テレビ放送の潜在的機能③　　娯楽化－衝撃の期待－ 13.テレビ放送の潜在的機能④　　画一化－模倣と流行－ 14.テレビ放送の潜在的機能⑤　　行動化－感性と理性の二極化－ 15.今後の課題（ゲスト講演、ただし状況による）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50050001
科目名	デジタル出版論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Digital Publication		
担当者名	筑瀬　重喜	旧科目名称	
講義概要	出版の世界は激変しつつあります。その要因の一つはデジタル出版や電子出版です。従来の紙の本との関係をさぐることで、デジタル出版の将来を探求しましょう。 筑瀬は記者として新聞社に勤務しつつ、記事の出版にかかわったことと、デスクとしてネットでの新聞報道にかかわったことからメディアのデジタル化に関心を抱いてきた。そうした体験やデジタル出版の現場を見てきたことを踏まえて講演したい。		
教材（テキスト）	出版学会や朝日新聞にあった「電子メディア研究会」で交渉してきた湯浅俊彦・立命館大学教授の「電子出版学入門―出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ」(出版メディアパル)を教材としたい。		
教材（参考文献）	講義の内容をまとめたレジュメを毎回配布します。		
教材（その他）	研究を通じて集めたデータや動画を、パソコンのパワーポイントを使ってプロジェクターに示します。		
評価方法	講義で提供したデータはあくまで参考資料である。期待するのはデジタル出版を巡る受講者の考えやアイデアである。将来を見通す見解をどう得たのかを評価の基準にしたい。		
到達目標	デジタル出版には制約があり、期待されてきたほど有力にはなっていない。そこで見出される欠陥などをいかに克服するかの提案をしてもらいた。それを到達の目標のひとつにしたい。		
準備学習	特別な準備学習は必要ありません。参考文献については講義で指示します。		

受講者への要望

デジタル出版の将来を支えるのは大学生のような若い世代です。これまでの紙の本の出版について学んでもらうとともに、様々なデジタル出版の試みを知ってもらい、デジタル出版への将来を描いてもらうことを望みます。

講義の順序とポイント

以下のような順で講義をいたします。
①メディアとは何か：新聞記者として体験してきたメディアの現場を述べます。
②出版の歴史：太古の時代から現在まで
③デジタルコンテンツとその特性：デジタル技術に関する基本情報
④出版業界と電子出版(１)
⑤出版業界と電子出版(２)
⑥携帯電話と電子書籍：携帯電話の普及が電子書籍の普及の要因になった
⑦電子書籍を巡るプラットフォーム争い
⑧米国の電子書籍ビジネス
⑨日本の電子出版の現状(１)
⑩日本の電子出版の現状(２)
⑪電子出版の技術的側面
⑫電子出版と著作権
⑬電子出版と図書館
⑭電子書籍と読書
⑮電子出版の未来：講義の全体を振り返って将来を考える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50050002
科目名	デジタル出版論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Digital Publication		
担当者名	筑瀬　重喜	旧科目名称	
講義概要	出版の世界は激変しつつあります。その要因の一つはデジタル出版や電子出版です。従来の紙の本との関係をさぐることで、デジタル出版の将来を探求しましょう。 筑瀬は記者として新聞社に勤務しつつ、記事の出版にかかわったことと、デスクとしてネットでの新聞報道にかかわったことからメディアのデジタル化に関心を抱いてきた。そうした体験やデジタル出版の現場を見てきたことを踏まえて講演したい。		
教材（テキスト）	出版学会や朝日新聞にあった「電子メディア研究会」で交渉してきた湯浅俊彦・立命館大学教授の「電子出版学入門―出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ」(出版メディアパル)を教材としたい。		
教材（参考文献）	講義の内容をまとめたレジュメを毎回配布します。		
教材（その他）	研究を通じて集めたデータや動画を、パソコンのパワーポイントを使ってプロジェクターに示します。		
評価方法	講義で提供したデータはあくまで参考資料である。期待するのはデジタル出版を巡る受講者の考えやアイデアである。将来を見通す見解をどう得たのかを評価の基準にしたい。		
到達目標	デジタル出版には制約があり、期待されてきたほど有力にはなっていない。そこで見出される欠陥などをいかに克服するかの提案をしてもらいた。それを到達の目標のひとつにしたい。		
準備学習	特別な準備学習は必要ありません。参考文献については講義で指示します。		

受講者への要望

デジタル出版の将来を支えるのは大学生のような若い世代です。これまでの紙の本の出版について学んでもらうとともに、様々なデジタル出版の試みを知ってもらい、デジタル出版への将来を描いてもらうことを望みます。

講義の順序とポイント

以下のような順で講義をいたします。
①メディアとは何か：新聞記者として体験してきたメディアの現場を述べます。
②出版の歴史：太古の時代から現在まで
③デジタルコンテンツとその特性：デジタル技術に関する基本情報
④出版業界と電子出版(１)
⑤出版業界と電子出版(２)
⑥携帯電話と電子書籍：携帯電話の普及が電子書籍の普及の要因になった
⑦電子書籍を巡るプラットフォーム争い
⑧米国の電子書籍ビジネス
⑨日本の電子出版の現状(１)
⑩日本の電子出版の現状(２)
⑪電子出版の技術的側面
⑫電子出版と著作権
⑬電子出版と図書館
⑭電子書籍と読書
⑮電子出版の未来：講義の全体を振り返って将来を考える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50051A01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集 （９）タイムラインでのクリップ操作 （10）プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）			

（11）プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
（12）３ポイント編集とは
（13）課題映像制作①（出題）
（14）課題映像制作②（編集）
（15）課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50051A02
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集 （９）タイムラインでのクリップ操作 （10）プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）			

（11）プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
（12）３ポイント編集とは
（13）課題映像制作①（出題）
（14）課題映像制作②（編集）
（15）課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50051B01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice Ⅱ		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅱ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集実習の応用編です。 デジタル映像編集実習「Ｉ」を履修済み程度のスキルがあることを前提とした内容です。 映像編集がまったく初めての場合は、必ず「Ｉ」を先に受講してください。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、デジタルエフェクトを中心に、より高度な映像編集スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の応用操作を確実にマスターし、映像クリエイターに必要不可欠である「映像構成力」を学び、編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイル提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの総合的な操作能力を身につける。 ・映像構成上でのエフェクトの使い方やポイントをマスターする。 ・複数トラックを使った映像合成や音声ミックスのコツを理解する。 ・カラーバーやテロップ安全フレームなどＴＶ放送の基礎技術を把握する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図で、その映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
講師よりのプレゼンテーションで講義は進みますが、自らオリジナル制作に取り組む映像ワークショップ実施も可能です。積極的に自由研究課題を提言してください。			
講義の順序とポイント			
（1）編集点微調整ツールの使用方法 （2）ビデオ・オーディオトランジションの適用 （3）ビデオトランジションの応用 （4）オーディオトラックでの作業 （5）ビデオフィルターの利用 （6）複数トラックを使った作業（映像合成の基本） （7）マルチオーディオでの調整（ＭＡ作業の体験） （8）モーションエフェクト①（ダイナミックモーション） （9）モーションエフェクト②（ワイヤーフレーム①） （10）モーションエフェクト③（ワイヤーフレーム②）			

（11）タイトルの挿入（カラーバー、文字テロップの基礎知識）
（12）映像ファイルの取り込み（ＤＶカメラなど）
（13）課題映像制作①（出題）
（14）課題映像制作②（編集）
（15）課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★★	★★	★★

年度	2017	授業コード	J50067001
科目名	プロジェクトワーク論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study of Project Work		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	なんらかの目標を達成するための「計画」を意味する「プロジェクト（project)」の語源は「pro＋ject＝前方（未来）に向かって投げかける」である。また、究極の“personal computer＝dynabook”プロジェクトの提唱者である Alan Kay は次のようにも語っている。“The best way to predict the future is to invent it.（未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことである）”。 本講義では、コミュニケーションの手段としての「メディア（media)」についてのこれまでのプロジェクトの実践例を検証するとともに、「プロジェクト」および「ワーク（work)」」を実践的に考察し、改めて、仕事とは、働くとは、なにかを考えることを試みる。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	最終レポート（100%)。		
到達目標	プロジェクトを、ワークを、そして、仕事を、働くを、考える／実践する。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む 。

＊「マルチメディア論」「情報ネットワーク論」「メディア表現実習」での内容等を前提に授業を展開していくので、それらの授業を受講していることが望ましい。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション
02　プロジェクトについて
03 プロジェクトの実例検証（1）
04　プロジェクトの実例検証（2）
05　プロジェクトの実例検証（3）
06　プロジェクトの実例検証（4）
07　プロジェクトの実例検証（5）
08　ワークについて（1）
09　ワークについて（2）
10　ワークについて（3）
11　ワークについて（4）
12　ワークについて（5）
13　プロジェクトワークについて（1）
14 プロジェクトワークについて（2）
15　プロジェクトワークについて（3）

※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意下さい。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50068001
科目名	ポップ・ミュージック論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study of Popular Music		
担当者名	岡崎　宏樹	旧科目名称	
講義概要	この講義では、ポピュラー音楽の表現と音楽ビジネスの構造を多角的な視点から考察します。 全体は３つで構成されます。第１部は、音楽プロデューサーが授業を担当し、音楽ビジネスの構造やメディア戦略について現場経験をふまえた解説をおこないます。第２部は、音楽制作の現場をフィールドワークすることで音楽分化のリアリティを体験的に学びます。第３部は、ポピュラー音楽における著名アーティストを社会学の観点から分析します。以上を通じてポピュラー音楽を成り立たせる経済・文化・社会的コンテクストについての理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	Ｋ・ニーガス『ポピュラー音楽理論入門』(水声社) ISBN:4891765208　(英米のポピュラー音楽研究の諸理論を概観できる) 東谷護（編)『ポピュラー音楽へのまなざし－－売る・読む・楽しむ』(勁草書房) ISBN:4326652802　(ポピュラー音楽研究の多様な視点を学ぶことができる) 井上俊（編)『現代文化を学ぶ人のために』 ISBN:4790716368　(音楽を含めた現代文化の多様な社会学的研究について知ることができる)		
教材（その他）			
評価方法	授業内ショートエッセイ：60%、授業への積極的な取り組み（発表)：10%、レポート：30%		
到達目標	ポピュラー音楽を理解するための視点と方法を習得し、音楽文化について理論的に説明できるようになる。		
準備学習	音楽関連の書籍や雑誌を精読すること。授業の前後に、関連する音楽作品をよく聴き、表現への理解を深めること。		
受講者への要望			
音楽制作の現場ないしライブハウスへのフィールドワークを実施する予定です。日程についてはアーティストのスケジュールと履修者の予定を考慮して調整します。(土日、京都・大阪を予定しています：交通費実費)			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．音楽プロデューサーの仕事(1) ３．音楽プロデューサーの仕事(2) ４・ポピュラー音楽におけるメディア戦略：ポップスターをつくる ５．音楽ビジネスの構造（１)：ヒット曲をつくる ６．音楽ビジネスの構造（２)：スポンサーと広報 ７．音楽ビジネスの変容：歴史的分析 ８．音楽文化のフィールドワーク（１） ９．音楽文化のフィールドワーク（２） 10．フィールドワークの分析・考察 11．マイケル・ジャクソンを考察する（１)：表現のルーツに着目して 12．マイケル・ジャクソンを考察する（２)：ジラール供犠論の視点 13．ヒップ・ホップの誕生 14．日本語ロックの歴史：英米音楽の受容と創造 15．Ｊポップの現在			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50072001
科目名	マスコミ文章講座	単位数	1
科目名（英語表記）	Journalism Writing		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	文章は人間の感情や思想を言語化したもので、私たちはそれを通してコミュニケーションを図っております。どんなに堅固な思想や美しい感性をもっていても、文章表現が貧困であれば、そのことを伝達することはできません。新聞やテレビ、雑誌などマスコミ世界の文章は一種独特の特徴があります。それは読みやすく、分かりやすく、親しみやすいということに尽きますが、それを如何に実現していくかが、この授業の目的です。そのためには学生が書いた文章を個別にチェックして、本人の前で添削作業するしかありません。どれほど文章論の講義を聴いてもけっして文章はうまくならないもので、その難点をこ授業では個別指導で克服するつもりです。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	朝日新聞「天声人語」など。		
評価方法	文章作法を一から学ぶ授業ですので、文章の上手、下手は評価に関係ありません。どれだけ出席して、どれだけ添削用文章を書いたかが重要になります。評価基準は授業中に提出した文章の添削本数８０～９０％、平常点（授業への参加の度合い）２０～１０％とします。		
到達目標	昨今、雑誌のライター希望者が増えております。もちろん、メディア業界への就職は難しいのですが、できればその世界でもっとも重視される文章力でもって夢をかなえてほしいと思います。その意味で、この授業は学習と就職がもっとも関連していると言えるかもしれてません。		
準備学習	入門編として朝日新聞の天声人語、読売の編集手帳、毎日の余禄など１面下の記事を読むと勉強になると思います。もちろん、授業でもそれらの記事を教材にして文章作法を学びます。また、文章入門などの参考書も興味があれば読んでおいてください。		
受講者への要望			
とにかく、何でも書いてやろうという意欲が大事です。文章が上手くないからこそ、この授業を受けるわけで、恥ずかしがらずに挑戦してください。			
講義の順序とポイント			
１　　マスコミ文章の基本について ２　　新聞における文章学 ３　　使ってはいけない言葉・良い言葉と表現方法 ４～１３　各自が書いてきた文章の個別添削 １４　それぞれの文章についての講評 １５　総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J50086001
科目名	マルチメディア論	単位数	4
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Society		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「メディア（media)」ということばは、一般に「人間がコミュニケーションするための手段」「人間の意思表現ならびに情報伝達を助け、助長する媒体」として用いられている。その歴史をさかのぼれば「声」や「文字」、いわゆる“技術”を介することによって「電信」「電話」「蓄音機」等を経て、今日の「デジタル」な時代に至る。デジタル技術は、原理的にあらゆるデータを「0/1」というビットに変換し、さまざまなメディアを統一的に扱うことを可能にした。そして、そのようなデジタル技術は社会の至る場面に登場しはじめ、私たちの社会生活をより豊かに、より便利にしてくれる。しかし、同時に、これまで想定されなかった新たな問題も生じてきている。 本講義では、まず、「文字」「映像」「電話」そして「コンピュータ」といった基本的なメディアの特徴をその歴史に焦点をあて概観し、新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションがどのように変容していったかを、その可能性を含めながら考えていく。そして、表現の世界や教育の現場等でのメディアの活用例をみるとともに、さまざまなメディアが錯綜することが予測される今後のメディア社会においての新たな問題等を具体的な事例をもとに検討し、「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー)」を考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	最終レポート（100％)。		
到達目標	「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー)」を考える。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　メディアとは《その 1》 03　文字メディア《その 1》 04　文字メディア《その 2》 05　映像メディア《その 1》 06　映像メディア《その 2》 07　音メディア《その 1》 08　音メディア《その 2》 09　コンピュータというメディア《その 1》 10　コンピュータというメディア《その 2》 11　コンピュータというメディア《その 3》 12　ラジオとテレビ《その 1》 13　ラジオとテレビ《その 2》 14　ゲームというメディア 15　電話というメディア 16　メディアとは《その 2》 17　intermission　メディア関連作品の上映他 18　社会とコンピュータ《その 1》			

19　メディアと表現《その 1》
20　メディアと表現《その 2》
21　社会とコンピュータ《その 2》
22　社会とコンピュータ《その 3》
23　社会とメディア《その 1》
24　メディアと表現《その 3》
25　メディアと表現《その 4》
26　メディアと表現《その 5》
27　社会とメディア《その 2》
28　メディアと教育《その 1》
29　メディアと教育《その 2》
30　メディアとは《その 3》

※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意下さい。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50095001
科目名	マンガ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Manga Culture		
担当者名	二階堂　茂	旧科目名称	
講義概要	国際的に「MANGA（+ ANIME)」として認知された日本の「マンガ（+アニメ)」を、「20 世紀美術」の歴史的側面から、さらに ２０世紀半ばに発生した「サブカルチャー」とのかかわり、などからも考察し「文化表現」として語ります。「マンガ（+アニメ)」の意味を「メディアを介した記号によるコミュニュケーション」として考えていく内容です。		
教材（テキスト）	指定なし		
教材（参考文献）	夏目房之介「マンガの力」晶文社 布施英利「マンガを解剖する」ちくま新書 スーザン?J?ネイピア「現代日本のアニメ　『AKIRA』から『千と千尋の神隠し』まで」中公叢書 Hector Garcia「A GEEK IN JAPAN」Tuttle Publishing Edited by Toni Jhonson-Woods「MANGA -An Anthology of Global and Culturel Perspectives-」Continuum International publising		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点：５０％ レポート提出：５０％ レポートのテーマは講義内で発表する。		
到達目標	マンガ?アニメを中心にした現代日本文化への深い理解。		
準備学習	マンガ?アニメを中心にした現代日本文化への興味をもち、日常的に接すること。		

受講者への要望

人間の文化活動に興味をもっていること。　講義中の私語、飲食は厳禁。

講義の順序とポイント

（1）「はじめに」
　　～講義オリエンテーション～
（2）「日本の現代文化」
　　～マンガの影響下にある日本の現代文化～
(3)「記号化されたマンガ表現：MANGA って何だ？」
　　～巨大な眼をもつ少女たち～
(4)「マンガのさまざまな記号表現（1)」
　　～絵とことば～
(5)「マンガのさまざまな記号表現（2)」
　　～二次（平面）という脳の認識～
(6)「マンガからアニメ、アニメからマンガ」
　　～ニ次元空間の論理～
(7)「オリジナルと複製」
　　～ポップアート（印刷物）としてのマンガ～
(8)「ポップアートとメディア」
　　～大量生産、大量消費のシステム～
(9)「海外のマンガと日本」
　　～ COMICS（米)、B.D.（仏)、MANGA（日）～
(10)「日本のアニメはアニメーション？」
　　～リアリズムからの逸脱～
(11)「サブカルチャー／ポップカルチャー」
　　～偉大なるアマチュア（素人）文化～
(12)「巨大化するマンガ文化」
　　～マンガ文化と経済～
(13)「オタク文化」

～熱狂的趣味人、ホビー文化と経済～
(14)「マンガ産業」
～コンテンツ・ビジネスとしてのマンガ～
(15)「マンガ文化」
～現代日本文化としてのマンガ文化～

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50095002
科目名	マンガ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Manga Culture		
担当者名	二階堂　茂	旧科目名称	
講義概要	国際的に「MANGA（+ ANIME)」として認知された日本の「マンガ（+アニメ)」を、「20 世紀美術」の歴史的側面から、さらに ２０世紀半ばに発生した「サブカルチャー」とのかかわり、などからも考察し「文化表現」として語ります。「マンガ（+アニメ)」の意味を「メディアを介した記号によるコミュニュケーション」として考えていく内容です。		
教材（テキスト）	指定なし		
教材（参考文献）	夏目房之介「マンガの力」晶文社 布施英利「マンガを解剖する」ちくま新書 スーザン?J?ネイピア「現代日本のアニメ　『AKIRA』から『千と千尋の神隠し』まで」中公叢書 Hector Garcia「A GEEK IN JAPAN」Tuttle Publishing Edited by Toni Jhonson-Woods「MANGA -An Anthology of Global and Culturel Perspectives-」Continuum International publising		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	平常点：５０％ レポート提出：５０％ レポートのテーマは講義内で発表する。		
到達目標	マンガ?アニメを中心にした現代日本文化への深い理解。		
準備学習	マンガ?アニメを中心にした現代日本文化への興味をもち、日常的に接すること。		

受講者への要望

人間の文化活動に興味をもっていること。　講義中の私語、飲食は厳禁。

講義の順序とポイント

（1）「はじめに」
　　～講義オリエンテーション～
（2）「日本の現代文化」
　　～マンガの影響下にある日本の現代文化～
(3)「記号化されたマンガ表現：MANGA って何だ？」
　　～巨大な眼をもつ少女たち～
(4)「マンガのさまざまな記号表現（1)」
　　～絵とことば～
(5)「マンガのさまざまな記号表現（2)」
　　～二次（平面）という脳の認識～
(6)「マンガからアニメ、アニメからマンガ」
　　～ニ次元空間の論理～
(7)「オリジナルと複製」
　　～ポップアート（印刷物）としてのマンガ～
(8)「ポップアートとメディア」
　　～大量生産、大量消費のシステム～
(9)「海外のマンガと日本」
　　～ COMICS（米)、B.D.（仏)、MANGA（日）～
(10)「日本のアニメはアニメーション？」
　　～リアリズムからの逸脱～
(11)「サブカルチャー／ポップカルチャー」
　　～偉大なるアマチュア（素人）文化～
(12)「巨大化するマンガ文化」
　　～マンガ文化と経済～
(13)「オタク文化」

～熱狂的趣味人、ホビー文化と経済～
(14)「マンガ産業」
～コンテンツ・ビジネスとしてのマンガ～
(15)「マンガ文化」
～現代日本文化としてのマンガ文化～

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50112001
科目名	映像制作実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Media-Product Making		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	メディア上級実習
講義概要	デジタル時代を迎えたテレビ放送では、高画質、データサービス、ネット配信などの技術革新が進んでいる一方で、コンテンツの質の向上も重要なテーマとなっている。「感動を伝える映像」とはどのようなものか。ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、スポーツ中継などあらゆるジャンルの番組の課題である。本実習では、映像作品制作を通じて企画・撮影・編集・ナレーション・効果音・音楽など様々な表現手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点(３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	「感動を伝える映像作品」とはどのようなものか。撮影、編集などの映像表現手法を実体験で学ぶ。		
準備学習	日常的に優れた映像作品を制作者の視点で見ること。		

受講者への要望

放送、映像作品の制作に関心があり、チームプレーができること。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

春学期
1. 映像制作ガイダンス①　企画－何が魅力の企画か－
2. 同　②　撮影－何をどのように撮影するか－ 編集－編集で表現が変わる－
3. 絵コンテを作ろう－　教習編－
4. 同　－　実習編－
5. 同
6. 同　作品選出
7. 撮影取材
8. 同
9. 同
10. 同
11 撮影映像を編集
12 同
13.ミックスダウン－ナレーション、ＢＧＭ音楽、テロップ－
14 同
15.実習番組の審査と合評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J50119001
科目名	メディア表現実習	単位数	2
科目名（英語表記）	The Practicum of Media Expression		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を、だれもが自由にさまざまなスタイルで活用するための基礎を学ぶ実習授業という形式の“メディア（＝コミュニケーションの場）”。 アナログからデジタルまでさまざまなメディアを活用し、“手を使って、からだを使って、そして、アタマを使って”、いろいろなものを制作。 ・文字／画像を“平面”に並べる、印刷する、製本をする →名刺をつくる／T シャツをつくる／写真集をつくる ・静止画／動画を“時間軸”で並べる、音楽を加える、CD/DVD に保存する →動くフォトアルバムをつくる／ムービーをつくる ／ライブビデオをつくる		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	必要に応じて、プリント・映像教材他。		
評価方法	課題提出（100%）。		
到達目標	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を活用する。		
準備学習	各回の実習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に各回の内容を自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む（面倒な課題かなり多し）。

※機材等の関係で履修者が限られています（定員 10 名） 。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション
02　名刺をつくる（1）
03　名刺をつくる（2）
04　T シャツをつくる（1）
05　T シャツをつくる（2）
06　T シャツをつくる（3）
07　T シャツをつくる（4）
08　動くフォトアルバムをつくる（1）
09　動くフォトアルバムをつくる（2）
10　動くフォトアルバムをつくる（3）
11　動くフォトアルバムをつくる（4）
12　写真集をつくる（1）
13　写真集をつくる（2）
14　写真集をつくる（3）
15　写真集をつくる（4）
16　ムービーつくる（1）
17　ムービーつくる（2）
18　ムービーつくる（3）
19　ムービーつくる（4）
20　ライブビデオをつくる（1）

21　ライブビデオをつくる（2）
22　ライブビデオをつくる（3）
23　個人作品制作（1）
24　個人作品制作（2）
25　個人作品制作（3）
26　個人作品制作（4）
27　個人作品制作（5）
28　個人作品制作（6）
29　DVD 制作（1）
30　DVD 制作（2）

※「集中して何かをつくる／考える（＝試行錯誤する)」という作業が苦手な人にとっては、苦痛な時間になるかもしれません

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	J50131002
科目名	情報サービス実習 II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	情報サービスの設計から、評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習・実習を通して、実践的な能力を養成する。		
教材（テキスト）	原田智子編改訂『情報サービス演習』樹村房、2016 今まど子・小山健司編著『図書館情報学基礎資料』樹村房、2016		
教材（参考文献）	大串夏身・齊藤誠一編『情報サービス論』理想社、2010 中西裕・金沢みどり・伊藤民雄『情報サービス論及び演習』学文社、2012 長澤雅男、石黒祐子『レファレンスブック選び方使い方』日本図書館協会、2013 市古みどり編著『資料検索入門』慶應義塾出版会、2014 健康情報サービス研修マーキンググループ『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス』日本医学図書館協会、2012 諏訪部直子・平紀子『解かりやすい医中誌Ｗｅｂ検索ガイド』日本医学図書館協会、2013 伊藤真理・上岡真紀子・松下鈞『情報検索講義』樹村房、2016		
教材（その他）	可能な限り京都学園学図書館のレファレンスコーナー等の資料を使って実習を行います。		
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート・課題 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において履修する「図書館に関する科目」の規定を参考に、図書館における情報サービスの演習・実習をとおして、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とする。 1.情報サービスの設計から、評価に至る各種業務の実践的な能力を養成する。 2.レファレンスサービスと情報検索サービスの実践的な能力を養成する。 3.積極的な発信型情報サービスの実践的な能力を養成する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義・演習形式で行ない、適宜、実習をします。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。		

受講者への要望

なるべく授業時間内に質問してください。
なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ
－生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える－
2.情報サービスの設計と評価
3.情報サービス演習の準備と京都学園大学図書館見学
4.情報資源の探し方
5.ウェブページ、ウェブサイトの探し方
6.図書情報の探し方
7.雑誌および雑誌記事の探し方
8.新聞記事の探し方
9.言葉・事柄・統計の探し方
10.歴史・日時の探し方

11.地理・地名・地図の探し方
12.人物・企業・団体の探し方
13.法律・判例・特許の探し方
14.レファレンスコレクションの整備
15.まとめ　情報発信型サービスの構築と維持管理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50135A01
科目名	かな文字基礎講読Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar on Japanese-Kana Character A		
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	仮名文字を発明して以来、日本人はそれによって文字を記して来た。古典文学は写本の形で現代まで継承されてきたので、日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、仮名一音に対して一つの文字（字形）しか存在しない。「あ」という音を、「あ（安）」という文字で表すのは当然である。しかし、かつて、一つの音は多くの字形によって書かれた（変体仮名）。「阿・愛・亜・悪」も、「あ」を表す文字として使用されたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体（くずし字）が用いられ、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材（テキスト）に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。春学期は『伊勢物語』を中心に講読する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	兼築信行『一週間で読めるくずし字　伊勢物語』（淡交社・2006 年） かな研究会『活字本教科書 実用変体がな』（新典社・1988 年）		
教材（その他）			
評価方法	平常点 75%（授業への参加態度及びミニッツペーパーによる）、確認小テスト 25%		
到達目標	くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。		
準備学習	古典文法について復習しておくことが望ましい。そのほかは、授業中に指示する。		

受講者への要望

秋学期開講の「かな文字基礎購読 B」を引き続いて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション／遠州本第一〇六段
2　遠州本第四九段
3　遠州本初段前半
4　遠州本初段後半
5　遠州本第四段前半
6　遠州本第四段後半
7　嵯峨本第九段前半
8　嵯峨本第九段後半
9　嵯峨本第二三段前半
10　嵯峨本第二三段後半
11　真界本第六九段
12　真界本第八二段
13　真界本第八四段
14　真界本第一二三段・一二五段
15　塗籠本第二四段／確認小テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50135B01
科目名	かな文字基礎講読Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Seminar on Japanese-Kana Character B		
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	仮名文字を発明して以来現代に至るまで、日本人はそれによって文字を記して来た。ゆえに日本古典専攻者にとって、仮名文字に関する知識は必須のものである。 現代では、一つの音に対して一つの字体しか存在しない。たとえば、「ア」という音は、「あ（字源は安）」という仮名で表される。しかし、かつて、「ア」という音は、「阿・愛・亜・悪」という字源をもつ仮名でも表された（変体仮名）。つまり、一つの音は多くの字体によって書かれていたのである。昔の写本には、幾つもの変体仮名が用いられている。 さらに、早く書写する際には、英語の筆記体に相当する連綿体（くずし字）が用いられた。くずし方には一定のルールがあるが、現代の我々にとって、解読するためには一定の努力が必要である。 つまり、写本を読むためには、①変体仮名を覚える、②文字のくずし方を覚える、という二つの作業が前提条件となる。とはいっても、所詮は慣れの程度問題であり、修養次第で誰でも写本を読むことは可能である。 この授業では、初歩のくずし字解読から開始し、やがては長い文章も理解することを目標とする。授業は教材（テキスト）に沿って行い、その都度参考資料を補い、できる限り多くのくずし字に触れる環境を整えたい。秋学期は和歌を中心に講読する。		
教材（テキスト）	兼築信行『一週間で読めるくずし字　古今集・新古今集』（淡交社・2006 年）		
教材（参考文献）	かな研究会『活字本教科書 実用変体がな』（新典社・1988 年）		
教材（その他）			
評価方法	平常点 75%（授業への参加態度及びミニッツペーパーによる）、確認小テスト 25%		
到達目標	くずし字で書かれた文章を解読し、意味を理解することができる。		
準備学習	教材（テキスト）を、第一回の授業までに購入しておくこと。書店、アマゾン等で入手可能である。そのほかは、授業中に指示する。		
受講者への要望			
春学期開講の「かな文字基礎購読 A」から引き続いて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション／八代集抄　古今集夏歌 2　八代集抄　古今集恋歌二 3　八代集抄　古今集仮名序 4　八代集抄　春歌上 5　二十一代集　古今集恋歌二 6　二十一代集　古今集雑歌下 7　二十一代集　古今集秋歌上 8　二十一代集　古今集羈旅歌 9　二十一代集　新古今集春歌上 10　二十一代集　新古今集秋歌上 11　新古今集（伝為相筆）　哀傷歌 12　新古今集（伝為相筆）　恋歌五 13　新古今集（伝為相筆）　雑歌下 14　新古今集（伝為相筆）　神祇歌 15　伝慈円筆　新古今集断簡／確認小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50140001
科目名	医療心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Medical Care		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	近年、医療心理臨床の領域は、総合病院精神科や単科精神科病院に限らず、小児科、心療内科、内科、外科、リハビリテーション科、産婦人科など、多方面に拡大している。そこでは、心の病気への援助を目指す臨床心理学だけではなく、身体の病気やそれに苦しむ患者を理解し援助していく医療心理学が求められている。本講では、様々な病気に苦しむ患者やその家族に対して、医療心理学の観点からどのような援助ができるか考察したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	菅佐和子編　「医療現場に生かす臨床心理学」　朱鷺書房		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）、平常点（３０％）出席状況等による。		
到達目標	医療現場で心理的援助を行う際に求められる医療心理学の基礎的な理論や治療技法の理解を深めることを目指す。		
準備学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　患者の心理Ⅰ ３　患者の心理Ⅱ ４　患者の心理Ⅲ ５　精神科（入院）領域 ６　精神科（外来）領域 ７　心療内科領域 ８　小児科領域（乳児期・幼児期） ９　小児科領域（児童期・思春期） １０　小児科領域（ダウン症児とその家族への心理的援助） １１　内科領域（糖尿病患者への心理的援助） １２　外科領域 １３　ターミナルケア領域 １４　ＨＩＶ感染症領域 １５　医療スタッフのストレスと対応			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50142001
科目名	映画撮影所実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Studio Internship		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	撮影所の現場における実習（インターンシップ）科目である。実習参加者は、6 月に行う面接によって選抜される。選抜を通過した受講者は太秦の東映京都映画撮影所においてテレビ映画等の撮影・制作にスタッフとして参加し実習する。実習期間は 8 月、9 月の 4 週間前後が予定されている。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実習への参加度（40%）、実習状況評価等（40%）、修了後のレポート,面接（20%）		
到達目標	映画の制作現場にスタッフとして参加し、映画がどのように制作されているのか知識と経験を得る。		
準備学習	「映画撮影論」（担当：春岡）を受講しておくこと。映画撮影とはどのようなものかを書籍などを読んで把握しておくこと。選考後キャリアサポート・センターによるビジネス実習講義・体験ディスカッションに参加し、実習のための基本知識と技能を身につける。		
受講者への要望			
プロたちが働く現場は厳しく真剣そのものであり、自分のやるべきことを主体的に考えて行動することが求められる。ハードな実習をやりぬく覚悟、映画への情熱が求められる。 夜の撮影がある場合は各自で帰宅の足を確保する必要がある。体調管理には特に注意すること。			
講義の順序とポイント			
撮影所での映画・テレビ制作現場の一員として制作作業の一部を担う。スケジュールと内容については撮影所からの指示に従うこと。 実習前にオリエンテーションと実習後にまとめの授業、面接を行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★	−

年度	2017	授業コード	J50143001
科目名	映画撮影論	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Making		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	日本の映画の歴史を、映画会社ごとに捉え、主たる作品、監督、俳優、スタッフから、作品の傾向、特徴などを具体的に振り返って、日本映画の知識、教養を細部から高めていく。希望者には夏季休暇中に稼働中の映画撮影所でのインターンシップ制度があり、プロの現場を経験することができる。		
教材（テキスト）	使わない。講義内容に沿った資料プリントを適時配布する。		
教材（参考文献）	資料プリントを適時配布する。		
教材（その他）	映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	日本映画全般の知識を高め、インターンシップで撮影所に勤務する際にも戸惑わないようにする。また、映画が時代を写す鏡であることを理解し、逆に映画を通して社会背景を推察する力を身につける。		
準備学習	講義終了時に次回の概要を示すので予習しておくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で授業に臨んでほしい。また、講義で示した作品、監督、俳優等について復習し、視聴設備のある図書館等を積極的に利用し、実際に視聴してノートを採るなどして体験的理解を図ってほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　授業内容の説明。講義意図と進め方について。 2. 日本の映画会社① 3. 日本の映画会社② 4. 日本の映画会社③ 5. 日本の映画会社④ 6. 日本の映画会社⑤ 7. 日本映画の巨匠たち① 8. 日本映画の巨匠たち② 9. 映画技術の匠たち① 10. 映画技術の匠たち② 11. 時代を反映した俳優たち① 12. 時代を反映した俳優たち② 13. 京都映画の歴史① 14. 京都映画の歴史② 15. 撮影所の仕事について。まとめ。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J50148001
科目名	映像文化論	単位数	4
科目名（英語表記）	Theory of Video Culture		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	文字であれ、音であれ、記録メディアの登場によって、メッセージは今だけのものではなくなった、過去を参照し、未来に思いを馳せることが可能となった。それとともに、映像メディアの出現で、自分の思いを他者に伝える、が、より具体的なことになった。そして、歴史を経ることによって、さまざまな表現手法が登場し、より高度なものに／より身近なものに、進化を続け、それらに伴い、新たな文化が生まれ、発展を続けている。また、かつて黎明期のスチルカメラマンが化学的知識を必要としたように、現代の映像に携わる者たちは、いわゆる映像の常識だけではなく、デジタルの作法も必須になってきた。 本講義では、映像メディアの歴史における代表的な作品等を鑑賞することによって、映像文化の歴史を概観し、その可能性や問題点等を考察していく。 今年度は、特定の映像作家の作品等を中心に講義を展開していく予定である。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	各回の小レポートおよび最終レポートで総合的に評価する。		
到達目標	映像文化を代表する映像作品等を鑑賞し、検証することによって、映像文化についての理解を深める。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。
本講義は通常の講義と異なり 2 講義連続である（作品等の上映により、休み時間が時間通りでない場合もある）。

講義の順序とポイント

01-02：オリエンテーション～映像を見る・読む・考える 01
03-04：映像を見る・読む・考える 02
05-06：映像を見る・読む・考える 03
07-08：映像を見る・読む・考える 04
09-10：映像を見る・読む・考える 05
11-12：映像を見る・読む・考える 06
13-14：映像を見る・読む・考える 07
15-16：映像を見る・読む・考える 08
17-18：映像を見る・読む・考える 09
19-20：映像を見る・読む・考える 10
21-22：映像を見る・読む・考える 11
23-24：映像を見る・読む・考える 12
25-26：映像を見る・読む・考える 13
27-28：映像を見る・読む・考える 14
29-30：映像を見る・読む・考える 15

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	J50152A0C
科目名	社会学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとしての卒業論文を執筆する準備をする。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	卒業論文を執筆できる準備をする。		
準備学習	日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1，ガイダンス 2・3，家族 4・5，地域社会 6・7，教育 8・9，企業 10・11，労働 12・13，政治 14・15，メディア			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50152A0D
科目名	社会学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の「問い」を複眼的視野でとらえ、データ（一次 or 二次)収集を行う。その経過をゼミで発表し、教員と学生からのフィードバックを経て、卒論を完成する。		
教材（テキスト）	適宜配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（ゼミ発表と参加度）:30%、　卒業研究計画書、構成などの提出物：　70%		
到達目標	卒業研究の「問い」の設定と構成を行う。		
準備学習	ゼミの議論に参加できるよう、指定された資料を読んでくること		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2～3. 春の宿題発表 4～６．　各自卒業研究計画書の発表 7～９．卒論のデータ収集とリサーチについて 10～14. 卒業研究の「問い」とリサーチの進捗状況の発表 15. 卒業研究の構成について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50152B0C
科目名	社会学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB in Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとして卒業論文を執筆する。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	卒業論文を執筆する。		
準備学習	日頃から書物や新聞・テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。 論文執筆のトレーニングをする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1・2，高齢化社会 3・4，情報化社会 5・6，国際化 7・8，近代社会 9・10，宗教と社会 11・12，文明と社会 13・14，卒業論文について 15，卒業論文発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50152B0D
科目名	社会学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡＢ in Sociology		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の「問い」を複眼的視野でとらえ、データ（一次 or 二次)収集を行う。ゼミでの発表、教員と学生からのフィードバックを経て、年内に卒論原稿を完成する。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（ゼミ発表と参加度）:30%、　卒業研究計の取り組みと完成原稿：　70% 到達目標		
到達目標	卒業研究原稿の完成。		
準備学習	ゼミの議論に参加できるよう、指定された資料を読んでくること		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や想像力を求める			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2〜3. リサーチの進捗状況の発表 4.〜10. 卒論ドラフトの相互添削と発表 12.〜13.原稿添削と修正のやりとり 14.〜15. 完成原稿の要旨発表とコメント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50155A01
科目名	英語特別講義 A 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	English Special Lecture A (Intensive Eng lish Studies)		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	This class will focus on speaking, writing, and listening. The students will be challenged to practice different parts of English in a relaxed and fun way. There will tests, quizzes, presentations, and other assignments to help students learn and become familiar with the 3 English skills mentioned above!		
教材（テキスト）	特に無し プリントを配付します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20% スピーキングテスト 20% クイズやテスト 40% 期末試験 20%		
到達目標	1.Learn how to use current, "Living" English in many daily situations 2. Become more prepared to interact with people who do not speak Japanese language 3. Pick up the necessary basics to speak to and understand English speakers basic way of thinking 4. Think about some of the funny and challenging differences among different cultures		
準備学習	Be prepared for class. Bring your homework, and all the materials that you need every time. This will be a fun and energetic class. Please work hard.		

受講者への要望

Do your best. We will talk more about class after it starts.

講義の順序とポイント

Asking and asking questions
- 2 Self-Introduction
- 3 Introduction
- 4 Affirmative negative
- 5 How much/amount

6. Writing basic sentences
- 7 Using Nouns
- 8 Using Adjectives
- 9 Using Verbs
- 10 Using Kinds of Verbs

11. Listening practice
- 12 Can you catch?
- 13 Getting the gist…
- 14 Dictation
- 15 Playing Telephone

※There will be plenty of practice along with mini-tests and quizzes during the semester.
※The topics for dictation and "Playing Telephone" will be discussed in class.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	J50155B01
科目名	英語特別講義Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	English Special Lecture B (Intensive Eng lish Studies)		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	This is a continuation of the skills class from the spring semester. This class will continue to focus on speaking, writing, and listening, but in addition, there will be a section on debating.　The students will be further challenged to practice different parts of English. There will be tests, quizzes, presentations, and other assignments to help students learn and become confident in their English.		
教材（テキスト）	特に無し。 プリントを配付します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1.continue using "Living" English 2. Become even more prepared to interact with people who do not speak Japanese language 3. Start working on convincing others and debate tactics when speaking		
準備学習	Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than the first semester, but work hard and you can do well!		

受講者への要望

You must come to class to get a good grade, so...授業に毎回出席すること。

講義の順序とポイント

The basic structure and arrangement of the class will be the same as the first semester with different topics being used for the English conversation and there will also be a section on debate.
1. Asking and asking questions
2 T1
3 T2
4 T3
5. Writing basic sentences
6 T1
7 T2
8 T3
9. Listening practice
10 T1
11 T2
12　T3
13 4. Debate section
14 How to prepare debates
15 Group work and Brainstorming & Small debates
※There will be plenty of practice along with mini-tests and quizzes during the semester

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J50178001
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる限定的なイメージであり、実態を概観すると、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態は、歴史的にも普遍的なものではなく、もはや多数派でもない。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
準備学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か ２　社会とともに変化する家族（１） ３　社会とともに変化する家族（２） ４　高度経済成長期の家族の特徴 ５　高度経済成長期から変化する家族 ６　子どもと家族（１） ７　子どもと家族（２） ８　家族と暴力（１） ９　家族と暴力（２） １０　現代家族のかかえる諸問題（１） １１　現代家族のかかえる諸問題（２） １２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１） １３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２） １４　多様化する家族（１） １５　多様化する家族（２） 上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50178002
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる限定的なイメージであり、実態を概観すると、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態は、歴史的にも普遍的なものではなく、もはや多数派でもない。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
準備学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か ２　社会とともに変化する家族（１） ３　社会とともに変化する家族（２） ４　高度経済成長期の家族の特徴 ５　高度経済成長期から変化する家族 ６　子どもと家族（１） ７　子どもと家族（２） ８　家族と暴力（１） ９　家族と暴力（２） １０　現代家族のかかえる諸問題（１） １１　現代家族のかかえる諸問題（２） １２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１） １３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２） １４　多様化する家族（１） １５　多様化する家族（２） 上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50182001
科目名	学校臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical School Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	学校臨床心理学とは、「学校における臨床心理学」および「学校と臨床心理学」の二つの視点を併せ持つ、実践的な研究領域である。第一の観点を理解するためには、学校という場を知った上で、そこにおいて必要とされる臨床心理学的実践は如何なるものであるかを理解し、スクールカウンセラーの活動の実際を知ることが必要である。第二の観点では、学校教育と臨床心理学が互いに補い合って児童生徒を援助していくことを可能にするための、それぞれの方法論や観点の異同を理解することが重要である。 本講義においてはまず、学校現場で発生している様々な臨床心理学的課題について、受講生が書籍・報道などを用いて実情をまとめ、発表し、その諸課題に対して、上述の二つの観点から分析・解説するものとする。 最終的にはこれらを総合的に考察することで、現代社会における子供の問題への対処方法を包括的に論じる。		
教材（テキスト）	毎回、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	横湯園子　教育臨床心理学　東京大学出版会 倉光修編　学校臨床心理学　誠信書房		
教材（その他）	必要に応じて、プリント類を配布する。		
評価方法	定期試験　50%　　授業内レポート　30%　　課題提出　20%		
到達目標	1．学校現場においてどのような問題が発生しているかを理解する。 2．学校における諸課題のうちに、臨床心理学的問題がどのように含まれているかを理解する。 3．問題解決に向けていかに臨床心理学が応用されているか、またその過程でどのような課題が存在しているかを、具体的に理解する。 4．学校現場で必要とされる、基本的な臨床心理学的知識を習得する。		
準備学習	講義の最後に、次回取り扱う学校臨床心理学的課題を指定するので、それについての新聞やインターネットにおける報道や、そういった学校の課題を分析した書籍等を調べ、各人がレポートにまとめる。次週にはそれに基づくグループ発表を行うため、事前学習が必須である。		

受講者への要望

授業中は私語厳禁です。社会的にも関心の高い領域であるので、積極的に勉強すること。

講義の順序とポイント

1．学校とはどのようなところか
2．学校教育と心理臨床の考え方の違いと相補性
3．学校臨床心理学とは
4．児童期・思春期の心理的発達
5．学校現場での問題　①不登校
6．　②不登校児童生徒の実態
7．　③いじめ 1
8．　④いじめ 2
9．　⑤非行
10．　⑥発達障害
11．家族の問題　①子供を取り巻く環境
12．　②虐待
13〜14．スクールカウンセラーの仕事
15．コミュニティ心理学の視点・まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50186001
科目名	学習の動機づけ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Motivation		
担当者名	増田　優子	旧科目名称	
講義概要	学習の動機づけとは、一般にいう「やる気」に近い概念です。動機づけに関する概念は非常に多く、これは人間の活動のほとんどがやる気と関わりがあることを反映しているといえます。 「どうして、やらなくてはいけないとわかっているのにやる気にならないんだろう」、「どうすればやる気になるのだろう」という疑問を誰しも一度は抱いたことがあるでしょう。動機づけを理解することは、自己や他者を理解する上でとても大切な心の側面であるといえます。 本授業では、動機づけにおける課題を解決する手掛かりとなるような理論や視点について学んでいきます。動機づけを理解することで、日常生活などにおいてどのような実践が可能か、また、動機づけについて考えるだけでは難しい問題やその解決のための考え方などを理解し、自分自身の動機づけに関して改めて考える場にしていただきたいと思います。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	伊藤崇達（編著）　『【改訂版】やる気を育む心理学』　北樹出版　1,800 円＋税		
教材（その他）	講義中に適宜配布します		
評価方法	授業内での課題および理解度の確認による平常点　40%（毎回、授業内で課題への解答や感想、質問事項を記入するミニシートを配布、授業終わりに提出） 最終筆記試験　60%		
到達目標	1.　動機づけ概念を用いて、日常の行動を説明することができるようになる 2.　さまざまな動機づけ概念を理解し、動機づけを高めるための方法や工夫について深く考えられるようになる		
準備学習	毎回の授業内容はのちの講義内容の理解にも関わるため、毎回の講義内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けること		

受講者への要望

1.　毎回の講義から何かを学ぶ、得る、という形で、目標をもって参加してください。
2.　日常的に学習内容に関係することに関心を持ち、疑問点や知りたいことを明確にし、積極的に学習を進めてください。

講義の順序とポイント

1.　講義概要　動機づけとは何か
2.　達成動機づけ
3.　ネガティブ思考と動機づけ
4.　社会的比較と動機づけ
5.　動機づけの階層性
6.　期待－価値理論
7.　自己効力感
8.　原因帰属理論
9.　テスト不安・学習性無力感
10. 達成目標理論
11. 内発的動機づけと自己決定理論
12. 自律性と感情調整
13. 自己調整学習の理論
14. 自己調整学習方略
15. 動機づけの総合理解

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	J50187A01
科目名	漢文学講読Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Writing Study Reading A		
担当者名	野口　隆	旧科目名称	
講義概要	漢文学が日本文学史の中で占める割合は大きい。かつての日本人は漢籍の読解に心血をそそぎ、また李白や杜甫や白楽天の漢詩を愛唱した。近年では漢文を読む機会もめっきり減ってしまったが、しかしそれでも以下に挙げるような理由で、漢文を読むことの意義はなお少なくないと思われる。 その一。漢文を読む機会は減ったがしかし漢字・漢語となれば、これはいまも誰でも日常的に使うものである。漢文を学ぶことで、漢字・漢語に対する理解が深まるのは確実である。 その二。日本文化が中国古典から大きな影響を受けていることは無論だがそれだけでなく、日本古典そのものが漢文で書かれている場合がたいへん多い。したがって日本文学史を知るためにも漢文訓読は必修なのである。 その三。漢文を朗読することで、文章のリズムを身につけ自分でもよい文章が書けるようになると俗に言われている。 春学期は『論語』『史記』その他の散文作品を講読する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	タイトルは指定しないが、漢和辞典は必携である。		
評価方法	毎回実際に訓読を実施し、その内容を課題として提出したものを平常点（50%）とする。期末試験（50%）も行う。		
到達目標	漢和辞典の引き方に習熟すること。そして返り点と送り仮名のある漢文であれば、漢和辞典を引いた上で訓読できるようになること。		
準備学習	中国の歴史や地理について簡単にまとめた資料等を入手しておくことが望ましい。提出された課題には朱を入れて返却するので、問題のある個所については自力で再考すること。		

受講者への要望

漢文講読の要諦は、ひたすら漢和辞典を引き続けることである。しかし漢和辞典というものは、国語辞典と異なり引くだけでも頭を使うので、その心がまえをしておいてもらいたい。またせっかく古風な教室を使うのだから、古風な漢文の読み方も復活したいと考えている。

講義の順序とポイント

1　漢文訓読の基礎
2　漢和辞典の使い方
3　『論語』
4　『孟子』
5　『韓非子』
6　『老子』『荘子』
7　『史記』本紀(1)
8　『史記』本紀(2)
9　『史記』世家
10　『史記』列伝(1)
11　『史記』列伝(2)
12　『三国志』
13　『世説新語』
14　『日本外史』(1)
15　『日本外史』(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50187B01
科目名	漢文学講読Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Writing Study Reading B		
担当者名	野口　隆	旧科目名称	
講義概要	漢文学が日本文学史の中で占める割合は大きい。かつての日本人は漢籍の読解に心血をそそぎ、また李白や杜甫や白楽天の漢詩を愛唱した。近年では漢文を読む機会もめっきり減ってしまったが、しかしそれでも以下に挙げるような理由で、漢文を読むことの意義はなお少なくないと思われる。 その一。漢文を読む機会は減ったがしかし漢字・漢語となれば、これはいまも誰でも日常的に使うものである。漢文を学ぶことで、漢字・漢語に対する理解が深まるのは確実である。 その二。日本文化が中国古典から大きな影響を受けていることは無論だがそれだけでなく、日本古典そのものが漢文で書かれている場合がたいへん多い。したがって日本文学史を知るためにも漢文訓読は必修なのである。 その三。漢文を朗読することで、文章のリズムを身につけ自分でもよい文章が書けるようになると俗に言われている。 秋学期は、漢文学の中でも特異な位置を占める漢詩を講読する。日本人の作品も採り上げる予定である。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	タイトルは指定しないが、漢和辞典は必携である。		
評価方法	毎回実際に訓読を実施し、その内容を課題として提出したものを平常点（50%）とする。期末試験（50%）も行う。		
到達目標	漢詩についての基本的な素養を身につけること。そしてその味わいのようなものを現代の日本語で再現できるようになること。		
準備学習	中国の歴史や地理について簡単にまとめた資料等を入手しておくことが望ましい。提出された課題には朱を入れて返却するので、問題のある個所については自力で再考すること。		

受講者への要望

漢詩を読むためには漢和辞典を引くことの他に、いわば「詩心」のようなものが求められる。担当者は、詩を訳す時には訳したあとも詩らしくなければならないというのが持論なので、それにつきあってもらいたい。またせっかく古風な教室を使うのだから、漢詩の暗唱のような古風な読み方も復活したいと考えている。

講義の順序とポイント

1　漢詩概論
2　『詩経』
3　『文選』古詩
4　阮籍・陶淵明
5　初唐の詩人たち
6　王維・孟浩然
7　李白
8　杜甫
9　白居易
10　中唐・晩唐の詩人たち
11　蘇軾
12　宋代の詩人たち
13　日本の漢詩人(1)
14　日本の漢詩人(2)
15　日本の漢詩人(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50190A01
科目名	環境社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology A		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題です。そして、現代社会において環境への関心はますます大きなものとなっています。 　環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは前者を中心に扱います。 社会学として環境問題をどのように捉えられるかを、具体的な事例と理論の両面から考えるために、境問題を歴史的に概観しながら、具体的事例と社会学の理論の両方を学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業ごとに理解を確認します。それを含む平常点(50%)と、テスト(50%)から総合的に判断します。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、web などで調べてください。		
受講者への要望			
環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。 また、能動的にに学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでください。			
講義の順序とポイント			
1.　イントロダクション　　「自然」とは何　か 2.　人間社会と環境(1)　　「環境問題」の発見と近代社会 3.　人間社会と環境(2)　　環境社会学の成立と展開 4.　公害・差別・リスク(1)　公害問題・水俣病の被害と差別 5　公害・差別・リスク(2)　　被害構造論 6.　公害・差別・リスク(3)　受益圏・受苦圏 7.　公害・差別・リスク(4)　新潟水俣病と阿賀野川 8.　開発と資源(1)　　開発と地域社会 9.　開発と資源(2)　　リスク社会と住民投票 10. 開発と資源(3)　　自然エネルギーと風車 11.　地球環境問題(1)　　地球環境問題と地域 12. 地球環境問題(2)　　社会問題としての地球温暖化 13. 地球環境問題(3)　　開発と環境正義 14. 地域づくりと環境　　まちづくりの系譜 15.まとめ　　現代社会と環境			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J50190B01
科目名	環境社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology B		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題でもあります。そして、現代社会において「環境」の問題はますます大きく、身近なものとなっています。 環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは後者を中心に扱います。 人間社会にとっての脅威となる「環境」ではなく、人間に日々の糧や安らぎを与える存在としての自然環境との関係を事例を紹介しながら、社会学の理論も学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）			
評価方法	毎回授業内容を確認します。それらを含む平常点(50%)と、、テスト(50%)から総合的に判断します。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、webなどで調べてください。		

受講者への要望

環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。
また、能動的にに学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでください。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　身近な自然、日本の森林
2.自然保護を考える(1)　自然保護制度
3.自然保護を考える(2)　エコ・ツーリズム
4.身近な自然を考える(1)　自然観
5.身近な自然を考える(2)　コモンズ
6.生活と水を考える(1)　生活環境主義
7.生活と水を考える(2)　近代と河川
8.農と食を考える(1)　「農」と「食」の変化
9.農と食を考える(2)　有機農業運動
10 ゴミ問題を考える(1)　コモンズの悲劇と社会的ジレンマ
11 ゴミ問題を考える(2)　リサイクルの取り組みとその課題
12.環境 NPO/市民活動を考える　社会運動として NPO
13.歴史的環境と景観を考える(1)　歴史的環境とは何か
14.歴史的環境と景観を考える(2)　観光まちづくり
15.まとめ　現代社会と環境

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50204A01
科目名	教育心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology I		
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は、教育に関連する諸事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるのに役立つような心理的知見と心理的技術とを提供しようとする学問である。子どもの発達や学習、人格の形成などに関する心理的事象や法則を学び、教育を効果的に実施するために役立つ知識の習得をめざす。一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応、集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深めていく。		
教材（テキスト）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	①　教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。 ②　教育心理学的なものの見方や考え方により、現在の教育について考えることができる。 ③　教育心理学の知識・知見から，よりよい教育実践を提案することがができる。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また，授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと。		
受講者への要望			
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。			
講義の順序とポイント			
１．教育心理学とは ２．教育心理学の歴史 ３．生涯発達Ⅰ ４．生涯発達Ⅱ ５．学習理論と行動の理解 ６．　学習理論の教育への応用 ７．学習指導と教授法Ⅰ ８．学習指導と教授法Ⅱ ９．授業分析 １０．記憶のメカニズム １１．動機づけⅠ １２．動機づけⅡ １３．学級集団の理解Ⅰ １４．学級集団の理解Ⅱ １５．教育評価の方法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J50204B01
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology Ⅱ		
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	「教育心理学Ⅰ」で学んだことをもとに，学校現場で有用な実践力の基礎をさらに発展させる。「教育心理学Ⅱ」では，講義とグループ学習・全体討論を組み合わせて進めていく。教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら，教育現場での今日的課題について考えそれらを解決するアプローチを考えていく。また、児童生徒だけでなく、保護者、教師との協力関係の構築、さらに、学校や家庭、地域とも協力しながら児童生徒理解および児童生徒への介入に必要な方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	おにつかるみ　2005　さとこ先生のホームルーム　新日本出版社 竹田レイ子　2007　ボクのこと大好き―自尊感情を高める　あいり出版		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	① 教育心理学についての基礎的な知識を応用できる力を養う。 ② 学校現場における今日的課題に対処できる能力の基礎をさらに発展させる。 ③児童生徒への心理教育的援助方法について主体的に考える力をつける。		
準備学習	教科外学習として，講義内容のまとめとなるような課題を出しますので積極的に取り組んでください。設定された課題には必ず取り組み，期限までに提出すること。		

受講者への要望

教育心理学Ⅰを履修している事が望ましい。グループ単位でのディスカッションや全体の場での発表の機会を設け、コミュニケーション能力の育成も図ります。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求めます。特別な理由がない限り、すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（「教育心理学Ⅰ」の復習）
2. 子どもの発達から教育を考える①　＜問題行動について＞
3. 子どもの発達から教育を考える②　＜自我の役割＞
4. 子どもの発達から教育を考える③　＜アイデンティティ＞
5. 学校・学級生活における子どもの悩みから教育を考える①　＜友人関係＞
6. 学校・学級生活における子どもの悩みから教育を考える②　＜学業＞
7. 学校・学級生活における子どもの悩みから教育を考える③　＜適応＞
8. 学校・学級生活における子どもの悩みから教育を考える④　＜発達障害＞
9. 協同学習による学び
10. 教育現場における今日的問題に対する心理学的理解①
11. 教育現場における今日的問題に対する心理学的理解②
12. 望ましい学校環境とは
13. 教育評価について
14. キャリア教育および地域社会との連携について
15. 相談機関と連携するうえでの留意点

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50220A02
科目名	教育社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Sociology A		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学 s
講義概要	教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつそれの要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを発する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。 本講義では超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端を紹介する。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	作田啓一『三次元の人間 ― 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして ― 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。		
準備学習	各自が最も生き生きとした実感をもつのはどんな時か、そのような実感と教育との関係について考えてみること。		

受講者への要望

出席した以上は、私語を慎んでほしい。

講義の順序とポイント

1. 社会化と超社会化(1)
2. 社会化と超社会化(2)
3. 自己境界の拡大と溶解(1)
4. 自己境界の拡大と溶解(2)
5. 自己境界の拡大と溶解(3)
6. 主体－客体関係の三類型(1)
7. 主体－客体関係の三類型(2)
8. 主体－客体関係の三類型(3)
9. 生命感について(1)
10. 生命感について(2)
11. 定着と生成(1)
12. 定着と生成(2)
13. 自己意識論(1)
14. 自己意識論(2)
15. 現代社会における教育の諸課題
16.定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50227001
科目名	現代アートへの招待	単位数	2
科目名（英語表記）	Invitation to Contemporary Art		
担当者名	藤阪　新吾	旧科目名称	
講義概要	アート art は本来、生の技法 art であり、私たちに活力を与え、生活をより良くする力を持っています。アートは道徳の善悪や科学の真偽の枠に収まらず、「感じること」と「考えること」を同時に作動させます。この授業では、「感じること」と「考えること」をともに大切にしつつ、現代アートの魅力とその力の源を探っていきます。 現代アートは「わからない」「難しい」という言い方がよくなされます。他方、現代アートは自由に「感じればいい」という言い方もなされます。この「わかるようなわからないような」、「難しいようなそうでないような」、「自由に感じられるようなそうでないような」ところに、現代アートの独特なあじわいがあります。 授業では、現代アートの基礎を解説する講義に加えてフィールドワークやワークショップなどを行い、現代アートを多様な角度から学びます。この総合的な学びによって、何気ない日常のなかに新たな喜びや豊かさを発見できる知性と感性を養うこと、これがこの授業の目標です。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学習に必要な資料は授業内にプリントにて配布します。		
評価方法	平常点（60%）：講義・フィールドワークへの参加を含む レポート（40%）		
到達目標	現代のさまざまなアート作品と表現方法、アートをめぐる社会的状況を、感じ考えることをとおして、現代アートへの感受性と理解力を身につける。		
準備学習	現代のさまざまなアート作品と表現方法、アートをめぐる社会的状況を、感じ考えることをとおして、現代アートへの感受性と理解力を身につける。		

受講者への要望

＊授業は、８月１日(火)・２日(水)・３日(木)・４日(金)の４日間の「集中講義」を予定しています。

＊フィールドワークにかかる交通費および施設入場料等は自己負担となります。
＊展覧会の会期や現場の事情等によって日時・内容が調整される場合があります。
＊本講義の受講者には、秋学期の「アートギャラリー実習Ⅰ・Ⅱ」を受講することを期待します。

現代アートをより深く感じ、理解するには、受け身で授業を受ける（消費する）だけでは不十分です。情報による固定観念をわきに置いて、アートを積極的かつ意欲的に味わう姿勢によって、あじわいもより深いものとなります。このことがわかれば、感覚的にキモチいいこととも観念的に楽しいこととともまた別の「快感・喜び」の体験世界が広がることでしょう。

講義の順序とポイント

1．はじめに：アートをあじわうために
2．レクチャー①：多様な表現とさまざまな作品
3．レクチャー②：自然美／芸術美／社会美
4．レクチャー③： 感じるアート／考えるアート
5．フィールドワーク①（美術館／ギャラリー）
6．フィールドワーク②（美術館／ギャラリー）
7．ディスカッション①／レポート作成①
8．レクチャー④：芸術／アート／デザイン
9．レクチャー⑤：亀岡プロジェクト
10．ワークショップ①
11．ワークショップ②
12．レクチャー⑥：生の技法 art
13．レクチャー⑦：アートと社会美学
14．レポート作成②／ディスカッション②
15．おわりに：アートのあじわい

＊授業は、８月１日(火)・２日(水)・３日(木)・４日(金)の４日間の「集中講義」を予定しています。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50229001
科目名	現代オーストラリア事情	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Australian Society		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	地理的にアジアに位置しながらも、世界中から様々な文化が交じり合ってできた現代オーストラリア社会を勉強の的にし、上級読解、聴解スキルを伸ばします。毎週の集中したリーディング（テキスト、新聞、雑誌、インターネット）の他、映画・ドキュメンタリーを観たり、ポッドキャストを聴いたりできる総合的な講座です。オーストラリアで留学やワーキング・ホリデーなどを考えている学生にはもっとも必要な講義です。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート 50%　課題２０%定期試験 30%		
到達目標	異文化理解はもちろん、集中したリーディング・リスニングによって読解力・聴解力を高めます。		
準備学習	海外の文化や社会に関心を持つことです。　オーストラリアの文化、ニュース、時事問題などを調べておけばいいでしょう。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。原則としてこの講座は日本語で行われますが、必要に応じて英語で資料を読むこともありますので辞書を持参することをすすめます。

講義の順序とポイント

1. 講義概要　オーストラリアの豆知識
2. 歴史
3. 先住民
4. 地理と名所
5. スポーツとスポーツ文化
6. 多文化社会
7. 自然
8. 芸術と文化意識
9. ジェンダーと社会
10. 教育制度と大学生活
11. 伝統と祭り
12. 国民性と価値観
13. 生活習慣
14. オーストラリアと日本
15. 課題や発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50233A01
科目名	現代映画論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Theory of Present Age A		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	映像の世紀だった 20 世紀を越え、またアナログからデジタルへの一大変革のときを越えて、映画というメディアは演劇、文学、美術、写真、音楽、その他あらゆる要素を内包した総合芸術として、また時代を明瞭に捉えた記録、証言としての意義、存在感をますます強めていっている。だが、その一方で、次々と消費されていく一過性の商品としてだけ見る傾向も強まってきている懸念もある。求められているのは、映画をしっかりと分析しその表現の本質を理解する力だと思う。本講義では、昨年から本年に公開された最新の作品を中心に、批評的視点からの分析を行い、作品から見えてくるものを考察していく。映画の内容、監督を始めとするスタッフ、キャストを知り、映画的教養を深めるとともに、現代という時代を捉える力も養っていく。		
教材（テキスト）	使わない。		
教材（参考文献）	使わない。		
教材（その他）	講師用意の映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	昨年及び本年公開の作品、さらに公開予定作を含めて、しっかりと分析、把握し、そこから映画全般の知識を高めていく。そして、それらの作品を通して、現代社会が抱える問題や時代傾向を認識できるようにする。		
準備学習	毎回、授業終了時に次回の内容を伝えるので予習しておくこと。		
受講者への要望			
能動的姿勢で授業に臨んでほしい。また、授業で採りあげた作品について、できるだけ実際に鑑賞し、体験的復習を実践してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. はじめに。映画批評とはなにか。 2. 昨年の邦画代表作から見えてくるものはなにか。① 3. 昨年の邦画代表作から見えてくるものはなにか。② 4. 昨年の洋画代表作から見えてくるものはなにか。 5. 本年１～３月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。アカデミー賞作品を中心に① 6. 本年１～３月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。アカデミー賞作品を中心に② 7. 本年１～３月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。 8. 本年４～６月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。① 9. 本年４～６月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。② 10. 本年４～６月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。① 11. 本年４～６月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。② 12. 本年上半期の洋画の傾向について。 13. 本年上半期の邦画の傾向について。① 14. 本年上半期の邦画の傾向について。② 15. 本年上半期に鑑賞した映画のレポート作成。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50233B01
科目名	現代映画論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Theory of Present Age B		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	春学期開講の「現代映画論Ａ」をさらに進めていく。本講師は評論家として一般公開以前に映画を鑑賞することが可能なので、授業を行う時点で公開中、もしくは近日公開の作品を採りあげ、資料を用いてスタッフ、キャスト、内容を把握し、批評的観点から作品の本質の理解を計り、現在公開作品としての意味や製作側の意図を考察していく。また、作品の芸術的意匠の理解も促し、芸術鑑賞眼、批評眼も養っていく。		
教材（テキスト）	使わない。		
教材（参考文献）	使わない。		
教材（その他）	講師用意の映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	本年公開の作品及び公開予定の作品を把握、分析し、そこから映画全般の知識を高めていく。そして、映画を通して現代社会が抱える問題を理解し、時代傾向を考察、認識できるようにする。		
準備学習	毎回、授業終了時に次回の内容を伝えるので予習しておくこと。		
受講者への要望			
能動的姿勢で授業に臨んでほしい。また、授業で採りあげた作品について、できるだけ実際に鑑賞し、体験的復習を実践してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. ７～８月期公開の邦画から見えてくるもの。① 2. ７～８月期公開の邦画から見えてくるもの。② 3. ７～８月期公開の洋画から見えてくるもの。① 4. ７～８月期公開の洋画から見えてくるもの。② 5. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。① 6. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。② 7. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。③ 8. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。① 9. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。② 10. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。③ 11. 本年公開の邦画の傾向について。 12. 本年公開の洋画の傾向について。 13. 本年公開の邦画の代表作はなにか。 14. 本年公開の洋画の代表作はなにか。 15. 本年公開作品についてのレポート作成。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50234001
科目名	現代経済の読み方	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Contemporary Economics		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	まず，今日どのような経済現象が問題となっているのかを見ます。今日、日本ではアベノミクスなどの経済政策の効果が十分には出ていません。個人消費は消費税を上げたあと弱含みです。賃金は実質で２０１３年から伸び悩んでいます。企業の業績は好調ですが、設備投資は２０１３年から拡大していますが、力強さを欠いています。これらを確認したあと経済現象の実体を歴史的に、段階的に分析します。 景気については，ＧＤＰ，企業の利益率，失業率などでとらえることができます。これを通して，そこにどの様な法則があるのかを考えます。機械設備の更新投資の時期が各企業で重なり，情報産業の登場もあたらしい景気の波を作ります。 振り返ると 1930 年代以降，財政支出政策、管理通貨制度により景気が下支えされています。 さらには 1980 年代以降金融規制緩和が金融市場でのブームを作っています。 最近では企業，国家、大陸ぐるみのグローバル化が資本主義に活路を見いだそうとしています。 原理的には次のように考えられます。 今日は，商品経済の社会であり，人々は生活に必要なものをほとんど市場から入手しています。その商品の価格はどの様にして決まるのでしょうか。 また，今日では様々な企業の競争と協調の下にある。大企業と中小企業の存在は我々にどの様な影響を与えているのでしょうか。 さらに、国家の経済活動なしに経済は成り立たなくなっています。我々は租税、年金、保険などを納め、国家は公共事業や、金利政策によって経済を支えています。国民所得はどう循環しているのか，税率や利子はどう決まるのでしょうか。 そして、国際的な金融資産の市場での取引が，経済の他の分野に重大な影響を与える資本主義の渦中にあります。為替レートや株価は何によって動いているのでしょうか。 以上のような現実の経済問題を法則的に捉えることを目的にします。		
教材（テキスト）	なし。 新聞記事，統計データなどを紹介します。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業について質問、要望、感想、まとめ等の提出		
到達目標	経済現象の奥底には法則があること，堂々巡りにならない主要なモメント、必然関係があることをつかみます。 また，富は，生産活動からしか生まれません。うまい話はありません。働く以外に富を手に入れる方法はないことを理解したいとおもいます。		
準備学習	新聞やテレビや週刊誌で経済ニュースを見ておいてください。		
受講者への要望			
経済の現実に関心を持つために、自立した経済生活を送ってほしい。アルバイトをしなくてもよいが，家計簿をつけるとよい。			
講義の順序とポイント			
1　経済学とは何か？　　何が問題か，景気の実態 2　価格はどう決まるか 3　企業の業績 4　不況、好況 5　大企業の製品 6　企業合併			

7　国内総生産
8　予算、国債、消費税
9　貨幣，利子率
10　株価，バブル
11　インフレーション，デフレーション
12　為替レート、原油価格
13　国際収支，貿易
14　ＴＰＰ　世界経済
15　経済の段階と重層的構造

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50234002
科目名	現代経済の読み方	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Contemporary Economics		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	まず，今日どのような経済現象が問題となっているのかを見ます。今日、日本ではアベノミクスなどの経済政策の効果が十分には出ていません。個人消費は消費税を上げたあと弱含みです。賃金は実質で２０１３年から伸び悩んでいます。企業の業績は好調ですが、設備投資は２０１３年から拡大していますが、力強さを欠いています。これらを確認したあと経済現象の実体を歴史的に、段階的に分析します。 景気については，ＧＤＰ，企業の利益率，失業率などでとらえることができます。これを通して，そこにどの様な法則があるのかを考えます。機械設備の更新投資の時期が各企業で重なり，情報産業の登場もあたらしい景気の波を作ります。 振り返ると 1930 年代以降，財政支出政策、管理通貨制度により景気が下支えされています。 さらには 1980 年代以降金融規制緩和が金融市場でのブームを作っています。 最近では企業，国家、大陸ぐるみのグローバル化が資本主義に活路を見いだそうとしています。 原理的には次のように考えられます。 今日は，商品経済の社会であり，人々は生活に必要なものをほとんど市場から入手しています。その商品の価格はどの様にして決まるのでしょうか。 また，今日では様々な企業の競争と協調の下にある。大企業と中小企業の存在は我々にどの様な影響を与えているのでしょうか。 さらに、国家の経済活動なしに経済は成り立たなくなっています。我々は租税、年金、保険などを納め、国家は公共事業や、金利政策によって経済を支えています。国民所得はどう循環しているのか，税率や利子はどう決まるのでしょうか。 そして、国際的な金融資産の市場での取引が，経済の他の分野に重大な影響を与える資本主義の渦中にあります。為替レートや株価は何によって動いているのでしょうか。 以上のような現実の経済問題を法則的に捉えることを目的にします。		
教材（テキスト）	なし。 新聞記事，統計データなどを紹介します。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業について質問、要望、感想、まとめ等の提出		
到達目標	経済現象の奥底には法則があること，堂々巡りにならない主要なモメント、必然関係があることをつかみます。 また，富は，生産活動からしか生まれません。うまい話はありません。働く以外に富を手に入れる方法はないことを理解したいとおもいます。		
準備学習	新聞やテレビや週刊誌で経済ニュースを見ておいてください。		
受講者への要望			
経済の現実に関心を持つために、自立した経済生活を送ってほしい。アルバイトをしなくてもよいが，家計簿をつけるとよい。			
講義の順序とポイント			
1　経済学とは何か？　　何が問題か，景気の実態 2　価格はどう決まるか 3　企業の業績 4　不況、好況 5　大企業の製品 6　企業合併			

7　国内総生産
8　予算、国債、消費税
9　貨幣，利子率
10　株価，バブル
11　インフレーション，デフレーション
12　為替レート、原油価格
13　国際収支，貿易
14　ＴＰＰ　世界経済
15　経済の段階と重層的構造

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50238A01
科目名	現代雑誌論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age A		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 s
講義概要	書店またコンビニに並ぶ、さまざまな雑誌。いまや紙に印刷されたものではないデジタル・マガジンも登場して注目を集めている。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。それら歴史や背景を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	いまに至る日本の雑誌の歴史を理解。雑誌の可能性を知る。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		

受講者への要望

愛読誌を必ず作ろう！

講義の順序とポイント

1. 雑誌とは？
2. ネットには雑誌が取材編集した情報がいっぱい！
3. 出版産業の構造と規模／雑誌の形式・各部名称
4. 雑誌の歴史 1　近代雑誌の始まり　MAGAZINE を「雑誌」と翻訳
5. 雑誌の歴史 2　講談社、小学館など、大手出版社は人気雑誌を発行することで成長した
6. 雑誌の歴史 3　雑誌ジャーナリズムと戦争
7. 雑誌の歴史 4　テレビの登場が雑誌を活性化
8. 雑誌の歴史 5　成熟する社会、多様化する価値観へ対応
9. 雑誌の歴史 6　創刊ラッシュ
10. 雑誌の歴史 7　読む雑誌→見る雑誌→行動を喚起する雑誌
11. 雑誌は細分化する　総合誌→専門誌
12. 雑誌はビジュアル化する
13. 雑誌には広告がいっぱい！
14 .フリーペーパー、デジタルマガジン…雑誌の進化は続く
15. 総括と復習（雑誌の歴史と特性）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50238B01
科目名	現代雑誌論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age B		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論 f
講義概要	雑誌が、いかに作られているのか、他メディアと比較してどんな点で優れているのか、どう進化しようとしているのか……などを学ぶ。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。作る現場、売る現場…関わるさまざまな人たちの創意工夫を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	これからの雑誌の可能性/未来像を見出す。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
愛読誌を必ず作ろう！			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌と出版界の現在 2. 雑誌づくりの現場１　企画が命〜インパクトのある見出し！／どんな時代か？／誰に届ける？ 3. 雑誌づくりの現場２　編集作業の流れ 4. 雑誌づくりの現場３　デザイン／印刷 5. 雑誌のメディア特性１　他メディアとの比較 6. 雑誌のメディア特性２　セグメンテーション 7. 雑誌のメディア特性３　東京と地方 8. 販売収入と広告収入 9. エディトリアル・デザインの冒険 10. メディア規制との闘い 11. ゲリラ・ジャーナリズムこそ雑誌の使命！ 12. 雑誌の未来１　読者との絆 13. 雑誌の未来２　紙か？デジタルか？ 14. 雑誌の未来３　大きな変化とその可能性 15. 総括と復習（雑誌の未来と可能性）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50239001
科目名	現代社会とメディア	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Society and Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「現代社会とメディア」について、すでに社会環境として機能している検索はじめとするネット文化や個々人が対峙することになった著作権等々を考察する。具体的には、博物館・美術館・図書館等の収蔵品をテ?シ?タル化することによって、新たな形て?保存・公開等を行うことを目的とするテ?シ?タルアーカイフ?は、近年の文化遺産・資源の再活用化の大きな課題の 1 つて?ある。そして、テ?シ?タルて?情報を分類することによって、これまて?当然とされていた知識の形成の方法も大きく変わろうとしている。そのようなテ?シ?タルアーカイフ?の歴史や方法等を整理すると共に、アナログからデジタルへのメディアの変遷によって生じてきた知の体系化における新たな可能性や問題点等を考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	福井健策『誰が「知」を独占するのか：デジタルアーカイブ戦争』集英社新書 2014 野口悠紀雄『知の進化論：百科全書・グーグル・人工知能』朝日新書 2016 東浩紀『弱いつながり：検索ワードを探す旅』幻冬舎 2014（幻冬舎文庫／Kindle 版 2016）		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	デジタルを中心に、各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション
2．現代社会とメディアを考える （1）
3．現代社会とメディアを考える （2）
4．現代社会とメディアを考える （3）
5．現代社会とメディアを考える （4）
6．現代社会とメディアを考える （5）
7．現代社会とメディアを考える （6）
8．現代社会とメディアを考える （7）
9．現代社会とメディアを考える （8）
１０．現代社会とメディアを考える （9）
１１．現代社会とメディアを考える （10）
１２．現代社会とメディアを考える （11）
１３．現代社会とメディアを考える （12）
１４．現代社会とメディアを考える （13）
１５．現代社会とメディアを考える （14）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J50240001
科目名	現代社会論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories on Modern Society		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	テーマ「ジェンダーで読み解く現代社会」 この社会の構成には、抜きがたく、ジェンダーが組み込まれている。 法的制度的には「男女平等社会」という前提があり、法の前の平等という理念が共有されているが、社会的実態や実相を直視し、鋭く分析していくならば、決して、「平等」という概念がそれほど単純なものではないということがわかる。 授業では、現代社会の様々な諸相を映し出し、表現してきた多様なメディアによる表現を取り上げ、分析を加えていくことで、幾重にも折りたたまれたジェンダー・バイアスやセクシュアリティの問題を抽出してゆく作業を試みる。 偏りのない分析視点を目指し、価値中立的な現状把握に基づきながら、どのような社会が望まれるのか、我々自身がどのような立場や姿勢で社会と向き合っていくのか、という課題に取り組みたい。		
教材（テキスト）	特定のテキストは使用しない。 授業の回ごとに、準備して閲覧、配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業のベースとして、資料を用意する。		
評価方法	授業内で、レポート提出を求め、平常点として４０点。 期末レポートを実施して、60 点とする。		
到達目標	めまぐるしく展開する現代社会において、自分自身が置かれている時代状況や立場をふまえて、課題に気づき、言語化し、表現する力をつける。		
準備学習	メディアの動きや表現など、予め、予告した場合は、指定されたメディアに接し、ある程度、予備情報を持って臨むこと。		

受講者への要望

授業で言及するテーマについて、新聞その他のメディアなどに、普段から、関心を持って接することを望みます。

講義の順序とポイント

1. 導入。授業の案内と、受講生へのアンケートで、関心領域などを問う。
2. メディア・リテラシー
3. ジェンダーについての概説
4. メディアによって表現されるジェンダー（1）
5. メディアによって表現されるジェンダー（2）
6, メディアによって表現されるジェンダー（3）
7. 現代社会におけるジェンダーの諸相の読解
8. 「男女平等」再考（1）
9. 「男女平等」再考（2）
10. 流通するセクシュアリティ概念（1）
11. 流通するセクシュアリティ概念（2）
12. ジェンダー／セクシュアリティの常識と実相
13. 正しい考え方とは何か（1）
14. 正しい考え方とは何か（2）
15. 現代社会の課題を見つめる

授業テーマの配列は、社会的トピックスによって、変更、入れ替えをすることがあります。
最前線のテーマに迫っていきたいと考えます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50243A01
科目名	言語学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics l		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学 s
講義概要	「最近の日本語は乱れている」などと言語学では言わない。また「二ヶ国語放送」ではなく「二言語放送」と言う。それはなぜなのかということを考えることから始め、人間の言葉について考察する。現代言語学の父であるソシュールの考えを学び、科学として言語学が成り立つ基礎になった音声学から始め、音韻論、形態論では日本語の方言を含めて学んでいく。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「はじめての人の言語学」　上山あゆみ 1991　　くろしお出版		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	言葉が記号から成り立っていることを理解する。言語記号の２側面のうち音を担う部分の音声学・音韻論について理解を深め、音声と音素の違いを認識する。形態論を学ぶ時点で言語学で最も重要な概念である音素と形態素を理解する。		
準備学習	身近にある言葉、テレビや他のメディアで見たり聞いたりする言葉を意識して観察する態度を持つ。		
受講者への要望			
身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で教師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は固定しないのでできるだけ前に座って欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．言語学の学習対象　植物の「言葉」　動物の言葉　人間の言葉　言霊　バベルの塔 ２．ソシュールの紹介 ３．言語学の専門用語導入１ ４．言語学の専門用語導入２ ５．音声と音素 ６．訓令式ローマ字表記とヘボン式ローマ字表記 ７．アメリカ英語の母音とイギリス英語の母音。確認小テスト ８．国際音声字母表の見方と調音…破裂音と摩擦音 ９．国際音声字母表の見方と調音…鼻音、流音、接近音 １０．国際音声字母表の見方と調音…母音 １１．音韻論…日本語 １２．音韻論…英語 １３．日本語の方言…北海道、東北、関東 １４．日本語の方言…中部、近畿、中国、四国 １５．日本語の方言…九州、沖縄			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50243A02
科目名	言語学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学ｓ
講義概要	「最近の日本語は乱れている」などと言語学では言わない。また「二ヶ国語放送」ではなく「二言語放送」と言う。それはなぜなのかということを考えることから始め、人間の言葉について考察する。現代言語学の父であるソシュールの考えを学び、科学として言語学が成り立つ基礎になった音声学から始め、音韻論、形態論では日本語の方言を含めて学んでいく。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「はじめての人の言語学」　上山あゆみ 1991　　くろしお出版		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	言葉が記号から成り立っていることを理解する。言語記号の２側面のうち音を担う部分の音声学・音韻論について理解を深め、音声と音素の違いを認識する。形態論を学ぶ時点で言語学で最も重要な概念である音素と形態素を理解する。		
準備学習	身近にある言葉、テレビや他のメディアで見たり聞いたりする言葉を意識して観察する態度を持つ。		
受講者への要望			
身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で教師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は固定しないのでできるだけ前に座って欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．言語学の学習対象　植物の「言葉」　動物の言葉　人間の言葉　言霊　バベルの塔 ２．ソシュールの紹介 ３．言語学の専門用語導入１ ４．言語学の専門用語導入２ ５．音声と音素 ６．訓令式ローマ字表記とヘボン式ローマ字表記 ７．アメリカ英語の母音とイギリス英語の母音。確認小テスト ８．国際音声字母表の見方と調音…破裂音と摩擦音 ９．国際音声字母表の見方と調音…鼻音、流音、接近音 １０．国際音声字母表の見方と調音…母音 １１．音韻論…日本語 １２．音韻論…英語 １３．日本語の方言…北海道、東北、関東 １４．日本語の方言…中部、近畿、中国、四国 １５．日本語の方言…九州、沖縄			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50243B01
科目名	言語学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学 f
講義概要	言語学は音素と形態素を抜きにしては説明ができないので、言語学 I の概要を説明することから始める。その時点で分節と音素・形態素の関係を明らかにする。また、日本語の方言をアクセントの視点から捉えなおす。次に、形態論の説明の時に漢字を含め日本語の形態素について解説する。更に文節と品詞の関係など日本語文法の復習をする。統語論については英語と日本語の例を使って説明する。意味論、語用論、類型論といった言語学の興味深い分野を説明する。最後に英語や日本語とは全く成り立ちが異なるセム語の説明をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	1998 徳川宗賢(むねまさ)・真田信治編『新・方言学を学ぶ人のために』世界思想社		
教材（その他）	授業中適宜指示する		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	音素と形態素の概念の定着。音素を特定する装置としてのミニマルペアや相補分布という概念を把握する。形態素を特定することによって形態論の内容を深く理解する。英語における語順、日本語における助詞の役割と統語論の関係を理解する。人間の作る文の無限性に基づく生成文法の有効性を理解する。語用論や類型論やセム語では世界の言語がいかに多様な姿を示すかを理解する。		
準備学習	言語学 I を履修しておくことが望ましい。		

受講者への要望

身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は指定しないので、できるだけ前に座って欲しい。

講義の順序とポイント

１．春学期学習内容の概要
２．方言と音韻論…関東と関西のアクセントの違い
３．方言と音韻論…日本全国におけるアクセントの特徴
４．素性表示と音韻論
５．連濁と日本語の形態論
６．動詞の連用形と日本語の形態論
７．複合語の構成と確認小テスト
８．直接構成素分析と句構造文法
９．句構造文法と統語論…名詞句
１０．句構造文法と統語論…動詞句
１１．生成文法…「生成」の考え方
１２．生成文法…成果と限界
１３．意味論・語用論
１４．類型論
１５．セム語紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50243B02
科目名	言語学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	言語学 f
講義概要	言語学は音素と形態素を抜きにしては説明ができないので、言語学 I の概要を説明することから始める。その時点で分節と音素・形態素の関係を明らかにする。また、日本語の方言をアクセントの視点から捉えなおす。次に、形態論の説明の時に漢字を含め日本語の形態素について解説する。更に文節と品詞の関係など日本語文法の復習をする。統語論については英語と日本語の例を使って説明する。意味論、語用論、類型論といった言語学の興味深い分野を説明する。最後に英語や日本語とは全く成り立ちが異なるセム語の説明をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	1998 徳川宗賢(むねまさ)・真田信治編『新・方言学を学ぶ人のために』世界思想社		
教材（その他）	授業中適宜指示する		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	音素と形態素の概念の定着。音素を特定する装置としてのミニマルペアや相補分布という概念を把握する。形態素を特定することによって形態論の内容を深く理解する。英語における語順、日本語における助詞の役割と統語論の関係を理解する。人間の作る文の無限性に基づく生成文法の有効性を理解する。語用論や類型論やセム語では世界の言語がいかに多様な姿を示すかを理解する。		
準備学習	言語学 I を履修しておくことが望ましい。		

受講者への要望

身近な言葉に対して「面白いな～！」と感動する心を持って欲しい。毎回の授業で講師に提出する学習内容確認シートに自分の疑問や発見をしっかり記入して、自分の学習に役立てるようにすることを望む。席は指定しないので、できるだけ前に座って欲しい。

講義の順序とポイント

１．春学期学習内容の概要
２．方言と音韻論…関東と関西のアクセントの違い
３．方言と音韻論…日本全国におけるアクセントの特徴
４．素性表示と音韻論
５．連濁と日本語の形態論
６．動詞の連用形と日本語の形態論
７．複合語の構成と確認小テスト
８．直接構成素分析と句構造文法
９．句構造文法と統語論…名詞句
１０．句構造文法と統語論…動詞句
１１．生成文法…「生成」の考え方
１２．生成文法…成果と限界
１３．意味論・語用論
１４．類型論
１５．セム語紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50250A01
科目名	言語表現論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｓ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　春学期は、文章表現の面白さと難しさ、実際に文章を作成する際に必要な心がけについて考え、その後、私的、個人的な文章表現について学ぶ。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	講義時間中に適宜指示する		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ａ《春学期》 １．ガイダンス ２．メールを送る ３．わかりやすく説明する ４．専門用語を文章で説明する ５．経験から事実を述べる ６．与えられたテーマについて意見を書く ７．要約文を書く ８．身近な言葉に興味を持つ① ９．身近な言葉に興味を持つ② １０．アンケート調査を行う １１．文献調査を行う １２．方言調査① １３．方言調査② １４．研究テーマをみつける。 １５．　レポートの基本的な構成 ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50250A02
科目名	言語表現論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｓ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　春学期は、文章表現の面白さと難しさ、実際に文章を作成する際に必要な心がけについて考え、その後、私的、個人的な文章表現について学ぶ。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	講義時間中に適宜指示する		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ａ《春学期》 １．ガイダンス ２．メールを送る ３．わかりやすく説明する ４．専門用語を文章で説明する ５．経験から事実を述べる ６．与えられたテーマについて意見を書く ７．要約文を書く ８．身近な言葉に興味を持つ① ９．身近な言葉に興味を持つ② １０．アンケート調査を行う １１．文献調査を行う １２．方言調査① １３．方言調査② １４．研究テーマをみつける。 １５．　レポートの基本的な構成 ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50250B01
科目名	言語表現論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　秋学期は、大学生・社会人として必要な、より公的、社会的な文章表現の技法について学んでいく。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ｂ《秋学期》 １．敬語① ２．敬語② ３．季節のはがきを書く ４．手紙の基本 ５．依頼の手紙を書く ６．断りの手紙を書く ７．就職活動の準備をする ８．社会問題について、意見文を書く① ９．社会問題について、意見文を書く② １０．レポートで用いる表現① １１．レポートで用いる表現② １２．レポートで用いる表現③ １３．日本語の多様性 １４．社会と言葉① １５．社会と言葉② ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50250B02
科目名	言語表現論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Language Expression B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
講義概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。 本講義では、様々な場面に応じた適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明②文章例を読み、問題点を考える。③実際に文章を作成する④添削⑤残された問題点についての説明、の順に行う。 　秋学期は、大学生・社会人として必要な、より公的、社会的な文章表現の技法について学んでいく。		
教材（テキスト）	随時プリントを配布する		
教材（参考文献）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教材（その他）	国語辞典などの持参を勧める		
評価方法	学期末レポートと出席状況、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
講義の順序とポイント			
言語表現論Ｂ《秋学期》 １．敬語① ２．敬語② ３．季節のはがきを書く ４．手紙の基本 ５．依頼の手紙を書く ６．断りの手紙を書く ７．就職活動の準備をする ８．社会問題について、意見文を書く① ９．社会問題について、意見文を書く② １０．レポートで用いる表現① １１．レポートで用いる表現② １２．レポートで用いる表現③ １３．日本語の多様性 １４．社会と言葉① １５．社会と言葉② ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50256101
科目名	古文書学　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅰ		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	古文書の写真コピーを使いながらその読解を行う。古文書の多様な形態に触れる中で、古文書学の基礎をマスターすることを目ざす。文書を読むことは、内容を把握することである以上、文字を読むだけではなく、それぞれの史料の性格や歴史的意義を考えてゆく。取りあげる古文書は比較的やさしいものから始め、順次、レベルの高い古文書へと進んでゆく。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	・佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局） ・『演習　古文書選』（吉川弘文館）古代・中世編、様式編、荘園編上下など。 ・東京大学史料編纂所 HP のデータベース検索画面〈http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller〉に入ると「電子くずし字字典データベース」がある。これはくずし字の用例が非常に多いので、図書館架蔵の『くずし字事典』とともに、これを参考にして予習してくること。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	古代中世の古文書学の基礎を学び、古文書の読解とそれぞれの史料の歴史的背景や、史料批判の方法を学ぶ。		
準備学習	教材となる史料は事前に配付しておくので、十分に予習してほしい。		

受講者への要望

・古文書学の基礎をじっくり学ぶ機会にしたい。
・分からないことは恥ではない。何でも積極的に質問してほしい。分からないこと、疑問に思ったこと、これがすべての始まりだ。

講義の順序とポイント

1.古文書とは？
2.古文書習得の基礎
3.浄土寺文書の読解
4.浄土寺文書の読解
5.浄土寺文書の読解
6 鶴岡八幡宮文書の読解
7.鶴岡八幡宮文書の読解
8.鶴岡八幡宮文書の読解
9.東寺百合文書の読解
10.東寺百合文書の読解
11.東寺百合文書の読解
12.東寺百合文書の読解
13.東寺百合文書の読解
14.東寺百合文書の読解
15.東寺百合文書の読解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J50256202
科目名	古文書学　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography II		
担当者名	佐竹　朋子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は、文書に基づいて社会の仕組みが整えられていた時代であった。すなわち、支配者層のみならず、庶民にいたるまでが日々文書を作成していた。 そこで、本講義では、江戸時代に作成された文書（古文書）を読み解きながら、江戸時代の社会の特質や、社会のあり様を考えていきたい。 具体的には、各回のテーマに即した古文書原本のコピーを紹介しながら、講義をおこなう。		
教材（テキスト）	授業で用いるテキストは、適宜配布する。		
教材（参考文献）	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、１９９３年） 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版、１９７０年） 日本歴史学会編『概説　古文書学　近世編』（吉川弘文館、１９８９年）		
教材（その他）			
評価方法	受講態度やレポート等による平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。 レポートの提出時期や内容については、授業中に提示します。		
到達目標	①江戸時代の古文書について、武家・村・町など様々な社会集団において作成された文書の様式や種類、分類を学ぶ。 ②江戸時代に発給された文書を学ぶことを通して、行政（江戸幕府）と社会との関係を考える。 ③古文書の初歩的な解読方法を学ぶ。		
準備学習	予習方法 ・授業終了時に、次回の講義で用いる資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。 復習方法 ・授業で用いたテキストを、何度か読み上げたり、書き写していくことで理解を深め、解答を見ずとも答えられるようにしておくこと。		
受講者への要望			
・能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。 ・遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して退出を求める。 ・常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
第１回：ガイダンス―史料と資料について― 第２回：近世社会と文書 第３回：紙の種類と形態 第４回：朝廷・公家関係文書　宣旨・口宣案 第５回：将軍関係　武家の知行 第６回：将軍関係　武家の知行 第７回：幕府関係　行政文書 第８回：幕府関係　行政文書 第９回：藩関係　　大名と領地 第１０回：藩関係　大名と領地 第１１回：村方文書　村の自治 第１２回：村方文書　村の自治 第１３回：町方文書　町の自治 第１４回：町方文書　町の自治 第１５回：全体のまとめ 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50259A01
科目名	口承文芸論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ａでは口承文芸の作品に親しむことからはじめ、作品分析の主要な方法論を理解することを目標にします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	作品分析の主要な方法論を理解すること。		
準備学習	次週に取り上げる作品は予め配布しておくので、熟読してくること。また授業で取り上げた分析方法をよりよく理解するために、関連文献を授業中に示すので、読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
1.口承文芸的発想とはなにか。　（書くことと語ること・歌うことは果たして同じ次元なのか考えてみましょう） 2.神話学の系譜　（神話をどのように読むのか、これまでの様々なアプローチを概括します） 3.神話分析　民族学的アプローチ１　（まずは『金枝篇』から取り組んでみましょう） 4.神話分析　民族学的アプローチ２ 5.神話分析　心理学的アプローチ１　（ユング派の物語の読み方について考えてみましょう） 6.神話分析　心理学的アプローチ２ 7.神話分析　構造分析１　（レヴィ＝ストロースの分析する神話に触れてみましょう） 8.神話分析　構造分析２ 9.昔話研究（AT による昔話の分類） 10.昔話分析　系統論的アプローチ 11.昔話分析　構造分析１　（プロップの分析手法について検討してみましょう） 13.昔話分析　構造分析２　（ダンダスの分析手法について検討してみましょう） 14.日本神話の研究 15.日本昔話研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50259B01
科目名	口承文芸論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、これらは世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ｂでは口承文芸が、カミとヒトの、人と人のコミュニケーションであることに焦点をあて、関連する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析することを、目標とします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析すること。		
準備学習	口承文芸の作品は長大なものが多いので、授業の前に熟読し、自分なりに筋立てを整理しておくこと。次週取り上げる作品は予め配布するか、文献を示します。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１イントロダクション ２ヒトとヒトを超えるもの ３シャーマニズムと口承文芸１　（シャーマニズムと歌や語りは深い関係を持っています。） ４シャーマニズムと口承文芸２　（ユーラシア大陸のいくつかのシャーマニズム文化をとりあげます。） ５儀礼から語り物へ ６語り物 ７ヒトとヒトのコミュニケーション ８詩の始まりを民俗学的･文化人類学的に考える ９うたはひとつでいい １０変なコミュニケーション １１英雄叙事詩 １２ナラティブ構成法１　（長大な英雄叙事詩はどのように伝承されてきたのか、そのメカニズムについて考えます。） １３ナラティブ構成法２ １４口承文芸とポップカルチャー１　（「古くて新しい」について考えます。） １５口承文芸とポップカルチャー２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50262A01
科目名	広告広報論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions I		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論 I 」(基礎編)、「広告広報論 II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論 I 」、できれば「広告広報論 II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第 1 回　開講にあたって
第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア
第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか
第 9 回　ブランド商品の誕生と広告
第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等
第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等
第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等
第 14 回　広告広報の課題／授業内レポート
第 15 回　今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50262B01
科目名	広告広報論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions II		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	応用編：広告広報の実務と産業のあらましについて知り、広告業界やマーケティングや PR 活動の仕事について具体的なイメージを持てるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論Ｉ」(基礎編)、「広告広報論II」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ｉ」、できれば「広告広報論II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、広告産業や広告取引の実態について理解し、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業では広告主や広告会社の立場から、さまざまな広告計画や広告表現を構想する仕事に具体的なイメージを持てるようになってほしい。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　広告産業と広告取引
第３回　広告会社の組織と業務（１）
第４回　広告会社の組織と業務（２)：CM ディレクターの仕事等
第５回　広告計画の策定と実施（１）市場競争と広告表現（ビール類）
第６回　広告計画の策定と実施（２）ブランドと広告表現・その１（コカ・コーラ）
第７回　広告計画の策定と実施（３）ブランドと広告表現・その２（ナイキ 1）
第８回　広告計画の策定と実施（４）ブランドと広告表現・その３（ナイキ 2）
第９回　広告計画の策定と実施（５）ブランドと広告表現・その４（ユニクロ）
第 10 回 広報・PR の基本概念と歴史（アメリカ・日本における PR の発展）
第 11 回 広報・PR の実務を知る
第 12 回 企業の社会的責任と広報・PR（1）
第 13 回 企業の社会的責任と広報・PR（2）映画鑑賞
第 14 回 授業内レポート
第 15 回 今後の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50270001
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	表現文化論
講義概要	作品表現は、作家の心的イメージや経験、予見が表現されたものであると同時に、社会の人々の経験や意識、願望が凝縮されたものでもある。それは、多くの人に作家自身の思考を広めるとともに、作品に触れる者には自己の心象風景との照合や同一視を起こさせ、新たな経験をもたらす。 社会のなかで「対話や共有の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内課題２回程度。提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	1）さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。 2）今後の社会でアートやデザインの方法を幅広い仕事の世界に活かしていく手立てを学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		

受講者への要望

メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　メディアとしての芸術・デザイン
第３回　コミュニケーションとしての作品表現（１）：さまざまなコミュニケーション・モデルと作品表現
第４回　コミュニケーションとしての作品表現（２）：アーティストとオーディエンス（観客・読者・ファン）
第５回　メディアが現実・経験をつくる：芸術社会学の見方／メディア表現のメカニズム
第６回　課題の発表とコメント（１）
第７回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B）
第８回　ポピュラーカルチャーとは何か（１）：「ブリコラージュ」としてのヒップホップ
第９回　ポピュラーカルチャーとは何か（２）：ゴスペル、ブルース、ジャズから現代の R&B へ
第 10 回　社会における相互行為を通じた感情の共有：「ノスタルジー」と作品表現
第 11 回　課題の発表とコメント（２）
第 12 回　社会の中のアート、デザイン（１）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究１
第 13 回　社会の中のアート、デザイン（２）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究２
第 14 回　社会の中のアート、デザイン（３）：アートやデザインの創造性やスキルを社会運営に活かす
第 15 回　最終課題の発表とコメント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J50270002
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	表現文化論
講義概要	作品表現は、作家の心的イメージや経験、予見が表現されたものであると同時に、社会の人々の経験や意識、願望が凝縮されたものでもある。それは、多くの人に作家自身の思考を広めるとともに、作品に触れる者には自己の心象風景との照合や同一視を起こさせ、新たな経験をもたらす。 社会のなかで「対話や共有の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内課題２回程度。提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	1）さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。 2）今後の社会でアートやデザインの方法を幅広い仕事の世界に活かしていく手立てを学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		

受講者への要望

メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　メディアとしての芸術・デザイン
第３回　コミュニケーションとしての作品表現（１）：さまざまなコミュニケーション・モデルと作品表現
第４回　コミュニケーションとしての作品表現（２）：アーティストとオーディエンス（観客・読者・ファン）
第５回　メディアが現実・経験をつくる：芸術社会学の見方／メディア表現のメカニズム
第６回　課題の発表とコメント（１）
第７回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B）
第８回　ポピュラーカルチャーとは何か（１）：「ブリコラージュ」としてのヒップホップ
第９回　ポピュラーカルチャーとは何か（２）：ゴスペル、ブルース、ジャズから現代の R&B へ
第 10 回　社会における相互行為を通じた感情の共有：「ノスタルジー」と作品表現
第 11 回　課題の発表とコメント（２）
第 12 回　社会の中のアート、デザイン（１）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究１
第 13 回　社会の中のアート、デザイン（２）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究２
第 14 回　社会の中のアート、デザイン（３）：アートやデザインの創造性やスキルを社会運営に活かす
第 15 回　最終課題の発表とコメント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J50276001
科目名	雑誌編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Magazine Edit Practice		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	
講義概要	受講者全員参加の雑誌「京都学園大学マガジン（仮称）」を、企画、取材、原稿作成、レイアウトといった手順を踏みつつ、期末に完成させる。受講者＝編集部員。それぞれの興味や関心をまとめあげ、文章や写真、イラストなどで誌面に表現していく。編集作業には、責任を持って必ずやらなければならない課題や、シビアな〆切、チームワークなど、煩雑なことがいっぱいつきまとうが、それだけに完成したときの喜びは格別なもの。その喜びを共に味わいたい。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	平常点 40%。課題提出 60%。		
到達目標	雑誌づくりの基礎を理解する。		
準備学習	日々雑誌に関心を持ち親しんでおくこと。		

受講者への要望

自分の得意なモノ・コトを雑誌づくりのなかで存分に発揮してほしい。

講義の順序とポイント

1. 雑誌編集とは？
2. 雑誌編集の流れ
3. 企画が命！　自分は何がしたい？
4. 編集会議（企画決定！）
5. 情報収集と取材
6. レイアウトの基礎
7. 取材１　その方法
8. 取材２　取材体験
9. 原稿１　作成
10. 原稿２　タイトルなどを決定
11. 素材（原稿・写真 etc）整理
12. レイアウト作業
13. 校正
14. 製本→完成
15. 編集会議（反省と次への展望）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J50276002
科目名	雑誌編集実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Magazine Edit Practice		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	
講義概要	受講者全員参加の雑誌「京都学園大学マガジン（仮称）」を、企画、取材、原稿作成、レイアウトといった手順を踏みつつ、期末に完成させる。受講者＝編集部員。それぞれの興味や関心をまとめあげ、文章や写真、イラストなどで誌面に表現していく。編集作業には、責任を持って必ずやらなければならない課題や、シビアな〆切、チームワークなど、煩雑なことがいっぱいつきまとうが、それだけに完成したときの喜びは格別なもの。その喜びを共に味わいたい。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	平常点 40%。課題提出 60%。		
到達目標	雑誌づくりの基礎を理解する。		
準備学習	日々雑誌に関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
自分の得意なモノ・コトを雑誌づくりのなかで存分に発揮してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌編集とは？ 2. 雑誌編集の流れ 3. 企画が命！　自分は何がしたい？ 4. 編集会議（企画決定！） 5. 情報収集と取材 6. レイアウトの基礎 7. 取材１　その方法 8. 取材２　取材体験 9. 原稿１　作成 10. 原稿２　タイトルなどを決定 11. 素材（原稿・写真 etc）整理 12. レイアウト作業 13. 校正 14. 製本→完成 15. 編集会議（反省と次への展望）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J50281001
科目名	子どもの社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Child's Sociology		
担当者名	野村　洋平	旧科目名称	
講義概要	子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。 子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。 しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。 子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。		
教材（テキスト）	使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介していく。		
教材（その他）	講義時に数回、DVD やビデオを使用する。また、文学作品も積極的に使用していく。		
評価方法	平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全３回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 試験（60%）：試験は、講義内容を踏まえた上で自身の意見を論じる論述形式の試験とする。 ※小レポートを２回以上提出していない場合、試験を受けても採点の対象としない。		
到達目標	「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。		
準備学習	日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについての DVD、ビデオ、文学作品などを見てレポートを作成していくことになるが、その他授業内で適宜紹介する、子どもに関するの社会問題を取り扱った新聞記事、文学や映画等を準備学習として学び、レポートおよび試験に反映させられるようにしておくこと。		
受講者への要望			
自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを取ってほしい。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序】 1．導入（この授業について）、現代社会における子どもに関わる問題 2．子どもとは何か、子どもと大人 3．子どもと社会（1）：子どもと大人の違い、映像資料鑑賞→小レポート提出 4．子どもと社会（2）　：社会の中で「子ども」はどのように捉えられてきたか 5．子どもと社会（3）　：子どもはどのように社会に入っていくのか 6．子どもと社会（4）：子どもの遊びと社会との関連 7．子どもの「苦悩」の経験（1）：学校における人間関係、映像資料鑑賞→小レポート提出 8．子どもの「苦悩」の経験（2）　：いじめ現象の社会的背景			

9．子どもの「苦悩」の経験（3） ：いじめ研究の概略
10．子どもの「苦悩」の経験（4）：いじめのメカニズムと子どもの苦悩
11．子どもの生命感について（1）：現代の家族における子どもの位置、映像資料鑑賞①（12 回目と連続）
12．子どもの生命感について（2）：子どもの生命感のありか、映像資料鑑賞②（11 回目と連続）→小レポート提出
13．子どもの生命感について（3）：現代社会における家族と子どもの問題
14．子どもの生命感について（4） ：学校教育における子どもの生命感の扱い方
15．子どもの社会学の可能性について：子どもの生命感から見た子どもと大人の違い

※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。
※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。

【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】
1～2 については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。
3～6 については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。
7～10 については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。
11～14 については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。
15 において、これまでの講義を振り返りながら、子どもの社会学の今後の可能性について、他の学問分野や社会現象との関連において考える。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50282001
科目名	思考心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Thinking		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考のメカニズムに対する，認知心理学的研究に関する講義を行う。推論、判断、意思決定などの分野を取り上げ、その認知過程に関する心理学理論と、関連する心理学実験を紹介する。また人間の思考のさまざまな性質を踏まえて、批判的思考を行うためのポイントやトレーニング方法なども取り上げる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	授業時間内小テスト(20%)，毎週の小レポート(40%)，学期末試験(40%)を総合して評価する。		
到達目標	人間の思考の性質，日常場面での推論・意思決定などの仕組みについての心理学理論を理解する。 批判的思考をするためのポイントを理解し，批判的思考の態度を身につける。		
準備学習	毎回の授業で，学習した内容の理解を確認しそれをより深めるため，小レポートを出題する。必ず解答して，指定期日までに提出すること。また，授業の初めに前回までの内容の確認テストを行うので，しっかりと復習をして次回の授業の臨むこと。		

受講者への要望

授業では，学習内容を考えるための思考問題を皆で解き，それをもとに人間の思考の性質についての検討を進める。問題に積極的に取り組むとともに，各自の意見を授業中に活発に表明して欲しい。
毎回授業の最初に，学習内容の要点を確認するため小テストを実施する。また，各回の学習を深めるための小レポートを出題する。これらへの積極的な取り組みを期待する。

講義の順序とポイント

1. 思考の仕組みを考える視点
2. 日常的推論と論理的推論
3. 日常的推論を支える思考の仕組み，思考の 2 重過程理論
4. 思考のバイアスとヒューリスティックス(1)
5. 思考のバイアスとヒューリスティックス(2)
6. 思考のバイアスとヒューリスティックス(3)
7. 思考のバイアスとヒューリスティックス(4)
8. 判断と意思決定(1)
9. 判断と意思決定(2)
10. 因果関係の推論(1)
11. 因果関係の推論(2)
12. 批判的思考(1)
13. 批判的思考(2)
14. 批判的思考(3)
15. 全体の復習と思考研究の視点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J5028300A
科目名	思考心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology of Thinking		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	認知心理学領域の心理学実験の実習を行う。授業では 3 個程度の実験課題を予定している。各実験について，実験材料の準備，実験実施によるデータ収集，データの分析をおこない，報告書を作成する。これらを通して，認知心理学的な実験手法の基礎を身につけて欲しい。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する。		
評価方法	授業への参加状況に基づく日常点（60%），実験レポート（40%）を総合して評価する。		
到達目標	実験心理学的研究に対する理解を深めるとともに，実験法の基礎と実験報告書の作成方法を習得する。		
準備学習	毎回の授業で，次回までの課題を指示するので，確実に行って次回の授業に参加すること。 課題の内容は，関連文献を読む，実験材料の作成，データ収集，実験レポートの作成等であり，実験課題の進行に応じて指示する。		

受講者への要望

授業に積極的に参加し，実験によって人間の思考の性質を探る楽しさを感じて欲しい。
授業時間は実験の立案や準備，結果の分析等が中心となるので，授業外の時間にも実験を行う必要がある。

講義の順序とポイント

1. 心理学研究における実験の役割
2. 実験計画立案のポイント，実験報告書の作成の仕方
3.PC を用いた実験制御(1)
4. PC を用いた実験制御(2)
5. PC を用いた実験制御(3)
6. PC を用いた実験制御(4)
7. 記憶の実験(1)
8. 記憶の実験(2)
9. 記憶の実験(3)
10. 記憶の実験(4)
11. 思考過程に関する実験(1)
12. 思考過程に関する実験(2)
13. 思考過程に関する実験(3)
14. 思考過程に関する実験(4)
15. 研究報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50290001
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）	Qualitative Social Research Methods		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	質的調査は他者理解の優れた方法のひとつです。調査者が調査される人々とコミュニケーションを取りながら、その内側に入って行き、その豊かな世界を共に味わうことができるからです。とはいうものの、質的調査の作品は文学作品ではありませんから、どこかで客観性が担保されなければなりません。本講義では社会科学の方法論としての質的調査のあり方を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査を実施しそれを作品に仕上げるまでの具体的な方法についても教授します。受講生の皆さんは実際に調査を行い、その成果を作品として提出しなければなりません。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	提出物（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	質的調査を実施し,それを作品に仕上げる。		
準備学習	他者への感受性をあげておく。毎回課題が課されるので、それを次回までにしておくこと。		

受講者への要望

提出された作品の評価は、全講義出席の前提のもとに行います。講義を欠席する場合は、その講義の内容を、自分自身でフォローしておくことが必要です。

講義の順序とポイント

１質的調査　質的調査の特徴と代表的な質的調査の方法について概括する
２ライフヒストリー　クラスメイトのライフヒストリーを聞き取り、それを記述する。
３ライフヒストリー　方法論としてのライフヒストリーを考える。
４ライフヒストリー　代表的なライフヒストリーの作品を読む。
５ライフヒストリー　前回の作品をグループ毎に検討し、次の作品へのインタビュー計画を個々に立てる。
６フィールドワーク　人類学的なフィールドワーク方法について概括する。
７フィールドワーク　人類学的手法によるモノグラフを読む。
８フィールドワーク　民俗学的なフィールドワークについて概括する。
９フィールドワーク　民俗学的手法による民族誌を読む。
１０フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画する。
１１聞き手と語り手　インタビュー調査やフィールドワークにおける聞き手と語り手の権力関係について考える。
１２ライフヒストリー作品の作成　インタビュー済みの資料をライフヒストリー作品にまとめる。
１３モノグラフの作成　フィールドで得た資料をモノグラフに記述する。
１４日本におけるフィールドワークの歴史
１５作品合評会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50290002
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）	Qualitative Social Research Methods		
担当者名	永田　貴聖	旧科目名称	
講義概要	この講義では、社会調査、特に、参与観察、当事者関係者へのインタビューなどのフィールドワーク、視聴覚資料などのデータを解釈分析する質的社会調査法の基礎を学習する。質的社会調査を実施するに際して、調査者はある問題や関心に関連する人びとと関係を構築するスキルを求められる。受講生が人びととのコミュニケーションを重視して行われる社会学・文化人類学における社会調査の意義、調査倫理を理解するようにすすめる予定である。本講義では社会科学としての質的社会調査の基礎知識を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査（インタビュー調査、フィールドワーク）を実施し、その成果を提出することを求める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『最強の社会調査入門』前田拓也（著), 秋谷直矩（著), 朴 沙羅（著), 木下 衆（著） 2016 年、ナカニシヤ出版		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および小課題の提出（５０％）レポート提出と内容への評価（５０％)、授業運営への貢献度		
到達目標	授業内で指示した課題を完成させ、提出する。 習得を目指すスキルは次の２つである。 ①参与観察、当事者関係者へのインタビューなどのフィールドワーク、視聴覚資料などのデータを解釈分析する 質的社会調査法の基礎スキル ②調査を実施する際、調査される側の人びとと関係を構築するスキル		
準備学習	・授業において、特にフィールドワーク法、インタビュー法に関連する予習文献・資料を課題として準備するので 、着実に行うこと ・社会学関連科目（社会学入門、家族社会学、コミュニケーション社会学、文化社会学など)、文化人類学関連 科目を同時履修するほうがのぞましい		

受講者への要望

・課題に真剣に取り組むこと
・自身の身近な人間関係内にある出来事と社会でおこっている出来事両方に関心を持つこと

講義の順序とポイント

1 講義概要説明、課題、進め方などについて。
2 近年の社会調査の動向、社会学における質的社会調査、文化人類学におけるフィールド調査
3 社会学における質的社会調査の概要説明
4 これまでの質的社会調査による研究の紹介（社会学）
5 ある個人の社会経験についての調査（ライフヒストリー)、ある個人（クラスメートなど関係者）の特定の経験をインタビューする。
6 ある個人の社会経験についての調査（ライフヒストリー)、ある個人（クラスメートなど関係者）の特定の経験を文章にまとめる。
7 ライフヒストリーの方法論にそって作品を検討する。
8 文化人類学フィールドワークとは？
9 これまでの文化人類学フィールドワーク調査による研究の紹介
10 現代の文化人類学フィールドの変化と研究の変化
11 フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画し実施する。
12 調査する側と調査される側の権力関係と調査倫理
13 フィールドワークで得た資料を記述分析する。
14 前回授業で記述分析したものを民族誌としてまとめる。
15 インタビュー調査、フィールドワークのおさらい、提出物の再検討、受講生同士で疑問点問題点を共有する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50292101
科目名	社会意識論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 この「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、続く「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回、プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、様々な人文研究の考え方や方法を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		
受講者への要望			
授業の主役は、あなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、できれば「社会意識論 A」をとったうえで、さらに「社会意識論 B」も受講するつもりでいてください。ただし、必須ではなく、どちらか一方だけの履修でも結構です。			
講義の順序とポイント			
1・社会意識とは何か 2・意識と無意識について 3・無意識とその表現について 4・夢と願望 5・願望と物語、その 1 6・願望と物語、その 2 7・神話・昔話の心理学的解釈、その 1 8・神話・昔話の心理学的解釈、その 2 9・個人発表、その 1 10・個人発表、その 2 11・個人発表、その 3 12・個人発表、その 4 13・願望・欲望について、再考 14・物語のなかの社会 15・物語のなかの人間と社会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50292201
科目名	社会意識論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、この「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、様々な人文研究の考え方と方法を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		
受講者への要望			
授業の主役はあなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、「社会意識論 A」をとったうえで、この「社会意識論 B」を受講してください。ただし、必須ではなく、この「社会意識論 B」だけの受講でも結構です。			
講義の順序とポイント			
1・社会意識とは何か 2・社会構造と社会意識 3・物語のなかの社会意識 4・物語のなかの無意識的願望 5・社会構造と無意識的願望 6・願望・欲望とその表現、再考 7・物語の分析の方法と実例、その 1 8・物語の分析の方法と実例、その 2 9・個人発表、その 1 10・個人発表、その 2 11・個人発表、その 3 12・個人発表、その 4 13・改めて物語のなかの社会を考える 14・物語のなかの人間と社会、その 1 15・物語のなかの人間と社会、その 2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50304A01
科目名	社会心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology I		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説します。社会心理 I では主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講者への要望

基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
数字は、教科書の章番号を示しています。

第 1 回 概論
第 2 回 感情と記憶
第 3 回 認知心理学の基礎
第 4 回 対人認知
第 5 回 推論
第 6 回 自己概念
第 7 回 自己評価
第 8 回 動機
第 9 回 表情判断
第 10 回 非言語的コミュニケーション
第 11 回 説得的コミュニケーション
第 12 回 態度
第 13 回 マインドコントロール
第 14 回 対人関係
第 15 回 レポート指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50304B01
科目名	社会心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology Ⅱ		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理Ⅱでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講者への要望			
基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　状況の力 第２回　攻撃性と援助行動 第３回　　社会的影響 第４回　　集団の意思決定 第５回　　集団過程 第６回　　リーダーシップ 第７回　　社会的アイデンティティ 第８回　社会的共有認知 第９回　　ジレンマ状況 第 10 回 集合現象 第 11 回 メディア 第 12 回 ネットワーク 第 13 回 インターネット 第 14 回 文化と進化 第 15 回 レポート指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J5030700A
科目名	社会心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Social Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の実験・調査研究をグループまたは個人で行う。具体的には実験者として実験を実施する以外に、実験機材のセッティング、被験者の手配（時間の設定）、結果の分析までの一連の作業が含まれる。実験結果はＳＰＳＳにより統計的に分析する。実験はグループで行った場合も仮説は各自で異なる仮説を立てて、個人レポートを作成する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要な文献、教材は授業中に適宜指示する		
教材（その他）	実験や調査に必要な教材は授業中に供与する		
評価方法	平常点により評価する。作業過程は授業中にディスカッションしながらフォローする		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。加えて、実験参加者に負担を強いるだけの価値を信じる、ある種の「蛮勇」も必要となります。これらのさまざまな力を身につけることが目標となります。		
準備学習	授業時間中に実験を計画し質問紙の作成などを行う。実験や調査、質問紙は授業時間内に実施できない場合が多い。適宜、調査対象者が得られる機会に実験調査を行うことになる。それに要した時間も評価に加える。		

受講者への要望

実験実施に成功するか失敗するかではなく、その過程を評価対象とする。
失敗を恐れずに実験に挑戦していただきたい。

講義の順序とポイント

１．　概論
２．　研究テーマディスカッション
３．　研究テーマ発表
４．　文献検索
５．　方法論ディスカッション
６．　実験計画ディスカッション
７．　実験計画発表
８．　実験準備
９．　実験準備
１０．実験実施
１１．実験実施
１２．分析
１３．分析
１４．発表
１５．発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50310001
科目名	社会調査法	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Research Methods		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項のほか、調査設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目、【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）		
到達目標	社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と練習問題(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. インタビュー
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と練習問題(2)

《IV 量的調査の設計と実施》
16. 調査票調査のための事前知識など
17. 調査票調査の概要
18. 問題・概念・仮説
19. 調査票の作り方(1)：ワーディング
20. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
21. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
22. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標

23. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
24. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
25. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
26. 調査データの整理：エディティング、コーディング
27. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
28. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
29. 復習と練習問題(3)

《V 質的調査の設計と実施》
30. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50311001
科目名	社会病理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Pathology		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	基本的には課題レポート（50%）と試験（50%）による総合評価によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		

受講者への要望

社会学系科目の既習が望ましいが、未履修の学生はとりわけ継続的に講義に出席することが不可欠である。
参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。
その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。
授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。

当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。
退室は特段の事情がない限り認めない。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など）
2.イデオロギーの磁場としての社会
3.社会病理学の方法論
4.『愛を乞う人』鑑賞
5.事例研究：児童虐待①
6.事例研究：児童虐待②
7.「家族愛」の発見
8.「近代家族」の形成

9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.論文提出(＋検証テスト)
16.事例研究：「まなざしの地獄」
17.ラベリング論
18.グループワーク：いじめ問題
19.狂気①
20.狂気②
21.『17 歳のカルテ』鑑賞
22.【レポート課題指導】③
23.事例研究：自殺①
24.事例研究：自殺②
25.デュルケイム『自殺論』
26.自殺データから見る現代日本
27.若者の「労働」問題
28.若者の「貧困」問題
29.ディスカッション（『貧困のなかでおとなになる』より）
30.社会病理学から学べること、学べないこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50311002
科目名	社会病理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Pathology		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	基本的には課題レポート（100%）によって成績を判定するが、授業中に検証テストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		

受講者への要望

社会病理学Ⅱを受講することを履修の条件とする。

参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。
その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。
授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。

当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。
退室は特段の事情がない限り認めない。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など）
2.イデオロギーの磁場としての社会
3.社会病理学の方法論
4.『愛を乞う人』鑑賞
5.事例研究：児童虐待①
6.事例研究：児童虐待②
7.「家族愛」の発見

8.「近代家族」の形成
9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.論文提出(＋検証テスト)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50313A01
科目名	社会病理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Pathology I		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	基本的には課題レポート（100%）によって成績を判定するが、授業中に検証テストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		

受講者への要望

社会病理学 II を受講することを履修の条件とする。

参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。
その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。
授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。

当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。
退室は特段の事情がない限り認めない。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など）
2.イデオロギーの磁場としての社会
3.社会病理学の方法論
4.『愛を乞う人』鑑賞
5.事例研究：児童虐待①
6.事例研究：児童虐待②
7.「家族愛」の発見

8.「近代家族」の形成
9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.論文提出(＋検証テスト)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50313B01
科目名	社会病理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Pathology Ⅱ		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	講義内に実施する検証テスト（１００％）によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	１）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 ２）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 ３）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		
受講者への要望			
社会病理学Ⅰの履修が不可欠である。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。 当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。			
講義の順序とポイント			
1.事例研究：「まなざしの地獄」① 2.事例研究：「まなざしの地獄」② 3.ラベリング論 4.グループワーク：いじめ問題 5.狂気① 6.狂気② 7.『17 歳のカルテ』鑑賞			

8.【レポート課題指導】③
9.事例研究：自殺①
10.事例研究：自殺②
11.デュルケイム『自殺論』
12.自殺データから見る現代日本
13.若者の「労働」問題
14.若者の「貧困」問題
15.検証テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	–	–	★★	–

年度	2017	授業コード	J50318A01
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんと考えたい。社会福祉論Ⅰでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	テキストはなし。 テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
教材（参考文献）	教材（参考文献） 「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011）		
教材（その他）	その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、　出席を重視。		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。　現在、世間で起こっている社会福祉の問題を題材に取り上げ、授業を進めていきます。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　障がいを持って生きるということ
３　社会保障と社会福祉①
４　社会保障と社会福祉②
５　社会保障・社会福祉の動向
６　社会保障制度の諸問題①
７　社会保障制度の諸問題②
８　ゲストスピーカーの講義①
９　社会保障制度の諸問題③
１０　社会保障制度の諸問題④
１１　ゲストスピーカーの講義②

１２　社会福祉制度の諸問題①
１３　社会福祉制度の諸問題②
１４　社会福祉制度の諸問題③
１５　社会福祉制度の諸問題④

※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50318A02
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんと考えたい。社会福祉論Ⅰでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	テキストはなし。 テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
教材（参考文献）	教材（参考文献） 「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011）		
教材（その他）	その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、　出席を重視。		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。　現在、世間で起こっている社会福祉の問題を題材に取り上げ、授業を進めていきます。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　障がいを持って生きるということ
３　社会保障と社会福祉①
４　社会保障と社会福祉②
５　社会保障・社会福祉の動向
６　社会保障制度の諸問題①
７　社会保障制度の諸問題②
８　ゲストスピーカーの講義①
９　社会保障制度の諸問題③
１０　社会保障制度の諸問題④
１１　ゲストスピーカーの講義②

１２　社会福祉制度の諸問題①
１３　社会福祉制度の諸問題②
１４　社会福祉制度の諸問題③
１５　社会福祉制度の諸問題④

※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50318B01
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、ノーマライゼーション、バリアフリー、障害者運動及び自立生活の展開、虐待など、高齢者・障害者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんとともに考えたい。社会福祉論Ⅱでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	テキストはなし。 テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
教材（参考文献）	「障害者福祉の世界」（第５版）　佐藤久夫・小澤温　有斐閣アルマ（2016 年） 「社会福祉記事ワークブック」　松井圭三・今井慶宗　大学教育出版（2016 年）		
教材（その他）	その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、　出席を重視。		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。　現在、世間で起こっている社会福祉の問題を題材に取り上げ、授業を進めていきます。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　障害者福祉の諸問題①　障害者差別
３　障害者福祉の諸問題②　障害者運動の展開
４　障害者福祉の諸問題③　バリアフリーとまちづくり
５　障害者福祉の諸問題④　障害者運動の到達点
６　障害者福祉の諸問題⑤　障害者の恋愛と性
７　障害者福祉の諸問題⑥　優性思想と強制不妊手術
８　ゲストスピーカーの講義①
９　障害者福祉の諸問題⑦　障害者の就労①
１０ 障害者福祉の諸問題⑧　障害者の就労②
１１ ゲストスピーカーの講義②
１２　高齢者福祉の諸問題①介護保険制度
１３　高齢者福祉の諸問題②介護問題
１４　高齢者福祉の諸問題③貧困

１５　高齢者福祉の諸問題④その他

※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50318B02
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、ノーマライゼーション、バリアフリー、障害者運動及び自立生活の展開、虐待など、高齢者・障害者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんとともに考えたい。社会福祉論Ⅱでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	テキストはなし。 テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
教材（参考文献）	「障害者福祉の世界」（第５版）　佐藤久夫・小澤温　有斐閣アルマ（2016 年） 「社会福祉記事ワークブック」　松井圭三・今井慶宗　大学教育出版（2016 年）		
教材（その他）	その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、　出席を重視。		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。　現在、世間で起こっている社会福祉の問題を題材に取り上げ、授業を進めていきます。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　障害者福祉の諸問題①　障害者差別
３　障害者福祉の諸問題②　障害者運動の展開
４　障害者福祉の諸問題③　バリアフリーとまちづくり
５　障害者福祉の諸問題④　障害者運動の到達点
６　障害者福祉の諸問題⑤　障害者の恋愛と性
７　障害者福祉の諸問題⑥　優性思想と強制不妊手術
８　ゲストスピーカーの講義①
９　障害者福祉の諸問題⑦　障害者の就労①
１０ 障害者福祉の諸問題⑧　障害者の就労②
１１ ゲストスピーカーの講義②
１２　高齢者福祉の諸問題①介護保険制度
１３　高齢者福祉の諸問題②介護問題
１４　高齢者福祉の諸問題③貧困

１５　高齢者福祉の諸問題④その他

※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50321001
科目名	社会問題論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	人々の生活と心理に大きな影響を与える現代社会の諸側面、特にその問題点について講じる。個人の心理をよりよく理解するためには、その個人が生きている社会の実情･問題点を把握しておくことが必要である。この講義ではそれらについて講義する。 また、それらの理解に役立つので、その時々の時事問題についても解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代日本社会の問題について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2．経済的格差と貧困
3．子どもの貧困
4．母子家庭の経済的弱者性
5．非正規雇用
6．少子高齢化
7．医療制度
8．健康保険制度
9．財政
10．税制
11．食糧自給率
12．食品添加物
13．グローバリゼーション
14．監視社会・管理社会
15．現代社会についての考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50321002
科目名	社会問題論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	人々の生活と心理に大きな影響を与える現代社会の諸側面、特にその問題点について講じる。個人の心理をよりよく理解するためには、その個人が生きている社会の実情･問題点を把握しておくことが必要である。この講義ではそれらについて講義する。 また、それらの理解に役立つので、その時々の時事問題についても解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代日本社会の問題について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2．経済的格差と貧困
3．子どもの貧困
4．母子家庭の経済的弱者性
5．非正規雇用
6．少子高齢化
7．医療制度
8．健康保険制度
9．財政
10．税制
11．食糧自給率
12．食品添加物
13．グローバリゼーション
14．監視社会・管理社会
15．現代社会についての考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50326001
科目名	宗教社会学	単位数	4
科目名（英語表記）	Sociology of Religion		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近代化と呼ばれる社会の変化ゆえの宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教が社会の変化に応じてその都度出現してきたことを明らかにする。第１に、日本の近代化の初期に「新宗教」の原型とみなされるような「教派神道」が、幕藩体制から立憲君主制への転換期に、どのように成立したのかを明らかにする。第２に、資本主義経済が民衆層にまで浸透する時期に、教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言した新宗教がどのように成立したかも明らかにする。その上で、現代社会において、「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が犯罪に踏み切る一方、自己の聖化を模索する「新霊性運動」が多種多様に展開していることを明らかにする。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房		
教材（その他）	各教団の教義書やビデオを資料として利用。 現代の宗教現象についてのテレビ番組や新聞記事のコピーも資料として配布。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
準備学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講者への要望			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームに偏りのない関心をもち、事実に即して考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における「教派神道」の出現 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　教祖崇拝の展開 ６　「生命主義的救済観」の形成 ７　新宗教の組織化 ８　明治大正期における宗教革新 ９　開祖と後継者の協力と葛藤 １０　新宗教と国民国家の緊張 １１　新宗教から「新新宗教」へ １２　「スピリチュアリティ」の追求 １３　「カルト」の台頭 １４　合理主義の復権 １５　私たちの宗教参加			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50330A01
科目名	宗教社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion A		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、宗教社会学における宗教の基本的な捉え方である「世俗化」を踏まえつつ、近年一部の地域や階層でみられる「宗教復興」について考える。発展途上国においては、急速な近代化を達成するための社会統合の手段として、伝統宗教が利用されることが多い。しかし近年は、信仰の個人化が進む先進国においても、伝統宗教がマスメディアやソーシャルメディアを通して再発見され、現代の社会生活にも役立つような方法で、若者にも実践され始めている。本講義では、欧米や中東におけるキリスト教やイスラームの衰退と復興に言及しながらも、日本における神道や仏教の衰退と復興を中心に考察するつもりである。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房		
教材（その他）	『一冊でわかるイラストでわかる　図解宗教史』成美堂出版、2008 年。 ＮＨＫテレビの関連番組を録画したもの。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	伝統宗教が現代のグローバル社会において、どのように受け入れ直されているかを把握する。		
準備学習	日本史や世界史における宗教についての記述や現在の宗教に関わるニュースに目を通しておく。		
受講者への要望			
すでに日本の生活習慣にも溶け込んでいる伝統宗教の教えや習慣に気づき、現代の社会生活にも役立てるために、どのように解釈し直し、どのような方法で実践すればよいかを考えてほしい。			
講義の順序とポイント			
１　春学期の目標と計画 ２　「世俗化」と「宗教復興」 ３　「軸の時代」における「世界宗教」の成立 ４　イスラームの台頭 ５　キリスト教の宗教改革と世俗化 ６　上座仏教と大乗仏教 ７　儒教と道教 ８　日本の伝統宗教としての神道 ９　国家神道の形成と衰退 １０　日本の伝統宗教としての大乗仏教 １１　檀家制度の成立と残骸 １２　民俗宗教の繁栄と衰退 １３　現代社会における仏教ブーム １４　伝統宗教の社会的役割 １５　宗教伝統の再構成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50330A02
科目名	宗教社会学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion A		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、宗教社会学における宗教の基本的な捉え方である「世俗化」を踏まえつつ、近年一部の地域や階層でみられる「宗教復興」について考える。発展途上国においては、急速な近代化を達成するための社会統合の手段として、伝統宗教が利用されることが多い。しかし近年は、信仰の個人化が進む先進国においても、伝統宗教がマスメディアやソーシャルメディアを通して再発見され、現代の社会生活にも役立つような方法で、若者にも実践され始めている。本講義では、欧米や中東におけるキリスト教やイスラームの衰退と復興に言及しながらも、日本における神道や仏教の衰退と復興を中心に考察するつもりである。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房		
教材（その他）	『一冊でわかるイラストでわかる　図解宗教史』成美堂出版、2008 年。 ＮＨＫテレビの関連番組を録画したもの。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	伝統宗教が現代のグローバル社会において、どのように受け入れ直されているかを把握する。		
準備学習	日本史や世界史における宗教についての記述や現在の宗教に関わるニュースに目を通しておく。		
受講者への要望			
すでに日本の生活習慣にも溶け込んでいる伝統宗教の教えや習慣に気づき、現代の社会生活にも役立てるために、どのように解釈し直し、どのような方法で実践すればよいかを考えてほしい。			
講義の順序とポイント			
１　春学期の目標と計画 ２　「世俗化」と「宗教復興」 ３　「軸の時代」における「世界宗教」の成立 ４　イスラームの台頭 ５　キリスト教の宗教改革と世俗化 ６　上座仏教と大乗仏教 ７　儒教と道教 ８　日本の伝統宗教としての神道 ９　国家神道の形成と衰退 １０　日本の伝統宗教としての大乗仏教 １１　檀家制度の成立と残骸 １２　民俗宗教の繁栄と衰退 １３　現代社会における仏教ブーム １４　伝統宗教の社会的役割 １５　宗教伝統の再構成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50330B01
科目名	宗教社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近代化と呼ばれる社会の変化ゆえの宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教が社会の変化に応じてその都度出現してきたことを明らかにする。第１に、日本の近代化の初期に「新宗教」の原型とみなされるような「教派神道」が、幕藩体制から立憲君主制への転換期に、どのように成立したのかを明らかにする。第２に、資本主義経済が民衆層にまで浸透する時期に、教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言した新宗教がどのように成立したかも明らかにする。その上で、現代社会において、「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が犯罪に踏み切る一方、自己の聖化を模索する「新霊性運動」が多種多様に展開していることを明らかにする。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房		
教材（その他）	各教団の教義書やビデオを資料として利用。 現代の宗教現象についてのテレビ番組や新聞記事のコピーも資料として配布。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割）、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割）、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
準備学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講者への要望			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームに偏りのない関心をもち、事実に即して考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における「教派神道」の出現 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　教祖崇拝の展開 ６　「生命主義的救済観」の形成 ７　新宗教の組織化 ８　明治大正期における宗教革新 ９　開祖と後継者の協力と葛藤 １０　新宗教と国民国家の緊張 １１　新宗教から「新新宗教」へ １２　「スピリチュアリティ」の追求 １３　「カルト」の台頭 １４　合理主義の復権 １５　私たちの宗教参加			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50330B02
科目名	宗教社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近代化と呼ばれる社会の変化ゆえの宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教が社会の変化に応じてその都度出現してきたことを明らかにする。第１に、日本の近代化の初期に「新宗教」の原型とみなされるような「教派神道」が、幕藩体制から立憲君主制への転換期に、どのように成立したのかを明らかにする。第２に、資本主義経済が民衆層にまで浸透する時期に、教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言した新宗教がどのように成立したかも明らかにする。その上で、現代社会において、「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が犯罪に踏み切る一方、自己の聖化を模索する「新霊性運動」が多種多様に展開していることを明らかにする。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房		
教材（その他）	各教団の教義書やビデオを資料として利用。 現代の宗教現象についてのテレビ番組や新聞記事のコピーも資料として配布。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割）、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割）、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
準備学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講者への要望			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームに偏りのない関心をもち、事実に即して考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における「教派神道」の出現 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　教祖崇拝の展開 ６　「生命主義的救済観」の形成 ７　新宗教の組織化 ８　明治大正期における宗教革新 ９　開祖と後継者の協力と葛藤 １０　新宗教と国民国家の緊張 １１　新宗教から「新新宗教」へ １２　「スピリチュアリティ」の追求 １３　「カルト」の台頭 １４　合理主義の復権 １５　私たちの宗教参加			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50333A01
科目名	宗教民俗学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore I		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	本講義では、暮しの中にとけこみ、私達の生活習慣や思想の基盤となっている民間信仰について学んでいきます。民間信仰とは、神職や僧侶などの宗教者から離れ、民間のみで行われている宗教現象を指すといわれています。この民間信仰は、祭礼・年中行事、人生儀礼を主とし、生活の基盤となる生業や衣食住にも反映されています。 また、この民間信仰は、あらゆる宗教を吸収し、各地域の伝統文化に影響を与えながら独特な展開をみせます。その基礎となる組織として宮座や講が挙げら、これらの動向をみることにより該当地域の信仰形態の一端を知ることができます。しかし、そのためには各地域の歴史も知る必要性があります。この本講義では民間信仰の歴史も踏まえながら、日本人の宗教観、すなわち日本の民俗宗教について一緒に探っていければと思います。		
教材（テキスト）	特に指定はしません。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考文献）	宮家準『宗教民俗学への招待』（丸善ライブラリー） 宮家準『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫） 福田アジオほか編『日本民俗大辞典』（吉川弘文館） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教材（その他）	各講義のテーマに関する映像を用います。		
評価方法	平常点（講義中の態度含む）と最終講義のレポートを重視します。また、講義中に小テストも実施します。最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	受講者のゆかりのある地域の信仰、歴史、伝統文化に興味を持ち、自らの手で調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。これらを知ることは人生の糧となります。		
準備学習	今までで聞いたことのない用語や難解な事例が出てきます。分からない場合は記録し、自ら調べるという姿勢を望みます。また、各自が今まで見てきた、体験してきた事例は貴重な資料となりますので、まとめておくと役に立つでしょう。		
受講者への要望			
京都という町にある大学ですから、各神社や寺院に参拝、様々なお祭りをみる機会があります。また、古文書などの史料や文化財と触れることができる貴重な場所です。積極的に京都という地域を体験してください。			
講義の順序とポイント			
１、宗教民俗学とは何か ２、宗教の種類と民間宗教の研究方法 ３、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅰ（古代） ４、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅱ（中世） ５、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅲ（近世） ６、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅳ（近代） ７、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅴ（現代） ８、神道と民俗宗教 ９、仏教と民俗宗教 １０、山岳信仰－修験道 １１、シャーマニズムの世界 １２、俗信の世界 １３、京都の民間信仰と研究者 １４、日本人の原風景－風土論 １５、まとめ－日本人と宗教			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50333B01
科目名	宗教民俗学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore Ⅱ		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	この講義では、日本固有の宗教である神道について学びます。「神道とは？」と尋ねられ、明快な回答はできるでしょうか。これは研究者の中でも難解な問題の一つです。神道は自然崇拝から派生したといわれ、日本人の生活の中の宗教として捉えられています。しかし、神道をどう捉えるのかと考えは、時代によって大きく変化しています。また、どの部分に焦点をあてるのかによってみえてくる姿も違い、場合によっては全く捉えどころのない宗教となります。そこで、本講義では、あらゆる学問がみる「神道とは何か？」ということを時間をかけてみていきます。		
教材（テキスト）	阪本是丸・石井研士編『プレステップ神道学』（弘文堂）。 プリント類は各回の講義のみ配布します。		
教材（参考文献）	『国史大辞典』（吉川弘文館） 宮地直一・佐伯有義監修『神道大辞典』（平凡社）（縮刷版：臨川書店） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 國學院大學日本文化研究所編『神道要語集』全五巻（國學院大學日本文化研究所） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教材（その他）	各講義のテーマに関した映像を用います。		
評価方法	平常点（講義中の態度含む）と最終講義のレポートを重視します。また、講義中に小テストも実施します。 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	宗教民俗学Ⅰと同様に、自らの手で神社や祭礼を調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。 そして、私達の遠祖の思いがこもった神道について考えてください。		
準備学習	できるだけ、神社に参拝に行く、お祭りを見るという体験をして下さい。 今は「観光」という目的で様々なメディアで「神道」、「神社」が伝えられることが多くなりました。 大きく変貌しようとするのか、伝統を維持するのか、自分の目で確認して下さい。		
受講者への要望			
京都には、朝廷とつながりのある神社、民衆が支える神社、神仏習合色の濃い神社、摩訶不思議な神社など色々あります。目の前に貴重な資料があります。直接、見て体験してください。			
講義の順序とポイント			
１、神道とは何か ２、神社とは何か ３、神道と神話－神代の時代－ ４、神道と歴史Ⅰ（古代） ５、神道と歴史Ⅱ（中世） ６、神道と歴史Ⅳ（近世） ７、神道と歴史Ⅴ（近代） ８、神道と歴史Ⅵ（現代） ９、神道と祭礼（春） １０、神道と祭礼（夏） １１、神道と祭礼（秋） １２、神道と祭礼（冬） １３、Japanologist たちがみた神道 １４、式年遷宮－継承のこころ １５、まとめ－日本人の宗教・神道			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50337001
科目名	出版文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Publication and Culture		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	
講義概要	出版メディアの歴史を把握した上で、現代の出版文化を考察します。出版社・取次・書店という各プレイヤーの関係性、再販制・委託販売制といった取引上のしくみ、コンビニエンスストア・新古書店・オンライン書店・電子書籍の登場など読書を取り巻く環境の変化等、出版メディアの生産・流通・消費におけるさまざまな動向を紹介します。そして電子出版など新たな動向がこれからの社会をどのように変革していくのかをみなさんと共に考えます。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	川井良介編『出版メディア入門(第２版)』（日本評論社）、 ISBN:978-4535586161		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	出版文化の歴史に関する基礎知識を習得し、出版コンテンツの未来を考える力を育成する。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		
受講者への要望			
新聞、雑誌、インターネットなどのメディアに目を通し、出版メディアの動向を意識的に把握してほしい。 遅刻・私語は厳に慎むこと。			
講義の順序とポイント			
1.メディアとは 2.出版メディアの概念と特性 3.出版メディアの歴史（１） 4.出版メディアの歴史（２） 5.書籍 6.雑誌 7.出版の電子化と電子書籍（１） 8.出版の電子化と電子書籍（２） 9.図書館と電子書籍 10.出版社 11.出版流通と販売 12.電子書籍と個人出版 13.表現自由と出版倫理 14.著作権と出版 15.読書と読者 （備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50340A01
科目名	書道（書写を含む）A 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Calligraphy A (The Transcript is Include d)		
担当者名	西尾　利香	旧科目名称	
講義概要	楷書の基礎・基本およびそれに調和する仮名を重視した技法習得を中心とする。 書写の学習では、正しく整えて読みやすく書くことが重要である。本講では毛筆を中心に用い、半紙や画仙紙等に書写することで技法を習得し、その学習の成果を日常生活のさまざまな書写場面で生かしていくとともに、創作や鑑賞を加えることにより、創造的な理解力の基礎を育成することを目的とする。また楷書から他の書体へ段階的に移行できるよう、書写力の定着と応用をはかる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、授業内自作作品発表、解説等による。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課す課題(25%)により評価する。		
到達目標	1. 現代社会における手書き文字の重要性を理解する。 2. 用具・用材の扱い、基本点画・用筆について理解し、実際に書ける能力を獲得する。 3. 書写の基本的な学習法を身につけ、意欲的に取り組む態度を養う。 4. 書写における実用性と芸術性を高めるために、創作を通し創造する喜びを体得する。 5. 書作品の鑑賞を通し、異文化の理解・交流を深める。		
準備学習	各講義終了時に次の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また講義の最初に前回授業内容に係る代表者による作品についての発表を課するので、準備をしておくこと。		

受講者への要望

1.書道は言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って講義に臨むこと。
2.墨を使用する実技科目である。汚れても支障のない服装で出席すること。
3.遅刻及び講義内容に関連しない私語は厳禁とする。
4.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。

講義の順序とポイント

1.はじめに一書写・書道の概要 Aー
2.楷書の特徴(硬筆)
3.楷書の基本点画
4.楷書の種類 1
5.楷書の種類 2
6.実用書
7.楷書に調和する仮名 1（ひらがな）
8.楷書に調和する仮名 2（カタカナ）
9. 季節の書 1
10.季節の書 2
11.漢字仮名交じりの書・創作 1
12.漢字仮名交じりの書・創作 2
13.漢字仮名交じりの書・創作 3
14.作品鑑賞法 A
15.まとめ(春学期に書いた作品を和装本として制作)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J50340B01
科目名	書道（書写を含む）B 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Calligraphy B (The Transcript is Include d)		
担当者名	西尾　利香	旧科目名称	
講義概要	行書の基礎・基本およびそれに調和する細字仮名を重視した技法習得を中心とする。 行書は楷書よりも速く書けるため、記録や伝達に活用できる優れた書体である。また仮名は今日の日常使用文字の過半を占める。しかしそのような実用的な面だけではなく、芸術表現のための要素が多く含まれている。本講では、毛筆を用い書写することで技法を習得し、その培った表現力を基礎に創作へと学習を拡大する。また書写・書道学習に広がりを持たせる上で、板書及び篆刻を加え、毛筆で書く表現とは別の実習を通してその効果を理解する。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、授業内自作作品発表、解説等による。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課す課題(25%)により評価する。		
到達目標	1. 書体の特徴について理解を深め、鑑賞力の向上に努める。 2. 書写・書道の技法を習得し、積極的に活用して表現する態度・能力を養う。 3. 漢字・仮名の成立過程および字源について理解を深める。 4. 漢字と仮名の調和の方法について習熟し、日常生活の書表現の中に積極的に取り入れる態度を確立する。 5. 現代社会の目的・場面等に応じ、情報機器とは異なる手書きの必要性について考察する。		
準備学習	各講義終了時に次の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また講義の最初に前回授業内容に係る代表者による作品についての発表を課するので、準備をしておくこと。		

受講者への要望

1.書道は言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って講義に臨むこと。
2.墨を使用する実技科目である。汚れても支障のない服装で出席すること。
3.遅刻及び講義内容に関連しない私語は厳禁とする。
4.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。

講義の順序とポイント

1.はじめに－書写・書道の概要 B－
2.行書の特徴(硬筆)
3.行書の基本点画
4.行書の創作
5.篆刻
6.仮名・細字の基本 1（平仮名）
7.仮名・細字の基本 2（連綿）
8.漢字仮名交じりの書・創作 1
9.漢字仮名交じりの書・創作 2
10.漢字仮名交じりの書・創作 3
11.季節の書・年賀状
12.季節の書・書初め
13.作品鑑賞法 B
14.板書技法
15.まとめ(秋学期に書いた作品を和装本として制作)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50342A01
科目名	社会調査実習 I	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice I		
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査とはなにかという点を踏まえた上で、本演習では質的調査の方法について学習し、実際にインタビュー調査を行う。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、インタビュー・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。 なお、この授業は、2017 年度・秋学期の「社会調査実習 II（担当・谷岡）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。（他年度の「社会調査実習 II」では不可。）		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、若者へのインタビュー調査を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		
受講者への要望			
1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。 2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。			
講義の順序とポイント			
1、質的調査の概説 2、質的調査の方法・企画 3、質的調査の先行理論、仮説構成 4、質的調査の問い・対象者・トピックの設定 5、インタビュー調査の方法 6、フィールドワークの方法 7、参与観察の方法 8、会話分析・ライフヒストリー分析の方法 9、インタビュー調査・フィールドワークの実施 10、データの整理 11、収集した質的データの分析（1） 12、収集した質的データの分析（2） 13、質的データの読み方・解釈 14、分析結果報告の作成 15、研究成果の報告と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J50342B01
科目名	社会調査実習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice II		
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。質的調査のより発展的な方法を学習した上で、実際に雑誌や新聞記事を材料としたドキュメント分析を経験してもらう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、ドキュメント・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。テーマに関しては、可能な限り春学期の「社会調査実習 I」で扱ったテーマを発展的に分析することを目標とする。 なお、この授業は、2017 年度・春学期の「社会調査実習 I（担当・谷岡）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。（他年度の「社会調査実習 I」では不可。）		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、発展的な技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、新聞記事を材料にしたドキュメント分析を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		

受講者への要望

1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。
2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。

講義の順序とポイント

1、質的調査と量的調査の違い、それぞれの長所と短所
2、内容分析の方法
3、ドキュメント分析の方法
4、新聞・雑誌の読み方
5、映像メディアの読み方
6、新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析法
7、コンピューターを用いた質的データの整理・分析法
8、収集した新聞記事データのコーディング
9、自由回答データのコーディング
10、新聞記事・自由回答データの度数分布、クロス集計
11、新聞記事・自由回答データの分析（1）
12、新聞記事・自由回答データの分析（2）
13、質的データを用いた研究論文の紹介
14、分析結果報告の作成
15、研究成果の報告と討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50346001
科目名	情報サービス論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Services		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	情報サービス概説
講義概要	図書館の情報提供機能を具体化する「情報サービス」について、基礎的な概念、代表的な情報サービス、情報源など、インターネット等のデジタル情報の活用にも着目して概説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	小田光広編著　『情報サービス論』　（日本図書館協会）　ISBN978-4-8204-1211-3		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	図書館司書を目指す学生については、職員採用試験において求められる情報サービスに関する専門知識の獲得、また、広く図書館情報学としての知識を身につけたい学生については、社会人として主体的に情報収集を行い、各人のキャリアアップに寄与することとなるような情報リテラシーの重要性を認識してもらうことを目指す。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

授業での各テーマに関心を持ち、積極的に図書館を利用して、自ら体験することに努めること。
遅刻・私語は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
　情報社会と図書館
2.情報サービスとはなにか
　意義、機関、法的根拠
3.情報サービスの種類・機能①レファレンスサービス
　レファレンスサービスの基本的な概念
4.情報サービスの種類・機能②レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス
　図書館の能動的なサービスであるレフェラル・カレントウェアネスサービスの基本的な概念
5.情報サービスの種類・機能③オンライン,オンディスク検索サービス
　電子メディアを使った検索サービスの基本的な概念
6.情報サービスの種類・機能④その他のサービス
　児童サービスなど利用対象別、図書館のイベント、研修など
7.情報源の種類とコレクション構築
　図書館で提供する情報源の種類やその特徴提供方法について
8.情報ニーズへの対応：レファレンスプロセス、レファレンス質問
　図書館員が利用者からのレファレンスを受け、処理する過程について
　図書館員が利用者の質問に的確に答えるための手法や基本ルールなど
9.情報源:①書誌データ探索
　二次資料や参考図書のレファレンスツールの種類と特徴など
10.情報源:②事実データ探索
　二次資料や参考図書のレファレンスツールの種類と特徴など
11.インターネットを活用した情報サービス
　データベース・WEB 情報と検索
12.発信型情報サービスと課題解決型図書館
13.レファレンスの実際： レファレンスインタビュー
14.図書館利用教育（情報リテラシーの育成）
15.主な公共図書館の情報サービスの実情と展望

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50363A01
科目名	心理学基礎 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology I		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	心理学入門 I
講義概要	わたしたちは，日常生活の中で，様々なことを感じ，考え，行動しています。このような「人のこころ」について理解するための学問が心理学です。 さて，みなさんは，「心理学」について，どのようなイメージをもっているでしょうか。 おそらく，多くの人がイメージしている「心理学」と，実際の心理学の間にはギャップがあります。 この講義では，様々な心理学の研究領域を取りあげ，日常の様々な問題が心理学でどのように取り扱われているのかを説明しながら，そのギャップを埋めていきたいと思います。 日常生活にある様々な「なぜ？」について，心理学の立場からどのように考えられるのか，授業を通して一緒に考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①日常場面で直面する様々な現象を，心理学の専門用語を用いて説明できる。 ②自分の持つ興味を具体化し，それが心理学とどのように関連しているかを説明できる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義中にランダムなタイミングで，復習のための小レポートを実施する場合があります。前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることがあります。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学ってなに？①
2　心理学ってなに？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ あなたの記憶，正しいですか？
・「心理テスト」にだまされる
・なぜ人を好きになる？
・「 見える」ものが事実とは限らない
・身体が無意識に与える影響
・ 第一印象って大事？
・　血液型のうそ，ほんと
・ みんなの意見は本当に正しい？
・ 傍観者は冷酷か？
・ 浮気心を読み解く
・ ぐるぐるまわるネガティブ思考
・ こころの「不調」ってなんだろう
・ こころの「不調」が起こるわけ

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50363B01
科目名	心理学基礎II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology II		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	ひとは，日常生活の中で，様々に感じ，考え，行動しています。心理学は，このような「人のこころ」の知るための学問です。心理学者たちは，「人のこころ」の謎に迫るために，長年にわたって様々な研究を行ってきました。 この講義では，私たちが日常生活で直面する様々な問題や疑問を取りあげながら，心理学によって明らかにされてきた「人のこころ」について紹介していきます。講義を通して，一般的にイメージされる「心理学」とは違う，学問としての心理学を知ってもらいたいと思います。 心理学基礎ＩＩでは，日常で出会う問題を取り上げながら，様々な心理学の研究領域について講義します。具体的な研究の内容を紹介し，心理学で使用されている実験，調査などの方法についても説明します。 講義で得た知識を使いながら，日常で出会う「人のこころ」に関する疑問について考えていきましょう。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
準備学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。
⑤春学期開講科目の心理学基礎Ⅰを受講しておくことで，講義内容を理解しやすくなると思います。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・心理学とは？①
2　オリエンテーション・心理学とは？②

第 3 回～第 14 回までの講義内容は，受講者全員の興味に合わせて，以下のテーマから選出します。
1 つのテーマにつき，2 回の講義を行う予定です。

テーマ
・ からだとこころの意外な関係
・ イメージのもつ影響力
・ しっかりと覚えるためには？
・ 自分をうまくコントロールする方法
・ 忘れたいことがあるとき
・ シロクマについて考えるな
・ 「○○したい！」とうまく付き合う
・ ストレスに対処する
・ 面倒なことは後回し
・ 心の健康と基礎心理学
・ 感情ってなんだろう

・狼少年は誰だ

15　改めて，心理学ってなに？

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50364001
科目名	心理アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Assessment		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	心理臨床活動において心理アセスメント（査定）はひとつの重要な柱であり、それをとおして援助の方向を定め、修正していく。そして、アセスメント（査定）の意味のなかには、その人の健康なところ、強いところなど、ポジティブな側面を見出すことも含まれている。心理アセスメントは決して心理検査法だけのことを指すのではないが、心理検査法の解説や簡単な実習に費やす時間が比較的多い。心理検査をそれ以上でも以下でもなく受け入れることのできる最初の機会になればと思う。心理検査は用い方や読み方を誤れば非常に危険である。しかし、対象者の援助に役立てる方向で慎重に用いることによって有益な情報が得られる。これらの検査の限界と効用の両方をバランスよく学んでほしい。また、心理検査データ以外の情報によるアセスメント、家族アセスメントなどにもふれる。なお、前年度まで解説していた心理的異常の各論については、今年度に新しく開講される「精神病理学」を受講して勉強してほしい。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	下山晴彦編「よくわかる臨床心理学　改訂新版」 2009　ミネルヴァ書房 皆藤章編「よくわかる心理臨床」 2007 ミネルヴァ書房 下山晴彦著「臨床心理アセスメント入門」 2008 金剛出版 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％）。「授業内容の理解」に関する確認作業の成果の提出（５０％）		
到達目標	心理アセスメントに関する基本的な考え方を身につけ、代表的な心理検査についてその概要を把握する。また、心理的異常についてもその概要を把握する。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。		

受講者への要望

各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに～アセスメントとは何か
2.初回面接を中心に
3.心理学的異常と臨床心理学
4..面接法や観察法
5.検査法①質問紙法や投影法、作業検査法
6. 同②知能・発達検査法
7. 同③その他の検査法
8.前半授業の補足と振り返り
9.家族やコミュニティのアセスメント①
10.同②
11.アセスメントにもとづく処遇例①
12.同②
13 同③
14.心理アセスメントの課題
15.後半授業の補足とその他のテーマ
※講義の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50367A0A
科目名	心理学基礎実験 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology A		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・富永）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・富永）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・富永）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50367B0A
科目名	心理学基礎実験 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology B		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（参考文献）			
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		
受講者への要望			
出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。 授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。			
講義の順序とポイント			
質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・福田・富永） 第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成 第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施 第３回：予備調査２：結果の分析 第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施 第５回：本調査２：結果の分析 実験法　（担当：　有馬・服部・福田・富永） 第６回　社会　：感情錯誤帰属の実験 第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果 第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果 第９回　生理①　：α 波減衰実験 第１０回　生理②　：α 波減衰実験 臨床実習　　（担当：川畑・服部・福田・富永） 第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習			

第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。 第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。 第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。 第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50369001
科目名	心理学研究法	単位数	2
科目名（英語表記）	Research Methods in Psychology		
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	心理学は、わたしたちのこころの働きを科学的に探求する学問である。本授業では、心理学における科学的な研究方法の基礎的な考え方に親しむことがねらいである。実験法、質問紙法、面接法、観察法、心理検査法といった基本的な研究法の実証的論理を把握すること。そして、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、またその重要性について理解を深めていく。		
教材（テキスト）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	① 主な実験や調査の方法や特徴を理解し、具体的な方法の手続きや注意点を説明できる。 ② 学術論文から研究計画を読み取ることができる。 ③ 自分で研究を計画することや研究の問題点を指摘することができる。		
準備学習	授業内容の確認のための課題を設定することがあるが，設定された課題には必ず取り組み，期限までに提出すること。また，授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと。 また，数週間にわたってグループで課題に取り組む場合があり，授業時間内で課題を終えることができなければ時間外にグループ作業が必要となることにも留意しておくこと。		

受講者への要望

心理学における基礎的な統計の知識を受講生が持っていることを前提として授業を行います。不安な学生は心理統計に関する参考書を読み，各自復習すること。
また，事前に心理学基礎実験 A，B，心理統計学などの単位を取得し，基礎的な知識を獲得していることが望ましい。
講義内容は平易とはいい難いため，授業ごとに復習を欠かさず行うことを求める。
さらに，演習としてグループを構成し，他者とのディスカッションや，協力してデータ収集，研究発表などを行う場合がある。グループの構成員が欠ければ，それらの活動を行うことができなくなるため，特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。

講義の順序とポイント

以下の内容についての講義に加え，グループでの演習を行う場合がある。なお，演習は数週に渡って行う場合もある。

1. オリエンテーション　なぜ心理学研究法を学ぶのかを考える
2. 研究計画の考え方
3. 研究計画の進め方
4. 調査法①：質問紙調査法の理論
5. 調査法②：質問紙調査法の実際
6. 調査法③：質問紙調査法を用いた研究の読み方
7. 実験法①：心理学における実験　独立変数の操作
8. 実験法②：実験とデータ処理　従属変数の測定
9. 実験法③：実験における統制
10. 観察法①：観察法の理論
11. 観察法②：観察法の実際
12. 面接法：面接によるデータ収集
13. 研究計画を考えてみよう　①
14. 研究計画を考えてみよう　②
15. 研究計画を考えてみよう　③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J50369101
科目名	心理学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	心理学は人間の心や行動を研究対象とする学問である。心理学とはどのような学問であるのか、その歴史や、心理学における各研究分野における基本的な研究法や考え方を理解する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施する小テスト及び読書レポート。		
到達目標	心理学の基本的な理論と考え方について学び、心についての理解を深める。		
準備学習	事前に配布される教材を読んで出席する。幅広い読書の習慣をつける。		

受講者への要望

私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。能動的に授業に出席すること。
心理学科必修の授業なので、必ず本年度に取得できるよう最大限の努力をすること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、授業の進め方、勉強の仕方、成績評価について
2　「私の歴史」を振り返る、歴史と研究方法
3　感覚と知覚
4　注意と思考
5　記憶
6　記憶：実験
7　記憶と心
8　発達心理学（1）
9　発達心理学（2）
１０　深層心理学（1）　テーマ：「見えないものを見る」
１１　深層心理学（2）
12　心理臨床学（1）テーマ：物語・記憶・癒し
13　心理臨床学（2）
14　臨床心理学
15　臨床の現場から：臨床心理士の話を聞く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50371001
科目名	心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の実験・調査研究をグループまたは個人で行う。具体的には実験者として実験を実施する以外に、実験機材のセッティング、被験者の手配（時間の設定）、結果の分析までの一連の作業が含まれる。実験結果はＳＰＳＳにより統計的に分析する。実験はグループで行った場合も仮説は各自で異なる仮説を立てて、個人レポートを作成する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要な文献、教材は授業中に適宜指示する		
教材（その他）	実験や調査に必要な教材は授業中に供与する		
評価方法	平常点により評価する。作業過程は授業中にディスカッションしながらフォローする		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。加えて、実験参加者に負担を強いるだけの価値を信じる、ある種の「蛮勇」も必要となります。これらのさまざまな力を身につけることが目標となります。		
準備学習	授業時間中に実験を計画し質問紙の作成などを行う。実験や調査、質問紙は授業時間内に実施できない場合が多い。適宜、調査対象者が得られる機会に実験調査を行うことになる。それに要した時間も評価に加える。		

受講者への要望

実験実施に成功するか失敗するかではなく、その過程を評価対象とする。
失敗を恐れずに実験に挑戦していただきたい。

講義の順序とポイント

１．　概論
２．　研究テーマディスカッション
３．　研究テーマ発表
４．　文献検索
５．　方法論ディスカッション
６．　実験計画ディスカッション
７．　実験計画発表
８．　実験準備
９．　実験準備
１０．実験実施
１１．実験実施
１２．分析
１３．分析
１４．発表
１５．発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50371002
科目名	心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	認知心理学領域の心理学実験の実習を行う。授業では 3 個程度の実験課題を予定している。各実験について，実験材料の準備，実験実施によるデータ収集，データの分析をおこない，報告書を作成する。これらを通して，認知心理学的な実験手法の基礎を身につけて欲しい。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する。		
評価方法	授業への参加状況に基づく日常点（60%），実験レポート（40%）を総合して評価する。		
到達目標	実験心理学的研究に対する理解を深めるとともに，実験法の基礎と実験報告書の作成方法を習得する。		
準備学習	毎回の授業で，次回までの課題を指示するので，確実に行って次回の授業に参加すること。 課題の内容は，関連文献を読む，実験材料の作成，データ収集，実験レポートの作成等であり，実験課題の進行に応じて指示する。		
受講者への要望			
授業に積極的に参加し，実験によって人間の思考の性質を探る楽しさを感じて欲しい。 授業時間は実験の立案や準備，結果の分析等が中心となるので，授業外の時間にも実験を行う必要がある。			
講義の順序とポイント			
1. 心理学研究における実験の役割 2. 実験計画立案のポイント，実験報告書の作成の仕方 3.PC を用いた実験制御(1) 4. PC を用いた実験制御(2) 5. PC を用いた実験制御(3) 6. PC を用いた実験制御(4) 7. 記憶の実験(1) 8. 記憶の実験(2) 9. 記憶の実験(3) 10. 記憶の実験(4) 11. 思考過程に関する実験(1) 12. 思考過程に関する実験(2) 13. 思考過程に関する実験(3) 14. 思考過程に関する実験(4) 15. 研究報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50371003
科目名	心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	思考・感情制御に関する実験を行うために，個人あるいはグループで演習を行う。ベースとなる先行研究を選択し，実験計画の案出，実験材料の作成，データ収集，分析，考察を行う。さらに，これらの成果を，心理学研究の書式に則った報告書にまとめる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜，指示する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	授業中に取り組む課題（50%），実験に関する報告書（50%）を総合して評価する。		
到達目標	独力で心理学実験を計画・実施できる。 心理学実験に関する報告書を作成できる。		
準備学習	次回までに行うべき課題について指示をする場合がある。指示があった場合は，その課題を確実にクリアできるよう，準備を怠らないこと。		
受講者への要望			
4 回生では，「感情」と「制御」についての卒業研究（実験・調査）を各自で行うことになるが，本授業はその準備のひとつに位置づけられる。全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することが望ましい。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。また，事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス・参考文献の選択 2. 実験計画法・方法論 3. 参考文献についての発表① 4. 参考文献についての発表② 5. 研究計画① 6. 研究計画② 7. 実験準備① 8. 実験準備② 9. 実験の実施 10. データの整理・分析① 11. データの整理・分析② 12. 考察・報告書の作成① 13. 報告書の作成② 14. 研究報告会① 15. 研究報告会②・まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50372A0A
科目名	心理学専門演習Ｉ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてて社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習Ⅱで卒業研究を行うことになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	極端化する社会　有馬著　北大路書房 参考文献は無料で配布する		
教材（その他）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	ベースとなる背景知識なしには独自の考えも出てこない。 この授業は、文献を読みこなした上で、新たな観点から研究を企画する力を養うことを目的とする。		
準備学習	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、集団心理学を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 概論　各自の興味関心分野についてディスカッション　文献の分担を決める 2. 方法論概論　指定された参考文献の背景知識を概論として伝える 3. 文献報告　序章 4. 文献報告　第１章 5. 文献報告　第２章 6. 文献報告　第３章 7. 文献報告　第４章 8. 文献報告　第５章 9. 文献報告　第６章 10. 文献報告　第７章 11.　文献報告　終章 12. ディスカッション１ 13. ディスカッション２ 14. ディスカッション３ 15. 夏休みの課題決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50372A0C
科目名	心理学専門演習Ｉ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生春学期では，演習を進めるための基本的知識の共有をはかる。そのために，認知心理学の基本的な枠組みや，取り上げうるトピックに関する基本的な文献の購読を中心に演習を進める。 また，将来のキャリアを見据えた専門分野の学習について考える機会を設ける。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	認知心理学に関する基礎的知識を修得する。 演習での発表と討論の仕方を修得する。 批判的に考える習慣を身につける。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		
受講者への要望			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。			
講義の順序とポイント			
1. 受講生各自の興味の確認とテーマ設定 2. 心理学の学習と進路について 3. 心理学論文の種類と収集方法 4. 心理学論文の読み方(1) 5. 心理学論文の読み方(2) 6. 発表の準備方法 7. 研究発表をする(1) 8. 研究発表をする(2) 9. 論文を批判的に読む(1) 10. 論文を批判的に読む(2) 11. 心理学の学習と進路について 12. 文献購読と発表・討論(1) 13. 文献購読と発表・討論(2) 14. 文献購読と発表・討論(3) 15. 学期の学習内容の整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50372B0A
科目名	心理学専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてる。社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習 II で卒業研究を行うことになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。上級実験と併せてこれらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、上級実験を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			

1. ディスカッション１　各自の研究テーマについてディスカッション
2. ディスカッション２
3. 文献探索方法　文献探索および文献データベースの作り方
4. 文献探索　1
5. 文献探索　2
6. 文献報告　1
7. 文献報告　2
8. 文献報告　3
9. 文献報告　4
10. 文献報告　5
11. 研究方法ディスカッション　1
12. 研究方法ディスカッション　2
13. 予備実験結果報告１
14. 予備実験結果報告２
15. 春休みの課題決定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50372B0C
科目名	心理学専門演習Ｉ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生秋学期では，受講生自らの興味をもとに，関連する研究文献を収集し，その購読と発表を行うことを中心とする。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	心理学論文の読み方を修得する。 文献検索等による文献の探し方を身につける。 批判的に考える習慣を身につける。 卒業研究に向けた方向付けを決定する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		
受講者への要望			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。 思考心理学上級実験を併せて履修すること。			
講義の順序とポイント			
1. 研究のためのスキルとは 2. 文献検索の方法 3. 学習・研究に役立つ種々のツール 4. 文献購読および発表 5. 文献購読および発表 6. 文献購読および発表 7. 文献購読および発表 8. 文献購読および発表 9. 文献購読および発表 10. 文献購読および発表 11. 文献購読および発表 12. 文献購読および発表 13. 卒業研究にむけた研究計画の検討 14. 卒業研究にむけた研究計画の検討 15. 3 回生での学習の整理と，卒業研究に向けた方針の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50374A0A
科目名	心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分（6000 字）程度の分量を目安としている。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。３回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する 各自の研究テーマに沿う雑誌論文を文献検索により複数読み、１本を選んで発表の日までにレジュメを用意すること		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究報告１　心理学専門演習 IB でまとめたレポートの発表 2. 研究報告２ 3. 研究報告３ 4. 研究報告４ 5. 研究報告５ 6. 文献報告１ 7. 文献報告２ 8. 文献報告３ 9. 文献報告４ 10. 文献報告５ 11.　研究結果ディスカッション　1 12.　研究結果ディスカッション　2 13.　研究結果ディスカッション　3 14.　研究結果ディスカッション　4 15.　夏休みの課題決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50374A0C
科目名	心理学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習ＩＡ・Ｂで行った学習をもとに，各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い，卒業研究を進める。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	文献の批判的な読み方を身につける。 卒業研究の研究計画を完成する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，卒業研究の進行状況について，週の成果を簡潔に毎回報告すること。		

受講者への要望

演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。

講義の順序とポイント

1. 年間の研究進行計画の立案
2. 卒業研究のテーマ検討
3. 卒業研究のテーマ検討
4. 研究計画の発表と検討
5. 研究計画の発表と検討
6. 研究計画の発表と検討
7. 研究計画の発表と検討
8. 研究計画の発表と検討
9. 実験・調査の実施準備
10. 実験・調査の実施準備
11. 実験・調査の実施準備
12. 実験・調査の実施準備
13. 実験・調査の実施準備
14. 実験・調査の実施準備
15. 学期の学習内容と卒業研究の今後の進め方の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50374B0A
科目名	心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分（6000 字）程度の分量を目安としている。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。３回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する データ分析や論文執筆などを、各自で行う		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究報告１　心理学専門演習 IIA で進めた研究結果報告 2. 研究報告２ 3. 研究報告３ 4. 研究報告４ 5. 研究報告５ 6. 分析１　データ分析指導 7. 分析２ 8. 分析３ 9. 分析４ 10. 分析５ 11.　研究結果ディスカッション　1 12.　研究結果ディスカッション　2 13.　研究結果ディスカッション　3 14.　研究結果ディスカッション　4 15.　研究結果ディスカッション　5			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50374B0C
科目名	心理学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習ＩＡ・Ｂ，ＩＩＡで行った学習をもとに，各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い，卒業研究を完成させる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と，卒業研究に関する研究発表(30%)によって評価する。		
到達目標	卒業研究を進め，論文を完成させる。 研究発表の技術を修得する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，卒業研究の進行状況について，週の成果を簡潔に毎回報告すること。		

受講者への要望

演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。

講義の順序とポイント

1. 研究の進行状況に関する発表と討論
2. 実験・調査の実施状況の検討
3. 実験・調査の実施状況の検討
4. 実験・調査の実施状況の検討
5. 実験・調査の実施状況の検討
6. 実験・調査の結果分析
7. 実験・調査の結果分析
8. 実験・調査の結果分析
9. 実験・調査の結果分析
10. 論文作成
11. 論文作成
12. 論文作成
13. 研究発表の準備と練習
14. 研究発表の準備と練習
15. 研究発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50378001
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Measurement		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理測定尺度の作成や使用に重要な統計的手法に関して，「心理統計学 I・II」よりもやや進んだ講義を行う。心理測定尺度を用いてよいデータを収集するための方法として，尺度構成に重要な信頼性と妥当性の概念とその評価方法を紹介する。また，心理尺度の構成や，尺度間の関係を分析するために役立つ多変量解析の利用法に関する入門的な講義を行う。質問紙法や能力評価尺度などを用いて研究を行おうとする場合に必須の内容である。実際のデータ例を使った実習を含める。		
教材（テキスト）	小塩真司　(2011)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで[第 2 版]』東京図書　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配付する。		
評価方法	レポート課題（ほぼ毎回出題）30%，授業中に行う確認テスト 30%，期末試験 40%。		
到達目標	質問紙尺度や心理テストの開発，尺度間の相関関係の分析等で必要になる，測定理論や多変量解析の基礎を習得する。各手法について，以下の 4 点を目標とする。 (1)どんな手法を使用するかを研究計画やデータから見分けることができる。 (2)コンピュータソフトウェアを用いて自らデータ分析を行うことができる。 (3)分析結果を解釈し報告書等に記述することができる。 (4)論文等に書かれた解析結果の説明を理解することができる。		
準備学習	毎回，課題を出題する。課題の内容は，授業内容の確認や，学習した分析手法を PC の統計解析ソフトを使って実践することなどを含む。必ず毎回課題に取り組み，指定期日までに提出すること。 また，毎回の授業の始めに前回までの内容の確認テストを行うので，授業の復習を欠かさないこと。		

受講者への要望

基礎的な統計学の知識を前提とする。「心理統計学 I・II」を履修済であること（あるいは，同等の内容を既に習得していること）。授業内容は易しくないので，毎回授業に積極的に参加し，さらに毎回の課題を確実にこなしていく覚悟で履修すること。安易な態度では単位修得は難しい。
学習内容の積み上げが重要な科目であるので，遅刻や欠席をしないこと。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，量的変数の記述統計手法に関する基礎知識
2. 回帰分析(1)：散布図，相関係数と回帰直線
3. 回帰分析(2)：分析例による回帰分析と重回帰分析の概説
4. 回帰分析(3)：回帰分析モデルの詳説
5. 回帰分析(4)：回帰係数の意味と解釈，研究例に見る分析の実際
6. パス解析：パス解析の概要と，研究例による分析の実際
7. 尺度の信頼性と妥当性(1)：信頼性と妥当性の概念，古典的テスト理論の基本モデル
8. 尺度の信頼性と妥当性(2)：信頼性係数の推定の諸方法
9. 尺度の信頼性と妥当性(3)：信頼性の高い尺度構成のための指針
10. 尺度の信頼性と妥当性(4)：妥当性の評価の視点と方法
11. 因子分析(1)：因子分析の基本的な発想
12. 因子分析(2)：因子分析の基本モデル
13. 因子分析(3)：因子回転，分析結果の解釈の仕方，質問紙尺度の例を用いた因子分析の実際
14. 因子分析(4)：因子数の決定，回転方法の選択基準，因子抽出法の選択基準
15. 授業内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50380A01
科目名	心理統計学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology I		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J50380B01
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology II		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理の解説を行う。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定
15. 学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50384001
科目名	心理療法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychotherapy		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	心理療法とはどのようなものか、ふんわりとイメージはあるけれど、よくわからない人も多いのではないでしょうか。この講義では心理療法とはどのようなものかについて学びます。 心理療法は普通に友達の悩みを聞くのとは何が違うのか、悩みを聞くとはどういうことか、アドヴァイスは役に立つのか立たないのかなどの具体的な疑問について考えてみることと同時に、心理療法とはどのように成立したのか、心の問題は原因と結果で捉えることができるのかなどの大きな視点の両方を持って学ぶ予定です。		
教材（テキスト）	心理療法序説　河合隼雄著　岩波書店		
教材（参考文献）	A・ストー　心理面接の教科書		
教材（その他）	適宜プリントなど配布		
評価方法	授業態度５０％、試験５０％		
到達目標	心理療法の様々な側面についての知識を学び、考えること。		
準備学習	授業理解に必要なテキストのページ、あるいはプリント等を指示した回には、事前に読んで予習してくること。 身の回りの問題について、心理療法的な視点で自分なりに考えてみること。		

受講者への要望

授業だけで知識を身に着けることは難しく、定着させるためには、自分なりに勉強することが不可欠です。授業内で指示する参考文献や、自分なりに興味をもった本などを積極的に読んで下さい。また、授業への積極的な参加、つまりレポートや、授業内で他の学生の授業理解にもつながるような質問などを評価します。私語など、他の学生の授業理解を妨害するような態度に対しては、退室を求めたり、単位を出さない場合もあります。

講義の順序とポイント

１、　心理療法とは
２、　心理療法のモデルと古代の心理療法
３　、心理療法における時間、場所、料金について
４、　治療的人間関係，　心理療法と現実
５、　　心理療法における話の聞き方
６、　　事例から心理療法を考える
７、　　フロイト心的外傷理論の変遷
８、　ユング、アドラーの理論
９、　心理療法と因果律
１０、精神医学と心理療法
１１、学派による違い
１２、子どもの心理療法、プレイセラピー
１３、発達障害と心理療法
１４、心理療法家の訓練など
１５、復習テスト　、疑問点についての解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50385001
科目名	心理療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Psychotherapy		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	実習を通して他者と関わり、自分を知ることを目標とする。心理療法の実習そのものだけではなく、それを体験し、振り返り、自分について考えることや、他者に意見や気持ちを伝えることも学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、レポート、自分なりのテーマをもち、自主的に学ぼうとする姿勢などの総合評価		
到達目標	実習を通して自分について理解を深める。自分が何を感じたか、どのように分析できるか、など考えることの訓練も目指す。		
準備学習	心理療法について多くの文献に接すること		
受講者への要望			
自主的に学ぼうとする姿勢を大切にして下さい。レポートなどの自主的な提出や、積極的に学ぶ姿勢を評価します			
講義の順序とポイント			
1、オリエンテーション 2、バウムテスト、風景構成法 3、事例・グループでの討論 4、箱庭 5、事例・グループでの討論 6、コラージュ 7、グループでのコラージュ 8、言語連想 9、言語連想分析 １０、スクイグル １１、事例・グループで討論 １２、プレイセラピー １３、事例を読む １４、夢について　事例を読む １５、実習をふりかえって			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50391001
科目名	深層心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Depth Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	深層心理学においては、心の中に無意識の領域の存在を仮定する。つまり、心のなかには自分自身が意識できない部分があることを前提として考えるのである。本講義ではまず、深層心理学の創始者であると考えられるフロイトの理論とユングの無意識についての基本的な考え方を理解する。その上で、ユング心理学を基盤とした視点に立ち、昔話、文学、芸術作品などを素材にして深く人間の心について洞察することを試みる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	河合隼雄著　『ユング心理学入門』　培風館,『昔話と日本人の心』　岩波書店 山中康裕編　『知の教科書』　ユング　講談社選書メチエ 山　愛美著　『言葉の深みへ』　誠信書房,『香月泰男　黒の創造』　遠見書房 ＊他の文献についても適宜紹介するので興味、関心のあるものを自発的に読み進めてもらいたい。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に課すテスト・課題（６０％） 読書レポート課題　　（４０％）		
到達目標	深層心理学的な見方の基礎を理解する。		
準備学習	授業中配布するリストの中から自らの興味、関心に合わせて読むこと。 注)読書レポート課題を出す。		

受講者への要望

１遅刻・私語は厳禁。場合によっては退出を求める。
２課題図書として、文学（小説)、児童文学、古典文学，神話、などを挙げて、読むことを課すので、読書をする習慣のない者は本講義の受講を機会に活字に親しむこと。そのつもりで登録して欲しい。
３能動的に講義に出席をし、自らの興味、関心の方向性を探りながら勉強して欲しい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション（講義の進め方など） 読書課題についての説明・・・受講希望者は必ず出席すること。
2　深層心理学の考え方（意識/無意識、日常/非日常、境界)、現代社会と心の問題について
3　深層心理学的視点から見たアニメ（1）
4　深層心理学的視点から見たアニメ（2)
5　日本文化における「異界」性
6　フロイトーその生涯と理論
7　ユングーその生涯と理論（1）
8　ユングーその生涯と理論（2）
9　昔話の深層心理学的アプローチ
10　物語（1）：時間と空間を超えて
11　物語　（2）：語りの力
12　イメージを介する心理療法ー箱庭療法、夢、描画
13　心の深層と表現（1）
14　心の深層と表現（2)
15　心の深層と表現（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50395001
科目名	人格心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Personality Psychology		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	心理学が人間の心に共通する一般的な法則を明らかにすることを目的として発展してきた一方で，心の個人差にも注目が集まり，人間のパーソナリティ（人格・性格）に関する考察や研究が行われてきた。そして，パーソナリティ心理学は，社会心理学，感情心理学，臨床心理学などの多様な心理学領域と密接に関わり合いながら，現在も発展を続けている。この授業では，パーソナリティに関する基本的な理論について概観した後に，パーソナリティと関連の深い各心理学領域で得られた知見を紹介する。それらを通して，パーソナリティについての理解を深めていくことをこの授業の目的とする。		
教材（テキスト）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介します。		
教材（その他）	講義中に適宜，紹介します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（50%） 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
準備学習	講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講者への要望

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス・パーソナリティとは
2. 心理学におけるパーソナリティ
3. 類型論と特性論①
4. 類型論と特性論②
5. パーソナリティの測定
6. パーソナリティの形成と発達①
7. パーソナリティの形成と発達②
8. パーソナリティと社会心理学①－他者との関係－
9. パーソナリティと社会心理学②－文化―
10. パーソナリティと社会心理学③－社会的認知―
11. パーソナリティと感情心理学
12. パーソナリティと臨床心理学①－ネガティブ感情－
13. パーソナリティと臨床心理学②－精神疾患－
14. パーソナリティと臨床心理学③－パーソナリティ障害－
15. パーソナリティ心理学とは

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50416001
科目名	政治社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	日本また世界を支配しているのは誰か？という問題について、これまでに提起されているいくつかの説を紹介する。この問題は社会全体また個々人の生活に重大な影響を持つ重要な問題であるが、問題として大きすぎることもあり、簡単には解答が得られない。この講義では、その解答に近づく手がかりを得ることとしたい。 なお、このテーマについて考える助けともなるので、毎回、その時々の政治や経済に関するニュースについても解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に紹介する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	日本社会の支配構造に関心をもつ。		
準備学習	講義終了時に次回の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション。トランプ米大統領の権力の背景
2．「支配」に関する古典的理論１．ウェーバー『支配の社会学』
3．「支配」に関する古典的理論２．ミルズ『パワーエリート』
4．『パワーエリート』つづき
　I　日本社会の支配構造
5．公的権力構造。国会と内閣の役割、総理・官房長官の権限
6．自民党の権力構造
7．官僚の役割
8．財界の意見・利益、政治家への影響力
9．利益団体。政権に影響力を持つ勢力
10．アメリカの影響。日米安保体制の役割
11．メディアの役割・立ち位置
　II　アメリカ社会の支配構造
12．産軍学複合体
13．金融資本
14．国際金融資本
15．「支配」について討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J50420A01
科目名	生涯学習概論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	生涯学習の考え方や思想は、社会教育行政に携わるための基本的な知識であるのはもちろんのこと、今日ではしばしばメディア上などの、様々な場面で耳にする言葉となっています。現代社会に生きるわれわれにとって必要とされるこの生涯学習とは、いったいどのようなものなのでしょうか。本科目では生涯学習の基本的な概念や理論を、行政組織や他の教育機関との関係、社会教育施設などの幅広い問題と関連づけながら解説することで、生涯学習の本質と意義の理解を目指します。また本科目では、とくに生涯学習の歴史と現状との関連という側面を重視し、その視点から現在推進されている具体的な生涯学習実践を眺めてみることで、生涯学習に関する今日的な課題を理解することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習、社会教育に関する基本的な知識を身につけ、その本質や現代的な意味、意義を理解する。 ・生涯学習について自身の考えを確立し、自らの知的生活へ具体的にそれを適用していく基本的な姿勢を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布し、同時に予習キーワードを伝達するので、次回の講義までに目を通し、キーワードを参考にしながらわからない箇所を自分で調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．イントロダクション：生涯学習とは何か
3．世界の生涯学習の理論①：アメリカにおける学習社会論
4．世界の生涯学習の理論②：OECD の提唱したリカレント教育
5．世界の生涯学習の理論③：ユネスコの提唱した生涯教育、生涯学習論
6．世界の生涯学習の理論④：多様な学習論、成人教育論の諸相
7．日本における生涯学習の展開と実践①：政策の推移と現状
8．日本における生涯学習の展開と実践②：地方自治体の生涯学習行政と地域の連携
9．日本における生涯学習の展開と実践③：青少年・若者を対象とした生涯学習の実践
10．日本における生涯学習の展開と実践④：生涯スポーツの実践
11．社会教育の展開と関連施設①：日本の社会教育の歴史
12．社会教育の展開と関連施設②：図書館の機能と役割
13．社会教育の展開と関連施設③：公民館の機能と役割
14．社会教育の展開と関連施設④：博物館の機能と役割
15．これまでの講義のふりかえりと今後の生涯学習の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J50420A02
科目名	生涯学習概論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	生涯学習の考え方や思想は、社会教育行政に携わるための基本的な知識であるのはもちろんのこと、今日ではしばしばメディア上などの、様々な場面で耳にする言葉となっています。現代社会に生きるわれわれにとって必要とされるこの生涯学習とは、いったいどのようなものなのでしょうか。本科目では生涯学習の基本的な概念や理論を、行政組織や他の教育機関との関係、社会教育施設などの幅広い問題と関連づけながら解説することで、生涯学習の本質と意義の理解を目指します。また本科目では、とくに生涯学習の歴史と現状との関連という側面を重視し、その視点から現在推進されている具体的な生涯学習実践を眺めてみることで、生涯学習に関する今日的な課題を理解することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習、社会教育に関する基本的な知識を身につけ、その本質や現代的な意味、意義を理解する。 ・生涯学習について自身の考えを確立し、自らの知的生活へ具体的にそれを適用していく基本的な姿勢を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布し、同時に予習キーワードを伝達するので、次回の講義までに目を通し、キーワードを参考にしながらわからない箇所を自分で調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．イントロダクション：生涯学習とは何か
3．世界の生涯学習の理論①：アメリカにおける学習社会論
4．世界の生涯学習の理論②：OECD の提唱したリカレント教育
5．世界の生涯学習の理論③：ユネスコの提唱した生涯教育、生涯学習論
6．世界の生涯学習の理論④：多様な学習論、成人教育論の諸相
7．日本における生涯学習の展開と実践①：政策の推移と現状
8．日本における生涯学習の展開と実践②：地方自治体の生涯学習行政と地域の連携
9．日本における生涯学習の展開と実践③：青少年・若者を対象とした生涯学習の実践
10．日本における生涯学習の展開と実践④：生涯スポーツの実践
11．社会教育の展開と関連施設①：日本の社会教育の歴史
12．社会教育の展開と関連施設②：図書館の機能と役割
13．社会教育の展開と関連施設③：公民館の機能と役割
14．社会教育の展開と関連施設④：博物館の機能と役割
15．これまでの講義のふりかえりと今後の生涯学習の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50420B01
科目名	生涯学習概論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	法令やメディア上で「生涯学習」の言葉をしばしば目にするのには、その重要性の認識が改めて求められている事実とともに、実際にそれを実践していくことが強く奨励されている現状が反映されているといえるでしょう。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、地域の実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、生涯学習や地域社会とのかかわり方に関する、自らの考えを深めていく態度を養成することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯教育の実践とその方法、理論や現代社会の課題と諸実践との関連に関する基本的な知識を習得する。 ・その理解の上に立って自身を取り囲む種々の諸課題に対して、自らの関心に基づいた意見を表明したり、課題解決のための学習案を実際に提示したりできる態度・能力を養成する。		
準備学習	・新聞紙上に紹介されている生涯学習実践や社会教育施設、生涯学習関連施設の活動に目を配り、とくに自らの関心に近かった記事を切り取りファイリングするなど、生涯学習の実際へ日々関心を向けるようにしてください。また授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみるなど、調査・体験を積極的に行うようにしてください。 ・とくに出身地の社会教育施設については、訪問を行う中で活動の実際に触れ、配布されている資料を収集し事業の実態を把握しておくなど、授業開講中の継続的な調査を期待しています。 ・毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
3．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方①：人権尊重の実現を目指す生涯学習
4．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方②：個人化の進行と資格取得・キャリア形成をめぐる問題
5．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方③：貧困・格差の問題と職業能力開発
6．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方④：生涯学習と環境教育・ESD
7．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
8．問題解決のための生涯学習の取り組み②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習と学習環境の整備
9．問題解決のための生涯学習の取り組み③：社会的な格差、孤立の解消を目指す諸実践
10．問題解決のための生涯学習の取り組み④：体験活動を支援する青少年教育施設の実践
11．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館-CLC 事業の展開
12．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
13．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：文化都市、京都で実践されている多様な ESD・生涯学習の試み
14．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都を代表する観光地を、ESD の観点から学習してみよう
15．これまでの授業のふりかえりと生涯学習を実践することの意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50420B02
科目名	生涯学習概論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	法令やメディア上で「生涯学習」の言葉をしばしば目にするのには、その重要性の認識が改めて求められている事実とともに、実際にそれを実践していくことが強く奨励されている現状が反映されているといえるでしょう。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、地域の実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、生涯学習や地域社会とのかかわり方に関する、自らの考えを深めていく態度を養成することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯教育の実践とその方法、理論や現代社会の課題と諸実践との関連に関する基本的な知識を習得する。 ・その理解の上に立って自身を取り囲む種々の諸課題に対して、自らの関心に基づいた意見を表明したり、課題解決のための学習案を実際に提示したりできる態度・能力を養成する。		
準備学習	・新聞紙上に紹介されている生涯学習実践や社会教育施設、生涯学習関連施設の活動に目を配り、とくに自らの関心に近かった記事を切り取りファイリングするなど、生涯学習の実際へ日々関心を向けるようにしてください。また授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみるなど、調査・体験を積極的に行うようにしてください。 ・とくに出身地の社会教育施設については、訪問を行う中で活動の実際に触れ、配布されている資料を収集し事業の実態を把握しておくなど、授業開講中の継続的な調査を期待しています。 ・毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
3．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方①：人権尊重の実現を目指す生涯学習
4．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方②：個人化の進行と資格取得・キャリア形成をめぐる問題
5．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方③：貧困・格差の問題と職業能力開発
6．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方④：生涯学習と環境教育・ESD
7．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
8．問題解決のための生涯学習の取り組み②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習と学習環境の整備
9．問題解決のための生涯学習の取り組み③：社会的な格差、孤立の解消を目指す諸実践
10．問題解決のための生涯学習の取り組み④：体験活動を支援する青少年教育施設の実践
11．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館-CLC 事業の展開
12．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
13．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：文化都市、京都で実践されている多様な ESD・生涯学習の試み
14．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都を代表する観光地を、ESD の観点から学習してみよう
15．これまでの授業のふりかえりと生涯学習を実践することの意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50425A01
科目名	生物学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology A		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	ビジュアル生物学（ニュートンプレス：￥2593＋税）		
教材（参考文献）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書 9 版、丸善出版（￥16,200）		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験による		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。一番身近な生物は、自分自身です。		

受講者への要望

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

講義の順序とポイント

1　生命現象を理解するための 4 つの視点：ティンバーゲンの 4 つのなぜ
2　遺伝の法則・遺伝子 DNA
3　タンパク質と酵素
4　遺伝子の発現調節
5　遺伝子プールとハーディ・ワインベルグ平衡
6　自然選択と性選択
7　遺伝子のダイナミクス
8　性について
9　生命の歴史：系統樹
１０　生命の起源・繁栄・絶滅
１１　細胞の構造と機能
１２　個体の構造と機能
１３　生物の社会
１４　生態系
１５　ヒトの生物学

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J50425A02
科目名	生物学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology A		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生物学は、進化の結果としての生命体を維持している構造、生命継承の仕組み、生命体間の相互作用の原理を解き明かすことを目的とする。本講義では主に動物に焦点を当て、進化、細胞・形態と機能、遺伝、行動・生態の基礎について概観し、最近の話題を取り入れながら講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生物に共通する普遍的性質と生物間で異なる多様な性質を理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講者への要望

各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 進化・適応
3. 細胞の基本構造
4. 細胞膜、細胞間の情報連絡
5. 細胞周期
6. 減数分裂、遺伝の仕組み
7. 染色体と DNA
8. 遺伝子からタンパク質へ
9. 形態と機能の基本原理
10. 免疫系
11. ホルモンと内分泌系
12. 行動生態学
13. 個体群生態学
14. 群集生態学
15. 総合：生物学の研究例紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J50425B01
科目名	生物学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 10　脂質 11　ビタミン 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50425B02
科目名	生物学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 10　脂質 11　ビタミン 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50447A01
科目名	地域文化論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Regional Theory A		
担当者名	鈴木　和正	旧科目名称	
講義概要	近代において、地域文化を牽引する役割を果たしたのは学校や教師であった。そのため、地域文化を理解するためには、「地域」と「教育」の関わりについて知る必要がある。学校教育という営みは、地域における社会構造や文化状況との関わりにおいて展開されており、そもそも地域とのつながりなくしては存在し得なかった。 この講義では、特に地域社会における学校や教師、子どもについて考えたい。具体的には教育史や歴史学、児童文化に関する研究成果をベースとして、近代における地域社会について考察していく。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。		
教材（参考文献）	高橋敏『近代史のなかの教育』岩波書店、1999 年。 大門正克『民衆の教育経験 ―農村と都市の子ども』青木書店、2000 年。		
教材（その他）	視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況による。レポート（50%）		
到達目標	「地域」と「教育」の関わりについて理解する。 地域社会において、学校や教師が果たした役割について理解する。		
準備学習	集中講義のため、講義期間前に課題を配布します。講義開始時に要点を口頭発表してもらうので、よく読んで授業に臨んでください。		

受講者への要望

他の教育学・民俗学関連の講義と併せて受講することが望ましい。
不明な点があれば積極的に質問すること。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス；「地域」と「教育」について考える
2，地域と教育１―「学制」発布と学校の誕生
3，地域と教育２―学校と習俗の葛藤
4，地域と教育３―教育勅語と御真影
5，地域と教育４―戦争と学校
6，地域のなかの集団１―青年団の誕生
7，地域のなかの集団２―青年団の活動
8，地域社会の子ども１―村の子ども像
9，地域社会の子ども２―都市の子ども像
１０，地域文化の発生１―阪神間モダニズムの形成
１１，地域文化の発生２―児童の村小学校の誕生
１２，地域文化の発生３―地域経済の衰退と私立小学校の閉鎖
１３，地域綴方教育史１―綴方教育の展開
１４，地域綴方教育史２―綴方教師の活動
１５，地域綴方教育史３―学級文集の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50447B01
科目名	地域文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Regional Theory B		
担当者名	鈴木　和正	旧科目名称	
講義概要	近年の日本では、地域社会および地域に根差した文化、すなわち地域文化への関心が高まっている。戦前においても、大正新教育運動や郷土教育運動の影響を受けた学校では、地域への関心を高め、地域教材が活用された。1930 年代の地域社会は深刻な不況に見舞われ、学校教育は地域社会の経済更生運動の中に組み込まれていった。こうした社会状況の中で、大正新教育における児童中心主義も変質していったとされる。 この講義では、地域社会を中心として学校教育がどのように展開されたのかを考えたい。また、愛郷心の養成をねらいとする郷土教育や民俗学運動についても考えたい。その手段として、主に教育史や歴史学、民俗学の成果を参考にしたい。最終的には受講者が、教育史や歴史学、民俗学の成果を学びながら自身が生活する地域及び文化をより深く理解することを目的とする。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。		
教材（参考文献）	中野光『大正自由教育の研究』黎明書房、1968 年。 鹿野政直『大正デモクラシーの底流』NHK ブックス、1973 年。 中野光『改訂増補 大正デモクラシーと教育』新評論、1990 年。 小国喜弘『民俗学運動と学校教育』東京大学出版会、2001 年。 外池智『昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究』NSK 出版、2004 年。 伊藤純郎『増補　郷土教育運動の研究』思文閣出版、2008 年。 中野光『学校改革の史的原像』黎明書房、2008 年。		
教材（その他）	視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況による。レポート（50%）		
到達目標	地域社会と教育運動の関わりについて理解する。 「大正新教育運動」や「郷土教育運動」について理解する。 地域や地域文化について考える力を養う。		
準備学習	最初の講義までに、上記で紹介した教材（参考文献）を読んで予習しておくこと。また講義開始時に前回の要点を口頭発表してもらうので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
前期の地域文化論Ａと併せて受講することが望ましい。 不明な点があれば積極的に質問すること。			
講義の順序とポイント			
１、ガイダンス―地域社会と教育運動について考える ２、大正デモクラシー期の地域社会１ ３、大正デモクラシー期の地域社会２ ４、近畿地方の大正新教育１―及川平治と分団式教育 ５、近畿地方の大正新教育２―木下竹次と合科学習 ６、中国地方の大正新教育１―岡山県倉敷町の新教育 ７、中国地方の大正新教育２―広島県西条町の新教育 ８、中国地方の大正新教育３―山口県山口市の新教育 ９、恐慌期の地域社会と学校―新教育運動の衰退と郷土教育 １０、郷土教育運動の展開１ １１、郷土教育運動の展開２ １２、郷土教育運動の展開３ １３、郷土教育運動の展開４ １４、民俗学運動と学校教育１			

１５、民俗学運動と学校教育２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50458A01
科目名	中国文学概論Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Chinese Literature A		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	先秦から近代にまでの中国文学について、各時代の代表的な作家および作品を取り上げ概説する。		
教材（テキスト）	浅見洋二・高橋文治・谷口高志『皇帝のいる文学史―中国文学概説』大阪大学出版会（２０１５） 別途、補助教材として適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	視聴覚資料を適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・文学に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・社会・文学・文化などに興味を持って臨むこと。 毎回講義終了時に次回の範囲(教科書の頁数)を指定するので、予め読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。

講義の順序とポイント

１．講義内容の全体について、導入となる説明を行う
２．「天の言葉　王の言葉」（１）：先秦の文学について概説する。
３．「天の言葉　王の言葉」（２）：先秦の文学について概説する。
４．「朝廷と言語」（１）：秦・漢の文学について概説する。
５．「朝廷と言語」（２）：秦・漢の文学について概説する。
６．「朝廷と言語」（３）：魏晉南北朝～宋の文学について概説する。
７．「朝廷と言語」（４）：魏晉南北朝～宋の文学について概説する。
８．「官僚＝文人の宿命」（１）：科挙制度と文学について概説する。
９．「官僚＝文人の宿命」（２）：科挙制度と文学について概説する。
１０．「官僚＝文人の宿命」（３）：科挙制度と文学について概説する。
１１．「文学と権力批判」（１）：儒教経典と文学について概説する。
１２．「文学と権力批判」（２）：儒教経典の解釈学について概説する。
１３．「文学と権力批判」（３）：政治と文学について概説する。
１４．「文学と権力批判」（４）：国家の興亡と文学について概説する。
１５．中国文学における「言語と権力」について考える。（振り返りと補足）

＊以上の内容は受講者の状況に合わせて変更の可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J50458B01
科目名	中国文学概論Ｂ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Chinese Literature A		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	先秦から近代にまでの中国文学について、各時代の代表的な作家および作品を取り上げ概説する。		
教材（テキスト）	浅見洋二・高橋文治・谷口高志『皇帝のいる文学史―中国文学概説』大阪大学出版会（２０１５） 別途、補助教材として適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	視聴覚資料を適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・文学に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・社会・文学・文化などに興味を持って臨むこと。 毎回講義終了時に次回の範囲(教科書の頁数)を指定するので、予め読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。

講義の順序とポイント

１．講義内容の全体について、導入となる説明を行う
２．「家族の表象」（１）：「家」と文学について概説する。
３．「家族の表象」（２）：「家」と文学について概説する。
４．「家族の表象」（３）：「家」と文学について概説する。
５．「幼少年期とその追憶」（１）：幼少時期と文学について概説する。
６．「幼少年期とその追憶」（２）：幼少時期と文学について概説する。
７．「幼少年期とその追憶」（３）：幼少時期と文学について概説する。
８．「故郷・田園と老いの日常」（１）：老年期と文学について概説する。
９．「故郷・田園と老いの日常」（２）：老年期と文学について概説する。
１０．「故郷・田園と老いの日常」（３）：老年期と文学について概説する。
１１．「故郷・田園と老いの日常」（４）：老年期と文学について概説する。
１２．「〈私〉の極限――文学と狂気」（１）：中国の文学作品に表現された狂気について概観する。
１３．「〈私〉の極限――文学と狂気」（２）：中国の文学作品に表現された狂気について概観する。
１４．「〈私〉の極限――文学と狂気」（３）：中国の文学作品に表現された狂気について概観する。
１５．中国文学における〈公〉と〈私〉について考える。（振り返りと補足）

＊以上の内容は受講者の状況に合わせて変更の可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J50463A01
科目名	伝統文化実習 A （茶道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『茶道文化検定公式テキスト 3 級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考文献）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点 50%。授業中に課するレポート等 50%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶道を通して、幅広い総合芸術の様相の確認と異文化への理解。		
準備学習	テキストの予習、復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
茶の湯に関心のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．　伝統文化総論 ２．　日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．　同上 ４．　茶の湯入門 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　茶の湯の建築入門 ９．　　同上 １０．　同上 １１．　同上 １２．　茶の湯の庭入門 １３．　同上 １４．　同上 １５．　茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50463B01
科目名	伝統文化実習Ｂ（能楽）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。 平安神宮の薪能を見学に行きます。		
教材（テキスト）	プリント・ＣＤなどを配布		
教材（参考文献）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加度や熱意。練習の習熟度。最後の発表会参加は必須です。薪能見学のレポート。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
準備学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いておくこと 牛若丸（源義経）の話を読んでおくこと		

受講者への要望

初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。
不安な場合は担当者に相談してください。
授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、
「芸は盗むもの」といいます。
伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、
そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。
フィールドワークとして平安神宮の薪能の見学があります。
チケット代自己負担が千円程度かかります。
たびを持っていない人は、購入費千円程度を用意して下さい。

講義の順序とポイント

1　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム
2　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半）
3　復習
4　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半）
5　薪能見学の事前学習
6　薪能の見学（フィールドワーク）
7　謡　復習・仕舞の復習
8　謡「橋弁慶」弁慶と家来のやりとり　　仕舞「鶴亀」
9　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」
１０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」
１１　練習
１２　リハーサル
１３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ
14　　同上　第二グループ
１５　同上　第三グループ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★★	–	★	–	–

年度	2017	授業コード	J50465001
科目名	伝統文化実習Ｃ（やきもの）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture C		
担当者名	佐々木　大和	旧科目名称	
講義概要	陶磁工芸には文字通り陶器と磁器がある。陶器工芸の作陶には、ろくろ成形と手びねり成形の二つがあるが、本講義では手びねり成形の楽茶碗の成形を行う。 なお、実習費の実費徴収（3,000 円程度）を授業内で行うので注意のこと。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	各種出版物		
教材（その他）			
評価方法	作品の出来の良し悪しではなく、製作過程の努力を評価対象とする。		
到達目標	鑑賞するだけでなく、実際に製作にたずさわることで、楽茶碗の理解に少しでも近づくこと		
準備学習	陶器と磁器の区別・茶道における茶碗の役割、位置付け・楽茶碗の歴史、特色などについて、基本的な知識を得ておくこと		
受講者への要望			
自分で積極的に書籍や美術館などで陶磁器、特に陶器についての知識を深めるように			
講義の順序とポイント			
1.陶磁器の歴史 2.粘土とは 3.粘土の準備 1 4.粘土の準備 2 5.土こね作業 1 6.土こね作業 2 7.成形の方法 8.回転台の使い方 9.成形作業 1 10.成形作業 2 11.釉の意味の役割 12.施釉作業 13.焼成の基本 14.焼成作業 15.評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J50476A01
科目名	伝統文化論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『茶道文化検定公式テキスト３級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考文献）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点 50%。授業中に課するレポート等 50%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶道を通して、幅広い総合芸術の様相の確認と異文化への理解。		
準備学習	テキストの予習、復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
茶の湯に関心のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．伝統文化総論 ２．日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．同上 ４．茶の湯入門 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．同上 １１．同上 １２．茶の湯の庭入門 １３．同上 １４．同上 １５．茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50476B01
科目名	伝統文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、１２月１０日（日）に行われる能の催しを見学する。		
教材（テキスト）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考文献）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト 能見学レポート		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
準備学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		

受講者への要望

毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。
能見学のチケット代が自己負担千円程度必要です。
１２月１０日（日）はフィールドワークなので午後の予定を空けておくこと。

講義の順序とポイント

1　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい
2　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る
3　「道成寺」後半を見る
4　能面のいろいろ
5　能「鉄輪」と『陰陽師』
6　能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼
7　フィールドワーク事前学習
8　フィールドワーク能の見学（12 月 10 日（日）午後）
　　（都合がつかない人は別の日の公演を代用します）
9　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇
１０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓
１１「松風」伊勢物語と能
１２　「海士」玉取り伝説と能
１３「邯鄲」中国の伝説と能
１４　「靱猿（うつぼざる）」の狂言

１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50478B01
科目名	都市文化史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Culture History B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。近代都市が生み出した様々な文化のあり処に思いを致す時、都市伝説の語感による都市と、文化史を結びつけた都市文化史は、その複雑怪奇性といい、百鬼夜行性といい申し分のない括り方ではないだろうか。都市文化史Ｂでは大衆と死の共同体という観点から都市文化史を考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。		
準備学習	各自関連文献を読んでおくのは重要である。毎回関連文献を提示するので、適時それに時間を割くように。		
受講者への要望			
一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。			
講義の順序とポイント			
（1）大衆と都市 （2）秋葉原と夢野久作 （3）バタイユ『青空』 （4）死の共同体 （5）神話としてのドン・ジュアン （6）ファウスト （7）死の時代 （8）虐殺・神話 （9）図像学の誕生 （10）アビ・ヴァールブルグ （11）ゴーレム （12）絵引 （13）街をあるく （14）異形異類 （15）再び江戸の大衆社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50496001
科目名	日本の文化と観光地を英語で	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Culture and Tourism in English		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	We will learn how to Introduce Japanese Culture to the world.		
教材（テキスト）	Let'S Introduce Japanese Culture! 日本文化を世界に By Kinuyo Koikawa Kentaro Yamada David Farrell Motoko Yakushiji Eihosha		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　最終試験 20%		
到達目標	1.Give the students vocabulary and grammar to design a basic guidebook 2.Help the students to become more familiar with giving directions 3.Construct different patterns for communicating in spoken/written English		
準備学習	Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than other semesters, but work hard and you can do well!		

受講者への要望

授業に出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。

講義の順序とポイント

We will learn how to tell people about Japan in Emglish
1.Introduction - Book
2.Quiz - Book
3.Kyoto ? more info - Book
4. Culture point - Book (2)
5.Tea (1) - Book
6.T1 - Book (2)
7.T2? Arts (1) - Book Quiz
8.T3 - Book (2)
9.Guidebooks - Book　(1)
10. writing (2)
11. ... in English Literature (1) - Book
12 ...　in English Literature (2) - Book
13.Survey writing
14.Final reports/discussion
15.Surveys

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	J50501A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) I		
担当者名	田中　智子	旧科目名称	
講義概要	この授業は、幕末（今から約１５０年前）から大正期（今から約１００年前）に至るまでの日本近代史のあゆみを、「女性の歴史」という視点から眺め直してみようという講義である。授業の前半では、各回のテーマにしたがって、法令や制度、運動などについて、これまでの研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていく。後半では、そのテーマに関わる実在の女性を一人取り上げ、その生涯と思想を追いかけたい。歴史学特殊講義（日本近現代史）前編、初級編と位置づける。		
教材（テキスト）	特定の教科書は用いない。		
教材（参考文献）	阿部恒久・佐藤恒久著『通史と史料　日本近現代女性史』（芙蓉書房出版、2000 年）。そのほか適宜授業中に紹介する。		
教材（その他）	毎回こちらで資料プリントを作成し配布する。		
評価方法	学期末に実施する定期試験（70%）、授業中に提出を課すコメントペーパーの内容など平常点（30%）。		
到達目標	「何となくそうだと思っていること（思わされていること）」を疑い、自らの考えを変えていける柔軟性と思考力とを身につける。		
準備学習	講義のなかで紹介する文献に目を通す。女性の日常が描かれた幕末・明治・大正期の小説を読む。「女性史」という視点から、日ごろ接するニュースを位置づけてみる。		

受講者への要望

受講にあたり、知識の多い少ないは問わないが、高等学校までに使った「日本史」の教科書を座右に置き、目次と記述を読み直してみることを求めたい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス～　「日本史」のなかの「女性」
2　「文明開化」と風俗改良問題
3　女権獲得運動のおこり
4　女子教育の開始
5　資本主義下の女子労働
6　近代公娼制度の始まり
7　「家」制度と女性
8　日清・日露戦争と女性
9　「新しい女」の登場
10　女性の社会進出と「母性保護」論争
11　女性の政治的権利の要求
12　「性」をめぐる女性運動
13　「生活」をめぐる女性運動
14　帝国化する日本と女性
15　まとめの考察：1860 年代～1910 年代の女性

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50501B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) II		
担当者名	田中　智子	旧科目名称	
講義概要	この授業は、大正期（今から約１００年前）から高度経済成長期（今から約５０年前）に至るまでの日本近現代史のあゆみを、「女性の歴史」という視点から眺め直してみようという講義である。授業の前半では、各回のテーマにしたがって、法令や制度、運動などについて、これまでの研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていく。後半では、そのテーマに関わる実在の女性を一人取り上げ、その生涯と思想を追いかけたい。　歴史学特殊講義（日本近現代史）Ｉの続編・中級編と位置づける。		
教材（テキスト）	特定の教科書は用いない。		
教材（参考文献）	阿部恒久・佐藤恒久著『通史と史料　日本近現代女性史』（芙蓉書房出版、2000 年）。そのほか適宜授業中に紹介する。		
教材（その他）	毎回こちらで資料プリントを作成し配布する。		
評価方法	学期末に実施する定期試験（70%）、授業中に提出を課すコメントペーパーの内容など平常点（30%）。		
到達目標	自らの見解を、歴史との対話のなかであたらしく創造していけるような根気のよさと論理性を身につける。		
準備学習	講義のなかで紹介する文献に目を通す。女性の日常が描かれた昭和戦前期・戦中・戦後の小説を読む。「女性史」という視点から、日ごろ接するニュースを位置づけてみる。		
受講者への要望			
受講にあたり、知識の多寡は問わないが、高等学校までに使った「日本史」の教科書を座右に置き、目次と記述を読み直してみることを求めたい。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンス　～「近代」と「現代」 2　戦間期の女性をめぐる社会変化 3　昭和恐慌と女性をめぐる社会問題 4　戦争に協力する女性たち 5　戦時下の日常生活と女性 6　労働力・産む性としての戦時女性 7　戦地の女性たち 8　占領期の「性」をめぐる実態 9　女性参政権の実現 10　教育「民主化」政策と女性 11　戦後の労働問題と女性 12　「主婦論争」と「ウーマンリブ」 13　高度経済成長と女性のライフサイクル 14　「女性史」の誕生 15　まとめの考察　～「男女共同参画社会」の実態			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50505A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the Early Modern Age of Japan) I		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% レポート　50% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。授業中スマホで遊んでいるところを一度でもみかけたら単位はだしません。スマホ依存から脱却してください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　江戸時代の地震となまず絵 第３回　江戸時代の『源氏物語』 第４回　錦絵の生産と流通 第５回　江戸時代前期の出版関係法令 第６回　歌麿と幕府の出版統制 第７回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第８回　判じ絵を読み解く 第９回　出版文化と日用教養書 第 10 回　江戸時代の七夕文化 第 11 回　京都の通り名歌の歴史 第 12 回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第 13 回　江戸時代、書物文化の広がりと常識の形成 第 14 回　出版文化と伝説の広がり 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J50505B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the early modern age of Japan) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% レポート　50% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の歴史の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人はお断りです。受講しないでください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　政治史；秀吉の平和 第３回　政治史；「惣無事令」はなかった！？ 第４回　政治史・史料論　前期幕藩制研究と史料批判 第５回　政治史：領主のとらえ方 第６回　史料論：災害と歴史学 第７回　史料論：ウソをつく古文書 第８回　法制史：江戸時代の出版法令 第９回　教育史：江戸時代における文字の役割 第 10 回　教育史：江戸時代の識字率は世界一！？ 第 11 回　民俗学：休日の歴史 第 12 回　民俗学：民俗学と歴史学 第 13 回　女性史：遊女へのまなざし 第 14 回　女性史：おっぱいの歴史 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J50510A01
科目名	日本文学特殊講義Ａ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature A		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では日本の近代文学を学ぶ入り口として、広い意味での「歴史小説」、すなわち歴史上の事件や人物などを素材として構成された小説を中心に読んでいきます。主に取り扱うのは芥川龍之介、菊池寛、森鴎外の作品です。 授業ではまず、『高瀬舟』『羅生門』などといった高校までの「国語」の授業で取り扱うことも多い作品を、大学での「文学研究」において重要となる実証的な手法、すなわち本文や文脈の精査、素材や典拠の検討、他作品との比較、文化的背景の考察などを通して読み解き、作品への理解を深めます。また「歴史小説」についての評論などを読むことを通して、「(歴史) 小説」とは何か、「文学」とは何かという問題について考えます。		
教材（テキスト）	芥川龍之介『地獄変・邪宗門・好色・藪の中 他七篇』(岩波文庫、緑 70-2)。ほか、授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。ほか、映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(40%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（60%)。		
到達目標	・芥川龍之介、菊池寛、森鴎外についての知識を身につけ、作品への理解を深める ・「歴史小説」について理解する ・近代の文学作品を自分なりの視点から読み解けるようになる ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、次の授業までに必ず読んでおくこと。ミニッツペーパーやレポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

秋学期に実施される日本文学特殊講義 B・E と関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講すると理解がより深まるだろう。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.森鴎外『高瀬舟』①
3.森鴎外『高瀬舟』②
4.芥川龍之介『羅生門』
5.芥川『藪の中』.①―映画『羅生門』観賞
6.芥川『藪の中』②
7.芥川と菊池寛の歴史小説①―映画『地獄門』観賞
8.芥川と菊池寛の歴史小説②―菊池寛『袈裟の良人』 1
9.芥川と菊池寛の歴史小説③―菊池寛『袈裟の良人』 2
10.芥川と菊池寛の歴史小説④―芥川『袈裟と盛遠』
11.芥川と菊池寛の歴史小説⑤
12.芥川と菊池寛の歴史小説⑥
13.「歴史小説」について考える①
14.「歴史小説」について考える②・小テストの実施
15.授業内容の総括・小テスト解説
＊参加者の関心や理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50510B01
科目名	日本文学特殊講義Ｂ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature B		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では、おもに大正・昭和初期の文学を扱います。大正・昭和初期の文学史を学びつつ、この時代の代表的な作品や評論を読み解くことを通して、日本の近代文学と近代についての理解を深め、様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とします。特に重点を置くのは夏目漱石と谷崎潤一郎です。		
教材（テキスト）	授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(50%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（50%)。		
到達目標	・日本の近代文学に対する理解を深める ・取り上げる作家や作品についての知識を身につけ、理解を深める ・様々な視点から近代の文学作品を読み解く力を身に付ける ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。授業後のミニッツペーパー、レポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

春学期に実施される日本文学特殊講義Ａ、秋学期に実施される日本文学特殊講義Ｅと関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講することを推奨する。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.夏目漱石①―映画『こころ』観賞
3.夏目漱石②―漱石『こころ』を読む１
4.夏目漱石③―漱石『こころ』を読む２
5.自然主義と反自然主義の文学について
6.谷崎潤一郎①
7.谷崎潤一郎②
8.谷崎潤一郎③
9.白樺派の文学①―武者小路実篤
10.白樺派の文学②―志賀直哉
11.菊池寛・芥川龍之介の文学①
12.菊池寛・芥川龍之介の文学②
13.モダニズム文学・プロレタリア文学①
14.モダニズム文学・プロレタリア文学②
15.大正・昭和初期の日本文学史概括、小テストの実施と解説

＊参加者の関心や理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50510C01
科目名	日本文学特殊講義Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature C		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席・発言等の平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典文学と資料を読み解きながら、京都に実感的に親しむ。作品や史料を知識として知るだけでなく、自分の心でそれを鑑賞・考察する。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
準備学習	平安時代の文化と歴史について高校教科書程度の基礎知識を持っておくこと		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50510D01
科目名	日本文学特殊講義D	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature D		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の江戸時代の文化を中心に扱う。江戸時代、三都と言われたのは江戸・京・大坂であった。江戸前期に京・大坂を中心とする上方文化が栄え、後期は文化が東漸し江戸文化が栄える。この講義では、東西の文化を比較しつつ、江戸文化を紹介することによって、上方、特に京都文化を逆照射することを試みたい。武士・町人の人口割合も影響したといわれる当時の東西文化の特徴が、現代の当地気質にも及んでいることを考察したいと考える。 具体的には、浮世絵を文学の立場から読み解いてみることを試みたい。 北斎の『北斎漫画』や国芳の絵本を題材に、北斎に取りあげられユーモラスに描かれた 江戸時代の町の人々のくらしの様子を読み解き、 時には歴史上の英雄や妖怪などの 絵にまつわる日本と中国の多彩な物語を紹介していく。		
教材（テキスト）	『北斎漫画』『国芳の絵本』（岩崎美術社）の必要部分をプリントして配布する		
教材（参考文献）	『北斎漫画』１～５編、『国芳の絵本』一二、（岩崎美術社）		
教材（その他）			
評価方法	平常点５０％、発表またはレポート５０％		
到達目標	絵の出典はさまざまなので、 多様な資料に接することになる。		
準備学習	葛飾北斎について、展覧会などがあったら見に行ってほしい。		
受講者への要望			
毎回出席すること。 意見や感想を遠慮なく発言すること			
講義の順序とポイント			
１　江戸時代の絵画 ２　浮世絵師の勢力分布と画風 ３　葛飾北斎の画風の変遷 ４　『北斎漫画』の紹介 ５　『国芳の絵本』の紹介 ６～１２　各図の出典を考える １３　同じ画題がどのように絵師によって違ってえがかれているかを比較する １４　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（１） １５　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J50510E01
科目名	日本文学特殊講義Ｅ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature E		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では、おもに明治時代の日本文学を扱います。明治時代の文学史を学びつつ、この時代の代表的な作品や評論を読み解くことを通して、日本の近代文学と明治時代についての理解を深め、様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とします。特に重点を置くのは泉鏡花と夏目漱石です。		
教材（テキスト）	授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(50%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（50%)。		
到達目標	・日本の近代文学に対する理解を深める ・取り上げる作家や作品についての知識を身につけ、理解を深める ・様々な視点から近代の文学作品を読み解く力を身に付ける ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。ミニッツペーパーやレポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

春学期に実施される日本文学特殊講義Ａ、秋学期に実施される日本文学特殊講義Ｂと関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講することを推奨する。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.明治初期の文学
3.森鴎外
4.「紅露の時代」の文学
5.樋口一葉①―樋口一葉の生涯と作品／『たけくらべ』
6.樋口一葉②
7.泉鏡花①―泉鏡花の生涯と作品１／映画『外科室』観賞
8.泉鏡花②―泉鏡花の生涯と作品２／舞台映像『湯島の境内』鑑賞
9.泉鏡花③
10.泉鏡花④
11.夏目漱石①―夏目漱石の生涯と作品
12.夏目漱石②―『夢十夜』
13.夏目漱石③
14.夏目漱石④
15.明治期の日本文学史概括、小テストの実施と解説

＊参加者の関心や理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50510G01
科目名	日本文学特殊講義Ｇ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature G		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行う。 鴨長明著『方丈記』を読む。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」で知られる『方丈記』は、源平争乱期を生きた作者が、人生の晩年に著した作品である。 そこに描かれているのは、震災・火事などの災害体験、それらを通して作者がたどりついた生き方である。 現代の我々が抱えるテーマと通ずる内容をはらんだ『方丈記』全体を通読する。 テキストを精読し、各自作品について思考し、教員の設定する問題について考察してみよう。 また、著者鴨長明の他の作品も併せ読み、『方丈記』を読む上で必要な周辺知識について学ぼう。		
教材（テキスト）	授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業内で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	最終回授業で行う到達度テスト　40%　授業内レポート 40%　平常点（出席などによる）　20%		
到達目標	・鴨長明著『方丈記』を通読する。 ・『方丈記』の読解を中心に、古典文学作品の研究に必要な基礎的知識を身につける。		
準備学習	次回授業までに読んでおくべきテキストを提示するので授業前までに必読のこと。 また、到達度テスト前に授業の内容を復習すること。		
受講者への要望			
能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
1　授業のすすめ方　はじめに　『方丈記』概説 2　鴨長明概説 3　『方丈記』を読む（1） 4　『方丈記』を読む（2） 5　『方丈記』を読む（3） 6　『方丈記』を読む（4） 7　『方丈記』を読む（5） 8　『方丈記』を読む（6） 9　『方丈記』を読む（7） 10　『方丈記』を読む（8） 11　『方丈記』と『発心集』（1） 12　『方丈記』と『発心集』（2） 13　『方丈記』と『無名抄』（1） 14　『方丈記』と『無名抄』（2） 15　授業のまとめ　到達度テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50513A01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) I		
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
講義概要	古代都市（首都）は日本の歴史の総体を直接に反映する。日本の古代都市の成立から、摂関・院政期の平安京の変貌までを解明する。日本の古代都市の成立は、７世紀末の都城・藤原京とされることが多い。古代都城・藤原京の意義と限界、平城京の特質と実態を解明し、さらに長岡京遷都の背景を説明する。ついで平安京遷都の経過を検証し、初期平安京の構造を理念と実際の両面から説明する。つぎに、西暦 1000 年前後の平安京の変貌を多面的に考察し、院政期の開発・再開発を都市住人と権門の両面から検討する。平城京・平安京の都市社会や住人に焦点をあて、西暦 1000 年前後の画期を強調する。文献史料のほか、近年は発掘調査の成果が顕著であるので、発掘調査のデータや絵画史料を活用する。		
教材（テキスト）	ない、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	木下正史・佐藤信編『飛鳥から藤原京へ』（古代の都１）吉川弘文館、２０１０年 田辺征夫・佐藤信編『平城京の時代』（古代の都２）吉川弘文館、２０１０年 西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年		
教材（その他）	発掘調査や絵画資料のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	日本の７世紀末から１２世紀までの正確で幅広い知識を獲得するとともに、発掘調査の成果や文献史料の原典から新しい情報を発見して歴史像を組み立て、また情報を外部に発信するための技術を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、参考文献の該当箇所を読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。復習課題から小テストを出題する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。

講義の順序とポイント

1　「古代」都市の成立と変遷
2　藤原京の成立過程
3　藤原京の意義と限界
4　平城京の特質
5　平城京の実態
6　長岡京遷都
7　平安京遷都
8　初期平安京の構造
9　初期平安京の貴族と住人
10　平安京の変貌と町屋の成立
11　摂関期の「随近の人」「近辺の人々」
12　摂関・院政期の町小路
13　院政期の白河・鳥羽・法住寺殿の開発
14　院政期の「在地の者」「在地の輩」
15　西暦 1000 年前後の画期と院政期以降の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50513B01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) II		
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
講義概要	平安京・京都を中心に、日本の歴史を学習する。ＪＲ二条駅前の発掘調査で、九世紀後半の仮名墨書土器が大量に発見された。この地区は平安京右京三条一坊六町で、右大臣藤原良相の西三条第が所在する。藤原良相の西三条第は百花亭と呼称される。初期の仮名が大量に出土する背景を考察するため、右大臣藤原良相の西三条第（百花亭）・「男女」を検討する。「百花亭の詩」の典拠は白楽天である。良相は西三条第や内裏直廬で詩会を主宰し、貞観期を代表する文人が参加する。良相の「男女」では、長子常行と在原業平は確実に相知であり、直方・忠方は「才行」が確証される。西三条第は、十世紀中葉まで伝領が判明する。		
教材（テキスト）	ない、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年 京都市埋蔵文化財研究所『平安京右京三条一坊六・七町跡－西三条第（百花亭）跡』2013 年 西山良平・鈴木久男・藤田勝也編著『平安京の地域形成』京都大学学術出版会、2016 年 参考ＵＲＬ：{ http://www.kyoto-arc.or.jp/}京都市埋蔵文化財研究所		
教材（その他）	発掘調査や遺物のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	京都・日本の歴史とその背景を具体的な素材を通して理解し、歴史的に思考する。また、歴史的な思考の根拠となる歴史資料・情報（文字資料、発掘調査など）を読み解き、外部に意見や情報を発信できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、１週間前に参考文献の該当箇所を指示するので、読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。復習課題から小テストを出題する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。

講義の順序とポイント

1　平安京の構造
2　平安京右京三条一坊六町の発掘と仮名墨書土器
3　右大臣藤原良相と西三条第（百花亭）
4　清和天皇の西三条第行幸
5　良相と文人１
6　良相と文人２
7　良相の「男女」ら
8　良相の「女」
9　良相の「長子」藤原常行
10　「長子」常行と在原業平
11　藤原常行と伊勢物語
12　良相の「男」藤原直方・忠方
13　百花亭の伝領と貞真親王
14　九世紀後半の西三条第
15　仮名墨書土器と国風文化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50523A01
科目名	日本語史Ａ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Language A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	日本史で習ったあの文字は当時どう読まれていたのか？あの人はどのような言葉を話していたのか？ 日本語史で重要な文書・人物・事件等を取り上げ、言葉の問題として解明してゆきます。 例えば次のような問題を阿ｔ買います。時代で言えば、原始時代から室町時代までです。 「西暦 57 年に日本にもたらされた金印の文字「漢委奴国王」は、当時どう読まれたか？ 「カンノワノナノコクオウ」と習ったと思いますが、もらった側はそう読まなかったはうです。 「漢委奴国王」を「カンノワノナノコクオウ」と読むのは漢文訓読ですが、 当時漢文の訓読が存在した証拠はないのです。詳しくは授業でお話します。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に指示する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・授業参加状況などによる平常点 50％・学期末レポート 50％		
到達目標	日本語の歴史の基本的な知識を身につける。 日本語の歴史を多面的に考えることができるようになる。		
準備学習	いつでも日本史の基礎知識を確認できるよう、高校の教科書・図録を手元に置いておくこと		
受講者への要望			
積極的な質問・意見を期待します。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　授業の進め方 第 2～3 回　原始・古代 1（石器・縄文・弥生・古墳・飛鳥）の日本語･･･言葉のはじまり、卑弥呼等 第 4～7 回　古代 2（奈良・平安）の日本語･･･『万葉集』『土佐日記』『枕草子』『源氏物語』等 第 8～11 回　中世 1（鎌倉）の日本語･･･仏教語・『平家物語』『徒然草』等 第 12～15 回　中世 2（室町）の日本語･･･能狂言の言葉、キリスト教宣教師の言葉 ＊授業進度や参加者の希望により内容は適宜変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50523B01
科目名	日本語史Ｂ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Language B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	日本史で習ったあの文字は当時どう読まれていたのか？あの人はどのような言葉を話していたのか？ 日本史で著名な文書・人物・事件等を取り上げ、言葉の問題として解明していきます。 例えば次のような問題を扱います。時代で言えば、江戸時代から現代までです。 「時代劇の言葉はその時代の言葉なのか？」 時代劇の言葉は、舞台が江戸時代初期でも幕末でも同じような言葉です。 しかし、江戸時代の始まり（1603 年）から終わり（1868 年）までは 300 年近くあります。 10 世代ほどにも及ぶ期間に言葉が変わらないはずはありませんし、 実際少なからず変化しています。「時代劇言葉」は架空の言葉なのです。 どのように変化したのか？なぜそれが分かるのか？ なぜ「時代劇言葉」が生まれたのか？そのルーツは？ 春学期の日本語史 A では、その前の時代を扱います。原始時代から室町時代までです。両方受講すると理解が深まりますが、どちらか一方の受講でも問題ありません。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に指示する		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・質問などによる平常点 50％・学期末レポート 50％		
到達目標	日本語の歴史の基本的な知識を身につける。 日本語の歴史を多面的に考えることができるようになる。		
準備学習	いつでも日本史の基礎知識を確認できるよう、高校の教科書・図録を手元に置いておくこと		
受講者への要望			
積極的な質問・意見を期待します。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　授業の進め方 第 2～6 回　江戸時代の日本語･･･（テーマ例）語り物の言葉等 第 7～11 回　近代（明治時代以降）の日本語･･･教科書・放送の言葉等 第 12～15 回　現代（戦後・平成）の日本語･･･方言・若者言葉等 ＊参加者の希望等により、適宜変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50527A01
科目名	日本語学講読Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading on Japanese Language Study A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	購読の授業であるから、はじめのうちは、教員が講義するが、資料に慣れてきた段階で学生諸君に調べたところを発表してもらう。 「購読」は、３回生の「演習」、４回生の「卒論」に対する基礎を学ぶ科目であり、その基礎を築く重要な科目である。 歴史、京都文化、ことば、に興味のある人に受講してもらいたい。		
教材（テキスト）	テキストは、江戸時代の『皇都午睡（みやこの昼寝)』を用いる。 テキストは、コピーして配布するので、教科書を購入する必要はない。		
教材（参考文献）	『浮世風呂』（岩波、新日本古典文学大系他） 『浮世床』（新潮社　日本古典文学集成）		
教材（その他）	授業内に適宜紹介する。		
評価方法	平常点(50%)とレポート(50%)で評価する。		
到達目標	江戸時代後期の作品で、比較的読みやすい。京、江戸、大坂の三都の様子を記した文献で、読み物としても面白い。		
準備学習	どのような文献でもよいので、江戸時代（近世）の小説などに目を通しておくとよい。		
受講者への要望			
高校までの授業は、言わば「受け身」の授業であったが、この「購読」は、学生諸君が主体的に運営する科目であり、まさに大学で学ぶにふさわしいものである。しっかり、取り組んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．作品の背景 ２．購読 ３．購読 ４．購読発表 ５．購読発表 ６．購読発表 ７．購読発表 ８．購読発表 ９．購読発表 １０．購読発表 １１．購読発表 １２．購読発表 １３．購読発表 １４．購読発表 １５．購読発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J50529A01
科目名	日本語学特殊講義Ａ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Language Study A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	私たちにとって言葉はあまりにも身近すぎて意識されることが少ない。しかし、さまざまな地域、世代の人とのふれあいをきっかけに言葉について関心を持つ経験は誰にでもある。このような経験を出発点として言語について客観的に考える方法を身につける。方言を中心に、若者言葉、日本語の歴史などについても述べ、日本語の特徴を考える。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席点、授業内の課題 50%、学期末課題 50%		
到達目標	現代日本語についての知識を得る。		
準備学習	普段から身近な言葉に注目し、どのような問題があるのかについて整理しておくこと。		
受講者への要望			
講義形式ですが、ほぼ毎回テーマに関する課題やアンケートを出題します。受講者自身の経験が貴重な資料となります。積極的に参加してください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス、方言とは①方言と共通語 2　方言とは②調査方法 3　方言のしくみ①音韻、アクセント、イントネーション 4　方言のしくみ②語彙、文法 5　方言のしくみ③待遇表現 6　方言の分類 7　方言の歴史 8　現代の方言①方言をアレンジする 9　現代の方言②言語接触 １０　現代の方言③方言のイメージ １１　日本語のバラエティ １２　ら抜きことばの背景 １３　方言と外来語 １４　関西方言① １５　関西方言②、授業の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2017	授業コード	J50529C01
科目名	日本語学特殊講義Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Language Study C		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	「京ことば」を多角的に探究する講義である。 京都が舞台となるテレビや映画、アニメは多いが、それらで使われている京都の言葉に問題はないかを検証することから始める。 また、京都の言葉は長く日本の中央語であった。つまり、京都語の歴史はそのまま日本語の歴史と言ってよい。本講義では、その京都語の中央語性に鑑み、その音韻的・文法的・語彙的な変遷を詳しく見ていきたい。		
教材（テキスト）	こちらで用意する。		
教材（参考文献）	授業内で適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）と期末試験 or レポート（５０％）による総合評価。		
到達目標	京都語学（日本語学）の基礎知識を身につける。 京都の大学に通っていたことを将来示せるような京ことばについての知識を伝授する。		
準備学習	京都が舞台の番組、映画、小説などに触れておいてほしい。		

受講者への要望

授業中の私語は厳禁。

京都の人はもちろん、他府県出身の諸君にもどんどん受講してほしい。

京ことばと他の関西のことば、他の地方のことばとの比較などもする予定である。

講義の順序とポイント

1　ドラマ・映画・アニメの京ことば
2　京ことばリテラシー
3　京ことばの位置
4　中央語としての京都語の変遷
5　京都語の文法１
6　京都語の文法２
7　京都語の音韻
8　唇音退化
9　ハ行転呼音現象
10　仮名遣
11　アクセント１
12　アクセント２
13　現代の京ことば研究
14　標準語は存在するか
15　将来の京ことば像

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50539101
科目名	日本史研究入門　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y Ⅰ		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
講義概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、また、史料解釈や研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。春学期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、秋学期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編という位置づけである。「日本史研究入門Ⅰ」では、とくに基礎的な知識を身につけ、調べる力を養うことに重点をおく予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加態度や講義内での課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解する。日本史の研究に必要なさまざまな事柄を自力で調べられるようになる。		
準備学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講者への要望			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．　ガイダンス ２．　日本史の基礎知識 ３．　日本史関係の辞書・文献① ４．　日本史関係の辞書・文献② ５．　日本史関係のデータベース等 ６．　図書館・博物館等 ７．　日本史の史料① ８．　日本史の史料② ９．　日本史の史料③ １０．日本史の史料④ １１．日本史の史料⑤ １２．日本史の研究分野① １３．日本史の研究分野② １４．総合的な課題にとりくむ １５．日本史の論文の作法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J50539201
科目名	日本史研究入門　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y II		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
講義概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、また、史料解釈や研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。春学期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、秋学期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編という位置づけである。「日本史研究入門Ⅱ」では、「日本史研究入門Ⅰ」で学んだ知識を活かしながら、史料を読み、関連事項を調べて、史料解釈の能力を養うことに重点をおく予定である。なお、史料は古代・中世史料が中心となる。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加態度や講義内での課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解し、日本史の研究に必要なさまざまな事柄を自力で調べられるようになる。史料読解の基礎力を身につける。		
準備学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講者への要望			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．　ガイダンス ２．　史料読解の基礎① ３．　史料読解の基礎② ４．　史料読解の基礎③ ５．　古代史の研究と史料読解① ６．　古代史の研究と史料読解② ７．　古代史の研究と史料読解③ ８．　古代史の研究と史料読解④ ９．　中世史の研究と史料読解① １０．中世史の研究と史料読解② １１．中世史の研究と史料読解③ １２．中世史の研究と史料読解④ １３．近世史・近代史の研究と史料読解① １４．近世史・近代史の研究と史料読解② １５．日本史の論文の作法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J50544A01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史） Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) I		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	近年の高校日本史の教科書では、中世を鎌倉幕府ではなく、院政時代から始めるものが増えている。学界の定説を反映させたものであるが、これは中世の始まりが 150 年早くなったというだけの話ではない。鎌倉幕府の成立よりも、院政時代の方が重要な歴史的画期であるということだ。それはまた、中世を武士・幕府・鎌倉新仏教で捉えてきた歴史像への批判であるし、鎌倉新仏教という概念の有効性すら否定されようとしている。日本中世は本当に武士の時代なのだろうか。鎌倉新仏教の時代なのか。 本講では、仏教・寺院を中心的素材としながら、日本の古代社会から中世社会への転換過程を検討する。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを適宜配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	・日本の古代中世史についての最新の学説を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.「鎌倉新仏教」概念の破綻 2.呪詛と祈祷 3.律令体制から王朝国家体制へ 4.宗教政策の転換 5.中世寺院への転換 6.寺院による文書偽造 7.末法思想の流布 8.民衆にとっての強訴とは？ 9.　顕密仏教の民衆的基盤 10.鎌倉初期の仏教改革 11.異端とその弾圧 12.禅律僧の時代 13.非人救済活動の二面性 14. 禅宗と朝廷・幕府 15.法然・親鸞の登場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50544B01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) II		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	中世の歴史文化に関して、２つのテーマをとりあげる。第１は、中世の人々はなぜ宗教を信じていたのかという問題を、技術史的背景から考える、第２は外来文化である仏教がなぜナショナリズムと結びついたのかという問題を、神仏関係を素材に考察する。 ①中世は技術が進歩したという側面と、技術がまだまだ未熟であるという二つの側面をもつ。宗教は合理性を超越したものだが、しかし技術や知識が進歩してくると、宗教の内部に合理性を取り入れなければ社会の信頼を維持することができなくなる。他方、技術の未熟さ、人間の力の限界は、呪術や宗教への依存を不可避とする。これらを通して、中世仏教における合理と非合理との関係について考えたい。 ②仏教はもともと外来文化であるが、それが日本社会に定着するようになると、仏教が日本的なものとみなされ、仏教の繁栄が日本の卓越性を示すものとされた。そしてそれがモンゴル襲来を機に独善的な神国思想へと変容してゆく。外来文化がナショナルな感情と結びついていった原因について考えたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本中世の歴史文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
準備学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		

受講者への要望

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

講義の順序とポイント

1.中世は呪術からの解放の時代か？
2.肖像画と呪詛
3.護持僧
4.顕密仏教の合理性
5.治病と祈祷
6.万能でない神仏
7.古代・中世における神と仏
8.神仏同体論
9.賀茂社と神仏習合
10.伊勢神宮と仏教
11.神々と三国世界
12.辺土小国観の克服
13.中世神道と顕密仏教
14.神国思想と仏国思想
15.仏教の時代の終焉と世界地図

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50551A01
科目名	日本美術史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席回数が極端に少ない場合は、評価の対象としないので、注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには、退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　　同　　上　　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50551B01
科目名	日本美術史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。 以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、ＯＨＣとビデオを多用しながら概観したい。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の陶磁の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．縄文土器・弥生土器 ２．土師器・須恵器・奈良三彩 ３．初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．灰釉・緑釉 ６．荘園貿易の時代 ７．六古窯 ８．鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．安土桃山・江戸の輸入陶磁 １２．伊万里焼 １３．後期伊万里・鍋島 １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50561A01
科目名	日本文化史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% 試験　50% ※試験は授業内容に関連する論述問題をだします		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお日本文化史Ｂの受講を予定している人は必ずこの講義を先に受講してください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　江戸時代の地震となまず絵 第３回　江戸時代の流行病とはしか絵 第４回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第５回　幕末期諷刺錦絵と武鑑 第６回　幕末期商人・農民の情報収集活動 第７回　浮世絵の生産と流通 第８回　江戸時代の本の作り方 第９回　江戸時代前期の出版関係法令 第 10 回　江戸時代後期の出版統制とその対応 第 11 回　江戸時代の『源氏物語』 第 12 回　江戸時代の七夕文化 第 13 回　民俗学と文字文化 第 14 回　京都の通り名歌の歴史 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J50561B01
科目名	日本文化史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。今でも、日本各地の旧家には、江戸時代の書物が残っている家が多くあります。書物文化の隆盛の背景には、出版文化の隆盛、手習い教育の浸透といった動向が背景にありました。本講義では、そのような江戸時代の書物文化の特色を、出版物自体やそれを作る板元や作者、それを取り締まる幕府の法律などにも注目しながらみていき、書物を通して江戸時代という時代への理解を深めてもらいます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% 試験　50% ※試験は授業内容に関連する論述問題をだします		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお日本文化史Ａの受講を前提として授業を進めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　歌麿と幕府の出版統制 第３回　判じ絵を読み解く 第４回　出版文化と日用教養書 第５回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第６回　江戸時代、書物文化と近江八景 第７回　隠岐の長者村上家と京都 第８回　番付から読み解く歴史 第９回　双六から読み解く歴史 第 10 回　〈子供〉の誕生 第 11 回　江戸時代における文字の役割 第 12 回　江戸時代の教育 第 13 回　音読から黙読へ 第 14 回　江戸時代の識字率は世界一！？ 第 15 回　江戸時代の文字文化と手習教育			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J50564A01
科目名	日本文化論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	『源氏物語』にみる日本文化の諸相		
教材（テキスト）	プリントを用意する		
教材（参考文献）	授業時に適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	期末レポート点 50％と出席状況等の平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』に描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
準備学習	高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと		

受講者への要望

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――平安の都と政治１
3　「桐壷」巻――平安の都と政治２
4　「桐壷」巻――平安の都と政治３
5　「桐壷」巻――平安の都と政治４
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異１
8　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異２
9　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異３
10　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異４
11 番外編　平安京心霊スポット
12　「少女」巻――子供たちの成長１
13　「少女」巻――子供たちの成長２
14　「少女」巻――子供たちの成長３
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50564A02
科目名	日本文化論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	『源氏物語』にみる日本文化の諸相		
教材（テキスト）	プリントを用意する		
教材（参考文献）	授業時に適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	期末レポート点50%と出席状況等の平常点50%で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』に描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
準備学習	高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと		

受講者への要望

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――平安の都と政治1
3　「桐壷」巻――平安の都と政治2
4　「桐壷」巻――平安の都と政治3
5　「桐壷」巻――平安の都と政治4
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異1
8　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異2
9　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異3
10　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異4
11 番外編　平安京心霊スポット
12　「少女」巻――子供たちの成長1
13　「少女」巻――子供たちの成長2
14　「少女」巻――子供たちの成長3
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50564B01
科目名	日本文化論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan II		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本文化論Ｉで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートなどを総合して判断する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
準備学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講者への要望			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。			
講義の順序とポイント			
中世からの文化 １、茶道と文化 ２、茶道の歴史・小テスト ３、華道 ４、香道 ５、まとめと小テスト ６、能・狂言の紹介 ７、能楽 ８、狂言 ９、まとめと小テスト １０、中世までの庭園 １１、大名庭園 １２、茶庭 １３、まとめと小テスト １４、尾形光琳 １５、尾形光琳			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50564B02
科目名	日本文化論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan II		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本文化論Ｉで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートなどを総合して判断する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
準備学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講者への要望			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。			
講義の順序とポイント			
中世からの文化 １、茶道と文化 ２、茶道の歴史・小テスト ３、華道 ４、香道 ５、まとめと小テスト ６、能・狂言の紹介 ７、能楽 ８、狂言 ９、まとめと小テスト １０、中世までの庭園 １１、大名庭園 １２、茶庭 １３、まとめと小テスト １４、尾形光琳 １５、尾形光琳			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50570A0A
科目名	日本文学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIA		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	受講生の卒業研究のテーマに合わせて展開する。 受講生には4月~6月にテーマについて発表を試み、 １０月の中間発表を目標に準備する。		
教材（テキスト）	受講生のテーマに共通するものがあれば用いる		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点、授業への参加度、調査などの実績		
到達目標	テーマを詳しく調べる力を養うこと 誰にでもわかるように話し、説得力があるようになること 卒業研究を完成させること		
準備学習	自分の興味のあるテーマを考えること		

受講者への要望

授業に出席するだけでなく、積極的に自分のテーマを発見し
卒業研究にむけて調査をしていくこと

講義の順序とポイント

1　各自テーマの選定
2　図書館で調査～カードの取り方
3　小発表と討論
4　小発表と討論
5　書誌学的調査の方法
6　調査
7　参考文献の紹介
8　参考資料の紹介
9　先行研究を考える
１０　先行研究の紹介
１１　発表
１２　発表
１３　課題を考える
１４　課題を考える
１５　論文の完成のしかた

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50570A0B
科目名	日本文学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIA		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の指導を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期開始時の発表（40％） 卒業研究の制作に向けての通常の進行状況（60％）		
到達目標	各自の卒業研究制作を機会に、より思考を深めるとともに、論述・創作能力の実質的な伸長を図る。		
準備学習	前年度の専門演習Ｉを土台とする。		
受講者への要望			
卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。 １　卒業研究・創作第一次合同発表会 ２～１５　卒業研究制作作業の報告と確認、今後の作業の見通し、問題点等について、個別に綿密な指導を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50570B0A
科目名	日本文学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIB		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	受講生の卒業研究のテーマに合わせて展開する。 １０月に題目を決定し 中間発表を目標に準備、 書き進めながら、ほかのメンバーに内容を知ってもらい 質問を受け、意見交換をする。		
教材（テキスト）	受講生のテーマに共通するものがあれば用いる		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点、授業への参加度、調査などの実績		
到達目標	テーマを詳しく調べる力を養うこと 誰にでもわかるように話し、説得力があるようになること 卒業研究を完成させること		
準備学習	自分の興味のあるテーマを考えること		
受講者への要望			
授業に出席するだけでなく、積極的に自分のテーマを発見し 卒業研究にむけて調査をしていくこと			
講義の順序とポイント			
１　各自テーマの選定 ２　図書館で調査～カードの取り方 ３　小発表と討論 ４　小発表と討論 ５　書誌学的調査の方法 ６　調査 ７　参考文献の紹介 ８　参考資料の紹介 ９　先行研究を考える １０　先行研究の紹介 １１　発表 １２　発表 １３　課題を考える １４　課題を考える １５　論文の細かい注意点など			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J50570B0B
科目名	日本文学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: Specialized Japanese Literature IIB		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の指導を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期開始時の発表（40%） 卒業研究の制作進行（60%）		
到達目標	各自の卒業研究制作を通じて、独創的発想・論理的思考・粘り強い調査・魅力的な文章作成能力の、実質的な伸長を図る。		
準備学習	日本文学専門演習ＩＩＡ の受講を前提とする。		
受講者への要望			
卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。 １　卒業研究・創作　合同中間発表会 ２～１５　卒業研究の執筆分を報告。その問題点の指導、書き直し、今後の執筆作業の見通し、調査上の問題点などについて、個別に綿密な指導を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★★	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J50575A01
科目名	日本文学講読 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Japanese Literature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	くずし字の資料を読む		
教材（テキスト）	毎回、プリントを用意する。		
教材（参考文献）	初回にくずし字の一覧を配布する。		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題で読めた字数により評価する。		
到達目標	課題の文字をすべて読め、内容を理解できること。		
準備学習	古文の歴史的かなづかいと文法について復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、解答を板書してもらうので、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1 くずし字の解説 2～15　くずし字資料の読解と解説			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2017	授業コード	J50575B01
科目名	日本文学講読Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Japanese Literature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	百人一首を読む・調べる		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業内で提示する		
教材（その他）			
評価方法	非担当時間の質問・発言・議論等（40%） 担当発表（60%）		
到達目標	文学作品について、自分で調べ・まとめ・発表する力を養う。また、他者の発表を聞き評価する態度を養う。		
準備学習	発表に関しては、担当の和歌をしっかり調査・鑑賞した上、充実した発表資料を作成して持参すること。 フロアにおいても、教科書を熟読し、発表に対してきちんとした評価ができるよう準備してくること。		

受講者への要望

自分の発表時以外にも、積極的に意見や質問を行うこと。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
 担当歌決定
 参考図書紹介

2 レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーション模擬発表　（山本）

 本授業での発表は、対戦形式でおこなう。

①当日の発表担当者が各々20 分程度発表する。
内容：担当の和歌および歌人についての解説と、その和歌の素晴らしさについて
（これについて、レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーションの各要素を評価する）

②次に、左方と右方のどちらの和歌・歌人が素晴らしいかについて、フロアが質問や意見を述べ、発表者が対応する。
（フロアからの発言者について「フロア・発言点」を、担当者について「担当者・応答点」を評価する）

③双方の主張を受けて、「どちらの和歌・歌人に魅力を感じたか」をフロアが判定する。
（発表担当者に「発表者・判定点」を加味する）

3～15　受講者数により、各回２首または３首（２名または３名）ずつ発表の予定。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50577001
科目名	日本文学講読Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Japanese Literature C		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	京都の文化に関わる資料を読む入門編。 江戸初期の町人の生活を描いた井原西鶴の短編小説から京都に関連する作品を選んで読み、当時の都市の人々のくらしの実態を理解していきます。作品名は『好色一代男』『世間胸算用』『日本永代蔵』など。子供の成長に合わせたしきたりから恋愛や家庭生活、社会のしくみや新しい商売のアイデアまで、広い範囲の問題がテーマとなる基礎編の講読です。		
教材（テキスト）	プリントを配布。		
教材（参考文献）	小学館『新編日本古典文学全集　西鶴（一）（二）（三)』		
教材（その他）			
評価方法	基本的に授業への参加度。発表の担当や、授業中の作業など。		
到達目標	江戸時代のくらしを感覚的に知ること。約１５０年前までは江戸時代だったので 現代に残っている慣習も多い。現代の生活のルーツを知り、そこからどう変わってきたか 自分で考えることができるようになることが望ましい。		
準備学習	担当が当たっているときはその準備が必要。当たっていない場合も、予習は大切。		
受講者への要望			
授業時間内に扱うのは膨大な資料の一部なので、他の部分は自主的に読んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　『好色一代男』より ２　『好色一代男』より ３　『好色一代男』より ４　総括　江戸時代の三都と遊郭 ５　『世間胸算用』より ６　『世間胸算用』より ７　『世間胸算用』より ８　総括　江戸時代の貨幣経済 ９　『本朝桜陰比事』より １０　『本朝桜陰比事』より １１　『本朝桜陰比事』より １２　『本朝桜陰比事』より １３　総括　江戸時代の京都のくらし １４　番外編１ １５　番外編２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50577101
科目名	日本文学講読Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代の歴史上の人物を取り上げ、その人の生い立ちを調べ、京都との関わりに関する資料を読んでみます。人物は、徳川家康・淀君・尾形光琳・徳川光圀（水戸黄門）・茶屋四郎二郎・細川ガラシャ・徳川吉宗・松尾芭蕉・上田秋成・本居宣長・大石内蔵助・坂本龍馬などから選びますが、江戸時代から少々はずれても要望があれば対応します。柔軟に対応する発展編となります。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内の発表担当に重点をおいて評価する。		
到達目標	江戸時代の実在の人物の伝記を調べる方法を学ぶ。		
準備学習	担当部分について調査をしてくること。 前の人の発表をよく学習すること。		
受講者への要望			
自分より先に発表する人の内容を参考にすること。			
講義の順序とポイント			
1　本阿弥光悦　『本阿弥行状記』の場合 2　新井白石『折りたく柴の記』の場合 3　伝記資料の紹介 4　『京都名家墳墓録』など 5　徳川家康(以下は状況によって変更の可能性があります) 6　淀君 7　水戸光圀 8　尾形光琳 9　細川ガラシャ １０　松尾芭蕉 １１　坂本龍馬 １２　徳川吉宗 １３　茶屋四郎次郎 １４　本居宣長 １５　人物研究の先駆者			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J50594001
科目名	認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Cognitive Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間が外界からの情報を受け取り，理解したり貯蔵したり，あるいは情報を加工して出力する，といった心の働きの仕組みについて学習します。また，こうした人間の認知活動を研究するうえで用いられる，認知心理学的アプローチの特徴を理解することを目指します。さまざまな認知機能に関する実験的研究と心理学理論を中心に，神経科学やシミュレーション研究などからの知見も合わせて紹介します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布します。		
評価方法	授業中の小テスト等による日常点(50%）と，期末テスト(50%)をあわせて評価します。		
到達目標	人間の認知の各領域の性質と，それを説明する心理学理論を理解する。 認知の仕組みを説明する理論がどのような証拠（実験結果等）によって示されているのかという議論の流れを理解し，認知心理学の研究法に関する理解を深めるとともに，論理的な思考力を身につける。		
準備学習	講義の中で，授業内容の理解を確認するための小テストを実施します。毎回の授業内容をよく復習して次回の授業に臨んでください。		

受講者への要望

毎回の授業ごとにテーマが分かれていますが，各回の授業の内容にはつながりがあります。前回までの授業内容をよく復習して次回の授業に出席してください。
授業の中で，各回のテーマに関わる実験のデモなどを行いたいと思っていますので，これに積極的に参加してくれることを期待します。

講義の順序とポイント

1. 認知心理学とは
2. 感覚と知覚
3. 注意
4. さまざまな記憶
5. 短期記憶，ワーキングメモリーと認知の制御
6. 自伝的記憶，目撃証言
7. 知識の構造
8. イメージと空間情報の処理
9. 推論と思考のバイアス
10. 判断と意思決定
11. 思考の二重性
12. 潜在認知
13. 感情と認知
14. 障害と認知
15. 認知心理学の歴史と方法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50596001
科目名	博物館概論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museology		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	近年、博物館・資料館等を取り巻く環境は、経済状況の厳しさからその社会的役割・機能についての見直しが厳しく行われており、決して好調で順調に推移しているとはいえない。 講義では、博物館・資料館等が社会の発展とともにどのように進歩してきたのか、その歴史と現状・課題について概説する。 また現在求められている基本的な目的と機能、さらに関連法律等にも言及し、学芸員の職種に従事しようとする者への博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的な知識の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の発達・発展の歴史的背景の理解と、現代社会におけるその基本的目的・役割・機能に関する認識に、さらに関連法律に関する知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		

受講者への要望

学芸員資格の取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。

講義の順序とポイント

1　博物館・資料館等の歴史と現状について＜概説１＞
2　博物館等の歴史的変遷（各論１）
3　博物館等の現状について（各論２）
4　博物館等の現状について（各論３）
5　博物館・資料館等の基本的な目的・機能について＜概説２＞
6　博物館等の目的について（各論１）
7　博物館等の機能について（各論２）
8　博物館・資料館等の関連法律について＜概説３＞
9　博物館等の関連法律・博物館法（各論１）
10　博物館等の関連法律・博物館法（各論２）
11　博物館等の関連法律・その他（各論３）
12　博物館・資料館等の今後の課題と展望について＜概説４＞
13　博物館等の今後の課題について（各論１）
14　博物館等の展望について（各論２）
15　博物館・資料館等と生涯学習について＜概説５＞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J50596002
科目名	博物館概論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museology		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	社会教育の一環を担う博物館相当施設には、博物館・美術館から水族館・植物園まで大変幅広いものが含まれている。それらの施設が社会の発展とともにどのように進化してきたのか、その歴史と現在求められている基本的な役割・機能や現状・課題について概説する。学芸員や社会教育主事などの職種に従事しようとする者への博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的知識の習得を図りたい。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する		
教材（その他）	毎回資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）は、ノートなど毎回の授業における努力で評価する。残りの５０％は合計3回提出を求める簡単な課題レポートで評価する。		
到達目標	博物館・資料館などの発展の歴史的背景の理解と、現代社会におけるその基本的目的・機能に関する認識に、さらに関連する法律に関する知識の習得を目標とする。		
準備学習	身近な博物館相当施設で行われる各種事業に注意し、新聞等のメディアでの広報に注意を払っておくこと。		

受講者への要望

学芸員資格・社会教育主事資格の取得を目指すもの向けの講義である点を認識して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。なお、この科目は卒業に必要な単位には、いかなる形でも算入されないので、資格取得希望者以外は履修登録をしないこと。

講義の順序とポイント

１・　博物館とは
２・　博物館の歴史
３・　博物館関連の法律
４・　日本の博物館
５・　これからの博物館
６・　博物館の運営（施設）
７・　博物館の運営（陳列）
８・　博物館の運営（展示・平常展）
９・　博物館の運営（展示・特別展）
１０・　博物館の運営（広報、情報メディア）
１１・　博物館の運営（資料収集）
１２．博物館の運営（保存・調査・研究）
１３・　文化財の保護とその歴史
１４・　文化財保護行政
１５・　指定文化財

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50597001
科目名	博物館情報・メディア論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Information & Media		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
講義概要	博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化のシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのかが大きな課題となっている。 講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。 あわせて、博物館や資料館とマスメディアとの関係を考えるとともに、その展望と課題について言及したい。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等よる。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
１　博物館・資料館における情報全般について＜概説＞ ２　博物館情報論について　民俗資料 ３　博物館情報論について　歴史資料 ４　博物館情報論について　その他 ５　博物館・資料館の情報技術の活用について＜概説＞ ６　博物館と情報技術について　デジタル技術 ７　博物館と情報技術について　マルチメディア ８　博物館と情報技術について　情報システム ９　博物館と情報技術について　文化財システム１ １０　博物館と情報技術について　　文化財システム２ １１　博物館と情報技術について　　文化財システム３ １２　博物館と情報技術について　　展示公開 １３　博物館と情報技術について　　調査研究 １４　博物館と情報技術について　　著作権 １５　博物館情報の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50597002
科目名	博物館情報・メディア論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Information & Media		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
講義概要	博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化のシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのかが大きな課題となっている。 講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。 あわせて、博物館や資料館とマスメディアとの関係を考えるとともに、その展望と課題について言及したい。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等よる。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
１　博物館・資料館における情報全般について＜概説＞ ２　博物館情報論について　民俗資料 ３　博物館情報論について　歴史資料 ４　博物館情報論について　その他 ５　博物館・資料館の情報技術の活用について＜概説＞ ６　博物館と情報技術について　デジタル技術 ７　博物館と情報技術について　マルチメディア ８　博物館と情報技術について　情報システム ９　博物館と情報技術について　文化財システム１ １０　博物館と情報技術について　　文化財システム２ １１　博物館と情報技術について　　文化財システム３ １２　博物館と情報技術について　　展示公開 １３　博物館と情報技術について　　調査研究 １４　博物館と情報技術について　　著作権 １５　博物館情報の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50600A01
科目名	発達心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental psychology I		
担当者名	木村　年晶	旧科目名称	
講義概要	ヒトは誕生後，母子関係を中心として，徐々に世界を広げていく。その中で，認知や感情，社会性等，人間が生きていくために必要な基礎的能力を獲得していく。人間発達の成長にとって初期の経験がどのような意味を持つのだろうか。本講義では，胎児期から児童期までの発達について，理論や研究を通して，科学的な視点から理解を深める。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%），期末試験（60%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，胎児期から児童期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る		
準備学習	毎回講義の初めに，前回の講義内容に関する小テストを行いますので，各自で復習をしておいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席をしてください。また，遅刻や私語は厳禁とします。遅刻の場合，その理由を求めます。私語が過ぎれば，他の受講者への迷惑を勘案し，退出を求める場合もあります。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　胎児期・新生児期
3　乳児期の発達と愛着の形成
4　乳児期の知覚発達
5　乳児期の身体発達
6　乳幼児の認知能力①言語の発達
7　乳幼児の認知能力②ピアジェ理論
8　乳幼児の認知能力③ポストピアジェ理論
9　乳幼児の感情発達
10 乳幼児の社会性発達
11 乳幼児の道徳性発達
12 児童期の発達と仲間関係
13 学校への適応と心の問題
14 子どもの発達障害
15 講義内容の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50600B01
科目名	発達心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental psychology Ⅱ		
担当者名	木村　年晶	旧科目名称	
講義概要	かつては，子どもが大人になるまでの成熟過程が発達であると考えられ，成人期以降の発達については重視されてこなかった。しかし，今日，乳幼児期や児童期だけでなく，高齢期までの発達に着目した，いわゆる「生涯発達」の視点が重視されている。特に思春期以降は，子どもたちが過ごす生活範囲や重視する人間関係が家庭外へと広がり，自立した人間として成長していく重要な時期に当たる。また，高齢期でも喪失や機能の低下だけではなく，新たに獲得する心理的機能の存在が明らかにされつつある。本講義では，青年期から高齢期までの発達に着目し，身体的・認知的発達，社会関係の形成やサクセスフル・エイジングまで幅広く理解することを目的とする。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内の小テスト等による平常点（40%），期末試験（60%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，青年期から高齢期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る。		
準備学習	毎回講義の初めに，前回の講義内容に関する小テストを行いますので，各自で復習をしておいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席をしてください。また，遅刻や私語は厳禁とします。遅刻の場合，その理由を求めます。私語が過ぎれば，他の受講者への迷惑を勘案し，退出を求める場合もあります。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　青年期の身体的変化と自尊感情の発達
3　育児スタイルと青年期発達
4　エリクソンの人格発達理論
5　青年期の発達課題とアイデンティティ
6　青年期における他者との親密な関係（1）
7　青年期における他者との親密な関係（2）
8　青年期と摂食障害
9　青年の自立と職業選択
10　中年期の危機
11　高齢期の生物的加齢
12　高齢期の心理的加齢
13　高齢期の社会関係
14　高齢期の適応
15　講義内容の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J5060300A
科目名	発達臨床実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Clinical Developmental Psych ology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	「専門ゼミＢ」を補完する授業として位置づけるので、講義概要の大部分は「専門ゼミＢ」と同様である。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント類を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった実習について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講者への要望

提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。

講義の順序とポイント

１．臨床心理学の技法実習①
２．同②
３．与えられた具体的テーマについてのプレゼンテーション①(3～4 名グループ、以下同様)
４．同②
５．同③
６．同④
７．同⑤
８．同⑥
９．同⑦
１０．同⑧
１１．同⑨
１２．同⑩
１３．同⑪
１４．同⑫
１５．臨床心理学の技法実習③
※これらの内容や順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50604001
科目名	発達臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	乳幼児期から中年期・老年期にわたって、具体的なエピソードなどをとおして複雑な社会的諸要因も描出しつつ、援助職の動きの実際やあるべき姿、発達臨床心理学の課題について述べたい。発達臨床心理学を実践し支える現場は多岐にわたるが、担当者は児童相談所勤務を経てきたので、その経験をベースに児童福祉臨床（調査、アセスメント、指導、治療、協働く（コラボレーション）の実際）について多くを語ることになる。そこには、子どもの発達、子どもを育てる場としての家族の発達やその他の重要な要因が含まれる。発達臨床は検査室や治療室のなかだけのものではないし、心理職しか携わらないものでもない。様々な場所、様々な職種の人たちが、対象者の幸せに一歩でも近づくためのひとつの拠り所としている。相談された症状や問題行動を“治す”ためには“育てる”視点も同時にもたなければ、子どもたちの今より少しでもの幸せにはたどりつかない。協働が求められる所以である。広く対人援助業務を紹介することによって、受講生が自分の進路を考える機会にもなればと考えている。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」 2009　明石書店 麻生・浜田編「よくわかる臨床発達心理学・第２版」 2006 ミネルヴァ書房 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％）。「授業内容の理解」の確認作業の成果の提出（５０％）。		
到達目標	発達臨床、対人援助に関する基本的な考え方を学び、子どもを健全に育成するための視点を自らの内にもてるようになる。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。また、子どもから高齢者に至るまでの生活、発達に関する事象や社会の動きは様々に報道されている。それらに日々接して思考することも発達臨床心理学を学習するために重要なので、ぜひ勧めたい。		

受講者への要望

各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

講義の順序とポイント

1.発達臨床心理学の対象としての受講者の進路
2.発達臨床心理学にかかわる現場
3.あらわれる課題①乳幼児期
4.同②児童期・思春期
5.同 ③青年期
6.同④中年期・老年期
7.家族の機能とその発達
8.前半授業の補足と振り返り
9.知的障害や発達障害等①
10.同②
11.同③
12.不登校や社会的ひきこもり
13.非行や少年犯罪など
14.その他の子どもたちが示す現象
15.後半授業の補足とその他のテーマ
※授業の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50605A01
科目名	比較社会論A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies A		
担当者名	山本　耕平	旧科目名称	
講義概要	現代に生きる私たちは、科学技術と切っても切り離せない生活を送っている。科学技術とうまく付き合いながら生活していくためには、これまで科学技術と社会がどのような関係を形成したきたかという歴史的な比較と、そして現在どこでどのような問題を生じさせているかという地域間・文化間の比較、という二つの視点から科学技術と社会の関係を理解することが重要である。そこでこの講義では、科学技術社会論（とくに科学社会学）の観点から、(1)科学技術と社会が歴史的にどのような関係を取り結んできたのかを一般的に理解し、(2)個々の科学技術分野は社会にどのように影響を与え、またどのように影響されてきたのかを学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	中島秀人著『社会の中の科学』放送大学教育振興会　2,484 円 種田明著『近代技術と社会』山川出版社　787 円 中根美知代ほか著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』ベレ出版　2,160 円 その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	・授業中小テストによる平常点（30%） ・第一単元確認演習（20%） ・第二単元確認演習（30%） ・第三単元確認演習（20%）		
到達目標	・現代における科学技術と社会の関係を理解することで、科学技術のあり方にたいする能動的な姿勢を身につける。 ・メディアで報じられるような科学技術関連の話題を、科学技術社会論の観点から説明できるようになる。		
準備学習	単元が終わるごとに次の単元の資料を配布し、各回の範囲を指定するので、指定されたスケジュールにしたがって資料を読んでくること。また、各単元が終了した翌週に確認演習をおこなうので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・私語は厳禁である。注意しても改善されない場合は退出を求めることがある。
・各講義で確認のための小テストを実施する。
・必要な予備知識は授業中もしくは準備学習によって補うので、あらかじめ歴史や科学技術にかんする知識を持っていることは求めない。

講義の順序とポイント

1. 科学技術社会論の視座
2. 社会と科学技術の歴史(1)：古代の自然科学
3. 社会と科学技術の歴史(2)：中世の産業革命と近代科学への道のり
4. 社会と科学技術の歴史(3)：科学革命
5. 社会と科学技術の歴史(4)：科学の専門職化と制度化
6. 第一単元確認演習、医学と社会(1)：医療化の比較社会学
7. 医学と社会(2)：先進国における民間医療・代替医療
8. 心理学と社会
9. 生命科学と社会(1)：宗教との対立の地域間比較
10. 生命科学と社会(2)：貧困・人口問題とのかかわり
11. 第二単元確認演習、情報技術と社会(1)：技術規制の地域間比較
12. 情報技術と社会(2)：インテリジェンスの歴史と現在
13. 軍事技術と社会
14. リスク評価と科学コミュニケーションの発展
15. 第三単元確認演習、科学への信頼と疑似科学の隆盛

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2017	授業コード	J50605A02
科目名	比較社会論A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies A		
担当者名	山本　耕平	旧科目名称	
講義概要	現代に生きる私たちは、科学技術と切っても切り離せない生活を送っている。科学技術とうまく付き合いながら生活していくためには、これまで科学技術と社会がどのような関係を形成したきたかという歴史的な比較と、そして現在どこでどのような問題を生じさせているかという地域間・文化間の比較、という二つの視点から科学技術と社会の関係を理解することが重要である。そこでこの講義では、科学技術社会論（とくに科学社会学）の観点から、(1)科学技術と社会が歴史的にどのような関係を取り結んできたのかを一般的に理解し、(2)個々の科学技術分野は社会にどのように影響を与え、またどのように影響されてきたのかを学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	中島秀人著『社会の中の科学』放送大学教育振興会　2,484 円 種田明著『近代技術と社会』山川出版社　787 円 中根美知代ほか著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』ベレ出版　2,160 円 その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	・授業中小テストによる平常点（30%） ・第一単元確認演習（20%） ・第二単元確認演習（30%） ・第三単元確認演習（20%）		
到達目標	・現代における科学技術と社会の関係を理解することで、科学技術のあり方にたいする能動的な姿勢を身につける。 ・メディアで報じられるような科学技術関連の話題を、科学技術社会論の観点から説明できるようになる。		
準備学習	単元が終わるごとに次の単元の資料を配布し、各回の範囲を指定するので、指定されたスケジュールにしたがって資料を読んでくること。また、各単元が終了した翌週に確認演習をおこなうので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

・私語は厳禁である。注意しても改善されない場合は退出を求めることがある。
・各講義で確認のための小テストを実施する。
・必要な予備知識は授業中もしくは準備学習によって補うので、あらかじめ歴史や科学技術にかんする知識を持っていることは求めない。

講義の順序とポイント

1. 科学技術社会論の視座
2. 社会と科学技術の歴史(1)：古代の自然科学
3. 社会と科学技術の歴史(2)：中世の産業革命と近代科学への道のり
4. 社会と科学技術の歴史(3)：科学革命
5. 社会と科学技術の歴史(4)：科学の専門職化と制度化
6. 第一単元確認演習、医学と社会(1)：医療化の比較社会学
7. 医学と社会(2)：先進国における民間医療・代替医療
8. 心理学と社会
9. 生命科学と社会(1)：宗教との対立の地域間比較
10. 生命科学と社会(2)：貧困・人口問題とのかかわり
11. 第二単元確認演習、情報技術と社会(1)：技術規制の地域間比較
12. 情報技術と社会(2)：インテリジェンスの歴史と現在
13. 軍事技術と社会
14. リスク評価と科学コミュニケーションの発展
15. 第三単元確認演習、科学への信頼と疑似科学の隆盛

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2017	授業コード	J50605B01
科目名	比較社会論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies B		
担当者名	矢野　裕巳	旧科目名称	
講義概要	人はなぜ争うのか？　　人類の歴史は、戦争の歴史であると言われています。現在の世界にも、さまざまな紛争、争いが存在します。毎講座、新聞に登場する現在進行中の紛争、争いを新聞記事等を教材に、解りやすく、解説し、学んでいきたいと思います。 世界の紛争形体が、国と国との対立だけでなく、既成の国家を超えより複雑化しています。 今回は、世界各地で頻発するテロについて、特に中東におけるイスラム過激派テロを中心に取り上げ、その原因を歴史的に少しずつ振り返りながら、何が問題なのかを、考えて見たいと考えています。 複雑に見える、中東紛争が、そうだったのか？　と思えるような講義にしたいと思います。　受講後、世界の問題について、少し関心を持ってきたと感じてもらえるよう、受講者と共に学んでいきたいと考えます。		
教材（テキスト）	プリント教材を毎回準備する。　板書でも解説		
教材（参考文献）	新聞記事のコピーを毎回配布		
教材（その他）			
評価方法	講義時間内に、各自に配布された資料、講師の板書、講師の説明をまとめて、講義終了時に提出してもらいます。		
到達目標	世界の紛争、問題を考える習慣をつける。何が問題なのかを把握出来る力をつける事を目標とします。		
準備学習	毎日、少しの時間でも新聞、ニュース（スマホでも可）に目を通し、世界の動きに関心を持つように努める。		

受講者への要望

講義は１回１回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解し、考える事を基本に考えます。出席を重視します。

講義の順序とポイント

出来るだけその時に起こった、世界の問題、紛争を柔軟に取り上げたいと考えます。基本的な流れは

講義１～３　　紛争とは何か？　　中東のイスラエル?パレスチナ問題を取り上げてその基本を学びます。

講義４～１０　　どうして、中東にテロが頻発するのか？　　イスラム教宗派対立（スンニ派、シーア派)、米とロシアの覇権争い、等を　　中心に学びます。

講義１１～１４　　日本の立場、日本の役割について、日本との比較

講義　　まとめ

日本とは　歴史的、地理的に、遠い中東ですが、学んで行くと、意外な面で、我々日本人との接点を見いだします。
日本人の伝統的中東理解のほとんどが欧米からの情報に偏っていますが、日本からの視点で中東を観察してみましょう。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J50605B02
科目名	比較社会論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Comparative Societies B		
担当者名	矢野　裕巳	旧科目名称	
講義概要	人はなぜ争うのか？　　人類の歴史は、戦争の歴史であると言われています。現在の世界にも、さまざまな紛争、争いが存在します。毎講座、新聞に登場する現在進行中の紛争、争いを新聞記事等を教材に、解りやすく、解説し、学んでいきたいと思います。 世界の紛争形体が、国と国との対立だけでなく、既成の国家を超えより複雑化しています。 今回は、世界各地で頻発するテロについて、特に中東におけるイスラム過激派テロを中心に取り上げ、その原因を歴史的に少しずつ振り返りながら、何が問題なのかを、考えて見たいと考えています。 複雑に見える、中東紛争が、そうだったのか？　と思えるような講義にしたいと思います。　受講後、世界の問題について、少し関心を持ってきたと感じてもらえるよう、受講者と共に学んでいきたいと考えます。		
教材（テキスト）	プリント教材を毎回準備する。　板書でも解説		
教材（参考文献）	新聞記事のコピーを毎回配布		
教材（その他）			
評価方法	講義時間内に、各自に配布された資料、講師の板書、講師の説明をまとめて、講義終了時に提出してもらいます。		
到達目標	世界の紛争、問題を考える習慣をつける。何が問題なのかを把握出来る力をつける事を目標とします。		
準備学習	毎日、少しの時間でも新聞、ニュース（スマホでも可）に目を通し、世界の動きに関心を持つように努める。		

受講者への要望

講義は１回１回が勝負で、講師もその気持ちで望むつもりです。その日の講義は講義中に理解し、考える事を基本に考えます。出席を重視します。

講義の順序とポイント

出来るだけその時に起こった、世界の問題、紛争を柔軟に取り上げたいと考えます。基本的な流れは

講義１～３　　紛争とは何か？　　中東のイスラエル?パレスチナ問題を取り上げてその基本を学びます。

講義４～１０　　どうして、中東にテロが頻発するのか？　　イスラム教宗派対立（スンニ派、シーア派)、米とロシアの覇権争い、等を　　中心に学びます。

講義１１～１４　　日本の立場、日本の役割について、日本との比較

講義　　まとめ

日本とは　歴史的、地理的に、遠い中東ですが、学んで行くと、意外な面で、我々日本人との接点を見いだします。
日本人の伝統的中東理解のほとんどが欧米からの情報に偏っていますが、日本からの視点で中東を観察してみましょう。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J5061200A
科目名	表現療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychotherapy and Expression		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	描画や箱庭を実際に体験することを通して、イメージを介した心理療法について学ぶ。		
教材（テキスト）	配布資料あり。		
教材（参考文献）	実習の中で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%） レポート（50%）		
到達目標	「表現」をキーワードとする心理療法の基礎を正しく理解する。		
準備学習	積極的に参考文献などに目を通しておくこと。		

受講者への要望

実習は専門的に高度な内容であるため、心して受講すること。

講義の順序とポイント

実習の具体的な運営方法は、受講生の人数によって変わるので、受講生と相談の上で決定する。

1　オリエンテーション
2　言語連想実験―実習
3　描画法―バウム、風景構成法―実習
5．6．描画法の理解
7．箱庭療法とは
8～12．箱庭―実習
13．14　箱庭療法の理解
15　表現療法のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50613A01
科目名	文化遺産論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための大事な手助けとなる学問である。過去に日本のさまざまな分野に大きな影響を与えた中国の考古学的な状況を知ることもその大事な一部となる。この講義では中国の考古学的な通史に対する理解を身につけることを目的として、その歴史的発展を考えてゆく。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	西江清高ほか『中国の考古学』（世界の考古学７、１９９９年、同成社）		
教材（その他）	毎回、教材プリントを配布する。授業はこのプリントに沿って行う。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	江戸時代以前において、日本の歴史・文化遺産に大きな影響を与えた中国の歴史・文化遺産を考古学的に理解できるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードを２・３提示するので、参考文献などを用いて、その基本的意味内容を調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
1.　中国の歴史の概説 2.　旧石器時代　　北京原人と周口店遺跡 3.　新石器時代１　　華北の彩陶文化の発達 4.　新石器時代２　　華中の河姆渡遺跡と稲作文化 5.　殷周時代１　　殷の城壁都市と王墓 6.　殷周時代２　　西周の周原遺跡と青銅器 7.　春秋戦国時代　　貨幣経済の発達 8.　秦漢時代１　　秦の始皇帝 9.　秦漢時代２　　前漢の都・長安と皇帝陵 10. 魏晋南北朝時代１　　魏晋の都城と城坊制都市 11. 魏晋南北朝時代２　　仏教の伝来と石窟寺院 12. 隋唐時代１　　国際都市・長安と陵墓の構造 13. 隋唐時代２　　唐三彩と大運河の物資輸送 14. シルクロードの考古学（中国の海外交流） 15. 明・清時代の故宮と皇帝陵（古代の都城・陵墓との比較）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50613B01
科目名	文化遺産論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための手助けとなる。その基礎の上に今の日本がある。この講義では主に奈良時代以前の日本の政治・経済・文化の様相に対する理解を身につけることを目的として、日本の歴史的発展を考えてゆく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。毎回、教材プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「日本の古代遺跡」４（奈良飛鳥）、同７（奈良北部）（保育社刊、２００５年）		
教材（その他）			
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	古代において文字通り日本の中心であった奈良（大和の国）の時代的発展を考古学的に理解することを通して、我々日本人の現在の立ち位置を理解できるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードを２・３提示するので、参考文献などを用いて、その基本的意味内容を調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものは、他の学生の妨げとなるので退室を求める。			
講義の順序とポイント			
1.　大和（奈良）の歴史概説 2.　大和（奈良）の地理・交通路 3.　旧石器時代・縄文時代 4.　弥生時代・古墳時代前期 5.　古墳時代中期・後期 6.　古墳時代特論（纏向遺跡） 7.　飛鳥時代１ー　宮殿・苑池遺跡 8.　飛鳥時代２－　飛鳥寺・水落遺跡 9.　飛鳥時代３－　高松塚古墳・キトラ古墳 10. 飛鳥時代４－　飛鳥の石造物 11. 藤原京の時代 12. 奈良時代１ー平城京 13. 奈良時代２ー東大寺大仏の建立 14. 奈良時代３－正倉院宝物 15. 奈良時代４－シルクロードと遣唐使			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50619A01
科目名	文化社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちは、たとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代に生きています。少子化がもたらす人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで、「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教など国内で出会う異文化を含みます。特に 2016 年以降、顕著になったグローバリズムと反グローバリズムの葛藤のなか、どうすれば異なる文化との共生とサバイバルが可能か考えていきます。		
教材（テキスト）	『改訂版　異文化論への招待ー＜違い＞とどう向き合う」か』黒木雅子　朱鷺書房　2014 毎回の授業でレジメを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	DVD などを使用します		
評価方法	平常点（授業内課題と出席状況による）40%, テスト 60%		
到達目標	日本で多文化状況とどう向き合うか		
準備学習	授業最後に準備学習を指定		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれないで、「他者」への想像力を養う			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2, 文化に気づく 3, 文化を身につけるー社会化 4, 社会化で身につけるステレオタイプ 5, アイデンティティという見えない文化 6, 「違い」がもたらす自文化変容 7, 日系アメリカ人のアイデンティティ変容 8,異文化コミュニケーションとは 9,異文化コミュニケーションー言語その 1 10, 異文化コミュニケーションー言語その 2 11, 異文化コミュニケーションー非言語 12, コミュニケーションに伴うノイズ 13, カルチャーショックー自国内でも起こる 14, 逆カルチャーショックと帰郷ショック 15, 「国際的」コミュニケーションとは			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50619B01
科目名	文化社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちは、たとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代に生きています。少子化がもたらす人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで、「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教など国内で出会う異文化を含みます。特に 2016 年以降、顕著になったグローバリズムと反グローバリズムの葛藤のなか、どうすれば異なる文化との共生とサバイバルが可能か考えていきます。		
教材（テキスト）	『改定版　異文化論への招待ー＜違い＞とどう向き合うか』黒木雅子　朱鷺書房 2014 毎回の授業内容はレジメとして配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内課題と出席状況）：40%,、テスト:6０％		
到達目標	日本において多文化状況とどう向き合うか		
準備学習	授業最後に準備学習を指定		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれず、「他者」への想像力を。			
講義の順序とポイント			
1,イントロダクション 2, 所属集団と準拠集団 3, 格差社会と社会的資源 4, 誰もがマイノリティの時代 5, 人種とエスニシティ 6, 日本のなかのマイノリティ 7, 大学生のサブカルチャーショック 8, 単一民族神話と日本人論 9, ミックス・ルーツの「日本人」 10, DVD で見る日本の多文化 11,「違い」がもたらす排除 12, 2 つの「違い」とどう向き合うか 13, 異文化から多文化へ 14, クリスマスをめぐる論争ーアメリカとオランダ 15,　アメリカ多文化社会を鏡として			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J50639A01
科目名	民俗学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	日本の民俗学は江戸の国学を基とし、明治の近代国家形成期に、日本とは何か、われわれとは何者かという探求を重ねることによって始まりました。 本講義では、日本の民俗学の黎明期から現代にいたる先行研究のなかで、今後も読み継がれるであろう著作を、皆さんとともに、読み解いていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末考査および授業内提出物		
到達目標	民俗学の代表的な著作について理解する		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
講義で言及された文献は、自分でも読んでみましょう。			
講義の順序とポイント			
第１回　日本民俗学について 第２回　柳田国男 第３回　柳田国男 第４回　折口信夫 第５回　折口信夫 第６回　南方熊楠 第７回　南方熊楠 第８回　宮本常一 第９回　宮本常一 第１０回石田栄一郎 第１１回石田栄一郎 第１２回リクエスト（受講生の皆さんからリクエストがあった研究者を取り上げます） 第１３回リクエスト（受講生の皆さんからリクエストがあった研究者を取り上げます） 第１４回小松和彦 第１５回小松和彦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50639B01
科目名	民俗学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	受講生の皆さんが、何気なく行っている日常の習慣や節目の行事に注目し、その由来や意味を考えることによって、日本文化とは何かを相対的に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末考査および授業内提出物		
到達目標	日本文化を相対的にとらえる視点を持つ。		
準備学習	授業中に紹介された文献をあらかじめ読んでおくこと。		

受講者への要望

生活の中の季節の行事や人生の節目の儀礼などにできるだけ参加してみましょう。

講義の順序とポイント

第１回　民俗文化についてⅠ
第２回　日本神話とその広がりⅠ
第３回　日本神話とその広がりⅡ
第４回　発酵食品Ⅰ
第５回　発酵食品Ⅱ
第６回　日本の祭Ⅰ
第７回　日本の祭Ⅱ
第８回　日本の葬式
第９回　アジアの葬式
第１０回　正月行事Ⅰ
第１１回　正月行事Ⅱ
第１２回　御田植え行事
第１３回　日本の昔話とその広がりⅠ
第１４回　日本の昔話とその広がりⅡ
第１５回　民俗文化についてⅡ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50655A01
科目名	妖怪文化論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 妖怪文化論 A では、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『怪異の風景学―妖怪文化の民俗地理』古今書院、2014 年		
教材（参考文献）	小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006 年		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 20%、学期末レポート 80%		
到達目標	妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。		
準備学習	講義ごとに提示する教科書の指定箇所を予習・復習した上で受講すること。		
受講者への要望			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる） 2　妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで 3　妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』 4　妖怪体験とことば：風景認識の三角形 5　妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クビナシウマ」と「首切れ馬」 6　集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団 7　頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ 8　妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査 9　『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し 10　怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚 11　現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』 12　廃墟と幽霊・怪異世界：18 世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行 13　現代の廃墟と近代化遺産：18 世紀後半と現代の比較 14　妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ 15　世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観						

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50655B01
科目名	妖怪文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 　妖怪文化論Ｂでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。		
教材（テキスト）	小松和彦『妖怪文化論入門』角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）		
到達目標	妖怪文化論という視点、位置を理解する。		
準備学習	テキストは事前に読んでおくこと。また各講義で参考文献を提示するので、読んで理解を深めるための学習に時間を割く必要がある。		
受講者への要望			
自ら本を読み、現場を歩いて下さい。			
講義の順序とポイント			
（1）イントロダクション I.絵を解読する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50658001
科目名	理論社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Theoretical Sociology		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	
講義概要	理論とは諸概念を相互連関的に組み合わせたセットである。社会学もまた他の学問と同様、理論は命題のかたちを取る。命題はすべて「AはBである」という単純なかたちに還元できる。たとえば「社会は個人の総和以上のものである」というようなかたち。この例が示すように、社会学の命題には万人が満場一致で異論なく受け入れているようなものはない。しかし時の流れの中で今日まで論議されてきた命題は、万人の認める真理を表してはいないにせよ、それに相対的に近い円周の上にあると見てよかろう。このような観点から本講義ではいくつかの社会学的命題を選んで解説を試みる。これらの中には一般理論のほかに社会学の特定領域にかかわる理論や特定の歴史段階あるいは特定の文化にかかわる理論も含まれている。しかしこれらは一般理論につうじるものである限りにおいて選ばれた。なお、取り上げる命題の中には社会学からだけではなく、哲学、精神分析、心理学などの他の分野からも、社会学的命題への重要なかかわりがある限りにおいて選ばれている。解説を予定している命題は【講義の順序とポイント】に示す通りである。		
教材（テキスト）	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま学芸文庫		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に行う命題ごとの小テスト		
到達目標	社会学的思考方法に接し、理論のおもしろさとは何かをつかむことをめざす。		
準備学習	上記のテキストを手掛かりに、みずから興味のある社会学的命題をさがしてみること。		
受講者への要望			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会学的思考について 2. 預言の自己成就（R.K.マートン）① 3. 預言の自己成就（R.K.マートン）② 4. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）① 5. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）② 6. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）① 7. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）② 8. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）① 9. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）② 10. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）① 11. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）② 12. プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）① 13 プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）②. 14. 自由からの逃走（E.フロム）① 15. 自由からの逃走（E.フロム）②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50662A01
科目名	臨床心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology I		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	臨床心理学ｓ
講義概要	臨床心理学とは、病気や障害あるいは不幸な出来事などによってひき起こされる心の悩みや苦しみを軽減するために、心理的援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す学問である。本講では、臨床心理学の成り立ちや、その理論や治療技法に関する主要な考え方について解説する。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）	菅佐和子、他著　「臨床心理学の世界」　有斐閣		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）、平常点（３０％）出席状況等による。		
到達目標	こころの問題への心理的援助に求められる基本的な理論や治療技法の理解を目指す。		
準備学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　臨床心理学とは何か・臨床心理学の研究法 ３　臨床心理学の歴史 ４　心理アセスメント　知能検査（ビネー式） ５　心理アセスメント　知能検査（ウェクスラー式） ６　心理アセスメント　人格検査（質問紙法） ７　心理アセスメント　人格検査（投影法） ８　異常心理学　正常と異常 ９　異常心理学　精神障害の分類 １０　異常心理学　精神障害の症状 １１　カウンセリングの基本的問題 １２　カウンセリングの基本的技術 １３　カウンセリングの理論（フロイト・ユング） １４　カウンセリングの理論（ロジャース・行動療法） １５　臨床心理士の活動領域			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50662B01
科目名	臨床心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology Ⅱ		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	臨床心理学ｆ
講義概要	臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえて、心理的問題に対する援助に必要な基礎的理論・治療技法の概略を学ぶ。 臨床心理学とは、心理学を中心とした知識や理論を用いて、心の問題を抱えた人やその家族を理解し、それらの人々を援助するための方法を研究・実践する、心理学の一分野である。しかし「心の問題」の内容は多岐にわたる上に、その原因や対処方法は複雑である。クライエント(来談者)の訴えは日常的な悩みや心理的ストレスによる身体的・精神的症状のこともあれば、幻覚・妄想などの病理体験を伴うものであることもある。また、発達障害を持つ子供を養育・援助する上での問題、慢性身体疾患に罹患したり身体的障害を被ったりした際の心理的負担なども援助の対象となる。 本講義では、臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえた上で、こういった問題への対処方法の理解・実践に必要な知識を得ることを目的とする。まず人格構造やその形成過程についての様々な理論を学習し、心の問題を分析・理解する枠組みを学ぶ。その上で、 人生の様々な年代において、どのような臨床心理学的課題が存在しているのかを、発達心理学的な分析も加えながら学ぶと共に、実際に様々な援助技法を用いて援助していく過程を学習する。		
教材（テキスト）	平木典子・袰岩秀章　編著　カウンセリングの基礎　臨床の心理学を学ぶ　 北樹出版		
教材（参考文献）	川瀬・松本・松本　　心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法　 ナカニシヤ出版		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	学期末試験　７０％　レポート及び平常点　３０％		
到達目標	臨床心理学の基礎的理論を習得するとともに、様々な心理的問題・精神的障害についての理解を深める。		
準備学習	各講義の最後に、次回の講義内容にかんする資料を配布するか、該当する教科書の箇所を指示するので、それを熟読しておくこと。		
受講者への要望			
授業中は当然私語厳禁です。それに加えて、関連図書を読むなど、自らの関心に従って積極的に学ぶ姿勢が必要です。			
講義の順序とポイント			
1～5．臨床心理学における基礎理論－－人格・発達理論 （フロイト、エリクソン、ロジャーズなど） 6～10．臨床心理学的治療論及び具体的治療技法 （精神分析、来談者中心療法、行動療法など） 11．各発達段階にみられる様々な問題－－乳幼児期 12．各発達段階にみられる様々な問題－－児童期 13．各発達段階にみられる様々な問題－－青年期 14．各発達段階にみられる様々な問題－－成人期・老年期 15．心理臨床の実際 但し、1～5 と 6～10 は適宜順序を入れ換えて、組み合わせて講義する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50665A0B
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためにはよく勉強し、その学を一定以上身につけなければならない。この演習では、とくに発達臨床心理学領域における基本的知識を定着させることや、それらに関連する社会的に重要なテーマについて認識を拡げることを目指したい。扱うテーマについては臨床心理学と直接の関連は薄いように思われるものも含まれるかもしれないが、世の中のことはすべて人間にかかわっている以上、心理学の対象である。また、対人援助系のボランティア等の募集が当ゼミにはよく届けられる。そのような社会的活動の機会を自分のために積極的に活かす姿勢を鼓舞したい。なお、川畑が春学期に担当する「発達臨床心理学」「福祉心理学」を必ず登録、履修すること。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		
受講者への要望			
提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、個別面談①ほか ２．各自によるプレゼンテーション① ３．同② ４．同③ ５．知り合うセッション ６．テーマディスカッション① ７．同② ８．文献講読・英文読解・体験学習のいずれか① ９．同② １０．同③ １１．同④ １２．同⑤ １３．テーマディスカッション③ １４．同④ １５．個別面談②ほか ※以上については、内容や順序の変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50665A0D
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学、深層心理学の文献購読及び発表を通して、文献を精読してまとめて発表する方法を習得するとともに、臨床心理学、深層心理学の基礎的な知識を学ぶ。特にＩＡでは、『子どもの宇宙』で取り上げられている児童文学を通して、人間の深い理解を試みる。登録者の人数にもよるが、心理療法についての文献以外にも物語、神話、昔話、小説、映画なども取り上げながら、人間の理解を深める。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　子どもの宇宙　岩波新書		
教材（参考文献）	河合隼雄著　ユング心理学入門　培風館 他にも必要に応じて随時紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（50%） 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	到達目標 専門演習ＩＡ、Ｂを通して １）興味・関心ある文献を選び、精読し、内容をまとめて発表できるようにする。 ２）口頭で発表した内容をレポートとしてまとめる。 上記１）２）を通して研究の方法の基礎を身に付ける。 自分の考えを人に伝えたり、人の意見に耳を傾け、討論ができるようにする。 ＊　大学院進学を志望する者は、そのための基礎学力、語学力をつける―個別に対応―。		
準備学習	討論に積極的に参加できるように、次の発表内容に関する文献には目を通す。		

受講者への要望

読書重視のゼミである。
教材としては『子どもの宇宙』で取り扱われている児童文学と臨床事例が中心となるが、内容的には心理臨床に対しての基本的な姿勢、見方について学ぶため、その覚悟を持って受講すること。

講義の順序とポイント

注）履修者の人数によって内容は変わりうる。
1　オリエンテーション：演習の運営方法について話し合いの上決定。各人の興味や関心について、発表の順番決定など。
2　『子どもの宇宙』　第１章　子どもと家族　発表および討論
3　家族とは？
4　『子どもの宇宙』　第２章　子どもと秘密　発表および討論
5　秘密を持つことの心理学的意味
6　『子どもの宇宙』　第３章　子どもと動物　発表および討論
7　動物のもつ象徴的意味・心理学的意味
8　『子どもの宇宙』　第４章　子どもと時空　発表および討論
9　心理臨床学的視点から見た時間と空間
10　『子どもの宇宙』　第５章　子どもと老人　発表および討論
11 子どもと老人の関わりをテーマにした児童文学を読む
12　『子どもの宇宙』　第６章　子どもと死　発表および討論
１３　児童文学とビデオを通して、「死」について考える
14　『子どもの宇宙』　第７章　子どもと異性　発表および討論
１５　『子どもの宇宙』全７章全てを通しての討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50665A0E
科目名	臨床心理学専門演習ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IA in Clinical Psychology		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	各自のテーマにそって文献を探し、発表する。聞く方は、必ず発表者に対して感想や意見を言うことを通して、さらに自分の考えを深めるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加、責任のある態度、学ぼうとする姿勢		
到達目標	各自の興味のあるテーマをさらに深めること。他者に自分の意見をつたえられること。		
準備学習	日ごろから、心理療法に関する文献などに注意し、積極的に自分で読んでみること。		

受講者への要望

ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。積極的に参加して下さい。

講義の順序とポイント

1,オリエンテーション
2,心理療法・文献購読　ユング
3,心理療法・文献購読　ユング
4 子どものセラピー・事例
5 大人のセラピー・事例
6 思春期のセラピー・事例
7 思春期のセラピー・事例
8 各自のテーマに沿って発表
9 各自のテーマに沿って発表,
10 各自のテーマに沿って発表
11 各自のテーマに沿って発表
12 各自のテーマに沿って発表
13 各自のテーマに沿って発表
14 各自のテーマに沿って発表
15 各自のテーマに沿って発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50665B0B
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためにはよく勉強し、その学を一定以上身につけなければならない。この演習では、とくに発達臨床心理学領域における基本的知識を定着させることや、それらに関連する社会的に重要なテーマについて認識を拡げることを目指したい。前年度までは近隣の社会福祉施設等の見学実習を取り入れていたが、本年度からは行なわない。ただし、そのような活動を自ら希望する学生の相談にはのる。また、対人援助系のボランティア等の募集が当ゼミにはよく届けられる。そのような社会的活動の機会を自分のために積極的に活かす姿勢を鼓舞したい。なお、川畑が秋学期に担当する「心理アセスメント」を必ず登録、履修すること。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		
受講者への要望			
提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、各自によるプレゼンテーションの計画 ２．発達臨床心理学全体の概観 ３．与えられた具体的テーマについてのプレゼンテーション①(3～4 名グループ、以下同様) ４．同② ５．同③ ６．同④ ７．同⑤ ８．同⑥ ９．同⑦ １０．同⑧ １１．同⑨ １２．同⑩ １３．同⑪ １４．同⑫ １５．プレゼンテーションされた内容についての復習 ※以上については、内容や順序の変更があり得る。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50665B0D
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	専門演習ⅡA・B における卒業研究を視野に入れ、自分の関心ある研究テーマを模索し、関連する研究の文献を探して、読みこなし、発表をする。発表の際には、討論を積極的に行い、幅広い専門的知識を身に付ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点:出席及び討論への参加状況など(50%) 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	各自関心ある研究テーマを絞る。 専門演習ＩＡでも挙げているが、文献を読みこなしその内容を、自分の言葉を用いて人に説明をする、 さらに自分の考えをまとめて発表したり、討論したりする能力を身につける。		
準備学習	研究発表の際には討論に参加できるように次回の発表の関連文献を読んで準備をしておくこと。		

受講者への要望

積極的に論文を読み、読書を進めること。
読書を重視するので、その自覚を持って登録すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　文献を読む（心理臨床、物語、文学、神話、ユング心理学に関わるもの)。
3　文献を読む
4　文献発表・討論
5　文献発表・討論
6　描画法検討　バウムテスト及び風景構成法
7　言語連想検査
8　表現療法の理解を深める
9　表現療法の理解を深める
10　文献購読
11　文献購読
12　文献購読
13　箱庭検討会
14　研究発表
15　研究発表
具体的な運営方法については登録者の人数によっても異なるので、相談のうえ決定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J50665B0E
科目名	臨床心理学専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IB in Clinical Psychology		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	【講義の概要】 基礎的な文献を読み、発表する。発表者以外は、きちんとそれに対して意見が言えるように練習します。芸術療法、箱庭療法など、基礎文献のテーマによっては実習を取り入れます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加、発表だけではなく、自分の考えを人にも伝えられること。		
到達目標	心理療法の様々な理論を学ぶ中で、疑問をもち、考え、自分について理解を深めること。		
準備学習	心理療法の基本的な文献など、自分で読むこと。		
受講者への要望			
ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。自分の感じたことを言葉にして、人に伝えようとする姿勢を求めます。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序とポイント】 1、オリエンテーション ２、図書館で文献を探す練習 ３、基礎文献　箱庭療法 ４、箱庭実習 ５、基礎文献　風景構成法、バウムテスト ６、風景構成法、バウムテスト実習 ７、基礎文献　コラージュ ８、コラージュ実習 ９、基礎文献　心理療法 １０、心理療法ビデオ １１、基礎文献、言語連想 １２、言語連想分析、 １３、基礎文献　夢分析 １４、基礎文献　遊戯療法 １５、箱庭ビデオなど			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50667A0A
科目名	臨床心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、具体的な研究方法を検討し、決定する。 その過程において、臨床心理学についての、より専門的な探求を推し進める。		
教材（テキスト）	その都度指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	発表 50%、討論 50%として、総合的に判断する。		
到達目標	専門演習 IB で学んだ知識を元に、研究テーマを絞り込み、卒業論文の準備や作成を進める。先行研究に基づいた研究計画を立てる。		
準備学習	毎回次週までの課題が出るので、着実にこなすことが求められる。		
受講者への要望			
卒業研究は自らが作成するものであるから、自分の問題意識を纏めると共に、主体的に授業にかかわること。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーション・個人面談 2.　卒業研究について 3.　関連文献講読 4.　関連文献講読 5.　テーマ選定 6.　テーマ選定・討議 7.　テーマ決定 8.　先行研究展望の発表 9.　先行研究展望の発表 10.　先行研究展望の発表 11.　実施方法検討 12.　実施方法検討 13.　実施方法検討 14.　実施準備 15.　実施準備			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50667A0B
科目名	臨床心理学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	演習ＩＡ・Ｂの延長としての発達臨床心理学演習、各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の１年間であることを意識しながら、各時間を構成する。		
教材（テキスト）	川畑隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント－」 2009　明石書店 ※１回目の授業で割引販売を行なうので事前に購入する必要はない。		
教材（参考文献）	都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」2006 有斐閣アルマ		
教材（その他）	必要に応じてプリント類を配布する		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自のテーマにそった卒業研究の実施に向けた準備ができること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートや、自分の卒業研究のテーマについて学習した内容について点検することがある。また、とくに「人間模様」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。についての学習を行なうこと。		
受講者への要望			
就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の準備となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．進路・卒業研究に関して① ２．同② ３．過去の卒業研究の講読① ４．同② ５．グループ別テーマ研究① ６．同② ７．同③ ８．同④ ９．同⑤ １０．文献（教科書）講読。各自の卒業研究個別指導① １１．同② １２．同③ １３．同④ １４．同⑤ １５．同⑥ ※上記の内容や順序は変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	－	★

年度	2017	授業コード	J50667A0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめる。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進める。 春学期は、卒業論文の作成に向けて、下記のテキストを全員で講読する。		
教材（テキスト）	都筑学著　「心理学論文の書き方」　有斐閣		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	各自が取り組むテーマに即して、卒業論文の準備や作成を目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講者への要望

演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・個人面談
2　個人面談
3　文献講読
4　文献講読
5　文献講読
6　文献講読
7　文献講読
8　文献講読
9　先行研究展望の発表
１０　先行研究展望の発表
１１　先行研究展望の発表
１２　先行研究展望の発表
１３　先行研究展望の発表
１４　先行研究展望の発表
１５　先行研究展望の発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50667A0D
科目名	臨床心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を念頭に置きながら、各人の興味関心合わせて研究を進めることを通して、臨床心理学・深層心理学について学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート（50%）		
到達目標	専門演習 IB で絞り込んだ研究テーマに関する先行文献を探して、自らの研究の位置づけを明らかにしながら、卒業研究の計画を進める。		
準備学習	討論に積極的に参加できるように、関連のある文献に目を通しておく。		

受講者への要望

自ら能動的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　文献購読
3　文献購読
4　先行研究に関する発表
5　先行研究に関する発表
6　先行研究に関する発表
7　先行研究に関する発表
8　先行研究に関する発表
9　卒業研究計画発表
10　卒業研究計画発表
11　卒業研究計画発表
12　卒業研究計画発表
13　卒業研究計画発表
14　予備（計画発表）
15　予備（計画発表）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50667A0E
科目名	臨床心理学専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	各自の興味あるテーマを絞って文献を読み、発表する。 ゼミ生が中心の授業です。しっかりと参加して下さい。		
教材（テキスト）	ユング派心理療法　　河合俊雄編　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加		
到達目標	各自の興味あるテーマを選び、調べ、まとめること。 他者の発表を聞き、自分の意見も言えること。		
準備学習	心理療法に関する文献を読むこと		
受講者への要望			
積極的に参加して下さい。			
講義の順序とポイント			
1 文献講読（こちらが指定します） 2 文献講読（こちらが指定します） 3 文献講読（こちらが指定します） 4 文献講読（こちらが指定します） 5 文献講読（こちらが指定します） 6 各自のテーマに沿って発表 7 各自のテーマに沿って発表 8 各自のテーマに沿って発表 9 各自のテーマに沿って発表 10 各自のテーマに沿って発表 11 各自のテーマに沿って発表 12 各自のテーマに沿って発表 13 各自のテーマに沿って発表 14 各自のテーマに沿って発表 15 各自のテーマに沿って発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50667B0A
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	専門演習 II A での検討を元に、各自が関心を持つテーマについて研究を行う。 研究結果については、適宜中間報告を行い、軌道修正をしながら、最終的な論文に纏め上げていく。		
教材（テキスト）	必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	発表および討議(50%)、卒業論文の提出(50%)。		
到達目標	卒業論文作成のための調査や分析を実施し、論文を纏め上げることを目標とする。		
準備学習	毎時間、研究および論文作成の進行状況に応じた課題を指示する。		

受講者への要望

自分の論文を作成するために、主体的・積極的に参加することが求められる。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション・個人面談
2. 論文構想の中間報告
3. 論文構想の中間報告
4. 研究実施の中間報告
5. 研究実施の中間報告
6. 研究実施の中間報告
7. 結果・考察の検討
8. 結果・考察の検討
9. 結果・考察の検討
10. 卒業論文作成
11. 卒業論文作成
12. 卒業論文作成
13. 卒業論文作成
14. 卒業論文発表
15. 卒業論文発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50667B0B
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の１年間であることを意識しながら、各時間を構成する。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	都筑学著「心理学論文の書き方〜おいしい論文のレシピ〜」2006 有斐閣アルマ		
教材（その他）	必要に応じてプリント類を配布する		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自のテーマにそった卒業研究の実施と完成。		
準備学習	自分の卒業研究の完成に向けたあらゆる準備を行なうこと。その進行具合や内容について随時チェックを行なう。		

受講者への要望

就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の実施、完成となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってほしい。

講義の順序とポイント

１．卒業研究と進路について
２．卒業研究に関する個別相談指導等①
３．同②
４．文献講読あるいはテーマ・ディスカッション①
５．同②
６．各自によるプレゼンテーション①
７．同②
８．同③
９．同④
１０．同⑤
１１．卒業研究に関する個別相談指導等③
１２．同④
１３．同⑤
１４．同⑥
１５．同⑦
※上記の内容や順序は変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50667B0C
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込む。そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめる。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進める。 秋学期は、各自のテーマに即して、研究計画を立て、卒業研究を行い、論文に仕上げていくが、途中経過の中間発表や個別指導を行う。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	各自が取り組むテーマに即して、卒業論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講者への要望

演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション・個人面談
2　個人面談
3　卒業研究の中間発表
4　卒業研究の中間発表
5　卒業研究の中間発表
6　卒業研究の中間発表
7　卒業研究の中間発表
8　卒業研究の中間発表
9　卒業研究の個人指導
１０　卒業研究の個人指導
１１　卒業研究の個人指導
１２　卒業研究の個人指導
１３　卒業研究の個人指導
１４　卒業研究の個人指導
１５　卒業研究の個人指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50667B0D
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を進め、論文作成の指導を中心に行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート（50%）		
到達目標	卒業論文の作成。		
準備学習	発表の関連文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的に、積極的に研究に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1　　オリエンテーション
2　　卒業研究の中間発表
3　　卒業研究の中間発表
4　　卒業研究の中間発表
5　　卒業研究の中間発表
6　　卒業研究の中間発表
7　　卒論指導
8　　卒論指導
9　　卒論指導
10　卒論指導
11　卒論指導
12　卒論指導
13　卒論指導
14　卒論指導
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50667B0E
科目名	臨床心理学専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。		
教材（テキスト）	ユング派心理療法		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加		
到達目標	テーマを絞り、それについて調べ、まとめること。		
準備学習	自分の興味あるテーマに沿って文献を読むこと.読むべき文献については個別で相談の上検討します。		
受講者への要望			
自分で興味をもって学んで下さい。			
講義の順序とポイント			
1 文献講読（こちらが指定します） 2 文献講読（こちらが指定します） 3 文献講読（こちらが指定します） 4 文献講読（こちらが指定します） 5 文献講読（こちらが指定します） 6 各自のテーマに沿って発表 7 各自のテーマに沿って発表 8 各自のテーマに沿って発表 9 各自のテーマに沿って発表 10 各自のテーマに沿って発表 11 各自のテーマに沿って発表 12 各自のテーマに沿って発表 13 各自のテーマに沿って発表 14 各自のテーマに沿って発表 15 各自のテーマに沿って発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50670001
科目名	歴史学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Science		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後の日本では、大塚史学をはじめ、近代と近代化を問う学問の一つとして、歴史学が盛んに研究された。そうした戦後歴史学は、フランスのアナール学派による社会史の試みなどによって大きな変貌を遂げ、現代では様々な歴史学が群生している観がある。この講義では、戦後歴史学を再考し、そうした現代歴史学の諸相を概観したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験６０％、授業内レポート４０％		
到達目標	戦後歴史学と現代歴史学の概要を理解することを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。

講義の順序とポイント

１．戦後歴史学再考
２．大塚史学（１）
３．大塚史学（２）
４．現代歴史学の展開
５．アリエス　―　心性の歴史家（１）
６．アリエス　―　心性の歴史家（２）
７．アリエス　―　心性の歴史家（３）
８．フーコー　―　権力の系譜学（１）
９．フーコー　―　権力の系譜学（２）
１０．フーコー　―　権力の系譜学（３）
１１．ウォーラーステイン　―　世界システム論（１）
１２．ウォーラーステイン　―　世界システム論（２）
１３．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（１）
１４．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（２）
１５．史料読解入門

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50681A01
科目名	歴史地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学 A では、まず歴史地理学の学説史と方法論を概観する。学説史と方法論においては、特に空間認知の歴史地理に焦点を当てる。この方法論が歴史地理学において発展したのは、歴史時代の人間集団の地理的行動が、現代の私たちの価値体系では、理解できないからである。したがって、特定の時代の人間集団の空間認知を研究する必要性がある。また歴史地理学における野外調査の方法についても触れる。 特に歴史地理学 A では、古代の村落・都市・交通・政治に関する地理的行動、地理的空間に焦点を当て、具体的な事例に則して講義していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	藤岡謙二郎編『新訂歴史地理』大明堂。		
教材（その他）	プリント配布、ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（20%）講義内レポート（80%）		
到達目標	歴史民俗学における歴史地理学の方法論、テーマの独自性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に配布する文献、古地図を熟読の上、講義中に出された課題を達成した上で講義に出席すること。		
受講者への要望			
講義内で 3 回出されるレポートを、現地調査や図書館での資料調査をした上で作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　歴史地理学とは－資料・時代・研究領域 2　口頭伝承を地図化する、地籍図、条里地割 3　抽象的世界の歴史地理学的研究 4　江戸時代の文献を現代語訳し、一覧表を作成する 5　城下町絵図で江戸期の文献に登場する場所を探す 6　城下町絵図を現代地図に復原する 7　城下町の現状、観光資源、 8　文献と古地図を利用する 9　『旅と伝説』『亀岡市史』等の伝承の一覧表作成 10　２万５千、小字図で分布図を作成する 11　現代地図に小字を復原する、小字、条里と伝承の関係を考える 12　伝説の歴史地理学的フィールドワーク 13　平安京を地形図に復原する、御土居を復原する 14　古典に描かれた怪異を平安京に探る 15　平安京の怪異空間と神話			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50681B01
科目名	歴史地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Ｂでは、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学Ｂでは、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考文献）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教材（その他）	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。

講義の順序とポイント

1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分
2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀
3　象徴化される生き物－オシリスの冥界：
4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩
5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星
6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語
7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景①
8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景②
9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水
10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈
11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理
12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ
13　日本の洪水神話－失われた伝承
14　平安京の神話空間－疫病の神の登場
15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50701A0B
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学専門演習ⅠA・Bの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表と毎回の討論		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 3～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J50701A0C
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ＩＡ・Ｂの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（５０％）毎回の討論（５０％）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	文献調査をし、それを読み込み、フィールドワークをしたうえで、、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドワークと資料読解については、各自計画を立て、自主的に行っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 ３～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J50701A0D
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文作成に取りかかります。論文の構成を考えながら、先行研究や史料を集めて読み込んでいく作業を進めていきます。夏休みまでには論文のおおまかな構成を考えて、章立てができるようになるまで作業を進めましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
準備学習	自らの研究発表準備。および各回の発表者の課題論文を読んでくること。		
受講者への要望			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 2～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J50701A0E
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡA		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ＩＡ・Ｂ の受講生が引き続き受講することを原則とします。演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 　受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 　演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（５０％）毎回の討論（５０％）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
先行研究論文を早く発見し、出来るだけ多く読んでおくこと。もちろん、具体的な現場を出来るだけ訪ねておくことも重要です。			
講義の順序とポイント			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 3～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50701B0B
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗専門学演習ⅡＢの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50701B0C
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ⅡA の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50701B0D
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文執筆に取りかかります。分析を、一章ごとに、一歩ずつ進めていき、最終的に論文を書き上げることになります。年内に、論文を一度書き上げることを目標として、逆算して作業を計画的に進めていきましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
準備学習	自らの研究発表準備。および各回の発表者の課題論文を読んでくること。		
受講者への要望			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 2～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J50701B0E
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	本演習は、歴史民俗学演習ⅡＡの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 　受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 　演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
準備学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講者への要望			
最後の最後まで推敲を重ね、粘り強く思考と執筆をつづけること。			
講義の順序とポイント			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50703A02
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IA		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	本講義では，柳田国男の初期の業績から、民俗学の発生時に立ち戻って民俗学が目指した方向性を確認していきたい。。 すでに民俗学を学んでいる学生諸氏は、民俗学は過去を振り返るだけの学問ではないことは承知していると思う。過去を振り返りつつ、現代を考える学問が民俗学である。では、この民俗学はどのような思想的背景の中で生まれてきた学問なのだろうか。 民俗学を体系立てた柳田国男の、初期の業績を振り返りながら、そのことを考えていき、さらに「聞き取り調査」などの民俗学の方法論についても、なぜそのような方法を採るべきなのかを今一度根本から考えておきたい。最終的には、それらの方法論を使いつつ、自分の身の回りのあたりまえのモノ・コトに目を向け、自分自身を内省する視点を獲得することを達成目標とする。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫 『現代民俗学入門』佐野賢治他編(吉川弘文館)		
教材（その他）			
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点 15%　コメントカード 15%　期末レポート 70% レポートは、自らの民俗調査によるものを提出していただき、講義時に示した民俗学的見地が自分の問題としてとらえられているかどうかを評価する。 欠席は、５回までは認めるが、それ以上の欠席はレポート提出の資格がないものとする。		
到達目標	(1)民俗学の方法論を理解すると、自分が当たり前だと思っているモノ・コトが、地域あるいは世代が違えば当たり前ではないということに気づくことができる。そのことによって、異文化は外国に行かなくても存在することに思い至ることができる。 （2）そのことから、自分の文化を見つめ直すことができ、自らの足下を見直す視点を獲得でき、外国人に限らず、友人や親といった他人の文化を理解する姿勢も獲得できる。		
準備学習	講義中に扱う柳田国男の著作等に目を通してくることが望ましい。また、講義の後にそれらに目を通し、講義内容で指摘した点を確認すること。		
受講者への要望			
普段から、自分の日常生活、すなわち、自分の部屋、毎日の通学路など身の回りの「あたりまえ」の世界に、新たな目を向けるよう心がけ、講義で指摘した視点を用いて自らの普段の暮らしを観察し、次週の講義に臨むこと。けの聞き流しにせず、時間をかけてじっくり考え、次週の講義に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
第　１回　ガイダンス　…　授業の概要と進め方について説明する。 第　２回　現在学としての民俗学　…民俗学は「あたりまえ」を疑い、「あたりまえ」に目を向ける学問であることを知る。 第　３回　民俗学前史１　…　民俗学の生まれた背景（民俗学前史）を知ることから、民俗学の方向性を考える。 第１回目は、国学といにしえを見ようとする視点について講ずる。 第　４回　民俗学前史２　…　江戸時代の旅人の視点と、観察する視点について講ずる。 第　５回　民俗学前史３　…　ヨーロッパフォークロアの発生とその背景について講ずる。 第　６回　民俗採訪から見いだせる庶民の歴史　…愛知県『花祭り』のビデオから、祭に現れる歴史性を考える。 第　７回　柳田国男の生い立ちと思想的背景１ …　彼自身が述べるように、彼の個人的経験が柳田民俗学の成立に影響を及ぼしているので、その点について紹介する。 第　８回　柳田国男の生い立ちと思想的背景２ …　文学者としての柳田の側面、農政学者としての柳田の側面と民俗学の関係を考える。 第　９回　民俗学の方法１　…　柳田国男の初期の業績から、柳田民俗学が目指した方向を考える。 第１回は『時代ト農政』の中に語られる民俗学の方向性を考える 第１０回 民俗学の方法２　…　民俗調査とその記録について、『遠野物語』を手がかりにして考える。			

第１１回　民俗学の方法３…　調査地で語られる言葉（民俗語彙）について、『後狩詞記』を手がかりにして考える。
第１２回　地域差と時代差１　…　各地のコトバから日本全体を見る視点を考える。
第１３回　地域差と時代差２　… 方言周圏論について考える
第１４回　民俗調査を考える　…　全国を視野に入れる調査法だけでなく、一地域を対象とする地域調査から見えてくる方向性について、考える。
第１５回　総括の解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50703B02
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IB		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	日本における一年の暮らしと行事		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	講義時に適宜提示する。		
教材（その他）	全国の事例を知るために映像資料を多用する。		
評価方法	毎回のコメントカードの内容と、期末レポートの内容で、講義内容を自分のものとして考えられるようになったかを評価する。		
到達目標	(1)日本国内には様々な環境に生きる人々がいることを知ることができる。 (2)様々な地域の中で、多様な民俗が保持されていることを知ることができる。 (3)文化の多様性を確認することで、自分の生き方も多様な可能性があることに気づくことができる。		
準備学習	日頃から自分の身近な生活に敏感になり、注目して、観察し、自分の視野を広げる努力をすること。		

受講者への要望

近年は都市的な生活、画一的な生活が当然のものとされているが、現在でも日本国内には様々な生活形態が存在している。自分の想像できない生活だとしても、それらに興味を持ち、文化の多様性を尊重する視点を獲得して頂きたい。

講義の順序とポイント

第１週．ガイダンス：授業の内容の概観と、進め方を確認する。
第２週．マクロな視点から見た日本の地域：
バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、
中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。
第３週．日本の地域（その 1）：雪国の暮らし
第４週．日本の地域（その 2）：南島の暮らし
第５週．日本の地域（その 3）：山村の暮らし
第６週．日本の地域（その 4）：漁村の暮らし
第７週．日本の地域（その 5）：湖岸の暮らし
第８週．日本の地域(その 6)：畑作民(焼き畑)の暮らし
第９週．日本の地域(その 7)：狩猟民の暮らし
第 10 週．日本の地域(その 8)：水田耕作民の暮らし
第 11 週．生業サイクルと四季の祭：冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、それぞれが持つ意味を考える。
第 12 週．冬から春の祭(予祝行事)：愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から
第 13 週．夏の祭(厄払い行事) と 盆：京都祇園会、やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなど
第 14 週．秋の祭(収穫感謝祭)：熊本県球磨地方の事例などから
第 15 週．総括：日本国内の様々な文化を確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J50705A01
科目名	歴史民俗学特殊講義ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore ⅡA		
担当者名	堤　邦彦	旧科目名称	
講義概要	ある特定の説話が時をこえて数世代にわたり語り伝えられることは、珍しくない。たとえば古代社会に発生した神話や伝説が今日の昔話、童話の世界に引き継がれているのはその一例といえるだろう。 ただし、だからといって、それらが時代の移り変わりとまったく無縁に存在していないことも事実である。古くから語り継がれた話は、つねに各時代のものの考え方や思想、価値観の影響を受け、さらには文芸の流行色などの大衆文化に左右されてきた。 以上の観点にもとづき、本年度は近世以降の怪異小説、芝居、絵画などに描かれた怪異談の流れをとりあげ、日本怪談が成立する文化基層となった仏教の役割について考えてみたい。日本人の霊魂観、冥府観や因果応報を怖れる観念は、いかにして生成したのか。これらの点を明らかにしながら、江戸から明治にかけて流行した怪談文芸の宗教・思想的な原風景を明らかにしていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	・堤邦彦『現代語で読む「江戸怪談」傑作選』（祥伝社、2008） ・高田衛『江戸の悪霊祓い師』（角川ソフィヤ文庫、2015）		
教材（その他）	特になし		
評価方法	小レポート３回：15％×３、最終レポート１回：40％、コミュニケーションペーパーなどの授業参加度：15％		
到達目標	（１）日本の怪異談を生み出す背景となった仏教思想や宗教民俗について理解を深める。 （２）現代の表現文化と古典の連続性を理解する。 （３）上記をことばで説明できる能力を身につける。		
準備学習	小レポート（3 回分）の作成などに週 4 時間の学習時間を要する。		

受講者への要望

説話・伝承史が対象とする領域は、文芸を中心として民俗、宗教、芸能、メディアなどの多分野におよぶ。ひとつの作品をさまざまな角度から読み解くので、途中欠席すると全体像がつかみにくくなる。休まず遅刻せず授業に集中して欲しい。

　また、講義中に使う専門用語やキーワードを予習し、小レポートにまとめて提出してもらう（月１回）。こうした学習をふまえて授業にのぞむことにより、皆さんの理解度は倍増するはずである。したがって指定された小レポートの提出期限を厳守するようにしていただきたい。

講義の順序とポイント

１．説話・伝承史の視点とは何か。
２．寺と怪談
　・『墓場の鬼太郎』のルーツ
　・京都の幽霊飴伝説
　・寺と葬送民俗
３．幽婚説話の伝統と現代・その１
　・一休伝説
　・子を産む幽霊
４．幽婚説話の伝統と現代・その２
　・ムカサリ絵馬の習俗
　・TV ドラマ『幽婚』より
　※小レポート①の提出と評価
５．死霊結婚説話のアジア的ひろがり
　・東アジアそして東南アジアへ
　・タイ映画『ナン・ナーク』の場合
６．東南アジアの仏教儀礼と妖怪変化
　・「ピイ（精霊）」のまつりと仏教

・山岳民族の霊魂観
7．仏教と江戸怪談
・因果、因縁を語るということ
・鈴木正三『因果物語』
・奥方の呪いと血筋の断絶
8．祟る女の系譜と女人蛇体
・道成寺の縁起とものがたり
・くちなわ道心の懺悔
※小レポート②の提出と評価
9．説教が怪談に変わるとき
・女と蛇と黒髪と
・鳥山石燕・妖怪絵本の世界
・杉浦日向子『百物語』の表現
10．幽霊画を供養するということ
・幽霊画は美術品か
・伝円山応挙の寺蔵幽霊画
・祭りと鎮魂の死者図像
11．累ヶ淵怪談の原風景
・浄土僧・祐天の法力と水辺の風土
・『死霊解脱物語聞書』の刊行
・累曼荼羅の絵解き
12．馬琴、京伝、南北から三遊亭円朝へ
・江戸小説、芝居の脚色
・人情咄の成立
※小レポート③の提出と評価
13.「累ヶ淵」の映像化
・昭和の怪談邦画
・歌舞伎の影響
14．中田秀夫『怪談』の映像表現・その１
・リングホラーとの共通点
・雪の日の因縁
・因果応報の現代的アレンジ
15．中田秀夫『怪談』の映像表現・その２
・逃げる男と祟る女の構図
・仏教説話から怪談へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50705B01
科目名	歴史民俗学特殊講義 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IIB		
担当者名	伊藤　悟	旧科目名称	
講義概要	本講義は映像制作の基礎編である。 身の回りの生活、風景、民俗を自分たちで撮影・編集する一連の映像制作プロセスを通して、思考ツールとしての映像を学ぶものである。 映像は社会にとって欠かせない表現媒体となって久しい。普段、私たちは誰かが作った映像を当たり前のように受け取っている。だが、いざ自分が映像を作る側に立ったとき、その表現の難しさを知り、そして試行錯誤のなかに新たな思考と表現の可能性を見出すだろう。 講義では学生自身が作品のテーマを決め、企画案を書き、さらに自ら撮影、編集、仕上げまでを手がけられるようにする。その経験のなかで映像の様々な可能性について考えたい。必要に応じて、参考映像を見せながら映像民俗学、映像人類学という専門分野について論ずる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内提出物（映像作品）およびプレゼンテーション（制作者の解説）から評価する。		
到達目標	映像制作の一連のプロセスを理解し、さらに映像に秘められた表現や思考の可能性を自ら発見すること。		
準備学習	受講前に、テレビや映画を視聴しながら映像の表現方法について注意深く観察してほしい。 例えば、カメラの角度、色、光、空間、会話の速さ、そしてカットをつなげる「リズム」、音の処理、様々な「間」など。それらがどのように視聴者（自分）の感情や思考に働きかけているのか。そこにどんな意図がこめられているのか。		

受講者への要望

映像に関して、経験、未経験を問わない。
最終的に 5 分以内の作品を制作してもらう。そのため何を映像にしたいか、テーマをいくつか考えてきて欲しい。
周辺の自然、風景、感覚、友人、生活、信仰、民俗行事、あるいは物語の再現でもよい。
提出作品の技術的な完成度は問わない。
それよりも、映像で何をどのように表現するか、その試行錯誤をいかに作品に反映させられるか、その経験を発言することが重要であり、評価する。

講義の順序とポイント

●1 回目　基礎知識・映像表現の背景を学ぶ
1. 映像表現について講義
2. 映像作品の視聴
3. 撮影テーマの検討
●2 回目　撮影と編集の基本技術を習得する
4. 撮影練習
5. 上映会と討論
6. 企画案の提出
●3 回目　作品制作を実践する
7. 撮影
8. 編集
●4 回目　それぞれが作品を上映し、作品を解説し、表現の可能性について討論する
9. 上映会と討論
※ 開講日は土曜日・日曜日等を予定（詳細はおって指示する）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J50707001
科目名	話しことば表現講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Speaking Word Expression Course		
担当者名	平尾　和子	旧科目名称	
講義概要	私達は一人で生きていくことはできません。社会の中で多くの人と常にコミュニケーションを保って生きています。人と人とが理解し合い、良い人間関係を作っていくためには「ことば」という道具が必要です。ビジネスの場面はもちろん、社会生活の様々な場面で「ことば」は重要な役割を果たしています。 情報技術の発達により、私達は自分の声や表情をツールとせずにコミュニケーションする機会が増えています。そしてそんな時代だからこそ、自分の声や表情を添えた「話しことば」によるコミュニケーションの重要性が増しているのです。 しかし話しことばに対して自分の持っている知識や経験は、無意識のうちに培われたものであるため、誰もが内心不安を持っています。きちんと伝わっているのか？良い印象を与えているのか？ 話し方は人に与える印象を大きく左右し、初対面の相手やビジネスシーンではなおさらです。 学生が自分の話しことばを強く意識させられるのが就職活動です。会話はできても改まった話し方になると自信がない。その時になって慌てないよう話す力を磨きたいものです。 自分の話し方の特徴や欠点を知り、改善しわかりやすく魅力的な話し方を習得できるようアドバイスします。 もちろん「話す力」は「書く力」「聞く力」「読む力」と密接な関係を持っています。コミュニケーションの原点である「ことば」の重要性をを認識し、「読む・書く・話す・聞く」の四つの言語活動についてその特徴を学び、「バランスのとれたことばの使い手」になることを目的とします。特にこれまで家庭での躾に委ねられ、学校の国語教育で取り上げられることの比較的少なかった音声言語＝話す・聞くを中心に授業を進め、魅力的な声とことばを身に付けることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	話しことば検定３級テキスト・２級テキスト（日本話しことば協会）		
教材（その他）	音声教材を活用 適宜プリントを配布		
評価方法	授業中の発言・発表への参加態度などの平常点（５０％） 授業中に課すプリント問題や実技問題への評価（５０％）		
到達目標	コミュニケーション能力を話しことばを中心にスキルアップすることを目標とする。		
準備学習	家族との会話・友人との会話・教師との会話や教師の話し方・アルバイト先での会話・ＴＶ・インターネット上で使われることばなど、自分の周囲で使われている「ことば」に留意し、普段から「ことば」への感性や意識を高めておいてください。 同時に、毎日の新聞チェックや読書を通して使用語彙や表現を増やすようにしてください。 授業終了時に、次回の内容を伝えて必要な準備を指示します。		
受講者への要望			
授業中に発言することも「話しことば」を使う重要なシーンですから、積極的に発言して話しことばを磨いて下さい。 就職活動のためにも、できれば「話しことば検定試験」にもトライして下さい。			
講義の順序とポイント			
１．概論(なぜ話し言葉を学ぶのか、コミュニケーションツールとしての話し言葉） ２．話し言葉の実際（自己紹介により自分の話し方の欠点を知る） ３．日本語の音 ４．話しことば検定模擬問題（筆記・リスニング） ５．情報を収集・整理して話す（他己紹介をするためのインタビュー項目を考え質問。他己紹介文を構成する） ６．情報を収集・整理して話す（他己紹介する。された本人は各他己紹介を評価する） ７．音声表現の技術Ⅰ ８．音声表現の技術Ⅱ ９．敬語Ⅰ １０．自己ＰＲ（特に就職活動を意識して自己ＰＲを考える） １１．自己ＰＲ（考えた自己ＰＲを効果的に話す） １２．聞く技術（傾聴力・質問力まど） １３．わかりやすく話す（イラストの説明・地図の説明・図形の説明）			

１４．効果的に話す １５．プレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	－	★

年度	2017	授業コード	J50707002
科目名	話しことば表現講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Speaking Word Expression Course		
担当者名	伏見　昌子	旧科目名称	
講義概要	私達は一人で生きていくことはできません。社会の中で多くの人と常にコミュニケーションを保って生きています。人と人とが理解し合い、良い人間関係を作っていくためには「ことば」という道具が必要です。ビジネスの場面はもちろん、社会生活の様々な場面で「ことば」は重要な役割を果たしています。 情報技術の発達により、私達は自分の声や表情をツールとせずにコミュニケーションする機会が増えています。そしてそんな時代だからこそ、自分の声や表情を添えた「話しことば」によるコミュニケーションの重要性が増しているのです。 しかし話しことばに対して自分の持っている知識や経験は、無意識のうちに培われたものであるため、誰もが内心不安を持っています。きちんと伝わっているのか？良い印象を与えているのか？ 話し方は人に与える印象を大きく左右し、初対面の相手やビジネスシーンではなおさらです。 学生が自分の話しことばを強く意識させられるのが就職活動です。会話はできても改まった話し方になると自信がない。その時になって慌てないよう話す力を磨きたいものです。 自分の話し方の特徴や欠点を知り、改善しわかりやすく魅力的な話し方を習得できるようアドバイスします。 もちろん「話す力」は「書く力」「聞く力」「読む力」と密接な関係を持っています。コミュニケーションの原点である「ことば」の重要性をを認識し、「読む・書く・話す・聞く」の四つの言語活動についてその特徴を学び、「バランスのとれたことばの使い手」になることを目的とします。特にこれまで家庭での躾に委ねられ、学校の国語教育で取り上げられることの比較的少なかった音声言語＝話す・聞くを中心に授業を進め、魅力的な声とことばを身に付けることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	話しことば検定３級テキスト・２級テキスト（日本話しことば協会）		
教材（その他）	音声教材を活用 適宜プリントを配布		
評価方法	平常点（５０％）　出席状況などによる。 授業中に課すプリント問題や実技問題により評価（５０％）する。		
到達目標	コミュニケーション能力を話しことばを中心にスキルアップすることを目標とする。		
準備学習	家族との会話・友人との会話・教師との会話や教師の話し方・アルバイト先での会話・ＴＶ・インターネット上で使われることばなど、自分の周囲で使われている「ことば」に留意し、普段から「ことば」への感性や意識を高めておく。 授業終了時に、次回の内容を伝えて必要な準備を指示します。		
受講者への要望			
授業中に発言することも「話しことば」を使う重要なシーンですから、積極的に発言して話しことばを磨いて下さい。 就職活動のためにも、できれば「話しことば検定試験」にもトライして下さい。			
講義の順序とポイント			
１．概論(なぜ話し言葉を学ぶのか、コミュニケーションツールとしての話し言葉） ２．話し言葉の実際（自己紹介により自分の話し方の欠点を知る） ３．日本語の音 ４．話しことば検定模擬問題（筆記・リスニング） ５．情報を収集・整理して話す（他己紹介をするためのインタビュー項目を考え質問。他己紹介文を構成する） ６．情報を収集・整理して話す（他己紹介する。された本人は各他己紹介を評価する） ７．音声表現の技術Ⅰ ８．音声表現の技術Ⅱ ９．敬語Ⅰ １０．自己ＰＲ（特に就職活動を意識して自己ＰＲを考える） １１．自己ＰＲ（考えた自己ＰＲを効果的に話す） １２．聞く技術（傾聴力・質問力まど） １３．わかりやすく話す（イラストの説明・地図の説明・図形の説明） １４．効果的に話す			

１５．プレゼンテーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	－	★

年度	2017	授業コード	J50716B01
科目名	メディア専門演習ＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar IB: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア（media)」とは、言いかえれば、人間を拡張し、人間を社会的に枠づける役割を果たす“媒（なかだち）”である。古いものから新しいものまでメディアは社会の至るところに存在している。人間の身体からはじまり私たちを取り巻くあらゆるものがメディアとなる可能性をもつ。そしてメディアは歴史・社会的に生成されてきたものであり、現在のメディアの姿は絶対的、固定的ではなく、絶えず変容していくのである。 本演習では、メディアについてのワークショップをおこなう。 ※「ワークショップ（workshop)」とは、参加する人たちがお互いに刺激し合い、助け合い、学び合う“共育”を実践する“場”		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の演習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し)。

講義の順序とポイント

この「ワークショップ」は、今日のさまざまなメディアをまず主体的に体験することからはじまる。

たとえば、テレビ番組を見る、雑誌やマンガを読む、CD を聴く、ビデオ／DVD を鑑賞する、各種ゲームに興じる、ウェブにアクセスする、チャットでおしゃべりする、映画館に行く、美術館／博物館を訪れる、ライブに参加する、お洒落な店で美味しい料理を食べる、流行のファッションを着こなす、時には空を眺めたり、できればお堅い本とも対峙して欲しい…。体験した後に考える。「なぜ楽しかったのだろうか（なぜつまらなかったのだろうか)」、同ジャンル／他ジャンルのものとの比較もしてみる。また「あのやり方は問題だ」「こうすればもっとよくなるはず」等々“自分ならばどうするか”をさまざまな視点から考えてみる。

つまり、自分たちのまわりにあるさまざまな「メディア」について、マジに遊び、考え、そして、表現する“学びの場”を共同運営する。

※上記文章および以下の項目を熟読し、そして“メディア《つくる》工房”のホームページを閲覧し、理解および納得できる人のみ参加して下さい（不用意に受講登録した場合にも、単位・成績等について一切フォローはしないので、その点はご留意下さい)。

・“学ぶ”と“教わる”の違いを理解している
・自ら課題を設定し、その課題と“日夜葛藤する”ことができる
・自分がやりたいこと／やりたくないことをきちんと主張できる
・口先だけの「私は好奇心旺盛で…」ではなく、自分が好きでないこと（得意でないこと）にでも積極的にチャレンジできる
・無駄に群れる必要性はまったくないが、共同作業をおこなう際の最低限の協調性とコミュニケーション能力を持っている
・「綿密な計画」と「無謀な無計画」をどちらも享受できる

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

01　オリエンテーション
02　ワークショップ 15
03　ワークショップ 16
04　ワークショップ 17
05　ワークショップ 18
06　ワークショップ 19
07　ワークショップ 20
08　ワークショップ 21
09　ワークショップ 22
10　ワークショップ 23
11　ワークショップ 24
12　ワークショップ 25
13　ワークショップ 26
14　ワークショップ 27
15　ワークショップ 28

★作品をつくる場合には、基本的に制作費等は自己負担になります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J50726A0A
科目名	メディア専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。3回生時提出の章立てと草稿をもとに、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	受講生のテーマに応じ、適時指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、特定テーマでの発表、広告表現などの制作 定期試験（60%）：レポート		
到達目標	自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。		
準備学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の学習素材についても、事前に目を通しておき、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。

＜講義予定＞
第1回：オリエンテーション
第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1）
第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2）
第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第9回：卒業研究の発表・指導
第10回：卒業研究の発表・指導
第11回：卒業研究の発表・指導
第12回：卒業研究の発表・指導
第13回：卒業研究の発表・指導
第14回：卒業研究の発表・指導
第15回：春学期のふりかえり

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J50726A0C
科目名	メディア専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	メディア専門演習ＩＡ・Ｂに引き続き、メディアについてのワークショップをおこなう。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し）。

講義の順序とポイント

各人で、卒業研究（論文／制作）を完成させる。

01　オリエンテーション
02　卒業研究演習 01
03　卒業研究演習 02
04　卒業研究演習 03
05　卒業研究演習 04
06　卒業研究演習 05
07　卒業研究演習 06
08　卒業研究演習 07
09　卒業研究演習 08
10　卒業研究演習 09
11　卒業研究演習 10
12　卒業研究演習 11
13　卒業研究演習 12
14　卒業研究演習 13
15　卒業研究演習 14

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★

年度	2017	授業コード	J50726A0D
科目名	メディア専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙やテレビニュースのビデオ、さらに関連する資料を配布します。		
評価方法	各種レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無２０～３０％、平常点(授業への参加の度合い）３０～２０％。		
到達目標	少人数の課題追求型の学習と個々の自主的な研究を融合させ、それらを討論という形で客観化するのが目標です。独りよがりの私見が多い今日、誰もが納得し啓発されるような見解を醸成するよう専門研究を進め、さらに社会常識を高めて就職など進路に反映させるのだ最大の目標です。		
準備学習	新聞やテレビ、雑誌、映画などでいま、世間で何が関心を呼んでいるのか、好奇心をもって豊かな情報を身につけておいてください。また、事前に配布した資料やテキストなどで予習しておくことに加え、授業終了時に復習用の課題を出すので、それを次回の授業で必ず提出するようにしてください。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」の授業を受講して下さい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　卒業研究と進路についてのガイダンス
3　卒業論文の作成方法
4　卒業研究のテーマと内容発表
5　卒業研究のテーマと内容発表
6　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
7　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
8　個々の卒業研究に関する個別相談と指導
9　テーマについてのグループ・ディスカッション
１０　テーマについてのグループ・ディスカッション
１１　研究の進捗動向発表と討議
１２　研究の進捗動向発表と討議
１３　卒論に必要な情報・データの補足指導

１４　ゼミ全体に対する研究状況の分析と評価

１５　ゼミ生全員による討議と総括的指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50726B0A
科目名	メディア専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、マーケティング、メディア、表現文化などをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。4回生春学期時提出の最新の章立てと草稿を深め、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	受講生のテーマに応じ、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布。		
評価方法	平常点（40%）：自己のテーマでの発表、広告表現などの制作 卒業研究（60%）：論文ないし作品		
到達目標	自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。		
準備学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とする広告表現（CM、印刷広告、インターネット広告等）は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の卒業研究・制作についても、ゼミ内で質問や意見を出せるようにすること。		

受講者への要望

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

講義の順序とポイント

各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。

＜講義予定＞
第1回：オリエンテーション
第2回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1）
第3回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2）
第4回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第5回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第6回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第7回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第8回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第9回：卒業研究の発表・指導
第10回：卒業研究の発表・指導
第11回：卒業研究の発表・指導
第12回：卒業研究の発表・指導
第13回：卒業研究の発表・指導
第14回：卒業研究の発表・指導
第15回：秋学期のふりかえり　・「ゼミ論集」編集打合せ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J50726B0C
科目名	メディア専門演習ＩＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	メディア専門演習ＩＡ・Ｂに引き続き、メディアについてのワークショップをおこなう。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講者への要望

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し）。

講義の順序とポイント

各人で、卒業研究（論文／制作）を完成させる。

01　オリエンテーション
02　卒業研究演習 15
03　卒業研究演習 16
04　卒業研究演習 17
05　卒業研究演習 18
06　卒業研究演習 19
07　卒業研究演習 20
08　卒業研究演習 21
09　卒業研究演習 22
10　卒業研究演習 23
11　卒業研究演習 24
12　卒業研究演習 25
13　卒業研究演習 26
14　卒業研究演習 27
15　卒業研究演習 28

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★

年度	2017	授業コード	J50726B0D
科目名	メディア専門演習ＩＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	まず、新聞やテレビ、雑誌、書物、インターネットなど各種メディアによって報じられた事象の意味について理解を深めることから始める。これら基礎的知識を習得した後、その情報を大衆に伝達するマスコミの社会的存在意義や影響力、その方法の妥当性などについて議論を深める。演習日の直近に報道された出来事について、当該学生がその要約発表や意見発表などのプレゼンテーションを行い、それに対して全員が質問するという形式で自由討議を展開する。ここでは、社会人にとって不可欠な社会常識に加えて、相手を説得するプレゼンテーション能力やディベート能力、さらに社会に対する批判能力を高めるのが狙い。高学年においては、その要約筆記能力、さらにジャーナリスト志望者には実践的な文章力を養成する。 〈		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙やテレビのニュースビデオ、関連する資料を配布します。		
評価方法	各種レポートやプレゼンテーション５０％、積極的な議論の有無２０～３０％、平常点（授業への参加度合い）３０～２０％。		
到達目標	専門研究を通じて将来の進路、つまり就職に反映させることを最大の目標とする。		
準備学習	ジャーナリズム演習なので、ネットやテレビ、新聞などで、いまどんな社会事象がニュースになっているのかを勉強しておいてください。また、事前配布の資料をよく読んで専門用語などを理解しておくことに加え、授業終了時に復習用の課題を出すので、それを次回の授業時に提出してください。		

受講者への要望

高度情報化社会の中心的存在であるジャーナリズム、マスコミ、メディアを主題にしているため、学生諸君は新聞やテレビで報じられる日々のニュースに関心を持ってほしい。報道の内容を知らずして、ジャーナリズムの仕組みを勉強してもあまり意味がない。やはり、刻々と変化する社会事象を報道時系列で追いかけ、その展開に興味を持ち、その結末について共に考えるところに意義がある。また、他人の意見に耳を傾けるのも大切なことで、全員参加の形で活発に討議する演習にしたい。

実際、演習は学生が主役であるべきもの。そして、そこは自己主張を基本とした知的社会人要請の修練場でもある。個性が埋没した旧来の最大公約数的一般論ではなく、個人個人が独自の意見や批判を披露し、白熱した議論によってより説得力と客観性のある社会観を醸成できるような創造的演習にしたい。

できるだけ「マスコミ論」「ジャーナリズム論」「マスコミ文章講座」を受講することを望みます。

講義の順序とポイント

１　卒業論文の完成に向けたスケジュール作成
２　卒業研究のテーマ確認と指導
３　研究に必要な資料やデータ収集指導
４　個々の卒業研究に関する個別指導
５　個々の卒業研究に関する個別指導
６　個々の卒業研究に関する個別指導
７　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
８　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
９　卒業研究の中間発表とゼミ生による討議
１０　個々の卒論に対する評価とデータ補充の指導
１１　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１２　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１３　各自の卒業論文の最終発表とディスカッション
１４　ゼミ全体のテーマ・ディスカッションとそれに対する評価

１５　卒業論文の講評と総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50741A01
科目名	キャリア研究 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (s)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	(1)働く人として、いかに生きるべきか、なにをなすべきかについて考えます。 (2)小説を手がかりにしながら、自己形成を振り返ります。 (3)自己形成史を基にして、自己分析をします。 (4)自己分析を基にして、自己ＰＲの準備をします。 (5)古今東西の名著に触れ，職業観，人生観，世界観を考えます。 (6)討論をしながら自分なりの考えをまとめる方法を学びます。		
教材（テキスト）	なし　プリント，新聞記事，小説のコピーなどを配付する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	授業での討論への参加で評価します。定期試験なし		
到達目標	①自己分析シート作成 ②自己ＰＲ文作成		
準備学習	毎日，ニュースに興味を持っておくこと。 就活ノートを作り，予定と反省を書いておくこと。		

受講者への要望

(1)キャリア形成に向けた取り組みの中で、就職活動は、時期を遅らせるとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。
(2)キャリア形成には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。
(3)社会人になれば、他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイト，家庭，近所などでも他人と交流しておいてください。

講義の順序とポイント

第１回：　キャリア形成と準備のために、どの様な目標を持つのか考えます。
第２回：　これまでのキャリア‥‥過去の自分を振り返る
　　自分史１　　幼児期　銀の匙
第３回：　自分史２　　小学校　トロッコ
第４回：　自分史３　中学校　車輪の下　Stand by me
第５回：　　自分史４　高校　ライ麦畑でつかまえて
第６回：　自分史５　大学　青春の門
第７回：　自分史６　　大学　人間失格　　罪と罰
第８回：　自己分析シート１　カラマーゾフの兄弟
第９回：　自己分析シート２
第 10 回：　自己分析シート３
第 11 回：　自己分析シートの完成‥‥過去から現在までの自分の成長を整理する。
第 12 回：　自己ＰＲ‥‥自分の長所を相手に伝える。自己ＰＲ文１
第 13 回：　自己ＰＲ文２
第 14 回：　自己ＰＲ文３
第 15 回：　自己分析と自己ＰＲまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50741A02
科目名	キャリア研究 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (s)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	(1)働く人として、いかに生きるべきか、なにをなすべきかについて考えます。 (2)小説を手がかりにしながら、自己形成を振り返ります。 (3)自己形成史を基にして、自己分析をします。 (4)自己分析を基にして、自己ＰＲの準備をします。 (5)古今東西の名著に触れ，職業観，人生観，世界観を考えます。 (6)討論をしながら自分なりの考えをまとめる方法を学びます。		
教材（テキスト）	なし　プリント，新聞記事，小説のコピーなどを配付する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	授業での討論への参加で評価します。定期試験なし		
到達目標	①自己分析シート作成 ②自己ＰＲ文作成		
準備学習	毎日，ニュースに興味を持っておくこと。 就活ノートを作り，予定と反省を書いておくこと。		

受講者への要望

(1)キャリア形成に向けた取り組みの中で、就職活動は、時期を遅らせるとチャンスを失いますので、各段階の課題を、各時間に確実にやりこなしていく必要があります。
(2)キャリア形成には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。
(3)社会人になれば、他人との共同作業が多くなります。ゼミ、クラブ、アルバイト，家庭，近所などでも他人と交流しておいてください。

講義の順序とポイント

第１回：　キャリア形成と準備のために、どの様な目標を持つのか考えます。
第２回：　これまでのキャリア‥‥過去の自分を振り返る
　　自分史１　　幼児期　銀の匙
第３回：　自分史２　　小学校　トロッコ
第４回：　自分史３　中学校　車輪の下　Stand by me
第５回：　　自分史４　高校　ライ麦畑でつかまえて
第６回：　自分史５　大学　青春の門
第７回：　自分史６　　大学　人間失格　　罪と罰
第８回：　自己分析シート１　カラマーゾフの兄弟
第９回：　自己分析シート２
第 10 回：　自己分析シート３
第 11 回：　自己分析シートの完成‥‥過去から現在までの自分の成長を整理する。
第 12 回：　自己ＰＲ‥‥自分の長所を相手に伝える。自己ＰＲ文１
第 13 回：　自己ＰＲ文２
第 14 回：　自己ＰＲ文３
第 15 回：　自己分析と自己ＰＲまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50741B01
科目名	キャリア研究ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (f)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	具体的な取り組みとして「エントリーシート・履歴書」などの書き方, 自己ＰＲの仕方，面接方法，グループ討論の方法などを学びます。 古今東西の名著に触れ，職業観を形成します。		
教材（テキスト）	なし プリントを配布 新聞記事の紹介		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業,討論への参加で評価します。定期試験なし		
到達目標	①履歴書作成　②エントリーシート作成　③討論、会議の方法を学ぶ		
準備学習	準備学習 毎日，ニュースに興味を持っておくこと。		
受講者への要望			
キャリア形成の準備には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
第１回：　履歴書を書く　履歴書の要件を考える。 第２回：　履歴書を書く 第３回：　履歴書の完成 第４回：　企業研究　どのような仕事がしたいのか　適職検索 第５回：　どのような企業があるのか　企業検索 第６回：　企業検索 第７回：　業界研究セミナーまとめ 第８回：　エントリーシートを書く　エントリーシートの目標を考える 第９回：　エントリーシート１：企業・業界共通編 第 10 回：　エントリーシート２：企業・業界独自編 第 11 回：　実践練習‥‥面接 第 12 回：　面接対策：面接の実践 第 13 回：　グループ討論、ディベート練習 第 14 回：　マナー：社会人としての常識を確認します。 第 15 回：　この時期なにをしなければならないか確認，持ち物。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50741B02
科目名	キャリア研究ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Research (f)		
担当者名	山本　幹夫	旧科目名称	
講義概要	具体的な取り組みとして「エントリーシート・履歴書」などの書き方, 自己ＰＲの仕方，面接方法，グループ討論の方法などを学びます。 古今東西の名著に触れ，職業観を形成します。		
教材（テキスト）	なし プリントを配布 新聞記事の紹介		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	毎回の授業,討論への参加で評価します。定期試験なし		
到達目標	①履歴書作成　②エントリーシート作成　③討論、会議の方法を学ぶ		
準備学習	準備学習 毎日，ニュースに興味を持っておくこと。		
受講者への要望			
キャリア形成の準備には、豊かな教養が必要です。教養科目をしっかりと取り組んでおいてください。紹介した小説も読んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
第１回：　履歴書を書く　履歴書の要件を考える。 第２回：　履歴書を書く 第３回：　履歴書の完成 第４回：　企業研究　どのような仕事がしたいのか　適職検索 第５回：　どのような企業があるのか　企業検索 第６回：　企業検索 第７回：　業界研究セミナーまとめ 第８回：　エントリーシートを書く　エントリーシートの目標を考える 第９回：　エントリーシート１：企業・業界共通編 第 10 回：　エントリーシート２：企業・業界独自編 第 11 回：　実践練習‥‥面接 第 12 回：　面接対策：面接の実践 第 13 回：　グループ討論、ディベート練習 第 14 回：　マナー：社会人としての常識を確認します。 第 15 回：　この時期なにをしなければならないか確認，持ち物。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50742001
科目名	脳と心	単位数	2
科目名（英語表記）	Brain and Mind		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	近年、医療機器の発展により脳と心との関係が少しずつ明確化してきている。本講では、心はどのようにして生まれるのか、脳と心の関係をどう考えるのか、心が脳をコントロールできる側面などを検討し、脳を活性化させる方法やその重要性について学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布す 。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験(60%)、授業中に実施す 課題(20%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(20%)		
到達目標	脳と心の関係を正しく理解できる うになること。		
準備学習	講義内で紹介する脳と心の関する動画や資料を閲覧し、脳と心の関係について疑問をもてるようにすること。		
受講者への要望			
心理学入門、心理学概論を履修したものとして、講義を進めます。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 脳と神経 3. 右脳・左脳と認知 4. 注意 5. 睡眠の構造と特徴 6. 感情と表情 7. 印象形成 8. ストレス評価とマネジメント 9. 音楽の知覚と認知 10. 運動と認知機能 11. バイオフィードバック 12. 意識と脳 13. 脳を活性化させる方法 14. 頭にいいことをやろう 15. まとめ（本講義で学んだことを振り返り日常生活でどのように活用するかについて考える）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J50743A02
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史） I	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) I		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　70%　授業への取り組み方 定期試験　30%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J50743B02
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。 後期は特に受講生の研究テーマに関する古文書を読むこともあります。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　100%　授業への取り組み方		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J50744A01
科目名	歴史民俗学上級講読（民俗） Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Folklore) Ⅰ		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学上級講読Ⅱでは、Ⅰと同様に高度に専門的な内容の英文講読を行います。内容は３人の担当者の専門に従って、民俗地理学・都市文化史・文化人類学の英文講読となります。主に、大学院進学者を対象とします。教科書は受講者の要望する専門にあった文献を相談しながら決めます。		
教材（テキスト）	受講者と相談して適宜決める		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	プリントの配布		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）レポート（２０％）		
到達目標	各分野の専門的な英文が読めるようになること。		
準備学習	配布プリントの予習		
受講者への要望			
参考文献にも目を配ること。			
講義の順序とポイント			
１　教科書の選定と解説 ２～15　受講者による講読			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	J50744B01
科目名	歴史民俗学上級講読（民俗） II	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Folklore) II		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学上級講読 I では高度に専門的な内容の英文講読を行います。内容は 3 人の担当者の専門に従って、民俗地理学・都市文化史・文化人類学の英文講読となります。主に、大学院進学者を対象とします。教科書は受講者の要望する専門にあった文献を相談しながら決めます。		
教材（テキスト）	受講者と相談して適宜決める		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	プリントの配布		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）レポート（２０％）		
到達目標	各分野の専門的な英文が読めるようになること。		
準備学習	配布プリントの予習		
受講者への要望			
参考文献にも目を配ること。			
講義の順序とポイント			
1　教科書の選定と解説 2～15　受講者による講読			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50745A01
科目名	中国文学特殊講義Ａ　【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Chinese Literature A		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	劉?『文心雕龍』には「書記篇」があり、この頃には書簡文が文学ジャンルのひとつとして認識されるようになっていたことがわかる。本講義ではこの内容に沿って書簡文の文学としての性格・特徴について概説した上で、具体的作品を選読・解説する。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・文学・歴史・思想に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・文化などに興味を持って臨むこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。

講義の順序とポイント

１．講義内容の全体について、導入となる説明を行う
２．劉?『文心雕龍』「書記篇」（１）
３．劉?『文心雕龍』「書記篇」（２）
４．劉?『文心雕龍』「書記篇」（３）
５．漢以前の書簡文
６．魏晋南北朝の書簡文（１）
７．魏晋南北朝の書簡文（２）
８．魏晋南北朝の書簡文（３）
９．唐代の書簡文（１）
１０．唐代の書簡文（２）
１１．唐代の書簡文（３）
１２．宋代の書簡文
１３．明清の書簡文（１）
１４．明清の書簡文（２）
１５．名作鑑賞（振り返りと補足）

＊以上の内容は受講者の状況に合わせて変更の可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J50745B01
科目名	中国文学特殊講義Ｂ 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Chinese Literature B		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	唐・五代期に生産が繰り返されていた書儀を取り上げる。書儀とは、古人が手紙を書く際の参考に供するための模範文例集である。中国国内のみならず日本や朝鮮半島など周辺諸地域へも伝えられ、人びとは書儀を通して日常生活で役立てるための技能・知識を身につけていた。真似て実際に手紙を書くための実用書として、あるいは漢文や書を学ぶための教材のひとつとして、さまざまなかたちで受容され、実践・応用されていた。本講義では書儀を中心とする手紙の文学について概観する。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・文学・歴史・思想に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・文化などに興味を持って臨むこと。		

受講者への要望

積極的に授業に参加すること。

講義の順序とポイント

１．講義内容の全体について、導入となる説明を行う
２．書儀とは（１）
３．書儀とは（２）
４．敦煌写本書儀（１）
５．敦煌写本書儀（２）
６．敦煌写本書儀（３）
７．敦煌写本書儀（４）
８．日本に伝えられた書儀（１）
９．日本に伝えられた書儀（２）
１０．朝鮮半島に伝えられた書儀（１）
１１．書儀と文学（１）
１２．書儀と文学（２）
１３．書儀と文学（３）
１４．書儀と文学（４）
１５．東アジア漢字文化圏における書儀の役割（振り返りと補足）

＊以上の内容は受講者の状況に合わせて変更の可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J50752001
科目名	国際社会と環境	単位数	2
科目名（英語表記）	International Society and Environment		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	環境問題の中には、地球温暖化のような国境を越える国際的な環境問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、温暖化問題が示すように、近年、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から環境問題を検討することは非常に重要である。 本授業では、いくつかの重要な国際的な環境問題（地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、黄砂、砂漠化、海洋汚染など）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な環境条約や環境制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの環境問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの環境問題についての最新の世界情勢についても解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。各講義で書き込み式授業ノートや資料を配布する。		
教材（参考文献）	① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版 （2008 年）（五訂版） ② 九里徳泰、平山明彦、左巻健男著『新訂 地球環境の教科書 10 講』東京書籍; 新訂版 （2014 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する		
評価方法	授業内パフォーマンス（25%）、レポートの提出（25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	地球規模での環境問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球環境問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング （できれば、あらかじめ①の参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。）		

受講者への要望

講義の前に参考書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。

講義の順序とポイント

1. 地球環境問題とは
2. 地球温暖化 I
3. 地球温暖化 II
4. 地球温暖化III
5. オゾン層の破壊
6. 越境大気汚染問題（酸性雨）
7. 越境大気汚染問題（黄砂） I
8. 越境大気汚染問題（黄砂） II
9. 砂漠化問題 I
10. 砂漠化問題II
11. 海洋汚染問題 I
12. 海洋汚染問題II
13. 有害廃棄物の越境問題
14. 開発途上国等における環境問題
15. 地球環境問題の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50753001
科目名	国際社会と資源	単位数	2
科目名（英語表記）	International Society and Natural Resour ces		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	環境問題と同様に、資源問題の中にも、海洋資源の減少のような国境を越える国際的な資源問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、資源問題においても、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から資源問題を検討することは非常に重要である。 本授業では、いくつかの重要な国際的な資源問題（海洋資源の減少、森林の減少、生物多様性の減少、人口問題、食糧問題、水資源問題、化石資源問題、エネルギー資源問題、鉱物資源問題）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な資源条約や資源制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの資源問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの資源問題についての最新の世界情勢についても解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。各講義で書き込み式授業ノートや資料を配布する。		
教材（参考文献）	① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版 （2008 年）（五訂版） ② 石 弘之著『地球環境「危機」報告』有斐閣（2008 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する 。		
評価方法	授業内パフォーマンス（25%）、レポートの提出（25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	地球規模での資源問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球資源問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング （授業の前に、次に取り上げる資源問題について、『地球環境キーワード事典』やインターネット等で大まかなことを予習しておくこと。）		

受講者への要望

教科書を指定していないので、講義への出席が大切です。講義には必ず出席して、配布資料を参照しながら内容を理解してください。

講義の順序とポイント

1. シラバスの説明・地球資源問題とは
2. 海洋資源の減少問題Ⅰ（概況）
3. 海洋資源の減少問題Ⅱ（タラ類）
4. 海洋資源の減少問題Ⅲ（マグロ）
5. 海洋資源の減少問題Ⅳ（クジラ）
6. 森林の減少問題Ⅰ
7. 森林の減少問題Ⅱ
8. 生物多様性の減少問題
9. 人口問題
10. 食糧問題
11. 水資源問題
12. 化石資源問題Ⅰ
13. 化石資源問題Ⅱ
14. エネルギー資源問題
15. 地球資源問題の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50758001
科目名	英語フィールドワーク京都	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Fieldwork in English		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	京都に訪れる外国人観光客が増える中、日本の歴史、文化、風習などを英語で説明する機会も増えています。「五感で感じる京都」をテーマに、様々フィールドワークや体験を通して、京都のよさを英語で発表する実践講座です。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内課題（20%） レポート（80%）		
到達目標	京都の歴史、風習、観光名所を基礎的な英語で口頭表現や文章を使って伝えるようになります。		
準備学習	日本文化の基礎知識を復習しておくこと。京都で調査やフィールドワークを行うべきところを考えておくといいです。		

受講者への要望

授業やフィールドワークに毎回出席、積極的に参加することが大切です。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることをすすめます。

講義の順序とポイント

1. 講座概要・フィールドワークの基礎
2. 京都の豆知識を英語で
3. 五感で京都を体験する・レポート計画
4. 手染め体験
5. 手染め発表・レポート
6. 聞香体験
7. 聞香発表・レポート
8. 和菓子作り体験
9. 和菓子作り発表・レポート
10. 京都の音体験
11. 京都の音発表・レポート
12. アンケート作り
13. アンケート実施・取材
14. ガイドブック作り
15. 最終発表・レポート

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J50767A0A
科目名	日本語学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar : Japanese Language Study ⅡA		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	卒業論文作成のための基礎体力を養う。おおまかでもよいので、受講生は自らが卒業論文で扱うであろうテーマについての既存研究を調査し、その結果を何度かにわたって授業内で報告する。この作業を通じて、受講生は、論文の何たるかを知り、また自らの卒論テーマがどの程度研究されているものか、自分の入り込む余地は残されているのか、などを直截に知ることにより、卒論テーマの設定の難しさを体験する。秋学期の演習Ｂへの礎とする。		
教材（テキスト）	特定のものはない。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内で行われる「報告」によって評価する。		
到達目標	卒業論文のテーマ設定の端緒を掴むこと。		
準備学習	３回生までの演習レジメに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
とにかく自分に厳しく、コツコツと地道に作業を進めること。			
講義の順序とポイント			
１．卒論テーマ設定に関するディスカッション ２．資料検索方法の実際 ３．図書館の利用法 ４．卒論テーマの外枠 ５．調査報告 ６．調査報告 ７．調査報告 ８．調査報告 ９．調査報告 １０．調査報告 １１．調査報告 １２．調査報告 １３．調査報告 １４．調査報告 １５．夏休みに取り組むべき課題の確認			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50767B0A
科目名	日本語学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar : Japanese Language Study ⅡＢ		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	卒論作成の具体的な作業を行う。春学期演習ＩＩ Ａの成果を踏まえ、大まかなテーマから徐々にテーマを絞って行き、少なくとも１０月中期段階で明確なテーマを見つけ出すことを目標とする。その後、先行研究の調査を十分に行った上で、さらにテーマにふるいをかけて、実際に書き進める作業に入る。		
教材（テキスト）	特定のものはなし。		
教材（参考文献）	適宜紹介はするが、最小限に留める。		
教材（その他）			
評価方法	論文がすべて。		
到達目標	学部レベルの卒論を書き上げることが最低限の目標だが、実際には「論文」として一般に通用するものを目指す。		
準備学習	春学期の成果を夏休み中に忘れてしまわないように。		
受講者への要望			
焦らず、念入りに調査すること。卒論の完成ばかりを気にしないで執筆までの準備期間を大切にすること。			
講義の順序とポイント			
１．先行研究の研究（１） ２．先行研究の研究（２） ３．先行研究の研究（３） ４．論文テーマの吟味（１） ５．論文テーマの吟味（２） ６．進捗状況の発表 ７．進捗状況の発表 ８．進捗状況の発表 ９．進捗状況の発表 １０．専攻主催の卒論中間発表 １１．論文検討 １２．論文検討 １３．論文検討 １４．論文検討 １５．論文検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50768001
科目名	司法・矯正・福祉心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology for Justice, Remedy and Welfa re		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	福祉とは“幸福(しあわせ)”のことだが、全編をとおして人間の幸福について考えたい。とくに幸福から距離をおかれやすい社会的弱者といわれる人たちへの援助が本講義の中心となｌり、そのなかでも、児童虐待防止についての解説には多くの時間をあてる。 現場の業務は、福祉に限らずそうだが、法律や現場のシステムにもとづいて動いている。したがって、それら抜きには現場の業務については語れないし、実際の業務は理解しえない。したがって、心理学の授業であるにもかかわらず、法律や現場のシステムに関する説明が多くなることに留意しておいてほしい。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	川崎二三彦「児童虐待～現場からの提言」2006 岩波新書 川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」2009 明石書店 小林重雄監修・園山繁樹・内田一成編著「口座臨床心理学④福祉臨床心理学」2002 コレール社		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や授業態度による平常点（５０％）と、「授業内容の理解」に関する確認作業の成果の提出（５０％）		
到達目標	社会的弱者といわれる人たちへの援助について学ぶことで、人間や社会についての理解を深める。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。また、福祉に関する事象や社会の動き、論評は様々に報道されている。授業で学習したことがらを背景に思い浮かべながら、自分なりに報道内容についてどういうことが起きている可能性があるのか、検討してみてほしい。		
受講者への要望			
各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。配布した資料にはよく目を通してほしい。			
講義の順序とポイント			
01.臨床心理学における福祉分野の実際 02.福祉分野の諸課題 03.児童虐待防止に関する基本的知識① 04.同② 05.同③ 06.同④ 07.同⑤ 08.前半授業の補足と振り返り 09.ドメスティック・バイオレンス(DV)とストーカー対策 10.障害者福祉臨床 11.高齢者福祉臨床 12.貧困家庭の子どもへの援助 13.非社会的、反社会的な子どもへのアプローチ 14.コミュニティ・アプローチ(臨床心理学的地域援助) 15.後半授業の補足とその他のテーマ ※講義の内容と順序は変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50768101
科目名	政治学原論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、国内社会と国際社会に存在する様々な政治的問題について、政治学の知識を活用しながら考える力を養うことにある。そのために本講義では、種々の問題を考える際に必要とされる基礎的な知識を、幅広いテーマに渡って講義していくこととしたい。国内政治の内容がメインとなるが、国際政治の内容についても講義する。 具体的なテーマとしては、国内政治では、①政治とは何か（政治の定義）、②政治権力、③政治的アクター、④政治体制、⑤市民社会論、⑥現代正義論の６つのテーマについて、国際政治では、国際政治の特徴について講義する。テーマによっては難しい内容が含まれてもいるが、「アカデミックな知識にもとづいた政治観」を身につけることができるよう、頑張っていただきたい。		
教材（テキスト）	レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	①レポート（国内政治の６つのテーマから興味のあるものを２つ選び、それぞれにつき１５００字程度のレポートを提出すること。５０％） ②講義内コメントカード（２０％） ③定期試験（３０％）		
到達目標	①日本の国内政治が抱える諸問題の中から少なくとも何かひとつについて、政治学の知識をもとにその原因と解決策とを説明することができる。 ②国内社会と国際社会の違いを踏まえた上で、それが国内政治と国際政治にどのような違いをもたらしているかを説明することができる。 ③よりよい民主政治を実現するために何が必要とされているかを説明することができる。		
準備学習	１）新聞やテレビのニュースから、 リアルタイムの政治の動向に関する情報を入手しておくこと。 ２）レジュメを熟読しておくこと。 ３）関心を持った問題について、自ら文献にあたって知識を深めておくこと。		
受講者への要望			
１）講義に出席すること。出席しない学生の単位取得は不可能である。 ２）定期テスト前にしっかりと勉強すること。 ３）必修科目であるから、とりわけ真面目に勉強すること。			
講義の順序とポイント			
第１回：ガイダンス－政治学研究の概要－ 第２回：政治とは何か－集団的意思決定と社会統合－ 第３回：政治権力（１）－実体的権力論と関係論的権力論－ 第４回：政治権力（２）－権力作用の３つの次元－ 第５回：政治的アクター（１）－エリート論－ 第６回：政治的アクター（２）－リーダーシップ論－ 第７回：政治体制（１）－全体主義体制と権威主義体制－ 第８回：政治体制（２）－自由民主主義体制－ 第９回：市民社会論（１）－現代市民社会論の特徴－ 第１０回：市民社会論（２）－二回路制デモクラシー論－ 第１１回：現代正義論（１）－ロールズの正義論－ 第１２回：現代正義論（２）－ロールズへの批判－ 第１３回：国際政治の特徴（１）－国内社会と国際社会の違い－ 第１４回：国際政治の特徴（２）－国際政治の４つのイメージ－ 第１５回：総括と展望－日本政治の課題－			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50772001
科目名	サムライ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	History of　Samurai culture		
担当者名	中西　裕樹	旧科目名称	
講義概要	近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は海外からも注目されています。この「サムライ」と、歴史的存在である「侍」「士」には、共通する部分とそうではない部分があります。また、サムライは時代によって性格を変え、精神的活動を含む文化に自らを反映しました。 本講義では、平安時代に生まれたサムライの歴史を明治維新まで確認しながら、その精神ともされる「武士道」を考えます。また、各論として、民俗学・歴史地理学の視点からサムライの性格をとらえるとともに、象徴ともされる刀剣・甲冑・城郭の歴史とその背景を取り上げます。これらの作業を通じ、現代におけるサムライの意味を考えることを目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜紹介します。		
教材（その他）	パワーポイントや映像、プリントなどを使用。		
評価方法	平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。		
到達目標	歴史学など様々な分野の研究成果をふまえ、現代をとらえる視点を養う。		
準備学習	日本史の知識が必要になるので、不明な点は質問や自主学習で補ってほしい。		
受講者への要望			
「サムライ」をキーワードとする文化や事象を自らで考え、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　サムライ文化論のフィールド(中西裕樹) 2　現代のサムライ文化論(佐々木高弘) 3　民俗とサムライ文化論(堀田穣) 4　平安時代のサムライ　戦う貴種(中西裕樹) 5　鎌倉・室町時代のサムライ　支配者の姿(中西裕樹) 6　戦国時代のサムライ　新しい村々の侍(中西裕樹) 7　安土・桃山時代のサムライ　侍の下剋上(中西裕樹) 8　江戸時代のサムライ　職業の士と忠臣蔵(中西裕樹) 9　幕末のサムライ　迫る西洋と新選組と(中西裕樹) 10　明治～昭和と現代のサムライ　「武士道」とは(中西裕樹) 11　江戸時代のサラリーマンの日常(鍛治宏介) 12　刀剣・甲冑のサムライ文化論(中西裕樹) 13　城の歴史のサムライ文化論　日本の城郭史(中西裕樹) 14　城の歴史のサムライ文化論　京都にみる城郭(中西裕樹) 15　サムライの歴史とサムライ文化論(中西裕樹)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50780A01
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡA		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習では、これまでに収集した先行文献の整理を行う。また、資料やデータの収集も行っていく。整理した先行文献や資料・データについては、演習内で報告を行う。また、収集した資料やデータを基に分析を進めていく。分析の結果についても、演習内で報告を行い、その報告に対して質問やコメントを出し合い、さらに内容をステップアップさせていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	① 吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第 2 版（2004 年） ② 川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	先行文献の整理を行い、資料・データによる分析を進めること。		
準備学習	毎回の演習で与えられた課題を完成させること。		

受講者への要望

出席して、積極的に議論すること。

講義の順序とポイント

1. 先行文献の整理Ⅰ
2. 〃　Ⅱ
3. 〃　Ⅲ
4. 〃　Ⅳ
5. 〃　Ⅴ
6. 資料・データ収集Ⅰ
7. 〃　Ⅱ
8. 〃　Ⅲ
9. 〃　Ⅳ
10. 資料・データによる分析Ⅰ
11. 〃　Ⅱ
12. 〃　Ⅲ
13. 〃　Ⅳ
14. 〃　Ⅴ
15. 〃　Ⅵ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50780B01
科目名	ヒューマン・コミュニケーション専門 演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Human Communication Seminar ⅡB		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本演習では、各章について完成した内容を演習で報告し、質問やコメントや議論によって、さらに内容を発展させていく。最終的には、卒業論文を完成させて、最後の演習で発表を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	① 吉田 健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』ナカニシヤ出版、第2版（2004年） ② 川﨑 剛著『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房（2010年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	演習での発表、議論（50%）・課題達成度（50%）		
到達目標	論文の各章を発展させ、最終的に卒業論文を完成させて、発表を行うこと。		
準備学習	毎回の演習で与えられた課題を完成させること。		
受講者への要望			
出席して、積極的に議論すること。			
講義の順序とポイント			
1. 各章について報告・議論Ⅰ 2. 〃 Ⅱ 3. 〃 Ⅲ 4. 〃 Ⅳ 5. 〃 Ⅴ 6. 〃 Ⅵ 7. 〃 Ⅶ 8. 〃 Ⅷ 9. 〃 Ⅸ 10. 〃 Ⅹ 11. 卒論発表の練習Ⅰ 12. 〃 Ⅱ 13. 〃 Ⅲ 14. 〃 Ⅳ 15. 卒業論文発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50781A01
科目名	英語コミュニケーション専門演習ⅡA	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar ⅡA		
担当者名	John Gatewood Ⅱ	旧科目名称	
講義概要	“Be”動詞の使い方を徹底して勉強する講座。質疑応答・会話ドリルなど通じて、よくある問題点を直しながら、便利な発言を覚えていく。“Be”動詞と名詞を合わせたときをはじめ、形容詞や現在進行形も過去形も勉強する。		
教材（テキスト）	特に無し、各講義でプリントを配付する※教材としてプリントなど使用します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業参加度合 20％　スピーキングテスト 20％　クイズやテスト 40％　期末試験 20％		
到達目標	1.To further advance the students’ understanding of various terms and their usage 2.To become more familiar with describing things/situations 3.Construct different patterns for communicating in spoken/written English		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, do the prescribed assignments, and have fun! ※原則としてこの講座は主に英語で行われますが、必要に応じて説明、質問、討論などは日本語使用します。		
受講者への要望			
授業に毎回出席すること。 Have a good attitude, and let's have fun learning English!			
講義の順序とポイント			
Be verb basics 2. Review and sentence building 3.　Noun focus and Be Verbs type 1 4.　Type 1 practice and review 5. Adjective focus and Be verbs type 2 6.　Type 2 practice and review 7. Present Continuous focus and Be verbs type 3 8.　Type 3 practice and review 9. Past tense 10. Practice and Usage 11. Negatives 12. Practice and Usage 13. Test preparation 14. Review 15.　Speaking Review			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J50781B01
科目名	英語コミュニケーション専門演習 II B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced English Communication Seminar II B		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	英語コミュニケーション基礎演習 B is a continuation of the spring semester class. In this class we will begin by reviewing basic English grammar usage. Then we will cover intermediate English, by working on Simple Present tense and past Tense verb conjugation, frequency, and more.		
教材（テキスト）	教材としてプリントなど使用します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	宿題・発表 20%　　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Use Simple Present Tense Verbs and Past Tense verbs to explain different situations 2. To become more adept at describing things/situations with verbs		
準備学習	Come to class, be prepared to learn, do the prescribed assignments and try your best.		

受講者への要望

Be ready to learn! This class will be more challenging than first semester.
授業に毎回出席すること。
Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)
(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
We will cover SPT (Simple Present Tense), Past Tense, and Verb changes.

1. Review of 'Be' verbs
2. Review of Adjectives
3. Review of Verbs
4. Using Verbs
5. Past tense Verbs
6. Using Past Tense Verbs
7. Hobbies (Pairing with Verbs)
8. Frequency Introduction
9. Frequency Focus and Work
10. Frequency and Hobby work
11. SPT introduction
12. SPT Usage
13. Making Frequency Conversations
14. Making hobby Conversations
15. Making SPT CONVERSATIONS

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J50782A01
科目名	ネイティブ英語専門演習 II A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar II A		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	In this seminar, students will learn and practice more academic writing as preparation for their graduation thesis. They will learn paragraph and topic writing skills, how to construct an argument, and to research, reference, and edit their writing. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations, diary entries and reports in order to build students' overall skills in communicative English.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class tests/exercises (50%), reports (50%)		
到達目標	By the completion of this seminar, students should have expanded their knowledge of the rules and conventions of academic writing in English, and developed further their skills in reading and writing academic English.		
準備学習	All students should familiarize themselves with academic English writing by reading some examples before attending class.		

受講者への要望

Students should attend all classes with a positive attitude, and bring a dictionary and all required materials each time. They will be asked to complete reading and writing assignments for homework, so making a realistic study schedule is vital to successful completion of this course.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course
2-3 Academic Writing Style
4-5 Research, note-taking, referencing
6-7 Planning your essay
8-9 Writing your essay
10-11 Integrating evidence and your own ideas
12-13 Critical analysis
14-15 Editing and proofreading

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	★	–	★

年度	2017	授業コード	J50782B01
科目名	ネイティブ英語専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Native English Seminar ⅡB		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	In this seminar, students will learn and practice more academic writing as preparation for their graduation thesis. They will learn paragraph and topic writing skills, how to construct an argument, and to research, reference, and edit their writing. The seminar will also involve speaking and writing activities such as short presentations, diary entries and reports in order to build students' overall skills in communicative English.		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class tests/exercises (50%), reports (50%)		
到達目標	By the completion of this seminar, students should have expanded their knowledge of the rules and conventions of academic writing in English, and developed further their skills in reading and writing academic English.		
準備学習	All students should familiarize themselves with academic English writing by reading some examples before attending class. Students should also read widely on topics about which they wish to write.		

受講者への要望

Successful completion of Advanced Native English Seminar ⅡA（ネイティブ英語専門演習ⅡA）is a prerequisite for this course. Students should attend all classes with a positive attitude, and bring a dictionary and all required materials each time. They will be asked to complete reading and writing assignments for homework, so making a realistic study schedule is vital to successful completion of this course.

講義の順序とポイント

1 Introduction to the course/review of first semester
2-3 Academic Writing Style
4-5 Research, note-taking, referencing
6-7 Planning your essay
8-9 Writing your essay
10-11 Integrating evidence and your own ideas
12-13 Critical analysis
14-15 Editing and proofreading

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	★	–	★

年度	2017	授業コード	J50785101
科目名	脳と心	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	近年、医療機器の発展により脳と心との関係が少しずつ明確化してきている。本講では、心はどのようにして生まれるのか、脳と心の関係をどう考えるのか、心が脳をコントロールできる側面などを検討し、脳を活性化させる方法やその重要性について学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布す 。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験(60%)、授業中に実施す 課題(20%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(20%)		
到達目標	脳と心の関係を正しく理解できる うになること。		
準備学習	講義内で紹介する脳と心の関する動画や資料を閲覧し、脳と心の関係について疑問をもてるようにすること。		
受講者への要望			
心理学入門、心理学概論を履修したものとして、講義を進めます。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 脳と神経 3. 右脳・左脳と認知 4. 注意 5. 睡眠の構造と特徴 6. 感情と表情 7. 印象形成 8. ストレス評価とマネジメント 9. 音楽の知覚と認知 10. 運動と認知機能 11. バイオフィードバック 12. 意識と脳 13. 脳を活性化させる方法 14. 頭にいいことをやろう 15. まとめ（本講義で学んだことを振り返り日常生活でどのように活用するかについて考える）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J50785201
科目名	心理学研究法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	心理学は、わたしたちのこころの働きを科学的に探求する学問である。本授業では、心理学における科学的な研究方法の基礎的な考え方に親しむことがねらいである。実験法、質問紙法、面接法、観察法、心理検査法といった基本的な研究法の実証的論理を把握すること。そして、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、またその重要性について理解を深めていく。		
教材（テキスト）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	① 主な実験や調査の方法や特徴を理解し、具体的な方法の手続きや注意点を説明できる。 ② 学術論文から研究計画を読み取ることができる。 ③ 自分で研究を計画することや研究の問題点を指摘することができる。		
準備学習	授業内容の確認のための課題を設定することがあるが，設定された課題には必ず取り組み，期限までに提出すること。また，授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと。 また，数週間にわたってグループで課題に取り組む場合があり，授業時間内で課題を終えることができなければ時間外にグループ作業が必要となることにも留意しておくこと。		

受講者への要望

心理学における基礎的な統計の知識を受講生が持っていることを前提として授業を行います。不安な学生は心理統計に関する参考書を読み，各自復習すること。
また，事前に心理学基礎実験 A，B，心理統計学などの単位を取得し，基礎的な知識を獲得していることが望ましい。
講義内容は平易とはいい難いため，授業ごとに復習を欠かさず行うことを求める。
さらに，演習としてグループを構成し，他者とのディスカッションや，協力してデータ収集，研究発表などを行う場合がある。グループの構成員が欠ければ，それらの活動を行うことができなくなるため，特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。

講義の順序とポイント

以下の内容についての講義に加え，グループでの演習を行う場合がある。なお，演習は数週に渡って行う場合もある。

1. オリエンテーション　なぜ心理学研究法を学ぶのかを考える
2. 研究計画の考え方
3. 研究計画の進め方
4. 調査法①：質問紙調査法の理論
5. 調査法②：質問紙調査法の実際
6. 調査法③：質問紙調査法を用いた研究の読み方
7. 実験法①：心理学における実験　独立変数の操作
8. 実験法②：実験とデータ処理　従属変数の測定
9. 実験法③：実験における統制
10. 観察法①：観察法の理論
11. 観察法②：観察法の実際
12. 面接法：面接によるデータ収集
13. 研究計画を考えてみよう　①
14. 研究計画を考えてみよう　②
15. 研究計画を考えてみよう　③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J50785301
科目名	学習の動機づけ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	増田　優子	旧科目名称	
講義概要	学習の動機づけとは、一般にいう「やる気」に近い概念です。動機づけに関する概念は非常に多く、これは人間の活動のほとんどがやる気と関わりがあることを反映しているといえます。 「どうして、やらなくてはいけないとわかっているのにやる気にならないんだろう」、「どうすればやる気になるのだろう」という疑問を誰しも一度は抱いたことがあるでしょう。動機づけを理解することは、自己や他者を理解する上でとても大切な心の側面であるといえます。 本授業では、動機づけにおける課題を解決する手掛かりとなるような理論や視点について学んでいきます。動機づけを理解することで、日常生活などにおいてどのような実践が可能か、また、動機づけについて考えるだけでは難しい問題やその解決のための考え方などを理解し、自分自身の動機づけに関して改めて考える場にしていただきたいと思います。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	伊藤崇達（編著）　『【改訂版】やる気を育む心理学』　北樹出版　1,800 円＋税		
教材（その他）	講義中に適宜配布します		
評価方法	授業内での課題および理解度の確認による平常点　40%（毎回、授業内で課題への解答や感想、質問事項を記入するミニシートを配布、授業終わりに提出） 最終筆記試験　60%		
到達目標	1.　動機づけ概念を用いて、日常の行動を説明することができるようになる 2.　さまざまな動機づけ概念を理解し、動機づけを高めるための方法や工夫について深く考えられるようになる		
準備学習	毎回の授業内容はのちの講義内容の理解にも関わるため、毎回の講義内容を理解した上で次の講義に臨むよう心掛けること		

受講者への要望

1.　毎回の講義から何かを学ぶ、得る、という形で、目標をもって参加してください。
2.　日常的に学習内容に関係することに関心を持ち、疑問点や知りたいことを明確にし、積極的に学習を進めてください。

講義の順序とポイント

1.　講義概要　動機づけとは何か
2.　達成動機づけ
3.　ネガティブ思考と動機づけ
4.　社会的比較と動機づけ
5.　動機づけの階層性
6.　期待－価値理論
7.　自己効力感
8.　原因帰属理論
9.　テスト不安・学習性無力感
10. 達成目標理論
11. 内発的動機づけと自己決定理論
12. 自律性と感情調整
13. 自己調整学習の理論
14. 自己調整学習方略
15. 動機づけの総合理解

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	J50785401
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングとは「相談」という意味であり、歴史的には職業指導のためのガイダンス（助言指導）から発展してきた。1940 年代のカール・ロジャーズによる非指示的心理療法・来談者中心療法はカウンセリングの土台を作ったと言える。フロイトによる精神分析に端を発する心理療法は「患者を治療する」という枠組みであったのに対して、カウンセリングは一定以上健康な人が「対話を通して自らよりよい状態へと変化していく」プロセスを援助する営みだと考えられる。しかし対象者が広がるにつれて心理療法とカウンセリングの境界は曖昧なものとなり、カウンセリングにおいても様々な技法が利用されるようになってきた。 本講義ではカウンセリングで用いられる様々な技法を学ぶと共に、実際のカウンセリング場面のＶＴＲを視聴してそのあり方についてグループディスカッションを行い、カウンセラーのあり方と治療の流れの関連について考えを深める。またロールプレイを通して、カウンセラーとクライエントのやりとり・感情体験を具体的に学ぶ。		
教材（テキスト）	佐々木正宏・大貫敬一共著　『適応と援助の心理学／援助編』　培風館		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(出席および課題)　５０％　及び　レポート提出　５０％。		
到達目標	カウンセリングで用いられる治療技法とその理論的基礎の概略を学ぶと共に、初歩的なカウンセリング的応答の技法を経験する。		
準備学習	第一回授業までに「臨床心理学Ⅱ」の教科書を再読し、カウンセリングの基本となるロジャーズの理論について復習しておくこと。また、講義終了時に、来週までに実施すべき課題を出すので、それをきちんとこなして次週授業開始時に提出すること。		
受講者への要望			
遅刻・早退せず主体的に参加すること。臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を取得済みであることが必要。カウンセリングのロールプレイをやるため、学期に 1、2 回土曜ないし休日に授業を実施するので、予定しておくこと。初回の授業時に日程の決定をするため、必ず出席のこと。			
講義の順序とポイント			
１～２．カウンセリングとは ３～４．カウンセリングの基本的技法－－マイクロ・カウンセリング ５．カウンセリングの実際－－　ａ．ロジャーズの来談者中心療法 ６．　ｂ．パールズのゲシュタルト療法 ７．　ｃ．エリスの論理療法 ８～10．紙上応答練習 11～14．ロールプレイ－－－（ロールの設定・ロールプレイの実施・話し合い） 15．各グループ毎の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J50785501
科目名	学校臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	学校臨床心理学とは、「学校における臨床心理学」および「学校と臨床心理学」の二つの視点を併せ持つ、実践的な研究領域である。第一の観点を理解するためには、学校という場を知った上で、そこにおいて必要とされる臨床心理学的実践は如何なるものであるかを理解し、スクールカウンセラーの活動の実際を知ることが必要である。第二の観点では、学校教育と臨床心理学が互いに補い合って児童生徒を援助していくことを可能にするための、それぞれの方法論や観点の異同を理解することが重要である。 本講義においてはまず、学校現場で発生している様々な臨床心理学的課題について、受講生が書籍・報道などを用いて実情をまとめ、発表し、その諸課題に対して、上述の二つの観点から分析・解説するものとする。 最終的にはこれらを総合的に考察することで、現代社会における子供の問題への対処方法を包括的に論じる。		
教材（テキスト）	毎回、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	横湯園子　教育臨床心理学　東京大学出版会 倉光修編　学校臨床心理学　誠信書房		
教材（その他）	必要に応じて、プリント類を配布する。		
評価方法	定期試験　50%　　授業内レポート　30%　　課題提出　20%		
到達目標	1．学校現場においてどのような問題が発生しているかを理解する。 2. 学校における諸課題のうちに、臨床心理学的問題がどのように含まれているかを理解する。 3．問題解決に向けていかに臨床心理学が応用されているか、またその過程でどのような課題が存在しているかを、具体的に理解する。 4．学校現場で必要とされる、基本的な臨床心理学的知識を習得する。		
準備学習	講義の最後に、次回取り扱う学校臨床心理学的課題を指定するので、それについての新聞やインターネットにおける報道や、そういった学校の課題を分析した書籍等を調べ、各人がレポートにまとめる。次週にはそれに基づくグループ発表を行うため、事前学習が必須である。		
受講者への要望			
授業中は私語厳禁です。社会的にも関心の高い領域であるので、積極的に勉強すること。			
講義の順序とポイント			
1．学校とはどのようなところか 2．学校教育と心理臨床の考え方の違いと相補性 3．学校臨床心理学とは 4．児童期・思春期の心理的発達 5．学校現場での問題　①不登校 6．　②不登校児童生徒の実態 7．　③いじめ 1 8．　④いじめ 2 9．　⑤非行 10.　⑥発達障害 11. 家族の問題　①子供を取り巻く環境 12.　②虐待 13〜14. スクールカウンセラーの仕事 15. コミュニティ心理学の視点・まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50785601
科目名	心理アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	心理臨床活動において心理アセスメント（査定）はひとつの重要な柱であり、それをとおして援助の方向を定め、修正していく。そして、アセスメント（査定）の意味のなかには、その人の健康なところ、強いところなど、ポジティブな側面を見出すことも含まれている。心理アセスメントは決して心理検査法だけのことを指すのではないが、心理検査法の解説や簡単な実習に費やす時間が比較的多い。心理検査をそれ以上でも以下でもなく受け入れることのできる最初の機会になればと思う。心理検査は用い方や読み方を誤れば非常に危険である。しかし、対象者の援助に役立てる方向で慎重に用いることによって有益な情報が得られる。これらの検査の限界と効用の両方をバランスよく学んでほしい。また、心理検査データ以外の情報によるアセスメント、家族アセスメントなどにもふれる。なお、前年度まで解説していた心理的異常の各論については、今年度に新しく開講される「精神病理学」を受講して勉強してほしい。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	下山晴彦編「よくわかる臨床心理学　改訂新版」 2009　ミネルヴァ書房 皆藤章編「よくわかる心理臨床」 2007 ミネルヴァ書房 下山晴彦著「臨床心理アセスメント入門」 2008 金剛出版 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％)。「授業内容の理解」に関する確認作業の成果の提出（５０％）		
到達目標	心理アセスメントに関する基本的な考え方を身につけ、代表的な心理検査についてその概要を把握する。また、心理的異常についてもその概要を把握する。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。		

受講者への要望

各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに～アセスメントとは何か
2.初回面接を中心に
3.心理学的異常と臨床心理学
4..面接法や観察法
5.検査法①質問紙法や投影法、作業検査法
6. 同②知能・発達検査法
7. 同③その他の検査法
8.前半授業の補足と振り返り
9.家族やコミュニティのアセスメント①
10.同②
11.アセスメントにもとづく処遇例①
12.同②
13 同③
14.心理アセスメントの課題
15.後半授業の補足とその他のテーマ
※講義の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50785701
科目名	発達臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	乳幼児期から中年期・老年期にわたって、具体的なエピソードなどをとおして複雑な社会的諸要因も描出しつつ、援助職の動きの実際やあるべき姿、発達臨床心理学の課題について述べたい。発達臨床心理学を実践し支える現場は多岐にわたるが、担当者は児童相談所勤務を経てきたので、その経験をベースに児童福祉臨床（調査、アセスメント、指導、治療、協働く（コラボレーション）の実際）について多くを語ることになる。そこには、子どもの発達、子どもを育てる場としての家族の発達やその他の重要な要因が含まれる。発達臨床は検査室や治療室のなかだけのものではないし、心理職しか携わらないものでもない。様々な場所、様々な職種の人たちが、対象者の幸せに一歩でも近づくためのひとつの拠り所としている。相談された症状や問題行動を“治す”ためには“育てる”視点も同時にもたなければ、子どもたちの今より少しでもの幸せにはたどりつかない。協働が求められる所以である。広く対人援助業務を紹介することによって、受講生が自分の進路を考える機会にもなればと考えている。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」 2009　明石書店 麻生・浜田編「よくわかる臨床発達心理学・第２版」 2006 ミネルヴァ書房 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（５０％）。「授業内容の理解」の確認作業の成果の提出（５０％）。		
到達目標	発達臨床、対人援助に関する基本的な考え方を学び、子どもを健全に育成するための視点を自らの内にもてるようになる。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。また、子どもから高齢者に至るまでの生活、発達に関する事象や社会の動きは様々に報道されている。それらに日々接して思考することも発達臨床心理学を学習するために重要なので、ぜひ勧めたい。		
受講者への要望			
各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.発達臨床心理学の対象としての受講者の進路 2.発達臨床心理学にかかわる現場 3.あらわれる課題①乳幼児期 4.同②児童期・思春期 5.同 ③青年期 6.同④中年期・老年期 7.家族の機能とその発達 8.前半授業の補足と振り返り 9.知的障害や発達障害等① 10.同② 11.同③ 12.不登校や社会的ひきこもり 13.非行や少年犯罪など 14.その他の子どもたちが示す現象 15.後半授業の補足とその他のテーマ ※授業の内容や順序は変更されることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50785801
科目名	心理療法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	心理療法とはどのようなものか、ふんわりとイメージはあるけれど、よくわからない人も多いのではないでしょうか。この講義では心理療法とはどのようなものかについて学びます。 心理療法は普通に友達の悩みを聞くのとは何が違うのか、悩みを聞くとはどういうことか、アドヴァイスは役に立つのか立たないのかなどの具体的な疑問について考えてみることと同時に、心理療法とはどのように成立したのか、心の問題は原因と結果で捉えることができるのかなどの大きな視点の両方を持って学ぶ予定です。		
教材（テキスト）	心理療法序説　河合隼雄著　岩波書店		
教材（参考文献）	A・ストー　心理面接の教科書		
教材（その他）	適宜プリントなど配布		
評価方法	授業態度５０％、試験５０％		
到達目標	心理療法の様々な側面についての知識を学び、考えること。		
準備学習	授業理解に必要なテキストのページ、あるいはプリント等を指示した回には、事前に読んで予習してくること。 身の回りの問題について、心理療法的な視点で自分なりに考えてみること。		

受講者への要望

授業だけで知識を身に着けることは難しく、定着させるためには、自分なりに勉強することが不可欠です。授業内で指示する参考文献や、自分なりに興味をもった本などを積極的に読んで下さい。また、授業への積極的な参加、つまりレポートや、授業内で他の学生の授業理解にもつながるような質問などを評価します。私語など、他の学生の授業理解を妨害するような態度に対しては、退室を求めたり、単位を出さない場合もあります。

講義の順序とポイント

１、　心理療法とは
２、　心理療法のモデルと古代の心理療法
３　、心理療法における時間、場所、料金について
４、　治療的人間関係，　心理療法と現実
５、　　心理療法における話の聞き方
６、　　事例から心理療法を考える
７、　　フロイト心的外傷理論の変遷
８、　ユング、アドラーの理論
９、　心理療法と因果律
１０、精神医学と心理療法
１１、学派による違い
１２、子どもの心理療法、プレイセラピー
１３、発達障害と心理療法
１４、心理療法家の訓練など
１５、復習テスト　、疑問点についての解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50785901
科目名	深層心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	深層心理学においては、心の中に無意識の領域の存在を仮定する。つまり、心のなかには自分自身が意識できない部分があることを前提として考えるのである。本講義ではまず、深層心理学の創始者であると考えられるフロイトの理論とユングの無意識についての基本的な考え方を理解する。その上で、ユング心理学を基盤とした視点に立ち、昔話、文学、芸術作品などを素材にして深く人間の心について洞察することを試みる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	河合隼雄著　『ユング心理学入門』　培風館,『昔話と日本人の心』　岩波書店 山中康裕編　『知の教科書』　ユング　講談社選書メチエ 山　愛美著　『言葉の深みへ』　誠信書房,『香月泰男　黒の創造』　遠見書房 ＊他の文献についても適宜紹介するので興味、関心のあるものを自発的に読み進めてもらいたい。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に課すテスト・課題（６０％） 読書レポート課題　　（４０％）		
到達目標	深層心理学的な見方の基礎を理解する。		
準備学習	授業中配布するリストの中から自らの興味、関心に合わせて読むこと。 注)読書レポート課題を出す。		

受講者への要望

１遅刻・私語は厳禁。場合によっては退出を求める。
２課題図書として、文学（小説)、児童文学、古典文学，神話、などを挙げて、読むことを課すので、読書をする習慣のない者は本講義の受講を機会に活字に親しむこと。そのつもりで登録して欲しい。
３能動的に講義に出席をし、自らの興味、関心の方向性を探りながら勉強して欲しい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション（講義の進め方など） 読書課題についての説明・・・受講希望者は必ず出席すること。
2　深層心理学の考え方（意識/無意識、日常/非日常、境界)、現代社会と心の問題について
3　深層心理学的視点から見たアニメ（1）
4　深層心理学的視点から見たアニメ（2)
5　日本文化における「異界」性
6　フロイトーその生涯と理論
7　ユングーその生涯と理論（1）
8　ユングーその生涯と理論（2）
9　昔話の深層心理学的アプローチ
10　物語（1）：時間と空間を超えて
11　物語　（2）：語りの力
12　イメージを介する心理療法ー箱庭療法、夢、描画
13　心の深層と表現（1）
14　心の深層と表現（2)
15　心の深層と表現（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50785A01
科目名	社会調査実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査とはなにかという点を踏まえた上で、本演習では質的調査の方法について学習し、実際にインタビュー調査を行う。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、インタビュー・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。 なお、この授業は、2017 年度・秋学期の「社会調査実習Ⅱ（担当・谷岡）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。（他年度の「社会調査実習Ⅱ」では不可。）		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、若者へのインタビュー調査を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		
受講者への要望			
1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。 2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。			
講義の順序とポイント			
1、質的調査の概説 2、質的調査の方法・企画 3、質的調査の先行理論、仮説構成 4、質的調査の問い・対象者・トピックの設定 5、インタビュー調査の方法 6、フィールドワークの方法 7、参与観察の方法 8、会話分析・ライフヒストリー分析の方法 9、インタビュー調査・フィールドワークの実施 10、データの整理 11、収集した質的データの分析（1） 12、収集した質的データの分析（2） 13、質的データの読み方・解釈 14、分析結果報告の作成 15、研究成果の報告と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J50785B01
科目名	社会調査実習 II	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	谷岡　謙	旧科目名称	
講義概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。質的調査のより発展的な方法を学習した上で、実際に雑誌や新聞記事を材料としたドキュメント分析を経験してもらう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、ドキュメント・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論を行う。テーマに関しては、可能な限り春学期の「社会調査実習 I」で扱ったテーマを発展的に分析することを目標とする。 なお、この授業は、2017 年度・春学期の「社会調査実習 I（担当・谷岡）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件になる。（他年度の「社会調査実習 I」では不可。）		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況および小課題の提出による。学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、発展的な技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ自分自身で問題設定を行った上で、質的調査（本学期は、新聞記事を材料にしたドキュメント分析を予定）を行い、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。データ収集に関しては、一部授業時間外に課題として行ってもらう。		

受講者への要望

1. 毎回授業に出席し、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。
2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、先行研究を調べる努力を惜しまないこと。

講義の順序とポイント

1、質的調査と量的調査の違い、それぞれの長所と短所
2、内容分析の方法
3、ドキュメント分析の方法
4、新聞・雑誌の読み方
5、映像メディアの読み方
6、新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析法
7、コンピューターを用いた質的データの整理・分析法
8、収集した新聞記事データのコーディング
9、自由回答データのコーディング
10、新聞記事・自由回答データの度数分布、クロス集計
11、新聞記事・自由回答データの分析（1）
12、新聞記事・自由回答データの分析（2）
13、質的データを用いた研究論文の紹介
14、分析結果報告の作成
15、研究成果の報告と討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50786101
科目名	医療心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	近年、医療心理臨床の領域は、総合病院精神科や単科精神科病院に限らず、小児科、心療内科、内科、外科、リハビリテーション科、産婦人科など、多方面に拡大している。そこでは、心の病気への援助を目指す臨床心理学だけではなく、身体の病気やそれに苦しむ患者を理解し援助していく医療心理学が求められている。本講では、様々な病気に苦しむ患者やその家族に対して、医療心理学の観点からどのような援助ができるか考察したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	菅佐和子編　「医療現場に生かす臨床心理学」　朱鷺書房		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）、平常点（３０％）出席状況等による。		
到達目標	医療現場で心理的援助を行う際に求められる医療心理学の基礎的な理論や治療技法の理解を深めることを目指す。		
準備学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　患者の心理Ⅰ ３　患者の心理Ⅱ ４　患者の心理Ⅲ ５　精神科（入院）領域 ６　精神科（外来）領域 ７　心療内科領域 ８　小児科領域（乳児期・幼児期） ９　小児科領域（児童期・思春期） １０　小児科領域（ダウン症児とその家族への心理的援助） １１　内科領域（糖尿病患者への心理的援助） １２　外科領域 １３　ターミナルケア領域 １４　ＨＩＶ感染症領域 １５　医療スタッフのストレスと対応			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50786201
科目名	福祉心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	前半は非行や犯罪に関する心理学、後半では福祉に関する心理学の講義を行なう。司法は裁判を指すが、ここでは警察の捜査業務なども含み、矯正は少年院や刑務所などでの加害者教育を示している。また非行や犯罪には福祉や医療もかかわるようにシステムが整えられており、それらも含めた非行や犯罪にかかわる現場の業務と、そこに心理学がどのように貢献しているかについて述べる。福祉とは“しあわせ”のことだと考えてよいが、講義では児童福祉、とくに虐待を中心に述べ、虐待防止と人間のしあわせとの関連性について心理学的に解説する。なお、非行や犯罪にかかわる業務に携わるのは国家・地方公務員が主であり、福祉業務は公務員・民間にまたがる。各職場や職種の紹介も授業のなかで行ないたい。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	藤岡淳子「犯罪・非行の心理学」2007 有斐閣ブックス K．ブル他著／仲真紀子監訳「犯罪心理学～ビギナーズガイド：世界の捜査、裁判、矯正の現場から」2010 有斐閣 川崎二三彦「児童虐待～現場からの提言」2006 岩波新書 川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」2009 明石書店		
教材（その他）	プリント類を使用する。		
評価方法	出席や授業態度による平常点（５０％）と、「授業内容の理解」に関する確認作業の成果の提出（５０％）		
到達目標	非行や犯罪に関することに心理学がどのように貢献しているか、心理学をとおして人間の福祉をどうはかるかについて学ぶことで、人間や社会についての理解を深める。		
準備学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう「授業内容の理解」に関する確認作業にも大いに役立つ。また、非行や犯罪、そして福祉に関する事象や社会の動き、論評は様々に報道されている。授業で学習したことがらを背景に思い浮かべながら、自分なりに報道内容についてどういうことが起きている可能性があるのか、検討してみてほしい。		
受講者への要望			
各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。配布した資料にはよく目を通してほしい。			
講義の順序とポイント			
01.はじめに～犯罪や非行の現状と課題、各機関の業務と法律 02.犯罪や非行の心理学①警察・検察における実践 03.　同　②自白や目撃証言等と裁判 04.　同　③矯正教育や管理、治療 05.　同　④少年事件 06.　同　⑤児童相談所の非行相談 07.障害との関係や被害者支援、その他の問題 08.残されたテーマと前半授業の補足 09.各福祉分野の臨床心理学的問題 10.児童虐待① 11.児童虐待② 12.児童虐待③、高齢者、配偶者、障害者への虐待 13.児童福祉現場における心理臨床 14.福祉現場での労働 15.残されたテーマと後半授業の補足 ※講義の内容と順序は変更があり得る。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50786301
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる限定的なイメージであり、実態を概観すると、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態は、歴史的にも普遍的なものではなく、もはや多数派でもない。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
準備学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か ２　社会とともに変化する家族（１） ３　社会とともに変化する家族（２） ４　高度経済成長期の家族の特徴 ５　高度経済成長期から変化する家族 ６　子どもと家族（１） ７　子どもと家族（２） ８　家族と暴力（１） ９　家族と暴力（２） １０　現代家族のかかえる諸問題（１） １１　現代家族のかかえる諸問題（２） １２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１） １３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２） １４　多様化する家族（１） １５　多様化する家族（２） 上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50786401
科目名	子どもの社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	野村　洋平	旧科目名称	
講義概要	子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。 子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。 しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。 子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。		
教材（テキスト）	使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介していく。		
教材（その他）	講義時に数回、DVD やビデオを使用する。また、文学作品も積極的に使用していく。		
評価方法	平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全３回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 試験（60%）：試験は、講義内容を踏まえた上で自身の意見を論じる論述形式の試験とする。 ※小レポートを２回以上提出していない場合、試験を受けても採点の対象としない。		
到達目標	「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。		
準備学習	日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについての DVD、ビデオ、文学作品などを見てレポートを作成していくことになるが、その他授業内で適宜紹介する、子どもに関するの社会問題を取り扱った新聞記事、文学や映画等を準備学習として学び、レポートおよび試験に反映させられるようにしておくこと。		
受講者への要望			
自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを取ってほしい。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序】 1．導入（この授業について）、現代社会における子どもに関わる問題 2．子どもとは何か、子どもと大人 3．子どもと社会（1）：子どもと大人の違い、映像資料鑑賞→小レポート提出 4．子どもと社会（2）　：社会の中で「子ども」はどのように捉えられてきたか 5．子どもと社会（3）　：子どもはどのように社会に入っていくのか 6．子どもと社会（4）：子どもの遊びと社会との関連 7．子どもの「苦悩」の経験（1）：学校における人間関係、映像資料鑑賞→小レポート提出 8．子どもの「苦悩」の経験（2）　：いじめ現象の社会的背景			

9．子どもの「苦悩」の経験（3） ：いじめ研究の概略
10．子どもの「苦悩」の経験（4）：いじめのメカニズムと子どもの苦悩
11．子どもの生命感について（1）：現代の家族における子どもの位置、映像資料鑑賞①（12 回目と連続）
12．子どもの生命感について（2）：子どもの生命感のありか、映像資料鑑賞②（11 回目と連続）→小レポート提出
13．子どもの生命感について（3）：現代社会における家族と子どもの問題
14．子どもの生命感について（4） ：学校教育における子どもの生命感の扱い方
15．子どもの社会学の可能性について：子どもの生命感から見た子どもと大人の違い

※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。
※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。

【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】
1～2 については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。
3～6 については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。
7～10 については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。
11～14 については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。
15 において、これまでの講義を振り返りながら、子どもの社会学の今後の可能性について、他の学問分野や社会現象との関連において考える。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50786501
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	表現文化論
講義概要	作品表現は、作家の心的イメージや経験、予見が表現されたものであると同時に、社会の人々の経験や意識、願望が凝縮されたものでもある。それは、多くの人に作家自身の思考を広めるとともに、作品に触れる者には自己の心象風景との照合や同一視を起こさせ、新たな経験をもたらす。 社会のなかで「対話や共有の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内課題２回程度。提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	1）さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。 2）今後の社会でアートやデザインの方法を幅広い仕事の世界に活かしていく手立てを学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		

受講者への要望

メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　メディアとしての芸術・デザイン
第３回　コミュニケーションとしての作品表現（１）：さまざまなコミュニケーション・モデルと作品表現
第４回　コミュニケーションとしての作品表現（２）：アーティストとオーディエンス（観客・読者・ファン）
第５回　メディアが現実・経験をつくる：芸術社会学の見方／メディア表現のメカニズム
第６回　課題の発表とコメント（１）
第７回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B）
第８回　ポピュラーカルチャーとは何か（１）：「ブリコラージュ」としてのヒップホップ
第９回　ポピュラーカルチャーとは何か（２）：ゴスペル、ブルース、ジャズから現代の R&B へ
第 10 回　社会における相互行為を通じた感情の共有：「ノスタルジー」と作品表現
第 11 回　課題の発表とコメント（２）
第 12 回　社会の中のアート、デザイン（１）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究１
第 13 回　社会の中のアート、デザイン（２）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究２
第 14 回　社会の中のアート、デザイン（３）：アートやデザインの創造性やスキルを社会運営に活かす
第 15 回　最終課題の発表とコメント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J50786601
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理測定尺度の作成や使用に重要な統計的手法に関して，「心理統計学 I・II」よりもやや進んだ講義を行う。心理測定尺度を用いてよいデータを収集するための方法として，尺度構成に重要な信頼性と妥当性の概念とその評価方法を紹介する。また，心理尺度の構成や，尺度間の関係を分析するために役立つ多変量解析の利用法に関する入門的な講義を行う。質問紙法や能力評価尺度などを用いて研究を行おうとする場合に必須の内容である。実際のデータ例を使った実習を含める。		
教材（テキスト）	小塩真司　(2011)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで[第 2 版]』東京図書　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配付する。		
評価方法	レポート課題（ほぼ毎回出題）30%，授業中に行う確認テスト 30%，期末試験 40%。		
到達目標	質問紙尺度や心理テストの開発，尺度間の相関関係の分析等で必要になる，測定理論や多変量解析の基礎を習得する。各手法について，以下の 4 点を目標とする。 (1)どんな手法を使用するかを研究計画やデータから見分けることができる。 (2)コンピュータソフトウェアを用いて自らデータ分析を行うことができる。 (3)分析結果を解釈し報告書等に記述することができる。 (4)論文等に書かれた解析結果の説明を理解することができる。		
準備学習	毎回，課題を出題する。課題の内容は，授業内容の確認や，学習した分析手法を PC の統計解析ソフトを使って実践することなどを含む。必ず毎回課題に取り組み，指定期日までに提出すること。 また，毎回の授業の始めに前回までの内容の確認テストを行うので，授業の復習を欠かさないこと。		

受講者への要望

基礎的な統計学の知識を前提とする。「心理統計学 I・II」を履修済であること（あるいは，同等の内容を既に習得していること）。授業内容は易しくないので，毎回授業に積極的に参加し，さらに毎回の課題を確実にこなしていく覚悟で履修すること。安易な態度では単位修得は難しい。
学習内容の積み上げが重要な科目であるので，遅刻や欠席をしないこと。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，量的変数の記述統計手法に関する基礎知識
2. 回帰分析(1)：散布図，相関係数と回帰直線
3. 回帰分析(2)：分析例による回帰分析と重回帰分析の概説
4. 回帰分析(3)：回帰分析モデルの詳説
5. 回帰分析(4)：回帰係数の意味と解釈，研究例に見る分析の実際
6. パス解析：パス解析の概要と，研究例による分析の実際
7. 尺度の信頼性と妥当性(1)：信頼性と妥当性の概念，古典的テスト理論の基本モデル
8. 尺度の信頼性と妥当性(2)：信頼性係数の推定の諸方法
9. 尺度の信頼性と妥当性(3)：信頼性の高い尺度構成のための指針
10. 尺度の信頼性と妥当性(4)：妥当性の評価の視点と方法
11. 因子分析(1)：因子分析の基本的な発想
12. 因子分析(2)：因子分析の基本モデル
13. 因子分析(3)：因子回転，分析結果の解釈の仕方，質問紙尺度の例を用いた因子分析の実際
14. 因子分析(4)：因子数の決定，回転方法の選択基準，因子抽出法の選択基準
15. 授業内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50786A01
科目名	歴史学特殊講義（近世） I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% レポート　50% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。授業中スマホで遊んでいるところを一度でもみかけたら単位はだしません。スマホ依存から脱却してください。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　ガイダンス 第 2 回　江戸時代の地震となまず絵 第 3 回　江戸時代の『源氏物語』 第 4 回　錦絵の生産と流通 第 5 回　江戸時代前期の出版関係法令 第 6 回　歌麿と幕府の出版統制 第 7 回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第 8 回　判じ絵を読み解く 第 9 回　出版文化と日用教養書 第 10 回　江戸時代の七夕文化 第 11 回　京都の通り名歌の歴史 第 12 回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第 13 回　江戸時代、書物文化の広がりと常識の形成 第 14 回　出版文化と伝説の広がり 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50786B01
科目名	歴史学特殊講義（近世）II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% レポート　50% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の歴史の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人はお断りです。受講しないでください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　政治史；秀吉の平和 第３回　政治史；「惣無事令」はなかった！？ 第４回　政治史・史料論　前期幕藩制研究と史料批判 第５回　政治史：領主のとらえ方 第６回　史料論：災害と歴史学 第７回　史料論：ウソをつく古文書 第８回　法制史：江戸時代の出版法令 第９回　教育史：江戸時代における文字の役割 第 10 回　教育史：江戸時代の識字率は世界一！？ 第 11 回　民俗学：休日の歴史 第 12 回　民俗学：民俗学と歴史学 第 13 回　女性史：遊女へのまなざし 第 14 回　女性史：おっぱいの歴史 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J50787A01
科目名	歴史学特殊講義（中世） I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	近年の高校日本史の教科書では、中世を鎌倉幕府ではなく、院政時代から始めるものが増えている。学界の定説を反映させたものであるが、これは中世の始まりが 150 年早くなったというだけの話ではない。鎌倉幕府の成立よりも、院政時代の方が重要な歴史的画期であるということだ。それはまた、中世を武士・幕府・鎌倉新仏教で捉えてきた歴史像への批判であるし、鎌倉新仏教という概念の有効性すら否定されようとしている。日本中世は本当に武士の時代なのだろうか。鎌倉新仏教の時代なのか。 本講では、仏教・寺院を中心的素材としながら、日本の古代社会から中世社会への転換過程を検討する。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを適宜配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	・日本の古代中世史についての最新の学説を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.「鎌倉新仏教」概念の破綻 2.呪詛と祈祷 3.律令体制から王朝国家体制へ 4.宗教政策の転換 5.中世寺院への転換 6.寺院による文書偽造 7.末法思想の流布 8.民衆にとっての強訴とは？ 9.　顕密仏教の民衆的基盤 10.鎌倉初期の仏教改革 11.異端とその弾圧 12.禅律僧の時代 13.非人救済活動の二面性 14. 禅宗と朝廷・幕府 15.法然・親鸞の登場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50787B01
科目名	歴史学特殊講義（中世）II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	中世の歴史文化に関して、２つのテーマをとりあげる。第１は、中世の人々はなぜ宗教を信じていたのかという問題を、技術史的背景から考える、第２は外来文化である仏教がなぜナショナリズムと結びついたのかという問題を、神仏関係を素材に考察する。 ①中世は技術が進歩したという側面と、技術がまだまだ未熟であるという二つの側面をもつ。宗教は合理性を超越したものだが、しかし技術や知識が進歩してくると、宗教の内部に合理性を取り入れなければ社会の信頼を維持することができなくなる。他方、技術の未熟さ、人間の力の限界は、呪術や宗教への依存を不可避とする。これらを通して、中世仏教における合理と非合理との関係について考えたい。 ②仏教はもともと外来文化であるが、それが日本社会に定着するようになると、仏教が日本的なものとみなされ、仏教の繁栄が日本の卓越性を示すものとされた。そしてそれがモンゴル襲来を機に独善的な神国思想へと変容してゆく。外来文化がナショナルな感情と結びついていった原因について考えたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本中世の歴史文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
準備学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		

受講者への要望

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

講義の順序とポイント

1.中世は呪術からの解放の時代か？
2.肖像画と呪詛
3.護持僧
4.顕密仏教の合理性
5.治病と祈祷
6.万能でない神仏
7.古代・中世における神と仏
8.神仏同体論
9.賀茂社と神仏習合
10.伊勢神宮と仏教
11.神々と三国世界
12.辺土小国観の克服
13.中世神道と顕密仏教
14.神国思想と仏国思想
15.仏教の時代の終焉と世界地図

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50788001
科目名	自然地理学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学ｆ
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、地形（平野）とそれに関わる自然環境について、自然地理学で研究されてきた内容を説明する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、その代表的なものの一つが地形にあたる。講義では、地形の中でも人間生活の主な舞台となった平野と、その形成に深く関与した氷河性海水準変動、ならびに平野で頻繁に発生した水害などを取り上げ、研究成果だけでなく調査方法についてもできる限り触れたい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を説明することができる。 (3) 自然地理学の調査・分析方法を知識として身につける。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論
3．海水準変動(2) ― 貝化石と堆積物から解明される過去の海水準 （旧海水準）
4．海水準変動(3) ― 旧海水準の年代決定
5．海水準変動(4) ― 過去約 2 万年間における海水準変動の実態
6．グレーシャル・アイソスタシー ― 地球規模で発生している地殻変動
7．平野(1) ― 日本における沖積平野の定義と扇状地の特色
8．平野(2) ― 自然堤防帯と三角州の特色
9．平野(3) ― 沖積層の分析による環境復原
10．平野(4) ― 沖積平野の形成過程と環境変化
11．水害(1) ― 輪中の成立とその背景
12．水害(2) ― 輪中地域における近世・近代の治水
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50788A01
科目名	日本の美術 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席回数が極端に少ない場合は、評価の対象としないので、注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには、退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　　同　　上　　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50788B01
科目名	日本の美術 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。 以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、ＯＨＣとビデオを多用しながら概観したい。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の陶磁の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．縄文土器・弥生土器 ２．土師器・須恵器・奈良三彩 ３．初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．灰釉・緑釉 ６．荘園貿易の時代 ７．六古窯 ８．鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．安土桃山・江戸の輸入陶磁 １２．伊万里焼 １３．後期伊万里・鍋島 １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50789001
科目名	自然地理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	
講義概要	自然地理学は自然環境を研究対象とする地理学の主要な一分野である。本講義では、自然環境の中でも代表的な気候と地形を中心に、第四紀（おおむね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）の自然環境に関する一般的かつ包括的な内容を解説する。 気候については、第四紀の大きな環境変化にあたる氷河期、及び氷河期終了後の気候変化を取り上げる。これらは地形や地質などを用いたさまざまな研究方法で解明されたため、講義では気候だけでなくそれに係わる多様な自然環境を扱う。また地形に関しては、主に人間の生活舞台となってきた平野（沖積平野）に着目し、その形成に関与した他の自然環境や平野における人間と洪水の闘い（水害）についても言及する。講義では、研究成果だけでなく調査（考察）方法にも極力触れる。また各講義は、授業への積極的な参加を促すため、自然環境の基礎知識、以前の講義内容、ならびにそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 自然環境の基本的内容（教職に必要なものを含む）を説明することができる。 (3) 自然地理学の調査・考察方法を知識として身につける。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習にもなる。各講義では、以前の講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講上の注意事項などについて
2. 氷河期(1) ― 丘（ターミナルモレーン）とその堆積物について
3. 氷河期(2) ― 氷河の性質と丘の堆積物から分析された氷河期の発見について
4. 氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの特色及び形成過程について
5. 気候変化(1) ― 氷河期終了後の温暖期における寒冷化について
6. 気候変化(2) ― 段丘地形によって明かされた過去約 2 万年間の降水量変化について
7. 平野(1) ― 沖積平野の定義と扇状地の特色について
8. 平野(2) ― 沖積平野に分布する自然堤防帯と三角州の特色について
9. 平野(3) ― 三角州における沖積層の特色と環境復原の分析について
10. 平野(4) ― 日本の河川下流部における沖積平野の形成過程と環境変化について
11. 水害(1) ― 水害常襲地域における輪中の成立とその背景について
12. 水害(2) ― 近世・近代の輪中地域における人間と洪水の闘いについて
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の出題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50789501
科目名	デジタルアーカイブ学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	博物館・美術館・図書館等の収蔵品をデジタル化することによって、新たな形で保存・公開等を行うことを目的とするデジタルアーカイブは、近年の文化遺産・資源の再活用化の大きな課題の１つである。そして、デジタルで情報を分類することによって、これまで当然とされていた知識の形成の方法も大きく変わろうとしている。 本講義は、デジタルとアーカイブについて具体的な事例によって検証するとともに、すでに社会環境として機能している検索はじめとするネット文化や個々人が対峙することになった著作権等々の、アナログからデジタルへのメディアの変遷によって生じてきた知の体系化における新たな可能性や問題点等を考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	福井健策『誰が「知」を独占するのか：デジタルアーカイブ戦争』集英社新書 2014 野口悠紀雄『知の進化論：百科全書・グーグル・人工知能』朝日新書 2016 東浩紀『弱いつながり：検索ワードを探す旅』幻冬舎 2014（幻冬舎文庫／Kindle 版 2016）		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	デジタルとアーカイブについて、実践的に考察する。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01 オリエンテーション 02 デジタルアーカイブについて(1) 03 デジタルについて(1) 04 デジタルについて(2) 05 デジタルについて(3) 06 デジタルについて(4) 07 デジタルについて(5) 08 デジタルについて(6) 09 アーカイブについて(1) 10 アーカイブについて(2) 11 アーカイブについて(3) 12 アーカイブについて(4) 13 アーカイブについて(5) 14 デジタルアーカイブについて(2) 15 デジタルアーカイブについて(3)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50789502
科目名	デジタルアーカイブ学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	博物館・美術館・図書館等の収蔵品をデジタル化することによって、新たな形で保存・公開等を行うことを目的とするデジタルアーカイブは、近年の文化遺産・資源の再活用化の大きな課題の１つである。そして、デジタルで情報を分類することによって、これまで当然とされていた知識の形成の方法も大きく変わろうとしている。 本講義は、デジタルとアーカイブについて具体的な事例によって検証するとともに、すでに社会環境として機能している検索はじめとするネット文化や個々人が対峙することになった著作権等々の、アナログからデジタルへのメディアの変遷によって生じてきた知の体系化における新たな可能性や問題点等を考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	福井健策『誰が「知」を独占するのか：デジタルアーカイブ戦争』集英社新書 2014 野口悠紀雄『知の進化論：百科全書・グーグル・人工知能』朝日新書 2016 東浩紀『弱いつながり：検索ワードを探す旅』幻冬舎 2014（幻冬舎文庫／Kindle 版 2016）		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	デジタルとアーカイブについて、実践的に考察する。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01 オリエンテーション 02 デジタルアーカイブについて(1) 03 デジタルについて(1) 04 デジタルについて(2) 05 デジタルについて(3) 06 デジタルについて(4) 07 デジタルについて(5) 08 デジタルについて(6) 09 アーカイブについて(1) 10 アーカイブについて(2) 11 アーカイブについて(3) 12 アーカイブについて(4) 13 アーカイブについて(5) 14 デジタルアーカイブについて(2) 15 デジタルアーカイブについて(3)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50789601
科目名	古文書講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　70%　授業への取り組み方 定期試験　30%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2〜15　古文書の解読と講評			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J50789701
科目名	古文書講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（テキスト）	古文書のコピーをその都度、配布します。 後期は特に受講生の研究テーマに関する古文書を読むこともあります。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版）。購入方法はガイダンスにて指示します。		
評価方法	平常点　　100%　授業への取り組み方		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の読解能力を習熟すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
準備学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		
受講者への要望			
古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2～15　古文書の解読と講評			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J50789801
科目名	異文化交渉史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	主として、中世から近世における、日本とヨーロッパ、日本と中国大陸・朝鮮半島の文化的交流について考える。 ヨーロッパは特にポルトガル・イタリア、オランダが対象地域であり、中国・朝鮮は宋・明、李氏朝鮮が考察対象となる。		
教材（テキスト）	すべて、こちらで用意する。		
教材（参考文献）	ルイスフロイス『日本史』（東洋文庫）、『朝鮮通信使の研究』（李元植）など。		
教材（その他）			
評価方法	今のところ、テストにするかレポートにするかを決めかねている。学生諸君の登録状況によってどちらかに決定するが、あまり成績にとらわれることなく、自由に参加してほしい。		
到達目標	中世から近世にかけての対外交渉を理解し、近現代の外交問題を考える礎としてほしい。		
準備学習	興味ある外交問題を見つけてほしい。最初の時間にそれについてアンケートを取る。		
受講者への要望			
積極的な問題意識を持って受講していただきたい。何かをつかんで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．中世ヨーロッパ事情 ２．映画にみる日欧関係 ３．キリシタンの宗教 ４．キリシタンの文学 ５．同上 ６．同上 ７．キリシタンの歴史教育 ８．キリシタンの日本語学習 ９．ポルトガルからオランダへ １０．中国からみた日本 １１．中国の日本語研究 １２．朝鮮との交流史概観 １３．秀吉時代の朝鮮 １４．李氏朝鮮の日本語教育 １５．現代の歴史問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50789901
科目名	歴史学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	私たちは資料をもとにしながら、歴史像を構築している。とはいえ、資料それ自体は客観的なものではなく、さまざまな偏見で塗り固められている。私たちの世界にはそもそも客観的なデータなど存在しない。資料を取り扱うには、そうしたバイアスを取り除く作業が不可欠である。そのうえで資料を丹念に読みといてゆけば、過去の時代の生活や臭いが浮かび上がってくる。あるいは、偏見の在り方そのものにも、時代の特徴がある。さまざまな資料に触れながら、そこから何が読み取れるのか、一緒に考えてゆきたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題に対する発表（40%）および授業での発言や貢献度（60%）		
到達目標	・多様な資料に触れることによって、過去の社会への認識を深めるとともに、読み取る力、調べる力、考える力を養う。 ・さまざまな論文に触れて、理解する力、まとめる力、発表する力を養う。		
準備学習	・史料・テキストは事前に配付しておくので、十分な準備が必要である。 ・適宜指名して報告してもらうので、準備のうえレジュメを作成して発表する。		
受講者への要望			
・授業では、文献史料や絵画資料・論文など、さまざまな素材をとりあげる。資料や論文を読み込み、そこから何が読み取れるのか、自由に意見交換をすすめるなかで、社会の成り立ちや心性について一緒に考えたい。好奇心と探求心にみちた学生を歓迎したい。			
講義の順序とポイント			
1. 歴史学と資料 2. 『一遍聖絵』の世界 3. 『餓鬼草紙』の世界 4. 『西行物語絵巻』の世界 5. 『石山寺縁起』の世界 6. 『法華験記』の世界 7. 『法然上人絵伝』の世界 8. 『慕帰絵詞』の世界 9. 候文の読み方 10. 往来物を読む 11. 名所図会を読む 12. 山ノ内村の史料を読む 13. 本能寺の変の史料を読む 14. 『史料京都の歴史』の発表 15. 『史料京都の歴史』の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50789902
科目名	歴史学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は暗記科目ではありません。調べて調べて調べつくす科目です。過去のさまざまな歴史について、これまでの研究者たちは、各自の問題関心に基づきながら、さまざまなテーマについて、史料を読み解き、明らかにしてきました。みなさんも自分の問題関心に基づきながら、過去の研究や史料を読み解き、何かについての歴史をあきらかにする卒業論文を書くための基礎的な力をこの授業では身につけていただきます。さまざまな時代の史料や論文を深く読み解きながら、歴史的な事項を調べる力を身につけましょう。		
教材（テキスト）	さまざまな時代の史料（コピーを配布します）		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	各自の発表の内容・授業への取り組み方で判断します。		
到達目標	・歴史学を実践する上で必要となる歴史的事項の調査方法を習熟すること ・歴史史料の読み解き方を習得する		
準備学習	講義では、受講者全員にあたる輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は入念な準備が必要になります。		
受講者への要望			
歴史学の魅力は、史料の中に広がる豊かな世界を、自らの手で掘り起こして読み解いていくことにあります。この講義は、みなさんがその豊かな世界へ、自らの足でアプローチできる力をつけるための授業です。発表担当者は、興味をもった事項について、貪欲に調べてみてください。卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。			
講義の順序とポイント			
1.歴史学と資料（ガイダンス） 2.　候文の読み方 3.　往来物を読む 4.　名所図会を読む 5.　山ノ内村の史料を読む 6.　本能寺の変の史料を読む 7.　『史料京都の歴史』の発表 8.　『史料京都の歴史』の発表 9.　『一遍聖絵』の世界 10.『餓鬼草紙』の世界 11.『西行物語絵巻』の世界 12.『石山寺縁起』の世界 13.『法華験記』の世界 14.『法然上人絵伝』の世界 15.『慕帰絵詞』の世界			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50789A01
科目名	歴史学特殊講義（古代） I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
講義概要	古代都市（首都）は日本の歴史の総体を直接に反映する。日本の古代都市の成立から、摂関・院政期の平安京の変貌までを解明する。日本の古代都市の成立は、７世紀末の都城・藤原京とされることが多い。古代都城・藤原京の意義と限界、平城京の特質と実態を解明し、さらに長岡京遷都の背景を説明する。ついで平安京遷都の経過を検証し、初期平安京の構造を理念と実際の両面から説明する。つぎに、西暦 1000 年前後の平安京の変貌を多面的に考察し、院政期の開発・再開発を都市住人と権門の両面から検討する。平城京・平安京の都市社会や住人に焦点をあて、西暦 1000 年前後の画期を強調する。文献史料のほか、近年は発掘調査の成果が顕著であるので、発掘調査のデータや絵画史料を活用する。		
教材（テキスト）	ない、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	木下正史・佐藤信編『飛鳥から藤原京へ』（古代の都１）吉川弘文館、２０１０年 田辺征夫・佐藤信編『平城京の時代』（古代の都２）吉川弘文館、２０１０年 西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年		
教材（その他）	発掘調査や絵画資料のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	日本の７世紀末から１２世紀までの正確で幅広い知識を獲得するとともに、発掘調査の成果や文献史料の原典から新しい情報を発見して歴史像を組み立て、また情報を外部に発信するための技術を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、参考文献の該当箇所を読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。復習課題から小テストを出題する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。

講義の順序とポイント

1　「古代」都市の成立と変遷
2　藤原京の成立過程
3　藤原京の意義と限界
4　平城京の特質
5　平城京の実態
6　長岡京遷都
7　平安京遷都
8　初期平安京の構造
9　初期平安京の貴族と住人
10　平安京の変貌と町屋の成立
11　摂関期の「随近の人」「近辺の人々」
12　摂関・院政期の町小路
13　院政期の白河・鳥羽・法住寺殿の開発
14　院政期の「在地の者」「在地の輩」
15　西暦 1000 年前後の画期と院政期以降の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50789B01
科目名	歴史学特殊講義（古代）II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
講義概要	平安京・京都を中心に、日本の歴史を学習する。ＪＲ二条駅前の発掘調査で、九世紀後半の仮名墨書土器が大量に発見された。この地区は平安京右京三条一坊六町で、右大臣藤原良相の西三条第が所在する。藤原良相の西三条第は百花亭と呼称される。初期の仮名が大量に出土する背景を考察するため、右大臣藤原良相の西三条第（百花亭）・「男女」を検討する。「百花亭の詩」の典拠は白楽天である。良相は西三条第や内裏直廬で詩会を主宰し、貞観期を代表する文人が参加する。良相の「男女」では、長子常行と在原業平は確実に相知であり、直方・忠方は「才行」が確証される。西三条第は、十世紀中葉まで伝領が判明する。		
教材（テキスト）	ない、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年 京都市埋蔵文化財研究所『平安京右京三条一坊六・七町跡－西三条第（百花亭）跡』2013 年 西山良平・鈴木久男・藤田勝也編著『平安京の地域形成』京都大学学術出版会、2016 年 参考ＵＲＬ：{ http://www.kyoto-arc.or.jp/}京都市埋蔵文化財研究所		
教材（その他）	発掘調査や遺物のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	京都・日本の歴史とその背景を具体的な素材を通して理解し、歴史的に思考する。また、歴史的な思考の根拠となる歴史資料・情報（文字資料、発掘調査など）を読み解き、外部に意見や情報を発信できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、１週間前に参考文献の該当箇所を指示するので、読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。復習課題から小テストを出題する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。

講義の順序とポイント

1　平安京の構造
2　平安京右京三条一坊六町の発掘と仮名墨書土器
3　右大臣藤原良相と西三条第（百花亭）
4　清和天皇の西三条第行幸
5　良相と文人１
6　良相と文人２
7　良相の「男女」ら
8　良相の「女」
9　良相の「長子」藤原常行
10　「長子」常行と在原業平
11　藤原常行と伊勢物語
12　良相の「男」藤原直方・忠方
13　百花亭の伝領と貞真親王
14　九世紀後半の西三条第
15　仮名墨書土器と国風文化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50790001
科目名	哲学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１　導入－－１哲学とは？　２哲学の問いと三つの起源　３哲学的思考の特徴　４枢軸時代
２　人間をめぐる神話－－１哲学以前の神話　２インドの神話　３中国の神話　４ギリシアの神話
３　神話と哲学－－１神話から哲学へ　２ウパニシャッド　３『易経』　４ヘラクレイトス
４　インドの哲学１－－１仏陀　２仏典結集　３法（ダルマ）　４三法印
５　中国の哲学１－－１孔子　２孔子の弟子たち　３徳治主義　４孔子以降の儒教
６　中国の哲学２－－１老荘思想　２墨家　３孫子　４韓非子
７　ギリシアの哲学１－－１最初の「哲学者」タレス　２ソクラテス　３対話術
８　ギリシアの哲学２－－１産婆術　２哲人統治論
９　古代哲学の継承－－１大乗仏教の成立　２中国における仏教の衝撃　３儒教の発展　４新しい神話との出会い
１０　西洋近代のスタート－－１整理　２新しい神話としてのキリスト教　３ルネサンスと大航海時代
１１　世界像の変遷１－－１天動説　２太陽中心説と太陽崇拝思想　３力学的自然観
１２　世界像の変遷２－－１信仰か理性か　２啓蒙主義　３信仰と理性の棲み分け　４徳治主義への批判
１３　世界像の変遷３－－１汎神論　２疾風怒濤　３ロマン主義の哲学　４美徳なき世界？
１４　日本の哲学思想１－－１儒教・仏教の伝来　２仏教の隆盛　３仏教の展開　４儒教の再登場
１５　日本の哲学思想２－－１西洋哲学の導入　２インド哲学と西洋哲学との融合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50790101
科目名	歴史学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	私たちは資料をもとにしながら、歴史像を構築している。とはいえ、資料それ自体は客観的なものではなく、さまざまな偏見で塗り固められている。私たちの世界にはそもそも客観的なデータなど存在しない。資料を取り扱うには、そうしたバイアスを取り除く作業が不可欠である。そのうえで資料を丹念に読みといてゆけば、過去の時代の生活や臭いが浮かび上がってくる。あるいは、偏見の在り方そのものにも、時代の特徴がある。さまざまな資料に触れながら、そこから何が読み取れるのか、一緒に考えてゆきたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題に対する発表（40%）および授業での発言や貢献度（60%）		
到達目標	・多様な資料に触れることによって、過去の社会への認識を深めるとともに、読み取る力、調べる力、考える力を養う。 ・さまざまな論文に触れて、理解する力、まとめる力、発表する力を養う。		
準備学習	・史料・テキストは事前に配付しておくので、十分な準備が必要である。 ・適宜指名して報告してもらうので、準備のうえレジュメを作成して発表する。		
受講者への要望			
・授業では、文献史料や絵画資料・論文など、さまざまな素材をとりあげる。資料や論文を読み込み、そこから何が読み取れるのか、自由に意見交換をすすめるなかで、社会の成り立ちや心性について一緒に考えたい。好奇心と探求心にみちた学生を歓迎したい。			
講義の順序とポイント			
1.歴史学と資料（ガイダンス） 2.絵画資料の世界 3. 説話史料の世界 4.説話史料の世界 5.説話史料の世界 6.法制史料の世界 7.貴族の日記を読む 8.貴族の日記を読む 9 .町触を読む 10.芸者の契約書を読む 11.真田信繁の書状を読む 12.新選組の史料を読む 13.幕末京都町人の日記を読む 14.自治体史の発表 15.自治体史の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50790102
科目名	歴史学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	歴史学は暗記科目ではありません。調べて調べて調べつくす科目です。過去のさまざまな歴史について、これまでの研究者たちは、各自の問題関心に基づきながら、さまざまなテーマについて、史料を読み解き、明らかにしてきました。みなさんも自分の問題関心に基づきながら、過去の研究や史料を読み解き、何かについての歴史をあきらかにする卒業論文を書くための基礎的な力をこの授業では身につけていただきます。さまざまな時代の史料や論文を深く読み解きながら、歴史的な事項を調べる力を身につけましょう。		
教材（テキスト）	幕末維新に関する論文（コピーを配布します）		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	各自の発表の内容・授業への取り組み方で判断します。		
到達目標	・歴史学を実践する上で必要となる歴史的事項の調査方法を習熟すること ・論文を探して読み解く力を身につけること ・歴史史料（刊本史料）の読解能力を養うこと		
準備学習	講義では、受講者全員にあたる輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は入念な準備が必要になります。		
受講者への要望			
歴史学の魅力は、史料の中に広がる豊かな世界を、自らの手で掘り起こして読み解いていくことにあります。この講義は、みなさんがその豊かな世界へ、自らの足でアプローチできる力をつけるための授業です。発表担当者は、興味をもった事項について、貪欲に調べてみてください。卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。			
講義の順序とポイント			
1. 歴史学と史料（ガイダンス） 2. 町触を読む 3. 芸者の契約書を読む 4. 真田信繁の書状を読む 5. 新選組の史料を読む 6. 幕末京都町人の日記を読む 7. 自由選択史料の発表 8. 自由選択史料の発表 9. 絵画資料の読解 10.説話史料の世界 11.法制史料の世界 12.法制史料の世界 13.思想家を読む 14.論文を読む 15.論文を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50790201
科目名	歴史民俗学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学概論は、民俗学コースの導入教育として開講する。特に歴史民俗学におけるフィールドワークの重要性と、その方法について解説する。特に地域における伝統的な生業や祭、年中行事、慣習、口承文芸のフィールドワークの方法を、担当者が実施するフィールドワーク実習にも参加を求め、資料の収集方法、整理方法、プレゼンテーション、レポート作成までを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小松和彦編『妖怪学の基礎知識』角川学芸出版、2011 年		
教材（その他）	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	授業内レポート３回（６０%）、授業内課題（４０%）		
到達目標	歴史民俗学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、教科書の予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業内の作業、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポート等を作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　歴史民俗学とは－資料・時代・研究領域 2　口頭伝承を地図化する、地籍図、条里地割 3　文献と古地図を利用して城下町の怪談を解読する 4　古典に描かれた怪異を平安京に探る 5　イメージ世界の地図化作業 6　検索エンジンではないインターネット検索 7　怪しい話を随筆に探す　日本随筆索引、日本随筆大成 8　絵画から歴史や文化を読み解く　日本常民生活絵引、都名所図会 9　これはどんな古典に載っているの？　古事類苑、大漢和辞典 10　京都を歩き回って神社や寺の歴史を探る　京都市の地名、日本の神々：神社と聖地 11　フィールドのユリイカ 12　資料を読む　保津川を例にして 13　地域に生きる市民として民俗学を考える 14　日本の神話を世界のなかで考える 15　ワークショップ　昔話			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50790301
科目名	宗教民俗学 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	本講義では、暮しの中にとけこみ、私達の生活習慣や思想の基盤となっている民間信仰について学んでいきます。民間信仰とは、神職や僧侶などの宗教者から離れ、民間のみで行われている宗教現象を指すといわれています。この民間信仰は、祭礼・年中行事、人生儀礼を主とし、生活の基盤となる生業や衣食住にも反映されています。 また、この民間信仰は、あらゆる宗教を吸収し、各地域の伝統文化に影響を与えながら独特な展開をみせます。その基礎となる組織として宮座や講が挙げら、これらの動向をみることにより該当地域の信仰形態の一端を知ることができます。しかし、そのためには各地域の歴史も知る必要性があります。この本講義では民間信仰の歴史も踏まえながら、日本人の宗教観、すなわち日本の民俗宗教について一緒に探っていければと思います。		
教材（テキスト）	特に指定はしません。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考文献）	宮家準『宗教民俗学への招待』（丸善ライブラリー） 宮家準『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫） 福田アジオほか編『日本民俗大辞典』（吉川弘文館） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教材（その他）	各講義のテーマに関する映像を用います。		
評価方法	平常点（講義中の態度含む）と最終講義のレポートを重視します。また、講義中に小テストも実施します。最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	受講者のゆかりのある地域の信仰、歴史、伝統文化に興味を持ち、自らの手で調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。これらを知ることは人生の糧となります。		
準備学習	今までで聞いたことのない用語や難解な事例が出てきます。分からない場合は記録し、自ら調べるという姿勢を望みます。また、各自が今まで見てきた、体験してきた事例は貴重な資料となりますので、まとめておくと役に立つでしょう。		
受講者への要望			
京都という町にある大学ですから、各神社や寺院に参拝、様々なお祭りをみる機会があります。また、古文書などの史料や文化財と触れることができる貴重な場所です。積極的に京都という地域を体験してください。			
講義の順序とポイント			
１、宗教民俗学とは何か ２、宗教の種類と民間宗教の研究方法 ３、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅰ（古代） ４、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅱ（中世） ５、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅲ（近世） ６、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅳ（近代） ７、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅴ（現代） ８、神道と民俗宗教 ９、仏教と民俗宗教 １０、山岳信仰－修験道 １１、シャーマニズムの世界 １２、俗信の世界 １３、京都の民間信仰と研究者 １４、日本人の原風景－風土論 １５、まとめ－日本人と宗教			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50790401
科目名	宗教民俗学 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	この講義では、日本固有の宗教である神道について学びます。「神道とは？」と尋ねられ、明快な回答はできるでしょうか。これは研究者の中でも難解な問題の一つです。神道は自然崇拝から派生したといわれ、日本人の生活の中の宗教として捉えられています。しかし、神道をどう捉えるのかと考えは、時代によって大きく変化しています。また、どの部分に焦点をあてるのかによってみえてくる姿も違い、場合によっては全く捉えどころのない宗教となります。そこで、本講義では、あらゆる学問がみる「神道とは何か？」ということを時間をかけてみていきます。		
教材（テキスト）	阪本是丸・石井研士編『プレステップ神道学』（弘文堂）。 プリント類は各回の講義のみ配布します。		
教材（参考文献）	『国史大辞典』（吉川弘文館） 宮地直一・佐伯有義監修『神道大辞典』（平凡社）（縮刷版：臨川書店） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 國學院大學日本文化研究所編『神道要語集』全五巻（國學院大學日本文化研究所） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教材（その他）	各講義のテーマに関した映像を用います。		
評価方法	平常点（講義中の態度含む）と最終講義のレポートを重視します。また、講義中に小テストも実施します。 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	宗教民俗学Ⅰと同様に、自らの手で神社や祭礼を調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。 そして、私達の遠祖の思いがこもった神道について考えてください。		
準備学習	できるだけ、神社に参拝に行く、お祭りを見るという体験をして下さい。 今は「観光」という目的で様々なメディアで「神道」、「神社」が伝えられることが多くなりました。 大きく変貌しようとするのか、伝統を維持するのか、自分の目で確認して下さい。		
受講者への要望			
京都には、朝廷とつながりのある神社、民衆が支える神社、神仏習合色の濃い神社、摩訶不思議な神社など色々あります。目の前に貴重な資料があります。直接、見て体験してください。			
講義の順序とポイント			
１、神道とは何か ２、神社とは何か ３、神道と神話－神代の時代－ ４、神道と歴史Ⅰ（古代） ５、神道と歴史Ⅱ（中世） ６、神道と歴史Ⅳ（近世） ７、神道と歴史Ⅴ（近代） ８、神道と歴史Ⅵ（現代） ９、神道と祭礼（春） １０、神道と祭礼（夏） １１、神道と祭礼（秋） １２、神道と祭礼（冬） １３、Japanologist たちがみた神道 １４、式年遷宮－継承のこころ １５、まとめ－日本人の宗教・神道			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50790501
科目名	京都文化学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	古代から中世にいたるまで、京都という都市において形成されてきた諸文化の様相を探る。		
教材（テキスト）	プリント等を用意する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	10 回終了 j 時に授業内試験を実施する。また、15 回終了後にレポートを課する。		
到達目標	ことば、芸能、京都人独特と言われる価値観などについて、多方面から考える。		
準備学習	高校の教科書・副読本、または一般の概説書で、日本の古代から中世までの歴史の概要を読んでおくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。
一方、しばしば意見や感想を求めるので、積極的に授業に参加すること。

講義の順序とポイント

古代　10 回　山本担当
主として平安時代の京都文化を扱う。女流文学をはじめ貴族の生活を彩った宮廷文化、都市文化、信仰を中心に論じていく。

1. 平安遷都
2. 菅原道真―和漢兼学の政治家から怨霊、そして神へ 1
3. 菅原道真―和漢兼学の政治家から怨霊、そして神へ 2
4. 菅原道真―和漢兼学の政治家から怨霊、そして神へ 3
5. 菅原道真―和漢兼学の政治家から怨霊、そして神へ 4
6. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 1
7. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 2
8. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 3
9. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 4
10. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 5

中世前期　5 回　丸田担当
仏教文化やキリシタン文化と京都の関わりを中心に論じていく。
11. 中世とは
12. 院政から平家政権
13. 鎌倉幕府成立の意味
14. 承久の乱　御成敗式目
15. 中世前期の文化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50790601
科目名	京都文化学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	京都文化学概論Ｂを受けて、中世から近代に至るまでの、京都という都市において形成されてきた諸文化の様相を探る。それと並行して現代の京都が抱える問題についても考えていく。 丸田担当（５回） 　主として中世から近世にかけての日本語の変遷を題材に、京都と関東などの比較をしつつ京都文化を論じていく。 山崎担当（１０回） 　中世の京都で確立した、茶道・華道・能楽などの芸術文化を下地に、近世の京都の町衆が主導して江戸時代に開化した諸文化を紹介し、近現代につなげて考えてみたい。京都の文化にはどのような特色が見られるのか、京都人の価値観はどうして形成されてきたのか、江戸や大阪など他の都市と比較することによって、文化の違いを見ていきたい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	林屋辰三郎著『京都』（岩波新書）		
教材（その他）			
評価方法	まとまった内容が終わった時点で知識が定着するように小テストを行う。学期の途中で小レポートの課題を出すので、テストとレポートで評価を行う。丸田評価が三分の一、山崎評価が三分の二、合計点で評価する。		
到達目標	日本における京都の町と京都文化の存在価値を理解すること。京都の文化を知ることを通して、日本の文化への理解を深めること。		
準備学習	毎回授業の開始までに、前回のプリントに目を通しておくこと。 前回の授業で興味を持ったことばを調べておくこと。		
受講者への要望			
授業で聞いた内容を定着させるためには、積極的に市内へ出かけていろいろなものを見聞きして下さい。文化財だけでなく、住んでいる人間を見ること。ファッションや食べ物を観察し、京都の人と会話する機会を作って下さい。			
講義の順序とポイント			
丸田博之担当 １　義満と北山文化 ２　義政と東山文化 ３　戦国大名と下剋上 ４　キリシタン文化 ５　信長・秀吉・家康 山崎ふさ子担当 ６　近世前期京都の町衆（１）　角倉了以の事業 ７　近世前期「京都の町衆（２）　灰屋と吉野太夫 ８　近世前期京都の町衆（３）　京都所司代の治安 ９　近世前期京都の町衆（４）　法華信仰の人々 １０　近世前期京都の町衆（５）　伊藤仁斎先生の日常生活 １１　近世後期の文人　与謝蕪村 １２　近世後期の絵画　丸山応挙と伊藤若沖の写生画 １３　『平安人物誌』の読み方 １４　『東海道中膝栗毛』に描かれた京都 １５　女流画家の系譜			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50790701
科目名	京都学（文化財）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	町田　香	旧科目名称	
講義概要	ユネスコは 1994 年「古都京都の文化財」を世界文化遺産と定め、京都市内を中心にした上賀茂・下鴨神社、東寺など 17 箇所の寺院等を、世界遺産登録基準を満たすものと認めた。本講義では、それらの世界遺産指定文化財を取り上げ、その歴史、芸術的価値、景観的価値、文化的意義などについて考える。また、世界遺産とはなっていない日本の文化財についても、文化財行政や歴史、政策、事例を学び、訴求力のある京都の文化財の魅力を分析する。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（50%）、定期テスト（50%）。		
到達目標	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読み、専門用語等を理解しておくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読み、専門用語等を理解しておくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストを行うので、復習しておくこと。		

受講者への要望

1：能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
2：遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。
3：各講義で確認小テストを実施する。
4：講義内容を理解し、自分なりの課題発見を行う。

講義の順序とポイント

1. 文化財と世界遺産－文化財とは何か、世界遺産とは何か、その基礎を相対的に学ぶ
2. 世界遺産と世界遺産条約―世界遺産の事例と条約について学ぶ
3. 日本の世界遺産―日本における世界遺産について学ぶ
4〜6. 古都京都の文化財―京都における世界遺産 17 箇所について歴史・価値・意義を学ぶ
7. 古都京都の文化財の実態－実際に世界遺産を訪れ現地学習を行う（予定・天龍寺）
8：日本の世界遺産登録をめぐる議論―世界遺産登録までのプロセスと課題を追う
9： 日本の文化財行政と文化財保護法―日本の文化財保護のあり方と法律を学ぶ
10：日本の文化財保護の歴史―現在に至るまでの文化財保護の歴史を学ぶ
11〜15. 日本の文化財について―有形文化財、無形文化財、記念物など、文化財事例の保護の在り方と特徴を学ぶ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50790801
科目名	京都学（祭礼）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	米大手旅行雑誌に２０１４・２０１５年と２年連続で京都が世界都市ランキングで１位となった。 ２０１６年は６位となったが、今もなお、世界を代表する観光都市と言えよう。 この原動力となった観光資源のひとつに神社・仏閣が挙げられる。 インバウンドの人々だけでなく、日本人も京都の社寺に対し憧れを抱きながら、参拝に訪れている。 しかし、その反面、社寺にランキングを付ける組織もあり、興味を主観とした観光資源ともなっている。 あらゆるものが多様化し、社寺の役割も変化しつつある。 これらの人々を迎える人々も多様化し、改めて「京都とはなにか」という問題が挙がってくる。 本講義では、この社寺の祈りの世界である「信仰」が表現された「祭礼」に注目し、本来の京都の社寺の姿の一端を把握した上で、「京都」というテーマについて学んでいきたい。		
教材（テキスト）	特に指定はしません。プリント類は各回の講義のみ配布します。		
教材（参考文献）	江馬務『日本歳事史－京都の部－』（内外出版） 田中緑紅『緑紅叢書』（京を語る会） 井上頼壽『京都古習志』（再版：臨川書店） 井上頼壽『京都民俗志』（改訂版：東洋文庫） 佐和隆研ほか編『京都大事典』（淡交社）		
教材（その他）	各講義のテーマに関した映像を用います。		
評価方法	平常点（講義中の態度含む）と最終講義のレポートを重視します。また、講義中に小テストも実施します。 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	京都市内だけでなく、京都府全域の社寺分布並びに祭礼の基層の一端を把握し、自らの足で現地に赴き、人々の祈りの世界を見るところまで進んでください。		
準備学習	京都の祭礼に関しては、様々な書籍や映像化されたソフトがあります。また、テレビなどにおいても、番組のテーマとして用いられているものが数多くあります。一度はこれらに目を通してください。		
受講者への要望			
皆さんの前には、研究対象となる神社・仏閣が数多く鎮座しています。目の前にある先人たちから伝わる祈りの世界を体験してください。厳粛な祭礼。熱気あふれる祭礼。都市の中の祭礼。地域・集落の祭礼。様々なお祭りがあります。自らの目で見て来てください。			
講義の順序とポイント			
１、祭礼とは－宗教学の立場から－ ２、京都の祭礼について ３、京の三大祭－賀茂祭（葵祭）・信仰編 ４、京の三大祭－賀茂祭（葵祭）・祭礼編 ５、京の三大祭－祇園祭・信仰編 ６、京の三大祭－祇園祭・祭礼編 ７、京の三大祭－時代祭・信仰編 ８、京の三大祭－時代祭・祭礼編 ９、京の民間信仰の祭礼・神社編 １０、京の民間信仰の祭礼・寺院編 １１、京都府南部の祭礼 １２、丹波地方の祭礼 １３、丹後地方の祭礼 １４、自然と祭礼－風土祭祀－ １５、京都の祭礼－日本の祭礼－			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50790A01
科目名	教育心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	教育心理学は、教育に関連する諸事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるのに役立つような心理的知見と心理的技術とを提供しようとする学問である。子どもの発達や学習、人格の形成などに関する心理的事象や法則を学び、教育を効果的に実施するために役立つ知識の習得をめざす。一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応、集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深めていく。		
教材（テキスト）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜，紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	①　教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。 ②　教育心理学的なものの見方や考え方により、現在の教育について考えることができる。 ③　教育心理学の知識・知見から，よりよい教育実践を提案することががができる。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また，授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと。		
受講者への要望			
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。			
講義の順序とポイント			
１．教育心理学とは ２．教育心理学の歴史 ３．生涯発達Ⅰ ４．生涯発達Ⅱ ５．学習理論と行動の理解 ６．　学習理論の教育への応用 ７．学習指導と教授法Ⅰ ８．学習指導と教授法Ⅱ ９．授業分析 １０．記憶のメカニズム １１．動機づけⅠ １２．動機づけⅡ １３．学級集団の理解Ⅰ １４．学級集団の理解Ⅱ １５．教育評価の方法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J50790B01
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	「教育心理学Ⅰ」で学んだことをもとに，学校現場で有用な実践力の基礎をさらに発展させる。「教育心理学Ⅱ」では，講義とグループ学習・全体討論を組み合わせて進めていく。教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら，教育現場での今日的課題について考えそれらを解決するアプローチを考えていく。また、児童生徒だけでなく、保護者、教師との協力関係の構築、さらに、学校や家庭、地域とも協力しながら児童生徒理解および児童生徒への介入に必要な方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	おにつかるみ　2005　さとこ先生のホームルーム　新日本出版社 竹田レイ子　2007　ボクのこと大好き―自尊感情を高める　あいり出版		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	① 教育心理学についての基礎的な知識を応用できる力を養う。 ② 学校現場における今日的課題に対処できる能力の基礎をさらに発展させる。 ③児童生徒への心理教育的援助方法について主体的に考える力をつける。		
準備学習	教科外学習として，講義内容のまとめとなるような課題を出しますので積極的に取り組んでください。設定された課題には必ず取り組み，期限までに提出すること。		

受講者への要望

教育心理学Ⅰを履修している事が望ましい。グループ単位でのディスカッションや全体の場での発表の機会を設け、コミュニケーション能力の育成も図ります。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求めます。特別な理由がない限り、すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（「教育心理学Ⅰ」の復習）
2. 子どもの発達から教育を考える①　＜問題行動について＞
3. 子どもの発達から教育を考える②　＜自我の役割＞
4. 子どもの発達から教育を考える③　＜アイデンティティ＞
5. 学校・学級生活における子どもの悩みから教育を考える①　＜友人関係＞
6. 学校・学級生活における子どもの悩みから教育を考える②　＜学業＞
7. 学校・学級生活における子どもの悩みから教育を考える③　＜適応＞
8. 学校・学級生活における子どもの悩みから教育を考える④　＜発達障害＞
9. 協同学習による学び
10. 教育現場における今日的問題に対する心理学的理解①
11. 教育現場における今日的問題に対する心理学的理解②
12. 望ましい学校環境とは
13. 教育評価について
14. キャリア教育および地域社会との連携について
15. 相談機関と連携するうえでの留意点

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50791001
科目名	哲学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１　導入－－１哲学とは？　２哲学の問いと三つの起源　３哲学的思考の特徴　４枢軸時代
２　人間をめぐる神話－－１哲学以前の神話　２インドの神話　３中国の神話　４ギリシアの神話
３　神話と哲学－－１神話から哲学へ　２ウパニシャッド　３『易経』　４ヘラクレイトス
４　インドの哲学１－－１仏陀　２仏典結集　３法（ダルマ）　４三法印
５　中国の哲学１－－１孔子　２孔子の弟子たち　３徳治主義　４孔子以降の儒教
６　中国の哲学２－－１老荘思想　２墨家　３孫子　４韓非子
７　ギリシアの哲学１－－１最初の「哲学者」タレス　２ソクラテス　３対話術
８　ギリシアの哲学２－－１産婆術　２哲人統治論
９　古代哲学の継承－－１大乗仏教の成立　２中国における仏教の衝撃　３儒教の発展　４新しい神話との出会い
１０　西洋近代のスタート－－１整理　２新しい神話としてのキリスト教　３ルネサンスと大航海時代
１１　世界像の変遷１－－１天動説　２太陽中心説と太陽崇拝思想　３力学的自然観
１２　世界像の変遷２－－１信仰か理性か　２啓蒙主義　３信仰と理性の棲み分け　４徳治主義への批判
１３　世界像の変遷３－－１汎神論　２疾風怒濤　３ロマン主義の哲学　４美徳なき世界？
１４　日本の哲学思想１－－１儒教・仏教の伝来　２仏教の隆盛　３仏教の展開　４儒教の再登場
１５　日本の哲学思想２－－１西洋哲学の導入　２インド哲学と西洋哲学との融合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50791201
科目名	京都学（京ことば）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	「京ことば」を多角的に探究する講義である。 京都が舞台となるテレビや映画、アニメは多いが、それらで使われている京都の言葉に問題はないかを検証することから始める。 また、京都の言葉は長く日本の中央語であった。つまり、京都語の歴史はそのまま日本語の歴史と言ってよい。本講義では、その京都語の中央語性に鑑み、その音韻的・文法的・語彙的な変遷を詳しく見ていきたい。		
教材（テキスト）	こちらで用意する。		
教材（参考文献）	授業内で適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）と期末試験 or レポート（５０％）による総合評価。		
到達目標	京都語学（日本語学）の基礎知識を身につける。 京都の大学に通っていたことを将来示せるような京ことばについての知識を伝授する。		
準備学習	京都が舞台の番組、映画、小説などに触れておいてほしい。		

受講者への要望

授業中の私語は厳禁。

京都の人はもちろん、他府県出身の諸君にもどんどん受講してほしい。

京ことばと他の関西のことば、他の地方のことばとの比較などもする予定である。

講義の順序とポイント

1　ドラマ・映画・アニメの京ことば
2　京ことばリテラシー
3　京ことばの位置
4　中央語としての京都語の変遷
5　京都語の文法１
6　京都語の文法２
7　京都語の音韻
8　唇音退化
9　ハ行転呼音現象
10　仮名遣
11　アクセント１
12　アクセント２
13　現代の京ことば研究
14　標準語は存在するか
15　将来の京ことば像

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50791401
科目名	王朝文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席・発言等の平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典文学と資料を読み解きながら、京都に実感的に親しむ。作品や史料を知識として知るだけでなく、自分の心でそれを鑑賞・考察する。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
準備学習	平安時代の文化と歴史について高校教科書程度の基礎知識を持っておくこと		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50791502
科目名	江戸文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の江戸時代の文化を中心に扱う。江戸時代、三都と言われたのは江戸・京・大坂であった。江戸前期に京・大坂を中心とする上方文化が栄え、後期は文化が東漸し江戸文化が栄える。この講義では、東西の文化を比較しつつ、江戸文化を紹介することによって、上方、特に京都文化を逆照射することを試みたい。武士・町人の人口割合も影響したといわれる当時の東西文化の特徴が、現代の当地気質にも及んでいることを考察したいと考える。 具体的には、浮世絵を文学の立場から読み解いてみることを試みたい。 北斎の『北斎漫画』や国芳の絵本を題材に、北斎に取りあげられユーモラスに描かれた 江戸時代の町の人々のくらしの様子を読み解き、 時には歴史上の英雄や妖怪などの 絵にまつわる日本と中国の多彩な物語を紹介していく。		
教材（テキスト）	『北斎漫画』『国芳の絵本』（岩崎美術社）の必要部分をプリントして配布する		
教材（参考文献）	『北斎漫画』１～５編、『国芳の絵本』一二、（岩崎美術社）		
教材（その他）			
評価方法	平常点５０％、発表またはレポート５０％		
到達目標	絵の出典はさまざまなので、 多様な資料に接することになる。		
準備学習	葛飾北斎について、展覧会などがあったら見に行ってほしい。		
受講者への要望			
毎回出席すること。 意見や感想を遠慮なく発言すること			
講義の順序とポイント			
１　江戸時代の絵画 ２　浮世絵師の勢力分布と画風 ３　葛飾北斎の画風の変遷 ４　『北斎漫画』の紹介 ５　『国芳の絵本』の紹介 ６～１２　各図の出典を考える １３　同じ画題がどのように絵師によって違ってえがかれているかを比較する １４　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（１） １５　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J50791601
科目名	サブカルチャー論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。近代都市が生み出した様々な文化のあり処に思いを致す時、都市伝説の語感による都市と、文化史を結びつけた都市文化史は、その複雑怪奇性といい、百鬼夜行性といい申し分のない括り方ではないだろうか。都市文化史 B では大衆と死の共同体という観点から都市文化史を考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。		
準備学習	各自関連文献を読んでおくのは重要である。毎回関連文献を提示するので、適時それに時間を割くように。		
受講者への要望			
一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。			
講義の順序とポイント			
（1）大衆と都市 （2）秋葉原と夢野久作 （3）バタイユ『青空』 （4）死の共同体 （5）神話としてのドン・ジュアン （6）ファウスト （7）死の時代 （8）虐殺・神話 （9）図像学の誕生 （10）アビ・ヴァールブルグ （11）ゴーレム （12）絵引 （13）街をあるく （14）異形異類 （15）再び江戸の大衆社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50791701
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	くずし字の資料を読む		
教材（テキスト）	毎回、プリントを用意する。		
教材（参考文献）	初回にくずし字の一覧を配布する。		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題で読めた字数により評価する。		
到達目標	課題の文字をすべて読め、内容を理解できること。		
準備学習	古文の歴史的かなづかいと文法について復習しておくこと。		
受講者への要望			
毎回、解答を板書してもらうので、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1 くずし字の解説 2～15　くずし字資料の読解と解説			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J50791702
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	京都の文化に関わる資料を読む入門編。 江戸初期の町人の生活を描いた井原西鶴の短編小説から京都に関連する作品を選んで読み、当時の都市の人々のくらしの実態を理解していきます。作品名は『好色一代男』『世間胸算用』『日本永代蔵』など。子供の成長に合わせたしきたりから恋愛や家庭生活、社会のしくみや新しい商売のアイデアまで、広い範囲の問題がテーマとなる基礎編の講読です。		
教材（テキスト）	プリントを配布。		
教材（参考文献）	小学館『新編日本古典文学全集　西鶴（一）（二）（三）』		
教材（その他）			
評価方法	基本的に授業への参加度。発表の担当や、授業中の作業など。		
到達目標	江戸時代のくらしを感覚的に知ること。約１５０年前までは江戸時代だったので 現代に残っている慣習も多い。現代の生活のルーツを知り、そこからどう変わってきたか 自分で考えることができるようになることが望ましい。		
準備学習	担当が当たっているときはその準備が必要。当たっていない場合も、予習は大切。		
受講者への要望			
授業時間内に扱うのは膨大な資料の一部なので、他の部分は自主的に読んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　『好色一代男』より ２　『好色一代男』より ３　『好色一代男』より ４　総括　江戸時代の三都と遊郭 ５　『世間胸算用』より ６　『世間胸算用』より ７　『世間胸算用』より ８　総括　江戸時代の貨幣経済 ９　『本朝桜陰比事』より １０　『本朝桜陰比事』より １１　『本朝桜陰比事』より １２　『本朝桜陰比事』より １３　総括　江戸時代の京都のくらし １４　番外編１ １５　番外編２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50791703
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	購読の授業であるから、はじめのうちは、教員が講義するが、資料に慣れてきた段階で学生諸君に調べたところを発表してもらう。 「購読」は、３回生の「演習」、４回生の「卒論」に対する基礎を学ぶ科目であり、その基礎を築く重要な科目である。 歴史、京都文化、ことば、に興味のある人に受講してもらいたい。		
教材（テキスト）	テキストは、江戸時代の『皇都午睡（みやこの昼寝)』を用いる。 テキストは、コピーして配布するので、教科書を購入する必要はない。		
教材（参考文献）	『浮世風呂』（岩波、新日本古典文学大系他） 『浮世床』（新潮社　日本古典文学集成）		
教材（その他）	授業内に適宜紹介する。		
評価方法	平常点(50%)とレポート(50%)で評価する。		
到達目標	江戸時代後期の作品で、比較的読みやすい。京、江戸、大坂の三都の様子を記した文献で、読み物としても面白い。		
準備学習	どのような文献でもよいので、江戸時代（近世）の小説などに目を通しておくとよい。		
受講者への要望			
高校までの授業は、言わば「受け身」の授業であったが、この「購読」は、学生諸君が主体的に運営する科目であり、まさに大学で学ぶにふさわしいものである。しっかり、取り組んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．作品の背景 ２．購読 ３．購読 ４．購読発表 ５．購読発表 ６．購読発表 ７．購読発表 ８．購読発表 ９．購読発表 １０．購読発表 １１．購読発表 １２．購読発表 １３．購読発表 １４．購読発表 １５．購読発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J50791801
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	百人一首を読む・調べる		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業内で提示する		
教材（その他）			
評価方法	非担当時間の質問・発言・議論等（40%） 担当発表（60%）		
到達目標	文学作品について、自分で調べ・まとめ・発表する力を養う。また、他者の発表を聞き評価する態度を養う。		
準備学習	発表に関しては、担当の和歌をしっかり調査・鑑賞した上、充実した発表資料を作成して持参すること。 フロアにおいても、教科書を熟読し、発表に対してきちんとした評価ができるよう準備してくること。		

受講者への要望

自分の発表時以外にも、積極的に意見や質問を行うこと。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
担当歌決定
参考図書紹介

2 レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーション模擬発表　（山本）

本授業での発表は、対戦形式でおこなう。

①当日の発表担当者が各々20 分程度発表する。
内容：担当の和歌および歌人についての解説と、その和歌の素晴らしさについて
（これについて、レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーションの各要素を評価する）

②次に、左方と右方のどちらの和歌・歌人が素晴らしいかについて、フロアが質問や意見を述べ、発表者が対応する。
（フロアからの発言者について「フロア・発言点」を、担当者について「担当者・応答点」を評価する）

③双方の主張を受けて、「どちらの和歌・歌人に魅力を感じたか」をフロアが判定する。
（発表担当者に「発表者・判定点」を加味する）

3～15　受講者数により、各回２首または３首（２名または３名）ずつ発表の予定。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50791802
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代の歴史上の人物を取り上げ、その人の生い立ちを調べ、京都との関わりに関する資料を読んでみます。人物は、徳川家康・淀君・尾形光琳・徳川光圀（水戸黄門）・茶屋四郎二郎・細川ガラシャ・徳川吉宗・松尾芭蕉・上田秋成・本居宣長・大石内蔵助・坂本龍馬などから選びますが、江戸時代から少々はずれても要望があれば対応します。柔軟に対応する発展編となります。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内の発表担当に重点をおいて評価する。		
到達目標	江戸時代の実在の人物の伝記を調べる方法を学ぶ。		
準備学習	担当部分について調査をしてくること。 前の人の発表をよく学習すること。		

受講者への要望

自分より先に発表する人の内容を参考にすること。

講義の順序とポイント

1　本阿弥光悦　『本阿弥行状記』の場合
2　新井白石『折りたく柴の記』の場合
3　伝記資料の紹介
4　『京都名家墳墓録』など
5　徳川家康(以下は状況によって変更の可能性があります)
6　淀君
7　水戸光圀
8　尾形光琳
9　細川ガラシャ
１０　松尾芭蕉
１１　坂本龍馬
１２　徳川吉宗
１３　茶屋四郎次郎
１４　本居宣長
１５　人物研究の先駆者

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J50791803
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	購読の授業であるから、はじめのうちは、教員が講義するが、資料に慣れてきた段階で学生諸君に調べたところを発表してもらう。 「購読」は、３回生の「演習」、４回生の「卒論」に対する基礎を学ぶ科目であり、その基礎を築く重要な科目である。 歴史、京都文化、ことば、に興味のある人に受講してもらいたい。		
教材（テキスト）	春学期に続いて『皇都午睡（みやこの昼寝)』を読む。テキストはこちらで用意する。		
教材（参考文献）	『浮世風呂』（新日本古典文学大系、岩波） 『浮世床』（日本古典文学集成、新潮社）		
教材（その他）	授業内で、適宜紹介する。		
評価方法	平常点（５０％）とレポート（５０％）で評価する。		
到達目標	近世文学の理解にとどまらず当時の日本の様子を歴史的見地からも読み解きたい。		
準備学習	どのような文献でもよいので、江戸時代（近世）の作品に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
高校までの授業は、言わば「受け身」の授業であったが、この「購読」は、学生諸君が主体的に運営する科目であり、まさに大学で学ぶにふさわしいものである。しっかり、取り組んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．購読 ２．購読 ３．購読発表 ４．購読発表 ５．購読発表 ６．購読発表 ７．購読発表 ８．購読発表 ９．購読発表 １０．購読発表 １１．購読発表 １２．購読発表 １３．購読発表 １４．購読発表 １５．購読発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50791901
科目名	社会調査法 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	社会調査の基本的事項を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と官庁統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と練習問題(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. インタビュー
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と練習問題(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50791A01
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学講読（歴史地理学）A では、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 を講読します。本書は分かりやすい英文で書かれており、初心者には最適のテキストです。 本講読では、本書第１章の「The Origins of the Vikings」を読みます。受講者には、事前にコピーを配付し、訳してきてもらいます。英語の授業ではないので、主に書かれている内容について解説します。また、英語に自信のない学生も、ゆっくり訳していきますので、受講して下さい。英語で専門書を読んでみたいという学生ももちろん歓迎します。特に大学院進学を考えている学生は、英語が必要なので、受講することを勧めます。		
教材（テキスト）	John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の講読部分をコピーして配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）、発表（６０％）、レポート（２０％）		
到達目標	歴史地理学の基本的な英文を読めるようになること。		
準備学習	配布資料の予習		
受講者への要望			
ノートパソコンで電子辞書を引き、訳文を作成していくことを望む。			
講義の順序とポイント			
１　教科書の選定と解説 ２～１４　受講者による講読 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50791A02
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	（1）昔話の分析理論の代表的なものを輪読する。 （2）自分の愛する研究者をひとり発見しましょう。		
教材（テキスト）	ウラジミール　プロップ『昔話の形態学』		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	昔話の分析方法について理解する。 自分の愛する研究者をひとり発見する。		
準備学習	必ず事前にテキストの指定された箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
自分の愛する研究者を発見するためには、たくさんの書物を読まなければなりません。			
講義の順序とポイント			
1『昔話の形態学』輪読 2『昔話の形態学』輪読 3『昔話の形態学』輪読 4『昔話の形態学』輪読 5『昔話の形態学』輪読 6『昔話の形態学』輪読 7『昔話の形態学』輪読 8『昔話の形態学』輪読 9『昔話の形態学』輪読 10『昔話の形態学』輪読 11　私の愛する研究者 1 12　私の愛する研究者 2 13　私の愛する研究者 3 14　私の愛する研究者 4 15　私の愛する研究者 5			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50791A03
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。その「角川文庫版のための序」には「この本の主題は国家が成立する以前のことをとり扱っているから、もともとは民俗学とか文化人類学とかが対象にする領域になっている。だが民俗学とか人類学とかが普通扱っているような主題の扱い方をとろうとはおもわなかった。(中略) ただ個人の幻想とは異なった次元に想定される共同の幻想のさまざまな形態としてだけ、対象をとりあげようとおもったのである。」とあるように、日本神話と日本民俗学の聖典をまったく違う視点から読もうとしている。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。		
教材（テキスト）	『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）	『遠野物語』柳田国男、角川ソフィア文庫		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。		
準備学習	担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。		
受講者への要望			
大学（高等教育）の場では、むしろ、制度的に保障された学習時間以外のいわゆる自由な時間こそが重要なのだということを、そろそろ理解しなくては、この後の発展は期待できない。			
講義の順序とポイント			
テキストの前半『遠野物語』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。 １～１５　受講生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J50791B01
科目名	民俗学資料講読II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	歴史民俗学講読Ｂでは、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 のテーマ別に分かれたパートを受講生一人ずつに担当してもらい、レジュメを作成して発表する。 したがって、この歴史民俗学講読Ｂでは、ある程度の分量を訳してもらい、レジュメを作成した上での発表形式で行います。特に大学院進学を考えている学生は、専門的な英語が必要なので、受講することを勧めます。		
教材（テキスト）	John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の担当部分をコピーして配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）、発表（６０％）、レポート（２０％）		
到達目標	歴史地理学の専門的な英文を読めるようになること。		
準備学習	教科書の予習と関連文献の把握		
受講者への要望			
直訳ではなく日本語として理解できる翻訳文を作成する努力を要望			
講義の順序とポイント			
1　教科書の選定と解説 2～14　受講者による講読 15　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50791B02
科目名	民俗学資料講読II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	神話研究の第一人者であるレヴィ＝ストロースの論文を読みます。語られている内容は難解なものですが、神話や物語を 学術的に分析してみたいと考えている人なら、取り組む価値があると思います。		
教材（テキスト）	レヴィ＝ストロース　『神話論理』 I		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表（７０％）授業への貢献度（３０％）		
到達目標	レヴィ＝ストロースを怖がらないで読めるようになること。		
準備学習	毎回前もって『神話論理』の指定された箇所を読んでくること。		
受講者への要望			
自分の担当する箇所は、せめて一ヶ月前から読み始めること。			
講義の順序とポイント			
１講読の進め方について ２レヴィ＝ストロース ３神話論理１の輪読１ ４神話論理１の輪読２ ５神話論理１の輪読３ ６神話論理１の輪読４ ７神話論理１の輪読５ ８神話論理１の輪読６ ９神話論理１の輪読７ １０神話論理１の輪読８ １１神話論理１の輪読９ １２神話論理１の輪読１０ １３神話論理１の輪読１１ １４神話論理１の輪読１２ １５神話論理を振り返って			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50791B03
科目名	民俗学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。後半は特に日本の古代史を『古事記』を読み解くことで解析して行く。古代史研究も考古学上の発見により大きく飛躍して来ている。邪馬台国の位置の確定などもあと一歩のところまでのようだが、国家とは何かという点での理論的な枠組みが問題になってくる。エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』は古代国家の成立論に大きな影響を与えたが、『共同幻想論』はそれを批判的に読み込むことで新しい地平を切り拓いたのだった。古代国家の成立についての問題意識を持つことが必要になる。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。		
教材（テキスト）	『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）	『口語訳　古事記　神代篇』三浦佑之・訳・注釈、文春文庫		
教材（その他）			
評価方法	平常点（100%）出席してシラバスを作成し発表しなければ評価されない。		
到達目標	専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。		
準備学習	担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。		
受講者への要望			
大学（高等教育）の場では、むしろ、制度的に保障された学習時間以外のいわゆる自由な時間こそが重要なのだということを、そろそろ理解しなくては、この後の発展は期待できない。			
講義の順序とポイント			
テキストの後半『古事記』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。 １～１５　受講生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J50792001
科目名	社会コミュニケーション基礎	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	社会コミュニケーションコースの学習の基礎として、社会学やメディア学、コミュニケーション論の分野の基礎を学ぶ。人と人との間のコミュニケーションを成り立たせる社会の特質は何か。人は社会の中で、どのように行動し役割を果たすのか、また、他人との間でどのような相互作用をおこない、どのような集団をつくるのか、そして、その時、集団の側からはどのような影響を受けるのか、などについて考える。さらに、コミュニケーションの手段となるメディアも取り上げる。メディアが発達することによって社会の特徴が変化する点も重要である。メディアの発達による現代の情報社会としての側面についても学ぶ。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材も活用する。		
評価方法	（出席を前提として）授業中に課すレポート（100％）		
到達目標	社会やコミュニケーション、メディアについて、基礎的な知識を得ることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までによく読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席してほしい。
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考を求める。

講義の順序とポイント

1，イントロダクション（コミュニケーションと社会）
2，学校の生徒集団での「いじめ」
3，家族の役割と行動（父と子、母と子、など）
4，企業の仕組み（官僚制）とリーダーシップの特徴
5，企業での人間相互の関係とお互いの影響（上司と部下など）
6，集団によるマインドコントロール
7，情報社会１（管理社会・監視社会）
8，情報社会２（ネット社会）
9．異文化コミュニケーション
10，言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
11，情報環境とメディア：疑似環境・説得コミュニケーション
12，表現文化とメディア：わかちあうコミュニケーション
13，社会調査
14，つながり
15，社会とコミュニケーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50792101
科目名	社会調査法II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を利用する。		
評価方法	授業内レポート（40%）、レポート（60%）。		
到達目標	社会調査の基本的事項、調査設計と実施方法を理解すること。		
準備学習	3 日前までに、京学なびに資料を掲示するので、よく読んでおくこと。		

受講者への要望

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「社会調査法 I」を予め履修してほしい。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

講義の順序とポイント

《I 量的調査の設計と実施》
1. 調査票調査のための事前知識など
2. 調査票調査の概要
3. 問題・概念・仮説
4. 調査票の作り方(1)：ワーディング
5. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
6. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
7. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標
8. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
9. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
10. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
11. 調査データの整理：エディティング、コーディング
12. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
13. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
14. 復習と練習問題

《II 質的調査の設計と実施》
15. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	–	★★

年度	2017	授業コード	J50792201
科目名	精神病理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	林　晶子	旧科目名称	
講義概要	医学においては疾患の病理、つまり「なぜ、どのようにその病いが生じているか」を解明することも目的のひとつである。精神医学において、精神疾患にどのような病理が背後にあるかを考察してきたのが精神病理学であるが、精神疾患の客観症状のみならず、主観症状、患者の体験そのものを対象とし、さまざまな哲学や心理学を援用しながら理論を構築し、臨床実践を下支えしてきた。本講義では、統合失調症や気分障害、神経症などの代表的な精神疾患を精神病理学的な観点で解説し、精神疾患に関する理解を深めることを目標とする、		
教材（テキスト）	なし　各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	西丸四方著　精神医学入門　南山堂　5,200 円 浜田秀伯著　精神病理学臨床講義　弘文堂　7,020 円		
教材（その他）			
評価方法	レポート（３０％）　定期テスト（７０％）		
到達目標	精神病理学の観点から精神疾患の病態を理解することを目標とする		
準備学習	講義終了日に次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと		
受講者への要望			
インタラクティブな講義、グループディスカッションを取り入れての講義を行いますので、能動的な参加をお願いします			
講義の順序とポイント			
1. 精神医学の歴史（１） 2. 精神医学の歴史（２） 3. 精神病理学概論－その成り立ちと発展 4. 精神病理学概論－その理論的背景 5. 日本における精神病理学 6. 統合失調症（１） 7. 統合失調症（２） 8. 気分障害（１） 9. 気分障害（２） 10. 神経症（１） 11. 神経症（２） 12. 身体表現性障害 13. ストレス関連障害 14. 文化と精神医学（１）－医療人類学の紹介 15. 文化と精神医学（２） ※講義は 4/8（土），4/22（土），5/6（土），5/20（土），6/3（土），6/10（土），7/1（土），7/15（土）に 2 時間連続で実施します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50792301
科目名	犯罪心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河合　弘靖	旧科目名称	
講義概要	前半は犯罪・非行の基礎（犯罪・非行の定義や理論，犯罪・非行の個別的要因や社会的要因），後半は犯罪・非行の心理臨床（犯罪者・非行者の処遇システムやアセスメント，犯罪・非行の治療教育等）について講義を行なう。犯罪・非行の心理学的基礎について学ぶとともに，現代日本における犯罪・非行の現状について学び，さらに，犯罪・非行に対処するための社会的制度について学ぶことによって，これらの問題に対処するための基本的知識を得る。なお，非行や犯罪にかかわる業務に携わるのは主に国家公務員，地方公務員であり，各職場や職種の紹介を授業の中で行いたい。		
教材（テキスト）	藤岡淳子（編）『犯罪・非行の心理学』有斐閣ブックス　2,400 円		
教材（参考文献）	・河野荘子・岡本英生（編著）『コンパクト心理学』北大路書房　1,800 円 ・越智啓太（著）『ケースで学ぶ犯罪心理学』北大路書房　1,900 円		
教材（その他）	・パワーポイントを活用する。 ・適宜プリントを配布する。		
評価方法	評価方法は平常点（50%）と，前半・後半授業の到達度の確認作業（50%）とし，平常点は授業への参加態度，授業中の発言や質問の内容，授業中の提出物を総合的に評価する。		
到達目標	・犯罪・非行の心理学的基礎について理解できるようになる。 ・現代日本における犯罪・非行の現状について理解できるようになる。 ・犯罪・非行に対処するための社会的制度について理解できるようになる。		
準備学習	指定した教科書の該当する章を事前に読んでおくこと。		

受講者への要望

・各回の最初に用紙を配布するので，質問や感想，意見等を記入し提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。
・配布した資料はよく目を通してほしい。

講義の順序とポイント

01.はじめに〜犯罪・非行心理学を学ぶにあたって
02.犯罪・非行研究の基礎理論
03.犯罪・非行の個別的要因①パーソナリティ要因
04.犯罪・非行の個別的要因②発達障害
05.非行と家族関係
06.犯罪・非行と学校・職場・地域
07.エビデンスに基づく評価と介入
08.前半授業の補足と前半授業の到達度の確認
09.犯罪・非行の心理臨床の基礎
10.犯罪者・非行少年の処遇システム
11.犯罪者・非行少年のアセスメント
12.犯罪・非行の治療教育
13.犯罪被害者の精神的被害
14.犯罪・非行の心理学の課題と展望
15.後半授業の補足と後半授業の到達度の確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J50792401
科目名	臨床心理学実習	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	描画や箱庭を実際に体験することを通して、イメージを介した心理療法について学ぶ。		
教材（テキスト）	配布資料あり。		
教材（参考文献）	実習の中で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（50%） レポート（50%）		
到達目標	「表現」をキーワードとする心理療法の基礎を正しく理解する。		
準備学習	積極的に参考文献などに目を通しておくこと。		

受講者への要望

実習は専門的に高度な内容であるため、心して受講すること。

講義の順序とポイント

実習の具体的な運営方法は、受講生の人数によって変わるので、受講生と相談の上で決定する。

1　オリエンテーション
2　言語連想実験―実習
3　描画法―バウム、風景構成法―実習
5．6．描画法の理解
7．箱庭療法とは
8～12．箱庭―実習
13．14　箱庭療法の理解
15　表現療法のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50792402
科目名	臨床心理学実習	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングの技法は厳密にはカウンセリングの理論の数だけあると言えるし、またその修得には長い年月とエネルギーを要する。従って一人前のカウンセラーとして活動できるようになるためには相当の訓練が必要であり、それにともなう知識も重要になってくる。 ただ、あらゆるカウンセリング・心理療法の技法の基礎となるのは、ロジャーズの三原則に基づいた応答技法であると考えられるので、本実習においては、ロールプレイやその逐語録の分析を通して、カウンセリング的応答の基礎的訓練を行なう。 また、その時にはカウンセラー自身の応答パターンの分析も必要であり、受講者の心の動きにも注意を向けながら実習を行なう。		
教材（テキスト）	実習内容については、適宜プリントを配布する。但し、臨床心理学Ⅱおよびカウンセリング論で使用しているテキストは、各自準備しておくこと。		
教材（参考文献）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業中の発表・平常点　５０％　及び　レポート　５０％		
到達目標	心理面接の基本を学習し、カウンセリング的応答ができるようになることを目標とする。		
準備学習	臨床心理学Ⅱの教科書を再読し、ロジャーズのカウンセリング理論を復習すること。 ロールプレイの実施とその検討が中心となるので、その実施が可能であるように、ロール設定・応答練習などを実習すること。		
受講者への要望			
各人に科せられた課題について、積極的に取り組むこと。臨床心理学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ｂ、カウンセリング論の単位取得済みであることが必要。			
講義の順序とポイント			
１～３　カウンセリングの基礎 ４～６　ロールプレイ　　1 ７～8　結果の検討および討論 ９～12　ロールプレイ　2 13～14　結果の検討及び討論 15　総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J50792403
科目名	臨床心理学実習	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	「専門ゼミＢ」を補完する授業として位置づけるので、講義概要の大部分は「専門ゼミＢ」と同様である。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント類を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった実習について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講者への要望

提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。

講義の順序とポイント

１．臨床心理学の技法実習①
２．同②
３．与えられた具体的テーマについてのプレゼンテーション①(3～4 名グループ、以下同様)
４．同②
５．同③
６．同④
７．同⑤
８．同⑥
９．同⑦
１０．同⑧
１１．同⑨
１２．同⑩
１３．同⑪
１４．同⑫
１５．臨床心理学の技法実習③
※これらの内容や順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50792404
科目名	臨床心理学実習	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	実習を通して他者と関わり、自分を知ることを目標とする。心理療法の実習そのものだけではなく、それを体験し、振り返り、自分について考えることや、他者に意見や気持ちを伝えることも学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、レポート、自分なりのテーマをもち、自主的に学ぼうとする姿勢などの総合評価		
到達目標	実習を通して自分について理解を深める。自分が何を感じたか、どのように分析できるか、など考えることの訓練も目指す。		
準備学習	心理療法について多くの文献に接すること		
受講者への要望			
自主的に学ぼうとする姿勢を大切にして下さい。レポートなどの自主的な提出や、積極的に学ぶ姿勢を評価します			
講義の順序とポイント			
1、オリエンテーション 2、バウムテスト、風景構成法 3、事例・グループでの討論 4、箱庭 5、事例・グループでの討論 6、コラージュ 7、グループでのコラージュ 8、言語連想 9、言語連想分析 １０、スクイグル １１、事例・グループで討論 １２、プレイセラピー １３、事例を読む １４、夢について　事例を読む １５、実習をふりかえって			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50792501
科目名	コミュニティ社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大橋　松行	旧科目名称	
講義概要	今日、グローバル化、リスク社会化、第二の近代化など、社会が大きく変化している。このような社会の大きな変化に伴い、コミュニティのあり方もさまざまな変化が生じてきている。特に日本では、少子・高齢社会の到来によってコミュニティの衰退や崩壊がいわれ、他方では、まちづくりを担う人びとによるコミュニティの復活や再生がクローズアップされている。地域の防災や防犯、育児や介護に関して、コミュニティの必要性が主張されている。本講義ではこうしたコミュニティの現実を踏まえつつ、コミュニティの基本的な考え方について論じるとともに、現実の具体的なコミュニティの様態についても言及する。実際に地域コミュニティと関わりながら調査研究を進めるために必要な知識の習得を念頭に置いて講義を進めていく。		
教材（テキスト）	使用しない。各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	増田寛也編著『地方消滅』中央公論新社、820 円＋税 山崎亮著『コミュニティデザインの時代』中央公論新社、860 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業中に課す小レポート（50%）、定期テスト（50%）。		
到達目標	1．現代コミュニティのあり方に関して社会学の観点から具体的な現実を解明し、理解することを目標とする。 2．コミュニティへの関心を深め、コミュニティの将来と自己の将来とを結びつけて考えることができることを目標とする。		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献 2 冊を読み、学期中に内容を理解する。		

受講者への要望

受講生の当該授業への興味・関心を深めてもらえるようなテーマを取り上げて話をする予定なので、自身が住む地域コミュニティでの出来事に常に目を向けるよう心がけてほしい。

講義の順序とポイント

1．コミュニティを考える社会学的視点：行為、関係性、構造、自己、日常生活世界など
2．「現代コミュニティ」とは何か：コミュニティの概念など
3．少子・高齢社会の現実：三大都市圏、消滅可能性都市など
4．コミュニティの衰退と再生：コミュニティの変容など
5．二十一世紀のコミュニティの現実：コミュニティの福祉化、グローバル化、情報化など
6．都市社会における地域構造・空間構造の変容：社会地図、シカゴ学派、都心再利用など
7．都市コミュニティにおける人間関係：都市的相互作用など
8．変化するコミュニティデザイン：ハード整備のコミュニティデザイン、ハード整備を前提としないコミュニティデザインなど
9．地方都市中心市街地の再生：中心市街地の衰退、まちづくりを担う人びとなど
10．コミュニティ活動の担い手：住民組織（町内会、自治会）など
11.住みよいコミュニティのイメージ①：防災・防犯、絆・結びつきなど
12．住みよいコミュニティのイメージ②：医療・福祉・介護、子育て・教育など
13．コミュニティ文化：都市の祭り、農村の祭りなど
14．コミュニティ・メディアとコミュニティ・コミュニケーション：コミュニティ FM 放送、CATV など
15．情報コミュニティと地域コミュニティ：電子コミュニティなど

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50792601
科目名	情報環境論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	現代の情報環境をつくる多様なメディアを通じたコミュニケーションが人びと（オーディエンス）にどのようにうけとめられ、その意識や行動にどのような影響を与えるか、そして、さまざまな送り手がそれらを考慮しつつどのようにコミュニケーションを組み立てるかを考察していく。ニュースや芸術作品、広告表現などのマスメディアを通じたマクロな過程、SNS などを通じたマスや小集団における過程の双方を取り扱う。身の回りの情報環境の分析や、メディア・メッセージの批判的解読、簡易な制作体験を通じた送り手の活動の理解など、具体的な題材を通じてこれらを考えていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	石田英敬『大人のためのメディア論講義』、筑摩書房（ちくま新書）、2016 年 日本応用心理学会企画、浮谷秀一・大坊郁夫編『現代社会と応用心理学 5　メディア』、福村出版、2015 年 ダニエル・ブーニュー、水島久光監訳、西兼志訳『コミュニケーション学講義』、書籍工房早山、2010 年		
教材（その他）	毎回、プリントや映像を用いる。		
評価方法	授業への出席・ディスカッション：50%、課題への参加・提出：50%		
到達目標	1）社会を取り囲む情報環境やメディアのしくみとはたらきを理解し、環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有などに利用されるメディアの必要性と問題性の両面を学習する。 2）メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行い、あらゆる社会的活動に不可欠となる「他者からの理解と支持」を得るための情報発信の姿勢を持てるようにする。		
準備学習	1）テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について日頃から考える習慣を身につける。 2）あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手(媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。		
受講者への要望			
本科目は、講義、授業内課題、ディスカッションと共同作業の 3 つで成り立つ。授業の理解や発展学習のため、授業内課題を 3 ～ 4 回課し、受講者による討論や発表の機会を設ける。テーマについて高い関心をもち、積極的な発言と活動を行う意欲のある受講者を求める。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　イントロダクション：情報環境から語りかけるのは誰？ 第 2 回　メディアとは何か？：定義と範囲 第 3 回　情報とは何か？：「ニュース」を題材に 第 4 回　パブリック・メディアのはたらき（1）：環境を監視するメディア／ジャーナリズムの歴史と役割 第 5 回　課題（1）：各受講生＆グループワーク 第 6 回　パブリック・メディアのはたらき（2）：宣伝・推奨するメディア／プロパガンダ 第 7 回　ソーシャル・メディアをめぐって：SNS のはたらき／ネット炎上の実態／SNS が社会やパーソナリティを変える？ 第 8 回　産業としてのパブリック・メディア：販売モデルと広告モデル／対オーディエンス戦略／コンテンツ・ビジネス 第 9 回　課題（2）：各受講生＆グループワーク 第 10 回　情報環境をつくる：マーケティング・メディアと消費（1）消費の制御 第 11 回　情報環境をつくる：マーケティング・メディアと消費（2）ブランドと市場運営 第 12 回　情報環境をつくる：メディア・クリエイターの仕事 第 13 回　課題（3）：各受講生＆グループワーク 第 14 回　まとめ＆補足 第 15 回　今後の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J50792701
科目名	集団心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	この授業では、集団を用いた実験をいくつか体験しながら集団心理学についての理解を深める。扱うテーマは集団の意思決定、CMC（コンピュータを媒介するコミュニケーション）と FTF（対面コミュニケーション）による協同作業の効率性、集団間関係などである。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	Slack などを用いて教材・データ配布を行うほか、適宜プリントを配布する		
評価方法	平常点 40%出席状況などによる。レポート 60%		
到達目標	多くの社会現象は原因となる要因を特定できない複雑系現象である。しかし私たちは、どこかに原因となる要因やリーダーがいるという考え方に慣れているため、社会や人間に対して誤った原因を求める傾向がある。この授業は、このような因果関係の認知を脱して柔軟な視点で社会や他者を眺める視点を得ることを目的としている。		
準備学習	各講義時間中に参考資料をプリントあるいは、教員個人の教材フォルダから配布する。この資料を、次の授業までに読んで準備をしておくこと。		

受講者への要望

一般的な IT リテラシー（インターネット・PC 使用経験）を持っておくこと。
出席重視なので、遅刻、欠席のないように。
やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡をしてください。

講義の順序とポイント

1．　概論
2．　Edmodo,Slack の使い方
3．　囚人のジレンマゲーム
4．　ジレンマゲームのシミュレーション
5．　FTF 集合知実験
6．　CMC 集合知実験
7．　FTF 社会的共有認知
8．　CMC 社会的共有認知
9．　FTF　空間認知の共有
10．CMC　空間認知の共有
11．仮想空間の制作
12．人工知能ボット
13．　ゲーミニフィケーション
14．　集団間関係のシミュレーション
15．　集合知

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J50792801
科目名	伝統文化論Ａ実習（茶道）	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『茶道文化検定公式テキスト 3 級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考文献）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点 50%。授業中に課するレポート等 50%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶道を通して、幅広い総合芸術の様相の確認と異文化への理解。		
準備学習	テキストの予習、復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
茶の湯に関心のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．　伝統文化総論 ２．　日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．　同上 ４．　茶の湯入門 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　茶の湯の建築入門 ９．　　同上 １０．　同上 １１．　同上 １２．　茶の湯の庭入門 １３．　同上 １４．　同上 １５．　茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50792901
科目名	伝統文化論Ｂ実習（能楽）	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。 平安神宮の薪能を見学に行きます。		
教材（テキスト）	プリント・ＣＤなどを配布		
教材（参考文献）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加度や熱意。練習の習熟度。最後の発表会参加は必須です。薪能見学のレポート。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
準備学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いておくこと 牛若丸（源義経）の話を読んでおくこと		

受講者への要望

初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。
不安な場合は担当者に相談してください。
授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、
「芸は盗むもの」といいます。
伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、
そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。
フィールドワークとして平安神宮の薪能の見学があります。
チケット代自己負担が千円程度かかります。
たびを持っていない人は、購入費千円程度を用意して下さい。

講義の順序とポイント

1　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム
2　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半）
3　復習
4　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半）
5　薪能見学の事前学習
6　薪能の見学（フィールドワーク）
7　謡　復習・仕舞の復習
8　謡「橋弁慶」弁慶と家来のやりとり　　仕舞「鶴亀」
9　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」
１０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」
１１　練習
１２　リハーサル
１３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ
14　　同上　第二グループ
１５　同上　第三グループ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J50792A01
科目名	人文地理学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	人間は地表面を離れて生活でき得ないし、文化を生むこともできない。その意味で、人と場所の関係を探ることは極めて重要である。この人と場所の関係を探るのが人文地理学である。人文地理学ｓでは、文化の空間的特性を探る、人文地理学の５つのテーマ、文化地域、文化拡散、文化生態学、文化的相互作用、文化景観について、具体例を示しつつ概説する。また様々な学問分野との交流の具体的事例についても紹介する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	様々な文化の空間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		
受講者への要望			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。			
講義の順序とポイント			
1　人文地理学とは：文化とは 2　人文地理学の考える文化：民俗文化と大衆文化 3　近代以降の私たちの場所：sense of place　placelessness 4　文化地域：形式文化地域圏、機能文化地域、認知文化地域 5　文化拡散：拡大拡散：伝染的拡散、階層的拡散、刺激的拡散・移転拡散 6　文化生態学：環境決定論、可能論 7　文化生態学：環境知覚、平安京の意思決定、三輪山の知覚と文化拡散、地理的空間知覚の概念図、メンタルマップ 8　文化的相互作用：社会科学、人文主義地理学、economic man、賢者の贈り物、 9　人文主義地理学：貴船の本地、天狗の内裏、一条戻橋、妖怪研究 10　伝統文化と大衆文化の継承性：大統領選挙、フォークソング、ビートルズ、ケルト 11　文化景観：景観を読む（解釈学的分析） 12　東南アジアの都市景観を読む：都市記号論、都市プラン 13　民話の文化地域、文化拡散、文化生態学、文化統合、文化景観 14　民俗文化と大衆文化の景観、sense of place, placelessness、映画の文化景観 15　生命としての風景：アニメーションの文化景観、クールジャパンとは		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50792B01
科目名	人文地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	近年の学際的な人文地理学の動向に目を向ける。特に行動科学、心理学、社会学、歴史学、文化研究、文化人類学、民俗学との接点を持つ、行動地理学や人文主義地理学の方法論に焦点を当てる。そしてこれらの方法論を使うことによって、どのような研究が出来るのかを具体例をもって示す。特に本講義では、空想の場所と現実の場所の関係を、内外の具体的事例を示し、人文地理学の可能性についても模索していく。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	化の空様々な文間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		

受講者への要望

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。

講義の順序とポイント

1　民話とは、神話・伝説・昔話、民話の地理学（人文主義地理学・環境知覚研究）
2　研究の集大成としての文化景観、ログハウスとニューヨークの摩天露、狂気の景観、
3　昔話の感覚地理：鬼の鼻、心のなかの景観、視覚以外の感覚世界、無意識
4　大工と鬼六、大工と鬼六の分析、地理学的意義、聴覚を使う場所の世界的共通点
5　山姥の口、グレート・マザー、食わず女房
6　昔話と心のなかの景観：奈良梨採り
7　映画エイリアンと心のなかの景観：「原初の卵」「原風景」、リプリーのアニムス
8　宇宙空間とジャングル、母殺しのテーマ、リプリーの自己実現
9　心と交流する景観、通過儀礼との類似点、池田の民話とサウンドスケープ
10　昔話の触覚地理：木の知恵、二人の旅人、感覚地理学と触覚地理
11　世界樹で首を吊る、瞬間の風景、神聖甲虫、科学の知と神話の知
12　昔話の原風景：瞬間の風景（DEF の野原）、プロップの構造分析、野原の聴覚地理
13　野原の聴覚地理、立ち帰りたい場所、
14　実在する原風景、池田の民話と原風景
15　『ツインズ』と二人の旅人：昔話と映画の空間移動

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50793001
科目名	伝統文化論Ａ（茶道）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『茶道文化検定公式テキスト 3 級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考文献）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点 50%。授業中に課するレポート等 50%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶道を通して、幅広い総合芸術の様相の確認と異文化への理解。		
準備学習	テキストの予習、復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
茶の湯に関心のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．伝統文化総論 ２．日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．同上 ４．茶の湯入門 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．同上 １１．同上 １２．茶の湯の庭入門 １３．同上 １４．同上 １５．茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50793101
科目名	伝統文化論Ｂ（能楽）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、１２月１０日（日）に行われる能の催しを見学する。		
教材（テキスト）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考文献）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト 能見学レポート		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
準備学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		

受講者への要望

毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。
能見学のチケット代が自己負担千円程度必要です。
１２月１０日（日）はフィールドワークなので午後の予定を空けておくこと。

講義の順序とポイント

1　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい
2　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る
3　「道成寺」後半を見る
4　能面のいろいろ
5　能「鉄輪」と『陰陽師』
6　能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼
7　フィールドワーク事前学習
8　フィールドワーク能の見学（12 月 10 日（日）午後）
　　（都合がつかない人は別の日の公演を代用します）
9　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇
１０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓
１１「松風」伊勢物語と能
１２　「海士」玉取り伝説と能
１３「邯鄲」中国の伝説と能
１４　「靱猿（うつぼざる）」の狂言

１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50793202
科目名	経済学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 125 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の続篇として、秋学期の経済学概論Ｂの授業では、マクロ経済理論について講義する予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	講義の前には必ず教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		

受講者への要望

講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、経済学は各章末の復習問題や応用問題を解く中で理解が深まるので、宿題を必ずやってきて授業で回答の説明を聞くこと。

講義の順序とポイント

1. 経済学の十大原理　＜教科書第 1 章＞
2. 経済学者らしく考える　＜教科書第 2 章＞
3. グラフの用法： 概観　＜教科書第 2 章付論＞
4. 相互依存と交易（貿易）からの利益　＜教科書第 3 章＞
5. 比較優位の原理　＜　〃　＞
6. 市場と競争、需要と供給　＜教科書第 4 章＞
7. 市場における需要と供給の作用　＜　〃　＞
8. 政府の政策（価格規制）　＜教科書第 5 章＞
9. 政府の政策（税金）　＜　〃　＞
10. 弾力性　＜教科書第 5 章付論＞
11. 消費者余剰と生産者余剰　＜教科書第 6 章＞
12. 市場の効率性　＜　〃　＞
13. 税と効率・公平　＜教科書第 6 章付論＞
14. 外部性と市場の非効率性　＜教科書第 7 章＞
15. 外部性に対する公共政策・コースの定理　＜　〃　＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50793301
科目名	宗教学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	「宗教学入門」をテーマに講義を行う。総論と各論に分けて講義を展開するが、総論では「宗教」の概念や性格を論じ、各論では世界の諸宗教のいくつかについて簡単に紹介する。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、クラス内でコメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となる。積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―あなたは宗教をどのようにイメージしているか
2．総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
3．総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか。
4．総論Ⅲ　宗教の構造と機能
5．総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
6．総論Ⅴ　宗教における祈りと修行について
7．総論Ⅵ　宗教は人間と世界をどのように見てきたか
8．各論Ⅰ　世界の三大宗教―キリスト教の歴史・それは西欧文化のもとになった
9．各論Ⅱ　世界の三大宗教―イスラーム（その１）・アッラーはユダヤ・キリストの神と同じ！？
10．各論Ⅲ　世界の三大宗教―イスラーム（その２）・スンナ派とシーア派はなぜ生まれた？
11．各論Ⅳ　世界の三大宗教―仏教・釈迦とその後の展開―
12．各論Ⅴ　日本の仏教ー神仏関係の展開
13．各論Ⅵ　日本の新宗教概説
14．各論Ⅶ　世界で起こっていることを宗教をキーワードに考える
15．まとめ　人は宗教とどのように向き合うべきか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50793401
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	質的調査は他者理解の優れた方法のひとつです。調査者が調査される人々とコミュニケーションを取りながら、その内側に入って行き、その豊かな世界を共に味わうことができるからです。とはいうものの、質的調査の作品は文学作品ではありませんから、どこかで客観性が担保されなければなりません。本講義では社会科学の方法論としての質的調査のあり方を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査を実施しそれを作品に仕上げるまでの具体的な方法についても教授します。受講生の皆さんは実際に調査を行い、その成果を作品として提出しなければなりません。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	提出物（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	質的調査を実施し,それを作品に仕上げる。		
準備学習	他者への感受性をあげておく。毎回課題が課されるので、それを次回までにしておくこと。		

受講者への要望

提出された作品の評価は、全講義出席の前提のもとに行います。講義を欠席する場合は、その講義の内容を、自分自身でフォローしておくことが必要です。

講義の順序とポイント

１質的調査　質的調査の特徴と代表的な質的調査の方法について概括する
２ライフヒストリー　クラスメイトのライフヒストリーを聞き取り、それを記述する。
３ライフヒストリー　方法論としてのライフヒストリーを考える。
４ライフヒストリー　代表的なライフヒストリーの作品を読む。
５ライフヒストリー　前回の作品をグループ毎に検討し、次の作品へのインタビュー計画を個々に立てる。
６フィールドワーク　人類学的なフィールドワーク方法について概括する。
７フィールドワーク　人類学的手法によるモノグラフを読む。
８フィールドワーク　民俗学的なフィールドワークについて概括する。
９フィールドワーク　民俗学的手法による民族誌を読む。
１０フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画する。
１１聞き手と語り手　インタビュー調査やフィールドワークにおける聞き手と語り手の権力関係について考える。
１２ライフヒストリー作品の作成　インタビュー済みの資料をライフヒストリー作品にまとめる。
１３モノグラフの作成　フィールドで得た資料をモノグラフに記述する。
１４日本におけるフィールドワークの歴史
１５作品合評会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J50793501
科目名	社会学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50793601
科目名	社会学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50793702
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「メディアと社会」を大学で学ぶための入門的講義である。時間や空間を越えて、より多くの人たちとの、音や映像等さまざまなメディアを用いたコミュニケーションの、これまで／これからを具体的な事例を基に考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション： 02　メディアとは 03　過去／未来の人とのコミュニケーション（1） 04　過去／未来の人とのコミュニケーション（2） 05　遠くの人とのコミュニケーション（1） 06　遠くの人とのコミュニケーション（2） 07　多くの人たちとのコミュニケーション（1） 08　多くの人たちとのコミュニケーション（2） 09　映像を見る／読む（1） 10　映像を見る／読む（2） 11　音を聴く／音を視る（1） 12　音を聴く／音を視る（2） 13　メディアのリテラシーとは（1） 14　メディアのリテラシーとは（2） 15　メディアのリテラシーとは（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50793703
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「メディアと社会」を大学で学ぶための入門的講義である。時間や空間を越えて、より多くの人たちとの、音や映像等さまざまなメディアを用いたコミュニケーションの、これまで／これからを具体的な事例を基に考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション： 02　メディアとは 03　過去／未来の人とのコミュニケーション（1） 04　過去／未来の人とのコミュニケーション（2） 05　遠くの人とのコミュニケーション（1） 06　遠くの人とのコミュニケーション（2） 07　多くの人たちとのコミュニケーション（1） 08　多くの人たちとのコミュニケーション（2） 09　映像を見る／読む（1） 10　映像を見る／読む（2） 11　音を聴く／音を視る（1） 12　音を聴く／音を視る（2） 13　メディアのリテラシーとは（1） 14　メディアのリテラシーとは（2） 15　メディアのリテラシーとは（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50793801
科目名	経済学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 125 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、今学期の経済学概論 B から履修した学生は、来年度春学期に開講される経済学概論 A（ミクロ経済理論）を履修されたい。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学 II マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にマクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	講義の前には必ず教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、経済学は各章末の復習問題や応用問題を解く中で理解が深まるので、宿題を必ずやってきて授業で回答の説明を聞くこと。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理 ＜教科書第 1 章＞ 2. 国民所得の測定（国内総生産：GDP） ＜教科書第 8 章＞ 3. 実質 GDP と名目 GDP ＜ 〃 ＞ 4. 生計費の測定（消費者物価指数） ＜教科書第 9 章＞ 5. インフレーションの影響の補正 ＜ 〃 ＞ 6. 経済成長と生産性 ＜教科書第 10 章＞ 7. 経済成長と公共政策 ＜ 〃 ＞ 8. 失業 ＜教科書第 10 章付論＞ 9. 貯蓄、投資と金融システム ＜教科書第 11 章＞ 10. 貸付資金市場 ＜ 〃 ＞ 11. 貨幣システム ＜教科書第 11 章付論＞ 12. 貨幣の需給とｲﾝﾌﾚｰｼｮﾝの古典派理論 ＜ 〃 ＞ 13. 総需要と総供給 ＜教科書第 12 章＞ 14. 経済変動の二つの原因 ＜ 〃 ＞ 15. 開放マクロ経済学：基本概念 ＜教科書第 13 章＞			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50793A01
科目名	考古学概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための大事な手助けとなる学問である。過去に日本のさまざまな分野に大きな影響を与えた中国の考古学的な状況を知ることもその大事な一部となる。この講義では中国の考古学的な通史に対する理解を身につけることを目的として、その歴史的発展を考えてゆく。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	西江清高ほか『中国の考古学』（世界の考古学７、１９９９年、同成社）		
教材（その他）	毎回、教材プリントを配布する。授業はこのプリントに沿って行う。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	江戸時代以前において、日本の歴史・文化遺産に大きな影響を与えた中国の歴史・文化遺産を考古学的に理解できるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードを２・３提示するので、参考文献などを用いて、その基本的意味内容を調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
1.　中国の歴史の概説 2.　旧石器時代　　北京原人と周口店遺跡 3.　新石器時代１　　華北の彩陶文化の発達 4.　新石器時代２　　華中の河姆渡遺跡と稲作文化 5.　殷周時代１　　殷の城壁都市と王墓 6.　殷周時代２　　西周の周原遺跡と青銅器 7.　春秋戦国時代　　貨幣経済の発達 8.　秦漢時代１　　秦の始皇帝 9.　秦漢時代２　　前漢の都・長安と皇帝陵 10. 魏晋南北朝時代１　　魏晋の都城と城坊制都市 11. 魏晋南北朝時代２　　仏教の伝来と石窟寺院 12. 隋唐時代１　　国際都市・長安と陵墓の構造 13. 隋唐時代２　　唐三彩と大運河の物資輸送 14. シルクロードの考古学（中国の海外交流） 15. 明・清時代の故宮と皇帝陵（古代の都城・陵墓との比較）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50793B01
科目名	考古学概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための手助けとなる。その基礎の上に今の日本がある。この講義では主に奈良時代以前の日本の政治・経済・文化の様相に対する理解を身につけることを目的として、日本の歴史的発展を考えてゆく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。毎回、教材プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「日本の古代遺跡」４（奈良飛鳥）、同７（奈良北部）（保育社刊、２００５年）		
教材（その他）			
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	古代において文字通り日本の中心であった奈良（大和の国）の時代的発展を考古学的に理解することを通して、我々日本人の現在の立ち位置を理解できるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードを２・３提示するので、参考文献などを用いて、その基本的意味内容を調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものは、他の学生の妨げとなるので退室を求める。			
講義の順序とポイント			
1.　大和（奈良）の歴史概説 2.　大和（奈良）の地理・交通路 3.　旧石器時代・縄文時代 4.　弥生時代・古墳時代前期 5.　古墳時代中期・後期 6.　古墳時代特論（纏向遺跡） 7.　飛鳥時代１ー　宮殿・苑池遺跡 8.　飛鳥時代２－　飛鳥寺・水落遺跡 9.　飛鳥時代３－　高松塚古墳・キトラ古墳 10. 飛鳥時代４－　飛鳥の石造物 11. 藤原京の時代 12. 奈良時代１ー平城京 13. 奈良時代２ー東大寺大仏の建立 14. 奈良時代３－正倉院宝物 15. 奈良時代４－シルクロードと遣唐使			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50794A01
科目名	社会心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説します。社会心理Ⅰでは主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講者への要望

基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。

講義の順序とポイント

講義の順序とポイント
数字は、教科書の章番号を示しています。

第 1 回 概論
第 2 回 感情と記憶
第 3 回 認知心理学の基礎
第 4 回 対人認知
第 5 回 推論
第 6 回 自己概念
第 7 回 自己評価
第 8 回 動機
第 9 回 表情判断
第 10 回 非言語的コミュニケーション
第 11 回 説得的コミュニケーション
第 12 回 態度
第 13 回 マインドコントロール
第 14 回 対人関係
第 15 回 レポート指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50794B01
科目名	社会心理学II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理IIでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（テキスト）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	周辺諸科学の幅広い知識を得ながら、人間と社会を理解することを目指す。その中ではじめて社会心理学の基本的概念は生きるものとなる。		
準備学習	パワーポイントを京学なびから配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に教科書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講者への要望			
基本的概念を理解するために、教科書は各自で読んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
第1回　状況の力 第2回　攻撃性と援助行動 第3回　社会的影響 第4回　集団の意思決定 第5回　集団過程 第6回　リーダーシップ 第7回　社会的アイデンティティ 第8回　社会的共有認知 第9回　ジレンマ状況 第10回 集合現象 第11回 メディア 第12回 ネットワーク 第13回 インターネット 第14回 文化と進化 第15回 レポート指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50795101
科目名	歴史地理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学 B では、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学 B では、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考文献）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教材（その他）	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分 2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀 3　象徴化される生き物－オシリスの冥界： 4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩 5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星 6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語 7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景① 8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景② 9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水 10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈 11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理 12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ 13　日本の洪水神話－失われた伝承 14　平安京の神話空間－疫病の神の登場 15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50795A01
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんと考えたい。社会福祉論Ⅰでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	テキストはなし。 テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
教材（参考文献）	教材（参考文献） 「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011）		
教材（その他）	その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、　出席を重視。		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		
受講者への要望			
社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。　現在、世間で起こっている社会福祉の問題を題材に取り上げ、授業を進めていきます。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　障がいを持って生きるということ ３　社会保障と社会福祉① ４　社会保障と社会福祉② ５　社会保障・社会福祉の動向 ６　社会保障制度の諸問題① ７　社会保障制度の諸問題② ８　ゲストスピーカーの講義① ９　社会保障制度の諸問題③ １０ 社会保障制度の諸問題④ １１ ゲストスピーカーの講義②			

１２　社会福祉制度の諸問題①
１３　社会福祉制度の諸問題②
１４　社会福祉制度の諸問題③
１５　社会福祉制度の諸問題④

※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J50795B01
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、ノーマライゼーション、バリアフリー、障害者運動及び自立生活の展開、虐待など、高齢者・障害者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんとともに考えたい。社会福祉論Ⅱでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	テキストはなし。 テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
教材（参考文献）	「障害者福祉の世界」（第５版）　佐藤久夫・小澤温　有斐閣アルマ（2016 年） 「社会福祉記事ワークブック」　松井圭三・今井慶宗　大学教育出版（2016 年）		
教材（その他）	その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、　出席を重視。		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		
受講者への要望			
社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。　現在、世間で起こっている社会福祉の問題を題材に取り上げ、授業を進めていきます。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　障害者福祉の諸問題①　障害者差別 ３　障害者福祉の諸問題②　障害者運動の展開 ４　障害者福祉の諸問題③　バリアフリーとまちづくり ５　障害者福祉の諸問題④　障害者運動の到達点 ６　障害者福祉の諸問題⑤　障害者の恋愛と性 ７　障害者福祉の諸問題⑥　優性思想と強制不妊手術 ８　ゲストスピーカーの講義① ９　障害者福祉の諸問題⑦　障害者の就労① １０　障害者福祉の諸問題⑧　障害者の就労② １１　ゲストスピーカーの講義② １２　高齢者福祉の諸問題①介護保険制度 １３　高齢者福祉の諸問題②介護問題 １４　高齢者福祉の諸問題③貧困			

１５　高齢者福祉の諸問題④その他

※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50796A01
科目名	心理統計学 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等の統計分析結果を読むことができる能力を養成する。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50796B01
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたの学習を進める。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理の解説を行う。		
教材（テキスト）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	毎回プリントを配布		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
準備学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。
授業には電卓を準備すること。
講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的な授業への参加を期待する。
毎回，学習内容を確認するための課題を出題する。

講義の順序とポイント

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定
15. 学習した手法についての整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J50797A01
科目名	発達心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　年晶	旧科目名称	
講義概要	ヒトは誕生後，母子関係を中心として，徐々に世界を広げていく。その中で，認知や感情，社会性等，人間が生きていくために必要な基礎的能力を獲得していく。人間発達の成長にとって初期の経験がどのような意味を持つのだろうか。本講義では，胎児期から児童期までの発達について，理論や研究を通して，科学的な視点から理解を深める。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%），期末試験（60%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，胎児期から児童期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る		
準備学習	毎回講義の初めに，前回の講義内容に関する小テストを行いますので，各自で復習をしておいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席をしてください。また，遅刻や私語は厳禁とします。遅刻の場合，その理由を求めます。私語が過ぎれば，他の受講者への迷惑を勘案し，退出を求める場合もあります。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　胎児期・新生児期
3　乳児期の発達と愛着の形成
4　乳児期の知覚発達
5　乳児期の身体発達
6　乳幼児の認知能力①言語の発達
7　乳幼児の認知能力②ピアジェ理論
8　乳幼児の認知能力③ポストピアジェ理論
9　乳幼児の感情発達
10 乳幼児の社会性発達
11 乳幼児の道徳性発達
12 児童期の発達と仲間関係
13 学校への適応と心の問題
14 子どもの発達障害
15 講義内容の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50797B01
科目名	発達心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　年晶	旧科目名称	
講義概要	かつては，子どもが大人になるまでの成熟過程が発達であると考えられ，成人期以降の発達については重視されてこなかった。しかし，今日，乳幼児期や児童期だけでなく，高齢期までの発達に着目した，いわゆる「生涯発達」の視点が重視されている。特に思春期以降は，子どもたちが過ごす生活範囲や重視する人間関係が家庭外へと広がり，自立した人間として成長していく重要な時期に当たる。また，高齢期でも喪失や機能の低下だけではなく，新たに獲得する心理的機能の存在が明らかにされつつある。本講義では，青年期から高齢期までの発達に着目し，身体的・認知的発達，社会関係の形成やサクセスフル・エイジングまで幅広く理解することを目的とする。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内の小テスト等による平常点（40%），期末試験（60%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，青年期から高齢期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る。		
準備学習	毎回講義の初めに，前回の講義内容に関する小テストを行いますので，各自で復習をしておいてください。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席をしてください。また，遅刻や私語は厳禁とします。遅刻の場合，その理由を求めます。私語が過ぎれば，他の受講者への迷惑を勘案し，退出を求める場合もあります。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション 2　青年期の身体的変化と自尊感情の発達 3　育児スタイルと青年期発達 4　エリクソンの人格発達理論 5　青年期の発達課題とアイデンティティ 6　青年期における他者との親密な関係（1） 7　青年期における他者との親密な関係（2） 8　青年期と摂食障害 9　青年の自立と職業選択 10　中年期の危機 11　高齢期の生物的加齢 12　高齢期の心理的加齢 13　高齢期の社会関係 14　高齢期の適応 15　講義内容の復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50798A01
科目名	東洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
講義概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を社会経済史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる日本との対比・関係を重視する。		
教材（テキスト）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず参照すること。 岡本隆司『近代中国史』ちくま新書（2013 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教材（参考文献）	岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会（2013 年） 岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績によって、評価をくだす。試験は論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
準備学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		
受講者への要望			
教科書・参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。			
講義の順序とポイント			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：公権力と社会 第３回：古代中世のアジア史――遊牧世界と農耕世界 第４回：二元的世界の形成――江南の開発と唐宋変革の世界史的意義 第５回：14 世紀の危機と明朝の世界史的位置 第６回：明から清へ――「近世」日本との対比 第７回：マクロな社会経済動向 第８回：19 世紀の転換 第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本） 第１０回：動乱の時代と社会構成の変化 第１１回：「督撫重権」――アジアからの視点と国民国家と対比 第１２回：「洋務」の時代――日本・西アジアとの比較 第１３回：国民経済へ向かって 第１４回：産業革命と「黄金時代」――第一次大戦前後 第１５回：戦争と革命			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50798B01
科目名	東洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
講義概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を政治外交史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる朝鮮・日本との関係を重視する。		
教材（テキスト）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず参照すること。 岡本隆司『李鴻章』岩波新書（2011 年） 岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史』講談社選書メチエ（2008 年）		
教材（参考文献）	岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績によって、評価をくだす。試験は論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
準備学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		
受講者への要望			
教科書・参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。			
講義の順序とポイント			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：「東アジアにおける古代の終末」――東アジア世界の特質と西アジア・中央アジア 第３回：多元化のアジア――宋・遼・金とイスラーム世界 第４回：モンゴル帝国の「混一」と「蒙古襲来」の位置づけ 第５回：14 世紀の危機と秩序の再編――「朝貢システム」とティムール・オスマン 第６回：大航海時代――16 世紀の世界 第７回：日本と満洲族の興起――17 世紀の北東アジア 第８回：清朝と徳川の平和――18 世紀の東アジアとイスラーム世界の危機 第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本） 第１０回：日清修好条規と日朝修好条規 第１１回：台湾出兵と琉球処分――西アジアとの比較 第１２回：李鴻章と対外関係――グレート・ゲームのなかで 第１３回：日清戦争――東アジアの分水嶺 第１４回：変法・反動・列強 第１５回：日露戦争から革命へ――アジアの変貌			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50799A01
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアの人口と身分構成 ３．古代ギリシアの奴隷と社会（１） ４．古代ギリシアの奴隷と社会（２） ５．犯罪と刑罰（１） ６．犯罪と刑罰（２） ７．犯罪と刑罰（３） ８．動物裁判（１） ９．動物裁判（２） １０．動物裁判（３） １１．新大陸の征服史（１） １２．新大陸の征服史（２） １３．新大陸の征服史（３） １４．近代奴隷貿易の展開（１） １５．近代奴隷貿易の展開（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50799B01
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアにおける女性と社会 ３．古代ギリシアにおける女性の財産権 ４．古代ギリシアにおける女性の地位 ５．疫病の歴史（１） ６．疫病の歴史（２） ７．疫病の歴史（３） ８．「流行」と社会（１） ９．「流行」と社会（２） １０．「流行」と社会（３） １１．近代世界システムの理論の概要（１） １２．近代世界システムの理論の概要（２） １３．近代世界システムの成立史（１） １４．近代世界システムの成立史（２） １５．近代世界システムと奴隷制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J50800101
科目名	心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（その他）	各実験課題に資料を配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。		
準備学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講者への要望

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

講義の順序とポイント

心理検査法，面接法（担当：久保・服部・福田・富永）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・服部・福田・富永）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・服部・福田・富永）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①
第 13 回　社会：社会的認知②
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50800201
科目名	心理学基礎実験 B（実践プロジェクト B）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（テキスト）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（参考文献）			
教材（その他）	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
準備学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		
受講者への要望			
出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。 授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。			
講義の順序とポイント			
質問紙調査法　（担当：　伊原・服部・福田・富永） 第１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成 第２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施 第３回：予備調査２：結果の分析 第４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施 第５回：本調査２：結果の分析 実験法　（担当：　有馬・服部・福田・富永） 第６回　社会　：感情錯誤帰属の実験 第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果 第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果 第９回　生理①　：α 波減衰実験 第１０回　生理②　：α 波減衰実験 臨床実習　　（担当：川畑・服部・福田・富永）			

第１１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習 第１２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。 第１３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。 第１４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。 第１５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50800301
科目名	教育社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学 s
講義概要	教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつそれの要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを発する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。 本講義では超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端を紹介する。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	作田啓一『三次元の人間 ― 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして ― 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。		
準備学習	各自が最も生き生きとした実感をもつのはどんな時か、そのような実感と教育との関係について考えてみること。		

受講者への要望

出席した以上は、私語を慎んでほしい。

講義の順序とポイント

1. 社会化と超社会化(1)
2. 社会化と超社会化(2)
3. 自己境界の拡大と溶解(1)
4. 自己境界の拡大と溶解(2)
5. 自己境界の拡大と溶解(3)
6. 主体－客体関係の三類型(1)
7. 主体－客体関係の三類型(2)
8. 主体－客体関係の三類型(3)
9. 生命感について(1)
10. 生命感について(2)
11. 定着と生成(1)
12. 定着と生成(2)
13. 自己意識論(1)
14. 自己意識論(2)
15. 現代社会における教育の諸課題
16.定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50800401
科目名	現代社会論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	人々の生活と心理に大きな影響を与える現代社会の諸側面、特にその問題点について講じる。個人の心理をよりよく理解するためには、その個人が生きている社会の実情･問題点を把握しておくことが必要である。この講義ではそれらについて講義する。 また、それらの理解に役立つので、その時々の時事問題についても解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代日本社会の問題について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2．経済的格差と貧困
3．子どもの貧困
4．母子家庭の経済的弱者性
5．非正規雇用
6．少子高齢化
7．医療制度
8．健康保険制度
9．財政
10．税制
11．食糧自給率
12．食品添加物
13．グローバリゼーション
14．監視社会・管理社会
15．現代社会についての考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50800A01
科目名	日本史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	日本の古代から中世後期にいたる歴史の展開を、近年の歴史研究の達成を踏まえ、政治史を中心に文化・社会の諸方面にわたって考察する。特に文化や意識が歴史に与えた影響や東アジア世界が日本の社会に及ぼした影響について、ていねいに考察したい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業で毎回実施する小テスト（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	・日本の古代中世についての最新の歴史の見方を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.なぜ歴史を学ぶのか？ 2.東アジアと古代朝廷 3.平安前期の朝廷 4.平安京の光と影 5.中世は武士の時代か 6.王朝国家体制 7.中世王権の登場 8.荘園公領制の成立 9.平氏政権と『平家物語』 10.鎌倉幕府の成立 11.大殿九条道家と将軍九条頼経 12.仏教革新運動の登場 13.モンゴル襲来 14.室町幕府と東アジア世界 15.京都の文化財と戦争			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J50800B01
科目名	日本史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学で学ぶ歴史では、年号の暗記を求められたりはしません。また歴史といえば、テレビや漫画などで描かれる戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。しかし歴史は一部の有名人だけが活躍するものではありません。本講義では、主に江戸時代以降の日本史に関して、さまざまな話題をとりあげながら、歴史学の基本である、史料に基づきながら、過去の社会のありようや人々の営みを明らかにする手法を学び、当時の社会の仕組みや、その歴史の流れを把握してもらいます。		
教材（テキスト）	特に使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の感想・質問ペーパー（50%） 定期テスト（50%）		
到達目標	日本の社会や文化の歴史にかんして興味をもち、それを深く知るために、史料から歴史を読み解く歴史学の学問としての基礎を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマをみたり、近所の神社仏閣に訪れたり、普段の生活のなかで歴史を意識してみて下さい。また講義の後は必ずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。			
講義の順序とポイント			
第１回：歴史と歴史学 第２回：史料とは歴史の材料である、ということ 第３回：土のなかの戦場　―考古史料からみる島原の乱― 第４回：水戸黄門の歴史学 第５回：生類憐れみの令と〈子供〉の発見 第６回：江戸時代の教育 第７回：江戸時代の流行病とその対応 第８回：江戸時代の舞妓ハーン 第９回：歴史学と歴史創作　―新選組を事例に― 第１０回：歴史学と歴史創作　―屋根の上に鴨はいるか― 第１１回：幕末期諷刺錦絵と武鑑 第１２回：明治期の諷刺雑誌とその性格 第１３回：初詣の歴史 第１４回：この世界の片隅から歴史を読み解く 第１５回：歴史学とはなにか			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50801A01
科目名	フィールドワーク京都 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となること。		
準備学習	探訪先について、事前に文献等で調査しておくことが望ましい。		

受講者への要望

授業には交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

講義の順序とポイント

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　月日　4 月 15 日（土）
集合場所　京都学園大学京町家キャンパス
集合時間　午前 9 時
探訪場所　午前中は京都御所を見学。午後は時代装束の研究と展示を行う風俗博物館を見学。
費用　風俗博物館は入館料 300 円が必要。

第二回　月日　5 月 13 日(土)
集合場所　東山七条の京都国立博物館正門前
集合時間　午前１０時
探訪場所　京都国立博物館　開館 120 周年特別展　「海北友松」
費用　入館料 1000 円

第三回　月日　6 月１７日（土）
集合場所　未定（追って指示する）
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　比叡山延暦寺
費用　交通費。拝観料が必要な場合もある。

なお、各回とも学生証を必ず持参すること。
また、この授業では学生諸君から最大 3000 円は徴収が可能になっている。ちなみに昨年度は補助費のみでまかなえた。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50801B01
科目名	フィールドワーク京都 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となること。		
準備学習	探訪先について、事前に文献等で調べておくことが望ましい。		

受講者への要望

授業には、交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

講義の順序とポイント

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　月日　　11 月 4 日（土）
　　集合場所　百万遍交差点南東角
　　集合時間　午前 9 時 30 分
　　探訪場所　京大総合博物館　京大構内　相国寺承天閣美術館　同志社構内
　　費用　　交通費　博物館美術館入館料が必要。

第二回　月日　　12 月 2 日（土）
　　集合場所　　京町家キャンパス
　　集合時間　　午前 9 時
　　探訪場所　　黒谷金戒光明寺～黒谷会津藩士墓地～真如堂～泉屋博古館
　　費用　　泉屋博古館は拝観料が必要。

第三回　月日　　2018 年 1 月 20 日（土）
　　集合場所　京都太秦キャンパス図書館内コモンズスペース
　　集合時間　8 時 50 分
　　探訪場所　午前は宇治市源氏物語ミュージアム。午後は平等院をめぐる。
　　費用　　源氏物語ミュージアムは入館料 500 円、平等院は庭園・宝物館・阿弥陀堂見学に 900 円が必要。

　　なお、各回、学生証を必ず持ってくること。
　　また、この授業では、学生諸君から最大 3000 円の徴収が可能となっている。ちなみに、昨年度は補助費でまかなえた。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J50802101
科目名	社会意識論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じて、いろいろな「物語」を楽しんできたと思います。物語は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白かったり感動したりするのでしょうか。そこにはどんなカラクリや感情や現実が隠されているのでしょうか。 　この授業では、こちらからいろいろな物語を紹介するとともに、みなさんにも自分の好きな物語を紹介してもらいます。昔話や漫画、あるいは映画など、なんでも結構です。そして、その物語のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、その物語のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探っていきます。 　ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内小レポートなどによる平常点（40%）＋授業内での発表（30%）＋授業内小テスト（30%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の諸成果のエッセンスを学びながら、身につけること。		
準備学習	予め伝えられたテーマについて、毎回の授業内で小レポートを執筆ないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をしてください。		
受講者への要望			
授業の主役は、あなたです。授業の進行に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。また、受講者の人数によって授業の進行の仕方が変わりますので、そのつもりでいてください。			
講義の順序とポイント			
1・社会意識とは何か 2・意識と無意識について 3・無意識とその表現について 4・物語と願望 5・物語と無意識的願望 6・神話・昔話の心理学的解釈 7・社会構造の人間への精神的影響 8・社会と無意識的願望 9・現代的な物語の社会学的・心理的解釈、その1 10・現代的な物語の社会学的・心理的解釈、その2 11・個人発表、その1 12・個人発表、その2 13・個人発表、その3 14・物語のなかの人間と社会、その1 15・物語のなかの人間と社会、その2			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50802A01
科目名	文化人類学 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中谷　和人	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、長期のフィールドワーク（現地調査）を通じて他者の理解を目指す学問です。しかしここで「他者を理解する」とは、そもそもどういうことを意味するのでしょうか。この講義では、文化人類学の基本的な方法と知見をさまざまな地域／領域における具体的事例とともに学びながら、この問いを深めてゆきます。そしてそれをとおして、「他者との出会いを通じて自己自身の変容に向かう」という、文化人類学的な思考と実践のセンスを身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	教科書は使用しません。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイント、DVD を活用するとともに、適宜資料を配布します。		
評価方法	授業後の質問・感想（20%）、期末レポート（80%）		
到達目標	文化人類学の基本的な方法と知見を具体的事例とともに学ぶことで、自己と他者の世界についての当たり前を疑い、それをより深いところから捉え直すための新しい視座の獲得を目指します。同時にこの学びを、身近な出来事や自分自身の経験と結びつけて熟考し、自分のことばで人に説明できるようになることを目標にします。		
準備学習	初回の授業でキーワードを列挙するので、インターネット等で情報収集しておくこと。また、授業内で参照した文献を読み、関心を惹かれた問題についてさらに理解を深めること。		

受講者への要望

この講義では、何よりも授業後の復習を重視します。配布資料を読み返しながら授業内容を振り返り、身近な出来事や自分の体験に照らして熟考すること。この反復作業をとおして、文化人類学という学問を単に「知識」として学ぶのみならず、現在の私たちのものの考え方や生き方と密接に関わる実践的な「方法」として学ぶことを目指しています。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション
2.マリノフスキーとクラ――贈与がつくる社会関係
3.野生のナヴィゲーション――イヌイットにおける移動と動物に〈なる〉こと
4.レヴィ＝ストロースの思想（1）――〈構造〉とは何か
5.レヴィ＝ストロースの思想（2）――具体の科学としてのブリコラージュ
6.文化批判の時代へ――交渉される「文化」
7.前半のまとめ
8.生命を人類学的に考える（1）――アニミズムと拡張した心
9.生命を人類学的に考える（2）――動きが生命をつくる
10.医療を人類学的に考える（1）――医療人類学の現在
11.医療を人類学的に考える（2）――病むことの経験とケアの実践
12.芸術を人類学的に考える（1）――誰がアール・ブリュットを語るのか
13.芸術を人類学的に考える（2）――芸術の生態学に向かって
14.芸術を人類学的に考える（3）――「線」が切り開く生の新たな可能性
15.全体のまとめ――思考を強いる出会いの沃野へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2017	授業コード	J50802B01
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中谷　和人	旧科目名称	
講義概要	アルフレッド・ジェルはその遺著『芸術とエージェンシー』において、世界各地で制作されるさまざまな「芸術作品」を、従来の美学的／象徴記号学的なモデルによって考察するのではなく、社会関係をつくり媒介し変化させるその実際的な「仕事」によって定義し考察しました。この講義では、芸術の人類学にひとつの画期をなした本著作を読解しながら、現在の私たちの生に対して芸術がもたらす可能性について考えます。(受講人数によってはグループワーク形式で進めます。また、受講者は同じ担当者による「文化人類学 A」を受講しておくことが望ましい。)		
教材（テキスト）	Gell, Alfred (1998)　Art and Agency: An Anthropological Theory　Oxford University Press.（近々邦訳の予定がありますが、授業までに間に合わなければ原著と配布資料を併用します。）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを活用するとともに、適宜資料を配布します。		
評価方法	授業後の質問・感想（10%）、グループワークへの積極参加（30%）、期末レポート（60%）		
到達目標	芸術に関するステレオタイプ的な見方を脱し、それを真に創造的に思考するための新しい視座の獲得を目指します。		
準備学習	授業に際して、「芸術とは何か」という問いに自分ならどう答えるかを考えておくこと。		
受講者への要望			
この授業では、何よりも物事を創造的に考えたいという態度（熱意）を重視します。芸術に関する予備知識はあってもなくてもどちらでも構いません。			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクション――『芸術とエージェンシー』を読むために 2.第１章　問題の定義：芸術の人類学の必要性 3.第２章　芸術ネクサスの理論 4.第３章　芸術ネクサスとインデックス 5.第４章　芸術ネクサスにおけるインデックスの巻き込み 6.第５章　インデックスの創出 7.第６章　インデックスの批評（１） 8.第６章　インデックスの批評（２） 9.第７章　分配された人格（１） 10.第７章　分配された人格（２） 11.第８章　様式と文化（１） 12.第８章　様式と文化（２） 13.第９章　結論：拡張した心（１） 14.第９章　結論：拡張した心（２） 15.まとめ――『芸術とエージェンシー』を使うために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2017	授業コード	J50803A01
科目名	歴史学特殊講義（近現代） I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　智子	旧科目名称	
講義概要	この授業は、幕末（今から約１５０年前）から大正期（今から約１００年前）に至るまでの日本近代史のあゆみを、「女性の歴史」という視点から眺め直してみようという講義である。授業の前半では、各回のテーマにしたがって、法令や制度、運動などについて、これまでの研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていく。後半では、そのテーマに関わる実在の女性を一人取り上げ、その生涯と思想を追いかけたい。歴史学特殊講義（日本近現代史）前編、初級編と位置づける。		
教材（テキスト）	特定の教科書は用いない。		
教材（参考文献）	阿部恒久・佐藤恒久著『通史と史料　日本近現代女性史』（芙蓉書房出版、2000 年）。そのほか適宜授業中に紹介する。		
教材（その他）	毎回こちらで資料プリントを作成し配布する。		
評価方法	学期末に実施する定期試験（70%）、授業中に提出を課すコメントペーパーの内容など平常点（30%）。		
到達目標	「何となくそうだと思っていること（思わされていること）」を疑い、自らの考えを変えていける柔軟性と思考力とを身につける。		
準備学習	講義のなかで紹介する文献に目を通す。女性の日常が描かれた幕末・明治・大正期の小説を読む。「女性史」という視点から、日ごろ接するニュースを位置づけてみる。		
受講者への要望			
受講にあたり、知識の多い少ないは問わないが、高等学校までに使った「日本史」の教科書を座右に置き、目次と記述を読み直してみることを求めたい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス～　「日本史」のなかの「女性」 2　「文明開化」と風俗改良問題 3　女権獲得運動のおこり 4　女子教育の開始 5　資本主義下の女子労働 6　近代公娼制度の始まり 7　「家」制度と女性 8　日清・日露戦争と女性 9　「新しい女」の登場 10　女性の社会進出と「母性保護」論争 11　女性の政治的権利の要求 12　「性」をめぐる女性運動 13　「生活」をめぐる女性運動 14　帝国化する日本と女性 15　まとめの考察：1860 年代～1910 年代の女性			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50803B01
科目名	歴史学特殊講義（近現代）II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　智子	旧科目名称	
講義概要	この授業は、大正期（今から約１００年前）から高度経済成長期（今から約５０年前）に至るまでの日本近現代史のあゆみを、「女性の歴史」という視点から眺め直してみようという講義である。授業の前半では、各回のテーマにしたがって、法令や制度、運動などについて、これまでの研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていく。後半では、そのテーマに関わる実在の女性を一人取り上げ、その生涯と思想を追いかけたい。　歴史学特殊講義（日本近現代史）Ｉの続編・中級編と位置づける。		
教材（テキスト）	特定の教科書は用いない。		
教材（参考文献）	阿部恒久・佐藤恒久著『通史と史料　日本近現代女性史』（芙蓉書房出版、2000 年）。そのほか適宜授業中に紹介する。		
教材（その他）	毎回こちらで資料プリントを作成し配布する。		
評価方法	学期末に実施する定期試験（70%）、授業中に提出を課すコメントペーパーの内容など平常点（30%）。		
到達目標	自らの見解を、歴史との対話のなかであたらしく創造していけるような根気のよさと論理性を身につける。		
準備学習	講義のなかで紹介する文献に目を通す。女性の日常が描かれた昭和戦前期・戦中・戦後の小説を読む。「女性史」という視点から、日ごろ接するニュースを位置づけてみる。		
受講者への要望			
受講にあたり、知識の多寡は問わないが、高等学校までに使った「日本史」の教科書を座右に置き、目次と記述を読み直してみることを求めたい。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンス　～「近代」と「現代」 2　戦間期の女性をめぐる社会変化 3　昭和恐慌と女性をめぐる社会問題 4　戦争に協力する女性たち 5　戦時下の日常生活と女性 6　労働力・産む性としての戦時女性 7　戦地の女性たち 8　占領期の「性」をめぐる実態 9　女性参政権の実現 10　教育「民主化」政策と女性 11　戦後の労働問題と女性 12　「主婦論争」と「ウーマンリブ」 13　高度経済成長と女性のライフサイクル 14　「女性史」の誕生 15　まとめの考察　～「男女共同参画社会」の実態			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J50804A01
科目名	口承文芸論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ａでは口承文芸の作品に親しむことからはじめ、作品分析の主要な方法論を理解することを目標にします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	作品分析の主要な方法論を理解すること。		
準備学習	次週に取り上げる作品は予め配布しておくので、熟読してくること。また授業で取り上げた分析方法をよりよく理解するために、関連文献を授業中に示すので、読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
1.口承文芸的発想とはなにか。　（書くことと語ること・歌うことは果たして同じ次元なのか考えてみましょう） 2.神話学の系譜　（神話をどのように読むのか、これまでの様々なアプローチを概括します） 3.神話分析　民族学的アプローチ１　（まずは『金枝篇』から取り組んでみましょう） 4.神話分析　民族学的アプローチ２ 5.神話分析　心理学的アプローチ１　（ユング派の物語の読み方について考えてみましょう） 6.神話分析　心理学的アプローチ２ 7.神話分析　構造分析１　（レヴィ＝ストロースの分析する神話に触れてみましょう） 8.神話分析　構造分析２ 9.昔話研究（AT による昔話の分類） 10.昔話分析　系統論的アプローチ 11.昔話分析　構造分析１　（プロップの分析手法について検討してみましょう） 13.昔話分析　構造分析２　（ダンダスの分析手法について検討してみましょう） 14.日本神話の研究 15.日本昔話研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50804B01
科目名	口承文芸論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、これらは世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ｂでは口承文芸が、カミとヒトの、人と人のコミュニケーションであることに焦点をあて、関連する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析することを、目標とします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析すること。		
準備学習	口承文芸の作品は長大なものが多いので、授業の前に熟読し、自分なりに筋立てを整理しておくこと。次週取り上げる作品は予め配布するか、文献を示します。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１イントロダクション ２ヒトとヒトを超えるもの ３シャーマニズムと口承文芸１　（シャーマニズムと歌や語りは深い関係を持っています。） ４シャーマニズムと口承文芸２　（ユーラシア大陸のいくつかのシャーマニズム文化をとりあげます。） ５儀礼から語り物へ ６語り物 ７ヒトとヒトのコミュニケーション ８詩の始まりを民俗学的･文化人類学的に考える ９うたはひとつでいい １０変なコミュニケーション １１英雄叙事詩 １２ナラティブ構成法１　（長大な英雄叙事詩はどのように伝承されてきたのか、そのメカニズムについて考えます。） １３ナラティブ構成法２ １４口承文芸とポップカルチャー１　（「古くて新しい」について考えます。） １５口承文芸とポップカルチャー２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J50805A01
科目名	妖怪文化論 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 妖怪文化論 A では、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『怪異の風景学―妖怪文化の民俗地理』古今書院、2014 年		
教材（参考文献）	小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006 年		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 20%、学期末レポート 80%		
到達目標	妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。		
準備学習	講義ごとに提示する教科書の指定箇所を予習・復習した上で受講すること。		

受講者への要望

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。

講義の順序とポイント

1　妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる）
2　妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで
3　妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』
4　妖怪体験とことば：風景認識の三角形
5　妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クビナシウマ」と「首切れ馬」
6　集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団
7　頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ
8　妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査
9　『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し
10　怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚
11　現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』
12　廃墟と幽霊・怪異世界：18 世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行
13　現代の廃墟と近代化遺産：18 世紀後半と現代の比較
14　妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ
15　世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J50805B01
科目名	妖怪文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 　妖怪文化論Ｂでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。		
教材（テキスト）	小松和彦『妖怪文化論入門』角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）		
到達目標	妖怪文化論という視点、位置を理解する。		
準備学習	テキストは事前に読んでおくこと。また各講義で参考文献を提示するので、読んで理解を深めるための学習に時間を割く必要がある。		
受講者への要望			
自ら本を読み、現場を歩いて下さい。			
講義の順序とポイント			
（1）イントロダクション I.絵を解読する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J50901A01
科目名	心理学概論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	心理学は人間の心や行動を研究対象とする学問である。心理学とはどのような学問であるのか、その歴史や、心理学における各研究分野における基本的な研究法や考え方を理解する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施する小テスト及び読書レポート。		
到達目標	心理学の基本的な理論と考え方について学び、心についての理解を深める。		
準備学習	事前に配布される教材を読んで出席する。幅広い読書の習慣をつける。		

受講者への要望

私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。能動的に授業に出席すること。
心理学科必修の授業なので、必ず本年度に取得できるよう最大限の努力をすること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、授業の進め方、勉強の仕方、成績評価について
2　　「私の歴史」を振り返る、歴史と研究方法
3　　感覚と知覚
4　　注意と思考
5　　記憶
6　　記憶：実験
7　　記憶と心
8　　発達心理学（1）
9　　発達心理学（2）
１０　深層心理学（1）　テーマ：「見えないものを見る」
１１　深層心理学（2）
12　心理臨床学（1）テーマ：物語・記憶・癒し
13　心理臨床学（2）
14　臨床心理学
15　臨床の現場から：臨床心理士の話を聞く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60001001
科目名	自然保護思想	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy of nature conservation		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	自然環境や動植物を直接利用する役立つ資源としてのみならず、神としてあがめたり、あるいは我々の存在の基盤として尊重する思想は太古より存在した。自然保護思想は、原生的な自然環境の保護のみならず、都市環境デザインやランドスケープデザインにも歴史的に反映されてきたところである。しかし、人類の自然に対するインパクトは、農耕革命、産業革命を経て、ここ半世紀の間に急激に拡大し、人類の生存基盤の持続可能性が危ぶまれている現在、自然保護概念にもまた、新たな展開がみられる。そのひとつは、「生物多様性」という自然保護概念の革命であり、もうひとつは、里山・里海のありかたに見られる自然共生の概念である。 この講義では、自然保護思想の歴史的に重要な展開イベントを踏まえ、いくつかの基本的なコンセプトの紹介と検討を行い、学生自らが豊かな自然観を形成する基盤の獲得を目標とする。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	鬼頭秀一著『自然保護を問いなおす』ちくま新書 守山弘著『自然を守るとはどういうことか』農文協、1988 年 守山 弘著『水田を守るとはどういうことか―生物相の視点から』（人間選書（204） 加藤尚武著『環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー）		
教材（その他）			
評価方法	復習テスト、ミニ・レポート、期末課題レポートを総合して評価する。		
到達目標	自然保護に関する重要な概念を理解し、現代における自然保護の意義と方向性を認識できるようになる。		
準備学習	新聞、テレビ等の自然環境関連のニュースに気をつける。前回の講義内容を復習し、修得しておくこと。		

受講者への要望

受講だけでなくフィールドを忘れずに。昆虫採集、魚釣り、植物採集は自然保護の原点です。農作物をつくるときも「ただの虫」を忘れずに。

講義の順序とポイント

1. 導入:ゴキブリ、クジラ、エボラ、オオカミ・・・・
　　第Ⅰ部：歴史的な自然保護・自然共生概念
2. 最古の森林への賛歌とエデンの園
3. 西洋庭園に見る「自然に帰れ」イギリス自然風景式庭園
4. 鎮守の森：南方熊楠と自然保護の先駆け
　　第Ⅱ部：現代の自然保護・自然共生概念
5. 現代自然保護の幕開け：国立公園とウィルダネス
6. 保護と保全の対立：ディープエコロジー、ソーシャルエコロジー
7. 樹木の当事者適格、自然の生存権
8. 世代間倫理・地球全体主義
9. 将来世代からの警告：レーチェル・カーソン、ローマクラブ
10. ベジタリアンと動物保護
　　第Ⅲ部：地球環境危機と自然保護
11. 生物多様性という革命
12. Ｓａｔｏｙａｍａというソルーション
13. 自然保護の現場から（1）
14. 自然保護の現場から（2）
15. 国際政治のなかの自然保護

（※進行に応じて適宜変更することがある）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60006001
科目名	環境教育・富良野自然塾	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Furano Field		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」（講座協賛 三井住友銀行）の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	・「愚者の質問」　倉本聰、林原博光 著　（日本経済新聞出版社　2010 年） ・「ヒトに問う」　倉本聰 著　（双葉社　2013 年）		
教材（その他）			
評価方法	事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等（７０％） レポート（３０％）		
到達目標	森林フィールドでの環境教育についての深い理解と体験（遊学）		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献を読んでおいてください。		

受講者への要望

自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。
「富良野自然塾・倉本聰対談集　愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくと参考になります。

講義の順序とポイント

環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。 富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。

富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリの一滴」）：　山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなことして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/ 「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリの一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。

事前学習（キャンパスプラザ京都）：７月２８日（金）　１８：１０～（３時間）

現地実習（北海道・富良野自然塾）：９月１日（金）～３日（日）

事後学習（キャンパスプラザ京都）：９月８日（金）　１６：２０～（３時間）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J60007001
科目名	科学技術史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science and Technology		
担当者名	但馬　亨	旧科目名称	
講義概要	現在の科学技術の発展の鍵は制度化・巨大化・精密化という三語に要約されるといえます．この講義では，科学技術の発展過程が必ずしも単線的・直線的になされてきたわけではないことを明らかにし，科学的知識のもつ本質的性質と呼べるものを浮き彫りにすることを目的としています．また，この性質の理解から科学者の在るべき姿について考察するという科学技術倫理の要素も講義には含まれています．実際に扱うトピックとしては数学や物理学，情報工学，環境についての諸問題があり，幅広い問題関心が講義参加者には必要だと思われます．		
教材（テキスト）	特になし．プリント配布します．		
教材（参考文献）	野家 啓一（著）『パラダイムとは何か クーンの科学史革命』講談社学術文庫，2008 年		
教材（その他）	上記以外にも適切な参考書を複数紹介します．パワーポイントや映像資料も用います．		
評価方法	小テスト等（30%）、定期試験(70%)． 有意義な意見の発表等がある場合等は加点します． また授業参加者の状況を考慮して，ディベート課題を出す場合があります．		
到達目標	1．各時代ごとの科学的技術的知識の形態を正しく把握すること． 2．科学理論の変遷についての理論的把握を行うこと． 3．現代科学に内在する問題点について批判的検討を加える視点をもつこと．		
準備学習	授業内で紹介する文献や資料等を授業開始前までに調べて，次週の講義開始以前に知識を得ていること． そして授業終了前に出される問題に取り組むこと．次回授業開始時に小テスト等を行い考察の成果を確認します．		

受講者への要望

1．自然科学だけでなく文理問わない幅広い知的好奇心をもって積極的に講義に臨んでください．
2．私語や携帯電話の使用等には、減点や期末試験の受験を認めないなど厳しく対処します．

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．　古代の科学：ギリシャにおける科学の曙
3．　中世の科学：精密科学としての天文学
4．　アラビア科学の成立
5．　初期近代(1)：万能人と人文主義的科学
6．　初期近代(2)：近代解剖学の成立，印刷技術の発展
7．　前半内容の確認
8．　17 世紀(1)：二つの科学革命論
9．　17 世紀(2)：科学方法論の成立，ガリレオ，デカルト
10．18 世紀：ニュートンと啓蒙主義
11．19 世紀(1)：フランス革命後の社会と科学の制度化
12．19 世紀(2)：ダーウィニズムと自然誌
13．20 世紀(1)：巨大科学の誕生と戦争
14．20 世紀(2)：情報科学の発展
15．21 世紀の諸問題：環境と科学技術の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60008001
科目名	日本の農業	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Agriculture		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	農耕の起源と農業技術の発達史を概観し，日本及び世界の農業，日本の農業生産性や農業経営，農業政策，農業と環境との関わりなど農業に関する諸課題を概説する．特に，日本の農業が直面する課題である，生産性，食料，環境などの現状とそれらの課題の解決に向けた技術を紹介する．		
教材（テキスト）	資料を配布する．		
教材（参考文献）	祖田修・杉村和彦（編）　「食と農を学ぶ人のために」　（2010）　世界思想社 中尾佐助（著）　「栽培植物と農耕の起源」　（1966）　岩波新書　青版 G-103（583） 農林水産省（編）　食料・農業・農村白書　{http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h27/index.html}		
教材（その他）	講義の中で順次紹介する．		
評価方法	小テストなどによる平常点（50%）および定期試験（50%）で評価する．		
到達目標	農業及び農業技術の歴史，農・畜産業や食品産業と他産業との関わりを学び，農業に対する基本的な知識を習得し，農業の社会的な意義や役割について理解する．また，農業に関する諸課題を学び，日本の農業の将来や食の姿について主体的に考える能力を養う．		
準備学習	講義時に講義資料を配布するので，次回までに復習と予習をしておくこと．		

受講者への要望

１０回程度小テストを行うので，講義内容を復習しておくこと．

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション，農業とは何か
２．作物の栽培化
３．農耕の起源と伝播
４．世界の農業
５．日本の農業発達史
６．日本の農業の現状と農業政策
７．穀物の生産（稲作）
８．穀物の生産（麦類，豆類）
９．畑作物の生産（イモ類など）
１０．野菜の生産
１１．果樹・花き・茶などの生産
１２．畜産
１３．飼料生産と畜産の環境問題
１４．農業と環境問題
１５．農業技術の発達と今後の農業の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60009001
科目名	食の安全安心（2014 生まで）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	植野　洋志	旧科目名称	
講義概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは，ヒトの生命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である．どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと，安全安心の概念は生じない． 本講義では，「食」を１）食素材から食品という製品として，２）食物として体内に取り込み，代謝されるとき，３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか，という点を中心に理解を深めることになる． 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには，「食」のもつ性質を知る必要がある．食の性質とは，もちろん，物質としての概念であろう．食素材は化学物質としてとらえないとだめで，その本質は，食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない．一般教養として，食素材がどのように変化するのかを理解し，いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする． 近年，「食」と安全で話題になっている食中毒，鳥インフルエンザ，遺伝子組み換え食品，バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる．		
教材（テキスト）	別に用いない		
教材（参考文献）	京学なびを活用した情報提供		
教材（その他）			
評価方法	不定期に実施する予定でいる小テスト（20%）（京学なび），レポート提出（40%），そして平常点（受講態度や取組姿勢）（40%）を総計して評価する．場合によっては，筆記試験を期末試験とする．		
到達目標	社会常識として，生命現象を化学というツールで眺めることが大切である．そうすると，共通する基本概念が見えてくる．生命の大原則と「食」が密接につながっていること，また，その関連性に影響をあたえるようが現象が安全安心という側面から理解することができる．このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である．また，これまで耳学問で習得した知識を，科学的裏付けで考えることができる力を育成する．		
準備学習	市民教養科目なので，基本，準備学習を期待しない．ただ，希望者にはネットを利用した教材（配布プリントと授業でのパワポ）閲覧を推奨する．		
受講者への要望			
一般教養的内容なのと，生活と密接に関係するので，講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある．きちんとノートやメモをとれることを学習しよう．質問はできるだけその場でするように心がけよう．積極的な授業への参加が望ましい．			
講義の順序とポイント			
1〜2. ヒトの体に影響を与える食生活について，DVD を教材として学習する 3〜4. 体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか，代謝という概念を習得する 5〜6. 化学反応が生命体の基本であることを学ぶ 7〜8. 食素材がもたらす効果（たとえば，食中毒）について，安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める 9〜10. 遺伝子組換え技術について概説する 11〜12. 食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する 13〜15. 食にまつわる制約（法律や規則），輸入食品の安全性，農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60009002
科目名	食の安全安心（2014 生まで）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	食の安全については、毎年のように表示偽造や、食中毒が発生しており、またその原因に大手食品企業がなることも多く、大きな社会問題となっている。ひるがえって、一般家庭における食の安全に関する知識も十分とは言えず、ノロウイルスによる食中毒をはじめ、自然毒に対する知識不足から生じる祥中毒に関しても、問題が起こったときには、その都度食品の安全性に関する機運が高まりはするが、その時だけで終わってしまい定着しているとはいえないのが現状である。 ところで、多くの一般の人が食品に手を触れ、眼に入れることが多いのは、スーパーや飲食店であろう。このように食品が流通するためには、消費者庁、厚生労働省、農林水産省、等の多くの省庁が絡んだ基準や規格が多く存在している。例えば食品に記載されている義務表示に関しても、カップラーメン一つとっても原材料表示をはじめとして、エネルギー量などの栄養表示、卵由来などのアレルギー表示さらには分別に関する、「プラ」や「紙」等の表示もあり、すべてを理解している消費者は少ないであろう。さらに、これに関わる表示基準を正確に理解することは、食品を扱う会社のも者であっても大変難しい。 一方、食品を安全に流通させるためには、加工食品であれば、保存料等の食品添加物、農産物であれば農薬を使用しており、これらの使用方法や事例について、単に「化学合成品」であるから危険、と言うイメージだけで判断するのではなく、どのようにその安全基準が決められているのかを知る機会は少ないと思われる。 また、生鮮食品も必ずしも安全というわけではなく、調理法を誤ればジャガイモやインゲン豆でも毒になり得ることを理解しておかなければいけない。 そこで、本講義では、食品の安全や安心について、より身近なところの知識を得ることを目的として、日常生活に生かせる講義を行いたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	参考図書：「食をめぐるほんとうの話」講談社現代新書		
教材（その他）			
評価方法	指定した課題に対するレポート 80％ 授業内小テスト 20％		
到達目標	本来、「安全」とは、客観的な科学的根拠を持って評価される物であり、逆に「安心」とは主観的であり、個人によってとらえ方が異なる物である。本講義においては、「安全」について、どのように科学的に検証されてきたかを理解し、どのように担保されてきたのかを考えると共に、それを前提に「安心」をどのようにとらえるかについて学習する。		
準備学習	いつも食べている食品について関心を持って授業にのぞんで欲しい。		

受講者への要望

参考図書を読むことや、消費者庁の食の安全性に関するホームページや、食品安全委員会のホームページを閲覧するなど、安全性に関する知識を得るとともに、現在どのようなことが問題になっているか、知るように努める。
消費者庁 HP
{http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/}
食品安全委員会 HP
{http://www.fsc.go.jp/index.html}

講義の順序とポイント

1～4：食品の表示について理解しよう。
　　食品に表示する義務のある事項、表記方法について学ぶ(食品表示基準)。
5～7：食品に係わる有害物質について理解しよう。
　　食中毒を起こす原因となる、微生物、動植物に含まれる毒素、有害金属、等について学ぶ。
8～10：加工食品や農産物に使用される食品添加物や農薬について理解しよう。
　　食品添加物や農薬がどのように評価され使用されてきたかを学ぶ。
11～12：遺伝子組会食品について理解しよう。
遺伝子組み換え食品とはどういう物か、またその安全性についても理解する。

13　　：食品の加工や流通における安心システムについて理解しよう。
14　　：安全な食品を担保するための加工システム（HACCP、等)や流通経路についても
15　　：健康食品の安全について理解しよう。
　　様々な健康食品が流通しているが、これらの食品の安全性だけでなく、その有効性についても理解する。
　講義全体を通して、専門的な知識を得ることを目的にするのではなく、より日常生活に生かせる食の安全について知ることを目的として進めていく。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J60009003
科目名	食の安全安心（2014 生まで）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	渡部　紀久子	旧科目名称	
講義概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは、ヒトの命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である。どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと、安全安心の概念は生じない。 本講義では、「食」を１）食素材から食品という製品として、２）食物として体内に取り込み、代謝されるとき、３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか、という点を中心に理解を深めることになる。 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには、「食」のもつ性質を知る必要がある。食の性質とは、もちろん、物質としての概念であろう。食素材は化学物質としてとらえないとだめで、その本質は、食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない。一般教養として、食素材がどのように変化するのかを理解し、いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする。 近年、「食」と安全で話題になっている食中毒、鳥インフルエンザ、遺伝子組み換え食品、バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる。		
教材（テキスト）	別に用いない		
教材（参考文献）	京学なびを活用した情報提供		
教材（その他）			
評価方法	不定期に実施する予定でいる小テスト（２０％）（京学なび）、レポート提出（４０％）、そして平常点（４０％：内訳　受講態度２０％やレポート等における自ら取り組む姿勢や積極性２０％、ネット検索における単なるコピーペーストは減点対象となる。）を総計して評価する。場合によっては、筆記試験を期末試験とする。		
到達目標	社会常識として、生命現象を化学というツールで眺めることが大切である。そうすると、共通する基本概念が見えてくる。生命の大原則と「食」が密接につながっていること、また、その関連性に影響をあたえるような現象が安全安心という側面から理解することができる。このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である。また、これまで耳学問で習得した知識を、科学的裏付けで考えることができる力を育成する。		
準備学習	市民教養科目なので、基本、準備学習を期待しない。ただ、希望者にはネットを利用した教材（配布プリントと 授業でのパワポ）閲覧を推奨する。		
受講者への要望			
一般教養内容なのと、生活と密接に関係するので、講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある。きちんとノートやメモをとれることを学習しよう。質問はできるだけその場でするように心がけよう。積極的な授業への参加が望ましい。			
講義の順序とポイント			
１～２．ヒトの体に影響を与える食生活について、DVD を教材として学習する。 ３～４．体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか、代謝という概念を習得する。 ５～６．化学反応が生命体の基本であることを学ぶ。 ７～８．食素材がもたらす効果（たとえば、食中毒）について、安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める。 ９～１０．遺伝子組換え技術について概説する。 １１～１２．食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する。 １３～１５．食にまつわる制約（法律や規則）、輸入食品の安全性、農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60010001
科目名	シリーズ特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture Series A		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	現代社会が直面している環境問題は人間社会が解決すべき緊急の課題である。本シリーズでは、自然環境、生産環境、消費環境、あるいは都市環境、地球環境の現場で発生している諸問題に取り組んでいる先達の豊かな活動経験を聴くことによって、環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性を各人が思考し、バイオ環境学部での学習のおもしろさと重要性を認識するきっかけとなることを期待する。1 回目と１５回目を除き、外部からの専門講師を招いての貴重な体験談を聞くことができるというのが本講義の特徴であり、講師の方々は、この 90 分に凝縮して自らの経験や考えなどを若い学生に是非伝えたいと、１年間準備されてきた内容である。		
教材（テキスト）	特に定めないが、各講師の方から、講義中に参考書を推薦してもらう。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義後、１週間を期限として、講義の感想文をワードで所定のフォルダー（R ドライブと呼ばれる大学のサーバー）に提出する。期限を超えた場合は、得点は半減する。感想文は 5 段階評価とし、15 回の感想文で評価する。		
到達目標	環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性、そしてバイオ環境学部での学習の重要性を認識する。		
準備学習	種々の環境問題に視野をできるだけ広くとって、日常生活を送ること。講義内容に関連する話題がニュースとして取り扱われることも多いので、新聞などで情報収集に努めること。復習として、各講師が執筆している著作を含め関連分野の書籍の読書を求める。		

受講者への要望

各講師が活動の経験を聞き、大学で学習する意義をつかんで欲しい。

講義の順序とポイント

昨年（2016 年）度の 15 回の講義実績は以下のとおりである

- 原　雄一　京都学園大学
  歩くツーリズム クラウド道コモンズの紹介
- 土井 孝則　亀岡市文化資料館主任研究員
  亀岡の歴史と文化について
- 尾崎 零　産消循環自給農場代表
  保障なき時代を生きる～“自立農力”探求のすすめ
- 川上 聰　淀川水系流域委員会・元委員の会
  特別天然記念物オオサンショウウオから考える川とダム
- 佐伯 昌和　京野菜無農薬栽培農業経営
  三里四方の旬
- 中澤　直樹　システム工学研究所株式会社
  海氷のはなし　北極の資源と地球環境
- 以倉 敬之　まいまい京都
  京都の隠れた地域資源探索まち歩きツアーの魅力
- 松岡 正富　琵琶湖漁師・滋賀県朝日漁協組合副委員長
  琵琶湖の漁業
- 湯浅 勲　南丹市日吉森林組合理事
  今日は森林のことを考えてみよう
- 藤井 絢子　NPO 菜の花プロジェクトネットワーク代表
  地域からのエネルギー改革：菜の花プロジェクトから学ぶ
- 浄慶 耕造　大徳醤油代表取締役
  小さな醤油蔵の役割
- 丸谷 一耕　NPO 法人木野環境 EMS 構築支援部
  環境学生ベンチャーNPO 法人木野環境

・　佐藤 正吾　公益財団法人京都市都市緑化協会
　　「和の花プロジェクト」と都市の生物多様性
・　山本　元　NPO 法人気候ネットワーク研究員
　　地球温暖化の現状と対策
・　高澤伸枝　京都学園大学
　　南極の科学　知られざる世界へのいざない

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J60011001
科目名	シリーズ特別講義B	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture Series B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	日本のバイオ技術は、農学分野だけでなく、食品、医薬品等、幅広く応用されている。このような技術は、日本にとどまらず、世界に向け技術発信されている。この講義では、各分野で第一線で活躍されている、企業や研究施設で研究されている、研究者・技術者の方々を講師としてお招きし、バイオテクノロジーを応用した商品開発について講演して頂き、将来の展望についてもお話をして頂く。		
教材（テキスト）	適宜必要な場合には資料を配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	指定した課題に対するレポート 80% 毎回の授業に関する感想 20%		
到達目標	食品や医薬品の商品開発にバイオの技術がどのように生かされているかを理解する。 最前線で働いている研究者の生の声を聞くことで、研究することの意義やその進め方について勉強する。また、このような技術開発に必要な項目について学び取る。 生産管理や製品管理についても勉強する。 今後、バイオ環境学部で勉強していく時に、バイオ技術を応用することで何ができそうか、自分なりに考えてみて、学習のための意欲を高める。		
準備学習	各回の講義で、講師が異なり、講演内容もかわるため事前の準備は難しいかもしれないが、関連する産業やバイオ技術について興味を持って情報収集を行うこと。		

受講者への要望

講義の中で説明された技術に関して、自分なりに興味を持った分野について勉強し、レポートを書く際に反映させて欲しい。
また、レポートの書き方についても、相手にわかりやすいように工夫ができるようにして欲しい。

講義の順序とポイント

講義の順番に関しては、講師の方の都合により内容や順番が入れ替わる可能性があるため、現時点では確定してないが、下記の内容で行う予定である。
1)科学技術とバイオテクノロジー
2)バイオ基盤技術産業(I)
3)バイオ基盤技術産業(II)
4)創薬産業(I)
5)創薬産業(II)
6)生化学産業(I)
7)生化学産業(II)
8)食品産業(I)
9)食品産業(II)
10)醸造産業(I)
11)醸造産業(II)
12)植物関連産業(I)
13)植物関連産業(II)
14)バイオ基盤産業(I)
15)バイオ基盤産業(II)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2017	授業コード	J60012001
科目名	社会と環境問題	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Problems and Society		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	2011 年に、福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中へ撒き散らされ、現在も、放射性物質の排出は、一時よりは減ったとはいえ、まだ続いている。排出された放射性物質からは、放射線が長期にわたって出る。そしてやがて健康被害が顕在化してくるものと思われる。このような放射能汚染という環境問題に、私たちは、どう対処すべきなのかについては、過去に起こった環境問題において加害者がどう行動し、被害者や一般市民がどう考えて、どう対処したのかということが、私たちに多くの重要な知恵を与えてくれる。 明治期には、工業や鉱業の発展によって、有毒な排ガスや廃水が放出されて、作物が育たないという事態や健康被害が起こった。戦後には、工業のめざましい発達に伴い、空気、水、および食べ物の汚染が急激に進行して、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど、大きな健康被害が出た。しかし、このような健康被害について、被害者全員が十分に補償を受けたわけではない。多くの被害者は悲惨な状況下に置かれた。加害者の責任逃れの行為が目立ち、また、一般市民が被害者をさらに悲惨な状況に追いやってしまう事態も発生した。この講義では、過去の環境問題とその時の社会情勢を説明し、現在の環境問題への対処を考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	小田康徳編「公害･環境問題史を学ぶ人のために」世界思想社、2000 円＋消費税		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	期末試験（60%）、小テスト（40%）		
到達目標	現在の環境問題を自分なりに考えられるようにする		
準備学習	参考書やインターネットなどを利用して授業の予習をしておくこと。前回の内容を復習しておくこと。		

受講者への要望

「環境化学」を受講しておくことが望ましい。
わからないことがあれば、授業の途中でもよいから質問をすること。
放射能に関連するニュースなど、現在の環境問題の関する情報をを把握して、自分なりに解決策を考えること。

講義の順序とポイント

１．現在の環境問題：放射性物質による汚染
２．現在の環境問題：公共工事による環境破壊
３．汚染による被害と損害賠償について
４．明治期の富国強兵政策と足尾鉱毒事件の発生
５．足尾鉱毒事件への政府の対応と田中正造の直訴
６．足尾鉱毒事件のその後、今も続く鉱山排水問題
７．別子銅山と日立鉱山の煙害対策
８．戦前の大阪の工業化と大気汚染、戦前の石炭鉱業被害
９．戦後の高度成長と公害の発生、水俣病の発生
１０．水俣病の補償問題、公害被害者への差別と住民間の対立
１１．　イタイイタイ病、四日市公害
１２．四日市の水質汚濁、公害法規
１３．公益・公共性の思想と公害
１４．公共工事の問題点
１５．歴史から学ぶ教訓を活かし、現在の環境問題を考える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J60013001
科目名	環境問題と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Problems and Laws		
担当者名	吉田　佳督	旧科目名称	
講義概要	環境問題が国際化・深刻化するにつれて、国際協調の基で環境保全のために様々な法政策がとられている。それは身近な地方自治体の条例から、国の法律にいたるまでの国内法領域、更には国際的な地球環境問題を扱うような国際法領域に及ぶ。 このため、環境法に関する基礎教養を身につけつつ環境法の現代社会における役割について考察する。		
教材（テキスト）	特に定めないが、講義中に適時提示する。		
教材（参考文献）	講義中に紹介するものを中心に、各自適切なものを選ぶこと。		
教材（その他）	パワーポイントなどを活用する。		
評価方法	期末レポート（60%）と講義中の小レポート(40%)による評価を原則とする。		
到達目標	環境問題と法の基礎を学び、環境問題を解決するために望ましい法政策を考える力を修得する。		
準備学習	普段から環境問題に関連するメディア報道や書籍等について、関心を払いながら絶え間なく接しておくこと。		
受講者への要望			
環境問題を身近な問題として捉え、各講義で提出を求める小レポート等を通じて、各自の見解を積極的に示してください。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．環境法の基本理念と体系 ３．環境基本法 ４．環境法の発展史 ５．水質汚濁と法 ６．大気汚染と法 ７．循環型社会の法 I ８．循環型社会の法 II ９．自然保護の法 １０．環境アセスメントの法 １１．環境問題と裁判 １２．地球環境問題と国際法 １３．地球温暖化と法 １４．環境ガバナンスと法 １５．環境問題と法の講義を通して学んだことの総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J60016001
科目名	生物の分類	単位数	2
科目名（英語表記）	Taxonomy		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	私たちは、さまざまな生き物を、種として認識している。このような生き物を類別することについて学ぶ。種はさらに上位の分類群にまとめられて、種と種の関係が示されている。これを系統関係と呼ぶが、系統関係を論理的に構築する方法について概説し、生物の進化の道筋についても考える。さらに、現在、地球上に暮らしているといわれている数千万種の生物を概観してみたい。数千万種を見渡すのはあまりに無謀なので、様々な分類群を紹介し、地球にどんな生き物がいるのかを「知る」努力を試みる。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（￥16,200）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	試験による		
到達目標	生物には種名がつけられているが、私たちが生物を種別に認識していることについて考えを深める。また、この地球にはどのような生き物がいて、どのような進化の歴史をたどったと考えられているのかについても概観し、地球上の様々な生物を知る。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは、不問。　教科書の該当部分をよく読み、わからない専門用語等を調べておくこと。		
受講者への要望			
地球上には数千万種の生物が暮らしていると言われています。こうした自然界の驚異を楽しんでください。			
講義の順序とポイント			
１　種概念 ２　種分化 ３　地球の生命史 ４　系統と生命の樹 ５　絶滅の歴史 ６　現生の生物　細菌と古細菌 ７　現生の生物　原生生物 ８　現生の生物　植物 ９　現生の生物　菌類 １０　現生の生物　動物（無脊椎動物１） １１　現生の生物　動物（無脊椎動物２） １２　現生の生物　動物（脊椎動物の起源と進化１） １３　現生の生物　動物（脊椎動物の起源と進化２） １４　現生の生物　ヒトの系統 １５　生物地理学			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60018001
科目名	昆虫の科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Entomology		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	昆虫種の数は、地球上に存在する生物種の半数以上、未知種が加わると 80%にも達すると推定されるほど多様性に富み、海中以外のあらゆる場所に生息している。本講義では、昆虫の初歩的分類学や形態と機能といった生理学的側面を中心に学び、同種並びに他種生物との相互作用といった生態学的理解への基礎を深める。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	適宜推薦する		
教材（その他）			
評価方法	期間中のレポート(小論文数回)と期末試験を基本とし、これに平常点を加味して評価する。		
到達目標	人々の生活を豊かにするものもあり、危険にさらすものもある。あるものはヒトの生活とは無縁な存在でもある。そのような昆虫という多様な生き物の多様な生活についての関心と理解を深め、基本的知識を養う。		
準備学習	次回の資料を授業終了時に配布するので必ず読み込んでくること。また、昆虫にに関する書物を 1 冊以上読破してほしい。		
受講者への要望			
昆虫をはじめとした生き物の生活への関心を深め、たとえ「昆虫嫌い」の人でも、生き物をいつくしむ心を育ててほしい。そして、生き物をいつくしむ心をほかの誰かに伝えられるようにしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 昆虫とは　－　昆虫学事始め 2. 昆虫の形態学　－　ヒトとの体構造との違い 3. 昆虫の分類学　－　多様性に富む生物群 4. 昆虫の成長　－　生活様式を一変させる変態・時空間を旅する休眠 5. 昆虫の栄養　－　意外と似ているヒトと昆虫 6. 昆虫の呼吸　－　まったく異質なヒトと昆虫 7. 昆虫の感覚　－　昆虫には第六感がある！ 8. 昆虫の行動　－　昆虫行動研究でノーベル賞 9. 昆虫の生殖　－　不思議な雌雄のめぐり逢い 10. 昆虫の移動　－　海を渡る昆虫たち 11. 捕食と寄生　－　エレガントにして残酷な関係 12. 役に立つ昆虫　－　日本の近代化を支えた昆虫とは？ 13. 個体群動態　－　昆虫の大発生が予言する未来とは 14. 農作物害虫の管理　－　環境保全型農業をめざして 15. 昆虫の学名　－　”芸者”という名の昆虫			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60019001
科目名	土壌の科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Soil Science		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	土壌の科学
講義概要	土壌は陸上植物にとって、必須の環境のひとつである。特に高等植物の生存を支え、農業生産において重要な役割を持っている。土壌の生成や機能について学ぶことはバイオ環境を理解する上で不可欠である。土壌の特性について理解を進め、土壌と植物、農作物を栽培する土壌、土壌と地球環境との関わりについて学ぶ。講義にはプリント資料を配布し、毎回の講義後に復習のための確認テストを実施する。さらに講義 3 回終了ごとに小テストを実施し、理解度を確認する。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「土壌学の基礎　―生成・機能・肥沃度・環境－」松中照夫著、農文協 「土壌診断と対策」土壌医検定 1 級試験対応、日本土壌協会		
教材（その他）	「土の科学」PHP 新書、久馬一剛著、PHP 出版 「「健康な土」「病んだ土」」岩田進午著、新日本出版		
評価方法	確認テストと小テストの理解度判定 40%、定期試験 60%。		
到達目標	植物の生育を支える土壌について、基礎的理解を深める。		
準備学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしておく。		
受講者への要望			
農業生産をする上で、土壌は重要な役割を果たしている。また、農業を主要産業とする地域の環境を考える上で、重要な要素のひとつである。本講義では、農耕地土壌を主な対象とするが、多くの学生に土壌についての基礎的な知識と、現代的課題を学んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1　土壌って何？　　～地球の生命を支える土壌～ 2　土壌はどうして作られたのか？　　～土壌は環境の産物～ 3　土壌のなかみは何か？　　～有機物が土壌をつくる～ 4　物理的な性質　　～水と空気との関係～ 5　化学的な性質　　～マイナス荷電と酸度～ 6　生物の働きかけ　　～物質の合成と分解～ 7　水田土壌　　～人が作った土壌～ 8　畑土壌　　～野菜、麦、豆類の土壌～ 9　草地・樹園地土壌　　～牧草、果樹、チャの土壌～ １０　作物養分の種類と土壌中での動き　　～養分のストックとフロー～ １１　土壌の健全性を測る　　～土壌の健康診断～ １２　土壌の健康回復法　　～実践的な管理方法～ １３　土壌汚染と環境汚染　　～環境汚染との関係～ 14　土壌汚染と対策・法律　　～安全の追求～ 15　土壌と地球環境　　～持続的食料生産への課題～			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60020001
科目名	微生物の世界	単位数	2
科目名（英語表記）	The World of Microorganisms		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	地球上には、きわめて多数のまた多種類の微生物が存在し、動物、植物とともに人間生活に影響を与えている。これらの微生物は、健康へ負の影響を与えたり、発酵食品、工業製品などの有用物質の生産にかかわり、また、自然界の物質循環に関与することにより地球環境の保全さらには環境浄化に役立っている。 本講義では、人間生活において微生物の果たしている役割を、生物学的、産業的、環境的視点から解説し、暮らしの中の微生物について理解させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版　（２００８）　清水昌、堀之内末治　編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（２００８）熊谷英彦ら　編　朝倉書店		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・平常点（課題の提出など）（40％） ・期末試験　（60％）		
到達目標	1）生物界における微生物の位置を理解する。 2）生態系における微生物の存在形態を理解する。 3）人間生活と微生物との関わりについて具体的に理解する。		
準備学習	人間生活と微生物との関わりについて関心をもつこと。講義終了時に予習の内容を課すので授業までに調べておくこと。講義中に取ったノートを整理しておくこと，また単元の区切りごとのレポートを課す。		
受講者への要望			
ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 興味を持った内容について関連する書籍を読んで、理解を深めておくこと。			
講義の順序とポイント			
1）　緒論 2）　生物界における微生物の位置 3）　有用微生物：食品の製造 4）　有害微生物：病原微生物、腐敗 5）　文化と微生物 6）　健康と微生物 7）　家庭環境と微生物 8）　環境浄化と微生物 9）　共生と微生物 １０）　生物の進化と微生物 １１）　農林水畜産業と微生物 １２）　鉱業と微生物 １３）　石油と微生物 １４）　食糧と微生物 １５）　エネルギー問題と微生物 （上記内容は目安であり、講師の方の都合などによって変更する場合がある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60021001
科目名	生物の多様性	単位数	2
科目名（英語表記）	Biodiversity		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生態系を理解し、生物との共存を考える上で欠くことのできない生物多様性について、さまざまな階層での生物の多様性のあり方を理解し、生物多様性を保全することで、人間の生活を改善して持続的発展を実現する視点を養う。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳)、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（￥16,200）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	試験による		
到達目標	多様性の意味、多様性が生み出される仕組み、人間活動の持続性に多様性が果たす役割を理解すること。		
準備学習	身近に生物の多様性はたくさんみられます。これらについて調べ、自分の身の回りの生物多様性を理解できる知識を持って講義に臨むこと。　教科書の該当部分をよく読み、わからない専門用語等を調べておくこと。		
受講者への要望			
日頃から、自分の身の回りの生物多様性を理解するようにつとめ、講義内容を自分の身近な問題として関連付け、理解を深めること。事前に生物学的な知識は問わないが、事実を柔軟な視点で理解する力が必要。			
講義の順序とポイント			
１　様々な生物多様性 ２　地球の気候パターン ３　陸上バイオーム ４　水界バイオーム ５　群集生態学（１）競争 ６　群集生態学（２）捕食 ７　群集生態学（３）植食 ８　群集生態学（４）共生 ９　群集生態学（５）扶助 １０　優占種・キーストーン種・生態系エンジニア １１　遷移と攪乱 １２　栄養段階と物質循環 １３　多様性の意義：生命の存在・生物資源・生態系サービス １４　生物多様性への脅威 １５　生物多様性の保全			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60022001
科目名	生物学 -k(2014 生まで)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳)、キャンベル生物学　原書 9 版、丸善出版（￥16,200）		
教材（参考文献）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第 2 版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験による		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。教科書の関連箇所を事前に予習して講義に臨むこと。		
受講者への要望			
この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　生物とは何か　生物構成する物質 2　メンデルと遺伝子の概念 3　染色体の挙動と遺伝子 4　遺伝子の分子機構（1） 5　遺伝子の分子機構（2） 6　タンパク質の構造と機能（1） 7　タンパク質の構造と機能（2） 8　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御（1） 9　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御（2） １０　遺伝子プールとハーディ・ワインベルグ平衡 １１　ダーウィンの生命観　集団の進化（1） １２　ダーウィンの生命観　集団の進化（2） １３　細胞・個体・個体群・群集・生態系 １４　動物の行動の進化（1） １５　動物の行動の進化（2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60022002
科目名	生物学 -s(2014 生まで)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	本講義は、バイオ環境学部で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、生物学全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	Eric J. Simon 著　池内正彦監訳 『エッセンシャル　キャンベル生物学』　丸善　7,000 円 Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 Richard Allan 著 後藤太一郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第 3 版』オーム社　3,200 円 南雲保　編著　今井一志・大島海一・鈴木秀和・田中次郎　著 『やさしい基礎生物学第 2 版』羊土社　2,900 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(50%)　毎回の演習およびレポート(25%)　授業態度などの平常点(25%)		
到達目標	生物学の基本事項について正しく理解する。 生物学の専門用語について説明ができる。 生物学関連のマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの講義を受けること。
演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義には毎回出席すること。
日頃から生物学の分野について関心を持つように心がける。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　（科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及）
2. 生物学とは？　（生物と無生物の違い、バイオとは？）
3. 生物の進化　（進化論、生物多様性など）
4. 生態学　（生物の分布、個体群、生態系など）
5. 細胞の基本構造　（生命の基本単位である細胞とは）
6. 生命の化学 I　（生命の化学的基盤、水と環境）
7. 生命の化学 II　（生命分子の多様性、高分子の構造）
8. 確認試験とその解説
9. 遺伝のしくみ（メンデルと遺伝子の概念）
10. 遺伝子からタンパク質へ　（遺伝子の複製、転写、翻訳、セントラルドグマなど）
11. バイオテクノロジー　（バイオ研究の基本技術）
12. 生物の恒常性　（内分泌系とホルモンなど）
13. 植物の機能　（光合成、植物のバイオテクノロジーなど）
14. 細胞呼吸と発酵　（解糖系、電子伝達系など）
15. 生物学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60023001
科目名	化学 -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	化学は物質の構造や性質、反応について追究する学問であるとされる。我々の肉体はもちろんのこと、我々を取り巻く世界そのものが物質の集合体であり、我々の体内や身の回りで起こるすべての事象－そこには心や感情の動きすらも含まれる－には、物質による化学反応が関与している。したがって、それらの反応について深く考察できる力は、社会に対して説得力のある意見を発する力や、人生の分岐点において的確な判断を下せる力につながる。そのように成長するための教養として物質の構造や性質、つまり「化学反応を支配する要素」について学ぶ。		
教材（テキスト）	ステップアップ大学の総合化学　（裳華房）		
教材（参考文献）	ベーシック化学　高校の化学から大学の化学へ　（化学同人） サイエンスビュー化学総合資料　（実教出版） 化学（高等学校教科書）		
教材（その他）	ビデオ　「ホフマンの化学の世界」　ほか		
評価方法	レポート（30%）と授業期間内中間試験（30%）、および期末試験（40%）によって評価する。		
到達目標	1)　物質量（単位 mol）の概念を、化学反応における質量や体積、圧力などの変化と関連付けて理解できる。 2)　原子や分子の構造について、電子軌道を関連付けて理解できる。 3)　種々の化学反応について、分子の電子状態から反応性を予測できる。		
準備学習	高等学校の化学の教科書（履修しなかった人は、あらためてぜひ購入してほしい）を手元において、何度も読み返してほしい。		

受講者への要望

大学の化学は「電子」から始まると思ってほしい。原子や分子の性質および反応性をより深く理解するためには、「電子」について捉え直す必要がある。特に、元素の周期表を眺め、日常生活に見かける化学物質と関連付ける習慣を身につけることが、「電子」の理解の入り口である。

講義の順序とポイント

1．物質の基本概念と化学
2．原子と分子、元素と化合物
3．電子配置と電子軌道
4．物質量（モル）の概念
5．元素の周期律
6．化学結合
7．化学式・組成式・分子式・構造式
8．化学反応と化学熱力学
9．反応速度
10．酸と塩基
11．中和滴定と緩衝液（バッファー）
12．無機化合物　(C, N, O, P, S)
13．ミネラル
14．環境と化学　I
15．環境と化学　II

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60023002
科目名	化学 -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取り扱う学問が化学であることを理解する。さらに、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題、特に環境問題に関連する事項について化学的知識をもとに考察できる習慣をつける。講義内容の理解度確認として毎回、チェックプリントを実施する。小テストを複数回実施する。		
教材（テキスト）	中川徹夫著　化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本　化学同人　1500 円＋税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	高等学校の化学の教科書、便覧等		
評価方法	チェックプリント、授業中の演習問題に対する取組態度等による平常点（20%）、小テスト（40%）、定期テスト（40%）		
到達目標	単位の変換や有効数字を理解し、計算することができる。 物質の成り立ちを理解し、原子の構造が説明できる。 物質量の概念を理解し、説明や計算ができる。 さまざまな濃度計算ができる。 物質変換を化学反応として認識し、化学反応式を立てることができる。		
準備学習	毎回、講義後に講義内容を復習し、該当する部分の例題や演習問題を自習すること		

受講者への要望

授業と並行して例題の問題集などの演習に積極的に取り組むこと。疑問点や苦手な点は自習して次回の講義までには解決するように努力すること
化学実験・化学演習の履修を予定する学生は、この「化学」を受講していることが望ましい。

講義の順序とポイント

授業の進度によって外れることがある
1. 化学とは
2. 測定の体系
3. 有効数字
4. 原子の構造、元素記号
5. 同位体と原子量、周期表
6. 電子配置
7. 化学結合：共有結合
8. 化学結合：イオン結合
9. 分子間結合
10. 物質量
11. 物質量とその他の物理量
12. 溶液の濃度 1
13. 溶液の濃度 2
14. 化学反応式
15. 化学反応式と量的関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J60023003
科目名	化学 -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取扱う学問が化学であることを理解する。更に、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題、特に環境問題に関連する事項について化学的知識を元に考察できる習慣をつける。		
教材（テキスト）	中川徹夫著　『化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本』　化学同人　1500 円＋税		
教材（参考文献）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税 J.E.Brady, G.E.Humiston 著　『一般化学』（上）（下）　東京化学同人　各 2980 円＋税		
教材（その他）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－　問題と解答』　東京化学同人　1700 円（＋税）		
評価方法	小テスト等講義中の課題（50%）、宿題（10%）、定期テスト（40%）		
到達目標	単位の変換や有効数字を理解し、計算することができる。 物質の成り立ちを理解し、原子の構造が説明できる。 物質量の概念を理解し、説明や計算ができる。 様々な濃度計算の式をたてることができる。 物質変換を化学反応として認識し、反応式を作成することができる。		
準備学習	次回の講義内容に相当する部分のテキストを読んでおく。毎回講義後に講義内容を復習し、該当する部分の例題や演習問題を自習する。		

受講者への要望

これまでの化学の履修経験は問わない。授業と並行して例題や教材（その他）の問題集などの演習に積極的に取り組むことが望ましい。あわせて講義で学んだ部分を参考文献などで自習し、理解を深めてもらいたい。評価とは関係のない確認テストも行うことがあるので、1 週間で学んだことを身に付けておく。

講義の順序とポイント

授業の進度によってはずれることもある

1. 化学とはどのような学問か（テキスト 0 章）
2. 測定の体系（テキスト付録）
3. 有効数字（テキスト付録）
4. 原子の構造（テキスト 1 章 1.1）
5. 同位体と原子量（テキスト 1 章 1.2－1.4）
6. 電子配置（テキスト 2 章 2.1－2.4）
7. 化学結合 1：共有結合（テキスト 2 章 2.5－2.6）
8. 化学結合 2：イオン結合（テキスト 3 章）
9. 分子間結合（テキスト 4 章）
10. 物質量（テキスト 5 章）
11. 物質量とその他の物理量（テキスト 6 章）
12. 溶液の濃度 1：百分率濃度（テキスト 7 章 7.1－7.2）
13. 溶液の濃度 2：モル濃度（テキスト 7 章 7.3－7.4）
14. 化学反応式（テキスト 8 章）
15. 化学反応式の量的関係（テキスト 9 章）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J60025001
科目名	地球科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理学・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる宇宙空間，太陽系，惑星運動，固体地球，地球回転などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学，物理学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．宇宙空間（1）：膨張宇宙
2．宇宙空間（2）：銀河
3．宇宙空間（3）：恒星
4．太陽系（1）：銀河系
5．太陽系（2）：惑星
6．太陽系（3）：衛星
7．惑星運動（1）：万有引力
8．惑星運動（2）：惑星軌道
9．惑星運動（3）：公転周期
10．固体地球（1）：地球測定
11．固体地球（2）：経緯度
12．固体地球（3）：地球楕円体
13．地球回転（1）：重力
14．地球回転（2）：ジオイド
15．地球回転（3）：転向力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60026002
科目名	数学	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では数学の体系の中で解析学の基礎となる行列，行列式，微分，積分，複素関数などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

物理学，地球科学を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．行列（1）：ベクトル
2．行列（2）：スカラー積
3．行列（3）：行列演算
4．行列式（1）：逆行列
5．行列式（2）：ベクトル積
6．行列式（3）：関数行列式
7．微分（1）：スカラー場
8．微分（2）：ベクトル場
9．微分（3）：直交曲線座標
10．積分（1）：線積分
11．積分（2）：面積分
12．積分（3）：体積積分
13．複素関数（1）：複素微分
14．複素関数（2）：複素積分
15．複素関数（3）：級数展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60027001
科目名	生物学実験 -k(春前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生物を扱うときに、まず、自分が扱っている生き物が、なんという生き物なのかを知ることが必要となる。近年、さまざまな分類群について検索図鑑が出版され、より正確に生物を同定できるようになった。そこで、前半で、魚類標本を材料に、検索図鑑を用いて生物の同定、計測方法を学ぶ。 後半は、土壌動物相の比較、野外での動物観察を行い、野外での生物観察の基本を習得する。得られたデータは、コンピュータを用いて統計処理を行い、比較の方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	中坊徹次編「日本産魚類検索」東海大学出版会 青木淳一編「日本産土壌動物」東海大学出版会 市原清志「バイオサイエンスの統計学」南江堂		
教材（その他）	適宜配布する		
評価方法	レポートによる		
到達目標	どのような考え方で、２つのものを「同じ」ものだと判断するのか、「違う」ものだと判断するのか、基本的な考え方を習得する。		
準備学習	これまでに生物学を学んだかどうかは問いません。身近な生物について、日々、観察の目を向けてください。実験が終了した日にデータ整理を行い、次回に集中すべき内容を整理しておくこと。		
受講者への要望			
観測事実に基づいて、論理的な思考を展開し、生命現象を理解するという訓練をしてもらいたい。また、事実を観測するにあたって、丁寧に根気よく観察する力を養ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1　魚類の分類と同定　検索図鑑の使い方（同定） 2　魚類の分類と同定　標本の記載（計測） 3　魚類の分類と同定　標本の記載（スケッチ） 4　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（１） 5　土壌動物の採集と固定　サンプル採取（２） 6　土壌動物の採集と固定　サンプル同定 7　土壌動物の採集と固定　統計を使ったデータ処理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J60027002
科目名	生物学実験 -s(秋後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	講義の概要： 生物学で学んだ知識を習得・錬成するために、様々な微生物、植物、動物を材料として実験・観察を行う。これから学ぶバイオサイエンス系の実験の基礎をこの生物学実験をとおして体得する。また、レポートの書き方、生物データーの扱い方も学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 『フローチャート標準生物学実験』　実教出版　2,300 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	実験レポート(80%)　実験ノートと実験への取り組み方（20%）		
到達目標	実験に臨む心構えや態度を身につける。 実験に必要な器具の使用法を習熟する。 実験結果の扱い方とレポートの書き方を習得する。 実験をとおした生物学の実践的知識を習得する。 生物データーの統計学的計算法を習得する。		
準備学習	事前に配られたテキストで実験内容を予習し、実験ノートを作成しておくこと。 実験終了後は、理解できなかったところを調べて、次の実験までに解決しておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの実験を受けること。春学期の生物学とセットでとると良い。
レポート提出が重要な評価対象となるので、実験終了後は実験結果をしっかりと整理してレポートを作成すること。
実験結果に基づいて、論理的な思考を持ち、生命現象を理解する訓練をして欲しい。また根気よく観察する力を養ってもらいたい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 統計的な考え方
3. 微生物の観察
4. 体細胞分裂の観察
5. 植物細胞の観察
6. ピペット操作と検量線
7. 酵素化学実験
8. 動物細胞の観察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J60027003
科目名	生物学実験 -f(秋後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	生物学で学んだ知識を基に実践的な知識・技術を身につけるため、実験、データ処理、結果考察、レポートの作成を行う。植物を主な材料として扱い、その構造・成分・生体反応の基礎を実験を通して学んでいく。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	「フローチャート標準生物学実験」　標準生物学実験編修委員会　編 実教出版　2,300 円 「生物学実験」　佐藤温重　他著 東海大学出版部　2,000 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	実験レポート（80%） 実験ノート、実験への取り組み方（20%）		
到達目標	実験を行う上での心構え、規則、作法を学ぶ 実験器具の使い方を習得する 実験ノートと実験レポートの書き方を習得する 生物学の実践的知識を習得する		
準備学習	事前に配布するテキストを熟読し、実験内容の予習をしておくこと。 実験終了後は、理解できなかったところを調べて解決しておくこと。		
受講者への要望			
出会った生命現象に対して、疑問や課題を持てることが技術者に必要な要素です。これまでに学んできた生物学の知識をベースにして、意欲的に学習を展開して欲しい。また、実験に丁寧に根気よく取り組み、実験結果を論理的に考察できるようになって欲しい。			
講義の順序とポイント			
1．　ガイダンス、　植物（葉・花）のスケッチ 2．　植物細胞の顕微鏡観察 3．　生体膜にかかる浸透圧 4．　植物色素の抽出と吸光分析 5．　コメ種子の内部構造の観察 6．　アミラーゼ（酵素）によるデンプンの糖化反応 7．　アガロースゲル電気泳動による核酸の分離			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60028001
科目名	化学実験 -s(秋前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	化学実験を行う上で基本となる試薬の取り扱いや実験器具・機器類の正しい使用法を実践的に学ぶ。また実験により得られたデータの扱いとまとめ方を実験ノートとレポートの書き方を通して習得する。実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も適宜行う。		
教材（テキスト）	実験指示書（生物有機化学研究室編集・化学実験指示書） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編）		
教材（その他）	ビデオ「安全な化学実験のために」 各種データ処理に使用する関数電卓（1500 円程度）		
評価方法	実験レポートの成績(70%)、受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	化学関連の実験に共通の実験操作を経験させるとともに、化学の研究を進めるうえで要求される観察力、論理的思考力、想像力を養う。		
準備学習	配布資料の実験指示書を予め読み、実施内容の概要を把握しておく。　その上で、実験ノートに当日行う実験の目的と方法を事前に記載して実験を行う。		
受講者への要望			
専門課程の実験や卒業研究の際の基本になる実験態度、化学物質の取扱方法、器具や機器の使用法を習得する良い機会なので、受講者は毎講時出席した上で実験に慣れて欲しい。			
講義の順序とポイント			
1. 安全講習、実験器具の取り扱い、ガラス細工 2. 秤量操作と滴定操作の習得 3. 各種試薬・溶液の調製 4. 弱酸の電離平衡と電離定数 5. 緩衝液（バッファー）の pH 6. 反応速度と濃度・温度の関係 7. 植物から精油の抽出 8. 化学実験に必要な基礎知識の理解度テスト、実験器具の整理整頓			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J60028002
科目名	化学実験 -k(春前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	化学で学んだ理論を定性および定量実験を通して理解することを目的としている。さらに、化学的な実験をおこなうための基本的な技術を習得する。実験の基本的な考え方を身につける。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税		
教材（その他）	高等学校の化学の教科書 化学の図録		
評価方法	レポート（60%）、小テスト（30%）、実験の取り組み態度による平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験操作を習得し、説明することができる。 基本的な実験器具の名称と特徴を理解できる。 化学実験のレポートの基本的な書き方が理解し、適切に記述することができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。指定日までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 化学の理論を勉強しておくこと。 環境化学実験と合わせて受講することが望ましい。 水環境化学実験の履修を予定する学生は、この「化学実験」を受講していることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、化学実験基礎操作１（ガラス器具の名称） 2.　化学実験基礎操作２ーフェーリング反応－（はかり、バーナーの使い方） 3.　化学実験基礎操作３ー残留塩素測定ー（定量ガラス器具の扱い方） 4.　クロマトグラフィーによる混合物の分離 5.　アボガドロ数の測定 6.　無機定性実験１（金属イオンの分離と確認） 7.　無機定性実験２（未知イオンの同定） 8.　小テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J60028003
科目名	化学実験 -f(春前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	化学で学んだ理論を定性および定量実験を通して理解することを目的としている。さらに、化学的な実験をおこなうための基本的な技術を習得する。実験の基本的な考え方を身につける。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円（＋税）		
教材（その他）	高等学校の化学の教科書 化学の図録		
評価方法	レポート（60%）、小テスト（30%）、平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験操作を習得し、説明することができる。 基本的な実験器具の名称と特徴を理解できる。 化学実験のレポートの基本的な書き方を理解し、適切に記述することができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 化学の理論を勉強しておくこと。 環境化学実験と合わせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス、化学実験基礎操作１（ガラス器具の名称） 2.　化学実験基礎操作２ーフェーリング反応－（はかり、バーナーの使い方） 3.　化学実験基礎操作３ー残留塩素測定ー（定量ガラス器具の扱い方） 4.　クロマトグラフィーによる混合物の分離 5.　アボガドロ数の測定 6.　無機定性実験１（金属イオンの分離と確認） 7.　無機定性実験２（未知イオンの同定） 8.　小テストと解説			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J60029001
科目名	物理学実験（春前半）	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Physics		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，長さ，質量，時間，単振子，ばね振子，衝突，電気，磁気などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習，地球科学・演習，環境物理学・実験，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．長さ：面積・体積 ２．質量：天秤・密度 ３．時間：速度・加速度 ４．単振子：振幅・周期 ５．ばね振子：力・振動数 ６．衝突：運動量・力学的エネルギー ７．電気：電流・ジュール熱 ８．磁気：電磁石・磁力			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J60030001
科目名	地球科学実験（秋前半）	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Earth Science		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，年周視差，恒星，惑星，重力，自転，太陽，気象，海洋などあらゆる測定の基本となる観測量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．年周視差：天文単位・パーセク ２．恒星：光度・絶対等級 ３．惑星：平均距離・公転周期 ４．重力：万有引力・重力加速度 ５．自転：遠心力・転向力 ６．太陽：視直径・太陽定数 ７．気象：気温・気圧 ８．海洋：塩分・組成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J6003300E
科目名	科学英語Ⅰ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English I		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．英文・和文基礎演習
3．可算名詞・不可算名詞
4．可算名詞・不可算名詞演習
5．自動詞・他動詞・人称代名詞
6．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
7．第１文型・第３文型
8．第１文型・第３文型演習
9．形容詞
10．形容詞演習
11．第２文型
12．第２文型演習
13．第４文型・第５文型
14．第４文型・第５文型演習
15．総合演習（１）
16．総合演習（２）
17．副詞
18．副詞演習
19．形容詞・副詞の比較級・最上級
20．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
21．前置詞
22．前置詞演習
23．助動詞
24．助動詞演習
25．動詞の時制
26．動詞の時制演習
27．受動態
28．受動態演習
29．総合演習（３）
30．総合演習（４）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J6003400A
科目名	科学英語Ⅱ -s1(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2〜16.？「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The？？？？？？？Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を？？？？？?通して、科学英語の文章を読解する。

17.　　中間テストをする。

18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、？？？？？?図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と ？？？？？？？？？？？？？？「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J6003400B
科目名	科学英語 II -s2(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English II		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	「科学英語 I 」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語 II 」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2〜16.？「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The？？？？？？？ Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を？？？？？?通して、科学英語の文章を読解する。

17.　　中間テストをする。

18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、？？？？？?図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と ？？？？？？？？？？？？？？「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J6003400C
科目名	科学英語 II -s3(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English II		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	「科学英語 I 」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語 II 」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜16.？「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The ??????? Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を??????通して、科学英語の文章を読解する。 17.　中間テストをする。 18〜30.　「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、??????図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と ??????????????????「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J6003400E
科目名	科学英語Ⅱ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J6003400F
科目名	科学英語Ⅱ -s(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜16.？「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に「The？？？？？？？Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を？？？？？?通して、科学英語の文章を読解する。 17.　中間テストをする。 18〜30.「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、？？？？？?図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と ？？？？？？？？？？？？？？「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J6003500A
科目名	科学英語A -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内の小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1）　Guidance
2, 3）　Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5）　Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7）　Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9）　Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11）　Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13）　Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15）　Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16）　Midterm Exam
17, 18）　Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20）　Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22）　Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24）　Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26）　Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28）　Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30）　Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J6003500B
科目名	科学英語Ａ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（１）
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（１）
23．分詞構文（２）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定
28．二重否定
29．読解問題
30．総合演習（２）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J6003500C
科目名	科学英語A -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内の小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1） Guidance
2, 3） Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5） Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7） Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9） Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11） Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13） Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15） Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16） Midterm Exam
17, 18） Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20） Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22） Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24） Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26） Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28） Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30） Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J6003500D
科目名	科学英語Ａ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（1）
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（1）
23．分詞構文（2）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定
28．二重否定
29．読解問題
30．総合演習（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J6003500E
科目名	科学英語A -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（テキスト）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）（Prieto Rafael 京都学園大学）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内の小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講者への要望

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

講義の順序とポイント

1） Guidance
2, 3） Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5） Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7） Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9） Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11） Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13） Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15） Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16） Midterm Exam
17, 18） Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20） Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22） Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24） Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26） Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28） Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30） Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J6003500F
科目名	科学英語 A -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。「科学英語 A」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目的とする。		
教材（テキスト）	『The Earth and Our Health』　（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版　（文英堂編集部　文英堂）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、課題の提出 ：（20%） 中間試験 ：（40%） 期末試験 ：（40%）		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また、毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

講義の際に英和辞典を持参すること。
各講義で確認小テストを実施する。
シグマ基本問題集英文法の学習を宿題として毎回課し、その内容は小テストの出題範囲とする。

講義の順序とポイント

『The Earth and Our Health』を精読することによって、英語のパラグラフ構成を理解し、科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。

1.　ガイダンス
2. 3. Unit 1 : よく寝てよく学べ
4. 5. Unit 2 : 散歩は健康の第一歩
6. 7. Unit 3 : 喫煙は不健康な選択
8. 9. Unit 4 : ストレスは病気のもと
10. 11. Unit 5 : もういや！アレルギーよ、さらば
12. 13. Unit 6 : がんの徴候を見逃すな
14. 15. まとめ①
16.　中間試験と解説
17. 18. Unit 7 : 酒は百薬の長って本当だった？
19. 20. Unit 8 : 自然の摂理はどうなる？遺伝子組み換え作物
21. 22. Unit 9 : この中に何が入っているの？変わる有機食品表示
23. 24. Unit 10 : さらに頑張る人のためのスポーツ・サプリメント
25. 26. Unit 11 : チキンスープより効果がある新しいかぜ薬
27. 28. Unit 12 : 薬をはねつける耐性菌
29. 30.　まとめ②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	★	–	★★	–

年度	2017	授業コード	J6003500G
科目名	科学英語 A -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。「科学英語 A」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目的とする。		
教材（テキスト）	『The Earth and Our Health』　（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版　（文英堂編集部　文英堂）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、課題の提出 ：（20%） 中間試験 ：（40%） 期末試験 ：（40%）		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また、毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので、復習しておくこと。		

受講者への要望

講義の際に英和辞典を持参すること。
各講義で確認小テストを実施する。
シグマ基本問題集英文法の学習を宿題として毎回課し、その内容は小テストの出題範囲とする。

講義の順序とポイント

『The Earth and Our Health』を精読することによって、英語のパラグラフ構成を理解し、科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。

1.　ガイダンス
2. 3. Unit 1 : よく寝てよく学べ
4. 5. Unit 2 : 散歩は健康の第一歩
6. 7. Unit 3 : 喫煙は不健康な選択
8. 9. Unit 4 : ストレスは病気のもと
10. 11. Unit 5 : もういや！アレルギーよ、さらば
12. 13. Unit 6 : がんの徴候を見逃すな
14. 15. まとめ①
16.　中間試験と解説
17. 18. Unit 7 : 酒は百薬の長って本当だった？
19. 20. Unit 8 : 自然の摂理はどうなる？遺伝子組み換え作物
21. 22. Unit 9 : この中に何が入っているの？変わる有機食品表示
23. 24. Unit 10 : さらに頑張る人のためのスポーツ・サプリメント
25. 26. Unit 11 : チキンスープより効果がある新しいかぜ薬
27. 28. Unit 12 : 薬をはねつける耐性菌
29. 30.　まとめ②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	★	–	★★	–

年度	2017	授業コード	J6003500H
科目名	科学英語Ａ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（１）
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（１）
23．分詞構文（２）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定
28．二重否定
29．読解問題
30．総合演習（２）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J6003600A
科目名	科学英語Ｂ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,944 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J6003600B
科目名	科学英語Ｂ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（1）
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（2）
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（3）
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（4）
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（5）
6．総合演習（1）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）
12．総合演習（2）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）
18．総合演習（3）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）
24．総合演習（4）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）
28．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（4）
29．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（5）
30．総合演習（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J6003600C
科目名	科学英語Ｂ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,944 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J6003600D
科目名	科学英語Ｂ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（1）
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（2）
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（3）
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（4）
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（5）
6．総合演習（1）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）
12．総合演習（2）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）
18．総合演習（3）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）
24．総合演習（4）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）
28．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（4）
29．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（5）
30．総合演習（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J6003600E
科目名	科学英語Ｂ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。更に講義では、学生の理解度に応じて担当教員のほうで教材を準備し、フォローアップできるようにする。		
教材（テキスト）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,944 円		
教材（参考文献）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

講義の順序とポイント

1.　　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J6003600F
科目名	科学英語Ｂ -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	「科学英語Ａ」に続く科目として、2 回生の秋学期に開講する。科学英語Ａ同様に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現の習得を目指しながら、さらに自然科学分野で多用される専門用語の理解を深め、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	『The Earth and Our Health』（小林 敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部 文英堂）		
教材（参考文献）	『ライフサイエンス必須英和・和英辞典』 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、課題の提出：20% 中間試験：40% 定期試験：40%		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		
受講者への要望			
講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。確認小テストをやります。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2 －15　UNIT13－17 の読み、和訳、文法解説 16　UNIT13－17 の復習テストと解説 17 －28　UNIT18－21 の読み、和訳、文法解説 29 －30　Voice of America の記事を読む			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J6003600G
科目名	科学英語Ｂ -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	「科学英語Ａ」に続く科目として、2 回生の秋学期に開講する。科学英語Ａ同様に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現の習得を目指しながら、さらに自然科学分野で多用される専門用語の理解を深め、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	『The Earth and Our Health』（小林 敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部 文英堂）		
教材（参考文献）	『ライフサイエンス必須英和・和英辞典』 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社）		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	授業への参加姿勢、小テスト、課題の提出：20% 中間試験：40% 定期試験：40%		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
準備学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		
受講者への要望			
講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。確認小テストをやります。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2 －15　UNIT13－17 の読み、和訳、文法解説 16　UNIT13－17 の復習テストと解説 17 －28　UNIT18－21 の読み、和訳、文法解説 29 －30　Voice of America の記事を読む			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J6003600H
科目名	科学英語Ｂ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（1）
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（2）
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（3）
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（4）
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学とは（5）
6．総合演習（1）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）
12．総合演習（2）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）
18．総合演習（3）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）
24．総合演習（4）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）
28．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（4）
29．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（5）

30. 総合演習（5）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2017	授業コード	J6004300A
科目名	バイオサイエンス概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bioscience Research		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	バイオ環境概論Ⅰ
講義概要	バイオサイエンス学科の全専任教員が担当する。各自が関わってきたそれぞれの研究や学問分野のトピックスを講義し、環境問題に配慮したバイオサイエンスの諸科学やその展開過程での考え方、哲学、面白さなどを伝授するオムニバス形式の講義である。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	パワーポイントでの講義となる。		
評価方法	興味をもった教官の講義 2 件について、期末に内容を 1000 字程度のリポートとして提出してもらい、当該教員がその内容を評価する。		
到達目標	バイオサイエンスのカバーする広い分野について、全般的な理解をして貰うことが狙いである		
準備学習	オムニバス形式の講義で、予習を指示するのが難しいが第 1 回目のイントロダクションで 15 回の講義の概要を解説し、準備学習がし易いようにする。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の専任教員全員の専門分野の紹介であるので、将来の卒論を始め、この学科での学びのバックグラウンドとして真剣に受講して欲しい。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション（バイオサイエンス概論とは）オムニバス形式の講義内容の紹介。
2　植物環境連関学（不良環境に対する植物の適応戦略）不良土壌に対する植物の適応と遺伝子工学による耐性獲得。
3　植物細胞工学（植物バイオの現状と展望）持続可能な社会における「植物」の役割と植物バイオ技術の現状と展望。
4　分子植物生理学（植物の形つくりの秘密）植物を形づくる細胞生長過程ー細胞伸長の制御タンパク質を中心に。
5　食品化学（機能性食品の開発）食品及び食品成分の栄養性、健康機能性の解説。
6　生体栄養科学（がん発生にからむ健康と食品）がん発生のメカニズム、食品中の発がん性物質および発がん抑制物質の紹介。
7　化学生態学（化学生態学とは何か）生物学と有機化学の境界領域である化学生態学の概要紹介。
8　生物有機化学（生理活性物質の化学）生物活性物質を生合成、機能からとらえ、理論と具体例について解説する。
9　天然物化学（さまざまな機能性分子）有機化学の基礎の解説、多様な生理活性物質の紹介。
１０　遺伝子工学（遺伝子からみた生物の環境適応）環境ストレスに応答する遺伝子について、基礎的な話題や研究の展望の紹介。
１１　分子生物学（遺伝子、タンパク質研究の最前線）生命活動や病気との関わりなども含め、遺伝子やタンパク質研究の最前線について概説。
１２　一般微生物学（微生物の生物学）微生物学とはどういう学問か。その歴史と最新の話題。
１３　応用微生物学（役に立つ微生物）微生物はどのように人間の役に立ってきたか。発酵・醸造や物質生産への応用について。
１４　産業微生物学（微生物と環境問題）環境問題、地球温暖化問題に対して微生物に何ができるか。産業微生物学からの解答。
１５　（総合討論）　バイオサイエンス概論を学んで。このオムニバス講義で得た新しい知見や視点についての討議とエッセイ。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J6004500A
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	実習農園でグループ単位で一定面積の区画で夏野菜を中心に栽培する。苗作りからその収穫までの栽培法や栽培環境管理方法などを体験する。単に栽培技術の重要性の認識だけでなく、実践的な学びを通じて、土壌、温度などの物理的環境、肥料、農薬などの化学的環境、病害虫や益虫などの生物的環境など生物と環境について広く考えるきっかけを作る。「キャンパスの横に農場がある」、「農場の中に教室がある」地の利を活かし、実習時間以外の観察・体験も大切にし、作物を育て、収穫し、食する喜びを体験する。		
教材（テキスト）	なし、適宜講義プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「新版野菜栽培の基礎」池田英男・川城英男編著、農山漁村文化協会 「おいしい野菜づくり」加藤義松監修、成美堂出版など		
教材（その他）	野菜や作物の栽培に関する図書が図書館バイオ環境分室にあるので適宜参考にすること。		
評価方法	平常点（栽培作業状況など）　50% レポート　50%		
到達目標	作物栽培を通じて植物の生育や環境に対する観察力、生物と環境のかかわりについて考える基礎力を養う。		
準備学習	毎回の実習で観察したこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことなどを調べて、次回の実習に活かすように心がける。　次回実習に向けた調べ学習を指示するので、書籍やインターネットなどで調べておくこと。また作業中に超面した疑問などを持ち帰り、書籍やインターネットで調べ直し、疑問を持ち越さないように務めること。		

受講者への要望

トレーナーなど作業ができる服装、長靴、軍手などは受講者が用意する。
野帳（持ち運びできるハンディーな観察記録ノート）に栽培中に観察したことなどを必ず記録する。
実習中の観察などからある項目をとりあげ、これについて調べ、レポートにまとめる積極的な取組みを望む。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション、種まき、作物資料調査
2．実習講義および区割り，耕起・畝立て・整地、種まき
3．実習講義および耕起・畝立て・整地
4．実習講義および移植、支柱の準備などの栽培管理と記録
5．実習講義および除草，施肥、支柱やネットの設置などの栽培管理と記録
6．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
7．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
8．中間検討会
9．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
10．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
11．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
12．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
13．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
14．収穫、後片付けと整理、品評会および検討会
15．収穫、後片付けと整理、栽培記録の取りまとめ、レポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J6004500B
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	作物栽培管理実習
講義概要	畑（夏野菜・黒豆）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ。同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をする。畑水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する。栽培技術については敷藁などの生物素材の有効性について理解を深める。		
教材（テキスト）	作物リスト、その栽培法など必要に応じて準備します。		
教材（参考文献）	京野菜を楽しむ　淡交社 現代農業など		
教材（その他）	農業資材・肥料などについては実物を用意しますので各自判断をして使用してください。		
評価方法	管理作業状況 70%、レポート 30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化をまなぶ。また栽培技術の初歩を習得する。イネおよび黒豆の収穫は秋期になりますので夏休みの対策を考えておくこと。		
準備学習	農業関係の書籍を読んで置くこと。例えば現代農業、最新園芸技術 6 野菜の生態と作型の該当する作物について読んで理解を深めておくこと。さらにキャンパス周辺の農地などを観察し,どのような作業をしているかをつかんでおく。最終的にまとめのレポートを提出することも考慮し、毎回終了後の作業日誌などの記録を必ず取っておくこと。		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われます。毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.実習のガイダンス 2.資材の調達（支柱、敷き藁、ネット、肥料の調整） 3.畑作業と記録 1（整地、区割り、ネット） 4.畑作業 2（播種） 5.水田作業と記録 1（区割りなど田植え準備） 6.水田作業と記録 2（田植え） 7.畑作業と記録 3（敷き藁調整、畦除草） 8.畑作業と記録 4（除草） 9.畑作業と記録 5（除草） 10.水田管理と記録 3（施肥と除草） 11.水田管理と記録 4（水田生物観察と除草効果観察） 12.畑作業と記録 6（黒豆播種、除草と記録） 13.水田管理と記録 5（病害虫の観察、除草） 14.畑作業と記録 7（収穫、重量測定記録） 15.農作物の加工と利用			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	J6004500C
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	畑圃場（夏野菜）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ．同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をする．畑圃場・水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する．栽培技術については農薬は使用せず，紙マルチを使用するなど，環境に優しい方法についての理解をも深める．		
教材（テキスト）	作物リスト，その栽培法などを必要に応じて準備する．		
教材（参考文献）	「京野菜を楽しむ」　上田耕司・星川真一　著　（淡交社） 月刊 「現代農業」 （農文教）　など		
教材（その他）	農業資材・肥料などについては実物を用意するので，各自判断をして使用する．不明の場合は教員に質問すること．		
評価方法	管理作業状況７０％，レポート 30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また複数の作物を栽培することにより，その栽培技術の初歩を習得する．		
準備学習	農業関係の書籍を読んで置くこと．例えば月刊誌である「現代農業」,「最新園芸技術　6　野菜の生態と作型」の該当する作物について読んで理解を深めておくこと．さらにキャンパス 周辺の農地などを観察し，どのような作業をしているかをつかんでおく．最終的にまとめのレポートを提出することも考慮し，毎回終了後の作業日誌などの記録 を必ず取っておくこと．		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われる．どのよう作業を行い，それが収穫物にどのような影響を与えたかを理解するために，毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するのが望ましい．			
講義の順序とポイント			
1．実習のガイダンス 2．資材の調達（支柱，ポリマルチ，肥料の調整） 3．畑作業と記録１（整地，区割り，マルチ敷設） 4．畑作業２（播種・定植） 5．水田作業と記録１（区割りなど田植え準備） 6．水田作業と記録２（田植え） 7．畑作業と記録３（畑圃場除草・畦除草） 8．畑作業と記録４（除草） 9．畑作業と記録５（除草） 10．水田管理と記録３（施肥と除草） 11．水田管理と記録４（水田生物観察と除草効果観察） 12．畑作業と記録６（黒豆播種，除草と記録） 13．水田管理と記録５（病害虫の観察，除草） 14．畑作業と記録７（収穫，重量測定記録） 15．農作物の加工と利用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J60047001
科目名	バイオ環境技術動向	単位数	2
科目名（英語表記）	Trends in Bioenvironmental Techniques		
担当者名	田﨑　雅晴	旧科目名称	
講義概要	地球環境が危惧されている現代、バイオテクノロジーを利用した技術が注目されている。しかし我々はそれ以前より、環境に生物を取り入れた技術の恩恵を受けている。 本講義では、生物と環境との基本的な繋がりを確認して、それを利用してきた技術の流れを理解してもらうことから始める。それを理解した上で、「地球環境の現状と対策」「環境の利用/浄化」「環境の創造」等について、普遍的な環境バイオ技術から、近年注目されている新しい環境バイオの話題までを紹介する。 講義は 3 日間のうち、前半 1.5 日でバイオテクノロジーの基礎を産業的視点より解説し、地球環境やバイオマス利用、環境浄化を講義する。後半 1.5 日では講師を変えて「自然環境の保全・修復・創造」について解説する。 この講義により環境バイオテクノロジーを学ぶ研究者としての最低限の知識と考え方を身につけて頂きたい。		
教材（テキスト）	使用せず		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布		
評価方法	前半及び後半での筆記試験と平常点（受講態度、積極性等）。		
到達目標	・環境とバイオテクノロジーの歴史を理解する。 ・身の回りの生活にバイオテクノロジーが密着に関与していることを認識する。 ・現社会における問題とバイオテクノロジーとの関連を理解する。 ・生態系、生物多様性の意味と重要性を理解する。		
準備学習	・報道されている現代社会の問題を「地球環境」「バイオテクノロジー」を研究する者の目で考えておく。		

受講者への要望

・常識的な態度で受講すること。
・試験は前半と後半の 2 回に分けて実施する予定である。
・就職活動等、正当な理由での欠席の場合は、必ず申し出て、所定の手続きを行うこと。

講義の順序とポイント

1．導入：環境とは何か？ バイオテクノロジーとは何か？
2．バイオテクノロジーを利用した環境の利用/浄化
　●バイオテクノロジーと環境
　●地球環境の現状（温暖化への対策）
　●最近のバイオマスの利用技術について
　●生物を利用した水質浄化（水処理）について
　●バイオテクノロジーを利用した土壌汚染浄化について
　●環境に関するトピックス
3．自然環境の保全・修復・創造
　●生物多様性の現状と動向
　●環境アセスメントとミティゲーション
　●生態系のプランニングとデザイン
　●都市の緑化・自然環境の創造
　●これからの環境計画（参加型）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J6004900A
科目名	基礎バイオサイエンス実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Bioscience		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス学科の全ての専任教員による各分野の基本的な実験をオムニバス方式で体験する。 バイオサイエンス各分野の特徴的な基礎実験を体験することで、専門分野で必要となる機器操作や基本技術、実験に関する規範を修得する。 バイオ環境学部バイオサイエンス学科の共通教育過程で重要な専門基礎科目である。		
教材（テキスト）	各分野毎に、各研究室から配布される実験の手順書や指南書を用いる。		
教材（参考文献）	『イラストで見る超基本バイオ実験ノート』（羊土社）(ISBN4-89706-920-3) 『アット・ザ・ベンチ』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）(ISBN4-89592-258-8)		
教材（その他）	必要に応じて実験時間中に、教材を紹介する。		
評価方法	すべての実験レポート提出が必須であり、各分野毎に実験レポートの成績（70%)と教員各位からの実験課題の内容を評価（30%)し、研究分野毎の評価を総計し、五研究室分の評価を総合して評価する。		
到達目標	バイオサイエンス分野の基礎的な実験の内容と原理を理解し、技法を習得し、結果を整理し、まとめて発表できるレポートを毎回期日内に作成する。 基本的な技量を身につけ、各課題を探求し学修することで理解を深めることを達成目標にする。		
準備学習	各実験の実験指示書に前もって必ず目を通し、実験前に自分で実験の概要を各自の実験ノートに記載し、準備すること。 実験課題について先ず把握に努め，理解できる部分と不明な部分、理解できない部分、疑問点などを区別できるように準備して実験実習に臨むこと。		
受講者への要望			
バイオサイエンス分野で必要となる専門実験実習の正しい基本を習得するものであり、レポート作成も含めて基礎教育訓練であるから、事前にしっかり準備して、実験開始の 10 分前までに白衣に着替えて大実験室に入室すること。			
講義の順序とポイント			
1.　実験全体の説明・実験室の機器利用説明・実験準備・レポートの書き方など　（松原） 2.　グリニャール反応を利用したトリフェニルカルビノールの合成　（若村・清水伸） 3.　クロマトグラフィーによる物質の分離　（若村・清水伸） 4.　定性分析実験と機器分析の基礎実習　（若村・清水伸） 5.　生体試料の扱いと DNA の抽出と定量　（松原・寶関） 6.　生体試料からのタンパク質の調製と分画の基礎　（松原・寶関） 7.　微生物学実験法：培地調製　（萩下・櫻間） 8.　微生物学実験法：無菌操作　（萩下・櫻間） 9.　微生物学実験法：形態観察　（萩下・櫻間） 10. デンプンの酵素分解と生成グルコースの定量　（矢野・藤田） 11. 食品中に含まれるビタミンＣの定量　（矢野・藤田） 12. 酵素の反応速度論的解析　（矢野・藤田） 13. 植物の生体成分の定量　（髙瀬・プリエト） 14. 植物のタンパク質含量の定量　（髙瀬・プリエト） 15. 実験技術の確認と 3 回生の専門実験に向けてのグループ討論　（髙瀬・プリエト）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	J6005000A
科目名	バイオ環境事業見学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Trips for Learning Bioenvironmental Scie nce		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境の事業体・事業地ないしは工場の現地見学。		
教材（テキスト）	見学先事業所から配布される資料。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	見学先事業所のホームページ、類似する事業所のウエブサイト、バイオ環境に関わる事業に関する一般書籍。		
評価方法	実習レポート評価（100％）		
到達目標	百聞は一見に如かず。　バイオ環境事業所の現場の取り組みを知る。		
準備学習	訪問する事業所の情報をインターネット等で収集し、事業内容、取り組み、社会的背景、歴史的背景などを事前学習すること。また、調べたことをレポート作成に生かすこと。		
受講者への要望			
事前学習で生じた疑問、事業所を訪れて生じた疑問、提案などを積極的に質問してください。			
講義の順序とポイント			
複数のコース中の１コースを選択し、バイオ関連企業の工場、ないしは環境保全事業体などを訪れ、実地に現場技術と現場・経営環境を見学し、説明案内を受ける。実習後、レポートを提出する。なお、予備知識を得るため、事前説明（集中）を実施する。見学実習時期は、は９月初旬あるいは中旬を予定している。実施詳細は７月に公示する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J60051001
科目名	環境生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Biology		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	地球温暖化、森林破壊、食糧危機など、21 世紀に深刻化することが危惧される諸問題の理解には、地球環境や地域環境に対する学際的・分野横断的なアプローチが不可欠である。本科目では、大気、地形、土壌などの非生物的環境と、その中で生きる主体としての生物との相互作用を理解すると共に、その相互作用の中での人間活動の関わりを総合的な視点で捉えることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	分野が多岐にわたるため、毎回の授業の中で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（40 点）と、期末試験（60 点）により評価する。		
到達目標	非生物的環境と生物の相互作用に関わる基礎知識の習得と、その相互作用の中での人間活動の関わりを理解する。また、これまでの人間活動の功罪と、今後の暮らしのあり方を論ずる視点を身につける。		
準備学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講者への要望

教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。

講義の順序とポイント

1　環境生物学とは？
2　土壌は一日にしてならず：岩石が土に変わるまで
3　土壌と生物の相互作用：いのちを育む土の役割
4　大気と生物の相互作用：炭素循環を考える
5　世界を変えた窒素固定：ハーバー・ボッシュ法の功罪
6　自然の価値の評価法の変遷：自然度から生物多様性へ
7　自然条件下の植生遷移：極相林と動的平衡
8　人為作用下の植生遷移：草地や林地の持続的管理
9　生物の多様性を支えるしくみ１：競争排他 vs 多種共存
10　生物の多様性を支えるしくみ２：自然選択と共進化
11　動物と植物の相互作用１：送粉
12　動物と植物の相互作用２：種子散布
13　森を畑に、畑を森に：焼畑に受け継がれる在来知
14　焼畑を活かした日本の森づくり：焼畑の現代的意義
15　生態資源の持続的利用：生物生産と環境保全の調和

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J60052001
科目名	環境化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	私たちの身の回りには、私たちの健康に直接の害作用がある物質がいくつかある。これらの物質は、空気を通じて、また飲み水や食べ物を通じて体内に入り込み、害作用を示す。このような直接的に害作用を及ぼす物質が、どこで発生して、どんな害をもたらすのかを化学的な視点から講義する。前半では、ダイオキシンや農薬などの問題などを取り上げる。またそれに加え、放射性物質についても取り上げる。後半では、地球環境問題として二酸化炭素の発生、アスベスト問題、シックハウス症候群、重金属汚染問題などを取り上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	新版生活と環境三共出版 わかる環境科学三共出版 「放射線･アイソトープを取り扱う前に－教育訓練テキスト－」、日本アイソトープ協会、丸善、2005		
教材（その他）	講義に必要な教材は適宜指示あるいは配布する		
評価方法	前半はレポートと事前学習などの平常点(30 点)と中間小テスト(20 点)で 50 点、後半は小テスト(20 点)期末テス(30 点)で 50 点、合計 100 点満点で評価する。		
到達目標	各種の環境化学物質について正当な評価ができ、害がある物質で被害を受けないように、基礎知識を身に付ける。		
準備学習	身近にある食品、洗剤、化粧品、スプレーなどに書いてある「成分」の表示を普段から見るように心がけること。また、ＴＶや新聞に見かける化学物質についてインターネットなどで化学構造や性質について調べる習慣をつけること。講義に必要な資料は事前配布する。予習して内容や質問点をまとめておくこと。		
受講者への要望			
本講義を通して、環境問題の本質を理解して貰いたい。また、秋学期に「社会と環境問題」履修する人は、この講義を必ず履修して欲しい。			
講義の順序とポイント			
1.　ダイオキシン問題　－　その後ん十年、今も続くリスク 2.　ダイオキシンと環境ホルモン　－　おそれるな、あなどるな 3.　放射性物質とは　－　核爆弾と原子炉で作られる人工放射性物質 4.　放射線の生物への影響　－　放射線で誘発される突然変異 5.　放射線の人体への影響　－　原爆被爆者と原子炉事故の被曝者の健康状態から推定するしかない 6.　農薬の基礎知識　－　農薬取締法 7.　「農薬」をめぐる様々な問題　－　功罪を冷静に見きわめよう 8.　化学物質の名称（化学式の書き方、有機物と無機物）　－　同じ物質にいくつも名前がある！ ☆ 中間小テスト☆ 9.　燃焼の化学　－　一酸化炭素と二酸化炭素の発生 10.　石油石炭の燃焼　－　硫黄酸化物と窒素酸化物の発生、光化学オキシダントの生成 11.　アスベスト（石綿）問題 12.　シックハウス症候群　－　ホルムアルデヒドや有機溶剤の害 13.　混ぜるな危険　－　塩素ガスの発生 14.　鉱工業からの廃水　－　重金属による公害病 15.　重金属の害			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60053001
科目名	環境物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる質点系，連続体，振動，波動，光などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学実験，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．質点系（1）：並進運動 2．質点系（2）：回転運動 3．質点系（3）：角運動量保存則 4．連続体（1）：剛体 5．連続体（2）：弾性体 6．連続体（3）：流体 7．振動（1）：円運動 8．振動（2）：単振動 9．振動（3）：弾性ポテンシャル 10．波動（1）：波動方程式 11．波動（2）：音波 12．波動（3）：光波 13．光波（1）：干渉 14．光波（2）：回折 15．光波（3）：偏光			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60054001
科目名	環境地球科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理学・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる地殻，地震，火山，地球内部，地球磁場などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．地殻（1）：大陸地殻
2．地殻（2）：海洋地殻
3．地殻（3）：アイソスタシー
4．地震（1）：プレートテクトニクス
5．地震（2）：地震波
6．地震（3）：マグニチュード
7．火山（1）：火山活動
8．火山（2）：マグマ
9．火山（3）：火山地形
10．地球内部（1）：マントル
11．地球内部（2）：外核
12．地球内部（3）：内核
13．地球磁場（1）：磁極
14．地球磁場（2）：地磁気
15．地球磁場（3）：極性変化

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60055001
科目名	環境生物学実験 -f(秋前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本科目では、里山などの身近な自然の植生調査や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	実習への参加状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。		
準備学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 3　里山の環境を調査するII：植物相調査 4　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 5　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　レポートのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J60055002
科目名	環境生物学実験 -s(秋前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	野外での生物調査で必要となる生物の同定・分類、調査・分析、データ解析の基礎的な方法を体験する。特に本科目では樹木植生と土壌に関する調査に焦点を当て、検索図鑑を用いた植物の同定、里山などの身近な自然の植生調査や土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	実習への参加・フィールドノート作成状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。と共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深める。		
準備学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。野外での調査では調査内容を記録することが、その後の調査計画・仮説立案にとって重要となる。本実験用に記録ノートを準備すること。		
受講者への要望			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然に潜む因果関係に対する洞察力を養ってください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 3　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 4　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 5　里山の環境を調査するII：毎木調査 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　データのまとめ方とレポートの書き方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J60055003
科目名	環境生物学実験 -k(春後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本科目では、里山などの身近な自然の植生調査や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	実習への参加状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。		
準備学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 3　里山の環境を調査するII：植物相調査 4　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 5　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　レポートのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J60056001
科目名	環境化学実験 -s(秋後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	環境分析法の初歩的な実習として無機環境化学実験（3 回分）と有機環境化学実験（4 回分）を秋学期の後半に実施する。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	特に定めない		
教材（その他）	必要な教材・器具は教官が配布あるいは準備するが、一部の材料は実験者自身で準備する。		
評価方法	実験ごとのレポート(7 回分)と実験ノートの内容で 80%、これに準備学習や受講態度などの平常点 20%を加味して評価する。		
到達目標	生活に欠かせない水。生活や産業活動により、様々な物質が水に含まれてくる。水の浄化や水質検査の基本的な手法に触れ、分析法の基本的技術を学んでほしい。生活の中で廃棄せざるを得ないプラスチックや食用油の再利用法を実際に行ってみて、分別や再利用の大切さや問題点についての認識を深めてほしい。		
準備学習	実験の１週間前には、実験指示書を配布して概要を説明する。実験当日までに指示書を熟読し、手順や質問事項を実験ノートにまとめておくこと。また、それぞれの実験の基礎的知見に関する課題を出題する。実験当日までに、書籍やインターネットを活用して調べておくこと。		

受講者への要望

本実験は、これに先立つ化学実験に続いて化学の基本操作を習熟し、２回生配分の基礎バイオ実験に橋渡しする意味でも重要でもある。化学と化学実験を受講して基本的な知識と操作について習熟しておいてほしい。
実験には、危険性が高い操作が含まれる。取り扱い方を間違えると取扱者自身だけでなく、近くにいる人にも危害が及ぶ。実験開始前の教員の説明と指示を注意深く聴き、役割分担について同じ班のメンバーと十分に意思疎通をはかって進めること。
実験には、背綴じのノートを持参すること。ページの差し替え可能なルーズリーフタイプは不可。
実験ノートは、実験の最初から最後まですべての記録であると心得てほしい。

講義の順序とポイント

有機環境化学実験
1 プラスチック製品の科学的識別　－　身近なプラスチックの素材を見分ける
2 発泡ポリスチレンのリサイクル　－　かさばるポリスチレンをコンパクトに回収
3 廃食用油からバイオジーゼル燃料油の調製　－　エステル交換反応
4 廃食用油からセッケンを作る　－　油脂のけん化
実験２～４にはそれぞれ１週間放置する操作が含まれるため、２～３回にわたって実施する。
操作は２～３回にわたっても、レポートはそれぞれの実験テーマごとに提出する。
無機環境化学実験
1 環境水水質と浄化　－　汚濁水の浄化とは
2 環境水中のチッソ成分の測定　－　アンモニア態チッソと硝酸態チッソを別々に測定
3 水道水中の残留塩素の測定　－　水道水を安全に飲めるのは？

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60056003
科目名	環境化学実験 -k(春後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	環境の評価は化学的な分析による数値を元に行う場合が多い。そこで、滴定を中心とした実験をおこない、定量実験の手法、データ解析を理解する。また、考察内容を決めて、実際に実験計画を立てて実行する。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 中川徹夫著『化学の基礎ー元素記号からおさらいする化学の基礎』　化学同人　1500＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（90%）、実験の取り組み態度による平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験の操作を習得する。 化学反応式から定量的な解析ができる。 検量線を用いた定量分析の解析ができる。 考察内容を考えながら実験計画を立てることができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。指定日までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。 化学実験とあわせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス－注意事項－　実験の基礎操作の復習 2.　pH の測定と緩衝液 3.　中和滴定 4.　酸化還元滴定 5.　廃油のリサイクル１（石鹸） 6.　廃油のリサイクル２（BDF） 7.　廃油のリサイクル３　窒素酸化物の定量１ 8.　窒素酸化物の定量２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J60056004
科目名	環境化学実験 -f(春後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	環境評価は化学的な分析による数値を元に行う場合が多い。そこで、滴定を中心とした実験をおこない、定量実験の手法、データ解析を理解する。また、考察内容を決めて、実際に実験計画を立てて実行する。		
教材（テキスト）	初日に配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 中川徹夫著『化学の基礎ー元素記号からおさらいする化学の基礎』　化学同人　1500＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（90%）、平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験の操作を習得する。 化学反応式から定量的な解析ができる。 検量線を用いた定量分析の解析ができる。 考察内容を考えながら実験計画を立てることができる。		
準備学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講者への要望			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。 化学実験とあわせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス－注意事項－　実験の基礎操作の復習 2.　pH の測定と緩衝液 3.　中和滴定 4.　酸化還元滴定 5.　廃油のリサイクル１（石鹸） 6.　廃油のリサイクル２（BDF） 7.　廃油のリサイクル３　窒素酸化物の定量１ 8.　窒素酸化物の定量２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J60057001
科目名	環境物理学実験（春後半）	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Phy sics		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，連成系，回転系，流体，音波，光波，固体，熱，気体などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学，環境地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．連成系：重心・安定平衡 ２．回転系：角速度・遠心力 ３．流体：浮力・密度 ４．音波：振動数・音階 ５．光波：反射・屈折 ６．固体：原子半径・モル体積 ７．熱量：温度・比熱 ８．気体：ボイル・シャルル			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J60058001
科目名	環境地球科学実験（秋後半）	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Ear th Science		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
講義概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，アイソスタシー，地震，地磁気，岩石，鉱物，結晶，地質，化石などあらゆる測定の基本となる観測量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．アイソスタシー：大陸地殻・海洋地殻 ２．地震：走時・震央距離 ３．地磁気：偏角・伏角 ４．岩石：色指数・造岩鉱物 ５．鉱物：硬度・密度 ６．結晶：結晶格子・対称性 ７．地質：地形図・地質図 ８．化石：示準化石・示相化石			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J60063001
科目名	バイオ環境デザイン原論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of sustainable design		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境学部の教育目標を理解し、学部を取り巻く大きな流れとして、少子高齢化社会、産業構造や土地利用の変遷などが挙げられる。次に、農村や都市の疲弊を象徴する人口流出などの身近な社会の諸問題に関心を広げる。このような地域の問題への対処として地域の再生が各地で広がってきていることの情報を整理し、デザインというキーワードを中心に地域再生の具体的な手法を学ぶ。地域再生を考えるときに必要となる「地域」に関して日本の国土に広がる「地域」を最初に理解する必要がある。本講義では、都道府県、県庁所在地、大学周辺の市町村、丹波国などの旧国名、日本の島々などの基本的な名称と位置に関しても学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点（50 点）と平常点（50 点）の総合的な評価とする。平常点とは複数回小レポートを実施し、その結果を積算する。		
到達目標	地域の課題をすくい取り、何が問題か、それを理解することで地域再生の方向性を見つけ出せる力を養う。		
準備学習	各地での地域再生などの事例やニュースなどに触れておくこと		
受講者への要望			
講義以外の時間にビデオ学習などがあるので積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.バイオ環境学部の目標と地域のデザインが意味するもの 2.日本の都道府県、市町村の分布を知る 3.地域構造・産業構造・土地利用の歴史的変遷 4.人口減少と少子高齢化社会、過疎化の促進 5.島々の分布、離島問題と離島振興 6.TPP(環太平洋戦略的経済連携協定）とは何か 7.地域の創造と再生に向けた活動事例 8.空き家問題と古民家再生 9.地域資源の発見手法１　土地の記憶、暮らしの記憶 10. 地域資源の発見手法２　ダークツーリズム 11.グループ分けとグループディスカッションの課題 12.グループディスカッションの実施 13.発表会用パワポ作成 14.グループディスカッションの結果発表 15.結果発表とフィードバック			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J60064001
科目名	環境汚染物質動態論	単位数	2
科目名（英語表記）	Evolution of Contaminants in the Environ ment		
担当者名	古武家　善成	旧科目名称	
講義概要	現代社会は多くの合成化学物質の恩恵を受け私たちの生活は化学物質で溢れている。しかし，合成化学物質の多くは何らかの有害性を有するため，健康影響や環境影響が強く懸念されており，化学物質による環境汚染問題は地球温暖化などと同様に地球規模の環境問題として認識されている。また，重金属類は日本および各国の公害病の主要な原因の一つであり，今なお環境と健康に影響を及ぼしている。 本講義では，新規化学物質を含めこれら環境汚染物質について，汚染状況・環境動態・毒性・リスク等に関する基礎を学ぶ。また，東日本大震災が引き金となった福島第一原発事故および日本の原発政策を理解するために，原発の原理，環境リスク，原発政策の今後について環境科学特論として学ぶ。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	「環境科学入門：地球と人類の未来のために」川合真一郎，張野宏也　山本義和，化学同人（2011）		
教材（その他）	資料プリントを毎回配布する。講義はパワーポイントと板書で行う。		
評価方法	復習の評価を行う。復習に関して授業中に質問し，その解答により加点・減点を行う。		
到達目標	日本の環境問題の歴史や現状を把握するとともに，重金属や合成化学物質の汚染状況・環境動態・毒性・リスクに関する基礎知識を習得する。 環境ディベートを通して，自分の意見をまとめ発表するスキルを磨く。		
準備学習	授業前 1 週間の環境関連ニュースを短文でまとめる（授業時に発表）。 授業中の復習質問に答えられるように，適宜復習を行う。		
受講者への要望			
環境問題の解決には，暗記的知識による対応ではなく自分の発想法で対処することが重要である。しかし，発想法を高めるためには基礎的知識の十分な習得が必要である。十分な復習とレポート作成を通して両方の重要性を学んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1）ガイダンスおよび「環境科学序論」日本の環境問題の歴史 2）「環境科学概論 1」地域環境問題と地球環境問題の特徴と関係（1） 3）「環境科学概論 2」地域環境問題と地球環境問題の特徴と関係（2） 4）「環境科学特論」原子力発電の原理と原発事故の現状・原発政策の今後 5）「重金属汚染とその動態」イタイイタイ病・ヒ素中毒・水俣病 6）「化学物質汚染とその動態 1」化学物質汚染総論　発生と毒作用・影響評価と管理 7）「化学物質汚染とその動態 2」化学物質汚染各論　強毒性物質の汚染機序と影響 8）環境ディベート 1　最新の環境問題に関するディベート(1) 9）環境ディベート 2　最新の環境問題に関するディベート(2) 10）環境ディベート 3・環境ビデオ鑑賞　選抜対抗ディベート，環境ビデオの鑑賞 11）「化学物質汚染とその動態 3」化学物質汚染各論　微量有害化学物質の広域汚染 12）「身近な環境問題 1」家庭の化学物質問題　洗剤・医薬品・香粧品 13）「身近な環境問題 2」ゴミ問題と食品添加物 14）「環境問題の展望」低炭素・循環型・グリーン社会と再生可能エネルギー 15）「まとめ小テスト」授業全体の復習のための小テスト（資料持込可）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60065001
科目名	保全生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Conservation Ecology		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	保全生態学は、生物の自生地における、種や個体群およびその遺伝的多様性の保全、生態系や景観の保全において重要な役割を果たす学問である。また、問題の所在を科学的に明らかにし、保全の科学的な方法や技術を提示し、科学的な立場から社会に実践を要求する応用科学である。本講義では、保全生態学の基本的な理論を学び、様々な事例学習の科学的な立場を理解する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「保全生態学入門」鷲谷いづみ、矢原徹一著（文一総合出版 1996 年） 「保全生物学のすすめ」改訂版リチャード B プリマック、小堀洋美著(文一総合出版 2008 年）		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50%）、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	生物多様性を保全することの意義を理解し、自分の考えを論ずることができる。		
準備学習	社会で実際に起こっている生物多様性に係る問題に関心を持ち、自ら理解を深めておく。		
受講者への要望			
教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.保全生態学とは 2.生物多様性 3.人間の影響 4.生息地の破壊 5.生息地の攪乱 6.生息地の攪乱：外来種 7.保護区の設定 8.保護地域の管理：法律 9.種の保護：生息地での保全 10.種の保護：生息地以外での保全と再導入 11.生態系保全と経済学 12.事例学習：アユモドキ 13.事例学習：コウノトリ 14.事例学習：獣害 15.事例学習：まとめ 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60066001
科目名	食品安全学	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品は人の生命を維持するために必要不可欠であり、その安全性について考慮することが非常に重要である。 本講義では残留農薬、環境汚染物質、食品添加物等の作用と安全性についての解説を行い、これらの化学物質による健康への影響についての理解を深める。また、食糧の確保や安全の面から注目されている遺伝子組換え食品や BSE について解説し、食品の安全性を確保するための法的規制や方策についても触れる。 さらに、従来のように食品成分だけに注目した安全性を考えるのではなく、自然環境、社会制度、経済構造、国際的な食糧需給など，幅広い視野から食の安全性を考察する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	菅家 祐輔編『食安全の科学』三共出版　2,940 円 小倉 諭編『イラスト　食の安全性』東京教学社　2,300 円		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびＲドライブによりファイルを提供する。		
評価方法	レポート(100％)		
到達目標	食品の安全性について，科学的根拠に基づき幅広い観点から評価出来るように，安全評価法や社会制度などの食品安全に関連する基本的知識を習得する。		
準備学習	講義終了時に，次回の講義のアウトラインを示すので，関連分野について調べておくこと。 日頃から食の安全性を意識し，新聞等のメディアや自分自身が摂取している食品成分に関心を持っておくこと。		

受講者への要望

講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。
感情やイメージではなく科学的根拠に基づいて食品の安全性を考える視野を養ってほしい。

講義の順序とポイント

1.はじめに　－食品の安全性とは何か－
2.食品安全の基準　－わが国の食品安全行政の構図と関連法規－
3.食品の安全評価法　－食品成分の分析法とその安全評価システム－
4.生体異物の体内動態　－農薬や環境汚染物質等の毒性と代謝－
5.食品添加物の用途　－食品添加物の定義，種類，構造ならびに効能－
6.食品添加物の安全性　－食品添加物の安全基準と使用規制の現状－
7.農薬の種類と安全性　－農薬の種類，構造，効能，安全基準および使用リスク－
8.環境汚染物質のよる食品汚染　－PCB，ダイオキシン等による食品汚染の現状とそのリスク－
9.遺伝子組換え作物の安全性　－遺伝子組換え作物の導入効果とそのリスク－
10.食中毒とその対策　－食中毒の発生メカニズムと予防のための衛生管理システム－
11.BSE 汚染とその対策　－BSE 対策の歴史と現状におけるリスク－
12.放射線照射食品の安全性　－放射線照射食品の長所とリスク－
13.健康食品の安全性　－健康食品の効能とリスクおよび法的規制－
14.食品成分表示の現状と問題点　－食品の規格，表示規制とトレーサビリティーシステム－
15.食のグローバリゼーションとハーモニゼーション　－国際化時代における食の安全確保のための課題と方向性－

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60067A01
科目名	測量学	単位数	2
科目名（英語表記）	Surveying		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープデザインやシビックデザイン、都市計画、土地利用計画などの基礎としての空間の特性と取り扱いについて、理論と具体的な事例の双方からアプローチする。空間デザインに必要とされる、かたちやスケールに関する基礎的演習とともに、人間にとっての空間デザインの持つ機能と意味、さらに環境との関わりについてフィールドワークを行い、デザインサーベイや提案、それらの表現方法もトレーニングする。それぞれの学習テーマごとに、アクティブラーニングやフィールドワーク、グループワークの手法も取り入れる。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『シビックデザインのための基礎知識』,佐々木 葉 {http://www.cbr.mlit.go.jp/utsukushi/pdf/civic_design01.pdf} 『人間の街: 公共空間のデザイン』,ヤン ゲール著,鹿島出版会		
教材（その他）	スマホやノートパソコン、スケッチブック（F５程度）を持参することが推奨される。		
評価方法	各テーマごとのレポートや作品で評価する。		
到達目標	ランドスケープデザインやシビックデザイン、都市計画に必要なスケール感と基礎的な概念を身に着ける。		
準備学習	自分の生活空間の形と大きさ、素材、機能、意味などについて考察してみてください。		
受講者への要望			
スマホやノートパソコンの持参が推奨されるが、使用は指示に従うこと。スケッチブック（F５程度）を準備してください。 無断欠席は成績評価しない。			
講義の順序とポイント			
１　導入：空間とデザイン：形、機能、シンボル、意味 ２～５　空間デザインと原単位、スケール、計測と評価方法 ・２次元の世界 ・３次元の世界 ・色とテクスチャー ・フラクタルの世界 ６～９　空間デザインと人間文化 ・都市のイメージ ・コミュニティ・デザイン ・まなざしのデザイン １０～１３　デザインサーベイ ・庭園／ひろば／街路／水辺 １４～１５　空間デザインの提案 ・現地調査 ・デザイン ・プレゼンテーション ※進行状況によって適宜調整する。土日を利用したフィールドワークを予定している。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J60072001
科目名	生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecology		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生態学は生物の生活様式・相互作用を合理的に解釈・説明することを目的とする。生物社会における個体・個体群・群集の各階層でみられる生活様式・相互作用を概観し、どのような合理的解釈・説明がなされているのかについて講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・伊藤嘉昭ら著 『動物生態学』　蒼樹書房 ・John R. Krebs & Nicholas B. Davis 著　山岸哲、巌佐庸監訳 『進化から見た行動生態学』　蒼樹書房 ・長谷川真理子ら著 『シリーズ進化学 6　行動・生態の進化』　岩波書店		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト・レポート課題（50%）、期末テスト（50%）により評価する。		
到達目標	生態現象の合理的説明の根本は適応・進化の原理であることを理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講者への要望

現在のあなたが持っている生態現象に対する解釈と講義でなされた解釈は同じであるだろうか、異なるものであろうか。どちらの解釈がもっともらしいと感じるだろうか。それはなぜだろうか。考えながら講義に臨んでほしい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 適応進化と最適戦略
3. 採餌理論
4. 最適卵サイズ、表現型可塑性
5. タカハトゲーム
6. 性比
7. 同性内の性淘汰
8. 異性間の性淘汰
9. 利他行動
10. 個体群動態
11. 資源競争
12. 食う-食われる関係
13. 捕食回避・寄生・共生
14. 群集生態学
15. 総合：生態学の研究例紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J60073001
科目名	水環境化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	水環境について、全球的な規模の水環境から身近な水環境まで、特に化学の観点から幅広く講義する。水環境を評価するための様々な指標について紹介し、今後の水環境と人間活動について考察する。小テスト・レポートを実施する		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）	生物海洋学入門　第 2 版　監訳：關文威, 訳：長沼毅　講談社　4212 円 明解　水質環境学　浦瀬太郎著　プレアデス出版　2300 円 よくわかる　水環境と水質　武田育郎著　オーム社　2400 円		
教材（その他）			
評価方法	小テスト・レポート等による平常点（30%） 定期テスト（70%）		
到達目標	海洋・湖沼・河川を含む水環境の役割を理解し、水環境の現状を評価するための様々な指標について幅広い知識を得る		
準備学習	授業で配布するプリントをもとに講義内容をしっかり復習して、次週の講義に備えること		
受講者への要望			
講義内容に関する小テスト・ミニレポートを作成し提出していただくので、気を抜くことなく取り組んでいただきたい 水環境研究室への研究室配属を希望する可能性がある学生は、この「水環境化学」を受講していることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 水環境化学への招待 2. 水の特殊性と水循環 3. 海洋環境の構造 4. 身近な水質 5. 海洋の循環 6. 海洋の化学環境 7. 海洋における一次生産 8. 海洋におけるエネルギー輸送 9. 海洋における物質循環 10. 海と地球環境 11. 河川と海 12. 淡水環境の物理学的特性 13. 淡水環境の生物学的特性 14. 窒素循環とリン循環 15. 人間生活と水環境			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J60074001
科目名	水環境化学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	水環境（河川、湖沼、海洋等）の現状を定量的に把握するための高度な分析技術を習得し、水環境について生物・物理・化学的側面から総合的に解釈することを目指す		
教材（テキスト）	実験初日に、教科書：実験指導書（水環境化学実験ノート）を配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	なし		
評価方法	実験への取組態度、各実験レポートを総合的に評価する		
到達目標	水環境の種々の環境要素（物理・化学・生物的要素）の現状を定量的に把握するための高度な分析技術を習得する		
準備学習	毎回の実験を受講するまでに実験指導書の当該範囲を熟読し、わからない専門用語などを調べ、実験内容をよく理解しておくこと。実験ノートを作成すること。また、実験レポートの提出を求める		

受講者への要望

すべての実験に積極的に取り組むこと
班のメンバーで取り組む実験では意思疎通を図り、協力して行うこと
化学実験・環境化学実験を履修しておくことが望ましい
野外に出かける日があるので、長靴・カッパを用意すること
水環境研究室への研究室配属を希望する可能性がある学生は、この「水環境化学実験」を受講していることが望ましい。

講義の順序とポイント

1. 実験オリエンテーションと化学実験の基礎講習
2. 廃水処理に使われる活性汚泥の沈降性の測定と顕微鏡観察
3. 廃水処理に使われる活性汚泥の微生物濃度の測定と凝集沈殿
4. メタン発酵法
5. プランクトン採集と顕微鏡観察
6. クロロフィル a の定量
7. COD（化学的酸素要求量）の定量
8. 河川における流量測定
9. 一般環境項目の水質測定と採水
10. 溶存酸素濃度の定量
11. アンモニア態窒素の定量
12. リン酸態リンの定量
13. キレート滴定によるカルシウムイオン、マグネシウムイオンの濃度分析、硬度の計算
14. 原子吸光分析によるカルシウムイオンの濃度分析、残留塩素の分析
15. 調査結果の考察、効果的な水質調査方法について検討

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J60076001
科目名	流域環境デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Watershed Design		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	亀岡市で使用した水の大部分は保津川（正式名称は桂川）に入り、淀川を経て大阪湾に流れ込んでいる。淀川の水は大阪府民の水道資源として利用されており、亀岡市においては、生活廃水などを適切に処理して、保津川へ流れ込む水の質を良好に保つことが求められている。生活廃水の処理については、下水処理場で処理するという考え方だけでなく、水路や河川での浄化作用も利用することが重要である。なぜなら、現在の多くの河川の水質は、下水処理場から放流される処理水よりも格段に良好であり、下水処理場に廃水を流し込むことだけを考えるよりは、自然の浄化能力を利用することも考えた方が、水質が良くなると考えられるからである。従来からの考え方では、家庭下水は人工的に処理を行うということだけであったが、今後は、これに自然の浄化能力を利用するという考え方を加えて、全体として、よりよい水質を実現することが重要である。そこで、家庭下水と工場廃水について、BOD 成分の除去だけではなく、窒素とリンの除去も含めて人工的に処理を行うことと、家庭下水を河川へそのまま流した場合の河川での自然の浄化について解説し、地域の特性に応じた方法による河川の水質を改善するための方策を考える。		
教材（テキスト）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社、2,200 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	期末試験（60 点）、適宜行う小テスト（40 点）		
到達目標	河川の水質を良くするためには何をどうすべきかを理解する		
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。また、教科書に記述されていない内容を講義するに当たっては、プリントの配布などを行って事前に勉強をするための材料を与えるので、読んで、理解しておくこと。		

受講者への要望

黒板やスライドの文字を書き写すだけでなく、話を聞きながらメモをとること

講義の順序とポイント

1．水質汚濁をもたらす物質：毒物、有機物、栄養塩類
2．なぜ下水処理が必要なのか？　河川水の溶存酸素と BOD
3．廃水処理技術（1）：活性汚泥法（教科書 p.23-40）
4．廃水処理技術（2）：生物膜法（教科書 p.40-54）
5．廃水処理技術（3）：メタン発酵法（教科書 p.54-67）
6．河川がもつ浄化能力の向上策
7．富栄養化の防止：窒素化合物の生物学的除去技術（1）（p.139）
8．富栄養化の防止：窒素化合物の生物学的除去技術（2）
9．富栄養化の防止：リンの除去技術
10．自然環境中での水質の浄化（p.99-109）
11．環境微生物の働き（p.14-22）
12．環境中の微生物を理解する（1）（p.146-154）
13．環境中の微生物を理解する（2）（p.155-171）
14．環境中の微生物を有効に利用する（p.115-144）
15．自然界の生物の作用を活かした家庭下水の処理政策（p.110-114）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60077001
科目名	ランドスケープエコロジー	単位数	2
科目名（英語表記）	Landscape Ecology and Planning		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープ＝地域の景観は人と自然の共同作品である。地球４６億年の歴史とともに、人間によるごくわずかな期間の間になされた、大きな働きかけ＝土地利用と資源利用、およびその結果発生したさまざまなインパクトが、景観を作ってきた。それゆえ、景観を丁寧に分析すれば、自然環境の論理と、それに対応してきた人間の文化の論理を浮かび上がらせることができる。 一方、地球環境危機の現在、自然との共生や低炭素、循環型社会への転換が求められる中、自然立地的な土地利用への転換が不可欠である。この講義では、そのプランニングとデザインの手がかりとして、景観生態学の基礎を学ぶ。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	森本幸裕・編著『景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社（2100 円） モニカＧ．ターナー（中越・原、監訳)『景観生態学生態学からの新しい景観理論とその応用』文一総合出版		
教材（その他）	特になし		
評価方法	小テスト等による平常点（50%)、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	身の回りから国土レベルまで、景観をその生成要因とともにとらえられるようになり、新たな望ましい景観がイメージできるようになること。		
準備学習	いいな、と思った景観の成り立ちについて、調べる習慣をつけてください。		
受講者への要望			
わかりにくいところ、疑問点があれば、遠慮なく質問をしてください。			
講義の順序とポイント			
1.景観生態学とは 2.スケール 3.スケール 4.景観パターン 5.景観パターン 6.生物と景観パターン 7.生物と景観パターン 8.景観と攪乱 9.景観と攪乱 10.景観における生態系プロセス 11.景観における生態系プロセス 12.景観生態学におけるモデル 13.景観生態学におけるモデル 14.景観生態学の応用：都市計画 15.景観生態学の応用：森林管理 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60079001
科目名	エコミュージアム構想学	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecomuseum Design		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	エコミュージアムは、地域の暮らしの知恵が地域の環境の中で息づく博物館です。従来型の博物館や知識に対する評価では、地域の暮らしの知恵には価値を見いだせませんでしたが、エコミュージアムが大切にするのは、こうした日常的な暮らしの知恵です。また、日常的な出来事を建物の中に保存することは難しいので、必然的に人が暮らしている日常そのものを活用して、住民が主体となる生活空間そのものが従来の博物館と同等の価値を持つという考え方です。 　この視点は、バイオ環境デザインにおいて欠くことができません。なぜなら、地域の人の暮らしを抜きにしたバイオ環境のデザインはあり得ないからです。 　本講義では、実際の国内でのエコミュージアム活動を紹介し、関連する農村開発やエコツーリズムなどと比較することで、エコミュージアムの特徴をさぐり、どのような状況でエコミュージアム活動が生きるのかを探ります。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	星山幸男「自然との共生とまちづくり」北樹出版 大原一興「エコミュージアムへの旅」鹿島出版会 小松光一編「エコミュージアム」家の光協会		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	講義内でのレポート発表(40%)、レポート提出(60%)の双方を勘案する		
到達目標	人の暮らしについて、さまざまな視点から見つめ直して、人の暮らしを重視した地域発展に必要な視点を理解すること。		
準備学習	農業など、人の生業（なりわい）に関連する講義を受講しておくことが望ましい。参考文献を読み講義に臨むこと。		

受講者への要望

地域の人の暮らしに関心のある学生の参加を待っています。既存の議論や価値観にとらわれずに、人の暮らしについて何が大事なことなのかをよく考えて、自由な発想で各自のエコミュージアム構想を展開してください。

講義の順序とポイント

1　エコミュージアムとはなにか
2　日本におけるエコミュージアムの現状
3　国内の事例紹介　山形県朝日町
4　国内の事例紹介　兵庫県豊岡市
5　国内の事例紹介　岡山県賞田町
6　国内の事例紹介　高知県柏島
7　農村開発との比較
8　エコツーリズムとの比較
9　ナショナルトラスト運動との比較
10　環境保全活動との比較
11　エコミュージアム構想１　調査結果の発表会
12　エコミュージアム構想２　調査結果の発表会
13　エコミュージアム構想３　調査結果の発表会
14　エコミュージアム構想４　調査結果の発表会
15　エコミュージアムのゆくさき　これから何を目指すのか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J60080001
科目名	流域環境デザイン演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Waters hed Design		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	持続可能な環境社会・豊かな水環境を実現するため、まず、水環境を評価するための手法を計算問題を通して理解する。さらに、多項目にわたる水環境の実測データを用いて、必要情報の抽出・計算・図表の作成等を行う。パートナーもしくはグループを作り、自分の計算結果や図表を作成・考察・発表・意見交換することで、水環境の現状を把握し、今後の水環境のあり方を考察する。演習課題、ミニレポートの提出、小テストを実施する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	生物海洋学入門　第 2 版　監訳：關文威, 訳：長沼毅　講談社　4212 円 明解　水質環境学　浦瀬太郎著　プレアデス出版　2300 円 よくわかる　水環境と水質　武田育郎著　オーム社　2400 円		
教材（その他）	海洋観測ガイドライン　日本海洋学会　http://kaiyo-gakkai.jp/jos/guide/content		
評価方法	演習課題・ミニレポート・小テストの結果（90%）と演習への取り組み態度（10%）を総合的に評価する		
到達目標	水環境を定量的に評価するための手法を理解する。特に、水環境の現状について解釈するため、自分の目的に合った図表を作成できる。様々な評価手法、図表により、実際の水環境を評価することができる。		
準備学習	講義内容をしっかり復習して次回の講義に備えること。水環境化学、水環境化学実験受講者は内容を復習しておく		

受講者への要望

湖沼・河川・海洋を含む水環境の利用・再生・環境問題に関する話題は新聞紙上などで頻繁に出てくるので、常に情報収集に努めること。授業中にパートナーもしくはグループで積極的に意見交換すること。

講義の順序とポイント

1. 水環境と地球史
2. 水循環と平均滞留時間
3. 溶存酸素
4. 有機物の指標
5. 富栄養化
6. 栄養塩の循環
7. 水循環と溶存物質
8. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 1
9. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 2
10. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 3
11. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 4
12. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化（目的設定）
13. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化（図示）
14. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化（発表）
15. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化（考察）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60081001
科目名	農環境論	単位数	2
科目名（英語表記）	Agricultural Environments		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	農業は人間が生きていく上で不可欠な，食糧供給という重要な役割を担っている．その農業の発達過程と実態を理解するとともに，我々が生活している様々な環境との関連について考えてみる．さらに食料生産のための制御された環境での栽培，つまり施設栽培や植物工場についても講じる．		
教材（テキスト）	特に指定しない．		
教材（参考文献）	藤本文弘　著　「生物多様性と農業」　農文協		
教材（その他）	必要に応じて資料を配付する．		
評価方法	毎回行う小レポートによる平常点（30 %）および 2 回の課題レポート（70 %）で評価する．		
到達目標	日々の生活環境と農業との関わりを理解する．		
準備学習	授業の終わりに，その日の講義で重要である内容についてのミニレポートを課す．次回の授業につながる点なので，特にこの内容について復習をして準備をすること．		
受講者への要望			
日常生活の中で出会う「生き物」に関心を持ち，観察眼を養うように心がけて欲しい．			
講義の順序とポイント			
1．農業が環境におよぼす影響　(1) 農業の成立と歴史 2．農業が環境におよぼす影響　(2) 近代農業の成立と環境 3．農業が環境におよぼす影響　(3) 栽培植物の起源 4．農業が環境におよぼす影響　(4) 農業生産と環境　その 1 5．農業が環境におよぼす影響　(5) 農業生産と環境　その 2 6．環境が農業におよぼす影響　(1) 花芽分化と低温 7．環境が農業におよぼす影響　(2) 花芽分化と日長 8．環境が農業におよぼす影響　(3) 花芽分化と日長 ／ 課題レポート作成① 9．環境の変化と農業　(1) 地球温暖化のメカニズム 10．環境の変化と農業　(2) 地球温暖化が農業におよぼす影響 11．環境の変化と農業　(3) 汚染物質の影響 12．農業と生物多様性　(1) 栽培環境 13．農業と生物多様性　(2) 農耕地における生物多様性 14．環境制御下の農業 (1)　施設栽培 15．環境制御下の農業 (2) 養液栽培と植物工場 ／ 課題レポート作成②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60082001
科目名	野生動物保全学	単位数	2
科目名（英語表記）	Wildlife Management		
担当者名	高柳　敦	旧科目名称	
講義概要	野生動物の保全には、絶滅しないようにして生物の多様性を保つことと、人間に大きな被害をもたらさないようにすることの 2 つの目標があり、その 2 つの目標をいかにバランスよく実現しながら、野生動物のもたらす価値を享受するかが重要な課題である。本講義では、カモシカやシカ、クマなどの大型野生動物による農林業被害の問題の問題を中心に外来生物の問題など、野生動物保全問題の背景、解決のための科学的なアプローチについて解説する。特に、被害問題の現状について理解を深めると共に、被害問題の解決には、野生動物の生態や被害の発生プロセス、人間社会の対応の在り方など、さまざまな要素が関係していることについて理解する。また、自分の関心のあるテーマを見つけて、それについて自分の意見を文章化する技能についても学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定していません。以下に、参考図書の中でも特に講義内容に近いものを上げておきます。 「森林の再発見」（p285-316：第 8 章「人間と野生動物との新たな関係」） 大田誠一編、京都大学学術出版会、2007　（4,410 円） 「ワイルドライフ・マネジメント入門」三浦慎吾、岩波書店、2008　（1,260 円） 「野生動物管理?理論と技術」　羽山伸一，三浦慎悟　文永堂出版 2012 (7,350 円)		
教材（参考文献）	被害問題に関する文献として 「森林環境〈2007〉動物反乱と森の崩壊」森林環境研究会、森林文化協会　2007 「動物たちの反乱」河合 雅雄・ 林 良博編著　PHP サイエンスワールド新書　2009 「動物による農作物被害の総合対策」江口祐輔　監修　誠文堂新光社　2013 「シカの脅威と森の未来―シカ柵による植生保全の有効性と限界」　前迫・高槻　文一総合出版 2015 「シカ問題を考える－バランスを崩した自然の行方」　高槻成紀著　山と渓谷社　2015		
教材（その他）	生物の保全に関する文献として 「生物保全の生態学」鷲谷いづみ　共立出版　1999 「保全生物学のすすめ 改訂版」リチャード B プリマック　文一総合出版 2008 「野生生物保全事典」野生生物保全論研究会 2008		
評価方法	期末の試験と 1 回のレポート提出の成績で評価する。試験とレポートの評価の比率は 8 対 2 から 6 対 4 で、試験結果などを基に決定する。評価に当たっては出席状況も考慮する。　評価方法については最初の講義で説明する。		
到達目標	生物多様性の保全において重要な事項を理解すること。ニホンカモシカ、ニホンジカ、ツキノワグマの生態とその被害の発生と防除の関連について理解すること。野生動物の保護管理を総合的に行うとはどういうことかを理解すること。		
準備学習	野生動物の保全の問題は、テレビ番組や新聞記事で触れるだけでなく、必ず身近なところにも見られる問題である。知識として何かを学ぶというより、自分の身近な問題を解決するという主体的な姿勢で講義に臨んで欲しい。講義では、指名して知識や意見などを尋ねるので、必ず答えるように心がけて欲しい。		
受講者への要望			
講義への関心を高めるために出席カードに講義に関連する質問を挙げてあるので、それには講義の内容を答えるのではなく、講義の内容などを参考にしながら自分の意見を書くようにして下さい。ここに意見を書くことで、学んだことを理解して、素早く自分の言葉で意見をまとめる技能を高め、文章によるコミュニケーション力を付けて下さい。講義終了後に回収して、講義に対する関心などの参考にします。			
講義の順序とポイント			
第　1回　野生動物を保全するとはどういうことか。野生動物保全学へのイントロダクション。 第　2回　生物多様性とは何か、なぜ生物多様性の保全が重要か。生物多様性を理解する。 第　3回　日本の野生動物相はどういう特徴があるのか。日本の野生動物についての基礎。 第　4回　外来生物とはどんな生物でなぜ問題か。外来生物問題の解説。 第　5回　レポート計画発表会 第　6回　カモシカなど希少生物の保全の抱える課題について解説。 第　7回　カモシカによる農林業被害問題とは何か。被害問題の背景などについて解説。 第　8回　保護地域による野生動物の保全。保護地域による保全の課題について解説。			

第　９回　ニホンジカの生態とその被害について解説。
第１０回　ニホンジカ被害問題をの背景、解決のための個体数の捕殺や被害防除について解説。
第１１回　京都府南丹市芦生地域における野生動物保護管理について解説。
第１２回　クマ類の生態と保全。ツキノワグマを中心にクマ類の生態と保全について解説。
第１３回　ツキノワグマによる被害と防除。林業被害や出没被害について解説。
第１４回　野生動物のもたらす被害とその防除、および総合的管理と野生動物が組み込まれた社会について解説。
第１５回　全体の復習
以上は進行の目安であり、受講者の理解や興味などによって変更することもある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60083001
科目名	農・森林環境デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Design of Regional Ecosystem and Land Us e		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	かつての日本の農業は後背地の森林や河川と有機的なつながりのもとで営まれていた。しかし、近代化の過程で森林・農地・河川は分断され、個別の場での効率が追い求められてきた結果、多くの環境問題を引き起こし、良好な生産や環境の維持が困難な状況に至った。そこで、森林から海までの物質の移動、水の流れを基にして、望ましい森林環境、望ましい農業環境を再生する方法について、国内外の学術的・実践的事例に学び、日本の将来の森林像・農業像を考察する。里山学や有機農業論を並行して受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	講義時に随時配布する		
教材（参考文献）	岩坪 五郎　著　「森林生態学」　文永堂出版 佐藤 洋一郎　監　「森と田んぼの危機」　朝日選書 武内 和彦 他偏著「里山の環境学」　東京大学出版会 中尾 佐助 著 「栽培植物と農耕の起源」　岩波新書 西尾 道徳 他編著　「環境と農業」　農文協 佐々木 高明 著　「新版 稲作以前」　NHK 出版		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	時間ごとの小レポートの達成度と最終レポートで評価する。		
到達目標	望ましい森林環境、望ましい農業環境を再生する方法について考え、その考えに実践や先行事例を元に裏付けを与える。		
準備学習	参考文献や農学関連、森林関連の資料に事前に目を通しておくこと。また、毎回の講義で学んだ基礎知識、専門用語、実践的事例等を整理し、次の講義までに要点を説明できるようにしておくこと。		
受講者への要望			
専門書を読むに堪える能力をみにつけること。 「現場」の出来事と日々向き合い、学ぶこと。			
講義の順序とポイント			
1.　農・森林環境デザインとは？（鈴木・佐藤） 2.　森と水田の日本史（鈴木） 3.　日本の林業の現状と課題（鈴木） 4.　「農」と「森林」のつながりⅠ：里山の生態系（鈴木） 5.　「農」と「森林」のつながりⅡ：焼畑の生態系（鈴木） 6.　焼畑は森林破壊の元凶か？：ミャンマー・バゴー山地の事例（鈴木） 7.　農耕・農業の起源（佐藤） 8.　日本農業の成り立ち（佐藤） 9.　農業を取り巻く環境要因（佐藤） 10. 生物多様性と農業（佐藤） 11. 中山間地域の農業とは（佐藤） 12. 生き物にとっての望ましい農業環境（佐藤） 13. 農業の環境を視野に入れたリデザイン（佐藤） 14. 亀岡市の農業環境を視野に入れたリデザイン（佐藤） 15. 望ましい「農」と「森林」のつながりの構築に向けて（鈴木・佐藤）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60084001
科目名	森林環境・林業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Forest Environment and Forestry		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	森林は林業資源としての性質を持っているだけでなく、森林生態系として環境を形成し、人間社会からみて、多面的機能と呼ばれるさまざまな恵みも提供している。 その豊かな恵みを持続的に享受していくことを目的として、森林生態系の現状と傾向、課題と対応について概説し、これからのありかたを展望する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	日本生態学会編『森の不思議を解き明かす』文一総合出版 森林・林業白書（林野庁）		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（50%）、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	森林・林業をめぐる循環と共生、ストック（生態系、林木蓄積）とフロー（生態系サービス、林木成長の収穫）、伐採と更新、時間と空間の秩序づけ等々における深さと豊かさについての理解をめざす。 木を見て森を見ないという諺がありますが、森をみて森の多様な構成者や環境や履歴や人との関わりも見えるようになってください。		
準備学習	自宅周辺や通学途中で森林を観察してください。		
受講者への要望			
わからないところや質問はできるだけ授業中にその場で遠慮なくしてください。			
講義の順序とポイント			
1.ガイダンス 2.森を読む：森林構成種 3.森を読む：森林構成種 4.森を読む：樹木の適応戦略 5.森を読む：森林の構造 6.森を読む：森林の成長・再生 7.日本の森林植生：植生単位 8.日本の森林植生：植生分布 9.植生の判読：植生図の作成 10.植生の判読：植生図の作成 11.人と森林の関わりの変遷 12.林業の現状 13.林業の仕組み：森林計画 14.林業の仕組み：造林・育林・収穫・更新 15.森林認証と REDD、オフセット 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J60085001
科目名	里山学	単位数	2
科目名（英語表記）	SATOYAMA Studies		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	人々の暮らしが生み出してきた二次的自然である里山は、原生的自然とは異なる多様な生物を育んできた。しかしながら、人間生活の変化に伴い、このような二次的自然は急速に失われようとしている。また、近代化の過程で森林・農地・河川は分断され、個別の場での効率が追い求められてきた結果、多くの環境問題を引き起こし、良好な生産や環境の維持が困難な状況に至っている。本講義では、失われつつある二次的自然の価値を見直しながら、国内外の学術的・実践的事例に学び、人と多様な生物の共生を可能とする暮らしのあり方を考察する。また、これらの内容に関連するテーマを各自が設定して文献調査や聞き取り調査等を行い、その成果をレポートにとりまとめ、口頭発表を行う。		
教材（テキスト）	講義時に随時配布する		
教材（参考文献）	武内 和彦 他偏著「里山の環境学」　東京大学出版会 広木詔三偏「里山の生態学」　名古屋大学出版会 養父志乃夫著「里地里山文化論」農文協		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	発表への取り組みやデスカッションへの参加状況等による平常点（30 点）、口頭発表（30 点）、最終レポート（40 点）で評価する。		
到達目標	人と多様な生物の共生を可能とする暮らしのあり方について考え、その考えに実践や先行事例を元に裏付けを与える。また、テーマ設定・レポート作成に必要な論理的思考力、分かりやすい口頭発表に必要なプレゼンテーション能力を習得する。		
準備学習	講義のレジメや講義で使用する学術論文を事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 各自の口頭発表・レポート作成に活かせるよう、講義で使用した学術論文の背景・目的・方法・結果・考察・まとめの流れを復習しておくこと。		

受講者への要望

専門書を読むに堪える能力をみにつけること。
「現場」の出来事と日々向き合い、学ぶこと。

講義の順序とポイント

1　里山学とは？
2　里山の暮らしと生物多様性
3　里山の機能Ⅰ：水田の生態系
4　里山の機能Ⅱ：焼畑の生態系
5　日本の里山の現状と課題Ⅰ
6　里山林の保全と循環型農業
7　生物保全と水田農業の関わり：アユモドキとコウノトリ
8　日本の里山の現状と課題Ⅱ
9　日本の水田と里山：亀岡市西別院町大槻並の事例
10　日本の焼畑と里山：長浜市余呉町中河内の事例
11　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅠ
12　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅡ
13　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅢ
14　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅣ
15　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅤ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60086001
科目名	里山学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance I		
担当者名	上萩　寛	旧科目名称	
講義概要	里山は、ほんの半世紀ほど前までは、農山村の生活や生業が依存する重要な場所であったが、急速な燃料の石油等への転換等によってその存在価値が失われ、また林業の低迷、マツノザイセンチュウ病やナラ枯れ被害等からますます顧みられない場所になっている。 しかし、近年市民活動や環境教育等人と自然との接点として、また生物多様性等の観点から里山の持つ価値が見直されてきている。 そこで、過去の里山利用をマツタケ発生を目指したアカマツ林再生作業等を通じて体験し、改めて里山の価値を考えるとともに、その価値を現代に生かすきっかけ作りにする。		
教材（テキスト）	なし。必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）	中川重年監修「森作りワークブック（雑木林編）」全国林業改良普及協会､2003 木文化研究所編「Ｑ＆Ａ里山林ハンドブック」日本林業調査会、1999 黒田慶子編著「ナラ枯れと里山の健康」全国林業改良普及協会、2008		
教材（その他）	適宜資料配付。 講義時はパワーポイント等を使用。		
評価方法	実習態度等による平常点（５０％）。授業中に課すレポート（５０％）。		
到達目標	里山の再生、管理作業をとおして里山の生態系の見方や、人にとっての里山の大切さを体験に基づき理解する。		
準備学習	・春学期の早い段階に上記参考文献等を読んで、地域の人々が里山とどのように関わってきたかを理解しておく。 ・普段から森林生態や環境保全に関する新聞記事等に注意し、批判力を持って読む習慣を身につける。		

受講者への要望

講義と書かれた日以外は実際に里山に入って作業を行うので、それに適した服装にすること
・袖をボタン等で止められる長袖
・裾が広がっていない長ズボン
・引っかかりにくく､汚れても構わないもの
・作業手袋（ゴムのついた軍手等）
・トレッキングシューズもしくは滑りにくい長靴等
・雨の可能性があるときはカッパ等の雨具
大学から現地へはバスで移動するので､乗り物に弱い人は対策をすること。
雨などで作業ができない時は講義に変更するが、判断が難しいときは両方の準備をすること。

講義の順序とポイント

１．里山の現状と問題－本実習に関する基礎知識（講義）
２．里山を調べる（実習）
３．同上
４．人工林の間伐
５．同上
６．雑木林の再生－コナラ等の伐採
７．同上
８．どんな里山を作るのか（講義とワークショップ）
９．目標とする里山作り（マツタケ発生のためのアカマツ林再生）
１０．同上
１１．同上
１２．目標とする里山作り（雑木林の再生）
１３．同上
１４．同上

１５．実習のまとめ（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J60087001
科目名	有機農業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Agriculture		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	わが国における有機農業および世界の有機農業の現状を把握する． 有機農業の今後の展望について理解する．		
教材（テキスト）	特に指定しないが，講義の中で順次紹介・指示する．		
教材（参考文献）	講義の中で適宜紹介・指示する．		
教材（その他）	資料を配付する．		
評価方法	授業終了後に 8 回実施するミニレポートで評価する平常点（30%）および 2 回の課題レポート（70%）で評価する．		
到達目標	有機農法を科学的な観点から理解することを目標とする．		
準備学習	板書を基にしてノートをとることが多いので，講義終了後にノートをまとめ直すなどの復習を行う．また，授業終了後にその日の重要な内容に関するミニレポートを課すことがあるので，それを基に良く復習して，次回の講義に備えること．		
受講者への要望			
有機農業についてはマスコミなどで取り上げられることが多く，耳にする機会も多いが誤った情報も多い．科学的な視点から有機農業の本来の意味を理解できるよう努力してほしい．			
講義の順序とポイント			
１．はじめに　～有機農業の概要～ ２．有機農業の歴史 ３．作物と肥料 ４．施肥と作物の生育 ５．作物と土壌　（土壌の生成と作物生産） ６．作物と土壌　（土壌における物質の流れと作物生産） ７．作物の生育と環境　（土壌成分、土壌特性） ８．作物の生育と環境　（環境の複合要因と作物生産）　【課題レポート①】 ９．作物の生育と環境　（アレロパシーについて） １０．有機農業に対する科学的裏付け １１．日本と世界の有機農業について １２．有機農業の実践（水稲） １３．有機農業の実践（野菜） １４．有機農業の実践（果樹） １５．日本の有機農業の展望について　【課題レポート②】			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J60090001
科目名	都市環境論	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Environments		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	都市水辺環境論
講義概要	都市の成り立ちの履歴や痕跡について学び、現在の都市の水辺空間に着眼してその魅力の背景を知る。次に世界の地域の風土を知ることで日本との比較を行う。また、都市での水供給、排水問題、廃棄物問題、ヒートアイランドなどの都市特有の課題の原因と対策を学ぶ。さらに地域での一定の地区や集落単位など、比較的小さな空間スケールでの自然、地形、気候、人口、交通、産業、歴史、文化などを総合的に把握する手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点（50 点）と平常点（50 点）の総合的な評価とする。平常点とは複数回小レポートを実施し、その結果を積算する。		
到達目標	都市や地域が国土の中でどのように発展してきたかを理解し、現在の生活と環境の諸問題を総合的に把握し、地域の再生、都市の再生に繋げる		
準備学習	新聞やテレビその他のメディアなどへのアンテナを立て関心を高めておくこと		
受講者への要望			
講義以外の時間にフィールドワーク、ビデオ学習、PDF 学習、映画上映などがあるので積極的に参加し、わからないことは授業終了後、いつでも聞きにきてください。			
講義の順序とポイント			
1.都市の成り立ちの痕跡をさぐる 2.日本の貴重な都市の水辺空間を概観する 3.世界に目を向け、モンゴル、ラオス、カンボジアの風土を知る 4.都市の中の水問題・排水に係る課題 5.都市の中の廃棄物に係る課題 6.地域資源の有効活用の事例を知る 7.江戸時代の暮らしと循環型社会を知る 8.都市のヒートアイランドについて学ぶ 9.地域の身近な自然・環境と暮らし　水辺・森・地形・気象 10.地域の歴史・文化・観光について学ぶ 11.グループ分けとグループディスカッションの課題 12.グループディスカッションの実施 13.発表会用パワポ作成 14.グループディスカッションの結果発表 15.結果発表とフィードバック			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J60092001
科目名	地域再生・まちづくり論	単位数	2
科目名（英語表記）	Community Development		
担当者名	寺川　政司	旧科目名称	
講義概要	わが国の都市や町の成り立ちを振り返りながら現在のまちが抱える多様な問題について学び、都市のマイノリティに関わる居住問題と実践事例をもとに市民参画型のまちづくりと今後の専門家のあり方について考察する。とくに、亀岡市内のフィールドワークを通じて、現在のまちづくりの手法を学びながら、現代的なテーマ型まちづくりの課題と展望を考察する。		
教材（テキスト）	プリントを配布		
教材（参考文献）	「これからの住まいとまち―住む力をいかす地域生活空間の創造」朝倉書店 「現代集合住宅のリ・デザイン―事例で読む[ひと・時間・空間]の計画」彰国社 内田雄造編著「まちづくりとコミュニティワーク」解放出版社 寺川政司監修「北芝まんだら物語」		
教材（その他）	資料を授業時に配布する。		
評価方法	授業時提出のレポート　20% 授業に対する熱意　30% フィールドワーク等への参画と成果　50%		
到達目標	・日本のまちの成り立ち、制度を学びながら、歴史的経緯から現在をとらえる感覚を学ぶ。 ・多様なテーマで実践されているまちづくりのダイナミズム、面白さ、課題等について理解する。 ・大学が位置する亀岡市のまちづくりを体感するとともに、今後の自分自身とまちとの積極的な関わり方を意識する。		
準備学習	・様々なメディア（新聞・冊子・ＴＶ・Ｗｅｂ・現場　等）を用いて、「テーマ型まちづくり」に関する情報を得ておくこと。		

受講者への要望

フィールドワーク等への参画と授業に対する意欲を重視します。

講義の順序とポイント

1. まちづくり概論
2. わが国の都市とまちの変遷
3. 住宅政策の変遷とまちづくり
4. 共同住宅団地の変遷＜軍艦アパート＞
5. 戦前長屋地域の再生　＜関西の戦前長屋と空堀地区の挑戦＞
6. まちの再生と多様な住まい＜コーポラティブ住宅・コレクティブ住宅＞
7. マイノリティコミュニティにおける地域再生とまちづくり

8.~14　亀岡市フィールドワーク・ワークショップ

15.コミュニティマネジメントとコレクティブタウン
　（市民主体のまちづくりと専門家）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J60093001
科目名	都市自然化デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Design of Urban Naturalization		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	本講義では、最初に国土全体の自然環境を概観し、国立公園や国定公園などの意義と分布を学びます。その後、焦点を都市にあて、緑豊かな都市環境を目指して、どのように都市をデザインするかその方法論を学びます。具体的には、都市公園や社寺仏閣などの既存の緑地の評価、屋上緑化・斜面緑化などの都市の緑化、都市の水辺の再生、哺乳類・鳥類などの都市の生き物などにも関心を広げます。このような都市と自然との関係性をフィールドワークという手法で内在している課題をすくいとっていきます。最後に、グループ単位に分かれディスカッションと発表を通じて理解を深めていきます。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	フィールドワーク　新曜社 地域診断法　新評論 学びの旅　地域の見方・とらえ方・楽しみ方 ワークショップ　学芸出版 コミュニティデザインの時代　中公新書		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオ上映など。		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点（50 点）と平常点（50 点）の総合的な評価とする。平常点とは複数回小レポートを実施し、その結果を積算する。		
到達目標	フィールドワークを実際に自分で企画運営できること		
準備学習	自分でも各地に自主的なフィールドワークに参加し、現場から問題点を発見することになれておくこと 確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
この講義は都市の自然化という課題をフィールドワークで学ぶことがテーマであるので、フィールドワーカーとして将来活躍していきたい学生に積極的に受講してもらいたい			
講義の順序とポイント			
1. 都市自然化デザインとフィールドワークという方法論 2. 日本の自然環境の概観 百名山 二百名山 三百名山 百峠 島々 3. 国立公園 国定公園 都道府県立公園 長距離自然歩道 4. 都市公園 庭園 社寺仏閣 鎮守の森 5. 街路樹 屋上緑化 斜面緑化 ベランダ菜園 ミツバチプロジェクト 6. 環境アセスメントにおける HEP（Habitat Evaruation Procedure)の概念 7. 都市の水辺再生 透水性舗装 打ち水 8. 自然エネルギー 太陽光 風力 小水力 バイオマス 地熱 9. 都市の中の生き物 哺乳類 鳥類 昆虫 10. 都市の中に埋もれた自然、暗渠探検 11.グループ分けとグループディスカッションの課題 12.グループディスカッションの実施 13.発表会用パワポ作成 14.グループディスカッションの発表 15.フィードバックと発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	★	★★	–	–

年度	2017	授業コード	J60094001
科目名	都市緑化材料学	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials for Urban Tree-Planting		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	都市緑化に用いられる植物材料の種類とその性質を解説するとともに、環境緑化全般の技術体系についても紹介する。 教室における座学だけでなく、土曜、日曜を利用した都市緑化の現場における現地講義・解説を行う。 現地講義では植物材料の使い方と生育状況を取材し、各自の都市緑化材料ノートの作成を指導する。		
教材（テキスト）	「最新環境緑化工学」朝倉書店		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各自が作成する「都市緑化材料ノート（仮称）」で評価する。		
到達目標	庭園、公園、街路樹、自然再生を含む各種環境緑化事業の際に用いられる材料と緑化技術の概要に関する知識を身につける。		
準備学習	「樹木学」を履修しておくことが望ましい。		

受講者への要望

特に指定はしないが、樹木に関する図鑑類を購入し、樹木を同定する習慣を身につけておく。

講義の順序とポイント

1．総論　　：緑化の基本的な考え方
2．　　庭園、公園、街路、環境林と緑化材料
3．　　植栽基盤整備
4．　　気候変動と緑化材料
5．材料各論：樹木とその性質（1）
6．　　樹木とその性質（2）
7．　　草本とその性質（1）
8．　　草本とその性質（2）
9．緑化各論：樹木の活力の評価法
10．　　芝生と地被
11．　　屋上緑化とその材料
12．　　壁面緑化とその材料
13，　　室内緑化とその材料
14．　　街路樹とその管理
15．　　環境林の造成と管理

＊進行状況によって、変更することもある。また、主に、土日を利用した下記のフィールドワークも企画中であり、第1回の授業時に連絡する。

・京都太秦キャンパス、大阪梅田の屋上壁面緑化、京都御所・御苑、京都大学上賀茂試験地ほか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J60097001
科目名	都市環境解析学	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Urban Environments		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	都市環境診断学
講義概要	本講義では、都市環境を診断する上での生物指標や持続可能指標など指標について学ぶ。指標を算出する過程で統計学が必要となる。分散や標準偏差などの統計の基礎的な理論とビッグデータなどの最新の統計学の潮流についても学習する。解析結果に関しては地理情報システム（GIS）と連携させた表現方法を習得する。その後、実際の地域をケーススタディとして取り上げて、統計的な手法により地域特性分析を行う。春学期の都市自然化デザイン論（フィールドワーク）とも関連が深いので合わせて受講することが望ましい。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）	環境統計学入門　オーム社 多変量解析の実践　上下　現代数学社 統計解析の話　東京図書 分散分析の話　東京図書		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点（50 点）と平常点（50 点）の総合的な評価とする。平常点とは複数回小レポートを実施し、その結果を積算する。		
到達目標	都市環境や持続可能な社会に関する指標について理解し、グループ単位でのフィールドワークと発表が行うことができることを目標とする		
準備学習	都市の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、アンテナを立てて関心を高めておくこと。確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
フィールドワークはグループ単位で実施する。グループリーダーはその後パワーポイントで教室にて発表をする。			
講義の順序とポイント			
1.都市環境の痕跡の把握 2.都市の中の健康診断手法 3.持続可能な指標の種類と算出方法 4.統計学の基礎１　平均値、中央値、ヒストグラム 5.統計学の基礎２　分散、標準偏差、偏差値 6.統計データの表現手法（可視化） 7. 捕獲再捕獲法などの統計学の応用解析手法 8.サンプリングによる調査手法 9.アンケート調査の方法 10.統計データの可視化手法 11.グループ分けとグループディスカッションの課題 12.グループディスカッションの実施 13.発表会用パワポ作成 14.グループディスカッションの結果発表 15.結果発表とフィードバック			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J60098001
科目名	ランドスケープデザイン実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental design studio: Urban landscapes		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	都市自然化デザイン演習
講義概要	都市域から里地、山地にわたる、自然と文化のおりなす美しいランドスケープの保全／再生／創造の「計画」「設計」「施工」「マネジメント」がランドスケープ・アーキテクトの仕事です。この授業では、そのなかでもデザインの領域について、実際の空間を対象に行うデザイン・スタジオです。 ランドスケープ空間の設計のための基礎知識や技術の習得のほか、景観デザインの役割や意義、よい景観デザインとは何なのかを実践的に学習します。 そのために、デザイン・サーベイを行って空間の把握と評価の方法、自分の考えを表現します。さらに、優れた作品や風景のクイックスケッチをいくつか行いつつ、具体的な空間を対象に、敷地計画の分析・評価し、新たなデザインを提案します。まず、デザインコンセプトを検討し、その具体化の方法を検討し、その表現方法を検討し、作品に仕上げ、合評会で各自が自分の作品のプレゼンテーションと他の作品の批評を行います。模型も表現手法としてのみならず、重要なデザイン検討手段としても取り組みます。 基本的に空間デザイン演習の既受講生を対象としますが、非受講生の履修も別途配布する追加教材の学習を前提に可とします。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	森本幸裕・白幡洋三郎編著『環境デザイン学：ランドスケープの保全と創造』朝倉書店（比較流域景観論と共通） RLA ガイドブック出版の会『ランドスケープアーキテクトになる本』 都田徹・中瀬勲著『アメリカンランドスケープの思想―ランドスケープ・デザインを志す若人へのメッセージ』鹿島出版会 「造園がわかる」研究会『造園がわかる本-造園の仕事をめざす学生や仕事を始めた社会人必携の知識ガイドブック！-』彰国社 山﨑誠子『緑のランドスケープデザイン　－正しい植栽計画に基づく景観設計－』オーム社 八木健一『はじめてのランドスケープデザイン』学芸出版		
教材（その他）			
評価方法	皆勤出席が前提（無届欠席の場合は成績評価しない）。課題提出作品とプレゼンテーションで評価。		
到達目標	身近なランドスケープ・デザインが提案できるようになること。		
準備学習	１）Youtube のリンク　I want to be a Landscape Architect {http://www.youtube.com/watch?v=zbx3FDDNeQM} をじっくり見て、モチベーションを高めておく。 ２）スケッチブック（A3 サイズが挟めるように、F６号）を購入し、気に入った風景や空間のスケッチと特徴の記述の練習をする。（授業でも使います） ３）常日頃から樹木や草、美しい景観の要素や成り立ちに関心を持って下さい。		
受講者への要望			
「ランドスケープデザイン」「空間デザイン演習」とあわせて受講することが望ましい。 造園・緑化・公園などランドスケープ関係への進学・就職、およびランドスケープデザイン研究室への分属を考えている学生は、ぜひ受講してください。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス、ランドスケープ入門、クイックスケッチ、製図の方法 ２．クイックスケッチ１, desk crit ３．デザイン・サーベイ（１：穴太寺） ４・デザイン・サーベイ（２：京都駅ビル） ５．デザイン・サーベイ・レポート作成 ６．クイックスケッチ２, desk crit、デザイン敷地調査、敷地分析結果の空間的表現			

７．クイックスケッチ３, desk crit、コンセプトづくり
８．エスキース：コンセプトの具体化
９．平面図とスタディ模型を用いた発表、改善点の洗い出し
１０．クイックスケッチ４, desk crit、デザインの精製
１１．クイックスケッチ５, desk crit、デザインの精製
１２．プレゼン資料作成
１３．プレゼン資料作成
１４．合評会
１５．ポートフォリオ作成・提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J60099001
科目名	環境地球科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	環境地球科学演習		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理学・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる岩石，鉱物，結晶，地質，地史などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．岩石（1）：火成岩
2．岩石（2）：堆積岩
3．岩石（3）：深成岩
4．鉱物（1）：造岩鉱物
5．鉱物（2）：偏光顕微鏡
6．鉱物（3）：ケイ酸塩鉱物
7．結晶（1）：結晶格子
8．結晶（2）：結晶系
9．結晶（3）：結晶光学
10．地質（1）：地形
11．地質（2）：地層
12．地質（3）：地質構造
13．地史（1）：化石
14．地史（2）：地質年代
15．地史（3）：放射年代

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60105001
科目名	バイオマス概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Biomass		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	今日の私たちの生活は、再生不可能な資源である化石資源（石油、石炭、天然ガスなど）に大きく依存しており、このことが、地球の温暖化や大気汚染、水質汚染など、様々な環境問題を引き起こしている。さらには、私たちの生活を支える基盤であるこのような資源が、近い将来に枯渇することが確実視されており、現在のような大量生産、大量消費の生活様式はやがて破綻する。また、原子力で生産する電気に頼るのも、災害の危険性や使用済み核燃料の処分の困難さなど、多くの問題を抱えている。一方、古来より人類は、樹木や草木（イネ、麦、野菜など）を、食料、原材料、エネルギー源として利用してきた。これらは、太陽エネルギーを利用して育った生物であり、持続的に再生可能な資源である。この講義では、人類の生存を支えてきた生物システムの全体像を、地球規模での物質循環という視点から説明し、生物由来の再生可能な資源（バイオマス）の利用のあり方や、環境問題およびエネルギー問題を考えるための基礎的な事項を講義する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社、2,200 円＋消費税		
教材（その他）	プリントを配布する		
評価方法	期末試験（70 点）、適宜行う小テスト（30 点）		
到達目標	人類の生存を支える生物システムを理解し、そこから環境問題およびエネルギー問題を自らの視点で考えられるようにする。		
準備学習	講義の終了時に次回の講義の資料を配布するので、読んでおくこと。復習をしっかりと行うこと。		

受講者への要望

バイオマスに関連するニュースを読んでおくこと

講義の順序とポイント

1．バイオマスを有効利用していた昔の生活と、ナウル共和国（資源枯渇の 10 年前から対策を打ち始めたが失敗した）の事例
2．自然界での食物連鎖と物質の循環。有機物の生産と消費。生物の生育に必須である水の循環。
3．地球規模でのリンの循環：リンの循環での生物の大きな役割
4．地球規模での窒素の循環（1）：窒素循環の全体像
5．地球規模での窒素の循環（2）：窒素循環の個別の解説
6．地球規模での窒素の循環（3）：過剰な窒素化合物の害と窒素化合物の処理
7．地球規模での物質循環のまとめ
8．バイオマスの枯渇と文明の滅亡
9．バイオマス利用の長所と欠点
10．バイオマスの利用技術の概要（1）：炭化、化学的ガス化、メタン発酵
11．バイオマスの利用技術の概要（2）：エタノール発酵の方法
12．バイオマスの利用技術の概要（2）：バイオエタノール・バイオディーゼルの製造
13．バイオマスの利用技術の概要（3）：堆肥化の方法
14．バイオマスの利用技術の概要（4）：堆肥の効能。堆肥化の利点と欠点。
15．バイオマス利用の将来性

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60106001
科目名	環境化学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	環境に関係するさまざまな事象について、計算問題を解くなどの演習を通じて理解を深め、事象を定量的に把握できるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社、2,200 円＋消費税		
教材（その他）	演習のためのプリントを配布する		
評価方法	期末試験（60 点）、適宜行う小テスト（40 点）		
到達目標	環境に関する諸問題を定量的にとらえる力を身に付ける。		
準備学習	プリントの配布を行うので、事前に読んでおくこと。また、前回の復習をしておくこと。		

受講者への要望

環境問題に関するニュースなどを普段から読むようにこころがけること。演習問題は同じテーブルの人たちで協力して解くこと。

講義の順序とポイント

1．濃度と希釈の基本
2．モル濃度
3．水質汚濁（1）：チッソ、リン濃度
4．水質汚濁（2）： 有機物の酸化分解
5．水質汚濁（3）： BOD と COD と測定方法
6．水質汚濁（4）： BOD と COD と水質基準
7．廃水処理（1）：滞留時間
8．廃水処理（2）：BOD 負荷
9．廃水処理（3）：BOD 除去率、BOD 除去速度
10．メタン発酵：メタン生成量
11．大気汚染：気体の体積、重さ
12．気体の爆発
13．放射線の影響（1）：シーベルト
14．放射線の影響（2）：ベクレル
15．放射線の影響（3）：外部汚染、内部汚染

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60109001
科目名	バイオマス科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomass Science		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマス資源材料学
講義概要	バイオマスの中で木質系のバイオマスの占める割合は高い。特に樹木は重要なバイオマスである。樹木の組織のほとんどは細胞壁である。木材の一般的な性質は細胞壁の構造や成分によるところ多い。樹木には大きく分けると針葉樹と広葉樹が存在するが、両者には外観のみならず細胞組織に大きな違いがあり、木材の性質に影響を与えている。本講義では針葉樹材、広葉樹材の比較をしながら、木材の理解に必要な生物学的・物理学的・化学的性質を解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	古野毅・澤辺攻編　『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社 高橋徹・中山義雄編　『木材科学講座 3 物理』　海青社 城代進・鮫島一彦編　『木材科学講座 4 化学』　海青社		
教材（その他）	なし		
評価方法	小テスト（60%）、定期テスト（40% ）		
到達目標	木本植物の特徴を理解する。 針葉樹および広葉樹の構造の違いを理解する。 細胞壁の成分を理解する。 構造や成分がどのような特性と関係するかが説明できる。		
準備学習	初日の講義が始まるまでに、針葉樹材や広葉樹材がどこに利用されているかを考えて、特徴を推測しておく。平時の講義の際は、予習よりも復習を行う。具体的には、講義のテーマごとに、針葉樹の特徴と広葉樹の特徴、木材として共通の特徴を分類してまとめておく。最終的に組織、化学成分、物理特性の横の関係がつながるようにする。		
受講者への要望			
受講中に、常に「針葉樹」「広葉樹」の類似点や相違点を整理しておくこと。			
講義の順序とポイント			
1.　樹木の外観構造 2.　木本植物の植物学上の分類 3.　針葉樹の細胞 4.　広葉樹の細胞 5.　その他の木化植物の細胞 6.　伸長生長と二次肥大生長　小テスト１（組織） 7.　細胞壁の構造 8.　特殊な細胞壁（あて材） 9.　糖科学の基礎（多糖と単糖）　小テスト２（壁構造・材形成） 10.　細胞壁の主要３成分１　セルロース１（分子構造・立体配座・立体配置） 11.　細胞壁の主要３成分１　セルロース２　（水素結合） 12.　細胞壁の主要３成分２　ヘミセルロース　（化学構造） 13.　細胞壁の主要３成分３　リグニン　（前駆体物質・合成過程） 14.　木材の物理特性（水分と比重）　小テスト３（細胞壁成分） 15.　木材の物理特性（力学的特性）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2017	授業コード	J60112001
科目名	バイオマス実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Biomass		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマス実験B、バイオマスエネルギー実験
講義概要	木質バイオマスの分析の基本と、土壌分析の基本を学習する。合わせて、物質変換で重要な酵素の性質について触れる。具体的には全体を四部に分けそれぞれ、一部：木材の成分分析、二部：木材の組織観察、三部：酵素活性測定、四部：土壌分析を行う。		
教材（テキスト）	実験書（実験初日に配布）		
教材（参考文献）	古野毅・澤辺攻編　　『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社 城代進・鮫島一彦編　『木材科学講座 4 化学』　海青社		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	木材の分析法を学び、木材の成分に対する理解を深める。酵素反応実験を通して、実験操作を習得するとともに酵素の性質を理解する。 簡単な土壌分析ができる。 実験の方法を順序立てて説明することができる。 得られた実験結果を適切に処理し、得られた内容を考察することができる。		
準備学習	必ず実験の予習をし、手順を実験ノートに簡単にまとめる。次週までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		

受講者への要望

バイオマス科学を受講していることが望ましい。
実験用のノートを用意すること。実験中は白衣を着用すること。
実験に積極的に参加すること。
実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。「提出さえすればいい」わけではないことを理解しておく。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンス　注意事項
2.　一般木材分析 1　含水量、灰分量の測定
3.　一般木材分析 2　有機溶媒抽出物の定量
4.　一般木材分析 3　リグニンの定量
5.　一般木材分析 4　ヘミセルロースの定量
6.　一般木材分析 5　セルロースの定量
7.　木材組織の観察 1　針葉樹
8.　木材組織の観察 2　広葉樹
9.　酵素反応実験 1　標準溶液の調製
10. 酵素反応実験 2　至適条件測定 1
11. 酵素反応実験 3　至適条件測定 2
12. 土壌分析 1　土壌の物理的性質
13. 土壌分析 2　リンの定量
14. 土壌分析 3　交換性イオンの測定
15. 土壌分析 4　土壌微生物の測定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J60113001
科目名	環境アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Assessment		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	日本における自然環境、自然災害、環境問題の変遷の大きな流れを学び、環境アセスメントの制度が成立してきた経緯を理解する。環境アセスメントを実施する際、地域の概況を的確に理解することは、その後の環境影響評価を行う上で重要なステップであり、本講義では自然地理学の観点から、地域の概況に関する地圏、気圏、水圏、生物圏の仕組みの掴み方を学ぶ。また、環境アセスメント実施後の、環境モニタリング、環境保全計画に関しても学ぶ		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。		
到達目標	環境アセスメントの基本概念と地域の概況調査に必要となる地圏、気圏、水圏、生物圏の基礎について理解する		
準備学習	環境アセスメントはダムや道路などの公共事業のあり方と密接に関連づいているので、政治や経済の動向にも関心を寄せること。		
受講者への要望			
講義以外の時間にフィールドワークやビデオ学習、PDF 学習などがあるので積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1. 日本列島の形成と国土の基盤である自然環境を大きく捉える 2.明治以降の環境問題の変遷 3.近年における自然災害の増大 4.環境アセスメントの制度の概要 5.環境アセスメントの手法と課題 6.地域の地圏の把握　その 1 7.地域の地圏の把握　その 2 8.地域の気圏の把握　その 1 9.地域の気圏の把握　その 2 10.地域の水圏の把握　その 1 11.地域の水圏の把握　その 2 12.地域の生物圏の把握　その 1 13.地域の生物圏の把握　その 2？ 14.地域の生物圏の把握　その 3 15.環境モニタリングと環境保全計画の概況			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J60114001
科目名	環境アセスメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Assess ment		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	本講義では、地理情報システム(GIS:Geographical Information System)の理論と実際の使い方を学ぶ。GIS は環境アセスメントの実践の中でも広く使われてきているが、防災、教育、マーケティングなど、その他の分野でも幅広く利活用が進んでいる汎用的な意思決定のためのツールである。最初に GIS の理論を講義形式で学び、以降は、GIS のソフトウェアを３F のパソコンルームで実際に起動させることによって、基礎から応用まで体感的に理解し、自由に操作できるレベルを目指す。その際、日本国土の生活、社会、自然などに関する空間データの利用方法、表現の仕方についても習得する。GIS はクラウド環境に移行しつつあるので、ArcGIS online やスマートフォンでの活用、ストーリーマップの作成を学び、カシミール３D による地形表現に関しても学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、演習用のプリントを配布する		
教材（参考文献）	ARCGIS　Desktop 逆引きガイド　ＥＳＲＩジャパン株式会社　著 ARCGIS10　PART1　身近な事例で学ぼう　古今書院		
教材（その他）	GIS 演習データ、適宜プリントを配布、パワーポイントなど		
評価方法	講義中に複数回、レポートの提出を実施する。レポートの合計点（80 点）と平常点（20 点）の総合的な評価とする		
到達目標	環境アセスメントにおける GIS など空間情報の解析ツールの操作方法を習得する		
準備学習	R ドライブや U ドライブなど、コンピュータの基礎的な事項を十分に理解しておくこと。レポートはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講者への要望			
授業の後半は 3 階の PC ルームにて実施するので PC 操作に慣れておくこと。 なお、春学期の環境アセスメントの単位を取得していることと、スマートフォンを講義で使うので、スマートフォンを所有することを履修登録の条件とする。また、この演習は ARCGIS のライセンスの関係から 50 名を限度とする。50 名を超える場合は、上回生を優先し、２回生に関しては抽選とする。			
講義の順序とポイント			
1.GIS の概念と活用事例（講義） 2.GIS ソフト ArcGIS の使用方法 1（実習） 3.GIS ソフト ArcGIS の使用方法 2（実習） 4.GIS ソフト ArcGIS の使用方法 3（実習） 5.ArcGIS online の使用方法 1（実習） 6.ArcGIS online の使用方法 2（実習） 7.ArcGIS online の使用方法 3（実習） 8.カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 1（実習） 9.カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 2（実習） 10.カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 3（実習） 11.ストーリーマップの作成 1（実習） 12.ストーリーマップの作成 2（実習） 13.ストーリーマップの作成 3（実習） 14.スマートフォンによる野外調査 1（実習） 15. スマートフォンによる野外調査 2（実習）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	★	–	★★

年度	2017	授業コード	J60115001
科目名	環境リスクマネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Risk Management		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	環境と人間活動との相互作用により生じる様々な負の影響（リスク）を管理（マネジメント）するための分類・評価手法について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	化学物質評価研究機構著　「化学物質のリスク評価がわかる本」　丸善出版 吉田喜久雄，中西準子著　「環境リスク解析入門」　東京図書 浦野紘平，松田裕之共編　「生態環境リスクマネジメントの基礎」　オーム社 松田裕之著　「生態リスク学入門：予防的順応的管理」　共立出版		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	リスクを 0 にすることは難しいことを理解し、リスク管理の客観的、論理的説得力の重要性を理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講者への要望

リスクに対する当事者意識を持ち、講義に臨んでほしい。

講義の順序とポイント

1） ガイダンス　環境リスクマネジメントの意義
2） 環境リスク評価の基本的考え方
3） 環境リスクの評価方法：閾値がある場合 1
4） 環境リスクの評価方法：閾値がある場合 2
5） 環境リスクの評価方法：閾値がない場合
6） リスクのトレードオフ：水道水の塩素消毒による感染症防止
7） リスクのトレードオフ：水道水の塩素消毒による発ガン性物質の生成
8） 水銀のリスク評価
9） 生態リスクの評価方法 1
１0） 生態リスクの評価方法 2
１1） 外来生物のリスク評価
１2） 生物多様性の喪失と絶滅危惧種
１3） 野生動物の保護と獣害
１4） リスク管理と生物多様性
１5） リスクコミュニケーション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J60117001
科目名	環境マネジメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	蔡　佩宜	旧科目名称	
講義概要	現代の様々な環境問題を考え、環境マネジメントシステムを現実的に理解する。本講義では、環境経済学の知見を活用しながら、持続可能性な環境マネジメントシステムを構築するために必要な基礎知識や概念、手法について学びます。また、企業・行政が行っている環境マネジメントの実際についても理解を深めます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回の授業でプリントを配付します。		
評価方法	レポート（60%）と平常点（40%）によって評価します。なお、平常点は各回の授業で受講者に書いてもらうコメントシートの内容に基づいて評価します。		
到達目標	環境マネジメントの基本的知識を習得し、環境問題を多面的に考える力をつけます。		
準備学習	毎回の授業で配付するプリントの内容を、次回の授業を受ける前に復習すること。		

受講者への要望

原発や再生可能エネルギー、地球温暖化など、私たちの暮らしは様々な環境問題に直面しています。受講者の皆さんには、ぜひ自分の将来に関わる問題の一つとして環境問題を考えてほしいと思います。日頃から、インターネットや新聞、または環境本を活用して、自分の興味のある環境問題をフォローしておくようにして下さい。

講義の順序とポイント

講義の計画は以下の通りです。

1. オリエンテーション
2. 現代の環境問題考察（1）
3. 現代の環境問題考察（2）
4. 環境問題発生のメカニズム
5. 環境政策の理論
6. 政策手段の選択
7. 持続可能な発展（1）
8. 持続可能な発展（2）
9. 環境の価値評価（1）
10. 環境の価値評価（2）
11. 環境アセスメント
12. 企業の環境マネジメント
13. 企業の環境的責任
14. 地域住民による環境マネジメント
15. 授業のまとめ、レポート提出

なお、受講者の数や問題関心、授業の進捗状況に応じて、講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60118001
科目名	化学生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemical Ecology		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	本講義では、「生物間で取り交わされる情報化学物質を読み解いて生き物の生き様を解き明かす生物学」という見地にたって、生物間相互作用について学ぶ。すべての生物は他の生物との相互作用の中で生活している。ヒトもその例外ではない。相互作用の基本は、食う－食われるという栄養関係にあるが、本講義の中心は、たとえば食物探索に利用される匂いや味といった情報を運ぶ化学物質とその役割について学ぶことにある。すなわち、同種、異種の生物間でやりとりされる生物情報について、情報化学物質とその機能を中心に知識と理解を深める。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	ハルボーン化学生態文永堂 化学生態学への招待三共出版		
教材（その他）	講義に必要な教材は、１回前の授業終了時に配布する。		
評価方法	期間中および期末のレポート(小論文、4～5 回)で評価する。 本科目では知識の多寡だけを問わない。知見の整理と情報発信力を中心に小論文形式のレポートで評価し、試験は実施しない。したがって、レポート提出が１回でも滞ると単位認定が危うくなること、認定されてもごく低い評価点にとどまることに留意すること。		
到達目標	自然界における化学物質による生物間の相互作用についての関心を高め、理解を深める。		
準備学習	生物学と有機化学の境界領域である。授業内容の理解に有機化学の知識が不可欠というわけではない。化学の専門知識がなくても、十分楽しめる内容であるが、より深い理解には、有機化学の基本的知識が必要になるであろう。受講中に興味がわき化学的知識の不足を感じることがあれば、化学を学びなおすきっかけにすれば良いではないか。事前に配布した資料をよく読み込んで、興味や質問を整理しておくこと。		

受講者への要望

対象となる生物や現象が非常に多様である。多くの知識を得ることも大切であるが、それ以上に、それぞれの生き物が多様で巧みな生き方をしていることを、だれか他の人にも面白く楽しく語って伝えてほしい。
生物有機化学研究室分属希望の学生は、必ず受講すること。

講義の順序とポイント

1. 化学生態学とは
2. 昆虫と寄主植物摂食刺激物質－カイコはなぜクワしか食べないか?－
3. 昆虫と寄主植物植物の有毒物質－カイコはなぜクワを食べられるのか？－
4. アレロパシー植物間の化学的交渉
5. 動物による送粉－ 動物と植物の共進化
6. フェロモン－ 化学物質で交わす言葉
7. 昆虫のフェロモン－ 配偶者探索におけるフェロモンの役割
8. 合成性フェロモンの農作物害虫防除への利用
9. 性フェロモンの化学的解明－ 超微量分析化学
10. 社会性昆虫の化学交信－ アリは化学物質で周りを「見て」いる！
11. 社会性昆虫の化学交信－ ミツバチの不思議
12. 天敵の寄主探索－ 寄主の化学交信に付け込む天敵たち
13. 化学擬態－見た目にもそっくり、見えなくものまでそっくり
14. 昆虫が誘導する植物の病原菌抵抗性 －ウンカに吸汁されるといもち病に強くなる？
15. 脊椎動物のフェロモン － 哺乳類の複雑さ

10～14 は順序を入れ替えることがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60119001
科目名	応用微生物学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Microbiology B		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	産業微生物学を取り扱う。 微生物機能を活用するバイオプロセスを使った医薬品・精密化学品・食品の製造について、産業上有用な微生物の探索・機能開発と微生物利用による工業生産の背景・特徴など具体例を提示しながら説明する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）　応用微生物学　第２版（2008）　清水昌、堀之内末治　編　文永堂出版 2）　遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦　他　編　朝倉書店		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・授業内レポート（40%） ・期末試験（60%）		
到達目標	1）微生物利用による工業的生産方法の特徴・利点を理解する。 2）個々の事例について、産業として成立した時代的背景、社会的要請、技術の優秀性などの観点から理解する。		
準備学習	受講者は「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくことが望ましい。 講義終了時に次回の範囲のミニレポート課題を指定するので、次回の授業開始時に提出すること。講義中に取ったプリントやノートを整理しておくこと、また単元の区切りごとのレポートを課す。		
受講者への要望			
ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 微生物産業についての理解を深めるため、「応用微生物学 A」とあわせて受講することを推奨する。			
講義の順序とポイント			
1）身近なバイオとものづくり 2）生命の仕組みの本質的理解とその応用 3）アルコール発酵 4）微生物機能を用いる有用物質生産：有機酸 5）微生物機能を用いる有用物質生産：アミノ酸（1） 6）微生物機能を用いる有用物質生産：アミノ酸（2） 7）微生物機能を用いる有用物質生産：核酸関連物質（1） 8）微生物機能を用いる有用物質生産：核酸関連物質（2） 9）抗生物質の発見 10）抗生物質の特徴 11）抗生物質生産 12）微生物を利用した環境浄化 13）酵素の発見 14）酵素産業 15）世の中に役に立つ微生物			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012100A
科目名	専門外書講読 A -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	科学英語で学修した基礎的な英語力を運用し、バイオサイエンス分野の英文やテキストを精読する。 これによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけるとともに、テキストに記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識や専門用語、科学論文の表現法を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	・新バイオテクノロジーテキストシリーズ「バイオ英語入門」（NPO 法人日本バイオ技術教育学会／監、池北雅彦, 田口速男／著 2013） ・ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社 2010） ・ライフサイエンス文例で身につける英単語・熟語（河本健, 大武博／著　ライフサイエンス辞書プロジェクト／監　Dan Savage／英文校閲・ナレーター　羊土社　2009） ・“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教材（その他）	キクタンサイエンス　生命科学編（近藤哲男／著　アルク 2012）		
評価方法	中間試験(30%)、期末試験(40%)、毎回の理解度テスト(20%)、受講態度や提出物や発表への取り組み方(10%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. 単位、物質に関する表現
3. 実験器具、実験方法に関する表現
4. 生化学における英語表現①
5. 生化学における英語表現②
6. 微生物学における英語表現①
7. 微生物学における英語表現②
8. 中間試験
9. 植物化学における英語表現①
10. 植物化学における英語表現②
11. 有機・食品化学における英語表現①
12. 有機・食品化学における英語表現②
13. "General, Organic, and Biochemistry"の英文読解①
14. "General, Organic, and Biochemistry"の英文読解②
15. "General, Organic, and Biochemistry"の英文読解③

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012100B
科目名	専門外書講読A -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	小槻　日吉三	旧科目名称	
講義概要	一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること及び、当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養うことである。このために秋学期の専門外書講読Bと同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（テキスト）	“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第3版（羊土社） 英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験(20%)、期末試験(40%)、毎回の理解度テスト(20%)、受講態度や発表への取り組み方(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. Protein Building Blocks: The α Amino Acids
3. The Peptide Bond
4. The Primary Structure of Proteins
5. The Secondary Structure of Proteins
6. The Ternary Structure of Proteins
7. The Quaternary Structure of Proteins
8. 中間試験
9. An Overview of Protein Structure and Function
10. Myoglobin and Hemoglobin
11. Denaturation of Proteins
12. Dietary Protein and Protein Digestion
13. Medical Perspective: Collagen, Cosmetic Procedures, and Clinical Applications
14. Medical Perspective: Immunoglobulins: Proteins That Defend the Body
15. Nature Topics

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012100C
科目名	専門外書講読Ａ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	科学論文で汎用される専門用語を習得し，科学論文の内容を理解するための英文読解力を高める。バイオ産業を支える専門性に優れたバイオ技術者として，英文で書かれた専門書の方法を理解して，実験ができるようになることを目標とする。		
教材（テキスト）	新バイオテクノロジーテキストシリーズ 「バイオ英語入門」（講談社） ＮＰＯ法人日本バイオ技術教育学会監修　北池雅彦・田口速男著		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）英和辞典		
教材（その他）			
評価方法	以下の基準で評価する。 中間テスト（４０％） 期末テスト（４０％） 毎回の単語テストや小テスト（２０％）		
到達目標	英語で表記されている実験方法を理解し，実験を遂行するための英文読解力を身に着ける。		
準備学習	授業範囲の英文をノートに書き写しておくこと。		

受講者への要望

英語が解らない・できないという気持ちを捨てて，やってみるという気持ちで受講してください。必ず予習を行い，分からない単語は事前に辞書等で意味を調べておくこと。

講義の順序とポイント

１）試薬の調製方法ー１
２）試薬の調製方法ー２
３）試薬の調製方法ー３
４）微生物学分野の実験方法ー１
５）微生物学分野の実験方法ー２
６）微生物学分野の実験方法ー３
７）生化学分野の実験方法ー１
８）生化学分野の実験方法ー２
９）生化学分野の実験方法ー３
１０）細胞工学の実験方法ー１
１１）細胞工学の実験方法ー２
１２）細胞工学の実験方法ー３
１３）遺伝子工学の実験方法ー１
１４）遺伝子工学の実験方法ー２
１５）遺伝子工学の実験方法ー３

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J6012100D
科目名	専門外書講読A -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	食品や環境の話題を科学に基づいて書かれたコラムを精読する。これらのコラムを読むことによって、科学論文で汎用される専門用語を学習し、英文読解力を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『General, Organic, and Biochemistry』　(Eighth Edition,　McGraw-Hill International) ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)、英和辞書		
教材（その他）	プリント配布		
評価方法	中間テスト（45%） 定期試験（45%） 訳文の提出など（10%）		
到達目標	科学分野の英文読み物を読むことによって、多くの専門用語を理解し、内容を把握する。		
準備学習	予習として、テキストの英文とその訳文を並列して、Word 文書で書き、その日の終了時にレポートとして提出する。		
受講者への要望			
予習は必ず行うこととする。必ず予習したこと（和訳）を Word で書き、授業時間に間違った箇所を修正して、終了時に提出することになる。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス（講義の進め方、勉強の方法など） 2.　The Scientific Method 3-4.　Food Calories 5.　Detergents 6-7.　Fermentations: The Good, the Bad, and the Ugly 8.　中間テストと解説 9.　Solubility, Surfactants, and the Dishwasher 10-11.　Amazing Chocolate 12.　The Magic of Garlic 13.　Browning Reactions and Flavor: The Maillard Reaction 14-15.　The Chemistry of Caramels			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60121A0A
科目名	専門演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教材（その他）			
評価方法	演習課題（100%）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして提出すること。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．What are the ages?
2．Prove that!
3．Where do you live?
4．Find the positive value!
5．What is the relationship?
6．What is the minimum number?
7．Which lockers?
8．Into how many regions?
9．Can you deduce?
10．Is it possible to tile?
11．What is the speed?
12．When was sunrise?
13．How many steps?
14．What is the length?
15．What is the winning strategy?

注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60121A0B
科目名	専門演習A（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教材（その他）			
評価方法	演習課題（100%）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして提出すること。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．What are the ages?
2．Prove that!
3．Where do you live?
4．Find the positive value!
5．What is the relationship?
6．What is the minimum number?
7．Which lockers?
8．Into how many regions?
9．Can you deduce?
10．Is it possible to tile?
11．What is the speed?
12．When was sunrise?
13．How many steps?
14．What is the length?
15．What is the winning strategy?

注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60121A1A
科目名	専門演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教材（その他）			
評価方法	演習課題（100%）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして提出すること。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．What are the ages?
2．Prove that!
3．Where do you live?
4．Find the positive value!
5．What is the relationship?
6．What is the minimum number?
7．Which lockers?
8．Into how many regions?
9．Can you deduce?
10．Is it possible to tile?
11．What is the speed?
12．When was sunrise?
13．How many steps?
14．What is the length?
15．What is the winning strategy?

注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60121B0A
科目名	専門演習Ｂ（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教材（その他）	英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．How many people?
2．How do you do it?
3．What is the smallest possible value?
4．What happened?
5．Can they do it?
6．How many faces?
7．Prove this by induction!
8．What is the largest integer n?
9．Complete the proof!
10．What can you say?
11．Can you do it with a picture?
12．Solve it in a few seconds!
13．What is the length?
14．Determine the minimum perimeter!
15．How high above the floor?

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J60121B0B
科目名	専門演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教材（その他）	英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．How many people?
2．How do you do it?
3．What is the smallest possible value?
4．What happened?
5．Can they do it?
6．How many faces?
7．Prove this by induction!
8．What is the largest integer n?
9．Complete the proof!
10．What can you say?
11．Can you do it with a picture?
12．Solve it in a few seconds!
13．What is the length?
14．Determine the minimum perimeter!
15．How high above the floor?

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J60121B1B
科目名	専門演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教材（その他）	英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得するとともに，記述された内容に関する問題解決能力向上のための演習を行う。		
準備学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．How many people? 2．How do you do it? 3．What is the smallest possible value? 4．What happened? 5．Can they do it? 6．How many faces? 7．Prove this by induction! 8．What is the largest integer n? 9．Complete the proof! 10．What can you say? 11．Can you do it with a picture? 12．Solve it in a few seconds! 13．What is the length? 14．Determine the minimum perimeter! 15．How high above the floor?			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J6012200A
科目名	専門外書講読Ｂ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	春学期の専門外書講読 A に続く科目である。 一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること、及び当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養う。このため、春学期の専門外書講読 A と同じ教科書を使い、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（テキスト）	“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社） 英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験(30%)、期末試験(50%)、毎回の理解度テスト(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるよう基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は、英語を学ぶために書かれたテキストではなく、具体的な生化学の内容を理解させるために書かれている。従って、英文読解で終わるのではなく記述内容を理解し、自身の知識としていくために相当の力を割く必要がある。忍耐力を持ってあきらめずに理解するところまでを完遂し、自学自習の意思を持って受講して欲しい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. The Structure of the Nucleotide
3. The Structure of DNA and RNA
4. DNA Replication
5. Information Flow in Biological Systems
6. The Genetic Code
7. Protein Synthesis
8. 中間試験
9. Mutation, Ultraviolet Light, and DNA Repair
10. Recombinant DNA
11. Polymerase Chain Reaction
12. The Human Genome Project
13. Medical Perspective: Molecular Genetics and Detection of Human Genetic Disorders
14. Medical Perspective: Carcinogens
15. Nature Topics

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012200B
科目名	専門外書講読Ｂ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	小槻　日吉三	旧科目名称	
講義概要	春学期の専門外書講読 A に続く科目である。一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること及び、当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養うことである。このために秋学期の専門外書講読 A と同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（テキスト）	“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教材（参考文献）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社） 英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験(20%)、期末試験(40%)、毎回の理解度テスト(20%)、受講態度や発表への取り組み方(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
準備学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. The Structure of the Nucleotide
3. The Structure of DNA and RNA
4. DNA Replication
5. Information Flow in Biological Systems
6. The Genetic Code
7. Protein Synthesis
8. 中間試験
9. Mutation, Ultraviolet Light, and DNA Repair
10. Recombinant DNA
11. Polymerase Chain Reaction
12. The Human Genome Project
13. Medical Perspective: Molecular Genetics and Detection of Human Genetic Disorders
14. Medical Perspective: Carcinogens
15. Nature Topics

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012200C
科目名	専門外書講読Ｂ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	科学英語 I～IVを総括する科目として、有機化学と生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を講読する。科学論文独特の用語や英語表現、関連する文法について学習する。テキストはバイオサイエンス分野の科学的基礎知識を英語で養うのに最適なものである。また当講義は、関連する講義（生化学、有機化学など）と内容の系統的理解を深めることができるため、次学年で取り組む卒業研究および専攻演習の事前学習と位置付ける。		
教材（テキスト）	General, organic and biochemistry （McGraw-Hill）, 9th edition Denniston, Topping, Caret 共著		
教材（参考文献）	英和辞書		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験（３０％）、定期試験（４０％）、授業内の理解度テスト等による平常点（３０％）		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容が理解できるように基礎学力をつける。最終的に卒業研究で必要となる科学原著論文の読解力を身につける。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テスト（単語と和訳）を行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
授業後には復習を行い英文読解の基礎力を確実に身につける。 併せて授業内容と合致する単元を、他の関連する講義（生化学、有機化学など）で使用した教科書等を参考にして内容をより深く理解する。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の進め方を説明する。"Protein Structure and Function "の Introduction を読む。 2. Protein Building Blocks: The α-Amino Acids 3. Classes of Amino Acids 4. The Peptide Bond 5. The Primary Structure of Proteins 6. The Secondary Structure of Proteins 7. The Ternary Structure of Proteins 8. 中間試験 9. An Overview of Protein Structure and Function 10. Myoglobin and Hemoglobin 11. Oxygen Transport from Mother to Fetus 12. Proteins in the Blood 13. Denaturation of Proteins 14. Organic Solvents 15. Dietary Protein and Protein Digestion			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012200D
科目名	専門外書講読Ｂ -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	「総合英語」「科学英語」で学習した基礎的な英語力を運用し、食農分野の教科書の英文テキストを精読する。英文法についての理解をさらに深めると共に、分野の専門用語、科学論文の表現法を学習する。		
教材（テキスト）	受講者の興味と英語力に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）	・The Art of Fermentation: An In-Depth Exploration of Essential Concepts and Processes from Around the World, Michael Pollan ・Proof: The Science of Booze, Adam Rogers ・Welcome to the Microbiome: Getting to Know the Trillions of Bacteria and Other Microbes In, On, and Around You, Rob DeSalle ・ライフサイエンス文例で身につける英単語・熟語（河本健，大武博／著　ライフサイエンス辞書プロジェクト／監　Dan Savage／英文校閲・ナレーター　羊土社　2009） ・シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂　2013） （一部の人は科学英語 III で使用したもの）		
教材（その他）	・上記の「ライフサイエンス文例で身につける英単語・熟語」を単語テストの教材とするが、英単語・熟語のリストは配布するので、必ずしも購入する必要はない。		
評価方法	平常点（毎回の単語テストの成績・宿題の英文和訳の提出）（50%） 期末試験（50%）		
到達目標	3 回生修了時にバイオサイエンス分野の原著論文を通読するだけの英語力を身につけるという目標に向かって、各自の英語力をレベルアップする。		
準備学習	・事前に配布されたプリントについて、単語帳作成、構文解析を行い、翻訳をつけてくること。これを毎回の授業でテストする。 ・次回の授業時の単語テストの範囲の単語を覚えてくること。		
受講者への要望			
英文和訳、単語の暗記を毎回の宿題とする。			
講義の順序とポイント			
1) The Art of Fermentation (1) 2) The Art of Fermentation (2) 3) The Art of Fermentation (3) 4) The Art of Fermentation (4) 5) The Art of Fermentation (5) 6) Proof: The Science of Booze (1) 7) Proof: The Science of Booze (2) 8) Proof: The Science of Booze (3) 9) Proof: The Science of Booze (4) 10) Proof: The Science of Booze (5) 11) Welcome to the Microbiome (1) 12) Welcome to the Microbiome (2) 13) Welcome to the Microbiome (3) 14) Welcome to the Microbiome (4) 15) Welcome to the Microbiome (5)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	−	★

年度	2017	授業コード	J6012300A
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究遂行に資する分析技術（原理、用途、操作法など）の紹介や解析技術の習得、自身のテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また実験の進捗状況を発表する。また関係する文献の輪読を行う		
教材（テキスト）	教員からの配布資料、および各自が用意する資料。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習への出席、受講態度を含め、卒業研究論文及び口頭発表で評価する。		
到達目標	各自が発表することによって、内容の理解が深くなり、実験の進捗報告と相まって、問題点の整理が深まることを期待している。各自の発表と相互の討論を重視する。		
準備学習	各自が資料を読み込み、聞き手が発表内容を理解しやすいように工夫する。		
受講者への要望			
積極的に質問やコメントを行うこと。			
講義の順序とポイント			
春学期（第１回～第１５回） 共通する化学情報や文献情報を共有するために、各自のテーマに関連した文献の輪読、調査内容の発表を行う。 秋学期（第１６回～第３０回） 生物有機化学研究室の基本スキルである有機機器分析に関するデータ解析、テーマに関連した項目の調査および内容発表を持ち回りで順次行う。また、各自が卒業研究の進捗状況の発表を２回程度行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012300B
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	生体の内外環境変化に応じて遺伝子とその産物である mRNA やタンパク質の発現調節とその制御機構を (1) 細胞内小器官の構造レベル (2) 細胞の分化の時空間的レベル・組織特異的なレベル (3) 情報伝達の経路レベル (4) シグナル伝達に関わる分子レベル (5) その他，関連の生体高分子の複合体構成分子レベルについて， 基本的な専門技法の習熟，専門知識の習得と理解を各自のレベルに応じて，専門課題に取り組む． 研究テーマの理解，課題の設定，計画の立案，実行，成果の整理，課題を解決する能力を育成する． それらとともに、ゼミ参加学生間のコミュニケーションと連帯的な作業環境の構築を築き，社会性を強化する．		
教材（テキスト）	最新の学術雑誌の発表論文や総説を題材として扱う． 春学期は専門分野の概要を把握できる題材を， 秋学期は専門分野の優れた英文の論文を題材にする．		
教材（参考文献）	各専門分野の教科書，参考書，辞典など．		
教材（その他）	専門分野の公共データーベースを活用する．		
評価方法	選択課題の理解度，課題の整理，解決手段や技法の理解，成果の理解と分析，結果とその評価について，全体を要約し理解できる能力（50%）と表現力（30%），事後調査や整理（20%）を総合的に判断する。		
到達目標	ライフサイエンス分野の研究の理解と成果を評価できることとさらに応用や発案できる力量を習熟すること． また，学習の終えた領域については，キーワードを整理し，正しく内容を説明できるようにする．		
準備学習	講義概要の（1）から（5）の内容に合わせて，3 回生までに修学したことを整理し，各人の卒業研究に必要な重点項目を理解できていることと，不十分な理解を区別して把握することを事前に準備して，専攻演習に臨むこと．		

受講者への要望

勤勉に取り組むことと失敗の内容を認識し、同じ失敗を繰り返さないように努力し，常に課題解決に意欲的に研究課題に取り組むこと．
時間の自己管理をしっかりすること．
具体的には，
　研究室レベルでの共同時間．
　卒業研究に向けての自己管理の時間．
　完全なプライベートな時間．
この 3 種を明確に区別をつけて過ごすこと．

講義の順序とポイント

1-2.　細胞内小器官構造の理解
3-4.　小胞体に関わるタンパク質と複合体の機能
5-6.　小胞体ストレスとは何か
7-8.　細胞内レドックス制御の理解
9-10.　細胞分化の制御と組織特異性の制御
11-12.　組織特異的な制御とそれらの維持と破綻
13-14.　細胞外シグナルの種類と受容体の特異性
15-16.　シグナル伝達経路と関連因子の機能
17-18.　シグナルの分子形態
19-20.　シグナルの発生と消失と細胞周期

21-22. 新規解析手法の理解
23-24. 機能性食品の細胞レベルでの効果検証
25-26. 病因関連因子の動態と解析法
27-28. 生体の恒常性維持と破綻
29-30. 科学リテラシーと文献･特許などの調査とプレンゼンテーション技法について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012300C
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンスの知識と技術で社会に貢献するためには、当該分野に関する幅広い文献・資料を読み解くことが出来るだけの基礎的な読解力、背景知識、及び英語力が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマ、および微生物学・応用微生物学分野一般についての文献・資料を題材に、科学的思考や学術論文の様式について学び、科学英語の読解力を養成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	微生物学に関する文献・資料（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	・ゼミへの取り組み（50%） ・文献・資料の理解度（25%） ・科学英語の読解力（25%）		
到達目標	1）化学、生化学などの基礎知識、ならびに応用微生物学の専門知識が、創造的な研究活動にどのように応用されるのかを理解する。 2）科学英語の読解力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
受講生は教員の指導の下、それぞれの課題研究のテーマに関する文献・資料に基づいてグループでディスカッションを行う。主体的な取り組みを要求する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（1） 2）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料1） 4）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料2） 5）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料3） 6）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料4） 7）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料5） 8）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料6） 9）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料7） １０）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料1） １１）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料2） １２）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料3） １３）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料4） １４）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料5） １５）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料6）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012300D
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	各自が分析技術・機能性評価技術（原理、用途、操作法など）の紹介およびテーマおよびテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また、実験の進捗の報告を行なう。		
教材（テキスト）	各自資料を準備する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下で評価する。 発表のための準備状況（20%） プレゼンテーション力（20%） 質疑に対する的確な応答（20%） 質疑への参加度（20%） 平常点（20%）：受講態度など		
到達目標	各自が発表することによって、内容を深く理解する。実験の進捗報告によって、問題点等を理解する。プレゼンテーションにも慣れる。		
準備学習	各自、発表内容を準備し、発表資料とする。		
受講者への要望			
必ず出席すること。発表内容のポイントを理解すること。			
講義の順序とポイント			
春学期（週 1 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 秋学期（週 2 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 各自の実験進捗（10 分、各自隔週に発表）。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J6012300E
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	テーマを決めて、適切な原著論文を検索・精選し、それを精読してその内容を理解する。これを取りまとめて研究の背景と目的、実験方法、実験結果の解釈などを要約してレジメを作成し、パワーポイント等も使用しながら紹介する。また紹介した論文をもとに、その分野の研究の展望などについてグループ討論する。これらを通して、問題抽出能力や問題解決能力を養う。また卒業研究をそざいにして研究の取りまとめとプレゼンテーション能力の修得を行う。		
教材（テキスト）	学術雑誌などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習用教材の理解度・発表・討論への参加状況などから評価する。		
到達目標	植物バイオテクノロジーを支える知識と理論の理解を深め、問題解決能力、取りまとめ能力、プレゼンテーション能力を涵養し、植物バイオテクノロジーの情報を理解、考察、情報発信、評価する力を身に付ける。		
準備学習	事前に参考資料などを提示するので、理解を深めておくこと。また、理解が不足していた点は、再度参考資料などで補足すること。		
受講者への要望			
これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習する。英語の教材を使用することが望ましいことから、英語論文に慣れ親しむこと、英語力をつけることに努める。 ４年間の総集編として、積極的かつ自発的に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンスと原著論文の検索法等の実習 ２．演習用教材の準備 ３．原著論文の構成や論理構成等についての説明 ４～３０．原著論文や研究結果等の取りまとめ、紹介、発表、討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012300F
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	卒業研究として取り組む研究課題に関して、必要となる文献・資料の調査、各自の研究活動での進捗状況の検討を行い、卒業研究を完成させるための基礎力を充実させる		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講態度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	自分の研究について周辺知識を身につけ、計画を立て、実行し、論理的に考察することができる基礎力を充実させる		
準備学習	自分が希望する研究テーマについて、事前に十分な勉強を済ませておく。具体的には、文献・資料について十分な検索を行い、先行研究について多くの知見を得ておく		

受講者への要望

演習・研究・発表に気力を充実させて臨むこと

講義の順序とポイント

1. 研究の基本的なことがら
2. 研究論文の書き方の紹介と実例紹介
3. 研究論文の書き方の紹介と実例紹介
4. 研究計画発表（1）
5. 研究計画発表（2）
6. 研究計画発表（2）
7. 研究の予算
8. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
9. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
10. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
11. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
12. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
13. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
14. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
15. 観測方法の紹介
16. 観測方法の紹介
17. 観測方法の紹介
18. 分析方法の紹介
19. 分析方法の紹介
20. 分析方法の紹介
21. 分析方法の紹介
22. 分析方法の紹介
23. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
24. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
25. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
26. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
27. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
28. 研究のまとめ方について
29. 各自の研究発表
30. 各自の研究発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J6012300G
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	「卒業研究」と一体化させて、都市の自然環境とランドスケープの保全と復元に関する、さまざまな現代的な課題への取組みについて、演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	「卒論研究」と一体的に評価する。平常点（１００％）		
到達目標	課題発見能力を向上させ、取組みの枠組みを構築する能力を高め、自分で新たな課題に取り組む方法が身につく。		
準備学習	ランドスケープとその科学・計画・デザイン・マネジメントに関する参考図書や雑誌、論文などたくさん読むとともに、環境関連の各種報道もチェックし、基礎能力を高めること。		
受講者への要望			
卒業研究の課題設定と遂行にあたっては自主性・自立性を尊重しますが、ゼミの仲間と緊密に協力して進めてください。お互いの効率と向上に貢献するのみならず、幅広いランドスケープ分野の豊かな理解に役立ちます。			
講義の順序とポイント			
１～３回　卒業研究の課題設定について ＜参考＞ ・京都のエコロジカルネットワーク「和の花」プロジェクト ・大阪万博記念公園の森づくりモニタリング ・ビオトープいのちの森のモニタリング ・雨庭（レインガーデン）の計画とデザイン ・樹木医や自然再生士のサポートツール ・宝ヶ池「里山公園」のマネジメント ・癒しのランドスケープデザイン ・UAV を利用した生態系モニタリング ４～７．調査研究方法についての基礎演習 ８～１２．先行研究のレビュー 13-15.調査研究計画検討 16-19.進捗状況中間報告 20-25:調査研究進捗状況に応じた指導 26-30:論文作成・研究発表指導			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012300H
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	卒業研究をすすめるにあたって必要な、英語文献の読解や、方法論の検討などについて、演習を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。		
準備学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験、流域環境デザイン論、流域環境デザイン演習などの習得が必要。卒業研究に関連する論文紹介、レビューを課すので、日頃から、卒業研究に関連する文献の検索、精読を行い、研究の関連分野に関して幅広い知見を深めること。		
受講者への要望			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
講義の順序とポイント			
客観的な視点で、文献や資料を読解し、議論の妥当性や方法論の妥当性などについて検討する中で、観測事実と向き合い、理解を深める過程について深く検討する。これらの経験をもとに、各自の卒業研究の進め方などについても議論を重ねたい。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J6012300I
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が卒業研究で取り組む研究課題を題材に、先行研究の検索と読解、研究課題設定のポイント、フィールド調査やデータ解析の方法論、データの解釈とディスカッション、論文骨子の作成、効果的なプレゼンテーションの手法等に関する基礎知識と応用力を身につけるための演習を行う。		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	「これからレポート・卒論を書く若者のために」　酒井聡樹 著　（2007 年　共立出版） 「これから学会発表する若者のために」　酒井聡樹 著　（2008 年　共立出版） 「論文の教室　レポート作成から卒論まで」　戸田山和久 著　（2012 年　NHK 出版）		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	演習への出席状況、中間発表・最終発表の内容、ディスカッションへの参加状況により総合的に評価する。		
到達目標	先行研究の効率的な検索・収集方法の習得。 関連分野の論文読解力と、未解決の課題を発見する能力の涵養。 データ解析や論文骨子作成に必要な論理的思考力の習得。 効果的なプレゼンテーション技術の習得。		
準備学習	参考文献に挙げた文献を、学期中に熟読しておくこと。		
受講者への要望			
文献紹介、中間発表、最終発表等は、決められた期日に必ず行ってください（締切厳守）。また、他人の発表をよく聴き、積極的にディスカッションに参加してください。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２－３．関連分野の論文検索・読解 ４－６．文献紹介 ７－９．研究テーマの設定 １０－１２．フィールド調査手法の検討 １３－１５．中間発表 １６－２０．データ解析手法の検討 ２１－２３．データの解釈とディスカッション ２４－２５．論文骨子の作成 ２６．プレゼンテーションの方法論 ２７－３０．最終発表・総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012300L
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の取りまとめに必要となる、文章の書き方、論文のまとめ方に関して書籍の PDF 学習を通じて基本を理解する。また、論文中に使用する地図などの自由に取り扱うことができるよう、地理情報視システム（GIS）の操作方法に関して学ぶ。また、ビデオ学習、書籍の PDF 学習、月 1 回程度のフィールドワークなどを通じて、幅広く知識と経験を積み上げる。フィールドワークは、綾部市の集落、古屋でのボランティアの参加、ドローンの空撮などを実施する。		
教材（テキスト）	・逆引き ARCGIS　ESRI 社 ・ArcGISOnline 逆引きガイド		
教材（参考文献）	フィールドワークは各地の地図と 25000 分の 1 の地形図などを利用する また、スマートフォンの地図アプリの使い方に関しても学ぶ		
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワーポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	出席状況・学ぶ意欲・フィールドワーク参加・関連ビデオ学習による総合評価		
到達目標	GIS に関連するデータベースの包括的な理解と現場での環境課題の抽出		
準備学習	環境アセスメント演習などの GIS 学習やこれまでの講義で学んだことをよく理解しておくこと		
受講者への要望			
フィールドワークは、普段歩きなれていない学生には最初体力面でついていけないかもしれないが、徐々にペースアップして慣れるようになってほしい			
講義の順序とポイント			
週に 1 回程度の割合で、ビデオ学習を実施する。ビデオの見て（大学、自宅の双方でみれるように配慮する）概要 200 字、感想 200 字にまとめて、翌週提出する。ビデオの内容は、就活や卒業研究に関連するものを中心に選定し、各人の希望も取り入れる			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2017	授業コード	J6012300O
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	この演習では，無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な，物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。具体的には，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。また，基礎理論学修とは独立に，『Oxford University Press』から出版されているシリーズ『Very Short Introductions』の自然科学関連分野から単行本１冊を各人で選択し，その解題作成に向けた科学英文解釈の演習を行う。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 築山　光一　他　編　『ベーシックマスター　物理化学』　オーム社（４，３００円＋税） 萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験，物理化学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．結晶構造（１） ２．結晶構造（２） ３．結晶構造（３） ４．Ｘ線回折（１） ５．Ｘ線回折（２） ６．Ｘ線回折（３） ７．結晶解析（１） ８．結晶解析（２） ９．結晶解析（３） 10．分子結合（１） 11．分子結合（２） 12．分子結合（３） 13．結晶結合（１） 14．結晶結合（２） 15．結晶結合（３） 16．エネルギーバンド（１） 17．エネルギーバンド（２） 18．エネルギーバンド（３） 19．共有結晶（１） 20．共有結晶（２） 21．共有結晶（３） 22．金属結晶（１） 23．金属結晶（２） 24．金属結晶（３）			

25. 半導体（1）
26. 半導体（2）
27. 半導体（3）
28. 光学物性（1）
29. 光学物性（2）
30. 光学物性（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012300P
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究とは何をすることをいうのか、科学的な思考とはどういうものか、最新の研究はどのような形で発表されるのか、どのようにして自分の研究を外部に発表するかを講義する。また、論理的な思考の訓練として、英語で記述された文章を受講者が音読し、日本語に訳す。さらに、受講生が各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容について受講者全員で討議する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業のはじめに教材を配布する		
評価方法	受講態度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	自分の研究について、実験結果から論理的に結論を導き出す思考方法と、結果を論文としてまとめる技術を身に付ける。		
準備学習	配布した教材の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。		

受講者への要望

疑問に思うことは、その都度、積極的に発言して、理解を深めるように努めること

講義の順序とポイント

１．研究の基本的なことがら
２．研究論文の書き方の紹介と研究論文の実例紹介
３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.1-10
４．配布した英語教材の音読と翻訳　p.11-20
５．配布した英語教材の音読と翻訳　p.21-30
６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.31-40
７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.41-50
８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.51-60
９．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（１）
１０．配布した英語教材の音読と翻訳　p.61-70
１１．配布した英語教材の音読と翻訳　p.71-80
１２．配布した英語教材の音読と翻訳　p.81-90
１３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.91-100
１４．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（２）
１５．配布した英語教材の音読と翻訳　p.101-110
１６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.111-120
１７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.121-130
１８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.131-140
１９．各自の研究の中間報告（１）
２０．各自の研究の中間報告（２）
２１．研究のまとめ方について
２２．配布した英語教材の音読と翻訳　p.141-150
２３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.151-160
２４．卒業論文の実例を使った演習（１）
２５．卒業論文の実例を使った演習（２）
２６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.161-170
２７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.171-180
２８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.181-190
２９．各自の研究発表（１）
３０．各自の研究発表（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012300Q
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	野菜の育種と生産について，まず基礎的な部分を学ぶ．次いで，専門誌等に掲載された新しい知見について自ら学び，理解した点について発表する．後半では各自の卒業論文のためのテーマに関する文献を精読し，発表を行う．		
教材（テキスト）	特に定めない．		
教材（参考文献）	授業時に配布する．		
教材（その他）	授業時に配布する．		
評価方法	日常の達成度(100%)		
到達目標	野菜の育種と生産技術に関する知見をよく理解する．この知識に基づき，卒業研究を進めてもらいたい．		
準備学習	卒業研究のために実際に野菜を育てているので，その成育等について常に目を配っていること．		

受講者への要望

最初は教員が提示する資料に基づき発表を行うが，それに頼ることなく，自ら必要な文献を探す努力をし，それを習慣としてほしい．また，自分が理解したことを他の人に説明するための努力，つまりコミュニケーション力もつけてほしい．

講義の順序とポイント

1．野菜の育種に関する問題を検討する／発表
2．野菜の育種に関する問題を検討する／発表
3．野菜の育種に関する問題を検討する／発表
4．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表
5．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表
6．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表
7．野菜の栽培に関する問題を検討する／発表
8．プレゼンテーション技術について
9．論文の取りまとめ方法について
10．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表
11．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表
12．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表
13．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表
14．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表
15．卒業論文のテーマに関する論文の内容要約と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012300S
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	科学論文を読むための訓練と、論理的な思考の訓練として、英語で記述された文章を音読し日本語に訳す。また、英語あるいは日本語の論文を深く読み込み、他者への紹介説明を通して、論理的思考力を高め、科学的なものの見方を学び、表現力を高める。 各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容についてディスカッションを行い、批判的なものの見方を身に付ける。		
教材（テキスト）	授業のはじめに指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて配布する。		
評価方法	受講態度（５０％）、発表内容（５０％）		
到達目標	日本語および英語の読解力を身につけるとともに、自分の研究を論理的に組立て、考察して卒業論文としてまとめる技術を身に付ける。		
準備学習	中間報告や論文紹介、輪読などの発表の準備を十分に行う。		
受講者への要望			
失敗を恐れずに、積極的に発表や質問をすること。受講態度のみならず生活態度においても、社会人になるという自覚を持って自ら考え行動すること。			
講義の順序とポイント			
１．研究の基本 ２．研究論文の書き方の紹介と研究論文の実例紹介 ３－１０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告 １１－１５．日本語あるいは英語論文の紹介 １６－１７．各自の研究テーマの中間報告 １８－２０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告 ２１－２５．日本語あるいは英語論文の紹介 ２６－２７．各自の研究テーマの中間報告 ２８－３０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012302A
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	研究遂行に資する分析技術（原理、用途、操作法など）の紹介や解析技術の習得、自身のテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また実験の進捗状況を発表する。また関係する文献の輪読を行う		
教材（テキスト）	教員からの配布資料、および各自が用意する資料。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習への出席、受講態度を含め、卒業研究論文及び口頭発表で評価する。		
到達目標	各自が発表することによって、内容の理解が深くなり、実験の進捗報告と相まって、問題点の整理が深まることを期待している。各自の発表と相互の討論を重視する。		
準備学習	各自が資料を読み込み、聞き手が発表内容を理解しやすいように工夫する。		
受講者への要望			
積極的に質問やコメントを行うこと。			
講義の順序とポイント			
春学期（第１回～第１５回） 共通する化学情報や文献情報を共有するために、各自のテーマに関連した文献の輪読、調査内容の発表を行う。 秋学期（第１６回～第３０回） 生物有機化学研究室の基本スキルである有機機器分析に関するデータ解析、テーマに関連した項目の調査および内容発表を持ち回りで順次行う。また、各自が卒業研究の進捗状況の発表を２回程度行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012302C
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンスの知識と技術で社会に貢献するためには、当該分野に関する幅広い文献・資料を読み解くことが出来るだけの基礎的な読解力、背景知識、及び英語力が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマ、および微生物学・応用微生物学分野一般についての文献・資料を題材に、科学的思考や学術論文の様式について学び、科学英語の読解力を養成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	微生物学に関する文献・資料（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	・ゼミへの取り組み（50%） ・文献・資料の理解度（25%） ・科学英語の読解力（25%）		
到達目標	1）化学、生化学などの基礎知識、ならびに応用微生物学の専門知識が、創造的な研究活動にどのように応用されるのかを理解する。 2）科学英語の読解力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
受講生は教員の指導の下、それぞれの課題研究のテーマに関する文献・資料に基づいてグループでディスカッションを行う。主体的な取り組みを要求する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（1） 2）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料1） 4）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料2） 5）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料3） 6）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料4） 7）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料5） 8）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料6） 9）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料7） １０）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料1） １１）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料2） １２）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料3） １３）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料4） １４）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料5） １５）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料6）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012302E
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	テーマを決めて、適切な原著論文を検索・精選し、それを精読してその内容を理解する。これを取りまとめて研究の背景と目的、実験方法、実験結果の解釈などを要約してレジメを作成し、パワーポイント等も使用しながら紹介する。また紹介した論文をもとに、その分野の研究の展望などについてグループ討論する。これらを通して、問題抽出能力や問題解決能力を養う。また卒業研究をそざいにして研究の取りまとめとプレゼンテーション能力の修得を行う。		
教材（テキスト）	学術雑誌などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習用教材の理解度・発表・討論への参加状況などから評価する。		
到達目標	植物バイオテクノロジーを支える知識と理論の理解を深め、問題解決能力、取りまとめ能力、プレゼンテーション能力を涵養し、植物バイオテクノロジーの情報を理解、考察、情報発信、評価する力を身に付ける。		
準備学習	事前に参考資料などを提示するので、理解を深めておくこと。また、理解が不足していた点は、再度参考資料などで補足すること。		
受講者への要望			
これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習する。英語の教材を使用することが望ましいことから、英語論文に慣れ親しむこと、英語力をつけることに努める。 ４年間の総集編として、積極的かつ自発的に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンスと原著論文の検索法等の実習 ２．演習用教材の準備 ３．原著論文の構成や論理構成等についての説明 ４～３０．原著論文や研究結果等の取りまとめ、紹介、発表、討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012302I
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が卒業研究で取り組む研究課題を題材に、先行研究の検索と読解、研究課題設定のポイント、フィールド調査やデータ解析の方法論、データの解釈とディスカッション、論文骨子の作成、効果的なプレゼンテーションの手法等に関する基礎知識と応用力を身につけるための演習を行う。		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	「これからレポート・卒論を書く若者のために」　酒井聡樹 著　（2007 年　共立出版） 「これから学会発表する若者のために」　酒井聡樹 著　（2008 年　共立出版） 「論文の教室　レポート作成から卒論まで」　戸田山和久 著　（2012 年　NHK 出版）		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	演習への出席状況、中間発表・最終発表の内容、ディスカッションへの参加状況により総合的に評価する。		
到達目標	先行研究の効率的な検索・収集方法の習得。 関連分野の論文読解力と、未解決の課題を発見する能力の涵養。 データ解析や論文骨子作成に必要な論理的思考力の習得。 効果的なプレゼンテーション技術の習得。		
準備学習	参考文献に挙げた文献を、学期中に熟読しておくこと。		
受講者への要望			
文献紹介、中間発表、最終発表等は、決められた期日に必ず行ってください（締切厳守）。また、他人の発表をよく聴き、積極的にディスカッションに参加してください。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２－３．関連分野の論文検索・読解 ４－６．文献紹介 ７－９．研究テーマの設定 １０－１２．フィールド調査手法の検討 １３－１５．中間発表 １６－２０．データ解析手法の検討 ２１－２３．データの解釈とディスカッション ２４－２５．論文骨子の作成 ２６．プレゼンテーションの方法論 ２７－３０．最終発表・総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012302S
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	科学論文を読むための訓練と、論理的な思考の訓練として、英語で記述された文章を音読し日本語に訳す。また、英語あるいは日本語の論文を深く読み込み、他者への紹介説明を通して、論理的思考力を高め、科学的なものの見方を学び、表現力を高める。 各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容についてディスカッションを行い、批判的なものの見方を身に付ける。		
教材（テキスト）	授業のはじめに指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて配布する。		
評価方法	受講態度（５０％）、発表内容（５０％）		
到達目標	日本語および英語の読解力を身につけるとともに、自分の研究を論理的に組立て、考察して卒業論文としてまとめる技術を身に付ける。		
準備学習	中間報告や論文紹介、輪読などの発表の準備を十分に行う。		
受講者への要望			
失敗を恐れずに、積極的に発表や質問をすること。受講態度のみならず生活態度においても、社会人になるという自覚を持って自ら考え行動すること。			
講義の順序とポイント			
１．研究の基本 ２．研究論文の書き方の紹介と研究論文の実例紹介 ３－１０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告 １１－１５．日本語あるいは英語論文の紹介 １６－１７．各自の研究テーマの中間報告 １８－２０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告 ２１－２５．日本語あるいは英語論文の紹介 ２６－２７．各自の研究テーマの中間報告 ２８－３０．英語教材の輪読と翻訳と研究の進捗状況報告			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012303A
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究遂行に資する分析技術（原理、用途、操作法など）の紹介や解析技術の習得、自身のテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また実験の進捗状況を発表する。また関係する文献の輪読を行う		
教材（テキスト）	教員からの配布資料、および各自が用意する資料。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習への出席、受講態度を含め、卒業研究論文及び口頭発表で評価する。		
到達目標	各自が発表することによって、内容の理解が深くなり、実験の進捗報告と相まって、問題点の整理が深まることを期待している。各自の発表と相互の討論を重視する。		
準備学習	各自が資料を読み込み、聞き手が発表内容を理解しやすいように工夫する。		
受講者への要望			
積極的に質問やコメントを行うこと。			
講義の順序とポイント			
春学期（第１回～第１５回） 共通する化学情報や文献情報を共有するために、各自のテーマに関連した文献の輪読、調査内容の発表を行う。 秋学期（第１６回～第３０回） 生物有機化学研究室の基本スキルである有機機器分析に関するデータ解析、テーマに関連した項目の調査および内容発表を持ち回りで順次行う。また、各自が卒業研究の進捗状況の発表を２回程度行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012303C
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンスの知識と技術で社会に貢献するためには、当該分野に関する幅広い文献・資料を読み解くことが出来るだけの基礎的な読解力、背景知識、及び英語力が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマ、および微生物学・応用微生物学分野一般についての文献・資料を題材に、科学的思考や学術論文の様式について学び、科学英語の読解力を養成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	微生物学に関する文献・資料（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	・ゼミへの取り組み（50%） ・文献・資料の理解度（25%） ・科学英語の読解力（25%）		
到達目標	1）化学、生化学などの基礎知識、ならびに応用微生物学の専門知識が、創造的な研究活動にどのように応用されるのかを理解する。 2）科学英語の読解力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
受講生は教員の指導の下、それぞれの課題研究のテーマに関する文献・資料に基づいてグループでディスカッションを行う。主体的な取り組みを要求する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（1） 2）　担当教員による文献・資料の読み方についての講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料1） 4）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料2） 5）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料3） 6）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料4） 7）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料5） 8）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料6） 9）　受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料7） １０）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料1） １１）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料2） １２）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料3） １３）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料4） １４）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料5） １５）　受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料6）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012303D
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	各自が分析技術・機能性評価技術（原理、用途、操作法など）の紹介およびテーマおよびテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また、実験の進捗の報告を行なう。		
教材（テキスト）	各自資料を準備する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下で評価する。 発表のための準備状況（20%） プレゼンテーション力（20%） 質疑に対する的確な応答（20%） 質疑への参加度（20%） 平常点（20%）：受講態度など		
到達目標	各自が発表することによって、内容を深く理解する。実験の進捗報告によって、問題点等を理解する。プレゼンテーションにも慣れる。		
準備学習	各自、発表内容を準備し、発表資料とする。		
受講者への要望			
必ず出席すること。発表内容のポイントを理解すること。			
講義の順序とポイント			
春学期（週 1 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 秋学期（週 2 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 各自の実験進捗（10 分、各自隔週に発表）。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J6012303I
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に設定した研究課題に基づき、フィールド調査や化学分析などを行い、「専攻演習」と一体的な指導の下、卒業論文をとりまとめる。卒業論文の研究課題の例としては、以下のようなものが挙げられる。 １）二次的自然の生物多様性やその保全に関する調査研究 ２）里山林や放棄里山林における森林動態に関する調査研究 ３）地形や土壌などの自然環境条件が森林植生に及ぼす影響に関する調査研究 ４）焼畑の火入れが土壌肥沃度や休閑期の植生回復に与える影響に関する調査研究 ５）焼畑の技術と知恵を活かした里山再生と中山間地域の活性化に向けた実践的研究 ６）東南アジアにおける焼畑休閑地の植生回復や生物多様性に関する研究		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	授業時に紹介する。		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	卒業論文と口頭発表の完成度をもとに評価する。		
到達目標	各自が興味を持った専門分野に関する知識を深める。 各自が取り組んだ研究課題の専門分野における位置づけを理解し、その学術的意義を論理的に説明できる能力を身につける。 「専攻演習」で学んだ内容を踏まえ、科学論文にふさわしい内容の卒業論文を完成させる。		
準備学習	各自の研究課題に関連する論文や文献を紹介するので、必ず読んでおくこと。また、主体的に関連論文の検索・収集を行い、最低でも 3−5 本の論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
卒業研究を完成させるのに必要な論理的思考力、課題発見力、行動力などは、社会にでてからも必ず役立つ能力です。各自が興味を持って１年間取り組み続けられるテーマをみつけ、主体的に卒業研究に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．　はじめに ２－９．　先行研究の読解と研究課題の設定 １０－２４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証 ２５－２８．データ解析・論文のとりまとめ ２９－３０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012400A
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	生物有機化学研究室の卒業研究では、生理活性天然有機化合物の単離構造決定、合成実験及びフェロモン等による化学生態学的研究や行動科学的研究を主として行う。材料としてはハチ類等の昆虫、ダニ、その他節足動物である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文及び口頭発表で評価するが、日常的な研究態度も評価対象とする。		
到達目標	卒業論文を「緒論、材料及び方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	指導者との意思疎通を十分に図った上で、実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行う。安全面に留意して実験を行えるように準備する。また実際のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日決められた時間に登校し、周囲の教員や学生とも協調して実験を進める。就活や欠席などの届けはきちんと行い、社会人になるための訓練と認識して節度ある言動をする。			
講義の順序とポイント			
１－５週　実験テーマの設定 ６－１５週　テーマに関する文献情報や Web 情報の取得、理解 １６－５０週　テーマの取り組み ５１－５８週　卒業論文の作成 ５９－６０週　卒業研究の発表練習および発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012400B
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	卒業研究の課題はバイオサイエンス分野の中でも (1)　生体内・生体外の環境変化に伴う遺伝子の発現・抑制機構に関して，その分子的な基盤を解明すること。 (2)　ゲノミクス・プロテオミクスによる環境ストレス応答シグナル伝達機構を解明すること。 (3)　遺伝子やタンパク質の構造と機能解析のための新たな技法の開発を対象にした課題に取り組む。 (4)　病気の原因解明や健康の維持に関する課題に分子レベルで取り組む。		
教材（テキスト）	最新の学術雑誌の発表論文や総説などの文献や特許申請書類などを有効に利用する.		
教材（参考文献）	ライフサイエンス分野の学術雑誌，技術書，総説，単行書，バイオ関連公共データーベースなどを利用する。		
教材（その他）	関連分野の第一人者の講演やセミナーのほか、関連学会や研究会、セミナーなどからも重要な情報を把握すること.		
評価方法	卒業研究の課題の把握と理解　(20%), 実験計画の策定　(20%), 実験の遂行と結果　(20%）およびその評価　(20%), 他者からの評価を議論できる能力　(10%), 発表表現能力　(10%）などを総合的に評価する.		
到達目標	新規性を追求して、課題に真摯に向かい、オリジナルな卒業論文として完成させること。		
準備学習	研究進行中に遭遇した失敗を一つ一つ反省し，同じミスをくり返さないように事前に心がけ、準備と対策を整えることを習得すること。		

受講者への要望

研究室で求められることは，社会に出ても求められることになります.
大学生活の集大成として与えられた研究テーマに意欲的に取り組むこと.
研究室構成員の一員として，各自が研究活動の遂行と維持に協力し合うこと.
大学院進学希望者は，いつからでも随時個別指導をおこなうので申し出ること.
　各自の進行状況は，随時教員に報告し，事前事後の対策などを議論することで
　各自の課題解決能力を育成することを目指しています。

講義の順序とポイント

主に以下の内容の研究活動をおこなうので，分担以外の他の研究課題にも相互に理解すること.

1-5.　神経疾患（パーキンソン病など）に関与するシグナル伝達因子の機能解析
6-10.　がん疾患に関与するシグナル因子の機能解析
11-15.　機能性食品成分の機能解析と生体内応答反応因子の探索
16-20.　副作用のない分子標的抗がん剤の開発
21-25.　AGEs(終末糖化産物)による疾患（アルツハイマー病、糖尿病など）メカニズムの解明
26-30.　科学的根拠のある新しい機能性食品の開発
31-35.　タンパク質品管理機構の解明
36-40.　プロテアソーム阻害によるレドックス依存的な細胞死の機構解析
41-45.　異常タンパク質の細胞内機能解析
46-50.　小胞体タンパク品質管理 におけるレドックス制御機構の解析
51-55.　改変タンパク質の機能変化の評価と構造解析
56-60.　ゲノム、プロテオーム解析のための技術評価と開発

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012400C
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	微生物機能開発学領域における課題研究を通して、バイオサイエンスの知識と技術を実践的に修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、（1）微生物相の解析、（2）微生物のスクリーニング、（3）微生物機能の代謝／酵素／遺伝子レベルでの解析、といった実験を行う。これらの研究の成果を卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	課題研究と卒業論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・バイオサイエンスの知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文の論理性（25%）		
到達目標	1）バイオサイエンスの知識と技術の実践を通じた修得。 2）一定の様式に則り論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文（和文）の完成。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
・微生物機能の開発をテーマとした課題研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の指示に従って実験を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。 ・1 年間、全力で努力することを求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J6012400D
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	卒業研究では野菜・作物から低分子成分を抽出・単離し、分析技術を駆使して、それらの成分を同定する。機能性評価技術を通して、機能性のプロファイリングを行う。また、新しい機能性評価方法を確立する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文およびその口頭発表で評価する。		
到達目標	卒業論文を「緒論、実験方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行なう。また、実験のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日 9 時半に研究室にくること。			
講義の順序とポイント			
1．実験テーマの設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．テーマの取り組み 4．卒業論文の作成 5．卒業研究の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J6012400E
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	特定の課題について、その課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析・考察し、ついで論文としての取りまとめ、中間検討会や卒業研究発表会で発表を行う。これら一連の卒業研究を行うことを通して課題解決能力を涵養する。		
教材（テキスト）	研究の遂行に必要な学術論文や資料などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	特定の課題の理解度、実験・研究の実施および取りまとめ･発表などから評価する。		
到達目標	特定の課題について実験的研究を行うことによって、問題点の抽出、課題の設定、実験技法、取りまとめ方などを学びながら、論文として取りまとめ、発表する能力を修得し、理解の深化を図る。		
準備学習	これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習しておくことが望ましい。事前打ち合わせを通じ、参考資料などで課題、実験手法などの確認と理解の深化させること。実験ノートには、事前に実験計画と手順、事後には結果の整理と今後の予定をまとめること。また、課題・実験手順・結果をプレゼン資料としてまとめる。		
受講者への要望			
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に卒業研究に取り組むことを望む。これまでの学習が不十分であったと思われる場合は、卒業研究を実施する中で実践的に補って欲しい。			
講義の順序とポイント			
特定の課題を設定し、課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析、考察、論文作成を行う。この間、中間発表会を３回程度行う。また取りまとめた卒業研究を卒業研究発表会で各自発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J6012400F
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	水環境デザインは多様・多元的なアプローチを必要としている。卒業研究では野外調査・ケース・スタディを重視する。選んだテーマと地域に即し、現地実態調査とその分析を指導する。また、ケース・スタディとして室内培養実験等も実施する。湖沼・河川・海洋それぞれの水環境において、人間活動がその水域に及ぼしている影響や、水環境と生物の関わり、物質循環について研究テーマを設定し、研究を行う		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する		
到達目標	各自が選び、取り組んだテーマに関して、得られた研究成果を科学論文にふさわしい内容で卒業論文を完成させる		
準備学習	自分が希望する研究テーマに関して、事前に十分な下調べをしておく。研究テーマを決定してからは、自分の研究テーマに関連する文献・資料について十分な検索を行い、先行研究についてできる限り多くの情報を集めておく。また、卒業論文の書き方についても検討しておくこと		
受講者への要望			
卒業研究に全力で専念できるだけの単位数をすでに取得していること			
講義の順序とポイント			
1-5. 研究テーマの選定と関連資料の検索 6-10. 調査や実験の計画立案 11-25. 調査や実験の実施 26-30. 調査や実験の結果の中間段階のまとめ 31-45. 調査や実験の実施 46-50. 調査や実験結果のまとめ 51-55. 論文の作成 56-58. 研究内容の口頭発表の準備 59. 研究内容の口頭発表の予行演習 60. 口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J6012400G
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に取組むテーマを定めて、実験、フィールド調査、文献購読、計画・デザイン、分析評価、取りまとめなど、完結した一連の研究課程を経験する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業論文やプレゼンテーションなどの最終成果とともに、取組みの課程とその熱心さもふくめて評価する。		
到達目標	ランドスケープに関する現代的課題背景を理解し、限られたリソースを有効に活用して、自分なりにオリジナルな知見や課題解決への道筋などを見つけて取りまとめ、プレゼンテーションができるようになる。		
準備学習	ランドスケープの科学・計画・デザインに関する基礎知識の修得		

受講者への要望

世の中には、ランドスケープに関して、いっぱいテーマが転がっています。目と耳を開いて、本質に迫ってみろう。

講義の順序とポイント

以下の順で行う。
1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）
2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討
3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)
4）とりまとめ
＊過去の研究テーマ例：
1）淀川－鶴見緑地のエコロジカルネットワークの提案とその評価
2）大阪万博記念公園のパッチダイナミクスを応用した森づくりモニタリング
3）ビオトープいのちの森のモニタリング
4）雨庭（レインガーデン）の計画とデザイン
5）団地に自生する草本植物の実態とその生育要因
6）旧巨椋池氾濫原植生の散布体バンクを利用した再生
◆これから検討しているテーマ例
緑地モニタリングへの UAV の利用、樹木医や自然再生士養成サポート、京都のエコロジカルネットワーク計画の推進、「和の花」プロジェクト推進、癒しのランドスケープデザインなど

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012400H
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	フィールドワークを通じた観察から、課題（研究テーマ）を定め、その課題を探求・解決・実践する。 主な対象は以下の通り。 １）水田生態系・農地生態系の動物の生態・行動・保全に関わる課題 ２）上記と関連して、エコ ミュージアム、国立公園、ナショナルトラスト運動、保全活動、自然保護区などの周辺住民との関係についての課題		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。		
準備学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験などの習得が必要。　研究のプログレスレポートを課すので、日頃からデータの整理を心がけ、ゼミ発表などで受けたアドバイスを反映させつつ、研究を進めること。		
受講者への要望			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
講義の順序とポイント			
実際にフィールドで観測された現象をもとに、自分で課題を設定して、その普遍的な意義について深く検討する。そして、その成果が、バイオ環境を実現するにあたって、どのような意味を持つのかについて議論する過程で、柔軟かつ論理的な思考能力を培う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012400I
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に設定した研究課題に基づき、フィールド調査や化学分析などを行い、「専攻演習」と一体的な指導の下、卒業論文をとりまとめる。卒業論文の研究課題の例としては、以下のようなものが挙げられる。 １）二次的自然の生物多様性やその保全に関する調査研究 ２）里山林や放棄里山林における森林動態に関する調査研究 ３）地形や土壌などの自然環境条件が森林植生に及ぼす影響に関する調査研究 ４）焼畑の火入れが土壌肥沃度や休閑期の植生回復に与える影響に関する調査研究 ５）焼畑の技術と知恵を活かした里山再生と中山間地域の活性化に向けた実践的研究 ６）東南アジアにおける焼畑休閑地の植生回復や生物多様性に関する研究		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	授業時に紹介する。		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	卒業論文と口頭発表の完成度をもとに評価する。		
到達目標	各自が興味を持った専門分野に関する知識を深める。 各自が取り組んだ研究課題の専門分野における位置づけを理解し、その学術的意義を論理的に説明できる能力を身につける。 「専攻演習」で学んだ内容を踏まえ、科学論文にふさわしい内容の卒業論文を完成させる。		
準備学習	各自の研究課題に関連する論文や文献を紹介するので、必ず読んでおくこと。また、主体的に関連論文の検索・収集を行い、最低でも 3−5 本の論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
卒業研究を完成させるのに必要な論理的思考力、課題発見力、行動力などは、社会にでてからも必ず役立つ能力です。各自が興味を持って１年間取り組み続けられるテーマをみつけ、主体的に卒業研究に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．　はじめに ２－９．　先行研究の読解と研究課題の設定 １０－２４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証 ２５－２８．データ解析・論文のとりまとめ ２９－３０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012400L
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	卒業研究では、「地域の再生」、「暮らしの中の水」、「身近な生き物の里」、「マップづくり」、「フィールドワーク」などをキーワードとして、ゼミ生のほうから主体的に自分のやりたいテーマに関して提案をすること。マップとフィールドワークはどのような研究テーマでも必須となるので、縦横に活用できる準備が必要となる。具体的な卒業論文の絞込みや進め方は、教員との協議やゼミでの発表などを通じて具体化していく。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、プリントや GIS データを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布、パワポイント、関連したビデオの上映など		
評価方法	出席状況・学ぶ意欲・卒業研究の成果による総合評価		
到達目標	ゼミへの出席と研究発表を通じて卒業研究として所定の水準を超えること		
準備学習	並行する専攻演習や3回生までの講義で学んだことをよく理解しておくこと		
受講者への要望			
就職活動と同時進行となるが、しっかりとゼミに出席してほしい。結果的にはその緊張感が就職にも結びつく。			
講義の順序とポイント			
毎週、春学期と秋学期で通算約 30 回の卒論ゼミを行う。発表は、 1 回につき 3 名程度とし、順に発表を行うので、おおむね 3 週間に 1 回の発表となる。発表は、パワポイントで行い、事前にレジュメを学生の人数分用意しておくこと。発表の学生は事前にパワポとレジュメを準備する。発表のあと、他の学生は質問や感想を一人一人必ず述べること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J6012400O
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	この研究では，無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な，物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。この研究では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，実験的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。また，実験研究とは独立に，『Oxford University Press』から出版されているシリーズ『Very Short Introductions』の自然科学関連分野から各人で選択した単行本１冊を完全訳出し，その解題を作成する.		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 築山　光一　他　編　『ベーシックマスター　物理化学』　オーム社（４，３００円＋税） 萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	卒業論文（１００％）		
到達目標	量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験，物理化学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．結晶合成法（１） ２．結晶合成法（２） ３．結晶合成法（３） ４．結晶合成実験（１） ５．結晶合成実験（２） ６．結晶合成実験（３） ７．結晶解析法（１） ８．結晶解析法（２） ９．結晶解析法（３） 10．結晶解析実験（１） 11．結晶解析実験（２） 12．結晶解析実験（３） 13．成分分析法（１） 14．成分分析法（２） 15．成分分析法（３） 16．成分分析実験（１） 17．成分分析実験（２） 18．成分分析実験（３） 19．結晶評価法（１） 20．結晶評価法（２） 21．結晶評価法（３） 22．結晶評価実験（１） 23．結晶評価実験（２） 24．結晶評価実験（３） 25．固体物性測定法（１）			

26. 固体物性測定法（２）
27. 固体物性測定法（３）
28. 固体物性測定実験（１）
29. 固体物性測定実験（２）
30. 固体物性測定実験（３）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012400P
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	河川の自然浄化能力の調査、新しい廃水処理技術の開発、廃水処理などに関与する微生物集団の研究、その微生物集団を研究するための DNA 解析法、さらには DNA 解析法の応用などの中からテーマを選び、調査や研究を行ない、卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	研究テーマに則した教材を選んで貸与する		
教材（その他）	研究テーマに即した文献を自分で検索してコピーする。		
評価方法	平常点（50%）、卒業論文（50%）		
到達目標	テーマに沿って調査や実験を実施し、その内容を口頭で発表する能力と論文としてまとめる能力を身に付ける。		
準備学習	配布した教材を読んで内容を理解すること。多くの文章を読んで、文章によって表現する能力を高めるように心がけること。		
受講者への要望			
研究室は勉学の場であることを常に念頭において行動すること。使用した器具類の後片付けや整理整頓をしっかりと行うこと。疑問点は積極的に質問して理解を深めるように努めること。			
講義の順序とポイント			
１～５．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解 ６～１０．調査や実験計画の立案 １１～２５．調査や実験の実施 ２６～３０．調査や実験の結果の中間段階でのまとめ ３１～４４．調査や実験の実施 ４５～４９．調査や実験結果のまとめ ５０～５４．論文の作成 ５５～５８．研究内容の口頭発表の準備 ５９．研究内容の口頭発表の予行演習 ６０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012400Q
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	各自が興味を持つ課題解決のために実験を行い，研究論文の完成をめざす.		
教材（テキスト）	特に指定しない.		
教材（参考文献）	授業時／実験実施時に配布する.		
教材（その他）	授業時／実験実施時に配布する.		
評価方法	研究に対する取り組み方（60%）と論文の完成度（40%）		
到達目標	実験・研究の方法を身につけ，結果の解析能力をつける.		
準備学習	新しい実験手法を使うことが多いので，自ら勉強しておくこと.		
受講者への要望			
ほぼ１年近くをかけて実験を行うので，規則的な生活を送るように努めること．特に栽培に関わることが多いので，夏休み中も植物の面倒を見る必要が出てくることを理解してほしい.			
講義の順序とポイント			
１．　はじめに ２．問題点の設定について ３．問題点の設定について ４．問題点の解決法について ５．問題点の解決法へのアプローチ ６．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる ７．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる ８．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる ９．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる 10．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる 11．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる 12．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる 13．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる 14．論文の構成 15．論文の発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J6012400S
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	バイオマス特に木質系バイオマスはエネルギーや物質の材料として有効な資源であり、かつ里山に豊富に存在する資源である。バイオマスの農業利用や地域循環型の資源利用に関する調査や研究を行ない、卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	研究テーマに即した書籍や文献を適宜指示する。 研究テーマに即した文献を自ら検索する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	卒業論文（100%）		
到達目標	問題点を見出す力や解決への道筋を策定する力を身に付ける。調査や実験を実施する力を身に付ける。研究内容を口頭で発表し、かつ論文としてまとめる能力を身に付ける。		
準備学習	実験テーマやその背景を理解するために、関連する文献等を読む。また、実験の成果を文章によって表現する。		
受講者への要望			
自発的かつ積極的に卒業研究に取り組んでもらいたい。 実験室は共同で使用するので、片付けや整理整頓をきちんとし、研究室の維持を協力して自主的に行ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１－４．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解 ５－１０．実験計画の立案 １１－２６．実験の実施 ２７－３０．実験の結果の中間まとめ ３１－５０．実験の実施 ５１－５４．卒業論文の作成 ５５－５９．研究内容の口頭発表の準備 ６０．研究内容の口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012402A
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	生物有機化学研究室の卒業研究では、生理活性天然有機化合物の単離構造決定、合成実験及びフェロモン等による化学生態学的研究や行動科学的研究を主として行う。材料としてはハチ類等の昆虫、ダニ、その他節足動物である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文及び口頭発表で評価するが、日常的な研究態度も評価対象とする。		
到達目標	卒業論文を「緒論、材料及び方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	指導者との意思疎通を十分に図った上で、実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行う。安全面に留意して実験を行えるように準備する。また実際のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日決められた時間に登校し、周囲の教員や学生とも協調して実験を進める。就活や欠席などの届けはきちんと行い、社会人になるための訓練と認識して節度ある言動をする。			
講義の順序とポイント			
１－５週　実験テーマの設定 ６－１５週　テーマに関する文献情報や Web 情報の取得、理解 １６－５０週　テーマの取り組み ５１－５８週　卒業論文の作成 ５９－６０週　卒業研究の発表練習および発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012402C
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	微生物機能開発学領域における課題研究を通して、バイオサイエンスの知識と技術を実践的に修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、（1）微生物相の解析、（2）微生物のスクリーニング、（3）微生物機能の代謝／酵素／遺伝子レベルでの解析、といった実験を行う。これらの研究の成果を卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	課題研究と卒業論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・バイオサイエンスの知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文の論理性（25%）		
到達目標	1）バイオサイエンスの知識と技術の実践を通じた修得。 2）一定の様式に則り論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文（和文）の完成。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
・微生物機能の開発をテーマとした課題研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の指示に従って実験を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。 ・1 年間、全力で努力することを求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J6012402E
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	特定の課題について、その課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析・考察し、ついで論文としての取りまとめ、中間検討会や卒業研究発表会で発表を行う。これら一連の卒業研究を行うことを通して課題解決能力を涵養する。		
教材（テキスト）	研究の遂行に必要な学術論文や資料などを適宜指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	特定の課題の理解度、実験・研究の実施および取りまとめ･発表などから評価する。		
到達目標	特定の課題について実験的研究を行うことによって、問題点の抽出、課題の設定、実験技法、取りまとめ方などを学びながら、論文として取りまとめ、発表する能力を修得し、理解の深化を図る。		
準備学習	これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習しておくことが望ましい。事前打ち合わせを通じ、参考資料などで課題、実験手法などの確認と理解の深化させること。実験ノートには、事前に実験計画と手順、事後には結果の整理と今後の予定をまとめること。また、課題・実験手順・結果をプレゼン資料としてまとめる。		
受講者への要望			
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に卒業研究に取り組むことを望む。これまでの学習が不十分であったと思われる場合は、卒業研究を実施する中で実践的に補って欲しい。			
講義の順序とポイント			
特定の課題を設定し、課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析、考察、論文作成を行う。この間、中間発表会を３回程度行う。また取りまとめた卒業研究を卒業研究発表会で各自発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J6012402H
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	フィールドワークを通じた観察から、課題（研究テーマ）を定め、その課題を探求・解決・実践する。 主な対象は以下の通り。 １）水田生態系・農地生態系の動物の生態・行動・保全に関わる課題 ２）上記と関連して、エコ ミュージアム、国立公園、ナショナルトラスト運動、保全活動、自然保護区などの周辺住民との関係についての課題		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	適宜紹介する		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自の卒業研究を専門分野の中で位置付け、バイオ環境の実現の上でのどのような意義があるのかを提示すること。		
準備学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験などの習得が必要。　研究のプログレスレポートを課すので、日頃からデータの整理を心がけ、ゼミ発表などで受けたアドバイスを反映させつつ、研究を進めること。		
受講者への要望			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
講義の順序とポイント			
実際にフィールドで観測された現象をもとに、自分で課題を設定して、その普遍的な意義について深く検討する。そして、その成果が、バイオ環境を実現するにあたって、どのような意味を持つのかについて議論する過程で、柔軟かつ論理的な思考能力を培う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012402I
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に設定した研究課題に基づき、フィールド調査や化学分析などを行い、「専攻演習」と一体的な指導の下、卒業論文をとりまとめる。卒業論文の研究課題の例としては、以下のようなものが挙げられる。 １）二次的自然の生物多様性やその保全に関する調査研究 ２）里山林や放棄里山林における森林動態に関する調査研究 ３）地形や土壌などの自然環境条件が森林植生に及ぼす影響に関する調査研究 ４）焼畑の火入れが土壌肥沃度や休閑期の植生回復に与える影響に関する調査研究 ５）焼畑の技術と知恵を活かした里山再生と中山間地域の活性化に向けた実践的研究 ６）東南アジアにおける焼畑休閑地の植生回復や生物多様性に関する研究		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	授業時に紹介する。		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	卒業論文と口頭発表の完成度をもとに評価する。		
到達目標	各自が興味を持った専門分野に関する知識を深める。 各自が取り組んだ研究課題の専門分野における位置づけを理解し、その学術的意義を論理的に説明できる能力を身につける。 「専攻演習」で学んだ内容を踏まえ、科学論文にふさわしい内容の卒業論文を完成させる。		
準備学習	各自の研究課題に関連する論文や文献を紹介するので、必ず読んでおくこと。また、主体的に関連論文の検索・収集を行い、最低でも 3−5 本の論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
卒業研究を完成させるのに必要な論理的思考力、課題発見力、行動力などは、社会にでてからも必ず役立つ能力です。各自が興味を持って１年間取り組み続けられるテーマをみつけ、主体的に卒業研究に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．　はじめに ２－９．　先行研究の読解と研究課題の設定 １０－２４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証 ２５－２８．データ解析・論文のとりまとめ ２９－３０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012402S
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	バイオマス特に木質系バイオマスはエネルギーや物質の材料として有効な資源であり、かつ里山に豊富に存在する資源である。バイオマスの農業利用や地域循環型の資源利用に関する調査や研究を行ない、卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	研究テーマに即した書籍や文献を適宜指示する。 研究テーマに即した文献を自ら検索する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	卒業論文（100%）		
到達目標	問題点を見出す力や解決への道筋を策定する力を身に付ける。調査や実験を実施する力を身に付ける。研究内容を口頭で発表し、かつ論文としてまとめる能力を身に付ける。		
準備学習	実験テーマやその背景を理解するために、関連する文献等を読む。また、実験の成果を文章によって表現する。		

受講者への要望

自発的かつ積極的に卒業研究に取り組んでもらいたい。
実験室は共同で使用するので、片付けや整理整頓をきちんとし、研究室の維持を協力して自主的に行ってもらいたい。

講義の順序とポイント

１－４．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解
５－１０．実験計画の立案
１１－２６．実験の実施
２７－３０．実験の結果の中間まとめ
３１－５０．実験の実施
５１－５４．卒業論文の作成
５５－５９．研究内容の口頭発表の準備
６０．研究内容の口頭発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012403A
科目名	卒業研究 （秋延長）	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	生物有機化学研究室の卒業研究では、生理活性天然有機化合物の単離構造決定、合成実験及びフェロモン等による化学生態学的研究や行動科学的研究を主として行う。材料としてはハチ類等の昆虫、ダニ、その他節足動物である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文及び口頭発表で評価するが、日常的な研究態度も評価対象とする。		
到達目標	卒業論文を「緒論、材料及び方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	指導者との意思疎通を十分に図った上で、実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行う。安全面に留意して実験を行えるように準備する。また実際のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日決められた時間に登校し、周囲の教員や学生とも協調して実験を進める。就活や欠席などの届けはきちんと行い、社会人になるための訓練と認識して節度ある言動をする。			
講義の順序とポイント			
１－５週　実験テーマの設定 ６－１５週　テーマに関する文献情報や Web 情報の取得、理解 １６－５０週　テーマの取り組み ５１－５８週　卒業論文の作成 ５９－６０週　卒業研究の発表練習および発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6012403C
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	微生物機能開発学領域における課題研究を通して、バイオサイエンスの知識と技術を実践的に修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、（1）微生物相の解析、（2）微生物のスクリーニング、（3）微生物機能の代謝／酵素／遺伝子レベルでの解析、といった実験を行う。これらの研究の成果を卒業論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	課題研究と卒業論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・バイオサイエンスの知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文の論理性（25%）		
到達目標	1）バイオサイエンスの知識と技術の実践を通じた修得。 2）一定の様式に則り論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文（和文）の完成。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
・微生物機能の開発をテーマとした課題研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の指示に従って実験を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。 ・1 年間、全力で努力することを求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J6012403D
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	卒業研究では野菜・作物から低分子成分を抽出・単離し、分析技術を駆使して、それらの成分を同定する。機能性評価技術を通して、機能性のプロファイリングを行う。また、新しい機能性評価方法を確立する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業研究論文およびその口頭発表で評価する。		
到達目標	卒業論文を「緒論、実験方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
準備学習	実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行なう。また、実験のポイントを整理しておく。		
受講者への要望			
毎日 9 時半に研究室にくること。			
講義の順序とポイント			
1．実験テーマの設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．テーマの取り組み 4．卒業論文の作成 5．卒業研究の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J6012403I
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各自が主体的に設定した研究課題に基づき、フィールド調査や化学分析などを行い、「専攻演習」と一体的な指導の下、卒業論文をとりまとめる。卒業論文の研究課題の例としては、以下のようなものが挙げられる。 １）二次的自然の生物多様性やその保全に関する調査研究 ２）里山林や放棄里山林における森林動態に関する調査研究 ３）地形や土壌などの自然環境条件が森林植生に及ぼす影響に関する調査研究 ４）焼畑の火入れが土壌肥沃度や休閑期の植生回復に与える影響に関する調査研究 ５）焼畑の技術と知恵を活かした里山再生と中山間地域の活性化に向けた実践的研究 ６）東南アジアにおける焼畑休閑地の植生回復や生物多様性に関する研究		
教材（テキスト）	授業時に配布する。		
教材（参考文献）	授業時に紹介する。		
教材（その他）	授業時に配布する。		
評価方法	卒業論文と口頭発表の完成度をもとに評価する。		
到達目標	各自が興味を持った専門分野に関する知識を深める。 各自が取り組んだ研究課題の専門分野における位置づけを理解し、その学術的意義を論理的に説明できる能力を身につける。 「専攻演習」で学んだ内容を踏まえ、科学論文にふさわしい内容の卒業論文を完成させる。		
準備学習	各自の研究課題に関連する論文や文献を紹介するので、必ず読んでおくこと。また、主体的に関連論文の検索・収集を行い、最低でも 3−5 本の論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
卒業研究を完成させるのに必要な論理的思考力、課題発見力、行動力などは、社会にでてからも必ず役立つ能力です。各自が興味を持って１年間取り組み続けられるテーマをみつけ、主体的に卒業研究に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．　はじめに ２－９．　先行研究の読解と研究課題の設定 １０－２４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証 ２５－２８．データ解析・論文のとりまとめ ２９－３０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60125001
科目名	有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Chemistry		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	有機化学は順序立ててバランスよく学ぶことで、暗記だけに頼らない体系だった学問であることが分かる。例えば一見、無関係に見える個々の有機化合物も、その構造式をしっかりと見れば性質や反応性の類似点が浮かび上がってくる。講義の前半では官能基別に有機化合物の命名法、構造、物理的性質、基本的な反応を体系的に解説していく。講義の後半では、有機化合物の立体構造をもとに異性体の区別を理解する。また、数多い有機反応は分子を構成する電子の働き（動き）により引き起こされていることを解説する。		
教材（テキスト）	『ハート基礎有機化学 三訂版』 H.ハートら著（培風館） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『ブルース有機化学概説 第３版』P.Y. ブルース著（化学同人）		
教材（その他）	HGS 分子構造模型 C 型セット（丸善）		
評価方法	中間試験および定期試験（７０％）、授業内小テスト等による平常点（３０％）		
到達目標	１） 有機化合物の構造式を正確に書き、命名できる。 ２） 構造式からその性質を説明でき、いくつかの反応を例示できる。 ３） 異性体の概念を理解し、構造式が正確に区別して書ける。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておく。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておく。それはレポート課題として提出してもらうこともある。		
受講者への要望			
積極的な姿勢で講義を受講してもらうため、問題形式の設問に口頭あるいは板書で解答してもらう。 講義内容の理解度を把握するため、講義内で頻繁に小テストを行う。			
講義の順序とポイント			
1. 電子と化学結合 2. アルカンの構造と命名法 3. アルケンとアルキン 4. 芳香族化合物 5. アルコール、フェノール、チオール 6. エーテルとエポキシド 7. アルデヒドとケトン 8. 前半のまとめと理解度の確認 9. 酸と塩基 10. 異性体と立体化学 I 11. 異性体と立体化学 II 12. カルボン酸とその誘導体 13. アミン 14. 共役、形式電荷、共鳴 15. 電子の流れと有機反応の表し方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60125002
科目名	有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Chemistry		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	有機化学は順序立ててバランスよく学ぶことで、暗記だけに頼らない体系だった学問であることが分かる。例えば一見、無関係に見える個々の有機化合物も、その構造式をしっかりと見れば性質や反応性の類似点が浮かび上がってくる。講義の前半では官能基別に有機化合物の命名法、構造、物理的性質、基本的な反応を体系的に解説していく。講義の後半では、有機化合物の立体構造をもとに異性体の区別を理解する。また、数多い有機反応は分子を構成する電子の働き（動き）により引き起こされていることを解説する。		
教材（テキスト）	『ハート基礎有機化学 三訂版』 H.ハートら著（培風館） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『ブルース有機化学概説 第３版』P.Y. ブルース著（化学同人）		
教材（その他）	HGS 分子構造模型 C 型セット（丸善）		
評価方法	中間試験および定期試験（７０％）、授業内小テスト等による平常点（３０％）		
到達目標	１） 有機化合物の構造式を正確に書き、命名できる。 ２） 構造式からその性質を説明でき、いくつかの反応を例示できる。 ３） 異性体の概念を理解し、構造式が正確に区別して書ける。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておく。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておく。それはレポート課題として提出してもらうこともある。		
受講者への要望			
積極的な姿勢で講義を受講してもらうため、問題形式の設問に口頭あるいは板書で解答してもらう。 講義内容の理解度を把握するため、講義内で頻繁に小テストを行う。			
講義の順序とポイント			
1. 電子と化学結合 2. アルカンの構造と命名法 3. アルケンとアルキン 4. 芳香族化合物 5. アルコール、フェノール、チオール 6. エーテルとエポキシド 7. アルデヒドとケトン 8. 前半のまとめと理解度の確認 9. 酸と塩基 10. 異性体と立体化学 I 11. 異性体と立体化学 II 12. カルボン酸とその誘導体 13. アミン 14. 共役、形式電荷、共鳴 15. 電子の流れと有機反応の表し方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60126001
科目名	有機機器分析学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Organic Spectroscopy		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	化学者は未知化合物の分子構造をどのようにして知るのだろうか。本講義では有機化合物の構造決定を目的として、まずはクロマトグラフィーによる分離技術を学び、次いで核磁気共鳴分光法（NMR)、質量分析法（MS)、赤外分光法（IR)、紫外・可視分光法（UV-VIS）の原理とスペクトルの解析法について概説する。講義の後半では、各種スペクトルデータから得られた情報をもとに、有機化合物の構造を導き出す演習を重点的に行う。		
教材（テキスト）	『基礎から学ぶ有機化合物のスペクトル解析』 小川桂一郎ら 著（東京化学同人） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『入門機器分析化学』 庄野利之、脇田久伸 編著（三共出版） 『入門クロマトグラフィー第 2 版』 Roy J. Gritter ほか 著（東京化学同人） 『第 2 版 機器分析のてびき―IR、NMR、MS、UV データ集』 泉美治ら監修 （化学同人）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験および定期試験（７０%)、授業内小テスト等による平常点（３０%）		
到達目標	1）有機化合物の分子構造を知る上で、どのようなスペクトルを測定すればよいかが判断できる。 2）各種スペクトルより主要な情報を的確に抽出できる。 3）分離法から分析法まで一連の構造決定スキームを立案できる。		
準備学習	有機化学の基礎（有機化合物の構造とその特徴、命名法）をよく理解しておく。 講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておくこと。それはレポート課題として提出してもらうこともある。		
受講者への要望			
単に有機化合物の分離法、分析機器の操作、方法を覚えるのではなく、原理や構造を十分理解して、応用能力を養ってもらいたい。本講義で学んだ内容は、バイオサイエンス分野の卒業研究で十分活かしていただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. クロマトグラフィーⅠ（ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー） 2. クロマトグラフィーⅡ（薄層クロマトグラフィー、カラムクロマトグラフィー） 3. 構造解析とスペクトル 4. 紫外・可視分光法（UV-VIS） 5. 赤外分光法（IR）Ⅰ（基本原理、測定装置） 6. 赤外分光法（IR）Ⅱ（IR スペクトルの解析） 7. 核磁気共鳴分光法（NMR）Ⅰ（基本原理、1H NMR） 8. 前半のまとめと理解度の確認 9. 核磁気共鳴分光法Ⅱ（1H NMR の応用） 10. 核磁気共鳴分光法Ⅲ（13C NMR） 11. 核磁気共鳴分光法Ⅳ（NMR スペクトルの解析） 12. 質量分析法（MS）Ⅰ（基本原理、測定装置） 13. 質量分析法Ⅱ（イオン化法、開裂パターン、フラグメンテーション） 14. 質量分析法Ⅲ（マススペクトルの解析） 15. 総合演習（各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J60127001
科目名	有機反応機構論	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Reaction Mechanisms		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	有機反応は一見、ランダムに起こっているように見えるが、反応性の背後にはそうなる理由が必ずある。有機分子を構成する電子の偏りや働き（動き）を官能基と関連付けて体系的に理解できれば、有機化学が暗記だけに頼らなくてもよいことが分かる。本講義では、代表的な有機反応の機構を、有機電子理論（誘起効果、共鳴効果）の立場から平易に解説していく。授業内容はできるだけ精選し、網羅的ではなく、本質的で重要な事項に限定する。基礎的な概念を十分理解できるように演習問題を多く解き、知識を整理して概念の応用力を身につける。		
教材（テキスト）	『ハート基礎有機化学 三訂版』 H.ハートら著（培風館） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『ブルース有機化学概説 第３版』P.Y. ブルース著（化学同人） 『マクマリー有機化学 上・中 第６版』J. McMurry 著（東京化学同人）		
教材（その他）	ＨＧＳ分子構造模型Ｃ型セット（丸善）		
評価方法	中間試験および定期試験（７０％）、授業内小テスト等による平常点（３０％）		
到達目標	１）有機化合物の構造式を正確に書き，官能基の種類から化合物の性質を推測できる。 ２）分子を構成する電子の働きから反応を説明できる。 ３）種々の異性体の立体構造を明確に区別して、正確に描くことができる。		
準備学習	有機化学の基礎（有機化合物の構造とその特徴、命名法）をよく理解しておく。 講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておくこと。それはレポート課題として提出してもらうこともある。		
受講者への要望			
積極的な姿勢で講義を受講してもらうため、問題形式の設問に口頭あるいは板書で解答してもらう。 有機化学反応のメカニズムはただ暗記するのではなく、有機化学の基礎を踏まえた上で考察することが重要である。独自の反応機構を提案し、議論できることを期待している。			
講義の順序とポイント			
1. 有機化合物の結合と構造式 2. 結合の開裂・生成と電子の動き 3. 電子の偏りと結合の分極 4. 電子の非局在化と共鳴 5. 酸と塩基、求核剤と求電子剤 6. 有機化合物の立体構造 7. アルケンとアルキンⅠ 8. 前半のまとめと理解度の確認 9. アルケンとアルキンⅡ 10. 芳香族化合物Ⅰ 11. 芳香族化合物Ⅱ 12. 求核置換反応 13. 脱離反応 14. カルボン酸誘導体 15. カルボニル化合物			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60128001
科目名	生物有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Bioorganic Chemistry		
担当者名	坂本　文夫	旧科目名称	
講義概要	我々人間を含めたあらゆる生物は、有機化合物の集合体である。したがって、有機化合物の構造特性や反応様式は、人間の心理や行動様式に通じるものがあると考えることができる。そのような情緒にも思いをやりながら、生命現象に影響を与える有機化合物、すなわち「生物活性物質」について紹介していく。特に生体内における化合物の合成経路や、生成した化合物の構造と活性の相関について詳しく解説する。		
教材（テキスト）	生物有機化学―生物活性物質を中心に―　（東京化学同人）		
教材（参考文献）	ブラウン　有機化学　上・下　（東京化学同人）		
教材（その他）	HGS 分子構造模型 B　有機化学用セット　（丸善）		
評価方法	授業開始時に配布するプリントに授業内容をまとめ、終了時に提出してもらう。 これをレポートとして評価する（30%）。提出がない場合には「欠席」として処理する。 プリントは次回の授業開始時に返却するので、保管して期末試験（70%）に向けた学習に活用してほしい。		
到達目標	生物活性を有する有機化合物について、 １）　構造式が描ける。 ２）　構造式から分子式を導き、分子式から分子量を計算できる。 ３）　構造全体を眺めた時の特性や、構造に含まれる官能基を指摘できる。 ４）　構造の特性や構造中の官能基がもたらす生物活性について考察できる。		
準備学習	テキスト内の授業回に対応するページをあらかじめ読んでおくこと。 授業終了時に次回の授業範囲となるページを指示する。また、シラバスにも掲載しておく。 参考文献（ブラウン　有機化学）はバイオ環境館の図書館分室にて閲覧できる。		

受講者への要望

授業では様々な生物活性物質の構造式を板書することになる。受講者もそれらをプリント上に描き、有機化合物に慣れ親しんでくれるとよい。複雑な構造の中に、活性の決め手となる単純な官能基が隠れている。描いた構造式を何度もじっくりと眺めることで、それらを見出す楽しみを味わってほしい。

講義の順序とポイント

１．生物有機化学と生物活性物質　（p.1-p.25）
２．脂肪酸　（p.25-p.33）
３．ポリケチド　（p.33-p.42）
４．テルペノイド　（p.42-p.60）
５．シキミ酸経路とフラボノイド　（p.60-p.65）
６．アルカロイド　（p.65-p.69）
７．ペプチド Ⅰ　（p.69-p.80）
８．ペプチド Ⅱ　（p.69-p.80）
９．植物ホルモンとファイトアレキシン　（p.81-p.92, p.136-p.137）
１０．動物のホルモン　（p.92-p.123）
１１．フェロモン　（p.123-p.132）
１２．ビタミン　（p.146-p.153）
１３．抗生物質　（p.157-p.170）
１４．呼吸鎖電子伝達系と阻害剤　（資料配布）
１５．生物毒　（p.177-p.185）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J60130001
科目名	生化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry I		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
講義概要	生きている細胞を構成している物質を理解することに重点を置き、細胞を構成する高分子であるタンパク質・核酸・糖質・脂質とその構成単位であるアミノ酸・ヌクレオチド・糖・脂肪酸について、その化学的な分子基盤とその特性を理解することで、生化学 II において生体を維持するために必要な基本システムを学習するための基礎力の習得を目指す。		
教材（テキスト）	『ヴォート基礎生化学(第 4 版)』 東京化学同人		
教材（参考文献）	『ヴォート生化学　上、下』（第 4 版） 東京化学同人 『Essential 細胞生物学』（原書第 3 版） 南江堂		
教材（その他）			
評価方法	小テスト、講義中の評価（３０％）と期末テスト（７０％）として、総合的に評価する。		
到達目標	生化学 II の学習に必要な基礎的な概念を習得する。		
準備学習	教科書の各章巻頭の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
各講義毎に小テストでできなかったところを中心に、教科書や参考書を利用して復習して欲しい。			
講義の順序とポイント			
1.　生命とは何か、水の性質 2.　生命の非対称性 3.　ヌクレオチドと核酸の構造 4.　アミノ酸の種類と構造 5.　タンパク質の構造～一次構造から高次構造まで 6.　タンパク質の精製 7.　タンパク質の機能 8.　単糖と多糖、その種類と機能 9.　脂質の種類 10. 脂質集合体と生体膜 11. 膜の形成と膜輸送 12. 酵素の特徴 13. ビタミンとミネラル 14. レドックス 15. 酸化ストレスの生化学			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J60130002
科目名	生化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry I		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
講義概要	生きている細胞を構成している物質を理解することに重点を置き、細胞を構成する高分子であるタンパク質・核酸・糖質・脂質とその構成単位であるアミノ酸・ヌクレオチド・糖・脂肪酸について、その化学的な分子基盤とその特性を理解することで、生化学 II において生体を維持するために必要な基本システムを学習するための基礎力の習得を目指す。		
教材（テキスト）	『ヴォート基礎生化学(第 4 版)』 東京化学同人		
教材（参考文献）	『ヴォート生化学　上、下』（第 4 版） 東京化学同人 『Essential 細胞生物学』（原書第 3 版） 南江堂		
教材（その他）			
評価方法	小テスト、講義中の評価（３０％）と期末テスト（７０％）として、総合的に評価する。		
到達目標	生化学 II の学習に必要な基礎的な概念を習得する。		
準備学習	教科書の各章巻頭の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
各講義毎に小テストでできなかったところを中心に、教科書や参考書を利用して復習して欲しい。			
講義の順序とポイント			
1.　生命とは何か、水の性質 2.　生命の非対称性 3.　ヌクレオチドと核酸の構造 4.　アミノ酸の種類と構造 5.　タンパク質の構造～一次構造から高次構造まで 6.　タンパク質の精製 7.　タンパク質の機能 8.　単糖と多糖、その種類と機能 9.　脂質の種類 10. 脂質集合体と生体膜 11. 膜の形成と膜輸送 12. 酵素の特徴 13. ビタミンとミネラル 14. レドックス 15. 酸化ストレスの生化学			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J60131001
科目名	生化学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry II		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
講義概要	多種多様な有機化合物の集合体である生細胞や生体において、どのようにしてその構成物質が産生されているのか、いかにしてエネルギーの産生と貯蔵が行われているのか、そしてそれらがどのように調節されているのかについて学習し、生命における基本システムを理解することを目標とし、生命科学全般における発展学習に必要な基礎学力の習熟をめざす。		
教材（テキスト）	『ヴォート基礎生化学(第４版)』　東京化学同人		
教材（参考文献）	『ヴォート生化学　上、下』(第４版)　東京化学同人 『Essential 細胞生物学』(原書第３版)　南江堂		
教材（その他）			
評価方法	小テスト、講義中の評価(３０%)と期末テスト(７０%)として、総合的に評価する。		
到達目標	生命科学全般の学習に必要な基礎的な概念を取得する。		
準備学習	教科書の各章の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。		

受講者への要望

講義中に行う小テストでできなかったところを中心に、教科書や参考書を利用して復習して欲しい。

講義の順序とポイント

1. 代謝とは
2. グルコースの異化代謝
3. グリコーゲン代謝と糖新生
4. TCA サイクル
5. 電子伝達と酸化的リン酸化
6. 光合成
7. 脂質代謝
8. アミノ酸代謝
9. 哺乳類燃料分子の代謝
10. ヌクレオチド代謝
11. DNA の複製、修復、組換え
12. 転写と RNA プロセシング
13. 翻訳とその制御
14. タンパク質の代謝
15. 老化の生化学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60131002
科目名	生化学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry II		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
講義概要	多種多様な有機化合物の集合体である生細胞や生体において、どのようにしてその構成物質が産生されているのか、いかにしてエネルギーの産生と貯蔵が行われているのか、そしてそれらがどのように調節されているのかについて学習し、生命における基本システムを理解することを目標とし、生命科学全般における発展学習に必要な基礎学力の習熟をめざす。		
教材（テキスト）	『ヴォート基礎生化学(第４版)』　東京化学同人		
教材（参考文献）	『ヴォート生化学　上、下』(第４版)　東京化学同人 『Essential 細胞生物学』(原書第３版)　南江堂		
教材（その他）			
評価方法	小テスト、講義中の評価(３０%)と期末テスト(７０%)として、総合的に評価する。		
到達目標	生命科学全般の学習に必要な基礎的な概念を取得する。		
準備学習	教科書の各章の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。		

受講者への要望

講義中に行う小テストでできなかったところを中心に、教科書や参考書を利用して復習して欲しい。

講義の順序とポイント

1. 代謝とは
2. グルコースの異化代謝
3. グリコーゲン代謝と糖新生
4. TCA サイクル
5. 電子伝達と酸化的リン酸化
6. 光合成
7. 脂質代謝
8. アミノ酸代謝
9. 哺乳類燃料分子の代謝
10. ヌクレオチド代謝
11. DNA の複製、修復、組換え
12. 転写と RNA プロセシング
13. 翻訳とその制御
14. タンパク質の代謝
15. 老化の生化学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60132001
科目名	生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	生体は多種多様な外部環境の変化に曝されているにもかかわらず，その内部環境は常にある一定の状態に維持されている。この恒常性の維持には生体を構成している組織，器官，臓器などの連携と調和が必要不可欠である。本講義では人体の恒常性の維持機構を理解するために神経系，内分泌系および免疫系を中心に講義し，個体全体がどのようにして生体反応を統合的に制御し，生体システムを維持しているのかについて学ぶ。さらに，生体システムの破綻が引き起こす疾病についても触れる。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	森本武利 編『やさしい生理学』南江堂 高津聖志 監訳『免疫学イラストレイテッド』南江堂		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびRドライブにより授業資料およびレポートを提供する。		
評価方法	授業内確認テスト（40%），　期末テスト(40%)，　レポート(20%)		
到達目標	ヒトの生体システム全体がどのようなメカニズムで統合的に制御されているかを理解する。		
準備学習	生化学ⅠおよびⅡの内容を復習しておくこと。 毎回，京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートの内容だけに留まらず，関連分野についても発展的に調べておくこと。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に，毎回提供する発展的課題についても意欲的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに　ー生理学とはー 2.血液成分，体液成分とその機能 3.血液循環とその調節 4.肺による体液成分の調節 5.腎による体液成分の調節 6.情報伝達物質とその受容体 7.ホルモンの作用 8.ニューロンとシナプス 9.中枢神経と末梢神経 10.自律神経 11.代謝の統合的調節 12.免疫担当細胞の種類と働き 13.体液性免疫と細胞性免疫 14.免疫疾患 15.生体システムの総合的な維持機構			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60133001
科目名	生体高分子学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomacromolecular Science		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
講義概要	生体内において機能部分を担う最重要な生体高分子であるタンパク質の物理化学的性質やタンパク質研究の実験手法を学習した上で、様々なタンパク質の機能を例にして、タンパク質がどのようにして機能を発揮しているのかを学習する。		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）	『Essential タンパク質科学』 南江堂 その他、1,2 回生で用いた分子生物学・細胞生物学・生化学などの教科書・参考図書と最新の文献を参考にする。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト、講義中の評価(30%)と期末テスト(70%)について総合的に評価する。		
到達目標	タンパク質がいかにして機能を発揮しているのかを理解し、タンパク質の本質を把握することで、生命現象を考察する際にタンパク質が活動する姿がイメージできるようになることを目標にする。		
準備学習	生化学において学習したタンパク質に関する基礎知識を復習しておくこと。		
受講者への要望			
講義内容を十分に理解できるように復習し、タンパク質に関する知識をしっかりを固めるようにしてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1.　タンパク質の構造を構築する様々な相互作用 2.　タンパク質の構造 3.　分光学的及び相互作用解析の手法 4.　構造解析の手法 5.　コンピューターを利用した解析 6.　タンパク質の進化 7.　タンパク質のドメイン 8.　オリゴマー 9.　タンパク質間相互作用 10. 天然変性タンパク質 11. タンパク質のフォールディング、品質管理 12. 酵素の作用メカニズム 13. 細胞内におけるタンパク質の移動 14. 膜を介した輸送と膜への輸送 15. タンパク質のシグナル伝達			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60136001
科目名	分子生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Molecular Biology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	分子生物学では，生命現象の基本である遺伝とタンパク質合成を中心に，生体高分子合成反応を理解することを目標とする。本講義では，DNA の二重らせん構造と染色体構造，DNA の複製と DNA からタンパク質へ遺伝情報が伝達される仕組み（転写，翻訳）及びその調節機構を分子レベルで解説する。さらに，遺伝子の組換え，DNA の突然変異，修復及び環境適応等についても分子レベルで講義する。遺伝子の構造と機能に関する重要な知見は実際どのような実験によって明らかになったかをふまえた講義とする。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	Donald Voet 他著『ヴォート基礎生化学、第 2 版』（東京化学同人）。 田村隆明、村松正實著『基礎分子生物学、第 2 版』（東京化学同人）。 Bruce Alberts 他著『Essential 細胞生物学、第 2 版』（南江堂）。		
教材（その他）	和田勝著　『基礎から学ぶ生物学．細胞生物学』（羊土社）。 福岡伸一『生物と無生物のあいだ』（講談社）。 プリント（配布する）、DVD など。		
評価方法	期末試験（50%）、小テスト、実力問題、課題など（50%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	分子生物学の全体像を理解することを目標としている。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　講義終了時に、小テストを行って、次回の授業の最初にその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。資料の実力問題と課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。			
講義の順序とポイント			
1. シラバスの説明、ガイダンス、分子生物学とは？ 2. 生物と遺伝とは。メンデルの遺伝法則 3. 情報高分子：DNA と RNA の化学的構造とその立体構造。核酸の物理的性質 4. 情報物質としての遺伝子、染色体、染色質（クロマチン）の性質 5. 生体高分子集合体：原核生物と真核生物のゲノム構造 6. 遺伝子が組換わる：相同組変えと非相同組変え 7. 遺伝子地図 8. 遺伝情報の保存：DNA ポリメラーゼ、DNA の二方向複製メカニズム、DNA の修復 9. 遺伝情報の転写：RNA ポリメラーゼによる RNA 合成メカニズム 10. 真核生物 RNA の転写後修飾とスプライシング 11. 真核生物における発現制御機構 12. 原核生物の転写制御：トリプトファンオペロンの調節、ラクトースオペロンの調節 13. 遺伝暗号の翻訳：mRNA の読み枠、tRNA の合成とアミノ酸選択機構 14. タンパク質の合成機構の流れ：リボゾームの構造、ペプチド鎖伸長の分子機構 15. DNA の変異：突然変異の種類、変異と適応 ？			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60137001
科目名	細胞生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Cell Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	生化学 I,II および分子生物学を充分に理解したことを前提に、生命現象の基本単位である細胞の構造と機能について分子レベルで解説する。 具体的には生命現象における様々な物質の挙動を各細胞内小器官との関連で説明するとともに、その解析法についても解説する。また、細胞輸送、細胞骨格、細胞間コミュニケーションなど、多細胞生物に必要な仕組み、更に細胞内情報伝達、細胞周期、細胞分裂、細胞死の制御機構やこれらの異常と各種疾患との関連についても概説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	Bruce Alberts 他　著（中村桂子他　監訳）『Essential 細胞生物学　原書第 4 版』（南江堂）8,000 円 和田勝著　『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第 3 版』（羊土社）3,200 円 尾張部克志、神谷律　著『ベーシックマスター細胞生物学』（オーム社）3,600 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	期末試験(60%)、毎回のレポート(30%)、講義での発表、受講態度などの平常点(10%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・生物を構成する基本単位「細胞」の構成要素および細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・細胞内区画と物質の輸送、細胞内シグナル伝達機構のしくみを理解する。 ・細胞骨格や細胞接着、細胞内マトリックスに関わるタンパク質の種類と役割について概説できる。 ・正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。 ・この講義で学んだことを、専門実験や卒業演習で適用できる能力を身につける。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。		

受講者への要望

講義には必ず出席し、復習を積極的に行うようにしてください。
疑問点があれば積極的に聞くようにしてください。
細胞生物学で学んだ用語について、自分の言葉で表現できる能力を身につけること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 細胞とは何か
3. 細胞の膜構造と細胞小器官
4. 細胞内区画と細胞内輸送
5. 細胞骨格と細胞運動
6. 細胞外マトリックスと細胞間コミュニケーション
7. 細胞内情報伝達
8. 細胞周期、時間の細胞生物学
9. がんの細胞生物学①
10. がんの細胞生物学②
11. 生殖と発生・細胞分化
12. 細胞の再生、老化と細胞死
13. 脳神経系の細胞生物学
14. 免疫系の細胞生物学
15. 細胞生物学に関する最新技術動向

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60138001
科目名	遺伝子工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Genetics Engineering		
担当者名	寶関　淳	旧科目名称	
講義概要	現代社会において医学・創薬・物質生産などに不可欠な技術である遺伝子改変技術について、その技術の分子生物学的な基礎からその応用までを学習し、バイオテクノロジーが現代社会においてどのように貢献しているのかを理解する。		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）	『基礎から学ぶ遺伝子工学』 羊土社 その他、1, 2 回生で用いた分子生物学、細胞生物学、生化学などの教科書、参考図書を参考にする。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト、講義中の評価（３０％）と期末テスト（７０％）として、総合的に評価する。		
到達目標	遺伝子操作の基礎技術に関する知識を習得し、バイオテクノロジーがいかに社会に貢献しているかを理解する。		
準備学習	遺伝子工学講義の各トピックを十分理解できるように、分子生物学の基本事項を復習し、正確に把握しておくこと。		

受講者への要望

各回の講義内容を十分に理解するように復習して欲しい。

講義の順序とポイント

1. 遺伝子工学の歴史、遺伝子工学で使われる生物
2. クローニング、ベクター
3. 大腸菌、酵母への遺伝子導入、形質転換
4. タンパク質生産
5. 進化工学
6. 動物細胞への遺伝子導入、遺伝子発現と遺伝子産物の解析
7. RNA 干渉、ゲノム編集
8. 細胞工学
9. 発生工学～クローン動物
10. 再生医療～ES 細胞と iPS 細胞
11. ゲノム工学～トランスジェニック動物と遺伝子改変植物
12. 遺伝子治療
13. ゲノム解析とテーラーメード医療
14. 遺伝子工学と創薬
15. バイオインフォマティクス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60141001
科目名	微生物学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology II		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	微生物の進化・分類・多様性や自然環境中での働きなど、地球環境の立場から微生物の性質を学ぶ。 微生物生態の研究に用いられる最新の分子生物学的解析技術についても解説する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	『IFO 微生物学概論』　発酵研究所 監修 培風館　4,700 円 『環境微生物学』　久保 幹 他著 化学同人　3,000 円		
教材（その他）			
評価方法	確認テスト（40%） 期末試験（60%）		
到達目標	1）微生物の系統分類と多様性について理解する 2）微生物の生態と地球環境における役割について理解する 3）微生物の分子生物学、遺伝学を理解する 4）ウイルス学の基礎を理解する		
準備学習	理解できなかった部分は参考文献などを参照し、テキストを増補して自分オリジナルの微生物学のテキストを作っていくこと。		
受講者への要望			
微生物は発酵食品、環境浄化に代表される身近な領域で多いに活躍しています。授業で学んだ微生物の知識と、自分の生活とのつながりを見つけるなどして、意欲的に学習に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．　微生物の進化 ２．　微生物の系統分類 ３．　微生物の進化・変異の遺伝学的メカニズム ４．　特徴的な微生物グループ（ラン藻、放線菌、酵母など） ５．　第１～４回の確認テストと解説 ６．　微生物の生態系 ７．　微生物による元素循環 ８．　生物間相互作用　（微生物の共生） ９．　微生物生態の解析手法　1 １０．　第６～９回の確認テストと解説 １１．　微生物生態の解析手法　2 １２．　微生物のゲノム １３．　ウイルス の性質 １４．　ウイルス の環境生態 １５．　第１１～１４回の確認テストと解説			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60142001
科目名	応用微生物学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Microbiology A		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	微生物を使って製造される各種の食品・飲料・調味料について、京都、亀岡の発酵・醸造関連企業で働いておられる方々に解説して頂くと共に、企業活動そのものについてもお話し頂く。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	発酵食品学　小泉武夫 編著（2012）講談社 参考図書（手に取りやすいもののみ挙げた）： うま味の誕生　―発酵食品物語―　柳田友道　岩波書店 食と日本人の知恵　小泉武夫　岩波書店 発酵食品礼讃　小泉武夫　文藝春秋 ワインづくりの思想　銘醸地神話を超えて　麻井宇介　中央公論新社 ワインの科学　「私のワイン」のさがし方　清水健一　講談社 日本酒の科学　水・米・麹の伝統の技　和田美代子　講談社 日本の酒　坂口謹一郎　岩波文庫 純米酒を極める　上原浩　光文社新書 極上の酒を生む土と人　大地を醸す　山同敦子　講談社＋α 文庫 ビールの科学　麦とホップが生み出すおいしさの秘密　渡淳二　講談社 ビールの教科書　青井博幸　講談社 ウイスキーの科学　古賀邦正　講談社 世界のスピリッツ焼酎　関根 彰　技報堂出版 醤油手帖　杉村啓　河出書房新社 一日一杯の味噌汁が身体を守る　車浮代　日経プレミアシリーズ 漬物入門　宮尾茂雄　日本食糧新聞社 パンの文化史　舟田詠子　講談社学術文庫 なぜ日本のフランスパンは世界一になったのか　阿古真理　NHK 出版新書		
教材（その他）			
評価方法	・講義開始時に行う、発酵・醸造学の基本的な事項に関する「確認テスト」（20%） ・定期試験（論述式）（80%）		
到達目標	1）発酵・醸造学の基本的な事項を知識として身につける。 2）日本では様々な発酵・醸造を用いた製品が発達していることを理解する。 3）日常生活の中で発酵・醸造を用いた製品に関心を持てるようになる。		
準備学習	上記参考文献のうち参考図書としてあるものを一冊は読んで、発酵醸造についてあらかじめ何らかのイメージをつかんでおくこと。		
受講者への要望			
「確認テスト」の内容は理解し、覚えること。 微生物産業についての理解を深めるため、「応用微生物学 B」とあわせて受講することを勧める。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 発酵・醸造学とは何か：その微生物学・生化学・化学 第 2 回 酒類総論（醸造酒） 第 3 回 酒類各論：ワイン　丹波ワイン様 第 4 回 酒類各論：ビール　黄桜様 第 5 回 酒類各論：清酒　丹山酒造様／大石酒造様 第 6 回 酒類総論（蒸留酒） 第 7 回 酒類各論：酒販　谷垣裕二郎（リカーランドひかみや）様 第 8 回 発酵調味料総論 第 9 回 発酵調味料各論：醤油　難波醤油醸造様／竹岡醤油様 第 10 回 発酵調味料各論：味噌　片山商店様 第 11 回 発酵調味料各論：食酢　飯尾醸造様			

第 12 回 発酵食品総論
第 13 回 発酵食品各論：漬物　京漬物初代亀蔵様／新世様
第 14 回 発酵食品各論：なっとう　ユーアンドミー様
第 15 回 発酵食品各論：パン　天然酵母パングリム様
外部講師の方は年によって交代で担当して頂きます。都合により内容・順番は変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60143001
科目名	バイオインダストリー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Bioindustry		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	今世紀の社会の様々な問題は、バイオサイエンスを基盤とした産業を抜きに考えることは出来ない。本講義では様々な分野で実施されるバイオ関連の実験や研究に従事する技術者としての基礎力ならびに応用力を養うことを目的とする。生物機能を利用するための技術を中心として，生化学，分子生物学，遺伝子工学の３つの分野をはじめ，微生物バイオテクノロジー，植物バイオテクノロジー，動物バイオテクノロジーの基礎知識，技術関連知識を学び，実際のバイオテクノロジーに対応可能な知識を持ったバイオ技術者を養成する。		
教材（テキスト）	特にもうけない		
教材（参考文献）	中級バイオ技術者認定試験対策問題集 上級バイオ技術者認定試験対策問題集 新バイオテクノロジーシリーズ　ＮＰＯ法人日本バイオ技術教育学会編集　（講談社） バイオ英語入門，分子生物学第２版，新・微生物学新装第２版，遺伝子工学第２版，生化学第２版		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	・平常点（授業内の小テスト、発表など）（20%） ・定期テスト（80%）		
到達目標	産業利用の観点から多様な生物機能について科学的に理解し、関連分野のバイオ技術者の認定試験に合格する。		
準備学習	バイオ分野に関連する項目を幅広くを受講していることが望ましい。 各項目について，これまで学習した内容と関連付けて考えるようにすることが望ましい。		

受講者への要望

・中級バイオ技術者もしくは上級バイオ技術者認定試験を受験をすること。
・能動的な姿勢で講義に出席すること。
・遅刻や私語は厳禁である。遅刻の場合は理由を申告すること。

講義の順序とポイント

１）　バイオテクノロジー総論
２）　バイオ機器取扱いとバイオテクニカルターム
３）　バイオ分野における環境と安全性
４）バイオ　インダストリーにおける生化学－１
５）バイオ　インダストリーにおける生化学ー２
６）バイオ　インダストリーにおける生化学ー３
７）バイオ　インダストリーにおける微生物学－１
８）バイオ　インダストリーにおける微生物学－２
９）バイオ　インダストリーにおける微生物学－３
１０）バイオ　インダストリーにおける分子生物学－１
１１）バイオ　インダストリーにおける分子生物学－２
１２）バイオ　インダストリーにおける分子生物学－３
１３）バイオ　インダストリーにおける遺伝子工学　－１
１４）　バイオ　インダストリーにおける遺伝子工学－２
１５）　バイオ　インダストリーにおける遺伝子工学－３

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J60144001
科目名	食品化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Chemistry I		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品は栄養性（一次機能）、嗜好性（二次機能）の他に三次機能として、健康機能性が現在注目されている。おもな食品成分を上記機能に関連付けて化学的側面から理解する。蛋白質、脂肪、炭水化物の分解・吸収およびエネルギーを含む栄養としての体内での変化について、わかりやすく概説する。これらはすべて化学変化であり、食品・栄養に必要な有機化学（加水分解、脱水、酸化・還元反応など）を復習し、さらにそれらを触媒する酵素についても簡単に取り上げる。さらに、嗜好性に影響を持つ食品の物性（コロイド、レオロジー、テクスチャー）についても説明する。これらを理解することによって、食品に関して知識を深め、さらに深い食品成分あるいは食品製造への理解の基礎とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	早瀬文孝・佐藤隆一郎編著『わかりやすい食品化学』（三共出版）（ISBN978-4-7827-0549-0）		
教材（その他）	プリントを提供		
評価方法	定期試験の成績（75%） 各章ごとの練習問題（10%） 受講態度など（15%）		
到達目標	食品の機能性や成分を理解するための基礎知識を得る。		
準備学習	各章の講義の終了後に練習問題（3 問程度）を課すので次回までに解いておく。それらの問題の解答を次回に示す。問題の解答用紙は提出する。		
受講者への要望			
練習（復習）問題は必ずやっておくこと。期末試験の一部はその問題を少し改変して問題とする。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに（食品化学で学ぶことおよび食品化学の講義とは）および講義「調理の化学」 ２．食品成分の概要と機能性 ３．食品・栄養を理解するための化学１（化学構造、加水分解反応および関与する酵素） ４．食品・栄養を理解するための化学２（脱水反応および関与する酵素） ５．食品・栄養を理解するための化学３（酸化・還元反応および関与する酵素） ６．水（水と食品の関わり） ７．炭水化物１（炭水化物の種類とその化学的性質） ８．炭水化物２（炭水化物の利用） ９．脂肪（脂肪の種類とその化学的性質、およびその利用） １０．蛋白質（アミノ酸、蛋白質の構造と化学的性質） １１．蛋白質（アミノ酸、蛋白質の利用） １２．ビタミン・ミネラル（種類と生体での分布・作用） １３．食品の物性（コロイド・テクスチャー） １４．食品の安全（食品安全の用語、GMO や BSE などについて解説する） １５．各項目のポイントレビュー			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J60145001
科目名	食品化学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Chemistry II		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	植物性食品や動物性食品の成分と機能性について詳しく説明する。また、加工や食品の工業的な製造法についても説明する。いくつかの機能性成分や色素については化学構造と機能性を理解する。貯蔵・加工・調理における食品成分の変化を化学的な側面から理解する。		
教材（テキスト）	資料を提供する。		
教材（参考文献）	川岸舜朗・中村良編著『新しい食品化学』（三共出版）（ISBN4-7827-0425-9 C3061） 安井勉・桐山修八編著『食品科学』（三共出版）（ISBN4-7827-0285-X）		
教材（その他）	各章ごとに資料は提供する。		
評価方法	定期試験の成績（70%） 課題調査と発表（20%） 受講態度など（10%）		
到達目標	農産物由来および動物由来食品の機能性や成分を理解する。また、食品の製造過程における化学変化を理解する。		
準備学習	準備学習として、各章ごとにキーワードを提示するので担当キーワードは必ず調査する。そのレポートは発表形式でまとめる。その章の講義前に提出し、指名した学生は発表する。		
受講者への要望			
席は指定席とする。課題を与えるので必ず、それを調査し、発表形式でまとめる。発表時間を設けている。また、講義はしっかり聴き、積極的に質問をすること。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス（講義の進め方、勉強の仕方）および「麹のはなし」 ２．　植物性食品１（穀物類の成分と機能性） ３．　植物性食品２（大豆、芋、野菜および果実の成分と機能性） ４．　動物性食品１（食肉の成分と機能性） ５．　動物性食品２（牛乳、卵および乳製品の成分と機能性および製造） ６．　油脂食品（油脂および油脂製品の成分と機能性および製造） ７．　嗜好品と調味料（飲料、甘味料、調味料、香辛料の成分と機能性および製造） ８．　機能性成分１（植物成分のポリフェノール、リグニン構造と機能性） ９．　機能性成分２（その他の植物成分および動物成分の構造と機能性、機能性食品） １０．　食品色素の化学（食品成分としての色素の構造と機能性） １１．　貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化１（糖、アミノ酸、脂肪酸） １２．　貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化２（核酸、ポリフェノールなど） １３．　食品の安全性（有害微生物その他による食品の汚染と防止） １４．　特定保健用食品と機能性表示食品（その制度、トクホ食品および実例の紹介） １５．　各項目のポイントレビュー			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J60147001
科目名	生体栄養科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Nutritional Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	何をどのくらい食べたらどうなるか？について生化学的なアプローチで解説を行う。すなわち，個体の栄養成分である糖、タンパク質、脂質、ビタミンなどの機能や代謝系、これらを摂取した時の生体反応や調節機構について解説を行い、全ての栄養素が相互に関連しあって生体が維持されていることについて理解を深める。さらに、動脈硬化や糖尿病といった生活習慣病と食品成分との関係など、栄養と疾病との関わりについて、その研究方法などを含め概説を行い、知識を深める。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	薗田勝 編『栄養科学イラストレイテッド生化学』羊土社　2,800 円 垣沼淳司 著『分子栄養学―栄養素と生活習慣病の分子生物学 』光生館　2,520 円		
教材（その他）	授業中にプリント配布する。 京学なびおよびRドライブにより授業資料およびレポートを提供する		
評価方法	授業内確認テスト（40%），　期末テスト(40%)，　レポート(20%)		
到達目標	生体の維持機構を理解するために，栄養成分の生理機能や代謝系とその調節機構についての知識を習得する。		
準備学習	生化学ⅠおよびⅡの内容を復習しておくこと。 毎回，京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず，関連分野についても発展的に調べておくこと。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に，毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.はじめに　ー生体栄養科学とはー 2.栄養成分の消化吸収 3.糖質の化学 4.糖質の機能と代謝 5.アミノ酸とタンパク質の化学 6.アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 7.脂質の化学 8.脂質の機能と代謝 9.三大栄養素の相互変換 10.代謝の調節と疾病 11.ビタミンの生理作用 12.ミネラルの生理作用 13.食品成分の生体調節機能（１）ー抗酸化作用ー 14.食品成分の生体調節機能（２）ー代謝調節作用ー 15.機能性食品の現状と今後			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60148001
科目名	食品衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Hygiene		
担当者名	山﨑　裕康	旧科目名称	
講義概要	生活の基本である「食」は、我々の健康ひいては生命に直接影響を及ぼすきわめて重要な因子であることから、食品の安全性確保に関する知識と理解を深めることを目標とする。 食品の安全確保は、我々の生活の質（QOL）に直接影響するものであるが、近年における我が国の食生活多様化と輸入食品の増大に伴い、その重要性がますます高まってきている。本講義では、我が国における食品の安全確保のための法的規制と体制ならびに手法について概説すると共に、食品に起因する健康障害について原因別に解説し、同時に健康障害防止策についても述べる。		
教材（テキスト）	教科書：食品衛生学－「食の安全」の科学－ 改訂第２版（那須正夫、和田啓爾編）南江堂		
教材（参考文献）	国民衛生の動向 2016/2017（厚生労働統計協会）		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（70%）、講義終了時に適宜実施する到達度確認小テスト（30%）により評価する。ただし、受講出席状況が２／３未満の場合は定期試験受験資格を与えない。		
到達目標	１．我が国における食品の安全確保政策について説明できる。 ２．食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。 ３．腐敗、変敗の機構および食品保存法について説明できる。 ４．代表的な食中毒原因（微生物や自然毒）について説明できる。 ５．調理等による食品成分の有害化について説明できる。 ６．食品添加物の法的規制および代表的な食品添加物について、用途、働きを説明できる。		
準備学習	講義のはじめに前回の簡単な復習を、また最後に次回の講義内容を予告するので、教科書該当ページに目を通しておくこと。		

受講者への要望

食品衛生に関するニュース等に常日頃から関心を持つように心がけること。
私語は厳禁とする。私語が過ぎる場合には、他の受講者への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回　わが国の食品衛生行政と法的規制
第 2 回　わが国の食品衛生行政と法的規制（その 2）
第 3 回　食品の安全確保（HACCP 他）
第 4 回　食品に起因する健康障害、食中毒発生状況
第 5 回　微生物による食中毒(1)
第 6 回　微生物による食中毒(2)
第 7 回　自然毒(1) 植物性自然毒
第 8 回　自然毒(2) 動物性自然毒
第 9 回　カビ毒
第 10 回　化学物質による食品汚染(1) 環境汚染重金属
第 11 回　化学物質による食品汚染(2)有害有機化合物
第 12 回　食品の変質、食品保存法
第 13 回　食品成分の有害化、遺伝子組み換え食品
第 14 回　食品添加物総論
第 15 回　食品添加物各論
第 16 回　定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60149001
科目名	植物生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Physiology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	植物は、太陽エネルギーを利用して無機物から種々の有機物を作ることにより地上のあらゆる生物の生命維持に極めて重要な役割を担っている。本講義では、植物や細胞の構造と機能、水・重力・光などの環境要因と植物、植物ホルモン、光合成、植物の栄養などの植物で行われている様々な生化学反応を知ることにより、植物の生理的な機構および環境応答について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	L. Taiz, E. Zeiger ら著「テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）」（培風館）。 B.B. Buchanan ら著「植物の生化学・分子生物学」（学会出版センター）。 その他の参考書については最初の講義で紹介する。		
教材（その他）	プリント（配布する）、DVD など		
評価方法	期末試験（50%）、小テスト、実力問題、課題など（50%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	農資源やバイオテクノロジーについて学ぼうとする人が、植物の生理機能について個体、細胞、分子のレベルで理解することを目標とする。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　講義終了時に、小テストを行って、次回の授業の最初にその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。資料の実力問題と課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。			
講義の順序とポイント			
１．シラバスの説明、ガイダンス、植物生理学とは ２．植物細胞の構造と機能 ３．植物の成長と分化 ４．水と植物細胞 ５．無機栄養。物質輸送 ６．葉緑体の構造と機能 ７．光合成の明反応：光合成における電子伝達反応 ８．光合成の暗反応：カルビン回路、 ９．光合成：光呼吸とＣ４光合成 １０．デンプンとショ糖の生合成 １１．植物ホルモンとその作用（１）オーキシン １２．植物ホルモンとその作用（２）サイトカイニン １３．植物ホルモンとその作用（３）エチレン １４．植物ホルモンとその作用（４）ジベレリン １５．植物ホルモンとその作用（５）アブシジン酸、ブラシノステロイド			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60150001
科目名	植物生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Biochemistry		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物は、人間を頂点とする食物連鎖において、炭素化合物（糖類や脂質）や窒素化合物（アミノ酸やタンパク質）の第１次供給者である。本講義では、植物における基本的な一次代謝物と二次代謝物とその生合成経路を概説する。まず、一次代謝から窒素同化、生物的窒素固定、有機窒素化合物を取り上げ、これら化合物の生合成について概説する。次に、一次代謝から脂肪酸を取り上げ、生合成経路とその改良について概説する。さらに、二次代謝物であるアルカロイド、テルペン類、ポリフェノール類を取り上げ、これら生体化合物の生合成について概説する。単元に応じて、これら生合成経路の改良についても概説し、代謝工学への応用事例についてを紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）（培風館）、植物生化学（シュプリンガー・フェアラーク東京）、植物生理学（シュプリンガー・フェアラーク東京）など		
教材（その他）	講義資料を配布する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（提出課題など）　30% 定期試験　70%		
到達目標	植物固有の代謝物とその生合成について理解する。植物における代謝物の高次機能について理解する。さらに、代謝調節とその多段階的な制御機構を通じて、代謝工学の基礎と原理を分子レベルで理解する素養を身につける。		
準備学習	次回講義の内容を紹介するので、配布プリントに目を通し、該当する生物学、生化学、植物生理学の振り返りをした上で講義に望むこと。毎回提示する課題に取り組み、講義内容を振り返り、理解を定着させる。		
受講者への要望			
講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。生活や産業と植物バイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。			
講義の順序とポイント			
１．植物生化学とは ２．窒素同化 ３．窒素同化の制御 ４．窒素同化と環境応答 ５．生物的窒素固定 ６．窒素含有化合物の生合成 ７．脂肪酸の生合成 ８．脂肪酸の生合成経路の改良 ９．アルカロイドの生合成 10．アルカロイド生合成と環境応答 11．アルカロイド生合成経路の改良 12．テルペン類の生合成 13．テルペン類の生合成経路の改良 14．ポリフェノール類の生合成 15．ポリフェノール類の生合成経路の改良			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60152001
科目名	植物代謝工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Metabolic Engineering		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物における基本的な一次代謝物と二次代謝物とその生合成経路を概説する。また、植物代謝工学の基礎となる代謝調節の仕組みと代謝工学の原理、遺伝子組換え技術を用いた代謝工学研究の具体的事例、今後の課題と可能性について紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）（培風館）、植物生化学（シュプリンガー・フェアラーク東京）、植物生理学（シュプリンガー・フェアラーク東京）など		
教材（その他）	講義資料を配布する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点（課題など）　30％ 定期試験　70％		
到達目標	植物固有の代謝物とその生合成について理解する。植物における代謝物の高次機能について理解する。代謝調節とその多段階的な制御機構を通じて、代謝工学の基礎・原理を分子レベルで理解する。代謝工学の意義と課題を理解する。		
準備学習	次回講義の内容を紹介するので、配布プリントに目を通し、該当する植物生理学、植物生化学、生化学、分子生物学の分野の振り返りをした上で講義に望むこと。毎回、課題をだすので、配布プリントに基づき、講義内容を振り返り、理解を定着させること。		
受講者への要望			
講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。生活や産業と植物バイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。			
講義の順序とポイント			
１．植物代謝工学とは ２．代謝調節とその仕組み ３．窒素代謝 ４．窒素代謝と環境応答 ５．窒素代謝工学 ６．窒素代謝工学の応用事例 ７．脂肪酸代謝 ８．脂肪酸代謝工学 ９．　脂肪酸代謝工学の応用事例 10．二次代謝とは 11．アルカロイド 12．アルカロイドの生合成とその制御 13．アルカロイド代謝工学 14．テルペン類の生合成とその制御 15．フェノール性化合物の生合成とその制御			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60153001
科目名	有用産業植物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plants of Industrial Interest		
担当者名	秋田　徹	旧科目名称	
講義概要	植物は、古くから香辛料あるいは医薬品や食品添加物の素材として人類に利用されてきたが、２１世紀の今日、人類は植物に対して産業素材として大きな期待を寄せている。新たなバイオアッセイ法との組み合わせで新規な生理活性を示す植物成分の発見、あるいはメタボリックエンジニアリングによって有用成分の生産性の向上が計られるなど産業的にも植物が再評価されている。これら産業的に有用な植物を医薬品に関連する植物、食品産業に有用な植物に分けて、その特性などについて理解を深めることを目標とする。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義の最初に紹介する。		
教材（その他）	パワーポイントを用いる。		
評価方法	平常点（10%）は受講態度等による。各講義日の最後に行う試験によって評価（90%）する。		
到達目標	医薬品、食品添加物などの産業で重要な役割を果たしている植物について理解する。		
準備学習	これまでに履修した本講義に関連する植物の分類や植物生理生化学、有機化学、食品化学などについて事前によく復習（予習）しておくこと。また教材の講義プリントを事前に配布するので予習しておくこと。		

受講者への要望

講義中に疑問に思った点があれば積極的に質問などをしてほしい。
講義プリントとパワーポイントを用いて講義を進めるが、重要な点はメモを取ること。

講義の順序とポイント

１．医薬品と植物（１）薬用植物の定義（ハーブから最新医薬品まで）
２．医薬品と植物（２）医薬品の歴史
３．医薬品と植物（３）生薬としての利用
４．医薬品と植物（４）植物からの医薬品創製（成分としての利用）
５．医薬品と植物（５）現在と将来、そして課題
６．食品と植物（１）食品添加物概説
７．食品と植物（２）食品添加物と植物
８．食品と植物（３）多糖類の利用１
９．食品と植物（４）多糖類の利用２
１０．食品と植物（５）色素成分の利用１
１１．食品と植物（６）色素成分の利用２
１２．食品と植物（７）香料成分の利用１
１３．食品と植物（８）香料成分の利用２
１４．食品と植物（９）機能性食品への応用
１５．食品と植物（１０）まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60162001
科目名	化学演習 -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	春学期の化学に引き続き化学の基礎知識を講義する。化学物質の基本構造が分子や原子であることを理解したうえで、実際に起きている化学反応について理解を深める。特に、熱化学反応式や化学平衡を中心に講義する。あわせて演習を行い、具体例の中から理解を深め、反応を数的に理解できるようにする。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	中川徹夫著　化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本　1 500 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円（＋税） J.E.Brady, G.E.Humiston 著　『一般化学』（上）（下）　東京化学同人　各 2980 円＋税		
教材（その他）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－　問題と解答』　東京化学同人　1700 円（＋税）		
評価方法	定期テスト（40%）、講義中の小テスト（60%）		
到達目標	化学量論の計算を一般式を使って表記することができる。 酸と塩基を説明し、pH との関係を明らかにすることができる。 酸化、還元の意味を説明できる。 化学平衡の概念を説明できる。 中和反応や酸化還元反応などの反応式を作り、量的関係やエネルギーの出入りを理解できる。		
準備学習	「化学」の受講者はテキストであった中川徹夫著「化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本」を熟読しておくこと。また、未受講者は、同本の内容を確認し、苦手な部分があれば、自習しておくこと。 次回講義時に確認テストをするので、毎回講義内容をしっかりと復習し次回の確認テストに臨むこと。また、確認テストの正解率が低い場合は、その部分の復習を必ず行い、苦手な部分を克服する。		
受講者への要望			
授業と並行して例題や教材（その他）の問題集などの演習に積極的に取り組み、さらに、講義で学んだ部分を参考文献などで自習すること。疑問点や苦手な点は質問をするなどして次回の講義までには解決するように努力すること。			
講義の順序とポイント			
1. 化学反応式・濃度の復習 2. 物質の三態 3. 化学式の種類（示性式・組成式・構造式） 4. 酸と塩基 1－アレニウスの定義 5. 酸と塩基 2－ブレンステッドの定義 6. 酸と塩基 3－ルイスの定義 7. 化学平衡 8. 酸塩基の強さ（酸解離定数と塩基解離定数） 9. 中和反応と塩 10. 水素イオン濃度と pH 11. 緩衝液 12. 酸化数 13. 酸化と還元 14. 酸化還元反応 15. 熱化学反応式			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J60162002
科目名	化学演習 -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	環境科学を学ぶ上で必要な化学の基礎知識を演習を行いながら講義する。講義内容の理解度確認として、毎回、チェックプリントを実施する。小テストを複数回実施する。		
教材（テキスト）	授業中にプリントを配布する場合がある		
教材（参考文献）	中川徹夫著　化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本　化学同人　1500 円＋税 多賀光彦、中村博、吉田登著　物質化学の基礎　三共出版　2808 円		
教材（その他）	高等学校の化学の教科書		
評価方法	チェックプリント、授業中の演習問題に対する取組態度等による平常点（20%）、小テスト（40%）、定期テスト（40%）		
到達目標	化学量論の計算を一般式を使って表記することができる 酸と塩基を説明し、pH との関係を明らかにすることができる 化学平衡の概念を説明できる 中和反応のの反応式を作り量的関係を理解できる 酸化・還元の意味を説明し、反応式を作ることができる		
準備学習	「化学」の受講者はテキストであった中川徹夫著「化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本」を熟読しておくこと。また、未受講者は、同本の内容を確認し、苦手な部分があれば自習しておくこと		
受講者への要望			
授業と並行して例題の問題集などの演習に積極的に取り組むこと。疑問点や苦手な点は自習して次回の講義までには解決するように努力すること。積極的に学習支援室を利用すること。			
講義の順序とポイント			
授業の進度によって外れることがある 1. 化学反応式・濃度の復習 2. モル濃度と質量パーセント濃度 3. 化学式の種類 4. 電離 5. 化学平衡 6. 酸と塩基　その 1 7. 酸と塩基　その 2 8. 酸・塩基の中和反応 9. 中和反応と量的関係 10. 水素イオン濃度と pH 11. 酸・塩基反応の種類 12. 緩衝液 13. 酸化数 14. 酸化と還元 15. 酸化還元反応			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J60163001
科目名	数学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Mathematics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では数学の体系の中で解析学の基礎となる直交関数系，積分変換，常微分方程式，偏微分方程式，変分法などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学，物理学・演習，地球科学・演習を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．直交関数系（1）：内積
2．直交関数系（2）：直交多項式
3．直交関数系（3）：フーリエ級数
4．積分変換（1）：フーリエ変換
5．積分変換（2）：ラプラス変換
6．積分変換（3）：δ 関数
7．常微分方程式（1）：変数分離形
8．常微分方程式（2）：線形同次方程式
9．常微分方程式（3）：線形非同次方程式
10．偏微分方程式（1）：ラプラス方程式
11．偏微分方程式（2）：熱伝導方程式
12．偏微分方程式（3）：波動方程式
13．変分法（1）：変分原理
14．変分法（2）：最速降下線
15．変分法（3）：懸垂線

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60164001
科目名	物理学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる電場，電流，磁場，電磁誘導，電磁波などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学，地球科学・演習を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．電場（1）：静電場
2．電場（2）：静電ポテンシャル
3．電場（3）：誘電体
4．電流（1）：電荷保存
5．電流（2）：定常電流
6．電流（3）：電力
7．磁場（1）：静磁場
8．磁場（2）：磁気ポテンシャル
9．磁場（3）：磁性体
10．電磁誘導（1）：変動電場
11．電磁誘導（2）：変動磁場
12．電磁誘導（3）：電磁誘導
13．電磁波（1）：電磁ポテンシャル
14．電磁波（2）：電磁方程式
15．電磁波（3）：波動方程式

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J60166001
科目名	樹木学実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	物質生産や生物の多様性の場である森林を構成する樹木について、その形態や生態を中心に実物を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	特になし。		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。		
評価方法	課題の提出等による平常点（50%）、実習での理解（50%）により評価する。		
到達目標	実際の樹木を正確に観察しスケッチすることや立木を観察することで生物の多様性の理解を深める。		
準備学習	キャンパスをはじめとする身近にある樹木を観察するようにしてください。実習であることから、特に内容の整理作業は必要ないが。スケッチの仕上げなど時間内に終わらない場合には自習し、遅れないように務めること。		

受講者への要望

生物に対する漠然とした見方を変え、生き物を突き詰めて観察することを勧めます。

講義の順序とポイント

1.種子の観察 1
2.種子の観察 2
3.葉の観察 1
4.葉の観察 2
5.葉の観察 3
6.葉の観察 4
7.葉の観察 5
8.葉の観察 6
9.野外での同定
10.樹形の観察 1
11.樹形の観察 2
12.樹皮の観察 1
13.樹皮の観察 2
14.樹木マップの作製 1
15.樹木マップの作製 2
注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	J60168001
科目名	環境物理学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる熱，熱力学，相対論，量子論，物性論などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．熱量（1）：温度
2．熱量（2）：熱伝導方程式
3．熱量（3）：状態方程式
4．熱力学（1）：第１法則
5．熱力学（2）：第２法則
6．熱力学（3）：第３法則
7．相対論（1）：相対運動
8．相対論（2）：特殊相対性原理
9．相対論（3）：一般相対性原理
10．量子論（1）：量子仮説
11．量子論（2）：波動方程式
12．量子論（3）：原子構造
13．物性論（1）：共有結合
14．物性論（2）：イオン結合
15．物性論（3）：金属結合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60169001
科目名	樹木医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Woody Plant Health		
担当者名	本位田　有恒	旧科目名称	
講義概要	全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する知識について学ぶ。		
教材（テキスト）	堀大才・岩谷美苗「図解　樹木の診断と手当て」農文協　１，６２０円		
教材（参考文献）	財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂４版(Ｈ２６発刊予定)　８，５００円＋消費税 もしくは、なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点(５０％)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(５０％)により評価する。		
到達目標	樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。		
準備学習	教材(テキスト)を講義開始までに、読んで予習をしておくこと。 講義開催日毎の最終講義において、復習のレポートを提出すること。 なお身近な樹木についても、日々関心を持って見ること。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁。各講義で小テストを行う可能性あり。			
講義の順序とポイント			
①樹木医概論その１ ②樹木医概論その２ ③樹木の保護と保存 ④樹木の文化 ⑤都市における樹木(公園、街路) ⑥診断の方法と手順 ⑦病害の診断と防除 ⑧腐朽病害基礎 ⑨虫害の診断と防除 ⑩樹木の危険度診断(街路樹) ⑪樹木の剪定技術 ⑫樹木の外科的対策 ⑬樹木の移植法 ⑭植栽基盤 ⑮土壌改良と発根促進			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J60172001
科目名	森林立地・土壌学	単位数	2
科目名（英語表記）	Forest Stand and Soil Science		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、森林の成立に関与する土壌・気象・地形等の立地環境因子とその相互作用に焦点をあて、これらの因子が森林の種組成・構造・遷移などの諸特性にどのような影響を与えているかを考える。樹木－土壌－大気－水はひとつにつながった生態系であり、相互に影響を及ぼしながら物質のやりとりをしている。本講義では、森林における物質循環を取り上げ、森林生態系の機能や役割について考える。また、人為の影響を受けた二次林の成り立ちや特徴を学びながら、持続可能な森林管理のあり方を検討する。また、熱帯林を取り巻く立地環境と熱帯の林業の特徴についても学び、温帯と熱帯おける立地環境の違いと樹木の生理生態的特性を踏まえながら、各々の地域の森林の造成・保全上の問題点を解決する方法を検討する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「森のスケッチ」　中静 透 著　（東海大学出版会　2004 年） 「森林生態学」　岩坪 五郎 編　（文永堂出版　2003 年） 「最新土壌学」　九馬 一剛 編　（朝倉書店　1997 年）		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	小テスト等による平常点（40 点）と、期末試験（60 点）により評価する。		
到達目標	森林の物質循環や遷移と撹乱、樹木の生活史戦略など、森林生態学・森林土壌学分野の基本的な知識を習得すると共に、人と森との関わり方の変遷や問題点を学び、森林生態系や森林資源利用に関する多角的視点を習得する。		
準備学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。			
講義の順序とポイント			
1　森林立地とは？ 2　立地環境と森林土壌 3　森林の組成と環境要因 4　地形が生み出す植生の多様性 5　森林土壌と植生のつながりⅠ：森林の炭素循環 6　森林土壌と植生のつながりⅡ：森林の養分循環 7　森林生態系における分解者の役割 8　森林の遷移と攪乱 9　樹木の生活史戦略 10　熱帯の林業Ⅰ：択伐林業 11　熱帯の林業Ⅱ：タウンヤ林業 12　森林の分断化と孤立化 13　植生復元：土壌シードバンクの機能 14　二次林の成り立ちと土地利用の履歴 15　持続的な森林資源利用に向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60173001
科目名	樹木医学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Woody Plant Health		
担当者名	本位田　有恒	旧科目名称	
講義概要	全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する技術について学ぶ。		
教材（テキスト）	堀大才・岩谷美苗「図解　樹木の診断と手当て」農文協　１，５００円		
教材（参考文献）	財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂４版(Ｈ２６発刊予定)　８，５００円＋消費税		
教材（その他）	プリントやビデオ、パワーポイントを使う。		
評価方法	平常点(５０％)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(５０％)により評価する。		
到達目標	樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。		
準備学習	樹木医学で配布した教材(プリント)を実習開始までに、読んで予習をしておくこと。 講義開催日毎の最終講義において、復習のレポートを提出すること。 なお身近な樹木についても、日々関心を持って見ること。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁。			
講義の順序とポイント			
①樹木の病虫害観察実習Ⅰ ②樹木の病虫害観察実習Ⅱ ③樹木の病虫害観察実習Ⅲ ④樹木の腐朽病害観察実習Ⅰ ⑤樹木の腐朽病害観察実習Ⅱ ⑥周辺環境調査 ⑦樹木の地上部調査Ⅰ ⑧樹木の地上部調査Ⅱ ⑨樹木の地下部調査 ⑩危険度診断 ⑪剪定実習 ⑫剪定実習 ⑬剪定実習 ⑭土壌改良実習 ⑮土壌改良実習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J60177001
科目名	生物化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biological Chemistry		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	私たちは、毎日、食べ物を食べて、これを消化して吸収し、分解してエネルギーを得るとともに、体を構成している細胞を新しく作り直して、古い細胞と入れ替えている。その細胞の中では、化学反応が常に行われており、私たちの日々の活動を可能にしている。生物の体内はどんな反応が起こり、どのようにして生命が維持されるのかは、私たちの健康や、生物の生態を考える上での基本となる事柄であり、その概要を講義する。		
教材（テキスト）	森　誠著「生化学ノート」　講談社　2200 円＋消費税		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ＤＶＤやパワーポイントを活用する。色鉛筆（12 色）を使用するので持参すること。		
評価方法	期末試験（60%）と小テスト（40%）		
到達目標	生物の体内での物質変換と遺伝を理解する。		
準備学習	シラバスに毎回の講義の範囲を書いているので、予習をしておくこと。なお、授業の進行によって、シラバスの記載とのズレを生じたときには、講義終了時に次回の講義範囲を指定する。		
受講者への要望			
復習をしっかりと行い、基本となる用語を、その日のうちに理解しておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．生きるために必要な物質（1）： 糖、脂質 ２．生体をつくる物質（2）：タンパク質の構造、いろいろなタンパク質 ３．生体をつくる物質（3）：核酸 ４．体の中の化学反応（1）：酵素、補酵素 ５．体の中の化学反応（2）：酵素の反応速度 ６．タンパク質と遺伝子の関係（1）：転写 ７．タンパク質と遺伝子の関係（2）：翻訳 ８．遺伝子発現の調整 ９．DNA の複製 １０．遺伝子工学（1）：PCR 法 １１．遺伝子工学（2）：サンガー法 １２．遺伝子工学（3）：遺伝子組換え技術 １３．炭水化物の消化と吸収 １４．糖質代謝、エネルギーの獲得 １５．脂質とアミノ酸の代謝			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60178001
科目名	微生物学Ⅰ -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology I		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	微生物に関する全般的な基礎知識を学ぶ。後半には、ヒトに病気を起こす病原微生物について学び、公衆衛生・食品衛生の向上に資する知識を高める。		
教材（テキスト）	講義内容をまとめたテキストを配布する。		
教材（参考文献）	『Brock 微生物学』　Madigan MT 他著、室伏きみ子 他訳 オーム社　18,000 円 『IFO 微生物学概論』　発酵研究所 監修 培風館　4,700 円		
教材（その他）			
評価方法	確認テスト（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	1）微生物学の歴史的展開を理解する 2）細菌・アーキア・真核生物それぞれの細胞構造の特徴を理解する 3）微生物の代謝とその生理的な意味を理解する 4）微生物を取り扱う方法（培養・滅菌）を理解する 5）微生物による感染症とヒトの防御機構の基礎を理解する		
準備学習	前回までのテキストについて、空欄の抜けを無くしておくこと。 理解できなかった部分は参考文献などを参照し、テキストを増補して自分オリジナルの微生物学のテキストを作っていくこと。		
受講者への要望			
微生物の総合的な理解のため、また微生物実験に係る基礎知識修得のために、本講義と「微生物学 II」とをあわせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　微生物学の歴史 ２．　微生物の形態 ３．　微生物の細胞構造 ４．　微生物の栄養と生育 ５．　第１～４回の確認テスト ６．　微生物の培養と滅菌 ７．　微生物の一般的な代謝 ８．　微生物の代謝の多様性　1 ９．　微生物の代謝の多様性　2 １０．　第６～９回の確認テスト １１．　微生物感染 １２．　細菌由来の感染症 １３．　真菌・原生動物由来の感染症 １４．　ウイルス由来の感染症 １５．　第１１～１５回の確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60178002
科目名	微生物学Ⅰ -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology I		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	微生物に関する全般的な基礎知識を学ぶ。後半には、ヒトに病気を起こす病原微生物について学び、公衆衛生・食品衛生の向上に資する知識を高める。		
教材（テキスト）	講義内容をまとめたテキストを配布する。		
教材（参考文献）	『Brock 微生物学』　Madigan MT 他著、室伏きみ子 他訳 オーム社　18,000 円 『IFO 微生物学概論』　発酵研究所 監修 培風館　4,700 円		
教材（その他）			
評価方法	確認テスト（40%） 定期試験（60%）		
到達目標	1）微生物学の歴史的展開を理解する 2）細菌・アーキア・真核生物それぞれの細胞構造の特徴を理解する 3）微生物の代謝とその生理的な意味を理解する 4）微生物を取り扱う方法（培養・滅菌）を理解する 5）微生物による感染症とヒトの防御機構の基礎を理解する		
準備学習	前回までのテキストについて、空欄の抜けを無くしておくこと。 理解できなかった部分は参考文献などを参照し、テキストを増補して自分オリジナルの微生物学のテキストを作っていくこと。		
受講者への要望			
微生物の総合的な理解のため、また微生物実験に係る基礎知識修得のために、本講義と「微生物学 II」とをあわせて受講することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．　微生物学の歴史 ２．　微生物の形態 ３．　微生物の細胞構造 ４．　微生物の栄養と生育 ５．　第１～４回の確認テスト ６．　微生物の培養と滅菌 ７．　微生物の一般的な代謝 ８．　微生物の代謝の多様性　1 ９．　微生物の代謝の多様性　2 １０．　第６～９回の確認テスト １１．　微生物感染 １２．　細菌由来の感染症 １３．　真菌・原生動物由来の感染症 １４．　ウイルス由来の感染症 １５．　第１１～１５回の確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60180001
科目名	京野菜栽培加工実習 -sk 旧文系	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
講義概要	京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する．京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する．さらに収穫物を加工し口にすることの意義をフィールドで理解させる．		
教材（テキスト）	特に指定しない．		
教材（参考文献）	「図説　野菜新書」　朝倉書店　　「京野菜を楽しむ」　淡交社		
教材（その他）			
評価方法	管理作業状況　70%,　レポート　30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また栽培技術の初歩を習得する．さらに共食の重要性に気付く．		
準備学習	農業関係，食関係の書籍を読んでおくこと．特に京野菜の文献「京野菜を楽しむ」,「地方野菜大全」は必ず目を通し関連の作物についてメモをとること．		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてであると思うので，努めて畑に通い，その変化を観察することが重要である．また様々な食文化について情報を得るようにする．特に和食については社会が注目しているので，新聞や他のメディアを通じ情報収集するように努力すること．			
講義の順序とポイント			
1．京野菜のガイダンス 2．土づくりと播種準備，栽培に向けての注意事項 3．うね立てと整地 4．播種 5．畑作業と記録 6．除草中耕 7．間引きと記録 8．追肥・除草と地中温度の測定 9．除草・中耕と土壌中の生き物観察 10，間引き菜の料理と生体内硝酸態窒素の測定 11．ミズナの試食と生体内硝酸態窒素の測定 12．畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察） 13．加工実習（1）　漬物　／　京都大学大学院農学研究科附属農場見学（半数学生） 14．加工実習（2）　千枚漬　／　京都大学大学院農学研究科附属農場見学（半数学生） 15．加工実習（3）　野菜の料理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J60180002
科目名	京野菜栽培加工実習 -f	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する．京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する．さらに収穫物を加工し口にすることの意義をフィールドで理解させる．		
教材（テキスト）	特に指定しない．		
教材（参考文献）	「図説　野菜新書」　朝倉書店　　「京野菜を楽しむ」　淡交社		
教材（その他）			
評価方法	管理作業状況　70%,　レポート　30%		
到達目標	栽培体験を通じて作物の成長変化を学ぶ．また栽培技術の初歩を習得する．さらに共食の重要性に気付く．		
準備学習	農業関係，食関係の書籍を読んでおくこと．特に京野菜の文献「京野菜を楽しむ」,「地方野菜大全」は必ず目を通し関連の作物についてメモをとること．		
受講者への要望			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてであると思うので，努めて畑に通い，その変化を観察することが重要である．また様々な食文化について情報を得るようにする．特に和食については社会が注目しているので，新聞や他のメディアを通じ情報収集するように努力すること．			
講義の順序とポイント			
1．京野菜のガイダンス 2．土づくりと播種準備，栽培に向けての注意事項 3．うね立てと整地 4．播種 5．畑作業と記録 6．除草中耕 7．間引きと記録 8．追肥・除草と地中温度の測定 9．除草・中耕と土壌中の生き物観察 10，間引き菜の料理と生体内硝酸態窒素の測定 11．ミズナの試食と生体内硝酸態窒素の測定 12．畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察） 13．加工実習（1）　漬物　／　京都大学大学院農学研究科附属農場見学（半数学生） 14．加工実習（2）　千枚漬　／　京都大学大学院農学研究科附属農場見学（半数学生） 15．加工実習（3）　野菜の料理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J60181001
科目名	作物栄養学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	作物栄養学
講義概要	高等植物は、一般に光独立栄養生物であり、光と水と空気、土壌から供給されるミネラル栄養を吸収することによってその生活環を完了することができる。本講義では、主に土壌から供給される水やミネラルの吸収メカニズムやそれらの機能について理解することを目的としている。また、作物の栄養として土壌に投入する肥料等の種類や性質、それらを用いた農作物の肥培管理の考え方を理解する。講義にはプリント資料を配布し、毎回の講義後に復習のための確認テストを実施する。さらに講義３回終了ごとに小テストを実施し、理解度を確認する。		
教材（テキスト）	教材（テキスト）　なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「植物栄養学」第２版　間藤 徹、馬 建鋒、藤原 徹　編 著、文英堂出版 「土壌学の基礎―生成・機能・肥沃度・環境」松中照夫 著、農文協 「土壌診断と対策」土壌医検定１級試験対応、日本土壌協会		
教材（その他）	「肥料の来た道帰る道」高橋英一著、研成社		
評価方法	確認テストと小テストの理解度判定 40%、定期試験 60%。		
到達目標	植物が必要とする栄養成分や、体内での物質代謝について、基礎的理解を深める。また、農作物の肥培管理の考え方を理解する。		
準備学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしておく。		
受講者への要望			
植物の栄養確保の方法や、確保した栄養の体内代謝に関する基礎的な知識を学び、それらの知識に基づいて肥培管理技術が開発されてきたことを学んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１　農作物の生育の特徴と栄養特性　～植物と動物の栄養の違い～ ２　エネルギー生産と消費　～光合成と呼吸～ ３　作物の栄養特性　～どんな成分が、どれだけ含まれているのか？～ ４　植物の必須元素（１）　窒素、リン、カリウム　～植物の３大栄養～ ５　植物の必須元素（２）　その他の多量必須元素　～植物が必要とする栄養１～ ６　植物の必須元素（３）　微量必須元素、有用元素　～植物が必要とする栄養２～ ７　養水分の吸収と体内移動　～植物による栄養の吸収と循環～ ８　不良土壌への植物の応答　～困難な状況でも、がんばる植物～ ９　土づくりと肥料の役割　～健全な土壌に健全な作物が育つ～ １０　肥料の種類と性質　化学肥料　～すばやく摂取できる栄養～ １１　肥料の種類と性質　有機質肥料　～ゆるやかに摂取できる栄養～ １２　肥料の種類と性質　肥効調節型肥料　～効率良く摂取できる栄養～ １３　土壌改良資材と有用微生物　～土壌環境を改善する・整える～ １４　土壌診断と作物栄養診断　～栄養の不足、栄養の偏りを見つける～ １５　施肥設計の実践　～作物の栄養摂取のレシピづくり～			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60182001
科目名	分子生物学演習 …春第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス分野では日々新たなバイオ技術が使われ，今日のバイオ産業に発展を担ってきました．本講義では，それぞれの技法の基本的なコンセプトを理解することで，技法を習得することで，将来の応用力の基礎を身につけることを目指しています． 生体高分子であるタンパク質と核酸の分子性状と特性を把握し，種々の応用実験の原理と活する展開を理解できる課題に取り組み，種々のタンパク質に対応できる技術基盤とあらゆる生物の遺伝子資源を活用できる基盤技術の理解と習得をめざします．		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない． 必要に応じて，専門実験の分子生物学実験の実験指導書を利用し，適宜プリントも配布する．		
教材（参考文献）	分子生物学分野の最新技法の理解を深めるのに必要な参考図書や実験技法のビデオライブラリーなどは，バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書・ビデオなどを，閲覧活用できるような利便を図っている．		
教材（その他）	毎回の演習資料などパワーポイントやビデオなどを活用して，演習時間内に提示する．		
評価方法	必修の演習であり，全回出席しなければならない． 成績の評価は，以下に示す内容を考慮し，総合的に評価する． ・演習課題の達成度(70%) ・演習中の評価・実験ノートやレポートの課題の評価(15%) ・実験課題の発表会の発表(15%)		
到達目標	以下の 5 項目を重点的な達成目標とする． ・演習課題の理解・解決の達成 ・実験に必要な試薬濃度などの計算演習の習得と実験結果の整理法の把握 ・実験機器の操作手順と注意事項の把握 ・実験成果のプレゼン・スキルの習得 ・研究グループ内のコミュニケーションによる意思疎通の徹底		
準備学習	事前に演習内容を把握しておくこと． 履修する前に配布してある実験手引書の指定日時の実験前に、実験を理解するうえで重要な原理・原則の項目をしっかり精読し、自分の実験ノートに実験の目的と実験目標となる技能をしかっり認識して実験講義に臨むこと．		
受講者への要望			
遅刻は安全な実験を行う上であってはならないことである．開始前の注意事項や連絡事項をメモする機会であるから，しっかりメモする習慣も身につけること．午後の始めにある演習であることから，自己の体調管理をしっかりして臨むこと． 理解が十分でない点は，積み残さないで，演習担当者から早めに演習を受けること			
講義の順序とポイント			
1.　分子生物学演習のガイド 2.　実験結果の精度と誤差および統計処理について 3.　緩衝液の原理と pH の理解 4.　タンパク質の等電点とアミノ酸組成について			

5. イオン交換クロマトグラフィーの原理
6. ゲルろ過クロマトグラフィーの理解
7. アクリルアミドゲル・アガロースゲルの理解
8. 電気泳動・遠心力による生体高分子の分離原理の理解
9. 検量線作成の基本と理解
10. 分子量の求め方について
11. PCR 反応や酵素反応の反応特性の理解
12. 遺伝子組換え操作と制限酵素や修飾酵素の理解
13. 遺伝子選別の原理と遺伝子発現制御機構の理解
14. 測定機器の操作と原理の理解
15. 測定器具の操作と原理の理解

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J60183001
科目名	有機化学演習 …春第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	有機化学実験を実施するにあたり、必須事項である有機化合物の性質、安全な取扱い方法、実験器具や機器についての正しい使用法等を演習形式で習得する。また、有機機器分析法の基本概念や、生物試験の特徴を習得する。合わせて、実験ノートや報告書の作成についての演習を行う。		
教材（テキスト）	有機化学実験指示書、配布資料		
教材（参考文献）			
教材（その他）	関数電卓、分子模型		
評価方法	レポート、小テストの成績(70%)、受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	有機化学実験の目的と内容、手順を理解すること。実験結果の整理、解釈、考察が適切に出来ることを目標とする。		
準備学習	指示書、配布資料を熟読して、有機合成化学実験にかかわる知識、手順を整理しておく。		

受講者への要望

本演習は有機合成化学実験をスムーズかつ効果的に実施するために必要な知識や手順を体得するためのものである。本演習を受講しない学生や遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1）　有機合成化学、安全教育
2）　酸化反応、甘味料
3）　実験ノート、実験報告書の作成
4）　バイオアッセイ　（甘味試験他）
5）　光学異性体の旋光度測定
6）　光学分割
7）　光学異性体と天然物
8）　光学異性体と不斉合成
9）　置換反応、植物生長調節剤の用途、農薬
10）　有機反応機構
11）　バイオアッセイ　（植物試験他）
12）　クロマトグラフィー
13）　Ｗｉｔｔｉｇ反応と炭素－炭素結合形成反応
14）　有機機器分析Ⅰ
15）　有機機器分析Ⅱ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60184001
科目名	食品・栄養科学演習 …春第三期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品・栄養科学実験の各課題に対して、その実験の背景、必要な試薬の濃度計算や調製法、実験機器の使用法、測定法の原理等の基礎知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。 演習書をプリントにして配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（20%）、レポート（40%）、試験（40%）。		
到達目標	実験の背景を理解する。正確な実験を遂行するための基礎知識を習得する。結果発表会はチーム（4 人）が協力し合い、プレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。		
準備学習	必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。		

受講者への要望

この演習は食品・栄養科学実験の内容説明も兼ねている。この演習に出席しないものは食品・栄養科学実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1．食品・栄養科学実験オリエンテーション（食品実験のための心得など）
2．濃度計算
3．食品からのタンパク質分離精製法
4．タンパク質の定量法
5．脂肪のケン化と GC 分析による脂肪酸定量法
6．原子吸光によるカルシウム定量法
7．麹酵素の精製と力価測定法
8．食品の微生物検査法
9．実験動物の取扱方
10．アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製法
11．結果発表会（中間時期および終了時期の計２回）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2017	授業コード	J60185001
科目名	応用微生物学演習 …秋第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	応用微生物学実験に伴い、実験の背景となる学問内容の講義と問題演習を行う。		
教材（テキスト）	応用微生物学実験と共通		
教材（参考文献）	Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編（2002）培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編（1999）講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編（1986）講談社		
教材（その他）			
評価方法	応用微生物学実験と共通		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノートの書き方を学ぶ。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」を受講すると、より理解が深まる。各講義項目に関する学術論文を予め調査することで理解を深めておくことが望ましい。 また、応用微生物学実験とリンクして進行するので実験法との関連を把握しておくこと。		
受講者への要望			
全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。			
講義の順序とポイント			
１） 培地の調製 ２） 微生物の染色 ３） 微生物の増殖 ４） 微生物の代謝１ ５） 微生物の代謝２ ６） 微生物の代謝３ ７） 有用微生物のスクリーニング１ ８） 有用微生物のスクリーニング２ ９） 有用微生物のスクリーニング３ １０） 微生物による物質生産１ １１） 微生物による物質生産２ １２） 微生物による物質生産３ １３） 発酵・醸造１ １４） 発酵・醸造２ １５） 発酵・醸造３ 実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	J60186001
科目名	植物バイオ演習 …秋第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物の生長解析や細胞工学の基礎となる、① 植物の細胞・組織培養、 ② 光合成活性、 ③ 窒素代謝などを取りあげて、その背景を理解するとともに、実験法や解析法などについての演習を行う。		
教材（テキスト）	なし、最初に植物バイオ実験と共通のプリントを配布する。		
教材（参考文献）	最初の時間に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	演習解答などの平常点（50%）および小試験（50%）から評価する。		
到達目標	植物の基本的な機能の実験法や解析法に対する理解を深める。		
準備学習	植物バイオ実験と共通のテキストを配布するので、掲載の実験法、解析法について事前に理解を深めておくことが望ましい。		
受講者への要望			
植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、植物代謝工学、分子生物学などを復習し、理解を深めておくこと。			
講義の順序とポイント			
1. 植物の組織培養実験法および解析法（１） 2. 植物の組織培養実験法および解析法（２） 3. 植物の組織培養実験法および解析法（３） 4. 植物の組織培養実験法および解析法（４） 5. 植物の組織培養実験法および解析法（５） 6. 光合成実験法および解析法（１） 7. 光合成実験法および解析法（２） 8. 光合成実験法および解析法（３） 9. 光合成実験法および解析法（４） 10. 光合成実験法および解析法（５） 11. 植物栄養代謝実験法および解析法（１） 12. 植物栄養代謝実験法および解析法（２） 13. 植物栄養代謝実験法および解析法（３） 14. 植物栄養代謝実験法および解析法（４） 15. 植物栄養代謝実験法および解析法（５）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J6018700A
科目名	有機化学実験 …春第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	有機合成化学実験を中心に、最も重要である化学物質を取扱うための知識と技術および合成化学実験で用いる器具や機器についての正しい使用法を習得する。更に、有機機器分析実験を通して、最新の分析技術、生物試験を通して生物への反応の特徴を習得する。実験結果のまとめ方や報告書の作成についても習熟する。実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も行う。		
教材（テキスト）	配布資料（生物有機化学研究室編・実験指示書　有機化学実験） 安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	関数電卓		
評価方法	実験レポートの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	実験の目的と内容、手順を理解することと、実験操作の習熟と実験結果の整理、解釈、考察が出来ることを目標とする。		
準備学習	指示書を熟読して、器具、薬品等の取扱いを含め、実験手順を整理しておく。		

受講者への要望

有機化学演習での解説や実験開始前に指示書に従い説明する実験内容を十分に理解すること。演習および実験説明に遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。

講義の順序とポイント

1）　オリエンテーション、安全講習、ガラス細工
2）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　1
3）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　2
4）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　3、甘味試験
5）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　1
6）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　2
7）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　3
8）　（±）－１－フェニルエチルアミンの光学分割　4
9）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　1
10）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　2
11）　置換反応による植物生長調節剤２，４－Ｄの合成　3、植物試験
12）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　1
13）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　2
14）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　3、機器分析
15）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　4、機器分析

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J6018900A
科目名	食品・栄養科学実験 …春第三期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Food Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品・栄養科学実験を通じて、食品成分、食品の機能性、動物の扱い、食品における微生物管理など食品分野で重要かつ基礎的な実験技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	実験指導書をプリントにして配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（80%）：実験ノートおよびチェックシートの記入、結果発表会での資料作成と発表、出席状況、実験への取り組みなど。 試験（20%）。		
到達目標	実験技術、実験内容を理解する。実験結果の解析を行なうことができる。チーム 4 人が意志の疎通をはかり、協力し合って実験をスムースに進めることができる。結果発表会はプレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。		
準備学習	必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。		
受講者への要望			
実験の心得に従うこと。遅刻厳禁（遅刻者は記録し、ペナルティを与える）。			
講義の順序とポイント			
1．食品成分の分離（牛乳からカゼインの分離）とアミノ酸、タンパク質の定性・定量実験（呈色反応）、脂肪のケン化と GC 分析による定量およびカルシウムの定量（原子吸光分析）。 2．麹の酵素（アミラーゼ）力価を測定。 3．食品の微生物検査。 4．高脂肪食ラットの血清脂質および肝臓脂質の測定。 5．アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J6019100A
科目名	応用微生物学実験 …秋第一期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Applied Microbiology		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	2 回生秋学期の「基礎バイオサイエンス実験」での微生物学実習に引き続き、一般微生物学の基礎的な技法について学ぶ。さらに、それらの技法を使って応用微生物学に関する実験を行う。		
教材（テキスト）	テキスト（ワークブック＋実験ノート）を配布する。		
教材（参考文献）	Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編（2002）培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編（1999）講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編（1986）講談社		
教材（その他）			
評価方法	・実験態度、実験台の整理整頓（20%） ・実験ノートへの適切な記述（40%） ・ワークブックの問題への解答（40%） 「ノートチェック」として実習中にワークブック、実験ノートを 3 回評価し、その評点の合計を元に総合的に評価する。		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノートの書き方を学ぶ。		
準備学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」を受講すると、より理解が深まる。応用微生物学演習とリンクして進行するので、予め実験法の原理を理解しておくこと。		
受講者への要望			
全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。			
講義の順序とポイント			
1） 培地の調製 2） 微生物の染色 3） 微生物の増殖 4） 微生物の代謝 1 5） 微生物の代謝 2 6） 微生物の代謝 3 7） 有用微生物のスクリーニング 1 8） 有用微生物のスクリーニング 2 9） 有用微生物のスクリーニング 3 １０） 微生物による物質生産 1 １１） 微生物による物質生産 2 １２） 微生物による物質生産 3 １３） 発酵・醸造 1 １４） 発酵・醸造 2 １５） 発酵・醸造 3 実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	J6019200A
科目名	植物バイオ実験 …秋第二期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Plant Science		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	植物の生長解析や細胞工学の基礎となるいくつかのテーマを取りあげ、その背景を理解しつつ実験技術とその解析法を修得することを目的とする。 第 1 に、植物細胞工学の基礎となる植物組織・細胞培養を取りあげ、無菌操作・無菌培養などの基礎技術の修得や植物ホルモンとの関連などについて理解する。 第 2 に、光合成を取りあげ、細胞分画の基礎、光合成活性測定とその解析法などを修得する。 第 3 に、窒素栄養代謝を取りあげ、その生化学的実験技術や解析法、成分分析法などについて修得する。		
教材（テキスト）	実験の最初にプリント（テキスト）を配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実験レポートで評価する。		
到達目標	植物の基本的細胞機能の解析に必要な実験法・実験技術を取得し、実験データを適切に解釈し、表現できること。		
準備学習	実験テキストについて、当日までに研究背景、目的、実験手順の要点を実験ノートにまとめておくこと。実験終了時には、実験データを整理し、データの解釈を行い、実験ノートにまとめること。事前学習で不十分な点を、実験テキストと一緒に配布済の参考資料などで、補足し、レポート作成、発表の準備に繋げること。また、「安全の手引き」の内容は常に確認しておくこと。		

受講者への要望

関連する講義課目（植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、植物代謝工学、分子生物学）を受講しておくことが望ましい。
実験を安全に行うために、服装や受講態度に留意し、教員や実験助手の指示を守ること。
関連する講義課目と専門実験の総仕上げに当たることを意識し、主体的に取り組む。

講義の順序とポイント

1. 植物の組織培養実験法および解析法（1）
2. 植物の組織培養実験法および解析法（2）
3. 植物の組織培養実験法および解析法（3）
4. 植物の組織培養実験法および解析法（4）
5. 植物の組織培養実験法および解析法（5）
6. 光合成実験法および解析法（1）
7. 光合成実験法および解析法（2）
8. 光合成実験法および解析法（3）
9. 光合成実験法および解析法（4）
10. 光合成実験法および解析法（5）
11. 植物栄養代謝実験法および解析法（1）
12. 植物栄養代謝実験法および解析法（2）
13. 植物栄養代謝実験法および解析法（3）
14. 植物栄養代謝実験法および解析法（4）
15. 植物栄養代謝実験法および解析法（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J6019300A
科目名	分子生物学実験 …春第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	バイオサイエンス分野の基本的な実験である生化学実験や遺伝子化学実験をおこなう．生体物質であるタンパク質の基本的な実験と酵素反応を解析する実験，および遺伝子である DNA の扱いと塩基配列解析実験と組み換え遺伝子の発現実験を通じて，種々の実験機器を扱う基本的な技術基盤を理解し，操作も習得し，基本技法の原理の理解を深め，タンパク質の性状，機能などの理解と DNA の性状，遺伝子の調節機能などの理解を深化させる実験実習をめざす．		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない． 実験指導書はプリントにして，開講時に配布する． 実験レポートの課題や発表会の課題は，実験進行に合わせて，案内する．		
教材（参考文献）	実験の理解を深める参考図書などは，実験実習時間内に案内するほか，バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書を指定し，活用の利便性も図っている．		
教材（その他）	必要に応じて，毎回の実験開始前にパワーポイントやビデオ教材などを活用して，提示する．		
評価方法	必修の演習であり，全回出席しなければならない． 成績の評価は，以下に示す内容を考慮し，総合的に評価する． ・演習課題の達成度(70%) ・演習中の評価・実験ノートやレポートの課題の評価(15%) ・実験課題の発表会の発表(15%)		
到達目標	以下の 5 項目を重点的な達成目標とする． ・演習課題の理解・解決の達成 ・実験に必要な試薬濃度などの計算演習の習得と実験結果の整理法の把握 ・実験機器の操作手順と注意事項の把握 ・実験成果のプレゼン・スキルの習得 ・研究グループ内のコミュニケーションによる意思疎通の徹底		
準備学習	配布された実験手順書を事前に読み，実験手順の概要などを実験ノートに整理して，実験当日の手順の操作や時間経過の計画をまとめること． さらに手順書に書かれている内容や課題を十分理解できない場合は，事前に下調べをしておくこと． なお、事前準備の後でも，疑問や不明なことがあれば，必ず実験開始前の質問タイムを利用して，質問内容を整理して教員に質問すること．		
受講者への要望			
バイオサイエンス分野で必要な専門実験実習について正しい基本を習得するものである．比較的長時間集中しなければ実験の進行が滞るので，過密なスケジュールにならないように，各自のタイムマネージメント（実験期間の体調自己管理も大切）も大切である． 実験レポート・課題演習・実験結果報告会も含めて，グループ内でメンバー間の円滑なコミュニケーションを図り，自己のスキルを磨いてほしい． 専門実験で身につけたスキルは，卒業研究や就活にも必要な基本的な能力を高めるものであることを確信して下さい．			
講義の順序とポイント			
1-2.　実験概要の全体説明と実験試薬などの準備、緩衝溶液の作成や濃度計算と滅菌方法 3-4.　　実験試料の取扱い・抽出操作・分離・分画の操作 5-6.　　タンパク質の抽出と可溶化とタンパク質の定量 7-8.　　タンパク質の分離，分画の基本操作 9-10.　タンパク質の分離，タンパク質のゲル濾過クロマトグラフィーによる分離			

11-12.　タンパク質の分離，タンパク質のイオン交換クロマトグラフィーによる分離
13-14.　タンパク質の SDS-PAGE
15-16.　コンピテント細胞の作製と形質転換
17-18.　プラスミド DNA の抽出と調製と精製
19-20.　遺伝子断片の増幅とサブクローニング
21-22.　PCR の理解と活用
23-24.　組換えタンパク質の発現誘導と可溶化精製
25-26.　発現タンパク質の機能解析と純度検定
27-28.　実験成果の整理とグループ内検討
29-30.　実験結果の評価と相互に検討課題の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J60194001
科目名	地球科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	地球科学は自然科学，特に物理学・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる太陽放射，超高層，大気，気象，海洋などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習，地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．太陽放射（１）：核融合 ２．太陽放射（２）：黒体放射 ３．太陽放射（３）：太陽定数 ４．超高層（１）：磁気圏 ５．超高層（２）：熱圏 ６．超高層（３）：中間圏 ７．大気（１）：成層圏 ８．大気（２）：対流圏 ９．大気（３）：大循環 10．気象（１）：気象現象 11．気象（２）：天気図 12．気象（３）：季節変化 13．海洋（１）：海水 14．海洋（２）：潮汐 15．海洋（３）：海流			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60195001
科目名	健康食品学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	高齢化社会を迎え，健康食品の効果，安全性，医薬品との関係など，健康食品をめぐる問題は多く，摂取の仕方によっては，人の健康に深刻な影響を与える。本講義では，食品学および栄養学などの基礎にたって，健康食品がもつ問題を多角的に論じ，正しい健康食品のあり方，適用法について学ぶ。また健康食品を中心とした食のリスクコミュニケーターとしての役割についても論じる。なお，この科目は健康食品管理士認定試験の受験資格に必須であり，この講義中に認定試験のための事前準備も行う。		
教材（テキスト）	「新版 健康食品学」および「新版 問題解説集」一般社団法人日本食品安全協会　5,142 円/セット 上記教材は一般の書店で取り扱っていないため、下記のホームページを参考に、各自で購入するか、担当教員に相談して購入すること。特に健康食品管理士認定試験の受験を予定しているものは必ず購入すること。 http://www.ffcci.jp/publication/index1_2.html		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	小テスト(40%)，レポート(30%)，授業態度等の平常点(30%)を総合的に評価する。		
到達目標	健康食品管理士の資格取得を目標とする。更に，健康食品について現状を正確に把握し，科学的知見に基づいて判断できる食のリスクコミュニケーターの素養も身につける。更に興味ある学生は，健康食品管理士の資格取得を目標としても良い。		
準備学習	講義終了時に，次回の範囲を指定するので，テキストを熟読しておくこと。その範囲内の問題解説集も読んでおくこと。毎回の授業で行った小テストの復習を行うこと。		

受講者への要望

健康食品管理士認定試験に合格することを目指して欲しい。そのためには，講義には必ず出席し，予習，復習を積極的に行い，疑問点があれば積極的に聞くようにすること。また，健康食品学で学んだ用語について，自分の言葉で表現できる能力を身につけること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 食のリスクコミュニケーターの役割
3. 健康食品総論（１）
4　健康食品総論（２）
5. 医薬品と健康食品の相互作用
6. 疾患と病態解析
7. 健康食品の関係法規
8. 中間試験
9. 健康食品各論（１）
10. 健康食品各論（２）
11. 健康食品をめぐる問題点
12. 食品の安全性
13. 食品の表示
14. 健康食品の品質管理
15. 健康食品学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60196031
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　？？？ ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.？　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の？「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J60196032
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　？？？ ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.？　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の？「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J60196033
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s3	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　??? ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.？　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の？「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J60196034
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎演習
2．可算名詞・不可算名詞演習
3．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
4．第１文型・第３文型演習
5．形容詞演習
6．第２文型演習
7．第４文型・第５文型演習
8．総合演習（１）
9．副詞演習
10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
11．前置詞演習
12．助動詞演習
13．動詞の時制演習
14．受動態演習
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J60196035
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎演習
2．可算名詞・不可算名詞演習
3．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
4．第１文型・第３文型演習
5．形容詞演習
6．第２文型演習
7．第４文型・第５文型演習
8．総合演習（１）
9．副詞演習
10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
11．前置詞演習
12．助動詞演習
13．動詞の時制演習
14．受動態演習
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J60196036
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　？？？ ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～7.？　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9～15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の？「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J60196037
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．英文・和文基礎演習 ２．可算名詞・不可算名詞演習 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞演習 ４．第１文型・第３文型演習 ５．形容詞演習 ６．第２文型演習 ７．第４文型・第５文型演習 ８．総合演習（１） ９．副詞演習 10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習 11．前置詞演習 12．助動詞演習 13．動詞の時制演習 14．受動態演習 15．総合演習（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J60197031
科目名	科学英語基礎II -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～8.？　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の ??????「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　　中間テストをする。 10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と ?????????? ?????? 「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J60197032
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～8.？　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の ??????「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　　中間テストをする。 10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と ?????????? ?????? 「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J60197033
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s3	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　？？？　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～8.？　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の ？？？？？「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　　中間テストをする。 10～15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と ？？？？？？？？？？ ？？？？？「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J60197034
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J60197035
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J60197036
科目名	科学英語基礎II -s(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎II」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考文献）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』（京都学園大学、バイオ環境学部)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	試験、実力問題、課題などの結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講者への要望

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

講義の順序とポイント

1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2〜8.？　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の
??????「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

9.　　中間テストをする。

10〜15.　「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と ??????????
?????? 「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J60197037
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ⅰ・科学英語基礎　Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J6019800A
科目名	ランドスケープエコロジー実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープエコロジーの理論を応用しながら、GIS で空間分析を行い、課題解決のための主題図を作成する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	ArcGIS for Desktop 逆引きガイド（ESRI ジャパン）		
教材（その他）	適宜、資料を配付する。		
評価方法	課題レポート（100%）により評価する。		
到達目標	基本的な GIS 操作技術を身につけ、意図した主題図をつくることができる。		
準備学習	PC 教室で GIS を操作してみる。		

受講者への要望

GIS は現象を分析する上でとても有用なツールです。特に、デザイン学科の卒業研究では GIS 技術の有無が大きく影響してくるので積極的に履修してください。

講義の順序とポイント

1.GIS の基本操作
2.GIS の基本操作
3.GIS の基本操作
4.GIS の基本操作
5.GIS の基本操作
6.空間解析の練習
7.空間解析の練習
8.空間解析の練習
9.データ作成
10.課題 1
11.課題 1
12.課題 2
13.課題 2
14.課題 3
15.課題 3
注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★★	–	★	★

年度	2017	授業コード	J60199001
科目名	ランドスケープデザイン	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープ＝地域の景観は人と自然の共同作品である。地球４６億年の歴史とともに、人間によるごくわずかな期間の間になされた、大きな働きかけ＝土地利用と資源利用、およびその結果発生したさまざまなインパクトが、景観を作ってきた。それゆえ、景観を丁寧に分析すれば、自然環境の論理と、それに対応してきた人間の文化の論理を浮かび上がらせることができる。 一方、地球環境危機の現在、自然との共生や低炭素、循環型社会への転換が求められる中、自然立地的な土地利用への転換が不可欠であって、流域は重要な景観単位となる。この講義では、そのプランニングとデザインの手がかりとして、流域景観＝ランドスケープから都市緑地、庭園、など具体的なプランニング、デザイン、マネージメントの提案を行うランドスケープ・アーキテクチャーの世界を紹介する。		
教材（テキスト）	森本幸裕・編著『景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社（2100 円）		
教材（参考文献）	森本幸裕・白幡洋三郎編著『環境デザイン学 - ランドスケープの保全と創造』　（「比較流域景観論」と共用） 樋口忠彦著『景観の構造』技報堂出版、 佐々木葉二ら著『ランドスケープの近代』鹿島出版会		
教材（その他）	日本景観生態学会のブログ{http://jale.sblo.jp/index-11.html} 日本造園学会の HP{http://www.jila-zouen.org/} を参考にしてください。		
評価方法	出席状況等による平常点（２０％）　授業中のミニレポート（20%）　期末課題レポート（60%）		
到達目標	身の回りから国土レベルまで、景観をその生成要因とともにとらえられるようになり、新たな望ましい景観がイメージできるようになること		
準備学習	いいな、と思った景観の成り立ちについて、調べる習慣をつけてください。 休日などを利用して「名勝」「文化的景観」や良好な緑地を訪れてください。		
受講者への要望			
わかりにくいところ、疑問点があれば、遠慮なく質問をしてください。			
講義の順序とポイント			
１．導入：ランドスケープの世界：フィジオトープとバイオトープと文化：京都の景観 ２．ランドスケープ・アーキテクト、その専門職能：大阪花博を例に ３．歴史・原論：庭から公園へ、都市公園の原点 ４．緑化からハビタット再生へ：大阪万博記念公園を例に ５．近代ランドスケープデザイン・プランニングの主要コンセプト ６．アートとランドスケープ：イサム・ノグチ、ガウディ、越後妻有 ７．文化財としてのランドスケープ：名勝と文化的景観 8～11．現代都市ランドスケープデザインのコンセプト （１）景観政策 （２）街路樹 （３）健康とみどり （４）都市の生物多様性指標 12～14．自然公園とその展開 （１）京都の自然公園 （２）我が国の自然公園 （３）世界の自然公園 １５．ランドスケープマネジメント （※進行状況に応じて適宜変更することがある）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60200001
科目名	物理化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Chemistry		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理化学は物質科学の分野の中で，理論を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，物質科学の精確な理解のためにはまず最初に物理化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理化学の体系の中で物質科学の基礎となる量子，熱現象，反応速度などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	築山　光一　他　編　『ベーシックマスター　物理化学』　オーム社（４，３００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	テスト（１００％）		
到達目標	物理化学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．量子論（１）：量子力学 ２．量子論（２）：水素原子 ３．量子論（３）：水素分子 ４．量子論（４）：化学結合 ５．量子論（５）：分子構造 ６．化学熱力学（１）：熱力学法則 ７．化学熱力学（２）：化学ポテンシャル ８．化学熱力学（３）：化学平衡 ９．化学熱力学（４）：溶液 10．化学熱力学（５）：微視系 11．速度論（１）：気体分子運動論 12．速度論（２）：速度式 13．速度論（３）：反応機構 14．速度論（４）：固体表面 15．速度論（５）：微視系			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J6020100A
科目名	実践プロジェクトB -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	地域の農業経営者や食品企業などが抱える現実に存在する問題や仮想の問題、あるいはまだ顕在化していないがいずれ問題となると思われる事柄について、問題を深く理解したうえで解決策を考える。具体的には、数名からなるグループを形成し、バイオサイエンスに関わる課題を自ら発見・設定し、グループ内、グループ間、グループ外とのコミュニケーションをとりながら、調査・研究活動を主体的に実施し、活動の成果をとりまとめ、発表する。その中で、現実社会の様々な問題を理解し「対案を提起する力」を「コミュニケーション力」とともに実践的に養う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループ発表の成果(30%)に、個々の学生に課すレポート(70%)を加味して評価する。		
到達目標	課題を発見し、問題点を絞り込み、主体的に調査・研究、必要に応じて実験を行い、調査研究結果を取りまとめ、発表する基礎力を養う。		
準備学習	バイオサイエンス分野だけでなく、社会一般の出来事や問題について日常的に考える習慣を養っておく。		

受講者への要望

学生各自が自発的主体的に取り組むことが不可欠である。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. モデルケースでの問題解決プロセスの習得１　グループ作り
3. モデルケースでの問題解決プロセスの習得２　課題の解決プロセスの策定
4. モデルケースでの問題解決プロセスの習得３　情報の活用
5. モデルケースでの問題解決プロセスの習得４　内容のまとめ方
6. プロジェクト課題の提案と討議
7. プロジェクト課題についての絞り込み
8. 調査・研究・情報交換
9. 調査・研究・情報交換
10. 中間発表会(1)
11. 中間発表会(2)
12. 追加調査・研究・情報交換
13. 追加調査・研究・情報交換
14. 発表会(1)
15. 発表会(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J6020100B
科目名	実践プロジェクトＢ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。 例えば、概ね５名程度のグループごとに、京都市梅小路公園をフィールドに、（公財）京都市都市緑化協会と新たな公園マネジメントの取組みテーマを定め、提案と試行を行う。		
教材（テキスト）	特に無し。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
準備学習	「生物多様性国家戦略」や京都市の「生物多様性プラン」、「みどりの基本計画」などに目を通しておいてください。		
受講者への要望			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
講義の順序とポイント			
１：オリエンテーション@教室 ２－５：現場研修（日・祝日に集中で行う） ６－９：企画検討（日・祝日に集中で行う） １０－１３：実施（日・祝日に集中で行う） １４－１５：まとめと発表@教室 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J6020100C
科目名	実践プロジェクトＢ -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	地域や企業等が抱える現実に存在する問題点や仮想の問題点に対し、その解決をどのように目指すのかを考える。あるいはまだ顕在化していないがいずれ問題となると思われる点の抽出を行う。具体的には、実地調査や資料調査、その解析、ディスカッションを行い、問題解決の力を実践的に身に付ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への取り組む姿勢 80% 成果発表 20%		
到達目標	１．正しい情報を集めることができる。 ２．情報をもとにして、課題取組の計画を立てることができる。 ３．チームで協力して物事に取り組むことができる。 ４．チームで取り組みの内容をまとめることができる。		
準備学習	日常生活の中から課題を見つける。グループ内で決められた仕事を次の時間までに完成させる。		
受講者への要望			
グループのメンバーとしての責任を持って積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
１ガイダンス ２モデルケースでの問題解決プロセスの習得１　グループ作り ３モデルケースでの問題解決プロセスの習得２　課題の解決プロセスの策定 ４モデルケースでの問題解決プロセスの習得３　情報の活用 ５モデルケースでの問題解決プロセスの習得４　内容のまとめ方 ６課題決定 ７情報収集 ８計画立案 ９調査１ １０調査２ １１調査３ １２内容のまとめ １３発表原稿作成 １４発表会１ １５発表会２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J6020101B
科目名	実践プロジェクトB -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	水環境に関係する施設を訪問し従業員に取材して取材内容をとりまとめる。取材をもとに、水環境を良くするための対策を考えて口頭およびポスターで発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	取材内容（50%）、発表（50%）		
到達目標	労働の現場で取材して内容を的確に取りまとめ、その内容をもとにして、自分環境浄化方策を提言する。		
準備学習	現地施設を訪問する前に、施設の概要を調べて頭に入れておき、取材すべき内容を事前にメモ書きで準備すること。		
受講者への要望			
川、海、湖などや、上下水道など、水に関するニュースを日ごろから読んでおくこと			
講義の順序とポイント			
１．授業の概要説明と現地調査に必要な基礎知識 ２．第１回現地調査の要領を説明 ３－４．第１回現地調査：下水処理場（予定日は 4 月 23 日） ５．第２回現地調査の要領を説明 ６－８．第２回現地調査：浄水場（予定日は 5 月 6 日） ９－１２．調査結果を１人ずつ発表 １３．個人ごとの調査内容を 4-5 人のグループでとりまとめて、発表ポスターを製作 １４．第１回ポスター発表を行い、皆さんの意見を聞いて内容を修正 １５．修正版をもとに発表を行い、再修正して完成版をつくる			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J6020102B
科目名	実践プロジェクトB -k3	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	大学近辺でのボランティア活動を中心としたフィールドワークに参加し、参加体験をレポートを提出し、最後に総合的なグループディスカッションとして、パワーポイントと A1 パネルとして取りまとめる		
教材（テキスト）	必要に応じて地図や冊子を配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ここのフィールドワークのレポートと最後の総合討論など、積極的な参加の程度を判定、評価する		
到達目標	実際に現場を歩いて、現場から問題点や特徴を抽出できる力を養う、また、そういった意見をグループの中で発言できるように取りまとめる力も養う		
準備学習	ある程度の山道で距離のある区間を歩けるように準備を整えておくこと		
受講者への要望			
実際のフィールドワークではリュックサック、靴、帽子など、山歩き、街歩きなどの道具を準備しておくこと			
講義の順序とポイント			
フィールワークとして予定しているのは 綾部市古屋集落でのボランティア活動であり 以下のように３回に分けて実施する 現地では、他の大学の学生らも参加するので、他大学との交流なども積極的に行ってほしい 現地へは大学のマイクロバスでの往復を予定している ６月　トチノキの蜂蜜プロジェクト視察と洞峠越え ７月　トチノキの鹿よけネットの補修 ９月　トチノキの実を拾う			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J602010BB
科目名	実践プロジェクトＢ -k(登録用)	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。 例えば、概ね５名程度のグループごとに、京都市梅小路公園をフィールドに、（公財）京都市都市緑化協会と新たな公園マネジメントの取組みテーマを定め、提案と試行を行う。		
教材（テキスト）	特に無し。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
準備学習	「生物多様性国家戦略」や京都市の「生物多様性プラン」、「みどりの基本計画」などに目を通しておいてください。		
受講者への要望			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
講義の順序とポイント			
１：オリエンテーション@教室 ２－５：現場研修（日・祝日に集中で行う） ６－９：企画検討（日・祝日に集中で行う） １０－１３：実施（日・祝日に集中で行う） １４－１５：まとめと発表@教室 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J6020200A
科目名	実践プロジェクトC	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience C		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	地域おこしに関わる自治体や NPO,企業との連携を実践的に行うことを目的とする。内容については、原則として、企業や地元からの依頼を受けたものや実践プロジェクト B で自ら考案したものを発展させる。それぞれの目的のために少人数のグループを作り、自ら考え行動することによって、自己表現力や協調性、行動力、課題解決能力を養う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	チームへの参加程度（積極的に参加しているか：50%)、3 回以上の時間外の参加（30%)、発表会の準備と参加（20%）		
到達目標	実践プロジェクト B のさらなる発展、または地域の行政、研究所や企業との共同で進める事業、食品開発センターでのものづくりを通じて、問題解決法の提案、大学間コンペへの参加、ものづくりや商品づくりのターゲットの明確化が図れる。		
準備学習	ターゲットに対する技術調査、実験・実習法の理解、技術習得などをはかる。		
受講者への要望			
チーム活動であるために、積極的な参加が第一優先。チームで完成させる思いを持って欲しい。			
講義の順序とポイント			
第 1 回： 計画づくり 第 2 回： 計画づくり 第 3 回： 計画づくり 第 4 回： 実習・実験・フィールド調査 第 5 回：実習・実験・フィールド調査 第 6 回：実習・実験・フィールド調査 第 7 回： 総括（打ち合わせ） 第 8 回：実習・実験・フィールド調査 第 9 回：実習・実験・フィールド調査 第 10 回：総括（打ち合わせ） 第 11 回：実習・実験・フィールド調査 第 12 回：実習・実験・フィールド調査 第 13 回：発表準備（まとめ） 第 14 回：発表準備（まとめ） 第 15 回：課題発表会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J6020300A
科目名	実践プロジェクトD	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience D		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	地域おこしを目的とし、地域の食資源等を見直したり、あるいは新たに探索をして、創意工夫による新商品・サービスづくりを目標とする。あるいは、実践プロジェクトBやCの成果物について、地域おこしの視点でブラシュアップする活動を行う。　そのため、地元企業や自治体、NPOなどと連携することにより、地域振興に関係する問題点や課題への認識を深め、それらを踏まえた成果物を作る。主体的な活動を基本として、チーム力を生かした課題解決能力、他組織との折衝力や調整能力を養う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	チームへの参加程度（積極的に参加しているか：50%）、3回以上の時間外の参加（30%）、発表会の準備と参加（20%）		
到達目標	学外の組織である、地域の自治体や自治会、NPO などと連携するための折衝力や調整能力を養うことができ、それらの組織や人材と地域おこしに関する問題点や解決のための課題を共有することにより、現場の課題に応じた商品やサービスの企画・開発能力を養える。		
準備学習	ターゲットに対する技術調査、実験・実習法の理解、技術習得とともに、地域おこしの問題点把握の努力をする。		

受講者への要望

チーム活動であるために、積極的な参加が第一優先。チームで完成させる思いを持って欲しい。また、学外組織との連携を精力的に進めてほしい。

講義の順序とポイント

第1回：　計画づくり
第2回：　計画づくり
第3回：　計画づくり
第4回：　実習・実験・フィールド調査
第5回：実習・実験・フィールド調査
第6回：実習・実験・フィールド調査
第7回：　総括（打ち合わせ）
第8回：実習・実験・フィールド調査
第9回：実習・実験・フィールド調査
第10回：総括（打ち合わせ）
第11回：実習・実験・フィールド調査
第12回：実習・実験・フィールド調査
第13回：発表準備（まとめ）
第14回：発表準備（まとめ）
第15回：課題発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J6020400A
科目名	実践プロジェクトE	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience E		
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
講義概要	食品開発や製造について，地域や社会が抱える具体的または仮想的な問題について，それらをどのように解決するかを考える．そのために，関連する資料の収集と解析，論点の整理について学び，解決法を議論する．それに基づいて解決策をまとめ，実践的な問題解決力を培う．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題に取り組む姿勢 70%，成果発表 20%，報告書 10%		
到達目標	1．情報を収集し，整理する力を身に付ける． 2．課題を解決するための方策を立案できる． 3．グループで協調して進めることができる． 4．調査と議論に基づき，解決策を論理的にまとめることができる．		
準備学習	新聞，テレビ，インターネットなどを通じて，食品に関連する話題に関心をもつ．グループで分担した項目は期限までに責任をもって成し遂げる．		
受講者への要望			
グループで問題の解決にあたるので，それぞれが分担した項目は責任をもってやり遂げる．また，グループ内の議論に積極的に参加し，アイデアを出し合う．			
講義の順序とポイント			
第1回　ガイダンス 第2回　例示した課題の説明とグループ編成 第3回　例示課題に対する取組み方の議論 第4回　例示課題に関連する情報の取得法 第5回　例示課題について取得した情報の整理 第6回　例示課題の解決策の提案 第7回　課題の提案とその説明 第8回　提案課題に関する情報収集1 第9回　提案課題に関する情報収集2 第10回　提案課題を解決するための計画 第11回　提案課題の解決に必要な調査1 第12回　提案課題の解決に必要な調査2 第13回　解決策のまとめ 第14回　成果発表会1 第15回　成果発表会2			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J6020500A
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -s	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	「実践プロジェクト A」および「実践プロジェクト B」で得た、さまざまな経験や体験を踏まえ、数名からなるグループを形成し、バイオサイエンス関連産業に関連する課題を発見し、グループ内、グループ間、特に関連企業とのコミュニケーションを発展させながら、調査・研究活動を主体的に実施し、活動の成果をとりまとめ、発表会でスライドを用いて発表するとともに、ポスターまたはパンフレットとして発表する。そのような活動を通じ、人に伝える力、文章作成力、自己表現力を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループ発表の成果(30%)に、個々の学生に課すレポート(70%)を加味して評価する。		
到達目標	具体的な事象から、課題を発見し、主体的に調査・研究・実験を実施し、調査研究結果を取りまとめ、発表する基礎力を発展させる。		
準備学習	実践プロジェクトで取り上げた課題だけでなく、社会一般の出来事や問題について日常的に考える習慣を身に着ける。		
受講者への要望			
学生各自が自発的主体的に取り組むことが不可欠である。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 課題発見　(学園大提携企業*からの問題提起) 3. プロジェクト課題の提案と討議 4. プロジェクト課題についての絞り込み 5. 調査・研究・情報交換 6. 調査・研究・情報交換 7. 中間発表会(1) 8. 中間発表会(2) 9. 追加調査・研究・情報交換 10. 発表会(1) 11. 発表会(2) 12. ポスター制作 13. ポスター制作 14. ポスター発表会(1) 15. ポスター発表会(2) 中間発表会や発表会には、問題提起された提携企業関係者を招く			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J6020500B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクト B -k1 に引き続き、自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。		
教材（テキスト）	特に無し。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
準備学習	「生物多様性国家戦略」や京都市の「生物多様性プラン」、「みどりの基本計画」などに目を通しておいてください。		
受講者への要望			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
講義の順序とポイント			
１：オリエンテーション@教室 ２－５：現場研修（日・祝日に集中で行う） ６－９：企画検討（日・祝日に集中で行う） １０－１３：実施（日・祝日に集中で行う） １４－１５：まとめと発表@教室 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J6020500C
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -f	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクトＡおよびＢで得た様々な体験、経験を踏まえて、自分の強みを理解する。また、さらに深く課題に取り組み、その成果をより洗練された報告書にするとともに、口頭で体験を伝える。これらの実践により、人に伝える力、文章作成力、自己表現力を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業へ取り組む姿勢 50%　成果の発表およびその準備への貢献 50%		
到達目標	１．収集した情報から適切な結論が導ける。 ２．状況を考えながら、課題取組の計画の修正ができる。 ３．取り組みについて、人前で話すことができる。 ４．成果を発表することができる。 ５．成果を文章でまとめることができる。		
準備学習	実践プロジェクトＢの結果を受けて、あらたな課題を見つける。次回の授業での作業内容を事前に考えておく。		
受講者への要望			
グループの一員として責任ある取り組みをしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　課題決定 2.　情報収集 3.　計画立案 4.　調査１ 5.　調査２ 6.　内容のまとめ１ 7.　中間報告会１ 8.　中間報告会２ 9.　計画の見直し 10.調査３ 11.調査４ 12.内容のまとめ２ 13.発表原稿作成 14.発表会１ 15.発表会２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J6020501B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクトＡおよびＢで得た様々な体験、経験を踏まえて、自分の強みを理解する。また、さらに深く課題に取り組み、その成果をより洗練された報告書にするとともに、口頭で体験を伝える。これらの実践により、人に伝える力、文章作成力、自己表現力を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業に取り組む姿勢 50%、成果の内容 50%		
到達目標	収集した情報を適切にまとめ、情報に基づいて意見を出し合って結論をまとめ、発表する。		
準備学習	実践プロジェクト B で習ったことを十分に復習しておく。		

受講者への要望

グループ全体で意見を出し合ってまとめる。一部の人だけの作業にならないようにする。

講義の順序とポイント

1．テーマの選定
2．情報の収集
3．調査計画の立案
4．調査活動１
5．調査活動２
6．調査内容のとりまとめ１
7．中間報告１
8．中間報告２
9．調査計画の修正
１０．調査３
１１．調査内容のとりまとめ２
１２．報告１
１３．報告２
１３．報告会でのコメントをもとにした内容の修正
１４．発表１
１５．発表２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J6020502B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k3	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	亀岡、京都の周辺で地域の自然、歴史、文化、風土を学ぶことができるフィールドワークを実施し、それぞれのレポートを提出し、最後に総合的なディスカッションで取りまとめる		
教材（テキスト）	必要に応じて地図や冊子を配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ここのフィールドワークのレポートと最後の総合討論など、積極的な参加の程度を判定、評価する		
到達目標	実際に現場を歩いて、現場から問題点や特徴を抽出できる力を養う、また、そういった意見をグループの中で発言できるように取りまとめる力も養う		
準備学習	ある程度の山道で距離のある区間を歩けるように準備を整えておくこと		
受講者への要望			
リュックサック、靴、帽子など、山歩き、街歩きなどの道具を準備しておくこと			
講義の順序とポイント			
以下の 3 地域へのフィールドワークを実施し、その後、3 グループに分かれて、 「私たちが提案する隠れた地域資源を生かした地域活性化プラン」に関して 学生目線でのグループディスカッションを行い、発表用パワーポイントの作成と A1 の大きさでのパネルを同じくパワーポイントで作成する 1.赤目四十八滝オオサンショウウオの里を歩き、初瀬街道の旧家で歴史文化を影絵で知る旅 2.滋賀県高島市針江の究極のエコシステム、「カバタ」を訪問し、湖国の原風景に出会う旅 3.福知山線武田尾、武庫川上流の紅葉に包まれるトンネル、橋梁、線路敷を歩く廃線跡の旅 なお、フィールドワークは大学のマイクロバスで往復を予定している			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J602050BB
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k(登録用)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクトＢ-k1 に引き続き、自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。		
教材（テキスト）	特に無し。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
準備学習	「生物多様性国家戦略」や京都市の「生物多様性プラン」、「みどりの基本計画」などに目を通しておいてください。		
受講者への要望			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
講義の順序とポイント			
１：オリエンテーション@教室 ２－５：現場研修（日・祝日に集中で行う） ６－９：企画検討（日・祝日に集中で行う） １０－１３：実施（日・祝日に集中で行う） １４－１５：まとめと発表@教室 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J6020600A
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ -skf	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。自己分析・自己ＰＲの作成や面接対策等をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	指示する課題への取り組み状況(100%)。		
到達目標	・自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事を整理しておく。		

受講者への要望

・就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・各時間の課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・スケジュール管理をきちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

■講義
1．ウォーミングアップ１
2．ウォーミングアップ２
3．自己分析１
4．自己分析２
5．履歴書１
6．履歴書２
7．企業分析１
8．企業分析２
9．面接対策１
１０．面接対策２

■実践練習
1．ワークショップ
2．ワークショップ
3．面接対策
4．グループディスカッション（基礎）
5．グループディスカッション（応用）

講義と実践練習を適宜組み合わせながら進める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J60207001
科目名	食文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	三吉　章雄	旧科目名称	
講義概要	我が国の食文化は、変化に富む国土や森林環境、経済・社会情勢と深い関係性を持つ。森は水の涵養で主食をつくる水田を護り、米作りをする人々は里山を活用すると共に水源森を守ってきた。また、豊かな森で循環する土壌成分は、一部が渓流に流出し、下流域のため池、湖、内海の魚介類を育んできた。 本講義では、食文化における森・里・海の連環を理解すると共に、四季の変化に応じた豊かな食生活を日々楽しむことが、結果的に森の保全や再生という社会の公益につながることを伝える。また、我が国が持続的社会へ向かうためのヒントが日常と非日常の接点に潜んでいることにも触れる。		
教材（テキスト）	各講義後、使用したスライドを PDF ファイルで掲示する。		
教材（参考文献）	農林水産省編　「和食；日本人の伝統的な食文化」 {http://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/pdf/all.pdf} その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業に対する態度・意欲・発言等による平常点（60%）。授業中に課すレポート（40%）。		
到達目標	わが国の食文化と森の関係性を理解し、食文化の基本となる森の保全意識を高めることを到達目標とする。		
準備学習	講義前の準備として、最後まで講義に出席できる健康で健全な状態を維持しておいてください。		

受講者への要望

- 積極的な態度で講義に参加するよう心がけてもらいたい。
- 提出レポートの内容には柔軟な発想や思考を期待する。
- 講義中に私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回 「食文化論」の概説　－森・里・海の連環が育んだ我が国の伝統的食文化－
第 2 回 食文化を形成する日本の森林環境　－森の水が里を潤し、海を豊かにした－
第 3 回 森と食文化に共通する食物連鎖　－食の定義と生き抜くための五感、死は生を産む－
第 4 回 森の恵みと食文化　－和紙・椀・箸・山菜・きのこ・木の実・銘水・香料・薬品－
第 5 回 日本食の歴史　－美食は権力の象徴、豊食は庶民の知恵－
第 6 回 水の性質と加工・調理での役割　－食材生産・調理における水の量と質－
第 7 回 日本人の味覚と嗜好　－日本発祥のだしの旨みは軟水と家庭教育か－
第 8 回 栄養面からみた日本的特質　－魚肉・伝統野菜と米～獣肉・乳製品と小麦へ変化－
第 9 回 成人病の森林と食文化　－知らぬ間に忍び寄る森林劣化と健康の危機－
第 10 回 飢餓・飢饉に耐える「豊食」文化　－狩猟生活にはなかった農業の罪と罰－
第 11 回 宗教による食のタブーと美食の同居　－集団を守る公益と個人を魅了する私益－
第 12 回 食材流通と食糧安全保障　－グローバル経済と侵略的外来生物の共通点－
第 13 回 京の食文化　－京都の地理的特徴とおばんざいの役割、郊外でのジビエ利用－
第 14 回 年中行事と食文化　－「はれ」と「け」の復活が持続的社会と豊かな生き方を生む－
第 15 回 食文化と森の関係性理解が豊かさの意識を変える　－豊かな食文化は森と人を守る－

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J60208001
科目名	作物史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	作物は野生植物に改良が加えられて作られたものである．現在存在する作物に至る改良の過程を追いながら，自然と人間が作り出す作物の歴史と作物の多様性について学ぶ．また，伝播の過程や人間の利用形態の変遷とともに姿を変えてきた作物のいくつかを事例を通して，その歴史のみならず，今後の新たな作物誕生の可能性を考察する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「栽培植物の自然史」　山口裕文･島本義也　編著　（北海道大学図書刊行会） 「品種改良の世界史　作物編」　鵜飼保雄・大澤良　編著　（悠書館）		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する．		
評価方法	毎回授業の最後に課す小レポート（50%）と 2 回の課題レポート（50%）で評価する．		
到達目標	私たちが当たり前のようにして食べている穀物・野菜や果実，あるいはキノコの起源はどこにあったのか，どのような手法を用いて今の形になったかを理解する．		
準備学習	毎回の授業の終わりに課すミニレポートのテーマは，その日の授業で最も大切な項目であるとともに，次回の授業を理解するのに必要な事項である．従って，特にその点について復習をしてから次の授業に臨んでほしい．		

受講者への要望

植物はヒトにとって有用になるようにその形態を変えたり，品質を変える非常に大きな潜在能力を持っている．この授業では具体的に色々な作物を取り上げてその変化について論じるので，これらの作物に関する基礎知識を興味を持ってあらかじめ得ておくようにしてほしい．

講義の順序とポイント

1．農耕の起源と植物改良の始まり
2．栽培植物の種と品種
3．栽培植物の起源地
4．栽培植物における自己認識システム（1）自家不和合性
5．栽培植物における自己認識システム（2）雄性不稔
6．イネの起源　その１
7．イネの起源　その２ ／ 課題レポート作成①
8．コムギの起源　その１
9．コムギの起源　その２
１０．トウモロコシの起源と系譜
１１．ソバ・トウモロコシの起源
１２．ダイズ・ジャガイモの起源
１３．アブラナ科野菜の成立 ／ イチゴの起源
１４．トマト起源・カボチャの起源
１５．課題レポート作成②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60209001
科目名	亀岡学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	古い歴史と独特な気候風土が融合した亀岡市およびその周辺地域には、農畜産業と農産物の加工の高い保有技術で京文化を支え、同時に亀岡固有の文化を育ててきた。本論では保津川の川霧などの特異な気候と、京野菜を中心とした農産物の関連、背景について広汎な視点で紹介する。また民俗学、歴史学、地理学、生物保全学、農学、森林科学、食品科学といった様々な分野を組みいれ、総合的な視野で亀岡を理解する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート 5 回以上（50%）、調査課題提出（20%）、講義への積極的参加（20%）、受講態度など(10%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	亀岡の食、農、歴史、文化を知ることによって、また農業、食産業や販売流通の経営者の講義、地域おこしの実践例の講義を受けることによって、亀岡で、また日本の各地域で地域おこしや農業経営、食産業の起業の考え方を知る。		
準備学習	亀岡を市の HP などであらかじめ調査し、少なくとも 1 箇所は実地調査する。地方（自分の故郷の町でもよい）での地域おこしの例を調べる。		

受講者への要望

自分が将来農業や食産業で起業する、あるいは地域おこしのリーダーや参画者になるつもりでしっかり受講する。

講義の順序とポイント

1. はじめに　（亀岡学の意義）
2. 亀岡の農商工業の現状
3. 亀岡の歴史や民俗
4. 亀岡の農業環境（地理的、地質的、生態的要素）
5. 京野菜について
6. 亀岡の食産業
7. 発酵食品と健康
8. 農業経営について（農業経営者に聴く）
9. 食産業経営について（食関連経営者に聴く）
10. 流通について（流通関係者に聴く）
11. 地域おこし実例 1
12. 地域おこし実例 2
13. 地域おこし実例 3
14. 日本での地域活性化活動
15. 調査課題発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J60210001
科目名	統計処理論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	農業・食品業界における日常業務から得られる数値データの取り扱いに関して、Excel を用いた実践的な統計処理手法について学習する。		
教材（テキスト）	配布資料		
教材（参考文献）	『身近な事例で学ぶ　やさしい統計学』 石村 光資朗 著 （オーム社）		
教材（その他）			
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	統計処理の有用性を学び、ビジネスの現場で実際に活用できることを目標とする。		
準備学習	Excel を使って授業を進めていくので、Excel の基本操作が出来ていることが望ましいが、授業の中でも適宜指導する。これまで受講した Excel の授業を復習しておくこと。		
受講者への要望			
積み重ねの授業なので、出来るだけ全回出席すること。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 1 変数のグラフ 3. 1 変数の統計量 4. 2 変数のグラフ 5. 2 変数の統計量 6. 回帰分析 7. データの要約 8. 離散確率分布 9. 連続確率分布 10. 母集団に対する統計的推定 11. 母集団に対する統計的検定（母平均） 12. 母集団に対する統計的検定（母比率） 13. 母集団に対する統計的検定（2 つの母集団の比較） 14. 数値積分法 15. 最適化分析			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J60211001
科目名	食農概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	人間はその生存のためのエネルギーや栄養素の多くを栽培植物から得ている．植物の栽培－農業－は食の基本であり，農業を理解することはここの生存に深くかかわることである．また，食の生産と環境問題は切り離すことができないものである．さらに，安全でかつ健康に資する食の供給が要請されている．先人の農業への思いを渉猟しつつ，時代とともに変わりゆく食と農を撮ります環境について学び，考察する．		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布する．		
教材（その他）			
評価方法	２回の課題レポート （各 40%）と小レポート （20%）で評価する．		
到達目標	我が国における農業の実態を理解し，食料生産にどのように関与しているのか，また食の生産と環境問題を理解するために，生産に係わるエネルギー収支について知る．生産された食料の加工についても理解する．これらの知識を基に，これからの食料生産について考察できる能力を持つ．		
準備学習	講義内容は順を追って展開していくので，必ず復習をしてから次の授業に臨むこと．		
受講者への要望			
農と食についてはマスコミでも取り上げられることが多い．日頃からそのような問題に興味を持ち、自分なりの意見を持つようにしてほしい．			
講義の順序とポイント			
１．農業と食料生産の概要 ２．日本の農業と食料生産 ３．農業生産物の流通 ４．食料生産におけるエネルギー効率（1）畜産・作物 ５．食料生産におけるエネルギー効率（2）果樹･野菜 ６．とりまとめ～課題レポート作成 ７．農産物の加工（1）野菜と果実の取り扱いと保存 ８．農産物の加工（2）保存食品（ジャム、砂糖漬け、梅干し） ９．農産物の加工（3）漬物 10．農産物の加工（4）発酵食品（酒以外） 11．農産物の加工（5）酒類 12．とりまとめ～課題レポート作成 13．食の安全と農業生産 14．これからの食料生産（1）消費者の動向 15．これからの食料生産（2）新しい技術の導入　～小レポート作成～			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60212001
科目名	食農基礎実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	食品分野と農業分野から複数のテーマをとりあげ、実験を通して生物実験や化学実験の基礎である、スケッチ技術、顕微鏡の取り扱い方、培養操作、一般ガラス器具類の取り扱い方、pH メーターや分光光度計、遠心分離機などの汎用機器の取り扱い方およびデータ処理法を体得する。		
教材（テキスト）	オリエンテーションで配布する実験書		
教材（参考文献）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 羽柴輝良・金浜耕基　編　『新農学実験マニュアル』　ソフトサイエンス社　6000 円＋税		
教材（その他）			
評価方法	実験ノート・レポート 70%　テスト 30%		
到達目標	実験のレポートを正しく書くことができる。 光学あるいは実体顕微鏡を使って組織を観察することができる。 微生物培養に必要な操作ができる。 定量容器の性質を理解し、検量線法を含む定量分析ができる。 統計用語を理解し、パソコンソフトなどを使ってデータの解析ができる。		
準備学習	事前に次回の実験について予習をしておく。操作が必要なものなどは実験ノートに手順を簡単にまとめておく。		
受講者への要望			
基本的な操作を学ぶので、実験後も復習をしてすべて覚えるような心持で取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション（注意に関する説明など） Ａコース ２．顕微鏡観察１　実体顕微鏡による植物器官の観察 ３．顕微鏡観察２　光学顕微鏡による植物組織の観察 ４．顕微鏡観察３　細胞分裂、染色体、花粉の観察 ５．統計解析１　作物の調査方法と粒度の測定 ６．統計解析２　平均，分散，標準偏差，ヒストグラム ７．定量分析 A Microsoft Excel を用いた検量線 ８．グラフ作成法 パスタの吸水速度測定 Ｂコース ９．微生物実験１　滅菌・殺菌・消毒の方法の説明　培地の作製（試薬の秤量） １０．微生物実験２　無菌操作の説明・植菌　培養液中の菌数を評価 １１．微生物実験３　菌数評価（続き）　観察（肉眼・顕微鏡） １２．定性分析 濃度調製と pH 測定 １３．定量分析Ｂ１　滴定法　酸度の測定 １４．定量分析Ｂ２　希釈法、グラフによる検量線（紫外線吸収による硝酸態窒素の測定） １５．定量分析Ｂ３　最小二乗法を利用した検量線（呈色法によるアンモニア態窒素の測定） 班によってはＢコース、Ａコースの順に行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J60213001
科目名	作物栽培学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	栽培学は「農」の基本である．農作物の栽培に必要な基礎的な問題点を，作物の発育特性を中心に学ぶ．栽培の出発点である発芽の生理的変化を理解し，育苗技術の基礎を学ぶ．圃場での栽培における栽植密度の重要性についても知る．実際栽培における土壌管理と施肥技術は最も重要であることを理解して，肥料設計の基礎的知識を習得する．この講義の内容は３回生配当の「農業生産学」を履修に当たって必要な知識となる．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「栽培学 ―環境と持続的農業―」　森田茂紀 ・大門弘幸 編／阿部淳 編著　（朝倉書店） 「栽培学大要」江原　薫　著　（養賢堂）		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する．		
評価方法	毎回のミニレポートによる平常点（30%），２回の課題レポート(70%)で評価する．		
到達目標	農業生産に関わる作物として多種多様な植物が用いられている．それらの栽培に当たって多くの技術が開発されている．これらの技術がどのように利用され，安心安全な食料生産を可能にし，人の生活を豊かにしているかについて理解する．		
準備学習	毎回授業終了時にその日の講義に関するミニレポートを課す．次回の授業に必要な内容に関するテーマを設定するので，それを復習の目標点とすること．		

受講者への要望

栽培については１回生時の作物栽培実習や京野菜栽培加工実習で実際に体験してきた．この授業ではその経験を基礎知識として持っていることを前提とするので，よく思い出してほしい．さらに，栽培に関する書物にも興味を持ってほしい．

講義の順序とポイント

１．作物生産の食糧供給における役割と実態
２．栽培管理（1）播種と発芽生理
３．栽培管理（2）播種技術
４．栽培管理（3）育苗技術
５．栽培管理（4）接木技術
６．栽植密度と収量
７．土壌管理（1）土壌の構造
８．土壌管理（2）保水性 ／ 課題レポート作成①
９．土壌管理（3）作物の吸水
１０．土壌管理（4）化学性
１１．土壌管理（5）耕起・マルチ・中耕
１２．施肥管理（1）施肥の歴史と原理
１３．施肥管理（2）肥料の種類　その１
１４．施肥管理（3）肥料の種類　その２
１５．肥料設計の実際とレポート作成②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60214001
科目名	農業生産学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	作物生産の全体像を理解したあと，代表的な作目を取り上げて具体的な栽培技術について学ぶ．種子や苗を出発点として収穫・流通にいたる流れを理解する．さらに，新しい技術として養液栽培や組織培養を理解し，作物栽培における応用について講義する．		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	「栽培学 ―環境と持続的農業―」　森田茂紀 ・大門弘幸 編／阿部淳 編著　（朝倉書店） 「栽培学大要」江原　薫　著　（養賢堂）		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布する．		
評価方法	毎回の小レポートによる平常点の評価（30%），2 回の課題レポート(70%)		
到達目標	農業生産に関わる作物として多種多様な植物が用いられている．それらの栽培に当たって多くの技術が開発されている．これらの技術がどのように利用され，安心安全な食料生産を可能にし，人の生活を豊かにしているかについて理解する．		
準備学習	毎回授業終了時にその日の講義に関する小レポートを課す．次回の授業に必要な内容に関するテーマを設定するので，それを復習の目標点とすること．		

受講者への要望

栽培については１回生時の作物栽培実習や京野菜栽培加工実習で実際に体験してきた．この授業ではその経験を基礎知識として持っていることを前提とするので，よく思い出してほしい．さらに，栽培に関する書物にも興味を持ってほしい．

講義の順序とポイント

１．　農業と食料生産の関係
２．　育苗技術（1）
３．　育苗技術（2）　組織培養苗生産
４．　圃場の準備
５．　施肥技術
６．　イネの生産（1）　育苗～定植
７．　イネの生産（2）　栽培管理～収穫～調整／課題レポート①
８．　イモ類の生産
９．　野菜生産の概要
１０．　葉菜類の栽培 アブラナ科の葉菜
１１．　果菜類の栽培（1）トマト・ナス
１２．　果菜類の栽培（2）ウリ類
１３．　根菜類の栽培　ダイコン・カブ
１４．　養液栽培（1）
１５．　養液栽培（2）／課題レポート②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J60215001
科目名	遺伝育種学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	農業と品種改良の基礎となる遺伝学について，メンデル遺伝学から分子遺伝学などについて解説する．また，作物や家畜の起源，品種改良の歴史，育種の基礎原理と主要な農作物の育種法とその成果，最新の育種技術について解説する．		
教材（テキスト）	福井希一・佐藤和広・向井康比己(著)　(2013)　植物の遺伝と育種 第 2 版，朝倉書店．4,300 円＋税 また，適時講義内容のプリントを配布する．		
教材（参考文献）	サダヴァ　D.他（著）　(2010)　カラー図解　アメリカ版大学生物学の教科書（1～3 巻），講談社． 西尾剛・吉村淳(編)（2012）植物育種学　第 4 版，文永堂出版．		
教材（その他）			
評価方法	講義中の演習問題・小テストなどによる平常点（50%）及び定期試験の成績（50%）で評価する．		
到達目標	農業が対象とする農作物や家畜の品種特性を理解するため，その基礎となる遺伝学の知識を習得するとともに，農作物や家畜の起源，品種改良の歴史，農業における品種の意義や役割について理解する．また，主要な育種技術やバイオテクノロジーの最新技術とその問題点を学び，農業や食品産業において品種を有効利用する能力を養う．		
準備学習	授業の進行に合わせて，テキストを予習をしておくこと．		
受講者への要望			
適時小テストや演習問題を行うので，講義内容を復習しておくこと．			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション，メンデルの遺伝法則と育種 ２．細胞遺伝学，染色体と連鎖地図 ３．遺伝子の構造とゲノム，ＤＮＡの複製と組換え ４．遺伝暗号と転写・翻訳，形質発現とその調節 ５．遺伝変異，集団遺伝学，遺伝と進化 ６．作物・家畜の起源と伝播，品種改良の歴史 ７．遺伝資源，突然変異，生殖様式と育種法 ８．自殖性作物の交雑による育種１（多収性，抵抗性など） ９．自殖性作物の交雑による育種２（品質・成分など） １０．他殖性作物の交雑による育種 １１．雑種強勢を利用した育種，栄養繁殖作物の育種 １２．ゲノム解析とＤＮＡマーカーを利用した育種 １４．遺伝子組み換え，組織・細胞培養などによる育種 １５．品種の登録と普及，農業生産と育種の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60217001
科目名	植物生理生態学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	植物を理解するのに必要な構造と機能を分子、細胞、個体のレベルで理解し、植物研究を行うための基礎力をつけることを目標とする。具体的には、植物や細胞の構造と機能、エネルギー確保の仕組み、環境ストレス（水・重力・光・有害物質、病原微生物など）への対処、植物ホルモンや植物の栄養などについて理解する。またアレロパシーや植物と微生物の共生などについても理解する。講義にはプリント資料を配布し、毎回の講義後に復習のための確認テストを実施する。さらに講義 3 回終了ごとに小テストを実施し、理解度を確認する。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	「植物生理学」　三村 徹郎・鶴見 誠二編著　化学同人 「植物の生態」－生理機能を中心に－　寺嶋一郎著　裳華房		
教材（その他）	「植物が地球をかえた」葛西 奈津子 著、化学同人		
評価方法	確認テスト、小テストの理解度判定 40%、定期試験 60%。		
到達目標	植物の生存戦略に関して、形態形成や物質代謝の特徴や、植物間や微生物との競争、共生関係について基礎的理解を深める。		
準備学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしておく。		
受講者への要望			
農作物生産においては、作物の特性を踏まえて、栽培技術が形作られてきた。本講義では、植物の特性をその生命戦略ととらえ、それを支える現象とその機構について学んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1　植物の起源と特徴 2　植物体のつくり 3　植物体を構成する基本分子（無限の可能性を秘めた生体物質） 4　生体反応の基本理論 5　効率的なエネルギー生産 6　エネルギーの備蓄と消費 7　原材料の調達と生産活動 8　光を感じる 9　体内の連絡調整機能 10　成長をし続ける植物体（細胞の増殖と成長・発生） 11　植物成長の分岐点（栄養成長と生殖成長） 12　環境への応答（感度良く着実に） 13　環境ストレスへの対処 14　病虫害への戦略 15　微生物との共生			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60218001
科目名	農地管理論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	作物の栽培に適した気象条件，土壌及び作物栄養，物質循環，用排水や栽培管理などの知識と技術を概説し，優良農地の維持・管理に必要な農地改良，圃場整備や土壌改良の施策や手法を紹介する．また，日本および世界の様々な農業様式と環境問題や食料問題の解決に向けた取組を解説する．		
教材（テキスト）	西尾道徳・松本重男・ 守山弘(著）（2003） 環境と農業（農学基礎セミナー），農山漁村文化協会．1,836 円 また，適時スライド説明及びプリントを配布する．		
教材（参考文献）	塩沢昌・山路永司・吉田修一郎(編）（2008） 農地環境工学　第 2 版，文永堂出版株式会社． 三枝正彦・木村眞人（編）（2005） 土壌サイエンス入門，文英堂出版株式会社． 久馬一剛 （2005） 土とはなんだろうか？，京都大学学術出版会． 土壌診断と対策　ー生理障害、土壌病虫害、コスト低減等対策ー　（平成 25 年），一般財団法人　日本土壌協会．		
教材（その他）			
評価方法	講義中のレポート・小テストなど（50%）及び定期試験の成績（50%）で評価する．		
到達目標	優良な農地の維持・管理に加え地域及び農業環境の保全を図るため，気象条件，土壌条件，物質循環及び作物栽培などの知識を習得し，圃場整備や土壌改良の役割について理解する．また，日本および世界の様々な農業様式と環境問題や食料問題の解決に向けた取組を学び，農地管理に関する知識・技術を習得する．		
準備学習	授業の進行に合わせて，テキストを予習をしておくこと．		
受講者への要望			
適時小テストを行うので，講義内容を復習しておくこと．			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、農業と農耕地の歴史 ２．気象区分と世界の農業様式，農地管理 ３．土壌環境と農作物生産性 ４．有機物と肥料の役割 ５．水田、畑地、樹園地、草地の土壌管理 ６．水田の用排水，栽培管理の特徴と圃場整備 ７．畑地・草地の用排水，栽培管理の特徴と圃場整備 ８．農地の保全と防災、土壌侵食とその対策 ９．農地の物質循環，水資源と農業水利 １０．農地の多面的機能と耕作放棄地問題 １１．農業における測量の役割，農地整備・設計と施策 １２．地球環境と農地管理 １３．園芸分野における農地管理 １４．施設園芸分野における農地管理 １５．施設園芸分野における環境管理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60219001
科目名	バイオマス利用学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	環境への関心の高まりと共にバイオマスの資源としての価値が再評価されてきている。この講義では、バイオマスとは何なのかという基本的なことを理解したうえで、今までどのように使われてきたのか、どのように変換されるのかということを説明する。特に、農業への利用という点を重視し、生物学的変換の代表的な例である堆肥化を中心に講義を行う。さらに、バイオマスタウンに代表されるバイオマス利用の事例を挙げながら、そこで用いられている技術について触れる。そのうえで、バイオマス利用の問題点を認識し、将来の利用について考える。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アルバート・ハワード著　『農業聖典』　日本有機農業研究会 藤田賢二著　『コンポスト化技術』　技報堂出版		
教材（その他）	なし		
評価方法	講義内の課題等（60%）、定期テスト（40% ）		
到達目標	バイオマスがどのようなものか、なぜ注目されているのかを理解する。 バイオマスの生物化学的変換技術（特に堆肥化）について理解を深める。 現在行われているバイオマス利用の問題点を整理した上で、新しい提案をできる力を身に付ける。		
準備学習	毎回講義ののちに講義内容を自分なりにまとめておく。提出を求めることもある。 講義終了時に課題を課されたときは、資料を探して読むなどの予習を行う。		
受講者への要望			
バイオマスの利用に関する新聞記事やニュースなどを探して読み、自分が特に関心を持つバイオマス利用を見つける。			
講義の順序とポイント			
1.　バイオマスとは何か、環境問題とバイオマス 2.　里山のバイオマスの特徴（気候・分布・材料特性） 3.　バイオマス利用の歴史（食品・材料・エネルギー） 4.　バイオマスの変換方法１　熱化学的変換 5.　バイオマスの変換方法２　生物学的変換 6.　微生物・酵素の働き 7.　農業におけるバイオマス利用 8.　堆肥化１　堆肥化の原料と生成過程 9.　堆肥化２　製品化と施用効果 10.　バイオマスの農業利用の事例１　亀岡カーボンマイナスプロジェクト 11.　バイオマスの農業利用の事例２　生ごみ堆肥化 12.　バイオマスタウンの事例　エネルギー生産 13.　海外でのバイオマス利用の事例（北欧・欧州） 14.　バイオマス利用の問題点と今後 15.　バイオマス利用の提案			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J60222001
科目名	地域資源循環論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	地域の資源は相互に関連性をもちつつ循環して存在している。代表的な例は里山である。ここでは農業、森林林業、畜産、水文分野の相互に密接な関連のもとに成り立つ総合的な系がみられる。本論では森林と農地の関係に注目しながら、典型的な里山での資源循環について学ぶ。未来の里山の循環型資源利用を目指すシステムの設計が行えるように理解を深める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	養父志乃夫著　里地里山文化論（上下）農山漁村文化協会 小宮山宏他著　サステイナビリティ学（１～５）東京大学出版		
教材（その他）	なし		
評価方法	テーマに基づいた発表（50%）レポートや講義内課題（50%）		
到達目標	里山利用の意義を理解する 里山資源利用を提案できる 環境と地域活動の関わりを理解する		
準備学習	講義開始時までに地域資源とはどのようなものかを考えておく。予習は必要ではないが、講義の内容をまとめ、自分の地元を地域として想定し、地元の場合はどのようなものが当てはまるかを考えおく		
受講者への要望			
地域活性に関わるような新聞記事やネットでの情報に対する感度を上げ、事例を知ってほしい。論文や口頭発表の構成を知っておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　地域資源とは何か？ 2.　地域資源の特徴（気候・分布・材料特性） 3.　循環型社会とは（サステイナビリティー） 4.　地域社会の役割 5.　地域資源利用の現状と課題 6.　里山と環境問題 7.　里山と一次産業の関わり 8.　温暖な地域の資源循環 9.　寒冷な地域の資源循環 10.　近畿の資源循環 11.　地域の活性化と資源の有効活用１ 12.　地域の活性化と資源の有効活用２ 13.　地域の活性化と資源の有効活用３ 14.　地域の活性化と資源の有効活用４ 15.　地域の活性化と資源の有効活用５			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J60223001
科目名	地域食農論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
講義概要	全国ブランドとなっている京野菜の産地である京都市をはじめとする京都府内の中で、亀岡市周辺地域を中心に京野菜などの農産物の特徴と、さまざまな加工技術の組み合わせの特殊性について紹介する。さらに京野菜が成立した時代背景や歴史を学ぶとともに、現代における京野菜を中心とした食品の嗜好について言及し、今後の新しい農産物を中心とした新品種作出および６次産業化について学ぶ。さらに全国の事例をあげて方向性を理解する。		
教材（テキスト）	講義に合わせてプリントを準備する。		
教材（参考文献）	歳時記「京の伝統野菜と旬野菜」：トンボ出版、日本の野菜、江戸の野菜：八坂書房、食材図鑑：小学館、B級グルメの地域ブランド戦略：新評論		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績　（40%） 調査レポートおよび発表等　（50%） 授業中の積極的な発言等　（10%）		
到達目標	わが国における農産物とそれらを利用した加工食品について、地域を生かした農産物の生産およびそれらの加工を伝統的な京野菜を通じて理解する。亀岡市を含む京都府内の農産物生産と加工品の事例や全国における成功事例から地域おこしの基本的な考え方や方策を学び、特色ある農産物の生産加工の実践に役立てる。		
準備学習	野菜を中心に講義を進めるので、参考文献に示した、あるいは講義中に紹介する日本の野菜に関する専門書を１冊は読むとともに、各種新聞や雑誌においても関連記事には目を通すようにする。		
受講者への要望			
現在、地域の抱える農業や食料・食品に関する問題点は何なのか、常に意識をしながら講義に臨んでほしい。			
講義の順序とポイント			
第１回　：オリエンテーション、地域食農論とは？ 第２回　：わが国の野菜生産の現状 第３回　：わが国の野菜消費の動向１ 果菜類 第４回　：わが国の野菜消費の動向２ 葉根菜類 第５回　：独自に発展してきた地方野菜 第６回　：京野菜の種類と特殊性 第７回　：京野菜の生産地亀岡市の野菜生産の現状と特性としての気候・環境 第８回　：亀岡市の野菜生産者から見た特性 第９回　：新しい嗜好を反映した新京野菜の作出 第10回：曙好を活かす食品加工企業概要 第11回：亀岡市における６次産業の事例 第12回：全国における農産加工の成功事例 第13回：世界に向けた農産物や農産加工品の事例 第14回：地域おこしと農産物および農産加工食品 第15回：調査課題発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J60224001
科目名	食品加工学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	加工食品は、農林畜水産物を原料に、物理的単位操作（加熱・殺菌・蒸留・抽出・混捏・乳化・乾燥 等）と化学的・生物的処理操作（発酵，酵素反応 等）を組み合わせた種々のプロセスを組み合わせて作られる。本講義では、実際の加工食品を例に挙げながら食品の特性と加工原理を理解し、安全な食糧供給の仕組みを学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	『食品をつくる基礎科学 食品工学入門』　安達修二、古田武　著　（カルチュレード）		
教材（その他）			
評価方法	授業時間内に行う小テストによる各項目の理解度（30%）と定期試験による総合的な問題を解く能力（中間テスト：35%、期末テスト：35%）により評価する.		
到達目標	食品製造に必要な知識と技術を習得させ，食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解させるとともに，品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。		
準備学習	日頃から、身近な加工食品の原材料や作り方、保存方法などに関心を持つこと。 その日の講義中に理解できなかったことは、その週のうちに書籍やインターネットで調べものをするなどして、次回の講義までに理解できるようにしておくこと。		

受講者への要望

化学を履修することが望ましい。
受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 食品とその特徴
3. 食品の属性
4. 食品の劣化
5. 食品加工の目的
6. 食品の栄養成分
7. 非栄養成分
8. 中間テストと解説
9. 水と食品の保存
10. 水と食品加工
11. 加工食品の分類
12. 食品を作るための単位操作（伝熱操作・乾燥操作）
13. 食品を作るための単位操作（粉砕操作・蒸留操作）
14. 食品を作るための単位操作（抽出操作・撹拌操作）
15. 新しい食品加工技術

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J60225001
科目名	食品加工学II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
講義概要	食品加工学Ｉの内容をふまえ，農水畜産加工品などについて，具体的品目を製造する際の原料や加工法およびその基礎となる理論を学ぶ．また，加工のみに留まらず，その前後の製品の企画や販売に関する事項についても触れ，加工食品を開発するための基礎的な知識を総合的に習得できるようにする．		
教材（テキスト）	食品工学入門－食品を造る基礎科学－（カルチュレード，ISBN 978-4-905179-07-8）		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（小テストを含む）40%，定期試験 60%		
到達目標	１．食品の各種加工法とその原理を理解する． ２．基本的な用語を覚え，その意味を理解する． ３．材料と製品に適した加工法を選択し，設計する力を習得する． ４．物質やエネルギーの収支が計算できるようになる．		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を伝えるので，予習し，キーワードを覚えてくること．項目の区切りごとに小テストを行う．		
受講者への要望			
学習した内容を手書きでノートにまとめる．それを復習し，理解を深める．項目の区切りごとに適宜小テストを行うので，そのような心づもりで講義に臨むこと．			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス，食品加工学Ｉとのつながり 第２回　殺菌１（D 値，z 値） 第３回　殺菌２（高温短時間殺菌） 第４回　伝熱１（熱の伝わり方） 第５回　伝熱２（対流伝熱） 第６回　伝熱３（熱交換器） 第７回　凍結と解凍 第８回　熱の移動が関与する操作のまとめ 第９回　抽出 第 10 回　濃縮 第 11 回　蒸留 第 12 回　乾燥１（乾燥法） 第 13 回　乾燥２（含水率） 第 14 回　乾燥３（空気の性質） 第 15 回　物質の移動が関与する操作のまとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J60226001
科目名	食品物性学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
講義概要	食品や食品素材の硬さや粘弾性などの力学特性に関する理論や測定法の原理を理解し，嗜好性や加工特性に及ぼす影響や咀嚼・嚥下などとの関係を学ぶ．また，材料や加工法の選択と力学特性を制御する方法に言及し，嗜好性に優れた食品を開発するための基礎的な事項を学習する．		
教材（テキスト）	食品工学入門－食品を造る基礎科学－（カルチュレード，ISBN 978-4-905179-07-8） 第１回の授業で配布するテキスト		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（小テストを含む）40%，定期試験 60%		
到達目標	１．食感や嗜好性に関与する因子を理解する． ２．基本的な用語を覚え，その意味を理解する． ３．食感や嗜好性を測定し，評価する方法を習得する．		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を伝えるので，予習し，キーワードを覚えてくること．項目の区切りごとに小テストを行う．		
受講者への要望			
学習した内容を手書きでノートにまとめる．それを復習し，理解を深める．項目の区切りごとに適宜小テストを行うので，そのような心づもりで講義に臨むこと．			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス，なぜ食品の物性を学ぶのか？ 第２回　食品の色 第３回　食品の匂い 第４回　食品の味 第５回　水の役割 第６回　ガラス転移 第７回　食品のおいしさに関与する因子のまとめ 第８回　エマルション１（食品における例） 第９回　エマルション２（安定性） 第 10 回　乳化剤 第 11 回　レオロジー（食品科学における意義） 第 12 回　レオロジー（弾性） 第 13 回　レオロジー（流動特性） 第 14 回　レオロジー（粘弾性） 第 15 回　テクスチャ（加工による向上，食味の表現）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J60227001
科目名	食品分析化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	本講義では、食品分析に関わる各種法規制・表示法・公定分析法ならびに試料調製、一般成分分析・分光測色法を利用した分析法、酵素反応・免疫反応を応用した分析法、クロマトグラフィーについて概説する。		
教材（テキスト）	配布資料		
教材（参考文献）	『図解入門 よくわかる最新分析化学の基本と仕組み』 津村ゆかり 著 （秀和システム）		
教材（その他）			
評価方法	授業時間内に行う小テストによる各項目の理解度（30%）と定期試験による総合的な問題を解く能力（(中間テスト：35%、期末テスト：35%)）により評価する。		
到達目標	食品成分の化学的特性を理解するとともに、食品分析で必要とされる知識を習得することを目標とする。		
準備学習	参考文献の該当箇所を事前に読んで、理解しておくこと。		

受講者への要望

化学を履修することが望ましい。
受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 品質保証
3. データ処理
4. 試料採取
5. 分析試薬（濃度計算、有効数字）
6. 分析試薬（酸と塩基、錯形成反応、緩衝液、酸化還元）
7. 分析試薬（極性、分配）
8. 中間試験と解説
9. 試料の前処理（分解・溶解、沈殿・再結晶と分離）
10. 試料の前処理（液液抽出、固相抽出）
11. 試料の前処理（濃縮、蒸留・気化、その他）
12. 定量分析（呈色試験と官能試験、重量分析、滴定）
13. 分子分光分析（スペクトロメトリー、紫外・可視分光法）
14. 分子分光分析（蛍光と化学発光分光、赤外分光、近赤外分光）
15. クロマトグラフィー（薄層クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J60228001
科目名	発酵醸造学 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	微生物を使って製造される各種の食品・飲料・調味料について、京都、亀岡の発酵・醸造関連企業で働いておられる方々に解説して頂くと共に、企業活動そのものについてもお話し頂く。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	発酵食品学　小泉武夫 編著（2012）講談社 参考図書（手に取りやすいもののみ挙げた）： うま味の誕生　―発酵食品物語―　柳田友道　岩波書店 食と日本人の知恵　小泉武夫　岩波書店 発酵食品礼讃　小泉武夫　文藝春秋 ワインづくりの思想　銘醸地神話を超えて　麻井宇介　中央公論新社 ワインの科学　「私のワイン」のさがし方　清水健一　講談社 日本酒の科学　水・米・麹の伝統の技　和田美代子　講談社 日本の酒　坂口謹一郎　岩波文庫 純米酒を極める　上原浩　光文社新書 極上の酒を生む土と人　大地を醸す　山同敦子　講談社＋α 文庫 ビールの科学　麦とホップが生み出すおいしさの秘密　渡淳二　講談社 ビールの教科書　青井博幸　講談社 ウイスキーの科学　古賀邦正　講談社 世界のスピリッツ焼酎　関根 彰　技報堂出版 醤油手帖　杉村啓　河出書房新社 一日一杯の味噌汁が身体を守る　車浮代　日経プレミアシリーズ 漬物入門　宮尾茂雄　日本食糧新聞社 パンの文化史　舟田詠子　講談社学術文庫 なぜ日本のフランスパンは世界一になったのか　阿古真理　NHK 出版新書		
教材（その他）			
評価方法	・講義開始時に行う、発酵・醸造学の基本的な事項に関する「確認テスト」（20%） ・定期試験（論述式）（80%）		
到達目標	1）発酵・醸造学の基本的な事項を知識として身につける。 2）日本では様々な発酵・醸造を用いた製品が発達していることを理解する。 3）日常生活の中で発酵・醸造を用いた製品に関心を持てるようになる。		
準備学習	上記参考文献のうち参考図書としてあるものを一冊は読んで、発酵醸造についてあらかじめ何らかのイメージをつかんでおくこと。		
受講者への要望			
「確認テスト」の内容は理解し、覚えること。 発酵醸造学についてさらに理解を深めるため、「発酵醸造学 B」とあわせて受講することを勧める。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 発酵・醸造学とは何か：その微生物学・生化学・化学 第 2 回 酒類総論（醸造酒） 第 3 回 酒類各論：ワイン　丹波ワイン様 第 4 回 酒類各論：ビール　黄桜様 第 5 回 酒類各論：清酒　丹山酒造様／大石酒造様 第 6 回 酒類総論（蒸留酒） 第 7 回 酒類各論：酒販　谷垣裕二郎（リカーランドひかみや）様 第 8 回 発酵調味料総論 第 9 回 発酵調味料各論：醤油　難波醤油醸造様／竹岡醤油様 第 10 回 発酵調味料各論：味噌　片山商店様 第 11 回 発酵調味料各論：食酢　飯尾醸造様			

第 12 回 発酵食品総論
第 13 回 発酵食品各論：漬物　京漬物初代亀蔵様／新世様
第 14 回 発酵食品各論：なっとう　ユーアンドミー様
第 15 回 発酵食品各論：パン　天然酵母パングリム様
外部講師の方は年によって交代で担当して頂きます。都合により内容・順番は変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J60229001
科目名	発酵醸造学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	特定の発酵醸造物を詳論することを通じて、発酵醸造学をより深く理解することを目指す。具体的には、発酵醸造学研究室で京都丹波～亀岡の地域性を活かした製品の開発に取り組んでいるビール、ミード、麹甘酒について、その歴史・文化的側面や原材料に求められる性質、醸造法とその実際について論じる。発酵・醸造産業は酒類を中心としてその土地の文化と影響を与え合い、農業とも深いつながりを持つ。特定の醸造物を詳述することで、そうした醸造という営為の全体を概観する。2017 年は初回ということもあり、基本的には旧来の座学型の講義スタイルを取るが、「食品加工学実習」との連動や机上での演習、ディスカッションなど、より能動的なスタイルの導入を模索していきたい。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	ビールについて： ビール醸造技術　宮地秀夫（1999）食品産業新聞社 ビールの基本技術　ビール酒造組合国際技術委員会（BCOJ）（2002）（財）日本醸造協会 Technology Brewing & Malting 5th ed. W. Kunze (2014) VLB Berlin ミードについて： The Complete Meadmaker K. Schramm (2003) Brewers Publications 麹・甘酒について： 麹学　村上英也 編著（1985）（財）日本醸造協会 酒造教本　東京国税局鑑定指導室 編（1999）（財）日本醸造協会 増補改訂　最新酒造講本　佐藤信・川嶋宏 監修（2007）（財）日本醸造協会 参考図書（手に取りやすいもののみ挙げた）： ビールの科学　麦とホップが生み出すおいしさの秘密　渡　淳二　講談社 ビールの教科書　青井　博幸　講談社 ベルギービールという芸術　田村　功　光文社新書 ビール職人、美味いビールを語る　山田一巳 古瀬和谷　光文社新書 ビールを極める　中谷和夫　双葉新書 ビール最終戦争　永井隆　日経ビジネス人文庫 日本酒の科学　水・米・麹の伝統の技　和田美代子　講談社		
教材（その他）			
評価方法	・定期的に行う、ビール・ミード・麹甘酒の基本的な事項に関する「確認テスト」（20%） ・定期試験（論述式）（80%）		
到達目標	1）発酵・醸造学について一層深く理解する手段として、ビールやミード、麹甘酒についての様々な事項を知識として身につける。 2）ビールやミード、麹甘酒の実際の製品について、製造法を想像できるようになる。 3）発酵醸造が単なる飲食物の生産方法に留まらず、「産業」や「文化」といった幅広い領域で社会にインパクトを与えていることを理解する。		
準備学習	上記参考文献のうち参考図書としてあるものを一冊は読んで、それぞれの醸造物についてあらかじめ何らかのイメージをつかんでおくこと。		
受講者への要望			
「確認テスト」の内容を覚えること。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　ビール：種類と歴史 第 2 回　ビール：大麦 第 3 回　ビール：ホップ・酵母 第 4 回　ビール：水と副原料 第 5 回　第 1～4 回の確認テストと解説 第 6 回　ビール：製麦 第 7 回　ビール：仕込み			

第 8 回　ビール：発酵 第 9 回　ビール：評価 第 10 回　第 6～9 回の確認テストと解説 第 11 回　ミード 第 12 回　麹甘酒：麹菌 第 13 回　麹甘酒：製麹 第 14 回　麹甘酒：造り 第 15 回　第 11～14 回の確認テストと解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J60230001
科目名	作物学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	農業生産および農業環境分野から複数のテーマをとりあげ，実験を通して作物とその生産環境の特性把握や解析の基礎である，作物の栽培法、植物組織・染色体などの観察法，作物生産の解析法や、物質代謝に関わる酵素反応や含有成分の検出と定量法を学び、これら調査データの処理法を体得する．併せて、様々な作物の栽培研究最前線を学ぶため公設試験研究機関の圃場視察を行う。		
教材（テキスト）	教材（テキスト） オリエンテーションで配布する実験書		
教材（参考文献）	星川清親（編）「植物生産学概論」(1993)，文永堂出版株式会社　4,000 円＋税 羽柴輝良・金浜耕基（編）「新農学実験マニュアル改訂第 3 版」(2002)，ソフトサイエンス社　6,000 円＋税 東京大学大学院農学生命科学研究科（編）「実験農芸化学」(2013),朝倉書店　,6,200+税		
教材（その他）	講義の中で順次紹介する。		
評価方法	実験ノート 70%、レポートと小テスト 30%		
到達目標	実験ノートやレポートを正しく書くことができる． 作物（実験植物）を実験目的に沿って栽培・管理することができる． 遺伝分離の解析，作物成分や物質生産力の定量分析ができる．		
準備学習	事前に次回の実験について予習をしておく。操作が必要なものなどは実験ノートに手順を簡単にまとめておく．		

受講者への要望

基本的な操作を学ぶので、実験後も復習をしてすべて覚えるような心持で取り組んでほしい．

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（注意に関する説明など）
２．実験材料としての作物の栽培方法
３．作物の花器、減数分裂、花粉形成の観察
４．遺伝分離の観察と適合性の検定
５．作物の生育調査と加工
６．作物の有機成分測定
７．作物の無機成分測定
８．作物の生育環境の測定と分析
９．作物の酵素活性の測定
１０．植物病原菌の分離，同定，培養
１１．作物個体および群落の成長解析１
１２．作物個体および群落の成長解析２
１３．公設試験研究機関の作物ほ場視察
１４．土壌環境の評価
１５．作物に共生する有用微生物の特性とその観察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J60231001
科目名	食品分析化学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
講義概要	食品分析化学の知識を踏まえて，食品が備えるべき機能や栄養などに関与する成分の分析法や物性の測定法を実践的に学ぶ．成分の濃度や物性値を定量的に測定する方法の原理と解析法を習得する．		
教材（テキスト）	第１回のオリエンテーションで配布する実験書		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する		
教材（その他）			
評価方法	実験に取組む姿勢等による平常点 30%，実験ノート 30%，レポート 40%		
到達目標	１．実験技術を習得し，内容を理解できること． ２．共同実験者とよく連携し，実験を円滑に進められること． ３．実験の結果をまとめて，レポートが正しく書けること．		
準備学習	実験前に必ず実験書を読み，内容を理解する．また，実験操作をフローチャートとして整理する．		

受講者への要望

実験を安全に行うために，実験書の内容をよく理解しておくこと．共同実験者に迷惑がかかるので，遅刻は厳禁．

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（実験の進め方と留意事項）
2. ピペット・体積計の検定
3. 水とエタノールの混合
4. 水分と水分活性
5. 水の硬度
6. 灰分
7. 糖の定量
8. タンパク質
9. 油脂の酸価とヨウ素価
10. 油脂の脂肪酸組成
11. 野菜の色素
12. 抗酸化能
13. 粘度
14. 温度と熱量
15. 小テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J60232001
科目名	食品加工学実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	3 回生春学期の「食品衛生学実験」が「生産された」食品の衛生管理についての化学的、微生物学的な分析技法を扱ったのに対し、ここでは地域にゆかりのあるさまざまな食品を「生産する」ための基礎的な技法と、その化学的、微生物学的な側面について学ぶ。		
教材（テキスト）	食品加工学実験書　森　孝夫（2003）化学同人 実験室で行えるようアレンジした方法について、別途プリントを配布する。		
教材（参考文献）	酒造教本　東京国税局鑑定指導室 編（1999）（財）日本醸造協会 基礎からわかる製パン技術　吉野精一（2011）柴田書店 HOMEBREWING BOOK　アドバンスドブルーイング（2016）マイナビ 食品加工シリーズ 6　味噌　今井誠一（2002）　農文協 チーズ工房（1989）平凡社		
教材（その他）			
評価方法	・実習ノートへの適切な記述（40%） ・実習レポートの提出（40%） ・実験態度、実験台の整理整頓（20%） 「ノートチェック」として実習中にノートを 3 回評価し、実習レポートの内容と併せて総合的に評価する。		
到達目標	様々な食品を作ってみることを通じて、食品加工の技術を概観する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 ノート・レポートの書き方を学ぶ。		
準備学習	・それぞれの実習が始まる前にテキストに線を引くなどしながら熟読すること。 ・必ず事前にその日に行う実習のノートを書き、ノートを見ながら実験すること。 ・対象とする食品について、参考文献を用いて詳細を調べておくとなおよい。		
受講者への要望			
全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。			
講義の順序とポイント			
1）　穀類の加工：米麹（1） 2）　穀類の加工：米麹（2） 3）　穀類の加工：麺（1） 4）　穀類の加工：麺（2） 5）　穀類の加工：パン（1） 6）　穀類の加工：パン（2） 7）　穀類の加工：ビール（1） 8）　穀類の加工：ビール（2） 9）　豆の加工：米味噌（1） １０）　豆の加工：米味噌（2） １１）　野菜の加工：漬物（1） １２）　野菜の加工：漬物（2） １３）　乳の加工：チーズ（1） １４）　乳の加工：チーズ（2） １５）　まとめ：官能試験 都合により内容・順番は変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J60233001
科目名	食品衛生学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	2 回生秋学期の「食農基礎実験」での化学、微生物学実験の内容を踏まえつつ、食品の「安全性」「有益性」「健全性」を担保しようとする食品衛生学の化学的および微生物学的な技法について、その基礎を学ぶ。		
教材（テキスト）	図解　食品衛生学実験　第 3 版　一戸正勝他（2012）講談社 実験室で行えるようアレンジした方法について、別途プリントを配布する。		
教材（参考文献）	改訂　食品衛生学実験　細貝祐太郎 監修（2012）恒星社厚生閣 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書		
教材（その他）			
評価方法	・実験ノートの適切な記述（40%） ・実験レポートの提出（40%） ・実験態度、実験台の整理整頓（20%） 「ノートチェック」として実習中に実験ノートを 3 回評価し、実験レポートの内容と併せて総合的に評価する。		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 「微生物学」「食品衛生学」などの講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノート・レポートの書き方を学ぶ。		
準備学習	・それぞれの実習が始まる前にテキストに線を引くなどしながら熟読すること。 ・必ず事前にその日に行う実験のノートを作成し、ノートを見ながら実験すること。 ・「食品衛生学」の教科書などを用い、該当箇所を復習しておくとよい。		
受講者への要望			
全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。			
講義の順序とポイント			
1）　食品衛生微生物学実験：食品中の生菌数測定法（1） 2）　食品衛生微生物学実験：食品中の生菌数測定法（2） 3）　食品衛生微生物学実験：食品製造環境の細菌検査・空中落下菌の測定（1） 4）　食品衛生微生物学実験：食品製造環境の細菌検査・空中落下菌の測定（2） 5）　食品衛生微生物学実験：大腸菌群・大腸菌の検査（1－1） 6）　食品衛生微生物学実験：大腸菌群・大腸菌の検査（1－2） 7）　食品衛生微生物学実験：大腸菌群・大腸菌の検査（2－1） 8）　食品衛生微生物学実験：大腸菌群・大腸菌の検査（2－2） 9）　食品衛生化学実験：着色料・保存料の検査 10）　食品衛生化学実験：酸化防止剤・発色剤・漂白剤の検査 11）　食品衛生化学実験：揮発性塩基窒素試験 12）　食品衛生化学実験：ヒスタミンの検出 13）　食品衛生化学実験：油脂の変敗検査 14）　食品衛生化学実験：食器洗浄の検査 15）　食品衛生化学実験：合成洗剤の残留検査 実際には各課題を並行して実施する。 都合により内容・順番は変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J60301001
科目名	バイオ環境インターンシップA	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境学部では企業や行政機関との間でインターンシップ制度を設ける。参加した学生が、実際にバイオサイエンスや環境の技術を応用研究している研究所等で実体験を通して研究する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	参加したプログラムの時間数や内容により、終了後本学に提出されたレポートやインターンシップの受け入れ先からの評価書を基に、担当教員が審査の上、「バイオ環境インターンシップA」として単位認定する。		
到達目標	・大学での学びについて意欲を喚起させる。 ・自らの研究テーマをより確実なものとすることを目指す。 ・高い職業観を育成すること。		
準備学習	準備のために必要な説明会を開催する。		
受講者への要望			
時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守すること。誠実に参加することを求めます。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う ・説明会を開催し、受け入れ先の紹介、各受講生の希望聴取などを行う。 ・各受講生の受け入れ先を決定。 ・インターンシップの実施 ・報告書の提出 ・適当な時期に、発表会を開催し、各受講生が体験等を発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	J60302001
科目名	バイオ環境インターンシップＢ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境学部では企業や行政機関との間でインターンシップ制度を設ける。参加した学生が、実際にバイオサイエンスや環境の技術を応用研究している研究所等で実体験を通して研究する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	インターンシップに参加した場合、終了後、本学に提出され、レポートやインターンシップの受け入れ先からの評価書を基に、担当教員が審査の上、「バイオ環境インターンシップＢ」として、単位認定する。		
到達目標	自らの研究テーマをより確実なものとすることを目指す。		
準備学習	準備のために必要な説明会を開催する。		
受講者への要望			
時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守すること。誠実に参加することを求めます。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う ・説明会を開催し、受け入れ先の紹介、各受講生の希望聴取などを行う。 ・各受講生の受け入れ先を決定。 ・インターンシップの実施 ・報告書の提出 ・適当な時期に、発表会を開催し、各受講生が体験等を発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	J72057001
科目名	【院】計量経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Methods of Econometrics		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	統計分析には多くのアプローチが考えられるが、この講義では基礎的な「計量モデル分析」を中心とした講義を行う。 モデルの対象はマクロ経済、企業経営、都市経営、等様々考えられる。モデルに含まれる要素間の関係を構造方程式の体系として表現する基礎的訓練と、構造パラメータの推定をいかに行うか種々考察する。安定したモデル構造を 推定し、これを通じて各種シュミレーション分析をする。ただし、いきなり高度なモデルを扱うより、初学者を意識したレ ベルから始める。 パラメータの推定と評価に必要となる統計知識を授業の各所で必要に応じ講義する。ただし、確率論は最小限の知 識にとどめ、実際的な統計分析に重点を置く。この分析にはアメリカでは標準的なツールとなっている EViews を利用 する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	計量経済学の入門知識の習得		
準備学習	適宜参考文献や資料調査を指示するので、授業時間外で準備しておくこと。 これ以外に適宜レポート等の宿題を課すのでその準備をすること		
受講者への要望			
基礎的知識だけでなく、実証分析への関心を高めて欲しい			
講義の順序とポイント			
1 単回帰モデル 2 単回帰の実際 3 重回帰 4 分散の不均一性 5 分散の不均一性その 2 6 系列相関 7 ＤＷとその実際 8 トレンドとモデルの工夫 9 多重共線性 １０ 多重共線性の例と工夫 １１ ダミー変数の扱い １２ ダミー変数の扱いその 2 １３ 同時方程式モデル １４ 同時方程式の簡単な例 １５ 同時方程式の例			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J72058001
科目名	【院】経済統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Statistics		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済統計学では、ＳＮＡ統計を中心に、各種統計の内容理解を前提に、これの実証分析への応用を主な課題とする。すなわち、統計データの数量的分析手法については、単一方程式による各種回帰分析手法、及び、同時方程式体系の解法を系統的に解説する。また、既に実用化されているいくつかの計量モデルの分析を通じて、計量モデルの構造や作成のプロセスを理解させると共に、自ら簡単なモデル作成とシミュレーション分析を行えるような訓練を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	経済データを背景の理論に関連づけて理解すること		
準備学習	適宜参考文献や資料調査を指示するので、授業時間外で準備しておくこと。 これ以外に適宜レポート等の宿題を課すのでその準備をすること		
受講者への要望			
特にありませんが、日経データなどはいつも利用できるようにしてもらいます。			
講義の順序とポイント			
1　時系列データの処理 2　トレンドと季節調整 3　指数 4　物価指数の実際 5　労働力 6　賃金と労働市場 7　労働市場の動向 8　労働時間と生産性 9　賃金と失業 １０　家計－所得と貯蓄・消費 １１　家計調査 １２　消費構造 １３　消費構造と国際比較 １４　景気変動 １５　景気変動と経済政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J72059001
科目名	【院】時系列データ分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マクロ金融システムの時系列データを分析する。マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などの経済指標の時系列データの特性を統計学の観点から分析する。定常、非定常、トレンド、AIC、VAR モデルなどの基礎概念を修得する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、２００９		
教材（その他）			
評価方法	毎回の小課題(50%)と２回のレポート(50%)を評価		
到達目標	経済時系列を統計学的に分析できること。		
準備学習	統計分析に必要な数学やコンピュータの知識は分析ソフトを使いながら慣れればよいので、はじめから高いレベルを要求しないが、経済現象の理解は必須である。ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論などの基礎知識をもとに、インフレ、デフレ、金融政策、財政政策などを理解していることが望ましい。 事前学習：マクロ経済学、金融論などの基本を理解しておくこと。 事後学習：参考文献「EViews による計量経済分析入門」を、春学期の終わりまでに読み終えておくこと。		

受講者への要望

統計学やパソコンは使っているうちにだんだん慣れてくる。はじめは難しく感じるかもしれないが、苦手意識から拒絶反応を持たないようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.データの取得と加工・修正
　日次、週次、月次、四半期、などのデータ特性と季節調整の概念
2.同上
　散布図、回帰直線、トレンドの検出
3.定常・非定常の検定
　　経済・金融データの多くが非定常変数であるので、単位根検定の方法を知る。
4.　同上
　日本のデータを分析
5.同上
　ヨーロッパ・アメリカのデータを分析
6.パラメータ推定の方法
　最小自乗法、ｔ－値、
7.同上
　最尤法、GMM 法
8.AIC の考え方
　データ・フィッティングの基礎となる AIC 評価規範の考え方
9.同上
　各種の具体例
10.金融分析
　Marshall の k、マネー、GDP、金利の相互関係
11.同上
　貨幣需要関数
12.VAR モデルの考え方
　相互依存する変数の時間遅れを伴う相関の強さ
13.同上
　成長率モデルとレベル変数の扱い
14.VEC モデルの考え方
　非定常変数の長期均衡関係と、定常な成長率モデルとの関係

15.同上

長期均衡の観点から見た貨幣需要関数

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J72060001
科目名	【院】時系列モデル	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Models		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などから時系列マクロ金融モデルを作成し、モデルを用いた経済現象の分析を行う。金融問題として扱われるデフレ、流動性の罠、金融不安の定量分析、貨幣需要関数の安定性などを考察する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	Hamilton,J.D.　"Time Series Analysis"		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題(50%)と 2 回のレポート(50%)		
到達目標	マクロの時系列モデルを、各国のデータで作成すること。		
準備学習	経済現象の理解が不可欠である。ミクロ、マクロ、金融論などを基本知識として、インフレ、デフレなどの現象を理解しておくこと。 事前学習：マクロ経済学、金融論などの基本を理解しておくこと。 事後学習：参考文献「Time Series Analysis」において、授業で学んだ箇所と対応する章を読んでおくこと。		

受講者への要望

経済データ専用の分析ソフトを使うので、操作方法などよりも、何を分析し、その分析結果が経済学的に何を意味しているのかという理解がもっとも大事である。長い道のりではあるが、がんばってほしい。

講義の順序とポイント

1.VAR モデル作成
　Vector Auto Regressive モデルの作成方法を学ぶ。
2.同上
　遅れ次数、変数の増減（取捨選択）などの確認
3.インパルス応答
　VAR モデルにおけるインパルス応答とその解釈
4.同上
　成長率とレベル変数におけるインパルス応答の意味
5.VEC モデル作成
　Vector Error Correction モデルの作成方法を学ぶ。
6.同上
　共和分と、非定常変数間の長期均衡関係
7.同上
　VEC モデルにおけるインパルス応答
8.不均一分散モデル（GARCH モデル）の作成
　GARCH モデルの成り立ちとその意味
9.TARCH モデル、EGARCH モデルの作成
　各種の不均一分散モデルの比較検討
10.投資リスクと金融資産のリスク管理
　株式収益率のボラティリティ変動モデル（ARCH モデル）
11.同上
　株式収益率のボラティリティ変動モデル（確率ボラティティモデル）
12.不均一分散モデルの応用
　金融不安の導出（日銀 DI による資金繰り判断と貸出金利）
13.共和分手法による金融問題の解析
　流動性の罠
14.同上
　貨幣需要関数
15.同上

長短金利が貨幣需要関数に及ぼす影響

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J72062001
科目名	【院】金融経済論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	まず、金融システムの概要を理解し、株式、債券市場の分析を通じて、株価決定の理論、債券利回りの構造など、資産運用において欠くことのできない、ファイナンスの知識を教授する。　具体的には、受講者の基礎知識、関心度に基づき、テキストを選定するが、できれば、本年度は英書をテキストとしたい。出席が重視されので、休まないようにしてほしい。		
教材（テキスト）	Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、2008		
教材（参考文献）	Laurence Ball, Moeny, Banking, and Financial Markets, Worth Publishers, 2009		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	ファイナンスの基本知識の習得につとめ、経済および景気に関する日々生ずる現実の問題に自分なり考えが持てるようにする。また、将来金融機関に就職する場合の基本的知識を習得する。		
準備学習	毎回次の講義の資料提供をおこなうので、しっかり事前の予習をすること。		

受講者への要望

欠席は講義の進行を妨げ、他の受講者の迷惑になるので、よほどの事以外、認めない。日々の経済状況を新聞、テレビニュースで把握しておくこと。

講義の順序とポイント

1．金融の仕組み
2．銀行とその役割
3．証券会社とその役割
4．保険会社とその役割
5．経済情報の見方
6．　短期金融市場
7．　長期金融市場
8．　株式市場
9．　外国為替市場
10．証券投資のリスクとリターン
11．　金利の期間構造
12．　オプションとディリバティブ
13.　金融規制
14.　金融危機
15.　ライフプランと資産運用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72066001
科目名	【院】公共経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の主たる判断基準のひとつは「社会的厚生」に置かれる。そして、この社会的厚生の定義は、基本的には社会の構成員の効用の集計として設定される。したがって、個人の効用を規定し影響を与える諸要因と効用との関係を明確に理解することが公共経済学の分析にとっての第一歩となる。 本講義では、個人の生涯設計に関連する各ステージにおける主体的選択問題を、ミクロ経済学の制約付き最適化問題および費用＝便益分析を用いて理解する。		
教材（テキスト）	麻生良文『公共経済学』有斐閣 小崎・牧野・吉田『キャリアと労働の経済学』日本評論社 仁科一彦・倉澤資成『ポートフォリオ理論－基礎と応用』中央経済社		
教材（参考文献）	Auerbach&Feldstein, Handbook of Public Economics, North-Holland. 根岸康夫『現代ポートフォリオ理論講義』金融財政事情研究会		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内報告 50%　レポート 50%		
到達目標	社会的厚生を規定する個人の効用の性質について理解する。その上で、個人の主体的選択問題とその応用としての各種の公共政策の導入・変更が個人の効用に与える影響について理解すると同時に、市場および社会的厚生への影響を確認する。		
準備学習	ミクロ経済学の基礎理論は復習しておくこと。特に、制約付き最適化問題および社会的厚生についての理解は不可欠である。		

受講者への要望

（1）丁寧な理解を心がけ、曖昧な点は質問し、確実な理解に到達するまで取り組む。
（2）理論分析の前提条件の妥当性、およびその修正がもたらす結論への影響について考える。
（3）現実社会を前提に、経済理論が提示する結論の有効性とその限界について考える。

講義の順序とポイント

1．効用の性質：基数的効用と序数的効用、各種の効用関数の特徴
2．ライフサイクル理論の基本：貯蓄の決定、利子率の変化の貯蓄への影響
3．ライフサイクル理論の応用：不労所得の変化の貯蓄への影響、ダクラス＝有沢の法則
4．労働供給の経済学１：余暇と労働の選択、ベドニック賃金関数、ワークライフ・バランス
5．労働供給の経済学２：公的年金の労働供給への影響、退職促進効果
6．キャリアの経済学１：人的資本理論、シグナリング理論
7．キャリアの経済学２：サーチ理論、昇進のトーナメント理論
8．貯蓄の経済学１：モダン・ポートフォリオ理論、２ファンド分離定理
9．貯蓄の経済学２：資本資産価格モデル、裁定価格付け理論
１０．リスクの経済学：期待効用理論、リスク選好、標準偏差と期待収益の選択
１１．保険の経済学１：モラルハザード、情報の非対象性、レモンの原理
１２．結婚の経済学：ベッカー・モデル、ヴェイス・モデル、最適停止問題
１３．出生の経済学：ライベンシュタイン・モデル、ベッカー・モデル、イースタリン・モデル
１４．社会保障の経済学１：公的年金、私的年金
１５．社会保障の経済学２：失業保険、労災保険、医療保険、介護保険

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J72068001
科目名	【院】経済社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Sociology		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、まず近代という時代がいかなる歴史的背景の下に誕生し、そしてどのような特質を持つのかを概観する。次に、そこへ登場する社会構想である自由主義の特徴と限界について考察し、近代のもう一つの体制構想である社会主義についても検討を行う。また、近代民主主義の理念とその変質にも目を向ける。 さらに、戦後西側諸国で指導像とされた福祉国家について、その理想と現実とはどのようなものであったかを考察した上で、近代の転換の方位と新たな社会の原理について展望する。 なお、受講者には毎回事前に配布する資料等を熟読しておくことが求められ、授業の中でその内容等について報告を行ってもらうこともある。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	野尻武敏『第三の道』晃洋書房 野尻武敏『転換期の政治経済倫理序説』ミネルヴァ書房		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	授業内（平常）の課題（小レポート等）(50%)、期末レポート（50%)。		
到達目標	近代社会の特質と近代の体制構想、および経済社会体制の転換の方向について理解する。		
準備学習	予め指示する文献等を熟読し、指定する範囲をレジュメにまとめて毎回の授業時に提出すること。		

受講者への要望

受講者には授業の中でテキスト等の文献の内容について報告を行ってもらうことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。

講義の順序とポイント

1．近代の誕生
2．近代の特性
3．自由主義社会思想
4．自由資本主義の展開
5．体制混合化
6．自由市場経済の諸機能
7．新自由主義の思潮
8．社会主義の新展開
9．近代民主主義社会
10．利益団体と多元社会化
11．福祉国家の形成と挫折
12．高齢化の進行
13．少子化問題
14．近代の原理と社会保障の困難
15．福祉社会の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J72073001
科目名	【院】経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	東西冷戦の終結後に急速に進んだグローバル化の動きが反転するとともに、国内では少子高齢化、さらには人口減少社会への移行に加え潜在成長力の低下傾向を受け、福祉国家体制も反転し始めたといってよい．そこでまず、多元社会化の動きに注目しながら政策主体を巡る議論を整理したのち、マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めとともに、政策形成過程の問題を取り上げる．先進国に共通する問題の一つが、中間組織の役割とその位置づけであるが、先進国の直面する経済社会問題を解決する秩序構想として「三重秩序」を紹介する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート（50%）		
到達目標	経済政策論基礎理論についての理解を深める		
準備学習	配付資料に目を通し，関連する経済動向と政策的対応について，新聞報道や雑誌記事等を通じて事前に確認する．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させる			
講義の順序とポイント			
１．日本経済の現況と課題 ２．日本経済の現況と課題 ３．経済社会の多元化と政策主体の多様化 ４．成長政策 ５．分配政策 ６．経済安定化政策 ７．経済安定化政策 ８．経済安定化政策 ９．経済安定化政策 １０．経済安定化政策 １１．政策形成過程 １２．政策形成の担い手 １３．政策形成のパラダイム １４．協調的政策形成 １５．経済社会の三重秩序論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J72074001
科目名	【院】比較経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Comparative Analysis of Economic Policy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	共通する政策課題でも，その対応策は多様である．それぞれの国の歴史的・社会的・経済的な背景が異なるからである．とはいえ，諸外国の政策的取組が参考にならないことはないし，政策にも流行がある．例えば，先進各国で今日広く強調されているのが積極的労働市場政策であり，ワーク・ライフ・バランスである．そのことを通じて労働市場での人間の主権回復が目指されていると言ってもよい．我が国の政策課題を EU の経済社会政策を中心に比較検討する．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	EU の政策実践と我が国のそれを比較検討し，日本の政策課題と政策提言をまとめる．		
準備学習	欧州統合の拡大と深化が進む中，EU の政策は創意工夫に富んでいる．新聞や雑誌記事等を通じて，欧州委員会の取組を事前に確認する．		
受講者への要望			
政策課題をできるだけ具体的に絞り込み，EU と日本のそれぞれの政策的対応を注視しよう．			
講義の順序とポイント			
１．我が国の経済社会の変容と政策課題 ２．我が国の経済社会の変容と政策課題 ３．我が国の経済社会の変容と政策課題 ４．欧州社会モデル ５．欧州統合の拡大 ６．欧州統合の拡大 ７．欧州統合の深化 ８．欧州統合の深化 ９．欧州統合の深化 １０．リスボン戦略の展開 １１．欧州雇用政策の展開 １２．欧州雇用政策の展開 １３．フレキシキュリティ政策 １４．欧州 2020 １５．福祉国家からワークフェアー国家へ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J72075001
科目名	【院】公共政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Policy		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	「公共性」とは何か、さらに公共の利益をどのような概念で捉え、それを測定可能な具体的指標として何に注目すべきであるのか。これらの問題は、価値判断を伴う規範的アプローチによって捉えていくしかない。すなわち、公共性の問題は公共の哲学から独立には論じ得ない。 また、公共の利益の実現およびその拡大を図る役割の一部は政府が担うが、その政府は不完全であり、政府が公共の利益を損なう場合も生じうる。民主主義社会における政府の意思決定メカニズムに内在する欠陥について、経済学的視点から分析するのが「公共選択論」である。 さらに、現日本社会や国際社会が現実の社会問題を解決するために法的規制や予算編成、あるいは公共サービスの供給を行っているが、それらの背景にある具体的な政策目標や政策理論についても検討していく。		
教材（テキスト）	（1）Muller,D.C., Public Choice Ⅱ, Cambridge University Press. （2）宮本憲一『公共政策のすすめ：現代的公共性とは何か』有斐閣。		
教材（参考文献）	（1）ミューラー,D.C.,『ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ・公共選択の展望』Ⅰ－Ⅲ　関谷・大岩訳　多賀出版。 （2）新藤宗幸『概説日本の公共政策』東京大学出版会。		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内報告 50%　レポート課題 50%		
到達目標	公共性とは何か、公共の利益を実現すべき政府の意思決定における欠陥は何か、現代の日本および国際社会が目指す公共の利益とその政策手段は何か、について効率性を主要な判断基準として理解する。		
準備学習	（1）ミクロ経済学の基礎を復習しておくこと。 （2）配布資料の指定箇所を予習しておくこと。		
受講者への要望			
（1）「公共経済学」と合わせての履修が望ましい。 （2）現代日本の公共政策に関する具体的な課題について、日頃から関心を持って能動的に情報に接する。			
講義の順序とポイント			
第１回：公共性の概念と哲学 第２回：政府とは何か 第３回：政府の失敗とそのメカニズム 第４回：公共選択論（１）投票のルール 第５回：公共選択論（２）投票のパラドックスと中位投票者モデル 第６回：公共選択論（３）選挙制度と政治家の行動 第７回：公共選択論（４）官僚 第８回：公共政策（１）年金・医療・介護 第９回：公共政策（２）労働政策 第１０回：公共政策（３）社会資本整備 第１１回：公共政策（４）公債管理政策 第１２回：国際公共政策（１）国際公共財とは何か 第１３回：国際公共政策（２）地球環境政策 第１４回：国際公共政策（３）途上国の開発援助 第１５回：国際公共政策（４）安全保障			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J72076001
科目名	【院】社会政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、まず社会政策実践およびドイツ語圏における社会政策論の展開を概観することを通じて、社会保障の原理的・思想的基盤について考察を行う。 次に、今日の社会保障制度の中から医療・年金・介護に関する各分野を取り上げ、それらの方法、目的および意義を考察するとともに、少子高齢社会においてそれらが直面する課題について検討を行うことにより、わが国の社会保険制度への理解を深めることを目指す。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	授業内（平常）の課題（小レポート等）(50%)、期末レポート（50%)。		
到達目標	社会保障の意義と社会保険の各制度について理解する。		
準備学習	予め指示する文献等を熟読し、指定する範囲をレジュメにまとめて毎回の授業時に提出すること。		
受講者への要望			
・受講者には指示する文献の内容について授業の中で報告を行ってもらうことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。 ・学部在学中に「社会政策」（または「社会保障論」等の社会保障をテーマにした科目）を受講し単位取得済みであることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会保障の制度と定型 2. 社会政策から社会保障へ 3. 社会政策の構造機能 4. 社会保障と補完性原則 5. 社会保険の概要 6. 医療保険の概念と制度体系 7. 健康保険 8. 国民健康保険 9. 公的年金制度の体系と意義 10. 国民年金 11. 厚生年金 12. 公的年金制度と高齢化 13. 介護と社会保険 14. 介護保険の基礎知識 15. 介護保険制度の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J72079001
科目名	【院】金融政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Monetary Policy		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策の具体的手法について学び、マクロ経済の動向、金融政策と景気変動、マネーストックと実体経済の関係についての理解を深める。本年度はいま注目されている、アベノミクスについて学び、日本経済の長期デフレと金融政策の関係を中心に講義するが、これまで世界で起きたさまざまな金融危機についても学ぶ。講義は出席を重視するので、休まないでほしい。		
教材（テキスト）	Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、 2008		
教材（参考文献）	P.Howels and K. Bain, The Economics of Money, Banking and Finance, Second. Ed. Prentice Hall, 2002. L. Jonung, J. Kiander, and P. Varita, The Great Financial Crisis in Finland and Sweden, Edward Elger, 2009.		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融政策全般の知識を習得し、金融危機などの現実問題に自分なりの意見を持てるようにする。		
準備学習	毎回つぎの時間の講義資料を提供するので、事前に予習をよくしておくこと。		
受講者への要望			
日々新聞の経済記事をよく読み、経済の現状を把握していること。宿題を多くだすので、その提出を怠らないこと。			
講義の順序とポイント			
１．　金融政策とは何か ２．　日本銀行の金融調節 ３．　高度成長と金融① ４．　高度成長と金融② ５．　バブル経済と金融① ６．　バブル経済と金融② ７．　金融自由化と金融危機① ８．　金融自由化と金融危機② ９．　アメリカの S&L 金融危機 １０．　メキシコの金融危機 １１．　北欧の金融危機① １２．　北欧の金融危機② １３．　東アジア金融危機 １４．　サブプライムローンと金融危機 １５．　1930 年代の世界大恐慌			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72089001
科目名	【院】技術移転論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 本講義では「技術移転」についての知識を習得し、産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携等を学習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義で適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)＋授業内小テスト等による平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1　技術移転論の内容と進め方 2　技術移転とは？ 3　産学官連携とは？ 4　産学官連携支援体制づくり 5　大学の「知」の発掘・発信 6　産業界のニーズ把握 7　大学発ベンチャーの育成 8　産学官連携事例(1) 9　産学官連携事例(2) 10　産学官連携事例(3) 11　地域資源とは(1) 12　地域資源とは(2) 13　地域との連携事例(1) 14　地域との連携事例(2) 15　これからの技術移転について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J72091A01
科目名	【院】技術移転論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 　本演習にて「業界別のニーズ事例調査」、「大学発ベンチャーの事例調査」などの「技術移転」についての事例を調査演習をおこなう。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	演習時に適宜指示		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)＋授業内小テスト等による平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくこと。		
受講者への要望			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1　演習の内容と進め方 2　業界別のニーズ事例調査演習(1) 3　業界別のニーズ事例調査演習(2) 4　業界別のニーズ事例調査演習(3) 5　大学発ベンチャーの事例調査演習(1) 6　大学発ベンチャーの事例調査演習(2) 7　大学発ベンチャーの事例調査演習(3) 8　日本の技術移転の事例調査演習(1) 9　日本の技術移転の事例調査演習(2) 10　日本の技術移転の事例調査演習(3) 11　日本の技術移転の事例調査演習(4) 12　演習レポート作成(1) 13　演習レポート作成(2) 14　演習レポート作成(3) 15　演習レポート発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J72091B01
科目名	【院】技術移転論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	現代の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 本演習にて「地域資源」についての事例を調査研究し、地域資源に関する産学官連携事例、地域との連携事例等に関し演習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	演習時に適宜指示		
教材（その他）			
評価方法	レポート(60%)＋授業内小テスト等による平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくこと。		
受講者への要望			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1　演習の内藤と進め方 2　地域資源について事例調査演習(1) 3　地域資源について事例調査演習(2) 4　地域資源について事例調査演習(3) 5　地域資源について事例調査演習(4) 6　地域と大学の連携事例調査演習(1) 7　地域と大学の連携事例調査演習(2) 8　地域と大学の連携事例調査演習(3) 9　地域社会への技術移転の事例調査演習(1) 10 地域社会への技術移転の事例調査演習(2) 11 地域社会への技術移転の事例調査演習(3) 12 演習レポート作成(1) 13 演習レポート作成(2) 14 演習レポート作成(3) 15 演習レポート発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J72122A01
科目名	【院】金融経済論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究する。また、それと関連して、1930 年代に生じたアメリカ大恐慌についても研究をする。		
教材（テキスト）	田中隆之『現代日本経済：バブルとポストバブルの奇跡』日本評論社		
教材（参考文献）	若田部　『危機の経済政策』　日本評論社 小川一夫　『失われた 10 年の真実』　東洋経済新報社 藤井真理子　『金融革新と市場危機』　日本経済新聞社 伊藤隆敏他　『ポスト平成不況の日本経済』　日本経済新聞社 村松・奥野　『平成バブルの研究上,下』　東洋経済新報社 浜田・原田　『長期不況の理論と実証』　東洋経済新報社 深尾　『マクロ経済と産業構造』　慶応大学出版会 池尾　『不良債権と金融危機』　慶応大学出版会 吉川　『バブル・デフレ期の日本経済と金融政策』　慶応大学出版会 星・カシャップ　『日本金融システム進化論』　日本経済新聞社		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機についての基本的理解ができること。		
準備学習	毎時間与えられるアドバイスに従い、次回の講義までに論文の修正をすること。		
受講者への要望			
論文作成に専念すること。			
講義の順序とポイント			
論文完成を目指して、その準備をおこなう。 1.日本のマクロ経済構造 2.日米経済摩擦の展開とプラザ合意 3.政策協調と財政金融政策 4.円高の役割 5.金融自由化のインパクト 6.金融監視と規律の欠如 7.バブルと金融機関行動 8.バブルと資産価格高騰とそのメカニズム 9.バブルと実体経済 10.バブルの崩壊過程 11.その理念 12.経済主体の行動 13.不良債権問題の発生と展開 14.金融機関の破綻処理 15.量的金融緩和政策とその効果について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J72122B01
科目名	【院】金融経済論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	演習Ａに準ずる。　演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究する。また、それと関連して、1930 年代に生じたアメリカ大恐慌について研究をする。		
教材（テキスト）	ミルトン・フリ-ドマンとアンナ・シュウォ－ツ『大収縮 1929-1933』日経ＢＰクラシックス		
教材（参考文献）	Ben Bernanke, Essays on the Great Depression, Prenceton University, 2000. Edward Chancellor,　Devil Take the Hindmost:: A History of Financial Speculation（山岡訳『バブルの歴史』日経ＢＰ社） Ｆ. Allen, Only Yesterday--A Informal History of the Nineteen Twenties, New York, Harper and Brothers. Peter Temin, Did Monetry forces Cause the Great Depression ?, W.Norton, 1976. Peter Temin, Lessons From the Great Depresion, Cambridge, 1989. C. Kindleberger, Maniacs, Panics and Crashes, Basic books Inc., NY.1989. パ-カ-『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機について自分の意見が語れること。		
準備学習	毎日かなり多くの資料、文献を読むことが要求される。		

受講者への要望

金融危機の解明に情熱が持てること。英語の文献を読む機会が多いので、英語の読解力があること。

講義の順序とポイント

論文完成を目指して、その準備をおこなう。

１．　１９２０年代のアメリカ
２．　金本位制の問題
３．　金融仮説とフリードマン①
４．　金融仮説とフリードマン②
５．　バーナンキの貸付仮説①
６．　バーナンキの貸付仮説②
７．　B.ストロングの死と金融政策
８．　金融政策指標と大恐慌
９．　真正手形ドクトリン
１０．　ケインズと大恐慌
１１．　ルーズベルトの金融改革①
１２．　ルーズベルトの金融改革②
１３．　37 年の出口問題
１４．　第二次世界大戦は恐慌を終了させたか。
１５．　来年度の研究方針

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72122C01
科目名	【院】金融経済論演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics C		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	1 年目秋の演習で、すでに受講者と相談の上、修士論文のタイトルをほぼ決めているので、それに従って論文指導を実施する。テーマ変更はありうるが、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究したので、それを基本に修士論文をどのようにして完成させるかについて指導する。		
教材（テキスト）	『世界の金融危機とバブルの原因』中央経済社		
教材（参考文献）	若田部　『危機の経済政策』　日本評論社 小川一夫　『失われた 10 年の真実』　東洋経済新報社 藤井真理子　『金融革新と市場危機』　日本経済新聞社 伊藤隆敏他　『ポスト平成不況の日本経済』　日本経済新聞社 村松・奥野　『平成バブルの研究上,下』　東洋経済新報社 浜田・原田　『長期不況の理論と実証』　東洋経済新報社 深尾　『マクロ経済と産業構造』　慶応大学出版会 池尾　『不良債権と金融危機』　慶応大学出版会 吉川　『バブル・デフレ期の日本経済と金融政策』　慶応大学出版会 星・カシャップ　『日本金融システム進化論』　日本経済新聞社		
教材（その他）			
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機についての基本的理解ができること。		
準備学習	毎時間与えられるアドバイスに従い、次回の講義までに論文の修正をすること。		
受講者への要望			
論文作成に専念すること。			
講義の順序とポイント			
論文完成を目指して、その準備をおこなう。 1.日本のマクロ経済構造 2.日米経済摩擦の展開とプラザ合意 3.政策協調と財政金融政策 4.円高の役割 5.金融自由化のインパクト 6.金融監視と規律の欠如 7.バブルと金融機関行動 8.バブルと資産価格高騰とそのメカニズム 9.バブルと実体経済 10.バブルの崩壊過程 11.その理念 12.経済主体の行動 13.不良債権問題の発生と展開 14.金融機関の破綻処理 15.量的金融緩和政策とその効果について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72122D01
科目名	【院】金融経済論演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics D		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成に全力を尽くす。修士１年目および２年目の春学期で、日本の金融システム、金融政策の変遷について学習したので、それを基本として、日本の金融政策およびバブル、バブル崩壊、その後の量的金融政策について修士論文をまとめる。		
教材（テキスト）	適宜紹介していく。		
教材（参考文献）	適宜紹介していく。		
教材（その他）			
評価方法	作成した修士論文により、評価する。		
到達目標	本学の修士論文合格の基準を目指す。		
準備学習	論文の作成は決して容易ではない。担当者と相談の上、また担当者の指示に従い、自宅学習において十分な準備をおこない、論文の完成を目指す。		
受講者への要望			
この時期は論文作成に十分な時間をとる必要があるので、アルバイトなどは控える必要がある。			
講義の順序とポイント			
1.日本の金融システムについての復習 2.日本のバブルについての復習 3.日本のデフレ不況についての復習 4.アベノミクスについての復習 5.修士論文概要の発表と担当者によるコメント 6.修士論文発表と担当者によるコメント① 7.修士論文発表と担当者によるコメント② 8.修士論文発表と担当者によるコメント③ 9.修士論文発表と担当者によるコメント④ 10.修士論文発表と担当者によるコメント⑤ 11.修士論文発表と担当者によるコメント⑥ 12.修士論文発表と担当者によるコメント⑦ 13.修士論文発表と担当者によるコメント⑧ 14.修士論文発表と担当者によるコメント⑨ 15.副査担当の教員よりコメントをもらい修士論文の最終的完成をめざす。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72154A01
科目名	【院】租税論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax Policy A		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	本演習では租税論および租税法の基礎的・体系的理解を深めることを目的とする。わが国の税制は国税だけでも法人税、所得税、相続税、消費税等々その範囲が膨大でその全体を理解するのは容易ではない。それぞれの税目を概観しながら、わが国税制の現状と問題点を考察する。		
教材（テキスト）	随時レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	田原芳幸編『図説日本の税制（平成 28 年度版)』　財経詳報社 金子宏著『租税法（最新版)』　弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。		
準備学習	税制に関する基礎的な文献や、新聞報道などを関心をもって読むこと。		
受講者への要望			
授業中の活発な議論を期待する。			
講義の順序とポイント			
1．わが国の税制の概要 2．租税制度の変遷（1） 3．租税制度の変遷（2） 4．租税制度の変遷（3） 5．租税制度の現状（所得税 1） 6．租税制度の現状（所得税 2） 7．租税制度の現状（法人税 1） 8．租税制度の現状（法人税 2） 9．租税制度の現状（法人税 3） 10.租税制度の現状（法人税 4） 11.租税制度の現状（消費税 1） 12.租税制度の現状（消費税 2） 13.租税制度の現状（消費税 3） 14.国際課税制度 15.最近の税制改正			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J72154C01
科目名	【院】租税論演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax policy C		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目的とする。論文とレポートとの違いは問題意識の有無にある。常に社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求し、修士論文を完成する。		
準備学習	研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。		

受講者への要望

社会変化を見据え、高い問題意識を持って研究テーマを探求すること。

講義の順序とポイント

1. 研究テーマと研究計画の検討（1）
2. 研究テーマと研究計画の検討（2）
3. 研究テーマと研究計画の検討（3）
4. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（1）
5. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（2）
6. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（3）
7. 修士論文の進捗状況の報告と議論（1）
8. 修士論文の進捗状況の報告と議論（2）
9. 修士論文の進捗状況の報告と議論（3）
10. 修士論文の各章の報告と議論（1）
11. 修士論文の各章の報告と議論（2）
12. 修士論文の各章の報告と議論（3）
13. 修士論文の章構成の報告と議論（1）
14. 修士論文の章構成の報告と議論（2）
15. 夏季休暇中の研究計画の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72154D01
科目名	【院】租税論演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax policy D		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目標とする。社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（30%）　修士論文の内容（70%）		
到達目標	わが国の現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求する修士論文を完成する。		
準備学習	研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。		

受講者への要望

修士論文作成にあたっては、数多くの文献等にあたり、先行研究を読み込むことが必要なことはいうまでもないが、研究テーマを広げすぎると論文としてまとまらない。極力テーマを絞込み、掘り下げることが肝要である。また、思考とともに、常に手を動かし文章化作業を進めていくことが重要である。

講義の順序とポイント

1. 夏季休暇中の修士論文進捗状況の報告
2. 修士論文の全体構想の報告と議論（1）
3. 修士論文の全体構想の報告と議論（2）
4. 修士論文の全体構想の報告と議論（3）
5. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（1）
6. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（2）
7. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（3）
8. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（4）
9. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（5）
10. 修士論文全体の草稿の報告と議論（1）
11. 修士論文全体の草稿の報告と議論（2）
12. 修士論文全体の草稿の報告と議論（3）
13. 修士論文全体の草稿の報告と議論（4）
14. 修士論文全体の草稿の報告と議論（5）
15. 参考文献目録等を含めた修士論文の最終検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72155B01
科目名	【院】租税論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax Policy B		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	本演習では、租税論演習Ａで学んだ知識のうえに立ち、受講者の関心のある税目につき、より掘り下げた個別問題を研究する。基本書や研究論文等の講読や、判例研究を地道に行うことを第一歩として、その上で高い問題意識を持って、個別論点の検討を行うことによって、修士論文にふさわしいテーマを見出す。		
教材（テキスト）	随時レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル１（所得税編）』　税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル２（法人税編）』　税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル３（相続税・消費税編）』　税務経理協会		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。		
準備学習	税制に関する基礎的な文献や、新聞報道などを関心をもって読むこと。		
受講者への要望			
授業中の活発な議論を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．所得税の現状と問題点（１） ２．所得税の現状と問題点（２） ３．所得税の現状と問題点（３） ４．法人税の現状と問題点（１） ５．法人税の現状と問題点（２） ６．法人税の現状と問題点（３） ７．法人税の現状と問題点（４） ８．法人税の現状と問題点（５） ９．法人税の現状と問題点（６） 10.消費税の現状と問題点（１） 11.消費税の現状と問題点（２） 12.消費税の現状と問題点（３） 13.資産税の現状と問題点（１） １４.資産税の現状と問題点（２） １５.資産税の現状と問題点（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72159001
科目名	【院】マクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics		
担当者名	寺本　博美	旧科目名称	
講義概要	私たちが直面する重大な経済問題を考えるときに，経済学の考え方がどれほど役立つか，マクロ経済学を学ぶことで現実の世界の理解を進めることができる。 本講義ではマクロ経済学における長期分析（経済成長，自然失業率，持続的インフレーション，国債の影響など）に関するモデルを理解する。		
教材（テキスト）	『マンキュー　マクロ経済学（第 3 版）II　応用編』東洋経済新報社		
教材（参考文献）	『マンキュー　マクロ経済学（第 3 版）I　入門編』東洋経済新報社。その他講義時に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告 50%，試験・レポート課題 50%		
到達目標	1　マクロ経済学の基本的な考え方や基礎理論を理解し，整合的に説明することができる。 2　マクロ経済学とミクロ経済学との間のつながりを理解できる。 3　修士論文を完成させるためのツールとして活用できる。		
準備学習	1　講義終了時に，次回の範囲を指定するので予習しておくこと。 2　講義終了時に，演習課題，宿題を指定するので，次回講義開始時に提出すること。		

受講者への要望

(1)能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。
(2)無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

(1)科学としてのマクロ経済学
(2)短期の経済：景気循環理論
(3)経済成長 I：資本蓄積と人口成長
(4)経済成長 II：技術・実証・政策
(5)マクロ経済政策論争 1：安定化政策
(6)マクロ経済政策論争 2：政府負債と財政赤字
(7)マクロ経済学のミクロ的基礎（消費）1：ケインズとフィッシャー
(8)マクロ経済学のミクロ的基礎（消費）2：モディリアーニとフリードマン
(9)マクロ経済学のミクロ的基礎（消費）3：ホールとレイブソン
(10)マクロ経済学のミクロ的基礎（投資）1：トービン
(11)マクロ経済学のミクロ的基礎（投資）2：住宅投資，在庫投資
(12)貨幣供給，貨幣需要と銀行システム
(13)総需要と総供給の動学モデル 1：モデルの要素と解
(14)総需要と総供給の動学モデル 2：モデルの利用
(15)マクロ経済学の最重要な教訓と未解決の問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J72160001
科目名	【院】マクロ経済分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomic Analysis		
担当者名	寺本　博美	旧科目名称	
講義概要	私たちにとって直面する重大な経済問題を考えるときに，経済学の考え方がどれほど役立つかを知ることはより良き人生をすごすために大切である。マクロ経済学を学ぶこと，同時に実際を分析し現実の世界の理解を進めることでこの目的を達成することができる。本講義ではマクロ経済学における分析モデルを学修するが，経済成長，自然失業率，持続的インフレーション，国債の影響などに関するモデルを数量的あるいは計量的に理解する。		
教材（テキスト）	『ジョーンズ　マクロ経済学 1 長期成長編』東洋経済新報社		
教材（参考文献）	講義に沿って適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告 50%，試験・レポート課題 50%		
到達目標	1　マクロ経済学の基本的な考え方や基礎理論を理解し，計量的に整合的に説明することができる。 2　マクロ経済学とミクロ経済学との間のつながりを理解できる。 3　修士論文を完成させるためのツールとして活用できる。		
準備学習	1　講義終了時に，次回の範囲を指定するので予習しておくこと。 2　講義終了時に，演習課題，宿題を指定するので，次回講義開始時に提出すること。		

受講者への要望

1　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。
2　無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

(1)マクロ経済学の見方と計測
(2)経済成長：経済成長とは，生産関数
(3)新古典派成長論：ソロー・モデル
(4)内生的成長論 1：ローマー・モデル
(5)内生的成長論 2：成長会計
(6)労働市場：労働需要と労働供給
(7)インフレーション：実質利子率と期待
(8)金融政策と物価：フィリップス曲線
(9)短期モデル：IS 曲線とモデル分析
(10)AS-AD 分析：安定化政策
(11)マクロ経済学のミクロ的基礎 1：消費行動
(12)マクロ経済学のミクロ的基礎 2：投資行動
(13)財政政策：政府の役割と財政赤字
(14)社会保障と人口動態
(15)マクロ経済統計における最重要な教訓と未解決の問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J72161001
科目名	【院】情報科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のネットワーク社会の安全を守る基本的な技術として暗号があります。この講義では暗号の理論的な基礎であ る初等整数論の話を表計算ソフト Excel を使って学びます。それを踏まえて公開鍵暗号方式の仕組みと安全性を考 察します。また、実際のネットワーク環境での利用方法を実習します。		
教材（テキスト）	靍浩二著「Excel で学ぶ暗号技術入門」オーム社 2808 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点すなわち授業姿勢(40%)と、授業内レポートとレポート(60%)で評価します。		
到達目標	暗号技術について、実社会での意味と、具体的技術的な内容を把握することです。		
準備学習	現代社会におけるセキュリティ技術やネットワークにおける脅威・事件を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		
受講者への要望			
数学の計算を厭わないことと、コンピュータの操作が一通り出来ることです。懇切丁寧なテキストを採用していますので毎回予習して おいてください。			
講義の順序とポイント			
講義の順序は 1. 暗号入門 2. 初等整数論 1 3. 初等整数論 2 4. 初等整数論 3 5. 暗号技術(1)共通鍵暗号 6. 暗号技術(2)公開鍵暗号 7. 暗号技術(3)ハッシュ関数とデジタル署名 8. 暗号攻撃方法 9. 情報セキュリティ技術(1)電子認証技術 10. 情報セキュリティ技術(2)SSL 11. 情報セキュリティ技術(3)SSH 12. 情報セキュリティ技術(4)IPSec 13. ネットワーク社会と暗号 14. 量子暗号 15. 暗号技術の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J72162001
科目名	【院】経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	アダム・スミスに始まるイギリス古典派経済学を中心に講義をおこなう。「現代経済学」の源流はスミスの『国富論』(1776 年)に求められ、このスミスからリカードウとマルサスをへて、Ｊ．Ｓ．ミルにいたる系譜をイギリス古典派経済学と呼んでいる。 この講義では、サミュエル・ホランダー著『古典派経済学』をテキストにして、イギリス古典派経済学の系譜をスミスからミル、そしてマルクスまでたどり、(i)「価値と分配の理論」、(ii)「資本・雇用・成長理論」、(iii)「経済学方法論」という三つの視点から講義を行う予定である。		
教材（テキスト）	サミュエル・ホランダー著（千賀重義他訳）『古典派経済学』（多賀出版）1991 年		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち―先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫：2001 年）、同編『経済学の巨人たち―危機と闘う』（同上：2012 年）、同編『経済学４１の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社：2014 年）		
教材（その他）	毎回講義資料を配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	教科書を予習してくることは当然のこととして、教科書に出てくるスミス、マルサス、リカードウ、Ｊ．Ｓ．ミル、マルクスといった人物の経済学上の古典については、翻訳でもよいので、直接原典にあたって学習する習慣を身につけてもらいたい。		
受講者への要望			
講義でとりあげるイギリス古典経済学の著作であれば翻訳でもいいので、少なくとも 1 冊は通読するすることも求めたい。			
講義の順序とポイント			
１．経済学史におけるイギリス古典派経済学の位置 ２．アダム・スミスの先行者たち ３．重農主義者たち ４．価値と分配の理論(1)： スミス ５．価値と分配の理論(2)： リカードウ ６．価値と分配の理論(3)： Ｊ・S・ミル ７．資本・雇用・成長理論(1)： スミス ８．資本・雇用・成長理論(2)： リカードウ ９．資本・雇用・成長理論(3)： Ｊ・S・ミル １０．貨幣と銀行 １１．経済学方法論(1) １２．経済学方法論(2) １３．経済学方法論(3) １４．マルクス経済学の古典的特徴 １５．古典派経済学から近代経済学へ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72163001
科目名	【院】近代経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Modern Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	1870 年代は古典派経済学が解体し、それを契機としてマルクス経済学と近代経済学が成立した時代である。限界革命をもって始まった近代経済学は、1930 年代にケインズ経済学が登場することよって危機の時代を乗り切り、さらに今日の新古典派経済学は、「環境」「教育」「医療」「政治」といった社会のあらゆる分野にまで考察領域を拡大し、進化を続けている。こうした近代経済学の成立と発展の過程を現代まで紹介することが、本講義の課題である。		
教材（テキスト）	テキストは使用せず、配布する講義資料によって授業を進める。		
教材（参考文献）	菱山泉『近代経済学の歴史―マーシャルからケインズまで』（講談社学術文庫：1997 年） 馬渡尚憲『経済学史』（有斐閣：1997 年）		
教材（その他）	講義資料やプリントを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	この講義では、「限界革命」に始まる近代経済学の発展を現代までたどり、時代的制約を免れえない経済学の科学としての問題性を解明するとともに、現代社会の諸問題を解決しうる新しい経済学とはどうあるべきかについて探求することを、あわせて目標とする。		
準備学習	テキストは使用しないので、教材として指示した参考文献、さらには事前に配布する講義資料に必ず目を通しておくこと。		
受講者への要望			
授業や参考文献に出てくる経済学の古典的文献のなかで、とくに翻訳があるものについては、可能なかぎり原典に直接あたることを求める。			
講義の順序とポイント			
１．「限界革命」と近代経済学の成立 ２．ジェヴォンズ ３．メンガー ４．ワルラス ５．ケンブリッジ学派――マーシャルとピグー ６．シュンペーターの経済学 ７．ヴェブレンと制度派経済学 ８．ケインズ革命(1) ９．ケインズ革命(2) １０．ケインズ革命(3) １１．新古典派的総合――サミュエルソン １２．新古典派経済学の諸潮流(1) １３．新古典派経済学の諸潮流(2) １４．新古典派経済学の諸潮流(3) １５．新古典派経済学批判の新潮流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72164001
科目名	【院】社会経済史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Social Economy		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	産業革命は、もはや経済史研究の最前線に位置しているわけではないが、経済史研究の重要なテーマであることに変わりはない。産業革命をめぐる研究史を整理することによって経済史研究の方法論を身につけることが、この科目の目的である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	①長岡新吉（1979）『産業革命』教育社(必要な箇所をコピーして配布します)。 ②松尾太郎（1986）『経済史と資本論』論創社。 ③Henderson, W.O.(1967)The Industrial revolution on the Continent, Frank Cass.		
教材（その他）			
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	経済史の研究史を回顧し、経済史が学問として確立されていった過程を理解する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）のうち②と③が図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
教材（参考文献）に英語文献も使用するので、受講生には英語の読解力が求められる。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　問屋制家内工業 3　マニュファクチュア 4　機械制大工業 5　石炭利用における技術進歩 6　製鉄業における技術進歩 7　議会制エンクロージャー 8　工場法の意義 9　周期的過剰生産恐慌 10　産業革命の始期と終期 11　産業革命概念の再検討①断絶説と連続説 12　産業革命概念の再検討②生活水準論争 13　フランスの産業革命 14　日本の産業革命①マニュファクチュア論争 15　日本の産業革命②蚕糸業が占めた地位			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J72165001
科目名	【院】西洋経済史	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	大航海時代に世界経済が一体化していく過程を跡付けていきます。具体的には、スペイン領アメリカから持ち出された銀と中国（明朝）から持ち出された絹織物や陶磁器がフィリピンで交換された事例などについて検討を加えます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	①網野徹哉（2008）『インカとスペイン　帝国の交錯』講談社。 ②増田義郎（2008）『大航海時代』河出書房新社。 ③Flynn, Denis O.(1996)World Silver and Monetary History in the 16th and 17th Centuries, Aldersht.（コピーを配布します。）		
教材（その他）			
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	大航海時代に世界が一体化していった過程について理解を深める。		
準備学習	上記の教材（参考文献）のうち①と②が図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
教材（参考文献）として英語文献も使用するので、受講生には英語の読解力が求められる。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　陸の道と海の路 3　地中海世界とインド洋 4　インド洋世界の発展 5　騎士・商人・伝道者 6　ジェノヴァとポルトガル 7　コロンブスとインディアス 8　ポルトガルのアジア進出 9　香料諸島をめぐる争い 10　大航海時代と近代世界 11　征服者と被征服者 12　植民地社会の形成 13　インカ王朝の終焉 14　銀を運んだ道 15　アメリカ大陸とアジア世界の交流			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J72168001
科目名	【院】交通経済論	単位数	2
科目名（英語表記）	Transportation Economics		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	交通に限らずさまざまな社会経済活動に対する規制のありかたを主としてミクロ経済学と市場の失敗に基づいて議論する論文を書く履修者について、その論文作成を指導します。 テーマは受講者の興味に応じて相談のうえきめます。		
教材（テキスト）	大学院の授業であり、かつ演習授業なので、教科書は使いません。		
教材（参考文献）	受講者の発表テーマが決まり次第、考えた場合は適宜指示しますが、学生自身が探してくることが基本です。		
教材（その他）	教材（テキスト）および参考文献に同じ。		
評価方法	半期に１本、修士論文の１章になり得る程度の論文を書くことを求め、基本的にはその内容によって判断します(100%)。 無論、礼儀作法、執筆意欲など常識的な項目はここに記すまでもありませんが、当然、それが備わっていない学生は論文提出を認めません（100%)。		
到達目標	修士論文を書くための補助作業になり得ること。具体的には修士論文の１章となり得る論文を書くこと。		
準備学習	発表の準備。言わずもがなですが。論文の進展に応じて当然、次回の発表内容を指示します。		

受講者への要望

テーマについては相談に応じますが、ミクロ経済学の基本的知識、できれば、公共経済学の基本的知識があることと、学術的な修士論文を書く意欲が求められます。

講義の順序とポイント

１．研究テーマについての相談
２．履修者による発表とコメント、議論
３．履修者による発表とコメント、議論
４．履修者による発表とコメント、議論
５．履修者による発表とコメント、議論
６．履修者による発表とコメント、議論
７．履修者による発表とコメント、議論
８．履修者による発表とコメント、議論
９．履修者による発表とコメント、議論
10．履修者による発表とコメント、議論
11．履修者による発表とコメント、議論
12．履修者による発表とコメント、議論
13．履修者による発表とコメント、議論
14．履修者による発表とコメント、議論
15．履修者による発表とコメント、議論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J72171A01
科目名	【院】計量経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Econometrics A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	計量経済モデルに対する理解と実践		
準備学習	統計学の入門テキスト、EViews の解説書を読んでおくこと。 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること		
受講者への要望			
特に無い			
講義の順序とポイント			
受講者と共にモデリングに取り組む 第１回　ガイダンス 第２回　回帰分析入門(EViews 入門) 第３回　EViews その２ 第４回　EViews その３ 第５回　重回帰分析 第６回　重回帰分析その２ 第７回　重回帰分析とその解釈 第８回　社会データを用いた事例分析 第９回　事例分析その２ 第１０回　論文様式の発表とチェック 第１１回　論文様式の発表とチェック 第１２回　重回帰分析の応用 第１３回　応用その２ 第１４回　分析の発表 第１５回　分析の発表と討議			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J72171B01
科目名	【院】計量経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Econometrics B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常の発表内容による(100%)		
到達目標	計量経済モデルに対する理解と実践		
準備学習	統計学の入門テキスト、EViews の解説書を読んでおくこと。 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること		
受講者への要望			
特に無い			
講義の順序とポイント			
受講者と共にモデリングに取り組む 第１回　ガイダンス 第２回　回帰分析応用(EViews 応用) 第３回　EViews 応用その２ 第４回　EViews 応用その３ 第５回　重回帰分析応用と解釈 第６回　重回帰分析応用と解釈その２ 第７回　重回帰分析応用と解釈その３ 第８回　社会データを用いた事例分析 第９回　事例分析その２ 第１０回　修士論文ー分析の討議１ 第１１回　修士論文ー分析の討議２ 第１２回　修士論文ー分析の討議３ 第１３回　修士論文まとめその１ 第１４回　修士論文まとめその２ 第１５回　修士論文まとめその３			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J72172A01
科目名	【院】時系列解析演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済時系列データの解析手順を修得する。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	縄田和満、「EViews による計量経済分析入門」、朝倉書店、２００９		
教材（その他）			
評価方法	4 回のレポートを評価(大きなテーマごと、各 25%)		
到達目標	経済時系列データの解析手順を修得する。VAR モデルの理解。		
準備学習	数学やコンピュータの理解は慣れてくれば出来る。経済学の基礎勉強が欠かせない。 事前学習：金融論、マクロ経済学を理解しておくこと。 事後学習：参考文献を 1 年次演習終了までに読み終えておくこと。		
受講者への要望			
経済学の基礎をよく勉強しておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1.VAR モデルの作成 2.通常の VAR と VEC（誤差修正型の VAR） 3.構造 VAR 4.同上 5.日本のマクロデータへの応用 6.マクロの金融モデル 7.金融緩和の効果測定 8.同上 9.ヨーロッパのマクロデータへの応用 10.マクロの金融モデル 11.金融緩和の効果測定 12.マイナス金利の影響 13.株式データへの応用 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J72172B01
科目名	【院】時系列解析演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	VEC モデルの理解と作成方法の習得。単なる VAR よりも、VEC モデルの有用性が言われている。また、構造型の VAR の必要性も主張されている。各種モデルの違いを明らかにし、マクロ金融システムに応用して、量的金融緩和の有効性の分析に用いることにする。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	Hamilton,J.D., ''Time Series Analysis''		
教材（その他）			
評価方法	レポート（複数回）		
到達目標	VEC モデルの作成		
準備学習	経済学の勉強 事前学習：縄田和満「EViews による計量経済学分析入門」を読んでおくこと。 事後学習：Hamilton の''Time Series Analysis''の該当箇所（指示する）を読んで理解しておくこと。		
受講者への要望			
数学は気にせず、経済学的な意味合いを理解することが重要。			
講義の順序とポイント			
1.VEC モデルの作成 2.同上 3.同上 4.日本のマクロデータへの応用 5.同上 6.同上 7.ヨーロッパのマクロデータへの応用 8.同上 9.同上 10.株式データへの応用 11.同上 12.同上 13.不況時のマクロマネー系（金融不安要因の導入） 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J72173A01
科目名	【院】経済学史演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	「経済学の父」とよばれるアダム・スミスが 1776 年に刊行した『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、壮大な経済学体系であり、全部で５編からなっている。本演習Ａでは第１・第２編の経済理論をとりあげ、その内容を現在の経済理論と比較しながら検討することにしたい。		
教材（テキスト）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・前４分冊）［第１・第２分冊］		
教材（参考文献）	授業前に適宜指示する。		
教材（その他）	必要な資料については適宜プリントして配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	演習での古典文献の読解を通じて、修士論文作成に必要な基本的な学習能力と学習方法の習得を目標とする。		
準備学習	受講生は、テキストと指示された参考う文献をしっかり予習して授業に臨むこと。また報告を指示された受講生については、指定された当該範囲のレジュメを準備して演習に参加すること。		

受講者への要望

テキストは、水田洋監訳『国富論』（岩波文庫）を使用するが、受講生はつねに『国富論』の原文に直接あたる習慣を身につけるように求める。

講義の順序とポイント

１．『国富論』体系について
２．分業論(1)
３．分業論(2)
４．貨幣論
５．価値論(1)
６．価値論(2)
７．価格と市場理論(1)
８．価格と市場理論(2)
９．賃金論
１０．利潤論
１１．地代論
１２．資本の理論(1)
１３．資本の理論(2)
１４．資本蓄積論
１５．資本投下順位論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J72173B01
科目名	【院】経済学史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包括する、全５篇からなる壮大な経済学の体系である。演習Ａでは、『国富論』第１編・第２編で論じられる経済理論を分析したが、演習Ｂでは、第５編の国家財政論をとりあげ、経費論・収入論・公債論の順序で集中的に検討する。経済的自由主義の立場からスミスは、国家の市場経済への介入をできる限り制限することを求めるが、しかし政府の機能を否定するどころか、現代においてもきわめて示唆に富む、きわめて現実的な政治論を展開していることを明らかにしたい。		
教材（テキスト）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・前４分冊）［第４分冊］		
教材（参考文献）	授業前に適宜指示する。		
教材（その他）	資料を適宜プリントして配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	古典文献の読破を通して、修士論文の作成に必要な基本的な学習の能力と学習方法を鍛錬する。修士論文の大まかな構想を固めることが、演習Ｂの到達目標である。		
準備学習	受講生は、テキストとともに指示された参考文献をしっかり予習してゼミに臨むこと。また報告を指名された受講生は、指定された当該範囲のレジュメを作成して出席すること。		

受講者への要望

テキストについては、水田洋監訳『国富論』（岩波文庫）を使用するが、受講生には、つねに『国富論』の原文にあたって学習する習慣を身につけるように求める。

講義の順序とポイント

１．スミスの国家財政論について
２．経費論と政府の役割(1)
３．経費論と政府の役割(2)
４．経費論と政府の役割(3)
５．経費論と政府の役割(4)
６．経費論と政府の役割(5)
７．租税論(1)
８．租税論(2)
９．租税論(3)
１０．租税論(4)
１１．租税論(5)
１２．公債論(1)
１３．公債論(2)
１４．公債論(3)
１５．スミス国家財政論の総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J72174A01
科目名	【院】社会経済史演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	19 世紀から 20 世紀前半までの世界生糸市場の歴史を取り上げます。具体的には、イタリア・フランス・日本・中国の蚕糸業において展開された国際競争を跡付けていきます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	①石井寛治（1972）『日本蚕糸業史分析』東京大学出版会。 ②大野彰（2015）「1900 年前後に欧米で日本産生糸は絹織物の経糸にはならなかったのか」『社会経済史学』　第 81 巻第 2 号。 ③Federico, Giovannni(1997)An Economic History of the Silk Industry, 1830-1930, Cambridge University Press.		
教材（その他）			
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	通説の再検討を通じて経済史の方法論に関する理解を深める。		
準備学習	上記の教材（参考文献）のうち①と②が図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
教材（参考文献）に英語文献も使用するので、受講生には英語の読解力が求められる。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　生糸世界市場の成立 3　主要生糸生産国の動向 4　日本産生糸の進出 5　いわゆる「第Ⅱ類型製糸家」 6　いわゆる「第Ⅰ類型製糸家」 7　転換期としての 1910 年代 8　通説の再検討 9　絹織物の種類 10　製糸の原理 11　繰糸法の比較 12　横浜市場の特質 13　繰糸法の革新 14　蚕品種の改良 15　第一次世界大戦下の生糸市場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J72174B01
科目名	【院】社会経済史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	中国の器械製糸業が、イタリアやフランスから技術を移転することによって発展した過程をたどります。あわせて中国の器械製糸業の長所と短所について整理します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	①清川雪彦（2009）『近代製糸技術とアジア』名古屋大学出版会。 ②Li, Lilian M.(1981)China's Silk Trade, Harvard University Press. （必要な箇所のコピーを配布します。）		
教材（その他）			
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	経済史と技術史を相互に関連させながら中国の蚕糸業の特徴について理解を深める。		
準備学習	上記の教材（参考文献）のうち①が図書館にあるので前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
教材（参考文献）に英語文献も使用するので、受講生には英語の読解力が求められる。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　中国の生糸産地概観 3　生糸生産に影響を与えた要因 4　中国の栽桑業 5　中国の養蚕業 6　中国の在来製糸法 7　イタリア・フランスの製糸技術 8　イタリア・フランスの労務管理法 9　イタリアから中国への技術移転 10　上海の器械製糸業の特徴 11　上海の器械製糸業の長所と短所 12　フランスから中国への技術移転 13　広東の器械製糸業の特徴 14　広東の器械製糸業の長所と短所 15　日本の製糸業との比較			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J72174C01
科目名	【院】社会経済史演習C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy C		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	ヨーロッパやアメリカから中国に進出した商社は中国で洋行と呼ばれましたが、その中には上海などに製糸場（糸廠）を設立したものがあります。こうした製糸場（糸廠）はイタリア人やフランス人の技術者を雇い、ヨーロッパの器械製糸技術を中国に移転する上で一定の役割を果たしました。そこで、技術移転論の観点から、外商が中国における器械製糸業の発展に及ぼしたプラス面とマイナス面について考察します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	桃賢鎬（1962）『中国近代対外貿易史資料　1840－1895　第二冊』中国科学院経済研究所。徐新吾主（1990）『中国近代繰糸工業史』上海人民出版社。		
教材（その他）			
評価方法	授業内における報告（100%）		
到達目標	修士論文の概要を作成する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）を前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
参考文献として使用する中国語文献を日本語に翻訳してもらうことになるが、訳文ができるだけ自然な日本語に近づくよう努力してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　中国における外商 2　怡和洋行(Jardine Matheson & Co.) 3　老沙遜洋行(David Sassoon & Co. Ltd.) 4　義記洋行(Holliday, Wise & Co.) 5　旗昌洋行(Russell & Co.) 6　禮和洋行(Carlowitz & Co.) 7　美最時洋行(Melchers) 8　中国各省の生糸生産 9　中国蚕糸業発展の隘路 10　中国における近代繰糸業の発展とその限界 11　中国における養蚕業の発展が緩慢であった理由 12　上海の器械製糸場 13　広東の器械製糸場 14　修士論文の概要作成① 15　修士論文の概要作成②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J72174D01
科目名	【院】社会経済史演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy D		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	修士論文の完成に向けて議論を重ねます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	①桃賢鎬（1962）『中国近代対外貿易史資料　1840－1895　第二冊』中国科学院経済研究所。 ②徐新吾主（1990）『中国近代繰糸工業史』上海人民出版社。		
教材（その他）			
評価方法	授業内における報告（100%）		
到達目標	修士論文を完成させる。		
準備学習	上記の教材（参考文献）を前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

良い修士論文ができるまで粘り強く思索を重ねてほしい。

講義の順序とポイント

1　修士論文の途中報告
2　修士論文の途中報告
3　世界主要産糸国の生産の消長
4　蚕糸の国際市場における変化
5　修士論文の途中報告
6　修士論文の途中報告
7　日本蚕糸業の急速な発展（その１）
8　日本蚕糸業の急速な発展（その２）
9　修士論文のテーマ報告会の準備
10　修士論文の途中報告
11　修士論文の途中報告
12　上海の器械糸輸出
13　広東の器械糸輸出
14　修士論文の練り直し
15　修士論文の完成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J72175A01
科目名	【院】経済政策論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	演習では、受講者と相談の上、修士論文のテーマを決め、それに沿って論文指導をする． 先ずは、修士論文のテーマを絞り込むため、周辺領域を含めた文献を収集し、問題点を洗い直すとともに、公表されている統計データで問題の所在を確認する．その後、修士論文に関係する基本文献を選び、丁寧に読み込んでいく．そのさい、経済社会の制度的な側面や我が国の動向を踏まえつつ、最新の動向にも注意を払いながら、修士論文の構想の概要を纏める．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート（50%）		
到達目標	経済政策論基礎理論についての理解を深める		
準備学習	配付資料に目を通し，関連する経済動向と政策的対応について，新聞報道や雑誌記事等を通じて事前に確認する．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させる			
講義の順序とポイント			
１．日本経済の現況と課題 ２．日本経済の現況と課題 ３．経済社会の多元化と政策主体の多様化 ４．成長政策 ５．分配政策 ６．経済安定化政策 ７．経済安定化政策 ８．経済安定化政策 ９．経済安定化政策 １０．経済安定化政策 １１．政策形成過程 １２．政策形成の担い手 １３．政策形成のパラダイム １４．協調的政策形成 １５．経済社会の三重秩序論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J72175B01
科目名	【院】経済政策論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	演習Ａと同様、受講者と相談の上、修士論文のテーマを決め、それに沿って論文指導をする．演習Ａで整理した修士論文のテーマに関連する問題点や経済社会の実態を公表されている統計データに基づいて理解を深める．そのさい、経済社会の制度的な側面や我が国の動向を踏まえつつ、最新の動向にも注意を払うそのことを通じて、修士論文の章・節などの構成を比較検討し、修士論文の全体構想を固める．		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	修士論文の骨子の確定		
準備学習	関連文献の収集と研究		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させよう．			
講義の順序とポイント			
１　基本文献の講読① ２　基本文献の講読② ３　基本文献の講読③ ４　基本文献の講読④ ５　基本文献の講読⑤ ６　基本文献の講読⑥ ７　基本文献の講読⑦ ８　基本文献の講読⑧ ９　論文の概要と章節構成の作成① １０　論文の概要と章節構成の作成② １１　論文の概要と章節構成の作成③ １２　論文の概要と章節構成の作成④ １３　論文の概要と章節構成の作成⑤ １４　論文の概要と章節構成の作成⑥ １５　論文の概要と章節構成の作成⑦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J72176A01
科目名	【院】公共経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。		
教材（テキスト）	井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣		
教材（参考文献）	IHORI, H., Public Finance in an Overlapping Generations Economy, Macmillan 1996.		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内報告５０％　　レポート課題５０％		
到達目標	公共経済学の応用研究について概観し、経済学の技術および手法の使用について基礎を固める。		
準備学習	（1）テキストの指定箇所を読み、ノートを作成する。 （2）関連資料を集めて整理し、それに基づく報告資料を作成すること。		
受講者への要望			
（1）現代日本の政策課題への関心を持ち、日頃から雑誌や新聞、web で情報収集を心がける。 （2）「記憶」よりも「理解」を優先して欲しい。また、理解には妥協無く正確に納得できる水準まで取り組むことが重要である。			
講義の順序とポイント			
第１回：講義の概要とテキストの紹介 第２回：市場機構と公的介入 第３回：自然独占産業と公的規制 第４回：最適課税の理論 第５回：公共財の理論 第６回：公共選択の理論 第７回：政党と官僚の経済分析 第８回：公債の負担 第９回：公債発行と財政運営 第１０回：高齢化と年金改革 第１１回：政府支出政策のマクロ効果 第１２回：公共投資 第１３回：開放経済での公共政策 第１４回：国と地方の分担システム 第１５回：現代日本の公共経済学的課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J72176B01
科目名	【院】公共経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。		
教材（テキスト）	Presson & Tabellini, Political Economics, MIT Press.		
教材（参考文献）	（１）Presson & Tabellini, Monetary and Fiscal Policy, MIT Press. （２）クリスタル＆ペナンリー著・黒川監訳『経済政策の公共選択分析』　勁草書房		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内報告５０％　　課題レポート５０％		
到達目標	政策決定の政治過程に焦点を当てた経済分析を学び、伝統的経済学の分析で不足する部分を確認する。		
準備学習	（１）テキストの指定した箇所を読み、ノートを作成する。 （２）理論および英語で理解が曖昧な箇所を事前に明確にしておく。 （３）関連資料を集め整理し、その内容についての報告資料を作成する。		
受講者への要望			
英文のテキストを利用するが、受講者の英語力に応じて進度は調整する。経済学で使用される英語は「慣れ」で克服できるので、辛抱強く取り組んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
第１回：講義の概要とテキストの紹介 第２回：General Introduction 第３回：Preference and Institutions 第４回：Electoral Competition 第５回：Agency 第６回：Partisan Politicians 第７回：General-Interest Politics 第８回：Special-Interest Politics(1) 第９回：Special-Interest Politics(2) 第１０回：Electoral Rules and Electoral Competition 第１１回：Institutions and Accountability 第１２回：Political Regimes 第１３回：Dynamic Policy Problems 第１４回：Public Debt 第１５回：Intergenerational Transfers through Social Security Programs			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J72189001
科目名	【院】ミクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics		
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	
講義概要	経済や企業は絶えず変化しているから、この科目の目標は、生涯に亘ってさまざまな問題に対処できる汎用性のある問題解決能力を身につけることである。そしてそのような能力は、ミクロ経済学・マクロ経済学という基礎的な経済学のトレーニングによって培うことができる。この講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を学びことを目的としており、なかでも １．消費者と企業の行動を経済学的な観点からどのように表現するか理解する。 ２．競争市場とその均衡の経済学的な意味を理解する。 ３．不完全競争下の企業行動がどのように経済に影響するか理解する。 ４．不確実性下の問題とゲーム理論によるアプローチの基礎を理解する。 の４点に注力を注ぎます。		
教材（テキスト）	武隈慎一（1999）『ミクロ経済学　増補版』　新世社　￥2,850 円　ISBN-13: 978-4883840045		
教材（参考文献）	神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』　日本評論社　￥3,456 円　ISBN-13: 978-4535557567 伊藤元重（2003）『ミクロ経済学　第２版』　日本評論社　￥3,000 円　ISBN-13: 978-4535552616 家森信善・小川光（2016/3 月発刊予定）　『ミクロ経済学の基礎』　中央経済社　￥未定　ISBN-13: 978-4502179518		
教材（その他）	授業中に，適宜指示します。		
評価方法	授業内報告（30%）・レポート（40%）・試験（30%）により総合的に評価します。 下記は通常評価の例ですが，適宜応談します。 授業内報告とは，講義もしますが，輪読で行う際の報告を指します。 レポートは基本的に教科書ならびに資料のまとめや章末にある練習問題です。 試験はレポートで行った内容が主な出題です。		
到達目標	ミクロ経済学は経済学的な考え方の基礎的な道具となっていますので，この授業では基本概念と分析方法をおさえ，応用分野で利用できるようにすることを目標とします。		
準備学習	適宜講義の終わりに指示しますが基本的には教科書に従って進めますので，次の講義に必要な基本的な用語を事前に認識し，何を目的としてどのような範囲を対象としているかを留意して概観を捉えてくることを薦めます。授業中はポイントや考え方導き方のコツを涵養してもらいますし，準備学習で気付いた疑問点を解決していきたいと思います。		

受講者への要望

１）積極的な姿勢で講義に臨むことが望ましい。
２）質問が無ければ全て理解していると判断しますので，分からないことは後回しにせずにいつでも聞いて下さい。

講義の順序とポイント

1)　基本概念と分析手法
2)　消費者行動（１）－効用関数と需要曲線
3)　消費者行動（２）－需要の変化と双対性アプローチ
4)　企業行動（１）－生産技術の数学的表現
5)　企業行動（２）－利潤最大化と費用最小化
6)　競争経済の均衡（１）－需要と供給の調整
7)　競争経済の均衡（２）－交換経済の均衡
8)　経済厚生（１）－パレート効率性
9)　経済厚生（２）－厚生経済学の基本定理
10)　不完全競争（１）－独占企業の利潤最大化
11)　不完全競争（２）－クールノーの均衡
12)　不確実性Ⅰ
13)　不確実性Ⅱ
14)　ゲーム理論Ⅰ
15)　ゲーム理論Ⅱ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2017	授業コード	J72190001
科目名	【院】ミクロ経済分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomic Analysis		
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は，ミクロ経済学の分析方法を用いた応用および発展分野について考察することである。特に，不確実性下でのミクロ経済学のアプローチからはじめ，証券市場分析について学ぶ。また，ゲーム理論についても学び情報がどのように市場や企業に影響しているかを学ぶ。		
教材（テキスト）	武隈慎一（編著）(2005)『エコノミクス 入門ミクロ経済学』　ダイヤモンド社　￥3,240 円（税込）　ISBN-13: 978-4478210550		
教材（参考文献）	神取道宏（2014)『ミクロ経済学の力』　日本評論社　￥3,456 円　ISBN-13: 978-4535557567 家森信善・小川光（2016/3 月発刊予定）『ミクロ経済学の基礎』　中央経済社　￥未定　ISBN-13: 978-4502179518 仁科一彦・倉澤資成 (2009)『ポートフォリオ理論―基礎と応用』　中央経済社　￥2,800 円　ISBN-13: 978-4502669606 他，適宜指示します。		
教材（その他）	一部，PPT の資料を活用し，配布します。 他，授業中に適宜配布します。		
評価方法	授業内報告（30%）・レポート（40%）・試験（30%）により総合的に評価します。 下記は通常評価の例ですが，適宜応談します。 授業内報告とは，講義もしますが，輪読で行う際の報告を指します。 レポートは基本的に教科書ならびに資料のまとめや章末にある練習問題です。 試験はレポートで行った内容が主な出題です。		
到達目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を学び，応用分野である証券市場分析を理解することを目標とします。また，実際のシミュレーションゲームを行うことでポートフォリオの経済効果を学んで頂きます。		
準備学習	適宜，授業の終わりに次回の内容について説明し，指示します。		

受講者への要望

1）積極的な姿勢で講義に臨むことが望ましい。
2）質問が無ければ全て理解していると判断しますので，分からないことは後回しにせずにいつでも聞いて下さい。

講義の順序とポイント

1)　証券市場とミクロ経済学
2)　期待効用関数
3)　リスク回避度と平均分散分析
4)　状態依存と均衡概念
5)　資本資産価格モデル
6)　同額モデル
7)　資産をめぐる問題
8)　ファイナンスとの関係
9)　ミクロ的な経済統計
10)　代表的な指標：マクロ指標・市場動向・企業財務情報
11)　ポートフォリオシミュレーションゲーム 1
12)　ポートフォリオシミュレーションゲーム 2
13)　ポートフォリオシミュレーションゲーム 3
14)　ゲーム理論 I
15)　ゲーム理論 II

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2017	授業コード	J72191001
科目名	【院】国際金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	為替レート決定理論，および為替レート変動が及ぼすマクロ経済効果について主に身につけることを目的とする．		
教材（テキスト）	未定.		
教材（参考文献）	○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○河合正弘(1994)『国際金融論』　東京大学出版会 ○藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』　有斐閣		
教材（その他）	○Mark(2001), “International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods” Wiley-Blackwell. ○Sarno and Taylor(2003), “The economics of exchange rates”　Cambridge University Press. ○Obstfeld and Rogoff(1996), “Foundations of international Macroeconomics”　The MIT Press.		
評価方法	基本的に，授業中の報告（60%）とレポート(40%)の成績によって評価する．		
到達目標	学部上級から大学院中級レベルの内容を理解することによって，修士論文が書けるまで学力を引き上げることを目標とする．		
準備学習	学部初級レベルの国際金融，また大学院の国際金融を学ぶ上で必要なマクロ経済学，金融論の知識を授業外で整理しておくこと．また，（必要に応じて講義も行う予定であるが）授業は教材・資料の輪読を中心に進める予定である．それゆえ，事前に指示した教材・資料の予習をしておくこと．		
受講者への要望			
数学的な内容の授業を行う．しかし，徐々に慣れてくるので，途中で投げ出さず頑張ってもらいたい．			
講義の順序とポイント			
第 1 回：為替レートの基礎概念 第 2 回：国際収支の基礎概念 第 3 回：為替レートの決定理論 1 第 4 回：為替レートの決定理論 2 第 5 回：為替レートの決定理論 3 第 6 回：為替レートの決定理論 4 第 7 回：為替レートの決定理論 5 第 8 回：為替レートの決定理論 6 第 9 回：開放経済における政策効果 1 第 10 回：開放経済における政策効果 2 第 11 回：開放経済における政策効果 3 第 12 回：開放経済における政策効果 4 第 13 回：開放経済における政策効果 5 第 14 回：開放経済における政策効果 6 第 15 回：開放経済における政策効果 7			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J72192001
科目名	【院】国際経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年の国際経済学・国際マクロ経済学の理論モデルを身につけることを目的とする.		
教材（テキスト）	未定.		
教材（参考文献）	○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣 ○大川昌幸(2006)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』　有斐閣		
教材（その他）	○Obstfeld and Rogoff(1996), “Foundations of International Macroeconomics”, The MIT Press. ○授業に関連した学術雑誌掲載論文		
評価方法	基本的に，授業中の報告（60%）とレポート(40%)の成績によって評価する.		
到達目標	学部上級から大学院中級レベルの内容を理解することによって，修士論文が書けるまで学力を引き上げることを目標とする.		
準備学習	学部初級レベルの国際経済学，また国際経済学を学ぶ上で必要なミクロ経済学，マクロ経済学を授業外で整理しておくこと．また，（必要に応じて講義も行う予定であるが）授業は教材・資料の輪読を中心に進める予定である．それゆえ，事前に指示した教材・資料の予習をしておくこと.		
受講者への要望			
数学的な内容の授業を行う．しかし，徐々に慣れてくるので，途中で投げ出さず頑張ってもらいたい.			
講義の順序とポイント			
第１回：リカード・モデル１ 第２回：リカード・モデル２ 第３回：ヘクシャー・オーリンモデル１ 第４回：ヘクシャー・オーリンモデル２ 第５回：ヘクシャー・オーリンモデル３ 第６回：ヘクシャー・オーリンモデル４ 第７回：マンデル・フレミングモデル１ 第８回：マンデル・フレミングモデル２ 第９回：マンデル・フレミングモデル３ 第１０回：マンデル・フレミングモデル４ 第１１回：New Open Economy Macroeconomics　1 第１２回：New Open Economy Macroeconomics　2 第１３回：New Open Economy Macroeconomics　3 第１４回：New Open Economy Macroeconomics　4 第１５回：New Open Economy Macroeconomics　5			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J72193001
科目名	【院】財政学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance		
担当者名	寺本　博美	旧科目名称	
講義概要	財政現象を経済と政治，さらには社会との交錯現象として理解することは重要である。本講義では，財政学の伝統に従い，経費論，租税論，受益者負担，公債，予算制度を中心に財政問題を理論的な側面および歴史，制度の側面から考察し，講義する。同時に，実証的な側面を理解するために関連する財政統計データを利用する。		
教材（テキスト）	神野直彦『財政学 改訂版』有斐閣，3,456 円（税抜）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜ハンドアウトを配布する。		
評価方法	授業内報告 50%，試験・レポート課題 50%		
到達目標	1　日本の財政構造の特徴を説明できる。 2　財政理論のモデルに基づいて日本および欧米先進国の現状を説明できる。 3　民主主義の財政過程を説明できる。		
準備学習	1　講義終了時に次回の範囲を指定するので，予習しておくこと。 2　講義終了時に課題を指定するので，次回講義開始時に提出すること。		

受講者への要望

大学院生の本文として，学術を志向し，真摯にコンプライアンス意識をもって学修・研究に取り組んでもらいたい。無断欠席は厳禁である。

講義の順序とポイント

講義は原則として教科書に従うが，各回の講義サブタイトルは下記のとおりである。

(1) 財政とその性質
(2) 日本財政の現状
(3) 財政学の成立
(4) 財政および財政学説の生成
(5)現代の財政と財政学説
(6)公共経費の理論
(7)公共経費発展の理論
(8)日本の経費分類，発展と構造
(9)租税の意義
(10)租税構造の変遷
(11)租税原則とその意味
(12)租税の経済効果
(13)受益者負担
(14)公債の経済学
(15)予算制度と民主主義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J72194001
科目名	【院】財政政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Policy		
担当者名	寺本　博美	旧科目名称	
講義概要	私たちが直面する重大な経済問題を考えるときに，経済学の考え方がどれほど役立つか，経済学を学ぶことで現実の世界の理解を進めることができる。 本講義では政府の重要な経済的役割である財政政策を考える。財政政策はマクロおよびミクロ経済政策の貨幣的側面に特徴があり，具体的には政府が公共事業を拡大または縮小することによって，あるいは増税または減税をすることによって，需要の拡大や抑制を図る政策である。他方，現代では環境政策や医療・介護，福祉などの社会保障問題解決の手段として財政手段が用いられる。したがって，ミクロ経済的（資源配分）との関連においても考える。		
教材（テキスト）	伊藤隆敏『日本財政「最後の選択」』日本経済新聞社		
教材（参考文献）	『マンキュー　マクロ経済学（第 3 版）』I および II，東洋経済新報社。その他講義時に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告 50%，試験・レポート課題 50%		
到達目標	1　マクロ経済学の基本的な考え方や基礎理論を理解し，時論として整合的に説明することができる。 2　マクロ経済政策とミクロ経済政策との間のつながりを理解できる。 3　修士論文を完成させるための事例として活用できる。		
準備学習	1　講義終了時に，次回の範囲を指定するので予習しておくこと。 2　講義終了時に，演習課題，宿題を指定するので，次回講義開始時に提出すること。		
受講者への要望			
1　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。 2　無断欠席は厳禁である。			
講義の順序とポイント			
(1) 財政政策の経済学：概説 (2) ケインズ理論とフィスカル・ポリシー (3) 所得分析とフィスカル・ポリシー (4) インフレーションとフィスカル・ポリシー (5) 財政・金融のポリシー・ミックス (6) 財政のビルトイン・スタビライザー (7) マクロ・エコノメトリック・モデルとフィスカル・ポリシー (8) 公債管理と金融政策 (9) 公債の経済的作用 (10) 財政政策としての財政投融資 (11) 課税の経済効果 (12) 最適課税の理論 (13) 資本所得課税と経済成長 (14) 環境政策と財政 (15) 社会保障財政と福祉			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J72195001
科目名	【院】パーソナルファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）	Personal Finance		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	個人が社会生活を営むにあたり、個人の誕生→結婚→住宅取得→退職→老後の生活という道順を辿ることになる。その過程で資金を準備して、住宅を購入することは、人生最大のファイナンスといえる。近年では景気刺激策の一環として相続時清算課税制度、住宅ローン減税、居住用財産の買換えの特例等の住宅取得を後押しする施策が実施されている。しかしながら、これらのほとんどは時限的なものであり、相続税、贈与税、所得税、住民税等に連鎖し、申告義務が発生する。本講義ではＣＦＰ資格審査試験「タックスプランニング」についての講義とする。また CFP の科目である「不動産運用設計」「パーソナルファイナンス」の知識の習得をしながら、不動産の税金に関するケーススタディを行う。なお、提案書の作成も併せて行い、実際の応用の確認をはかる。その中で所得税、固定資産税、住民税、相続税、贈与税等の知識の習得に努めてもらいたい。		
教材（テキスト）	講義の中で指示を行う。		
教材（参考文献）	貝塚啓明『タックスプランニング』日本ＦＰ協会 ?１９４４円 貝塚啓明『パーソナルファイナンス』日本ＦＰ協会 ?１９４４円 川口有一郎『不動産運用設計』日本ＦＰ協会　１９４４円 宮口定雄『税務ハンドブック　平成 29 年度版』パーソナル社　１９５０円		
教材（その他）			
評価方法	レポート（５０%）・講義の中での発表(５０%)		
到達目標	実際にローンを組み、収入に見合った不動産を購入することを想定し、課税関係を含めた提案書の作成をできるようにする。		
準備学習	春学期に履修をする「リスクの経済学」で学ぶ税金・社会保障の問題を基に「リスク・マネジメント」「パーソナルファイナンス」で学ぶ知識を加えてレポート(提案書)の作成を行う。受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようする。そのためには予習をきっちりとしてくること。

講義の順序とポイント

１、　不動産の取得にかかわる税金①　　不動産取得税・登録免許税・不動産契約時の印紙税
２、　不動産の取得にかかわる税金②　　住宅用家屋の軽減税率、固定資産税・都市計画税の特例
３、　不動産の取得にかかわる税金③　　相続税と配偶者の軽減税率
４、　不動産の取得にかかわる税金④　　住宅取得等資金に係る手段と相続時清算課税制度の特例
５、　不動産の取得にかかわる税金⑤　　不動産取得のケーススタディ
６、　不動産の保有にかかわる税金　　固定資産税・都市計画税の特例と負担調整措置
７、　不動産の譲渡にかかわる税金①　　土地・建物の譲渡課税の概要
８、　不動産の譲渡にかかわる税金②　　所得税と特定の居住用財産の買換えの特例・住宅ローン控除
９、 ?不動産の譲渡にかかわる税金③　　土地・建物の譲渡のケーススタディ
１０、不動産の譲渡にかかわる税金④?? 土地・建物の譲渡のケーススタディ
１１、年金の補完の為のリバースモーゲージと固定資産税
１２、不動産税制の改正事項の確認
１３、提案書の作成①
１４、提案書の作成②
１５、提案書の作成③

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J72196001
科目名	【院】リスクの経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics on Risk Management		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	社会保障は、個人が生活を営むうえで直面するリスクを社会的にプールする仕組みである。今日、社会保障費の増大により増税は避けられないのが現状である。しかしながら現役世代と高齢世代との世代間格差を考えると、消費税の税率を上げ社会保障の原資とするのか、あるいは他の税金で賄うのかには一考の余地がある。本講義では個人生活に及ぼす影響を考慮しながら、社会保障制度を充実させるための税制についての学習する。		
教材（テキスト）	土居史朗『日本の税をどう見直すのか』 日本経済新聞社 井堀利宏『消費増税は、なぜ経済学的に正しいのか 』ダイヤモンド社		
教材（参考文献）	伊多波良雄『現代社会の財政学』　晃洋書房 三木義一『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	日本ＦＰ協会『リスク・マネジメント』、『タックスプランニング』		
評価方法	レポート(５０%)・講義の中での発表(５０%)		
到達目標	社会保障と税制改革についての根拠のある意見を述べてほしい。		
準備学習	世代間格差と税制との問題について、新聞報道等で如何に論じられているかを掌握をしておくこと。		
受講者への要望			
ＡＦＰ資格の取得を考えている場合には必ず本講義と秋学期の「パーソナルファイナンス」「リスク・マネジメント」を併せて受講すること。			
講義の順序とポイント			
１ ??財政悪化の現状 ２ ??日本の税制 ３ ??社会保障財源の負担 ４ ??租税原則と税の役割 ５ ??消費税導入の歴史的背景 ６ ??消費税の仕組み ７ ??消費税をめぐる課題① ８ ??消費税をめぐる課題② ９ ??社会保障制度と税① １０ ?社会保障制度と税② １１ ?所得課税と社会保険料 １２ ?介護保険制度と消費税 １３ ?個人所得課税 １４ ?税額控除の妥当性 １５ ?個人生活に及ぼす影響			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J72197001
科目名	【院】リスク・マネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Risk Management		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	企業経営に関わるリスクを中心に個人の関わるリスク、その防衛策・対処方法について講義する．財務リスクにも言及し、保険でカバーすることができるリスクについて、回避・移転等する方法を指導する。具体的には FP の上級資格である CFP 資格審査試験・CFP 認定者の「リスクと保険」分野を意識し，そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す．受講するにあたっては多岐にわたり税金に関連するため、AFP レベルの知識の他、所得税・法人税等の知識を有していることが望ましい。AFP の資格取得には、春学期に【院】リスクの経済学で基本を習得したうえで秋学期の【院】パーソナルファイナンスを受講して提案書提出が必須となる。		
教材（テキスト）	講義の中で指示を行う。		
教材（参考文献）	宇野典明『リスクマネジメント』日本Ｆ Ｐ協会 ?1944 円 宮口定雄『税務ハンドブック平成 29 年度版』パーソナル社 1950 円		
教材（その他）			
評価方法	レポート（５０%)・講義の中での発表(５０%)		
到達目標	企業経営におけるリスクの抽出、対処方法など本質的なことを理解できるようにしたい。		
準備学習	春学期に履修をする「リスクの経済学」で学ぶ税金・社会保障の問題を基に「リスク・マネジメント」「パーソナルファイナンス」で学ぶ知識を加えてレポート(提案書)の作成を行う。受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようする。そのためには予習をきっちりとしてくること。			
講義の順序とポイント			
１．　危機管理とリスクマネジメント ２．　企業のリスクマネジメント ３．?リスクファイナンスの活用 ４．?財務リスク ５．?個人生活におけるリスク ６．?損害保険業界の動向 ７．?損害保険の仕組み(１) ８．?損害保険の仕組み(２)? ９．?損害保険の税務 ? １０．法人のリスクマネジメントと保険設計 １１．個人のリスクマネジメントと保険設計 １２．法人生命保険契約の税務(１) １３．法人生命保険契約の税務(２) １４．保険業法 １５．保険約款・手続きについて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J72198001
科目名	【院】税務会計実務	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting Practice		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 　講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定と税額計算の基本的事項を説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。税効果会計、金融商品会計、退職給付会計等の新会計基準と、これらの申告調整方法について事例を交えて説明する。また、グループ法人税制や中小企業の会計実務についても触れる。		
教材（テキスト）	毎回、講義用レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	日本公認会計士協会東京会編『改訂版最新企業会計と法人税申告調整の実務』日本公認会計士協会出版局		
教材（その他）	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業中の報告や議論内容（70%）、レポート（30%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	法人税法の基礎知識がない受講生は法人税法の入門書を読んでおくこと。		

受講者への要望

授業中の活発な議論を期待する。

講義の順序とポイント

1.法人の区分と課税の範囲、法人税の体系
2.課税所得の計算構造
3. 損益の期間帰属、受取配当等
4.減価償却資産、繰延資産
5.役員給与、寄附金、交際費、その他の損金
6.引当金・準備金制度、圧縮記帳制度
7.税額の計算
8.移転価格税制等の国際課税
9.税効果会計と法人税
10.新会計基準と法人税（1）
11.新会計基準と法人税（2）
12.新会計基準と法人税（3）
13.中小企業の会計
14.グループ法人税制
15.法人税申告書総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J72199001
科目名	【院】新会計基準と法人税	単位数	2
科目名（英語表記）	New Accounting Standards and Corporation Taxes		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	金融ビッグバンの一環として、会計分野においてもグローバル化に対処するため、2000 年以降わが国の会計制度・会計基準に大変革がもたらされた。現在までに、新連結制度、金融商品の時価会計、退職給付会計、税効果会計、減損会計、企業結合会計、棚卸資産会計、リース会計、工事契約、資産除去債務、過年度遡及処理等々の新たな会計制度・会計基準が導入された。 　しかし一方、法人税の課税所得計算は、公正な会計慣行をベースとしつつも、税法固有の目的を実現するために必要な調整（税法独自の規定）を加えている。税法が上述の新会計基準に歩み寄る場合は問題はないが、そうでない場合には、新会計基準に基づく企業利益額と法人税法に基づく課税所得金額の間には大きな乖離　が生ずることになる。 　本講義では、新会計制度・基準の内容を理解し、これらに対する法人税の取扱いを学ぶ。また、法人税申告書における課税所得金額を計算するための調整方法を学ぶ。		
教材（テキスト）	毎回、講義用レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	日本公認会計士協会東京会編『改訂版最新企業会計と法人税申告調整の実務』日本公認会計士協会出版局		
教材（その他）			
評価方法	授業中の報告や議論内容（70%）、レポート（30%）		
到達目標	税効果会計などの新会計基準の内容を理解し、法人税の課税所得計算との調整ができる。		
準備学習	会計学及び法人税法の基礎知識がない受講生は、それぞれの入門書を読んでおくこと。		

受講者への要望

授業中の活発な議論を期待する。

講義の順序とポイント

1.会計ビッグバンの概要
2.課税所得の計算構造（1）
3.課税所得の計算構造（2）
4.税効果会計の概要（1）
5.税効果会計の概要（2）
6.金融商品会計と法人税（1）
7.金融商品会計と法人税（2）
8.退職給付会計と法人税（1）
9.退職給付会計と法人税（2）
10.減損会計と法人税（1）
11.減損会計と法人税（2）
12.その他の新会計基準と法人税（1）
13.その他の新会計基準と法人税（2）
14.中小企業の会計
15.法人税申告書総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J72200A01
科目名	【院】社会政策論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	修士論文作成のための準備の第一歩として、社会政策および関連分野から各受講者が選択したテーマについて、受講者に文献の要約報告を行ってもらう。		
教材（テキスト）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（参考文献）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（その他）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
評価方法	平常点（報告内容等）（50%）、レポート（50%）		
到達目標	修士論文作成に向けて研究の方向性を明らかにすること。		
準備学習	参考文献を収集して熟読し、報告用のレジュメを毎回作成しておくこと。		
受講者への要望			
十分な準備の上で授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス　―受講者の関心の確認と授業の方針の説明― ２．基礎的・概論的文献の購読① ３．基礎的・概論的文献の購読② ４．基礎的・概論的文献の購読③ ５．基礎的・概論的文献の購読④ ６．研究テーマの絞り込みと方向性の確認 ７．研究テーマに関する現状の確認① ８．研究テーマに関する現状の確認② ９．研究テーマに関する現状の確認③ １０．研究テーマに関する現状の確認④ １１．研究テーマに関する政策的課題の確認① １２．研究テーマに関する政策的課題の確認② １３．研究テーマに関する政策的課題の確認③ １４．研究テーマに関する政策的課題の確認④ １５．論点の整理と今後の研究の方向についての検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J72200B01
科目名	【院】社会政策論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	修士論文作成に向けて、「社会政策論演習Ａ」で得た知識を元にさらに理解を深め、テーマの絞り込みを行う。そのために、受講者に文献の要約報告等を行ってもらう。		
教材（テキスト）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（参考文献）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（その他）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
評価方法	平常点（報告内容等）（50%）、レポート（50％）		
到達目標	修士論文のテーマを明確にすること。		
準備学習	参考文献を収集して熟読し、報告用のレジュメを毎回作成しておくこと。		
受講者への要望			
十分な準備の上で授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．研究の進捗状況の確認 ２．政策的課題の要因分析① ３．政策的課題の要因分析② ４．政策的課題の要因分析③ ５、政策的課題の要因分析④ ６．政策的課題の要因分析⑤ ７．政策的課題の要因についての考察① ８．政策的課題の要因についての考察② ９．政策的課題の要因についての考察③ １０．政策的課題の要因についての考察④ １１．政策的課題の要因についての考察⑤ １２．修士論文のテーマの検討① １３．修士論文のテーマの検討② １４．修士論文の構成の検討① １５．修士論文の構成の検討②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J73020C01
科目名	【院】会計学演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting C		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本研究科における最終年となる２年目の演習では、１年間を通じて、修士論文の作成指導をその主内容として展開する。 （２）そこで、前期の「演習 C」では、前年度での指導を通じて具体化してきた修士論文のテーマ・構成内容、さらには資料収集を再確認したうえで、下書内容について部分的報告を受けつつ、指導を重ねることになる。		
教材（テキスト）	修士論文の研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（参考文献）	修士論文の研究テーマの展開に応じて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、必要なプリント配布を行う。		
評価方法	授業への平素の取組状況（50%）と授業内報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	（１）税理士試験科目の会計科目免除申請を志望する院生は、別途定める論文要件の枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成すること。 （２）上記志望以外の目的で入学した院生の修士論文についても、枚数以外の論文要件は同様であり、あくまで「修士論文」としての要件を満たす形式と内容に到達した論文作成を心がけること。		
準備学習	毎回の講義時の報告に間に合うように、論文作成作業の進展に努めること。		

受講者への要望

（１）原則的に、税理士試験科目の会計科目免除申請などの場合のように、大学院修了後に第三者評価を受けることを念頭に、論文要件としての枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成するよう、心がけて頂きたい。
（２）税理士試験の会計科目免除申請を志望される場合、申請に際しての Q&A でも指摘されている次の２点に特に注意されたい。
①認定対象となる「会計学に属する科目等」とは、簿記論・財務諸表論・原価計算論・会計監査論などの科目であり、原則的には、こうした科目内容に関する研究論文が認定の対象となる。
②提出を求められる学位論文のコピーについては、「学位論文の写し（概要ではなく全部の写し。また、学位論文の目次（ページ数が記入されているもの）及び参考（引用）文献目録を必ず添付。）」となっている。
（３）以上の点も踏まえて、修士論文としての実質用件はもちろん、形式要件（ページ数を明示した目次と参考（引用）文献目録の付記）についても十分注意されたい。

講義の順序とポイント

最終年度における修士論文作成の前半部として、次の予定で展開することにしたい。

１．本演習のガイダンス
２．論文構成及び資料収集等に関する再確認（1）
３．論文構成及び資料収集等に関する再確認（2）
４．下書きの部分的報告と指導(1)
５．下書きの部分的報告と指導(2)
６．下書きの部分的報告と指導(3)
７．下書きの部分的報告と指導(4)
８．下書きの部分的報告と指導(5)
９．下書きの部分的報告と指導(6)
10．下書きの部分的報告と指導(7)
11．下書きの部分的報告と指導(8)
12．下書きの部分的報告と指導(9)
13．下書きの部分的報告と指導(10)
14．下書きの部分的報告と指導(11)
15．総括および質疑応答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73020D01
科目名	【院】会計学演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting D		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本研究科における最終年となる２年目の演習では、１年間を通じて、修士論文の作成指導をその主内容として展開する。 （２）そこで、後期の「演習 D」では、前期に引き続き、論文の推敲を重ねて、10 月頃には一応の完成を予定に指導する。その後は、微修正などを通じてより充実したものへと仕上げる努力をして頂くように指導する。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	必要に合わせて、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	授業への平素の取組状況（50%）と授業内報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	（１）税理士試験科目の会計科目免除申請を志望する院生は、別途定める論文要件の枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成すること。 （２）上記志望以外の目的で入学した院生の修士論文についても、枚数以外の論文要件は同様であり、あくまで「修士論文」としての要件を満たす形式と内容に到達した論文作成を心がけること。		
準備学習	毎回の講義時の報告に間に合うように、論文作成作業の進展に努めること。		

受講者への要望

（１）原則的に、税理士試験科目の会計科目免除申請などの場合のように、大学院修了後に第三者評価を受けることを念頭に、論文要件としての枚数は勿論、論題や内容についても当該申請に合格するような修士論文を作成するよう、心がけて頂きたい。
（２）税理士試験の会計科目免除申請を志望される場合、次の２点に注意されたい。
①認定対象となる「会計学に属する科目等」とは、簿記論・財務諸表論・原価計算論・会計監査論などの科目であり、原則的には、こうした科目内容に関する研究論文が認定の対象となる。
②提出を求められる学位論文のコピーについては、「学位論文の写し（概要ではなく全部の写し。また、学位論文の目次（ページ数が記入されているもの）及び参考（引用）文献目録を必ず添付。）」となっている。
（３）以上の点も踏まえて、論文の形式としてページ数を記載した目次と参考（引用）文献目録を明示するよう注意されたい。

講義の順序とポイント

最終年度における修士論文完成に向けて、次の予定で展開することにしたい。

1．秋セメスターのガイダンス
2．論文構成に関する再確認（1）
3．論文構成に関する再確認（2）
4．論文内容の討議と推敲(1)
5．論文内容の討議と推敲(2)
6．論文内容の討議と推敲(3)
7．論文内容の討議と推敲(4)
8．論文内容の討議と推敲(5)
9．論文内容の討議と推敲(6)
10．論文内容の討議と推敲(7)
11．論文内容の討議と推敲(8)
12．論文内容の討議と推敲(9)
13．論文内容の討議と推敲(10)
14．論文内容の討議と推敲(11)
15．総括および質疑応答

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J73024A01
科目名	【院】会計学研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本講義では、第一に経営学研究科において会計学を専攻し、将来的には税理士等の専門職を志向される 院生を強く意識し、修士論文のテーマ選定に際しての有益な基礎知識を得ようとする目的にも資するよう に、わが国における現行会計制度の展開内容に関する諸問題を整理し、考察する。 （２）第二に、他研究科の院生、特に会計専門職志望生の受講も意識し、わが国の制度会計の現状を整理・考 察し、更には最近の国際会計基準の影響と展開をも加味して、今後の展望も含めた会計基準の内容を研究する。 （３）以上の観点から、まずは、会計学及び税法に関する修士論文の作成に資するよう、第一のテキストを活用 して論文作法の再確認を行う。そのうえで、制度会計としての会社法会計及び金融商品取引法会計の内容 について、第二のテキストを資料に輪番制で受講生の報告を求め、質疑応答を行う。		
教材（テキスト）	（１）中田信正 著『財務会計・法人税法論文の書き方・考え方―論文作法と文献調査―』同文舘出版 （２）山地範明 著　『会計制度(五訂版)』　同文舘出版		
教材（参考文献）	（１）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』 中央経済社 （２）講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（１）修士論文作成の基本に関して、論文作法と文献調査法を理解している。 （２）修士論文としての適切なテーマ選定ができる。 （３）わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （４）わが国の会計制度へ及ぼす国際会計基準の影響について理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義時に、自らの問題意識のもとで課題を提示する準備をする。 （２）毎回の講義における質疑応答などの機会には積極的に発言するよう、事前準備を行っておく。 （３）報告担当箇所などについては、事前に準備し、レジュメなども作成して報告に臨むこと。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
原則的に、次のような内容を展開する。 １．本講義の意義と内容等のガイダンス ２．修士論文の作成に関する基本指導 ３．会計及び税法に関する修士論文の作成指導 ４．わが国における企業会計制度の動向 ５．会計制度の国際動向とわが国の対応 ６．企業会計原則と概念フレームワーク ７．会社法会計の内容 ８．会社法に基づく開示制度 ９．会社法における計算書類 10．金融商品取引法会計の内容 11．金融商品取引法に基づく開示制度 12．有価証券報告書の意義と内容 13．新会計基準 14．タックスプランニング 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J73024B01
科目名	【院】会計学研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research B		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）研究Ａの考察を受けて、課題及び自主テーマに基づく報告と討議を重ねることにより、わが国の会計制度 に関する理解を深めることにしたい。 （２）現行の会計基準などの動向に関しては、その都度の最新情報を提供して、考察する。		
教材（テキスト）	山地 範明 著　『会計制度(五訂版)』 同文舘出版		
教材（参考文献）	講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（１）わが国の制度会計としての会社法会計と金融商品取引法会計の現状と問題点について理解しており、説 明できる。 （２）国際会計基準の影響に関する最新情報について理解しており、説明できる。 （３）わが国の制度会計に関する課題を選定し、報告できる。		
準備学習	（１）わが国の制度会計について、事前にテキスト内容を再確認して、知識を整理しておく。 （２）課題を付与された場合には、報告までに事前にまとめ、レジュメを作成して準備しておく。 （３）後半部分では、自主テーマを選定し、まとめ、レジュメ作成を含めて報告準備をしておく。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
課題および自主テーマに基づく報告と討議を中心に展開する。 1．本講義の展開内容等のガイダンス 2．わが国における制度会計の現状と国際会計基準 3．わが国の制度会計における諸問題の確認 4．課題設定に関する概要説明と討議 5．課題に基づく報告と討議(1) 6．課題に基づく報告と討議(2) 7．課題に基づく報告と討議(3) 8．課題に基づく報告と討議(4) 9．課題に基づく報告と討議(5) 10．自主テーマに基づく報告と討議(1) 11．自主テーマに基づく報告と討議(2) 12．自主テーマに基づく報告と討議(3) 13．自主テーマに基づく報告と討議(4) 14．自主テーマに基づく報告と討議(5) 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73024C01
科目名	【院】会計学研究Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research C		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（１）本講義では、将来的には税理士等の専門職を志向される院生を強く意識し、将来の職業人として問われる会計知識の累積を目的として、改めてわが国の現行会計制度の内容に関する理論的再吟味を行う。 （２）上記の内容として、２年目の本研究Ｃおよび Ｄでは、最近の国際会計基準の影響と展開をも加味するが、特に中小企業経営に必要な会計知識の再確認を心がけた講義内容としたい。 （３）以上の観点から、前期では、現行会計制度の裏付けとなる基礎的会計理論の内容を再検討し、後期は、中小企業経営を意識した会計理論の内容を再確認することにより、会計専門職への道程での効果的な学習としたい。		
教材（テキスト）	橋本 尚 著　『財務会計理論（八訂版)』　同文舘出版		
教材（参考文献）	（１）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』 中央経済社 （２）講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%)、授業内報告（30%)、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	(1) わが国の制度会計の現状に関する知識を有している。 （２）わが国で展開されている「中小企業会計」に関する知識を有している。 （３）わが国の会計制度へ及ぼす国際会計基準の影響について理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義時に、自らの問題意識のもとで課題を提示する準備をする。 （２）毎回の講義における質疑応答などの機会には積極的に発言するよう、事前準備を行っておく。 （３）報告担当箇所などについては、事前に準備し、レジュメなども作成して報告に臨むこと。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
原則的に、次のような内容を展開する。 １．本講義の意義と内容等のガイダンス ２．財務会計の基礎の確認 ３．わが国の会計規範の体系 ４．会計規範の理論構造 ５．一般原則と重要性の原則 ６．貸借対照表の基礎概念 ７．資産会計（１） ８．資産会計（２） ９．資産会計（３） 10．負債会計 11．純資産会計 12．損益計算書の基礎概念 13．収益・費用会計（１） 14．収益・費用会計（２） 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73024D01
科目名	【院】会計学研究D	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research D		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）研究 C において展開された研究内容を受けて、本講義では、特に中小企業会計を前提とした研究内容に取り組むことにしたい。そこにおいては、将来の会計専門職として特に税理士を志す院生にとって必須事項となる内容を、本講義において再確認することが目的である。 （2）上記内容を展開するため、具体的には、いわゆる「中小企業会計指針」と「中小企業会計要領」を考察対象として取り上げることにしたい。		
教材（テキスト）	（1）日本税理士会連合会 監修、近畿税理士会調査研究部 編著 『最新版 「中小企業の会計に関する指針」ガイドブック』　清文社 （2）その他、適宜、必要な資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）川崎 照行・万代 勝信 編著 『詳解 中小会社の会計要領』　中央経済社 （2）武田隆二 編著 『中小会社の会計指針』　中央経済社 （3）その他、講義時に、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	原則として、授業への取組姿勢（20%）、授業内報告（30%）、期末リポート（50%）に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）わが国の制度会計の現状について理解している。 （2）国際会計基準の影響に関する最新情報について理解している。 （3）わが国の「中小企業会計」の内容について、十分理解している。		
準備学習	（1）わが国の制度会計について、事前に関連書籍を精読して、知識を整理しておく。 （2）課題を付与された場合には、報告までに事前にまとめ、レジュメを作成して準備しておく。		
受講者への要望			
財務会計に関する基礎知識と積極的な目的意識をもち、意欲的に受講されることを期待している。			
講義の順序とポイント			
課題および自主テーマに基づく報告と討議を中心に展開する。 1．本講義の展開内容等のガイダンス 2．わが国の制度会計の現状 3．中小企業に関する会計基準の現状 4．中小企業会計に関する概要説明 5．課題に基づく報告と討議(1) 6．課題に基づく報告と討議(2) 7．課題に基づく報告と討議(3) 8．課題に基づく報告と討議(4) 9．課題に基づく報告と討議(5) 10．自主テーマに基づく報告と討議(1) 11．自主テーマに基づく報告と討議(2) 12．自主テーマに基づく報告と討議(3) 13．自主テーマに基づく報告と討議(4) 14．自主テーマに基づく報告と討議(5) 15．総括および質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73036A01
科目名	【院】管理会計論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting Research A		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	この講義では、経営管理上の意思決定問題に対して、会計情報がどのように利用されるのかについて学びます。会計情報は企業の様々な意思決定の場面で利用されます。例えば、経営戦略や計画・投資の決定、製品価格の決定、セールス・ミックスの決定、アウトソーシングの決定などがあります。管理会計は、実務の中で広く実践されており、今日の環境変化に対する実務の革新や研究者の新たな知見を加えながら、その内容を豊かにしてきています。この講義では、最新の管理会計実務の全体像を理解することを目的とし、まず、意思決定会計における管理会計の基本的概念や諸技法について学習します。その上で、最新の管理会計実務を紹介したいと思います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著　「管理会計の基礎 第４版」　税務経理協会		
教材（参考文献）	加登豊編著　「インサイト管理会計」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	プレゼンテーション 40%　レポート課題 40%　ディスカションへの貢献 20%		
到達目標	伝統的な管理会計の分析手法の習得と、今日の企業で実践されている最新の管理会計手法の理解		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
意思決定における会計的分析視点を養うために、学習した内容の演習問題を解いておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　　イントロダクション　意思決定と会計の役割 第２回　　財務諸表の読み方（１） 第３回　　財務諸表の読み方（２） 第４回　　原価計算の基礎 第５回　　経営戦略と経営計画の策定（１） 第６回　　経営戦略と経営計画の策定（２） 第７回　　短期利益計画と CVP 分析（１） 第８回　　短期利益計画と CVP 分析（２） 第９回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（１） 第 10 回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（２） 第 11 回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（３） 第 12 回　　設備投資の意思決定（１） 第 13 回　　設備投資の意思決定?（２） 第 14 回　　設備投資の意思決定?（３） 第 15 回　　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J73036B01
科目名	【院】管理会計論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting Research B		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
講義概要	この講義では、経営管理に役立つ会計情報の利用方法について学びます。特に、経営管理者の多様な意思決定や分権化された組織活動が、全社的にどのように調整・統合されるのか、組織活動の成果がどのように測定され、評価されるのかについて学びます。 管理会計は、実務の中で広く実践されており、今日の環境変化に対する実務の革新や研究者の新たな知見を加えながら、その内容を豊かにしてきています。この講義では、最新の管理会計実務の全体像を理解することを目的とし、まず、管理会計の基本的概念や諸技法について学習します。その上で、最新の管理会計実務を紹介したいと思います。		
教材（テキスト）	上埜　進他著　「管理会計の基礎　第４版」　税務経理協会		
教材（参考文献）	加登豊編　「インサイト管理会計」　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	プレゼンテーション 40%　レポート課題 40%　ディスカッションへの貢献 20%		
到達目標	伝統的な管理会計の業績管理手法の習得と、今日の企業で実践されている最新の管理会計手法の理解		
準備学習	毎講義終了時に指示する。		
受講者への要望			
講義前に、教科書をじっくり読んで疑問点を明らかにしておくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回　　イントロダクション　企業経営と業績管理 第２回　　予算管理（１） 第３回　　予算管理（２） 第４回　　分権制組織の会計管理（１） 第５回　　分権制組織の会計管理（２） 第６回　　分権制組織の会計管理（３） 第７回　　原価管理（１） 第８回　　原価管理（２） 第９回　　ABC・ABM（１） 第 10 回　　ABC・ABM（２） 第 11 回　　戦略的コストマネジメント（１） 第 12 回　　戦略的コストマネジメント（２） 第 13 回　　戦略的コストマネジメント（３） 第 14 回　　価値創出経営 第 15 回　　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73044A01
科目名	【院】起業論研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Research A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、起業についての基礎理論の修得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する。起業についての研究はここ数年で増加してきた。新しい商品やサービスの開発，新しいマーケットの創造，そして経済の競争力を高める上で，起業家が占める役割は大きい。全体像を把握するためのデータや、日本およびアメリカ等のケースとともに、ビジネス・プランの立て方，ビジネス機会発見の方法，マーケット分析，そしてファイナンシアル・リソースや人材の獲得等について、講義および議論により整理していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房		
教材（その他）	関連論文・専門誌掲載記事等、必要に応じてコピー配布		
評価方法	授業内発表（60%）・レポート（40%）。		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握すること。		
準備学習	・授業終了時に配布する資料を次回までに読んでおくこと。 ・起業に関心を持ち、関連する新聞や雑誌等の記事から情報収集しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。			
講義の順序とポイント			
1.　起業についての社会的意義の整理 2.　起業に関わる内外データから見る現状把握① 3.　〃　② 4.　先行研究から見る起業論① 5.　〃　② 6.　起業活動と経済活動 7.　起業活動と経営戦略 8.　〃　ケーススタディ 9.　起業家の資質 10.　〃　ケーススタディ 11.　事業機会の認識と評価 12.　〃　ケーススタディ 13.　起業活動とビジネスモデルの構築 14.　〃 15.　今後の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J73044B01
科目名	【院】起業論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Research B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、起業論研究Ａに引き続き、起業についての基礎理論の修得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する 起業についての研究はここ数年で増加してきた。新しい商品やサービスの開発，新しいマーケットの創造，そして経済の競争力を高める上で，起業家が占める役割は大きい。全体像を把握するためのデータや、日本およびアメリカ等のケースとともに、ビジネス・プランの立て方，ビジネス機会発見の方法，マーケット分析，そしてファイナンシアル・リソースや人材の獲得等について、講義および議論により整理していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	高橋徳行『起業学の基礎』勁草書房		
教材（その他）	関連論文・専門誌掲載記事		
評価方法	授業内発表（60%）・レポート（40%）		
到達目標	起業家のケースをステップ毎に学ぶことにより、起業の基礎理論を修得する。		
準備学習	・授業終了時に配布する資料を次回までに読んでおくこと。 ・日常的に起業に関心を持ち、関連する新聞や雑誌等の記事から情報収集しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.　起業のステップ 2.　創業期のマーケティング 3.　〃　ケーススタディ 4.　人材の確保と活用 5.　〃　ケーススタディ 6.　資金調達 7.　〃　ケーススタディ 8.　競争戦略・成長戦略 9.　〃　ケーススタディ 10.　女性起業家の特質 11.　〃　ケーススタディ 12.　起業支援体制の変化 13.　〃 14.　起業家人材の育成 15.　起業家創出の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J73069A01
科目名	【院】経営史演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Management History A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習ＡＢにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	文献研究の進捗度（70%）、史料収集（30%）		
到達目標	経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。		
準備学習	修士論文の完成に向け最大限の努力を傾注しなければならない。 毎回各自の作業・文献研究の進捗状況を報告し、報告レジュメの作成を求める。		
受講者への要望			
２年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。			
講義の順序とポイント			
1.本演習についての概説 2.修士論文作成に関する基礎的説明 3.本学図書館利用に関する説明（所蔵文献・情報検索法の説明） 4.研究テーマの選定に関する指導 5.研究テーマの選定に関する報告 6.研究課題に関する文献研究(1) 7.研究課題に関する文献研究(2) 8.研究テーマに関する問題点の整理 9.基本文献の研究報告(1) 10.基本文献の研究報告(2) 11.基本文献の研究報告(3) 12.論文構成に関する指導(1) 13.論文構成に関する指導(2) 14.関係史料への一次的接近のための情報収集(1) 15.関係史料への一次的接近のための情報収集(2)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J73069B01
科目名	【院】経営史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Management History B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習ＡＢにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	終了レポート（100％）		
到達目標	経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。		
準備学習	修士論文の完成に向け最大限の努力を傾注しなければならない。 毎回各自の作業・文献研究の進捗状況を報告し、報告レジュメの作成を求める。		
受講者への要望			
２年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。			
講義の順序とポイント			
16.収集史料を基にした研究報告(1) 17.収集史料を基にした研究報告(2) 18.収集史料を基にした研究報告(3) 19.先行研究の整理(1) 20.先行研究の整理(2) 21.研究テーマに関する問題点の整理(1) 22.研究テーマに関する問題点の整理(2) 23.基本文献の研究報告(1) 24.基本文献の研究報告(2) 27.追加的史料の情報収集(1) 28.追加的史料の情報収集(2) 29.追加的史料の情報収集(3) 30.追加的史料の情報収集(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J73105A01
科目名	【院】情報管理論研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Management A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント配布。		
評価方法	レポート(40%)、受講・発表など授業での取り組み(60%)で評価する。		
到達目標	経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について考察していく。そして、ホワイトカラー職務能力評価試験の筆記試験合格レベルの知識習得を目標とする。		
準備学習	経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。 ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。 毎回の講義終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		

受講者への要望

常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。

講義の順序とポイント

授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
　ワードプロセッシング演習
　スプレッドシート演習
　Gmail、One Drive、Thinkfree、Evernote、Twitter、Dropbox アカウント取得
2．プレゼンテーション基礎演習
3．プレゼンテーション応用演習
4．情報化技術の理解
5．経営戦略の理解
6．情報化戦略の立案
7．情報の収集 1
8．情報の収集 2
9．情報の整理 1
10．情報の整理 2
11．情報の加工
12．情報の表現
13．パソコンソフトの活用
14．関連法規の理解
15．理論的側面の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J73105B01
科目名	【院】情報管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Management B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	プリント配布。		
評価方法	レポート(40%)、受講・発表など授業での取り組み(60%)で評価する。		
到達目標	経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について考察していく。そして、ビジネス･キャリア検定試験の筆記試験合格レベルの知識習得を目標とする。		
準備学習	経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。 ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。 毎回の講義終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 １．受講ガイダンス 2．アイデアプロセシング演習基礎 1 3．アイデアプロセシング演習基礎 2 4．アイデアプロセシング演習応用 1 5．アイデアプロセシング演習応用 2 6．情報システムの種類 7．IT ソリューションの調達方法 8．IT ソリューションの活用 9．システム化計画の立案 10．システム要求の分析と要件定義 11．システム開発におけるその他の業務 12．システムの運用 13．情報セキュリティ 14．情報システム導入の失敗の原因 15．システム面からの課題と展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J73110A01
科目名	【院】情報処理研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	現在、パソコン用アプリケーションソフトの多くは、オブジェクト指向プログラミング言語を用いて開発されている。さらに最近では、オブジェクト指向のスクリプト言語が開発され、その扱い易さから、多方面に利用されるようになってきた。 本講義では、スクリプト言語を用いて、オブジェクト指向プログラミングの技法の習得とともに、その言語構造について考察する。また、このようなスクリプト言語による GUI アプリケーションの開発は最近始められたところであり、その可能性についても考察する。 使用するスクリプト言語には、Ruby を予定している。この言語を用い、データベースの検索プログラムの作成等を通して、オブジェクト指向プログラミングの技法を習得する。 本講義は、参考書や配布資料を用いてゼミ形式で行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	テキストの代わりとして、プリントを配布する。		
評価方法	報告等による平常点(50%)　　レポート(50%)		
到達目標	・オブジェクト指向プログラミング言語の言語構造を理解している。 ・オブジェクト指向プログラミング言語のプログラミング技法を身に付けている。		
準備学習	講義内容に関する項目を予習しておくこと。		

受講者への要望

毎回プログラム作成を行うので、ノートパソコンを持参すること。
能動的な姿勢で講義に取組むことを望む。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション
2　Ruby の基礎(1)　文字と数値
3　Ruby の基礎(2)　制御構造
4　Ruby の基礎(3)　オブジェクトと変数
5　Ruby の基礎(4)　条件判断と繰り返し
6　Ruby の基礎(5)　メソッド
7　オブジェクト指向プログラミング(1)　クラス
8　オブジェクト指向プログラミング(2)　継承
9　オブジェクト指向プログラミング(3)　モジュール
10　クラスの利用(1)　数値、配列、文字列
11　クラスの利用(2)　入出力、ファイル、日付
12　検索プログラムの作成(1)
13　検索プログラムの作成(2)
14　レポートの作成(1)
15　レポートの作成(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J73110B01
科目名	【院】情報処理研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	現在、パソコン用アプリケーションソフトの多くは、オブジェクト指向プログラミング言語を用いて開発されている。さらに最近では、オブジェクト指向のスクリプト言語が開発され、その扱い易さから、多方面に利用されるようになってきた。 本講義では、スクリプト言語を用いて、オブジェクト指向プログラミングの技法の習得とともに、その言語構造について考察する。また、このようなスクリプト言語による GUI アプリケーションの開発は最近始められたところであり、その可能性についても考察する。 使用するスクリプト言語には、Ruby と Ruby/Tk を予定している。GUI を用いたデータベース検索プログラムの作成を通して、オブジェクト指向プログラミングの技法を習得する。 本講義は、参考書や配布資料を用いてゼミ形式で行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	テキストの代わりとして、プリントを配布する。		
評価方法	報告等による平常点(50%)　　レポート(50%)		
到達目標	・オブジェクト指向プログラミング言語の言語構造を理解している。 ・オブジェクト指向プログラミング言語のプログラミング技法を身に付けている。		
準備学習	講義内容に関する項目を予習しておくこと。		

受講者への要望

毎回プログラム作成を行うので、ノートパソコンを持参すること。
能動的な姿勢で講義に取組むことを望む。

講義の順序とポイント

1　イントロダクション
2　Ruby/Tk の基礎(1)　ラベル
3　Ruby/Tk の基礎(2)　ボタン
4　Ruby/Tk の基礎(3)　エントリ
5　Ruby/Tk の基礎(4)　フォント、ウィンドウ
6　検索プログラムの作成(1)　GUI の作成
7　検索プログラムの作成(2)　GUI の作成
8　検索プログラムの作成(3)　GUI の作成
9　検索プログラムの作成(4)　GUI の作成
10　検索プログラムの作成(5)　GUI との結合
11　検索プログラムの作成(6)　GUI との結合
12　検索プログラムの作成(7)　GUI との結合
13　レポートの作成(1)
14　レポートの作成(2)
15　レポートの作成(3)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J73115A02
科目名	【院】人的資源管理論研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	本講義では、人的資源管理論における基本知識を整理（・復習）するとともに、人的資源管理に関する最新研究を学習する。 人的資源管理論は多種多様な学問領域に支えられて成り立っている学問であるため、受講者の学問的背景や学術的興味は多岐にわたることも考えられる。個別トピックに関しては受講者個々人の要望に応える形で進めていきたい。そのため、講義の順序やポイントに関しては若干の変更もありうる。 なお、人材の採用、人材育成、報酬管理や業績管理などの人的資源管理論の要諦をなすトピックについては必須学習項目とした上で人的資源管理論に関する基礎知識の習得を行う。また、受講者の興味関心によっては、人的資源管理における男女格差（昇進格差など）やワーク・ライフ・バランスなどの今日的なトピックも取り上げる。		
教材（テキスト）	佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ、2007 年		
教材（参考文献）	Peter Boxall, John Purcell and Patrick M. Wright （Eds), The Oxford Handbook of Human Resource Management, Oxford University Press; USA, 2008 年 スティーブン・ロビンス著（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年		
教材（その他）	適宜、関連する学術論文などを指示する。		
評価方法	講義への積極的参加（50%）、小課題の評価（20%）、発表及びレポート評価（30%）		
到達目標	人的資源管理に関する知識を整理するとともに、人的資源管理論における主要理論や論点について理解し、それらの知識を駆使して議論を展開できることを目指す。 事例分析やデータ読み取りに関する知識・スキルを身に着ける。		
準備学習	Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 英文資料を扱うことがある。その際はきちんと予習を行うこと。 統計的分析を行った学術論文を扱うこともありうるので、それらに関する知識を持っていることが望ましい（ただし、受講開始時に必須というわけではない）。 第１２回目以降は学術論文を読み、それらの内容について報告してもらうので、しっかりと準備すること。		

受講者への要望

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい（様々なトピックに関する議論を行いたいと考えている）。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、講義中や講義直後に解決を試みてほしい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、イントロダクション（人的資源管理論の基本）
2. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理①：人的資源管理の概要①
3. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理②：人的資源管理の概要②
4. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理③：採用①
5. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理④：採用②
6. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑤：配置・人材育成①
7. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑥：配置・人材育成②
8. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑦：報酬管理①
9. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑧：報酬管理②
10. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑨：業績管理①
11. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑩：業績管理②
12. 個別トピックに関する議論①：論文内容に関する報告①、ディスカッション
13. 個別トピックに関する議論②：論文内容に関する報告②、ディスカッション

14. 個別トピックに関する議論③：論文内容に関する報告③、ディスカッション
15. 個別トピックに関する議論④：論文内容に関する報告④、ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J73115B02
科目名	【院】人的資源管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	本講義では人的資源管理に関する最新の知見を学習することを主眼に置く。人的資源管理を考える上で必須となる学術的業績（論文のみならず報告書なども含む）を読み解き、人的資源管理の（過去・）現在及び未来を考え議論する場として本講義を機能させることを念頭に置き、講義を進める。 人的資源管理論は多種多様な学問領域に支えられて成り立っている学問であるため、受講者の学問的背景や学術的興味は多岐にわたることも考えられる。そのため、個別トピックに関しては受講者個々人の要望に応える形で進めていきたい。また、人的資源管理論において重要なトピックとなる労働者の心理的側面にも焦点をあて、組織行動論に関するトピック（モチベーションやコミットメントなど）についても取り上げる。		
教材（テキスト）	なし 適宜指示する		
教材（参考文献）	Peter Boxall, John Purcell and Patrick M. Wright （Eds), The Oxford Handbook of Human Resource Management, Oxford University Press; USA, 2008 年 スティーブン・ロビンス著（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年		
教材（その他）	適宜、関連する学術論文や報告書などを指示する。		
評価方法	講義への積極的参加（50%）、小課題の評価（20%）、発表及びレポート評価（30%）		
到達目標	人的資源管理論における主要理論や論点についての理解をさらに深めて、それらを駆使して議論を展開できることを目指す。 事例分析やデータ読み取りに関する知識・スキルを身に着ける。		
準備学習	Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 英文資料を扱うことがある。その際はきちんと予習を行うこと。 統計的分析を行った学術論文を扱うこともありうるので、それらに関する知識を持っていることが望ましい（ただし、受講開始時に必須というわけではない）。 第 9 回目以降は学術論文を読み、それらの内容について報告してもらうので、しっかりと準備すること。		

受講者への要望

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい（様々なトピックに関する議論を行いたいと考えている）。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、講義中や講義直後に解決を試みてほしい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。
人的資源管理論研究 A、B は連続して受講することを前提として進めるため、連続して受講することを望む。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、イントロダクション（組織行動論の基本）
2. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理①：モチベーション①
3. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理②：モチベーション②
4. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理③：モチベーション③
5. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理④：コミットメント①
6. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理⑤：コミットメント②
7. 人的資源管理論及び組織行動論に関する近年における議論①：ワーク・エンゲージメント
8. 人的資源管理論及び組織行動論に関する近年における議論②：働き方改革と人的資源管理
9. 個別トピックに関する議論①：論文内容に関する報告①、ディスカッション
10. 個別トピックに関する議論②：論文内容に関する報告②、ディスカッション
11. 個別トピックに関する議論③：論文内容に関する報告③、ディスカッション
12. 個別トピックに関する議論④：論文内容に関する報告④、ディスカッション

13. 個別トピックに関する議論⑤：論文内容に関する報告⑤、ディスカッション
14. 個別トピックに関する議論⑥：論文内容に関する報告⑥、ディスカッション
15. 個別トピックに関する議論⑦：論文内容に関する報告⑦、ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J73129A01
科目名	【院】中小企業経営論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	戦後日本の中小企業は、高度成長、バブル期を経て、現在失われた 20 年と揶揄される時代を迎えているが、中小企業ではその独自性を活かし、自助努力により活力を持って日本経済を支えている存在である。 この間事業所数ベースで約 99 パーセントの割合を占める中小企業が、日本経済の発展成長に果たした役割には多大なものがあるといえる。 このため中小企業経営論の研究に当たり、本講座では、戦後の中小企業の歩みについてその実態の理解を進めるとともに、国の中小企業政策面からの考察も行い、中小企業経営に国の政策面から何が求められ、それに対して、中小企業がどのように対応したか、そして現状における課題およびそれをどのように解決していくのかについて、中小企業論を踏まえた中小企業経営論の解明を行いたい。 このため研究の中心は、中小企業基本法、中小企業白書、国の中小企業政策の推移等を中心に据えての講義となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	取組姿勢 50％、レポート 50％		
到達目標	日本における中小企業の戦後の軌跡、現状と課題を中小企業論の観点を踏まえ理解習得する事によって、実際の中小企業経営に資する、能力の涵養を図る。 当該講座により習得した知識およびスキルは、起業はもとよりありとあらゆる組織の一員としても、活用できるものである。		
準備学習	日常から中小企業に対する興味を持つとともに現状や動向についての情報入手に努める。 特に最近は中小企業研究の著書が減少傾向にあることから、政府機関など公的機関がが発行する中小企業関連冊子、ネット情報などの取得にも留意されたい。 また授業用の資料は事前に配布するので、授業後には理解を深めると共に授業前には次回の資料の理解を進めておくこと。		
受講者への要望			
中小企業への関心を常にもって、中小企業の課題などの解決に必要とされるマネジメントを念頭に、双方向の授業となりますので、積極的な参加をお願いします。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　戦後中小企業の軌跡～戦後復興期 3　～高度成長期 4　～バブル期から現在 5　中小企業基本法と中小企業経営～改正前基本法 6　～改正後基本法 7　～経営革新、創業、連携を中心とした経営 8　中小企業白書に見る中小企業経営の現状と課題① 9　② 10　③ 11　中小企業政策と中小企業経営① 12　② 13　③ 14　これからの中小企業経営① 15　② 適宜講義内容を踏まえた課題に基づき、グループワークを行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J73129B01
科目名	【院】中小企業経営論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	中小企業経営は、中小がゆえの特色と独自性を持って行われてきた。しかしながら総じてその経営は、大企業経営と比較して、生産性が低い、賃金が低い、設備が前近代的である、家計と企業が未分離で経営実体が把握できないなどさまざまな経営上の問題を抱えて行われてきたことは周知のことである。 　この事に加え企業のライフサイクル面からの考察を加えれば、スタートアップ期、発展成長期、安定期、衰退期（事業承継期）それぞれのステージにおいて求められるマネジメントの方法は、おのずと差異が生じると考えられる。 　以上から中小企業の特色を踏まえた、各ライフステージにおける中小企業経営論について考察を進めたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要の都度紹介する。		
教材（その他）	必要の都度プリントを配布		
評価方法	取組姿勢　50%　　レポート点　　50%		
到達目標	本講座受講により得た知識は、実際の中小企業経営に資する知識とスキルの習得を行う。 　なお中小企業経営に限らず、どのような進路を選択肢を選ぼうとも、活用できるよう研究を進める。		
準備学習	日常においても中小企業経営に関心を持ち、関連する情報について、専門書、専門雑誌、ネットなどにより、収集に努める。 　また授業用の資料は事前に配布するので、授業後には理解を深めると共に授業前には次回の資料の理解を進めておくこと。		

受講者への要望

双方向の講座を目指していますので、積極的な授業への参加をお願いいたします。

講義の順序とポイント

1　はじめに（本講座の概要）
2　中小企業経営における特質
3　スタートアップ（起業）時における中小企業経営）～ビジネスチャンスの発見
4　～経営資源の調達
5　～ビジネスシステムの構築
6　発展・成長期における中小企業経営 ～内部統制
7　～生産性向上
8　～ＩＴ戦略
9　安定期における中小企業経営～ＣＳＲ（企業の社会的責任）
10　～知的資産経営
11　～海外展開
12　～経営革新
13　衰退期（事業承継期）における中小企業経営～事業承継
14　～事業再生
15　中小企業経営への展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J73141A02
科目名	【院】経営管理論研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Research A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	組織の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。本講義は、理論・学説および実例を通して企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかに接近する。経営の仕組みを経営諸資源と関連付けて（広範囲にわたって）説明することになるので、学部時代に管理論・組織論を学んだ方の受講が望ましい。		
教材（テキスト）	下記がメイン・テキストとなる。 角野信夫 『アメリカ経営組織論〔増補版〕』文眞堂,1998 年。 Stuart Crainer, 『The Management Century: A Critical Review of 20th Century Thought and Practice』, Jossey-Bass, 2000.（嶋口充輝,編・監訳, 岸本義之,黒岩　健一郎,訳『マネジメントの世紀 ：1901～2000』東洋経済新報社,2000 年。） 藤澤武史, 伊田昌弘,編著『新多国籍企業経営管理論』文眞堂,2015 年。 上野恭裕, 馬場大治,編著『経営管理論』中央経済社,2016 年。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	発表内容・取組姿勢　100%		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎回、授業の終わり際に、次回までにテキストをどこまで読み、どのようにまとめるべきかを指示する。		
受講者への要望			
＊遅刻・無断欠席を厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
1.企業の形態と株式会社、上場と非上場、本社と支社の関係、他国籍企業とは、等。 2.企業の形態と株式会社、上場と非上場、本社と支社の関係、他国籍企業とは、等。 3.財務諸表の見方、金融機関の役割、等。 4.株主総会、取締役会、監査役会の法律上の関係、コーポレート・ガバナンス： 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴、アライアンス、M&A、持ち株会社、等。 5.株主総会、取締役会、監査役会の法律上の関係、コーポレート・ガバナンス： 日本における特徴、アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴、アライアンス、M&A、持ち株会社、等。 6.組織と個人、ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織、等。 7.組織と個人、ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織、等。 8.人事管理論、昇給、昇格、昇進、採用、配置、考課、組合、労働基準法、等。 9.人事管理論、昇給、昇格、昇進、採用、配置、考課、組合、労働基準法、等。 10.戦略とは、多角化戦略、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、集中と選択、アウトソーシングと人材派遣、等。 11.プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、GE グリッド。マーケティングの概念。マーケティングミックス：4C と 4P、市場調査、広告効果、等。 12.知識社会と知識創造、知識創造の理論、暗黙知と形式知の関係、等。 13. 情報と通信ネットワーク：TQM、BPR、EC、Pos システム、CIM、SCM、中抜き現象、等。 14. ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、QC サークル、リーン生産方式、セル生産方式、モジュール生産、等。 15. ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、QC サークル、リーン生産方式、セル生産方式、モジュール生産、等。		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	J73141B02
科目名	【院】経営管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Research B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	組織の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。本講義は、理論・学説および実例を通して企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかに接近する。経営の仕組みを経営諸資源と関連付けて（広範囲にわたって）説明することになるので、学部時代に管理論・組織論を学んだ方の受講が望ましい。		
教材（テキスト）	下記がメイン・テキストとなる。 角野信夫 『アメリカ経営組織論〔増補版〕』文眞堂,1998 年。 Stuart Crainer, 『The Management Century: A Critical Review of 20th Century Thought and Practice』, Jossey-Bass, 2000.（嶋口充輝,編・監訳, 岸本義之,黒岩　健一郎,訳『マネジメントの世紀 ：1901～2000』東洋経済新報社,2000 年。） 藤澤武史, 伊田昌弘,編著『新多国籍企業経営管理論』文眞堂,2015 年。 上野恭裕, 馬場大治,編著『経営管理論』中央経済社,2016 年。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	発表内容・取組姿勢　100％		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎回、授業の終わり際に、次回までにテキストをどこまで読み、どのようにまとめるべきかを指示する。		
受講者への要望			
＊遅刻・無断欠席を厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等） 2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。 3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等） 4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。 5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等） 6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。 7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等） 8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等） 9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等） 10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等） 11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。 12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。 13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。 14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等） 15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コ		

ンピタンス、等。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J73146A01
科目名	【院】財務諸表論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）	その都度指示する		
評価方法	日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 企業経営における会計の基本的な機能 3. 会計の本質と概念フレームワーク 4. 日本の会計制度 5. 会計の国際化とコンバージェンス 6. 財務会計のシステムと複式簿記 7. 会計公準と会計原則 8. 一般原則 9. 損益計算書原則 10. 貸借対照表原則 11. 貸借対照表の様式と見方 12. 損益計算書の様式と見方 13. キャッシュ･フロー計算書の様式と見方 14. その他のディスクロージャー 15. 総括と残された課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J73146B01
科目名	【院】財務諸表論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. 資産の会計 1：金融商品 2. 資産の会計 2：棚卸商品 3. 資産の会計 3：有形固定資産 4. 資産の会計 4：無形固定資産 5. 資産の会計 5：減損 6. 負債の会計 1：引当金 7. 負債の会計 2：退職給付 8. 負債の会計 3：資産除去債務 9. 純資産の会計 10. 収益の認識と測定 11. 費用の認識と測定 12. 企業集団と連結会計 13. 企業結合の会計 14. 税効果会計 15. 総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J73146C01
科目名	【院】財務諸表論研究C	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 C では、国際会計基準の概念フレームワークを中心に扱いながら、会計基準の根底にある理論的な基礎を学んで行く。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	齊藤静樹『詳解　討議資料・財務会計の概念フレームワーク』中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 会計と環境 3. 国際会計基準設定の経緯 4. 国際会計基準と日本基準 5. 会計基準の国際的調和の動向 6. 会計の本質と概念フレームワーク 7. 概念フレームワークの役割 8. 財務報告の目的 9. 会計情報の質的特性(1) 10. 会計情報の質的特性(2) 11. 財務諸表の構成要素(1) 12. 財務諸表の構成要素(2) 13. 財務報告の表示プロジェクト 14. 国際会計基準をめぐる最新の動向 15. 総括と残された課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J73146D01
科目名	【院】財務諸表論研究D	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 D では、個別の会計処理を規定する会計基準を順次検討し、コンバージェンスを進める際の課題となる日本の会計基準と国際会計基準の差異についても考察する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考文献）	必要に応じて随時指示する		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
準備学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講者への要望			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. 資産の会計 1：金融商品(1) 2. 資産の会計 2：金融商品(2) 3. 資産の会計 3：棚卸商品 4. 資産の会計 4：有形固定資産(1) 5. 資産の会計 5：有形固定資産(2) 6. 資産の会計 6：無形資産 7. 資産の会計 7：リース 8. 負債の会計 1：退職給付 9. 負債の会計 2：資産除去債務 10. 負債の会計 3：引当金 11. 収益 12. ストック・オプション 13. 企業結合の会計(1) 14. 企業結合の会計(2) 15. 総括：コンバージェンスをめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J73148A01
科目名	【院】経営管理論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	修士論文完成に向けて指導を行う。毎週、進捗状況の確認が行われる。 毎回 800 字程度の報告を行っていただく。		
教材（テキスト）	適時、指示する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	毎週の発表：修士論文の内容と進捗　100％		
到達目標	修士論文の作成を通して、次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎回、授業の終わり際に、第〇章まで書くべきか、〇〇を〇〇ページまで読んでおくべきかを指示する。		
受講者への要望			
＊遅刻・無断欠席を厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
1.修士論文のテーマ設定と修士論文完成までのスケジュールについて。 2.修士論文のテーマ設定と修士論文完成までのスケジュールについて。 3.修士論文のテーマ設定、修士論文の書き方について、文献指示。 4.盗作・剽窃の厳禁、についての指導。文献指示。 5.修士論文の進捗報告（テーマの詳細報告)。文献指示。 6.修士論文の進捗報告（テーマの詳細報告)。文献指示。 7.修士論文の進捗報告（テーマの詳細報告)。文献指示。 8. 修士論文の進捗報告（テーマの詳細報告)。中間報告について。 9.修士論文の進捗報告(構成／章立て報告)。文献指示。 10.修士論文の進捗報告(構成／章立て報告)。文献指示。 11.修士論文の進捗報告(構成／章立て報告)。文献指示。 12.修士論文の進捗報告(構成／章立て報告)。文献指示。 13.修士論文の進捗報告（各章報告)。 14.修士論文の進捗報告（各章報告)。 15.修士論文の進捗報告（各章報告)。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J73148B01
科目名	【院】経営管理論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	修士論文完成に向けて指導を行う。毎週、進捗状況の確認が行われる。 毎回 800 字程度の報告を行っていただく。		
教材（テキスト）	適時、指示する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	毎週の発表：修士論文の内容と進捗　100％		
到達目標	修士論文の作成を通して、次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎回、授業の終わり際に、第○章まで書くべきか、○○を○○ページまで読んでおくべきかを指示する。		
受講者への要望			
＊遅刻・無断欠席を厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
1.修士論文のテーマの再確認と修士論文完成までのスケジュールについて。 2.修士論文のテーマの再確認と修士論文完成までのスケジュールについて。 3.修士論文の進捗報告(構成／章立ての再確認)。文献指示。 4.修士論文の進捗報告(構成／章立ての再確認)。文献指示。 5.修士論文の進捗報告(構成／章立ての再確認)。文献指示。 6.修士論文の進捗報告（各章報告)。引用チェック。文献指示。 7.中間報告への参加 8.修士論文の進捗報告（各章報告)。引用チェック。文献指示。 9.修士論文の進捗報告（各章報告)。引用チェック。文献指示。 10.修士論文の進捗報告（各章報告)。引用チェック。文献指示。 11.修士論文の進捗報告(構成／章立ての再々確認)。引用チェック。文献指示。 12.修士論文の進捗報告(構成／章立ての再々確認)。引用チェック。文献指示。 13.修士論文の進捗報告(構成／章立ての再々確認)。引用チェック。文献指示。 14.修士論文の進捗報告（各章報告)。引用チェック。文献指示。 15.修士論文の進捗報告（各章報告)。引用チェック。文献指示。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73150A01
科目名	【院】起業論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、起業論として展開されている国内外の理論をケーススタディの手法によって知識を深めるとともに、自らの課題設定ができるように指導する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『アントレプレナーシップ』（ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス著、日経ＢＰ社） 『アントレプレナーシップ入門』（Ｄ・Ｊ・ストーリー著、有斐閣） 『アントレプレナー創造』（高木晴夫著、生産性出版）		
教材（その他）	関連論文、専門誌掲載記事等		
評価方法	授業内発表（50%）・レポート（50%）		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握し、事例を研究分析する基礎力をつける。		
準備学習	事前に配布する資料を読み、理解しておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。			
講義の順序とポイント			
1. 起業についての総論 2. 起業と経済成長① 3. 〃 ② 4. 起業論の分類 5. 起業論の評価 6. ケーススタディの方法 7. ケースライティングについて 8. 〃 9. ケースの設定 10. ケーススタディ① 11. 〃 ② 12. 〃 ③ 13. 〃 ④ 14. ケース分析① 15. 〃 ②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J73150B01
科目名	【院】起業論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Entrepreneurship Seminar B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	起業についての基礎理論と習得とともに、わが国における起業に関わる課題について考察する。 演習Ａで学んだことを基に、起業家や起業支援機関の調査やヒアリングを行い、自分自身の研究テーマを見つける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『アントレプレナーシップ』（ウィリアム・バイグレイブ、アンドリュー・ザカラキス著、日経ＢＰ社） 『アントレプレナーシップ入門』（Ｄ・Ｊ・ストーリー著、有斐閣） 『アントレプレナー創造』（高木晴夫著、生産性出版）		
教材（その他）	関連論文、専門誌掲載記事等		
評価方法	授業内発表（50%）・レポート（50%）		
到達目標	起業に関わる理論やデータの概観を把握し、研究分析力をつける。		
準備学習	事前に与えられた課題を実行すること。		

受講者への要望

授業への積極的参加・発表、問題提起を期待する。

講義の順序とポイント

1. 演習Ａの振り返りとガイダンス
2. 研究テーマ設定の考え方
3. テーマ設定と周辺情報収集の方法
4. 情報収集と整理①
5. 〃　②
6. 調査及びヒアリングの方法
7. 起業家・支援機関のヒアリング計画
8. 〃
9. ヒアリング
10. ヒアリング
11. ヒアリング結果の整理
12. 論文作成の基本
13. 〃
14. 論文構成について
15. 〃

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J73151A01
科目名	【院】財務諸表論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自が特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 まず最初のセメスターでは、論文テーマの選択を見据えながら、会計の基礎的概念を理解することを中心に研究の基礎を固めていきたい。		
教材（テキスト）	開講後、受講者と相談しながら決定する		
教材（参考文献）	斎藤静樹編著『詳解　討議資料　財務会計の概念フレームワーク』第 2 版　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を用意するので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識をもって課題に取り組み、受講すること			
講義の順序とポイント			
1.オリエンテーション 2.修士論文の方向性に関する指導(1) 3.修士論文の方向性に関する指導(2) 4.図書館を中心とする資料検索の方法に関する指導 5.会計上の諸概念の検討(1) 6.会計上の諸概念の検討(2) 7.会計上の諸概念の検討(3) 8.会計上の諸概念の検討(4) 9.会計基準を巡る諸問題の検討(1) 10.会計基準を巡る諸問題の検討(2) 11.会計基準を巡る諸問題の検討(3) 12.会計基準を巡る諸問題の検討(4) 13.会計基準を巡る諸問題の検討(5) 14.会計基準を巡る諸問題の検討(6) 15.演習 B に向けての課題設定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J73151B01
科目名	【院】財務諸表論演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 B では、テーマもしくは題材を決定し、先行研究をリファーしながら本人の方向性を決定していくことにする。このセメスターのうちに、ある程度論文のフローチャートが完成することが望ましい。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）	斎藤静樹編著　『詳解　討議資料　財務会計の概念フレームワーク』第 2 版　中央経済社		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習 C に向けての課題整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J73151C01
科目名	【院】財務諸表論演習C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 C では、履修生各自が設定したテーマに基づいて、論文のフローチャートを完成し、論文の骨格づくりをめざす。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）	各自のテーマに沿って指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習 D に向けての課題整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J73151D01
科目名	【院】財務諸表論演習D	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。 演習 D では、1 月中旬に予定されている修士論文提出に向けての最終段階として、中間報告会。		
教材（テキスト）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文中間報告 30%　最終提出論文 70%		
到達目標	(1) 会計の基礎概念を正しく理解すること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
準備学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講者への要望			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
講義の順序とポイント			
1.論文内容の報告と指導(1) 2.論文内容の報告と指導(2) 3.論文内容の報告と指導(3) 4.論文内容の報告と指導(4) 5.中間報告に向けての準備指導 6.中間報告の予行演習 7.中間報告における指摘内容の確認 8.論文内容の報告と指導(5) 9.論文内容の報告と指導(6) 10.論文内容の報告と指導(7) 11.論文内容の報告と指導(8) 12.論文内容の調査と報告(9) 13.提出論文の最終確認 14.口頭試問に向けての指導(1) 15.口頭試問に向けての指導(2)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J73157A01
科目名	【院】アジア情報研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Situation Analysis in Asia A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、レポート（５０%）。		
到達目標	インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、 現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。		
準備学習	英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。毎回授業終了時に次回の内容と次回までに予習・復習すべき点を指示する。		
受講者への要望			
履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、 特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．授業ガイダンス ２．インドの歴史１ ３．学生による報告・ディスカッション ４．インドの歴史２ ５．学生による報告・ディスカッション ６．インドの文化１ ７．学生による報告・ディスカッション ８．インドの文化２ ９．学生による報告・ディスカッション １０．インドの宗教１ １１．学生による報告・ディスカッション １２．インドの宗教２ １３．学生による報告・ディスカッション １４．南アジアと東アジアについて １５．今後の学習の展望について （なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J73157B01
科目名	【院】アジア情報研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Situation Analysis in Asia B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、レポート（５０%）。		
到達目標	インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、 現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。		
準備学習	英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。　毎回授業終了時に次回の内容と次回までに予習・復習すべき点を指示する。		
受講者への要望			
履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、 特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．授業ガイダンス ２．インドの政治１ ３．学生による報告・ディスカッション ４．インドの政治２ ５．学生による報告・ディスカッション ６．インドの経済１ ７．学生による報告・ディスカッション ８．インドの経済２ ９．学生による報告・ディスカッション １０．インドの企業１ １１．学生による報告・ディスカッション １２．インドの企業２ １３．学生による報告・ディスカッション １４．インドの将来について １５．今後の学習の展望について （なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J73158A01
科目名	【院】経営史研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management History A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見い出し、変化の極点として現代を把え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、と言うことも出来よう。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の報告・レジュメ（100%）		
到達目標	経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。		
準備学習	輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジメを作成する。		

受講者への要望

経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。

講義の順序とポイント

Ⅰ
1.日本経営史の課題、
2.江戸時代の経済発展、
3.江戸時代の商家経営、
4.江戸期商家の経営システム、
5.商家の経営管理システム
Ⅱ
6.明治前・中期の日本経済、
7.近代的経営組織の形成、
8.近代的経営管理の形成、
9.明治国家と企業
Ⅱ
10.日露戦後から昭和初年に至る日本経済、
11.大企業時代の到来、
12.新興産業の勃興と産業開拓活動、
13.企業活動の国際化、
14.経営管理の進展、
15.現代的課題と展望
＊受講者の顔触れにより、講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J73158B01
科目名	【院】経営史研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management History B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見い出し、変化の極点として現代を把え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、と言うことも出来よう。		
教材（テキスト）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の報告・レジュメ（100%）		
到達目標	経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。		
準備学習	輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジュメを作成する。		

受講者への要望

経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。

講義の順序とポイント

Ⅲ
1.日本経営史の課題、
2.戦前から戦後へ--経済政策の展開と経営環境の変化、
3.大企業体制の変遷、
4.労使関係の変化、
5.技術開発の推進、
6.経営管理の展開
Ⅳ
7.高度成長とその後の日本経済の変転、
8.成長を実現したメカニズム--中間組織の成長促進機能、
9.日本的経営と協調的労使関係、
10.資本家企業の急成長、
11.中小企業の役割と第三次産業の動向、
12.技術革新と技術開発、
13.多品種少量生産体制の構築、
14.日本的経営の光と影、
15.現代的課題と展望
＊受講者の顔触れにより講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J73159A01
科目名	【院】経営組織論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Organization Theory A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	私たちは、企業、大学、政府、自治体、ボランティア団体など、さまざまな組織と関係しています。このような組織は現代社会の最も重要な構成要素といえます。この講義では、組織の基本的な理論を発展的に学ぶことによって、企業をはじめとする組織が成立・機能する仕組みを理解します。		
教材（テキスト）	安達房子『ＩＣＴを活用した組織変革』晃洋書房。		
教材（参考文献）	桑田耕太郎・田尾雅『組織論』有斐閣アルマ。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。新聞記事などを使用することもあります。		
評価方法	毎回の発表内容（70%）および取り組み姿勢（30%）により評価します。		
到達目標	経営組織論の代表的な学説を体系的に把握できること。 経営組織が成立・機能する仕組みを理解すること。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義で使用するテキストの範囲を指示するので、熟読しておいてください。報告者はレジュメを作成し、講義時に報告します。それを踏まえて、意見交換もします。また、事例分析では、新聞記事を読んだりビデオを鑑賞したりして、考えをまとめる作業などもします。		

受講者への要望

学部時代に経営学の基本的な部分を学習し、経営組織論や経営管理論の単位を修得していることが望ましいです。 講義への積極的な参加を期待します。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス（授業の進め方や目的の説明）
2　経営組織の基礎理論（バーナード理論①）
3　経営組織の基礎理論（バーナード理論②）
4　経営組織の基礎理論（サイモン理論①）
5　経営組織の基礎理論（サイモン理論②）
6　経営組織論の展開①
7　経営組織論の展開②
8　組織構造と組織文化①
9　組織構造と組織文化②
10　日本的経営組織の特質①
11　日本的経営組織の特質②
12　事例調査
13　事例調査の分析
14　事例調査の分析の報告
15　経営組織論の展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73159B01
科目名	【院】経営組織論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Organization Theory B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	私たちは、企業、大学、政府、自治体、ボランティア団体など、さまざまな組織と関係しています。このような組織は現代社会の最も重要な構成要素といえます。この講義では、経営組織論研究Ａで学んだ組織の基本的な理論を踏まえて、組織がどのような変化を遂げているのか、どのような課題があるのかを学びます。とくに、経営組織のあり方に大きな影響を与えているコンピュータ・ネットワークに焦点をあて、空間的・時間的に離れた人々の協働について考察します。		
教材（テキスト）	安達房子『ＩＣＴを活用した組織変革』晃洋書房。		
教材（参考文献）	桑田耕太郎・田尾雅『組織論』有斐閣アルマ。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。新聞記事などを使用することもあります。		
評価方法	毎回の発表内容（70%）および取り組み姿勢（30%）により評価します。		
到達目標	経営組織論の代表的な学説を体系的に把握できること。 経営組織論を応用して、実際の組織現象を分析できるようになること。		
準備学習	各講義の最後に、次の講義で使用するテキストの範囲を指示するので、熟読しておいてください。報告者はレジュメを作成し、講義時に報告します。それを踏まえて、意見交換もします。また、事例分析では、新聞記事を読んだりビデオを鑑賞したりして、考えをまとめる作業などもします。		

受講者への要望

学部時代に経営学の基本的な部分を学習し、経営組織論や経営管理論の単位を修得していることが望ましいです。講義への積極的な参加を期待します。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス（授業の進め方、目的の説明）
2　組織と環境
3　個人と組織の関係
4　モチベーション理論①
5　モチベーション理論②
6　リーダーシップ理論①
7　リーダーシップ理論②
8　コンピュータ・ネットワークと経営組織①
9　コンピュータ・ネットワークと経営組織②
10　コンピュータ・ネットワークを活用した経営組織の事例①
11　コンピュータ・ネットワークを活用した経営組織の事例②
12　事例調査
13　事例調査の分析
14　事例調査の分析の報告
15　経営組織の課題

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73161A01
科目名	【院】マーケティング論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Studies A on Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、マーケティング分野の先行研究で行われた実証方法を、追試（Replication Study）が行える水準まで精緻に学ぶ。具体的には、①『流通研究』や『消費者行動学研究』あるいは Journal of Marketing などといった査読付き論文を精読する。②①で読み取った方法とまったく同じ方法を使ってデータを収集し分析する。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	適宜、指示する。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング分野の先行研究の追試（Replication Study）ができる。		
準備学習	Word や EXCEL および SPSS の新しい使い方を、講義ごとに追加して教えていくので、その使い方を復習しておくこと。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
テキスト選定（第 2 回）までに修士論文の大まかなテーマを伝えられるようにしておくこと。また、復習のためにも、パソコンを多用するので、扱い方に慣れておくこと。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「レジュメの作り方」：報告書の作り方を解説する 3.「テキスト輪読 1」：担当者がレジュメで内容を報告する 4.「テキスト輪読 2」：担当者がレジュメで内容を報告する 5.「テキスト輪読 3」：担当者がレジュメで内容を報告する 6.「テキスト輪読 4」：担当者がレジュメで内容を報告する 7.「リサーチ 1」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 8.「リサーチ 2」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 9.「リサーチ 3」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 10.「リサーチ 4」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 11.「リサーチ結果の報告」：全員で収集したデータを確認する 12.「追試結果の報告 1」：レジュメで追試結果を報告する 13.「追試結果の報告 2」：レジュメで追試結果を報告する 14.「追試結果の報告 3」：レジュメで追試結果を報告する 15.「最終討議」：これまでの結果をもとに討議する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J73161B01
科目名	【院】マーケティング論研究B	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Studies B on Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義では、マーケティング分野の先行研究で行われた実証方法を、修士論文で扱える水準まで精緻に学ぶ。具体的には、①『流通研究』や『消費者行動学研究』あるいは Journal of Marketing などといった査読付き論文を精読する。②①で読み取った方法を使って、修士論文のテーマで扱う対象を分析する。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	適宜、指示する。		
評価方法	演習内調査（50%）、演習内報告（50%）		
到達目標	マーケティング分野の先行研究の実証方法を他分野に応用できる。		
準備学習	Word や EXCEL および SPSS の新しい使い方を、講義ごとに追加して教えていくので、その使い方を復習しておくこと。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
テキスト選定（第 2 回）までに修士論文のテーマを伝えられるようにしておくこと。また、復習のためにも、パソコンを多用するので、扱い方に慣れておくこと。			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2.「レジュメの作り方」：報告書の作り方を解説する 3.「テキスト輪読 1」：担当者がレジュメで内容を報告する 4.「テキスト輪読 2」：担当者がレジュメで内容を報告する 5.「テキスト輪読 3」：担当者がレジュメで内容を報告する 6.「テキスト輪読 4」：担当者がレジュメで内容を報告する 7.「リサーチ 1」：全員がテキストと同じ方法でデータを収集する 8.「リサーチ 2」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する 9.「リサーチ 3」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する 10.「リサーチ 4」：全員がテキストの方法を応用してデータを収集する 11.「リサーチ結果の報告」：全員で収集したデータを確認する 12.「分析結果の報告 1」：自分で応用した結果をレジュメで報告する 13.「分析結果の報告 2」：自分で応用した結果をレジュメで報告する 14.「分析結果の報告 3」：自分で応用した結果をレジュメで報告する 15.「最終討議」：これまでの結果をもとに討議する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2017	授業コード	J73165A01
科目名	【院】経営戦略論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	代表的な経営戦略策定手法を紹介し、それをケーススタディで実際に活用することで、修得する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	経営戦略策定の手法を修得する。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 財務分析
3. 〃　ケーススタディ
4. SWOT 分析
5. 〃　ケーススタディ
6. PPM
7. 〃　ケーススタディ
8. 競争戦略
9. 〃　ケーススタディ
10. 成長戦略
11. 〃　ケーススタディ
12. BPR
13. 〃　ケーススタディ
14. 戦略マップ
15. 〃　ケーススタディ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73165B01
科目名	【院】経営戦略論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	企業の経営戦略についてのケーススタディを行う。 個人ごとに日本の企業の中から１社を選んで、文献、雑誌記事、新聞記事、企業のホームページなどを基に、その企業の経営戦略について調査・分析・考察を行う。それをパワーポイントを使って発表し、全体で討議を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	企業分析の方法を修得する。 自分が研究対象として選んだ企業の経営戦略についてプレゼンテーションできる。		
準備学習	各自の研究成果の発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. 研究対象企業の選択 2. 関連文献、資料の調査① 3. 関連文献、資料の調査② 4. 研究概要の発表、討議① 5. 研究概要の発表、討議② 6. 分析、発表資料作成① 7. 分析、発表資料作成② 8. 中間発表、討議① 9. 中間発表、討議① 10. 追加調査・分析、発表資料作成① 11. 追加調査・分析、発表資料作成② 12. 発表、討議① 13. 発表、討議② 14. 発表、討議③ 15. 発表、討議④			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J73166A01
科目名	【院】経営戦略論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略に関する文献を何冊か読みながら、修士論文のテーマ探しを行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマ選定に向けての準備。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2～14．文献、資料の調査と発表（テーマ等適宜指導） 15．まとめと秋学期への準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J73166B01
科目名	【院】経営戦略論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	春学期の成果に基づき、修士論文のテーマを仮決定し、それに関する文献や資料の調査を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマを決定。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．修士論文テーマ仮決定 2～14．テーマに関連する文献、資料の調査と発表（テーマは必要に応じて適宜見直し） 15．修士論文テーマ決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J73200A01
科目名	【院】情報管理論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理に関する文献を何冊か読みながら、修士論文のテーマ探しを行う。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマ選定に向けての準備		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2～14．文献、資料の調査と発表（テーマ等適宜指導） 15．まとめと秋学期への準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J73200B01
科目名	【院】情報管理論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	春学期の成果に基づき、修士論文のテーマを仮決定し、それに関する文献や資料の調査を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介します		
教材（その他）	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマを決定。		
準備学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．修士論文テーマ仮決定 2～14．テーマに関連する文献、資料の調査と発表（テーマは必要に応じて適宜見直し） 15．修士論文テーマ決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J74001A01
科目名	【院】労働法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Law A		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	【院】労働法 I
講義概要	本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法を中心に、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な問題、就業規則の不利益変更、わが国の解雇法制、時間外労働に対する規制、配転・出向、および、セクシュアル・ハラスメントなどの問題につき、判例や論文等を素材に受講者全員で考察していく。 各テーマを受講生に割り当てたうえ発表・報告してもらう。報告者以外の受講生にもそのテーマについての予習を前提に授業を進めていく。特に報告者は相当の時間と労力を注ぎ込む覚悟が必要である。熱意のある受講生を希望する。		
教材（テキスト）	教科書（テキスト）は特に指定しない。		
教材（参考文献）	参考文献等については開講時に説明する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
評価方法	出席を前提に、授業時の報告およびレポート（70%）と期末の面接試験（30%）とで行なう予定である。		
到達目標	労働法上の重要テーマを通じて、労働法の基礎知識をはじめ、労働法の考え方や労働法の判例の読解力を身につけること。		
準備学習	授業で取り上げる各テーマについて、菅野和夫『労働法〔第 11 版〕』（弘文堂、2016 年）予価 5800 円＋税を事前に必ず読んでおくこと。		
受講者への要望			
授業で取り上げた各テーマについて法的な問題点を探し、それに関して自分で調べ、考えて授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組む姿勢を求める。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　講義の進め方・その他諸注意　－－最近の労働法上の問題点について 第 2 回　労働条件の不利益変更　その 1 第 3 回　労働条件の不利益変更　その 2 第 4 回　労働条件の不利益変更　その 3 第 5 回　解雇制約法理について　その 1 第 6 回　解雇制約法理について　その 2 第 7 回　解雇制約法理について　その 3 第 8 回　時間外労働の問題について　その 1 第 9 回　時間外労働の問題について　その 2 第 10 回　配転・出向問題について　その 1 第 11 回　配転・出向問題について　その 2 第 12 回　配転・出向問題について　その 3 第 13 回　セクシュアル・ハラスメント問題について　その 1 第 14 回　セクシュアル・ハラスメント問題について　その 2 第 15 回　パワー・ハラスメント問題について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J74001B01
科目名	【院】労働法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Law B		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	【院】労働法Ⅱ
講義概要	本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法および集団的労働関係法を中心に、テーマについては受講生とも相談しながら決めていく。基本的には労働法Ａを受講・履修していることが望ましい。 重要な裁判例や論文等を素材に、各テーマにつき受講生に割り当て、発表・報告したうえで、受講者全員で考察していく。報告者以外の受講生にもそのテーマにつき十分な予習を要求する。学問に対して熱意ある受講生を希望する。		
教材（テキスト）	教科書（テキスト） は特に指定しない。		
教材（参考文献）	参考文献等については開講時に説明する。		
教材（その他）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
評価方法	出席を前提に、 授業時における積極的な姿勢・発言内容等を重視したうえで（60%）、報告内容や期末のレポート（40%）をもとに行なう予定である。		
到達目標	労働法上の重要テーマを通じて、各争点における学説や裁判例における見解を法理論的に分析したうえで、当該争点につき各自の意見を明確に提示できるようにすること。		
準備学習	授業で取り上げる各テーマについて菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税を前に必ず読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回取り上げた各テーマについて積極的に調べ、考察し、そのうえで授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組むことを求める。			
講義の順序とポイント			
本講義で取り扱うテーマについては、受講生とも相談しながら決定するので、講義の順序に沿った形では記載できないが、参考までに取り扱う可能性のあるテーマを下記に掲げておく（各テーマにつき授業回数としては 3 回程度である）。 第 1 回　労働条件の個別化に伴う問題について その 1 第 2 回　労働条件の個別化に伴う問題について その 2 第 3 回　労働条件の個別化に伴う問題について　その 3 第 4 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 1 第 5 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 2 第 6 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 3 第 7 回　労働法の規制緩和について　その 1 第 8 回　労働法の規制緩和について　その 2 第 9 回　雇用の平等に関連する問題について　その 1 第 10 回　雇用の平等に関連する問題について　その 2 第 11 回　雇用の平等に関連する問題について　その 3 第 12 回　職場におけるプライバシー問題について　その 1 第 13 回　職場におけるプライバシー問題について　その 2 第 14 回　労働組合法制の再検討について　その 1 第 15 回　労働組合法制の再検討について　その 2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J74029A01
科目名	【院】行政法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Seminar A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論のうち、基礎理論、行政組織、行政作用の部分を判例を素材に学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート等による平常点（100%）		
到達目標	行政法の基礎知識をもとに、判例を素材により学習することにより理論・学説の実際の具体化状況を学ぶ。		
準備学習	次週のテーマについて、教科書の該当頁、法令、判例の予習をすること。		

受講者への要望

行政法の講義科目を履修すること。

講義の順序とポイント

1　公法と私法
2　法律による行政の原理
3　行政主体と行政庁
4　権限の委任と代理
5　行政立法
6　行政裁量
7　行政行為の瑕疵
8　行政契約
9　行政指導
１０　行政計画
１１　行政上の義務履行確保
１２　行政罰
１３　行政手続
１４　情報公開
１５　個人情報保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74029B01
科目名	【院】行政法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law Seminar B		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論のうち、行政救済法の部分を判例を素材に学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート等による平常点（100%）		
到達目標	行政法の基礎知識をもとに、判例を素材により学習することにより、理論・学説の具体化の状況を学ぶ。		
準備学習	次週のテーマについて、教科書の該当頁、法令、判例の予習をすること。		

受講者への要望

行政法の講義科目を履修すること。

講義の順序とポイント

1　損失補償
2　国家賠償１条
3　国家賠償２条
4　賠償と補償の谷間
5　行政上の不服申し立て
6　行政事件訴訟法
7　取消訴訟の対象
8　取消訴訟の原告適格
9　訴えの利益
１０　取消訴訟の審理
１１　執行停止制度
１２　取消訴訟以外の抗告訴訟
１３　当事者訴訟・争点訴訟
１４　機関訴訟
１５　民衆訴訟

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74047001
科目名	【院】企業取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporate Dealings Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	企業取引の総則に該当する商法総則について、個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本図書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円 江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年） 2,592 円		
教材（参考文献）	個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合 による平常点（60%）。学期末レポート（40%）。		
到達目標	商法総則の規定と基本的な判例法理について理解でき、それを説明できる。また、応用的な問題に遭遇した場合に、自力で調査して妥当な解を発見できる。		
準備学習	各講義の最後に次の講義に関する文献を指示するので予習しておくこと。		
受講者への要望			
民法を履修済みか並行して履修していること。			
講義の順序とポイント			
1. 商法と民事一般法の規制区分 2. 商法総則と会社法総則 3. 絶対的商行為 4. 営業的商行為 5. 営業概念 6. 営業譲渡 7. 商業登記 8. 商号・商号登記 9. 商号権 10. 支配人・商業使用人 11. 支配人の代理権 12. 代理商 13. 外観主義 14. 名板貸法理 15. 商業登記と外観主義			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74061001
科目名	【院】租税法総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Introduction		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	租税法理論の基本的部分に当たる、租税の意義、租税法の基本原則、解釈と適用、課税要件(総論及び基礎的な各論)に関する事項を中心に研究を行う。そこで、実定法である租税法がいかなる原理に基づいて構築され、その解釈はどうあるべきかを考えるための、ベースとなる知識や考え方を整理し深めてゆく。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論･検討をする中で、問題点を明らかにし理解を深める。 なお、演習の事例は予定であり、変更の場合がある。		
教材（テキスト）	金子宏『租税法(第 22 版)』(弘文堂)		
教材（参考文献）	別冊ジュリスト『租税判例百選(第 6 版)』 その他は講義中に指示する。		
教材（その他）	講義内容に沿ったレジュメを毎回配布する予定		
評価方法	報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	1　租税法の基本原則と憲法との関係を理解し、問題点を把握する。 2　租税法の具体的な適用に当たっての問題点を理解し、その解釈はどうあるべきかを理論的に追求できることを目標とする。		
準備学習	租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。		
受講者への要望			
憲法、民法、会社法、行政法の履修が望ましい。 税法が記載された六法、法規集を持参する。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。			
講義の順序とポイント			
1.　租税と租税法　税制の概要 2.　租税法の基本原則　租税法律主義と租税公平主義 1 3.　租税法の基本原則　租税法律主義と租税公平主義 2 4.　事例演習　大島訴訟 最高裁昭 60.3.27 5.　事例演習　旭川市国民健康保険条例事件 最高裁平 18.3.1 他 6.　租税法の法源と効力　租税法の法源と効力 7.　租税法の解釈と適用　租税法と私法 8.　租税法の解釈と適用　租税回避 9.　事例演習　錯誤による財産分与契約事件　最高裁平元.9.14 他 10.　事例演習　相互売買事件　東京高裁平 11.6.21 11.　課税要件総論　課税要件、要件事実論 12.　課税要件各論　個人所得課税の基礎(所得税の仕組みと概要) 13.　課税要件各論　法人所得課税の基礎(法人税の仕組みと概要) 14.　課税要件各論　消費税及び国際課税の基礎 15.　タックス・プランニングの基礎			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J74062001
科目名	【院】所得税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Income Tax Law		
担当者名	橋本　清治	旧科目名称	
講義概要	受講者に各テーマを分担していただき、各回、報告していただきます。 その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。 本講義は、教科書の「所得税」の部分を学習し、その事項の判例等の検討を 行います。また、税務事例や税理士実務について触れていく予定です。		
教材（テキスト）	金子宏『租税法（最新版)』弘文堂		
教材（参考文献）	『租税判例百選』有斐閣、『租税判例六法』有斐閣 酒井克彦『所得税法の論点研究』財経詳報社 酒井克彦『ブラッシュアップ租税法』財経詳報社 酒井克彦『裁判例からみる所得税法』大蔵財務協会 谷口勢津夫『税法基本講義』弘文堂 佐藤英明『スタンダード所得税法』弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	報告内容、毎回の議論への参加度合（50%)、レポート（レジュメ）(50%)		
到達目標	所得税法の基本を理解する。 所得税に係る判例を検討できる。		
準備学習	木山泰『弁護士が教える分かりやすい「所得税法」の授業』(光文社）を 講義開始時までに読んでできてください。		
受講者への要望			
税務六法等の法規集持参またはＷｅｂによる法令利用			
講義の順序とポイント			
１．　所得税・所得の意義 ２．所得税の類型・課税単位 ３．納税義務者・課税標準と税額算出 ４．各種所得の意義と範囲（利子・配当・不動産） ５．各種所得の意義と範囲（事業・給与） ６．各種所得の意義と範囲（退職・山林・雑） ７．各種所得の意義と範囲（譲渡・一時） ８．収入金額 ９．収入金額 １０．必要経費 １１．必要経費 １２．税額計算等 １３．事例研究 １４．事例研究 １５．事例研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	J74063001
科目名	【院】法人税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Tax Law		
担当者名	橋本　清治	旧科目名称	
講義概要	受講者に各テーマを分担していただき、各回、報告していただきます。 その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。 本講義は、教科書の「法人税」の部分を学習し、その事項の判例等の検討を 行います。また、税務事例や税理士実務について触れていく予定です。		
教材（テキスト）	金子　宏『租税法』		
教材（参考文献）	租税判例百選（有斐閣）、租税判例六法（有斐閣） 成道秀雄『税務会計ー法人税の理論と応用』第一法規 酒井克彦『裁判例からみる法人税法』大蔵財務協会 酒井克彦『ブラシュアップ租税法』財経詳報社 酒井克彦『プログレッシブ税務会計Ⅰ、Ⅱ』中央経済社 谷口勢津夫『税法基本講座』弘文堂		
教材（その他）			
評価方法	報告内容、毎回の議論への参加度合い（５０％）、レポート（レジュメ）（５０％）		
到達目標	法人税法の基本を理解する。 法人税に係る判例を検討できる。		
準備学習	税大講本（法人税）を開講時までに目をとをしておく。		
受講者への要望			
税務六法等の法規集を持参またはＷｅｂによる法令利用			
講義の順序とポイント			
１．法人税の意義・性質等 ２．納税義務者と課税所得の範囲 ３．法人所得計算の総説（法人税法２２条） ４．益金の額の計算 ５．益金の額の計算 ６．益金の額の計算 ７．損金の額の計算 ８．損金の額の計算 ９．損金の額の計算 １０．法人税額の計算 １１．同族会社と所得課税 １２．租税回避行為 １３．事例研究 １４．事例研究 １５．事例研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J74068A01
科目名	【院】租税法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar A		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講者が、租税法の基本原理を理解し、主要税目の基本的仕組みや理論を習得できるよう、講義及び受講者による報告を行う。 修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	報告(判例研究・課題研究)内容及びその理解・質疑応答の状況等　60% 授業に対する取組みの状況(テーマに対する理解度・質疑応答等の内容等)　40%		
到達目標	租税法の基本原理、主要税目の仕組みや理論、及びそれらの問題点について、理解することを目標とする。 研究テーマの選択、及びテーマに合わせた知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		

受講者への要望

税法の理解のために必須となる、簿記・会計学の基礎的知識を習得すること。
数多くの論文を読むこと。

講義の順序とポイント

1 ガイダンス 税法の学び方について 個人面談
2 研究計画について 今後の研究計画に関しての「研究・指導スケジュール」の説明、研究計画書の作成について
3 判例研究の方法等 論文の読み方、判例研究の方法、基本書・参考文献等について
4 基本文献講読 講義形式による基本文献の講読 ①
5 基本文献講読 講義形式による基本文献の講読 ②
6 修士論文テーマ報告会 院生(２回生)による修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。
7 基本文献講読①　基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。
8 基本文献講読②
9 基本文献講読③
10 基本文献講読④
11 基本文献講読⑤
12 基本文献講読⑥
13 基本文献講読⑦
14 判例研究① 基本的な判例を指定し、院生による判例研究の報告と、それに対する議論を行う。
15 判例研究②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74068B01
科目名	【院】租税法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar B		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。 併せて、税目横断的な事例研究、タックス・プランニング事例の検討等により、実務における税務問題に対しても理論的に解明し対応できる能力を養う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	報告(判例研究・課題研究)内容及びその理解・質疑応答の状況等　60% 授業に対する取組みの状況(テーマに対する理解度・質疑応答等の内容等)　40%		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。 実務上の税務問題に対する理論的な解明のための能力の涵養を図る。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		

受講者への要望

数多くの論文を読むこと。

講義の順序とポイント

1　研究計画について 研究計画について、その方向性と今後の研究方法に関して(個人面談等)
2　基本文献講読① 基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。
3　基本文献講読②
4　基本文献講読③
5　基本文献講読④
6　　修士論文中間報告会 院生(２回生)による修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。
7　研究報告(判例研究等)① 各院生が、自分の研究テーマ(又は興味のある分野)に関する判例研究等の報告を行い、それを基にして議論を行う。
8　研究報告(判例研究等)②
9　研究報告(判例研究等)③
10　研究報告(判例研究等)④
11　研究報告(判例研究等)⑤
12　研究報告(判例研究等)⑥
13　研究報告(判例研究等)⑦
14　事例研究① 実務的な事例(実務で発生しやすい、税目横断的な税務問題)を設定し、その問題に対する対応方法や解決策を検討する(院生による報告と議論による。)。
15　事例研究②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74068C01
科目名	【院】租税法演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar C		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	報告(判例研究・課題研究)内容及びその理解・質疑応答の状況等　60％ 授業に対する取組みの状況(テーマに対する理解度・質疑応答等の内容等)　40％		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		

受講者への要望

自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。

講義の順序とポイント

1　研究計画について　「研究計画の概要」に基づいて、今後の研究方法に関しての検討(個人面談等)
2　研究報告①　各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。
3　研究報告②
4　研究報告③
5　研究報告④
6　修士論文テーマ報告会　修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。
7　研究報告⑤
8　研究報告⑥
9　研究報告⑦
10　研究報告⑧
11　研究報告⑨
12　研究報告⑩
13　研究報告⑪
14　研究報告⑫
15　研究報告⑬

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74068D01
科目名	【院】租税法演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar D		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	報告(判例研究・課題研究)内容及びその理解・質疑応答の状況等　60％ 授業に対する取組みの状況(テーマに対する理解度・質疑応答等の内容等)　40％		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。		
準備学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		

受講者への要望

自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。

講義の順序とポイント

1　研究計画について 今後の研究方法に関しての検討(個人面談等)
2　研究報告① 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。
3　研究報告②
4　研究報告③
5　研究報告④
6　修士論文中間報告会 修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。
7　研究報告① 各院生が、修士論文に沿った研究報告を行い、それを基にして議論を行う。
8　研究報告②
9　研究報告③
10　研究報告④
11　研究報告⑤
12　研究報告⑥
13　研究報告⑦
14　研究報告⑧
15　研究報告⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74075001
科目名	【院】有価証券法	単位数	2
科目名（英語表記）	Negotiable Instruments Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	手形法について、個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。また、手形法は、企業の道具として考案されたという経緯から、強度の論理一貫性に彩られた極めて技術的な法制度であり、理解のポイントは、「民法の原則をいかに修正（あるいは維持）するか」という点にある。このため民法（とくに総則）についても十分復習しておいてもらいたい。		
教材（テキスト）	『別冊ジュリスト 222 号・手形小切手判例百選[第 7 版]』（有斐閣・2014 年） 2,376 円		
教材（参考文献）	個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容 ・議論への参加度合による平常点（60%）。学期末レポート（40%）。		
到達目標	手形法について、その基本理論をもとに、理論がどのように判例に現われているかを理解し、実際問題を処理できる能力を身につける。		
準備学習	各講義の最後に次の講義に関する文献を指示するので予習しておくこと。		
受講者への要望			
どんな些細な点でも、間違いを恐れず発言しようとする能動的な姿勢が大事である。			
講義の順序とポイント			
１．手形行為の方式と解釈 ２．手形行為の成否 ３．手形行為の代理 ４．手形の偽造と変造 ５．手形の善意取得 ６．人的抗弁の制限 ７．手形の振出し ８．手形の裏書 ９．手形保証 １０．手形の支払・遡求 １１．手形交換 １２．手形の時効 １３．除権判決 １４．利得償還請求権 １５．手形割引			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74076A01
科目名	【院】英語文献研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Document Research A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、下記の英語で書かれた国際法の標準的な教科書の第１章「国際社会の主要な法的特徴」(3-21頁）を講読し、法律英語を学びながら、国際社会や国際法の基本的性質を理解する。テキストの著者であるA.Cassese 教授は世界を代表する国際法学者の１人であり、旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所所長なども務めた。 受講生は担当部分の訳文を作成し、それをチェックしながら内容を理解し検討する。なお、受講生の要望によって、テキストの他の章を読むことも可能である。		
教材（テキスト）	Antonio Cassese, International Law, 2nd ed. (Oxford University Press, 2005) ．初回の講義で、該当章のコピーを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（発言状況、予習状況など）７０点、翻訳のレポート３０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．国際社会や国際法の独自の基本的性質を理解する。 ２．法律英語になじみ、基本的な専門用語を理解する。 ３．翻訳を通じて、法学分野における日本語能力を向上させる。		
準備学習	１．講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、教科書を事前に必ず講読してくること。 ２．割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず訳してくること。		

受講者への要望

１．途中で投げ出さずに、忍耐強く取り組むこと。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．「1.1 はじめに」、「1.2 国際法主体の性質」
３．「1.2 国際法主体の性質」
４．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」
５．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」
６．「1.4 集団的責任」
７．「1.4 集団的責任」
８．「1.5 多くの国際法規則が国内法に移される必要性」
９．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１０．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１１．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１２．「1.7 実効性の最も重要な役割」
１３．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」
１４．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」
１５．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J74076B01
科目名	【院】英語文献研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Document Research B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、自由権規約委員会(*)が日本政府の第６回定期報告書を審査し、２０１４年７月に採択した総括所見（Concluding Observations）を講読することを通じて、国際人権法に照らした日本の人権問題について検討を行う。具体的には、男女平等、死刑廃止等の刑事法関連問題、在日コリアンやアイヌなどの少数者の権利などを扱う。 本講義では、国際法だけでなく、憲法、刑事法、家族法、労働法、社会保障法などの専門用語についても英語で学ぶことができるはずである。 ＊国際人権規約の自由権規約に基づいて設置された条約機関で、締約国による規約の履行を監視する。		
教材（テキスト）	国際人権規約の自由権規約委員会が日本政府による第６回国家報告書を審査して 2014 年に採択した総括所見（Concluding Observations, UN Doc., CCPR/C/JPN/CO/6, 23 July 2014）。初回の講義でテキストのコピーを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	最新版の六法および英和辞書を持参すること。		
評価方法	平常点（発言状況、予習状況など）７０点、翻訳のレポート３０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．法律英語になじみ、基本的な専門用語を理解する。 ２．国際人権保障の意義や仕組みを理解する。 ３．国際人権法から見て、日本にはどのような人権問題が存在するのか把握し、国際基準に照らして考える。		
準備学習	１．講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、テキストを事前に必ず熟読してくること。 ２．割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず和訳してくること。		
受講者への要望			
１．途中で投げ出さずに、忍耐強く取り組むこと。 ２．無断欠席はしないこと。			
講義の順序とポイント			
１．履修ガイダンス ２．国際人権保障についての講義 ３．「序論」、「肯定的側面」（男女共同参画社会第３次基本計画の策定など） ４．「主要な懸念事項および勧告」（人権条約の国内実施など） ５．「主要な懸念事項および勧告」（男女差別） ６．「主要な懸念事項および勧告」（ヘイトスピーチに関わる問題） ７．「主要な懸念事項および勧告」（死刑に関わる問題） ８．「主要な懸念事項および勧告」（「従軍慰安婦」問題） ９．「主要な懸念事項および勧告」（代用監獄に関わる問題など） １０．「主要な懸念事項および勧告」（庇護申請者の扱いなど） １１．「主要な懸念事項および勧告」（「公共の福祉」に基づく人権の制限など） １２．「主要な懸念事項および勧告」（特定秘密保護法に関わる問題など） １３．「主要な懸念事項および勧告」（福島原発事故に関わる問題など） １４．「主要な懸念事項および勧告」（アイヌや沖縄・琉球人の人権、フォローアップ手続など） １５．国際基準から見た日本の人権問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J74080A01
科目名	【院】刑法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law A		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法総論の代表的な概説書、研究書及び重要論文を読み進めることにより、刑法総論の重要争点を検討し、問題解決のための方法を身につけることを目標とする。 修士論文作成に向けたアドバイスを適宜行う。 時間割に指定された時間帯にとらわれず、受講生と相談の上、演習日時を柔軟に設定する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する。 なお、刑事法専攻の院生が参加する場合には、外国語（独または英）の文献講読を別途行う。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて紹介する。		
評価方法	演習への取り組み姿勢、発表内容により評価する。		
到達目標	学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとする。 刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができる力を身につける。		
準備学習	指定した文献を読み、その概要をまとめて授業に臨むこと。 概説書のみならず研究論文等を適宜参照することが望ましい。		
受講者への要望			
受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってほしい。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のテーマを候補とするが、受講生の関心に応じて柔軟に対応する。 １．開講にあたって ２．刑法学の歴史・あゆみ ３．罪刑法定主義の沿革 ４．刑罰論 ５．刑法の適用範囲をめぐる諸問題 ６．実行行為性をめぐる諸問題 ７．因果関係をめぐる諸問題 ８．事実の錯誤をめぐる諸問題 ９．構成要件的過失をめぐる諸問題 １０．緊急行為をめぐる諸問題 １１．被害者の同意をめぐる諸問題 １２．違法性の錯誤をめぐる諸問題 １３．期待可能性をめぐる諸問題 １４．未遂犯をめぐる諸問題 １５．中止未遂をめぐる諸問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J74080B01
科目名	【院】刑法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law B		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	刑法Ａに引き続き、刑法総論の代表的な概説書、研究書、及び重要論文を読み進めることにより、刑法総論の重要争点を検討し、問題解決のための方法を身につけることを目標とする。 修士論文作成に向けたアドバイスを適宜行う。 時間割に指定された時間帯にとらわれず、受講生と相談の上、演習日時を柔軟に設定する。		
教材（テキスト）	受講生と相談の上決定する。 なお、刑事法専攻の院生が参加する場合には、外国語（独または英）の文献講読を別途行う。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて紹介する。		
評価方法	演習への取り組み姿勢、発表内容により評価する。		
到達目標	学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとする。 刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができる力を身につける。		
準備学習	指定した文献を読み、その概要をまとめて授業に臨むこと。 概説書のみならず研究論文等を適宜参照することが望ましい。		
受講者への要望			
受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってほしい。			
講義の順序とポイント			
おおむね以下のテーマを候補とするが、受講生の関心に応じて柔軟に対応する。 １．開講にあたって ２．間接正犯をめぐる諸問題 ３．正犯と共犯をめぐる諸問題 ４．実行共同正犯をめぐる諸問題 ５．共謀共同正犯をめぐる諸問題 ６．承継的共同正犯をめぐる諸問題 ７．過失の共同正犯をめぐる諸問題 ８．狭義の共犯をめぐる諸問題 ９．共犯の離脱をめぐる諸問題 １０．共犯の錯誤をめぐる諸問題 １１．共同正犯と正当防衛をめぐる諸問題 １２．身分犯の共犯をめぐる諸問題 １３．包括一罪をめぐる諸問題 １４．観念的競合をめぐる諸問題 １５．かすがい現象をめぐる諸問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74082A01
科目名	【院】民事法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Seminar A		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民事法に関する修士論文作成のための民事法の基礎知識につき、また、実務知識として、民事法が社会においていかにして適用されているのかにつき解説する。学習から研究へ、既存知識の整理だけでなく新たな知見を引き出すことが論文作成方法であり研究であることを教授する。論文を書く能力、解釈方法の多様性につき解説し、各人が選定した修士論文テーマに合わせ、質疑に応じつつ、講義する。		
教材（テキスト）	なし（選定テーマに応じて指定することがある）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	近江幸治「学術論文の作法[第 2 版]」(2016 年、成文堂)		
評価方法	演習における出欠、質疑と発言内容、各自が作成した論文下書きの内容等による（100%）		
到達目標	民事法に関する修士論文を完成させることを目標とする。		
準備学習	選定テーマに関する判例・学説にあたって十分に予習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者の予習・論文下書きの作成など積極的な受講態度を望む。
民事法に関する論文の着想、構想、表現力につき自問自答すること。

講義の順序とポイント

・各人の能力、修士論文の準備、進行状況に左右されるので詳細を記さない。
・個別に修士論文につき指導をする。
・民事法を掘り下げて勉強をするには、多分時間が足らないので修士論文テーマの選択を早めにすること。

学習配分例
1.取引主体（人、権利能力なき社団財団、法人）
2.法律行為、意思表示の到達
3.代理取引の実態
4.不動産物権変動
5.動産物権変動、集合動産
6.所有権、占有権、地上権
7.賃貸借（土地）－契約書を中心に
8.賃貸借（建物）－契約書を中心に
9.請負取引の実務
10.委任取引の実務
11.銀行取引実務　融資（1）
12.　　〃　　融資（2）
13.　　〃　　預金
14.　　〃　　振込、貸金庫
15.民事法文献の活用、論文中間指導、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J74082B01
科目名	【院】民事法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Seminar B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民事法に関する修士論文作成のための民事法の基礎知識につき、また、実務知識として、民事法が社会においていかにして適用されているのかにつき解説する。学習から研究へ、既存知識の整理だけでなく新たな知見を引き出すことが論文作成方法であり研究であることを教授する。論文を書く能力、解釈方法の多様性につき解説し、各人が選定した修士論文テーマに合わせ、質疑に応じつつ、講義する。		
教材（テキスト）	なし（選定テーマに応じて指定することがある）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	近江幸治「学術論文の作法[第 2 版]」(2016 年、成文堂)		
評価方法	演習における出欠、質疑と発言内容、各自が作成した論文下書きの内容等による（100%）		
到達目標	民事法に関する修士論文を完成させることを目標とする。		
準備学習	選定テーマに関する判例・学説にあたって十分に予習をしておくこと。		

受講者への要望

受講者の予習・論文下書きの作成など積極的な受講態度を望む。
民事法に関する論文の着想、構想、表現力につき自問自答すること。

講義の順序とポイント

・各人の能力、修士論文の準備、進行状況に左右されるので詳細を記さない。
・個別に修士論文につき指導をする。

学習配分例
1.債権の効力と実務
2.責任財産の保全
3.保証の実務
4.債権譲渡･債務引受
5.債権の消滅－相殺を中心に
6.担保物権の総合知識
7.留置権と実務
8.先取特権
9.抵当権の効力
10.抵当権と物上代位
11.抵当権と法定地上権
12.抵当権侵害、抵当物件の競売
13.質権の実務
14.譲渡担保実務
15.民事法文献の活用、論文指導、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★★

年度	2017	授業コード	J74088001
科目名	【院】民法総則	単位数	2
科目名（英語表記）	General Principles of Civil Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	【院】民法Ⅰ（総則）
講義概要	重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。 ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。		
教材（テキスト）	民法判例百選Ⅱ債権［第７版］		
教材（参考文献）	佐久間毅「民法の基礎１　総則[第３版]」（有斐閣） 佐久間毅･石田剛･山下純司･原田昌和「民法Ⅰ　総則」（有斐閣 Legal Quest）		
教材（その他）			
評価方法	個別報告（50%）・レポート（50%）によって評価する。		
到達目標	「民法総則」の中の主要な制度について、判例に基づいて説明することができる。また、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。		
準備学習	参考文献欄に示した基本書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくること		

受講者への要望

個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、授業で検討を予定している判例については、テキスト等に基づき、予習を十分しておいてほしい。

講義の順序とポイント

1　権利の濫用――宇奈月温泉事件
2　胎児の権利能力――阪神電鉄事件
3　意思能力のない者の行為
4　法人の目的の範囲（2）――会社の政治献金
5　公序良俗違反（2）――証券取引における損失保証契約
6　いわゆる取締法規違反の法律行為の効力
7　民法 94 条 2 項・110 条の類推適用
8　詐欺における善意の第三者の登記の必要性
9　錯誤――法律行為の要素
１０　利益相反行為と代理権濫用
１１　民法 110 条の正当理由の判断
１２　無権代理人の本人相続
１３　時効援用の効果
１４　時効完成後の債務承認
１５　消滅時効の起算点――じん肺罹患による損害賠償請求権

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★★

年度	2017	授業コード	J74094A01
科目名	【院】会社法 A（コーポレート・ファイナンス）	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law (Corporate Finance)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法におけるコーポレート・ファイナンス分野を中心に扱う。個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者に関連テーマを報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。なお、必要に応じ、金融商品取引法との交錯分野を扱う場合もある。受講者は、基本書等を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	江頭憲治郎『株式会社法　第 6 版』（有斐閣、2015 年）　6,048 円 『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第 3 版』（有斐閣、2016 年）　2,592 円		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点　（60%）。学期末レポート（40%）。		
到達目標	会社法（コーポレート・ファイナンス分野）について、法の具体的な適用の形である判例を研究し、理論上・実務上の問題を処理する能力を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回講義の関連文献を指定するので、これらを読了し検討を行っておくこと。		
受講者への要望			
会社法 B（コーポレート・ガバナンス）と併せて履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．株主平等の原則 ２．名義書換 ３．株式の譲渡 ４．譲渡制限株式 ５．従業員持株制度 ６．略式質 ７．自己株式 ８．第三者に対する新株の有利発行 ９．買取引受と不公正発行価額 １０．第三者割当増資による企業買収 １１．防衛策としての第三者割当増資 １２．著しく不公正な方法による第三者割当増資 １３．新株発行無効事由 １４．新株予約権発行の差止め １５．社債権者			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74094B01
科目名	【院】会社法Ｂ（コーポレート・ガバナンス）	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law (Cooperate Governance)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社法におけるコーポレート・ガバナンス分野を中心に扱う。個別判例などを素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者に関連テーマを報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。なお、必要に応じ、金融商品取引法との交錯分野を扱う場合もある。受講者は、基本書等を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（テキスト）	江頭憲治郎『株式会社法　第 6 版』（有斐閣、2015 年）　6,048 円 『別冊ジュリスト　No229　会社法判例百選　第 3 版』（有斐閣、2016 年）　2,592 円		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点　（60％）。学期末レポート（40％）。		
到達目標	会社法（コーポレート・ガバナンス分野）について、法の具体的な適用の形である判例を研究し、理論上・実務上の問題を処理する能力を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回講義の関連文献を指定するので、これらを読了し検討を行っておくこと。		
受講者への要望			
会社法Ａ（コーポレート・ファイナンス）と併せて履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．株主総会の招集・議事進行 ２．株主総会決議の瑕疵 ３．代表機関の代表行為と取引の安全 ４．競業取引・利益相反取引 ５．取締役の報酬規制 ６．取締役の会社に対する責任 ７．取締役の第三者に対する責任 ８．責任追及の訴え（株主代表訴訟） ９．監査役・会計監査人 10.委員会設置会社 11.持分会社 12.合併 13.会社分割 14.事業譲渡 15.企業買収			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74100A01
科目名	【院】経済法演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law Seminar A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	経済法 A 及び経済法 B で学んだことを前提として、独占禁止法の重要な基本判例および審決を取り上げ、独占禁止法の概念について理解を深める。受講生が、担当する判例について調べ、レジュメを作成して報告し、それに基づき検討を進めてゆく。企業結合を除く独占禁止法の重要な事件、具体的には、不当な取引制限の禁止、事業者団体の活動規制、不公正な取引方法に関する事件を主に取り上げる。なお、具体的な授業の進め方、講義の順序とポイントに書かれている事件は、取り上げる事件の目安である。受講生の研究テーマに応じて、 変更がありうる。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案したうえで決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（発言・授業内レポート）２０％ 報告４０％ 期末レポート４０％		
到達目標	判例の研究を通じて、独占禁止法の重要概念についての理解を深め、主にカルテルの事案につき、独占禁止法に基づいた判断ができるようになる。		
準備学習	第１回の準備学習　　経済法 A の内容の復習　　重要なキーワードについて説明できるようにしておくこと。 第２～１５回の準備学習 全員　各回で取り上げる事件について、次の２点を行う。 （１）判例百選または重要判例解説の該当部分を読む。 （２）事実関係を図式化する。 報告予定者は、（１）（２）に加えて、次のことを行う。 （３）報告用レジュメを作成する。		
受講者への要望			
十分な学習時間を確保した上で、担当する事例について責任を持って準備すること。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２．東芝ケミカル事件 ３．シール談合事件 ４．協和エクシオ事件 ５．郵便番号自動読取機事件 ６．広島県石商広島市連合会事件 ７．石油カルテル刑事事件 ８．日本遊戯銃協会事件 ９．日本医療食協会事件 １０．北海道新聞事件 １１．都営芝浦と畜場事件 １２・東芝エレベーター事件 １３．資生堂東京販売事件 １４．ローソン事件 １５．独占禁止法の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74100B01
科目名	【院】経済法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law Seminar B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	経済法 A および経済法 B で学んだことを前提として、独占禁止法の企業結合等に関する実際の事例を取り上げて検討する。受講生が、担当する事案について調べ、レジュメを作成して報告し、それに基づき検討を進めてゆく。前半は、企業結合に関する事例を取り上げる。後半は、受講生の興味関心を尊重して、とりあげる分野及び事例を決定するので、講義の順序に掲載されている後半部分の事例は目安である。受講生と相談の上、変更する場合がある。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案して最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（発言・授業内レポート）２０％ 報告４０％ 期末レポート４０％		
到達目標	独占禁止法の企業結合規制における分析方法を理解し、独占禁止法の重要概念についての理解を深める。		
準備学習	第１回の準備学習　　経済法 B の内容の復習　　重要なキーワードについて説明できるようにしておくこと。 第２～１５回の準備学習 全員　各回で取り上げる事件について、次の２点を行うこと。 （１）判例百選または重要判例解説の該当部分を読む。 （２）事実関係を図式化する。 報告予定者は、（１）（２）に加えて、次のことを行うこと。 （３）報告用レジュメを作成する。		

受講者への要望

十分な学習時間を確保し、担当する事例について責任を持って準備すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　広島電鉄事件
3　東宝・スバル事件
4　新日鉄合併事件
5　JAL・JAS 事業統合事例
6　ポリオレフィン事業統合事例
7　UFJ ホールディングスの事例
8　企業結合規制のまとめ
9　ロックマン工法事件
１０　LP ガス販売差別対価差止請求事件
１１　有線ブロードネットワークス事件
１２　野村証券事件
１３　鶴岡灯油事件
１４　奈良県入札談合住民代位損害賠償請求事件
１５　独占禁止法の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74102C01
科目名	【院】憲法Ｃ（ヨーロッパ人権論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law C (Human Rights in Eu rope)		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	本講義では、「ヨーロッパ公序の憲法的文書」とも称されるヨーロッパ人権条約について学び、ヨーロッパ人権裁判所の判例を検討する。この条約は 1950 年に採択され、現在の締約国数は 47 カ国に及び、トルコやロシアも含まれる。人権裁判所などの実施機関の半世紀を超える実行を通じて、条約はヨーロッパ諸国における人権保障に対して大きな影響を与えてきた。人権裁判所の代表的な判例を検討することで、第二次大戦後から今日までのヨーロッパでの人権保障の発展における条約の意義についてともに考えてみたい。		
教材（テキスト）	戸波江二ほか編『ヨーロッパ人権裁判所の判例』（信山社、２００８年）		
教材（参考文献）	【邦文による概説書】 フレデリック・スュードゥル（著）・建石真公子（訳）『ヨーロッパ人権条約』（有信堂、１９９７年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法［第３版］』（日本評論社、２００９年） 【条約集】 薬師寺公夫ほか編『ベーシック条約集』（東信堂） 岩沢雄司編集代表『国際条約集』（有斐閣） その他の専門書等については適宜紹介する。		
教材（その他）	ヨーロッパ人権条約の条文（翻訳）のコピーを配布する。		
評価方法	平常点（発言状況、予習状況など）５０点、報告３０点、レポート２０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．ヨーロッパ人権条約による人権保障の意義と仕組みを理解する。 ２．判決の事案や判旨などを適切に紹介したレジュメを作成し、効率的に報告する。 ３．判決の意義や問題点について自ら考えることができるようになる。		
準備学習	受講生は次回の授業で取り上げる判例の要旨を読んでくること。		

受講者への要望

１．積極的な参加を希望する。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス
２．ヨーロッパ人権条約の概説（担当教員による講義）
３．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
４．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
５．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
６．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
７．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
８．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
９．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１０．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１１．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１２．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１３．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１４．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討
１５．ヨーロッパ人権条約による人権保障の意義の検討

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J74103A01
科目名	【院】刑事訴訟法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究および外国文献の講読を通じた比較研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。 ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。		
教材（テキスト）	古江頼隆『事例演習刑事訴訟法』（2011、有斐閣）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。		
教材（その他）	資料などを掲載したプリントを配布する。		
評価方法	出席状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。		
到達目標	特定のテーマについて体系的に検討したレポートを作成する。		
準備学習	テキスト欄に挙げた文献を学期中に読破する。		

受講者への要望

学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。

講義の順序とポイント

1　はじめに
2　任意捜査と強制捜査
3　職務質問・所持品検査
4　任意取調べ
5　身柄拘束の諸問題（1）
6　身柄拘束の諸問題（2）
7　身柄拘束の諸問題（3）
8　令状による捜索・差押え（1）
9　令状による捜索・差押え（2）
10　逮捕に伴う無令状捜索・差押え（1）
11　逮捕に伴う無令状捜索・差押え（2）
12　おとり捜査
13　接見交通
14　被疑者取調べ
15　被疑者の権利

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74103B01
科目名	【院】刑事訴訟法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure B		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
講義概要	刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究および外国文献の講読を通じた比較研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。 ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。		
教材（テキスト）	古江頼隆『事例演習刑事訴訟法』（2011、有斐閣）		
教材（参考文献）	授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。		
教材（その他）	資料などを掲載したプリントを配布する。		
評価方法	出席状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。		
到達目標	特定のテーマについて体系的に検討したレポートを作成する。		
準備学習	テキスト欄に挙げた文献を学期中に読破する。		

受講者への要望

学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。

講義の順序とポイント

1　はじめに
2　訴因の特定
3　訴因変更の要否
4　訴因変更の可否
5　科学的証拠
6　法律上の推定
7　類似事実証拠排除法則
8　自白の証拠能力（1）
9　自白の証拠能力（2）
10　公訴の提起（3）
11　伝聞法則（1）
12　伝聞法則（2）
13　伝聞法則（3）
14　違法収集証拠排除法則（1）
15　違法収集証拠排除法則（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74104001
科目名	【院】行政作用法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Action Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論の部分のうち、基本原理、行政組織、行政作用法を扱う。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	講義の際、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート等による平常点(100%)		
到達目標	行政法の基本原理を習得し、組織法、作用法の全体像の理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当部項目を読み、基本用語、法令、判例をチェックすること。		

受講者への要望

行政法の学説に関する基礎知識と基本判例を習得することを目標にするので、参考文献の熟読と判例百選などを使った予習、復習が必要である。

講義の順序とポイント

1．　行政と法
2．　行政活動の規制原理
3．　行政組織
4．　行政立法
5．　行政行為－概念・種類
6．　行政行為－裁量
7．　行政行為－効力・瑕疵・取消しと撤回
8．　行政行為－瑕疵・取消しと撤回・附款
9．　行政計画
10．行政契約・行政指導
11．行政上の強制執行
12．行政上の即時強制・行政罰
13．行政手続法
14．情報公開
15．個人情報保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74105001
科目名	【院】行政救済法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Remedies Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法総論は、行政組織法、作用法、救済法の３つの柱で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	講義の際に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート等による平常点（１００％）		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
準備学習	次回の講義の項目と関連判例を予習すること。		

受講者への要望

行政作用法も履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション－行政法の学び方、行政救済法の体系
２．　行政不服申立て①
３．　行政不服申立て②
４．　行政事件訴訟の概観、種類
５．　取消訴訟の訴訟要件①
６．　取消訴訟の訴訟要件②
７．　取消訴訟の訴訟要件③
８．　取消訴訟の審理、判決、教示
９．　行政事件訴訟法のその他の論点
１０．国家賠償制度
１１．国家賠償法１条
１２．国家賠償法２条
１３．損失補償制度①
１４．損失補償制度②
１５．行政救済法の改正動向

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74106001
科目名	【院】家族法	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法の家族法分野について判例研究を行う。具体的な進め方については受講者と相談のうえ決める予定である。		
教材（テキスト）	講義資料を適宜配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	参加状況（50％）、研究への取り組み状況（50％）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他者の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者もあらかじめ指示された判例・文献に目を通しておくこと。		

受講者への要望

家族法を履修したことがない者については、家族法の教科書・概説書を 1 冊通読しておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたっては受講者の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。

１．　婚姻外の男女関係の解消
２．　近親婚と遺族年金受給権
３．　夫婦同氏制度の合憲性
４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権
５．　有責配偶者の離婚請求
６．　財産分与と慰謝料請求権との関係
７．　推定の及ばない子
８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用
９．　代理出産と母子関係
１０．子の命名権
１１．面会交流権
１２．成年に達した子に対する扶養義務
１３．熟慮期間の起算点
１４．生命保険金請求権の相続財産性
１５．高齢者の遺言能力

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J74107A01
科目名	【院】経済法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	市場経済が期待される機能を適切に発揮するには、市場における企業間の「公正かつ自由な競争」が前提となる。そのために、独占禁止法が、市場における競争を制限するカルテルなどを禁止している。競争に悪影響を及ぼす行為には様々なものがあるが、カルテルがその典型である。 本講義では、カルテルの様々な形態を理解し、なぜカルテルが行われるのか、カルテルを規制するにはどのようにすればよいのか、カルテルが独占禁止法違反かどうかを判断する際に必要な、基本概念について学ぶ。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等を勘案して、最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	毎回レジュメ等を配布する		
評価方法	平常点（発言、授業内レポートなど）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	カルテルの形態や仕組みについて理解し、独占禁止法の観点から分析できるようになる。		
準備学習	各回の最後に、次回までに読むべき教科書等の範囲を指示するので、事前に読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業活動一般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション　　独占禁止法の概要 2　カルテル規制の全体像 3　カルテルの仕組みと形態 4　入札談合 5　意思の連絡①（東芝ケミカル事件） 6　意思の連絡②（入札談合） 7　競争の実質的制限 8　行政指導とカルテル（石油カルテル事件） 9　事業者団体とカルテル①（大阪バス協会事件） １０　事業者団体とカルテル②（観音寺市医師会事件） １１　カルテルに対する措置の概要と手続き １２　課徴金制度 １３　刑事責任 １４　民事責任 １５　海外のカルテル規制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74107B01
科目名	【院】経済法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	グローバル経済においては、企業結合が活発に行われている。経済活動のルールを定める独占禁止法は、「公正かつ自由な競争」を維持・促進するため、カルテルなど、市場における競争に悪影響を及ぼす行為を禁止するだけでなく、市場構造に影響を与える企業結合も規制している。しかし、企業結合規制の場合、企業結合が競争を促進する可能性と競争を制限する可能生徒を慎重に判断する必要がある。 本講義では、企業結合の目的及び態様を理解したうえで、独占禁止法の企業結合規制について検討する。		
教材（テキスト）	受講生の独占禁止法の学習歴等に応じて、最初の授業で決定する。		
教材（参考文献）	最初の授業で紹介する。		
教材（その他）	毎回レジュメ等を配布する。		
評価方法	平常点（発言、授業内レポートなど）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	企業結合が市場における競争に及ぼす影響を理解し、独占禁止法の視点から、企業結合を分析できるようになる。		
準備学習	各回の最後に、次回までに読むべき教科書等の範囲を指示するので、事前に読んでおくこと。		
受講者への要望			
企業活動全般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション　　独占禁止法の目的と構造 ２　企業結合規制の全体像 ３　企業結合の態様と目的① ４　企業結合の態様と目的② ５　一般集中規制① ６　一般集中規制② ７　市場集中規制の概要 ８　市場画定の方法 ９　市場シェアと HHI １０　水平型企業結合 １１　垂直型企業結合 １２　混合型企業結合 １３　事例問題① １４　事例問題② １５　海外の企業結合規制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J74108A01
科目名	【院】国際法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、下記の国際法の標準的な教科書を精読し、国際法の基本的性質や機能を理解することを主な目的とする。受講生は、担当教員から出された論点を中心に担当部分のレジュメを作成し、報告を行う。そして、受講生の報告を踏まえて、全員で内容を検討する。可能であれば他の教科書との比較検討も行いたい。		
教材（テキスト）	杉原高嶺ほか『現代国際法講義［第５版］』（有斐閣、２０１２年）		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 薬師寺公夫ほか編『ベーシック条約集』（東信堂） 岩沢雄司編集代表『国際条約集』（有斐閣） 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２０００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（発言状況、予習状況など）７０点、レポート３０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．国際社会や国際法の独自の基本的性質を理解する。 ２．国際法の基本的な専門用語を理解する。 ３．詳細なレジュメを作成し、効率的に報告する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、教科書を事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．積極的な参加を希望する。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．「第１章　国際法の基本構造」
３．「第２章　国家の成立と変動」
４．「第３章　国家の基本的権利義務と管轄権」
５．「第４章　国家領域」
６．「第５章　海洋法」
７．「第６章　国際化地域と空域の利用」
８．「第７章　国際関係における国家機関」
９．「第８章　国際法における個人」
１０．「第９章　国際機構」
１１．「第１０章　条約法」
１２．「第１１章　国家責任」
１３．「第１２章　環境の国際的保護」
１４．「第１３章　紛争の平和的解決」

１５.「第１４章　武力行使の規制」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J74108B01
科目名	【院】国際法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際法の各分野の代表的な判例検討を通じて、国際法が実際の紛争においてどのように適用され、どのように機能しているかをともに学ぶ。受講生は、担当判例について適切に紹介したレジュメを作成し、報告を行う。受講生の報告を踏まえ、判決の意義や問題点などについて全員で検討する。国際法の判例検討を通じて、国内法とは異なる国際法の世界を見てみよう。		
教材（テキスト）	小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年）		
教材（参考文献）	【教科書】 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 杉原高嶺ほか編『現代国際法講義［第５版］』（有斐閣、２０１２年） 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 薬師寺公夫ほか編『ベーシック条約集』（東信堂） 岩沢雄司編集代表『国際条約集』（有斐閣） 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（発言状況、予習状況など）７０点、レポート３０点。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．判決の事案や判旨などを適切に紹介したレジュメを作成し、効率的に報告する。 ２．判決の意義や問題点について自ら考えることができるようになる。 ３．国内裁判とは異なる国際裁判について理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、予習判例は事前に必ず熟読してくること。		

受講者への要望

１．積極的に参加すること。
２．無断欠席はしないこと。

講義の順序とポイント

１．履修ガイダンス
２．国際法における国家
３．国家管轄権（１）
４．国家管轄権（２）
５．国家領域（１）
６．国家領域（２）
７．国際機構
８．国際法における個人（１）
９．国際法における個人（２）
１０．国際法における個人（３）
１１．条約
１２．平和と安全の維持（１）
１３．平和と安全の維持（２）

１４．国際経済活動 １５．環境の国際的保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J74109A01
科目名	【院】独語文献研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	German Document Research A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ民法を少し覗く。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	山田晟『ドイツ法律用語辞典』（大学書林） ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典』（成文堂）		
教材（その他）	中島 悠爾、朝倉 巧、平尾 浩三『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）		
評価方法	講義における取組み具合により評価する。		
到達目標	ドイツ語に親しみながら、ドイツ民法の内容についての知識を得る。		
準備学習	・他の受講生の担当部分についても、一読する。		

受講者への要望

・担当部分については、責任を持って訳出してくること。
・自らの担当部分は翻訳をプリントして持参すること。

講義の順序とポイント

Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。

受講者のドイツ語能力に大きく作用されるため、進度は不明であるが、第 2 章法律行為から読み進めることにする。
各回 1 頁程度進めるのが理想である。それを前提にすれば、各回の内容は以下の通りである。

(1) ガイダンス・担当順の確定等
(2) "§4 Vertrag, Willenserklaerung und Rechtsgeschaeft"中の
"Faelle"及び"I. Vertrag 1. Bedeutung "
(3) 同 "2. Vertragsfreiheit"
(4) 同 "3. Begriff"
(5) 同 "II. Willenserklaerung 1. Begriff"
(6) 同上
(7) 同上
(8) 同上
(9) 同 "2. Arten"
(10) 同 "3. Abgrenzung"
(11) 同 "III. Rechtsgeschaeft 1. Begriff"
(12) 同 "2. Arten"
(13) "§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte" 中の"Faelle"
(14) 同 "I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 1. Verpflichtungsgeschaefte"
(15) 同 ”2. Verfuegungsgeschaefte”

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J74109B01
科目名	【院】独語文献研究B	単位数	2
科目名（英語表記）	German Document Research B		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ民法をもう少し覗く。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	山田晟『ドイツ法律用語辞典』（大学書林） ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典』（成文堂）		
教材（その他）	中島 悠爾、朝倉 巧、平尾 浩三『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）		
評価方法	講義中における取組み具合を評価する。		
到達目標	ドイツ語に親しみながら、ドイツ民法の内容についての知識を得る。		
準備学習	・他の受講生の担当部分についても、一読する。		

受講者への要望

・担当部分については、責任を持って訳出してくること。
・自らの担当部分は翻訳をプリントして持参すること。

講義の順序とポイント

Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。

本講義では「独語文献研究A」の続きを読むことにする。当然受講者の習得具合にあわせるが、できる限り各回1頁ずつ読み進めることを目標とする。それを前提として各回の内容は主に次の通りである。

(1) ガイダンス／報告順の決定等
(2)"§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte"中の
"I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 3. Unterschiede"
(3) 同 "II. Kausale und abstrakte Geschaefte 1. Einfuehrung"
(4) 同 "2. Kausale Geschaefte"
(5) 同 "3. Abstrakte Geschaefte"
(6) 同 "III. Abstraktionsgrundsatz 1. Bedeutung"
(7) 同 "2. Auswirkungen"
(8) 同 "3. Gesezgeberischer Grund"
(9) 同 "4. Nachteile des Abstraktionsprinyips"
(10) 同上
(11)"§6 Die Auslegung des Rechtsgeschaefts" Faelle
(12) 同 "I. Einfache Auslegung 1. Ziel, Weg und Bedeutung"
(13) 同上
(14) 同 "2. Auslegungsmethode"
(15) 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J74110001
科目名	【院】物権総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Real Right Introduction		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	物権法の基礎的な論点を把握するために必要な事項について講義する。 受講者は、教科書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくることを前提とする。 また、受講者数にもよるが、重要判例等について報告を求めることがある。		
教材（テキスト）	内田貴『民法 I 総則・物権総論』（東京大学出版会, 第 4 版, 2008）		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	なし		
評価方法	発言状況等による平常点（20%）と個別報告兼レポート内容（80%）によって評価する。		
到達目標	・　物権法の基礎的な論点につき理解することを目標とする。 ・　現代社会における物権法の動向と課題につき理解することを目標とする。		
準備学習	教科書を各講義前に一読して疑問点を明らかにしておくこと。		

受講者への要望

物権法に関する民法条文の構成と配列につき何度も参照して理解するように努めること。
予習は十分に行われていることが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
2. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
3. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
4. 共同所有 1 ― 意義・発生・内容
5. 共同所有 2 ― 消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有の保護 ― 占有訴権
7. 占有と本権 ― 本権の推定・占有による本権の取得（取得時効）
8. 物権変動 ― 物権変動とは何か；契約による不動産物権変動
9. 不動産物権変動 1 ― 不動産物権変動と対抗要件
10. 不動産物権変動 2 ― 登記を要する物権変動・177 条の第三者
11. 不動産物権変動 3 ― 不動産登記制度・登記の推定力と公信力
12. 動産物権変動 ― 対抗要件・立木の物権変動と対抗要件
13. 公信の原則 ― 動産取引の場合・不動産上の物権
14. 物権の性質と効力
15. 物権法定主義の意義；まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J74112001
科目名	【院】債権総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Claim Introduction		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法第三編第一章の内容を扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	●初めて債権総論を学ぶ者 ・野村 豊弘、池田 真朗、栗田 哲男、 永田 真三郎『民法 (3) 債権総論 （有斐閣 S シリーズ)』(有斐閣、第 3 版補訂版) ●一度勉強したことのある者 ・中田裕康『債権総論』(岩波書店、2013) ・川井健『債権総論』(有斐閣、第 2 版補訂版、2009)		
教材（その他）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』(法律文化社、2007) 潮見佳男『民法(債権関係)改正法案の概要』(きんざい、2015)		
評価方法	発言状況等による平常点（20%）と、講義を行う場合には期末試験の結果により、希望テーマに基づき報告を行う場合には、個別報告兼レポート内容（80%）によって評価する。		
到達目標	債権法の内容を理解し、理解を深める。		
準備学習	参考文献欄に掲げた文献の 1 冊を選び、各回のテーマにつき、事前に内容を確認しておくこと。		

受講者への要望

主体的に参加し、報告する場合には責任を持って行うこと。

講義の順序とポイント

受講者の要望に従うが、講義を行う場合には、次の順序で行う。

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率）
第 3 回　債権の目的と種類 3（利息制限）; 債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行 ）
第 4 回　債務不履行 2（債務者の帰責事由）
第 5 回　債務不履行 3（履行の強制）
第 6 回　債務不履行 4（416 条の理解）
第 7 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権 ）
第 8 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権 ）
第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務；連帯債務）
第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務；保証債務 ）
第 11 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 12 回　当事者の交替 2（債務引き受け ）
第 13 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済 ）
第 14 回　債権の消滅 2（代物弁済・供託・相殺 ）
第 15 回　債権の消滅 3（更改・免除・混同 ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J74114001
科目名	【院】不法行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tort Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。 ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。		
教材（テキスト）	民法判例百選Ⅱ債権［第７版］		
教材（参考文献）	・潮見佳男「基本講義 債権各論〈2〉不法行為法[]第 2 版増補版」（新世社･ライブラリ法学基本講義、2016 年）		
教材（その他）	民法判例百選Ⅱ債権［第７版］ に参考文献として指示されている資料。		
評価方法	個別報告（50%）・レポート（50%）		
到達目標	不法行為法の制度・目的、または基本概念について判例に基づいて説明することができる。また、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。		
準備学習	参考文献欄に示した基本書を十分に読み込み、問題の所在とその実際的な解決法をあらかじめ考えてくること		

受講者への要望

個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、授業で検討を予定している判例については、テキスト等に基づき、予習を十分しておいてほしい。

講義の順序とポイント

1　景観利益
2　意見ないし論評の表明と名誉毀損
3　過失の意義
4　因果関係の立証
5　未成年者と監督義務者の責任
6　暴力団組長の使用者責任
7　共同不法行為の要件
8　共同不法行為と使用者責任の競合と求償
9　年少女子の逸失利益と家事労働分の加算
１０　名誉毀損と慰謝料
１１　過失相殺の要件
１２　過失相殺と身体的特徴の斟酌
１３　慰謝料請求権の相続性
１４　民法 724 条後段の除斥期間の起算点
１５　差止請求

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J74115001
科目名	【院】法情報処理	単位数	2
科目名（英語表記）	Law Information Processing		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	法学部出身者ではない者が、法学の修士論文を作成するに際し必要となるスキルの習得を目指す。 具体的には、法律の基礎知識を確認するとともに論文の構成や引用方法を身につける必要がある。まず、法律の仕組みを学び、関連する法律を探し出し、法律を読む練習を重ねる。次に、裁判の仕組み及び判例の構造を学ぶ。 　論文の執筆に必要な力は、実際に小論文を作成し、推敲するという実践を経なければ身につくものではない。半年間の講義の中で２回レポート（小論文）を実際に執筆し、その添削を受け、それを推敲するという作業を繰り返す。そのような実践と並行して、学術論文の構造を理解し、学術論文を探し、読み解く作業を行う。レポートのテーマについては、受講生の関心のあるテーマを考慮して決定する。		
教材（テキスト）	初回の授業で指示する。		
教材（参考文献）	法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣） その他は初回の授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜レジュメや資料を配布する。		
評価方法	平常点（課題・報告・発言）５０％ レポート５０％		
到達目標	必要な法律分野の資料を収集し、論理的な文章構成について理解し、資料に基づく法学分野のレポートを作成するための方法を理解できるようになる。		
準備学習	各講義の最後に指示する次の講義のための準備学習に取り組むこと。		

受講者への要望

十分な予習復習、レポート執筆のための時間の確保すること。
大学院生としての自覚。

講義の順序とポイント

以下は取り上げる内容の順番の目安である。受講生の人数及び学習歴に応じて変更がありうる。

1　オリエンテーション・法的思考①（私的自治と法律）
2　論文の構成・図書館ガイダンス
3　法的思考②（損害賠償）
4　報告①
5　報告②
6　法律の読み方
7　裁判制度・裁判員制度
8　判例の探し方
9　判例の読み方①
１０　判例の読み方②
１１　判例の読み方③
１２　レポートの作成方法①
１３　レポートの作成方法②
１４　レポートの作成方法③
１５　レポートの作成方法④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J74116001
科目名	【院】租税争訟法	単位数	2
科目名（英語表記）	Taxes Lawsuit Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	租税争訟法について、重要な論点を中心に理解を深める。併せて租税処罰法についても触れる。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例等について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論･検討をする中で、論点を整理し理解を深める。 また、事例演習においては、租税争訟法に関連する事案はもとより、近年の重要租税事件も併せて判例研究を行う。更に、税目横断的な事例に基づき実践的なケーススタディを行う予定		
教材（テキスト）	金子宏『租税法(第 22 版)』(弘文堂)		
教材（参考文献）	別冊ジュリスト『租税判例百選(第 6 版)』その他は講義中に指示する。		
教材（その他）	講義内容に沿ったレジュメを毎回配布する予定		
評価方法	報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	租税争訟法及び租税処罰法の重要な論点について理解すること。		
準備学習	租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。		

受講者への要望

租税実体法及び租税手続法についての基礎的な知識があること。行政法の履修が望ましい。
税法が記載された六法、法規集を持参する。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。

講義の順序とポイント

1. 導入　租税争訟法総説
2. 租税不服申立　租税不服申立総説
3. 租税不服申立　異議申立
4. 租税不服申立　審査請求
5. 租税訴訟　租税訴訟総説
6. 租税訴訟　租税訴訟各論 1
7. 租税訴訟　租税訴訟各論 2
8. 租税処罰法　租税処罰法概論
9. 事例演習（重要租税事件の検討）
10. 事例演習（実戦的ケーススタディ）
11. 事例演習（実戦的ケーススタディ）
12. 相続の概要及び相続・事業承継の考え方
13. 相続税の仕組みと計算
14. 贈与税、財産評価
15. 事業承継の考え方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J74172A01
科目名	【院】商事法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law Seminar A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	修士論文を完成させる能力を身につけるため、会社法関係を中心とした文献の講読や近時の判例の検討を行う。おおむね会社法 A の範囲を取り扱う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。必要に応じ、判例・文献などを指示する。		
教材（参考文献）	江頭憲治郎『株式会社法　第 6 版』（有斐閣、2015 年）　6,048 円		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点（70%）。レポート（30%）。		
到達目標	修士論文を完成させるために必要な知識、能力を身につける。		
準備学習	授業中に、関連する文献や判例を指定するので、次回までに読了し検討しておくこと。		
受講者への要望			
関係する文献を十分消化すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．名義書換 3．株主平等の原則 4．株式譲渡 5．譲渡制限株式 6．略式質 7．自己株式 8．第三者に対する新株の有利発行 9．不公正発行価額 10.第三者割当増資による企業買収 11.防衛策としての第三者割当増資 12.著しく不公正な方法による第三者割当増資 13.新株発行無効事由 14.新株予約権発行の差止め 15.社債権者			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J74172B01
科目名	【院】商事法演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law Seminar B		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	修士論文を完成させる能力を身につけるため、会社法関係を中心とした文献の講読や近時の判例の検討を行う。おおむね会社法 B の範囲を取り扱う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。必要に応じ、判例・文献などを指示する。		
教材（参考文献）	江頭憲治郎『株式会社法　第 6 版』（有斐閣、2015 年）　6,048 円		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度合による平常点（70%）。レポート（30%）。		
到達目標	修士論文を完成させるために必要な知識、能力を身につける。		
準備学習	授業中に、関連する文献や判例を指定するので、次回までに読了し検討しておくこと。		

受講者への要望

関係する文献を十分消化すること。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション
2．株主総会に関する諸問題
3．経営判断の原則
4．競業取引
5．利益相反取引
6．取締役の会社に対する責任
7．取締役の第三者に対する責任
8．責任追及の訴え（株主代表訴訟）
9．監査役・会計監査人
10.委員会設置会社
11.持分会社に関する諸問題
12.合併
13.会社分割
14.事業譲渡
15.企業買収

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J75007B01
科目名	【院】コミュニケーション社会学特論 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Sociology of Communi cation B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要な理論を紹介し、これを適用しながら現代社会の理解に努める。 「コミュニケーション社会学特論 B」では、儀礼論、自我論、大衆社会論、メディア論を渉猟しながら、広く現代社会のコミュニケーション状況を考える。「コミュニケーション」は特にさいきんになってよく使われるようになった言葉で、新聞記事を検索してカウントしてもはっきり 1990 年代に急増している。それだけ注目されてもいるが、同時に「コミュニケーション」をめぐる真偽の不確かな紋切型も増えた。この講義では、社会学の諸理論をふまえ、現代社会のコミュニケーション状況をどのように考えればよいかを探る。		
教材（テキスト）	プリント教材（講義中に配付する）。		
教材（参考文献）	講義中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）とレポート（50%）。		
到達目標	現代社会のコミュニケーション状況を分析できるようになること。できれば、自らの研究対象を講義で解説した諸理論を使って分析すること。		
準備学習	講義と並行して、自分の研究テーマを明確にする作業を進めること。		
受講者への要望			
講義形式の授業ではあるが、受講生には毎回意見を求める。積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 儀礼 3. 相互行為儀礼 4. ポライトネス 5. 集まりの構造(1) 6. 集まりの構造(2) 7. 大衆社会 8. 中間集団 9. 大衆文化 10. 都市と郊外 11. 自我論 12. ネットとケータイ 13. ソーシャルメディア 14. 流言 15. 全体の復習と総合的な議論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75012B01
科目名	【院】ジェンダー社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology of Gender B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ェンダーが人間の社会経験を理解する上で不可欠な変数であると認識されはじめて４０年余り。ジェンダー社会学の対象は女性だけでなく、男性の問題、そしてセクシュアリティと幅広い。現在のジェンダー社会学では、様々な社会問題を理解するにはジェンダー抜きでは不可能であるが、またジェンダーだけでも不十分だという認識がなされている。ジェンダーという概念をめぐる系譜をたどりながら、コアとなる先行研究を読み、複合的に女性と男性の経験をとらえる視点をさぐり、独自の研究課題を追求する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席、発表など）40%, 期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念の基礎理解と専攻研究の把握を行い、修士論文を位置づける		
準備学習	指定された文献、資料は読んでくること		
受講者への要望			
各自の研究テーマを先行研究のなかで位置づける			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション ２～３．ジェンダー社会学文献リストより注釈目録のフィードバック 4～１３．各自の研究の先行研究の購読 14～15. ジェンダー社会学の概観と調査計画書について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	ー	ー	ー	★	★★

年度	2017	授業コード	J75015B01
科目名	【院】ジェンダー社会学特論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Sociology of Gender B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	社会学ではマイノリティを統計的概念ではなく政治的概念として扱ってきた。女性はマイノリティ集団の一つだが、2 つあるいは 3 つ以上のマイノリティ集団に属する複合的マイノリティは少なくない。彼／彼女たちの経験を理解するにはジェンダーだけでは不十分であり、エスニシティ、セクシュアリティ、階級など他の「差異」を分析に含める必要がある。では「差異」をどのようとらえればいいのだろうか、本講義ではジェンダーに加えて、エスニシティ、セクシュアリティ、階級、宗教など他の社会的カテゴリーを関係的に考察する。期末レポートは、ジェンダーと他の社会的カテゴリーを交錯させた複眼的アプローチで各自のテーマに取り組む。		
教材（テキスト）	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房 2013(図書館所蔵) 適宜配布あるいは指定，文献購読は日本語だけでなく英語教材を含む		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席や発表など）40%、 期末レポート 60%		
到達目標	複合的マイノリティの基礎的理解		
準備学習	前もって指定された文献や資料は読んでくること。		
受講者への要望			
先行研究には英語文献を含むので、英語の読解力が求められる			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2.〜7. ジェンダー社会学基礎 8.〜12. さまざまな複合的マイノリティ 13.〜14. 複合差別とトラウマ 15. まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J75024A01
科目名	【院】ジャーナリズム研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	【院】ジャーナリズム研究演習Ⅰ
講義概要	演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第１に研究テーマの設定、第２にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第３に関連文献の蒐集と読解、第４にメディアなどの現場取材、第５に総合把握と問題点の集約、第６に研究発表（プレゼンテーション）、最後の第７が修士論文の作成である。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムーー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	研究テーマに関連する新聞各紙やテレビニュース映像、さらに雑誌や書籍の関連資料を配布します。		
評価方法	授業内レポート５０％、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション３０％、平常点（授業への参加度合い）２０％。		
到達目標	少人数の課題追求型学習であることは当然だが、修士論文作成を目的とする院生のために、その専門研究とあわせてその周辺研究も課する。つまり、狭い領域の研究にこだわっていると普遍性という点で研究の意味が減退するためで、そのような指導を通じて院生の専門研究が修士号レベルに達するまで高めることに全力を挙げる。それと併せて、その研究が将来の就職に反映されるよう現実的な配慮もする。		
準備学習	ジャーナリズム研究はいわば実証学でもあるので、テレビや新聞、雑誌などで研究テーマがどのように報じられているのか、事前に検証しておいてほしいと思います。また、毎回の研究授業を円滑に進めるために、前回の授業でしてきされた予習を確実に行うことと、授業終了時には復習用の課題を出すので、それを次回の授業時に必ず提出してもらいます。		

受講者への要望

マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。

講義の順序とポイント

１　大学院における研究計画とそのスケジュール
２　研究テーマ設定に関する討議
３　研究テーマ設定に対する評価と指導
４　方法論決定に関する協議
５　方法論策定のための資料選択
６　具体的な研究計画の決定
７　研究計画の具体化としての文献・調査対象の選定
８　研究結果報告と指導
９　研究結果報告と指導
１０　研究結果報告と指導
１１　研究・調査結果の報告と指導
１２　文献目録の作成
１３　経過発表と討論
１４　研究領域に関する研究書の講読

１５　研究全体を総括して討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75024B01
科目名	【院】ジャーナリズム研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	【院】ジャーナリズム研究演習Ⅱ
講義概要	演習では高度情報化社会とマス・メディア、情報消費者の相互関係を考察する過程において、ジャーナリズムが抱える課題を浮き彫りにする。つまり、演習の核心は「批判性」である。実際的には、受講生のテーマ研究が中心になるが、まず第１に研究テーマの設定、第２にそのテーマに関する実態把握のための情報収集、第３に関連文献の蒐集と読解、第４にメディアなどの現場取材、第５に総合把握と問題点の集約、第６に研究発表（プレゼンテーション）、最後の第７が修士論文の作成である。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムーー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	演習に対する取り組み姿勢やレポート 50%、各自が設定したテーマ研究のプレゼンテーション３０％、平常点（授業への参加の度合い）２０％。		
到達目標	研究論文を修士号レベルに高めるのは当然であるが、それと同時に、その研究成果を将来の進路、つまり就職に結びつけることが最終的な目標である。		
準備学習	ジャーナリズム研究はテレビや新聞、雑誌など様々なメディア研究を抜きにしては語れず、その意味に於いて幅広い情報収集が求められる。このジャンルは幅が広いため、できるだけ早く研究テーマを絞っておくことが肝要と思われる。		

受講者への要望

マス・メディアが対象とする社会事象は、政治、経済、社会、国際、文化分野など、高度情報化社会を反映して多岐にわたっている。それだけに、修士論文にまとめるための「研究テーマ」の設定は重要で、出来るだけ具体的な文献研究やリサーチ、フィールドワークが可能な主題を選択することが望まれる。もちろん、独創的かつ客観性のあるジャーナリズム批判は大歓迎である。

講義の順序とポイント

１　研究論文の進行状況発表
２　調査結果報告
３　資料蒐集（新聞・文献）
４　資料検索と蒐集（ウェッブ）
５　研究と論文作成の方法について
６　研究の中間発表と討議
７　研究の中間発表と討議
８　研究課題に関する実際的検証
９　既存（類似・参考）論文の蒐集結果の発表
１０　専門研究書の輪読
１１　各種データの蒐集と整理（客観化）
１２　各種データの蒐集と整理（客観化）
１３　研究結果の報告とそれに対する指導
１４　研究結果の報告とそれに対する指導
１５　演習全体を総括して最終討議

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J75032B01
科目名	【院】ジャーナリズム特論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	今日の高度情報化社会において、新聞やテレビによる報道、さらにインターネット上を玉石混交の様々な情報が流れているが、それらを「賢い情報人」としていかに正確に、そして批判的に読み解くかが問われている。そうしないと、人々は本当に必要な情報とは何かを特定できないまま、圧倒的なメディアの力による情報洪水に流されてしまうことになりかねない。この授業ではそのような観点から、教科書によってジャーナリズムの根幹を学ぶとともに、日々発生している様々な社会事象について、共に考え検証していく。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム』（福永勝也著、ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）			
教材（その他）	新聞各紙や各局のテレビニュースのビデオ、さらに専門雑誌や書籍の関連資料を配布します。		
評価方法	講義途中や終了時におけるレポート（70%）、小テスト（１０%）、さらに授業参加の度合い（２０%）などを総合して判断する。		
到達目標	少人数の課題追求型学習によってメディアに取り上げられる様々な社会事象を正確に分析し、客観化された見解の醸成を目標とする。今日の高度情報化社会を左右している各種メディアの現況やメカニズムの理解、その上に立ってニュースを正確に分析することによって社会事象に対する客観的認識を深める。		
準備学習	教科書を中心に授業を行うので、以下に記したように予習と復習をきちんとすることが大事です。教科書や事前に配布した資料をよく読んでおくこと、さらにテレビ報道など日々のニュースに対する感度を上げておくこととも大事です。また、授業終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1　「 ジャーナリズム概説入門」については事前に教科書の「はしがき」をよく読んで予習をしておいてください。 2　「日本の新聞、テレビ、インターネット概況」については、事前配布した各種資料に目を通して理解を深めておくこと。 3　「戦国時代を迎えた米国のメディア状況」については、教科書の第 1 章と第 2 章の全体に目を通しておいてください。 4　「世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現」については第 2 章の 21 ページ～27 ページ、38 ページ以降を読んで予習しておくこと。 5　「新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題」については事前配布の資料で予習しておいてください。 6　「マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか」については教科書の「はしがき」と 27 ページ～38 ページを予習しておくこと。 7　「IT 革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」については、教科書の第 1 章全体を読んでおいてください。 8　「新旧メディア企業による M&A（合併・吸収）戦争」について j は、教科書の「仁義なきメディア・ウォーズ」を読んで理解を深めておいてください。 9　「各種メディアにおけるメディア産業論」については、事前配布の資料を読んで参考にしておいてください。 10　「新聞はオールドメディアで消えゆく運命か」については、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」の項を予習しておくこと。 11　「圧倒的影響力を誇るテレビメディの功罪」については、教科書の第 3 章、4 章を読んでおくこと。 12　「ジャーナリズムとポピュリズムの問題」については、教科書の第 5 章「ポピュリズムに翻弄されるメディア」を予習しておくこと。 13　「政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係」については、教科書の第 6 章（129 ページ～153 ページ）をよく読んで理解しておいてください。 14　「コマーシャリズムによってジャーナリズムは衰退するのか」については、教科書の第 2 章 2 項、5 項、そして第 7 章をよく読んでおいてください。 15　「ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調」については、教科書の第 12 章「ジャーナリズムとアカデミズム」をよく予習しておいてください。		

受講者への要望
出来るだけ最新のニュースについて、学生とともに分析しながらリテラシー能力を高めたいと思っているが、大学院である限り、やはりジャーナリズムのアカデミックな原理（原論）を学ぶ必要があると思います。そのために、ジャーナリズムをより深く考察するために教科書利用は欠かせません。教科書必携です。
講義の順序とポイント
1　ジャーナリズム概説入門 2　日本の新聞、テレビ、インターネット概況 3　戦国時代を迎えた米国のメディア状況 4　世界に影響を与える巨大メディア複合企業の出現 5　新旧メディアの葛藤と協調を含めた現状と課題 6　マルチメディア時代にジャーナリズムは社会的使命を果たせるか 7　IT 革命と新情報時代の到来によって様変わりする「情報人」 8　新旧メディア企業による M&A（合併・吸収）戦争 9　各種メディアにおけるメディア産業論 10　新聞はオールドメディアで消えゆく運命か 11　圧倒的影響力を誇るテレビメディの功罪 12　ジャーナリズムとポピュリズムの問題 13　政治によるジャーナリズムへの圧力や密接な関係 14　コマーシャリズムによってジャーナリズムは衰退するのか 15　ジャーナリズムとアカデミズムの相克と協調

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J75037B01
科目名	【院】マルチメディア特論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Multi-Media Society B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	人間を拡張すると同時に人間を社会的に枠づける役割を果たす「メディア（media）」に関しての基礎的な文献購読を基に、メディアと社会の関係を歴史的に省察し、今日のメディアと社会の関係について考えていく。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアと社会を自分の視点で考える。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
基礎文献購読／個人発表。 01　オリエンテーション 02　文献講読 01 03　文献講読 02 04　文献講読 03 05　文献講読 04 06　文献講読 05 07　文献講読 06 08　文献講読 07 09　文献講読 08 10　文献講読 09 11　文献講読 10 12　文献講読 11 13　文献講読 12 14　個人発表 01 15　個人発表 02			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J75045001
科目名	【院】学校臨床心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical School Psyc hology		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	スクールカウンセリング等に必要な知識を学ぶ。 思春期の心性、発達障害、いじめなど、学校現場で生じやすい問題、 保護者の問題などを事例を通して学んでいく。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的参加、自分で学ぼうとする姿勢		
到達目標	学校現場で生じやすい問題について、知識と理解、対応のあり方についての考えを深める。		
準備学習	学校現場で生じる問題について、自分なりに文献を読んでください。		

受講者への要望

日ごろから、学校現場で生じている問題に意識を向け、どのように考えたらよいのかなど、自分の今までの経験や、理論もあわせて
考えるようにして下さい。

講義の順序とポイント

1、学校という場所について
２、思春期の心性
３、発達障害など
４、重度の発達障害
５、ネット上でのいじめについて
６、保護者との関係
７、教員との関係
８、摂食障害など
９、事例から学ぶ
１０、事例から学ぶ
１１、事例から学ぶ
１２、事例から学ぶ
１３、事例から学ぶ
１４、　事例検討（各自の興味あるテーマから発表）
１５、　事例検討（各自の興味あるテーマから発表）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J75051B01
科目名	【院】広告広報特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Advertising and Publ ic Relations B		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	社会における言説の作用としての広告広報とその表現について、消費社会論、記号学、モダン・デザイン史、メディア・リテラシーなどの視点から、文献講読、歴史研究、事例・作品分析にもとづき考察する。		
教材（テキスト）	受講生の関心などもふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介する。		
教材（その他）	同上		
評価方法	平常点（40%）：授業での発表 試験：期末レポート（６０%）		
到達目標	消費社会における記号の作用としての広告広報について、記号やメディアのメカニズムの視点から分析できるようにする。また、19 世紀後半からの消費社会形成の動きやモダン・デザイン成立の歴史において、企業やデザイン産業、クリエイター、そしてこれらと消費者との相互作用によってそのようなメカニズムがどのように開発され、普及していったかを俯瞰する。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者）、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		
受講者への要望			
広告や広報は、どのような個人や組織も自らの活動への支持を形成し、その成就を果たすために不可欠な発想や行動である。どんな進路を考える者も幅広い視野でこのテーマをとらえ、参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
＜講義予定＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：テキスト講読・発表（1） 第 3 回：テキスト講読・発表（2） 第 4 回：テキスト講読・発表（3） 第 5 回：テキスト講読・発表（4） 第 6 回：テキスト講読・発表（5） 第 7 回：テキスト講読・発表（6） 第 8 回：テキスト講読・発表（7） 第 9 回：テキスト講読・発表（8） 第 10 回：テキスト講読・発表（9） 第 11 回：テキスト講読・発表（10） 第 12 回：テキスト講読・発表（11） 第 13 回：テキスト講読・発表（12） 第 14 回：テキスト講読・発表（13） 第 15 回：ふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75058001
科目名	【院】実験心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Experimental Psychol ogy		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の記憶，注意，思考などの認知機能に関するトピックについて，行動指標を用いた実験的方法による研究を中心に,学習を行う。 このような分野の研究論文の購読を中心として授業を進め，心理学論文の読解力を養成するとともに，そこで検討されている心理学的知見や，実験心理学的手法による心理学研究の進め方，論文の書き方について検討する。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	授業中に紹介する		
教材（その他）			
評価方法	授業での討論への参加状況等の平常点(50%)，および発表(50%)によって評価する。		
到達目標	心理学論文の読解力を身につける。 実験心理学的な研究手法についての理解を深める。		
準備学習	毎回の授業教材となる文献について，事前に目を通して授業に参加すること。		
受講者への要望			
自発的，積極的な討論への参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. 人間の記憶システム(1) 3. 人間の記憶システム(2) 4. 人間の記憶システム(3) 5. 人間の記憶システム(4) 6. 注意の機能と構造(1) 7. 注意の機能と構造(2) 8. 注意の機能と構造(3) 9. 注意とワーキングメモリ(1) 10. 注意とワーキングメモリ(2) 11. 注意とワーキングメモリ(3) 12. 思考過程に関する実験的研究(1) 13. 思考過程に関する実験的研究(2) 14. 思考過程に関する実験的研究(3) 15. 思考過程に関する実験的研究(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75059A01
科目名	【院】社会学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	【院】社会学研究演習 I
講義概要	「社会学研究演習」A・B・C・D を通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関係資料を配付する。		
評価方法	研究発表とレポート・論文に依る。		
到達目標	修士論文を執筆する。		
準備学習	授業終了時に次回の授業の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、授業の初めに、前回の授業内容に関する復習・確認をおこなうので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
積極的に研究に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
1 -10, 文献研究 11-15, レポート・論文執筆			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J75059B01
科目名	【院】社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	【院】社会学研究演習Ⅱ
講義概要	「社会学研究演習」Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄを通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	研究発表とレポート・論文に依る。		
到達目標	修士論文を執筆する。		
準備学習	個人的にも社会学の文献の研究を進めておく。		
受講者への要望			
積極的に研究に取り組むことを望む。			
講義の順序とポイント			
1－10，文献研究 11-15，レポート・論文執筆			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75068A01
科目名	【院】社会心理学特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Social Psychology A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	【院】社会心理学特論Ⅰ
講義概要	犯罪心理学にかかわる認知神経科学の知見について、関連書を読みながら概説を行う。 社会的規範から逸脱することは誰にでもありうることだが、パーソナリティ傾向あるいは社会的学習により犯罪を繰り返しやすい人間がいることは事実だろう。その原因として、自己制御能力・共感能力の欠如が指摘されている。この講義では、社会認知神経科学の観点からそれらの要因間の相互作用を探る。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）	共感の社会神経科学（2016） 勁草書房 ジャン デセティ（著), ウィリアム アイクス（著), 岡田 顕宏 訳		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）と、発表(30%)と最終レポート(30%)により評価する。		
到達目標	文献を読みこなして論考する力を養う。		
準備学習	これまでに培った英語力を持続させておくこと。		
受講者への要望			
授業を中断させてもかまいませんので、積極的に疑問点や思いついたことを述べてください。			
講義の順序とポイント			
1〜2. 認知神経科学概論 3〜4. 犯罪心理学概論 5〜6. 社会神経科学概論 7〜8. 共感の社会認知神経科学 9~10. 情動感染と共感 12~13. 共感と対人能力とミラー・ニューロン・システム 14〜15. 討論と発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75078A01
科目名	【院】心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	実験計画的な思考と複雑系システムである人間社会を理解する視点を備えることが目的となる。		
準備学習	学部時代の研究結果および、指示された文献を発表の日までに読んでレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
簡単なところからでよいので、英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください			
講義の順序とポイント			
1. 卒業論文報告 1 2. 卒業論文報告 2 3. 卒業論文報告 3 4. 研究テーマディスカッション 1 5. 研究テーマディスカッション 2 6. 研究テーマディスカッション 3 7. 文献探索 1 8. 文献探索 2 9. 文献探索 3 10. 文献報告 1 11. 文献報告 2 12. 文献報告 3 13. ディスカッション 1 14. ディスカッション 2 15. 夏休みの課題決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J75078B01
科目名	【院】心理学研究演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。社会神経科学の応用と実践を行う予定。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	将来に向けて必要なスキルと思考力を備えること		
準備学習	実験に必要なスキルは、授業中にも指導しますが、できるだけ自己学習も継続させてください。		

受講者への要望

英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください

講義の順序とポイント

1. 研究報告 1　心理学専門演習 I・II でまとめたレポートの発表
2. 研究報告 2
3. 研究報告 3
4. 研究報告 4
5. 研究報告 5
6. 分析 1　データ分析指導
7. 分析 2
8. 分析 3
9. 分析 4
10. 分析 5
11. 研究結果ディスカッション　1
12. 研究結果ディスカッション　2
13. 研究結果ディスカッション　3
14. 研究結果ディスカッション　4
15. 春休みの課題決定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J75087001
科目名	【院】心理学研究法特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychology Research Method B		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	心理学研究のデザインについて，実験法や調査法等のデータ収集方法，独立変数と従属変数の設定，因果関係の検証可能性，などの視点から整理する。また，そうした研究を進めるために必要な，各種の統計手法を学習する。 受講者各自のこれまでに行ってきた研究や現在進めている研究（学部卒業研究や修士研究など），興味を持っている研究などを可能な限り具体例として取り上げながら，実際の研究場面でのデザイン設定のポイント，適切な統計分析手法の選択と，データ解析結果の解釈の仕方，などを検討する。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	題材とする心理学論文は受講者と相談の上で授業の中で指定する。		
評価方法	授業への出席および討論への参加状況等の平常点(50%)，および発表(50%)によって評価する。		
到達目標	心理学の研究計画を立てるために必要な基本事項を修得する。 量的研究を行うための，統計的方法の基礎を修得する。 どのような研究計画にどのような統計方法が適切なのかを判断できるようになる。		
準備学習	実際の研究論文を題材として授業を進めるので，各回の授業の材料となる論文に目を通してから授業に出席すること。さらに，発表担当の学生は十分な発表の準備をして授業に望むこと。		

受講者への要望

各自がこれまでに行った研究や現在興味をもっている先行研究などの具体例を積極的に提供し，主体的に学習を行うことを希望する。
統計学の初歩的な内容について理解していることを前提として授業を進める。学部段階で統計学の学習をしていない者は，この授業と平行して統計学の入門的な内容を自習をすること。

講義の順序とポイント

1. 心理学研究法にかかわる基本的事項の整理
2. 研究例による，研究計画と統計的手法の選択の視点整理(1)
3. 研究例による，研究計画と統計的手法の選択の視点整理(2)
4. 推測統計の原理と必要性
5. 検定力と，サンプルサイズの決定
6. 実験研究と相関研究
7. 実験操作を用いた研究デザインとその分析方法
8. 相関研究とその分析方法
9. カテゴリカルデータの分析方法
10. 測定の信頼性と妥当性
11. 信頼区間の利用
12. 研究例による統計分析の実際(1)
13. 研究例による統計分析の実際(2)
14. 研究例による統計分析の実際(3)
15. 研究例による統計分析の実際(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J75087A01
科目名	【院】心理療法特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	【院】心理療法特論Ⅰ
講義概要	システム論的家族療法に関して、まず担当者のスタンスや経験、家族療法の基礎的事項について紹介し、次には模擬面接場面のビデオ視聴や文献購読、実習等を行ないたい。実習は家族合同面接の実施、家族の特徴の見立て、自分の家族に関するもの等である。 家族療法は、とくに児童臨床の場合、子どもと子どもが育つ場の育成を考えるときに有用な視点であり方法である。またシステム論的家族療法の視点は、家族員間だけでなくセラピストとクライエントの関係等のシステムにも目を配らせてくれるので、他の療法を行なう場合にも役に立ち、さらに家族だけでなく、その上位システム（様々な社会的集団等）を扱う場合にも力を貸してくれるので、コミュニティ・アプローチの際にも有用である。		
教材（テキスト）	川畑　隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」2009 明石書店…初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。		
教材（参考文献）	川畑隆編著「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ～よりよい臨床のための４つの視点、８つの流儀」2015 明石書店 宮井研治編著「子ども・家族支援に役立つ面接の技とコツ～＜仕掛ける・さぐる・引き出す・支える・紡ぐ＞児童福祉臨床」2012 明石書店 団士郎著「対人援助職のための家族理解入門～家族の構造理論を活かす」2013 中央法規 早樫一男編著「対人援助職のためのジェノグラム入門～家族理解と相談援助に役立つツールの活かし方」2016 中央法規 亀口憲治編著「心理療法プリマーズ 家族療法」2006 ミネルヴァ書房 中釜洋子著「家族のための心理援助」2008 金剛出版 その他については、授業で随時紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	家族とのジョイニング（親しくなるための働きかけ）や、一定の家族アセスメントを可能とする家族合同初回面接を初級レベルで行なえるようになること。		
準備学習	教科書や紹介する参考書を読み込む。		
受講者への要望			
実際の臨床場面に役立つ内容なので、より熱心に取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			

１．　担当者と家族療法
２．　家族療法の基礎
３．　ビデオ視聴や文献講読①
４．　同②
５．　同③
６．　同④
７．　同⑤
８．　同⑥
９．　同⑦
１０．　同⑧
１１．　実習①
１２．　同②
１３．　同③
１４．　同④
１５．　同⑤
（上記の内容や順序については変更があり得る）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75087B01
科目名	【院】心理療法特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy B		
担当者名	根本　眞弓	旧科目名称	
講義概要	心の悩みや精神病理を抱えたクライエントを対象に心理療法やプレイセラピーの臨床実践を行う際の基礎理論となるフロイトの精神分析理論や、パーソナリティ理解に役立つ早期乳幼児期の情緒発達理論（ウィニコット、マーラー、スターンなど）について学ぶ。さらに神経症や精神病などの精神病理を抱えた人への理解を深め、治療的アプローチに援用できる対象関係論理論（クライン、ビオンなど）について理解を深める。到達目標としては、事例を通して理論と臨床実践の融合を図り、実際の心理臨床活動に役立つ視点の獲得を目指す。		
教材（テキスト）	対象関係論を学ぶ　松木邦裕著　岩崎学術出版 保育に生かす心理臨床　馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房 私説対象関係論的心理療法入門　松木邦裕　金剛出版		
教材（参考文献）	図説　臨床精神分析学　前田重治　誠信書房 集中講義・精神分析（上・下）　藤山直樹　岩崎学術出版 精神分析的人格理論の基礎　馬場禮子　岩崎学術出版		
教材（その他）	乳幼児の心の発達に関するビデオ、パワーポイントを使用する。		
評価方法	出席状況及び受講態度・文献まとめ・発表・ディスカッションへの参加度　(70%) レポートの評価　(30%)		
到達目標	臨床実践を行う際の基礎となる精神分析理論（対象関係論)、パーソナリティ構造や精神病理への理解を深めるとともに、実践的臨床感覚を身につける。		
準備学習	課題①　「保育に生かす心理臨床」馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房ｐ１－５６を、分担してレジュメを 作成すること。各章Ａ４、１枚程度。(2)～(4)の授業で発表する。 課題②　「対象関係論を学ぶ」松木邦裕著　岩崎学術出版の、第Ⅰ部、ｐ３～５４を分担してレジュメを作成する こと。各項 A4、1 枚程度。(8)（9）の授業で発表する。 課題③　「私説対象関係論的心理療法入門」松木邦裕　金剛出版　Ｐ９～１０６を分担してレジュメを作成する こと。各章Ｂ４、１枚程度。(11)～(13)の授業で発表する。		

受講者への要望

主体的に学ぶ姿勢をもって出席し、自分の考えや感じたことをできるだけ言語化するようにしてください。

講義の順序とポイント

1，導入・精神分析とは
2，乳幼児のこころ（愛着の発達・関わりの発達）
3，乳幼児のこころ（身体と心の結びつき・分離－個体化の発達）
4，乳幼児のこころ（自我と自己の初期発達－ウィニコット・スターン）
5，まとめと振り返り

6，フロイトの精神分析理論（構造論・防衛機制）
7，フロイトの代表事例（アンナ・0、ハンス、ねずみ男、狼男、シュレーバー）
8，対象関係論（内的世界）
9，対象関係論（妄想分裂ポジション・抑うつポジション）
10，まとめと振り返り

11，対象関係論的心理療法の実際（分析空間の創り方・治療対象の「見立て」とその進め方）
12，対象関係論的心理療法の実際（治療契約と治療者の身の置き方・耳の傾け方）
13，対象関係論的心理療法の実際（口のはさみ方）
14，対象関係論的心理療法の実際（事例から学ぶ）
15，全体のまとめと振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75087C01
科目名	【院】心理療法特論C	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy C		
担当者名	片山　知子	旧科目名称	
講義概要	心理療法特論 C では、遊戯療法についての講義と実習を行う。遊戯療法は、心理療法全般に通じるノンバーバルコミュニケーションなどのエッセンスを含んでいると思われる。そこで遊戯療法を中心とした講義を、①理論、②体験実習、③事例研究、④ディスカッションの 4 点から行う。まず実習で体験し、その体験をもとに理論や事例研究を理解できるように授業をすすめる。遊戯療法未経験の方には遊戯療法での関係性やそこで生じる体験を、そして経験者には遊戯療法の理解を深めて欲しい。受講者それぞれの心理学に対する経験に差違があると思われるが、授業を通して自己理解を深めてもらいたいと思う。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示紹介。		
教材（その他）	スライドや写真など、教材は準備、指示します。		
評価方法	授業中の取り組みと積極的な発言（50%）。授業中に行う事例研への準備およびプレゼンテーション（20%）授業後のレポート（30%）。		
到達目標	遊戯療法の理論に加え、体験実習や事例検討のディスカッションによって、遊戯療法に必要な基礎知識を習得する。		
準備学習	★第一回の授業前に，自分で１つ遊戯療法の事例を選び（事例研究にして下さい）、コピーして、最初の授業に必ず持参して下さい。持参した事例研究は、選択した理由や概要をプレゼンテーションしてもらいます。事前に自分の選択した研究を読んで既述に備えておいてください。また、遊戯療法に関する本を一冊事前に目を通しておいてください。		

受講者への要望

ディスカッションや実習へ積極的に参加してください。実習での体験を大切にし、それをもとに事例研究の検討に望んで下さい。授業中は自分の意見や疑問を自由に発言して下さい。また、事例研究を選択し発表してもらいますが、自分が当たっている発表のときは、必ず参加してください。どうしても無理な場合は、事前にほかの参加者と交代するか、教員に連絡してください。連絡や相談ができるかどうかも社会的には大切な力だと思います。

講義の順序とポイント

1. 講義１　オリエンテーション・遊戯療法の基礎
2. 講義２　様々な子供たちとの遊戯療法（情緒障害・発達障害・被虐待児童など）
3. 講義３　大人のイメージ療法
4. 実習１　箱庭療法の実習と理論１
5. 実習２　箱庭療法の実習と理論２
6. 実習３　コラージュの実習と理論
7. 実習４　スクイグルの実習と理論
8. 実習５　グループ体験
9. 実習６　実習のまとめ
10. 事例検討１　事例研究におけるグループディスカッション１
11. 事例検討２　事例研究におけるグループディスカッション２
12. 事例検討３　事例研究におけるグループディスカッション３
13. 事例検討４　事例研究におけるグループディスカッション４
14. 事例検討５　事例研究におけるグループディスカッション５
15. 講義４　総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★★	★★	★★

年度	2017	授業コード	J75094001
科目名	【院】人間文化基礎特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Introduction to Humanities and Social Sciences		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	人文学と社会科学を交差させることによって、歴史、文化、社会システム、心の相互関連を理解し、受講生各自の研究テーマをその中に位置づける複眼的視野の形成を狙う。心理・社会情報・歴史文化を専門とする教員より各分野の基礎概念と方法論を学びながら、各自の研究テーマを深化させる。各担当教員よりそれぞれのレポート課題を課す予定。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	教材は授業時間中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業での課題・発表：50%）、レポート（50%） なお、レポートは３分野それぞれについて提出。		
到達目標	１．受講生の研究テーマ・問題関心を、幅広い視野から位置づけなおす。 ２．修士論文執筆に必要な方法的基礎を知る。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

出席重視のため、遅刻、欠席のないように。
やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。

講義の順序とポイント

第１回　卒業研究発表（有馬）
第２回　卒業論文と修士論文の違い（有馬）
第３回　文献探索と引用方法（有馬）
第４回　外国語文献の読み方（有馬）
第５回　文献アプリの使い方（有馬）

第６回　コミュニケーションとは何か？（君塚）
第７回　コミュニケーションとメディア（君塚）
第８回　コミュニケーションと社会――社会が「現実」をつくる（君塚）
第９回　社会と研究――研究者の立ち位置（君塚）
第 10 回　コミュニケーションと調査・研究――まとめ・ふりかえり（君塚）

第 11 回　文献講読１（乳原）
第 12 回　文献講読２（乳原）
第 13 回　文献講読３（乳原）
第 14 回　文献講読４（乳原）
第 15 回　文献講読５（乳原）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J75097B01
科目名	【院】政治社会学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Political Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	第二次大戦で敗北した後、日本人は一体何を考えていたのか、という点について考える。その後 70 年に及ぶ日本社会の形成に関して、敗戦直後の日本人のあり方･考え方が大きく影響を与えたと言われている。日本国憲法に基づく政治体制また社会制度の全般が変化を遂げようとしている今の時期に、その問題について考えることには大きな意義があると思われる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	ジョン･ダワー『敗北を抱きしめて』		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	発表とレポート。		
到達目標	第二次大戦敗北後の日本人の考え･行動などを理解する。		
準備学習	テキストを熟読しておく。		
受講者への要望			
他の書物や新聞などからも、第二次大戦後の事象に関して知識を得ておいてほしい。			
講義の順序とポイント			
1．この本のねらい 2．破壊された人生 3．疲労と絶望 4．敗北の文化 5．新植民地革命 6．革命を抱きしめる 7．革命を実現する 8．天皇制民主主義１ 9．天皇制民主主義２ 10．天皇制民主主義３ 11．憲法的民主主義１ 12．憲法的民主主義２ 13．検閲民主主義 14．勝者の裁き 15．考察			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J75102001
科目名	【院】精神医学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychiatric Medicine		
担当者名	佐々木　徹	旧科目名称	
講義概要	今日、クリニックを訪れるクライアントの病態は多彩であり、彼らの訴えや問題もまた多岐にわたる。その中で個々の訴えや症状に目を奪われることなく彼らの状態像を正しく見極め、適切に評価してゆくことが心理臨床にも期待されるだろう。そしてさらに、医学的検査・治療が必要となる状況や可能性に対しても、常に目が開かれていなければならない。そのためには、個々のケースに際し、評価や判断の前提となる医学的知見もまた必要とされるであろう。 本講義はクリニックにおける心理臨床を円滑に行ってゆくためにも、精神医学の基本的な理解に基づいて個々のケースが一層多面的に捉えられるよう進められる。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント等を配布する。		
評価方法	ディスカッションならびにプレゼンテーション（60%）。　レポート（40%）。		
到達目標	疾病や障害についての理解を深め、そこにおいて得られた知見を心理臨床の現場へとつなげる。 また、適宜実習やボディワークを行い、より実践的なスキルを身につける。		
準備学習	前回の講義を振り返り、まとめて把握しておくこと。		
受講者への要望			
心理臨床の個々のケースを念頭において、講義がより実践的に活用されるよう期待する。			
講義の順序とポイント			
01.　こころとはなにか 02.　日常生活の中に見出されるこころとからだ 03.　こころとからだの関係 04.　こころとからだの失調状態としての疾病 05.　「全体」と「部分」という視点 06.　いのちの諸相Ⅰ（動物的ということ） 07.　いのちの諸相Ⅱ（植物的ということ） 08.　精神 mind と心情 soul 09.　からだについてⅠ（病理的次元） 10.　からだについてⅡ（文化社会的表現） 11.　からだについてⅢ（間身体的あり方） 12.　行為と環境 13.　生態学的観点 14.　からだへのアプローチの方法についてⅠ 15.　からだへのアプローチの方法についてⅡ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J75102101
科目名	【院】感情心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	感情の果たす役割やその制御についての理解を深めることを目的として，講義ならびに演習を行う。講義では，感情心理学の各研究領域について概説する。そのうえで，感情に関する実証的研究を読解し，各研究についての発表と議論を行う。議論の中で，実証的研究を理解するうえで必要となる研究法や分析手法に関する解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	授業中に取り組む課題（50%）と，研究に関する報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	感情心理学に関する実証的研究についての学術論文を独力で読解し，理解する。 感情心理学に関する実証的研究について，論理的に考察できる。		
準備学習	学術論文の読解・発表・議論が主となる回がある。授業に先立って，それらの準備を怠らないこと。特に発表担当者は，十分な発表の準備をして授業に望むことを求める。		
受講者への要望			
全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することが望ましい。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。また，事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 感情心理学とは 2. 感情心理学の研究領域① 3. 感情心理学の研究領域② 4. 実証的研究と研究法① 5. 実証的研究と研究法② 6. 実証的研究に関する発表・議論① 7. 実証的研究に関する発表・議論② 8. 実証的研究に関する発表・議論③ 9. 実証的研究に関する発表・議論④ 10. 講評 11. 実証的研究に関する発表・議論⑤ 12. 実証的研究に関する発表・議論⑥ 13. 実証的研究に関する発表・議論⑦ 14 . 実証的研究に関する発表・議論⑧ 15. 講評・改めて，感情心理学とは			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J75102102
科目名	【院】感情心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	感情の果たす役割やその制御についての理解を深めることを目的として，講義ならびに演習を行う。講義では，感情心理学の各研究領域について概説する。そのうえで，感情に関する実証的研究を読解し，各研究についての発表と議論を行う。議論の中で，実証的研究を理解するうえで必要となる研究法や分析手法に関する解説を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	授業中に取り組む課題（50%）と，研究に関する報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	感情心理学に関する実証的研究についての学術論文を独力で読解し，理解する。 感情心理学に関する実証的研究について，論理的に考察できる。		
準備学習	学術論文の読解・発表・議論が主となる回がある。授業に先立って，それらの準備を怠らないこと。特に発表担当者は，十分な発表の準備をして授業に望むことを求める。		
受講者への要望			
全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することが望ましい。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。また，事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 感情心理学とは 2. 感情心理学の研究領域① 3. 感情心理学の研究領域② 4. 実証的研究と研究法① 5. 実証的研究と研究法② 6. 実証的研究に関する発表・議論① 7. 実証的研究に関する発表・議論② 8. 実証的研究に関する発表・議論③ 9. 実証的研究に関する発表・議論④ 10. 講評 11. 実証的研究に関する発表・議論⑤ 12. 実証的研究に関する発表・議論⑥ 13. 実証的研究に関する発表・議論⑦ 14 . 実証的研究に関する発表・議論⑧ 15. 講評・改めて，感情心理学とは			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J75115A01
科目名	【院】都市文化史特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in History of Urban Cul ture A		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市そのものが既知のものであるとは見なさない。例えば都市伝説というようなコトバに使われている「都市」は、これまでの都市論の範疇からは大きく外れている。1988 年に敢えて世間話という学術用語を捨てて都市伝説という用語を世に問うた民俗学者大月隆寛はこう述べている。 「フォークロアを見つめる眼にとって最も近い距離で問題になってくるのは、限られた地理的空間としての都市でもなく、具体的な人間関係の複合体としての都市でもなく、まして記号の集積としての都市でもない。都市として設定される大きさそのものを何らかのことばによって(中略)操作可能なものとしてあらかじめ囲い込もうとするところから始めるのではなく、そのような『とほうもないもの』がそれぞれの生きている場にとってどのような効果を与えるものかについて考えるための補助線として、僕たちの民俗学は初めて『都市』を設定し得るはずだ。」(『消えるヒッチハイカー』解説) 必要に応じて民俗学、文化人類学などの成果も活用しながら文化史の立場から都市を見渡していく。		
教材（テキスト）	Ikumi Kaminishi "Explaining Pictures ; Buddhist Propaganda and Etoki Storytelling in Japan" University of Hawai'i Press, ISBN 978-0-8248-2697-0 必要箇所をコピーで渡す		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	自立的な研究活動を行うための方法を学んでいく。		
準備学習	時には英語文献などの読解も行うので、あらかじめ訳しておくこと。		
受講者への要望			
方法を理解し、自らの課題解決に応用できるようにしてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
(1)イントロダクション (2)英文による文献読解～（8) (9)文化的背景を学ぶ～(15)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J75124A01
科目名	【院】日本言語文化研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習Ⅰ
講義概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。		
教材（参考文献）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教材（その他）	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
準備学習	卒業論文の推敲。		

受講者への要望

院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　半年間の授業の概要説明
2　卒業論文の要約発表
3　卒業論文の要約発表
4　卒業論文の要約発表
5　各自の研究項目に関する発表
6　発表
7　発表
8　発表
9　合評会
10　発表
11　発表
12　発表
13　発表
14　発表
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J75124B01
科目名	【院】日本言語文化研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習Ⅰ
講義概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（テキスト）	授業中に指示する。		
教材（参考文献）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教材（その他）	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
準備学習	卒業論文の推敲。		

受講者への要望

院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　半年間の授業の概要説明
2　卒業論文の要約発表
3　卒業論文の要約発表
4　卒業論文の要約発表
5　各自の研究項目に関する発表
6　発表
7　発表
8　発表
9　合評会
10　発表
11　発表
12　発表
13　発表
14　発表
15　発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J75131B01
科目名	【院】日本言語文化特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Language B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	中世の日本語資料を読む。 大学院の場合、各院生ごとに研究テーマは決まっているが、求められる研究姿勢は同じである。中世の日本語資料をたたき台にして、研究に必要な能力を養っていく。取り扱う時代が中世であっても、その前後の時代、また現代の事象も常々念頭に置いておかねばならない。該博な知識が得られるような授業にしたいと思っている。		
教材（テキスト）	『土佐日記』　変体仮名を読む。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	予習の度合い等、ならびに出席状況等の平常点のみ。		
到達目標	原書に親しむ習慣をつける。		
準備学習	変体仮名の読み方を練習すること。		
受講者への要望			
しっかりと予習をしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1　中世資料の概要 2　中世資料の購読 3　同上 4　同上 5　同上 6　同上 7　同上 8　同上 9　同上 １０　同上 １１　同上 １２　同上 １３　同上 １４　同上 １５　同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J75134A01
科目名	【院】日本古典文学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	紫式部と源氏物語		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表内容で評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について深く考察し、独自の考え方で文章にまとめる。		
準備学習	紫式部の人生について概観しておくこと。 また、源氏物語の内容について概観しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J75134A02
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸後期の上田秋成の読本『春雨物語』を題材とする。 雨月物語の姉妹編であるが、江戸時代に刊行されることはなかった。 怪奇小説として高い評価を得ている。 各自のテーマにそって問題点を採り上げ、自分で調べてきて、時間中に報告してもらう。		
教材（テキスト）	春雨物語・書初機嫌海（新潮社）		
教材（参考文献）	その都度適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点１０％　レポート９０％		
到達目標	江戸時代の様々の風俗、歴史や先行文学作品の影響 など、調べる方法を身に付けること		
準備学習	春雨物語の現代語訳を読んでおくと良い		
受講者への要望			
授業中、積極的に発言すること 受講生の要望やレベルに沿った内容にしたいと考えている。			
講義の順序とポイント			
１　春雨物語の概説 ２　発表　血かたびら（取り上げる話は授業中に相談） ３　同じ ４　同じ ５　発表　　一つ目の神 ６　同じ ７　同じ ８　発表　宮木が塚 ９　同じ １０　同じ １１　先行作品との比較 １２　関係論文 １３　諸本の話 １４　雨月物語との比較 １５　現在の研究の課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J75139B01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	紫式部と源氏物語		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎回の発表内容によって評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について深く考察し、独自の考え方で文章にまとめる。		
準備学習	紫式部の人生について概観しておくこと。 源氏物語の内容について概観しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
講義の順序とポイント			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J75139B02
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｂ【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	受講生各自のテーマに沿った内容を取りあげることとする		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	その都度必要に応じて紹介する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点１０％　授業中の発表とレポート９０％		
到達目標	修士論文を執筆する科学的態度、 資料の正しい読解と客観的処理 などが身に付くこと		
準備学習	各自のテーマに即した先行研究に目を通しておくこと		
受講者への要望			
自分で自分のテーマに沿って研究を進めつつ、 教員や院生同士を相手に、発表してみて まわりの意見を採り入れること			
講義の順序とポイント			
１～５　各自の先行研究を自分でどういう意味があると考えているか紹介する ６～８　各自の研究の小さい部分を発表する ９，１０　教員のアドバイスを受けつつ各自で章立てを考える １１～１５　執筆した部分を発表し討論しつつ、論文を修正していく			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J75151B01
科目名	【院】日本古典文学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese classic lit erature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	枕草子の文化と思想		
教材（テキスト）	プリントを用意する。		
教材（参考文献）	授業時に提示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末レポートで評価する。		
到達目標	『枕草子』の内容を知り、そこに見える平安文化および思想について考える。		
準備学習	『枕草子』の内容を学習しておくこと。		
受講者への要望			
しばしば質問するので、積極的に発言してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　授業の進め方 2~15 枕草子の各章段を読解する			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75157C01
科目名	【院】日本古典文学特論Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese classic lit erature C		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代の前期には、庶民の間で謡と俳諧がおおいに流行しました。 謡と茶道、俳諧は近世の町人の文化に欠かせないもので お互い深く関わり合っています。 俳諧の中でも談林俳諧はわかりやすい内容で、謡曲との関連性が知られています。 また、俳諧の手引き書でもある 『俳諧類船集』は連想語の宝庫ですが、それを片手に、 西鶴の俳諧作品『西鶴大矢数』を読み解いてみます。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	前田金五郎著『西鶴大矢数注釈』第一巻～第五巻および　索引篇		
教材（その他）			
評価方法	授業内の担当部分の発表。		
到達目標	江戸時代の文化の諸相を知る。俳諧の面白さを理解する。		
準備学習	基礎的な知識を復讐しておくこと。		

受講者への要望

留学生は活字で、日本人学生はくずし字で『俳諧類船集』を読んで予習すること。
発表を担当すること。

講義の順序とポイント

1　俳諧
2　謡曲
3　俳諧と謡曲
4　『西鶴大矢数』
5　語彙１
6　語彙２
7　語彙３
8　発表１
9　発表２
10　発表３
11　語彙と作品
12　付け合
13　付け合
14　付け合
15　俳諧と能の社会的影響力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J75166B01
科目名	【院】日本歴史文化特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Culture His tory B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	歴史学を専門的に学んでこなかった学生を対象にした授業である。 私たちは資料をもとにしながら、歴史像を構築している。とはいえ、資料それ自体は客観的なものではなく、さまざまな偏見で塗り固められている。資料を取り扱うには、そうしたバイアスを取り除く作業が不可欠である。そのうえで資料を丹念に読みといてゆけば、過去の時代の生活や臭いが浮かび上がってくる。 比較的扱いやすい、多様な資料に触れながら、そこから何が読み取れるのか、一緒に考えることで、歴史学的な思考力を養成したい。ケガレ・肉食タブー・身分・婚姻・共食儀礼や奴隷売買、女性の地位、自力救済といったテーマが、そこから浮かび上がってくるだろう。また、そういう世界で生きていた人々の息づかいが聞こえてくるはずだ。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業での発言や貢献度（60%）、課題に対する発表（40%）		
到達目標	・古代中世の多様な資料に触れることによって、歴史学的な思考力を養う。		
準備学習	史料は事前に配付しておくので、十分な予習を期待する。		
受講者への要望			
知らないこと、分からないことは恥ずかしいことではない。それを率直に口に出した時、すべてが始まる。あらゆる学問は、ここから始まるのだ。分からないこと、変だと思うことを率直に語り合ったときに、私たちははじめて、今の時代とは異なる、別の文化、別の社会に出会うことが可能となる。分からないことを「分からない」といえる学生を歓迎したい。			
講義の順序とポイント			
1.歴史学と資料 2.絵画資料の読解 3.絵画資料の読解 4.説話文学の世界 5.研究発表 6.人身売買文書 7..説話文学の世界 8.研究発表 9.『沙石集』の読解 10.『風土記』の世界 11.戦国法の世界 12.『信長公記』の世界 13.『頓医抄』の世界 14.貴族の日記を読む 15.『吾妻鏡』を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75174B01
科目名	【院】認知心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Congnitive Psycholog y B		
担当者名	川上　正浩	旧科目名称	
講義概要	認知心理学では、人間をコンピュータのような情報処理システムであるとみなし、人間の知的行動の特徴を明らかにしようとしている。ここでいう知的行動とは、自分の周囲のさまざまな世界を知る、わかる、ことを指している。本授業では、特に単語認知や記憶の過程を中心に、こうしたトピックに関する講義や実験を通して、認知心理学を実践的に学ぶ。		
教材（テキスト）	使用しない。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	すべての授業に無遅刻、無欠席で臨むことを前提に、各授業内での積極的な参加や提出物等（50%）、最終レポート（50%）によって評価する。		
到達目標	広く認知心理学の知識を獲得したうえで、特に単語認知や記憶の過程を中心に、実験の計画を通して認知心理学実験を主体的に体験することを授業の目的とする。		
準備学習	つねに興味を広げ、論文を読む癖をつけておくこと。		

受講者への要望

人間の行動には、「意味」があることを意識し、その意味を論理的に考えることを求める。また自らのスキルを磨くという意識で授業に参加することを求める。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション：認知心理学とは
2. 情報処理という考え方
3. 知覚の成立過程
4. 記憶のモデル（1）
5. 記憶のモデル（2）
6. 概念と知識（1）
7. 概念と知識（2）
8. 思考の過程（1）
9. 思考の過程（2）
10. 言語情報の処理（1）
11. 言語情報の処理（2）
12. 日本語情報処理の特殊性
13. 実験の立案（1）
14. 実験の立案（2）
15. 総合討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J75184A01
科目名	【院】発達心理学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Developmental Psycho logy A		
担当者名	柴田　長生	旧科目名称	
講義概要	発達的な存在である子どもを「心理学的にアセスメントする」ということは、単に発達テストを実施し、結果を数値化するといった単線的なことではない。その際に重要なのが、「子どもを診る側」の発達的観点の多面性とその質であり、いかに個別の子どもの実際像に接近できるかという臨床的なセンスである。本講義では「発達診断」という臨床行為を通して見えてくる、様々な子どもを捉える際の「発達的視点」について、多面的・多義的に考察を深めたい。		
教材（テキスト）	特に使用しない。資料をその都度配付する。		
教材（参考文献）	麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学（第４版）」（ミネルヴァ書房）、嶋津峯眞監修「新版Ｋ式発達検査法」（ナカニシヤ出版）。各論に関する参考文献は、その都度講義中に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況および受講への積極性（50%）、終了時のレポート（50%）		
到達目標	１　子どものアセスメントを通して、子どもを理解する際の「発達的視点」の重要性を学ぶ ２　子どものアセスメントを、「からだ」「こころ」「社会」の３つの観点から、多義的に行うことの重要性を学ぶ ３　アセスメントにおいて、発達的視点をどのように援用するのかについて、事例や研究成果から学ぶ ４　発達理論と、日々の臨床との接点について考える		
準備学習	何らかの発達理論に関心を持ち、体系的に事前学習しておくことが望ましい。また発達をアセスメントするということの具体的理解として、「新版Ｋ式発達検査」に関するある程度の習熟が望まれる。		
受講者への要望			
講師がこれまでの児童臨床で扱った事例と、心理臨床専門職の立場で行った臨床発達心理学的研究を中心に講義を進めます。配付する資料の中にはケースに関するものも含みますので、それらから真摯に学び、資料の取り扱いには十分留意してください。			
講義の順序とポイント			
１　序論　子どもの心理アセスメントにおける発達的視点の重要性 ２　乳幼児の発達を診る１　ＶＴＲセッション ３　乳幼児の発達を診る２　ＶＴＲセッション ４　発達を支える重要なな基盤としての身体・運動の発達的評価１ ５　発達を支える重要なな基盤としての身体・運動の発達的評価２ ６　乳幼児健康診査では何を見るべきか１ ７　乳幼児健康診査では何を見るべきか２ ８　新版Ｋ式発達検査を通して見えるもの ９　発達診断の事例検討１ １０　発達診断の事例検討２ １１　子どもの社会生活能力を評価する１ １２　子どもの社会生活能力を評価する２ １３　障がい児の発達を評価する　自閉症の場合１ １４　障がい児の発達を評価する　自閉症の場合２ １５　まとめ　発達診断における発達的視点の重要性　臨床発達心理学へのかけ橋			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75196A01
科目名	【院】文化人類学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Cultural Geography A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	人類学的なセンスを持つために、あるいは修士論文を作成するために、必要な文献をよむ。論文は、日本語のものの他、英語、中国語のものも取り上げる予定。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点		
到達目標	必要な論文を探しだし、読解する能力を身につける。		
準備学習	必ず予習すること。		
受講者への要望			
予習しておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 取り上げる論文を選択する。 2～15　論文を輪読する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J75199A01
科目名	【院】文化地理研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、そのような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。まずはそういった点を基本的な文献を解読することで学ぶ。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメ		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の基礎的文献を理解することを目標とする。		
準備学習	出来るだけ多くの学術論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
自身のテーマと文化地理学の関係を念頭に置くこと。			
講義の順序とポイント			
講義の順序とポイント １　演習生のテーマ設定と基本文献の選定 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75199B01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、そのような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。演習ＢではＡで発表した内容と自身のフィールドワークの成果との関係を発表。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上、決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の理論・方法論と自身のテーマの合致点を探り理解すること。		
準備学習	フィールドワークをしておくこと。		
受講者への要望			
自身のテーマと文化地理学の関係を説明出来るようにしておくこと。			
講義の順序とポイント			
１　演習生のテーマ設定とフィールドの報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J75199C01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography C		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	文化地理学は様々な人文・社会科学系の理論や方法論の成果と共に発展してきた。したがって広く人文・社会科学系にも目を配っておく必要がある。そのためには欧米で発表されている最新の成果に注目しなければならない。その上で演習生のフィールドの成果にどのように最新の成果が応用できるかを考えていく。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の理論・方法論を自身のテーマに応用して修士論文の基礎を構築。		
準備学習	修士論文の研究計画書と構成を作成しておくこと。		
受講者への要望			
広く人文・社会科学系の理論・方法論も視野に入れること。			
講義の順序とポイント			
１　演習生のフィールドと採用する理論・方法論の報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★★

年度	2017	授業コード	J75199D01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography D		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	ここまで行ってきた研究成果のまとめに入る。演習生はそれぞれの修士論文の途中経過を発表する。１１月に開催される歴史民俗学専攻の卒業論文・修士論文の中間発表では、最終的な成果を発表してもらう。		
教材（テキスト）	演習生と相談の上決定		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	発表（５０％）論文の提出（５０％）		
到達目標	修士論文の作成。		
準備学習	修士論文の下書きを作成しておくこと。		
受講者への要望			
修士論文の進展状況の報告を常に求める。			
講義の順序とポイント			
１　演習生の修士論文の進捗状況の報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★★

年度	2017	授業コード	J75206B01
科目名	【院】文化地理特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Cultural Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本講義では、民話＝民間説話に描かれる場所表現に注目する。今まで文化地理学の環境知覚研究では、様々な資料に基づいて、人々がどのように環境を知覚し、地理的行動をとってきたかを考察してきた。ところが民間説話はあまり研究対象とはなっていなかった。本講義では、特に神話・伝説に焦点を当て、従来の民俗学の研究史をも見通しながら、文化地理学的な視点から、環境知覚研究の資料としての民間説話の可能性を追求する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	講義中適宜紹介		
教材（その他）	配布資料等		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点４０％、レポート６０％		
到達目標	民話世界を文化地理学的に捉えること。		
準備学習	教科書を前もって熟読しておくこと。		
受講者への要望			
文献とフィールドワークに基づくレポートを提出してもらう。			
講義の順序とポイント			
１　文化地理学における環境知覚研究 ２　神話の研究史１ ３　神話の研究史２ ４　伝説の研究史１ ５　伝説の研究史２ ６　神話のフィールドワーク１ ７　神話のフィールドワーク２ ８　伝説のフィールドワーク１ ９　伝説のフィールドワーク２ １０　神話の文化地理学的研究１ １１　神話の文化地理学的研究２ １２　伝説の文化地理学的研究１ １３　伝説の文化地理学的研究２ １４　民話の文化地理学の成果１ １５　民話の文化地理学の成果２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J75212A01
科目名	【院】理論社会学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Theoretical Sociolog y A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ理論社会学を学ぶべきなのか。 　人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の社会・集団・共同体をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。19 世紀の終りごろから発展しはじめた社会学はそうした「社会」（とくに近代的な社会）というものの力の大きさを発見していった。そして、社会のなかで生起する様々な現象のなかに法則や傾向を見出しながら、隣接領域の成果も取り込んで、理論として発展してきた。 　この授業では、こうして発展してきた理論社会学を学んでいく。具体的に学ぶ内容と方法は、履修者の知識水準と修学の方針をふまえて話合いのうえで決めるが、履修者が確定していない現段階ではつぎのような内容を想定している。様々な社会にかかわる諸理論のなかでもとくに、社会のなかで人々の価値観や欲望や希望のありようが形成され変化していく社会的・心理的なダイナミクスについての諸理論に焦点をあてて学びながら、身近な社会的・人間的現象（とくに映画や漫画などのポピュラーな物語）をとりあげて、その学説・理論を応用して分析をしてみる。そのような学習と分析の作業を繰り返していくことで、諸理論と諸現象についての洞察と理解を深める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介していく。		
教材（その他）	適宜プリントを配る。		
評価方法	授業での発表をはじめとする授業での取り組みを総合的に評価（100%）		
到達目標	社会学の諸理論を理解し分析に適切に使えるようになること。		
準備学習	授業での発表をはじめとして授業内での取り組みができるように準備する。		
受講者への要望			
受講者の学習状況や取り組んでいる課題に応じて授業の内容と方法を修正するつもりである。社会学の理論だけではなく、必要に応じて、心理学的な研究をはじめ人文系の学問の様々な理論も紹介するだろう。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　　はじめに（学習方針の決定） 第 2 、 3 回　社会学的な理論の学習、その 1 第 4 、 5 回　社会的現象の分析、その 1 第 6 、 7 回　社会学的な理論の学習、その 2 第 8 、 9 回　社会的現象の分析、その 2 第 10、11 回　社会学的な理論の学習、その 3 第 12、13、14 回　社会的現象の分析、その 3 第 15 回　　全体のふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J75218A01
科目名	【院】臨床心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が拡げられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	評価方法 発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	心理臨床の基礎的な理解。修士研究の方向性を見極める。		
準備学習	次回発表の内容と関わる文献を読んで授業に望むこと。		

受講者への要望

研究に対して積極的・能動的に取り組むこと。心理臨床に携わることに関しての自覚を持つこと。

講義の順序とポイント

1　文献講読・発表・討論
2　文献購読・発表・討論
3　文献講読・発表・討論
4　文献講読・発表・討論
5　文献講読・発表・討論
6　文献講読・発表・討論
7　研究発表・討論
8　研究発表・討論
9　研究発表・討論
10 研究発表・討論
11 研究発表・討論
12 研究発表・討論
13 研究発表・討論
14 研究発表・討論
１５　研究発表・討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J75218A02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ａ・Ｂでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　学部卒業研究の振り返り ３　学部卒業研究の振り返り ４　学部卒業研究の振り返り ５　学部卒業研究の振り返り ６　合同演習 ７　自由研究発表 ８　自由研究発表 ９　合同演習 １０　自由研究発表 １１　合同演習 １２　先行研究の総括の発表 １３　先行研究の総括の発表 １４　先行研究の総括の発表 １５　先行研究の総括の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75218A03
科目名	【院】臨床心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。		

受講者への要望

最初の授業で企画された内容にしたがって、各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。

講義の順序とポイント

1.研究演習の企画及び諸研究論文の検討について
2.諸研究論文の検討①
3.同②
4.同③
5.同④
6.同⑤
7.研究演習①
8.同②
9.同③
10.同④
11.同⑤
12.同⑥
13.同⑦
14.同⑧
15.同⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J75218B01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が拡げられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	修士研究の方向性を定める。 心理臨床の実践の理解を深める。		
準備学習	次回の発表に関する文献を積極的に読んでおくこと。		
受講者への要望			
主体的・積極的に研究を広め、深めること。			
講義の順序とポイント			
1　研究発表・討論／文献紹介 2　研究発表・討論／文献紹介 3　研究発表・討論／文献紹介 4　研究発表・討論／文献紹介 5　研究発表・討論／文献紹介 6　研究発表・討論／文献紹介 7　研究発表・討論／文献紹介 8　研究発表・討論／文献紹介 9　研究発表・討論／文献紹介 10 研究発表・討論／文献紹介 11　研究発表・討論／文献紹介 12　研究発表・討論／文献紹介 13　研究発表・討論／文献紹介 14　研究発表・討論／文献紹介 15 研究発表・討論／文献紹介			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75218B02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ａ・Ｂでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　学部卒業研究の振り返り ３　学部卒業研究の振り返り ４　学部卒業研究の振り返り ５　学部卒業研究の振り返り ６　合同演習 ７　自由研究発表 ８　自由研究発表 ９　合同演習 １０　自由研究発表 １１　合同演習 １２　先行研究の総括の発表 １３　先行研究の総括の発表 １４　先行研究の総括の発表 １５　先行研究の総括の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75218B03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。		

受講者への要望

各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。

講義の順序とポイント

1.研究演習①
2.同②
3.同③
4.同④
5.同⑤
6.同⑥
7.修士論文の計画に関して①
8.同②
9.同③
10.同④
11.同⑤
12.同⑥
13.同⑦
14.同⑧
15.同⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J75221C01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマに即して修士論文作成を行う。また、心理臨床の実践の理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	修士論文作成の計画を立て、実施。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得すること。		
準備学習	次回の発表に関わる文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

積極的、計画的に研究を進めること。

講義の順序とポイント

【院】臨床心理学研究演習 A と同時開講であるため、受講生の実情に併せて発表内容を調整する。修論中間発表を 2 回行う（他の教員の演習と合同で実施）。時期は受講生の人数などの状況に合わせて設定する。

1　修士論文の先行研究に関する発表・討論
2　修士論文の先行研究に関する発表・討論
3　修士論文の先行研究に関する発表・討論
4　修士論文の先行研究に関する発表・討論
5　修士論文の計画発表・討論
6　修士論文の計画発表・討論
7　修士論文の計画発表・討論
8　修士論文の計画発表・討論
9　文献講読・討論
10　文献講読・討論
11　文献講読・討論
12　修士論文計画指導
13　修士論文計画指導
14　修士論文計画指導
15　修士論文計画指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J75221C02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ｃ・Ｄでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　研究計画の発表 ３　研究計画の発表 ４　研究計画の発表 ５　研究計画の発表 ６　合同演習 ７　修士論文作成中間発表 ８　修士論文作成中間発表 ９　合同演習 １０　修士論文作成中間発表 １１　合同演習 １２　修士論文作成中間発表 １３　修士論文作成中間発表 １４　修士論文作成中間発表 １５　修士論文作成中間発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J75221C03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマについての検討と並行して、修士論文の執筆に向けた作業と執筆が進行する。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習と、修士論文執筆に向けた取り組みを着実に行なうこと。		
受講者への要望			
各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。			
講義の順序とポイント			
1.修士論文のための研究実施に関して① 2.同② 3.同③ 4.同④ 5.同⑤ 6.同⑥ 7.同⑦ 8.同⑧ 9.同⑨ 10.同⑩ 11.同⑪ 12.同⑫ 13.同⑬ 14.同⑭ 15.同⑮			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J75221D01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を行う。また心理臨床の実践の理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表、出席、討論への参加状況などを総合的に評価する。		
到達目標	修士論文の完成。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得。		
準備学習	次回の発表に関する文献を読んでおくこと。		

受講者への要望

積極的・計画的に研究を進めること。

講義の順序とポイント

【院】臨床心理学研究演習 B と同時開講であるため、受講生の実情に併せて発表内容を調整する。修論中間発表を 2 回行う（他の教員の演習と合同で実施）。時期は受講生の人数などの状況に合わせて設定する。

1　修士研究の進捗状況発表
2　修士研究の進捗状況発表
3　修士研究の進捗状況発表
4　文献講読
5　文献講読
6　文献講読
7　修士論文中間発表
8　修士論文中間発表
9　修士論文中間発表
10　修士論文作成指導
11　修士論文作成指導
12　修士論文作成指導
13　修士論文作成指導
14　修士論文作成指導
15 修士論文内容発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J75221D02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
講義概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込む。その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめる。こうした各自の取り組みに対して、臨床心理学のより専門的な探求を推し進められるように指導を行う。 臨床心理学研究演習Ｃ・Ｄでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことを目標とする。		
準備学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　修士論文作成個別指導 ３　修士論文作成個別指導 ４　修士論文作成個別指導 ５　修士論文作成個別指導 ６　合同演習 ７　修士論文作成個別指導 ８　修士論文作成個別指導 ９　合同演習 １０　修士論文作成個別指導 １１　合同演習 １２　修士論文作成個別指導 １３　修士論文作成個別指導 １４　修士論文作成個別指導 １５　修士論文作成個別指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75221D03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマについての検討と並行して、修士論文の執筆に向けた作業と執筆が進行し、論文が完成する。		
準備学習	自らの研究テーマに関する学習と、修士論文執筆に向けた取り組みを着実に行なうこと。		
受講者への要望			
各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。			
講義の順序とポイント			
1.修士論文の執筆に関して① 2.同② 3.同③ 4.同④ 5.同⑤ 6.同⑥ 7.同⑦ 8.同⑧ 9.同⑨ 10.同⑩ 11.同⑪ 12.同⑫ 13.大学院での研究を今後にどう活かすか① 14.同② 15.同③			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J75226A01
科目名	【院】臨床心理学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	【院】臨床心理学特論Ⅰ
講義概要	本特論では、まず前半に、臨床心理学の学問体系や臨床心理士を養成する大学院教育について概観し、その上で、臨床心理学に関わる各学派（精神分析学派、ユング派、ロジャース派、行動療法学派など）の鍵となる概念を比較検討することによって、臨床心理学の総合的な観点の習得を目指す。さらに、各学派の人格理論、精神病理論、治療論などの理解を深める。また、そうした理解が単に知的な理解に留まることなく、心理臨床実践に活かされるものになるように配慮して指導を行う。後半は、精神分析理論や対象関係論の立場から転移や逆転移などの概念を用いて、クライエントと治療者の関係性に着目する形で、見立てや面接経過の理解が深まることを目標にした指導を行う。 講義と演習形式を併用するが、必要に応じて実習も取り入れて、授業を進める予定である。		
教材（テキスト）	大塚義孝編　「臨床心理学原論」　誠信書房 東山紘久編　「臨床心理面接学」　誠信書房 丸田俊彦著　「サイコセラピー練習帳」　岩崎学術出版社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	心理臨床を実践していく上で必要とされる臨床心理学の理論や技法の習得を目指す。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講者への要望			
演習形式での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１　オリエンテーション ２　臨床心理学の理念と方法 ３　臨床心理学の歴史 ４　臨床心理士の養成 ５　臨床心理学の倫理問題 ６　心理アセスメントの実際問題 ７　精神分析的アプローチ ８　クライエント中心療法的アプローチ ９　認知行動療法的アプローチ １０　診断面接 １１　治療契約と治療同盟 １２　転移と逆転移 １３　ワーキングスルー（徹底操作） １４　対象関係論的アプローチ １５　臨床実習やスーパーヴィジョンの心構え			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75226B01
科目名	【院】臨床心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理学特論Ⅱ
講義概要	心理臨床を実践するためには、理論および技法を単に知識として勉強するだけではなく、自らの具体的な経験と関連付けながら身につけることが必要不可欠である。 本講義においては、臨床心理学特論 A で学んだことを前提に、より詳細に各学派の理論や技法について学習すると同時に、実際の心理臨床において、如何にそれを応用していくかを学ぶ。		
教材（テキスト）	北山修著「精神分析理論と臨床」　誠信書房		
教材（参考文献）	主として扱う文献に関連した図書を、適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業での発表、レポートなどを総合して評価する。		
到達目標	心理臨床を実践していく上で必要不可欠な理論および技法を、実践に役立つ形で身につける。		
準備学習	臨床心理学に関する基礎的な理論について、復習しておくこと。毎時間発表となるので、担当箇所について次回までにレジュメを作成すること。		
受講者への要望			
積極的な参加を望みます。			
講義の順序とポイント			
1.精神分析の理論 2.対象関係論の展望 3～4.フロイトの症例「ドラ」から学ぶ 5～6 フロイトと鼠男について 7.言葉と夢の関係 8～9 神経症 10～11.「性格的困難」のための覚書 12～13.思春期の危機 14.精神療法の実際 15.まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75230001
科目名	【院】臨床心理関連行政論	単位数	2
科目名（英語表記）	Administration and Management of Clinica l Cases		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	現在、心理臨床家は、教育、医療、福祉、司法、産業などのさまざまな領域や職場で働いている。そこでは心理アセスメントや心理療法の技法を駆使して業務を遂行していくわけだが、そのためには社会のなかで実務を行なうための規範（ルール）を修得し、遵守することが重要となってくる。それは心理臨床家としての倫理に関するものだけでなく、それぞれの領域や職場、職種の立脚基盤となる法律や関連のある各種の法律、そしてそれらにもとづいた行政目的、業務システムを理解することでもある。本科目では、心理臨床家が社会で実務を行なう場合にその法的、行政的な側面の裏付けを知り、つきあっていくそのあり様を伝え、また、とくに児童福祉領域での心理臨床と法律の関係については、具体的な事例もまじえながら紹介することを目的とする。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	佐藤監修／津川・元永編「心の専門家が出会う法律 第３版～臨床実践のために～」2009 誠信書房 金沢吉展著「カウンセラー～専門家としての条件～」1998 誠信書房 関西人間学会編「解説 社会福祉六法・関係法事典 改訂版」2004 晃洋書房 ＜心理臨床と法＞研究会編「カウンセラーのための法律相談～心理援助をささえる実践的Ｑ＆Ａ～」2009 新曜社		
教材（その他）	必要に応じてプリント類を配布する。		
評価方法	出席や受講態度による平常点（３０％）、学習の到達度、学習や議論への参加姿勢等の評価点（７０％）。		
到達目標	心理臨床家としての倫理の理解、心理臨床家が働く領域、関連する職種についての理解が得られ、各領域と関連する法律や行政目標等の知識の習得がなされること。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネット等で、医療、保健、福祉、教育、司法等々に関する様々な社会的事象に触れ、その行政的、法的側面について思いを巡らせる練習をしておくとよい。		
受講者への要望			
準備学習の項に記したことと同じ。			
講義の順序とポイント			
01.心理臨床と職業、関連法規 02.児童福祉法・児童虐待防止法・子どもの権利条約 03.児童相談所の心理臨床と関連法規 04.児童福祉施設の心理臨床と関連法規 05.児童虐待 06.母子保健領域の心理臨床と関連法規 07.社会福祉領域の心理臨床と関連法規（ＤＶ関係を含む） 08.障害者福祉領域の心理臨床と関連法規 09.医療・精神保健領域の心理臨床と関連法規 10.教育領域の心理臨床と関連法規 11.司法領域の心理臨床と関連法規 12.心理臨床家としての倫理 13.臨床心理士倫理綱領・守秘義務・資格と専門性 14.守秘義務の実務上の限界性ほか 15.その他の現代的重要事項 ※講義の内容や順序は変更されることがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75232A01
科目名	【院】臨床心理基礎実習 A	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習 I
講義概要	カウンセリング・心理療法の基本構造を知識として理解することと並行して、ロール・プレイによる応答練習を丁寧に行ない、相手の感情の動きを実際に擬似体験し、その気持ちを言語化・意識化する訓練を実施する。また箱庭制作なども経験し、自らの心の動きを感じる。 同時に、グループ・ディスカッションなどを通して自己理解を深めるとともに、実習先での対応についても検討する。 実習の十分な効果を得るため、授業時間を適宜変更し、集中して実施することもある。		
教材（テキスト）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	受講態度、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
準備学習	臨床心理学の基礎理論について復習すること。また毎週実習課題を指示するので、翌週までに実施すること。		
受講者への要望			
臨床家になるために、自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
講義の順序とポイント			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1 オリエンテーション 2〜3 面接の流れについて 4〜7 応答練習 8〜10 箱庭制作 11〜13 箱庭制作の振り返り・検討 14〜15 実習先での訓練について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75232B01
科目名	【院】臨床心理基礎実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習Ⅱ
講義概要	実習先での訓練が中心となる。 心理職をめざそうとする自分に目を向けるため、ロールプレイなどを実施し、自らの心理的な構えや課題について検討する。 同時に、グループ・ディスカッションや様々な体験学習を通して自己理解を深める。 十分な効果を得るために、授業時間を変更し、集中的な検討会を実施することがある。		
教材（テキスト）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	平常点、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	実践の現場での経験を通して、受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
準備学習	臨床心理基礎実習Ａで学習した内容について振り返りを実施し、自らの課題について考察しておくこと。次回までの課題については、講義の最後に指示する。		
受講者への要望			
自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
講義の順序とポイント			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1　春学期のふりかえり 2〜4　臨床心理職をめざそうとする自分 5〜7　マイクロ・カウンセリング 8〜11　対応のバリエーション（ロール・プレイ） 12〜14　実習先での経験について 15　心理臨床とは			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J75236A01
科目名	【院】臨床心理査定演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Practicum on psychological Assessment A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	【院】臨床心理査定演習Ⅰ
講義概要	子どもの臨床においてだけではないのだが、指導的、治療的アプローチを行なう前提として、子どもの状態の査定、仮説の構成を行なうことが必要である。査定の道具としての検査の実施においては、発達指数（ＤＱ）や知能指数（ＩＱ）を算出すればすむものでは決してない。具体的データから子どもの目からは世の中がどう見え、耳からはどう聞こえているのかを、その子の身になって思い浮かべられるようになりたい。そのためにも、検査者と被検査者との関係のなかでの子どもの行動を観察して読む作業が要る。そして、それらの検査者のなかでのみたての統合をとおして次の援助に移すことができる。 個人のアセスメントにおける重要点を解説したあと、現場の児童臨床で不可欠な新版Ｋ式発達検査 2001 を実施し役立てることができるようになるための入門演習を行ない、ＷＩＳＣその他の知能・発達検査の概要についても確認しておく。さらに、ロールシャッハ・テストは、おとなだけでなく子どもにとっても有力な検査なので、学習を進めるための基礎を確認しておきたい。		
教材（テキスト）	高石浩一・大島剛・川畑隆共編「心理学実習 応用編１ 知能・発達検査実習～新版Ｋ式を中心に」2011 培風館 ・・・初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。		
教材（参考文献）	川畑隆編著「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ～よりよい臨床のための４つの視点、８つの流儀」2015 明石書店 大島剛・川畑隆・伏見真里子ほか著「発達相談と新版式発達検査～子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫～」2013 明石書店 新版Ｋ式発達検査 2001、ＷＩＳＣ－Ⅲの実施マニュアル、片口法によるロールシャッハ・テスト関連図書など…　備品図書を利用するので購入する必要はない。 川畑隆・菅野道英・大島剛ほか著「発達相談と援助～新版Ｋ式発達検査 2001 を用いた心理臨床～」 2005 ミネルヴァ書房		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	実習した検査を実際に用いることができるようになる、あるいはその基礎が得られる。		
準備学習	演習時間内にできることには限りがあるので、時間外にも自主的に学習を行なってもらいたい。		
受講者への要望			
教科書をよく読み、演習時間外においても実際に検査用具を手にし、検査の施行法を身につけていってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．発達・発達障害・発達検査・発達診断・発達援助・家族援助などについて ２．アセスメントにおける重要なことがら ３．Ｋ式発達検査の概要と試行法① ４．同② ５．Ｋ式発達検査の結果の整理法① ６．同② ７．Ｋ式発達検査の読み取りの基本① ８．同② ９．同③ １０．同④ １１．検査等にもとづいた子どもの保護者等への助言とその後について １２．その他の知能・発達検査 １３．ロールシャッハテストの基本～施行法とスコアリング① １４．同② １５．同③ ※上記の順序等については変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75236B01
科目名	【院】臨床心理査定演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Practicum on psychological Assessment B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	【院】臨床心理査定演習Ⅱ
講義概要	心理臨床の現場で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目指す。特に、投影法、質問紙法、作業法などのパーソナリティ検査を用いて、様々な事例の分析を行う。また、技術面のことのみにとどまらず、臨床現場で出会う様々な問題についても考察する。		
教材（テキスト）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考文献）	片口安史著　「新・心理診断法」　金子書房		
教材（その他）	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	心理臨床場面で必要とされる心理アセスメント技術の習得を目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。実習した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講者への要望

演習での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　心理アセスメントと精神医学的診断
３　ウェクスラー式知能検査による事例分析
４　内田－クレペリン作業検査による事例分析
５　ＭＭＰＩ による事例分析
６　ロールシャッハテストによる事例分析　A
７　ロールシャッハテストによる事例分析　B
８　ロールシャッハテストによる事例分析　C
９　ロールシャッハテストによる事例分析　D
１０　ロールシャッハテストによる事例分析　E
１１　ロールシャッハテストによる事例分析　F
１２　ＴＡＴ による事例分析
１３　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　A
１４　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　B
１５　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　C

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J75242A01
科目名	【院】臨床心理実習Ａ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。　臨床心理学コースのみ受講可。M1、M2、研修員全員に参加の義務がある。単位認定は M2 の時のみ。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して事例の読み方を学び、心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	教材のテキストを読んでおくこと。 参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。　発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

心理教育相談室のスタッフとして毎回出席が義務である。
事例を扱う実習なので、各自守秘義務は徹底すること。

講義の順序とポイント

Ⅰ　ケースカンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
11　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
7 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75242B01
科目名	【院】臨床心理実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。　臨床心理学コースのみ受講可。M1、M2、研修員全員に参加の義務がある。単位認定は M2 の時のみ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

講義の順序とポイント

Ⅰ　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
1 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
2 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75242B02
科目名	【院】臨床心理実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。　臨床心理学コースのみ受講可。M1、M2、研修員全員に参加の義務がある。単位認定は M2 の時のみ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点（出席状況、討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
準備学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講者への要望

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

講義の順序とポイント

Ⅰ　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
1 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
2 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75246A01
科目名	【院】臨床心理面接特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Methods of Clinical Interview A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	【院】臨床心理面接特論Ⅰ
講義概要	臨床心理面接の基礎を学ぶ		
教材（テキスト）	心理療法序説　　河合隼雄　岩波書店		
教材（参考文献）	Ａ・ストー　　心理面接の教科書　創元社 ユング派心理療法　河合俊雄編　ミネルヴァ書房		
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加、課題の提出などにより評価する。		
到達目標	面接の基本について理解を深めること。		
準備学習	臨床の事例に接したり,単元ごとに授業に関連する文献を提示するので、読んでおくこと。		

受講者への要望

積極的に参加して下さい.

講義の順序とポイント

1、　心理療法の勧め方て
2、　初回面接で気をつけること
3、　心理療法の進展
4、　心理療法の技法、関係性
5、6、　事例から学ぶ　　子どもの事例
7，8、　事例から学ぶ　　思春期の事例
9，１０、　事例から学ぶ　　成人の事例
１１，１２　事例から学ぶ」　母親面接
１３　夢について
１４、発達障害について
１５、発達障害の事例

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75246B01
科目名	【院】臨床心理面接特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Methods of Clinical Interview B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	【院】臨床心理面接特論Ⅱ
講義概要	心理療法における理論と技法について学ぶ		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表及び平常点		
到達目標	心理臨床の多様な実践力を養う		
準備学習	参考文献（適宜講義内で挙げる物だけではなく自分自身で関連文献を探すこと）などを積極的に読んでおくこと。		
受講者への要望			
事例を扱うので守秘義務を徹底すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション 2　事例研究（１） 3　事例研究（２） 4　事例研究（３） 5　事例研究（４） 6　事例研究（５） 7　心理療法の理論と実践　描画（１） 8　心理療法の理論と実践　描画（２） 9　心理療法の理論と実践　箱庭（１） 10 心理療法の理論と実践　箱庭（２） 11 心理療法の理論と実践　箱庭（３） 12 心理療法の理論と実践　箱庭（４） 13　言葉とイメージ（１） 14　言葉とイメージ（２） 15 言葉とイメージ（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待						

年度	2017	授業コード	J75251A01
科目名	【院】日本歴史文化研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Culture His tory A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	鎌倉後期の朝廷研究は近年、急速な進展をみせた。そこで鎌倉後期の藤原兼仲の日記である『勘仲記』の輪読と、各人の研究発表を織り交ぜながら進める。史料読解では、国立歴史民俗博物館が所蔵する写本の写真版と『増補史料大成　勘仲記』の翻刻とを対照させながら読み進める。それぞれの記事の歴史的背景を考察しながら、厳密な読解につとめたい。この演習を通して、問題の所在についての認識を深めるとともに、漢文史料の読解能力や史料操作の方法を鍛える。		
教材（テキスト）	史料のコピーを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（60%）、レポート（40%）		
到達目標	・貴族の日記史料の正確な読解力と分析力をつける。 ・日本史学の課題と研究方法を理解し、論文執筆の実力を涵養する。		
準備学習	・担当する史料については事前に割り振っておくので、十分な準備が必要である。		
受講者への要望			
・輪読では何をどのようにして調べるかを、あらかじめ指示するので、それに従って徹底した調査が望まれる。 ・レポートの内容については、講義内で指示する。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　『勘仲記』写本について 3　龍粛論文の講読 4　『勘仲記』建治元年条の輪読（藤原兼平の摂政就任） 5　『勘仲記』建治元年条の輪読（兼平と立坊） 6　『勘仲記』建治元年条の輪読（五節雑事） 7　市沢哲研論文の講読 8　五味文彦論文の講読 9　『勘仲記』建治元年条の輪読（三方吉書） 10　『勘仲記』建治元年条の輪読（熙仁立親王） 11　『勘仲記』建治元年条の輪読（法成寺造営） 12　『勘仲記』建治元年条の輪読（立坊節会） 13　『勘仲記』建治元年条の輪読（新摂政拝賀） 14　『勘仲記』建治元年条の輪読（摂政兼平と亀山上皇） 15　『勘仲記』建治元年条の輪読（東宮坊官除目）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75251B01
科目名	【院】日本歴史文化研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Culture His tory B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	鎌倉幕府の正史である『吾妻鏡』の輪読と、論文講読を交えながら授業を進める。輪読ではそれぞれの記事の史的背景を考察しながら、漢文史料の厳密な読解を進め史料操作の方法を鍛える。論文講読では、問題の所在についての認識を深めるとともに、日本史学の課題を理解する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（50%）、レポート（50%）		
到達目標	・漢文史料の正確な読解力と分析力をつける。 ・日本史学の課題と研究方法を理解し、論文執筆の実力を涵養する。		
準備学習	・担当する史料については事前に割り振っておくので、きちんとした準備が必要である。 ・論文講読では、報告者は当該論文の他に関係論文を１本以上読んだ上で、当該論文の論旨を的確にまとめ、論文の長所と問題点・疑問点を指摘したレジュメを全員に配付する。報告者以外の授業参加者は全員ノートをとりながら論文を読んでくる。授業の最初に、当該論文の要旨および論文の長所と疑問点を記したノートのコピー１部を提出する。		

受講者への要望

・輪読では何をどのようにして調べるかは、あらかじめ指示しておくので、きちんと調べてくることが必要である。
・レポートの内容については、講義内で指示する。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　『吾妻鏡』写本についての先行研究
3　『吾妻鏡』の輪読（以仁王の挙兵）
4　『吾妻鏡』の輪読（三善康信と頼朝）
5　川合康論文の講読
6　『吾妻鏡』の輪読（源頼朝の挙兵）
7　『吾妻鏡』の輪読（佐々木一族）
8　『吾妻鏡』の輪読（頼朝と観音信仰）
9　『吾妻鏡』の輪読（石橋山合戦）
10　大山喬平論文の講読
11　『吾妻鏡』の輪読（箱根山）
12　『吾妻鏡』の輪読（三浦義明討死）
13　『吾妻鏡』の輪読（安房への逃避行）
14　『吾妻鏡』の輪読（上総介広常）
15　石井進論文の講読

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75253B01
科目名	【院】環境社会特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講義では、環境経済学の研究に経済理論や計量的手法を応用する。また、環境経済学の分野における諸問題及び分析手法を学ぶために、多くの主題を幅広く概観する。前半は、外部効果の問題や、外部効果の存在する市場の機能を改善するための方法について学ぶ。後半は、環境の改善によって得られる利益の評価の問題を考察し、特に非市場財の価値評価の方法における問題を紹介する。講義では特に以下の点に重点を置いて進めていく。 １）環境計画や環境経済学の歴史・発展過程を簡潔に概観すること。 ２）環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し、汚染を制御するためのメカニズムについて学ぶこと。 ３）環境資産や環境の損失を価値評価するための経済理論や方法について理解すること。 ４）環境政策における不確実性の影響や持続的環境管理の可能性について考察すること。		
教材（テキスト）	James R. Kahn 1998. The Economic Approach to Environmental and Natural Resources, Dryden Press, 2nd Ed. （ジェームズ・R. カーン著・内藤 登世一訳［1998］『環境と資源への経済学的アプローチ』 未出版）		
教材（参考文献）	① David W. Pearce and R. Kerry Turner. [1990] Economics of Natural Resources and Environment., Johns Hopkins Press. （アメリカの大学で幅広く使われている中級者用テキストブック。環境・資源経済学の幅広い分野にわたって、コンパクトにまとめられている。） ② A. Myrick Freeman, III. [1993] The Measurement of Environmental and Resource Values: Theory and Methods, Resources for the Future Inc., 2nd Ed. （環境・資源の経済価値評価方法に力点の置かれた実践者向け教科書。）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する。		
評価方法	出席状況及び授業内パフォーマンス（50%）　期末レポート（50%）		
到達目標	環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し、汚染を制御するためのメカニズムについて学ぶこと。また、環境資産や環境の損失を価値評価するための経済理論や方法についても理解すること。		
準備学習	教科書リーディング （あらかじめ教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。）		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。初級程度のミクロ経済学の予備知識が最低限必要であるので、事前に修得していることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1. 序論・歴史 2. 環境管理及び環境経済学の進化発展 3. 環境政策から生じる便益や費用についての分析 4. 厚生変化の測定についての基本的概念 5. 外部効果・財産所有権 6. 環境政策・政策手段 － 概観 7. 環境税・環境基準・排出権取引制度 8. 環境政策から生じる便益や費用の配分 9. 間接的便益評価・非使用価値 10. 価値評価のための仮説的手法 11. 生産要素投入としての環境の質 12. 財産価値・レクリェーションからの便益 13. 環境管理における不確実性の役割 14. 持続的環境管理 15. 環境経済学の最近の流れ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J75254A01
科目名	【院】文化人類学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50% フィールドワーク　25% レポート・民俗誌提出　25%		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 短期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J75254B01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 短期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J75254C01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 中期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J75254D01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、これまで文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 中期のフィールドワークの行うことができる。		
準備学習	予習をしてくること。		
受講者への要望			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
講義の順序とポイント			
1 基本文献の選定 2～7　文献の講読 7～10 フィールドワークの計画と実施 11～15　文献の講読と民俗誌の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J75255A01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	最初の演習で、講読文献リストを配付して指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）、レポート（50%）。		
到達目標	コミュニケーション社会学の諸理論の基本的な理解。		
準備学習	テキストおよびその背景知識の予習。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 講読 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75255B01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。演習では、さまざまな社会的事象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。たとえば現代のメディア、現代社会のコミュニケーションの特徴、身近なアイテムの社会的意味といったものを扱う。受講生は、この主題にそったテーマを各自で選び、内容を吟味する。		
教材（テキスト）	最初の演習で、講読文献リストを配付して指定する。		
教材（参考文献）	適宜指定する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	発言、発表等、授業での貢献度（50%）、レポート（50%）。		
到達目標	コミュニケーション社会学の諸理論の専門的な理解。		
準備学習	テキストおよびその背景知識の予習。		
受講者への要望			
自分の研究と社会とのかかわりを常に意識すること。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 研究計画に関する議論 3.〜14. 講読 15. 総合的な議論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J75256A01
科目名	【院】広告広報研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。		
教材（テキスト）	受講生の関心をふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	同上		
教材（その他）	同上		
評価方法	出席、および修士論文の構成、論文のための調査、草稿執筆などの進捗を総合的に評価する。		
到達目標	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などの研究に必要な理論や方法を十分に修得する。広告論・メディア論・マーケティング論などの理論や、消費者調査、広告などの作品分析、広告キャンペーンなどの事例研究、広告産業やクリエイターの研究などの方法について学び、修士論文のテーマに最適なアプローチができるよう努める。		
準備学習	到達目標に掲げたさまざまな理論や方法について、自主的に理解を深めること。		
受講者への要望			
広告広報の研究は、実践の成就に資する政策科学であると同時に、メディアや社会・文化の分析・批評でもある。自らの研究の目的と立ち位置について十分にきわめてほしい。			
講義の順序とポイント			
<講義予定> 第 1 回:オリエンテーション 第 2 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(1) 第 3 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(2) 第 4 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 5 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 6 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 7 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 8 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション 第 9 回:修士論文の発表・指導 第 10 回:修士論文の発表・指導 第 11 回:修士論文の発表・指導 第 12 回:修士論文の発表・指導 第 13 回:修士論文の発表・指導 第 14 回:修士論文の発表・指導 第 15 回:ふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J75256B01
科目名	【院】広告広報研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。		
教材（テキスト）	受講生の関心をふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考文献）	同上		
教材（その他）	同上		
評価方法	出席、および修士論文の構成、論文のための調査、最終稿を総合的に評価する。		
到達目標	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などの研究に必要な理論や方法を十分に修得する。広告論・メディア論・マーケティング論などの理論や、消費者調査、広告などの作品分析、広告キャンペーンなどの事例研究、広告産業やクリエイターの研究などの方法について学び、修士論文のテーマに最適なアプローチができる		
準備学習	到達目標に掲げたさまざまな理論や方法について、自主的に理解を深めること。		

受講者への要望

広告広報の研究は、実践の成就に資する政策科学であると同時に、メディアや社会・文化の分析・批評でもある。自らの研究の目的と立ち位置について十分にきわめてほしい。

講義の順序とポイント

<講義予定>
第 1 回:オリエンテーション
第 2 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(1)
第 3 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(2)
第 4 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 5 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 6 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 7 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 8 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 9 回:修士論文の発表・指導
第 10 回:修士論文の発表・指導
第 11 回:修士論文の発表・指導
第 12 回:修士論文の発表・指導
第 13 回:修士論文の発表・指導
第 14 回:修士論文の発表・指導
第 15 回:ふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J75257B01
科目名	【院】英語言語学特論B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is designed as an continuation of study in the various concepts and theories of linguistics, using the English language as a model for analysis.		
教材（テキスト）	First steps in English Linguistics (2nd. Edition), Kuroshio Publishing		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class exercises: 30%, reports/presentations: 70%		
到達目標	By the completion of this course, students will have a basic working knowledge of the key areas of linguistics as they pertain to the English language. They will be able to use this knowledge to linguistically analyze other languages.		
準備学習	Students wishing to undertake this course of study are advised to familiarize themselves with basic academic English, as well as review the key concepts from　英語言語学特論 A.		

受講者への要望

All students are expected to attend all scheduled classes and take responsibility for their own learning. This means students are prepared to critically engage with the topics presented, and conduct thorough preview and review of the course material. It is also advised that all students bring a quality English-Japanese dictionary.

講義の順序とポイント

1-2. How Sentences Mean： Semantics II
3-4. How to Communicate with Other People： Pragmatics
5-6. The Sounds of English： Phonetics and Phonology
7-8. Regional Varieties of English： Sociolinguistics I
9-10. English in Society： Sociolinguistics II
11-12. How English Is Acquired： Psycholinguistics
13-14. How English as a Second / Foreign Language Is Acquired：Applied Linguistics
15. Overview of Course / Presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J75258B01
科目名	【院】集団心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	【院】社会心理学特論Ⅰ
講義概要	Facebook や Twitter などのソーシャルネットワークは、今後の社会においてより重要な機能を果たすと考えられる。本講では、このソーシャルネットワークが社会及び対人関係におよぼす影響について検討する。関連する知識として、ネットワークの科学、ゲーミニフィケーション、集合知ついても触れる。受講生には実際にいくつかの SNS を使用していただいて、ディスカッションを深めたい。		
教材（テキスト）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）と、発表(30%)と最終レポート(30%)により評価する。		
到達目標	文献を読みこなして論考する力を養う。		
準備学習	これまでに培った英語力を持続させておくこと。		
受講者への要望			
授業を中断させてもかまいませんので、積極的に疑問点や思いついたことを述べてください。			
講義の順序とポイント			
1〜2. 集団極化現象 3〜4. 集団の情報処理システム 5〜6. 世論変動と普及過程 7〜8. 社会的アイデンティティ 9~10. リーダーシップと集団間コンフリクト 12~13. インターネットと集合知 14〜15. 討論と発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J76001A01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry I		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、文献や関連原著論文に対する十分な読解力を要する。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の用件である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、様々な研究に接し、客観的な評価力を養うことを目的とする。		
教材（テキスト）	解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	化学生態学および天然物化学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。		
準備学習	予め配布された文献や資料の概要を把握しておく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による各種文献の探索方法、入手方法についての解説
２．担当教員による文献の読解法についての解説
３．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献１）
４．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献２）
５．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献３）
６．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献４）
７．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献５）
８．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献１）
９．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献２）
１０．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献１）
１１．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献２）
１２．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献３）
１３．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献４）
１４．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献５）
１５．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献６）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76001B01
科目名	【院】生物有機化学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry II		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、様々な文献や関連原著論文に対する高度な読解力を要する。原著論文には一定の記述様式があり、これに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	生物有機化学特別演習 I で修得した内容を基盤として、化学生態学、天然物化学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。		
準備学習	配布される文献や資料の概要を把握しておく。発表に際しては計画的に準備をして、発表のスキルを向上させるよう努力する。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による生物有機化学特別演習 I の習熟度評価
２．担当教員による文献の収集・整理についての解説
３．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献１）
４．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献２）
５．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献３）
６．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献１）
７．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献２）
８．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献１）
９．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献２）
１０．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献３）
１１．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献４）
１２．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献５）
１３．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献６）
１４．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献７）
１５．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献８）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J76001C01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry Ⅲ		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. 研究手法の統合的な整理　（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J76001D01
科目名	【院】生物有機化学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry IV		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76002007
科目名	【院】生物有機化学特別研究（2017-2018）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Bioorganic Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	よりよいバイオ環境を目指して、化学生態学に焦点を当て、コナダニ類や昆虫類を材料として研究を行なう。受講生に担当させる具体的な研究テーマは秘密情報であり、また当教室の状況や当該分野の外部情報によって変化する。研究分野の概要としては、新規ダニ種のフェロモンの同定、フェロモンの作用機構、昆虫の産卵・摂食阻害物質の探索、ニホンミツバチのフェロモンの同定、ニホンミツバチとスズメバチの化学生態学、行動科学、昆虫-植物-寄生蜂間のいわゆる”３者関係”の化学生態学があげられる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	担当するテーマの関連論文、Web での検索情報		
教材（その他）			
評価方法	修士論文および口頭発表（８０％）で主に評価し、日常の研究態度、教室運営への協力度（２０％）を合わせて総合的に評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに生物有機化学分野で何らかの新しい知見を得る。研究成果を学会発表、論文投稿などで公表する。		
準備学習	研究を推進するに当たり、文献を的確に収集し、関連情報を把握する。その情報を元に具体的な目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文や関連速報論文の読解が研究の初期には特に重要であり、科学英語の理解力を向上させる。また、その分野での新しい発見には新しい視点や広い視野、そして深い洞察が必須であり、これらを獲得するためにどうすれば良いかを常に考えて行動して欲しい。			
講義の順序とポイント			
１．テーマの企画 ２．テーマに関する文献情報の収集、内容の理解 ３．実験計画の立案 ４．実験、考察、実験計画の変更、再実験、考察の繰り返し ５．論文の作成 ６．研究発表 上記の 1.～4.項目を順番に、あるいは適宜組み合わせて繰り返す。論文の作成が可能なものについては論文作成して学会などで発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76003A01
科目名	【院】分子生物学特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology I		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	生命科学研究に関連する文献の探索と理解力を強化するとともに，研究課題の発見力を養成する． 　今日の生命科学の飛躍的な発展は，多様な生物の遺伝子情報の蓄積と多くの先端技術が基盤となっている．生命科学研究には膨大な専門用語の習熟と関連文献の読解力と理解力を必要としている．本演習では，各受講者の研究課題に即した関連分野の文献検索と主要な研究論文の読解力と手技手法の理解力を育成し，研究課題関連領域の最新の全容を把握することと課題の発見と評価する力量の育成を目的とする．		
教材（テキスト）	毎回，必要に応じた教材資料を配布する．		
教材（参考文献）	Molecular Biology of The Cell (Sixth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter		
教材（その他）	必要に応じて，個別に教材を推薦する． 最先端の研究内容を理解し，学術的な価値観を共有できるようにする．		
評価方法	評価方法 論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう． ・文献概要の理解度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%） ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%） ・研究成果の理解度（20%） ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする．		
準備学習	事前に配布された資料を把握しておくこと．遅刻厳禁．		
受講者への要望			
講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その内容を発表する．その他の受講者は，質疑に積極的に参加する．また，紹介された論文のキーワードを選び出し，説明文を作成する．			
講義の順序とポイント			
1.　担当教員より研究領域の総説と文献検索、課題文献の読み方について 2.　担当教員より課題文献のデータの読み方と関連データの検索法について 3.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献１） 4.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献２） 5.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献３） 6.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献４） 7.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献１） 8.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献２） 9.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献３） 10.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献４） 11.　受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献１） 12.　受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献２）			

13. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献３）
14. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献４）
15. 分子生物学特別演習Ⅰの総括と課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J76003B01
科目名	【院】分子生物学特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology II		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	分子生物学特別演習Ｉで修得した内容を基盤に，生命科学研究の原著論文の読解力を養成し，科学的課題の理解力を鍛える． 　最新の生命科学研究の知見の習得には，先端技術の理解力と多様な専門文献や原著論文に対する読解力と膨大な生命科学情報データバンクの調査能力を必要としている。本演習では，各受講者の研究課題に即した関連分野の文献解析と関連データ検索とデータ解析処理の演習を通じて，主要な原著論文の読解力と成果の解析能力の習熟を目的とし，研究成果の客観的な評価力を醸成し，新たな課題の発見や追求できる能力の育成を目的とする．		
教材（テキスト）	毎回，必要に応じた教材資料を配布する． 最新の学術論文に対して，デジタル機器を使って，アクセス可能なものを選択する．		
教材（参考文献）	Molecular Biology of The Cell (Sixth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter		
教材（その他）	必要に応じて，個別に教材を推薦する．		
評価方法	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう． ・文献概要の理解度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%） ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%） ・研究成果の理解度（20%） ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする．		
準備学習	事前に配布された資料を把握しておくこと．遅刻厳禁．		

受講者への要望

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その内容を発表する．その他の受講者は，質疑に積極的に参加する．また，紹介された論文のキーワードを選び出し，説明文を作成する．

講義の順序とポイント

1. 担当教員による分子生物学特別演習Ｉの習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による課題設定と目標についての具体例の紹介
3. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献１）
4. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献２）
5. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献３）
6. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献４）
7. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献１）
8. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献２）
9. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献３）

10. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献４）
11. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献１）
12. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献２）
13. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献３）
14. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献４）
15. 分子生物学特別演習 II の総括と課題の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76003C01
科目名	【院】分子生物学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology III		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	分子生物学特別演習Ⅱまでに習熟した内容を基盤として，生命科学研究の原著論文の読解力をさらに強化し，科学的課題の解決力を養成する。 最新の生命科学研究遂行には多様な関連研究成果の探索¥と理解に基づいて、新たな研究課題の設定と研究課題の妥当な解決方法の計画と手技手法のスキルの習熟が必要である。 分子生物学特別演習Ⅰ・Ⅱまでの習得内容を基盤として、主要関連論文の高度な読解力と関連分野の解析力と理解力を基軸に、各受講者の研究課題分野の現状認識と課題解決法の客観的な設定と企画力の力量の養成を目的とする。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		

受講者への要望

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献と複数の関連文献を選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を作成し、その抄読内容を整理して発表する。その他の受講者は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による分子生物学特別演習Ⅱの習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による国際的な主要な原著論文と関連分野の論述動向と内容について
3. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文１）
4. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文２）
5. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文３）
6. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文４）
7. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文１）
8. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文２）
9. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文３）
10. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文４）
11. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文１）
12. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文２）
13. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文３）
14. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文４）
15. 分子生物学特別演習Ⅲの総括と課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76003D01
科目名	【院】分子生物学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology IV		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	分子生物学特別演習Ⅲまでに習熟した内容を基盤として、具体的な科学的課題の解決に必要な企画力と研究力を養成する。 膨大な研究成果が発表される生命科学研究分野では、研究成果を公表する場合には常に最新の成果の理解と有効性を判断し、学問領域の最新の現状を把握する必要がある。本演習では、各受講者の研究課題に関連した研究領域の客観的な最新の現状認識力とともに、生命科学領域の学術誌への論文投稿のための研究背景説明や研究成果の解析、整理、表現の検討と論述展開や引用文献の扱いなどスキルの養成を目標とする。		
教材（テキスト）	受講者自身が関連分野の原著論文や総説のリストを作成し配布する。		
教材（参考文献）	その都度、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。 ・課題に対する関連文献選択の適正度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の価値評価力（20%） ・研究の手技手法の理解度と新規性の評価力（20%） ・研究結果の理解度と解析評価力（20%） ・新規課題の提案企画力と論述力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。 ・課題に対する関連文献選択の適正度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の価値評価力（20%） ・研究の手技手法の理解度と新規性の評価力（20%） ・研究結果の理解度と解析評価力（20%） ・新規課題の提案企画力と論述力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
準備学習	事前に配布された資料で予習しておくこと。		
受講者への要望			
講義ごとに受講者１名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで関連分野の文献を複数選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を論述形式でレジメを作成し、その内容を発表する。生命科学領域に関わる論文作成のスキルを養成する。その他の受講者も、論文作成のスキル習得に参加する。			
講義の順序とポイント			
1.　担当教員による分子生物学特別演習Ⅲの習熟度の評価と本演習の課題目標について 2.　担当教員による国際的な主要論文の論述形式と整理ポイントについて 3.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文１） 4.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文２） 5.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文３） 6.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文４） 7.　著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文５） 8.　担当教員による論文構成と論述形式とデータ整理と DataBank 登録について 9.　担当教員による論文投稿規定と論文作成のスキルについて 10. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（１） 11. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（２） 12. 受講生作成の研究論文発表に対しての討論（１） 13. 受講生作成の研究論文発表に対しての討論（２）			

14. 受講生作成の研究論文発表についての評価と問題点の指摘
15. 受講生作成の研究論文発表についての改善案の検討と討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76004007
科目名	【院】分子生物学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Molecular Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	生体や細胞内外の環境変化に対し機能維持に遺伝子やその産物がどのような制御機構を用いているのかを (1) ゲノムの構造レベル (2) 細胞の分化・発生の時空間レベル (3) 情報の伝達レベル (4) シグナル分子レベル (5) 多分子の複合体レベルでの機能解析に取り組む研究課題を選択し， 課題の把握と理解に努め，必要な手技技法にも熟達し，研究に励み，妥当な結論から研究成果の学問上の意義や社会的な活用法にも考察して修士論文としてまとめ上げる.		
教材（テキスト）	研究課題に応じ，研究の進展に伴い，個別に教材や文献を提供する.		
教材（参考文献）	必要に応じて，Databank などの資料を指示する.		
教材（その他）			
評価方法	修士論文の研究課題の把握と理解（20%), 実験計画の策定（20%), 実験の遂行と結果（20%） およびその評価（20%), 他者からの評価を議論できる能力（10%), 発表表現能力（10%)などを 総合的に評価する.		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする。		
準備学習	事前準備については，指導教員が個々に必要に応じた最適な指導をする.		
受講者への要望			
社会が求めている人材を各自イメージしながら，グリーンバイオ技術者や研究者に必要なスキルと知識を身につけること. 目標とする研究テーマに真剣に意欲的に忍耐強く立ち向かって取り組むこと. 研究室構成員の一員として，院生は研究活動の遂行と維持にリーダー的な立場で行動すること. 研究科内で実施される大学院生専門情報交換会へ積極的に参加し，特別研究のスキル上達に研鑽すること.			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-3.　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 4-6.　研究計画の策定と研究方法の検討 7-9.　ゲノムレベルでの研究課題の検討 10-13. 細胞レベルでの研究課題の検討 14-17. 修飾分子レベルでの研究課題の検討 18-21. 生体高分子複合体・細胞内オルガネラ等での検討 22-30. 予備実験の実施と結果の検討 (2 年次) 31-34. 実験計画の吟味と改善 35-40. 実験の実施と再現性及び信頼性の確立 41-50. 発展的な実験の実施と結果の検討 51-54. 関連分野の実験成果と比較し，新規性の確認と検討			

55-58．成果の整理と検討及び発表形式の検討
59-60．発表形式の検討と確認

尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76005A01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology I		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語に習熟することも必須である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　谷 吉樹 著（1992）コロナ社 2）応用微生物学 第2版　清水 昌、堀之内末治 編（2008）文永堂出版 3）遺伝子から見た応用微生物学　熊谷英彦 他 編（2008）朝倉書店 4）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.　Madigan, M.T. et al.（2010）　Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講者への要望

当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1） 担当教員による文献の読み方についての講述（1）
2） 担当教員による文献の読み方についての講述（2）
3） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献1）
4） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献2）
5） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献3）
6） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献4）
7） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献5）
8） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献1）
9） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献2）
10） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献3）
11） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献1）
12） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献2）
13） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献3）
14） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献1）
15） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76005B01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology II		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが論文の内容を理解する上で必須の要件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学特別演習 I で修得した内容を基盤として、微生物機能開発学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してプレゼンテーションソフト等でその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1） 担当教員による微生物機能開発学特別演習 I の習熟度評価
2） 担当教員による文献の収集・整理法についての講述
3） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 1）
4） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 2）
5） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 3）
6） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 1）
7） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 2）
8） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 3）
9） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 4）
１０） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 1）
１１） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 2）
１２） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 3）
１３） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 4）
１４） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 5）
１５） 総合討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J76005C01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology Ⅲ		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめ上げる能力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献・原著論文を受講生がまとめた資料（各回ごとに配布する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、その内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（1） 2）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（1） 4）　受講生の発表と質疑（2） 5）　受講生の発表と質疑（3） 6）　受講生の発表と質疑（4） 7）　受講生の発表と質疑（5） 8）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1） 9）　受講生の発表と質疑（6） １０）　受講生の発表と質疑（7） １１）　受講生の発表と質疑（8） １２）　受講生の発表と質疑（9） １３）　受講生の発表と質疑（１０） １４）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2） １５）　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J76005D01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology IV		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、微生物機能開発学領域における論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第2版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	受講生が作成したレジュメなど。		
評価方法	選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	英文誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
前半は微生物機能開発学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 2）　受講生の発表と質疑（1） 3）　受講生の発表と質疑（2） 4）　受講生の発表と質疑（3） 5）　受講生の発表と質疑（4） 6）　受講生の発表と質疑（5） 7）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 8）　担当教員による論文作成のスキルの解説 9）　受講生が作成した論文に対する質疑（1） １０）　受講生が作成した論文に対する質疑（2） １１）　受講生が作成した論文に対する質疑（3） １２）　受講生が作成した論文に対する質疑（4） １３）　受講生が作成した論文に対する質疑（5） １４）　担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 １５）　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J76006007
科目名	【院】微生物機能開発学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Microbial Biotechnology		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	微生物機能開発学領域における学術研究を通して、応用微生物学分野の専門知識と技術を高いレベルで修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、目的とする機能を最高レベルで保持する菌株を探索し、（1）当該機能の微生物学的・生化学的意義の解明、（2）遺伝子レベルでの機能解明、（3）遺伝子工学的手法による機能増強、（4）物質生産の場合はその生物工学的諸条件の確立、といった過程を通じた機能開発を行う。これらの研究の成果を修士論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	学術研究と修士論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・修士論文の論理性（25%） ・修士論文の学問的到達度（25%）		
到達目標	1）応用微生物学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。 2）応用微生物学分野の学問的意義のある修士論文（英文）の完成。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
・微生物機能の開発をテーマとした学術研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。 ・学術研究への 2 年間の徹底的な没頭を求める。			
講義の順序とポイント			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76007A01
科目名	【院】食品機能学特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science I		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	学位論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	学位論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76007B01
科目名	【院】食品機能学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品科学で修得した内容を基盤として、食品科学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的･技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による食品科学特別演習 I の習熟度評価。
２．担当教員より文献の収集・整理について講述する（１）。
３．担当教員より文献の収集・整理について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
１０．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文１）
１１．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文２）
１２．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文３）
１３．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文１）
１４．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文３）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76007C01
科目名	【院】食品機能学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science Ⅲ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品機能・健康科学演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献・原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。		
教材（テキスト）	取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。		

受講者への要望

受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1．文献・原著論文の収集・整理法の講述
2．受講生の発表と質疑（1）
3．受講生の発表と質疑（2）
4．受講生の発表と質疑（3）
5．受講生の発表と質疑（4）
6．受講生の発表と質疑（5）
7．受講生の発表と質疑（6）
8．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9．受講生の発表と質疑（7）
10．受講生の発表と質疑（8）
11．受講生の発表と質疑（9）
12．受講生の発表と質疑（10）
13．受講生の発表と質疑（11）
14．受講生の発表と質疑（12）
15．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	★	−

年度	2017	授業コード	J76007D01
科目名	【院】食品機能学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science IV		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなど。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。		

受講者への要望

前半は食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。

講義の順序とポイント

1．受講生の発表と質疑（1）
2．受講生の発表と質疑（2）
3．受講生の発表と質疑（3）
4．受講生の発表と質疑（4）
5．受講生の発表と質疑（5）
6．受講生の発表と質疑（6）
7．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8．論文作成のスキルを解説
9．受講生が作成した論文に対する質疑（1）
10．受講生が作成した論文に対する質疑（2）
11．受講生が作成した論文に対する質疑（3）
12．受講生が作成した論文に対する質疑（4）
13．受講生が作成した論文に対する質疑（5）
14．受講生が作成した論文に対する質疑（6）
15．受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	★	−

年度	2017	授業コード	J76008007
科目名	【院】食品機能学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Food Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	野菜・作物の機能性成分の化学および生理機能に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文および口頭発表で評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。		
準備学習	研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。			
講義の順序とポイント			
1．テーマの企画・設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．実験計画の立案 4．テーマの取り組み 5．修士論文の作成 6．研究の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J76009A01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology I		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%)、（２）研究目的の理解度（20%)、（３）研究手法の理解度（20%)、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%)、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員より文献の読み方について講述する（１）？
2. 担当教員より文献の読み方について講述する（２）？
3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）？
15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76009B01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology II		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%)、（２）研究目的の理解度（20%)、（３）研究手法の理解度（20%)、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%)、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 植物バイオテクノロジー特別演習Ｉの習熟度評価 ？
2. 文献の検索、収集、整理などに講述し、パソコンを用いての検索演習を行う ？
3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？
15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） ？

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76009C01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology Ⅲ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げ、パワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講者が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%）、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%）、（３）科学的・技術的寒天からの現状の把握度（30%）、（４）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うため、原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力、取りまとめて発表する能力などを修得し、あわせ問題点解決に活用する能力も修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（１）？
2. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（２）？
3. 受講生の発表と質疑（１）？
4. 受講生の発表と質疑（２）？
5. 受講生の発表と質疑（３）？
6. 受講生の発表と質疑（４）？
7. 受講生の発表と質疑（５）？
8. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１）？
9. 受講生の発表と質疑（６）？
10. 受講生の発表と質疑（７）？
11. 受講生の発表と質疑（８）？
12. 受講生の発表と質疑（９）？
13. 受講生の発表と質疑（１０）？
14. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）？
15. まとめ？

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76009D01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology IV		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習 I および II で修得するさ文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げる。　またパワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）論文作成および発表能力（50%）		
到達目標	ある分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生 1～２名を割り当てる。前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表し、参加者を含めて質疑応答を行う。このための準備を常に行っておくこと。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。 ?
2. 受講生の発表と質疑（１） ?
3. 受講生の発表と質疑（２） ?
4. 受講生の発表と質疑（３） ?
5. 受講生の発表と質疑（４） ?
6. 受講生の発表と質疑（５） ?
7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 ?
8. 担当教員による論文作成のスキルを解説する。 ?
9. 受講生が作成して論文に対する質疑（１） ?
10. 受講生が作成して論文に対する質疑（２） ?
11. 受講生が作成して論文に対する質疑（３） ?
12. 受講生が作成して論文に対する質疑（４） ?
13. 受講生が作成して論文に対する質疑（５） ?
14. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 ?
15. まとめ ?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76010007
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Plant Biotechnology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	研究テーマの設定、研究テーマの背景認識、実験計画の設定、実験の実施、実験結果の解析・取りまとめ、考察、論文作成などについて必要な能力、すなわち研究を自立的に実施できる能力を涵養する。		
教材（テキスト）	適宜、原著論文、実験マニュアル、機器取扱い書などを掲示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	研究立案、実施、取りまとめ、発表・論文作成などの能力の修得状況から評価する。		
到達目標	自立して技術開発あるいは研究を行える能力の修得を目標とする。		
準備学習	日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他の研究発表などを聞くこと。		
受講者への要望			
①日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他者の研究発表などを聞き、自分の研究課題実施に役立てること。 ②幅広く科学的思考能力の向上に努めること。			
講義の順序とポイント			
修士論文研究の進展と関連させながら、研究テーマの設定、研究テーマの背景や意義の認識の深化、実験計画の設定や実験方法の検討、実験の実施、結果の解析・取りまとめ、考察、取りまとめ資料の作成・論文作成について議論あるいは指導する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J76021A01
科目名	【院】科学英語演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Scientific English I		
担当者名	Jacoba Akazawa	旧科目名称	
講義概要	This is an academic oral presentation skills course conducted entirely in English. The development of group discussion and academic oral presentation skills will be emphasized.		
教材（テキスト）	No text book is assigned. Prints and relevant materials to be provided by the teacher.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Students will be evaluated on the following criteria: 1/ Discussion leadership skills 20% 2/ Discussion participant skills 20% 3/ Oral Presentation skills 50% 4/ Review Quizzes 10%		
到達目標	On completion of this intensive course, students will feel confident to conduct academic discussions and make formal oral presentations in English.		
準備学習	Although there is no textbook, students will be expected to bring and maintain an A4 size file for the prints and notes that will be given in each lesson. Homework will be assigned as preparation for the following day's classes. It is essential that students do the homework as a prerequisite to attending the class. Students will be expected to conduct individual research to prepare for their presentation.		

受講者への要望

Very active class participation and complete attendance is required to pass this class.

講義の順序とポイント

1/ Introduction to the course and introduction to academic discussion
2/ General discussion skills development
3/ Audience analysis
4/ Question formation 1
5/ Question formation 2
6/ Developing listening skills
7/ Oral summary skill development
8/ Small group discussion presentation
9/ Presentation skills development 1
10/ Presentation skills development 2
11/ Presentation skills development 3
12/ Presentation Practice and Peer Feedback session
13/ Presentations 1
14/ Presentations 2
15/ Presentation Review and Feedback

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2017	授業コード	J76021B01
科目名	【院】科学英語演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Scientific English I I		
担当者名	Edsall, Dominic Guy	旧科目名称	
講義概要	英語での科学論文の文章構成や編集方法、アブストラクトの書き方、また適切な語彙や文法の使い方をライティングの練習を通して学ぶ。		
教材（テキスト）	グラスマン‐ディール,ヒラリー 『理系研究者のためのアカデミック ライティング(Science research writing for non-native speakers of English)』東京図書（Imperial College Press）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	評価は以下のようにして行う 授業中に行う演習（30%）ライティングの課題の遂行能力と性格さ(50%）授業へ参加と授業中の態度（20%）		
到達目標	学術雑誌や学会で出版できるレベルで出版物を書くために必要な基本的なスキルを習得すること。このような基礎的なスキルを習得するためには、論文題目に英語の要旨と英語論文を用意することが望ましい。		
準備学習	論文全体を書くのに時間がないので、授業で使用するために日本語で要約を作成することが望ましい。 材料は、パソコンで準備して持ち込む必要があります。		

受講者への要望

科学論文全体を英語で書くのに十分な時間がないため、修士論文研究の要約を巧みに書くことが可能になる。受講生は、英語で論文研究の要点を説明したりすることを求められる。

講義の順序とポイント

1．Introduction to the course & basics of paragraph writing
2．What makes scientific writing in English difficult?: The passive voice
3．The structure of scientific articles: Part 1
4．The structure of scientific articles: Part 2
5．Review: The structure of scientific articles
6．Introduction to methodology section
7．How to use prefixes, roots and sufffixes in scientific writing
8．How to summarize
9．Review: The methodology section
10．Introduction to the results section
11．How to write an abstract in English (1)
12．How to write an abstract in English (2)
13．Review: The results section
14．Introduction to the structure of scientific articles: The discussion and conclusion
15．Using citations and references

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J76032001
科目名	【院】グリーンバイオ最先端技術特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Green Biotechnology		
担当者名	柴野　裕次	旧科目名称	
講義概要	バイオ技術、とりわけ遺伝子組換え技術について、背景となった分子生物学の発展から遺伝子組み換え技術の確立に至る過程を説明する中で、バイオ技術に対する基本的な理解を深める。医薬、農業、食品・醸造、環境、エレクトロニクス等の様々な産業分野での利用形態を説明して、バイオ技術の有用性について理解させる。バイオ技術のリスク評価についても、科学的な根拠に基づく安全性評価を中心に説明する。担当者が経験したバイオテクノロジーの研究・開発における実例を紹介し、さらなる理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の項目に関するレポートを課し、その理解度および習熟度によって評価する。 遺伝子組換え技術の歴史と進歩（20%）、バイオ技術の利用形態（30%）、バイオ技術の利用分野（30%）、バイオ技術のリスク評価（20%）		
到達目標	様々な産業分野での遺伝子組換えを中心とする最先端技術と関連するリスク評価などについて理解を深める。		
準備学習	クローニング、塩基配列決定法、PCR 法等の遺伝子組換え技術の要素技術について、基礎理論を理解しておくこと。		
受講者への要望			
上記に項目に対して講義内容に加えて参考資料等をも参照して、レポートを作成・提出すること。			
講義の順序とポイント			
１．バイオ技術の成り立ち１：生物学の発展 ２．バイオ技術の成り立ち２：分子生物学から遺伝子組み換え技術へ ３．バイオ技術の要素技術 ４．オールドバイオとニューバイオ ５．バイオ技術の利用形態１：異種タンパク質生産 ６．バイオ技術の利用形態２：分子育種 ７．バイオ技術の利用形態３：発酵生産 ８．バイオ技術の利用形態４：タンパク質工学・酵素工学 ９．バイオ技術の利用分野１：医薬 １０．バイオ技術の利用分野２：農業 １１．バイオ技術の利用分野３：食品・醸造 １２．バイオ技術の利用分野４：エレクトロニクス、環境 １３．バイオ技術の安全性確保とＰＡ １４．バイオ技術研究開発の実例１：殺虫性タンパク質、メタノール酵母発現系 １５．バイオ技術研究開発の実例２：醸造酵母の分子育種、糖質分解酵素のタンパク質工学			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76036001
科目名	【院】環境倫理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Environmental Ethics		
担当者名	神崎　宣次	旧科目名称	
講義概要	環境倫理学は、環境問題を自然や生態系の観点ではなく、それらと関わりを持つ人間とその生活の観点からも検討する学問です。本講義では、1）環境倫理学の歴史的な展開について概説した上で、2）現在における環境倫理学の課題を明らかにするとともに、3）日本での環境倫理学の方向性について論じます。		
教材（テキスト）	近畿化学協会 化学教育教育研究会 編著『環境倫理入門 地球環境と科学技術の未来を考えるために』（化学同人、2012 年)、2200 円		
教材（参考文献）	鬼頭秀一『自然保護を問いなおす―環境倫理とネットワーク』(筑摩書房、1996 年)、798 円 宮内泰介編『なぜ環境保全はうまくいかないのか―現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』(新泉社、2013 年)、2520 円		
教材（その他）	ビデオなどを用いる場合もある。		
評価方法	評価は各授業日の最後に内容理解度を確認するための小テストを行い、それで評価する。評価に対する比率は、初日二日目が各 30%、最終日が 40%とする。		
到達目標	環境倫理学の意義と可能性と必要性について理解し、倫理学的な思考を身につけることを目標とする。		
準備学習	積極的に講義に参加し、次の項目について事前にテキストを見ておく。日頃から新聞などを通して、環境関連の出来事に注目していく。		
受講者への要望			
講義に積極的に参加する、つまり、まじめに出席するとともに、疑問点などについては、積極的に質問するようにしてほしい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2-3. 保全主義について 4-5. 環境危機の時代の思想 6-7. 歴史的観点からの環境倫理学の位置付けと評価 8-10. 持続可能性、生物多様性、予防、順応的管理等の概念についての検討 11-12. 資源管理等の事例の検討 13-14. その他の環境関連領域との連携のあり方 15. まとめ（講義全般に関する総合的な講評）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★★	–	–	★

年度	2017	授業コード	J76038001
科目名	【院】インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	関連企業および研究機関で、生産及び開発研究を体験し、大学の研究室で学んだことが実社会でどのように生かされているかを知ることを目的とする。 研究指導教員から、各大学院生の研究テーマを勘案してインターンシップ先を選定し、必要事項を調整する。 終了後にレポートを提出させるとともに、インターンシップ先での状況を把握して、専門的な職業人になるための指導をおこなう。		
教材（テキスト）	インターンシップ先に応じて、適切で必要なものがあれば紹介する。 基本的な研究マナーを把握できるように、テキストを事前に進める。		
教材（参考文献）	参考図書として、以下のものを事前に読むことを薦める。 『アット・ザ・ベンチ』　バイオ研究完全指南　Kathy　Barker　中村敏一監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル　（ISBN　4-89592-258-8）		
教材（その他）			
評価方法	以下の評価をおこなう。 ・インターンシップのための事前学習　　(20%) ・インターンシップ先での評価　　(60%) ・インターンシップ参加後の自主学習と自己評価　(20%)		
到達目標	社会人として必要な専門的な技能を身につけ、自己の目標設定を把握できること。		
準備学習	社会的な話題や業界の現状を事前に研究しておくこと。		
受講者への要望			
多様なインターンシップ先で職場の規律を遵守できること。			
講義の順序とポイント			
1-2.　事前準備学習 3-12.　インターンシップ先に応じて、相互に事前打ち合わせを元にして、種々のプログラムを提案する。 13.　インターンシップの報告発表会 14.　業界研究と職業研究と科学リテラシー 15.　自己の人生設計とスキル			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	–	–	–

年度	2017	授業コード	J76041A01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習Ⅰではランドスケーププランニングを取り扱う。		
教材（テキスト）	「景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地」森本幸裕編著		
教材（参考文献）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 日本景観生態学会誌 日本造園学会誌「ランドスケープ研究」		
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	特に設けない。状況に応じて設定する。		
準備学習	「景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地（森本編）」の興味をもったところから読み進め、１ヶ月以内に読破すること。		
受講者への要望			
文献をしっかり読んで下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～Ⅳを以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー II プランニング III デザイン IV マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76041B01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 II ではランドスケープ・デザインを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「ランドスケープ・デザイン」		
教材（その他）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 日本景観生態学会誌 日本造園学会誌「ランドスケープ研究」		
評価方法	総合的に行う。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	よいと思ったランドスケープについて写真やスケッチで記録をとるのを習慣にしてください。		

受講者への要望

しっかり勉学して下さい。

講義の順序とポイント

特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～Ⅳを以下の順で行う。
Ⅰ エコロジー
II プランニング
III デザイン
IV マネジメント
1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（1～4回）
2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（5～6回）
3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)（7～12回）
4）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（13～15回）

課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。
具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★

年度	2017	授業コード	J76041C01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講者への要望			
しっかり勉学して下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～Ⅳを以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー Ⅱ プランニング Ⅲ デザイン Ⅳ マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする) ４）とりまとめ 課題については、各自の興味と能力を第一に尊重する。 エコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76041D01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。 現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 Ⅳ ではランドスケープマネジメントを取り扱う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	「日本景観生態学会誌」「日本造園学会・ランドスケープ研究」「日本緑化工学会誌」		
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	事前には設定しない。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講者への要望			
調べものなどは受講生相互に助け合ってください。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～Ⅳを以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー II プランニング III デザイン IV マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	J76042007
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別研究（2017-2018）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまな課題の発見、問題設定、研究計画策定、実施、取りまとめを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	適宜目標を設定する。		
準備学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に探求したいテーマについて考えておいてください。		
受講者への要望			
しっかり研究に励んで下さい。			
講義の順序とポイント			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～Ⅳを以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー Ⅱ プランニング Ⅲ デザイン Ⅳ マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 ３）調査研究：（各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする） ４）論文作成：データ等の分析ととりまとめ 課題については、各自の興味と能力を第一に尊重する。 エコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76043A01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	水環境保全技術の最新情報を得るには、国内外の情報を読み解くことが必要である。そこで、適当なキーワードを選んで、水環境保全技術に関する学術論文を検索し、得られた学術論文を読んで理解する技術を習得させる。最初は国内で発行されている日本語の原著論文を受講生が検索し、その中から適当な原著論文を選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。原著論文を読むことで、原著論文のスタイルに慣れさせるとともに、原著論文をどのように読み解くのかを習得させる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講生の発表内容（６０％）、質疑応答内容（４０％）		
到達目標	水環境保全技術に関する国内の情報を収集する方法を習得し、その内容を読解する力を付ける		
準備学習	選んだ論文を事前に十分に読んでおくこと。		
受講者への要望			
論文の内容について、理解できない部分を教員にくり返し質問して、理解に努めること			
講義の順序とポイント			
1. 原著論文とは何か、研究とは何かの基本的な事項を講義する。 2. イネターネットなどを使用して文献検索を行って、適当な原著論文を選ぶ。 3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。 4. 受講生による発表と質疑応答（1） 5. 受講生による発表と質疑応答（2） 6. 受講生による発表と質疑応答（3） 7. 受講生による発表と質疑応答（4） 8. 受講生による発表と質疑応答（5） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評（1） 10. 受講生による発表と質疑応答（6） 11. 受講生による発表と質疑応答（7） 12. 受講生による発表と質疑応答（8） 13. 受講生による発表と質疑応答（9） 14. 受講生による発表と質疑応答（１０） 15. 受講生による発表に対する総合的な講評（2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76043B01
科目名	【院】水環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	水環境保全技術の最新情報を得るには、国内からの情報だけでなく、海外からの情報も読んで理解することが必要である。そこで、水環境保全技術に関する英文の情報を検索し、得られた英文の学術論文を読んで理解する技術を習得させる。まず、英語の原著論文を受講生が検索し、その中から適切なものを選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。英文の原著論文を読むことで、独特のスタイルや、専門的な英単語に慣れるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	受講生の発表内容（６０％）、質疑応答内容（４０％）		
到達目標	水環境保全技術に関する英文の情報を読解する力をつける		
準備学習	選んだ英語の論文を事前に読んで、理解に努めること。		
受講者への要望			
英文を翻訳しただけでは、理解したことにはならず、その内容を把握することが論文を理解するということであり、わからないところは、教員に質問して理解に努めること。			
講義の順序とポイント			
1. 文献検索を行って、適当な英文の原著論文を選ぶ 2. 英文の原著論文を読むに当たっての基本を講義する 3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。 4. 受講生による発表と質疑応答（１） 5. 受講生による発表と質疑応答（２） 6. 受講生による発表と質疑応答（３） 7. 受講生による発表と質疑応答（４） 8. 受講生による発表と質疑応答（５） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評（１） 10. 受講生による発表と質疑応答（６） 11. 受講生による発表と質疑応答（７） 12. 受講生による発表と質疑応答（８） 13. 受講生による発表と質疑応答（９） 14. 受講生による発表と質疑応答（１０） 15. 受講生による発表に対する総合的な講評（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76043C01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J76043D01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76044007
科目名	【院】水環境特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，修士論文を完成させるために必須の事項を教える． 　受講生との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，修士論文としてまとめる．		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて紹介する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書．		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする．		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること．		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること．			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と新たな課題の発掘 36-50.　研究データの収集 51-55.　研究成果の総合評価 56-60.　研究成果のとりまとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J76045A01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	修士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する。各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。		
教材（テキスト）	研究課題に即した国際学術文献を選定する		
教材（参考文献）	必要に応じて、各自に紹介する		
教材（その他）			
評価方法	・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	修士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である。		
準備学習	都市環境の中で水や緑に関する情報はメディアに取り上げられることが多いので、注意して情報を収集しておいてください。「里地里山文化論」は通読しておくこと。		

受講者への要望

社会とのつながりを軸に持てるよう視野を広く持ち、専門について知見を深めていってほしい。

講義の順序とポイント

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J76045B01
科目名	【院】都市自然化特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市及びそれを含む流域全体における水と環境分野を中心とした解析・評価手法について学ぶ。特に GIS とリモートセンシングに係る比較的高度な手法を用いることで、水系解析、土地利用分類、動植物の生息空間評価、流域診断などの基本的な手法を習得する。使用するソフトウエアは ArcGIS、TNTmips など比較的この分野で幅広く使用されているものを対象とする。都市・地域・流域などの空間的広がりのある範囲において GIS とリモートセンシングを縦横に利活用できる技術を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	図解 Ar c GIS　GIS 実践に向けてのステップアップ（川崎昭如他）古今書院 自然環境解析のためのリモートセンシング・GIS ハンドブック（長澤良太他）古今書院		
教材（その他）			
評価方法	流域解析（30%）、指標解析（30%）、生物生息空間評価（40%）		
到達目標	都市・地域空間の解析ツールとしての GIS 技術の習得		
準備学習	都市地域空間の解析すべき内容について各自で整理しておいてください。		

受講者への要望

自然環境解析に用いる情報解析技術については社会でよく取り上げられるので注意して情報を収集してください。

講義の順序とポイント

1 . ArcGIS の基本操作
2 .ArcGIS と GoogleEarth
3 .ArcGIS の ToolBox の使い方
4 .ArcGIS のエクステンションの使い方（Spatial Analyst）
5 .ArcGIS のエクステンションの使い方(3D Analyst)
6 .ArcGIS のエクステンションの使い方(その他のエクステンション）
7 .ArcGIS のエクステンション（バランスツールボックスの使い方）
8 .ArcGIS による流域解析 1
9 .ArcGIS による流域解析 2
10 .ArcGIS による指標解析 1
11 .ArcGIS による指標解析 2
12 .ArcGIS による指標解析 3
13 .ArcGIS による生物生息空間評価 1
14 .ArcGIS による生物生息空間評価 2
15 .ArcGIS による生物生息空間評価 3

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J76045C01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	地形の高低差に着眼してフィールドワークにより、地域の歴史、文化を探る方法論について学ぶ。地形や地質の形成は理学の分野であり、歴史や文化は人文社会系であり、文理連携よる手法により展開する。この手法は、NHK のテレビ番組「ブラタモリ」で広く社会に行き渡り、新しい視点による地域理解を提供してくれることが特徴となっている。本講義では、実際にテレビ番組を見ることなど、文理連携のイメージを最初に形成し、実際おフィールドワークを重ねることで学ぶ		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークのレポートや講義終盤の総合討論への参加により総合評価する		
到達目標	地形の高低差から隠された地域の歴史や文化などの痕跡を知る手法を理解する		
準備学習	事前にビデオや PDF 書籍などに目をとおして、各地の地域理解をしておくこと		
受講者への要望			
フィールドワークでの歩くことが基本となるので、リュック、靴、防止等、自由に動ける準備をしておくこと			
講義の順序とポイント			
1.　地形の高低差から歴史を学ぶ 2-5　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 1 6-9　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 2 9--12　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 3 13.-15　総合討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J76045D01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市空間における新しい環境指標及び生物指標の開発を行う。既存の環境指標及び生物指標についての整理したのち、都市空間において今後必要とされる新しい指標について考察を加える。複数の新しい指標の概念を明らかにし、これらの指標を用いて実際に複数の都市を対象とした空間評価を行う。新しい指標としては、水循環、持続可能性、エコロジカルフットプリント、地産地消、ヒートアイランド、幸せの指標など、これからの新しい都市の在り方を検討する上で重要と考えられる概念を掘り下げることとする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	環境指標　その考え方と作成手法（内藤正明他）学陽書房 環境指標の展開（内藤正明他）学陽書房 エコロジカルフットプリント（和田喜彦監訳）合同出版		
教材（その他）			
評価方法	既存の指標のレビュー（30%）、新しい指標の概念（30%）、都市環境の評価（40%）		
到達目標	新しい環境指標及び生物指標の構築		
準備学習	2 箇所以上都市で起きている特徴的なエコロジカルな活動を探し、その情報を収集し現地確認をしてショートレポートを作成しておいてください		
受講者への要望			
参考図書の 1，2 について読み込んでおいてください。			
講義の順序とポイント			
1 .環境指標と生物指標について（イントロダクション） 2 .既存の環境指標・生物指標の整理 1 3 .既存の環境指標・生物指標の整理 2 4 .既存の環境指標・生物指標の整理 3 5 .新しい環境指標の概念づくり 1 6 .新しい環境指標の概念づくり 2 7 .新しい環境指標の概念づくり 3 8 .新しい環境指標の概念づくり 4 9 .新しい環境指標の概念づくり 5 10 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 1 11 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 2 12 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 3 13 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 4 14 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 5 15 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 6			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76046007
科目名	【院】都市自然化特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	都市自然化研究室での修士論文作成のために必要となる研究スキルを磨くことと、研究テーマの絞り込みのための文献調査を中心に行う。人数も限定されることから学部までの大勢の講義形式ではなく、学生と教員とで適宜定期的にとれる時間をみて行うこととする。研究スキルとしては、論文の書き方、英語論文の読み方、現場での調査手法の取得、GIS やリモセンデータの使い方、空間的な解析手法などについて学生が主体として行い、教員が適宜アドバイスを取る形とする。研究テーマの絞り込みに関しては、幅広い文献を継続的に読むことと、現地での調査を繰り返すことによって進めていくものとする。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した学術文献を選定する		
教材（参考文献）	必要に応じて、紹介する		
教材（その他）			
評価方法	・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること		
準備学習	これまでの研究・学習を整理しておくこと。		
受講者への要望			
幅広い情報収集と進化させる研究を進展させるよう努めてください。			
講義の順序とポイント			
研究の進展に基づいて適宜指導する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J76047A01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生物の行動、生態を通じて、自然現象を理解する基本的な理論、手法などを豊富な研究例から学び、フィールドサイエンスとしての行動学、生態学の研究を遂行する基礎的な素養を修得する		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	生物の行動や生態について、観測事実を論理的に理解する視点を涵養し、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力の修得		
準備学習	配布資料を精読した上で、講義に臨むこと。また、日常から、自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般、生物一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
１）野外調査の基礎１ ２）野外調査の基礎２ ３）野外調査の基礎３ ４）野外調査の基礎４ ５）野外調査の基礎５ ６）野外研究調査事例１ ７）野外研究調査事例２ ８）野外研究調査事例３ ９）野外研究調査事例４ １０）野外研究調査事例５ １１）野外実験方法１ １２）野外実験方法２ １３）野外実験方法３ １４）野外実験方法４ １５）野外実験方法５			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76047B01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から研究する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて議論する。		
教材（テキスト）	宇野　良清　他　訳　『キッテル　固体物理学入門』　丸善（７，０００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般，物理学一般，量子物理学，固体物理学を自学自習することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．結晶構造総論（１） ２．結晶構造総論（２） ３．結晶構造総論（３） ４．Ｘ線回折総論（１） ５．Ｘ線回折総論（２） ６．Ｘ線回折総論（３） ７．結晶解析総論（１） ８．結晶解析総論（２） ９．結晶解析総論（３） 10．分子結合総論（１） 11．分子結合総論（２） 12．分子結合総論（３） 13．結晶結合総論（１） 14．結晶結合総論（２） 15．結晶結合総論（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76047C01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	生物の行動、生態を通じて、自然現象を理解する基本的な理論、手法などを豊富な研究例から学び、フィールドサイエンスとしての行動学、生態学の研究を遂行する基礎的な素養を修得する		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	生物の行動や生態について、観測事実を論理的に理解する視点を涵養し、目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力の修得		
準備学習	配布資料を精読した上で、講義に臨むこと。また、日常から、自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般、生物一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
１）統計解析方法１ ２）統計解析方法２ ３）統計解析方法３ ４）統計解析方法４ ５）統計解析方法５ ６）データの可視化１ ７）データの可視化２ ８）データの可視化３ ９）データの可視化４ １０）データの可視化５ １１）プレゼンテーションの技法１ １２）プレゼンテーションの技法２ １３）プレゼンテーションの技法３ １４）プレゼンテーションの技法４ １５）プレゼンテーションの技法５			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76047D01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から研究する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて議論する。		
教材（テキスト）	宇野　良清　他　訳　『キッテル　固体物理学入門』　丸善（７，０００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学一般，物理学一般，量子物理学，固体物理学を自学自習することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．エネルギーバンド総論（１） ２．エネルギーバンド総論（２） ３．エネルギーバンド総論（３） ４．共有結晶総論（１） ５．共有結晶総論（２） ６．共有結晶総論（３） ７．金属結晶総論（１） ８．金属結晶総論（２） ９．金属結晶総論（３） 10．半導体総論（１） 11．半導体総論（２） 12．半導体総論（３） 13．光学物性総論（１） 14．光学物性総論（２） 15．光学物性総論（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76048007
科目名	【院】環境教育特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	人と多様な生きものが共生できる環境（バイオ環境）の実現のためには、この課題の本質を見極め、自分自身の問題として捉え、自分が実現可能な身近な課題から取り組んでいくことが重要です。このプロセスに関わる基礎研究、問題解決に向けた取り組み、啓発活動など、環境教育に必要な要素を俯瞰しつつ、問題の本質的理解に取り組みます。		
教材（テキスト）	適宜紹介する		
教材（参考文献）	意義紹介する		
教材（その他）	各自の研究課題に関連する論文など		
評価方法	研究に対する取り組み、研究成果などを総合的して判断する。		
到達目標	各自の研究課題に対して適宜目標を設定する。		
準備学習	必要に応じて指示する。		
受講者への要望			
各自の設定した課題に従って得られた観測事実に基づき、その本質を捉えて論理的に思考する訓練を積んでください。			
講義の順序とポイント			
1）研究課題の設定 2）研究課題の解決に向けた調査・研究計画策定 3）研究課題の解決に向けた調査・研究の実施 4）とりまとめ 研究課題は、環境教育に関連する環境に関する基礎調査、環境問題を解決するための取り組み、環境問題に関する啓発活動など、各自の関心に従って、設定する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76049A01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山の環境について、生理・生態的側面も含めて、いくつかの文献を精読・理解して、研究の背景、研究方法、結果と考察などについて報告する。さらに、その内容についての議論を行い、研究論文の評価能力を涵養する。また、課題を課し、それについて検討し発表する。		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中で紹介する。		
教材（その他）	基本的な文献資料を配付する。		
評価方法	論文などの読解力（５０％）、フィールドでの観察力と考察力（２０％）、発表内容の構想力（３０％）で評価する。		
到達目標	里山の生態系と生業のかかわりを理解する。		
準備学習	日頃から里山保全や環境についての論文に目を通しておく。		
受講者への要望			
植物を見る眼を十分に養うことを望む。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）文献輪読〔１〕（学生の発表と質疑） 3）文献輪読〔２〕（学生の発表と質疑） 4）文献輪読〔３〕（学生の発表と質疑） 5）〔１〕、〔２〕、〔３〕のまとめの討論および補則解説 6）文献輪読〔４〕（学生の発表と質疑） 7）文献輪読〔５〕（学生の発表と質疑） 8）文献輪読〔６〕（学生の発表と質疑） 9）〔４〕、〔５〕、〔６〕のまとめの討論および補則解説 10）フィールドでの実習討論〔１〕 11）フィールドでの実習討論〔２〕 12）課題についての発表〔１〕 13）課題についての発表〔２〕 14）課題についての発表〔３〕 15）各課題の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76049B01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山や農・森林環境に関係する文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用するための能力を涵養する。		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語文献を使用。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０％）、内容の理解度（７０％）、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０％）の割合で評価する。		
到達目標	文献の読解力の育成		
準備学習	英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと。		
受講者への要望			
生産を基本とした環境デザインの構築を理解した新しい考え方を展開してほしい。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）英語の基礎的な論文を読解する（1） 3）英語の基礎的な論文を読解する（2） 4）英語の基礎的な論文を読解する（3） 5）英語の基礎的な論文を読解する（4） 6）英語の基礎的な論文を読解する（5） 7）（1）～（5）の内容などについての討論 8）フィールドでの実証・実体験（1） 9）英語の基礎的な論文を読解する（6） 10）英語の基礎的な論文を読解する（7） 11）英語の基礎的な論文を読解する（8） 12）英語の基礎的な論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容などについての討論 14）フィールドでの実証・実体験（2） 15）フィールドでの各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76049C01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	里山や農・森林環境に関する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	教員と相談して選んだ英文文献		
教材（その他）	特になし		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%）．内容の理解度（７０%）．発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。		
到達目標	論文の読み方と発表のスキルを修得する。		
準備学習	日々興味のある論文に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
関連論文を事前によく読んでおくこと。			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）英語論文を読解する（1） 3）英語論文を読解する（2） 4）英語論文を読解する（3） 5)英語論文を読解する（4） 6）英語論文を読解する（5） 7）（1）～（5）内容をもとに討論 8）フィールドでの実証・実体験（1） 9）英語論文を読解する（6） 10）英語論文を読解する（7） 11)英語論文を読解する（8） 12)英語論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容をもとに討論 14）フィールドでの実証・実体験（2） 15）フィールドでの各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J76049D01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでに学んだ里山環境デザイン特別演習を基本として、各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて、農・森林環境デザインに関わる論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語論文の文献		
教材（参考文献）	その都度与える。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	第６回までにつて、英語文献の選択の適切さ（１０%）、内容の理解度（４０%）、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。第７回以降は、作成論文の内容の適切さ（３０%）、発表方法（１０%）で評価する。		
到達目標	里山環境に関する論文の読破と論文の書き方を修得する。		
準備学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと。		

受講者への要望

自然の観察を日々行っておくこと。

講義の順序とポイント

1) 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（１）
3) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（２）
4) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（３）
5) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（４）
6) 関連英語論文を解読し、発表と質疑（５）
7) 担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘
8) 担当教員による論文作成のスキルを解説する。
9) 受講生が作成した論文に対する質疑（１）
10) 受講生が作成した論文に対する質疑
11) 受講生が作成した論文に対する質疑
12) 受講生が作成した論文に対する質疑
13) 受講生が作成した論文に対する質疑
14) 各人の論文内容の概要発表。
15) 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J76050007
科目名	【院】里山環境特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義． 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる．		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書．		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%）， 実験計画の策定と独創性（20%）， 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%）， 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%）， 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする．		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること．		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること．			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 31-35.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 36-40.　研究成果の公開手手法の検討 41-45.　テクニカルライティングの検証 46－50.　関連分野の研究内容の整理と吟味 51-55.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 56-60.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76051A01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	生産と環境について，生理・生態的側面も含めて，いくつかの文献を精読・理解して研究の背景，研究方法，結果と考察などについて報告する．さらに，その内容についての議論を行い研究論文の評価能力を涵養する．また，課題を課しそれについて検討し発表する．		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する．		
教材（参考文献）	講義の中で紹介する．		
教材（その他）	基本的な文献資料を配付する．		
評価方法	論文などの読解力（５０％），フィールドや実験室での観察力と考察力（２０％），発表内容の構想力（３０％）で評価する．		
到達目標	食料生産技術の基礎を理解する．		
準備学習	日頃から食料生産についての論文に目を通しておく．		
受講者への要望			
常日頃から植物を見る目を養うよう心がけること．			
講義の順序とポイント			
1）概要と意図説明 2）文献輪読〔１〕（学生の発表と質疑） 3）文献輪読〔２〕（学生の発表と質疑） 4）文献輪読〔３〕（学生の発表と質疑） 5）〔１〕、〔２〕、〔３〕のまとめの討論および補則解説 6）文献輪読〔４〕（学生の発表と質疑） 7）文献輪読〔５〕（学生の発表と質疑） 8）文献輪読〔６〕（学生の発表と質疑） 9）〔４〕、〔５〕、〔６〕のまとめの討論および補則解説 10）フィールドでの実習討論〔１〕 11）フィールドでの実習討論〔２〕 12）課題についての発表〔１〕 13）課題についての発表〔２〕 14）課題についての発表〔３〕 15）各課題の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76051B01
科目名	【院】農業生産学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	農業生産に関係する文献・原著論文等を的確に収集し，整理してまとまった情報として理解し，これを問題点解決に活用するための能力を涵養する.		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語文献を使用。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０％），内容の理解度（７０％），発表の取りまとめや表現の適切さ（１０％）の割合で評価する.		
到達目標	文献の読解力の育成.		
準備学習	英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと.		
受講者への要望			
文献から得られる新しい知見を元にして，農業生産に関わる新しい考え方を展開してほしい.			
講義の順序とポイント			
1) 概要と意図説明 2) 英語の基礎的な論文を読解する（1） 3) 英語の基礎的な論文を読解する（2） 4) 英語の基礎的な論文を読解する（3） 5) 英語の基礎的な論文を読解する（4） 6) 英語の基礎的な論文を読解する（5） 7) （1） ～ （5） の内容などについての討論 8) 圃場･実験室での実証・実体験（1） 9) 英語の基礎的な論文を読解する（6） 10) 英語の基礎的な論文を読解する（7） 11) 英語の基礎的な論文を読解する（8） 12) 英語の基礎的な論文を読解する（9） 13) （6）～（9）の内容などについての討論 14) 圃場･実験室での実証・実体験（2） 15) 圃場･実験室での各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J76051C01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	農業生産と環境に関する文献・原著論文の読解力に加えて，関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し，整理してまとまった情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養する.		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	教員と相談して選んだ英文文献.		
教材（その他）	特になし		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%）. 内容の理解度（７０%）. 発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する.		
到達目標	論文の読み方と発表のスキルを修得する.		
準備学習	関連論文を事前によく読んでおくこと.		
受講者への要望			
関連論文を事前によく読んでおくこと.			
講義の順序とポイント			
1) 概要と意図説明 2) 英語論文を読解する（1） 3) 英語論文を読解する（2） 4) 英語論文を読解する（3） 5)英語論文を読解する（4） 6) 英語論文を読解する（5） 7) （1）～（5）内容をもとに討論 8) 圃場･実験室での実証・実体験（1） 9) 英語論文を読解する（6） 10) 英語論文を読解する（7） 11)英語論文を読解する（8） 12)英語論文を読解する（9） 13) （6）～（9）の内容をもとに討論 14) 圃場･実験室での実証・実体験（2） 15) 圃場･実験室での各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76051D01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	これまでに学んだ農業生産学特別演習を基本として，各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて，農業生産に関わる論文作成のためのスキルを養成する.		
教材（テキスト）	教員と相談して選んだ英語論文の文献.		
教材（参考文献）	その都度配布する.		
教材（その他）	特になし		
評価方法	第６回までにつては英語文献の選択の適切さ（１０%），内容の理解度（４０%），発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する．第７回以降は作成論文の内容の適切さ（３０%），発表方法（１０%）で評価する.		
到達目標	農業生産に関する論文の読破と論文の書き方を修得する.		
準備学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと.		

受講者への要望

自然における植物の観察を日々行っておくこと.

講義の順序とポイント

1）担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する.
2）関連英語論文を解読し，発表と質疑（１）
3）関連英語論文を解読し，発表と質疑（２）
4）関連英語論文を解読し，発表と質疑（３）
5）関連英語論文を解読し，発表と質疑（４）
6）関連英語論文を解読し，発表と質疑（５）
7）担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘
8）担当教員による論文作成のスキルを解説する.
9）受講生が作成した論文に対する質疑（１）
10）受講生が作成した論文に対する質疑
11）受講生が作成した論文に対する質疑
12）受講生が作成した論文に対する質疑
13）受講生が作成した論文に対する質疑
14）各人の論文内容の概要発表。
15）担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J76052007
科目名	【院】農業生産学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	研究論文の構成力・書き方について論述し，論文を作成する.		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	適宜資料を配付し，教材などを指示する.		
教材（その他）	基本的な文献・資料を配付する.		
評価方法	論文の完成度（70%）と発表力（30%）について評価する.		
到達目標	論文の完成.		
準備学習	これまでの学習課題のまとめ.		
受講者への要望			
常に新しい発見があるように努める.			
講義の順序とポイント			
1）はじめに 2）論文作成に向けての課題についての検討 3）論文作成に向けての課題についての検討 4）論文の構成について 5）論文の構成について 6）研究論文作成に向けての実験・実習 7）研究論文作成に向けての実験・実習 8）研究論文作成に向けての実験・実習 9）研究論文作成に向けての実験・実習 10）研究論文作成に向けての実験・実習 11）研究論文作成に向けての実験・実習 12）研究論文作成に向けての実験・実習 13）研究論文作成に向けての実験・実習 14）論文のまとめについての検討 15）完成論文についての検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76053A01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、研究者の倫理や研究に関する倫理について学び、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	講義資料あるいは受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%）、（２）研究目的の理解度（20%）、（３）研究手法の理解度（20%）、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	研究者や研究に対する倫理について理解を深め、次いで農地環境に対する技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 研究者の倫理や研究に対する倫理について
2. 担当教員より文献の読み方（１）
3. 担当教員より文献の読み方（２）
4. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
14. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
15. 受講生による演習に関する意見発表と改善点の提案

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J76053B01
科目名	【院】農地環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。また農地環境に関連する事業所やプロジェクト先を訪問・見学し、現場での研究者や技術者との意見交換を行う。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）文献選択の適正度（20%)、（２）研究目的の理解度（20%)、（３）研究手法の理解度（20%)、（４）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%)、（５）質疑への参加度（20%）		
到達目標	農地環境に関連した分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。またこの分野の研究や技術の現況の一端を理解する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。事業所やプロジェクト訪問は、事前にその事業所やプロジェクト内容を調べておくこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 農地環境分野の特別演習Ｉの習熟度評価
2. 文献の検索、収集、整理法および演習
3. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
4. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
5. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
6. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
7. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
8. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
9. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
10. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
11. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
12. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
13. 受講生の発表と質疑（農地環境に関する文献）
14. 農地環境に関連する事業所やプロジェクトを訪問・見学・意見交換（適宜）
15. 農地環境に関連する事業所やプロジェクトを訪問・見学・意見交換（適宜）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J76053C01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、農地環境特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げ、パワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講者が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%)、（４）質疑への参加度（20%）		
到達目標	農地環境及び関連する分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うため、原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力、取りまとめて発表する能力などを修得し、あわせて問題点解決に活用する能力も修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。このための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（１）
2. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（２）
3. 受講生の発表と質疑（１）
4. 受講生の発表と質疑（２）
5. 受講生の発表と質疑（３）
6. 受講生の発表と質疑（４）
7. 受講生の発表と質疑（５）
8. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１）
9. 受講生の発表と質疑（６）
10. 受講生の発表と質疑（７）
11. 受講生の発表と質疑（８）
12. 受講生の発表と質疑（９）
13. 受講生の発表と質疑（１０）
14. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76053D01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げる。　またパワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなどを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（１）問題設定の適正度（30%)、（２）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（３）論文作成および発表能力（50%）		
到達目標	ある分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
準備学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生 1～２名を割り当てる。前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表し、参加者を含めて質疑応答を行う。このための準備を常に行っておくこと。

講義の順序とポイント

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2. 受講生の発表と質疑（１）
3. 受講生の発表と質疑（２）
4. 受講生の発表と質疑（３）
5. 受講生の発表と質疑（４）
6. 受講生の発表と質疑（５）
7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8. 担当教員による論文作成のスキルの解説
9. 受講生が作成した論文に対する質疑（１）
10. 受講生が作成した論文に対する質疑（２）
11. 受講生が作成した論文に対する質疑（３）
12. 受講生が作成した論文に対する質疑（４）
13. 受講生が作成した論文に対する質疑（５）
14. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘
15. まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76054007
科目名	【院】農地環境特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	研究を自立的に実施できる能力を涵養する。具体的には、研究テーマの設定、研究背景認識、実験計画の設定、実験の実施、実験結果の解析・取りまとめ、考察、論文作成、発表に必要な能力を鍛錬する。		
教材（テキスト）	適宜、原著論文、実験マニュアル、機器取扱い書などを提示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	研究立案（30%）、研究実施（15%）、結果の解析（30%）、発表・論文作成（25%）、		
到達目標	自立して技術開発あるいは研究を行える能力の修得を目標とする。		
準備学習	日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他の研究発表などを聞くこと。		

受講者への要望

①日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他者の研究発表などを聞き、自分の研究課題実施に役立てること。
②幅広く科学的思考能力の向上に努めること。

講義の順序とポイント

１．はじめに
２－６．文献検索と修士論文のテーマ決定
７－１０．調査および実験計画立案
１１－１５．実験調査の実施
１６．進捗状況報告と計画の見直し
１７－２９．実験調査の実施
３０．中間報告の取りまとめおよび計画の見直し
３１－４４．実験調査の実施
４５．進捗状況報告
４６－５２．実験調査の実施
５３－５５．データの取りまとめ
５６－５８．修士論文作成
５９－６０．口頭発表準備

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J76055A01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要があり、それには、様々な文献や原著論文に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の要件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
１）　担当教員による文献の読み方についての講述（１） ２）　担当教員による文献の読み方についての講述（２） ３）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献１） ４）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献２） ５）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献３） ６）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献４） ７）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献５） ８）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献１） ９）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献２） １０）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献３） １１）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献１） １２）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献２） １３）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献３） １４）　受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献１） １５）　受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76055B01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要があり、それには、様々な文献や原著論文に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献・原著論文の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学特別演習 I で修得した内容を基盤として、発酵醸造学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
１）　担当教員による発酵醸造学特別演習 I の習熟度評価 ２）　担当教員による文献の収集・整理についての講述 ３）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文１） ４）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文２） ５）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文３） ６）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文１） ７）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文２） ８）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文３） ９）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文４） １０）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文１） １１）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文２） １２）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文３） １３）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文４） １４）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文５） １５）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76055C01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめ上げる能力を養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	微生物学に関する文献・原著論文を受講生がまとめた資料（各回ごとに配布する）		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、その内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。			
講義の順序とポイント			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（1） 2）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（1） 4）　受講生の発表と質疑（2） 5）　受講生の発表と質疑（3） 6）　受講生の発表と質疑（4） 7）　受講生の発表と質疑（5） 8）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1） 9）　受講生の発表と質疑（6） １０）　受講生の発表と質疑（7） １１）　受講生の発表と質疑（8） １２）　受講生の発表と質疑（9） １３）　受講生の発表と質疑（１０） １４）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2） １５）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76055D01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、発酵醸造学領域における論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	受講生が作成したレジュメなど。		
評価方法	選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	査読誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。		
準備学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
前半は発酵醸造学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生が作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
講義の順序とポイント			
１）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 ２）　受講生の発表と質疑（１） ３）　受講生の発表と質疑（２） ４）　受講生の発表と質疑（３） ５）　受講生の発表と質疑（４） ６）　受講生の発表と質疑（５） ７）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 ８）　担当教員による論文作成のスキルの解説 ９）　受講生が作成した論文に対する質疑（１） １０）　受講生が作成した論文に対する質疑（２） １１）　受講生が作成した論文に対する質疑（３） １２）　受講生が作成した論文に対する質疑（４） １３）　受講生が作成した論文に対する質疑（５） １４）　担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 １５）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76056007
科目名	【院】発酵醸造学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	発酵醸造学領域における学術研究を通して、その専門知識と技術を高いレベルで修得する。発酵醸造物の生産プロセスの開発と改善、そこで微生物の果たす役割の解明、発酵醸造物の付加価値向上に資する科学的知見の集積といった課題に関して研究開発を行い、その成果を修士論文としてまとめる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
評価方法	学術研究と修士論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・修士論文の論理性（25%） ・修士論文の学問的到達度（25%）		
到達目標	1）発酵醸造学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。 2）発酵醸造分野の学問的意義のある修士論文の完成。		
準備学習	「発酵醸造学会誌」などの関連学会誌を精読する。		

受講者への要望

・発酵醸造の技術開発をテーマとした学術研究に受講者一人一人が取り組む。
・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。
・発酵醸造をテーマとした学術研究への 2 年間の徹底的な没頭を求める。

講義の順序とポイント

1 研究課題の検討（1）
2 研究課題の検討（2）
3 研究課題の検討（3）
4 研究課題の検討（4）
5 研究課題についての調査（1）
6 研究課題についての調査（2）
7 研究課題についての調査（3）
8 研究課題についての調査（4）
9 研究課題の設定（1）
10 研究課題の設定（2）
11 実験計画（1）
12 実験（1）
13 実験結果の検討（1）
14 実験計画（2）
15 実験（2）
16 実験結果の検討（2）
17 実験計画（3）
18 実験（3）
19 実験結果の検討（3）
20 実験計画（4）
21 実験（4）
22 実験結果の検討（4）
23 実験計画（5）
24 実験（5）
25 実験結果の検討（5）
26 実験計画（6）
27 実験（6）
28 実験結果の検討（6）

29 実験計画（7）
30 実験（7）
31 実験結果の検討（7）
32 実験計画（8）
33 実験（8）
34 実験結果の検討（8）
35 実験計画（9）
36 実験（9）
37 実験結果の検討（9）
38 実験計画（１０）
39 実験（１０）
40 実験結果の検討（１０）
41 実験計画（１１）
42 実験（１１）
43 実験結果の検討（１１）
44 実験計画（１２）
45 実験（１２）
46 実験結果の検討（１２）
47 実験計画（１３）
48 実験（１３）
49 実験結果の検討（１３）
50 実験計画（１４）
51 実験（１４）
52 実験結果の検討（１４）
53 論文の構成の検討（1）
54 論文の構成の検討（2）
55 論文の作成（1）
56 論文の作成（2）
57 論文の作成（3）
58 論文の作成（4）
59 完成論文についての検討（1）
60 完成論文についての検討（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J76057A01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品科学および食品加工学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学あるいは食品加工学に関する文献（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容を迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的・技術的観点から把握できる。明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員より文献の検索法について講述する。
２．担当教員より文献の読み方について講述する（１）。
３．担当教員より文献の読み方について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献３）
１０．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献１）
１１．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献２）
１２．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献３）
１３．受講生の発表と質疑（食品物性評価に関する文献１）
１４．受講生の発表と質疑（食品物性評価に関する文献２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する文献１）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76057B01
科目名	【院】食品加工学特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品科学および食品加工学で修得した内容を基盤として、食品科学および食品加工学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（テキスト）	食品科学あるいは食品加工学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的･技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。		
準備学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講者への要望

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

１．担当教員による食品加工学特別演習Ｉの習熟度評価。
２．担当教員より文献の収集・整理について講述する（１）。
３．担当教員より文献の収集・整理について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
１０．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文１）
１１．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文２）
１２．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文３）
１３．受講生の発表と質疑（食品の物性に関する原著論文１）
１４．受講生の発表と質疑（食品の物性に関する原著論文２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76057C01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品加工学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献･原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献･原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。		
教材（テキスト）	取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。		

受講者への要望

受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

講義の順序とポイント

1．文献・原著論文の収集・整理法の講述
2．受講生の発表と質疑（1）
3．受講生の発表と質疑（2）
4．受講生の発表と質疑（3）
5．受講生の発表と質疑（4）
6．受講生の発表と質疑（5）
7．受講生の発表と質疑（6）
8．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9．受講生の発表と質疑（7）
10．受講生の発表と質疑（8）
11．受講生の発表と質疑（9）
12．受講生の発表と質疑（10）
13．受講生の発表と質疑（11）
14．受講生の発表と質疑（12）
15．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76057D01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	食品加工学特別演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。		
教材（テキスト）	受講生が作成したレジュメなど。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。		
準備学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。		
受講者への要望			
前半は食品加工学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
講義の順序とポイント			
１．受講生の発表と質疑（１） ２．受講生の発表と質疑（２） ３．受講生の発表と質疑（３） ４．受講生の発表と質疑（４） ５．受講生の発表と質疑（５） ６．受講生の発表と質疑（６） ７．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 ８．論文作成のスキルを解説 ９．受講生が作成した論文に対する質疑（１） １０．受講生が作成した論文に対する質疑（２） １１．受講生が作成した論文に対する質疑（３） １２．受講生が作成した論文に対する質疑（４） １３．受講生が作成した論文に対する質疑（５） １４．受講生が作成した論文に対する質疑（６） １５．受講生の作成論文の評価と問題点の指摘			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76058007
科目名	【院】食品加工学特別研究	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	野菜・作物の食品加工および加工物の応用あるいは食品加工に伴う食品成分の化学的変化や食品の物性に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	修士論文(90%)および口頭発表(10%)で評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。		
準備学習	研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。		
受講者への要望			
原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。			
講義の順序とポイント			
1．テーマの企画・設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．実験計画の立案 4．テーマの取り組み 5．修士論文の作成 6．研究の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76059001
科目名	【院】分子生命科学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
講義概要	本講義では、化学生態学および天然物化学分野と分子生物学分野から講義を行う。化学生態学分野からは、昆虫類を対象とした最近の研究の進歩を紹介する。具体的には、近年著しく進歩した機器分析手法の解説やそれらの進歩により可能となった少量の材料による実験法、それに伴う微量天然物の取扱い手法について、生物有機化学研究室に蓄積されたダニ類のフェロモン、ガ類や甲虫類のフェロモンや行動科学の研究成果を中心にした知見を事例に紹介する。分子生物学分野からは、最新の生命科学の発見を理解できる素養を身につけるため、まず、細胞の内外からの多様なシグナル伝達因子とその作用経路について、聴いて学び、読んで学び、さらに説明するという実践的なスタイルで理解度を深め、疾患関連タンパク質の機能解析やプロテオーム解析を理解し、創薬や細胞イメージング・ダイナミクス研究の現状と展望についての理解を深める。これによって現行技術を理解し、それを基にして関連分野の技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	各項目に関連する資料をパワーポイントやプリントなどで提供する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各項目に対してレポート提出を課し、次の 3 項目の理解度および習熟度で評価する。 ・化学生態学および分子生物学の応用と社会的基盤（30%） ・各知見・手法・技術の有機化学および分子生物学的基盤（40%） ・関連課題の調査と整理（30%）		
到達目標	生物有機化学および分子生物学の観点から生命科学全体について、とりわけ最新の知見を中心に種々の現象を理解し、有機化学的および分子生物学的基盤に基づき、説明できる学問基盤を身につける。		
準備学習	事前に配布する参考文献や資料の概要を把握しておく。		

受講者への要望

上記の評価基準に照らして、各項目のレポートを作成し、期限までに提出すること。

講義の順序とポイント

1. コガネムシ類のフェロモンと機能
2. カミキリムシフェロモンと植物との関わり
3. ガ類の性フェロモンとその利用
4. 土壌動物のフェロモンの化学
5. 土壌動物のフェロモンの有機合成
6. 土壌動物のフェロモンの生合成
7. 生理活性物質の構造と物性
8. 生理活性物質の標的タンパク質に対する作用
9. 標的タンパク質の同定

細胞の内外からの多様なシグナル伝達因子とその作用経路について

10. ”聴いて，学ぶ”スタイルで，講演会や学会の発表を理解する．
11. 事前に”読んで，調べて学ぶ”スタイルで，最新の文献などの探求をおこなう．
12. 各自に与えられた課題を”説明する”スタイルで，各 自の理解度や議論のスタイルを深める．

13. 疾患関連タンパク質の機能解析：神経変性疾患、がんなどに関連するタンパク質
14. プロテオーム解析の基本とその応用
15. 構造生物学とケミカルバイオロジー、創薬の現状と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J76060001
科目名	【院】生物機能開発特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	生物機能を用いる産業技術は、伝統的な食品製造技術を基盤として発展し、過去 100 年の間に化学工業、環境改善技術、医薬品製造などへとその領域を拡大してきた。今後は低炭素社会を支える中心的技術に発展すると考えられているが、この分野の日本の技術レベルは世界の最先端にあり、人類社会への貢献が強く期待される。本講義では、伝統的な醸造工業の技術基盤、化成品製造における微生物酵素の活用、抗生物質等の医薬品製造、汚染環境の改善技術等の事柄を，担当するそれぞれの先生の専門分野について具体例を示しながら解説する。それらの講義を基にして技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教材（その他）	各項目に関連する資料をプリント等で提供する。		
評価方法	各項目に対してレポートを課し、以下の 3 点の理解度および習熟度に基づいて評価する。 ・微生物産業の社会的基盤（30%） ・各技術の基盤となる微生物学および生化学的学問基盤（40%） ・各技術開発要素解析（30%）		
到達目標	微生物を用いる食品製造、物質生産、環境改善、医薬品製造等に関する技術開発の学問基盤に習熟する。		
準備学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講者への要望			
上記の評価基準に照らして各項目のレポートを作成し、期限までに提出する。			
講義の順序とポイント			
1）　序論 2）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類１） 3）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類２） 4）　伝統的な醸造工業の技術基盤（食酢、その他） 5）　化成品製造における微生物酵素の活用（微生物酵素の特徴） 6）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物１） 7）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物２） 8）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質１） 9）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質２） １０）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤１） １１）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤２） １２）　環境改善技術（廃水処理技術の微生物基盤） １３）　環境改善技術（微生物を用いる環境改善技術） １４）　環境改善技術（酵素を用いる環境改善技術） １５）　エネルギー生産と微生物			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J76061001
科目名	【院】環境再生特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	地球環境問題の深刻化を背景とした様々な環境課題への対応のありかたについて講義する。個々の現場や個別の技術のみならず、全体像の把握や新たな提案とその無理のない進め方、つまり環境に関する科学、技術、デザイン、マネジメントの観点から環境再生のありかたについて５人の専門家が担当するオムニバス講義である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	森本幸裕編著『 景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社 金川貴博著『ありがとう、微生物たち』東洋書店		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	出席状況等に配慮しつつ、５つのテーマごとに評価し、総合する。		
到達目標	時間的かつ空間的に階層的なランドスケープという見方を身につける。 微生物集団の力を環境の浄化に有効に利用するための基本的な考え方を身に付ける。 環境情報の地図化という手法を理解する。 水圏における環境問題に関してグローバル・ローカルな視野を身につける。		
準備学習	関連分野、情報処理に関する基礎的能力の向上にこころがけてください。 また、環境問題とその対応に関するマスコミ報道などにはこまめに目を通すとともに、これからの対応のありかたを自分で考える習慣を身につけてください。		
受講者への要望			
自分の専門とする領域にとらわれずに、さまざまな手法や課題に取り組んでください。			
講義の順序とポイント			
１．京都のランドスケープ：その重層的構造（森本） ２．ランドスケープデザインが開いた世界（森本） ３．これからのランドスケープデザイン（森本） ４．環境情報を集める（丹羽） ５．環境情報を分析・評価し地図化する①（丹羽） ６．環境情報を分析・評価し地図化する②（丹羽） ７．微生物集団を利用した環境関連技術の概要（金川） ８．DNA に着目した微生物集団解析方法（金川） ９．微生物集団の有効利用方法（金川） １０．私たちの暮らしに身近な生物の不思議について学ぶ（原） １１．私たちの暮らしに身近な水の不思議について学ぶ（原） １２．私たちの暮らしに身近な歩く道の多様性について学ぶ（原） １３．水圏における環境課題（高澤） １４．日本沿岸域の取り組み（高澤） １５．極域の環境学（高澤） （※担当者が適宜変更することがある）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J76062001
科目名	【院】生物・環境特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	環境について議論するための礎となる地球科学と生態学の両方の視点からバイオ環境の実現へのアプローチを探る。		
教材（テキスト）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（参考文献）	適宜、資料を配布、紹介する		
教材（その他）	適宜、資料を配布、紹介する		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する		
到達目標	研究課題となる環境問題に直面した時に、地球科学的な発想と生態学的な発想の二つの視点から、事象を理解することを修得すること		
準備学習	配布資料などを精読した上で、講義に臨むこと		
受講者への要望			
数学一般、物理一般、地球科学一般、生物学一般を自学自習することが望ましい			
講義の順序とポイント			
1）地球科学から見た環境へのアプローチ１ 2）地球科学から見た環境へのアプローチ２ 3）地球科学から見た環境へのアプローチ３ 4）地球科学から見た環境へのアプローチ４ 5）地球科学から見た環境へのアプローチ５ 6）生態学から見た環境へのアプローチ１ 7）生態学から見た環境へのアプローチ２ 8）生態学から見た環境へのアプローチ３ 9）土壌と植生から見た環境１ １０）土壌と植生から見た環境２ １１）土壌と植生から見た環境３ １２）環境に暮らす人１ １３）環境に暮らす人２ １４）環境に暮らす人３ １５）環境に暮らす人４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76063001
科目名	【院】食資源特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	人間が生きていくのに不可欠な物が食資源である．本講義においては植物由来の食資源を中心に，生産に関わる様々な土壌条件，環境要因，社会的要因について講じる．また，より優良な食資源を得るための園芸作物の育種についても述べる．さらに，食資源としての動物を含めた野生生物の利用についても講じる．		
教材（テキスト）	プリントで授業時に配布する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	5 人の担当教員がそれぞれ課すレポートによって評価する．		
到達目標	食資源のあり方について，多面的に考えることができるための知識を身につける．		
準備学習	本講義は，今まで学んできた里山，土壌，栽培，育種などに関する基礎的知識の発展型として位置づけている．これらの知識をあらかじめ整理して講義に臨むこと．		
受講者への要望			
日常生活においても食のあり方について考えていてほしい．マスコミでも報道される機会が多いテーマなので，常に関心を持っていてもらいたい．			
講義の順序とポイント			
1．食資源の成立（大城） 2．野菜を中心とした食資源の現状（大城） 3．野菜を中心とした食資源の今後（大城） 4．普通作物の特性とその利用　(1) イネ　（河田） 5．普通作物の特性とその利用　(2) コムギとオオムギ　（河田） 6．普通作物の特性とその利用　(3) ダイズとトウモロコシ　（河田） 7．農地土壌の特性（藤井孝） 8．土壌改良資材（藤井孝） 9．民間の土壌改良資材（藤井孝） 10．里山資源の特徴（藤井康） 11．農業とバイオマス（藤井康） 12．農地土壌の在り方（藤井康） 13．野生植物の利用（佐藤） 14．野生植物から栽培植物へ（佐藤） 15．栽培植物と環境要因（佐藤）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76064001
科目名	【院】食品開発特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	21 世紀の先進国社会において人々が食品に求める価値は、従来の「栄養」「安全」「美味しさ」にとどまらず、「健康の増進」「環境への配慮」「安心」「物語性」などといった、より高度かつ抽象的なものへと拡大している。そうした社会における食品の開発は、栄養学、食品衛生学、食品加工学といった伝統的な食品科学だけでなく、より幅広い視点からの検討を必要とする。 本講義では、本学で開発しようとする具体的な食品ないし醸造物について、市場調査から研究開発、生産、販売までの各プロセスを構築あるいは改善することを題材として、さまざまな専門家とともに講義やディスカッションを展開する。そのなかで、そうした高い付加価値を持つ食品を生み出すために必要な視点と考え方を体得することを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	１）On Food and Cooking: The Science and Lore of the Kitchen（2004）Harold McGee（著）Scribner ２）The Complete Meadmaker K. Schramm (2003) Brewers Publications		
教材（その他）	各項目に関連する資料をプリント等で提供する。		
評価方法	適宜レポートを課し、以下の 3 点の理解度および考察量を評価する。 ・食品開発の社会的側面（30%） ・食品開発の学問的・技術的側面（40%） ・ディスカッションへの寄与（30%）		
到達目標	実際の食品・醸造物の開発を通じて、食品開発に必要な諸要素を理解しながら、それに貢献できる総合的な力を身につける。		
準備学習	食品加工学や発酵醸造学といった食品開発の学問基盤に習熟するほか、社会の出来事や風潮といった時代性への感度を高めておく。		
受講者への要望			
上記の評価基準に照らしてレポートを作成し、期限までに提出する。			
講義の順序とポイント			
１）　序論 ２）　機能性食品の開発事例 ３）　加工食品の実際 ４）　最新の粉末化技術 ５）　食品加工と調理の科学１ ６）　食品加工と調理の科学２ ７）　食品加工と調理の科学３ ８）　村おこしのための農産物加工の事例 ９）　地域産醸造物の開発：歴史と文化１ １０）　地域産醸造物の開発：歴史と文化２ １１）　地域産醸造物の開発：原材料１ １２）　地域産醸造物の開発：原材料２ １３）　地域産醸造物の開発：醸造法１ １４）　地域産醸造物の開発：醸造法２ １５）　地域産醸造物の開発：醸造			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J76D01AAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01ABB
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01ACC
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01ADD
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01AEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01AFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01AGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01AHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01AII
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01AJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01AKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01ALL
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01AMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01ANN
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講者への要望			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
講義の順序とポイント			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01BFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01BGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BII
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01BNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考文献）	必要に応じて，紹介する．		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につけること．		
準備学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講者への要望			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
講義の順序とポイント			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J76D01CAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CII
科目名	【院】バイオ環境特別演習III	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science III		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01CNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
準備学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
講義の順序とポイント			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DII
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01DNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01ECC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EII
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01ELL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01EMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01ENN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
講義の順序とポイント			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FII
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D01FNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（テキスト）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考文献）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
準備学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講者への要望			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J76D020A7
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2017-2019）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020B7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020C7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義． 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる．		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書．		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%）， 実験計画の策定と独創性（20%）， 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%）， 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%）， 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする．		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること．		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること．

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020D7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020E7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020F7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義． 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる．		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書．		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%）， 実験計画の策定と独創性（20%）， 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%）， 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%）， 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする．		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること．		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること．			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020G7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020H7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020I7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020J7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020K7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020L7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020M7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		

受講者への要望

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.

講義の順序とポイント

(1 年次)
1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討
11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証
16-20.　研究データ収集法の検討
21-25.　研究成果の解析
26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討
(2 年次)
31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味
36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発
51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価
56-60.　研究成果の公開手法の検討
(3 年次)
61-65.　テクニカルライティングの検証
66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築
71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味
81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討
86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握
尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J76D020N7
科目名	【院】バイオ環境特別研究	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させるために必須の講義. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる.		
教材（テキスト）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考文献）			
教材（その他）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
準備学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講者への要望			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
講義の順序とポイント			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J80000101
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放った．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる予定であったが、「世界経済のリスク」を考慮して見送られた．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J80000102
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放つことになる．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる一方、軽減税率も導入される予定である．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	特に使用しない		
教材（その他）	講義用レジュメを京学ナビに upload します。		
評価方法	学期末試験（100%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を経済学の視点で理解すること。		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認すること。		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されています。それらを報道評価する新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につけ、それらをうのみにしないで批判的に評価する視点を常にもちましょう。

講義の順序とポイント

最初の講義の際により詳しい目次をお知らせします。

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J80000201
科目名	経営学総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。 本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。 より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたい。		
教材（テキスト）	・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上にアップロードしておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通してから講義を聞いて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めをして下さい。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（参考文献）	一般的な「経営学総論」の参考書は第１回目の講義で言います。本によっては、『経営学原理』とか『経営学概論』とか「『経営学入門』とか単に『経営学』という書名になっています。書店で買い求めて、大学４年間で、最低２冊は頭に叩き込むようにして下さい。 各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。		
教材（その他）	・パワーポイントを使って、虫食い状態でない講義用資料に基づいて講義を進めます。 ・ビデオや新聞の切抜き等も使います。		
評価方法	ときどき行う小テスト　20% 期末試験　80%		
到達目標	経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。 経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。		
準備学習	事前に講義用のプリントに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
・私語は禁止とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。 ・質問があれば、オフィスアワーを利用すること。			
講義の順序とポイント			
０１．大企業が世界を変えた、そしてそれは複雑である ０２．大企業の誕生 ０３．大企業の行きづまり ０４．日本の大企業 ０５．大企業の新たな歩み ０６．経営･企業･管理ーその概念 ０７．ドイツの経営学 ０８．アメリカの経営学 ０９．経営組織のいろいろ １０．経営戦略の基礎 １１．「選択と集中」と組織能力の戦略 １２．企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは			

１３．企業の国際化と比較優位の理論 １４．あらためて、日本の企業とは １５．これからの日本の産業と経営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J80000301
科目名	ビジネスデータの見方	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられています。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要です。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深めます。		
教材（テキスト）	資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	何回か授業内テストをします。このテストは出席調査も兼ねています。その成績が 30%。（毎回必ず出席しなければ得点できません） 期末試験が残りの 70%です。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。 企業関連データの実際を知る。		
準備学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。 受講者への要望 ①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする		

受講者への要望
①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする
講義の順序とポイント
1　講義の全体構成 2　付加価値とＧＤＰ 3　ＧＤＰと需要項目 4　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か 5　経済成長と需要の寄与度 6　景気変動と景気動向 7　物価指数 8　物価指数の実際 9　人口 、労働人口、失業 １０　マネー １１　為替と貿易 １２　産業構造、事業所 １３　利益の構造 １４　企業の世界展開 １５　ブラック企業

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J80000302
科目名	ビジネスデータの見方	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられています。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要です。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深めます。		
教材（テキスト）	資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	何回か授業内テストをします。このテストは出席調査も兼ねています。その成績が 30%。（毎回必ず出席しなければ得点できません） 期末試験が残りの 70%です。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。 企業関連データの実際を知る。		
準備学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。 受講者への要望 ①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする		

受講者への要望
①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする
講義の順序とポイント
1　講義の全体構成 2　付加価値とＧＤＰ 3　ＧＤＰと需要項目 4　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か 5　経済成長と需要の寄与度 6　景気変動と景気動向 7　物価指数 8　物価指数の実際 9　人口 、労働人口、失業 １０　マネー １１　為替と貿易 １２　産業構造、事業所 １３　利益の構造 １４　企業の世界展開 １５　ブラック企業

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J80000401
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってよいでしょう。 日本商工会議所が主催する日商簿記検定試験は、簿記検定試験の中でも最も規模が大きく、知名度の高い検定試験であり、一般的には３級の資格から履歴書に書ける資格であると言われています。 この授業では、はじめて簿記を学ぶ人を対象に、日商簿記検定試験３級合格レベルの知識を身につけるとともに、練習問題を多く取り入れることでその技術を高めることを目指します。		
教材（テキスト）	『合格テキスト日商簿記３級　Ver．７．０』（ＴＡＣ出版）		
教材（参考文献）	必要に応じて指示します。		
教材（その他）	授業内でプリント等を配布します。		
評価方法	平常点 50%、授業内提出物（小テストを含む）50%から総合的に評価します。		
到達目標	日商簿記検定試験３級の出題範囲の知識の習得を目指します。		
準備学習	次の授業までに必ず前回の授業内容の復習と練習問題の解答を心掛けるようにしてください。		
受講者への要望			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に参加し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１．　簿記って何！簿記の目的と種類 ２．　簿記の５要素 ３．　損益計算書 ４．　貸借対照表 ５．　仕訳①と練習問題 ６．　仕訳②と練習問題 ７．　仕訳③と練習問題 ８．　決算処理①１と練習問題 ９．　決算処理②と練習問題 １０．決算処理③と練習問題 １１．主要簿と補助簿 １２．試算表と練習問題 １３．精算表と練習問題 １４．伝票会計 １５．日商簿記検定試験３級対策実践練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★★

年度	2017	授業コード	J80000402
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J80000403
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	秋口　達也	旧科目名称	
講義概要	（1）簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 （2）この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 （3）簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 （4）この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 （5）この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（テキスト）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜、プリントを配布します。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	（1） 複式簿記の基本原理を理解している。 （2） 基本的な取引の仕訳と転記ができる。 （3）個人企業における決算の意義と手続きを理解している。 （4） 簿記一巡（仕訳から財務諸表の作成まで）を理解している。		
準備学習	（1） 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 （2） 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。 （3） 講義内容と課題の事後学習で理解できなかった項目は、毎回配布する「Minutes paper」の質問欄に明記してください。次回の講義で説明します。毎回、そのような心構えで講義に臨むよう、準備をしてください。		

受講者への要望

（1） 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、秋学期の「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
（2） 科目の性格上、出席を重視します。学習時には「頭と手」の活用を意識してください。
（3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き
13. 貸借対照表と損益計算書の作成
14. 決算演習
15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J80000501
科目名	ビジネスのための数学入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントと Web のホームページ		
評価方法	授業レポート（52%），その理解度を確認する演習・試験（48%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得すること。		
準備学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		
受講者への要望			
数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。 高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。			
講義の順序とポイント			
1. 整式の計算・方程式・不等式 2. 数と集合 3. 集合と命題 ４． 2 次関数・2 次不等式・2 次不等式・ 5. 数列 6. 数列の極限 7. 関数 8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習 9. 指数関数 10.対数関数 11. 関数の極限と微分 12. 微分の公式 13. 微分の計算 14. 微分の応用 15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	J80000601
科目名	民事法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Civil Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	民法の総則、債権などの財産法についての入門的な講義を行います。民法は、私たちが市民社会・企業社会の中で生きていくための不可欠のルールですので、確実の自分のものにする必要があります。 講義では、市民社会や企業社会で起こっている具体的な事例を素材にして、参加者同士が円滑の利害調整を図るためには、どのように問題解決を図っていくか、これを考えていくことにしたいと思います。これらの作業を通して、「民法」というルールの役割と課題を習得するというのが、私のねらいとするところです。 なお、「民法」は、現在改正作業が進められています。私たちの学びの対象は、あくまで現在施行されている民法ですが、これを理解するためには、なぜ改正が必要とされたのかを理解することも重要です。そういった観点から、改正法案についても極力取り上げるようにしたいと思います。		
教材（テキスト）	●野村豊弘「民事法入門」（有斐閣アルマ、2014）		
教材（参考文献）	●道垣内弘人「リーガルベイシス民法入門」（日本経済新聞社、2014） ●「ポケット六法」などの小型六法		
教材（その他）			
評価方法	・定期試験（７０％） ・小テストおよび授業課題（３０％）		
到達目標	(1) 民法の財産法ルールがどのような内容のものであるか、概要を把握する。 (2) 市民社会･企業社会で実際に起こっている紛争事例において、その解決のために、財産法ルールをどのように適用していけばよいか、その方法を体得する。		
準備学習	各回の授業範囲について、テキストをひととおり読んでおくこと。		

受講者への要望

小テストは四択問題・記述問題とするが、テスト時間はとくに設けない。京学ナビで問題を掲示するので、各自で解答に取り組んでもらい、解答用紙を提出してもらうこととする。授業時間は、小テストの問題解説等にあてることとする。

授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。

講義の順序とポイント

1　民事法
　民事法の意義
　民事法の構造
　法源
　テキスト第１章

2　民法と民法典
　民法の意義（一般法としての民法と特別法としての商法）
　民法の構造
　民法の歴史
　平成２８年民法（債権法）改正の意義
　テキスト第２章

3　権利と義務
　意義
　物権と債権
　権利の濫用
　テキスト第３章

4　法律行為(1)
　　意思表示・契約・法律行為
　　公序良俗
　　意思表示の瑕疵
　　無効と取消し
　　テキスト第４章１
5　法律行為(2)
　　権利能力
　　意思能力・行為能力
　　テキスト第４章２
6　課題演習（小テスト）と解説

7　代理(1)
　　代理制度の意義
　　代理権
　　代理人
　　代理行為
　　テキスト第５章１
8　代理(2)
　　無権代理
　　表見代理
　　テキスト第５章２・３ 9　時効

　　時効制度
　　取得時効・消滅時効
　　債権法改正のポイント
　　テキスト第６章
10　契約
　　契約の成立
　　契約の効果
　　契約の履行（債務の履行）
　　契約の不履行（債務不履行）
　　テキスト第７章
11　課題演習（小テスト）と解説

12　不法行為(1)
　　不法行為制度の意義と機能
　　不法行為の要件
　　テキスト第９章
13　不法行為(2)
　　不法行為責任の内容
　　特殊的不法行為
　　テキスト第９章
14　債務の弁済(1)
　　物的担保と人的担保
　　債務の弁済
　　テキスト第１１章１・２
15　債務の弁済(2)
　　銀行送金
　　クレジットカード
　　テキスト第１１章４・５

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J80000701
科目名	刑事法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Criminal Law		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	「刑法」、「刑事訴訟法」など刑事にかかわる法律を分野を「刑事法」と呼ぶ。刑事法の内容は、犯罪と刑罰を規定する実体法および実体法の内容を実現させるのに必要な手続法の解釈論、また刑罰論、犯罪者処遇、犯罪原因の解明、および被害者救済などの政策論と多岐にわたる。この講義では、刑事法のうち特に実体法である刑法を中心としてどのようなことが刑事法では問題になるかを具体例を挙げて示すことにより、刑事法への関心を高め、全体の見取り図を得ることを目的とする。 刑事法への関心を高めるため、最近の事件や話題にもできるだけ言及していきたい。		
教材（テキスト）	特定の教科書は指定しない		
教材（参考文献）	授業の内容をより理解するための助けとして、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） ・佐久間修著『刑法各論［第２版］』（成文堂・２０１２年） 判例教材として以下の文献を紹介する。 ・十河太朗=豊田兼彦=松尾誠紀=森永真綱共著『刑法総論判例 50！』（有斐閣・２０１６年） ・山口厚=佐伯仁志編「刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する。 また平成２９年版デイリー六法（三省堂）やポケット六法（有斐閣）などの六法を必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（７０％）と、講義への参加姿勢を含めた平常点（３０％）によって評価する。		
到達目標	刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論に重要な論点を理解し、簡単な事例については自ら判断して問題解決できることを目指す。		
準備学習	配布したレジュメと、教科書の該当箇所を読み、復習すること。 また、刑事法に関心をもつために、日々報道される犯罪報道、特に新聞記事を毎日読むこと。		
受講者への要望			
準備学習でも触れたが、毎日流れる犯罪に関するニュースに触れて、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。 また、講義や復習の際に出てきた条文は必ず六法で参照する癖をつけて欲しい。一度だけでなく、何度も見ることが重要である。			
講義の順序とポイント			
１．刑事法とは何か　－刑法、刑事手続法、刑事学 ２．構成要件該当性（１）実行行為 ３．構成要件該当性（２）因果関係 ４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤 ５．構成要件該当性（４）構成要件的過失 ６．構成要件該当性（５）未遂犯と中止未遂 ７．違法性（１）違法性の基本問題 ８．違法性（２）正当行為と緊急行為 ９．違法性（３）被害者の同意 １０．有責性（１）責任の本質、責任能力 １１．有責性（２）違法性の意識、期待可能性 １２．共犯論（１）正犯と共犯 １３．共犯論（２）共同正犯 １４．共犯論（３）教唆犯と従犯 １５．共犯論（４）共犯論の諸問題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J80000801
科目名	ビジネス法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Business Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスを行うには、ビジネスに関係の深い法律を理解し、それらの法律に違反しないだけでなく、法律が用意している制度とその仕組みを上手く活用することが求められます。例えば、会社を作ってビジネスをするには、どのような種類の会社があるのか、ビジネスに必要な資金の集め方にはどのような種類があるのか、もしもビジネスに失敗して会社をたたむ場合にはどのような方法があるのか、といったことが重要です。これら全てに法律が関係してきます。具体的には、特に「民法」「商法」「会社法」「金融商品取引法」など、様々な法律が関係します。この授業では、これらの法律の中から、非常に重要な基本的な制度とその仕組みについて学びます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	龍田節・杉浦市郎『企業法入門（第四版)』(悠々社)		
教材（その他）	毎回レジュメ（プリント）を配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート等）　20% 課題レポート　20% 期末試験　60%		
到達目標	企業に関する基本的な仕組みについて理解し、説明できるようになる。		
準備学習	毎回の授業内容について、キーワードを中心を復習し、次の回の冒頭に行う確認クイズに備える。		
受講者への要望			
1　普段から経済や企業関係のニュースに関心を持って、新聞を読んだり、ニュースを見ること 2　毎回の授業には、最新版の六法をもち、体調を整えて出席すること			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション・民法と商法の違い 2．会社の種類 3．株式会社の基本・日本型資本主義・バブル 4．商品の流通1 5．商品の流通2・金の流れと決済　1 6．金の流れと決済　2 7．企業の組織1 8．企業の組織2 9．企業のグループ 10．企業の資金 11．投資と利殖 12．企業の失敗 13．企業と責任 14．権利の乗物－有価証券－ 15．会社法の沿革と総復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J80000901
科目名	京都のビジネス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	京都は伝統と進取の気質に富むまちであり、観光などのサービス産業だけでなく、中小・中堅企業を中心にした「ものづくり産業」が地域経済を支えている。本講義「京都のビジネス」は、地域金融、観光、情報、医療、ものづくりなどの各分野で京都経済界を担う経営者などをゲストスピーカーとして招き、京都経済の特徴と魅力を論じる。これにより、企業を見る眼を養うとともに、ビジネスシーンへの理解を深め、各専門分野における学修への動機づけを与える。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業中に毎回課すレポート（100%）。		
到達目標	１．各業界のビジネスシーンの理解を深めるとともに、企業を見る眼を養う。 ２．企業が、さまざまな状況の中で、どのような問題をどのように解決しようとし、どのような人材を求めているのかということを把握する。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に原則、授業１週間前までにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。前回授業内容を前提としたレポートも課すので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
各業界の動向について、新聞などのニュースソースから自分なりに把握するよう心掛けてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．京都のビジネス概観その１ ２．京都のビジネス概観その２ ３．京都の精密機械製造業界 ４．京都の電子部品製造業界その１ ５．京都の電子部品製造業界その２ ６．京都の和菓子製造業界 ７．京都の金属精密加工業界 ８．京都の農産物生産業界 ９．京料理業界 10.京都の印刷業界 11.京都の染色業界 12.京都の絹織物製造業界 13.宇治茶製造業界 14.京都の漬物製造業界 15.京都の清酒製造業界			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J80000902
科目名	京都のビジネス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	京都は伝統と進取の気質に富むまちであり、観光などのサービス産業だけでなく、中小・中堅企業を中心にした「ものづくり産業」が地域経済を支えている。本講義「京都のビジネス」は、地域金融、観光、情報、医療、ものづくりなどの各分野で京都経済界を担う経営者などをゲストスピーカーとして招き、京都経済の特徴と魅力を論じる。これにより、企業を見る眼を養うとともに、ビジネスシーンへの理解を深め、各専門分野における学修への動機づけを与える。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業中に毎回課すレポート（100%）。		
到達目標	１．各業界のビジネスシーンの理解を深めるとともに、企業を見る眼を養う。 ２．企業が、さまざまな状況の中で、どのような問題をどのように解決しようとし、どのような人材を求めているのかということを把握する。		
準備学習	授業のレジュメを京学なびの「授業資料」に原則、授業１週間前までにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。前回授業内容を前提としたレポートも課すので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
各業界の動向について、新聞などのニュースソースから自分なりに把握するよう心掛けてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．京都のビジネス概観その１ ２．京都のビジネス概観その２ ３．京都の精密機械製造業界 ４．京都の電子部品製造業界その１ ５．京都の電子部品製造業界その２ ６．京都の和菓子製造業界 ７．京都の金属精密加工業界 ８．京都の農産物生産業界 ９．京料理業界 10.京都の印刷業界 11.京都の染色業界 12.京都の絹織物製造業界 13.宇治茶製造業界 14.京都の漬物製造業界 15.京都の清酒製造業界			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J80001001
科目名	株式投資入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	株式投資学習ゲームを活用し、各学生に 1000 万円の仮想資金を割り当て、その運用を通して、株式投資を学んでいきます。 株式投資は、様々な学問のエッセンスを活用する、まさに実践の場、学際的領域です。 ファイナンス論で学ぶ企業価値評価。 財務諸表論で学ぶ財務諸表の読み方。 マクロ経済学で学ぶ経済に対する見通し。 ミクロ経済学で学ぶ市場の仕組み。 経営学で学ぶバリューチェーンや 5force 分析。 これらの学問が株式投資という実践にどのように活用されるかを知ることで、それぞれの学問の意義を学習していきます。企業を事例として取り上げながら、様々な企業が存在することを知ることにもつながります。 この授業では、各学問の知見を株式投資にいかに実践するかにとどまらず、学生が就職する企業を選ぶ際のポイントを学ぶことにもつながります。 就職は、学生がどの企業に自らの大切な時間を投資するか？という投資意思決定だといえます。自らの就職先を選ぶ際にも、この授業で学んだ内容が役立つはずです。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配付する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、企業分析レポートの作成とする。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	企業を「株式投資の投資対象」として見ることを前提として、企業を「財務・業績」「企業価値」「業種・業界」など多面的に、企業を理解・分析できるようになることを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントと解説を実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
「株式投資」と「就職活動における企業選び」には、いずれも「投資」という共通点があります。株式投資は「お金の投資」であり、就職は「あなたの時間の投資」です。 企業を理解・分析する眼を養い、結果として、就職活動にも活きる授業内容にしたいと思いますので、積極的に参加してください。			
講義の順序とポイント			
【ガイダンス】 1.はじめに　～上場会社から 1 社を選ぶ～ いくつかの上場企業を紹介し、そのなかから 40 年後に株価が上昇してそうな 1 社を選択してもらいます。 40 年後とは、学生のみんなが定年退職をする頃です。将来を見通しましょう。 「株式投資学習ゲーム」という教材を通して、仮想資金 1000 万円を各生徒に割り当て、それを運用してもらいます。 【基本】 2.株式会社の仕組み 株式会社が起業してから上場するまでの流れを見ていきます。			

それによって、株式会社とは何か、上場するとはどういうことかを理解します。

3.株式投資の基礎知識 1
個人投資家がよく利用する Yahoo! Finance を中心に、提供されている情報の意味を読み取れるように、基本的な知識を説明します。

4.株式投資の基礎知識 2
Yahoo! Finance が提供する情報の中でも決算情報の読み取り方を理解します。

【株主価値評価】
5.株主価値評価 1　～上場会社の企業価値を評価する～
企業価値、株主価値、負債価値の概念を理解します。

6.株式学習ゲーム
株式学習ゲームを通して、実際の取引のルールを学びます。

7.株主価値評価 2　～FCF とは？～
実際の企業について、株主価値を算定し、現在の株価が割安か、適正か、割高か、を判断する練習をします。
DCF 法（ディスカウント・キャッシュ・フロー法)、特にエクイティ DCF 法により、株主価値を算定します。
特に FCF（フリー・キャッシュ・フロー)、WACC（ワック）について、実際の企業を例に算定します。
ソフトバンク、ファーストリテイリング等、実在の企業について中期経営計画等をもとに、DCF 法による株主価値を算定する演習を行います。

8.株主価値評価 3　～財産価値評価～
実際の企業の財務諸表を読み解き、財務内容の特徴を理解します。(製造業、サービス業、銀行業、保険業)
特に、非事業性資産とはなにか、について理解し、実際の財務諸表から非事業性資産を特定し、金額を算定できるようにします。

9.株主価値評価 4　～ケーススタディ～
実際の企業について、株主価値の計算演習を行います。

【業界分析】
10.業界分析 1　～マトリックス、プロダクトライフサイクル、景気循環～
マーケットを、「ディフェンシブ、景気循環」×「成長、成熟、衰退」の 6 つに分類して理解します。
ディフェンシブ、景気循環、成長、成熟、衰退の意味を説明するとともに、実際のマーケットがどこに分類されるかを考えます。

11.業界分析 2　～業種一覧、業種見取図～
上場企業は 33 の業種に分類されています。
どのような分類があり、どのような企業が各業種に分類されているかを確認します。
特に、サービス業等のディフェンシブな業種・業界を取り上げます。

12.業界分析 3　～業界ごとの特徴～
特に製造業等の景気循環の影響を受ける業種・業界を取り上げます。
業界の特性を反映した株主価値評価方法を取り上げます。

13.業界分析 4　～業界ごとの株主価値～
業界ごとの特徴を踏まえた株主価値の算定方法を考えていきます。

【法令・ルール】
14.インサイダー取引等
株式市場のルール（インサイダー取引等）を取り上げます。
株式投資において絶対にやってはいけないことについて学びます。

【情報リテラシー】
15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？
日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。
また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J80100101
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	本学が京都市内に立地しているメリットを活かして京都の伝統工芸品の一つである京友禅について学びます。京友禅とは友禅染という技法を用いて白地の織物を後染めしたもので、、着物や浴衣として出荷されます。授業では京友禅の制作体験に参加したり京友禅の工房を訪問して聞き取り調査をおこなったりします。京友禅の美にふれて、その価値を知ってもらえればと思っています。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時にプリントを配布します。		
評価方法	学外における調査研究（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	京友禅の美にふれ、伝統工芸品の価値を再認識する。		
準備学習	太秦の図書室に京友禅に関するDVD（京友禅「手描染」と京友禅「型染」）があるので、事前に見ておくこと。		

受講者への要望

大学の外に出て調査を行う際にはマナーに気をつけて行動してほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　事前学習①　京友禅とは何か
3　事前学習②　京友禅の歴史
4　事前学習③　京友禅の現状
5　事前学習④　京友禅の技法（手描き）
6　事前学習⑤　京友禅の技法（型染め）
7　中間学習①　京友禅の制作体験
8　事後学習①　京友禅の魅力の整理
9　中間学習②　京友禅の工房見学
10　中間学習③　外国人から見た京友禅
11　中間学習④　いかにして京友禅をアピールするか
12　事後学習②　京友禅の魅力再発信に関する企画・提案の作成
13　事後学習③　京友禅の魅力再発信に関する企画・提案の作成
14　事後学習⑤　グループ別発表会（1）
15　事後学習⑥　グループ別発表会（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	J80100102
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	近年、特に経済学や政策科学分野で注目される「幸福度指標」について学び、地域政策への活用を視野に、特に若年層を対象の中心としその指標作りと調査を実践する。		
教材（テキスト）	スティグリッツ，フィトシ，セン『暮らしの質を測る－経済成長率を超える幸福度指標の提案』金融財政事情研究会		
教材（参考文献）	・フライ＆スタッツァー『幸福の政治経済学』ダイヤモンド社 ・デレック・ボック『幸福の研究』東洋経済新報社 ・厚生労働省『平成２６年度厚生労働白書』 ・OECD『OECD 幸福度白書』明石書店 ・大竹・白石・筒井『日本人の幸福度　格差・労働・家族』日本評論社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50%　　報告レポート 50%		
到達目標	（１）幸福度指標について理解・整理する。 （２）内閣府の幸福度調査データを分析する。 （３）京都市の大学生を対象に幸福度に関するフィールド調査を行う。 （４）内閣府の全国データと京都市の大学生データの比較分析をまとめ、発表する。		
準備学習	（１）テキストの指定箇所を精読し、理解しておくこと。 （２）毎回の配布資料を精読し、プロジェクト全体の中での位置づけを確認しておくこと。		

受講者への要望

（１）フィールド調査とその結果の活用を視野に、日頃から問題意識を持って学ぶこと
（２）Excel の基本的な操作方法を確認しておくこと
（３）チームで取り組むプロジェクトであるため、休まずに自分の責任を果たすこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】幸福度指標と調査事例の研究
１．講義の目的と概要：幸福度指標とは何か、フィールド調査とは何か
２．幸福度指標の事例１：OECD 調査による国際比較
３．幸福度指標の事例２：内閣府による幸福度調査
４．幸福度指標の事例３：荒川区の幸福度調査
５．幸福度調査の事例４：京都府の幸福度調査

【Ⅱ】内閣府の調査結果の分析
６．分析１：全体集計結果の分析
７．分析２：年齢階級別での分析１
８．分析３：年齢階級別での分析２
９．分析４：男女別での分析１
１０．分析５：男女別での分析２

【Ⅲ】発表準備と実施プラン作成
１１．内閣府調査分析の報告資料作成１
１２．内閣府調査分析の報告資料作成２
１３．調査票の作成１
１４．調査実施プランの作成１
１５．調査実施プランの作成２

夏季休暇中のフィールド調査の実施

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100103
科目名	実践プロジェクトＡ 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	この実践プロジェクトは「航空観光プログラム」の一部として実施します。選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。単位にならない課外授業としての受講もできますが、その場合も航空観光プログラムへの登録が必要です。 実践プロジェクトの授業としては、航空観光分野に限らず、広くサービス業等における経営面と政策面の両方の議論をします。経営面としては、既存大手企業と新規参入の競争の実態、競争戦略の特徴について、また、政策面については、安全や福祉の名のもとに既得権の擁護が図られている実態を調べ、真に弱者のためになる公共政策のありかたについて議論します。 参加者は自分でテーマを決めて、実践プロジェクト A、B を通じて１年間かけてレポートを書くことを求められます。実践プロジェクトＡではＰＰＴによるプレゼン中心の発表を、Ｂでは、それを論文の形にすることに重点をおきます。 フィールドワークについてはサービス業の代表である航空空港関連の現場を見学したり、インターンシップやセミナーの成果を発表するプランを考えています。		
教材（テキスト）	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。さらに、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。		
教材（参考文献）	教科書の項を参照してください。		
教材（その他）	教科書の項を参照してください。		
評価方法	発表内容 (100%)、この授業の活動全体 (勉強以外のイベントへの参加運営など) への貢献の程度 (100%)。特定項目が非常に優れていればそれだけで 100%の評価をします。一方、基本的な常識、意欲がかけている場合はほかが 100 点でも 0 点とすることもあります。		
到達目標	PPT によるプレゼンの基本要領を身に付けること。		
準備学習	自身が発表する場合は発表の準備、他の学生の発表の場合はコメントの準備。		
受講者への要望			
この授業では、教室での発表と論文作成のみならず、セミナーやインターンシップなど様々なイベントへの参加など多岐にわたる活動を実施します。それをこなす能力と意欲と財力が求められます。PC は必ず用意すること。がんばってついてきてくれれば必ず成長できます。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　本演習の目的と視点の説明 第 2 回　プレゼンテーションの基礎講義 第 3 回　論文の書き方基礎講義 第 4 回　個別プレゼン 1 回目（1 人 30 分 x2 名、議論 30 分） 第 5 回　個別プレゼン 1 回目 第 6 回　個別プレゼン 1 回目 第 7 回　１回目プレゼンに対する問題点指摘 第 8 回　見学会事前プレゼン：見学対象についての情報収集と発表（全員） 第 9 回　見学内容についての講義 第 10 回　見学会（教員参加） 第 11 回　見学内容の整理発表プレゼン（全員） 第 12 回　個別プレゼン 2 回目（1 人 30 分 x2 名、議論 30 分） 第 13 回　個別プレゼン 2 回目 第 14 回　個別プレゼン 2 回目			

第 15 回　プレゼン問題点総合指摘

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J80100104
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	（テーマ）「経済団体の情報を活用し、ユニークな地元企業を調査する」 京都には、京都の地場企業を束ねる「京都経営者協会」「京都商工会議所」「京都工業会」「京都中小企業家同友会」などの経済団体がある。こうした各種経済団体の企業情報を収集し、地元京都のユニークな企業について実地調査することが、この実践プロジェクト（A・B）の課題である。 実践プロジェクトA（春学期）では、まず調査チームをつくり、経済団体からの紹介情報を参考にして、訪問先企業を決定する。各調査チームは、訪問予定先の企業情報を十分に分析し、調査項目を取りまとめた「実地調査計画書」を作成したのち、夏休み期間を利用して、選定した企業を実際に訪問し、事前にまとめた調査項目についてリサーチする。 実践プロジェクトB（秋学期）では、夏休みに実施した実地調査を「調査報告書」として取りまとめる作業を行う。また訪問先企業から課題が出された場合には、その課題にも取り組み、「提案書」を作成する。「調査報告書」および「提案書」が完成した段階で、各調査チームは訪問先企業を招いてプレゼンテーションを行うものとする。		
教材（テキスト）	テキストは使用しないが、必要な資料は適宜配布する。		
教材（参考文献）	・日本経済新聞社（編集）『京都の躍進企業―「ベンチャーの都」の 103 社』（日本経済新聞社：2002 年） ・徳賀芳弘（監修）『京都企業の分析』（中央経済社：2011 年）		
教材（その他）	関係資料は適宜配布し、必要とされる情報はその都度提供する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋「活動計画書」（１０点）＋「実地調査計画書」（５０％）＋個人評価（１０％）		
到達目標	グループワークでの協調性とコミュニケーション能力の向上、企業人と直接接触する体験を通じて社会的マナーを身につけること、また企業や仕事内容を実際に調査するなかで、近い将来の自分の就活に役立つ情報を得ることを目標とする。		
準備学習	調査チームができたら、「活動計画書」で決定されたチーム・メンバーとしての各自の役割を誠実に遂行すること。そのためには常にチーム内での連絡を密にし、次週までに実現しなければならない自分の課題を、自宅学習においてしっかりと果たして、授業に臨むことが必要とされる。		

受講者への要望

① 経済団体や企業の方と接触する機会が多いので、挨拶・言葉づかい・衣服・態度など、本学学生として求められる基本マナーに注意する。
② 調査グループ内での意思疎通をしっかり図り、キャップのリーダーシップのもとチームメンバー同士が積極的に協力すること。
③ 各調査グループは教員との連絡を密にするとともに、メンバー１人ひとりの身勝手な個人行動は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション
２．京都の企業について（経済団体関係者）
３．調査チーム・ビルディング（メンバー、キャップの決定）
４．訪問先企業の選定
５．調査チーム「活動計画書」の作成
６．（同上）
７．実践プロジェクト活動マニュアル
８．（同上）
９．企業研究
１０．（同上）
１１．「実地調査計画書」の作成
１２．（同上）
１３．（同上）

１４．訪問先企業との調整（確認連絡・事前訪問）
１５．（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100105
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている社会・経済動向を学ぶ。春学期の実践プロジェクト A では、経済と株式投資の基本について学ぶ。座学が中心の授業構成になっています。具体的には、「経済の動きと株式の関係」や「証券市場の仕組み」を説明したうえで、株式投資の分析に必要となってくる「経済指標の捉え方」、「財務諸表の基礎」そして現代ポートフォリオ理論に基づく「リスクとリターンの関係」を学びます。また、証券会社の協力によって、学生は証券会社に直接赴き、証券市場についての理解を一層深めることもします。		
教材（テキスト）	適宜、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	随時、指示する。		
教材（その他）	日本経済新聞記事など。		
評価方法	・ 平常点(60%); 講義内での報告等による。 ・ 講義への参加熱意(40%)		
到達目標	本講義の目標は、日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」用いて模擬売買を行うことで、株価変動の背景となっている社会・経済動向を理解することである。証券会社の協力によって、学生は証券会社に直接赴き、証券市場についての理解を一層深める。また、証券会社から投資に関するアドバイスを受けることで、より実践的な力へと発展させることを目標としている。		
準備学習	・ 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 ・ 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 ・ 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		

受講者への要望

・ 金融や投資、資産管理に興味のある学生が望ましい。
・ 授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 経済の動きと株式 ①
3. 経済の動きと株式 ②
4. 証券市場の仕組み
5. 経済指標の捉え方
6. 財務諸表の見方
7. 証券投資の魅力とリスク
8. 株価の変動要因
9. 投資の基礎知識 ①
10. 投資の基礎知識 ②
11. 投資の基礎知識 ③
12. 株式投資の実際 ①（外部講師）
13. 株式投資の実際 ②（外部講師）
14. 株式学習ゲームの紹介とグループ分け
15. 資産運用について・まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J80100106
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である.「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった. これまでにも政府は 1988 年から 1989 年にかけて「ふるさと創生事業」を展開するなど地域活性化に向けて取り組んできた. これまでの取組と現在の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」あるいはその一環として各市町村が策定を進める「地方版総合戦略」の社会的背景の違いを理解するとともに、「ものづくり」に焦点を当ててその比較検討を行う. A では各市町村を対象に聞き取り調査を実施する.		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	その都度指示する		
教材（その他）	参考資料を配付する		
評価方法	課題レポート(100%)		
到達目標	身近な問題を多面的・総合的に把握できること		
準備学習	配付資料の事前学習		
受講者への要望			
対象とした地域社会の動向に関する情報を幅広く収集すること			
講義の順序とポイント			
1．概要の説明 2．グループ分けと問題意識の共有 3．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 4．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 5．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 6．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 7．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 8．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 9．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 10．A 市の地方版総合戦略に関する質問項目の精査 11．A 市の地方版総合戦略に関する質問項目の精査 12．A 市の地方版総合戦略に関する A 市への質問項目の送付 13．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解（補足） 14．A 市へのインタビュー 15．A 市へのインタビュー結果のまとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J80100107
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	高齢化、少子化が進むわが国では、街づくりにおけるユニバーサルデザイン（すべての人にとって使いやすいデザイン）の考え方やバリアフリー化（物理的、心理的障害の除去）は不可欠となっている。そこで本科目では、「公共空間におけるバリアフリーとユニバーサルデザイン」をテーマとして、身近な公共空間においてそれらの現状を調査するとともに、そこにある課題について確認する。また、それをもとにこれからの街づくりのあり方について考察し、行政等に望まれる施策について検討する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示する。		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	平常点（議論や調査への関与の程度・積極性、提出物の提出状況等）（60%）、期末レポート（調査結果報告等）（40%）		
到達目標	地域社会への理解を深めるとともに、少子・高齢社会における公私の役割について考えるための視座を得ること。		
準備学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・平素からこのプロジェクトのテーマを意識し、日常生活において気づいたことがあればメモしておくこと。		

受講者への要望

・　無断欠席、遅刻を厳禁する。授業回数の 3 分の 1 以上に欠席（20 分以上の遅刻を含む）をした場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、正当な理由による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。

・　毎回必ず 1 回以上発言（質問、提案等）をすること。

・　担当教員から学生への連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション：本科目の特徴と目的について
2. 事前学習 1 ：テーマに関する理念、歴史、制度等についての学習
3. 事前学習 2 ：テーマに関する理念、歴史、制度等についての学習
4. 事前学習 3 ：課題の設定と調査方法の検討
5. 事前学習 4 ：課題の設定と調査方法の検討
6. 調査準備 1 ：調査手順の確認
7. 調査準備 2 ：調査手順の確認
8. 調査 1 ：近隣における調査とその結果の確認
9. 調査 2 ：近隣における調査とその結果の確認
10. 中間整理：調査における問題点の確認と修正
11. 調査 3 ：近隣における調査とその結果の確認
12. 調査 4 ：近隣における調査とその結果の確認
13. 事後学習 1 ：調査結果の報告
14. 事後学習 2 ：調査結果の検討
15. 事後学習 3 ：秋学期に向けての方向付け

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J80100108
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	1990 年代後半以降，日本はゼロ金利水準に突入し，もはや銀行の預金では，資金運用手段として不適切な状況になっている．そのため，この実践プロジェクト（A・B）では，人々がどのような資産で運用することに関心があるかをアンケートを通じて調査することを目的とする．実践プロジェクト A では，まず金融資産に関する知識を深め，その知識に基づいてアンケート作成に着手することを課題とする．		
教材（テキスト）	なし，プリントを適宜配布する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：授業への参加度合い等 50%　授業内課題 50%		
到達目標	(1) 資産運用を行う際のマクロ的条件について理解する． (2) 金融資産について理解する． (3) アンケートを作成する．		
準備学習	授業中に配布する資料を精読し，理解しておくこと．		
受講者への要望			
(1) 遅刻や私語を厳禁とする．また，チームでのプロジェクトであるため積極的に取り組み，休まず自分の責任を果たすこと． (2) Word の基本的な操作を確認しておくこと．			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス: 概要の説明 2. 事前学習（1): 資産運用のマクロ的条件について（金利・為替レート等） 3. 事前学習（2): 資産運用のマクロ的条件に影響を与える要因について（物価） 4. 事前学習（3): 資産運用のマクロ的条件に影響を与える要因について（GDP・貿易収支） 5. 事前学習（4): 金融商品について（国内預金） 6. 事前学習（5): 金融商品について（国内株式） 7. 事前学習（6): 金融商品について（国内債券） 8. 事前学習（7): 金融商品について（金） 9. 事前学習（8): 金融商品について（外貨預金） 10. 事前学習（9): 金融商品について（外国株式） 11. 事前学習（10): 金融商品について（外国債券） 12. 事前学習（11): 金融商品について（投資信託） 13. 事前学習（12): 金融商品について（投資信託） 14. 中間学習（1): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 15. 中間学習（2): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100109
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	(テーマ)貧困の連鎖を断ち切る政策の探求 震災・ひとり親・非正規雇用など、日本社会での「生きにくさ」が問題となっている。これに対して、最終的なセイフティーネットである生活保護費の受給は、厳格化が進んでいるといわれている。これらをきっかけに、貧困の連鎖が発生している。ただし、国全体、地域間、世帯および個人に着目すると、金の流れに偏在も見受けられる。 そこで、労働政策および社会保障政策の基本を学び、これらを横断的に検討し、また、右京区役所を訪ねて、現状を分析して、今後必要とされる施策を探求する。 まず、実践プロジェクト A では、主に上記の政策の考察し、役所を訪問しながら問題点を検討してレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	大沢真理『生活保障のガバナンス』(有斐閣、2013 年)3,700 円＋税		
教材（参考文献）	厚生労働白書など、プロジェクトの中で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	労働政策および社会保障政策の報告　30% 役所の聞取り調査およびレポート　20% 施策の探求のレポート　50%		
到達目標	労働政策および破壊保障政策の状況を理解し、とくに地域である右京区での取組みについて理解し、新たな施策の探求を行なっていくこと。		
準備学習	前の授業で次の授業までに調べてくることを指示するので、授業までに資料収集および準備などをしっかりすること。		

受講者への要望

このプロジェクトでは、調査・報告・議論などを中心に行なっていくので、積極性のある受講生が望まれる。可能であれば、法学・労働法・社会保障法を履修中であることが望ましい。労働政策および社会保障政策に強い関心を持って。日々のニュースおよび新聞を見てほしい。

講義の順序とポイント

第 1 回　オリエンテーション・自己紹介
第 2 回　発表の仕方
第 3 回　労働政策のレクチャーおよび報告
第 4 回　同上
第 5 回　社会保障政策のレクチャーおよび報告
第 6 回　同上
第 7 回　労働政策および社会保障政策の実態
第 8 回　同上
第 9 回　同上
第 10 回 同上
第 11 回 同上
第 12 回 実態調査のレポート化および修正
第 13 回 同上
第 14 回 発表
第 15 回 同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J80100110
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	消費者は、なぜ買ってから後悔するような物を買ってしまうのだろうか？販売する側は、人間の心理のどのような特徴を利用しているのだろうか。 実践プロジェクトAでは、まず準備段階として、マーケティングにおいて利用される手口を理解するtために、社会心理学的な理論を学びます。それを通じて、消費者が、なぜ、どのような手口で騙されるのかについて理解いする枠組みを習得します。その上で、特に大学生を対象として、どのような手口があるのかを実際に調査します。調査結果をもとに、それらの手口が、どのような心理を悪用しているのかを考え、騙されるのを防ぐにはどうすればよいのかを考えます。		
教材（テキスト）	ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器（第３版）』（誠信書房、2015）		
教材（参考文献）	最初の授業で指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（報告・発言・授業内レポートなど）60％ レポート　40％		
到達目標	・消費者に対するマーケティングで利用され、時には悪用されがちな心理学の理論を理解し、そのような手口に遭遇した時に、気付けるようになる。 ・一定量の文章の作成を何度も繰り返すことを通じて、論理性を意識しながら文章を書けるようになる。 ・調べたことを人前で分かりやすく報告にすることに慣れる。		
準備学習	・ネット上や街中にあふれている広告やマーケティングに関心を持つ。 ・授業中に指示された復習に取組む。		

受講者への要望

・知的好奇心
・報告を担当する際には、十分な準備をして分かりやすく報告すること
・文章力を高めたいという意欲
・学んだことを良い目的に使うこと

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　プレゼンの練習・返報性①
3　文章作成の練習・返報性②
4　希少性
5　権威
6　コミットメントと一貫性
7　好意
8　社会的証明
9　悪徳商法の手口①（デート商法）
１０　悪徳商法の手口②（点検商法）
１１　悪徳商法の手口③（マルチ商法）
１２　レポート作成①
１３　レポート作成②
１４　報告
１５　レポートの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100121
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	いろいろな企業のビジネスモデルを調べ、最終的には自分たちで新しいビジネスプランを考え、ビジネスプランニング・コンテストに応募します。 ビジネスモデルを調べる方法としては、経営戦略論入門で見てもらったような企業のビデオ、企業のホームページ、企業に関係する新聞記事や雑誌記事が中心となります。また必要に応じてショッピングセンターなど商業施設の見学も行います。それらの調査結果を Excel や PowerPoint でプレゼン資料にまとめ、発表してもらいます。これらの作業を通じて、実際に企業の実務で役立つスキルを身につけてもらうと同時に、就活での業界研究や企業研究にも役立ててもらいます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	受講姿勢やグループワークでの貢献度など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	書籍、新聞、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業のビジネスモデルを分析することができる。また、自分たちで新しいビジネスプランを考え、事業計画書にまとめることができる。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
実践プロジェクトA、Bは連続して受講することを前提に授業を進めますので、連続して受講することを望みます。 資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション 2. ビジネスゲームの概要説明、試行（ゼミに慣れてもらうのと、ビジネスの体験が目的です） 3. ビジネスゲーム実施、結果分析 4. ビジネスプランとは（経営戦略論入門の復習） 5. 企業を一つ選んでビジネスモデルを調べる（グループワーク） 6. 企業を一つ選んでビジネスモデルを調べる 7. 企業を一つ選んでビジネスモデルを調べる 8. 発表、ディスカッション 9. 新しいビジネスプランの検討（グループワーク） 10. 新しいビジネスプランの検討 11. 新しいビジネスプランの検討 12. 中間発表、ディスカッション 13. ビジネスプランの修正 14. ビジネスプランの修正 15. 発表、ディスカッション			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J80100122
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	日本における主要な店舗について、その企業がどのような理念を実現しようとしているか、どのような価値を社会に提供しようとしているかをケーススタディとして研究し、消費社会の主なプレーヤーの動向と展望を学びます。社会をコントロールするリーダー企業は、現在のブランド力にあぐらをかくことなく、日々どのように消費者の変に対応し、利益を出し、成長するための施策を実践しています。それをリアルタイムで追いかけながら、彼らが創造している社会の文脈（トレンド）に自らも自分も乗って、何が正しくて何が間違っているかの自分なりの尺度を身に着けます。		
教材（テキスト）	著名な企業の社長が書いた本などをその都度指示します		
教材（参考文献）	ユニクロの柳井社長の書いた本（いくつかあります)、スターバックスの社長ハワード・シュルツの書いた『スターバックス成功物語』、無印良品のデザインを担当している原研哉氏の『デザインのデザイン』『日本のデザイン』などを挙げておきますので、余力のある人は読んでおくと経営者の考え方がよくわかると思います。		
教材（その他）	時事的な記事をその都度配布します		
評価方法	授業への貢献（授業態度と発言）を重視します。その上で、授業内容の理解度をチェックします。最後の授業で小レポートの提出を求めますので、その内容が評価の５０％程度を判断します。		
到達目標	日本の消費をけん引している主な店舗の名前と特徴を知ることによって、何気なく見ていた街の風景や何気なく利用していた店舗が立体的に見えてきます。自分が社会でどのよういい活躍すればよいか、就職先の目標を持つとともに、どのような人材が社会で求められているのかも理解することができます		
準備学習	普段から京都の街に出て、様々なお店での消費体験、商品への関心を高めてください。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		

受講者への要望

街に出て、誰が何を買っているのか、なぜこの店にこんな商品が置いてあるのか、お店の主人や企業の経営者になったつもりで常に考える主体性を身に着けてください。　ゼミでは、自分が興味・関心がある店舗や企業を一つ選んでもらい、その店舗を実際に視察してもらったうえで観察レポートを授業で発表してもらう機会を作ります。（観察のポイントはお店ごとに指示しますので、しっかりと観察してください）

講義の順序とポイント

＜社会のしくみを知る＞
第１回　企業はなぜ成長を求めるのか　～シェアから利益へ～
第２回　消費者とメーカーと流通
第３回　モノからコトへ　～人は何にお金を出すのか～
第４回　コンビニのしくみ（特徴と利益を生むしくみ、現在の課題と取り組み）
第５回　スーパーのしくみ（特徴と利益を生むしくみ、現在の課題と取り組み）
第６回　百貨店のしくみ（特徴と利益を生むしくみ、現在の課題と取り組み）
＜企業の理念と課題＞
第７回　スターバックス
第８回　ユニクロ
第９回　無印良品
第10回　LOFTと東急ハンズ
第11回　ネット店舗とリアル店舗
第12回　USJとディズニーランド
＜消費都市の研究（タウンウォッチング）＞
第13回　消費都市研究①　若者が集まる街
第14回　消費都市研究②　オタク・マニアの集まる街
第15回　消費都市研究③　大人の街

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J80100123
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、企業や店舗（商店街、商業ビル等）についてのケーススタディとフィールドワークを行う。企業研究の基礎的手法を習得することにより、経営学についての理解を深めることを目的とする。 まず、業界についての基礎的知識を習得するとともに、グループワークで計画を立て、見学及び調査を実施する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①調査の具体的計画を立てることにより企画力と実践力を養う。 ②グループ討議やプラン実施に参加することにより、協同する力を養う。		
準備学習	・Excel、PowerPoint を使えるようにしておく ・次回授業に必要な資料を事前に準備しておく		
受講者への要望			
積極的に参加し、自発的に動くこと			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 基礎学習：業界とその特徴 3. 基礎学習：　企業研究の手法と事例① 4. 基礎学習：　〃　② 5. グループづくりと、フィールドワーク企画書作成 6. 企画書のブラッシュアップ。 7. フィールドワークの下調べとアポイントの取り方。 8. 各グループによる計画の発表。 9. 実地調査のためのヒアリングシート作成 10. 実地調査に関わる事項 11. 実地調査 12.「発表」：グループ間で調査した結果を報告しあう 13. 成果報告書作成 14. 成果報告書のまとめ 15. 成果報告会：各グループにより、発表報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J80100125
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	ビジネスプランニングコンテストに向けてビジネスプランの策定を行う。まずは本学で開催されるビジネスプランニングコンテストへの応募を主たる目標とし、＊本学亀岡や太秦キャンパス内の施設や拠点などを活用して（あるいは新たに設けて）実行するプラン、＊本学太秦キャンパスの京學堂を活用したプラン、＊キャンパス外での活動を中心としたプラン、など多様な観点から独創性あふれるプランの策定を目指す。 　この目標の達成に向けて近隣や他大学での調査や企業の現場での学習に重きを置いている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［ビジネスプラン策定に向けての取組姿勢,など］80%、プランの内容　20%。		
到達目標	就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊毎回、次回までに行うべきことを指示する。		

受講者への要望

＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ニーズ調査や企業内実習などが行われることもある(交通費等受講者負担)。
＊ビジネスプランニングコンテストに関心を有する者の受講が望ましい。
＊学外での活動を含むことから全員そのための保険に加入してもらいます。

講義の順序とポイント

1.はじめに（本プロジェクトの概要）
2.ビジネスプランを策定する上での基礎学習
3.ビジネスプランを策定する上での基礎学習
4.調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
5.調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
6.調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
7.ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
8.ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
9.ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
10.他大学や近隣での調査（：学外実習）
11.他大学や近隣での調査（：学外実習）
12.ビジネスプランの策定
13.ビジネスプランの策定
14.ビジネスプランの策定
15.今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100127
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、京學堂の活動の一環として、マーケティング、商品管理、会計などの経営管理の問題を実践的に学ぶことを目的とする。 最終的には、京學堂の経営上の課題を発見し、改善提案していくことをめざす。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①京學堂の経営管理上の課題を的確に表現し、解決策を提案する力を身につける ②グループ討議に積極的に参加し、自分の意見を的確に伝える力を養う。		
準備学習	京學堂の日常業務の中で問題意識を持って取り組むこと。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：授業の目標と進め方 2. 所属部門の確認と課題設定：商品、マーケティング、会計の部門と業務の確認 3. 新入生指導マニュアルの見直し① 4. 新入生指導マニュアルの見直し② 5. 新入生指導マニュアルの見直し③ 6. 日常業務の課題と検討 7. 商品管理の課題と検討 8. 会計処理の課題と検討 9. マーケティングの課題と検討 10. フィールドワーク：商品の仕入れ先等を訪問し、京學堂の果たす役割を再認識する 11. 日常業務における改善の提案 12. 商品管理における改善の提案 13. 会計処理における改善の提案 14. マーケティングにおける改善の提案 15. 春学期の総括と秋学期への展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J80100128
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	本講義では GIP（グローバル・インターンシップ・プログラム）への参加を考えている学生などを想定して、相手国（当面は中国や東南アジア諸国）において（模擬的に）事業を展開することを目標にする。そのために、ビジネスマナー、相手国の言語から勉強を始め、進出企業のいろいろな業種（※）を調査・研究し、経営戦略の策定、進出企業の問題発見、ソリューションの発見、将来展望をする。 （※）この場合の業種とは、技術系、IT 系、エネルギー関連系、小売店系、飲食店系、イベント系、農業系、公企業系を考えている。		
教材（テキスト）	長谷川正『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	経営学の入門書、教員が保有する教材、各企業の HP、経済雑誌等		
教材（その他）			
評価方法	調査研究への積極的参加態度（70%）、成果報告（30%）		
到達目標	・GIP 参加学生内の他者との共同作業を通じ、知識の共同化を行う ・GIP 参加学生内と外との討論により、事業の論理的な整合性を追求する ・各自において、討論と調査を通じて、理論の定着化を図る		
準備学習	日本におけるビジネスの実践に関心を持つと同時に、相手国の経済・社会・法・商習慣などにも関心を持つ		

受講者への要望

・マナー、およびビジネスマナーを習得していってもらう
・具体的企業の経営内容や、企業における人々の行動・発言を調査する場合でも、「理屈」を付けられるようにする（理論付けをする）

講義の順序とポイント

01　ガイダンス（各自の名刺作成）
02　ビジネスマナー　その 1 （ホウ・レン・ソウ）
03　ビジネスマナー　その 2 （第一印象・メモのとり方）
04　ビジネスマナー　その 3（メールのマナー）
05　海外進出企業Ⅰを訪問、聞き取り調査
06　業界 A の a 社の調査
07　業界 A の b 社の調査
08　業界 B の c 社の調査
09　業界 B の d 社の調査
10　海外進出企業Ⅱを訪問、聞き取り調査
11　業界 C の e 社の調査
12　業界 C の f 社の調査
13　業界 D の g 社の調査
14　業界 D の h 社の調査
15　「実践プロジェクト B」への橋渡し

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J80100130
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、ビジネス・プランを作成することを目標にし、事業計画の立て方と、それを効果的に伝える方法を学ぶ。 具体的には、ビジネス・プランニング・コンテストにプランを提出するために、①事業計画の立て方を学ぶ、②グループごとにプランを作成する、③グループの成果をプレゼンテーションすることにより効果的な伝え方を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）。		
到達目標	企画書の作成ができること。 プレゼンテーション能力を高めること。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておいてください。 グループで成果をパワーポイントにまとめるため、パソコン作業に習熟すること。		

受講者への要望

受講生は経営企画者になりきり、いかにしてビジネスで成果を上げるのかを真剣に考えること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（授業の目標と進め方）
2. ビジネス・プラン作成の基礎（ビジネス・プランの基礎を学ぶ）
3. グループ化（調査と成果報告を行うグループを決定する）
4. テーマ決定①（グループ内でテーマにするビジネスを討議する）
5. テーマ決定②（グループ内でテーマにするビジネスを決定する）
6. リサーチ①（決定したテーマに沿ったリサーチ案を討議する）
7. リサーチ②（リサーチ案に沿って実査を行う）
8. ビジネス・プラン作成①（ビジネス・プランを作成する）
9. ビジネス・プラン作成②（ビジネス・プランを作成する）
10. リハーサル（グループ間でまとめた成果を報告しあう）
11. 質問事項の確認（各グループに対する質問をグループ内で整理する）
12. 質問事項の対応策の検討（質問についてグループ内で討議する）
13. 質問事項に対する回答（質問に対する回答をする）
14. ビジネス・プラン作成③（ビジネス・プランを手直しする）
15. 成果報告会（すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう）

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100131
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。プロスポーツビジネスの業界研究と経営学を学ぶことにより、スポーツビジネスについて知識を深める。 スポーツビジネス業界の基礎的知識を身につけ、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養える。 ②グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養える。		
準備学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。		

受講者への要望

演習への積極的参加する。日頃からスポーツビジネスに興味を持ちアンテナを張る。

講義の順序とポイント

1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例①
3. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例②
4. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例③
5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する
6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する
7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる
8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する
9. フィールドワーク事前指導：現場での基礎知識や基礎テクニックを学ぶ
10. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
11. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告
15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100132
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	商店街は、地域における中心市街地で、都市機能として重要な商業機能を果たす唯一無二の施設であった。 しかし消費者のニーズの変化や消費者行動の変化に対応できなかったことを主因に、スーパーマーケットやコンビニエンスストアの利用に消費者の購買行動は変化し、一部の広域型商店街を除いて、近隣型商店街は衰退の一途をたどっている。 この問題は一部の商業者にとっての問題に留まらず、取り分けて小売業では、商店街を構成する、小売業者は９９．６％（企業ベース（２０１６年版中小企業白書））を占める、大多数の中小企業者の問題でもあり、また中心市街地を形成する都市機能の疲弊という側面を持つものである。 このため、国策として商店街、中心市街地の活性化について、数々の政策が継続して、講じられているが、その効果は現れているとは言いがたい現状にある。 そこで本講座では、京都府商店街振興組合連合会参下の京都市内に存す７７商店街の中から、フィールドワーク対象商店街を選び、中心市街地商業活性化診断の手法を活用することにより、対象商店街の活性化に対する方策の策定に取り組む。		
教材（テキスト）	その都度指示する。		
教材（参考文献）	その都度指示する。		
教材（その他）	その都度指示する。		
評価方法	平常点 30％　研究成果　70％		
到達目標	フィールドワークを通じて、商店街の活性化の方策を見出すことを目標に、チームにおける役割と責任を自覚するとともに、コミュニケーション能力を涵養する。また問題意識を持ちその解決の方策を見出すことの重要性を認識し、もって実践を通じて地域社会における問題点、課題および解決策を学ぶこと。		
準備学習	身近な商業に関する事象について、問題意識を持ち、情報の収集、処理に心がける。 また当日のフィールドワークなどで取得した知見については、復習した上、次回のフィールドワーク等の準備を行うこと。		

受講者への要望

本講座は実践プロジェクトであり、座学における中心的な、調査―分析―理論のプロセスより、実践における、観察―知覚―実践のプロセスを心がけて、研究に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1　はじめに～本講座の進め方、概要など
2　商店街の現状と課題問題点について
3　中心市街地商業（商店街を中心に）活性化診断についての基礎知識①
4　中心市街地商業（商店街を中心に）活性化診断についての基礎知識②
5　研究対象商店街の選定①
6　研究対象商店街の選定②
7　SWOT 分析による対象商店街の現状分析①
8　SWOT 分析による対象商店街の現状分析②
9　分析結果を踏まえた各種調査の実施①
１０　分析結果を踏まえた各種調査の実施②
１１　分析結果を踏まえた各種調査の実施③
１２　中心市街地商業（商店街を中心に）活性化策のまとめ
１３　中心市街地商業（商店街を中心に）活性化策のまとめ
１４　中心市街地商業（商店街を中心に）活性化策のまとめ
１５　研究成果についてのプレゼンテーション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★	★★	★★	★

年度	2017	授業コード	J80100133
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	この授業では、銀行や証券会社で働く人にとっての必須資格である「証券外務員２種」のレベルも念頭に置き、証券市場の基礎知識（株式業務などを含む）や、経済・金融・財政の常識、財務諸表と企業分析などの実践的基礎の概略を学ぶ。また、日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」に参加する。このゲームでは、チームに分かれ、仮想の所持金をもとに、どの株式銘柄を売買するのかディスカッションしながら、株価に基づき株式の模擬売買を行う。また、日本銀行の支店や、証券取引所の訪問、証券会社における研修などを実施する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。毎回資料を配布する。		
教材（参考文献）	『会社四季報』（東洋経済社）。		
教材（その他）	日本経済新聞を適宜用いる。		
評価方法	平常点（授業内での報告や確認テストなど）100％		
到達目標	株式の模擬売買を通じ、会社研究の基礎を身につけ、また、株式会社の資金調達や証券市場の働きの基礎を理解する。		
準備学習	配布資料は事前に読了し、実際に活用できるよう予習しておくこと。予習の範囲は、前回授業時に指示する。		

受講者への要望

チームでの活動については、チームに貢献する熱意を持つこと。担当教員は、授業内容に関わる実務経験が 20 年以上はあるので、実務的な質問も歓迎する。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．日本経済新聞の読み方
3．会社四季報の読み方
4．証券市場の基礎知識（関連する法律を含む）
5．株式業務・債券業務の基礎知識（関連する法律を含む）
6．上場規程の基礎知識
7．財務諸表と企業分析の基礎知識
8．投資信託及び投資法人に関する業務の基礎知識（関連する法律を含む）
9．セールス業務の基礎知識
10．日本銀行京都支店や大阪証券取引所の訪問・見学
11．株式模擬売買に関わるディスカッションと投資成果報告(1)
12．株式模擬売買に関わるディスカッションと投資成果報告(2)
13．株式模擬売買に関わるディスカッションと投資成果報告(3)
14．株式模擬売買に関わるディスカッションと投資成果報告(4)
15．証券会社における研修

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100135
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	企業の経営を支える資源の一つが「ヒト（＝人材）」である。ヒトのマネジメントは企業活動において極めて重要な行為であり、企業の持続的成長において欠かせないものである。 本演習では、資料やデータを通して、企業が行う人材マネジメントに関する情報（成功例、先進的な事例、など）を収集し、人材マネジメントに関する基礎知識を習得する。また、グループでの成果創出や発表などを行う。		
教材（テキスト）	なし（その都度配布する）		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表及び成果物評価（50%）		
到達目標	自分たちの手で、書籍・雑誌、新聞やデータベースから必要な情報・資料を収集する能力を身に着ける。また、自ら疑問を設定して、その疑問への解答を導き出す能力を身に着ける。		
準備学習	Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 「次回までに行うべきこと」が指示された場合は、しっかりと準備すること。		

受講者への要望

グループワークをはじめ授業に積極的に参加すること。
実践プロジェクト A、B は連続して受講することを前提として進めるため、連続して受講することを望む。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション：　本授業の説明（授業の目的・進め方）
2.基礎学習①：情報収集方法に関する基礎知識
3.基礎学習②：人材マネジメントの成功例・先進例①
4.基礎学習③：人材マネジメントの成功例・先進例②
5.グループワーク①：グループワークの企画、調べること（＝知りたいこと）の明確化
6.グループワーク②：企業の人材マネジメントについて事例を集める、その事例に関するディスカッション
7.グループワーク③：企業の人材マネジメントについて事例を集める、その事例に関するディスカッション
8.発表、グループ間でのディスカッション
9.（グループの再設定）グループワーク④：グループワークの企画
10.グループワーク⑤：企業の人材マネジメントについて事例を集める、その事例に関するディスカッション
11. グループワーク⑥：企業の人材マネジメントについて事例を集める、その事例に関するディスカッション
12. 発表、グループ間でのディスカッション
13.これまでのグループワークやディスカッションをもとに、人材マネジメント成功例の特徴などをまとめる
14.研究調査報告書の作成
15.研究成果報告書についての発表報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J80100136
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
講義概要	本演習は、コンテストに応募することを目指し、ビジネス・プランの作成方法を習得することを目的としている。 まずビジネス・プランの作成方法に関するテキストを一緒に読み、ビジネス・プランを作成する基礎を習得する。 各自の興味あるビジネスの種を日常生活の中で探してもらい、それについて習った方法で検討する。必要に応じて、社会調査を行い、ビジネスの実現可能性をさらに検証する。 ディスカッションと実地調査を繰り返し行いながら、コンテストに目指してビジネス・プランを作成する。		
教材（テキスト）	『プロ直伝! 成功する事業計画書のつくり方（マンガでわかる! ビジネスの教科書シリーズ)』		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	事前準備、議論、調査等授業への積極的な参加（60%)、成果物（40%）		
到達目標	ディスカッション能力、資料作成能力、プレゼンテーション能力を高め、論理的物事を考える能力を養う。		
準備学習	※Word, Excel, PowerPoint, インターネットの利用方法を事前に勉強しておく。 ※指示された課題に基づき、期限内に予習とレポートを完成する。		

受講者への要望

※学外の活動も予定しているので、通常授業時間外の参加や、保険の加入、交通費が必要な場合もあります。
※ビジネスプランニングコンテストに関心のある方の受講が望ましい。
※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて多様な能力を身に付けてください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（本プロジェクトの概要を説明し、次回の勉強内容や、それまでの課題を指示する）
2. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
3. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
4. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
5. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
6. 各自のビジネス・アイディアについて事前に作成したレポートに基づき、発表、ディスカッション
7. 各自のビジネス・アイディアについて事前に作成したレポートに基づき、発表、ディスカッション
8. 絞ったテーマについて社会調査を行う。
9. 調査結果について発表、ディスカッション
10. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
11. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
12. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
13. ビジネス・プラン作成
14. ビジネス・プラン作成
15. 発表・ディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J80100151
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	この授業では、歴史都市京都において展開したさまざまな時代の歴史に関係する実際の現場を訪れ、歴史を体感します。その際、たんに現地を訪れるだけではなく、古文書や絵巻物など、通常ではみられないような史料も観覧します。また受講生には事前に下調べをしてもらい、事前にレジュメを作成して、現地で発表をしてもらったり、さらに現地で調査を行ったりすることも求めます。またその調査の成果を、オープンキャンパスで発表してもらうことも想定しています。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	『京都市の地名』（日本歴史地名大系 27、平凡社） 『京都府 上・下巻』（角川日本地名大辞典 26‐〔1・2〕」（角川書店） 『慶長昭和京都地図集成 1611（慶長 16）年～1940(昭和 15)年』（柏書房） 『京都・山城寺院神社大事典』（平凡社） 『新修京都叢書』全 25 巻（臨川書店） 『新撰京都叢書』全 12 巻（臨川書店）		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	現地での発表・作成したレジュメ（50%） 授業への参加度（50%）		
到達目標	京都の歴史文化への知識を身につけること。 京都の歴史文化の調べ方、関係図書について熟知すること。		
準備学習	毎月の見学先について、班ごとに調べものをした上でレジュメを作成してもらいます。		
受講者への要望			
この授業は、教員が引率する観光旅行ではありません。みなさん自身が見学先について、事前調査を行い、深い知識を身につけ、それを他の人に説明することが求められます。また現地で実際に歴史の現場をみることで、初めてわかることもあると思います。また現地には土日に訪れますので、ガイダンスで発表する予定を確認の上、スケジュール調整をしてください。			
講義の順序とポイント			
1回目　ガイダンス 2回目　全体準備 3回目　壬生班・下鴨班の報告 4回目　二条班・京都御所班の報告 5回目　壬生班・下鴨班の報告（2回目） 6・7回目　壬生巡見 8・9回目　下鴨神社巡見 10回目　二条班・京都御所班の報告（2回目） 11・12回目　二条城・神泉苑の巡見 13・14回目　京都御所・京都市歴史資料館の巡見 15回目　巡見結果の報告（全班）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100152
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、実践プロジェクト（民俗学）を通じてフィールドワークの技法について学ぶとともに、民俗事象について理解を深めようとするものです。 したがって実践プロジェクト（民俗学）の授業は、民俗学のフィールドワークを中心に行うことになります。フィールドワークは民俗学という学問の根幹にあるもので、民俗学を学ぶ者が宝物のように大切にしているものです。単なる現地見学ではありません。 フィールドワークの前には、その準備として講義形式の授業があります。概ね一回のフィールドワークにつき一回の講義が行われます。 実践プロジェクト（民俗学）の授業は、佐々木、堀田、手塚の三人の教員が共同で担当します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークおよび資料整理への貢献度、成果発表会の成果などを総合的に評価する。		
到達目標	フィールドワークを計画、実施し、その資料を整理した上で、研究成果を発表できるようになること。		
準備学習	フィールドワークに行く前に教員は準備課題を出します。課された課題は済ませた状態で、フィールドワークに臨むこと。		

受講者への要望

フィールドワークに関係する授業ですので、原則、全回出席を求めます。　フィールドワークは学外に出ますので、半日もしくは一日がかりとなります。また交通費などがかかります。

講義の順序とポイント

春学期に計画しているフィールドワークは以下の通りです。フィールドワークですので、天候や相手先の都合などにより、計画を変更することがあります。

フィールドワーク１　城下町としての亀岡
フィールドワーク２　都をつくった川・保津川
フィールドワーク３　土地と伝説（亀岡市）
フィールドワーク４　土地と伝説（京都市郊外）
夏合宿

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J80100153
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	祇園祭の成り立ちを研究し、スタッフとして参加する体験をして、京都の祭りの特性を考察する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	適宜、授業で提示する。		
教材（その他）			
評価方法	参加型の授業なので、毎回の内容への積極的参加度によって評価する。		
到達目標	京都の伝統的な祭りに対する京都人の思いを理解するとともに、その積極的な担い手として、祭りにおける役割をきちんと務めること		
準備学習	特になし		

受講者への要望

授業は原則として、水曜日1時間目に行う。キャンパス移動や二時間続きの内容があるため、2時間目の授業登録はしないことが望ましい。
また、学外の地域の方と交流する機会があるので、京都学園大学生としての自覚を持ち、模範となるように行動すること。

講義の順序とポイント

講義内容と実施場所は、下記のとおりである。
京都太秦キャンパス以外の場所で行うことがあるので、注意すること。
また、二時間続きの授業を行うことがあるので、注意すること。
＊6以降の内容は、祇園祭地元の町の都合により、日程が変わることがある。

1 授業の概要　　京都太秦キャンパス
2 座学　祇園祭の始まり（古代）　京都太秦キャンパス
3 座学　祇園祭の歴史（中世）　京都太秦キャンパス
4 座学　祇園祭の歴史（近世）　京都太秦キャンパス
5 しつらえ替え　夏　（二時間続き）　京町家キャンパス
6 座学　祇園祭　地元の方レクチャー　京町家キャンパス
7 祇園祭　ちまきづくり　　（二時間続き）京町家キャンパス
8 祇園祭　小学生にちまき作り方指導　二時間　京町家キャンパス
9 祇園祭　浴衣着付け　　京町家キャンパス
10 祇園祭　売店販売または会所掃除　　京町家キャンパス
11 祇園祭　巡行等見学　　（二時間続き）フィールドワーク

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J80100154
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	この実践プロジェクトでは、２つの観点から、京都の近代の歴史を考察する。 ・京都の近代化遺産 日本の近代化遺産か?ユネスコの世界遺産に認定されたこともあり、最近注目を集めている。て?は、京都て?はと?のような近代化 遺産か?あるのた?ろうか。この実践フ?ロシ?ェクトて?は、京都の近代化遺産について調へ?、それをフィールト?ワークして、日本の 近代化にと?のような貢献をしたのかを明らかにしたい。そして、そもそも近代化とは何を意味するのか、近代とはと?のような 時代なのかを考えたい。 ・京都の映像文化 Google 等て?“kyoto”て?検索をすれは?、日本文化を象徴する膨大な量の画像を見つけることか?て?きる。YouTube 等て?検索しても京都を舞台にした古い日本映画か?英語の字幕て?世界中て?共有されていることを確認て?きる。注目すへ?きは 1897 年四条河原町の元・立誠小学校て?最初の試写か?おこなわれ「日本映画」か?はし?まった。そして、昭和初期には「日本のハリウット?」と呼は?れる映画産業の中心地となって繁栄することになった。京都は日本の映像文化を語る際に欠くことのて?きない都市なのて?あ る。この実践フ?ロシ?ェクトて?は、京都の文化を、映像というカタチに実際に変換することによって、改めて重層的に考えてみる。具体的には、「京都の近代化遺産」のフィールト?ワークにおいて、iPod touch 等て?撮影した写真／動画て?、写真集／ショー トムーヒ?ーの制作を行うことを試みる。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークの報告レポート等で総合的に評価する。		
到達目標	京都の近代化遺産／映像文化を実践的に考察する。		
準備学習	配布するレジュメ等に記載している文献等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　京都の近代化遺産（１） 03　京都の近代化遺産（２） 04　京都の近代化遺産（３） 05　京都の近代化遺産（４） 06　京都の近代化遺産（５） 07　京都の近代化遺産（６） 08　京都の近代化遺産（７） 09　京都の映像文化（１） 10　京都の映像文化（２） 11　京都の映像文化（３） 12　京都の映像文化（４） 13　京都の映像文化（５） 14　京都の映像文化（６） 15　京都の映像文化（７）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	★	★	−

年度	2017	授業コード	J80100155
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	担当教員は丸田とリッチモンド。春は主として丸田が指導する。 京都は言わずと知れた国際観光都市であり、２年連続で「魅力のある街世界一」に選ばれた。したがって、その観光地に関する案内書は無数にあり、すべて紹介され尽した感がある。しかし、とはいえ、まだまだ無名の観光資源は眠っているはずで、それを掘り起こすのが本授業の目的である。 「事前調査」→「現地調査」→「観光案内作成」→「観光案内英語版作成」 春学期は、「観光案内作成」までを行う予定である。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	学生諸君に探してもらう。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席率）とレポートを総合的に評価する。		
到達目標	あまり知られていない京都の観光資源を発掘し、その観光案内を作成することによって、将来観光産業などで働きたい学生諸君の入門にしたい。		
準備学習	特になし。		
受講者への要望			
これこそフィールドワークの真髄であると思う。楽しみながら、学んで頂きたい。			
講義の順序とポイント			
１．概要説明 ２．新観光地研究 ３．新観光地の探索 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．反省会 ９．新観光地研究 １０．同上 １１．新観光地の探索 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100201
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	本学が京都市内に立地しているメリットを活かして京都の伝統産業の一つである西陣織について学びます。 西陣織 とは京都市内の約3キロ四方で生産されている先染めの絹織物で、着物・帯・ネクタイなどの製品として出荷されます。授業では西陣織を織っている方にインタビューしたり帯を扱っている問屋を訪問して聞き取り調査をおこなったりします。西陣織の美にふれて、その価値を知ってもらえればと思っています。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時にプリントを配布します。		
評価方法	学外における調査研究（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	西陣織について知ることで伝統の美を再認識する。		
準備学習	西陣織工業組合のホームページを見て西陣織のあらましについて事前に調べておくこと。		

受講者への要望

大学の外に出て調査を行う際にはマナーに気をつけて行動してほしい。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　事前学習①　織物ができるまでの過程
3　事前学習②　ジャカードの仕組み
4　事前学習③　西陣織とは何か
5　事前学習④　西陣織の歴史
6　事前学習⑤　西陣織の現状
7　中間学習①　西陣織を織る工程の見学
8　事後学習①　京町家と西陣織の関係について考える
9　中間学習②　西陣織に関する聞き取り調査
10　事後学習②　西陣織に関する聞き取り調査の整理
11　事後学習③　西陣織が直面している課題について考える
12　事後学習④　西陣織の魅力再発信に関する企画・提案の作成
13　グループ別発表会①
14　グループ別発表会②
15　報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	J80100202
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	近年、特に経済学や政策科学分野で注目される「幸福度指標」について学び、若年者を調査対象の中心として地域政策への活用を視野に、その指標作りと調査を実践する。		
教材（テキスト）	スティグリッツ，フィトシ，セン『暮らしの質を測る－経済成長率を超える幸福度指標の提案』金融財政事情研究会		
教材（参考文献）	・フライ＆スタッツァー『幸福の政治経済学』ダイヤモンド社 ・デレック・ボック『幸福の研究』東洋経済新報社 ・厚生労働省『平成２６年度厚生労働白書』 ・OECD『OECD 幸福度白書』明石書店 ・大竹・白石・筒井『日本人の幸福度　格差・労働・家族』日本評論社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 50%　　報告レポート 50%		
到達目標	（1）フィールド調査結果の集計を分析を行う （2）調査結果をまとめた報告書を作成する （3）調査結果を発表する		
準備学習	（1）他の調査・分析の結果との比較を意識すること （2）調査結果の見せ方として、参考となるモデルを見つけておくこと		
受講者への要望			
（1）フィールド調査結果の実際の活用を視野に入れ、日頃から問題意識を持って取り組むこと （2）Excel や PowerPoint の基本的な操作方法を確認しておくこと （3）チームで取り組むプロジェクトであるため、休まずに自分の責任を果たすこと			
講義の順序とポイント			
【Ⅰ】調査結果の集計と分析 1．調査結果の集計表の作成と入力１ 2．調査結果の集計表の作成と入力２ 3．調査結果の集計表の作成と入力３ 4．回答者の属性別の分析１ 5．回答者の属性別の分析２ 【Ⅱ】調査結果のまとめ：何が分かったか 6．調査結果の報告書作成１ 7．調査結果の報告書作成２ 8．調査結果の報告書作成３ 9．調査結果の報告書作成４ １０．調査結果の報告書作成５ 【Ⅲ】調査結果の報告 １１．プレゼン資料の作成１ １２．プレゼン資料の作成２ １３．プレゼン資料の作成３ １４．報告会の予行練習 １５．学内報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100203
科目名	実践プロジェクトB 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクト A の延長活動です。 方針、内容は同じです。		
教材（テキスト）	実践プロジェクト A に応じです。		
教材（参考文献）	実践プロジェクト A に同じです。		
教材（その他）	実践プロジェクト A に同じです。		
評価方法	実践プロジェクト A と同じです。		
到達目標	実践プロジェクト A と同じです。		
準備学習	実践プロジェクト A と同じです。		

受講者への要望

実践プロジェクト A と同じです。

講義の順序とポイント

第 1 回　論文の書き方基礎再講義
第 2 回　論文発表 1 回目（1 人 30 分 x2 名、議論 30 分）
第 3 回　論文発表 1 回目
第 4 回　論文発表 1 回目
第 5 回　インターンシップ事前準備プレゼン
第 6 回　インターンシップ事前準備プレゼン
第 7 回　インターンシップ関連見学会（教員参加）
第 8 回　インターンシップ事後プレゼン
第 9 回　インターンシップ事後プレゼン
第 10 回　論文発表 2 回目（(1 人 30 分 x2 名、議論 30 分）
第 11 回　論文発表 2 回目
第 12 回　論文発表 2 回目
第 13 回　論文発表最終回
第 14 回　論文発表最終回
第 15 回　論文発表最終回

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J80100204
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	（テーマ）「経済団体の情報を活用し、ユニークな地元企業を調査する」 京都には、京都の地場企業を束ねる「京都商工会議所」「京都経営者協会」「京都工業会」「京都中小企業家同友会」など経済団体がある。こうした京都の各種経済団体の企業情報を収集し、地元京都のユニークな企業について実地調査することが、この実践プロジェクトの課題である。 実践プロジェクトA（春学期）では、各調査チームが選んだ企業を研究し、「実地調査計画書」を作成した。 実践プロジェクトB（秋学期）では、夏休み期間中に訪問した企業リサーチをもとに、「実地調査報告書」のとりまとめを行う。また、訪問先企業から課題が出された場合には、その課題にも取り組み「提案書」を作成する。「報告書」と「提案書」が完成した段階で、各調査チームは訪問先企業を招いてプレゼンテーションを行うものとする。		
教材（テキスト）	テキストは使用しないが、必要な資料は適時配布する。		
教材（参考文献）	・日本経済新聞社（編集）『京都の躍進企業―「ベンチャーの都」の 103 社』（日本経済新聞社：2002 年） ・徳賀芳弘（監修）『京都企業の分析』（中央経済社：2011 年）		
教材（その他）	関係資料は適宜配布し、必要とされる情報はその都度提供する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋「実地調査報告書」・「提案書」（４０％）＋プレゼンテーション（２０％）＋個人評価（１０％）		
到達目標	グループワークでの協調性とコミュニケーション能力の向上、企業人と直に接触する体験を通じて社会的マナーを身につけること、また企業や仕事内容を実際に調査するなかで、近い将来の自分の就活に役立つ情報を得ることを目標とする。		
準備学習	「活動計画書」で決められたチーム・メンバーとしての自分の役割を誠実に遂行すること。そのため常にチーム内の連絡を密にして、自主までに実現しなければならない自分の課題を、自宅学習においてしっかりと果たし、授業に臨むことが必要とされる。		

受講者への要望

① 経済団体や企業の方と接触する機会が多いので、挨拶・言葉づかい・衣服・態度など、本学学生として求められる基本マナーには十分注意すること。
② 調査グループ内での意思疎通をしっかり図り、キャップのリーダーシップのもとチームメンバーは相互に積極的に協力すること。
③ 各調査チームは教員との連絡を密にするとともに、メンバー１人ひとりの身勝手な個人行動は厳に慎むこと。

講義の順序とポイント

１．実地調査結果の確認（進捗状況、再調査）
２．（同上）
３．「実施調査報告書」の作成
４．（同上）
５．（同上）
６．（同上）
７．中間報告会
８．「提案書」作成の検討会
９．「提案書」の作成
１０．（同上）
１１．（同上）
１２．最終報告会（経済団体、企業関係者来校）
１３．（同上）
１４．（同上）
１５．最終評価（調査チーム別：面談、振り返り）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100205
科目名	実践プロジェクト B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている社会・経済動向を学ぶ。 実践プロジェクト B では、春学期で学習した証券投資の知識を前提に、ゼミ学生を 3-4 人のチームに分割し、各チームで情報を収集しながら、模擬株式売買を行わせる。模擬売買には、日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」を用いる。また、証券の実務担当経験者を授業内講師として招き、投資に関するアドバイスを受けることで、自分たちの資産ポートフォリオを見直す。2 週間に 1 度、各グループは、投資状況をゼミで報告し、ディスカッションをする。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	特になし。		
教材（その他）	・ 日本経済新聞記事 ・ Yahoo ファイナンス、会社四季報 online 等の株式情報サイト		
評価方法	・ 平常点(60%); 講義内での報告等による。 ・ 講義への参加熱意(40%)		
到達目標	日本証券業協会/東京証券取引所が主催する「株式学習ゲーム」用いて模擬売買を行うことで、株価変動の背景となっている社会・経済動向に学生の目を向けさせる。証券会社の協力によって、学生は証券会社に直接赴き、証券市場についての理解を一層深める。また、証券の実務担当経験者から投資に関するアドバイスを受けることで、より実践的な力へと発展させることを目標としている。		
準備学習	・ 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 ・ 自分の好きな企業の経営方針、事業内容および財務情報等を学期中に調査すること。 ・ 金融論、ファイナンスの数理を併せて受講することが望ましい。		
受講者への要望			
・ 金融や投資、資産管理に興味のある学生が望ましい。 ・ 授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンスおよび模擬売買の実行 2-13. 投資成果の報告とディスカッション（第 13 回講義まで、繰り返し） 14. ゼミ全員での結果評価（外部講師にも参加いただく） 15. 最終報告会（他プロジェクトと合同発表会）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J80100206
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である．現在「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった． 実践プロ A で取り上げた「地方版総合戦略」に関連する地域における民間企業や団体を対象にした聞き取り調査を実施する．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	その都度指示する		
教材（その他）	参考資料を配付する		
評価方法	課題レポート(100%)		
到達目標	身近な問題を多面的・総合的に把握できること		
準備学習	配付資料の事前学習		

受講者への要望

対象とした地域社会の動向に関する情報を幅広く収集すること

講義の順序とポイント

経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である．現在「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった．実践プロ B では、実践プロ A で取り上げた「地方版総合戦略」に関連する地域における民間企業や団体を対象にしたインタビューを実施する．

1．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
2．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
3．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
4．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
5．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
6．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
7．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
8．A 市の民間団体と民間企業への質問項目送付
9．A 市の民間団体と民間企業へのインタビューの実施
10．A 市の民間団体と民間企業へのインタビューの実施
11．A 市の民間団体と民間企業の回答のまとめ
12．プレゼン資料の作成
13．プレゼン資料の作成
14．プレゼン資料の作成
15．プレゼン

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J80100207
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	春学期の「実践プロジェクトA」に引き続き、「公共空間におけるバリアフリーとユニバーサルデザイン」をテーマとして、身近な公共空間においてそれらの現状を調査するとともに、そこにある課題について確認する。特に今学期は、春学期に行った調査・学習等から浮かび上がった課題について、さらなる調査内容を検討し、実施する。そして、それをもとにこれからの街づくりのあり方について考察し、行政等に望まれる施策について検討するとともに、それらを最終レポートにまとめ、発表する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示する。		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	平常点（議論や調査への関与の程度・積極性、提出物の提出状況等）（60%）、期末レポート（調査結果報告等）（40%）		
到達目標	地域社会への理解を深めるとともに、少子・高齢社会における公私の役割について考えるための視座を得ること。		
準備学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・平素からこのプロジェクトのテーマを意識し、日常生活において気づいたことがあればメモしておくこと。		

受講者への要望

・　無断欠席、遅刻を厳禁する。授業回数の 3 分の 1 以上に欠席（20 分以上の遅刻を含む）をした場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、正当な理由による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。

・　毎回必ず 1 回以上発言（質問、提案等）をすること。

・　担当教員から学生への連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

講義の順序とポイント

1. 事前学習：春学期の結果の再検討と代表的な調査手法についての学習
2. 調査準備 1 ：調査内容の検討
3. 調査準備 2 ：調査内容の検討
4. 調査準備 3 ：質問票等の完成
5. 調査準備 4 ：調査方法と手順の整理
6. 調査 1 ：アンケート調査等の実施
7. 調査 2 ：アンケート調査等の実施
8. 調査 3 ：アンケート調査等の実施
9. 事後学習 1 ：調査結果の整理と分析
10. 事後学習 2 ：調査結果の整理と分析
11. 事後学習 3 ：調査結果の整理と分析
12. 事後学習 4 ：調査結果の整理と分析
13. 事後学習 5 ：ゼミ内の成果報告会
14. 事後学習 6 ：ゼミ内の成果報告会
15. 最終報告会：他ゼミとの合同成果報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J80100208
科目名	実践プロジェクト B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	1990 年代後半以降，日本はゼロ金利水準に突入し，もはや銀行の預金では，資金運用手段として不適切な状況になっている．そのため，この実践プロジェクト（A・B）では，人々がどのような資産で運用することに関心があるかをアンケートを通じて調査することを目的とする．実践プロジェクト B では，実践プロジェクト A で着手したアンケートを完成させ，アンケートの実施・アンケートの分析・分析結果の報告を行う．		
教材（テキスト）	なし，プリントを適宜配布する．		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点：授業への参加度合い等 50%　授業内課題 50%		
到達目標	(1) アンケートを作成する (2) アンケートを実施する (3) 調査結果を分析する (4) 調査結果を発表する		
準備学習	関連するアンケートをインターネット上等で見つけ，独自性のあるアンケートを作る意識をもっておくこと．また，分析モデルに関しても授業中に検討するのではなく，事前に考えておくこと．		
受講者への要望			
(1) 遅刻や私語を厳禁とする．また，チームでのプロジェクトであるため積極的に取り組み，休まず自分の責任を果たすこと． (2) Word・Excel・PowerPoint の基本的な操作方法を確認しておくこと．			
講義の順序とポイント			
1. 中間学習（3）: フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 2. 中間学習（4）: フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 3. 中間学習（5）: フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 4. 中間学習（6）: フィールドワークのための課題設定・アンケート作り 5. 中間学習（7）: アンケート調査 6. 中間学習（8）: アンケート調査 7. 中間学習（9）: アンケート調査 8. 中間学習（10）: アンケート調査 9. 中間学習（11）: アンケート調査 10. 事後学習（1）: 調査結果の整理・分析 11. 事後学習（2）: 調査結果の整理・分析 12. 事後学習（3）: 調査結果の整理・分析 13. 事後学習（4）: 調査結果の整理・分析 14. 事後学習（5）: 調査結果の整理・分析 15. 最終報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100209
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	(テーマ)貧困の連鎖を断ち切る政策の探求 震災・ひとり親・非正規雇用など、日本社会での「生きにくさ」が問題となっている。これに対して、最終的なセイフティーネットである生活保護費の受給は、厳格化が進んでいるといわれている。これらをきっかけに、貧困の連鎖が発生している。ただし、国全体、地域間、世帯および個人に着目すると、金の流れに偏在も見受けられる。 そこで、労働政策および社会保障政策の基本を学び、これらを横断的に検討し、また、右京区役所を訪ねて、現状を分析して、今後必要とされる施策を探求する。 実践プロジェクトBでは、実践プロジェクトAでレポートで取り上げたテーマの中から選択して、グループごとに今後必要とされる施策を探求し役所でのヒアリングを経てプレゼンテーションを行なう。		
教材（テキスト）	大沢真理『生活保障のガバナンス』(有斐閣、2013 年)3,700 円＋税		
教材（参考文献）	厚生労働白書など、プロジェクトの中で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	労働政策および社会保障政策の報告　30% 役所の聞取り調査およびレポート　20% 施策の探求のレポート　50%		
到達目標	労働政策および破壊保障政策の状況を理解し、とくに地域である右京区での取組みについて理解し、新たな施策の探求を行なっていくこと。		
準備学習	前の授業で次の授業までに調べてくることを指示するので、授業までに資料収集および準備などをしっかりすること。		
受講者への要望			
このプロジェクトでは、調査・報告・議論などを中心に行なっていくので、積極性のある受講生が望まれる。可能であれば、法学・労働法・社会保障法を履修中であることが望ましい。労働政策および社会保障政策に強い関心を持って。日々のニュースおよび新聞を見てほしい。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　グループ分け／レジュメ・プレゼンテーションの資料の作り方 第 3 回　労働政策の問題点の報告 第 4 回　同上 第 5 回　社会保障政策の問題点の報告 第 6 回　同上 第 7 回　労働政策および社会保障政策の施策の探求 第 8 回　同上 第 9 回　同上 第 10 回 同上 第 11 回 同上 第 12 回 グループごとに問題点および解決策をまとめる 第 13 回 同上 第 14 回 発表 第 15 回 同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	–	★	★★	–

年度	2017	授業コード	J80100210
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクト A では、消費者を騙すために悪用される社会心理学の理論を学び、レポートを作成します。それを踏まえ、まず、実践プロジェクト B では、実践プロジェクト A で調べた内容をクラスメートの前で報告します。そして、消費者を守るためにどのような法律や制度があるのかを調べます。そして、それらをどのように活用すればよいのか考えます。最終的に、そもそも騙されにくい消費者、および、騙されたときの対処法を身に付けた消費者になるために必要なことを学びます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	授業において指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（発言・授業内レポートなど）５０％ 報告　５０％		
到達目標	・悪徳商法などから消費者を守るために、どのような法制度があるのか理解する。 ・もしも実際に悪徳商法などにより不本意な取引をしてしまったときに、後から、どのように対処すればよいか具体的な方法を理解する。 ・一定量の文章の作成を何度も繰り返すことを通じて、論理性を意識しながら文章を書けるようになる。 ・調べたことを人前で分かりやすく報告にすることに慣れる。		
準備学習	ネット上や街中にあふれている広告やマーケティングに関心を持つ。授業中に指示された復習に取組む。		

受講者への要望

・知的好奇心
・報告を担当する際には、十分な準備をして分かりやすく報告すること
・文章力を高めたいという意欲

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　消費者を守る法律制度の全体像
3　契約の基礎①
4　契約の基礎②
5　消費者契約法
6　クーリングオフ
7　表示規制①
8　表示規制②
9　景品規制
１０　実務家による特別講義（消費者保護の最前線）
１１　金融商品に関する消費者保護
１２　グループ報告の準備①
１３　グループ報告の準備②
１４　グループ報告
１５　成果報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100221
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	いろいろな企業のビジネスモデルを調べ、最終的には自分たちで新しいビジネスプランを考え、ビジネスプランニング・コンテストに応募します。 ビジネスモデルを調べる方法としては、経営戦略論入門で見てもらったような企業のビデオ、企業のホームページ、企業に関係する新聞記事や雑誌記事が中心となります。また必要に応じてショッピングセンターなど商業施設の見学も行います。それらの調査結果を Excel や PowerPoint でプレゼン資料にまとめ、発表してもらいます。これらの作業を通じて、実際に企業の実務で役立つスキルを身につけてもらうと同時に、就活での業界研究や企業研究にも役立ててもらいます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	受講姿勢やグループワークでの貢献度など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	書籍、新聞、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業のビジネスモデルを分析することができる。また、自分たちで新しいビジネスプランを考え、事業計画書にまとめることができる。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
実践プロジェクトA、Bは連続して受講することを前提に授業を進めますので、連続して受講することを望みます。 資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
1. 事業計画書とは（事業計画書の作成方法を学ぶ） 2. 事業計画書作成（実践プロジェクトAで作ったビジネスプランを事業計画書にまとめる） 3. 事業計画書作成 4. 発表、ディスカッション 5. ビジネスプランニング・コンテスト応募書類作成 6. ビジネスプランニング・コンテスト応募書類作成 7. 発表、ディスカッション 8. ビジネスプランニング・コンテスト応募書類修正 9. プレゼンテーション・リハーサル 10. プレゼンテーション・リハーサル 11. ビジネスプランニング・コンテスト結果の反省 12. ビジネスプランの修正 13. ビジネスプランの修正 14. 発表、ディスカッション 15. 発表、ディスカッション			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J80100222
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	引き続き日本の商業施設についての理解を深めていきますが、時代への対応や競争戦略の視点を交えて理解を深めます。 そのために、世代論、家族の世帯消費、個人消費などから、人々が消費に対して何を求めているのかという根源的な問いまで深めていきます。 ショッピングセンター、商店街をはじめ、東京ディズニーランドのようなテーマパークも消費のための商業施設として見ていき、各商業施設がどのように時代に対応し、どのような工夫で利益を挙げようとしているのかを　現場の視察を交えながら考察します。		
教材（テキスト）	特に定めません		
教材（参考文献）	速水健朗『都市と消費とディズニーの夢 ショッピングモーライゼーションの時代』（one テーマ 21）新書など		
教材（その他）	時事的な記事をその都度配布します		
評価方法	授業への参加と貢献（授業態度と発言）を重視します。その上で、授業内容の理解度をチェックします。最後の授業で小レポートの提出を求めますので、その内容が評価の５０％程度を判断します。		
到達目標	消費という視点から街を見た時に、消費が街を変えるという視点が得られます。産業と暮らしと消費の３つの視点で街を立体的に見ることができる能力を身に着けます		
準備学習	普段から京都の街に出て、様々なお店での消費体験、商品への関心を高めてください.。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		

受講者への要望

商品やサービスについて、自分の好き嫌いだけでなく、社会で流行っていることにも関心を持ち、できればそれを積極的に体験するようにしてください。
特に、自分とは違う人々、例えば、異性、高齢者、子どもを持った主婦などがどのようなニーズを持ち、どのような気持ちで生活しているか把握するスキルがつくと、他人の立場でものを考えられるようになります。
その能力は、ビジネスだけでなく、人間として包容力と寛容力を得るきっかけにもなりますのでより一段、レベルの高い人間へと成長してください。

講義の順序とポイント

＜消費とは何か＞
第 1 回　消費のトレンド
第 2 回　世代と消費需要
第 3 回　モノ消費とコト消費
第 4 回　経験という消費
第 5 回　社会の課題を解決する消費
第 6 回　欲しいものはどのように生まれるか
＜企業の対応と施策＞
第 7 回　ショッピングセンター
第 8 回　テーマパーク
第 9 回　商店街、書店
第 10 回　インターネットでの販売
＜コミュニケーションによる対応＞
第 11 回　認知のコミュニケーション
第 12 回　差別化のコミュニケーション
第 13 回　ロイヤルティのコミュニケーション
第 14 回　ブランドコミュニケーション
第 15 回　ネットとマス連動のコミュニケーション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	J80100223
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、企業や店舗（商店街、商業ビル等）についてのケーススタディとフィールドワークを行う。企業研究の基礎的手法を習得することにより、経営学についての理解を深めることを目的とする。 まず、業界についての基礎的知識を習得するとともに、グループワークで計画を立て、見学及び調査を実施する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①調査の具体的計画を立てることにより企画力と実践力を養う。 ②グループ討議やプラン実施に参加することにより、協同する力を養う。		
準備学習	・Excel、PowerPoint を使えるようにしておく ・次回授業に必要な資料を事前に準備しておく		
受講者への要望			
積極的に参加し、自発的に動くこと			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 基礎学習：業界とその特徴 3. 基礎学習：　企業研究の手法と事例① 4. 基礎学習：　〃　② 5. グループづくりと、フィールドワーク企画書作成 6. 企画書のブラッシュアップ。 7. フィールドワークの下調べとアポイントの取り方。 8. 各グループによる計画の発表。 9. 実地調査のためのヒアリングシート作成 10. 実地調査に関わる事項 11. 実地調査 12.「発表」：グループ間で調査した結果を報告しあう 13. 成果報告書作成 14. 成果報告書のまとめ 15. 成果報告会：各グループにより、発表報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100224
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。 プロスポーツビジネスの業界研究と経営情報システムを学ぶことにより、スポーツビジネスにおける情報システムの関わりついて知識を深める。 スポーツ業界の基礎的知識とそこで利用される情報システムを学び、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（70%）、発表成果物（30%）		
到達目標	1 研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養う。 2 グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養う。 3 社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを養う。		
準備学習	Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ステークホルダのニーズや欲求に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 毎回の講義終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスにおける情報システムの事例① 3. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスにおける情報システムの事例② 4. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスにおける情報システムの事例③ 5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する 6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する 7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる 8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する 9. フィールドワーク事前指導：現場、情報システムの基礎知識を学ぶ 10. フィールドワーク：現場と利用している情報システムを体験する 11. フィールドワーク：現場と利用している情報システムを体験する 12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告 15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	★	−

年度	2017	授業コード	J80100225
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	実践プロジェクト A に引き続いて、ビジネスプランニングコンテストに向けてビジネスプランの策定を行う。まずは本学で開催されるビジネスプランニングコンテストへの応募を主たる目標とし、＊本学亀岡や太秦キャンパス内の施設や拠点などを活用して（あるいは新たに設けて）実行するプラン、＊本学太秦キャンパスの京學堂を活用したプラン、＊キャンパス外での活動を中心としたプラン、など多様な観点から独創性あふれるプランの策定を目指す。 　この目標の達成に向けて近隣や他大学での調査や企業の現場での学習に重きを置いている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［ビジネスプラン策定に向けての取組姿勢,など］60%、プランの内容　30% ビジネスプランコンテスト終了後のレポート 10%		
到達目標	就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊毎回、次回までに行うべきことを指示する。		

受講者への要望

＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ニーズ調査や企業内実習などが行われることもある(交通費等受講者負担)。
＊ビジネスプランニングコンテストに関心を有する者の受講が望ましい。
＊学外での活動を含むことから全員そのための保険に加入してもらいます。

講義の順序とポイント

1.はじめに（本プロジェクトの概要）
2.ビジネスプランを策定する上での基礎学習
3.ビジネスプランを策定する上での基礎学習
4.調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
5.調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
6.調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて）
7.ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
8.ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
9.ビジネスの現場を知る（1day インターンシップなどを活用した業界分析）
10.他大学や近隣での調査（：学外実習）
11.他大学や近隣での調査（：学外実習）
12.ビジネスプランの策定, ビジネスプランのコンテストへの応募
13.ビジネスプランの策定, ビジネスプランのコンテストへの応募
14.ビジネスプランの策定, ビジネスプランのコンテストへの応募
15.今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100227
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	本演習は、京學堂の活動の一環として、マーケティング、商品管理、会計などの経営管理の問題を実践的に学ぶことを目的とする。 最終的には、京學堂の経営上の課題を発見し、改善提案していくことをめざす。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①京學堂の経営管理上の課題を的確に表現し、解決策を提案する力を身につける。 ②グループ討議に積極的に参加し、自分の意見を的確に伝える力を養う。		
準備学習	京學堂の日常業務の中で問題意識を持って取り組むこと。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
積極的に参加すること			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション：授業の目標と進め方 2. 春学期決算① 3. 春学期決算② 4. 春学期の経営分析①：分析手法の検討 5. 春学期の経営分析②：売上のセグメンテーション分析 6. 春学期の経営分析③：損益分岐点分析 7. 春学期の経営分析④：キャッシュ・フロー分析 8. 中間発表：分析結果の報告 9. 新規事業計画の立案① 10. 新規事業計画の立案② 11. 新規事業計画の立案③ 12. 新規事業計画の立案④ 13. 発表：新規事業計画案の発表と意見交換 14. 新規事業計画の修正 15. 成果報告			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J80100228
科目名	実践プロジェクト B	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	本講義では GIP（グローバル・インターンシップ・プログラム）への参加を考えている学生などを想定して、相手国（当面は中国や東南アジア諸国）において（模擬的に）事業を展開することを目標にする。そのために、ビジネスマナー、相手国の言語から勉強を始め、進出企業のいろいろな業種（※）を調査・研究し、経営戦略の策定、進出企業の問題発見、ソリューションの発見、将来展望をする。 （※）この場合の業種とは、技術系、IT 系、エネルギー関連系、小売店系、飲食店系、イベント系、農業系、公企業系を考えている。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	経営学の入門書、教員が保有する教材、各企業の HP、経済雑誌等		
教材（その他）			
評価方法	調査研究への積極的参加態度（70%）、成果報告（30%）		
到達目標	・GIP 参加学生内の他者との共同作業を通じ、知識の共同化を行う ・GIP 参加学生内と外との討論により、事業の論理的な整合性を追求する ・各自において、討論と調査を通じて、理論の定着化を図る		
準備学習	日本におけるビジネスの実践に関心を持つと同時に、相手国の経済・社会・法・商習慣などにも関心を持つ		

受講者への要望

・「実践プロジェクト A」をふまえて、それぞれの国の社会をよく見る
・具体的企業の経営内容や、企業における人々の行動・発言を調査する場合でも、「理屈」を付けられるようにする（理論付けをする）

講義の順序とポイント

01　業界展望
02　相手国での事業立ち上げ　その 1-1
03　相手国での事業立ち上げ　その 1-2
04　相手国での事業立ち上げ　その 1-3
05　相手国での事業立ち上げ　その 1-4
06　相手国での事業立ち上げ　その 1-5
07　企業人によるフィージビリティー（採算可能性）の検証
08　相手国での事業立ち上げ　その 2-1
09　相手国での事業立ち上げ　その 2-2
10　相手国での事業立ち上げ　その 2-3
11　相手国での事業立ち上げ　その 2-4
12　相手国での事業立ち上げ　その 2-5
13　企業人によるフィージビリティーの検証
14　残された課題　その 1　歴史的背景の検討
15　残された課題　その 2　政治・経済情勢の検討

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J80100230
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	本演習は、ビジネス・プランを作成することを目標にし、事業計画の立て方と、それを効果的に伝える方法を学ぶ。 具体的には、ビジネス・プランニング・コンテストにプランを提出するために、①事業計画の立て方を学ぶ、②グループごとにプランを作成する、③グループの成果をプレゼンテーションすることにより効果的な伝え方を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）。		
到達目標	企画書の作成ができること。 プレゼンテーション能力を高めること。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておいてください。 グループで成果をパワーポイントにまとめるため、パソコン作業に習熟すること。		

受講者への要望

受講生は経営企画者になりきり、いかにしてビジネスで成果を上げるのかを真剣に考えること。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（授業の目標と進め方）
2. ビジネス・プラン作成の基礎（ビジネス・プランの基礎を学ぶ）
3. グループ化（調査と成果報告を行うグループを決定する）
4. テーマ決定①（グループ内でテーマにするビジネスを討議する）
5. テーマ決定②（グループ内でテーマにするビジネスを決定する）
6. リサーチ①（決定したテーマに沿ったリサーチ案を討議する）
7. リサーチ②（リサーチ案に沿って実査を行う）
8. ビジネス・プラン作成①（ビジネス・プランを作成する）
9. ビジネス・プラン作成②（ビジネス・プランを作成する）
10. リハーサル（グループ間でまとめた成果を報告しあう）
11. 質問事項の確認（各グループに対する質問をグループ内で整理する）
12. 質問事項の対応策の検討（質問についてグループ内で討議する）
13. 質問事項に対する回答（質問に対する回答をする）
14. ビジネス・プラン作成③（ビジネス・プランを手直しする）
15. 成果報告会（すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう）

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100231
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。プロスポーツビジネスの業界研究と経営学を学ぶことにより、スポーツビジネスについて知識を深める。 スポーツビジネス業界の基礎的知識を身につけ、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養える。 ②グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養える。		
準備学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。		

受講者への要望

演習への積極的参加する。日頃からスポーツビジネスに興味を持ちアンテナを張る。

講義の順序とポイント

1. 「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例①
3. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例②
4. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例③
5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する
6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する
7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる
8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する
9. フィールドワーク事前指導：現場での基礎知識や基礎テクニックを学ぶ
10. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
11. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告
15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100234
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	本講座のキーワードは、「「座学」から「実学」へ」である。すなわち講義科目で習得した経営に関連する知識を駆使して、実現可能な事業構想、事業計画の作成に取り組むことを、本旨とした講座である。 そして事業構想を行う過程において「企業内起業家」「起業家」「女性起業家」「事業後継者」にとって必要とされる実践的能力の涵養を図ることを最大の目的としている。 このためグループワークｔ及びフィールドワークを中心に、コミュニケーション、リーダーシップなど組織にとって重要なスキルを取得するとともに、グループワーク及びフィールドワークを通して、観察し、認知し、実践するマネジメント能力の習得を図りたい。		
教材（テキスト）	日本政策金融公庫編　　『創業の手引き』		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点　30%、研究成果 70%		
到達目標	企業など経営に必要な知識を活用することにより、実現可能な事業構想、事業計画を実践的に、創造し、そのプロセスにおいて、経営学を実践することの、基本と原則を習得することを、最大の到達目標としている。		
準備学習	事業構想、事業計画の原石は、日常生活のいたるところに、散在している。その原石を原石として見いだされるか否かが、事業構想、事業計画を実現させて行くうえでのもっとも重要な要因と言える。 このため社会経済における、企業などのビジネス活動に興味を抱くとともに、ビジネスへの感性を日頃から磨くことに努力されたい。 また当日のフィールドワークなどで取得した知見については、復習した上、次回のフィールドワーク等の準備を行うこと。		

受講者への要望

企業内起業家（サラリーマン)、起業家、女性起業家、事業後継者を目指す受講生を希望します。
またグループワーク及びフィールドワーク中心の講座ですので、時間管理、進捗管理を含め自己管理をしっかりとできる自信のある受講生を，重ねて希望します。

講義の順序とポイント

1　本講座の概要（講義）
2　事業構想及び事業計画（以下事業構想計画という。）に必要とされる知識とスキルの取得（グループワーク）①
3　事業構想計画に必要とされる知識とスキルの取得（グループワーク）②
4　事業構想計画のための起業機会の認識（対象とする業界、業種についての調査研究（フィールドワークの実施））①
5　事業構想計画のための起業機会の認識（対象とする業界、業種についての調査研究（フィールドワークの実施））②
6　中間発表会（プレゼンテーション、質疑応答）
7　事業構想計画のための経営資源の調達（経営資源調達のための調査研究（フィールドワークの実施））①
8　事業構想計画のための経営資源の調達（経営資源調達のための調査研究（フィールドワークの実施））②
9　中間発表会（プレゼンテーション、質疑応答）
10　事業構想計画のためのビジネスシステムの構築（ビジネスシステム構築のための調査研究（フィールドワークの実施））①
11　事業構想計画のためのビジネスシステムの構築（ビジネスシステム構築のための調査研究（フィールドワークの実施））②
12　中間発表会（プレゼンテーション、質疑応答）
13　最終事業構想計画の作成（グループワーク）①
14　最終事業構想計画の作成（グループワーク）②
15　最終事業構想計画のプレゼンテーション（質疑応答、評価）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★	★★	★★	★

年度	2017	授業コード	J80100235
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	本演習では、資料やデータを通して企業が行う人材マネジメントに関する情報（成功例、先進的な事例、など）を収集するのみならず、ケーススタディやフィールドワークを行う。企業組織における人材マネジメントの実際を知る。		
教材（テキスト）	なし（その都度配布する）		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表及び成果物評価（50%）		
到達目標	自ら疑問を設定して、その疑問への解答を導き出す能力を身に着ける。 調査企画書を作成して、調査を実行する能力を身に着ける。		
準備学習	Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 「次回までに行うべきこと」が指示された場合は、しっかりと準備すること。		

受講者への要望

グループワークをはじめ授業に積極的に参加すること。
調査を通じて「モノ・コトを調べる」際に、モノ・コトの内容を論理的に理解するように努力すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション：　本授業の説明（授業の目的・進め方）
2.グループ設定、調査企画に関するディスカッション
3.調査企画に関する事前調査（対象企業の企業研究など）
4.調査企画書の作成
5.調査企画書の推敲
6.調査企画書計画・問題意識の発表
7.調査企画書のブラッシュアップ、アポイントメントを取る
8.インタビューリストの作成
9.調査に向けての心構えについて
10.企業での調査
11.調査内容の整理、調査報告発表の準備
12.調査報告会、グループ間でのディスカッション
13.調査成果のとりまとめ、調査報告書の作成
14.調査報告書のまとめ
15.調査報告書に関する報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★	★	★

年度	2017	授業コード	J80100236
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
講義概要	本演習は、A に引き続きコンテストに応募することを目指し、ビジネス・プランの作成方法を習得し、論理的思考力をさらに伸ばすことを目的としている。 まずビジネス・プランの作成方法に関するテキストを一緒に読み、ビジネス・プランを作成する基礎を習得する。 各自の興味あるビジネスの種を日常生活の中で探してもらい、それについて習った方法で検討する。必要に応じて、社会調査を行い、ビジネスの実現可能性をさらに検証する。 ディスカッションと実地調査を繰り返し行いながら、コンテストに目指してビジネス・プランを作成する。		
教材（テキスト）	『マンガでやさしくわかる事業計画書』		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	演習への積極的参加（60%）、発表成果物（40%）		
到達目標	ディスカッション能力、資料作成能力、プレゼンテーション能力を高め、論理的物事を考える能力を養う。		
準備学習	※Word, Excel, PowerPoint, インターネットの利用方法を事前に勉強しておく。 ※指示された課題に基づき、期限内に予習とレポートを完成する。		

受講者への要望

※学外の活動も予定しているので、通常授業時間外の参加や、保険の加入、交通費が必要な場合もあります。
※ビジネスプランニングコンテストに関心のある方の受講が望ましい。
※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて多様な能力を身に付けてください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（本プロジェクトの概要を説明し、次回の勉強内容や、それまでの課題を指示する）
2. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
3. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
4. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
5. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
6. 各自のビジネス・アイディアについて事前作成したレポートに基づき、発表、ディスカッション
7. 各自のビジネス・アイディアについて事前作成したレポートに基づき、発表、ディスカッション
8. 絞ったテーマについて社会調査を行う。
9. 調査結果について発表、ディスカッション
10. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
11. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
12. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
13. ビジネス・プラン作成
14. ビジネス・プラン作成
15. 発表・ディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J80100251
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	この授業では、歴史都市京都において展開したさまざまな時代の歴史に関係する実際の現場を訪れ、歴史を体感します。その際、たんに現地を訪れるだけではなく、古文書や絵巻物など、通常ではみられないような史料も観覧します。また受講生には事前に下調べをしてもらい、事前にレジュメを作成して、現地で発表をしてもらったり、さらに現地で調査を行ったりすることも求めます。またその調査の成果を、オープンキャンパスで発表してもらうことも想定しています。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	『京都市の地名』（日本歴史地名大系 27、平凡社） 『京都府 上・下巻』（角川日本地名大辞典 26‐〔1・2〕」（角川書店） 『慶長昭和京都地図集成 1611（慶長 16）年～1940(昭和 15)年』（柏書房） 『京都・山城寺院神社大事典』（平凡社） 『新修京都叢書』全 25 巻（臨川書店） 『新撰京都叢書』全 12 巻（臨川書店）		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	現地での発表・作成したレジュメ（50%） 授業への参加度（50%）		
到達目標	京都の歴史文化への知識を身につけること。 京都の歴史文化の調べ方、関係図書について熟知すること。		
準備学習	毎月の見学先について、班ごとに調べものをした上でレジュメを作成してもらいます。		
受講者への要望			
この授業は、教員が引率する観光旅行ではありません。みなさん自身が見学先について、事前調査を行い、深い知識を身につけ、それを他の人に説明することが求められます。また現地で実際に歴史の現場をみることで、初めてわかることもあると思います。また現地には土日に訪れますので、ガイダンスで発表する予定を確認の上、スケジュール調整をしてください。			
講義の順序とポイント			
1回目　ガイダンス 2回目　全班報告（1回目）：辞書調べと文献リスト作成 3回目　北野班・東山班の報告（2回目） 4回目　嵐山班・吉田神社班の報告（2回目） 5回目　北野班・東山班の報告（3回目） 6・7回目　北野天満宮巡見（14 時 20 分～17 時 20 分） 8回目　吉田神社班・嵐山班の報告（3回目） 9・10 回目　東山巡見（13 時～16 時頃） 11・12 回目　吉田神社・京都大学総合博物館の巡見（13 時～16 時頃） 13・14 回目　嵐山の巡見（14 時 20 分～17 時 20 分） 15 回目　全班が巡見結果の報告・最終レジュメの提出（4回目）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100252
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は、実践プロジェクト（民俗学）を通じてフィールドワークの技法について学ぶとともに、民俗事象について理解を深めようとするものです。 　したがって実践プロジェクト（民俗学）の授業は、民俗学のフィールドワークを中心に行うことになります。フィールドワークは民俗学という学問の根幹にあるもので、民俗学を学ぶ者が宝物のように大切にしているものです。単なる現地見学ではありません。 　フィールドワークの前には、その準備として講義形式の授業があります。概ね一回のフィールドワークにつき一回の講義が行われます。 　実践プロジェクト（民俗学）の授業は、佐々木、堀田、手塚の三人の教員が共同で担当します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークおよび資料整理への貢献度、成果発表会の成果などを総合的に評価する。		
到達目標	フィールドワークを計画、実施し、その資料を整理した上で、研究成果を発表できるようになること。		
準備学習	フィールドワークに行く前に教員は準備課題を出します。課された課題は済ませた状態で、フィールドワークに臨むこと。		
受講者への要望			
フィールドワークに関係する授業ですので、原則、全回出席を求めます。　フィールドワークは学外に出ますので、半日もしくは一日がかりとなります。また交通費などがかかります。			
講義の順序とポイント			
秋学期に計画しているフィールドワークは以下の通りです。フィールドワークですので、天候や相手先の都合などにより、計画を変更することがあります。 　夏合宿 　フィールドワーク１　筏復活プロジェクト 　フィールドワーク１　祭礼調査（亀岡） 　フィールドワーク２　御朱印状を持つ村（保津町） 　フィールドワーク３　テーマを持ってフィールドワークをする（京都市郊外） 　フィールドワーク４　テーマを持ってフィールドワークをする（京都市）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100253
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	祇園祭の成り立ちや京都の暮らし、京町家について研究し体験することを通じて、京都の文化の特性を考察する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	適宜、授業で提示する。		
教材（その他）			
評価方法	参加型の授業なので、毎回の内容への積極的参加度によって評価する。		
到達目標	京都の伝統的な祭りや京町家での暮らしについて理解し、京都文化について考察すること		
準備学習	特になし		

受講者への要望

授業は原則として、水曜日 1 時間目に行う。キャンパス移動や二時間続きの内容があるため、2 時間目の授業登録はしないことが望ましい。
また、学外の地域の方等と交流する機会があるので、京都学園大学生としての自覚を持ち、模範となるように行動すること。

講義の順序とポイント

講義内容と実施場所は、下記のとおりである。
京都太秦キャンパス以外の場所で行うことがあるので、注意すること。
また、二時間続きの授業をおこなうことがあるので、注意すること。
なお、日程は訪問先の都合等により変更となることがある。

1　授業の概要 京都太秦キャンパス
2　しつらえ替え　秋　二時間続き 京町家キャンパス
3　茶道　リサーチポスターセッション 京町家キャンパス
4　茶道資料館　（二時間続き） フィールドワーク
5　華道　リサーチポスターセッション 京町家キャンパス
6　六角堂と池坊会館　文化博物館（二時間続き） フィールドワーク
7　座学　祇園祭の山鉾　　中国の故事 京町家キャンパス
8　座学　祇園祭の山鉾　　日本の故事 京町家キャンパス
9　祇園祭　リサーチポスターセッション 京町家キャンパス
10　山鉾の刺繍の作業場見学 京町家キャンパス
11　座学　京料理と京菓子 京町家キャンパス
12　京料理の学習と試食（二時間続き） 京町家キャンパス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J80100254
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	この実践プロジェクトでは、２つの観点から、京都の近代の歴史を考察する。 ・京都の近代化遺産 日本の近代化遺産か?ユネスコの世界遺産に認定されたこともあり、最近注目を集めている。て?は、京都て?はと?のような近代化 遺産か?あるのた?ろうか。この実践フ?ロシ?ェクトて?は、京都の近代化遺産について調へ?、それをフィールト?ワークして、日本の 近代化にと?のような貢献をしたのかを明らかにしたい。そして、そもそも近代化とは何を意味するのか、近代とはと?のような 時代なのかを考えたい。 ・京都の映像文化 Google 等て? “kyoto” て?検索をすれは?、日本文化を象徴する膨大な量の画像を見つけることか?て?きる。YouTube 等て?検索しても京都を舞台にした古い日本映画か?英語の字幕て?世界中て?共有されていることを確認て?きる。注目すへ?きは 1897 年四条河原町の元・立誠小学校て?最初の試写か?おこなわれ「日本映画」か?はし?まった。そして、昭和初期には「日本のハリウット?」と呼は?れる映画産業の中心地となって繁栄することになった。京都は日本の映像文化を語る際に欠くことのて?きない都市なのて?あ る。この実践フ?ロシ?ェクトて?は、京都の文化を、映像というカタチに実際に変換することによって、改めて重層的に考えてみる。具体的には、「京都の近代化遺産」のフィールト?ワークにおいて、iPod touch 等て?撮影した写真／動画て?、写真集／ショー トムーヒ?ーの制作を行うことを試みる。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	フィールドワークの報告レポート等で総合的に評価する。		
到達目標	京都の近代化遺産／映像文化を実践的に考察する。		
準備学習	配布するレジュメ等に記載している文献等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　京都の近代化遺産（１） 03　京都の近代化遺産（２） 04　京都の近代化遺産（３） 05　京都の近代化遺産（４） 06　京都の近代化遺産（５） 07　京都の近代化遺産（６） 08　京都の近代化遺産（７） 09　京都の映像文化（１） 10　京都の映像文化（２） 11　京都の映像文化（３） 12　京都の映像文化（４） 13　京都の映像文化（５） 14　京都の映像文化（６） 15　京都の映像文化（７）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J80100255
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	担当教員は丸田とリッチモンド。秋は主としてリッチモンドが指導する。 京都は言わずと知れた国際観光都市であり、２年連続で「魅力のある街世界一」に選ばれた。したがって、その観光地に関する案内書は無数にあり、すべて紹介され尽した感がある。しかし、とはいえ、まだまだ無名の観光資源は眠っているはずで、それを掘り起こすのが本授業の目的である。 「事前調査」→「現地調査」→「観光案内作成」→「観光案内英語版作成」 秋学期は、「観光案内英語版作成」までを行う予定である。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	学生諸君に探してもらう。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（主席率）とレポートを総合的に判断する。		
到達目標	新しい京都の観光地を外国人にも紹介できるようになる。		
準備学習	京都に関する観光案内に目を通しておく。		
受講者への要望			
これこそフィールドワークの真髄であると思う。楽しみながら学んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
１．概要説明 ２．新観光地研究 ３．新観光地の探索 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．反省会 ９．新観光地研究 １０．同上 １１．新観光地の探索 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100301
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	本講座の目的は、3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて、少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し、かつサポートを行うことにある。具体的には、「自己分析」と「自己 PR」という 2 つの課題の達成を目標とする。 前半では、これまでの学生時代の自分や、大学での活動や学びを振り返り、その上で自分の長所や特性についての分析を行う。さらに、分析によって明らかになった点を整理することによって、「自己分析シート」を完成させていく。　後半では、前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし、自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく。この自己 PR 文は、今後の就職活動において基礎となる重要なもので、企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである。 さらに、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。 なお、民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても、これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され、今後のそれぞれの進路でも役立つことになる。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①と②の受講		
到達目標	自分の特性を明確にするための「自己分析シート」と自分を売り込むための「自己 PR 文」を完成させること。		
準備学習	（1） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておくこと。 （2） 自分の適性を考え、進むべき進路（業界や業種）について考えること。		

受講者への要望

（1） 各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。
（2） 各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。
（3） スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1. スタートガイダンス、「就職登録票」の作成、インターンシップの説明
2. 「就職登録票」の完成と提出、京学なび登録情報の確認
3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による）
12. 「自己ＰＲ文」の作成（1）
13. 「自己ＰＲ文」の作成（2）
14. 「自己ＰＲ文」の作成（3）

15.「自己ＰＲ文」の完成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100302
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	本講座の目的は、3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて、少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し、かつサポートを行うことにある。具体的には、「自己分析」と「自己 PR」という 2 つの課題の達成を目標とする。 前半では、これまでの学生時代の自分や、大学での活動や学びを振り返り、その上で自分の長所や特性についての分析を行う。さらに、分析によって明らかになった点を整理することによって、「自己分析シート」を完成させていく。　後半では、前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし、自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく。この自己 PR 文は、今後の就職活動において基礎となる重要なもので、企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである。 さらに、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。 なお、民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても、これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され、今後のそれぞれの進路でも役立つことになる。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①と②の受講		
到達目標	自分の特性を明確にするための「自己分析シート」と自分を売り込むための「自己 PR 文」を完成させること。		
準備学習	（1） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておくこと。 （2） 自分の適性を考え、進むべき進路（業界や業種）について考えること。		
受講者への要望			
（1） 各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2） 各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3） スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「就職登録票」の作成、インターンシップの説明 2.「就職登録票」の完成と提出、京学なび登録情報の確認 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る） 5.「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する） 6.「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する） 7.「自己分析シート」の作成（1） 8.「自己分析シート」の作成（2） 9.「自己分析シート」の作成（3） 10.「自己分析シート」の完成と提出 11. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 12.「自己ＰＲ文」の作成（1） 13.「自己ＰＲ文」の作成（2） 14.「自己ＰＲ文」の作成（3）			

15.「自己ＰＲ文」の完成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100303
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	本講座の目的は、3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて、少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し、かつサポートを行うことにある。具体的には、「自己分析」と「自己 PR」という 2 つの課題の達成を目標とする。 前半では、これまでの学生時代の自分や、大学での活動や学びを振り返り、その上で自分の長所や特性についての分析を行う。さらに、分析によって明らかになった点を整理することによって、「自己分析シート」を完成させていく。　後半では、前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし、自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく。この自己 PR 文は、今後の就職活動において基礎となる重要なもので、企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである。 さらに、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。 なお、民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても、これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され、今後のそれぞれの進路でも役立つことになる。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①と②の受講		
到達目標	自分の特性を明確にするための「自己分析シート」と自分を売り込むための「自己 PR 文」を完成させること。		
準備学習	（1） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておくこと。 （2） 自分の適性を考え、進むべき進路（業界や業種）について考えること。		
受講者への要望			
（1） 各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2） 各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3） スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「就職登録票」の作成、インターンシップの説明 2.「就職登録票」の完成と提出、京学なび登録情報の確認 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る） 5.「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する） 6.「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する） 7.「自己分析シート」の作成（1） 8.「自己分析シート」の作成（2） 9.「自己分析シート」の作成（3） 10.「自己分析シート」の完成と提出 11. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 12.「自己ＰＲ文」の作成（1） 13.「自己ＰＲ文」の作成（2） 14.「自己ＰＲ文」の作成（3）			

15.「自己ＰＲ文」の完成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100304
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	本講座の目的は、3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて、少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し、かつサポートを行うことにある。具体的には、「自己分析」と「自己 PR」という 2 つの課題の達成を目標とする。 前半では、これまでの学生時代の自分や、大学での活動や学びを振り返り、その上で自分の長所や特性についての分析を行う。さらに、分析によって明らかになった点を整理することによって、「自己分析シート」を完成させていく。　後半では、前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし、自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく。この自己 PR 文は、今後の就職活動において基礎となる重要なもので、企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである。 さらに、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。 なお、民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても、これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され、今後のそれぞれの進路でも役立つことになる。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①と②の受講		
到達目標	自分の特性を明確にするための「自己分析シート」と自分を売り込むための「自己 PR 文」を完成させること。		
準備学習	（1） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておくこと。 （2） 自分の適性を考え、進むべき進路（業界や業種）について考えること。		

受講者への要望

（1） 各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。
（2） 各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。
（3） スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1. スタートガイダンス、「就職登録票」の作成、インターンシップの説明
2. 「就職登録票」の完成と提出、京学なび登録情報の確認
3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による）
12. 「自己ＰＲ文」の作成（1）
13. 「自己ＰＲ文」の作成（2）
14. 「自己ＰＲ文」の作成（3）

15.「自己ＰＲ文」の完成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100305
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	本講座の目的は、3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて、少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し、かつサポートを行うことにある。具体的には、「自己分析」と「自己 PR」という 2 つの課題の達成を目標とする。 前半では、これまでの学生時代の自分や、大学での活動や学びを振り返り、その上で自分の長所や特性についての分析を行う。さらに、分析によって明らかになった点を整理することによって、「自己分析シート」を完成させていく。　後半では、前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし、自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく。この自己 PR 文は、今後の就職活動において基礎となる重要なもので、企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである。 さらに、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。 なお、民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても、これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され、今後のそれぞれの進路でも役立つことになる。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①と②の受講		
到達目標	自分の特性を明確にするための「自己分析シート」と自分を売り込むための「自己 PR 文」を完成させること。		
準備学習	（1） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておくこと。 （2） 自分の適性を考え、進むべき進路（業界や業種）について考えること。		
受講者への要望			
（1） 各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2） 各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3） スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「就職登録票」の作成、インターンシップの説明 2.「就職登録票」の完成と提出、京学なび登録情報の確認 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る） 5.「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する） 6.「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する） 7.「自己分析シート」の作成（1） 8.「自己分析シート」の作成（2） 9.「自己分析シート」の作成（3） 10.「自己分析シート」の完成と提出 11. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 12.「自己ＰＲ文」の作成（1） 13.「自己ＰＲ文」の作成（2） 14.「自己ＰＲ文」の作成（3）			

15.「自己ＰＲ文」の完成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100306
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	本講座の目的は、3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて、少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し、かつサポートを行うことにある。具体的には、「自己分析」と「自己 PR」という 2 つの課題の達成を目標とする。 前半では、これまでの学生時代の自分や、大学での活動や学びを振り返り、その上で自分の長所や特性についての分析を行う。さらに、分析によって明らかになった点を整理することによって、「自己分析シート」を完成させていく。　後半では、前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし、自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく。この自己 PR 文は、今後の就職活動において基礎となる重要なもので、企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである。 さらに、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。 なお、民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても、これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され、今後のそれぞれの進路でも役立つことになる。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①と②の受講		
到達目標	自分の特性を明確にするための「自己分析シート」と自分を売り込むための「自己 PR 文」を完成させること。		
準備学習	（1） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておくこと。 （2） 自分の適性を考え、進むべき進路（業界や業種）について考えること。		

受講者への要望

（1） 各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。
（2） 各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。
（3） スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1. スタートガイダンス、「就職登録票」の作成、インターンシップの説明
2. 「就職登録票」の完成と提出、京学なび登録情報の確認
3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による）
12. 「自己ＰＲ文」の作成（1）
13. 「自己ＰＲ文」の作成（2）
14. 「自己ＰＲ文」の作成（3）

15.「自己ＰＲ文」の完成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100307
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講座の目的は、3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて、少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し、かつサポートを行うことにある。具体的には、「自己分析」と「自己 PR」という 2 つの課題の達成を目標とする。 前半では、これまでの学生時代の自分や、大学での活動や学びを振り返り、その上で自分の長所や特性についての分析を行う。さらに、分析によって明らかになった点を整理することによって、「自己分析シート」を完成させていく。　後半では、前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし、自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく。この自己 PR 文は、今後の就職活動において基礎となる重要なもので、企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである。 さらに、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。 なお、民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても、これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され、今後のそれぞれの進路でも役立つことになる。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①と②の受講		
到達目標	自分の特性を明確にするための「自己分析シート」と自分を売り込むための「自己 PR 文」を完成させること。		
準備学習	（1） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておくこと。 （2） 自分の適性を考え、進むべき進路（業界や業種）について考えること。		
受講者への要望			
（1） 各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2） 各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3） スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「就職登録票」の作成、インターンシップの説明 2.「就職登録票」の完成と提出、京学なび登録情報の確認 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る） 5.「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する） 6.「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する） 7.「自己分析シート」の作成（1） 8.「自己分析シート」の作成（2） 9.「自己分析シート」の作成（3） 10.「自己分析シート」の完成と提出 11. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 12.「自己ＰＲ文」の作成（1） 13.「自己ＰＲ文」の作成（2） 14.「自己ＰＲ文」の作成（3）			

15.「自己ＰＲ文」の完成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100308
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	本講座の目的は、3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて、少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し、かつサポートを行うことにある。具体的には、「自己分析」と「自己 PR」という 2 つの課題の達成を目標とする。 前半では、これまでの学生時代の自分や、大学での活動や学びを振り返り、その上で自分の長所や特性についての分析を行う。さらに、分析によって明らかになった点を整理することによって、「自己分析シート」を完成させていく。　後半では、前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし、自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく。この自己 PR 文は、今後の就職活動において基礎となる重要なもので、企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである。 さらに、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。 なお、民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても、これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され、今後のそれぞれの進路でも役立つことになる。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①と②の受講		
到達目標	自分の特性を明確にするための「自己分析シート」と自分を売り込むための「自己 PR 文」を完成させること。		
準備学習	（1） 自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておくこと。 （2） 自分の適性を考え、進むべき進路（業界や業種）について考えること。		

受講者への要望

（1） 各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。
（2） 各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。
（3） スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。

講義の順序とポイント

1. スタートガイダンス、「就職登録票」の作成、インターンシップの説明
2. 「就職登録票」の完成と提出、京学なび登録情報の確認
3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による）
12. 「自己ＰＲ文」の作成（1）
13. 「自己ＰＲ文」の作成（2）
14. 「自己ＰＲ文」の作成（3）

15.「自己ＰＲ文」の完成と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100311
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100312
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100313
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100314
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100315
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100316
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100317
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100318
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100319
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100321
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100325
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100326
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100327
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100328
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100329
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100330
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100331
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100332
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100333
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100334
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100335
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100336
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100401
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	本講座は、「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて、民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする。講座の目的は、これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと、業界、業種、企業を研究することによって、自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである。具体的には、仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り、それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする。 前半では、まず「履歴書」を完成させ、次に仕事についてや、業界、業種、企業についての研究を行う。研究結果は、「企業研究シート」にまとめていく。その作業の中で、実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら、自分に合った業種や企業を絞り込んでいく。 後半では、絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる。完成した「履歴書」や「エントリーシート」は、実際に絞り込んだ企業に提出するものである。 なお、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「企業研究シート」の完成と提出 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「就職実践模試」の受験 （6）「内定獲得ガイダンス」③と④の受講		
到達目標	企業にエントリーするために必要な「履歴書」と「エントリーシート」を完成させること。また、仕事についてや、業界、業種、企業について研究し、「企業研究シート」としてまとめて、就職先を絞り込むこと。		
準備学習	（1）日頃から、仕事についてや、業界、業種、企業について研究すること。 （2）自分の適性を考え、就職先（業界、業種、企業）について考えること。 （3）様々な社会時事問題に関する理解を広め、企業との直接・間接の結びつきを考えること。		
受講者への要望			
（1）各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2）各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3）スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「自己 PR 文」の確認、「履歴書」の作成 2.「履歴書」の完成と提出 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「企業研究シート」の作成（1） 5.「企業研究シート」の作成（2） 6.「企業研究シート」の作成（3） 7.「企業研究シート」の作成（4） 8.「企業研究シート」の完成と提出 9. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 10.「エントリーシート」の作成（1） 11.「エントリーシート」の作成（2） 12.「エントリーシート」の作成（3）			

13.「エントリーシート」の作成（4）
14.「エントリーシート」の完成と提出
15. 実践練習　（グループディスカッションや個別面接の練習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100402
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	本講座は、「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて、民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする。講座の目的は、これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと、業界、業種、企業を研究することによって、自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである。具体的には、仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り、それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする。 前半では、まず「履歴書」を完成させ、次に仕事についてや、業界、業種、企業についての研究を行う。研究結果は、「企業研究シート」にまとめていく。その作業の中で、実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら、自分に合った業種や企業を絞り込んでいく。 後半では、絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる。完成した「履歴書」や「エントリーシート」は、実際に絞り込んだ企業に提出するものである。 なお、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「企業研究シート」の完成と提出 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「就職実践模試」の受験 （6）「内定獲得ガイダンス」③と④の受講		
到達目標	企業にエントリーするために必要な「履歴書」と「エントリーシート」を完成させること。また、仕事についてや、業界、業種、企業について研究し、「企業研究シート」としてまとめて、就職先を絞り込むこと。		
準備学習	（1）日頃から、仕事についてや、業界、業種、企業について研究すること。 （2）自分の適性を考え、就職先（業界、業種、企業）について考えること。 （3）様々な社会時事問題に関する理解を広め、企業との直接・間接の結びつきを考えること。		
受講者への要望			
（1）各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2）各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3）スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「自己 PR 文」の確認、「履歴書」の作成 2.「履歴書」の完成と提出 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「企業研究シート」の作成（1） 5.「企業研究シート」の作成（2） 6.「企業研究シート」の作成（3） 7.「企業研究シート」の作成（4） 8.「企業研究シート」の完成と提出 9. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 10.「エントリーシート」の作成（1） 11.「エントリーシート」の作成（2） 12.「エントリーシート」の作成（3）			

13.「エントリーシート」の作成（4）
14.「エントリーシート」の完成と提出
15. 実践練習　（グループディスカッションや個別面接の練習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100404
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	本講座は、「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて、民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする。講座の目的は、これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと、業界、業種、企業を研究することによって、自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである。具体的には、仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り、それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする。 前半では、まず「履歴書」を完成させ、次に仕事についてや、業界、業種、企業についての研究を行う。研究結果は、「企業研究シート」にまとめていく。その作業の中で、実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら、自分に合った業種や企業を絞り込んでいく。 後半では、絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる。完成した「履歴書」や「エントリーシート」は、実際に絞り込んだ企業に提出するものである。 なお、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「企業研究シート」の完成と提出 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「就職実践模試」の受験 （6）「内定獲得ガイダンス」③と④の受講		
到達目標	企業にエントリーするために必要な「履歴書」と「エントリーシート」を完成させること。また、仕事についてや、業界、業種、企業について研究し、「企業研究シート」としてまとめて、就職先を絞り込むこと。		
準備学習	（1）日頃から、仕事についてや、業界、業種、企業について研究すること。 （2）自分の適性を考え、就職先（業界、業種、企業）について考えること。 （3）様々な社会時事問題に関する理解を広め、企業との直接・間接の結びつきを考えること。		
受講者への要望			
（1）各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2）各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3）スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「自己 PR 文」の確認、「履歴書」の作成 2.「履歴書」の完成と提出 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「企業研究シート」の作成（1） 5.「企業研究シート」の作成（2） 6.「企業研究シート」の作成（3） 7.「企業研究シート」の作成（4） 8.「企業研究シート」の完成と提出 9. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 10.「エントリーシート」の作成（1） 11.「エントリーシート」の作成（2） 12.「エントリーシート」の作成（3）			

13.「エントリーシート」の作成（4）
14.「エントリーシート」の完成と提出
15. 実践練習　（グループディスカッションや個別面接の練習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100405
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	本講座は、「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて、民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする。講座の目的は、これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと、業界、業種、企業を研究することによって、自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである。具体的には、仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り、それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする。 前半では、まず「履歴書」を完成させ、次に仕事についてや、業界、業種、企業についての研究を行う。研究結果は、「企業研究シート」にまとめていく。その作業の中で、実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら、自分に合った業種や企業を絞り込んでいく。 後半では、絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる。完成した「履歴書」や「エントリーシート」は、実際に絞り込んだ企業に提出するものである。 なお、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「企業研究シート」の完成と提出 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「就職実践模試」の受験 （6）「内定獲得ガイダンス」③と④の受講		
到達目標	企業にエントリーするために必要な「履歴書」と「エントリーシート」を完成させること。また、仕事についてや、業界、業種、企業について研究し、「企業研究シート」としてまとめて、就職先を絞り込むこと。		
準備学習	（1）日頃から、仕事についてや、業界、業種、企業について研究すること。 （2）自分の適性を考え、就職先（業界、業種、企業）について考えること。 （3）様々な社会時事問題に関する理解を広め、企業との直接・間接の結びつきを考えること。		
受講者への要望			
（1）各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2）各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3）スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「自己 PR 文」の確認、「履歴書」の作成 2.「履歴書」の完成と提出 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「企業研究シート」の作成（1） 5.「企業研究シート」の作成（2） 6.「企業研究シート」の作成（3） 7.「企業研究シート」の作成（4） 8.「企業研究シート」の完成と提出 9. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 10.「エントリーシート」の作成（1） 11.「エントリーシート」の作成（2） 12.「エントリーシート」の作成（3）			

13.「エントリーシート」の作成（4）
14.「エントリーシート」の完成と提出
15. 実践練習　（グループディスカッションや個別面接の練習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100406
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	本講座は、「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて、民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする。講座の目的は、これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと、業界、業種、企業を研究することによって、自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである。具体的には、仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り、それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする。 前半では、まず「履歴書」を完成させ、次に仕事についてや、業界、業種、企業についての研究を行う。研究結果は、「企業研究シート」にまとめていく。その作業の中で、実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら、自分に合った業種や企業を絞り込んでいく。 後半では、絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる。完成した「履歴書」や「エントリーシート」は、実際に絞り込んだ企業に提出するものである。 なお、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「企業研究シート」の完成と提出 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「就職実践模試」の受験 （6）「内定獲得ガイダンス」③と④の受講		
到達目標	企業にエントリーするために必要な「履歴書」と「エントリーシート」を完成させること。また、仕事についてや、業界、業種、企業について研究し、「企業研究シート」としてまとめて、就職先を絞り込むこと。		
準備学習	（1）日頃から、仕事についてや、業界、業種、企業について研究すること。 （2）自分の適性を考え、就職先（業界、業種、企業）について考えること。 （3）様々な社会時事問題に関する理解を広め、企業との直接・間接の結びつきを考えること。		
受講者への要望			
（1）各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2）各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3）スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「自己 PR 文」の確認、「履歴書」の作成 2.「履歴書」の完成と提出 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「企業研究シート」の作成（1） 5.「企業研究シート」の作成（2） 6.「企業研究シート」の作成（3） 7.「企業研究シート」の作成（4） 8.「企業研究シート」の完成と提出 9. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 10.「エントリーシート」の作成（1） 11.「エントリーシート」の作成（2） 12.「エントリーシート」の作成（3）			

13.「エントリーシート」の作成（4）
14.「エントリーシート」の完成と提出
15. 実践練習　（グループディスカッションや個別面接の練習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100407
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	本講座は、「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて、民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする。講座の目的は、これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと、業界、業種、企業を研究することによって、自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである。具体的には、仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り、それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする。 前半では、まず「履歴書」を完成させ、次に仕事についてや、業界、業種、企業についての研究を行う。研究結果は、「企業研究シート」にまとめていく。その作業の中で、実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら、自分に合った業種や企業を絞り込んでいく。 後半では、絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる。完成した「履歴書」や「エントリーシート」は、実際に絞り込んだ企業に提出するものである。 なお、この講座は、本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる。15 回のうち数回の講座では、キャリサポ職員による就職ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）。また、完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく。		
教材（テキスト）	CAREER HANDBOOK （進路就職ガイド　京都学園大学）		
教材（参考文献）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教材（その他）			
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「企業研究シート」の完成と提出 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「就職実践模試」の受験 （6）「内定獲得ガイダンス」③と④の受講		
到達目標	企業にエントリーするために必要な「履歴書」と「エントリーシート」を完成させること。また、仕事についてや、業界、業種、企業について研究し、「企業研究シート」としてまとめて、就職先を絞り込むこと。		
準備学習	（1）日頃から、仕事についてや、業界、業種、企業について研究すること。 （2）自分の適性を考え、就職先（業界、業種、企業）について考えること。 （3）様々な社会時事問題に関する理解を広め、企業との直接・間接の結びつきを考えること。		
受講者への要望			
（1）各回ごとの課題を達成させるため、集中して取り組むこと。 （2）各回ごとの課題を達成できなかった場合には、宿題として次回までに達成させること。 （3）スケジュール管理を確実に行うため、手帳を持参すること。			
講義の順序とポイント			
1. スタートガイダンス、「自己 PR 文」の確認、「履歴書」の作成 2.「履歴書」の完成と提出 3. 就職ガイダンス（1）　（キャリサポ職員による） 4.「企業研究シート」の作成（1） 5.「企業研究シート」の作成（2） 6.「企業研究シート」の作成（3） 7.「企業研究シート」の作成（4） 8.「企業研究シート」の完成と提出 9. 就職ガイダンス（2）　（キャリサポ職員による） 10.「エントリーシート」の作成（1） 11.「エントリーシート」の作成（2） 12.「エントリーシート」の作成（3）			

13.「エントリーシート」の作成（4）
14.「エントリーシート」の完成と提出
15. 実践練習　（グループディスカッションや個別面接の練習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	J80100411
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100412
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100413
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100414
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100415
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100416
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100417
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100418
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100419
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100421
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100425
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出、「自己分析シート」によるキャリアサポートセンターでの面談、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100426
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100427
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100428
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100429
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100430
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100431
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100432
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100433
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100434
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100435
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100436
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、完成した「エントリーシート」持参によるキャリアサポートセンターでの面談、 「面接対策セミナー」の受講、「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80100501
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	社会や人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行なう。専門的な研究の存在意義を体験的に理解することを主眼とする。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（岡本裕介担当）は社会調査入門という位置づけである。テーマは「聞き出す仕事、調べる仕事」で、学術的な調査に従事している人以外にも社会には人から「聞き出す」仕事をしている人は多い。実際にそのような仕事に従事している複数の社会人（ジャーナリスト、企業・団体の調査担当者など）に会い、そのような仕事のコツや意義、体験談などを話してもらう。最後に、そこで得たノウハウを生かし、社会人を対象とした独自の簡単なインタビュー調査を行なう予定である。		
教材（テキスト）	授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて指示します。		
評価方法	インタビューの準備と実施（社会調査の設計・実施・結果集約・整理分析：70%）、報告書（30%）、プレゼンテーション等（20%）		
到達目標	人から何かを聞き出すために必要なことを理解する。また社会調査を初め、大学で学びつつあることと社会との接続を理解する。		
準備学習	各回の最後に次回分を指示します。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			

《ガイダンス》
1. イントロダクション（この科目のねらいなど）
2. インタビュー調査概説(1)――インタビュー調査とは
3. インタビュー調査概説(2)――聞き出すことの難しさ

《聞き出す仕事、調べる仕事》
4. 対象者１　事前調査
5. 講義とインタビュー
6. 内容の集約
7. 対象者２　事前調査
8. 講義とインタビュー
9. 内容の集約

《独自インタビュー》
10. 問題設定、事前調査
11. 聞き取り項目等の準備
12. 実査
13. 聞き取り内容の整理
14. 報告書作成
15. プレゼンテーション、ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J80100502
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（岡本裕介担当）では、「イベント企画を通した社会調査入門」というテーマですすめていきます。イベント企画は今のところ、里山で芸術作品制作をしている方のトークと展示を予定しています。制作者に聞き取り調査をして、社会で活動している人の考え方をとらえる方法を学びます。また、イベント参加者に簡単な調査票を配布して集計し、イベントのニーズなどを調べます。せっかくのイベント企画なので、何とか成功するような工夫もしたいと思います。 　なお、イベントとフィールドワークは土曜日に実施し、演習に振り替えます。それ以外に、準備などで数回学外に出かけることがあります。		
教材（テキスト）	演習時に指示します。		
教材（参考文献）	演習時に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて配布・指示します。		
評価方法	フィールドワークの準備と実施（社会調査の設計・実施・結果集約・整理分析：50%）、プレゼンテーション（30%）、討論（20%）		
到達目標	簡単なフィールドワークを計画・実施し、プレゼンテーションおこなう力を身につける。社会調査法をはじめ、大学で学びつつあることと社会との接続を理解する。		
準備学習	各回の最後に次回分を指示します。		
受講者への要望			
科目の趣旨から考えて、積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス（この科目のねらいなど） 2. フライヤーの作成、配布先の検討 3. 会場挨拶・見学、フライヤーの配布 4. 社会調査法概説 5. 聞き取り調査のコツ（外部講師） 6. 調査票の作成(1) 7. 調査票の作成(2) 8. イベント準備 9. イベント実施およびフィールドワーク 10. エディティング（調査データの整理） 11. コーディングと集計 12. ミニレポートの作成 13. 討論と発表(1) 14. 討論と発表(2) 15. ミニレポートの修正、フィードバックの作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2017	授業コード	J80100503
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（君塚洋一担当）は、以下のテーマで行います。 私たちにとって「まち」とは目で見ることのできる地域・社会・世間です。身近な地域で人のために働く人たちは、自分の仕事を通してどのように「まち」を支えているか、それを成功させるためにどのような独自の発想や発信を行っているか。受講生全員が亀岡や京都の仕事のプロの方々を訪れ、インタビュー調査とまち歩きを通じてそれらを探っていきます。 この演習では、少人数のグループに分かれて、3〜4 人のプロの方を順々に訪問し、インタビューやディスカッションを行って、その成果をレポートにまとめます。最終レポートを全員の前でプレゼンテーションして成果や反省点をみんなでふりかえります。社会調査のスキルを身につける実習となることもねらいとしています。 あわせて、それぞれの仕事についてのインタビューにより、プロの方々のキャリア設計や人生観、成功体験などを通じて、受講生が自分自身の進路やキャリアを考えるヒントともなればと考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	演習時に指示します。		
教材（その他）	適宜、プリントや映像資料を活用する。		
評価方法	毎回の演習への出席とフィールドワークへの参加：40%、グループワークとディスカッション：20%、レポート：40%		
到達目標	（1）社会や地域の目に見える一断面＝まちに入り込み、人々の人生・生活・仕事の「現場＝フィールド」を体験する。 （2）社会調査の手法の一つとして、インタビュー調査（定性調査）の方法を実践を通じて身につける。 （3）個人の進路のあり方、まちづくり（コミュニティの活性化）について自分自身・チームで構想する。		
準備学習	フィールドワークの地域やインタビューの対象者について事前に調べレジュメにまとめる。インタビューの実施にあたって質問項目を設計し、すすめ方をイメージする。		
受講者への要望			
科目の趣旨から、毎回の演習への出席とフィールドワーク（学外が中心となる）への参加は必須です。フィールドワークにはまとまった時間が必要なため、土曜日に 2〜3 回、授業時間内に 1〜2 回をあてるので、前向きに日程の調整を行うようにしてください。チームごとに担当するインタビューの相手とは事前に現地で打ち合わせを行い、当日に備えます。学外の相手、他のゼミ生との積極的なコミュニケーションと共同作業を行っていく意欲をもつ人に適した演習です。課題が比較的多くなりますが、調査設計やレポーティング、ディスカッションや発表など、3 回生以降の「専門ゼミ」で必要な基礎能力を鍛えることをめざします。			
講義の順序とポイント			
第 01 回：オリエンテーション＆作業分担決定 第 02 回：第 1 回フィールドワークの準備 第 03 回：第 1 回フィールドワーク 第 04 回：第 1 回フィールドワークのレポート発表 第 05 回：第 2 回フィールドワークの準備 第 06 回：第 2 回フィールドワーク 第 07 回：第 2 回フィールドワークのレポート発表 第 08 回：第 3 回フィールドワークの準備 第 09 回：第 3 回フィールドワーク 第 10 回：第 3 回フィールドワークのレポート発表 第 11 回：第 4 回フィールドワークの準備 第 12 回：第 4 回フィールドワーク 第 13 回：第 4 回フィールドワークのレポート発表			

第 14 回：最終レポートの指導 第 15 回：最終プレゼンテーションとふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J80110102
科目名	ＡＩＰ入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Internship (Introduction)		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	学生が京都の企業に企業留学し，学修へのモチベーションを高めるとともに，卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（アドバンスト・インターンシップ・プログラム；ＡＩＰ）の「最初」に位置付けられる科目である。 ①ビジネスマナー等のビジネススキルの実習を行うほか、②なぜ、インターンシップに取り組むのかを考え、実習に向けた目標の設定をグループワーク形式で行い、実習メンバー間の目的意識を共有することを通じて、実習経験を最大限活かせるような「態度」を身につけることとする。		
教材（テキスト）	プリント資料の配付		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	事前授業の取組態度(20%) 具体的には、発言等々の授業への参加状況を総合的に評価する 実習前の「事前レポート」(80%)		
到達目標	１．企業で働く上で、必要となる基礎的マナーを身につける ２．企業で働く上でのルールや注意しなければならない点について理解する。 ３．実習に取り組む上で個人的な目標設定を行う。 ４．インターンシップそのものの重要性について理解する。		
準備学習	講義内容は全て今後の実習において実際に活用しうる内容であるため、必ず復習を行い、実践できるようにすること。また、予習として新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れること。 （授業内でも、当日の新聞･雑誌記事を素材に、意見交換を行うことがある。）		

受講者への要望

授業は、教員･学生間双方向でやっていく予定であるので、あらゆる局面において、自分の意見を持ち、活発な意見交換をお願いする。これからのインターシップ実習を想定しながら、意欲的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

1　参加メンバーの相互理解
2　インターンシップに取り組む目的とその共有
3　インターンシップの危機管理
4　ビジネスのルールを知る①
5　ビジネスのルールを知る②
6　ビジネスのルールを知る③
7　大学の学びとインターンシップ①
8　大学の学びとインターンシップ②
9　大学の学びとインターンシップ③
１０メンタルヘルス①
１１メンタルヘルス②
１２実習に向けた目標設定①
１３実習に向けた目標設定②
１４実習に向けた目標設定③
１５実習に向けた目標設定④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J80110201
科目名	京の企業Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto Ⅰ		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業で「働く」という事に対する理解を深めると同時に，京都の企業に対する興味関心を深め，自分なりの「働く」ことに対する意味を探求する科目である．組織の中で働くとはどういうことか，そして与えられた役割を果たすとはどういうことかについて考え，職業社会への参入に向けた準備を行う．なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムに参加するための必須科目（事前学修科目）である．		
教材（テキスト）	特になし．必要に応じて適宜指示する．		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する．		
教材（その他）	必要に応じて適宜指示する．		
評価方法	授業中に指示する課題への取組(50%)，レポート課題(50%)		
到達目標	企業で働くことに対する理解を深めることができる 京都の企業に対する理解を深めることができる 「働く」ことに対する自分なりの意味づけを持つことができる		
準備学習	授業内で提示した課題に関する事前調査が必須となるので，授業開始時までに必ず指示した内容について調べ，内容を整理しておくこと．		

受講者への要望

本科目はインターンシップ生として職業社会に参入するための準備的意味合いを持つ科目である．したがって，普段の行動についても社会人と同様の水準で評価する．理由なき遅刻，欠席の厳禁はもちろんのこと，提出物についても必ず期日を守ること．また，本科目を受講しなければ企業実務への参加をすることができないので，真摯な態度での受講が求められる．

講義の順序とポイント

1.ガイダンス＆職業の意義とは何か？
2.先輩から学ぶインターンシップ
3.「社会的役割を果たす」とは？
4.「労働力」と「給料」
5.「天職とは？」
6.日本の雇用と働く仕組み
7.京都の企業を知る①
8.京都の企業を知る②
9.京都の企業を知る③
10.職務を理解する①
11.職務を理解する②
12.職務を理解する③
13.「社会的役割」としての仕事①
14.「社会的役割」としての仕事②
15.「社会的役割」としての仕事③

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J80110301
科目名	京の企業II	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto II		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本科目はインターンシップを通じた実務経験の振り返りを通じて,「働く」ことの意味について再構築する科目である．インターンシップでの実務経験と対比しながら「働く」ということについて考えると同時に，社会で必要となる「学び」の形とは何かについて考える．なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムを修了するための必須科目（事後学修科目）である．		
教材（テキスト）	特になし．必要に応じて資料を配付する．		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する．		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する．		
評価方法	授業中に提示する課題への取組(50%)とレポート課題(50%)		
到達目標	「働く」ことについて，実務経験を踏まえてその意味を再認識することができる 社会で必要となる「学び」の形について深く理解することができる インターンシップでの経験を体系化してまとめることができる		
準備学習	実務経験を通じて感じたり気づいた事柄を具体化していく作業を授業内で実施するので，自分の考えや感じたことや気づきをあらかじめメモや文章などにしてまとめておく．また，授業内で資料作成等を指示するので，期日までに必ず完成させること．		

受講者への要望

普段の行動についても社会人と同様の水準で評価する．理由なき遅刻，無断欠席は厳禁．提出物についても必ず期日を守ること．

講義の順序とポイント

1.実務経験を考える
2.組織社会化①
3.組織社会化②
4.職業の意義・再考
5.企業で働くことの意味①
6.企業で働くことの意味②
7.学校から職業への移行①
8.学校から職業への移行②
9.京の企業で働く①
10.京の企業で働く②
11.京の企業で働く③
12.社会に繋がる学び①
13.社会に繋がる学び②
14.社会に繋がる学び③
15.社会に繋がる学び④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J80110401
科目名	企業実務 A	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を理解し，組織に適応するプロセスについて学びます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を深く理解することができる (2)：組織に適応していくことができる		
準備学習	実務前に自らが取り組む予定である業務がどのようなものであるかについて調べ，具体的なイメージを固めておくこと。合わせて，実務に取り組むにあたり必要となる事柄について準備を進めた上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J80110501
科目名	企業実務B	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：組織に適応し，与えられた職務・役割を通じて貢献していくことができる (3)：社会で必要な「学び」についてのヒントを得ることができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務･役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J80110601
科目名	企業実務C	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship C		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：25% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J80110701
科目名	企業実務D	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Internship D		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（テキスト）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて適宜資料を提示する。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：25% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
準備学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講者への要望			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。			
講義の順序とポイント			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 2 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J80110801
科目名	現代アジア事情 A	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、アジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」では、本学の提携大学である南通大学における中国語語学研修を通じて、中国の文化や歴史に触れることを目的とします。中国語入門レベルの文法、リスニング、語彙、スピーキングの基礎を習得することを目指します。研修後に予定されている中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、日常会話や職場内での基本的なコミュニケーションがとれるようになることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国語および中国語文化、社会,経済事情に対する初歩的な知識を身に着け、中国の現代社会において最低限必要なコミュニケーションをとるための語学力の基礎を習得します。		
準備学習	各講義の前に復習、予習時間の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズを必ず声に出して読んだ上、暗記するようにしてください。また、授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、中国語による自己紹介、あいさつの方法
   授業内容の説明
2. 発音(1)　四声と母音
3. 発音(2)　母音の後半と子音
4. 発音(3)　鼻母音、名前の中国語読み・挨拶の言葉
5. 発音の復習、中国語文化(1)
6. 中国語文法：指示代名詞など
7. 中国語文法、発音の復習、中国経済事情（1）
8. 会話演習（1), 中国語文化(2), 太極拳（１）
9. 中国語文法：場所代名詞、副詞など、中国語文化（3）
10. 会話演習（2), 中国語文法：代名詞、副詞の復習、中国経済事情（2）
11. 中国語文法：　疑問詞、不定の表現、太極拳(2)
12. 会話演習（3), 中国語文法：　方位詞、数量詞と存在の表現、中国経済事情(3)
13. 中国語文法：比較、動詞の可能形、発音復習、太極拳(3)
14. 会話演習(4)
15. 会話演習(5), 中国語文化（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J80110901
科目名	現代アジア事情 B	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」に引き続き、さらなる語学の修得を目指しつつ、中国の文化や歴史、現在の社会、経済事情、法律などを把握することを目的とします。研修後に予定されている、中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、中国における文化や習慣、マナー、経済事情や社会について理解し、企業実習を行うにあたって、スムーズにコミュニケーションがとれる力をつけることを目標とします。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済、社会、法律の事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケーションをとるための語学力の基礎を習得します。		
準備学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション、授業に関する説明、中国語文化(1)
2.　読解(1)，中国語文化（2）
3.　会話演習(1)、中国 j 経済事情（1）
4. .会話演習と作文（1)、中国語文化（3）
5.　読解(2)，太極拳(1)
6.　会話演習(2)、中国経済事情(2)
7.　会話演習と作文（2）
8.　読解(3)，太極拳（2）
9. 会話演習(3)，中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3）
11. 読解(4)、中国語文化（4）
12. 会話演習(4)，太極拳（3）
13. 会話演習と作文（4）
14. 会話と作文の復習、中国経済事情(4)
15. 中国文化(5)，会話演習復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J80111001
科目名	現代アジア事情C	単位数	2
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia C		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」、「現代アジア事情 B」に引き続き、「現代アジア事情 C」では、中国語という言語の学習を通じて、中国の文化や歴史、現在の中国の社会、歴史、経済事情、中国の法律などを理解することを目的とします。中国語の初級レベルの文法、リスニング、スピーキングの訓練をさらに強化します。研修後予定されている中国の日系企業などでのインターンシップにおいて、基本的なコミュニケーションができる程度の中国語の基礎力、ビジネスマナーをを身につけることを狙いとします。		
教材（テキスト）	授業内で配布します。		
教材（参考文献）	授業で指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。また、研修終了後に予定されている企業でのインターンシップに必要なマナー、中国の経済事情、社会についての基礎知識を身につけます。		
準備学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレ－ズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講者への要望

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

講義の順序とポイント

1. 授業に関する説明
2. 中国語文法(1)，中国の文化と社会'(1)
3. 会話演習(1)，中国経済事情(1)
4. 会話演習と作文（2)，太極拳（1）
5. 中国語文法（2)，　中国の文化と社会(2)
6. 会話演習(2)，中国経済事情（2）
7. 会話演習と作文（1)、太極拳（2）
8. 中国語文法（3)，中国の文化と社会(3)
9. 会話演習(3)、中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)、太極拳（3）
11. 中国語文法（4)，中国の文化と社会(4)
12. 会話演習(4)、中国経済事情（4）
13. 会話演習と作文（4)、太極拳（4）
14. 会話と作文の復習、中国の文化と社会(5)
15. 会話演習復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J80111103
科目名	海外企業実務Ａ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、期間最初の１ヶ月目に履修する科目である。１ヶ月目は、実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違い（ギャップ）について考え、整理していくことを目標とする。また、海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、整理していくことを目標とする。海外企業実務の当初設定した目標を再度確認し、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。 誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J80111202
科目名	海外企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、2 ヶ月目に履修する科目です。2 ヶ月目は、実務経験における自分の業務が職場の中でどう役立っているのか、また、仕事全体を俯瞰し、仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理していくことを目標とする。加えて、海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理していくことを目標とする。また、2 か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る。		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である。		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ａを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J80111303
科目名	海外企業実務Ｃ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad C		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、3 ヶ月目に履修する科目です。3 ヶ月目は、海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標です。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組みます。日報や週報も企業の方針に従いますが、プログラムについての最終的なレポートは作成します。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J80111403
科目名	海外企業実務Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship Abroad D		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として履修する。3 ヶ月目の実習期間が 2 週間の場合に履修する科目でである。海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る。		
教材（その他）	業務の中で予想外の教材が用いられるかもしれないが、そこでの驚きが大切である		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価される。		
到達目標	実社会を経験する中で、各専門分野における理論と現実のギャップを体験し、知的好奇心を深めることが目標である。		
準備学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提である。学習内容は就業する企業によって異なりなるが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になる。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどである。		
受講者への要望			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。 誠実な参加を求める。			
講義の順序とポイント			
受け入れ先企業で与えられる課題に取り組む。日報や週報も企業の方針に従って行うが、プログラムについてのレポートを作成し、最終的な成果をまとめて報告を行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J80112101
科目名	警察・消防特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	警察官、消防官の仕事はどのようなものか、警察官、消防官になるためにはどのような準備が必要かを明らかにし、警察官、消防官になるための準備を助けることを内容とする。 警察官、消防官採用試験の教養試験は一般知識と一般知能からなる。本講義では一般知能のうち判断推理と数的推理の実力を向上させることを目標とする。この分野を苦手とする人が多いようであるが、一度要領をつかむと、確実に得点がとれるようになるので、努力のしがいがあると思われる。講義は、問題のパターンごとに解き方を示して、いくつかの例題を解いてみるという形で進行する予定である。 なお、刑務官採用試験などもほぼ同様の出題傾向であるから、これらを志望する人にとっても役立つだろう。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義内で紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	授業内テスト 70%、期末テスト 30%		
到達目標	警察や消防の仕事に理解を深めるとともに、採用試験に臨む心構えをつくり、学生の採用試験の筆記試験(択一式)の準備を促すことを目標とする。		
準備学習	講義時に配付した、練習問題を次回までに復習として取り組み、次回講義開始時に、その解答を提出させる。また、５回の小テスト、中間テスト、後半テストとして単元の区切りごとに授業内テストを課すので、練習問題を使って復習をしっかりやっておくこと。		
受講者への要望			
本講義は３回生以下の学生のバックアップを目的としている。就職活動で出席できそうにない４回生の登録は、歓迎しない。			
講義の順序とポイント			
１　実践問題に挑戦する ２　命題 ３　集合・うそつき ４　暗号・試合 ５　対応・位置・順序 ６　方位・図形 ７　整数の性質 ８　方程式 ９　割合、比、濃度算、損益算 １０　速度算、時計算、年齢算、仕事算 １１　順列・組合せ １２　確率 １３　平面図形 １４　立体図形 １５　警察官・消防官になるためには			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	－	★

年度	2017	授業コード	J80112201
科目名	公務員特別研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	わが国の公務員制度、仕事の内容、公務員試験の概要を学んだうえで、公務員試験準備のための学習をおこなう。試験の範囲のうち、憲法、行政法、地方自治法の基礎的な知識の習得と過去問演習をおこなう。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	講義の際に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）　講義内での課題に対する評価（30%）		
到達目標	憲法、行政法、地方自治法の講義を受けて、過去問を解くことにより、公務員試験試験に合格するための基礎力を養成する。		
準備学習	講義終了時に、毎回、公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲を指定するので、講義の際に紹介する参考書の該当頁を読んでおくこと。		

受講者への要望

公務員試験と行政書士試験の合格をめざす科目なので、はっきり目的意識をもった学生の受講をのぞむ。憲法の復習は適宜行っていくが、できれば憲法をすでに履修したか、履修中であることが望ましい。

講義の順序とポイント

1．　わが国の公務員制度
2．　公務員試験とは
3．　憲法とは
4．　包括的人権と法の下の平等
5．　思想・良心・信教の自由　・表現の自由
6．　経済的自由・生存権・人身の自由
7．　国会・内閣・裁判所
8．　行政法の基本原理
9．　行政組織
10．行政作用の種類
11．行政の義務履行確保、行政罰
12．行政救済法①（行政上の不服申立て・行政訴訟）
13．行政救済法②（国家賠償・損失補償）
14．地方自治法①
15．地方自治法②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J80112301
科目名	公務員特別研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	公務員志望者を対象に、試験科目のひとつである民法について講義と問題演習を行う。講義は公務員試験において頻繁に出題される分野に絞って行い、これを踏まえて過去問の演習を繰り返す。		
教材（テキスト）	適宜、レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第５版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	数回実施する小テストの結果による。講義への取り組み状況（質問への応答等）を補充的に考慮する。		
到達目標	公務員試験等の合格に必要な民法の基礎知識を習得する。		
準備学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者は前回の講義までに配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		

受講者への要望

本講義は公務員試験を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはご遠慮願いたい。受講者には、漫然と出席することなく、自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。なるべく民法関連科目を履修済み、または並行して履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション
２．　制限行為能力
３．　代理
４．　債務不履行・解除（１）
５．　債務不履行・解除（２）
６．　契約総則（１）
７．　契約総則（２）
８．　契約各論（１）
９．　契約各論（２）
１０．不法行為
１１．物権変動（１）
１２．物権変動（２）
１３．抵当権
１４．保証・連帯債務
１５．横断的な問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J81000102
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	経済学 B
講義概要	現代に生きる私たちにとって「経済」の知識を身につけることは必須となっている。この講義では、新聞、ニュースなどで日々伝えられる「経済」の基本的な見方を提供するとともに、経済学科生がこの後に専門的な経済理論を学ぶにあたって、その土台となる基本知識を扱う。講義で取り上げる範囲は，国民所得、失業、インフレ・デフレなどマクロ経済学の基本である。		
教材（テキスト）	『私大文系のマクロ経済学』　高橋知也　中央経済社		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	教員が作成した資料		
評価方法	中間試験 40%、期末試験 60%		
到達目標	（1）国民経済計算の仕組みと所得決定について、マクロ経済学の基礎となる理論を理解する。 （2）報道等で扱われる経済ニュースを理解するための基礎知識を習得する。		
準備学習	・基本事項の予習と、授業内容の復習を行う。その実施は口頭による質疑応答によって確認される。 ・最低限の関数や方程式を使うので、事前に復習しておくこと。		
受講者への要望			
テキストとノートは毎回持参すること。説明に図を多く使うので、色エンピツも忘れない事。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 経済主体と経済行為 第 3 回 国内総生産とは何か 第 4 回 国民経済計算の基礎概念 第 5 回 名目と実質の違い 第 6 回 乗数理論の考え方 第 7 回 均衡国民所得の決まり方 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 45 線モデルで見る、インフレとデフレ 第 10 回 45 度線モデルでみる財政政策 第 11 回 資産市場とは 第 12 回 貨幣の需要と供給 第 13 回 投資、消費関数 第 14 回 資産市場と財市場の同時均衡 第 15 回 簡単な応用としての財政金融政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J81000103
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	経済学 B
講義概要	マクロ経済学は，日常的に新聞やテレビを通じて関心を持っている問題を扱っています。そして，何がいま日本経済で起こっているのか，そして何が問題なのかを分析し解決する道具と指針を与えてくれます。 経済・経営・商学系の学生が必須の内容となっており，特に景気・失業・物価といった経済学の 3 つのテーマを考えて行く上で必要な基礎を本講義では取り上げて行きます。その舞台でどのような登場人物が活躍しているか経済学的なストーリー展開の中から考察して行きます。		
教材（テキスト）	福田慎一・照山博司　「マクロ経済学・入門　第 5 版」　有斐閣アルマ ISBN-13: 978-4641220669		
教材（参考文献）	伊藤元重　「入門　経済学　第 4 版」　日本評論社 他，適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜授業等で配布します。		
評価方法	授業中の演習，レポート，試験（中間・期末）で総合的に評価する。 配分割合は個別に選択してもらいます。		
到達目標	（1）経済学的な物の見方考え方を学ぶ。 （2）グラフや式による経済学的な表現を学ぶ。 （3）順序立てて経済的な因果関係を説明できるようになる。		
準備学習	事前に教科書を読むことを薦めます。なお，授業でそれぞれのトピックの概要を説明しますので，確認と質疑によりより深い学習効果が得られると思います。		
受講者への要望			
授業中は講義スライドを配布する予定です。理論の解説を順序良く理解することとポイントをメモするようにして下さい。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済の考え方 第 2 回 GDP とは何だろうか？ 第 3 回 消費と貯蓄はどのようにして決まるか？ 第 4 回 設備投資と在庫投資 第 5 回 金融と株価 第 6 回 貨幣の需要と供給 第 7 回 乗数理論と IS-LM 分析 第 8 回 経済政策はなぜ必要か？ 第 9 回 振り返り学習 第 10 回 財政政策と国債 第 11 回 インフレとデフレ 第 12 回 失業 第 13 回 経済成長理論 第 14 回 オープン・マクロ経済 第 15 回 アドバンストトピック			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J81000204
科目名	ミクロ経済入門 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井上　寛規	旧科目名称	経済学 A
講義概要	ミクロ経済学とは何かという説明から一般均衡理論までを本講義で取り扱うトピックとする。家計や企業がどの ような行動原理に基づいて財・サービスの消費や生産を行っているのかを解説する。家計のとる行動と企業の とる行動によって財・サービスの価格と供給量が市場でどのように決定されるのかについて理解することを最 終的な目標とする。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する		
教材（参考文献）	伊藤元重著『ミクロ経済学 第 2 版』日本評論社　3,240 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内確認小テストによる平常点（40%）。定期テスト(60%)		
到達目標	ミクロ経済学における各経済主体の行動原理を理解する。		
準備学習	各講義の初めに前回の内容の確認小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
各講義で確認小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．経済の全体像 ２．効率的な買い物：効用概念と予算制約 ３．所得変化と価格変化 ４．財の分類：弾力性という概念 ５．労働と余暇 ６．消費者行動のまとめ ７．効率的な生産①：限界生産力と利潤最大化 ８．効率的な生産②：等費用線と費用最小化 ９．費用の分類：固定費用と可変費用 １０．企業がつぶれるタイミング：損益分岐点と操業停止点 １１．長期的な生産計画 １２．完全競争市場：市場均衡 １３．余剰分析 １４．効率的な資源配分 １５．講義の総括と演習問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J81000301
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済入門では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデル，例えば，部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．加えて，近年，TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが，関税が賦課されていると，１国の国益がどのように損なわれるかも説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	1 回生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J81000302
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である．国際経済入門では，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，基礎的な貿易モデル，例えば，部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する．加えて，近年，TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが，関税が賦課されていると，１国の国益がどのように損なわれるかも説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，貿易政策が貿易に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	1 回生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1) 6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2) 7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1) 8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2) 9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1) 11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2) 12. 貿易政策の理論：関税の効果(1) 13. 貿易政策の理論：関税の効果(2) 14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果 15. 貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J81000401
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される事になる．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠である． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（1） 3.　日本経済の現況と政策課題（2） 4.　日本経済の現況と政策課題（3） 5.　市場社会の変容と三重秩序（1） 6.　市場社会の変容と三重秩序（2） 7.　市場社会の変容と三重秩序（3） 8.　市場社会の変容と三重秩序（4） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（1） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（2） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（3） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（1） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（2） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（3） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J81000402
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される事になる．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠である． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（1） 3.　日本経済の現況と政策課題（2） 4.　日本経済の現況と政策課題（3） 5.　市場社会の変容と三重秩序（1） 6.　市場社会の変容と三重秩序（2） 7.　市場社会の変容と三重秩序（3） 8.　市場社会の変容と三重秩序（4） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（1） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（2） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（3） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（1） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（2） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（3） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J81000403
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される事になる．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠である． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（1） 3.　日本経済の現況と政策課題（2） 4.　日本経済の現況と政策課題（3） 5.　市場社会の変容と三重秩序（1） 6.　市場社会の変容と三重秩序（2） 7.　市場社会の変容と三重秩序（3） 8.　市場社会の変容と三重秩序（4） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（1） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（2） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（3） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（1） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（2） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（3） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J81000404
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される事になる．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠である． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	経済政策論の基礎理論の理解を目標とする．		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（1） 3.　日本経済の現況と政策課題（2） 4.　日本経済の現況と政策課題（3） 5.　市場社会の変容と三重秩序（1） 6.　市場社会の変容と三重秩序（2） 7.　市場社会の変容と三重秩序（3） 8.　市場社会の変容と三重秩序（4） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（1） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（2） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（3） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（1） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（2） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（3） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J81000502
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	林　智子	旧科目名称	
講義概要	我々の日常生活では、毎日、お金のやり取りが行われる。そのお金の出入りを政府活動を通じてみたものが財政である。政府活動は、道路建設など我々の日常において身近に感じられるものから、国防・外交など身近に感じられないものまで様々ある。それら様々な政府活動により国民の生活は支えられている。 講義では、財政の理論と制度、政策をわかりやすく説明する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	神野直彦　『財政学』　有斐閣 橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の課題、試験等で総合的に判断する。		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。 政府活動を身近に考えることができるようになること。 自らの問題として財政問題を考え、応用力や実践力を養成することを目的とする。		
準備学習	普段からニュース等、積極的に見聞きして、政治経済、財政問題に関心をもつこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1. 財政とは何か
2. 財政学の歩み
3. 市場と政府の役割
4. 日本財政の現状
5. 財政３機能
6. 資源配分機能
7. 所得再分配機能
8. 経済安定機能
9. 予算制度
10. 租税の意義と租税原則
11. 租税制度（１）所得税
12. 租税制度（２）消費税
13. 公債
14. 地方財政
15. 総まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J81000503
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	林　智子	旧科目名称	
講義概要	我々の日常生活では、毎日、お金のやり取りが行われる。そのお金の出入りを政府活動を通じてみたものが財政である。政府活動は、道路建設など我々の日常において身近に感じられるものから、国防・外交など身近に感じられないものまで様々ある。それら様々な政府活動により国民の生活は支えられている。 講義では、財政の理論と制度、政策をわかりやすく説明する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	神野直彦　『財政学』　有斐閣 橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	授業中の課題、試験等で総合的に判断する。		
到達目標	政府の役割、税制度や政府支出のあり方などについて理解を深める。 政府活動を身近に考えることができるようになること。 自らの問題として財政問題を考え、応用力や実践力を養成することを目的とする。		
準備学習	普段からニュース等、積極的に見聞きして、政治経済、財政問題に関心をもつこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1. 財政とは何か
2. 財政学の歩み
3. 市場と政府の役割
4. 日本財政の現状
5. 財政３機能
6. 資源配分機能
7. 所得再分配機能
8. 経済安定機能
9. 予算制度
10. 租税の意義と租税原則
11. 租税制度（１）所得税
12. 租税制度（２）消費税
13. 公債
14. 地方財政
15. 総まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J81000601
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は日本証券業協会の協力で実施されます。現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義が主となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。 当然のことながら、外部の人が講師として来られますので、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：出席,小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講者への要望

毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。　受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

講義の順序とポイント

1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて
2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み
3．　マネープランの必要性と金融商品
4．　債券の基礎知識
5．　債券投資の実際
6．　株式投資の魅力とリスク
7．　株価の変動要因
8．　決算書の見方
9．　主な投資指標の見方
10．　株式投資の判断
11．　投資信託をの基礎知識
12．　投資信託を選ぶポイント
13．　資産運用の概要
14．　資産運用はどうあるべきか
15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J81000602
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	この講義は日本証券業協会の協力で実施されます。現場で証券取引に実体験してこられた、実務経験者による講義が主となります。レジメは毎回用意され、それに沿って講義が展開されます。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説していただきます。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義されます。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。 当然のことながら、外部の人が講師として来られますので、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。		
教材（テキスト）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得し、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。		
準備学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講者への要望

毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。　受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

講義の順序とポイント

1．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて
2．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み
3．　マネープランの必要性と金融商品
4．　債券の基礎知識
5．　債券投資の実際
6．　株式投資の魅力とリスク
7．　株価の変動要因
8．　決算書の見方
9．　主な投資指標の見方
10．　株式投資の判断
11．　投資信託をの基礎知識
12．　投資信託を選ぶポイント
13．　資産運用の概要
14．　資産運用はどうあるべきか
15．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J81001101
科目名	経済史入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	農耕と文明の始まりから産業革命に至るまでの経済の歴史を通観します。まず、西アジアで始まったムギを栽培してパンを焼く営みがヨーロッパに伝わり発達していった過程を跡付けます。ムギの栽培に不可欠の肥料と火薬の間にあった奇妙なつながりについて解説します。次いで大航海時代の到来に伴うヨーロッパ諸国の海外進出が産業革命へと連なっていく過程を追います。		
教材（テキスト）	授業時にプリントを配布します。		
教材（参考文献）	鵜飼保雄・大澤良（2010 年）『品種改良の世界史　作物編』悠書館。		
教材（その他）			
評価方法	授業内試験（75%）、レポート（15%）、授業内発表（10%）		
到達目標	経済の歴史について、大きな流れを理解する。		
準備学習	上記の参考文献が図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
この科目は経済の歴史を扱う科目なので、歴史に関心のある学生が履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　農耕と文明の始まり 3　火薬と化学肥料の歴史① 4　火薬と化学肥料の歴史② 5　イタリア諸都市の興隆 6　キリスト教世界の膨張（レコンキスタ） 7　大航海時代 8　コロンブスとはどのような人物だったのか 9　移民の歴史 10　アメリカ大陸から来た栽培植物 11　ヨーロッパにおける生活革命①飲み物 12　ヨーロッパにおける生活革命②磁器 13　ヨーロッパにおける生活革命③衣料 14　環大西洋経済圏の成立 15　産業革命（工業化）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J81001201
科目名	社会政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目では、まず雇用・労働、福祉・介護、年金といった分野において政府が対応を求められてきた代表的な「社会問題」を取り上げ、それらを引き起こしている要因について考える。その上で、それらの問題を解決するために実際にどのような手段が講じられているか、またその際にどのような課題に直面しているかについて説明する。 こうして、政府による社会問題解決に向けた政策、すなわち社会政策の実例を考察することを通じて、社会政策の意義と必要性、および今日的課題についての理解を促す。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会政策の概要とそれに関する今日の社会問題について理解すること。		
準備学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と概要：社会政策とは
２．少子化と人口減少：少子社会の現状と課題
３．高齢化の進行：高齢社会の現状と将来
４．労働と雇用①：労働時間をめぐる課題
５．労働と雇用②：若年者の雇用問題
６．貧困と格差①：生活保護制度
７．貧困と格差②：格差社会の現状
８．高齢者介護問題①：介護をめぐる状況
９．高齢者介護問題②：介護保険制度
１０．医療問題①：国民皆保険制度
１１．医療問題②：医療保障の危機
１２．年金問題①：国民皆年金制度
１３．年金問題②：年金の危機
１４．社会保障の給付と負担：社会保障給付費の増加
１５．少子高齢社会：政策的対応のあり方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J81001301
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②中間試験および授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		
受講者への要望			
１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 ２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 ３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
講義の順序とポイント			
１．講義の順序 第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か 第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第８回：前半の白書の要点整理とその確認テスト 第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第１５回：後半の白書の要点整理とレポート課題の案内 ２．昨年 2016 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 「経済財政白書」（内閣府）　「労働経済白書」（厚生労働省）　「消防白書」（消防庁）　「国土交通白書」（国土交通省） 「食料・農業・農村白書」（農林水産省）　「防衛白書」（防衛省）　「外交青書」（外務省）　「観光白書」（観光庁） 「情報通信白書」（総務省）　「京都市地域創生計画」（京都市）　など			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J81001302
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②中間試験および授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		
受講者への要望			
１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 ２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 ３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
講義の順序とポイント			
１．講義の順序 第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か 第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第８回：前半の白書の要点整理とその確認テスト 第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第１５回：後半の白書の要点整理とレポート課題の案内 ２．昨年 2016 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 「経済財政白書」（内閣府）　「労働経済白書」（厚生労働省）　「消防白書」（消防庁）　「国土交通白書」（国土交通省） 「食料・農業・農村白書」（農林水産省）　「防衛白書」（防衛省）　「外交青書」（外務省）　「観光白書」（観光庁） 「情報通信白書」（総務省）　「京都市地域創生計画」（京都市）　など			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J81001303
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	（１）　本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な内容となるであろう。 （２）　毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （３）　白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（テキスト）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考文献）	（１）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （２）各省庁発表の白書の本文は、省庁ＨＰ上で閲覧・ダウンロード可能であり、是非とも活用されたい。		
教材（その他）	適宜、指定・紹介する。		
評価方法	①毎回の受講レポート 70% ②中間試験および授業内発表 30%		
到達目標	①　現在日本の社会経済問題の構造およびそれへの政策対応に関する基本的な考え方や分析手法を学び、時事問題への確実な理解を深める。 ②　学生各自の専門分野と直接・間接に関連する政策課題について理解を深め、卒業研究に役立てる。 ③　聞き取り力、質問力、表現力など、就職活動の実践で役立つスキルの向上を目指す。		
準備学習	①　講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、それらに目を通しておく。 ②　省庁ＨＰ上にある白書関連サイトを閲覧し、自分の関心の焦点を明確にしておく。		
受講者への要望			
１．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組むこと。 ２．卒業論文のテーマ選択を意識して受講すること。 ３．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
講義の順序とポイント			
１．講義の順序 第１回：講義の概要の説明、および「白書」とは何か 第２回－第７回（前半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第８回：前半の白書の要点整理とその確認テスト 第９回－第１４回（後半）：毎回１つの白書を取り上げていく。 第１５回：後半の白書の要点整理とレポート課題の案内 ２．昨年 2016 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。 「経済財政白書」（内閣府）　「労働経済白書」（厚生労働省）　「消防白書」（消防庁）　「国土交通白書」（国土交通省） 「食料・農業・農村白書」（農林水産省）　「防衛白書」（防衛省）　「外交青書」（外務省）　「観光白書」（観光庁） 「情報通信白書」（総務省）　「京都市地域創生計画」（京都市）　など			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J82010101
科目名	経済思想史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも１６世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで 200 年以上の歴史をへて発展してきた。 本講義では、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第１部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）と第２部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『経済学をつくった巨人たち－先駆者の理論・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人－ 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社）		
教材（その他）	毎回の講義資料は、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」⇒「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の理解に決定的な意味を持つイギリス古典派経済学の成立・発展・解体の学説史的流れを探求する。これによって、現代経済学が抱えている問題をより一層深く理解するとともに、今日の経済問題について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該章をしっかり予習してから授業に出席すること。		
受講者への要望			
授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。			
講義の順序とポイント			
１．経済学史Ａの課題 ２．重商主義の定義 ３．重商主義の経済政策論 ４．重商主義の経済学説 ５．重農主義成立の歴史的背景 ６．ケネー『経済表』の分析(1) ７．ケネー『経済表』の分析(2) ８．アダム・スミスの生涯と著作 ９．『国富論』解説(1) １０．『国富論』解説(2) １１．『国富論』解説(3) １２．マルサス人口論 １３．リカードウの経済学(1) １４．リカードウの経済学(2) １５．Ｊ・Ｓ・ミルと現代			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82010201
科目名	経済史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	コーヒーと絹（生糸）の２つの物産を通して経済の歴史について考えます。現在の日本では大手コーヒー・チェーン店が各地にあるため、コーヒーは欧米のものだと思い込んでいる人がいるようです。しかし、コーヒーを世界で最初に飲んだのはイスラーム世界の人びとでした。その後、ヨーロッパ諸国が植民地でコーヒーを生産するようになり、ジャワやサントスといったブランドが誕生した過程をたどります。 絹（シルク）を世界で最初に利用したのは中国ですが、絹織物の原料になる生糸を器械的に生産する技術はヨーロッパで確立されました。日本は器械製糸の技術を富岡製糸場などを通じて知り、世界最大の生糸輸出国へと成長したのですが、その過程で様々な困難を解決しなければなりませんでした。生糸の輸出をめぐって日本がイタリアや中国を相手に展開した国際競争について考えます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	玉川寛治（2002 年）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教材（その他）			
評価方法	授業内試験（75%）、レポート（15%）、授業内発表（10%）		
到達目標	経済学のツールを使って歴史を理解できるようになること。		
準備学習	上記の参考文献が図書館にあるので、前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

この科目は経済の歴史を扱う科目なので、歴史に関心のある学生が履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　コーヒーに関する予備知識
3　イスラーム世界におけるコーヒーの発見と普及
4　ヨーロッパ諸国へのコーヒーの伝播
5　コーヒーを巡るイギリスとアメリカの関係
6　ヨーロッパ諸国の植民地におけるコーヒーの生産
7　ポルトガルの海外進出とブラジル
8　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展①
9　ブラジルにおけるコーヒー産業の発展②
10　シルクロードと絹の西漸
11　19 世紀の生糸輸出国（機会費用との関連で）
12　19 世紀の生糸輸入国（投入物の相対価格との関連で）
13　世界遺産・富岡製糸場
14　モラルハザードへの対応
15　風土と蚕品種（ヨーロッパ・日本・中国の比較）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J82010301
科目名	経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	経済学は、封建制の解体のなかから生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、本講義では、そのスミスに始まるイギリス古典派経済学の解体にともなう近代経済学成立と、「ケインズ革命」を経て現代に至るまでの現代経済学の発展史を概説する。		
教材（テキスト）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）		
教材（参考文献）	日本経済新聞社編『現代経済学の巨人たち―20 世紀の人・時代・思想』（日経ビジネス人文庫）、同編『経済学の巨人― 危機と闘う』（同上）、同編『経済学４１の巨人』（日本経済新聞社）		
教材（その他）	毎回の講義資料は、講義当日にプリントにて配布するとともに、「京学なび」⇒「授業資料」として事前にアップする。		
評価方法	平常点（３０％）毎回の確認テスト・受講態度＋レポート試験（７０％）		
到達目標	現代経済学の出発点は 1870 年代の「限界革命」理論の確立に求められる。この「限界革命」と 1930 年代の「ケインズ革命」によって飛躍的な発展をとげた現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ることを目標とする。		
準備学習	「講義の順序」に即して、あらかじめ指定されたテキストを予習してから授業に出席すること。テキストに記載がない項目については、事前に授業資料を「京学なび」にアップしておくので、予習しておくことを求める。		

受講者への要望

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な発言については、いずれも平常点の加点対象とする。

講義の順序とポイント

１．経済学史Ｂの課題――古典派経済学から近代経済学へ
２．マルクスと現代(1)
３．マルクスと現代(2)
４．マルクスと現代(3)
５．近代経済学の成立(1)
６．近代経済学の成立(2)
７．イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー）
８．シュンペーターの経済学
９．ソースタイン・ヴェブレンの制度主義経済学
１０．ケインズ革命(1)
１１．ケインズ革命(2)
１２．ケインズ革命(3)
１３．ケインズ以降の現代経済学の展開(1)
１４．ケインズ以降の現代経済学の展開(2)
１５．現代経済学の新潮流

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82010401
科目名	国際経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し，グローバル化が経済にどのような効果を持つのかを学習するのが国際経済学という学問である．まず，グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て，国際経済入門で講義した初歩的な貿易モデルを念頭に置きながら，応用的な貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益を説明する．また，別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に与える影響についても説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 ○大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 ○石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 ○若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し，まず，それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする．また，生産要素移動の経済に与える効果についても学習し，理解することを目標とする．		
準備学習	ミクロ経済学と国際経済入門の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの科目を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. リカード・モデル：絶対優位と比較優位 3. リカード・モデル：生産可能性フロンティア 4. リカード・モデル：相対価格と貿易パターン 5. リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定 6. リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益 7. ヘクシャー=オリーン・モデル：リカード・モデルとヘクシャー=オリーン・モデル 8. ヘクシャー=オリーン・モデル：固定係数モデル 9. ヘクシャー=オリーン・モデル：リプチンスキー定理 10. ヘクシャー=オリーン・モデル：ヘクシャー=オリーン定理 11. ヘクシャー=オリーン・モデル：ストルパー=サミュエルソン定理 12. ヘクシャー=オリーン・モデル：要素価格均等化定理 13. 生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは 14. 生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果 15. 生産要素の国際移動：2 生産要素モデルでの資本移動の効果			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82010501
科目名	金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融政策論も併せて受講してほしい。		
教材（テキスト）	第１回目の講義時に紹介する。		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身につける。		
準備学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		
受講者への要望			
「金融政策論」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい			
講義の順序とポイント			
1.貨幣とは何か 2.銀行の役割 3.中央銀行の役割 4.金融政策の方法 5.信用創造について 6.金融政策はどのように経済に影響するのか 7.短期金融市場の役割 8.債券についてⅠ 9.債券についてⅡ 10 株式についてⅠ 11 株式についてⅡ 12.為替レートについてⅠ 13..為替レートについてⅡ 14.物価の決定理論Ⅰ 15.物価の決定理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82010601
科目名	国際金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	国際金融論は，国家間の金融取引に焦点を当て，そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である．本講義では，まず，国際金融取引の現状を説明したうえで，そこで必要となる為替レートがどのようなアプローチに基づいて決まるかを説明する．加えて，為替レートが変動することに伴い実体経済がどのような影響を受けるかも重要な点であるため，為替レートの変動と実体経済に生じる影響の関係についても説明する．		
教材（テキスト）	なし，講義でプリントを配布する．		
教材（参考文献）	○高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 ○藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 ○橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣		
教材（その他）	○藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ ○小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 ○宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
評価方法	基本的に，授業内小テスト等による平常点（60%），レポート（40%）の成績によって評価する．		
到達目標	為替レートの決定と為替変動がマクロ経済に与える影響について理解することを目標とする．		
準備学習	金融論とマクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい．それゆえ，できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと．また，各回の終わりに宿題としてレポートを課すので，授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること．		
受講者への要望			
遅刻や私語を厳禁とする．遅刻の場合，その理由を求める．私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める．			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．国際金融取引の基礎：グローバル化するモノ・おカネの動き 3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定 4．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由 5．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート 6．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支 7．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件，Ｊカーブ効果 8．為替レートの決定：購買力平価，金利平価 9．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル 10．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル 11．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム 12．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル 13．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路 14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策 15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82010701
科目名	マクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics		
担当者名	東　良彰	旧科目名称	
講義概要	本講義はマクロ経済学の入門的内容に続く講義である。入門的な内容ではＧＤＰに関する議論から始まり、財・サービス市場の取引のみに注目した 45 度線分析を学んだ。そして議論の単純化のため、貨幣の存在を捨象した。マクロ経済学の授業では、新たに貨幣について理解を深める。その上で、45 度線分析に貨幣市場の均衡を考慮したＩＳ－ＬＭ分析を学び、モデルから得られる政策的含意を検証する。		
教材（テキスト）	『マクロ経済学の視点』[改訂版]　清川義友、他　八千代出版		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	授業で配布する資料		
評価方法	中間試験 50% 期末試験 50%		
到達目標	まず最初は、マクロ経済学の講義を貨幣の存在しない財・サービス市場だけからなるモデルから始める。本講義ではそこに貨幣が登場するが、そもそも貨幣とは何であるのかを理解できることが第一の目標である。そして、貨幣と同時に導入されるのが利子率であり、貨幣市場で決まる利子率が、財・サービス市場において投資行動に影響するという相互作用を理解することが第二の目標である。		
準備学習	次に学習する内容の中で用いられる数学の知識が不足している場合には、数学の事前学習をする。なお本講義で用いられる数学の知識は、高等学校までで学習するものの一部分だけである。		
受講者への要望			
毎回復習を欠かさないこと。			
講義の順序とポイント			
第 1 回 マクロ経済学で学ぶ内容 第 2 回 マクロ経済学基礎の復習①ＧＤＰと三面等価の原則 第 3 回 マクロ経済学基礎の復習②45 度分析と財政政策の効果 第 4 回 貨幣の役割とその定義 第 5 回 ハイパワードマネーと貨幣乗数 第 6 回 貨幣と資産市場 第 7 回 貨幣市場の均衡と利子率の決定 第 8 回 振り返り学習 第 9 回 投資関数とＩＳ曲線の導出 第 10 回 貨幣市場とＬＭ曲線の導出 第 11 回 ＩＳ－ＬＭ分析の均衡 第 12 回 財政政策と金融政策の効果 第 13 回 クラウディングアウトと流動性のワナ 第 14 回 リカードの等価定理・バローの中立命題 第 15 回 失業に関する新古典派とケインズ派の見解			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82010801
科目名	ミクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics		
担当者名	竹内　哲治	旧科目名称	
講義概要	経済や企業は絶えず変化しているから、この科目の目標は、生涯に亘ってさまざまな問題に対処できる汎用性のある問題解決能力を身につけることである。そしてそのような能力は、ミクロ経済学・マクロ経済学という基礎的な経済学のトレーニングによって培うことができる。この講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を学びことを目的としており、なかでも １．消費者と企業の行動を経済学的な観点からどのように表現するか理解する。 ２．競争市場とその均衡の経済学的な意味を理解する。 ３．不完全競争下の企業行動がどのように経済に影響するか理解する。 ４．不確実性下の問題とゲーム理論によるアプローチの基礎を理解する。 の４点に注力を注ぎます。		
教材（テキスト）	神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』　日本評論社　￥3,456 円　ISBN-13: 978-4535557567		
教材（参考文献）	武隈慎一（1999）『ミクロ経済学　増補版』　新世社　￥2,850 円　ISBN-13: 978-4883840045 伊藤元重（2003）『ミクロ経済学　第２版』　日本評論社　￥3,000 円　ISBN-13: 978-4535552616 家森信善・小川光（2016/3 月発刊予定）　『ミクロ経済学の基礎』　中央経済社　￥未定　ISBN-13: 978-4502179518		
教材（その他）	授業中に，適宜指示します。		
評価方法	授業内演習（40%）・レポート（30%）・試験（30%）により総合的に評価します。		
到達目標	ミクロ経済学は経済学的な考え方の基礎的な道具となっていますので，この授業では基本概念と分析方法をおさえ，応用分野で利用できるようにすることを目標とします。		
準備学習	適宜講義の終わりに指示しますが基本的には教科書に従って進めますので，次の講義に必要な基本的な用語を事前に認識し，何を目的としてどのような範囲を対象としているかを留意して概観を捉えてくることを薦めます。授業中はポイントや考え方導き方のコツを涵養してもらいますし，準備学習で気付いた疑問点を解決していきたいと思います。		
受講者への要望			
１）積極的な姿勢で講義に臨むことが望ましい。 ２）質問が無ければ全て理解していると判断しますので，分からないことは後回しにせずにいつでも聞いて下さい。			
講義の順序とポイント			
1)　基本概念と分析手法 2)　消費者行動（１）－効用関数と需要曲線 3)　消費者行動（２）－需要の変化と双対性アプローチ 4)　企業行動（１）－生産技術の数学的表現 5)　企業行動（２）－利潤最大化と費用最小化 6)　競争経済の均衡（１）－需要と供給の調整 7)　競争経済の均衡（２）－交換経済の均衡 8)　経済厚生（１）－パレート効率性 9)　経済厚生（２）－厚生経済学の基本定理 10)　不完全競争（１）－独占企業の利潤最大化 11)　不完全競争（２）－クールノーの均衡 12)　不確実性Ⅰ 13)　不確実性Ⅱ 14)　ゲーム理論Ⅰ 15)　ゲーム理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J82010901
科目名	経済統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Statistics		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済の諸現象を量的に把握したものが経済統計である。統計調査やその利用・分析を重点的に展開する。 とくに分析に必要となる「データのまとめ方」や「統計利用の実際」を重視するが、統計分析の初歩も当然必要となる。 SNA 統計や、物価、労働、金融、為替、外国貿易等様々な統計データを用いて、その処理方法や数量的分析の基礎を学習する。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って表や図、数値指標にまとめて分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。 出席は当然であるので、1/3 回以上欠席した場合不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなし、統計的処理の基礎を固める 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講者への要望

ノートを必ず作り書き込むこと。これは特に重要である。
積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。
授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退室は厳禁である。

講義の順序とポイント

以下のように講義を進めるが、取り扱う内容は上記のように各種関連統計を随時利用する。
1　講義の全体構成
2　表を作る
3　グラフの作成と大小関係
4　円グラフと比率
5　折れ線グラフと時間の推移
6　棒グラフとその性質
7　2 軸を使った複合グラフの分析
8　ヒストグラムと分布
9　データのばらつき
１０　散布図と 2 変数の関係
１１　不平等、格差を測る
１２　経済成長を測る
１３　世界の豊かさ
１４　相関係数の話

１５　回帰分析の話

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J82011001
科目名	計量経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済・社会データを数量的に分析するための統計手法の学習、データ分析の実際を学ぶ。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 とくに最小 2 乗法や検定（t 検定）を理解することが重要である。また、実際の分析には重回帰分析や、要因分析、これらを駆使したデータマイニングの課題を解いていくことが重要である。 こういった分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。 出席は当然であり、1/3 回以上欠席した場合は不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講者への要望

ノートを必ず作り書き込むことが重要である。
積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすること。
授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退席は厳禁である。

講義の順序とポイント

1　講義の全体構成
2　平均と分散
3　平均と分散の実例
4　課題（1）の分析
5～7　課題（1）の修正と完成
8　回帰分析その 1
9　回帰分析その 2
10　より進んだ回帰分析
11　回帰分析と評価
12　回帰分析と評価その 2
13　回帰分析と評価その 3
14　課題（2）の分析
15　課題（2）の修正と完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J82011101
科目名	時系列解析	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
講義概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （2）経済データが定常か非定常かを単位根検定できる。 （3）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
準備学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講者への要望

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

講義の順序とポイント

（1）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示
（2）季節調整、平均化、smoothing、記述統計
（3）最小二乗法による推定――回帰直線
（4）最小二乗法による推定――重回帰
（5）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響）
（6）自己相関、相互相関
（7） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（8）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（9）系列相関の考え方
（10）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定
（11）単位根検定――日本のデータ
（12） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ
（13）レベル変数間の推定
（14）階差変数（成長率）間の推定
（15）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J82011201
科目名	技術移転論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。２０世紀におけるわが国の企業における技術経営戦略の一つであった「追いつき、追い越せ」のキャッチアップ時代とは異なり、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は２１世紀における重要な位置付けであると考えられている。 　本講義では「技術移転」についての基礎知識を習得し、産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携事例を学習していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	「産学官連携推進の知恵」、文部科学省産学官連携企画編集員会 「産学官連携の新たな展開に向けて」、文部科学省研究振興局		
教材（その他）			
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)＋「レポート＋試験」(50%）＋授業内小テスト等による平常点(30%)		
到達目標	技術移転に関する基本的な知識の習得。		
準備学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
１）　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
講義の順序とポイント			
1.　　講義の内容と進め方 2.　　技術移転とは？　産学官連携とは？ 3.　　産学官連携支援体制づくり 4.　大学の「知」の発掘・発信と産業界のニーズ把握 5.　マッチング 6.　共同研究契約と知的財産権 7.　イノベーションを誘発する仕組み 8.　大学発ベンチャーの育成と支援 9.　産学官の連携事例（その１） 10.　産学官の連携事例（その２） 11.　産学官の連携事例（その３） 12.　地域と大学の連携事例（その１） 13.　地域と大学の連携事例（その２） 14.　地域と大学の連携事例（その３） 15.　これからの連携と技術移転			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J82011301
科目名	環境経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	近年，地球温暖化を抑制するための環境政策として，「炭素税」や「排出量取引」といった経済的政策（経済的インセンティブに基づく政策）が世界のいくつかの国で採用されています．日本においても，炭素税（地球温暖化対策税と呼ばれる）が，2012 年 10 月 1 日から導入されました．また，排出量取引制度については，2005 年から自主参加型として開始され，2008 年からは実験も始めて，5 年後の導入を計画していました．しかしながら，日本政府は 2010 年の COP16 閉幕後に，排出量取引の導入をいったん凍結させました．（ただ，東京都は 2010 年から，また埼玉県は 2011 年から，独自に排出量取引制度を実施しています．） 世界における排出量取引の実施は EU が最初で，それは 2005 年 1 月のことでした．その後スイスとニュージーランドが 2008 年，アメリカとカナダは国家ではなく州レベル（カリフォルニア州とケベック州）で 2013 年から開始しています．最近では，アジアにおいても中国が 2 省 5 市でのモデル事業を 2013 年から開始し，韓国も 2015 年から実施しています． 従来，環境政策といえば，政府による規制政策（環境基準で規制する政策）が主流でした．しかし，最近では「炭素税」や「排出量取引」といった経済的政策が，地球温暖化問題に対する効果的な環境政策として世界的に認められるようになってきました．それは，経済的政策には規制政策にあるいくつかの短所を克服する優れた長所があるからです． 本授業の目的は，地球温暖化を抑制する環境政策としての経済的政策について理解することにあります（なぜ規制政策よりも優れた環境政策なのか）．授業の前半は，経済的政策の優位性を理解するために必要な分析道具として経済学の基礎を確認し，その応用としての環境経済学の理論や分析手法などを習得していきます．後半は，前半で学んだ分析道具を使用して従来の直接規制の短所を明らかにした上で，経済的政策（「炭素税」や「排出量取引」）の長所についての理解を深めていきます．また，授業の中では，学生諸君に排出量取引を実際に体験してもらうことによって、さらなる理解を深めてもらいます．なお，授業のはじめには，新聞記事などの資料を配布し，地球温暖化問題への世界や日本の取組の状況についても紹介していきます．		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	(1) バリー・C・フィールド著・秋田次郎他訳『環境経済学入門』日本評論社（1997 年）． (2) ウィリアム・ノードハウス著・藤崎香里訳『気候カジノ ― 経済学から見た地球温暖化問題の最適解』日経 BP 社（2013 年）．		
教材（その他）	毎回、書き込み式の授業ノートと資料等を配布する。		
評価方法	授業内レポート（25%），中間レポート（25%），学期末レポート（50%）		
到達目標	経済学及び環境経済学の諸原理を理解し、地球温暖化や大気汚染等の環境問題を解決するための経済的環境政策のしくみや長所について説明できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング・リストを配布するので、できれば講義の前には必ず目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
できるだけ講義に出席して内容を理解すること。経済学及び環境経済学は、すぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習や講義の後の復習は非常に重要である。また、私語をはじめ他の学生に迷惑をかける学生には教室からの退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1.　地球温暖化を抑制する経済的政策と世界情勢 ＜道具としての経済学や環境経済学の概念＞ 2.　分析道具Ⅰ（支払意思・便益） 3.　分析道具Ⅱ（費用・技術・限界費用均等化原理） 4.　分析道具Ⅲ（経済効率性・衡平性・市場） 5.　分析道具Ⅳ（外部性・市場の失敗） 6.　分析道具Ⅴ（汚染被害・削減費用） 7.　分析道具Ⅵ（効率的な排出水準・割引率） ＜中間レポート＞ ＜効果的な環境政策としての経済的政策＞			

8. 直接規制政策　（規制政策の仕組み・短所）
9. 経済的政策Ⅰ（炭素税制度の仕組み）
10. 経済的政策Ⅱ（炭素税制度の長所）
11. 経済的政策Ⅲ（排出量取引制度の仕組み）
12. 経済的政策Ⅳ（排出量取引制度の長所・排出量取引の実践）
13. 温暖化政策の分析Ⅰ（費用便益分析・炭素価格の分析）
14. 温暖化政策の分析Ⅱ（国際的な問題・代替政策の比較分析）
15. 温暖化政策の分析Ⅲ（政治的な問題・政策批判や世論）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82011401
科目名	経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
講義概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組み及び、競争への悪影響が大きな「入札談合」などの「カルテル」と「私的独占」を中心に学びます。		
教材（テキスト）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第４版)』（有斐閣、２０１４年）		
教材（参考文献）	・泉水文雄・長澤哲也編　『実務に効く公正取引審決判例精選』（ジュリスト増刊、２０１４年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、２０１０年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（授業内レポート等）　３０％ 期末テスト　７０％		
到達目標	入札談合などのカルテルの仕組みと独占禁止法上の基本概念を理解し、基本的な事例について、独占禁止法を適用して判断することができるようになる。		
準備学習	企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。 各回の講義で指示する教科書の該当箇所を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。			
講義の順序とポイント			
１．１．市場経済と競争 ２．独占禁止法の目的と全体像 ３．不当な取引制限①（入札談合） ４．不当な取引制限②（入札談合に対する規制） ５．不当な取引制限③（形態） ６．不当な取引制限④（行為要件） ７．不当な取引制限⑤（弊害要件） ８．不当な取引制限.⑥（応用問題：事業者団体規制、ハードコアカルテルと非ハードコアカルテル） ９．課徴金制度 １０．私的独占①（規制の概要） １１．私的独占②（排除型私的独占） １２．私的独占③（支配型私的独占） １３．企業結合 １４．不公正な取引方法 １５．エンフォースメント			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82011501
科目名	国際法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	国際法は基本的に国と国の間の関係について定めた法であり、私たちの日常生活とは関わりがないと感じるかもしれない。しかし、近年は国以外のアクター（国際機構、個人、企業、NGO など）の役割も国際社会ではますます重要になっており、国際法が扱う問題（平和、貿易、環境など）もわれわれと決して無関係ではない。本講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にし、その上で、国際法の基本的な考え方やはたらきを分かりやすく講義したい。		
教材（テキスト）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年）		
教材（参考文献）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 徳川信治・西村智朗編『テキストブック法と国際社会』（法律文化社、２０１２年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） ＊その他のものについては、講義で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際法が私たちの日常生活とどのように関わっているのかを理解する。 ２．国家の基本的な権利・義務や地球上の空間が法的にどのように構成されているのかを理解する。 ３．平和や環境のような世界全体の問題について、国際機構を中心にしてどのような協力の仕組みが設けられているのかを理解する。		
準備学習	講義が終了する際に次回の講義内容と教科書の該当ページを指定するので予習してくること。毎回授業の最後に復習テストを行う。		

受講者への要望

１．好奇心を持って、国際問題に興味を示そう。
２．講義中は私語をつつしむ。
３．講義では、休憩も取ることもあるので、集中力を切らさずに臨む。

講義の順序とポイント

１．導入－国際社会の性質と国際法（冒頭に履修ガイダンス）
第１部　国際法における国家と国際社会の空間秩序
２．国際法主体としての国家（１）－国家の成立と変動
３．国際法主体としての国家（２）－国家機関、国家の基本的権利義務
４．国家領域と国際公域
５．海洋法（１）－現代海洋秩序の構造
６．海洋法（２）－航行利用制度、海域の境界画定など
第２部　国際法の形成と適用・実施
７．国際法の法源、条約法（１）－条約の成立、日本法秩序における条約の効力
８．条約法（２）－条約の留保、条約の無効など
９．紛争の平和的処理－司法的解決を中心に
第３部　国際社会における相互依存と国際協力
１０．国際社会の組織化と国際機構（国連に関するＤＶＤ鑑賞も行う）

１１．平和と安全の維持（１）－武力行使の禁止と国連の集団安全保障体制
１２．平和と安全の維持（２）－国連の平和維持活動、軍縮
１３．国際人権保障
１４．経済的国際協力
１５．環境保全

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82011601
科目名	国際経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、国際貿易・海外投資・国際金融を中心にして国際経済に関わる国際法について講義する。日本は世界でも有数の貿易大国であり、多くの日本企業が国境を越えた事業を展開している。このことから、日本の法令や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。 講義では、冒頭で具体例を提示してポイントを明確にする。その上で、日本に関わる具体的な事例などの時事問題にも触れながら、WTO 体制、海外投資、国際金融・通貨を中心しながら国際経済についての法的枠組みについて分かりやすく説明していきたい。		
教材（テキスト）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版］』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版］』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集［第２版］』（東信堂、２００２年）		
教材（その他）			
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト４０点、定期試験６０点。 詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか理解する。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みを理解する。 ３．海外投資や国際金融についての法的枠組みを理解する。		
準備学習	講義を終了する際に、次回の講義内容を指定し、レジュメを配布するので、事前に目を通してくること。		

受講者への要望

１．講義中は私語や教室の出入りをつつしむこと。
２．講義では、休憩も取ることもあるので集中力を切らさずに臨むこと。

講義の順序とポイント

導入部
１．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法

第１部　国際貿易と国際法
２．貿易に関する国際法の展開
３．GATT の成立と展開
４．WTO 体制の成立と概要
５．WTO の紛争解決手続
６．WTO におけるサービス貿易
７．WTO における知的財産権
８．WTO における農業貿易
９．WTO と地域経済統合
１０．WTO と途上国
１１．WTO と非貿易的価値

第２部　海外投資および国際金融と国際法
１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

＊進度により若干の変更がありうる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82011701
科目名	経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われている．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系が根本的に見直されなければならない．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980 年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されている． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考える．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教材（その他）	講義用レジュメを配付		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における社会保障保を巡る諸問題の理解を目標とする		
準備学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講者への要望			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
講義の順序とポイント			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J82011801
科目名	金融政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、大恐慌、北欧の金融危機、リーマンショック、日本のバブル、長期デフレといった具体的事例を中心に金融政策の役割について講義する。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（テキスト）	最初の講義時に紹介		
教材（参考文献）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、および小テスト 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解でき、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようにする。		
準備学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講者への要望

「金融論」を併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

講義の順序とポイント

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラルール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネービュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J82011901
科目名	社会政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本科目では、社会政策実践の歴史について、その源流から今日までを振り返り、それらがいかなる事情と目的の下に展開されてきたかを説明する。さらに、その間に社会政策の対象や概念がどのように変化してきたかに着目することを通じて、社会政策の意義と必要性、そしてその体系について理解を深める。また、少子高齢化や人口減少など、わが国が直面している社会構造の変化を念頭に置きつつ、今日の社会政策に期待される役割とそこに生じている課題について検討を行う。		
教材（テキスト）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教材（その他）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
評価方法	授業内課題（45%）、学期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の諸制度の目的と意義を理解すること。		
準備学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講者への要望

・「社会政策入門」を受講済みであることが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．わが国における社会保障の概念
６．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
７．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
８．社会保障の必要性：歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１１．社会保障の源流
１２．社会保障の登場と発展
１３．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
１４．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82012001
科目名	国際関係論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Accounting		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	この講義では、現代の国際社会を特徴づける紛争形態の変化、グローバル化の進展、非国家主体の役割の拡大、地球環境問題の深刻化などの変化が、国際関係にもたらした影響を説明する。現代の国際関係における諸問題はきわめて複雑化・多元化し、一面的な認識で把握することは難しい。本講義において現実の国際関係を理解する多様なアプローチを習得することを通じ、受講生が、現代の国際システムの特徴を正しく理解すること、現代の国際関係における諸問題への対応を各自で見いだすスキルを身につけることを目標としている。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	(1) 学期末レポート（70%）：内容の論理性・正確性を評価する。 (2) 受講態度（30%）：講義の際の発言・コメントの内容と積極性を評価する。		
到達目標	(1) 国際関係で発生するさまざまな事象を理解するアプローチを身に付ける。 (2) 現代の国際社会が取り組むべき課題を把握し、望まれる対応を各自考察することができる。		
準備学習	(1) リアルタイムの国際関係の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1．　国際関係論への招待 2．　導入のための事例 3．　国際関係のイメージ 4．　国際関係の主体 5．　国際システムと世界システム 6．　冷戦と冷戦後 7．　グローバル化とは何か 8．　「帝国」としての米国 9．　東アジアの国際関係 10.　地域主義と地域統合 11.　非国家行為体の活動 12.　ナショナリズムの諸相 13.　南北問題と国際協力 14.　地球的問題群 15.　未来について考える			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J82012101
科目名	公共経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
講義概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。まず、「資源配分の効率性」に関する判断基準を学び、市場が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて考察する。そのうえで、政府が果たすべき役割を、社会的厚生から見た理論的な経済政策と、実行可能性から見た現実的な経済政策の 2 つの観点から検討する。また、政府の失敗についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（テキスト）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考文献）	（1）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （2）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （3）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教材（その他）	講義に関連する新聞記事等を適宜配布する。		
評価方法	中間・期末試験６０％　平常点２０％　レポート点２０％		
到達目標	（1）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （2）市場の失敗において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （3）市場の失敗への政府の政策対応がもたらす資源配分上の効果について理解する。 （4）政府の失敗が生じるメカニズムについて理解する。		
準備学習	配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にして講義に臨むことが望ましい。		

受講者への要望

（1）現代社会の公共経済学的課題とその背景を理解しよう。
（2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考えよう。

講義の順序とポイント

1．公共経済学とはどのような学問か　：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府部門拡大のメカニズム
2．公共経済学における政府の役割　：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
3．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
4．資源配分の効率性（1)：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
5．資源配分の効率性（2)：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
6．資源配分の効率性（3)：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
7．資源配分の効率性（4)：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
8．市場の失敗（1)：独占、費用逓減産業
9．市場の失敗（2)：外部効果の内部化、ピグー税
10.市場の失敗（3)：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
11．政府の失敗（1)：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
12．政府の失敗（2)：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
13．公共選択論（1)：民主主義の失敗、投票の理論、政治家と選挙の問題
14．公共選択論（2)：官僚機構の問題、レント・シーキングの問題
15．現代日本における公共経済学的課題：震災からの復興、社会保障制度改革、税制改革

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82012102
科目名	公共経済学 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	この授業は、「航空観光プログラム」の一部として実施します。「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。単位にならない課外授業としての受講もできますが、その場合も航空観光プログラムへの登録が必要です。 この講義では、航空市場を事例に、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学の手法で検討します。 あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けていますが、これは「公共性」、すなわち「市場の失敗・欠落」の議論によって説明することができます。「航空政策」においても、まず、この市場の失敗・欠落要因に基づいて航空政策の基本を検討し、そのうえで、具体的な政策のありかたを論じます。 本講義では、学生のみなさんの理解に資するため、必要に応じて航空会社の経営の問題についても言及しますが、本来の目的は、社会全体の視点から航空政策のありかたを論じる点にあります。		
教材（テキスト）	中条潮著『航空幻想』（中央経済社）第２版。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	京学なびに upload します。		
評価方法	学期末試験(100%)。履修者数が少ない場合には、授業中に発表を求めて、授業への参加の積極度に応じて加点をする方法をとります。		
到達目標	市場メカニズムの機能と市場の失敗を航空市場に則して理解し、経済の基本原理が航空市場でも同様にあてはまることを理解すること。		
準備学習	航空市場の基礎的な知識は自分で学習してください。 必要に応じてレポートの作成などを求める場合があります。興味のあることについて予習復習して質問することは歓迎です。		

受講者への要望

航空の特殊な事情を学ぶのではなく、公共政策一般に必要な考え方の基本を航空市場を例に学ぶのであるということを理解して受講してください。航空市場についての基本的な知識は、自分で勉強してください。

講義の順序とポイント

1. Ⅰ．航空の全体像概観と本講義の視点
2. Ⅱ．市場の失敗と航空の公共性（１）
3. 同（２）
4. 同（３）
5. Ⅲ．航空機の発展にみる政策課題の変遷
6. Ⅳ．航空自由化の経緯と理由
7. Ⅴ．航空輸送事業の経営課題からみる政策課題
   １．LCC の攻勢
8. ２．日本における LCC の発展可能性
9. ３．既存大手航空会社の反撃～LC の経営戦略～
10. ４．日本航空の破綻と航空の公共性
11. Ⅵ．空港経営と空港政策の課題
    １．空港整備運営に関する誤解
12. ２．空港民営化の課題
13. ３．ハブ競争・ハブ空港の課題
14. ４．発着枠配分のありかた
15. 終わりに：スカイマークが飛び立つまで

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82012201
科目名	財政学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance		
担当者名	林　智子	旧科目名称	
講義概要	我々の日常生活は、政府活動と密接に関係しており、政府活動に支えられている。その政府の活動を、財政入門で学んだ制度や仕組みから、もう少し踏み込んで見ていく。国際社会との関係や国際社会との比較、そして、地方財政に関することまで、財政活動について幅広く説明する。 講義では、現代の財政問題も含め、租税制度、社会保障制度まで、財政の理論と制度、政策をわかりやすく説明する。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生著 『基本財政学　第 4 版』　有斐閣		
教材（その他）	・レジュメを配布する。 ・適宜、海外の事例や制度を紹介する。		
評価方法	授業中の課題,試験等で総合的に評価する。		
到達目標	我が国が抱えている様々な課題に対する政策のあり方について理解を深め、学生個々人が社会問題の原因を追究するための基礎力を身につけ、応用力や実践力を養成することを目標とする。		
準備学習	普段から積極的にニュース等見聞きして、政治経済などの時事問題に関心をもつこと。		

受講者への要望

・積極的な質問を歓迎します。
・我が国や海外の制度を理解し、相違点など考察してください。
・復習をすること。理解度を確認するため、定期的に課題の実施や教員から質問をする。

講義の順序とポイント

1. 財政とは何か
2. 日本財政の現状
3. 政府支出と公共財
4. 公共財の特質
5. 財政 3 機能
6. 所得格差とジニ係数
7. 租税制度
8. 租税制度各論
9. 公債
10. 公債の経済効果と負担論
11. 社会保障
12. 社会保障（1）最低生活の保障
13. 社会保障（2）年金制度の現状と課題
14. 地方財政
15. まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82012301
科目名	地方財政論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Public Finance		
担当者名	林　智子	旧科目名称	
講義概要	地方財政論は、地方公共団体の財政活動を扱うものである。地方公共団体の公共サービスは、我々の日常生活において細部にわたり密接な関係を持っている。とりわけ少子高齢化が進む中、介護保険制度などの財政需要の拡大が大きな問題となっている。また、わが国の地方公共団体は、47 都道府県に 1730 の市町村があり、人口、面積、産業構造、経済状況等様々である。そのため、その仕組みや制度は理解しにくく、また、「地方分権」「地方主権」ということも課題となっている。 講義では、地方財政の制度や仕組みについてわかりやすく説明する。		
教材（テキスト）	なし。各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	入門地方財政第 3 版　林宏昭　橋本恭之　学陽書房 地方財政　制度と基礎理論　前田高志　　八千代出版		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	授業中の課題、試験等で総合的に評価する。		
到達目標	・各地方自治体に関する問題について、自分で考えることができるようになること。 ・地方財政制度や現状を理解し、自分で考える応用力の養成を目的とする。		
準備学習	地方自治体に関するニュースなど、積極的に見聞きすること。		

受講者への要望

地方自治体に関するニュースなど、積極的に見聞きして、まず自分で考えること。
そして、友人や家族などと意見交換をして、沢山の人の意見を聞いて、自分の考えを整理してほしい。
質問や授業中の意見発表など、積極的に参加して下さい。

講義の順序とポイント

1. 地方財政とは何か
2. 財政 3 機能
3. 国と地方の役割分担
4. 地方自治とは
5. 地方公共支出
6. 地方税の体系と地方税原則
7. 地方税（１）住民税
8. 地方税（２）固定資産税、他の地方税各論
9. 地方交付税制度(1)
10. 地方交付税制度(2)
11. 地方債
12. 地方公営企業と第 3 セクター
13. 社会保障制度、 生活保護制度
14. 社会保障制度　介護保険制度、医療制度
15. 総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J82012401
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social　Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	社会保障入門編集委員会『社会保障入門』　（中央法規出版） 足立正樹、井上久子『社会保障の光と陰』　（高菅出版）		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
準備学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講者への要望

・「社会政策入門」を受講済みであることが望ましい。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82012501
科目名	行政法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	行政法の全体像を学ぶ入門科目である。具体的には、行政法序論、行政組織法、行政作用法、行政救済法の概略を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に使用しない。		
教材（参考文献）	講義の際に紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（80%）　、授業内レポート等による平常点（20%）		
到達目標	法学を専門にしていない学生のみなさんを対象に行政法の全体像を簡潔に理解してもらうことと、行政書士試験や公務員試験をめざす人たちの入門講義になることをめざす。		
準備学習	法学を専門に学んでいない人なので、必ず教科書の該当箇所を予習するとともに、講義で配布するレジュメを使って各テーマの復習を必ずすること。		

受講者への要望

講義に出席し、毎回の予習、復習をしなければ到底この科目は理解できない。また、行政法に関する時事的な話題を紹介するので、参考にしてほしい。

講義の順序とポイント

1．行政法とは何か
2．行政法の基本原理
3．行政組織
4．行政立法
5．行政行為①
6．行政行為②
7．行政裁量
8．行政計画・行政指導・行政契約
9．行政の実効性の確保
１０．行政手続
１１．情報公開・個人情報保護
１２．行政上の不服申立て
１３．行政訴訟①
１４．行政訴訟②
１５．国家賠償・損失補償

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82012601
科目名	労働法	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち労働法を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（テキスト）	水町勇一郎『労働法〔第 6 版〕』（有斐閣、2016 年）価格未定 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 9 版〕」（有斐閣、2016 年）2400 円＋税		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	職場において必要とされる法律知識のうち、本講義では個別的労働法に比重をおいてて講義を進めていく。最低限知っておいた方がよいと思われる労働法の基礎的な知識や判例理論等を身に着けてもらうことが本講義の到達目標である。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

教科書・百選および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。

また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第 3 回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第 4 回　労働契約と権利・義務
第 5 回　就業規則
第 6 回　労働協約
第 7 回　募集・採用内定
第 8 回　男女雇用平等
第 9 回　解雇・労働契約の終了
第 10 回　賃金・退職金
第 11 回　労働時間
第 12 回　労働組合の結成
第 13 回　労働組合の運営
第 14 回　団体交渉
第 15 回　最近の労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82012701
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（テキスト）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2014 年）2100 円＋税 岩村正彦編「社会保障判例百選〔第 5 版〕」(有斐閣、2016 年)予価 2500 円＋税		
教材（参考文献）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教材（その他）	その他の参考文献等については開講時に指示する。		
評価方法	出席を前提に、期末レポート（70%）および授業内小テスト等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	社会保障法全体像の基本的な枠組みと各論点を理解することを目標とする。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持ち、また、次回の授業項目について、関連する新聞記事を最低１つは入手しておくこと。		
受講者への要望			
教科書および百選は必ず持参すること。また、社会保障に関する制度は非常に複雑になっているため、教科書以外の参考書や厚生白書等を参照し、さらにＴＶニュースや新聞記事等にも大いに関心をもつこと。 また、受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。			
講義の順序とポイント			
第１回　講義の進め方・その他諸注意 第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系 第３回　医療保険法（１）　健康保険法 第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法 第５回　年金保険法（１）　国民年金法 第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法 第７回　介護保険法 第８回　授業内小テスト 第９回　労災保険法 第 10 回　雇用保険法 第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉 第 12 回　高齢者福祉　生活保護法 第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約 第 14 回　社会保障法総論　権利救済 第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82012801
科目名	刑法	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
講義概要	この授業では、刑法のうち殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する各論について学習する。刑事法入門で学習した総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、その問題点を考える。		
教材（テキスト）	佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版)』（有斐閣・２０１３年）		
教材（参考文献）	教科書のほかにより詳しく勉強したい学生には、 ・佐久間修著『刑法各論［第２版]』（成文堂・２０１２年） また判例教材として ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版)』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版)』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。また、六法は必ず持参すること。		
評価方法	期末試験（８０％）と、適宜実施する確認テスト（２０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につける。		
準備学習	各講義の該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として、判例教材の該当箇所を読むこと。		

受講者への要望

刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

講義の順序とポイント

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪
６．強制わいせつの罪（風俗に対する罪を含む)、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪、強盗の罪
１０．詐欺・恐喝の罪
１１．横領の罪、背任の罪
１２．盗品等に関する罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．公共危険罪
１４．取引の安全に対する罪
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82012901
科目名	刑事訴訟法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure		
担当者名	笹山　文徳	旧科目名称	刑事訴訟法
講義概要	新聞・TV・スマートフォンなどを通して、「X が殺人を犯した疑いで逮捕された」とか、「Y が強盗の罪で起訴された」など、事件に関する報道を目にすることがあるだろう。ドラマ・映画や小説・漫画などでも、刑事事件をテーマにしたものが多くみられる。では、実際に、どのような流れで事件は処理されていくのか？考えてみてほしい。 犯罪が起こった場合には、その事実を解明し、犯人に対して適切な刑罰を科すことが求められる。その一連の手続に関するルールを定めたものが刑事訴訟法である。 講義では、刑事手続の流れ（捜査→公訴→公判）を順に説明し、それぞれの段階で生じる重要な問題についても、検討する。		
教材（テキスト）	テキストは指定しない。		
教材（参考文献）	三井誠・酒巻匡『入門刑事手続法〔第 7 版〕』（有斐閣、2017）		
教材（その他）	各講義でレジュメを配付する。		
評価方法	講義毎の提出物（確認テストや感想等）による平常点（30%）、学期末試験（70%）によって、成績を評価する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れを正確に把握し、捜査・公訴・公判における基本的なルールを身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義に関する資料を配付するので、読んで来ること。 各講義で配布するレジュメを用いて、復習をすること。 新聞やニュースを見て、刑事事件・刑事裁判に関心を持ち、予備知識としてほしい。		

受講者への要望

毎回講義に出席し、真剣に取り組むことを心がけてもらいたい。
理由のない遅刻・欠席や私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

１．イントロダクション　-　犯罪が発生すると、どのような流れで事件は処理されるか。
２．刑事訴訟法とは　-　刑事訴訟法の目的は何か。刑事訴訟の登場人物とは誰か。
３．捜査法（１）捜査の原則　-　犯罪の捜査はどのようなルールに従って行われるか。
４．捜査法（２）捜査の端緒　-　捜査が始められる「きっかけ」には何があるか。
５．犯人の身柄の確保（１）逮捕　-　逮捕は何のために行われるか。
６．犯人の身柄の確保（２）勾留　-　逮捕後、勾留が認められるのはどのような場合か。
７．証拠の収集（１）物的証拠　-　犯罪に関する物的証拠をどのように収集するか。

８．証拠の収集（２）供述証拠　-　被疑者の取調べはどのように行なわれるか。
９．被疑者の権利・防御活動　-　被疑者はどのような防御活動を行えるか。
１０．これからの犯罪捜査　-　各回（第 3〜9 講）を振り返り、今後の捜査のあり方を考察する。

１１．公訴提起　-　捜査終結後、公訴提起はどのように進められるか。
１２．公判手続　-　公判ではどのように有罪・無罪を判断するのか。
１３．証拠法（１）自白法則　-　強制的に獲得された自白を証拠として良いか。
１４．証拠法（２）違法収集証拠排除法則　-　違法に獲得された物を証拠として良いか。
１５．これからの刑事裁判　-　各回（第 11〜14 講）を振り返り、刑事裁判の課題を考察する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82013001
科目名	刑事政策	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	笹山　文徳	旧科目名称	
講義概要	新聞・TV・スマートフォンを通して、犯罪に関する報道を目にしない日はないだろう。では、なぜ人は犯罪を犯すのか？犯罪を予防するにはどうすればよいか？犯罪者はどのような処遇を受けているのか？について、考えてみたことはあるだろうか。 このことを考察するのが刑事政策である。講義の前半部分（犯罪学）では、わが国の犯罪状況を概観し、犯罪を犯す原因とは何かについて、説明する。後半部分（刑事政策）では、犯罪者を罰するのはなぜか、犯罪者をどのように処遇するのが適切かに焦点を当てて取り扱う。		
教材（テキスト）	テキストは指定しない。		
教材（参考文献）	三井誠・曽根威彦・瀬川晃編『入門刑事法〔第 6 版〕』（有斐閣、2017） 法務省法務総合研究所『平成 28 年版 犯罪白書』（日経印刷、2016）		
教材（その他）	各講義でレジュメを配付する。		
評価方法	講義毎の提出物（確認テストや感想等）による平常点（30％）、学期末試験（70％）によって、成績を評価する。		
到達目標	わが国の犯罪状況および犯罪の原因を把握し、犯罪対策の現状と課題を身につけることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義に関する資料を配付するので、読んで来ること。 各講義で配布するレジュメを用いて、復習をすること。 新聞やニュースを見て、刑事事件・刑事裁判に関心を持ち、予備知識としてほしい。		

受講者への要望

毎回講義に出席し、真剣に取り組むことを心がけてもらいたい。
理由のない遅刻・欠席や私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

１．イントロダクション　-　犯罪学・刑事政策とは何か。
２．わが国の犯罪状況　-　わが国の犯罪状況はどうか。凶悪化しているのか。
３．犯罪学の誕生　-　なぜ人は犯罪を犯すのか。
４．犯罪の原因（１）生物学的要因　-　犯罪の原因は犯罪者に特有の素質にあるのか。

５．犯罪の原因（２）心理学的要因　-　犯罪の原因は犯罪者の心理的な部分にあるのか。
６．犯罪の原因（３）社会学的要因　-　犯罪の原因は環境的な要素にあるのか。
７．これからの犯罪学　-　各回（第 2～6 講）を振り返り、犯罪学の展望を試みる。

８．犯罪の予防　-　どのように犯罪を予防するか。
９．刑罰制度　-　なぜ人を罰するのか。どんな刑罰が適当か。
１０．犯罪者の処遇（１）司法的処遇　-　警察・検察段階でどのように事件は処理されるか。
１１．犯罪者の処遇（２）施設内処遇　-　犯罪者は刑務所でどのような処遇を受けるか。

１２．犯罪者の処遇（３）社会内処遇　-　犯罪者は社会内でどのような処遇を受けるか。

１３．少年非行　-　大人とは違う少年犯罪者をどのように取り扱うか。
１４．犯罪被害者　-　犯罪被害者の支援をどのように実現するか。
１５．これからの刑事政策　-　各回（第 8～14 講）を振り返り、刑事政策の展望を試みる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J82013101
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
講義概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（テキスト）	『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2017～2018 年度版』(6 月上旬発刊予定)　FPK 研修センター		
教材（参考文献）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 3 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』(日本 FP 協会)　、宮口定雄『税務ハンドブック　平成 29 年度版』　コントロール社		
教材（その他）	問題集の使用を予定		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得を図る。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)			
講義の順序とポイント			
1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味 2　FP の社会的役割 3 社会的責任とコンプライアンス 4 不動産の見方 5 不動産の動向と分析 6 金融・経済の知識 7 最近の金融動向 8 利回り計算と割引現在価値 9 株式と債券 10 投資信託 11 金融派生商品 12 生命保険 13 損害保険 14 リタイヤメントプラントと年金問題 15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★★

年度	2017	授業コード	J82013201
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	法の改正に伴い、最新の知識を得るため、本講義ではタックスプランニングを基軸としての講義となる。 日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	3 級 FP テキスト第 2 分冊：タックスプランニング、不動産、相続・事業承継(FPK 研修センター)		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」（平成 29 年度版） 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」は秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」「ファイナンシャル・プランニングⅢ」４科目を併せて受講することが、AFP 認定の要件となっているので、FP 資格に興味のある学生は必ず４科目を履修すること。また「ファイナンシャル・プランニングⅡ」と　「ファイナンシャル・プランニングⅢ」　は必ずセットで登録すること。			
講義の順序とポイント			
1？　　租税法律主義と税法体系 2　　？?申告納税方式と賦課課税方式 3？？？?利子所得 4？？？?不動産所得 5？？？?給与所得 6？？？?山林所得 7？？？?一時所得 8？？？?非課税所得 9？？？?相続税 10？？？ 贈与税 11？？？ 金融商品売買に関わる税金 12？？？ 不動産に関わる税金① 13？？？ 不動産に関わる税金② 14？？？ 公的年金等の税金 15？？？ 実例の考察			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J82013301
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅢ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
講義概要	税法の改正に伴い、最新の知識を得るため、本講義ではタックスプランニングを基軸としての講義となる。日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。よって「税金の話」だと考えてもらいたい。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（テキスト）	3 級 FP テキスト第 2 分冊：タックスプランニング、不動産、相続・事業承継(FPK 研修センター)		
教材（参考文献）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」（平成 29 年度版） 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（その他）	ファイナンシャルプランニングⅠで使用する『FP3 級テキストⅠ・Ⅱ』(FPK 研修センター)		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描けるようになってもらいたい。		
準備学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講者への要望			
春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」は秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」「ファイナンシャル・プランニングⅢ」４科目を併せて受講することが、AFP 認定の要件となっているので、FP 資格に興味のある学生は必ず４科目を履修すること。また「ファイナンシャル・プランニングⅡ」と　「ファイナンシャル・プランニングⅢ」　は必ずセットで登録すること。			
講義の順序とポイント			
1　　直接税と間接税 2　??所得税の概要と仕組み 3??? 配当所得 4??? 事業所得 5??? 退職所得 6??? 譲渡所得 7??? 雑所得 8??? 相続税① 9??? 相続税② 10???贈与税 11???金融商品売買に関わる税金 12???不動産に関わる税金 13???公的年金等の税金① 14???公的年金等の税金② 15???実例の考察			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J82013401
科目名	ファイナンスの数理	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。特に、先物とオプションに関しては、離散時間型の簡単な 2 項モデルを紹介し、このモデルを基に、裁定取引の考え方およびオプション価格(プレミアム)の決定方法を学ぶ。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考文献）	・ 藤林/岡村/矢野（2009）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 第 3 版, 金融財政事情研究会. ・ 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. ・ 野口 悠紀雄（2000）『金融工学、こんなに面白い』文春新書.		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	・ 平常点(30%)；複数回のレポート等による。 ・ 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解度を深めてゆく 。		
準備学習	・ 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 ・ 複数回、小テストを行うので前回の講義内容を復習すること。 ・ ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。		

受講者への要望

・ 統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。
・ レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。

講義の順序とポイント

1．ポートフォリオのリターンとリスク
2．同上
3．マーケット・モデル
4．同上
5．資本資産価格モデル（CAPM）
6．同上
7．債券の価格と利回り
8．同上
9．イールドカーブの特性
１０．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ
１１．同上
１２．先物の理論価格とヘッジ
１３．オプションの概要
１４．同上
１５．まとめ： 演習の復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82013501
科目名	デリバティブ論基礎	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	資産運用の必要性が強調される時代において、金融商品が多様化している。 伝統的な金融商品はもちろん、今日においては、金融派生商品を利用した商品が数多く販売されている。 金融派生商品（デリバティブ）の内容を理解せずに、投資行動を起こすことは、 人生をリスクにさらしていると同義である。 この講義では、代表的なデリバティブである、先物・オプション・スワップの各取引形態を、 その背景や機能について理解し、その利点とリスクについて入門的解説を行う。 先物価格の決定方法やオプションプレミアム(価格の決定）を、 実例に置き換えて、数式や複雑な数学を使うことなく、図式を中心に 直感的に理解できるように工夫して解説を行う。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	授業中に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%）		
到達目標	先物取引、オプション取引、スワップ取引、それぞれの意味と内容を理解し、 金融の世界で、どのように活用されているかを把握できるようになるまでを目標とする。		
準備学習	日本経済新聞のマーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式・コモディティの各代表指数の数値を記録しておくのが望ましい。 講義開始から終了までの半期で金融市場とデリバティブの関係が理解できるようになる。		

受講者への要望

各回の講義内容は難しいものではありません。
履修動機は問いませんが、成績は、公表している評価方法により厳密に判定します。

経済状況を知る上で、新聞は必読です。購読が無理でも図書館で確認してください。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。
半期続ければ、今後の展開に自分なりの意見が持てるようになります。

講義の順序とポイント

1.デリバティブの概念
2.デリバティブ市場の規模
3.デリバティブの歴史
4.金融市場の知識 1（金融市場取引．相対取引）
5.金融市場の知識 2（株式と株価指数、金利と債券、外国為替市場と商品市場）
6.先物取引の基礎 1（先渡取引と先物取引、価格決定のメカニズム）
7.先物取引の基礎 2（先物価格と現物価格、為替予約）
8.先物取引の基礎 3（レバレッジ、決済方法、裁定取引）
9.オプション取引の基礎 1（オプションとは、保険や手付金など）
10.オプション取引の基礎 2（オプション価格の決定、コールとプット）
11.オプション取引の基礎 3（リスクと行使期間、レバレッジ）
12.スワップ取引の基礎 1（キャッシュフロー）
13.スワップ取引の基礎 2（金利スワップの仕組み）
14.スワップ取引の基礎 3（通貨スワップの仕組み）
15.デリバティブを利用して（天候や物価デリバティブ）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82013601
科目名	デリバティブ論応用	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
講義概要	デリバティブ市場の発達によって、従来の金融機関の区別や役割が大きく変化している。 その変化に伴い、個別の金融機関・各国家ごとの金融規制では対応できない事例も表面化している。 デリバティブの有効性を理解し、適切に利用・活用するためにはどのような対応が必要なのかを、 確認および検討する講義となる。 新しい時代に対応した金融行政、金融規制はどのようなものが適切なのかを 既存のデリバティブ商品を参考にしながら、講義する。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義内にて適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	授業中に行う確認テスト（40%） レポート課題（20%） 定期試験（40%）		
到達目標	今日の世界経済において、デリバティブがどのように活用され、また役割を果たしているかを理解し、 今後の情勢に合わせ、どのように各デリバティブを利用し、ポジションを取ったほうがよいかを 自分で判断できるようになるまでを目標とする。		
準備学習	日本経済新聞等、マーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式の各市場動向と、終値などの数値を記録しておくのが望ましい。 講義開始から終了までの半期で、金融市場とデリバティブの関係が理解できるようになる。		

受講者への要望

前期「デリバティブ論基礎」の内容を踏まえての講義となるので、基本的知識がなければかなり負担のかかる講義となります。

金融情勢は日々変化しており、デリバティブ取引においても講義期間内に大きな変動は想定されます。
時々の情勢を認識しながら、その先に取るべきポジションを考えるなど、論理的な思考や想像力を求める講義となります。

デリバティブに限りませんが、特に投資理論は「推察→実証→検証→推論」を繰り返す必要があります。
いろいろな情報にアンテナを張り、情報感度を高めなければなりません。

毎回の確認テストにて、質問をしていきますので、新聞の経済ニュースは必読とします。

講義の順序とポイント

1.デリバティブ商品とは
2.デリバティブを利用しているケーススタディ
3.サブプライム危機とデリバティブの関係
4.デリバティブを活用したヘッジ
5.株式信用取引、為替証拠金取引とデリバティブ
6.先物取引の実際（国債と債券先物、株式と株価指数先物）
7.オプションによるヘッジと利用（株式を中心に）
8.スワップの利用（金利スワップと為替スワップ）
9.コモディティデリバティブと応用
10.デリバティブを使った金融商品 1（EB.DC.満期選択などの仕組債）
11.デリバティブを使った金融商品 2（カバードワラントを使って）
12.伝統的金融商品と金融派生商品
13.リスク対応にデリバティブをどのように活用するか
14.デリバティブによる商品組成
15.今後のデリバティブ展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82013701
科目名	証券市場論	単位数	2
科目名（英語表記）	Securities Trading		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
講義概要	当講義は受講生が金融市場、資本市場の仕組みを基本から理解することを目的とし、「お金」の仕組みを根本から、実用まで深く理解することを根底に持つこととする。 「算数」の基礎知識と「意欲」を持ってすれば学べる「場」とし、基本出席を前提とする。また講義を通じて株式銘柄を選定し、擬似ポートフォリオを作成し、そのパフォーマンスと分析の深さを競うことも行う。 日本語、英語で講義するか？また証券アナリスト１次試験レベルまで議論を進めるかは受講生の基礎理解力を見て判断するものとする。 This course is designed for the attendants to understand the system of capital market and security market, and deeply recognize the fundamentals of “what is Money?” from the theory to the practical manor. Expected all attendants to bring a skill of “arithmetic” and “passion to learn” to the classroom. Also setting stock picking and will run hypothetical stock portfolio through the whole sessions, the all attendants will be examined on their performance and depth of analysis. Japanese class or English class? Or extending into CFA level one level would be determined after checking the attendant’s skill level.		
教材（テキスト）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
教材（参考文献）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
教材（その他）	講義毎配布される Will be delivered at each session		
評価方法	50 % Class Contribution 35% Presentation / Portfolio at the last session 15% Quiz at each session		
到達目標	証券、金融市場の用語を理解すると共に、「お金」の仕組みを理解する On top of understanding of fundamental terms of capital and security market, also expected to understand fundamental system of Money.		
準備学習	算数のスキルを確認すること To check the skill of arithmetic		
受講者への要望			
Be Passionate Be Hungry			
講義の順序とポイント			
事前に自らの今までの履歴、バックグラウンドを説明できるようにすること To prepare to be able to explain your Bio. Session 1 Orientation オリエンテーション Session 2 On Market マーケットとは？そのメカニズムの基礎 Session 3　On Money 「貨幣」「貨幣価値」の定義			

Session 4　On Stock
「株式」の仕組み

Session 5　On Bond, FX, Commodity
債券、為替、商品市場の仕組み

Session 6　On Portofolio
ポートフォリオの仕組み

Session 7　On Stock Picking
銘柄選択の方法

Session 8　Portfolio Setting
擬似ポートフォリオの選定：中間評価

Session 9　On Capital Market
資本市場、調達の仕組み

Session 10　On Fund Raising / IPO
資金調達、IPO に関して

Session 11　On Venture Capital
ベンチャーキャピタルに関して

Session 12　On Valuation
投資評価に関して

Session 13　On Corporate Analysis 1
受講者が興味ある企業をあげてその企業分析 Part 1

Session 14　On Corporate Analysis 2
受講者が興味ある企業をあげてその企業分析 Part 2

Session 15
Presentation

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	J82013801
科目名	金融商品取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を銀行から借りる場合、たとえ赤字でも借りた資金は利子をつけて返さなければなりません。しかし、株式を発行して集めた資金は、その企業が存続する限り返す必要はなく、黒字の時だけ株主に利益の分け前である配当を渡せばよいのです。リスクがつきもののビジネスにとっては、株式による資金調達が非常に適していることは明らかです。 　しかし、投資が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することを目的にしています。 　この講義では金融商品取引法の基本的な仕組みを中心に学びます。		
教材（テキスト）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法　（第３版）　』（弘文堂、２０１５年）		
教材（参考文献）	黒沼悦郎『金融商品取引法入門　（第６版）』（日経文庫、２０１５年）		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布する。		
評価方法	平常点（授業内レポート等）　30% 期末テスト　70%		
到達目標	金融商品取引法の基本概念を理解し、企業の資金調達に関係するニュースに関心を持ち、何が問題になっているのか、理解できるようになる。		
準備学習	次回の内容を予告するので、教科書の該当部分を読んでおくこと。		

受講者への要望

企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

講義の順序とポイント

１　金融商品市場の基本的な仕組み
２　金融商品取引法の目的と全体像
３　有価証券の取引方法
４　企業内容の開示規制①（発行開示制度）
５　企業内容の開示規制②（継続開示制度）
６　企業内容の開示規制③（違反の場合の責任）
７　金融商品取引業者の規制
８　企業支配に関する開示制度①（公開買い付け）
９　企業支配に関する開示制度②（株券等の大量保有状況の開示）
１０　投資信託および集団投資スキーム
１１　不公正な取引の規制①（インサイダー取引）
１２　不公正な取引の規制②（相場操縦）
１３　不公正な取引の規制③（金融商品取引業者による不公正な取引）
１４　罰則と課徴金
１５　　金融商品取引法の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82013901
科目名	税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
講義概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。 内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。		
教材（テキスト）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考文献）	初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要なレジュメはその都度(概ね毎回)配布する。		
評価方法	定期テスト　60% レポート・復習テスト　20% 平常点(講義への取組み、講義内容への質問や理解の状況等)　20%		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題の所在を知ることを目標とする。		
準備学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当頁を記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分のテキスト該当頁を予習しておくこと。 授業中に配布したプリント(毎回配布)の重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを実施予定。		

受講者への要望

税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初回の講義時に指示する)。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　導入、租税と税法
2. 総論１　租税の意義と根拠
3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義
4. 総論３　租税法の解釈と適用
5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者
6. 所得税２　所得概念、帰属
7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準
8. 所得税４　収入金額
9. 所得税５　必要経費
10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習
11. 法人税１　法人税の概要
12. 法人税２　納税義務者、課税所得
13. 法人税３　益金及び損金の原則
14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1)
15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	J82014001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。　したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（テキスト）	小池敏範『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考文献）	渡辺淑夫『法人税法　平成 29 年度版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教材（その他）	随時、法人税申告書の記載例や参考資料を配布する。		
評価方法	授業中の取組姿勢（30%）、授業中の小テスト（30%}、期末試験（40%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	事前にテキストを読んで予習しておくこと。		

受講者への要望

税制に関連するマスコミ報道等に関心を持つこと。

講義の順序とポイント

1.　法人の区分と課税の範囲、法人税の体系
2.　課税所得の計算構造
3.　損益の期間帰属、受取配当等
4.　外貨建取引、減価償却資産、繰延資産
5.　給与、寄附金、交際費、その他の損金
6.　引当金・準備金制度、圧縮記帳制度
7.　税額の計算
8.　税効果会計（1）
9.　税効果会計（2）
10.　新会計基準と法人税（1）
11.　新会計基準と法人税（2）
12.　新会計基準と法人税（3）
13　中小企業の会計
14.　グループ法人税制
15.　法人税申告書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82014101
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
講義概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。　したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（テキスト）	小池敏範『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考文献）	渡辺淑夫『法人税法　平成 29 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教材（その他）	随時、法人税申告書の記載例や参考資料を配布する。		
評価方法	授業中の取組姿勢（30%）、授業中の小テスト（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
準備学習	事前に配布するレジュメ等を読んで予習しておくこと。		
受講者への要望			
税制に関連するマスコミ報道等に関心を持つこと。			
講義の順序とポイント			
1.　法人の区分と課税の範囲、法人税の体系 2.　課税所得の計算構造 3.　損益の期間帰属、受取配当等 4.　外貨建取引、減価償却資産、繰延資産 5.　給与、寄附金、交際費、その他の損金 6.　引当金・準備金制度、圧縮記帳制度 7.　税額の計算 8.　税効果会計（1） 9.　税効果会計（2） 10.　新会計基準と法人税（1） 11.　新会計基準と法人税（2） 12.　新会計基準と法人税（3） 13　中小企業の会計 14.　グループ法人税制 15.　法人税申告書			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020101
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	初めに、パソコンを使ったビジネスゲームをチームごとに分かれて行い、企業経営の一端を体験しながら、ゼミの雰囲気にも慣れてもらいます。 その後、企業や業界を選んで、その企業や業界の現状および経営戦略を調査・分析します。文献、新聞記事、雑誌記事、企業のホームページなどを調べて、それを Excel で分析し、 PowerPoint でプレゼン資料にまとめ、発表してもらいます。これらの作業を通じて、実際に企業の実務で役立つスキルを身につけてもらうと同時に、就活での業界研究や企業研究にも役立ててもらいます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	受講姿勢やグループワークでの貢献度など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	書籍、新聞、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析することができる。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		

受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。
なお、経営戦略論入門、経営戦略論を事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. ビジネスゲームの概要説明、試行
3. ビジネスゲーム実施、結果分析
4. ビジネスゲームについてのまとめ
5. 企業の選択、参考文献の紹介
6. 参考文献の要点整理
7. 参考文献の要点整理
8. 中間発表、ディスカッション
9. 中間発表、ディスカッション
10. 情報収集と分析
11. 情報収集と分析
12. プレゼンテーション資料作成
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 発表、ディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020102
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	各自関心のある企業または業界を選び、経営分析をすすめていく。適宜、研究の途中経過をプレゼンテーションしてもらう予定である。 演習終了時にレポートを課す。		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)		
到達目標	会計情報から企業の財政状態、経営成績、資金状況を理解できる。 企業の業績や財務状態に影響を及ぼす外部要因、内部要因について説明できる。		
準備学習	各自に報告テーマを課すので、パワーポイント等によるプレゼン資料の準備をしてくること。報告に当たっていないものは、各自次回の内容について、指示されたテキストを読んでくること。 問題意識を持って新聞記事等のニュースに注意を向けること。		

受講者への要望

積極的に議論に参加すること。
毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。

講義の順序とポイント

1. 演習計画のガイダンス
2. ゼミ・レポートの書き方
3. 研究テーマの報告と決定(1)
4. 研究テーマの報告と決定(2)
5. 図書館での資料検索
6. 財務データの入手方法
7. 貸借対照表の見方
8. 損益計算書の見方
9. キャッシュ・フロー計算書の見方
10. クロスセクション分析と時系列分析
11. 財務分析の手法(1)　収益性分析
12. 財務分析の手法(2)　安全性分析
13. 財務分析の手法(3)　成長性分析
14. 財務分析結果の報告(1)
15. 財務分析結果の報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020103
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。 その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ。 ノート PC または Windows タブレット+キーボード。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。 1.現在の情報システムの動向や問題点を整理する。 2.現在の情報管理の動向や問題点を整理する。 ことを重点目標とする。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学期末に 400 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		
受講者への要望			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
専門ゼミの内容から、関心のあるテーマを選び、個人研究報告または共同研究報告をすすめていく。 1.はじめに 2.レポートの書き方の復習 3.経営学の基礎知識の復習 4.外部アカウントの取得 5.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 WAMP の構築 6.ホームページの作成(1) 7.ホームページの作成(2) 8.ホームページの作成(3) 9.ホームページの作成(4) 10.プログラミング(1) 11.プログラミング(2) 12.プログラミング(3) 13.プログラミング(4) 14.レジュメの作成 15.報告発表会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020104
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	今日のビジネスでは、インターネットに代表される情報ネットワークが重要なツールとして活用されています。そこでインターネットを活用したビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を身につけることを目的とします。 春学期には表計算ソフトを使いデータを加工、処理する知識を身につけます。また、就職活動に役立つことも取り入れていきます。例えば、企業へのエントリーや、教養試験等の対策をします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。 ビデオ教材、新聞記事、雑誌記事等を活用します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（６０％）。授業中に課すレポート（４０％）。		
到達目標	インターネットビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を理解することを目標とします。 表計算ソフトを使いデータを加工・処理する知識を身につけることを目標とします。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		

受講者への要望

出席を重視します。欠席・遅刻をしないこと。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　レポートの書き方の復習①
3　レポートの書き方の復習②
4　ワープロソフト、プレゼンテーションソフトの使い方の復習
5　表計算ソフトの使い方（関数、グラフの作成）
6　表計算ソフトの使い方（データベース機能など）
7　表計算ソフトの使い方（応用）
8　経営学の知識①（共通教材の提供）
9　経営学の知識②（情報収集の仕方）
10　経営学の知識③（レジュメの作成）
11　経営学の知識④（レジュメの作成）
12　経営学の知識⑤（発表）
13　経営学の知識⑥（まとめ）
14　SPI、時事問題等
15　専門ゼミ A を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J82020105
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A は文献研究により進める。参考文献の指定箇所を読み、報告し、質疑応答する中で、経営史や企業家活動の基礎的知識の習得に努めねばならない。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著『１からの経営史』碩学社 宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣		
教材（その他）			
評価方法	報告・レポート（100％）		
到達目標	歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史の中に位置づけることができる。		
準備学習	輪番形式で進め、報告者にはレジュメの作成を課すので、順次各自の担当部分を読み進め速やかにレジュメを作成すること。		

受講者への要望

出席は義務である。しかし、ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。

講義の順序とポイント

指定された文献を読み報告する。
1.江戸時代の経営
2.明治の企業家たち
3.近代産業経営の成立
4.財閥の多角化と組織
5.重化学工業化と新興財閥
6.技術経営の誕生
7.「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生
8.都市型ビジネスの成立
9.「経済民主化」と企業変革
10.大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展
11.企業集団とメインバンク
12.日本的生産システム
13.流通のイノベーション
14.変貌する総合商社
15.日本的経営とその変容

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020106
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	企業を経営するうえで重要な資源としての人材の重要性について把握し、どういう育成をすれば人は成長し、企業の業績アップに効果を与えるか。また、個人の立場としては、自らの能力を活用するためにはどうすればいいのかを考える。 さまざまな業界の可能な限り最新の企業のケースを用い、自分が経営者ならどうするか、従業員ならどうするかを考えていく。 内容に応じて、グループワークと個人作業を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講姿勢及びグループワーク）70%、レポートおよび発表（30%）		
到達目標	企業経営における人材の重要性を理解し、関心のある企業について調べる力をつけることを目標とする。 また、グループワーク等を通じて、問題解決能力、企画力、提案力を身につける。		
準備学習	学習の段階に応じて課題として選択したテーマに基づいて資料を収集しておくこと。		
受講者への要望			
キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続受講を前提とします。 グループワークだけでなく、個人作業もあります。自ら課題に興味をもち積極的な参加をすることを求めます。			
講義の順序とポイント			
1.　オリエンテーション（ゼミの目的と進め方） 2.　グループワーク①　グループディスカッション 3.　グループワーク②　企業の事例の課題 4.　ケーススタディ①新聞・雑誌から 5.　ケーススタディ②　〃 6.　ケーススタディ③映像で見る事例 7.　ケーススタディ④　〃 8.　企業と個人のキャリアの関係① 9.　企業と個人のキャリアの関係② 10. グループ研究テーマ設定と発表 11. グループでの調査① 12.　〃　② 13. グループでのまとめ① 14.　〃　② 15.　発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020107
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	いま、社会でどのような変化が起きているのか。表面的には見えない変化を、人口の変化、世代の変化、経済の変化、グローバリゼーションの影響など、社会の地殻変動をデータで捉え、近い未来に何が起きるかについて学びつつ、自分たちの未来を創造するための講座です。 授業で議論したことを元にして、ゼミ生による「未来予測マップ」を作成することを予定しています。		
教材（テキスト）	増田寛也著『地方消滅　～東京一極集中が招く人口急減』中公新書　2014 年		
教材（参考文献）	ヨルゲン・ランダース著『２０５２』日経 BP 社　2013 年など、出版されている未来予測の本を授業の進行に従って指示します。		
教材（その他）	補足的に、人口、世代、社会意識などのデータを資料として授業中に配布します		
評価方法	授業への参加と貢献（授業への積極的な態度と発言）を評価します。発言などを通して、授業への理解度を測ります。また、授業の最後にレポートを提出してもらいます。レポートの評価が 50 点、授業への参加と貢献が 50 点として採点します。		
到達目標	今起きている社会の変化にどのようなものがあり、どこに目をつければ未来を構想できるのかを理解し、自分でこれからの社会を見通していける人材になること		
準備学習	テレビ東京系で月―金２３：００－２４：００に放映されている経済番組「ワールド・ビジネス・サテライト」と NHK で縫製されている「スーパープレゼンテーション」をできる範囲で毎回見るようにしてください。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		

受講者への要望

普段、自分にはめているリミッターをはずしていただき、想像力豊かで斬新なアイデアを期待しています。
自分のアイデアを説明する機会を授業中に設けますので、アイデアをペーパーにまとめて簡潔に説明する練習もしてもらいます。

講義の順序とポイント

＜いま、社会で起きていること＞
第 1 回　人口の変化
第 2 回　世代の移り変わり
第 3 回　経済の動向
第 4 回　グローバリゼーションの経済と地方の経済
＜未来を構想する＞
第 5 回　未来の住居　～どこに誰とどんな家に住んでいるか～
第 6 回　未来の仕事　～これからなくなる仕事と新たに生まれる仕事～
第 7 回　未来の働き方　～どんな働き方で、何を仕事にしているか～
第 8 回　未来のクルマ
第 9 回　未来のエンターテインメント　～どのように時間の充実感を高めているか～
第 10 回　未来のゲーム、テーマパーク
第 11 回　未来の結婚　～結婚の目的と形態～
第 12 回　未来の死　～AI 時代の人の死とはなにか～
第 13 回　未来のオリンピック
第 14 回　未来のメディア
第 15 回未来の教育

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020108
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	就職活動予定者を対象とするこのゼミにおいては、まずは HRM(Human Resources Management)に関する事例を輪読し、採用、動機づけ、解雇、などがいかにして企業で行われているかを理解する。また、若年労働市場の現状と課題を学ぶ。10%にせまる失業率、多くのフリーターやニート、就職して 3 人に 1 人が辞めるという大卒の離職率、週 50 時間にせまる長時間労働、などの若年労働者の現状についてゼミで討議する。 　加えて、あなたが大学卒業後に進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には、レポートあるいは論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。資料を適時配布する。		
教材（参考文献）	なし。資料を適時配布する。		
教材（その他）	なし。資料を適時配布する。		
評価方法	課題・宿題（30%）、および受講・発表・取組姿勢（70%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。 ＊エントリーシートや筆記試験に対応できる。		
準備学習	＊初回の授業においてこれから使う資料について説明を行う。どの資料を次回使用するかを毎回指示するので、熟読しておくこと。 ＊例えば、新規学卒就職者の 3 年以内の離職率データを使い、業界による相違やその相違理由を明らかにせよ、などの課題・宿題を指示する。 ＊宿題や小テストなどを通してゼミで習ったことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料を必ず熟読しておくこと。		

受講者への要望

＊就職活動予定者を対象としているのでゼミ選択の際には注意すること。
＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。
＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。

講義の順序とポイント

1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行について 各種ビジネスソフトの教習①
2.各種ビジネスソフトの教習②
3.各種ビジネスソフトの教習③
4.企業規模・年齢・業界別の所得分析
5.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について①
6.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について②
7.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について③
8.上場企業の離職率、有給休暇消化率、新卒採用状況、等について④
9.勤務地限定制度の有無、労働時間について①
10.勤務地限定制度の有無、労働時間について②
11.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について①
12.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について②
13.エントリーシートの書き方について③
14.未上場企業の HRM について①
15.未上場企業の HRM について②、秋学期について、専門ゼミ B について、個人面談。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★	★

年度	2017	授業コード	J82020111
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	私が「フリー・ゼミ」（自由ゼミ）とよぶやり方で、ゼミをおこなう。「フリー・ゼミ」方式とは、ゼミ担当教員があらかじめいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人ひとりが自分で取り組んでみたいテーマを自由に選び、同じ関心をもつゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことです。各グループでテーマが確定したら、各グループの代表（キャップ）と、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。 昨年のゼミのテーマを参考のために示せば、「地方創生」、「ケインズ研究」、「消費税」、「就活研究」でしたが、過去には「情報化時代のコマーシャル」、「アップル、 グーグル、マイクロソフト」、「財政問題」（年金）、「アベノミクス研究」、「国際金融」、「地球環境（温暖化）問題」、「格差社会」（貧困問題）、「自動車産業」（ハイブリッド、電気自動車）などのテーマにも取り組みました。 「自由ゼミ」の狙いとするところは、ゼミ生一人ひとりに責任ある自主的な学習スタイルを身に付けてもらうこと、そして自分のチームの研究テーマについてはもちろん、他のチームの研究テーマについても学んでもらうことです。		
教材（テキスト）	1 回目のゼミにおいて、各テーマごとの文献リストを提示します。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示しています。最終的には、担当教員のアドバイスを参考にしながら、各グループの判断でテキストを選びます。		
教材（参考文献）	各テーマごとに参考文献を配布する。それ以外のものについては、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜情報を提供し、必要な資料については印刷して配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋グループ研究報告 2 回（４０％）＋個別レポートの作成（３０％）		
到達目標	ゼミ活動を通してゼミ生が自主的な学習スタイルを確立し、グループ研究においてゼミ生一人ひとりが果たすべき自己責任能力を身につけてもらうことを目標とします。		
準備学習	１．日頃から社会問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うテーマに関する資料を収集する。 ２．ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を充分に確保する。 ３．研究グループ内でミーティングをしっかり行い、各自のはたすべき役割を着実に実行する。		

受講者への要望

各グループには、責任者としてキャップをおきます。キャップがしっかり内部調整しなければ、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まなければ、所定の期日に研究報告ができなかったり、レポート作成も未完成のままになるグループがでてきます。そうしたグループについては、運営方法の改善を指導し、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散をおこないます。

講義の順序とポイント

１．専門ゼミ A のガイダンス
２．研究グループおよび研究テーマとテキストの決定
３．教員による模擬研究報告
４．研究計画の策定と提出
５．研究報告(1)
６．研究報告(2)
７．研究報告(3)
８．研究報告の批評(1)
９．研究報告(4)
１０．研究報告(5)
１１．研究報告(6)
１２．研究報告の批評(2)
１３．研究報告(7)
１４．研究報告(8)
１５．研究報告の批評(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J82020112
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	一口に株式会社といっても、その中には様々なタイプの株式会社があります。まず大企業でよく見られる監査役会設置会社・指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社の仕組みについて解説します。また学生の皆さんが日常よく耳にすると思われる代表取締役や専務取締役といった人たちが果たしている役割について説明します。次いで中小企業に多い取締役会非設置会社について解説します。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	中東正文・白井正和・北川徹・福島洋尚（2015）『会社法』有斐閣。		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート（100％）		
到達目標	株式会社とは何かを理解する。		
準備学習	上記の参考文献を前もって読んでおくこと。		

受講者への要望

新聞やテレビで経済に関するニュースを見て、世の中の動きを感じ取ってほしい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　会社とは何か
3　無限責任と合名会社
4　有限責任と株式会社
5　公開会社と大会社
6　監査役会設置会社①概要
7　監査役会設置会社②株主総会
8　監査役会設置会社③取締役会
9　監査役会設置会社④代表取締役
10　監査役会設置会社⑤監査役会と会計監査人
11　監査役会設置会社⑥企業統治
12　指名委員会等設置会社①
13　指名委員会等設置会社②
14　監査等委員会設置会社
15　中小企業と取締役会非設置会社

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020113
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済データのなかで、マクロマネー系を扱う。特に、量的金融緩和期におけるマネーの動きと金融緩和の有効性を分析する。日本における量的金融緩和を分析する。基本は、経済指標（GDP、物価、政策変数（マネー）、長期金利、為替、株価）などの相関の強さを調べることにある。ただし、各変数は時間とともに変動しているので、時間遅れを伴った変数間の相関を調べなければならない。		
教材（テキスト）	必要に応じて、資料配布。		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	平常点（80%）、レポート（20%）		
到達目標	金融システムの理解、EVIEWS の操作方法の習得。		
準備学習	金融論、ミクロ、マクロなどの基礎知識を勉強しておくこと。 予習：マクロ経済学、金融論 A、B を事前に履修（または同時に履修登録）して内容を理解しておくこと。 復習：春学期の終了までに、参考文献の半分までを読み終えておくこと。		
受講者への要望			
出席が非常に大事。数理的な部分をすこしずつ理解できるように進めていくので、休んでしまうとついて来れなくなる。			
講義の順序とポイント			
１．EXCEL の計算方法その１ ２．EXCEL の計算方法その２ ３．EXCEL の計算方法その３ ４．EXCEL の計算方法その４ ５．EViews の使い方その１ ６．EViews の使い方その２ ７．EViews の使い方その３ ８．データ分析（回帰分析） ９．データ分析（定常・非定常） １０．データ分析（推定） １１．データ分析（系列相関） １２．マクロシステムの推定その１ １３．マクロシステムの推定その２ １４．マクロシステムの推定その３ １５．まとめ(基本的な推定方法のサーベイ)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020114
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	本講義では、マクロ経済学の基礎理論を復習し、それに基づき現代の日本経済および世界経済の抱える諸問題に対する理解を深める。それぞれ経済問題の本質を踏まえ、それが及ぼす経済的影響とそのメカニズムを確認し、解決に有効な経済政策の在り方を検討する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。毎回の授業で講義用の資料を配布する。		
教材（参考文献）	酒井・寺本・村上・吉田　『経済政策入門』第２版　成文堂 高橋洋一『図解ピケティ入門』　あさ出版 ｼﾞｮｾﾌ・Ｅ・ｽﾃｨｸﾞﾘｯﾂ『世界に分断と対立をま撒き散らす経済の罠』徳間書店		
教材（その他）	日本経済新聞など経済ニュースに日頃から目を通すことが望ましい。		
評価方法	授業内試験１００％		
到達目標	（１）マクロ経済学の基礎理論を理解する。 （２）日本経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。 （３）世界経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。		
準備学習	（１）国民経済統計を調べる。 （２）政府の経済政策の種類とその効果を調べる。 （３）経済の時事問題を調べる。		

受講者への要望

（１）欠席３回で成績評価の対象から除外する。
（２）内容は経済学の基本である。記憶も理解も徹底せよ。
（３）社会人への準備となる取り組みにも意識的・積極的に参加せよ。

講義の順序とポイント

講義の流れは以下の通りである。毎回、日本地図や世界地図を頭に入れながら、地域や国ごとの関連する統計データや経済問題についても解説する。

第１回：ゼミの運営とルール、自己紹介の作法
第２回：国民所得とは何か、ＧＤＰとＧＮＰの違い、国の稼ぐ力
第３回：経済成長率と失業率の関係
第４回：有効需要の原理、総需要
第５回：消費関数と投資関数
第６回：経常収支と為替レート
第７回：公共支出と減税の経済効果
第８回：金融政策の経済効果
第９回：アベノミクス 1、三本の矢
第 10 回：アベノミクス 2、新三本の矢
第 11 回：日本の財政赤字問題
第 12 回：世界の財政赤字問題、ソブリン・リスク
第 13 回：税と社会保障の一体改革
第 14 回：世界の金融システムの歴史と問題点
第 15 回：日本と世界の格差の問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J82020115
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	「日本学生経済ゼミナール大会（以下インター大会)」あるいは「日経 STOCK リーグ(以下 STOCK リーグ)」への出場に向けて、ゼミを行います。どちらに参加するかは、ゼミ生の興味関心を尊重しながら、相談して決定します。参加大会の決定後、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。 「インター大会」は、全国の経済学部・経営学部・商学部の学生を対象とした学術大会です。インター大会の討論部門では、2 チームあるいは 3 チームにより一つの共通テーマに沿って議論し、研究を発展させることを目的としています。 「STOCK リーグ」とは、日本経済新聞社が主催する中・高・大学生を対象としたコンテスト形式の株式投資学習プログラムです。STOCK リーグの流れは、「学習ガイドブックなどの教材を活用した経済・株式投資学習」と「投資テーマ決定・ポートフォリオ構築・レポート作成」に大別されます。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「量的・質的金融緩和の総括的検証」および「マイナス金利政策」に関する参考文献： ・ 岩田一政・日本経済研究センター（編集）[2014]『量的・質的金融緩和 政策の効果とリスクを検証する』、 日本経済新聞出版社. ・ 岩田一政・左三川郁子・日本経済研究センター（編著）[2016] 『マイナス金利政策』、 日本経済新聞出版社. ・ 左三川郁子ほか [2015] 「異次元緩和の限界と出口に向けた課題」、 日本経済研究センター『金融研究報告』. ・ 日本経済研究センター（編集）[2016] 『激論 マイナス金利政策』、日本経済新聞出版社. ファイナンスに関する参考文献： ・ 藤林宏ほか [2009] 『EXCEL で学ぶファイナンス〈2〉証券投資分析』、金融財政事情研究会. ・ 渡部敏明 [2000] 『ボラティリティ変動モデル（シリーズ 現代金融工学）』、朝倉書店.		
教材（その他）	適宜、論文を指定する。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	収集した資料に基づいて意見を述べ、論文を作成する能力を身に着けること。		
準備学習	発表にあたっているグループは協力して、しっかりとレジュメ作成をしなければならない。		
受講者への要望			
本ゼミは、「インター大会」あるいは「STOCK リーグ」への参加を目指しています。 両大会に参加するには論文の作成が必要となり、ゼミ活動では論文作成のための地道なグループワークへの参加が求められます。また、「インター大会」では他大学と議論することから、「STOCK リーグ」では投資テーマの決定の際に、積極的な発言が求められます。基本的なことですが、無断欠席、遅刻を厳禁です。			
講義の順序とポイント			
［講義概要］ ・両大会への参加にに向けて、夏休み中に論文作成に取り組む。 ・9～12 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。 ・インター大会のテーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。 ・STOCK リーグのテーマは、長期的視点で投資テーマを設定する。 1． グループ分けおよびテーマの設定 2． テーマの設定および参考文献の紹介 3． グループ 1 の報告① 4． グループ 1 の報告② 5． グループ 2 の報告① 6． グループ 2 の報告②			

７．　グループ３の報告①
８．　グループ３の報告②
９．　グループ４の報告①
１０．　グループ４の報告②
１１．　レポートの書き方指導
１２．　レポート作成①
１３．　レポート作成②
１４．　レポート作成③
１５．　レポート作成④

*「インター大会」あるいは「STOCK リーグ」のスケジュールに応じて、
上記の講義日程を変更します。

［参考１］　インター大会のＨＰ;
http://www.inter-seminar.com/
［参考２］　ＳＴＯＣＫリーグＨＰ
http://manabow.com/sl/index.html
https://stockleague.nikkei.co.jp/login/index.aspx

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020116
科目名	専門ゼミA 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	このゼミは、「航空観光プログラム」の一部として実施します。「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。単位にならない課外授業としての受講もできますが、その場合も航空観光プログラムへの登録が必要です。 なお、専門ゼミの演習としては、航空観光分野に限らず、広くサービス業等における経営面と政策面の両方の論文を書き、議論をすることに重点をおきます。産業・ビジネスにおける社会的経済的な様々な問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会経済問題の解決・改善方法（政策）を、社会全体の利益の視点から議論します。 私が別の大学で担当してきた研究会の論文テーマ例は、LCC への優遇措置の問題点、航空自由化、観光立国の問題点、教育自由化、医療保険の民営化、農業保護の撤廃、自然保護、ゴミ処理、刑罰の経済学的考察、芸術保護、性表現、プロ野球のドラフト制度等々、多岐にわたっています。 http://news.fbc.keio.ac.jp/~chunzemi/ ゼミの時間は前もって準備してきたレジュメにそっての発表と、それについてのディスカッションを主とします。3 年生時にはグループによる論文執筆、4 年生時には個人で卒業論文を書く作業が中心となります。全員が航空観光プログラム生として、この専門ゼミ以外に、所定の講義 2 科目と、キャリアサポート実践講座、セミナーやインターンシップに参加することができます。		
教材（テキスト）	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。さらに、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。		
教材（参考文献）	教科書と同じ。		
教材（その他）	教科書と同じ。		
評価方法	発表内容（100%）、この授業の活動全体（勉強以外のイベントへの参加運営なども含む）への貢献の程度（100%）。 特定項目が非常に優れていればそれだけで 100%の評価をします。一方、基本的な常識、意欲がかけている場合はほかが 100 点でも 0 点とすることもあります。		
到達目標	共同論文作成の基本要領を身に付けること。		
準備学習	自身が発表する場合は発表の準備、他の学生の発表の場合はコメントの準備。		

受講者への要望

この授業では、教室での発表と論文作成のみならず、セミナーやインターンシップなど様々なイベントへの参加など多岐にわたる活動を実施します。それをこなす能力と意欲と財力が求められます。PC は必ず用意すること。がんばってついてきてくれれば必ず成長できます。

講義の順序とポイント

1．自己紹介
2．入ゼミ課題の発表
3．入ゼミ課題の発表
4．入ゼミ課題の発表
5．ミクロ経済学の復習
6．ミクロ経済学の復習
7．ミクロ経済学の復習
8．ミクロ経済学の復習
9．市場の失敗理論の基礎学習
10．市場の失敗理論の基礎学習
11．共同論文のテーマ決め議論

12. 共同論文のテーマ決め議論
13. 共同論文のテーマ決め議論
14. セミナー、インターシップの事前準備発表
15. セミナー、インターシップの事前準備発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020117
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	企業組織では、スポーツ組織と共有できるチームマネジメント論が存在する。現在、企業では高度成長期に日本で意識付けられた、ソーシャルキャピタルの精神が見直されて来ている。スポーツ組織でも、仲間同士での協調行動により、信頼関係を築き効率性向上を図るため、コーチングやリーダーシップなどのチームマネジメント力が必要となる。当ゼミナールでは、実在の企業による組織マネジメントを参考に、スポーツのチームマネジメントを通して、企業の理解を深め組織マネジメントの知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布します。		
評価方法	平常点（受講態度など）７０％、レポート３０％により評価する。		
到達目標	企業組織とスポーツ組織の共通するマネジメントを理解して整理し、身近な社会組織の中で実践する知識と行動力を身に付ける。		
準備学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
授業には積極的に参加し、受講者全員で進めて行ける心構えを持つこと。			
講義の順序とポイント			
１．　オリエンテーション ２．　経営学部で学ぶための基礎 ３．　グループワークとプレゼンテーションの方法 ４．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究① ５．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究② ６．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究③ ７．　レポートの書き方 ８．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究④ ９．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究⑤ １０．企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究⑥ １１．レポート作成 １２．レポート作成 １３．レポート発表 １４．レポート発表 １５授業内容の振り返り（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J82020118
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会への変革においてコンピュータが身近なものとなり、各分野でイノベーションを引き起こしている。この急速な「IT 技術の進歩」による「経済環境の変化」は進行中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。その結果、今日では社会科学系、人文科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報通信機器に依存した経済生活を営んでいる。このようなユビキタス社会の現代での「新しい技術戦略」は、「新しいビジネスモデル」と「新しい経済環境」を生み出す重要なものである。 ゼミでは、「情報社会における技術戦略」による経済効果に焦点をあて、各自が次のようなテーマについて関連する文献を調査し研究を行っていく。 ①「情報社会における技術戦略」　②「イノベーションと技術戦略」　③「情報社会における第二創業」　④「地域資源とイノベーション」		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	ゼミにて適時指示する。		
教材（その他）	「日本経済新聞」および関連資料から抜粋し適宜配布する。		
評価方法	平常点（ゼミでの取り組み）（40%）＋ゼミレポート（30%）＋個人発表（30%）		
到達目標	1)　ゼミテーマ[①「情報社会における技術戦略」　②「イノベーションと技術戦略」　③「情報社会における第二創業」　④「地域資源とイノベーション」]に関する基本知識の習得 2)　「ゼミ論文」執筆のための調査研究計画に基づいた各自のテーマに関するレポートの完成		
準備学習	各自が興味のある関連記事を学習してレポート作成および発表の準備をしておくこと。		

受講者への要望

1) 興味のあるゼミテーマを事前学習で決めること。
2)何事も積極的に情熱をもって明るく行動できること。
3)ゼミメンバーと協調性を持つこと。
4)ゼミをやもうえず欠席するときは事前に欠席理由を連絡すること。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス（ゼミの概要の説明）
2　「情報社会における技術戦略」
3　「イノベーションと技術戦略」
4　「情報社会における第二創業」
5　「地域資源とイノベーション」
6　「ゼミ論文」作成までの「研究計画」の確認
7　ゼミ 5 テーマの選択・決定
8　各自テーマの関連資料調査報告(1)
9　各自テーマの関連資料調査報告(2)
10　各自テーマの関連資料調査報告(3)
11　各自テーマの関連資料調査報告(4)
12　各自テーマの関連資料調査報告(5)
13　調査レポートの口頭発表(1)
14　調査レポートの口頭発表(2)
15　レポート提出およびゼミ 5 まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020120
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法の基本判例を読み、判例の役割を知る。		
教材（テキスト）	・小型の六法		
教材（参考文献）			
教材（その他）	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	・取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 ・報告した判例について、各自レポートを提出してもらう。 ・１５回出席することを前提として（やむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、レポート 15%、宿題の実施状況 15%。		
到達目標	・データベースで特定の判例を探し出し、必要な文献の一覧を作成できる。 ・判例の役割を理解する。 ・法学関係のレジュメ作成方法を知る。		
準備学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。―もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。		

受講者への要望

・このゼミは、民法を中心とした法律にかかわる研究を行う異質のものであることを予め理解しておくこと。
・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法総則、物権法、債権法、契約法及び家族法の単位は、積極的に取得すること。ゼミと平行していても構わない。
・ゼミはコミュニケーションの場であり、恥ずかしがらずに、色々質問しよう。
・やむを得ない欠席を除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁！！
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をすること。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価の際に減点する。

講義の順序とポイント

【運営方法】
5 班程度に分けて、班ごとに報告することとする。各班は 2 回連続して報告し、初回は、担当する判例を理解するのに必要な知識について、2 回目は、担当判例の論点について行う。2 回目には、論点について他の参加者とともに議論できるのが望ましい。
下記には便宜的に判例を掲げてあるが、「○その他」に挙げたものとの入替えは可能である。初回に相談して決定する。

【専門ゼミＢ以降の内容】
以後の専門ゼミＢ以降についても、受講生の関心のありそうなテーマで重要な判例を選んで取り上げる予定である。

【おおよその順序】
1．　イントロダクション（自己紹介、班分け、発表順序の決定）
宿題：今期の目標設定@京学なび
2．　判例の調べ方とゼミでの報告
3．　法律文の読み方（『法学の扉』2-1）
4．　日本の裁判システム（『法学の扉』2-3）
5．　公序良俗違反――不倫な関係にある女性に対する包括遺贈
前提問題を扱う。例）公序良俗とは、包括遺贈とは・・・
6．　公序良俗違反――不倫な関係にある女性に対する包括遺贈
最判昭和 61 年 11 月 20 日民集 40 巻 7 号 1167 頁
妻がいるのに自分が死んだら自分の財産の 1／3 を愛人にあげるという遺言は有効？
7．　民法 94 条 2 項の類推適用
前提問題を扱う。例）類推適用とは、94 条 2 項の趣旨

８．　民法 94 条 2 項の類推適用
最判昭和 45 年 9 月 22 日民集 24 巻 10 号 1424 頁
夫が妻の土地を自分の名義に書き換えて、他人に売ってしまった。だれの物？
妻もその事実を知りながら名義を訂正しないままだったときは？
９．　意思表示の到達
　前提問題を扱う。例）意思表示到達の考え方、遺留分減殺とは
10.　意思表示の到達
最判平成 10 年 6 月 11 日民集 52 巻 4 号 1034 頁
法律上重要な郵便が書留郵便で送付され、内容をに感づいている受領者が受け取らなかったら、時効期間を経過した。意思表示は到達しなかった？
11.　民法 110 条の正当理由の判断
　前提問題を扱う。例）代理制度の基本、110 条の適用場面
12.　民法 110 条の正当理由の判断
最判昭和 51 年 6 月 25 日民集 30 巻 6 号 665 頁
他人の代理人がその権限を越えて締結した連帯保証契約の効力は？
その人を代理人と信じてよかったの？
13.　本人の意識不明の間に受理された婚姻届の効力
　前提問題を扱う。例）婚姻意思、婚姻届
14.　本人の意識不明の間に受理された婚姻届の効力
最判昭和 45 年 4 月 21 日判時 596 号 43 頁
恋人が突然病気にかかり、病院で婚姻届を作成し提出するも、直後に死亡してしまった。
受理時点に意識不明であれば、その婚姻届は無効？
15.　レポートについて

〇その他
なお、上記には便宜的に判例を掲げてあるが、以下のものとの入替えは可能である。初回に相談して決定する。

・有責配偶者の離婚請求
最大判昭和 62 年 9 月 2 日民集 41 巻 6 号 1423 頁
浮気をして離婚原因を作った者から請求する離婚は認められるか？

・男性死亡後に保存精子を用いた人工生殖によって生まれた子の親子関係
最判平 18 年 9 月 4 日民集 60 巻 7 号 2563 頁
男性死亡後に保存精子を用いた人工生殖によって生まれた子と父の法律上の親子関係は認められる？

・外国における代理出産によって出生した子の出生届
最判平 19 年 3 月 23 日民集 61 巻 2 号 619 頁
夫婦の精子と卵子を用いた受精卵を用いて妻以外の女性が出産した場合に、母となるのは誰？

・性同一性障害による性別変更と嫡出推定
最判平 25 年 12 月 10 日民集 67 巻 9 号 1847 頁
性同一性障害により男性へと性別を改めた者の妻が、夫以外の男性の精子を用いてした人工授精により子を出産した場合の父子関係は？

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020121
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	日本史の諸問題につき論文講読演習を行う。古代から近現代にいたるさまざまな論文をとりあげて、報告・討論を行う。事前に報告担当者を当てておくので、報告者は論文を熟読して、その要約と論評をメモしたレジュメを作成して報告する。報告者以外の者も、論文の論評メモを提出し、それをもとに議論を進める。日本史学への基礎知識を広め深めるとともに、学術論文というものの内容や形式に習熟することで、卒業論文への一歩とする。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・日本の古代から近現代史についての最新の学説を理解する。 ・論文の読解能力を鍛えるとともに、調べる力、発表する力を養う。		
準備学習	発表者は入念な準備、それ以外のものも事前に配布された論文を、十分に読み込んでおく。		
受講者への要望			
・報告者は分からない用語、むずかしい言葉などを積極的に調べたうえで、論文をまとめたい。 ・論文を読んで、よく分からない箇所があれば、そこが非常に重要だ。分からないのは、読み手に原因がある場合と、書き手に原因がある場合があるが、執筆論文の問題点がそこから浮上することがよくある。恥ずかしがらずに、分からないところは「分からない」と率直に言えるようになろう。すべては、そこから始まる。			
講義の順序とポイント			
1.歴史学と論文読解 2.先輩の論文を読む 3.女性史の論文を読む 4.文化史の論文を読む 5.宗教史の論文を読む 6.戦国史の論文を読む 7.幕末史の論文を読む 8.民衆思想史の論文を読む 9,古代中世史像についての論文を読む 10.奈良時代についての論文を読む 11.平安時代についての論文を読む 12.鎌倉時代についての論文を読む 13.室町時代についての論文を読む 14.中世女性史についての論文を読む 15.戦国時代についての論文を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020122
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	日本史の諸問題につき論文講読演習を行う。古代から近現代にいたる主要な論文をとりあげて、報告・討論を行う。事前に報告担当者を当てておくので、報告者は論文を熟読して、その要約と論評をメモしたレジュメを作成して報告する。報告者以外の者も、論文の論評メモを提出し、それをもとに議論を進める。日本史学への基礎知識を広め深めるとともに、学術論文というものの内容や形式に習熟する。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを適宜配付する。		
評価方法	課題に対する発表（40%）および授業での発言や貢献度（60%）		
到達目標	・日本の古代から近現代史についての最新の学説を理解する。 ・論文の読解能力を鍛えるとともに、調べる力、発表する力を養う。		
準備学習	・事前に配布された論文を、十分に読み込んでおく。		

受講者への要望

・報告者は分からない用語、むずかしい言葉などを積極的に調べたうえで、論文をまとめたい。
・論文を読んで、よく分からない箇所があれば、そこが非常に重要だ。分からないのは、読み手に原因がある場合と、書き手に原因がある場合があるが、執筆論文の問題点がそこから浮上することがよくある。恥ずかしがらずに、分からないところは「分からない」と率直に言えるようになろう。すべては、そこから始まる。

講義の順序とポイント

1.歴史学と論文読解
2.古代中世史像についての論文を読む
3.奈良時代についての論文を読む
4.平安時代についての論文を読む
5.鎌倉時代についての論文を読む
6.室町時代についての論文を読む
7.中世女性史についての論文を読む
8.戦国時代についての論文を読む
9. 先輩の論文を読む
10.戦国史の論文を読む
11.文化史の論文を読む
12.宗教史の論文を読む
13.女性史の論文を読む
14.幕末史の論文を読む
15.民衆思想史の論文を読む

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020123
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される民俗学コース専門ゼミ A は、３つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
1　スケジュールの発表 ２～14　歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020124
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	歴史文化学科の京都文化学コースの 3 回生ゼミである。 年代的には江戸時代を中心に、戦国期から明治までを扱う。文化の諸相、政治経済、から芸術文化、工芸美術、芸能までを扱う。 A では、京都関係の地図や資料、参考書を紹介するが、 どのように利用したらよいか、読みながら授業を進めていく。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への参加度。担当箇所の読解や発表、質問などを評価する。 学期末にレポートを課す。		
到達目標	江戸時代の資料が読み解けるようになること。 自分が生きている時代以外の、歴史上の社会のありようを洞察することができるようになること。 合理的なものの考え方ができるようになること。		
準備学習	なるべく多くの歴史に関する本を読んでおくこと。 京都の地図を見て大体の地名を知っていること。		

受講者への要望
テーマをきちんと調べてくること。 大きな声で発表すること。
講義の順序とポイント
1　京都市史　新修京都叢書から 2　聚楽第と二条城 3　江戸初期の京都 4　後水尾上皇 5　京都の美術や工芸 6　近世京都の文芸 7　近世京都の絵画史 8　遊郭の変遷 9　大石内蔵助と一力茶屋 １０　本居宣長と京都 11　安政の大獄 １１　新撰組の歴史 １２　禁門の変 １３　薩長同盟 １４　幕末の京都地図 １５　維新と豪商

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020125
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	大学で最も重要な３回生の演習である。 授業で取り扱う内容はふたつある。ひとつは「語学」。江戸時代初期の安原貞室『かたこと』を扱う。この書は、京都の市井のことばに焦点を当て、乱れたことばを指摘して、それを正すことを目的として書かれた画期的な書物である。ことばの規範や方言研究にも役立つものである。 ふたつめは「秦氏の研究」である。これは主として歴史に興味のある人を対象としている。本学が根拠知とする太秦にゆかりの秦氏について深く研究する。 学生は、いずれかのテーマを選択し、それについて学期中に一度は発表してもらう。発表ができなかった者についてはレポートの提出をもってそれに代える。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。 また、指定図書にも配置する予定である。		
教材（参考文献）	白木進『かたこと』（笠間選書） 井上満郎『秦河勝』（吉川弘文館）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席率）と発表した者は発表の内容、発表しなかった者はレポートの総合で判定する。		
到達目標	しっかりしたプレゼンテーションができる能力を養う。調査能力が重要である。		
準備学習	テーマに則した書物があれば読んでおくのもよいであろう。		
受講者への要望			
まず、どちらの事項を自分が研究するかを決めておくこと。もちろん、両方に興味のある者はそれも構わない。			
講義の順序とポイント			
１．概要の説明 ２．既存研究の解説 ３．発表 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．同上 ９．同上 １０．同上 １１．同上 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020126
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される民俗学コースの専門ゼミ A は、３つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、民俗を研究対象とする様々な学問の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	適宜紹介		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	研究計画書の作成と提出。テーマ設定のために指定された学術論文を読んで、まとめておくこと。発表に関するフィールドワークと他のゼミ生の発表に対する討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　スケジュールの発表 ２～14　歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J82020127
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を作成するための力をつける。卒業研究のテーマの決め方・論文の書き方などを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	担当外の授業での質問・発言・議論等（40%） 担当時の発表（60&）		
到達目標	卒業研究に向けて、各自の扱う作品・テーマを絞り込む。		
準備学習	関心のある分野について情報検索の方法や主要参考文献などを調べておくこと		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

講義日程は、受講生の数により柔軟に対応する。
1 卒業研究について
2　資料の集め方 1
3　資料の集め方 2
4　論文の書き方　仮説検証型
5　論文の書き方　調査報告型
6　創作の書き方　小説
7〜14　卒業研究の実際（過去の例・他大学の卒業論文・参考論文などを読む）
　　この間に個々の卒業研究テーマ聞き取り・発表
15　今後の計画作成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020128
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	３回生の春学期に開講される民俗学コースの専門ゼミⅠＡは、３つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門ゼミの所属変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　　スケジュールの発表 ２～１４民俗学コース３回生の発表と討論、 １５　　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020129
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成に向けてゼミを行う．国際金融，国際経済の中から自分でテーマを選定し，資料作成や報告を行う．また，報告に対して学生主体で討論を行う．		
教材（テキスト）	なし．		
教材（参考文献）	適宜指定する．		
教材（その他）	適宜指定する．		
評価方法	報告態度　３０％　討論への参加　３０％　課題への取り組み　４０％		
到達目標	自分で資料を収集し，それを元に意見を述べ，論文を作成する能力を身につける．		
準備学習	国際金融論，国際経済入門，国際経済学を事前に履修（または同時登録）して内容を理解しておいて下さい．また，資料作成や報告で指摘されたことは，次のゼミの時間までに修正して，どのように修正したかを教員に説明するようにして下さい．		
受講者への要望			
資料の収集・作成も行いますが，報告主体でゼミ運営を行うので，報告義務をきちんと履行することを求めます．履行しない場合，厳正な対処を行うので，注意して下さい．			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成① 3. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成② 4. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成③ 5. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成④ 6. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑤ 7. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑥ 8. 報告と討論① 9. 報告と討論② 10. 報告と討論③ 11. 報告と討論④ 12. 報告と討論⑤ 13. 報告と討論⑥ 14. 報告と討論⑦ 15. 報告と討論⑧			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J82020130
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	２回生までに得た知識と各自の関心をもとに各自の研究テーマを決定し、６セメで提出する「ゼミ論文」の完成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択した文献について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（テキスト）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済・社会問題に対して自らの視点から意見を述べられること。		
準備学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。
・「社会政策入門」の単位を未取得の場合は、今学期履修すること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション：ゼミの内容・方針・進め方について
2.各自の学習テーマの決定
3.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(1)
4.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(2)
5.各自の学習テーマに関する報告(1-1)
6.各自の学習テーマに関する報告(1-2)
7.各自の学習テーマに関する報告(1-3)
8.各自の学習テーマに関する報告(2-1)
9.各自の学習テーマに関する報告(2-2)
10.各自の学習テーマに関する報告(2-3)
11.各自の学習テーマに関する報告(3-1)
12.各自の学習テーマに関する報告(3-2)
13.各自の学習テーマに関する報告(3-3)
14.各自の学習テーマに関する報告(3-4)
15.今学期のまとめと来学期に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020131
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	私たちはどんなコミュニケーションを行なっているのか、現代社会はどんなコミュニケーションを行なう社会なのかという視点から、現代社会を考える。 3 回生の春学期は、手始めに簡単な調査を行なう。1.大学生はどんなメディアを利用しているか、2.大学生はポピュラー文化に対してどんな接し方をしているかを調べることなどをテーマとし、そこから、私たちがどんな社会に住んでいるかを考える。発表と簡単なレポートの提出を予定している。		
教材（テキスト）	プリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	発表等の平常点（70%）、レポート（30%）		
到達目標	調査の方法を体験的に理解すること。		
準備学習	進捗に応じて目を通すべき資料と作業を指示する。		

受講者への要望

演習への積極的な参加を求める。 また、2 回生のときに「社会調査法 I」「II」の単位を取得していない人は、年度内に履修すること。「コミュニケーション社会学」を履修すること。

講義の順序とポイント

《ガイダンス》
1. ガイダンス

《量的調査によるメディア利用調査》
2. 調査票調査概説
3. 質問文を考える
4. 調査票作成、実査方法の解説
5. エディティング・コーディング
6. 集計と考察
7. 発表原稿の作成
8. 発表とディスカッション

《質的調査によるポピュラー文化接触調査》
9. ドキュメント分析調査概説
10. 調査の枠組みを考える
11. カードの作成
12. 考察
13. ポスター製作(1)
14. ポスター制作(2)

《ガイダンス》
15. ふりかえり、専門演習 B までの準備

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	−	★	−	★

年度	2017	授業コード	J82020132
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	市民が「こころ」のよりどころとできるようなまち、地域の資源、芸術文化や生活財とはどのようなものだろうか。市民がそれらをもてるようになるために有効な具体的課題の設定から、その解決までを一貫して実施していく。社会調査をふまえた提言や施策の立案、広報などのコミュニケーション活動を実地に行う。京都や亀岡の地域や特定の事業体との連携を行うなど、教室と学外双方での活動をめざす。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	・J.W.ヤング、今井茂雄訳『アイデアのつくり方』、竹内均解説、CCC メディアハウス、1988 年 ・石井淳蔵『ブランド――価値の創造』、岩波新書、1999 年 ・『デザインで地域を元気にする――プロジェクトと仕掛人たち』、パイインターナショナル、2015 年 ・岡檀『生き心地のよい町――この自殺率の低さには理由（わけ）がある』、講談社、2013 年 ・伊藤香織・紫牟田伸子監修、読売広告社都市生活研究局『シビック・プライド』、宣伝会議、2008 年		
教材（その他）	適宜、プリントや映像資料を活用する。		
評価方法	毎回の演習への出席とプロジェクトへの参加：60%、プロジェクトの成果物やレポート：40%		
到達目標	1）地域の人びとや学外の専門家・活動者と出会い、インタビューやさまざまな共同作業を通じて課題解決のプロジェクトを企画・立案したり、その運営や成果達成を自分たちの手で行えるようにする。 2）社会学やメディア論、地域づくり事例など必要な文献を読み、上記のプロジェクトへの参加を通じて、4 回生で執筆する卒業研究のテーマを各自が立てる。		
準備学習	地域づくりや特産物の開発、広報活動、ブランド開発などの実施事例について文献やホームページなどで積極的に情報収集しておくこと。		

受講者への要望

ゼミ生全員がプロジェクトに参加し、学内外での活動を行うため、授業の出席だけではなく、調査の設計や実施、施策や広報物づくりなど、わりあい多くの共同作業が発生する。ゼミ生とのコミュニケーションをいとわず、課外の時間もあてられる学生の受講を希望する。友人がこの演習を選ぶからではなく、テーマに対して自分自身の問題意識を持てる人に来てほしい。

講義の順序とポイント

第 01 回：オリエンテーション
第 02 回：プロジェクトの実施に必要な基礎知識の学習（1）
第 03 回：プロジェクトの実施に必要な基礎知識の学習（2）
第 04 回：学外連携先との顔合わせ
第 05 回：プロジェクトの課題設定と分担の決定
第 06 回：インタビュー、アンケートなどの調査設計（1）
第 07 回：インタビュー、アンケートなどの調査設計（2）
第 08 回：調査の実施（1）
第 09 回：調査の実施（2）
第 10 回：調査結果の集計・まとめ（1）
第 11 回：調査結果の集計・まとめ（2）
第 12 回：調査結果の分析
第 13 回：調査結果の分析にもとづく施策や広報活動の仮説づくり
第 14 回：仮説にもとづくプロジェクトの実施計画づくり
第 15 回：春学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	ー	―	★	ー

年度	2017	授業コード	J82020133
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論をおこない、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表とレポートによる。		
到達目標	共通テーマを理解する。		
準備学習	日頃から書物や新聞･テレビなどに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1，ガイダンス 2・3．家族 4・5．地域社会 6・7．教育 8・9．企業 10・11，労働 12・13．政治 14・15．メディア			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020134
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本ゼミのテーマは、「人口減少社会における経済政策―特に働き方改革を中心にして―」です。 我が国は、2011 年から人口が継続して減少する人口減少社会に突入し、人口構成が経済社会にプラスの影響をもたらす人口ボーナス期から、労働力人口の減少など人口構成が経済社会の発展の重荷になる人口オーナス期に移行しました。これとともに、私たちの暮らしを支えてきた制度や仕組みが機能不全に陥りつつあります。 そのような中、安倍内閣は「一億総活躍社会」の政策プランを掲げ、働き方改革に取り組み始めました。そこでは、非正規雇用者の待遇改善を目指した「同一労働・同一賃金」、正規雇用者の長時間残業の禁止を含む労働時間の見直し、子育て支援の拡充を通じての女性就業率の引き上げなどが当面の政策課題として取り上げられています。 春学期は、関連テーマについての現状認識を深めていきます。		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	吉川洋(2016)『人口と日本経済―長寿、イノベーション、経済成長』中公新書		
教材（その他）	リーディングリストの配付予定		
評価方法	授業内報告(30%)、授業参加度(30%)、およびレポート(40%)		
到達目標	関連テーマの現状と政策の展開について説明できる		
準備学習	新聞・雑誌記事・政府のホームページで政策的取組を確認すること		
受講者への要望			
知的好奇心を膨らまし、向上心を持って勉強すること			
講義の順序とポイント			
1　人口減少社会の基本文献の講読① 2　人口減少社会の基本文献の講読② 3　人口減少社会の基本文献の講読③ 4　人口減少社会の基本文献の講読④ 5　人口減少社会の基本文献の講読⑤ 6　人口減少社会の基本文献の講読⑥ 7　人口減少社会の基本文献の講読⑦ 8　働きかｔ改革の基本文献の講読① 9　働きかｔ改革の基本文献の講読② １０　働きかｔ改革の基本文献の講読③ １１　働きかｔ改革の基本文献の講読④ １２　働きかｔ改革の基本文献の講読⑤ １３　働きかｔ改革の基本文献の講読⑥ １４　働きかｔ改革の基本文献の講読⑦ １５　働きかｔ改革の基本文献の講読⑧			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J82020135
科目名	専門ゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	本ゼミナールでは、テーマを「会社と経営・会計」とし、テキストの輪読および報告・質疑応答により、新会社法における「会社の仕組み」や「実践的経営と会計」について学ぶ。 本ゼミナールにおける報告・質疑応答の展開方法としては、次のように予定している。 ① 本ゼミナール参加者を 4 グループ化し、グループ単位で順に報告・質疑応答を行う。 ② 毎回の報告に当たっては、各グループをそれぞれ司会・報告・質問の各担当に割り当てる。 ③ 司会担当グループは、当日の進行役を努め、終了時に各グループの担当状況について 5 段階評価を行う。 ④ 報告担当グループは、事前にレジュメを作成して当日配布し、報告を行い、質疑に答える。 ⑤ 質問担当グループは、他のグループに先んじて質問を行う義務と権利がある。 ⑥ 報告終了後、テキスト（1）（2）の報告担当章に関するリポート提出を求める。 ⑦ 参考文献（1）について、期末に「内容を各自の行動にどのように活かすか」と題するリポート提出を求める。		
教材（テキスト）	（1）坂田 岳史 著 『<イラスト図解> 会社のしくみ』 日本実業出版社　1,300 円 （2）稲盛 和夫 著 『アメーバ経営』 日本経済新聞社　648 円		
教材（参考文献）	（1）稲盛 和夫 著 『稲盛和夫の実学―経営と会計―』 日本経済新聞社　524 円 （2）稲盛 和夫 著 『稲盛和夫の経営塾―Q&A 高収益企業のつくり方―』 日本経済新聞社　648 円		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素のゼミへの取組状況等（30%）、期中課題（30%）、期末リポート（40%）に基づく総合評価を行う。		
到達目標	（1）企業などの組織の一員として、現実問題に直面した場合にその解決策を提案・実践しようとする姿勢をもつ ことができる。 （2）株式会社制度の内容について理解している。 （3）企業経営における会計の意義・重要性について理解している。 （4）実践経営の実例として、京セラの「アメーバ経営」について理解している。		
準備学習	（1）輪読予定箇所について、事前に解読し予習しておくこと。 （2）報告予定箇所について、事前にレジュメ作成と報告準備あるいは質問準備をしておくこと。		

受講者への要望

（1）「大学での専攻は、研究ゼミナールの履修分野によって決まる」との観点から、自らの専攻を明確に意識しよう。その入り口が
本ゼミナールであることを再確認して下さい。
（2）書籍代は学生時代の重要な自己投資の典型であると心得て、テキスト及び参考文献への投資は積極的に行って欲しい。

講義の順序とポイント

本ゼミナールにおける展開内容は、一応、次のように予定している。

1. 参加者全員の他己紹介、ゼミ内容と次回以降のガイダンス
2. テキスト（1）第 1 章の輪読―会社の基本―およびリポートの作成指導
3. テキスト（1）第 2 章の輪読―会社経営のしくみ―
4. テキスト（1）第 3 章の輪読―会社組織のしくみ―
5. テキスト（1）第 4 章に関するグループ A の報告・質疑応答
6. テキスト（1）第 5 章に関するグループ B の報告・質疑応答
7. テキスト（1）第 6 章に関するグループ C の報告・質疑応答
8. テキスト（1）第 7 章に関するグループ D の報告・質疑応答
9. テキスト（2）第 1 章の輪読―アメーバ経営と全員参加経営―
10. テキスト（2）第 2 章の輪読―経営哲学の必要性―
11. テキスト（2）第 3 章に関するグループ A の報告・質疑応答
12. テキスト（2）第 4 章前半部に関するグループ B の報告・質疑応答
13. テキスト（2）第 4 章後半部に関するグループ C の報告・質疑応答

14.　テキスト（2）第 5 章に関するグループ D の報告・質疑応答
15.　総括―経営における会計の必要性の再確認―

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	–	★	–	–

年度	2017	授業コード	J82020136
科目名	専門ゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	経営や産業に関連するテーマを中心に、学生自身がテーマや問題を設定し、それに関する資料を収集・整理し、レジュメを作成し（あるいはレポート・論文を作成し)、他のゼミ生の前で発表し、討論する。		
教材（テキスト）	用いません。		
教材（参考文献）	そのつど、指示します。		
教材（その他）			
評価方法	ゼミでの発表　80% ゼミでの討論参加　20%		
到達目標	以下の、一連の流れができること。 1. 自分で問題設定できること 2. 資料・文献を収集できること 3. 仮説や論説を作成できること 4. 人前で、自分の考えを発表できること 5. 討論において、論理的に説明できること		
準備学習	毎回のゼミの終了時に、次回のゼミの内容と予習すべきことがらを指示する。 なお、ふだんから、新聞・雑誌にも目を通し、TV なども見つつ、常に問題意識を持つようにすること。		
受講者への要望			
元気良く、積極的に討論に参加してください。			
講義の順序とポイント			
01　ゼミの運営方法に関して 02　A 君の発表 03　B さんの発表 04　C 君の発表 05　D さんの発表 06　E 07　F 08　G 09　H 10　I 11　J 12　K 13　L 14　M 15　N			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J82020137
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
講義概要	本専門ゼミ（A~D）は会計学の視点から物事を考え、問題の発見、解決能力を身に付けることを目的としている。 まず、会計の教科書を輪読し、会計理論と実践の基礎を身に付け、論文の書き方についても習得する。 また、自らの興味ある社会現象について、調査研究を行い、会計学の視点から、問題を指摘し、解決策を試みる。 最後に、その成果として、報告書か、卒業論文を作成する。 そのうち、専門ゼミ A は会計理論の基礎と論文作成の基礎を中心に勉強する。		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	ゼミへの積極的参加（60%）、発表成果物（40%）		
到達目標	論理的思考力を高め、会計学の視点で物事を分析し、課題の発見・解決能力を養う。		
準備学習	※簿記等の会計関連の授業を事前に履修してください。 ※発表者のみならず、発表しない人も事前に該当箇所を予習し、議論の準備をしてください。		

受講者への要望

※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて課題の発見能力と解決能力を身に付けてください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（本ゼミの概要を説明し、テキストの指示、ゼミの具体的な進め方、勉強方法等の説明）
2. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
3. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
4. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
5. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
6. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
7. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
8. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
9. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
10. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
11. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
12. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
13. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
14. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。
15. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッションを行う。論文の書き方も同時に指導する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020138
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	本演習では、企業の人材マネジメントに関する知識を身に着ける。 担当章についてグループで内容要約・プレゼンテーションを行うことで		
教材（テキスト）	守島基博著　『人材の複雑方程式』　日本経済新聞出版社　2010 年		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、小課題の評価（20%）、発表及びレポート評価（30%）		
到達目標	人材マネジメントに関する知識を身に着けるとともに、その知識をもとに自身の視点から考えることを目指す。 事例分析やデータ読み取りに関する知識・スキルを身に着ける。		
準備学習	Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 「次回までに行うべきこと」が指示された場合は、しっかりと準備すること。課題は所定の期日までに提出すること。また、発表担当時は責任をもって発表を行うこと。		

受講者への要望

ゼミに積極的に参加すること。
モノ・コトの内容を論理的に理解するように努力すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション：　本授業の説明（授業の目的・進め方）
2.グループ分け、グループ別の担当決定
3.グループワーク①：担当章に関する発表
4.グループワーク②：担当章に関する発表
5.グループワーク③：担当章に関する発表
6.グループワーク④：担当章に関する発表
7.グループワーク⑤：担当章に関する発表
8.グループワーク⑥：担当章に関する発表
9.グループワーク⑦：担当章に関する発表
10.グループワーク⑧：担当章に関する発表
11.グループワークの復習、ディスカッション
12.人材マネジメントにおける課題や論点の整理、ディスカッション
13.個人報告①：個々人の問題意識、ディスカッション
14.個人報告①：個々人の問題意識、ディスカッション
15.個人報告①：個々人の問題意識、ディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J82020141
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてて社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習Ⅱで卒業研究を行うことになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	極端化する社会　有馬著　北大路書房 参考文献は無料で配布する		
教材（その他）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	ベースとなる背景知識なしには独自の考えも出てこない。 この授業は、文献を読みこなした上で、新たな観点から研究を企画する力を養うことを目的とする。		
準備学習	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、集団心理学を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. 概論　各自の興味関心分野についてディスカッション　文献の分担を決める 2. 方法論概論　指定された参考文献の背景知識を概論として伝える 3. 文献報告　序章 4. 文献報告　第１章 5. 文献報告　第２章 6. 文献報告　第３章 7. 文献報告　第４章 8. 文献報告　第５章 9. 文献報告　第６章 10. 文献報告　第７章 11.　文献報告　終章 12. ディスカッション１ 13. ディスカッション２ 14. ディスカッション３ 15. 夏休みの課題決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020142
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためにはよく勉強し、その学を一定以上身につけなければならない。この演習では、とくに発達臨床心理学領域における基本的知識を定着させることや、それらに関連する社会的に重要なテーマについて認識を拡げることを目指したい。扱うテーマについては臨床心理学と直接の関連は薄いように思われるものも含まれるかもしれないが、世の中のことはすべて人間にかかわっている以上、心理学の対象である。また、対人援助系のボランティア等の募集が当ゼミにはよく届けられる。そのような社会的活動の機会を自分のために積極的に活かす姿勢を鼓舞したい。なお、川畑が春学期に担当する「発達臨床心理学」「福祉心理学」を必ず登録、履修すること。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		
受講者への要望			
提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、個別面談①ほか ２．各自によるプレゼンテーション① ３．同② ４．同③ ５．知り合うセッション ６．テーマディスカッション① ７．同② ８．文献講読・英文読解・体験学習のいずれか① ９．同② １０．同③ １１．同④ １２．同⑤ １３．テーマディスカッション③ １４．同④ １５．個別面談②ほか ※以上については、内容や順序の変更があり得る。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J82020143
科目名	専門ゼミＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学、深層心理学の文献購読及び発表を通して、文献を精読してまとめて発表する方法を習得するとともに、臨床心理学、深層心理学の基礎的な知識を学ぶ。特にＩＡでは、『子どもの宇宙』で取り上げられている児童文学を通して、人間の深い理解を試みる。登録者の人数にもよるが、心理療法についての文献以外にも物語、神話、昔話、小説、映画なども取り上げながら、人間の理解を深める。		
教材（テキスト）	河合隼雄著　子どもの宇宙　岩波新書		
教材（参考文献）	河合隼雄著　ユング心理学入門　培風館 他にも必要に応じて随時紹介をする。		
教材（その他）			
評価方法	平常点：出席及び討論への参加状況など（50%） 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	到達目標 専門演習ＩＡ、Ｂを通して １）興味・関心ある文献を選び、精読し、内容をまとめて発表できるようにする。 ２）口頭で発表した内容をレポートとしてまとめる。 上記１）２）を通して研究の方法の基礎を身に付ける。 自分の考えを人に伝えたり、人の意見に耳を傾け、討論ができるようにする。 ＊　大学院進学を志望する者は、そのための基礎学力、語学力をつける―個別に対応―。		
準備学習	討論に積極的に参加できるように、次の発表内容に関する文献には目を通す。		

受講者への要望

読書重視のゼミである。
教材としては『子どもの宇宙』で取り扱われている児童文学と臨床事例が中心となるが、内容的には心理臨床に対しての基本的な姿勢、見方について学ぶため、その覚悟を持って受講すること。

講義の順序とポイント

注）履修者の人数によって内容は変わりうる。
1　オリエンテーション：演習の運営方法について話し合いの上決定。各人の興味や関心について、発表の順番決定など。
2　『子どもの宇宙』　第１章　子どもと家族　発表および討論
3　家族とは？
4　『子どもの宇宙』　第２章　子どもと秘密　発表および討論
5　秘密を持つことの心理学的意味
6　『子どもの宇宙』　第３章　子どもと動物　発表および討論
7　動物のもつ象徴的意味・心理学的意味
8　『子どもの宇宙』　第４章　子どもと時空　発表および討論
9　心理臨床学的視点から見た時間と空間
10　『子どもの宇宙』　第５章　子どもと老人　発表および討論
11 子どもと老人の関わりをテーマにした児童文学を読む
12　『子どもの宇宙』　第６章　子どもと死　発表および討論
１３　児童文学とビデオを通して、「死」について考える
14　『子どもの宇宙』　第７章　子どもと異性　発表および討論
１５　『子どもの宇宙』全７章全てを通しての討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020144
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	各自のテーマにそって文献を探し、発表する。聞く方は、必ず発表者に対して感想や意見を言うことを通して、さらに自分の考えを深めるようにする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加、責任のある態度、学ぼうとする姿勢		
到達目標	各自の興味のあるテーマをさらに深めること。他者に自分の意見をつたえられること。		
準備学習	日ごろから、心理療法に関する文献などに注意し、積極的に自分で読んでみること。		

受講者への要望

ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。積極的に参加して下さい。

講義の順序とポイント

1,オリエンテーション
2,心理療法・文献購読　ユング
3,心理療法・文献購読　ユング
4 子どものセラピー・事例
5 大人のセラピー・事例
6 思春期のセラピー・事例
7 思春期のセラピー・事例
8 各自のテーマに沿って発表
9 各自のテーマに沿って発表,
10 各自のテーマに沿って発表
11 各自のテーマに沿って発表
12 各自のテーマに沿って発表
13 各自のテーマに沿って発表
14 各自のテーマに沿って発表
15 各自のテーマに沿って発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020146
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生春学期では，演習を進めるための基本的知識の共有をはかる。そのために，認知心理学の基本的な枠組みや，取り上げうるトピックに関する基本的な文献の購読を中心に演習を進める。 また，将来のキャリアを見据えた専門分野の学習について考える機会を設ける。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	認知心理学に関する基礎的知識を修得する。 演習での発表と討論の仕方を修得する。 批判的に考える習慣を身につける。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		
受講者への要望			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。			
講義の順序とポイント			
1. 受講生各自の興味の確認とテーマ設定 2. 心理学の学習と進路について 3. 心理学論文の種類と収集方法 4. 心理学論文の読み方(1) 5. 心理学論文の読み方(2) 6. 発表の準備方法 7. 研究発表をする(1) 8. 研究発表をする(2) 9. 論文を批判的に読む(1) 10. 論文を批判的に読む(2) 11. 心理学の学習と進路について 12. 文献購読と発表・討論(1) 13. 文献購読と発表・討論(2) 14. 文献購読と発表・討論(3) 15. 学期の学習内容の整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020147
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	本演習では，「感情」と「制御」を主たるテーマとして，それらに対する実証的なアプローチに関する基礎的な知識の獲得を目指す。受講者は，感情あるいは制御に関する学術論文の中から，自らが興味深いと感じたものを選択し，それを精読したうえで，パワーポイントを用いて発表を行う。他の受講者は，発表内容に関するディスカッションペーパーを作成し，議論を行う。 3 回生の春学期は，感情あるいは制御に関する学術論文の読解・内容の発表を通して，卒業研究に向けた基礎的な知識の獲得と，論理的思考やプレゼンテーションなどのスキルの向上をはかる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	杉山 崇・丹藤 克也・越智 啓太（編著）　記憶心理学と臨床心理学のコラボレーション　北大路書房 丹野義彦・坂本真士　自分のこころからよむ臨床心理学入門　東京大学出版会		
教材（その他）			
評価方法	演習発表（50%）と，議論への参加の程度・内容（50%）を評価する。		
到達目標	学術論文の内容を理解することができる。 読解した文献の内容をまとめ，発表することができる。 他者の発表を聴き，発表内容を理解し，疑問点について質問できる。		
準備学習	発表担当者は，自分の発表に向けて計画的に準備し，発表にのぞんでもらいたい。また，発表を聴く立場にある学生は，事前に資料を読み，発表内容についての疑問点をまとめておくこと。		

受講者への要望

「感情」と「制御」について，データに基づいた卒業研究（実験・調査）を行うことを目指す学生の受講を望む。また，全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することを前提とする。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。
演習では受講者に意見を求める機会を設ける。また，ディスカッションや発表を課す場合がある。各課題への積極的な参加を求める。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション 1 (授業概要の説明，興味のある研究テーマの説明，発表担当回の決定)
2. オリエンテーション 2 (発表方法・論文の検索方法の確認，論文検索の演習)
3. 全体での論文購読演習・ディスカッション①
4. 全体での論文購読演習・ディスカッション②
5. 全体での論文購読演習・ディスカッション③
6. 論文購読①
7. 論文購読②
8. 論文購読③
9. 論文購読④
10. 論文購読⑤
11. 論文購読⑥
12. 論文購読⑦
13. 論文購読⑧
14. 総括・秋学期の発表順の決定
15. 個別面談（興味のある研究テーマについての確認など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020201
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	企業や業界を選んで、その企業や業界の現状および経営戦略を調査・分析します。文献、新聞記事、雑誌記事、企業のホームページなどを調べて、それを Excel で分析し、PowerPoint でプレゼン資料にまとめ、発表してもらいます。これらの作業を通じて、実際に企業の実務で役立つスキルを身につけてもらうと同時に、就活での業界研究や企業研究にも役立ててもらいます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	受講姿勢やグループワークでの貢献度など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	書籍、新聞、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析することができる。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		

受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。
なお、経営戦略論入門、経営戦略論を事前あるいは本ゼミと併行して履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 企業の選択、参考文献の紹介
3. 参考文献の要点整理
4. 参考文献の要点整理
5. 中間発表、ディスカッション
6. 中間発表、ディスカッション
7. 情報収集と分析
8. 情報収集と分析
9. 中間発表、ディスカッション
10. 中間発表、ディスカッション
11. 追加調査
12. 追加調査
13. 発表、ディスカッション
14. 発表、ディスカッション
15. 専門ゼミ B のまとめと専門ゼミ C への課題提示

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020202
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A に引き続き、各自が選択した企業または業界について、発展的な経営分析をすすめていく。適宜、経過報告をプレゼンテーションしてもらう予定である。 演習終了時にレポートを課す		
教材（テキスト）	適宜、指示する。		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)		
到達目標	会計情報から企業の財政状態、経営成績、資金状況を理解できる。 企業の業績や財務状態に影響を及ぼす外部要因、内部要因について説明できる。		
準備学習	各自に報告テーマを課すので、パワーポイント等によるプレゼン資料の準備をしてくること。報告に当たっていないものは、各自次回の内容について、指示されたテキストを読んでくること。 問題意識を持って新聞記事等のニュースに注意を向けること。		

受講者への要望

積極的に議論に参加すること。
毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。

講義の順序とポイント

1. 企業経営と会計
2. 日本の会計制度の概要
3. 業種による財務データの違い
4. 会計情報の開示制度
5. 有価証券報告書の見方
6. 企業集団と連結会計
7. セグメント情報
8. 企業の戦略と会計
9. 企業の抱えるリスク
10. 株価と財務データ
11. 配当と株価
12.業績見通しと株価
13.総合評価の方法
14.最終報告(1)
15.最終報告(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020203
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。 その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ。 ノート PC または Windows タブレット+キーボード。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。 1.情報システム、情報管理の手法を実際に構築する。 2.構築したシステム、手法を検討する。 ことを重点目標とする。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 450 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		
受講者への要望			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
情報管理手法をパソコンに展開し、情報システムの構築を行う。 そして、その成果を個人研究報告または共同研究報告してもらう。 1.はじめに、セキュリティアップデート 2.経営学の基礎知識の復習 3.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 4.情報システムの構築演習(1) 5.情報システムの構築演習(2) 6.情報システムの構築演習(3) 7.情報システムの構築演習(4) 8.情報システムの構築演習(5) 9.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新 10.各自の情報管理テーマ（設定） 11.各自の情報管理のテーマ（レジュメの作成） 12.各自の情報管理のテーマ（レジュメの作成） 13.各自の情報管理のテーマ（発表） 14.各自の情報管理のテーマ（発表） 15.学年末発表会 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020204
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ B では、専門ゼミ A に引き続いて、インターネットを活用したビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を身につけることを目的とします。 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使って、データを加工・処理・表現していきます。また、就職活動に役立つことも取り入れていきます。例えば、企業へのエントリーや、教養試験等の対策をします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。 ビデオ教材、新聞記事、雑誌記事等を活用します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（６０%）。授業中に課すレポート（４０%）。		
到達目標	インターネットビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を理解することを目標とします。 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、データを加工・処理・表現する知識を身につけることを目標とします。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。 企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		

受講者への要望

出席を重視します。欠席・遅刻をしないこと。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　経営学の知識の復習①
3　経営学の知識の復習②
4　経営学の知識の復習③
5　インターネットビジネスの研究①（各自のテーマの設定）
6　インターネットビジネスの研究②（資料収集）
7　インターネットビジネスの研究③（概要の作成）
8　インターネットビジネスの研究④（概要の作成）
9　インターネットビジネスの研究⑤（発表）
10　業界研究①
11　業界研究②
12　企業研究①
13　企業研究②
14　企業研究③
15　専門ゼミ B を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020205
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	春学期の文献研究を踏まえて各自課題を選び、夏季休暇中に研究を進め、秋学期には各自の研究成果を報告し、ゼミナールⅠ終了レポートをまとめてもらう。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	報告・レポート（100%）		
到達目標	歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
準備学習	輪番報告の形式で進め、報告者にはレジュメの作成を課すので、順次各自の資料をを読み進め速やかにレジュメを作成すること。		
受講者への要望			
出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
秋学期：夏季休暇中に進めた各自の研究を逐次報告してもらう。 16～20.各自の研究報告第一回（１）～(5) 21～25.各自の研究報告第二回（１）～(5) 26～30.各自の研究報告第三回（１）～(5)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020206
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	企業を経営するうえで重要な資源としての人材の重要性について把握し、どういう育成をすれば人は成長し、企業の業績アップに効果を与えるか。また、個人の立場としては、自らの能力を活用するためにはどうすればいいのかを考える。 さまざまな業界の可能な限り最新の企業のケースを用い、自分が経営者ならどうするか、従業員ならどうするかを考えていく。 内容に応じて、グループワークと個人作業を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講姿勢及びグループワーク）70%、レポートおよび発表（30%）		
到達目標	企業経営における人材の重要性を理解し、関心のある企業について調べる力をつけることを目標とする。 また、グループワーク等を通じて、問題解決能力、企画力、提案力を身につける。		
準備学習	学習の段階に応じて課題として選択したテーマに基づいて資料を収集しておくこと。		
受講者への要望			
キャリアゼミＢ、専門ゼミＡ～Ｄは連続受講を前提とします。 グループワークだけでなく、個人作業もあります。自ら課題に興味をもち積極的な参加をすることを求めます。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション　グループ研究振り返りと今後の計画 2. 業界と企業についての動向① 3. 〃 ② 4. 課題抽出の方法 5. 問題解決の技法と実例① 6. 〃 ② 7. 個人テーマの設定 8. 個人テーマの発表と意見交換 9. レポート作成 10. レポート作成 11. レポート作成 12. レポート発表 13. レポート発表 14. 振り返りとまとめ 15. 専門ゼミＣに向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020207
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	社会の底流に流れていながら一般の人には見えていない「社会のトレンド」について研究します。 そもそも社会にトレンドがあるのか、流行はなぜ現れるのかから始まり、見えないトレンドを把握する方法、モノを完成で見る方法などを訓練します。 その基礎として、記号論を学びます。 最後に、ヒット商品ランキングを作成します。		
教材（テキスト）	特に指定しません		
教材（参考文献）	町田健『コトバの謎解き　ソシュール入門』光文社新書		
教材（その他）	各社が公表しているヒット商品ランキングの資料などを配布します		
評価方法	授業への参加と貢献（授業への積極的な態度と発言）を評価します。発言などを通して、授業への理解度を測ります。また、授業の最後にレポートを提出してもらいます。レポートの評価が 50 点、授業への参加と貢献が 50 点として採点します。		
到達目標	世の中に流されながら生きる側ではなく、社会の流れを読み解きながら、社会をデザインできる側に立てる人材になることを目指します。		
準備学習	テレビ東京系で月―金２３：００－２４：００に放映されている経済番組「ワールド・ビジネス・サテライト」と NHK で縫製されている「スーパープレゼンテーション」をできる範囲で毎回見るようにしてください。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		
受講者への要望			
15 回の講義のなかで後半はゼミ生からの発表の時間を多くとるようにします。 自分の頭で考え、感性を磨き、まとめる力と発表をする力が求められます。 この講義を受ける前の自分と受けた後の自分が見違えるような別人になることを想定しながら、毎回、全力で受けるようにしてください。			
講義の順序とポイント			
＜社会トレンドについて＞ 第 1 回　ヒット商品にはどんなものがあるか 第 2 回　ヒット商品から読み解くトレンド 第 3 回　トレンドはなぜ起こるのか 第 4 回　そもそもトレンドはあるのか ＜トレンド読み解きの実践編＞ 第 5 回　ヒット商品事例研究① 第 6 回　ヒット商品事例研究② 第 7 回　ヒット商品事例研究③ 第 8 回　ヒット商品事例研究④ ＜ヒット商品ランキング作成＞ 第 9 回　ヒット商品候補の収集 第 10 回　ランキング策定のための基準作り 第 11 回　時代のトレンドを表現するキーワードづくり① 第 12 回　時代のトレンドを表現するキーワードづくり② 第 13 回　時代のトレンドを表現するキーワードづくり③ 第 14 回　ランキング公表のための記者リリースづくり 第 15 回　社会のトレンドがなくなる日は来るか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J82020208
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	就職活動予定者を対象とするこのゼミにおいては、専門ゼミAに引き続いて、日本企業におけるHRM(Human Resources Management)の特徴を理解することに重点を置く。 　加えて、専門ゼミBでは、大学卒業後にあなたが進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題の発見、および、問題が生ずる理由の解明に着手していただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には、レポートあるいは論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。資料を適時配布する。		
教材（参考文献）	なし。資料を適時配布する。		
教材（その他）	なし。資料を適時配布する。		
評価方法	課題・宿題（30%）、および受講・発表・取組姿勢（70%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。 ＊エントリーシートや筆記試験に対応できる。		
準備学習	＊初回の授業においてこれから使う資料について説明を行う。どの資料を次回使用するかを毎回指示するので、熟読しておくこと。 ＊例えば、新規学卒就職者の3年以内の離職率データを使い、業界による相違やその相違理由を明らかにせよ、などの課題・宿題を指示する。 ＊宿題や小テストなどを通してゼミで習ったことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料を必ず熟読しておくこと。		
受講者への要望			
＊就職活動予定者を対象としているのでゼミ選択の際には注意すること。 ＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。 ＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。			
講義の順序とポイント			
1.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について① 2.エントリーとは？　エントリーシートの書き方について② 3.エントリーシートの書き方について③ 4.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について① 5.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について② 6.財務諸表の読み方と経営分析の仕方について③ 7.成果主義・能力主義とは何か？① 8.成果主義・能力主義とは何か？② 9.初任給は決め手にならない。昇給・昇進・出向や転籍に関して① 10.初任給は決め手にならない。昇給・昇進・出向や転籍に関して② 11.不祥事を起こした会社・人財軽視の会社について① 12.不祥事を起こした会社・人財軽視の会社について② 13.エントリーシートの書き方について④　留学・進学について 14.SPI、時事問題③ 15.研究論文について①、来期について。専門ゼミCについて。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★

年度	2017	授業コード	J82020211
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミＡと同じく、「自由ゼミ」方式とよぶやり方で、ゼミをおこなう。「自由ゼミ」方式とは、ゼミ担当教員があらかじめいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人ひとりが自分で取り組んでみたいテーマを自由に選び、同じ関心をもつゼミ生とグループを組んで研究するゼミ運営のことです。基本的には春学期の専門ゼミＡの研究課題をより深く継続的に研究します。各グループの代表（キャップ）が中心となって、秋学期の研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。		
教材（テキスト）	1 回目のゼミにおいて、各テーマごとの追加的な文献リストを提示します。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示していますが、最終的には、担当教員のアドバイスを参考にして、各グループの判断でテキストを選ぶものとします。		
教材（参考文献）	各グループのテーマに応じて、適宜参考文献を提示する。		
教材（その他）	適宜情報を提供し、必要な資料については印刷し配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋グループ研究報告２回（６０％）＋個別報告１回（１０％）		
到達目標	ゼミ活動を通じて学生が自主的な学習スタイルを形成し、グループ研究において個人が果たすべき責任能力を身につけてもらうことを目標としている。		
準備学習	① 日頃から社会・経済問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うてえーまに関する資料を収集する。 ② ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を十分に確保する。 ③ 研究グループ内でのミーティングをしっかり行い、各自が個人で果たすべき役割を着実に誠意をもって実行する。		

受講者への要望

各グループには、研究責任者としてキャップをおく。キャップがしっかりと内部調整をしなかったり、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まないと、研究報告書が未完成になったり、所定の期日に研究報告ができなかったりする。結果を達成できなかったグループについては、運営方法の改善を指導したり、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散を行う。

講義の順序とポイント

１．専門ゼミＢのガイダンス
２．研究グループと研究テーマ＆テキスト等の決定
３．教員による模擬研究報告
４．研究計画書の作成と提出
５．研究報告書の報告・説明
６．個別研究報告(1)
７．個別研究報告(2)
８．個別研究報告(3)
９．研究報告の批評(1)
１０．グループ中間報告
１１．個別研究報告
１２．個別研究報告
１３．研究報告の批評(2)
１４．グループ研究報告
１５．研究報告の総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J82020212
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	日本で最初に執行役員の制度を設けたのはソニーで、それは 1997 年のことでした。つまり、ソニーはコーポレートガバナンス（企業統治）の問題にいち早く取り組んだ企業でした。ところが、その後のソニーは不振に陥り、株価の急落（ソニーショック）に見舞われたり希望退職の募集を繰り返したりと迷走しました。改革をいち早く進めてきたはずのソニーで、かえって企業統治がうまく機能しなかった理由を探ります。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	①立石泰則（2011）『さよなら！僕らのソニー』文芸春秋。 ②三品和広（2010）『戦略暴走』東洋経済新報社。		
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート（100％）		
到達目標	どのような場合に株式会社の経営が傾くのかを理解する。		
準備学習	上記の教材（参考文献）が太秦図書室にあるので、前もって読んでおくこと。		
受講者への要望			
新聞・テレビ・インターネット等で経済関係のニュースを見て、世の中の動きに関心をもってほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　創業時のソニー（当時の社名は東京通信工業） 3　ソニー・ブランドの確立 4　歴代社長ないし CEO の在任期間と業績 5　盛田氏によるコロンビア映画買収 6　大賀氏の社長就任 7　出井氏の社長就任 8　大賀氏と出井氏による権力の二重構造 9　出井氏による組織改革 10　出井氏のビジネスモデルとソニー・ショック 11　テレビ事業のつまづき 12　ダボス会議と出井氏 13　携帯音楽プレーヤーにおけるつまづき 14　ストリンガー氏によるコストカット 15　ソニー社員の流出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020213
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済データのなかで、マクロマネー系を扱う。特に、量的金融緩和期におけるマネーの動きと金融緩和の有効性を分析する。日本においては、2001 年から 2006 年までの第 1 期の量的金融緩和と、2012 年末からのアベノミクスを第 2 期の量的質的金融緩和の 2 通りがある。各々の特徴を調べ、相互に比較して、金融緩和の影響と有効性を分析することにする。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布		
教材（参考文献）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教材（その他）			
評価方法	平常点（80%）、レポート（20%）		
到達目標	マネー、GDP、金利の関係を明らかにする		
準備学習	経済学の基礎知識を確かなものにしておく. 予習：マクロ経済学、金融論 A、B を事前に履修（または同時に履修登録）して内容を理解しておくこと。 復習：秋学期の終了までに、参考文献を読み終えておくこと。		
受講者への要望			
休まずに出席すること			
講義の順序とポイント			
1.日銀の景況判断 DI 2.好況、不況時のマネー 3.precautionary demand の変動と推定 4.同上 5.同上 6.貨幣需要関数（transaction demand）の推定 7.同上 8.同上 8.マネーと GDP と金利の関係 9.同上 10.同上 11.デフレの特徴 12.同上 13.インフレの特徴 14.同上 15.まとめ(各種推定方法の応用のサーベイ)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020214
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	統計学の基本理論を理解する。その上で、Excel を用いた統計処理の基本を学ぶ。さらに、「地域再生」をテーマに各自が特定の自治体の地域再生政策の取り組み事例を 1 つ取り上げ、その背景と効果等を各種統計データを処理することで描写し、論文として仕上げる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	高橋威知郎『トップデータサイエンティストが教える　データ活用実践教室』　日経 BP 社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内試験 70%　レポート 30%		
到達目標	(1) Excel の基本機能を使いこなせる (2) 統計学の基本理論を理解する (3) Excel を使った統計処理ができる (4) 現実的な諸課題に対して統計分析によるアプローチができる		
準備学習	(1) Excel 操作の基本を説明するガイドブックを読む (2) 統計分析が有効となるための諸条件を確認する		

受講者への要望

(1) 課題未提出 1 回をもって成績評価の対象から除外される
(2) 道具としての PC 活用術を高める日常の取組みを意識的に行う
(3) 社会人生活を見据えた数字・データの活用術を身に着け、それをもって何が言え何が言えないのかの境界を理解する
(4) 数学は必要なく、四則算のみで十分である。計算は PC が行い、人間は意味の理解と解釈の技術を身に着ける

講義の順序とポイント

1. 統計学は役に立つ(1)：傾向と関係、予想と説明
2. 統計学は役に立つ(2)：事例研究 1　ソフトバンクとトヨタ自動車
3. 統計学は役に立つ(3)：事例研究 2　経済財政白書と防衛白書
4. 記述統計の基礎(1)：度数分布表、クロス集計表
5. 記述統計の基礎(2)：平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差
6. 推測統計の基礎(1)：z 検定、t 検定
7. 推測統計の基礎(2)：回帰分析、重回帰分析
8. 推測統計の基礎(3)：ロジスティック回帰
9. 推測統計の基礎(4)：因子分析
10. 推測統計の基礎(5)：クラスター分析
11. 地域再生政策(1)：安倍政権の地域再生／地方創生の諸政策の概要
12. 地域再生政策(2)：地域再生はなぜ必要か？その背景と目標を統計データで確認する
13. 地域再生政策(3)：事例研究 1
14. 地域再生政策(4)：事例研究 2
15. 報告：今後の研究課題の設定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J82020215
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	◆ゼミの基本方針について 春学期に続き、「日本学生経済ゼミナール大会（以下インター大会）」あるいは「日経 STOCK リーグ(以下 STOCK リーグ)」への出場に向けて、ゼミを行います。どちらに参加するかは、ゼミ生の興味関心を尊重しながら、相談して決定します。参加大会の決定後、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。 「インター大会」は、全国の経済学部・経営学部・商学部の学生を対象とした学術大会です。インター大会の討論部門では、2 チームあるいは 3 チームにより一つの共通テーマに沿って議論し、研究を発展させることを目的としています。 「STOCK リーグ」とは、日本経済新聞社が主催する中・高・大学生を対象としたコンテスト形式の株式投資学習プログラムです。STOCK リーグの流れは、「学習ガイドブックなどの教材を活用した経済・株式投資学習」と「投資テーマ決定・ポートフォリオ構築・レポート作成」に大別されます。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	「量的・質的金融緩和の総括的検証」および「マイナス金利政策」に関する参考文献： ・ 岩田一政・日本経済研究センター（編集）[2014]『量的・質的金融緩和 政策の効果とリスクを検証する』、 日本経済新聞出版社. ・ 岩田一政・左三川郁子・日本経済研究センター（編著）[2016] 『マイナス金利政策』、 日本経済新聞出版社. ・ 左三川郁子ほか [2015] 「異次元緩和の限界と出口に向けた課題」、 日本経済研究センター『金融研究報告』. ・ 日本経済研究センター（編集）[2016] 『激論 マイナス金利政策』、日本経済新聞出版社. ファイナンスに関する参考文献： ・ 藤林宏ほか [2009] 『EXCEL で学ぶファイナンス〈2〉証券投資分析』、金融財政事情研究会. ・ 渡部敏明 [2000] 『ボラティリティ変動モデル（シリーズ 現代金融工学）』、朝倉書店.		
教材（その他）	適宜、論文を指定する。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	［インター大会］ 他大学の学生と徹底した議論ができること。 [STOCK リーグ] 収集した資料に基づいて意見を述べ、論文を作成する能力を身に着けること。		
準備学習	［インター大会］ インター大会における議論のための資料集め、およびゼミ生同士のディスカッション。 ［STOCK リーグ］ 発表にあたっているグループは協力して、しっかりと論文報告をしなければならない。		
受講者への要望			
本ゼミは、「インター大会」あるいは「STOCK リーグ」への参加を目指しています。 両大会に参加するには論文の作成が必要となり、ゼミ活動では論文作成のための地道なグループワークへの参加が求められます。 また、「インター大会」では他大学と議論することから、「STOCK リーグ」では投資テーマの決定の際に、積極的な発言が求められます。基本的なことですが、無断欠席、遅刻を厳禁です。			
講義の順序とポイント			
［講義概要］ ・両大会への参加にに向けて、夏休み中に論文作成に取り組む。 ・9～12 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。 ・インター大会のテーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。 ・STOCK リーグのテーマは、長期的視点で投資テーマを設定する。			

１～８．各グループの進捗状況の報告
９.「インター参加：インター参加の注意と説明」 or 「STOCK リーグ参加：各グループの進捗状況の報告」
１０～１１． 「インター参加：反省会」 or 「STOCK リーグ参加：各グループの進捗状況の報告」
１２～１４． 「インター大会：ゼミ論文まとめ」 or 「STOCK リーグ：論文最終段階」
１５． 来年度にむけて諸注意

*「インター大会」あるいは「STOCK リーグ」のスケジュールに応じて、
上記の講義日程を変更します。

［参考１］ インター大会のＨＰ;
http://www.inter-seminar.com/
［参考２］ ＳＴＯＣＫリーグＨＰ
http://manabow.com/sl/index.html
https://stockleague.nikkei.co.jp/login/index.aspx

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020216
科目名	専門ゼミＢ 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A の延長活動です。 方針、内容は同じです。		
教材（テキスト）	専門ゼミ A に応じです。		
教材（参考文献）	専門ゼミ A に同じです。		
教材（その他）	専門ゼミ A に同じです。		
評価方法	専門ゼミ A に同じです。		
到達目標	専門ゼミ A に同じです。		
準備学習	専門ゼミ A に同じです。		

受講者への要望

専門ゼミ A に同じです。

講義の順序とポイント

1．セミナー、インターシップの事後発表
2．セミナー、インターシップの事後発表
3．共同論文の内容について議論
4．共同論文の内容について議論
5．共同論文の内容について議論
6．共同論文の内容について議論
7．共同論文の内容について議論
8．共同論文の内容について議論
9．共同論文の内容について議論
10．他大学との共同報告会の準備
11．他大学との共同報告会の準備
12．他大学との共同報告会の準備
13．共同論文の最終発表
14．卒業論文のテーマ発表
15．卒業論文のテーマ発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J82020217
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	企業組織では、スポーツ組織と共有できるチームマネジメント論が存在する。現在、企業では高度成長期に日本で意識付けられた、ソーシャルキャピタルの精神が見直されて来ている。スポーツ組織でも、仲間同士での協調行動により、信頼関係を築き効率性向上を図るため、コーチングやリーダーシップなどのチームマネジメント力が必要となる。当ゼミナールでは、実在の企業による組織マネジメントを参考に、スポーツのチームマネジメントを通して、企業の理解を深め組織マネジメントの知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じてプリントを配布します。		
評価方法	平常点（受講態度など）７０％、レポート３０％により評価する。		
到達目標	企業組織とスポーツ組織の共通するマネジメントを理解して整理し、身近な社会組織の中で実践する知識と行動力を身に付ける。		
準備学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、企業経営やスポーツ経営のニュース（テレビ・新聞・ネットなど）に関心を持ち、自分なりの考えを持つように心がける。		

受講者への要望

授業には積極的に参加し、受講者全員で進めて行ける心構えを持つこと。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション
２．　専門ゼミナール A の復習
３．　グループワークとプレゼンテーションの方法
４．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究①
５．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究②
６．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究③
７．　レポートの書き方
８．レポートの書き方
９．　レポートの題材決め
１０．レポート資料調査
１１．レポート作成
１２．レポート作成
１３．レポート発表
１４．レポート発表
１５．授業内容の振り返り（ディスカッション方式）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J82020218
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	情報社会への変革においてコンピュータが身近なものとなり、各分野でイノベーションを引き起こしている。この急速な「IT 技術の進歩」による「経済環境の変化」は進行中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。その結果、今日では社会科学系、人文科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報通信機器に依存した経済生活を営んでいる。このようなユビキタス社会の現代での「新しい技術戦略」は、「新しいビジネスモデル」と「新しい経済環境」を生み出す重要なものである。 ゼミ 6 ではゼミ 5 での各自のテーマに関しその探求を継続し発展させ、ゼミ発表するとともに「ゼミ論文」を完成させる。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	ゼミにて適時指示する。		
教材（その他）	「日本経済新聞」および関連資料から抜粋し適宜配布する。		
評価方法	平常点（ゼミでの取り組み）（60%）＋ゼミ発表（40%）		
到達目標	1)　ゼミテーマ[①「情報社会における技術戦略」　②「イノベーションと技術戦略」　③「情報社会における第二創業」　④「地域資源とイノベーション」]に関する知識の習得 2)　「卒業論文」執筆のための調査研究計画に基づいた各自のテーマに関する「ゼミ論文」の完成		
準備学習	ゼミ論文テーマの関連知識を学習しておくこと。		

受講者への要望

1) 興味のあるゼミテーマを事前学習で決めること。
2)何事も積極的に情熱をもって明るく行動できること。
3)ゼミメンバーと協調性を持つこと。
4)ゼミをやもうえず欠席するときは事前に欠席理由を連絡すること。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス（ゼミの概要の説明）
2　「卒業論文」完成までの「調査研究計画」の確認
3　「ゼミ論文」のテーマ選択・決定
4　各自テーマの関連資料調査(1)
5　各自テーマの関連資料調査(2)
6　　各自テーマの関連資料調査(3)
7　　各自テーマの関連資料調査(4)
8　　「ゼミ論文」の中間進捗報告(1)
9　　「ゼミ論文」の中間進捗報告(2)
10 各自テーマの関連資料調査(5)
11 各自テーマの関連資料調査(6)
12 各自テーマの関連資料調査(6)
13 「ゼミ論文」の口頭発表(1)
14 「ゼミ論文」の口頭発表(2)
15 「ゼミ論文」提出およびゼミ 6 まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020220
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	・判例を通じて民法を学ぶ。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。 ・受講者は、質疑を通して自らの理解を深める。		
教材（テキスト）	・報告班がレジュメを配布する。 ・小型の六法は必携。		
教材（参考文献）	・受講生がこれまで受講した講義又は現在受講中の講義で指定された教科書。 ・中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教材（その他）			
評価方法	・取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 ・報告した判例について、各自レポートを提出してもらう。 ・１５回出席することを前提として（やむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、レポート 15%、宿題の実施状況 15%。		
到達目標	・法律関係の文献収集ができる。 ・判例報告用のレジュメがある程度作成できる。 ・法学関連の基本書を抵抗なく手に取れるようになる。		
準備学習	・初回にこのゼミで取扱う判例と取扱う時期を確定するので、各回の事前に各自が取扱い判例に関して配付する資料を一読する。 ・資料の中で分からない日本語、法律用語を調べてメモしておく。		

受講者への要望

・ゼミはコミュニケーションをする場です。したがって
  - 積極的に質問しましょう。
  - 欠席連絡はしっかり行いましょう。
  - 班の他の構成員とも連絡を取り、力を合わせて報告をしよう。
・六法は必ず持参しましょう。
・トイレは事前に済ませましょう。

講義の順序とポイント

【運営方法】　専門ゼミ A と同様である。
　5 班程度に分けて、班ごとに報告することとする。各班は 2 回連続して報告し、初回は、担当する判例を理解するのに必要な知識について、2 回目は、担当判例の論点について行う。2 回目には、論点について他の参加者とともに議論できるのが望ましい。
　下記には便宜的に判例を掲げてあるが初回に相談して決定する。

【おおよその順序】
1．イントロダクション（班分け、発表順序の決定、班ごとの論点整理）
宿題：今期の目標設定@京学なび
2．各班の担当判例をそれぞれ 10 分程度で概要を報告。
3．みんなで話合ってみよう。
4．賃貸人の修繕義務不履行と賃借人の損害回避減少措置（最判平 21・1・19 判時 2032 号 45 頁）（百選２　6 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認
5．同上
　　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
6．将来発生する債権の譲渡（最判平 11・1・29 判時 1666 号 54 頁）（百選２　28 事件）
　　事件に関する事実の概要
　　民法の制度の確認

7．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
8．面会交流の間接強制（百選３　20 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
9．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
10．夫と通じた者に対する妻の慰謝料請求権（最判平 8・3・26 判時 1563 号 72 頁）（百選３　10 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
11．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
12．民法 915 条 1 項の「自己のために相続の開始があったことを知った時」の意義（最判昭 59・4・27 判時 1116 号 29 頁）（百選３　75 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
13．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
14．遺産分割協議と詐害行為取消権（最判平 11・6・11 判時 1682 号 54 頁）（百選３　68 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
15．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020221
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	各種講義や資料講読など、２回生までに基礎的な学習をしてきたみなさんは、卒業論文にむけての次の段階として、自らが興味を抱いたテーマについて、専門的な研究を開始することになります。そこで必要とされてくるのが、それぞれのテーマに関して、先行研究をしらべ、研究の素材となる史料の所在を知ることです。この演習では、それを段階に応じて各人が報告や発表を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	学生作成のレジュメ		
評価方法	平常点　50％ 発表内容 50％		
到達目標	卒論のテーマ設定を行い、その先行研究の読み込みを深め、分析する史料をみつけること。		
準備学習	とにかく自らの発表の準備にできる限りの時間を割いてください。発表内容について、何を聞かれても答えることができるような入念な準備をお願いします。		
受講者への要望			
各自の興味に沿った研究テーマの設定と確立に努力して欲しい。真摯な姿勢での受講を望みます。			
講義の順序とポイント			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 ２～15　受講生による発表と質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待					★	★★

年度	2017	授業コード	J82020222
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	個人、もしくはチームで自由に研究テーマを決めて行う自由ゼミである。研究テーマは日本に関することであれば、時代・分野を問わない。対外関係・国際交流や比較史でも構わない。 それぞれの研究テーマが決まると、①そのテーマについて論じた研究論文のリストを作成する、②関連する資料を調べる、③重要な論文を選んで、それをまとめ、自分の意見を付け加えて発表する。 この授業を通して、調べる力、まとめる力、考える力、発表する力を養って、卒業論文の作成へとつなげたい。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（40%）と研究発表（60%）		
到達目標	収集した論文・資料をもとに、そのテーマについての研究状況を的確にまとめて自分の意見を述べる力を養成する。		
準備学習	自分が選んだ研究テーマについて、しっかりと準備を進めて授業に臨んでほしい。		

受講者への要望

自由に研究テーマを決めることができるというのは、反面また苦しいものでもある。できるだけ自分の力で研究を進めたいが、行き詰まったなら遠慮なく相談にきてほしい。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.研究テーマの決定準備
3.研究テーマの決定
4.先行研究のリスト作成と資料状況の報告
5.先行研究のリスト作成と資料状況の報告
6.先行研究のリスト作成と資料状況の報告
7.研究発表
8.研究発表
9.研究発表
10.研究発表
11.研究発表
12.研究発表
13.研究発表
14.研究発表
15.研究報告の総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020223
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	民俗学資料講読など、2 回生まで基礎的な学習をしてきた学生諸君が、その中から興味を抱いたテーマに関して、専門的な研究を開始させることになる。提出した研究計画書をまず検討し、それに沿って、テーマをめぐる資料、論文を探し出し、これまでの研究史を知るという順序になることだろう。段階に応じて各人が報告や発表を行い、質疑応答を経て担当教員のコメントと指導を受ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（50%）レポート（50%）		
到達目標	最初は思いつきにすぎなかった研究テーマをどれだけ客観的なものに仕立てられるか。それが卒業研究の成果につながっていく。		
準備学習	論文や図書の収集、解読。フィールドワーク。		
受講者への要望			
関連の論文を読んでいくことで、文献目録を作ったり、研究史を意識していくようにする。			
講義の順序とポイント			
（1）研究テーマの再プレゼンテーション （2）同上 （3）同上 （4）同上 （5）同上 （6）研究テーマに関する研究史発表 （7）同上 （8）同上 （9）同上 （10）同上 （11）研究計画書の検討 （12）同上 （13）同上 （14）文献目録作成について （15）卒業研究に向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020224
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	卒業論文作成に向けて、研究論文を後追い調査し、引用文献などを調べてみる作業を行う。対象となるべき論文は、学生本人の興味に沿うものとする。 論文の内容を理解して、授業時間内で要約発表してもらう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	時間内の用意してきたレジュメと発表の仕方など。		
到達目標	基本的な学術論文が読んで理解できること 聞いている人の理解度を見ながら発表できること		
準備学習	自分が興味を持つ分野の学術論文を見つけて読んでくること		
受講者への要望			
ほかの人の発表をよく聞いてつねに質問を考えること。 担当が当たっている場合は間に合うように準備をすること。			
講義の順序とポイント			
１　学術論文の例 ２　選び方 ３　たとえばの例 ４～１４　発表 １５　来学期にむけて勉強しておくことについて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J82020225
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	大学で最も重要な３回生の演習である。 授業で取り扱う内容はふたつある。ひとつは「語学」。江戸時代初期の安原貞室『かたこと』を扱う。この書は、京都の市井のことばに焦点を当て、乱れたことばを指摘して、それを正すことを目的として書かれた画期的な書物である。ことばの規範や方言研究にも役立つものである。 ふたつめは「秦氏の研究」である。これは主として歴史に興味のある人を対象としている。本学が根拠知とする太秦にゆかりの秦氏について深く研究する。 学生は、春学期に選んだテーマについて学期中に一度は発表してもらう。発表ができなかった者についてはレポートの提出をもってそれに代える。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。また、指定図書を参照すること。		
教材（参考文献）	白木進『かたこと』（笠間選書） 大和岩雄『正・続　秦氏の研究』（大和書房）		
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席率）と発表した者は発表の内容、発表しなかった者はレポートの総合で判定する。		
到達目標	しっかりしたプレゼンテーションができる能力を養う。調査能力が重要である。		
準備学習	テーマに則した書物があれば読んでおくのもよいであろう。		
受講者への要望			
まず、どちらの事項を自分が研究するかを決めておくこと。もちろん、両方に興味のある者はそれも構わない。			
講義の順序とポイント			
１．発表順、発表内容の確認 ２．発表 ３．同上 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．同上 ９．同上 １０．同上 １１．同上 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	―	―	―	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020226
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	本演習では、民俗の空間的側面に焦点を当てるため、民俗の人文・歴史地理学的研究を特に重視します。 人文・歴史地理学は、文化の空間的側面を研究する学問です。あらゆる文化は、人間と環境との相互関係から生まれます。したがって、あらゆる文化が空間的特性を持つことになります。このように、人文・歴史地理学は様々な文化を研究対象にすることができます。 受講生は、どのような民俗に関するテーマを持って本演習に臨んでもかまいません。従来の受講生の多くは、神話、伝説、昔話、都市伝説、妖怪、地域、映画、食文化、祭り、異文化などをテーマとしてきました。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるはフィールドワークを行い、４回生での卒論の準備とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	適宜紹介		
教材（その他）	適宜紹介		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	研究テーマに則した学術論文、学術書を読んで、レジュメを作成しておくこと。発表に関するフィールドワークと、他のゼミ生の発表に対する討論の心構えと準備。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。			
講義の順序とポイント			
１　スケジュール ２　テーマの発表、資料検索、文献目録、図書館 ３～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	J82020227
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究を作成するための力をつける。卒業研究のテーマの決め方・論文の書き方などを指導する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	担当外の授業での質問・発言・議論等（40%） 担当時の発表（60&）		
到達目標	卒業研究に向けて、各自の扱う作品・テーマを絞り込む。		
準備学習	論文の書き方、情報検索の方法について復習しておくこと。		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

講義日程は、受講生の数により柔軟に対応する。
1 卒業研究について　３回生秋学期にすべきこと
2　さまざまな進路
3　資料の集め方
4　卒業研究の実際（過去の例・他大学の卒業論文・参考論文などを読む）
5〜14　同　この間に個々の卒業研究テーマ聞き取り・発表
15　今後の計画作成
なお、毎回小テストを実施する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020228
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	この演習は ①人類学･民俗学的手法で地域研究を行うことを目標においています。自分の生まれ育った文化とは違う形を持つ文化を、観察したり分析したりするには、天与の才能の他に知識や技術が必要です。このクラスではその知識や技術の習得に努めます。 参与観察の方法、インタビューの方法、資料の整理の仕方、旅行の技術、民族誌の書き方などなど。お手本になるのは、昔と現在の人類学者や民俗学者の著作です。 ②口承文芸を研究したいと考えている学生さんも歓迎です。口承文芸研究も異文化研究と同様なトレーニングが必要です。そのほかに口承文芸に関する教養やテキスト分析の知識も必要になるでしょう。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるはフィールドワークを行い、４回生での卒論の準備とします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	学生の作成したレジュメ、パワーポイント		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
準備学習	テーマを設定し、方法論を見いだすために、多くの文献を読むこと。フィールドワークの計画し、それを実施すること。		
受講者への要望			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。			
講義の順序とポイント			
1　　スケジュールの作成 2　　テーマの探し方、資料検索、文献目録、図書館の活用法 3～１５　担当者の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020229
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	卒業論文の作成に向けてゼミを行う．国際金融，国際経済の中から自分でテーマを選定し，資料作成や報告を行う．また，報告に対して学生主体で討論を行う．		
教材（テキスト）	なし．		
教材（参考文献）	適宜指定する．		
教材（その他）	適宜指定する．		
評価方法	報告態度　３０％　討論への参加　３０％　課題への取り組み　４０％		
到達目標	自分で資料を収集し，それを元に意見を述べ，論文を作成する能力を身につける．		
準備学習	国際金融論，国際経済入門，国際経済学を事前に履修（または同時登録）して内容を理解しておいて下さい．また，資料作成や報告で指摘されたことは，次のゼミの時間までに修正して，どのように修正したかを教員に説明するようにして下さい．		
受講者への要望			
資料の収集・作成も行いますが，報告主体でゼミ運営を行うので，報告義務をきちんと履行することを求めます．履行しない場合，厳正な対処を行うので，注意して下さい．			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成① 3. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成② 4. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成③ 5. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成④ 6. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑤ 7. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑥ 8. 報告と討論① 9. 報告と討論② 10. 報告と討論③ 11. 報告と討論④ 12. 報告と討論⑤ 13. 報告と討論⑥ 14. 報告と討論⑦ 15. 報告と討論⑧			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020230
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	「専門ゼミA」に引き続き、各自の設定したテーマに沿って「ゼミ論文」の完成を目指す。そのために、各自の選択した文献について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。あるいは、学期後半には「ゼミ論文」作成の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（テキスト）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて収集すること。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。		
準備学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講者への要望

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。
・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション
2.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-1)
3.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-2)
4.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-3)
5.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-4)
6.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-1)
7.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-2)
8.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-3)
9.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-4)
10.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-1)
11.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-2)
12.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-3)
13.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-4)
14.ゼミ論文についての最終報告(1)
15.ゼミ論文についての最終報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020231
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	私たちはどんなコミュニケーションを行なっているのか、現代社会はどんなコミュニケーションを行なう社会なのかという視点から、現代社会を考える。 3 回生の秋学期は、まず文献講読をしてコミュニケーション社会学にどんなテーマがあるかを理解する。次に自分で研究をするとしたらどんなテーマがあるかを考え、どんな文献があるかを調べて研究計画を発表する。		
教材（テキスト）	授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材を使用する。		
評価方法	発表等の平常点（70%）、レポート（30%）		
到達目標	コミュニケーション社会学にどんな研究テーマがあるかを理解する。研究テーマに対し、どんな方法でアプローチすればよいかを理解する。		
準備学習	進捗に応じて目を通すべき資料を指示する。		

受講者への要望

演習への積極的な参加を求める。

講義の順序とポイント

《ガイダンス》
1. イントロダクション

《文献をとおした研究》
2. 文献検索実習
3. 指定した文献の講読(1)
4. 指定した文献の講読(2)
5. 指定した文献の講読(3)
6. 受講者が選んだ文献の講読(1)
7. 受講者が選んだ文献の講読(2)
8. 受講者が選んだ文献の講読(3)
9. 文献紹介レポートを書く

《研究計画を立てる》
10. 研究計画とは
11. コミュニケーション社会学の様々な研究について
12. 研究計画の発表(1)
13. 研究計画の発表(2)
14. 研究計画の発表(3)

《ガイダンス》
15. ふりかえり、専門演習 C までの準備

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020232
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	市民が「こころ」のよりどころとできるようなまち、地域の資源、芸術文化や生活財とはどのようなものだろうか。市民がそれらをもてるようになるために有効な具体的課題の設定から、その解決までを一貫して実施していく。社会調査をふまえた提言や施策の立案、広報などのコミュニケーション活動を実地に行う。京都や亀岡の地域や特定の事業体との連携を行うなど、教室と学外双方での活動をめざす。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	・J.W.ヤング、今井茂雄訳『アイデアのつくり方』、竹内均解説、CCC メディアハウス、1988 年 ・石井淳蔵『ブランド――価値の創造』、岩波新書、1999 年 ・『デザインで地域を元気にする――プロジェクトと仕掛人たち』、パイインターナショナル、2015 年 ・岡檀『生き心地のよい町――この自殺率の低さには理由（わけ）がある』、講談社、2013 年 ・伊藤香織・紫牟田伸子監修、読売広告社都市生活研究局『シビック・プライド』、宣伝会議、2008 年		
教材（その他）	適宜、プリントや映像資料を活用する。		
評価方法	毎回の演習への出席とプロジェクトへの参加：60%、プロジェクトの成果物やレポート：40%		
到達目標	1）地域の人びとや学外の専門家・活動者と出会い、インタビューやさまざまな共同作業を通じて課題解決のプロジェクトを企画・立案したり、その運営や成果達成を自分たちの手で行えるようにする。 2）社会学やメディア論、地域づくり事例など必要な文献を読み、上記のプロジェクトへの参加を通じて、4 回生で執筆する卒業研究のテーマを各自が立てる。		
準備学習	地域づくりや特産物の開発、広報活動、ブランド開発などの実施事例について文献やホームページなどで積極的に情報収集しておくこと。		

受講者への要望

ゼミ生全員がプロジェクトに参加し、学内外での活動を行うため、授業の出席だけではなく、調査の設計や実施、施策や広報物づくりなど、わりあい多くの共同作業が発生する。ゼミ生とのコミュニケーションをいとわず、課外の時間もあてられる学生の受講を希望する。友人がこの演習を選ぶからではなく、テーマに対して自分自身の問題意識を持てる人に来てほしい。

講義の順序とポイント

第 01 回：オリエンテーション
第 02 回：プロジェクトの実施プランの検討（1）
第 03 回：プロジェクトの実施プランの検討（2）
第 04 回：学外連携先との調整
第 05 回：プロジェクトの実施（1）
第 06 回：プロジェクトの実施（2）
第 07 回：プロジェクトの実施（3）
第 08 回：経過報告と軌道修正
第 09 回：プロジェクトの実施（4）
第 10 回：プロジェクトの実施（5）
第 11 回：プロジェクトの実施（6）
第 12 回：卒業研究テーマの検討（1）
第 13 回：卒業研究テーマの検討（2）
第 14 回：卒業研究テーマの決定（3）
第 15 回：秋学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J82020233
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論をおこない、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に指示する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	平常点と、発表･レポートによる。		
到達目標	自らの研究テーマを見つける。		
準備学習	日頃から書物や新聞･テレビに接して、現代社会の諸側面に関心をもつようにする。		
受講者への要望			
積極的に参加してほしい。			
講義の順序とポイント			
1・2．高齢社会 3・4．情報化社会 5・6．国際化 7・8．近代社会 9・10．宗教と社会 11・12．文明と社会 13・14．レポートの書き方 15．レポートの発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020234
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	本ゼミのテーマは、「人口減少社会における経済政策―特に働き方改革を中心にして―」です. 我が国は、2011 年から人口が継続して減少する人口減少社会に突入し、人口構成が経済社会にプラスの影響をもたらす人口ボーナス期から、労働力人口の減少など人口構成が経済社会の発展の重荷になる人口オーナス期に移行しました。これとともに、私たちの暮らしを支えてきた制度や仕組みが機能不全に陥りつつあります。 そのような中、安倍内閣は「一億総活躍社会」の政策プランを掲げ、働き方改革に取り組み始めました。そこでは、非正規雇用者の待遇改善を目指した「同一労働・同一賃金」、正規雇用者の長時間残業の禁止を含む労働時間の見直し、子育て支援の拡充を通じての女性就業率の引き上げなどが当面の政策課題として取り上げられています。 これらは私たちの生活スタイルそのものの変更を迫ることにもなります。秋学期はワーク・ライフ・バランス先進国の多い欧州諸国の事例にも学びつつ、本当の意味での「一億総活躍社会」のあり方について理解を深めていきます。		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	リーディングリストの配付予定		
教材（その他）			
評価方法	授業内報告(30%)、授業参加度(30%)、およびレポート(40%)		
到達目標	関連テーマの現状と政策の展開について説明できる		
準備学習	新聞・雑誌記事・政府のホームページで政策的取組を確認すること		
受講者への要望			
知的好奇心を膨らませ、向上心を持って勉強すること			
講義の順序とポイント			
1　ワークライフバランスの基本文献の講読① 2　ワークライフバランスの基本文献の講読② 3　ワークライフバランスの基本文献の講読③ 4　ワークライフバランスの基本文献の講読④ 5　ワークライフバランスの基本文献の講読⑤ 6　ワークライフバランスの基本文献の講読⑥ 7　ワークライフバランスの基本文献の講読⑦ 8　ワークライフバランスの基本文献の講読⑧ 9　ワークライフバランスの基本文献の講読⑨ １０　ワークライフバランスの基本文献の講読⑩ １１　働きかｔ改革の論点整理① １２　働きかｔ改革の論点整理② １３　働きかｔ改革の論点整理③ １４　働きかｔ改革の論点整理④ １５　働きかｔ改革の論点整理⑤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J82020235
科目名	専門ゼミB 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	経営や産業に関連するテーマを中心に、学生自身がテーマや問題を設定し、それに関する資料を収集・整理し、レジュメを作成し（あるいはレポート・論文を作成し)、他のゼミ生の前で発表し、討論する。		
教材（テキスト）	用いません		
教材（参考文献）	その都度、指示します		
教材（その他）			
評価方法	ゼミでの発表　80% ゼミでの討論参加　20%		
到達目標	以下の、一連の流れができること 1. 自分で問題設定できること 2. 資料・文献を収集できること 3. 仮説や論説を作成できること 4. 人前で、自分の考えを発表できること 5. 討論において、論理的に説明できること		
準備学習	毎回のゼミの終了時に、次回のゼミの内容と予習すべきことがらを指示する。 なお、ふだんから、新聞・雑誌にも目を通し、TV なども見つつ、常に問題意識を持つようにすること。		
受講者への要望			
元気良く、積極的に討論に参加してください			
講義の順序とポイント			
01 ゼミの運営方法に関して 02　A 君の発表 03　B さんの発表 04　C 君の発表 05　D さんの発表 06　E 07　F 08　G 09　H 10　I 11　J 12　K 13　L 14　M 15　N			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J82020237
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
講義概要	本専門ゼミ（A~D）は会計学の視点から物事を考え、問題の発見、解決能力を身に付けることを目的としている。 まず、会計の教科書を輪読し、会計理論と実践の基礎を身に付け、論文の書き方についても習得する。 また、自らの興味ある社会現象について、調査研究を行い、会計学の視点から、問題を指摘し、解決策を試みる。 最後に、その成果として、報告書か、卒業論文を作成する。 そのうち、専門ゼミ B は会計基礎の勉強、論文作成方法の習得に加え、各自の関心ある社会現象や、会計問題について、調査研究を行う。		
教材（テキスト）	授業中に適宜指示する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	ゼミへの積極的参加（60%）、発表成果物（40%）		
到達目標	論理的思考力を高め、会計学の視点で物事を分析し、課題の発見・解決能力を養う。		
準備学習	※簿記等の会計関連の授業を事前に履修してください。 ※発表者のみならず、発表しない人も事前に該当箇所を予習し、議論の準備をしてください。		

受講者への要望

※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて課題の発見能力と解決能力を身に付けてください。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（本ゼミの概要を説明し、テキストの指示、ゼミの具体的な進め方、勉強方法等の説明）
2. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
3. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
4. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
5. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
6. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
7. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
8. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
9. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
10. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
11. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
12. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
13. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
14. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。
15. 会計の基礎教科書を輪読しながら、各自の関心あるテーマについて資料収集・発表を行い、ディスカッション。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020238
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	本演習では、企業の人材マネジメントに関する知識を身に着けるとともに、事例やデータを通して、人材マネジメントの実態に迫ることを主眼とする。事例分析やデータ収集に関する知識、プレゼンテーションに関するスキルも身に着ける。		
教材（テキスト）	なし（その都度配布する）		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、小課題の評価（20%）、発表及びレポート評価（30%）		
到達目標	人材マネジメントに関する知識を身に着けるとともに、その知識をもとに自身の視点から考えることを目指す。 事例分析やデータ読み取りに関する知識・スキルを身に着ける。		
準備学習	Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 「次回までに行うべきこと」が指示された場合は、しっかりと準備すること。課題は所定の期日までに提出すること。また、発表担当時は責任をもって発表を行うこと。		
受講者への要望			
ゼミに積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1.オリエンテーション：　本授業の説明（授業の目的・進め方） 2.グループ分け、グループ課題の設定 3.グループワーク①：事例収集・分析 4.グループワーク②：事例分析 5.グループワーク③：報告資料作成 6.グループワーク報告会（プレゼンテーション） 7.個別調査（個人もしくは少人数）①：問題意識の設定 8.個別調査（個人もしくは少人数）②：事例収集・分析 9.個別調査（個人もしくは少人数）③：報告、ディスカッション 10.個別調査（個人もしくは少人数）④：報告、ディスカッション 11.個別調査（個人もしくは少人数）⑤：報告、ディスカッション 12.個別調査（個人もしくは少人数）⑥：報告、ディスカッション 13.個別調査（個人もしくは少人数）⑥：報告、ディスカッション 14.個別調査報告のまとめ① 15.個別調査報告のまとめ②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J82020241
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
講義概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてる。社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習 II で卒業研究を行うことになる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。上級実験と併せてこれらの力を養うことを目標とします。		
準備学習	社会心理学 I・II、上級実験を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講者への要望			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
講義の順序とポイント			
1. ディスカッション１　各自の研究テーマについてディスカッション 2. ディスカッション２ 3. 文献探索方法　文献探索および文献データベースの作り方 4. 文献探索　1 5. 文献探索　2 6. 文献報告　1 7. 文献報告　2 8. 文献報告　3 9. 文献報告　4 10. 文献報告　5 11.　研究方法ディスカッション　1 12.　研究方法ディスカッション　2 13.　予備実験結果報告１ 14.　予備実験結果報告２ 15.　春休みの課題決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020242
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためにはよく勉強し、その学を一定以上身につけなければならない。この演習では、とくに発達臨床心理学領域における基本的知識を定着させることや、それらに関連する社会的に重要なテーマについて認識を拡げることを目指したい。前年度までは近隣の社会福祉施設等の見学実習を取り入れていたが、本年度からは行なわない。ただし、そのような活動を自ら希望する学生の相談にはのる。また、対人援助系のボランティア等の募集が当ゼミにはよく届けられる。そのような社会的活動の機会を自分のために積極的に活かす姿勢を鼓舞したい。なお、川畑が秋学期に担当する「心理アセスメント」を必ず登録、履修すること。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業で紹介する。		
教材（その他）	適宜、プリント等を配布する。		
評価方法	出席や受講態度などの平常点（５０％）、課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての評価が少しでも上がること。		
準備学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		
受講者への要望			
提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション、各自によるプレゼンテーションの計画 ２．発達臨床心理学全体の概観 ３．与えられた具体的テーマについてのプレゼンテーション①(3～4 名グループ、以下同様) ４．同② ５．同③ ６．同④ ７．同⑤ ８．同⑥ ９．同⑦ １０．同⑧ １１．同⑨ １２．同⑩ １３．同⑪ １４．同⑫ １５．プレゼンテーションされた内容についての復習 ※以上については、内容や順序の変更があり得る。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J82020243
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
講義概要	専門演習ⅡA・B における卒業研究を視野に入れ、自分の関心ある研究テーマを模索し、関連する研究の文献を探して、読みこなし、発表をする。発表の際には、討論を積極的に行い、幅広い専門的知識を身に付ける。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点:出席及び討論への参加状況など(50%) 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	各自関心ある研究テーマを絞る。 専門演習ＩＡでも挙げているが、文献を読みこなしその内容を、自分の言葉を用いて人に説明をする、 さらに自分の考えをまとめて発表したり、討論したりする能力を身につける。		
準備学習	研究発表の際には討論に参加できるように次回の発表の関連文献を読んで準備をしておくこと。		

受講者への要望

積極的に論文を読み、読書を進めること。
読書を重視するので、その自覚を持って登録すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション
2　文献を読む（心理臨床、物語、文学、神話、ユング心理学に関わるもの)。
3　文献を読む
4　文献発表・討論
5　文献発表・討論
6　描画法検討　バウムテスト及び風景構成法
7　言語連想検査
8　表現療法の理解を深める
9　表現療法の理解を深める
10　文献購読
11　文献購読
12　文献購読
13　箱庭検討会
14　研究発表
15　研究発表
具体的な運営方法については登録者の人数によっても異なるので、相談のうえ決定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J82020244
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	【講義の概要】 基礎的な文献を読み、発表する。発表者以外は、きちんとそれに対して意見が言えるように練習します。芸術療法、箱庭療法など、基礎文献のテーマによっては実習を取り入れます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的な参加、発表だけではなく、自分の考えを人にも伝えられること。		
到達目標	心理療法の様々な理論を学ぶ中で、疑問をもち、考え、自分について理解を深めること。		
準備学習	心理療法の基本的な文献など、自分で読むこと。		
受講者への要望			
ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。自分の感じたことを言葉にして、人に伝えようとする姿勢を求めます。			
講義の順序とポイント			
【講義の順序とポイント】 1、オリエンテーション ２、図書館で文献を探す練習 ３、基礎文献　箱庭療法 ４、箱庭実習 ５、基礎文献　風景構成法、バウムテスト ６、風景構成法、バウムテスト実習 ７、基礎文献　コラージュ ８、コラージュ実習 ９、基礎文献　心理療法 １０、心理療法ビデオ １１、基礎文献、言語連想 １２、言語連想分析、 １３、基礎文献　夢分析 １４、基礎文献　遊戯療法 １５、箱庭ビデオなど			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020245
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	１．臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになること。 ２．卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解すること。 　これらの課題を実行するために、ａ．臨床心理学の文献講読を実施し、論文を読みこなしてまとめ、発表すると共に、それに関連した研究を検索・発表する、ｂ．自分の関心あるテーマに関する成書・論文を手にいれて、その領域に関する先行研究を調査すると共に、どういったアプローチが必要かを理解する、といった内容を実施する。 　また心理面接実習との関連で、自発的な動きがあれば、グループ・ワーク的活動も実施する。		
教材（テキスト）	市橋秀雄　『心の地図　こころの障害を理解する　上・下』星和書店		
教材（参考文献）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の発表(50%)及びレポート(50%)を総合して評価する。		
到達目標	臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。		
準備学習	臨床心理学専門演習ＩＡの内容を、再度よく理解しておくこと。 各講義ごとに、次週のための課題を提示する。		
受講者への要望			
心理学基礎実験Ａ・Ｂ両方の単位及び臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。積極的な姿勢で努力すること。			
講義の順序とポイント			
1．春学期のまとめ 2～5.　　こころの地図　下巻講読・発表　人格障害 6～9.　　こころの地図　下巻講読・発表　躁うつ病 10～13.　こころの地図　下巻講読・発表　統合失調症 14．病院見学 15．総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020246
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
講義概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生秋学期では，受講生自らの興味をもとに，関連する研究文献を収集し，その購読と発表を行うことを中心とする。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業中に文献を紹介する		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	心理学論文の読み方を修得する。 文献検索等による文献の探し方を身につける。 批判的に考える習慣を身につける。 卒業研究に向けた方向付けを決定する。		
準備学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		
受講者への要望			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。 思考心理学上級実験を併せて履修すること。			
講義の順序とポイント			
1. 研究のためのスキルとは 2. 文献検索の方法 3. 学習・研究に役立つ種々のツール 4. 文献購読および発表 5. 文献購読および発表 6. 文献購読および発表 7. 文献購読および発表 8. 文献購読および発表 9. 文献購読および発表 10. 文献購読および発表 11. 文献購読および発表 12. 文献購読および発表 13. 卒業研究にむけた研究計画の検討 14. 卒業研究にむけた研究計画の検討 15. 3 回生での学習の整理と，卒業研究に向けた方針の確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020247
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	本演習では，「感情」と「制御」を主たるテーマとして，それらに対する実証的なアプローチに関する基礎的な知識の獲得を目指す。受講者は，感情あるいは制御に関する学術論文の中から，自らが興味深いと感じたものを選択し，それを精読したうえで，パワーポイントを用いて発表を行う。他の受講者は，発表内容に関するディスカッションペーパーを作成し，議論を行う。 3 回生の秋学期は，日本語で書かれた学術論文，あるいは英語の学術論文の中から，受講者自身が論文を選び，発表を行う。また，各発表の後にディスカッションを行い，受講者全員で発表内容についての理解を深める。さらに，演習後半では，自分自身の卒業研究の計画について発表を行う。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	関口貴裕・森田泰介・雨宮有里（編著）ふと浮かぶ記憶と思考の心理学：無意図的な心的活動の基礎と臨床 北大路書房 丹野義彦（2001）エビデンス臨床心理学 ―認知行動療法の最前線― 日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	演習発表（50%）と，議論への参加の程度・内容（50%）を評価する。		
到達目標	学術論文の内容を理解することができる。 読解した文献の内容をまとめ，発表することができる。 他者の発表を聴き，発表内容を理解し，疑問点について質問できる。		
準備学習	発表担当者は，自分の発表に向けて計画的に準備し，発表にのぞんでもらいたい。また，発表を聴く立場にある学生は，事前に資料を読み，発表内容についての疑問点をまとめておくこと。		

受講者への要望

「感情」と「制御」について，データに基づいた卒業研究（実験・調査）を行うことを目指す学生の受講を望む。また，全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することを前提とする。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。
演習では受講者に意見を求める機会を設ける。また，ディスカッションや発表を課す場合がある。各課題への積極的な参加を求める。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション 1 (授業概要の説明，発表担当回の決定)
2. 論文購読①
3. 論文購読②
4. 論文購読③
5. 論文購読④
6. 論文購読⑤
7. 論文購読⑥
8. 論文購読⑦
9. 論文購読⑧
10. 研究テーマ・研究計画について
11. 卒業研究の構想について①
12. 卒業研究の構想について②
13. 卒業研究の構想について③
14. 個別面談（研究テーマの詳細についての確認など）
15. 総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020301
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミA，Bで学んだことをさらに深く研究し、卒業研究としてまとめます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	受講姿勢やグループワークでの貢献度など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	自分で研究テーマをみつけることができる。 研究テーマに関する文献や関連資料を収集することができる。 研究成果を論文としてまとめることができる。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		

受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. 研究の進め方、論文のまとめ方について
3. 研究テーマ案の検討
4. 関連文献、資料の調査
5. 関連文献、資料の調査
6. 研究計画の作成
7. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
8. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
9. 研究テーマ、研究計画の決定
10. 研究論文作成
11. 研究論文作成
12. 研究論文作成
13. 途中経過発表、意見交換
14. 途中経過発表、意見交換
15. 研究論文作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J82020302
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	卒業研究指導		
教材（テキスト）	研究テーマに合わせて個別に指導します		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	中間報告(20%)、最終報告(20%)、最終レポート(60%)		
到達目標	問題意識を持って研究対象を見つめ、問題の所在を明らかにするとともに、体系的に説明できる能力を身につける		
準備学習	各自の研究テーマに沿った課題を与えるので、他の参加者にも理解してもらえるようなプレゼン資料の準備をしてくること。		
受講者への要望			
遅刻・欠席にあたっては事前に連絡すること。			
講義の順序とポイント			
1. 各自の今後の研究方向の決定 2. 卒業研究の書き方の指導(1) 3. 卒業研究の書き方の指導(2) 4. 卒業研究の書き方の指導(3) 5. 関連書籍･データの収集(1) 6. 関連書籍･データの収集(2) 7. 関連書籍・データの収集(3) 8. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1) 9. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2) 10. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3) 11. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4) 12. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5) 13. 中間報告(1) 14. 中間報告(2) 15. 中間報告(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020303
科目名	専門ゼミ C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。(但し、予告なしにアドレスが変更されることがある。) その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ。 ノート PC または Windows タブレット+キーボード。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 40%、演習課題及びレポート 60%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。そして各自のテーマを選択し、卒業論文作成に向けた知の充実を図る。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 500 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		
受講者への要望			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
新しい IT 技術の経営分野への適用可能性について、調査、比較、検証し、個人研究による卒業論文にまとめていく形態の指導を行っていく。 1.今後、重要になってくる新たな情報システム、新たな情報管理の手法を実験的に構築する。 2.実験構築した内容の評価を行う。 1　はじめに 2～3　経営学の基礎・応用知識の復習 4～5　テーマの設定 6　中間報告 7～14　資料収集、システム構築、レジュメの作成、報告、検証、討論を重ねる 15　学期末発表会 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020304
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A・B で学んだことをもとに、論文のテーマを決めます。各自の設定したテーマごとにレジュメの作成、報告というかたちですすめ、卒業論文の作成につなげていきます。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	各自の研究テーマに合わせて適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリント等の資料を配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（３０％）。授業中に課すレポート（７０％）。		
到達目標	論文を作成するための知識（テーマ設定、情報収集・整理、構成力、文章力等）の習得を目標とします。 経営学の応用的な知識を理解することを目標とします。		
準備学習	講義修了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で論文作成をするよう心がけてください。

講義の順序とポイント

1　春学期オリエンテーション
2　経営学の知識の復習①
3　経営学の知識の復習②
4　経営学の知識の復習③
5　論文テーマの設定①
6　論文テーマの設定②
7　論文テーマの設定③
8　資料収集①
9　資料収集②
10　論文構成の作成①
11　論文構成の作成②
12　論文構成の作成③
13　論文構成の発表①
14　論文構成の発表②
15　専門ゼミ C を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020305
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIIにおいては、研究ゼミナールⅠで選んだ課題について、研究報告を積み重ね、卒　業論文にまで研究を深めてもらう。		
教材（テキスト）	全員に統一したテキストはない。		
教材（参考文献）	各自の研究テーマに必要な参考文献については個々に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	卒業レポート（100％）		
到達目標	卒業研究（論文）を完成する。 歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
準備学習	各自の卒業研究の完成に向かって全力を注いでもらいたい。具体的には、各自各回報告のために準備し、報告時に合わせてレジュメ又はパワーポイントを作成すること。		
受講者への要望			
出席は義務である。ただ出席するだけではなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
春学期： 1～4.ゼミナールⅠ終了論文の確認と今後の研究方向、 5～9.第一回研究報告、 10～14.第二回研究報告、 15.夏季休業中の研究に関する指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020306
科目名	専門ゼミ C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A B で学んだこと、感じた問題意識を基に、卒業研究のテーマを見つける。 テーマに関する情報収集や整理、分析を通じ、問題意識を明確化するとともに、論文としてまとめる構成力・文章力も育成する。また、ゼミ内で、お互いのテーマや進捗状況だけでなく、卒業後に進む企業についての情報交換等も行い、理解を深める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	テーマに応じて適宜提供する。		
評価方法	授業内発表（50%）、レポート等提出物（50%）		
到達目標	経営学部生として学んだ 4 年間のまとめとして、自らテーマを定めて情報収集や分析を行い、研究成果としてまとめる力を獲得する。		
準備学習	専門ゼミ AB を通じて設定したテーマについて、卒業研究としてまとめられるよう資料収集と整理を行い、毎月第 1 週の授業時に提出すること。		

受講者への要望

大学で学んだことの集大成としての卒業研究に取り組むことは、社会人になってからのキャリアに向けての自分自身への大きなプレゼント。就職活動と並行しながら積極的にチャレンジすること。

講義の順序とポイント

1.　ゼミの目的と方法
2.　論文の書き方①
3.　〃　　②
4.　研究テーマの見つけ方
5.　テーマの洗い出し
6.　テーマ周辺情報収集
7.　〃
8.　関連書籍・データの収集
9.　〃
10. 整理・分析
11.　〃
12. テーマの決定
13.　〃
14. 意見交換会
15. 報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★★	★	★	★

年度	2017	授業コード	J82020307
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミＣ では、ゼミ生の興味を主体にスポーツだけでなく、あらゆるビジネスを研究対象に、文献やインターネットからの情報などの研究成果を学び、学生自身が課題を見つけることを出発とします。 　本ゼミは担当者の専門とするスポーツビジネス研究というテーマだけでなく、多様なビジネスを対象として調査研究・実践を行います。企業が果たす社会的使命とは何か?何が必要なのか？新しい公共の理念に沿った企業の発展に何が大切なのか。そんなことも大きな研究テーマのひとつです。特に将来、経営を専門に学んで世に出て行く皆さん、企業の仕組みを学びつつ、担当者の専門とするスポーツに親しみながら「スポーツの未来」を考える時間を学生の時期に作ってほしいと願っています。最終的には卒業研究や卒業レポートを完成するための学びとなります。		
教材（テキスト）	スポーツビジネス最強の教科書（平田竹男著、東洋経済新報社）		
教材（参考文献）	スポーツビジネスの最前線（平田竹男・中村好男編著、講談社）		
教材（その他）	必要に応じて指示する。		
評価方法	レポート(50%)。発表とゼミナールへの積極的関与(50%)。		
到達目標	1. 経営学の基礎的な知識の習得に努める。 2. スポーツ・その他のビジネスの文献を検索し、内容を要約できる。 3. ２つの文献から、ビジネスの課題を把握し、自らのテーマとすることができる。 4. みんなの前で、プレゼンテーションができる。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、配布用のレジュメを準備する。 3. わからない専門用語は前もって調べておく。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
1. ゼミには積極的に参加する。 2. 遅刻や無断欠席をしない。 3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。			
講義の順序とポイント			
１．春学期オリエンテーション、スポーツビジネスの世界 ２．日本のスポーツビジネスの現状を発表しよう(各自の個人テーマの決定) ３．アメリカの４大スポーツリーグの現状を発表しよう（文献のレビュー） ４．欧米のリーグ構造と特徴について知ろう(ロードマップ作成) ５．欧米のプロスポーツクラブについて知ろう(序論作成) ６．プロ野球の球団比較(目次の作成) ７．Ｊリーグの理念と１００年構想 ８．Ｊリーグのチーム比較をしよう ９．ｂｊリーグについて調べよう １０.卒業研究について １１.各自のテーマ・内容発表 １２.各自のテーマ・内容発表 １３.文献のレビュー １４.文献のレビュー １５.文献のレビュー			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020308
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	あなたが大学卒業後に進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（参考文献）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（その他）	なし。プリントを適時配布する。		
評価方法	研究論文の内容(70%）および受講・発表・取組姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。		
準備学習	＊研究論文のテーマに即した文献を適時指示するので、それを指定された日までに要約して文書化し、提出すること。 ＊研究論文のテーマを指定された日までに提出すること。 ＊研究論文の修正箇所を指定された日までに修正すること。 ＊研究論文を指定された日までに提出すること。		
受講者への要望			
経営組織論、あるいは人的資源管理論の単位を取得している方が望ましい。 研究論文の作成に意欲ある人を望む。			
講義の順序とポイント			
1.パソコンの起動、メールの設定、ゼミの進行に関して 2.エントリーシートの書き方について① 3.エントリーシートの書き方について② 4.研究論文のテーマ発表① 5.研究論文のテーマ発表② 6.研究論文のテーマ発表③ 7.SPI、時事問題① 8.SPI、時事問題② 9.就職活動の近況報告と未内定者との面談 10.研究論文の書き方について① 11.研究論文の書き方について② 12.研究論文の書き方について③ 13.研究論文の途中経過（章立て発表）① 14.研究論文の途中経過（章立て発表）② 15.就職活動の近況報告と未内定者との面談			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★

年度	2017	授業コード	J82020309
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミＣでは、スポーツ経営を題材としたテーマによる研究を「テーマ決定」、「情報収集」、「レポート作成」、「発表」という段階で進めて行く。研究を進めるなかで、経営学を学ぶと共に論文作成に取り組む。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講態度など）５０％　レポート２５％　　発表２５％により評価する。		
到達目標	研究テーマについての情報収集能力を高め、研究成果を他者に伝えるための構成・文章力を身に付け、論文を作成することができる。		
準備学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、気になる情報はPC・携帯・情報誌などを利用し、調べる癖を付け、調べた内容をノートなどに残す。		
受講者への要望			
常日頃から、経営やスポーツの情報にアンテナを張り、気になる情報を収集して下さい。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．レポートの書き方の復習 ３．レポートの書き方の復習 ４．研究テーマの決定 ５．研究テーマの決定 ６．研究テーマの情報収集 ７．研究テーマの情報収集 ８．研究テーマの情報収集 ９．研究レポート作成 １０．研究レポート作成 １１．研究レポート作成 １２．研究レポート作成 １３．研究発表 １４．研究発表 １５．授業内容の振り返り（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020311
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミD（秋学期）で卒論を書くためには、書物をじっくり読む読解力が必要となる。専門ゼミCでは、最近出版された書物をとりあげ、「本の読み方」のノウハウを指導する。授業の進め方としては、共通のテキストを選んで、それをゼミで輪読し、ポイントとなる問題について議論しながら読解力、理解力、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	必要に応じて、適宜プリントや資料を配布する。		
評価方法	平常点（５０％）受講態度等＋レポート（５０％）		
到達目標	卒業論文を書くためには、専門書を読む作業が欠かせない。共通のテキストを輪読することによって、専門書を正確に読み、その内容を正しく理解するための読解力を鍛錬することが、この授業の到達目標である。		
準備学習	テキストを指定されたところまで事前に読んでくること。読めない漢字や、意味の分からない専門用語については、辞典やインターネット検索等によって、かならず調べるという習慣を身につけること。		

受講者への要望

就活等でどうしても授業に出席できない事情がある場合を除き、無断でゼミを休まないこと。やむを得ず欠席しなければならない場合は、事前にメールで連絡するなど、担当教員とのコンタクトをつねに密にすることを望む。

講義の順序とポイント

１．ゼミ７のガイダンス
２．読書の仕方：専門書の読み方
３．輪読(1)
４．輪読(2)
５．輪読(3)
６．討論会(1)
７．輪読(4)
８．輪読(5)
９．輪読(6)
１０．討論会(2)
１１．輪読(7)
１２．輪読(8)
１３．輪読(9)
１４．討論会(3)
１５．卒論の準備について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020312
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	雇用形態の面から日本企業と外国の企業を比較して見ます。例えば、インターンシップという言葉は同じでも、その実質的な内容は日本と欧米でかなり異なるようです。また日本企業は様々な批判を浴びながらも新卒一括採用といった欧米には見られない慣行を捨てようとはしませんが、その理由について考察します。就職活動に取り組んでいる皆さんの体験も交えて、いろいろな角度から考えてみたいと思います。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配布します。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	雇用形態について日本と諸外国の間に存在する相違を理解する。		
準備学習	企業がどのようにし社員を採用しているのか、その実態を就職活動をする中で観察してほしい。		

受講者への要望

授業時に配布する資料をしっかり読み込んでほしい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　日本型雇用①終身雇用
3　日本型雇用②年功序列賃金
4　日本型雇用③新卒一括採用
5　日本型雇用④企業別組合
6　欧米の雇用形態との比較
7　成長している会社①日本電産
8　成長している会社②ニトリ
9　成長している会社③マツダ
10　成長している会社④富士フィルム
11　不振に陥った会社①シャープ
12　不振に陥った会社②三菱自動車
13　不振に陥った会社③
14　不振に陥った会社④
15　不振に陥った会社⑤

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020313
科目名	専門ゼミ C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	マクロマネー系の特性を調べる。マネーを precautionary demand や transaction demand に分解して、中央銀行の金融政策がどの程度、有効に働くかを考える。特に、金融緩和期において、量的な金融緩和の効果があったかどうかを、日本、アメリカ、ヨーロッパの各ケースごとに調べる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（毎回の授業の取り組み姿勢）100％		
到達目標	（1）時系列データの統計処理を行う。 （2）各種の推定や検定の計算手法を身に着ける。 （3）卒業論文の骨格を作る。		
準備学習	3 回生時の金融システムの理解		
受講者への要望			
出席すること			
講義の順序とポイント			
1.インフレ時のマネー変動 2.同上 3.同上 4.同上 5.デフレ時のマネー変動 6.同上 7.同上 8.同上 9.マネー、GDP、金利、準備金（中央銀行）の関係 10.同上 11.同上 12.同上 13.流動性の罠の検証 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020314
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	現代日本の社会経済問題の内容と背景を理解し、それへの政策対応の効果について研究する。		
教材（テキスト）	総務省統計局『日本の統計 2017』　（財）日本統計協会		
教材（参考文献）	適宜、案内・配布する。		
教材（その他）	適宜、案内・配布する。		
評価方法	授業内発表＋レポート 50%　期末課題 50%		
到達目標	（1）卒業論文作成に向けてテーマ選択の準備となるよう、現代日本の社会経済問題について一定範囲の理解に到達する。 （2） 現代日本の社会経済問題を分析対象として取り上げ、分析の視点および方法を中心に学ぶ、分析の基本技術を身に付ける。		
準備学習	（1）日頃から新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に目を通す。 （2）重要な記事は、研究資料として印刷・保管し収集・蓄積を進める。		
受講者への要望			
（1）「大学で何を学んだことは何か」と問われて、テーマと同時にその内容について一定の説明ができる程度まで勉強してほしい。 （2）「知識・理解」と同時に、説明力を磨くことを意識して取り組んでほしい。 （3）あらゆるテーマを将来の希望進路・業界に関連付けて考える習慣を身に付けてほしい。			
講義の順序とポイント			
第１回：資料配布と担当テーマの決定 第２回・第３回：関連資料の収集と論文作成の基本原則 第４回－第１３回：研究の中間報告 第１４回－第１５回：卒論のテーマ選択の準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J82020316
科目名	専門ゼミ C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ C と D では、専門ゼミ A と B で学んだ基礎をもとに、各自で卒業論文を執筆することが主要課題となります。また、観光航空プログラムの後輩の指導も重要な task となります。		
教材（テキスト）	専門ゼミ A に同じ。		
教材（参考文献）	専門ゼミ A に同じ。		
教材（その他）	専門ゼミ A に同じ。		
評価方法	後輩に対する指導力（100%)、授業における発表(100％)、発言、運営への積極的な貢献の程度(100%)によって評価します。		
到達目標	自分で課題を設定できる人間となること。後輩の課題設定に助言できるようになること。		
準備学習	専門ゼミ A に同じ。		

受講者への要望

専門ゼミ A に同じ。最後の 1 年、がんばろう。

講義の順序とポイント

1．卒業論文のテーマ検討
2．卒業論文のテーマ検討
3．卒業論文第 1 回発表（30 分 x 2 人）
4．卒業論文第 1 回発表
5．見学会の準備
6．卒業論文第 1 回発表
7．卒業論文第 1 回発表
8．セミナーの準備
9．卒業論文第 2 回発表
10．卒業論文第 2 回発表
11．卒業論文第 2 回発表
12．卒業論文第 2 回発表
13．セミナーの準備
14．３回生論文指導
15．３回生論文指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020317
科目名	専門ゼミ C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	各自テーマを設定し、卒業論文に向けての準備学習を行う。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。授業構成は、「卒論に向けての研究計画作成」「関連資料の収集」「卒論作成に向けての中間報告」の期間に大別できます。「研究計画作成」では、① 研究テーマ、② 研究目的、③ 研究方法、④ 卒論執筆のスケジュール、⑤ 参考文献のリストを研究計画書に記載して報告してもらいます。また、「中間報告」では、各自の論文の進行状況を報告してもらいます。報告者以外の者は、ただ報告を聞くだけでなく、報告者の報告に疑問があれば質問をしてください。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）	専門ゼミ B のときに作成した論文 スタートアップゼミのときに配布したテキスト『アカデミック・ライティング』		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	卒業論文作成に向けて、十分な知識を得ること。		
準備学習	各自のテーマに応じた資料等を事前に読み、ゼミ時に発表・報告をしっかりできるようにしておくこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、文章作成の参考にすること。		

受講者への要望

就活等でどうしてもゼミを休まないといけない場合があるだろう。そのような時以外は、無断欠席を禁止する。
休む場合は、事前に担当教員に連絡を入れること。また、逐次、就活の状況を担当教員に報告すること。

大学生活の最大の課題は、卒論と就活です。わずか 1 年間で卒論を作成し、就職先も決定しなければなりません。
このため、余裕のあるスケジュールを組んで、就活と卒論の両立を図ってください。社会に出れば、プロジェクトの同時進行は当たり前ですからね。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスおよび各自の選択した研究テーマについての報告
2. 卒論に向けての研究計画作成①
3. 卒論に向けての研究計画作成②
4. 関連資料の収集①
5. 関連資料の収集②
6. 関連資料の収集③
7. 卒論作成に向けての中間報告①
8. 卒論作成に向けての中間報告②
9. 卒論作成に向けての中間報告③
10. 卒論作成に向けての中間報告④
11. 卒論作成に向けての中間報告⑤
12. 卒論作成に向けての中間報告⑥
13. 卒論作成に向けての中間報告⑦
14. 卒論作成に向けての中間報告⑧
15. 卒論の素案提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020401
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミCに引き続き、卒業研究をまとめます。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	適宜プリントを配付します。		
評価方法	受講姿勢やグループワークでの貢献度など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	自分で研究テーマをみつけることができる。 研究テーマに関する文献や関連資料を収集することができる。 研究成果を論文としてまとめることができる。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと。		

受講者への要望

資料調査、分析、グループディスカッション、パソコンでのプレゼンテーション資料作成、発表など、実習が中心となりますので、積極的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1. 研究論文作成
2. 研究論文作成
3. 途中経過発表、意見交換
4. 途中経過発表、意見交換
5. 研究論文作成
6. 研究論文作成
7. 研究論文作成
8. 途中経過発表、意見交換
9. 途中経過発表、意見交換
10. 研究論文作成
11. 研究論文作成
12. 研究論文作成
13. 研究発表
14. 研究発表
15. 研究発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J82020402
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	卒業研究指導		
教材（テキスト）	研究テーマに合わせて個別に指導します		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	中間報告(20%)、最終報告(20%)、最終レポート(60%)		
到達目標	問題意識を持って研究対象を見つめ、問題の所在を明らかにするとともに、体系的に説明できる能力を身につける		
準備学習	各自の研究テーマに沿った課題を与えるので、他の参加者にも理解してもらえるようなプレゼン資料の準備をしてくること。		

受講者への要望

遅刻・欠席にあたっては事前に連絡すること。

講義の順序とポイント

1. 卒業研究の方向性の確認(1)
2. 卒業研究の方向性の確認(2)
3. 卒業研究の方向性の確認(3)
4. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1)
5. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2)
6. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3)
7. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4)
8. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5)
9. 論文形式の再確認
10. 受講生ごとの問題点とその確認(1)
11. 受講生ごとの問題点とその確認(2)
12. 受講生ごとの問題点とその確認(3)
13. 受講生ごとの問題点とその確認(4)
14. 最終報告(1)
15. 最終報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020403
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。(但し、予告なしにアドレスが変更されることがある。) その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（テキスト）	適宜指示する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	8GB 以上の USB メモリ。 ノート PC または Windows タブレット+キーボード。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 40%、演習課題及びレポート 60%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。そして各自のテーマを選択し、卒業論文作成に向けた知の充実を図る。		
準備学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 500 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。		
受講者への要望			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
講義の順序とポイント			
新しい IT 技術の経営分野への適用可能性について、調査、比較、検証し、個人研究による卒業論文にまとめていく形態の指導を行っていく。 1.今後、重要になってくる新たな情報システム、新たな情報管理の手法を実験的に構築する。 2.実験構築した内容の評価を行う。 1　　はじめに、セキュリティアップデート 2　　春学期の復習 3～5　論文の書き方 6～12　卒業論文(卒業制作)の作成 13-14　論文発表 15　　学年末発表会 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J82020404
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A・B で学んだことをもとに、論文のテーマを決めます。各自の設定したテーマごとにレジュメの作成、報告というかたちですすめ、卒業論文の作成につなげていきます。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	各自の研究テーマに合わせて適宜指示します。		
教材（その他）	適宜プリント等の資料を配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（３０％）。授業中に課すレポート（７０％）。		
到達目標	論文を作成するための知識（テーマ設定、情報収集・整理、構成力、文章力等）の習得を目標とします。 経営学の応用的な知識を理解することを目標とします。		
準備学習	講義修了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおいてください。		

受講者への要望

能動的な姿勢で論文作成をするよう心がけてください。

講義の順序とポイント

1　秋学期オリエンテーション
2　論文の書き方①
3　論文の書き方②
4　中間報告に向けた準備①（資料収集、論文の作成）
5　中間報告に向けた準備②（資料収集、論文の作成）
6　中間報告に向けた準備③（論文の作成）
7　中間報告に向けた準備④（論文の作成）
8　中間報告①
9　中間報告②
10　論文の作成①
11　論文の作成②
12　論文の作成③
13　論文の作成④
14　最終報告
15　専門ゼミ D を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J82020405
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	研究ゼミナールIIにおいては、研究ゼミナールⅠで選んだ課題について、研究報告を積み重ね、卒 業論文にまで研究を深めてもらう。		
教材（テキスト）	全員に統一したテキストはない。		
教材（参考文献）	各自の研究テーマに必要な参考文献については個々に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	卒業レポート（100％）		
到達目標	卒業研究（論文）を完成する。 歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
準備学習	各自の卒業研究の完成に向かって全力を注いでもらいたい。具体的には、各自各回報告のために準備し、報告時に合わせてレジュメ又はパワーポイントを作成すること。		
受講者への要望			
出席は義務である。ただ出席するだけではなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
秋学期： 1～5.夏季休業中の研究報告、 6～10.卒業論文の構想検討、 11～15.論文の最終検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020406
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	卒業研究のテーマに沿って収集した情報を整理し、分析・考察を基に問題意識を明確化するとともに、論文としてまとめる。また、ゼミ内で、お互いのテーマや進捗状況についての報告を通じて、4 年間の集大成となるよう、作業を進める。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	テーマに応じて適宜提供する。		
評価方法	授業内発表（50%）、レポート等提出物（50%）		
到達目標	経営学部生として学んだ 4 年間のまとめとして、自らテーマを定めて情報収集や分析を行い、研究成果としてまとめる力を獲得する。		
準備学習	専門ゼミ ABC を通じて設定したテーマについて、卒業研究としてまとめられるよう資料収集と整理を行い、毎月第 1 週の授業時に提出すること。		

受講者への要望

大学で学んだことの集大成としての卒業研究に取り組むことは、社会人になってからのキャリアに向けての自分自身への大きなプレゼント。就職活動と並行しながら積極的にチャレンジすること。

講義の順序とポイント

1. 構成
2. 補足情報収集
3. 卒業研究作成
4. 〃
5. 〃
6. 〃
7. 中間報告会
8. 卒業研究作成
9. 〃
10. 〃
11. 手直し作業
12. 手直し作業
13. 提出
14. 論集用原稿手直し
15. 〃

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★★	★	★	★

年度	2017	授業コード	J82020407
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミCで学んだことを基盤に、各自が自分のテーマにそって論文をまとめていこう。 スポーツの世界で、今何が課題となっているのだろうか?人間はスポーツという知識を全て情報としてストックできているのであろうか? さて、君はスポーツをどの程度理解しているのだろうか?学問とは、いつでも、わからないことからスタートし、わかろうとして、知識を追求し、さまざまな感覚と、人々の行動から多くを学んでいくものだ。 学び、明らかにされたことだけが知識なのだろうか？学校で学んだことだけが知識なのだろうか?メディアに取り上げられながら、スポーツのルールは日々変化していく、新しい戦略や技術がこれからも必要である。ひとは 24 時間学び続けているのではないだろうか? 41 年前の 1970 年 4 月 11 日、13 時 13 分に打ち上げられたアポロ 13 号は、地球から 33 万 km 離れた宇宙で発生した爆発事故により、搭載していた 酸素ボンベ、電力供給ライン、燃料電池を失った。当時、有人宇宙飛行史上最大といわれたこの事故において、アポロ 13 号のクルーとミッション管制センターは、 現状把握のための情報の収集・分析、課題解決策の立案・開発、意思決定を繰り返し、奇跡の生還を成し遂げた。このように情報は人の意思決定や行動に不可欠 であり、またそれらに大きな影響を与える。4 年間の最後に、学ぶとは何かを考え、よりよき人生に繋げていこう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	毎回のレポート(50%)。 毎回の発表とゼミナールへの積極的関与(50%)。		
到達目標	1. 各自が目標とする課題の解決に努める。 2. 計画的に課題をこなし、目標を達成できるように努力する。 3. 毎回、自らのテーマとすることが達成できるようにする。 4. プレゼンテーションの質を高め、人の心を動かす発表ができるようにする。		
準備学習	1. ゼミの時間に与えられた課題を次回のゼミまでに完成して発表できるようにする。 2. 報告する前に、準備を怠らないようにする。 3. わからない専門用語は前もって調べ、質問に答えられるようにしておく。		

受講者への要望

1. ゼミには積極的に参加する。
2. 遅刻や無断欠席をしない。
3. 自分でも進んで興味のあることを見つける努力をし、それに関する文献などを集める。

講義の順序とポイント

専門ゼミCでは主として学生の報告やディスカッションで進めていくという参加型の授業をします。そこでは事前学習、報告書の作成という積極的なアクションが実行されないと授業は成立しません。今までのように講義を聞き、ノートを取るという受け身の姿勢ではなく、ゼミ生全員の積極的な態度が必要です。ゼミの時間を有意義にするのはあなた自身であるということで、他に責任転嫁をしないで取り組んでください。次回からはみなさんが主役です。

1.秋学期オリエンテーション
2.卒業研究中間発表
3.卒業研究
4.卒業研究
5.卒業研究
6.卒業研究
7.卒業研究
8.卒業研究
9.卒業研究提出
10.卒業研究手直し
11.卒業研究手直し
12.卒業研究発表資料作成

13.卒業研究発表資料作成 14.卒業研究発表会 15.振り返りと仕事研究

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020408
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	あなたが大学卒業後に進みたい業界あるいは企業を中心にして、その業界や企業が抱えている問題を発見し、そしてその問題が生ずる理由を明らかにしていただく。問題が無い産業や企業は皆無である。特定の問題とその生起の理由に関してレジュメ作成・発表し、最終的には論文に仕立ててもらう。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	研究論文の内容(70%）および受講・発表・取組姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。		
準備学習	＊研究論文のテーマに即した文献を適時指示するので、それを指定された日までに要約して文書化し、提出すること。 ＊研究論文のテーマを指定された日までに提出すること。 ＊研究論文の修正箇所を指定された日までに修正すること。 ＊研究論文を指定された日までに提出すること。		
受講者への要望			
経営組織論、あるいは人的資源管理論の単位を取得している方が望ましい。 研究論文の作成に意欲ある人を望む。			
講義の順序とポイント			
1.研究論文の中間発表① 2.研究論文の中間発表② 3.研究論文の中間発表③ 4.就職活動の近況報告と未内定者との面談 5.研究論文の提出と発表①・・・内容と書き方のチェック 6.研究論文の提出と発表②・・・内容と書き方のチェック 7.研究論文の提出と発表③・・・内容と書き方のチェック 8.研究論文の提出と発表④・・・内容と書き方のチェック 9.研究論文の提出と発表⑤・・・内容と書き方のチェック 10.研究論文の修正①、就職活動の近況報告と未内定者との面談 11.研究論文の修正②、就職活動の近況報告と未内定者との面談 12.研究論文の修正③、就職活動の近況報告と未内定者との面談 13.研究論文の修正④、就職活動の近況報告と未内定者との面談 14.研究論文の修正⑤、就職活動の近況報告と未内定者との面談 15.未内定者との面談			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★

年度	2017	授業コード	J82020409
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ D では、専門ゼミ C で学んだ知識を活かし、スポーツ経営を題材としたテーマによる研を「テーマ決定」、「情報収集」、「レポート作成」、「発表」という段階で進めて行く。研究を進めるなかで、経営学を学ぶと共に論文作成に取り組む。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（受講態度など）５０％　レポート２５％　　発表２５％により評価する。		
到達目標	研究テーマについての情報収集能力を高め、研究成果を他者に伝えるための構成・文章力を身に付け、論文を作成することができる。		
準備学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、気になる情報はPC・携帯・情報誌などを利用し、調べる癖を付け、調べた内容をノートなどに残す。		
受講者への要望			
常日頃から、経営やスポーツの情報にアンテナを張り、気になる情報を収集して下さい。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 2.前期研究発表の分析 3. 前期研究発表の分析 4. 研究事例の考察 5. 研究事例の考察・後期論文テーマの決定 6. 後期論文テーマの決定 7. 論文の情報収集 8. 論文の情報収集 9. 論文の情報収集 10. 論文作成 11. 論文作成 12. 論文作成 13. 論文発表 14. 論文発表 15 授業内容の振り返り（ディスカッション方式）オリエンテーション			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020411
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミDでは卒論指導をおこなう。卒論の書き方から、卒論の完成までを、その基礎から徹底指導する。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０%）受講態度等＋卒論の提出（６０%）		
到達目標	自分が関心を持つテーマについて、卒業論文を作成することが最終目標となる。この目的を達するためには、まず自分の研究テーマに関連する基本文献や資料を収集し、それらを批判的に分析する作業が、第１段階として必要である。第２段階は、論文の作成であるが、このときのポイントは、とりあげる過去の研究の論点を整理した上で、自分の主張を明確に示すこと、そしてその主張を自分の言葉と表現で文章化することである。		
準備学習	卒論作成の第１段階は、論文の構想と、文献資料の収集および分析の作業であるが、これらの第１段階の作業におよそ３ヶ月程度は必要である。また文章化をおこなう第２段階についても、追加資料の収集や分析が必ず必要となるので、最低３ヶ月程度の時間的余裕を見ておかなければならない。　したがって、卒論作成の作業については、できるだけ早期に着手することが望ましい。		

受講者への要望

卒論のテーマについては、過去のゼミ研究で取り上げたテーマから選ぶことが望ましい。また、日ごろからできるだけ多くの書物を読むように心がけてもらいたい。卒論であれ、レポートであれ、ポイントとなるのは文章表現力だからである。

講義の順序とポイント

１．　ゼミ８（卒論）のシラバス説明
２．　卒論の書き方(1)
３．　卒論の書き方(2)
４．　卒論の書き方(3)
５．　概要報告(1)
６．　概要報告(2)
７．　概要報告(3)
８．　概要報告(4)
９．　中間報告(1)
１０．　中間報告(2)
１１．　中間報告(3)
１２．　中間報告(4)
１３．　卒論最終チェック(1)
１４．　卒論最終チェック(2)
１５．　卒論最終チェック(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020412
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	ゼミの集大成として卒業論文を作成することが、このゼミの目的です。		
教材（テキスト）	授業時にプリントを配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	卒業論文の経過報告（50%）、卒業論文（50%）		
到達目標	卒業論文を完成させる。		
準備学習	太秦図書室には経済関係の雑誌が数種類あるので、事前に目を通し、卒業論文のテーマ選びに役立ててほしい。		

受講者への要望

卒業論文には着想や論理の展開が優れていることはもちろん、日本語としてきちんとした文章で書いてあることが求められるので、原稿を何度も推敲してほしい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス
2　卒業論文のテーマ設定
3　資料の蒐集と卒業論文の執筆
4　資料の蒐集と卒業論文の執筆
5　資料の蒐集と卒業論文の執筆
6　資料の蒐集と卒業論文の執筆
7　資料の蒐集と卒業論文の執筆
8　資料の蒐集と卒業論文の執筆
9　資料の蒐集と卒業論文の執筆
10　資料の蒐集と卒業論文の執筆
11　資料の蒐集と卒業論文の執筆
12　資料の蒐集と卒業論文の執筆
13　卒業論文の発表
14　卒業論文の発表
15　卒業論文の発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J82020413
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	デフレ時、インフレ時におけるマクロマネー系の特性を調べる。量的金融緩和は 2001 年から 2006 年の日本の量的金融緩和を最初として、その後、リーマンショックによる金融不安を契機に、USA、EU が大々的に量的緩和を行い、2012 年末より、日本もアベノミクスという名前の量的質的金融緩和を実行している。USA では金融緩和を終了した。EU と日本ではいまだに継続中である。各々の金融緩和の効果を検証する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（毎回の授業の取り組み姿勢）30%と卒業論文の出来具合 70%		
到達目標	卒業論文の完成		
準備学習	金融システムの理解		
受講者への要望			
出席して卒業論文を完成させる。			
講義の順序とポイント			
1.日本、アメリカ、ヨーロッパ各地域の特性研究 2.インフレ時のモデル 3.モデル推計 4.インパルス応答 5.共和分検証 6.デフレ時のモデル 7.モデル推計 8.準備金の特性検証 9.インパルス応答 10.全期間を通したモデル 11.モデル推計 12.インパルス応答 13.共和分検証 14.各地域の特徴と相違点 15.卒論発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020414
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	２回の中間報告を経て、卒業論文の完成を目指す。 卒業論文作成の大まかな手順は、（１）テーマ設定、（２）テーマの現状と背景に関する基本理解、（３）テーマに関する資料の収集と読み込み、（４）資料の系統立てた整理、（５）卒業論文の章立て、（６）卒業論文の執筆、（７）卒業論文の完成　である。これに沿った取り組みを指導していく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて、適宜、案内する。		
教材（その他）	各自のテーマに応じて、適宜、配布する。		
評価方法	中間報告 40%　　卒業論文 60%		
到達目標	卒業論文の完成		
準備学習	（１）資料収集と系統立てた資料の整理、およびそれらの読み込みを行う。 （２）各段階で、指定された期日までに、報告資料と原稿の両方を作成する。		

受講者への要望

論文作成にはテーマの選択･設定だけでも、その予備段階で情報・資料の収集と整理が必要となる。また、「調べる、理解する、分析・批判する、書く、発表する」という一連の論文作成作業は、今後の社会生活等において役立つ重要な「技術」である。また、卒業論文作成のための一連の段階的な作業を通じて、大学生活の集大成としての卒論を完成させることはもちろん、情報を集め理解・整理し利用するための技能を更に高めることに意識的に取り組んで欲しい。

講義の順序とポイント

第１回：卒業論文の作成方法について
第２回：テーマ選択１：関心領域の絞込みと資料収集
第３・４回：テーマ選択２：分析視点の絞込みと資料収集
第５回：卒業論文の章立て作成と中間報告
第６回－第１０回：卒業論文初校の作成
第１１回：初校提出と中間報告
第１２・１３回：卒業論文第２校の作成
第１４・１５回：卒業論文提出と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J82020415
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミCに続き、各自が設定した研究テーマに基づき、卒業論文を仕上げていってもらう。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。毎回の講義では、２～３名が報告者となり、論文の進捗状況を報告してもらう。報告者以外の者は、ただ報告を聞くだけでなく、報告者の報告に疑問があれば質問をしてください。卒業論文では文字数を１万字以上書き、必要とあれば図表も作成してもらいます(図表の文字は、文字数に含まず)。このような長文を作成した経験はないでしょう。作成するのに大変時間を要しますから、効率よく学習し、12 月末をめどに完成するように頑張ってください。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教材（その他）	専門ゼミBのときに作成したゼミ論文 スタートアップゼミのときに配布したテキスト『アカデミック・ライティング』		
評価方法	卒業論文の内容《100%》		
到達目標	各自が設定した論文テーマに基づいて、卒業論文を完成させること。		
準備学習	大学で学んだことの集大成として、論文作成に臨んでもらいたい。 論文を書くための予備段階でも、資料の収集及び整理、そしてその資料の理解という作業があり、これらを熟すためには最低２-３か月かかってしまう。 また、論文の素案を書きつつも、追加資料の収集、そして分析も伴ってくる。論文を作成するには、多大な時間と労力を要することを認識しておかなければならない。このため、大学の講義時間内だけで、論文を完成させようとは、思わないでほしい。 秋学期ともなると就職活動は一段落し、比較的、論文作成に時間を割くことができるようになっているだろう。このため、ゼミ生諸君には、じっくりと自宅学習をし、論文完成を目指していただきたい。出来れば、論文作成の着手時期は、夏休みに入るころが良い。		

受講者への要望

大学生活で学んだことの集大成が卒業論文です。卒業論文の体を成していないものは、勿論、認めるわけにはいきません。
何度も書き直しを指示しますので、覚悟しておいてください。

また、卒論提出期限は１月半ば頃ではあるが、12 月半ばまでにゼミ担当者に提出すること。その後、何度も修正を指示します。期限ぎりぎりにゼミ担当者に持って来ても、卒業論文として認めません。

講義の順序とポイント

1. 夏休み中の卒論進捗状況の報告
2. 一次進捗状況の報告①（以下毎時間２―３名が報告者となる）
3. 一次進捗状況の報告②
4. 一次進捗状況の報告③
5. 一次進捗状況の報告④
6. 一次進捗状況の報告⑤
7. 二次進捗状況の報告①
8. 二次進捗状況の報告②
9. 二次進捗状況の報告③
10. 二次進捗状況の報告④
11. 二次進捗状況の報告⑤
12. 卒論の最終報告①
13. 卒論の最終報告②
14. 卒論の最終報告③
15. 総括：卒論の提出と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020416
科目名	専門ゼミ D	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ C の続きです。専門ゼミ C を参照のこと。		
教材（テキスト）	専門ゼミ A に同じ。		
教材（参考文献）	専門ゼミ A に同じ。		
教材（その他）	専門ゼミ A に同じ。		
評価方法	後輩に対する指導力（50%)、卒業論文の内容(100%)、ゼミ運営に対する貢献度（50%）によって評価します。		
到達目標	自分の言葉で自分の意見を主張できる人間となること。		
準備学習	自身が発表する場合は発表の準備、他の学生の発表の場合はコメントの準備。		

受講者への要望

最後まであきらめずに。ともかく、卒業論文を提出すること。

講義の順序とポイント

1. インターンシップ指導
2. インターンシップ指導
3. 卒業論文第 3 回発表（30 分 x 2 人）
4. 卒業論文第 3 回発表
5. 卒業論文第 3 回発表
6. 卒業論文第 3 回発表
7. 龍尾祭発表支援
8. セミナーの準備
9. ３回生論文指導
10. ３回生論文指導
11. 卒業論文最終発表
12. 卒業論文最終発表
13. 卒業論文最終発表
14. 卒業論文最終発表
15. 卒業論文講評

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J82020501
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	家族法分野の重要判例を学習する。具体的な進め方については受講生と相談のうえ決める予定である。		
教材（テキスト）	講義資料を適宜配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義の参加状況（50%）、報告内容（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について基本的な知識を習得する。 ２．学習成果を報告し、他者の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。		
準備学習	報告担当者は十分に準備をし、当日は必ず出席すること。担当者以外の出席者もあらかじめ指示された判例・文献に目を通しておくこと。		

受講者への要望

学科専門科目の家族法を履修済みであることが望ましい。未履修の者は、家族法の教科書・概説書を 1 冊通読しておくこと。

講義の順序とポイント

各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。

１．　婚姻外の男女関係の解消
２．　近親婚と遺族年金受給権
３．　夫婦同氏制度の合憲性
４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権
５．　有責配偶者の離婚請求
６．　財産分与と慰謝料請求権との関係
７．　推定の及ばない子
８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用
９．　代理出産と母子関係
１０．子の命名権
１１．面会交流権
１２．成年に達した子に対する扶養義務
１３．熟慮期間の起算点
１４．生命保険金請求権の相続財産性
１５．高齢者の遺言能力

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J82020502
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
講義概要	経済や経営を学び、ビジネスをする上で、法律に関する基礎知識や法的な考え方は不可欠です。この講義では、ビジネス社会で必要となる基本的な法律知識や法的な考え方を、少人数授業の良さを生かして、みんなで議論したり、調べたことを報告しながら、学んでいきます。 具体的には、例えば、裁判員制度の仕組みを学び、裁判員になったつもりである事件について考え、意見を交換しながら妥当な結論を導く練習をします。このほか、実際に裁判になった有名な事件を使って、民法の損害賠償の基本的な考え方や、刑法の基本的な考え方を学びます。複数の立場から物事を考察したり、法律に基づいて、事実を分析することを行ないます。この授業を通じて、論理的な思考力や、コミュニケーション能力といった汎用性のある能力を高めることも目指します。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	京都学園大学法学会編『法学の扉[第３版]（成文堂、2008 年） その他の参考文献は、適宜、授業で紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内レポート、授業への積極的な参加、発言等）　５０点 報告（２回）　５０点		
到達目標	ビジネスに関係の深い基本的な法制度を理解できるようになる。 複数の立場から物事を見るバランス感覚を意識できるようになる。 自分の意見を根拠を添えて表現できるようになる。		
準備学習	毎回指示する予習を行うこと 普段から、事件や裁判に関するニュースに関心をもつこと		

受講者への要望

・無遅刻、無欠席
・知的好奇心
・積極性
・協調性
・根気

講義の順序とポイント

広義の順序の目安

1　オリエンテーション
2　レポートの書き方
3　法律の役割
4　裁判制度と裁判員制度
5　裁判員になったつもりで、有罪か無罪か考えよう
6　報告（第１回）①
7　報告（第１回）②
8　民法の基本・損害賠償
9　損害賠償（マクドナルド事件）
１０　消費者問題①（悪徳商法の手口・なぜ騙されるのか）
１１　消費者問題②（契約の基本・法的救済）
１２　刑法の基本・安楽死（東海大学附属病院事件）
１３　交通事故
１４　報告(第２回）①
１５　報告（第２回）②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J85000103
科目名	チャレンジショップ入門Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J85000104
科目名	チャレンジショップ入門Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J85000105
科目名	チャレンジショップ入門Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J85000203
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工 会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J85000204
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工 会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J85000205
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工 会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J85000206
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工 会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J85000301
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J85000302
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動を数値で表そうとするとき、その記帳は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として 「企業の成績表」ともいえる「決算書」(財務諸表)が作成される。したがって、こうした簿記技法とその背景に ある会計理論は、企業経営にとっての必須事項となっている。 （2）経理事務がコンピュータ化されている今日においても、取引情報をインプットするのは人間の手であり、又、 アウトプットされた会計情報を読み解くのも人間の頭によらざるを得ない。簿記・会計の知識が組織経営に とって極めて重要である理由は、ここにある。 （3）このような観点から、本講義では、簿記・会計を初めて学ぶ者を対象として、企業経営に役立つ会計情報の 意義と決算書の内容、そして会計の応用分野について、出来るだけ分かり易く解説する。将来的なビジネス 対応を念頭に置き、積極的な関心を持って受講していただきたい。		
教材（テキスト）	明神信夫・笹倉淳史・水野一朗 編著 『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』 同文舘出版		
教材（参考文献）	（1）弘兼憲史 著 『知識ゼロからの決算書の読み方』 幻冬舎 （2）大阪商工会議所編 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』 中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。 （2）組織活動の財・サービスを計数的に測定・伝達するシステムの基本が理解できる。 （3）経済的意思決定に対する会計情報の有用性が理解できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）まずは、会計学の専門用語に慣れることが肝心であり、関連する箇所を予習して講義に臨むように希望する。
（2）本講義内容は、経営学部での学習にとって非常に有益なものとなろう。
（3）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得る。

1．講義の展開予定と評価、簿記と会計
2．会計の役立ち
3．会計情報の内容
4．会計情報の開示＝制度会計におけるディスクロージャー＝
5．会計情報の読み方（1）＝経営分析と収益性分析＝
6．会計情報の読み方（2）＝安全性分析と成長性分析＝
7．会計情報の信頼性＝会計監査＝
8．会計情報の作り方（1）＝簿記及び会計の基本ルール＝
9．会計情報の作り方（2）＝連結財務諸表の作成＝
10．会計情報と原価管理＝原価計算＝
11．会計情報と利益管理＝管理会計＝
12．会計情報と税務＝税務会計＝
13．会計情報と国際化＝国際会計＝

１４．　会計情報と環境＝環境会計＝
１５．　会計学の展望と資格

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J85000401
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。 また当日の講義内容については、復習を行うと共に、事前に配布する次回の授業用資料については、熟読の上、内容の把握に努めること。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商業の発展(商業・商人学の観点から）　① 3　商業の発展(商業・商人学の観点から）　② 4　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 5　　②（伝統的・近代的接近方法） 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構の現状と課題 9　小売り機構の業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街と中小企業 12　　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J85000402
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	日本経済において流通産業が担う役割は、年々その重要性を増しており、これらを研究対象とする商学も分化と進化を遂げている。しかし商学の学問領域についての通説はなく、学際的に幅広く関連学問領域である流通論・マーケティング論をも踏まえて論じられているのが現状である。このため本稿では、商学を商業学・商人学として認識したうえで、商業において中心的役割を果たす小売機構・小売機関を中心として、一般的に論じられている商業に関する社会経済的視点および商業をになう企業における経営論に関する視点からの理解を進めるとともに、日本商工会議所・全国商工会連合会が実施する「販売士検定」にかかる基礎知識の習得にも資する講義を通して、実際の商業経営におけるマーチャンダイジング、ストアーオペレーション等についての理解も進める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（その他）	講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、試験 50%		
到達目標	商学における総論的な知識習得はもとより、各論として、商店経営における実務に関する知識・スキルの習得をも目標とする。また将来の進路として、流通・商業を目指す受講生については、社会・企業においても活用可能な、実践的知識ス・キルの習得を目指す。		
準備学習	日頃から商業に興味を持つとともに、日経 MJ などの購読により、商業に関する情報の収集に努められたい。 また当日の講義内容については、復習を行うと共に、事前に配布する次回の授業用資料については、熟読の上、内容の把握に努めること。		
受講者への要望			
真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　商学の研究対象としての流通・商業 3　商学への接近①（流通・商業・マーケティング） 4　②（伝統的・近代的接近方法） 5　商業の発展(商業・商人学の観点から) 6　商業を担う卸売機構および小売機構 7　卸売機構の現状と課題 8　小売機構①現状と課題 9　②業態発展理論 10　業態別小売機関～百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストア・専門店・中小商店など 11　商圏と商業集積の考察　①　商店街 12　②　ショッピングセンター 13　商業の実際　①　マーチャンダイジング 14　②　ストアーオペレーション 15　商学の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J85000502
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	経営に必要な要件は大きく変化してきている。経済社会の変化を素早く察知できる感受性、新しいニーズを具体化する技術力、市場に的確にアピールできるマーケティング力、自由な発想と柔軟な行動をシステム化できるマネジメント力、そしてリスクに敢然と挑戦する企業家(起業家）精神が求められるようになった。 新たな事業構想が求められるが、事業構想の全体像を把握しようといった講義科目はみられなかった。そこで、事業構想の基本的な理念から具体的な実践活動のあり方まで講義では、幅広く取り上げていきたい。革新的な事業構想を策定しても、現実には実際の事業や経営活動に結び付かない場合も少なくない。それぞれの企業が置かれている環境は激しくかつ急速に変化し、、市場や提供する財・サービスもきわめて細分化・短命化しているからである。「いかに」ではなく「何を、何のために」事業構想を策定するのか、企業をめぐる環境変化の根底にある本質を見抜くことが必要なのである。激しくかつ急速に変化する経営環境のなかで、的確な事業構想をどのように考えて行けば良いのか、原理原則と基本を明らかにしていきたい。		
教材（テキスト）	梅木晃、井形浩治編著　『事業構想と経営』嵯峨野書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	随時プリントを配付する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	経営においてその質が問われる時代を迎え、あらゆる分野で事業構想の立案力が求められている。その根底には、イノベーション力とその源泉となる起業家精神の涵養があると考える。 この講座を通じて構想力、革新力、創造力についての基本と原則に関する知識を身に付けることを目標としたい。		
準備学習	事業構想には知識はもとより感性が必要とされることが多い。感性を磨くためには,単に大学における学習のみならず幅広い日常生活における体験が求められる。このため身の回りにおいて起こるすべてのことに対し、関心と問題意識を持って授業に望まれたい。 また教科書、配布資料などについては事前に熟読するとともに、適宜実施するレポート作成のため、復習にも心がけられたい。		
受講者への要望			
受講マナーを守り、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに（本講座の概要） 2　経営をめぐる環境の変化 3　事業構想の概念・構想策定の視点(j 事業とは、構想とは)① 4　事業構想の概念・構想策定の視点(j 事業とは、構想とは)② 5　事業構想に求められる思考プロセス① 6　事業構想に求められる思考プロセス② 7　事業構想とアントレプレナー（起業家）① 8　事業構想とアントレプレナー（起業家）② 9　構想と経営認識（創造力・効率性・リスクの回避・リーダーシップ 10　事業構想（起業）策定のプロセスの基本 11　事業機会の認識・経営資源の調達・ビジネスシステムの構築 12　戦略的コスト・リスク・市場への対応 13　事業構想の評価 14　日本の公的創業支援制度 15　これからの事業構想へ向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J85000601
科目名	女性企業家講座	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師としてお迎えし、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。 ※女子学生だけでなく、男子学生にも有益な講座です。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	未定		
教材（その他）	メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモしてください。		
評価方法	各回の講義内容についての感想文（100%）。		
到達目標	経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。		
準備学習	各講師の所属されている会社のホームページなどを読み、予備知識をもって受講してください。		

受講者への要望

企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁、マナーを守れない学生は退出を求めることがあります。
質疑応答のときには、積極的に質問してください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 女性企業家を取り巻く環境
3. （4 /25） 浦中 順子 氏
   花プラス株式会社 代表取締役社長
4. (5/9)　生駒 京子 氏
   株式会社　プロアシスト　代表取締役社長
5. （5/16）　いしい 佳子氏
   関西女性起業家研究会 、Office・苑　代表
6. まとめと予習
7. （5 /30） 松村 敦子氏
   有限会社アクティア　代表取締役
8. （6/6）　赤松 由里子氏
   赤松税務会計事務所　税理士・社会保険労務士
9. （6/13） 大奈氏
   Office Daina 代表　兼　ボイストレーナー・歌手
10. まとめと予習
11. (6/27) 西山 裕子　氏
    一般社団法人みんなの手　代表理事
12. (7/4)　未定
13. (7/11) 未定
14. (7/18)　未定
15. 女性企業家講座を通して学んだことの展望

講師の都合などにより変更になる可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J85000701
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 ビジネスモデル 2 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J85000702
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 ビジネスモデル 2 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J85000801
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 経営情報概論では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（テキスト）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(サイズは主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(35%)、 レポート(30%)、 定期試験(35%) で評価する。		
到達目標	経営情報は・企業経営にとってどのような意味をもつのか、経営的視点および情報システムの観点から考察する。 特に戦略論・組織論・ビジネスプロセスと情報システムの関わりを学ぶ。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．　受講ガイダンス
2.　経営情報論の基礎
3.　経営情報論の基礎理論
4.　経営情報システムの変遷
5.　　反転学習(理解度確認)
6.　情報通信技術の進展
7.　経営情報システムの設計・開発
8.　経営情報システムの管理
9.　情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10.　　反転学習(理解度確認)
11.　ネット・ビジネス
12.　情報通信技術と組織変革
13.　情報通信技術と組織コミュニケーション
14.　情報通信技術と社会
15.　まとめと今後の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J85000802
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 経営情報概論では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（テキスト）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(サイズは主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(35%)、 レポート(30%)、 定期試験(35%) で評価する。		
到達目標	経営情報は・企業経営にとってどのような意味をもつのか、経営的視点および情報システムの観点から考察する。 特に戦略論・組織論・ビジネスプロセスと情報システムの関わりを学ぶ。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．　受講ガイダンス
2.　経営情報論の基礎
3.　経営情報論の基礎理論
4.　経営情報システムの変遷
5. 反転学習(理解度確認)
6.　情報通信技術の進展
7.　経営情報システムの設計・開発
8.　経営情報システムの管理
9.　情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10. 反転学習(理解度確認)
11.　ネット・ビジネス
12.　情報通信技術と組織変革
13.　情報通信技術と組織コミュニケーション
14.　情報通信技術と社会
15.　まとめと今後の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J85000901
科目名	民法総則	単位数	2
科目名（英語表記）	General Principles of Civil Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する学説・判例を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
準備学習	１．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。また、民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、物権法、契約・不法行為法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。

講義の順序とポイント

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　権利の主体（３）　法人
５．　法律行為　法律行為とは何か／強行法規違反・公序良俗違反
６．　不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示／錯誤
７．　不完全な意思表示（２）　詐欺／強迫
８．　無効と取消し
９．　代理（１）　代理権
１０．代理（２）　無権代理
１１．代理（３）　表見代理
１２．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１３．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１４．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１５．練習問題を通じた総復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J85001001
科目名	契約・不法行為法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	民法第 3 編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法〔第 5 版〕』（日本評論社、2010 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．主要論点に関する判例・学説を理解する。 3．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		

受講者への要望

民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、民法総則、物権法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。

講義の順序とポイント

1．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説
2．　契約の成立
3．　契約の効力（1）同時履行の抗弁権
4．　契約の効力（2）危険負担
5．　契約の解除
6．　契約総則の復習（練習問題）
7．　売買（1）
8．　売買（2）売主の担保責任
9．　贈与
10．賃貸借（1）
11．賃貸借（2）
12．不動産賃貸借～借地借家法
13．その他の典型契約
14．不法行為（1）
15．不法行為（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J86010101
科目名	経営組織論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	経営とは経営組織内の資源を活用することによってはじめて成立する。本講義では、経営の基盤となる組織についての理論、組織内におけるヒトの活用において重要になる理論についての基礎的知識を学習する。 具体的には、組織設計・組織編成、組織と個人の関係、リーダーシップ、組織とジェンダーや組織的公正などの組織を考える上で欠かせない知識を習得する。また、近年の経営組織において重要なトピックとなっているダイバーシティ・マネジメントやストレス（メンタルヘルス）などについての基礎的知識についても学習する。		
教材（テキスト）	なし 教員作成の資料を配布する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テストなど（４０%）、定期テスト（６０%）		
到達目標	経営組織及び組織内でのマネジメントを考えるために必要となる基礎知識を習得する。		
準備学習	毎回授業の翌日までに、「京学なび」内に次回授業レジュメをアップロードするので、穴埋め部分以外に目を通しておくこと。		

受講者への要望

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、オフィスアワーなどを積極的に活用してもらいたい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション、イントロダクション：組織とは何か
2. 企業組織の基本①：組織を取り巻く環境と組織、組織設計の方法
3. 企業組織の基本②：機能別組織、事業部組織、マトリックス型組織、及びそれらのメリット・デメリット
4. 組織と個人の統合①：変化する組織像・個人像①
5. 組織と個人の統合②：変化する組織像・個人像②、マネジメントの変化と経営組織
6. ワーク・グループ①：ワーク・グループとは何か、ワーク・グループの理論①
7. ワーク・グループ②：ワーク・グループの理論②、少数派・多数派の形成と問題
8. 組織とジェンダー：ジェンダーと組織の関係
9. ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティ・マネジメントとは何か、ダイバーシティ・マネジメントの基本・実際
10. リーダーシップ①：リーダーシップとは何か
11. リーダーシップ②：リーダーシップの理論①
12. リーダーシップ③：リーダーシップの理論②
13. 組織ストレス①：組織ストレスとは何か
14. 組織ストレス②：組織ストレスの課題、メンタルヘルス
15. 組織的公正：組織における公正、組織的公正の実際

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	J86010201
科目名	経営戦略論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、経営戦略の基本と実践力が身につくことを目指します。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になればしめたものです。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考文献）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	経済新聞の経営戦略に関する記事を読んで、内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。授業を聞いていれば十分記述できる内容ですので、必ず遅刻せず出席するようにしてください。 私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
講義の順序とポイント			
1 はじめに 2 成長マトリックス 3 多角化戦略 4 多角化戦略 2 5 選択と集中 6 ブランド戦略 7 ブランド戦略 2 8 PPM 9 PPM2 10 事例研究：アシックス 11 組織と戦略 12 サンクコスト 13 事例研究：デジカメ 14 ブルーオーシャン戦略 15 経営者とは 常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J86010301
科目名	日本経営史	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	江戸時代より昭和戦後時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。 20 世紀に入って大企業社会の成長と日本型企業経営の発展について講義する。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎･岡部桂史･平野恭平『１からの経営史』中央経済社 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から考えることができる。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をしておくこと。これに関連した小レポート実施する。		
受講者への要望			
おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。 日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。			
講義の順序とポイント			
1.日本経営史の課題 2..豪商の企業者活動(上方商人・三井家) 3.近江商人の企業家活動 4.滋賀県企業家の多角的出資と役員兼任 5.会社制度の導入と発展 6.三井家の家政改革と財閥の形成過程 7.近代産業企業の誕生と専門経営者の成長 8.大企業時代の到来と企業間関係の変化 9.日本的労務関係の形成 10.市場・百貨店の発展と「商業革命」 11.重化学工業化の進展とコンツェルンの発展 12.戦前から戦後へ、「財界追放」と新経営者の登場 13.消費社会の到来と家電産業 14.自動車産業の発展と日本的生産システム 15.流通の革新と流通企業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J86010401
科目名	マーケティング論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	本講義は、マーケティングという言葉を初めて聞く人を想定して、マーケティングとはどのようなものでそれが社会でどのように役立っているのかから始めます。 具体的には、①マーケティングの概念および基礎理論②マーケティングの課題③事例研究を軸に授業を組み立てていきます マーケティングは商品を売るためのスキルであるだけでなく、社会の課題を解決したり、社会をより良くするための社会のデザインを提供するための武器にもなることを理解してもらいます。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第４版）』有斐閣アルマ　2,160 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	初めての人も、マーケティングという科目について興味を持ち、一通りの知識を得ることができる 社会をマーケティング的な見方で見ることができ、企画する頭を持つことができる		
準備学習	マーケティングについて解説された場所や商品を、積極的に体験する姿勢を持ってもらいます.。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「アイデア開発」：ブレーンストーミング法
3.「トレンド研究」：ヒット商品からトレンドを読む
4.「マーケティングとは」：マーケティングの役割や機能
5.「マーケティングの仕事」：商品開発、宣伝広告、経営課題の解決
6.「マーケティング調査」：ターゲットを知る
7.「マーケティングの技術１」：セグメンテーション（細分化）
8.「マーケティングの技術２」：ラダリング
9.「マーケティングの技術３」：ポジショニング
10.「マーケティングの技術４」：ターゲティングと戦略構築
11.「４Ｐ理論１」：製品政策
12.「４Ｐ理論２」：価格政策
13.「４Ｐ理論３」：販売促進
14.「４Ｐ理論４」：流通対応
15.「企画書の書き方」：企画提案の作法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J86010501
科目名	経営学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、多角的視点の涵養と温故知新につながると捉えている。		
教材（テキスト）	なし。プリントを適時配布する。　DVD 教材や OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時、指示する。		
教材（その他）	適時、指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		

受講者への要望

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

講義の順序とポイント

1.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。（テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等）
2.内部請負制とその崩壊理由、分業、体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。（メイヨー、レスリスバーガー、等）
4.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
5.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。（バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等）　　中間課題 について。
6.近代管理論、協働システム、誘因―貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。（ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
9.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、職務再設計、期待理論、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、等。（マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等）
10.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。（ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等）
11.条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。　　期末課題について。
14.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。（チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等）
15.戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	J86010601
科目名	生産管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Production Management		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	生産活動は、材料等をインプットして、加工・組立を行い、製品をアウトプットする活動である。この過程には、企画・設計・生産・諸管理・改善などがある。本生産管理論は、これら一連の諸活動を効果的に行うことを目的としている。実際には、工程管理（モノの作り方）、品質管理（予定の品質を確保）、原価管理（正しい原価を見つける）を中心としている。それらについて、具体例を述べて理解しやすく講義する。		
教材（テキスト）	講義開始時に指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	演習問題を課題にする		
評価方法	取り組み姿勢や受講態度（10%）、レポート提出（30%）、定期試験（60%）で評価する。		
到達目標	1．実際の生産管理がイメージできるように具体例を用いて体得させる 2．生産管理のためのに主な手法を説明し、理解できるようにする 3．実際の生産活動に興味を持ち、それらの概要をある程度説明できるように指導する。		
準備学習	1．生産管理に関する予備知識を、ネット検索で調べて理解すること 2．生産方法や生産現場の動画を探して見ておくこと 3．インターネットを通じてバーチャル工場見学を行うこと		
受講者への要望			
学生らしく真面目に受講し、覚えるのではなくて正しく理解すること			
講義の順序とポイント			
1．生産管理の概要 2．生産計画と工程管理 3．品質管理 4．設備管理の基礎 5．安全管理 6．資材・購買管理 7．新製品企画開発、研究開発、製品設計 8．原価管理とコストダウン 9．生産の合理化 １０．生産情報の活用と見える化 １１．人材開発 １２．環境配慮 １３．ロボットと生産管理 １４．バーチャル工場の生産管理 １５．生産管理と経営自動化システムの将来展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J86010701
科目名	人的資源管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	人的資源管理[HRM(Human Resources Management)]というコンセプトはアメリカで生まれた。人事管理[PM（Personnel Management）]と HRM の相違については未だ同意は築かれてはいないが、広範囲にわたる論点を含みつつ、もはや PM という用語を見ることはできないほど HRM という用語は浸透している。 　経営戦略と人材管理･開発の制度や実践との適合性が考察される場合もあれば、能力や知識とは何か,それらをどのように測定し,育むか,等の観点からの論文もある。はたまた、外部労働市場の動向に焦点を合わせる研究もある。これらをできるだけ分かり易く解説することを通して、また受講者のキャリア設計に役立つように進めていくことによって、人財という財宝に向けて講義していきたい。		
教材（テキスト）	青井 倫一,監修『通勤大学 MBA〈6〉ヒューマンリソース』総合法令出版,2002。 適時プリントを配布する。 ビデオ教材やパワーポイントまたは OHC を活用する。		
教材（参考文献）	適時,指示する。		
教材（その他）	適時,指示する。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。		
到達目標	次のいずれかの修得を目指す。 ＊企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを『人』と関連付けて理解できる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊多角的な視点で事象を分析することができる。		
準備学習	＊毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示するので、熟読しておくこと。 ＊課題・宿題（問題集）を手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		
受講者への要望			
遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。			
講義の順序とポイント			
1)受講・学習・評価の仕方について。人生の大半を何らかの仕事に費やす…HRM を学ぶ重要性について。Taylor の科学的管理法から人事管理論への展開について。人事管理論から HRM になるに至った理由…ドラッカーと人間関係論を用いて…。 2)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]①：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。 3)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]②：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。 4)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]③：コース制、人事考課、昇給、昇進、出向、転籍、勤務地限定制度、非正規社員、労働時間、従業員持株制、ストックオプション、成果主義、労働基準法と関わり、等について。中間課題の告知・説明。 5)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]④：国民年金、厚生年金、厚生年金基金、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料、児童手当拠出金、労災保険料、雇用保険料,等について。中間課題の告知・説明。 6)日本企業における HRM [現状と課題を中心にして]⑤：国民年金、厚生年金、厚生年金基金、健康保険料、介護保険料、厚生年金保険料、児童手当拠出金、労災保険料、雇用保険料,等について。中間課題の告知・説明。 7)若年労働市場の現状と課題①:文系と理系、大企業志向、ブラック企業、就職率,離職率,失業率、フリーター,ニート、等について。 8)若年労働市場の現状と課題②:文系と理系、大企業志向、ブラック企業、就職率,離職率,失業率、フリーター,ニート、等について。 9)上記における課題解決に向けて①…モチベーション理論、欲求階層説、X-Y 理論、動機付け―衛生理論、連結ピン、システム 4、等（研究者：マズロー、アージリス、マグレガー、ハーズバーグ、リッカート、等)を中心にして。 10)上記における課題解決に向けて②…組織開発論、マネジリアル･グリッド、ソシオ＝テクニカル・システム論、タビストック研究所、チームコンセプト、等（研究者：ブレーク、ムートン、トリスト、ライス、エメリー、等）を中心にして。 11)上記における課題解決に向けて③…期待理論(研究者：ブルーム、ポーター＆ローラーⅢ）を中心にして。 12)上記における課題解決に向けて④…人は資源か、費用か？経営戦略と HRM の関係①：戦略の定義に関する議論（研究者：アンゾフ、チャンドラー、ミンツバーグ)、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（研究機関：BCG)、等を中心にして。期末課		

題の告知・説明。
13)上記における課題解決に向けて⑤…経営戦略と HRM の関係②：ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論,等（研究者：ポーター、ハメル＆プラハラード,等）を中心にして。 期末課題の告知・説明。
14)上記における課題解決に向けて⑥…経営戦略と HRM の関係③：知識創造の理論、暗黙知と形式知、HR アーキテクチャー、コンピテンシー、ナレッジマネジメント,等（研究者：野中、竹内、Lepak & Snell 、Quinn,等）を中心にして。 期末課題の告知・説明。
15)資格と HRM, 情報戦争と就職活動, これからの HRM について。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★

年度	2017	授業コード	J86010801
科目名	広告広報論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	日常生活でふれるさまざまな広告・広報について、消費者としてだけでなく、企業や行政など発信主体の立場から、マーケティングやコミュニケーション戦略の一環としてとらえられるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、ビジネスの主体の立場を想定しつつ自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第 1 回　開講にあたって
第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア
第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか
第 9 回　ブランド商品の誕生と広告
第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等
第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等
第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等
第 14 回　広告広報の課題／授業内レポート
第 15 回　今後の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	J86010901
科目名	国際経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	国際経営論 A
講義概要	グローバリゼーション（地球規模化）という言葉が使われだして久しい。「国際経営論」では中心的な研究対象である「企業の活動」はもちろんのこと、観光や犯罪などさまざまな側面での「国際化」も日常のことになっている。環境・地球温暖化問題・エネルギー問題など、まさに地球規模の問題である。このような中で、われわれは諸外国のことをどれだけ知っているだろうか。 なるほどわが国には明治以降、欧米のことはよく紹介されてきた。しかし、たとえばわが国に最も近い韓国について、あるいは中国について、われわれはどれだけ知っているだろうか。欧米に関しても、近年の変化はあるし、それらの現象の底に何があるのかは簡単には説明しにくい。 そこで「国際経営論」ではまず、経済や企業行動を中心におきながら欧米とアジア（特に中国文化圏）との比較をしてみたい。今こうなっているというだけでなく、それぞれの文化的・歴史的・地理的背景からの因果関連の分析をしていきたい。 非常に多面的な講義になると思うが、ビデオやスライドなど、ビジュアルな教材を多用し、楽しく講義したいと思っている。		
教材（テキスト）	長谷川正著『東アジアの企業経営と歴史』（森山書店・2012 年）		
教材（参考文献）	上記教科書を補う教材としては、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上に資料をアップロード　しておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「国際経営論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通しておいて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第 1 回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めしてください。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（その他）	そのつど、指示します。		
評価方法	ときどき行う小テスト　　20% 期末試験　　80%		
到達目標	世界の、および各国の状況把握力、論理的分析力、実行力、生涯学習力の達成		
準備学習	教科書の該当箇所を読んでおくことと、上記ホームページ上の資料に目を通しておくこと。		
受講者への要望			
・私語は禁止する。場合によっては、他の受講者の迷惑を考え退場を命じる。 ・ビデオやスライド等ビジュアルな資料も効果的に使う予定なので、むやみに欠席しないこと。			
講義の順序とポイント			
０１．企業の国際化：事始め ０２．資本主義の精神 ０３．プロテスタンティズムの倫理 ０４．現代中国の企業経営 ０５．M. ヴェーバーの中国論（１） ０６．M. ヴェーバーの中国論（２） ０７．台湾の経済・経営と歴史 ０８．朝鮮半島略史 ０９．戦後の朝鮮半島と韓国企業 １０．東南アジア諸国の経済事情 １１．東南アジアにおける華人と華人経済 １２．マレーシアの経済と経営、およびイスラム法と商取引 １３．インドネシア共和国の経済と経営			

１４．タイ王国と周辺のインドシナ半島の国々
１５．インド、カースト社会とヒンドゥー教

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J86011101
科目名	商法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	本講義では、商法分野のうち、「商法総則・商行為法」を中心に講義し、商法上の制度や商取引の仕組みについて基本的な知識を修得する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する「会社法総則」についても適宜触れる。民法上の契約は、商人でない者同士の取引を想定するのに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為は、商人間の取引および商人と消費者の取引が想定される。これらをモデル・ケースを提示しつつ講義し、法的なものの見方を養成する。		
教材（テキスト）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円。 六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。		
教材（参考文献）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年） 2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期期末試験（60%）。		
到達目標	1.社会において商法がどのように役立っているか、法的に理解できる。 2.商法総則・商行為法について、簡単な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
民法総則、契約・不法行為法を履修済であるか、並行して履修すること。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．商法の法源、商人の意義 3．商人資格の得喪 4．営業 5．商号規制 6．商業帳簿、資産の評価 7．商業使用人、代理商 8．商業登記 9．商行為概念とその効果 10.商行為の代理・商事契約の成立 11.商事担保 12.企業取引の補助者 13.商事売買 14.問屋営業・運送営業 15.場屋営業・倉庫営業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J86011201
科目名	物権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Real Estates		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	民法典の第 2 編物権を扱う。内容としては物権変動、占有権、所有権、用益物権及び担保物権を扱うことになる。		
教材（テキスト）	石田剛ほか『LEGAL QUEST 民法 2 物権』（有斐閣）		
教材（参考文献）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 その他は授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 動産及び不動産に対する権利に関する知識を習得する。 不動産担保についての最低限の知識を得る。		
準備学習	・講義で説明した箇所について、もう一度教科書その他の基本書を読んで、知識として身につけること。		

受講者への要望

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。
・六法は必ず持参すること。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス
2. 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
3. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
4. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
5. 共同所有 ― 意義・発生・内容・消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有 1 ― 占有の保護・占有と本権
7. 占有 2 ― 不適法占有者と所有者間の法律関係
8. 物権変動 1 ― 物権変動とは・不動産物権変動・対抗問題
9. 物権変動 2 ― 登記を要する物権変動 1
10. 物権変動 3 ― 登記を要する物権変動 2
11. 物権変動 4 ― 177 条の第三者
12. 物権変動 5 ― 動産物権変動の対抗要件・即時取得
13. 担保物権 1 ― 債権者平等の原則・担保物権の種類と性質・抵当権 1（設定・効力の及ぶ範囲、物上代位）
14. 担保物権 2 ― 抵当権 2（法定地上権、抵当不動産の第三取得者と賃借人）
15. 担保物権 3 ― 根抵当権・譲渡担保・仮登記担保

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J86011301
科目名	会社法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法 A」では、企業・会社の諸形態、株式会社の設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制や、計算に関する規定などの範囲を扱う。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）、最新版を用いる。六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第 3 版』（有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、総論・会社の設立・資金調達等に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. 会社の法的性質 3. 会社の種類 4. 会社法の総則規定 5. 株主の有限責任と資本制度 6. 株式会社の設立 7. 株式の意義、株主の権利 8. 株式の内容と種類 9. 株主名簿、株式の譲渡 10. 株式の消却・併合・分割等 11. 株式会社の資金調達 12. 募集株式の発行 13. 新株予約権 14. 社債 15. 計算			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J86011401
科目名	会社法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law B		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法 B」では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）と会社の組織再編について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。		
教材（テキスト）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）、最新版を用いる。六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。		
教材（参考文献）	『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第 3 版』（有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。期末定期テスト（60%）。		
到達目標	会社法のうち、株式会社の機関（コーポレート・ガバナンス）に関わる基本的な理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、教科書における次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業の最後に前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済との関係を意識するよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．株式会社の機関設計 ３．株主総会の権限・招集 ４．株主総会の議事・決議 ５．取締役 ６．取締役の義務 ７．取締役会 ８．代表取締役 ９．監査役・監査役会 １０．会計監査人 １１．指名委員会等設置会社 １２．役員等の責任 １３．責任追及訴訟（株主代表訴訟） １４．合併 １５．会社分割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J86011501
科目名	債権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	2014 年度生民法Ⅲ（債権総論）
講義概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。		
教材（テキスト）	野村 豊弘ほか『民法 (3) 債権総論』（有斐閣） 《有斐閣 S シリーズ》		
教材（参考文献）	池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社） 角紀代恵『基本講義 債権総論』（新世社） 中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教材（その他）			
評価方法	各講義の最後に行う理解度確認の評価（30%）と期末試験の評価（70%）に従う。		
到達目標	・発生した債権がいかなる事由により消滅するかを理解する。 ・債務不履行があった場合の、損害賠償について理解する。 ・世の中で利用される保証制度について理解する。 ・債権譲渡についての基本を理解する。 ・債権の対外的効力について理解する。		
準備学習	・講義の前後に教科書の該当部分に目を通すこと。 ・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 以上のことが行われているかは、講義の要所要所に確認する。		

受講者への要望

・内容が抽象的で非常に難解であるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・成績評価は期末試験の評価に従うが、講義への出席なしには理解が難しいと思われる。出席しない者は、登録しないこと。
・他の民法科目も併せて受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 5 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 6 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解）、損害賠償、受領遅滞
第 7 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 8 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 9 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2）
第 10 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 12 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 13 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受）
第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J86011601
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社） 日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。特に民法総則の知識があるのが望ましい。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法 1
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界 1
5. 消費者契約と民事法 2
   民法の契約ルールとその限界 2
6. 消費者契約と民事法 3
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法 4
   消費者契約法の内容 1
8. 消費者契約と民事法 5
   消費者契約法の内容 2
9. 消費者契約と民事法 6
   事業者の責任
10. 特定商取引法 1
   特定商取引法とは何か
   訪問販売 1
11. 特定商取引法 2
   訪問販売 2 ―クーリング・オフ
12. 特定商取引法 3
   マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法 4
   通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法 1

個別信用購入あっせんとクーリングオフ 15. 割賦販売法 2 個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J86011701
科目名	簿記原理	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
講義概要	（1）企業の経営活動の記録は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書(財務諸表）が作成される。現在の会計事務はほとんどコンピュータ処理されているが、取引情報をインプットする場合には、人間の手と頭によらざるを得ない。その際には、「複式簿記」の技法と理論に関する理解が求められることになる。 （2）このような観点から、本講義では、「簿記の基本的原理の習得」をテーマとする。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容の「前半部分」に関する基礎的知識と記帳技法の効率的な習得を図ることに目的が置かれ、前段階科目としての 「入門簿記」をベースとし、本講義の次のステップとなる科目「商業簿記」に至る効果的な「橋渡しの役割を担うことになる。 （3）したがって、本講義と「商業簿記」とを継続履修することにより、簿記検定試験の３級内容をマスターしてもらえるように展開する。 （4）ところで、こうした簿記学習には継続的な積み重ねの努力が不可欠であり、そのためには、ワークブック等を活用した問題演習が効果的である。そこで、本講義では、下記のテキストを活用して解り易く説明し、そのうえで、可能な限り問題演習を行うことにしたい。 （5）本講義を履修し、そのうえで、次段階の「商業簿記」を履修することにより,、簿記の基礎知識を確かなものとしたうえで、年間３回実施される日商簿記検定試験の３級にも是非挑戦して、成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記講義・３級商業簿記』 （中央経済社） （2）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記ワークブック・３級商業簿記』 （中央経済社）		
教材（参考文献）	必要に応じて、講義中に指示する。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	（1）定期試験（筆記試験）の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：80%）の成績に平常成績（提出物・小テスト等を含む：20%）を加味して評価する。		
到達目標	（1）商業簿記に関する基本的な期中取引の内容を理解し、それに基づく仕訳および転記ができる。 （2）現金預金取引や商品売買取引などに関する仕訳処理ができる。 （3）「簿記一巡の取引き」を理解し、期中取引のまとめとしての試算表の意義・内容を理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、関係するテキスト個所の予習を事前に行っておくことを要望する。 （2）このような準備学習によって、問題意識が目覚め、学習意識が高揚することが、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		
受講者への要望			
（1）本講義では、上記テキストを活用して、複式簿記の基礎についての理論面および実践面双方の実力が身に付くように努めたい。それゆえ、毎回、必ず上記２冊のテキストを持参して、積極的に講義に臨むことを期待する。 （2）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．①講義のガイダンス、②貸借対照表と損益計算書 2．簿記上の取引と勘定記入 3．仕訳と転記（1） 4．仕訳と転記（2） 5．仕訳帳と総勘定元帳 6．試算表と精算表			

7．問題演習―仕訳・転記・試算表の作成―
8．決算手続きと財務諸表の作成
9．現金・預金取引の処理
１０．現金過不足・小口現金の処理
１１．商品売買取引の処理（１）
１２．商品売買取引の処理（２）
１３．仕入帳・売上帳と商品有高帳
１４．売掛金と買掛金
１５．総合演習―仕訳、転記、試算表と精算表の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J86011801
科目名	商業簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）本講義では、前段階の「簿記原理」における複式簿記の基本原則と記帳技法をベースとして確認した上で、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容を完成することを目的とする。 （2）特に、手形の会計処理と決算整理に関連する事項の会計処理などの諸問題を中心に説明し、既履修科目である「簿記原理」での学習事項の再確認と補充をすることによって、簿記検定３級内容の完成を目指すこととする。 （3）前段階の「簿記原理」の内容と本講義の内容に関する十分な理解により、、簿記の基礎知識を確かなものとしたうえで、年間３回実施されている日商簿記検定試験の３級にも是非挑戦して、成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）渡部裕亘・片山 覚・北村敬子　編著 『検定 簿記講義 ３級商業簿記』 （中央経済社） （2）渡部裕亘・片山 覚・北村敬子　編著 『検定 簿記ワークブック ３級商業簿記』 （中央経済社）		
教材（参考文献）	必要に応じて、講義中に指示する。		
教材（その他）			
評価方法	（1）定期試験（筆記試験）の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：80%）の成績に平常成績（提出物・小テスト等を含む：20%）を加味して評価する。		
到達目標	（1）商業簿記に関する基本的な期中取引の内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （2）決算処理や財務諸表の作成ができ、伝票会計の基礎を理解している。 （3）日商簿記検定試験３級の基本的内容に関して理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、関係するテキスト個所の予習を事前に行っておくことを要望する。 （2）このような準備学習によって、問題意識が目覚め、学習意識が高揚することが、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講者への要望

（1）本講義では、上記テキストを活用して、複式簿記の基礎についての理論面および実践面双方の実力が身に付くように努めたい。それゆえ、毎回、必ず上記２冊のテキストを持参して、積極的に講義に臨むことを期待する。
（2）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

講義の順序とポイント

１．①講義のガイダンス、②簿記一巡の手続きに関する再確認
２．仕訳・転記・試算表の作成演習
３．その他の債権と債務
４．受取手形と支払手形
５．有価証券
６．固定資産と減価償却
７．貸倒損失と貸倒引当金
８．資本金と引出金
９．決算整理（１）　：　費用・収益の繰延べ
１０．決算整理（２）　：　費用・収益の見越し
１１．元帳の締切り
１２．８桁精算表の作成
１３．財務諸表の作成（１）
１４．財務諸表の作成（２）
１５．伝票会計

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J86011901
科目名	商業簿記ワークショップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）（複式）簿記において使用される用語は、ビジネス社会における「共通言語」である。したがって、その習得は将来のビジネス人としての基礎知識獲得の意味で非常に有用であるといえる。こうした観点から、本講義においては、①「入門簿記」②「簿記原理」③「商業簿記」と段階的に科目履修し、習得してきた日商簿記検定３級程度の「商業簿記知識」をベースに、さらに上級の商業簿記に関する基礎知識の習得を目標として、演習形式を活用して効率的に学習することにしたい。 （2）具体的には、日商簿記検定２級程度の商業簿記に関する学習内容を、可能な限りの問題演習形式で展開する。なお、過去の検定２級内容の特徴をなす項目、たとえば、各種手形取引・特殊商品売買取引・社債取引・本支店会計・帳簿組織などに関しては、大幅な削減と追加が行われており、今年度も更なる追加変更があるので、その点も確認しながら、効果的な講義展開を行うようにしたい。 （3）本講義での商業簿記演習を通じて、検定２級の商業簿記に関する基礎知識を確かなものとし、また、同時並行で開講される「工業簿記ワークショップ」をも履修し、双方を合わせた知識習得をもって、年間３回実施されている日商簿記検定試験の２級にも是非挑戦し、貴重な成功体験を実感して頂くよう希望するところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を着実に身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著　『検定 簿記講義　２級・商業簿記』　中央経済社 （2）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著　『検定 簿記ワークブック　２級・商業簿記』　中央経済社		
教材（参考文献）	講義時に指示する。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	（1）定期試験の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （2）原則として、定期試験（筆記：50%）の成績と平常成績（提出物・小テスト等を含む：50%）との総合評価で判定する。		
到達目標	（1）日商簿記検定２級の商業簿記に関する基本的な内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （2）貸借対照表や損益計算書などの財務諸表の作成ができ、伝票会計の基礎も理解している。 （3）日商簿記検定試験２級の基本的内容に関する習得を通じて、株式会社簿記の基礎を理解している。		
準備学習	（1）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、指示されたテキスト等を活用した予習を必ず事前に行っておくよう要望する。 （2）このような準備学習によって、簿記知識が深化され、さらなる学習意識が高揚し、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		
受講者への要望			
（1）本講義では、簿記検定３級程度の知識を前提とした講義展開となり、当該レベルの知識が無ければ理解は困難と思われるため、受講（履修）にあたっては「簿記原理」「商業簿記」双方を履修済みか、もしくは日商簿記検定試験３級を取得済みであること、を求めたい。この点は特に注意してください。 （2）上記２冊のテキストと電卓を、毎回忘れずに持参すること。 （3）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては常に能動的に臨むようにしてください。			
講義の順序とポイント			
原則的に、次のような計画で講義を展開する予定である。 １．　本講義のガイダンス（講義の概要と計画、評価方法等の説明） ２．　現金預金 ３．　手形 ４．　有価証券 ５．　その他の債権債務			

6． 商品売買（1）
7． 商品売買（2）
8． ①固定資産　②既習内容に関する Quiz
9． 引当金
10. 収益と費用
11. 株式会社の純資産
12. 税金
13. 決算
14. 本支店会計
15. 総括（決算と財務諸表演習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J86012001
科目名	工業簿記ワークショップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）（複式）簿記において使用される用語は、ビジネス社会における「共通言語」である。したがって、その習得は将来のビジネス人としての基礎知識獲得の意味で非常に有用であるといえる。こうした観点から、本講義においては、①「入門簿記」②「簿記原理」③「商業簿記」と段階的に科目履修し、習得してきた日商簿記検定３級程度の「商業簿記知識」をベースに、上級簿記（２級程度）に挑戦することを目標として、その一部分をなす「工業簿記」について演習形式を活用して効率的に学習することにしたい。工業簿記は製造業に適用される簿記であり、材料等の購入から製造工程を含み、製品等の販売に至るまでの取引を対象とする。 （２）具体的には、日商簿記検定２級に対応する工業簿記の内容を演習形式で展開する、「工業簿記学習のワークショップ」である。ただ、こうした２級程度の工業簿記内容に関する講義が不足している現状から、今回は、工業簿記の基礎から標準原価計算に至る基本問題を内容とする「課題演習」重視のワークショップ形式で展開する。 （３）本講義での工業簿記演習を通じて、検定２級の一部である工業簿記に関する基礎知識を確かなものとし、同時並行で開講される「商業簿記ワークショップ」をも履修することによって、年間３回実施されている日商簿記検定試験の２級にも是非挑戦し、貴重な成功体験を実感して欲しいところである。卒業後の社会人へ踏み出すための実学を着実に身につけるためにも、積極的に受講して欲しい。		
教材（テキスト）	（1）検定簿記講義 ２級 工業簿記（中央経済社） （2）検定簿記ワークブック ２級 工業簿記（中央経済社）		
教材（参考文献）	講義時に指示する。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	（１）定期試験の成績と平常成績に基づき、総合的に評価する。 （２）原則として、定期試験（筆記：50%）の成績と平常成績（提出物・小テスト等を含む：50%）との総合評価で判定する。		
到達目標	（１）日商簿記検定２級の工業簿記に関する基本的な内容を理解し、それに基づく会計処理ができる。 （２）製造業における「工業簿記と原価計算の関係」および「原価計算制度の基礎」を理解している。		
準備学習	（１）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、指示されたテキスト等を活用した予習を必ず事前に行っておくよう要望する。 （２）このような準備学習によって、簿記知識が深化され、さらなる学習意識が高揚し、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		
受講者への要望			
（１）工業簿記も商業簿記と同じく「簿記」であり、その学習には簿記検定３級程度の知識が前提として求められる。したがって、当該レベルの知識が無ければ理解は困難と思われるため、受講（履修）にあたっては「簿記原理」「商業簿記」双方を履修済みか、もしくは日商簿記検定試験３級を取得済みであることを強く求めたい。この点、充分に注意してください。 （２）本講義と「商業簿記ワークショップ」の内容を総合して「日商簿記検定２級」程度の内容となることを意識し、双方のワークショップを履修することで「簿記２級」の実力をつけ、是非、検定試験へも挑戦してください。 （３）工業簿記学習の深化のため、「原価計算論」の並行履修が望ましい。なお、受講時には、上記２冊のテキストと電卓を毎回忘れずに持参すること。 （４）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるよう、講義に対しては常に能動的に臨むようにしてください。			
講義の順序とポイント			
１．　本講義のガイダンス（講義概要、講義計画、成績評価方法等の説明） ２．　工業簿記と原価計算 ３．　工業簿記のしくみ			

4．材料費の計算と記帳
5．労務費の計算と記帳
6．経費の計算と記帳
7．個別原価計算（1）
8．個別原価計算（2）
9．総合原価計算（1）
10．総合原価計算（2）
11．総合原価計算（3）
12．製造業の財務諸表
13．標準原価計算
14．直接原価計算と CVP 分析
15．工場会計の独立

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J86012101
科目名	財務諸表論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	（1）企業などの経営活動の成果を表す「決算書」(財務諸表)の作成とその読み方については、春学期の「会計 学入門」でその基礎を学んできた。こうした財務諸表の公表を通じて、企業の外部利害関係者の意思決定 に有用な会計情報を提供する会計分野は、いわゆる「財務会計」と呼ばれる分野である。財務会計の主た る内容は、財務諸表の作成及び表示に関する諸原則の展開である。 （2）このような観点から、本講義では「会計学入門」で習得した基礎知識を踏まえて、さらに「財務諸表を読むた めのエッセンス」として、財務会計の基本的な仕組みを企業経営と結び付けて詳解することにしたい。 （3）そこでは、主要財務諸表としての貸借対照表と損益計算書、さらには、キャッシュ・フロー計算書や株主資 本等変動計算書との関連性をも視野に入れながら、全体像を概観する。 （4）春学期の「会計学入門」と本科目により修得できる財務会計の基礎知識は、経営学科における原価計算論・管理会計論・税務会計論など、各種会計分野の専門科目を履修する道しるべとしても有用なものとなろう。		
教材（テキスト）	井出健二郎・高久隆太・成岡浩一・山内 暁 編　『入門会計学―財務諸表を読むためのエッセンス―』実教出版		
教材（参考文献）	（1）明神信夫・笹倉淳史・水野一郎編著　『アカウンティング―現代会計入門―【五訂版】』同文舘出版 （2）大阪商工会議所編　『ビジネス会計検定試験 公式テキスト３級【第２版】』　中央経済社		
教材（その他）	適宜、プリント配布を行う。		
評価方法	原則として、平素の授業への取組姿勢(20%)、課題提出物(20%)、定期試験(60%)に基づき、総合評価を行う。		
到達目標	（1）会計情報の特徴や作成プロセスが説明できる。 （2）財務諸表の意義・特徴を説明できる。 （3）財務会計の必要性と内容を説明できる。 （4）会計情報の読み方が説明できる。		
準備学習	（1）講義計画に従って指示する次回講義内容に関連するテキスト個所を、事前に解読して準備しておくこと。 （2）配布する私製アンケート「Minute Paper」で疑問点等を指摘できるよう、毎回意識して受講すること。		

受講者への要望

（1）春学期の「会計学入門」で使用したような基本的テキストを十分に読みこなしたうえで、本講義を受講されるよう希望する。
（2）遅刻や私語を厳禁する。遅刻に関しては、その理由を毎回配布する「Minute Paper」に記入すること。なお、私語が過ぎるような場合には、他者への迷惑の観点から、原則として退出を求める。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定である。

1．講義展開のガイダンスと財務会計の意義
2．企業経営と会計制度
3．企業会計と複式簿記システム
4．会計の情報利用者とグローバル化
5．会計情報のディスクロージャーと入手方法
6．財務諸表の体系
7．貸借対照表の意義・様式・構成
8．資産の意義・区分・内容と評価
9．負債及び純資産の意義・区分・内容と評価
10．損益計算書の意義・様式・区分
11．各区分の利益計算構造

12. キャッシュ・フロー計算書の意義・様式と内容
13. 株主資本等変動計算書の意義・様式と内容
14. 主要財務諸表の関連性
15. ケーススタディ「会計情報を読む」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J86012201
科目名	管理会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting		
担当者名	佐々木　多恵	旧科目名称	
講義概要	管理会計は組織内部のための会計である。予算管理や業績評価などの管理会計技法を効果的・効率的に使えることは，組織の成功に結びつく。そのため，管理会計の知識は組織活動を行う上で不可欠である。また，管理会計は会計学であるが，経営学や経済学など他の学問とも関連する学問である。本講義では，基本的な管理会計の知識を学び，簡単な計算ができるようになることを目指す。		
教材（テキスト）	谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計(第 3 版)』中央経済社		
教材（参考文献）	櫻井通晴(2012)『管理会計(第五版)』同文館出版		
教材（その他）	毎回レジュメを配布します。		
評価方法	定期試験(70%)，レポート(30%)		
到達目標	管理会計の意義・概念を理解している。 意思決定のためのアプローチを理解している。 業績管理のためのアプローチを理解している。 実務における管理会計の活用について理解している。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので、予習・復習をしておくこと。		

受講者への要望

積極的に講義に参加し，講義後の復習に努めてください。
原価計算論と併せて受講すると理解が深まります。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション
2. 管理会計の基礎概念
3. 意思決定アプローチ
4. 業績管理アプローチ
5. 原価管理(1)
6. 原価管理(2)・長期経営計画
7. 設備投資計画(1)
8. 設備投資計画(2)
9. 利益計画
10. 予算管理
11. 事業部業績管理
12. ABC／ABM
13. バランスト・スコアカード
14. 原価企画
15. アメーバ経営

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J86012301
科目名	財務管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Management		
担当者名	秋口　達也	旧科目名称	
講義概要	本講義では、①財務管理の基本理念と財務諸表の基本的な見方、分析方法について　②資本調達から運用、資金の管理までの流れ　③企業の成り立ちと多様な資金調達方法、株式市場、企業再編について　④株式投資に必要な分析方法、企業価値について取り扱う。本講義では、財務管理にかかわる基礎的な考え方や理論を理解してもらうために、多様な教材を用いる。本講義は講義中に多様な分析について演習を行うことで理解を深めてもらう。		
教材（テキスト）	なし。独自の資料を使います。		
教材（参考文献）	中小企業の財務管理入門（中央経済社）		
教材（その他）	分析の演習をするため、電卓があることが望ましい（携帯・スマホの電卓でも可）		
評価方法	講義内の演習に基づく評価（70%）。テスト（30%）		
到達目標	財務管理論にかかわる基本的な考え方と理論を理解すること。企業経営に財務管理がどのような意味を持つのか理解すること。株式投資の基本的な考え方を理解すること。		
準備学習	講義終了時に今回・次回の範囲で質問をするので、資料等を調べ自分なりの回答を準備しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁とする。講義内で電卓を使うことがあるので準備しておくこと。　数学の基本的な知識、簿記・会計について基本的な知識があることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．財務管理の基礎概念 ２．財務管理と会計 ３．貸借対照表 ４．損益計算書 ５．その他の計算書（キャッシュ・フロー計算書・原価計算） ６．財務分析 ７．利益管理 ８．資本調達管理 ９．資本運用管理 １０．資金管理 １１．企業・会社とは何か １２．資本調達の多様化と株式市場 １３．株式投資分析 １４．企業価値の算定方法 １５．総括-財務管理と企業評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J86012401
科目名	経営分析論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statement Analysis		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	みなさんにとって良い会社とはどのような会社を意味するのでしょうか。技術力があってユニークな製品やサービスを提供している会社、それは消費者の視点からみると確かに良い会社です。給料が高くて休みがたくさんあって福利厚生が充実している会社、就職先としては理想的かもしれません。これらは極端な例ですが、つまるところ、会社に対する視点が変わればよい会社の判断基準も変わってくるのです。 企業を評価する手法として知られる経営分析は、貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に代表される会計情報をもとに、収益性、安全性、成長性といった観点から企業の業績や状態を見極める有力な方法です。そのような分析を進めるためにはまず、財務諸表の構造と基本的な性質を理解しておく必要があります。さらには経営学全般にわたる知識も必要になります。 本講義では、このような財務分析の特質をふまえ、経営分析を総合的に把握することから開始し、続いて財務諸表分析の手法について解説していく予定です。		
教材（テキスト）	内藤文雄　『会計学エッセンス』中央経済社　2600 円		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する予定です		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	会計情報の読み方を理解している。 会計情報の開示制度を理解し、利用できる。 財務諸表の分析手法を活用し、財政状態、経営成績、資金運用上の問題を発見できる。		
準備学習	毎回授業の最後に次回の内容を紹介するので、教科書の指定ページを読んでくること		
受講者への要望			
積極的な講義への参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
1.　企業分析の意義 2.　会計の役割と株式会社 3.　ディスクロージャー制度 4.　貸借対照表の見方 5.　損益計算書の見方 6.　いくつかの業種の財務諸表 7.　収益性の分析(1) 8.　収益性の分析(2) 9.　 損益分岐点分析(1) 10. 損益分岐点分析(2) 11. 安全性分析 12. 資金繰りの分析 13. キャッシュフロー計算書の見方 14. 企業グループと連結決算 15. 企業の総合評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J86012501
科目名	原価計算論	単位数	2
科目名（英語表記）	Cost Accounting		
担当者名	小山　真実	旧科目名称	
講義概要	本講義では、原価計算のなかでも個別原価計算の手続き、およびそのような計算手続きをなぜ行うのかに関して説明を行います。加えて、講義内で演習問題を解くことを通じて、実際に個別原価計算を行うことができるようになることを目指します。本講義の内容は、日商簿記 2 級の試験内容のうち、工業簿記と関連しています。		
教材（テキスト）	滝澤ななみ, (2017), 「みんなが欲しかった簿記の教科書　日商 2 級　工業簿記　第 4 版」, TAC 出版.		
教材（参考文献）	滝澤ななみ, (2017), 「みんなが欲しかった簿記の問題集　日商 2 級　工業簿記　第 6 版」, TAC 出版. 谷武幸, (2012), 「エッセンシャル原価計算」, 中央経済社.		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	平常点（10%）、小テスト（20%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	原価計算の目的および意義について理解している。 個別原価計算の手続きを理解し、実際に計算することができる。		
準備学習	本講義の内容は積み上げであるので、教科書の問題に取り組むなどして復習に力を入れてください。 加えて、毎回の講義終了時に次回内容を指示しますので、教科書の該当範囲を予習しておいてください。		

受講者への要望

講義において問題演習を行うため、電卓を持参してください。
また、必須ではありませんが、日商簿記 3 級の内容をある程度理解していると講義の理解がスムーズになるかと思います。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション（授業の概要・簿記の基礎知識）
2．原価計算の基礎知識
3．材料費（1）
4．材料費（2）
5．材料費（3）
6．労務費（1）
7．労務費（2）
8．経費（1）
9．経費（2）
10．製造間接費：配賦（1）
11．製造間接費：配賦（2）
12．製造間接費：部門別計算（1）
13．製造間接費：部門別計算（2）
14．個別原価計算（1）
15．個別原価計算（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	-	★	★★

年度	2017	授業コード	J86012601
科目名	アントレプレナー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Entrepreneurship		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004 年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007 年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）		
教材（その他）	毎回レジュメプリントを配布する。 ビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）		
到達目標	アントレプレナーの現状と課題を知り、新しく事業を起こすことの意味を知り、そのために必要な考え方とステップを理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる新聞や雑誌等を読んでおくこと。		

受講者への要望

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業参加をしてもらいたい。
やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。

講義の順序とポイント

1. アントレプレナーの定義と役割
2. 産業構造の変化とアントレプレナー
3. 労働市場から見た起業の意味
4. 新規開業調査に見る起業の実態
5. さまざまな支援体制
6. 海外のアントレプレナー
7. アメリカのアントレプレナー
8. 起業のステップ
9. ケーススタディ　事業機会の認識
10. 〃　経営資源の調達
11. 〃　資金調達
12. 〃　組織の作り方
13. 〃　人材確保と育成
14. 〃　創業時のマーケティング
15. 起業に関わる動向と課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J86012701
科目名	京都商人論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	平安遷都以来、長きにわたり日本の政治・経済・文化の中心地であった京都には、独特の風土や慣習が育ち、価値観や気質が醸成された。それらは京都商人の「モノ作り」や商いの姿勢にも影響を及ぼし、さらには、現在の京都の老舗や企業の特徴であるー高い技術水準と品質本位で独自性と高付加価値を追求した「モノ作り」、伝統と革新を統合・調和させた行動様式、永続性を重視した堅実経営ーなどに受け継がれている。本講義では、京都の主な伝統産業について、その生成から発展の過程を説明するとともに、老舗商店や企業の個別事例を取り上げ、その特色を多角的な視点から解説する。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを活用します。		
評価方法	復習の小テスト（３０％）、定期試験（７０％）		
到達目標	京都の伝統産業の歴史と、その発展の過程を学び、京都商人の「モノ作り」や商いに対する姿勢、考え方を理解する。		
準備学習	各講義の内容は、次週の授業開始時に「復習の小テスト」をおこないます。配布されたプリントを読み直して、疑問点やよく理解できなかった部分を整理しておきましょう。		
受講者への要望			
各講義の終了前に、「質問タイム」を設けます。よく理解できなかった部分や疑問点があれば質問して下さい。疑問点や興味を持った事柄を自分で調べてみることも大切です。いずれにしても、わからないまま放置しないよう心がけて下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、京都の伝統産業と老舗；食品①茶 ３、京都の伝統産業と老舗；繊維①日本人と「きもの」 ４、京都の伝統産業と老舗；工芸①香 ５、京都の伝統産業と老舗；食品②京料理 ６、京都の伝統産業と老舗；繊維②洋装化と西陣 ７、京都の伝統産業と老舗；醸造①みそ ８、京都の伝統産業と老舗；工芸②仏壇・仏具 ９、京都の伝統産業と老舗；繊維③戦後の洋装 １０、京都の伝統産業と老舗；醸造②清酒 １１、京都の伝統産業と老舗；食品③京漬物 １２、京都の伝統産業と老舗；観光・娯楽 １３、京都の伝統産業と老舗；工芸③京焼 １４、京都の伝統産業と老舗；食品④京菓子 １５、今後の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J86012801
科目名	インターネットビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Internet Business		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	今日のビジネスはインターネットの利用を抜きに成り立たないほど、インターネットは企業にとって重要なツールになっています。そのなかで、インターネットを活用して新しいビジネスモデルの構築に成功した企業は、企業間での競争優位を獲得しています。 本講義では、インターネットがどのようにビジネスで利用・活用されているのかを、具体的な事例をまじえながら学んでいきます。その上で、インターネットを利用したビジネスの成功要因や問題点について考察します。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	中村忠之著『ネットビジネス進化論　第 2 版』中央経済社、2015 年 安達房子著『ＩＣＴを活用した組織変革』晃洋書房、2016 年 総務省『情報通信白書 平成 28 年版』日経印刷株式会社、2016 年（インターネットでダウンロード可能）		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。ビデオ教材やパワーポイントを活用します。		
評価方法	授業中に課すレポート等による平常点（40%）。試験（60%）。		
到達目標	インターネットの普及とともに企業のビジネスモデルがどのように進化したのかを理解します。 企業がインターネットを使ってビジネスを行う上で、何が重要な要因になっているのかを理解します。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておいてください。 新聞等のメディアを活用し、インターネットを利用したビジネスの動向に関心を持つようにしてください。		
受講者への要望			
私語や遅刻は厳禁です。私語が過ぎれば、退出を求めます。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス（授業の進め方、目的の説明等、インターネットビジネスとは） 2　インターネットビジネスの基礎条件 3　消費者向けネットビジネスの特徴 4　消費者向けネットビジネスの歴史 5　競争優位を巡る争い（アマゾンの事例） 6　人工知能とビジネス 7　ソーシャルメディアとビジネス① 8　ソーシャルメディアとビジネス② 9　インターネット広告 10　ネットショップにおける検索戦略（グーグルの事例） 11　インターネットビジネスが社会に与えた影響 ①（コンテンツ産業の変化） 12　インターネットビジネスが社会に与えた影響 ②（働き方の変革） 13　安全なインターネットビジネスのために（インターネットビジネスの安全性のために） 14　電子決済と電子マネー 15　インターネットビジネスの展望 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがあります。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J86012901
科目名	企業家史	単位数	2
科目名（英語表記）	Great Entrepreneurs		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り 上げる。可能であれば、いま少し取り上げる企業家を増やしたいと考えている。		
教材（テキスト）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考文献）	講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教材（その他）	次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社 宇田川・生島編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣		
評価方法	試験（100％）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、企業家の行動原理を理解する。		
準備学習	講義終了時に次回講義のテーマをお知らせするので予習をすること。		

受講者への要望

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。
日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。

講義の順序とポイント

1.企業家史の課題、企業家・企業者と革新
2.財閥組織者の企業家活動(中上川彦次郎)
3.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)
4.電気鉄道網の形成(小林一三)
5.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)
6.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)
7.重化学工業の成長(野口 遵)
8.電気機械国産化の道のり(小平浪平)
9.家庭電器産業の興隆(松下幸之助)
10.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介)
11.本田宗一郎･藤沢武夫と「世界のホンダ」
12.井深 大･盛田昭夫とソニー
13.日本型生産システムの構築(大野耐一)
14.流通のイノベーション(中内功・鈴木敏文)
15.大量生産時代と大量消費時代の担い手

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J86013001
科目名	中小企業経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management		
担当者名	下左近　多喜男	旧科目名称	
講義概要	学習内容は、以下のとおりです。 （1）中小企業のビジネス現場において、小売業、卸売業、製造業、それぞれのビジネスに必要なマーケティン グ戦略とは何か？ （2）なぜ、中小企業のマーケティング戦略を学ぶことが必要なのか？ （3）中小企業のマーケティング戦略とは、大企業の戦略と具体的に何が違うのか？ （4）中小企業経営におけるマーケティング戦略が、企業業績にどう結び付くのか？		
教材（テキスト）	講義資料配布。その他、講義開始時に指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて、参考文献などを紹介する。.		
教材（その他）	講義用資料や参考資料を配布または紹介する。		
評価方法	講義の途中で指示する「課題」の提出とその内容を評価する。(20%) 講義に対する積極的な取り組みを評価する。(20%) 講義中に可能な範囲でチェックし、成績は、定期試験(60%)と上記の総合評価を示す。		
到達目標	実社会で通用するビジネス・リーダーを養成することが目標で、主に中小企業における ビジネス・マーケティング戦略について分析・判断できる実践的な能力を体得させる。		
準備学習	経営に関する興味があれば、実際の企業や商店を観察して、分からないとか、もっと詳しく 知りたい事柄を講義中に質問してください。「毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと」		

受講者への要望

「学生だから楽しく遊びましょう」、「学生時代にしか遊べないので、今のうちに思いきり旅行がしたい」・・・と同様の
会話を多く聞くことがありますが、結果は惨めな人生につながります。
事実、「若い間に苦労をして頑張っていれば、後が楽」です。
その反対は、「若い間に楽しく遊んでいれば後が苦しい」と考えられるが、実際は「・・・後が無い」のです。
また、面白く楽しく興味があることをランダムに学ぶのは勉強でも趣味や雑学に近いと考えて下さい。
人生計画を立てて、自分の将来に必要なことを系統立てて学ぶのが勉強です。すなわち、人生計画が無ければ、
何を、どの順に学べばよいか？それすらも分からない学生時代となります。そして優先順位を明確にして生活し、
チェック・リストを作成して、学生生活を自分でコントロールしてください。（できれば、定年退職後も計画してください）

講義の順序とポイント

経営の基本的な知識として、企業経営を８つのマネジメント要素に分けてそのエッセンスを体系的に説明する。すなわち、
以下の８要素を統合的にマネージすることによって、経営の合理性、実現性、納得性が担保される。

1.2
経営理念と企業の価値観：企業活動の最上位に位置付けられる経営の基本思想であり、活動上の求心力となる考え方や思い。
3.4
戦略のマネジメント：どのような持続的優位性を構築し、差別化された付加価値を生み出すのかを明示する企業活動の羅針盤となるシナリオ。
5.6
マーケティングのマネジメント：独自の付加価値を顧客や市場に伝達、浸透させ、顧客の購買を誘引するための「売れるしくみ」づくり。
7.8
組織のマネジメント：企業活動を効果的、効率的に行うための最適組織設計の考え方とグループ経営、コーポレート・ガバナンスのあり方。

9.10
人材のマネジメント：企業経営における最重要資源である人材の効果的な育成・活用・処遇のしくみづくり。
11.12
資金のマネジメント：企業活動の実態を正確かつ公正に公開する会計のしくみと企業経営の「血液」である資金を潤滑に循環させるメカニズム。
13.14
オペレーションのマネジメント：戦略を実行し、成果を生み出す役割を担うオペレーションにおける組織能力の開発。
15
成長と再生のマネジメント：持続的な成長と事業再生を実現する視点としくみ。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J86013101
科目名	リーダーシップ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Leadership		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
講義概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには，その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって１つにまとめなければならないが，そのような働きかけの１つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動態的な今日，このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では，リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって，リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（テキスト）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）	プリントやレジュメをを配布する。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで１度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。		
準備学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第 3 回目の講義がはじまるまでに、「リーダーシップの特性論」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講者への要望

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。

講義の順序とポイント

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ
3. リーダーシップの特性論
4. リーダーシップの行動論① －ミシガン・オハイオ研究－
5. リーダーシップの行動論② －マネジリアル・グリッド－
6. リーダーシップの行動論③ －PM 理論－
7. 個人の動機とリーダーシップ
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）
9. リーダーシップの条件適合理論① －リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル－
10. リーダーシップの条件適合理論② －目標経路理論－
11. リーダーシップの条件適合理論③ －3 次元リーダー効果性モデル－
12. リーダーシップ論のその後の動向① －リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ－
13. リーダーシップ論のその後の動向② －EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど－
14. リーダーシップ論のその後の動向③ －リーダーシップとフォロワーシップ－
15. リーダーシップ論の講義を通して学んだこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J86013201
科目名	スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business Theory		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、市場と組織という経営学の基本概念を用いながらスポーツビジネスを解説する。より具体的には、①スポーツビジネスと呼ばれる業界の構造および②スポーツというサービスの流通の仕方を解説する。その主たる問いは、①スポーツビジネスと呼ばれる業界とは何なのかであり、②なぜそのような業界構造が生まれたのかである。 現実のスポーツビジネスはきわめて複雑である。それは、商品化された身体技能の流通に関わるからである。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	松岡憲司『スポーツ・エコノミクスの発見』法律文化社 1996　1,575 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツビジネスとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題を市場と組織という視点で説明することができる。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツビジネスの分析視座を解説する
3.「説明するということ」：社会科学の立場からスポーツを説明する方法を解説する
4.「市場 1」：スポーツの勝敗と販売市場を解説する
5.「市場 2」：スポーツ選手と労働市場を解説する
6.「市場 3」：スポーツの市場における利益率を解説する
7.「組織 1」：強化部と事業部の分業を解説する
8.「組織 2」：試合というサービスの性質を解説する
9.「組織 3」：リーグという市場構造を解説する
10.「中間総括」：これまでの講義を振り返り、ポイントをまとめる
11.「スポーツマネジメント論入門」：スポーツマネジメント論が答える問いを解説する
12.「スポーツマーケティング論入門」：スポーツマーケティング論が答える問いを解説する
13.「スポーツビジネス論の今後」：最新の研究成果および業界事情を解説する
14.「スポーツビジネス論の最新動向」：これまでの講義を総括し、最新の業界動向を解説する
15.「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J86013301
科目名	事業承継論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	長谷川　佐喜男	旧科目名称	
講義概要	日本経済の下支えをしている中小企業の経営者においても高齢化が進み、5 年から 10 年の間に多くの経営者が事業承継の時期を迎えることが想定されています。しかし、事業承継に向けた具体的な取り組みに着手している企業は 4 割程度だと言われています。現状のままでは、経営者交代の際に競争力の低下、最悪の場合は廃業の危機に直面する可能性もあります。大世代交代時期を迎える前に、事業承継の円滑化に向けた取り組みを更に強化していくことが、求められます。このような現状を踏まえて、事業承継の背景、財産承継だけではなく、経営の承継、特に経営理念・人材及び後継者教育、技術の承継等について、現状の問題点や課題を認識し、その対処法を出来るだけ事例を通じて学んで頂きたいと思います。		
教材（テキスト）	『事業承継対策の立て方・進め方』（名南ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ ネットワーク著）日本実業出版社２０１６を予定しているが、第 1 回目の講義において指示します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	取り組み姿勢 30 点　　期末レポート 70 点		
到達目標	１．事業承継が直面している問題点を探り、それぞれの課題を整理する。 ２．財務の承継については、具体的なスキームを理解する。 ３．円滑な事業承継を行うには、何が必要か各人が検討する。		
準備学習	教材の該当項目の章を事前に読むこと。 講義での配賦資料は、復習してくること。		
受講者への要望			
中小企業の事業承継が抱える多くの問題点を、財務面・経営面・人材面から学んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．事業承継の意味 ２．事業承継における重要な問題点 ３．親族内承継 ４．第三者における承継（従業員承継・M&A） ５．資産承継（相続との関係） ６．相続の基礎知識 ７．相続税の計算方法 ８．経営の承継 ９．経営承継円滑法 １０．事業承継ガイドライン １１．人の承継 １２．後継者教育 １３．理念・技術の承継 １４．老舗の事業承継 １５．事業承継計画			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J86013401
科目名	ベンチャービジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Venture Business Management		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム（流行）の都度盛んに論じられてきた。しかし今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹とした、ベンチャービジネスの側面があると捉えることも可能である。その意味において、本講座ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面から本質への接近も行いたい。このためベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの概念およびベンチャービジネスをになう企業家(起業家）の理念・戦略・組織を中心に実践的な側面も併せ講義をする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』（嵯峨野書院、2004 年） 井形浩治共著『ベンチャー型新規開業事業の新展開』（嵯峨野書院、2007） P.F.ドラッカー著上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』（ダイヤモンド社、2007）		
教材（その他）	必要に応じて講義内容についてのプリントを配布する。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」についての理解を目標として、社会においてもその知識およびその思考プロセスについて、活用が図れることを目的に学習を行う。		
準備学習	日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心掛ける。 授業で用いる資料については事前配布を行うので熟読されたい。		

受講者への要望

ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1　はじめに(本講義の概要)
2　ベンチャービジネス(以下 VB という）の定義
3　VB の変遷の歴史(一次～四次までの流行）①
4　VB の変遷の歴史(一次～四次までの流行）②
5　VB の根幹にあるイノベーション・企業（起業）家精神について①
6　VB の根幹にあるイノベーション・企業（起業）家精神について②
7　VB の根幹にあるイノベーション・企業（起業）家精神について③
8　VB の経営理念
9　VB の組織と戦略
10　VB とリーダーシップ
11　VB における資本政策と資金調達
12　VB 創造の実際（VB のデザインからプランニングへ）
13　VB の事業機会の認識(ビジネスチャンスの発見）
14　VB の経営資源の調達(ベンチャー支援策の活用）
15　　本論の将来展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J86013501
科目名	女性経営者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Women Own's Businesses		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④ＩＴ化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶ。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	毎回レジュメプリントと資料を配布する。		
教材（その他）	必要に応じてビデオ・ＤＶＤ教材を活用する。		
評価方法	各回小レポート（50%）・授業内テスト（50%）。		
到達目標	女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を知り、企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を学ぶ。 また、属性にとらわれない人材活用の意味と効果について理解する。		
準備学習	・マスコミに登場する女性経営者や、身近な女性経営者についての情報を収集しておくこと。 ・授業終了時に課したレポートテーマについて、配布資料に基づき次回までに書けるようにしておくこと。		
受講者への要望			
他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業に参加してもらいたい。 女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。			
講義の順序とポイント			
1 .女性経営者の社会的役割と現状 2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方 3. 女性経営者の競争優位性 4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題 5. ケーススタディ　事業機会の認識 6. 〃　起業プロセス 7. 〃　資金調達 8. 〃　マーケティング 9. 〃　人材活用 10. 女性が中心となるＮＰＯ 11. ＳＯＨＯと在宅ワーク 12. アメリカの女性経営者 13. ヨーロッパの女性経営者 14. アジアの女性経営者 15. 女性経営者に関わる課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J86013601
科目名	コーチング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Theory of Sport Coaching		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スポーツコーチングは、運動学、スポーツ社会学、心理学、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、栄養学などの科学や歴史、経験に裏づけられた技術指導に加え、選手との信頼関係を確立するためのコミュニケーションスキルや環境を整備するためのマネジメントスキルなど様々な要素が必要とされる。 そこで、コーチング論ではサッカーを中心に、指導者及び選手からの観点を理解し、すべてのスポーツに共通するメンタル、テクニック、フィジカルの知識を学び、トレーニングに活用する能力を身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	必要時にプリントを用意。「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）		
評価方法	平常点５０％（授業態度含む）、レポート２５％、確認テスト２５％		
到達目標	さまざまな世代にスポーツを指導するためのコーチングの基礎を学ぶ。		
準備学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。		
受講者への要望			
指導を志す学生として、遅刻・早退は認めません。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．コーチングとは ３．コーチングとスポーツ界の歴史 ４．競技スポーツと生涯スポーツのコーチング ５．各年代の発育発達によるコーチング ６．トレーニングの原理・原則 ７．トレーニング処方 ８．動機づけとその工夫 ９．各種目のトレーニング計画、発表 １０．各種目のトレーニング計画、発表 １１．コーチングの実践 １２．コーチングの実践 １３．コーチングの実践 １４．理想のコーチ像 １５．コーチングの講義を通して学んだこと（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J86013701
科目名	スポーツチームマネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	講義では、スポーツチームマネジメントの基礎的な考え方と共に、スポーツチームマネジメントに必要な知識と技術について学ぶ。また、プロスポーツ組織のマネジメントとアマチュア組織のマネジメントの差異を考察し、「人財」「資材」「財源」を生み出すチーム運営について学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜プリント配布する。		
教材（参考文献）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	適宜プリント配布する。		
評価方法	平常点（参加態度等）５０％　レポート２５％　発表２５％		
到達目標	スポーツチームマネジメントを題材に、社会組織でも応用できる基礎を学ぶ。		
準備学習	講義で学んだ内容を復習し、次回の講義予習を毎回指示する。		

受講者への要望

授業に積極的に参加し、遅刻等しないこと。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、
２．スポーツチームマネジメントとは
３．学生スポーツをめぐる社会的背景
４．プロスポーツをめぐる社会的背景
５．スポーツ組織のマネジメント概要
６．スポーツクラブマネジメント
７．総合型地域スポーツクラブ
８．中間まとめ
９．スポーツチームマネジメント
１０．スポーツチームマネジメント
１１．研究作成
１２．研究作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５．スポーツチームマネジメントの講義を通して学んだこと（ディスカッション方式）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J86013801
科目名	家族法	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
講義概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容を学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。講義にあたっては「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（テキスト）	講義用レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 家族法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣、2008 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	期末試験の成績による。講義中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．家族法の主要な条文・制度について基礎知識を習得する。 2．家族法の主要論点に関する学説・判例を理解する。 3．家族法の問題を把握し、その解決の方向を考える。		
準備学習	1．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分および関連する財産法の部分について自習をする。 2．講義中に配布した練習問題をあらかじめ解いておく。 3．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講者への要望			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法総則、契約・不法行為法などの民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
講義の順序とポイント			
1．　受講にあたっての注意／家族法序説 2．　離婚の成立 3．　離婚の効果（1）子に関する効果 4．　離婚の効果（2）財産に関する効果 5．　親子（1）嫡出推定・嫡出否認制度（1） 6．　親子（2）嫡出推定・嫡出否認制度（2） 7．　親子（3）認知／現代的な問題 8．　相続法序説 9．　相続人／法定相続分 10．相続資格の剥奪／相続の選択 11．相続財産 12．具体的相続分（1）特別受益・寄与分 13．具体的相続分（2）計算問題 14．遺産分割 15．遺言			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J86013902
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86013903
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014003
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014004
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014005
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014101
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014102
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014103
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014201
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014202
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014203
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014204
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J86014301
科目名	スポーツ生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology of Physical Exercise		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	人間の身体構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎を講義する。健康運動実践指導者養成講座のうちの１つ。 スポーツ実技に関する実践的な内容は含まない。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示または配布する		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、期末試験（５０%）。		
到達目標	生理学と解剖学の基礎を修得する。		
準備学習	常に健康や運動について関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

１.暗記する項目が多いので、自ら積極的に学習に取り組む意欲が必要である。
２.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
３.教室内は飲食禁止。
４.健康運動実践指導者の受験資格認定科目であるため、遅刻・早退は認めない。

講義の順序とポイント

１.授業ガイダンス
２.骨・骨格について
３.関節、靱帯、腱について
４.身体運動に関係する骨（その１）
５.身体運動に関係する骨（その２）
６.筋肉について
７.骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構
８.筋線維タイプと収縮特性
９.筋収縮の様式と筋力、トレーニングと骨格筋
１０.身体運動に関係する筋（その１）
１１.身体運動に関係する筋（その２）
１２.身体運動の基礎理論（その１）
１３.身体運動の基礎理論（その２）
１４.救命救急
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J86014401
科目名	スポーツ指導者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Sports Leader		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。		
教材（テキスト）	「健康運動実践指導者用テキスト」　（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考文献）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教材（その他）	印刷資料、ＤＶＤ、参考図書などを随時提示します。		
評価方法	課題解決レポートの評価を 30%、学習態度、テストなどを 70%とする。		
到達目標	スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解すること。		
準備学習	スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと.。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに、文化としてのスポーツ・レクリエーション 2　指導者の役割①－人を支える「支援者」にとってのスポーツ・レクリエーション－ 3　指導者の役割②－スポーツ・レクリエーション支援の考え方－ 4　トレーニング論① 5　トレーニング論② 6　成長・発育のスキルの発達 7　スポーツ指導の方法と運動の学習理論 8　スポーツ指導の方法と運動の学習理論 9　指導計画のたて方 １０　性，年齢に応じたスポーツ指導計画 １１　スポーツ・レクリエーション活動と安全管理 １２　スポーツと栄養 １３　スポーツと心理的な要因 １４　スポーツと法 １５　スポーツ・レクリエーション支援者の資格と期待される役割			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J86014501
科目名	スポーツ活動研究	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット等のメディアを通してスポーツや生涯学習に関する報道がなされない日はない。スポーツ・レクリエーションなどの競技や生涯学習系の活動は人々の生活に活力を与えるだけでなく、さまざまな話題を提供し、人とのコミュニケーションを深めるなどのコンテンツとなりうる。また、実践活動は学び・健康・社会性を育てる・人間ドラマを作る・絆を深めるなど日常生活になくてはならないものとなっている。 フィールドワーク京都（スポーツ活動研研究）では、スポーツ・レクリエーション・スポーツビジネス・生涯学習に関する実践活動や行政施策・ビジネス・世界の動向を題材として、人間の成長に着目し、「情報」「戦略」「コミュニケーション」をキーワードに文献とフィールドワークから、学びを深め、研究活動につなげていく。 各自の学びの成果は毎回の発表とし、スポーツ・レクリエーション・生涯学習に関するビジネスがどのような要素で成立しているかを考えていこう。また、実際のフィールドワークも実施する。スポーツイベントの観察・分析で理解を深め、報告書を作成したり、課題を発見・解決するための調査の方法を学ぶことを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
教材（参考文献）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
教材（その他）	適宜，資料配布や参考書を紹介する。		
評価方法	毎回の発表とプレゼンテーション資料、課題レポートによる総合評価		
到達目標	1．プレゼンテーション資料が作成できる。 2．みんなの前で、わかりやすく発表できるようになる。 3．報告書を作成できるようにする。		
準備学習	事前に自分が報告書作成のテーマとするスポーツについて調べておくこと。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
土曜日等にフィールドワークへの参加が求められる場合があります。また、交通費等の実費負担が発生する場合があります。 個人又はグループで視察するスポーツイベントを決定し、報告書を作成します。 また、報告書を作成するために興味のあるスポーツイベントについては事前に調べて発表してもらいます。			
講義の順序とポイント			
1. 授業ガイダンス 2. さまざまなスポーツ成立の歴史を調べよう 3.スポーツ競技者人口の動向グラフの作成 4. スポーツ組織と競技大会 5. スポーツ観戦者の動向とグラフの作成 6. スポーツで世界 1 になるために監督・選手たちがどのように取り組んだのか? 7. スポーツ活動の評価をするには? ① 8. スポーツ活動の評価をするには? ② 9. 競技スポーツの展開と視察、ビジネスとして観察しよう 10. スポーツビジネスのしくみ 11.京都スタジアムの建設計画を調べよう。 12. スポーツ観戦レポート作成 13. スポーツ観戦レポート発表 14. 都道府県のスポーツ施策を調べて発表する。 15. 2020 東京オリンピックについて－オリンピックの歴史と未来－			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J86014601
科目名	情報管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	『情報管理学』　　深井裕二(著)　コロナ社		
教材（参考文献）	適宜指示する。		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。 Twitter が利用できるケータイ・スマホ等を用意することが望ましい。(無線 LAN 環境は大学が用意)		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(45%)、レポート(20%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、経営体における科学的な意思決定について理解し、みずから考察できるようになる。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

講義の順序とポイント

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1. 受講ガイダンス
2. インターネット社会と情報管理
3. 情報収集
4. コンピュータ技術
5. 反転学習
6. インターネット技術
7. インターネットの活用
8. 情報倫理と関連法規 1
9. 情報倫理と関連法規 2
10. 反転学習
11. 情報セキュリティ 1
12. 情報セキュリティ 2
13. 企業と情報システム
14. データの運用と管理
15. システム開発とプログラミング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90003001
科目名	サービス・ラーニング	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	この科目は、社会の一員である個人を認識し、社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学の学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約１週間程度の活動を通して、協働力や適応力、行動力を身につける。また、事前学修で、実習の目的の明確化、目標設定を行うとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。評価は、活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布。		
教材（参考文献）	必要に応じて配布。		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－１]：毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、１週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての１週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

１．社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．ビジネスマナーI
５．ビジネスマナーII

実習１週間
（8 時間＋日報１時間）/日*5 日＝45 時間

６．事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
７．事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
８．事後学習 III－レポート作成
９．事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J90003002
科目名	サービス・ラーニング	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	この科目は、社会の一員である個人を認識し、社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学の学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約１週間程度の活動を通して、協働力や適応力、行動力を身につける。また、事前学修で、実習の目的の明確化、目標設定を行うとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。評価は、活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布。		
教材（参考文献）	必要に応じて配布。		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－１]：毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、１週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての１週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

１．社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．ビジネスマナーI
５．ビジネスマナーII

実習１週間
（8 時間＋日報１時間）/日*5 日＝45 時間

６．事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
７．事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
８．事後学習 III－レポート作成
９．事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J90004001
科目名	健康医療学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Medicine		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	我が国の急速な高齢化に伴い、脳血管疾患、認知症、運動器疾患による要介護状態も増加している。そのため、健康管理、疾病予防、健康で自立した生活の健康寿命を伸ばすための介護予防が重要となっている。さらに、心疾患、糖尿病などの生活習慣病は慢性経過をたどり、医療費の高騰を招いている。本講義ではこれらを踏まえ、健康管理、生活習慣病の予防、運動機能の維持・向上を目指した介護予防、ならびに運動管理に必要なメディカルチェックなどの知識を解説し、医事法規にも触れる。		
教材（テキスト）	配布プリントを中心に解説する。		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト』（健康・体力づくり事業財団）		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．健康の概念、日本の現在の主要な健康問題を認識する。 ２．生活習慣病とその予防、介護予防の概要を理解する。 ３．健康の維持・増進、疾病予防のための運動を安全に行うのに必要な知識を修得する。		
準備学習	毎回の講義を復習し、医学医療用語を修得する。		

受講者への要望

新聞などを読み、現代の医療問題の認識を深めておく。

講義の順序とポイント

１．健康の概念
２．現代社会の健康問題（少子高齢化時代、健康生活づくり）
３．生活習慣病（メタボリックシンドローム、生活習慣）
４．生活習慣病予防（身体活動・運動の疫学研究、特定健診・保健指導）
５．疾病構造の変化と国民医療費
６．わが国の高齢社会の現状
７．加齢による機能低下と高齢者の総合機能評価
８．介護予防
９．健診項目（血液・尿検査）
１０．健診項目（生理機能検査）
１１．運動の事前メディカルチェック
１２．安静時心電図の読み方
１３．医療総論（医の倫理）
１４．医療総論（医事法制）
１５．医療総論（医療制度）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J90004002
科目名	健康医療学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Medicine		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	我が国の急速な高齢化に伴い、脳血管疾患、認知症、運動器疾患による要介護状態も増加している。そのため、健康管理、疾病予防、健康で自立した生活の健康寿命を伸ばすための介護予防が重要となっている。さらに、心疾患、糖尿病などの生活習慣病は慢性経過をたどり、医療費の高騰を招いている。本講義ではこれらを踏まえ、健康管理、生活習慣病の予防、運動機能の維持・向上を目指した介護予防、ならびに運動管理に必要なメディカルチェックなどの知識を解説し、医事法規にも触れる。		
教材（テキスト）	配布プリントを中心に解説する。		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト』（健康・体力づくり事業財団）		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．健康の概念、日本の現在の主要な健康問題を認識する。 ２．生活習慣病とその予防、介護予防の概要を理解する。 ３．健康の維持・増進、疾病予防のための運動を安全に行うのに必要な知識を修得する。		
準備学習	毎回の講義を復習し、医学医療用語を修得する。		

受講者への要望

新聞などを読み、現代の医療問題の認識を深めておく。

講義の順序とポイント

１．健康の概念
２．現代社会の健康問題（少子高齢化時代、健康生活づくり）
３．生活習慣病（メタボリックシンドローム、生活習慣）
４．生活習慣病予防（身体活動・運動の疫学研究、特定健診・保健指導）
５．疾病構造の変化と国民医療費
６．わが国の高齢社会の現状
７．加齢による機能低下と高齢者の総合機能評価
８．介護予防
９．健診項目（血液・尿検査）
１０．健診項目（生理機能検査）
１１．運動の事前メディカルチェック
１２．安静時心電図の読み方
１３．医療総論（医の倫理）
１４．医療総論（医事法制）
１５．医療総論（医療制度）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J90005001
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みやはたらきを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第 9 版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	1．　身体の構造について理解する。 2．　人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 3．　身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
準備学習	1．　予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 2．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 3．　小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

1．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2．　小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
3．　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4．　講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

1．　人体の基本構造と自律神経
2．　消化管の構造と機能: 咀嚼から胃での消化
3．　消化管の構造と機能: 腸での消化と吸収
4．　消化管の構造と機能: 膵臓・肝臓・胆嚢
5．　呼吸器の構造と換気
6．　ガス交換とガスの運搬
7．　呼吸運動の調節
8．　血液の組性と血液凝固系
9．　心臓の構造と拍出機能
10．　心周期
11．　末梢循環系の構造と機能
12．　血液の循環調節
13．　尿の生成
14．　体液調節と酸塩基平衡（1）
15．　体液調節と酸塩基平衡（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90005002
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みやはたらきを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第 9 版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	1．　身体の構造について理解する。 2．　人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 3．　身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
準備学習	1．　予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 2．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 3．　小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

1．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2．　小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
3．　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4．　講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

1．　人体の基本構造と自律神経
2．　消化管の構造と機能: 咀嚼から胃での消化
3．　消化管の構造と機能: 腸での消化と吸収
4．　消化管の構造と機能: 膵臓・肝臓・胆嚢
5．　呼吸器の構造と換気
6．　ガス交換とガスの運搬
7．　呼吸運動の調節
8．　血液の組性と血液凝固系
9．　心臓の構造と拍出機能
10．　心周期
11．　末梢循環系の構造と機能
12．　血液の循環調節
13．　尿の生成
14．　体液調節と酸塩基平衡（1）
15．　体液調節と酸塩基平衡（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90005003
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	ヒトのからだの仕組みや働きを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（テキスト）	『入門人体解剖学』（南江堂） 藤田恒夫 著 5,400 円		
教材（参考文献）	『プロメテウス解剖学アトラス－解剖学総論／運動器系』（医学書院） 坂井建雄・松村譲兒 監訳 12,960 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	細胞・組織・器官の成り立ち、人体における動物性機能系（骨格・筋肉系、神経系、感覚系）の働きを説明できる。		
準備学習	生物学（高等学校）の復習, 毎回の講義内容の復習		
受講者への要望			
人体解剖学用語の修得に努める。			
講義の順序とポイント			
１．細胞から個体１（生物体の基本的構成要素である細胞の構造） ２．細胞から個体２（組織・器官） ３．細胞から個体３（個体の形成） ４．筋の収縮１（骨格筋の構造、筋収縮） ５．筋の収縮２（収縮様式、筋電図） ６．骨格と関節（人体を構成する骨格・関節の構造） ７．頭頸部（頭頸部と脊柱、胸鎖乳突筋、僧帽筋、肩峰・肩甲棘） ８．脊柱と胸郭 （脊柱、肋骨、肋間筋群、腰椎の構造） ９．上肢（肩関節、肘関節、上腕、前腕、手関節） １０．骨盤と下肢 （骨盤、大腿骨頭、股関節、膝関節、足関節） １１．神経系１（神経細胞、中枢神経系（脊髄、脳幹、小脳）） １２．神経系２（中枢神経系（間脳、大脳）、脳室、脳脊髄液） １３．神経系３（末梢神経系（脊髄神経、脳神経）） １４．神経系４（下行伝導路、上行伝導路） １５．感覚系（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、痛覚）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90006001
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第９版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．身体の構造について理解する。 ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 ３．身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
準備学習	１．　予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．　小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．　小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．　講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．　自律神経系
２．　視床下部と下垂体
３．　ホルモンによる調節（１）
４．　ホルモンによる調節（２）
５．　骨格と骨格筋
６．　上肢の骨格と筋
７．　下肢の骨格と筋
８．　筋の収縮
９．　神経系の構造と機能
１０．　脊髄と脳
１１．　脊髄・脳神経と脳の高次機能
１２．　感覚器
１３．　生体防御と体温調節（１）
１４．　生体防御と体温調節（２）
１５．　生殖と発生

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90006002
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第９版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．身体の構造について理解する。 ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 ３．身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
準備学習	１．　予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．　小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．　小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．　講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．　自律神経系
２．　視床下部と下垂体
３．　ホルモンによる調節（１）
４．　ホルモンによる調節（２）
５．　骨格と骨格筋
６．　上肢の骨格と筋
７．　下肢の骨格と筋
８．　筋の収縮
９．　神経系の構造と機能
１０．　脊髄と脳
１１．　脊髄・脳神経と脳の高次機能
１２．　感覚器
１３．　生体防御と体温調節（１）
１４．　生体防御と体温調節（２）
１５．　生殖と発生

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90006003
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（テキスト）	配付プリントを使用する。		
教材（参考文献）	『標準生理学』（医学書院）　小澤瀞司・福田康一郎 総編集 12,960 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	人体における植物性機能系（血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫系）の働きが説明できる。		
準備学習	生物学（高等学校）の復習、毎回の講義内容の復習		
受講者への要望			
人体生理学ならびに医学用語の修得に努める。			
講義の順序とポイント			
１．人体の植物性機能（内部環境の恒常性、ホメオスターシス） ２．血液１（血液組成、血液型） ３．血液２（止血、血液凝固） ４．呼吸１（内呼吸、血液ガス） ５．呼吸２（外呼吸、呼吸器系の構造、呼吸運動、換気） ６．循環１（心臓の構造、心収縮、心周期、心拍出） ７．循環２（刺激伝導系、活動電位、心電図） ８．循環３（脈管系、脈波、血圧、血流） ９．消化吸収（消化器系の構造と機能、消化管運動、分泌、吸収） １０．栄養代謝（栄養素、エネルギー代謝） １１．腎機能と体液調節１（老廃物の排泄、腎臓の構造と機能） １２．腎機能と体液調節２（体液量調節、酸塩基平衡） １３．内分泌１（生体の内部環境の調節系） １４．内分泌２（生殖、性の分化、成長と老化） １５．生体防御（病原性生物等による感染を防ぐ免疫系、体温調節系）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90007001
科目名	生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	生化学は、すべての生物に見られる構造、機能、化学反応を分子レベルで理解し、生物における共通の基本原理を学ぶ学問である。本講義では、多様な生命現象を物理化学的視点から理解するために、生命を構成する生体高分子としてのタンパク質、脂質、核酸、糖質の構造と機能、エネルギー代謝としての異化・同化、生命の根源を司る自己複製メカニズム、自己と非自己を識別し、細胞外環境変化を細胞内へ伝達する膜系と膜系を介する物質輸送とシグナル伝達についての基礎知識を十分に理解し、修得する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　第１３版』　（医学書院）　三輪一智、中恵一　2,200 円		
教材（参考文献）	『イラストレイテッド生化学　原書６版』　（丸善出版）　Richard A. Harvey, Denise R. Ferrier　7,800 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜講義用プリントを配布する。		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．　生物を構成する生体成分について分子レベルで理解する。 ２．　生体の機能制御を担う酵素と触媒作用について理解する。 ３．　生体エネルギー産生と代謝の仕組みについて理解する。 ４．　遺伝情報とその発現メカニズムについて理解する。		
準備学習	１．　予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．　講義終了後に、配布資料・プリントを見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．　小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．　小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．　講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．　生化学の基礎
２．　膜タンパク質と受容体シグナル
３．　糖類・脂質・タンパク質（１）
４．　糖類・脂質・タンパク質（２）
５．　核酸・水・無機質
６．　血液と尿
７．　ホルモンと生理活性物質
８．　代謝・酵素
９．　ビタミン・補酵素
１０．　糖代謝
１１．　脂質代謝
１２．　タンパク質代謝
１３．　遺伝情報（１）
１４．　遺伝情報（２）
１５．　核酸代謝と代謝異常

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90008001
科目名	衛生学	単位数	1
科目名（英語表記）	Hygienics		
担当者名	岩永　資隆	旧科目名称	
講義概要	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持増進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的環境要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。自然要因である、水、公害問題、食品、栄養、感染症などと、社会要因である、学校保健、産業保健、生活習慣病に関する内容を中心に、社会と健康への影響について学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生統計協会） 『衛生行政大綱』（財団法人 日本公衆衛生協会） 『衛生法規の要点』（財団法人 日本公衆衛生協会） 『学校保健の世界』（杏林書院） 『学校医・学校保健ハンドブック』（光文堂）		
教材（その他）	配布資料		
評価方法	1．受講態度（10%） 2．授業内小テスト（10%） 3．レポート課題（30%） 4．定期試験（50%）		
到達目標	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持増進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的環境要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。		
準備学習	「京学なび」を利用して講義資料を配布するので、講義開始までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
新聞、TV、インターネット等のメディアに取り上げられる、健康、水、公害問題、食品、栄養、感染症、学校保健、産業保健、生活習慣病などの記事を興味を持って視聴・熟読し、それらの背景や関連事項についての資料を検索してよく理解し、自分なりの考え方を持つこと。			
講義の順序とポイント			
1．入門（衛生学序論、歴史、研究方法）：4/13（木） 2．環境（物理・化学的条件、室内環境衛生学、公害、地球温暖化）：4/20（木） 3．食品衛生（食中毒）：4/27（木） 4．感染症対策（感染症法、予防対策、疾病予防と予防接種）：5/11（木） 5．学校保健（健診、伝染病）：5/18（木） 6．産業保健（労働衛生法、職業病、労働災害、検診）：5/25（木） 7．生活習慣病（メタボリックシンドローム、健診）：6/1（木） 8．保健統計：6/8（木）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90008002
科目名	衛生学	単位数	1
科目名（英語表記）	Hygienics		
担当者名	岩永　資隆	旧科目名称	
講義概要	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持増進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的環境要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。自然要因である、水、公害問題、食品、栄養、感染症などと、社会要因である、学校保健、産業保健、生活習慣病に関する内容を中心に、社会と健康への影響について学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生統計協会） 『衛生行政大綱』（財団法人 日本公衆衛生協会） 『衛生法規の要点』（財団法人 日本公衆衛生協会） 『学校保健の世界』（杏林書院） 『学校医・学校保健ハンドブック』（光文堂）		
教材（その他）	配布資料		
評価方法	1．受講態度（10%） 2．授業内小テスト（10%） 3．レポート課題（30%） 4．定期試験（50%）		
到達目標	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持増進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的環境要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。		
準備学習	「京学なび」を利用して講義資料を配布するので、講義開始までに読んでおくこと。		
受講者への要望			
新聞、TV、インターネット等のメディアに取り上げられる、健康、水、公害問題、食品、栄養、感染症、学校保健、産業保健、生活習慣病などの記事を興味を持って視聴・熟読し、それらの背景や関連事項についての資料を検索してよく理解し、自分なりの考え方を持つこと。			
講義の順序とポイント			
1．入門（衛生学序論、歴史、研究方法） 2．環境（物理・化学的条件、室内環境衛生学、公害、地球温暖化） 3．食品衛生（食中毒） 4．感染症対策（感染症法、予防対策、疾病予防と予防接種） 5．学校保健（健診、伝染病） 6．産業保健（労働衛生法、職業病、労働災害、検診） 7．生活習慣病（メタボリックシンドローム、健診） 8．保健統計			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90009001
科目名	公衆衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Health		
担当者名	里村　一成	旧科目名称	
講義概要	公衆衛生の基本となる知識や関連法規の理解とともに日本における公衆衛生の現状について学習する。また、喫煙や飲酒等を含む生活習慣や、ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ対策等公衆衛生分野において問題となっているトピックについて、そのアプローチや対策等について実例を挙げつつ知見を広げる。健康を維持増進するためには個人的な努力だけでなく、地域社会の環境改善、コミュニティーにおける互いの協力の必要があることについて学ぶ。		
教材（テキスト）	『シンプル公衆衛生学』（南江堂）2592 円（税込み）		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）2500 円（税込み）		
教材（その他）	適宜、授業の際にプリントを配布する。		
評価方法	定期試験により評価する		
到達目標	個人だけでなく集団としての健康増進、疾病予防を考えるという公衆衛生的な考え方を身につける。 １．日本における保健体制、健康政策を理解する ２．保健・医療・福祉の連携の必要性と現状、及びその問題点について理解する。 ３．疫学的な考え方や衛生統計を理解し、地域保健等にどのように役立てるかを知る。 ４．実践活動としての健康教育、ヘルスプロモーション等について理解する。		
準備学習	授業前にテキストを読んでおくことが望ましい。また、新聞等で社会情勢をみておくことも必要である。		
受講者への要望			
遠慮せずに理解できないこと等について質問すること。 授業中に質問できなかった場合は、メール等で質問することが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．健康の概念と公衆衛生 ２．公衆衛生行政と関連衛生法規 ３．医療保健制度と介護、社会保障 ４．健康教育、ヘルスプロモーションと行動変容 ５．母子保健 ６．成人・老人保健 ７．学校保健 ８．精神保健 ９．地域保健 １０．感染症対策 １１．衛生統計と健康の指標、疫学 １２．食品衛生 １３．環境衛生 １４．労働衛生 １５．健康危機管理、国際保健			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90009002
科目名	公衆衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Health		
担当者名	里村　一成	旧科目名称	
講義概要	公衆衛生の基本となる知識や関連法規の理解とともに日本における公衆衛生の現状について学習する。また、喫煙や飲酒等を含む生活習慣や、ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ対策等公衆衛生分野において問題となっているトピックについて、そのアプローチや対策等について実例を挙げつつ知見を広げる。健康を維持増進するためには個人的な努力だけでなく、地域社会の環境改善、コミュニティーにおける互いの協力の必要があることについて学ぶ。		
教材（テキスト）	『シンプル公衆衛生学』（南江堂）2592 円（税込み）		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）2500 円（税込み）		
教材（その他）	適宜、授業の際にプリントを配布する。		
評価方法	定期試験により評価する		
到達目標	個人だけでなく集団としての健康増進、疾病予防を考えるという公衆衛生的な考え方を身につける。 １．日本における保健体制、健康政策を理解する ２．保健・医療・福祉の連携の必要性と現状、及びその問題点について理解する。 ３．疫学的な考え方や衛生統計を理解し、地域保健等にどのように役立てるかを知る。 ４．実践活動としての健康教育、ヘルスプロモーション等について理解する。		
準備学習	授業前にテキストを読んでおくことが望ましい。また、新聞等で社会情勢をみておくことも必要である。		
受講者への要望			
遠慮せずに理解できないこと等について質問すること。 授業中に質問できなかった場合は、メール等で質問することが必要である。			
講義の順序とポイント			
１．健康の概念と公衆衛生 ２．公衆衛生行政と関連衛生法規 ３．医療保健制度と介護、社会保障 ４．健康教育、ヘルスプロモーションと行動変容 ５．母子保健 ６．成人・老人保健 ７．学校保健 ８．精神保健 ９．地域保健 １０．感染症対策 １１．衛生統計と健康の指標、疫学 １２．食品衛生 １３．環境衛生 １４．労働衛生 １５．健康危機管理、国際保健			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90010001
科目名	栄養学	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Nutrition		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	栄養とは、生物が食物を摂取することによって、生命および健康の維持、発育・成長などの生命活動に必要な物質、すなわち栄養素を体内に取り込み、利用する営みである。本講義では、栄養素の種類とそれらの構造および生理機能、消化・吸収、エネルギー代謝などの基本的概念を正しく理解することを目的とする。さらに、健康の保持・増進、疾病予防と回復促進、体づくりのために必要な栄養と食生活など、実践的な栄養学についても紹介する。		
教材（テキスト）	特に定めない		
教材（参考文献）	『ポケットアトラス栄養学』（ガイアブックス）　ハンス・コンラート・ビーザルスキ 著 2,808 円 『基礎栄養学（健康・栄養科学シリーズ）改訂第 4 版』（南江堂）　奥恒行、柴田克己 編 3,024 円		
教材（その他）	授業中にプリントを配布する。 京学なびおよび共通ドライブによりファイルを提供する。		
評価方法	定期テスト（50%）、授業内小テスト（30%）、レポート（20%）		
到達目標	健康づくり・体づくりなどの実践の礎とするために、栄養の基礎知識を正しく理解する。		
準備学習	毎回、京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず、関連分野についても発展的に調べておく。		
受講者への要望			
講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。 日頃から新聞等のメディアを意識し、自分自身が摂取している食事や食品成分に関心を持っておくこと。			
講義の順序とポイント			
1．はじめに　-栄養学とは- 2．栄養成分の消化吸収 3．糖質の機能と代謝 4．アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 5．脂質の機能と代謝 6．エネルギー代謝 7．ビタミン、ミネラルおよび水の生理作用 8．疾病予防や健康づくり・体づくりのための食生活			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90011001
科目名	病理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathology		
担当者名	渡邊　信	旧科目名称	
講義概要	ヒトにおける疾病の成り立ちについて学ぶ。病理学は、疾病の成立機序、病態形成過程を解明する学問である。本講義では、生命活動が異常をきたした状態に対する理解を深める。具体的には、異常状態の形態学的特徴である病変として、感染に対して組織に生じる炎症、循環障害、腫瘍などを取り上げ、さらに個体側要因である先天異常、代謝異常、免疫異常について学ぶ。症状に対する病態生理、疾病に対する医療についても言及する。また、健康スポーツ学科学生については、身体内部における変化に関する基本的な用語などを学ぶ。このことはスポーツ医学を学ぶ中にも関連し、また基礎医学を学ぶことからも関連する内容が多くあるために教科書をもとに講義内容をノートすること。		
教材（テキスト）	「病理学ノート」を購入していただきます。教科書販売時に購入してください。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	皆さんが専門とする現場ではここで学んだ疾患を２度３度と学ぶ機会が多い。その折りにこの「病理学ノート」を思い出してもう一度復習、さらには詳しく勉強して戴きたい。ここで勉強したことを全て記憶し続けることは不可能であり、自分が幾度となく遭遇する疾患をしっかりと理解する基礎として戴きたい。		
準備学習	これからの学生は講義を聞く準備をどうやってするかが問われています。この「病理学ノート」に書いてある言葉をキーワードにして、予習をし、講義中の集中力を高めて戴きたい。		
受講者への要望			
講義は密度が濃く、講義中の集中力を高めないと理解できないことがあります。講義の邪魔になる行為（遅刻、私語など）は厳重に謹んで戴きたい。間違っても、「病理学ノート」に記載してあることだけで十分だと考えないで戴きたい。			
講義の順序とポイント			
１．退行性病変 ２．代謝障害１ ３．代謝障害２ ４．代謝障害３ ５．循環障害１ ６．循環障害２ ７．循環障害３ ８．奇形 ９．進行性病変 10．炎症総論１ 11．炎症総論２ 12．免疫総論１ 13．免疫総論２ 14．腫瘍総論１ 15．腫瘍総論２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J90011002
科目名	病理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathology		
担当者名	渡邊　信	旧科目名称	
講義概要	ヒトにおける疾病の成り立ちについて学ぶ。病理学は、疾病の成立機序、病態形成過程を解明する学問である。本講義では、生命活動が異常をきたした状態に対する理解を深める。具体的には、異常状態の形態学的特徴である病変として、感染に対して組織に生じる炎症、循環障害、腫瘍などを取り上げ、さらに個体側要因である先天異常、代謝異常、免疫異常について学ぶ。症状に対する病態生理、疾病に対する医療についても言及する。また、健康スポーツ学科学生については、身体内部における変化に関する基本的な用語などを学ぶ。このことはスポーツ医学を学ぶ中にも関連し、また基礎医学を学ぶことからも関連する内容が多くあるために教科書をもとに講義内容をノートすること。		
教材（テキスト）	「病理学ノート」を購入していただきます。教科書販売時に購入してください。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	皆さんが専門とする現場ではここで学んだ疾患を２度３度と学ぶ機会が多い。その折りにこの「病理学ノート」を思い出してもう一度復習、さらには詳しく勉強して戴きたい。ここで勉強したことを全て記憶し続けることは不可能であり、自分が幾度となく遭遇する疾患をしっかりと理解する基礎として戴きたい。		
準備学習	これからの学生は講義を聞く準備をどうやってするかが問われています。この「病理学ノート」に書いてある言葉をキーワードにして、予習をし、講義中の集中力を高めて戴きたい。		
受講者への要望			
講義は密度が濃く、講義中の集中力を高めないと理解できないことがあります。講義の邪魔になる行為（遅刻、私語など）は厳重に謹んで戴きたい。間違っても、「病理学ノート」に記載してあることだけで十分だと考えないで戴きたい。			
講義の順序とポイント			
１．退行性病変 ２．代謝障害１ ３．代謝障害２ ４．代謝障害３ ５．循環障害１ ６．循環障害２ ７．循環障害３ ８．奇形 ９．進行性病変 10．炎症総論１ 11．炎症総論２ 12．免疫総論１ 13．免疫総論２ 14．腫瘍総論１ 15．腫瘍総論２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J90012001
科目名	内科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Internal Medicine		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	内科学
講義概要	ここ半世紀、日本を含む先進国では、その疾病・死亡構造は感染症から生活習慣病へと大きく変貌してきた。がん、脳血管障害、心臓病、糖尿病などの代謝疾患、アレルギー性疾患などの生活習慣病は、個々人の誕生から現在に至る数十年間にわたる環境履歴により形成されたライフスタイルと遺伝素因が複雑に交絡しあい、加齢による効果と相まって発症する。しかもその発症率は 40~50 歳代から大きく増加することから、我が国のように少子高齢化が急激に進行する社会では、大きな健康脅威となっている。本講義では、このような生活習慣病増加の制御を中心に講義を行う。		
教材（テキスト）	『図解病態治療学』　（診断と治療社）　丹羽利充　3,300 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	スライド		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	生活習慣病を中心に、今日発症頻度の多い疾患について、十分に理解すること。		
準備学習	授業の前に、テキストを読んで予習をしておくこと。また、授業では、触れていない分野に於いても、テキストで自習すること。		

受講者への要望

教科書（テキスト）は、わかりやすく疾患の病態と治療について簡潔にまとめてあるので、この教科書を暗記するくらい、繰り返し読んでいただきたい。また、授業では、ポイントとなる所を講義するので、必ず出席してもらいたい。

講義の順序とポイント

1．健康と疾患、およびその主な症状・徴候
2．虚血性心疾患
3．高血圧と脂質異常症
4．肺炎と気管支喘息
5．肺癌
6．食道、胃、十二指腸の疾患とピロリ菌感染
7．肝臓の疾患(1)
8．肝臓の疾患（2）
9．膵臓の疾患
10．急性腎不全と慢性腎不全
11．糖尿病とメタボリックシンドローム
12．生活習慣病と健康寿命
13．脳血管障害
14．感染症
15．中高年の健康的な食事と栄養

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90013001
科目名	小児科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatrics		
担当者名	全　有耳	旧科目名称	
講義概要	子どもは、出生から身体の成長と発達を経て大人になる。小児科学は、出生から思春期までの、身体の構造と機能の異常を扱う診療科目である。本講義では、新生児と幼児期・学童期の成長と発達、出生時や赤ちゃんの観察と神経心理学的評価、運動・言語・適応行動の発達の指標を学ぶ。また、小児の健康障害として先天異常（ダウン症等)、脳性麻痺、呼吸・循環器疾患、感染症等、各種疾患の原因および経過と症状、治療について解説をする。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	『小児科学・発達障害学第２版』（医学書院）　宮尾益知　編　3,500 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内の小テスト等(30%)、授業中に課すレポート(70%)		
到達目標	出生から成人に至るまでの身体および精神の成長と発達を正常及び異常である疾患の両面から理解することを目標とする。		
準備学習	8 つの単元について授業内に小テストを行うので復習すること。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．小児の発達と成長　11/14（火）冨井 ２．胎児医学と出生前医学、周産期医学　11/21（火）髙井 ３．脳性麻痺と運動器疾患　11/28（火）太田 ４．てんかんと痙攣性疾患　12/5（火）　阪上 ５．中枢神経の奇形、変性疾患、脳腫瘍など　12/12（火）河辺 ６．感染症　12/19（火）金田 ７．発達障害の診断と障害特性　1/16（火）全 ８．その他[循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病・アレルギー疾患、血液疾患、泌尿生殖器疾患、精　　神疾患（心身症を含む）] 1/23（火）金山			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J90014001
科目名	精神医学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatry		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
講義概要	精神医学は、精神の異常あるいは病的な状態の理解と治療を行なう診療科目である。本講義では、意識・思考形式・思考内容・欲動・気分・感情・自我意識などの精神症候に関する基本的概念と、小児・思春期・成人・高齢者の精神心理的特徴、パーソナリティ（人格）、精神評価、診断分類（ＩＣＤ、ＤＳＭ）、ならびに主要な精神疾患（統合失調症、気分障害、不安障害、物質関連障害、てんかん、摂食障害、睡眠障害）の特徴と治療、薬剤の副作用、メンタルヘルスについて概説する。		
教材（テキスト）	『精神医学 マイテキスト 改訂 2 版』（金芳堂） 武田雅俊 監　3,800 円		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	１．基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 ２．精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 ３．代表的な精神疾患の特徴と病態、治療方針が理解できる。		
準備学習	講義終了時に次回に講義する範囲（教科書 p. **から p.***まで）を指定するので、熟読しておくこと。		
受講者への要望			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. はじめに（精神医学・医療の重要性、精神医学の方法的特性）：6/13（火）⑤ 2. 精神症候学（意識障害・幻覚・妄想・躁状態・うつ状態・自我意識障害）：6/20（火）⑤ 3. 精神疾患各論①　統合失調症：6/20（火）⑥ 4. 精神疾患各論②　気分障害（うつ病、双極性障害）：6/27（火）⑤　（※教室変更→N303） 5. 精神疾患各論③　神経症性障害（不安障害、解離性障害、身体化障害）：7/11（火）⑤ 6. 精神疾患各論④　小児・思春期精神障害（自閉症スペクトラム、てんかん、摂食障害、パーソナリティ障害）：7/11（火）⑥ 7. 精神疾患各論⑤　器質性精神障害その他（物質関連性障害、認知症、睡眠障害）7/18（火）⑤ 8. 精神科治療総論（薬物療法、精神療法、身体療法）7/18（火）⑥			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90015001
科目名	リハビリテーション概論	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Rehabilitation		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーションは、外傷および疾病により生じた機能障害、能力低下、社会的不利に対して、訓練や指導、社会的支援により、障害の回復と自立を促し、全人的な社会復帰を目指す取り組みである。本講義では、リハビリテーションの理念と歴史について、医療的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、現代の日本の医療および福祉とリハビリテーションの現状を取り上げ、その課題について解説をする。		
教材（テキスト）	『リハビリテーション総論 ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のための要点整理と用語解説　改訂第 2 版』　（診断と治療社） 椿原彰夫 著 3,888 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	講義内容のスライド		
評価方法	1．講義と臨床実習では必ず出席をとる。適時実施される小テスト、レポートを評価に加味する。 ２．系統講義終了時の定期試験を行う。追再試験も同様とする。 ３．総合成績評価		
到達目標	１．リハビリテーションの概念を理解する。 ２．運動器障害、脳血管障害、内部障害、摂食嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を理解する。 ３．リハビリテーションチーム医療の重要性について理解する。 ４．最新のリハビリテーション医療について理解する。		
準備学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい 各講義後に確認の小テストを実施する			
講義の順序とポイント			
１．リハビリテーション概論 1 ２．リハビリテーション概論 2 ３．リハシステム ４．障害評価 1 ５．障害評価 2 ６．理学療法 ７．作業療法 ８．義肢装具療法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90016001
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Rehabilitation Medicine		
担当者名	山﨑　隆仁	旧科目名称	
講義概要	リハビリテーション医学は、疾病の医学的治療によって回復できない、身体および精神の能力低下や社会的不利に対して、専門的な訓練と指導により、社会復帰と参加を促進する取り組みである。本講義では、リハビリテーションの評価と治療の枠組み、チーム・アプローチと各職種の役割（医師、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、メディカルソーシャルワーカー、運動指導士他)、リハビリテーションでの基本的な評価と治療 の方法を解説する。また理学療法士、作業療法士、義肢装具士に講義に来ていただいて、実務について理解を深める。		
教材（テキスト）	『リハビリテーション総論 ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のための要点整理と用語解説　改訂第 2 版』　（診断と治療社） 椿原彰夫 著 3,888 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	1. 講義と臨床実習では必ず出席をとる。適時実施される小テスト、レポートを評価に加味する。 ２．系統講義終了時の定期試験を行う。追再試験も同様とする。 ３．総合成績評価		
到達目標	1. リハビリテーションに関与する各疾患について理解を深める。 2. 運動器リハビリテーションについては特に知識を得る。 3. リハビリテーション関連職種（理学療法士、作業療法士）の業務内容について理解を深める。		
準備学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		
受講者への要望			
講義中は私語は行わない。 質問事項があれば適宜これを受ける。 各講義後に確認の小テストを実施する。 リハビリテーションについて興味を抱いていただきたい。			
講義の順序とポイント			
1. 運動器リハビリテーション（1）（奥田）：4/13（木） 2. 作業療法の実際　作業療法士にて(1)（内座）：4/20 （木） 3.関節リウマチ（山崎）：4/27（木） 4. 理学療法の実際　理学療法士にて（山崎）：5/11（木） 5.作業療法の実際　作業療法士にて(2)（内座）： 5/18（木） 6. 切断・神経筋疾患（山崎）：5/25（木） 7. 高次脳機能障害（山崎）：6/1（木） 8. 発達障害・CP（山崎）：6/8（木） 9. 骨粗鬆症（奥田）：6/15（木） 10. 作業療法の実際　作業療法士にて(3)（内座）：6/22（木） 11.脊髄損傷（山崎）：6/29（木） 12. 運動器リハビリテーション（２）（山崎）：7/6（木） 13. 関節疾患・アスリハ・障碍者スポーツ（山崎）：7/13（木） 14. 慢性疼痛・生活習慣病（山崎）：7/20（木） 15. 講義内容まとめ（山崎）：7/27（木）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90017001
科目名	音声学	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	ヒトが話すことは、社会生活を送るうえで欠かせない。話すことは、言語という信号を話し手が発信することであり、聞き手が受信をすることで音声コミュニケーションは成立する。音声学は、ヒトの話し言葉（音声言語）の科学であり、音声言語の生成と知覚についての学問である。音声言語の特徴を理解することで、日常や仕事での良好なやりとりのための条件を知ることができる。本講義では、ヒト音声の基本的事項（分節と変動）と日本語音声の特徴（母音と子音、超分節）を提示する。ヒトの身体がどのように音声信号を生み出すのか、ヒトはどのようにして連続的な音信号から言葉を解読するのか、代表的な実験を紹介しながら、科学的な疑問と解決の筋道を提示する。		
教材（テキスト）	『基礎から学ぶ 音声学講義』 （研究社）加藤重広、安藤智子 著 2,700 円＋税		
教材（参考文献）	『実践音声学入門』(大修館） ジョン・キャットフォード 著 2,700 円 『新ことばの科学入門（医学書院)』 廣瀬肇 訳 6, 696 円		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	1．音声学の基本的事項（母音と子音、言語音の生成と知覚）を理解する。 2．ヒト音声の理解のために行われてきた諸実験（方法、結果、考察）を知る。 3．日常の音声言語コミュニケーションの現象を説明できる。		
準備学習	講義の内容を復習する。		
受講者への要望			
毎回の講義で示される内容（背景、疑問と実験、用語等の解説、現象の説明）を整理しておくこと。			
講義の順序とポイント			

（1）音声学 phonetics の世界

1．　音声学の領域と応用、音声学者　　シネマ：「マイフェアレディ」（前半）
2．　音素と音声、異音、音声記号 IPA　　シネマ：「マイフェアレディ」（後半）
3．　音声生成の仕組み：　呼吸・発声、共鳴、構音　　神経系・運動・声道空気力学
4．　言語音（母音と子音）の生成と知覚　　音声信号を見る、「分節の問題」と逆転音声

（2）音声生成と知覚の諸実験

5．　母音の生成　　音声の音響理論、声道モデル、音響分析、Fant の研究
6．　子音の出し分けと識別　　調音点が異なる子音の音響情報の違い　　Stevens らの実験
7．　音環境（前後の音）の影響　　パラトグラムでの観察、構音（運動）の変動　Daniloff の実験
8．　連続音声の理解　　知覚修復　　Warren の実験、視聴覚情報の統合　McGurk 効果
9．　選択的注意と適応行動　　Cocktail Party 効果、騒音下での声＝　Lombard 効果

（3）日常の音声言語コミュニケーションの諸現象

10．　音声（言語）の発達　　子音　Eimas の実験　、母音　Kihl の実験 、子音の獲得（順序性）
11．　話しことばの速さ　　News キャスター、最大能力との関係、話芸　『志の輔落語』
12．　言い誤りの起源　　スピーチエラーの種別、　早口言葉、　いいまつがい（糸井重里）
13．　言語特有の分節・超分節特徴　　2L 学習（特殊音素と抑揚)、外国人の日本語発話、世界言語
14．　音声情報からの話者認識　　犯罪捜査での利用、話者の年齢当て、老人音声の特徴
15．　音声の自動認識　　機械・ソフトウエアによる音声認識、日本語辞書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2017	授業コード	J90018001
科目名	高次脳科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Higher Brain Mechanism		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
講義概要	大脳は、ヒトが複雑な社会を発展させ、その環境に適応した生活を営む過程で進化してきた器官であり、思考、言語、記憶、認知、行為などの高次の機能を司っている。脳の活動と働きは、ｆＭＲＩ 等の画像診断法や検査課題により、近年飛躍的に理解が進んでいる。本講義では、脳神経系の階層的な構造と機能分化に関する基本的知識を解説し、大脳半球の機能的特異性、言語・記憶や認知・行為の実現と異常、未知の課題について論じる。		
教材（テキスト）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』（医学書院） 平山惠造・田川皓一 編 12,960 円		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	１．大脳の解剖生理学的概説が理解できる。 ２．高次脳機能障害の原因病巣と症状、診察方法が理解できる。		
準備学習	講義の内容について、事前にテキストを読んで予習しておくこと。		
受講者への要望			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに、神経系の進化・発達概説：4/11（火）⑤ ２．大脳の解剖生理学的概説（4 つの頭葉の機能分化、大脳の階層構造、主要な機能系）：4/18（火）⑤ ３．病因からみた神経心理学（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血と高次脳機能）：4/25（火）⑤ ４．病変部位別の高次脳機能障害の症状①　前頭葉：5/9（火）⑤ ５．病変部位別の高次脳機能障害の症状②　頭頂葉：5/16（火）⑤ ６．病変部位別の高次脳機能障害の症状③　後頭葉：5/23（火）⑤ ７．病変部位別の高次脳機能障害の症状④　側頭葉：5/30（火）⑤ ８．画像診断：5/30（火）⑥			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90019001
科目名	臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
講義概要	臨床心理学は、病気や障害を経験した、または、している人に働きかける事を焦点化した心理的な処遇に関する心理学である。つまり、心の健康について、人間の一生を通しての心理的、生物的、社会的、そしてスピリチュアルな側面から、人間の健康の促進、パフォーマンスや適応スキルの向上、人格の成長等についての心理学的理論と実践方法を学ぶ。一方で、様々な現代日本人が抱えている心理的病気や不適応上の問題に関するアセスメント方法、治療方法、そして予防方法についての様々な理論と実践について学ぶ。		
教材（テキスト）	『臨床心理学のすべてがわかる本』（ナツメ社）　松原達哉 著 1,728 円		
教材（参考文献）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術　理論と実践』（金子書房）　山添正 訳 4,104 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを使用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト（５０％）　。授業中に課すレポート（５０％）		
到達目標	臨床心理学の全ての領域の基礎知識を学び、臨床心理学に対する興味と関心を持ち、現代日本人のかかえる臨床心理学的問題の解決へのヒントを得る。		
準備学習	講義修了時に、次回の範囲（教科書の章とページについて）を指定するので、予習しておくこと。		

受講者への要望

授業の最後に実施する小テストを重視しているので、予習をきちんと実行し、授業中は後で何を書くか、これを書くか、あれを書くか考えながら聞く必要があります。講義終了後、しばらく質疑応答し、その後教科書を写すのではなく、授業中考えた事を書くように努力してください。

講義の順序とポイント

1 はじめに（なぜ臨床心理を学ぶのか）
2 臨床心理学の理解（臨床心理学の定義と歴史）
3 臨床心理学の基礎知識（力動論フロイトとユング）
4 心理的な諸問題１（神経症・精神障害）
5 心理的な諸問題２（依存症・適応障害）
6 心理的な諸問題３（トラウマ・発達障害）
7 心理アセスメント１（知能検査）
8 心理アセスメント２（性格検査）
9 心理アセスメント３（その他の心理検査と判定）
10 心理療法の諸技法１（体験・関係的アプローチ）
11 心理療法の諸技法２（認知・行動的アプローチ）
12 心理療法の諸技法３（家族システム的アプローチ）
13 コミュニティ援助１（子育て支援）
14 コミュニティ援助２（危機介入）
15 おわりに（臨床心理の要点）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	J90020001
科目名	発達心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Psychology		
担当者名	吉田　絵美	旧科目名称	
講義概要	発達心理学は、人の心の発達的変化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の道筋が含まれる。発達は、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達的な視点から捉える姿勢を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）	『よくわかる発達心理学　第 2 版』（ミネルヴァ書房）　無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）　2,700 円		
教材（参考文献）	『図で理解する発達 新しい発達心理学への招待』（福村出版）　川島一夫（編）　2,484 円 『キーワードコレクション 発達心理学　改訂版』（新曜社）　子安増生・二宮克美（編）　2,592 円 『よくわかる認知発達とその支援』（ミネルヴァ書房）　子安増生（編）　2,592 円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（50%），授業内小テスト（50%）		
到達目標	1. 人間の発達に関する基礎的な考え方を理解する 2. 人間の誕生から死に至るまでの発達の過程を理解する 3. 各々の発達段階（乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期）の特徴を理解する		
準備学習	1.教材（テキスト）を講義の前後に読み、ノートをつくること。 2.講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		
受講者への要望			
上記の到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1.　発達心理学とは何か 2.　発達の規定要因：発達の持つ性質、発達における遺伝と環境の問題 3.　発達段階と発達課題：初期経験の重要性、発達段階と発達課題の考え方 4.　新生児期・乳児期(1)：乳児の認知能力の発達、視覚の発達、行動の特徴 5.　新生児期・乳児期(2)：人見知り、乳児の気質、愛着の形成と親子関係 6.　幼児期(1)：乳児期～幼児期のことばの発達過程 7.　幼児期(2)：乳児期～幼児期の自我・自己の発達、第一反抗期 8.　幼児期(3)：認知・思考の発達、ピアジェの認知発達論、幼児期の思考の特徴 9.　幼児期(4)：遊びの発達と心の理論 10.　児童期(1)：児童期の仲間関係の発達、集団成員間の人間関係 11.　児童期(2)：「読み書き計算」の能力の発達、道徳性の発達 12.　思春期・青年期(1)：思春期・青年期の認知の発達 13.　思春期・青年期(2)：自我同一性と社会性の発達 14.　成人期・老年期(1)：　成人期、老年期の特徴、家庭生活と職業生活 15.　成人期・老年期(2)：成人期・老年期の知的機能、死への準備		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J90021001
科目名	学習・認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning and Cognitive Psychology		
担当者名	齊藤　章江	旧科目名称	
講義概要	人は、学習によって知識やスキルを身につけ、環境に適応している。本講義では、人間がどのように外的環境を捉えているのか、それに基づいてどのように新しい行動や知識を獲得していくのか、という問題が扱われている。本講義では、感覚・知覚、学習、記憶、思考、言語といった、学習・認知心理学の主要なトピックについて取り上げ、人間の認知システムの仕組みおよび特性について理解を深める。人間および日常生活について、認知心理学的な視点から理解を深めることを目標とする。		
教材（テキスト）	『認知と感情の心理学』 高橋雅延 著 岩波書店 2600 円		
教材（参考文献）	『認知心理学』 箱田裕司・都築誉史・川端秀明・萩原茂 著 有斐閣 3400 円 『スタンダード認知心理学』 原田悦子（編） サイエンス社 2500 円		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、授業内小テスト等による評価。定期試験（５０％）		
到達目標	1. 認知心理学的研究方法（考え方）を理解する。 2. 人間の認知機能についての仮説、理論を理解する思考力を身につける。 3. 人間の認知機能について身につけた知識や考え方を日常に活かす。		
準備学習	単元の区切りごとに小テストを実施するので復習をしておくこと。		
受講者への要望			
上記三つの到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。なお、授業計画は予定である。受講状況等に応じてある程度変更する可能性がある。			
講義の順序とポイント			
1. 授業のガイダンス・心理学の歴史とその研究方法 2. 学習（1)：古典的条件づけとオペラント条件づけ 3. 学習（2)：学習の般化・観察学習 4. 視覚と認知(1): 視覚認知の特徴・錯視 5. 視覚と認知(1): 高次な視覚認知 6. 認知と感情：表情の認知・感情の認知への影響 7. 注意と意識：注意の仕組み・注意の制御的側面と自動的側面 8. 記憶と学習(1)：短期記憶とワーキングメモリ 9. 記憶と学習(2): 処理水準・テスト効果 10. 記憶と学習(3): 潜在学習・忘却の仕組み 11. 記憶と学習(4): 長期記憶（顕在記憶と潜在記憶） 12. 知識と表象：スキーマとスクリプト 13. 言語：言語の理解と獲得・言語の産出 14. 思考(1)：問題解決 15. 思考(2)：意志決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	★★

年度	2017	授業コード	J90022001
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods in Counceling		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
講義概要	カウンセリングは、クライエントとカウンセラーの相互作用を通して、クライエントが本来持っている成長力を回復し、自己実現を援助する事である。そのために、まずカウンセリングのプロセスが、クライエントとカウンセラーの出会いから始まり、治療的関係が形成され、カウンセリング作業がどのように進むかを学修する。学生がクライエント体験をする事で、自分の話を傾聴される事の意義を理解し、カウンセラーの役割、人としてのあり方、そして様々な理論のテクニックの理解を深める。		
教材（テキスト）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術　理論と実践』（金子書房）　山添正　訳　4,104 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術　理論と実践』（金子書房）　DVD 版		
評価方法	授業内小テスト（５０％）　、授業中に課すレポート（５０％）		
到達目標	カウンセリングのはじまりから、終結までの実践的問題につての基礎知識の概念的理解と体験的理解をめざし、将来、クライエントと係わるときのカウンセラーとしての基礎的実践力を身につける。		
準備学習	講義修了時に、次回の範囲（教科書の章とページについて）を指定するので、予習しておくこと。		

受講者への要望

授業の最後に実施する小テストを重視しているので、予習をきちんと実行し、授業中は後で何を書くか考えながら、ロールプレイをしたり、聞いている必要があります。講義終了後、しばらく質疑応答し、その後書く作業に入っていただきます。　カウンセリング論は「論」となっていますが、実践科目なので、書く事も、教科書の知識を写すのではなく、自分の授業中の体験を書くようにしてください。また自主学習として、授業での学びを実践的に理解するために、カウンセリングの練習としてピアカウンセリング（友だち同士、または知り合い同士で）を行い、それを授業のカウンセリングのプロトコールに倣ってまとめて発表していただきます。

講義の順序とポイント

１、カウンセリングのはじめ
２、治療的関係の形成
３、治療目標の設定
４、多様性の理解と対応
５、抵抗の理解と対応
６、カウンセリングにおける認知的焦点化
７、カウンセリングにおける感情的焦点化
８、カウンセリングにおける行動的焦点化
９、統合的視点
１０、転移と逆転移 1
１１、転移と逆転移 2
１２、過去が現在に与える影響
１３、決断と行動変化への作業
１４、カウンセリングの終結 1
１５、カウンセリングの終結 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2017	授業コード	J90023001
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	社会保障入門編集委員会『社会保障入門』　（中央法規出版） 足立正樹、井上久子『社会保障の光と陰』　（高菅出版）		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
準備学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講者への要望

１．授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
２．出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
３．資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90023002
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（テキスト）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考文献）	社会保障入門編集委員会『社会保障入門』　（中央法規出版） 足立正樹、井上久子『社会保障の光と陰』　（高菅出版）		
教材（その他）	必要に応じて授業中に指示する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
準備学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講者への要望

１．授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
２．出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
３．資料配布は原則として授業中にのみ行う。

講義の順序とポイント

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90024001
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	斎藤　真	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピューターソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	『保健統計・疫学第 5 版』福富和夫・橋本修二著（南山堂）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題提出(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)		
到達目標	地域保健活動における情報科学及び統計学の知識・技術の利用について具体的に説明ができる。統計的解析方法を用いて練習課題を解くことができる。		
準備学習	情報学や統計学を理解するためには数学の基礎が必要であるため、中学数学 「資料の整理」「確率」、高校数学 II「指数・対数関数」、高校数学 B「確率分布と統計的な推測」について復習しておくこと。また、講義はコンピュータによる実習を含むため、コンピュータの基本操作や基本知識を事前に自己習得しておくこと。特に、表計算ソフトウェア(Excel など)の操作に慣れておくこと。		
受講者への要望			
前日までにテキストや参考書の講義予定範囲を通読し、下調べなどの予習を行い、疑問点を明らかにした状態で講義にのぞむこと。統計学の理論的基礎を理解するためには高校卒業レベルの数学知識が要求されるため、数学能力に自信がないものは特に入念に予習すること。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．情報処理の基礎 ３．データの種類と尺度 ４．統計調査法と調査票の作成 ５．記述統計と視覚化(単純集計、クロス集計、度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度) ６．確率と確率分布 ７．指標の標準化 ８．年次推移の観察 ９．中間試験・統計的推論(点推定、区間推定、仮説検定) １０．統計的検定(t 検定、F 検定、分散分析、Wilcoxon 検定など) １１．統計的検定(分割表の検定) １２．相関分析と無相関検定 １３．回帰モデル(重回帰分析、ロジスティック回帰分析、Cox 回帰分析) １４．看護情報科学(情報管理、レコードリンケージ) １５．問題演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90024002
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピュータソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	『統計学の図鑑（まなびのずかん)』(技術評論社)　涌井良幸・涌井貞美 著 2,678 円		
教材（参考文献）	『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　1　まずは統計アレルギーを克服しよう！』(アトムス)　浅井隆　著　3,024 円 『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　2　結果の解釈ができるようになろう！』(アトムス)　浅井隆著　3,024 円 『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　3　研究の質を評価できるようになろう！』(アトムス)　浅井隆著　3,024 円 『「医療統計」わかりません！！』(東京図書)　五十嵐中・佐條麻里　著　3,024 円 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』(北大路書房)　吉田寿夫　著　2,700 円		
教材（その他）	プリントを配布する		
評価方法	授業内課題（50%），定期試験（50%）		
到達目標	1. 基本的な統計学の知識を身につける。 2. 健康・医療・スポーツに関する統計資料を読んだときに，それが何を意味しているのか理解できる力を身につける 3. 健康・医療・スポーツに関する実験・調査データを自ら統計的に処理できる力を身につける		
準備学習	1. 中学・高校で学んだ基本的な数学の知識を復習し，身につけておくこと（平均，平方根，分数，グラフ表現等)。 2. 毎回の授業の復習を確実にすること。		

受講者への要望

1. この授業では主に統計学を扱う。統計学とは，集団の傾向や性質を数量的に明らかにする学問である。算数・数学が苦手な者も，「楽しく」しかし「真剣に」取り組むこと。
2. 授業内での問題演習（課題）には「あせらず・あわてず・あきらめず」取り組むこと。
3. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
4. 毎回の授業内容が連続しており，復習しながらの積み重ね学習が重要であるため，欠席・遅刻・早退のないようにすること。
5. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接して，理解を不十分なまま放置することがないようにすること。

講義の順序とポイント

1.　オリエンテーション：健康・医療・スポーツにおける統計学の役割
2.　データの整理：度数分布表・ヒストグラムの作成，相対度数の算出
3.　代表値と散布度：平均値，中央値，分散，標準偏差
4.　クロス集計：質的変数どうしの関連
5.　相関(1)：散布図，相関係数
6.　相関(2)：相関関係と因果関係，疑似相関
7.　統計的検定(1)：統計的検定の考え方，カイ 2 乗検定
8.　統計的検定(2)：平均値に関する検定（t 検定，分散分析）
9.　健康指標：死亡率，罹患率，有病率
10. 人口に関する統計：人口生態統計と人口動態統計
11 .保健統計資料の読み取り(1)：患者調査，国民生活基礎調査
12. 保健統計資料の読み取り(2)：学校保健統計調査，国民栄養基礎調査
13. アンケート調査の方法(1)：調査実施上の注意，調査方法の種類
14. アンケート調査の方法(2)：調査票の設計
15. まとめと考察：社会における保健医療情報の役割

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90024003
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	斎藤　真	旧科目名称	
講義概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピューターソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（テキスト）	『保健統計・疫学第 5 版』福富和夫・橋本修二著（南山堂）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	課題提出(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)		
到達目標	地域保健活動における情報科学及び統計学の知識・技術の利用について具体的に説明ができる。統計的解析方法を用いて練習課題を解くことができる。		
準備学習	情報学や統計学を理解するためには数学の基礎が必要であるため、中学数学 「資料の整理」「確率」、高校数学 II「指数・対数関数」、高校数学 B「確率分布と統計的な推測」について復習しておくこと。また、講義はコンピュータによる実習を含むため、コンピュータの基本操作や基本知識を事前に自己習得しておくこと。特に、表計算ソフトウェア(Excel など)の操作に慣れておくこと。		
受講者への要望			
前日までにテキストや参考書の講義予定範囲を通読し、下調べなどの予習を行い、疑問点を明らかにした状態で講義にのぞむこと。統計学の理論的基礎を理解するためには高校卒業レベルの数学知識が要求されるため、数学能力に自信がないものは特に入念に予習すること。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．情報処理の基礎 ３．データの種類と尺度 ４．統計調査法と調査票の作成 ５．記述統計と視覚化(単純集計、クロス集計、度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度) ６．確率と確率分布 ７．指標の標準化 ８．年次推移の観察 ９．中間試験・統計的推論(点推定、区間推定、仮説検定) １０．統計的検定(t 検定、F 検定、分散分析、Wilcoxon 検定など) １１．統計的検定(分割表の検定) １２．相関分析と無相関検定 １３．回帰モデル(重回帰分析、ロジスティック回帰分析、Cox 回帰分析) １４．看護情報科学(情報管理、レコードリンケージ) １５．問題演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90025001
科目名	バイオメカニクス	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomechanics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	地球上における人体の運動動作は物理的な作用を受ける。筋肉によって生み出された力は関節を介して骨に伝達され、重力に抗した様々な運動動作が生み出される。本講義では骨格筋の働きの仕組みから、骨の構造、巧みな関節の働きを学び、骨格筋の起始と停止を知ることで発揮される協調的な動きを理解する。これらの学びを基に、身近な運動動作を例題にして、人間の身体構造とその動きの素晴らしさを認識するとともに、身体運動発現のメカニズムを運動学および運動力学の両面から理解する。この講義は、学科関連系科目として設定されており、看護学科教員が、看護現場でのバイオメカニクス的な問題についても触れる。		
教材（テキスト）	『スポーツバイオメカニクス』（化学同人） はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ４　宮西智久著 毎回の授業時に使うスライドは京学ナビからダウンロードの上、各自で印刷して授業に臨むこと。その他、表在筋肉・主な骨格・関節の起始・停止、働きなどについて著した資料を配布する場合がある。		
教材（参考文献）	解剖生理で用いたテキスト。『目で見る動きの解剖学』（大修館書店）　ロルフ・ヴィルヘード 著 2,592 円、適時、講義内容に適した資料を紹介する。		
教材（その他）	毎時間の授業に使用するスライドを京学ナビからダウンロードできるようにするので、各自印刷して毎回の授業に用意すること。		
評価方法	定期試験（70%）、小テスト（30%）、		
到達目標	人体の骨格や筋肉の名称、関節の働きについての理解を深める。日常生活における例えば歩行やランニングにおける骨格筋の働きや、外部に発揮した力の変化を観察して、これらのメカニズムが説明できる。		
準備学習	前期開講の「健康医療学概論」や、「解剖生理学」が基礎的な講義となるので、十分理解して本講義の受講に備えること。各回の授業終わりに次回の講義内容について説明するので、テキストに目を通して、不明な点などについて確認しておく。あるいは質問の準備とすること。講義の後はあらかじめ不明に思った個所や、専門用語について覚えるように工夫すること。		
受講者への要望			
物理学における力学が関係するが、理解しやすいように努める。スライドを中心に授業が進むが、ノートに書き留めること。必要な部分についてノートすることを指示するが、関心のある部分についてもしっかりノートすること。			
講義の順序とポイント			
１．スポーツバイオメカニクスの基礎１ バイオメカニクスとは？、人の運動と”てこ”の関係、筋の付着部と関節軸との距離、筋肉って？、関節運動動作の定義、 ２．スポーツバイオメカニクスの基礎２ 骨格筋の収縮様式、筋電図って？、筋放電と力、運動単位、単収縮と強縮、骨格筋線維のタイプ ３．スポーツバイオメカニクスの基礎３ 骨格筋線維の種類と特徴、運動強度と運動単位の動員様式（サイズの原理)、筋の長さと張力との関係、筋の起始と停止、 ４．スポーツバイオメカニクスの基礎４ 見かけの力と真の力、骨の役割、骨のリモデリング、骨の構造と機能、関節の種類と構造、運動と力学の基礎、国際単位 ５．スポーツバイオメカニクスの基礎５ 力の合成と分解、内力と外力、運動量と力積、運動の力学的エネルギー、関節トルクと関節パワー ６．スポーツバイオメカニクスの基礎６ 身体重心とは？、身体と重心および重心線、身体重心を求める方法、 ７．スポーツバイオメカニクスの応用 良い動きのバイオメカニクス的原則：反動動作と振込動作、緩衝動作、歩行運動における効率、経済性と有効性 ８．力学的エネルギーの基礎知識と動態 ９．関節・運動器の機能（実際の身体動作と関連させて） 跳ぶということのバイオメカニクス（反動動作、ドロップジャンプホッピングなど） １０．脳の構造と運動を支配する脳 脳動静脈、体性感覚野、１次運動野、神経のコントロール（動きのコントロールと反射による動作の調整） １１．スポーツバイオメカニクスの実際１ 陸上での運動・動作、歩行・走行運動のバイオメカニクス １２．スポーツバイオメカニクスの実際２		

水泳・水中運動のバイオメカニクス １３．スポーツバイオメカニクスの実際３ 跳躍運動・投球運動のバイオメカニクス １４．スポーツ医学とバイオメカニクスによる貢献 １５．スポーツバイオメカニクス分析結果データーから理解できる事 A/D変換って？、力積、筋電図積分値

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90026001
科目名	エイジングと運動	単位数	2
科目名（英語表記）	Ageing and Exercise		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	高齢者は、心身ともに健康で、いわゆるエイジレスな生活をしたいと願っている。しかし、ヒトは加齢とともに心身の機能低下を避けることはできない。本科目では、加齢に伴って生じる、形態、身体機能（体力・運動能力、呼吸循環機能、神経・筋機能、言語聴覚機能）、および心理面や生活機能の変化を正しく把握し、できる限りそれらの機能低下を防ぐための基礎理論を学修する。あわせて、超高齢社会の進行で増加する虚弱高齢者にも対応できるよう、介護予防の考え方や介護予防のための各種プログラムについても学修する。		
教材（テキスト）	随時資料配付		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成テキスト（上）（下)』健康体力づくり事業財団 『健康運動実践指導士テキスト』健康体力づくり事業財団 鈴木隆雄著『超高齢社会の基礎知識』講談社現代新書		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	ミニテスト（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）		
到達目標	加齢に伴って生じる、形態や身体機能、心理面・生活面での機能の変化とそれらの機能低下を防ぐための基礎理論を理解し、フレイルや要介護をできるだけ先延ばしする（介護予防）ための知識を身につける。		
準備学習	授業の内容（レジュメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。
身近な高齢者に対して、健康面や生活面への気遣いができるようになって欲しい。

講義の順序とポイント

1.エイジングと運動を学ぶにあたって、基本的事項その①（ライフサイクルとエイジング）
2.エイジングと運動を学ぶにあたって、基本的事項その②（暦年齢と生物学的年齢、高齢化と寿命に関する各種指標）
3.生理的老化と病的老化（老化のメカニズム）
4.加齢に伴う身体的変化（生理機能の変化・高齢期の疾病）
5.加齢に伴う心理・精神的変化（認知・行動障害とそれへの対応）
6.高齢者の QOL（生き方・老い方）
7.高齢者の体力・運動能力（その 1）
8.高齢者の体力・運動能力（その 2）
9.口腔機能の加齢変化
10.高齢者の体力と生活機能・ADL・ロコモ
11.フレイルとサルコペニア
12.センテナリアンの生活からアンチエイジングについて考える
13.老化制御と運動
14.老化制御と栄養
15.まとめ（活力ある長寿超高齢社会に貢献する）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J90027001
科目名	薬理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pharmacology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	薬物治療における薬物動態と作用機序、薬剤の種類と投与方法、薬効に影響する因子、主な医薬品に関する基礎的知識を学ぶ。具体的には抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、末梢神経系作用薬、中枢神経系作用薬、心臓・血管作用薬、呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、ホルモン・生殖器系作用薬、皮膚科用薬、眼科用薬など種々の疾患における薬物治療の概要を理解するとともに、投与方法や副作用とその対策、医薬品の取り扱いに関する留意点を理解する。		
教材（テキスト）	系統看護学講座　専門基礎分野 『薬理学：疾病のなりたちと回復の促進③』　吉岡充弘、泉剛、井関健 医学書院　2,300 円＋税		
教材（参考文献）	『はじめの一歩　イラスト薬理学』 石井 邦雄　著　羊土社　2,900 円＋税 授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	定期試験の成績により評価する。		
到達目標	疾病の病態と治療方針を学び、種々の医薬品の作用機序と使い方、副作用・相互作用を知ることにより、看護に必要な基礎知識を習得することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書 p.**から p.**まで）を指定するので、予習しておくこと。 また各回の講義終了後に確認問題を解くことにより復習をすること。		
受講者への要望			
分からないことがあれば、講義中でも終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。			
講義の順序とポイント			
1．薬理学総論（薬理学とは何か、薬が作用するしくみ、薬物動態、薬効の個人差） 2．抗感染症薬（抗生物質、抗結核薬、抗ウイルス薬など） 3．抗がん薬、免疫治療薬 4．抗アレルギー薬、抗炎症薬 5．末梢神経系作用薬（筋弛緩薬、局所麻酔薬など）、中枢神経系作用薬（全身麻酔薬、抗不安薬、パーキンソン治療薬など） 6．心臓・血管作用薬（高血圧、心不全、狭心症の治療薬など） 7．呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、生殖器・泌尿器系系作用薬 8．物質代謝作用薬（ホルモンとホルモン拮抗薬）、皮膚科用薬・眼科用薬、その他の医薬品			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J90028001
科目名	疫学	単位数	2
科目名（英語表記）	Epidemiology		
担当者名	斎藤　真	旧科目名称	
講義概要	人間集団の健康問題を解決することを目指す公衆衛生において、必要な疫学の原理および基礎的方法について理解する。具体的には、疫学の目的と方法、人間の健康問題に疫学がどのように応用できるのかを理解する。また、罹病や死亡が公衆衛生においてどのように測定され、それらのデータがどのように活用されるかを知る。そして保健統計資料に基づき、疫学で用いられる健康指標、疫学調査法を集団の健康状態の把握や分析に活用する知識を修得する。		
教材（テキスト）	第 1 回から第 4 回：『国民衛生の動向』　（厚生労働統計協会）　2,315 円 第 5 回から第 14 回：『基礎から学ぶ楽しい疫学　第 3 版』　（医学書院）　中村好一　3,000 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席及び課題の提出(20%)、期末試験(80%)で合計 100% 合計が 60%以上で合格。 ただし、期末試験の正答率が 60%未満であった場合は、合計得点にかかわらず不合格。		
到達目標	１．疫学研究の基本と疫学研究から得られることを修得すること。 ２．疫学研究の最新の実態を学ぶことで、今後の疫学研究の在り方について考察すること。		
準備学習	『国民衛生の動向』と『基礎から学ぶ楽しい疫学』は事前に通読しておくことが望ましい。 保健医療情報学を履修していない者は統計学の基礎（確率分布、仮説検定、統計的検定、相関分析、回帰分析）をできるだけ自己学習しておくこと。		
受講者への要望			
疫学の学習では高い論理的思考能力が要求されるため、1 度の聴講では習得しがたい。従って、前日までにテキストや参考書の講義予定範囲を通読し、下調べなどの予習を行い、疑問点を明らかにした状態で講義にのぞむことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス ２．人口動態（出生、死亡、死因、死産、周産期死亡、乳児死亡）の動向 ３．人口静態（国勢調査）の動向 ４．平均余命・平均寿命・健康寿命と受療状況 ５．疫学の考え方 ６．疾病頻度の捉え方、曝露の効果を表す指標 ７．疫学研究の種類、記述疫学 ８．分析疫学と介入研究 ９．バイアスと交絡、因果関係の推論 １０．スクリーニング検査 １１．アウトブレイクの発見と解析、感染症監視システム（感染症疫学） １２．健康政策のための科学的根拠（政策疫学） １３．社会的格差が健康に与える影響（社会疫学） １４．居住地と罹患リスク（空間疫学） １５．問題演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90029001
科目名	看護学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Nursing		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	看護とは何かを歴史的側面から概観し、看護の語源、起源、定義および看護の概念・目的を学修する。そこから看護の専門性について考察する。また、看護の対象者である人間の健康やそのライフサイクルを踏まえた健康問題、人間のニードを理解するとともに、看護の提供者の活動領域とその内容、看護の倫理、看護管理、幅広く展開する看護活動についても理解する。さらに、看護の変遷を通して、看護理論について学修し、看護学の展望を概観する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　看護学概論』　（医学書院）　茂野香かおる　2,400 円 『看護の基本となるもの』　（日本看護協会出版社）　ヴァージニア・ヘンダーソン、湯槙ます　1,000 円 『対訳　看護覚え書』　（うぶすな書院）　フローレンス・ナイチンゲール、小林章夫　2,600 円		
教材（参考文献）	『看護理論集』　（日本看護協会出版会）　ジュリア・Ｂ・ジョージ 、南裕子　3,900 円		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。		
評価方法	レポートと発表（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．看護とは何かを歴史的側面から捉え、看護の語源、起源、定義、看護の概念を述べることができる。 ２．看護の対象者である人間の健康やライフサイクルをふまえた健康問題、人間のニードを理解する。 ３．看護の提供者の活動、看護の倫理、看護管理について理解する。 ４．看護の変遷を通して、看護理論について動向や理論的側面を理解する。 ５．看護活動の広がりと展望を理解する。		
準備学習	１．指定されたテーマに応じたレポートと発表を行えるよう準備する。 ２.「看護覚え書」についてのレポートを要約して提出する。 ３．人間のニードを理解し、自分のニードについて述べることができるよう準備する。 ４.「看護体験実習」の中で学んだ内容をフィードバックすることができる。		
受講者への要望			
看護学概論の学修は、自ら文献を読み、まとめ、自らの考えを私見として述べることが求められる。自分の看護に対する考えをまとめ、発表したり意見交換ができるようにする。			
講義の順序とポイント			
１．看護学ガイダンス： 看護とは何か、看護の概念、看護の定義 ２．人間と健康、健康の概念、健康関連行動、家族とライフサイクル ３．看護の提供者 ４．看護の倫理的活動 ５．看護の変遷：古代、中世、日本の近世 ６．看護の変遷：世界の近代 ７．看護の変遷：ナイチンゲール「看護覚え書」にみる看護 ８．看護の変遷： アメリカの看護史 ９．看護の変遷：日本の近代、現代 １０．現代看護理論家達の業績（１）ニード論：ヘンダーソン １１．現代看護理論家達の業績（２）相互作用論：ペプロウ １２．現代看護理論家達の業績（３）システム論：オレム、ロイ １３．看護の提供のしくみ １４．看護管理、医療安全 １５．看護の活動の広がりと展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90030001
科目名	成長発達Ⅰ（小児の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅰ: Pediatric Health　Nursing		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	「子どもとその家族への看護と役割」を基本テーマに、子どもの看護についてイメージできることを目指す。小児看護の歴史的背景と展望、子どもの権利と擁護、子どもの成長発達の特徴とライフステージにおける小児期の意義と重要性、子どもと環境との関係、家族発達の基礎理論を学び、小児看護の理念・位置づけ・役割について理解する。子どもの権利と擁護についてはグループワークを中心に、成長発達の特徴についてはワークシートの作成を基本に理解を深める。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学　1　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円		
教材（参考文献）	『親と子の心のカルテ』　（新興医学出版社）　前川喜平、井原成男　2,000 円		
教材（その他）	1．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 2．適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1．子どもの成長・発達に伴う身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。 2．小児看護に必要な成長発達理論について理解することができる。 3．子どもを取り巻く環境について理解することができる。 4．子どもの権利・擁護について考えることができる。 5．小児看護の理念・位置づけ・役割について理解できる。		
準備学習	1．子どもの成長発達に関する基礎知識の獲得に向け、講義予定を示したシナリオを配布するので、シナリオに示されたテキストの講義予定範囲を読んで、授業参加すること。 2．子どもの食事の理解に向けて、市販の離乳食用食品・こども用おやつなどについて調べておくこと。 3．ワークシートの作成を予定しているため、ワークシートの完成のための資料収集をして授業参加すること。		

受講者への要望
子どもの成長・発達と養育支援に関わる看護の役割について講義する。 子どもと子どもの看護についてイメージできるように DVD や写真を使用するが、街中などの生活の場で見かける子どもや親子の様子を観察するよう心がけてほしい。また、 子どもに関する新聞記事等のニュースについても関心を持って情報を得てほしい。
講義の順序とポイント
1．ガイダンス　小児看護の概念と理念・歴史と展望 2．小児看護における倫理と子どもの権利尊重について 3．子どもの成長・発達の概要 4．新生児期における養育と看護 5．乳幼児期における養育と看護 6．学童期・思春期における養育と看護 7．子どもと家族を取り巻く環境・社会と看護の役割 8．子どもの健康問題と看護の機能・役割

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	J90031001
科目名	成長発達Ⅱ（成人の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅱ: Adult Health Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	成人期は人のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会・経済的に大きな役割を背負っている世代といわれている。成人看護学は、人間、環境、健康、看護を思考の枠組みとした看護理論を応用し、生活をしてゆく人を主体に考えてゆくことにある。看護者は時代の変化に関係なく行われるヒューマンケアリングと時代の変化とともに変化する健康問題に対するケアリングの両方の役割を持っていることを学ぶ。主な内容は、成人看護の概念、成人保健の動向、成人各期の特徴と健康問題、成人期の健康障害と看護、成人看護に必要な看護理論である。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[１]　成人看護学総論』　（医学書院）　小松浩子　2,300 円		
教材（参考文献）	『成人看護学』　（医学書院）　黒田裕子　5,800 円 『国民衛生の動向』　（厚生統計協会）　2,315 円		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	定期試験（80%）、課題レポート（20%）		
到達目標	１．成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解できている。 ２．現代における成人に生じやすい健康上の問題や成人看護の特性を理解している。 ３．成人期の対象論について理解している。 ４．成人看護学の構成を理解している。		
準備学習	１．成人の発達課題について整理しておく。 ２．ライフサイクルにおける、成人の位置づけと意義について整理しておく。 ３．国民衛生の動向とテキストを参考にして、成人各期の特徴と健康問題について整理をしておく。 ４．成人で活用できる看護理論を概観しておく。		

受講者への要望

１．事前に、テキストを読んでおき、疑問点や理解できない箇所を授業中に解決できるよう、積極的参加を求める。
２．日々、人々の健康に関して関心を持ち、新聞記事等で挙げられた健康問題などを読む習慣をつけることを要望する。
３．テキストの中での参考文献は可能なかぎり授業終了後、読んでおくこと。

講義の順序とポイント

１．成人期にある人の理解
２．生活と健康（成人の生活からとらえる健康・健康を守りはぐくむシステム）
３．成人への看護アプローチの基本
４．健康生活をはぐくむ看護
５．生活ストレスと看護
６．生活行動がもたらす健康問題とその予防
７．健康生活の急激な破綻から回復を促す看護と障害を持ちながらの生活とリハビリテーションについて
８．慢性的な揺らぎの再調整を促す看護から人生最後の時を支える看護について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90032001
科目名	成長発達Ⅲ（高齢者の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health CareⅢ: Geriatric Health Nursing		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	ライフサイクルからみた、高齢者の身体的・心理的・社会的な変化および発達課題を学修することにより、高齢者の多様性や持てる能力について理解する。加えて、介護保険法や成年後見人制度などの社会制度や、高齢者虐待や身体拘束・身体抑制などの社会問題、介護家族の課題、健康長寿などを学修することにより超高齢社会に突入した我が国の高齢者を取り巻く課題について理解し、老年看護学が果たす役割と機能について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』　（医学書院）　北川公子　2,600 円		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』　（厚生労働統計協会）　2,315 円		
教材（その他）	パワーポイント活用　　DVD ビデオ教材活用　各講義プリント配布		
評価方法	『確認の課題』合計点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1．ライフサイクルにおける高齢者の身体的・心理的・社会的な変化について理解できる。 2．高齢者の尊厳とはなにかについて考えられる。 3．高齢者の発達課題について理解できる。 4．超高齢者社会になったわが国の現状と課題について考えられる。 5．高齢者を取り巻く医療、保健、福祉について理解できる。 6．高齢者看護が果たす役割と今後の課題について考えられる。		
準備学習	受講前に教科書の授業範囲を一読しておく。		
受講者への要望			
予習（教科書を一読）を徹底すること。 毎回『授業レジメ』とともに『確認の課題』を配布するので授業終了時必ず提出すること。			
講義の順序とポイント			
1．超高齢社会における看護の役割 2．高齢者の発達と生活 3．高齢者の保健、医療、福祉 4．高齢者の生理的変化 5．老年看護に関連する理論 6．健康段階に応じた看護 7．高齢者とその家族への支援 8．高齢者の倫理的問題と今後の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90033001
科目名	成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health CareⅣ: Maternal Health Nursing		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	女性のライフステージ各期の特徴と健康問題、女性を取り巻く環境について理解する。女性とその家族の特性を身体的・心理的・社会的側面から捉え、その成長発達と健康生活を支援するための看護の役割を理解する。性と生殖、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの考え方や母子保健事業、母子に関する保健・医療・福祉の動向及び今日的課題を学び、母性看護の役割を学ぶ。さらに、女性と子どもの人権について考え、それを擁護する看護職者の責務についても考察する。		
教材（テキスト）	《系統看護学講座　専門分野Ⅱ》　『母性看護学[１]　母性看護学概論』　（医学書院）　森恵美　2,400 円		
教材（参考文献）	『新体系看護学全書　母性看護学①母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　3,000 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。必要時、資料の配布を行なう。		
評価方法	定期試験（80%）、提出レポートおよび講義への参加態度（20%）で評価する。		
到達目標	１．母性看護学の理解に必要な基本的知識を習得し、母性看護の役割を理解する。 ２．母子保健に関連する法律、施策、事業の概要を理解する。 ３．女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題について理解する。 ４．リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する健康問題と、性と生殖における倫理的問題について学ぶ。		
準備学習	「看護学概論」で学んだ概念を母性看護学の視点で考える科目なので、基本的知識を復習しておくことが必要です。また、「解剖生理学 B」の知識も必要なので復習しておくことが必要です。そして、テキストを開いて、目次を見て気になるところを読んでおくと、講義がわかりやすいと思います。		

受講者への要望

少子高齢化社会の中で、次の世代を担う母子の健康への支援は重要な社会的課題となっています。具体的には、出生数の減少、子育て不安、子どもの虐待、地域における子育て機能の脆弱化などが指摘されています。女性や家族が安心して子どもを生み育てることができる環境づくりは、現代に必要とされています。そのため、少子化による影響や子育て支援、産科医療を取り巻く問題など、最近のニュースやマスコミで取り上げられる話題にも関心を持ってほしいと思います。母性看護学を学ぶことで、母子とその家族への看護だけでなく、自分自身の今後のパートナーとの関係やライフスタイルを考える機会となることを期待します。

講義の順序とポイント

１．＜項目＞母性看護学の基礎となる概念（１）　　：4/11（火）③
　＜内容＞Ⅰ．母性看護とは
　　母性看護の対象と実践においての理念
　　Ⅱ．セクシュアリティ・ジェンダー
２．＜項目＞母性看護学の基礎となる概念（2）　　：4/12（水）②
　＜内容＞ Ⅲ．母性のライフサイクルと発達課題
　　家族の発達と看護
　　Ⅳ．母性・父性の発達と親役割
　　母子をめぐる心理社会的問題とニーズ（子育て不安・児童虐待と看護）
３．＜項目＞母性看護の変遷と現状および関連の深い法律　　：4/18（火）③
　＜内容＞母性看護の変遷と現状
　　１．日本の母子保健統計の動向
　　２．母性看護に関する法律
４．＜項目＞ライフサイクル各期の特徴と健康問題（１）　　：4/19②（水）
　＜内容＞Ⅰ．思春期の健康と看護
　　１．性周期
　　２．思春期の健康問題（月経困難症・受胎調節法・人工妊娠中絶）
５．＜項目＞ライフサイクル各期の特徴と健康問題（2）　　：4/25（火）③
　＜内容＞Ⅱ．成熟期の健康と看護
　　子宮筋腫・子宮内膜症と看護
　　Ⅲ．更年期の健康と看護
　　更年期障害
　　Ⅳ．老年期の健康と看護

6．＜項目＞　リプロダクティブ・ヘルスケア(1)　　：4/26（水）②

＜内容＞　リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

1．リプロダクティブ・ヘルス／ライツとは

2．性感染症とその予防

3．人工妊娠中絶と看護

4．喫煙女性の健康と看護

7．＜項目＞リプロダクティブ・ヘルスケア(2)　　：5/9（火）③

＜内容＞　　5．性暴力・ＤＶ(ドメステック・バイオレンス)を受けた女性への看護

6．ＨＩＶ感染の女性への看護

7．在日外国人と母性看護

8．＜項目＞母性看護と倫理　　：5/10（水）②

＜内容＞母性看護と倫理

1．親になることの意味（不妊症と看護）

2．人間の性と生殖における倫理的課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J90034001
科目名	成長発達Ⅴ（心の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅴ: Psychiatric Nursing		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	精神性的発達論・精神力動論・ライフサイクル理論における発達課題と病理について理解する。精神性的発達論・精神力動理論においては、自我機能、防衛機制、心的装置、パーソナリティの発達における病理を、ライフサイクル理論においては、生まれてから死に至るまでの一生のプロセス（人生周期）における危機、発達課題と病理を理解し、『人間』と『環境』の看護のパラダイムから、人間の生涯の発達成長を理解することができる。また、学修者自身の過去－現在－未来における自己洞察の一助とする。		
教材（テキスト）	『精神看護学』　萱山真美　野田文隆編（著）　南江堂　2010		
教材（参考文献）	授業の中で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内テスト（40%）、レポート（10%）、定期試験（50%）		
到達目標	1．精神性的発達論・精神力動論の概要と臨床への応用について理解できる。 2．ライフサイクル理論における発達課題について具体的に挙げることができる。 3．発達過程の規則性と各発達課題における病理を理解できる。 4．これらの理論を学ぶことにより、学習者自身の過去－現在－未来における自己洞察の一助となる。		
準備学習	講義終了時に次回の講義』内容とそれに相当するテキスの範囲を示すので、熟読しておく。 レポート課題は講義中に内容を示すので、指定期日まで提出すること。		
受講者への要望			
1．授業中は携帯・スマホを使用しない。また、電源を切っておく。 2．私語を謹み、質問、不明瞭な点があれば、出席表に記載する。			
講義の順序とポイント			
1．精神性的発達論　：4/13（木） 2．無意識と精神的諸力　心的装置（イド・超自我・自我）　：4/20（木） 3．パーソナリティ論、葛藤、性格．防衛機制　：4/27（木） 4．ライフサイクル理論の概要　：5/11（木） 5．乳幼児期、児童期の発達課題と病理　：5/18（木） 6．青年期の発達課題と病理　：5/25（木） 7．成人期の発達課題と病理　：6/1（木） 8．成熟期の発達課題と病理　：6/8（木）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90035001
科目名	日常生活基盤と看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	山岡　愛	旧科目名称	
講義概要	看護活動の基本となる看護技術の中で日常生活援助技術を取り上げ、対象となる人の基本的ニーズを充足するための看護援助の基本的な方法およびその原理を学ぶ。看護実践に共通の基盤となる対象の安全性、安楽性、自立性、倫理性を考慮しつつ、既習の形態機能・生理学的知識に基づき、科学的根拠を用いた考え方を身につける。具体的には、活動・休息の援助、療養環境や清潔を整えるための援助、排泄を整えるための援助に関わる技術の習得を目指す。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考文献）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	１．試験（90%）<筆記試験（60%）および実技試験（30%）> ２．演習記録の提出状況及び内容（10%）		
到達目標	１．看護技術の概念と意義が理解できる。 ２．日常生活活動の概念及び支援する意義が理解できる。 ３．エビデンスに基づいた安全、安楽な看護技術を提供するための基本原理を理解できる。 ４．看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。 ５．ｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、対象者に適した看護技術の提供について検討できる。		
準備学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や理論、健康の概念を十分理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスを確認し、講義・演習に関連したテキスト及び参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
３．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

１．看護技術の意義と構造（講義）
２．看護に共通する基本技術（１）コミュニケーション（講義）
３．看護に共通する基本技術（２）生活環境の調整（講義１）
４．看護に共通する基本技術（２）生活環境の調整（講義２）
５．看護に共通する基本技術（２）ベッドメーキング（演習１）
６．看護に共通する基本技術（２）ベッドメーキング（演習２）
７．看護に共通する基本技術（３）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義１）
８．看護に共通する基本技術（３）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義２）
９．看護に共通する基本技術（３）バイタルサイン測定（演習１）
１０．看護に共通する基本技術（３）バイタルサイン測定（演習２）
１１．看護に共通する基本技術（４）姿勢と体位（講義１）
１２．看護に共通する基本技術（４）姿勢と体位（講義２）
１３．看護に共通する基本技術（４）体位変換（演習１）
１４．看護に共通する基本技術（４）体位変換（演習２）
１５．看護に共通する基本技術（４）移動と移送（演習１）
１６．看護に共通する基本技術（４）移動と移送（演習２）
１７．日常生活の援助技術（５）清潔の援助（講義１）
１８．日常生活の援助技術（５）清潔の援助（講義２）
１９．日常生活の援助技術（５）寝衣交換（演習１）
２０．日常生活の援助技術（５）寝衣交換（演習２）
２１．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習１）
２２．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習２）
２３．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習１）
２４．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習２）

２５．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義１）
２６．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義２）
２７．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習１）
２８．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習２）
２９．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義３）
３０．看護技術の対象への適用について（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90035002
科目名	日常生活基盤と看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	山岡　愛	旧科目名称	
講義概要	看護活動の基本となる看護技術の中で日常生活援助技術を取り上げ、対象となる人の基本的ニーズを充足するための看護援助の基本的な方法およびその原理を学ぶ。看護実践に共通の基盤となる対象の安全性、安楽性、自立性、倫理性を考慮しつつ、既習の形態機能・生理学的知識に基づき、科学的根拠を用いた考え方を身につける。具体的には、活動・休息の援助、療養環境や清潔を整えるための援助、排泄を整えるための援助に関わる技術の習得を目指す。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考文献）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	１．試験（90%）<筆記試験（60%）および実技試験（30%）> ２．演習記録の提出状況及び内容（10%）		
到達目標	１．看護技術の概念と意義が理解できる。 ２．日常生活活動の概念及び支援する意義が理解できる。 ３．エビデンスに基づいた安全、安楽な看護技術を提供するための基本原理を理解できる。 ４．看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。 ５．ｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、対象者に適した看護技術の提供について検討できる。		
準備学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や理論、健康の概念を十分理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスを確認し、講義・演習に関連したテキスト及び参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
３．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

１．看護技術の意義と構造（講義）
２．看護に共通する基本技術（１）コミュニケーション（講義）
３．看護に共通する基本技術（２）生活環境の調整（講義１）
４．看護に共通する基本技術（２）生活環境の調整（講義２）
５．看護に共通する基本技術（２）ベッドメーキング（演習１）
６．看護に共通する基本技術（２）ベッドメーキング（演習２）
７．看護に共通する基本技術（３）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義１）
８．看護に共通する基本技術（３）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義２）
９．看護に共通する基本技術（３）バイタルサイン測定（演習１）
１０．看護に共通する基本技術（３）バイタルサイン測定（演習２）
１１．看護に共通する基本技術（４）姿勢と体位（講義１）
１２．看護に共通する基本技術（４）姿勢と体位（講義２）
１３．看護に共通する基本技術（４）体位変換（演習１）
１４．看護に共通する基本技術（４）体位変換（演習２）
１５．看護に共通する基本技術（４）移動と移送（演習１）
１６．看護に共通する基本技術（４）移動と移送（演習２）
１７．日常生活の援助技術（５）清潔の援助（講義１）
１８．日常生活の援助技術（５）清潔の援助（講義２）
１９．日常生活の援助技術（５）寝衣交換（演習１）
２０．日常生活の援助技術（５）寝衣交換（演習２）
２１．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習１）
２２．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習２）
２３．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習１）
２４．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習２）

２５．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義１）
２６．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義２）
２７．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習１）
２８．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習２）
２９．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義３）
３０．看護技術の対象への適用について（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90036001
科目名	公衆衛生看護学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Health Nursing		
担当者名	畑下　博世	旧科目名称	
講義概要	公衆衛生看護活動の歴史的変遷を知った上で、公衆衛生看護と地域社会との関連を考え、公衆衛生看護活動の必要性と役割を理解する。地域で生活する人々の健康課題や、健康問題の解決に向けたヘルスケアシステムについて学び、システムが円滑に機能するための看護職の役割について学修する。また、公衆衛生看護活動の対象や活動の場所といった、個人、家族、集団、地域の特徴を知り、対象に応じた基本的な看護展開について学修する。		
教材（テキスト）	『標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論』　（医学書院）　3,240 円		
教材（参考文献）	『国民衛生の動向』　（厚生労働統計協会）　2,500 円		
教材（その他）	授業で適宜提示する。		
評価方法	中間筆記試験（50%）、最終筆記試験（50%）		
到達目標	１．公衆衛生看護の活動領域と対象の特徴について説明できる。 ２．生活者である対象への健康支援の意義について説明できる。 ３．保健活動における法律や施策の重要性について説明できる。 ４．健康の保持増進に向けた公衆衛生看護の役割について考えることができる。 ５．国際社会における保健の意義と看護の役割について考えることができる。 ６．保健活動に必要な最新の情報を調べ、自身の見解を述べることができる。		
準備学習	既修の「公衆衛生学」「社会保障論」の内容をよく復習しておくように。また、本科目は保健師課程のための学修というだけでなく、看護師として公衆衛生活動にいかに参画するかを考える科目であるので、「看護学概論」で学んだ看護の定義、看護の役割をもとに、自身の意見をのべられるよう準備しておくように。		
受講者への要望			
ライフサイクルを通して健康増進や予防対策が実施され、社会情勢などの変化に応じて、その内容も変化する。いつも環境、看護、健康増進、予防を意識しながら他の講義や本講義に臨むように。			
講義の順序とポイント			
１．公衆衛生と公衆衛生看護の役割や機能 ２．公衆衛生看護の歴史（その１国内） ３．公衆衛生看護の歴史（その２国外） ４．公衆衛生看護活動の場（保健所・市町村保健センター）とその特性 ５．プライマリーヘルスケア ６．ヘルスプロモーション ７．公衆衛生看護活動と地域 ８．公衆衛生看護活動と関連法規 ９．公衆衛生看護と母子保健活動 １０．公衆衛生看護と成人・高齢者保健活動 １１．公衆衛生看護と多文化共生 １２．障がい者対策 １３．精神保健対策 １４．感染症対策 １５．歯科保健対策・健康危機管理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J90037001
科目名	看護体験実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Clinical Practice Ⅰ		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	早期体験実習として看護の実際を体験的に学ぶことを通して、看護の対象者やその人をめぐる環境、また看護職者の役割や機能への理解を深める。看護の実践者として必要な基本的態度を身につけるとともに、看護を学ぶ動機づけを図る。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 看護学概論』　（医学書院）2015　茂野香：かおる他著 『看護の基本となるもの』　（日本看護協会出版社）2015　ヴァージニア・ヘンダーソン著 、湯槙ます訳 『対訳 看護覚え書』　（うぶすな書院）2015　フローレンス・ナイチンゲール著、小林章夫他訳 『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』　（メヂカルフレンド社）　深井喜代子編集		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	実習態度(40%)。 実習前レポート(10%) 実習後の記録とレポート提出と内容の評価(50%)。		
到達目標	1）施設の構造と機能、理念を学び、その中で看護専門職者がどのように機能しているかを知る。 2）看護活動の実際を体験し、看護の役割と機能を知る。 3）看護の対象者の療養環境を見学し、療養を受ける人の生活や思いについて知る。 4）臨地実習場面で看護学生として適切な行動がとれ、主体的に学習することができる。		
準備学習	実習のオリエンテーション内容をよく理解しておく 健康状態を整えておく 実習の自己目標や事前学習をまとめて提出する		

受講者への要望

1）実習に対する態度として健康状態に注意を払い、感染予防行動をとる。
2）遅刻や欠席につて実習施設に必ず連絡し、対応する。
3）臨地実習では、対象者への安全な行動、秘守義務行動をとる。
4）実習出席日数は単位認定するには 80%であるため、欠席しないように自己管理する。
5）臨地実習場面では看護学生として礼節を重んじた行動をとる。
6）臨地実習では積極的な行動をとり、能動的に学習する。

講義の順序とポイント

【事前学習】（学内）
1．実習オリエンテーション
2．実習での課題を明確化し自己目標を立てる
3．実習中の注意事項を理解する

【実習期間のスケジュール】
1日目（学内）：臨地実習実施にあたってのオリエンテーション
2日目（臨地）：施設オリエンテーション（病院の概要・理念・構造、看護部の理念と組織）
　　病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）
3日目（臨地）：対象者をとりまく環境の観察と看護活動への同行
4日目（臨地）：対象者とのコミュニケーションの体験、看護活動への同行
5日目（学内）：臨地での学びについてのグループ討議、合同カンファレンス、レポート作成

【事後学習】（学内）
1．実習で見学・体験した内容についてグループで討論する
2．実習で見学・体験した内容についてレポートをまとめる
3．実習における自己評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	★★	−	−	−

年度	2017	授業コード	J90038001
科目名	高齢者生活体験実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Gerontological Health Care Nursing: Clinical Practice		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	健康な高齢者や健康障害を持ちながらも地域で暮らす高齢者とのコミュニケーションや触れ合いを通して、食事や入浴、さらに一日の過ごし方などの基本的な日常生活の有り様や家族や社会とのつながりなどを知り、高齢者の多様性と個別性について具体的に理解し、地域やそこに住む人々が果たす役割について学修する。さらに、高齢者の人生の歩みを知りその歩みが今の高齢者にどのように影響をしているか、そしてその高齢者にとって幸せとは何か、どのように支援をすれば良いのかなどについて思考する能力を身につける。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』　（医学書院）　北川公子　2,600 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実習内容・態度・記録・カンファレンスへの参加度やその内容から評価表にそって行う。 評価表の各評価項目について評価し、その合計を最終評価とする。		
到達目標	1．高齢者施設の理念、機能、特徴を学び、多職種の共働について考えることができる。 2．日常生活援助の実際を見学し、高齢者支援について考えることができる。 3．高齢者の心身の加齢に配慮したコミュニケーションを工夫することができる。 4．高齢者の生活の場における看護師の役割について考えることができる。 5．高齢者の多様性と個別性を具体的に理解し、その高齢者にとっての幸せについて考えることができる。		
準備学習	1．系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院　：P346～358 の該当ページ 2．高齢者施設（特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・ケアハウス）の特徴について 3．高齢者のコミュニケーションの特徴（障害）と関わり方について 4．高齢者への生活援助（移動・食事・清潔・排せつ）について 5．高齢者の加齢変化について		
受講者への要望			
笑顔でのあいさつを心がけましょう。あまり緊張せず、高齢者の方たちとゆっくり、楽しいひと時を過ごしてください。			
講義の順序とポイント			
1．実習 1 日目（月）：学内オリエンテーション＜実習目的・目標の確認、実習スケジュールの説明、実習記録の記述上の注意、カンファレンスの持ち方、欠席、その他アクシデント発生時の注意＞ 2．実習 2 日目（火）：臨地実習＜施設オリエンテーション、施設見学、カンファレンス、ミーティング、記録＞ 3．実習 3 日目（水）：臨地実習＜看護師・介護士の生活援助見学、参加、カンファレンス、ミーティング、記録＞ 4．実習 4 日目（木）：臨地実習＜看護師・介護士の生活援助見学、参加、高齢者とのコミュニケーション、カンファレンス、ミーティング、記録＞ 5．実習 5 日目（金）：学内最終日＜グループ討議、最終カンファレンス、討議内容の共有、記録提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J90039001
科目名	小児発達支援実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Child Developmental Nursing: Clinical Practice		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	健康な乳幼児の身体的成長および精神発達の特徴と生活について学び、各発達段階における子どもの日常生活を構成する要素の特徴について、周囲のあらゆる環境側面から考察する。また、乳幼児保育の現場に参加し、その実際を経験し、子どもとの相互関係を通して、健康な乳幼児の身体的成長および精神発達と保育機能（保育の重要性及び役割）との関連と、大人としての子どもへのかかわり方を考える機会とする。グループ単位で保育施設にて 1 週間の実習を行う。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円		
教材（参考文献）	『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円 『0 歳～6 歳　子どもの発達と保育の本』　（学習研究社）　河原紀子　1,700 円 『新保育学』　（南山堂）　岡野雅子　1,900 円		
教材（その他）			
評価方法	4 / 5 以上の出席を原則とし、実習内容・態度・記録をもとに実習評価表に基づき総合的に評価する。 課題レポートを含む実習目標に対する到達度（80%）、実習参加態度（20%）		
到達目標	1．保育現場に参加し、健康な子どもの成長発達と保育機能との関連を考える。 2．子どもの日常生活を構成する要素の特徴を考察することができる。 3．子どもへの有効なコミュニケーションを模索し、がむしゃらに子どもと楽しむことができる。 4．子どもにとっての遊びの重要性を理解し、遊びが生活の中心であることを実感する。 5．子どもとの相互関係の中で、人間や生活に対しての好奇心、感受性を高める。		
準備学習	成長発達 I（小児の健康と看護）での講義内容を基本に、実習で必要となる以下の項目について調べておくこと。 1．小児の成長発達過程 2．成長発達のアセスメント方法について（デンバー式、津守式他） 3．遊びの発達 4．発達段階に応じた遊びの種類と玩具 5．乳幼児期（0 歳～5 歳）の特徴、集団保育について、参考文献を熟読して実習に参加すること。		

受講者への要望

小児発達支援実習は､保育施設での実習である｡健康管理に十分留意し､体調を整えて実習に参加すること｡また実習中の RECOVER の方法に留意すること。常日頃から、生活をコントロールし、体力・精神力を鍛えておくこと。
子ども達と一緒に行動することになるので、服装は、動きやすい格好、汚れてもよいもの、洗濯のきくものを準備すること。着替えを用意しておくこと。

講義の順序とポイント

1．　実習 1 日目：実習オリエンテーション
2．　実習 2 ～ 4 日目：各グループごとに「保育園」で、遊びや設定保育への参加を通して子どもと関わり、 コミュニケーションをとるとともに、子ども同士の関わりを観察する。また、乳幼児の生活場面の観察と日常生活の世話を実践するとともに、乳幼児の反応や保育士の関わりを観察する。 ※日々の実習記録を記載する中で、学習内容の整理をする。
3．実習 5 日目：カンファレンス（学内）
受け持ちクラスの基本的な発育（身体、情緒、社会性の発達など）の特徴、目の当たりにした子どもの能力のす ばらしさ、保育の重要性と保育者の資質との関係などを自由に発表、ディスカッションし、理解を深める。 ※実習中の自分と子どもの関わりの具体的場面を振り返り、「子どもへのかかわり方」を考察し実習記録に記す。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J90040001
科目名	疾病病態学と看護Ⅰ(成人慢性期疾患)	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅰ: Chronic Nursing		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
講義概要	成人期に見られる代表的疾患の成り立ちと、疫学、成因、病態・おもな症状、検査、診断、治療、予後について学修するとともに、学修した疾患の概要を踏まえた上で、患者の治療・回復過程において、日常生活がどのように障害されるかを考え、必要な看護援助の基礎について学修する。本講義では、呼吸器系疾患、循環器系疾患、血液・造血器系疾患、糖尿病・代謝性疾患、腎・泌尿器系疾患のうち、内科的治療を必要とする代表的疾患と看護について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　成人看護学[1]』　(医学書院)　小松浩子　2,300 円 『系統看護学講座　成人看護学[2]』　(医学書院)　浅野浩一郎　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学[3]』　(医学書院)　吉田俊子　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学[4]』　(医学書院)　飯野京子　1,600 円 『系統看護学講座　成人看護学[5]』　(医学書院)　松田明子　2,700 円 『系統看護学講座　成人看護学[6]』　(医学書院)　黒江ゆり子　2,100 円 『系統看護学講座　成人看護学[8]』　(医学書院)　大東貴志　2,300 円		
教材（参考文献）	スライド		
教材（その他）	配布資料		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	主な内科的疾患の病態と治療を理解した上で、看護について考察する。		
準備学習	医学書院の系統看護学講座成人看護学を読んで、あらかじめ、全体像を把握しておくこと。		

受講者への要望

内科学の全体像を自習も含めて、よく理解すること。

講義の順序とポイント

1．呼吸器感染症　（金子）:4/18（火）①
2．腫瘍性疾患・胸膜疾患　（山田）：4/26（水）①
3．びまん性肺疾患・肺循環障害　（内野）：4/28（金）⑤
4．消化管疾患　（古倉）：5/9（火）①
5．肝臓・胆道・膵臓疾患　（古倉）：5/16（火）①
6．血液疾患の症状、検査について　（黒田）：5/23（火）①
7．白血病、紫斑病、DIC その他の血液疾患（黒田）：5/30(火)①
8．高血圧・虚血性心疾患　（白山）：5/31（水）①
9．心不全・不整脈　（白山）：6/7（水）①
10．代謝疾患　（田中）：6/22（木）⑤
11．甲状腺・副甲状腺疾患　（田中）：6/29（木）⑤
12．泌尿器疾患の症状と検査　（本郷）：7/5（水）①
13．泌尿器癌の診断と治療　（本郷）：7/12（水）①
14．慢性疾患の特徴と看護　（前川）：7/18（火）①
15．セルフケア・自己管理支援と社会的支援の獲得への援助　（前川）：7/25（火）①

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90041001
科目名	疾病病態学と看護Ⅱ（成人急性期疾患）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅱ: Critical Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、成人期にみられる主な外科的治療を必要とする疾患の成り立ちと、疫学、成因、病態、おもな症状、検査、治療、予後を理解すると共に、治療・回復過程において必要な看護技術の基礎を学修する。具体的には疾患や外科的治療が患者の日常生活にどのような障がいをもたらすのかを考えた上で、手術による生体侵襲のメカニズムと術前・術中・術後管理とショック、手術が必要な消化器系疾患、循環器系疾患、内分泌系疾患について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　成人看護学「５」消化器』　（医学書院）　松田明子　2,700 円 『系統看護学講座　成人看護学「３」循環器』　（医学書院）　吉田俊子　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学「６」内分泌・代謝』　（医学書院）　黒江ゆり子　2,100 円 『系統看護学講座　成人看護学「９」女性生殖器』　（医学書院）　池田正　2,300 円 『周手術期看護論第３版』　（ヌーベルヒロカワ）　雄西智恵美、秋元典子　2,400 円		
教材（参考文献）	適時提示する		
教材（その他）	プリント・スライド		
評価方法	定期試験（90% ）、レポート（10%）		
到達目標	１．手術療法が患者に与える影響を理解できる。 ２．手術適応となる代表的な疾病と適応手術について理解する。 ３．術前、術中、術後看護の特徴を理解する。 ４．回復過程での早期離床の重要性を理解する。		
準備学習	事前に解剖生理学を復習し、テキストを予習しておくこと		

受講者への要望

テキストは複数あるので、予習をしながら、テキストの確認をして臨んでほしい。

講義の順序とポイント

１．消化管手術（開腹手術と内視鏡手術）が生体に与える影響と回復過程（塩崎）：4/26（水）③
２．手術侵襲に伴うに対する生体反応と回復過程　（天谷）：5/12（金）①
３．麻酔の基礎知識と全身管理　（天谷）：5/12（金）②
４．麻酔の基礎知識と全身管理　（天谷）：5/19（金）①
５．術後合併症の予防（天谷）：5/19（金）②
６．胃切除の術前術後管理（塩崎）：5/10（水）①
7．肝切除の術前術後管理（塩崎）：5/17（水）①
８．大腸手術の術前術後管理（塩崎）：5/24（水）①
９．開心手術の適応となる主な疾患の原因・誘因、開心手術が生体に与える影響や回復過程（池本）：6/21（水）①
１０．開心術後の合併症予防（池本）：6/28（水）①
１１．乳がん手術における術前・術後管理　（阪口）：6/9（金）②
１２．乳がん手術における手術術式・再建術式の適応について（阪口）：6/30（金）②
１３．手術期看護の考え方　（山田）：7/7（金）②
１４．周手術期にある人の特徴と理解　（山田）：7/14（金）②
１５．周手術期にあるへの看護援助　（山田）：7/21（金）②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90042001
科目名	疾病病態学と看護Ⅲ（老年期疾患）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅲ: Geriatric Nursing		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、加齢に伴う身体的、精神的、社会的機能の変化や、老年期における疾病の経過や特徴について理解する。さらにパーキンソン病や骨粗しょう症・骨折、認知症などについて学修する。これら代表的な疾患の成り立ちと病態・おもな症状、検査、治療を理解するとともに、高齢者の治療・回復過程と日常生活の関係を考え、看護援助の基礎についても理解する。具体的には、神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患について学修する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論』　（医学書院）　佐々木英忠　2,200 円		
教材（参考文献）	それぞれの担当講師から説明。		
教材（その他）			
評価方法	それぞれの担当講師の出題による定期テスト		
到達目標	１．基本的な身体的・精神的・社会的機能の加齢変化について理解できる。 ２．高齢期の神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患の特徴的な病態生理、診断・治療方法が理解できる。 ３．高齢期に多発する神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患それぞれの治療・回復期における看護援助のあり方について理解できる。		
準備学習	受講前に教科書の該当ページを一読しておくこと。		

受講者への要望

高齢期に特徴的な病態生理について高い関心を持ち、積極的に学んでください。

講義の順序とポイント

１．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜認知症＞（水田）：9/27（水）④
２．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜認知症＞（水田）　：9/27（水）⑤
３．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜脳卒中、骨粗鬆症、骨折＞（笠井）：10/4（水）④
４．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜脳卒中、骨粗鬆症、骨折＞（笠井）：10/4（水）⑤
５．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜パーキンソン氏病＞（吉田）：10/11（水）④
６．高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜パーキンソン氏病＞（吉田）：10/11（水）⑤
７．高齢期の代表的な運動器系疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）：10/18（水）④
８．高齢期の代表的な運動器系疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）：10/18（水）⑤
９．高齢期の代表的な運動器系疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）：10/25（水）④
１０．高齢期の代表的な感覚器系疾患の発生機序、病態、診断、治療
　＜白内障、緑内障、視覚障害＞　（米田）：10/31（火）⑤
１１．高齢期の代表的な感覚器系疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療
　＜老人性難聴と加齢による嚥下障害＞　（久）：11/1（水）①
１２．高齢期の代表的な神経系、運動器系、感覚器系疾患が、高齢者に与える身体的変調とアセスメントの視点
　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）：11/15（水）①
１３．高齢期の代表的な神経系、運動器系、感覚器系疾患が、高齢者に与える身体的変調とアセスメントの視点
　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）：11/22（水）①
１４．高齢期の代表的な神経系、運動器系、感覚器系疾患が、高齢者に与える身体的変調とアセスメントの視点
　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）：11/29（水①）
１５．高齢期の代表的な神経系、運動器系、感覚器系疾患が、高齢者に与える身体的変調とアセスメントの視点

＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　　（中野）：12/6（水）①

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90043001
科目名	疾病病態学と看護Ⅳ（小児・母性）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅳ: Pediatric and Maternal Nursing		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	本講義では、妊娠・分娩・産褥期の正常と異常、出生前診断や不妊治療について学修する。そして、代表的な女性生殖器疾患の成り立ちと成因、病態、主な症状、検査、治療、予後を理解するとともに、治療・回復過程における看護援助の基礎についても理解する。また、新生児期の異常、小児期における代表的な疾患の成り立ちと成因、病態、主な症状、検査、治療、予後を理解するとともに、治療・回復過程における看護援助の基礎についても理解する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（１）　母性看護学概論』　（医学書院）　森恵美　2,400 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学（１）　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学（２）　小児看護学各論』　（医学書院）　奈良間美保　3,300 円 『子どもの病気の地図帳』　（講談社）　鴨下重彦、柳沢正義　4,000 円		
教材（参考文献）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器』　（医学書院）　末岡浩　2,300 円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（100％）で評価する。		
到達目標	１．妊娠期、分娩期、産褥期の異常、合併症、不妊の治療について理解できる。 ２．生殖器系の不正出血、子宮内膜症、性感染症など代表的疾患の成因、発生機序、予防、病態、症候、診断、治療について理解できる。 ３．女性生殖器疾患と不妊治療における治療・回復過程における看護援助の基礎について理解する。 ４．新生児・小児の異常と小児に起こりやすい疾患に関する十分な知識とその看護について身につける。		
準備学習	この科目は、解剖生理学の知識を基本に講義をすすめるため、講義単元に関わる身体の構造と機能、とくに小児および母性の身体的特徴を復習して、講義にのぞむこと。講義受講前には、テキストを熟読しておくこと。「成長発達Ⅰ（小児の発達と看護）」「成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）」「母性看護学援助論」「小児看護学援助論」の授業も関連が深いので、受講前に復習しておいてください。		
受講者への要望			
今日の産科医療を取り巻く問題や新聞記事などにも関心をもって見聞すると、学習により興味がもてるので、積極的な学習を期待します。私語を厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。			
講義の順序とポイント			
１．妊娠の成立と異常（多胎妊娠、子宮外妊娠）と出生前診断　（藁谷）：10/5（木）⑤ ２．不妊症と不妊治療　（藁谷）：10/12（木）⑤ ３．妊娠の異常（流産、早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病）　（藁谷）：11/2（木）⑤ ４．妊娠の異常（感染症、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）　（藁谷）：11/9（木）⑤ ５．分娩の異常（胎児機能不全、帝王切開術、吸引分娩術）　（藁谷）：11/23（木）⑤ ６．生殖器系の不正出血、子宮内膜症、性感染症　（藁谷）：11/30（木）⑤ ７．女性生殖器系疾患患者の看護について　（杉山）：11/8（水）③ ８．不妊治療を受ける患者の看護　（杉山）：11/29（水）③ ９．小児科学総論・血液・腫瘍　（石丸）：9/22（金）② １０．感染症・呼吸器（松尾）：9/29（金）② １１．アレルギー・腎臓・ワクチン　（上原）：10/6（金）② １２．先天異常・代謝・内分泌　（松尾）：10/13（金）② １３．循環器・神経・消化器　（松尾）：10/20（金）② １４．発達障害と看護　（今西）：11/1（水）③ １５．子どもの虐待と看護　（今西）：11/3（金）②		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90044001
科目名	ヘルスアセスメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Health Assessment		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
講義概要	看護を科学的に実践するために不可欠なヘルスアセスメントについて理解し、必要な技術を修得する。看護師が行う身体診察の特性をふまえて、看護におけるヘルスアセスメントの意義を確認し、看護実践における情報収集と観察の方法、留意点について学ぶ。また、身体面の系統的な観察だけでなく、それに付随した心理・社会面の観察の重要性を学び、看護理論を援用して看護の対象の健康問題を導く情報分析のための思考を養うことをねらいとする。呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系についての健康歴の聴取と診断技法を講義と演習を交えて学び、それに加えて事例を用いて看護の対象を総合的にアセスメントする演習を行う。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子 『フィジカルアセスメントガイドブック－目と手と耳でここまでわかる』　（医学書院）　山内豊明		
教材（参考文献）	解剖生理学 A、B のテキスト 日野原重明　編：フィジカルアセスメント　－ナースに必要な診断の知識と技術　第 4 版.医学書院.		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。 プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%）、学習記録の提出状況（10%）		
到達目標	看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解できる。基本的な観察・診査手技を修得できる。身体情報を人体の構造と機能に基づきアセスメントできる。		
準備学習	既修科目「解剖生理学 A、B」で学ぶ人体の構造と機能、「日常生活基盤と看護」で学ぶ看護技術の特徴を十分復習し、理解しておく。		

受講者への要望

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、修得度を向上させてください。

講義の順序とポイント

1．看護におけるヘルスアセスメントの意義・健康歴の聴取（講義）
2．看護に活かすフィジカルアセスメント（1）：全身・頭部の聴取と診察技法（講義）
3．全身・頭部の聴取と診察技法（演習）
4．看護に活かすフィジカルアセスメント（2）：呼吸器系（講義）
5．呼吸音聴取と呼吸のアセスメント（演習）
6．看護に活かすフィジカルアセスメント（3）：循環器系（講義）
7．心音聴取と循環のアセスメント（演習）
8．看護に活かすフィジカルアセスメント（4）：消化器系（講義）
9．消化器系聴取と栄養のアセスメント（演習）
10．看護に活かすフィジカルアセスメント（5）
11．神経・運動のアセスメント（演習）
12．総合演習（1）：問診・視診（演習）
13．総合演習（2）：身体各部の聴診・触診・打診（演習）
14．総合演習（3）：情報の分析（演習）
15．看護過程につながるヘルスアセスメント（講義）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90044002
科目名	ヘルスアセスメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Health Assessment		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
講義概要	看護を科学的に実践するために不可欠なヘルスアセスメントについて理解し、必要な技術を修得する。看護師が行う身体診察の特性をふまえて、看護におけるヘルスアセスメントの意義を確認し、看護実践における情報収集と観察の方法、留意点について学ぶ。また、身体面の系統的な観察だけでなく、それに付随した心理・社会面の観察の重要性を学び、看護理論を援用して看護の対象の健康問題を導く情報分析のための思考を養うことをねらいとする。呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系についての健康歴の聴取と診断技法を講義と演習を交えて学び、それに加えて事例を用いて看護の対象を総合的にアセスメントする演習を行う。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子 『フィジカルアセスメントガイドブック－目と手と耳でここまでわかる』　（医学書院）　山内豊明		
教材（参考文献）	解剖生理学 A、B のテキスト 日野原重明　編：フィジカルアセスメント　－ナースに必要な診断の知識と技術　第 4 版.医学書院.		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。 プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%）、学習記録の提出状況（10%）		
到達目標	看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解できる。基本的な観察・診査手技を修得できる。身体情報を人体の構造と機能に基づきアセスメントできる。		
準備学習	既修科目「解剖生理学 A、B」で学ぶ人体の構造と機能、「日常生活基盤と看護」で学ぶ看護技術の特徴を十分復習し、理解しておく。		

受講者への要望

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、修得度を向上させてください。

講義の順序とポイント

1．看護におけるヘルスアセスメントの意義・健康歴の聴取（講義）

2．看護に活かすフィジカルアセスメント（1）：全身・頭部の聴取と診察技法（講義）

3．全身・頭部の聴取と診察技法（演習）
4．看護に活かすフィジカルアセスメント（2）：呼吸器系（講義）

5．呼吸音聴取と呼吸のアセスメント（演習）

6．看護に活かすフィジカルアセスメント（3）：循環器系（講義）

7．心音聴取と循環のアセスメント（演習）

8．看護に活かすフィジカルアセスメント（4）：消化器系（講義）

9．消化器系聴取と栄養のアセスメント（演習）

１０．看護に活かすフィジカルアセスメント（5）

１１．神経・運動のアセスメント（演習）
１２．総合演習（1）：問診・視診（演習）
１３．総合演習（2）：身体各部の聴診・触診・打診（演習）

１４．総合演習（3）：情報の分析（演習）
１５．看護過程につながるヘルスアセスメント（講義）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90045001
科目名	看護過程	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Process		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
講義概要	看護の目的を果たすために現象を的確に捉え、健康問題ならびに看護独自の問題を抽出し、その解決にあたる組織的な実践プロセスを修得する。ここでは既習の看護の定義と看護理論を対象に実践するため、系統的な現象の分析と問題解決に必要な思考を養う。さらに看護の科学性を支える看護過程の歴史的背景、看護診断、その限界についても理解する。具体的には事例を取り上げ、その健康段階および発達段階の情報を取扱いながら思考プロセスを学修する。		
教材（テキスト）	『看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践』　（ヌーヴェルヒロカワ）秋葉公子		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	課題提出（100%）		
到達目標	１．問題解決思考に基づいた看護過程の基本を修得できる。 ２．看護の理論的枠組みと看護過程の連携を理解できる。		
準備学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や看護の理論を再学習しておく。また、「日常生活基盤と看護」で学んだ看護技術を具体的に患者に適用することをふまえて、看護技術の特性について復習しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。
２．講義の進行に基づいて適宜課題を出しますので、主体的に学習し、必ず提出して学びを積み上げるようにしてください。

講義の順序とポイント

１．看護過程とは（講義）
２．問題解決思考とは（講義）
３．看護過程の構成要素（看護の視点）（講義）
４．看護過程の構成要素（１）：アセスメント（１）（講義）
５．看護過程の構成要素（１）：アセスメント（２）（演習）
６．看護過程の構成要素（１）：アセスメント（３）（演習）
７．看護過程の構成要素：全体像と関連図（１）（講義）
８．看護過程の構成要素：全体像と関連図（２）（演習）
９．看護過程の構成要素：問題点抽出（１）（講義）
１０．看護過程の構成要素：問題点抽出（２）（演習）
１１．看護過程の構成要素：計画（１）（講義）
１２．看護過程の構成要素：計画（２）（演習）
１３．看護過程の構成要素：実施、評価（講義）
１４．看護診断とは（講義）
１５．事例展開のまとめ（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90046001
科目名	看護感染管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Infection Control Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	「日常生活基盤と看護」に引き続き、対象となる人の療養生活を支援する上で必要となる看護技術を取り上げ、基本的な方法およびその原理を学ぶ。本講義では、感染の成立・発症の機序を理解することを通して感染防止の基本を学修する。また、看護技術として用いられている感染防止技術や感染管理活動について学び、感染看護の基礎的能力を修得する。具体的には、感染防護技術、滅菌物・汚染物の取扱い、導尿の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ』（メジカルフレンド社）深井希代子編		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%） ２．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	１．感染の概要および感染予防の意義を理解できる。 ２．無菌操作の基本原理に則った基本的技術を身につけることができる。 ３．感染予防における看護師の責務と役割、および感染症発生時の対応の基本的知識を理解できる。		
準備学習	既修科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「病理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加してください。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させてください。

講義の順序とポイント

１．感染の成立と感染予防概論（講義）
２．感染症の現状と対策（講義）
３．微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（1）（講義）
４．微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（2）（講義）
５．感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（1）（講義）
６．生体防御機構（1）（講義）
７．生体防御機構（2）（講義）
８．感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（2）（講義）
９．滅菌と消毒（講義）
１０．援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１１．援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１２．援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）
１３．援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）
１４．援助技術の実際：導尿（演習）
１５．援助技術の実際：導尿（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J90046002
科目名	看護感染管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Infection Control Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	「日常生活基盤と看護」に引き続き、対象となる人の療養生活を支援する上で必要となる看護技術を取り上げ、基本的な方法およびその原理を学ぶ。本講義では、感染の成立・発症の機序を理解することを通して感染防止の基本を学修する。また、看護技術として用いられている感染防止技術や感染管理活動について学び、感染看護の基礎的能力を修得する。具体的には、感染防護技術、滅菌物・汚染物の取扱い、導尿の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ』（メジカルフレンド社）深井希代子編		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%） ２．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	１．感染の概要および感染予防の意義を理解できる。 ２．無菌操作の基本原理に則った基本的技術を身につけることができる。 ３．感染予防における看護師の責務と役割、および感染症発生時の対応の基本的知識を理解できる。		
準備学習	既修科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「病理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加してください。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させてください。

講義の順序とポイント

１．感染の成立と感染予防概論（講義）
２．感染症の現状と対策（講義）
３．微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（1）（講義）
４．微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（2）（講義）
５．感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（1）（講義）
６．生体防御機構（1）（講義）
７．生体防御機構（2）（講義）
８．感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（2）（講義）
９．滅菌と消毒（講義）
１０．援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１１．援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１２．援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）
１３．援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）
１４．援助技術の実際：導尿（演習）
１５．援助技術の実際：導尿（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J90047001
科目名	看護栄養管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Dietetic Management Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	人間にとっての食事・栄養摂取の意義としくみ（各種栄養素の種類と生体内でのはたらき、エネルギー代謝、消化・吸収の生理的メカニズム）について学び、健康の維持・増進及び疾病回復・悪化予防のために必要な栄養管理に関する基本的知識を学ぶ。また、看護を必要とする人々の健康レベル及び食事行動の自立度に合わせた食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（3） 栄養学　（第 12 版)』　（医学書院）　小野章史他　1,900 円		
教材（参考文献）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%） ２．課題レポート及び演習記録の提出状況と内容（10%）		
到達目標	１．人間にとっての食事・栄養摂取の意義について理解できる。 ２．各種栄養素の種類及び生体内での働き、また消化・吸収の生理的メカニズムについて理解できる。 ３．食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法が理解できる。 ４．対象のｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、健康のレベル及び食事行動の自立度に合わせた援助方法について理解できる。		
準備学習	既習科目「解剖・生理学」「日常生活基盤と看護」で学んだ知識を復習し、十分理解しておくこと。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
３．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

１．食事と栄養摂取の意義（講義）
２．食欲と消化・吸収に関する生理的メカニズム（講義）
３．栄養素の種類と生体内での働き（講義）
４．栄養素と食事摂取基準（講義）
５．エネルギー代謝と栄養状態の評価（講義）
６．病態別食事療法（講義）
７．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（１）栄養素とエネルギー代謝（講義）
８．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（２）摂食・嚥下機能と消化・吸収機能（講義）
９．栄養状態のｱｾｽﾒﾝﾄの方法（講義）
１０．食事・栄養摂取に関する援助（演習）
１１．経口栄養の援助（演習）
１２．経口栄養の援助（演習）
１３．経管栄養の援助（講義）
１４．経管栄養の援助（演習）
１５．経管栄養の援助（演習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J90047002
科目名	看護栄養管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Dietetic Management Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	山岡　愛	旧科目名称	
講義概要	人間にとっての食事・栄養摂取の意義としくみ（各種栄養素の種類と生体内でのはたらき、エネルギー代謝、消化・吸収の生理的メカニズム）について学び、健康の維持・増進及び疾病回復・悪化予防のために必要な栄養管理に関する基本的知識を学ぶ。また、看護を必要とする人々の健康レベル及び食事行動の自立度に合わせた食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法について学ぶ。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒｼﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（3）　栄養学　（第 12 版)』　（医学書院）　小野章史他　1,900 円		
教材（参考文献）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	１．定期試験（90%） ２．課題レポート及び演習記録の提出状況と内容（10%）		
到達目標	１．人間にとっての食事・栄養摂取の意義について理解できる。 ２．各種栄養素の種類及び生体内での働き、また消化・吸収の生理的メカニズムについて理解できる。 ３．食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法が理解できる。 ４．対象のｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、健康のレベル及び食事行動の自立度に合わせた援助方法について理解できる。		
準備学習	既習科目「解剖・生理学」「日常生活基盤と看護」で学んだ知識を復習し、十分理解しておくこと。		

受講者への要望

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
３．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

講義の順序とポイント

１．食事と栄養摂取の意義（講義）
２．食欲と消化・吸収に関する生理的メカニズム（講義）
３．栄養素の種類と生体内での働き（講義）
４．栄養素と食事摂取基準（講義）
５．エネルギー代謝と栄養状態の評価（講義）
６．病態別食事療法（講義）
７．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（１）栄養素とエネルギー代謝（講義）
８．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（２）摂食・嚥下機能と消化・吸収機能（講義）
９．栄養状態のｱｾｽﾒﾝﾄの方法（講義）
１０．食事・栄養摂取に関する援助（演習）
１１．経口栄養の援助（演習）
１２．経口栄養の援助（演習）
１３．経管栄養の援助（講義）
１４．経管栄養の援助（演習）
１５．経管栄養の援助（演習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	J90048001
科目名	看護治療支援技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Treatment: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、医薬品の薬理作用や体内動態、副作用などを理解することをとおした薬物治療、および臨床検査の基本を学修する。また、服薬、注射、点滴などによる薬物投与技術、および生体検査・検体検査などの臨床検査について学び、薬物療法および臨床検査に関する看護の基礎的能力を修得する。具体的には、経口および直腸内与薬法、各種注射法、輸液療法、誤薬防止のための方法、静脈血採血の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	1．定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%） 2．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	1．医薬品の薬理作用や体内動態など、薬物療法の意義を理解できる。 2．看護の対象となる人々に、安全で適切な薬物療法を行うための基本的技術を身につけることができる。 3．薬物療法に関わる安全管理について述べることができる。 4．診断・検査を受ける人々への看護として、生体検査および検体検査に伴う援助を理解できる。		
準備学習	既習科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「薬理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講者への要望

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。

講義の順序とポイント

1．薬物治療の概要、薬理作用と薬物動態（講義）
2．薬剤の種類と与薬方法、薬効に影響する因子（講義）
3．主な医薬品概論（講義）
4．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（1）（講義）
5．臨床検査とは（1）（講義）
6．臨床検査とは（2）（講義）
7．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（2）（講義）
8．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（1）（演習）
9．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（2）（演習）
10．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（3）演習）
11．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（1）（演習）
12．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（2）（演習）
13．.診断・検査を受ける対象の看護（穿刺含む）（講義）
14．援助技術の実際：採血（1）（演習）
15．援助技術の実際：採血（2）（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J90048002
科目名	看護治療支援技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Treatment: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、医薬品の薬理作用や体内動態、副作用などを理解することをとおした薬物治療、および臨床検査の基本を学修する。また、服薬、注射、点滴などによる薬物投与技術、および生体検査・検体検査などの臨床検査について学び、薬物療法および臨床検査に関する看護の基礎的能力を修得する。具体的には、経口および直腸内与薬法、各種注射法、輸液療法、誤薬防止のための方法、静脈血採血の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教材（その他）	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	1．定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%） 2．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	1．医薬品の薬理作用や体内動態など、薬物療法の意義を理解できる。 2．看護の対象となる人々に、安全で適切な薬物療法を行うための基本的技術を身につけることができる。 3．薬物療法に関わる安全管理について述べることができる。 4．診断・検査を受ける人々への看護として、生体検査および検体検査に伴う援助を理解できる。		
準備学習	既習科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「薬理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講者への要望

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。

講義の順序とポイント

1．薬物治療の概要、薬理作用と薬物動態（講義）
2．薬剤の種類と与薬方法、薬効に影響する因子（講義）
3．主な医薬品概論（講義）
4．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（1）（講義）
5．臨床検査とは（1）（講義）
6．臨床検査とは（2）（講義）
7．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（2）（講義）
8．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（1）（演習）
9．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（2）（演習）
10．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（3）演習）
11．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（1）（演習）
12．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（2）（演習）
13．.診断・検査を受ける対象の看護（穿刺含む）（講義）
14．援助技術の実際：採血（1）（演習）
15．援助技術の実際：採血（2）（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J90049001
科目名	実践基礎看護学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Clinical Practice Ⅱ		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	臨地において、療養の場で生活する看護の対象者のニードを把握し、必要な看護援助を検討および実践する過程を学ぶ。既修の看護過程の思考プロセスを適用することで、臨床の現象を看護の視点でアセスメントする。そして、看護の対象者の持つ課題を解決するために必要な看護計画を立案し、計画に基づいた援助を安全・安楽に留意して実施、その結果を評価する。それに加え、看護専門職者としてふさわしい態度について考え、実践することを目指す。		
教材（テキスト）	『新体系看護学全書 11 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』（メヂカルフレンド社）深井喜代子他編 『新体系看護学全書 12 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』（メヂカルフレンド社）深井喜代子他編 『看護の基本となるもの』（日本看護協会出版社）ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槙ます訳 『対訳　看護覚え書』（うぶすな書院）フローレンス・ナイチンゲール著　小林章夫他訳 『フィジカルアセスメントガイドブック－目と手と耳でここまでわかる』　（医学書院）　山内豊明 『看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践』（ヌーヴェルヒロカワ） 秋葉公子,江﨑フサ子,玉木ミヨ子,村中陽子		
教材（参考文献）	『コミュニケーションと共に学ぶ基礎看護技術』（メディカルレビュー社）　大津廣子編		
教材（その他）	ナーシングスキル		
評価方法	実習態度(40%) 実習前レポート(10%) 実習後の記録とレポート提出と内容の評価(50%)		
到達目標	1）対象者の基本的ニードの充足に着目して情報を収集し、アセスメントできる。 2）対象者が持つ看護上の問題を抽出することができる。 3）取り上げた看護問題を解決するための目標設定と看護計画を立案できる。 4）対象者への援助を安全・安楽に実施し、その結果を評価できる。 5）対象者と良好な関係を築くことができる。 6）看護チームにおいて自己の果たすべき役割を理解し、行動することができる。		
準備学習	既修の「看護学概論」、「日常生活基盤と看護」、「ヘルスアセスメント」、「看護過程」、「看護感染管理技術論」、「看護栄養管理技術論」、「看護治療支援技術論」の知識・技術について復習しておく。また、「解剖生理学 A、B」、「疾病病態学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「成長発達Ⅱ、Ⅲ」での学習内容を活用できるように準備しておく。		

受講者への要望

1）健康状態に注意を払い、感染予防行動をとる。
2）遅刻や欠席について実習施設へ必ず連絡し、対応する。
3）臨地実習では、対象者への安全な行動、秘守義務行動をとる。
4）単位認定には 80%以上の出席が必要であるため、欠席しないように健康生活管理を行う。
5）臨地実習場面では看護学生として礼節ある行動をとる。
6）臨地実習では積極的な行動をとり、主体的に学習する。

講義の順序とポイント

【事前学習】（学内）
1．実習オリエンテーションを受ける。
2．実習での自己の課題の明確化し目標を立てる。
3．実習中の注意事項を理解する。

【実習期間のスケジュール】
1日目（臨地）：　臨地実習地でのオリエンテーション
施設オリエンテーション（施設の概要・理念・構造・組織）
病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）
対象者の決定、情報収集
2～3日目（臨地）：対象者のケアへの参加と情報収集・分析
対象者の観察とコミュニケーションを実践し、対象者のニーズを理解し、日常生活援助に参加する。
4日目（学内）：　収集した情報のアセスメント、問題抽出、計画立案

5 日目（臨地）：　対象者のケアへの参加と情報収集・分析、立案した計画の見直し、不足な情報収集を行い、
病棟カンファレンスを行い指導者から助言を受ける。
6～9 日目（臨地）：立案した計画の見直し、実施、評価を行う。
計画した援助を安全・安楽に実施することができる。
実施した援助の目標到達について、対象者の反応をふまえて評価することができる。
病棟カンファレンスを行い指導者から助言を受ける。
10 日目（学内）：　合同カンファレンス、実習のまとめ

【事後学習】
1．臨地実習で日々の観察・実践した内容についてグループで討論するとともに助言を受ける。
2．受持ち患者のニードを解釈し看護の必要性を見いだす看護過程についてまとめる。
3．実習における自己評価を行い、レポートを作成する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J90051001
科目名	慢性期療養支援演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Chronic Health Care Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
講義概要	慢性期看護の基盤となる概念を理解するとともに、慢性疾患に伴う健康問題により、自己管理や生活の再構築が必要な患者やその家族に対する援助について学修する。具体的には、自身が病気を受け入れ、症状マネジメントやセルフケア能力を獲得できるためのケア方法について学修する。演習はチーム基盤型学習により、予習-確認‐グループによる課題の取組の形式で、慢性期にある患者・家族に対して看護過程を展開する。演習授業として、糖尿病患者の教育指導の一環として、血糖測定やインスリン注射の指導について実施する。		
教材（テキスト）	『成人看護学　慢性期看護　病気とともに生活する人を支える　改訂第 2 版』　（南江堂） 鈴木久美、野澤明子、森一恵　3,300 円		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント』　（メディカ出版） 安酸史子　3,000 円 『NANDA‐I 看護診断　定義と分類　2015－2017』　（医学書院） T.ヘザー・ハードマン、上鶴重美　3,000 円		
教材（その他）	DVD 教材、パワーポイントを活用する。プリントを配布する。		
評価方法	1. 定期試験（70%） 2. 課題レポートおよび演習記録の提出状況と内容（30%）		
到達目標	1. 慢性期・終末期にある対象と家族の特徴について説明できる。 2. 慢性期看護に必要な代表的理論を用いて看護を展開できる。 3. 慢性期にある対象の病態を理解した上で、健康問題とそれに伴う反応の特徴が説明できる。 4. 慢性期・終末期にある対象及び家族の心理・社会的問題を踏まえた看護が立案できる。		
準備学習	1. グループ演習に必要な基礎知識に関する課題を出すので、それを持参して演習に臨むこと。 2. 疾病病態学と看護で学修した内容を復習しておくこと。 3. グループディスカッションを行うため、グループワークの方法について復習して臨むこと。		

受講者への要望

1. グループワークを中心として、双方向型の学習をするので、各単元に必要な基礎知識を持って授業に臨むこと。
2. グループワークでは、各自の積極性と協調性が重要になるため、活発なディスカッションを期待する。
3. 患者指導のための演習では、自身の血糖値測定を行うため、清潔操作等、必要な知識を復習しておくこと。

講義の順序とポイント

1. 授業ガイダンス、慢性期の概念および慢性状態を引き起こす疾患や治療の特徴
2. 慢性期にある人々の特徴
3. 慢性期にある人々への看護援助
4. 慢性期看護における看護過程
5. 慢性の呼吸機能障害をもつ人と家族への看護
6. 慢性閉塞性呼吸障害をもつ人と家族への看護の展開 1
7. 慢性閉塞性呼吸障害をもつ人と家族への看護の展開 2
8. 慢性の循環機能障害をもつ人と家族への看護
9. 慢性心不全状態にある人と家族への看護の展開 1
10. 慢性心不全状態にある人と家族への看護の展開 2
11. 身体の防衛機能障害をもつ人と家族への看護 1
12. 身体の防衛機能障害をもつ人と家族への看護 2
13. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護
14. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（肝炎・肝硬変）1
15. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（肝炎・肝硬変）2
16. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）1
17. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）2
18. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）3
19. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）4
20. 内部環境調節障害をもつ人と家族への看護

21. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（腎不全）1
22. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（腎不全）2
23. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護
24. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（脳梗塞）1
25. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（脳梗塞）2
26. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護
27. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（ALS）1
28. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（ALS）2
29. 運動機能に障害をもつ人と家族への看護
30. リハビリテーションの特徴と看護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J90051002
科目名	慢性期療養支援演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Chronic Health Care Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
講義概要	慢性期看護の基盤となる概念を理解するとともに、慢性疾患に伴う健康問題により、自己管理や生活の再構築が必要な患者やその家族に対する援助について学修する。具体的には、自身が病気を受け入れ、症状マネジメントやセルフケア能力を獲得できるためのケア方法について学修する。演習はチーム基盤型学習により、予習-確認‐グループによる課題の取組の形式で、慢性期にある患者・家族に対して看護過程を展開する。演習授業として、糖尿病患者の教育指導の一環として、血糖測定やインスリン注射の指導について実施する。		
教材（テキスト）	『成人看護学　慢性期看護　病気とともに生活する人を支える　改訂第 2 版』　（南江堂） 鈴木久美、野澤明子、森一恵　3,300 円		
教材（参考文献）	『ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント』　（メディカ出版） 安酸史子　3,000 円 『NANDA‐I 看護診断　定義と分類　2015－2017』　（医学書院） T.ヘザー・ハードマン、上鶴重美　3,000 円		
教材（その他）	DVD 教材、パワーポイントを活用する。プリントを配布する。		
評価方法	1. 定期試験（70%） 2. 課題レポートおよび演習記録の提出状況と内容（30%）		
到達目標	1. 慢性期・終末期にある対象と家族の特徴について説明できる。 2. 慢性期看護に必要な代表的理論を用いて看護を展開できる。 3. 慢性期にある対象の病態を理解した上で、健康問題とそれに伴う反応の特徴が説明できる。 4. 慢性期・終末期にある対象及び家族の心理・社会的問題を踏まえた看護が立案できる。		
準備学習	1. グループ演習に必要な基礎知識に関する課題を出すので、それを持参して演習に臨むこと。 2. 疾病病態学と看護で学修した内容を復習しておくこと。 3. グループディスカッションを行うため、グループワークの方法について復習して臨むこと。		

受講者への要望

1. グループワークを中心として、双方向型の学習をするので、各単元に必要な基礎知識を持って授業に臨むこと。
2. グループワークでは、各自の積極性と協調性が重要になるため、活発なディスカッションを期待する。
3. 患者指導のための演習では、自身の血糖値測定を行うため、清潔操作等、必要な知識を復習しておくこと。

講義の順序とポイント

1. 授業ガイダンス、慢性期の概念および慢性状態を引き起こす疾患や治療の特徴
2. 慢性期にある人々の特徴
3. 慢性期にある人々への看護援助
4. 慢性期看護における看護過程
5. 慢性の呼吸機能障害をもつ人と家族への看護
6. 慢性閉塞性呼吸障害をもつ人と家族への看護の展開 1
7. 慢性閉塞性呼吸障害をもつ人と家族への看護の展開 2
8. 慢性の循環機能障害をもつ人と家族への看護
9. 慢性心不全状態にある人と家族への看護の展開 1
10. 慢性心不全状態にある人と家族への看護の展開 2
11. 身体の防衛機能障害をもつ人と家族への看護 1
12. 身体の防衛機能障害をもつ人と家族への看護 2
13. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護
14. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（肝炎・肝硬変）1
15. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（肝炎・肝硬変）2
16. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）1
17. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）2
18. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）3
19. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）4
20. 内部環境調節障害をもつ人と家族への看護

21. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（腎不全）1
22. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（腎不全）2
23. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護
24. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（脳梗塞）1
25. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（脳梗塞）2
26. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護
27. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（ALS）1
28. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（ALS）2
29. 運動機能に障害をもつ人と家族への看護
30. リハビリテーションの特徴と看護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J90052001
科目名	急性期療養支援演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Critical Health Care Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	急性期にある人々への看護の基盤となる概念を理解する。急性期にある患者の看護は考える猶予のないことが多いために、看護者が常に身に着ける必要知識を網羅し、看護師として必要な臨床能力を習得できるように基本となる観察・アセスメント能力を養う。演習では、代表的な身体障害を挙げ、紙面上の看護介入を学ぶ。主な内容は急性期の概念、患者の特徴、急性期・周手術期にある患者の病態・症状の把握、患者・家族への援助である。演習内容としては、心電図モニター装着や、クリティカルな患者の観察モニタリング、周術期看護においては創傷管理、ＤＶＴ防止、ドレーン管理、呼吸管理を演習する。		
教材（テキスト）	池松裕子　他編　「急性期看護」NOUVELLE　HIROKAWA 山崎博彰　編集「救急看護論」NOUVELLE　HIROKAWA 雄西僭恵美他編　「 周手術期看護論」NOUVELLE　HIROKAWA		
教材（参考文献）	関連科目参考書随時紹介する。		
教材（その他）	DVD、パワーポイントを使用		
評価方法	定期試験(80%)、看護過程演習(10%)、演習参加・レポート(10%)		
到達目標	１．急性期・周手術期にある成人患者および家族に疾病や生涯、手術他の生体侵襲を受けたことによっておこる身体的・心理的・社会的反応を理解している。 ２．急性期・周手術期における成人患者および家族が受けた生体侵襲からの回復を促進するために必要な知識と技術を習得している。		
準備学習	解剖生理学 A,解剖生理学 B、疾病病態と看護Ⅱ、成人看護総論、等で学習した内容を復習し、理解の不足している箇所を補って授業に臨む。 事前にテキストの該当部分を熟読しておく。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義・演習を受講するよう心がけてもらいたい。。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス　急性期にある人の看護、急性期看護の考え方・急性期にある人の特徴と理解 ２．急性期にある人々への看護援助に必要な概念、急性期の看護活動 ３．救急看護の場で用いられる看護技術演習－ＢＬＳ・ＡＥＤ① ４．救急看護の場で用いられる看護技術演習－ＢＬＳ・ＡＥＤ② ５．急性期の循環機能障害のある患者の看護 ６．急性期の脳神経機能障害のある患者の看護 ７．急性期の生体防御機能障害・感染症のある患者の看護 ８．急性期の運動機能障害のある患者の看護 ９．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の講義：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ １０．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の演習：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ① １１．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の演習：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ② １２．周手術期看護の考え方 １３．周術期にある人の特徴と理解① １４．周術期にある人の特徴と理解② １５．周術期にある人への看護援助① １６．周術期にある人への看護援助② １７．術前の看護 １８．術中の看護 １９．術後の看護 ２０．周術期看護に必要な技術（講義・演習） ２１．創傷ケア・ドレーン管理　持続吸引 ２２．開腹術を受ける人の看護 ２３．内視鏡下手術を受ける人の看護 ２４．開胸術を受ける人の看護 ２５．運動器系の手術を受ける人の看護		

２６．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）①
２７．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）②
２８．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）③
２９．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）④
３０．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）⑤

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90053001
科目名	家族看護	単位数	1
科目名（英語表記）	Family Nursing		
担当者名	畑下　博世	旧科目名称	
講義概要	家族を１つのケアの対象として援助する家族看護では、家族一人ひとりの生活の質の向上を目指すことを学修する。家族自らが健康問題を解決し、健康的な家族生活を送ることができるように介入する。具体的には、家族看護の歴史や家族の概念、家族と文化・社会的背景等を学修し、家族の構造的アプローチをはじめ、家族アセスメント、家族ストレス理論などの諸理論を基に、家族の看護過程を事例をもとに展開し、家族看護に必要な支援方法を学修する。		
教材（テキスト）	『家族看護学　１９の臨床場面と８つの実践例から考える』　（南江堂）　山崎あけみ　2,300 円		
教材（参考文献）	『家族看護学理論と実践　第４版』　（日本看護協会出版会）　鈴木和子、渡辺裕子　3,200 円		
教材（その他）	授業で適宜掲示する。		
評価方法	演習課題（４０％）、筆記試験（６０％）		
到達目標	１．看護における家族の捉え方について理解することができる。 ２．地域の人々と家族、地域における個人と家族の支援について説明することができる。 ３．家族アセスメントの基礎となる理論について説明することができる。 ４．家族を単位とした看護過程について理解できる。		
準備学習	これまでに経験した「看護体験実習」「高齢者生活体験実習」「小児発達支援実習」の場面から、家族について考えをまとめておくこと。		
受講者への要望			
講義内容に関連した文献、新聞記事、報道等に関心を持ち、自ら学びを深める努力をするように。			
講義の順序とポイント			
１．家族とは（形態と機能） ２．看護における家族の捉え方 ３．家族アセスメントの基礎となる理論① ４．家族アセスメントの基礎となる理論② ５．家族看護学における看護過程（事例演習：母子） ６．家族看護学における看護過程（事例演習：成人） ７．家族看護学における看護過程（事例演習：高齢者） ８．家族看護学における看護過程（事例演習：精神）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90054001
科目名	がん看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Cancer Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	近年日本の死因の第一位はがん疾患であることが続いている。時代の変遷とともにがん疾患の究明や治療法が進歩し、がんは生活習慣病とまで言われるようになり、また、長期がん生存者が増加している。その中でがん看護は、がんとその治療に関する直接的な症状への対応が中心であったが、最近では脱毛などの症状、再発・転移の不安、家族支援、経済的問題を含めた精神的サポート、がん予防なども求められている。ここではがん疾患の医学的知識やがん看護における援助を学修する。		
教材（テキスト）	『がん看護学』　（ヌーベルヒロカワ）　大西和子、飯野京子　3000 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	定期試験（90 %）、レポート（10%）		
到達目標	様々ながん治療を受ける患者の身体的、精神的援助および、ターミナル期における援助の在り方を、全人的視野で考えることができる。		
準備学習	シラバスを概観し、授業の前に予習復習をしておくこと。		
受講者への要望			
グループワークも取り入れる講義も考えているので、能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．進行癌の内科的治療総論（抗がん剤治療を軸とした集学的治療）　（古倉）：10/4（水）① ２．胃癌・大腸癌の内科的治療　（古倉）：10/11（水）① ３．癌の免疫療法　（古倉）：10/18（水）① ４．がん治療薬の臨床試験　（古倉）10/25（水）① ５．がん患者の緩和療法とこころのケア　（古倉）：11/8（水）① ６．がん看護学の概念　（山田）：9/27（水）① ７．がん看護に活用される理論・モデル　（山田）：9/29（金）④ ８．補完代替え療法　（山田）：10/6（金）④ ９．がんの治療と看護の概論　（山田）：10/13（金）④ １０．　がん患者の特徴的な症状マネージメント　（山田）：10/20（金）④ １１．緩和ケア・ターミナルケア・グリーフケアにいたる概論　（山田）：10/20（金）⑤ １２．がん化学療法を受ける患者の看護の実際　（越智）：11/10（金）④ １３．放射線療法をうける患者の看護の実際　（芦田）：11/17（金）④ １４．緩和ケアの実際（緩和ケアチーム・緩和ケア病棟・チーム医療について実際を学ぶ。）　（藤本）：11/24（金）④ １５．総括：苦痛緩和、特に、がん疼痛のマネジメントについて学ぶ／治療期から緩和ケアを受け、緩和ケア病棟で亡くなった患者の事例をがん看護に特化せず、医療の中の看護師の役割について考える機会を持つ。　（藤本）：11/24（金）⑤		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	J90055001
科目名	医療機器論	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Instrumentation		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	医療現場には様々な医療機器が導入され、看護師は日々医療機器を用いて対象の看護にあたっている。 機器類を正確に用いることで、患者の安全が確保され、患者に必要なケアや医師の指示に基づいた治療が実践できる。看護師は日常的に使う機器類の基本的な機能を理解し安全にしようできなければならない。 本講義では電気の基本的な知識をはじめ、生体情報モニターや輸液ポンプ、人工呼吸器など機器類の概要や機械の誤操作に伴う事故防止について学修する。		
教材（テキスト）	ＪＪＮスペシャル 「ナースのための ME 機器マニュアル　」小野哲章・渡辺敏　監修　　医学書院		
教材（参考文献）	その都度提示する		
教材（その他）	医療機器　パワーポイント		
評価方法	レポート 10%、試験 90%		
到達目標	１．基本的な医療機器の取り扱いが理解できる。 ２．医療機器を装着した患者の対応が理解できる。		
準備学習	事前に授業範囲を提示するのでテキストを読んでおくこと。		
受講者への要望			
臨床で取り扱う医療機器の基本的な考え方を修得することを期待する			
講義の順序とポイント			
１．医療機器と安全　（市木）：6/8（木）① ２．心電図・モニターについて　（市木）：6/15（木）① ３．輸液ポンプ・シリンジポンプ　（市木）：6/22（木）① ４．医療ガス、酸素ボンベ　（市木）：6/29（木）① ５．人工呼吸器について　（市木）：7/6（木）① ６．医療機器を装着されている患者の援助　（山田）：7/20（木）① ７．人工呼吸器装着患者に対しての対応　（山田）：7/27（木）① ８．人工呼吸器装着患者に対しての対応　（山田）：7/27（木）②			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	J90057001
科目名	セルフケア支援実習	単位数	3
科目名（英語表記）	Chronical Health Care Nursing: Clinical Practice		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
講義概要	成人期以降の慢性的な健康障害および終末期にある対象を受け持ち、看護過程を展開し、対象とその家族の健康課題を明らかにして、対象に必要な看護を見出し実践する。具体的には、セルフマネジメントの必要な対象に対して、対象と協働し自身が健康障害と生活習慣との関係性を理解するように働きかける。さらに症状および治療に対して、実現可能なセルフマネジメントを考え、健康生活の維持・増進ができるよう支援する。また終末期にある対象のセルフケアを支えるための援助についてアセスメントし、対象の QOL の向上に向けた看護実践能力を養う。		
教材（テキスト）	『成人看護学　慢性期看護　病気とともに生活する人を支える　改訂第 2 版』　（南江堂） 鈴木久美、野澤明子、森一恵　3,300 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	4/5 以上の出席を原則とし、実習内容・実習態度・実習記録・カンファレンスやその内容から評価表に沿って行う。 実習目標に対する到達度（90%）、実習態度（10%）		
到達目標	1. 慢性的な疾患をもつ対象者とその家族への関わりを通して、信頼関係を築き、身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解できる。 2. 慢性的な疾患をもつ対象者とその家族が、生活との折り合いをつけながら、病気とともに生きるために必要なセルフケアへの支援について考えることができる。 3. 慢性期看護に必要な基礎的知識を活用しながら看護過程を展開し、個別性を重視した看護実践ができる。		
準備学習	解剖・生理、病態・疾患をはじめ、看護論、演習等既習の知識・技術を用いて実習を行うため、復習して実習に臨むこと。		

受講者への要望

健康管理に十分留意し、欠席のないようにすること。

講義の順序とポイント

セルフケア支援実習要項参照

1. 実習 1 日目（学内）
   臨地実習を受けるにあたってのオリエンテーション
   実習の目的・目標・方法・記録用紙の確認、実習の心構えと態度
2. 実習 2 日目（臨地）
   施設オリエンテーション（施設の概要・理念・構造・組織）
   病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、スケジュール）
3. 実習 3〜5 日目（臨地）
   受け持ち患者のケアへ参加、情報収集
4. 実習 6〜7 日目（臨地）
   受け持ち患者のケアへ参加、情報収集
   情報のアセスメントおよび看護問題の抽出
5. 実習 8 日目（学内）
   アセスメント内容の修正と看護問題の確認
6. 実習 9〜10 日目（臨地）
   受け持ち患者のケアへの参加、看護問題に基づいた解決目標・計画立案
7. 実習 11〜14 日目（臨地）
   看護計画に沿った援助の実施、評価
8. 実習 15 日目（学内）
   学習内容のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J90058001
科目名	高齢者看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Geriatric Nursing: Theory		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	「成長発達Ⅲ（高齢者の健康と看護）」で学修した知識と技術の統合を目指した高齢者疑似体験や麻痺のある高齢者の食事介助、口腔ケアなどを演習することにより看護技術能力を修得する。脳梗塞後遺症に罹患した高齢者や認知症に罹患している高齢者などのペーパーペーションとを用いてアセスメント（情報収集、解釈分析)、看護診断（看護問題の明確化)、看護計画、実施、評価、修正、実施・・・という一連の看護過程の思考方法を修得し、ケアプランの立案ができる能力を身につける。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』　（医学書院）　北川公子　2,600 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	パワーポイント DVD ビデオ教材活用、各講義のプリント配布		
評価方法	『確認の課題』合計点（30%)、定期試験（70%）		
到達目標	1．高齢者の加齢による生活機能の低下・変調を正しく理解できる。 2．老年期の特徴的な疾患への正しいアセスメントのための基礎的な知識を身につけることができる。 3．回復が望めない重篤な疾患や終末期ケアにおける介護家族への支援を理解できる。 4．生活の場で療養する高齢者への包括的・継続的支援を理解できる。 5．高齢者特有の医療事故、リスクマネジメントを正しく理解できる。		
準備学習	受講前に教科書の該当ページを一読しておくこと		

受講者への要望

高齢期における特徴的な疾患の身体症状やアセスメントについて高い関心を持ち、積極的に学んでください。

講義の順序とポイント

1．身体の加齢変化とアセスメント①＜フィジカルアセスメント、皮膚・視聴覚・感覚器のアセスメント＞
2．身体の加齢変化とアセスメント②＜循環器系、消化・吸収系、ホルモン系、泌尿・生殖器系、運動系＞
3．身体症状へのアセスメント＜発熱、痛み、掻痒、脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感＞
4．日常生活を支える活動、食事・食生活へのアセスメント＜生活機能を整える、基本動作・環境、転倒、廃用症候群、摂食・嚥下機能＞
5．排泄、清潔へのアセスメント＜排泄リズム、排泄障害、清潔の意義、清潔セルフケア、皮膚障害、入浴＞
6．生活リズム、コミュニケーションへのアセスメント＜睡眠と覚醒、コミュニケーション障害＞
7．回復期・終末期を支える看護①＜検査・治療、栄養ケア・栄養マネジメント＞
8．回復期・終末期を支える看護②＜放射線療法、化学療法、手術療法＞
9．疾患を持つ高齢者への看護①＜脳卒中、心不全＞
10．疾患を持つ高齢者への看護②＜パーキンソン病/症候群、肺炎、ノロウィルス感染症＞
11．疾患を持つ高齢者への看護③＜骨粗鬆症、骨折、褥瘡＞
12．認知機能障害への看護＜うつ、せん妄、認知症＞
13．終末期における看護＜ターミナルケア、緩和ケア、エンドオブライフケア、意思決定、家族へのケア＞
14．生活・療養の場の看護＜介護予防、ケアマネジメント、保健医療福祉施設、リハビリテーション、家族看護＞
15．高齢者のリスクマネジメント＜医療事故、リスクマネジメント、救命救急＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90059001
科目名	高齢者看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Gerontological Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	高齢者は、疾病や加齢により心身の諸機能の低下や障害が現れるため生活を支える看護が必要となる。そのため、日常生活援助である食生活や排泄、清潔、歩行などの基礎知識とその援助技術について学修する。さらに、高齢者特有の脱水や摂食・嚥下困難・生活不活発病などや、特に今後増加が予想される認知症などの病態や要因、アセスメント、看護について学修する。加えて、老年看護の特徴の１つである穏やかな死を迎えるための高齢者とその家族への看護についても学ぶ。		
教材（テキスト）	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『老年看護学』　（医学書院）		
教材（参考文献）	『高齢者総合的機能評価ガイドライン』（厚生科学研究所）　鳥羽研二		
教材（その他）	１）ビデオ教材やパワーポイントを活用する。 ２）適宜プリントを配付する。		
評価方法	定期試験（70%）、提出レポート（30%）		
到達目標	１．高齢者の病態生理について理解できる。 ２．高齢者の全体像を把握するだけでなく個別性についても考えられる。 ３．高齢者特有の症状についてアセスメントし、個別ケアについて考えられる。 ４．高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開について考えられる。 ５．高齢者の援助に必要な看護技術を修得する。 ６．老年看護学に関する既習内容を統合できる。		
準備学習	１）授業ごとに京学なびの『授業資料』にレジメを１週間前にアップロードします。よく読み理解しておくこと。 紙資料は当日配布します。 ２）授業に関連する項目を教科書で探し予習すること。		

受講者への要望

１）技術項目は安全に留意し、注意深く行うよう心がける。
２）積極的に参加し、常にグループダイナミクスの向上に務める
３）理解できないときは質問して、疑問を残さない。

講義の順序とポイント

１．　アクティビティ（グループワーク）
２．　アクティビティ（グループ発表）
３．　高齢者疑似体験、移動・移乗の援助方法についての演習
４．　マウスケアの演習
５．　アセスメントツールと看護過程の展開について
６．　看護過程の展開方法（事例１を用いて演習方法を説明①）
７．　看護過程の展開方法（事例１を用いて演習方法を説明②）
８．　看護過程の展開方法（事例１を用いて演習方法を説明③）
９．　看護過程の展開方法（事例２を用いて学生と教員とディスカッションしながら展開①）
１０．看護過程の展開方法（事例２を用いて学生と教員とディスカッションしながら展開②）
１１．看護過程の展開方法（事例２を用いて学生と教員とディスカッションしながら展開③）
１２．看護過程の展開方法（事例３を用いてグループワーク①）
１３．看護過程の展開方法（事例３を用いてグループワーク②）
１４．看護過程の展開方法（事例３を用いてグループワーク③）
１５．グループワークの発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J90059002
科目名	高齢者看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Gerontological Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	高齢者は、疾病や加齢により心身の諸機能の低下や障害が現れるため生活を支える看護が必要となる。そのため、日常生活援助である食生活や排泄、清潔、歩行などの基礎知識とその援助技術について学修する。さらに、高齢者特有の脱水や摂食・嚥下困難・生活不活発病などや、特に今後増加が予想される認知症などの病態や要因、アセスメント、看護について学修する。加えて、老年看護の特徴の１つである穏やかな死を迎えるための高齢者とその家族への看護についても学ぶ。		
教材（テキスト）	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『老年看護学』　（医学書院）		
教材（参考文献）	『高齢者総合的機能評価ガイドライン』（厚生科学研究所）　鳥羽研二		
教材（その他）	１）ビデオ教材やパワーポイントを活用する。 ２）適宜プリントを配付する。		
評価方法	定期試験（70%）、提出レポート（30%）		
到達目標	１．高齢者の病態生理について理解できる。 ２．高齢者の全体像を把握するだけでなく個別性についても考えられる。 ３．高齢者特有の症状についてアセスメントし、個別ケアについて考えられる。 ４．高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開について考えられる。 ５．高齢者の援助に必要な看護技術を修得する。 ６．老年看護学に関する既習内容を統合できる。		
準備学習	１）授業ごとに京学なびの『授業資料』にレジメを１週間前にアップロードします。よく読み理解しておくこと。 紙資料は当日配布します。 ２）授業に関連する項目を教科書で探し予習すること。		

受講者への要望

１）技術項目は安全に留意し、注意深く行うよう心がける。
２）積極的に参加し、常にグループダイナミクスの向上に務める
３）理解できないときは質問して、疑問を残さない。

講義の順序とポイント

１．　アクティビティ（グループワーク）
２．　アクティビティ（グループ発表）
３．　高齢者疑似体験、移動・移乗の援助方法についての演習
４．　マウスケアの演習
５．　アセスメントツールと看護過程の展開について
６．　看護過程の展開方法（事例１を用いて演習方法を説明①）
７．　看護過程の展開方法（事例１を用いて演習方法を説明②）
８．　看護過程の展開方法（事例１を用いて演習方法を説明③）
９．　看護過程の展開方法（事例２を用いて学生と教員とディスカッションしながら展開①）
１０．看護過程の展開方法（事例２を用いて学生と教員とディスカッションしながら展開②）
１１．看護過程の展開方法（事例２を用いて学生と教員とディスカッションしながら展開③）
１２．看護過程の展開方法（事例３を用いてグループワーク①）
１３．看護過程の展開方法（事例３を用いてグループワーク②）
１４．看護過程の展開方法（事例３を用いてグループワーク③）
１５．グループワークの発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J90060001
科目名	高齢者看護学実習	単位数	3
科目名（英語表記）	Gerontological Nursing: Clinical Practice		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
講義概要	健康障害を持つ高齢者を全人的に捉え、健康問題だけでなく QOL や ADL・残存機能の維持向上等の側面から、看護上の問題を把握し、対象者のその人らしさを尊重し、個別性を踏まえたケアプランを立案し、看護過程の展開能力を修得する。加えて、高齢者の身体的心理的な状態に適応した看護技術の実践能力を身につける。さらに高齢者看護（継続ケア含む）を実践する上で必要な他職種との連携や保健・医療・福祉制度の利用などについて具体的に学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』　（医学書院）　北川公子 『老年看護　病態・疾患論』　（医学書院）　佐々木英忠		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	1．　実習評価（実践への取り組み・実習記録）80%、事前学習 10%、出 席状況 10%により総合評価する。 2．　実習評価は、実習施設の指導者・指導教員の評価、学生の自 己評価、学生面接により決定する。 3．　出席が所定の日数に満たない場合には評価を受けることができない場合がある。		
到達目標	1．健康問題を抱える老年期の人の特性を理解し、個別性に 応じた看護援助を展開する。 2．老年期の人が生き生きと暮らせるための援助につ いて、計画、実施、評価する基礎的能力を養う。 3．老年期の人に尊敬の念を持って関わり、倫理的配慮ができる。 4．関係職種・機関との連携・調整について学び、看護職の役割について 考察できる。 5．老年期の人とその家族への援助を提供する看護専門職者としての態度を養う。		
準備学習	1．老年期の生理的特徴と老年症候群　（脱水、浮腫、せん妄、抑うつ、腰背痛、転倒・骨折、排尿障害、便 秘、嚥下障害、失語、認知症、褥創、白内障、老人性難聴　etc） 2．バイタル測定、聴診法（肺音、腸音、心音）・血圧・動脈血酸素飽和度、ADL 機能評価 3．患者の安全・安楽・事故防止（　輸液療法、歩行・車椅子での移動、バルーン・カテーテルなどチューブ挿 入、水分出納バランスと点滴の滴下数チェック） 4．主な疾患（心不全、肺炎、肺癌、白血病、脳出血、脳梗塞、パーキンソン病、多発性硬化症、硬膜下血腫 骨折（大腿頸部）、変形性関節症（股・膝・頸椎）、脊椎管狭窄症 5．外科療法、化学療法、放射線治療、輸血療法、緩和ケア、感染管理 6．看護計画（生じやすい看護問題について復習しておく）		
受講者への要望			
臨床実習は、看護実践の場で、患者の皆様に貴重な体験の場を提供して頂き、看護の先輩の方々から貴重な教えを受けます。常に感謝の気持ちを忘れず、お礼の言葉「ありがとうございます」を述べましょう。			
講義の順序とポイント			
1日目（学内）：臨地実習実施にあたってのオリエンテーション　（ 実習目的・目標・方法・記録用紙の確認、実習の心構えと態度 ） 2日目（臨地）：病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）　受け持ち対象者の決定、情報収集　受け持ち対象者のケアへの見学と情報収集 3～5日目（臨地）：受け持ち対象者のケアへの参加と情報収集・分析 6日目（学内）：収集した情報のアセスメント、問題抽出、ケア計画立案の指導 7～11日目（臨地）：立案した計画の発表、実施、評価 11～14 日目（臨地）：計画の修正とカンファレンス、援助の実施、評価 15日目（学内）：実習のまとめ、全体カンファレンス、発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J90061001
科目名	精神看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Theory		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
講義概要	「健康」のパラダイムから、心の健康障害を本来の心の機能の逸脱と捉え、主たる精神疾患（器質性精神障害、神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、パーソナリティ障害、気分障害、てんかん、摂食障害、依存症）症状と看護を展開するための理論と、実践的な治療的コミュニケーション技術を習得する。また、精神力動理論から、精神機能・社会機能・家族機能をアセスメントし、実現可能な、最善のケアを提供するための看護介入とその根拠を理解する。		
教材（テキスト）	『精神看護学』（南江堂）￥3240		
教材（参考文献）	授業の中で適宜紹介していきます。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（80%）、レポート（10%）、平常点（10%）		
到達目標	1．精神疾患患者の治療と看護が理解できる 2．精神の健康問題をもつ対象者を理解するための技術や考え方について、知識を得て、自ら考えることができる。 3．事例をもとに、対象者の理解を深め、援助について自ら考えることができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を指定するので、必ず予習をしておくこと。		

受講者への要望

1．学んだ理論や知識を自らの体験と照らし合わせて考えてみましょう。
2．遅刻や私語を厳禁とします。私語があまりに多いようなら、他の学生に迷惑となるため退出してもらいます。
3．スケジュールや授業内容は変更する場合があります。その場合は、授業中あるいは京学なびにて連絡します。

講義の順序とポイント

1．統合失調症と関連疾患の概要　（矢山）：4/7(金)①
2．統合失調症と関連疾患の治療　（矢山）：4/7（金）②
3．統合失調症と関連疾患の看護　（矢山）：4/14(金)①
4．気分障害（うつ病）　（矢山)）：4/14(金)②
5．気分障害（躁うつ病）　（矢山)）：4/21(金)①
6．パニック症､強迫症　（松井)）：4/21(金)②
7．PTSD、身体症状症､解離性障がい　（松井)）：4/28(金)①
8．摂食障がい、アルコール依存症　（松井)）：4/28(金)②
9．薬物依存症､アディクション　（松井)）：5/26(金)①
10．境界性パーソナリティ障がい、LGBT（性的マイノリティ）　（松井)）：5/26(金)②
11．アスペルガー症候群、ADHD　（松井)）：6/16(金)①
12．パニック症､強迫症ほか（国試対策）　（松井）：6/16(金)②
13．器質性精神障害（アルツハイマー型認知症）　（矢山)）：6/30(金)①
14．器質性精神障害（脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症）　（矢山)）：7/7(金)①
15．統合失調症と関連疾患ほか（国試対策）　（矢山)）：7/14(金)①

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J90062001
科目名	精神看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	『環境』のパラダイムから、我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷と現状を踏まえ、精神障碍者の権利擁護における看護活動について理解することができる。また、社会復帰・社会参加の基本と働きかけ地域での自立の場と援助活動について理解する。また、対人関係の看護論（トラベルビー）の視点から、「患者」という人間は存在しないことを前提とし、「人間対人間の看護」「人間体験としての苦難」「苦難」の現れ・過程・消滅、「希望」、「対人関係のプロセス」について理解できる。		
教材（テキスト）	『精神看護Ⅰ』『精神看護Ⅱ』　（南江堂）　野田文隆　萱間真美　編著		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	講義毎の提出物・課題（20%）　演習レポート(30%）　定期試験（50%）		
到達目標	1.我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷と現状を踏まえ、精神障碍者の権利擁護における看護活動について理解する。2.心の健康を促進し、健康障害の予防・回復、リハビリテーションの場と援助活動について理解する。3.対人関係の看護論（トラベルビー）の視点から、「人間対人間の看護」「人間体験としての苦難」「苦難」の現れ、プロセス、その消滅、「希望」、「対人関係のプロセス」について理解できる。		
準備学習	事前資料を配布し、課題、事前学習内容を把握しておく。		
受講者への要望			
記録・提出物は独力で記載する。グループ演習においては課せられた役割を果たす。			
講義の順序とポイント			
1.我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷：精神保健福祉法、障害者自立支援法、心神喪失者等医療観察法・児童虐待防止法 2.精神保健福祉の現状と課題：社会的入院、入院の長期化、身体合併症 3.精神科リハビリテーションの主概念 4.医療機関におけるリハビリテーション（作業療法・認知行動療法・社会生活技能訓練） 5.包括的リハビリテーション、ＡＣＴ 6.精神障碍者の権利擁護（アドボカシー）、トラベルビーの看護の役割：「病人の擁護者、仲裁者、調停者」 7.トラベルビーの「看護の本質」：対人関係のプロセス 8.トラベルビーの「人間」「患者」という概念 9.トラベルビーの「病気」の概念：病気に関する文化的信念、精神病に関する信念、診断基準 10.苦難と病気に対する反応（非難・当惑・切望・防衛機制） 11.人間体験としての病気と苦難：孤独・自暴自棄・自己憐憫 12.人間対人間の関係：ラポート、同情、愛 13.人間対人間の関係（ラポール）の確立にいたる諸相（共感・同感） 14.コミュニケーションの崩壊と歪曲、その態様と要因 15.治癒思考的構え、非受容的な病人の援助						

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90062002
科目名	精神看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	『環境』のパラダイムから、我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷と現状を踏まえ、精神障碍者の権利擁護における看護活動について理解することができる。また、社会復帰・社会参加の基本と働きかけ地域での自立の場と援助活動について理解する。また、対人関係の看護論（トラベルビー）の視点から、「患者」という人間は存在しないことを前提とし、「人間対人間の看護」「人間体験としての苦難」「苦難」の現れ・過程・消滅、「希望」、「対人関係のプロセス」について理解できる。		
教材（テキスト）	『精神看護Ⅰ』『精神看護Ⅱ』　（南江堂）　野田文隆　萱間真美　編著		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	講義毎の提出物・課題（20%）　演習レポート(30%）　定期試験（50%）		
到達目標	1.我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷と現状を踏まえ、精神障碍者の権利擁護における看護活動について理解する。2.心の健康を促進し、健康障害の予防・回復、リハビリテーションの場と援助活動について理解する。3.対人関係の看護論（トラベルビー）の視点から、「人間対人間の看護」「人間体験としての苦難」「苦難」の現れ、プロセス、その消滅、「希望」、「対人関係のプロセス」について理解できる。		
準備学習	事前資料を配布し、課題、事前学習内容を把握しておく。		
受講者への要望			
記録・提出物は独力で記載する。グループ演習においては課せられた役割を果たす。			
講義の順序とポイント			
1.我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷：精神保健福祉法、障害者自立支援法、心神喪失者等医療観察法・児童虐待防止法 2.精神保健福祉の現状と課題：社会的入院、入院の長期化、身体合併症 3.精神科リハビリテーションの主概念 4.医療機関におけるリハビリテーション（作業療法・認知行動療法・社会生活技能訓練） 5.包括的リハビリテーション、ＡＣＴ 6.精神障碍者の権利擁護（アドボカシー）、トラベルビーの看護の役割：「病人の擁護者、仲裁者、調停者」 7.トラベルビーの「看護の本質」：対人関係のプロセス 8.トラベルビーの「人間」「患者」という概念 9.トラベルビーの「病気」の概念：病気に関する文化的信念、精神病に関する信念、診断基準 10.苦難と病気に対する反応（非難・当惑・切望・防衛機制） 11.人間体験としての病気と苦難：孤独・自暴自棄・自己憐憫 12.人間対人間の関係：ラポート、同情、愛 13.人間対人間の関係（ラポール）の確立にいたる諸相（共感・同感） 14.コミュニケーションの崩壊と歪曲、その態様と要因 15.治癒思考的構え、非受容的な病人の援助			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90063001
科目名	精神看護学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Clinical Practice		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	精神科病院の治療構造の必要性・特殊性を踏まえ、生活の場・治療の場における生き辛さを学ぶ。また、精神障害をもつ人を、生物学的視点、心理学的視点、社会的な視点から理解し、それに基づく看護計画を立案できる。障害をセルフケア能力における個性あるいは限界と捉え、対象者が求める安寧とセルフケアの向上に向けた、個別的な援助を学ぶ。さらに、治療的コミュニケーション・援助を通して、対象理解に留まらず、援助者である学生自身の振り返りができ、自己洞察を深めることを目標とする。		
教材（テキスト）	萱山真美・野田文隆編（著）「精神看護学」南江堂　2010		
教材（参考文献）	随時紹介する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	事前学習(10%)、看護実践（80%)、レポート（10%）とする。		
到達目標	1.『環境』としての精神科病院の治療構造の必要性・特殊性を踏まえ、生活の場・治療の場における「生きづらさ」を理解できる。2.生物学的、心理学的、社会的な視点から対象を理解し、それに基づ看護行動ができできる。3.障がいを、能力における限界、個性と捉え、対象者が求める安寧に向けた、個別的な援助ができる。4.看護実践を通して、もう１つの対象である学生自身の振り返りができ、自己洞察を深めることができる。		
準備学習	精神看護学実習　オリエンテーション資料の熟読と準備		
受講者への要望			
事前学習の提出、実習に相応しい外観・態度・服装・言葉使いなどの「心」の準備。			
講義の順序とポイント			
1 実習 1 日目：学内オリエンテーション 2 実習 2 日目：病院オリエンテーション、病棟オリエンテーション、患者紹介 3 実習 3 日～5 日目：コミュニケーション、患者への接近と対象の理解、「生きづらさ」の態様の把握 4 実習 6～9 日目：セルフケアへの援助と人間対人間の関係への展開 5 実習 10 日　学内　まとめ　精神看護学実習レポートの作成と記録の提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★	★

年度	2017	授業コード	J90064001
科目名	小児看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Theory		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	「小児期の成長発達と健康問題」をテーマに、子どもの発達、健康、生活を総合的に捉え、“子どもを育てるために社会が子どもの健康をどのように守ろうとしているのか“や“小児期に起こりやすい健康問題”についての理解を目指す。また、子どもの発達、健康、生活の総合理解から、さまざまな健康レベルにある子どもの生活と養護に関するシミュレーションを行い、子どもとその家族を主体とした看護援助方法・技術について学生自らが主体的に修得することを目指す。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②　小児臨床看護各論』　（医学書院）　奈良間美保　3,300 円		
教材（参考文献）	『子どもの病気の地図帳』　（講談社）　鴨下重彦、柳沢正義　4,000 円 『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円		
教材（その他）	１．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 ２．適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（100％） ※全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下となる。3 分の 2 以上の出席があった場合においても定期試験で 60 点に満たない場合は不合格となる。		
到達目標	１．子どもの看護に必要な概念（子どもの権利、ストレス・コーピング、プレパレーションなど）について理解できる。 ２．健康障害を持つ子どもとその家族の特徴を理解し、子どもと家族への看護援助について理解できる。 ３．子どもに起こりやすい健康問題とその援助について、子どもの発達、健康、生活や社会政策を含めて理解できる。 ４．子どもの最善の利益について理解を深めることができる。		
準備学習	「成長発達Ⅰ（小児の健康と看護)」で学んだ内容が基礎となるため、復習しておくこと。また、テキストを熟読して講義にのぞむこと。		

受講者への要望

すべての単元が「小児の健康回復を支える援助」の講義の基礎となる内容であると同時に、講義内容が連続的であることから、講義は休まない事。また、健康障害を持つ子どもへの看護の検討、実施に向けて、応用が行えるよう、授業内で紹介する文献で積極的に学修すること。さらに、解剖・生理、小児に特徴的な疾患に関する関連文献から積極的に知識の修得を図り、講義にのぞむこと。

講義の順序とポイント

１．健康障害を持つ子どもと家族の看護１：子どもとその家族の病気・障害に対する理解と反応
２．健康障害を持つ子どもと家族の看護２：子どもとその家族の病気や障害の治療や健康管理に関する看護
３．小児の状況（環境）に特徴づけられる看護１：入院による子どもと家族への影響
４．小児の状況（環境）に特徴づけられる看護２：外来・在宅における子どもと家族への看護
５．急性期にある子どもと家族の看護
６．周手術期にある子どもと家族への看護
７．慢性期にある子どもと家族への看護
８．終末期にある子どもと家族への看護
９．ハイリスク新生児とそのケア１：ハイリスク新生児と保育器について
１０．ハイリスク新生児とそのケア２：保育器内におけるハイリスク新生児のケア
１１．小児におこりやすい事故・外傷とその看護
１２．症状を示す子どもと家族への看護１：痛み・呼吸困難
１３．症状を示す子どもと家族への看護２：発熱・脱水
１４．症状を示す子どもと家族への看護３：下痢・嘔吐・けいれん
１５．子どもの健やかな成長・発達を支えるために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J90065001
科目名	小児看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	第 1 テーマを「健康障害を持つ小児のアセスメントと看護介入」とし、病気や入院が子どもに及ぼす影響、健康障害をもつ子どもの健康評価を中心に、小児のアセスメント概念を学ぶ。さらに看護過程の展開を通し、さまざまな健康レベルにある子どもとその家族に対する看護の特徴と看護実践に必要な知識・態度・技術の修得をめざす。第 2 テーマを「小児の健やかな成長発達と健康障害への支援」とし、疾病や事故に伴う現象の理解、フィジカルアセスメントのシミュレーションから、子どもの看護に必要な分析能力の修得をめざす。		
教材（テキスト）	奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」　医学書院　3,024 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学②「小児臨床看護各論」　医学書院　3,564 円 東京大学医学部附属病院 看護部監修　ナーシングスキル日本版　ELSEVIER		
教材（参考文献）	山元恵子監修　写真でわかる小児看護技術 改訂第 3 版（写真でわかるシリーズ）　2,700 円 鴨下重彦・柳沢正義監修　「子ども病気の地図帳」　講談社　4,320 円 舟島なをみ著　看護のための人間発達学　　医学書院　3,240 円 浅野みどり編集　根拠と事故防止からみた小児看護技術　医学書院　4,320 円 石黒彩子編集　発達段階からみた看護過程＋病態関連図　4,104 円		
教材（その他）	1．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 2．適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（７０％）　演習への取り組み度（３０％）		
到達目標	1．小児特有の疾患を理解し、子どもの健康障害のレベル及び子どもと家族の置かれている状況についてアセスメントできる。 2．健康障害のある子どもと家族への必要な看護援助について述べることができる。 3．子どもの健康障害・発達段階に応じた看護技術を選択し、述べることができる。		
準備学習	「成長発達 I （小児の健康と看護)」「小児の健康障害と看護」で学んだ内容が基礎となるため、復習しておくこと。また、演習内容を教科書と照合し、概要を把握しておくこと。小児看護技術においては入念に学習すること。看護過程については、対象疾患について詳細に調べておくこと。		

受講者への要望

すべての単元がグループワークであるため、受講は全出席を基本とする。小児看護技術は、グループワーク、プレゼンテーションとロールプレイを組み合わせて学内技術実習を行なう。　特に小児看護技術に関する項目は積み上げ内容になっているため、各項目の小児看護技術を確実に習得することが必要である。学生個々に技術練習を行うとともに、教員のチェックを受け正確に技術を身につけるよう努めること。看護過程については、ペーパーペイシェントでの展開を実施する。

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．　移動・移送・環境（安全）の調整・更衣・おむつ交換
3．　バイタルサインの測定・身体計測
4．　清拭（部分浴を含む）
5．　与薬（内服・坐薬・輸液）の援助
6．　診察の介助技術
7．　処置・検査の援助　1（採血・輸液）
8．　処置・検査の援助　2（腰椎穿刺・骨髄穿刺）
9．　看護過程：事例紹介・グループワーク
１０．ペーパーペイシェントのアセスメントの作成
１１．ペーパーペイシェントの関連図の作成
１２．ペーパーペイシェントの看護問題の明確化及び看護計画の立案
１３．ペーパーペイシェントの看護計画の立案
１４．各グループの学習成果発表
１５．各グループの学習成果発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★★	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J90065002
科目名	小児看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	第 1 テーマを「健康障害を持つ小児のアセスメントと看護介入」とし、病気や入院が子どもに及ぼす影響、健康障害をもつ子どもの健康評価を中心に、小児のアセスメント概念を学ぶ。さらに看護過程の展開を通し、さまざまな健康レベルにある子どもとその家族に対する看護の特徴と看護実践に必要な知識・態度・技術の修得をめざす。第 2 テーマを「小児の健やかな成長発達と健康障害への支援」とし、疾病や事故に伴う現象の理解、フィジカルアセスメントのシミュレーションから、子どもの看護に必要な分析能力の修得をめざす。		
教材（テキスト）	奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」　医学書院　3,024 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学②「小児臨床看護各論」　医学書院　3,564 円 東京大学医学部附属病院 看護部監修　ナーシングスキル日本版　ELSEVIER		
教材（参考文献）	山元恵子監修　写真でわかる小児看護技術 改訂第 3 版（写真でわかるシリーズ）　2,700 円 鴨下重彦・柳沢正義監修　「子ども病気の地図帳」　講談社　4,320 円 舟島なをみ著　看護のための人間発達学　　医学書院　3,240 円 浅野みどり編集　根拠と事故防止からみた小児看護技術　医学書院　4,320 円 石黒彩子編集　発達段階からみた看護過程＋病態関連図　4,104 円		
教材（その他）	1．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 2．適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（７０％）　演習への取り組み度（３０％）		
到達目標	1．小児特有の疾患を理解し、子どもの健康障害のレベル及び子どもと家族の置かれている状況についてアセスメントできる。 2．健康障害のある子どもと家族への必要な看護援助について述べることができる。 3．子どもの健康障害・発達段階に応じた看護技術を選択し、述べることができる。		
準備学習	「成長発達 I （小児の健康と看護)」「小児の健康障害と看護」で学んだ内容が基礎となるため、復習しておくこと。また、演習内容を教科書と照合し、概要を把握しておくこと。小児看護技術においては入念に学習すること。看護過程については、対象疾患について詳細に調べておくこと。		

受講者への要望

すべての単元がグループワークであるため、受講は全出席を基本とする。小児看護技術は、グループワーク、プレゼンテーションとロールプレイを組み合わせて学内技術実習を行なう。　特に小児看護技術に関する項目は積み上げ内容になっているため、各項目の小児看護技術を確実に習得することが必要である。学生個々に技術練習を行うとともに、教員のチェックを受け正確に技術を身につけるよう努めること。看護過程については、ペーパーペイシェントでの展開を実施する。

講義の順序とポイント

1．　ガイダンス
2．　移動・移送・環境（安全）の調整・更衣・おむつ交換
3．　バイタルサインの測定・身体計測
4．　清拭（部分浴を含む）
5．　与薬（内服・坐薬・輸液）の援助
6．　診察の介助技術
7．　処置・検査の援助　1（採血・輸液）
8．　処置・検査の援助　2（腰椎穿刺・骨髄穿刺）
9．　看護過程：事例紹介・グループワーク
１０．ペーパーペイシェントのアセスメントの作成
１１．ペーパーペイシェントの関連図の作成
１２．ペーパーペイシェントの看護問題の明確化及び看護計画の立案
１３．ペーパーペイシェントの看護計画の立案
１４．各グループの学習成果発表
１５．各グループの学習成果発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★★	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J90066001
科目名	障がい児看護演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Care of Disabled Child Population		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	発達に障がいのある子どもと家族への看護実践のために、子どもとその家族への社会的支援の在り方と具体的看護援助の方法について学ぶ。さらに、発達に障がいを持ちながら社会で生活する子どもとその家族の小児看護へのニーズを理解するために、小児の養育支援に関わる福祉施設の見学実習を行う。見学をとおし、保健医療・福祉・教育との関連、社会における子どもへのサポートシステムの動向や、発達の障がいに応じた子どものサポートシステムおける看護の役割・活動について学ぶ。		
教材（テキスト）	倉田慶子他編集 「ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護」　ヘルス出版 4104 円		
教材（参考文献）	写真でわかる重症心身障害児(者)のケア: 人としての尊厳を守る療育の実践のために（写真でわかるシリーズ） インターメディカ出版　4104 円 舟島なをみ著　「看護のための人間発達学」　　医学書院　3240 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」医学書院　3024 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②「小児看護学各論」医学書院 3240 円		
教材（その他）	１．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 ２．適宜プリントを配布する。 ３．施設見学を行う。		
評価方法	レポート（70%）　演習への取り組み度(30%)		
到達目標	１．障がいの概念について理解できる。 ２．障がいを持つ子どもとその家族の特徴について理解できる。 ３．障がいを持つ子どもとその家族の障害の受容過程について理解できる。 ４．障がいを持つ子どもとその家族の日常生活や健康管理上に必要な基本的看護について理解できる。 ５．障がいを持つ子どもとその家族を支援するための多職種連携の必要性について理解できる		
準備学習	障がい児援助に関する DVD の視聴をおこない、DVD の内容から思考したことを A4 用紙 1 枚（1600 字程度）にまとめる。		

受講者への要望

障がいの種類と程度について理解し、様々な障害を持つ子どもたちが、成長発達できるための支援として看護者の果たすべき役割を問い続けながら、授業にのぞむこと。
障がいを持つ子どもやその家族へ接するにあたり、倫理的側面から取るべき行動や態度について、よく考えて授業にのぞむこと。
権利主張や意思主張が明確に行えない人々の思いを良く汲み取り、現在の自分に出来ることは何かを常に問う姿勢をもつこと。
施設見学を行うため、十分な事前学習と倫理的配慮を行うこと。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、障がいとは、尊厳を守るケアについて
2.障がいを持つ子どもの発達の特徴について
3.障害を持つ子どもと家族の特徴について　、家族の受容過程と看護援助
4.障がいを持つ子どもへの養育と看護援助
5.障害を持つ子どもとのコミュニケーション
6.障がいを持つ子どもの日常生活の援助
7.障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際①バイタルサインの測定と一般状態の観察
8.障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際②口腔ケア、栄養ケアについて
９.障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際③排泄ケアについて
１０.障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際④身体の動かし方とポジショニングについて
１１．障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際⑤呼吸ケアについて
※７～１１回の内容については学内演習及び施設見学で学修する。
１２．グループワーク：１２～１５回
テーマを課題より選択し、グループディスカッションし、まとめる。
テーマ：①障がいを持つ子どもの生活を広げるためのケアについて
②障がいを持つ子どもとその家族への援助について
③医療的ケアが必要な子どもの在宅ケアと看護師の役割について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90067001
科目名	小児看護学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Clinical Practice		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	子どもの発達の特性を踏まえ、臨床現場のダイナミクスを体験しながら、対象（健康障害のある子どもおよびその家族）の健康上の問題を総合的に捉え、対象に適した看護実践について学ぶ。そのために健康障害のある子どもの看護に対し学んだ知識・技術・態度を用いて対象に適した看護実践を体験する。さらに、対象とのかかわりの中で、対象を尊重した看護についての理解を深め、現代社会におけるこどもの健やかな成長と疾病の予防･回復において必要な看護の役割を学ぶ。グループに分かれて病院施設で 1 週間の実習を行う。		
教材（テキスト）	奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 医学書院　3,024 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学②「小児臨床看護各論」　医学書院　3,564 円		
教材（参考文献）	山元恵子 監修　写真でわかる小児看護技術 改訂第 2 版（写真でわかるシリーズ）　2,700 円 鴨下重彦・柳沢正義監修　「子ども病気の地図帳」　講談社　4,320 円 舟島なをみ著　看護のための人間発達学　　医学書院　3,240 円		
教材（その他）			
評価方法	4 / 5 以上の出席を原則とし、実習内容・態度・記録をもとに、総合的に評価する。 レポート課題を含む実習目標に対する到達度（80%）、実習態度（20%）		
到達目標	1．対象の子どもの疾患・発達・生活面を中心に全体像を把握し，子ども及び家族のニーズのアセスメントを行い，看護の必要性を判断できる． 2．対象の子どもとその家族の病気体験を理解し、対象に応じた具体的看護援助が考案できる。 3．対象の子ども及びその家族と，適切な人間関係を展開し、看護実践を実施できる 4．自己の関わりを振り返り、看護者としての姿勢や小児看護観・こども観を高める機会とする．		
準備学習	成長発達 I（小児の健康と看護)、小児看護学援助論、小児看護学援助論演習の講義内容を基本に、実習で必要となる知識・技術に関する以下の項目について復習しておくこと。 ①小児の成長発達過程とアセスメント方法 ②乳幼児期の子どものバイタルサインの測定・身体計測・日常生活の世話 ③発達段階に応じた遊びの種類と玩具の選択 ④病気・入院が子ども・家族に与える影響と子どもの反応 ⑤検査・処置を受ける子どもの看護 ⑥小児看護過程		
受講者への要望			
小児看護学実習は、これまで学んだ知識、技術の統合と応用である。病態や治療、医療処置のスムーズな遂行方法の理解と、子どもやその家族の心情、身体状況を理解し、よりよい看護援助の実践ができるよう心がけてほしい。また、対象者の特性を踏まえ、健康管理に十分留意し、体調を整えて実習にのぞむこと。			
講義の順序とポイント			
実習 1 日目：実習オリエンテーション(病棟オリエンテーション) 実習 2 ～ 5 日目：各グループごとに病棟で、健康問題を抱え入院中の子どもを 1～2 名受け持ち、主体的にその子どもと家族への看護援助を指導者とともに実践する。 受け持ち児とその家族への適切な看護実践のために、必要に応じて、病態カンファレンスや病棟ナースとのカンファレンス等を行う。 病棟実習最終日には最終合同カンファレンスを行い、学習内容を共有する。 ※1 日を通して日々の実習記録を行う中で、学習内容の整理をする。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	J90068001
科目名	母性看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Theory		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	女性のライフサイクルの中の周産期（妊娠・分娩・産褥期および新生児期）は、正常な経過をたどっていても、心身の異常や危機を生じやすい。妊婦の健康管理、安全な分娩、産後の健康管理、新生児の管理等、母子とその家族の身体的・心理的・社会的側面の特徴を理解し、より健康な日常生活に向けての支援を実践するための知識と看護について理解する。また、女性の健康と生命倫理、ウェルネスの視点からの看護支援についても学ぶ。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考文献）	『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用して行う。また、必要時資料の配布を行う。		
評価方法	定期試験（80%）、提出レポートおよび講義への参加態度（20%）で評価する。		
到達目標	１．妊娠・分娩・産褥期の正常な経過と、妊産婦、褥婦の身体的・心理社会的特徴を理解し、健康状態のアセスメントとその看護について理解する。 ２．新生児の身体的・心理社会的特徴を理解し、健康状態のアセスメントとその看護について理解する。 ３．周産期の正常な経過から逸脱した対象への看護について理解する。 ４．ウェルネスの看護の視点と母子とその家族を含む看護支援について学ぶ。		
準備学習	「解剖生理学 B」「成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）」を復習しておく必要があります。 今日の産科医療を取り巻く問題や新聞記事などにも関心をもって見聞すると、学習により興味がもてると思います。		

受講者への要望

母性看護は女性の一生にわたって、母性の健康を回復・保持・増進することにあります。その中で、妊娠・出産・育児は女性やその家族にとって人生で重要な出来事です。近年の産科医療は、さまざまな問題を、かかえています。医師不足の問題、出産できる施設の減少の問題があります。また、出産年齢が幅広くなり、それに伴いリスクを抱えながら出産するケースも増えています。育児不安やマタニティブルーの問題などもあり、対象者個人だけではなく、夫・家族も含めて支援していく必要があります。この科目では、妊娠・分娩・産褥期・新生児に関する知識と対象者が安全・快適・満足できる看護について学びます。この科目は、母性看護実習に直結します。学習内容が多様で、かつ短時間で進行しますので、積極的に予習・復習をして授業に臨むことを期待します。

講義の順序とポイント

１．妊娠経過のアセスメント（胎児の発育と発達）　：5/23（火）③
２．妊娠経過のアセスメント（母体の変化とフィジカルアセスメント）　：5/24（水）②
３．妊婦と胎児の健康の保持・増進のためにセルフケア能力を高める援助　：5/30（火）③
４．妊娠期の生理的・心理的ニーズや日常生活の理解と看護　：5/31（水）②
５．分娩経過と胎児の健康状態のアセスメント　：6/6（火）③
６．分娩期のフィジカルアセスメントと看護　：6/7（水）②
７．出産が安全、安楽、主体的で満足な体験となるための看護　：6/13（火）③
８．産褥期のアセスメント（退行性変化）と看護　：6/14（水）②
９．産褥期のアセスメント（進行性変化：母乳育児支援）と看護　：6/21（水）②
１０．褥婦と家族への看護　：6/28（水）②
１１．新生児の生理的変化と胎外適応のアセスメントと看護　：7/5（水）②
１２．新生児の胎外適応（日齢をふまえた新生児の観察）のアセスメントと看護　：7/12（水）②
１３．新生児のセルフケアを補い、成長・発達を促す看護　：7/19（水）②
１４．ハイリスク妊産褥婦の看護　：7/25（火）③
１５．ハイリスク新生児の看護　：7/26（水）②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90069001
科目名	母性看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	既修科目である「母性看護学援助論」での学修内容をふまえ、妊産婦、褥婦および新生児とその家族に対して、より健康的な生活に向けた看護を実践するために必要な、観察やアセスメント、看護技術を修得することを目的とする。母子の事例を用いた看護過程の演習を通して、対象の個別性に配慮した看護援助の計画立案について学ぶ。そして、対象とする母子に、母性看護の特性をふまえた援助を行うための看護実践能力を、演習によって養う。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考文献）	『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』（医歯薬出版㈱）　太田操　編　　2200 円 『ナーシンググラフィカ　母性看護技術』（メディカ出版）　横尾京子他　編集　　2600 円 『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教材（その他）	ビデオ教材やモデル人形、妊婦疑似体験モデル、模型などを活用して行う。また、モデル人形を用いた演習や沐浴の実施等で看護技術の習得を図る。		
評価方法	課題の達成度（30%）、実技試験（30%）、筆記試験（40%）で、評価する。		
到達目標	１）母子の事例を用いて、アセスメントを行い、必要な援助を考察し、看護計画を立案することができる。 ２）妊産婦、褥婦および新生児の特性を考慮した看護援助に関する基本的知識と周産期に必要な看護技術を修得することができる。		
準備学習	周産期に関連する講義科目の知識および基礎看護技術で学んだ看護技術が、この科目を履修する上で大切です。これまで学んだ知識と技術を復習して演習に臨んでください。		

受講者への要望

周産期の母子に看護ケアを提供する上で必要な技術と、思考プロセスを学びます。何故そのケアが必要なのかを考えながら、技術の習得に臨んでください。この科目は、臨地実習に直結する科目であり、演習項目は実習で実施する内容です。事例演習で学ぶウェルネスのアセスメントは、母子が、成長発達プロセスを順調に進むために、健康行動の段階的な達成をするための看護援助を行う上で必要なものです。

　欠席をすることで、技術の修得ができない場合は、実習での学びに大きく影響するため、健康管理に留意し、積極的な学修参加を期待します。

講義の順序とポイント

１．　＜項目＞　オリエンテーション　　：5/29③
　　事例演習
　　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(1)
２．３．＜項目＞　妊婦、産婦、胎児の健康状態をアセスメントするための看護技術
　　＜内容＞　レオポルド触診法、胎児心音聴取、腹囲・子宮底測定
　　NST の装着、妊婦体験
　　分娩期の呼吸法と産痛緩和法
４．　＜項目＞　事例演習
　　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(2)
５．６．＜項目＞　褥婦の健康状態をアセスメントするための看護技術
　　＜内容＞　退行性変化の観察と支援（子宮底の位置、硬度、高さの観察、悪露の観察）
　　進行性変化の観察と母乳栄養への援助技術（乳房・乳頭の観察、マッサージ）
　　産褥体操
７．　＜項目＞　事例演習
　　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(3)
８．　＜項目＞　事例演習
　　＜内容＞　褥婦と新生児の事例の情報の解釈・分析から全体像を記載して、看護上の問題（ウェルネスの状態）を明らかにする。
９．10．＜項目＞　新生児への看護技術
　　＜内容＞　新生児の抱き方、寝かせ方、寝衣交換、哺乳瓶での補足法、排気の仕方
　　新生児の清潔（清拭および沐浴)、沐浴の練習

11. 12. ＜項目＞　新生児への看護技術
＜内容＞　新生児の観察、諸計測（身長、体重、胸囲、頭囲など）
沐浴の練習
13. ＜項目＞　事例演習
＜内容＞　褥婦と新生児の看護上の問題（ウェルネスの状態）から母子とその家族に必要な援助についての看護計画を立案する。(1)
14. ＜項目＞　事例演習
＜内容＞　褥婦と新生児の看護上の問題（ウェルネスの状態）から母子とその家族に必要な援助についての看護計画を立案する。(2)
15. ＜項目＞　事例演習・まとめ
＜内容＞　事例のまとめと、グループ学習の成果を発表し、共有する。

Ａ・Ｂのクラス分け、スケジュールについては別紙で説明する。
6/5①②③④、6/12①②③④、6/19①②③④、6/26①②③④、7/3①②③④、7/10①②③④、7/17①②③④。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J90069002
科目名	母性看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	既修科目である「母性看護学援助論」での学修内容をふまえ、妊産婦、褥婦および新生児とその家族に対して、より健康的な生活に向けた看護を実践するために必要な、観察やアセスメント、看護技術を修得することを目的とする。母子の事例を用いた看護過程の演習を通して、対象の個別性に配慮した看護援助の計画立案について学ぶ。そして、対象とする母子に、母性看護の特性をふまえた援助を行うための看護実践能力を、演習によって養う。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考文献）	『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』（医歯薬出版㈱）　太田操　編　　2200 円 『ナーシンググラフィカ　母性看護技術』（メディカ出版）　横尾京子他　編集　　2600 円 『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教材（その他）	ビデオ教材やモデル人形、妊婦疑似体験モデル、模型などを活用して行う。また、モデル人形を用いた演習や沐浴の実施等で看護技術の習得を図る。		
評価方法	課題の達成度（30%）、実技試験（30%）、筆記試験（40%）で、評価する。		
到達目標	１）母子の事例を用いて、アセスメントを行い、必要な援助を考察し、看護計画を立案することができる。 ２）妊産婦、褥婦および新生児の特性を考慮した看護援助に関する基本的知識と周産期に必要な看護技術を修得することができる。		
準備学習	周産期に関連する講義科目の知識および基礎看護技術で学んだ看護技術が、この科目を履修する上で大切です。これまで学んだ知識と技術を復習して演習に臨んでください。		

受講者への要望

周産期の母子に看護ケアを提供する上で必要な技術と、思考プロセスを学びます。何故そのケアが必要なのかを考えながら、技術の習得に臨んでください。この科目は、臨地実習に直結する科目であり、演習項目は実習で実施する内容です。事例演習で学ぶウェルネスのアセスメントは、母子が、成長発達プロセスを順調に進むために、健康行動の段階的な達成をするための看護援助を行う上で必要なものです。

　欠席をすることで、技術の修得ができない場合は、実習での学びに大きく影響するため、健康管理に留意し、積極的な学修参加を期待します。

講義の順序とポイント

１．　＜項目＞　オリエンテーション　　：5/29③
　　事例演習
　　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(1)
２．３．＜項目＞　妊婦、産婦、胎児の健康状態をアセスメントするための看護技術
　　＜内容＞　レオポルド触診法、胎児心音聴取、腹囲・子宮底測定
　　NST の装着、妊婦体験
　　分娩期の呼吸法と産痛緩和法
４．　＜項目＞　事例演習
　　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(2)
５．６．＜項目＞　褥婦の健康状態をアセスメントするための看護技術
　　＜内容＞　退行性変化の観察と支援（子宮底の位置、硬度、高さの観察、悪露の観察）
　　進行性変化の観察と母乳栄養への援助技術（乳房・乳頭の観察、マッサージ）
　　産褥体操
７．　＜項目＞　事例演習
　　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(3)
８．　＜項目＞　事例演習
　　＜内容＞　褥婦と新生児の事例の情報の解釈・分析から全体像を記載して、看護上の問題（ウェルネスの状態）を明らかにする。
９．10．＜項目＞　新生児への看護技術
　　＜内容＞　新生児の抱き方、寝かせ方、寝衣交換、哺乳瓶での補足法、排気の仕方
　　新生児の清潔（清拭および沐浴)、沐浴の練習

11. 12. ＜項目＞　新生児への看護技術
＜内容＞　新生児の観察、諸計測（身長、体重、胸囲、頭囲など）
沐浴の練習
13.　＜項目＞　事例演習
＜内容＞　褥婦と新生児の看護上の問題（ウェルネスの状態）から母子とその家族に必要な援助についての看護計画を立案する。(1)
14.　＜項目＞　事例演習
＜内容＞　褥婦と新生児の看護上の問題（ウェルネスの状態）から母子とその家族に必要な援助についての看護計画を立案する。(2)
15.　＜項目＞　事例演習・まとめ
＜内容＞　事例のまとめと、グループ学習の成果を発表し、共有する。

Ａ・Ｂのクラス分け、スケジュールについては別紙で説明する。
6/5①②③④、6/12①②③④、6/19①②③④、6/26①②③④、7/3①②③④、7/10①②③④、7/17①②③④。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	J90070001
科目名	母性看護学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Clinical Practice		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	母性看護実習では、妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象者の生理的変化や、心身の適応過程ならびに健康ニーズを知り、母子とその家族を統合的に理解して、対象者に必要とされる看護を実践する能力を養う。さらに母親と同様に親になる過程にあるパートナーやその家族にも目を向け、看護者としての関わりを考える。そして、母子とその家族を支える社会システムの活用と支援について対象者のケアを通して考察する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『母性看護学[１]　母性看護学概論』　（医学書院）　森恵美　2,400 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考文献）	『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』（医歯薬出版㈱）　太田操　編　　2200 円 『ナーシンググラフィカ　母性看護技術』（メディカ出版）　横尾京子他　編集　　2600 円 『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教材（その他）			
評価方法	実習目標の到達度、実習に取り組む態度について、評価表に基づき評価します（100%）。		
到達目標	１．妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的変化や心身の適応過程と健康ニーズを理解する。 ２．妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族に必要なケアプランを立案し、実践、評価する能力を養う。 ３．母子の関係から母子相互作用（父子相互作用）について理解する。 ４．母子とその家族を支える社会システムについて考える。 ５．生命の尊厳、個々の人権を尊重し、看護者としての責任感と倫理観を養う。		
準備学習	周産期に関連する講義科目の知識および基礎看護技術、母性看護学援助論演習で学んだ看護技術が、この科目を履修する上で大切です。これまで学んだ知識と技術を復習して演習に臨んでください。		

受講者への要望

臨地実習を通して、これまでの講義・演習で得られた知識と技術を統合します。積極的に実習に臨み、多くのことを学んでください。
実習では、出産後間もない褥婦とともに、家族にとって大切な新生児を対象に看護を実践していきます。基本的な知識や技術を身につけて実習に臨むことが重要です。「女性の健康と看護」、「周産期を支える看護」で使用した資料を復習・活用し、基本的な知識の復習と技術練習を十分にしてから実習に臨んでください。

講義の順序とポイント

1 日目（学内）　：臨地実習実施にあたってのオリエンテーション
　　実習目的・目標・方法・記録用紙の確認、実習の心構えと態度、
　　実習での看護技術の確認
2 日目（臨地）　：施設オリエンテーション（施設の概要・理念・構造・組織）
　　病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）
　　受け持ち対象者の決定、情報収集
　　受け持ち対象者のケアへの参加と情報収集
3～9 日目（臨地）：受け持ち対象者に付き添い、臨地実習指導者とともに、産婦に必要な援助を実施
　　受け持ち褥婦と新生児への援助、外来での妊婦健康診査の見学、保健指導の見学、母親学級の見学
10 日目（学内）　：全体カンファレンス、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J90071001
科目名	チーム医療論	単位数	1
科目名（英語表記）	Multidisciplinary Health Care		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	現代医療では、医療を受ける個人のニーズが多様化するとともに、医療の質が問われる時代にある。対象一人ひとりに最良の医療を提供するためには、医療を担う側が目標と情報を共有し、他の医療専門職の役割を理解した上で、専門職としての役割を自覚し役割を遂行しなければならない。本講義では、他職種の専門性を理解した上で、学生それぞれが自分の専門性を認識し、専門職種間のコミュニケーションや情報の共有を円滑にするための方法について、事例を用いて学修する。		
教材（テキスト）	授業時に適宜必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜提示する。		
教材（その他）	授業内容に合わせて授業中に提示する。		
評価方法	授業内課題（40%）、最終レポート課題（60%）		
到達目標	１．医療等健康を支援する専門職の役割について興味関心を持ち、知識を広めることができる。 ２．グループワークを通してコミュニケーション能力を高めるとともに、メンバーへ積極的に働きかけることができる。 ３．チーム医療の必要性を理解できる。		
準備学習	グループワークが中心の授業です。空き時間でグループワークが円滑に実施できるように調整してください。		
受講者への要望			
日頃から健康・医療等に関係する人々と交流し、様々なことに興味・関心を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
１．現代医療と職種間連携の重要性 ２．職種間コミュニケーションについて ３．医療における医師の役割と看護師の役割 ４．言語聴覚士の専門性について　スポーツ外傷とリハビリテーション ５．グループワーク ６．グループワーク ７．グループワーク ８．グループワーク：全体発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	J90071002
科目名	チーム医療論	単位数	1
科目名（英語表記）	Multidisciplinary Health Care		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	現代医療では、医療を受ける個人のニーズが多様化するとともに、医療の質が問われる時代にある。対象一人ひとりに最良の医療を提供するためには、医療を担う側が目標と情報を共有し、他の医療専門職の役割を理解した上で、専門職としての役割を自覚し役割を遂行しなければならない。本講義では、他職種の専門性を理解した上で、学生それぞれが自分の専門性を認識し、専門職種間のコミュニケーションや情報の共有を円滑にするための方法について、事例を用いて学修する。		
教材（テキスト）	授業時に適宜必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜提示する。		
教材（その他）	授業内容に合わせて授業中に提示する。		
評価方法	授業内課題（40%）、最終レポート課題（60%）		
到達目標	１．医療等健康を支援する専門職の役割について興味関心を持ち、知識を広めることができる。 ２．グループワークを通してコミュニケーション能力を高めるとともに、メンバーへ積極的に働きかけることができる。 ３．チーム医療の必要性を理解できる。		
準備学習	グループワークが中心の授業です。空き時間でグループワークが円滑に実施できるように調整してください。		
受講者への要望			
日頃から健康・医療等に関係する人々と交流し、様々なことに興味・関心を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
１．現代医療と職種間連携の重要性 ２．職種間コミュニケーションについて ３．医療における医師の役割と看護師の役割 ４．言語聴覚士の専門性について　スポーツ外傷とリハビリテーション ５．グループワーク ６．グループワーク ７．グループワーク ８．グループワーク：全体発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	J90072001
科目名	健康医療リスクマネジメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Safety and Risk Management		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	医療やスポーツといった活動での心身面に視点をあて、リスクを低減するためのマネジメントの基礎知識を学ぶ。医療事故やスポーツ事故の発生メカニズムについて実際の事例をもとに理解する。さらに、リスクマネジメントの理論やプロセス（把握・分析・評価）を学び、リスクを回避すすための組織としての系統的な取り組みについて考える。また、事故を起こした場合の対応の在り方、事故がもたらす法的責任や経済的損失についても学ぶ。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業内で提示する。		
教材（その他）			
評価方法	課題レポート（100%）		
到達目標	1．リスクマネジメントの基礎的知識が理解できる。 2．グループワークを通して事故のメカニズムやリスク回避について、積極的に意見を交わすことができる。 3．リスクマネジメントに関して自身の考えを述べることができる。		
準備学習	日頃から新聞やニュース番組などを通して、リスクマネジメントに関する情報に対して興味・関心を持ってください。		
受講者への要望			
3 学科混合でのグループ学習を中心とした授業である。グループワークでは他者の意見を聞き、積極的に自身の意見を述べるなど、授業へ積極的に参加する姿勢を望みます。			
講義の順序とポイント			
1．リスクマネジメントとは 2．医療事故発生のメカニズム 3．頭頸部外傷のメカニズムと予防策 4．コミュニケーションエラーによる医療事故と対策 5．グループワーク 6．グループワーク 7．グループワーク 8．グループワーク：全体発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J90072002
科目名	健康医療リスクマネジメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Safety and Risk Management		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	医療やスポーツといった活動での心身面に視点をあて、リスクを低減するためのマネジメントの基礎知識を学ぶ。医療事故やスポーツ事故の発生メカニズムについて実際の事例をもとに理解する。さらに、リスクマネジメントの理論やプロセス（把握・分析・評価）を学び、リスクを回避すすための組織としての系統的な取り組みについて考える。また、事故を起こした場合の対応の在り方、事故がもたらす法的責任や経済的損失についても学ぶ。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業内で提示する。		
教材（その他）			
評価方法	課題レポート（100%）		
到達目標	1．リスクマネジメントの基礎的知識が理解できる。 2．グループワークを通して事故のメカニズムやリスク回避について、積極的に意見を交わすことができる。 3．リスクマネジメントに関して自身の考えを述べることができる。		
準備学習	日頃から新聞やニュース番組などを通して、リスクマネジメントに関する情報に対して興味・関心を持ってください。		
受講者への要望			
3 学科混合でのグループ学習を中心とした授業である。グループワークでは他者の意見を聞き、積極的に自身の意見を述べるなど、授業へ積極的に参加する姿勢を望みます。			
講義の順序とポイント			
1．リスクマネジメントとは 2．医療事故発生のメカニズム 3．頭頸部外傷のメカニズムと予防策 4．コミュニケーションエラーによる医療事故と対策 5．グループワーク 6．グループワーク 7．グループワーク 8．グループワーク：全体発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J90073001
科目名	看護研究	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	看護研究の意義、研究に必要性、文献検索、研究デザイン、研究プロセス、研究を行う上での倫理的問題と配慮、研究計画書の作成について学修する。文献検索では、文献を丁寧にクリティークすることで研究デザインや研究プロセスを学び、研究のテーマを絞り込むことができるように学修する。また、各自が学修課題を探求し、研究テーマに沿って研究背景、研究目的、研究方法を吟味する。		
教材（テキスト）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子　2,600 円		
教材（参考文献）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子　3,024 円 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹　2,400 円		
教材（その他）	講義資料、課題物の提供、パワーポイントを活用する。		
評価方法	定期試験（50%）、課題の提出状況（50%）		
到達目標	1．看護研究の意義を理解できる。 2．文献を丁寧にクリティークすることできる。 3．研究デザインや研究プロセスを修学できる。 4．研究のテーマを絞り込むことができる。 5．各自の研究テーマに沿って研究背景、研究目的、研究方法を述べることができる。		
準備学習	1 年、2 年生で学んだ講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思考をまとめておく。		
受講者への要望			
1．1 年、2 年生で学んだ専門科目の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思考をまとめておく。 2．講義・演習の課題については、自主的に復習し、提出することができる。			
講義の順序とポイント			
1．看護研究の意義、研究の必要性、研究デザイン、文献検索 2．文献検索と研究デザインと研究方法 3．研究の倫理的問題と配慮 4．事例・実験研究の方法 5．量的研究の方法 6．質的研究の方法 7．研究計画書について 8．研究計画書の作成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90084001
科目名	在宅看護概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Visiting Nursing		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
講義概要	高齢化社会等の社会的背景を踏まえて、在宅看護が必要とされている現状と、在宅看護の目的を理解する。また、在宅看護が提供される場と、対象の年齢・疾患・療養状態などの特性を理解し、在宅療養者とその家族の生活を支える看護師の役割や訪問看護ステーションの機能について学修する。さらに在宅看護の仕組みについてケアマネジメントの概念や機能をはじめ訪問看護制度、地域包括ケアシステム等の介護保険制度を中心に学修する。		
教材（テキスト）	「在宅看護論」(医歯薬出版)木下由美子		
教材（参考文献）	「国民衛生の動向」（厚生統計協会）		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。適時プリント配布。		
評価方法	定期試験（70%）、課題レポート（30%）		
到達目標	1、在宅看護の目的と概念を理解する。 2、在宅看護に対する社会のニーズを理解する。 3、地域で療養する人の持つ多様な特性を理解する。 4、在宅看護を支える法制度とケアマネジメントを理解する。 5、地域療養する人を支える社会資源と多職種連携の必要性を理解する。6、在宅看護の課題と展望を考察する。		
準備学習	授業計画 第 1 回～第 3 回＜事前 I 学習＞在宅看護を取り巻く背景と看護の変遷について資料を収集する。 ＜事後学習＞グループ毎にテーマを決めて文献検索とディスカッションを行った結果を整理する。第 4 回～第 9 回＜事前学習＞在宅看護にかかわる法制度、ケアマネジメントに関する資料を収集する。 ＜課題レポート＞在宅介護を支える法制度とケアマネジメント＞を作成し提出する。　第 10 回～15 回＜事前学習＞在宅看護の課題と展望に関する資料を収集する。 ＜事後学習＞「在宅看護の課題と展望」に関する考察をする。		

受講者への要望

・グループワークでは、主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミクスを発揮し、学習を進めることが出来るよう自己の役割を考えながら参加する。

講義の順序とポイント

1.現代社会と在宅看護論
2.在宅看護の目的と概念
3.在宅看護の対象者
4.在宅看護における家族の機能・役割・形態について
5.在宅看護に関連する保健医療福祉施策①
6.在宅看護に関連する保健医療福祉施策②
7.在宅で療養する人を支える社会資源
8.ケアマネジメントの概略
9.ケアマネジメントの実際
10.在宅で療養する人を支える多職種との連携、療養者の環境・生活について
11.訪問看護ステーションの成り立ち
12.訪問看護ステーションの事業運営
13.在宅看護に関連する法的・倫理的問題
14.日本の在宅看護の歴史、諸外国における在宅看護の現状
15.在宅看護の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J90085001
科目名	在宅看護援助論	単位数	1
科目名（英語表記）	Visiting Nursing: Theory		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
講義概要	本講義では、新生児から高齢者までを対象に、自宅などで療養生活を送る対象や家族に対して、生活の質を高めるために必要な看護について学修する。具体的には、在宅看護対象者の特徴を理解し、事例を基に対象の身体的、精神心理的、社会的側面や療養環境についてアセスメントし、在宅における健康問題について学ぶ。また、在宅看護の制度や保健・医療・福祉システム等も活用し、在宅療養者と家族の生活基盤を整える援助について学修する。		
教材（テキスト）	「在宅看護論」（医歯薬出版）木下由美子		
教材（参考文献）	「家族看護学」（日本看護協会出版会）鈴木和子，渡辺裕子		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。適時プリント配布。		
評価方法	定期試験（70%）、課題レポート（30%）		
到達目標	1，　在宅療養をおこなっている対象とその家族の特徴を理解する. 2，　家族を理解するための諸理論の基礎を理解する. 3，　家族看護過程を理解する. 4，　在宅療養者にみられる主な症状・状態の特徴とケアについて理解する.		
準備学習	授業計画 第 1 回～第 3 回＜事前学習＞看護過程のプロセスについて予習しておく。＜事後学習＞在宅看護で使用するアセスメントについて整理する。 第 4 回～第 7 回＜事前学習＞家族アセスメントの内容について予習しておく。＜事後学習＞家族アセスメント展開事例をまとめる。 第 8 回～15 回＜事前学習＞医療処置のある事例のアセスメントについて予習しておく。＜事後学習＞医療・処置のある事例をもとに看護過程の展開をまとめる。		
受講者への要望			
授業の進度にあわせてテキストや紹介する参考書の内容について予習することを薦める。			
講義の順序とポイント			
1.在宅看護における看護過程の特徴① 2.在宅看護における看護過程の特徴② 3.在宅看護における看護過程の特徴③ 4.家族を対象とした看護過程の全体像と特徴、家族アセスメント 5.在宅看護における看護過程の展開① 6.在宅看護における看護過程の展開② 7.在宅看護における看護過程の展開③ 8.在宅療養者の対象別看護①脳血管障害 9.在宅療養者の対象別看護②難病 １０.在宅療養者の対象別看護③終末期 １１.在宅療養者の対象別看護④認知症 １２.事例による看護過程展開① １３.事例による看護過程展開② １４.在宅ケアの評価 １５.在宅看護における記録			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90086001
科目名	在宅看護援助論演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Visiting Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、在宅療養者・家族に対して行う看護の基本的な技術について学び、在宅看護実践活動の基盤を学習する。療養者・家族とのコミュニケーションや、基本的なマナーをはじめ、在宅での日常生活援助の方法や医療処置を受けながら療養する人々に対する看護の方法について教授する。具体的には福祉用具の取り扱い、医療処置・管理、食事介助など家族に対して指導を行うために必要な、基本的知識、技術を修得する。さらに訪問面接技術や対象の症状に応じた看護支援について学修する。		
教材（テキスト）	「在宅看護論」（医歯薬出版）木下由美子		
教材（参考文献）	「根拠がわかる在宅看護技術」（メヂカルフレンド）岡崎美智子、庄野逸子		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。適時プリント配布。		
評価方法	定期試験（40%）、実技試験（30%）、課題レポート（30%）で評価する。		
到達目標	1、家庭訪問時の面接技術について理解する。 2、在宅で実施される看護技術について理解する。 3、在宅における医療処置・管理について理解する。 4、療養者の安全と安楽に配慮した日常生活援助や看護技術の家族指導について理解する。		
準備学習	授業計画 第 1 回～第 5 回＜事前学習＞看護ケアに必要なコミュニケーションツールについて資料を収集する。＜事後学習＞指導技術についてグループ毎に事例検討を行った結果を整理する。 第 6 回～第 13 回＜事前学習＞在宅看護にかかわる社会資源について資料を収集する。＜事後学習＞在宅介護を支える法制度と社会資源について事例検討し考察する。 第 14 回～24 回＜事前学習＞在宅で行う医療・処置管理にどのように実施されているのか資料を収集する。＜事後学習＞事例検討をもとに医療処置・管理に対する指導計画書を作成する。 第 25 回～30 回＜事前学習＞訪問面接に必要なマナーと看護活動のプロセスについて整理する。＜事後学習＞初回訪問面接演習を振り返り、自身のコミュニケーションの傾向と指導・技術に必要な知識・技術について考察する。		

受講者への要望

・在宅の住宅事情，在宅看護を支える社会資源について主体的に調べること。
・授業の進度にあわせてテキストや紹介する参考書の内容を予習することを薦める。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加する。

講義の順序とポイント

1.家庭訪問時の面接技術
2.在宅看護に必要な指導技術：リーダーシップ理論
3.在宅看護に必要な指導技術：リーダーシップ理論と実際
4.在宅看護に必要な指導技術（演習①）
5.在宅看護に必要な指導技術（演習②）
6.在宅における日常生活援助の特徴
7.在宅における日常生活援助①住まいと環境、移動、リハビリテーション
8.在宅における日常生活援助②食事、排泄、清潔、衣服
9.在宅における日常生活援助（演習①）食事、排泄援助
10.在宅における日常生活援助（演習②）移動
11.在宅における日常生活援助（演習③）清潔
12.在宅における日常生活援助（演習④）事例展開①
13.在宅における日常生活援助（演習⑤）事例展開②
14.医療処置管理のある療養者への支援・教育
15.在宅における医療処置・管理①褥創管理とスキンケア
16.在宅における医療処置・管理：体圧測定と褥創予防（演習）
17.在宅における医療処置・管理：褥創管理とスキンケア（演習）

18.在宅における医療処置・管理②在宅経管栄養法、中心静脈栄養法
19.在宅における医療処置・管理③膀胱留置カテーテル、服薬管理
20.在宅における医療処置・管理④在宅酸素療法、人工呼吸器療法、吸引
21.在宅における医療処置・管理：経管栄養法（演習）
22.在宅における継続看護と診療報酬
23.在宅での終末期ケア（グリーフケア含む）、緊急時対応
24.在宅における医療処置・管理の課題
25.訪問面接：演習①
26.訪問面接：演習②
27.訪問面接：演習③
28.訪問面接：演習④
29.訪問面接：演習まとめ
30.在宅療養を支える援助の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	J90088001
科目名	学校保健	単位数	2
科目名（英語表記）	School Health		
担当者名	平松　恵子	旧科目名称	
講義概要	学校保健の目的、機能及び内容を知り、学校現場における保健管理、保健教育、組織運営や児童・生徒の身体と心の健康問題を取り上げ、学校保健の重要性について理解するとともに、基礎的な知識を身につける。障がい児も含めたすべての児童・生徒にとって健康のあり方とはどのようなものか、それを実現するために学校はどのようなことを行わなければならないかを検討し、養護教諭の役割を理解する。さらに、児童・生徒の健康の保持増進のために、あるべき学校保健とは何かを考える。		
教材（テキスト）	教科書として使用する 門田新一郎・大津一義　著　「最新　学校保健」　大学教育出版 代金　2400 円+税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	月刊切抜き速報「健康りてらしい」を活用する。 他にも適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（３０％） 授業中に課すレポート（７０％）		
到達目標	児童・生徒が健康で安全な生活を通して、自己実現を図っていくための学校保健活動について理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了時に次の範囲（教科書のページ）を指定するので予習しておくこと。同じく講義終了時にレポートを指定するので、次回の講義開始時に提出すること。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション　学校保健の概要と学校保健行政 ２．学校保健の構造とヘルスプロモーティングスクールの推進 ３．児童・生徒の発育発達と健康状態 ４．保健教育の教育課程における位置・特性と保健学習 ５．保健指導と性・エイズ教育 ６．学校における保健管理の意義と健康状態の評価 ７．健康障害の管理 ８．健康増進のための保健活動 ９．学校環境衛生 10．学校安全管理 11．学校保健活動の展開と学校保健計画 12．学校保健関係職員の職務内容 13．保健室の機能と運営 14．学校保健と地域保健との関係 15．学校保健実習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90089001
科目名	産業保健	単位数	1
科目名（英語表記）	Occupational Health Nursing		
担当者名	垰田　和史	旧科目名称	
講義概要	業務に起因する健康障害の予防、健康と労働の調和を図り、健康および労働能力の保持増進を図るための産業保健活動について理解する。産業保健の歴史と関連法規を学び、労働者の健康をめぐる課題を検討し、労働衛生管理体制や職業性疾病に対する理解を深め、個人および集団に向け、職業性疾病の予防に向けた対応と指導、労働安全衛生マネジメントシステムや企業へのアプローチについて学修する。また、疾病を持ちながら就労する労働者への支援についても考察する。		
教材（テキスト）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子、北山三津子、春山早苗、田村須賀子　3,600 円		
教材（参考文献）	『新版　保健師業務要覧　第３版』　（日本看護協会出版会）　井伊久美子、荒木田美香子　4,200 円		
教材（その他）	パワーポイント等を活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．産業保健の目的を理解し、産業保健に必要な概念や産業保健の重要性について理解する。 ２．産業保健における医療従事者の役割および職務について理解する。 ３．産業保健の推進体制と推進活動に係る基本的な知識を習得する。 ４．産業保健の動向と現状を理解し、産業構造から労働者の健康課題について検討する。 ５．疾病や障害を持ちながら就労する労働者への支援について考察する。		
準備学習	働く人々に多い病気や疾患については、１年生後期科目「成長発達Ⅱ（成人の健康と看護）」でも触れている。労働災害につながる職業病などは日常的にニュース報道でも見る機会が多いので、事前に調べておくように。		
受講者への要望			
社会を取り巻く情勢についても各自で見識を深め、授業への積極的な参加を望む。また、必ず自分の考えを持って授業参加をすること。そこには、保健師としてだけでなく、看護師としてもいかに臨むかという視点の両方を持つように。			
講義の順序とポイント			
１．産業保健の理念と背景（歴史・概念・関連法規）　（垰田）：11/29④ ２．労働衛生の実態（産業構造・健康をめぐる現状）　（垰田）：11/29⑤ ３．労働の場における健康阻害の要因と健康障害①　（垰田）：12/6④ ４．労働の場における健康阻害の要因と健康障害②　（垰田）：12/6⑤ ５．産業保健における医療従事者の役割①（労働管理体制）　（垰田）：12/13④ ６．産業保健における医療従事者の役割②（作業管理・健康管理・作業環境管理と総括管理、労働衛生教育）　（垰田）：12/13⑤ ７．障害を負いながら就労する労働者への支援　（垰田）：12/20④ ８．がんを患いながら就労する労働者への支援　（古倉）：1/10④			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90090001
科目名	公衆衛生看護管理論	単位数	1
科目名（英語表記）	Management of Public Health Nursing		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
講義概要	地域で生活する個人、集団や地域の特性を踏まえ、保健所や市町村における公衆衛生看護活動について学修し、保健師の役割を理解する。具体的には、保健医療行政の仕組みや行政における公衆衛生看護管理の目的と機能、情報管理、人事管理、保健事業の予算管理、組織運営、災害や感染などの危機的状況における保健師の役割について学修する。また、保健師教育制度の変還と教育課程について学び、保健師の継続教育や専門性について理解を深める。		
教材（テキスト）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）		
教材（参考文献）	『最新保健学講座５　地域看護管理論』　（メジカルフレンド社）　平野かよ子　編集 『保健師業務要覧　第３版』（日本看護協会出版会）		
教材（その他）	パワーポイント等、独自に作成したものを使用する。		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	１）　行政看護領域における看護管理活動について、保健師の実践活動の過程と管理機能を理解する。 ２）　保健師の専門性として管理的な活動があることを理解する。 ３）　行政看護領域において求められる能力と管理機能について理解する。 ４）　保健医療行政における看護職者のとるべきリーダーシップ、メンバーシップについて考察する。		
準備学習	既修の「公衆衛生学」、「社会保障論」、「公衆衛生看護学概論」、「看護学概論」を振り返り、内容を整理しておくこと。また、第７回、第８回で学ぶ具体例において、看護職者のとるべきリーダーシップおよびメンバーシップについて自身の意見をまとめられるよう、準備しておく。		
受講者への要望			
これまで学んできた、対象にケアを提供するための理論やスキルとは異なり、公衆衛生看護を遂行するためのシステムを学ぶ科目である。広い視野で全体像を把握するように。			
講義の順序とポイント			
１．公衆衛生看護管理の目的と機能 ２．保健所および行政で行われる公衆衛生看護活動（１） ３．保健所および行政で行われる公衆衛生看護活動（２） ４．現任保健師教育の目的と方法 ５．行政保健師に求められる能力と管理機能（１） ６．行政保健師に求められる能力と管理機能（２） ７．行政保健師に求められる能力と管理機能：具体例１　障害児支援体制 ８．行政保健師に求められる能力と管理機能：具体例２　児童虐待支援体制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90091001
科目名	公衆衛生看護活動論	単位数	2
科目名（英語表記）	Care Service of Public Health Nursing		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
講義概要	地域看護活動の中でも特徴的な集団や地域社会を対象とした看護活動を行うための基礎的能力として、地域住民の心身の健康の保持増進を目的とした看護活動について学修する。発達段階、健康段階に応じた個人、家族、集団、組織の健康状態の把握のため、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、難病・障がい者（児）保健活動、感染症の保健活動等の看護活動について理解する。また、地域の健康活動に必要な職種間連携や健康支援に必要な制度や社会資源についても学修する。さらに保健活動に必要な技術として、家庭訪問・健康相談・健康教育・住民グループ支援等の展開方法について演習する。		
教材（テキスト）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論１』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子　　４，６００円 『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子　　３，６００円 『保健師業務要覧　第３版』　（日本看護協会出版会）　井伊久美子　４，２００円		
教材（参考文献）	『最新保健学講座５　地域看護管理論』　（メジカルフレンド社）　平野かよ子　３，０００円 『最新保健学講座　公衆衛生看護活動論①』　（メジカルフレンド社）　金川克子　５，０００円 『最新保健学講座　公衆衛生看護活動論②』　（メジカルフレンド社）　金川克子　５，４００円 『最新保健学講座　公衆衛生看護支援技術』　（メジカルフレンド社）　村嶋幸代　４，３００円 『国民衛生の動向』　（厚生統計協会）　２，３１５円 『ＱＢ保健師　国家試験問題解説　２０１８　第9版　ＭＥＤＩＣ　ＭＥＤＩＡ』　３，５００円 『ＲＢ保健師　国家試験のためのレビューブック　２０１８　ＭＥＤＩＣ　ＭＥＤＩＡ』　２，３００円		
教材（その他）	授業内で適宜提示する。		
評価方法	課題レポート（３０％）、定期試験（７０％）		
到達目標	１．発達段階、健康段階の特性に応じた保健活動とその動向・施策、制度が理解できる。 ２．各対象が持つ健康課題の特性を理解し、支援技術の展開方法が理解できる。 ３．教育指導技術の具体的な展開を実践し、評価できる。		
準備学習	１年生後期に学んだ「公衆衛生看護学概論」の内容について、十分復習して授業に臨むこと。また、これまでに学んだ教育指導について、具体的な展開を行うので、指導技術について学修しておくこと。		

受講者への要望

地域看護活動の対象は、あらゆる健康段階、発達段階で、私たちと同じ生活の場で暮らす人々である。普段から時事問題やニュース等にも関心を持ち、人々の生活への理解を深めるようにすること。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス、母子保健活動①：母子保健の理念、母子保健福祉施策の動向、健全母性育成支援
２．母子保健活動②：乳幼児の発育・発達・子育て支援
３．母子保健活動③：子育てのリスクを持つ親子への支援
４．成人保健活動①：成人保健の理念、成人保健施策の動向と健康課題の特徴
５．成人保健活動②：健康づくり・生活習慣病予防活動
６．高齢者保健活動①：高齢者保健の理念、高齢者保健施策の動向と課題
７．高齢者保健活動②：介護予防活動
８．精神保健活動①：精神保健の理念、精神保健福祉施策の動向と課題
９．精神保健活動②：精神障害をもつ人の支援活動・心の健康づくり
１０．難病保健活動①：難病保健の理念、難病対策の動向と課題・難病患者および家族支援
１１．障害者（児）保健活動①：障害者（児）保健の理念、保健福祉施策の動向と課題・障害児支援
１２．感染症保健活動①：感染症保健の理念、感染症対策の動向と課題
１３．感染症保健活動②：感染症対策（主に結核）における保健活動
１４．家庭訪問、健康教育の実際①
１５．家庭訪問、健康教育の演習②、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90092001
科目名	公衆衛生看護活動展開論	単位数	2
科目名（英語表記）	Implementation in Public Health Nursing		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
講義概要	地域看護活動を展開するために必要な方法論について学ぶ。特定の地域・集団に対する健康維持を図るために、地域に顕在化・潜在化している健康課題について、地域診断プロセスに則って地域の生活環境や生活実態、健康状態に関する情報を収集・分析し、地域住民の健康問題を明らかにする。さらに健康問題の改善に向けて必要な計画・実践・評価について理解する。地区診断のための情報収集、地区踏査、情報の整理、アセスメント、健康課題の明確化、活動計画の策定について演習を行う。		
教材（テキスト）	『最新保健学講座５　地域看護管理論』（メジカルフレンド）　平野かよ子編集 『地域看護学アセスメントガイド　アセスメント　計画　評価のすすめかた』(医歯薬出版)　佐伯和子編集		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントおよび適宜資料を配布する。		
評価方法	演習での課題提出（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1）地域看護診断の方法や理論、必要性が理解できる 2）地域診断に必要な情報の収集、分析について理解できる 3）地域特性と地域のニーズが理解できる 4）地域診断から住民の健康問題を検討できる 5）地域看護計画の立案・評価について理解できる		
準備学習	１年生後期で学んだ「公衆衛生看護学概論」と２年生後期「公衆衛生看護活動論」の内容について、十分復習して授業に臨むこと。		
受講者への要望			
講義及びグループワークによる演習により授業を展開するため、積極的な態度で臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1 -　2.　地域看護診断とは 3 -　4.　地域看護診断のモデル 5 -　6.　情報収集と分析の方法 7 -　8.　地区視診（地区踏査） 9 -10.　情報収集と分析①　（地域の基本構造：人々の特性　人口統計学的データ） 11-12.　情報収集と分析②　（地域の基本構造：人々の特性　労働および文化と人々） 13-14.　情報収集と分析③　（地域の基本構造：環境特性　物理的環境　交通と安全） 15-16.　情報収集と分析④　（地域の基本構造：環境特性　政治　経済　教育） 17-18.　報収集と分析⑤　（地域の基本構造：環境特性　コミュニケーション　レクリエーション） 19-20.　情報収集と分析⑥　（地域の基本構造：環境特性　保健医療と社会福祉） 21-22.　地域看護診断① 23-24.　地域看護診断②　（健康課題の検討） 25-26.　地域看護計画①立案および評価 27-28.　地域看護過程の発表 29-30.　地域看護過程の発表およびまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J90093001
科目名	保健医療福祉行政論	単位数	2
科目名（英語表記）	Law and Medical Services		
担当者名	光井　朱美	旧科目名称	
講義概要	既習の科目である社会保障論で学んだ公的扶助、社会保険、社会扶助のそれぞれの役割と方法、また所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状などの知識を基に、保健医療福祉行政および財政のしくみ、地域の健康課題の解決に必要な保健医療福祉サービスや政策を理解する。そして地方公共団体の保健医療福祉行政施策の計画策定、実行、評価について学び、公衆衛生行政の各分野における保健師の役割や、地域での保健師の活動の実際を学習する。		
教材（テキスト）	『国民衛生の動向』（厚生統計協会） 《標準保健師講座　別巻 1》　『保健医療福祉行政論』（医学書院） 適宜、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	『標準保健師講座・別巻 1　保健医療福祉行政論』　（医学書院） 『関係法規（標準看護学講座・社会保障制度と生活者の健康）』（金原出版） 『公衆衛生看護学』　（中央法規）		
教材（その他）	DVD		
評価方法	定期試験（80%）、レポート（20%）		
到達目標	一人ひとり異なった対象者のニーズを把握し、他職種と連携・協働して健康・生活問題を解決できる能力を養う。 1)　保健医療福祉行政の概要を理解できる 2)　対象者に必要な保健医療福祉行政を説明できる 3)　関係者や関係機関との連携・協働する意義を説明できる 4)　行政施策に反映させていくという思考がもてる		
準備学習	すでに学習している公衆衛生学および社会保障論（所得保障、医療保障、介護保障）を復習しておくこと。また、12 回以降の内容は実際の事例をもとに学習するため、行政職とともに看護職がどのようなメンバーシップをとればいいのかを考えられるようにしておく。		

受講者への要望

団塊の世代が 75 歳を迎える、いわゆる「2025 年問題」に備えて、保健医療福祉制度・政策の検討が各機関・各分野で精力的に進められている。その動向を、日頃の新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、関心を深めておくように。

講義の順序とポイント

1. 保健医療福祉行政と保健師の役割
2. 社会保険制度の概要　（基本的枠組みと考え方）
3. 所得保障の仕組み　（年金制度、公的扶助、社会扶助）
4. 医療保障の仕組み　（健康保険制度、診療報酬制度、医療扶助）
5. 医療制度の現状と課題　（医療法、医療供給体制）
6. 介護保険制度の現状と課題
7. 地域おける保健医療福祉の連携・協働　（成年後見制度、地域包括支援センター、地域包括ケア）
8. 保健医療福祉に関する国際機関と諸外国の仕組み概観
9. 演習：グループワーク
10. 演習：発表
11. 児童および高齢者の虐待およびドメスティック・バイオレンスに関する法律と行政の取り組み
12. 保健師活動の実践例：児童相談所での業務内容や虐待防止活動、障害児のくらしと就学支援
13. 保健師活動の実践例：高齢者の介護予防と介護者への支援体制
14. 保健師活動の実践例：精神疾患患者の地域生活支援、在日外国人の健康を守る支援
15. 保健師活動の実践例：自殺予防対策

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	J90096001
科目名	臨床神経学	単位数	1
科目名（英語表記）	Clinical Neurology		
担当者名	近藤　正樹	旧科目名称	
講義概要	神経は、身体の感覚と運動、内臓の働き、感情と思考・言語といった身体のすべての機能を司っている。臨床神経学では、総論として、病歴の解釈、神経学的評価、画像診断法（CT、MRI、脳血流 SPECT)、生理検査（脳波、筋電図等）から神経疾患の診断学を学ぶ。また、各論として、認知症や脳血管障害、神経免疫疾患、末梢神経・筋疾患、神経変性疾患、神経感染症等での疾患の特徴、診断法、治療について解説をする。		
教材（テキスト）	なし（毎回の講義でプリントを配布する）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	授業内小テスト等による課題ないし授業中に課すレポート。		
到達目標	神経筋疾患の病理と症候、診断法と治療についてその概要を理解する。		
準備学習	講義開始時ないし終了時に、その回ないし次回の講義資料を配布するので読んでおくこと。また、授業の最初ないし最後に授業内容に係る復習の小テストをするので勉強しておくこと。		
受講者への要望			
遅刻や私語は厳禁とする。遅刻の場合はその理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。講義内容の撮影，録画，録音は禁止する。			
講義の順序とポイント			
1. 神経診断学総論　（近藤）：12/13（水）④ 2. 認知症　（近藤）：12/13（水）⑤ 3. 脳血管障害①　（尾原）：12/20（水）④ 4. 脳血管障害②　（尾原）：12/20（水）⑤ 5. 神経免疫疾患　（吉田）：1/10（水）④ 6. 末梢神経・筋疾患　（吉田）：1/10（水）⑤ 7. 神経変性疾患（PD,SCD,ALS）　（東）：1/17（水）④ 8. 神経感染症　（東）：1/17（水）⑤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90097001
科目名	形成外科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Plastic Surgery		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
講義概要	形成外科は外傷、腫瘍切除あるいは先天性に生じた組織欠損を外科手技でもって再建し、患者 QOL の向上を目的としている。具体的には顔面外傷（顔面骨骨折および軟部組織損傷)、手足の外傷、がん切除後の頭頸部再建、乳房再建、熱傷およびその後の瘢痕拘縮等を取り扱う。言語聴覚士との関連ではがん切除後の頭頸部再建および口唇口蓋裂、小耳症などが重要となる。特に、発生頻度の高い（日本では 500 人に 1 人）口唇口蓋裂の治療においては、構音、聴覚、咬合、外観など集学的治療が必要であり、また、頭頸部ガン切除後の再建においても言語聴覚士が果たす役割は極めて大きい。チーム医療における形成外科医と言語聴覚士の関連が理解できるように計画している。		
教材（テキスト）	『標準形成外科学　第 6 版』　(医学書院)　平林慎一・鈴木茂彦 編　6,090 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	理解を深めるために「解剖生理学」のテキストが必要です。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	形成外科の基本的手術手技を理解し、その応用として頭頸部ガン切除後の再建、口唇口蓋裂や小耳症など先天異常の治療を理解し、言語聴覚士がチーム医療の一員として参画できるようになる。		
準備学習	授業に先立ち、局所解剖、生理について学習しておく。		
受講者への要望			
チーム医療の一員としてプロフェッショナルを目指してください。			
講義の順序とポイント			
1.創傷治癒　11/14（火）⑤ 2.口唇裂の治療　11/21（火）⑤ 3.口蓋裂の治療　11/28（火）⑤ 4.顔面外傷　12/5（火）⑤ 5.上顎の再建　12/12（火）⑤ 6.下顎の再建　12/19（火）⑤ 7.舌の再建　1/16（火）⑤ 8.食道の再建　1/23（火）⑤			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J90098001
科目名	耳鼻咽喉科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Otolaryngology		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
講義概要	耳鼻咽喉科臨床で遭遇する病態は多様で、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、構音、発声、嚥下などの重要な機能に関係する。なかでも生命維持に必要な呼吸、嚥下機能、社会生活を営むうえで必要な聴覚、音声言語機能については、言語聴覚士として確実に把握しておくべきものである。また、対象疾患が男性、女性とも全年齢層におよび、広い知識と経験に基づいた専門性が要求される分野でもある。可能な限り症状や疾患を中心とした講義とし、随時、解剖学、生理学や病理学の復習を並行して行い、より理解を深めることができるように計画している。		
教材（テキスト）	『新耳鼻咽喉科学　改訂 11 版』（南山堂）　　切替一郎 著　 17,280 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚士のための基礎知識　耳鼻咽喉科学　第 2 版』（医学書院）　　鳥山稔、田内光 編　 4,104 円		
教材（その他）	色鉛筆（各自で用意して持参すること）		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	耳鼻咽喉科における代表的疾患の診断と治療について理解できる。		
準備学習	授業に先立ち、それぞれ必要な解剖・生理について再確認する。		

受講者への要望

受け身の態度ではなく、積極的に知識の吸収を目指すこと。

講義の順序とポイント

1．耳の解剖と生理 :5/30（火）①
2．外耳・中耳疾患 :6/6（火）①
3．内耳疾患 :6/13（火）①
4．鼻・副鼻腔の解剖と生理 :6/20（火）①
5．鼻・副鼻腔疾患 :7/4（火）①
6．口腔咽頭疾患 :7/11（火）①
7．頭頸部腫瘍 :7/18（火）①
8．顔面神経疾患 :7/25（火）①

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90099001
科目名	歯科・口腔外科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Dentistry and Oral Surgery		
担当者名	雨宮　傑	旧科目名称	
講義概要	歯科・口腔外科は、口腔内の構造物（歯、口蓋、舌、口腔底）の形態や機能の修復を行なう診療科目である。本講義では、歯と口腔の発達と加齢、咀嚼の仕組み、唾液腺と唾液分泌、歯周病と全身疾患の関連性、口腔の観察方法、奇形や変形、外傷や炎症、腫瘍、感染症等に伴う歯や口腔の異常、歯と口腔の治療（口唇口蓋裂の手術を含む）、補装具（義歯、口蓋床など）、歯と口腔のケア、について解説をする。歯科・口腔外科での嚥下や発語の問題について、症例を示し、歯科治療や装具、手術の適応と効果について、説明をする。		
教材（テキスト）	『言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学－器質性構音障害 第 2 版』（医歯薬出版） 道健一 他 編 4,536 円		
教材（参考文献）	『口の中がわかる　ビジュアル歯科口腔科学読本』（クインテッセンス出版） 全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議監修 5,940 円		
教材（その他）	パワーポイントによるスライドを用いた講義を実施し、適宜、プリント（ハンドアウト等）を配布する。また、口腔ケア相互実習では各自歯ブラシを持参のこと。		
評価方法	定期試験、出席状況等から総合的に評価する。		
到達目標	歯・口腔・顎・顔面の形態と構造・機能、発生と発育を理解する。 口腔の診察法、口腔ケア方法、主要な口腔疾患とその治療について知る。		
準備学習	テキストの該当部分をあらかじめ読んでおく（予習）。		

受講者への要望

講義スライドでは、図や症例写真などを用いて分かりやすく解説する予定である。講義で話した内容は、配布プリントなどに書き込む等行い、分かりにくかった点は講師に質問して欲しい。また、講義後にテキストと配布プリントを読み返し、復習を行うこと。

講義の順序とポイント

1．歯科概論　（金村）：9/28（木）
2．歯・口腔・顎・顔面の形態と構造、発生と発育（その１）　（雨宮）：10/5（木）
3．歯・口腔・顎・顔面の形態と構造、発生と発育（その２）　（雨宮）：10/12（木）
4．歯・口腔・顎・顔面の機能　（雨宮）：10/19（木）
5．口腔の診察法　（雨宮）：11/2（木）
6．歯と歯周組織の疾患とその処置　（雨宮）：11/9（木）
7．口腔ケア　（雨宮）：11/16（木）
8．口腔ケア相互実習（歯科医師と歯科衛生士の役割）　（足立）：11/23（木・祝）
9．顔面・顎・顔面の疾患（その１）　（山本）：11/30（木）
１０．顔面・顎・顔面の疾患（その２）　（山本）：12/7（木）
１１．摂食嚥下障害の評価・診断・治療（その１）　（大迫）：12/14（木）
１２．咀嚼障害の評価・診断・治療（その１）　（雨宮）：12/21（木）
１３．咀嚼障害の評価・診断・治療（その２）　（雨宮）：1/11（木）
１４．顔面・顎・顔面の疾患（その３）　（山本）：1/18（木）
１５．摂食嚥下障害の評価・診断・治療（その２）　（大迫）：1/24（木）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	J90100001
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Testings		
担当者名	吉田　絵美	旧科目名称	
講義概要	心理学では、目に見えない「心」のあり方や働きを捉えるために様々な測定法が考え出され用いられてきた。ゆえに、心理測定を理解することは、心理学研究の基礎をなすものである。本講義では、心理測定をすることの意味についての理解を深め、精神物理的測定法、尺度構成法、調査法、検査法、実験法など、心理測定における代表的な研究手法の基礎的な方法論と研究法を修得する。これらの手法を適切に適用する能力を養い、必要なデータを自分で採取し分析できるようになることを目標とする。		
教材（テキスト）	『心理測定法への招待　測定からみた心理学入門』（サイエンス社）　市川伸一 著　2,700 円		
教材（参考文献）	『心理学研究法ー心をみつめる科学のまなざし』（有斐閣アルマ）　高野陽太郎・岡　隆 編　2,100 円		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テストによる評価（５０％）、定期試験（５０％）		
到達目標	1. ヒト行動の測定の意味とその方法について理解を深める。 2. 授業で学んだ測定法を適切に使う能力を養う。		
準備学習	単元の区切りごとに小テストを実施するので復習をしておくこと。		
受講者への要望			
上記の到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．心理測定とは ２．見えかたを測る ３．エビングハウスの記憶実験 ４．知能検査 ５．ロールシャッハ・テスト ６．攻撃性の測定 ７．反応時間パラダイム ８．測定値の性質 ９．感覚の測定（１） １０．感覚の測定（２） １１．記憶の測定 １２．学習の測定 １３．判断・推論・問題解決 １４．社会心理学における測定 １５．発達・教育における測定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★★

年度	2017	授業コード	J90101001
科目名	言語学	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
講義概要	言語は、ヒトの思考や認知を支え、コミュニケーションの道具として、社会生活に欠かせない。言語学は、言葉の意味（語彙）、文の組み立て（文法）、言葉の使用（運用）、音の選択と配列（音韻）について、世界言語での普遍性と個別性を探求する学問である。本講義では、日本語を題材として、意味論、統語論、語用論、音韻論について解説をする。言語の獲得、第二学国語の学習、方言、言い誤り現象、言語の変遷について、言語学者の視点で説明を加える。世界言語を俯瞰して、特徴的な言語側面を持つ言語を取り上げ、説明をする。		
教材（テキスト）	講義中にレジュメを配布する		
教材（参考文献）	講義中に紹介する		
教材（その他）	パワーポイント、DVD		
評価方法	小テスト（４０%）、定期試験（６０%）		
到達目標	１．基本的な言語学の知識を身につける ２．言語学用語をつかい日本語を分析することができる ３．国家試験問題について理解し、解くことができる		
準備学習	音声学を復習しておくこと。小学校・中学校・高校の国語で学んだ文法的な事項を復習しておくこと。		
受講者への要望			
教科書は指定しないが、講義中に紹介した書籍は自分の手元に置いておくことを勧める。小テストは、基本事項や国試過去問について出題するが、小テストの準備と事後学習（間違えた箇所の見直し）は確実に行ってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．言語学とはなにか、言語学の分野の整理 ２．言語学の歴史と言語の特徴 ３．音声学振り返り ４．日本語音韻論１：音声学と音韻論の違い ５．日本語音韻論２：日本語らしい音の使い方 ６．形態論～語のつくりについて ７．統語論～文を構成するもの ８．統語論～文の中の文 ９．動詞の役割１ １０．動詞の役割２ １１．意味論 １２．語用論 １３．社会言語学～単一ではない言語 １４．言語類型論～他の言語と比べて分かる日本語の特徴 １５．まとめと言語学の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	–	–	–	-	★

年度	2017	授業コード	J90102001
科目名	言語心理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psycholinguistics		
担当者名	林　良子	旧科目名称	
講義概要	言語心理学は、言語の獲得、運用、理解と表出の背景にある心理学的・神経生物学的な要因を取り扱う学問である。本講義では、言語発達の基盤となる認知の発達、言語獲得の過程での語や文の処理や組み立ての正用と誤用、諸家の仮説と実験、言語獲得の正常と異常について、解説をする。言語獲得においてどんな学習がなされ、学習を支えるのにどんな経験が必要なのか、言語獲得における臨界期（適切な学習時期）はあるのか、言語獲得を阻害する認知心理学的障害はどんなものか、考えてみる。		
教材（テキスト）	講義中に資料を配布する		
教材（参考文献）	『ことばとこころ 入門心理言語学』（みみずく舎） 村杉恵子 著 2,376 円		
教材（その他）	なし		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	1. 人の脳と言語学の関係の基本を理解することができる。 2. 言語獲得や言語障害、言語変化などについて、自らの視点を持つことができる。 3. 言語学を基盤に他の研究分野との関連を知ることができる。		
準備学習	配布資料を熟読して講義に参加すること（予習）。 参考文献に加えて、他の関連図書も紹介するので、自ら調べて理解を深めること（復習）。		
受講者への要望			
講義中は、自らの考え・意見を聞いたり、コメントを書いたりしてもらう。積極的に発言して、講義に参加すること。			
講義の順序とポイント			
１．言語学の基本的な見方 ２．心理言語学とはなにか ３．子供の言語獲得からみる言語生成 ４．言語障害からみる言語産出 ５．文の産出 ６．言語の理解と認知能力 ７．言語の変化 ８．まとめとさらなる発展			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	-	−	−	−	★	-

年度	2017	授業コード	J90103001
科目名	音声学演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	ヒト音声の基本的事項や日本語音声の特徴について、音声の加工や合成、発音時の口や舌の観察を通して、理解を深める。音声（信号）の分節と変動の問題、母音や子音の生成と知覚を学び、音声の収録と聴き取り、国際音声記号を使っての音声の記述、異常音声の表記を行なう。音の異常を理解するために、口腔調音器官の形態・運動と音声との関係について、理解を深める課題を学生に提供する。音声学演習ラボとして、音声信号の特徴（分節と変動)、音声の逆転、発音時の口の構えと舌の動き、聞き間違いの背景、発音の誤りとその原因などを行う。		
教材（テキスト）	『基礎から学ぶ 音声学講義』 （研究社）加藤重広、安藤智子 著 2,700 円＋税		
教材（参考文献）	『やさしい日本語指導５：音韻／音声（改訂版)』(凡人社) 国際日本語研修協会 編 1,296 円 『国際音声記号ガイドブック』(大修館) 国際音声学会 編 4,644 円 『日本語音声学入門』(三省堂) 斎藤純男 著 2,160 円 『日本語音声学のしくみ』(研究社) 町田健 編 2,160 円		
教材（その他）	音声表記のドリル、音響分析等の資料を適時配布する。		
評価方法	中間試験 20%、レポート 10%、定期試験 70%		
到達目標	１．言語音の特徴と生成・知覚の基本を理解する ２．音声記号を適宜用いて発話を表記できる ３．知覚的分析の活用と限界を知る ４．音響分析で音声言語の観察ができる		
準備学習	教科書・参考書の該当部分をよく読む。		

受講者への要望

ホームワークを必ず行うこと。オンタイムで実験レポートを提出すること。

講義の順序とポイント

１．音声言語（連続音声）の特徴、音素と異音
２．母音と子音の特徴、拍（モーラ）と特殊音素
３．国際音声記号（IPA)、音声表記
４．日本語モーラの音声表記：その１
５．日本語モーラの音声表記：その２
６．語や文の音声表記
７．連続音声（発話）の表記：特殊記号
８．中間試験（音声表記)、音響音声学、知覚的分析と音響分析
９．音響分析の基本
10．音声波形を見る　　実験 ①：音声信号の特徴、音声の逆転
11．周波数解析、スペクトルとスペクトログラム
12．スペクトルとスペクトログラムを見る　　実験②：スペクトログラムで見る言語音の違い
13．母音と子音の音響特徴
14．異常音声の音響分析：その１
15．異常音声の音響分析：その２

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2017	授業コード	J90104001
科目名	音響学	単位数	2
科目名（英語表記）	Acoustics		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	音声の生成と知覚の理解に不可欠な音の物理的性質を最初に学んだうえで、音声波が調音動作によってどのように生成されるかを学び、個々の音韻の弁別的特徴、音響学的特徴および、それらをもとに構成される文の韻律的特徴の理解を図る。高校で物理を履修していない、あるいは数学が不得意な学生がいることを考慮して、極力数式を用いず、実音声や音声サンプルの試聴、供覧、音声分析ソフトを用いての実習を多用して、経験的に理解の促進を図る。		
教材（テキスト）	『ゼロからはじめる音響学』（講談社）　青木直史 著 2808 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚士のための音響学』（医歯薬出版）　今泉敏 著 4104 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	小テスト・レポート（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	1. 音声や聴覚関連の専門科目を理解するうえで必要な音響学の知識を習得する。 2. 言語聴覚士として臨床に携わるうえで必要となる音響学の用語・考え方を理解する。		
準備学習	それまでの講義内容を復習しておく。		
受講者への要望			
授業の内容を講義時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すために小テストを頻回に行う。。			
講義の順序とポイント			
01 音の性質１：波の基本的性質 02 音の性質２：干渉、定常波、共鳴、回折、屈折 03 音の強さの尺度１：音圧、音の強さ、対数尺度 04 音の強さの尺度２：種々のレベル表示、サウンドレベルメータ 05 サウンドレベルメータによる音圧測定 06 音のスペクトル 07 デジタル音響分析 08 音響音声学１：母音の生成 09 音響音声学２：母音とホルマント 、鼻音とアンチフォルマント 10 音響音声学３：母音の音響分析 11 音響音声学４：子音とフォルマント遷移 12 音響音声学５：子音の音響分析 13 音響音声学６：調音結合、音声の韻律的特徴 14 音響音声学７：調音結合、音声の韻律的特徴の音響分析 15 音響音声学８：音響分析の応用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90105001
科目名	聴覚心理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychoacoustics		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	聴覚心理学の基本事項のうち、言語聴覚療法の実務に必要となる基本的な用語、概念、測定法等について学修する。具体的には、音響学での学修内容を確認したうえで、音の強さ、周波数、スペクトルなどの物理的性質が、それを聞いた時のラウドネス、ピッチ、音色等の感覚とどのように対応するかを、健聴耳と種々の難聴耳を対比させて学修する。サンプル音の試聴や聴取実験を多く取り入れ、物理現象としての音と聴覚の関係について体験的に理解を促す。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	『ゼロからはじめる音響学』（講談社）　青木直史 著 2808 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	小テスト（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1. 聴覚関連の専門科目を理解するうえで必要な聴覚心理学の知識を習得する。 2. 言語聴覚士として臨床に携わるうえで必要となる聴覚心理学の用語・考え方を理解する。		
準備学習	前回の講義内容を復習しておく。		
受講者への要望			
不明な点は質問するなどして、授業の内容を講義時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すために小テストを頻回に行う。			
講義の順序とポイント			
1. 聴覚伝導路の解剖生理 2. 聴覚心理学とは，耳の感度 3. 聴野とラウドネスレベル 4. ラウドネスの尺度構成 5. ピッチ，音色 6. マスキング 7. 音の弁別，聴覚疲労，短音の知覚 8. 両耳聴，音のパターンと対象の知覚			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J90106001
科目名	言語発達学	単位数	2
科目名（英語表記）	Language Development		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	ことばが出現するために必要な基礎的能力が発達する乳幼児から、会話でのやりとりが発達する幼児期、さらにコミュニケーション能力や文字を活用する児童期までのことばの発達について概説する。また、ことばの発達に大きく関わる社会性の発達、認知発達等についても学び、それぞれの領域で苦手さを持つ子どもについても触れる。		
教材（テキスト）	『よくわかる言語発達』　（ミネルヴァ書房）　岩立志津夫、小椋たみ子　編　2,592 円		
教材（参考文献）	『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』　（ミネルヴァ書房）小椋たみ子､小山正、水野久美　著　2,600 円		
教材（その他）	パワーポイント、ビデオ教材		
評価方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．乳幼児期から学童期までのことばの定型発達について理解する。 ２．ことばの発達と関連した領域である運動・認知・知能・社会性の発達について理解する。 ３．定型発達の理解を基礎として、言語発達障害を理解する視点を持つことができる。		
準備学習	１．教科書を読んで授業に臨むこと。 ２．授業内容を具体的にイメージできるよう、日ごろから小児の行動を観察する視点を持つこと。		

受講者への要望

授業で学んだ知識を基に、幼稚園見学を通して定型発達児の行動観察を行いレポート課題とする。
日常の中で子どもに関わる情報収集に努めてほしい。

講義の順序とポイント

１．　言語発達学の概論：言語発達理論
２．　前言語期の発達：表情・感情・視線・動作とコミュニケーション
３．　前言語期の発達：象徴機能の発達
４．　前言語期の発達：相互作用とアタッチメントの発達
５．　前言語期の発達：口腔運動の発達と構音の発達①
６．　幼児期の発達：口腔運動の発達と構音の発達②
７．　幼児期の発達：語彙の発達
８．　幼児期の発達：文の発達①（助詞）
９．　幼児期の発達：文の発達②（構文）
１０．　幼児期の発達：生活言語と学習言語
１１．　幼児期・児童期の発達：学習言語（読み書き能力）の発達
１２．　幼児期・児童期の発達：ことばの働きと社会性の発達
１３．　幼児期・児童期の発達：認知・知能の発達
１４．　児童期の発達：児童期以降の発達
１５．　年齢による言語発達のポイント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	J90107001
科目名	言語聴覚障害学概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Speech, Language, and Hearing Disorders Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	言語聴覚障害の全体像を理解するためには、ヒトのコミュニケーションの基本を理解し、多様な障害のラベルと特徴を知ることが、初学者にとって大切である。本講義では、コミュニケーションの基本的事項を提供し、言語聴覚障害（発声発語障害：音声障害、構音障害、吃音、言語障害：失語症、言語発達障害、聴覚障害）の基本情報（定義、疫学、特徴、生活上の困難）について示し、症例の音声や画像を解説する。うまく話せなかったら、ことばが理解できなかったら、聞こえなかったら、どうなるのか、体験する機会も学生に与える。		
教材（テキスト）	『図解 やさしくわかる 言語聴覚障害』（ナツメ社） 小嶋知幸 著 2,160 円 『言語聴覚療法－臨床マニュアル（第 3 版)』（協同医書） 平野哲雄 他 編 7,344 円 『顔面麻痺』（幻冬社文庫） ビートたけし 著 494 円 『恍惚の人』（新潮文庫） 有吉佐和子 著 724 円 『人間であること』（岩波新書） 時実利彦 著 842 円		
教材（参考文献）	『言葉の誕生を科学する』（河出文庫） 小川洋子、岡ノ谷一夫 著 691 円 『想像するちから』（岩波書店） 『言葉と脳と心～失語症とはなにか』（講談社現代新書） 山鳥重 著 799 円 『驚異の小器官・耳の科学』（講談社ブルーバックス） 杉浦彩子 著 929 円 『声のなんでも小事典』（講談社ブルーバックス） 和田美代子 著 950 円 『マンウオッチング』（小学館文庫） デズモンド・モリス 著 926 円 『復活の朝―札幌発リハビリテーション物語（集英社文庫）		
教材（その他）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
評価方法	定期試験７０％　　体験報告１５％（発表とレポート）　　書評１５％		
到達目標	１．言語聴覚障害の定義、疫学、特徴、生活・社会的困難、経過を知る ２．言語聴覚障害を体験して生活上の困難を感じることができる		
準備学習	教科書や参考書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。		
受講者への要望			
コミュニケーション（障がい）がどう生活に影響するかを考えてみる。			
講義の順序とポイント			
１．ことば、コミュニケーション、ヒトの生活と社会 ２．ことばの異常（１）言語の獲得　　ビデオ：「NHK スペシャル・赤ちゃん」 ３．ことばの異常（２）言語の遅れ　　シネマ：「レインマン」 ４．ことばの異常（３）言語の喪失、失語　　シネマ：「ヴィンセントが教えてくれたこと」 ５．きこえの異常（小児の難聴）　　シネマ：「レインツリーの国」（前半） ６．きこえの異常（成人の難聴）　　シネマ：「レインツリーの国」（後半） ７．声や発音の異常（１）音声障害　　ビデオ：「志の輔らくご」 ８．声や発音の異常（２）構音障害、機能性と言語性　　シネマ：「さよなら Color」（前半） ９．声や発音の異常（３）構音障害、器質性　　シネマ：「さよなら Color」（後半） １０．声や発音の異常（４）構音障害、感覚運動性　　シネマ：「英国王のスピーチ」（前半） １１．声や発音の異常（５）吃音　　シネマ：「英国王のスピーチ」（後半） １２．　頭部外傷に伴う高次脳機能障害　　シネマ：「レナードの朝」（前半） １３．認知症に伴う諸問題　　シネマ：「レナードの朝」（後半） １４．リハビリテーション　　ビデオ：「驚異の小宇宙・脳と心４：秘められた復元力」 １５．体験報告（発表）		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J90108001
科目名	言語聴覚障害学概論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Speech, Language, and Hearing Disorders II		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
講義概要	「言語聴覚障害学概論Ｉ」で学んだことを踏まえ、言語聴覚障害を有する人たちの能力と生活について、専門的な立場でどう対処すべきか、問題形式で講義を進める。具体的には、症例自身の困難さについて、どのように評価を進めれば良いのかを、言語聴覚障害自体の問題と、症例の心理的な問題とを、学生に考えさせる。あわせて、症例を取り囲む人達（家族や友人など）の思いを学生に気づかせ、それに対する取り組みについても提示する。職業倫理の必要性についても説明する。		
教材（テキスト）	講義中にプリント配布予定		
教材（参考文献）	『ことばの障害と相談室』（エスコアール）能登谷晶子 著　９７２円 『言語聴覚障害学概論』（医学書院）藤田郁代 編　5,４００円		
教材（その他）	神経系、大脳構造、高次脳機能障害などの DVD		
評価方法	小テスト(５０%)、定期試験(５０%)		
到達目標	言語聴覚障害を有する人たちの問題点を明らかにできる。その上で、専門的な立場からの評価ができるようになる。評価は言語聴覚障害児・者自身だけではなく、その症例を取り囲む人たちからも情報を収集し、評価ができるようになる。職業倫理を理解する。		
準備学習	様々な言語聴覚障害者の記録や手記を読むようにしてください。		

受講者への要望

もし、自分自身が言語聴覚障害を有する人であったり、またそのような子供を授かった場合を考えて欲しい。

講義の順序とポイント

１．言語聴覚障害に対する基本的知識ー障害者数、障害が生じる場所などを理解する。
２．言語聴覚士が働く場所について国内外の情報を知る。
３．発声発語系ー音声障害、吃音児・者の問題点に気づき、どうして生じるのかを考える。
４．発声発語系ー構音障害（小児、成人）の問題点に気づき、どうして生じるのかを考える。
５．言語障害系ー失語症がどうして生じるのかを考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
６．言語障害系ー失語以外の高次脳機能障害を持つ人の障害に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
７．職業倫理、言語聴覚士法について説明する。
８．言語障害系ー発達障害を伴う言語習得の問題を持つ児やその保護者の問題に気付かせる。
９．言語障害系ー知的障害に伴う言語習得の遅れの児・者の障害に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１０．聴覚障害系ー先天性の聴覚障害児の問題点に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１１．聴覚障害系ー幼児期から小学生で生じた後天的聴覚障害に対する問題に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１２．聴覚障害系ー若年層で生じた聴覚障害に対する問題に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１３．聴覚障害系ー熟年層で生じた聴覚障害に対する問題に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１４．聴覚障害系ー高齢になって生じた聴覚障害に対する問題に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１５．発声発語系、言語障害系、聴覚障害系の各障害によって生じる言語聴覚障害を持つ人の特徴とその周囲の人の思いを整理する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90110001
科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Aphasia and Higher Brain Dysfunction Ⅰ		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
講義概要	高次脳機能障害の中で、失語症は成人のコミュニケーション障害の代表で、脳卒中等による原因で生じる言語の障害である。本講義では、失語症の基本的な障害である「話す・聞く・読む・書く」の各領域についての失語症に特異的に見られる基本的な事項を脳の解剖的部位とともに学ぶ。さらに、失語症の各タイプの特徴について代表的な症例を挙げて解説する。演習では、失語症者の観察、評価法について学ぶ。さらに、失語以外の高次脳機能障害についての基本的な知識を得る。		
教材（テキスト）	『失語症学 第 2 版（標準言語聴覚障害学)』(医学書院)　藤田郁代 監修　5,800 円 『標準失語症検査マニュアル 改訂第 2 版』(新興医学出版)　日本高次脳機能障害学会 編集　7,560 円		
教材（参考文献）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』(医学書院)　平山惠造・田川皓一 編 12,960 円 『言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第 3 版』(協同医書出版)　平野哲雄 編　7,344 円		
教材（その他）	パワーポイント、ビデオ教材、標準失語症検査（SLTA）		
評価方法	定期試験（50%）、小テスト（40%）、グループ課題・レポート（10%）		
到達目標	1．失語症の概念を理解し、他の言語聴覚障害との違いについて説明できる。 2．失語症の評価と診断のプロセスを理解できる。 3．失語症の古典分類を代表とした各タイプの特徴を理解し、解剖学的部位（責任病巣）との関連性について知る。 4．失語症の症状の特徴に応じた基本的な初回面接ができる。 5．標準失語症検査（SLTA）の各課題を適切に実施できる。 6．失語症以外の高次脳機能障害の概要について知る。		
準備学習	1．教科書の予習と復習。 2．解剖生理学、音声学、言語学などの基礎科目の理解。		

受講者への要望

1．これまでに学修した医学的、音声・言語学的な知識に基づき、各障害の理解を深めてください。新規の用語や事柄は、テキストで意味を調べながら理解するようにしましょう。
2．失語・高次脳機能障害学Ⅰで基礎づくりをし、来年度の失語・高次脳機能障害学Ⅱ（評価と診断）につなげるような気持ちをもって、積極的に講義に参加してください。

講義の順序とポイント

1．失語症の定義・歴史・原因疾患と大脳機能局在（講義：能登谷）
2．標準失語症検査（SLTA）（講義：能登谷）
3．聴覚的理解障害（講義：吉村）
4．聴覚的理解障害の評価（演習：外山）
5．発話の障害（講義：吉村）
6．発話の障害の評価（演習：外山）
7．読みの障害（講義：吉村）
8．読みの障害の評価（演習：外山）
9．書きの障害（講義：吉村）
10．書きの障害の評価（演習：外山）
11．文法と談話の障害（講義：吉村）
12．失語症の分類（講義：能登谷）
13．運動性失語（講義：吉村）
14．運動性失語の言語症状（演習：外山）
15．感覚性失語（講義：吉村）
16．感覚性失語の言語症状（演習：外山）
17．超皮質性失語（講義：吉村）
18．超皮質性失語の言語症状（演習：外山）
19．伝導・健忘失語（講義：吉村）
20．伝導・健忘失語の言語症状（演習：外山）
21．その他の失語症（講義：吉村）

２２．失語症者の初回面接と情報収集（演習：外山）
２３．脳卒中患者のバイタルサインと緊急時の対応（講義：滝沢）
２４．失行の概念と分類（講義：能登谷）
２５．遂行機能障害・前頭葉機能障害の概念と分類（講義：能登谷）
２６．失認の概念と分類（講義：能登谷）
２７．注意障害の概念と分類（講義：能登谷）
２８．記憶障害の分類・病巣と症状（講義：能登谷）
２９．右脳損傷によるコミュニケーション障害（講義：能登谷）
３０．認知症の定義・分類・周辺症状（講義：能登谷）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90111001
科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Aphasia and Higher Brain Dysfunction Ⅱ		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
講義概要	「失語・高次脳機能障害Ⅰ」において修得した知識を踏まえ、失語症ならびに失語以外の高次脳機能障害について、臨床場面でよく用いられる代表的な評価・診断の方法を概説する。さらに、失語症ならびに他の高次脳機能障害の評価として多用される標準化された検査バッテリーについて演習をする。演習では、検査法の実施手順を指導するとともに、失語症検査の適切な実施、結果の整理と解釈、鑑別診断、問題点の抽出について解説する。		
教材（テキスト）	『高次脳機能障害マエストロシリーズ③リハビリテーション評価』（医歯薬出版）鈴木孝治 他 編　2,600 円 『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第 3 版』（協同医書出版）平野哲夫／長谷川賢一 他 編　7,344 円		
教材（参考文献）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』（医学書院） 平山惠造・田川皓一 編 12,960 円 『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第 2 版』（医学書院）藤田郁代 他　編　5,184 円 『標準言語聴覚障害学 失語症学 第 2 版』（医学書院）藤田郁代 他 編 5,400 円		
教材（その他）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
評価方法	定期試験（50%）、小テスト（40%）、グループ課題・レポート（10%）		
到達目標	1．ＳＬＴＡ（標準失語症検査）の確実な実施に基づき、検査結果をを整理・分析し、問題点の抽出できる。 2．失認・失行、遂行機能障害・前頭葉機能障害、記憶障害、認知症など、失語以外の高次脳機能障害の症状に対応した代表的な評価・診断方法を説明できる。 3．失語以外の高次脳機能障害の検査を円滑に実施し、検査結果を統合し、サマリーを書くことができる。		
準備学習	1．失語・高次脳機能障害学Ⅰ、解剖生理学、音声学、言語学等をしっかり振り返っておく。 2．日々の予習と復習を行う。		

受講者への要望

1．これまで修得したさまざまな知識を基に、各情報を結びつけるように努めましょう。
2．わからない用語があれば、辞書やテキストで調べるようにしましょう。
3．さまざまな事柄に興味関心を抱き、自ら考えることに慣れ親しむようにしましょう。

講義の順序とポイント

1．　評価・診断の原則：国際生活機能分類(ICF)と失語・高次脳機能障害（講義：能登谷）
2．　失語・高次脳機能障害の評価：情報収集と鑑別診断（講義：能登谷）
3．　標準失語症検査（SLTA）の手順①（講義：吉村）
4．　標準失語症検査（SLTA）の手順②（講義：吉村）
5．　SLTA の結果の解釈と問題点の抽出①（講義：吉村）
6．　SLTA の結果の解釈と問題点の抽出②（講義：吉村）
7．　SLTA の結果の解釈と問題点の抽出③（講義：吉村）
8．　SLTA の実施①（演習：外山）
9．　SLTA の実施②（演習：外山）
10．　失認・失行の評価（講義：能登谷）
11．　標準高次動作性検査（SPTA）の手順と結果の解釈（講義：吉村）
12．　SPTA の実施手順と演習（演習：外山）
13．　標準高次視知覚検査（VPTA）と行動性無視検査日本版（BIT）の手順と結果の解釈
（講義：吉村）
14．　VPTA、BIT の実施（演習：外山）
15．　記憶障害と前頭葉機能障害における評価（講義：能登谷）
16．　各種記憶障害の検査の実施（演習：外山）
17．　日本版ウェクスラー記憶検査改訂版（WMS-R）、リバーミード行動記憶検査（RBMT）、その他の記憶検査の手順と結果の解釈（講義：吉村）
18．　WMS-R と RBMT の実施（演習：外山）
19．　遂行機能障害症候群の行動評価（BADS）の説明と結果の解釈、その他記憶・前頭葉機
能の各種検査（講義：吉村）
20．　BADS の実施（演習：外山）
21．　認知症の評価（講義：能登谷）

２２．　認知症の各種検査の手順（講義：吉村）
２３．　ウェクスラー成人知能検査第３版（WAIS-Ⅲ）の説明と結果の解釈（講義：吉村）
２４．　WAIS-Ⅲの実施（演習：外山）
２５．　スクリーニング検査と掘り下げ検査（講義：吉村）
２６．　スクリーニング検査の実施（演習：外山）
２７．　検査結果の統合とサマリーの書き方（演習：吉村）
２８．　失語・高次脳機能障害リハビリテーションの原則（講義：吉村）
２９．　各病期の失語・高次脳機能障害リハビリテーション①：急性期（講義：吉村）
３０．　各病期の失語・高次脳機能障害リハビリテーション②：回復期・生活期（講義：外山）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J90112001
科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Aphasia and Higher Brain Dysfunction Ⅲ		
担当者名	外山　稔	旧科目名称	
講義概要	「失語・高次脳機能障害学Ⅰ」と「失語・高次脳機能障害学Ⅱ」で学んだ知識と技術を基に、失語症例と高次脳機能障害例へのリハビリテーション的アプローチを中心に学ぶ。講義では代表的なリハビリテーション法を概説した後、実際の患者を大学に招き、基本的な評価、掘り下げテストを行い、障害の全体像を把握し、訓練プログラムを立案する過程を修得する。その後、これらの全過程をレポートとしてまとめる技術を学ぶ。演習では、個別コミュニケーション療法以外の技術も提供する。		
教材（テキスト）	『高次脳機能障害マエストロシリーズ 4 リハビリテーション介入』(医歯薬出版) 鈴木孝治 他 編　2,808 円 『言語聴覚療法マニュアル 第 3 版』(協同医書出版) 平野哲夫 他 編　7,344 円		
教材（参考文献）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』(医学書院)　平山惠造・田川皓一 編 12,960 円 『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第 2 版』(医学書院) 藤田郁代 他　編　5,184 円 『標準言語聴覚障害学 失語症学 第 2 版』(医学書院) 藤田郁代 他 編 5,400 円		
教材（その他）	講義内容に関する資料を配布する。		
評価方法	定期試験（50%)、小テスト（40%)、グループ課題・レポート（10%）		
到達目標	1. 各種評価・検査結果の解釈からリハビリテーションアプローチまでの一連の流れを実践できるようになる。 2. 症例報告のレポート（初回評価～リハビリテーション過程）を作成できるようになる。		
準備学習	次回講義までの準備学習は、その都度伝達する。		

受講者への要望

失語・高次脳機能障害学Ⅰ、失語・高次脳機能障害学Ⅱで習得した知識・技術を復習し、各種評価・検査の目的と方法・手順を理解しておくこと。

講義の順序とポイント

1. 失語・高次脳機能障害リハビリテーションの理論と技法①：機能の側面（講義：能登谷）
2. 失語・高次脳機能障害リハビリテーションの理論と技法②：活動・参加の側面（講義：外山）
3. 訓練立案の実際①：計画の立て方（講義：吉村）
4. 訓練立案の実際②：国際生活機能分類（ICF）に基づく支援（講義：外山）
5. 訓練立案の実際③：訓練形態（講義：能登谷）
6. 訓練立案の実際④：社会復帰と障害受容（講義：能登谷）
7. 症例の評価と訓練①（演習：能登谷）
8. 症例の評価と訓練②（演習：能登谷）
9. 評価結果の整理と訓練プログラムの立案（講義：吉村）
10. 訓練経過の整理（講義：吉村）
11. 症例の評価と訓練③（演習：外山）
12. 症例の評価と訓練④（演習：外山）
13. 訓練経過の報告と発表（演習：外山）
14. 症例レポートの作成①（講義：能登谷）
15. 症例レポートの作成②（講義：能登谷）
16. 重度失語症例や言語障害合併例への対応（講義：吉村）
17. 失語・高次脳機能障害と画像診断（講義：能登谷）
18. 各障害への訓練・指導①：失語症の急性期（演習：吉村）
19. 各障害への訓練・指導②：失語症の急性期（演習：外山）
20. 各障害への訓練・指導③：失語症の回復期の語彙訓練（演習：外山）
21. 各障害への訓練・指導④：失語症の回復期の構文訓練（演習：外山）
22. 各障害への訓練・指導⑤：失語症の回復期の実用コミュニケーション訓練（演習：外山）
23. 各障害への訓練・指導⑥：失語症の集団訓練（演習：能登谷）
24. 各障害への訓練・指導⑦：失行（演習：吉村）
25. 各障害への訓練・指導⑧：視覚性失認，聴覚性失認（演習：能登谷）
26. 各障害への訓練・指導⑨：半側空間失認（演習：吉村）
27. 各障害への訓練・指導⑩：記憶障害（演習：外山）

28. 各障害への訓練・指導⑪：遂行機能障害（演習：吉村）
29. 各障害への訓練・指導⑫：認知症（演習：吉村）
30. 各障害への訓練・指導⑬：認知症（演習：吉村）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90113001
科目名	言語発達障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Child Language Disorders Ⅰ		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	言語発達障害とは、さまざまな要因で話しことば（音声言語）の理解や表現、文字（書字）言語の理解や表現が、同一年齢集団の平均的な発達水準から有意に遅れている状態である。言語発達障害を呈する障害には知的障害、特異的言語発達障害、聴覚障害に伴うもの、自閉症や学習障害など発達障害、脳性麻痺に伴うもの、後天性障害に伴うものなど多岐にわたる。本講義では、健常発達（身体・運動・認知・ことば・社会性等）をふまえて、言語発達遅滞児に対する必要な知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	『言語発達障害学　第２版　（標準言語聴覚障害学)』(医学書院)　藤田郁代監修　5,000 円 『言語発達遅滞検査マニュアル』　（エスコアール）　佐竹恒夫　他　著　4,500 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第３版』(協同医書出版)　平野哲雄　他　編　7,344 円 『２１番目のやさしさに―ダウン症のわたしから』(かもがわ出版)　岩本綾　著　1,728 円 『わが子は発達障害ー心に響く 33 編の子育て物語』(ミネルヴァ書房)　内山登紀夫　他　篇　2,000 円 『自閉症の僕が跳びはねる理由』(角川文庫)　東田直樹　著　605 円 『発達障害の僕が輝ける場所をみつけられた理由』(KADOKAWA)　栗原類　著　1,200 円		
教材（その他）	パワーポイント、　ビデオ教材、　各種検査用具		
評価方法	定期試験（50%）、　小テスト（30%）、　課題（20%）		
到達目標	1.言語発達障害とその要因と症状について説明できる。 2.発達・知能・言語検査等の各検査の特徴を理解できる。 3.演習をとおして各検査が正しく実施できる。		
準備学習	1.教科書の予習と復習 2.解剖生理学、音声学、言語学、言語発達学など基礎科目の理解		

受講者への要望

発達の時期にともなって表面化するさまざまな言語発達障害の特徴を理解する上で、複数の検査を演習します。演習は積極的に参加し検査が実施できるように努めて下さい。

講義の順序とポイント

１．　健常児の身体・運動・認知・社会性・言語の発達　　（講義：橋本）
２．　健常児の身体・運動・認知・社会性・言語の発達評価　　（講義：橋本）
３．　言語発達障害の原因とタイプ　　（講義：橋本）
４．　知的障害（脳性麻痺、重度心身障害、ダウン症　　（講義：橋本）
５．　知的障害とその評価　　（演習：橋本）
６．　社会性の障害（自閉症スペクトラム障害）　　（講義：橋本）
７．　社会性の障害とその評価　（演習：橋本）
８．　聴覚障害とその評価　（講義：益田）
９．　特異的言語発達障害・LD・ADHD・後天性言語障害の評価　　（講義：益田）
１０．　発声発語の障害（運動性構音障害、機能性構音障害）　　（講義：橋本）
１１．　発声発語の障害とその評価　（演習：橋本）
１２．　発達検査（新版 K 式、KIDS、遠城寺式、津守・稲毛式）　　（講義：橋本）
１３．　発達検査（新版 K 式）の実施と解釈　（演習：弓削）
１４．　発達検査（KIDS、遠城寺式、津守・稲毛式）の実施と解釈　　（演習：弓削）
１５．　知能検査（ビネー、WISC、WPPSI、K-ABC、Kohs）　　（講義：橋本）
１６．　知能検査（WISC、WPPSI）の実施と解釈　　（演習：橋本）
１７．　知能検査（ビネー、K-ABC、Kohs）の実施と解釈　　（演習：弓削）
１８．　言語発達検査（PVT、S-S 法、ITPA、LC スケール、読書力検査）　　（講義：橋本）
１９．　言語発達検査（PVT、ITPA）の実施と解釈　　（演習：弓削）
２０．　言語発達検査（S-S 法）の実施　　（講義：橋本）
２１．　言語発達検査（S-S 法）の解釈　（講義：橋本）
２２．　言語発達検査（LC スケール）の実施と解釈　　（演習：弓削）
２３．　言語発達検査（読書力検査）の実施と解釈　（演習：弓削）
２４．　認知・発達検査（フロスティッグ、ベントン、ベンダーゲシュタルト）　　（講義：橋本）

２５．認知・発達検査（フロスティッグ）の実施と解釈　（演習：弓削）
２６．認知・発達検査（ベントン、ベンダーゲシュタルト）の実施と解釈　（演習：弓削）
２７．コミュニケーション行動評価（S-S 法、質問応答検査）　（講義：橋本）
２８．コミュニケーション行動評価（S-S 法）の実施　（演習：弓削）
２９．コミュニケーション行動評価（S-S 法）の解釈　（演習：橋本）
３０．コミュニケーション行動評価（質問応答検査）の実施と解釈　（演習：弓削）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90114001
科目名	言語発達障害学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Child Language Disorders Ⅱ		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	「言語発達障害学Ⅰ」で学んだ知識を踏まえて、言語発達障害の原因別での評価方法について学ぶ。指導・訓練については、子どもの発達段階、障害特性の評価から、訓練プログラムの立案を行うことになる。訓練に至るまでの過程を理解し、環境調整も加えて、子どもの全体像を把握する。ビデオ分析や演習を通して、評価と訓練・指導を学修するとともに、検査の記録、検査結果や評価のまとめ、訓練記録、報告書など、臨床において必要な文書の書き方について学ぶ。		
教材（テキスト）	『言語発達障害学第２版（標準言語聴覚障害学)』(医学書院)　藤田郁代　監修　5,000 円 『言語聴覚士のための言語発達遅滞訓練ガイダンス』(医学書院)　佐竹恒夫、他　編　3,700 円 『言語発達遅滞訓練マニュアル＜1＞』(エスコアール)　佐竹恒夫、他　著　2,500 円 『言語発達遅滞訓練マニュアル＜2＞』(エスコアール)　佐竹恒夫、他　著　3,800 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第３版』(協同医書出版)　平野哲雄、他　編　7,344 円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（５０％)、実技の習熟度（３０％)、課題（２０％）		
到達目標	１．言語発達障害の原因別に評価に必要な情報収集ができる。 ２．発達段階や障害特性に応じた評価方法の選択ができる。 ３．評価・検査結果の解釈ができる。 ４．１~３に基づいた具体的な訓練プログラムの立案ができる。 ５．発達段階や障害特性に応じた指導方法の特徴を理解できる。		
準備学習	教科書の予習と復習。		
受講者への要望			
種々の検査について、授業時間以外にも自主的に演習を繰り返して身に付けて下さい。			
講義の順序とポイント			
１．言語発達障害児での情報収集と評価　（講義：橋本） ２．発達段階別の指導訓練①前言語期　（講義：橋本） ３．発達段階別の指導訓練②語彙獲得期　（講義：橋本） ４．発達段階別の指導訓練③幼児期　（講義：橋本） ５．発達段階別の指導訓練④学童期　（講義：橋本） ６．障害特性別の指導と訓練：知的障害児の評価と訓練　（講義：橋本） ７．知的障害児の指導方法論（マカトン法）　（講義：橋本） ８．知的障害児の評価　（演習：弓削） ９．知的障害児の訓練プログラムの立案　（演習：弓削） １０．知的障害児の幼児期の指導と訓練　（演習：弓削） １１．知的障害児の学童期の指導と訓練　（演習：弓削） １２．障害特性別の指導と訓練：発達障害児の評価と訓練　（講義：橋本） １３．発達障害児の指導方法論(TEACCH)　（講義：橋本） １４．発達障害児の評価　（演習：弓削） １５．発達障害児の訓練プログラムの立案　（演習：弓削） １６．発達障害児の幼児期の指導と訓練　（演習：弓削） １７．発達障害児の学童期の指導と訓練　（演習：橋本） １８．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の評価と訓練　（講義：橋本） １９．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の評価　（演習：橋本） ２０．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の訓練プログラムの立案　（演習：弓削） ２１．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の幼児期の指導と訓練　（演習：弓削） ２２．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の学童期の指導と訓練　（演習：弓削） ２３．S-S 法をもとにした指導方法　（講義：足立） ２４．S-S 法をもとにした発達段階別評価　（演習：足立） ２５．S-S 法をもとにした発達段階別訓練プログラムの立案　（演習：足立）		

２６．S-S 法をもとにした発達障害別指導と訓練　（演習：足立）
２７．S-S 法をもとにした障害特性別評価　（演習：足立）
２８．S-S 法をもとにした障害特性別訓練プログラムの立案（演習：足立）
２９．S-S 法をもとにした障害特性別指導と訓練　（演習：橋本）
３０．語用論的アプローチをもとにした指導方法　（講義：橋本）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90115001
科目名	言語発達障害学Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Child Language Disorders Ⅲ		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	「言語発達障害学Ⅱ」で学んだ様々な検査の用い方について、言語発達障害の疾患や発達段階別の事例検討による演習を通して理解を図る。指導・訓練については、発達段階、障害特性、個別的な特性に即した支援について実践的な演習を通して深める。個別の言語訓練プログラムの立案・実践についての演習では、経過表、訓練記録、報告書等をまとめることで、より実践に近い演習を行う。幼児期からの家庭療育指導や学童期以降の言語指導や関係機関との連携についても学ぶ。子どもを取り巻く環境や保護者支援についても総合的な演習を進める。		
教材（テキスト）	『言語聴覚士のための言語発達遅滞訓練ガイダンス』（医学書院）　佐竹恒夫、他　著　3,700 円 『言語発達遅滞訓練マニュアル＜1＞』（エスコアール）　佐竹恒夫、他　著　2,500 円 『言語発達遅滞訓練マニュアル＜２＞』（エスコアール）　佐竹恒夫、他　著　3,800 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第３版』（協同医書出版）　平野哲雄、他　編　7,344 円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（５０％）、実技の習熟度（３０％）、課題（２０％）		
到達目標	１．検査や行動観察も含めた評価から、働きかけの目標や重点を理解し、個別の言語訓練プログラムの立案・実践までができる。 ２．事例検討では言語検査結果との関連性や事例の発達段階や障害特性、個別的な特性に合わせた報告書の作成ができる。 ３．訓練経過表、訓練記録、報告書等の作成が丁寧かつ正確にできる。 ４．家庭療育指導や関係機関との連携に必要な情報提供書等の作成ができる。		
準備学習	教科書の指定されたページの予習		

受講者への要望

丁寧で正確な記録、報告書の作成に努めて下さい。

講義の順序とポイント

１．言語発達障害児や家族に対する直接的および間接的な援助　（講義：橋本）
２．初回面接：情報の収集　（演習：橋本）
３．初回面接：検査の選択　（演習：弓削）
４．身体・運動・認知・社会性の評価　（演習：橋本）
５．発達段階別言語評価　（演習：橋本）
６．障害特性別に評価　（演習：橋本）
７．個別的な特性の評価　（演習：弓削）
８．評価のまとめ　（講義：橋本）
９．評価のまとめの実施　（演習：弓削）
１０．訓練プログラムの立案　（講義：橋本）
１１．訓練プログラムの立案の実施　（演習：弓削）
１２．訓練プログラムの実施①　（演習：橋本）
１３．訓練プログラムの実施②　（演習：弓削）
１４．訓練の記録と経過表の作成　（講義：橋本）
１５．訓練の記録と経過表の作成の実施　（演習：弓削）
１６．報告書の作成　（演習：弓削）
１７．情報提供書の作成　（演習：弓削）
１８．学童期以降の長期観察経過　（演習：橋本）
１９．家庭療育上の指導　（講義：橋本）
２０．家庭療育上の指導の実施　（演習：橋本）
２１．保護者への支援と子どもを取り巻く環境　（講義：橋本）
２２．個別療育指導　（講義：足立）
２３．個別療育指導①情報の収集と検査の選択　（演習：足立）
２４．個別療育指導②評価　（演習：足立）

２５．個別療育指導③評価のまとめ　（演習：足立）
２６．個別療育指導④訓練プログラムの立案　（演習：足立）
２７．個別療育指導⑤訓練　（演習：足立）
２８．個別療育指導⑥家庭療育上の指導　（演習：橋本）
２９．集団療育指導　（講義：橋本）
３０．集団訓練プログラム　（演習：橋本）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90116001
科目名	重複障害学	単位数	1
科目名（英語表記）	Multiple Handicap		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	小児の重複障害として、脳性麻痺、重度重複障害について理解を深める。脳性麻痺は脳損傷に由来する症候群であり、知的発達障害、視覚障害、聴覚障害、てんかん、視覚や聴覚の認知発達障害、情緒面や行動面の発達障害など二重三重の障害を合併していることがある。重複した障害をもつ子どもたちのことばの発達の特徴を理解し、コミュニケーション発達支援に必要な知識について学ぶ。また、ライフステージに沿った支援や家族支援について学ぶ。		
教材（テキスト）	『言語発達障害学第２版（標準言語聴覚障害学)』(医学書院)　藤田郁代　監修　5,000 円		
教材（参考文献）	『脳性麻痺児の早期治療　第２版』(医学書院)　今川忠男　監訳　3,500 円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．重複障害児の言語コミュニケーション障害の特徴を理解できる。 ２．重複障害児の認知、行動、情緒面の発達をライフステージから捉えることができる。 ３．プレスピーチ、摂食・嚥下訓練、拡大・代替コミュニケーション（ＡＣＣ）といった訓練や支援方法をとおして重複障害児の障害特性を知る。		
準備学習	教科書の該当部分の予習、復習をする。		
受講者への要望			
重要なポイントは授業中に重ねて解説するので、説明できるように自主学習に努めてください。			
講義の順序とポイント			
1.言語発達障害としての脳性麻痺　（講義：橋本） 2.脳性麻痺の重症度、タイプ、発達段階　（講義：橋本） 3.脳性麻痺の言語聴覚障害の特徴と評価法　（講義:橋本） 4.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価①姿勢・呼吸　（演習：橋本） 5.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価②聴覚　（演習：橋本） 6.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価③発声・構音　（演習：弓削） 7.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価④摂食・嚥下　（演習：弓削） 8.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価⑤言語発達　（演習：弓削） 9.脳性麻痺の摂食・嚥下障害に対する指導・訓練　（講義：橋本） 10.脳性麻痺の摂食・嚥下指導・訓練の実施　（演習：弓削） 11.脳性麻痺の認知・行動・情緒面の発達とコミュニケーション支援　（講義：橋本） 12.拡大・代替コミュニケーション（AAC）　（講義：橋本） 13.拡大・代替コミュニケーション（AAC)の道具と使用　（演習：弓削） 14.盲聾との重複障害による認知・行動・情緒面の特徴　（講義：橋本） 15.多職種の連携と情報提供　（講義：橋本）		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	J90117001
科目名	音声障害学	単位数	2
科目名（英語表記）	Voice Disorders		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	音声障害は声の異常であり、喉頭の病変だけでなく呼吸の制限や精神的要因が背景にあることもある。発声の基本をもとに、声の異常を考えることが、病態を理解し適切な治療を考えるうえで大切である。本講義では、ヒトの声の異常とその起源の多様性を示し、基本的な評価と治療の解説をする。演習では、声の評価（聴取印象：声の大きさや高さ、ふるえ、嗄声など、生理検査：内視鏡や空気力学的計測）、喉頭の外科的治療、音声治療、無喉頭音声とリハビリテーションについて、症例の画像を提示して解説する。		
教材（テキスト）	『改訂音声障害』（建帛社）　苅安誠・城本修 編 3,348 円 『新耳鼻咽喉科学 改訂１１版』（南山堂）　切替一郎 著 17，280 円		
教材（参考文献）	『声のなんでも小事典』（講談社ブルーバックス）　和田美代子 著 950 円 『新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座：口腔・咽頭・喉頭・気管・食道』（メジカルビュー社）　山下敏夫 編 19,440 円		
教材（その他）	補足資料は講義・演習で配布する。		
評価方法	定期試験 80％　演習レポート 20％		
到達目標	1.発声の仕組みを説明することができる。 2.声の異常の背景にある病態を理解する。 3.声の評価を実践することができる。 4.発声の訓練と指導の要点を知る。		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
声の異常とそのリハビリテーションについて興味関心を持ってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．音声コミュニケーションの特徴と社会生活での声の重要性　（講義：苅安） ２．ライフスパンでの声の異常とその起源の多様性　（演習：苅安） ３．咽頭の解剖　（講義：久） ４．喉頭の生理　（講義：久） ５．発声の仕組み　（講義：久） ６．声の異常いろいろ：耳で聞く・動画で見る　（演習：久） ７．喉頭の観察①　（演習：久） ８．喉頭の観察②　（演習：久） ９．音声障害の診察の流れ　（講義：久） 10．診断と治療の概説　（講義：久） 11．音声障害をきたす疾患　（講義：久） 12．咽頭病変や咽頭麻痺の診断　（講義：久） 13．声の評価　（講義：苅安） 14．声質の聴取印象　（演習：苅安） 15．声の高さや大きさとその安定性の聴取印象　（演習：苅安） 16．声の音響分析　（演習：苅安） 17．発声と声道の空気力学　（講義：苅安） 18．呼気流量と声門下圧の計測　（演習：苅安） 19．治療の方法（手術と投薬）　（講義：久） 20．喉頭がんと咽頭摘出　（講義：久） 21．無喉頭での音声機能の再生　（講義：久） 22．音声障害の治療のエビデンス　（講義：久） 23．音声治療の概説（講義：苅安） 24．音声治療の手技（演習：苅安） 25．変声障害への音声治療　（講義：苅安） 26．咽頭病変への音声治療　（講義：苅安） 27．過緊張発声への音声治療（講義：苅安）		

28. 姿勢の評価と整え方　（演習：柳田） 29. 痙攣性発声障害の治療　（講義：苅安） 30. 無咽頭での代用音声のリハビリテーション　（演習：苅安）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90118001
科目名	構音障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Speech Disorders Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	構音障害は、正確に音声を作ることができない状態で、神経系の異常、構造上の問題、発音器官の誤った操作が背景にある。本講義では、発声発語の基本的事項（神経と筋活動、運動と声道空気力学）を提示し、発声発語の評価方法を提供する。神経病理と運動異常の理解をはかり、運動性構音障害を診る際の基本的方法と考え方、治療の方法について、代表的な症例をあげながら、解説をする。演習では、発声発語の評価、発声発語器官の観察、病態生理の理解、治療方法の選択と実施方法について学ぶ機会を提供する。		
教材（テキスト）	『神経原性発声発語障害 dysarthria』（苅安 誠）医歯薬出版,2017.［D］ 『みるトレ神経疾患』（岩崎 靖）医学書院,2015.［み神］ 『言語聴覚療法―臨床マニュアル、第３版、第６部』協同医書,2014.［臨マ］		
教材（参考文献）	『運動性構音障害：基礎・鑑別診断・マネージメント』（Duffy）医歯薬出版,2004. 『発話障害へのアプローチ、第３章成人の構音障害』（廣瀬）インテルナ出版,2015. 『臨床神経内科学、改訂６版』（平山恵造）南山堂,2016.		
教材（その他）	必要な資料を提供する。		
評価方法	定期試験 80％　神経疾患レポート 10％　実技試験 10％		
到達目標	1　発声発語の解剖生理と神経学的基盤を知る 2　構音の評価について基本的方法を身につける 3　dysarthria の神経病理と音声特徴を理解する 4　dysarthria 患者に対するリハビリテーションを学ぶ		
準備学習	講義演習に該当する教科書や参考文献等を前後に読む。		
受講者への要望			
十二分の努力を求める。			
講義の順序とポイント			
０１　発声発語の生理　（講義：苅安） ０２　発声発語への神経系の関与　（講義：苅安） ０３　音声言語コミュニケーションの特徴と発話困難　（講義：苅安） ０４　標準的な問診と発話の聴取印象　（講義：苅安） ０５　音声課題と音声特徴　（講義：苅安） ０６　音声課題の実施と音声特徴の記述：声　（演習：弓削） ０７　音声課題の実施と音声特徴の記述：共鳴　（演習：弓削） ０８　音声課題の実施と音声特徴の記述：構音と韻律　（演習：弓削） ０９　口腔顔面の観察　（講義：苅安） １０　口腔顔面の観察の実施　（演習：弓削） １１　最大能力試験　（講義：苅安） １２　最大能力試験の実施　（演習：弓削） １３　発話明瞭度の評価　（講義：苅安） １４　発話明瞭度の評価の実際　（演習：弓削） １５　運動性構音障害の臨床特徴と疫学　（講義：苅安） １６　神経病理と運動異常の関連性　（講義：苅安） １７　代表的な疾患と運動・音声所見①　（講義：苅安） １８　代表的な疾患と運動・音声所見②　（講義：苅安） １９　鑑別診断　（講義：苅安） ２０　神経疾患の経過と予後　（講義：苅安） ２１　運動性構音障害を診る際の基本的方法と考え方　（講義：苅安） ２２　運動性構音障害のマネージメントの原則　（講義：苅安） ２３　治療の基本と代表的な方法　（講義：苅安） ２４　訓練の目標と課題の設定　（講義：苅安） ２５　訓練の組み立て　（演習：弓削） ２６　訓練課題の作成　（演習：弓削）		

２７　症例検討：主訴・音声所見と病態生理　　（演習：弓削）
２８　症例検討：治療方法の選択　　（演習：弓削）
２９　症例検討：訓練とその経過　　（演習：弓削）
３０　症例検討：現実的な問題と対策　　（演習：苅安）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★★	－	－	★

年度	2017	授業コード	J90119001
科目名	構音障害学Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Speech Disorders Ⅱ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	構音障害は、運動性構音障害、器質性構音障害、機能性構音障害に大別される。「構音障害学Ⅰ」を踏まえ、本講義では、先天性の奇形（口唇口蓋裂など）、腫瘍とその切除（口腔中咽頭がん、主に舌がん）に伴う器質性構音障害を扱う。構造上の異常を修復するための外科的方法と歯科補綴治療、構音の評価、構音訓練の基本的な方法を解説する。演習では、訓練材料と具体的手技、形態異常の記録法等を学ぶ機会を学生に提供する。		
教材（テキスト）	『臨床歯科学・口腔外科学第２版（医歯薬出版）　』道健一他４，５３６円（前年後期に購入済み） 『神経原性発声発語障害 dysarthria の診かたとリハビリテーション（医歯薬出版)』　苅安誠　価格未定		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験　１００％		
到達目標	１　器質性構音障害の原因と音声特徴を知る ２　構音の評価とリハビリテーションについて理解する		
準備学習	予習と復習をしておく。		
受講者への要望			
十二分の努力を求める。			
講義の順序とポイント			
０１　構音障害の類型と臨床特徴　（講義：苅安） ０２　器質性構音障害の原因（代表的な疾患や状態）と発声発語の特徴　（講義：苅安） ０３　器質性構音障害での特別な評価　（講義：苅安） ０４　構音の聞き取り判定と記録①　（演習：弓削） ０５　構音の聞き取り判定と記録②　（演習：弓削） ０６　空気力学的計測の実施　（演習：弓削） ０７　口腔構音運動の観察：パラトグラフィー　（演習：弓削） ０８　器質性構音障害の原因（奇形と腫瘍）とその診断・治療　（講義：小野） ０９　口腔顔面の観察　（演習：小野） １０　口腔器官の変化に伴う構音と嚥下の問題　（講義：小野） １１　外科的方法と歯科補綴的治療（口蓋補助床ＰＡＰ等）　（講義：小野） １２　舌運動の観察　（演習：小野） １３　補綴的治療の前後での構音と舌の運動の変化　（講義：小野） １４　構音訓練：基本的な訓練と指導の方法　（講義：苅安） １５　構音訓練のプログラム作成と実施　（演習：弓削）		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	J90120001
科目名	構音障害学Ⅲ	単位数	1
科目名（英語表記）	Speech Disorders Ⅲ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	子どもは母国語の発音を学習し、就学前にはすべての言語音をマスターする。ただし、学習過程での不具合により、発音を修得できずに異常を呈する状態を、機能性の構音障害と呼ぶ。聴こえの異常や言葉の発達の遅れによっても発音ができないことがあるので、鑑別診断が重要である。本講義では、「構音障害学Ⅰ」と「構音障害学Ⅱ」を踏まえ、機能性の構音障害の特徴、構音の検査方法と評価、口腔顔面の観察方法、構音の訓練と指導の方法について、基本的情報を提供する。演習では、構音の評価、訓練での材料と手続きについて、学ぶ機会を提供する。		
教材（テキスト）	『構音障害の臨床（金原出版）』阿部雅子　２，５９２円		
教材（参考文献）	『言語聴覚療法ー臨床マニュアル第３版（協同医書）』　７，３４４円		
教材（その他）			
評価方法	定期試験　６０％　　レポート２本　４０％		
到達目標	１　機能性構音障害の原因や要因を知る ２　構音の検査と誤りの分析ができる ３　構音訓練の基本的方法を理解する		
準備学習	予習と復習をしておく。		
受講者への要望			
十二分の努力を。			
講義の順序とポイント			
０１　構音の発達についてのユニバーサルと日本語音声の特性　（講義：苅安） ０２　機能性の構音障害の考えられる原因と特徴　　（講義：苅安） ０３　構音の検査方法と評価の基本　　（講義：苅安） ０４　幼児・学童に対しての口腔顔面の観察の方法とそのポイント　（講義：苅安） ０５　機能性構音障害の症例での誤り音の判定①　　（演習：弓削） ０６　機能性構音障害の症例での誤り音の判定②　　（演習：弓削） ０７　構音の訓練と指導の標準的な方法（非言語性の操作、聞き取り弁別など）　　（講義：苅安） ０８　構音訓練での目標音の誘導の方法①　　（演習：弓削） ０９　構音訓練での目標音の誘導の方法②　　（演習：弓削） １０　構音訓練での目標音の誘導の方法③　　（演習：弓削） １１　音の誤りについての訓練・指導プラン作り①　　（演習：弓削） １２　音の誤りについての訓練・指導プラン作り②　　（演習：弓削） １３　症例問題①　　（演習：弓削） １４　症例問題②　　（演習：弓削） １５　症例問題③　　（演習：弓削）		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90121001
科目名	嚥下障害学	単位数	2
科目名（英語表記）	Dysphagia		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	嚥下困難（障害）は病状であり、多様な原因によって起こる。高齢化により嚥下困難の訴えは多く、脳卒中、先天的障害、がん、頸椎症などは、ほとんどの診療科と共同して評価診断、治療が行なわれる。講義では、嚥下のしくみ、摂食と嚥下、嚥下の評価、嚥下障害の分類と治療、手術、嚥下訓練の基本的情報を提供する。演習では、嚥下の評価（スクリーニング、内視鏡的観察と病態説明、嚥下造影検査での所見と病態説明)、嚥下訓練の手技を取り上げる。		
教材（テキスト）	「嚥下障害の臨床、第２版」（医歯薬出版）		
教材（参考文献）	『新耳鼻咽喉科学改訂第１１版（南山堂)』切替一郎１７，２８０円 『耳鼻咽喉科・頭頸部外科研修ノート改訂第２版（診断と治療社)』久育男他８，１００円		
教材（その他）			
評価方法	筆記試験　７０％　　レポート　３０％		
到達目標	1　嚥下の仕組みを理解する 2　嚥下困難の原因と要因を知る 3　嚥下障害の診断と治療の概要を理解する 4　嚥下機能評価のスキルを身につける 5　嚥下リハビリテーションの基本を知る		
準備学習	予習と復習をする。		
受講者への要望			
十二分の努力。			
講義の順序とポイント			
０１　嚥下のしくみ：嚥下器官の構え動きと食塊の移送　　（講義：苅安） ０２　嚥下の仕組み：筋肉の活動、神経系の関わり、呼吸の制御　（講義：苅安） ０３　嚥下の仕組み：　グループで説明　　（演習：苅安） ０４　嚥下障害の合併症（肺炎、脱水、低栄養）　　（講義：苅安） ０５　嚥下障害をきたす疾患と嚥下困難の特徴　　（講義：久） ０６　画像診断法　　（講義：久） ０７　嚥下障害の分類　　（講義：久） ０８　標準的な治療（手術、リハビリテーション）　　（講義：久） ０９　嚥下関連の評価　　（講義：苅安） １０　嚥下造影検査：実施要領　　（演習：苅安） １１　嚥下内視鏡：プロトコールと評価　　（講義：久） １２　内視鏡による嚥下の観察　　（演習：久） １３　嚥下造影と内視鏡画像の観察記録①　　（演習：久） １４　嚥下造影と内視鏡画像の観察記録②　　（演習：外山） １５　嚥下造影の所見と病態説明①　　（演習：苅安） １６　嚥下造影の所見と病態説明②　　（演習：外山） １７　嚥下のスクリーニング　　（講義：外山） １８　スクリーニング・テストの実施　　（演習：外山） １９　嚥下訓練の全体像　　（講義：苅安） ２０　嚥下訓練の基本的方法　　（講義：外山） ２１　嚥下訓練での姿勢調整　　（演習：外山） ２２　嚥下訓練の手技　　（演習：外山） ２３　治療の選択　　（演習：苅安） ２４　リスクマネージメントの基本　　（講義：苅安） ２５　誤嚥に対しての対応　　（演習：山田） ２６　人工的栄養の論争や誤嚥などの医療事故　　（演習：苅安）		

２７　患者の病歴と嚥下困難の経過：診断と治療①　　（演習：久）
２８　患者の病歴と嚥下困難の経過：診断と治療②　　（演習：久）
２９　症例検討：評価と治療の課題①　　（演習：外山）
３０　症例検討：評価と治療の課題②　　（演習：外山）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90123001
科目名	聴覚検査学	単位数	2
科目名（英語表記）	Diagnostic Audiology		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	聴覚検査のおもな目的は聴覚障害の性質・程度の把握と難聴疾患の鑑別診断にある。各種聴覚機能検査法について、目的、原理、結果の判定法について体系的に学修し、その直後に実習を行う。聴覚障害の評価・診断に必要な聴覚検査法を目的、症例に応じて選択、実施でき、結果の判定が行えるようになることを目標とする。特に重要な純音聴力検査、語音聴力検査、乳幼児聴力検査については、少人数でのグループ実習により実技の習熟を図る。		
教材（テキスト）	『聴覚検査の実際 （改訂３版)』(南山堂） 日本聴覚医学会 編 3672 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	小テストと提出物（40%），定期試験（60%）		
到達目標	1. 各種聴覚機能検査法とその診断的意義について体系的に理解し、演習を通して実技に習熟する。 2. 聴覚障害の評価に必要な聴覚検査法を症例に応じて選択でき、結果の判定が行える。		
準備学習	前回の講義の内容を復習しておく。		
受講者への要望			
授業内容を時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すために、小テストを頻回に行う。			
講義の順序とポイント			
01. 聴覚伝導路の解剖・生理（講義） 02. オージオメータ，オージオグラム（講義） 03. 純音気導・骨導聴力検査法（講義） 04. 聴力検査におけるマスキング法（講義） 05. 純音聴力検査演習 1 06. 純音聴力検査演習 2 07. マスキング法演習 1 08. マスキング法演習 2 09. 語音聴力検査法 1（講義） 10. 語音聴力検査法 2（講義） 11 .語音聴力検査演習 1 12. 語音聴力検査演習 2 13. 聴力検査実技評価演習 1 14. 聴力検査実技評価演習 2 15. 閾値上聴力検査（講義） 16. インピーダンス・オージオメトリー（講義） 17. 誘発反応聴力検査（講義） 18. 耳音響放射、機能性難聴の検査（講義） 19. 閾値上聴力検査演習 1 20. 閾値上聴力検査演習 2 21. インピーダンス・オージオメトリー演習 1 22. インピーダンス・オージオメトリー演習 2 23. 誘発反応聴力検査演習 1 24. 誘発反応聴力検査演習 2 25. 耳音響放射の検査演習 26. 機能性難聴の検査演習 27. 聴覚障害の基準・選別聴力検査（講義） 28. 耳鳴とその検査・カウンセリング（講義） 29. 鼓膜の観察演習 30. 各種聴覚検査による難聴の診断演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90124001
科目名	補聴器・人工内耳	単位数	2
科目名（英語表記）	Hearing Aids and Cochlear Implant		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	聴覚のリハビリテーションは適切な補聴が前提となる。これに必要な補聴器・人工内耳の適合の基礎知識と実技を修得する。人工内耳を含めた種々の補聴機器について、その原理・構造と特性測定、フィッティング調整、適合判定、補聴補助機器の使用等について学び、実習を行う。実際の難聴症例について、補聴機器の適応の有無を判定し、患者の多様性に合わせて、種々の補聴機器のバリエーションの中から最適なものを選択して特性を測定し、基本調整を行ったうえで、適合状態を正確に評価できるようになることを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『聴覚障害学（第２版)』(医学書院)　中村公枝他 編 5616 円		
教材（その他）	プリント、スライド		
評価方法	小テストと提出物（40%)、定期試験（60%）		
到達目標	難聴者の個々の聴覚障害の性質と日常生活のニードに合わせて、適切な補装具を選択し、適合することができる。		
準備学習	前回の講義の内容を復習しておく。		
受講者への要望			
授業内容を講義時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すために、小テストを頻回に行う。			
講義の順序とポイント			
０１　補聴器の種類と構造（講義） ０２　補聴器の音響特性とその測定（講義） ０３　カップリングシステム、イヤモールド用耳型の採取（講義） ０４　イヤモールド用耳型の採取の実施（演習） ０５　補聴器の特性検査の実施①（演習） ０６　補聴器の特性検査の実施②（演習） ０７　成人の補聴器フィッティング（講義） ０８　補聴器適合検査（指針 2010）（講義） ０９　補聴器の調整①（演習） １０　補聴器の調整②（演習） １１ 種々のデジタル信号処理機能を持つ補聴器（講義） １２ デジタル補聴器フィッティングの実際（演習） １３　装用効果の評価①　音場較正（演習） １４　装用効果の評価②　挿入型イヤホンの較正（演習） １５　装用効果の評価③音場検査１（演習） １６　装用効果の評価④音場検査２（演習） １７　装用効果の評価⑤実耳測定（演習） １８　装用効果の評価⑥実耳測定（演習） １９　室内音響と音声聴取（講義） ２０　補聴器装用の実際１（演習） ２１　補聴器装用の実際２（演習） ２２　補聴器装用の実際３（演習） ２３　人工内耳①　原理と特徴（講義） ２４　人工内耳②　適応と評価（講義） ２５　人工内耳③　最近の進歩（講義） ２６　人工中耳、骨導埋め込み補聴器、聴性脳幹インプラント（講義） ２７　補聴補助機器（講義） ２８　小児の補聴器適合（講義） ２９　補聴の社会的側面（講義） ３０　補聴にかかわる諸問題（講義）		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90125001
科目名	小児聴覚障害学	単位数	2
科目名（英語表記）	Aural Rehabilitation in Children		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
講義概要	小児期に生じる聴覚障害は、その障害の発症時期によって言葉の獲得に大きな影響を与える。さらに言葉だけでなく、人と人とのコミュニケーションの基盤となる対人関係や社会性などにも大きく影響するといわれている。本講義では、小児期特有の問題（聴覚障害の原因、難聴の程度による問題、聴覚障害を生じた年齢による影響、小児期に生じやすい耳鼻咽喉科の疾患など）を概説し、補聴器や人工内耳などの補装具の成り立ちや使用法、またそれらを用いての言語習得法についても提示する。演習では、発達によって異なる聴力検査法を学生に提示し、実施法を修得させる。		
教材（テキスト）	『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第２版』（医学書院） 中村公枝 他 編 5,616 円		
教材（参考文献）	『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂３版』（協同医書出版）平野哲雄 他 編　6,800 円		
教材（その他）	音域が異なる楽器（鈴、ラッパ、太鼓、トライアングルなど）		
評価方法	小テスト(３０%)、レポート(２０%)、定期試験(５０%)		
到達目標	1）聴覚障害児を抱える保護者の気持ち、聴覚障害児自身の気持ちを考えることができる。 2）乳幼児期に生じる難聴の原因等についての知識を得る。 3）小児の聴覚検査が実施できる。 4）必要な補装具（補聴器や人工内耳）についての基本的知識を得る。		
準備学習	1）障害を抱える親の気持ちを本や DVD などから知る。 2）聴こえが悪いとはどのようなことかについて、一般書などを読んで知識を得る。		
受講者への要望			
授業に先立って、障害児を抱える親御さんの手記などを読んで欲しい。			
講義の順序とポイント			
1.小児期特有のきこえの問題と新生児スクリーニング （講義：能登谷） 2.小児期特有の聴覚の問題と発症年齢（講義：能登谷） 3.小児聴覚障害のコミュニケーション手段（講義：能登谷） 4.乳幼児期の聴力検査：BOA と COR（講義：能登谷） 5.乳幼児期の聴力検査：BOA の実施（演習：橋本） 6.乳幼児期の聴力検査：COR の実施（演習：橋本） 7.幼児期の聴力検査：peep show test と数遊び（講義：能登谷） 8.幼児期の聴力検査：peep show test の実施 （演習：橋本） 9.幼児期の聴力検査：数遊びの実施（演習：橋本） 10.小児聴覚障害における補装具と福祉制度（講義：橋本） 11.幼児期に使用する補聴器のしくみと調整法（講義：能登谷） 12.補聴器装用時の調整の実施（演習：橋本） 13.人工内耳のしくみとマッピング法（講義：能登谷） 14.人工内耳のマッピングの実施（演習：橋本） 15.人工内耳装用時の聞こえとことばの評価の実施（演習：能登谷） 16.補装具を装用した時の聴力検査（講義：橋本） 17.補装具を装用した時の聴力検査の実施（演習：橋本） 18.乳幼児期から幼児期の発達検査の実施（演習：能登谷） 19.幼児後半から就学以降の言語検査（WISC）（講義：橋本） 20.幼児後半から就学以降の言語検査（WISC）の実施(演習：橋本） 21.幼児後半から就学以降の言語検査（PVT-R，読書力検査）（講義：橋本） 22.幼児後半から就学以降の言語検査（PVT-R）の実施（演習：橋本） 23.幼児後半から就学以降の言語検査（読書力検査）の実施（演習：橋本） 24.聴覚障害例の検査評価と軽度例の指導立案 （講義：能登谷） 25.軽度例の指導立案の実施（演習：能登谷） 26.聴覚障害例の検査評価と中度例の指導立案（講義：能登谷） 27.中度例の指導立案の実施（演習：能登谷）			

28.聴覚障害例の検査評価と重度例の指導立案 （講義：能登谷）
29.重度例の指導立案の実施（演習：橋本）
30.聴覚障害者の長期経過観察（講義：能登谷）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J90126001
科目名	成人聴覚障害学	単位数	1
科目名（英語表記）	Aural Rehabilitation in Adults		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	成人の聴覚障害では先天性聴覚障害、中途失聴の場合、老人性難聴、盲聾、知的障害と難聴などの重複障害について学ぶ。先天性聴覚障害では手話、指文字、口話などのコミュニケーション手段による違いを理解する。中途失聴の場合には、失聴した年齢による問題の差とその対応についても概説する。また、補装具として補聴器や人工内耳の装用指導などを演習も含めて講義する。		
教材（テキスト）	『聴覚障害学（標準言語聴覚障害学）第２版』（医学書院）　藤田郁代監修　5,200 円		
教材（参考文献）	手記 『音から隔てられてー難聴者の声』（岩波新書、1975 年）入谷仙介、林瓢介　編　778 円 『あなたの声が聴きたい』（文理閣、2003 年）藤田保、西原泰子　編　2,052 円 『冬芽を想うー難聴者とその支援者による体験談集』（2014 年）全日本難聴者・中途失聴者団体連合編 1,296 円 解説書 『中途失聴者と難聴者の世界』（一橋出版、2003 年）山口利勝　著　2,468 円		
教材（その他）	教科書以外に必要な資料は配布する		
評価方法	定期試験（５０％）、小テスト（３０％）、レポート（２０％）		
到達目標	１．疾患別に聴覚障害の特徴を理解できる。 ２．先天性聴覚障害のコミュニケーションの種類や中途失聴に伴うコミュニケーションと心理的な問題を知る。 ３．成人聴覚障害のコミュニケーション支援と援助について理解する。 ４．補聴器や人工内耳装用後の指導について学習する。 ５．先天性聴覚障害の成人期のリハビリテーションについて理解する。 ６．重複障害例のコミュニケーションの問題と指導について学習する。		
準備学習	教科書の指定された範囲の予習、復習をする。		

受講者への要望

講義内容は演習をとおして理解を深めます。時間中に講義をしっかり理解するように努めて下さい。

講義の順序とポイント

１．疾患別にみた成人聴覚障害の特徴　（講義：松平）
２．成人聴覚障害の症例　（演習：松平）
３．先天性聴覚障害のコミュニケーションの種類　（講義：能登谷）
４．中途失聴者のコミュニケーションと心理　（講義：能登谷）
５．難聴疑似体験　（演習：能登谷）
６．難聴疑似体験の考察　（演習：能登谷）
７．心理面の評価法　（講義：能登谷）
８．コミュニケーションの支援と援助①　（講義：能登谷）
９．コミュニケーションの支援と援助②　（講義：能登谷）
１０．補聴器・人工内耳装用後の指導　（演習：能登谷）
１１．成人の先天性聴覚障害者のリハビリテーション　（講義：橋本）
１２．重複障害者のコミュニケーション指導　（講義：橋本）
１３．盲聾の疑似体験　（演習：橋本）
１４．盲聾や知的障害の合併例　（演習：橋本）
１５．視覚・聴覚二重障害のリハビリテーション　（講義：橋本）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J90129001
科目名	臨床実習Ⅰ（見学実習）	単位数	1
科目名（英語表記）	Clinical Practice Ⅰ		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
講義概要	「臨床実習Ⅰ」は、志望する職業の理解をはかり、専門科目の基礎科目と展開科目で学んだ内容を実践する場である。対象者の情報と身体・行動の観察を行い、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響（病態）を考え、病歴（障害歴）を適切な表現を用いて記述することを学生が学ぶ機会を、臨床実習施設の実習指導者の協力を得て提供する。課題は、対象者の情報の収集、対象者の身体・行動の観察と記録、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響（病態）の検討、病歴（障害歴）の記述、対象者の疾患や状態に応じたケアなどの実践とする。		
教材（テキスト）	『言語聴覚療法ー臨床マニュアル』（協同医書）他、これまでに履修した科目の教科書		
教材（参考文献）	これまでに履修した科目の参考書		
教材（その他）			
評価方法	臨床実習では、以下の３点についての５段階評価をする。 １．実習生としてのマナー、態度、役割の理解 ２．知識の修得 ３．対象者の全体像の把握と説明 臨床実習期間および事前・事後指導を合わせて総合的に評価する。		
到達目標	１．見学者として適切な行動をとることができる。 ２．適切な表現と用語を用いて記録することができる。 ３．対象者（患者）の病歴・障がい歴をまとめて報告することができる。		
準備学習	履修した科目、特に医学基礎（解剖生理学）、臨床・専門科目の内容を復習しておく。		

受講者への要望

臨床の場にふさわしい行動をとること。
学ぶ意欲を示し、臨床スキルの習得に真摯に取り組むこと。

講義の順序とポイント

事前学習：　障害別・小児成人別の症例でのシュミレーション
　　見学準備、情報収集、観察ならびに記録の練習を行う。合わせて、臨床実習Ⅰの基本的な流れを理解する。

見学実習（病院等施設により異なる）
１日目：　臨床実習施設のオリエンテーション（病院等の概要、所属部署の体制、日課）
　　病棟や診療部門（リハビリテーション科、言語聴覚部門、その他）の説明
　　病棟患者の紹介、カルテ閲覧方法の説明
　　評価・訓練場面の観察と記録
　　観察ノートの指導者確認と修正
２日目：　患者の病歴・障害歴と治療経過の指導者・学生ブリーフィング（口頭説明）
～４日目　患者の観察と病歴・障害歴と治療経過の情報収集
　　評価・訓練場面の観察と記録
　　臨床経験メモの指導者確認
　　観察記録の指導者確認と修正（所見と解釈）
　　自己学習帳の提出と指導者の確認、調べる用語や内容の設定
５日目：　患者の観察と病歴・障害歴と治療経過の文書提出
　　評価・訓練場面の観察と記録
　　臨床経験メモの指導者確認
　　観察記録の指導者確認と修正
　　自己学習帳の提出と指導者の確認

事後学習：　臨床経験メモをまとめる
　　患者の観察と病歴・障害歴報告書とブリーフィング（口頭説明）
　　評価・訓練の観察記録の個別達成度の確認と追加学習

臨床スキル（所見と解釈）の全体確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90130001
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）	単位数	4
科目名（英語表記）	Clinical Practice Ⅱ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	「臨床実習Ⅱ」は、専門科目の基礎科目と展開科目で学んだ内容を、臨床の場で実践する場である。対象者の情報と身体・行動の観察に加えて、適当な検査を選び行ない、評価（病歴、言語聴覚や摂食嚥下の問題と解決策、見通し）と鑑別診断（言語聴覚障害）の報告を文書と口頭で行なう機会を、臨床実習施設の臨床実習指導者の協力を得て、学生に提供する。課題は、対象者の情報の収集、身体・行動の観察、病歴（障害歴）の記述、検査の実施と所見記述、言語聴覚や摂食嚥下の問題の理解、解決策（選択肢）と見通し（予後）の提示、評価の報告とする。		
教材（テキスト）	『自信が持てるリハビリテーション臨床実習（医歯薬出版)』里宇明元４，９６８円 『言語聴覚療法ー臨床マニュアル第３版（協同医書)』		
教材（参考文献）			
教材（その他）	専門科目の教科書と参考書		
評価方法	臨床実習指導者の評価　５０％　事前学習３０％　事後学習２０％		
到達目標	観察記録が確実にできる		
準備学習	予習と復習を行う。		
受講者への要望			
最大限の努力。			
講義の順序とポイント			
事前学習：　観察記録、病歴・障害歴、各検査が実施でき、正確な評価とその解釈 実習期間：　４週間（臨床実習施設） 見学と観察記録、検査の実施、評価報告書の作成、自己学習 事後学習：　評価とその解釈 評価報告書の作成と発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90132001
科目名	言語聴覚障害学研究法	単位数	1
科目名（英語表記）	Research Methods in Speech, Language, and Hearing Sciences and Disorders		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	どの分野でもそうであるが、言語聴覚障害の臨床においても日常起こる様々な問題や疑問は全て解決されている訳ではない。この場合、臨床家は自ら、科学的アプローチと頭脳を駆使して、問題を解決する必要がある。この方法、すなわち、（研究）課題の見つけ方、文献の検索方法、種々の研究法や計画（デザイン）、測定法、得られた結果（データ）の整理と分析法（統計的処理を含む）、結果のまとめ方、発表の方法等、研究の進め方の基本を学ぶ。		
教材（テキスト）	『言語障害の研究入門』　（協同医書出版）　伊藤元信著　3240 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	小テスト（50%）、レポート（50%）		
到達目標	言語聴覚士として臨床上の問題が生じた場合、科学的な方法に基づいて問題の解決を行うことが必要となることを理解し、その方法の概要を理解し習得することを目標とする。		
準備学習	前回までの授業内容を復習しておく。		
受講者への要望			
授業の内容を授業時間内に理解してしまうことに集中してほしい。そのために、日ごろ睡眠時間を十分に取り体調を整えて授業に臨んでほしい。			
講義の順序とポイント			
０１　研究とは何か・研究の進め方 ０２　データと測定・研究の種類 ０３　データの整理と分析１ ０４　データの整理と分析２ ０５　データの整理と分析３ ０６　研究のまとめと発表 ０７　研究を行う際の倫理的配慮 ０８　研究の実例			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	J90140001
科目名	健康スポーツ総論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Sports		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	本学科は、体育・スポーツに特化した教育ではなく、医学的な知識を交えた広い知識で人間を考える人材育成を特徴としている。そこで本講義では、看護学や言語聴覚学を主体とした内容に興味関心を抱き、そのうえで健康スポーツ学科での予防医学を主軸とした学修の重要性について学ぶ。それらを通して、健康スポーツ学科の専門科目（支持科目、基礎科目、展開科目、演習科目）および、4 年間の学修について解説し、自身がどういった学修の姿勢を持つべきかを考える。		
教材（テキスト）	適時、講義内容に沿った資料を配布する。		
教材（参考文献）	講義内容に適した図書や新聞記事などを紹介する。また、それらを教材の一部として活用するので印刷配布する場合がある。		
教材（その他）	講義内容の話題性を豊かにするために適した資料を配布する。		
評価方法	定期試験（60%）、レポート（40%）		
到達目標	健康医療学部の設置理念を理解し、なおかつ健康スポーツ学科の教育理念を理解して、4 年後を目指した自らの目標とその過程を設計して、社会に役立つ人材となれるように基礎的なスキルを身につけて、幅広く物事を見据える力をつける。		
準備学習	保健医療や、医学、あるいは政治経済など多岐にわたるジャンルの新聞記事や雑誌に関心を寄せて、興味を持った記事などをコピーする。不明な用語などについて先ず図書館にて調べる。ネットを活用するのは最後の手段とすること。これらを授業の中で発表する時間を持つので各自準備してストックしておく。活発な意見交換を希望する。講義後においては他者の興味ある発表に関して、自分なりに調べて、ノートしてファイルし提出レポートに加える。		
受講者への要望			
新聞を読む習慣を身につけて、今おこっているさまざまな社会問題に関して、興味関心を持ってほしい。			
講義の順序とポイント			
１．この講義について概略の説明。 大学における講義の受け方について。ノートをとることの意義。話の聞き方（受講の仕方）。 ２．健康医療学部を設置した意義 ３．健康スポーツ学とはなにか？ ４．健康医療学部における 3 学科相互の関連性と連携から考える健康スポーツ学 ５．保健体育教員養成の必要性 ６．健康運動指導士の役割と必要性について ７．新聞記事を読んで、要約する ８．新聞記事を読んで要約したものを他者に説明する ９．研究論文を読んでみる（研究論文の構成） １０．健康スポーツ学科教員の専門性紹介 １１．スポーツ科学者から見た健康医療学部と健康スポーツ学科 １２．数組のグループに分かれて、あるテーマについてデイスカッションを行い、内容をまとめて提出する（1 回目） １３．数組に分かれて、あるテーマについてグループデイスカッションする。内容をまとめて提出する（2 回目） １４．各グループでのまとめを発表して全体で討論する １５．各グループでのまとめを発表して全体で意見を交わす			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90141001
科目名	発達段階と健康	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Promotion at Different Development Stages		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	一人ひとりの健康生活を実現するためには、生涯を通した「健康づくり」が必要である。我が国の健康づくり施策においても、人生の各段階の健康課題や健康観等に応じた対応が求められている。本講義では人の生涯を「幼・少年期」「青・壮年期」「中・高年期」の３段階に分け、各発達段階の特徴と健康課題を理解するとともに、各発達段階において重要な健康観や健康行動を確立する健康づくり支援とその具体的な方策（ライフステージ別の保健活動を含む）について学修する。		
教材（テキスト）	適宜資料を配付する。		
教材（参考文献）	『からだの発達と加齢の科学』　（大修館書店、2012）　髙石昌弘 監修 3,024 円 『事典　発育・成熟・運動』　（大修館書店、1995）　ロバートM. マリーナ、クロード・ブシャール 著 7,560 円		
教材（その他）			
評価方法	課題レポート（30%）、試験（70%）		
到達目標	ライフステージにおける人々の心理、社会、身体的特徴と健康課題について知り、対象の健康行動に結びつく支援の在り方について考えることができる。		
準備学習	次時の内容を指示するので、授業までに予習をすること。 毎時、復習をすると同時に考察を深めること。		
受講者への要望			
既習事項を基に、知識をさらに深めようとする姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく、学生自身が考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。			
講義の順序とポイント			
１．発育発達の概観 ２．胎児期、乳児期の発育発達 ３．幼児期、児童期における発育発達 ４．幼少年期の体力特性と遊び・身体運動と健康づくり ５．現代社会における幼少年期の健康課題と具体的方策 ６．青年期から壮年期にかけての心理、社会的発達 ７．青年期から壮年期にかけての心理、社会的発達課題 ８．青年期から壮年期にかけての身体的発達 ９．青年期から壮年期にかけての身体的発達課題 １０．青年期から壮年期にかけての健康支援活動 １１．働き盛りの健康課題、特に生活習慣病を中心に １２．更年期・向老期の特徴と健康課題 １３．体力・身体機能の加齢変化 １４．介護予防・フレイル １５．老化研究から学ぶ生涯を通じた健康づくりとは			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90142001
科目名	救急・応急処置	単位数	2
科目名（英語表記）	First Aid and Emergency Treatments		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	運動・身体活動の際に必要な救急・応急処置の基礎理論と実践的な知識を学ぶ。全身性障害に対する救急蘇生法の概要、局所外傷に対する応急処置、さらに人工呼吸や胸骨圧迫、自動体外式除細動器(AED)の使用方法などの一次救命処置やその科学的根拠を説明する。また本講義では、理論だけではなく RICE 処置、バンテージやテーピングの巻き方、松葉杖を用いた歩行方法、負傷者を安全に担架に乗せる方法などスポーツ現場で役立つ実践的な技術、知識も修得する予定である。		
教材（テキスト）	『救急蘇生法の指針 市民用・解説編 2010』(へるす出版) 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 監修 1,404円 『救急蘇生法の指針 市民用 2010』（へるす出版） 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 監修 432 円		
教材（参考文献）	『新版 トレーナーズ・バイブル』(医道の日本社、2007) William E.Prentice、Daniel D.Arnheim 著 7,128円		
教材（その他）	必要資料は適宜配布する。		
評価方法	期末テスト（60%)、 実技テスト（40%）		
到達目標	健康スポーツ指導者にとって必要な救急・応急処置の理論を理解し、実践的な技術・知識を習得することを目標とする。		
準備学習	講義に参加する前に前回の学修内容を確認しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
実際の人命救助や応急処置において本講義で修得したことが活かせることを希望する。			
講義の順序とポイント			
１．　健康スポーツ指導者にとって重要な救急・応急処置の考え方（井口） ２．　外科的救急・応急処置を行うにあたっての守るべき一般事項（太田） ３．全身性障害についての外科的処置（井口） ４．　局所外傷について応急処置(RICE)とする安静・冷却・圧迫・挙上の外科的処置(太田) ５．部位別スポーツ障害(急性・慢性）とその救急・応急処置（頭部・頸部・体幹・肩・上肢・手）（太田） ６．　上肢の急性・慢性スポーツ障害（井口） ７．　下肢の急性・慢性スポーツ障害（井口） ８．　救急蘇生法理論（呼吸器系、換気、ガス交換の異常、1 次と 2 次救命処置、救命の輪、心肺蘇生法）（太田） ９．　ＡＥＤ（半自動除細動器）の原理と使い方（井口） １０．　外傷の種類別（捻挫。骨折、打撲、腱断裂、脱臼、創傷、肉離れ）のテーピングの外科的処置とリハビリ（井口） １１．　応用救急処置１（血法、窒息、熱傷）（井口） １２．　応用救急処置２（落雷、感電、凍傷、低体温）（井口） １３．　応用救急処置３（腹痛・胃腸障害時の処置）（井口） １４．　救急処置実践１（包帯、三角巾の使用方法実習）（井口） １５．　救急処置実践２（心肺蘇生法と AED、レサシアンを使って実習（太田）		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90143001
科目名	健康スポーツトレーニング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義では、各トレーニングおよびエクササイズに対する身体の反応について学修することを主な目的とする。トレーニングはその目的によって無酸素系、有酸素系トレーニングなどのように選択する方法が異なる。その理由は、各トレーニングによって起こる様々な適応（トレーニング効果）が、神経系、内分泌系などでそれぞれ異なるためである。本講義では、これらの適応に着目しながら年齢、性別などに応じて選択できるトレーニング方法について幅広く学修する。		
教材（テキスト）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（参考文献）	必要な資料があれば、適宜配布する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト（毎講義初めに行う）(20%)、 中間テスト（30%)、 期末テスト（30%)、 レポート（20%）		
到達目標	各トレーニングの効果を理解し、目的に応じたトレーニングを様々な要求に応じながら安全なプログラムを作成できる能力を育成する。		
準備学習	各講義後、必ず復習し理解を深め次回の講義へ臨むことを期待する。		

受講者への要望

日本体育協会公認スポーツ指導者、健康運動指導士、健康運動実践指導者、GFI、CSCS 資格取得希望者の必修科目である。明確な目的意識で資格取得に目指す事。

講義の順序とポイント

1．トレーニング総論

体力概念、身体の適応能と運動・休養・栄養生活の確立（全面性について)、全身と局所運動の生理学的運動量（エネルギー仕事量と総仕事量)、トレーニングの原則（全面性・反復・個別・意識性・過負荷・負荷漸増)、トレーニングの可逆性、ウォームアップとクーリングダウンの目的方法

2．トレーニング各論 1（トレーニング条件と反応・トレーニング強度）

トレーニングの目標設定と運動効果の特異性反応、効果発現の主要因としての運動強度、運動持続時間の調和、週当たりの頻度と生活時間の対応、効果表出の目標時間（一般的 12 週間)、総運動量、物理的運動強度の指標、生理的運動強度の指標、自覚的運動強度の指標、心拍反応と運動強度

3．トレーニング各論 2（筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果）

静的筋力トレーニングの負荷条件と作業効果、動的筋力トレーニングの負荷条件と作業効果、等速性筋力トレーニングの負荷条件、伸張性筋力トレーニングと筋量増加、トレーニング負荷と筋繊維肥大・線維数の増加、トレーニングによる筋原線維分裂と筋肥大、トレーニングによる神経支配の改善

4．トレーニング各論 3（筋パワー・筋持久力トレーニングの条件とその効果）

筋パワートレーニングと筋持久力トレーニングの目標と負荷条件の差、筋パワートレーニングの理論的負荷条件、筋パワートレーニングの負荷強度と収縮強度の作業効率、筋パワー向上の負荷条件と筋線維タイプの反応、筋持久力トレーニングの負荷条件と作業効果、筋持久力向上と筋毛細血管床・ミトコンドリアの容量の反応

5．トレーニング各論 4（全身運動によるエアロビックトレーニング）

運動種目からみたエアロビックとアネロビック運動、各種エアロビック運動強度の共通指標、軽中強度・長時間トレーニングの負荷条件と作業効果（耐久時間と距離の改善)、ウォーキング・ジョギング速度と消費カロリーの関係、エアロビックトレーニングの生理的効果

6．障害者の運動能力の特徴とトレーニング

身体障害者に対する運動指導の基本的あり方、身体障害者の健康運動トレーニング、身体障害者の筋機能・調整能トレーニング様式、身体運動の心理的効果

7．青少年の発育発達とトレーニング

身長・体重発育と成長期の特徴、発育と生活の影響、暦年齢と生物学的年齢、運動能力の発達の特徴、急速発育期の機能と至適トレーニング刺激（スピード・筋力・持久力）

8．女性の身体的の特徴

胸囲／腰囲、体脂肪率と除脂肪体重、筋機能の性差の特徴（上体と下体の筋量と筋力)、酸素運搬系性差の特徴（呼吸・循環機能と血液組成)、体力・運動能力の性差の特徴、女性のエアロビックトレーニングの負荷とその効果

９．加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング
　加齢に伴う身体活動の低下と体力低下、体力・運動能力のピーク年齢と加齢に伴う自然減退、加齢に伴う機能低下の特徴（形態及び機能の変化)、加齢に伴う最高心拍数の低下（２２０－年齢)、エアロビックトレーニングの生理的効果、生活行動変容と筋力・菌パワーの低下（階段昇降能力の低下)、筋活動の減少と廃用性筋萎縮、運動様式の変化と筋活動部位の不活発化、筋活動期の減少と筋線維タイプの変化、立位機能と生活歩行の為の筋機能トレーニング、高齢者の為の筋機能トレーニングの負荷条件
１０．フィットネスプログラムの実際１（フィットネスプログラムの基本的方法）
１１．フィットネスプログラムの実際２（子ども・女性のフィットネスプログラム）
１２．フィットネスプログラムの実際３（青年期のフィットネスプログラム）
１３．フィットネスプログラムの実際４（壮年・高齢者のフィットネスプログラム）
１４．フィットネスプログラムの実際５（障害者のフィットネスプログラム）
１５．総復習（特に運動効果とフィットネスプログラムについて）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J90144001
科目名	健康スポーツトレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、一般的なトレーニングプログラムで用いられる基本的なエクササイズテクニックを実習を通して修得することである。実習は動的、静的ストレッチングや有酸素運動を含んだ適切なウォーミングアップ方法からスクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングテクニックの修得を目指す。さらにフィットネスレベルや性別、年齢に応じたフィットネスプログラムを様々なマシーンや機器を使って実習を行う。		
教材（テキスト）	なし（各講義パワーポイントで資料を作成するので各自ダウンロードする）。		
教材（参考文献）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版）』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	実技テスト（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	１．スクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングを安全に遂行できる能力を修得することを目標とする。 ２．補助者としてレジスタンストレーニングを補助する際に必要な知識、技術を身に付け、実施者を安全にサポートできる能力を修得することを目標とする。 ３．年齢、性別を考慮し、安全で効果的なフィットネスプログラムを作成できる能力を修得することを目標とする。		
準備学習	原則授業 1 週間前までに必要な文献、資料を配布するので、授業までに各自予習しておくこと。		

受講者への要望

本講義は実習の中でレジスタンストレーニングなどを行うので、普段から各自身体を動かし、基礎体力の向上を図っておくことが望ましい。
実習時は運動しやすい服装で参加すること。

講義の順序とポイント

１．健康生活及び競技スポーツでの各種運動・トレーニングの重要性と意義と実習概要
２．ストレッチングと柔軟体操の実際
　レッスン導入「柔軟体操」の実習、アライメントのチェック方法、「スタティックストレッチングとバリスティックストレッチング」、基本的ストレッチング運動座位、立位、臥位ストレッチング、2 人組によるストレッチングの実習、PNF ストレッチングの解説、レッスンのまとめと「指導上の注意」
３．ウォーミングアップとクーリングダウン
　ウォーミングアップとクーリングダウンの意義について理解させる（基本的運動実習）（レッスンのまとめ「指導上の注意」）
４．静的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「静的筋力トレーニングによる抵抗運動」の説明、肢位別自体重エクササイズ、タオル・壁・柱の固定物利用の抵抗運動、パートナーによる抵抗運動と筋力発揮、レッスンのまとめ「指導上の注意」
５．動的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「動的筋力トレーニング法」の説明と方法別比較、チューブやバンドを使用したトレーニング、ダンベル・バーベルの扱いと床および支持台についての注意事項、10RM の重量の決め方の実習、身体部位別動的筋力トレーニング運動の実習、マシントレーニングの説明、トレーニング頻度、回数とトレーニング部位と身体部位の組合せの説明、レッスンのまとめ「指導上の注意」、各種動的レジスタンストレーニング補助のテクニック
６．子どものフィットネスプログラム（種々器具を活用）
７．壮年のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
８．高齢者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
９．女性のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１０．障害者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１１．個別フリーウエイトトレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）
１２．個別フリーウエイトトレーニング２（下半身のトレーニングの実際）
１３．個別フリーウエイトトレーニング３（全身挙上系のトレーニングの実際）
１４．個別マシーントレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）

１５．個別マシーントレーニング２（下半身のトレーニング／小筋群部位系のトレーニングの実際）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90144002
科目名	健康スポーツトレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義の目的は、一般的なトレーニングプログラムで用いられる基本的なエクササイズテクニックを実習を通して修得することである。実習は動的、静的ストレッチングや有酸素運動を含んだ適切なウォーミングアップ方法からスクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングテクニックの修得を目指す。さらにフィットネスレベルや性別、年齢に応じたフィットネスプログラムを様々なマシーンや機器を使って実習を行う。		
教材（テキスト）	なし（各講義パワーポイントで資料を作成するので各自ダウンロードする）。		
教材（参考文献）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	実技テスト（40%)、定期試験（60%）		
到達目標	１．スクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングを安全に遂行できる能力を修得することを目標とする。 ２．補助者としてレジスタンストレーニングを補助する際に必要な知識、技術を身に付け、実施者を安全にサポートできる能力を修得することを目標とする。 ３．年齢、性別を考慮し、安全で効果的なフィットネスプログラムを作成できる能力を修得することを目標とする。		
準備学習	原則授業 1 週間前までに必要な文献、資料を配布するので、授業までに各自予習しておくこと。		

受講者への要望

本講義は実習の中でレジスタンストレーニングなどを行うので、普段から各自身体を動かし、基礎体力の向上を図っておくことが望ましい。
実習時は運動しやすい服装で参加すること。

講義の順序とポイント

１．健康生活及び競技スポーツでの各種運動・トレーニングの重要性と意義と実習概要
２．ストレッチングと柔軟体操の実際
　レッスン導入「柔軟体操」の実習、アライメントのチェック方法、「スタティックストレッチングとバリスティックストレッチング」、基本的ストレッチング運動座位、立位、臥位ストレッチング、2 人組によるストレッチングの実習、PNF ストレッチングの解説、レッスンのまとめと「指導上の注意」
３．ウォーミングアップとクーリングダウン
　ウォーミングアップとクーリングダウンの意義について理解させる（基本的運動実習）（レッスンのまとめ「指導上の注意」）
４．静的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「静的筋力トレーニングによる抵抗運動」の説明、肢位別自体重エクササイズ、タオル・壁・柱の固定物利用の抵抗運動、パートナーによる抵抗運動と筋力発揮、レッスンのまとめ「指導上の注意」
５．動的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「動的筋力トレーニング法」の説明と方法別比較、チューブやバンドを使用したトレーニング、ダンベル・バーベルの扱いと床および支持台についての注意事項、10RM の重量の決め方の実習、身体部位別動的筋力トレーニング運動の実習、マシントレーニングの説明、トレーニング頻度、回数とトレーニング部位と身体部位の組合せの説明、レッスンのまとめ「指導上の注意」、各種動的レジスタンストレーニング補助のテクニック
６．子どものフィットネスプログラム（種々器具を活用）
７．壮年のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
８．高齢者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
９．女性のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１０．障害者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１１．個別フリーウエイトトレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）
１２．個別フリーウエイトトレーニング２（下半身のトレーニングの実際）
１３．個別フリーウエイトトレーニング３（全身挙上系のトレーニングの実際）
１４．個別マシーントレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）

１５．個別マシーントレーニング２（下半身のトレーニング／小筋群部位系のトレーニングの実際）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90145001
科目名	スポーツ原理	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy of Sports and Physical Education		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	体育とは何か、スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理･原則について理解を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることができる力を養うことを目標とする。体育･スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育･スポーツへの取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることができる力を養う。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考文献）	『教養としての体育原理』（大修館書店）　友添秀則・岡出美則 編著。		
教材（その他）	新聞記事や各機関で公表されている資料等を適宜紹介・配布する.。		
評価方法	毎回の小レポート（各 4 点満点の 60 点）と最終レポート（40 点）の合計で評価する。		
到達目標	体育とは何か、スポーツとは何であるかを考える上で必要な原理･原則について理解を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割について、自らの言葉で語ることができる力を養うことを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回授業の最初に、前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
今までの経験のみに基づいた常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
講義の順序とポイント			
１．なぜ、スポーツ原理（体育原理）を学ぶのか ２．スポーツと体育は何が違うのか ３．体育の理念はどのように変わってきたのか ４．体育･スポーツと人間関係 ５．スポーツとフェアプレイ、スポーツマンシップ ６．体育･スポーツと身体形成 ７．子どもの発達に欠かせない体育･スポーツの役割 ８．スポーツと競争 ９．スポーツと技術学習・技能獲得 １０．スポーツ・フォア・オール １１．スポーツと勝利至上主義 １２．スポーツとメディア １３．スポーツとジェンダー １４．障害者にとってのスポーツ １５．オリンピズム、オリンピック・ムーブメントとは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J90146001
科目名	健康医学（内科）	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Health: Internal medicine		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
講義概要	健康を維持増進するための運動やスポーツ活動については、年齢や性別、あるいは障害の有無にかかわらず習慣的に実施することで、様々な疾患を予防したり、心身の健康維持に効果的と考えられる。しかしながら運動実施においては表裏一体となる、内科系の急性障害、慢性障害について学修する。また、運動障害に関する予防医学的な観点から、例えば熱中症予防、メデイカルチェックの必要性などに着いても学修する。さらには、近年問題となっているドーピングや薬物依存症についても学修し、健康を主眼とした運動・スポーツのあり方について内科的な側面から総合的に学修する。		
教材（テキスト）	スライド、配布資料		
教材（参考文献）	スライド、配布資料		
教材（その他）	なし		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	健康を維持するために必要な事柄を内科学と結びつけて理解する。		
準備学習	特に無し		

受講者への要望

予習はしなくても良いが、復習をしっかりすること。

講義の順序とポイント

１．ライフステージにおける運動の役割
２．運動療法の概要
３．糖尿病予防・改善における運動の理論と方法
４．高血圧予防・改善における運動の理論と方法
５．加齢による運動機能の低下と対策
６．健康づくりにおけるレジスタンス運動の役割
７．運動前後における栄養補給
８．熱中症とその対策
９．スポーツ貧血とその対策
１０．アスリートにおけるドーピング問題とその対策
１１．心臓疾患
１２．呼吸器疾患
１３．肺癌
１４．消化管疾患
１５．糖尿病

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90147001
科目名	健康医学（外科）	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Health: Surgery		
担当者名	常岡　秀行	旧科目名称	
講義概要	健康を維持増進するための運動(スポーツ活動)については、年齢や性別、あるいは障害の有無にかかわらず習慣的に実施することで、様々な疾患を予防し、心身の健康維持に効果的と考えられる。本講義では、運動実施に伴う外科系の問題の中でも整形外科領域における急性障害、慢性障害について学修する。比較的好発する傷害の解説とその予防方法、治療中からの運動 再開に向けたリハビリテーションの必要性について学修する。さらに健康寿命の短縮につながるロコモティブシンドロームについても理解を深める。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	教材（参考文献）：授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	毎回の授業後に実施する小テスト等による平常点（５０％）、定期試験（５０％）。		
到達目標	①健康の維持、増進に不可欠な運動（スポーツ）の重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。 ②運動やスポーツ活動の際に頻発する傷害（けが、故障）の発生メカニズムや予防対策について理解を深める。		
準備学習	毎回の講義終了後に実施する小テストの正解を、当日配布のプリントやノートを参照して確認しておくこと。授業内容の復習になり、次回授業内容の理解を深めることにもつながる。		
受講者への要望			
①遅刻や私語は厳禁。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出させる。 ②評価方法にも記載の通り、毎回の授業後に小テストを実施する。			
講義の順序とポイント			
１．健康医学概論：ヒトの身体の基本的な構造と機能について ２．運動不足の弊害：代表的な生活習慣病と、その発病メカニズムについて ３．運動（スポーツ活動）の効果について ４．ヒトの身体の運動器　①骨の構造と機能 ５．　〃　②関節の構造と機能 ６．　〃　③筋肉について、筋力増進のメカニズム ７．　〃　④神経の分類と機能 ８．ロコモティブシンドロームとは：健康寿命を伸ばすために ９．スポーツ外傷（けが）　①足首の捻挫 １０．　〃　②膝の外傷 １１．　〃　③応急処置と予防対策 １２．スポーツ障害（故障）　①肘の障害 １３．　〃　②膝の障害 １４．　〃　③腰痛の主な発生誘因と予防対策 １５．スポーツ外傷、障害のリハビリテーション：早期の競技復帰に向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90148001
科目名	生活習慣病	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Style-related Diseases		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生活習慣病と、その予防や治療のための医学的基礎知識について、スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて学修する。学生自身の健康に役立てるとともに将来の有能な健康運動・疾病予防の指導者育成を目指す。生活習慣病について全般的な講義を行い、メタボリックシンドローム、肥満、高血圧、脂質異常、糖尿病、心臓病、脳疾患，認知症、運動器疾患などについて基本的な知識を学修する。さらにこれらの病気を予防するためにはどうすれば良いかについて、及び、食事療法、スポーツ・運動療法などの基礎的知識について学修する。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	ビデオ:いきいき健康ライフシリーズ		
評価方法	課題レポートの評価を 40%、定期試験などを 60%とする。		
到達目標	生活習慣病の基礎知識を理解し生活習慣病予防のために、どのように生活習慣を改善すればよいかを、検討する。 自身の日常生活における運動習慣を検討できるようにする。		
準備学習	厚生労働省ホームページにある生活習慣病のコラムを読む事。 日本医師会ホームページにある生活習慣病のコラムを通読すること。		

受講者への要望

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
生活習慣病の予防は学生自身の今後の人生や、家族の人生に大きな影響があることを理解してほしい。

講義の順序とポイント

1．メタボリックシンドローム
2．メタボリックシンドロームに関連した内科的救急スポーツ障害
3．メタボリックシンドロームに関連した内科的慢性スポーツ障害
4．健康運動
5．肥満、肥満症 1
6．肥満、肥満症 2
7．高血圧
8．脂質異常症
9．　耐糖尿異常、糖尿病
１０．虚血性疾患とリハビリテーション
１１ .ロコモティブシンドローム
１２．運動器退行性疾患
１３．呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息)
１４．がん(悪性新生物)
１５．軽度認知障害、認知症

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90149001
科目名	健康科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Science		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	生活習慣に起因する様々な疾患に対処すべく、かつては成人病対策として取り組みがなされてきたが、その後生活習慣病として国民の身近な意識としてきた経緯がある。我が国の健康問題は時代とともに変化しており、人々の生活周辺を見渡した、広い視点でとらえる必要がでてきている。この授業では我が国において推移してきた成人病対策から生活習慣病対策など、多方面から見渡した健康問題の現状を俯瞰し、国民ひとりひとりを対象にしたさまざまな問題を考える。さらに健康行動に着目して、心理面、あるいは行動科学の観点からとらえた改善のための介入方法などを学修する。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）	適宜資料を配布する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（60%）、授業中に実施する課題（20%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（20%）		
到達目標	1. 予防医学を扱う健康スポーツの専門家として国民の健康問題を古い時代からの経緯を眺めながら考察し、我が国の人口問題や環境問題など、将来の見通しを行いながら、我々がなせる課題を考えることができるようになる。 2. ストレス、身体活動（運動を含む）、食行動、喫煙などの健康行動の特徴について理解し、行動コントロールのために用いられている行動変容理論・モデルおよび技法の適用方法を理解する。		
準備学習	自分自身の健康状態や運動習慣に意識を向け、健康行動の習慣を持つためにはどのような要素が必要か日常生活の中で考える訓練をしておくこと。		
受講者への要望			
学んだ内容から、自分自身や他者の生活に反映させることができる健康行動プランを作成する能力を構築できるよう努めること。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．健康とは何か？ ３．国内外の健康問題と対策 ４．生活習慣病の予防と対策 ５．身体活動・運動の介入アプローチ ６．メンタルヘルス問題の予防とストレス・マネジメント 7. 運動とメンタルヘルス ８．行動変容理論・モデルおよび技法の概要 ９．身体活動・運動行動における継続阻害要員への対処 １０．広報アプローチによる行動変容介入 １１．通信媒体を用いた介入プログラム １２．喫煙と健康問題、健康増進施策、健康増進法 １３．　高齢化社会と健康 １４．健康行動カウンセリング １５．まとめ（本講義で学んだことを振り返り日常生活でどのように活用するかについて考える）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90150001
科目名	応用生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Physiology		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	応用生理学は「解剖・生理学」のアドバンスドコースとして位置づけている。応用生理学では、「解剖・生理学」で学んだ多くの知識を概念としてさらに統合して学修し、人体の生命維持するシステムとして、個体・臓器・組織・細胞・分子レベルで十分に理解することを目標とする。また、系統講義とは異なる視点から、ユニークな講義テーマを選択し、集中的・総合的に学修することにより、ヘルスサイエンスやスポーツサイエンスを目指す学生のためのアプライドな生理学を修得することができるプログラムである.		
教材（テキスト）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第 9 版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考文献）	トートラ著　人体の構造と機能第 4 版　丸善　￥10,800		
教材（その他）	パワーポイントを活用する 適宜プリントを配付する		
評価方法	小テスト(50%)、　定期テスト(50%)		
到達目標	1.　生理学の基礎知識を十分に理解し、各臓器の機能などを簡潔に説明できる. 2.　生理学の知識・概念を健康維持やスポーツ科学へ応用可能な知識・概念として修得できる. 3.　疾患の原因を理解し、その改善について考察することができる.		
準備学習	1.　予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 2.　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 3.　小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

1.　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2.　小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4.　講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

1.　生理学の基礎：細胞の概要、膜輸送、シグナル伝達、神経細胞とその結合
2.　血液：　血液?造血器系臓器の機能と構造、血液凝固?線溶系の機構
3.　免疫系：リンパ系の機能と構造、免疫担当細胞、体液性免疫?細胞性免疫、免疫反応の特徴
4.　内分泌：体内のホルモン調節
5.　循環器系：心臓の機能と構造、心臓の刺激伝達、血管系の機能と構造
6.　呼吸器系：肺?気管支の機能と構造、呼吸のメカニズム、肺および組織におけるガス交換、呼吸調節
7.　消化器系：胃、小腸、大腸の機能と構造、消化液の分泌、化学的消化、吸収
8.　栄養と代謝：代謝とエネルギー、代謝経路、熱とエネルギーバランス、栄養素
9.　血糖値の調節：血糖値調節ホルモン、グルコース代謝、食後の血糖値調節、糖尿病
10.　腎：腎臓?膀胱機能と構造、尿の生成機構、尿量の調節機構
11.　体液量の調節：体液量と体液浸透圧の調節、脱水・出血・浮腫などの水バランス障害、血圧調節
12.　酸塩基平衡：酸塩基平衡の物理化学、酸塩基平衡の障害と代償作用
13.　運動制御システム：筋肉、運動制御システム、反射活動と反射弓、小脳と基底核
14.　運動生理学：運動中の循環、呼吸、代謝の調節
15.　臨床生理学：心不全、高血圧、腎不全、肝不全

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90151001
科目名	応用生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Biochemistry		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	生化学は、すべての生物に見られる構造、機能、化学反応を分子レベルで理解し、生物における共通の基本原理を学ぶ学問である。本講義では、多様な生命現象を物理化学的視点から理解するために、生命を構成する生体高分子としてのタンパク質、脂質、核酸、糖質の構造と機能、エネルギー代謝としての異化・同化、生命の根源を司る自己複製メカニズム、自己と非自己を識別し、細胞外環境変化を細胞内へ伝達する膜系と膜系を介する物質輸送とシグナル伝達についての基礎知識を十分に理解し、修得する。		
教材（テキスト）	『系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 第１３版』（医学書院） 三輪一智・中恵一 著 2,376 円		
教材（参考文献）	『イラストレイテッド生化学 原書６版』（丸善出版） Richard A. Harvey, Denise R. Ferrier 著 8,424 円 『ストライヤー生化学 第７版』（東京化学同人） JM. Berg, JL. Tymoczko, L. Stryer 著 15,012 円		
教材（その他）	パワーポイントを活用する 適宜講義用プリントを配布する		
評価方法	小テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．生物を構成する生体成分について分子レベルで理解する ２．生体の機能制御を担う酵素と触媒作用について理解する ３．生体のエネルギー産生と代謝の仕組みについて理解する ４．遺伝情報とその発現メカニズムについて理解する		
準備学習	１．　予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 ３．　小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講者への要望

１．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．　小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
３．　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．　講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

講義の順序とポイント

１．　生体膜と膜タンパク質
２．　受動輸送と能動輸送
３．　ポンプと膜電位
４．　細胞容積
５．　刺激受容と細胞内シグナル（１）
６．　刺激受容と細胞内シグナル（２）
７．　リン酸化と脱リン酸化
８．　酵素と反応論
９．　糖の構造と糖代謝
１０．糖質と糖鎖生物学
１１．脂質代謝
１２．タンパク質代謝
１３．代謝異常
１４．遺伝子と遺伝情報　（１）
１５．遺伝子と遺伝情報　（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J90152001
科目名	健康と疫学	単位数	2
科目名（英語表記）	Epidemiology of Health and Exercise		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	人を対象に健康および疾患との関係を明らかにしようとする疫学研究の手法は、身体活動（運動）が健康維持に有効であるエビデンスを提供している。健康の実態を定量的に評価し、健康を阻害する要因あるいは健康増進に関係する要因を明らかにし、問題解決のための具体的な対策を立案・実践し、その効果を評価する新しい学問領域である疫学的視点と手法を理解する。本講義では、健康医療学部の特性を生かし、言語聴覚学科教員の指導により言語聴覚系の疾病構造やその測定指標についても言及する。		
教材（テキスト）	必要に応じて随時資料を配布		
教材（参考文献）	・楽しい疫学　中村好一　医学書院 ・健康と運動の疫学入門　熊谷秋三　医学出版 ・はじめて学ぶやさしい疫学　日本疫学会監修		
教材（その他）	宇宙怪人しまりす　医療統計を学ぶ		
評価方法	・授業内課題（５０%） ・レポート課題(５０%)		
到達目標	・健康・運動の疫学的アプローチの基礎的方法を修得している。 ・エビデンスに基づくヘルスプロモーションの考え方を理解している。 ・疫学の基礎となる統計手法を理解している。		
準備学習	・授業内に出された課題は次の授業までにやり遂げる		
受講者への要望			
授業内での課題に積極的に取り組むことを求めます。			
講義の順序とポイント			
１．健康と疫学の基礎①健康の概念と健康課題 ２．健康と疫学の基礎②疫学とは～疫学の歴史と定義 ３．健康と疫学の基礎③疫学と健康に関する指標～保健統計のいろいろ ４．健康と疫学の基礎④運動疫学の定義と指標 ５．健康と疫学の基礎⑤運動と健康事象との関連 ６．健康支援の理論①健康に影響を及ぼす要因 ７．健康支援の理論②エビデンスに基づく健康支援その１(中高年者の健康支援） ８．健康支援の理論③エビデンスに基づく健康支援その２（高齢者の健康支援） ９．健康支援の実際：エビデンスに基づく介護予防活動の実際 10．疫学研究の方法 11．疫学的アプローチの実際：演習①疫学的手法の健康・運動・スポーツ分野における応用 12．疫学的アプローチの実際：演習②研究計画の検討 13．疫学的アプローチの実際：演習③課題への取組 14．疫学的アプローチの実際：演習④課題への取組 15．疫学的アプローチの実際：課題発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90153001
科目名	健康とストレス	単位数	2
科目名（英語表記）	Health and Stress		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	心理的、身体的、社会的側面から健康とストレスとの関係性を考え、ストレッサー、ストレスコーピングの種類、さらには対人コミュニケーションについての知識を学ぶことを目的とする。また、ストレッサーとストレス反応についての専門的知識を習得するとともに、客観的指標（心理的反応・生理的反応）によってどのように評価し、実際にストレスコーピングによる効果を検証する方法を学ぶ。実生活でストレスに対処し心身の健康を維持できるような知識と経験を得ることを目指す。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験（50%）、授業中に実施する課題（30%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（20%）		
到達目標	ストレッサーとストレス反応についての専門的知識を習得するとともに、客観的指標（心理的反応・生理的反応）を用いて評価する方法を習得する。また、自分自身や他者へストレスコーピング方法を学び、実際に日常生活に取り入れることを促せるようにする。		
準備学習	自分自身のストレスや健康状態に意識を向け、ストレス低減にはどのような行動や思考が必要か日常生活の中で考える訓練をしておくこと。		
受講者への要望			
授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション ２．ストレスとは? ３．ストレスによる心理的反応 ４．ストレスによる生理的反応 ５．ストレスの評価・測定１ ６．ストレスの評価・測定２ 7. ストレスと疾患 ８．ストレス・コーピング ９．ストレスとパーソナリティ １０．ストレスと行動 １１．仕事とストレス １２．ライフイベントとストレス １３．ストレスマネジメント１ １４．ストレスマネジメント２ １５．　まとめ（本講義で学んだことを振り返り日常生活でどのように活用するかについて考える）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★	★

年度	2017	授業コード	J90155001
科目名	健康スポーツ心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Health and Sports		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	我々の生活においてスポーツや身体運動の実践はさまざまな心理的および生理的恩恵をもたらし、ストレス解消や健康の維持増進など多岐に渡る。本講義では、日常生活での身体活動から競技スポーツに至るまで、身体を動かすことがメンタルヘルスに及ぼす影響、生活習慣病の予防にどのように貢献するのかをいくつかの健康心理学・スポーツ心理学的テーマと関連させて学習する。また、スポーツ指導者が必要とするメンタルマネジメントやストレスアセスメントなどについても理解を深め，日常生活および競技スポーツ場面で活用できる知識を得ることを目標とする。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）	『健康スポーツの心理学』　竹中晃二編　大修館書店		
教材（その他）			
評価方法	定期試験（60%）、授業中に実施する課題（20%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（20%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、健康づくりの運動における行動変容と競技スポーツにおける心理的スキルをさまざまな場面で応用できるようにする。		
準備学習	毎回の講義で指示する。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は原則禁止。5 分前には着席すること。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。

講義の順序とポイント

１．スポーツと心の基礎１
　　<スポーツ活動・運動による気分・自己概念・パーソナリティー形成への長期・短期的効果>
２．スポーツと心の基礎２
　　<スポーツ活動・運動による人間形成、パーソナリティーとの特徴、情動との関係>
３．スポーツ指導における動機付け
　　<運動意欲、運動意欲満足度向上の方法、「やる気」を高めるトレーニング原理・原則>
４．スポーツコーチングの心理
　　<示範、効果的な言葉かけ、トレーニングと心理、トレーニング方法と心理、カウンセリング>
５．メンタルマネジメント
　　<基本的な考え方とメンタルトレーニング［リラクゼーション含］、試合にむけての準備、プレッシャーやあがり、スランプ>
６．スポーツ指導者（体育教師含む）のメンタルマネジメント
　　<リーダーシップのタイプとスキル、指導者としてのメンタルマネジメントの留意点>
7. 心の健康論
　<メンタルヘルス、メンタルヘルスにおける媒介要因、発達段階に応じて共通するメンタルヘルスの問題>
８．健康づくり運動とカウンセリング１
　<健康運動実践に伴う心理的要因の変化、健康運動達成欲求の多様性、生活習慣病と将来の健康の不安>
９．健康づくり運動とカウンセリング２
　　<運動の心理的効果及び効果強化目的の認知的方略、健康運動実践のカウンセリング及び相談指導の技法>
１０．健康運動実践におけるストレスアセスメントと対処法１
　<ストレス概念・定義と生物学的及び社会学的因子とストレス関連疾患、ストレス反応の生物学的測定、ストレスの対処法>
１１．健康運動実践におけるストレスアセスメントと対処法２
　　<カウンセリングと相談指導、カウンセリングと欲求運動の示唆と指導・技法、禁煙指導の具体例紹介と運動指導との関わり>
１２．運動行動変容の理論
１３．運動行動変容の実際と効果
１４．運動との関わりを深める働きかけ方と指導方法、運動指導における心理学的視点を取り入れた指導実践
１５．運動学習効果を高める集団のあり方への指導方法、身体と心を通しての「生きる」力を育む運動学習の効果的指導方法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J90156001
科目名	スポーツ運動学	単位数	2
科目名（英語表記）	Kinematics of Sports		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	スポーツ指導者や体育の教員を目指す者は、運動がどのようにして出来るようになるのか、どのようにして人を出来るようにするのかを理解する必要がある。「頭では解っていてもそうは動けない」場面や「運動のことや身体の原理など全く知らないのに素晴らしい動きをする」人に出会う時、「運動を身体で理解する」という ことの重要性を痛感する。スポーツ運動を身体で感じ、理解し、伝える力は運動指導に関わる者として必須の能力である。本講義では、このような認識と能力について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考文献）	『教師のための運動学』（大修館書店）金子明友監修 。 『スポーツ運動学、身体知の構造』（明和出版）金子明友著。		
教材（その他）			
評価方法	毎回の小レポート（各 4 点満点の 60 点）と最終レポート（40 点）の合計で評価する。		
到達目標	スポーツ運動における自然科学的分析と人間学的分析の意味や役割の違いを理解できるようになり、保健体育の教員やスポーツ指導者を目指す上で欠かすことのできない運動学的な考え方が出来るようになることを目指す。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配付したり課題を提示するので、次回までに準備しておくこと。また、毎回授業の最初に、前回授業内容に関する復習質問を行うので、答えられるように復習しておくこと。		
受講者への要望			
自分のこれまでの運動経験を思い出しながら、今にも体を動かしたくなるような、そんな気持ちで授業に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．運動学で扱う「運動」とは ２．自然科学的運動分析と人間学的運動分析の違いについて ３．動感身体知とは ４．運動の発生について①（どのようにして運動が出来るようになるか） ５．運動の発生について②（コツとカンの理解について） ６．運動の習熟位相について ７．運動の指導について①（どのようにして運動を他人に伝えるか） ８．運動の指導について②（他人の運動に共感できるか） ９．運動の指導について③（道しるべの重要性） １０．運動の構造について①（運動を見抜くということ） １１．運動の構造について②（動きの価値と独創性について） １２．運動の構造について③（運動を支える経験について） １３．運動指導者を目指すために必要なこと①（最適化を志向する領域について） １４．運動指導者を目指すために必要なこと②（最高化を志向する領域について） １５．運動指導の全体像			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90157001
科目名	健康スポーツ指導方法論	単位数	2
科目名（英語表記）	Instructional Method for Health and Sports		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	健康・スポーツの指導者の役割（指導者としての心構え・視点、倫理など)、健康スポーツの参加者の増加やスポーツの裾野を広げるという意味でのトップアスリートの発掘・育成・強化の重要性とその方法、指導計画のたて方、健康・スポーツ活動と安全管理、具体的指導方法（個別指導と集団指導、指導効果の評価、情報活用法など)、指導能力を高める方法（コミュニケーションスキル）などの指導者に必要な知識とスキルについて学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『日本体育協会公認スポーツ指導者テキスト』 日本体育協会 『健康運動指導士テキスト』　健康体力づくり事業財団 『健康運動実践指導者テキスト』　健康体力づくり事業財団		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内小テスト・レポートの評価（50%)、定期試験（50%）		
到達目標	健康・スポーツの指導者の役割、指導計画のたて方、健康・スポーツ活動と安全管理、具体的指導方法について理解し、説明できるようにする。また、指導者として必要な基本的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。		
準備学習	図書館等で参考文献を用いるなどして、予習しておくこと。 授業終了時に課題を指定された場合は、指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
予習、復習をしっかり行い、積極的な態度で講義に出席するよう要望する。			
講義の順序とポイント			
１．健康・スポーツの指導者の役割１（スポーツ指導者とは、スポーツ指導者としての倫理など） ２．健康・スポーツの指導者の役割２（指導者の心構え・視点など） ３．健康・スポーツの指導者の役割３（アスリートの発掘・育成・強化の重要性など） ４．健康・スポーツの指導者の役割４（アスリートの発掘・育成・強化の重要性など） ５．健康・スポーツの指導法１（トレーニングの原則など） ６．健康・スポーツの指導法２（運動プログラム作成の基礎１） ７．健康・スポーツの指導法３（運動プログラム作成の基礎２） ８．健康・スポーツの指導法４（有酸素性運動とその効果） ９．健康・スポーツの指導法５（レジスタンス運動、健康づくり運動など） １０．健康・スポーツ指導の実際１（体力測定の活用法１） １１．健康・スポーツ指導の実際２（体力測定の活用法２） １２．健康・スポーツ指導の実際３（運動プログラム作成の実際１） １３．健康・スポーツ指導の実際４（運動プログラム作成の実際２） １４．健康・スポーツ指導の実際５（運動プログラム作成の実際３） １５．健康・スポーツ活動と安全管理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90158001
科目名	スポーツ栄養学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Nutrition		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	本講義では、競技力向上を目的にしたスポーツ選手の栄養摂取や食事管理の基本を学修する。具体的には、身体活動量とエネルギー必要量、身体組成、体づくり・スタミナづくりの食事法、水分補給法、サプリメント摂取法、トレーニングの目的に応じた食事法等について、最新の生理学的・生化学的・体力科学的知見を踏まえて学修する。ここでの学修内容は、アスリートやスポーツ愛好家に適用できるのは当然ながら、健康づくりの基盤になるものである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『スポーツ栄養学』（市村出版）　樋口満編著 『市民からアスリートまでのスポーツ栄養学』（八千代出版）　岡村浩嗣編著		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	ミニテスト（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）		
到達目標	スポーツに必要な体づくりや骨づくり、あるいはスポーツ能力に影響するスタミナや疲労回復のための栄養・食事の在り方についてその理論を理解し、実際のスポーツや生活に生かせる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

日頃から、自分の食生活に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。
講義で得た知識を用いて健康増進や競技力向上を目指した食事を実践してほしい。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。

講義の順序とポイント

１．はじめに 1(スポーツと栄養、健康と栄養、三大栄養素、エネルギー供給課程)
２．はじめに 2(競技のタイプ、トレーニング期分けと栄養計画、アスリートの栄養摂取と食生活)
３．身体組成の評価と健康（各種身体組成評価方法、競技生活と身体組成、健康と身体組成）
４．身体づくりと栄養（筋肉づくりとたんぱく質栄養、トレーニングと栄養の同期、ホルモンの働き）
５．エネルギー代謝と身体活動量（基礎代謝量、身体活動レベル、エネルギー必要量、身体活動量の評価）
６．ウエイトコントロール（減量と増量、効果的な体重管理、生活習慣病と体重・身体組成管理、体重のリバウンド）
７．スタミナづくりと栄養（効果的な成分と方法：グリコーゲン・ローディング、ビタミン（補酵素作用と抗酸化作用)、果糖）
８．運動と水分補給（熱中症対策）
９．骨づくりと骨粗鬆症の予防および貧血予防（骨づくりに効果的な成分・方法と骨形成、運動性貧血、貧血予防と持久力）
１０．サプリメント（サプリメント、保健機能食品、特定保健食品、エルゴジェニックエイド）
１１．競技力向上の栄養計画（コンディショニングと試合前・試合後の食事）
１２．一日の活動量と食事摂取状況の評価と食事計画（アセスメント１）（食事・活動量調査の実践，現状把握）
１３．一日の活動量と食事摂取状況の評価と食事計画（アセスメント２）（エネルギーバランス，身体活動レベル）
１４．Aging（成長・発育・加齢）に伴う身体の変化と運動と栄養（痩せおよび肥満の健康障害、その機序、メタボリックシンドロームとの関連）
１５．まとめ：健康づくりに必要な効果的なトレーニングと食生活（食事摂取基準との関連で）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J90159001
科目名	運動生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Exercise Physiology		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	呼吸循環器系、筋・骨格系、脳・神経系、内分泌系、免疫能などの身体諸機能の基本的構造と機能について学び、一過性の運動がこれらの身体諸機能に及ぼす影響、長期的な運動トレーニングがこれらの身体諸機能に及ぼす効果について学修する。また、暑熱環境・寒冷環境などの環境温が身体諸機能に与える影響、低酸素環境や水中環境が身体諸機能に与える影響など、運動と環境について、さらには、運動と健康、発育発達と加齢による身体諸機能の変化についての基礎知識についても学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『健康運動実践指導者テキスト』　健康体力づくり事業財団 『健康運動指導士テキスト』　健康体力づくり事業財団 『日本体育協会公認スポーツ指導者テキスト』　日本体育協会		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	確認テスト（50%）(毎回授業の最後に、その日の学修内容の確認テストを実施)、定期試験（50%）		
到達目標	身体諸機能の基本的構造と機能、一過性の運動が身体諸機能に及ぼす影響、長期的な運動トレーニングが身体諸機能に及ぼす効果、暑熱環境・寒冷環境、低酸素環境・水中環境などが身体諸機能に与える影響、および運動と環境の関係、運動と健康、発育発達と加齢による身体諸機能の変化について理解し、説明できるようにする。		
準備学習	授業終了時に課題を指定するので、指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
予習、復習をしっかり行い、積極的な態度で講義に出席するよう要望する。			
講義の順序とポイント			
１．身体諸機能と運動（呼吸・循環器系、脳・神経系、骨格筋系、内分泌系、免疫系の機能と運動の関係） ２．呼吸器系と運動（呼吸器の構造と機能、運動時の換気動態、最大酸素摂取量、呼吸機能に及ぼす長期的運動効果） ３．循環器系のしくみと調節（心臓の構造と心筋の収縮、脈管系の分類と各機能、運動時の循環器系の調節のしくみなど） ４．循環器系と運動（運動時の血流調節・動脈血圧調節のしくみ、長期的運動による心機能・血管機能の変化など） ５．脳・神経系と運動１（脳・神経系の構成、自律神経系の構成と調節機能、反射のしくみと運動制御の階層構造など） ６．脳・神経系と運動２（随意運動と不随意運動、運動・動作の上達のメカニズム、長期的運動伴う脳・神経系機能の変化） ７．骨格筋系と運動１（骨格筋の構造と収縮のしくみ、筋活動の様式と力学的特性、筋収縮のためのエネルギー供給機構） ８．骨格筋系と運動２（筋力・筋パワーの決定要因、筋力トレーニング・有酸素性トレーニングに伴う筋機能向上のしくみ） ９．内分泌系と運動（ホルモンの定義・作用、運動によるホルモンの反応、長期的運動に伴うホルモン分泌変化など） １０．運動と免疫能（免疫系の概要、体力と感染リスクの関連、長期的運動による免疫能の変化など） １１．環境と運動１（環境温と運動時における体温調節機構、熱中症発症のしくみと予防対策、暑熱・寒冷馴化など） １２．環境と運動２（低酸素環境[高地]・水中環境が身体諸機能に与える影響、水中運動およびトレーニングの効果） １３．成長期における体力・基本的動作のスキルの発達（有酸素性体力・無酸素性体力・基本的運動スキルの発達） １４．成人以降の加齢に伴う体力・運動能力、有酸素性体力の低下 １５．体力に及ぼす先天的要因（遺伝）と後天的要因（運動実践の効果）		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90160001
科目名	運動発育発達論	単位数	2
科目名（英語表記）	Exercise and Human Development		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	健全な成長のためには、発達期それぞれの時期の心身の特徴について理解するとともに、時期に応じた適切な身体活動を展開することが求められる。子どもの発育発達期の運動プログラムの作成や指導を行ううえで重要となる発育発達過程における心身の特徴と運動器系の特徴、スポーツや運動の影響、傷害や疾病とその処置法、安全で合理的な指導等について学修する。幼少年期におけるあそびや自然体験、スポーツ活動、運動習慣の重要性や、将来の生活への影響を理解し、各発育期における運動実施の重要性とその実践について学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極的参加度（３０％）、レポート（３０％）、定期試験（４０％）		
到達目標	ライフステージにおける各時期の発育発達や運動機能の特徴を理解したうえで、健全な成長のために各発達期に適切な身体活動やトレーニングについて考えることができる。また、ジュニア期のスポーツや体力の二極化などに対して問題意識をもち、関心を高める。		
準備学習	次時の授業内容に関心を持ち、関連する事柄について自分で書籍や Web で調べるなど、予習をしてくること。		

受講者への要望

既習事項を基に、知識をさらに深めようとする姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく、主体的に考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。ジュニア期のスポーツや運動の話題に関心をもち、新聞などから情報を得るよう心掛け、現代の子どもを取り巻く環境やその問題点について、自分の考えを持てるようにすること。授業中は、自分から授業内容について考えるようにし、積極的に学ぶ姿勢と態度で授業に臨むこと。

講義の順序とポイント

１．ジュニア期のスポーツ指導の心得（発育発達期の身体的及び心理的特徴）
２．ジュニア期のスポーツ活動を通しての教育的効果と社会性の育成
３．ジュニア期の発育発達過程におけるステージ分け
４．ジュニア期の発育発達課程における身体的特徴（身体の発育発達の原則）
５．ジュニア期の発育発達過程における心理的特徴（身体の発育発達の原則：精神的発達［知的障害の発育発達含む］）
６．ジュニア期のスポーツや自然体験など様々な体験が発育発達期の心身に及ぼす影響
７．発育発達期の運動器系の特徴
８．発育発達期のスポーツ傷害疾病の特徴
９．発育発達期の内科的疾患
１０．ジュニア期の一貫指導の考え方
１１．ジュニア期初期（5，6歳～１２歳）におけるトレーニング
１２．ジュニア期中期（１３歳以降）以後のトレーニング
１３．ジュニア期発展期（１５歳～１６歳頃以後）のトレーニング
１４．ジュニア期の発育発達に応じたトレーニング（早熟・晩熟などを考慮したトレーニング）
１５．ジュニア期の性差に応じたトレーニング

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90161001
科目名	スポーツ社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Sports		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	豊かな健康スポーツライフに存在する社会学的意義と価値について概説する。健康活動とスポーツ活動に関わる社会的現象の実態とその現象の起こるメカニズム（因果関係）を解説する。健康およびスポーツ活動の行為、行動、さらには家族、コミュニティ、集団、組織および社会構造や社会変動に関わる文化としての事象（過去・現在・未来）について概念講義する。健康スポーツ社会学は人間社会での健康とスポーツライフに存在する文化としてスポーツ観・スポーツ行動様式・スポーツ物的事物価値からの生涯学習の基本概念とする。		
教材（テキスト）	『よくわかるスポーツ文化論』（ミネルヴァ書房）　井上俊・菊　幸一編著		
教材（参考文献）	『スポーツ社会学講義』（大修館書店）　森川貞夫、佐伯聰夫 編著 『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（公益財団法人　日本体育協会編集発行）		
教材（その他）			
評価方法	レポート課題テスト（90%）、ミニレポート（10%）		
到達目標	1）健康とスポーツの歴史と文化的意義を理解 2）障がい者・子供・高齢者とスポーツの関係について理解 3）健康スポーツの社会学的諸問題に関して理解 4）健康スポーツの法に関する諸問題の理解		
準備学習	指定教科書の予習を事前に熟読して、事前にテーマに添って関連情報を入手しておく。		
受講者への要望			
指定教科書を購入準備。着席は前方から学籍番号順に着座をお願いします。 教科書、筆記具以外の机上提示は認めませんので理解下さい。			
講義の順序とポイント			
1．文化としてのスポーツ１（スポーツの歴史とスポーツ概念） 2．文化としてのスポーツ２（文化としてのスポーツの位置づけやその意義の在り方と重要性、スポーツ文化としてのスポーツ観・スポーツ規範の重要性） 3．社会の中のスポーツ（スポーツの社会的価値、社会におけるスポーツの関わりの重要性） 4．我が国の健康及びスポーツプロモーション（日本の健康増進法及び各種スポーツ振興法についての内容理解） 5．スポーツと法（スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任） 6．スポーツと人権（モラルと人権尊重[事例による体罰及暴言・ハラスメント防止策]） 7．トップアスリートを取り巻く諸問題１（トップアスリートへの科学的サポート） 8．トップアスリートを取り巻く諸問題２（海外遠征の諸問題とその対応） 9．トップアスリートを取り巻く諸問題３（国際競技力向上の為の環境） １０．トップアスリートを取り巻く諸問題４（情報戦略） １１．トップアスリートを取り巻く諸問題５（競技者を取り巻く新しい環境と適切な対応） １２．健康スポーツ文化１（高齢化社会における健康スポーツ文化の価値と意義） １３．健康スポーツ文化２（生涯スポーツとしての健康スポーツ文化の価値と意義） １４．健康スポーツ文化３（福祉スポーツとしての健康スポーツ文化の価値と意義） １５．ボランティア精神と活動の基本的姿勢（アダプテッドスポーツ活動支援の事例）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90162001
科目名	健康スポーツマネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Management of Sports and Exercise		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	社会における健康並びにスポーツ実践領域におけるマネジメントシステム・事象について講義する。学校・地域・企業・プロスポーツにおいて健康活動とスポーツ活動に関わる「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」に関してのマネジメントの仕組みと仕掛けの方法とそれらの事例事象・事例システムを交えながら説明・解説する。社会の健康並びにスポーツ実践活動がもたらす健康スポーツライフのマネジメント機能が日本・アジアを含めたグローバル社会に与える価値とその意義（未来創造）について総括的な講義とする。		
教材（テキスト）	『図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント』（大修館書店）　山下秋二、中西純司、松岡宏高編著		
教材（参考文献）	『最新 学校体育経営ハンドブック―体育の実務と運営』（大修館書店）　宇土正彦編著		
教材（その他）	公認スポーツ指導者テキスト　公益財団法人 日本体育協会編集発刊		
評価方法	レポート課題テスト（90%）、ミニレポート（10%）		
到達目標	健康スポーツマネジメントの様々な基礎的概念を理解し、そこに存在する具体的事象から健康スポーツマネジメントの本質を学ぶ事を目標とする。加えて、中・高保健体育教職実務となる学校体育経営の管理システム、組織、運営。計画等についても学修し、理解する事を目標とする。		
準備学習	毎日の新聞熟読に努め、社会事象や社会事象の変革を把握して準備学習する事を勧める。		

受講者への要望

本講は社会における健康スポーツに関わるビジネスや組織に関わるマネジメントの仕組みや仕掛けについて学び、それらの各種事象事例からの健康スポーツマネジメントの実態を理解する。加えて、教職必修科目でもある。保健体育教員としての学校体育経営のノウハウも学習する。これらの事を踏まえて、健康スポーツマネジメント職志望並びに日体協指導者資格・保体教免資格取得希望者は目的意識を持って受講して頂きたい。

講義の順序とポイント

1．マネジメントの概念
2．健康スポーツとマネジメント
3．健康スポーツビジネスのマネジメント
4．健康スポーツマーケティングのマネジメント
5．健康スポーツオペレーションのマネジメント
6．スポーツ経営戦略（スポーツ企業とスポーツチームの事例から）
7．アスリートビジネスマネジメント（トッププロアスリートのサポート事例から）
8．スポーツブランドマネジメント（トップスポーツブランドの事例から）
9．健康スポーツ組織の運営、事業計画・事業評価
10．地域スポーツクラブの機能と役割
11．広域スポーツセンターの機能と役割
12．地域におけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり
13．我が国のスポーツ振興施策
14．学校体育の経営組織と運営
15．学校体育の活動計画（課外・特別）と運営・管理（財務・施設）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90163001
科目名	健康スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、市場と組織という経営学の基本概念を用いながらスポーツビジネスを解説する。より具体的には、①スポーツビジネスと呼ばれる業界の構造および②スポーツというサービスの流通の仕方を解説する。その主たる問いは、①スポーツビジネスと呼ばれる業界とは何なのかであり、②なぜそのような業界構造が生まれたのかである。 現実のスポーツビジネスはきわめて複雑である。それは、商品化された身体技能の流通に関わるからである。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦［編］『スポーツ政策論』成文堂 2011　3,500 円		
教材（参考文献）	松岡憲司『スポーツ・エコノミクスの発見』法律文化社 1996　1,575 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツビジネスとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題を市場と組織という視点で説明することができる。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。
テキストは講義内中試験の試験問題とするので必ず準備するように。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツビジネスの分析視座を解説する
3.「説明するということ」：社会科学の立場からスポーツを説明する方法を解説する
4.「市場 1」：スポーツの勝敗と販売市場を解説する
5.「市場 2」：スポーツ選手と労働市場を解説する
6.「市場 3」：スポーツの市場における利益率を解説する
7.「組織 1」：強化部と事業部の分業を解説する
8.「組織 2」：試合というサービスの性質を解説する
9.「組織 3」：リーグという市場構造を解説する
10.「中間総括」：これまでの講義を振り返り、ポイントをまとめる
11.「スポーツマネジメント論入門」：スポーツマネジメント論が答える問いを解説する
12.「スポーツマーケティング論入門」：スポーツマーケティング論が答える問いを解説する
13.「スポーツビジネス論の今後」：最新の研究成果および業界事情を解説する
14.「スポーツビジネス論の最新動向」：これまでの講義を総括し、最新の業界動向を解説する
15.「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90164001
科目名	健康スポーツマーケティング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
講義概要	本講義は、販売と消費というマーケティング論の基本概念を用いてスポーツマーケティングを解説する。より具体的には、①スポーツマーケティングという概念および②マーケティング論を通じて見たスポーツを解説する。その主たる問いは、①なぜスポーツ界にはマーケティング論が必要となったのかであり、②マーケティング論からスポーツを見れば何が説明できるのかである。 現実のスポーツとマーケティングはきわめて複雑に絡み合っている。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。このために、本講義は主として板書形式をとる。		
教材（テキスト）	菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦［編］『スポーツ政策論』成文堂 2011　3,500 円		
教材（参考文献）	ジョン・スポールストラ『エスキモーに氷を売る』きこ書房 2000　1,680 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 ①スポーツマーケティングとは何かを理解することができる。 ②現実のスポーツ界で生じる問題をマーケティング論の視点で説明することができる。		
準備学習	講義終了時に、参考文献における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。		

受講者への要望

私語は厳禁。
テキストは講義内中試験の試験問題とするので準備するように。

講義の順序とポイント

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「スポーツマーケティングの前提」：スポーツの市場を解説する
3.「スポーツマーケティングの対象」：本講義で学ぶべき対象を解説する
4.「チケット販売と四つの特徴」：プロスポーツチームの製品対応を解説する
5.「中間総括」：これまでの講義内容を復習する
6.「スポーツ市場における流通対応」：チームの行った閉鎖的流通チャネルを解説する
7.「クロスセリング 1」：テレビ放映の抑制効果と促進効果を解説する
8.「クロスセリング 2」：テレビ放映権の高騰現象を解説する
9.「クロスセリング 3」：ライセンス契約とは何かを解説する
10.「クロスセリング 4」：ロイヤルティとライセンス契約の関係を解説する
11.「クロスセリング 5」：スポンサーシップとは何かを解説する
12.「クロスセリング 6」：スポンサーシップの効果をもたらす原因を解説する
13.「興奮の探求」：閉鎖的流通チャネルがなぜ成功要因となったのかを討議する
14.「スポーツマーケティングの最新成果」：これまでの講義を総括し、最新の研究成果を解説する
15.「講義の限界」：講義の限界を示し、今後の展望を解説する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	−	★★

年度	2017	授業コード	J90165001
科目名	地域スポーツ経営論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management of Sports in Community A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	地域における健康およびスポーツ活動目的の総合型スポーツクラブ経営の基礎的理論について講義する。地域のスポーツクラブ事業の社会的背景と理念、地域スポーツクラブの定義、目指す地域スポーツクラブ像と指導者像、地域スポーツクラブの現状（組織、行政との関わり、スポーツ少年団、各種団体の取組み）、クラブマネージャーの役割（求められる能力）について解説する。地域における健康およびスポーツクラブ経営に特化した実践的マネジメントの基礎理論学修とする。		
教材（テキスト）	『公認アシスタントマネージャー養成テキスト』（公益財団法人　日本体育協会発行）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート課題テスト（９０％）、ミニレポート（１０％）		
到達目標	地域スポーツクラブを取り巻く環境の理解、目指すべき事業のミッション理解、ミッションとビジョンの理解、設立・運営形態の理解、具体的イメージの確認と認識、クラブマネジャー像の理解、クラブマネージャーが果たすべき役割の理解、クラブマネージャーに求められる諸能力の認識と理解とする。		
準備学習	現在展開中の京都府内・大阪府内・滋賀県内の総合型地域スポーツクラブの概要と実態を公開情報されている範囲でインターネットから情報収集して把握しておく。		

受講者への要望

①モラルある受講態度を要望
②健康・スポーツの総合型スポーツクラブの運営の基礎的マネジメントを学ぶ意識で受講要望。
③日本体育協会公認指導者「アシスタントマネジャー」資格必修科目である認識で受講されたし。

講義の順序とポイント

１．地域スポーツクラブとは（事業の背景と理念）
２．地域スポーツクラブの現状１（地域スポーツクラブを取り巻く環境の変化）
３．地域スポーツクラブの現状２（スポーツ基本法とスポーツ基本計画）
４．地域スポーツクラブの現状３（総合型地域スポーツクラブを取り巻く環境）
５．地域スポーツクラブの現状４（総合型地域スポーツクラブ・マネジメントの仕組み）
６．クラブマネージャーの役割１（クラブマネージャー・アシスタントマネージャーとは、位置づけ、求められる能力）
７．クラブマネージャーの役割２（求められる能力：ロジカルシンキング）
８．クラブマネージャーの役割３（求められる能力：コミュニケーション）
９．クラブマネージャーの役割４（求められる能力：マーケティング）
１０．クラブマネージャーの役割５（求められる能力：経営戦略）
１１．クラブマネージャーの役割６（求められる能力：人・組織のマネジメント能力）
１２．クラブマネージャーの役割７（求められる能力：施設の管理と運営）
１３．クラブマネージャーの役割８（求められる能力：ホスピタリティ）
１４．クラブマネージャーの役割９（求められる能力：スポーツクラブの安全管理＜リスクマネジメント＞）
１５．クラブマネージャーの役割１０（求められる能力：財務）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90166001
科目名	地域スポーツ経営論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management of Sports in Community B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	地域における健康およびスポーツ活動目的の総合型スポーツクラブ経営の発展的理論について講義する。実際のクラブのつくり方に関してはクラブ設立・自主運営・法人格の取得方法について、クラブの運営に関してはクラブに必要なスタッフ・活動拠点の確保・クラブ運営資金・活動プログラム・クラブハウスについての実践的マネジメント方法を解説する。加えて、クラブのつくり方とクラブの運営方法の事例的ケーススタディについても学修し、具体的クラブ設立に関わる企画立案までの授業展開とする。		
教材（テキスト）	『公認アシスタントマネージャー養成テキスト』（公益財団法人　日本体育協会発刊）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート課題テスト（90%）・ミニレポート（10%）		
到達目標	実際のスポーツクラブのクラブ設立、運営、経営面の一連内容を理解、企画力・問題解決能力・当事者意識を高める事を目標とする。また、スポーツクラブのつくりかたと運営の事例研究より自己のオリジナリティの創設運営企を創り出す事を目標とする。		
準備学習	近隣の地域スポーツクラブの実態の把握（Web 情報収集及び見学）をし、訪問した上で各種情報収集済みの上、受講する事が望ましい。		

受講者への要望

日本体育協会公認指導者資格・アシスタントマネージャー必修科目である事を理解し、単位取得と同時に受験資格が発する事を認識。
卒業年度末（2 月）に本資格取得受験し、合格者は晴れて資格付与される事を認識される事、但し、地域経営論 A、B セット履修で受験資格に該当するという理解の事。

講義の順序とポイント

１．クラブのつくりかた（クラブの創設）
２．クラブのつくりかたケーススタディ１（地方小規模型クラブ事例）
３，クラブのつくりかたケーススタディ２（都市部中規模型クラブ事例）
４．クラブのつくりかたケーススタディ３（欧州型ドイツクラブ事例）
５．クラブの運営１（自主運営に必要な条件）
６．クラブの運営２（顧客とスタッフの定義）
７．クラブの運営３（ＮＰＯ法人格の取得手続）
８．クラブの運営４（活動拠点の確保）
９．クラブの運営５（財源の確保）
１０．クラブの運営６（事業計画書＜ビジネスプラン＞の作成）
１１．クラブの運営７（事業計画書＜ビジネスプラン＞の評価）
１２．クラブの運営ケーススタディ１（地方小規模型クラブ事例）
１３．クラブの運営ケーススタディ２（都市部中規模型クラブ事例）
１４．クラブの運営ケーススタディ３（欧州型ドイツクラブ事例）
１５．日本と欧州型ドイツクラブのつくりかたと運営の特徴の違いについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90170001
科目名	身体運動科学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Science of Physical Kinematics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	身体運動にかかわる事象は、内部環境からの面と外部環境からの両側面のアプローチが考えられる。内部環境に関しては運動生理学的な知見から観察評価する。また、外部環境に関しては人間工学に基づくバイオメカニクスを用いたアプローチがあり、いずれも身体運動を詳細に観察するのに必要不可欠な内容である。そこで本実習では、①バイオメカニクスの様々な測定方法を体験し、人間が行う巧みな身体運動動作を考える実習、②有酸素的エネルギー供給と無酸素的エネルギー供給を測定し評価する実習、③運動強度と心拍数や主観的運動強度との関係などから健康・体力の向上のための運動方法を考える実習を行い、これらの実習結果をまとめてレポートなどで発表し意見交換を行う。 　授業は 3 名の教員（柳田、平川、谷口）で 3 つのグループに分かれて各テーマに沿って 4 回行う。4 回の実習が終わるとその都度レポートを作成（5 回目）して提出する。		
教材（テキスト）	授業時に印刷物を配布して活用する。		
教材（参考文献）	解剖生理学やバイオメカニクスなどで用いたテキストを活用するので、指示したときに準備すること。		
教材（その他）	実験室やトレーニングルームなどでの実習時には屋内靴を用意すること。ノート型パソコンや、ＵＳＢなどで自分のデータを確保するようにすること。バイオメカニクス 1 および 2 において 20 ㎝程度の定規と先のとがった鉛筆（シャープペンシルなど）を用意すること。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	身体運動実験に関係する各種の機器によるデータ取得の原理を学び、そこから身体運動に潜む事象に関心を持つ。パソコンを操作することからデータの扱いに慣れ、事象を図表などで表現するスキルを養う。		
準備学習	解剖生理学による身体の筋骨格を復習する。また、バイオメカニクスや運動生理学で学んだ様々な内容を活用する。		
受講者への要望			
実験に際しては安全を最優先にすること。電気を用いることが多く、感電や、火傷などの事故を防ぐように授業場を整理整頓することに努める。仲間との連携を確かなものにして安全確保に注意する。実験の授業であるので汗をかいたり、電極を体に貼付したりするので運動時と同じ服装で参加し、屋内運動靴を持参する必要があるので注意すること。			
講義の順序とポイント			
１．ガイダンス（授業計画についての説明。グループ分け。成績評価についての説明。実験に際しての安全について。授業に必要なＰＣや電卓などの物品を確認する。） ２．バイオメカニクス 1、「身体重心位置が持つ意味とは？」、「作図法による自身の分節重量、分節重心位置を算出する」柳田 ３．バイオメカニクス 2、「作図法を用いて身体重心位置を求める」柳田 ４．バイオメカニクス 3、「重量負荷時の筋電図を計測して、筋放電量と筋出力の関係をみる」（柳田）、 ５．バイオメカニクス 3、「異なる重量負荷による筋電図積分値を測定して、重量負荷と筋発揮の関係性を考える」（柳田） ６．レポート作成 ７．運動生理学 1、「身体エネルギー供給メカニズムと運動パフォーマンス」（平川） ８．運動生理学 2、「有酸素的エネルギー供給：最大酸素摂取量」（平川） ９・運動生理学 3、「有酸素的エネルギー供給：無酸素的作業閾値」（平川） １０．運動生理学 4、「有酸素的エネルギー供給：最大無酸素パワーと血中乳酸」（平川） １１．レポート作成 １２．体力科学 1、「運動強度と血圧・心拍数・主観的運動強度」（谷口） １３．体力科学 2、「筋力発揮の神経機構ー両側性機能低下」（谷口） １４．体力科学 3、「ウオーミングアップと柔軟性」（谷口） １５．体力科学 4、「姿勢と血圧」（谷口）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90171001
科目名	体力測定評価論	単位数	2
科目名（英語表記）	Assessment of Body Composition and Pysical Ability		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本講義では運動や競技レベルに合わせた適切な体力評価法の選択から実施方法、さらにそれらの測定結果を受けて適切なエクササイズ処方ができる能力を習得することを目的とする。体力測定評価であるフィットネステストをトレーニング前後に実施することは、トレーニングやリハビリ効果を定量化する上で非常に重要である。本講義では目的に沿ったテストの選択から結果の解釈、結果を基にした短期的・長期的トレーニングやリハビリプログラムの作成能力を習得することを目的とする。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト 上』 （健康・体力づくり事業財団 ） 『公認スポーツ指導者養成テキスト』(日本体育協会) 『障害者スポーツ指導教本』(ぎょうせい) 『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』 (ブックハウス・エイチディ)		
教材（その他）			
評価方法	小テスト授業内レポート（50%)、期末試験（50%）で評価する。		
到達目標	運動や競技レベルに合わせた適切な体力評価法の選択から実施方法、さらにそれらの測定結果を受けて適切なエクササイズ処方ができる能力を習得すること。		
準備学習	前回の学修事項を確認したうえで、講義に参加することを望む。		
受講者への要望			
皆さんの身近なトレーニングやダイエットなどと密接に関連した内容ですので、興味を持って積極的な授業参加を期待します。			
講義の順序とポイント			
１：健康体力測定評価の概要１（健康体力の定義、測定の意義・目的・評価データ活用方法） ２：健康体力測定評価の概要２（体力実状を把握し、測定方法の評価の考え方について） ３：健康体力測定評価の実際１（適切な体力測定の条件［妥当性、信頼性、客観性、経済性、安全性、興味性］） ４：健康体力測定評価の実際２（測定１：体力と運動能力の関係：エネルギー発生機序からの体力テスト、運動成績からみた運動能力テスト） ５：健康体力測定評価の実際３（測定２：身体組成、年齢に伴う体力水準の変化体力・運動能力の性差、健康関連の新体力テスト［全年齢共通］の成り立ち） ６：健康体力測定評価の実際４（測定３：局所筋力の測定、相対負荷法［最大筋力当たりの負荷］、局所筋持久力の測定、局所筋パワー［繰り返し最大持ち上げ回数:RM］の測定及び評価法） ７：健康体力測定評価の実際５（測定４：大筋群の筋力・筋パワー測定［脚伸展力・両腕挙上力］及び評価方法） ８：健康体力測定評価の実際６（測定５：全身運動の持久能測定［エルゴメータテスト等］及び評価方法） ９：健康体力測定評価の実際７（測定６：柔軟性・敏捷性・平衡性テスト及び処理分析とその評価法） １０：健康体力測定評価の実際７（分析と活用：データー処理、分析、応用の仕方） １１：健康体力測定評価の実際８（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討１：中高年・高齢者データ） １２：健康体力測定評価の実際９（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討２：各競技種目特性別データ） １３：健康体力測定評価の実際１０（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討３：術後機能回復データ） １４：中高年・高齢者の健康体力［運動機能と生活体力］とその測定評価の特徴と方法 １５：障害者の健康体力測定評価とその測定評価の特徴と方法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90172001
科目名	体力測定評価実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Assessment of Body Composition and Pysical Ability		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	発育発達や加齢現象に伴い体力は変化する。この変化によっては健康を害するケースもあり、体力を正しく測定し評価することは健康維持の支援にとって重要である。本実習では、①形態測定や身体組成などの測定と計測に際しての意義・留意点、②健康体力評価のためのテスト作成の基本的な考え方やバッテリーテストの組み方およびその評価方法、③文部科学省新体力テストの測定項目の意味、正しい測定方法とその評価、④虚弱者を対象とした各種体力測定法とその意義について学修する。学修し得られたデータは IT 機器を活用してさまざまな角度から評価し、全国的な平均値などと比較検討を行う。		
教材（テキスト）	「体力テストの方法と活用: 体力テスト判定員用」、日本体育協会編集（絶版）を基に作成した配布資料		
教材（参考文献）	「臨床評価指標入門」、内山　靖、小林　武、潮見泰蔵：編集、協同医書出版社		
教材（その他）	先に購入したバインダーが実習を通して必要になる。またコンピューターを活用しデータを入力するので、各自で USB、あるいは各自ノートパソコンを持参することがのぞましい。実習には用具の準備や運搬、移動などの作業があり、また自らが被験者となるので学科ユニフォームに着替えて出席すること。		
評価方法	4 名の担当教員による各分野ごとにレポートを提出し、レポート評価をする。体力測定を実践したり、測定結果を集計する作業など、授業への参加態度を評価する。授業の最後には授業全体のまとめを行い、パワーポイントを用いて発表する機会を設け、評価する。以上の全体的な評価を総合して最終的な評価とする。		
到達目標	文部科学省の体力テストを含めて様々な測定評価技法について正しく身につける。結果をコンピュータによって統計的に分析し発表できる能力を高める。		
準備学習	体力測定評価論、保健医療情報学など、関連する授業科目を受講しておく。		

受講者への要望

授業の後半には実際に多数の高齢者を対象にして、学んだ内容を実践の場で活用する実習を行うので、毎回の受講に際しては集中して真剣に対応することが必要になる。実習の場での事故は許されず、授業での学びの不十分さから、被験者の転倒など、思わぬ事故につながる場合もあることを心して授業に取り組むこと。

講義の順序とポイント

1、体力測定評価実習の意義・心得（柳田・木村・平川・谷口）
2、形態測定（体育館教室・剣道場）
3、身体組成測定（体育館教室・剣道場）
4、高齢者の体力測定（１）
5、高齢者の体力測定（２）
6、介護予防に関する体力測定・評価（１）
7、介護予防に関する体力測定（２）
8、新体力テスト（20～64 歳）の測定評価（１）
9、新体力テスト（20～64 歳）の測定評価（２）
１０、新体力テスト（65～79 歳）の測定評価（１）
１１、新体力テスト（65～79 歳）の測定評価（２）
１２、スポーツ統計と測定評価
１３、運動行動変容：個別コンサルテーションの実際
１４、中高年のフィールド実習（１）　（京都太秦 C みらいホール）
１５、中高年のフィールド実習（２）　（京都太秦 C みらいホール）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J90173001
科目名	健康運動療法論	単位数	2
科目名（英語表記）	Exercise Therapy for Health		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	運動・スポーツは、健康・体力の維持、病気の予防、病気となった時の治療方法の手段のひとつとして重要な位置を占めている。本講義では、安全で効果的な健康運動療法プログラム作成をする際に必要となるメディカルチェック（血液検査、心電図、その他)、体力・運動能力の評価（体組成、有酸素および無酸素能力など)、運動プログラムの組み方（運動の強度・時間・頻度・種類・期間など）について学修する。また、生活習慣病に対する運動プログラム作成に際して必要となる医学的(服薬を含む)・運動生理学的基礎知識についても学修する。　（オムニバス方式／全 15 回）		
教材（テキスト）	特になし。 授業において適時資料を配布する。		
教材（参考文献）	特になし。 授業において適時資料を配布する。		
教材（その他）	・ビデオやパワーポイントを多く活用する。 ・適時資料を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%)、レポート（20%)、定期テスト（50%）		
到達目標	運動療法（処方）作成の順序、安静時メディカルチェックや心電図の基本的事項、体力・運動能力の測定・評価法を理解し、各健康・体力水準の人たちに対して、安全で効果的な運動プログラムを作成できる能力の修得を到達目標とする。		
準備学習	・　一般知識として国立循環器病センターホームページの循環器病情報サービスを参照してください。(坂崎) ・　２年次までに学んだ学部・学科の自然科学系科目の授業内容を復習し、身体活動時の筋および呼吸循環機能の適応について再度理解しておいてください。		

受講者への要望

・　質問は随時受け付けます。熱心な聴講を希望します。
・　2 年次までに受講した科目のうち、運動生理学・運動処方論に関するテキストを持参すれば、理解が深まるかと思います。
・　授業中の私語は、真面目に受講している学生に迷惑です。また、教員の授業の質的保障・進行を妨げます。人の学びの邪魔をすることは、誰にも許されません。私語をしない、許可なく携帯を使用しない、寝ないという学びの基本姿勢を順守してください。学生の基本です。

講義の順序とポイント

１．　運動プログラムの管理（運動と健康診断の見方・考え方）　（坂崎）
２．　運動のためのメディカルチェックの重要性　（坂崎）
３．　心電図の基礎と記録法　（坂崎）
４．　運動負荷検査の実際１　（坂崎）
５．　運動負荷検査の実際２　（坂崎）
６．　服薬者の運動プログラム作成上の注意　（坂崎）
７．　運動療法における健診結果の総合的評価　（坂崎）

８．　現代社会における身体活動の重要性　（平川）
９．　動作の成り立ちと運度プログラム作成の基本的考え方　（平川）
１０．身体活動能力の評価１　体格・体組成の評価　（平川）
１１．身体活動能力の評価２　有酸素能力の評価　（平川）
１２．身体活動能力の評価３　無酸素能力の評価　（平川）
１３．身体活動能力の評価４　調整能力の評価　（平川）
１４．身体活動能力の評価５　身体活動量の評価　（平川）
１５．運動処方作成の実際（包括的プログラム作成について）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J90174001
科目名	健康運動療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Exercise Therapy for Health		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	運動療法（処方）は、健康の維持、生活習慣病の予防、病気となった時の治療方法として重要な手段となっている。本実習は健康医学知識の基、運動指導ができる運動処方作成能力を修得し、さらに指導スキルを修得するための実習をする。具体的にはメディカルチェック(血液検査、尿検査、血圧測定、心電図、眼底検査)の判定、運動負荷試験の見方・考え方、精密検査の基礎知識、体力・運動能力の測定・評価を修得する。また、運動禁止の条件、病気の方の具体的な運動プログラム、服薬中の判断などについても学修する。　（オムニバス方式／１５回）		
教材（テキスト）	特になし。 授業において適時資料を配布する。		
教材（参考文献）	特になし。 授業において適時資料を配布する。		
教材（その他）	・　ビデオやパワーポイントを多く活用する。 ・　適時資料を配布する。 ・　各種体力・運動能力測定機器を多用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（50%）、レポート（50%）		
到達目標	運動不足・生活習慣病における包括的運動療法（処方）プログラムを安全かつ効果的に作成する上で必要な、測定テクニックの理論と実践能力を修得し、運動プログラムが作成できるようになることを目標とする。		
準備学習	・　２年次までに学修した各生活習慣病について、再度しっかり理解しておくこと。また有酸素運動等の各種運動の意味・効果・実施上の留意点復習しておくこと。 ・　体力測定の実習を行うので、前日はしっかり休養をとり疲労を回復して、授業に臨むようにしてください。特に授業が１限ですので、安全と信頼性のあるデータ取得のためにも、朝食も摂り、覚醒状態で臨んでください。		

受講者への要望

・　熱心な聴講を希望します。質問は歓迎です。。
・　２年次までに受講した科目のうち、運動生理学・運動処方論に関するテキストを持参すれば、理解が深まるかと思います。
・　授業中の私語は、真面目に受講している学生に迷惑です。また、教員の授業の質的保障・進行を妨げます。人の学びの邪魔をすることは、誰にも許されません。私語をしない、許可なく携帯を使用しない、寝ないという学びの基本姿勢を順守してください。学生の基本です。
・　平川が担当の授業では、体力・運動能力測定実習が入りますので、しっかりと動ける運動服、体育館および外用のシューズ、タオルを持参してください。

講義の順序とポイント

１．　生活習慣病に対する適切な運動療法（処方）の実際　（坂崎）
２．　運動負荷検査実習　(1-1）運動負荷検査の実例１（トレッドミル）　（坂崎）
３．　運動負荷検査実習　(1-2）運動負荷検査の実例１（トレッドミル）　（坂崎）
４．　運動負荷検査実習　(2-1）運動負荷検査の実例２（自転車エルゴメーター）　（坂崎）
５．　運動負荷検査実習　(2-2）運動負荷検査の実例２（自転車エルゴメーター）　（坂崎）
６．　生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習：高血圧と糖・脂質異常症　（坂崎）
７．　生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習：ロコモティブシンドロームと運動器退行性疾患　（坂崎）
８．　生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習：過体重(肥満)・肥満症　（坂崎）

９．　有酸素的能力の測定実習　①（最大）酸素摂取量の測定・推定　（平川）
１０．有酸素的能力の測定実習　②無酸素的作業閾値の測定　（平川）
１１．有酸素的能力の測定実習　③身体活動量の測定　（平川）
１２．無酸素的能力の測定実習　①力－速度－パワー関係、最大無酸素パワーの測定　（平川）

１３．無酸素的能力の測定実習　②筋の%MVC－反復回数関係の測定　（平川）
１４．調整能力の測定実習　①バランス能力、敏捷性、柔軟性、姿勢評価　（平川）
１５．子ども・低体力者・高齢者に対する適運動処方について：ケーススタディ　（平川）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2017	授業コード	J90175001
科目名	健康フィットネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health Fitness		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	一般的な健康志向から本格的アスリートまでそれぞれトレーニングの目的は異なる。本講義では、まず運動不足による弊害や海外のフィットネス事情について学修する。さらに健康管理を目的としたエクササイズ、効果的なウォーミングアップやクールダウン、リカバリーなどに触れ、さらに年齢、性差などに着目したフィットネスエクササイズを紹介する。また、スポーツ相談というチームや個人の要望を聞くインプットからプログラムデザインというアウトプットへの一連の流れも学修する。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト 上』 （健康・体力づくり事業財団 ） 『公認スポーツ指導者養成テキスト』(日本体育協会) 『障害者スポーツ指導教本』(ぎょうせい) 『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版』（第 3 版） (ブックハウス・エイチディ)		
教材（その他）			
評価方法	小テスト授業内レポート（50%）、期末試験（50%）で評価する。		
到達目標	健康・フィットネスに関する現状を理解し、対象者の状況に合わせた運動処方を作成できる能力の育成を図る。		
準備学習	前回の学修事項を確認したうえで、講義に参加することを望む。		
受講者への要望			
対象者の健康状況など様々な情報を参考にし、適切なエクササイズプログラムを作成するため、普段から何らかの運動を習慣づけていることが望ましい。			
講義の順序とポイント			
１．日本人と寿命（死因）と運動不足病とは（運動不足病の定義、起因、生活習慣病概要）【谷口】 ２．フィットネス概要（意味、日米事情、青少年と健康、生涯体育）【井口】 ３．フィットネスエクササイズと健康管理１（フィットネス・エクササイズと体調：チェックとの意義と方法）【井口】 ４．フィットネスエクササイズと健康管理２（フィットネス・エクササイズと体調：疲労回復）【井口】 ５．フィットネスエクササイズと安全１（安全面配慮のウォーミングアップ）【井口】 ６．フィットネスエクササイズと安全２（安全面配慮のクーリングダウン）【井口】 ７．中高年者とスポーツ１（中高年者の健康の定義と身体活動ガイドライン［WHO]、加齢の形態・体力・運動機能変化、身体活動不活発の心身への影響、健康スポーツ活動の心身への影響）【井口】 ８．中高年とスポーツ２（健康スポーツ実践のプログラムデザイン上の留意点、健康スポーツ実践プログラム作成の基礎、健康運動プログラムの条件、基本プログラム立案）【井口】 ９．中高年とスポーツ３（個人・集団・性別・地域での実施方法・医学的側面からのアドバイス）【井口】 １０．女性とスポーツ１（女性の身体的特徴とそれらとの運動・トレーニングにおける留意点と影響）【谷口】 １１．女性とスポーツ２（女性のトレーナービリティーとそれを考慮［意見交換含む］したスポーツプログラム）【谷口】 １２．スポーツ相談の意義１（性別、年齢別、目的別の健康スポーツ実践への相談の方法と重要性）【井口】 １３．スポーツ相談の意義２（体力別、経験別の健康スポーツ実践への相談の方法と重要性）【井口】 １４．スポーツ相談の実際（女性相談の内容に応じた対処、相談の内容に応じた運動実践助言）【谷口】 １５．スポーツ相談の実際（中高年・高齢者の内容に応じた対処、相談の内容に応じた運動実践助言）【谷口】			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90176001
科目名	健康フィットネス実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Health Fitness		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	運動を通して、自身や対象者の身体や心の状態に気づき、体の調子を整える方法を理解する。対象に合わせた種々の運動プログラムの体験と楽しく体を動かす実技を行い、運動プログラムの組み合わせを理解する。具体的に体ほぐしの運動や柔軟性を高める為の運動、ストレッチングの方法、対象に応じた運動プログラムの方法、エアロビックダンスの方法を紹介する。これらの実技を通して、様々な運動の方法を身につけるとともに、基本的な運動の組み合わせや、対象に応じた実技指導が出来るようになることを目標とする。		
教材（テキスト）	随時、必要資料として配布する		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（下)』　（健康体力づくり事業財団） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』　（健康体力づくり事業財団） 『GFI　グループエクササイズフィットネスインストラクタ』』テキスト（日本フィットネス協会） 『GFI　エアロビックダンスエクササイズ指導理論』テキスト（日本フィットネス協会） 『GFI　ストレッチングエクササイズ指導理論』テキスト（日本フィットネス協会） 『GFI　レジスタンスエクササイズ指導理論』テキスト（日本フィットネス協会）		
教材（その他）	・『保健指導に求められる個別運動プログラム作成・実践ガイド』（杏林書院） ・久野譜也編『イラストで見る健康づくり運動指導』（市村出版）島岡清著		
評価方法	・対象者に応じたエクササイズのプログラミングと実技テスト（50%） ・エアロビックダンス・コンディショニングエクササイズの実技テスト（50%）		
到達目標	①ストレッチングエクササイズの実演をし指導を行うことができる ②レジスタンスエクササイズの実演をし指導を行うことができる ③エアロビックダンスエクササイズの実演をし指導を行うことができる		
準備学習	・受講に際して、健康フィットネス論の単位を修得していること ・健康づくり指導者になるために必要な知識と技術の習得に意欲的であること		

受講者への要望

本授業を受講するにあたっての注意事項
・授業回数の５分の４以上が出席規定となる。出席用件を満たさなければ実技試験を受験できません。
・服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを必ず着用すること。忘れた場合は授業を受講できません。
・GFI、健康運動実践指導者資格取得に必要な科目となる。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：エクササイズの指導と安全（体調チェックの意義）（三宅）
２．ウォーミングアップとクーリングダウンの実際（三宅）
３．ストレッチング運動プログラムの実際（三宅）
４．レジスタンス運動の実際（三宅）
５．自立高齢者の運動プログラムの実際（三宅）
６．虚弱高齢者（低体力者）の運動プログラムの実際（三宅）
７．対象に応じた運動プログラムのデザイン(プログラム作成と指導法）（三宅）
８．対象に応じた運動プログラムの指導（プログラムの指導方法）（三宅）
９．エアロビックダンス：ウォーミングアップとクーリングダウン（谷口）
１０．エアロビックダンス：メインエクササイズ１（基本のステップ）（谷口）
１１．エアロビックダンス：メインエクササイズ２（プログラムの作成法）（谷口）
１２．エアロビックダンス：メインエクササイズ３（プログラムの作成・指導法）（谷口）
１３．エアロビックダンス：メインエクササイズ４（プログラムの指導方法）（谷口）
１４．エアロビックダンス：コンディショニングエクササイズ（自体重でのレジスタンストレーニング）（谷口）
１５．エアロビックダンス：コンディショニングエクササイズ（バランス・コーディネーショントレーニング）（谷口）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90177001
科目名	健康運動レクリエーション論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Physical Recreation and Leisure		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	健康で生き生きとした暮らしを続けることが国民的課題となっている。このような課題に応えるために、レクリエーションの概念は、楽しさや心地よさの体験を通して、運動を続けていきたいという意欲や仲間づくりを支援する基本的な考え方を示している。健康づくりへの意欲を高め、健康的な生活への行動変容を促すレクリエーション支援の基本的な考え方を修得するとともに、子どもから高齢者まで様々な対象に応じたレクリエーション支援の方法と支援技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	ビデオ教材やパワーポイントを活用し適宜プリントを配付する。		
教材（参考文献）	『レクリエーション支援の基礎』～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～（日本レクリエーション協会編） 『これからのレジャー・レクリエーション（弓箭書院）』 『現代人とレジャー・レクリエーション』(不昧堂出版) 『福祉レクリェーションシリーズⅠ　福祉レクリエーション総論（中央法規)』		
教材（その他）	『レジャー・スタディーズ』(世界思想社)		
評価方法	授業内の演習課題(40%)　定期試験(60%)		
到達目標	①すべての人々がいきいきと生きる上で大切なレクリエーションの本質を理解している。 ②生活のありようとレクリエーションの結びつきを理解した上で、医療・保健・福祉分野におけるレクリエーション支援の考え方、支援プロセスを理解している。 ③対象者に応じた支援の方法を理解している。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義概要を指定するので予習しておくこと。		
受講者への要望			
課題への取り組みや授業中での発言において、積極的な態度を期待します。			
講義の順序とポイント			
1．　オリエンテーション「レクリエーションって何？」＆コミュニケーションワーク 2．　レクリエーションの基礎的理解①レクリエーションの語源と定義 3．　レクリエーションの基礎的理解②レクリエーションの社会的意義 4．　レクリエーションの基礎的理解③～領域別レクリエーションの実際 5．　レクリエーションの基礎的理解④～レクリエーション運動の歴史と指導者養成制度 6．　レクリエーション支援の方法①～レクリエーション支援の考え方 7．　レクリエーション支援の方法②～健康づくりとレクリエーション 8．　レクリエーション支援の方法③～レクリエーション情報とその収集 9．　レクリエーション支援の方法④～セラピューティックレクリエーションモデルとは 10．レクリエーション支援の実際①～医療・保健・福祉領域におけるレクリエーション援助の目的と方法 11．レクリエーション支援の実際②～レクリエーション援助のプロセス 12．レクリエーション支援の実際③～レクリエーション援助の目標設定 13．レクリエーション支援の実際④～レクリエーション援助の計画づくり 14．レクリエーション支援の実際⑤～レクリエーションプログラム計画上の留意点 15．まとめ：医療・保健・福祉領域におけるレクリエーションインストラクターの役割		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90178001
科目名	健康運動レクリエーション実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Recreation and Leisure Sports		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	レクリエーション活動の指導において重要なことは、単にレクリエーション活動種目を指導することだけではなく、レクリエーション活動への参加を通じて、参加者同士の交流を促進し、健康で心豊かな生活を送る行動変容に結びつく支援を行うことにある。本実習では、学生自身がレクリエーション活動を体験するとともに、支援者にとって必要な基礎的な支援方法を学修し、参加者相互の交流に基づいた楽しさを伝達・指導する指導技術を修得する。		
教材（テキスト）	随時、必要資料として配布する		
教材（参考文献）	ニュースポーツベスト７　日本レクリエーション協会 インドアスポーツベスト７　日本レクリエーション協会 ミニスポーツベスト７　日本レクリエーション協会		
教材（その他）			
評価方法	・対象者に応じたレクリエーションプログラムの指導実技テスト（60%） ・対象者に応じたレクリエーションプログラムの計画作成（40%）		
到達目標	①レクリエーション指導の基礎的知識・技術を身につけている ②レクリエーションプログラムを計画し指導できる		
準備学習	・生涯スポーツ・レクリエーション指導者になるために必要な知識と技術の習得に意欲的であること		

受講者への要望

本授業を受講するにあたっての注意事項
・授業回数の５分の４以上が出席規定となる。出席用件を満たさなければ実技試験を受験できません。
・服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを必ず着用すること。忘れた場合は授業を受講できません。
・レクリエーション指導者資格取得に必要な科目となる。

講義の順序とポイント

１．　オリエンテーション：グループ分け、レクリエーション活動の指導上の注意
２．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際：アイスブレーキング（吉中）
３．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際：リズム体操①（吉中）
４．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際：リズム体操②（吉中）
５．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際：リズム体操③（吉中）
６．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際：身体ゲーム（吉中）
７．　ニュースポーツの実際：リードアップゲーム（三宅）
８．　ニュースポーツの実際：ターゲット型ニュースポーツ①（三宅）
９．　ニュースポーツの実際：ターゲット型ニュースポーツ②（三宅）
１０．　ニュースポーツの実際：対人型ニュースポーツ①（三宅）
１１．　ニュースポーツの実際：対人型ニュースポーツ②（三宅）
１２．　レクリエーション指導の実際①プログラム計画（三宅）
１３．　レクリエーション指導の実際②プログラム作成（三宅）
１４．　指導実習①指導の展開（三宅）
１５．　指導実習②指導の展開（三宅）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90179001
科目名	障がい者スポーツ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Adapted Sports		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	障害の概要を理解するとともに、障害に応じた健康スポーツ指導の留意点について学修する。特別支援教育に対応できるような、インクルーシブ体育のあり方を考察する。スポーツ基本法やスポーツ基本計画を踏まえて、すべての人がスポーツに参加できるよう、障害の種類や程度に応じた配慮を理論と実践を通して学ぶ。また、パラリンピック、障がい者スポーツ大会等についてその実情を知るとともに、障がい者スポーツの現状を理解し、ゲストスピーカーを招いて意義、理念、歴史、福祉、健康・体力など、障がい者スポーツの基礎的内容を学ぶ。		
教材（テキスト）	『障害者（アダプテッド）スポーツの世界』（門川学芸出版、2008 年）　藤田紀明		
教材（参考文献）	『障害者スポーツ指導教本』（ぎょうせい、2009 年）　（財）日本障害者スポーツ協会編 『障害者とスポーツ』（岩波新書、2004 年）　高橋明		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。 適宜プリントで資料を配付する。		
評価方法	レポート(４０%) 、定期試験(６０%)		
到達目標	１）障がい者スポーツについての概要を理解し基本的な知識を身につける。 ２）障がい者スポーツの理念，種目，ルール，歴史，組織等について理解する。 ３）障がい者に対して運動やスポーツの指導を行なうための基礎的な知識や留意点を理解する。		
準備学習	次時の内容を指示するので、授業までに予習をすること。毎時、復習をすると同時に考察を深めること。		

受講者への要望

障がい者の気持ちや生活を思う気持ちを持って誠実に学ぼうとし、既習事項を基に、知識をさらに深めようとする能動的な姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく，学生自身が考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。

講義の順序とポイント

１．障がい者スポーツの意義と理念及び歴史
２．障がいの理解とスポーツ（障がい者スポーツの種類の概要、障がい者スポーツの参加の効果、現状と課題）
３．障がい者福祉施策と障害者スポーツ１（障害者福祉施策の体系）
４．障がい者福祉施策と障害者スポーツ２（今後の動向と障害者スポーツとの関連）
５．障がい者のスポーツ指導における留意点１（身体障害①）
６．障がい者のスポーツ指導における留意点２（身体障害②事例研究）
７．障がい者のスポーツ指導における留意点３（知的障害①）
８．障がい者のスポーツ指導における留意点４（知的障害②事例研究）
９．障がい者のスポーツ指導における留意点５（精神障害①）
１０．日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度（ゲストスピーカー）
１１．全国障害者スポーツ大会の概要
１２．障がい者の生活と活動量
１３．障がい者の運動・スポーツへの参加と健常者の意識・啓発
１４．障がい者の運動プログラム作成の留意点
１５．障がい者の運動プログラム作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J90180001
科目名	障がい者スポーツレクリエーション実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Adapted Sports		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	障害のある人が行うスポーツやレクリエーションに関する知識と技能を、体験を通して学修する。車椅子バスケットをしている肢体不自由者をゲストスピーカーに招いて、体験談を聞いて、その心身や生活の変化、現状を知るとともに、車椅子バスケットを通してふれあいを体験する。障がい者が親しみやすいレクリエーションや、健常者との交流を意図したスポーツやレクリエーションの活動内容を考え、その効果について体験的に学修する。		
教材（テキスト）	『障害者スポーツ指導教本』（ぎょうせい）（財)日本障害者スポーツ協会編		
教材（参考文献）	『平成 25 年度版 全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付)』((財)日本障害者スポーツ協会）（財)日本障害者スポーツ協会		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業への積極的参加度（４０%)、レポート（３０%)、実技の習得度（３０%）		
到達目標	１）障がい者スポーツを体験し、障がいに応じた工夫について理解する ２）障がい者に対して、スポーツやリクリエーション活動を行うための基礎的な知識を身に付ける		
準備学習	次時の予習の内容を配付資料及びテキストで指示するので、授業までに読み、各障がいにおけるスポーツとレクリエーション活動を行う上での工夫についてまとめておくこと。 単元の区切りごとにレポートを課す。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
遅刻や私語を厳禁とする。欠席・遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。
実技・実習は、主に体育館で行う。運動にふさわしい服装（スポーツウェア、体育館ジューズ）を着用し、事前に各自でストレッチなど準備をしておくこと。すること。また、安全に活動できるよう、お互いに細心の配慮をすること。

講義の順序とポイント

１．　障がいの種別とスポーツ
２．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫１（視覚障がい者）
３．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫２（知的障がい者）
４．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫３（発達障がい者）
５．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫４（肢体不自由者）（障がい者とのふれあい体験）
６．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫５（重症心身障がい者）
７．　インクルーシブ体育・スポーツについて
８．　障がいに配慮した運動プログラム
９．　障がいに配慮したスポーツ、レクリエーション活動の計画
１０．　スポーツ・レクリエーション指導の実際１（知的障がい者）
１１．　スポーツ・レクリエーション指導の実際２（発達障がい者）
１２．　スポーツ・レクリエーション指導の実際３（肢体不自由者）
１３．　インクルーシブ体育・スポーツの実際
１４．　各障がいにおける指導の工夫について
１５．　障がい者スポーツの実際と課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J90181001
科目名	ストレングスコンディショニング実習 A	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Strength and Conditioning A		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本実習では、まず施設運営を機器の選定/配置などからスタッフ構成、安全管理などまで幅広く学修する。さらに、課題としてトレーニングルームや体育会クラブにおいて現場実習を行い、定期的に発表およびディスカッションを行う。また、アスリートのニーズ分析を通してレジスタンストレーニング、パワー、プライオメトリック、スピード/アジリティ、有酸素能力を計測するパフォーマンステストを学修する。パフォーマンスと密接に関連している可動域や動的/静的バランス能力の測定方法なども実技を通して修得する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』		
教材（その他）	必要な場合は資料を適宜配布する。		
評価方法	実技テスト(40%)、 レポート(40%)、*発表(20%) *ストレングス&コンディショニングルームを見学し、学んだことを基に発表を行う。		
到達目標	施設の管理運営能力からパフォーマンステストの実施、記録、それらを解釈する能力を育成する		
準備学習	『運動生理学』『バイオメカニクス』等の教科書を簡単に復習しておくこと。		
受講者への要望			
現場実習が含まれるので、時間厳守や服装等に気をつけてください。また各自積極的な授業参加を望みます。			
講義の順序とポイント			
1, 実習についてのイントロダクション 2,フリーウェイト機器の使用方法について説明 3,トレーニングマシンの使用方法についての説明 4,トレーニングルーム実習 1(S&C ルームの機器選定から配置について） 5,トレーニングルーム実習 2（S&C ルームの適切な人数配置や記録の管理など運営方法について） 6,トレーニングルーム実習 3　（S&C ルームの Emergency Action Plan について） 7,トレーニングルーム実習 4（S&C ルームの予算編成について） 8,中間発表　（実習に学んだことを中心に発表する） 9,トレーニングルーム実習 5（現場でのトレーニング指導：フリーウェイトを用いたトレーニング） 10,トレーニングルーム実習 6（現場でのトレーニング指導：マシンを用いたトレーニング） 11,トレーニングルーム実習 7（現場でのトレーニング指導：有酸素系マシンを用いたトレーニング） 12,トレーニングルーム実習 8（パフォーマンステストの実施方法：1RM の測定方法） 13,トレーニングルーム実習 9（身体組成、関節可動域などの測定方法） 14,トレーニングルーム実習１0（アスレチックリハビリテーションの実際） 15, 発表(実習で得たことをまとめる）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J90182001
科目名	ストレングスコンディショニング実習 B	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Strength and Conditioning B		
担当者名	渡邊　裕也	旧科目名称	
講義概要	本実習は、主に現場見学が主な目的だったストレングスコンディショニング実習 A から発展したより実践的な実習を目的としている。具体的な課題としては、まず無酸素系、有酸素系パフォーマンステスト結果の適切な解釈方法を身につける。さらにそれらパフォーマンステストの結果に基づき、超回復などの短期的視点、またはインシーズンやオフシーズンを考慮した長期的視点からトレーニング計画を立てる能力を育成する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』		
教材（その他）	必要な場合は資料を適宜配布する。		
評価方法	実技テスト(40%)、 レポート(40%)、＊発表(20%) *ストレングス&コンディショニングルームを見学し、学んだことを基に発表を行う		
到達目標	トレーニングに必要なテクニック、知識を身につけ長期的、短期的に効果的なトレーニングプログラムの作成能力を習得する		
準備学習	『運動生理学』『バイオメカニクス』等の教科書を簡単に復習しておくこと。		

受講者への要望

現場実習が含まれるので、時間厳守や服装等に気をつけてください。また各自積極的な授業参加を望みます。

講義の順序とポイント

1, 実習についてのイントロダクション
2, スポーツ競技に合わせたパフォーマンステストの選択と測定方法を学ぶ
3,無酸素系パフォーマンステストの測定結果の解釈について
4, 有酸素系パフォーマンステストの測定結果の解釈について
5, トレーニングルーム実習 1(現場で実際に無酸素系パフォーマンステストを測定[パワーリフティング中心])
6, トレーニングルーム実習 2 (現場で実際に無酸素系パフォーマンステストを測定[オリンピックリフティング中心])
7, トレーニングルーム実習 3 (現場で実際に有酸素系パフォーマンステストを測定[VO2max, Conconi test など])
8, 中間発表　（実習に学んだことを中心に発表する）
9,トレーニングルーム実習 4(現場で実際に無酸素系トレーニングの短期的なプログラムを作成する[パワーリフティング中心])
10, トレーニングルーム実習 5(現場で実際に無酸素系トレーニングの短期的なプログラムを作成する[オリンピックリフティン中心])
11, トレーニングルーム実習 6(現場で実際に有酸素系トレーニングの短期的なプログラムを作成する)"
12, トレーニングルーム実習 7（ピリオダイゼーションに基づいた長期的な無酸素系トレーニングプログラムを作成する[パワーリフティング中心])
13,トレーニングルーム実習 8（ピリオダイゼーションに基づいた長期的な無酸素系トレーニングプログラムを作成する[オリンピックリフティング中心])
14, トレーニングルーム実習 9（ピリオダイゼーションに基づいた長期的な無酸素系トレーニングプログラムを作成する）
15, 発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90183001
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ科学コースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1． 個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) 2． 全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1． ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2． グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3． 健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4． 活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講者への要望
実施見学など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。
講義の順序とポイント
1．健康スポーツ科学コースの学修内容 2．専門領域の資格について調べる 3．専門領域の職業について調べる 4．スポーツ大会の運営（1） 5．スポーツ大会の運営（2） 6．中高齢者体力測定の事前学習（1） 7．中高齢者体力測定の事前学習（2） 8．中高齢者体力測定の体験学習（1） 9．中高齢者体力測定の体験学習（2） 10．中高齢者体力測定の事後学習（1） 11．中高齢者体力測定の事後学習（2） 12．運動指導現場観察実習事前学習 13．運動指導現場観察実習体験学習（1） 14．運動指導現場観察実習体験学習（2） 15．運動指導現場観察実習事後学習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J90183002
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) 2．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		
受講者への要望			
観察実習見学においてはその場にふさわしい身なり、服装、姿勢等の礼節態度で臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1．コースガイダンスとSPI 2．健康・スポーツマネジメント系の専門職や資格について知る（1）【サービス職】 3．健康・スポーツマネジメント系の専門職や資格について知る（2）【マネジメント職】 4．スポーツ大会の運営（1）【イベント企画：プログラム実行内容・役割分担】 5．スポーツ大会の運営（2）【イベント企画：実行進行・事前備品準備確認等】 6．健康・スポーツマネジメント実践現場の理解について【サービス職の実践理解】 7．健康・スポーツマネジメント実践現場の理解について【マネジメント職の実践理解】 8．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（1） 9．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（2） １１．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（3） １２．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（4） １３．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（5） １４．健康・スポーツマネジメント実践総括（1）【ディスカッション】 １５．健康・スポーツマネジメント実践総括（2）【プレゼンテーション】			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90183003
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) 2．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講者への要望

授業参観など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。

講義の順序とポイント

健康・スポーツ 教育コース 授業の順序とポイント

1．コースガイダンスと SPI
2．授業参観事前指導：保健体育科教育の授業観察の視点と観察記録の取り方について
3．授業参観事前指導：教育現場への訪問、授業参観の心構えや留意点について
4．スポーツ大会の運営（1）
5．スポーツ大会の運営（2）
6．教育現場観察実習：高等学校の授業参観（1）
7．教育現場観察実習：高等学校の授業参観（2）
8．授業参観事後指導：教育現場観察実習で気づいたことや疑問点を報告し論議する。
9．授業参観事後指導：参観授業について、レポートにまとめる。
10．教育現場観察実習：小学校の授業参観（1）
11．教育現場観察実習：小学校の授業参観（2）
12．授業参観事後指導：教育現場観察実習で気づいたことや疑問点を報告し論議する。
13．授業参観事後指導：参観授業について、レポートにまとめる。
14．教育現場観察実習の事後学習
15．教職という職業観や身に付けるべき資質についての意見交換会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2017	授業コード	J90184001
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ科学コースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAでの学びをもとにさらに各コースの具体的な体験を通してより深く学修する。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜指示する。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 １．　個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) ２．　全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．　ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 ２．　グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 ３．　健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 ４．　活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		
受講者への要望			
実施見学など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
１．健康スポーツ科学コースの学修内容 ２．健康運動指導の理論（１） ３．健康運動指導実技実習（１） ４．健康運動指導の理論（２） ５．健康運動指導実技実習（２） ６．健康運動指導の理論（３） ７．健康運動指導実技実習（３） ８．健康運動指導の理論（４） ９．健康運動指導実技実習（４） １０．健康運動指導の理論（５） １１．健康運動指導実技実習（５） １２．運動指導現場観察実習事前学習 １３．運動指導現場観察実習体験学習（１） １４．運動指導現場観察実習体験学習（２） １５．運動指導現場観察実習事後学習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J90184002
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAでの学びをもとにさらに各コースの具体的な体験を通してより深く学修する。目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) 2．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルール遵守で、インターネットや文献検索を活用し、資資収集する。 2．グループワークで、目的意識で建設的な議論ができ、活動に積極的参加。 3．健康スポーツの専門指導者を目指す学生として、知的な態度、姿勢、マナーを体得。 4．活動の中で、必要な課題発見によるレポート作成及びプレゼンができる。 5．目指す専門領域の職業について理解し、自分の目標を持つ。		
準備学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。特に普段から国内外健康・スポーツ関連の自治体、団体、企業等のマネジメント情報を積極的に把握しておくこと。		
受講者への要望			
知的思考できる受講態度で臨むこと。			
講義の順序とポイント			
健康・スポーツマネジメントコース講義の順序とポイント 1．健康・スポーツマネジメントコースの学修内容 2．マネジメントの仕組みと仕掛けの理解 3．健康医療戦略とスポーツ立国戦略からのマーケティング（健康延伸とスポーツ活力の期待） 4．スポーツイベントの企画と行動実践（健康スポーツ学科生共催） 5．スポーツマネジメントの実践理解１（健康ビジネス産業事例） 6．スポーツマネジメントの実践理解２（スポーツ製造・物販業事例） 7．スポーツマネジメントの実践理解３（スポーツイベント・組織運営事例） 8．スポーツマネジメントの実践理解４（スポーツ公共事業事例[地域活性]） 9．スポーツマネジメントの知識創造計画１（健康ビジネス産業モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １0．スポーツマネジメントの知識創造計画２（スポーツ製造・販売業モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １1．スポーツマネジメントの知識創造計画３（スポーツイベント・組織運営モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １2．スポーツマネジメントの知識創造計画４（スポーツ公共事業モデル[地域活性]：ﾚﾎﾟｰﾄ） １3．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション１（サービス業） １4．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション２（物販流通業） １5．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション３（イベント事業・人材育成事業）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90184003
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAの学修の内容をより深める。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．　個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) 2．　全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．活動の中で、必要な課題を見つけ自分の目標をもち、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
準備学習	保健体育科教育法の学修内容を理解しておくこと。日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講者への要望

実施見学、子どもへの対応など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。

講義の順序とポイント

1．健康・スポーツ教育コースの学修内容について
2．SPI 模擬試験
3．各種学校の特徴と保健体育科教育の授業観察の視点と観察記録の取り方、留意点。
4．教育現場観察実習：中学校の授業参観（1）
5．教育現場観察実習：中学校の授業参観（2）
6．教育現場観察実習：特別支援学校の授業参観（1）
7．教育現場観察実習：特別支援学校の授業参観（2）
8．授業参観での気付きとまとめ（ディスカッション）
9．スポーツサイエンスプログラムの企画
10．スポーツサイエンスプログラムの各コーナーの立案
11．スポーツサイエンスプログラムの準備
12．スポーツサイエンスプログラムの運営
13．実践プロジェクトの総括（ポスター作り）（1）
14．実践プロジェクトの総括（ポスター作り）（2）
15．実践プロジェクト総括（ディスカッション）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	★	−

年度	2017	授業コード	J90185001
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	本講座では、進学および就職活動の準備を行う。健康・スポーツビジネスの専門職として、所持する各種資格に沿った業務内容を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導を受け、模擬的な形式での練習を行う。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	①自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ②自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事を整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

１．スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
２．就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
３．自分探し：過去の自分を振り返る
４．自分史１：自分の歴史を整理する
５．自分史２：自分の歴史を整理する
６．自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
７．自己分析シート下書き
８．自己分析シート清書
９．自己分析シートの完成と提出
１０．就職サイトの活用方法
１１．自己ＰＲ文（１）の作成
１２．自己ＰＲ文（１）の完成
１３．自己ＰＲ文（２）の作成
１４．自己ＰＲ文（２）の完成
１５．自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90185002
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	本講座では、進学および就職活動の準備を行う。健康・スポーツビジネスの専門職として、所持する各種資格に沿った業務内容を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導を受け、模擬的な形式での練習を行う。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	①自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ②自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事を整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

１．スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
２．就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
３．自分探し：過去の自分を振り返る
４．自分史１：自分の歴史を整理する
５．自分史２：自分の歴史を整理する
６．自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
７．自己分析シート下書き
８．自己分析シート清書
９．自己分析シートの完成と提出
１０．就職サイトの活用方法
１１．自己ＰＲ文（１）の作成
１２．自己ＰＲ文（１）の完成
１３．自己ＰＲ文（２）の作成
１４．自己ＰＲ文（２）の完成
１５．自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90185003
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	本講座では、進学および就職活動の準備を行う。健康・スポーツビジネスの専門職として、所持する各種資格に沿った業務内容を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導を受け、模擬的な形式での練習を行う。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	①自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ②自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事を整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

１．スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
２．就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
３．自分探し：過去の自分を振り返る
４．自分史１：自分の歴史を整理する
５．自分史２：自分の歴史を整理する
６．自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
７．自己分析シート下書き
８．自己分析シート清書
９．自己分析シートの完成と提出
１０．就職サイトの活用方法
１１．自己ＰＲ文（１）の作成
１２．自己ＰＲ文（１）の完成
１３．自己ＰＲ文（２）の作成
１４．自己ＰＲ文（２）の完成
１５．自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90186001
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	本講座では、健康・スポーツビジネスの専門職として、面接、グループディスカッションの対策、企業選択等を実践する。所持する各種資格に沿った企業先を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導し、模擬練習をする。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

１．自己 PR の口頭発表
２．業界研究
３．仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
４．仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
５．仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
６．仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
７．就職活動の実例：経験者の話しを聞く
８．履歴書を書く
９．エントリーシートを書く（1）
１０．エントリーシートを書く（2）
１１．エントリーシートを書く（3）
１２．エントリーシートを書く（4）
１３．実践練習：エントリーシートの内容を話す
１４．実践練習：面接の要領・グループ面接
１５．就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J90186002
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	本講座では、健康・スポーツビジネスの専門職として、面接、グループディスカッションの対策、企業選択等を実践する。所持する各種資格に沿った企業先を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導し、模擬練習をする。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

１．自己 PR の口頭発表
２．業界研究
３．仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
４．仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
５．仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
６．仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
７．就職活動の実例：経験者の話しを聞く
８．履歴書を書く
９．エントリーシートを書く（1）
１０．エントリーシートを書く（2）
１１．エントリーシートを書く（3）
１２．エントリーシートを書く（4）
１３．実践練習：エントリーシートの内容を話す
１４．実践練習：面接の要領・グループ面接
１５．就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J90186003
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	本講座では、健康・スポーツビジネスの専門職として、面接、グループディスカッションの対策、企業選択等を実践する。所持する各種資格に沿った企業先を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導し、模擬練習をする。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（テキスト）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考文献）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教材（その他）	必要に応じて資料を配布する。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
準備学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事をを整理しておく。		

受講者への要望

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

講義の順序とポイント

１．自己 PR の口頭発表
２．業界研究
３．仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
４．仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
５．仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
６．仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
７．就職活動の実例：経験者の話しを聞く
８．履歴書を書く
９．エントリーシートを書く（1）
１０．エントリーシートを書く（2）
１１．エントリーシートを書く（3）
１２．エントリーシートを書く（4）
１３．実践練習：エントリーシートの内容を話す
１４．実践練習：面接の要領・グループ面接
１５．就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J90187001
科目名	水泳	単位数	1
科目名（英語表記）	Swimming		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	本演習では、①基本４泳法の泳力向上と指導方法の修得、②カヌー・ヨット・スキンダイビング等海洋スポーツの基礎技術の修得、③野外活動の実践と安全で効果的な管理運営の理論と実践能力の修得を通して、水泳系運動プログラムの基礎的実践能力と初心者指導法の修得、および野外活動・自然体験活動指導におけるリーダーシップの育成と管理運営の理論的理解について学ぶ。人と人、人と自然の触れ合う機会が減少している現在、子どもたちの健全で健やかなこころとからだの発達に欠かせない身体活動と集団生活について、リーダーとして運営できる能力と資質を獲得する。本授業は、プールと海での集中授業として実施する。		
教材（テキスト）	実習全体の要綱を配布する。また、講義・実習内容に応じて、適時資料を配布する。		
教材（参考文献）	『水泳の指導法がわかる本』（小学館）　不破央 著 『ＤＶＤ完全レッスン！水泳４泳法』（日本文芸社）　奥野景介 著 『海洋スポーツ指導者ハンドブック』（西文社） 『健康運度指導士養成講習会テキスト　上・下』（健康・体力づくり財団）		
教材（その他）	・水着やスイミングキャップ、サンダル、タオルなど水泳系運動実習に必要な物は各自で準備すること。 ・その他、プログラム実習に必要な用具・備品は大学で用意する。		
評価方法	実技評価（50%）、水泳・海洋・野外活動の学びに関するレポート（30%）、受講平常点（20%）		
到達目標	平泳ぎ・クロールを中心とする基本４泳法の泳力と指導能力、遠泳と海洋スポーツプログラムの実践力、および野外活動で集団の一員として活動できる社会性とコミュニケーション能力を持ち合わせ、指導者としての資質を高めることを目標とする。		
準備学習	プールと海での実習なので、基本的には泳げることが望ましい。水泳の経験の少ない者は、事前に練習しておくこと。水泳は体力的にもハードな上、水上・水中という特殊環境での運動なので、安全について十分な意識を持つとともに、事前の練習を行い、身体能力を高めておくことが望ましい。		

受講者への要望

本授業は、合宿を含む期間の長い集中授業であるとともに、日常生活から自然・社会環境が変わる中での実習である。また受講生が多く、安全への配慮と集団生活における社会性が求められる。しっかりとした自己管理能力を持ち、体調を整え、自己中心でなく利他的視点を持って言動を考えるとともに、この経験を通して社会性とコミュニケーション能力を獲得できるよう臨んでほしい。

講義の順序とポイント

１．　講義１：水泳系運動の運動学的・生理学的特長
２．　講義２：野外・自然活動プログラムの組織マネジメントとリスクマネジメント

３．　講義３：水泳運動の安全と救急法
４．　プール実習１：実習全体のガイダンス：泳力別グループ編成、4 泳法指導、200m 泳
５．　プール実習２：クロール、平泳ぎの基本練習、400m 泳
６．　プール実習３：背泳ぎ、バタフライ泳法の基本練習、600m 泳
７．　プール実習４：潜水、立ち泳ぎ指導、800m 泳、水中ウオーキング指導
８．　プール実習５：シュノーケリングの基本練習、1000m 泳
９．　プール実習６：泳力検査、水中ウオーキングの指導
１０．　海実習１：カヤック操法指導、小遠泳、講義「ヨットと風の理論」

１１．　海実習２：大遠泳
１２．　海実習３：ヨット操船指導
１３．　海実習４：カヌー操船指導、磯実習、キャンプファイアー
１４．　海実習５：カッター操船指導とツーリング
１５．　総括：レポートの作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90188001
科目名	体つくり運動	単位数	1
科目名（英語表記）	General Gymnastics		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	体つくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、学校の教育活動や実生活で生かすことができ、生涯にわたって運動を継続できるよう、「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」について、その意義や体の構造との関連、運動の原則などの知識を獲得し、それらの知識の活用や応用にまで発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考文献）	『学校体育実技指導資料第７集「体つくり運動」（改訂版）』（文部科学省） 『中学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省）		
教材（その他）			
評価方法	・実技試験（90％） ・授業態度（10％）		
到達目標	「体つくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動・遊び」「体力を高める運動」に関して、その意義と運動方法を理解する。次にそれらを応用し「体つくり運動」の指導展開ができるようになる。		
準備学習	遊びから体力を高める運動まで、身体の使った運動の多様性について理解しておくことが望ましい。教員の資格取得を目指す人は必修となる科目である。		

受講者への要望

本授業を受講するにあたっての注意事項
・授業回数の５分の４以上が出席規定となる。出席用件を満たさなければ実技試験を受験できません。
・服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを必ず着用すること。忘れた場合は授業を受講できません。
・本授業は遊びから体力を高める運動まで多種多様な身体の動きを学ぶため、自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション・グループ分け
２．多様な動きをつくる運動（遊び）１（バランスや筋力を使う遊びや運動）（三宅）
３．多様な動きをつくる運動（遊び）２（仲間やグループで協力・協働する遊びや運動）（三宅）
４．多様な動きをつくる運動（遊び）３（用具を使った遊びや運動）（三宅）
５．多様な動きをつくる運動（遊び）４（伝承あそびによる運動）（三宅）
６．体ほぐしの運動１（心と体への気づき）（満石）
７．体ほぐしの運動２（体の調子を整える運動）（満石）
８．体ほぐしの運動３（リズムに合わせて動く）（満石）
９．体力を高める運動１（バランス力を高める運動）（谷口）
１０．体力を高める運動２（筋力を高める運動）（谷口）
１１．体力を高める運動３（巧みな動きを高める運動）（谷口）
１２．体力を高める運動４（柔軟性を高める運動）（谷口）
１３．実技課題の提示（谷口、三宅、満石）
１４．実技テスト（谷口、三宅、満石）
１５．実技テスト（谷口、三宅、満石）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90188002
科目名	体つくり運動	単位数	1
科目名（英語表記）	General Gymnastics		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	体つくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、学校の教育活動や実生活で生かすことができ、生涯にわたって運動を継続できるよう、「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」について、その意義や体の構造との関連、運動の原則などの知識を獲得し、それらの知識の活用や応用にまで発展させる。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考文献）	『学校体育実技指導資料第７集「体つくり運動」（改訂版）』（文部科学省） 『中学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省）		
教材（その他）			
評価方法	・実技試験（90％） ・授業態度（10％）		
到達目標	「体つくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動・遊び」「体力を高める運動」に関して、その意義と運動方法を理解する。次にそれらを応用し「体つくり運動」の指導展開ができるようになる。		
準備学習	遊びから体力を高める運動まで、身体の使った運動の多様性について理解しておくことが望ましい。教員の資格取得を目指す人は必修となる科目である。		

受講者への要望

本授業を受講するにあたっての注意事項
・授業回数の５分の４以上が出席規定となる。出席用件を満たさなければ実技試験を受験できません。
・服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを必ず着用すること。忘れた場合は授業を受講できません。
・本授業は遊びから体力を高める運動まで多種多様な身体の動きを学ぶため、自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション・グループ分け
２．多様な動きをつくる運動（遊び）１（バランスや筋力を使う遊びや運動）（三宅）
３．多様な動きをつくる運動（遊び）２（仲間やグループで協力・協働する遊びや運動）（三宅）
４．多様な動きをつくる運動（遊び）３（用具を使った遊びや運動）（三宅）
５．多様な動きをつくる運動（遊び）４（伝承あそびによる運動）（三宅）
６．体ほぐしの運動１（心と体への気づき）（満石）
７．体ほぐしの運動２（体の調子を整える運動）（満石）
８．体ほぐしの運動３（リズムに合わせて動く）（満石）
９．体力を高める運動１（バランス力を高める運動）（谷口）
１０．体力を高める運動２（筋力を高める運動）（谷口）
１１．体力を高める運動３（巧みな動きを高める運動）（谷口）
１２．体力を高める運動４（柔軟性を高める運動）（谷口）
１３．実技課題の提示（谷口、三宅、満石）
１４．実技テスト（谷口、三宅、満石）
１５．実技テスト（谷口、三宅、満石）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90189001
科目名	陸上競技	単位数	1
科目名（英語表記）	Track and Field		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ指導者・保健体育教職者・健康運動実践指導者・障がい者スポーツ指導員向けの教授方法について実践的に学修する。生涯に亘っての健康生活実践と体育教育に必要な歩く・走る・跳ぶ・投げるの基本動作とその指導方法について修得させる。分習法から全習法へと連結した技能修得と教授方法を修得させる。各専門的指導者にとって陸上運動の個々の指導留意点や指導時の指摘や模範動作の意識ポイントについても各々動作事例を示しながら実践展開する。陸上運動の個別指導とグループ指導のノウハウについても教授し、指導実践環境を想定した授業展開を図り、指導計画案づくりから模擬授業迄の実践的授業展開とする。		
教材（テキスト）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 基礎から身につく陸上競技[初級編]』(大修館書店) 日本陸連 編 2,052円		
教材（参考文献）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 レベルアップの陸上競技[上級編]』(大修館書店)　日本陸連 編 2,052円		
教材（その他）			
評価方法	１．歩・走・跳・投運動の基礎的技術の習得評価（実技評価７０％） ２．陸上運動指導計画及び指導案作成評価（レポート２０％） ３．受講時の積極的態度・自立的行動評価（授業態度１０％）		
到達目標	１．健常者及び障がい者向けの歩・走・跳・投の基礎技術と指導方法を体得する。 ２．健康ウォーキング・ジョギングの実際と運動処方の基本を理解する。 ３．陸上運動指導上の安全管理の実践的理解をする。 ４．陸上運動指導の対象別指導計画及び指導案の作成		
準備学習	受講に際して陸上競技のルールと陸上運動の特性を事前準備学習を要する。		

受講者への要望

受講に際し、服装はトレーニングウエア、靴はジョギングシューズを着用し、受講の事。

講義の順序とポイント

１．健康ウォーキングの実際と指導方法

ウォーキング実践

ａ）他人にとらわれず、各人の好みの速さで歩き、個人差があらわれることを確かめさせる。

ｂ）性・年齢・体力の違いによって歩行速度が異なることを理解させる。

ｃ）歩行の基本的な姿勢、歩幅と歩数と速さの関係を理解させる。

ｄ）３分間以上同一の速さで歩き、終了直後約１０秒以内に心拍数を数えさせる方法を修得。

ｅ）５速度（楽な速さ、やや速く、もう少し速く、あるいは隣の人と話ができるが速いスピードとその前後の速さ）の実習を行い、ウォーキングの速さと心拍数の関係を理解させる。

ｆ）異なった速さの歩行間には完全休息を置き、ウォーキング運動の特徴・効果を理解させる。

ｇ）ウォーキングと安全に関する留意点を理解させる。

ｈ）頸、肩、腰、膝、足に負担の少ない基本的なウォーキングフォームを習得させる。

２．健康ジョギングの実際と指導方法

・関節負担の少ない基本的走フォームを修得。

・異種速度ジョギングを３分行い、終了後 10 秒心拍計測し、指導。

・異種速度でのジョギングにおいて様々な条件による生体反応の個人差を実践的に修得。

・個人に適した作成プログラムを実践し、消費カロリーの推定を実践学習する。

３．全習法的に班別ウォーキング１５分歩行を実施し、班別指導の歩型動作、ペース配分、脈拍チェック評価の指導の仕方を学習する。

4.全習法的に班別ジョギング１５分歩行を実施し、班別指導の歩型動作、ペース配分、脈拍チェック評価の指導の仕方を学習する。

５．短距離走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

６．短距離走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

７．ハードル走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

８．ハードル走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

９．走り幅跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・走り幅跳びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１０．走り高跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・走り高飛びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１１．投擲競技の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・円盤投げ
・ 砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１２．投擲競技の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・円盤投げ
・砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１３．陸上競技の競技規則の理解と安全管理
１４．障がい者の為の陸上競技の競技規則と選手団コーチの知識・技能の理解
１５．学校教育指導（中・高）における陸上運動の指導計画立案と指導案作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J90189002
科目名	陸上競技	単位数	1
科目名（英語表記）	Track and Field		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ指導者・保健体育教職者・健康運動実践指導者・障がい者スポーツ指導員向けの教授方法について実践的に学修する。生涯に亘っての健康生活実践と体育教育に必要な歩く・走る・跳ぶ・投げるの基本動作とその指導方法について修得させる。分習法から全習法へと連結した技能修得と教授方法を修得させる。各専門的指導者にとって陸上運動の個々の指導留意点や指導時の指摘や模範動作の意識ポイントについても各々動作事例を示しながら実践展開する。陸上運動の個別指導とグループ指導のノウハウについても教授し、指導実践環境を想定した授業展開を図り、指導計画案づくりから模擬授業迄の実践的授業展開とする。		
教材（テキスト）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 基礎から身につく陸上競技[初級編]』(大修館書店) 日本陸連 編 2,052円		
教材（参考文献）	『陸上競技指導教本アンダー16･19 レベルアップの陸上競技[上級編]』(大修館書店)　日本陸連 編 2,052円		
教材（その他）			
評価方法	１．歩・走・跳・投運動の基礎的技術の習得評価（実技評価７０％） ２．陸上運動指導計画及び指導案作成評価（レポート２０％） ３．受講時の積極的態度・自立的行動評価（授業態度１０％）		
到達目標	１．健常者及び障がい者向けの歩・走・跳・投の基礎技術と指導方法を体得する。 ２．健康ウォーキング・ジョギングの実際と運動処方の基本を理解する。 ３．陸上運動指導上の安全管理の実践的理解をする。 ４．陸上運動指導の対象別指導計画及び指導案の作成		
準備学習	受講に際して陸上競技のルールと陸上運動の特性を事前準備学習を要する。		

受講者への要望

受講に際し、服装はトレーニングウエア、靴はジョギングシューズを着用し、受講の事。

講義の順序とポイント

１．健康ウォーキングの実際と指導方法

ウォーキング実践

ａ）他人にとらわれず、各人の好みの速さで歩き、個人差があらわれることを確かめさせる。

ｂ）性・年齢・体力の違いによって歩行速度が異なることを理解させる。

ｃ）歩行の基本的な姿勢、歩幅と歩数と速さの関係を理解させる。

ｄ）３分間以上同一の速さで歩き、終了直後約１０秒以内に心拍数を数えさせる方法を修得。

ｅ）５速度（楽な速さ、やや速く、もう少し速く、あるいは隣の人と話ができるが速いスピードとその前後の速さ）の実習を行い、ウォーキングの速さと心拍数の関係を理解させる。

ｆ）異なった速さの歩行間には完全休息を置き、ウォーキング運動の特徴・効果を理解させる。

ｇ）ウォーキングと安全に関する留意点を理解させる。

ｈ）頸、肩、腰、膝、足に負担の少ない基本的なウォーキングフォームを習得させる。

２．健康ジョギングの実際と指導方法

・関節負担の少ない基本的走フォームを修得。

・異種速度ジョギングを３分行い、終了後 10 秒心拍計測し、指導。

・異種速度でのジョギングにおいて様々な条件による生体反応の個人差を実践的に修得。

・個人に適した作成プログラムを実践し、消費カロリーの推定を実践学習する。

３．全習法的に班別ウォーキング１５分歩行を実施し、班別指導の歩型動作、ペース配分、脈拍チェック評価の指導の仕方を学習する。

4.全習法的に班別ジョギング１５分歩行を実施し、班別指導の歩型動作、ペース配分、脈拍チェック評価の指導の仕方を学習する。

５．短距離走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

６．短距離走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む

７．ハードル走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）

８．ハードル走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）

９．走り幅跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・走り幅跳びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１０．走り高跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・走り高飛びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１１．投擲競技の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・円盤投げ
・ 砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１２．投擲競技の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・円盤投げ
・砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１３．陸上競技の競技規則の理解と安全管理
１４．障がい者の為の陸上競技の競技規則と選手団コーチの知識・技能の理解
１５．学校教育指導（中・高）における陸上運動の指導計画立案と指導案作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	J90190001
科目名	ダンス	単位数	1
科目名（英語表記）	Dance		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	芸術の１つであるダンスは、音楽を通し各自の感性を身体表現に結びつけることを基本としている。現在、多種多様なダンスがあげられるが、本授業では、個人の感情や考えを身体運動によって表現する創作ダンス、各国・各地に伝わる民族舞踊であるフォークダンス、運酸素運動の１つであるエアロビックダンスについて、特性、効果を理解し、楽しく安全に運動できるようになることを目的とし、学習を進めます。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小澤治夫　　『最新　フィットネス基礎理論』（社）日本エアロビックフィットネス協会 沢井史穂ら　『新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導』（社）日本エアロビックフィットネス協会		
教材（その他）	なし		
評価方法	創作過程への参加度　50%、パフォーマンステスト　30%、学習内容の理解度　20%。		
到達目標	ダンスを指導するために必要な知識を習得するとともに実技能力を高める。また、指導法を学び、実技指導能力を高める。		
準備学習	平成 24 年度より全面実施となった学習指導要領において、ダンスが必修化された。多くの学校で実践されている「現代的なリズムのダンス」、特にヒップホップダンスなども体験しよう。表現力やコミュニケーションの能力を高めるために、「踊る」「創る」「観る」という活動を行うダンスの教育的役割は大きい。まずはダンスとは何かを予習しておくこと。ダンスの特性，　踊りの由来と表現の仕方，　関連して高まる体力などを理解し，　課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるように積極的に取り組むこと。		

受講者への要望

ダンスの授業は実技の前に講義を行うため、筆記用具を持参のこと。

講義の順序とポイント

１．舞踊（ダンス）の特性（ビデオ鑑賞）
２．ダンスの導入とリズム系ダンス(1)体ほぐしのいろいろ
３　エアロビックダンス初級
４　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
５　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
６　中高年者のためのリズミックダンス
７．いろいろなテーマからの即興表現(1)音楽から
８．いろいろなテーマからの即興表現(2)ものから
９．いろいろなテーマからの即興表現(3)コンタクト・インプロビゼーション
１０．発表とまとめ
１１．イメージから動きの発見(1)
１２．イメージから動きの発見(2)
１３．発表とまとめ
１４．フォークダンスと指導法
１５．レクリエーションダンスと指導法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J90190002
科目名	ダンス	単位数	1
科目名（英語表記）	Dance		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	芸術の１つであるダンスは、音楽を通し各自の感性を身体表現に結びつけることを基本としている。現在、多種多様なダンスがあげられるが、本授業では、個人の感情や考えを身体運動によって表現する創作ダンス、各国・各地に伝わる民族舞踊であるフォークダンス、運酸素運動の１つであるエアロビックダンスについて、特性、効果を理解し、楽しく安全に運動できるようになることを目的とし、学習を進めます。		
教材（テキスト）	必要時にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小澤治夫　　『最新　フィットネス基礎理論』（社）日本エアロビックフィットネス協会 沢井史穂ら　『新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導』（社）日本エアロビックフィットネス協会		
教材（その他）	なし		
評価方法	創作過程への参加度　50%、パフォーマンステスト　30%、学習内容の理解度　20%。		
到達目標	ダンスを指導するために必要な知識を習得するとともに実技能力を高める。また、指導法を学び、実技指導能力を高める。		
準備学習	平成 24 年度より全面実施となった学習指導要領において、ダンスが必修化された。多くの学校で実践されている「現代的なリズムのダンス」、特にヒップホップダンスなども体験しよう。表現力やコミュニケーションの能力を高めるために、「踊る」「創る」「観る」という活動を行うダンスの教育的役割は大きい。まずはダンスとは何かを予習しておくこと。ダンスの特性，　踊りの由来と表現の仕方，　関連して高まる体力などを理解し，　課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるように積極的に取り組むこと。		

受講者への要望

ダンスの授業は実技の前に講義を行うため、筆記用具を持参のこと。

講義の順序とポイント

１．舞踊（ダンス）の特性（ビデオ鑑賞）
２．ダンスの導入とリズム系ダンス(1)体ほぐしのいろいろ
３　エアロビックダンス初級
４　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
５　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
６　中高年者のためのリズミックダンス
７．いろいろなテーマからの即興表現(1)音楽から
８．いろいろなテーマからの即興表現(2)ものから
９．いろいろなテーマからの即興表現(3)コンタクト・インプロビゼーション
１０．発表とまとめ
１１．イメージから動きの発見(1)
１２．イメージから動きの発見(2)
１３．発表とまとめ
１４．フォークダンスと指導法
１５．レクリエーションダンスと指導法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	J90191001
科目名	器械運動	単位数	1
科目名（英語表記）	Gymnastics		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	本演習では、中高等学校の授業で実際に指導されている器械運動のマット運動、跳び箱運動、鉄棒運動を自身の身体を通して体験し、技能を修得する事によって、技の構造やつまずき、さらには安全に実施するための配慮等を学ぶことを目標とする。さらに、様々な指導法や幇助法、学修の場の工夫や授業展開の方法を学ぶことで、指導者としての実践的力量を高めることを目指す。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考文献）	『教師のための器械運動指導法シリーズ』（マット運動、とび箱・平均台運動、鉄棒運動）（大修館書店）金子 明友著		
教材（その他）			
評価方法	授業への取り組み姿勢（30 点）、実技テスト（60 点）、レポート（10 点）の合計で評価する。		
到達目標	学校体育で行われているマット運動や跳び箱運動、鉄棒運動の代表的な技が出来るようになり、指導法や補助法を身に付けることが出来る。自己の運動や補助している相手の動感を捉えたり、言葉や図でその動感を表現し、伝えることが出来るようになることを目指す。		
準備学習	今までに体験した器械運動の授業で、色々な技がどうやって出来るようになったのか、なぜ出来なかったのかを思い出してください。また、出来る技についても、「私はどんな感じで動いていたのか」を思い浮かべてく ださい。このような認識を確認することが、運動指導や本授業時の教え合いに必要な能力につながります。		

受講者への要望
スポーツ運動においては、「怖い」と感じることによって上手くいかないということが多くあります。この授業では、器械運動の技の習得を通して、その「怖い」に対して、どうやって克服していくのかを学び、運動学習というものを深く考えられる場になると思 います。器械運動に対して苦手意識を持っている人ほど積極的に参加してください。腕時計や装身具等は外し、長髪の人は髪を縛って、運動の妨げや補助者の妨害にならないよう準備してください。
講義の順序とポイント
１．マット運動　逆位について（倒立とそのバリエーション） ２．マット運動　前転とその発展技の練習方法について ３．マット運動　後転とその発展技の練習方法について ４．マット運動　側方倒立回転と前方倒立回転跳びの練習方法について ５．マット運動　技の組み合わせと巧技系の運動の練習方法について ６．マット運動　実技テスト　と　集団マット ７．跳び箱運動　切り返し系の技の練習方法について ８．跳び箱運動　切り返し系の技のバリエーション ９．跳び箱運動　回転系の技の練習方法について １０．跳び箱運動　回転系の技のバリエーション １１．跳び箱運動　実技テスト １２．鉄棒運動　鉄棒に親しむこと（鉄棒遊びのバリエーション） １３．鉄棒運動　前方支持回転と後方支持回転の練習方法について １４．鉄棒運動　足かけ回転技と足かけ上がりの練習方法について １５．鉄棒運動　と　倒立静止　実技テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J90191002
科目名	器械運動	単位数	1
科目名（英語表記）	Gymnastics		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
講義概要	本演習では、中高等学校の授業で実際に指導されている器械運動のマット運動、跳び箱運動、鉄棒運動を自身の身体を通して体験し、技能を修得する事によって、技の構造やつまずき、さらには安全に実施するための配慮等を学ぶことを目標とする。さらに、様々な指導法や幇助法、学修の場の工夫や授業展開の方法を学ぶことで、指導者としての実践的力量を高めることを目指す。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考文献）	『教師のための器械運動指導法シリーズ』（マット運動、とび箱・平均台運動、鉄棒運動）（大修館書店）金子 明友著		
教材（その他）			
評価方法	授業への取り組み姿勢（30 点）、実技テスト（60 点）、レポート（10 点）の合計で評価する。		
到達目標	学校体育で行われているマット運動や跳び箱運動、鉄棒運動の代表的な技が出来るようになり、指導法や補助法を身に付けることが出来る。自己の運動や補助している相手の動感を捉えたり、言葉や図でその動感を表現し、伝えることが出来るようになることを目指す。		
準備学習	今までに体験した器械運動の授業で、色々な技がどうやって出来るようになったのか、なぜ出来なかったのかを思い出してください。また、出来る技についても、「私はどんな感じで動いていたのか」を思い浮かべてく ださい。このような認識を確認することが、運動指導や本授業時の教え合いに必要な能力につながります。		
受講者への要望			
スポーツ運動においては、「怖い」と感じることによって上手くいかないということが多くあります。この授業では、器械運動の技の習得を通して、その「怖い」に対して、どうやって克服していくのかを学び、運動学習というものを深く考えられる場になると思 います。器械運動に対して苦手意識を持っている人ほど積極的に参加してください。腕時計や装身具等は外し、長髪の人は髪を縛って、運動の妨げや補助者の妨害にならないよう準備してください。			
講義の順序とポイント			
１．マット運動　逆位について（倒立とそのバリエーション） ２．マット運動　前転とその発展技の練習方法について ３．マット運動　後転とその発展技の練習方法について ４．マット運動　側方倒立回転と前方倒立回転跳びの練習方法について ５．マット運動　技の組み合わせと巧技系の運動の練習方法について ６．マット運動　実技テスト　と　集団マット ７．跳び箱運動　切り返し系の技の練習方法について ８．跳び箱運動　切り返し系の技のバリエーション ９．跳び箱運動　回転系の技の練習方法について １０．跳び箱運動　回転系の技のバリエーション １１．跳び箱運動　実技テスト １２．鉄棒運動　鉄棒に親しむこと（鉄棒遊びのバリエーション） １３．鉄棒運動　前方支持回転と後方支持回転の練習方法について １４．鉄棒運動　足かけ回転技と足かけ上がりの練習方法について １５．鉄棒運動　と　倒立静止　実技テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	J90192001
科目名	武道	単位数	1
科目名（英語表記）	Martial Arts		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
講義概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓）。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、中学校や高校の授業で柔道を教える者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技）、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りや試合で実践する。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要な人は相談してください。		
教材（その他）	必要な人は相談してください。		
評価方法	授業内の発表・レポート（50%）と技能チェック（50%）によって評価します。発表・レポートの内容は、柔道の概要です。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
準備学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講者への要望

１．安全・指導上、国際柔道連盟の規定に合ったゼッケンを付きの柔道衣を購入してもらいます。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください）。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください）。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
２．柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
３．後ろ受け身、横受け身、前受け身
４．前回り受け身（立ち上がらない）、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる）、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め、膝車
８．送り襟絞め、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い（燕返し）
１０．三角絞、大外落とし
１１．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１２．腕挫十字固め、体落とし
１３．腕挫三角固め、釣り込み腰
１４．審判法・試合
１５．技能チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J90192002
科目名	武道	単位数	1
科目名（英語表記）	Martial Arts		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
講義概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓）。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、中学校や高校の授業で柔道を教える者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技）、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りや試合で実践する。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要な人は相談してください。		
教材（その他）	必要な人は相談してください。		
評価方法	授業内の発表・レポート（50%）と技能チェック（50%）によって評価します。発表・レポートの内容は、柔道の概要です。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
準備学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講者への要望

１．安全・指導上、国際柔道連盟の規定に合ったゼッケンを付きの柔道衣を購入してもらいます。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください）。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください）。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
２．柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
３．後ろ受け身、横受け身、前受け身
４．前回り受け身（立ち上がらない）、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる）、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め、膝車
８．送り襟絞め、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い（燕返し）
１０．三角絞、大外落とし
１１．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１２．腕挫十字固め、体落とし
１３．腕挫三角固め、釣り込み腰
１４．審判法・試合
１５．技能チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	J90193001
科目名	ゴール型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Goal Sports		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	保健体育学習指導要領に基づく「ゴール型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法について学ぶ。ゴール型球技のひとつであるバスケットボールを取り上げ、その運動技能の特性を実践的に理解するとともに、エンドボールやポートボールなどのバスケットボール型ゲームのリードアップゲームの体験を通じて指導展開を理解する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	・ＪＢＡ公式テキスト Vol.3 スキルトレーニングディフェンス＆オフェンス基礎編 ・バスケットボール競技規則(ルールブック)		
教材（その他）	授業内で適宜紹介する		
評価方法	・指導計画の作成（３０％）　・指導展開に関する評価（３０％）　・実技テスト（４０％）		
到達目標	本授業における到達目標は、次のとおりである。 ①ドリブル、パス、シュートのバスケットボールの基礎的技術の修得。 ②バスケットボールの指導展開を理解し、指導案を作成し指導展開ができる。 ③バスケットボールのゲーム運営ができる。		
準備学習	次時の授業内容について、各自で動きやルールを予習して授業に臨むこと。		

受講者への要望

バスケットボールをするにふさわしい服装（スポーツウェア、体育館シューズ）を着用し、授業開始時刻には各自でストレッチ等ウォームアップを済ませて、体育館アリーナに集合すること。
自分から積極的に考えて学ぶ姿勢で授業に臨むこと。(私語は認めない)

欠席・遅刻・早退の場合、その理由を求める。
接触プレーによるけがの防止について理解し各自配慮して授業に来ること。
・長髪の者は、ゴムで束ねること（ピンは接触プレーの際けがを誘発するため厳禁とする)。
・爪を短くしておくこと。
安全に活動できるよう、お互いに細心の注意を払って行動すること。
指示に従わない言動があった場合は、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回：ゴール型球技の特性と基本動作
第 2 回：バスケットボールの基本動作の練習（パス・ドリブル・シュート）
第 3 回：バスケットボールの基本動作とルール（ランニングシュート）
第 4 回：ゴール型ゲームのリードアップスポーツ①エンドボール
第 5 回：ゴール型ゲームのリードアップスポーツ②ポートボール
第 6 回：バスケットボールの基礎技術①オフェンスの方法
第 7 回：バスケットボールの基礎技術②ディフェンスの方法
第 8 回：バスケットボールの応用技術①ハーフコートでのミニゲーム
第 9 回：バスケットボールの応用技術②ゲームと審判
第 10 回：バスケットボールの応用技術③ゲーム展開の基礎
第 11 回：バスケットボールの応用技術④ゲーム展開の方法
第 12 回：バスケットボール型ゲームの指導演習①指導計画の作成
第 13 回：バスケットボール型ゲームの指導演習②指導展開の実際
第 14 回：バスケットボール型ゲームの指導演習③指導展開の確認
第 15 回：バスケットボール型ゲームの指導展開の評価とまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90193002
科目名	ゴール型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Goal Sports		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	保健体育学習指導要領に基づく「ゴール型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法について学ぶ。ゴール型球技のひとつであるバスケットボールを取り上げ、その運動技能の特性を実践的に理解するとともに、エンドボールやポートボールなどのバスケットボール型ゲームのリードアップゲームの体験を通じて指導展開を理解する。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	・ＪＢＡ公式テキスト Vol.3 スキルトレーニングディフェンス＆オフェンス基礎編 ・バスケットボール競技規則(ルールブック)		
教材（その他）	授業内で適宜紹介する		
評価方法	・指導計画の作成（３０％）　・指導展開に関する評価（３０％）　・実技テスト（４０％）		
到達目標	本授業における到達目標は、次のとおりである。 ①ドリブル、パス、シュートのバスケットボールの基礎的技術の修得。 ②バスケットボールの指導展開を理解し、指導案を作成し指導展開ができる。 ③バスケットボールのゲーム運営ができる。		
準備学習	次時の授業内容について、各自で動きやルールを予習して授業に臨むこと。		

受講者への要望

バスケットボールをするにふさわしい服装（スポーツウェア、体育館シューズ）を着用し、授業開始時刻には各自でストレッチ等ウォームアップを済ませて、体育館アリーナに集合すること。
自分から積極的に考えて学ぶ姿勢で授業に臨むこと。(私語は認めない)

欠席・遅刻・早退の場合、その理由を求める。
接触プレーによるけがの防止について理解し各自配慮して授業に来ること。
・長髪の者は、ゴムで束ねること（ピンは接触プレーの際けがを誘発するため厳禁とする)。
・爪を短くしておくこと。
安全に活動できるよう、お互いに細心の注意を払って行動すること。
指示に従わない言動があった場合は、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

講義の順序とポイント

第 1 回：ゴール型球技の特性と基本動作
第 2 回：バスケットボールの基本動作の練習（パス・ドリブル・シュート）
第 3 回：バスケットボールの基本動作とルール（ランニングシュート）
第 4 回：ゴール型ゲームのリードアップスポーツ①エンドボール
第 5 回：ゴール型ゲームのリードアップスポーツ②ポートボール
第 6 回：バスケットボールの基礎技術①オフェンスの方法
第 7 回：バスケットボールの基礎技術②ディフェンスの方法
第 8 回：バスケットボールの応用技術①ハーフコートでのミニゲーム
第 9 回：バスケットボールの応用技術②ゲームと審判
第 10 回：バスケットボールの応用技術③ゲーム展開の基礎
第 11 回：バスケットボールの応用技術④ゲーム展開の方法
第 12 回：バスケットボール型ゲームの指導演習①指導計画の作成
第 13 回：バスケットボール型ゲームの指導演習②指導展開の実際
第 14 回：バスケットボール型ゲームの指導演習③指導展開の確認
第 15 回：バスケットボール型ゲームの指導展開の評価とまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	J90194001
科目名	ベースボール型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Baseball & Softball		
担当者名	西村　真由子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法を修得する。ベースボール型球技のひとつであるソフトボールを取り上げ、攻守を交代して攻防を楽しむ球技の特性について学修する。特に、安全で効果的なボール運動の実践能力を育成するとともに、基本的な技能やゲーム展開ができるようになる指導方法、および指導に必要なデモンストレーション能力と基本的なルールへの理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技テスト（70%）、平常授業態度（30%）		
到達目標	ベースボール型スポーツ（おもにソフトボール）の特性を理解し、投げる、捕る、打つの基本技術やルールの知識を習得するとともに、学校体育に必修ため、現場での授業展開手段の知識を得る		
準備学習	中学校学習指導要領解説（保健体育編）球技　ベースボール型の箇所を事前学習のこと		

受講者への要望

・服装は健康スポーツ学科ユニフォームを着用
・スパイクシューズは禁止
・事故防止のため装飾品などは不可
・爪は短くしておきましょう

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. キャッチボールの基礎技術１（投球・捕球）
3. キャッチボールの基礎技術２（クイックスロー等）
4. キャッチボールの基礎技術及び応用
5. ゴロ・フライ捕球の基礎技術（捕球を中心に）
6. 投手投球の基礎技術１（ウインドミル投法　ブラッシングを中心に）
7. 投手投球の基礎技術２（ウインドミル投法　腕の回旋を中心に）
8. 投手投球の基礎技術３（正しいセットポジション）
9. バッティングの基礎技術１（スイング・トスバッティング）
10.バッティングの基礎技術２（ハーフバッティング・フリーバッティング）
11.実技テスト
12.ゲームの実践１（ティーボールを使って）
13.ゲームの実践２（ウィンドミル投法を用いて）
14.ゲームの実践３（リーグ戦①）
15.ゲームの実践４（リーグ戦②）及びまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90194002
科目名	ベースボール型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Baseball & Softball		
担当者名	木田　京子	旧科目名称	
講義概要	本演習では、「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法を修得する。ベースボール型球技のひとつであるソフトボールを取り上げ、攻守を交代して攻防を楽しむ球技の特性について学修する。特に、安全で効果的なボール運動の実践能力を育成するとともに、基本的な技能やゲーム展開ができるようになる指導方法、および指導に必要なデモンストレーション能力と基本的なルールへの理解を深める。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技テスト（70%）、平常授業態度（30%）		
到達目標	ベースボール型スポーツ（おもにソフトボール）の特性を理解し、投げる、捕る、打つの基本技術やルールの知識を習得するとともに、学校体育に必修ため、現場での授業展開手段の知識を得る		
準備学習	中学校学習指導要領解説（保健体育編）球技　ベースボール型の箇所を事前学習のこと		

受講者への要望

・服装は健康スポーツ学科ユニフォームを着用
・スパイクシューズは禁止
・事故防止のため装飾品などは不可
・爪は短くしておきましょう

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション
2. キャッチボールの基礎技術１（投球・捕球）
3. キャッチボールの基礎技術２（クイックスロー等）
4. キャッチボールの基礎技術及び応用
5. ゴロ・フライ捕球の基礎技術（捕球を中心に）
6. 投手投球の基礎技術１（ウインドミル投法　ブラッシングを中心に）
7. 投手投球の基礎技術２（ウインドミル投法　腕の回旋を中心に）
8. 投手投球の基礎技術３（正しいセットポジション）
9. バッティングの基礎技術１（スイング・トスバッティング）
10.バッティングの基礎技術２（ハーフバッティング・フリーバッティング）
11.実技テスト
12.ゲームの実践１（ティーボールを使って）
13.ゲームの実践２（ウィンドミル投法を用いて）
14.ゲームの実践３（リーグ戦①）
15.ゲームの実践４（リーグ戦②）及びまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	J90196001
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	人体生理機能と運動のテーマについての専門書を輪読する。グループで協同学修を行い、その学修成果をプレゼンテーションソフトを活用してグループ内で発表する。専門用語の修得のみならず、研究課題の発見を心がける。安全な実験法、試薬・器具・機器の取扱い、データ処理法、データベース探索・文献検索の実施法などをまとめ、ワードプロセッサーで記載する。さらにデータ番号の記載などの研究方法・実験ノート記載法、論文作成方法を主体的に学び、グループ内で発表してレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	特に指定しない。		
評価方法	課題についてゼミで発表を行い総合的に評価する。		
到達目標	１．　人体生理機能と運動のテーマについて、専門用語を用いて簡潔にまとめ、説明できるようになる。 ２．　基本となる安全な実験法、試薬・器具・機器の取り扱い、データ処理法、文献検索、論文作成方法を自主的に学び身につける。		
準備学習	実験研究方法、データ処理方法、ならびに論文作成方法の記載してある書籍を探索しておく。		

受講者への要望

周りの人たちとコミュニケーションを図る。自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢が望ましい。

講義の順序とポイント

１．はじめに：本ゼミについて説明する。
２．人体生理機能と運動のテーマについての専門書を紹介する。
３．専門書を輪読する。
４．専門書の輪読を継続するとともに、グループで協同学修を行い、専門用語を修得する。
５．専門書の輪読継続とともに、データ処理法をまとめる。
６．安全な実験法、試薬・器具・機器の取扱い、データ番号の記載などの研究方法・実験ノート記載法をまとめる。
７．安全な実験法、試薬・器具・機器の取扱い、データ番号の記載などの研究方法・実験ノート記載法をまとめる。
８．グループの協同学修の成果をプレゼンテーションソフトを活用してグループ内で発表する。
９．グループの協同学修の成果をプレゼンテーションソフトを活用してグループ内で発表する。
１０．　データベース探索・文献検索の実施法などをまとめる。
１１．　データベース探索・文献検索の実施法などをまとめる。
１２．　論文作成方法を主体的に学び、レポートにまとめる。
１３．　論文作成方法を主体的に学び、レポートにまとめる。
１４．　成果発表：まとめた情報の発表。
１５．　成果発表：まとめた情報の発表。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J90196002
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	健康を目的とした身体運動活動ではあっても、その目的として高い技能レベルを目指したりした場合に、健康を害する事態に陥ることがみられる。すなわちスポーツ障害（傷害）としてあらわれる。従来より、こういった傷害（障害）は回避できない、仕方がないこととしてきたケースも多くみられるが、スポーツ科学の発展に伴い、これらの事故の多くは私たちの知恵と努力で回避できてきている。すなわち、accident ではなく、injury として扱い、その原因と対応によって防ぐことが可能であることが認識されつつある。例として柔道の頭頸部外傷による死亡事故は減少をみている。この授業では、こういった現状を知るために、さまざまな情報として文献や記事に接して話し合い、さまざまなスポーツ事故を回避するための知恵を考える。		
教材（テキスト）	必要に応じて著書などを紹介し、必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考文献）	適時紹介する。		
教材（その他）	各自において気になる社説を切り取ってファイルしておく。ゼミにて紹介をする場合に整理しておく。		
評価方法	レポート 100%		
到達目標	健康スポーツ学科の学生としての知識をきちんと身に着ける。専門ゼミ B への準備期間としての十分な学修態度や学修習慣を身に着ける。		
準備学習	健康、スポーツ、医療、といった関連する世の中の状況に興味関心を持つ。特に興味・関心をもった事案については記事を記録するなど、今後の資料としておく。		

受講者への要望

5 つの約束
1,ゼミ室では入室の際など”あいさつ”は社会の常識
2,欠席する場合は 1 週間前までに知らせて許可を得る
3,5 分前には着席する
4,発表などの分担は、その責任を果たす
5,課題は期限までに提出

講義の順序とポイント

1、ガイダンス
2、リーダーシップについて考える
3、スポーツ場面におけるリーダーシップとは
4、社会におけるリーダーシップとは
5、リーダーシップの持論を見出そう
6、研究って何をするの？
7、企業研究所見学
8、見学会の振り返り
9、卒業研究を仕上げる意義について
１０、研究の本質：「健康スポーツ科学」における研究とは？
１１、「健康スポーツ科学」におけるバイオメカニクスとは？
１２、身近な目立った人の話を聞く
１３、ここまでの授業の振り返り
１４、将来の働き手としての自分をイメージして考えを述べる
１５、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J90196003
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	この専門ゼミでは、2 年後の卒業論文作成を最終ゴールにする。テーマとしては、健康・運動（身体活動）・栄養・体力・エイジング等をキーワードにした課題を考えている。 具体的には、専門ゼミ A では、最初は、ぜひとも読んで欲しい文献を紹介するので、論文の概要をレポートにまとめる。これを何回か繰り返し、次は、自分の興味ある領域から文献を探して、それをしっかり読み込んで、論文の概要、意義や課題をレポートにまとめる。また、地域に出向き、高齢者の調査や測定会に参加し、体力や筋量、身体活動量等の測定や対象者への対応について実習する。この実習は、卒業研究の実践的方法論を学修するだけではなく、将来、現場で使えるテクニックを身につけることにもつながる。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜		
教材（その他）	授業中にプリントを配布する。		
評価方法	レポートや発表を通して総合的に評価する。		
到達目標	1）文献の概要をまとめることができる。 2）興味ある領域の文献検索ができる。 3）調査や測定に参加し、参加者への対応や方法論を学ぶ。 上記を行いながら卒業研究への扉を開く。		
準備学習	文献は必ず前の時間に渡すので読んでから授業に参加する。		

受講者への要望

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
研究を難しく考えないで、“なんでやろう”の気持ちが大事。
身近なところで”なんでやろう”を探して欲しい。
よい論文をいっぱい読もう！
機会があれば、研究者の研究に積極的に参加し、研究現場の体験を積もう！
いつでも必ず自分の意見を発表しよう。

講義の順序とポイント

1. 専門ゼミをはじめるにあたり（ぜみとは、研究とは？）
2. 研究における文献の役割
3. 文献を読む・レポートにまとめる
4. 文献を読む・レポートにまとめる
5. 文献を読む・レポートにまとめる
6. 文献を読む・レポートにまとめる
7. 文献を読む・レポートにまとめる
8. 地域高齢者の測定・事前学習
9. 地域高齢者の測定参加
10. 地域高齢者の測定参加
11. 地域高齢者の測定・反省・まとめ
12. 現時点での関心あるテーマについて
13. 現時点での関心あるテーマについて
14. 現時点での関心あるテーマについて
15.まとめ（卒論テーマへ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90196004
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	専門ゼミ A」では、指導教員の研究内容を理解し、研究とはどういうことなのかについて学修する。そのために教員とともに検討したテーマについて文献検索したり調査したり、レポートにまとめる作業を繰り返すことで卒業研究への扉を開くことになる。 本演習では、体力・トレーニング・コンディショニング・スポーツパフォーマンスに係わる課題について教育・研究指導をし、立派な卒業研究を完成させることを目標とする。教育面では、Performance related physical fitness と Health related physical fitness の視点から、動作の仕組みや、体力・身体エネルギーを①体格・体組成、②動作の発揮能力、③動作の持続能力、④動作の調整能力の視点から体全体としてのヒトの身体能力を理解させる。さらに、運動処方の基本的キーワードである、過負荷、回復、適応（超過回復)、進歩（漸増)、特異性、ディトレーニング、オーバートレーニング、個々の反応特性について指導し、これらのキーワードの相互関係調査・探求させる。 そのため、ゼミ生は本演習を通して、体育・運動・スポーツ・健康に関して興味・関心のある課題を探し、その課題解決に向けて適切な調査方法、実験方法、データ処理方法に関する見方･考え方をトレーニングし、、４年間の集大成としての卒業研究を、理論的・独創的・実践的視点から優れたものになるよう、学びを積み上げていく。		
教材（テキスト）	特に指定はなし。 授業において適時紹介するとともに、資料を配布する。		
教材（参考文献）	特に指定はなし。 授業において適時紹介するとともに、資料として配布する。		
教材（その他）	特に指定はなし。 授業において適時必要な機器を用意する。 体力・運動能力等測定機器を使用する場合もある。 パワーポイントを多用するとともに、その資料を配布する。		
評価方法	授業における発表レポート（50%)、プレゼンテーション能力（30%)、受講平常点（20%）		
到達目標	ゼミ生が順次健康・運動・体力・トレーニング・コンディショニングに係わる興味・関心のある課題についてまとめ・報告し、ゼミ生間で積極的に論議できる。また、この過程で出てきた疑問点・課題について、さらに知識を深められるようになる。		
準備学習	グループでの発表担当の場合は、90 分間しっかりプレゼンテーションと質疑応答ができるように、グループで話し合い、役割分担して、全員で準備してほしい。発表担当時、90 分間質の高い論議ができなかった場合は、次週に再度発表できるように準備しなければならない。		

受講者への要望

ゼミの活動方針として
・自ら進んで学ぶ姿勢のない学生は、面倒を見ることができない。
・ゼミ活動は全出席を目標とする。
・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
・今以上に身もこころも元気にならなければならない。
・人前で話し行動することを積極的に心掛けなければならない。

講義の順序とポイント

ゼミ生の人数を 10 名として計画する。
1．　ゼミガイダンス：指導方針の説明、ゼミ生の役割、調査・発表グループの構成（３グループ)、グループの課題検討
2．　解説①：「身体活動の成り立ちと身体諸能力の測定・評価について」
3．　解説②：「運動処方の基本的考え方について」
4．　グループによる第１回調査・研究課題発表　①
5．　グループによる第１回調査・研究課題発表　②
6．　グループによる第１回調査・研究課題発表　③

7．　グループ発表を受けての解説
8．　グループによる第２回調査・研究課題発表　①
9．　グループによる第２回調査・研究課題発表　②
10.　グループによる第２回調査・研究課題発表　③
11.　グループ発表を受けての解説
12.　グループによる第３回調査・研究課題発表　①
13.　グループによる第３回調査・研究課題発表　②
14.　グループによる第３回調査・研究課題発表　③
15.　グループ調査・研究進捗度のレポート試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90196005
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	一般の人々に健康・体力づくりや生活習慣病の予防のためには運動が大切であることを伝え、安全で効果的な正しいトレーニング方法を指導していくことは健康スポーツの専門家としての重要な使命のひとつであり、わたしたちが大きく社会貢献できる可能性のある分野である。 本演習では、健康体力科学に関する文献資料を収集して発表することによって理論をより深く学び、各自が興味のあるテーマについて研究計画を立案・遂行し、卒業研究論文としてまとめ、研究成果を発表する。 これと並行して、一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導法（理論・実技）について学修し、GFI、健康運動実践指導者、健康運動指導士の資格取得を目指す。 将来、スポーツクラブやフィットネスジムで活動するインストラクターやトレーナー、健康増進施設や医療機関併設の運動施設等での一般人を対象とした健康体力づくりの運動指導者を目指している人向けの実践的内容を含む。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ゼミの活動への取り組み（参加態度、発表・発言、等）、レポートの総合評価		
到達目標	一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための簡単な運動指導ができる。		
準備学習	分担して発表を行うので、自分の担当部分をしっかり予習しておくこと。		
受講者への要望			
目的意識を持って、ゼミの活動に積極的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
１．ゼミの概要説明とこの語の計画について ２．健康（理論・実技）運動指導法１ ３．健康（理論・実技）運動指導法２ ４．健康（理論・実技）運動指導法３ ５．健康（理論・実技）運動指導法４ ６．健康（理論・実技）運動指導法５ ７．健康（理論・実技）運動指導法６ ８．健康（理論・実技）運動指導法７ ９．健康（理論・実技）運動指導法８ １０．健康（理論・実技）運動指導法９ １１．健康（理論・実技）運動指導法１０ １２．健康（理論・実技）運動指導法１１ １３．健康（理論・実技）運動指導法１２ １４．健康（理論・実技）運動指導法１３ １５．健康（理論・実技）運動指導法１４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J90196006
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	健康・スポーツビジネスの実践における健康フィットネス企業、スポーツ製造・物販企業、スポーツ指導関連企業、プロスポーツビジネス企業、スポーツイベント関連企業、体力重視専門職等の事例を調査し、それらの概要及び実態、人材活用についてプレゼンテーション（個人調査発表）を行う。		
教材（テキスト）	資料随時配布		
教材（参考文献）	図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント　山下秋二ら編著（大修館書店）		
教材（その他）			
評価方法	出席、毎回の進捗状況報告と調査発表での総合評価。		
到達目標	健康・スポーツビジネスの企業実態及び人材活用を知る。		
準備学習	①スポーツマネジメントに関する情報収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）に努める ②スポーツマネジメントの関連書籍を積極的に読破する		

受講者への要望

①自己都合による遅刻・無断欠席は厳禁
②積極的な提案、行動力、問題解決思考を要望
③ゼミ員間の協調性にも意識努力する事を要望

講義の順序とポイント

1.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査１（健康フィットネス企業：事例１）
2.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査２（健康フィットネス企業：事例２）
3.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査３（スポーツ製造・物販企業：事例１）
4.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査４（スポーツ製造・物販企業：事例２）
5.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査３（スポーツ指導関連企業：事例１）
6.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査３（スポーツ指導関連企業：事例２）
7.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査４（プロスポーツビジネス企業：事例１）
8.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査４（プロスポーツビジネス企業：事例２）
9.　健康・スポーツビジネスの実践基礎調査５（スポーツイベント関連企業：事例１）
10.健康・スポーツビジネスの実践基礎調査５（スポーツイベント関連企業：事例２）
11.健康・スポーツビジネスの実践基礎調査６（体力重視専門職：事例１）
12.健康・スポーツビジネスの実践基礎調査６（体力重視専門職：事例２）
13.プレゼンテーション１（個人調査発表）
14.プレゼンテーション２（個人調査発表）
15.プレゼンテーション３（個人調査発表）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90196007
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	深刻化している高齢化社会では、積極的な健康寿命の延伸に向けた取組みが進められている。健康スポーツ関連分野でも、「生活習慣病・運動器症候群・認知症などの健康寿命の阻害因子に対する運動の有効性」の普及活動と「安全で効果的な運動指導の確立」が求められるが、これらには科学的な証拠や根拠を示す必要があり、健康やスポーツに関連する分野で活躍する人材は、科学的な知識・理解力・思考力が必須であると考えられる. 「専門ゼミ A」では「健康寿命とその阻害因子」に関して個々に興味のある領域を決定し、関連文献を調べてレポートを作成し、科学的な根拠となる基礎知識と考え方について学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	研究テーマ関連文献を適宜紹介したり、自ら検索する。		
教材（その他）			
評価方法	文献発表、レポート、授業態度を総合的に評価する。		
到達目標	1．　研究テーマの背景となる「健康寿命の阻害因子」について簡潔に説明できるようになる。 2．　文献検索のスキルを身につけ、必要な文献を探すことができるようになる。 3．　科学論文を読んで、その概要を理解できるようになる。		
準備学習	1．　これまで履修した理系科目（特に、解剖生理学）を復習しておく。 2．　最近の健康に関連した新聞・雑誌記事を見つけてチェックしておく。		

受講者への要望
1．　能動的な態度で臨み、主体的に課題に取り組む。 2．　何事にも興味を持ち、目標を達成する努力をする。
講義の順序とポイント
1．　研究をスタートする心構え 2．　研究テーマの探索　（1） 3．　研究テーマの探索　（2） 4．　研究テーマの探索　（3） 5．　論文検索サイト・アプリの利用方法 6．　研究テーマ関連文献検索 7．　論文解読と概要のまとめ　（1） 8．　論文解読と概要のまとめ　（2） 9．　論文解読と概要のまとめ　（3） 10．　論文解読と概要のまとめ　（4） 11．　論文内容のレポート作成 12．　論文内容のレポート作成 13．　論文内容のプレゼンテーション資料作成 14．　論文内容のプレゼンテーション資料作成 15．　論文内容のプレゼンテーションと総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90196008
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	我が国をはじめ世界的な潮流であるヘルスプロモーションの概念と健康で豊かな生活を実現する上で大切なレクリエーション活動の基本を理解する。公衆衛生・疫学的な視点から、子どもから高齢者まであらゆる人々の健康の維持・増進と運動・身体活動との関係に主眼をおき、多様なレクリエーション活動を実践する。さらにヘルスプロモーションに関する資料や文献の検索方法を実際のデータベースを活用して修得し、健康に寄与する運動・身体活動のエビデンスを疫学的な視点から捉えるための基礎的な見方・考え方を身につける。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考文献）	・考える技術・書く技術, 山﨑康司, ダイヤモンド社 ・健康・スポーツ科学のための研究方法,出村眞一, 杏林書院 ・保健医療福祉の研究ナビ,福田吉治監修,金原出版株式会社		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題（60%）、課題への取組態度（40%）		
到達目標	三宅ゼミでは、学際的かつ国際的な視野に立ち、ヘルスプロモーションの理解を深め、生涯スポーツ、レジャー・レクリエーションを通じて、人々の健康と生活の質の向上に貢献しうる実践力、指導力、研究力を身につけることを目標とする。ゼミでは学生自らの経験や活動から、問題を見出し、問題解決に向けた方向性と具体的な方法を考えていく。自ら積極的に問題を発見し、関連する知識を求めることを楽しめるようになってほしい。		
準備学習	・授業内に与えられた課題をやり遂げること ・論文抄読の発表準備		
受講者への要望			
・受講に際し自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。 ・空きコマ時間もできる限りゼミ室に来ること。			
講義の順序とポイント			
1．ガイダンス・ゼミの方針 2．実践活動１：レクリエーション活動体験 3．実践活動２：レクリエーション活動体験 4．問題発見の方法 5．課題解決の方法 6．フィールドワーク１：イベントの準備 7．フィールドワーク２：イベントの運営 8．論文抄読とは 9．論文抄読１：論文を探す 10．論文抄読２：要約して発表 11．フィールドワーク３：実践研究への取組 12．フィールドワークふりかえり 13．実践研究１：プログラム企画 14．実践研究２：プログラム準備 15．実践研究３：プログラム運営			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	J90196009
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	子どもの成長過程における身体活動や健康及び障がい者のスポーツや身体活動について学びながら、その背景について考える。必要に応じて適切な文献を見つけて調べる。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施する課題への積極的姿勢・態度(50%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(50%)		
到達目標	子どもや障がい者と運動やスポーツに関して、さまざまな書籍や論文から知識を得るとともに、自分の関心のあるテーマを見つけ研究計画を立案し、データ収集ができるとともに処理の方法を知る。		
準備学習	発表担当の場合は、自信をもって発表や質疑応答ができるように、発表内容について熟知ししっかりと理解するまで、事前に準備をしてくること。 発表担当時、90 分間質の高い論議ができなかった場合は、次週に再度発表できるように準備しなければならない。　詳細は授業において指示するが、常に努力を惜しまない姿勢で臨むこと。		

受講者への要望

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの体験・観察・実験・レポート・発表・討論等に意欲的に取り組むよう努めること。
お互いのテーマや内容に関心をもち、協力し合って研究や実験を進めること。
障害者スポーツ、発育発達、自分の研究テーマ等に関する情報を常に収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）するように努めること。

ゼミの活動方針として
- ・何事にも関心をもち、自ら進んで学ぶ姿勢でいること。
- ・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
- ・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
- ・今以上に身もこころも元気で、明るく溌剌と人に接することができなければならない。
- ・積極的に人前で話し行動するよう心掛けなければならない。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、今後の予定と課題
2.子どもや障がい者に関する研究と方法の実際
3. 論文検索方法と実験計画の作り方
4.受講者が研究論文を紹介(実施したい研究に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 1
5.研究計画の確認・実験開始 1
6. 実験結果の整理・統計処理 1
7. レポートの書き方について解説
8. 受講者が研究論文を紹介(実施したい研究に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 2
9. 研究計画の確認、実験開始 2
10. 実験結果の整理・統計処理 2
11. 受講者が研究論文を紹介(実施したい実験に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 3
12. 研究計画の確認、実験開始 3
13. 実験結果の整理・統計処理 3
14. プレゼンテーション方法
15. プレゼンテーションとまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2017	授業コード	J90196010
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	本ゼミでは、パフォーマンス向上のためのトレーニング方法やその効果、さらにスポーツ外傷のリコンディショニングや予防エクササイズなどを扱う。本ゼミでは、出来る限りスポーツの現場へ足を運び、自分の目や体験を通して興味のあるテーマを選択する。さらに興味のあるテーマを見つけ出した後は、テーマと関連する文献、専門書の検索方法や記録したデータの解釈方法を学ぶ。最終的に現場で取得したデータを関連する文献を基に読み解き、文章化する作業を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しないが、必要な資料等は適宜配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポートなどの提出物から発表など授業に取り組む姿勢から総合的に評価する。欠席は総合評価から減点される。		
到達目標	卒業論文制作に必要な基本的な知識・文章作成能力を学んでいくことを目標とする。		
準備学習	『解剖生理学』、『バイオメカニクス』等基本的な知識の復習をしておいてください。		
受講者への要望			
専門ゼミは自ら興味のあるテーマを探し、研究していくのが大きな目的です。積極的な授業参加を望みます。			
講義の順序とポイント			
1,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします（スポーツ医学編 1） 2,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします（スポーツ医学編 2） 3,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします(バイオメカニクス編 1) 4,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします(バイオメカニクス編 2) 5,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします(トレーニング科学編 1) 6,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします(トレーニング科学編 2) 7,『卒業論文とはなにか？』：卒論作成までのアウトラインを提示し、自身の大まかな計画を作成する 8,関連書籍の見つけ方 1：図書館やインターネット等での検索方法を確認します 9,関連書籍の見つけ方 2：図書館やインターネット等での検索方法を確認します 10, 科学レポートの書き方 1:文章の作成方法について 11,科学レポートの書き方 2:図表の作成について 12,興味のあるテーマをみつけよう 1 13,興味のあるテーマをみつけよう 2 14,興味のあるテーマをみつけよう 3 15, グループ発表：興味のあるテーマについて		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	J90196011
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	運動およびスポーツがもたらす効果を心理学の観点から学習する。特に健康スポーツ心理学（スポーツ心理学、健康心理学、健康科学分野）の代表的な理論および研究手法における知識を理解する。理論および研究手法については、国内で公開されている情報に留まらず、海外の情報からも情報を獲得する。個々が興味・関心を持つスポーツ健康心理学の情報を手に入れることに留まらず、情報収集の方法も同時に学ぶことを目指す。さらに、様々な理論・研究手法を用いて行われた調査および実験における分析・解析方法を参考にし、統計手法の学習も行う。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）	適宜資料を配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施する課題（50%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（50%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、さまざまな書籍および論文から知識を得ると同時に、自ら研究計画を立案し、データ収集および処理ができるようになる。		
準備学習	日常生活の中で運動およびスポーツがもたらす心理的および生理的効果について考える機会を多く持つと同時に、疑問に思ったことを記録しておくこと。		
受講者への要望			
自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの実験・レポート・発表・討論に意欲的に取り組むよう努めること。			
講義の順序とポイント			
1.オリエンテーション、今後の予定と課題 2 心理指標の評価方法と生理的指標を用いた測定 3．論文検索方法と実験計画の作り方 4.受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 1 5.実験計画の確認、実験開始 1 6．実験結果の整理・統計処理 1 7.　レポートの書き方について解説 8．受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 2 9．実験計画の確認、実験開始 2 １０．実験結果の整理・統計処理 2 １１．受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 3 １２．実験計画の確認、実験開始 3 １３．実験結果の整理・統計処理 3 １４．プレゼンテーション方法 １５．プレゼンテーションと討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	J90197001
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	運動と生理機能についての簡単なグループ実験を実施する。例えば血圧と筋収縮、息止め時間と無酸素運動など、運動と人体機能の関連についての研究課題を定める。その実験計画を作成、グループ討論を経て、実験を実施する。その際に安全性に配慮するとともに、実験ノートの記載を実施し、研究結果についてグループ討論し、研究の問題点の把握と重要性を認識する。表計算ソフト、統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかり、関連する文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	とくに指定しない。		
教材（その他）	とくに指定しない。		
評価方法	課題に対しての参加度（50%）、発表（50%）		
到達目標	１．　研究課題について、文献などを活用しグループで討議できる。 ２．　プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　研究結果をレポートにまとめる。		
準備学習	「専門ゼミＡ」で修得した資料、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．運動と人体機能の関連についての研究課題を定める。簡単なグループ実験、例えば血圧と筋収縮、息止め時間と無酸素運動などを定める。、 ２．その実験計画を作成、グループ討論する。 ３．その際に安全性に配慮する。 ４．実験を実施する。 ５．実験実施中、実験ノートの記載内容を確認する。 ６．研究結果についてグループ討論する。 ７．研究の問題点の把握と重要性を認識する。 ８．表計算ソフト、統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。 ９．表計算ソフト、統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。 １０．関連文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。 １１．関連文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。 １２．研究報告をとりまとめ、研究論文を作製する。 １３．研究報告をとりまとめ、研究論文を作製する。 １４．研究結果の発表会 １５．研究結果の発表会		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90197002
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	健康を目的とした身体運動活動ではあっても、その目的として高い技能レベルを目指したりした場合に、健康を害する事態に陥ることがみられる。すなわちスポーツ障害（傷害）としてあらわれる。従来より、こういった傷害（障害）は回避できない、仕方がないこととしてきたケースも多くみられるが、スポーツ科学の発展に伴い、これらの事故の多くは私たちの知恵と努力で回避できてきている。すなわち、accident ではなく、injury として扱い、その原因と対応によって防ぐことが可能であることが認識されつつある。例として柔道の頭頸部外傷による死亡事故は減少をみている。この授業では、こういった現状を知るために、さまざまな情報として文献や記事に接して話し合い、さまざまなスポーツ事故を回避するための知恵を考える。		
教材（テキスト）	とくに定めていない。		
教材（参考文献）	適時紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて紹介します。		
評価方法	レポート 100％		
到達目標	専門的な雑誌など、根気よく読みこなすスキルと真摯な態度をみにつける。		
準備学習	ゼミ内での取り組みに関して、社会で起こっている事例に興味関心を持つ。さらにそれらに関して検索するなど奥深く知見を求める習慣をもつ。		

受講者への要望

5 つの約束
1、ゼミ室では入室の際など”あいさつ”は社会の常識
2、欠席する場合は 1 週間前までに知らせて許可を得る
3、5 分前には着座する
4、発表などの分担は、その責任を果たす
5、課題は期限までに提出

講義の順序とポイント

1、ガイダンス
2、科学研究論文に触れる。（論文ネットワーク検索方法の実際）
3、科学研究論文に触れる。（選択した論文をゼミ内で紹介）
4、事業を計画実践する。（会計担当、仕入れ担当、什器担当など）
5、事業実践後の反省。（各役割による報告と反省）
6、科学研究論文に触れる。（論文 1 点をまとめる）
7、科学研究論文に触れる。（論文内容紹介）
8、科学研究論文に触れる。（論文 1 点をまとめる）
9、科学研究論文に触れる。（論文内容紹介）
１０、科学研究論文に触れる。（論文 1 点をまとめる）
１１、科学研究論文に触れる。（論文内容紹介）
１２、取り上げた論文の関連性発表
１３、取り上げた論文の関連性発表
１４、統計概念の必要性と理解
１５、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	J90197003
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	この専門ゼミでは、4 年時の卒業論文作成を最終ゴールにする。テーマとしては、健康・運動（身体活動）・栄養・体力・エイジング等をキーワードにした課題を考えている。 専門ゼミＢでは、専門ゼミＡの学修を基に、より理論的な思考ができるようになることを目指す。卒論にしたいと思う自らのテーマを定めて、文献を探して、テーマにそってレポートに仕上げる。さらにレポートを発表し、互いに質疑応答したり、知識を交換したりして討議を行う。このような輪読会を展開しながら、論文から読み取れる論理の一貫性について理解する。他人の発表に対しては、必ず自分の視点に基づく意見を発表できるようにする。専門ゼミＡに引き続き、実際の調査や測定会、あるいは介入研究の現場における実習を行う。この実習は、卒業研究の実践的方法論を学修するだけではなく、将来、現場で使える運動プログラム作成などのテクニックを身につけることにもつながる。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	授業中にプリントを配布する。		
評価方法	毎回の小レポート（40%）、課題レポート（60%）		
到達目標	1）研究テーマに沿った文献検索ができる。 2）レポート発表では、互いに意見交換したり、知識の共有ができる。 3）他人の発表に対して必ず意見を発表できる 4）機会があれば、実際の研究に参加する。 上記を繰り返すことで、研究と論文との関連、理論の一貫性について理解する。 卒論研究テーマと研究計画の検討に繋げる。		
準備学習	興味ある領域の文献を常にいくつか持っていること、そして、発表の前には必ず文献を読み込んでまとめること。		

受講者への要望

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
研究を難しく考えないで、“なんでやろう”の気持ちが大事。
身近なところで”なんでやろう”を探して欲しい。
よい論文をいっぱい読もう！
研究者の研究に積極的に参加し、研究現場の体験を積もう！
いつでも必ず自分の意見を発表しよう。

講義の順序とポイント

1. イントロダクション：専門ゼミＢについて
2. 興味あるテーマ
3. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
4. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
5. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
6. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
7. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
8. 介入研究見学の事前学習
9. 介入研究の見学
10. 介入研究の見学の反省・まとめ
11. 卒論テーマと研究方法の検討
12. 卒論テーマと研究方法の検討
13. 卒論テーマと研究方法の検討
14. 卒論の研究計画の発表

15. 卒論の研究計画の発表、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90197004
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
講義概要	「専門ゼミA」の学修を基に、「専門ゼミB］では、より理論的な思考を育成することを目的とする。そのために、ゼミ生は自らがテーマを決め、そのテーマにそってレポートを仕上げる。さらにレポートを発表し、お互いに質疑応答したり、知識を交換したりして討議を繰り返す。また、原著論文を読む輪読会を展開する。そのことによって論文から読み取れる論理の一貫性について理解させる。 レポート作成・発表では、安全で効果的な運動処方を作成するための健康診断→体力運動能力測定→処方→プログラム実践→評価という一連の流れと、そのプロセスで明らかにしなければならない事象を修得し、健康運動のみならず、競技スポーツにおいても安全で効果的な運動プログラムが作成できる能力を修得させる。そしてゼミ生自らが調査した実際のケースについて運動処方を作成し、その成果を検証することにより、運動処方の一連の流れの実施能力も修得させる。		
教材（テキスト）	特に指定はなし。 授業において適時紹介するとともに、資料を配布する。		
教材（参考文献）	特に指定はなし。 授業において適時紹介するとともに、資料として配布する。		
教材（その他）	特に指定はなし。 授業において適時必要な機器を用意する。 体力・運動能力等測定機器を使用する場合もある。 パワーポイントを多用するとともに、その資料を配布する。		
評価方法	授業における発表レポート（50%）、プレゼンテーション能力（30%）、受講平常点（20%）		
到達目標	専門ゼミAを通して学修した知識について更なる文献講読・事前調査・予備実験等を進め、卒業研究に向けて研究テーマを具体化していくとともに、研究課題遂行に必要な調査・研究・分析法の修得度を高める。		
準備学習	グループでの発表担当の場合は、90 分間しっかりプレゼンテーションと質疑応答ができるように、グループで話し合い、役割分担して、全員で準備してほしい。発表担当時、90 分間質の高い論議ができなかった場合は、次週に再度発表できるように準備しなければならない。		

受講者への要望

ゼミの活動方針として
・自ら進んで学ぶ姿勢のない学生は、面倒を見ることができない。
・ゼミ活動は全出席を目標とする。
・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
・今以上に身もこころも元気にならなければならない。
・人前で話し行動することを積極的に心掛けなければならない。

講義の順序とポイント

ゼミ生の人数を 10 名として計画する。
1．　ゼミガイダンス：指導方針の説明、ゼミ生の役割、各グループの検討課題への提案
2．　解説①：「身体活動の動作の成り立ちと測定・評価について」
3．　解説②：「運動処方の基本的考え方について」
4．　グループによる第 1 回調査・研究課題発表　①
5．　グループによる第 1 回調査・研究課題発表　②
6．　グループによる第 1 回調査・研究課題発表　③
7．　グループ発表を受けての解説
8．　グループによる第 2 回調査・研究課題発表　①
9．　グループによる第 2 回調査・研究課題発表　②
10．グループによる第 2 回調査・研究課題発表　③
11．グループ発表を受けての解説

12. グループによる第３回調査・研究課題発表 ①
13. グループによる第３回調査・研究課題発表 ②
14. グループによる第３回調査・研究課題発表 ③
15. グループ調査・研究進捗度のレポート試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	J90197005
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
講義概要	一般の人々に健康・体力づくりや生活習慣病の予防のためには運動が大切であることを伝え、安全で効果的な正しいトレーニング方法を指導していくことは健康スポーツの専門家としての重要な使命のひとつであり、わたしたちが大きく社会貢献できる可能性のある分野である。 本演習では、健康体力科学に関する文献資料を収集して発表することによって理論をより深く学び、各自が興味のあるテーマについて研究計画を立案・遂行し、卒業研究論文としてまとめ、研究成果を発表する。 これと並行して、一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導法（理論・実技）について学修し、GFI、健康運動実践指導者、健康運動指導士の資格取得を目指す。 将来、スポーツクラブやフィットネスジムで活動するインストラクターやトレーナー、健康増進施設や医療機関併設の運動施設等での一般人を対象とした健康体力づくりの運動指導者を目指している人向けの実践的内容を含む。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	ゼミの活動への取り組み（参加態度、発表・発言、等）、レポートの総合評価		
到達目標	一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導ができる。		
準備学習	分担して発表を行うので、自分の担当部分をしっかり予習しておくこと。		
受講者への要望			
目的意識を持って、ゼミの活動に積極的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
１．ゼミの概要説明とこの語の計画について ２．健康（理論・実技）運動指導法１ ３．健康（理論・実技）運動指導法２ ４．健康（理論・実技）運動指導法３ ５．健康（理論・実技）運動指導法４ ６．健康（理論・実技）運動指導法５ ７．健康（理論・実技）運動指導法６ ８．健康（理論・実技）運動指導法７ ９．健康（理論・実技）運動指導法８ １０．健康（理論・実技）運動指導法９ １１．健康（理論・実技）運動指導法１０ １２．健康（理論・実技）運動指導法１１ １３．健康（理論・実技）運動指導法１２ １４．健康（理論・実技）運動指導法１３ １５．健康（理論・実技）運動指導法１４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	J90197006
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
講義概要	健康・スポーツビジネスの実践における健康フィットネス企業、スポーツ製造・物販企業、スポーツ指導関連企業、プロスポーツビジネス企業、スポーツイベント関連企業、体力重視専門職等の事例を調査し、それらの概要及び実態、人材活用について精査したものから、自己の興味ある健康・スポーツビジネス領域の独自のオリジナルビジネスのアイデア・試作モデルを提案し、個人発表する。		
教材（テキスト）	随時資料配付		
教材（参考文献）	図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント　山下秋二ら編著（大修館書店）		
教材（その他）			
評価方法	出席、毎回の進捗状況報告と調査発表での総合評価。		
到達目標	健康・スポーツビジネスの企業実態及び人材活用を知り、オリジナル企画、試作提案できる様に企画考察力を付ける。		
準備学習	①スポーツマネジメントに関する情報収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）に努める ②スポーツマネジメントの関連書籍を積極的に読破する ①、②の準備の上、積極的に実践活動を行い、個人でも日々のフィールドワークでマネジメント事象の情報収集に努める。		

受講者への要望

①自己都合による遅刻・無断欠席は厳禁
②積極的な提案、行動力、問題解決思考を要望
③ゼミ員間の協調性にも意識努力する事を要望
①②③の姿勢の元、ゼミ室や大学図書館での積極的な知的活動に従事されたし。

講義の順序とポイント

1.　健康・スポーツビジネスの応用考察１－A（健康フィットネス企業モデル試作１）
2.　健康・スポーツビジネスの応用考察１－B（健康フィットネス企業モデル試作２）
3.　健康・スポーツビジネスの応用考察２－A（スポーツ製造・物販企業モデル試作１）
4.　健康・スポーツビジネスの応用考察２－B（スポーツ製造・物販企業モデル試作２）
5.　健康・スポーツビジネスの応用考察３－A（スポーツ指導関連企業モデル試作１）
6.　健康・スポーツビジネスの応用考察３－B（スポーツ指導関連企業モデル試作２）
7.　健康・スポーツビジネスの応用考察４－A（プロスポーツビジネス企業モデル試作１）
8.　健康・スポーツビジネスの応用考察４－B（プロスポーツビジネス企業モデル試作２）
9.　健康・スポーツビジネスの応用考察５－A（スポーツイベント関連企業モデル試作１）
10.健康・スポーツビジネスの応用考察５－B（スポーツイベント関連企業モデル試作２）
11.健康・スポーツビジネスの応用考察６－A（体力重視専門職モデル試作１）
12.健康・スポーツビジネスの応用考察６－B（体力重視専門職モデル試作２）
13.プレゼンテーション１（個人提案発表）
14.プレゼンテーション２（個人提案発表）
15.プレゼンテーション３（個人提案発表）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	J90197007
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	深刻化している高齢化社会では、積極的な健康寿命の延伸に向けた取組みが進められている。健康スポーツ関連分野でも、「生活習慣病・運動器症候群・認知症などの健康寿命の阻害因子に対する運動の有効性」の普及活動と「安全で効果的な運動指導の確立」が求められるが、これらには科学的な証拠や根拠を示す必要があり、健康やスポーツに関連する分野で活躍する人材は、科学的な知識・理解力・思考力が必須であると考えられる. 「専門ゼミ B」では、「健康寿命とその阻害因子」に関して個々に決定した領域の文献を調べて輪読会と討論会を行い、１年間の成果をゼミ内で発表する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	研究テーマ関連文献を適宜紹介したり、自ら検索する。		
教材（その他）			
評価方法	文献発表、レポート、授業態度・発表会での発表内容を総合的に評価する。		
到達目標	１．　研究テーマの背景となる「健康寿命の阻害因子」について簡潔に説明できるようになる。 ２．　文献検索のスキルを身につけ、必要な文献を探すことができるようになる。 ３．　科学論文を読んで、その概要を理解できるようになる。		
準備学習	１．　これまで履修した理系科目（特に、解剖生理学）を復習しておく。 ２．　最近の健康に関連した新聞・雑誌記事を見つけてチェックしておく。		
受講者への要望			
１．　能動的な態度で臨み、主体的に課題に取り組む。 ２．　何事にも興味を持ち、目標を達成する努力をする。			
講義の順序とポイント			
１．　各自の研究テーマの探索 ２．　各自の研究テーマの探索 ３．　各自の研究テーマの探索 ４．　各自の研究テーマに関連する論文の検索 ５．　各自の研究テーマに関連する論文の検索 ６．　検索した論文の読解 ７．　検索した論文の読解 ８．　関連論文の輪読会 ９．　関連論文の輪読会 １０．　関連論文の輪読会 １１．　関連論文の輪読会 １２．　各自の研究テーマの中間報告準備 １３．　各自の研究テーマの中間報告準備 １４．　ゼミ内中間報告会 １５．　ゼミ内中間報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90197008
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	「専門ゼミ A」で得た知見を基に、ヘルスプロモーションにおける疫学的な見方・考え方をより深く理解していく。さらに実践活動を通じて得た疑問を研究テーマに結び付けていく。そのために健康と運動・身体活動に関連する数編の先行研究を全員で抄読し、問題発見と問題解決のアプローチの方法を考えていく。本ゼミでは各自で課題を発見し、課題に応じて資料を収集し検討する実践力を身につける。またグループ討議を行いながら自らの考えを発表し合い、お互いに意見を出し合い、自らの考えをまとめる力を身につける。		
教材（テキスト）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考文献）	・考える技術・書く技術　山﨑康司, ダイヤモンド社 ・健康・スポーツ科学のための研究方法　出村眞一, 杏林書院 ・保健医療福祉の研究ナビ　福田吉治監修　金原出版株式会社		
教材（その他）	・SPSS による統計解析入門　小田利勝, プレアデス出版 ・アンケートデータの分析　菅民郎, 現代数学社		
評価方法	授業内課題（60%）、課題への取組態度（40%）		
到達目標	三宅ゼミ（Health Promotion and Recreation 研究室）では、学際的かつ国際的な視野に立ち、ヘルスプロモーションの理解を深め、生涯スポーツ、レジャー・レクリエーションを通じて、人々の健康と生活の質の向上に貢献しうる実践力、指導力、研究力を身につけることを目標とする。専門ゼミ B では、学生自ら積極的に問題を発見し、課題に応じて資料を収集し検討する実践力を修得することを目標とする。		
準備学習	・研究課題を考えること ・関連資料を読むこと		
受講者への要望			
受講に際し自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望みます。　そのために人の話を聞き、意見を述べるようにしましょう。そして課題に関連する領域で話を聞きに行き、そこで感じたこと、気づいたことを整理していきます。			
講義の順序とポイント			
1. 問題発見：問題を明確にする 2．課題解決：問題解決のアプローチ 3．研究テーマを選ぶ 4．研究の方法１：研究デザインを考える 5．研究の方法２：研究計画をまとめる 6．研究の方法３：社会調査 7．フィールドワーク１：調査の実際 8．フィールドワークふりかえり 9．実践研究１：調査方法を決める 10. 実践研究２：質問紙の作成 11. 実践研究３：調査の実施 12. 結果の解析と統計 13. 分析結果の入力 14. 結果の解析 15. 分析結果と考察			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	J90197009
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
講義概要	子どもの成長過程における身体活動や健康に関して、各自の課題について調べながら、論理的に考えを進めてレポートを作成、発表し、お互いに各課題について意見交換をする。また関心のある原著論文を読み合うことで、論理の一貫性について学ぶ。		
教材（テキスト）	適宜紹介する。		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施する課題への積極的姿勢・態度(50%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(50%)		
到達目標	子どもや障がい者と運動やスポーツに関して、さまざまな書籍や論文から知識を得るとともに、自分の関心のあるテーマを見つけ研究計画を立案し、データ収集ができるとともに処理の方法を知る。		
準備学習	発表担当の場合は、自信をもって発表や質疑応答ができるように、発表内容について熟知ししっかりと理解するまで、事前に準備をしてくること。 発表担当時、90 分間質の高い論議ができなかった場合は、次週に再度発表できるように準備しなければならない。　詳細は授業において指示するが、常に努力を惜しまない姿勢で臨むこと。		

受講者への要望

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの体験・観察・実験・レポート・発表・討論等に意欲的に取り組むよう努めること。
お互いのテーマや内容に関心をもち、協力し合って研究や実験を進めること。
障害者スポーツ、発育発達、自分の研究テーマ等に関する情報を常に収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）するように努めること。

ゼミの活動方針として
- ・何事にも関心をもち、自ら進んで学ぶ姿勢でいること。
- ・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
- ・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
- ・今以上に身もこころも元気で、明るく溌剌と人に接することができなければならない。
- ・積極的に人前で話し行動するよう心掛けなければならない。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、今後の予定と課題
2.子どもや障がい者に関する研究と方法の実際
3. 論文検索方法と実験計画の作り方
4.受講者が研究論文を紹介(実施したい研究に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 1
5.研究計画の確認・実験開始 1
6. 実験結果の整理・統計処理 1
7. レポートの書き方について解説
8. 受講者が研究論文を紹介(実施したい研究に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 2
9. 研究計画の確認、実験開始 2
10. 実験結果の整理・統計処理 2
11. 受講者が研究論文を紹介(実施したい実験に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 3
12. 研究計画の確認、実験開始 3
13. 実験結果の整理・統計処理 3
14. プレゼンテーション方法
15. プレゼンテーションとまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	J90197010
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
講義概要	「専門ゼミ A」で興味を持ったテーマを主に関連する文献やディスカッションなどを通してより深く掘り下げる作業を行う。また定期的に発表等を行いプレゼンテーションの方法も合わせて学んでいく。		
教材（テキスト）	特に必要ないが、必要な場合は適宜配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポートなどの提出物から発表など授業に取り組む姿勢から総合的に評価する。欠席は総合評価から減点される。		
到達目標	専門的なテーマについてより深い知識、洞察力を身につけディスカッションできる能力を習得する。		
準備学習	1,2 年次で学んだ基本的な科目を復習しておいてください。		
受講者への要望			
専門ゼミは自ら興味のあるテーマを探し、研究していくのが大きな目的です。積極的な授業参加を望みます。			
講義の順序とポイント			
1,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 1（班ごと） 2,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 2（班ごと） 3,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 3（班ごと） 4,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 4（班ごと） 5,中間発表 1 6,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 5（班ごと） 7,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 6（班ごと） 8,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 7（班ごと） 9,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 8（班ごと） 10,中間発表 2 11,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 9（班ごと） 12,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 10（班ごと） 13,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 11（班ごと） 14,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 12（班ごと） 15、本発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	J90197011
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
講義概要	健康スポーツ心理学（スポーツ心理学、健康心理学、健康科学分野）の研究方法について、関連のある書籍および論文から知識を得ると同時に、レジュメやレポートの作成、プレゼンテーション・ソフトなどを効果的に用いた理解しやすい説明方法を学ぶことで、プレゼンテーション能力の習熟に繋げる。また、各々がプレゼンテーションした情報について意見交換を行うことで、健康スポーツ心理学の知識を獲得するとともにコミュニケーション能力の向上を図る。		
教材（テキスト）	適宜資料を配布する。		
教材（参考文献）	適宜資料を配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施する課題（50%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（50%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、さまざまな書籍および論文から知識を得ると同時に、自ら研究計画を立案し、データ収集および処理ができるようになる。		
準備学習	日常生活の中で運動およびスポーツがもたらす心理的および生理的効果について考える機会を多く持つと同時に、疑問に思ったことを記録しておくこと。		
受講者への要望			
自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの実験・レポート・発表・討論に意欲的に取り組むよう努めること。			
講義の順序とポイント			
1.オリエンテーション、今後の予定と課題 2.心理指標の評価方法と生理的指標を用いた測定 3．論文検索方法と実験計画の作り方 4.受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 1 5.実験計画の確認、実験開始 1 6．実験結果の整理・統計処理 1 7.　実験結果についてプレゼンテーションと討論、レポートの書き方について解説 8．受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 2 9．実験計画の確認、実験開始 2 １０．実験結果の整理・統計処理 2 １１．プレゼンテーションと討論 １２．受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 3 １３．実験計画の確認、実験開始 3 １４．実験結果の整理・統計処理 3 １５．プレゼンテーションと討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1000101
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	小田　勇一	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋宿題提出４回（４０％）＋学期末レポート試験（３０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000102
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済システムの仕組みを学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」、そして「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕 ＊担当者が異なる別クラスの授業では、教科書も異なる場合があるので注意してください。		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋中間レポート試験（３０％）＋学期末レポート試験（４０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1) 「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって異なる場合がある。それゆえ別クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講してください。
(2)日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000105
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済システムの仕組みを学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」、そして「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕 ＊担当者が異なる別クラスの授業では、教科書も異なる場合があるので注意してください。		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋中間レポート試験（３０％）＋学期末レポート試験（４０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1) 「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって異なる場合がある。それゆえ別クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講してください。
(2)日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000106
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済システムの仕組みを学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」、そして「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕 ＊担当者が異なる別クラスの授業では、教科書も異なる場合があるので注意してください。		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋中間レポート試験（３０％）＋学期末レポート試験（４０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1) 「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって異なる場合がある。それゆえ別クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講してください。
(2)日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000107
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	小田　勇一	旧科目名称	
講義概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済組織の在り方を学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」と「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（テキスト）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編]・[マクロ編]』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕		
教材（参考文献）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教材（その他）	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋宿題提出４回（４０％）＋学期末レポート試験（３０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
準備学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講者への要望

(1)　日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。
(2)　なお「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって若干異なる場合がある。それゆえ各クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講していただきたい。

講義の順序とポイント

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000108
科目名	経済学入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
講義概要	この授業ミは、「グローバルクラス」および「航空観光プログラム」の一部として実施します。「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。 本講義では経済学の基本的な考え方を説明します。 経済学については、多くの人が「お金に関する学問」だと誤解をしていますが、経済学の目的は、「社会全体にとっての幸せの大きさ」から「その幸せの実現のために必要とされる費用」をひいた、ネットの幸せの部分を最大化することにあります。ここでいう「幸せ」は、金銭的なものだけでなく、愛情や苦痛といった非金銭的なものも含まれます。 この点を理解するために、この講義では、経済学の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性をわかりやすく説明します。		
教材（テキスト）	伊藤元重『ミクロ経済学』		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	京学なびに upload します。		
評価方法	学期末試験 80%と授業内演習の準備の程度及び参加の態度 20%。必要に応じて小テストを実施するかもしれません。		
到達目標	経済に対する興味を持つようになること。2 年生時にミクロ経済学をきちんと学びたいと思うようになること。		
準備学習	毎回のグループ発表の準備。詳細は授業で説明します。		
受講者への要望			
少人数の講義なので、受講者の興味に沿って内容を適宜変更します。どんな内容の講義をどのようにすすめるかについて、積極的に希望を述べてください。			
講義の順序とポイント			
1．経済学の目的～「効率化」、「資源配分の適正化」、「総余剰の最大化」とは？ 2．経済学における「効率」とは？ 3．効用、消費者余剰、生産者余剰の概念 4．需要曲線と消費者余剰 5．供給曲線と生産者余剰 6．「限界」と「平均」の概念～限界費用、平均費用、総費用～ 7．社会の幸せが最大化される条件 8．市場均衡と社会の幸せの最大化 9．完全競争市場における総余剰の最大化 10．市場メカニズムの限界～独占と市場の失敗～ 11．計画経済と市場経済のどちらを選ぶべきか 12．政策の間違いの検証～安易な課税、価格規制～ 13．政策の間違いの検証～自由貿易への介入～ 14．弾力性の概念～価格弾力性、所得弾力性～ 15．独占均衡			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	-	★★

年度	2017	授業コード	JC1000109
科目名	経済学入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 120 年以上が過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に応用できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、前半はミクロ経済理論として「消費者」と「企業」の行動に、また後半はマクロ経済理論として「政府」の行動に焦点をあて、経済学の諸原理について解説していく。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題も一緒に考えていく。さらに、学んだ経済学の諸原理を応用して、我々を取り巻く国内問題や国際問題についても考察していく。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	（1） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （2） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に各 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（ミクロ経済理論・マクロ経済理論）を理解し、それらを我々を取り巻く国内問題や国際問題を考える上で、応用できるようになること。		
準備学習	各授業に対応する教科書の章を示したシラバスを配布するので、講義の前には必ず教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学では、はじめて遭遇する概念や用語をすぐに理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理・グラフの用法 2. 市場と競争、需要と供給 3. 市場における需要と供給の作用 4. 需要、供給、および政府の政策Ⅰ （価格規制） 5. 需要、供給、および政府の政策Ⅱ （税金） 6. 消費者余剰と生産者余剰 7. 市場の効率性 8. 外部性と市場の非効率性 9. 国民所得の測定 （国内総生産： GDP） 10. 生計費の測定 （消費者物価指数： CPI） 11. 経済成長と生産性 12. 経済成長と公共政策 13. 貯蓄、投資と金融システム 14. 貸付資金市場 15. 貨幣システムと貨幣の需給			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000201
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する		
教材（参考文献）	Case Study を提示するが、受講生の興味に応じ提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship 第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント			

Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JC1000202
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する		
教材（参考文献）	Case Study を提示するが、受講生の興味に応じ提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship 第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント			

Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JC1000203
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する		
教材（参考文献）	Case Study を提示するが、受講生の興味に応じ提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship 第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント			

Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JC1000204
科目名	経営学入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	森本　全	旧科目名称	
講義概要	経営学が対象とする産業分野は多岐にわたるが、産業分野が異なっても、経営学の学び方は同じであり、そこには共通の基本として学ぶべき切り口がある。たとえば、当該産業の市場構造、ボーダレス市場、競争の形態、政府の支援や規制の現状、雇用戦略、社会的責任といった要素は、業種の違いを超えて経営戦略に影響する重要な要素である。 　この講義では、そのような経営学を学ぶ際に基本となる要因を、航空観光産業を例にあげながら説明することによって、抽象的な説明によるあいまいさと理解困難さを避けながら、初心者に経営学の基本的な考え方を提供することを目的とする。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介します。		
教材（その他）	授業の際に資料を配布します。		
評価方法	筆記小テスト３回の合計で 100%評価します。		
到達目標	①経営学の基本的切り口を航空輸送市場の分析をとおして理解できるようになること。 ②経営の基礎指標を用いて会社の経営状況を概略把握できるようになること。		
準備学習	授業の終了時に次回の資料を配布するので、それを読んできてください。		

受講者への要望

特になし

講義の順序とポイント

1）本講義の視点：航空観光産業の事例から経営戦略の一般論をみることの有用性
2）日本経済の特質とサービス産業を代表する観光ビジネスの歴史と現状
3）経営学の基本１）主要経営指標を用いて航空会社の経営を分析する
4）経営学の基本２）市場構造の把握
　　（１）幼稚産業保護の時代　（２）規制緩和と新規参入～競争の時代～
5）経営学の基本３）市場競争の実態
　　（１）大手 vs 新規参入の競争実態、シェア比較
6）　　（２）連携と競争～アライアンスか独立か～既存大手と新規参入で異なる戦略
7）　　（３）既存大手の経営戦略の典型例：日本航空、全日空の戦略
8）　　（４）新規参入者の経営戦略の典型例：LCC の経営戦略
9）経営学の基本４）ボーダレス市場～国際ビジネスとしての特徴～
10）経営学の基本５）産業間競争と経営戦略
　鉄道と既存大手航空会社の競争　LCC とバスの競争
11）経営学の基本６）雇用戦略と企業の発展
　エアラインスタッフとの１問１答にみるサービス産業における
　ホスピタリティと従業員満足度の重要性、ワークライフバランス
12）経営学の基本７）下部構造との連携～空港の発展とエアラインの発展関係～
13）経営学の基本８）企業の社会的責任
～ステークホルダー、コンプライアンス、社会的責任を考える～
14）経営学の基本９）政府政策との連携
～VISIT Japan キャンペーンにおける企業と自治体の役割分担～
15）全体の総括　ビデオによる感想発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	-	★	-	★★	-

年度	2017	授業コード	JC1000301
科目名	国際関係論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編）『新グローバル公共政策［改訂版］』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説 』中公叢書、2592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4

Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000302
科目名	国際関係論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編）『新グローバル公共政策［改訂版］』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説 』中公叢書、2592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4

Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000303
科目名	国際関係論入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、グローバル時代における国際社会について学ぶ。国際社会の特徴、国際関係の理論、国際社会のアクター（国家、国際機構、NGO など）、国際社会の現代的課題（平和、環境、テロなど）について講義しながら、われわれが世界とつながり、地球社会の一員であることを伝えていきたい。講義では、国内外の時事問題など具体的事例を示しながら、受講生と共に考え、受講生がグローバルな視野を獲得することを目標とする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	最近出版された主な教科書 滝田 賢治ほか編『国際関係学』（有信堂、2015 年） 中嶋 嶺雄『国際関係論』（中公新書、2013 年） 初瀬 龍平編著『国際関係論入門』（法律文化社、2012 年） 山影 進『国際関係論講義』（東京大学出版会、2012 年） 山田 高敬・大矢根 聡『グローバル社会の国際関係論［新版］』（有斐閣コンパクト、2011 年） ＊その他のものは講義で適宜紹介する。		
教材（その他）	ビデオ教材を用いることがある。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト 40%、数本のレポート 60%。その他、積極的な授業参加により加点する。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会の特徴を理解し、国際社会の現代的課題について理解を深めることができる。 ２．現代社会の諸問題について、グローバルな視点から考えることができる。		
準備学習	講義の最後に次回の予習範囲・課題を提示するので、準備してくること。 復習については、毎回講義の最後に小テストを行う。		

受講者への要望

１．毎日ニュースを見て、国際社会の時事問題に関心をもってほしい。
２．間違うことを恐れず、積極的に授業に参加することを求める。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス、序論：国際社会はどのような社会か
２．国際関係のとらえ方（１）：リアリズム
３．国際関係のとらえ方（２）：リベラリズムその他
４．国際社会のアクター（１）：国家
５．国際社会のアクター（２）：国際機構
６．国際社会のアクター（３）：個人、エスニック集団
７．国際社会のアクター（４）：企業、ＮＧＯ
８．国際社会の現代的課題（１）：平和
９．国際社会の現代的課題（２）：平和
１０．国際社会の現代的課題（３）：貧困と開発
１１．国際社会の現代的課題（４）：環境
１２．国際社会の現代的課題（５）：環境
１３．国際社会の現代的課題（６）：多文化共生
１４．国際社会の現代的課題（７）：難民
１５．国際社会の現代的課題（８）：テロ

＊講義の進度や受講生の要望により若干変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000304
科目名	国際関係論入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	この講義では、グローバル時代における国際社会について学ぶ。国際社会の特徴、国際関係の理論、国際社会のアクター（国家、国際機構、NGO など）、国際社会の現代的課題（平和、環境、テロなど）について講義しながら、われわれが世界とつながり、地球社会の一員であることを伝えていきたい。講義では、国内外の時事問題など具体的事例を示しながら、受講生と共に考え、受講生がグローバルな視野を獲得することを目標とする。		
教材（テキスト）	教科書は使用しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考文献）	最近出版された主な教科書 滝田 賢治ほか編『国際関係学』（有信堂、2015 年） 中嶋 嶺雄『国際関係論』（中公新書、2013 年） 初瀬 龍平編著『国際関係論入門』（法律文化社、2012 年） 山影 進『国際関係論講義』（東京大学出版会、2012 年） 山田 高敬・大矢根 聡『グローバル社会の国際関係論［新版］』（有斐閣コンパクト、2011 年） ＊その他のものは講義で適宜紹介する。		
教材（その他）	ビデオ教材を用いることがある。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト 40%、数本のレポート 60%。その他、積極的な授業参加により加点する。 詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	１．国際社会の特徴を理解し、国際社会の現代的課題について理解を深めることができる。 ２．現代社会の諸問題について、グローバルな視点から考えることができる。		
準備学習	講義の最後に次回の予習範囲・課題を提示するので、準備してくること。 復習については、毎回講義の最後に小テストを行う。		

受講者への要望

１．毎日ニュースを見て、国際社会の時事問題に関心をもってほしい。
２．間違うことを恐れず、積極的に授業に参加することを求める。

講義の順序とポイント

１．受講ガイダンス、序論：国際社会はどのような社会か
２．国際関係のとらえ方（１）：リアリズム
３．国際関係のとらえ方（２）：リベラリズムその他
４．国際社会のアクター（１）：国家
５．国際社会のアクター（２）：国際機構
６．国際社会のアクター（３）：個人、エスニック集団
７．国際社会のアクター（４）：企業、ＮＧＯ
８．国際社会の現代的課題（１）：平和
９．国際社会の現代的課題（２）：平和
１０．国際社会の現代的課題（３）：貧困と開発
１１．国際社会の現代的課題（４）：環境
１２．国際社会の現代的課題（５）：環境
１３．国際社会の現代的課題（６）：多文化共生
１４．国際社会の現代的課題（７）：難民
１５．国際社会の現代的課題（８）：テロ

＊講義の進度や受講生の要望により若干変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000401
科目名	知的財産	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」を対象に、「知的財産」を「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、紛争事例なども交えながら、関係法規の基本的な考え方を問題解決のツールとして学ぶこととする。 以上を通して知的財産権の所有と利用、またその侵害に対する排除のルールである「知的財産制度」の役割･機能を具体的に把握することとする。 授業の方法としては、できるだけ双方向のやりとりができるよう、授業内課題・レポート等を活用していくこととする。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布。		
教材（参考文献）	平嶋・宮脇･蘆立『入門知的財産法』(2016 年、有斐閣) 福井健策『18 歳の著作権入門』(2015 年、ちくまプリマー新書)		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題　10 回程度実施　記入内容に基づき、授業に積極的に参加していたかどうかを評価する(４０％)。 レポート課題　2 回出題　提出されたレポートの体裁・内容に基づき評価する(６０％)		
到達目標	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」について、「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、関係法規の基本的な考え方を学ぶ。		
準備学習	１．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。 ２．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 ３．知的財産を取り扱った新聞報道によく接するようにし、法的な問題点について関心を持つようにすること。(講義の中でも積極的に取り上げるようにする。) ４．各回の講義で指示する課題に取り組むこと。		
受講者への要望			
授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。			
講義の順序とポイント			
１．知的財産と企業経営 「下町ロケット」では、知的財産はどのように取り扱われていたか？ ２．財産に関する基本法・民法の基本 法の役割は何か 財産権の所有・利用・侵害に関する民法ルールは？ ３．知的財産と知的財産法 知的財産権とは何か？ ４．特許法で保護されている「発明」 ５．著作権法で保護されている「著作物」 ６．権利の主体(1)－発明者等 ７．権利の主体(2)－著作者等 ８．特許権の侵害と救済 ９．著作権の侵害と救済 10.「特許権・発明」の利用 11.「著作権・著作物」の利用 12. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(1)			

ＡＫＢ４８の写真を無許可でポスターに使用してよいか？
－パブリシティ権の問題
13. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(2)
米国特許訴訟のリスクマネジメント－パテントロールとは？
14. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(3)
複合商業施設内の庭園の改変と 著作権法の類推適用（新梅田シティ事件）
１５．最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(4)
スイスの高級腕時計「フランク・ミュラー」を連想させる「フランク三浦」の商標登録

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000402
科目名	知的財産	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」を対象に、「知的財産」を「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、紛争事例なども交えながら、関係法規の基本的な考え方を問題解決のツールとして学ぶこととする。 以上を通して知的財産権の所有と利用、またその侵害に対する排除のルールである「知的財産制度」の役割･機能を具体的に把握することとする。 授業の方法としては、できるだけ双方向のやりとりができるよう、授業内課題・レポート等を活用していくこととする。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布。		
教材（参考文献）	平嶋・宮脇･蘆立『入門知的財産法』(2016 年、有斐閣) 福井健策『18 歳の著作権入門』(2015 年、ちくまプリマー新書)		
教材（その他）			
評価方法	授業内課題　10 回程度実施　記入内容に基づき、授業に積極的に参加していたかどうかを評価する(４０％)。 レポート課題　2 回出題　提出されたレポートの体裁・内容に基づき評価する(６０％)		
到達目標	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」について、「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、関係法規の基本的な考え方を学ぶ。		
準備学習	１．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。 ２．授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 ３．知的財産を取り扱った新聞報道によく接するようにし、法的な問題点について関心を持つようにすること。(講義の中でも積極的に取り上げるようにする。) ４．各回の講義で指示する課題に取り組むこと。		
受講者への要望			
授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。			
講義の順序とポイント			
１．知的財産と企業経営 「下町ロケット」では、知的財産はどのように取り扱われていたか？ ２．財産に関する基本法・民法の基本 法の役割は何か 財産権の所有・利用・侵害に関する民法ルールは？ ３．知的財産と知的財産法 知的財産権とは何か？ ４．特許法で保護されている「発明」 ５．著作権法で保護されている「著作物」 ６．権利の主体(1)－発明者等 ７．権利の主体(2)－著作者等 ８．特許権の侵害と救済 ９．著作権の侵害と救済 10.「特許権・発明」の利用 11.「著作権・著作物」の利用 12. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(1)			

ＡＫＢ４８の写真を無許可でポスターに使用してよいか？
－パブリシティ権の問題
13. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(2)
米国特許訴訟のリスクマネジメント－パテントロールとは？
14. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(3)
複合商業施設内の庭園の改変と 著作権法の類推適用（新梅田シティ事件）
１５．最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(4)
スイスの高級腕時計「フランク・ミュラー」を連想させる「フランク三浦」の商標登録

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000501
科目名	コーポレートガバナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	コーポレートガバナンス（企業統治）には大きく 2 つの狙いがある。第 1 は経営の適性さ、健全性の確保であり、第 2 は、会社の業績の向上である。この授業では、「日本経済と日本的経営」「日本の雇用・労使関係」「会計制度の国際化」「株主代表訴訟とコーポレートガバナンス」「コーポレートガバナンスの展望」などいくつかの入門的トピックを取り上げる。また、経営の適性さ、健全性はコンプライアンス（法令遵守）とも重なるので、その基礎を紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	コーポレートガバナンスとコンプライアンスについての概略とその基本的理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布または指定するので、予習しておくこと。また、毎回の授業で前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞記事の経済面などに努めて目を通し、経済や企業経営に幅広く興味関心を持ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．株式会社とは 3．企業不祥事 4．欧米におけるコーポレートガバナンス 5．日本経済と日本的経営 6．日本の雇用・労使関係とコーポレートガバナンス 7．株主総会のしくみ 8．取締役会のしくみ 9．監査役・会計監査人のしくみ 10.会計制度の国際化とコーポレートガバナンス 11.資金調達とコーポレートガバナンス 12.内部統制システム 13.株主代表訴訟とコーポレートガバナンス 14.コンプライアンスとは 15.コーポレートガバナンスの展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000502
科目名	コーポレートガバナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
講義概要	コーポレートガバナンス（企業統治）には大きく 2 つの狙いがある。第 1 は経営の適性さ、健全性の確保であり、第 2 は、会社の業績の向上である。この授業では、「日本経済と日本的経営」「日本の雇用・労使関係」「会計制度の国際化」「株主代表訴訟とコーポレートガバナンス」「コーポレートガバナンスの展望」などいくつかの入門的トピックを取り上げる。また、経営の適性さ、健全性はコンプライアンス（法令遵守）とも重なるので、その基礎を紹介する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回レジュメを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）。定期テスト（60%）。		
到達目標	コーポレートガバナンスとコンプライアンスについての概略とその基本的理解を得る。		
準備学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布または指定するので、予習しておくこと。また、毎回の授業で前回授業内容を含む復習小テストを行うので、復習しておくこと。		
受講者への要望			
新聞記事の経済面などに努めて目を通し、経済や企業経営に幅広く興味関心を持ってもらいたい。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション 2．株式会社とは 3．企業不祥事 4．欧米におけるコーポレートガバナンス 5．日本経済と日本的経営 6．日本の雇用・労使関係とコーポレートガバナンス 7．株主総会のしくみ 8．取締役会のしくみ 9．監査役・会計監査人のしくみ 10.会計制度の国際化とコーポレートガバナンス 11.資金調達とコーポレートガバナンス 12.内部統制システム 13.株主代表訴訟とコーポレートガバナンス 14.コンプライアンスとは 15.コーポレートガバナンスの展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000601
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　社会保障の仕組み 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 第 2 部　生命保険と損害保険によるリスクへの備え 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。 その他　日本経済新聞を活用して、上記のような情報を取集する方法についても取り上げます。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、投資信託分析レポートの作成とする。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得することを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
講義の順序とポイント			
1.ガイダンスとライフプランニング 就職し、大卒の平均初任給 198,000 円を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？ ライフイベント表や個人のバランスシートについても取り上げます。 【第 1 部　社会保障の仕組み】			

2.年収と所得税・住民税
給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
所得税や住民税がどのように利用されているのでしょうか？

3.社会保障 1
給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

4.社会保障 2
健康保険、介護保険、労災保険、雇用保険について取り上げます。
高額療養費制度についても取り上げます。

5.社会保障 3
公的年金と老齢給付、障害給付、遺族給付について取り上げます。

【第 2 部　生命保険と損害保険によるリスクへの備え】
6.保障とはお金の役割とは
死亡保障の役割、医療保障の役割、緊急予備資金、保険商品の収益構造について取り上げます。

7.生命保険と損害保険 1
家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。
実際の定期保険、終身保険、養老保険商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法)、選択する際のポイントに触れます。
また、団体信用生命保険を紹介します。

8.生命保険と損害保険 2
医療保険、がん保険、所得補償保険について取り上げます。
高額療養費

9.生命保険と損害保険 3
個人年金保険、損害保険について取り上げます。

【第 3 部　投資信託による資産運用】
10.資産運用とは投資とは
投資とは何かを学びます。

11.投資信託 1
・投資信託とはいったいどのようなものでしょうか？
投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。
・投資信託の値動きと経済指標の関係
長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

12.投資信託 2
交付目論見書の読み方
投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。
実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

13.投資信託 3
・インデックス型とアクティブ型
投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。
それぞれの特徴や違いを学びます。
・分配金、シャープレシオ、税制（NISA）
投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。
分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

14.iDeCo（個人型確定拠出年金制度）
確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

【情報リテラシー】
15.日本経済新聞を使った情報収集
投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？
日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。
また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000602
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識を身につけことを目標としています。 大きく３部構成としています。 第１部　投資信託による資産運用 第２部　生命保険によるリスクへの備え 第３部　社会保障の仕組みと日本の課題 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習すると共に、各分野の専門家を講師に招き、現場の声を聴く機会を作りたいと考えている。		
教材（テキスト）	各授業でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート・授業内提出物・平常点を総合的に評価する。		
到達目標	社会人としての基本的なマナーに関する知識を修得することを目標とする。		
準備学習	前回の授業内容の復習を中心に各自工夫して準備を進めてください。		

受講者への要望

社会人になると給料により収入を得るようになりますが、そのすべてが使えるわけではなく、将来のための貯蓄やその使い方にも工夫が必要になります。
この授業は、将来必要となる知識の習得を目指すものであり、積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

【授業の順序とポイント】
１．初任給をどう使う？

[第１部　投資信託]
２．投資信託とは何か？
３．交付目論見書の読み方
４．インデックス型とアクティブ型
５．分配金、シャープレシオ、税制（NISA）
６．バランス型投資信託、確定拠出年金制度
７．投資信託の値動きと経済指標の関係
８．投資信託の委託会社、販売会社。主な投資信託。投資信託の損益ステュワードシップコード
[第２部　生命保険]
９．生命保険の３種類
１０．定期保険、養老保険
１１．終身保険、年金保険
１２．公的保険、公的年金　～必要保障額野算定
[第３部　社会保障]
１３．給料からひかれる健康保険料、厚生年金保険料とは何か？
１４．給料から引かれる所得税、住民税とは何か？

１５．日本経済新聞を使った情報収集

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000603
科目名	ビジネスパーソンの常識 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識を身につけことを目標としています。 大きく３部構成としています。 第１部　投資信託による資産運用 第２部　生命保険によるリスクへの備え 第３部　社会保障の仕組みと日本の課題 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習すると共に、各分野の専門家を講師に招き、現場の声を聴く機会を作りたいと考えている。		
教材（テキスト）	各授業でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート・授業内提出物・平常点を総合的に評価する。		
到達目標	社会人としての基本的なマナーに関する知識を修得することを目標とする。		
準備学習	前回の授業内容の復習を中心に各自工夫して準備を進めてください。		

受講者への要望

社会人になると給料により収入を得るようになりますが、そのすべてが使えるわけではなく、将来のための貯蓄やその使い方にも工夫が必要になります。
この授業は、将来必要となる知識の習得を目指すものであり、積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

【授業の順序とポイント】
１．初任給をどう使う？

[第１部　投資信託]
２．投資信託とは何か？
３．交付目論見書の読み方
４．インデックス型とアクティブ型
５．分配金、シャープレシオ、税制（NISA）
６．バランス型投資信託、確定拠出年金制度
７．投資信託の値動きと経済指標の関係
８．投資信託の委託会社、販売会社。主な投資信託。投資信託の損益ステュワードシップコード
[第２部　生命保険]
９．生命保険の３種類
１０．定期保険、養老保険
１１．終身保険、年金保険
１２．公的保険、公的年金　～必要保障額野算定
[第３部　社会保障]
１３．給料からひかれる健康保険料、厚生年金保険料とは何か？
１４．給料から引かれる所得税、住民税とは何か？

１５．日本経済新聞を使った情報収集

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000604
科目名	ビジネスパーソンの常識 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識を身につけことを目標としています。 大きく３部構成としています。 第１部　投資信託による資産運用 第２部　生命保険によるリスクへの備え 第３部　社会保障の仕組みと日本の課題 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習すると共に、各分野の専門家を講師に招き、現場の声を聴く機会を作りたいと考えている。		
教材（テキスト）	各授業でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート・授業内提出物・平常点を総合的に評価する。		
到達目標	社会人としての基本的なマナーに関する知識を修得することを目標とする。		
準備学習	前回の授業内容の復習を中心に各自工夫して準備を進めてください。		

受講者への要望

社会人になると給料により収入を得るようになりますが、そのすべてが使えるわけではなく、将来のための貯蓄やその使い方にも工夫が必要になります。
この授業は、将来必要となる知識の習得を目指すものであり、積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

【授業の順序とポイント】
１．初任給をどう使う？

[第１部　投資信託]
２．投資信託とは何か？
３．交付目論見書の読み方
４．インデックス型とアクティブ型
５．分配金、シャープレシオ、税制（NISA）
６．バランス型投資信託、確定拠出年金制度
７．投資信託の値動きと経済指標の関係
８．投資信託の委託会社、販売会社。主な投資信託。投資信託の損益ステュワードシップコード
[第２部　生命保険]
９．生命保険の３種類
１０．定期保険、養老保険
１１．終身保険、年金保険
１２．公的保険、公的年金　～必要保障額野算定
[第３部　社会保障]
１３．給料からひかれる健康保険料、厚生年金保険料とは何か？
１４．給料から引かれる所得税、住民税とは何か？

１５．日本経済新聞を使った情報収集

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000605
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
講義概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　社会保障の仕組み 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 第 2 部　生命保険と損害保険によるリスクへの備え 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。 その他　日本経済新聞を活用して、上記のような情報を取集する方法についても取り上げます。		
教材（テキスト）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを活用する。 適宜プリントを配付する。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、投資信託分析レポートの作成とする。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得することを目標とします。		
準備学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講者への要望			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
講義の順序とポイント			
1.ガイダンスとライフプランニング 就職し、大卒の平均初任給 198,000 円を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？ ライフイベント表や個人のバランスシートについても取り上げます。			

【第 1 部　社会保障の仕組み】
2.年収と所得税・住民税
　給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
　所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　所得税や住民税がどのように利用されているのでしょうか？

3.社会保障 1
　給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
　さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
　健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

4.社会保障 2
　健康保険、介護保険、労災保険、雇用保険について取り上げます。
　高額療養費制度についても取り上げます。

5.社会保障 3
　公的年金と老齢給付、障害給付、遺族給付について取り上げます。

【第 2 部　生命保険と損害保険によるリスクへの備え】
6.保障とはお金の役割とは
　死亡保障の役割、医療保障の役割、緊急予備資金、保険商品の収益構造について取り上げます。

7.生命保険と損害保険 1
　家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。
　実際の定期保険、終身保険、養老保険商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法)、選択する際のポイントに触れます。
　また、団体信用生命保険を紹介します。

8.生命保険と損害保険 2
　医療保険、がん保険、所得補償保険について取り上げます。
　高額療養費

9.生命保険と損害保険 3
　個人年金保険、損害保険について取り上げます。

【第 3 部　投資信託による資産運用】
10.資産運用とは投資とは
　投資とは何かを学びます。

11.投資信託 1
　・投資信託とはいったいどのようなものでしょうか？
　　投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
　　委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。
　・投資信託の値動きと経済指標の関係
　長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

12.投資信託 2
　　交付目論見書の読み方
　投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。
　実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

13.投資信託 3
　・インデックス型とアクティブ型

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。
投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。
それぞれの特徴や違いを学びます。

・分配金、シャープレシオ、税制（NISA）
投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。
分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

14.iDeCo（個人型確定拠出年金制度）
確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

【情報リテラシー】
15.日本経済新聞を使った情報収集
投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？
日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。
また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1000701
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後は、レポートの基礎となる説明文・論説文の書き方を学びます。 授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となります。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994 年		
教材（参考文献）	授業中に紹介します。		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		

受講者への要望

毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。
【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。

講義の順序とポイント

第 1 回　これからの授業の説明
第 2 回　レポート・論文の基本事項
第 3 回　わかりやすい文章の書き方
第 4 回　事実と意見
第 5 回　課題 1　説明文の執筆
第 6 回　構成
第 7 回　要約
第 8 回　文章を引用する
第 9 回　図表を引用する
第 10 回　意見を述べる
第 11 回　課題 2　論説文に向けて
第 12 回　レポートの体裁
第 13 回　レポート作成の注意点
第 14 回　課題 2　論説文の執筆
第 15 回　手紙の書き方
学期末試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000702
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後は、レポートの基礎となる説明文・論説文の書き方を学びます。 授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となります。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994 年		
教材（参考文献）	授業中に紹介します。		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		

受講者への要望

毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。
【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。

講義の順序とポイント

第 1 回　これからの授業の説明
第 2 回　レポート・論文の基本事項
第 3 回　わかりやすい文章の書き方
第 4 回　事実と意見
第 5 回　課題 1　説明文の執筆
第 6 回　構成
第 7 回　要約
第 8 回　文章を引用する
第 9 回　図表を引用する
第 10 回　意見を述べる
第 11 回　課題 2　論説文に向けて
第 12 回　レポートの体裁
第 13 回　レポート作成の注意点
第 14 回　課題 2　論説文の執筆
第 15 回　手紙の書き方
学期末試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000703
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後は、レポートの基礎となる説明文・論説文の書き方を学びます。 授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となります。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994 年		
教材（参考文献）	授業中に紹介します。		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		

受講者への要望

毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。
【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。

講義の順序とポイント

第 1 回　これからの授業の説明
第 2 回　レポート・論文の基本事項
第 3 回　わかりやすい文章の書き方
第 4 回　事実と意見
第 5 回　課題 1　説明文の執筆
第 6 回　構成
第 7 回　要約
第 8 回　文章を引用する
第 9 回　図表を引用する
第 10 回　意見を述べる
第 11 回　課題 2　論説文に向けて
第 12 回　レポートの体裁
第 13 回　レポート作成の注意点
第 14 回　課題 2　論説文の執筆
第 15 回　手紙の書き方
学期末試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000704
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後は、レポートの基礎となる説明文・論説文の書き方を学びます。 授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となります。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994 年		
教材（参考文献）	授業中に紹介します。		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		

受講者への要望

毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。
【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。

講義の順序とポイント

第 1 回　これからの授業の説明
第 2 回　レポート・論文の基本事項
第 3 回　わかりやすい文章の書き方
第 4 回　事実と意見
第 5 回　課題 1　説明文の執筆
第 6 回　構成
第 7 回　要約
第 8 回　文章を引用する
第 9 回　図表を引用する
第 10 回　意見を述べる
第 11 回　課題 2　論説文に向けて
第 12 回　レポートの体裁
第 13 回　レポート作成の注意点
第 14 回　課題 2　論説文の執筆
第 15 回　手紙の書き方
学期末試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000705
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
講義概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 「話す」能力を身に付けるため、毎回小テストを行います。小テストは、敬語と中心として出題されます。直後に詳しい解説を行って知識が定着しやすいようにします。小テストでは、漢字・慣用句も問われます。 「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後は、レポートの基礎となる説明文・論説文の書き方を学びます。 授業では毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となります。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句のテスト（原則として毎回）		
教材（テキスト）	木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994 年		
教材（参考文献）	授業中に紹介します。		
教材（その他）	授業中に紹介します		
評価方法	課題提出等による平常点 50%、学期末テスト 50%。		
到達目標	大学生として身に付けておくべき、文章の読み書き能力のうち、基本的な部分を習得する。		
準備学習	授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置いておくこと。高校までに使っていたもので構わない。持っていない、あるいは捨てた者は中古でよいから購入しておくこと。		
受講者への要望			
毎回の授業に国語辞典（電子辞書でも紙の辞書でもよい。どの出版社のものでもよい）を持参すること。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・携帯電話の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　レポート・論文の基本事項 第 3 回　わかりやすい文章の書き方 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文の執筆 第 6 回　構成 第 7 回　要約 第 8 回　文章を引用する 第 9 回　図表を引用する 第 10 回　意見を述べる 第 11 回　課題 2　論説文に向けて 第 12 回　レポートの体裁 第 13 回　レポート作成の注意点 第 14 回　課題 2　論説文の執筆 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1000706
科目名	実用日本語 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	社会人として通用する「話す」言葉と「書く」言葉の技法を身に付ける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎時の漢字小テスト、提出物、敬語チェック等の得点により評価する。		
到達目標	講義概要と同じ		
準備学習	第二回の授業以降、毎回、「今週、私の受けた興味深い授業とその内容」という 200 字の文章を「京学なび」に提出すること。書き方は初回の授業で説明する。締め切りは授業前の土曜日の 23 時 59 分とする。		

受講者への要望

平素より言葉遣いに注意し、講義で得た知識や技術を生活上で実践すること。　授業においては、作業が中心となるので、積極的に取り組み、質問すること。

講義の順序とポイント

1　自己紹介の方法　話し言葉と書き言葉　授業の進め方　毎週の課題文の書き方
2　敬語 1
3　敬語 2
4　敬語 3
5　敬語 4
6　敬語 5
7　手紙 1
8　手紙 2
9　書き言葉の技法 1
10　書き言葉の技法 2
11　書き言葉の技法 3
12　書き言葉の技法 4
13　書き言葉の技法 5
14　書き言葉の技法 6
15　最終提出作品の作成と発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	-	★

年度	2017	授業コード	JC1000707
科目名	実用日本語 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	社会人として通用する「話す」言葉と「書く」言葉の技法を身に付ける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	毎時の漢字小テスト、提出物、敬語チェック等の得点により評価する。		
到達目標	講義概要と同じ		
準備学習	第二回の授業以降、毎回、「今週、私の受けた興味深い授業とその内容」という 200 字の文章を「京学なび」に提出すること。書き方は初回の授業で説明する。締め切りは授業前の土曜日の 23 時 59 分とする。		

受講者への要望

平素より言葉遣いに注意し、講義で得た知識や技術を生活上で実践すること。　授業においては、作業が中心となるので、積極的に取り組み、質問すること。

講義の順序とポイント

1　自己紹介の方法　話し言葉と書き言葉　授業の進め方　毎週の課題文の書き方
2　敬語 1
3　敬語 2
4　敬語 3
5　敬語 4
6　敬語 5
7　手紙 1
8　手紙 2
9　書き言葉の技法 1
10　書き言葉の技法 2
11　書き言葉の技法 3
12　書き言葉の技法 4
13　書き言葉の技法 5
14　書き言葉の技法 6
15　最終提出作品の作成と発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	-	-	★

年度	2017	授業コード	JC1110101
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	時代ごとに、京都を舞台とする著名な文学作品を取り上げ、京都のさまざまな姿を紹介する。 長きにわたって読まれ続けてきた文学作品の魅力に触れ、日本人のものの見方・感じ方や、日本文化とその変遷について学ぶ。 授業で学んだ知識と、自らの体験をつきあわせることが深い理解につながるため、ぜひ授業で紹介した地を積極的に訪れてもらいたい。		
教材（テキスト）	授業中にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜パワーポイントによるスライドを用いる。		
評価方法	平常点（30%）、授業内レポート（20%）、定期テスト（50%） ※平常点は授業中のミニッツペーパーや発言により評価する。		
到達目標	日本の文学作品に親しむことで、現代とは異なる日本文化や価値観に触れ、京都・日本文化への理解を深める。		
準備学習	実際に自分で京都を歩き、京都の地形・地理などをある程度身につけておくのが望ましい。 各講義の内容を復習したうえで授業にのぞむこと。		

受講者への要望

私語は厳禁とする（私語が講義の妨げとなる場合は退出を求めることがある）。
授業で取り上げた場所に関しては、是非訪れてもらいたい。
古典文法などの予備知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 概説
2 平安時代の文学と京都 1
3 平安時代の文学と京都 2
4 平安時代の文学と京都 3
5 平安時代の文学と京都 4
6 鎌倉時代の文学と京都 1
7 鎌倉時代の文学と京都 2
8 鎌倉時代の文学と京都 3
9 室町・安土桃山時代の文学と京都 1
10 室町・安土桃山時代の文学と京都 2
11 江戸時代の文学と京都 1
12 江戸時代の文学と京都 2
13 明治の文学と京都
14 昭和の文学と京都
15 その他の文学と京都

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1110102
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	時代ごとに、京都を舞台とする著名な文学作品を取り上げ、京都のさまざまな姿を紹介する。 長きにわたって読まれ続けてきた文学作品の魅力に触れ、日本人のものの見方・感じ方や、日本文化とその変遷について学ぶ。 授業で学んだ知識と、自らの体験をつきあわせることが深い理解につながるため、ぜひ授業で紹介した地を積極的に訪れてもらいたい。		
教材（テキスト）	授業中にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜パワーポイントによるスライドを用いる。		
評価方法	平常点（30%）、授業内レポート（20%）、定期テスト（50%） ※平常点は授業中のミニッツペーパーや発言により評価する。		
到達目標	日本の文学作品に親しむことで、現代とは異なる日本文化や価値観に触れ、京都・日本文化への理解を深める。		
準備学習	実際に自分で京都を歩き、京都の地形・地理などをある程度身につけておくのが望ましい。 各講義の内容を復習したうえで授業にのぞむこと。		

受講者への要望

私語は厳禁とする（私語が講義の妨げとなる場合は退出を求めることがある）。
授業で取り上げた場所に関しては、是非訪れてもらいたい。
古典文法などの予備知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 概説
2 平安時代の文学と京都 1
3 平安時代の文学と京都 2
4 平安時代の文学と京都 3
5 平安時代の文学と京都 4
6 鎌倉時代の文学と京都 1
7 鎌倉時代の文学と京都 2
8 鎌倉時代の文学と京都 3
9 室町・安土桃山時代の文学と京都 1
10 室町・安土桃山時代の文学と京都 2
11 江戸時代の文学と京都 1
12 江戸時代の文学と京都 2
13 明治の文学と京都
14 昭和の文学と京都
15 その他の文学と京都

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1110103
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	時代ごとに、京都を舞台とする著名な文学作品を取り上げ、京都のさまざまな姿を紹介する。 長きにわたって読まれ続けてきた文学作品の魅力に触れ、日本人のものの見方・感じ方や、日本文化とその変遷について学ぶ。 授業で学んだ知識と、自らの体験をつきあわせることが深い理解につながるため、ぜひ授業で紹介した地を積極的に訪れてもらいたい。		
教材（テキスト）	授業中にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜パワーポイントによるスライドを用いる。		
評価方法	平常点（30%）、授業内レポート（20%）、定期テスト（50%） ※平常点は授業中のミニッツペーパーや発言により評価する。		
到達目標	日本の文学作品に親しむことで、現代とは異なる日本文化や価値観に触れ、京都・日本文化への理解を深める。		
準備学習	実際に自分で京都を歩き、京都の地形・地理などをある程度身につけておくのが望ましい。 各講義の内容を復習したうえで授業にのぞむこと。		

受講者への要望

私語は厳禁とする（私語が講義の妨げとなる場合は退出を求めることがある）。
授業で取り上げた場所に関しては、是非訪れてもらいたい。
古典文法などの予備知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

講義の順序とポイント

1 概説
2 平安時代の文学と京都 1
3 平安時代の文学と京都 2
4 平安時代の文学と京都 3
5 平安時代の文学と京都 4
6 鎌倉時代の文学と京都 1
7 鎌倉時代の文学と京都 2
8 鎌倉時代の文学と京都 3
9 室町・安土桃山時代の文学と京都 1
10 室町・安土桃山時代の文学と京都 2
11 江戸時代の文学と京都 1
12 江戸時代の文学と京都 2
13 明治の文学と京都
14 昭和の文学と京都
15 その他の文学と京都

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1110201
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
講義概要	心理学は、人間の行動や心のありよう、心のはたらきを探求する学問である。人間の行動や心のありよう、心のはたらきを知ることは、人間を理解するためには 不可欠であり、人間にかかわる他学問すべてに関連しているといえる。心理学の基礎的領域を中心に、人間の心理的構造と機能について、実験的な事例をあげながら授業をすすめる。また、これらの基礎的な事実に基づいて、実際に人間の行動にどのように反映されているのかについて考えていく。		
教材（テキスト）	加藤　司（編）(2008）心理学の基礎－新しい知見とトピックスから学ぶ－　樹村房　1800 円		
教材（参考文献）	岡市 廣成, 鈴木 直人（監）(2014）心理学概論[第 2 版]. ナカニシヤ出版　3200 円		
教材（その他）			
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなどによる平常点（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	①　心理学の基礎的知識の説明ができる ②　日常生活でみられるさまざまな現象を心理学の理論と結びつけることができる		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また、授業内容の全てをプリントにするわけではないため、口頭での説明箇所等については、各自授業後にノートを整理するなど積極的な予習復習を行うこと。		

受講者への要望

イメージする心理学と，学問としての心理学とではギャップを感じるかもしれない。しかしながら心理学が扱う問題は、日常生活で感じる問題とリンクしていることが多い。心理学がわれわれの行動を解明するためにどのような役割を担っているのかについて、自分の生活と照らし合わせながら理解してほしい。
また、他者とのディスカッションを通して理解を深めてほしい。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。

講義の順序とポイント

以下の内容についての講義に加え，グループでのディスカッションや発表を行う場合がある。

1. オリエンテーション　なぜ心理学を学ぶのかを考える
2. 感覚と知覚
3. 記憶のメカニズム
4. 学習①　行動と学習の理論
5. 学習②　学習理論の応用
6. 情動と動機付け
7. 健康①　ストレス
8 健康②　適応と不適応
9. 性格①　パーソナリティとは
10.性格②　パーソナリティの理解
11.発達
12.教育
13.カウンセリングと心理療法
14.社会的行動
15.人間関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC1110202
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　60% 授業内小テスト　40%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習心理学 ①条件づけ
7. ② 記憶
8. 思考心理 ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
9. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
10. ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1110203
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 　この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	図説心理学入門　斉藤勇（編）　誠心書房		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリント配布		
評価方法	授業（授業内小テスト　授業内レポートなど）　５０％　試験　５０％		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		
受講者への要望			
自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生が授業を聞く権利を妨害するような態度は厳禁です。その場合には、単位を出さなかったり、退室を求めることもあります。			
講義の順序とポイント			
１、心理学の様々な分野 ２、知覚と認知　①形の知覚　②図と地　③錯視図形 ３、欲求と動機付け　フラストレーションとコンフリクト ４、条件付け・学習　①古典的条件付け　②オペラント条件付け　③学習性無力感 ５、社会的学習　　①模倣学習　②観察学習 ６、記憶　①作業記憶　②長期記憶　③記憶の変容　④記憶の障害 ７、発達とは何か　①エリクソンの理論　②フロイトの理論　③ピアジェの理論 ８、発達①胎児期　乳児期　幼児期 ９、発達②児童期　思春期　青年期 １０、発達③成人期　老年期 １１、性格 １２、対人心理と社会心理　状況の力①他者の存在　②支配と服従　③同調 １３、脳と行為の自己調節　行動のコントロール １４、臨床心理学　カウンセリングとは １５、様々な心理療法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110204
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　60% 授業内小テスト　40%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習心理学 ①条件づけ
7. ② 記憶
8. 思考心理 ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
9. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
10. ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1110205
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山添　正	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。本講義では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	『プロが教える心理学のすべてがわかる本』（ナツメ社）　大井晴策 著 1,620 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	ビデオ教材を使用し、プリントを配布する		
評価方法	授業内小テスト（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	本講義は、「心理学に興味はあるが、何処から学んだら好いか分からない」という人の為に、イラストと図版の多いテキストを選び、また取り上げるトピックスに関係する DVD を視聴する事で理解を深め、心理学の基礎知識を学びます。		
準備学習	講義修了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		
受講者への要望			
授業の最後に実施する小テストを重視しているので、予習はきちんと実行し、授業中は後で何を書くか、考えながら聞く事。講義終了後、しばらく質疑応答して、その後教科書を写すのではなく、授業中考えたり、感じたり、自分が経験した事を書くようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. 心の歴史 哲学・物理学・ゲシュタルト心理学他 2. 知覚 錯視 3. 感情 脳と感情 4. 記憶 記憶喪失と記憶のメカニズム 5. 知能 ピアジェ他 6. 性格類型 クレッチマー・ユング 7. ジェンダー 遺伝と性別 8. 出生順位 性格と出生順位・双子 9. 集団 リーダーシップ 10. 権力 ジンバルドーの実験・人間の不合理 11. 群衆 理性と衝動 12. 青年期 自分探し・第二次性徴・人間関係 13. 結婚 成人期の課題・結婚・育児 14. 高齢化社会 高齢化・介護 15. 最近のトピックス			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1110301
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
講義概要	平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきた。そのため、京都の歴史には、政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたり、日本史の様々な特徴があらわれている。京都の歴史を追究することで、日本史の特質を明らかにすることができるといっても過言ではないのである。 本講義は、古代から近世に至る日本の歴史について、京都という場を通して考えることを目的とする。具体的には、平安京・京都を中心に展開する政治、都市空間の様相、生活する人々や社会集団などに焦点を当て、日本の歴史の展開と特質について検討する。また、現代的課題に関わるテーマも可能な限りとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（テキスト）	特になし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
準備学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、指定された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講者への要望			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。 私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、平安京遷都以前の京都 ３、平安京の誕生と変貌（１） ４、平安京の誕生と変貌（２） ５、平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世都市京都の成立 ８、武士の都・京都（１） ９、武士の都・京都（２） １０、中世の仏教・寺院と京都 １１、中世後期の京都と祇園祭 １２、飢饉・一揆・戦争と中世京都（１） １３、飢饉・一揆・戦争と中世京都（２） １４、豊臣秀吉の京都改造 １５、近世の京都			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110302
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
講義概要	平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきた。そのため、京都の歴史には、政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたり、日本史の様々な特徴があらわれている。京都の歴史を追究することで、日本史の特質を明らかにすることができるといっても過言ではないのである。 本講義は、古代から近世に至る日本の歴史について、京都という場を通して考えることを目的とする。具体的には、平安京・京都を中心に展開する政治、都市空間の様相、生活する人々や社会集団などに焦点を当て、日本の歴史の展開と特質について検討する。また、現代的課題に関わるテーマも可能な限りとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（テキスト）	特になし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
準備学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、指定された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講者への要望			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。 私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、平安京遷都以前の京都 ３、平安京の誕生と変貌（１） ４、平安京の誕生と変貌（２） ５、平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世都市京都の成立 ８、武士の都・京都（１） ９、武士の都・京都（２） １０、中世の仏教・寺院と京都 １１、中世後期の京都と祇園祭 １２、飢饉・一揆・戦争と中世京都（１） １３、飢饉・一揆・戦争と中世京都（２） １４、豊臣秀吉の京都改造 １５、近世の京都			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110303
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
講義概要	平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきた。そのため、京都の歴史には、政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたり、日本史の様々な特徴があらわれている。京都の歴史を追究することで、日本史の特質を明らかにすることができるといっても過言ではないのである。 本講義は、古代から近世に至る日本の歴史について、京都という場を通して考えることを目的とする。具体的には、平安京・京都を中心に展開する政治、都市空間の様相、生活する人々や社会集団などに焦点を当て、日本の歴史の展開と特質について検討する。また、現代的課題に関わるテーマも可能な限りとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（テキスト）	特になし。各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
準備学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、指定された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講者への要望			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。 私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、平安京遷都以前の京都 ３、平安京の誕生と変貌（１） ４、平安京の誕生と変貌（２） ５、平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世都市京都の成立 ８、武士の都・京都（１） ９、武士の都・京都（２） １０、中世の仏教・寺院と京都 １１、中世後期の京都と祇園祭 １２、飢饉・一揆・戦争と中世京都（１） １３、飢饉・一揆・戦争と中世京都（２） １４、豊臣秀吉の京都改造 １５、近世の京都			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110401
科目名	東洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	中国史研究においては，伝統的に外交史に十分な蓄積がなされてこなかったが，近年は多くの成果が出ている分野である。前半は，19 世紀初めまでの政治・経済関係を中心とした中国と諸外国との関係を勉強する。後半は，国際法の受容や世界政治の中の中国外交の姿を辿っていく。それによって，中国と諸外国との関係がどのような歴史を歩んできたのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
開講までに現在の中国について調べておいてくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回 古代日本外交史 第２回 岳飛と秦檜 第３回 クビライの挑戦 第４回 永楽帝 第５回 長城の中国史 第６回 倭寇と勘合貿易 第７回 Vietnam and the Chinese Model 第８回 康熙帝の手紙 第９回 アジアの海の大英帝国 第１０回 万国公法の時代 第１１回 外交官の誕生 第１２回 革命とナショナリズム 第１３回 中国外交と国連の成立 第１４回 毛沢東の朝鮮戦争 第１５回 日中国交正常化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110402
科目名	東洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	中国史研究においては，伝統的に外交史に十分な蓄積がなされてこなかったが，近年は多くの成果が出ている分野である。前半は，19 世紀初めまでの政治・経済関係を中心とした中国と諸外国との関係を勉強する。後半は，国際法の受容や世界政治の中の中国外交の姿を辿っていく。それによって，中国と諸外国との関係がどのような歴史を歩んできたのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
開講までに現在の中国について調べておいてくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回 古代日本外交史 第２回 岳飛と秦檜 第３回 クビライの挑戦 第４回 永楽帝 第５回 長城の中国史 第６回 倭寇と勘合貿易 第７回 Vietnam and the Chinese Model 第８回 康熙帝の手紙 第９回 アジアの海の大英帝国 第１０回 万国公法の時代 第１１回 外交官の誕生 第１２回 革命とナショナリズム 第１３回 中国外交と国連の成立 第１４回 毛沢東の朝鮮戦争 第１５回 日中国交正常化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110501
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史の課題 ２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） ３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） ４．死生観の歴史（１） ５．死生観の歴史（２） ６．魔女裁判（１） ７．魔女裁判（２） ８．犯罪と刑罰の歴史（１） ９．犯罪と刑罰の歴史（２） １０．疫病の歴史（１） １１．疫病の歴史（２） １２．「流行」の歴史（１） １３．「流行」の歴史（２） １４．奴隷貿易の歴史（１） １５．奴隷貿易の歴史（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110502
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史の課題 ２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） ３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） ４．死生観の歴史（１） ５．死生観の歴史（２） ６．魔女裁判（１） ７．魔女裁判（２） ８．犯罪と刑罰の歴史（１） ９．犯罪と刑罰の歴史（２） １０．疫病の歴史（１） １１．疫病の歴史（２） １２．「流行」の歴史（１） １３．「流行」の歴史（２） １４．奴隷貿易の歴史（１） １５．奴隷貿易の歴史（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110503
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（テキスト）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を繰り返し守らない場合は、減点の対象になります。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史の課題 ２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１） ３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２） ４．死生観の歴史（１） ５．死生観の歴史（２） ６．魔女裁判（１） ７．魔女裁判（２） ８．犯罪と刑罰の歴史（１） ９．犯罪と刑罰の歴史（２） １０．疫病の歴史（１） １１．疫病の歴史（２） １２．「流行」の歴史（１） １３．「流行」の歴史（２） １４．奴隷貿易の歴史（１） １５．奴隷貿易の歴史（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110601
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定）。

講義の順序とポイント

１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰
２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」
３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話
４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂
５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配
６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ
７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ
８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル
９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー
１０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳
１１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑
１２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源
１３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち
１４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認
１５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110602
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		
受講者への要望			
（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定）。			
講義の順序とポイント			
１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰 ２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」 ３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話 ４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂 ５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配 ６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ ７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ ８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル ９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー １０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳 １１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑 １２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源 １３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち １４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認 １５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110603
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定）。

講義の順序とポイント

１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰
２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」
３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話
４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂
５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配
６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ
７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ
８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル
９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー
１０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳
１１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑
１２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源
１３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち
１４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認
１５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1110701
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	棚次　正和	旧科目名称	
講義概要	本講義は、生命の尊厳について考えを深め、人間相互の違いを認め合い尊重できる自他共生の倫理観を涵養することを目標とする。1970 年前後にアメリカ合衆国で誕生した生命倫理の基本的な考え方を紹介しながら、QOL（生命の質）と SOL（生命の尊厳）の相違、患者の自己決定権、パーソン論、尊厳死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、出生前診断、健康の定義、緩和ケアとスピリチュアルケアなどの根本問題を取り上げ、何が重要かをともに考える。また、「いのち」の深さや日本固有の生命観についても検討する。 毎回、授業の最後に小テストを行なう。		
教材（テキスト）	冊子『医療倫理と生命倫理』（私家版）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業での小テスト等による平常点（50%）。定期試験（50%）。		
到達目標	生命の尊厳について理解を深め、自他共生の倫理観を涵養することを求める。		
準備学習	冊子（テキスト）を事前に予習しておくこと。		

受講者への要望

板書したことを書き写すことが勉強なのではない。固定観念を捨てて、講義をよく聴き、何がポイントかを自分なりに考えること。

講義の順序とポイント

1　「生命」概念と「倫理」概念の収縮　（テキスト p.2-p.3）
2　生命倫理と医療倫理　（p.6-p.7）
3　生命倫理の四原則　（p.9-p.11）
4　患者の自己決定権　（p.11）
5　インフォームド・コンセント　（p.11-p.13）
6　QOL（生命の質）と SOL（生命の尊厳）　（p.8-p.9）
7　人間の尊厳、自他共生　（p.8-p.9）
8　生と死の問題　（p.14-p.15）
9　死生学、尊厳死　（p.17-p.19）
10　脳死と臓器移植　（p.20-p.23）
11　人体実験と臨床試験　（p.25-p.26）
12　出生前診断と人工妊娠中絶　（p.27-p.28）
13　緩和ケア、スピリチュアルケア　（p.29-p.32）
14　健康とは何か　（p.33-p.35）
15　日本型生命倫理の可能性　（資料配布）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1110702
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
講義概要	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。毎回テーマを定め、授業用資料に基づいて授業を進めていく。		
教材（テキスト）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考文献）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教材（その他）			
評価方法	全講義回数の３分の２以上の出席を条件とし、以下の要領で評価を行う。 １）　定期課題（授業期間中適宜５回）　　：50% ２）　期末レポート（授業終了後１回）　　：50%		
到達目標	１）　現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２）　生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
準備学習	授業で使用する教材を、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		
受講者への要望			
初回授業で授業の進め方について詳しい説明（課題の要領や評価基準など）を行うので、必ず出席してください。 初回授業を欠席する場合は、事前に連絡するか、次回授業の際にその旨申し出てください。			
講義の順序とポイント			
第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明） 第　２回　倫理学とは 第　３回　生命倫理学とは 第　４回　道徳的ディレンマ 第　５回　健康と病気 第　６回　生殖技術（１） 第　７回　生殖技術（２） 第　８回　遺伝子治療 第　９回　人工妊娠中絶（１） 第１０回　人工妊娠中絶（２） 第１１回　パターナリズム 第１２回　インフォームド・コンセント 第１３回　臓器移植（１） 第１４回　臓器移植（２） 第１５回　医療過誤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1110703
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
講義概要	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。毎回テーマを定め、授業用資料に基づいて授業を進めていく。		
教材（テキスト）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考文献）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教材（その他）			
評価方法	全講義回数の３分の２以上の出席を条件とし、以下の要領で評価を行う。 １）　定期課題（授業期間中適宜５回）　　：50% ２）　期末レポート（授業終了後１回）　　：50%		
到達目標	１）　現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２）　生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
準備学習	授業で使用する教材を、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		
受講者への要望			
初回授業で授業の進め方について詳しい説明（課題の要領や評価基準など）を行うので、必ず出席してください。 初回授業を欠席する場合は、事前に連絡するか、次回授業の際にその旨申し出てください。			
講義の順序とポイント			
第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明） 第　２回　倫理学とは 第　３回　生命倫理学とは 第　４回　道徳的ディレンマ 第　５回　健康と病気 第　６回　生殖技術（１） 第　７回　生殖技術（２） 第　８回　遺伝子治療 第　９回　人工妊娠中絶（１） 第１０回　人工妊娠中絶（２） 第１１回　パターナリズム 第１２回　インフォームド・コンセント 第１３回　臓器移植（１） 第１４回　臓器移植（２） 第１５回　医療過誤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1110704
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
講義概要	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。毎回テーマを定め、授業用資料に基づいて授業を進めていく。		
教材（テキスト）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考文献）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教材（その他）			
評価方法	全講義回数の３分の２以上の出席を条件とし、以下の要領で評価を行う。 １） 定期課題（授業期間中適宜５回）　：50% ２） 期末レポート（授業終了後１回）　：50%		
到達目標	１） 現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２） 生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
準備学習	授業で使用する教材を、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		
受講者への要望			
初回授業で授業の進め方について詳しい説明（課題の要領や評価基準など）を行うので、必ず出席してください。 初回授業を欠席する場合は、事前に連絡するか、次回授業の際にその旨申し出てください。			
講義の順序とポイント			
第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明） 第　２回　倫理学とは 第　３回　生命倫理学とは 第　４回　道徳的ディレンマ 第　５回　健康と病気 第　６回　生殖技術（１） 第　７回　生殖技術（２） 第　８回　遺伝子治療 第　９回　人工妊娠中絶（１） 第１０回　人工妊娠中絶（２） 第１１回　パターナリズム 第１２回　インフォームド・コンセント 第１３回　臓器移植（１） 第１４回　臓器移植（２） 第１５回　医療過誤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1110705
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
講義概要	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。毎回テーマを定め、授業用資料に基づいて授業を進めていく。		
教材（テキスト）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考文献）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教材（その他）			
評価方法	全講義回数の３分の２以上の出席を条件とし、以下の要領で評価を行う。 １）　定期課題（授業期間中適宜５回）　　：50% ２）　期末レポート（授業終了後１回）　　：50%		
到達目標	１）　現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２）　生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
準備学習	授業で使用する教材を、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		
受講者への要望			
初回授業で授業の進め方について詳しい説明（課題の要領や評価基準など）を行うので、必ず出席してください。 初回授業を欠席する場合は、事前に連絡するか、次回授業の際にその旨申し出てください。			
講義の順序とポイント			
第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明） 第　２回　倫理学とは 第　３回　生命倫理学とは 第　４回　道徳的ディレンマ 第　５回　健康と病気 第　６回　生殖技術（１） 第　７回　生殖技術（２） 第　８回　遺伝子治療 第　９回　人工妊娠中絶（１） 第１０回　人工妊娠中絶（２） 第１１回　パターナリズム 第１２回　インフォームド・コンセント 第１３回　臓器移植（１） 第１４回　臓器移植（２） 第１５回　医療過誤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120101
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	本講義は、初めて法学を学ぶ大学生向けの入門講義である。 第 1 は、例えば赤ちゃんが生まれたとき、交通事故をほおこしたときなど、法が身近な問題にどう関わっているのか考えていく。 第 2 は、法学の基礎知識や約束事を学ぶと共に、法的なものの考え方に触れる。 第 3 は、スポーツ･消費者･医療などの現代的課題に関して、法がどのような役割りを果たしているのかについて検討する。 第 4 は、差別問題・夫婦同氏問題などを取り上げ、法が今のままでいいのか、考えてみる。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布		
教材（参考文献）	木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』(2012 年、星海社新書) 松井茂記・松宮孝明・曽野裕夫『はじめての法律学[第 4 版]』(2014 年、有斐閣アルマ)		
教材（その他）			
評価方法	レポート 60% 授業中課題 40%		
到達目標	日常生活をはじめ、社会人として活動していく中で、法が果たしている役割･機能について理解をすることができるようにする。		
準備学習	1．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 2．授業内課題・レポートについては、何をどう考え、どのように書き進めていくか具体的に指示するので、これに従って取り組むこと。 3．参考文献については、授業の予習･復習の教材として活用すること。なお、レポートは、これらの文献の参照が必要な場合もあるので、読んでおくこと。		
受講者への要望			
準備学習を確実に行い、積極的に授業に参加すること。			
講義の順序とポイント			
Ⅰ　日常の中から法的問題を見つけよう Ⅱ　私たちが法に出会うとき (1)　「赤ちゃんが生まれた」 私権の享有 権利能力・意思能力・行為能力者制度 (2)　「未成年者は 1 人で契約できない」 契約とは 未成年者の行為の制限 有効・無効ルールと相手方保護 未成年者が携帯を利用するとき (3)　「あなたをお父さんと呼んでいいの」 嫡出子 嫡出推定制度 女性の再婚禁止期間			

(4) 「交通事故を起こした」
　　刑罰・損害賠償・行政処分

Ⅲ　法の基本を知る
(1) 日本の法体系
　　公法と私法の区別
　　財産法・家族法
　　商法・会社法
　　経済法、労働法、消費者法・知財法ほか
(2) 法源のはなし
　　成文法・慣習法、判例、条理
(3) 法の解釈
　　類推解釈・反対解釈など
　　何のための解釈か
(4) 法の適用
　　民事裁判の仕組み
　　調停制度・ＡＤＲその他

Ⅳ　現代社会における「法」の役割
(1) 消費者問題と法
(2) 医療過誤問題と法
(3) スポーツと法
(4) 企業経営と法　－　知的財産の問題

Ⅴ　「法」は今のままでよいか
(1) 現代社会での差別問題
　　映画「Ｅ．Ｔ」を見て、差別と平等に関するさまざまな問題について考える。
(2) 夫婦同姓と夫婦別姓

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120102
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	本講義は、いわゆる法律学入門である。これまで暗記の対象として認識してきた法規定や一般常識として認識してきたルールに関わる法規定に触れながら、法学という学問を垣間見る。そのために、できる限り具体的な事例を用いながら、そこに登場しうる個々の法律またはその条文と明らかにし、法律とはどのようなものなのか、法律がどのようなことを定めているのかを見ていく。		
教材（テキスト）	・プリントを配布する。		
教材（参考文献）	・池田真朗ほか『法の世界へ』（有斐閣） ・副田隆重ほか『ライフステージと法』（有斐閣） ・松井茂記ほか『はじめての法律学 -- H と J の物語』（有斐閣） ・大谷實編『エッセンシャル法学』（成文堂） ・髙橋明弘『法学への招待』（法律文化社） ・西村裕三編『リーガル・マインド入門』（有信堂）		
教材（その他）			
評価方法	3回の小テストの結果を９０％；講義中に課した課題を１０％で評価する。		
到達目標	・　身近には様々な法律が存在することを知る。 ・　法律の重要性を知る。 ・　身の回りに起こることにどのような法律が関係しているかを知る。		
準備学習	・テレビ、インターネットや新聞で法律に関係するニュースを意識的に見ておこう。 ・こまめに小テストを行うので、必ず自宅での復習をしよう。 ・条文を暗記する必要はないが、条文の意味や置かれた理由を理解しよう。 ・レジュメの末尾に関連する参考文献を掲げるので、一読しよう。		
受講者への要望			
・講義中の出入りは周りの迷惑になるのでしないこと。トイレは休み時間中に済ませること。			
講義の順序とポイント			
第１回：《講義》憲法の基本原理 第２回：《講義》憲法の基本原理２ 第３回：《講義》犯罪と刑罰（刑法） 第４回：《講義》消費者法・消費者行政 第５回：《講義》労働法 第６回：（小テスト１）第1〜5 回の内容（20 分程度）;《講義》法源並びに六法及び法の分類 第７回：【講評】小テスト１;《講義》日本の裁判システム 第８回：《講義》交通事故と法律 第９回：《講義》約束と契約、契約違反 第１０回：（小テスト２）第 6〜9 回の内容（20 分程度）;《講義》法律の読み方・法律用語 第１１回：【講評】小テスト２;《講義》土地を借りる（賃貸借契約、用益物権） 第１２回：《講義》クレジット契約（割賦販売法・クーリング・オフ） 第１３回：《講義》結婚と離婚 第１４回：《講義》相続；（小テスト 3）第 10〜14 回の内容（40 分程度） 第１５回：【講評】小テスト３;《講義》今後の法律系科目の履修について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1120103
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	本講義は、いわゆる法律学入門である。これまで暗記の対象として認識してきた法規定や一般常識として認識してきたルールに関わる法規定に触れながら、法学という学問を垣間見る。そのために、できる限り具体的な事例を用いながら、そこに登場しうる個々の法律またはその条文と明らかにし、法律とはどのようなものなのか、法律がどのようなことを定めているのかを見ていく。		
教材（テキスト）	・プリントを配布する。		
教材（参考文献）	・池田真朗ほか『法の世界へ』（有斐閣） ・副田隆重ほか『ライフステージと法』（有斐閣） ・松井茂記ほか『はじめての法律学 -- H と J の物語』（有斐閣） ・大谷實編『エッセンシャル法学』（成文堂） ・髙橋明弘『法学への招待』（法律文化社） ・西村裕三編『リーガル・マインド入門』（有信堂）		
教材（その他）			
評価方法	3回の小テストの結果を９０％；講義中に課した課題を１０％で評価する。		
到達目標	・　身近には様々な法律が存在することを知る。 ・　法律の重要性を知る。 ・　身の回りに起こることにどのような法律が関係しているかを知る。		
準備学習	・テレビ、インターネットや新聞で法律に関係するニュースを意識的に見ておこう。 ・こまめに小テストを行うので、必ず自宅での復習をしよう。 ・条文を暗記する必要はないが、条文の意味や置かれた理由を理解しよう。 ・レジュメの末尾に関連する参考文献を掲げるので、一読しよう。		
受講者への要望			
・講義中の出入りは周りの迷惑になるのでしないこと。トイレは休み時間中に済ませること。			
講義の順序とポイント			
第１回：《講義》憲法の基本原理 第２回：《講義》憲法の基本原理２ 第３回：《講義》犯罪と刑罰（刑法） 第４回：《講義》消費者法・消費者行政 第５回：《講義》労働法 第６回：（小テスト１）第1～5回の内容（20分程度）；《講義》法源並びに六法及び法の分類 第７回：【講評】小テスト１；《講義》日本の裁判システム 第８回：《講義》交通事故と法律 第９回：《講義》約束と契約、契約違反 第１０回：（小テスト２）第6～9回の内容（20分程度）；《講義》法律の読み方・法律用語 第１１回：【講評】小テスト２；《講義》土地を借りる（賃貸借契約、用益物権） 第１２回：《講義》クレジット契約（割賦販売法・クーリング・オフ） 第１３回：《講義》結婚と離婚 第１４回：《講義》相続；（小テスト３）第10～14回の内容（40分程度） 第１５回：【講評】小テスト３；《講義》今後の法律系科目の履修について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1120201
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 　人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にあるのだ。 　　この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第 5 版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、日本の社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業で予告したテーマないし授業内容についての小レポートを書いてもらうので、その準備をする。ただし、受講者数が 200 名を超える場合は、別途指示する。		
受講者への要望			
世の中にはいろいろな社会的な問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に臨んでほしい。また、授業内で簡単なグループワークをしてもらう場合があるので、そのつもりでいてほしい。なお、川田担当の「社会学概論」と内容上大幅に重なりますので（「社会学概論」の方がより詳しい踏み込んだ内容となります）、そちらを履修した人には本講義の履修をすすめません。			
講義の順序とポイント			
１・個人と社会の関係 ２・出産をとりまく家族と社会の諸問題 ３・最初期の子どもの心身の発達 ４・家族のなかでの成長と葛藤 ５・家族の歴史 ６・現代の家族とその特徴 ７・学校の社会的機能 ８・学校のなかでの葛藤と成長 ９・青春期の様々な心的・社会的課題 １０・労働の歴史的・社会的諸問題 １１・現代日本における労働の諸問題 １２・中年期の葛藤と社会 １３・老年期と脱社会化 １４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応 １５・現代社会のなかでの人間の成長			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120202
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10，（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11，（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12，（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13，（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14，（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15，社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120203
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 　人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にあるのだ。 　　この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第 5 版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、日本の社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
準備学習	毎回の授業で、前回授業で予告したテーマないし授業内容についての小レポートを書いてもらうので、その準備をする。ただし、受講者数が 250 名を超える場合は、別途指示する。		
受講者への要望			
世の中にはいろいろな社会的な問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に臨んでほしい。また、授業内で簡単なグループワークをしてもらう場合があるので、そのつもりでいてほしい。なお、川田担当の「社会学概論」と内容上大幅に重なりますので（「社会学概論」の方がより詳しい踏み込んだ内容となります）、そちらを履修した人には本講義の履修をすすめません。			
講義の順序とポイント			
１・個人と社会の関係 ２・出産をとりまく家族と社会の諸問題 ３・最初期の子どもの心身の発達 ４・家族のなかでの成長と葛藤 ５・家族の歴史 ６・現代の家族とその特徴 ７・学校の社会的機能 ８・学校のなかでの葛藤と成長 ９・青春期の様々な心的・社会的課題 １０・労働の歴史的・社会的諸問題 １１・現代日本における労働の諸問題 １２・中年期の葛藤と社会 １３・老年期と脱社会化 １４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応 １５・現代社会のなかでの人間の成長			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120204
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10，（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11，（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12，（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13，（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14，（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15，社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120301
科目名	政治学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　洋一	旧科目名称	
講義概要	・政治学の一般的な基礎知識や考え方について、幅広い観点から学びます。本授業は講義形式であり、講義内容を纏めたレジュメに基づいて授業を進めます。 ・現在進行中の政治問題を意識しつつ、それについて考えるツールとして政治学を学んで下さい。アクチュアルな政治の重要な案件については、適宜授業の中で取り上げ、解説する機会を持ちます。 ・受講者の理解度や関心に応じて、適宜講義の進度や内容を変更します。また、適宜写真や映像を使用し、視聴覚に訴える多彩な講義を目指します。 ・参考文献については、シラバスに記載している文献とは別に、適宜講義内で紹介します。 ・授業中には講師の話をメモに書きとめ、理解できなかった内容は授業後に質問する、関心のある内容については、授業的で示唆する参考書を頼りに独習するといったように、積極的な「学び」の姿勢が奨励されます。		
教材（テキスト）	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め（第 3 版)』（有斐閣ブックス、2011 年）		
教材（参考文献）	久米・古城・真淵編『政治学』（有斐閣、2003 年） 苅部・宇野・中本編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年） 加茂・大西・石田編『現代政治学（第 4 版)』（有斐閣アルマ、2012 年） 福富満久『国際平和論』（岩波書店、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	出欠、小テスト、授業態度、期末試験、その他より総合的に評価します。		
到達目標	・実社会で活躍する上でも必要な、政治や政治学に関する一般教養知識の獲得 ・マスコミやマスメディアによる政治報道を咀嚼して理解すると共に、一定の自分の意見を持つことができる。		
準備学習	・毎回の授業終了後に必ず復習をすること。 ・日頃から積極的に新聞、雑誌、メディア報道に親しみ、アクチュアルな日本の政治情勢を肌で感じて下さい。 また図書館や本屋に足を運び、関心を持つテーマから初めて構わないので、なるべく政治（学）に関する本を読んで下さい。		

受講者への要望

・授業の進行や、他の学生の学習を妨げる行為（私語、授業途中の退室、睡眠、スマートフォンの使用など）をする者の受講は認めません。学習態度も平常点として加味します。
・難しい内容も登場するかもしれませんが、お互いめげずに頑張って勉強しましょう。不明な内容は授業後に質問して下さい。

講義の順序とポイント

第 1 回；イントロダクション／権力
　　授業の進め方や評価方法についての説明／政治（学）とは何か／権力とは何か／アンケートの実施

第 2 回；政治意識
　　政策の対立軸／政治的無関心／国家の成立と主権概念／市民の台頭と主権の変容／ナショナリズム

第 3 回：政治体制としての自由民主主義体制
　　政治体制とは／自由主義と民主主義／大衆民主主義／民主化の第 3 の波
　　／自由民主主義の変容と課題

第 4 回：選挙と政治参加、政治制度
　　政治参加とは／投票率の上下の要因／棄権や投票する人のタイプ／投票決定要因／政治制度

第 5 回：マスメディアと政治

マスメディアの環境監視機能／メディアフレーム／メディアの影響力／「沈黙の螺旋」

第 6 回：政党と政党政治
組織の類型／派閥／55 年体制／自民党と社会党

第 7 回：官僚制・利益集団
官僚とは／官僚の役割／多元主義／ネオ・コーポラティズム

第 8 回：政策過程
政策決定理論／アリソン・モデル

第 9 回：執政府
議院内閣制と大統領制／ポピュリズム／リーダーシップのタイプ／比較の中の日本の首相

第 10 回：地方政治と地方自治
地方政府の役割／地方分権改革／「民主主義の学校」としての地方政治

第 11 回：政治と経済
「大きな政府」と「小さな政府」／福祉国家の類型／福祉国家の危機と再編

第 12 回：国際社会を見る視座／冷戦期の世界
3 つの分析イメージ／ウエストファリア体制／冷戦期の世界

第 13 回：平和をめぐる国際協力
冷戦後の世界／平和とは何か／国連と PKO

第 14 回：環境をめぐる国際協力
地球温暖化と環境問題

第 15 回：地域主義／纏めと学習内容の整理
地域主義としての欧州統合

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120302
科目名	政治学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　洋一	旧科目名称	
講義概要	・政治学の一般的な基礎知識や考え方について、幅広い観点から学びます。本授業は講義形式であり、講義内容を纏めたレジュメに基づいて授業を進めます。 ・現在進行中の政治問題を意識しつつ、それについて考えるツールとして政治学を学んで下さい。アクチュアルな政治の重要な案件については、適宜授業の中で取り上げ、解説する機会を持ちます。 ・受講者の理解度や関心に応じて、適宜講義の進度や内容を変更します。また、適宜写真や映像を使用し、視聴覚に訴える多彩な講義を目指します。 ・参考文献については、シラバスに記載している文献とは別に、適宜講義内で紹介します。 ・授業中には講師の話をメモに書きとめ、理解できなかった内容は授業後に質問する、関心のある内容については、授業的で示唆する参考書を頼りに独習するといったように、積極的な「学び」の姿勢が奨励されます。		
教材（テキスト）	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め（第 3 版)』（有斐閣ブックス、2011 年）		
教材（参考文献）	久米・古城・真淵編『政治学』（有斐閣、2003 年） 苅部・宇野・中本編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年） 加茂・大西・石田編『現代政治学（第 4 版)』（有斐閣アルマ、2012 年） 福富満久『国際平和論』（岩波書店、2014 年）		
教材（その他）			
評価方法	出欠、小テスト、授業態度、期末試験、その他より総合的に評価します。		
到達目標	・実社会で活躍する上でも必要な、政治や政治学に関する一般教養知識の獲得 ・マスコミやマスメディアによる政治報道を咀嚼して理解すると共に、一定の自分の意見を持つことができる。		
準備学習	・毎回の授業終了後に必ず復習をすること。 ・日頃から積極的に新聞、雑誌、メディア報道に親しみ、アクチュアルな日本の政治情勢を肌で感じて下さい。 また図書館や本屋に足を運び、関心を持つテーマから初めて構わないので、なるべく政治（学）に関する本を読んで下さい。		

受講者への要望

・授業の進行や、他の学生の学習を妨げる行為（私語、授業途中の退室、睡眠、スマートフォンの使用など）をする者の受講は認めません。学習態度も平常点として加味します。
・難しい内容も登場するかもしれませんが、お互いめげずに頑張って勉強しましょう。不明な内容は授業後に質問して下さい。

講義の順序とポイント

第 1 回；イントロダクション／権力
　　授業の進め方や評価方法についての説明／政治（学）とは何か／権力とは何か／アンケートの実施

第 2 回；政治意識
　　政策の対立軸／政治的無関心／国家の成立と主権概念／市民の台頭と主権の変容／ナショナリズム

第 3 回：政治体制としての自由民主主義体制
　　政治体制とは／自由主義と民主主義／大衆民主主義／民主化の第 3 の波
　　／自由民主主義の変容と課題

第 4 回：選挙と政治参加、政治制度
　　政治参加とは／投票率の上下の要因／棄権や投票する人のタイプ／投票決定要因／政治制度

第 5 回：マスメディアと政治

マスメディアの環境監視機能／メディアフレーム／メディアの影響力／「沈黙の螺旋」

第 6 回：政党と政党政治
組織の類型／派閥／55 年体制／自民党と社会党

第 7 回：官僚制・利益集団
官僚とは／官僚の役割／多元主義／ネオ・コーポラティズム

第 8 回：政策過程
政策決定理論／アリソン・モデル

第 9 回：執政府
議院内閣制と大統領制／ポピュリズム／リーダーシップのタイプ／比較の中の日本の首相

第 10 回：地方政治と地方自治
地方政府の役割／地方分権改革／「民主主義の学校」としての地方政治

第 11 回：政治と経済
「大きな政府」と「小さな政府」／福祉国家の類型／福祉国家の危機と再編

第 12 回：国際社会を見る視座／冷戦期の世界
3 つの分析イメージ／ウエストファリア体制／冷戦期の世界

第 13 回：平和をめぐる国際協力
冷戦後の世界／平和とは何か／国連と PKO

第 14 回：環境をめぐる国際協力
地球温暖化と環境問題

第 15 回：地域主義／纏めと学習内容の整理
地域主義としての欧州統合

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120401
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 現在の改憲動向についてもふれる。		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による平常点(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている憲法裁判や改憲動向についても理解をすすめる。		
準備学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。		
受講者への要望			
講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。 テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．憲法とは何か ２．天皇制 ３．幸福追求権 ４．法の下の平等 ５．信教の自由と政教分離 ６．表現の自由 ７．経済的自由権 ８．生存権 ９．参政権と選挙制度 １０．国会 １１．内閣 １２．裁判所 １３．地方自治 １４．平和主義 １５．改憲の動き			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1120402
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 現在の改憲動向についてもふれる。		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による平常点(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている憲法裁判や改憲動向についても理解をすすめる。		
準備学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。		
受講者への要望			
講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。 テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．憲法とは何か ２．天皇制 ３．幸福追求権 ４．法の下の平等 ５．信教の自由と政教分離 ６．表現の自由 ７．経済的自由権 ８．生存権 ９．参政権と選挙制度 １０．国会 １１．内閣 １２．裁判所 １３．地方自治 １４．平和主義 １５．改憲の動き			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1120403
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 現在の改憲動向についてもふれる。		
教材（テキスト）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考文献）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による平常点(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている憲法裁判や改憲動向についても理解をすすめる。		
準備学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。		
受講者への要望			
講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。 テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．憲法とは何か ２．天皇制 ３．幸福追求権 ４．法の下の平等 ５．信教の自由と政教分離 ６．表現の自由 ７．経済的自由権 ８．生存権 ９．参政権と選挙制度 １０．国会 １１．内閣 １２．裁判所 １３．地方自治 １４．平和主義 １５．改憲の動き			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1120501
科目名	人権の歴史と現代	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 評点とは別に第 1 回のミニレポートの提出を全員必須とし、出席は原則 3 分の 2 以上必要とする。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の引用文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1120502
科目名	人権の歴史と現代	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 評点とは別に第 1 回のミニレポートの提出を全員必須とし、出席は原則 3 分の 2 以上必要とする。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の引用文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1130101
科目名	科学の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1130102
科目名	科学の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1130201
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生物学は、進化の結果としての生命体を維持している構造、生命継承の仕組み、生命体間の相互作用の原理を解き明かすことを目的とする。本講義では主に動物に焦点を当て、進化、細胞・形態と機能、遺伝、行動・生態の基礎について概観し、最近の話題を取り入れながら講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生物に共通する普遍的性質と生物間で異なる多様な性質を理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講者への要望

各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 進化・適応
3. 細胞の基本構造
4. 細胞膜、細胞間の情報連絡
5. 細胞周期
6. 減数分裂、遺伝の仕組み
7. 染色体と DNA
8. 遺伝子からタンパク質へ
9. 形態と機能の基本原理
10. 免疫系
11. ホルモンと内分泌系
12. 行動生態学
13. 個体群生態学
14. 群集生態学
15. 総合：生物学の研究例紹介

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1130202
科目名	生物学 -k(2015 生から)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（テキスト）	池内・伊藤・箸本（訳)、キャンベル生物学　原書 9 版、丸善出版（￥16,200）		
教材（参考文献）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第 2 版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社 日本生態学会編「生態学入門」東京化学同人		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験による		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
準備学習	生物学的な知識は問いませんが、常識や偏見にとらわれない柔軟な論理力と思考力で、生命現象の驚異を楽しんでください。また、講義で学ぶ様々な視点で身近な生物をよく見てください。教科書の関連箇所を事前に予習して講義に臨むこと。		
受講者への要望			
この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　生物とは何か　生物構成する物質 2　メンデルと遺伝子の概念 3　染色体の挙動と遺伝子 4　遺伝子の分子機構（1） 5　遺伝子の分子機構（2） 6　タンパク質の構造と機能（1） 7　タンパク質の構造と機能（2） 8　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御（1） 9　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御（2） １０　遺伝子プールとハーディ・ワインベルグ平衡 １１　ダーウィンの生命観　集団の進化（1） １２　ダーウィンの生命観　集団の進化（2） １３　細胞・個体・個体群・群集・生態系 １４　動物の行動の進化（1） １５　動物の行動の進化（2）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1130203
科目名	生物学 -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
講義概要	細胞の構成，遺伝の仕組み，生態系，微生物や酵素による食品加工，食品を摂取したときに体内で起こる現象について講述し，食農学の基礎となる生物学的事項を理解する．		
教材（テキスト）	第１回の講義で配布するプリント		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する		
教材（その他）			
評価方法	平常点（小テストを含む）50%，定期試験 50%		
到達目標	１．生物の構造と機能および環境やヒトとの関わりについて基礎的な事項を理解する． ２．生物がもつ力を利用して食品をつくる例を知る． ３．基本的な用語を覚え，その意味を理解する．		
準備学習	講義終了時に次回の範囲を伝えるので，予習し，キーワードを覚えてくること．項目の区切りごとに小テストを行う．		
受講者への要望			
学習した内容を手書きでノートにまとめる．それを復習し，理解を深める．項目の区切りごとに適宜小テストを行うので，そのような心づもりで講義に臨むこと．			
講義の順序とポイント			
第１回　食農学と生物学 第２回　生物の基本単位 第３回　生物のエネルギー 第４回　遺伝情報と DNA 第５回　遺伝情報の複製 第６回　遺伝情報とタンパク質 第７回　構造と遺伝に関するまとめ 第８回　生物と環境 第９回　生態系の保全 第 10 回　ヒトの体内環境 第 11 回　生体の制御系 第 12 回　環境およびヒトとのかかわりに関するまとめ 第 13 回　微生物と食品加工 第 14 回　酵素と食品加工 第 15 回　食品の保存と生物学			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2017	授業コード	JC1130204
科目名	生物学 -s(2015 生から)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	本講義は、バイオ環境学部で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、生物学全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	Eric J. Simon 著　池内正彦監訳 『エッセンシャル　キャンベル生物学』　丸善　7,000 円 Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 Richard Allan 著 後藤太一郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第 3 版』オーム社　3,200 円 南雲保　編著　今井一志・大島海一・鈴木秀和・田中次郎　著 『やさしい基礎生物学第 2 版』羊土社　2,900 円		
教材（その他）	適宜プリントを配布		
評価方法	期末試験(50%)　毎回の演習およびレポート(25%)　授業態度などの平常点(25%)		
到達目標	生物学の基本事項について正しく理解する。 生物学の専門用語について説明ができる。 生物学関連のマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。		
準備学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。		

受講者への要望

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの講義を受けること。
演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義には毎回出席すること。
日頃から生物学の分野について関心を持つように心がける。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス　（科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及）
2. 生物学とは？　（生物と無生物の違い、バイオとは？）
3. 生物の進化　（進化論、生物多様性など）
4. 生態学　（生物の分布、個体群、生態系など）
5. 細胞の基本構造　（生命の基本単位である細胞とは）
6. 生命の化学 I　（生命の化学的基盤、水と環境）
7. 生命の化学 II　（生命分子の多様性、高分子の構造）
8. 確認試験とその解説
9. 遺伝のしくみ（メンデルと遺伝子の概念）
10. 遺伝子からタンパク質へ　（遺伝子の複製、転写、翻訳、セントラルドグマなど）
11. バイオテクノロジー　（バイオ研究の基本技術）
12. 生物の恒常性　（内分泌系とホルモンなど）
13. 植物の機能　（光合成、植物のバイオテクノロジーなど）
14. 細胞呼吸と発酵　（解糖系、電子伝達系など）
15. 生物学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1130205
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
講義概要	生命現象の物質的な基盤にもとづいて、生物の構造・進化・社会・生態系まで広く俯瞰できるような視点を提供する。		
教材（テキスト）	ニュートン別冊　ビジュアル生物学（田沼靖一監修、ニュートンプレス）		
教材（参考文献）	講義中に適宜紹介する		
教材（その他）	講義中に適宜紹介する		
評価方法	試験による		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現しているのかという視点と、その生物の生存・繁殖のうえでどのような機能を果たしているのかという双方の視点から理解すること。		
準備学習	テキストを中心にして、予習・復習して講義に臨んでください。		

受講者への要望

これまでに生物学を学んだ経験は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。本講義では細分化されてしまった生物学のそれぞれの分野を統合して生命現象を理解することを試みます。講義中に扱う生命現象を通じて、生命現象の驚異を堪能してください。

講義の順序とポイント

1．生命現象に対する問のたてかた
2．遺伝の法則
3．遺伝子
4．遺伝子とタンパク質
5．遺伝子の発現制御
6．ハーディ・ワインベルグ平衡
7．生物の進化
8．生殖と性　～性はなぜ進化したのか～
9．生命の歴史
10．生物の構造　細胞
11．生物の構造　個体
12．生物の社会　同種の関係
13．生物の社会　他種との関係
14．生態系
15．生物学からみたヒト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1130301
科目名	物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physics		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学 s
講義概要	物理学は、精密科学として、自然科学の中でも最も基本的な分野をなしている。これは、物理学が数学を基礎としていることに因るところが大きいが、物理の概念を理解するには必ずしも数学は必要としない。 この授業では、日常生活で体験するような身近な自然現象を通して、物理学の基本概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を身につけることを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして、講義形式で授業を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1．物理学の講義について 2．音と光(1)　音 3．音と光(2)　波 4．音と光(3)　光 5．音と光(4)　電磁波 6．物質と原子(1)　物質と原子 7．物質と原子(2)　原子 8．物質と原子(3)　原子と光 9．物質と原子(4)　オーロラ1 10．物質と原子(5)　オーロラ2 11．原子核と放射線(1)　原子と原子核 12．原子核と放射線(2)　不安定な原子 13．原子核と放射線(3)　身のまわりの放射線 14．原子核と放射線(4)　放射線の影響 15．原子核と放射線(5)　放射線の利用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1130302
科目名	物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる物理空間，運動法則，放物運動，エネルギー，運動量などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考文献）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
数学，地球科学を履修することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．物理空間（1）：位置 2．物理空間（2）：速度 3．物理空間（3）：加速度 4．運動法則（1）：第１法則 5．運動法則（2）：第２法則 6．運動法則（3）：第３法則 7．放物運動（1）：等加速度運動 8．放物運動（2）：自由落下 9．放物運動（3）：斜方投射 10．エネルギー（1）：仕事 11．エネルギー（2）：ポテンシャル 12．エネルギー（3）：エネルギー保存則 13．運動量（1）：衝突 14．運動量（2）：力積 15．運動量（3）：運動量保存則			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1130401
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1130402
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1130403
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1130501
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 10　脂質 11　ビタミン 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1130502
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教材（その他）	適宜、資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能－1 6　タンパク質の機能－2 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能－1 9　核酸の機能－2 10　脂質 11　ビタミン 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1140101
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JC1140102
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JC1140105
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140106
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140107
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供から高齢者まで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなか思い通りにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％、レポート２０％、受講態度２０％		
到達目標	１、シングルス・ダブルスのゲームが楽しめるようにする。 ２、練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 ３、社会人としていろいろな施設を利用して安全にテニスを楽しむようにする。		
準備学習	事前にテニスの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動に相応しい服装を準備すること。三国山オム二コートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストＡ 2. フィットネステストＢ　グリップ 3. グリップと面作り　ボレー練習、ボレーゲーム 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる)　ミニコートゲーム 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える)　ストロークゲーム 6. ボール出しによるグランドストローク 7. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 8. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 9. 簡単なダブルスゲーム 10. ダブルスのホーメーション(雁行陣営) 11. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 12. ダブルスゲーム 13. ダブルスゲーム 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140108
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供から高齢者まで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなか思い通りにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％、レポート２０％、受講態度２０％		
到達目標	１、シングルス・ダブルスのゲームが楽しめるようにする。 ２、練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 ３、社会人としていろいろな施設を利用して安全にテニスを楽しむようにする。		
準備学習	事前にテニスの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動に相応しい服装を準備すること。三国山オム二コートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストＡ 2. フィットネステストＢ　グリップ 3. グリップと面作り　ボレー練習、ボレーゲーム 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる)　ミニコートゲーム 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える)　ストロークゲーム 6. ボール出しによるグランドストローク 7. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 8. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 9. 簡単なダブルスゲーム 10. ダブルスのホーメーション(雁行陣営) 11. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 12. ダブルスゲーム 13. ダブルスゲーム 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140110
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート）、個人技能練習（パス）、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス）、個人技能練習（ドリブル）、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル）、スキルテスト（ドリブル）、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス）、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス）、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス）、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC1140111
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート）、個人技能練習（パス）、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス）、個人技能練習（ドリブル）、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル）、スキルテスト（ドリブル）、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス）、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス）、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス）、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC1140114
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140115
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140116
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140117
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140118
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140119
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140124
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140125
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140126
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		

受講者への要望

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストＡ
2　フィットネステストＢ、トレーニングルーム利用説明
3　ストレッチングの理論と実技
4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
6　フィットネスプロフィールの作成
7　フィットネストレーニング
8　フィットネストレーニング
9　フィットネストレーニング
10　フィットネストレーニング
11　フィットネストレーニング
12　フィットネストレーニング
13　トレーニング計画立案と実践
14　トレーニング計画立案と実践
15　トレーニング計画立案と実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140127
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140132
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心をもち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		
受講者への要望			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
講義の順序とポイント			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140133
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心をもち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		
受講者への要望			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
講義の順序とポイント			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1140134
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
講義概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓）。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、有段者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技）、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りや試合で実践する。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要な人は相談してください。		
教材（その他）	必要な人は相談してください。		
評価方法	授業内の技能チェック（50%）と知識チェック（50%）によって評価します。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。知識チェックの内容は、柔道の概要です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
準備学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講者への要望

１．柔道衣は最初の授業で貸出します（最後の授業で返却します）。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください）。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください）。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、柔道衣の貸出、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
２．柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
３．後ろ受け身、横受け身、前受け身
４．前回り受け身（立ち上がらない）、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる）、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め、膝車
８．送り襟絞め、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い（燕返し）
１０．三角絞、大外落とし
１１．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１２．腕挫十字固め、体落とし
１３．腕挫三角固め、釣り込み腰
１４．審判法・試合
１５．柔道衣の返却、技能チェック、知識チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1140135
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
講義概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓）。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、有段者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技）、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りや試合で実践する。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要な人は相談してください。		
教材（その他）	必要な人は相談してください。		
評価方法	授業内の技能チェック（50%）と知識チェック（50%）によって評価します。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。知識チェックの内容は、柔道の概要です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
準備学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講者への要望

１．柔道衣は最初の授業で貸出します（最後の授業で返却します）。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください）。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください）。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、柔道衣の貸出、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
２．柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
３．後ろ受け身、横受け身、前受け身
４．前回り受け身（立ち上がらない）、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる）、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め、膝車
８．送り襟絞め、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い（燕返し）
１０．三角絞、大外落とし
１１．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１２．腕挫十字固め、体落とし
１３．腕挫三角固め、釣り込み腰
１４．審判法・試合
１５．柔道衣の返却、技能チェック、知識チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1140136
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1140137
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1140138
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1140139
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1140140
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1140141
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1140201
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。 各方面の話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにする。 臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。代返は認めません。			
講義の順序とポイント			
１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 ２．栄養摂取と運動 ３．骨の病気、筋肉の病気 ４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(水田先生) ５．人体の解剖・画像解剖(水田先生) ６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 ７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 ８．生活習慣病としての発癌 ９．大学生の健康知識 １０．運動療法の基礎 １１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 １２．スポーツ障害と画像診断 １３．運動負荷試験 １４．運動プログラムの管理 １５．健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の水田先生に講義をお願いしています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1140202
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	JC1140203
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	JC1140204
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。 各方面の話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにする。 臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。代返は認めません。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 2．栄養摂取と運動 3．骨の病気、筋肉の病気 4．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(水田先生) 5．人体の解剖・画像解剖(水田先生) 6．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 7．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 8．生活習慣病としての発癌 9．大学生の健康知識 １０．運動療法の基礎 １１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 １２．スポーツ障害と画像診断 １３．運動負荷試験 １４．運動プログラムの管理 １５．健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の水田先生に講義をお願いしています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1140205
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2017	授業コード	JC1140301
科目名	食の安全安心（2015 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	植野　洋志	旧科目名称	
講義概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは，ヒトの生命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である．どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと，安全安心の概念は生じない． 本講義では，「食」を１）食素材から食品という製品として，２）食物として体内に取り込み，代謝されるとき，３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか，という点を中心に理解を深めることになる． 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには，「食」のもつ性質を知る必要がある．食の性質とは，もちろん，物質としての概念であろう．食素材は化学物質としてとらえないとだめで，その本質は，食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない．一般教養として，食素材がどのように変化するのかを理解し，いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする． 近年，「食」と安全で話題になっている食中毒，鳥インフルエンザ，遺伝子組み換え食品，バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる．		
教材（テキスト）	別に用いない		
教材（参考文献）	京学なびを活用した情報提供		
教材（その他）			
評価方法	不定期に実施する予定でいる小テスト（20%）（京学なび），レポート提出（40%），そして平常点（受講態度や取組姿勢）（40%）を総計して評価する．場合によっては，筆記試験を期末試験とする．		
到達目標	社会常識として，生命現象を化学というツールで眺めることが大切である．そうすると，共通する基本概念が見えてくる．生命の大原則と「食」が密接につながっていること，また，その関連性に影響をあたえるようが現象が安全安心という側面から理解することができる．このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である．また，これまで耳学問で習得した知識を，科学的裏付けで考えることができる力を育成する．		
準備学習	市民教養科目なので，基本，準備学習を期待しない．ただ，希望者にはネットを利用した教材（配布プリントと授業でのパワポ）閲覧を推奨する．		
受講者への要望			
一般教養的内容なのと，生活と密接に関係するので，講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある．きちんとノートやメモをとれることを学習しよう．質問はできるだけその場でするように心がけよう．積極的な授業への参加が望ましい．			
講義の順序とポイント			
1〜2. ヒトの体に影響を与える食生活について，DVD を教材として学習する 3〜4. 体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか，代謝という概念を習得する 5〜6. 化学反応が生命体の基本であることを学ぶ 7〜8. 食素材がもたらす効果（たとえば，食中毒）について，安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める 9〜10. 遺伝子組換え技術について概説する 11〜12. 食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する 13〜15. 食にまつわる制約（法律や規則），輸入食品の安全性，農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1140302
科目名	食の安全安心（2015 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	食の安全については、毎年のように表示偽造や、食中毒が発生しており、またその原因に大手食品企業がなることも多く、大きな社会問題となっている。ひるがえって、一般家庭における食の安全に関する知識も十分とは言えず、ノロウイルスによる食中毒をはじめ、自然毒に対する知識不足から生じる祥中毒に関しても、問題が起こったときには、その都度食品の安全性に関する機運が高まりはするが、その時だけで終わってしまい定着しているとはいえないのが現状である。 ところで、多くの一般の人が食品に手を触れ、眼に入れることが多いのは、スーパーや飲食店であろう。このように食品が流通するためには、消費者庁、厚生労働省、農林水産省、等の多くの省庁が絡んだ基準や規格が多く存在している。例えば食品に記載されている義務表示に関しても、カップラーメン一つとっても原材料表示をはじめとして、エネルギー量などの栄養表示、卵由来などのアレルギー表示さらには分別に関する、「プラ」や「紙」等の表示もあり、すべてを理解している消費者は少ないであろう。さらに、これに関わる表示基準を正確に理解することは、食品を扱う会社のも者であっても大変難しい。 一方、食品を安全に流通させるためには、加工食品であれば、保存料等の食品添加物、農産物であれば農薬を使用しており、これらの使用方法や事例について、単に「化学合成品」であるから危険、と言うイメージだけで判断するのではなく、どのようにその安全基準が決められているのかを知る機会は少ないと思われる。 また、生鮮食品も必ずしも安全というわけではなく、調理法を誤ればジャガイモやインゲン豆でも毒になり得ることを理解しておかなければいけない。 そこで、本講義では、食品の安全や安心について、より身近なところの知識を得ることを目的として、日常生活に生かせる講義を行いたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	参考図書：「食をめぐるほんとうの話」講談社現代新書		
教材（その他）			
評価方法	指定した課題に対するレポート 80％ 授業内小テスト 20％		
到達目標	本来、「安全」とは、客観的な科学的根拠を持って評価される物であり、逆に「安心」とは主観的であり、個人によってとらえ方が異なる物である。本講義においては、「安全」について、どのように科学的に検証されてきたかを理解し、どのように担保されてきたのかを考えると共に、それを前提に「安心」をどのようにとらえるかについて学習する。		
準備学習	いつも食べている食品について関心を持って授業にのぞんで欲しい。		

受講者への要望

参考図書を読むことや、消費者庁の食の安全性に関するホームページや、食品安全委員会のホームページを閲覧するなど、安全性に関する知識を得るとともに、現在どのようなことが問題になっているか、知るように努める。
消費者庁 HP
{http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/}
食品安全委員会 HP
{http://www.fsc.go.jp/index.html}

講義の順序とポイント

1～4：食品の表示について理解しよう。
　　食品に表示する義務のある事項、表記方法について学ぶ(食品表示基準)。
5～7：食品に係わる有害物質について理解しよう。
　　食中毒を起こす原因となる、微生物、動植物に含まれる毒素、有害金属、等について学ぶ。
8～10：加工食品や農産物に使用される食品添加物や農薬について理解しよう。
　　食品添加物や農薬がどのように評価され使用されてきたかを学ぶ。
11～12：遺伝子組会食品について理解しよう。
遺伝子組み換え食品とはどういう物か、またその安全性についても理解する。

13　　：食品の加工や流通における安心システムについて理解しよう。
14　　：安全な食品を担保するための加工システム（HACCP、等)や流通経路についても
15　　：健康食品の安全について理解しよう。
　　様々な健康食品が流通しているが、これらの食品の安全性だけでなく、その有効性についても理解する。
　講義全体を通して、専門的な知識を得ることを目的にするのではなく、より日常生活に生かせる食の安全について知ることを目的として進めていく。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1140303
科目名	食の安全安心（2015 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	渡部　紀久子	旧科目名称	
講義概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは、ヒトの命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である。どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと、安全安心の概念は生じない。 本講義では、「食」を１）食素材から食品という製品として、２）食物として体内に取り込み、代謝されるとき、３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか、という点を中心に理解を深めることになる。 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには、「食」のもつ性質を知る必要がある。食の性質とは、もちろん、物質としての概念であろう。食素材は化学物質としてとらえないとだめで、その本質は、食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない。一般教養として、食素材がどのように変化するのかを理解し、いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする。 近年、「食」と安全で話題になっている食中毒、鳥インフルエンザ、遺伝子組み換え食品、バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる。		
教材（テキスト）	別に用いない		
教材（参考文献）	京学なびを活用した情報提供		
教材（その他）			
評価方法	不定期に実施する予定でいる小テスト（２０％）（京学なび）、レポート提出（４０％）、そして平常点（４０％：内訳　受講態度２０％やレポート等における自ら取り組む姿勢や積極性２０％、ネット検索における単なるコピーペーストは減点対象となる。）を総計して評価する。場合によっては、筆記試験を期末試験とする。		
到達目標	社会常識として、生命現象を化学というツールで眺めることが大切である。そうすると、共通する基本概念が見えてくる。生命の大原則と「食」が密接につながっていること、また、その関連性に影響をあたえるような現象が安全安心という側面から理解することができる。このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である。また、これまで耳学問で習得した知識を、科学的裏付けで考えることができる力を育成する。		
準備学習	市民教養科目なので、基本、準備学習を期待しない。ただ、希望者にはネットを利用した教材（配布プリントと 授業でのパワポ）閲覧を推奨する。		
受講者への要望			
一般教養内容なのと、生活と密接に関係するので、講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある。きちんとノートやメモをとれることを学習しよう。質問はできるだけその場でするように心がけよう。積極的な授業への参加が望ましい。			
講義の順序とポイント			
１～２．ヒトの体に影響を与える食生活について、DVD を教材として学習する。 ３～４．体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか、代謝という概念を習得する。 ５～６．化学反応が生命体の基本であることを学ぶ。 ７～８．食素材がもたらす効果（たとえば、食中毒）について、安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める。 ９～１０．遺伝子組換え技術について概説する。 １１～１２．食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する。 １３～１５．食にまつわる制約（法律や規則）、輸入食品の安全性、農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1140401
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	信長が好んだ「敦盛」の一節に「人間 50 年、下天の内くらぶれば、夢、幻、如くなり（人間がどのような一生を送ろうと、それはほんの五十年くらいの 短い間に過ぎない)」というのがある。そんな時代とは比較にならない「長寿」となったが、手放しで喜べない事情がある。健康問題もその一つである。 ヘルスプロモーションは日本語では「健康増進」と訳されている。本講義では、ヘルスプロモーションの歴史と概念およびわが国における健康づくり施策とその変遷について学ぶとともに、現在の健康課題、具体的には、日本人の死因や国民医療費において大きな構成割合を占めるがん、心臓病、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病やこころの健康について学修する。 日常生活の中で、自らが生涯にわたって実践できる生活習慣病予防対策を考える時間にしたい。		
教材（テキスト）	『健康科学　知っておきたい予防医学』（丸善出版）　津田謹輔 著		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（上、下)』（健康体力づくり事業財団） 『健康運動指導士養成講習会用テキスト』（健康体力づくり事業財団）		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	ミニテスト（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

講義の順序とポイント

１．ヘルスプロモーションとは？　その理論と歴史
２．健康増進のためのキーワド
３．長寿・超高齢化の現状と健康課題
４．がんと日常生活
５．動脈硬化と日常生活
６．高血圧と日常生活
７．糖尿病（Ⅰ型糖尿病とⅡ型糖尿病）と日常生活
８．肥満と肥満症、やせ
９．倹約遺伝子とメタボリックシンドローム
１０．ひとり暮らしの食生活、日本人の食生活の変遷
１１．何を食べるか、食べないか。食事摂取基準・食事バランスガイド
１２．運動不足がもたらすもの、健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１３．たばことアルコール
１４．こころの健康
１５．まとめ（健康長寿のために、個人の健康、社会の健康）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1140402
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。 しかし、国民の 2/3 は運動習慣が身についていないという報告もある。また死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%、虚血性心疾患 15.7%、脳血管疾患 13.0%、糖尿病 1.3%、高血圧性疾患 0.6%）を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。このような現状と、国の施策や地域での取り組みを紹介し、各自の生活スタイル改善を促す。		
教材（テキスト）	制作中につき、プリントを用意する		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（上、下)』(健康体力づくり事業財団) 『健康運動指導士養成講習会用テキスト』(健康体力づくり事業財団)		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	レポート（40%)、定期試験（60%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと 事前・事後学習には 0.5 時間以上の時間を充てること。 配布プリントの専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の最後に授業内容についてのミニレポートや京学ナビの課題を提出させる。必ず復習をし、授業をしっかり聞き、ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝの概念・実践理論を自分のものとすること。		

受講者への要望

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

講義の順序とポイント

１．健康の定義とヘルスプロモーション
２．個人への働きかけ（健康教育）
３．個人への働きかけ（情報提供）
４．個人の環境への働きかけ（公共政策）
５．個人の環境への働きかけ（環境づくり）
６．個人の環境への働きかけ（地域活動）
７．個人の環境への働きかけ（保健サービス）
８．生活習慣病とヘルスプロモーション
９．こころの健康と日常生活
１０．日本人の食生活の変遷と課題
１１．食の課題とヘルスプロモーション、食事摂取基準について
１２．健康づくりのための人材育成と健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１３．運動・スポーツ推進のための国の施策・地域での活動
１４．セーフティプロモーションと外傷予防
１５．まとめ:ヘルスプロモーションの個人と集団へのアプローチ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1140403
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションとは何か。自らの力、住民組織の力、支援する環境が組み合わさって、どのような健康状態であっても健康的な生活習慣の実践、社会参加を通して豊かな人生を送れるようにする事です。 主だった生活習慣病への取り組みについても考えてみます。 大学生自身にとって必要なヘルスプロモーションについても考えてみます。 様々な話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにします。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『健康なくに 2011』(医療文化社) 『災害時のヘルスプロモーション』(荘道社) 『健康科学ヘルスプロモーションの理念』(犀書房) 『学生と健康』(南江堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康とは何か、健康のために何をすべきかを理解する。		
準備学習	厚生労働省や関連のホームページを見ておくこと。		
受講者への要望			
健康は個人だけの課題ではなく、社会全体の問題である事を感じていただければよいと思います。			
講義の順序とポイント			
１．ヘルスプロモーションの歴史・ヘルスプロモーションとは何か ２．食生活・栄養とヘルスプロモーション ３．脳血管障害とヘルスプロモーション ４．大学生の健康 ５．画像で見る生活習慣病(大井先生) ６．タバコとヘルスプロモーション ７．熟年・高齢の健康 ８．がんとヘルスプロモーション ９．心身医学、精神衛生学とヘルスプロモーション １０．心臓疾患患者とヘルスプロモーション １１．肥満とヘルスプロモーション １２．認知症とヘルスプロモーション １３．健康診断と健康管理 １４．病気を画像で見る １５．身体活動とアンチエイジング			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1140404
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	信長が好んだ「敦盛」の一節に「人間 50 年、下天の内くらぶれば、夢、幻、如くなり（人間がどのような一生を送ろうと、それはほんの五十年くらいの 短い間に過ぎない)」というのがある。そんな時代とは比較にならない「長寿」となったが、手放しで喜べない事情がある。健康問題もその一つである。 ヘルスプロモーションは日本語では「健康増進」と訳されている。本講義では、ヘルスプロモーションの歴史と概念およびわが国における健康づくり施策とその変遷について学ぶとともに、現在の健康課題、具体的には、日本人の死因や国民医療費において大きな構成割合を占めるがん、心臓病、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病やこころの健康について学修する。 日常生活の中で、自らが生涯にわたって実践できる生活習慣病予防対策を考える時間にしたい。		
教材（テキスト）	『健康科学　知っておきたい予防医学』（丸善出版）　津田謹輔 著		
教材（参考文献）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（上、下)』（健康体力づくり事業財団） 『健康運動指導士養成講習会用テキスト』（健康体力づくり事業財団）		
教材（その他）	授業中にプリントを配付する。		
評価方法	ミニテスト（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講者への要望

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

講義の順序とポイント

１．ヘルスプロモーションとは？　その理論と歴史
２．健康増進のためのキーワド
３．長寿・超高齢化の現状と健康課題
４．がんと日常生活
５．動脈硬化と日常生活
６．高血圧と日常生活
７．糖尿病（Ⅰ型糖尿病とⅡ型糖尿病）と日常生活
８．肥満と肥満症、やせ
９．倹約遺伝子とメタボリックシンドローム
１０．ひとり暮らしの食生活、日本人の食生活の変遷
１１．何を食べるか、食べないか。食事摂取基準・食事バランスガイド
１２．運動不足がもたらすもの、健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１３．たばことアルコール
１４．こころの健康
１５．まとめ（健康長寿のために、個人の健康、社会の健康）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1210101
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210102
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210103
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210104
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210105
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210106
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210107
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210108
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210109
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210110
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210111
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210112
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210113
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210114
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210115
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210116
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	天野　秀治	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210117
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210118
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210119
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		
受講者への要望			
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。 自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
講義の順序とポイント			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、Uドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画 4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾） 5．Word 表の作成（表と罫線） 6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題 7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル） 8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数） 9．Excel グラフの利用 10．Excel データベースの利用、練習問題 11．Word と Excel の連携 12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作 13．PowerPoint スライドの作成 14．PowerPoint スライドの表現 15．総合問題 ＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210120
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ネットワークを介して、様々な情報が遣り取りされています。 　この科目は、本学における情報処理教育の入門科目であり、情報の利活用能力の基礎として、実社会で必要となるビジネス文書や、ゼミや授業におけるレポートの作成技法の習得を目標としている。 　具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書等の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（テキスト）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考文献）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、PowerPoint2016 基礎・応用		
教材（その他）	リファレンス動画（テキスト）と担当教員が用意した練習問題		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	キーボードのタッチタイピングができるようになること。 10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 簡単なビジネス文書が作成できること。 エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。 日商 PC 検定 3 級程度ができるようになることを目指す。		
準備学習	毎回リファレンス動画をチェックし、予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を有効に活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

講義の順序とポイント

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理
3．図書館の情報検索、Word の基本操作、リファレンス動画
4．Word 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など)、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10．Excel データベースの利用、練習問題
11．Word と Excel の連携
12．PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13．PowerPoint スライドの作成
14．PowerPoint スライドの表現
15．総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1210131
科目名	情報リテラシー -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション 2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア 3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集 6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化 7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成 8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成 11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎 13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成 15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210132
科目名	情報リテラシー -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210133
科目名	情報リテラシー -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大澤　晋	旧科目名称	
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	嶋貫　健司　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
講義の順序とポイント
1.情報基礎（１）:情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション 2.情報基礎（２）:メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア 3.情報通信（１）:WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 4.文書処理（１）:文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 5.文書処理（２）:文書作成ソフトによる文字と文章の編集 6.文書処理（３）:文書作成ソフトによる文章の構造化 7.文書処理（４）:文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成 8.データ処理基礎（１）:表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 9.データ処理基礎（２）:表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10.データ処理基礎（３）:表計算ソフトでのグラフの作成 11.データ処理基礎（４）:文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12.情報表現基礎（１）:プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎 13.情報表現基礎（２）:プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14.情報表現基礎（３）:プレゼンテーションの作成 15.情報表現基礎（４）:プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210134
科目名	情報リテラシー -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大澤　晋	旧科目名称	
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	嶋貫　健司　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望
遅刻しないこと。他の受講生の迷惑になるので私語は慎むこと。
講義の順序とポイント
1.情報基礎（１）:情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション 2.情報基礎（２）:メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア 3.情報通信（１）:WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 4.文書処理（１）:文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 5.文書処理（２）:文書作成ソフトによる文字と文章の編集 6.文書処理（３）:文書作成ソフトによる文章の構造化 7.文書処理（４）:文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成 8.データ処理基礎（１）:表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 9.データ処理基礎（２）:表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10.データ処理基礎（３）:表計算ソフトでのグラフの作成 11.データ処理基礎（４）:文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12.情報表現基礎（１）:プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎 13.情報表現基礎（２）:プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14.情報表現基礎（３）:プレゼンテーションの作成 15.情報表現基礎（４）:プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210135
科目名	情報リテラシー -f1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション 2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア 3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集 6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化 7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成 8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成 11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎 13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成 15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210136
科目名	情報リテラシー -f2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション 2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア 3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集 6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化 7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成 8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成 11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎 13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成 15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210137
科目名	情報リテラシー -kf(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	パソコンⅠ
講義概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	嶋貫　健司　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.情報基礎（１）:情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2.情報基礎（２）:メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3.情報通信（１）:WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4.文書処理（１）:文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5.文書処理（２）:文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6.文書処理（３）:文書作成ソフトによる文章の構造化
7.文書処理（４）:文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8.データ処理基礎（１）:表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9.データ処理基礎（２）:表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10.データ処理基礎（３）:表計算ソフトでのグラフの作成
11.データ処理基礎（４）:文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12.情報表現基礎（１）:プレゼンテーションの基礎（１)、プレゼンテーションソフトの基礎
13.情報表現基礎（２）:プレゼンテーションの基礎（２)、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14.情報表現基礎（３）:プレゼンテーションの作成
15.情報表現基礎（４）:プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210201
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（テキスト）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（60%）、その理解度を確認するレポート試験（40%）、この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講者への要望

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

講義の順序とポイント

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1210202
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	なし
講義概要	コンピュータを単体で利用する時代が終わりを告げ、コンピュータが相互にネットワーク接続された状態が日常となっている昨今、私たちは常にコンピュータウイルス、不正アクセス、機密漏洩、物理的破損といった危険と常に向き合っている。このような情報環境下では、セキュリティを従来のように一部の人に任せておけば良いというわけにはならず、一人一人が最低限のセキュリティ知識を身につけておかなければ本人が知らないうちに情報面で被害者になったり、加害者になったりする可能性がある。本講義では、セキュリティの概念を整理するとともに、情報社会を生きていく我々が知っておきたいセキュリティ知識の理解を深める。 　講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	『改訂版　情報モラル＆情報セキュリティ』　ＦＯＭ出版　500 円(税別)		
教材（参考文献）	独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　500 円(税別)		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 Twitter が利用できるスマートフォン･ケータイ等の準備が望ましい。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	授業内小テスト・反転学習(35%)、レポート（30%）、定期試験(35%)を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得すること。		
準備学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。 各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		

受講者への要望

講義と講義に基づいた実践のための考察を多く取り入れているため、遅刻、欠席すると理解が困難になるので、注意されたい。

講義の順序とポイント

1.情報社会のモラルとセキュリティ
2.個人情報の適切な取り扱い
3.デジタル時代の著作権
4.関連法規
5.反転学習
6.ネットに潜む危険と対策 1
7.ネットに潜む危険と対策 2
8.メールによるコミュニケーション
9.Web によるコミュニケーション 1
10.Web によるコミュニケーション 2
11.反転学習
12.暗号化問題
13.モバイル機器の活用と管理 1
12.モバイル機器の活用と管理 2
13.情報セキュリティの 3 要素
14.実際のセキュリティ対策
15.情報セキュリティの課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1210203
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	コンピュータを単体で利用する時代が終わりを告げ、コンピュータが相互にネットワーク接続された状態が日常となっている昨今、私たちは常にコンピュータウイルス、不正アクセス、機密漏洩、物理的破損といった危険と常に向き合っている。このような情報環境下では、セキュリティを従来のように一部の人に任せておけば良いというわけにはならず、一人一人が最低限のセキュリティ知識を身につけておかなければ本人が知らないうちに情報面で被害者になったり、加害者になったりする可能性がある。本講義では、セキュリティの概念を整理するとともに、情報社会を生きていく我々が知っておきたいセキュリティ知識の理解を深める。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（テキスト）	『改訂版　情報モラル＆情報セキュリティ』　ＦＯＭ出版　500 円(税別)		
教材（参考文献）	独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　500 円(税別)		
教材（その他）	プリント配布。(主に A4 と A3) 配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。 Twitter が利用できるスマートフォン･ケータイ等の準備が望ましい。 出欠調査で「学生証」を利用する。忘れると欠席となるので注意。		
評価方法	授業内小テスト・反転学習(35%)、レポート（30%）、定期試験(35%)を総合して評価する。		
到達目標	情報システム、中でもネットワークシステムにおけるセキュリティについて理解を深め、実際に適用行動をとることが出来る知識を身につける。		
準備学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 授業終了時に次回のテーマや範囲について告知するので、事前にテキストを読んで、専門用語の確認などを行っておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。		
受講者への要望			
講義と講義に基づいた実践のための考察を多く取り入れているため、遅刻、欠席すると理解が困難になるので、注意されたい。			
講義の順序とポイント			
講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1.情報社会のモラルとセキュリティ 2.個人情報の適切な取り扱い 3.デジタル時代の著作権 4.関連法規 5.反転学習 6.ネットに潜む危険と対策 1 7.ネットに潜む危険と対策 2 8.メールによるコミュニケーション 9.Web によるコミュニケーション 1 10.Web によるコミュニケーション 2 11.反転学習 12.暗号化問題 13.モバイル機器の活用と管理 1 12.モバイル機器の活用と管理 2 13.情報セキュリティの 3 要素 14.実際のセキュリティ対策 15.情報セキュリティの課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1210301
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。			
講義の順序とポイント			
1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作 2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成 3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成 4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加 5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と 様々な要素を持つプレゼンテーションの作成 6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定 各種機器への対応 7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成 （テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立） 課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成] 8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影） 9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料） 10.プレゼン資料作成：発表資料作成 課題演習[スライドを仕様に従い修正] 11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して 演習[プレゼン資料の作成] 12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出 課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1210302
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	JC1210303
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	JC1210304
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	JC1210306
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	JC1210307
科目名	情報プレゼンテーション 【G】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（テキスト）	情報リテラーシーと同じ教科書を使用する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。出席は２／３以上が必要です。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。		
準備学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価
　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術
15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	JC1210308
科目名	情報プレゼンテーション 【G】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	情報プレゼンテーションの講義では、少数のグループで、ある課題に関してディスカッションし、その結果をパワーポイントにまとめて、プロジェクターで発表する一連の技能を習得する。学会など通常の発表での基本的なスタイルではあるが、ディスカッションの結果を分かりやすくまとめ、発表内容が記載された用紙を読み上げるスタイルではなく、聴衆の方に目を向けて、ボディーランゲイジも含めて、伝える技術の全体を学ぶ。		
教材（テキスト）	パワポーポイントに関するテキスト（未定） 講義が始まるまでに選定予定		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(50%)。　レポート(50%)		
到達目標	小グループでのディスカッションとそのまとめをパワーポイントで行い、発表を行う基礎力をつける		
準備学習	パソコンの基本操作を習得しておくこと		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．情報プレゼンテーションとは何か ２．エクセル、写真、動画のプレゼンテーションでの活用１ ３．エクセル、写真、動画のプレゼンテーションでの活用２ ４．パワーポイントの作成方法１ ５．パワーポイントの作成方法２ ６．パワーポイントでの発表練習 ７．グループディスカッションの方法１ ８．グループディスカッションの方法２ ９．グループディスカッションの実施１ １０．パワーポイント取りまとめ１ １１．プレゼン発表練習１ １２．グループディスカッションの実施２ １３．パワーポイント取りまとめ２ １４．プレゼン発表練習２ １５．今後のプレゼンテーションに関して			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1210331
科目名	情報プレゼンテーション -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
講義概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （b）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （c）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （d）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （e）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210332
科目名	情報プレゼンテーション -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
講義概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （b）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （c）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （d）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （e）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講者への要望			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
講義の順序とポイント			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210333
科目名	情報プレゼンテーション -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大澤　晋	旧科目名称	
講義概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	新田 英雄 監修　山本　将史　著　『Excel で学ぶ基礎物理学　Excel２０１０/２００７対応版』　オーム社　2800 円 嶋貫　健二　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル) ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

実習が多いため遅刻しないこと。また私語を慎むこと。

講義の順序とポイント

1.情報機器応用（1）:情報処理実習概論
2.情報機器応用（2）:ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3.情報表現応用（1）:表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4.データ処理応用（1）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5.データ処理応用（2）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6.データ処理応用（3）:表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7.データ処理応用（4）:表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8.データ処理応用（5）:プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9.情報表現応用（2）:長文レポート作成（1）レポートの形式
10.情報表現応用（3）:長文レポート作成（2）データ表現の形式
11.情報表現応用（4）:インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12.情報機器応用（3）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化
13.情報機器応用（4）:表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化
14.情報機器応用（5）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1）
15.情報機器応用（6）:表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210334
科目名	情報プレゼンテーション -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大澤　晋	旧科目名称	
講義概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	新田 英雄 監修　山本　将史　著　『Excel で学ぶ基礎物理学　Excel２０１０/２００７対応版』　オーム社　2800 円 嶋貫　健二　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル) ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

実習が多いため遅刻しないこと。また私語を慎むこと。

講義の順序とポイント

1.情報機器応用（１）:情報処理実習概論
2.情報機器応用（２）:ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3.情報表現応用（１）:表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4.データ処理応用（１）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（１）数表とグラフ
5.データ処理応用（２）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（２）多数データの統計的処理
6.データ処理応用（３）:表計算ソフトの様々な機能（１）データ処理の省力化
7.データ処理応用（４）:表計算ソフトの様々な機能（２）繰り返し作業のプログラム化
8.データ処理応用（５）:プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9.情報表現応用（２）:長文レポート作成（１）レポートの形式
10.情報表現応用（３）:長文レポート作成（２）データ表現の形式
11.情報表現応用（４）:インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12.情報機器応用（３）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った数学の学習（１）数式の数表化
13.情報機器応用（４）:表計算ソフトを使った数学の学習（２）数式のグラフ化
14.情報機器応用（５）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った物理シミュレーション（１）
15.情報機器応用（６）:表計算ソフトを使った物理シミュレーション（２）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1210335
科目名	情報プレゼンテーション -f1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
講義概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化
13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化
14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1）
15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210336
科目名	情報プレゼンテーション -f2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
講義概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考文献）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教材（その他）	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化
13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化
14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1）
15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210337
科目名	情報プレゼンテーション -kf(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	パソコンII
講義概要	情報処理実習Ｉで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（テキスト）	富士通エフ・オー・エム出版　『情報リテラシー』　ＦＯＭ出版　2000 円		
教材（参考文献）	新田 英雄 監修　山本　将史　著　『Excel で学ぶ基礎物理学　Excel２０１０/２００７対応版』　オーム社　2800 円 嶋貫　健二　著　『実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書』カットシステム　2500 円		
教材（その他）	・「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル) ・e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）によるよくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
準備学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講者への要望

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

講義の順序とポイント

1.情報機器応用（１）:情報処理実習概論
2.情報機器応用（２）:ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3.情報表現応用（１）:表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4.データ処理応用（１）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（１）数表とグラフ
5.データ処理応用（２）:表計算ソフトによる実験・観察データの表現（２）多数データの統計的処理
6.データ処理応用（３）:表計算ソフトの様々な機能（１）データ処理の省力化
7.データ処理応用（４）:表計算ソフトの様々な機能（２）繰り返し作業のプログラム化
8.データ処理応用（５）:プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9.情報表現応用（２）:長文レポート作成（１）レポートの形式
10.情報表現応用（３）:長文レポート作成（２）データ表現の形式
11.情報表現応用（４）:インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12.情報機器応用（３）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った数学の学習（１）数式の数表化
13.情報機器応用（４）:表計算ソフトを使った数学の学習（２）数式のグラフ化
14.情報機器応用（５）:学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用 - 表計算ソフトを使った物理シミュレーション（１）
15.情報機器応用（６）:表計算ソフトを使った物理シミュレーション（２）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1210401
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1210402
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1210403
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
準備学習	新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

講義の順序とポイント

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識
7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育

情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1210501
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期
の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1210502
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1210503
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（テキスト）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。(30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
準備学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講者への要望

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

講義の順序とポイント

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等
　統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
　高卒者と大奏者の評価、採用問題
　雇用情勢・経済成長
6．職業意識
　自分が望むあるいは目標とする職業
　何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
　職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について

職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1220101
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220103
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	古今東西に言い習わされてきた「ことわざ」を通じて、基礎的な文法事項やイディオムを理解し、聞く・読む・書くの力をつけ、「ことわざ」が持つ人生の知恵を学ぶ。		
教材（テキスト）	樋口千春　松岡ゆりこ共著　Proverbial English ことわざから英語を学ぼう！　南雲堂　￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、聞く・読む・書くの英語の基礎力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の Target Proverb, Grammar 1,2,3 をするので、事前に予習をしておいてもらいたい。 ２回目　　Unit 1　Two dogs fight for a bone and the third runs away. ３回目　　Unit 1 後半と Unit 2 ４回目　　Unit 2 後半と Unit 3 ５回目　　Unit 3 後半と Unit 4 ６回目　　Unit 4 後半と Unit 5 ７回目　　Unit 5 後半と Unit 6 ８回目　　Unit1-6 の復習及び理解度テスト ９回目　　Unit 7 １０回目　Unit 7 後半と Unit 8 １１回目　Unit 8 後半と Unit 9 １２回目　Unit 9 後半と Unit10 １３回目　Unit 10 後半と Unit11 １４回目　Unit 11 後半と Unit12 １５回目　Unit 7-12 の復習及び理解度テスト ただし授業の進度・課は変わることがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220104
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な総合教材を使用し、基本的なボキャブラリーや文法の習得を図り、「読む、書く、聞く、話す」という四技能の活用力を育成します。扱われているテーマはどれも日常的なものであり、単語・文法問題演習、リスニング、音読、会話練習などを通じて、身の回りの物事を英語でどう表現すればよいのか学んでいきましょう。		
教材（テキスト）	Mark D. Stafford, Chizuko Tsumatori, Kozue Matsui 著 English Insight: An Integrated Approach to Language Learning （センゲージ・ラーニング） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教材（その他）	音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解するためのコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。		
準備学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講者への要望

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

講義の順序とポイント

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/From My Heart to Yours 「贈り物」
　　文法事項「代名詞」
第二回：To Be or Not To Be 「国籍とアイデンティティ」
　　文法事項「be 動詞」
第三回：Too Many Calories? 「食習慣」
　　文法事項「名詞」
第四回：Life With a Roommate 「寮生活」
　　文法事項「冠詞と限定詞」
第五回：I'll Take a Vacation! 「休暇」
　　文法事項「一般動詞」
第六回：How Is The Weather? 「気候」
　　文法事項「疑問文」
第七回：Did You Do The Dishes? 「家事」
　　文法事項「過去時制」
第八回：I'm Going to College 「学生生活」
　　文法事項「進行形」
第九回：Have You Ever Had a Job? 「就職活動」

文法事項「現在完了」
第十回：She Had Been Great! 「表彰」
文法事項「過去完了」
第十一回：How is Christmas Celebrated? 「クリスマス」
文法事項「受動態」
第十二回：Do You Want to Take Some Time Off? 「長期休暇の過ごし方」
文法事項「不定詞」
第十三回：I Can Drive! 「運転免許」
文法事項「助動詞 can, will」
第十四回：Where Would You Like to Go? 「ドライブ旅行」
文法事項「助動詞 could, would」
第十五回：小テスト解説・総復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220105
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220106
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材 参考文献 英和、和英、英英辞書など		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
 文法：基本文型 (2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
 文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)

文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220107
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材 参考文献 英和、和英、英英辞書など		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
 文法：基本文型 (2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
 文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)

文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220108
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかりながら、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにしていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を養成し、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力を身につける。 このクラスでは、「健康」と「食」を中心テーマとした英文を読み、各種の演習に取り組んで英語基礎力を強化しながら、所属学科での研究に不可欠な語彙などを学んでいく。		
教材（テキスト）	Josh Norman et. al., Living Well, Eating Well（『ヘルシーライフをめざして』）、朝日出版社、1,700円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は59点以下の不合格となる。また、たとえ1回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。 3．食農学科の分野において必要となる基礎的な英語の語彙が身につく。		
準備学習	1．教科書に記載のサイトより音声ファイルを（無料）ダウンロードし、再生して活用する。 2．次回授業で取り扱うChapterを確認し、先ずその"Vocabulary"の問題に答える。 3．当該Chapterの"Reading"の音声を聴いた後、その英文を何十回も音読する。 4．続いて、"Reading Comprehension"、"Listening Comprehension"、"Words & Idioms"、"Sentence Completion"の問題に答えておく。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検やTOEICなどの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1回の授業で1 chapter を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Chapter 1: Why do people love sweets?
2．Chapter 2: Do you have a "deseert stomach"?
3．Chapter 3: Why Japanese cuisine so popular? & Dialogue 1: Skipping Breakfast
4．Chapter 4: Did you enjoy your school meals?
5．Chapter 5: Why do children dislike vegetables so much?
6．Chapter 6: How do you wash your dishes and vegetables? & Dialogue 2: Enjoing Lunch
7．中間課題（Chapter 7: What a long way frozen food has come! ）
8．Chapter 8: Where do you get your food?
9．Chapter 9: Do you know the power of fermentation? & Dialogue 3: Cooking Dinner

10. Chapter 10: Do you take your medicine correctly?
11. Chapter 11: Are you dieting the right way?
12. Chapter 12: Is collagen really effective? & Dialogue 4: Doing Ecercise
13. Chapter 13: What is the water content?
14. 期末課題（Chapter 14: What kind of tea would you like?）
15. Dalogues 1-4 の復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220109
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかりながら、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにしていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を養成し、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力を身につける。 このクラスでは、スポーツに関連した英文を読んで英問英答演習により基礎的な読解力と運用力を高めるとともに、所属学科での学びに必要な英語の語彙や表現の増強を図る。		
教材（テキスト）	Matthew J. Cotter et al.、Sports and English: Communicating with the World（『スポーツでつなぐ世界』）、南雲堂、2,000 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ1回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う Unit を確認し、添付の CD で音声を聴いた後、その英文（passage）を何十回も音読する。 2．何品詞であるかに注意しながら、"Need to know words" の各語の意味を調べておく。 3．“Understanding the passage”の英語の問いをよく読んで、それぞれの問題に英語で答えておく。 4．時間的に余裕があれば、Activities の問題にも答えておく。（なお、難度が高い多くの Activities は授業内演習では省略する。）		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1回の授業で1 unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Warming UP!
2．Unit 2: Sportsu Nutrition!
3．Unit 3: Sevens Rugby
4．Unit 4: Athletics!
5．Unit 5: Women's Soccer
6．Unit 6: Challenge、受動態
7．中間課題（Unit 7: Sports Supplements! ）
8．Unit 8: Swimming!
9．Unit 9: Judo!

10. Unit 10: Sports Psychology!
11. Unit 11: Equestrian!
12. Unit 12: The Paralympic Games & Special Olympic World Games
13. Unit 13: Golf!
14. 期末課題（Unit 14: Gymnastics! ）
15. Unit 15: Sportsmanship!

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220131
科目名	総合英語Ⅰ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　??? ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.？　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	★	–	–

年度	2017	授業コード	JC1220132
科目名	総合英語Ⅰ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　??? ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.？　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	★	–	–

年度	2017	授業コード	JC1220133
科目名	総合英語Ⅰ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　??? ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.？　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	★	–	–

年度	2017	授業コード	JC1220134
科目名	総合英語Ⅰ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．可算名詞・不可算名詞
3．自動詞・他動詞・人称代名詞
4．第１文型・第３文型
5．形容詞
6．第２文型
7．第４文型・第５文型
8．総合演習（１）
9．副詞
10．形容詞・副詞の比較級・最上級
11．前置詞
12．助動詞
13．動詞の時制
14．受動態
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1220135
科目名	総合英語Ⅰ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．英文・和文基礎
2．可算名詞・不可算名詞
3．自動詞・他動詞・人称代名詞
4．第１文型・第３文型
5．形容詞
6．第２文型
7．第４文型・第５文型
8．総合演習（１）
9．副詞
10．形容詞・副詞の比較級・最上級
11．前置詞
12．助動詞
13．動詞の時制
14．受動態
15．総合演習（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1220136
科目名	総合英語Ⅰ -s(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　??? ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2～5.？　英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　　中間テストをする。 8～12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13～15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220137
科目名	総合英語Ⅰ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講者への要望			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
講義の順序とポイント			
１．英文・和文基礎 ２．可算名詞・不可算名詞 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞 ４．第１文型・第３文型 ５．形容詞 ６．第２文型 ７．第４文型・第５文型 ８．総合演習（１） ９．副詞 10．形容詞・副詞の比較級・最上級 11．前置詞 12．助動詞 13．動詞の時制 14．受動態 15．総合演習（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1220151
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220152
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions
3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。
２回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了
３回目　　Lesson 2　April Fool’s Day
４回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present
５回目　　Lesson 4　Funny English Jokes
６回目　　Lesson 5　Adelie Penguins
７回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart
８回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト
９回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries
１０回目　Lesson 8　Protect Our Environment
１１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking
１２回目　Lesson 10 Body Art
１３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons
１４回目　Lesson 12 Fortune Cookies
１５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト
授業の進度・課は変わることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220153
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions
3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。
２回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了
３回目　　Lesson 2　April Fool’s Day
４回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present
５回目　　Lesson 4　Funny English Jokes
６回目　　Lesson 5　Adelie Penguins
７回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart
８回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト
９回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries
１０回目　Lesson 8　Protect Our Environment
１１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking
１２回目　Lesson 10 Body Art
１３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons
１４回目　Lesson 12 Fortune Cookies
１５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト
授業の進度・課は変わることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2017	授業コード	JC1220156
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定義化を図るとともに、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにする。平易な総合英語教材を使用し、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成し、受講生への課題、発表を含む演習を行う。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解できる力を身につける。		
教材（テキスト）	[ISBN]978-4-7647-4034-1　TARGET! elementary （森田彰、飯尾牧子ほか, 金星堂）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 60%、課題・授業への参加状況 40%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	語彙力を増強し、実用的な英語を身につける。自然に話される英語を聞き取る能力を養成し、英語の表現の幅を広げる。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。（授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Unit1: In Your Free Time
Unit2: Communication Skills
Unit3: World Languages and Cultures
Unit4: Healthy Body, Healthy Mind
Unit5: Careers Nowadays
Unit6: Fashion Trends
Unit7: Planning a Trip Abroad
Unit8: Are you into Sports?
Unit9: Parties Are a Lot of Fun!
Unit10: Art in Our Life
Unit11: What Shall We Eat?
Unit12: What Makes a Good Company?
Unit13: Advances in Science
Unit14: Life with the Technology
Unit15: Eco-Friendly Life

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	★★	★	−

年度	2017	授業コード	JC1220157
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

1回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions
3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。
2回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了
3回目　　Lesson 2　April Fool's Day
4回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present
5回目　　Lesson 4　Funny English Jokes
6回目　　Lesson 5　Adelie Penguins
7回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart
8回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト
9回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries
１０回目　Lesson 8　Protect Our Environment
１１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking
１２回目　Lesson 10 Body Art
１３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons
１４回目　Lesson 12 Fortune Cookies
１５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト
授業の進度・課は変わることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220158
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声を教室内で使用。		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　90 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点 尚、欠席者とテストの不合格者は課題提出が必要です。		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読し、インテイク活動を行います。何度も音読を繰り返すことにより、暗唱に近づけ、内容再生等の英語活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（1）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（2）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220159
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声を教室内で使用。		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　90 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点 尚、欠席者とテストの不合格者は課題提出が必要です。		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読し、インテイク活動を行います。何度も音読を繰り返すことにより、暗唱に近づけ、内容再生等の英語活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（1）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（2）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220161
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。この授業では特に、日本語を第 1 言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。また、基本的な文法事項の復習も行います。		
教材（テキスト）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English. 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社，￥1900)。その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。　さらに、日本文化の紹介を通して、比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回の授業において、前回の授業で学んだ内容についての小テストを行います。そのテストの準備として、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)

2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕

3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕

4. Unit 4: Service （助動詞）

5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）

6. Unit 6: Challenge （受動態）

7. Unit 7: Claim（現在完了形）

8. Unit 8: Manner Up（不定詞）

9. Unit 9: I Cut My Hair（比較①）

10.Unit 10: Hearing & Listening（比較②）

11.Unit 11: Rent & Borrow（関係代名詞）

12.Unit 12: Trip, Tour, Travel（形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client（分詞と動名詞）

14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）

15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare（否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220162
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定義化を図るとともに、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにする。平易な総合英語教材を使用し、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成し、受講生への課題、発表を含む演習を行う。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解できる力を身につける。		
教材（テキスト）	[ISBN]978-4-7647-4034-1　TARGET! elementary （森田彰、飯尾牧子ほか, 金星堂）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 60%、課題・授業への参加状況 40%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	語彙力を増強し、実用的な英語を身につける。自然に話される英語を聞き取る能力を養成し、英語の表現の幅を広げる。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。（授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Unit1: In Your Free Time
Unit2: Communication Skills
Unit3: World Languages and Cultures
Unit4: Healthy Body, Healthy Mind
Unit5: Careers Nowadays
Unit6: Fashion Trends
Unit7: Planning a Trip Abroad
Unit8: Are you into Sports?
Unit9: Parties Are a Lot of Fun!
Unit10: Art in Our Life
Unit11: What Shall We Eat?
Unit12: What Makes a Good Company?
Unit13: Advances in Science
Unit14: Life with the Technology
Unit15: Eco-Friendly Life

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	★★	★	−

年度	2017	授業コード	JC1220163
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	このクラスの　「総合英語Ⅰ」は、主として看護学科１回生向けの必修科目です。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語を読み、書き、聞き、話す力を養成します。 　この授業では、Reading Choice（センゲージラーニング社） を用いて英語の４技能を高めます。このテキストは評論やエッセイなどの長い文章を要点を把握しながら読み進める読解力を身につけるために、パラグラフリーディングの手法を学ぶ中級向けのリーディング教材です。 　まず、「パラグラフごとの内容を理解する」ということに主眼を置き、パラグラフごとのトピックや内容理解を確認しながら学習を進めていきます。選択問題や穴埋め問題も多くあり、学生が自ら問題に取り組み、答えを見つけ、スピーディに情報を整理できるようになっています。 　一通りパラグラフを読んだ段階で、文章全体の流れを確認するための問題に取り組みます。 　これらの作業に繰り返し取り組んでいけば、徐々に大学生として英文を読むための基礎力が身につきます。 　本書には、「時間厳守の意味」「ライフスタイルと食生活の変遷」「技術の進歩が家族の時間を奪う」医療技術の発達:ロボットが命を奪う」といって身近な話題から現代の科学技術に関するものまでまで幅広い話題が取り上げられています。 　授業や自律学習を通じて、英語を総合的に理解し、英語によるコミュニケーション能力を高めて欲しいと願っています。 　なお、定員は３５名です。		
教材（テキスト）	Reading Choice （センゲージ・ラーニング）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。		
教材（その他）	テキストには CD がついていませんが、テキスト購入者は無料で音声をダウンロードできるようになっています。		
評価方法	「総合英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（10%）、課題提出（30%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、活用できるようになる。日常的な話題および社会の身近な問題について、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につける。春学期修了までに英検準２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、中学校や高校で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
③英語学習のための設備がある学志館１階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自律学習に励んでください。

講義の順序とポイント

初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。

第１回　Introduction
第２回 ＆ 第３回　A Cultural Difference: Being on Time　（時間厳守の意味:その文化的差異）
第４回 ＆ 第５回　Changing Lifestyles and New Eating Habits　（ライフｓタイルと食生活の変遷）
第６回　Technology Competes for Family Time　（技術の進歩が家族の時間を奪う）
第７回　Language: Is it Always Spoken?　（言語とは話すだけのもの？）
第８回　前半の授業の振り返りおよび反転学習
第９回　Loneliness: How Can We Overcome It?　（人は孤独をどのように克服するのか？）
第 10 回　The Importance of Grandmothers　（祖母の存在の重要性）
第 11 回　The Reliability of Eyewitnesses　（目撃者の信頼性）
第 12 回　Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System　（推定無罪:アメリカの刑事裁判制度）

第 13 回	Solving Crimes with Modern Techonology　（現代科学が犯罪を暴く）
第 14 回	Ancient Artifacts and Ancient Air　（遺物に密封された古代の空気）
第 15 回	後半の授業の振り返りおよび反転学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220164
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力を養成する。社会と娯楽、文化と環境、ビジネスと技術の4つのジャンルから、さまざまなトピックに取り組む。 1．２２０語程度の英文を読んで、リーディング力を強める。 2．本文の内容について、語彙の意味、T/F 問題、応答問題、60 語程度の要約文で内容理解度を確認する。 3．英文を完成することで、ライティング力を補強する。 4．８０語程度の TOEIC 形式の長文空所補充問題で、リーディングの基本的な表現を確認する。 5．７０語程度の会話文により、リスニング力を強化する。 6．写真を説明した６０語程度の英文を完成することで、語彙力を定着する。		
教材（テキスト）	English Indicator 2 <Pre-Intermediate>　南雲堂　2,160 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3分の2の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の声（もちろん日本語の声も）自信をもって出す。		
準備学習	テキストの英文を音読・黙読し、単語の意味と発音を調べる。		
受講者への要望			
積極的な学習態度で授業に参加する。テキストとノート、筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・他科目の課題作業など等は厳禁。積極的に質問してほしい。発音・音読の際には、声を出してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. Our Aging Society―ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2. Holiday Memories―母音と子音 1 3. Sport―母音と子音 2 4. Foreign Workers―母音と子音 3 5. Lifestyles―内容語と機能語 1 6. Sizes―内容語と機能語 2 7. Bathrooms―内容語と機能語 3 8. Weather and Global Warming―省エネ発音 1 9. Recycling―省エネ発音 2 10. Commuting―省エネ発音 3 11. Crumbling Britain―分詞と文分け 1 12. Advertising―分詞と文分け 2 13. Technology and Us―分詞と文分け 3 14. Cars: Transport or Status―復習 1 15. Our Education―復習 2			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220165
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な総合教材を使用し、基本的なボキャブラリーや文法の習得を図り、「読む、書く、聞く、話す」という四技能の活用力を育成します。扱われているテーマはどれも日常的なものであり、単語・文法問題演習、リスニング、音読、会話練習などを通じて、身の回りの物事を英語でどう表現すればよいのか学んでいきましょう。		
教材（テキスト）	Mark D. Stafford, Chizuko Tsumatori, Kozue Matsui 著 English Insight: An Integrated Approach to Language Learning （センゲージ・ラーニング） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教材（その他）	音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解するためのコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。		
準備学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講者への要望

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

講義の順序とポイント

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/From My Heart to Yours 「贈り物」
　　文法事項「代名詞」
第二回：To Be or Not To Be 「国籍とアイデンティティ」
　　文法事項「be 動詞」
第三回：Too Many Calories? 「食習慣」
　　文法事項「名詞」
第四回：Life With a Roommate 「寮生活」
　　文法事項「冠詞と限定詞」
第五回：I'll Take a Vacation! 「休暇」
　　文法事項「一般動詞」
第六回：How Is The Weather? 「気候」
　　文法事項「疑問文」
第七回：Did You Do The Dishes? 「家事」
　　文法事項「過去時制」
第八回：I'm Going to College 「学生生活」
　　文法事項「進行形」

第九回：Have You Ever Had a Job? 「就職活動」
　　文法事項「現在完了」
第十回：She Had Been Great! 「表彰」
　　文法事項「過去完了」
第十一回：How is Christmas Celebrated? 「クリスマス」
　　文法事項「受動態」
第十二回：Do You Want to Take Some Time Off? 「長期休暇の過ごし方」
　　文法事項「不定詞」
第十三回：I Can Drive! 「運転免許」
　　文法事項「助動詞 can, will」
第十四回：Where Would You Like to Go? 「ドライブ旅行」
　　文法事項「助動詞 could, would」
第十五回：小テスト解説・総復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220166
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	古今東西に言い習わされてきた「ことわざ」を通じて、基礎的な文法事項やイディオムを理解し、聞く・読む・書くの力をつけ、「ことわざ」が持つ人生の知恵を学ぶ。		
教材（テキスト）	樋口千春　松岡ゆりこ共著　Proverbial English ことわざから英語を学ぼう！　南雲堂　￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、聞く・読む・書くの英語の基礎力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の Target Proverb, Grammar 1,2,3 をするので、事前に予習をしておいてもらいたい。
２回目　　Unit 1　Two dogs fight for a bone and the third runs away.
３回目　　Unit 1 後半と Unit 2
４回目　　Unit 2 後半と Unit 3
５回目　　Unit 3 後半と Unit 4
６回目　　Unit 4 後半と Unit 5
７回目　　Unit 5 後半と Unit 6
８回目　　Unit1-6 の復習及び理解度テスト
９回目　　Unit 7
１０回目　Unit 7 後半と Unit 8
１１回目　Unit 8 後半と Unit 9
１２回目　Unit 9 後半と Unit10
１３回目　Unit 10 後半と Unit11
１４回目　Unit 11 後半と Unit12
１５回目　Unit 7-12 の復習及び理解度テスト
ただし授業の進度・課は変わることがある

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220167
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220168
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220169
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English I		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220170
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかりながら、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにしていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成し、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力を身につける。 このクラスでは、元々の意味とは違う意味で日本人が用いている「英語」本来の意味や表現を学ぶことを契機として、各種の演習を行い、大学基礎レベルでの英語力の強化を図っていく。		
教材（テキスト）	Mark Thompson & Toshihiro Tanioka、Say It Right in English（『ネイティブが気になる日本人の英語』）、英宝社、1,900 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	1．出版社ホームページより CD 音声を各自ダウンロードし、再生して活用すること。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、その“Passage”の CD 音声を聴いた後、何十回も音読する。 3．CD 音声を聴き、 “Listening Comprehension”の問題を解く。 4．“Writing Exercise”の 1～3 の問題を解く。 5．「ミニ英会話」の CD 音声を聴き、A または B になり切って対話練習を行う。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Mansion、be 動詞
2．Unit 2: Repeater、動詞①（現在）
3．Unit 3: Talent、動詞②（過去、未来）
4．Unit 4: Service、助動詞
5．Unit 5: OL & Businessman、進行形
6．Unit 6: Challenge、受動態
7．中間課題（Unit 7: Claim、現在完了）
8．Unit 8: Manner Up、不定詞
9．Unit 9: I Cut My Hair、比較①
10．Unit 10: Hearing & Listening、比較②

11. Unit 11: Rent & Borrow、関係代名詞
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel、形容詞と副詞
13. Unit 13: Customer, Guest, Client、分詞と動名詞
14. 期末課題（Unit 14: Pay, Wage, Salary、前置詞）
15. Unit 15: Cost, Price, Fee, fare、否定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220171
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220172
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220173
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220174
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかりながら、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにしていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成し、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力を身につける。 このクラスでは、元々の意味とは違う意味で日本人が用いている「英語」本来の意味や表現を学ぶことを契機として、各種の演習を行い、大学基礎レベルでの英語力の強化を図っていく。		
教材（テキスト）	Mark Thompson & Toshihiro Tanioka、Say It Right in English（『ネイティブが気になる日本人の英語』）、英宝社、1,900 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	1．出版社ホームページより CD 音声を各自ダウンロードし、再生して活用すること。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、その“Passage”の CD 音声を聴いた後、何十回も音読する。 3．CD 音声を聴き、 “Listening Comprehension”の問題を解く。 4．“Writing Exercise”の 1～3 の問題を解く。 5．「ミニ英会話」の CD 音声を聴き、A または B になり切って対話練習を行う。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することがある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Mansion、be 動詞
2．Unit 2: Repeater、動詞①（現在）
3．Unit 3: Talent、動詞②（過去、未来）
4．Unit 4: Service、助動詞
5．Unit 5: OL & Businessman、進行形
6．Unit 6: Challenge、受動態
7．中間課題（Unit 7: Claim、現在完了）
8．Unit 8: Manner Up、不定詞
9．Unit 9: I Cut My Hair、比較①
10．Unit 10: Hearing & Listening、比較②

11. Unit 11: Rent & Borrow、関係代名詞
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel、形容詞と副詞
13. Unit 13: Customer, Guest, Client、分詞と動名詞
14. 期末課題（Unit 14: Pay, Wage, Salary、前置詞）
15. Unit 15: Cost, Price, Fee, fare、否定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220175
科目名	総合英語Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材 参考文献 英和、和英、英英辞書など		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
 文法：基本文型 (2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
 文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)

文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220176
科目名	総合英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材 参考文献 英和、和英、英英辞書など		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
文法：基本文型 (2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)

文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220177
科目名	総合英語Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材 参考文献 英和、和英、英英辞書など		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
 文法：基本文型 (2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
 文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)

文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220201
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ　れは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220202
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語 I 」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、英語に馴染むことを第一目的として音読を軸とした演習を行うとともに、併せて基本英文法の復習をしながらも将来のビジネスの現場で多少とも役立つ英語表現の習得を図っていく。		
教材（テキスト）	Teruhiko Kadoyama & Simon Capper、Let's Read Aloud More! （『音読で極める基礎英語』）、成美堂、2,200 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力を身につける。		
準備学習	1．音声ファイルについては、教科書に記載のサイトより（無料）ダウンロードし、再生して活用する。 2．WARM-UP では、"Vocabulary Preview"の問題に解答し、かつ、 "Grammar Point"をよく読んでおく。 3．次は GRAMMAR の頁に進み、A と B の問題だけは解いておく。 4．LET'S CHECK & READ ALOUD! の頁に戻り、音声を聴いて空所を補充する。 5．最後に LET'S READ! の頁で、枠内の英文（パッセージ）を何十回も音読する。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。
1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 01: This is my first visit there. 、現在形・過去形 1
2．Unit 02: How do you like Bangkok?、現在形・過去形 2
3．Unit 03: It's going well so far.、進行形・未来形
4．Unit 04: Have they decided on the design yet?、現在完了形
5．Unit 05: Could you take a look at them?、助動詞
6．Unit 06: My flight was cancelled.、受動態
7．中間課題（Unit 07: What do you want me to do?、不定詞）
8．Unit 08: She knows marketing very well.、関係詞 1
9．Unit 09: Thank you for coming to our interview.、動名詞

10. Unit 10: The competition will be very strong.、形容詞・副詞
11. Unit 11: This is where we hold meetings.、関係詞 2
12. Unit 12: I'd like to talk about our latest model.、分詞
13. Unit 13: You are much better than me.、比較
14. 期末課題（Unit 14: If I were you, I wouldn't miss it.、仮定法）
15. Unit 15: I'd like to propose a toast.、接続詞・前置詞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JC1220203
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220204
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な総合教材を使用し、ボキャブラリーや文法事項を学習して「読む、書く、聞く、話す」という四技能の活用力を育成します。各課で扱われる事項は少しずつ難易度が上がりますが、それらを一つずつ習得することで、徐々に発展的な内容を英語で伝えられるようになりましょう。		
教材（テキスト）	Michael Hood, Takako Moroi 著 World in Motion: Life in the 21st Century （金星堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教材（その他）	音声 CD を用います。		
評価方法	レポート課題 70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	ボキャブラリーや文法事項の確認や補強をして、英語の基礎固めを行います。自分の考えを英語でまとめ、表現する能力や、相手が英語で伝える内容を理解する能力を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎回、授業で扱った範囲に関する短いレポート課題を出します。学んだことを十分に復習した上で、テキストを参考にしながら書いて、提出してください。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講者への要望

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

講義の順序とポイント

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
毎回、授業内容に関するレポート課題を出題します。

第一回：イントロダクション/University Lifestyles
　　文法事項「類似と対照を表す時に使われる談話標識」「比較表現の使い方(1)」
第二回：Career Choices
　　文法事項「助動詞 will, can, may の使い方」「名詞・代名詞を修飾する関係代名詞 who の使い方」
第三回：Telecommuting
　　文法事項「直接話法の使い方」「間接話法の使い方」
第四回：Slow Food
　　文法事項「That で始まる名詞節」「Wh で始まる疑問文」
第五回：The Lost Art of Conversation
　　文法事項「命令文の使い方」「not only A but also B の使い方」
第六回：See You in Cyberspace!
　　文法事項「同格表現の使い方」「条件を提示する If 節の使い方」
第七回：Love in the Virtual World
　　文法事項「過去の習慣を表す would の使い方」「副詞（句）の使い方」
第八回：The Wonderful World of English(es)
　　文法事項「There 構文（～がある・いる）の使い方」「as の基本的な用法」
第九回：The Wisdom of Crowds
　　文法事項「動詞の後に用いる動名詞と不定詞の使い方」「比較表現の使い方(2)」

第十回：Be a Critical News Consumer
文法事項「仮定法過去の使い方」「可算名詞と不可算名詞の使い方」
第十一回：What's Your Carbon Footprint?
文法事項「動詞句の使い方」「間接目的語の使い方」
第十二回：Ecotourism
文法事項「冠詞（a/ the）の使い方」「受動態の使い方」
第十三回：Authentic Happiness
文法事項「数を表す単位の使い方」「数量を表す表現の使い方」
第十四回：Volunteerism & Philanthropy
文法事項「some と any の複合語の使い方」「even if / unless の使い方」
第十五回：Rethinking Retirement
文法事項「現在完了形（主語＋have /has ＋過去分詞）4 つの使い方」「形容詞になった過去分詞と現在分詞の使い方」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	JC1220205
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語 I 」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、日本の名所や文化、行事などを外国人に紹介する実践的な英語を題材として演習を行い、4 技能の基礎力をさらに高めていく。		
教材（テキスト）	Carolyn Wright et al.、Hospitality English（『おもてなしの観光英語』）、三修社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	1．教科書に記載のサイトより音声ファイルを（無料）ダウンロードし、再生して活用する。 2．次回授業で取り扱う Lesson を確認し、音声を聴いた後、その"Reading"を何十回も音読する。 3．次に"T/F"の問題に答えておく。 4．さらに"Exercises 1-3"の問題にも答えておく。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 lesson を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Lesson 1: An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!
2．Lesson 2: Preparations for the 2020 Olympic Games in Tokyo
3．Lesoon 3: Do You Like to Watch Kabuki?
4．Lesson 4: The Sapporo Snow Festival
5．Lesson 5: Hiraizumi as the Buddhist Pure Land
6．Lesson 6: Yokohama Port
7．中間課題（Lesson 7: Mt. Fuji）
8．Lesson 8: Omi Province and Its Military History
9．Lesson 9: The Deer in Nara
10．Lesson 10: Kyoto Sation
11．Lesson 11: Let’s Explore Osaka
12．Lesson 12: Port City Kobe: A Phoenix Rises

13. Lesson 13: Sand Dunes in Tottori
14. 期末課題（Lesson 14: The Atomic Bomb Dome）
15. Lesson 15: Dazaifu

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC1220206
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ　れは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220207
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画のその場面を味わいながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力及び英作力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。初めは４章「かもめ食堂」をやるので、P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半
３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半
４回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
５回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
６回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　前半
７回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　後半
８回目　　chapter 1,2,4 の復習と理解度テスト
９回目　　Chapter 5　The Road Home　前半
１０回目　Chapter 5　The Road Home　後半
１１回目　Chapter 6　Notting Hill　前半
１２回目　Chapter 6　Notting Hill　後半
１３回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 前半
１４回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 後半
１５回目　chapter 5,6,10 の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1220208
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語 I 」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、健康と環境を話題とした VOA（Voice of America）のニュース英文に学び、英語リスニング力の向上をはかりながら、同時にバイオ環境学の分野において不可欠な英語表現を学んでいく。		
教材（テキスト）	Seisuke Yasunami & Richard S. Lavin、For a Better Future: Health & Environment Topics from VOA、松柏社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。 3．「総合英語 I 」に続き、バイオ環境の分野において必要な基礎的な英語の語彙をさらに多く習得する。		
準備学習	1．教科書に記載のサイトより先ず音声ファイルをダウンロードしておく（無料）。 2．次回授業で取り扱う VOA の Unit を確認し、音声ファイルでそのニュースを何度も聴き、Summary Check に解答し、さらに Text の空所を補充しておく。 3．Summary Check の加えて、Vocabulary、True or False、Vocabulary Buildings の問題にも解答しておく。いずれかを小テスト問題として利用する。なお、Useful Expressions、Translations は授業内演習では省略する。 4．空所補充後の text（VOA ニュース本文）を何十回と音読する。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Don’t Forget Your Coffee!
2．Unit 2: Solar Cars in South Africa
3．Unit 3: Video Games and Dyslexia
4．Unit 5: Scientists Get with the Beat
5．Unit 6: Farmed Christmas Trees: Good for the Environment
6．Unit 7: Can Mothers’ Milk Beat HIV?
7．中間課題（Unit 4: Let's Go Fishing ... and Farming!）

8．Unit 8: The World’s Largest Solar power Plant
9．Unit 9: Is Community-Based Mental health Treatment Better?
10．Unit 11: How Can We Get Children to Eat Better?
11．Unit 12: Making Agriculture Sustainable
12．Unit 13: Diet at the Root of Tooth Decay?
13．Unit 14: Concerns about Ethanol
14．期末課題（Unit 10: How can Farmers Use Social Media）
15．Unit 15: A New Way to Find Malaria Infections

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC1220209
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ　れは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220231
科目名	総合英語Ⅱ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.？　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220232
科目名	総合英語Ⅱ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.？　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220233
科目名	総合英語Ⅱ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.？　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220234
科目名	総合英語Ⅱ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1220235
科目名	総合英語Ⅱ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1220236
科目名	総合英語Ⅱ -s(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（テキスト）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考文献）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教材（その他）	プリント（配布する）		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
準備学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講者への要望			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　???　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2〜8.？　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220237
科目名	総合英語Ⅱ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
講義概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（テキスト）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
準備学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講者への要望

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

講義の順序とポイント

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1220251
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経済学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
　Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220252
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	文法事項理解を基本にしつつ、身近な食べ物に関する英文を読み、基礎的な読解力、語彙力、英作力等を向上させる。Chapter によってはリスニングをしたり、一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞することもある。		
教材（テキスト）	テキストはなくプリント教材で行う。		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）			
評価方法	理解度テスト（６０％） 平常点（授業への積極参加・提出物等）（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格になる（３分の２以上の出席があった場合でも必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法を確実なものにし、語彙・イディオムを増やし、簡単な英文を読む力、英作をする力を身につける。		
準備学習	授業前に当日進む部分の知らない単語を調べ、英文を訳し、練習問題をする。こういう予習を確実にする習慣をつけてもらいたい。		

受講者への要望

①欠席や遅刻をしないように心掛け、予習・復習に努める。特に「準備学習」で書いたように予習の習慣をつけてもらいたい。授業で当たってから考えるのでは、いつまでたっても力はつきません。
②配布されたプリント教材を失くさないように注意。プリントをノートに貼るなりして「マイノート」作りをすることを進めます。
③「継続は力」です。真面目に授業に取り組み、地道に努力する人を評価します。

講義の順序とポイント

初回授業時に、授業の進め方、テスト、成績評価について説明するので、必ず出席のこと。(以下各回の内容を記すが、授業の進度・内容は変わることがある。)

第１回　秋学期の授業内容及び成績評価の説明。プリント教材配布
第２回　チョコレートに関して
第３回　パイに関して
第４回　ハーブティーに関して
第５回　はちみつに関して
第６回　アイスクリームに関して
第７回　トマトに関して
第８回　復習と理解度テスト
第９回　魚に関して
第 10 回　レタスに関して
第 11 回　チーズに関して
第 12 回　朝食に関して
第 13 回　そばに関して
第 14 回　ダイエットに関して
第 15 回　復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	JC1220253
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画のその場面を味わいながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力及び英作力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。初めは４章「かもめ食堂」をやるので、P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半
３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半
４回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
５回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
６回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　前半
７回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　後半
８回目　　chapter 1,2,4 の復習と理解度テスト
９回目　　Chapter 5　The Road Home　前半
１０回目　Chapter 5　The Road Home　後半
１１回目　Chapter 6　Notting Hill　前半
１２回目　Chapter 6　Notting Hill　後半
１３回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 前半
１４回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 後半
１５回目　chapter 5,6,10 の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1220256
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I」を継承、発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる習得を図り、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させることを目指し、受講生への課題、発表を含む演習を実施する。「総合英語 I」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解できる力をさらに向上させることを目指す。		
教材（テキスト）	[ISBN]978-4-7647-4000-6　Let's Check Out the UK!　(Paul Chris McVay、川田伸道,　金星堂)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 60%、課題・授業への参加状況 40%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	海外と日本の文化的違いを理解する。長文読解に必要な文法の知識を身につけ、活用できる語彙や表現を増やす。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。(授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Day1: I Can't Wait to Explore Britain!
Day2: How about Going to a Pub?
Day3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't it?
Day4: What Do You Suggest We Do Today?
Day5: This Is a Multi-Ethnic Country
Day6: What's It Like Being a Student in the UK?
Day7: Mmm...It Sounds Too Risky
Day8: You Should Try Fish and Chips!
Day9: It's Fun Listening to Different Accents
Day10: Do you Fancy Something Sweet?
Day11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience
Day12: I'm Looking forward to Seeing Wales!
Day13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?
Day 14: Would You Like to See a Play?
Day15: That's the　Great Thing about Travel!

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	JC1220257
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画のその場面を味わいながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力及び英作力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。初めは４章「かもめ食堂」をやるので、P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半
３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半
４回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
５回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
６回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　前半
７回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　後半
８回目　　chapter 1,2,4 の復習と理解度テスト
９回目　　Chapter 5　The Road Home　前半
１０回目　Chapter 5　The Road Home　後半
１１回目　Chapter 6　Notting Hill　前半
１２回目　Chapter 6　Notting Hill　後半
１３回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 前半
１４回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 後半
１５回目　chapter 5,6,10 の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1220258
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。毎回の授業終了前に確認テストを実施します。合格点に達しない、または欠席してテストを受けられなかった場合は課題を提出しなければなりません。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　90 点 授業出席、参加度等総合評価　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。
・意味を理解した後でテキストの音読を 5 回行います。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Lions
第　3 週:　Unit 2：　Ramen
第　4 週:　Unit 3：　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4：　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5：　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6：　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7：　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8：　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9：　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220259
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。毎回の授業終了前に確認テストを実施します。合格点に達しない、または欠席してテストを受けられなかった場合は課題を提出しなければなりません。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　90 点 授業出席、参加度等総合評価　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。
・意味を理解した後でテキストの音読を 5 回行います。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220261
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、経済学の基礎知識を英語で学ぶことを通して、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経済学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
　Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220262
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 I」を継承、発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる習得を図り、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力をさらに発展させることを目指し、受講生への課題、発表を含む演習を実施する。「総合英語 I」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解できる力をさらに向上させることを目指す。		
教材（テキスト）	[ISBN]978-4-7647-4000-6　Let's Check Out the UK!　(Paul Chris McVay、川田伸道,　金星堂)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 60%、課題・授業への参加状況 40%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	海外と日本の文化的違いを理解する。長文読解に必要な文法の知識を身につけ、活用できる語彙や表現を増やす。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。(授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Day1: I Can't Wait to Explore Britain!
Day2: How about Going to a Pub?
Day3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't it?
Day4: What Do You Suggest We Do Today?
Day5: This Is a Multi-Ethnic Country
Day6: What's It Like Being a Student in the UK?
Day7: Mmm...It Sounds Too Risky
Day8: You Should Try Fish and Chips!
Day9: It's Fun Listening to Different Accents
Day10: Do you Fancy Something Sweet?
Day11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience
Day12: I'm Looking forward to Seeing Wales!
Day13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?
Day 14: Would You Like to See a Play?
Day15: That's the　Great Thing about Travel!

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	JC1220263
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅱ」は春学期開講の「総合英語Ⅰ」に引き続き、健康医療学部看護学科１回生向けの必修科目です。 この授業では、Take Care 3rd edition!（三修社） を用いて英語の４技能を高めます。このテキストは医療系の大学で学ぶ人を対象として作成されたものです。看護学部における英語学習にふさわしい役に立つ題材を使って、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの４技能をバランスよく学べるように構成されています。 将来の仕事に直結した英語によるコミュニケーション能力の養成を目的として、できる限り実際に使用されている教材を用い、ESP（English for Specific Purposes）の考え方を取り入れて構成されています。 ワークブックの要素も取り入れられていますので、みなさんが書き込みできるようになっており、授業中の活動でアクティブ・ラーニングを行えるようになっています。		
教材（テキスト）	Take Care! 3rd edition （三修社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。		
教材（その他）	テキストには CD がついていませんが、教室では音声も使ってリスニングやリーディング能力の向上に努めます。なお、音声は三修社音声サイトより無料でダウンロードおよびストリーミング再生可能です。		
評価方法	「総合英語Ⅱ」では、授業中の発表など授業参加（10%）、課題提出（30%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに医療現場で日常的に使用する専門用語の語彙を獲得し、活用できるようになる。イラストや写真を豊富に使ったエクササイズが用意されているので、読み、書き、聞き、話すという英語力のいっそうの向上をめざす。春学期に英検２級を取得できなかった学生諸君は秋学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校や春学期の「総合英語Ⅰ」で学んだ英語の基本語彙、専門用語、文法本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各 Chapter が終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ③英語学習には継続的な学習習慣が必要であり、自律学習に励んでください。			
講義の順序とポイント			
初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第１回　Inroduction 第２回　Unit 1: What Worries Barbara? 第３回　Unit 2: That's Mama's Hair! 第４回　Unit 3:Menstrual Problems 第５回　Unit 4: Right or Left? 第６回　Unit 5: How to Give First Aid 第７回　Unit 6:Make a Restroom More Accessible to LGBT People 第８回　前半の授業の振り返りおよび反転学習 第９回　Unit 7: Are You Being Abused? 第 10 回　Unit 8: Giving Blood 第 11 回　Unit 9: Living　a Healthy Life 第 12 回　Unit 10: Is the Treatment Different or Not?			

第 13 回　Unit 11: Is Hepatitis B Curable? 第 14 回　Unit 12:Do you want to be skinny? 第 15 回　後半の授業の振り返りおよび反転学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220265
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な総合教材を使用し、ボキャブラリーや文法事項を学習して「読む、書く、聞く、話す」という四技能の活用力を育成します。各課で扱われる事項は少しずつ難易度が上がりますが、それらを一つずつ習得することで、徐々に発展的な内容を英語で伝えられるようになりましょう。		
教材（テキスト）	Michael Hood, Takako Moroi 著 World in Motion: Life in the 21st Century （金星堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教材（その他）	音声 CD を用います。		
評価方法	レポート課題 70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	ボキャブラリーや文法事項の確認や補強をして、英語の基礎固めを行います。自分の考えを英語でまとめ、表現する能力や、相手が英語で伝える内容を理解する能力を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎回、授業で扱った範囲に関する短いレポート課題を出します。学んだことを十分に復習した上で、テキストを参考にしながら書いて、提出してください。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講者への要望

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

講義の順序とポイント

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
毎回、授業内容に関するレポート課題を出題します。

第一回：イントロダクション/University Lifestyles
　　文法事項「類似と対照を表す時に使われる談話標識」「比較表現の使い方(1)」
第二回：Career Choices
　　文法事項「助動詞 will, can, may の使い方」「名詞・代名詞を修飾する関係代名詞 who の使い方」
第三回：Telecommuting
　　文法事項「直接話法の使い方」「間接話法の使い方」
第四回：Slow Food
　　文法事項「That で始まる名詞節」「Wh で始まる疑問文」
第五回：The Lost Art of Conversation
　　文法事項「命令文の使い方」「not only A but also B の使い方」
第六回：See You in Cyberspace!
　　文法事項「同格表現の使い方」「条件を提示する If 節の使い方」
第七回：Love in the Virtual World
　　文法事項「過去の習慣を表す would の使い方」「副詞（句）の使い方」
第八回：The Wonderful World of English(es)
　　文法事項「There 構文（〜がある・いる）の使い方」「as の基本的な用法」
第九回：The Wisdom of Crowds
　　文法事項「動詞の後に用いる動名詞と不定詞の使い方」「比較表現の使い方(2)」

第十回：Be a Critical News Consumer
文法事項「仮定法過去の使い方」「可算名詞と不可算名詞の使い方」
第十一回：What's Your Carbon Footprint?
文法事項「動詞句の使い方」「間接目的語の使い方」
第十二回：Ecotourism
文法事項「冠詞（a/ the）の使い方」「受動態の使い方」
第十三回：Authentic Happiness
文法事項「数を表す単位の使い方」「数量を表す表現の使い方」
第十四回：Volunteerism & Philanthropy
文法事項「some と any の複合語の使い方」「even if / unless の使い方」
第十五回：Rethinking Retirement
文法事項「現在完了形（主語＋have /has ＋過去分詞）4 つの使い方」「形容詞になった過去分詞と現在分詞の使い方」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	JC1220266
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I を発展させた形で授業を行い、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力をさらに向上させる。 １．３５０語程度の英文を読んで、リーディング力を強化する。 ２．語彙の意味、T/F 問題、応答問題、１００語程度の要約文を通して、本文の内容理解度を確認する。 ３．本文と関連のある英文を完成することで、ライティング力を補強する。 ４．１００語程度の TOEIC 形式の空所補充問題で、リーディングの基本的な表現を確認する。 ５．本文と関連のある１００語程度の会話文で、リスニング力を強化する。 ６．補足説明で内容の理解を深める。 ７．文法の確認をする。		
教材（テキスト）	English Indicator 3 <Intermediate>　南雲堂　2,160 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格するという意味ではない。）		
到達目標	英語の声（もちろん日本語の声も）を自信をもって出す。		
準備学習	テキストの英文を音読・熟読し、単語の意味と発音を調べる。		

受講者への要望

積極的な学習態度で授業に参加する。テキストとノート、筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・他科目の課題作業などは厳禁。積極的に質問してほしい。発音・音読の際には、声を出してほしい。

講義の順序とポイント

1. College Sports―母音と子音 1
2. Hip Hop Music―母音と子音 2
3. Travel―母音と子音 3
4. Video Games―内容語と機能語 1
5. Recycling―内容語と機能語 2
6. Fast Food―内容語と機能語 3
7. Extreme Weather―省エネ発音 1
8. Medical Tourism―省エネ発音 2
9. Advertising―省エネ発音 3
10. Business Travel―分詞と文分け 1
11. E-commerce―分詞と文分け 2
12. Coffee Shop―分詞と文分け 3
13. Robots―復習 1
14. SNS―復習 2
15. Skyscrapers―まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220267
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I を発展させた形で授業を行い、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力をさらに向上させる。 １．３５０語程度の英文を読んで、リーディング力を強化する。 ２．語彙の意味、T/F 問題、応答問題、１００語程度の要約文を通して、本文の内容理解度を確認する。 ３．本文と関連のある英文を完成することで、ライティング力を補強する。 ４．１００語程度の TOEIC 形式の空所補充問題で、リーディングの基本的な表現を確認する。 ５．本文と関連のある１００語程度の会話文で、リスニング力を強化する。 ６．補足説明で内容の理解を深める。 ７．文法の確認をする。		
教材（テキスト）	English Indicator 3 <Intermediate>　南雲堂　2,160 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格するという意味ではない。）		
到達目標	英語の声（もちろん日本語の声も）を自信をもって出す。		
準備学習	テキストの英文を音読・熟読し、単語の意味と発音を調べる。		

受講者への要望

積極的な学習態度で授業に参加する。テキストとノート、筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・他科目の課題作業などは厳禁。積極的に質問してほしい。発音・音読の際には、声を出してほしい。

講義の順序とポイント

1. College Sports―母音と子音 1
2. Hip Hop Music―母音と子音 2
3. Travel―母音と子音 3
4. Video Games―内容語と機能語 1
5. Recycling―内容語と機能語 2
6. Fast Food―内容語と機能語 3
7. Extreme Weather―省エネ発音 1
8. Medical Tourism―省エネ発音 2
9. Advertising―省エネ発音 3
10. Business Travel―分詞と文分け 1
11. E-commerce―分詞と文分け 2
12. Coffee Shop―分詞と文分け 3
13. Robots―復習 1
14. SNS―復習 2
15. Skyscrapers―まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220270
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	多くの人が関心を持つ食文化や食べ物に関する英文を読み、基礎的なリーディング力、語彙力、ライティング力をつける。また Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞することもある。		
教材（テキスト）	Fiona Wall Minami　他 A Taste of English: Food and Fiction　フィクションにみる食文化　朝日出版社 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目
テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。
Chapter 1 の Grammar&Vocabulary は進む予定なのでやっておいてもらいたい。
以下各回の内容を記すが、授業の進度・課は変わることがある。

２回目
Chapter1　Harry Potter and Chocolate Frogs　本文、他の練習問題

３回目
Chapter2　Peter Rabbit and Pie　　語彙・文法
Chapter 3　Mrs. Rabbit and Herb Tea　　語彙・文法と本文

４回目
Chapter 3　本文残りと他の練習問題
Chapter 4　Winnie-the-Pooh and Honey　語彙・文法と本文

５回目
Chapter 4　本文残りと他の練習問題
Chapter5　 Daddy-Long-Legs and Ice Cream の語彙・文法と本文

６回目
Chapter 5　本文残りと他の練習問題

Chapter 6　Kenji Miyazawa and Tomatoes の語彙・文法と本文

７回目
Chapter 6 の本文残りと他の練習問題

８回目
Chapter 1-6 の復習と理解度テスト

９回目
Chapter 9　East of Eden and Lettuce　 Chapter9 の語彙・文法と本文

１０回目
Chapter 9 の本文残りと他の練習問題
Chapter 10 Laura and Cheese-Making on the Prairie の語彙・文法と本文

１１回目
Chapter 10 の本文残りと他の練習問題
Chapter 11　Breakfast and Tiffany's の語彙・文法と本文

１２回目
Chapter11 の本文残りと他の練習問題
Chapter 12 "Mujina" and "Soba"の語彙・文法と本文

１３回目
Chapter12 の本文残りと他の練習問題
Chapter 13 Bridget Jones and Dieting の語彙・文法と本文

１４回目
Chapter 13 の本文残りと他の練習問題

１５回目
Chapter　８－１３の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1220271
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220272
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220273
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220274
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 I に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220276
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経済学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
　Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220277
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経済学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
　Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220278
科目名	総合英語Ⅱ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	このクラスは、グローバルコースおよび航空観光コース１回生向けの必修科目です。中級程度の総合英語教材を使用し、英語を読み、書き、聞き、話す力を養成します。 　この授業では、Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues（センゲージラーニング社）を用いて英語の４技能を高めつつ、とりわけ書く力と話す力を強化していきたいと考えています。 　このテキストは、現在、国内外で最も論争となっているさまざまな分野の社会問題について、その背景知識を身につけ、英語で討論ができるような力を育成するように構成されています。各ユニットのテーマは「インターネット規制の是非」、「オリンピック開催地になることの是非」、「原子力発電の是非」、「遺伝子組み換え食品の是非」、「同性婚の是非」、「公共の場での禁煙の是非」、「安楽死法制化の是非」、「学校での体罰の是非」などのトピックを取り扱っています。 　したがって、これからみなさんがディスカッションやディベートなどで求められるアーギュメント力を高めることにも役立てていただきたいと思っています。今学期で、日本人として国際社会で適用する英語のスピーキング力を身につけるだけでなく、クリティカルシンキングとアーギュメント力も身につけて欲しいと考えています。 　授業や、事前学修・事後学修などの自律学習を通じて、英語を総合的に理解し、英語によるコミュニケーション能力を高めて欲しいと願っています。		
教材（テキスト）	Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues（センゲージラーニング社） 2,100 円		
教材（参考文献）	辞書（英和・英英辞典など）		
教材（その他）	このテキストには Downloadable AUDIO がセットになっていますので、購入者は無料で音声をダウンロードできるようになっています。ぜひとも音声をダウンロードして、リスニング能力も高めてください。		
評価方法	「総合英語Ⅱ」では、授業中の発表など授業参加（30%）、課題提出（50%）、およびプレゼンテーション（20%）の評価を合算して最終評価をします。 　なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や「総合英語Ⅰ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、コミュニケーション分野で活用できるようになる。日常的な話題および社会の身近な問題について、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につける。今学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、これまでに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握して、自らの考えをまとめておいてください。 　また、各 unit を終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②実用英語検定、TOEIC、TOEFL などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
③英語学習のための設備がある学志館１階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自律学習にも励んでください。

講義の順序とポイント

初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。
第１回　Introduction
第２回　Internet Safety or Freedom of Expression?
第３回　Honor or Burden?
第４回　Clean Energy of Potential Threat?
第５回　Real Risk or Great Technology?
第６回　Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
第７回　Separate Smoking Area or Total Ban?

第 8 回　Right to Die or Responsibility to Live?
第 9 回　Punishment or Discipline?
第 10 回　To Skip or Not to Skip?
第 11 回　Performance or Seniority?
第 12 回　Free Trade or Protection?
第 13 回　Animal Rights or Human Profits?
第 14 回　Presentation Practice
第 15 回　Peace Constitution or Revision?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	JC1220279
科目名	総合英語Ⅱ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、日本の名所や文化、行事などを外国人に紹介する実践的な英語を題材として演習を行い、4技能の基礎力をさらに高めていく。		
教材（テキスト）	Carolyn Wright et al.、Hospitality English（『おもてなしの観光英語』）、三修社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ1回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	1．教科書に記載のサイトより音声ファイルを（無料）ダウンロードし、再生して活用する。 2．次回授業で取り扱う Lesson を確認し、音声を聴いた後、その"Reading"を何十回も音読する。 3．次に"T/F"の問題に答えておく。 4．さらに"Exercises 1-3"の問題にも答えておく。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1回の授業で1 lesson を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Lesson 1: An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!
2．Lesson 2: Preparations for the 2020 Olympic Games in Tokyo
3．Lesoon 3: Do You Like to Watch Kabuki?
4．Lesson 4: The Sapporo Snow Festival
5．Lesson 5: Hiraizumi as the Buddhist Pure Land
6．Lesson 6: Yokohama Port
7．中間課題（Lesson 7: Mt. Fuji）
8．Lesson 8: Omi Province and Its Military History
9．Lesson 9: The Deer in Nara
10．Lesson 10: Kyoto Sation
11．Lesson 11: Let’s Explore Osaka
12．Lesson 12: Port City Kobe: A Phoenix Rises

13. Lesson 13: Sand Dunes in Tottori
14. 期末課題（Lesson 14: The Atomic Bomb Dome）
15. Lesson 15: Dazaifu

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC1220301
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220303
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220305
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220306
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	Kazuyo Murata et al. Keep Talking: Strategies for Interpersonal Communication New Edition. Kirihara Shoten		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written homework （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired a set of pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete some short assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course/ Small Talk: Hi, is this seat taken?
2. Compliments: That's a lovely t-shirt
3. Asking for repeats: I beg your pardon?
4. Answering with additional information: I really enjoyed it
5. Backchannelling: Is that right?
6. Showing interest: How about you?
7. Thanking: Thank you so much!
8. Complaints: Excuse me, but….
9. Apologies: This is my fault
10. Dealing with undesirable questions: I'd rather not say
11. Requests: Could you tell me the way to the station?
12. Invitations: How about next Sunday?
13. Saying 'no': I'll think about it
14. Softeners: That's a good idea, but…
15. Saying goodbye: I'd better be going

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220351
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220352
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2017	授業コード	JC1220353
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course we will practise English skills for nursing: specifically, dealing with English-speaking patients in a clinic or hospital. This course will benefit students who are looking to work in the medical profession.		
教材（テキスト）	総合医学英語テキスト　English for Medical Purposes, Step 1 JASMEE, 日本医学英語教育学会編,メジカルビュー社２０１６.		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Continual assessment (weekly tests/reports).		
到達目標	Use this course book to help you when you begin working.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introduction/Fever. Lesson 2: Anemia. Lesson 3: Dehydration. Lesson 4: Obesity. Lesson 5: Test 1. Lesson 6: Headache. Lesson 7: Chest Pain. Lesson 8: Cough. Lesson 9: Abdominal Pain. Lesson 10: Test 2. Lesson 11: Dysphagia. Lesson 12: Hearing Loss. Lesson 13: Fracture. Lesson 14: Pregnancy. Lesson 15: Test 3.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	-	★	★	-

年度	2017	授業コード	JC1220354
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	Kazuyo Murata et al. Keep Talking: Strategies for Interpersonal Communication New Edition. Kirihara Shoten		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written homework （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired a set of pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete some short assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course/ Small Talk : Hi, is this seat taken?
2. Compliments: That's a lovely t-shirt
3. Asking for repeats: I beg your pardon?
4. Answering with additional information: I really enjoyed it
5. Backchannelling: Is that right?
6. Showing interest: How about you?
7. Thanking: Thank you so much!
8. Complaints: Excuse me, but….
9. Apologies: This is my fault
10. Dealing with undesirable questions: I'd rather not say
11. Requests: Could you tell me the way to the station?
12. Invitations: How about next Sunday?
13. Saying 'no': I'll think about it
14. Softeners: That's a good idea, but…
15. Saying goodbye: I'd better be going

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220356
科目名	英語会話演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	Kazuyo Murata et al. Keep Talking: Strategies for Interpersonal Communication New Edition. Kirihara Shoten		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written homework （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired a set of pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete some short assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course/ Small Talk : Hi, is this seat taken?
2. Compliments: That's a lovely t-shirt
3. Asking for repeats: I beg your pardon?
4. Answering with additional information: I really enjoyed it
5. Backchannelling: Is that right?
6. Showing interest: How about you?
7. Thanking: Thank you so much!
8. Complaints: Excuse me, but….
9. Apologies: This is my fault
10. Dealing with undesirable questions: I'd rather not say
11. Requests: Could you tell me the way to the station?
12. Invitations: How about next Sunday?
13. Saying 'no': I'll think about it
14. Softeners: That's a good idea, but…
15. Saying goodbye: I'd better be going

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1220357
科目名	英語会話演習Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220358
科目名	英語会話演習Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Hutchinson, T. & Sherman, K. "Network 2 Get Connected", Oxford University Press (2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introducing yourself to others. Lesson 2: Talking about jobs. Lesson 3: Describing someone's day. Lesson 4: Talking about meeting people. Lesson 5: Review lesson 1. Lesson 6: Offering and asking for help. Lesson 7: Telling a story. Lesson 8: Talking about your plans. Lesson 9: Explaining things. Lesson 10: Review lesson 2. Lesson 11: Talking about food. Lesson 12: Talking about the past. Lesson 13: Talking about TV/movies. Lesson 14: Final Review. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC12203DE
科目名	英語会話演習Ⅰ　【コピーの為だけ】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220401
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220402
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220403
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220404
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an upper-intermediate-level English speaking course. It aims to further develop students' skills in conversation, discussion and presentation, and give them scope to practice communicative strategies. We will explore a number of contemporary global issues, using TED talks as language models, listening material and topics for discussion and presentation.		
教材（テキスト）	Lida Baker et al., 21st Century Communication Level 1, Cengage Learning		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests, discussions and presentations （80%） Written homework （20%） Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in spoken English for conversation, discussion and presentation. They will have acquired a set of skills for use in these contexts, and phrases, vocabulary used to discuss contemporary issues and human interest stories.		
準備学習	Students should prepare for this course by watching some short TED talks online and familiarizing themselves with the format. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English. Bringing a vocabulary notebook and dictionary is strongly advised.

講義の順序とポイント

1. Small actions, big results: Tips for saving water (listening, speaking, critical thinking)
2. TED Talk: How to use a paper towel (listening, discussion, presentation)
3. Connecting with nature: Photos from a safari (listening, speaking, critical thinking)
4. TED Talk: Photos from a storm chaser (listening, discussion, presentation)
5. Going places: No car, no worries (listening, speaking, critical thinking)
6. TED Talk: A skateboard with a boost (listening, discussion, presentation)
7. Music, music everywhere: What's your music-listening style? (listening, speaking, critical thinking)
8. TED Talk: Why I take the piano on the road… and in the air (listening, discussion, presentation)
9. Give thanks: The power of gratitude (listening, speaking, critical thinking)
10. TED Talk: Why lunch ladies are heroes (listening, discussion, presentation)
11. Tell me why: The benefits of curiosity (listening, speaking, critical thinking)
12. TED Talk: Three rules to spark learning (listening, discussion, presentation)
13. The livable city: Public space (listening, speaking, critical thinking)
14. TED Talk: How to reinvent the apartment building (listening, discussion, presentation)
15. Life Lessons: How to change your life (listening, speaking, critical thinking)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	★	–	★

年度	2017	授業コード	JC1220405
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220451
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220452
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introduction / Please call me Beth. Lesson 2: What do you do? Lesson 3: How much is it? Lesson 4: I really like hip-hop. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: I come from a big family. Lesson 7: How often do you exercise. Lesson 8: We had a great time! Lesson 9: What's your neighbourhood like? Lesson 10: Review 2. Lesson 11: What does she look like? Lesson 12: Have you ever ridden a camel? Lesson 13: It's a very exciting place. Lesson 14: Review 3 / Presentation practice. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220453
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220454
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an upper-intermediate-level English speaking course. It aims to further develop students' skills in conversation, discussion and presentation, and give them scope to practice communicative strategies. We will explore a number of contemporary global issues, using TED talks as language models, listening material and topics for discussion and presentation.		
教材（テキスト）	Lida Baker et al., 21st Century Communication Level 1 , Cengage Learning		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests, discussions and presentations （80%） Written homework （20%） Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in spoken English for conversation, discussion and presentation. They will have acquired a set of skills for use in these contexts, and phrases, vocabulary used to discuss contemporary issues and human interest stories.		
準備学習	Students should prepare for this course by watching some short TED talks online and familiarizing themselves with the format. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English. Bringing a vocabulary notebook and dictionary is strongly advised.

講義の順序とポイント

1. Small actions, big results: Tips for saving water (listening, speaking, critical thinking)
2. TED Talk: How to use a paper towel (listening, discussion, presentation)
3. Connecting with nature: Photos from a safari (listening, speaking, critical thinking)
4. TED Talk: Photos from a storm chaser (listening, discussion, presentation)
5. Going places: No car, no worries (listening, speaking, critical thinking)
6. TED Talk: A skateboard with a boost (listening, discussion, presentation)
7. Music, music everywhere: What's your music-listening style? (listening, speaking, critical thinking)
8. TED Talk: Why I take the piano on the road… and in the air (listening, discussion, presentation)
9. Give thanks: The power of gratitude (listening, speaking, critical thinking)
10. TED Talk: Why lunch ladies are heroes (listening, discussion, presentation)
11. Tell me why: The benefits of curiosity (listening, speaking, critical thinking)
12. TED Talk: Three rules to spark learning (listening, discussion, presentation)
13. The livable city: Public space (listening, speaking, critical thinking)
14. TED Talk: How to reinvent the apartment building (listening, discussion, presentation)
15. Life Lessons: How to change your life (listening, speaking, critical thinking)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1220455
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	n this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introduction / Please call me Beth. Lesson 2: What do you do? Lesson 3: How much is it? Lesson 4: I really like hip-hop. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: I come from a big family. Lesson 7: How often do you exercise. Lesson 8: We had a great time! Lesson 9: What's your neighbourhood like? Lesson 10: Review 2. Lesson 11: What does she look like? Lesson 12: Have you ever ridden a camel? Lesson 13: It's a very exciting place. Lesson 14: Review 3 / Presentation practice. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220456
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an upper-intermediate-level English speaking course. It aims to further develop students' skills in conversation, discussion and presentation, and give them scope to practice communicative strategies. We will explore a number of contemporary global issues, using TED talks as language models, listening material and topics for discussion and presentation.		
教材（テキスト）	Lida Baker et al., 21st Century Communication Level 1, Cengage Learning		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests, discussions and presentations （80%） Written homework （20%） Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in spoken English for conversation, discussion and presentation. They will have acquired a set of skills for use in these contexts, and phrases, vocabulary used to discuss contemporary issues and human interest stories.		
準備学習	Students should prepare for this course by watching some short TED talks online and familiarizing themselves with the format. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English. Bringing a vocabulary notebook and dictionary is strongly advised.

講義の順序とポイント

1. Small actions, big results: Tips for saving water (listening, speaking, critical thinking)
2. TED Talk: How to use a paper towel (listening, discussion, presentation)
3. Connecting with nature: Photos from a safari (listening, speaking, critical thinking)
4. TED Talk: Photos from a storm chaser (listening, discussion, presentation)
5. Going places: No car, no worries (listening, speaking, critical thinking)
6. TED Talk: A skateboard with a boost (listening, discussion, presentation)
7. Music, music everywhere: What's your music-listening style? (listening, speaking, critical thinking)
8. TED Talk: Why I take the piano on the road… and in the air (listening, discussion, presentation)
9. Give thanks: The power of gratitude (listening, speaking, critical thinking)
10. TED Talk: Why lunch ladies are heroes (listening, discussion, presentation)
11. Tell me why: The benefits of curiosity (listening, speaking, critical thinking)
12. TED Talk: Three rules to spark learning (listening, discussion, presentation)
13. The livable city: Public space (listening, speaking, critical thinking)
14. TED Talk: How to reinvent the apartment building (listening, discussion, presentation)
15. Life Lessons: How to change your life (listening, speaking, critical thinking)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1220457
科目名	英語会話演習 II 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220458
科目名	英語会話演習 II 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Richards, J. C., "Interchange 2", Cambridge University Press (2013)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introducing yourself and exchanging information.
Lesson 2: Travelling and transportation.
Lesson 3: Talking about lifestyle.
Lesson 4: Talking about food.
Lesson 5: Review lesson 1.
Lesson 6: Describing a vacation.
Lesson 7: Making requests.
Lesson 8: Giving suggestions.
Lesson 9: Describing holidays/festivals.
Lesson 10: Review lesson 2.
Lesson 11: Talking about change.
Lesson 12: Describing abilities.
Lesson 13: Describing movies/books/games.
Lesson 14: Final Review.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JC1220551
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	インターネットの進展と世界のボーダレス化に伴い、高度に情報化・国際化した現代社会において、英語は今やコミュニケーションの手段として、政治、経済、文化、外交などの分野で非常に大きな役割を果たしています。　また、企業の海外進出、海外企業との合弁事業、海外での子会社の設立といった激変するビジネス・ワールドに対応して、ビジネス英語のニーズも急速に増大し、その対象範囲も飛躍的に広がってきています。 この授業では、日本を代表する有名企業の商品開発及び研究に関する記事や、ホームページに掲載された英文を素材として、語彙力と読解力の養成を目的としたテキストを用いて、それぞれの企業の最新研究の動向や、ヒット商品にまつわる興味深いエピソードなどを学びます。同時に TOEIC テストや TOEFL　iBT テストなども念頭に置き、同義語選択問題や空所補充問題、内容は空く問題になどを通して受験対策ができるようにしていきます。		
教材（テキスト）	Innovative Japanese Companies （松柏社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。		
教材（その他）			
評価方法	「ビジネス英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（10%）、課題提出（30%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や大学１年間で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP（English for General Purposes）から ESP（English for Specific Purposes）へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。春学期修了までに TOEIC500 点・英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		

受講者への要望

① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。
③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。

講義の順序とポイント

第１回　Intoroduction to the class
第２回　Unit 1:　サイバーダイン株式会社
第３回　Unit 2: 株式会社ミライセンス
第４回　Unit 3: フリュー株式会社
第５回　Unit 4: マリンバイオテクノロジー株式会社
第６回　Unit 5: アサヒ飲料株式会社
第７回　Unit 6: 株式会社キーストーンテクノロジー
第８回　Unit 7: 三菱重工株式会社
　　および前半のふり返りと反転学習
第９回　Unit 8: 富士フイルム・ホールディングス株式会社
第 10 回　Unit 9: 株式会社アシックス
第 11 回　Unit　10:　シャチハタ株式会社
第 12 回　Unit 11: アイシン精機株式会社
第 13 回　Unit 12: 任天堂株式会社
第 14 回　Unit 13: 株式会社タニタ
　　および後半のふり返りと反転学習

第 15 回　　Unit 14: AuthaGraph 株式会社

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	★	★★	–

年度	2017	授業コード	JC1220552
科目名	ビジネス英語 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	将来のビジネス社会において活躍するために、その基礎となる初歩的なビジネス英語の演習を行う。国際化の進展により英語の重要性が高まっており、近年、TOEIC（Test of English for International Communication）のスコアが要求される場面が増えてきた。TOEIC が、国際ビジネス社会での実用英語力を測るものとして有用だからである。TOEIC 対策として基本的な語彙力、聴解力、読解力の向上を目指すが、ただ問題を解くだけではなく、問題の意図を理解し、音読を徹底しながら、総合的な英語の基礎力を養成する。 このクラスでは先ず入門レベルのビジネス英語表現を習得していく。契約書の作成などに必要な専門用語を学ぶ旧来のビジネス英語ではなく、来客や電話応対、ビジネス・レターや E メール作成など、どちらかと言えばビジネス場面の「入り口」で必要となる英語表現を習得していく。		
教材（テキスト）	芳野聡子／植竹由美子／遊佐重樹、Business English for Beginners（『はじめてのビジネス・イングリッシュ』）、三修社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．「総合英語」の履修などで身につけた英語表現をビジネスに特化した場面で応用できるようになる。 2．TOEIC 問題に頻出する英語使用場面や表現に習熟し、TOEIC において未履修者よりも高いスコアを取得することができる。 3．日常的な話題や社会の身近な問題についても、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う unit の演習範囲を確認する。 2．NOTE を参照しながら、Useful Expressions をすべて何度も音読しておく。なお、Useful Expressions は同じテーマの Part 1 にのみ掲載される。 3．Sample Dialog(s)も声を出して読んでおく。できれば友人とペアを組んで対話練習しておくとよい。 4．Exercises の問題を解いておく。いずれかを授業内での小テスト問題とする。 5．「インフォメーション」は、将来のビジネス場面での心得として覚えておくとよい。		

受講者への要望

1．「総合英語」において、大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力を定着化させ、大学においてさらに多くの語彙を習得して活用できるようになった学生の履修を望む。
2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
3．TOEIC 公開テストか、または学内で実施されると思われる TOEIC-IP テストを受験すること。
4．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 unit を終える予定であり、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。
1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Receiving Visitors Part 1
2．Unit 2: Receiving Visitors Part 2
3．Unit 3: Telephoning Part 1
4．Unit 4: Telephoning Part 2
5．Unit 5: Business Etiquette & Protocol Part 1

6．Unit 6: Business Etiquette & Protocol Part 2
7．中間課題（Unit 7: Business Etiquette & Protocol Part 3）
8．Unit 8: Presentations Part 1
9．Unit 9: Presentations Part 2
10．Unit 10: Presentations Part 3
11．Unit 11: Business Email Writing Part 1
12．Unit 12: Business Email Writing Part 2
13．Unit 13: Business Letters
14．期末課題（Unit 14: Job Hunting Part 1）
15．Unit 15: Job Hunting Part 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC1220553
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	インターネットの進展と世界のボーダレス化に伴い、高度に情報化・国際化した現代社会において、英語は今やコミュニケーションの手段として、政治、経済、文化、外交などの分野で非常に大きな役割を果たしています。　また、企業の海外進出、海外企業との合弁事業、海外での子会社の設立といった激変するビジネス・ワールドに対応して、ビジネス英語のニーズも急速に増大し、その対象範囲も飛躍的に広がってきています。 　この授業では、日本を代表する有名企業の商品開発及び研究に関する記事や、ホームページに掲載された英文を素材として、語彙力と読解力の養成を目的としたテキストを用いて、それぞれの企業の最新研究の動向や、ヒット商品にまつわる興味深いエピソードなどを学びます。同時に TOEIC テストや TOEFL　iBT テストなども念頭に置き、同義語選択問題や空所補充問題、内容は空く問題になどを通して受験対策ができるようにしていきます。		
教材（テキスト）	Innovative Japanese Companies （松柏社）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など）。		
教材（その他）			
評価方法	「ビジネス英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（10%）、課題提出（30%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 　まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や大学１年間で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP（English for General Purposes）から ESP（English for Specific Purposes）へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。春学期修了までに TOEIC500 点・英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。		
受講者への要望			
① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。			
講義の順序とポイント			
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1:　サイバーダイン株式会社 第３回　Unit 2: 株式会社ミライセンス 第４回　Unit 3: フリュー株式会社 第５回　Unit 4: マリンバイオテクノロジー株式会社 第６回　Unit 5: アサヒ飲料株式会社 第７回　Unit 6: 株式会社キーストーンテクノロジー 第８回　Unit 7: 三菱重工株式会社 　　および前半のふり返りと反転学習 第９回　Unit 8: 富士フイルム・ホールディングス株式会社 第 10 回　Unit 9: 株式会社アシックス 第 11 回　Uni　10:　シャチハタ株式会社 第 12 回　Unit 11: アイシン精機株式会社 第 13 回　Unit 12: 任天堂株式会社 第 14 回　Unit 13: 株式会社タニタ			

および後半のふり返りと反転学習 第 15 回　　Unit 14: AuthaGraph 株式会社

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1220651
科目名	ビジネス英語II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	この授業は春学期開講の「ビジネス英語Ｉ」の上級クラスです。 世界中がインターネットでつながる現代、今後ますますグローバル化が進み、英語による情報の発信力、受信力がさらに問われる時代になります。この授業では、リスニング中心の奇数章と、リーディング中心の偶数章で構成されたテキストを用いて、ビジネスで必要な情報発信力と情報収集力の両方を学ぶことになります。 実際には、リスニング中心の奇数章では、英語のコミュニケーションをよりスムーズに行うために役立つ発音のこつや、テーマにそった語彙や表現を学びます。さらに発展問題としてストーリー仕立ての素材も用意されていますので、スピーキングに活用できるアクティブなリスニング能力の養成にも役立ちます。 一方、リーディング中心の偶数章では、ビジネスレターから広告や仕様書、操作マニュアルまで多様なジャンルの特徴を学ぶことができます。ビジネス文書や技術文書の多くは、ジャンルごとに特徴的なスタイル（文体）を持っています。こうしたスタイルになれることで、効率的な情報収集が可能となります。 このテキストで学んだ英語の受信力・発進力を目の前に広がるグローバル社会で活かせるよう、授業を進めていきたいと思っています。		
教材（テキスト）	Getting Global （金星堂）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）	テキストにはCDがついていませんが、テキスト購入者は音声を無料でダウンロードできるようになっています。テキストを購入して、各自で出版社のホームページにアクセスして、ダウンロードしてください。		
評価方法	「ビジネス英語II」では、授業中の発表など授業参加（10%)、課題提出（30%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	「ビジネス英語Ｉ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP(English for General Purposes)からESP(English for Specific Purposes)へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。秋学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEICなどの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。		
受講者への要望			
授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1 & Unit 2:　Telephone 1 Business Email 第３回　Unit 3 & Unit 4:Telephone 1 Business Letter 第４回　Unit 5 & Unit 6: At the Reception Desk & Corporate Websites 第５回　Unit 7 & Unit 8: Company Profile & Product Advertisements 第６回　Unit 9 & Uni　10: Your Job & Productive Specifications 第７回　Unit 11 & Unit 12: Operating Instructions 第８回　Unit 13 & Unit 14:　Taking baout News & Science News 第９回　Unit 15 & Unit 16: Tourinst Information & Safety Signs 第10回　Unit 17 & Unit 18: Dinner Talk & Abstracts 第11回　Unit 19 : Preparation for Meetings 第12回　Unit 20: Data and Graphs			

第 13 回　Unit 21 & Unit 22 : Presentation 1 & Presention 2 第 14 回　Unit 23: Various Requests 第 15 回　Unit 24:　Patent Description

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1220652
科目名	ビジネス英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「ビジネス英語Ⅰ」を発展、継承させる形で中級ビジネス英語演習を行う。英語によるコミュニケーション能力を測る TOEIC（Test of English for International communication）の問題を解くことによって、そのスコアアップを目指す。TOEIC の模擬テストおよび予想問題集を教材として用いて英語コミュニケーションの習熟度を測定し、スコアアップをはかるための実践的な演習を行い、「ビジネス英語Ⅰ」で身につけた基本的な語彙力と聴解力、読解力のさらなる向上を目指す。TOEIC に頻出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、問題を体系的に攻略する。 このクラスで使用するテキストはストーリー仕立てとなっており、ストーリーを楽しみながら TOEIC のスコアアップをはかることができる。		
教材（テキスト）	Takayuki ISHII, Akira NAKAGAWA & Thomas KOCH.、Enjoy Studying the TOEIC Test（『ビジネス・ストーリーで学ぶ TOEIC Test』）、三修社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）		
評価方法	応答･発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60％）および中間および期末の授業内課題の成果（40％）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．TOEIC に対応した問題演習に継続的に取り組むことにより、少なくとも 100 点以上のスコアアップをはかることができる。 2．ビジネスやビジネスに関連した生活場面で使用される英語表現に習熟し、将来、同様の生活場面において活用することができる。		
準備学習	1．次回授業で取り扱う Chapter の演習範囲を確認し、先ずその範囲の「語彙力増強のヒント」と「英文法一口メモ」とを読んでおく。 2．Listening Section（Parts 1-4）の問題については、問いと選択肢の英文とを読んで、意味のよく分からない語句があれば辞書などで調べておく。 3．Reading Section（Parts 5-7）の問題については、意味のよく分からない語があれば辞書などで調べながら、すべて解いておく。 4．いずれの問題においても、英文は何度も音読しておく。		

受講者への要望

1．「総合英語」において、大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力を定着化させ、大学においてさらに多くの語彙を習得して活用できるようになった学生、あるいは「ビジネス英語Ⅰ」において、初歩的なレベルのビジネス英語表現を習得した学生の履修を望む。

2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。

3．TOEIC 公開テストか、または学内で実施されると思われる TOEIC-IP テストを受験すること。

4．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 chapter 以上を終える予定であり、万一時間不足となった場合は、授業では省略する演習も生じる。 進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、TOEIC に関する説明、Chapter 1: A Presentation at a Meeting

2．Chapter 2: Net Auction & Chapter 3: Advent of a Rival

3．続 Chapter 3 & Chapter 4: A Party at a Club

4．Chapter 5: Business Trip & Chaper 6: Physical Ecercise
5．続 Chapter 6 & Chapter 7: Takeover a Company
6．中間課題（Chapter 8: Childbirth & Chapter 9: Entertainment of a Guest）
7．中間課題の復習 & Chapter 10: Shopping with a Friend
8．続 Chapter 10 & Chapter 11: Workaholics
9．Chapter 12: Arguments & Chapter 13: Success in Winning a Contest
10．続 Chapter 13 & Chapter 14: Wedding Party
11．Chapter 15: A Failure in Business & Chapter 16: A Traffic Accident
12．続 Chapter 16 & Chapter 17: Business Negotiation
13．期末課題（Chapter 18: At a Hospital & Chapter 19: Getting a Promotion）
14．期末課題の復習
15．Chapter 20: Enjoying Sightseeing

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1220654
科目名	ビジネス英語II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	この授業は春学期開講の「ビジネス英語Ｉ」の上級クラスです。 世界中がインターネットでつながる現代、今後ますますグローバル化が進み、英語による情報の発信力、受信力がさらに問われる時代になります。この授業では、リスニング中心の奇数章と、リーディング中心の偶数章で構成されたテキストを用いて、ビジネスで必要な情報発信力と情報収集力の両方を学ぶことになります。 実際には、リスニング中心の奇数章では、英語のコミュニケーションをよりスムーズに行うために役立つ発音のこつや、テーマにそった語彙や表現を学びます。さらに発展問題としてストーリー仕立ての素材も用意されていますので、スピーキングに活用できるアクティブなリスニング能力の養成にも役立ちます。 一方、リーディング中心の偶数章では、ビジネスレターから広告や仕様書、操作マニュアルまで多様なジャンルの特徴を学ぶことができます。ビジネス文書や技術文書の多くは、ジャンルごとに特徴的なスタイル（文体）を持っています。こうしたスタイルになれることで、効率的な情報収集が可能となります。 このテキストで学んだ英語の受信力・発進力を目の前に広がるグローバル社会で活かせるよう、授業を進めていきたいと思っています。		
教材（テキスト）	Getting Global （金星堂）		
教材（参考文献）	辞書（英和、英英辞典など)。		
教材（その他）	テキストにはCDがついていませんが、テキスト購入者は音声を無料でダウンロードできるようになっています。テキストを購入して、各自で出版社のホームページにアクセスして、ダウンロードしてください。		
評価方法	「ビジネス英語II」では、授業中の発表など授業参加（10%)、課題提出（30%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	「ビジネス英語Ｉ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることを目標としています。EGP(English for General Purposes)からESP(English for Specific Purposes)へと、ビジネスシーンで英語を活用できるようになる。秋学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
準備学習	① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEICなどの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。		
受講者への要望			
授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各ｕｎｉｔが終了するたびに、京学なびを通じて、課題の提出を求めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1 & Unit 2:　Telephone 1 Business Email 第３回　Unit 3 & Unit 4:Telephone 1 Business Letter 第４回　Unit 5 & Unit 6: At the Reception Desk & Corporate Websites 第５回　Unit 7 & Unit 8: Company Profile & Product Advertisements 第６回　Unit 9 & Uni　10: Your Job & Productive Specifications 第７回　Unit 11 & Unit 12: Operating Instructions 第８回　Unit 13 & Unit 14:　Taking baout News & Science News 第９回　Unit 15 & Unit 16: Tourinst Information & Safety Signs 第１０回　Unit 17 & Unit 18: Dinner Talk & Abstracts 第１１回　Unit 19 : Preparation for Meetings 第１２回　Unit 20: Data and Graphs			

第 13 回　Unit 21 & Unit 22 : Presentation 1 & Presention 2 第 14 回　Unit 23: Various Requests 第 15 回　Unit 24:　Patent Description

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1221101
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1221103
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1221105
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1221106
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
講義概要	この講義では中国語の初習者に初級レベルの教育を行う。発声の仕方、ピンインの読み方、基本文型を学び、運用能力を身につける。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。 「中国語Ⅱ」も引き続き履修することが望ましい。		
教材（テキスト）	塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、コミュニケーションに必要な語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回のための復習と予習ポイントを指示する。		

受講者への要望

恥ずかしがらずに声に出して練習しましょう。遅刻や私語を厳禁とする。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方、発音、簡単な会話
2．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
3．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4．ピンイン、人称代名詞など
5．発音基礎、第１課　「是」など
6．発音基礎、第１課　「請」など
7．発音基礎、第２課　否定文など
8．総合練習、第２課　「的」など
9．会話、第３課　形容詞述語文など
１０．会話、第３課　疑問詞など
１１．会話、第４課　量詞など
１２．会話、第４課　数詞など
１３．会話、第５課　在、想、要
１４．会話、第５課　場所指示代名詞
１５．総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2017	授業コード	JC1221107
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
講義概要	この講義では中国語の初習者に初級レベルの教育を行う。発声の仕方、ピンインの読み方、基本文型を学び、運用能力を身につける。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。 「中国語Ⅱ」も引き続き履修することが望ましい。		
教材（テキスト）	塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、コミュニケーションに必要な語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回のための復習と予習ポイントを指示する。		

受講者への要望

恥ずかしがらずに声に出して練習しましょう。遅刻や私語を厳禁とする。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方、発音、簡単な会話
2．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
3．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4．ピンイン、人称代名詞など
5．発音基礎、第１課　「是」など
6．発音基礎、第１課　「請」など
7．発音基礎、第２課　否定文など
8．総合練習、第２課　「的」など
9．会話、第３課　形容詞述語文など
１０．会話、第３課　疑問詞など
１１．会話、第４課　量詞など
１２．会話、第４課　数詞など
１３．会話、第５課　在、想、要
１４．会話、第５課　場所指示代名詞
１５．総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2017	授業コード	JC1221108
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1221109
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
講義概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第1課　人称代名詞など 5.発音基礎、第1課「是」など 6.発音基礎、第1課「請」など 7.発音基礎、第2課否定など 8.総合練習、第2課「的」など 9.会話、第3課　形容詞述語文など 10.会話、第3課　疑問詞など 11.会話、第4課　量詞など 12.会話、第4課　数詞など 13.会話、第5課　在、想、要 14.会話、第5課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1221201
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1221203
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語能力のレベルアップを図り、基本文型を学ぶとともに場面に応じて中国語会話を練習する。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。基本的な文法事項を運用し、簡単な日常会話をマスターする。		
教材（テキスト）	塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、コミュニケーションに必要な語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回のための復習と予習ポイントを指示する。		

受講者への要望

恥ずかしがらずに声に出して練習しましょう。遅刻や私語を厳禁とする。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方、第６課　「有」など
2．第６課　助数詞など
3．第７課　時刻など
4．第７課　時間の長さなど
5．第８課　「了」など
6．第８課　選択疑問文など
7．第９課　前置詞など
8．総合練習、第９課　「給」など
9．会話、第１０課　助動詞など
１０．会話、第１０課　動詞の重ね用法など
１１．会話、第１１課　量詞など
１２．会話、第１１課　「去」、「来」など
１３．会話、第１２課　「是～的」など
１４．会話、第１２課　質問練習
１５．総合練習、会話練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	★	-	-

年度	2017	授業コード	JC1221205
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1221206
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語能力のレベルアップを図り、基本文型を学ぶとともに場面に応じて中国語会話を練習する。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。基本的な文法事項を運用し、簡単な日常会話をマスターする。		
教材（テキスト）	塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、コミュニケーションに必要な語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回のための復習と予習ポイントを指示する。		

受講者への要望

恥ずかしがらずに声に出して練習しましょう。遅刻や私語を厳禁とする。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方、第６課　「有」など
2．第６課　助数詞など
3．第７課　時刻など
4．第７課　時間の長さなど
5．第８課　「了」など
6．第８課　選択疑問文など
7．第９課　前置詞など
8．総合練習、第９課　「給」など
9．会話、第１０課　助動詞など
10．会話、第１０課　動詞の重ね用法など
11．会話、第１１課　量詞など
12．会話、第１１課　「去」、「来」など
13．会話、第１２課　「是～的」など
14．会話、第１２課　質問練習
15．総合練習、会話練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	★	-	-

年度	2017	授業コード	JC1222101
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1222103
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1222104
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1222105
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1222106
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1222107
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1222108
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1222201
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	ハングル（Ｉ）に引き続き、韓国語の文字や発音、文の構造などを学び、その理解を通じて、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指します。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます）、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定です。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、 あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての 基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルＩを履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．第 1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2．第 2 回　母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
3．第 3 回　バッチムと発音の法則
4．第 4 回（??形）の練習と数詞
5．第 5 回　過去表現と数詞
6．第 6 回　尊敬形（1）
7．第 7 回　尊敬形（2）
8．第 8 回　希望と羅列の表現
9．第 9 回　理由の表現
10. 第 10 回　意志と推量の表現
11　第 11 回　助詞のまとめ
12. 第 12 回　仮定と条件の表現
13　第 13 回　意志、意向、許可、禁止の表現
14　第 14 回　丁寧な依頼と助言の表現
15　第 15 回　不可能と理由、原因の表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1222203
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	ハングル（Ｉ）に引き続き、韓国語の文字や発音、文の構造などを学び、その理解を通じて、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指します。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます）、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定です。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、 あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての 基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルＩを履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．第 1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2．第 2 回　母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
3．第 3 回　バッチムと発音の法則
4．第 4 回（??形）の練習と数詞
5．第 5 回　過去表現と数詞
6．第 6 回　尊敬形（1）
7．第 7 回　尊敬形（2）
8．第 8 回　希望と羅列の表現
9．第 9 回　理由の表現
10. 第 10 回　意志と推量の表現
11　第 11 回　助詞のまとめ
12. 第 12 回　仮定と条件の表現
13　第 13 回　意志、意向、許可、禁止の表現
14　第 14 回　丁寧な依頼と助言の表現
15　第 15 回　不可能と理由、原因の表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1222204
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	ハングル（Ｉ）に引き続き、韓国語の文字や発音、文の構造などを学び、その理解を通じて、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指します。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます）、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定です。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、 あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての 基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルＩを履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．第 1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2．第 2 回　母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
3．第 3 回　バッチムと発音の法則
4．第 4 回（??形）の練習と数詞
5．第 5 回　過去表現と数詞
6．第 6 回　尊敬形（1）
7．第 7 回　尊敬形（2）
8．第 8 回　希望と羅列の表現
9．第 9 回　理由の表現
10. 第 10 回　意志と推量の表現
11　第 11 回　助詞のまとめ
12. 第 12 回　仮定と条件の表現
13　第 13 回　意志、意向、許可、禁止の表現
14　第 14 回　丁寧な依頼と助言の表現
15　第 15 回　不可能と理由、原因の表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1222205
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	ハングル（Ｉ）に引き続き、韓国語の文字や発音、文の構造などを学び、その理解を通じて、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指します。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます）、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定です。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、 あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての 基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルＩを履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．第 1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2．第 2 回　母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
3．第 3 回　バッチムと発音の法則
4．第 4 回（??形）の練習と数詞
5．第 5 回　過去表現と数詞
6．第 6 回　尊敬形（1）
7．第 7 回　尊敬形（2）
8．第 8 回　希望と羅列の表現
9．第 9 回　理由の表現
10. 第 10 回　意志と推量の表現
11　第 11 回　助詞のまとめ
12. 第 12 回　仮定と条件の表現
13　第 13 回　意志、意向、許可、禁止の表現
14　第 14 回　丁寧な依頼と助言の表現
15　第 15 回　不可能と理由、原因の表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1223101
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めて（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方とドイツについて
2　発音の基礎
3　単語の発音と挨拶
4　自己紹介
5　趣味
6　天候
7　時刻と数字
8　隣席の人に声をかけてみる
9　隣席の人に質問してみる
10　名詞の性
11　これはいくらですか
12　コーヒーを 1 杯
13　何がほしいですか
14　何ができますか
15　駅で道を尋ねる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JC1223103
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めて（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方とドイツについて
2　発音の基礎
3　単語の発音と挨拶
4　自己紹介
5　趣味
6　天候
7　時刻と数字
8　隣席の人に声をかけてみる
9　隣席の人に質問してみる
10　名詞の性
11　これはいくらですか
12　コーヒーを 1 杯
13　何がほしいですか
14　何ができますか
15　駅で道を尋ねる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JC1223104
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めて（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方とドイツについて
2　発音の基礎
3　単語の発音と挨拶
4　自己紹介
5　趣味
6　天候
7　時刻と数字
8　隣席の人に声をかけてみる
9　隣席の人に質問してみる
10　名詞の性
11　これはいくらですか
12　コーヒーを 1 杯
13　何がほしいですか
14　何ができますか
15　駅で道を尋ねる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JC1223105
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｓ
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めて（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方とドイツについて
2　発音の基礎
3　単語の発音と挨拶
4　自己紹介
5　趣味
6　天候
7　時刻と数字
8　隣席の人に声をかけてみる
9　隣席の人に質問してみる
10　名詞の性
11　これはいくらですか
12　コーヒーを 1 杯
13　何がほしいですか
14　何ができますか
15　駅で道を尋ねる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JC1223201
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	「ドイツ語Ｉ」を春学期に学習して、ドイツ語の発音の基礎が身についている学生を対象にした授業です。春学期に引き続き、ドイツ文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。様々なドイツ語の質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めて（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

【注意】このクラスは、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　春学期の復習：動詞の発音と命令
2　春学期の復習：名詞の発音と「もっているか」
3　あなたのおじいちゃんはお元気ですか
4　どこにいるの
5　バスで行きます
6　レストランに行きます
7　何を食べますか
8　塩をとって
9　２階に何があるの
10　パーティを手伝って
11　プレゼントをあげましょう
12　ドイツに行ったことはありますか
13　何を食べたんですか
14　楽しかった
15　また行く気はありますか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JC1223203
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	「ドイツ語Ｉ」を春学期に学習して、ドイツ語の発音の基礎が身についている学生を対象にした授業です。春学期に引き続き、ドイツ文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。様々なドイツ語の質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めて（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

【注意】このクラスは、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　　春学期の復習：動詞の発音と命令
2　　春学期の復習：名詞の発音と「もっているか」
3　　あなたのおじいちゃんはお元気ですか
4　　どこにいるの
5　　バスで行きます
6　　レストランに行きます
7　　何を食べますか
8　　塩をとって
9　　２階に何があるの
10　パーティを手伝って
11　プレゼントをあげましょう
12　ドイツに行ったことはありますか
13　何を食べたんですか
14　楽しかった
15　また行く気はありますか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JC1223204
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	「ドイツ語Ｉ」を春学期に学習して、ドイツ語の発音の基礎が身についている学生を対象にした授業です。春学期に引き続き、ドイツ文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。様々なドイツ語の質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めて（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

【注意】このクラスは、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　春学期の復習：動詞の発音と命令
2　春学期の復習：名詞の発音と「もっているか」
3　あなたのおじいちゃんはお元気ですか
4　どこにいるの
5　バスで行きます
6　レストランに行きます
7　何を食べますか
8　塩をとって
9　２階に何があるの
10　パーティを手伝って
11　プレゼントをあげましょう
12　ドイツに行ったことはありますか
13　何を食べたんですか
14　楽しかった
15　また行く気はありますか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JC1224101
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1224103
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1224104
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1224201
科目名	フランス語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅱ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2
14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2017	授業コード	JC1224203
科目名	フランス語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅱ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2
14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2017	授業コード	JC1224204
科目名	フランス語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅱ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2
14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2017	授業コード	JC1225101
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1225102
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1225103
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）他		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説や新聞等を日頃から読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　第１０課　応用①
12　第１１課～応用②
13　近代短編小説他
14　近代短編小説他
15　近代短編小説他

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1225104
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）他		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説や新聞等を日頃から読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　第１０課　応用①
12　第１１課～応用②
13　近代短編小説他
14　近代短編小説他
15　近代短編小説他

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1225201
科目名	日本語 II 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1225202
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1225203
科目名	日本語 II 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.グループワーク 4、全体的な復習 2、小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1225204
科目名	日本語 II 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.グループワーク 4、全体的な復習 2、小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1225601
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	プリント配布		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成・小テスト３０％、試験４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文１
7　正しい構造の文２
8　文のつながり
9　小論文によく使われる表現１
１０　小論文によく使われる表現２
１１　段落構成
１２　引用と要約
１３　意見文を書く１
１４　意見文を書く２
１５　小論文を書く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JC1225602
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	プリント配布		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成・小テスト３０％、試験４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文１
7　正しい構造の文２
8　文のつながり
9　小論文によく使われる表現１
１０　小論文によく使われる表現２
１１　段落構成
１２　引用と要約
１３　意見文を書く１
１４　意見文を書く２
１５　小論文を書く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JC1225603
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	留学生に対して中級以上の作文力を養成することを目的とする。具体的にはテキストの練習問題を通じて基本を学び、毎回、小作文を実際に書いてもらうことによって応用力をつける。論文やエッセイ、手紙文といった多様な形式をカバーする。		
教材（テキスト）	小論文作成の１２のステップ　スリーエーネットワーク		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の小作文の累積評価と授業への貢献度		
到達目標	様々な作文の様式を理解し、それぞれ場合によって使い分けられるようになること。		
準備学習	各章のテクストをよく読み、練習問題を事前にやっておくこと。解らない言葉は辞書をひいておくこと。		

受講者への要望

身近な日本語に関する疑問があれば授業で披露してほしい。みんなで考えましょう。

講義の順序とポイント

①挨拶と自己紹介に役立つ作文術（その一）：講義、小作文作成
②挨拶と自己紹介に役立つ作文術（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
③論理的な文章を書くために（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
④論理的な文章を書くために（その二）：、前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑤「起承転結」を使った小論文の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑥「起承転結」を使った小論文の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑦図表を使った小論文の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑧図表を使った小論文の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑨書簡文の書き方（その一、私信）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑩書簡文の書き方（その二、ビジネスレター）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑪履歴書の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑫履歴書の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑬日本語の翻訳文作成に関する注意：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑭日本語の翻訳文作成に関する注意：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑮自分の未来についての展望を語る：前回の課題の講評、小作文作成、口頭発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	-

年度	2017	授業コード	JC1225604
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	留学生に対して中級以上の作文力を養成することを目的とする。具体的にはテキストの練習問題を通じて基本を学び、毎回、小作文を実際に書いてもらうことによって応用力をつける。論文やエッセイ、手紙文といった多様な形式をカバーする。		
教材（テキスト）	小論文作成の１２のステップ　スリーエーネットワーク		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の小作文の累積評価と授業への貢献度		
到達目標	様々な作文の様式を理解し、それぞれ場合によって使い分けられるようになること。		
準備学習	各章のテクストをよく読み、練習問題を事前にやっておくこと。解らない言葉は辞書をひいておくこと。		

受講者への要望

身近な日本語に関する疑問があれば授業で披露してほしい。みんなで考えましょう。

講義の順序とポイント

①挨拶と自己紹介に役立つ作文術（その一）：講義、小作文作成
②挨拶と自己紹介に役立つ作文術（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
③論理的な文章を書くために（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
④論理的な文章を書くために（その二）：、前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑤「起承転結」を使った小論文の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑥「起承転結」を使った小論文の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑦図表を使った小論文の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑧図表を使った小論文の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑨書簡文の書き方（その一、私信）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑩書簡文の書き方（その二、ビジネスレター）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑪履歴書の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑫履歴書の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑬日本語の翻訳文作成に関する注意：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑭日本語の翻訳文作成に関する注意：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑮自分の未来についての展望を語る：前回の課題の講評、小作文作成、口頭発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	-

年度	2017	授業コード	JC1226101
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC1226102
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	JC1226103
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する。		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	JC1226201
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
講義概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を１ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC1226202
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を１ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1226203
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を１ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する。		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	JC1230101
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	１．本学の各種システムを理解する。 ２．資料を読んで内容を要約できる。 ３．400字以上のレポートが書ける。 ４．人前で発表できる。 ５．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230102
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	１．本学の各種システムを理解する。 ２．資料を読んで内容を要約できる。 ３．400字以上のレポートが書ける。 ４．人前で発表できる。 ５．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230103
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	１．本学の各種システムを理解する。 ２．資料を読んで内容を要約できる。 ３．400字以上のレポートが書ける。 ４．人前で発表できる。 ５．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230104
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230105
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230106
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230107
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	竿田　嗣夫	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230108
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230109
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	１．本学の各種システムを理解する。 ２．資料を読んで内容を要約できる。 ３．400字以上のレポートが書ける。 ４．人前で発表できる。 ５．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230110
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230111
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230112
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230113
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	１．本学の各種システムを理解する。 ２．資料を読んで内容を要約できる。 ３．400字以上のレポートが書ける。 ４．人前で発表できる。 ５．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230114
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230115
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230116
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	１．本学の各種システムを理解する。 ２．資料を読んで内容を要約できる。 ３．400字以上のレポートが書ける。 ４．人前で発表できる。 ５．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230117
科目名	スタートアップゼミA 【秋入学】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAは、演習科目ならびに必修科目として1年次春学期に開講され、全員履修登録する。教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーションを図るため、各ゼミは十数名の少人数を予定している。 　実際のゼミ運営は各担当教員に任されているが、本科目の「共通目的」を示すと次のようである。 （1）本ゼミナールの第1の目的は、入学後の大学生活や就学の基礎を築くことである。そのために、大学キャンパスの施設や各種システムなどについてのガイダンスを予定している。 （2）本ゼミナールの第2の目的は、「読む」「書く」「話す」「聞く」という、4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図ることである。これは、与えられたテーマに関する思索を通じて、個性的な考えを育み、創造性を発揮することやゼミ担当教員と諸君の問題意識との相互作用に大きくかかわることになる。 　以上のいずれの目的おいても、ゼミ生諸君がいかに主体的かつ積極的に取り組むかで、その成果は大きく変わってくる。諸君の取り組み方に大いに期待する。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1．本学の各種システムを理解する。 2．資料を読んで内容を要約できる。 3．400字以上のレポートが書ける。 4．人前で発表できる。 5．論理的思考力が養われる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊必修科目であり、有意義な大学生活を開始する基礎として、本ゼミナールを積極的に活用し、大学での自分の「居場所」を確保するようにしてほしい。
＊Word,Excel, PowerPointがある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊春学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミについての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
2回目：大学教育の特徴、本ゼミナールに関するガイダンス、 自己紹介、履修登録のチェック。
3回目：図書館利用ガイダンス。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
8回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成。
9回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：発表の仕方について。ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊6 月半ばから 7 月下旬までの間に(来期に所属する)ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC1230118
科目名	スタートアップゼミA 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230121
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230122
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230123
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230124
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230126
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230127
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230128
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230129
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230130
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230131
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230132
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230133
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けさせるとともに、大学での学習における基礎的な知識である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」を配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示または配布する。		
教材（その他）	必要に応じて指示または配布する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」ということを中心に、大学での学修に不可欠な基礎的技術をを身につけること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
大学での学修をより効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。ここでは、図書館のパソコン端末を使って実際に文献検索を体験するとともに、図書の閲覧・貸出しの手順について学ぶ。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。ここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法について学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
大学での学修において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、　実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。ここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学のゼミなどにおいては、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230150
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230151
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230152
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230153
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230154
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230155
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230156
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鈴木　ひとみ	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230157
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230158
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	村田　友紀子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230159
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	夏山　洋子	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230160
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230161
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松井　達也	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230162
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	-	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230163
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230164
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230165
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
講義概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（テキスト）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』　（ナカニシヤ出版）　佐藤智明　1,900 円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）、発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則りインターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
準備学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 ２．授業ノートの取り方 ３．情報収集　（文献検索等） ４．文章を読んで要約する ５．資料を用いてのディスカッション ６．レポートの書き方 ７．レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） １０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） １１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） １２．発表・まとめ １３．実習室の使用方法 １４．実習に向けてのマナー １５．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JC1230171
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円　（入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円　（入学前教育として配付済み）		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%）、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い。質問で疑問点などを明確にする。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明）、見学先を決める（ゼミ別）、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1230172
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 （入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社） 共同通信社編 著 1,944 円 （入学前教育として配付済み）		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%）、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い。質問で疑問点などを明確にする。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明）、見学先を決める（ゼミ別）、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230173
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円　（入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円　（入学前教育として配付済み）		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%）、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い。質問で疑問点などを明確にする。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明）、見学先を決める（ゼミ別）、課題（２）提出 １２．準備する①　見学の下調べ １３．準備する②　見学の段取り １４．準備する③　期待される人物像 １５．準備する④　確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230174
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 （入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社） 共同通信社編 著 1,944 円 （入学前教育として配付済み）		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%）、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い。質問で疑問点などを明確にする。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる① 情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる② 図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③ 情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④ 内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く① テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く② ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③ レポートの準備、資料集め ９．書く④ レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明）、見学先を決める（ゼミ別）、課題（２）提出 １２．準備する① 見学の下調べ １３．準備する② 見学の段取り １４．準備する③ 期待される人物像 １５．準備する④ 確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230175
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 （入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社） 共同通信社編 著 1,944 円 （入学前教育として配付済み）		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つの課題（30%・40%・30%）、評価は ABCD 判定、課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．フィールドワークのための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い。質問で疑問点などを明確にする。			
講義の順序とポイント			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる① 情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる② 図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③ 情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④ 内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く① テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く② ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③ レポートの準備、資料集め ９．書く④ レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．見学の準備（全体説明）、見学先を決める（ゼミ別）、課題（２）提出 １２．準備する① 見学の下調べ １３．準備する② 見学の段取り １４．準備する③ 期待される人物像 １５．準備する④ 確認と事後報告、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JC1230176
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
講義概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	『理科系の作文技術』（中公新書） 木下是雄 著 756 円 （入学前教育教材として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』（共同通信社） 共同通信社編 著 1,944 円 （入学前教育教材として配付済み）		
教材（参考文献）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書） 川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部） 後藤芳文 他 著 1,728 円 その他、ゼミで紹介する。		
教材（その他）	適宜、資料を提供する。		
評価方法	授業内課題 （課題未提出は不合格とする）		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる ２．体裁の整ったレポートを作成できる ３．一日見学のための準備ができる		
準備学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講者への要望			
各回すべきことを適時行い、課題をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い、質問して疑問点などを明確にする。			
講義の順序とポイント			
１．スタートアップゼミAの目標の確認　テキストの説明と使い方 ２．情報元の理解（文字媒体、音声媒体など）の確認（読解力・聴覚理解力把握調査） ３．読解力・聴覚理解力アップ課題① ４．読解力・聴覚理解力アップ課題② ５．図書館の活用、データベース・インターネットの検索方法（図書館） ６．情報の整理と文献の記載方法 ７．テーマを設定し、情報を収集して、内容についてまとめる① ８．テーマを設定し、情報を収集して、内容についてまとめる② ９．テーマを設定し、情報を収集して、内容についてまとめる③ １０．テーマを設定し、情報を収集して、内容についてまとめる④ １１．一日見学の準備①　ST の仕事領域について　見学時の心構え　見学施設の下調べ １２．一日見学の準備②　見学先へのアポの取り方　礼状の書き方 １３．一日見学の準備③　礼状の書き方 １４．一日見学の準備④　礼状の書き方 １５．読解力・聴覚理解力再調査			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230180
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	1.　　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むことを習慣づける。 2．　　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 3．　　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
1．　　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。 2．　　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢 2．　　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する 3．　　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは 4．　　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる 5．「他人の話を聴く」：　耳からの情報の整理する 6．「調べる」ということ 7．情報の探求方法（1）：図書館の活用 8．情報の探求方法（2）：データベースの活用 9．「自分の考え」を整理して伝える（1） 10．「自分の考え」を整理して伝える（2） 11．知りたい情報を集める 12．集めた情報を読み解く 13．集めた情報をまとめる 14．成果発表：まとめた情報の発表 15．成果発表：まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230181
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	1.　　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むことを習慣づける。 2．　　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 3．　　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
1．　　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。 2．　　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢 2．　　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する 3．　　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは 4．　　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる 5．「他人の話を聴く」：　耳からの情報の整理する 6．「調べる」ということ 7．情報の探求方法（1）：図書館の活用 8．情報の探求方法（2）：データベースの活用 9．「自分の考え」を整理して伝える（1） 10．　「自分の考え」を整理して伝える（2） 11．　知りたい情報を集める 12．　集めた情報を読み解く 13．　集めた情報をまとめる 14．　成果発表：まとめた情報の発表 15．　成果発表：まとめた情報の発表		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230182
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	1.　　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むことを習慣づける。 2．　　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 3．　　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		
受講者への要望			
1．　　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。 2．　　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。			
講義の順序とポイント			
1．イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢 2．　　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する 3．　　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは 4．　　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる 5．「他人の話を聴く」：　耳からの情報の整理する 6．「調べる」ということ 7．情報の探求方法（1）：図書館の活用 8．情報の探求方法（2）：データベースの活用 9．「自分の考え」を整理して伝える（1） 10．　「自分の考え」を整理して伝える（2） 11．　知りたい情報を集める 12．　集めた情報を読み解く 13．　集めた情報をまとめる 14．　成果発表：まとめた情報の発表 15．　成果発表：まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230183
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	1.　　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むことを習慣づける。 2．　　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 3．　　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		

受講者への要望

1．　　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
2．　　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢
2．　　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する
3．　　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは
4．　　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる
5．「他人の話を聴く」：　耳からの情報の整理する
6．「調べる」ということ
7．情報の探求方法（1）：図書館の活用
8．情報の探求方法（2）：データベースの活用
9．「自分の考え」を整理して伝える（1）
10．「自分の考え」を整理して伝える（2）
11．知りたい情報を集める
12．集めた情報を読み解く
13．集めた情報をまとめる
14．成果発表：まとめた情報の発表
15．成果発表：まとめた情報の発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230184
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること 2．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
準備学習	1.　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読むことを習慣づける。 2.　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 3.　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。		

受講者への要望

1.　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
2.　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢
2.　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する
3.　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは
4.　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる
5．「他人の話を聴く」:　耳からの情報の整理する
6．「調べる」ということ
7．情報の探求方法（1）:　図書館の活用
8．情報の探求方法（2）:　データベースの活用
9．「自分の考え」を整理して伝える（1）
10．「自分の考え」を整理して伝える（2）
11．知りたい情報を集める
12．集めた情報を読み解く
13．集めた情報をまとめる
14．成果発表：まとめた情報の発表
15．成果発表：まとめた情報の発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230201
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230202
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230203
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230204
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	堀池　敏男	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230205
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230206
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230207
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230208
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230209
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230210
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230211
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230212
科目名	スタートアップゼミＢ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230213
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミBは、演習科目として1年次秋学期に開講され、全員履修登録する。各ゼミは十数名の少人数を予定しており、所属ゼミにおいて、教員や他のゼミ生との緊密なコミュニケーション、ならびに「読む」「書く」「話す」「聞く」という4つの基本的な「リテラシー能力」の向上を図る。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示される。		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示される。		
評価方法	受講・発表・取組姿勢,等の平常点（５０％）、 ならびにレポートや作文,等の体裁や内容,等の評価（５０％）、で判定する。		
到達目標	1. 文献を読んで内容を要約できる。 2. ８００字以上のレポートが書ける。 3. 人前で発表できる。		
準備学習	＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。 ＊課題・宿題を所定の期間内で取り組み、指示された日に提出あるいは/且つ発表しなければならない。その内容、締切、提出先や発表順番などについてはゼミ時間帯において指示する。 ＊毎回、次回の授業では何をするのかを説明し、そのために必要な予習や復習について指示する。		

受講者への要望

＊Word,Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。
＊現代の社会問題を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持っておくこと。
＊秋学期終了頃に、このゼミ内において来期のゼミ募集についての説明が行われる。その要領を理解し、守ること。

講義の順序とポイント

1回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
2回目：本ゼミナールに関するガイダンス、自己紹介、春学期成績確認および履修登録のチェック、キャリアアップ指導。
3回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
4回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
5回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
6回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
7回目：レポートの書き方についての指導。レポートの作成および発表。
8回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
9回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
10回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
11回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
12回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
13回目：ゼミ担当教員が指定した文献を読解し、要点をまとめて発表する。
14回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。
15回目：将来の進路と今後の履修について。来期の所属ゼミについて。

＊12月上旬から1月下旬までの間に（来期に所属する）ゼミ選択についての説明が行われる予定である。
＊面談、等が行われる場合もある。
＊外部講師の講座、等を受ける場合もある。
＊ゼミ担当教員によって進度や内容の変更があるので、教員の指示に従うこと。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JC1230221
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
12．レポートを作成する③
13．レポートを作成する④
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230222
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230223
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
12．レポートを作成する③
13．レポートを作成する④
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230224
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230226
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
12．レポートを作成する③
13．レポートを作成する④
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230227
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230228
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	宮川　重義	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
12．レポートを作成する③
13．レポートを作成する④
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230229
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

1．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

2．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

3．資料を収集し整理する①
4．資料を収集し整理する②
5．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

6．調べたことを発表する（中間発表会）①
7．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

8．レポートの構成を考える①
9．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

10．レポートを作成する①
11．レポートを作成する②
12．レポートを作成する③
13．レポートを作成する④
9までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

14．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
15．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230230
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230231
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230232
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（テキスト）	「アカデミック・ライティング」（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考文献）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教材（その他）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、議論への参加など）（50%）、提出課題（50%）		
到達目標	「読む」、「書く」力をさらに高めるとともに、レポート作成の技術を修得すること。		
準備学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講者への要望

大学での修学においてゼミはその中心的位置付けにあり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。

講義の順序とポイント

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②
収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC1230261
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーションの評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1230262
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（テキスト）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（参考文献）	各ゼミの担当教員から指示する		
教材（その他）	各ゼミの担当教員から指示する		
評価方法	課題に対しての提出物（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	１．一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用しグループで討議ができる。 ２．適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講者への要望			
授業への主体的な参加を望む。			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．レポート・論文とは ３．レポート　・論文の書式・構成 ４．テーマ（主題）を決める ５．アウトライン・暫定目次の作成 ６．資料・データの収集 ７．資料・データの整理 ８．目次の詳細検討と確定（論理の筋道の確定） ９．原稿の執筆、表記法 １０．引用参考の仕方 １１．プレゼンテーションの原理と基本 １２．プレゼンテーションの準備 １３．プレゼンテーションの実行 １４．プレゼンテーションの実行 １５．プレゼンテーションの評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2017	授業コード	JC1230271
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
教材（参考文献）	『学生・研究者のための使え！PowerPoint スライドデザイン伝わるプレゼン１つの原理と３つの技術』（化学同人）　宮野公樹 著　1,994 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』（化学同人）　宮野公樹 著　2,052 円 『はじめのてディベート聴く・話す・考える力を身につける』（あさ出版）　西部直樹 著　1,620 円		
教材（その他）	スタートアップゼミ A で配布した資料 スタートアップゼミ A で修得したスキル		
評価方法	発表＋レポート（30%）、ディベート＋レポート（40%）、レポート（30%）		
到達目標	１．論理的に考えることができる。 ２．自分の考えを他者に伝えることができる。 ３．他者の考えを理解することができる。 ４．上記の１～３を達成する手段として、プレゼンテーションやディベートを実践することができる。		
準備学習	１．文献検索の方法を復習する。 ２．必要な資料を熟読する。 ３．グループ課題では、役割分担をして、共同できる体制を作る。		

受講者への要望

１．自分の周りで起こっている出来事について、「なぜ」「どうして」という興味や関心を持つようにしましょう。
２．「なぜ」「どうして」に対する、答えを探す力を身につけましょう。
３．得た情報を論理的に客観的にみるようにしましょう。
４．これらは臨床家としてのみならず、社会生活を遂行する上での基礎力となります。

講義の順序とポイント

１．プレゼンテーションの概要と方法
２．プレゼンテーションの準備
３．プレゼンテーションの実際
４．プレゼンテーションの実際+レポート提出
５．ディベートの概要と方法+スタートアップゼミ A の復習（レポートの書き方等）
６．グループワークの目的と方法，情報収集
７．グループによる情報収集
８．グループによる情報収集
９．グループによる情報収集+レポート提出
１０．ディベートの実際
１１．ディベートの実際
１２．レポート作成の概要と方法，情報共有
１３．グループによる情報共有
１４．レポート作成
１５．レポート完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1230272
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	外山　稔	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
教材（参考文献）	『学生・研究者のための使え！PowerPoint スライドデザイン伝わるプレゼン 1 つの原理と 3 つの技術』（化学同人）　宮野公樹 著　1,994 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』（化学同人）　宮野公樹 著　2,052 円 『はじめのてディベート聴く・話す・考える力を身につける』（あさ出版）　西部直樹 著　1,620 円		
教材（その他）	スタートアップ A で配布した資料 スタートアップ A で修得したスキル		
評価方法	発表＋レポート（30%）、ディベート＋レポート（40%）、レポート（30%）		
到達目標	1．論理的に考えることができる。 2．自分の考えを他者に伝えることができる。 3．他者の考えを理解することができる。 4．上記の 1～3 を達成する手段として、プレゼンテーションやディベートを実践することができる。		
準備学習	1．文献検索の方法を復習する。 2．必要な資料を熟読する。 3．グループ課題では、役割分担をして、共同できる体制を作る。		

受講者への要望

1．自分の周りで起こっている出来事について、「なぜ」「どうして」という興味や関心を持つようにしましょう。
2．「なぜ」「どうして」に対する、答えを探す力を身につけましょう。
3．得た情報を論理的に客観的にみるようにしましょう。
4．これらは臨床家としてのみならず、社会生活を遂行する上での基礎力となります。

講義の順序とポイント

1．プレゼンテーションの概要と方法
2．プレゼンテーションの準備
3．プレゼンテーションの実際
4．プレゼンテーションの実際+レポート提出
5．ディベートの概要と方法+スタートアップゼミ A の復習（レポートの書き方等）
6．グループワークの目的と方法，情報収集
7．グループによる情報収集
8．グループによる情報収集
9．グループによる情報収集+レポート提出
10．ディベートの実際
11．ディベートの実際
12．レポート作成の概要と方法，情報共有
13．グループによる情報共有
14．レポート作成
15．レポート完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230273
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	弓削　明子	旧科目名称	
講義概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。「スタートアップゼミA」で得たスタディ・スキルを踏まえて、①「レポートを書く」：個別あるいは全体のテーマで、短いレポートを書く、②「発表をする」：レポートで取り上げた内容についての効果的なプレゼンテーションを準備・実行し、他者との質疑応答や討議をし、教員による評価を行う。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（テキスト）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
教材（参考文献）	『学生・研究者のための使え！PowerPoint スライドデザイン伝わるプレゼン１つの原理と３つの技術』（化学同人）　宮野公樹 著　1,994 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』（化学同人）　宮野公樹 著　2,052 円 『はじめのてディベート聴く・話す・考える力を身につける』（あさ出版）　西部直樹 著　1,620 円		
教材（その他）	スタートアップ A で配布した資料 スタートアップ A で修得したスキル		
評価方法	発表＋レポート（30%）、ディベート＋レポート（40%）、レポート（30%）		
到達目標	１．論理的に考えることができる。 ２．自分の考えを他者に伝えることができる。 ３．他者の考えを理解することができる。 ４．上記の１～３を達成する手段として、プレゼンテーションやディベートを実践することができる。		
準備学習	１．文献検索の方法を復習する。 ２．必要な資料を熟読する。 ３．グループ課題では、役割分担をして、共同できる体制を作る。		

受講者への要望

１．自分の周りで起こっている出来事について、「なぜ」「どうして」という興味や関心を持つようにしましょう。
２．「なぜ」「どうして」に対する、答えを探す力を身につけましょう。
３．得た情報を論理的に客観的にみるようにしましょう。
４．これらは臨床家としてのみならず、社会生活を遂行する上での基礎力となります。

講義の順序とポイント

１．プレゼンテーションの概要と方法
２．プレゼンテーションの準備
３．プレゼンテーションの実際
４．プレゼンテーションの実際+レポート提出
５．ディベートの概要と方法+スタートアップゼミ A の復習（レポートの書き方等）
６．グループワークの目的と方法，情報収集
７．グループによる情報収集
８．グループによる情報収集
９．グループによる情報収集+レポート提出
１０．ディベートの実際
１１．ディベートの実際
１２．レポート作成の概要と方法，情報共有
１３．グループによる情報共有
１４．レポート作成
１５．レポート完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JC1230276
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」の基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 2．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した知識や基本スキルの復習をしておく。		

受講者への要望

1．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
2．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．　イントロダクション
2．　科学レポート・論文とは
3．　科学レポート・論文の書式
4．　テーマ（主題）を決める
5．　アウトライン・暫定目次の作成
6．　資料・データの収集
7．　資料・データの整理
8．　目次の詳細検討と確定
9．　原稿の執筆・表記法
10．　引用参考の仕方
11．　プレゼンテーションの原理と基本
12．　プレゼンテーションの準備
13．　プレゼンテーションの実行
14．　プレゼンテーションの実行
15．　学科全体による発表会と総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230281
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」の基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 2．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した知識や基本スキルの復習をしておく。		

受講者への要望

1．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
2．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．　イントロダクション
2．　科学レポート・論文とは
3．　科学レポート・論文の書式
4．　テーマ（主題）を決める
5．　アウトライン・暫定目次の作成
6．　資料・データの収集
7．　資料・データの整理
8．　目次の詳細検討と確定
9．　原稿の執筆・表記法
10．　引用参考の仕方
11．　プレゼンテーションの原理と基本
12．　プレゼンテーションの準備
13．　プレゼンテーションの実行
14．　プレゼンテーションの実行
15．　学科全体による発表会と総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230282
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」の基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 2．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した知識や基本スキルの復習をしておく。		

受講者への要望

1．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
2．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．　イントロダクション
2．　科学レポート・論文とは
3．　科学レポート・論文の書式
4．　テーマ（主題）を決める
5．　アウトライン・暫定目次の作成
6．　資料・データの収集
7．　資料・データの整理
8．　目次の詳細検討と確定
9．　原稿の執筆・表記法
10．　引用参考の仕方
11．　プレゼンテーションの原理と基本
12．　プレゼンテーションの準備
13．　プレゼンテーションの実行
14．　プレゼンテーションの実行
15．　学科全体による発表会と総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230283
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」の基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 2．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した知識や基本スキルの復習をしておく。		

受講者への要望

1．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
2．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．　イントロダクション
2．　科学レポート・論文とは
3．　科学レポート・論文の書式
4．　テーマ（主題）を決める
5．　アウトライン・暫定目次の作成
6．　資料・データの収集
7．　資料・データの整理
8．　目次の詳細検討と確定
9．　原稿の執筆・表記法
10．　引用参考の仕方
11．　プレゼンテーションの原理と基本
12．　プレゼンテーションの準備
13．　プレゼンテーションの実行
14．　プレゼンテーションの実行
15．　学科全体による発表会と総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC1230284
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
講義概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」の基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	健康スポーツに関する新聞・雑誌の記事や書籍などを活用する。		
評価方法	課題に対するレポート（50%）、発表（30%）、受講態度（20%）		
到達目標	1．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 2．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
準備学習	「スタートアップゼミA」で修得した知識や基本スキルの復習をしておく。		

受講者への要望

1．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
2．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。

講義の順序とポイント

1．　イントロダクション
2．　科学レポート・論文とは
3．　科学レポート・論文の書式
4．　テーマ（主題）を決める
5．　アウトライン・暫定目次の作成
6．　資料・データの収集
7．　資料・データの整理
8．　目次の詳細検討と確定
9．　原稿の執筆・表記法
10．　引用参考の仕方
11．　プレゼンテーションの原理と基本
12．　プレゼンテーションの準備
13．　プレゼンテーションの実行
14．　プレゼンテーションの実行
15．　学科全体による発表会と総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000111
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000112
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000113
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC2000114
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000115
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000116
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000117
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000118
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000119
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000120
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000121
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000122
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000123
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000124
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC2000125
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000126
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000127
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000128
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000129
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000130
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000131
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC2000132
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JC2000133
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000134
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000135
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000136
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC2000137
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JC2000138
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000139
科目名	キャリアデザインA 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000140
科目名	キャリアデザインA 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し, 今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活における主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JC2000211
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000212
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC2000213
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000214
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000215
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000216
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC2000217
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC2000218
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000219
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000220
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000221
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000222
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000223
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC2000224
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000225
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000226
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000227
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000228
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000229
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000230
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC2000231
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000232
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000233
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000234
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JC2000235
科目名	キャリアデザインＢ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる１回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC2000236
科目名	キャリアデザインＢ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる１回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，多くの学生は，卒業後には求められる役割が「労働者」へと変化することになります。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	授業内で適宜指示します。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
準備学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講者への要望

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

講義の順序とポイント

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　様々な自分の形を整理しよう
6.　働くことと時間
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働くことを考える（1）
9.　働くことを考える（2）
10. 働くこととお金の話
11. 働く上での価値観を知ろう
12. 社会人の働く姿
13. 働くことに対する理解を深めよう
14. ブラックバイトについて考える
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JC2000301
科目名	労働と社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Society		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	社会における労働の仕組みを理解し、その仕組みの中に法を位置づけて、法の機能を講義する。その際、長期雇用システムからの雇用管理についても講義する。 具体的には、労働における当事者・規範・人事管理・企業の運営・職業キャリアの展開・引退の過程・労働組合運営・労使交渉などについて、法律および判例理論を中心に講義する。		
教材（テキスト）	菅野和夫ほか編『実践・変化する雇用社会と法』（有斐閣、2006 年）2900 円＋税 最新版六法		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	労働の仕組みおよび長期雇用システムの変化について理解する。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

休憩時間にトイレをすませ、携帯電やスマートフォンの電源を切って、能動的な姿勢で講義に出席すること。受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。キャリア科目なので、受講態度はとくに重視する。

教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴニュース等で労働に関連する問題に大いに関心を持つこと。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　労働の概観（歴史・労働法とは）
第 3 回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第 4 回　労働契約と権利・義務　就業規則
第 5 回　労働協約
第 6 回　個別化する労働条件（1）　成果主義の導入
第 7 回　個別化する労働条件（2）　労働能力不足と解雇
第 8 回　多様化するワークスタイル（1）　パート店長の処遇
第 9 回　多様化するワークスタイル（2）　在宅勤務における労務管理
第 10 回　不安定化する雇用(1)　労働基準法の適用除外とされる管理監督者の範囲
第 11 回　不安定化する雇用（2）　引退の過程における配置転換と出向
第 12 回　男性中心社会からの脱却（1）　コース別人事管理制度と間接差別
第 13 回　男性中心社会からの脱却（2）　家庭責任とキャリア
第 14 回　脱皮を迫られる労働組合（1）　パートタイマーの増加と労働組合の運営
第 15 回　脱皮を迫られる労働組合（2）　労使協議とインサイダー情報規制への対応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC2000302
科目名	労働と社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Society		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
講義概要	社会における労働の仕組みを理解し、その仕組みの中に法を位置づけて、法の機能を講義する。その際、長期雇用システムからの雇用管理についても講義する。 具体的には、労働における当事者・規範・人事管理・企業の運営・職業キャリアの展開・引退の過程・労働組合運営・労使交渉などについて、法律および判例理論を中心に講義する。		
教材（テキスト）	菅野和夫ほか編『実践・変化する雇用社会と法』（有斐閣、2006 年）2900 円＋税 最新版六法		
教材（参考文献）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教材（その他）	適宜レジュメを配布する（原則 1 回のみ）。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート等（30%）で評価する予定である。		
到達目標	労働の仕組みおよび長期雇用システムの変化について理解する。		
準備学習	新聞記事やＴＶニュース等に日々関心を持っておくことと、次回の授業項目につきテキストを通読しておくこと。 各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講者への要望

休憩時間にトイレをすませ、携帯電やスマートフォンの電源を切って、能動的な姿勢で講義に出席すること。受講時のマナーが守れない場合は、講義を中断して、退室を命ずるので十分注意すること。キャリア科目なので、受講態度はとくに重視する。

教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴニュース等で労働に関連する問題に大いに関心を持つこと。

講義の順序とポイント

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　労働の概観（歴史・労働法とは）
第 3 回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第 4 回　労働契約と権利・義務　就業規則
第 5 回　労働協約
第 6 回　個別化する労働条件（1）　成果主義の導入
第 7 回　個別化する労働条件（2）　労働能力不足と解雇
第 8 回　多様化するワークスタイル（1）　パート店長の処遇
第 9 回　多様化するワークスタイル（2）　在宅勤務における労務管理
第 10 回　不安定化する雇用(1)　労働基準法の適用除外とされる管理監督者の範囲
第 11 回　不安定化する雇用（2）　引退の過程における配置転換と出向
第 12 回　男性中心社会からの脱却（1）　コース別人事管理制度と間接差別
第 13 回　男性中心社会からの脱却（2）　家庭責任とキャリア
第 14 回　脱皮を迫られる労働組合（1）　パートタイマーの増加と労働組合の運営
第 15 回　脱皮を迫られる労働組合（2）　労使協議とインサイダー情報規制への対応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JC2000402
科目名	仕事とキャリア形成	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Career Planning		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「働く」ということについて、社会・組織の視点と個人の視点との双方から考えます。社会・組織の視点として、組織が個人に求める要件の変化や多様化する雇用形態などについて概説します。個人の視点としては、自己の強みや価値観、またモチベーションの原点や人生全体における仕事の位置づけについて考える枠組みを提供します。社会と組織、および個人の双方の視点を取り入れることにより、職業社会へのスムーズな移行と、自己のキャリアを切りひらく力を育むことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 組織と個人の関係性を踏まえ、職業社会への適応に必要な条件を理解する。 2. 自分が望む生き方や働き方を考え、その実現に向けて一歩踏み出すことができる。		
準備学習	・授業の最初と最後に各回のテーマに関する「問い」を出題する。適宜、授業開始時と終了時に出した「問い」についての答えが書いている出席表の提出を求める。		
受講者への要望			
1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施する回があるので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：「働く」ことについて考える 2. 産業社会の変化と働く環境の変化 3. 組織と個人の関係性 I 4. 組織と個人の関係性 II 5. 職業・ワークスタイル研究 I 6. 職業・ワークスタイル研究 II 7. 職業・ワークスタイル研究III 8. 働く人のモチベーション 9. 仕事と人生と幸福感 10. 大学から職業社会への移行の現状 11. 職業人生の始まり：採用する側から捉える「就職活動」 12. 自分が望む働き方を思い描く I 13. 自分が望む働き方を思い描く II 14. 自分が望む働き方を思い描くIII 15. まとめ：幸せな職業人生のために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2000403
科目名	仕事とキャリア形成	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Career Planning		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「働く」ということについて、社会・組織の視点と個人の視点との双方から考えます。社会・組織の視点として、組織が個人に求める要件の変化や多様化する雇用形態などについて概説します。個人の視点としては、自己の強みや価値観、またモチベーションの原点や人生全体における仕事の位置づけについて考える枠組みを提供します。社会と組織、および個人の双方の視点を取り入れることにより、職業社会へのスムーズな移行と、自己のキャリアを切りひらく力を育むことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題 2 回：40%		
到達目標	1. 組織と個人の関係性を踏まえ、職業社会への適応に必要な条件を理解する。 2. 自分が望む生き方や働き方を考え、その実現に向けて一歩踏み出すことができる。		
準備学習	・授業の最初と最後に各回のテーマに関する「問い」を出題する。適宜、授業開始時と終了時に出した「問い」についての答えが書いている出席表の提出を求める。		
受講者への要望			
1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施する回があるので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス：「働く」ことについて考える 2. 産業社会の変化と働く環境の変化 3. 組織と個人の関係性 I 4. 組織と個人の関係性 II 5. 職業・ワークスタイル研究 I 6. 職業・ワークスタイル研究 II 7. 職業・ワークスタイル研究III 8. 働く人のモチベーション 9. 仕事と人生と幸福感 10. 大学から職業社会への移行の現状 11. 職業人生の始まり：採用する側から捉える「就職活動」 12. 自分が望む働き方を思い描く I 13. 自分が望む働き方を思い描く II 14. 自分が望む働き方を思い描くIII 15. まとめ：幸せな職業人生のために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2000501
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 70％　　レポート 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）FP 3 級程度の金融関連の知識を習得する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．ライフイベントと 3 大必要資金の基本：教育資金、住宅取得資金、老後資金
4．教育資金計画の検討：教育ローン、こども保険、学資保険、奨学金
5．住宅取得資金計画の検討：財形住宅貯蓄、住宅ローンの種類、借り換えと繰上げ返済
6．老後資金計画の検討：退職金、年金、貯蓄

【Ⅲ】リスクへの備え
7．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
8．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
9．長生きのリスクへの備え：公的年金、私的年金、企業年金、遺族年金
１０．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資産運用
１１．貯蓄型金融商品と債券：単利と複利、金利、金融商品の種類、国債、社債
１２．株式：株式とは何か、株式取引、相場指標、投資指標、株式と税
１３．投資信託：投資信託の基本と仕組み、投資信託の分類、相場指標、投信と税

【Ⅴ】税
１４．所得と税控除：税の分類、所得控除
１５．相続：相続の基本、相続税、贈与税

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	JC2000503
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 70％　　レポート 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）FP 3 級程度の金融関連の知識を習得する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．ライフイベントと 3 大必要資金の基本：教育資金、住宅取得資金、老後資金
4．教育資金計画の検討：教育ローン、こども保険、学資保険、奨学金
5．住宅取得資金計画の検討：財形住宅貯蓄、住宅ローンの種類、借り換えと繰上げ返済
6．老後資金計画の検討：退職金、年金、貯蓄

【Ⅲ】リスクへの備え
7．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
8．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
9．長生きのリスクへの備え：公的年金、私的年金、企業年金、遺族年金
１０．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資産運用
１１．貯蓄型金融商品と債券：単利と複利、金利、金融商品の種類、国債、社債
１２．株式：株式とは何か、株式取引、相場指標、投資指標、株式と税
１３．投資信託：投資信託の基本と仕組み、投資信託の分類、相場指標、投信と税

【Ⅴ】税
１４．所得と税控除：税の分類、所得控除
１５．相続：相続の基本、相続税、贈与税

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	JC2000504
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
講義概要	大学卒業後の 60 年の人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、不確実性やリスクに対する備えという視点から、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的事例に基づいて受講者各自が検討しデザインする。		
教材（テキスト）	滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版		
教材（参考文献）	・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店 ・石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社		
教材（その他）	適宜、配布する。		
評価方法	授業内課題 70％　　レポート 30％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）FP 3 級程度の金融関連の知識を習得する。		
準備学習	翌週に扱う課題についての配布資料を予め目を通しておくこと		

受講者への要望

（1）人生 80 年の基本計画とその実現のための課題を整理すること
（2）Excel の基本的な使用方法を確認しておくこと
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

講義の順序とポイント

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．ライフイベントと 3 大必要資金の基本：教育資金、住宅取得資金、老後資金
4．教育資金計画の検討：教育ローン、こども保険、学資保険、奨学金
5．住宅取得資金計画の検討：財形住宅貯蓄、住宅ローンの種類、借り換えと繰上げ返済
6．老後資金計画の検討：退職金、年金、貯蓄

【Ⅲ】リスクへの備え
7．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
8．失業のリスクへの備え：雇用保険、就職促進給付、教育促進給付、労災保険
9．長生きのリスクへの備え：公的年金、私的年金、企業年金、遺族年金
１０．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資産運用
１１．貯蓄型金融商品と債券：単利と複利、金利、金融商品の種類、国債、社債
１２．株式：株式とは何か、株式取引、相場指標、投資指標、株式と税
１３．投資信託：投資信託の基本と仕組み、投資信託の分類、相場指標、投信と税

【Ⅴ】税
１４．所得と税控除：税の分類、所得控除
１５．相続：相続の基本、相続税、贈与税

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100101
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） （注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	・コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ・①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
準備学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講者への要望

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）
（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクト（インタビュー）
（１２）グループプロジェクトの振り返りと発表準備①
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備②
（１４）グループプロジェクト発表
（１５）グループプロジェクト発表と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100102
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） （注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	・コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ・①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
準備学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講者への要望

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）
（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクト（インタビュー）
（１２）グループプロジェクトの振り返りと発表準備①
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備②
（１４）グループプロジェクト発表
（１５）グループプロジェクト発表と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100103
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） （注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	・コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ・①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
準備学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講者への要望

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）
（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクト（インタビュー）
（１２）グループプロジェクトの振り返りと発表準備①
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備②
（１４）グループプロジェクト発表
（１５）グループプロジェクト発表と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100104
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） （注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	・コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ・①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
準備学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講者への要望

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）
（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクト（インタビュー）
（１２）グループプロジェクトの振り返りと発表準備①
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備②
（１４）グループプロジェクト発表
（１５）グループプロジェクト発表と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100105
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） （注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	・コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ・①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
準備学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講者への要望

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）
（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクト（インタビュー）
（１２）グループプロジェクトの振り返りと発表準備①
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備②
（１４）グループプロジェクト発表
（１５）グループプロジェクト発表と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100106
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） （注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	・コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ・①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
準備学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講者への要望

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）
（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクト（インタビュー）
（１２）グループプロジェクトの振り返りと発表準備①
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備②
（１４）グループプロジェクト発表
（１５）グループプロジェクト発表と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100107
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） （注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	・コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ・①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
準備学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講者への要望

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）
（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクト（インタビュー）
（１２）グループプロジェクトの振り返りと発表準備①
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備②
（１４）グループプロジェクト発表
（１５）グループプロジェクト発表と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100108
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
講義概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（テキスト）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） （注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教材（その他）	テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	・コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ・ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ・①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
準備学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講者への要望

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

講義の順序とポイント

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）
（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクト（インタビュー）
（１２）グループプロジェクトの振り返りと発表準備①
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備②
（１４）グループプロジェクト発表
（１５）グループプロジェクト発表と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JC2100201
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進み、仕事だけでなく日常生活においてもパソコンは欠かせないツールとなっている。しかし、そのような時代だからこそ、ビジネスの現場では「文書主義の原則」（証拠として残る・正確に伝わる・多数の人に同時に伝達できる）に基づき、正確でわかりやすい文書を作成する能力が求められている。本講義の目的は、ビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成スキルの習得である。ビジネス文書特有の用語、様式を学び、演習を通して基本的な文書作成能力を身につける。また、企画書の策定およびプレゼンテーションを実践し、事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる日本語表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	初回に冊子を配布し、講義において継続して使用する。各自で保管し、必ず持参すること。 ※持参しない場合は、授業内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業の中で紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイント、DVD 教材を使用する。		
評価方法	課題演習・発表　60 点　　平常点（提出物・参加意欲、態度・出席状況など）40 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・正しくかつ適切な敬語表現力を身につけ、場面に応じて活用できるようになる。 ・企画書作成、プレゼンテーションの実践を通して、論理的思考力、伝える力を高める。		
準備学習	事前学習として参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通しておくこと。		

受講者への要望

・講義では演習を中心に進めるため積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。
・添削して返却された課題の指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作は厳禁。受講マナーを守り、皆が気持ちよく j 受講できる環境づくりを心がけてもらいたい。
・演習を中心とした講義内容であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション：講義の内容、説明、進め方、評価、注意点等および　ビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①　ビジネス文書特有の言葉の使い方と文書の種類、基本の構成等
3．ビジネス文書の基礎②　文書化の手順
4．ビジネス文書の基礎③　文書化の手順
5．ビジネス文書の基礎④　文書化の手順
6．基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．応用編まとめ：課題演習
11．総合実習　文章力を磨く
12．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
13．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
14．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
15．講義のまとめ：課題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2100202
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進み、仕事だけでなく日常生活においてもパソコンは欠かせないツールとなっている。しかし、そのような時代だからこそ、ビジネスの現場では「文書主義の原則」（証拠として残る・正確に伝わる・多数の人に同時に伝達できる）に基づき、正確でわかりやすい文書を作成する能力が求められている。本講義の目的は、ビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成スキルの習得である。ビジネス文書特有の用語、様式を学び、演習を通して基本的な文書作成能力を身につける。また、企画書の策定およびプレゼンテーションを実践し、事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる日本語表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	初回に冊子を配布し、講義において継続して使用する。各自で保管し、必ず持参すること。 ※持参しない場合は、授業内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業の中で紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイント、DVD 教材を使用する。		
評価方法	課題演習・発表　60 点　　平常点（提出物・参加意欲、態度・出席状況など）40 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・正しくかつ適切な敬語表現力を身につけ、場面に応じて活用できるようになる。 ・企画書作成、プレゼンテーションの実践を通して、論理的思考力、伝える力を高める。		
準備学習	事前学習として参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通しておくこと。		

受講者への要望

・講義では演習を中心に進めるため積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。
・添削して返却された課題の指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作は厳禁。受講マナーを守り、皆が気持ちよく j 受講できる環境づくりを心がけてもらいたい。
・演習を中心とした講義内容であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション：講義の内容、説明、進め方、評価、注意点等および　ビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①　ビジネス文書特有の言葉の使い方と文書の種類、基本の構成等
3．ビジネス文書の基礎②　文書化の手順
4．ビジネス文書の基礎③　文書化の手順
5．ビジネス文書の基礎④　文書化の手順
6．基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．応用編まとめ：課題演習
11．総合実習　文章力を磨く
12．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
13．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
14．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
15．講義のまとめ：課題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2100203
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進み、仕事だけでなく日常生活においてもパソコンは欠かせないツールとなっている。しかし、そのような時代だからこそ、ビジネスの現場では「文書主義の原則」（証拠として残る・正確に伝わる・多数の人に同時に伝達できる）に基づき、正確でわかりやすい文書を作成する能力が求められている。本講義の目的は、ビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成スキルの習得である。ビジネス文書特有の用語、様式を学び、演習を通して基本的な文書作成能力を身につける。また、企画書の策定およびプレゼンテーションを実践し、事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる日本語表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	初回に冊子を配布し、講義において継続して使用する。各自で保管し、必ず持参すること。 ※持参しない場合は、授業内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業の中で紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイント、DVD 教材を使用する。		
評価方法	課題演習・発表　60 点　　平常点（提出物・参加意欲、態度・出席状況など）40 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・正しくかつ適切な敬語表現力を身につけ、場面に応じて活用できるようになる。 ・企画書作成、プレゼンテーションの実践を通して、論理的思考力、伝える力を高める。		
準備学習	事前学習として参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通しておくこと。		

受講者への要望

・講義では演習を中心に進めるため積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。
・添削して返却された課題の指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作は厳禁。受講マナーを守り、皆が気持ちよく j 受講できる環境づくりを心がけてもらいたい。
・演習を中心とした講義内容であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション：講義の内容、説明、進め方、評価、注意点等および　ビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①　ビジネス文書特有の言葉の使い方と文書の種類、基本の構成等
3．ビジネス文書の基礎②　文書化の手順
4．ビジネス文書の基礎③　文書化の手順
5．ビジネス文書の基礎④　文書化の手順
6．基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．応用編まとめ：課題演習
11．総合実習　文章力を磨く
12．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
13．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
14．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
15．講義のまとめ：課題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2100204
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進み、仕事だけでなく日常生活においてもパソコンは欠かせないツールとなっている。しかし、そのような時代だからこそ、ビジネスの現場では「文書主義の原則」（証拠として残る・正確に伝わる・多数の人に同時に伝達できる）に基づき、正確でわかりやすい文書を作成する能力が求められている。本講義の目的は、ビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成スキルの習得である。ビジネス文書特有の用語、様式を学び、演習を通して基本的な文書作成能力を身につける。また、企画書の策定およびプレゼンテーションを実践し、事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる日本語表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	初回に冊子を配布し、講義において継続して使用する。各自で保管し、必ず持参すること。 ※持参しない場合は、授業内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業の中で紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイント、DVD 教材を使用する。		
評価方法	課題演習・発表　60 点　　平常点（提出物・参加意欲、態度・出席状況など）40 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・正しくかつ適切な敬語表現力を身につけ、場面に応じて活用できるようになる。 ・企画書作成、プレゼンテーションの実践を通して、論理的思考力、伝える力を高める。		
準備学習	事前学習として参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通しておくこと。		

受講者への要望

・講義では演習を中心に進めるため積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。
・添削して返却された課題の指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作は厳禁。受講マナーを守り、皆が気持ちよく j 受講できる環境づくりを心がけてもらいたい。
・演習を中心とした講義内容であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション：講義の内容、説明、進め方、評価、注意点等および　ビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①　ビジネス文書特有の言葉の使い方と文書の種類、基本の構成等
3．ビジネス文書の基礎②　文書化の手順
4．ビジネス文書の基礎③　文書化の手順
5．ビジネス文書の基礎④　文書化の手順
6．基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．応用編まとめ：課題演習
11．総合実習　文章力を磨く
12．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
13．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
14．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
15．講義のまとめ：課題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2100205
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進み、仕事だけでなく日常生活においてもパソコンは欠かせないツールとなっている。しかし、そのような時代だからこそ、ビジネスの現場では「文書主義の原則」（証拠として残る・正確に伝わる・多数の人に同時に伝達できる）に基づき、正確でわかりやすい文書を作成する能力が求められている。本講義の目的は、ビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成スキルの習得である。ビジネス文書特有の用語、様式を学び、演習を通して基本的な文書作成能力を身につける。また、企画書の策定およびプレゼンテーションを実践し、事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる日本語表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	初回に冊子を配布し、講義において継続して使用する。各自で保管し、必ず持参すること。 ※持参しない場合は、授業内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業の中で紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイント、DVD 教材を使用する。		
評価方法	課題演習・発表　60 点　　平常点（提出物・参加意欲、態度・出席状況など）40 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・正しくかつ適切な敬語表現力を身につけ、場面に応じて活用できるようになる。 ・企画書作成、プレゼンテーションの実践を通して、論理的思考力、伝える力を高める。		
準備学習	事前学習として参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通しておくこと。		

受講者への要望

・講義では演習を中心に進めるため積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。
・添削して返却された課題の指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作は厳禁。受講マナーを守り、皆が気持ちよくｊ受講できる環境づくりを心がけてもらいたい。
・演習を中心とした講義内容であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション：講義の内容、説明、進め方、評価、注意点等および　ビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①　ビジネス文書特有の言葉の使い方と文書の種類、基本の構成等
3．ビジネス文書の基礎②　文書化の手順
4．ビジネス文書の基礎③　文書化の手順
5．ビジネス文書の基礎④　文書化の手順
6．基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
１０．応用編まとめ：課題演習
１１．総合実習　文章力を磨く
１２．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
１３．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
１４．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
１５．講義のまとめ：課題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2100206
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進み、仕事だけでなく日常生活においてもパソコンは欠かせないツールとなっている。しかし、そのような時代だからこそ、ビジネスの現場では「文書主義の原則」（証拠として残る・正確に伝わる・多数の人に同時に伝達できる）に基づき、正確でわかりやすい文書を作成する能力が求められている。本講義の目的は、ビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成スキルの習得である。ビジネス文書特有の用語、様式を学び、演習を通して基本的な文書作成能力を身につける。また、企画書の策定およびプレゼンテーションを実践し、事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる日本語表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	初回に冊子を配布し、講義において継続して使用する。各自で保管し、必ず持参すること。 ※持参しない場合は、授業内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業の中で紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイント、DVD 教材を使用する。		
評価方法	課題演習・発表　60 点　　平常点（提出物・参加意欲、態度・出席状況など）40 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・正しくかつ適切な敬語表現力を身につけ、場面に応じて活用できるようになる。 ・企画書作成、プレゼンテーションの実践を通して、論理的思考力、伝える力を高める。		
準備学習	事前学習として参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通しておくこと。		

受講者への要望

・講義では演習を中心に進めるため積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。
・添削して返却された課題の指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作は厳禁。受講マナーを守り、皆が気持ちよくｊ受講できる環境づくりを心がけてもらいたい。
・演習を中心とした講義内容であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション：講義の内容、説明、進め方、評価、注意点等および　ビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①　ビジネス文書特有の言葉の使い方と文書の種類、基本の構成等
3．ビジネス文書の基礎②　文書化の手順
4．ビジネス文書の基礎③　文書化の手順
5．ビジネス文書の基礎④　文書化の手順
6．基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．応用編まとめ：課題演習
11．総合実習　文章力を磨く
12．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
13．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
14．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
15．講義のまとめ：課題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2100207
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
講義概要	コンピュータによる情報システムの活用が進み、仕事だけでなく日常生活においてもパソコンは欠かせないツールとなっている。しかし、そのような時代だからこそ、ビジネスの現場では「文書主義の原則」（証拠として残る・正確に伝わる・多数の人に同時に伝達できる）に基づき、正確でわかりやすい文書を作成する能力が求められている。本講義の目的は、ビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成スキルの習得である。ビジネス文書特有の用語、様式を学び、演習を通して基本的な文書作成能力を身につける。また、企画書の策定およびプレゼンテーションを実践し、事実や意見、情報を相手にわかりやすく正確に伝える力を養い、さまざまなビジネスシーンに対応できる日本語表現力の向上を目指す。		
教材（テキスト）	初回に冊子を配布し、講義において継続して使用する。各自で保管し、必ず持参すること。 ※持参しない場合は、授業内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	参考書は授業の中で紹介する。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイント、DVD 教材を使用する。		
評価方法	課題演習・発表　60 点　　平常点（提出物・参加意欲、態度・出席状況など）40 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題に取り組み、文書作成の基本スキルを習得する。 ・正しくかつ適切な敬語表現力を身につけ、場面に応じて活用できるようになる。 ・企画書作成、プレゼンテーションの実践を通して、論理的思考力、伝える力を高める。		
準備学習	事前学習として参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通しておくこと。		

受講者への要望

・講義では演習を中心に進めるため積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底してほしい。
・添削して返却された課題の指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語やスマートフォンの操作は厳禁。受講マナーを守り、皆が気持ちよくｊ受講できる環境づくりを心がけてもらいたい。
・演習を中心とした講義内容であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション：講義の内容、説明、進め方、評価、注意点等および　ビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①　ビジネス文書特有の言葉の使い方と文書の種類、基本の構成等
3．ビジネス文書の基礎②　文書化の手順
4．ビジネス文書の基礎③　文書化の手順
5．ビジネス文書の基礎④　文書化の手順
6．基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．応用編まとめ：課題演習
11．総合実習　文章力を磨く
12．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
13．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
14．総合実習　企画書作成とプレゼンテーション
15．講義のまとめ：課題演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JC2100301
科目名	インターンシップＡＩ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship ＡＩ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の４項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として８月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100302
科目名	インターンシップＡＩ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship ＡＩ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の４項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として８月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100401
科目名	インターンシップＡII	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship AII		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行う. インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、次の各点について一段と高いレベルの態度を示すことができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100402
科目名	インターンシップＡII	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship AII		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行う. インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、次の各点について一段と高いレベルの態度を示すことができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　スキルアップトレーニング(1)
7　スキルアップトレーニング(2)
8　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
9　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　リスクマネジメント講習
13　オリエンテーション：実習にあたって

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
17　今後の学生生活を考える
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞
18　全体講評・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100501
科目名	インターンシップB	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で4週間程度の就業体験を行うことにより、大学における学びの理論と実社会における実践の場との関係性を深く理解し、有機的に結びつけることにより、幅広く理論と実践の融合を図ることを目的とする。長期間の企業での実習の中で、職場における協働力や適応力、行動力を身につける。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや4週間にわたる実習の成果を発表する。 インターンシップ実習については、本学海外インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムプログレスコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	到達目標 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学海外インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（8月～9月の間で1か月程度実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
プログレスコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション（プログラムの概要・リスクマネジメント）
　プロジェクト・マネジメントの概要 －PCM の講義-
2　プロジェクトメンバーの相互理解（ワークシート①）
3～4　プロジェクト・マネジメント(ワークシート②、③)
5　修了生によるプレゼンテーション
　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)
6　コミュニケーショントレーニング
7～8　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン）
9　　プロジェクト・マネジメント(今後の活動の確認、活動計画の発表)
10　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)

Ⅱ　実習の実施
　夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行う。

Ⅲ　事後学習
11　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）
12　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）（ワークシート④）
13　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）
14　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）
15　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）"
16　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備③）"
17～20　成果報告会・修了式

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100502
科目名	インターンシップB	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で4週間程度の就業体験を行うことにより、大学における学びの理論と実社会における実践の場との関係性を深く理解し、有機的に結びつけることにより、幅広く理論と実践の融合を図ることを目的とする。長期間の企業での実習の中で、職場における協働力や適応力、行動力を身につける。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや4週間にわたる実習の成果を発表する。 インターンシップ実習については、本学海外インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムプログレスコースのいずれかに参加する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	到達目標 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学海外インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（8月～9月の間で1か月程度実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
プログレスコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション（プログラムの概要・リスクマネジメント）
　プロジェクト・マネジメントの概要 －PCM の講義-
2　プロジェクトメンバーの相互理解（ワークシート①）
3～4　プロジェクト・マネジメント(ワークシート②、③)
5　修了生によるプレゼンテーション
　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)
6　コミュニケーショントレーニング
7～8　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン）
9　　プロジェクト・マネジメント(今後の活動の確認、活動計画の発表)
10　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)

Ⅱ　実習の実施
　夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行う。

Ⅲ　事後学習
11　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）
12　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）（ワークシート④）
13　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）
14　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）
15　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）"
16　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備③）"
17～20　成果報告会・修了式

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100601
科目名	サービス・ラーニングA	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学での学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約1週間程度の活動を通して、協働力、適応力、行動力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の 3 つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる.		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． 地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3． 実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習1週間
（8時間＋日報1時間）/日*5日＝45時間

6． 事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
7． 事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
8． 事後学習 III－レポート作成
9． 事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100602
科目名	サービス・ラーニングA	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学での学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約1週間程度の活動を通して、協働力、適応力、行動力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の 3 つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる.		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． 地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3． 実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習1週間
（8時間＋日報1時間）/日*5日＝45時間

6． 事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
7． 事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
8． 事後学習 III－レポート作成
9． 事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100701
科目名	サービス・ラーニングB	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会貢献活動を通して、大学における学びと実社会における実践の場との関係性を理解することを目的とする。約2週間程度の活動を通して、理論と実践の融合を図るための課題発見力や論理的思考力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、大学で学んだ学修を社会活動の中で最大限に生かす。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、2週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1．　社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2．　地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3．　実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4．　ビジネスマナーI
5．　ビジネスマナーII

実習2週間
（8時間＋日報1時間）/日*10日＝90時間

6．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8．　事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
9．　事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
１０．　事後学習 III－レポート作成
１１．　事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100702
科目名	サービス・ラーニングB	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	社会貢献活動を通して、大学における学びと実社会における実践の場との関係性を理解することを目的とする。約2週間程度の活動を通して、理論と実践の融合を図るための課題発見力や論理的思考力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、大学で学んだ学修を社会活動の中で最大限に生かす。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、2週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1．　社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2．　地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
3．　実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
4．　ビジネスマナーI
5．　ビジネスマナーII

実習2週間
（8時間＋日報1時間）/日*10日＝90時間

6．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8．　事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
9．　事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
１０．　事後学習 III－レポート作成
１１．　事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JC2100801
科目名	サービス・ラーニングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning C		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	約1か月程度の社会貢献活動を通して、社会貢献の必要性と有効性を理解することを目的とする。また、社会の発展を目指すための、創造力や発想力、課題解決力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法）、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法）、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動の中で、具体的な課題解決を図る。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間、2週間、1か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間、1か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献と自らの社会的役割：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． NPO組織論：講義、ビデオ or ゲスト
3． 実習目的の明確化と目標設定：ワークショップ（個人の目標設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習1か月（4週間）
（8時間＋日報1時間）/日*20日＝180時間

6． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（3回目）
9． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（4回目）
10． 事後学習I－何を学んだか：ワークショップ
11． 事後学習II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか：講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
12． 事後学習III－レポート作成
13． 事後学習IV－レポート作成
14． 事後学習V－報告会準備
15． 事後学習VI－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC2100802
科目名	サービス・ラーニングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning C		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	約1か月程度の社会貢献活動を通して、社会貢献の必要性と有効性を理解することを目的とする。また、社会の発展を目指すための、創造力や発想力、課題解決力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法）、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法）、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（テキスト）	必要に応じて配布		
教材（参考文献）	必要に応じて配布		
教材（その他）	なし		
評価方法	活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
到達目標	社会貢献活動の中で、具体的な課題解決を図る。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
準備学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講者への要望

[実習先の選定－1]：毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明する。多くの大学から学生がその集会に参加し、各ボランティア団体の説明を聞いて、どの団体の活動に参加するかの判断材料としている。この講義の受講者は原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間、2週間、1か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間、1か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

講義の順序とポイント

1． 社会貢献と自らの社会的役割：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． NPO組織論：講義、ビデオ or ゲスト
3． 実習目的の明確化と目標設定：ワークショップ（個人の目標設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習1か月（4週間）
（8時間＋日報1時間）/日*20日＝180時間

6． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（3回目）
9． 実習中に、1回/週、大学で経過報告（4回目）
10． 事後学習I－何を学んだか：ワークショップ
11． 事後学習II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか：講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
12． 事後学習III－レポート作成
13． 事後学習IV－レポート作成
14． 事後学習V－報告会準備
15． 事後学習VI－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2017	授業コード	JC9000201
科目名	インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習

10　最終報告プレゼンテーションについて

実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認

11　インターンシップ報告会

12　全体総括

教員からの総括(講評)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JC9000202
科目名	インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。そのため、この科目での課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	以下の４項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
準備学習	事前学習等において指示がある。		

受講者への要望

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

講義の順序とポイント

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として８月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習

10　最終報告プレゼンテーションについて

実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認

11　インターンシップ報告会

12　全体総括

教員からの総括(講評)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JE0020001
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0020003
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0020005
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0020006
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	Kazuyo Murata et al. Keep Talking: Strategies for Interpersonal Communication New Edition. Kirihara Shoten		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written homework （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired a set of pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete some short assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course/ Small Talk: Hi, is this seat taken?
2. Compliments: That's a lovely t-shirt
3. Asking for repeats: I beg your pardon?
4. Answering with additional information: I really enjoyed it
5. Backchannelling: Is that right?
6. Showing interest: How about you?
7. Thanking: Thank you so much!
8. Complaints: Excuse me, but….
9. Apologies: This is my fault
10. Dealing with undesirable questions: I'd rather not say
11. Requests: Could you tell me the way to the station?
12. Invitations: How about next Sunday?
13. Saying 'no': I'll think about it
14. Softeners: That's a good idea, but…
15. Saying goodbye: I'd better be going

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JE0020051
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0020052
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Tom Hutchinson & Kristin Sherman, "Network 1", (Oxford University Press, 2012)		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	After completing this course, you should feel more confident about talking about daily life in English. If you want more English conversation, please study 英語会話演習 II.		
準備学習	You will need to prepare for this course: * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		
受講者への要望			
You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course. This is a conversation class so you must participate! ***なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる***			
講義の順序とポイント			
Lesson 1: Introductions / Where are you from? Lesson 2: Everyday life. Lesson 3: What do you like to do? Lesson 4: Meet the family. Lesson 5: Review 1. Lesson 6: Out on the town. Lesson 7: Welcome home! Lesson 8: I can do that. Lesson 9: I love my work. Lesson 10: Review 2. Lesson 11: Where were you? Lesson 12: What did you study? Lesson 13: What happened to you? Lesson 14: Review 3 / Presentation preparation. Lesson 15: Presentations.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	-	★★	-	★★

年度	2017	授業コード	JE0020054
科目名	英語スピーキング ☆	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	Kazuyo Murata et al. Keep Talking: Strategies for Interpersonal Communication New Edition. Kirihara Shoten		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written homework （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired a set of pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete some short assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course/ Small Talk : Hi, is this seat taken?
2. Compliments: That's a lovely t-shirt
3. Asking for repeats: I beg your pardon?
4. Answering with additional information: I really enjoyed it
5. Backchannelling: Is that right?
6. Showing interest: How about you?
7. Thanking: Thank you so much!
8. Complaints: Excuse me, but….
9. Apologies: This is my fault
10. Dealing with undesirable questions: I'd rather not say
11. Requests: Could you tell me the way to the station?
12. Invitations: How about next Sunday?
13. Saying 'no': I'll think about it
14. Softeners: That's a good idea, but…
15. Saying goodbye: I'd better be going

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JE0020056
科目名	英語スピーキング ☆	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an intermediate-level English conversation course. It aims to further develop students' practical conversation skills, and give them scope to practice communicative strategies. Students will also have to complete tasks outside of class, including grammar exercises and cartooning in English.		
教材（テキスト）	Kazuyo Murata et al. Keep Talking: Strategies for Interpersonal Communication New Edition. Kirihara Shoten		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests （80%） Written homework （10%） Final test (10%) Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in everyday English conversation. They will have acquired a set of pragmatic skills to be used in real-time unscripted conversation, and will be competent in speaking about their daily life and habits.		
準備学習	Students will be required to complete some short assignments for homework. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English.

講義の順序とポイント

1. Introduction to the course/ Small Talk: Hi, is this seat taken?
2. Compliments: That's a lovely t-shirt
3. Asking for repeats: I beg your pardon?
4. Answering with additional information: I really enjoyed it
5. Backchannelling: Is that right?
6. Showing interest: How about you?
7. Thanking: Thank you so much!
8. Complaints: Excuse me, but….
9. Apologies: This is my fault
10. Dealing with undesirable questions: I'd rather not say
11. Requests: Could you tell me the way to the station?
12. Invitations: How about next Sunday?
13. Saying 'no': I'll think about it
14. Softeners: That's a good idea, but…
15. Saying goodbye: I'd better be going

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JE0022001
科目名	英語スピーキングII	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking II		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	We will use some base patterns and vocabulary to begin talking about many different topics! we will interview classmates, make questions, answer questions and build a list of useful questions that we can use to speak with non-Japanese and Japanese people alike.		
教材（テキスト）	教材としてプリントなど使用します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業参加度合 20%　スピーキングテスト 20%　クイズやテスト 40%　期末試験 20%		
到達目標	1. Become able to ask/answer many types of questions 2. Become more confident with English language 3. Speak as much English as much as possible		
準備学習	We will do many exercises with speaking and listening to those around us. We will use the English Conversation Question Series to ask questions about all kinds of topics: ranging from friends and hobbies to outer space and aliens.		
受講者への要望			
授業に毎回出席すること。Students need a JPN⇒ENG/ENG⇒JPN dictionary. (Electric dictionaries, cell phones, or other dictionaries acceptable in class. ※NO DEVICES ALLOWED ON TESTS/QUIZZES.)(必ず和英・英和辞典を授業に持参してください。電子辞書、スマートフォン、携帯電話の辞書も使用可。※試験・クイズ中は使用不可。)			
講義の順序とポイント			
1. Intro beginning (Interview Questions) 2. Yes/No Questions 3. Can, Will, Did, Have… various Question Patterns 4. Do you? 5. What do you? 6. How much do you? 7. Family 8. Friends 9. The future 10. The Paranormal 11. Culture 12. Hobbies There may be changes to the schedule, and that will be reflected in the course materials.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JE0036001
科目名	英語ライティング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Writing		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語のライティング力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、未来の仕事に必要な応用文型練習をしていきます。英語を正しく書くためには基本文型と文法知識が必要です。この授業ではやさしい短文を例示して正確な英文を書けるようにします。		
教材（テキスト）	Paul McLean 著, Modern College English: Read It, Write It. 金星堂 1550 円 その他プリント教材（授業で配布します。）		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他のことは授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テストと宿題（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ１５００語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解できるようにします。 3.　いろいろな英語の応用文型に慣れて書くことができるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習してください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った内容の応用文を中心としたものです。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、必ず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館１階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. Introduction (授業に関する説明および注意事項)
　My Day (1)
2. My Day (2)
3. My Friend
4. A Letter to Friend (1)

5. A Letter to Friend (2)
6. The Weather
7. My Family
8. A Business Letter (1)
9. A Business Letter (2)
10. On Weekends
11. My Horoscope
12. A Trip
13. Directions

14. A Profile Letter (1)
15. A Profile Letter (2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0041001
科目名	英語リーディング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Reading		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では英語の読解力を伸ばすことに焦点を置いています。身近な出来事や、世界の様々な話題について英語で読み解く練習をしてゆきます。英文読解には、語彙を増やすことも大切ですが、効果的な読解の方法を身につけることも大切です。この授業では効率よく内容を把握するために、トピックセンテンスとパラグラフの構造、原因と結果、分類、時系列に沿っての説明、スピーチの文体など、読む対象によって異なる読解方法を駆使できるように指導してゆきます。		
教材（テキスト）	Osamu Takeuchi, Tomoko Yabukoshi, Seijiro Sumi, Michiko Ueki 著. Reading Stream: Elementary. 金星堂, 1700 円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	応答、発表を中心とした授業内演習参加状況（20%）、課題（30%）、授業内テスト（50%）よって総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	1. おおよそ 2000 語レベルの語彙で書かれた英語の文章を比較的スムーズに理解できるようにします。 2. 英語文章のパラグラフ、トピックセンテンスの構造を理解するようにします。 3. 時事ニュース、英字新聞、スピーチの文体に慣れるようにします。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。テキストを忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館１階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

下記はあくまでも予定であり、実際の授業の進度によって変更になる可能性があります。各授業時に指示するので情報を聞き逃さないようにしてください。また、毎回（初回は除く）の授業の初めに、前回の授業の確認テストを行います。

1. To Drive or to Ride?--トピックセンテンスとパラグラフの構造
2. Help Yourselves--原因と結果
3. What I Learned from Fay―経験を語る(物語)
4. Ways to Help Others--分類しながら説明する
5. Can Fish Fall from the Sky?―報告する（時事ニュース）
6. How to Prepare a Presentation―手順を説明する
7. International Date Line―事実を時系列に沿って説明する
8. What is Friendship?―定義を示して例示する
9. Entering a Photo Contest―情報を効率的に伝える（e-mail）
10. Getting Money for a Big Project―比較する
11. Accepting the "Salesperson of the Year" Award―スピーチの文体に慣れる
12. Written Art―コミュニケーションのスタイルを理解する

13. Llife Advice Q & A with Dr. Joyce Green―目的をもって尋ねる（人生相談）
14. Stronger Yen Threatens Japanese Economy―経済記事を読んでグラフを完成させる
15. Not Hearing a Gorilla―報告する（科学）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JE0045003
科目名	英語リスニング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Listening		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
講義概要	この科目は初級リスニング演習です。視聴覚教材を装備したオーディオ・ビジュアル教室で CD, DVD, テープなどのの教材を活用した演習を行い、英語リスニング力を上達させるための基礎力を養成します。		
教材（テキスト）	Masashi Negishi 著. Welcome to the Listening World（『楽しいリスニングツアー』）. 金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	リスニング教材として音声 CD（テキスト付属）を使用します。		
評価方法	授業内試験（小テスト含む、50%)、 課題（30%)、授業への参加状況(20%）により総合的に評価します。なお、全授業の三分の一以上欠席した学生は、単位を取得することはできません。		
到達目標	リスニングの基礎を学び、日常の身近な話題に関する話や簡単なアナウンス、道案内、電話での会話などを英語で聴き、その内容を理解し、簡単なコミュニケーションがはかれる程度の基礎力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分時間をかけて授業に臨んでください。小テストは Dictation （書き取り）問題、語彙問題、聴解問題を含みます。		

受講者への要望

①テキストは必ず初回の授業までに購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内での課題を行うことができません。
　教科書を忘れた場合は減点とします。
②授業には、必ず辞書を持参してください。
③欠席、遅刻をしないように努めてください。
④課題は必ず期限までに提出してください。また、課題の提出には「京学なび」を使用してください。
⑤授業の前までに、かならず当日扱う個所の予習をしておいてください。
⑥自習学習のためになるべく多く「セルフラーニング室」（学志館 1 階）を活用してください。
⑦当科目以外にもなるべく多くの英語科目を受講するようにしてください。
⑧英検、TOEIC などの検定、資格試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を 1 回の授業で学習します。 但し、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Lesson 1 Going to London
2. Lesson 2 Staying at a hotel / Lesson 3 Going to see a musical! (1)
3.Lesson 3 Going to see a musical! (2) / Lesson 4 Going shopping!
4. Lesson 5 In trouble! / Lesson 6 Taking a summer course (1)
5. Lesson 6 Taking a summer course (2) / Lesson 7 Eating out
6. Lesson 8 Going to a post office and a bank!
7. Lesson 9 Going to the night zoo! / Lesson 10 Taking a sightseeing tour (1)
8. Lesson 10 Taking a sightseeing tour (2) / Lesson 11 In the library
9. Lesson 12 Going to the National Gallery!
10. Lesson 13 Seeing a movie! / Lesson 14 Cooking (1)
11. Lesson 14 Cooking (2) / Lesson 15 Talking on the phone
12. Lesson 16 Watching TV/ Lesson 17 Having a cold (1)
13. Lesson 17 Having a cold (2) / Lesson 18 Renting a car
14. Lesson 19 Listening to the radio news
15. Lesson 20 A farewell party

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	-	★	-	-	-

年度	2017	授業コード	JE0051051
科目名	英語資格試験ワーク	単位数	2
科目名（英語表記）	Studies for English Proficiency Test		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	本書は TOEIC TEST 入門編で初級者用の TOEIC　TEST 学習書である。 基礎的な語彙、文法、ビジネス関連のリスニングや読解を通して 英語力をつけ、TOEIC TEST への橋渡しにする。		
教材（テキスト）	ホートン広瀬恵美子　他著 Cross Over the Toeic Bridge Test （TOEIC Bridge テストで始める資格試験対策） 金星堂 ￥　２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	毎回の小テスト＆まとめテストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・宿題の提出〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる		
到達目標	TOEIC TEST に必要な知識・英語力をつけ、TOEIC TEST につなげて行く。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　自分のノートを作成する ２　語句を調べる ３　練習問題をする ４　宿題を必ず提出		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、地道に努力することが大事。

講義の順序とポイント

１回目
テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。
Unit 1　vocabulary, grammar, listening, reading

２回目
Unit 2　vocabulary, grammar は一部宿題として提出、
listening, reading は一部小テスト
(以下の課においても同様。)

３回目　Unit 3
４回目　Unit 4
５回目　Unit 5
６回目　Unit 6
７回目　Unit 7
８回目　Unit 8
９回目　Unit 9
１０回目 Unit 10
１１回目 Unit 11
１２回目 Unit 12
１３回目 Unit 13
１４回目 Unit 14
１５回目 Unit 15

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	JE0054001
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0054003
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0054004
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0054005
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0054006
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an upper-intermediate-level English speaking course. It aims to further develop students' skills in conversation, discussion and presentation, and give them scope to practice communicative strategies. We will explore a number of contemporary global issues, using TED talks as language models, listening material and topics for discussion and presentation.		
教材（テキスト）	Lida Baker et al., 21st Century Communication Level 1, Cengage Learning		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests, discussions and presentations （80%） Written homework （20%） Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in spoken English for conversation, discussion and presentation. They will have acquired a set of skills for use in these contexts, and phrases, vocabulary used to discuss contemporary issues and human interest stories.		
準備学習	Students should prepare for this course by watching some short TED talks online and familiarizing themselves with the format. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English. Bringing a vocabulary notebook and dictionary is strongly advised.

講義の順序とポイント

1. Small actions, big results: Tips for saving water (listening, speaking, critical thinking)
2. TED Talk: How to use a paper towel (listening, discussion, presentation)
3. Connecting with nature: Photos from a safari (listening, speaking, critical thinking)
4. TED Talk: Photos from a storm chaser (listening, discussion, presentation)
5. Going places: No car, no worries (listening, speaking, critical thinking)
6. TED Talk: A skateboard with a boost (listening, discussion, presentation)
7. Music, music everywhere: What's your music-listening style? (listening, speaking, critical thinking)
8. TED Talk: Why I take the piano on the road… and in the air (listening, discussion, presentation)
9. Give thanks: The power of gratitude (listening, speaking, critical thinking)
10. TED Talk: Why lunch ladies are heroes (listening, discussion, presentation)
11. Tell me why: The benefits of curiosity (listening, speaking, critical thinking)
12. TED Talk: Three rules to spark learning (listening, discussion, presentation)
13. The livable city: Public space (listening, speaking, critical thinking)
14. TED Talk: How to reinvent the apartment building (listening, discussion, presentation)
15. Life Lessons: How to change your life (listening, speaking, critical thinking)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	★

年度	2017	授業コード	JE0054051
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0054052
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0054053
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0054054
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an upper-intermediate-level English speaking course. It aims to further develop students' skills in conversation, discussion and presentation, and give them scope to practice communicative strategies. We will explore a number of contemporary global issues, using TED talks as language models, listening material and topics for discussion and presentation.		
教材（テキスト）	Lida Baker et al., 21st Century Communication Level 1, Cengage Learning		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests, discussions and presentations （80%） Written homework （20%） Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in spoken English for conversation, discussion and presentation. They will have acquired a set of skills for use in these contexts, and phrases, vocabulary used to discuss contemporary issues and human interest stories.		
準備学習	Students should prepare for this course by watching some short TED talks online and familiarizing themselves with the format. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English. Bringing a vocabulary notebook and dictionary is strongly advised.

講義の順序とポイント

1. Small actions, big results: Tips for saving water (listening, speaking, critical thinking)
2. TED Talk: How to use a paper towel (listening, discussion, presentation)
3. Connecting with nature: Photos from a safari (listening, speaking, critical thinking)
4. TED Talk: Photos from a storm chaser (listening, discussion, presentation)
5. Going places: No car, no worries (listening, speaking, critical thinking)
6. TED Talk: A skateboard with a boost (listening, discussion, presentation)
7. Music, music everywhere: What's your music-listening style? (listening, speaking, critical thinking)
8. TED Talk: Why I take the piano on the road… and in the air (listening, discussion, presentation)
9. Give thanks: The power of gratitude (listening, speaking, critical thinking)
10. TED Talk: Why lunch ladies are heroes (listening, discussion, presentation)
11. Tell me why: The benefits of curiosity (listening, speaking, critical thinking)
12. TED Talk: Three rules to spark learning (listening, discussion, presentation)
13. The livable city: Public space (listening, speaking, critical thinking)
14. TED Talk: How to reinvent the apartment building (listening, discussion, presentation)
15. Life Lessons: How to change your life (listening, speaking, critical thinking)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	★

年度	2017	授業コード	JE0054055
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
講義概要	In this course, we will practise English conversation skills together. You will have the chance to learn good English pronunciation from a native speaker, chat with each other about fun things and daily life, and maybe even have conversations with students from other countries. All in English! Students interested in taking English tests with a speaking component, such as EIKEN, or thinking about studying or working abroad should study this course in particular.		
教材（テキスト）	Jack C. Richards, "Interchange 1", (Cambridge University Press, 2013).		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	Presentation: 50% + Examination: 50%		
到達目標	Students doing this course should have completed 英語会話演習 I. Therefore, it is expected that you will be able to remember and use with confidence most of what you have studied about daily life in English.		
準備学習	You will need to prepare for this course. * Buy a textbook as soon as you can. No textbook = No credit. * Read your textbook unit before and after lesson. * Grammar and writing activities to be done at home.		

受講者への要望

You should attend ALL (100%) of your classes. Attendance LESS THAN 67% will result in NO CREDIT for the course.

This is a conversation class so you must participate!

なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる

講義の順序とポイント

Lesson 1: Introduction / Please call me Beth.
Lesson 2: What do you do?
Lesson 3: How much is it?
Lesson 4: I really like hip-hop.
Lesson 5: Review 1.
Lesson 6: I come from a big family.
Lesson 7: How often do you exercise.
Lesson 8: We had a great time!
Lesson 9: What's your neighbourhood like?
Lesson 10: Review 2.
Lesson 11: What does she look like?
Lesson 12: Have you ever ridden a camel?
Lesson 13: It's a very exciting place.
Lesson 14: Review 3 / Presentation practice.
Lesson 15: Presentations.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★★	−	★★	−	★★

年度	2017	授業コード	JE0054056
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	This course is intended to serve as an upper-intermediate-level English speaking course. It aims to further develop students' skills in conversation, discussion and presentation, and give them scope to practice communicative strategies. We will explore a number of contemporary global issues, using TED talks as language models, listening material and topics for discussion and presentation.		
教材（テキスト）	Lida Baker et al., 21st Century Communication Level 1, Cengage Learning		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	In-class conversation tests, discussions and presentations （80%） Written homework （20%） Students must attend a minimum of 67% of scheduled classes in order to gain credit for this course.		
到達目標	By the end of this course, students will be more confident in spoken English for conversation, discussion and presentation. They will have acquired a set of skills for use in these contexts, and phrases, vocabulary used to discuss contemporary issues and human interest stories.		
準備学習	Students should prepare for this course by watching some short TED talks online and familiarizing themselves with the format. They should also prepare for each class by previewing the lesson in the textbook, and using the accompanying audio.		

受講者への要望

Students are asked to attend all classes and come with a positive and respectful attitude, and participate to the best of their ability. They must also complete all homework assignments, remembering that work done out of class is essential to developing skills in spoken English. Bringing a vocabulary notebook and dictionary is strongly advised.

講義の順序とポイント

1. Small actions, big results: Tips for saving water (listening, speaking, critical thinking)
2. TED Talk: How to use a paper towel (listening, discussion, presentation)
3. Connecting with nature: Photos from a safari (listening, speaking, critical thinking)
4. TED Talk: Photos from a storm chaser (listening, discussion, presentation)
5. Going places: No car, no worries (listening, speaking, critical thinking)
6. TED Talk: A skateboard with a boost (listening, discussion, presentation)
7. Music, music everywhere: What's your music-listening style? (listening, speaking, critical thinking)
8. TED Talk: Why I take the piano on the road… and in the air (listening, discussion, presentation)
9. Give thanks: The power of gratitude (listening, speaking, critical thinking)
10. TED Talk: Why lunch ladies are heroes (listening, discussion, presentation)
11. Tell me why: The benefits of curiosity (listening, speaking, critical thinking)
12. TED Talk: Three rules to spark learning (listening, discussion, presentation)
13. The livable city: Public space (listening, speaking, critical thinking)
14. TED Talk: How to reinvent the apartment building (listening, discussion, presentation)
15. Life Lessons: How to change your life (listening, speaking, critical thinking)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	★

年度	2017	授業コード	JE0060001
科目名	英語文化事情 A	単位数	2
科目名（英語表記）	English Language and Culture A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	英語の運用能力を高めるには、英語という言語のもつ特性とともに、その背景となっている英語圏の文化事情などを理解する必要もあり、「英語文化事情」では、英語力の向上を視野に入れながら、英語圏の国ぐにのさまざまな社会文化事情について講義を行っている。 「A」では、英語の「母国」イギリスを対象とし、日本とは特に目立って異なる事象を取り上げて比較し、その長短を考えながら、これからの時代を生きる諸君の選択にとって何らかの参考となるような講義を行う。 「英米」（近年では「米英」）と一括りにされ、イギリスもアメリカとほとんど同じような国と思われがちであるが、イギリス人と日本人との間には、大陸に隣接する島国の国民として歴史的に同じような問題を抱えたりもしており、イギリスは日本人にとってはアメリカなどよりも大いに参考となる国の１つであると言ってもよい。		
教材（テキスト）	ハンドアウト（プリント教材）類		
教材（参考文献）	各回の講義テーマと関連する文献をその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	応答発表を含む受講状況（約 60%）、復習小テスト（約 30%）および最終授業内課題の成果（約 10%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．英語は日本語とはさまざまな点で異なるが、その英語の「母国」であるイギリスという国の歴史的文化的社会的な背景事情が基礎知識として身につく。 ２．表面上の異同に惑わされないよう留意しながら、異文化圏の事象との相違を検証する方法が身につき、相違が生まれてくる背景事情を理解できるようになる。		
準備学習	１．＜京学なび＞「授業資料」から次回授業のハンドアウトをダウンロードする。 ２．ハンドアウトを通読し、空所が設けられていた場合は適切な語句を補充しておく。 ３．理解を深めるために、講義で紹介する参考文献の少なくとも１冊には目を通す。		

受講者への要望

１．講義に休まず出席し、講義中に積極的に発言できる学生の受講を強く望む。
２．英語力向上の努力を続けている学生の受講を望む。

講義の順序とポイント

下記の順序とポイントは資料の入手状況などに応じて若干変更することがある。
１．講義概要・評価方法などに関する説明、連合王国
２．伝説の王 King Arthur と England 小史
３．英語小史と The Common Wealth
４．牧場・公園・庭園・駐車場
５．イギリス発祥のスポーツ
６．過激な動物愛護、日常生活におけるマナー
７．王族･貴族と二院制の国会
８．週末の過ごし方、労働時間と勤務形態
９．パブという社交場とイギリス料理
10．village 愛と遺跡管理
11．鉄道発祥国の交通機関
12．学校教育制度と gap year

13. イギリスの文学と映画
14. イギリス生活事情拾遺
15. Auld Lang Syne、最終授業内課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JE0068A51
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068A53
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 1　新しい語句を調べる 2　自分の訳文ノートを作成する 3　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions
3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。
２回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了
３回目　　Lesson 2　April Fool’s Day
４回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present
５回目　　Lesson 4　Funny English Jokes
６回目　　Lesson 5　Adelie Penguins
７回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart
８回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト
９回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries
１０回目　Lesson 8　Protect Our Environment
１１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking
１２回目　Lesson 10 Body Art
１３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons
１４回目　Lesson 12 Fortune Cookies
１５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト
授業の進度・課は変わることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JE0068A62
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4 技能の基礎力を養成する。社会と娯楽、文化と環境、ビジネスと技術の 4 つのジャンルから、さまざまなトピックに取り組む。 １．２２０語程度の英文を読んで、リーディング力を強める。 ２．本文の内容について、語彙の意味、T/F 問題、応答問題、60 語程度の要約文で内容理解度を確認する。 ３．英文を完成することで、ライティング力を補強する。 ４．８０語程度の TOEIC 形式の長文空所補充問題で、リーディングの基本的な表現を確認する。 ５．７０語程度の会話文により、リスニング力を強化する。 ６．写真を説明した６０語程度の英文を完成することで、語彙力を定着する。		
教材（テキスト）	English Indicator 2<Pre-Intermediate>　南雲堂　2,160 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	英語の声（もちろん日本語の声も）自信をもって出す。		
準備学習	テキストの英文を音読・黙読し、単語の意味と発音を調べる。		

受講者への要望

積極的な学習態度で授業に参加する。テキストとノート、筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・他科目の課題作業など等は厳禁。積極的に質問してほしい。発音・音読の際には、声を出してほしい。

講義の順序とポイント

1. Our Aging Society―ストレッチ式「ネイティブ発音」について
2. Holiday Memories―母音と子音 1
3. Sport―母音と子音 2
4. Foreign Workers―母音と子音 3
5. Lifestyles―内容語と機能語 1
6. Sizes―内容語と機能語 2
7. Bathrooms―内容語と機能語 3
8. Weather and Global Warming―省エネ発音 1
9. Recycling―省エネ発音 2
10. Commuting―省エネ発音 3
11. Crumbling Britain―分詞と文分け 1
12. Advertising―分詞と文分け 2
13. Technology and Us―分詞と文分け 3
14. Cars: Transport or Status―復習 1
15. Our Education―復習 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	★	★	–	–

年度	2017	授業コード	JE0068A63
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068A65
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	古今東西に言い習わされてきた「ことわざ」を通じて、基礎的な文法事項やイディオムを理解し、聞く・読む・書くの力をつけ、「ことわざ」が持つ人生の知恵を学ぶ。		
教材（テキスト）	樋口千春　松岡ゆりこ共著　Proverbial English ことわざから英語を学ぼう！　南雲堂　￥１，８００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な英文法やイディオムを学習し練習問題で理解を深め、聞く・読む・書くの英語の基礎力を向上させる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・イディオムを学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の Target Proverb, Grammar 1,2,3 をするので、事前に予習をしておいてもらいたい。 ２回目　　Unit 1　Two dogs fight for a bone and the third runs away. ３回目　　Unit 1 後半と Unit 2 ４回目　　Unit 2 後半と Unit 3 ５回目　　Unit 3 後半と Unit 4 ６回目　　Unit 4 後半と Unit 5 ７回目　　Unit 5 後半と Unit 6 ８回目　　Unit1-6 の復習及び理解度テスト ９回目　　Unit 7 １０回目　Unit 7 後半と Unit 8 １１回目　Unit 8 後半と Unit 9 １２回目　Unit 9 後半と Unit10 １３回目　Unit 10 後半と Unit11 １４回目　Unit 11 後半と Unit12 １５回目　Unit 7-12 の復習及び理解度テスト ただし授業の進度・課は変わることがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JE0068A66
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions
3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。
２回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了
３回目　　Lesson 2　April Fool’s Day
４回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present
５回目　　Lesson 4　Funny English Jokes
６回目　　Lesson 5　Adelie Penguins
７回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart
８回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト
９回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries
１０回目　Lesson 8　Protect Our Environment
１１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking
１２回目　Lesson 10 Body Art
１３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons
１４回目　Lesson 12 Fortune Cookies
１５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト
授業の進度・課は変わることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JE0068A67
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定義化を図るとともに、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにする。平易な総合英語教材を使用し、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成し、受講生への課題、発表を含む演習を行う。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解できる力を身につける。		
教材（テキスト）	[ISBN]978-4-7647-4034-1　TARGET! elementary （森田彰、飯尾牧子ほか, 金星堂）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 60%、課題・授業への参加状況 40%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	語彙力を増強し、実用的な英語を身につける。自然に話される英語を聞き取る能力を養成し、英語の表現の幅を広げる。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

1、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
2、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
3、第 1 回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。（授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
4、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
5、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。

Unit1: In Your Free Time
Unit2: Communication Skills
Unit3: World Languages and Cultures
Unit4: Healthy Body, Healthy Mind
Unit5: Careers Nowadays
Unit6: Fashion Trends
Unit7: Planning a Trip Abroad
Unit8: Are you into Sports?
Unit9: Parties Are a Lot of Fun!
Unit10: Art in Our Life
Unit11: What Shall We Eat?
Unit12: What Makes a Good Company?
Unit13: Advances in Science
Unit14: Life with the Technology
Unit15: Eco-Friendly Life

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	★★	★	−

年度	2017	授業コード	JE0068A68
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、基礎的な英語力を養成する。		
教材（テキスト）	佐藤明彦　他著　Reading Sucesst I 〈リーディング　サクセス　1〉　成美堂　￥２，０００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読め、基礎的な英作文が作れるようになる。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。Unit 1 の 2 Word Definitions
3　Complete the Sentences　4 Words in Context はやるので、事前に予習をしておいてほしい。
２回目　　Lesson 1　Teddy Bears 終了
３回目　　Lesson 2　April Fool’s Day
４回目　　Lesson 3　The Biggest Birthday Present
５回目　　Lesson 4　Funny English Jokes
６回目　　Lesson 5　Adelie Penguins
７回目　　Lesson 6　Eat Well, Eat Smart
８回目　　Lesson 1-6 の復習及び理解度テスト
９回目　　Lesson 7　Three Popular Mysteries
１０回目　Lesson 8　Protect Our Environment
１１回目　Lesson 9　Laughing and Thinking
１２回目　Lesson 10 Body Art
１３回目　Lesson 11 The Most Extreme Marathons
１４回目　Lesson 12 Fortune Cookies
１５回目　Lesson 7-12 の復習及び理解度テスト
授業の進度・課は変わることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JE0068A69
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。様々な音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	教室内で音声教材使用		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　90 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点 尚、欠席者とテストの不合格者は課題提出が必要です。		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読することによりインテイクが促進され暗唱に近づけます。内容再生等の英語活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		
受講者への要望			
・辞書は必ず持参してください。 ・終了課の復習を行ってください。			
講義の順序とポイント			
第　1 週：　授業の進め方とその説明。 第　2 週:　Lesson 1　家族 第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内 第　4 週:　Lesson 3　就職・職場 第　5 週:　Lesson 4　日課 第　6 週:　Lesson 5　交通 第　7 週:　Lesson 6　アルバイト 第　8 週:　Lesson 7　健康 第　9 週:　Lesson 8　ショッピング 第 10 週:　Lesson 9　休日 第 11 週:　Lesson 10　大学生活 第 12 週:　Lesson 11　世界の国々 第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（1） 第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（2） 第 15 週:　全般的な復習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JE0068A70
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	授業内の言語活動は第二言語習得の理論に基づいた科学的な順序で行われます。メインとなるタスクは音読です。音読を取り入れ、テキスト本文の理解、インテイク、アウトプットという流れを体験していただくことにより、限られた時間と内容ではありますが、英語の学習における成功体験を味わっていただきたいと考えています。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	必要な場合は授業中に指示する。		
教材（その他）	音声を教室内で使用。		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　90 点 出席状況等、総合的判断　10 点 合計：　100 点満点 尚、欠席者とテストの不合格者は課題提出が必要です。		
到達目標	毎回の授業でテキストを音読し、インテイク活動を行います。何度も音読を繰り返すことにより、暗唱に近づけ、内容再生等の英語活動を行えるようにします。学生は授業を通して、いかに英語を習得すれば効果的であるかを学びます。		
準備学習	次週の授業内容をシラバスで確認し、該当課をあらかじめ目を通しておいてください。 毎授業直後の単語テスト、構文暗記テストなどの準備をして授業に臨んでください。		

受講者への要望

・辞書は必ず持参してください。
・終了課の復習を行ってください。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明。
第　2 週:　Lesson 1　家族
第　3 週:　Lesson 2　キャンパス案内
第　4 週:　Lesson 3　就職・職場
第　5 週:　Lesson 4　日課
第　6 週:　Lesson 5　交通
第　7 週:　Lesson 6　アルバイト
第　8 週:　Lesson 7　健康
第　9 週:　Lesson 8　ショッピング
第 10 週:　Lesson 9　休日
第 11 週:　Lesson 10　大学生活
第 12 週:　Lesson 11　世界の国々
第 13 週:　Lesson 12　海外旅行（1）
第 14 週:　Lesson 13　海外旅行（2）
第 15 週:　全般的な復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JE0068A71
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068A73
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068A74
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068A75
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な総合教材を使用し、基本的なボキャブラリーや文法の習得を図り、「読む、書く、聞く、話す」という四技能の活用力を育成します。扱われているテーマはどれも日常的なものであり、単語・文法問題演習、リスニング、音読、会話練習などを通じて、身の回りの物事を英語でどう表現すればよいのか学んでいきましょう。		
教材（テキスト）	Mark D. Stafford, Chizuko Tsumatori, Kozue Matsui 著 English Insight: An Integrated Approach to Language Learning （センゲージ・ラーニング） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教材（その他）	音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解するためのコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。		
準備学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講者への要望

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

講義の順序とポイント

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/From My Heart to Yours 「贈り物」
　　文法事項「代名詞」
第二回：To Be or Not To Be 「国籍とアイデンティティ」
　　文法事項「be 動詞」
第三回：Too Many Calories? 「食習慣」
　　文法事項「名詞」
第四回：Life With a Roommate 「寮生活」
　　文法事項「冠詞と限定詞」
第五回：I'll Take a Vacation! 「休暇」
　　文法事項「一般動詞」
第六回：How Is The Weather? 「気候」
　　文法事項「疑問文」
第七回：Did You Do The Dishes? 「家事」
　　文法事項「過去時制」
第八回：I'm Going to College 「学生生活」
　　文法事項「進行形」
第九回：Have You Ever Had a Job? 「就職活動」

文法事項「現在完了」
第十回：She Had Been Great! 「表彰」
文法事項「過去完了」
第十一回：How is Christmas Celebrated? 「クリスマス」
文法事項「受動態」
第十二回：Do You Want to Take Some Time Off? 「長期休暇の過ごし方」
文法事項「不定詞」
第十三回：I Can Drive! 「運転免許」
文法事項「助動詞 can, will」
第十四回：Where Would You Like to Go? 「ドライブ旅行」
文法事項「助動詞 could, would」
第十五回：小テスト解説・総復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2017	授業コード	JE0068A76
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068A77
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかりながら、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにしていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成し、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力を身につける。 このクラスでは、元々の意味とは違う意味で日本人が用いている「英語」本来の意味や表現を学ぶことを契機として、各種の演習を行い、大学基礎レベルでの英語力の強化を図っていく。		
教材（テキスト）	Mark Thompson & Toshihiro Tanioka、Say It Right in English（『ネイティブが気になる日本人の英語』）、英宝社、1,900 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	1．出版社ホームページより CD 音声を各自ダウンロードし、再生して活用すること。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、その“Passage”の CD 音声を聴いた後、何十回も音読する。 3．CD 音声を聴き、 “Listening Comprehension”の問題を解く。 4．“Writing Exercise”の 1～3 の問題を解く。 5．「ミニ英会話」の CD 音声を聴き、A または B になり切って対話練習を行う。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Mansion、be 動詞
2．Unit 2: Repeater、動詞①（現在）
3．Unit 3: Talent、動詞②（過去、未来）
4．Unit 4: Service、助動詞
5．Unit 5: OL & Businessman、進行形
6．Unit 6: Challenge、受動態
7．中間課題（Unit 7: Claim、現在完了）
8．Unit 8: Manner Up、不定詞
9．Unit 9: I Cut My Hair、比較①
10．Unit 10: Hearing & Listening、比較②

11. Unit 11: Rent & Borrow、関係代名詞
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel、形容詞と副詞
13. Unit 13: Customer, Guest, Client、分詞と動名詞
14. 期末課題（Unit 14: Pay, Wage, Salary、前置詞）
15. Unit 15: Cost, Price, Fee, fare、否定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068A78
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語 A」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかりながら、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにしていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を養成し、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力を身につける。 このクラスでは、元々の意味とは違う意味で日本人が用いている「英語」本来の意味や表現を学ぶことを契機として、各種の演習を行い、大学基礎レベルでの英語力の強化を図っていく。		
教材（テキスト）	Mark Thompson & Toshihiro Tanioka、Say It Right in English（『ネイティブが気になる日本人の英語』）、英宝社、1,900 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たおて 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	1．出版社ホームページより CD 音声を各自ダウンロードし、再生して活用すること。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、その“Passage”の CD 音声を聴いた後、何十回も音読する。 3．CD 音声を聴き、 “Listening Comprehension”の問題を解く。 4．“Writing Exercise”の 1～3 の問題を解く。 5．「ミニ英会話」の CD 音声を聴き、A または B になり切って対話練習を行う。		

受講者への要望

1．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
2．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
3．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

1 回の授業で 1 unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Mansion、be 動詞
2．Unit 2: Repeater、動詞①（現在）
3．Unit 3: Talent、動詞②（過去、未来）
4．Unit 4: Service、助動詞
5．Unit 5: OL & Businessman、進行形
6．Unit 6: Challenge、受動態
7．中間課題（Unit 7: Claim、現在完了）
8．Unit 8: Manner Up、不定詞
9．Unit 9: I Cut My Hair、比較①
10．Unit 10: Hearing & Listening、比較②

11. Unit 11: Rent & Borrow、関係代名詞
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel、形容詞と副詞
13. Unit 13: Customer, Guest, Client、分詞と動名詞
14. 期末課題（Unit 14: Pay, Wage, Salary、前置詞）
15. Unit 15: Cost, Price, Fee, fare、否定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068A79
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068A80
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068A81
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行います。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著.『続・世界の常識』　（Learn the Differences, Broaden Your World）（朝日出版社） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書など		
教材（その他）	授業中に音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、ほぼ毎回の授業で、前回の授業で学んだ内容についての小テストを、各授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
   文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
   文法：基本文型（１）―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry （洗濯物ってどこに干す？）
   文法：基本文型（2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付けの書き方）
   文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
   文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
   文法: 時制（2）--進行形、完了形
7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)
   文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? （何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？）
   文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)

文法: to 不定詞

10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）

文法: 受動態

11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）

文法: 分詞／数・量を表す形容詞

12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）

文法: 接続詞／分詞構文

13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）

文法: 原級／比較級／最上級

14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）

文法: 関係代名詞／関係副詞

15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）

文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068A82
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	この授業では、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	Nobumichi Kawada 著 Learn the Differences, Broaden Your World.『続・世界の常識』（朝日出版社） その他プリント教材 参考文献 英和、和英、英英辞書など		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。日本文化の紹介を通して比較文化の視点と英語力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

次の各項目を、約 1 回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Given Name First Is Not the Rule in Many Places (間違えない名前の呼び方)
　　文法：4 つの品詞とその働き／前置詞
2. Unit 2: New Year's Day （欧米の新年、アジアの新年）
文法：基本文型 (1) ―第 1 文型～第 3 文型／形容詞
3. Unit 3: Laundry（洗濯物ってどこに干す？）
 文法：基本文型 (2)--第 4 文型、第 5 文型
4. Unit 4: How do you write the date? （日付の書き方）
 文法：疑問文／付加疑問文
5. Unit 5: The Sakura of Washington D. C. (ワシントンの桜)
文法：時制（1）―現在、過去、未来／句と節
6. Unit 6: A Global Beauty Standard? (世界的な美の基準ってあるの？)
文法: 時制（2）--進行形、完了形

7. Unit 7: Crosswalks (横断歩道)

文法: 助動詞
8. Unit 8: Forks, Chopsticks or Hands? (何を使って食べる？ フォーク、お箸それとも手で食べる？)
文法: 動名詞／副詞
9. Unit 9: A Friendly Way to Greet Foreigners (挨拶のやり方って奥深い！？)
文法: to 不定詞
10.Unit 10: A Life of School Uniforms and School Lunches （世界の給食と制服）
文法: 受動態
11.Unit 11: Japanese Animation Heros Have Fans All Over the World （日本のアニメは世界で人気！）
文法: 分詞／数・量を表す形容詞
12.Unit 12: American Work Hours and Overtime （アメリカの労働時間）
文法: 接続詞／分詞構文
13.Unit 13: The Globalization of Christmas （クリスマスの祝い方いろいろ）
文法: 原級／比較級／最上級
14.Unit 14: Do You Have to Stop Working When You Have Kids? （女性と仕事）
文法: 関係代名詞／関係副詞
15.Unit 15: Do People's Names Change after Marriage? （婚姻後の女性の名前）
文法: 仮定法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068B03
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	多くの人が関心を持つ食文化や食べ物に関する英文を読み、基礎的なリーディング力、語彙力、ライティング力をつける。また Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞することもある。		
教材（テキスト）	Fiona Wall Minami　他 A Taste of English: Food and Fiction　フィクションにみる食文化　朝日出版社 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目
テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。
Chapter 1 の Grammar&Vocabulary は進む予定なのでやっておいてもらいたい。
以下各回の内容を記すが、授業の進度・課は変わることがある。
２回目
Chapter1　Harry Potter and Chocolate Frogs　本文、他の練習問題

３回目
Chapter2　Peter Rabbit and Pie　　語彙・文法
Chapter 3　Mrs. Rabbit and Herb Tea　　語彙・文法と本文

４回目
Chapter 3　本文残りと他の練習問題
Chapter 4　Winnie-the-Pooh and Honey　語彙・文法と本文

５回目
Chapter 4　本文残りと他の練習問題
Chapter5　 Daddy-Long-Legs and Ice Cream の語彙・文法と本文

６回目
Chapter 5　本文残りと他の練習問題
Chapter 6　Kenji Miyazawa and Tomatoes の語彙・文法と本文

７回目

Chapter 6 の本文残りと他の練習問題

８回目
Chapter 1-6 の復習と理解度テスト

９回目
Chapter 9　East of Eden and Lettuce　 Chapter9 の語彙・文法と本文

１０回目
Chapter 9 の本文残りと他の練習問題
Chapter 10 Laura and Cheese-Making on the Prairie の語彙・文法と本文

１１回目
Chapter 10 の本文残りと他の練習問題
Chapter 11　Breakfast and Tiffany's の語彙・文法と本文

１２回目
Chapter11 の本文残りと他の練習問題
Chapter 12 "Mujina" and "Soba"の語彙・文法と本文

１３回目
Chapter12 の本文残りと他の練習問題
Chapter 13 Bridget Jones and Dieting の語彙・文法と本文

１４回目
Chapter 13 の本文残りと他の練習問題

１５回目
Chapter　８－１３の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JE0068B51
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 Ⅰ」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経済学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
   Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068B52
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画のその場面を味わいながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力及び英作力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。初めは４章「かもめ食堂」をやるので、P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半
３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半
４回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
５回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
６回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　前半
７回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　後半
８回目　　chapter 1,2,4 の復習と理解度テスト
９回目　　Chapter 5　The Road Home　前半
１０回目　Chapter 5　The Road Home　後半
１１回目　Chapter 6　Notting Hill　前半
１２回目　Chapter 6　Notting Hill　後半
１３回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 前半
１４回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 後半
１５回目　chapter 5,6,10 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JE0068B53
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画のその場面を味わいながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力及び英作力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講者への要望			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。初めは４章「かもめ食堂」をやるので、P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。 ２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半 ３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半 ４回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半 ５回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半 ６回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada 前半 ７回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada 後半 ８回目　　chapter 1,2,4 の復習と理解度テスト ９回目　　Chapter 5　The Road Home　前半 １０回目　Chapter 5　The Road Home　後半 １１回目　Chapter 6　Notting Hill 前半 １２回目　Chapter 6　Notting Hill 後半 １３回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 前半 １４回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 後半 １５回目　chapter 5,6,10 の復習と理解度テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JE0068B62
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
講義概要	総合英語Ｉ を発展させた形で授業を行い、＜読む・書く・聞く・話す＞４技能の基礎力をさらに向上させる。 １．３５０語程度の英文を読んで、リーディング力を強化する。 ２．語彙の意味、T/F 問題、応答問題、１００語程度の要約文を通して、本文の内容理解度を確認する。 ３．本文と関連のある英文を完成することで、ライティング力を補強する。 ４．１００語程度の TOEIC 形式の空所補充問題で、リーディングの基本的な表現を確認する。 ５．本文と関連のある１００語程度の会話文で、リスニング力を強化する。 ６．補足説明で内容の理解を深める。 ７．文法の確認をする。		
教材（テキスト）	English Indicator 3 <Intermediate>　南雲堂　2,160 円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度・発表・小テスト・課題などによる平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となる。（３分の２以上の出席があれば、必ず合格するという意味ではない。）		
到達目標	英語の声（もちろん日本語の声も）を自信をもって出す。		
準備学習	テキストの英文を音読・熟読し、単語の意味と発音を調べる。		
受講者への要望			
積極的な学習態度で授業に参加する。テキストとノート、筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・他科目の課題作業などは厳禁。積極的に質問してほしい。発音・音読の際には、声を出してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. College Sports―母音と子音１ 2. Hip Hop Music―母音と子音２ 3. Travel―母音と子音３ 4. Video Games―内容語と機能語１ 5. Recycling―内容語と機能語２ 6. Fast Food―内容語と機能語３ 7. Extreme Weather―省エネ発音１ 8. Medical Tourism―省エネ発音２ 9. Advertising―省エネ発音３ 10. Business Travel―分詞と文分け１ 11. E-commerce―分詞と文分け２ 12. Coffee Shop―分詞と文分け３ 13. Robots―復習１ 14. SNS―復習２ 15. Skyscrapers―まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JE0068B63
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（テキスト）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る15日間の旅』金星堂. 1900円.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教材（その他）	必要に応じて音声CDを使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこ　れは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068B64
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 Ⅰ」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこれは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
　Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068B65
科目名	総合英語B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
講義概要	この授業では比較的平易な総合教材を使用し、ボキャブラリーや文法事項を学習して「読む、書く、聞く、話す」という四技能の活用力を育成します。各課で扱われる事項は少しずつ難易度が上がりますが、それらを一つずつ習得することで、徐々に発展的な内容を英語で伝えられるようになりましょう。		
教材（テキスト）	Michael Hood, Takako Moroi 著 World in Motion: Life in the 21st Century （金星堂） その他プリント教材		
教材（参考文献）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教材（その他）	音声 CD を用います。		
評価方法	レポート課題 70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	ボキャブラリーや文法事項の確認や補強をして、英語の基礎固めを行います。自分の考えを英語でまとめ、表現する能力や、相手が英語で伝える内容を理解する能力を身につけることを目標とします。		
準備学習	毎回、授業で扱った範囲に関する短いレポート課題を出します。学んだことを十分に復習した上で、テキストを参考にしながら書いて、提出してください。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講者への要望

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

講義の順序とポイント

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
毎回、授業内容に関するレポート課題を出題します。

第一回：イントロダクション/University Lifestyles
　　文法事項「類似と対照を表す時に使われる談話標識」「比較表現の使い方(1)」
第二回：Career Choices
　　文法事項「助動詞 will, can, may の使い方」「名詞・代名詞を修飾する関係代名詞 who の使い方」
第三回：Telecommuting
　　文法事項「直接話法の使い方」「間接話法の使い方」
第四回：Slow Food
　　文法事項「That で始まる名詞節」「Wh で始まる疑問文」
第五回：The Lost Art of Conversation
　　文法事項「命令文の使い方」「not only A but also B の使い方」
第六回：See You in Cyberspace!
　　文法事項「同格表現の使い方」「条件を提示する If 節の使い方」
第七回：Love in the Virtual World
　　文法事項「過去の習慣を表す would の使い方」「副詞（句）の使い方」
第八回：The Wonderful World of English(es)
　　文法事項「There 構文（～がある・いる）の使い方」「as の基本的な用法」
第九回：The Wisdom of Crowds
　　文法事項「動詞の後に用いる動名詞と不定詞の使い方」「比較表現の使い方(2)」

第十回：Be a Critical News Consumer
文法事項「仮定法過去の使い方」「可算名詞と不可算名詞の使い方」
第十一回：What's Your Carbon Footprint?
文法事項「動詞句の使い方」「間接目的語の使い方」
第十二回：Ecotourism
文法事項「冠詞（a/ the）の使い方」「受動態の使い方」
第十三回：Authentic Happiness
文法事項「数を表す単位の使い方」「数量を表す表現の使い方」
第十四回：Volunteerism & Philanthropy
文法事項「some と any の複合語の使い方」「even if / unless の使い方」
第十五回：Rethinking Retirement
文法事項「現在完了形（主語＋have /has ＋過去分詞）4 つの使い方」「形容詞になった過去分詞と現在分詞の使い方」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	JE0068B66
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
講義概要	「総合英語 Ⅰ」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかります。		
教材（テキスト）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English (『英語で学ぶやさしい経済学』) 英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考文献）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。 その他授業中に指示します。		
教材（その他）	音声 CD を使用します。		
評価方法	授業内テスト(小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
準備学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは語彙、文法問題を含みます。		

受講者への要望

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。　　テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機　　能を授業中に使用することはできません。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。

1. Introduction / 授業の紹介
　Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics (経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済)
2. Unit 2 Money (金)
3. Unit 3　Banks (銀行)
4. Unit 4　Supply and Demand (需要と供給)
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates (為替相場)
7. Unit 7　The Stock Exchange (株式取引)
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）
9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession　（バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade　（保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage　（比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2017	授業コード	JE0068B72
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068B73
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068B74
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068B75
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。毎回の授業終了前に確認テストを実施します。合格点に達しない、または欠席してテストを受けられなかった場合は課題を提出しなければなりません。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　90 点 授業出席、参加度等総合評価　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。
・意味を理解した後でテキストの音読を 5 回行います。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1：　Lions
第　3 週:　Unit 2：　Ramen
第　4 週:　Unit 3：　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4：　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5：　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6：　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7：　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8：　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9：　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JE0068B76
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	中村　晴香	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ⅰ」を継承、発展させた形で授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる習得を図り、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させることを目指し、受講生への課題、発表を含む演習を実施する。「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解できる力をさらに向上させることを目指す。		
教材（テキスト）	[ISBN]978-4-7647-4000-6　Let's Check Out the UK!　(Paul Chris McVay、川田伸道,　金星堂)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	辞書（電子辞書可）を持参してください。 その他授業中に適宜指示します。		
評価方法	授業内テスト 60%、課題・授業への参加状況 40%により総合的に評価します。 なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	海外と日本の文化的違いを理解する。長文読解に必要な文法の知識を身につけ、活用できる語彙や表現を増やす。		
準備学習	事前に指定された範囲を予習し、指定された宿題は次回の講義開始時に提出してください。		

受講者への要望

１、初回の授業までにテキストを購入し、授業にはテキストと辞書を必ず持参してください。
２、授業は計画通り進めるので、予習をして授業に臨んでください。
３、第１回目の授業を除き、授業はじめに終了ユニットの小テストを行います。(授業進度によって変更あり）しっかり復習してください。
４、遅刻や欠席をしないように心掛け、課題の提出期限は守ってください。
５、授業時間外の学習にも積極的に取り組んでください。

講義の順序とポイント

以下の各項目を約１回の授業で学習します。

Day1: I Can't Wait to Explore Britain!
Day2: How about Going to a Pub?
Day3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't it?
Day4: What Do You Suggest We Do Today?
Day5: This Is a Multi-Ethnic Country
Day6: What's It Like Being a Student in the UK?
Day7: Mmm...It Sounds Too Risky
Day8: You Should Try Fish and Chips!
Day9: It's Fun Listening to Different Accents
Day10: Do you Fancy Something Sweet?
Day11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience
Day12: I'm Looking forward to Seeing Wales!
Day13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?
Day 14: Would You Like to See a Play?
Day15: That's the　Great Thing about Travel!

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2017	授業コード	JE0068B77
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
講義概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画のその場面を味わいながら英語を学ぶ。		
教材（テキスト）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著　A Flavor of English: Cinema and Cuisine　映画で味わう食文化 ￥１，７００		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	プリントを活用して補うこともある。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、英文読解力及び英作力をつけ、食文化を通して海外の文化への理解を深める		
準備学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講者への要望

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。初めは４章「かもめ食堂」をやるので、P.20 Vocabulary を予習しておいてもらいたい。後はアンケートを取って希望の多いものを中心に授業で取り上げる予定なので、４回目以降は暫定的な計画であると理解してもらいたい。

２回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」前半
３回目　　Chapter 4　「かもめ食堂」後半
４回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半
５回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半
６回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　前半
７回目　　Chapter 2　The Devil Wears Prada　後半
８回目　　chapter 1,2,4 の復習と理解度テスト
９回目　　Chapter 5　The Road Home　前半
１０回目　Chapter 5　The Road Home　後半
１１回目　Chapter 6　Notting Hill　前半
１２回目　Chapter 6　Notting Hill　後半
１３回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 前半
１４回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory 後半
１５回目　chapter 5,6,10 の復習と理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JE0068B78
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	
講義概要	リスニング、リーディングパートを通して音声と文字を結び付ける活動を行います。意味内容の把握、音読、インテイク、プレアウトプットという一連の語学活動を通して、短い期間での学習ではありますが第 2 言語習得理論における成功体験を味わっていただきます。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	必要に応じて授業で指示します。		
教材（その他）	音声 CD(教室用)		
評価方法	出席は全授業回数の 3 分の 2 以上必要です。 （上記出席数がない場合は 59 点以下で不合格となります。） 毎回授業中に行う確認テストの合計点　90 点 授業出席、参加度等、総合的判断　　10 点 合計：　100 点満点		
到達目標	本文全体の音読を繰り返すことによりテキストを暗唱に近づけ、本文の再生、クローズテスト等の授業内活動により表現の定着を促進します。テキストの表現を内在化することにより将来に役立つ英語の基礎を構築します。毎回の授業終了後に確認テストを行います。合格点に達しなかった場合、欠席した場合は課題を提出しなければいけません。		
準備学習	・次週の内容をあらかじめ目を通してください。 ・毎回授業開始直後に行われる復習テストの用意をしてください。 ・単語テスト、クローズテスト等の授業内活動の復習テストの用意をしてください。		

受講者への要望

・授業の進行を円滑に行うために必ず辞書を持参してください。
・学生の中には内気な人もいるかと思いますが、英語はコミュニケーションです。
是非自分だけではなくクラスメートの技能向上のために授業内活動に積極的に参加してください。
・意味を理解した後で 5 回の音読を行います。

講義の順序とポイント

第　1 週：　授業の進め方とその説明
第　2 週:　Unit 1 :　Lions
第　3 週:　Unit 2 :　Ramen
第　4 週:　Unit 3 :　The Leaning Tower
第　5 週:　Unit 4 :　A Smart Dog
第　6 週:　Unit 5 :　Twenty-First Century Books
第　7 週:　Unit 6 :　Valentine's Day
第　8 週:　Unit 7 :　The Taj Mahal
第　9 週:　Unit 8 :　A Computter Problem
第 10 週:　Unit 9 :　The Mobius Band
第 11 週:　Unit 10 : A Long Weekend
第 12 週:　Unit 11 : Breakfast in America
第 13 週:　Unit 12 : The World Cup
第 14 週:　Unit 13 : Blood Types
第 15 週:　Unit 17 : Studying Abroad ,　全般的な復習
（Unit 14,15,16,18,19,20 については自宅学習用とする。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JE0068B79
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068B80
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教材（その他）			
評価方法	出席など授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
準備学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講者への要望

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

講義の順序とポイント

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JE0068B81
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
講義概要	「総合英語Ａ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ａ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、日本の名所や文化、行事などを外国人に紹介する実践的な英語を題材として演習を行い、４技能の基礎力をさらに高めていく。		
教材（テキスト）	Carolyn Wright et al.、Hospitality English（『おもてなしの観光英語』）、三修社、1,800 円		
教材（参考文献）	英和辞典などの英語の辞書（英語学習には不可欠）		
教材（その他）	ハンドアウト（プリント教材）類		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
準備学習	１．教科書に記載のサイトより音声ファイルを（無料）ダウンロードし、再生して活用する。 ２．次回授業で取り扱う Lesson を確認し、音声を聴いた後、その"Reading"を何十回も音読する。 ３．次に"T/F"の問題に答えておく。 ４．さらに"Exercises 1-3"の問題にも答えておく。		

受講者への要望

１．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
２．英検や TOEIC などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。
３．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。

講義の順序とポイント

１回の授業で１lesson を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。 進捗状況によっては一部変更することもある。

１．演習概要と評価方法に関する説明、Lesson 1: An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!
２．Lesson 2: Preparations for the 2020 Olympic Games in Tokyo
３．Lesoon 3: Do You Like to Watch Kabuki?
４．Lesson 4: The Sapporo Snow Festival
５．Lesson 5: Hiraizumi as the Buddhist Pure Land
６．Lesson 6: Yokohama Port
７．中間課題（Lesson 7: Mt. Fuji）
８．Lesson 8: Omi Province and Its Military History
９．Lesson 9: The Deer in Nara
10．Lesson 10: Kyoto Sation
11．Lesson 11: Let’s Explore Osaka
12．Lesson 12: Port City Kobe: A Phoenix Rises

13. Lesson 13: Sand Dunes in Tottori
14. 期末課題（Lesson 14: The Atomic Bomb Dome）
15. Lesson 15: Dazaifu

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2017	授業コード	JE0071004
科目名	基礎英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 1		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学前にしていた文法書の持ち込みを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況など授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	基本的な英文法を取得することで、英文を正しく理解することができるようにし、今後の英語学習の一助となるようにします		
準備学習	常に指定した教材を持ち歩き、バスや電車を待っている間などの隙間時間を利用して英語の学習をするように心がけてください。授業で配布するプリントでどの箇所を予習、復習すべきかはその都度指示します。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、受講者のレベルによって変更することもあります。

1. 授業の説明、英語の基本―動詞
2. 過去から未来へ―時制
3. 動詞のオシャレを演出―助動詞
4. 脇役じゃないの！―名詞
5. 豊かな表現力の持ち主―形容詞
6. どっちがお好き？最も好きなのは？―比較級
7. 愛されるよりも愛されたい―受動態
8. ここまでの復習、演習
9. バラエティーに富む会話のために―不定詞と動名詞
10. 英語にあって日本語にないもの―現在完了
11. 確認させて！―付加疑問文と間接疑問文
12. 英語の達人への道―関係代名詞
13. 形容詞のようになる！―現在分詞
14. ここまでの復習、演習
15. 定期試験に向けての復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JE0072002
科目名	基礎英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic English 2		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	正確に英文を把握するためには単語力だけでなく、文法事項をしっかり理解しておくことが不可欠です。本講義では大量に実践問題やプリント教材を用いた英作問題に取り組みます。さらに、自宅学習用に課題プリントを毎回配布するので、宿題としてこなして提出して頂きます。継続して英語に触れることにより、今後の英語学習のために英文法の基礎固めを完成させ、TOEIC や英検といった資格検定突破へとつながるようにします。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	特に指定しませんが、大学入学以前に利用していた文法書を持ち込むことを勧めます。		
教材（その他）	英和辞典必携。ポケットサイズの辞書は不向きです。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞書　第３版』(大修館書店)。それ以外であっても高校時代に利用していた辞書が本講義で活用できる場合があるので、新規購入する前に手持ちの辞書を担当者に見せてください。電子辞書の利用は認めますが、携帯電話やタブレットなど通信機能のついた電子機器の辞書機能の利用は禁止します。		
評価方法	出席状況などによる授業での取り組み 15%、課題プリント 20%、定期試験 65%で評価、なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなければ 59 点以下の不可とします。		
到達目標	高等学校レベルの英文法を中心に英語の基礎固めをすることを目標とします。		
準備学習	毎時間ごとにプリント教材の予習、復習の箇所を指摘し、宿題プリントを配布するのでそれらをこなすようにしてください。教材は常に持ち歩き、バスや電車を待つ間など隙間時間を見つけて英語に目を通すようにしてください。		

受講者への要望

授業では英和辞典必携。受講態度をしっかり確立するのは学生の仕事です。英語学習には継続的な努力が必要です。授業はトレーニングの場ですから学生にどんどん当てていきます。どうしても失敗したり、他の学生と英語力を比較してしまいがちになると思いますが、自分の英語の向上だけを考えて取り組むようにしてください。失敗の数だけ、粘った分だけ身につくもの、それが英語です。また、プリント教材が多いので管理を徹底してください。

講義の順序とポイント

以下の内容を原則として１回の授業で完結するようにしますが、学生のレベルによって変わることがあるのでその都度指示を聞くようにしてください。

1.まずは基本文型の把握を―第 2 文型、第 5 文型
2.十人十色―第 1 文型、第 3 文型、第 4 文型、様々な動詞
3.過去から未来に架ける橋―時制
4.ここまでの復習、演習
5.縁の下の力持ち―助動詞
6.マイペース主義者―不定詞
7.似て非なるもの―動名詞と分詞
8.比べてみない？―比較級①
9.比べてみない？―比較級②
10.バカにされてもほめられても―受動態
11.ここまでの復習、演習
12.詳細は後ほど―関係詞①
13.詳細は後ほど―関係詞②
14.オバケの世界―仮定法①
15.オバケの世界―仮定法②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	★★	−	★

年度	2017	授業コード	JH0004A01
科目名	入門ドイツ語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語 A s
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めた出席平常点（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方とドイツについて
2　発音の基礎
3　単語の発音とあいさつ
4　自己紹介
5　趣味
6　天候
7　時刻と数字
8　隣席の人に声をかけてみる
9　隣席の人に質問してみる
10　名詞の性
11　これはいくらですか
12　コーヒーを 1 杯
13　何がほしいですか
14　何ができますか
15　駅で道を尋ねる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JH0004A02
科目名	入門ドイツ語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語 A s
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めた出席平常点（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方とドイツについて
2　発音の基礎
3　単語の発音とあいさつ
4　自己紹介
5　趣味
6　天候
7　時刻と数字
8　隣席の人に声をかけてみる
9　隣席の人に質問してみる
10　名詞の性
11　これはいくらですか
12　コーヒーを 1 杯
13　何がほしいですか
14　何ができますか
15　駅で道を尋ねる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JH0004A03
科目名	入門ドイツ語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語 A s
講義概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。政治的動向にも、世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし実際にドイツの地に赴き、現地の人と深く交流するには、言葉の学習は不可欠でしょう。英語以外の言語を学習することは、文化の多様性に気付くきっかけにもつながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	独和辞典は授業初日に紹介しますが、自分にあうものを各自購入してください。		
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めた出席平常点（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方とドイツについて
2　発音の基礎
3　単語の発音とあいさつ
4　自己紹介
5　趣味
6　天候
7　時刻と数字
8　隣席の人に声をかけてみる
9　隣席の人に質問してみる
10　名詞の性
11　これはいくらですか
12　コーヒーを 1 杯
13　何がほしいですか
14　何ができますか
15　駅で道を尋ねる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JH0004B01
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	「ドイツ語Ⅰ」を春学期に学習して、ドイツ語の発音の基礎が身についている学生を対象にした授業です。春学期に引き続き、ドイツ文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。様々なドイツ語の質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めた出席平常点（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

【注意】このクラスは、「ドイツ語Ⅰ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　春学期の復習：動詞の発音と命令
2　春学期の復習：名詞の発音と「もっているか」
3　あなたのおじいちゃんはお元気ですか
4　どこにいるの
5　バスで行きます
6　レストランへ行きます
7　何を食べますか
8　塩をとって
9　2 階に何があるの
10　パーティを手伝って
11　プレゼントをあげましょう
12　ドイツに行ったことはありますか
13　何を食べましたか
14　楽しかった
15　また行く気はありますか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JH0004B02
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	「ドイツ語Ⅰ」を春学期に学習して、ドイツ語の発音の基礎が身についている学生を対象にした授業です。春学期に引き続き、ドイツ文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。様々なドイツ語の質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めた出席平常点（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

【注意】このクラスは、「ドイツ語Ⅰ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　春学期の復習：動詞の発音と命令
2　春学期の復習：名詞の発音と「もっているか」
3　あなたのおじいちゃんはお元気ですか
4　どこにいるの
5　バスで行きます
6　レストランへ行きます
7　何を食べますか
8　塩をとって
9　2 階に何があるの
10　パーティを手伝って
11　プレゼントをあげましょう
12　ドイツに行ったことはありますか
13　何を食べましたか
14　楽しかった
15　また行く気はありますか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JH0004B03
科目名	入門ドイツ語ｆ	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語Ａｆ
講義概要	「ドイツ語Ⅰ」を春学期に学習して、ドイツ語の発音の基礎が身についている学生を対象にした授業です。春学期に引き続き、ドイツ文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。様々なドイツ語の質問にドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。それが、この授業の到達目標です。		
教材（テキスト）	羽根田知子・熊谷知実共著　『ネコと学ぶドイツ語』　（三修社、2015 年）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）			
評価方法	語学は積み重ねが大切なので、毎時間小テストを実施して、前回の授業内容が身についているかどうか確認します。小テスト並びに口頭発表を含めた出席平常点（60%）。加えて学期最終回の内容確認テスト（40%）。		
到達目標	異文化を理解すること。そのために必要なドイツ語の知識と学習法を身につけ、外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得する。		
準備学習	授業時間内に覚えた表現を、自宅で声にだしながら復唱すること。CD を聴きながら、正しい発音を確認すること。この授業は毎時間、前回授業の復習＆小テストから入ります。		

受講者への要望

語学は積み重ねが大事。特に新しく学ぶ言語であるドイツ語は、1 回休むとついてくるのが大変になります。とにかく毎時間出席して、その日の課題であるドイツ語表現を積極的に覚えてください。毎回出席すれば、半年後には驚くほど、ドイツ語表現力が身についているはずです。

【注意】このクラスは、「ドイツ語Ⅰ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としているので、ご注意ください。

講義の順序とポイント

1　春学期の復習：動詞の発音と命令
2　春学期の復習：名詞の発音と「もっているか」
3　あなたのおじいちゃんはお元気ですか
4　どこにいるの
5　バスで行きます
6　レストランへ行きます
7　何を食べますか
8　塩をとって
9　2 階に何があるの
10　パーティを手伝って
11　プレゼントをあげましょう
12　ドイツに行ったことはありますか
13　何を食べましたか
14　楽しかった
15　また行く気はありますか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JH0007A01
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JH0007A02
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JH0007A03
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JH0007A04
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JH0007A05
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JH0007A06
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象に、韓国語の文字や発音、文の構造を理解することによって、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養います。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく。）となりますが、一方的な講義とはならず、学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行きます。また、画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）， 課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅡを引き続き履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2 回　第 1 課　ハングルの母音
3 回　第 2 課　ハングルの子音
4 回　第 3 課　ハングルの濁り音、母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
5 回　第 4 課　激音（子音）とバッチムの演習
6 回　第 5 課　濃音（子音）とバッチムの演習
7 回　第 6、7 課　感謝の表現とバッチム演習
8 回　第 8 課　疑問詞と名詞文の演習
9 回　第 9、10 課　謝罪の表現と自己紹介（１）
10 回　第 11 課　日付
11 回　第 12、13 課　自己紹介（２）
12 回　第 13、14 課　好みの表現と名詞文の否定
13 回　第 15 課　（??形）の練習
14 回　第 16、17 課　年齢の言い表し方と丁寧なニュアンスを加える助詞～?/??
15 回　第 18 課　否定の表現と逆接の接続語尾（～??）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JH0007B0A
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	ハングル（Ⅰ）に引き続き、韓国語の文字や発音、文の構造などを学び、その理解を通じて、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指します。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます）、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定です。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、 978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、 あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての 基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅠを履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．第 1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2．第 2 回　母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
3．第 3 回　バッチムと発音の法則
4．第 4 回（??形）の練習と数詞
5．第 5 回　過去表現と数詞
6．第 6 回　尊敬形（1）
7．第 7 回　尊敬形（2）
8．第 8 回　希望と羅列の表現
9．第 9 回　理由の表現
10．第 10 回　意志と推量の表現
11　第 11 回　助詞のまとめ
12. 第 12 回　仮定と条件の表現
13　第 13 回　意志、意向、許可、禁止の表現
14　第 14 回　丁寧な依頼と助言の表現
15　第 15 回　不可能と理由、原因の表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JH0007B0B
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	ハングル（Ⅰ）に引き続き、韓国語の文字や発音、文の構造などを学び、その理解を通じて、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指します。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます）、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定です。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、 978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、 あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての 基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅠを履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．第 1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2．第 2 回　母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
3．第 3 回　バッチムと発音の法則
4．第 4 回（??形）の練習と数詞
5．第 5 回　過去表現と数詞
6．第 6 回　尊敬形（1）
7．第 7 回　尊敬形（2）
8．第 8 回　希望と羅列の表現
9．第 9 回　理由の表現
10. 第 10 回　意志と推量の表現
11　第 11 回　助詞のまとめ
12. 第 12 回　仮定と条件の表現
13　第 13 回　意志、意向、許可、禁止の表現
14　第 14 回　丁寧な依頼と助言の表現
15　第 15 回　不可能と理由、原因の表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JH0007B0C
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	ハングル（Ⅰ）に引き続き、韓国語の文字や発音、文の構造などを学び、その理解を通じて、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指します。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます）、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定です。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、 978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、 あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての 基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅠを履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．第 1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2．第 2 回　母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
3．第 3 回　バッチムと発音の法則
4．第 4 回（??形）の練習と数詞
5．第 5 回　過去表現と数詞
6．第 6 回　尊敬形（1）
7．第 7 回　尊敬形（2）
8．第 8 回　希望と羅列の表現
9．第 9 回　理由の表現
10．第 10 回　意志と推量の表現
11　第 11 回　助詞のまとめ
12. 第 12 回　仮定と条件の表現
13　第 13 回　意志、意向、許可、禁止の表現
14　第 14 回　丁寧な依頼と助言の表現
15　第 15 回　不可能と理由、原因の表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JH0007B0D
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
講義概要	ハングル（Ⅰ）に引き続き、韓国語の文字や発音、文の構造などを学び、その理解を通じて、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指します。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます）、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定です。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介していきます。		
教材（テキスト）	『コミュニケーション韓国語、聞いて話そう』Ⅰ長谷川由起子著、白帝社、2012 年、 978-4-86398-086-0		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業時に教材(プリント)を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、小テストによる平常点 30%、学習到達確認 50%（定期試験、筆記）課題および発表 20%、2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	①朝鮮語の文字と発音をマスターする。 ②入門レベルの韓国語の知識を身につけ、読み書きできるようになることと、 あいさつなどの決まり文句を使いこなし、最終的には自己紹介や日常生活においての 基本的な事柄についての簡単な質疑応答ができるようにする。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。		

受講者への要望

必ず単語帳を作ること。外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。
できるだけ欠席しないようにすること。
そして、朝鮮半島の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと
ハングルⅠを履修することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．第 1 回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2．第 2 回　母音の復習と重母音・子音の復習と激音と濃音
3．第 3 回　バッチムと発音の法則
4．第 4 回（??形）の練習と数詞
5．第 5 回　過去表現と数詞
6．第 6 回　尊敬形（1）
7．第 7 回　尊敬形（2）
8．第 8 回　希望と羅列の表現
9．第 9 回　理由の表現
10．第 10 回　意志と推量の表現
11　第 11 回　助詞のまとめ
12. 第 12 回　仮定と条件の表現
13　第 13 回　意志、意向、許可、禁止の表現
14　第 14 回　丁寧な依頼と助言の表現
15　第 15 回　不可能と理由、原因の表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JH0010A01
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JH0010A02
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		
受講者への要望			
1） 授業への積極的な参加を期待しています。 2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。 3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。			
講義の順序とポイント			
01. はじめに 02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1 03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説） 04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3 05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2 06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説） 07. Lecon 03 名前・住所について-2 08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説） 09. Lecon 04 所有-1 10. Lecon 04 所有-2 11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説） 12. Lecon 05 好み・嗜好について-1 13. Lecon 05 好み・嗜好について-2 14. Lecon 05 好み・嗜好について-3 15. 春学期内容確認、達成度確認テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2017	授業コード	JH0010A03
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 各課終了後に小テストを行うので、授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
3） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3
15. 春学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	−	★

年度	2017	授業コード	JH0010B01
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2
14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2017	授業コード	JH0010B02
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2
14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2017	授業コード	JH0010B03
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
講義概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現をすることを目指します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（テキスト）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税		
教材（参考文献）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、達成度確認テスト（30%）		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
準備学習	1） 事前に指定された範囲に目を通し、わからない単語は前もって意味を調べておくこと。 2） 授業開始時に小テストを行うことがあるので、前回の授業で学んだ例文・単語を覚えておくこと。		

受講者への要望

1） 春学期内容を継続して学習します。
2） 授業への積極的な参加を期待しています。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

講義の順序とポイント

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2
14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説）
15. 秋学期内容確認、達成度確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2017	授業コード	JH0013A03
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
講義概要	この講義では中国語の初習者に初級レベルの教育を行う。発声の仕方、ピンインの読み方、基本文型を学び、運用能力を身につける。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。 「中国語 f」も引き続き履修することが望ましい。		
教材（テキスト）	塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、コミュニケーションに必要な語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回のための復習と予習ポイントを指示する。		

受講者への要望

恥ずかしがらずに声に出して練習しましょう。遅刻や私語を厳禁とする。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方、発音、簡単な会話
2．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
3．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4．ピンイン、人称代名詞など
5．発音基礎、第１課　「是」など
6．発音基礎、第１課　「請」など
7．発音基礎、第２課　否定文など
8．総合練習、第２課　「的」など
9．会話、第３課　形容詞述語文など
１０．会話、第３課　疑問詞など
１１．会話、第４課　量詞など
１２．会話、第４課　数詞など
１３．会話、第５課　在、想、要
１４．会話、第５課　場所指示代名詞
１５．総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2017	授業コード	JH0013A05
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
講義概要	この講義では中国語の初習者に初級レベルの教育を行う。発声の仕方、ピンインの読み方、基本文型を学び、運用能力を身につける。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。 「中国語 f」も引き続き履修することが望ましい。		
教材（テキスト）	塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、コミュニケーションに必要な語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回のための復習と予習ポイントを指示する。		

受講者への要望

恥ずかしがらずに声に出して練習しましょう。遅刻や私語を厳禁とする。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方、発音、簡単な会話
2．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
3．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4．ピンイン、人称代名詞など
5．発音基礎、第１課　「是」など
6．発音基礎、第１課　「請」など
7．発音基礎、第２課　否定文など
8．総合練習、第２課　「的」など
9．会話、第３課　形容詞述語文など
１０．会話、第３課　疑問詞など
１１．会話、第４課　量詞など
１２．会話、第４課　数詞など
１３．会話、第５課　在、想、要
１４．会話、第５課　場所指示代名詞
１５．総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	-	★	★	-	-

年度	2017	授業コード	JH0013A06
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		
受講者への要望			
大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。			
講義の順序とポイント			
1.授業の進め方、発音、簡単な会話 2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣 3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情 4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など 5.発音基礎、第 1 課「是」など 6.発音基礎、第 1 課「請」など 7.発音基礎、第 2 課否定など 8.総合練習、第 2 課「的」など 9.会話、第 3 課　形容詞述語文など 10.会話、第 3 課　疑問詞など 11.会話、第 4 課　量詞など 12.会話、第 4 課　数詞など 13.会話、第 5 課　在、想、要 14.会話、第 5 課　場所指示代名詞 15.総合練習、自己紹介の練習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JH0013A07
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など
5.発音基礎、第 1 課「是」など
6.発音基礎、第 1 課「請」など
7.発音基礎、第 2 課否定など
8.総合練習、第 2 課「的」など
9.会話、第 3 課　形容詞述語文など
10.会話、第 3 課　疑問詞など
11.会話、第 4 課　量詞など
12.会話、第 4 課　数詞など
13.会話、第 5 課　在、想、要
14.会話、第 5 課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JH0013A08
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など
5.発音基礎、第 1 課「是」など
6.発音基礎、第 1 課「請」など
7.発音基礎、第 2 課否定など
8.総合練習、第 2 課「的」など
9.会話、第 3 課　形容詞述語文など
10.会話、第 3 課　疑問詞など
11.会話、第 4 課　量詞など
12.会話、第 4 課　数詞など
13.会話、第 5 課　在、想、要
14.会話、第 5 課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JH0013A09
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
講義概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など
5.発音基礎、第 1 課「是」など
6.発音基礎、第 1 課「請」など
7.発音基礎、第 2 課否定など
8.総合練習、第 2 課「的」など
9.会話、第 3 課　形容詞述語文など
10.会話、第 3 課　疑問詞など
11.会話、第 4 課　量詞など
12.会話、第 4 課　数詞など
13.会話、第 5 課　在、想、要
14.会話、第 5 課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JH0013B0C
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語能力のレベルアップを図り、基本文型を学ぶとともに場面に応じて中国語会話を練習する。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。基本的な文法事項を運用し、簡単な日常会話をマスターする。		
教材（テキスト）	塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、コミュニケーションに必要な語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回のための復習と予習ポイントを指示する。		

受講者への要望

恥ずかしがらずに声に出して練習しましょう。遅刻や私語を厳禁とする。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方、第６課　「有」など
2．第６課　助数詞など
3．第７課　時刻など
4．第７課　時間の長さなど
5．第８課　「了」など
6．第８課　選択疑問文など
7．第９課　前置詞など
8．総合練習、第９課　「給」など
9．会話、第１０課　助動詞など
10．会話、第１０課　動詞の重ね用法など
11．会話、第１１課　量詞など
12．会話、第１１課　「去」、「来」など
13．会話、第１２課　「是～的」など
14．会話、第１２課　質問練習
15．総合練習、会話練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	★	-	-

年度	2017	授業コード	JH0013B0E
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語能力のレベルアップを図り、基本文型を学ぶとともに場面に応じて中国語会話を練習する。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。基本的な文法事項を運用し、簡単な日常会話をマスターする。		
教材（テキスト）	塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、コミュニケーションに必要な語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回のための復習と予習ポイントを指示する。		

受講者への要望

恥ずかしがらずに声に出して練習しましょう。遅刻や私語を厳禁とする。

講義の順序とポイント

1．授業の進め方、第６課　「有」など
2．第６課　助数詞など
3．第７課　時刻など
4．第７課　時間の長さなど
5．第８課　「了」など
6．第８課　選択疑問文など
7．第９課　前置詞など
8．総合練習、第９課　「給」など
9．会話、第１０課　助動詞など
10．会話、第１０課　動詞の重ね用法など
11．会話、第１１課　量詞など
12．会話、第１１課　「去」、「来」など
13．会話、第１２課　「是～的」など
14．会話、第１２課　質問練習
15．総合練習、会話練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	★★	★	-	-

年度	2017	授業コード	JH0013B0F
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	★★	★	–	–

年度	2017	授業コード	JH0013B0G
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
講義概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（テキスト）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考文献）	授業中に適宜に指示します。		
教材（その他）	適宜プリントを配布します。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。		
準備学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講者への要望

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

講義の順序とポイント

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JM0003A0A
科目名	日本語応用Ａ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0003A0B
科目名	日本語応用Ａ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）他		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説や新聞等を日頃から読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　第１０課　応用①
12　第１１課～応用②
13　近代短編小説他
14　近代短編小説他
15　近代短編小説他

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0003A0C
科目名	日本語応用Ａ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説を読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0003A0D
科目名	日本語応用Ａ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
講義概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（テキスト）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考文献）	近代短編小説（芥川龍之介全集）他		
教材（その他）	日本語に関するビデオやＤＶＤの鑑賞。		
評価方法	出席状況等の平常点（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
準備学習	日本の短編小説や新聞等を日頃から読んでおくこと。		

受講者への要望

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　第１０課　応用①
12　第１１課～応用②
13　近代短編小説他
14　近代短編小説他
15　近代短編小説他

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0004B0A
科目名	日本語応用Ｂ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	JM0004B0B
科目名	日本語応用Ｂ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.全体的な復習 2、試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	JM0004B0C
科目名	日本語応用Ｂ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.グループワーク 4、全体的な復習 2、小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2017	授業コード	JM0004B0D
科目名	日本語応用Ｂ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（テキスト）	プリント教材を使用する。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
準備学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.グループワーク 4、全体的な復習 2、小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2017	授業コード	JM000600A
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	プリント配布		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成・小テスト３０％、試験４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文１
7　正しい構造の文２
8　文のつながり
9　小論文によく使われる表現１
１０　小論文によく使われる表現２
１１　段落構成
１２　引用と要約
１３　意見文を書く１
１４　意見文を書く２
１５　小論文を書く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JM000600B
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	留学生に対して中級以上の作文力を養成することを目的とする。具体的にはテキストの練習問題を通じて基本を学び、毎回、小作文を実際に書いてもらうことによって応用力をつける。論文やエッセイ、手紙文といった多様な形式をカバーする。		
教材（テキスト）	小論文作成の１２のステップ　スリーエーネットワーク		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の小作文の累積評価と授業への貢献度		
到達目標	様々な作文の様式を理解し、それぞれ場合によって使い分けられるようになること。		
準備学習	各章のテクストをよく読み、練習問題を事前にやっておくこと。解らない言葉は辞書をひいておくこと。		

受講者への要望

身近な日本語に関する疑問があれば授業で披露してほしい。みんなで考えましょう。

講義の順序とポイント

①挨拶と自己紹介に役立つ作文術（その一）：講義、小作文作成
②挨拶と自己紹介に役立つ作文術（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
③論理的な文章を書くために（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
④論理的な文章を書くために（その二）：、前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑤「起承転結」を使った小論文の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑥「起承転結」を使った小論文の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑦図表を使った小論文の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑧図表を使った小論文の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑨書簡文の書き方（その一、私信）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑩書簡文の書き方（その二、ビジネスレター）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑪履歴書の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑫履歴書の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑬日本語の翻訳文作成に関する注意：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑭日本語の翻訳文作成に関する注意：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑮自分の未来についての展望を語る：前回の課題の講評、小作文作成、口頭発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	-

年度	2017	授業コード	JM000600C
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	留学生に対して中級以上の作文力を養成することを目的とする。具体的にはテキストの練習問題を通じて基本を学び、毎回、小作文を実際に書いてもらうことによって応用力をつける。論文やエッセイ、手紙文といった多様な形式をカバーする。		
教材（テキスト）	小論文作成の１２のステップ　スリーエーネットワーク		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の小作文の累積評価と授業への貢献度		
到達目標	様々な作文の様式を理解し、それぞれ場合によって使い分けられるようになること。		
準備学習	各章のテクストをよく読み、練習問題を事前にやっておくこと。解らない言葉は辞書をひいておくこと。		

受講者への要望

身近な日本語に関する疑問があれば授業で披露してほしい。みんなで考えましょう。

講義の順序とポイント

①挨拶と自己紹介に役立つ作文術（その一）：講義、小作文作成
②挨拶と自己紹介に役立つ作文術（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
③論理的な文章を書くために（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
④論理的な文章を書くために（その二）：、前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑤「起承転結」を使った小論文の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑥「起承転結」を使った小論文の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑦図表を使った小論文の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑧図表を使った小論文の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑨書簡文の書き方（その一、私信）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑩書簡文の書き方（その二、ビジネスレター）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑪履歴書の書き方（その一）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑫履歴書の書き方（その二）：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑬日本語の翻訳文作成に関する注意：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑭日本語の翻訳文作成に関する注意：前回の課題の講評、講義、小作文作成
⑮自分の未来についての展望を語る：前回の課題の講評、小作文作成、口頭発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	-

年度	2017	授業コード	JM000600D
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
講義概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（テキスト）	プリント配布		
教材（参考文献）	随時指示する。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成・小テスト３０％、試験４０％。		
到達目標	レポート、論文作成のための基礎力を固める。		
準備学習	新聞や雑誌を読んで、さまざまなテーマに関心を持ち、自分の意見を伝えることができるようにすること。		

受講者への要望

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

講義の順序とポイント

1　ガイダンス　作文の基本
2　表記の仕方
3　文体１
4　文体２
5　モードチェンジ
6　正しい構造の文１
7　正しい構造の文２
8　文のつながり
9　小論文によく使われる表現１
１０　小論文によく使われる表現２
１１　段落構成
１２　引用と要約
１３　意見文を書く１
１４　意見文を書く２
１５　小論文を書く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JM0008002
科目名	キャリアベーシックトレーニング	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Basic Training		
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
講義概要	この科目は、本学のキャリア形成支援講座の１つとして開講されます。この講座は、就職に必要な基礎能力の修得を目標にしています。中でも、「読み書き（ビジネス文書)」と「計算・計数・数学的思考」能力の修得が、本講座の目的です。 前半の文書表現では、事務・営業職の職務に必要な文書の知識について、後半の数学・数的処理の基礎では、計算方法、数学的な思考方法や知識について勉強します。		
教材（テキスト）	初回の授業内で指定します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）　到達度確認テスト・定期試験（70%）		
到達目標	・ビジネス文書の約束事や役割を理解している。 ・誤字・脱字に加え、文章表現の妥当性についてチェックし、適切な修正ができる。 ・不定型の文書（企画書等）を論理立てて作成できる。 ・3 桁程度の四則計算（分数、少数を含む）が正確にできる。 ・演繹的・帰納的な手法を用いて数学的・論理的に順序立てて考えることができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲を提示するので、復習と予習をしておくこと。		

受講者への要望

この科目は、各自のキャリア形成のための科目です。 明確な目的意識を持って受講することを望みます。
就職活動において自己アピールするための大きな材料になりますので、多くの学生がチャレンジすることを望みます。

講義の順序とポイント

1　文書表現①（文書によるコミュニケーション）
2　文書表現②（ビジネス文書作成の要領）
3　文書表現③（文書作成実務　1）
4　文書表現④（文書作成実務　2）
5　文書表現⑤（企画書を作成する）
6　文書表現⑥（郵送の実務）
7　文書表現⑦（長文を読む）
8　文書表現⑧（復習と到達度の確認）
9　数学・数的処理の基礎①（分数・小数の計算）
10　数学・数的処理の基礎②（計算の工夫、割合）
11　数学・数的処理の基礎③（原価計算、仕事算）
12　数学・数的処理の基礎④（年齢算、鶴亀算）
13　数学・数的処理の基礎⑤（速度算）
14　数学・数的処理の基礎⑥（濃度算）
15　数学・数的処理の基礎⑦（資料、推論）
（定期試験　数学・数的処理の基礎）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	JM0009001
科目名	コミュニケーション・スキル	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication Skill		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
講義概要	「コミュニケーション・スキル」は、人生を送る上で非常に大切なスキルである。「コミュニケーション」は人と人をつなぐものであり、「コミュニケーション力」は、私たちの生活を充実したものにしてくれる。大学では、専門分野の勉強をするだけでなく、卒業後、社会に貢献すべく教養を深め、人や情報との付き合い方など、さまざまなことを学ぶ場でもある。授業では、これから社会へ出ていくにあたり、ビジネスシーンで必要とされるコミュニケーションの考え方やスキルの基礎を中心に進めていく。知識を身に付けるよりも現実の場で活用できるよう参加型のトレーニングを予定している。		
教材（テキスト）	特に使用しない。毎回、レジュメ・資料を配布する。また、必要があれば、その都度指示する。		
教材（参考文献）	大学１年生からのコミュニケーション入門　中野美香著　ナカニシヤ出版 キャリアデザインワーク　プロフェッショナル社会人　稲本恵子・白井弘子・中村真典著　ホルス出版		
教材（その他）			
評価方法	授業中に出すミニレポートや受講態度、課題レポートで総合的に評価する。 授業中ミニレポート 30%、受講態度３0%、課題提出 40%		
到達目標	・相手に、自分の考えや意見などを失礼がないよう、伝わるように話すことができる。 ・他者の話をしっかりきくことができる。 ・相手との信頼関係を築くことができる。		
準備学習	授業で学んだことを　次回までに　学生生活の場で（大学で、アルバイト先で、友達と一緒の場でなど）アウトプットし、復習をし、身に付けるよう心がけること。		

受講者への要望

学生同士、学生と教員との間での主体的なコミュニケーションを期待する。
私語や受講態度については厳しく対応する。場合によっては退出を求めることもある。
主体的に大人としての行動・態度・言葉づかいを取ること。
コミュニケーションは実践することで身につくので、必ず授業以外の場で実践すること。
遅刻や早退、休みなど、理由を求めることもある。

講義の順序とポイント

第１回　　オリエンテーション～大学生とコミュニケーション～
第２回　　自己のコミュニケーションチェック
第３回　　第一印象
第４回　　言語・非言語
第５回　　言葉使い（敬語）
第６回　　表現方法
第７回　　話の聞き方・メモの取り方
第８回　　質問する
第９回　　チームワーク
第１０回　ディスカッション
第１１回　スピーチ・プレゼンテーション
第１２回　通信手段
第１３回　電話対応
第１４回　報告・連絡・相談
第１５回　振り返りと自己のコミュニケーションの評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JM0010A01
科目名	ジェンダー論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society A		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｓ
講義概要	テーマ「セクシュアリティとジェンダー」 　ジェンダーとは、女性／男性の性の違いを、生物学的本質的な差異ととらえるのではなく、この社会の構成秩序のうちに体系づけられた構築的なものとして、認識する概念である。授業では、ジェンダー論の考え方を学び、既存の社会通念の検証、ジェンダーに関わる理論や具体的事象へのアプローチを通して、ジェンダーの規範性、政治性を問い、また、その構築性や当事者性を確認する。ジェンダー論Ａでは、セクシュアリティの問題を扱うので最前線の話題も含み、時事問題に関心を向けたり、ポップな文化現象も扱いながら、授業を進める。		
教材（テキスト）	テキストは、使用しない。随時、プリント資料を配布する。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜紹介する。		
教材（その他）	随時配布するテキスト資料やＡＶ資料。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝(50%) 定期試験(50%)		
到達目標	ジェンダー、セクシュアリティについて、生得的、宿命的なものとして捉える既存の社会通念の呪縛を解き、社会の構成自体をクリティカルに読み解く理解力、思考力を養う。各人が自らの尊厳を重視し、他者への理解を深め、自他ともに幸福に生きるためには、どのような社会が目指されるべきなのかを考察できるようになること。		
準備学習	授業内でのレポートや小テストには、予め、課題や範囲等を指定する場合があるので、準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポートなどの提出物は、きちんとした文字と文章を心がけること。雑な文字・文章は評価しない。
・オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。
・社会通念や偏見にとらわれないで、事象を相対化し、自分で思考する態度を望みます。

講義の順序とポイント

1.　導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．ジェンダーの表象、表現、社会通念についての考察
３．性自認を考える
４．性自認と法
５．性的指向
６．性的対象選択と婚姻制度
７．恋愛と性と結婚を考える
８．性分化をめぐる事象（１）
９．性分化をめぐる事象（２）
１０．性分化をめぐる事象（３）
１１．性と生殖（１）
１２．性と生殖（２）
１３．人権としてのジェンダー・セクシュアリティ
１４．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（１）
１５．ジェンダー・セクシュアリティの現在と課題（２）
＊上記授業テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢やトピックスによって、調整・変更を行う場合があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0010B01
科目名	ジェンダー論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society B		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｆ
講義概要	テーマ「歴史、家族、労働、暴力などの事象をジェンダーで読み解く」 　この社会は、女性／男性の二元的構成で秩序づけられ、様々な制度や制度を支える意識も、この二元的構成すなわちジェンダーに基づいている。 　授業では、戦後の男女平等政策の変遷について、人権意識や男女の関係性、家族の問題をトピックを立てて検証する。そして、私たちが日常生活で直面する様々な場面とジェンダー・システムとの関連を把握する。また、歴史的な流れを理解し、今後に向けて、私たちが幸福な暮らしを実現するためにはどのような社会が構築されるべきなのか、ジェンダーにセンシティブな視点を養いつつ、社会への問題意識を喚起する。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。随時、資料を配布。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜、紹介。		
教材（その他）	授業内で配布するテキスト資料と、ＡＶ資料。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝（50%） 定期試験（50%）		
到達目標	現在の社会問題の諸相が、ジェンダー問題と深く関わっている事実を理解し、女性も男性も誰もが生き生きと幸福に生きられる社会とは何であるのかを、深く考察する姿勢と力を養う。		
準備学習	授業内で行うレポートや小テストについては、事前に課題、範囲を提示する場合があるので、その際には準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポート、ミニテストなどの提出物は、文字、文章を丁寧に書くこと。雑な提出物は評価しない。
・オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。自分に惹きつけてよく考えられたレポートは意義深いものであり、高く評価される。
・社会通念や思い込みを排し、柔軟な思考や発想を持って、テーマと向き合うことを望みます。

講義の順序とポイント

１．　導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．　男性観、女性観をめぐって、マスメディアにおける表象、社会通念を検証
３．戦後の男女同権
４．高度経済成長期におけるジェンダー
５．性別特性論（１）
６．性別特性論（２）
７．ジェンダーと暴力（１）
８．ジェンダーと暴力（２）
９．ジェンダーと暴力（３）
１０．高度経済成長期以降のジェンダー政策
１１．国際的取り組みとジェンダー
１２．労働とジェンダー（１）
１３．労働とジェンダー（２）
１４．男女共同参画政策
１５．ジェンダー問題の現状と課題

上記授業テーマの配列は、授業の進度や時事的な話題等の状況に応じて、調整・変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0012001
科目名	ビジネス実務論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Practical Business		
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
講義概要	信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまなビジネスシーンにおいて適切な行動ができるようになることを目指す。 また、就職活動においてプラスになるようビジネスマナーを学び、好感の持てる外見・動作・行動を身に付ける。 加えて、時事問題を題材に、タイムリーなビジネス業界のあり方を知る。		
教材（テキスト）	水原道子編著『ビジネスとオフィスワーク』 樹村房 1900 円		
教材（参考文献）	秘書検定２級問題集（受験希望者）		
教材（その他）	１．ビデオ教材を使用 ２．適宜プリントを配布		
評価方法	１．授業内プリントによる平常点　10% ２．授業内小テストによる提出物　20% ３．各章の確認課題　70% 以上３点による総合評価とする		
到達目標	社会人として、常識のある話し方ができ、態度や行動も含め、好感度の高いコミュニケーションが取れる人物となることを目指す。 また、就職活動に活用できるよう、ビジネス用語・時事用語を積極的に学ぶ。		
準備学習	講義終了時に、講義内容に付随する資料を配布するので、解答を記入し、次回に必ず持参すること。 ニュースや新聞等で興味ある時事問題を収集しし、的確に話せるようにまとめておく。		

受講者への要望

受講にあたっては、必ずテキスト「ビジネスとオフィスワーク」を持参すること

講義の順序とポイント

１．ガイダンス…授業の概要及び受講ルール
２．企業とビジネス活動…ビジネス界の動き
３．学生と社会人…それぞれの立場の違い
４．ビジネス業務と組織…協働の精神と社会人のルール
５．接遇の重要性…挨拶と第一印象の大切さ
６．接遇(1)・・・ビジネスシーンにおける対応
７．接遇(2)・・・敬語と話し方
８．応対の基本Ⅰ…電話に関する基本マナー
９．応対の基本Ⅱ…訪問に関する基本マナー
10．冠婚葬祭Ⅰ…常識としての冠婚葬祭マナー(1)
11．冠婚葬祭Ⅱ…常識としての冠婚葬祭マナー(2)
12．ファイリングⅠ…ファイリングシステムについて
13．ファイリングⅡ…ファイリングの実際
14．クレーム対応…クレーム処理の原則
15．心構え…ビジネスパーソンとしての知識と行動

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JM0012002
科目名	ビジネス実務論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Practical Business		
担当者名	中山　順子	旧科目名称	
講義概要	信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまなビジネスシーンにおいて適切な行動ができるようになることを目指す。 また、就職活動においてプラスになるようにビジネスマナーを学び、好感を与える外見、立ち居振る舞いや言葉遣いを身に付ける。加えて、時事問題を題材にして、タイムリーなビジネス社会を知る。		
教材（テキスト）	水原道子　編著　『ビジネスとオフィスワーク』　（株）樹村房　1,900 円		
教材（参考文献）	秘書検定 2 級　実問題集（秘書検定の受検希望者）		
教材（その他）	1．DVD 教材を使用 2．適宜、プリントを配布		
評価方法	1．授業中に配付するプリントの実施、および実務演習参加による平常点　30% 2．各章の課題、または確認テスト　70% 以上の 2 点による総合評価とする		
到達目標	社会人として、常識のある話し方ができ、態度や行動も含め、好感度の高いコミュニケーションが取れることを目指す。 また、就職活動に活用できるよう、ビジネス用語・時事用語を積極的に学ぶ。		
準備学習	講義内容に付随する資料を配付するので、解答を記入し、次回授業に必ず持参すること。 ニュースや新聞などで興味ある時事問題を収集し、的確に説明ができるようにまとめておくこと。		

受講者への要望

・授業には、必ずテキスト『ビジネスとオフィスワーク』を持参すること。
・講義（テキストの各章）の区切りごとに、DVD 視聴による知識の確認、実務演習、確認テストを実施する。
・授業の開始と終了時には、起立し、普通礼、最敬礼の挨拶を行う。
・欠席、遅刻の場合、その理由を求める。
・勝手な私語を禁止する。黙って話を聞く、話すべきときには話す、適切に切り替えができるように意識すること。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス　授業の概要と受講ルールの説明
2．企業とビジネス活動 1　会社の仕組みと経営組織
3．企業とビジネス活動 2　株式制度
4．企業とビジネス活動 3　仕事の基本、社会人のルール
5．接遇の重要性　あいさつと第一印象の大切さ
6．接遇 1　敬語と話し方
7．接遇 2　敬語と話し方
8．応対の基本 1　電話に関する基本マナー
9．応対の基本 2　訪問に関する基本マナー
１０．応対の基本 3　電話、訪問、応対業務実務演習
１１．冠婚葬祭 1　冠婚葬祭マナー、慶弔の知識①
１２．冠婚葬祭 2　冠婚葬祭マナー、慶弔の知識②
１３．冠婚葬祭 3　冠婚葬祭マナー、実務演習
１４．伝言メモ・案内の返信　実務演習
１５．総括・確認テスト　ビジネスパーソンの心構え、知識と行動

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	–	–	–	★

年度	2017	授業コード	JM0015A01
科目名	フィールドワーク京都（歴史と文化）A	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (History & Culture) A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回終了時に課すレポートにより評価する。		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となること。		
準備学習	探訪先について、事前に文献等で調査しておくことが望ましい。		

受講者への要望

授業には交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

講義の順序とポイント

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　　月日　　4 月 15 日（土）
集合場所　京都学園大学京町家キャンパス
集合時間　午前９時
探訪場所　午前中は京都御所を見学。午後は時代装束の研究と展示を行う風俗博物館を見学。
費用　　風俗博物館は入館料 300 円が必要。

第二回　　月日　　5 月 13 日(土)
集合場所　東山七条の京都国立博物館正門前
集合時間　午前１０時
探訪場所　京都国立博物館　開館 120 周年特別展　「海北友松」
費用　　入館料 1000 円

第三回　　月日　　6 月１７日（土）
集合場所　未定（追って指示する）
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　比叡山延暦寺
費用　　交通費。拝観料が必要な場合もある。

なお、各回とも学生証を必ず持参すること。
また、この授業では学生諸君から最大 3000 円は徴収が可能になっている。ちなみに昨年度は補助費のみでまかなえた。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JM0015B01
科目名	フィールドワーク京都（歴史と文化）B	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (History & Culture) B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	各回終了時に課すレポートにより評価する。		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となること。		
準備学習	探訪先について、事前に文献等で調べておくことが望ましい。		

受講者への要望

授業には、交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

講義の順序とポイント

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　月日　　11 月 4 日（土）
集合場所　百万遍交差点南東角
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　京大総合博物館　京大構内　相国寺承天閣美術館　同志社構内
費用　　交通費　博物館美術館入館料が必要。

第二回　月日　　12 月 2 日（土）
集合場所　京町家キャンパス
集合時間　午前 9 時
探訪場所　黒谷金戒光明寺～黒谷会津藩士墓地～真如堂～泉屋博古館
費用　　泉屋博古館は拝観料が必要。

第三回　月日　　2018 年 1 月 20 日（土）
集合場所　京都太秦キャンパス図書館内コモンズスペース
集合時間　8 時 50 分
探訪場所　午前は宇治市源氏物語ミュージアム。午後は平等院をめぐる。
費用　　源氏物語ミュージアムは入館料 500 円、平等院は庭園・宝物館・阿弥陀堂見学に 900 円が必要。

なお、各回、学生証を必ず持ってくること。
また、この授業では、学生諸君から最大 3000 円の徴収が可能となっている。ちなみに、昨年度は補助費でまかなえた。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0016A01
科目名	マスコミ論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、情報化社会において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらに報道されたニュースの分析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを教材として取り上げるので、一般企業に就職を希望する学生にとっても、一般常識を養うのに大いに役立たせたいと考えています。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布に加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、ジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を中心とした講義を熱心に聞くことを望みます。それは、就職の際にきっと役に立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞やテレビ報道を分析します。評価方法については、出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内で実施する「小テスト」2 回（(計 60%）です。		
到達目標	現代社会で起きている様々な事象の意味を理解し、それに対する見解、バランスのとれた批判力を養うのが目標です。つまり、それは社会常識の構築にもつながります。この社会常識なくして一人前の社会人にはなれないわけで、それに必要不可欠な基礎知識を身に付けてほしい。それと併せて、民主社会の構成員に求められる問題意識や議題設定能力を磨いてほしい。それを学習することによって就職など進路面で大いに役立つと思われる。		
準備学習	教科書と事前に配布した資料によって予習、復習を完全に行ってください。また、マスコミ論の授業は日々のニュースについてその意味を考え、分析、解説も行いますので、出来るだけテレビニュースや新聞記事を読むようにしてください。新聞社のウェブサイトでニュース記事を閲覧しておくのも一案です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1.「マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）を詳しく読んでおいてください。 ２.「わが国における新聞の誕生と新聞業界の発展過程」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「新聞の未来」（7 ページ～20 ページ）をよく読んで、事実関係を把握しておいてください。 ３.「朝日・読売など全国紙・地方紙の現状」については、事前に配布した資料と教科書の「新聞に未来はあるか」（7 ページ～20 ページ）を読んで予習しておくこと。 ４.「テレビの登場とその社会的影響力」については、第 II 部「テレビメディア」（47 ページ～80 ページ）全体を一通り目を通しておくこと。 ５.「キャスターニュースの登場と主役たち」については、教科書の「ニュースキャスター」（81 ページ～86 ページ）を読んで専門用語を理解しておくこと。 ６.「テレビニュース革命とニュースの大衆化」については、配布資料に加えて、教科書の「ニュース革命」（49 ページ～53 ページ）を読んでおくこと。 ７.「ニュースステーションとニュース戦国時代」については、教科書の「ニュースステーションの誕生」（54 ページ～59 ページ）を詳細に読んで経緯を理解しておいてください。 ８.「NHK 的ニュースからの転換」については、ＮＨＫのウェブサイトを閲覧してその概要を知ると同時に、教科書の「ＮＨＫ的ニュース」（60 ページ～66 ページ）を読んで理解しておくこと。 ９.「ニュースキャスターと大衆」については、事前に配布した資料とともに、教科書の「キャスターニュース」（67 ページ～73 ページ）を読んで予習しておいてください。 １０.「久米宏と筑紫哲也」については、教科書の「久米と筑紫のキャスター比較論」（97 ページ～104 ページ）を参照にしながら、事前配布の両者についての資料をよく読んで予習しておいてください。 １１.「職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率とコマーシャリズム」については、教科書の「はしがき」（ii		

	～ⅳ）と第 7 章の「視聴率至上主義」全体を一通り目を通しておいてください。 １２.「視聴率買収事件と発掘！あるある大事典Ⅱ」については、事前配布資料とデータに加えて、教科書の「視聴率至上主義」（153 ページ～159 ページ）と「虚偽で固めた生活情報番組」（160 ページ～169 ページ）をよく読んでおくこと。 １３.「ポピュリズムとメディアの選挙報道」については、事前に配布した新聞記事と教科書の「小泉劇場」（105 ページ～113 ページ）を読んで理解しておくこと。 １４.「テレビ局の選挙特番と出口調査」については、教科書の「選挙特番」（114 ページ～119 ページ）と「当確報道」（120 ページ～122 ページ）を読んで準備しておくこと。 １５.「メディアのアナウンスメント効果」については、参考資料として事前に配布した新聞記事と教科書の「投票前の新聞報道」（123 ページ～126 ページ）を読んで予習しておいてください・

受講者への要望

積極的な態度で出席することが第 1 で、遅刻や授業中の私語などはほかの人に迷惑になるので厳禁です。マスコミ報道は世の中で一体、何が起きているのか、それがどのような意味をもつのか、あるいはそれに対する賛否など重要な要素を含んでいます。このようにニュース報道を教材にしてそれを分析、思考するわけですから、出来るだけ日々の新聞やテレビニュース、雑誌などに目を通して情報感度を高めておくことが大切です。もちろん、その蓄積が就職にもつながるので、そのような意識を持つことも大事です。この授業では予習が大切で、それは「準備学習」の項をよく読んで順守してください。また、復習も大切で、それが実行されているか否
か、課題レポートも提出してもらいます。このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能
2　わが国における新聞の誕生と今日に至るまでの新聞業界の発展過程
3　朝日・読売など全国紙・地方紙の現状とその組織、そして新聞が誕生するまで
4　テレビの登場とその社会的影響力、ジャーナリズムとしてのテレビニュースの誕生
5　米国に追随した「キャスターニュース」の登場とその華やかな主役たち
6　「テレビニュース革命」によって一般化したニュース報道の大衆化
7　「ニュースステーション」はなぜ、ニュース戦国時代の最終勝利者になれたのか
8　NHK 的ニュースから視聴者本位のニュース報道への転換
9　ニュースキャスターは「大衆（視聴者）の代理人」たり得るか
１０　久米宏（テレビ出身）と筑紫哲也（新聞出身）のキャスター比較論
１１　職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率至上主義とコマーシャリズム
１２　テレビ局員による視聴率買収事件と「発掘！あるある大事典Ⅱ」の虚偽報道
１３　「小泉劇場」などポピュリズム（大衆迎合）に翻弄されるメディアの選挙報道
１４　政治ショーと化したテレビ局の「選挙特番」と出口調査による「当確」誤報道
１５　メディアの選挙報道によるアナウンスメント効果とその功罪

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0016A02
科目名	マスコミ論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、情報化社会において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらに報道されたニュースの分析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを教材として取り上げるので、一般企業に就職を希望する学生にとっても、一般常識を養うのに大いに役立たせたいと考えています。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布に加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、ジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を中心とした講義を熱心に聞くことを望みます。それは、就職の際にきっと役に立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞やテレビ報道を分析します。評価方法については、出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内で実施する「小テスト」2 回（(計 60%）です。		
到達目標	現代社会で起きている様々な事象の意味を理解し、それに対する見解、バランスのとれた批判力を養うのが目標です。つまり、それは社会常識の構築にもつながります。この社会常識なくして一人前の社会人にはなれないわけで、それに必要不可欠な基礎知識を身に付けてほしい。それと併せて、民主社会の構成員に求められる問題意識や議題設定能力を磨いてほしい。それを学習することによって就職など進路面で大いに役立つと思われる。		
準備学習	教科書と事前に配布した資料によって予習、復習を完全に行ってください。また、マスコミ論の授業は日々のニュースについてその意味を考え、分析、解説も行いますので、出来るだけテレビニュースや新聞記事を読むようにしてください。新聞社のウェブサイトでニュース記事を閲覧しておくのも一案です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業時に提出してもらいます。 1.「マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）を詳しく読んでおいてください。 ２.「わが国における新聞の誕生と新聞業界の発展過程」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「新聞の未来」（7 ページ～20 ページ）をよく読んで、事実関係を把握しておいてください。 ３.「朝日・読売など全国紙・地方紙の現状」については、事前に配布した資料と教科書の「新聞に未来はあるか」（7 ページ～20 ページ）を読んで予習しておくこと。 ４.「テレビの登場とその社会的影響力」については、第 II 部「テレビメディア」（47 ページ～80 ページ）全体を一通り目を通しておくこと。 ５.「キャスターニュースの登場と主役たち」については、教科書の「ニュースキャスター」（81 ページ～86 ページ）を読んで専門用語を理解しておくこと。 ６.「テレビニュース革命とニュースの大衆化」については、配布資料に加えて、教科書の「ニュース革命」（49 ページ～53 ページ）を読んでおくこと。 ７.「ニュースステーションとニュース戦国時代」については、教科書の「ニュースステーションの誕生」（54 ページ～59 ページ）を詳細に読んで経緯を理解しておいてください。 ８.「NHK 的ニュースからの転換」については、ＮＨＫのウェブサイトを閲覧してその概要を知ると同時に、教科書の「ＮＨＫ的ニュース」（60 ページ～66 ページ）を読んで理解しておくこと。 ９.「ニュースキャスターと大衆」については、事前に配布した資料とともに、教科書の「キャスターニュース」（67 ページ～73 ページ）を読んで予習しておいてください。 １０.「久米宏と筑紫哲也」については、教科書の「久米と筑紫のキャスター比較論」（97 ページ～104 ページ）を参照にしながら、事前配布の両者についての資料をよく読んで予習しておいてください。 １１.「職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率とコマーシャリズム」については、教科書の「はしがき」（ii		

	～ⅳ）と第 7 章の「視聴率至上主義」全体を一通り目を通しておいてください。 １２.「視聴率買収事件と発掘！あるある大事典Ⅱ」については、事前配布資料とデータに加えて、教科書の「視聴率至上主義」（153 ページ～159 ページ）と「虚偽で固めた生活情報番組」（160 ページ～169 ページ）をよく読んでおくこと。 １３.「ポピュリズムとメディアの選挙報道」については、事前に配布した新聞記事と教科書の「小泉劇場」（105 ページ～113 ページ）を読んで理解しておくこと。 １４.「テレビ局の選挙特番と出口調査」については、教科書の「選挙特番」（114 ページ～119 ページ）と「当確報道」（120 ページ～122 ページ）を読んで準備しておくこと。 １５.「メディアのアナウンスメント効果」については、参考資料として事前に配布した新聞記事と教科書の「投票前の新聞報道」（123 ページ～126 ページ）を読んで予習しておいてください・

受講者への要望

積極的な態度で出席することが第 1 で、遅刻や授業中の私語などはほかの人に迷惑になるので厳禁です。マスコミ報道は世の中で一体、何が起きているのか、それがどのような意味をもつのか、あるいはそれに対する賛否など重要な要素を含んでいます。このようにニュース報道を教材にしてそれを分析、思考するわけですから、出来るだけ日々の新聞やテレビニュース、雑誌などに目を通して情報感度を高めておくことが大切です。もちろん、その蓄積が就職にもつながるので、そのような意識を持つことも大事です。この授業では予習が大切で、それは「準備学習」の項をよく読んで順守してください。また、復習も大切で、それが実行されているか否
か、課題レポートも提出してもらいます。このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　マス・コミュニケーションとマス・メディア、ジャーナリズムの社会的機能
2　わが国における新聞の誕生と今日に至るまでの新聞業界の発展過程
3　朝日・読売など全国紙・地方紙の現状とその組織、そして新聞が誕生するまで
4　テレビの登場とその社会的影響力、ジャーナリズムとしてのテレビニュースの誕生
5　米国に追随した「キャスターニュース」の登場とその華やかな主役たち
6　「テレビニュース革命」によって一般化したニュース報道の大衆化
7　「ニュースステーション」はなぜ、ニュース戦国時代の最終勝利者になれたのか
8　NHK 的ニュースから視聴者本位のニュース報道への転換
9　ニュースキャスターは「大衆（視聴者）の代理人」たり得るか
１０　久米宏（テレビ出身）と筑紫哲也（新聞出身）のキャスター比較論
１１　職業倫理を崩壊させたテレビの視聴率至上主義とコマーシャリズム
１２　テレビ局員による視聴率買収事件と「発掘！あるある大事典Ⅱ」の虚偽報道
１３　「小泉劇場」などポピュリズム（大衆迎合）に翻弄されるメディアの選挙報道
１４　政治ショーと化したテレビ局の「選挙特番」と出口調査による「当確」誤報道
１５　メディアの選挙報道によるアナウンスメント効果とその功罪

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0016B01
科目名	マスコミ論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データに加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、プロのジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を聴いて下さい。それは、就職の際に必ず役立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞・テレビ報道を皆さんと一緒に批評します。評価方法については、出席状況等などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内に実施する「小テスト」2回(計60%)です。		
到達目標	高度情報化時代の今日、世の中で何が起きているか、それがどのような意味を持つのかを正確に理解することが目標です。また、それに対する客観的な判断力も求められます。それが社会人になるためのバランスのとれた社会常識の醸成につながるわけですが、学習の成果が将来の進路、つまり就職に生かされればと思います。		
準備学習	事前に配布した資料や新聞記事に加えて、教科書『衰退するジャーナリズム』をよく読んで充実した予習をしておいてください。それに加えて、マスコミ論の授業は日々起きている社会事象について理解と分析することが不可欠なので、毎日の新聞報道やテレビニュースはよく見ておいてください。新聞社のウェブサイトにアクセスしてニュースをチェックしておくことも大切です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業で提出してもらいます。 1.「IT革命とメディア・ビッグバン」については、事前に配布した資料と教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）、「インターネットの登場と情報環境」（3ページ～5ページ）をよく読んで予習しておいてください。 2.「電子メディアと新聞・テレビ」については、教科書の「新聞に未来はあるか」（7ページ～20ページ）全体に目を通しておいてください。 3.「インターネットの登場と情報通信革命」については、事前配布のデーター資料と教科書の「ユビキタス的環境」「消滅の危機にある新聞」などを読んで理解を深めておいてください。 4.「メディア学者・マクルーハン」については、参考文献としての『メディア論』に加えて、教科書の「グローバル・ビレッジ（地球村）の誕生」（5ページ～7ページ）をよく読んで理解を深めておいてください。 5.「消滅の危機に瀕している新聞」については、事前に配布した資料と新聞記事に加えて、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」（7ページ～20ページ）を読んでおくこと。 6.「ネット時代のメディア・ミックス」については、日経と朝日のウェブサイトを閲覧しておくと同時に、教科書の「電子新聞ビジネス」の項を読んで理解しておくこと。 7.「新旧メディアによるM&A」については、事前に配布した各種配布資料に加えて、教科書の第2章全体を読んでおくこと。 8.「メディア界に吹き荒れる再編」については、教科書の「アメリカ・メディア界の再編」「失敗に終わった世紀の合併劇」などの項を読んでおくこと。 9.「ネット時代の覇者としてのグーグル革命」については、教科書の「グーグルは時代の覇者になれるか」の項を事前に読んで理解しておくこと。 １０.「マイクロソフト・ヤフー連合とグーグル」については、事前配布の新聞記事資料と教科書の「ＭＳ・ヤフー連合はグーグルに対抗できるか」「ＭＳによるグーグル包囲網」などの項を読んでおくこと。 １１.「世界のメディア王ルパート・マードック」については、教科書の「マードックによるテレビ朝日株買収の衝撃」（27ページ～30ページ）を読んで理解しておくこと。		

	１２.「ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇」については、事前配布の資料と教科書の「最終目的はフジテレビ」「時価総額によるマネーゲーム」の項（30 ページ～33 ページ）を読んで予習しておいてください。 １３.「TBS に対する楽天の経営統合提案」については、事前配布の資料とともに、教科書の「依然として見えない通信と放送の融合」「利益追求ＶＳ公益性」の項（33 ページ～38 ページ）を読んでおくこと。 １４.「巨大メディア・コングロマリットによる世界的支配」については、事前配布のデータ資料に加えて、教科書の「24 時間専門チャンネル」「マードックの野望」「メディア帝国主義」などの項（38 ページ～46 ページ）を読んで予習しておくこと。 １５.「メディア業界への就職を希望する学生諸君のために」については、教科書の「情報化社会における知識人の役割」「大学におけるジャーナリズム研究とジャーナリスト教育」などの項（274 ページ～297 ページ）を読んで理解を深めておいてください。

受講者への要望

新聞記者歴 30 年の教員が日々のニュース分析を行うのですから、積極的、能動的に授業に出てください。また、遅刻や授業中の私語などはほかの受講生の迷惑になるので、注意すると同時に退出を求めることもあります。授業では専門用語もたくさん出ると思いますので、「準備学習」の項に従って予習をきちんと行ってください。また、復習も大切で、課題を出してレポートを書いてもらいます。世の中で一体何が起きているのか、それが私たちの生活にどのような影響を与えるのか、内外を問わず、世間で話題になっているニュース教材として取り扱うわけですから、新聞やテレビ、雑誌、そしてネットなどを駆使して情報収集をしおいてください。その結果、社会事象に対して興味と好奇心を持つ感度の高い“情報人”になることができるわけで、それがかならずや就職に役立つと思います。また、このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を受講することをお奨めします。

講義の順序とポイント

1　IT 革命と「メディア・ビッグバン」によるマス・コミュニケーション機能の変容
2　ネットなど電子メディアと新聞・テレビなど新旧メディアの葛藤
3　インターネットの登場によるユビキタス的「情報通信革命」とは何か
4　メディア学者・マクルーハンが予言していた「グローバル・ビレッジ」（地球村）の誕生
5　消滅の危機に瀕している「新聞」に果たして未来はあるのか
6　ネット時代のメディア・ミックスとしての「電子新聞」は成功するか
7　新旧メディアによる仁義なき「M&A（合併・買収）ウォーズ」の行方
8　アメリカ・メディア界に吹き荒れる「再編」の嵐
9　ネット時代の覇者として脚光を浴びる「グーグル革命」
１０　マイクロソフト・ヤフー連合によるグーグル包囲網
１１　世界のメディア王「ルパート・マードック」によるテレビ朝日株買収事件
１２　ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇とその結末
１３　TBS に対する「楽天」の経営統合提案と通信・放送の融合の困難性
１４　巨大メディア・コングロマリット（複合企業）による情報の世界的支配
１５　メディア業界への就職を希望する学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0016B02
科目名	マスコミ論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Mass Communication Theory B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」に関する新聞記事や各種データに加えて、国内・海外のテレビニュース映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	積極的に授業に出席して、プロのジャーナリストでもある私のニュース分析や解説を聴いて下さい。それは、就職の際に必ず役立つと思います。授業はテキストの理解が基本ですが、話題になっているニュースを取り上げ、それに関する新聞・テレビ報道を皆さんと一緒に批評します。評価方法については、出席状況等などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内に実施する「小テスト」2回(計60%)です。		
到達目標	高度情報化時代の今日、世の中で何が起きているか、それがどのような意味を持つのかを正確に理解することが目標です。また、それに対する客観的な判断力も求められます。それが社会人になるためのバランスのとれた社会常識の醸成につながるわけですが、学習の成果が将来の進路、つまり就職に生かされればと思います。		
準備学習	事前に配布した資料や新聞記事に加えて、教科書『衰退するジャーナリズム』をよく読んで充実した予習をしておいてください。それに加えて、マスコミ論の授業は日々起きている社会事象について理解と分析することが不可欠なので、毎日の新聞報道やテレビニュースはよく見ておいてください。新聞社のウェブサイトにアクセスしてニュースをチェックしておくことも大切です。 また、講義終了時に復習用の課題を出しますので、それを次回の授業で提出してもらいます。 1.「IT革命とメディア・ビッグバン」については、事前に配布した資料と教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）、「インターネットの登場と情報環境」（3ページ～5ページ）をよく読んで予習しておいてください。 2.「電子メディアと新聞・テレビ」については、教科書の「新聞に未来はあるか」（7ページ～20ページ）全体に目を通しておいてください。 3.「インターネットの登場と情報通信革命」については、事前配布のデーター資料と教科書の「ユビキタス的環境」「消滅の危機にある新聞」などを読んで理解を深めておいてください。 4.「メディア学者・マクルーハン」については、参考文献としての『メディア論』に加えて、教科書の「グローバル・ビレッジ（地球村）の誕生」（5ページ～7ページ）をよく読んで理解を深めておいてください。 5.「消滅の危機に瀕している新聞」については、事前に配布した資料と新聞記事に加えて、教科書の「ネット時代に新聞の未来はあるか」（7ページ～20ページ）を読んでおくこと。 6.「ネット時代のメディア・ミックス」については、日経と朝日のウェブサイトを閲覧しておくと同時に、教科書の「電子新聞ビジネス」の項を読んで理解しておくこと。 7.「新旧メディアによるM&A」については、事前に配布した各種配布資料に加えて、教科書の第2章全体を読んでおくこと。 8.「メディア界に吹き荒れる再編」については、教科書の「アメリカ・メディア界の再編」「失敗に終わった世紀の合併劇」などの項を読んでおくこと。 9.「ネット時代の覇者としてのグーグル革命」については、教科書の「グーグルは時代の覇者になれるか」の項を事前に読んで理解しておくこと。 １０.「マイクロソフト・ヤフー連合とグーグル」については、事前配布の新聞記事資料と教科書の「ＭＳ・ヤフー連合はグーグルに対抗できるか」「ＭＳによるグーグル包囲網」などの項を読んでおくこと。 １１.「世界のメディア王ルパート・マードック」については、教科書の「マードックによるテレビ朝日株買収の衝撃」（27ページ～30ページ）を読んで理解しておくこと。		

	１２.「ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇」については、事前配布の資料と教科書の「最終目的はフジテレビ」「時価総額によるマネーゲーム」の項（30 ページ～33 ページ）を読んで予習しておいてください。 １３.「TBS に対する楽天の経営統合提案」については、事前配布の資料とともに、教科書の「依然として見えない通信と放送の融合」「利益追求ＶＳ公益性」の項（33 ページ～38 ページ）を読んでおくこと。 １４.「巨大メディア・コングロマリットによる世界的支配」については、事前配布のデータ資料に加えて、教科書の「24 時間専門チャンネル」「マードックの野望」「メディア帝国主義」などの項（38 ページ～46 ページ）を読んで予習しておくこと。 １５.「メディア業界への就職を希望する学生諸君のために」については、教科書の「情報化社会における知識人の役割」「大学におけるジャーナリズム研究とジャーナリスト教育」などの項（274 ページ～297 ページ）を読んで理解を深めておいてください。

受講者への要望

新聞記者歴 30 年の教員が日々のニュース分析を行うのですから、積極的、能動的に授業に出てください。また、遅刻や授業中の私語などはほかの受講生の迷惑になるので、注意すると同時に退出を求めることもあります。授業では専門用語もたくさん出ると思いますので、「準備学習」の項に従って予習をきちんと行ってください。また、復習も大切で、課題を出してレポートを書いてもらいます。世の中で一体何が起きているのか、それが私たちの生活にどのような影響を与えるのか、内外を問わず、世間で話題になっているニュース教材として取り扱うわけですから、新聞やテレビ、雑誌、そしてネットなどを駆使して情報収集をしおいてください。その結果、社会事象に対して興味と好奇心を持つ感度の高い“情報人”になることができるわけで、それがかならずや就職に役立つと思います。また、このマスコミ論を受講する学生諸君には、全学共通で教科書も同一の関連科目「ジャーナリズム論 A・B」（福永担当）を受講することをお奨めします。

講義の順序とポイント

1　IT 革命と「メディア・ビッグバン」によるマス・コミュニケーション機能の変容
2　ネットなど電子メディアと新聞・テレビなど新旧メディアの葛藤
3　インターネットの登場によるユビキタス的「情報通信革命」とは何か
4　メディア学者・マクルーハンが予言していた「グローバル・ビレッジ」（地球村）の誕生
5　消滅の危機に瀕している「新聞」に果たして未来はあるのか
6　ネット時代のメディア・ミックスとしての「電子新聞」は成功するか
7　新旧メディアによる仁義なき「M&A（合併・買収）ウォーズ」の行方
8　アメリカ・メディア界に吹き荒れる「再編」の嵐
9　ネット時代の覇者として脚光を浴びる「グーグル革命」
１０　マイクロソフト・ヤフー連合によるグーグル包囲網
１１　世界のメディア王「ルパート・マードック」によるテレビ朝日株買収事件
１２　ライブドアによるニッポン放送・フジテレビ買収劇とその結末
１３　TBS に対する「楽天」の経営統合提案と通信・放送の融合の困難性
１４　巨大メディア・コングロマリット（複合企業）による情報の世界的支配
１５　メディア業界への就職を希望する学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0018A01
科目名	音声学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 s
講義概要	日本語の「あ」の音は５種類の音声が観察される。また日本語の「ん」の音は４種類の音が観察される。また R の音には世界で通じる R 音、ドイツ語特有の R 音、イギリスの R 音、アメリカの R 音、日本語の R 音など色々な発音の仕方がある。このように、各言語における音声と、意味を区別する音素の関係を理解し、国際音声字母(IPA)表の中の記号を見てその記号の表す音を発音できるようにする。		
教材（テキスト）	IPA 表		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	破裂音、鼻音、顫動音、弾き音、摩擦音、側面摩擦音、接近音、側面接近音などの調音法、一方、両唇、唇歯、歯、歯茎、後部歯茎、反り舌、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭などの調音点を意識して発音できるようになる。IPA の表が理解できる。		
準備学習	幼稚園、保育園時代にどんな音を出して遊んだか思い出しておく。		

受講者への要望

音声学では発音の実技を中心にする。発音が上手になるためには恥じらいを捨てて、大げさに発音する必要がある。さらに毎日の練習が必要なことがある。その覚悟を持って、忍耐強く授業に参加して欲しい。

講義の順序とポイント

１．音声学の対象
２．英語の母音と日本語の母音の大きな相違点
３．調音法
４．調音点
５．破裂音１
６．破裂音２
７．破擦音と確認小テスト
８．鼻音、弾き音
９．摩擦音…両唇～硬口蓋
１０．摩擦音…軟口蓋～喉頭
１１．側音、接近音
１２．非肺呼吸の子音
１３．第１基本母音
１４．第２基本母音
１５．基本母音以外の母音

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0018A02
科目名	音声学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics I		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 s
講義概要	日本語の「あ」の音は５種類の音声が観察される。また日本語の「ん」の音は４種類の音が観察される。また R の音には世界で通じる R 音、ドイツ語特有の R 音、イギリスの R 音、アメリカの R 音、日本語の R 音など色々な発音の仕方がある。このように、各言語における音声と、意味を区別する音素の関係を理解し、国際音声字母(IPA)表の中の記号を見てその記号の表す音を発音できるようにする。		
教材（テキスト）	IPA 表		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	破裂音、鼻音、顫動音、弾き音、摩擦音、側面摩擦音、接近音、側面接近音などの調音法、一方、両唇、唇歯、歯、歯茎、後部歯茎、反り舌、硬口蓋、軟口蓋、口蓋垂、咽頭、喉頭などの調音点を意識して発音できるようになる。IPA の表が理解できる。		
準備学習	幼稚園、保育園時代にどんな音を出して遊んだか思い出しておく。		

受講者への要望

音声学では発音の実技を中心にする。発音が上手になるためには恥じらいを捨てて、大げさに発音する必要がある。さらに毎日の練習が必要なことがある。その覚悟を持って、忍耐強く授業に参加して欲しい。

講義の順序とポイント

１．音声学の対象
２．英語の母音と日本語の母音の大きな相違点
３．調音法
４．調音点
５．破裂音１
６．破裂音２
７．破擦音と確認小テスト
８．鼻音、弾き音
９．摩擦音…両唇～硬口蓋
１０．摩擦音…軟口蓋～喉頭
１１．側音、接近音
１２．非肺呼吸の子音
１３．第１基本母音
１４．第２基本母音
１５．基本母音以外の母音

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0018B01
科目名	音声学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 f
講義概要	日本語と英語の発音の相違点に特化して発音記号を見ながら発音する実技指導する。更に、音声が両言語においてどのような素性が有意でどのような素性が無視されるのかを検証して音韻論の分野も解説する。		
教材（テキスト）	IPA 表と毎回の授業で配布するプリント。		
教材（参考文献）	1999 川越いつえ著『英語の音声を科学する』大修館書店		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	調音法と調音点を意識した発音ができるようになる。英語や日本語における母音や子音の音声と音素の違いを認識して、正確な発音ができるようになる。イギリス英語の母音１５個とアメリカ英語の母音２２個の正確な発音ができるようになる。		
準備学習	音声学Ｉを履修しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
英語や外国語の発音が上手になるには音声学を学ぶ必要があるという認識を強く持って、忍耐強く授業に参加してほしい。実技が中心となるので恥らいよりは大胆さを持って授業に臨んでほしい。さらに日々の練習が発音上手になる近道だと肝に銘じてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．音声学の対象 ２．IPA の見方…調音点 ３．IPA の見方…調音法 ４．音と文字…訓令式ローマ字表記 ５．音と文字…ヘボン式ローマ字表記 ６．音と文字…国際音声表記 ７．国際音声表記の補助記号と確認小テスト ８．子音の発音…環境による変化 ９．子音の発音…同化現象 １０．母音の発音…イギリス英語の母音 １１．母音の発音…アメリカ英語の母音 １２．意味と音…脳内における誤認識 １３．音声特徴…自然類・音節主音子音 １４．音声特徴…順行同化・逆行同化 １５．音声と音素と形態素			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JM0018B02
科目名	音声学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics II		
担当者名	楢崎　勝則	旧科目名称	音声学 f
講義概要	日本語と英語の発音の相違点に特化して発音記号を見ながら発音する実技指導する。更に、音声が両言語においてどのような素性が有意でどのような素性が無視されるのかを検証して音韻論の分野も解説する。		
教材（テキスト）	IPA 表と毎回の授業で配布するプリント。		
教材（参考文献）	1999 川越いつえ著『英語の音声を科学する』大修館書店		
教材（その他）	授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加態度等と提出物により判断する平常点３０％、期末テスト７０％。		
到達目標	調音法と調音点を意識した発音ができるようになる。英語や日本語における母音や子音の音声と音素の違いを認識して、正確な発音ができるようになる。イギリス英語の母音１５個とアメリカ英語の母音２２個の正確な発音ができるようになる。		
準備学習	音声学Ｉを履修しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
英語や外国語の発音が上手になるには音声学を学ぶ必要があるという認識を強く持って、忍耐強く授業に参加してほしい。実技が中心となるので恥らいよりは大胆さを持って授業に臨んでほしい。さらに日々の練習が発音上手になる近道だと肝に銘じてほしい。			
講義の順序とポイント			
１．音声学の対象 ２．IPA の見方…調音点 ３．IPA の見方…調音法 ４．音と文字…訓令式ローマ字表記 ５．音と文字…ヘボン式ローマ字表記 ６．音と文字…国際音声表記 ７．国際音声表記の補助記号と確認小テスト ８．子音の発音…環境による変化 ９．子音の発音…同化現象 １０．母音の発音…イギリス英語の母音 １１．母音の発音…アメリカ英語の母音 １２．意味と音…脳内における誤認識 １３．音声特徴…自然類・音節主音子音 １４．音声特徴…順行同化・逆行同化 １５．音声と音素と形態素			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	JM0021001
科目名	きもの学	単位数	2
科目名（英語表記）	Kimono Studies		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	日本の歴史と風土の中で、日常生活はもとより、公式の場、社交の場を通じて洗練されてきた民族衣装としてのきものの伝統的な形式美や、機能性、経済性を再認識するとともに、多様性に富んだ生地素材や、多彩で清新な色、織り、染め、文様、形態、仕立てなど、きものの奥深さを再発見し、きものの良さを際立たせる着付けや、美しく着こなす振る舞い、さりげなくあしらわれた小物の数々など、あくなき美の追求を嗜好するきもの世界を探ります。		
教材（テキスト）	きもの文化検定公式教本１『きものの基本』（社）全日本きもの振興会企画編集　特別価格 2000 円		
教材（参考文献）	参考図書『5・4 級、3 級対応きもの文化検定問題集」　特別価格 100 円		
教材（その他）	講師それぞれが必要に応じ現物を持ち込みます。		
評価方法	講座日ごとにレポートを提出（５０％）、最終日に試験（５０％）		
到達目標	きものに関する基本的な知識が身に付き、「きもの」を通じて日本文化への理解を深めることを目標とします。		
準備学習	「ゆかた」で良いので、一度は「きもの（和服）」を着てみることが、理解への早道です。		

受講者への要望

きものを着てみれば、なぜ世界の目が「きもの文化」に向けられているのかがわかります。

講義の順序とポイント

キャンパスプラザ京都（京都駅前）で行う夏期集中講義であることから、夏休みの期間にしっかりと取り組む意志のある学生の参加を希望します。今年度の具体的日程は、9 月 2 日（土）～9 月 9 日（土）の第 3 講時（12:40～14:10)、第 4 講時(14:30～16:00)で、月曜日はキャンパスプラザ京都が休館日のため授業はありません。最終日の 9 月 9 日（土）のみ、第 5 講時(15:20～17:50）までとなっています。

講義の順序とポイント

※1 講義の順序とポイントは、2016 年度のシラバスを掲示しています。

※2 学外の著名講師による連続講義ですので、講師の都合により変更される場合があります。

1 回	ガイダンス	「ガイダンス・きものと観光」	清水宏一
2 回	きものに親しむ	「京の着だおれ」	市田ひろみ
3 回	きものに親しむ	「きもの用語の基礎知識」	安田多賀子
4 回	きものと生活	「通過儀礼、TPO」	三宅てる乃
5 回	きものと生活	「きものの科学」	高橋裕子
6 回	きものの歴史	「きものの歴史」	馬場まみ
7 回	きものの魅力	「琉球列島の染織文化」	片岡淳
8 回	きものの魅力	「お寺の装束」	佐々木亮一
9 回	きものの魅力	「きものと日本舞踊」	西川影戀
10 回	きものができるまで	「絹の価値を未来へ」	北川幸
11 回	きものができるまで	「これからの京友禅」	保田保司
12 回	きものができるまで	「西陣職人の仕事」	野中健二
13 回	きものを長く使う	「京染悉皆」	寺村貞亮
14 回	きものの今日・明日	「京都きもの風景」	清田のり子
15 回	まとめ	「気楽にきものを着よう」	清水宏一

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JM0022001
科目名	きもの学（発展） 【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Kimono Studies Advanced		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	きものの魅力を製作の現場を訪れ、実体験します。		
教材（テキスト）	必要なもの（パンフレット等）は現場において調達します。		
教材（参考文献）	京都きものパスポート（京都府・京都市・京都商工会議所などで配布しています）		
教材（その他）	出来れば、「きもの学(夏期講座)」を受講しておいてください。 実習地までの交通費は各自の負担となります。 研修地によっては、入場料が必要な場合があります。		
評価方法	それぞれの訪問地でのレポート（５０%）、最終レポート（５０%）		
到達目標	きものを着て街を歩きましょう		
準備学習	「ゆかた」で良いので、一度、自分で着てみてください。		

受講者への要望

出来れば最終日には、「きもの（帯、襦袢、ひも、足袋、はきものを含む)」を持参してください。
持っていない人には、講師が用意します。

講義の順序とポイント

訪問先の都合と受講生の日程を確かめたうえで決定します。昨年度の実施結果を示しますので、参考にしてください。
２０１６　きもの講座（発展）日程

第１日
① 京町家Ｃ　オリエンテーション
② 京都観世会館　仕舞、能　見学
第２日
③ 千總（ギャラリー）　きものギャラリー見学
④ 伝統産業ふれあい館 伝統産業の実態/京象嵌
第３日
⑤ ジャパンスタイルＳ　きものデザイン現場
⑥ 西陣織物会館　きものショー見学
第４日
⑦ 安藤人形店　有職人形見学
⑧ 織成館　西陣織見学
第５日
⑨ 風俗博物館　日本服装史学習
⑩ 紫織庵　和装下着体験
第６日
⑪ パールトーン　耐水加工・悉皆業体験
⑫ 伊と幸　きもの生地と糸
第７日
⑬ 京町家Ｃ　きもの着付け体験
⑭ 京舞実習　踊りの所作の基本
⑮ きもの懇談会　終講式と講師懇談会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JM0023001
科目名	環境倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	地球温暖化に代表される環境問題が、しきりに議論されている。しかし、これ以上環境が悪化しないような方策の議論となると、合意に至るのは困難なようである。それもそのはずで、人間の発展繁栄への道は、破滅の危機への道でもあったにもかかわらず、繁栄への道を支えてきた自然観、国家観の基礎に働いてきた倫理に代わる、新たな倫理が未だ構築されていないからである。 本講義では、そこから環境問題が引き起こされてきた淵源にある倫理の問題点を指摘したうえで、新たな倫理を模索した代表的な人々の思想を批判的に紹介する。この講義が、新たな倫理の産屋の場になれば、と望んでいる。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料はその都度京学ナビに登録するので、講義前にプリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．環境問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる環境問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		

受講者への要望

じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。

講義の順序とポイント

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学なび確認すること。）

１．序論
２．第１章　環境倫理学の成立
　　§１　倫理学とは？
３．　§２　環境とは？
４．　§３　エマソンの思想
５．　§４　ソローの思想
６．（第１回授業内レポート）
　　エピソード１－温暖化問題から環境倫理の課題を考える－
７．第２章　環境問題の淵源－近代的自然観再考－
　　§５　環境問題の構造
８．　§６　デカルト的自然観
９．（第２回授業内レポート）
　　エピソード２　化石燃料問題－負の連鎖について－
１０．　　同上（ビデオ学習）
１１．（第３回授業内レポート）
　　エピソード３　バイオ燃料は救世主？
１２．　　同上（ビデオ学習）
１３．（第４回授業内レポート）
　　第３章　環境倫理学の展開
　　§７　「土地倫理」　－レオポルドの思想－
１４．　　同上
１５．　§８　「ディープ・エコロジー」－アルネ・ネスの思想－

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0024001
科目名	医療倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、医療倫理学成立の歴史的背景、医療倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療と関係づけて、共に考えることである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は事前に京学なびに登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．医療問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる医療問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。京学なびでその都度確認すること。）

１．序論

２．第１章　医療倫理学とは

　　§１ 倫理学とは？

３．　　同上

４．　§２　医療倫理学の成立

５．　　同上

６．　　同上

７．(第１回授業内レポート)

　第２章　医療倫理学の諸原則

　　§３　自己決定とパターナリズム

８．　§４　ＱＯＬとＳＯＬ

９．(第２回授業内レポート)

　第３章　生殖医療

　　§５　生殖医療の現状

１０．　§６　子をなす自由と子どもの出自を知る権利　（ヴィデオ学習）

１１．(第３回授業内レポート)

　第４章　臓器移植

　　§７　脳死と判定（ヴィデオ学習）

１２．　§８　「改正」臓器移植法

１３．(第４回授業内レポート)

　第５章　安楽死と尊厳死

　　§９　生死の選択？（ヴィデオ学習）

１４．　§１０　「私の」いのち？「私の」からだ？

１５．第６章　個人主義と共同体主義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0024002
科目名	医療倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、医療倫理学成立の歴史的背景、医療倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に講義する。この講義の目的は、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療と関係づけて、共に考えることである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に会わせその都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は事前に京学なびに登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（４回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が６割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	１．自らの価値判断を根拠づける思考を展開できるようになる。 ２．多面的に思考を展開できるようになる。 ３．医療問題の倫理的側面における問題性を理解できる。		
準備学習	日頃から新聞等でｔ取り上げられる医療問題に関する記事を読んでおくこと。 講義資料を事前に配布するので、講義前に目を通し問題意識を養っておくこと。 単元ごとに授業内レポートを実施するが、その際役立つように、毎回講義内容を復習し文章化しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			

（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。京学なびでその都度確認すること。）

１．序論

２．第１章　医療倫理学とは

　　§１ 倫理学とは？

３．　　同上

４．　§２　医療倫理学の成立

５．　　同上

６．　　同上

７．(第１回授業内レポート)

　第２章　医療倫理学の諸原則

　　§３　自己決定とパターナリズム

８．　§４　ＱＯＬとＳＯＬ

９．(第２回授業内レポート)

　第３章　生殖医療

　　§５　生殖医療の現状

１０．　§６　子をなす自由と子どもの出自を知る権利　（ヴィデオ学習）

１１．(第３回授業内レポート)

　第４章　臓器移植

　　§７　脳死と判定（ヴィデオ学習）

１２．　§８　「改正」臓器移植法

１３．(第４回授業内レポート)

　第５章　安楽死と尊厳死

　　§９　生死の選択？（ヴィデオ学習）

１４．　§１０　「私の」いのち？「私の」からだ？

１５．第６章　個人主義と共同体主義

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0026001
科目名	京都の文学	単位数	2
科目名（英語表記）	Literature of Kyoto		
担当者名	鎌田　智恵	旧科目名称	
講義概要	京都は古くから政治や文化の中心だった。日本の文学作品には、京都で生まれ京都を舞台とするものがたくさんある。本講義では、京都を舞台とする作品に親しむことで、京都の新たな魅力を発見したい。 各回の講義では、現代語訳を手がかりにしながら作品の一部を原文で読む。その中に描かれた京都のすがたを味わい、またその場所が現代ではどうなっているのかを知ることで、京都という土地の積み重ねてきた歴史や文化を感じ取ってほしい。 また実際に作品に触れることで、日本の文学作品に対する知識・理解も深めていきたい。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『新編日本古典文学全集』など各注釈書		
評価方法	平常点（30%）、小レポート・発表（20%）、期末試験（50%）		
到達目標	主要な文学作品を読解し、その梗概や時代背景を知るとともに、現在大学生活を送る京都という土地がどのように描かれてきたかを知ることで、より深い作品理解を目指す。		
準備学習	京都の地図を見たり、また実際にいろいろな場所を訪れたりして、京都に対する土地勘をある程度身につけておいてほしい。		
受講者への要望			
講義中アンケートへの回答やコメント等を求めるので、積極的に参加してほしい。また講義で扱った土地に対しては、ぜひ自分でも調べたり実際に訪れたりすることを勧める。 なお私語が講義の妨げになる場合は退出を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
1，京都の歴史と地理（導入） 2，深草①　『伊勢物語』 3，深草②　『無名抄』 4，上賀茂・下鴨神社①　『無名抄』 5，上賀茂・下鴨神社②　『枕草子』 6，雲林院　『大鏡』 7，北野天満宮　『大鏡』 8，仁和寺　『徒然草』 9，石清水八幡宮　『十訓抄』 １０，鞍馬　『義経記』 １１，大江山①　『十訓抄』 １２，大江山②　『酒呑童子絵巻』 １３，与謝①　『丹後国風土記』 １４，与謝②　『浦嶋太郎』（室町物語） １５，祇園　川端康成『古都』			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0026002
科目名	京都の文学	単位数	2
科目名（英語表記）	Literature of Kyoto		
担当者名	鎌田　智恵	旧科目名称	
講義概要	京都は古くから政治や文化の中心だった。日本の文学作品には、京都で生まれ京都を舞台とするものがたくさんある。本講義では、京都を舞台とする作品に親しむことで、京都の新たな魅力を発見したい。 各回の講義では、現代語訳を手がかりにしながら作品の一部を原文で読む。その中に描かれた京都のすがたを味わい、またその場所が現代ではどうなっているのかを知ることで、京都という土地の積み重ねてきた歴史や文化を感じ取ってほしい。 また実際に作品に触れることで、日本の文学作品に対する知識・理解も深めていきたい。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『新編日本古典文学全集』など各注釈書		
評価方法	平常点（30%）、小レポート・発表（20%）、期末試験（50%）		
到達目標	主要な文学作品を読解し、その梗概や時代背景を知るとともに、現在大学生活を送る京都という土地がどのように描かれてきたかを知ることで、より深い作品理解を目指す。		
準備学習	京都の地図を見たり、また実際にいろいろな場所を訪れたりして、京都に対する土地勘をある程度身につけておいてほしい。		
受講者への要望			
講義中アンケートへの回答やコメント等を求めるので、積極的に参加してほしい。また講義で扱った土地に対しては、ぜひ自分でも調べたり実際に訪れたりすることを勧める。 なお私語が講義の妨げになる場合は退出を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
1，京都の歴史と地理（導入） 2，深草①　『伊勢物語』 3，深草②　『無名抄』 4，上賀茂・下鴨神社①　『無名抄』 5，上賀茂・下鴨神社②　『枕草子』 6，雲林院　『大鏡』 7，北野天満宮　『大鏡』 8，仁和寺　『徒然草』 9，石清水八幡宮　『十訓抄』 １０，鞍馬　『義経記』 １１，大江山①　『十訓抄』 １２，大江山②　『酒呑童子絵巻』 １３，与謝①　『丹後国風土記』 １４，与謝②　『浦嶋太郎』（室町物語） １５，祇園　川端康成『古都』			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0027A01
科目名	宇宙と地球の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth A		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学 s
講義概要	宇宙科学における基礎的な概念をとりあげ、宇宙科学な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説する 科学の発展とともに、人類の持つ宇宙観はいくたびとなく変遷をしてきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の宇宙観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「地球人は宇宙人に会えますか？」はよく受講者からされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義は人類の宇宙観がいかに変化して現代の宇宙観が形成されるに至ったかを理解し、「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問について主体的に議論をするための能力を身につけることを目的とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	福江純著「目からウロコの宇宙論入門」ミネルヴァ書房 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（60%）		
到達目標	「地球人は宇宙人に会えますか？」という質問に対し、主体的な議論をするための基礎力を身につける		
準備学習	参考文献を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		

受講者への要望

高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席し必要箇所のノートをとることが大切である。
不足している基礎知識に関しては、気づいた時点で学習方法を指示するので、おおむね 2 週間以内に学習すること。
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他の受講生への迷惑を勘案して、退出を求める。

講義の順序とポイント

受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがありますので、ご了承ください。
1.古代・中世の宇宙観とその基盤
2.前近代的宇宙観 -特にガリレオ問題について-
3.望遠鏡の発明と宇宙観の変化
4.ケプラーの法則
5.観測結果を数式で表現する
6.ニュートン力学
7.絶対時間・絶対空間の概念と宇宙像
8.恒星の分類・光度-等級関係
9.観測の進歩
10.相対性理論
11.相対性理論から導かれた宇宙誕生
12.惑星の形成
13.ハビタブルな惑星
14.宇宙人との出会いの可能性について
15.現在の宇宙観

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0027B01
科目名	宇宙と地球の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Science of the Universe and the Earth B		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	宇宙と地球の科学ｆ
講義概要	科学の発展に伴い、人類の地球観は大きく変化してきた。各種観測手法の発明、数学と物理学の発展は人類の地球観を大きく変化させてきた主要因の一つである。 「気候変動とは何か」は受講生からよくされる質問であるが、これに対して科学的に返事をすることは決して容易ではない。そこで、本講義では、地球科学における基礎的な概念をとりあげ、地球科学的な視点で現象をとらえることはどういうことかについて解説し、気候変動について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	P.ウルムシュナイダー著『宇宙生物学入門-惑星・生命・文明の起源-』シュプリンガー・ジャパン 岡村ら編　「シリーズ現代天文学第１巻　人類の住む宇宙」　日本評論社		
教材（その他）			
評価方法	受講態度および授業内レポート(40%) 期末レポート（６０％）		
到達目標	「気候変動」について主体的に議論できる基礎力を養うことを目標とする		
準備学習	参考書を学期中に読破すること 中学卒業程度の数学と理科の復習をすること		
受講者への要望			
高校の数学や物理、地学の知識がなくても理解できる平易な内容の講義であるが、順を追って展開するので、授業に毎回出席しノートをとることが大切である。 不足している基礎知識については、気づいた時点で学習方法を指示するので、おおむね２週間以内に学習すること。 私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して、退出を求める			
講義の順序とポイント			
受講生の状況によって、順序を入れ替えるなどの変更を行うことがある。 1. 太陽系の形成 2. 地球の内部構造 3. 自然史標本について 4. 生物の誕生と進化 5. 生物の進化と地球環境 6. 物証による過去の気候変動の推定 7. 大気・海洋の構造 8. 放射平衡による地表の温度推定 9. 気候変動を起こす要因 10. 理論に基づく気候変動推定 11. 気候化石論 -過去の気候変動を推定する- 12. 気候変動の予測 -何がわかって何がわからないのか- 13. 気象災害から身を守るために 14. 宇宙と地球の関係 15. 気候変動の理論と観測の同一基準化　過去・現在・未来を展望して			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0028A01
科目名	京都学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies I		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	平安建都以来、京都は 1300 年を超える歴史都市であり、三方を山に囲まれ、水に恵まれた自然環境のなか、宮廷、神社、仏閣、町家、花街など多くの伝統的建造物群と、陶磁器、織物、染物、京料理、京菓子などの伝統的産業、さらには、祭事、和装、茶華道などの伝統行事に彩られた文化都市として世界に知られています。そうした「京都らしきもの」を素材に、その歴史やいわれ、現状と展開など、京都に関する基礎的な知識を身につけるとともに、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出している「伝統と革新」のチャレンジ精神を学ぶことをめざします。		
教材（テキスト）	パワーポイント教材で示し、京学ナビにテキストを表示します。		
教材（参考文献）	パワーポイント教材で示し、京学ナビにテキストを表示します。		
教材（その他）	パワーポイント教材で示し、京学ナビにテキストを表示します。		
評価方法	授業内での小テスト、レポートによる評価（５０％）、期末におけるテーマ小論文（５０％）		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新、古きものを大事にしながら新たな価値を生み出していく歴史都市・京都の営みを、くらし、産業、文化など多面的かつ複眼的な視点から学び、それを実社会での活動にどうやって生かすかを考えます。		
準備学習	授業の終了後や休日に、京都の町を散策して、京都の生活を体験しておいてください。		

受講者への要望

京都への感動も大切ですが、感じた疑問には常に批判の目をもって評価を下すことが必要です。授業の中でも思い切って疑問を投げかけてください。

講義の順序とポイント

鎌倉幕府や江戸幕府など、実質的な政治の中心が地方に移ったことはありましたが、その間も京都には天皇の在所である御所が置かれ、約１２００年もの間、京都はわが国の「みやこ」であり続けました。京都は常に産業と文化の中心地であり、それらは「京もの」「下りもの」「洛中もの」として高い評価を与えられてきました。世界的に見ても、これだけ長い間、一つの都市が国の中心地であり続けたことは京都以外にはありません。その根源は何かを探ります。

第　１回　京都のなりたち
第　２回　京都の街並み
第　３回　京都の伝統産業
第　４回　京都の職人技
第　５回　京都の挑戦
第　６回　京都の新産業
第　７回　京都の社寺
第　８回　京都の伝統
第　９回　京都の美意識
第１０回　京都の民俗
第１１回　京都の祭事
第１２回　京都の教育
第１３回　京都の町衆
第１４回　京都の風物
第１５回　京都の将来

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0028B01
科目名	京都学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Studies Ⅱ		
担当者名	清水　宏一	旧科目名称	
講義概要	世界的な観光雑誌である「Travel＋Leisure」誌が選ぶ「世界一訪れたい都市」のトップに２年連続で京都が選ばれましたが、昨年は 5 位に一挙に人気が下がりました。。その京都観光をテーマに、プロジェクト推進の実際を学びます。授業中に示す観光施設や活動、催事などの現場を自らの目で確かめ、自らのプロジェクトとしての遂行力を養うとともに、これを通して、ビジネスパーソンとしての協働力、行動力、課題発見力など、人間力に磨きをかけます		
教材（テキスト）	パワーポイント教材で表示し、京学ナビにテキストを表示します。		
教材（参考文献）	パワーポイント教材で表示し、京学ナビにテキストを表示します。		
教材（その他）	パワーポイント教材で表示し、京学ナビにテキストを表示します。		
評価方法	授業内での小テストやレポートによる評価（５０％）、期末におけるテーマ小論文（５０％）		
到達目標	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新を繰り返してきた歴史都市・京都のまちづくりや観光戦略を通して、産業、文化、くらしなど多様な分野にわたるプロジェクトの実際を多面的かつ複眼的な視点から学び、プロジェクトの遂行力を養います		
準備学習	「京都で学ぶ・京都に学ぶ」をモットーに、伝統と革新を繰り返してきた歴史都市・京都のまちづくりや観光戦略を通して、産業、文化、くらしなど多様な分野にわたるプロジェクトの実際を多面的かつ複眼的な視点から学び、プロジェクトの遂行力を養います		

受講者への要望

京都学Ⅰが総論、京都学Ⅱが各論となっているので、京都学Ⅰをすでに受講していることが望ましいのですが、必要条件ではありません。京都観光の実情を良く知っておくことが理解の助けになりますので、放課後や休日には京都市内の観光地に出かけることを推奨します。

講義の順序とポイント

世界的な観光ブームで観光地はどこもかしこもが満員盛況になっていますが、京都市と言えども２０００年には年間入込観光客数は４０００万人にも達しませんでした。この観光ブームに先駆けて発表された「京都観光 5 千万人構想」のおかげで、8 年後の２００８年には５０００万人を突破するという急激な増加を見せ、当時の観光業界では「京都の奇跡」とまで称賛されました。また、京都市内ホテルの宿泊客数も順調に伸び続け、リーマンショックで大幅に落ちたものの、その後は順調な回復を果たし、２０１３年には２７０万人と過去最多を更新し、客室稼働率も８５％を上回る盛況を示しています。その原動力となった観光プロジェクトの実態を探り、国の「観光立国戦略」の先駆けとなった秘訣を探ります。

第　１回　プロジェクトの基本
第　２回　統計の重要性
第　３回　観光客 5 千万人構想
第　４回　４つのセン
第　５回　イベントと宣伝
第　６回　産業観光の魅力
第　７回　社寺仏閣と世界遺産
第　８回　伝統行事と和文化
第　９回　芸術文化と観光
第　１０回　おもてなしの本質
第　１１回　世界遺産としての和食
第　１２回　ニューツーリズム
第　１３回　京都観光の弱点とその克服
第　１４回　京都観光の新展開
第　１５回　京都観光の将来

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	★★	★	−

年度	2017	授業コード	JM0029A01
科目名	京都検定講座 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture I		
担当者名	堤　勇二	旧科目名称	
講義概要	京都は今から 1200 年以上前に日本の都となり、政治的機能こそ東京に移ったものの、今なお文化的宗教的中心として日本の精神文化を牽引しています。 京都は日本の縮図です。日本を知るためには京都の理解が欠かせません。本講座は人やモノをテーマに、京都の基礎知識から本質に迫るハイレベル秘話まで幅広く取り上げ、京都を通して日本文化の成り立ちに気付いていただきます。 また本年度は映像、映画を採り上げ、京都の観光資源がどのように使われているかを実見し、観光都市・歴史都市の底なしの奥深さを学ぶとともに、あまり知られていないユニークな京都の姿も併せて紹介。楽しく京都を学ぶことを主眼とします。 なお、シラバスは授業の進行に応じて内容、順序など適宜変更します。		
教材（テキスト）	毎回レジュメ配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（出席）　50%　毎回実施　受講態度も評価 小テスト　　50%　講義最終日実施 小レポート　適宜実施　加点手段		
到達目標	受講生がモノの名前を通して京都へ興味を持ち、生活全般を通したこの町の成り立ちを理解すること。ガイドブックや観光サイトに紹介されていないことにこの町の真実が隠されており、日常性のなかにこそ歴史がもたらす無限の魅力が眠っていることを本講を通して学生自らが発見する機会となることを目標とします。		
準備学習	常に京都発見の意識をもって身の回りの出来事に対処してください。		

受講者への要望

京都をテーマに書かれた作品、絵画、映画など、意識して興味を持ち、接するようにしてください。

講義の順序とポイント

1　09/28　京都の成り立ち
2　10/04　京都の歴史　1200 年の都
3　10/11　京都と天皇
4　10/18　人と京都　京のキーパーソン
5　10/25　ことわざで学ぶ京都
6　11/01　京の言い伝え
7　11/08　食の都　京の和菓子
8　11/15　京の宝物　ユニークミュージアム特集
9　11/22　文化財と京都　有形
10　11/29　文化財と京都　無形
11　12/06　文化財と京都　記念物
12　12/13　映像にみる京都 I（鴨川ホルモー）
13　12/20　映像にみる京都 II（鴨川ホルモー）
14　01/10　映画にみる京都 I（初雪の恋）
15　01/17　映画にみる京都 II（初雪の恋）　小テスト

※シラバスの内容は授業進行に応じて適宜変更します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	★★

年度	2017	授業コード	JM0029B01
科目名	京都検定講座 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Certifying Examination for Kyoto Tourism and Culture II		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	京都検定は「幅広い切り口で京都通度を認定する検定試験」です。全国各地から毎年 5,000 人以上もの人びとが受験しています。京都がそれだけ人気のある観光地だということです。京都の魅力の一つは、長い歴史のなかではぐくまれてきた独特の文化と伝統にあるといえるでしょう。 ただし本授業では、京都検定に合格するためのノウハウ、ハウツー、テクニックではなく、京都の歴史を、トピックごとに、当時の史料や画像などをまじえて紹介します。京都の歴史と文化について理解を深めることを目指します。京都検定に限定されることなく、京都の歴史について（とくに近世近代）考えていきます。		
教材（テキスト）	毎回プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	平常点（出席、授業態度、課題等）50%＋レポート 50%		
到達目標	京都の歴史と文化に関する理解・考察を深める。 京都の魅力を他者に対して発信できるようになる。		
準備学習	授業終了時に次回の講義資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また、一定の区切りごとにレポートを課すので、毎回の配布資料をしっかり復習しておくこと。		
受講者への要望			
京都の歴史と文化にふれるとともに、みずから考えることを忘れずに！ 京都検定を受験する予定のない人も受講可能です。			
講義の順序とポイント			
1　はじめに　―現代の京都イメージ― 2　京の三大祭 3　京の御霊信仰と仏教世界 4　洛中・洛外／町・町組／町触　―京の枠組み― 5　京の名所図会の世界　―江戸時代京都の観光情報―　① 6　京の名所図会の世界　―江戸時代京都の観光情報―　② 7　京の名所図会の世界　―江戸時代京都の観光情報―　③ 8　京の見聞記　―日本近世の京都イメージ― 9　外国人の見た江戸時代の京都 １０　幕末政治のなかの京都　―御所の政治空間／京の防衛論― １１　幕末京都の「天誅」　―京へ向かう志と人斬り― １２　歴史のなかの新撰組　―壬生の浪士から京の新撰組へ― １３　幕末京都の争乱―京の戦災― １４　京都の博覧会　―京の復興をめざして― １５　近代化をめぐる京都の葛藤　―琵琶湖疏水、美術工芸、学校、鉄道、メディア―			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0030B01
科目名	京都商人論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants I		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
講義概要	平安遷都以来、長きにわたり日本の政治・経済・文化の中心地であった京都には、独特の風土や慣習が育ち、価値観や気質が醸成された。それらは京都商人の「モノ作り」や商いの姿勢にも影響を及ぼし、さらには、現在の京都の老舗や企業の特徴であるー高い技術水準と品質本位で独自性と高付加価値を追求した「モノ作り」、伝統と革新を統合・調和させた行動様式、永続性を重視した堅実経営ーなどに受け継がれている。本講義では、京都の主な伝統産業について、その生成から発展の過程を説明するとともに、老舗商店や企業の個別事例を取り上げ、その特色を多角的な視点から解説する。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを活用します。		
評価方法	復習の小テスト（３０％）、定期試験（７０％）		
到達目標	京都の伝統産業の歴史と、その発展の過程を学び、京都商人の「モノ作り」や商いに対する姿勢、考え方を理解する。		
準備学習	各講義の内容は、次週の授業開始時に「復習の小テスト」をおこないます。配布されたプリントを読み直して、疑問点やよく理解できなかった部分を整理しておきましょう。		
受講者への要望			
各講義の終了前に、「質問タイム」を設けます。よく理解できなかった部分や疑問点があれば質問して下さい。疑問点や興味を持った事柄を自分で調べてみることも大切です。いずれにしても、わからないまま放置しないよう心がけて下さい。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに ２、京都の伝統産業と老舗；食品①茶 ３、京都の伝統産業と老舗；繊維①日本人と「きもの」 ４、京都の伝統産業と老舗；工芸①香 ５、京都の伝統産業と老舗；食品②京料理 ６、京都の伝統産業と老舗；繊維②洋装化と西陣 ７、京都の伝統産業と老舗；醸造①みそ ８、京都の伝統産業と老舗；工芸②仏壇・仏具 ９、京都の伝統産業と老舗；繊維③戦後の洋装 １０、京都の伝統産業と老舗；醸造②清酒 １１、京都の伝統産業と老舗；食品③京漬物 １２、京都の伝統産業と老舗；観光・娯楽 １３、京都の伝統産業と老舗；工芸③京焼 １４、京都の伝統産業と老舗；食品④京菓子 １５、今後の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0032A01
科目名	経営学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	–	★

年度	2017	授業コード	JM0032A02
科目名	経営学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	–	★

年度	2017	授業コード	JM0032A03
科目名	経営学入門 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	–	★

年度	2017	授業コード	JM0032B01
科目名	経営学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
講義概要	当科目は 15 回のクラスを通じて受講者各々が自ら経営してみたい会社、店舗などの事業計画を策定し、最後にプレゼンテーションをするスタイルを取る。事業計画書策定の中で、ベストプラクティスをケースメソッド（Harvard Business School のメソッドに沿り）により学び、事業計画書策定、経営の実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。 This course set a goal to attendee of this course to learn a basic knowledge on business strategy. No test is required, but all attendee should be present their own business plan at own favorite business, shop or any equivalent entity which they would manage in the future. Using case method (Harvard Business School). Providing fundamental skill and knowledge of management and business strategy.		
教材（テキスト）	ケーススタディーを受講生の興味にあわせ、適宜配布する		
教材（参考文献）	講義にて全て提示する		
教材（その他）			
評価方法	50% class contribution 35% business plan presentation 15% quiz at the each class		
到達目標	受講者はこの講義にて経営戦略の基礎を学ぶと共に、そのプレゼンテーション能力、議論能力を培うものとする。且つ競争戦略策定、会計の知識などの基礎を学ぶこととし、秋期の経営学入門 B にてさらに演習の場所を得るものとする。		
準備学習	The preparation of each session should be expected to accomplish along the progress of case study 各セッションの予習、準備はケーススタディーの進行にそって設定されるものとする		
受講者への要望			
熱意を持って、イノベーティブに Be Passionate, Be Innovative			
講義の順序とポイント			
講義内容 第一回　当コースの趣旨説明、ゴールセッティング、オリエンテーション Session 1, Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting 第二回　ビジョンに関して、ケース：ビジョナリーカンパニー Session 2, On Vision /Case study of visionary company and setting attendee's own vision 第三回　戦略に関して、戦略、戦術の定義、ケーススタディー Session 3, On Strategy / Study on definition of strategy, tactics 第四回 競争に関して、競争の戦略、ケーススタディー Session 4, On Competition / Case study in competitive strategy 第五回　ビジネス倫理に関して、商人としての心得、ケーススタディー Session 5, On Ethics, Case study of importance of business ethics 第六回　経営財務、基礎講座① Session 6, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 1 第七回　中間報告、事業計画の中間プレゼンテーション Session 7, Midterm Review, Presentation practice on business plan 第八回　経営財務、基礎講座② Session 8, On financials, Lecture of fundamental financials on business plan 2 第九回　ケース：ホスピタリティーマネージメント Session 9, Case Study / Best practice on hospitality management 第十回　ケース：イノベーション Session 10, Case Study / Best practice on innovation 第十一回　ケース：起業家精神 Session 11, Case Study / Best practice on entrepreneurship			

第十二回　ケース：スポーツ、チームマネジメント Session 12, Case Study / Best practice on Sports, team management 第十三回　ケース：受講者から一番リクエストがあった企業 Session 13, Case Study / Most requested company 第十四回　事業計画発表① Session 14, Presentation of business plan 1 第十五回　事業計画発表② Session 15, Presentation of business plan 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	–	★

年度	2017	授業コード	JM0033001
科目名	経済学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 125 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特に前半はミクロ経済理論に、また後半はマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	①N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） ②N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（ミクロ経済理論及びマクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	講義の前には必ず教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		

受講者への要望

講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、経済学は各章末の復習問題や応用問題を解く中で理解が深まるので、宿題を必ずやってきて授業で回答の説明を聞くこと。

講義の順序とポイント

1. 経済学の十大原理Ⅰ（ミクロ経済理論関連） ＜教科書第 1 章＞
2. 経済学者らしく考える ＜教科書第 2 章＞
3. グラフの用法： 概観 ＜教科書第 2 章付論＞
4. 相互依存と交易（貿易）からの利益 ＜教科書第 3 章＞
5. 比較優位の原理 ＜ 〃 ＞
6. 市場と競争、需要と供給 ＜教科書第 4 章＞
7. 市場における需要と供給の作用 ＜ 〃 ＞
8. 政府の政策（価格規制） ＜教科書第 5 章＞
9. 政府の政策（税金） ＜ 〃 ＞
10. 弾力性 ＜教科書第 5 章付論＞
11. 消費者余剰と生産者余剰 ＜教科書第 6 章＞
12. 市場の効率性 ＜ 〃 ＞
13. 税と効率・公平 ＜教科書第 6 章付論＞
14. 外部性と市場の非効率性 ＜教科書第 7 章＞
15. 外部性に対する公共政策・コースの定理 ＜ 〃 ＞
16. 経済学の十大原理Ⅱ（マクロ経済理論関連） ＜教科書第 1 章＞
17. 国民所得の測定（国内総生産：GDP） ＜教科書第 8 章＞

18. 実質 GDP と名目 GDP	＜　〃　＞
19. 生計費の測定（消費者物価指数）	＜教科書第 9 章＞
20. インフレーションの影響の補正	＜　〃　＞
21. 経済成長と生産性	＜教科書第 10 章＞
22. 経済成長と公共政策	＜　〃　＞
23. 失業	＜教科書第 10 章付論＞
24. 貯蓄、投資と金融システム	＜教科書第 11 章＞
25. 貸付資金市場	＜　〃　＞
26. 貨幣システム	＜教科書第 11 章付論＞
27. 貨幣の需給とｲﾝﾌﾚｰｼｮﾝの古典派理論	＜　〃　＞
28. 総需要と総供給	＜教科書第 12 章＞
29. 経済変動の二つの原因	＜　〃　＞
30. 開放マクロ経済学：基本概念	＜教科書第 13 章＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0033002
科目名	経済学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 125 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特に前半はミクロ経済理論に、また後半はマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	①N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） ②N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（ミクロ経済理論及びマクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	講義の前には必ず教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		

受講者への要望

講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、経済学は各章末の復習問題や応用問題を解く中で理解が深まるので、宿題を必ずやってきて授業で回答の説明を聞くこと。

講義の順序とポイント

1. 経済学の十大原理Ⅰ（ミクロ経済理論関連） ＜教科書第 1 章＞
2. 経済学者らしく考える ＜教科書第 2 章＞
3. グラフの用法： 概観 ＜教科書第 2 章付論＞
4. 相互依存と交易（貿易）からの利益 ＜教科書第 3 章＞
5. 比較優位の原理 ＜ 〃 ＞
6. 市場と競争、需要と供給 ＜教科書第 4 章＞
7. 市場における需要と供給の作用 ＜ 〃 ＞
8. 政府の政策（価格規制） ＜教科書第 5 章＞
9. 政府の政策（税金） ＜ 〃 ＞
10. 弾力性 ＜教科書第 5 章付論＞
11. 消費者余剰と生産者余剰 ＜教科書第 6 章＞
12. 市場の効率性 ＜ 〃 ＞
13. 税と効率・公平 ＜教科書第 6 章付論＞
14. 外部性と市場の非効率性 ＜教科書第 7 章＞
15. 外部性に対する公共政策・コースの定理 ＜ 〃 ＞
16. 経済学の十大原理Ⅱ（マクロ経済理論関連） ＜教科書第 1 章＞
17. 国民所得の測定（国内総生産：GDP） ＜教科書第 8 章＞

18. 実質 GDP と名目 GDP	＜　〃　＞
19. 生計費の測定（消費者物価指数）	＜教科書第 9 章＞
20. インフレーションの影響の補正	＜　〃　＞
21. 経済成長と生産性	＜教科書第 10 章＞
22. 経済成長と公共政策	＜　〃　＞
23. 失業	＜教科書第 10 章付論＞
24. 貯蓄、投資と金融システム	＜教科書第 11 章＞
25. 貸付資金市場	＜　〃　＞
26. 貨幣システム	＜教科書第 11 章付論＞
27. 貨幣の需給とｲﾝﾌﾚｰｼｮﾝの古典派理論	＜　〃　＞
28. 総需要と総供給	＜教科書第 12 章＞
29. 経済変動の二つの原因	＜　〃　＞
30. 開放マクロ経済学：基本概念	＜教科書第 13 章＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0036001
科目名	現代基礎教養	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern General Education		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
講義概要	本講義では、公務員試験における教養科目「判断推理」の対策を通じて、皆さんの論理的思考能力のトレーニングを行います。テキストには公務員試験対策の定番の問題集を使用し、多くの演習時間を取る予定です。 「判断推理」の問題は、あまり多くの事前知識を必要としません。問題で与えられた情報から形式的な論理関係を見出し、そこから解答に相応しい結論を演繹することが求められます。 膨大な知識へのアクセスが可能となった現代社会においては、「必要な知識を取捨選択する能力」と「複数の知識を組み合わせて活用する能力」を持った人材が強く求められており、そのため公務員試験のみならず、SPI2 など現在の就職試験においては、「判断推理」のような論理力を問う問題に重きが置かれています。 こうした論理的思考能力はトレーニングを通じて必ず伸ばすことが出来ます。公務員試験を考えている方だけではなく、社会に出て広く羽ばたくことになる学生の皆さん全員を本講義の対象とします。		
教材（テキスト）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官 消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理』実務教育出版,2012 ISBN:9784788939080		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期試験（40%） 授業内の試験等による平常点（60%）		
到達目標	社会人として求められる論理的な推論能力の獲得		
準備学習	テキストにはトピック毎に多くの問題が用意されています。 全ての問題を講義中に演習・解説することは出来ないため、講義中に扱えなかった問題については必ず次回の講義までに解いておくようにしてください。		

受講者への要望

熱意をもって取り組むこと。
話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。
また、講義中の質問を歓迎します。

講義の順序とポイント

1．講義ガイダンス
2．操作の手順
3．命題の真偽
4．発言の真偽
5．暗号の解読
6．まとめ１
7．対応関係
8．順序関係
9．位置関係
１０．試合の勝敗
１１．まとめ２
１２．平面図形の移動と軌跡
１３．平面図形の構成と分割
１４．立体図形とその組み立て
１５．展開図とその応用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0038A01
科目名	国際関係論A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations A		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編）『新グローバル公共政策　［改訂版］』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説 』中公叢書、2592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4

Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0038B01
科目名	国際関係論B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Relations B		
担当者名	玉井　雅隆	旧科目名称	
講義概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。 なお本講義は、国際関係論 A の内容を、より掘り下げたものとなっている。		
教材（テキスト）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編）『新グローバル公共政策　改訂版』　晃洋書房、2,484 円		
教材（参考文献）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』中公叢書、2,592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教材（その他）	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	1）国内社会と国際社会の相違や、現在国際社会が抱える問題点に関して理解することができる。 2）国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。 3）国際社会の諸問題に関し、我が国や市民としての我々がどのような役割を果たしうるのか、考察することができる。		
準備学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。また、毎回授業開始時に前回の授業内容にかかわる小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。
授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論とは

第２回　国際関係理論　1
Key word：リアリズム、リベラリズム、ネオ・リアリズム

第３回　国際関係の歴史１

Key word：ローマ帝国、ウェストファリア体制、華夷思想、「戦争の家」「平和の家」

第 4 回　国際政治の歴史 2
Key word:植民地体制、国際連盟、国際連合

第 5 回　国際政治と安全保障 1　安全保障とは何か
Key word：集団的安全保障、個別的安全保障、集団的自衛権

第 6 回　国際政治と安全保障 2　　安全保障概念の多様性
Key word：安全保障の諸類型、包括的安全保障、人間の安全保障

第 7 回　国際政治と安全保障 3　欧州における安全保障体制
Key Word：欧州安全保障協力会議、欧州安全保障協力機構

第 8 回　国際政治と安全保障 4　「国家」の安全保障と「市民」の安全保障
Key word：人道的介入、ルワンダ、ユーゴスラヴィア、カンボジア

第 9 回　国際政治と安全保障 5　軍備管理と軍縮
Key word:軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 10 回　国際政治と安全保障 6　核戦略と安全保障
Key word：相互確証破壊、核抑止理論

第 11 回　国際政治と市民社会 1　民主化
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 12 回　国際政治と市民社会 2　マイノリティ
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 13 回　国際政治と市民社会 3　貧困と紛争
Key word：貧困と格差、開発

第 14 回　国際政治と市民社会 4　「水の世紀」と環境問題
Key word：地球温暖化、水問題

第 15 回　国際政治と平和 1　テロと平和
Key word：IS（イスラム国）、アルカイダ、低強度紛争

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0041A01
科目名	自然環境 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境 s
講義概要	この講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材となる。講義では、日本の代表的な自然環境である火山（テキストの第 1 章「火山」）、および国土の約 7 割を占める山地と山麓にみられる地形（第 2 章「山と川」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそれを利用した人間活動や災害などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、以前の講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 2 つである。 (1) 自然環境の基礎知識を身につける。 (2) 日本における自然環境の特色を説明することができる。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、前回までの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示する項目について復習した内容を論述してもらう。		
受講者への要望			
(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。 (2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて 2. 第 1 章 火山(1) ― 1.1.1 爆発する日本の火山 3. 第 1 章 火山(2) ― 1.1.2 火山の一生、1.1.3 大カルデラ火山 （前半） 4. 第 1 章 火山(3) ― 1.1.3 大カルデラ火山（後半）、1.1.4 富士・伊豆の火山 5. 第 1 章 火山(4) ― 1.2.1 火山地域の金属資源、1.2.2 歴史時代の金属資源 6. 第 1 章 火山(5) ― 1.2.3 火成岩の利用、1.2.4 火山地域の工業・農業 7. 第 1 章 火山(6) ― 1.3.1 火山体の大規模崩壊、1.3.2 火山地域の土砂災害、1.3.3 噴石などによる災害 8. 第 2 章 山と川(1) ― 2.1.1 河川侵食と谷壁斜面の発達、2.1.2 堆積段丘の形成 9. 第 2 章 山と川(2) ― 2.1.3 扇状地の形成、2.2.1 山腹斜面の地形 10. 第 2 章 山と川(3) ― 2.2.2 崩壊しやすい地質条件、2.2.3 斜面災害の発生 11. 第 2 章 山と川(4) ― 2.3.1 崩壊の免疫性と侵食速度、2.3.2 地殻変動と山地の隆起 12. 第 2 章 山と川(5) ― 2.3.3 水系の発達、2.3.4 山地の成長過程 13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0041B01
科目名	自然環境Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Natural Environment and Environmental Co ncerns B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然環境ｆ
講義概要	本講義では、日本の自然環境とくに地形について、基礎的な内容を中心に解説する。 自然環境は、人間生活と密接な関わりをもち、人間にとって必要不可欠なものである。とりわけ、日本の自然環境はわれわれの身近な存在であり、自然環境の基礎を理解する上で最も適した題材になる。講義では、人間生活の主な舞台である平野（テキストの第５章「平野」）と、日本列島の周囲を取り巻く海岸（第７章「海岸」）を取り上げ、その成り立ちと形成要因、ならびにそこでみられる人間活動や環境破壊などについて説明する。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	杉谷隆ほか『風景のなかの自然地理』古今書院		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 2 つである。 (1) 自然環境の基礎知識を身につける。 (2) 日本における自然環境の特色を説明することができる。		
準備学習	各回の講義前に、「講義の順序とポイント」に示したテキストの項目を読み、不明な用語については意味を調べるように。講義が終われば、早急にノートの記述内容を見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解すること。各講義では、以前の講義内容を復習問題として出題する。また、授業内レポートでは教員が指示する項目について復習した内容を論述してもらう。		
受講者への要望			
(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。 (2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。			
講義の順序とポイント			
1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて 2. 第 5 章 平野(1) ― 5.1.1 日本の自然を反映する平野、5.1.2 沖積低地に恵まれた日本の平野 3. 第 5 章 平野(2) ― 5.2.1 海水準変動と沖積層の堆積 4. 第 5 章 平野(3) ― 5.2.2 沖積低地の地形、5.2.3 自然堤防が発達する濃尾平野 5. 第 5 章 平野(4) ― 5.2.4 海岸砂丘と三角州からなる庄内平野、5.3.1 国土に刻まれる稲作 6. 第 5 章 平野(5) ― 5.3.2 筑紫平野のクリーク、5.3.3 水辺の喪失 7. 第 7 章 海岸(1) ― 7.1.1 生命に満ちあふれた干潟、7.1.2 白砂青松の砂浜海岸 8. 第 7 章 海岸(2) ― 7.1.3 過去の海水準や地震隆起を語る岩石海岸 9. 第 7 章 海岸(3) ― 7.1.4 生物がつくるサンゴ礁海岸 10. 第 7 章 海岸(4) ― 7.2.1 古砂丘・旧砂丘・新砂丘 11. 第 7 章 海岸(5) ― 7.2.3 火山活動とともに変化する海岸、7.3.1 海岸侵食 12. 第 7 章 海岸(6) ― 7.3.2 地盤沈下と 0m地帯、7.3.3 地球温暖化による海面上昇の危機 13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。 15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0042A01
科目名	自然地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学 s
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、主に気候について自然地理学で研究されてきた内容を解説する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、気候はその代表的なものの一つにあたる。講義では、数万年前に存在した「氷河期」から近年現出した「都市気候」まで多種類の気候研究を取り扱い、研究の成果だけでなく調査方法についても極力言及したい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を説明することができる。 (3) 自然地理学の調査・分析方法を知識として身につける。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、以前の講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．氷河期(1) ― 氷河によって形成された丘の特色
3．氷河期(2) ― 丘の調査による氷河期の発見
4．氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの形成過程
5．多氷期(1) ― 堆積物から解明された複数の氷河期
6．多氷期(2) ― 複数の氷河期における融氷河段丘の形成
7．気候変化(1) ― 氷河期終了後の寒冷期と放射性炭素年代測定の開発
8．気候変化(2) ― 湖成段丘から紐解かれる過去 2 万年間の降水量変化
9．気候変化(3) ― 古記録からみた歴史時代の気温変化
10．都市気候(1) ― 都市の気温上昇とヒートアイランド
11．都市気候(2) ― ヒートアイランドの形成要因
12．都市気候(3) ― 風、湿度、日射量について
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0042A02
科目名	自然地理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography A		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学 s
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、主に気候について自然地理学で研究されてきた内容を解説する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、気候はその代表的なものの一つにあたる。講義では、数万年前に存在した「氷河期」から近年現出した「都市気候」まで多種類の気候研究を取り扱い、研究の成果だけでなく調査方法についても極力言及したい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を説明することができる。 (3) 自然地理学の調査・分析方法を知識として身につける。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、以前の講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．氷河期(1) ― 氷河によって形成された丘の特色
3．氷河期(2) ― 丘の調査による氷河期の発見
4．氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの形成過程
5．多氷期(1) ― 堆積物から解明された複数の氷河期
6．多氷期(2) ― 複数の氷河期における融氷河段丘の形成
7．気候変化(1) ― 氷河期終了後の寒冷期と放射性炭素年代測定の開発
8．気候変化(2) ― 湖成段丘から紐解かれる過去 2 万年間の降水量変化
9．気候変化(3) ― 古記録からみた歴史時代の気温変化
10．都市気候(1) ― 都市の気温上昇とヒートアイランド
11．都市気候(2) ― ヒートアイランドの形成要因
12．都市気候(3) ― 風、湿度、日射量について
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0042B01
科目名	自然地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学ｆ
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約200万年前から現在まで）における自然環境のうち、地形（平野）とそれに関わる自然環境について、自然地理学で研究されてきた内容を説明する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、その代表的なものの一つが地形にあたる。講義では、地形の中でも人間生活の主な舞台となった平野と、その形成に深く関与した氷河性海水準変動、ならびに平野で頻繁に発生した水害などを取り上げ、研究成果だけでなく調査方法についてもできる限り触れたい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点10％で評価を行う。詳細は第1回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の3つである。 (1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を説明することができる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく分析方法を知識として身につける。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論
3．海水準変動(2) ― 貝化石と堆積物から解明される過去の海水準 （旧海水準）
4．海水準変動(3) ― 旧海水準の年代決定
5．海水準変動(4) ― 過去約2万年間における海水準変動の実態
6．グレーシャル・アイソスタシー ― 地球規模で発生している地殻変動
7．平野(1) ― 日本における沖積平野の定義と扇状地の特色
8．平野(2) ― 自然堤防帯と三角州の特色
9．平野(3) ― 沖積層の分析による環境復原
10．平野(4) ― 沖積平野の形成過程と環境変化
11．水害(1) ― 輪中の成立とその背景
12．水害(2) ― 輪中地域における近世・近代の治水
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0042B02
科目名	自然地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	自然地理学ｆ
講義概要	本講義では、第四紀（概ね人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における自然環境のうち、地形（平野）とそれに関わる自然環境について、自然地理学で研究されてきた内容を説明する。 自然地理学は、自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、その代表的なものの一つが地形にあたる。講義では、地形の中でも人間生活の主な舞台となった平野と、その形成に深く関与した氷河性海水準変動、ならびに平野で頻繁に発生した水害などを取り上げ、研究成果だけでなく調査方法についてもできる限り触れたい。講義は、自然環境の基礎知識、前回までの講義内容、及びそれらから考察できる事柄などを問題として出題しながら進める。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	必要に応じて紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験 90％と、講義中の問題正解や授業内レポートによる平常点 10％で評価を行う。詳細は第 1 回目の講義で説明する。		
到達目標	到達目標は次の 3 つである。 (1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 人類を取り巻いてきた自然環境の基本的内容を説明することができる。 (3) 自然地理学の基本概念にもとづく分析方法を知識として身につける。		
準備学習	各講義の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、講義内容を深くしっかり理解するように。講義は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が次回の講義を理解する上での予習ともなる。各講義では、それまでの講義内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートでは教員が指示するテーマについて復習した内容を記述してもらう。		

受講者への要望

(1) 受講マナーを守ること。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 講義に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 講義では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講の注意事項などについて
2．海水準変動(1) ― 氷河性海水準変動の理論
3．海水準変動(2) ― 貝化石と堆積物から解明される過去の海水準 （旧海水準）
4．海水準変動(3) ― 旧海水準の年代決定
5．海水準変動(4) ― 過去約 2 万年間における海水準変動の実態
6．グレーシャル・アイソスタシー ― 地球規模で発生している地殻変動
7．平野(1) ― 日本における沖積平野の定義と扇状地の特色
8．平野(2) ― 自然堤防帯と三角州の特色
9．平野(3) ― 沖積層の分析による環境復原
10．平野(4) ― 沖積平野の形成過程と環境変化
11．水害(1) ― 輪中の成立とその背景
12．水害(2) ― 輪中地域における近世・近代の治水
13．授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
14．授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下げとなる。
15．総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認）、試験の問題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0044001
科目名	社会学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Sociology		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールに規定され社会的な状況に大きく影響を受けながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にあるのだ。 この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。また、適宜パワーポイントを使用します。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（45%）、個人発表(10%)、３回のテスト（45%）		
到達目標	社会についての幅広く常識的な知識・考えを、とくに社会と個人との関係に的を絞って、学び理解を深めること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で予告したテーマと前回の授業内容に関わる小レポートを書いてもらうので、必ず復習をして準備をする。		

受講者への要望

川田担当の「社会学」ならびに人間文化学部で開講している「社会意識論」と内容上、部分的に重複しています（とくに、「社会学」と「社会学概論」は重複しますが、後者の方がより詳細で踏み込んだ内容となります）。そのことを理解したうえで受講してください。

講義の順序とポイント

１・社会と個人との関係
２・出産をとりまく家族と社会の諸問題・１
３・出産をとりまく家族と社会の諸問題・２
４・最初期の子どもの心身の発達・１
５・最初期の子どもの心身の発達・２
６・家族のなかでの成長と葛藤・１
７・家族のなかでの成長と葛藤・２
８・家族の歴史・１
９・家族の歴史・２
１０・現代の家族・１
１１・現代の家族・２
１２・家族の病
１３・学校の社会的機能
１４・学校のなかでの成長と葛藤・１
１５・学校のなかでの成長と葛藤・２
１６・前青春期における成長
１７・青春期の様々な心的・社会的課題・１
１８・青春期の様々な心的・社会的課題・２
１９・青春期の様々な心的・社会的課題・３
２０・労働の社会的諸問題・１
２１・労働の社会的諸問題・２
２２・組織と人間
２３・成年期の葛藤と社会・１

２４・成年期の葛藤と社会・２
２５・道徳性の発達
２６・老年期と脱社会化・１
２７・老年期と脱社会化・２
２８・最晩年の諸段階・１
２９・最晩年の諸段階・２
３０・死後の社会的対応

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0044002
科目名	社会学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Sociology		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 　人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にあるのだ。 　この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。また、適宜パワーポイントを使用します。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（45%）、個人発表(10%)、３回のテスト（45%）		
到達目標	社会についての幅広く常識的な知識・考えを、とくに社会と個人との関係に的を絞って、学び理解を深めること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で予告したテーマと前回の授業内容に関わる小レポートを書いてもらうので、必ず復習をして準備をする。		
受講者への要望			
人間文化学部で開講している「社会意識論」と内容上、部分的に重複しています。そのことを理解したうえで受講してください。			
講義の順序とポイント			

１・社会と個人との関係
２・出産をとりまく家族と社会の諸問題・１
３・出産をとりまく家族と社会の諸問題・２
４・最初期の子どもの心身の発達・１
５・最初期の子どもの心身の発達・２
６・家族のなかでの成長と葛藤・１
７・家族のなかでの成長と葛藤・２
８・家族の歴史・１
９・家族の歴史・２
１０・現代の家族・１
１１・現代の家族・２
１２・家族の病
１３・学校の社会的機能
１４・学校のなかでの成長と葛藤・１
１５・学校のなかでの成長と葛藤・２
１６・前青春期における成長
１７・青春期の様々な心的・社会的課題・１
１８・青春期の様々な心的・社会的課題・２
１９・青春期の様々な心的・社会的課題・３
２０・労働の社会的諸問題・１
２１・労働の社会的諸問題・２
２２・組織と人間
２３・成年期の葛藤と社会・１
２４・成年期の葛藤と社会・２

２５・道徳性の発達
２６・老年期と脱社会化・１
２７・老年期と脱社会化・２
２８・最晩年の諸段階・１
２９・最晩年の諸段階・２
３０・死後の社会的対応

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0045A01
科目名	社会学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0045A02
科目名	社会学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0045B01
科目名	社会学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門 f
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10,（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11,（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12,（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13,（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14,（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15,社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0045B02
科目名	社会学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門 f
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10，（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11，（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12，（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13，（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14，（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15，社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0046A01
科目名	宗教学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions Ⅰ		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	「宗教学入門」をテーマに講義を行う。総論と各論に分けて講義を展開するが、総論では「宗教」の概念や性格を論じ、各論では世界の諸宗教のいくつかについて簡単に紹介する。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、クラス内でコメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となる。積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―あなたは宗教をどのようにイメージしているか
2．総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
3．総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか。
4．総論Ⅲ　宗教の構造と機能
5．総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
6．総論Ⅴ　宗教における祈りと修行について
7．総論Ⅵ　宗教は人間と世界をどのように見てきたか
8．各論Ⅰ　世界の三大宗教―キリスト教の歴史・それは西欧文化のもとになった
9．各論Ⅱ　世界の三大宗教―イスラーム（その１）・アッラーはユダヤ・キリストの神と同じ！？
10．各論Ⅲ　世界の三大宗教―イスラーム（その２）・スンナ派とシーア派はなぜ生まれた？
11．各論Ⅳ　世界の三大宗教―仏教・釈迦とその後の展開―
12．各論Ⅴ　日本の仏教ー神仏関係の展開
13．各論Ⅵ　日本の新宗教概説
14．各論Ⅶ　世界で起こっていることを宗教をキーワードに考える
15．まとめ　人は宗教とどのように向き合うべきか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0046A02
科目名	宗教学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions Ⅰ		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	「宗教学入門」をテーマに講義を行う。総論と各論に分けて講義を展開するが、総論では「宗教」の概念や性格を論じ、各論では世界の諸宗教のいくつかについて簡単に紹介する。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、クラス内でコメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となる。積極的に参加してもらいたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―あなたは宗教をどのようにイメージしているか
2．総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
3．総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか。
4．総論Ⅲ　宗教の構造と機能
5．総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
6．総論Ⅴ　宗教における祈りと修行について
7．総論Ⅵ　宗教は人間と世界をどのように見てきたか
8．各論Ⅰ　世界の三大宗教―キリスト教の歴史・それは西欧文化のもとになった
9．各論Ⅱ　世界の三大宗教―イスラーム（その１）・アッラーはユダヤ・キリストの神と同じ！？
10．各論Ⅲ　世界の三大宗教―イスラーム（その２）・スンナ派とシーア派はなぜ生まれた？
11．各論Ⅳ　世界の三大宗教―仏教・釈迦とその後の展開―
12．各論Ⅴ　日本の仏教ー神仏関係の展開
13．各論Ⅵ　日本の新宗教概説
14．各論Ⅶ　世界で起こっていることを宗教をキーワードに考える
15．まとめ　人は宗教とどのように向き合うべきか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0046B01
科目名	宗教学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions II		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	宗教学 II では、ことに日本人の宗教について考える。講義では、さまざまな日本の宗教現象の事例をあげながら、日本的な宗教観のありかたについて考察を加えていきたい。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、コメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となり、ひいては授業への関心度や参加意識を高めたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―宗教と宗教学・復習をかねて―
2．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(1)
3．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(2)
4．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(1)
5．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(2)
6．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(１)
7．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(2)
8．　物忌みしなくなる神―中世的神の変容(1)
10．物忌みしなくなる神―中世的神の変容(2)
11．仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(1)
12. 仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(2)
13. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(1)
14. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(2)
15. 眼の霊力について考える――つ目の鬼、節分の放相氏、そして手塚治虫『三つ目が通る』へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0046B02
科目名	宗教学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions II		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
講義概要	宗教学 II では、ことに日本人の宗教について考える。講義では、さまざまな日本の宗教現象の事例をあげながら、日本的な宗教観のありかたについて考察を加えていきたい。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
準備学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講者への要望

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、コメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となり、ひいては授業への関心度や参加意識を高めたい。

講義の順序とポイント

1．はじめに―宗教と宗教学・復習をかねて―
2．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(1)
3．日本人の先祖信仰―盆行事を通して「タマ」そして「カミ」の観念を論ず(2)
4．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(1)
5．　映画『大魔神』を材料に日本の神の性格について考える(2)
6．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(１)
7．　仏教と初めて出会った日本人は如何なる対応をしたか―神仏習合はなぜうまれるのか(2)
8．　物忌みしなくなる神―中世的神の変容(1)
10．物忌みしなくなる神―中世的神の変容(2)
11．仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(1)
12. 仏教土着論 I ―生き物は神に供えられて救われる？(2)
13. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(1)
14. 仏教土着論 II ―水神の統御と仏教的神(2)
15. 眼の霊力について考える――つ目の鬼、節分の放相氏、そして手塚治虫『三つ目が通る』へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0051A01
科目名	人権の歴史と現代A	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights A		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 評点とは別に第 1 回のミニレポートの提出を全員必須とし、出席は原則 3 分の 2 以上必要とする。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の引用文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0051A02
科目名	人権の歴史と現代A	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights A		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 評点とは別に第 1 回のミニレポートの提出を全員必須とし、出席は原則 3 分の 2 以上必要とする。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の引用文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0051B01
科目名	人権の歴史と現代B	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights B		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
講義概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。		
教材（参考文献）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教材（その他）	毎回「京学なび」でパワーポイント資料を配布するので、各自印刷・持参のこと（原則月曜日までにアップ）。これが教科書となるのできちんと記入して保存しておくこと。		
評価方法	平常点（30%）、講義内小テスト（35%）、最終レポート（35%）から総合的に評価する。 平常点は、毎回出題するミニレポートから判断する。小テスト実施日は 2 週間前までに告知するが、およそ第 10 回前後となる予定。 評点とは別に第 1 回のミニレポートの提出を全員必須とし、出席は原則 3 分の 2 以上必要とする。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
準備学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 資料にはその回の引用文献も掲載するので、必要であればそちらも読むことをお勧めする。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講者への要望

中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
ミニレポートは毎回出題、後日講評を行います。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでください。
質問は随時受け付けますが、私語厳禁。配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）１７・１８世紀の欧米の政治思想
第３回：近代の人権思想（２）自然権、宗教改革「信仰・良心の自由」から「言論・思想の自由」へ
第４回：近代の人権思想（３）明治期「臣民の権利」から戦後「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）差別表現と規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0052001
科目名	人文地理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Human Geography		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「人文地理学」とは、主に人間と環境・地域・空間との関係について幅広く考える学問である。 そのために本講義では、前半は地図・地形図の基本知識と読み方を学びながら、主に人間と自然環境とのかかわりについて重点をおいた内容とする。後半は主に都市の歴史・民俗・宗教・文化などを地理学的に考察してゆく。 また、本講義は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	前半は教科書を使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。後半は次の書籍を教科書として用いる。 本多健一『京都の神社と祭り－千年都市における歴史と空間』、中公新書、2015 年 また、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚ないし二枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語・スマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	人文地理学の基本的な知識や考え方が理解できるとともに、地域におけるさまざまな事象に対し、地図の活用など地理学的な見方や方法で把握・考察することができる。		
準備学習	教科書を熟読するとともに、毎回指示する参考文献に必ず目をとおして理解すること。 電車やバス、徒歩で移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と人文地理学
2．地図の基本知識①－定義と種類
3．地図の基本知識②－地図を理解するための基本知識、経度と緯度
4．地図の基本知識③－縮尺、方位、地図の歴史
5．地形図の基本知識とその読み方①－定義と種類、1/25,000 地形図
6．地形図の基本知識とその読み方②－等高線、尾根と谷
7．地形図の基本知識とその読み方③－扇状地、自然堤防
8．地形図の基本知識とその読み方④－三角州、地図利用にあたっての注意点
9．気候と人間①－ケッペンによる世界の気候区分
10．気候と人間②－日本の気候の特徴、環境決定論と環境可能論
11．災害と人間①－さまざまな災害、日本の災害の特徴
12．災害と人間②－ハザードマップとその活用
13．世界のエネルギー需給－石油、石炭、天然ガス、原子力
14．エネルギー需給からみる各国の特徴①－日・米・独・仏・英・伊の比較
15．エネルギー需給からみる各国の特徴②－ノルウェーなどを事例に
16．後半のオリエンテーション－都市の人文地理学的研究
17．日本における古代都市－条坊制、藤原京、平城京
18．歴史的都市・京都の形成①－京都盆地と平安京
19．歴史的都市・京都の形成②－市街地の変遷、秀吉の京都改造
20．歴史的都市・大阪の形成①－上町台地と難波宮、住吉大社
21．歴史的都市・大阪の形成②－大坂本願寺と大阪城
22．歴史的都市・大阪の形成③－市街地の形成、「天下の台所」
23．都市における信仰の地理学的考察①－古代氏神系神社の分布
24．都市における信仰の地理学的考察②－御霊・天王神系神社の分布
25．都市における民俗の地理学的考察①－中近世の氏子区域形成

26. 都市における民俗の地理学的考察②－氏子区域境界線の意味
27. 都市における民俗の地理学的考察③－祭礼の空間構造
28. 文化伝播①－周圏論、さまざまな民俗文化の分布
29. 文化伝播②－都市祭礼文化の地方への伝播
30. 講義を終えるにあたって－人文地理学をより深く学ぶために

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0052002
科目名	人文地理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Human Geography		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	人間は地表面を離れて生活でき得ないし、文化を生むこともできない。その意味で、人と場所の関係を探ることは極めて重要である。この人と場所の関係を探るのが人文地理学である。 本講義では近年の学際的な人文地理学の動向に目を向ける。特に行動科学、心理学、社会学、歴史学、メディア研究、文化人類学、民俗学との接点を持つ行動地理学や人文主義地理学の方法論に焦点を当てる。そしてこれらの方法論を使うことによって、どのような研究が出来るのかを具体例をもって示す。 前半は、主に人文地理学のテーマと学際的な特性と可能性について、様々な学問分野との交流の具体的事例をもとに探っていく。後半は前半での理論的展望を引き継ぎ、「空想の場所と現実の場所との交流」というテーマに焦点をしぼり、昔話・神話を題材に、再検討する。特に本講義では人々の頭の中にある空想の場所が、現実の場所に反映されていることを強調する。上記のテーマを探りつつ、と同時に人文地理学の可能性についても模索していく。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考文献）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	様々な文化の空間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
準備学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		

受講者への要望

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。

講義の順序とポイント

1　人文地理学とは：文化とは
2　人文地理学の考える文化：民俗文化と大衆文化
3　近代以降の私たちの場所：sense of place　placelessness
4　文化地域：（形式文化地域圏、機能文化地域、認知文化地域）
5　文化拡散（拡大拡散：伝染的拡散、階層的拡散、刺激的拡散・移転拡散）
6　文化生態学（環境決定論、可能論、環境知覚研究）
7　文化統合（社会科学としての地理学）
8　人文主義地理学（ロード・オブ・ザ・リングスの地図とは）
9　伝統文化と大衆文化の継承性：大統領選挙、フォークソング、ビートルズ、ケルト
10　文化景観：景観を読む（解釈学的分析）
11　東南アジアの都市景観を読む：都市記号論、都市プラン
12　民話の文化地域、文化拡散、文化生態学、文化統合、文化景観
13　現実世界を構築した空想世界：ジャックと豆の木、心のなかの景観
14　昔話の感覚地理―大工と鬼六、グレート・マザー、食わず女房の分析
15　昔話と心のなかの景観―奈良梨採り、通過儀礼との類似点
16　映画と心のなかの景観―映画『エイリアン』
17　宇宙空間とジャングルの類似性：リプリーの自己実現、民俗文化と大衆文化の継承性
18　民話の分布図：池田の民話とサウンドスケープ
19　昔話の触覚地理―木の知恵、二人の旅人、プリント、感覚地理学と触角地理
20　触覚地理からストーリー・パスへ：世界樹で首を吊る
21　昔話の原風景―瞬間の風景（DEF の野原）、プロップの構造分析、
22　原風景とは：『スダンドバイミー』
23　野原の聴覚地理、立ち帰りたい場所、実在する原風景、池田の民話と原風景
24　『ツインズ』と二人の旅人：昔話と映画の空間移動
25　『羊たちの沈黙』と女性の自立：映画に継承された心象風景の伝統
26　落語の二人の旅人：「伊勢参宮神賑」

27　落語に見る近世大坂の環境知覚：「まんじゅうこわい」「質屋蔵」「次の御用日」
28　落語の見る近世京都の環境知覚：「こぶ弁慶」「景清」
29　近世の大坂人の見た異界像：「地獄八景亡者戯」「小倉舟」「月宮殿星都」
30　人文地理学の冒険を展望する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0053A01
科目名	政治学原論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory A		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Aでは、政治学の対象範囲のうち、権力論、政治体制論、政治経済学、市民社会論、公共政策論などの理論的なテーマを主に取り扱う。イメージしにくい抽象的な議論を扱うこともあるが、しっかり耳と頭を働かせて講義内容の理解に努めてほしい。 なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	(1) 学期末レポート（70%）：内容の論理性・正確性を評価する。 (2) 受講態度（30%）：講義の際の発言・コメントの内容と積極性を評価する。		
到達目標	(1) 政治とは何かという問いに対して、簡潔に答えることができる。 (2) 世界の国々の統治のあり方について、分類を行うことができる。 (3) われわれが暮らす社会と政治との関係について、説明することができる。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治とは何か 2. 政治と権力 3. 近代国家とその支配 4. 自由と自由主義 5. デモクラシー 6. 自由民主主義体制 7. 非自由民主主義体制 8. 政治と経済 9. 福祉国家の発展と危機 10. 市民社会 11. ナショナリズム 12. ジェンダーと政治 13. 公共政策と行政 14. 政策過程 15. 制度と政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0053B01
科目名	政治学原論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Theory B		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
講義概要	政治学原論の目的は、政治について考える際に必要とされる基礎知識を提供することである。政治学原論Bでは、政治学の対象範囲のうち、政治制度論、政治過程論、政治文化論などのテーマを主に取り扱う。政治学が扱う領域の多様さに幻惑されないよう、各回の授業に集中して要点の把握に努めてほしい。 なお、政治学原論AとBの双方を受講するのが望ましい。その際の順序としては、政治学原論Aを先に受講するのが望ましい。		
教材（テキスト）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）			
評価方法	(1) 学期末レポート（70%）：内容の論理性・正確性を評価する。 (2) 受講態度（30%）：講義の際の発言・コメントの内容と積極性を評価する。		
到達目標	(1) 現代国家を構成する政治制度の各要素が果たす役割を説明できる。 (2) 政治の世界で個人や集団の相互作用が生み出す動態を把握する。 (3) 市民の政治意識と政治過程との関係を理解し、あるべき政治参加のかたちを考える。		
準備学習	(1) リアルタイムの政治の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) レジュメにはしっかり目を通しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講者への要望			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション：政治制度と政治過程 2. 議会と議会政治 3. 執政制度 4. リーダーシップ 5. 官僚制 6. 司法制度 7. 中央地方関係 8. 選挙と政治参加 9. 投票行動 10. 政治意識と政治文化 11. 世論とメディア 12. 利益集団と政治 13. 政党の機能と組織 14. 政党システム 15. 対外政策			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0056A01
科目名	生命の科学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、生と死について
2.心臓死について
3.脳死について
4.脳死とその原因
5.脳死と臓器移植
6.脳の構造と機能（その１）
7.脳の構造と機能（その２）
8.心臓の構造と機能
9.心臓の病気（その１）
１０.心臓の病気（その２）
１１.血圧について
１２.救命救急処置について（その１）
１３.救命救急処置について（その２）
１４.救命救急処置について（その３）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0056B01
科目名	生命の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	医学、生物学、遺伝学などの最新の知見を踏まえ、「生命」について考察する。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	生命とは何か、死とは何か、病気とは何かといった問題に科学的に答えるための基本的知識を習得する。		
準備学習	自分の健康や病気、生命といったことに対して常に関心を持つこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「生命の科学 A」→「生命の科学 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス、肝臓について
2.肝臓の構造と機能
3.肝臓の病気（その１）
4.肝臓の病気（その２）
5.ガンについて
6.細菌とウィルスについて
7.感染症について（その１）
8.感染症について（その２）
9.遺伝と遺伝子について（その１）
１０.遺伝と遺伝子について（その２）
１１.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その１）
１２.遺伝子、ＤＮＡ、ゲノムについて（その２）
１３.遺伝子と病気について（その１）
１４.遺伝子と病気について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0058001
科目名	西洋史概説	単位数	4
科目名（英語表記）	General History of Europe		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。

講義の順序とポイント

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアの人口と身分構成
３．古代ギリシアの奴隷と社会（１）
４．古代ギリシアの奴隷と社会（２）
５．犯罪と刑罰（１）
６．犯罪と刑罰（２）
７．犯罪と刑罰（３）
８．動物裁判（１）
９．動物裁判（２）
１０．動物裁判（３）
１１．新大陸の征服史（１）
１２．新大陸の征服史（２）
１３．新大陸の征服史（３）
１４．近代奴隷貿易の展開（１）
１５．近代奴隷貿易の展開（２）
１６．西洋史学の課題（続）
１７．古代ギリシアにおける女性と社会
１８．古代ギリシアにおける女性の財産権
１９．古代ギリシアにおける女性の地位
２０．疫病の歴史（１）
２１．疫病の歴史（２）
２２．疫病の歴史（３）
２３．「流行」と社会（１）
２４．「流行」と社会（２）
２５．「流行」と社会（３）
２６．近代世界システムの理論の概要（１）
２７．近代世界システムの理論の概要（２）
２８．近代世界システムの成立史（１）
２９．近代世界システムの成立史（２）
３０．近代世界システムと奴隷制

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0058A01
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアの人口と身分構成 ３．古代ギリシアの奴隷と社会（１） ４．古代ギリシアの奴隷と社会（２） ５．犯罪と刑罰（１） ６．犯罪と刑罰（２） ７．犯罪と刑罰（３） ８．動物裁判（１） ９．動物裁判（２） １０．動物裁判（３） １１．新大陸の征服史（１） １２．新大陸の征服史（２） １３．新大陸の征服史（３） １４．近代奴隷貿易の展開（１） １５．近代奴隷貿易の展開（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0058B01
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（テキスト）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講者への要望			
授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。			
講義の順序とポイント			
１．西洋史学の課題 ２．古代ギリシアにおける女性と社会 ３．古代ギリシアにおける女性の財産権 ４．古代ギリシアにおける女性の地位 ５．疫病の歴史（１） ６．疫病の歴史（２） ７．疫病の歴史（３） ８．「流行」と社会（１） ９．「流行」と社会（２） １０．「流行」と社会（３） １１．近代世界システムの理論の概要（１） １２．近代世界システムの理論の概要（２） １３．近代世界システムの成立史（１） １４．近代世界システムの成立史（２） １５．近代世界システムと奴隷制			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0059001
科目名	地誌	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像などの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る態度の学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、諸資料の活用を通じた地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献を必ず熟読して理解すること。 電車やバス、徒歩で移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識①－地誌と地図、定義と種類
3．地図の基本知識②－地図を理解するための基本知識、地図の歴史
4．地形図の基本知識とその読み方①－1/25,000 地形図、等高線
5．地形図の基本知識とその読み方②－尾根と谷、扇状地
6．地形図の基本知識とその読み方③－自然堤防、地図利用にあたっての注意点
7．日本（列島）の地理的特徴など①－自然的特徴、国土の区分および利用状況
8．日本（列島）の地理的特徴など②－人口の現状と推移
9．亀岡市と亀岡盆地①－亀岡盆地とその開発伝承
10．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える亀岡
11．京都①－京都盆地と平安京、条坊制
12．京都②－都市（市街地）の変遷、秀吉の京都改造
13．京都③－観光都市、入込客数とリピーター
14．京都④－観光戦略、人気観光地の変遷
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0059A01
科目名	地誌 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography A		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像などの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る態度の学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、諸資料の活用を通じた地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献を必ず熟読して理解すること。 電車やバス、徒歩で移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．日本列島の地理的特徴など①－自然的特徴、地形、気候
3．日本列島の地理的特徴など②－国土の区分、土地利用、人口の現状と推移
4．亀岡市と亀岡盆地①－地域概観、開発の伝承
5．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える古代の開発
6．亀岡市と亀岡盆地③－古代の土地管理システム「条里制」
7．亀岡市と亀岡盆地④－「条里制」を理解するための実習作業
8．観光からみた京都①－日本における観光の現状と課題、インバウンド観光
9．観光からみた京都②－京都観光の実態と戦略、入込客数とリピーター
10．観光からみた京都③－人気観光地の変遷、嵐山
11．滋賀県・琵琶湖①－淡水湖、淡水漁業
12．滋賀県・琵琶湖②－水辺の環境と環境知覚
13．千葉県・九十九里浜①－海岸平野、海洋漁業と農業
14．千葉県・九十九里浜②－新田開発
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0059A02
科目名	地誌 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography A		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像などの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 75%、平常点 25%で評価する。 平常点は小課題の提出状況など授業への取り組み姿勢を重視し、私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る態度の学生には単位を与えないので注意してほしい。出席状況はあまり重視しない。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、諸資料の活用を通じた地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	毎回指示する参考文献を必ず熟読して理解すること。 電車やバス、徒歩で移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－地理学と地誌学
2．地図の基本知識①－地誌と地図、定義と種類
3．地図の基本知識②－地図を理解するための基本知識、地図の歴史
4．地形図の基本知識とその読み方①－1/25,000 地形図、等高線
5．地形図の基本知識とその読み方②－尾根と谷、扇状地
6．地形図の基本知識とその読み方③－自然堤防、地図利用にあたっての注意点
7．日本（列島）の地理的特徴など①－自然的特徴、国土の区分および利用状況
8．日本（列島）の地理的特徴など②－人口の現状と推移
9．亀岡市と亀岡盆地①－亀岡盆地とその開発伝承
10．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える亀岡
11．京都①－京都盆地と平安京、条坊制
12．京都②－都市（市街地）の変遷、秀吉の京都改造
13．京都③－観光都市、入込客数とリピーター
14．京都④－観光戦略、人気観光地の変遷
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。
※受講人数によっては野外フィールドワークを行う可能性もある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0059B01
科目名	地誌B	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography B		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、地誌 A の理解を前提として、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 50%、平常点 50%で評価する。 平常点は小課題の提出状況、フィールドワークへの積極的参画、そして自分の出身地に関する地域調査・発表など授業への取り組み姿勢を重視し、私語・スマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る学生には単位を与えないので注意してほしい。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、諸資料の活用を通じた地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	自分の出身地を独自に調査して発表してもらうので、受講前から準備しておくこと。 毎回指示する参考文献を必ず熟読して理解すること。 電車やバス、徒歩で移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

受講者は、地誌 A（春学期）を履修した上で登録すること。
3 回程度予定している野外フィールドワークは、通常の講義を複数回休講とし、その分土曜の午後に集中して行う。よって土曜の午後になるべく予定を入れないこと。
自分の出身地を独自に調査して発表してもらうので、受講前から準備しておくこと。
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－より深い地誌学の学習に向けて
2．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川①－天井川の形成
3．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川②－河川の治水
4．京都市右京区フィールドワーク①
5．京都市右京区フィールドワーク②
6．都市の中の河川①－西高瀬川の形成
7．京都市上京区フィールドワーク①
8．京都市上京区フィールドワーク②
9．都市の中の河川②－小川の形成
10．亀岡市フィールドワーク①
11．亀岡市フィールドワーク②
12．亀岡市の地誌作成－静態地誌と動態地誌
13．受講生による出身地の地域調査・発表①－地域概観
14．受講生による出身地の地域調査・発表②－魅力のアピール
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※受講人数など諸般の事情によって順序や内容を変更したり、フィールドワークを取りやめて通常講義としたりする可能性もある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0059B02
科目名	地誌B	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography B		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
講義概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、地誌 A の理解を前提として、様々な見方から比較的身近な地域の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図）、文書資料（史料）、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって、毎回出席しなければ理解はむずかしく、小課題を課すことも多い。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（テキスト）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。 ただし、受講者には 1/25,000 地形図（￥278）を一枚購入してもらう。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	毎回、最低二色の色鉛筆かマーカー、定規を持参すること。		
評価方法	定期テスト 50%、平常点 50%で評価する。 平常点は小課題の提出状況、フィールドワークへの積極的参画、そして自分の出身地に関する地域調査・発表など授業への取り組み姿勢を重視し、私語・スマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」をくりかえすなど目に余る学生には単位を与えないので注意してほしい。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握するとともに、諸資料の活用を通じた地域調査の基本的方法を理解できる。		
準備学習	自分の出身地を独自に調査して発表してもらうので、受講前から準備しておくこと。 毎回指示する参考文献を必ず熟読して理解すること。 電車やバスで移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		

受講者への要望

受講者は、地誌 A（春学期）を履修した上で登録すること。
3 回程度予定している野外フィールドワークは、通常の講義を複数回休講とし、その分土曜の午後に集中して行う。よって土曜の午後になるべく予定を入れないこと。
自分の出身地を独自に調査して発表してもらうので、受講前から準備しておくこと。
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。

講義の順序とポイント

1．オリエンテーション－より深い地誌学の学習に向けて
2．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川①－天井川の形成
3．滋賀県・草津川と富山県・常願寺川②－河川の治水
4．京都市右京区フィールドワーク①
5．京都市右京区フィールドワーク②
6．都市の中の河川①－西高瀬川の形成
7．京都市上京区フィールドワーク①
8．京都市上京区フィールドワーク②
9．都市の中の河川②－小川の形成
10．亀岡市フィールドワーク①
11．亀岡市フィールドワーク②
12．亀岡市の地誌作成－静態地誌と動態地誌
13．受講生による出身地の地域調査・発表①－地域概観
14．受講生による出身地の地域調査・発表②－魅力のアピール
15．講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※受講人数など諸般の事情によって順序や内容を変更したり、フィールドワークを取りやめて通常講義としたりする可能性もある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JM0060A01
科目名	哲学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy A		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学（philosophy）とは、ギリシア語におけるその語源にまでさかのぼれば、知（sophia）を愛すること（phileo)、すなわち、知的探求である。現代の知的状況が形作られたのは、十七世紀の科学の世界で起こった知的革命によってである。本講義では、（１）十七世紀を代表する哲学者デカルトをとりあげ、その哲学をまず紹介し、（２）次にその考え方の背景になった源流を古代思想からピックアップし、（３）最後にそのデカルト以後の知的営みの展開を概観したい。これらの紹介を通じて、知識、とりわけ厳密な科学的な知識はいかにして可能であるのか、という問題を考えてみたい。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	知識、とりわけ科学的な知識についてその由来を哲学史を手がかりに考える。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、デカルトの著作は文庫で読めるので、自分で読んでみよう。		

受講者への要望

（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１．導入－１「哲学」という名称　２知的探求　３十七世紀の知的革命
２．科学革命－１天動説から地動説へ　２力学の変化　３デカルトの位置
３．デカルトの学問観１－１「理性を導く」　２道　３直観と演繹
４．デカルトの学問観２－１「一切を疑う」　２悪霊の仮説　３「我思うゆえに我あり」
５．デカルトの学問観３－１物心二元論　２「真理の種子」　３哲学の木
６．デカルトの自然学－１目的論　２ デカルトの機械論　３渦動宇宙
７．源流１－１キリスト教　２ギリシア哲学　３ピュタゴラスの数学思想
８．源流２－１プラトン　２「魂を肉体から解放する」　３想起説
９．源流３－１ アリストテレス　２経験と学問　３整理
１０.デカルト対ニュートン－１ニュートン　２実験哲学
１１.経験論－１ロック　２ヒューム
１２.カント１－１若きカント　２超越論哲学
１３.カント２－１感性と悟性　２コペルニクス的転回
１４.カッシーラー－１合理論、経験論、そして超越論哲学　２カッシーラー　３シンボル形式の哲学
１５．「知識はどこから由来するか？」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0060B01
科目名	哲学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy B		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１　導入－－１哲学とは？　２哲学の問いと三つの起源　３哲学的思考の特徴　４枢軸時代
２　人間をめぐる神話－－１哲学以前の神話　２インドの神話　３中国の神話　４ギリシアの神話
３　神話と哲学－－１神話から哲学へ　２ウパニシャッド　３『易経』　４ヘラクレイトス
４　インドの哲学１－－１仏陀　２仏典結集　３法（ダルマ）　４三法印
５　中国の哲学１－－１孔子　２孔子の弟子たち　３徳治主義　４孔子以降の儒教
６　中国の哲学２－－１老荘思想　２墨家　３孫子　４韓非子
７　ギリシアの哲学１－－１最初の「哲学者」タレス　２ソクラテス　３対話術
８　ギリシアの哲学２－－１産婆術　２哲人統治論
９　古代哲学の継承－－１大乗仏教の成立　２中国における仏教の衝撃　３儒教の発展　４新しい神話との出会い
１０　西洋近代のスタート－－１整理　２新しい神話としてのキリスト教　３ルネサンスと大航海時代
１１　世界像の変遷１－－１天動説　２太陽中心説と太陽崇拝思想　３力学的自然観
１２　世界像の変遷２－－１信仰か理性か　２啓蒙主義　３信仰と理性の棲み分け　４徳治主義への批判
１３　世界像の変遷３－－１汎神論　２疾風怒濤　３ロマン主義の哲学　４美徳なき世界？
１４　日本の哲学思想１－－１儒教・仏教の伝来　２仏教の隆盛　３仏教の展開　４儒教の再登場
１５　日本の哲学思想２－－１西洋哲学の導入　２インド哲学と西洋哲学との融合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0060B02
科目名	哲学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy B		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
講義概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（テキスト）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
準備学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講者への要望

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

講義の順序とポイント

１　導入－－１哲学とは？　２哲学の問いと三つの起源　３哲学的思考の特徴　４枢軸時代
２　人間をめぐる神話－－１哲学以前の神話　２インドの神話　３中国の神話　４ギリシアの神話
３　神話と哲学－－１神話から哲学へ　２ウパニシャッド　３『易経』　４ヘラクレイトス
４　インドの哲学１－－１仏陀　２仏典結集　３法（ダルマ）　４三法印
５　中国の哲学１－－１孔子　２孔子の弟子たち　３徳治主義　４孔子以降の儒教
６　中国の哲学２－－１老荘思想　２墨家　３孫子　４韓非子
７　ギリシアの哲学１－－１最初の「哲学者」タレス　２ソクラテス　３対話術
８　ギリシアの哲学２－－１産婆術　２哲人統治論
９　古代哲学の継承－－１大乗仏教の成立　２中国における仏教の衝撃　３儒教の発展　４新しい神話との出会い
１０　西洋近代のスタート－－１整理　２新しい神話としてのキリスト教　３ルネサンスと大航海時代
１１　世界像の変遷１－－１天動説　２太陽中心説と太陽崇拝思想　３力学的自然観
１２　世界像の変遷２－－１信仰か理性か　２啓蒙主義　３信仰と理性の棲み分け　４徳治主義への批判
１３　世界像の変遷３－－１汎神論　２疾風怒濤　３ロマン主義の哲学　４美徳なき世界？
１４　日本の哲学思想１－－１儒教・仏教の伝来　２仏教の隆盛　３仏教の展開　４儒教の再登場
１５　日本の哲学思想２－－１西洋哲学の導入　２インド哲学と西洋哲学との融合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0063A01
科目名	東洋史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History A		
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
講義概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を社会経済史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる日本との対比・関係を重視する。		
教材（テキスト）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず参照すること。 岡本隆司『近代中国史』ちくま新書（2013 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教材（参考文献）	岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会（2013 年） 岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績によって、評価をくだす。試験は論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
準備学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		
受講者への要望			
教科書・参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。			
講義の順序とポイント			
授業計画 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：公権力と社会 第 3 回：古代中世のアジア史――遊牧世界と農耕世界 第 4 回：二元的世界の形成――江南の開発と唐宋変革の世界史的意義 第 5 回：14 世紀の危機と明朝の世界史的位置 第 6 回：明から清へ――「近世」日本との対比 第 7 回：マクロな社会経済動向 第 8 回：19 世紀の転換 第 9 回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本） 第１０回：動乱の時代と社会構成の変化 第１１回：「督撫重権」――アジアからの視点と国民国家と対比 第１２回：「洋務」の時代――日本・西アジアとの比較 第１３回：国民経済へ向かって 第１４回：産業革命と「黄金時代」――第一次大戦前後 第１５回：戦争と革命			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0063A02
科目名	東洋史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History A		
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	中国史研究においては，伝統的に外交史に十分な蓄積がなされてこなかったが，近年は多くの成果が出ている分野である。前半は，19 世紀初めまでの政治・経済関係を中心とした中国と諸外国との関係を勉強する。後半は，国際法の受容や世界政治の中の中国外交の姿を辿っていく。それによって，中国と諸外国との関係がどのような歴史を歩んできたのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
開講までに現在の中国について調べておいてくこと。			
講義の順序とポイント			
第１回 古代日本外交史 第２回 岳飛と秦檜 第３回 クビライの挑戦 第４回 永楽帝 第５回 長城の中国史 第６回 倭寇と勘合貿易 第７回 Vietnam and the Chinese Model 第８回 康熙帝の手紙 第９回 アジアの海の大英帝国 第１０回 万国公法の時代 第１１回 外交官の誕生 第１２回 革命とナショナリズム 第１３回 中国外交と国連の成立 第１４回 毛沢東の朝鮮戦争 第１５回 日中国交正常化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0063B01
科目名	東洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History B		
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
講義概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を政治外交史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる朝鮮・日本との関係を重視する。		
教材（テキスト）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず参照すること。 岡本隆司『李鴻章』岩波新書（2011 年） 岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史』講談社選書メチエ（2008 年）		
教材（参考文献）	岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教材（その他）			
評価方法	定期試験の成績によって、評価をくだす。試験は論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
準備学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		
受講者への要望			
教科書・参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。			
講義の順序とポイント			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：「東アジアにおける古代の終末」――東アジア世界の特質と西アジア・中央アジア 第３回：多元化のアジア――宋・遼・金とイスラーム世界 第４回：モンゴル帝国の「混一」と「蒙古襲来」の位置づけ 第５回：14 世紀の危機と秩序の再編――「朝貢システム」とティムール・オスマン 第６回：大航海時代――16 世紀の世界 第７回：日本と満洲族の興起――17 世紀の北東アジア 第８回：清朝と徳川の平和――18 世紀の東アジアとイスラーム世界の危機 第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本） 第１０回：日清修好条規と日朝修好条規 第１１回：台湾出兵と琉球処分――西アジアとの比較 第１２回：李鴻章と対外関係――グレート・ゲームのなかで 第１３回：日清戦争――東アジアの分水嶺 第１４回：変法・反動・列強 第１５回：日露戦争から革命へ――アジアの変貌			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0063B02
科目名	東洋史概説B	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History B		
担当者名	望月　直人	旧科目名称	
講義概要	ともすると，中国は停滞していると見做されてきた。それは西洋史の発展段階の図式に当て嵌まらなかったことが大きな要因の一つとなっている。しかし，ひとまず西洋史の枠組みを離れて中国史を観察してみると，その長い歴史に多くの変遷があったこと に気づくだろう。中国の社会はいかなる歴史的変化を経験して今日に至っているのか。政治と社会の変化はどのように連動しているのか，一緒に考えていきたい。		
教材（テキスト）	岡本隆司『近代中国史』（ちくま新書）筑摩書房, 2013 年 288p, ISBN: 978-4-480-06724-1。		
教材（参考文献）	ポール・A・コーエン（佐藤慎一訳）『知の帝国主義――オリエンタリズムと中国像』平凡社, 1988 年　332p, ISBN: 978-4582744088		
教材（その他）	受講者の必要や要望に応じて，個別に紹介する。		
評価方法	小レポート 50% 基準与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか 期末試験 50% 基準：与えられた課題に自分なりの論理と考証で回答できているか		
到達目標	中国の歴史について理解を深め，中国という国について自分なりの見識を持つことができるようになる。また，多量の文章を読み，要点をつかむ。		
準備学習	上述の参考文献をも使って，中国史全般に関連する疑問を持ち，それを自分自身の言葉で表現できるように準備しておきましょう。一つの学期間に数回の小レポートを課す。		
受講者への要望			
中国史に対する基本的な知識を前提とするので，必要な場合は概説書などを読んでおくこと。少なくとも王朝の年代は覚えておくことが望ましい。			
講義の順序とポイント			
第１回 歴史からみる中国 第２回 唐宋の変革と官僚制 第３回 王安石 第４回 大モンゴルの世界 第５回 中国の大盗賊 第６回 万暦十五年 第７回 徽州商人と明清中国 第８回 明清交替と江南社会 第９回 雍正帝 第１０回 「清朝考証学」とその時代 第１１回 李鴻章 第１２回 軍紳政権 第１３回 中国革命の起源(Les origines de la r?volution chinoise) 第１４回 The Last Emperor 第１５回 日本にとって中国とは何か			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0064A01
科目名	統計学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート（54%），その理解度を確認する演習・試験（46%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握できること。確率分布の基本を理解すること。		
準備学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるよ うに心がけること。		

受講者への要望

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

講義の順序とポイント

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0064B01
科目名	統計学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	経済の諸現象を量的に把握したものが経済統計である。統計調査やその利用・分析を重点的に展開する。 とくに分析に必要となる「データのまとめ方」や「統計利用の実際」を重視するが、統計分析の初歩も当然必要となる。 SNA 統計や、物価、労働、金融、為替、外国貿易等様々な統計データを用いて、その処理方法や数量的分析の基礎を学習する。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って表や図、数値指標にまとめて分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。 出席は当然であるので、1/3 回以上欠席した場合不合格とする。		
到達目標	Excel を使いこなし、統計的処理の基礎を固める 高い水準のレポートが書けるようにする		
準備学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講者への要望

ノートを必ず作り書き込むこと。これは特に重要である。
積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。
授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退室は厳禁である。

講義の順序とポイント

以下のように講義を進めるが、取り扱う内容は上記のように各種関連統計を随時利用する。
1　講義の全体構成
2　表を作る
3　グラフの作成と大小関係
4　円グラフと比率
5　折れ線グラフと時間の推移
6　棒グラフとその性質
7　2 軸を使った複合グラフの分析
8　ヒストグラムと分布
9　データのばらつき
１０　散布図と 2 変数の関係
１１　不平等、格差を測る
１２　経済成長を測る
１３　世界の豊かさ
１４　相関係数の話

１５　回帰分析の話

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0065001
科目名	統計分析の基礎	単位数	4
科目名（英語表記）	The Basic of Metric Analysis		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
講義概要	日常生活でも視聴率や世論調査などで広く用いられており、心理学など文系科目にとっても必須である統計学について、基本的なことを解説する。単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方がどのように形成されるのか、具体例を挙げながら考えて行く。 特に数学は自分の手で問題を解かないと理解が進まないので、積極的に問題を解いて欲しい。 数列と和の記号、順列と組み合わせといった高校の復習も適宜行う。それから、データをヒストグラム（度数分布図）を使って視覚化したり、平均値や分散のような数値として表わす方法を学習する。次に、確率変数と期待値の基礎も学ぶ。さらに二項分布、正規分布などの確率分布の性質を調べ、推定や検定の考え方や、その方法を解説する。 適宜、エクセルでの統計データの扱い方についても触れる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	小寺平治、『新統計入門』、裳華房、1996 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（１０点、出席状況等による）＋授業時間内の小テスト（３回×１０点＝３０点）＋定期試験（６０点）		
到達目標	統計学の基本的な考え方を学んでいく。		
準備学習	積極的な姿勢で講義に臨むようにしてください。		

受講者への要望

積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。

講義の順序とポイント

1. 数列と等差数列：数列とは何か、数列の中でも基本的な等差数列とその和の求め方を学ぶ。
2. 等比数列：等比数列の考え方を学び、一般項を求める。
3. 和の記号 Σ：和の記号 Σ の定義とその線形性、簡単な数列の和の求め方を学ぶ。
4. 度数分布表とヒストグラム：与えられたデータを度数分布表と累積度数分布表にまとめ、ヒストグラムにして見やすくする。
5. 代表値：平均・メディアン・モード：データを一つの値で代表させる代表値３種類と、それらの違いを考える。
6. 度数分布表から代表値を求める方法：個々のデータが与えられていなくても、度数分布表から代表値が求められる。
7. 散布度：分散・標準偏差・四分偏差：データの分布を知るには代表値だけでなく、データのばらつきを示す指標も必要である。
8. 相関係数とクロス集計：2 種類のデータを集計する方法を学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いについても考える。
9. 小テスト・１：1〜8 で扱った範囲の理解度を見ます。
10. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
11. 集合と場合の数：集合の表し方と、起こりうる全ての場合の数え上げを学ぶ。
12. 順列と組み合わせ：順列と考え方と、計算法を学ぶ。
13. 組み合わせ：組み合わせの考え方と、計算法を学ぶ。
14. 確率とその計算：確率の定義と意味、その基本性質を学ぶ。
15. 確率変数と期待値：確率変数と確率分布の意味、期待値の考え方と計算の仕方を学ぶ。
16. 二項分布：コインやサイコロを投げたときの確率分布である二項分布を考える。
17. 標準正規分布と正規分布表の見方：正規分布の特徴と正規分布表の見方を学ぶ。
18. 正規分布の標準化：一般の正規分布を標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
19. 小テスト・２：11〜18 で扱った範囲の理解度を見ます。
20. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
21. 標本調査の考え方：全数調査と標本調査、母集団や無作為抽出の意味を考える。
22. 区間推定：正規分布を使った、母平均の区間推定を行う。
23. ｔ分布：t 分布と、t 分布を使った区間推定を学ぶ。
24. 仮説検定と母平均の検定：仮説検定とは何かを考えた上で、正規分布と t 分布を使って母平均の仮説検定を行う。
25. 母比率の差の検定：二項分布または正規分布を使って、母比率の差の仮説検定を行う。
26. ２次元確率変数と確率変数の独立性：２つの確率変数の扱い方と、独立性の意味を考える。
27. カイ二乗分布・適合度・独立性の検定：カイ二乗分布を使って、適合度と独立性の検定を行う。

28. 小テスト・３：21～27 で扱った範囲の理解度を見ます。
29. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
30. これまで学んだ事柄を、エクセルで実行します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0066A01
科目名	日本の文学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature A		
担当者名	鎌田　智恵	旧科目名称	
講義概要	日本には、古くからたくさんの優れた文学作品が存在する。 本講義では、各回ごとに奈良時代から江戸時代までの文学作品からひとつの作品を取り上げて読む。古典文学の世界にどのような名作があり、それがどのような時代・変化の中で成立したのかを知ろう。また現代語訳を手がかりに原文を読むことで、古典の文章そのものを味わってほしい。		
教材（テキスト）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	『新編日本古典文学全集』など各注釈書。		
評価方法	平常点（30%）、授業内小レポート・発表（20%）、期末試験（50%）		
到達目標	実際に原文を読んで作品世界を味わうとともに、作品の梗概や時代背景などを理解し、文学的な完成や知識を豊かにすることを目指す。		
準備学習	講義で扱うテーマについて、その時代に何が起こり、どのような作品が生まれたのかを事前に調べることを期待する。		
受講者への要望			
講義中アンケートへの回答やコメント等を求めるので、積極的に参加してほしい。また講義で扱った作品については、ぜひ自分でも手にとって読むことを勧める。 なお私語が講義の妨げになる場合は退出を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１，ガイダンス ２，奈良時代の文学①　『古事記』『日本書紀』 ３，奈良時代の文学②　『万葉集』 ４，平安時代の文学①　『伊勢物語』 ５，平安時代の文学②　『枕草子』 ６，平安時代の文学③　『栄花物語』 ７，平安時代の文学④　『今昔物語集』 ８，鎌倉時代の文学①　『平家物語』 ９，鎌倉時代の文学②　『十訓抄』 １０，鎌倉時代の文学③　『徒然草』 １１，室町時代の文学①　『太平記』 １２，室町時代の文学②　『お伽草子』 １３，江戸時代の文学①　『奥の細道』 １４，江戸時代の文学②　『雨月物語』 １５，江戸時代の文学③　『東海道中膝栗毛』			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0066B01
科目名	日本の文学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature B		
担当者名	関本　真乃	旧科目名称	
講義概要	時代ごとに、京都を舞台とする著名な文学作品を取り上げ、京都のさまざまな姿を紹介する。 長きにわたって読まれ続けてきた文学作品の魅力に触れ、日本人のものの見方・感じ方や、日本文化とその変遷について学ぶ。 授業で学んだ知識と、自らの体験をつきあわせることが深い理解につながるため、ぜひ授業で紹介した地を積極的に訪れてもらいたい。		
教材（テキスト）	授業中にプリントを配布する。		
教材（参考文献）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜パワーポイントによるスライドを用いる。		
評価方法	平常点（30%）、授業内レポート（20%）、定期テスト（50%） ※平常点は授業中のミニッツペーパーや発言により評価する。		
到達目標	日本の文学作品に親しむことで、現代とは異なる日本文化や価値観に触れ、京都・日本文化への理解を深める。		
準備学習	実際に自分で京都を歩き、京都の地形・地理などをある程度身につけておくのが望ましい。 各講義の内容を復習したうえで授業にのぞむこと。		
受講者への要望			
私語は厳禁とする（私語が講義の妨げとなる場合は退出を求めることがある）。 授業で取り上げた場所に関しては、是非訪れてもらいたい。 古典文法などの予備知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。			
講義の順序とポイント			
1 概説 2 平安時代の文学と京都 1 3 平安時代の文学と京都 2 4 平安時代の文学と京都 3 5 平安時代の文学と京都 4 6 鎌倉時代の文学と京都 1 7 鎌倉時代の文学と京都 2 8 鎌倉時代の文学と京都 3 9 室町・安土桃山時代の文学と京都 1 10 室町・安土桃山時代の文学と京都 2 11 江戸時代の文学と京都 1 12 江戸時代の文学と京都 2 13 明治の文学と京都 14 昭和の文学と京都 15 その他の文学と京都			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0068001
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	社会人として必要な「書く」「話す」力を習得する。 必要な情報を、適切な構成で分かりやすく相手に伝える。また、一般社会で用いられる定型的な言語表現や、敬語といった言葉を運用する上でのマナーについても身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、提出課題 50%、学期末課題 50%で総合的に評価する		
到達目標	社会人として必要な日本語表現法を身につける		
準備学習	ニュース、新聞記事などについて、内容だけではなく、含まれている情報や文章としての構成などに注目して読む習慣をつける。		
受講者への要望			
毎回、文章を書く課題を出す。間違いを恐れず積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　言葉を使う上でのトラブル 2　場所や交通を案内する 3　企画や提案を出す 4　日本語弱者のことを考えて書く 5　レポート、論文を書く①事実と意見 6　レポート、論文を書く②データを引用する 7　レポート、論文を書く③基本的な構成 8　レポート、論文を書く④様々な論の展開 9　復習テスト　レポートの作成 １０　ビジネスメール①基本、敬語 １１　ビジネスメール②依頼、問い合わせ １２　ビジネスメール③確認、回答 １３　ビジネスメール④案内 １４　自己アピールをする① １５　自己アピールをする②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0068002
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	日本語の表現法を様々な状況において上達することを目標とする。トピックとしては①レポートや学術論文の書き方②要約文③文学作品における文学的表現④手紙文（私信、ビジネス文書）などを取り上げる。 具体的には、毎回授業で、ある日本語の表現法を取り上げ、解説を行った後、作文の課題を出してその場で短い作文を作ってもらい、それを講評することで学生諸君の文章表現力の上達を促したい。		
教材（テキスト）	『日本語表現法』西尾宣明編著　樹村房（平成 26 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業時に書いてもらう自分自身の小作文と、他の学生の小作文に関する講評への貢献度		
到達目標	大学生として恥ずかしくない文章表現の常識を身につける。		
準備学習	新聞を毎日読む習慣をつけてほしい。また次の授業で扱うテクストの章を事前に読み、解らない言葉は辞書をひいておくこと。練習問題を事前にやっておくこと。		
受講者への要望			
必ずテクストは購入してください。			
講義の順序とポイント			
毎回、役に立つ日本語の表現法とその歴史的背景を解説する。その後、課題を与えるので各自作文を行ってもらう。そして前回の作文の講評を行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	★★

年度	2017	授業コード	JM0068003
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
講義概要	日本語の表現法を様々な状況において上達することを目標とする。トピックとしては①レポートや学術論文の書き方②要約文③文学作品における文学的表現④手紙文（私信、ビジネス文書）などを取り上げる。 具体的には、毎回授業で、ある日本語の表現法を取り上げ、解説を行った後、作文の課題を出してその場で短い作文を作ってもらい、それを講評することで学生諸君の文章表現力の上達を促したい。		
教材（テキスト）	『日本語表現法』西尾宣明編著　樹村房（平成 26 年）		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業時に書いてもらう自分自身の小作文と、他の学生の小作文に関する講評への貢献度		
到達目標	大学生として恥ずかしくない文章表現の常識を身につける。		
準備学習	新聞を毎日読む習慣をつけてほしい。また次の授業で扱うテクストの章を事前に読み、解らない言葉は辞書をひいておくこと。練習問題を事前にやっておくこと。		
受講者への要望			
必ずテクストは購入してください。			
講義の順序とポイント			
毎回、役に立つ日本語の表現法とその歴史的背景を解説する。その後、課題を与えるので各自作文を行ってもらう。そして前回の作文の講評を行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	★★

年度	2017	授業コード	JM0068005
科目名	日本語表現法	単位数	2
科目名（英語表記）	Method of Japanese Expression		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	社会人として必要な「書く」「話す」力を習得する。 必要な情報を、適切な構成で分かりやすく相手に伝える。また、一般社会で用いられる定型的な言語表現や、敬語といった言葉を運用する上でのマナーについても身につける。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席、提出課題 50%、学期末課題 50%で総合的に評価する		
到達目標	社会人として必要な日本語表現法を身につける		
準備学習	ニュース、新聞記事などについて、内容だけではなく、含まれている情報や文章としての構成などに注目して読む習慣をつける。		
受講者への要望			
毎回、文章を書く課題を出す。間違いを恐れず積極的に参加すること。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス　言葉を使う上でのトラブル 2　場所や交通を案内する 3　企画や提案を出す 4　日本語弱者のことを考えて書く 5　レポート、論文を書く①事実と意見 6　レポート、論文を書く②データを引用する 7　レポート、論文を書く③基本的な構成 8　レポート、論文を書く④様々な論の展開 9　復習テスト　レポートの作成 １０　ビジネスメール①基本、敬語 １１　ビジネスメール②依頼、問い合わせ １２　ビジネスメール③確認、回答 １３　ビジネスメール④案内 １４　自己アピールをする① １５　自己アピールをする②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0069A01
科目名	日本史概説A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan A		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学では、年号やキーワードの暗記ではなく、その出来事の歴史的な意味を論理的に考えることが重要です。また歴史といえば、テレビドラマやコミック漫画、ゲーム等で描かれることの多い、戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。が、歴史は一部の有名人だけで成り立つわけではありません。本授業では、日本の近世から近代（江戸、幕末維新、明治、大正、昭和時代）の歴史に関する、さまざまなトピックをとりあげながら、歴史学の基本―史料・資料に基づき、過去の社会のありようや人びとの営みを明らかにする―を学び、歴史的な感覚を養ってもらいます。		
教材（テキスト）	とくに使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（出席、小レポート等）50% 学期末課題（レポート）50%		
到達目標	日本史、とくに近世から近代までの歴史の大きな流れを把握して、史料から歴史をよみとく歴史学の学問的な特徴を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマ等の歴史ドラマを見たり、近所の史跡・神社仏閣・石碑等にしたしむなどⅠ普段の生活のなかで歴史を意識するよう心掛けてください。また講義の後にはかならずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
ばくぜんと受け身で聴くのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢で授業にのぞんでください。積極的な疑問・感想の提出をもとめます。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス 2　歴史学と歴史創作　―新選組を事例に― 3　古文書のなかの新選組 4　風説書の世界 5　「志士」の創造 6　名所図会の世界 7　旅の文化 8　初詣の歴史 9　江戸時代の法 １０　江戸時代のゴミ問題 １１　江戸時代の祇園祭 １２　坂本龍馬の書状をよみとく １３　歴史書の裏側 １４　日記をつづるということ １５　「日本文化論」を考える			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0069A02
科目名	日本史概説A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	日本の古代から中世後期にいたる歴史の展開を、近年の歴史研究の達成を踏まえ、政治史を中心に文化・社会の諸方面にわたって考察する。特に文化や意識が歴史に与えた影響や東アジア世界が日本の社会に及ぼした影響について、ていねいに考察したい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業で毎回実施する小テスト（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	・日本の古代中世についての最新の歴史の見方を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.なぜ歴史を学ぶのか？ 2.東アジアと古代朝廷 3.平安前期の朝廷 4.平安京の光と影 5.中世は武士の時代か 6.王朝国家体制 7.中世王権の登場 8.荘園公領制の成立 9.平氏政権と『平家物語』 10.鎌倉幕府の成立 11.大殿九条道家と将軍九条頼経 12.仏教革新運動の登場 13.モンゴル襲来 14.室町幕府と東アジア世界 15.京都の文化財と戦争			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0069B01
科目名	日本史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan B		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学では、年号やキーワードの暗記ではなく、その出来事の歴史的な意味を論理的に考えることが重要です。また歴史といえば、テレビドラマやコミック漫画、ゲーム等で描かれることの多い、戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。が、歴史は一部の有名人だけで成り立つわけではありません。本授業では、日本の近世から近代（江戸、幕末維新、明治、大正、昭和時代）の歴史に関する、さまざまなトピックをとりあげながら、歴史学の基本―史料・資料に基づき、過去の社会のありようや人びとの営みを明らかにする―を学び、歴史的な感覚を養ってもらいます。		
教材（テキスト）	とくに使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	平常点（出席、小レポート等）50％ 学期末課題（レポート）50％		
到達目標	日本史、とくに近世から近代の歴史の大きな流れを把握して、史料から歴史をよみとく歴史学の学問的な特徴を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマ等の歴史ドラマを見たり、近所の史跡・神社仏閣・石碑等にしたしむなどＩ普段の生活のなかで歴史を意識するよう心掛けてください。また講義の後にはかならずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
ばくぜんと受け身で聴くのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢で授業にのぞんでください。積極的な疑問・感想の提出をもとめます。			
講義の順序とポイント			
１　ガイダンス ２　歴史学と歴史小説　―島崎藤村『夜明け前』を事例に― ３　亀岡祭りの歴史 ４　京への道　―山陰道から山陰線へ― ５　丹波亀山城の近世近代 ６　由緒書から歴史を考える ７　「お墓」の誕生 ８　石造物から歴史をよみとく　―津波の記録― ９　幕末京都の戦災 １０　亀岡の戦争記念碑 １１　「故郷」の発見 １２　郷土史をつづるということ １３　「国語」「国史」の誕生 １４　外国人から見た日本① １５　外国人から見た日本②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0069B02
科目名	日本史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学で学ぶ歴史では、年号の暗記を求められたりはしません。また歴史といえば、テレビや漫画などで描かれる戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。しかし歴史は一部の有名人だけが活躍するものではありません。本講義では、主に江戸時代以降の日本史に関して、さまざまな話題をとりあげながら、歴史学の基本である、史料に基づきながら、過去の社会のありようや人々の営みを明らかにする手法を学び、当時の社会の仕組みや、その歴史の流れを把握してもらいます。		
教材（テキスト）	特に使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の感想・質問ペーパー（50%） 定期テスト（50%）		
到達目標	日本の社会や文化の歴史にかんして興味をもち、それを深く知るために、史料から歴史を読み解く歴史学の学問としての基礎を学ぶこと。		
準備学習	テレビで大河ドラマをみたり、近所の神社仏閣に訪れたり、普段の生活のなかで歴史を意識してみて下さい。また講義の後は必ずレジュメを読み返してください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。			
講義の順序とポイント			
第１回：歴史と歴史学 第２回：歴史と史料について 第３回：秀吉の平和 第４回：島原の乱と考古史料 第５回：江戸幕府の政治体制と史料批判 第６回：生類憐れみの令と〈子供〉の発見 第７回：江戸時代の教育 第８回：都市京都の発展と祇園の舞妓はん 第９回：江戸時代の病とその対処 第１０回：新選組！ 第１１回：戊辰戦争と天皇 第１２回：近代社会と年中行事 第１３回：自由民権運動と民衆・国民 第１４回：戦争と軍隊 第１５回：災害と社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0072A01
科目名	物質の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science A		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
講義概要	物質は物理的・化学的に還元することにより、その属性を説明することができる。身の回りのさまざまな物質を取り上げ、その属性が物質の基本構成単位である原子とその振る舞いで決まっていることを講義する。		
教材（テキスト）	適宜配布する。		
教材（参考文献）	・桜井弘編 『元素 111 の新知識』　講談社 ・鈴木孝弘著 『新しい物質の科学　改訂 2 版』　オーム社		
教材（その他）	資料を配布する。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	さまざまな物質が共通のシンプルな原理で成り立っていることを理解する。		
準備学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講者への要望			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2.　原子 3.　元素・周期表 4.　放射性物質 5.　金属 6.　希ガス 7.　炭素・ケイ素 8.　レアアース・レアメタル 9.　水 10.　塩 11　.酸素・二酸化炭素 12.　繊維 13.　毒物質 14.　におい物質 15.　物質と生物			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0072A02
科目名	物質の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学 f
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この授業は、日常生活で体験するような身近な自然現象を通して、その基本概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を身につけることを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして、講義形式で授業を行う。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1．物質の科学の講義について 2．音と光(1)　音 3．音と光(2)　波 4．音と光(3)　光 5．音と光(4)　電磁波 6．物質と原子(1)　物質と原子 7．物質と原子(2)　原子 8．物質と原子(3)　原子と光 9．物質と原子(4)　オーロラ１ 10．物質と原子(5)　オーロラ２ 11．原子核と放射線(1)　原子と原子核 12．原子核と放射線(2)　不安定な原子 13．原子核と放射線(3)　身のまわりの放射線 14．原子核と放射線(4)　放射線の影響 15．原子核と放射線(5)　放射線の利用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0072B01
科目名	物質の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学ｓ
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この講義では、日常生活で体験する自然現象やそこで利用している科学技術を通して、その根本に横たわる基本的な物理現象や法則について勉強します。前半は、光の関係する現象（虹と青空）を考察することによって、光の性質や物質の性質について理解を深めます。後半は、電気と磁気の現象を利用した機器（電子レンジと電磁調理器）を通して、電磁波の性質や物質の性質について理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1　物質の科学の講義について 2　虹のはなし(1)　虹の現象 3　虹のはなし(2)　光の性質 4　虹のはなし(3)　光の分散と虹 5　青空のはなし(1)　青空の現象 6　青空のはなし(2)　光と粒子の散乱 7　青空のはなし(3)　光の散乱と青空 8　青空のはなし(4)　光と電磁波 9　電磁気のはなし(1)　電気と磁気の現象 10　電磁気のはなし(2)　電場と磁場 11　電磁気のはなし(3)　電磁波 12　電子レンジのはなし(1)　電子レンジの構造 13　電子レンジのはなし(2)　電子レンジの発熱の原理 14　電磁調理器のはなし(1)　電磁調理器の構造 15　電磁調理器のはなし(2)　電磁調理器の発熱の原理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0072B02
科目名	物質の科学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	物質の科学ｓ
講義概要	自然科学の最も基本的な分野である物質の科学は、現代社会の科学技術の基礎としてのみならず、その考え方や方法は他の科学の人文科学や社会科学を勉強する上でも重要であろう。 この講義では、日常生活で体験する自然現象やそこで利用している科学技術を通して、その根本に横たわる基本的な物理現象や法則について勉強します。前半は、光の関係する現象（虹と青空）を考察することによって、光の性質や物質の性質について理解を深めます。後半は、電気と磁気の現象を利用した機器（電子レンジと電磁調理器）を通して、電磁波の性質や物質の性質について理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教材（その他）	各講義でプリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
準備学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、専門用語等を調べ予習しておくこと。		
受講者への要望			
高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、毎回授業に出席すること。			
講義の順序とポイント			
1　物質の科学の講義について 2　虹のはなし(1)　虹の現象 3　虹のはなし(2)　光の性質 4　虹のはなし(3)　光の分散と虹 5　青空のはなし(1)　青空の現象 6　青空のはなし(2)　光と粒子の散乱 7　青空のはなし(3)　光の散乱と青空 8　青空のはなし(4)　光と電磁波 9　電磁気のはなし(1)　電気と磁気の現象 10　電磁気のはなし(2)　電場と磁場 11　電磁気のはなし(3)　電磁波 12　電子レンジのはなし(1)　電子レンジの構造 13　電子レンジのはなし(2)　電子レンジの発熱の原理 14　電磁調理器のはなし(1)　電磁調理器の構造 15　電磁調理器のはなし(2)　電磁調理器の発熱の原理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0073A01
科目名	文化人類学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology A		
担当者名	中谷　和人	旧科目名称	
講義概要	文化人類学は、長期のフィールドワーク（現地調査）を通じて他者の理解を目指す学問です。しかしここで「他者を理解する」とは、そもそもどういうことを意味するのでしょうか。この講義では、文化人類学の基本的な方法と知見をさまざまな地域／領域における具体的事例とともに学びながら、この問いを深めてゆきます。そしてそれをとおして、「他者との出会いを通じて自己自身の変容に向かう」という、文化人類学的な思考と実践のセンスを身につけることを目指します。		
教材（テキスト）	教科書は使用しません。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイント、DVD を活用するとともに、適宜資料を配布します。		
評価方法	授業後の質問・感想（20%）、期末レポート（80%）		
到達目標	文化人類学の基本的な方法と知見を具体的事例とともに学ぶことで、自己と他者の世界についての当たり前を疑い、それをより深いところから捉え直すための新しい視座の獲得を目指します。同時にこの学びを、身近な出来事や自分自身の経験と結びつけて熟考し、自分のことばで人に説明できるようになることを目標にします。		
準備学習	初回の授業でキーワードを列挙するので、インターネット等で情報収集しておくこと。また、授業内で参照した文献を読み、関心を惹かれた問題についてさらに理解を深めること。		

受講者への要望

この講義では、何よりも授業後の復習を重視します。配布資料を読み返しながら授業内容を振り返り、身近な出来事や自分の体験に照らして熟考すること。この反復作業をとおして、文化人類学という学問を単に「知識」として学ぶのみならず、現在の私たちのものの考え方や生き方と密接に関わる実践的な「方法」として学ぶことを目指しています。

講義の順序とポイント

1.イントロダクション
2.マリノフスキーとクラ――贈与がつくる社会関係
3.野生のナヴィゲーション――イヌイットにおける移動と動物に〈なる〉こと
4.レヴィ＝ストロースの思想（1）――〈構造〉とは何か
5.レヴィ＝ストロースの思想（2）――具体の科学としてのブリコラージュ
6.文化批判の時代へ――交渉される「文化」
7.前半のまとめ
8.生命を人類学的に考える（1）――アニミズムと拡張した心
9.生命を人類学的に考える（2）――動きが生命をつくる
10.医療を人類学的に考える（1）――医療人類学の現在
11.医療を人類学的に考える（2）――病むことの経験とケアの実践
12.芸術を人類学的に考える（1）――誰がアール・ブリュットを語るのか
13.芸術を人類学的に考える（2）――芸術の生態学に向かって
14.芸術を人類学的に考える（3）――「線」が切り開く生の新たな可能性
15.全体のまとめ――思考を強いる出会いの沃野へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	-	-	-	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0073B01
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology B		
担当者名	中谷　和人	旧科目名称	
講義概要	アルフレッド・ジェルはその遺著『芸術とエージェンシー』において、世界各地で制作されるさまざまな「芸術作品」を、従来の美学的／象徴記号学的なモデルによって考察するのではなく、社会関係をつくり媒介し変化させるその実際的な「仕事」によって定義し考察しました。この講義では、芸術の人類学にひとつの画期をなした本著作を読解しながら、現在の私たちの生に対して芸術がもたらす可能性について考えます。（受講人数によってはグループワーク形式で進めます。また、受講者は同じ担当者による「文化人類学 A」を受講しておくことが望ましい。）		
教材（テキスト）	Gell, Alfred (1998)　Art and Agency: An Anthropological Theory　Oxford University Press.（近々邦訳の予定がありますが、授業までに間に合わなければ原著と配布資料を併用します。）		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示します。		
教材（その他）	パワーポイントを活用するとともに、適宜資料を配布します。		
評価方法	授業後の質問・感想（10%）、グループワークへの積極参加（30%）、期末レポート（60%）		
到達目標	芸術に関するステレオタイプ的な見方を脱し、それを真に創造的に思考するための新しい視座の獲得を目指します。		
準備学習	授業に際して、「芸術とは何か」という問いに自分ならどう答えるかを考えておくこと。		
受講者への要望			
この授業では、何よりも物事を創造的に考えたいという態度（熱意）を重視します。芸術に関する予備知識はあってもなくてもどちらでも構いません。			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクション――『芸術とエージェンシー』を読むために 2.第１章　問題の定義：芸術の人類学の必要性 3.第２章　芸術ネクサスの理論 4.第３章　芸術ネクサスとインデックス 5.第４章　芸術ネクサスにおけるインデックスの巻き込み 6.第５章　インデックスの創出 7.第６章　インデックスの批評（１） 8.第６章　インデックスの批評（２） 9.第７章　分配された人格（１） 10.第７章　分配された人格（２） 11.第８章　様式と文化（１） 12.第８章　様式と文化（２） 13.第９章　結論：拡張した心（１） 14.第９章　結論：拡張した心（２） 15.まとめ――『芸術とエージェンシー』を使うために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	★	-	-	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0075A01
科目名	法学概論A（日本国憲法を含む）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law A (including the Constitution)		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	本講義は、現代の法・法学が取り組んでいる様々な課題について、概説する。 具体的には、主要な法の分野である「憲法」「民法」「刑法」それぞれについて、最近話題になった、または現に話題になっている諸問題を取り上げ、 なぜ問題になっているのか、 どういった解決の方向性が考えられるか、 などについて、考えていくこととする。 もちろん入門的な講義であることにも配意し、法学の専門的な、ある面マニアックな議論はできるだけ避けることとし、一般市民感覚で受講生と一緒になって議論を進めていくことができるようにしたい。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布		
教材（参考文献）	早川吉尚「法学入門」(有斐閣ストゥディア)		
教材（その他）			
評価方法	レポート 60％ 授業中課題 40％		
到達目標	◯憲法・民法・刑法の意義と役割を理解する。 ◯法(憲法・民法・刑法)が関係する現代的課題について、ニュース報道が理解できる。。		
準備学習	1．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 2．授業内課題・レポートについては、何をどう考え、どのように書き進めていくか具体的に指示するので、これに従って取り組むこと。		

受講者への要望

出席登録だけで満足しているような学生を時折見かける。
本科目については、このような態度はまったく意味をなさないことは、改めてお伝えしておきたい。
少なくとも授業時間中の真剣な取り組みを何よりも期待したい。

講義の順序とポイント

1　導入
　1法学とは－何を何のために学ぶか
　2六法とは何か
　　憲法・民法・刑法
　3裁判所は何をするところか

2　憲法
　1法律が憲法に違反すると
　　違憲立法審査　一票の格差
　2憲法で守られる人権とは
　　幸福追求権・新しい人権
　3憲法は差別問題についてどう考えているか

3　民法
　1民法の適用は年齢によって区別されるか
　　成年年齢　１８歳選挙権
　2契約は守らなければならないか
　　例えば、「恋愛禁止」を定める契約条項に違反したアイドルは？

3 子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか
不法行為　責任無能力者　監督責任者
4 お父さんと呼べるのはなぜ
嫡出推定制度　女性の再婚禁止期間
5 夫婦は同一姓を名乗らなければならないか
夫婦別姓
6 相続のルールはなぜ必要なの
非嫡出子相続差別

4　刑法
1 冤罪事件を防ぐには
取調べの録音・録画制度
2 死刑制度は必要か
裁判員最判と死刑制度

5　法・法学の未来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★★

年度	2017	授業コード	JM0075A02
科目名	法学概論A（日本国憲法を含む）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law A (including the Constitution)		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
講義概要	本講義は、現代の法・法学が取り組んでいる様々な課題について、概説する。 具体的には、主要な法の分野である「憲法」「民法」「刑法」それぞれについて、最近話題になった、または現に話題になっている諸問題を取り上げ、 なぜ問題になっているのか、 どういった解決の方向性が考えられるか、 などについて、考えていくこととする。 もちろん入門的な講義であることにも配意し、法学の専門的な、ある面マニアックな議論はできるだけ避けることとし、一般市民感覚で受講生と一緒になって議論を進めていくことができるようにしたい。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布		
教材（参考文献）	早川吉尚「法学入門」(有斐閣ストゥディア)		
教材（その他）			
評価方法	レポート 60％ 授業中課題 40％		
到達目標	◯憲法・民法・刑法の意義と役割を理解する。 ◯法(憲法・民法・刑法)が関係する現代的課題について、ニュース報道が理解できる。。		
準備学習	1．授業資料である「プリント教材」は事前に配布するので、授業前に目を通し、授業で何が話題になるかをつかんだ上で、授業に出席する。授業後に「プリント教材」をもう一度読み直し、内容が十分理解できるかどうか、確認すること。 2．授業内課題・レポートについては、何をどう考え、どのように書き進めていくか具体的に指示するので、これに従って取り組むこと。		

受講者への要望

出席登録だけで満足しているような学生を時折見かける。
本科目については、このような態度はまったく意味をなさないことは、改めてお伝えしておきたい。
少なくとも授業時間中の真剣な取り組みを何よりも期待したい。

講義の順序とポイント

1　導入
　1法学とは－何を何のために学ぶか
　2六法とは何か
　　憲法・民法・刑法
　3裁判所は何をするところか

2　憲法
　1法律が憲法に違反すると
　　違憲立法審査　一票の格差
　2憲法で守られる人権とは
　　幸福追求権・新しい人権
　3憲法は差別問題についてどう考えているか

3　民法
　1民法の適用は年齢によって区別されるか
　　成年年齢　１８歳選挙権
　2契約は守らなければならないか
　　例えば、「恋愛禁止」を定める契約条項に違反したアイドルは？

3 子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか
不法行為　責任無能力者　監督責任者
4 お父さんと呼べるのはなぜ
嫡出推定制度　女性の再婚禁止期間
5 夫婦は同一姓を名乗らなければならないか
夫婦別姓
6 相続のルールはなぜ必要なの
非嫡出子相続差別

4　刑法
1 冤罪事件を防ぐには
取調べの録音・録画制度
2 死刑制度は必要か
裁判員最判と死刑制度

5　法・法学の未来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★★

年度	2017	授業コード	JM0075B01
科目名	法学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Law B		
担当者名	大塚　泰寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、法を理解する上で必須と思われる基礎的な知識を得ることを目的とするものである。 具体的には、法学の初学者には難解と思われる法律用語の説明や、日本の裁判制度や主要な法律の基本原理や概要などを中心に解説していく。 また学生の理解を助けるために、新聞などで注目を集めている事例もいくつか紹介する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	末川博編『法学入門［第 6 版（補訂版)]』(有斐閣双書、2014 年) 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門［第 4 版]』(有斐閣双書、2005 年)		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	定期試験 100%。試験は持込不可で行われる。		
到達目標	（1）基本的な法律用語を理解し、説明できるようになること。 （2）法制度や日本の主要な法律の基本原理や概要を理解し、説明できるようになること		
準備学習	参考文献の関連部分を読んで、予習・復習することが望ましい。		

受講者への要望

講義には緊張感をもって望んで頂きたい。私語などは一切厳禁である。

講義の順序とポイント

1．はじめに／法とは何か
　ガイダンス／法の特色
2．法と裁判（1）裁判制度
　裁判制度、民事裁判・刑事裁判
3．法と裁判（2）裁判所
　裁判所と裁判官、裁判手続の基本原則
4．法と裁判（3）裁判の基準
　法源、制定法、慣習法、判例法
5．法と裁判（4）法の解釈
　法の適用、法の解釈
6．法と裁判（5）裁判の今日的課題／法の体系（1）法の体系
　民事裁判の課題、刑事裁判の課題、公法、私法、社会法
7．法の体系（2）国家と憲法
　近代国家と憲法、近代憲法、現代憲法
8．法の体系（3）権力分立
　選挙権、国会、議院内閣制、違憲立法審査権
9．法の体系（4）基本的人権①
　人権の歴史と分類、日本国憲法で保障されている人権（個人の尊重、公共の福祉、平等権など）
10．法の体系（5）基本的人権②
　日本国憲法で保障されている人権（自由権、社会権、国務請求権など）
11．法の体系（6）犯罪と刑罰に関する法
　罪刑法定主義、犯罪とは何か
12．法の体系（7）市民社会に関する法~家族関係に関する法
　夫婦、親子、相続
13．法の体系（8）市民社会に関する法~財産関係に関する法
　法律関係の主体、財産、契約
14．法の体系（9）国際社会の法
　国際法の成立形式、武力行使の禁止と国際連合
15．法の体系（10）労働者の権利／社会保障に関する法
　労働法、日本の社会保障制度の展開

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0075B02
科目名	法学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Law B		
担当者名	大塚　泰寿	旧科目名称	
講義概要	この講義は、法を理解する上で必須と思われる基礎的な知識を得ることを目的とするものである。 具体的には、法学の初学者には難解と思われる法律用語の説明や、日本の裁判制度や主要な法律の基本原理や概要などを中心に解説していく。 また学生の理解を助けるために、新聞などで注目を集めている事例もいくつか紹介する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	末川博編『法学入門［第 6 版（補訂版)]』(有斐閣双書、2014 年) 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門［第 4 版]』(有斐閣双書、2005 年)		
教材（その他）	レジュメを配布する。		
評価方法	定期試験 100%。試験は持込不可で行われる。		
到達目標	（1）基本的な法律用語を理解し、説明できるようになること。 （2）法制度や日本の主要な法律の基本原理や概要を理解し、説明できるようになること		
準備学習	参考文献の関連部分を読んで、予習・復習することが望ましい。		

受講者への要望

講義には緊張感をもって望んで頂きたい。私語などは一切厳禁である。

講義の順序とポイント

1．はじめに／法とは何か
　ガイダンス／法の特色
2．法と裁判（1）裁判制度
　裁判制度、民事裁判・刑事裁判
3．法と裁判（2）裁判所
　裁判所と裁判官、裁判手続の基本原則
4．法と裁判（3）裁判の基準
　法源、制定法、慣習法、判例法
5．法と裁判（4）法の解釈
　法の適用、法の解釈
6．法と裁判（5）裁判の今日的課題／法の体系（1）法の体系
　民事裁判の課題、刑事裁判の課題、公法、私法、社会法
7．法の体系（2）国家と憲法
　近代国家と憲法、近代憲法、現代憲法
8．法の体系（3）権力分立
　選挙権、国会、議院内閣制、違憲立法審査権
9．法の体系（4）基本的人権①
　人権の歴史と分類、日本国憲法で保障されている人権（個人の尊重、公共の福祉、平等権など）
10．法の体系（5）基本的人権②
　日本国憲法で保障されている人権（自由権、社会権、国務請求権など）
11．法の体系（6）犯罪と刑罰に関する法
　罪刑法定主義、犯罪とは何か
12．法の体系（7）市民社会に関する法~家族関係に関する法
　夫婦、親子、相続
13．法の体系（8）市民社会に関する法~財産関係に関する法
　法律関係の主体、財産、契約
14．法の体系（9）国際社会の法
　国際法の成立形式、武力行使の禁止と国際連合
15．法の体系（10）労働者の権利／社会保障に関する法
　労働法、日本の社会保障制度の展開

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0078001
科目名	論理学入門	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Logic		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば～」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）	適宜授業中に指示します。		
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 小テスト・小レポートを提出して初めて平常点が加点されます。出席だけは加点されません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2. 1 の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			

授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。
簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊「論理学入門」は通年の授業として計画されています。

講義の順序とポイント

【春学期】　記号論理学入門
1.オリエンテーション：論理学の世界へようこそ
2.妥当な論証とは何だろうか
3.論証を図式化する
4.自然言語と人工言語
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.命題論理(3) 真理値分析：トートロジーと矛盾
8.述語論理(1) 量化子と変項
9.述語論理(2) 量化を含む文の構造と式
10.自然言語から人工言語への翻訳
11.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
12.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
13.演繹的推論(3)両刀論法、帰謬法
14.よくある誤謬推論(1) 前件否定の誤謬、対人論法
15.春学期のまとめ：記号論理を用いた論証

【秋学期】　実践！クリティカルシンキング
16.オリエンテーション：論理的に書く・話す
17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.よくある論理的誤謬(2) 過度の一般化，間違ったアナロジー
21.よくある論理的誤謬(3) 因果関係の錯誤，印象操作
22.情報源とその評価
23.インターネットと情報源：ウィキペディア日本語版を検討しよう
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.オーラルディスカッション入門
26.ディスカッション課題(1)妥当な議論を構築する・評価する
27.ディスカッション課題(2)議論を洗練させる
28.レポート課題(1)：妥当な議論を構築・評価する
29.レポート課題(2):議論を洗練させる
30.秋学期のまとめ：帰納的推論とその実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0078A01
科目名	論理学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic A		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば〜」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）	適宜授業中に指示します。		
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 小テスト・小レポートを提出して初めて平常点が加点されます。出席だけは加点されません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2. 1 の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			

授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。
簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊秋学期の「論理学入門 B」と併せて受講することを前提に授業計画を作っています。

講義の順序とポイント

【春学期】　　記号論理学入門
1.オリエンテーション：論理学の世界へようこそ
2.妥当な論証とは何だろうか
3.論証を図式化する
4.自然言語と人工言語
5.命題論理(1) 論理結合子
6.命題論理(2) 真理表
7.命題論理(3) 真理値分析：トートロジーと矛盾
8.述語論理(1) 量化子と変項
9.述語論理(2) 量化を含む文の構造と式
10.自然言語から人工言語への翻訳
11.演繹的推論(1)前件肯定式、後件否定式
12.演繹的推論(2)仮言的三段論法、選言三段論法
13.演繹的推論(3)両刀論法、帰謬法
14.よくある誤謬推論(1) 前件否定の誤謬、対人論法
15.春学期のまとめ：記号論理を用いた論証

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0078B01
科目名	論理学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Logic B		
担当者名	西條　玲奈	旧科目名称	
講義概要	「お金持ちの人は長財布を使う習慣があるんだって。よし、長財布に買い替えよう。そうすればお金持ちになれるかもしれないしね」 「実験器具は女性みたいなもので、どちらも壊れやすい。だから丁寧に扱わなければなりません。」 さて、上の２つの推論はどちらも論理的に正しいとは言えません。間違っています。 みなさんはどう思われたでしょうか。 「当然間違いだよね。なぜかと言えば〜」と、すでに自分で理由を説明できるレベルであれば、おそらくこの授業を受講する必要はないでしょう。素質十分なあなたには、授業を受けるより参考文献にあげた書籍を開いてみてほしいと思います。論理的に妥当な推論とは何なのか、深く考えられると思います。 「おかしいのはわかるけど…」という方、あなたは直感的に問題点を把握しているようです。授業を通じて、ぜひ自分が感じ取った「おかしさ」の正体を明らかにして欲しいと思います。 「え、何か間違ってるんですか？　これ」という方、この授業はあなたのような人を対象として設計しています。他人の展開している議論が論理的に正しいかどうかを判断し、自分自身で論理的な意見を述べられることを目指しましょう。 この授業では論理的に考えられるようにするため、記号論理学の論理的体系を用いて、推論のしくみを記号で表現する練習を行ないます。基礎的な記号論理の知識に基づき、正しい推論を見きわめる力を身につけて欲しいと思います。		
教材（テキスト）	なし。授業毎に資料を配布する。		
教材（参考文献）	・記号論理学についての参考図書 金子洋之, (1994). 『記号論理入門』.産業図書. 前原昭二, (2005).『記号論理入門』. 日本評論社. ・クリティカル・シンキングについての参考図書 伊勢田哲治＋戸田山和久＋調麻佐志＋村上祐子編,(2013).『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 名古屋大学出版会. トムソン,アン,(2008).『論理のスキルアップ：実践クリティカルリーズニング入門』, 斉藤浩文＋小口裕史（訳), 春秋社. 野矢茂樹, (2001), 『論理トレーニング１０１題』, 産業図書. ・レポートの書き方についての参考図書 戸田山和久,(2012).『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』, NHK 出版.		
教材（その他）			
評価方法	平常点：毎回の授業で課す小テストや小レポートの提出（４０％） 期末試験での得点　（60%） 小テスト・小レポートを提出して初めて平常点が加点されます。出席だけは加点されません！　注意して下さい。		
到達目標	１.記号論理学の基礎を身につけること。 2. 1 の知識にもとづいて日常生活で出会う推論の妥当性を見きわめられるようになること。 3.自分で論理的な推論ができるようになること。		
準備学習	必要に応じて授業中に指示します。 授業毎に提出の必要な課題を出しますので、ぜひ復習に力を入れて下さい。		
受講者への要望			

授業中、出席者にはいろいろな事に答えてもらう機会が多くあります。
簡単な授業内容の確認もあれば、練習問題の解答のお願い、自分の意見を述べてもらうこともあります。
みなさんの発言は、他の出席者とっても、知的に刺激的であり、理解の助けになるものです。
受講者のみなさんの協力がなければ授業は成り立ちません。ぜひ積極的な姿勢で授業にのぞんでください。楽しみにしています。

＊春学期「論理学入門 A」と併せて受講する事を前提に授業計画を作っています。

講義の順序とポイント

【秋学期】　実践　クリティカルシンキング
16.オリエンテーション：論理的に書く・話す
17.帰納的推論：一般化
18.帰納的推論：アナロジーによる推論
19.帰納的推論：原因についての論証
20.よくある論理的誤謬(2) 過度の一般化, 間違ったアナロジー
21.よくある論理的誤謬(3) 因果関係の錯誤, 印象操作
22.情報源とその評価
23.インターネットと情報源：ウィキペディア日本語版を検討しよう
24.議論を広げる：話題の設定と議論の組み立て方
25.オーラルディスカッション入門
26.ディスカッション課題(1)妥当な議論を構築する・評価する
27.ディスカッション課題(2)議論を洗練させる
28.レポート課題(1)：妥当な議論を構築・評価する
29.レポート課題(2):議論を洗練させる
30.秋学期のまとめ：帰納的推論とその実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0084001
科目名	海外研修	単位数	4
科目名（英語表記）	Learning Abroad		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（テキスト）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考文献）	研修先で指定される可能性もある。		
教材（その他）	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
準備学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JM0085A01
科目名	海外事情 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Issues A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要			
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法			
到達目標			
準備学習			
受講者への要望			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
講義の順序とポイント			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	★	★	–	–

年度	2017	授業コード	JM0090001
科目名	倫理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	我々は日常的に、様々なものに関し「これはいいが、あれはいただけない」といった類の判断を下しながら生きている。生とは、この判断の連続性である。そして誰しも「よき生」を願っている。 それでは、「よさ」とは何か。「よい」と形容される当のものはなにか。その判断が拠り所とするものは何か。「よい」という判断は何に基づいているのか。その基礎付けは正当か。となると「正当」ということも当然反省されるべきであろう。これらが、非常に大雑把で一面的な表現であるが、倫理学の主要な問題群であり、これらの問題群を廻る反省の中で、さらに様々な事柄が問題化される。 本講義では、「今ここで」生きている我々の諸問題、例えば環境倫理上の、或いは医療倫理上の諸問題を射程に置きながら、上述した倫理学的営為を展開し、問題の問題性、問題の関連性等を確認する中で、本講義が倫理学の臨床的な現場（産屋）に成るよう努める。 カリキュラム体系の位置づけからいえば、本講義は、「環境倫理学」、「医療倫理学」を学んだ者がさらに倫理学的考察を深めるためのものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は京学なびに事前に登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（7 回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が 6 割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	1．倫理学的に問うことが身に付き、自分の価値観を反省できるようになる。 2．上述のことを可能にする倫理学的概念が、理解できるようなる。 3．倫理上の諸問題の関連性が見て取れるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、目を通して問題意識を養っておくこと。 授業内レポート作成のために、講義後は毎回講義内容を文章化しておくこと 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学ナビで確認すること） 1．　序論　本講義について 2．　§ 1　倫理学とは 3．　同上 4．　§ 2　現代の倫理学的問題 5．　同上 6．　第 1 章　倫理学の成立と変遷 § 3　ソクラテス以前 7．　同上 8．（第 1 回授業内レポート） § 4　ソクラテス 9．　同上 10．　同上 11．（第 2 回授業内レポート） § 5　ソクラテス以後のポリスの倫理 12．　同上 13．　§ 6　ユダヤ・キリスト教的倫理 14．　同上 15．　同上 16．（第 3 回授業内レポート） § 7　近代の倫理			

①近代とキリスト教
17. ②デカルトの倫理
18. 同上
19.（第4回授業内レポート）
第2章　善とその諸相
§8　客体的善
①アリステレスの倫理
20. ②功利主義、責任倫理
21. §9　主体的善
①アリストテレスの徳論
22. ②カントの道徳性
23. 同上
24.（第5回授業内レポート）
第3章　善と規範
§10　価値と事実
25. §11　規範の正当化
26. 同上
27.（第6回授業内レポート）
第4章　自由と良心
§12　自由
28. 同上
29. （第7回授業内レポート）
§13　良心
30. 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0090002
科目名	倫理学概論	単位数	4
科目名（英語表記）	Ethics		
担当者名	佐別当　義博	旧科目名称	
講義概要	我々は日常的に、様々なものに関し「これはいいが、あれはいただけない」といった類の判断を下しながら生きている。生とは、この判断の連続性である。そして誰しも「よき生」を願っている。 それでは、「よさ」とは何か。「よい」と形容される当のものはなにか。その判断が拠り所とするものは何か。「よい」という判断は何に基づいているのか。その基礎付けは正当か。となると「正当」ということも当然反省されるべきであろう。これらが、非常に大雑把で一面的な表現であるが、倫理学の主要な問題群であり、これらの問題群を廻る反省の中で、さらに様々な事柄が問題化される。 本講義では、「今ここで」生きている我々の諸問題、例えば環境倫理上の、或いは医療倫理上の諸問題を射程に置きながら、上述した倫理学的営為を展開し、問題の問題性、問題の関連性等を確認する中で、本講義が倫理学の臨床的な現場（産屋）に成るよう努める。 カリキュラム体系の位置づけからいえば、本講義は、「環境倫理学」、「医療倫理学」を学んだ者がさらに倫理学的考察を深めるためのものである。		
教材（テキスト）	使用しない。		
教材（参考文献）	講義の進行に合わせ、その都度紹介する。		
教材（その他）	講義資料は京学なびに事前に登録するので、 各自プリントアウトして講義に臨むこと。		
評価方法	授業中に書いてもらう小論文試験（7 回）と最終レポートの素点合計がそのまま成績となる。 各小論文試験の評価が 6 割未満だった者は、その都度再レポートを提出してもらい、再評価する。		
到達目標	1．倫理学的に問うことが身に付き、自分の価値観を反省できるようになる。 2．上述のことを可能にする倫理学的概念が、理解できるようなる。 3．倫理上の諸問題の関連性が見て取れるようになる。		
準備学習	講義資料を事前に配布するので、目を通して問題意識を養っておくこと。 授業内レポート作成のために、講義後は毎回講義内容を文章化しておくこと 授業内レポートは事前予告するので、しっかり論点を整理しておくこと。		
受講者への要望			
じっくり腰を据えて思索を重ねてもらいたい。授業中は、私語無用、沈思黙考に心がけること。			
講義の順序とポイント			
（注：授業内レポートの日程は変更の可能性がある。その都度京学ナビで確認すること） 1．　序論　本講義について 2．　§ 1　倫理学とは 3．　同上 4．　§ 2　現代の倫理学的問題 5．　同上 6．　第 1 章　倫理学の成立と変遷 § 3　ソクラテス以前 7．　同上 8．（第 1 回授業内レポート） § 4　ソクラテス 9．　同上 10．　同上 11．（第 2 回授業内レポート） § 5　ソクラテス以後のポリスの倫理 12．　同上 13．　§ 6　ユダヤ・キリスト教的倫理 14．　同上 15．　同上 16．（第 3 回授業内レポート） § 7　近代の倫理			

①近代とキリスト教
17. ②デカルトの倫理
18. 同上
19.（第4回授業内レポート）
第2章　善とその諸相
§8　客体的善
①アリステレスの倫理
20. ②功利主義、責任倫理
21. §9　主体的善
①アリストテレスの徳論
22. ②カントの道徳性
23. 同上
24.（第5回授業内レポート）
第3章　善と規範
§10　価値と事実
25. §11　規範の正当化
26. 同上
27.（第6回授業内レポート）
第4章　自由と良心
§12　自由
28. 同上
29. （第7回授業内レポート）
§13　良心
30. 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0091A01
科目名	科学の歴史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0091A02
科目名	科学の歴史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。 また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学の定義およびその方法と限界、古代文明と科学、古代ギリシャ・古代ローマ・中世ヨーロッパの科学、非西洋圏の科学、科学革命とその影響、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学の定義と領域について
3.科学の方法と限界について
4.古代文明と科学、技術について
5.暦、占星術と天文学について
6.古代ギリシャの科学（その１）
7.古代ギリシャの科学（その２）
8.古代ローマ帝国の科学
9.中世ヨーロッパの科学
１０.アラビアの科学
１１.宗教と科学について
１２.錬金術と化学について
１３.科学革命について（その１）
１４.科学革命について（その２）
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0091B01
科目名	科学の歴史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。また自然科学と人文・社会科学の違いについても学ぶ。具体的な学習項目は、科学革命とその影響、科学と産業革命、現代の科学、科学と情報社会、科学と宗教、科学と戦争、今後の科学のありかた、などである。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい）		
教材（その他）	適宜指示する		
評価方法	授業内小テスト等平常点（２０％）、期末試験（８０％）		
到達目標	自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」のありかたを総合的に把握する。		
準備学習	現代社会における「科学」、「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業の内容について、予習・復習すること。		

受講者への要望

1.「科学の歴史 A」→「科学の歴史 B」の順に受講することが望ましい。
2.教室内では携帯電話の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には即時退室を命じる。
3.教室内は飲食禁止。

講義の順序とポイント

1.授業ガイダンス
2.科学と技術について
3.科学革命とその影響
4.解剖学と医学の発展
5.産業革命期の科学について
6.化学の発展
7.進化論について
8.生物学と生命科学の発展
9.新しい物質観と物理学の発展
１０.科学と戦争について（その１）
１１.科学と戦争について（その２）
１２.コンピューターの歴史
１３.インターネットの歴史
１４.科学者の社会的責任について
１５.今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0093001
科目名	京都の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Kyoto		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	長きにわたり都が置かれていた京都の歴史は、日本の歴史と言っても過言ではない。しかし、「京都」を一つの地域として見るとき、そこには京都独特の風土に根ざした歴史や文化を見ることができる。また、それを支えた人々の姿や町の仕組みは、他の地域にはない京都の特徴である。 本講では、一都市京都の歴史を、「文化」・「経済」・「産業」・「教育」の面から読み解き、日本の歴史の中で京都が果たした役割についてみるとともに、現在我々がもつ京都のイメージがどのように構築されていったかを考える。なお、学期中に１回のフィールドワークを実施したい。		
教材（テキスト）	教科書の指定はしない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	小林丈広　著　『明治維新と京都』　臨川書店　２４８４円 高橋昌明　著　『京都＜千年の都＞の歴史』　岩波書店　９０７円 小林昌代　著　『京都の学校社会史 -web』 Google Books 小林丈広・高木博志・三枝暁子　著　『京都の歴史を歩く』　岩波新書　９７２円 その他授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	写真などを適宜利用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（３０％）。学期末レポート（７０％）。		
到達目標	京都の町の成り立ちや、産業、文化を理解し、それらが、現代の京都や、日本の文化の基礎になっていることを理解する。また、フィールドワークを通じて、自分で知り実感することの大切さを学んでほしい。		
準備学習	京都の地図を用意し、普段から目を通すこと。授業で紹介した参考文献のうち１冊を、学期中に読破し感想をまとめておくこと。町中にある石碑や駒札（史跡あとに立てられた木の札）を発見したら、書き留めるか撮影してあとでその史跡について調べておく。		
受講者への要望			
必ず京都の地図を用意すること。理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁とし、厳しく対処する。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：京都の概要 ２、京都研究のあゆみ ３、平安京以前の山背 ４、平安京遷都 ５、平安京の変容 ６、日宋貿易と日明貿易 ７、洛中洛外 ８、京都の学問 ９、町衆と祭礼 １０、京都ブランドの形成 １１、幕末の京都　―尊攘派と町民 １２、近代京都の再生 １３、小学校の建設 １４、戦時下の京都 ―空襲と学童疎開 １５、戦後の復興と現代京都の風景			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0093002
科目名	京都の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Kyoto		
担当者名	小林　昌代	旧科目名称	
講義概要	長きにわたり都が置かれていた京都の歴史は、日本の歴史と言っても過言ではない。しかし、「京都」を一つの地域として見るとき、そこには京都独特の風土に根ざした歴史や文化を見ることができる。また、それを支えた人々の姿や町の仕組みは、他の地域にはない京都の特徴である。 本講では、一都市京都の歴史を、「文化」・「経済」・「産業」・「教育」の面から読み解き、日本の歴史の中で京都が果たした役割についてみるとともに、現在我々がもつ京都のイメージがどのように構築されていったかを考える。なお、学期中に１回のフィールドワークを実施したい。		
教材（テキスト）	教科書の指定はしない。授業中にプリントなどを配布する。		
教材（参考文献）	小林丈広　著　『明治維新と京都』　臨川書店　２４８４円 高橋昌明　著　『京都＜千年の都＞の歴史』　岩波書店　９０７円 小林昌代　著　『京都の学校社会史 -web』 Google Books 小林丈広・高木博志・三枝暁子　著　『京都の歴史を歩く』　岩波新書　９７２円 その他授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	写真などを適宜利用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（３０％）。学期末レポート（７０％）。		
到達目標	京都の町の成り立ちや、産業、文化を理解し、それらが、現代の京都や、日本の文化の基礎になっていることを理解する。また、フィールドワークを通じて、自分で知り実感することの大切さを学んでほしい。		
準備学習	京都の地図を用意し、普段から目を通すこと。授業で紹介した参考文献のうち１冊を、学期中に読破し感想をまとめておくこと。町中にある石碑や駒札（史跡あとに立てられた木の札）を発見したら、書き留めるか撮影してあとでその史跡について調べておく。		
受講者への要望			
必ず京都の地図を用意すること。理由のない遅刻・早退は認めない。私語は厳禁とし、厳しく対処する。			
講義の順序とポイント			
１、はじめに：京都の概要 ２、京都研究のあゆみ ３、平安京以前の山背 ４、平安京遷都 ５、平安京の変容 ６、日宋貿易と日明貿易 ７、洛中洛外 ８、京都の学問 ９、町衆と祭礼 １０、京都ブランドの形成 １１、幕末の京都　―尊攘派と町民 １２、近代京都の再生 １３、小学校の建設 １４、戦時下の京都 ―空襲と学童疎開 １５、戦後の復興と現代京都の風景			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0094A01
科目名	ジェンダー論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society I		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ただし注意が必要なことは、ジェンダー論では女性問題だけを論じるのではありません。現代の男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。前期は主に、ジェンダーの総論と各論トピックスを扱います。		
教材（テキスト）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	『女性のデータブック』第 4 版　有斐閣、『女性学事典』岩波書店、『図解雑学　ジェンダー』ナツメ社 （すべて図書館に所蔵）		
教材（その他）	DVD など視聴覚教材を使います。		
評価方法	平常点（出席状況と授業内課題など）:40%、テスト：60%		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業にて準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
1,イントロダクション 2, ジェンダー・セックス・セクシュアリティの関係 3, ジェンダーの学習と社会化 4. ジェンダー平等とは 5,憲法から男女共同参画まで 6、性別役割分担とその誕生 7.　労働とジェンダー 1. 8.　 労働とジェンダー 2 9.　セクシュアリティとは 10. 性の多様性 11.人権問題としてのセクシュアリティ 12.ビデオで見るジェンダー問題 13,母性愛と父性愛 14. ビデオで見る生殖技術と家族 15. 生殖技術の光と陰			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0094B01
科目名	ジェンダー論 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society II		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別のことで、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。ジェンダーの身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。ただし注意が必要なのは、ジェンダー論で女性問題だけを論じるのではありません。現代の男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。本授業は、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解く「女と男の人間関係学」です。本講義では、ジェンダーの各論トピックスを扱います。		
教材（テキスト）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考文献）	『女性のデータブック』第 4 版　有斐閣、『女性学事典』岩波書店、(『図解雑学　ジェンダー』ナツメ社（すべて図書館に所蔵）		
教材（その他）	DVD などを使います		
評価方法	平常点（出席状況と授業内課題など）:40%、テスト：60%		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
準備学習	各授業最後に次回の準備学習を指定する		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれない柔軟な発送や想像力で女と男の問題をとらえてください			
講義の順序とポイント			
1.　イントロダクション 2.男性学：なぜ男性は「生きづらい」 3. 「男らしさ」というジェンダー 4. 近代家族 1 5. 近代家族 2 6.　格差社会とジェンダー：　恋愛・結婚・仕事 7. DVD 「恋愛と若者」 8. 教育とジェンダー 9. メディアのなかのジェンダー 10. ジェンダーリテラシーでメディアを見ると 11.　言葉とジェンダー 12.　男と女の涙を読み解くー 「感情の社会学」 13. 宗教とジェンダー 14. 少子化社会とジェンダー役割 15.. 超高齢社会とライフコースの変化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0094B02
科目名	ジェンダー論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society Ⅱ		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	ジェンダー論ｆ
講義概要	テーマ「歴史、家族、労働、暴力などの事象をジェンダーで読み解く」 　この社会は、女性／男性の二元的構成で秩序づけられ、様々な制度や制度を支える意識も、この二元的構成すなわちジェンダーに基づいている。 　授業では、戦後の男女平等政策の変遷について、人権意識や男女の関係性、家族の問題をトピックを立てて検証する。そして、私たちが日常生活で直面する様々な場面とジェンダー・システムとの関連を把握する。また、歴史的な流れを理解し、今後に向けて、私たちが幸福な暮らしを実現するためにはどのような社会が構築されるべきなのか、ジェンダーにセンシティブな視点を養いつつ、社会への問題意識を喚起する。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。随時、資料を配布。		
教材（参考文献）	授業内で、適宜、紹介。		
教材（その他）	授業内で配布するテキスト資料と、ＡＶ資料。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝（50%） 定期試験（50%）		
到達目標	現在の社会問題の諸相が、ジェンダー問題と深く関わっている事実を理解し、女性も男性も誰もが生き生きと幸福に生きられる社会とは何であるのかを、深く考察する姿勢と力を養う。		
準備学習	授業内で行うレポートや小テストについては、事前に課題、範囲を提示する場合があるので、その際には準備をして臨むこと。		

受講者への要望

・レポート、ミニテストなどの提出物は、文字、文章を丁寧に書くこと。雑な提出物は評価しない。
・オリジナリティを重視するので、他人の物のコピーではなく、自分で考察したものを評価する。自分に惹きつけてよく考えられたレポートは意義深いものであり、高く評価される。
・社会通念や思い込みを排し、柔軟な思考や発想を持って、テーマと向き合うことを望みます。

講義の順序とポイント

１．　導入：ジェンダー論について　ジェンダーとは何か
２．　男性観、女性観をめぐって、マスメディアにおける表象、社会通念を検証
３．戦後の男女同権
４．高度経済成長期におけるジェンダー
５．性別特性論（１）
６．性別特性論（２）
７．ジェンダーと暴力（１）
８．ジェンダーと暴力（２）
９．ジェンダーと暴力（３）
１０．高度経済成長期以降のジェンダー政策
１１．国際的取り組みとジェンダー
１２．労働とジェンダー（１）
１３．労働とジェンダー（２）
１４．男女共同参画政策
１５．ジェンダー問題の現状と課題

上記授業テーマの配列は、授業の進度や時事的な話題等の状況に応じて、調整・変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0096A02
科目名	経済学概論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 125 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、本授業の続篇として、秋学期の経済学概論Bの授業では、マクロ経済理論について講義する予定である。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にミクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	講義の前には必ず教科書や参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		

受講者への要望

講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、経済学は各章末の復習問題や応用問題を解く中で理解が深まるので、宿題を必ずやってきて授業で回答の説明を聞くこと。

講義の順序とポイント

1. 経済学の十大原理　＜教科書第 1 章＞
2. 経済学者らしく考える　＜教科書第 2 章＞
3. グラフの用法： 概観　＜教科書第 2 章付論＞
4. 相互依存と交易（貿易）からの利益　＜教科書第 3 章＞
5. 比較優位の原理　＜　〃　＞
6. 市場と競争、需要と供給　＜教科書第 4 章＞
7. 市場における需要と供給の作用　＜　〃　＞
8. 政府の政策（価格規制）　＜教科書第 5 章＞
9. 政府の政策（税金）　＜　〃　＞
10. 弾力性　＜教科書第 5 章付論＞
11. 消費者余剰と生産者余剰　＜教科書第 6 章＞
12. 市場の効率性　＜　〃　＞
13. 税と効率・公平　＜教科書第 6 章付論＞
14. 外部性と市場の非効率性　＜教科書第 7 章＞
15. 外部性に対する公共政策・コースの定理　＜　〃　＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0096B02
科目名	経済学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	「経済学は、日常生活における人々を研究するものである。」これは、19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが、1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である。それから 125 年あまりが過ぎ、その間に経済学は格段の進歩を果たしたが、今でもこの経済学の定義は変わらない。 ハーバード大学のマンキュー教授は、21 世紀に生きる学生諸君が、なぜ経済学を学ぶべきなのか、その 3 つの理由を挙げている。 （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから。 （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから。 （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから。 したがって、経済学の諸原理というものは、日常生活のさまざまな局面に適応できるものであり、とても役立つものである。 本授業では、経済学の諸原理の中でも、特にマクロ経済理論に焦点をあてる。書き込み式の授業ノートを配布して、パワーポイントを使用してできるだけわかりやすく解説していく。また、授業では内容を深く理解するために、教科書の各章末の復習問題を一緒に考えていく。さらに、学んだ経済原理を応用して、日常生活の中にある疑問点についても、考察していく予定である。なお、今学期の経済学概論 B から履修した学生は、来年度春学期に開講される経済学概論 A（ミクロ経済理論）を履修されたい。		
教材（テキスト）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー入門経済学』 （第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年）		
教材（参考文献）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳） 『マンキュー経済学 II マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） （図書館に 3 冊を設置していますので、閲覧できます。）		
教材（その他）	書き込み式の授業ノートを毎回配布する。		
評価方法	平常点・復習問題の提出（40%）、学期末試験（60%）		
到達目標	経済学の諸原理（特にマクロ経済理論）を理解し、それらを日常生活のさまざまな局面に適応できるようになること。		
準備学習	講義の前には必ず教科書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。		
受講者への要望			
講義の前に教科書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。経済学は理解することが難しいので、あらかじめの予習は非常に重要である。また、経済学は各章末の復習問題や応用問題を解く中で理解が深まるので、宿題を必ずやってきて授業で回答の説明を聞くこと。			
講義の順序とポイント			
1. 経済学の十大原理　＜教科書第 1 章＞ 2. 国民所得の測定（国内総生産：GDP）　＜教科書第 8 章＞ 3. 実質 GDP と名目 GDP　＜　〃　＞ 4. 生計費の測定（消費者物価指数）　＜教科書第 9 章＞ 5. インフレーションの影響の補正　＜　〃　＞ 6. 経済成長と生産性　＜教科書第 10 章＞ 7. 経済成長と公共政策　＜　〃　＞ 8. 失業　＜教科書第 10 章付論＞ 9. 貯蓄、投資と金融システム　＜教科書第 11 章＞ 10. 貸付資金市場　＜　〃　＞ 11. 貨幣システム　＜教科書第 11 章付論＞ 12. 貨幣の需給とｲﾝﾌﾚｰｼｮﾝの古典派理論　＜　〃　＞ 13. 総需要と総供給　＜教科書第 12 章＞ 14. 経済変動の二つの原因　＜　〃　＞ 15. 開放マクロ経済学：基本概念　＜教科書第 13 章＞			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JM0097A05
科目名	心の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Mind A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（テキスト）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考文献）	授業の中で、適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期テスト　60% 授業内小テスト　40%		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
準備学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講者への要望

自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。

講義の順序とポイント

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習心理学 ①条件づけ
7. ② 記憶
8. 思考心理学 ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
9. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
10. ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JM0098A01
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JM0098A02
科目名	キャリアデザインⅠ　(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JM0098A03
科目名	キャリアデザインⅠ　(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2017	授業コード	JM0098A04
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）	必要に応じてパワーポイントの使用や資料配布を行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JMC001A01
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定 3 級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFA
科目名	スタートアップゼミA -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFB
科目名	スタートアップゼミA -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFC
科目名	スタートアップゼミA -f3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFD
科目名	スタートアップゼミA -f4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFE
科目名	スタートアップゼミA -f5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFF
科目名	スタートアップゼミA -f6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFG
科目名	スタートアップゼミA -f7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFH
科目名	スタートアップゼミA -f8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFI
科目名	スタートアップゼミA -f9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AFJ
科目名	スタートアップゼミA -f10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力をつけることを中心としたゼミを行う。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. オリエンテーション（コミュニケーション力を磨く）
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JMC001AHA
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001AHC
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001AHD
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001AHE
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001AHF
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001AHG
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001AHH
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001AHI
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001AHK
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、4年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　自分を知る・他人を知る
2回目　歴史文化に触れてみる
3回目　歴史について調べて発表してみる
4回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
5回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
6回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
7回目　地域を調べる
8回目　地域の様子をまとめる
9回目　地域を紹介する
10回目　文献をよむ（1）
11回目　文献をよむ（2）
12回目　文献をよむ（3）
13回目　京都の交通ガイドと京都関係の本の紹介
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001AHL
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001AHY
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001AHZ
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001AKA
科目名	スタートアップゼミA -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	森本　幸裕	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429円+税）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JMC001AKB
科目名	スタートアップゼミA -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429円+税）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JMC001AKC
科目名	スタートアップゼミA -k3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429円+税）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JMC001AKD
科目名	スタートアップゼミA -k4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429円+税）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JMC001AKE
科目名	スタートアップゼミA -k5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429円+税）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JMC001AKH
科目名	スタートアップゼミA -k6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけます。スタートアップゼミAでは、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429円+税）		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明できるようになること。大学において自主的に学ぶ態度を身につけること。		
準備学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASA
科目名	スタートアップゼミA -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASB
科目名	スタートアップゼミA -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASD
科目名	スタートアップゼミA -s4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASE
科目名	スタートアップゼミA -s5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASF
科目名	スタートアップゼミA -s6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASG
科目名	スタートアップゼミA -s7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASH
科目名	スタートアップゼミA -s8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASI
科目名	スタートアップゼミA -s9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASJ
科目名	スタートアップゼミA -s10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001ASK
科目名	スタートアップゼミA -s11	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力の強化に重点的に取り組む。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
準備学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館 8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション 9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介			

１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001BFA
科目名	スタートアップゼミB -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFB
科目名	スタートアップゼミB -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFC
科目名	スタートアップゼミB -f3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFD
科目名	スタートアップゼミB -f4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFE
科目名	スタートアップゼミB -f5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFF
科目名	スタートアップゼミB -f6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFG
科目名	スタートアップゼミB -f7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFH
科目名	スタートアップゼミB -f8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFI
科目名	スタートアップゼミB -f9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BFJ
科目名	スタートアップゼミB -f10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
講義概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指す。		
教材（テキスト）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考文献）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍）　「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍）　「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂）　「理工系のための日本語表現法」（東信堂）　「理科系の作文技術」（中公新書）　「日本語の作文技術」（朝日文庫）		
教材（その他）	適宜配布するプリント、新聞		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
準備学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講者への要望

いわゆるアカデミックスキルといわれる大学での学びに対して必要な技術や、姿勢を身に付けることがこの講義の第一の目的である。技術はあくまで技術でしかなく、それをどのように自分の勉学に活かしていくかは自分自身の姿勢に関わってくる。積極的に取り組み、これからの学生生活に活かしてほしい。

講義の順序とポイント

1. 夏休みの課題の発表
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙・敬語）
5. データを取り扱う（データ処理）
6. データを読み取る（データ解析）
7. 発想する（ブレーンストーミング）
8. 発想を表現する
9. グループディスカッション（課題を発見する）
10. グループディスカッション（課題を解決する）
11. 人に伝える発表方法を学ぶ
12. さまざまな濃度計算法を学ぶ
13. SPI 問題を解く（総合問題）
14. 成果発表とディスカッション
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★★	−	★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BHA
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 伊藤誠彦『超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン』高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001BHB
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会 伊藤誠彦『超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン』高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BHC
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会 伊藤誠彦『超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン』高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BHD
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会 伊藤誠彦『超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン』高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BHE
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　2回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活1年目から2年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	★	–	★★	–

年度	2017	授業コード	JMC001BHF
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　2回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活1年目から2年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	★	–	★★	–

年度	2017	授業コード	JMC001BHG
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　2回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活1年目から2年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	★	–	★★	–

年度	2017	授業コード	JMC001BHH
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　2回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活1年目から2年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	★	–	★★	–

年度	2017	授業コード	JMC001BHI
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会 伊藤誠彦『超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン』高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BHK
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
講義概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%）		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

1回目　ガイダンス
2回目　文献を読む（1）
3回目　文献を読む（2）
4回目　京都市の事業の紹介
5回目　図書館やネットを使いこなす
6回目　くずし字を読んでみよう
7回目　地形図を読み取る（基礎編）
8回目　地図を利用する（基礎編）
9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4）
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5）
11回目　2回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会
12回目　町人のくらし
13回目　和本の書誌
14回目　民俗学について
15回目　大学生活1年目から2年目へ
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JMC001BHL
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
講義概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」で sy が、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身に つけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（テキスト）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会 伊藤誠彦『超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン』高橋書店		
教材（参考文献）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教材（その他）	必要に応じてプリントなどを配布する。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
準備学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。　参考文献にあげられている本を読むこと。		

受講者への要望

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構え をもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを 得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

講義の順序とポイント

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JMC001BKA
科目名	スタートアップゼミB -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。スタートアップゼミ B では、自然科学分野の学問の理解に必要な数学的思考法の学習や計算演習、学術的文章の読解、要約、記述などを通じて論理的思考力を涵養し、バイオ環境デザイン学科の専門基礎科目・専門科目を学ぶための基礎学力を向上させることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	「キャンベル生物学 原書 9 版」　池内 ・伊藤・ 箸本 春樹（監修・翻訳） 丸善出版		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	毎回の授業におけるレポート・課題などによる平常点（50 点）とテスト（50 点）により評価します。		
到達目標	論理的思考力の習得を通じ、自然科学分野の様々なの学問の理解に必要な基礎学力の向上を目指します。		
準備学習	講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、論理的思考力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　論理的思考力とは？ 2　学術的文章の論理的読解　その① 3　学術的文章の論理的読解　その② 4　文章の要約と縮約　その① 5　文章の要約と縮約　その② 6　説明文の論理的記述　その① 7　説明文の論理的記述　その② 8　説明文の論理的記述　その③ 9　役に立つ"算数"　その① 10 役に立つ”算数”　その② 11 役に立つ”算数"　その③ 12 役に立つ”算数”　その④ 13 役に立つ”算数”　その⑤ 14 役に立つ”算数"　　その⑥ 15 役に立つ”算数”　その⑦			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001BKB
科目名	スタートアップゼミB -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。スタートアップゼミ B では、自然科学分野の学問の理解に必要な数学的思考法の学習や計算演習、学術的文章の読解、要約、記述などを通じて論理的思考力を涵養し、バイオ環境デザイン学科の専門基礎科目・専門科目を学ぶための基礎学力を向上させることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	「キャンベル生物学 原書 9 版」　池内 ・伊藤・ 箸本 春樹（監修・翻訳） 丸善出版		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	毎回の授業におけるレポート・課題などによる平常点（50 点）とテスト（50 点）により評価します。		
到達目標	論理的思考力の習得を通じ、自然科学分野の様々なの学問の理解に必要な基礎学力の向上を目指します。		
準備学習	講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、論理的思考力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　論理的思考力とは？ 2　学術的文章の論理的読解　その① 3　学術的文章の論理的読解　その② 4　文章の要約と縮約　その① 5　文章の要約と縮約　その② 6　説明文の論理的記述　その① 7　説明文の論理的記述　その② 8　説明文の論理的記述　その③ 9　役に立つ"算数"　その① 10 役に立つ”算数”　その② 11 役に立つ”算数"　その③ 12 役に立つ”算数”　その④ 13 役に立つ”算数”　その⑤ 14 役に立つ”算数"　　その⑥ 15 役に立つ”算数”　その⑦			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001BKC
科目名	スタートアップゼミB -k3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。スタートアップゼミ B では、自然科学分野の学問の理解に必要な数学的思考法の学習や計算演習、学術的文章の読解、要約、記述などを通じて論理的思考力を涵養し、バイオ環境デザイン学科の専門基礎科目・専門科目を学ぶための基礎学力を向上させることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	「キャンベル生物学 原書 9 版」　池内 ・伊藤・ 箸本 春樹（監修・翻訳） 丸善出版		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	毎回の授業におけるレポート・課題などによる平常点（50 点）とテスト（50 点）により評価します。		
到達目標	論理的思考力の習得を通じ、自然科学分野の様々なの学問の理解に必要な基礎学力の向上を目指します。		
準備学習	講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、論理的思考力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　論理的思考力とは？ 2　学術的文章の論理的読解　その① 3　学術的文章の論理的読解　その② 4　文章の要約と縮約　その① 5　文章の要約と縮約　その② 6　説明文の論理的記述　その① 7　説明文の論理的記述　その② 8　説明文の論理的記述　その③ 9　役に立つ"算数"　その① 10 役に立つ”算数”　その② 11 役に立つ”算数"　その③ 12 役に立つ”算数”　その④ 13 役に立つ”算数”　その⑤ 14 役に立つ”算数"　　その⑥ 15 役に立つ”算数”　その⑦			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001BKH
科目名	スタートアップゼミB -k4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。スタートアップゼミ B では、自然科学分野の学問の理解に必要な数学的思考法の学習や計算演習、学術的文章の読解、要約、記述などを通じて論理的思考力を涵養し、バイオ環境デザイン学科の専門基礎科目・専門科目を学ぶための基礎学力を向上させることに主眼をおきます。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	「キャンベル生物学 原書 9 版」　池内 ・伊藤・ 箸本 春樹（監修・翻訳） 丸善出版		
教材（その他）	新聞を活用する		
評価方法	毎回の授業におけるレポート・課題などによる平常点（50 点）とテスト（50 点）により評価します。		
到達目標	論理的思考力の習得を通じ、自然科学分野の様々なの学問の理解に必要な基礎学力の向上を目指します。		
準備学習	講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講者への要望			
単なる知識の蓄積ではなく、論理的思考力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
講義の順序とポイント			
1　イントロダクション　論理的思考力とは？ 2　学術的文章の論理的読解　その① 3　学術的文章の論理的読解　その② 4　文章の要約と縮約　その① 5　文章の要約と縮約　その② 6　説明文の論理的記述　その① 7　説明文の論理的記述　その② 8　説明文の論理的記述　その③ 9　役に立つ"算数"　その① 10 役に立つ”算数”　その② 11 役に立つ”算数"　その③ 12 役に立つ”算数”　その④ 13 役に立つ”算数”　その⑤ 14 役に立つ”算数"　　その⑥ 15 役に立つ”算数”　その⑦			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JMC001BSA
科目名	スタートアップゼミB -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSB
科目名	スタートアップゼミB -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSD
科目名	スタートアップゼミB -s4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSE
科目名	スタートアップゼミB -s5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSF
科目名	スタートアップゼミB -s6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSG
科目名	スタートアップゼミB -s7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSH
科目名	スタートアップゼミB -s8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSI
科目名	スタートアップゼミB -s9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSJ
科目名	スタートアップゼミB -s10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC001BSK
科目名	スタートアップゼミB -s11	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
講義概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」について、少人数のゼミで一年間トレーニングを行う。 スタートアップゼミ B では、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を学ぶことに重点を置く。 原則として毎回「ドリル」を行うとともに、トレーニングの内容に関連した宿題を課す。		
教材（テキスト）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考文献）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教材（その他）	適宜プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
準備学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講者への要望			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
講義の順序とポイント			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 8）プレゼンテーションの準備：レジュメ／アウトライン 9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド １０）ディベートの技法：議論の深め方			

１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表とディスカッション
１４）小論文についての発表とディスカッション
１５）小論文についての発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC002A0B
科目名	私の人生設計ＩＡ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2.　これまでの生活を振り返ろう 3.　自己管理　(1) 4.　自己管理　(2) 5.　自己管理　(3) 6.　コミュニケーション（1） 7.　コミュニケーション（2） 8.　コミュニケーション（3） 9.　他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JMC002A0C
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2.　これまでの生活を振り返ろう 3.　自己管理　(1) 4.　自己管理　(2) 5.　自己管理　(3) 6.　コミュニケーション（1） 7.　コミュニケーション（2） 8.　コミュニケーション（3） 9.　他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JMC002A0D
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	湯口　恭子	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2.　これまでの生活を振り返ろう 3.　自己管理　(1) 4.　自己管理　(2) 5.　自己管理　(3) 6.　コミュニケーション（1） 7.　コミュニケーション（2） 8.　コミュニケーション（3） 9.　他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JMC002A0H
科目名	私の人生設計ＩＡ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象は「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活、ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び, 共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1.　ガイダンス 2.　これまでの生活を振り返ろう 3.　自己管理　(1) 4.　自己管理　(2) 5.　自己管理　(3) 6.　コミュニケーション（1） 7.　コミュニケーション（2） 8.　コミュニケーション（3） 9.　他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JMC002B0A
科目名	私の人生設計ＩＢ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IB		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
講義概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，大学生活はこれからの人生をどのように歩んでいくのかについて考えていく上で，非常に重要な役割を持っています。 本科目では，私たちをとりまく社会環境と自己について,「働く」ということを軸に理解を深めます。これにより，変化が激しい社会環境に適応し、生き抜く力を培うことを目的としています。		
教材（テキスト）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考文献）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教材（その他）			
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題や発表など：40%		
到達目標	1. 現代の社会環境を踏まえ、「働く」ということを多様な側面から理解する。 2. 自分自身の特徴を踏まえ、働き方や生き方を考えられるようになる。		
準備学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に提出課題を求めます。		
受講者への要望			
1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
講義の順序とポイント			
1．ガイダンス：授業の目的および進め方の説明 2．「学ぶ」と「働く」の違い 3．労働環境の変化（1） 4．労働環境の変化（2） 5．働くことの意味（1） 6．働くことの意味（2） 7．職業研究（1） 8．職業研究（2） 9．職業研究（3） 10. 自己の特徴を理解する（1） 11. 自己の特徴を理解する（2） 12. 自己の特徴を理解する（3） 13. 社会で生き抜く力を考える（1） 14. 社会で生き抜く力を考える（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	－	★	－

年度	2017	授業コード	JMC003A0G
科目名	私の人生設計ⅡA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡA		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。ⅡA では，特に「社会理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	必要に応じて資料配布を行います。		
教材（参考文献）	岩上真珠・大槻奈巳（編）　『大学生のためのキャリアデザイン入門』有斐閣　1800 円＋税		
教材（その他）	必要に応じて資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	現在の自分を取り巻く職業社会の状況について理解することができる 職業社会の状況と対比して，現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第 1 クール》：働くことに対する意識
2. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備(1)
4. 資料をまとめる，発表の準備(2)
5. 発表と解説（ライフコースを知ろう）
6. 発表と解説（「大人になる」ことの意味）
7. 発表と解説（働くことを考える）
8. 発表と解説（変化のなかの若者と意識）
《第 2 クール》：職業社会を取り巻く状況と個人
9. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備(1)
11. 資料をまとめる，発表の準備(2)
12. 発表と解説（大学から労働への移行）
13. 発表と解説（企業のフレキシビリティと労働者のキャリア）
14. 発表と解説（ワーク・ライフ・バランス）
15. 発表と解説（学びをいかし深める）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC003B01
科目名	私の人生設計ⅡＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡＢ		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 　本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。ⅡＢでは，特に「自己理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	授業内で適宜指示します。		
教材（参考文献）	若松養亮・下村英雄（編）　『詳解　大学生のキャリアガイダンス論』金子書房　2600 円＋税		
教材（その他）	必要に応じて資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	将来のキャリアを考える上でヒントとなる学術的知見，理論を深く理解することができる 現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第１クール》：大学生のキャリア選択と支援
2. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備①
4. 資料をまとめる，発表の準備②
5. 発表と解説（環境はどう変わったのか）
6. 発表と解説（就職はなぜ難しいのか）
7. 発表と解説（決められないのはなぜか）
8. 発表と解説（何のために働くのか）
《第２クール》：キャリアを考える
9. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備①
11. 資料をまとめる，発表の準備②
12. 発表と解説（キャリア選択の性差）
13. 発表と解説（社会人になるとはどういうことか）
14. 発表と解説（キャリアガイダンスでは何が重要か）
15. 発表と解説（学生から職業人への橋渡し）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMC003B0G
科目名	私の人生設計ⅡＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡＢ		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
講義概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 　本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。ⅡＢでは，特に「自己理解」に焦点を当てて授業を行います。		
教材（テキスト）	授業内で適宜指示します。		
教材（参考文献）	若松養亮・下村英雄（編）　『詳解　大学生のキャリアガイダンス論』金子書房　2600 円＋税		
教材（その他）	必要に応じて資料配布を行います。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	将来のキャリアを考える上でヒントとなる学術的知見，理論を深く理解することができる 現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
準備学習	指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講者への要望

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第１クール》：大学生のキャリア選択と支援
2. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備①
4. 資料をまとめる，発表の準備②
5. 発表と解説（環境はどう変わったのか）
6. 発表と解説（就職はなぜ難しいのか）
7. 発表と解説（決められないのはなぜか）
8. 発表と解説（何のために働くのか）
《第２クール》：キャリアを考える
9. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備①
11. 資料をまとめる，発表の準備②
12. 発表と解説（キャリア選択の性差）
13. 発表と解説（社会人になるとはどういうことか）
14. 発表と解説（キャリアガイダンスでは何が重要か）
15. 発表と解説（学生から職業人への橋渡し）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JMQ001701
科目名	インターンシップA	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（コーオプ教育）は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。 本プログラムはキャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムです。 ○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。 ○ビジネスコース・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。		
教材（テキスト）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（参考文献）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（その他）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
評価方法	※以下の 3 項目を成績評価基準とします。 ①実習状況 ②平常点（事前・事後学習における取組状況及びプログラム全体を通じた成長の評価） ③課題（事前学習レポート、事後学習レポート等） ①にて 50%　②～③にて 50%　計 100%		
到達目標	社会に出て働く上で時分に不足している知識や能力を知る。社会における基本的なマナーや責任の意識を身につける。将来の進路決定に役立てる。		
準備学習	事前研修などで指定されるのでそれに従うこと。必ず復習をして、身につけること。 スケジュールの管理が出来るよう準備すること。		
受講者への要望			
大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、プログレスコース及びビジネスコース・パブリックコースそして、受入れ先を選択し、事前に Web 申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要があります。 [Web 申込期間]　2016 年 4 月 22 日(金)9：00～5 月 5 日(木)17：00 ［出願･面接日］　2016 年 5 月 6 日(金)16：00～18：30 5 月 7 日(土)10：00～15：00 詳しくは大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせてください。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う。 ・　説明会を開催し、受け入れ先の紹介、（必要に応じて）各受講生の希望聴取や選考会を行う。 ・　各受講生の受け入れ先を決定 ・　事前研修 ・　インターンシップの実施 ・　レポート、　報告書などの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JMQ003901
科目名	インターンシップB	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（コーオプ教育）は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。 本プログラムはキャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムです。 ○プログレスコース・・・6 月～11 月の約 5 ヶ月間、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。 ○ビジネスコース・パブリックコース・・・8 月中旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO 等）において 2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。		
教材（テキスト）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（参考文献）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
教材（その他）	説明会・事前研修などにおいて指示する。		
評価方法	※以下の 3 項目を成績評価基準とします。 ①実習状況 ②平常点（事前・事後学習における取組状況及びプログラム全体を通じた成長の評価） ③課題（事前学習レポート、事後学習レポート等） ①にて 50%　②～③にて 50%　計 100%		
到達目標	社会に出て働く上で時分に不足している知識や能力を知る。社会における基本的なマナーや責任の意識を身につける。将来の進路決定に役立てる。		
準備学習	事前研修などで指定されるのでそれに従うこと。必ず復習をして、身につけること。 スケジュールの管理が出来るよう準備すること。		
受講者への要望			
大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、プログレスコース及びビジネスコース・パブリックコースそして、受入れ先を選択し、事前に Web 申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要があります。 [Web 申込期間]　2016 年 4 月 22 日(金)9：00～5 月 5 日(木)17：00 ［出願･面接日］　2016 年 5 月 6 日(金)16：00～18：30 5 月 7 日(土)10：00～15：00 詳しくは大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせてください。			
講義の順序とポイント			
以下の順序で行う。 ・　説明会を開催し、受け入れ先の紹介、（必要に応じて）各受講生の希望聴取や選考会を行う。 ・　各受講生の受け入れ先を決定 ・　事前研修 ・　インターンシップの実施 ・　レポート、　報告書などの提出			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2017	授業コード	JP0005A01
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	テキスト１冊を定めることはしない。		
教材（参考文献）	『人間の教育を求めて―教育学概論―』（2016 年）等を参考書として用いることはあるが、その他にも、社会学や心理学の分野などの論考を、教育を考える重要な材料として取り上げる。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という特別な生き物にとってなぜ「教育」という配慮が欠かせないのか、その解答を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		

受講者への要望

「先生になりたい」という強い意志が一番だ、とは言わない。教職への憧れや熱意の底に、学ぶ者に必須の〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を十分備えている、真に力のある学生に、受講を限定したい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

講義の順序とポイント

1．　講義の概要と成績評価について
2．　人間と教育――人間と動物の違い
3．　人間の特殊性――「生理的早産」
4．　教育の必要性――人間と文化
5．　人間形成の諸要素――素質
6．　人間形成の諸要素――環境
7．　素質と環境に対する教育の関係
8．　教育のミクロ的な機能――社会化
9．　教育のマクロ的な機能――経済的機能
10.　教育のマクロ的な機能――政治的機能
11.　教育のマクロ的な機能――社会的機能
12.　近代国家と教育制度
13.　わが国における公教育の成立と展開
14.　戦後教育の進展
15.　学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0005A02
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	テキスト１冊を定めることはしない。		
教材（参考文献）	『人間の教育を求めて―教育学概論―』（2016 年）等を参考書として用いることはあるが、その他にも、社会学や心理学の分野などの論考を、教育を考える重要な材料として取り上げる。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という特別な生き物にとってなぜ「教育」という配慮が欠かせないのか、その解答を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		

受講者への要望

「先生になりたい」という強い意志が一番だ、とは言わない。教職への憧れや熱意の底に、学ぶ者に必須の〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を十分備えている、真に力のある学生に、受講を限定したい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

講義の順序とポイント

1．　講義の概要と成績評価について
2．　人間と教育――人間と動物の違い
3．　人間の特殊性――「生理的早産」
4．　教育の必要性――人間と文化
5．　人間形成の諸要素――素質
6．　人間形成の諸要素――環境
7．　素質と環境に対する教育の関係
8．　教育のミクロ的な機能――社会化
9．　教育のマクロ的な機能――経済的機能
10．教育のマクロ的な機能――政治的機能
11．教育のマクロ的な機能――社会的機能
12．近代国家と教育制度
13．わが国における公教育の成立と展開
14．戦後教育の進展
15．学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0005A03
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。 この科目は、「教職」のための教養の基礎部分にあたるもので、教育の理念、思想および歴史を学ぶことによって、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解することをめざしている。		
教材（テキスト）	テキスト１冊を定めることはしない。		
教材（参考文献）	『人間の教育を求めて―教育学概論―』（2016 年）等を参考書として用いることはあるが、その他にも、社会学や心理学の分野などの論考を、教育を考える重要な材料として取り上げる。		
教材（その他）	プリント資料を多数配布する。また、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も講義内で活用する。		
評価方法	授業への出席は当然重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎず、その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という特別な生き物にとってなぜ「教育」という配慮が欠かせないのか、その解答を得ること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読して出席すること。		

受講者への要望

「先生になりたい」という強い意志が一番だ、とは言わない。教職への憧れや熱意の底に、学ぶ者に必須の〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を十分備えている、真に力のある学生に、受講を限定したい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

講義の順序とポイント

1．　講義の概要と成績評価について
2．　人間と教育――人間と動物の違い
3．　人間の特殊性――「生理的早産」
4．　教育の必要性――人間と文化
5．　人間形成の諸要素――素質
6．　人間形成の諸要素――環境
7．　素質と環境に対する教育の関係
8．　教育のミクロ的な機能――社会化
9．　教育のマクロ的な機能――経済的機能
10．教育のマクロ的な機能――政治的機能
11．教育のマクロ的な機能――社会的機能
12．近代国家と教育制度
13．わが国における公教育の成立と展開
14．戦後教育の進展
15．学期末試験に向けた、本年度の講義のポイント整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0007001
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	相談を受けて何を援助するのか、その的を定めていくための視点や方法について述べ、次にはその的に向けてどのようにカウンセリングを含めた技術をとおしてアプローチしていくのかを考える。基本的事項の解説は言うまでもないが、材料としては事例（具体的事例をもとに創作したもの）を多く用い、アプローチの仕方についてはロールプレイなどによって具体的に把握することを重視したい。		
教材（テキスト）	授業内容のレジュメを配布するが、参考文献にあげた書籍を副読本として必ず購読すること。		
教材（参考文献）	川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法～よりよい展開へのヒント～」明石書店　※第１回の授業で割引販売を行なうので事前に購入する必要はない。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	授業内のレポート、課題への取り組み、ロールプレイなどへの参加度などによる、総合評価とする。		
到達目標	教師にとって必要な教育相談（対人援助）に関する基礎的知識の習得をめざす。子どもの問題を「そだち」と「社会」の視点から理解し、相談された内容にその子の「そだち」を少しでも豊かにする方向で取り組もうとするときに必要な、視点や具体的方法（技術）について理解してほしい。		
準備学習	子どもや家族についての記事は、新聞、テレビ、インターネット上で、頻繁に取り上げられている。それらの１つひとつについて、子どもや家族の抱える現代的課題として注目しておいてほしい。		
受講者への要望			
提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
講義の順序とポイント			
第 01 回：教育相談の理論と方法 第 02 回：「そだち」と「社会」の視点 第 03 回：発達障害と特別支援教育 第 04 回：いじめ問題 第 05 回：不登校や家庭内暴力など 第 06 回：非行・犯罪、その他の問題 第 07 回：被虐待、不適切な取り扱い 第 08 回：貧困問題 第 09 回：個人のアセスメント（査定） 第 10 回：家族や地域社会のアセスメント（査定） 第 11 回：面接（カウンセリング）の基本 第 12 回：保護者との関係 第 13 回：学校内部のコラボレーション（協働） 第 14 回：外部機関や他職種とのコラボレーション（協働） 第 15 回：教育相談（対人援助）の総合的理解			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0007002
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
講義概要	相談を受けて何を援助するのか、その的を定めていくための視点や方法について述べ、次にはその的に向けてどのようにカウンセリングを含めた技術をとおしてアプローチしていくのかを考える。基本的事項の解説は言うまでもないが、材料としては事例（具体的事例をもとに創作したもの）を多く用い、アプローチの仕方についてはロールプレイなどによって具体的に把握することを重視したい。		
教材（テキスト）	授業内容のレジュメを配布するが、参考文献にあげた書籍を副読本として必ず購読すること。		
教材（参考文献）	川畑　隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法～よりよい展開へのヒント～」明石書店　※第１回の授業で割引販売を行なうので事前に購入する必要はない。		
教材（その他）	適宜、プリントを配布する。		
評価方法	授業内のレポート、課題への取り組み、ロールプレイなどへの参加度などによる、総合評価とする。		
到達目標	教師にとって必要な教育相談（対人援助）に関する基礎的知識の習得をめざす。子どもの問題を「そだち」と「社会」の視点から理解し、相談された内容にその子の「そだち」を少しでも豊かにする方向で取り組もうとするときに必要な、視点や具体的方法（技術）について理解してほしい。		
準備学習	子どもや家族についての記事は、新聞、テレビ、インターネット上で、頻繁に取り上げられている。それらの１つひとつについて、子どもや家族の抱える現代的課題として注目しておいてほしい。		
受講者への要望			
提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
講義の順序とポイント			
第 01 回：教育相談の理論と方法 第 02 回：「そだち」と「社会」の視点 第 03 回：発達障害と特別支援教育 第 04 回：いじめ問題 第 05 回：不登校や家庭内暴力など 第 06 回：非行・犯罪、その他の問題 第 07 回：被虐待、不適切な取り扱い 第 08 回：貧困問題 第 09 回：個人のアセスメント（査定） 第 10 回：家族や地域社会のアセスメント（査定） 第 11 回：面接（カウンセリング）の基本 第 12 回：保護者との関係 第 13 回：学校内部のコラボレーション（協働） 第 14 回：外部機関や他職種とのコラボレーション（協働） 第 15 回：教育相談（対人援助）の総合的理解			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0007003
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	竹中　菜苗	旧科目名称	
講義概要	教育現場においてもしばしば「カウンセリング・マインド」という言葉が用いられるように、学校の教員にもカウンセリングについての基本的な知識が求められるようになってきている。本授業では教育現場で起きやすい子どもの問題行動をいかに理解し、関わっていくかについて、カウンセリング的な視点から学ぶ。適宜、講義のトピックに関連する小説や映画、心理臨床事例を具体的な素材として取り上げ、グループディスカッションなどを通じて自分自身で考える力を身につけ、実践力を養う。		
教材（テキスト）	『教師のためのカウンセリングワークブック』菅野純（金子書房）		
教材（参考文献）	『フツーの子の思春期』岩宮恵子（岩波書店） 『キャラ化する／される子どもたち－排除型社会における新たな人間像』土井隆義（岩波書店）		
教材（その他）			
評価方法	グループディスカッション、意見の発表など授業への積極的な参加および授業内に課すレポート提出などの平常点（50%）、および試験（50%）を総合し、60 点以上で合格とする。		
到達目標	子どもの発達的課題や心理的障害についての知識、カウンセリングの基本的な姿勢を習得し、問題に直面した際に柔軟に考え、対応するための力を身につける。		
準備学習	近年、学校現場で問題になっている発達障がい、いじめ、不登校、保護者への対応といったテーマについて文献を読んでおくこと。また、教育の問題と関連する事件やニュースに関心をもち、自分なりの考えをまとめておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的な参加、ディスカッションやレポートを通じて真摯に課題に取り組む姿勢を大切にしてください。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. カウンセリングの基礎知識 3. 教員による生徒のコントロールの問題 4. 生徒の「見立て」 5. いじめについて① 6. いじめについて② 7. いじめについて③ 8. 発達障がいの基本的理解 9. 発達障がいの事例的理解① 10. 発達障がいの事例的理解② 11. 不登校について 12. 不登校への対応 13. 生徒理解のために必要な工夫・配慮 14. 保護者への対応 15. 教員自身のストレスマネジメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JP0007004
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	竹中　菜苗	旧科目名称	
講義概要	教育現場においてもしばしば「カウンセリング・マインド」という言葉が用いられるように、学校の教員にもカウンセリングについての基本的な知識が求められるようになってきている。本授業では教育現場で起きやすい子どもの問題行動をいかに理解し、関わっていくかについて、カウンセリング的な視点から学ぶ。適宜、講義のトピックに関連する小説や映画、心理臨床事例を具体的な素材として取り上げ、グループディスカッションなどを通じて自分自身で考える力を身につけ、実践力を養う。		
教材（テキスト）	『教師のためのカウンセリングワークブック』菅野純（金子書房）		
教材（参考文献）	『フツーの子の思春期』岩宮恵子（岩波書店） 『キャラ化する／される子どもたち－排除型社会における新たな人間像』土井隆義（岩波書店）		
教材（その他）			
評価方法	グループディスカッション、意見の発表など授業への積極的な参加および授業内に課すレポート提出などの平常点（50%）、および試験（50%）を総合し、60 点以上で合格とする。		
到達目標	子どもの発達的課題や心理的障害についての知識、カウンセリングの基本的な姿勢を習得し、問題に直面した際に柔軟に考え、対応するための力を身につける。		
準備学習	近年、学校現場で問題になっている発達障がい、いじめ、不登校、保護者への対応といったテーマについて文献を読んでおくこと。また、教育の問題と関連する事件やニュースに関心をもち、自分なりの考えをまとめておくこと。		
受講者への要望			
授業への積極的な参加、ディスカッションやレポートを通じて真摯に課題に取り組む姿勢を大切にしてください。			
講義の順序とポイント			
1. イントロダクション 2. カウンセリングの基礎知識 3. 教員による生徒のコントロールの問題 4. 生徒の「見立て」 5. いじめについて① 6. いじめについて② 7. いじめについて③ 8. 発達障がいの基本的理解 9. 発達障がいの事例的理解① 10. 発達障がいの事例的理解② 11. 不登校について 12. 不登校への対応 13. 生徒理解のために必要な工夫・配慮 14. 保護者への対応 15. 教員自身のストレスマネジメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JP0008001
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
講義概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えてIT活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（テキスト）	各回でプリントを配布		
教材（参考文献）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教材（その他）	立田慶裕編『読書教育の方法』学文社、2015		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート2回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
準備学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。 また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講者への要望

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

講義の順序とポイント

第1回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第2回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第3回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第4回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第5回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第6回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第7回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第8回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第9回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第10回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第11回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第12回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ
第13回　授業の実践例（2）
算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ
第14回　授業の評価
授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ
第15回　総論

テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	ー	ー	★★	ー

年度	2017	授業コード	JP0008002
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
講義概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えてIT活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（テキスト）	各回でプリントを配布		
教材（参考文献）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教材（その他）	立田慶裕編『読書教育の方法』学文社、2015		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート2回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
準備学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。 また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講者への要望

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

講義の順序とポイント

第1回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第2回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第3回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第4回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第5回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第6回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第7回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第8回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第9回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第10回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第11回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第12回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ
第13回　授業の実践例（2）
算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ
第14回　授業の評価
授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ
第15回　総論

テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	-	-	★★	-

年度	2017	授業コード	JP0008003
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
講義概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えてIT活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（テキスト）	各回でプリントを配布		
教材（参考文献）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教材（その他）	立田慶裕編『読書教育の方法』学文社、2015		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート2回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
準備学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。 また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講者への要望

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

講義の順序とポイント

第1回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第2回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第3回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第4回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第5回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第6回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第7回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第8回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第9回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第10回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第11回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第12回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ
第13回　授業の実践例（2）
算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ
第14回　授業の評価
授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ
第15回　総論

テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	★★	★★	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0009001
科目名	教育課程論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Curriculum(Special Activities Education)		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	教育課程・特別活動論
講義概要	まず始めに、一人一人の生徒が、いきいき学び同時に確かな学力を身に付けられる教育課程とは、どのような構成原理、基準、内容を持つものなのか考察を進める。 次に、いくつかの「教育課程・カリキュラム」を取り上げ、その具体的な内容について授業やその構成、教材や教授行為など様々な観点から検討する。 受講生には具体的な授業計画が作成できる知識･技能と、学校現場におけるさまざまな指導の場面に於いて、より望ましい指導ができる知識・技能を身につけられるよう、授業を進める。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 21 年に改正）		
教材（参考文献）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点・小テスト 30% 、 課題レポート 30% 、 学期末試験 40%		
到達目標	・教育課程について、その基本的な概念や構成原理を理解する。 ・さまざまなカリキュラムについて、それらの長所や短所を指摘できる。 ・教育課程の編成や指導計画の作成のために必要な、「目標」「教育内容」「教材」などを正確に表現できる。 ・「学習指導要領」の改正に見られる、それぞれの時代背景や課題をふまえ、今後の「教育課程」について検討する。		
準備学習	・1 回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・各学校や教員が行った「実践記録」や「授業記録」が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		

受講者への要望

・教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。

講義の順序とポイント

1．教育課程とは何か
2．カリキュラムの構成原理
3．経験主義と系統主義
4．「問題解決的学習」
5．「仮説実験授業」
6．教育課程の検討①　（目標と評価）
7．教育課程の検討②　（教材）
8．教育課程の検討③　（授業研究１）
9．教育課程の検討④　（授業研究２）
１０．「学力」とは何か
１１．学習指導要領の変遷①　カリキュラム改革運動
１２．学習指導要領の変遷②　教育内容の現代化
１３．学習指導要領の変遷③　「ゆとり」と「生きる力」
１４．新しい学習指導要領のポイント①　学力にかかわる問題
１５．新しい学習指導要領のポイント②　「習得」「活用」「探究」
定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2017	授業コード	JP0009002
科目名	教育課程論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Curriculum(Special Activities Education)		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	教育課程・特別活動論
講義概要	まず始めに、一人一人の生徒が、いきいき学び同時に確かな学力を身に付けられる教育課程とは、どのような構成原理、基準、内容を持つものなのか考察を進める。 次に、いくつかの「教育課程・カリキュラム」を取り上げ、その具体的な内容について授業やその構成、教材や教授行為など様々な観点から検討する。 受講生には具体的な授業計画が作成できる知識･技能と、学校現場におけるさまざまな指導の場面に於いて、より望ましい指導ができる知識・技能を身につけられるよう、授業を進める。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　総則編』（平成 21 年に改正）		
教材（参考文献）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（その他）	適宜資料を配布する。		
評価方法	平常点・小テスト 30% 、 課題レポート 30% 、 学期末試験 40%		
到達目標	・教育課程について、その基本的な概念や構成原理を理解する。 ・さまざまなカリキュラムについて、それらの長所や短所を指摘できる。 ・教育課程の編成や指導計画の作成のために必要な、「目標」「教育内容」「教材」などを正確に表現できる。 ・「学習指導要領」の改正に見られる、それぞれの時代背景や課題をふまえ、今後の「教育課程」について検討する。		
準備学習	・1 回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど） ・各学校や教員が行った「実践記録」や「授業記録」が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		

受講者への要望

・教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。

講義の順序とポイント

1．教育課程とは何か
2．カリキュラムの構成原理
3．経験主義と系統主義
4．「問題解決的学習」
5．「仮説実験授業」
6．教育課程の検討①　（目標と評価）
7．教育課程の検討②　（教材）
8．教育課程の検討③　（授業研究１）
9．教育課程の検討④　（授業研究２）
１０．「学力」とは何か
１１．学習指導要領の変遷①　カリキュラム改革運動
１２．学習指導要領の変遷②　教育内容の現代化
１３．学習指導要領の変遷③　「ゆとり」と「生きる力」
１４．新しい学習指導要領のポイント①　学力にかかわる問題
１５．新しい学習指導要領のポイント②　「習得」「活用」「探究」
定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	-	-	★	★

年度	2017	授業コード	JP0010A01
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	
講義概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（テキスト）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）	とくになし。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）。実習校による評価（６０％）。反省会での報告（２０％）。		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
準備学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講者への要望

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

講義の順序とポイント

１．実際の実習（５月後半ないし６月の前半からがほとんど）に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTR などを活用して実習への構えを整えてもらうが、３年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。
２．実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らぬこと。
３．実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、リポートの提出も求める。
４．成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる．そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。

学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術
生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導
実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JP0010A02
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（テキスト）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）	とくになし。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）。実習校による評価（６０％）。反省会での報告（２０％）。		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
準備学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講者への要望

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

講義の順序とポイント

１．実際の実習（５月後半ないし６月の前半からがほとんど）に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTR などを活用して実習への構えを整えてもらうが、３年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。
２．実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らぬこと。
３．実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、リポートの提出も求める。
４．成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる．そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。

学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術
生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導
実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JP0010A03
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	
講義概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（テキスト）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）	とくになし。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）。実習校による評価（６０％）。反省会での報告（２０％）。		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
準備学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講者への要望

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

講義の順序とポイント

１．実際の実習（５月後半ないし６月の前半からがほとんど）に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTR などを活用して実習への構えを整えてもらうが、３年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。
２．実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らぬこと。
３．実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、リポートの提出も求める。
４．成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる．そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。

学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術
生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導
実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JP0010A04
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（テキスト）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）	とくになし。		
教材（その他）	とくになし。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）。実習校による評価（６０％）。反省会での報告（２０％）。		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
準備学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講者への要望

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

講義の順序とポイント

１．実際の実習（５月後半ないし６月の前半からがほとんど）に行く前に、実習の意義や目的、あるいはその手続きなどについて講義を行なう。手引きや資料、VTR などを活用して実習への構えを整えてもらうが、３年生の「教育実習事前指導」に参加して、仕上げの模擬授業を行なうこともたいへん有意義である。
２．実習期間中には、本学の教員がかならず実習校におもむき、訪問指導を行なう。研究授業の参観を同時に行なうことが多い。実習中も本学との連絡を怠らぬこと。
３．実習終了後には、事後指導として全体の反省会を行ない、リポートの提出も求める。
４．成績評価に際しては、実習校からいただく「教育実習成績評価表」が大きな材料となる．そこで評価されている事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。

学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術
生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導
実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JP0010B01
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	
講義概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（テキスト）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
準備学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講者への要望

２週間あるいは３週間（4 週間）におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育実習の概要について（DVD の視聴など）
3.学習指導について　①授業参観について
4.学習指導について　②学習指導案の書き方
5.生徒指導について　①中学校における問題事象
6.学級指導について　①学級担任の仕事
7.教育実習の準備
8.教育実習　①　 実習授業
9.教育実習　②　学級指導
10.教育実習　③　生徒指導
11.教育実習のまとめ　実習ノートによる整理
12.教育実習報告　①　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
13.教育実習報告　②　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
14.討議　各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する
15.まとめ カルテの整理

教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★

年度	2017	授業コード	JP0010B02
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	
講義概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（テキスト）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
準備学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講者への要望

２週間あるいは３週間（4 週間）におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育実習の概要について（DVD の視聴など）
3.学習指導について　①授業参観について
4.学習指導について　②学習指導案の書き方
5.生徒指導について　①中学校における問題事象
6.学級指導について　①学級担任の仕事
7.教育実習の準備
8.教育実習　①　 実習授業
9.教育実習　②　学級指導
10.教育実習　③　生徒指導
11.教育実習のまとめ　実習ノートによる整理
12.教育実習報告　①　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
13.教育実習報告　②　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
14.討議　各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する
15.まとめ カルテの整理

教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★

年度	2017	授業コード	JP0010B11
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（テキスト）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
準備学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講者への要望

２週間あるいは３週間（4 週間）におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育実習の概要について（DVD の視聴など）
3.学習指導について　①授業参観について
4.学習指導について　②学習指導案の書き方
5.生徒指導について　①中学校における問題事象
6.学級指導について　①学級担任の仕事
7.教育実習の準備
8.教育実習　①　 実習授業
9.教育実習　②　学級指導
10.教育実習　③　生徒指導
11.教育実習のまとめ　実習ノートによる整理
12.教育実習報告　①　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
13.教育実習報告　②　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
14.討議　各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する
15.まとめ カルテの整理

教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★

年度	2017	授業コード	JP0010B12
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（テキスト）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
準備学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講者への要望

２週間あるいは３週間（4 週間）におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育実習の概要について（DVD の視聴など）
3.学習指導について　①授業参観について
4.学習指導について　②学習指導案の書き方
5.生徒指導について　①中学校における問題事象
6.学級指導について　①学級担任の仕事
7.教育実習の準備
8.教育実習　①　 実習授業
9.教育実習　②　学級指導
10.教育実習　③　生徒指導
11.教育実習のまとめ　実習ノートによる整理
12.教育実習報告　①　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
13.教育実習報告　②　各自が教育実習を振り返り、成果と課題を発表する
14.討議　各自の発表を踏まえ話題を設定し、討議する
15.まとめ カルテの整理

教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★

年度	2017	授業コード	JP0012001
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。本講は、学校制度の歴史、教育法制、教育行政など、学校制度全般にかかわる事項を多角的に学び、学校の意義と課題について理解を深めることを目的としている。		
教材（テキスト）	特定の１冊をテキストとして用いることはしない。		
教材（参考文献）	藤田祐介『学校の制度を学ぶ』（2015 年）の数箇所を参考資料として使う予定。		
教材（その他）	文科省などによる統計資料、あるいはメディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。

１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 学校制度への批判
4. 日本の近代化と学制
5. 日本における公教育の確立
6. 中・高等教育の発展
7. 戦後教育改革と新学制
8. 新学制の再編と多様化
9. 教育法令の体系
10. 教育を受ける権利と義務教育
11. 学校の種類と目的・目標
12. 教育行政における国の役割
13. 地方の自律性と国の関与の変化
14. 教育委員会制度
15. 学期末試験に向けた要点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0012002
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。本講は、学校制度の歴史、教育法制、教育行政など、学校制度全般にかかわる事項を多角的に学び、学校の意義と課題について理解を深めることを目的としている。		
教材（テキスト）	特定の１冊をテキストとして用いることはしない。		
教材（参考文献）	藤田祐介『学校の制度を学ぶ』（2015 年）の数箇所を参考資料として使う予定。		
教材（その他）	文科省などによる統計資料、あるいはメディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。

１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 学校制度への批判
4. 日本の近代化と学制
5. 日本における公教育の確立
6. 中・高等教育の発展
7. 戦後教育改革と新学制
8. 新学制の再編と多様化
9. 教育法令の体系
10. 教育を受ける権利と義務教育
11. 学校の種類と目的・目標
12. 教育行政における国の役割
13. 地方の自律性と国の関与の変化
14. 教育委員会制度
15. 学期末試験に向けた要点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0012003
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育制度の中心はいうまでもなく学校制度であり、それは国民すべてを巻き込んで国家の管理のもとに運営されている。本講は、学校制度の歴史、教育法制、教育行政など、学校制度全般にかかわる事項を多角的に学び、学校の意義と課題について理解を深めることを目的としている。		
教材（テキスト）	特定の１冊をテキストとして用いることはしない。		
教材（参考文献）	藤田祐介『学校の制度を学ぶ』（2015 年）の数箇所を参考資料として使う予定。		
教材（その他）	文科省などによる統計資料、あるいはメディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	学期末の筆記試験の成績が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	国家社会の制度としての学校教育が、どのような原理・原則から組み立てられているのかを理解すること。		
準備学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のためにテキストを精読しておくこと。		

受講者への要望

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件。

１、２回生向けの授業である。

講義の順序とポイント

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 学校制度への批判
4. 日本の近代化と学制
5. 日本における公教育の確立
6. 中・高等教育の発展
7. 戦後教育改革と新学制
8. 新学制の再編と多様化
9. 教育法令の体系
10. 教育を受ける権利と義務教育
11. 学校の種類と目的・目標
12. 教育行政における国の役割
13. 地方の自律性と国の関与の変化
14. 教育委員会制度
15. 学期末試験に向けた要点の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0013A01
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0013A02
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0013A03
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	教職演習Ⅰ
講義概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導餡を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
準備学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。			

講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0013B01
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		

受講者への要望

教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。
このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。
介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0013B02
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。 このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。 介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。		

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0013B03
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	教職演習Ⅱ
講義概要	「教職演習Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（テキスト）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
準備学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講者への要望			
教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。 このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。 介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。		

講義の順序とポイント
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0016001
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望
教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.教育にかかわる問題（学力低下など） 3.教育にかかわる問題（学校の国際化など） 4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件） 5.教職員の種類と職務（教員の任用） 6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒） 7.教員の資質・能力（学習指導） 8.教員の資質・能力（教材研究） 9.教員の資質・能力（授業研究） 10.教員の資質・能力（教育評価） 11.教員の資質・能力（生徒理解） 12.教員の資質・能力（生徒指導） 13.教員の資質・能力（学校経営への参画） 14.教員の研修 15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0016002
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望
教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。
講義の順序とポイント
1.オリエンテーション 2.教育にかかわる問題（学力低下など） 3.教育にかかわる問題（学校の国際化など） 4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件） 5.教職員の種類と職務（教員の任用） 6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒） 7.教員の資質・能力（学習指導） 8.教員の資質・能力（教材研究） 9.教員の資質・能力（授業研究） 10.教員の資質・能力（教育評価） 11.教員の資質・能力（生徒理解） 12.教員の資質・能力（生徒指導） 13.教員の資質・能力（学校経営への参画） 14.教員の研修 15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0016003
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
講義概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（テキスト）	林勲編『教育の原理』法律文化社		
教材（参考文献）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	小テスト 30% （各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
準備学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		

受講者への要望

教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.教育にかかわる問題（学力低下など）
3.教育にかかわる問題（学校の国際化など）
4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件）
5.教職員の種類と職務（教員の任用）
6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒）
7.教員の資質・能力（学習指導）
8.教員の資質・能力（教材研究）
9.教員の資質・能力（授業研究）
10.教員の資質・能力（教育評価）
11.教員の資質・能力（生徒理解）
12.教員の資質・能力（生徒指導）
13.教員の資質・能力（学校経営への参画）
14.教員の研修
15.教育改革と学校（今後の学校について考える）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0017A02
科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics I		
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	
講義概要	「良い公民の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、中学校社会科公民的分野の中でも、特に経済学習に焦点を当て、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校社会科公民的分野（経済学習）の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの中学校社会科公民的分野（経済学習）における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（2008 年）、 坂上康俊ほか『新編 新しい社会 公民』東京書籍		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（2011 年）		
教材（その他）			
評価方法	受講態度：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科公民的分野（経済学習）を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科公民的分野（経済学習）の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科公民的分野（経済学習）の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科公民的分野（経済学習）の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り、授業の種を見つけるためにも、テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や、多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		

受講者への要望

１．この講義では、授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。そのため、①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと、②講義において活動に積極的にとりくむこと、③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること、を意識的に行ってもらいたい。

２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで、内容を理解してもらいたい。

講義の順序とポイント

第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い公民の授業とは）
第２回：中学校社会科公民的分野の役割と意義
第３回：小学校社会科の経済学習
第４回：高等学校公民科の「政治・経済」
第５回：中学校社会科公民的分野（経済学習）の目標・内容
第６回：中学校社会科地理的分野・歴史的分野における学習成果の活用
第７回：中学校社会科公民的分野における学習指導案の作り方
第８回：「消費生活と経済」の模擬授業と分析・検討
第９回：「生産と労働」の模擬授業と分析・検討
第１０回：「価格の働きと金融」の模擬授業と分析・検討
第１１回：「政府の役割と国民の福祉」の模擬授業と分析・検討
第１２回：「これからの経済と社会」の模擬授業と分析・検討
第１３回：「国際社会の仕組み」の模擬授業と分析・検討
第１４回：模擬授業の振り返り
第１５回：中学校社会科公民的分野（経済学習）の現状と課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0017B02
科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics Ⅱ		
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	
講義概要	「良い公民の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、中学校社会科公民的分野の中でも、特に政治学習に焦点を当て、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校社会科公民的分野（政治学習）の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの中学校社会科公民的分野（政治学習）における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（2008 年）、 坂上康俊ほか『新編 新しい社会 公民』東京書籍		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（2011 年）		
教材（その他）			
評価方法	受講態度：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科公民的分野（政治学習）を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科公民的分野（政治学習）の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科公民的分野（政治学習）の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科公民的分野（政治学習）の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り、授業の種を見つけるためにも、テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や、多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		

受講者への要望

１．この講義では、授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。そのため、①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと、②講義において活動に積極的にとりくむこと、③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること、を意識的に行ってもらいたい。

２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで、内容を理解してもらいたい。

講義の順序とポイント

第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い公民の授業とは）
第２回：中学校社会科公民的分野の役割と意義
第３回：小学校社会科の政治学習
第４回：高等学校公民科の「政治・経済」
第５回：中学校社会科公民的分野（政治学習）の目標・内容
第６回：中学校社会科地理的分野・歴史的分野における学習成果の活用
第７回：中学校社会科公民的分野における学習指導案の作り方
第８回：「人権と日本国憲法」の模擬授業と分析・検討
第９回：「人権と共生社会」の模擬授業と分析・検討
第１０回：「これからの人権保障」の模擬授業と分析・検討
第１１回：「現代の民主政治」の模擬授業と分析・検討
第１２回：「国の政治のしくみ」の模擬授業と分析・検討
第１３回：「地方自治と私たち」の模擬授業と分析・検討
第１４回：模擬授業の振り返り
第１５回：中学校社会科公民的分野（政治学習）の現状と課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0018A02
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies I		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	まず、「地理歴史は暗記」という概念を捨てること、公の場で教師が言うべきものではない。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを見つけることがこの講義の内容です。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためにはどのような要素が必要か考えていきたいと思います。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』（平成 20 年改訂） 『中学校学習指導要領　解説　社会科編』（同）		
教材（参考文献）	講義の内容にかかわるものをその都度紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	授業時の発言 20%　学習指導案などレポート 30%　試験（小テストを含む）50%		
到達目標	中学校社会科の地理的分野、歴史的分野の授業を「学習指導案」の形で表現できる。 このためには、「地理や歴史の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解してい る」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。		
準備学習	授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。 まず、中学校や高等学校の地理・歴史に関する復習が必要、特に高等学校で学習していない科目（地理の場合が多い）は意識して取り組むようにしてほしい。 出版されている授業記録などを読み、「良い授業」とはどのようなものか考えてほしい。		

受講者への要望

社会科が苦手であったり、社会科の内容を忘れてしまっていてはどうしようもがないので、社会科を中心に、全般的な教科の学習内容について丁寧に学び直す機会を持ち、小テストで繰り返し内容理解の定着度を確認する。自分でも高等学校、中学校の復習を心がけること。

授業を実際に見る機会が少ない。児童・生徒とかかわる機会が少ない。こういうことが内容に各自積極的に学校現場の活動に参加するようにしてほしい。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション
2.社会科の歴史
3.小学校の歴史学習・地理学習
4.高等学校地歴科との関連
5.地理的分野の目標・内容　①世界の様々な地域
6.地理的分野の目標・内容　②日本の様々な地域
7.地理的分野の目標・内容　③主題を設けて行う学習
8.地理的分野の目標・内容　④地域的特色をとらえる学習
9.地理的分野の目標・内容　⑤地図と統計資料
１０.歴史的分野の目標・内容　①歴史のとらえ方
１１.歴史的分野の目標・内容　②古代までの日本
１２.歴史的分野の目標・内容　③中世～近世の日本
１３.歴史的分野の目標・内容　④近代の日本と世界
１４.歴史的分野の目標・内容　⑤現代の日本と世界
１５.地理歴史教育の現状と課題（求められている授業改善）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	JP0018B02
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies Ⅱ		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
講義概要	「良い地理歴史の授業とは何か。それはどのような内容をどのように教えることなのか。」本講義では、この問いに多様な視点から答えていく。講義では実際の中学校、高等学校の指導案やビデオの分析を行いながら、グループ活動を通して、自分の考え・他者の考えを検討し、これからの地理、歴史における授業観を作り上げてもらいたい。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（２００８年） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』教育出版（２０１０年）		
教材（参考文献）	全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書（２０１１年） 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』		
教材（その他）			
評価方法	授業での発言：２０％、小テスト：２０％、模擬授業：３０％、レポート：３０％		
到達目標	教科と子どもの実態を踏まえて、中学校社会科　地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科を指導できる基礎的な力量を養う。 ①中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の役割と意義を理解できる。 ②中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の授業を分析し、意義と課題を評価できる。 ③中学校社会科地理的分野、歴史的分野と高等学校地歴科の授業構造を考察し、授業を「学習指導案」の形で表現できる。		
準備学習	・社会の動きを知り，授業の種を見つけるためにも，テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や，多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		
受講者への要望			
１．この講義では，授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。：そのため，①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと，②講義において活動に積極的にとりくむこと，③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること，を意識的に行ってもらいたい。 ２．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで，内容を理解してもらいたい。			
講義の順序とポイント			
第１回：オリエンテーション（科目の役割、講義の進め方、良い地理、歴史の授業とは） 第２回：地理歴史教育の役割と意義 第３回：中学校社会科の地理的分野と歴史的分野の目標・内容 第４回：地理 A、地理 B の目標・内容 第５回：日本史 A、日本史 B の目標・内容 第６回：世界史 A、世界史 B の目標・内容 第７回：学習指導案の作り方 第８回：中学校地理的分野の模擬授業と分析・検討 第９回：地理 A　B の模擬授業と分析・検討 第１０回：日本史 A　B の模擬授業と分析・検討 第１１回：世界史 A　B の模擬授業と分析・検討 第１２回：模擬授業の振り返り　世界史について 第１３回：模擬授業の振り返り　日本史、中学校歴的分野について 第１４回：模擬授業の振り返り　地理、中学校地理的分野について 第１５回：地理、歴史の授業の現状と課題 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2017	授業コード	JP0022001
科目名	生徒・進路指導論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Guidance		
担当者名	井崎　敏彦	旧科目名称	
講義概要	・生徒指導の基礎・基本的な考え方、問題行動に対する指導方法や、いじめ・不登校などの今日的な課題について、「生徒指導提要」をもとにグループディスカッションも取り入れながら学ぶ。 ・生徒指導上の様々な問題行動に対して、日ごろの学校教育活動を通じ、健全な発達の支援をいかに行うか、また、保護者との関係づくりや対応をどのように行うかなど、ロールプレーイングも行い具体的に考察する。 ・「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）などを基にしながら従来の進路指導からキャリア教育への移行についての理論と学校現場での実践について考える。		
教材（テキスト）	生徒指導提要（文部科学省　平成 22 年?）276 円＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	質疑応答による平常点・小テスト　３０％。 課題レポート２回　３０％。(課題レポートの未提出は授業を放棄したものとみなす。 学期末試験　４０％。		
到達目標	・生徒指導・進路指導にかかわる基本的な考え方や方法についての理解を進める。 ・学級担任（教員）として、生徒指導・進路指導上の具体的な場面で、実際的な指導ができる。 ・生徒や保護者からの相談・要望・苦情に対して適切に対応することができる。 以上を目標とする。		
準備学習	シラバスに記された教科書の単元を事前に予習しておく。また、関連する記事ニュースについて調べておく。		

受講者への要望

日々の教育に関する記事・ニュースに関心を持ち、自らの意見・考えをまとめる習慣を養う努力をする。

講義の順序とポイント

第　1 回　講義の概要と生徒指導の意義
第　2 回　生徒指導と教育課程（学習）
第　3 回　生徒指導における個人と集団（心理と生徒理解）
第　4 回　生徒指導にかかる諸問題
第　5 回　いじめを防止するために（予防と対応）
第　6 回　不登校を防止するために（予防と対応）
第　7 回　指導体制 と組織
第　8 回　校則・生徒規律について
第　9 回　体罰・生徒懲戒について
第 10 回　保護者から寄せられる相談・苦情・要求
第 11 回　カウンセリングと発達段階
第 12 回　相談機関の仕組みと学校・家庭・地域
第 13 回　相談機関等の活用
第 14 回　キャリア教育と進路指導の意義
第 15 回　キャリア教育に求められるもの
定期試験（or レポート）
＊演習を多く採り入れる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JP0022002
科目名	生徒・進路指導論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Guidance		
担当者名	井崎　敏彦	旧科目名称	
講義概要	・生徒指導の基礎・基本的な考え方、問題行動に対する指導方法や、いじめ・不登校などの今日的な課題について、「生徒指導提要」をもとにグループディスカッションも取り入れながら学ぶ。 ・生徒指導上の様々な問題行動に対して、日ごろの学校教育活動を通じ、健全な発達の支援をいかに行うか、また、保護者との関係づくりや対応をどのように行うかなど、ロールプレーイングも行い具体的に考察する。 ・「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）などを基にしながら従来の進路指導からキャリア教育への移行についての理論と学校現場での実践について考える。		
教材（テキスト）	生徒指導提要（文部科学省　平成 22 年?）276 円＋税		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する		
教材（その他）	適宜プリントを配布する		
評価方法	質疑応答による平常点・小テスト　３０％。 課題レポート２回　３０％。(課題レポートの未提出は授業を放棄したものとみなす。 学期末試験　４０％。		
到達目標	・生徒指導・進路指導にかかわる基本的な考え方や方法についての理解を進める。 ・学級担任（教員）として、生徒指導・進路指導上の具体的な場面で、実際的な指導ができる。 ・生徒や保護者からの相談・要望・苦情に対して適切に対応することができる。 以上を目標とする。		
準備学習	シラバスに記された教科書の単元を事前に予習しておく。また、関連する記事ニュースについて調べておく。		

受講者への要望

日々の教育に関する記事・ニュースに関心を持ち、自らの意見・考えをまとめる習慣を養う努力をする。

講義の順序とポイント

第　1 回　講義の概要と生徒指導の意義
第　2 回　生徒指導と教育課程（学習）
第　3 回　生徒指導における個人と集団（心理と生徒理解）
第　4 回　生徒指導にかかる諸問題
第　5 回　いじめを防止するために（予防と対応）
第　6 回　不登校を防止するために（予防と対応）
第　7 回　指導体制 と組織
第　8 回　校則・生徒規律について
第　9 回　体罰・生徒懲戒について
第 10 回　保護者から寄せられる相談・苦情・要求
第 11 回　カウンセリングと発達段階
第 12 回　相談機関の仕組みと学校・家庭・地域
第 13 回　相談機関等の活用
第 14 回　キャリア教育と進路指導の意義
第 15 回　キャリア教育に求められるもの
定期試験（or レポート）
＊演習を多く採り入れる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	JP0023001
科目名	道徳教育の指導法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study on Moral Education		
担当者名	黒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	本講義は，「道徳の指導法（教育職員免許法施行規則第 6 条)」を扱う。講義では，道徳教育の目標や基本的な内容を取り上げ，学校における道徳教育の目的を理解できるようにする。あわせて，道徳教育の方法を取り上げ，教材研究，学習指導案の作成などを含めて，実践的な指導力が養われるようにする。とりわけ〈人間としての生き方〉を教育するという観点に着目して，道徳の指導方法・実践やその目的に関して，より深い理解を得ることを目指す。 具体的には，①毎授業時，中学校学習指導要領および同解説（道徳編）をもとに，学校における道徳教育の目標・内容，指導計画，指導方法などについての基本的な事項を学ぶ、②読み物資料を用いての模擬授業やグループ討議を通して，道徳の時間の指導が何をめざして，どのように行われるべきなのかなどを考え，学級担任（教員）として，指導案を作成し，道徳の時間の指導ができるようになることをめざす。		
教材（テキスト）	中学校学習指導要領解説＜道徳編＞　「中学校道徳　読み物資料集」（平成 24 年 3 月文部科学省）		
教材（参考文献）	「道徳教育とは何だろうか」、「道徳教育画餅からの脱却」(横山利弘著)など授業時に指示する。		
教材（その他）	講義の内容に関する参考資料を授業時に配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点、30% 課題レポート（指導案を含む）2 回、30%（課題レポートの未提出は授業放棄したものとみなす） 学期末試験、40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。(出席重視)		
到達目標	・道徳教育の目標・内容、指導計画、指導方法などについての基本的な事項を理解する。 ・学級担任（教員）として、指導案を作成し、道徳の時間の指導ができる。		
準備学習	・授業時に学習した内容を毎回、小レポートとして提出する。また、授業のまとめとして、5 回区切りごとに大レポートとして課すので、毎授業後に復習をして、次回の授業に備えるとともに、大レポートに向けての準備をしておくこと。 ・授業に向けての準備学習として、学習指導要領や同解説、配布資料など、次回の講義内容に該当する箇所を読んで予習しておくこと。 ※レポートは指定された期日までに提出すること。(未提出者は授業を放棄したものとみなす)		

受講者への要望

・教職への強い意志および真摯な受講態度・学習態度を求める。
・発表やグループ討議の機会が多いので、積極的に授業に参加することを求める。
・出席重視、遅刻の場合はその理由を尋ねる。
・私語などの行動が他者へ迷惑となる場合は、退出を求める。

講義の順序とポイント

1　授業の概要および学習指導要領で求められている道徳教育
・学習指導要領（第 1 章総則および第 3 章道徳）
・道徳教育改訂の要点
読み物資料を用いたミニ模擬授業

2 道徳教育の基本的な在り方及び目標
・道徳の意義
・道徳の時間の目標

読み物資料を用いたミニ模擬授業

3　道徳教育の内容
・内容の基本的性格
・内容項目の指導の観点
読み物資料を用いたミニ模擬授業

4　道徳教育の指導計画
・全体計画
・年間指導計画
・学級における指導計画
読み物資料を用いたミニ模擬授業

5 道徳教育推進教師を中心とした協力体制の整備
・協力体制の充実
・道徳教育推進教師の役割
読み物資料を用いたミニ模擬授業

6　教育活動全体を通じて行う指導
・指導の基本方針
・各教科，総合的な学習の時間及び特別活動における指導
・その他の教育活動における指導
・家庭や地域との連携による道徳教育
読み物資料を用いたミニ模擬授業

7　道徳の時間の指導
・指導の基本方針
読み物資料を用いたミニ模擬授業

8　道徳の時間の学習指導案の作成
・学習指導案の内容
・学習指導の多様な展開
・指導方法の創意工夫
読み物資料を用いたミニ模擬授業

9　道徳授業のポイント
・魅力的な教材の開発や活用
・表現し考えを深める指導の工夫
読み物資料を用いたミニ模擬授業

10　道徳資料の読み方
・教材としての資料の構成
・読み物資料を使う効果ことの効果
読み物資料を用いたミニ模擬授業

11　道徳資料の読み：「主人公が道徳価値及びそれに基づいた人間としての生き方を自覚する」資料を用いての模擬授業

12　道徳資料の読み：「場の空気が道徳的に変化した」資料を用いての模擬授業

13　道徳授業の実際（模擬授業）①

14　道徳授業の実際（模擬授業）②

15　学生による読み物資料を用いての授業の振り返り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JP0023002
科目名	道徳教育の指導法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study on Moral Education		
担当者名	黒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	本講義は，「道徳の指導法（教育職員免許法施行規則第 6 条)」を扱う。講義では，道徳教育の目標や基本的な内容を取り上げ，学校における道徳教育の目的を理解できるようにする。あわせて，道徳教育の方法を取り上げ，教材研究，学習指導案の作成などを含めて，実践的な指導力が養われるようにする。とりわけ〈人間としての生き方〉を教育するという観点に着目して，道徳の指導方法・実践やその目的に関して，より深い理解を得ることを目指す。 具体的には，①毎授業時，中学校学習指導要領および同解説（道徳編）をもとに，学校における道徳教育の目標・内容，指導計画，指導方法などについての基本的な事項を学ぶ、②読み物資料を用いての模擬授業やグループ討議を通して，道徳の時間の指導が何をめざして，どのように行われるべきなのかなどを考え，学級担任（教員）として，指導案を作成し，道徳の時間の指導ができるようになることをめざす。		
教材（テキスト）	中学校学習指導要領解説＜道徳編＞　「中学校道徳　読み物資料集」（平成 24 年 3 月文部科学省）		
教材（参考文献）	「道徳教育とは何だろうか」、「道徳教育画餅からの脱却」(横山利弘著)など授業時に指示する。		
教材（その他）	講義の内容に関する参考資料を授業時に配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点、30% 課題レポート（指導案を含む）2 回、30%（課題レポートの未提出は授業放棄したものとみなす） 学期末試験、40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。(出席重視)		
到達目標	・道徳教育の目標・内容、指導計画、指導方法などについての基本的な事項を理解する。 ・学級担任（教員）として、指導案を作成し、道徳の時間の指導ができる。		
準備学習	・授業時に学習した内容を毎回、小レポートとして提出する。また、授業のまとめとして、5 回区切りごとに大レポートとして課すので、毎授業後に復習をして、次回の授業に備えるとともに、大レポートに向けての準備をしておくこと。 ・授業に向けての準備学習として、学習指導要領や同解説、配布資料など、次回の講義内容に該当する箇所を読んで予習しておくこと。 ※レポートは指定された期日までに提出すること。(未提出者は授業を放棄したものとみなす)		

受講者への要望

・教職への強い意志および真摯な受講態度・学習態度を求める。
・発表やグループ討議の機会が多いので、積極的に授業に参加することを求める。
・出席重視、遅刻の場合はその理由を尋ねる。
・私語などの行動が他者へ迷惑となる場合は、退出を求める。

講義の順序とポイント

1　授業の概要および学習指導要領で求められている道徳教育
・学習指導要領（第 1 章総則および第 3 章道徳）
・道徳教育改訂の要点
読み物資料を用いたミニ模擬授業

2 道徳教育の基本的な在り方及び目標
・道徳の意義
・道徳の時間の目標

読み物資料を用いたミニ模擬授業

3　道徳教育の内容
・内容の基本的性格
・内容項目の指導の観点
読み物資料を用いたミニ模擬授業

4　道徳教育の指導計画
・全体計画
・年間指導計画
・学級における指導計画
読み物資料を用いたミニ模擬授業

5 道徳教育推進教師を中心とした協力体制の整備
・協力体制の充実
・道徳教育推進教師の役割
読み物資料を用いたミニ模擬授業

6　教育活動全体を通じて行う指導
・指導の基本方針
・各教科，総合的な学習の時間及び特別活動における指導
・その他の教育活動における指導
・家庭や地域との連携による道徳教育
読み物資料を用いたミニ模擬授業

7　道徳の時間の指導
・指導の基本方針
読み物資料を用いたミニ模擬授業

8　道徳の時間の学習指導案の作成
・学習指導案の内容
・学習指導の多様な展開
・指導方法の創意工夫
読み物資料を用いたミニ模擬授業

9　道徳授業のポイント
・魅力的な教材の開発や活用
・表現し考えを深める指導の工夫
読み物資料を用いたミニ模擬授業

10　道徳資料の読み方
・教材としての資料の構成
・読み物資料を使う効果ことの効果
読み物資料を用いたミニ模擬授業

11　道徳資料の読み：「主人公が道徳価値及びそれに基づいた人間としての生き方を自覚する」資料を用いての模擬授業

12　道徳資料の読み：「場の空気が道徳的に変化した」資料を用いての模擬授業

13　道徳授業の実際（模擬授業）①

14　道徳授業の実際（模擬授業）②

15　学生による読み物資料を用いての授業の振り返り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JP0024001
科目名	特別活動論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Extra-curriculum Activity		
担当者名	今西　幸蔵	旧科目名称	
講義概要	特別活動とは学級活動やホームルーム活動、生徒会、それに学校行事などを総称する教科・科目外の教育活動を指し、その教育的営為は生徒の学習力を育成する上で重要であると認識されている。学習指導要領をふまえて、学級活動やホームルーム活動、生徒会、学校行事の内容と方法について学修する。さらに、特別活動の本質である集団組織と活動の在り方、人間関係づくりの理論についても講義する。本講義が教職課程のプログラムとして位置づけられており、受講生が教員志望者であることから、ディプロマ・ポリシーの視点からも実際の学校現場での集団活動の進め方やリーダーシップの育成方法などについて応用できる力量を形成することが求められている。適宜、アクティブラーニングなどの実践的な教育内容・方法をとおして授業を進める。		
教材（テキスト）	今西幸蔵・古川　治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識』（八千代出版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい）		
教材（参考文献）	立田慶裕・今西幸蔵『学校教員の現代的課題』（法律文化社） 林　　勲『教育の原理』（法律文化社） 長尾和英『教職と人間形成』（八千代出版） ほか適宜資料を配付する。		
教材（その他）	今西幸蔵編『特別活動論資料集』		
評価方法	授業時に配付する小レポート（60%）、演習課題（40%）等から総合的に評価する。		
到達目標	1．教科・科目外の教育活動である特別活動の意義や特性についてよく理解すること。 2．学校現場で役に立つ特別活動の指導法を理解し、教員として実践できるようになること。 3．実際的なスキルを身につけるための演習を通して、能動的な学習者を育成する態度を身につけること。 4．アクティブラーニングの進め方を理解し、体験的問題解決学習が指導できるようになること。		
準備学習	シラバスによって計画された学習内容や前時に予告された課題について各自が予習することを求める。その際には教科書や事前に配付された資料を活用することはもちろんのこと、基本的な語句や事項については図書館資料や IT 資料などで確認することが必要である。また授業で課される小課題や小レポートの作成をとおして振り返り学習を行い、授業等で得られた知見や実務的スキルを自分のものとする復習が望まれる。予習や復習に 30 分以上の時間をかけて欲しい。		

受講者への要望

教職に就こうとする者を対象とする授業であるところから、教員養成の視点から学生諸君に接することを伝えておきたい。具体的には、出席はもとより遅刻についても厳しく対応する。また準備学習で示した内容について実行していただくことを期待する。また本授業は講義に加えて演習的な内容もあるので、能動的に参加することを求める。

講義の順序とポイント

1.学習指導要領と特別活動の考え方
2．特別活動の歴史と課外活動
3．特別活動の意義と教育課程
4．学級活動・ホームルーム活動
5．学級活動の企画・立案
6．児童会・生徒会活動
7．生徒会の組織と運営
8．学校行事の内容
9．学校行事の企画・立案
10．授業のデザインとアクティブラーニング
11．いじめ問題への対応と仲間づくり
12．チームワークづくり、人間関係・リーダーシップ論
13．討議法と自己表現・自己開示の方法
14．体験的問題解決学習
15．特別活動の評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2017	授業コード	JP0024002
科目名	特別活動論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Extra-curriculum Activity		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
講義概要	現在、学校教育の中で行われている「特別活動」を取り上げ、学校行事・学級活動・生徒会活動などがどのように位置づけられているのかを考える。 これまでの『学習指導要領』の変遷を踏まえて、「特別活動」がどのように取り扱われていたのかを概観する。そして、教科や道徳、さらには「総合的な学習」などとの関連を整理し、「特別活動」がどのようなことを目指して、どのような方法で行われていくべきなのかを考えていきたい。 各自が、「特別活動」の指導計画を作成できるようになることを目標としている。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領　解説　特別活動編』（平成 20 年改正） 『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領　解説　特別活動編』（平成 21 年改正）		
教材（参考文献）	林　　勲『教育の原理』（法律文化社）		
教材（その他）			
評価方法	平常点・小テスト 30％ 、 課題レポート 30％ 、 学期末試験 40％		
到達目標	・学校で行われている「特別活動」について理解を進める。教育目標と活動の関係を意識し、さまざまな教育活　動が行われていることを知る。 ・「学級指導」や「学級活動」など特別活動の具体的な場面を想定し、実際の指導を考え、学習指導案にまとめ　ることができる。 ・さまざまな教育目標に対して、「特別活動」の指導計画を作成することができる。		
準備学習	・１回生で履修した教職に関する講義の内容を復習しておく（テキスト、ノートを読み直すなど）。 ・各学校で行われている、特徴的な活動や取り組みについて、さまざまな記録が出版されている。その中で、自分が興味を持ったものに目を通しておくと、指導計画や授業の具体的なイメージが作りやすい。 ・現在、学校や教育の分野で話題や問題となっていることに関心を持ち、情報を収集するように心がける。		
受講者への要望			
教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。 紹介した参考資料などを利用し、学校教育の課題や新しい動向などを常に意識するように。			
講義の順序とポイント			
第 1 回．特別活動とは何か 第 2 回．学習指導要領の変遷 第 3 回．新しい学習指導要領 第 4 回．特別活動の目標（小レポートⅠ） 第 5 回．特別活動の内容①学級活動の特質 第 6 回．特別活動の内容②学級活動の実践 第 7 回．特別活動の内容③生徒会活動 第 8 回．特別活動の内容④学校行事 第 9 回．特別活動と必修教科・選択教科 第 10 回．特別活動と道徳 第 11 回．特別活動と総合的な学習 第 12 回．特別活動と生徒指導 第 13 回．特別活動の指導計画①調査・計画 第 14 回．特別活動の指導計画②指導計画案作成（小レポートⅡ） 第 15 回．まとめ 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	−	★	★	−

年度	2017	授業コード	JP0025001
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	日髙　正宏	旧科目名称	
講義概要	主題　教育現場で心理学を応用する 目標　今、学校現場では、非社会的児童・生徒への対応や、反社会的児童・生徒への対応など、さまざまな課題が見られます。困難をかかえる現代の学校で、教科指導にも、生徒指導にも、保護者対応にも心理学的アプローチが必要となっています。この科目では、まず、教育の対象たる児童･生徒の発達を踏まえて、心理学的理解を進めます。次に、児童・生徒との効果的接し方や、個人指導と集団指導、校内連携の必要性などを学びます。またアセスメント、測定などを考え、活き活き生きる児童・生徒を目指す教員のありかたを考えます。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使いません。必要に応じ、資料を配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて提示します。		
教材（その他）	必要に応じ、資料を配布します。ビデオ教材も使います。		
評価方法	毎回の小レポート（60%）　最終レポート（40%）		
到達目標	教員になった場合に必要な、児童・生徒理解の基本を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で提示される小レポートを作成する。		
受講者への要望			
教員の講義を聞くだけではなく、提示される体験学習に積極的に参加すること。 学外での人間観察など、児童・生徒理解に資することも積極的に行うこと。			
講義の順序とポイント			
１.個性の形成、発達の基礎を考える。新生児期から高齢期に至るプロセスと意味を考える。 ２.乳幼児の特徴と発達。人生の基礎である乳幼児期の特徴と発達の道筋を考える。 ３.児童期の特徴と発達。主として小学校期間に相当する児童の変化と成長を考える。 ４.中学生、高校生の発達と心理①　思春期と言われる時期の心理的特徴と意味を考える。 ５.中学生、高校生の発達と心理②　第二反抗期の意味と対応方法を考える。 ６.児童･生徒の心理的問題①　不登校児童・生徒の実際と、そのメカニズム、社会的背景を考える。 ７.児童･生徒の心理的問題②　不登校児童・生徒への対応と予防、早期発見･早期対応を考える。 ８.児童・生徒の心理的問題③　反抗のメカニズムとその実際、対応を考える。 ９、学習の心理学　学校教育の中での学習の意味や方法、教育の工夫を考える。 １０.測定と評価　ひとりひとりの児童・生徒が劣等感を持つことなく、自己成長への意欲につながる測定と評価を考える。 １１.測定と生徒理解　数字による測定と、数字によらない生徒理解を考える。 １２.こころとからだの健康①　こころとからだの健康を考え、児童･生徒の持てる力を育てる教育を考える。 １３.こころとからだの健康②　活き活き生きることを阻害するのは人権侵害である。人権教育と人権感覚を考える。 １４.質疑応答と討議　ここまで進めてきた中で学んだこと、考えたこと、疑問などについて、ともに考える。 １５.まとめ　半年分の授業をふりかえり、心理学を生かした教育、活き活き生きる児童・生徒を考える。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0025002
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	日髙　正宏	旧科目名称	
講義概要	主題　教育現場で心理学を応用する 目標　今、学校現場では、非社会的児童・生徒への対応や、反社会的児童・生徒への対応など、さまざまな課題が見られます。困難をかかえる現代の学校で、教科指導にも、生徒指導にも、保護者対応にも心理学的アプローチが必要となっています。この科目では、まず、教育の対象たる児童･生徒の発達を踏まえて、心理学的理解を進めます。次に、児童・生徒との効果的接し方や、個人指導と集団指導、校内連携の必要性などを学びます。またアセスメント、測定などを考え、活き活き生きる児童・生徒を目指す教員のありかたを考えます。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使いません。必要に応じ、資料を配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて提示します。		
教材（その他）	必要に応じ、資料を配布します。ビデオ教材も使います。		
評価方法	毎回の小レポート（60%）　最終レポート（40%）		
到達目標	教員になった場合に必要な、児童・生徒理解の基本を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で提示される小レポートを作成する。		
受講者への要望			
教員の講義を聞くだけではなく、提示される体験学習に積極的に参加すること。 学外での人間観察など、児童・生徒理解に資することも積極的に行うこと。			
講義の順序とポイント			
１.個性の形成、発達の基礎を考える。新生児期から高齢期に至るプロセスと意味を考える。 ２.乳幼児の特徴と発達。人生の基礎である乳幼児期の特徴と発達の道筋を考える。 ３.児童期の特徴と発達。主として小学校期間に相当する児童の変化と成長を考える。 ４.中学生、高校生の発達と心理①　思春期と言われる時期の心理的特徴と意味を考える。 ５.中学生、高校生の発達と心理②　第二反抗期の意味と対応方法を考える。 ６.児童･生徒の心理的問題①　不登校児童・生徒の実際と、そのメカニズム、社会的背景を考える。 ７.児童･生徒の心理的問題②　不登校児童・生徒への対応と予防、早期発見･早期対応を考える。 ８.児童・生徒の心理的問題③　反抗のメカニズムとその実際、対応を考える。 ９、学習の心理学　学校教育の中での学習の意味や方法、教育の工夫を考える。 １０.測定と評価　ひとりひとりの児童・生徒が劣等感を持つことなく、自己成長への意欲につながる測定と評価を考える。 １１.測定と生徒理解　数字による測定と、数字によらない生徒理解を考える。 １２.こころとからだの健康①　こころとからだの健康を考え、児童･生徒の持てる力を育てる教育を考える。 １３.こころとからだの健康②　活き活き生きることを阻害するのは人権侵害である。人権教育と人権感覚を考える。 １４.質疑応答と討議　ここまで進めてきた中で学んだこと、考えたこと、疑問などについて、ともに考える。 １５.まとめ　半年分の授業をふりかえり、心理学を生かした教育、活き活き生きる児童・生徒を考える。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0025003
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	日髙　正宏	旧科目名称	
講義概要	主題　教育現場で心理学を応用する 目標　今、学校現場では、非社会的児童・生徒への対応や、反社会的児童・生徒への対応など、さまざまな課題が見られます。困難をかかえる現代の学校で、教科指導にも、生徒指導にも、保護者対応にも心理学的アプローチが必要となっています。この科目では、まず、教育の対象たる児童･生徒の発達を踏まえて、心理学的理解を進めます。次に、児童・生徒との効果的接し方や、個人指導と集団指導、校内連携の必要性などを学びます。またアセスメント、測定などを考え、活き活き生きる児童・生徒を目指す教員のありかたを考えます。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使いません。必要に応じ、資料を配布します。		
教材（参考文献）	必要に応じて提示します。		
教材（その他）	必要に応じ、資料を配布します。ビデオ教材も使います。		
評価方法	毎回の小レポート（60%）　最終レポート（40%）		
到達目標	教員になった場合に必要な、児童・生徒理解の基本を学ぶ。		
準備学習	毎回の授業で提示される小レポートを作成する。		
受講者への要望			
教員の講義を聞くだけではなく、提示される体験学習に積極的に参加すること。 学外での人間観察など、児童・生徒理解に資することも積極的に行うこと。			
講義の順序とポイント			
１.個性の形成、発達の基礎を考える。新生児期から高齢期に至るプロセスと意味を考える。 ２.乳幼児の特徴と発達。人生の基礎である乳幼児期の特徴と発達の道筋を考える。 ３.児童期の特徴と発達。主として小学校期間に相当する児童の変化と成長を考える。 ４.中学生、高校生の発達と心理①　思春期と言われる時期の心理的特徴と意味を考える。 ５.中学生、高校生の発達と心理②　第二反抗期の意味と対応方法を考える。 ６.児童･生徒の心理的問題①　不登校児童・生徒の実際と、そのメカニズム、社会的背景を考える。 ７.児童･生徒の心理的問題②　不登校児童・生徒への対応と予防、早期発見･早期対応を考える。 ８.児童・生徒の心理的問題③　反抗のメカニズムとその実際、対応を考える。 ９、学習の心理学　学校教育の中での学習の意味や方法、教育の工夫を考える。 １０.測定と評価　ひとりひとりの児童・生徒が劣等感を持つことなく、自己成長への意欲につながる測定と評価を考える。 １１.測定と生徒理解　数字による測定と、数字によらない生徒理解を考える。 １２.こころとからだの健康①　こころとからだの健康を考え、児童･生徒の持てる力を育てる教育を考える。 １３.こころとからだの健康②　活き活き生きることを阻害するのは人権侵害である。人権教育と人権感覚を考える。 １４.質疑応答と討議　ここまで進めてきた中で学んだこと、考えたこと、疑問などについて、ともに考える。 １５.まとめ　半年分の授業をふりかえり、心理学を生かした教育、活き活き生きる児童・生徒を考える。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0026A01
科目名	理科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中等理科教育（特に高等学校理科）の目標や内容についての基礎知識を、高等学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、理科教育における特徴的な指導法や環境教育などの事例研究を通して、授業づくりの手がかりを得る。さらに、安全管理や学習指導案の構成・評価方法などの講義を通して、実務上の課題についての見識を深める。		
教材（テキスト）	文部科学省「高等学校学習指導要領解説・理科編　理数編」実教出版（平成 21 年 12 月）発行　　３３６円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　高等学校学習指導要領・理科の目標と要点を説明できる。 2　高等学校理科の科目構成、内容の構成と取扱いの要点を説明できる。 3　めざしたい理科の授業像や重視したい指導法を、具体例を挙げて提案できる。		
準備学習	・課題研究や文献調査などの報告書作成の課題を複数回出す。指定期日までにレポートを提出する。 ・課題研究の結果や課題レポートは、口頭発表の機会があるので、練習して臨む。		

受講者への要望

課題の発表やグループでの意見交換の機会を多く作るので、積極的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1　理科教育の目的と目標
2　理科教育の歴史　―主として、学習指導要領の変遷―
3　高等学校学習指導要領
(1) 理科における改訂の趣旨・要点
4　高等学校学習指導要領
(2) 理科における科目構成及び新設科目の内容の構成と取扱いの要点
5　理科の授業の進め方　―探究学習―
(1) グループワークによる課題研究
6　理科の授業の進め方　―探究学習―
(2) 研究結果の発表
7　高等学校学習指導要領
(3) 理科における内容の構成と取扱いの要点　―「生物基礎」・「生物」を中心にして―
8　高等学校学習指導要領
(4)-1 理科における指導計画の作成と内容の取扱いにおける配慮事項
9　高等学校学習指導要領
(4)-2 理科における内容の取扱いにおける配慮事項　―安全管理を中心にして―
１０　理科の授業の進め方　―探究学習―
(3) 課題レポートのテーマの決定と調査
１１　理科の授業の進め方　―探究学習―
(4) 課題レポートの発表と評価
１２　理科教育における環境教育、エネルギー教育
(1) グループワークによる事例研究
１３　理科教育における環境教育、エネルギー教育
(2) 研究結果の発表
１４　理科学習指導案の構成と、高等学校理科の評価
１５　目指したい理科の授業像と重視したい指導法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0026B01
科目名	理科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	高等学校理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究を生かした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	１　左巻健男・内村　浩編「授業にいかす！　理科教育法　中学校・高校編」東京書籍（２００９年４月）発行　２，２００円 ２　広木正紀・内山裕之編著「小・中・高一貫カリキュラムへの改革を先取りした　理科の授業づくり」東京書籍（２０１２年６月）発行　３，０００円 ３　高等学校検定教科書		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	１　教材研究をいかした高等学校理科学習指導案が作成できる。 ２　わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。		
準備学習	・高等学校理科の生物領域を中心に、教材になりそうな文献や新聞記事などを収集する。 ・模擬授業の展開計画・板書計画、カード等の教材作成、模擬授業実施後の評価と感想や学習指導案など、各自で作成する課題を複数回出す。指定期日までに提出する。 ・模擬授業は、練習をして授業に臨む。		
受講者への要望			
模擬授業やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。			
講義の順序とポイント			
１　楽しくわかる理科の授業とは？ ２　理科教育における「習得・活用・探究型の学習活動」 ３　高等学校理科での教材取扱いの工夫及び授業の進め方 ４　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (1) 授業例（遺伝子の発現）のビデオ視聴と授業検討 ５　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (2) 学習指導案の書き方１　主として、展開計画・板書計画 ６　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (3) マイクロティーチング１の計画　本時の目標・学習課題・評価 ７　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (4) マイクロティーチング１①　発問・学習者主体の活動・板書 ８　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (5) マイクロティーチング１②　模擬授業の実施 ９　高等学校理科の授業づくりⅠ　「生物領域を中心として」 (6) マイクロティーチング１③　学習指導案及び教材教具の再検討と模擬授業再実施 １０　高等学校理科の授業づくりⅡ (1) マイクロティーチング２①　カードなどの教材を生かした授業 １１　高等学校理科の授業づくりⅡ (1) マイクロティーチング２②　目標と評価、教材観・生徒観・指導観 １２　高等学校理科の授業づくりⅡ (2) マイクロティーチング２③　板書計画、ワークシートの作成 １３　高等学校理科の授業づくりⅡ		

(3) マイクロティーチング２④	模擬授業と事後研究
１４　高等学校理科の授業づくりⅢ	
(1) 学習指導案の書き方２	学習指導案の評価の観点
１５　高等学校理科の授業づくりⅢ	
(2) 学習指導案の書き方３	発問と生徒の反応

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0026C01
科目名	理科教育法Ⅲ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中等理科教育（特に中学校理科）の目標や内容についての基礎知識を、中学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、検定教科書や学校現場の実践例を資料にした講義･演習をもとに、中学校理科の教材や授業の進め方及び評価方法についての理解を深める。これらを通して、中学校理科の授業づくりの基礎・基本の習得をめざす。		
教材（テキスト）	文部科学省『中学校学習指導要領解説・理科編』大日本図書（平成２０年９月）発　　行　１１０円		
教材（参考文献）	適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　中学校学習指導要領・理科の目標と要点を説明できる。 2　中学校学習指導要領・理科の内容の構成と取扱いの要点を説明できる。 3　中学校理科で取り上げられている、観察・実験を行う授業の展開計画を立案できる。 4　理科を通して身に付けさせたい力と、重視したい指導法や授業の工夫を提案できる。		
準備学習	・文献調査や資料分析等の課題を複数回出す。指定期日までにレポートを提出する。 ・模擬授業の展開計画、実施後の修正などの課題を出す。指定期日までに展開計画をまとめて提出する。 ・模擬授業の機会があるので、練習して臨む。		

受講者への要望

課題の発表やグループでの意見交換の機会を多く作るので、積極的に参加してほしい。

講義の順序とポイント

1　心に残る理科授業と、重視したい指導法
2　中学校学習指導要領Ⅰ
(1) 理科における改訂の要点と理科の目標
3　中学校学習指導要領Ⅰ
(2) 理科における小学校・中学校理科の内容の構成
4　中学校学習指導要領Ⅰ
(3) 理科における第１分野の内容
5　中学校学習指導要領Ⅰ
(4) 理科における第２分野の内容
6　中学校学習指導要領Ⅰ
(5) 理科における指導計画の作成と、内容の取扱いにおける配慮事項
7　中学校学習指導要領Ⅱ
(1) グループワークによる展開計画の立案
8　中学校学習指導要領Ⅱ
(2) グループ別模擬授業の実施と展開計画の再検討
9　中学校学習指導要領Ⅱ
(3) グループ代表者による模擬授業の実施と相互評価
１０　中学校学習指導要領Ⅱ
(4) 課題レポートの内容と評価方法
１１　中学校理科教科書における教材の具体例
(1) 「生物の観察」「生物の分類」
１２　中学校理科教科書における教材の具体例２
(2) 学習指導案作成における注意事項と「顕微鏡の使い方」の展開計画の作成
１３　中学校理科教科書における教材の具体例３
(3) 主として観察・実験の内容

１４　中学校理科授業の進め方１
（1）グループ学習、ノート指導、課題研究など
１５　中学校理科授業の進め方２
（2）主として、環境教育の事例

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0026D01
科目名	理科教育法Ⅳ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
講義概要	中学校理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究を生かした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。		
教材（テキスト）	特に定めない。		
教材（参考文献）	１　左巻健男・内村　浩編　「授業にいかす！　理科教育法　中学校・高校編」東京書籍（２００９年４月）発行　　２，２００円 ２　広木正紀・内山裕之編著「小・中・高一貫カリキュラムへの改革を先取りした理科の授業づくり」東京書籍（２０１２年６月）発行　　３，０００円 ３　中学校理科検定教科書		
教材（その他）	適宜プリント配付する。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	１　教材研究を生かした中学校理科学習指導案が作成できる。 ２　わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。		
準備学習	・中学校理科の、教材になりそうな文献や新聞記事などを収集する。 ・模擬授業の展開計画・板書計画、模擬授業実施後の感想と評価や学習指導案など、各自で作成する課題を複数回出す。指定期日までに提出する。 ・模擬授業のための準備物作成や予備実験の課題を出す。準備して授業に臨む。 ・模擬授業は、練習して臨む。		

受講者への要望

模擬授業やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。

講義の順序とポイント

１　楽しくわかる理科の授業とは？
２　中学校理科の授業の進め方　―「活用する力」を育てる授業の実践例―
３　中学校理科の授業における教材・教具の工夫
４　中学校理科の授業づくりⅠ
(1) 学習指導案の書き方
５　中学校理科の授業づくりⅠ
(2) 授業例（１分野）のビデオ視聴と授業検討
６　中学校理科の授業づくりⅠ
(3) 学習指導案の作成と模擬授業の計画　―主として、展開計画・板書計画―
７　中学校理科の授業づくりⅠ
(4) マイクロティーチング①　　―展開・板書・発問・教材・教具―
８　中学校理科の授業づくりⅠ
(5) 学習指導案及び教材教具の再検討と模擬授業再実施の計画
９　中学校理科の授業づくりⅠ
(6) マイクロティーチング②　―展開・板書・発問・教材・教具―
１０　中学校理科の授業づくりⅠ
(7) 生徒の興味・関心を引き出すには　―生徒への指導と支援―
１１　中学校理科の授業づくりⅡ
(1) 授業例（２分野）のビデオ視聴と授業検討
１２　中学校理科の授業づくりⅡ
(2) 学習指導案の作成と模擬授業の計画
１３　中学校理科の授業づくりⅡ
(3) マイクロティーチング①　―様々な学習形態を用いた展開―
１４　中学校理科の授業づくりⅡ

(4) 評価計画を含む学習指導案の作成

１５　中学校理科の授業づくりII

(5) マイクロティーチング②　―評価を生かした展開―

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0027001
科目名	図書館サービス特論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication in Libraries		
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	市民がどのようにこまったとき、図書館を利用するか。図書館は、こまって図書館に来た市民にどのようなサービスを提供すべきかを、「図書館海援隊」の挑戦を基に、検討します。		
教材（テキスト）	神代浩『困ったときは図書館へ－図書館海援隊の挑戦』?光堂、2014 今まど子・小山健司編著『図書館情報学基礎資料』樹村房、2016		
教材（参考文献）	大串夏身・常世田良著『第 2 版図書館概論』、学文社、2014 志保田務・杉山誠司・ 家禰淳一編著『図書館サービス概論』学芸図書出版、2013 小林麻美『図書館はコミュニティ創造の場』勉誠出版、2009 花井裕一郎『はなぼん』文屋、2013 猪谷千香『つながる図書館』ちくま新書、2014 鎌倉幸子『走れ！移動図書館』ちくまプリマー新書、2014 岡本真・森旭彦『未来の図書館、はじめませんか？』青弓社、2014 神代浩、中山美由紀編著『困ったときは図書館へ 2 学校図書館の挑戦と可能性』?光堂、2015 猪谷千香『町の未来をこの手でつくる』幻冬舎、2016		
教材（その他）			
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート 50 点を目安にし、総合的に評価します		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において「図書館に関する科目」を学ぶ意義をについて考え、図書館サービスの実態についての学修をとおして、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とします。 1.我が国の図書館サービスの実態を理解する。 2.公立図書館の医療情報サービス提供の実態を理解する。 3.公共図書館の生活支援サービスの実態を理解する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義形式で行ない、適宜、演習も取り入れます。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。		

受講者への要望

なるべく授業時間内に質問してください。
なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ
2.生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える
3.図書館を取り巻く現状と課題
4.学校図書館の挑戦と可能性
5.仕事に困ったら図書館へ
6.サッカー好きなら図書館へ
7.がんになったら図書館へ
8.図書館海援隊フォーラムの開催
9.世の中をよくする図書館を目指して
10.がん患者さんを支えるために
11.公立図書館の医療情報サービス

12.公立図書館の地域経済活性化・生活支援サービス
13.公立図書館のビズネス支援サービス
14.図書館海援隊サッカー部
15.まとめ　図書館海援隊の挑戦から図書館サービスのあり方を考える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0030001
科目名	情報資源組織論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Resources of Organiation and Represention		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	資料組織概説
講義概要	図書館の資料は、組織されることによって活用される状態となる。かつての目録・分類・件名という図書館の伝統的技術は、電子化によって大きく変化を受けざるを得なくなっている。目録は電子化、ネットワーク化されることによって、社会的な存在意義を増しているのだ。理論的な理解をしっかりと進めるとともに、経緯と変化にも注目したい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	根本彰『文献世界の構造』勁草書房		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（40%）レポート（60%）		
到達目標	図書館情報資源は、印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源から組織され構成される。組織化についての理論と技術を理解し、「情報資源組織演習」で実際に身につけることになる。書誌階層、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、機械可読目録（MARC）と書誌データの活用法等々、歴史的経緯を含めて概観する。		
準備学習	司書課程の中では難解な講義になるので、参考書などを読んで理解を進めるように。また具体例を実際の図書館に求めるので情報収集に時間を要する。		

受講者への要望

図書館の目録は電子化、ネットワーク化することによって社会的な存在意義が重たくなっている。そのことをインターネット等を使用する際に意識し、関心を持つように。

講義の順序とポイント

1、情報資源組織化の意義と理論
2、書誌コントロールの理解
3、標準化
4、書誌記述法、日本目録規則（NCR）等
5、主題分析の意義と理論
6、主題分析と分類法　日本十進分類法（NDC）等
7、主題分析と索引法　基本件名標目表（BSH）等
8、書誌情報の作成と書誌構造、階層理解
9、書誌情報の流通、書誌ユーティリティ
10、書誌情報の提供、OPAC の管理運用
11、ネットワーク情報資源の組織化
12、検索エンジン、オンライン書店との比較
13、多様な情報資源の組織化
14、目録のネットワーク化と出版
15、メタデータ、ダブリンコア等

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0033001
科目名	図書館制度・経営論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Management		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	図書館経営論
講義概要	生涯学習社会の中で図書館の占める位置は大きい。それぞれのライフステージに果たす役割を図書館に関わる人々が意識し、整備していかなければならない。経営という視点から見るとまず自治体がいかに図書館を経営していくかという問題から始まる。つまり都市における図書館論である。そして館長論にまでいたる。この過程で、図書館の整備計画、サービス計画、情報ネットワーク、組織、職員論さらに活動の評価方法にまで考察を及ぼす。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	安藤友張編著 『図書館制度･経営論ーライブラリー･マネジメントの現在』（ミネルヴァ書房） ISBN978-4-623-06529-5		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	図書館経営における必須事項の把握と、図書館の意義について知識と理念を獲得する。		
準備学習	実際に身近な公共図書館に足を運び、運営状況をできるだけ客観的に観察しておくこと。 そこでの感想や気付きを授業のトピックスとして意見交換を行うので必ず見学しておくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。 遅刻・私語は厳に慎むこと。			
講義の順序とポイント			
1.図書館経営の意義 2.図書館経営と関係法規１ 3.図書館経営と関係法規２ 4.図書館の自由 5.図書館の職員 6.図書館の組織 7.図書館資料の収集と保存 8.図書館の施設と設備 9.図書館ネットワークの形成 10.図書館の計画 とマーケティング 11.図書館業務 12.図書館サービスの評価１ 13.図書館サービスの評価２ 14.図書館経営の実際 15.今後の課題 （備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JP0034A01
科目名	情報資源組織実習Ⅰ 【司】	単位数	1
科目名（英語表記）	Knowledge Organization 1		
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	
講義概要	日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。春季のⅠでは資料の分類について、実践的な能力を身につけるよう『NDC 日本十進分類表』を使って分類法を学ぶ。		
教材（テキスト）	大学側で用意する、日本十進分類法を使用する。		
教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	出席状況等による平常点（20%）、実習課題、レポート、小テスト等の課題点（80%）。出席が少ない者は評価の対象にしない。		
到達目標	図書館における主題分析の方法および、日本十進分類法の習得を通じて、主題にふさわしい分類とは何かを考える力をつける。		
準備学習	日頃から幅広く新聞やTV・ネット情報等に関心を持ち、図書館へ頻繁に足を運ぶこと。		
受講者への要望			
実習なので2/3以上の出席するが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1、オリエンテーション 2、図書館の分類と一般的な分類の相違点 3、主要な分類法 4、日本十進分類法 5、分類規定、主題分析 6、分類法練習（1） 7、分類法練習（2） 8、分類法練習（3） 9、分類法練習（4） １０、分類法練習（5） １１、分類法練習（6） １２、分類法練習（7） １３、分類法練習（8） １４、分類法練習（9） １５、基本件名表目表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0034B02
科目名	情報資源組織実習Ⅱ 【司】	単位数	1
科目名（英語表記）	Knowledge Organization Ⅱ		
担当者名	高橋　和子	旧科目名称	資料組織実習ｆ，資料組織演習ｆ、資料組織実習Ⅱ
講義概要	日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表という図書館における資料組織のための三大ツールを実際に使いこなすことができるような整理業務の実践力を養成する。秋季のⅡは目録を中心として講義する。おもに日本目録規則に従って、パソコン教室にてエクセルでの目録作業を実践する。ミスなく正確な目録作業をするためには、パソコンのブラインドタッチが重要になる。情報抽出方法と同時にキーボードやエクセルの習熟も目的とする		
教材（テキスト）	必要なレジメは原則 USB メモリーで提供する。実習のための本はその都度提供する。		
教材（参考文献）	必要に応じて授業中に紹介する。		
教材（その他）	必要に応じて配布する。		
評価方法	出席状況等平常点（20%）と、実習課題、レポート、小テスト等の課題（80%）で評価する。出席が少ない者は評価の対象にしない。		
到達目標	図書館において利用者ニーズに即した目録方法を習得する。		
準備学習	日頃からパソコンに慣れ、特にキーボードは原稿を見ながら打てるようにしておく。		
受講者への要望			
実習なので出席することが第一の条件となる。授業内での課題には積極的に取り組むこと。			
講義の順序とポイント			
1、オリエンテーション 2、日本目録規則について 3、資料組織法練習（1） 4、資料組織法練習（2） 5、資料組織法練習（3） 6、資料組織法練習（4） 7、資料組織法練習（5） 8、資料組織法練習（6） 9、資料組織法練習（7） １０、資料組織法練習（8） １１、資料組織法練習（9） １２、資料組織法練習（10） １３、資料組織法練習（11） １４、抄録とキーワード抽出 １５、資料組織法小テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JP0036001
科目名	児童サービス論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Services for Children		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	
講義概要	図書館の児童サービスの目的は、子どもたちに読書の楽しさを知らせ、将来の図書館利用者としての手助けをするためである。また読書のみならず児童文化の伝達、社会教育の場としての役割も担っている。そのための児童図書と中学・高校生のためのヤングアダルトサービスの資料の収集、排架、整理と児童のための設備・備品などについて考える。 図書館が児童にとって楽しいところであり児童文化を伝達する場所としての児童室の運営と、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク、紙芝居などの技術を習得する。また児童の読書を推進するために学校図書館や地域との協力連携など、社会に目を向けた児童サービスの在り方と課題を検討していく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	金沢みどり著　『児童サービス論 第２版』（学文社）　ISBN：978-4-7620-2470-2 C3300		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による 平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	子どもという存在を理解し、その成長に対して読書がどのような意義を持つかを理解し、図書館の役割と機能がどのようにあるべきかを認識することを目指す。		
準備学習	科目開始前、あるいは途中において、身近な公共図書館に出向き、児童サービスのためのコーナーがどのように作られているか、またその蔵書や図書館員の動きを観察しておくこと。 そうした体験を受講者全員で共有し、授業のトピックスとして意見交換をするので、必ず見学しておくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		

受講者への要望

読書導入の手段としての絵本、読み聞かせ（読み語り）を体験します。
遅刻・私語は厳禁です。読み語り実施時の途中入室は慎んでください。

講義の順序とポイント

1.児童サービスの意義
2.児童サービスの歴史
3.児童の資料の種類と特性について(絵本)
4.児童の資料の種類と特性について(児童図書)
5.児童の資料の各分野における評価と蔵書構成
6.児童の資料の収集、分類、配架、廃棄
7.児童のための設備と備品
8.児童に対するコミュニケーション、レファレンスサービス
9.実技指導（読み聞かせ） 1
10.実技指導（読み聞かせ） 2
11.実技指導（読み聞かせ） 3
12.解説（ブックトーク）
13.解説（紙芝居、ストーリーテリング）
14.他の機関、地域と図書館の児童サービスとの関わり
15.今後の課題

（備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	–

年度	2017	授業コード	JP0041001
科目名	図書館サービス概論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）	Library Services		
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。		
教材（テキスト）	宮部頼子編『図書館サービス概論』樹村房、2012 今まど子・小山健司編著『図書館情報学基礎資料』樹村房、2016		
教材（参考文献）	大串夏身・常世田良著『第 2 版図書館概論』、学文社、2014 志保田務・杉山誠司・ 家禰淳一編著『図書館サービス概論』学芸図書出版、2013 金沢みどり『第 2 版図書館サービス概論』学文社、2016 溝上智恵子・呑海沙織・綿抜豊昭『高齢社会につなぐ図書館の役割』学文社、2012 仁上幸治『図書館員のための PR 実践講座』樹村房、2014 柳与志夫『文化情報資源と図書館経営』勁草書房、2015 大串夏身『挑戦する図書館』青弓社、2015 青柳英治編著『ささえあう図書館』勉誠出版、2016 福留強『図書館がまちを変える』東京創作出版、2013 片山善博・糸賀雅児『地方自治お図書館』勁草書房、2016		
教材（その他）			
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において「図書館に関する科目」を学ぶ意義を確認し、図書館サービスについての学修をとおして、京都学園大学司書課程修了者に求められる「司書力」を考慮しながら、協働の意味を理解し、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とします。 1.我が国の図書館サービスの概要を理解する。 2.マネジメントとマーケティングの重要性を理解する。 3.公共機関・施設のサービスの特徴を理解する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義形式で行ないます。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。 最後に、ビブリオバトルをやります。		
受講者への要望			
なるべく授業時間内に質問してください。 なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。			
講義の順序とポイント			
1.ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ 2.生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える 3.マネジメント・マーケティングと公共機関・施設の経営 4.図書館サービスの意義と理念 5.公共図書館サービスの遍歴 6.図書館サービスの種類と方法・京都学園大学図書館の見学 7.資料提供サービス 8.情報提供サービス 9.利用対象者別サービス			

10.図書館サービスとコミュニケーション
11.図書館サービスと著作権
12.図書館サービスの協力と連携
13.図書館サービスの課題と展望
14.地域創生と図書館サービス
15.最後にビブリオバトルをやろう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	JP0042001
科目名	博物館教育論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Methods of Museology		
担当者名	千田　康治	旧科目名称	教育学概論
講義概要	博物館学芸員として業務をすすめるにあたり、博物館教育の役割を認識し、その理論を学ぶ。そして様々な目的・対象にあわせた博物館における教育手法の実際を学ぶ。		
教材（テキスト）	レジュメを適時配布		
教材（参考文献）	講義時に適時紹介します。		
教材（その他）	資料等を適時配布します。		
評価方法	授業時の発言、積極性において６０％、期末レポート（もしくはテスト）４０％で評価します。		
到達目標	社会教育施設である博物館における教育活動について、その基盤となる理論や実践に関する知識を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。		
準備学習	様々な博物館・美術館等を訪れ、展示見学・講座聴講・ワークショップ参加等の経験する。		

受講者への要望

博物館教育は、実際に見たり、体験しないと理解できません。京都とその一円には、良質なコレクションを所蔵していたり、独自の活動を展開している博物館・美術館が数多く存在しており、これらに興味を持ち、足を運んでください。

講義の順序とポイント

第 1 回 社会教育施設としての博物館教育の意義
第 2 回 博物館教育の歴史
第 3 回 博物館教育の特性
第 4 回 設置者・種別による博物館教育の目的の違い
第 5 回 コミュニケーションとしての博物館教育
第 6 回 文化財の保存と博物館教育
第 7 回 博物館と学校教育
第 8 回 博物館と生涯学習
第 9 回 調査研究と博物館教育
第 10 回 博物館教育の実際Ⅰ　体制
第 11 回 博物館教育の実際Ⅱ　展示
第 12 回 博物館教育の実際Ⅲ　ワークシート
第 13 回 博物館教育の実際Ⅳ　教材開発
第 14 回 博物館教育の実際Ⅴ　体験教室
第 15 回 博物館教育の今後

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0042002
科目名	博物館教育論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Methods of Museology		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館学芸員として、業務をすすめるにあたり、博物館教育の役割を認識し、その理論的枠組みを学ぶ。そのうえで、さまざまな目的・対象に合わせた博物館における教育手法の実際を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介する		
教材（その他）	毎回資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）はノートなど毎回の授業における努力で評価する。残りの５０％は合計３回提出を求める簡単な課題レポートで評価する。		
到達目標	博物館の教育機能に関する基礎的能力の習得		
準備学習	博物館相当の施設を実際に訪れて、その具体的な運営・活動の姿をを体験しておくこと		

受講者への要望

博物館学芸員資格や社会教育主事の資格を取得することを目指すもののための講義であることを自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。なお、この科目の単位は、卒業に必要な単位にはいかなる形でも算入されないので、資格取得希望者以外は受講しないこと。

講義の順序とポイント

１・　社会教育施設としての博物館教育の意義
２・　博物館教育の歴史
３・　博物館と学校教育
４・　博物館と生涯学習
５・　博物館教育の実際（教育の考え方）
６・　博物館教育の実際（展示）
７・　博物館教育の実際（ワークシート・解説シート）
８・　博物館教育の実際（体験教室・講座）
９・　博物館教育の実際（公開公演・講座）
１０・　博物館教育の実際（教材開発・広報）
１１・　博物館教育の実際（調査研究との連携）
１２・　博物館教育の実際（文化財保存の促進）
１３・　博物館教育の実際（博物館相当施設の種別による特性）
１４・　博物館教育の担い手
１５・　博物館教育の今後

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JP0045001
科目名	博物館経営論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Management		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。 職員体制及び施設・設備の充実に、行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要であるといえる。 講義では具体的な実践例を紹介しながら、博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働によるまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館等における経営論全般について＜概説１＞ 2　博物館経営論について　財務・予算（各論１） 3　博物館経営論について　財務・予算（各論２） 4　博物館経営論について　財務・予算（各論３） 5　博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について＜概説２＞ 6　博物館事業計画の戦略・理念について（各論１） 7　博物館事業計画の指針・方針について（各論２） 8　博物館事業実施について　地域連携（各論３） 9　博物館事業実施について　市民協働（各論４） 10　博物館事業評価について（各論５） 11　博物館施設管理について＜概説３＞ 12　博物館施設管理について　もの（各論１） 13　博物館施設管理について　ひと（各論２） 14　博物館施設管理について　ば（各論３） 15　博物館経営論の課題と将来展望について＜概説４＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	JP0045002
科目名	博物館経営論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Management		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。 職員体制及び施設・設備の充実に、行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要であるといえる。 講義では具体的な実践例を紹介しながら、博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働によるまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館等における経営論全般について＜概説１＞ 2　博物館経営論について　財務・予算（各論１） 3　博物館経営論について　財務・予算（各論２） 4　博物館経営論について　財務・予算（各論３） 5　博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について＜概説２＞ 6　博物館事業計画の戦略・理念について（各論１） 7　博物館事業計画の指針・方針について（各論２） 8　博物館事業実施について　地域連携（各論３） 9　博物館事業実施について　市民協働（各論４） 10　博物館事業評価について（各論５） 11　博物館施設管理について＜概説３＞ 12　博物館施設管理について　もの（各論１） 13　博物館施設管理について　ひと（各論２） 14　博物館施設管理について　ば（各論３） 15　博物館経営論の課題と将来展望について＜概説４＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2017	授業コード	JP0046001
科目名	博物館資料論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Materials & Artifacts		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。 講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介しいかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員の職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館資料論全般について＜概説１＞ 2　博物館資料について　文化財とは（各論１） 3　博物館資料について　文化財の分類（各論２） 4　博物館資料について　文化財の保護（各論３） 5　博物館資料について　文化財の活用（各論４） 6　博物館資料の収集・整理・保管について＜概説２＞ 7　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史文化資料（各論１） 8　博物館資料の収集・整理・保管について　考古民俗資料（各論２） 9　博物館資料の収集・整理・保管について　自然資料（各論３） 10　博物館資料の調査・研究・展示について＜概説３＞ 11　博物館資料の取り扱い技術について　歴史文化資料（各論１） 12　博物館資料の取り扱い技術について　考古民俗資料（各論２） 13　博物館資料の取り扱い技術について　自然資料（各論３） 14　博物館資料の調査研究への活用について＜概説４＞ 15　博物館資料論の課題と将来展望について＜概説５＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0046002
科目名	博物館資料論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Materials & Artifacts		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。 講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介しいかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員の職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。		
準備学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館資料論全般について＜概説１＞ 2　博物館資料について　文化財とは（各論１） 3　博物館資料について　文化財の分類（各論２） 4　博物館資料について　文化財の保護（各論３） 5　博物館資料について　文化財の活用（各論４） 6　博物館資料の収集・整理・保管について＜概説２＞ 7　博物館資料の収集・整理・保管について　歴史文化資料（各論１） 8　博物館資料の収集・整理・保管について　考古民俗資料（各論２） 9　博物館資料の収集・整理・保管について　自然資料（各論３） 10　博物館資料の調査・研究・展示について＜概説３＞ 11　博物館資料の取り扱い技術について　歴史文化資料（各論１） 12　博物館資料の取り扱い技術について　考古民俗資料（各論２） 13　博物館資料の取り扱い技術について　自然資料（各論３） 14　博物館資料の調査研究への活用について＜概説４＞ 15　博物館資料論の課題と将来展望について＜概説５＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0064001
科目名	博物館実習 【博】	単位数	3
科目名（英語表記）	Practical Museum Training		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館の学芸員資格の取得を目指すものに、必要な実務的経験の場を提供し、知識を教授して、学芸員としての実践的能力を養う。具体的には、見学を含むあらかじめの学内実習を通じて博物館実務の実際に習熟したうえで、館園実習に赴いて現場体験を積む。館園実習後ふたたび学内実習において、現場体験に基づいて、博物館理解をさらに深める。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	特になし		
教材（その他）	授業中に、参考資料を適宜配布する。		
評価方法	平常点 70%（実習状況等による）と学外実習成績 30%の合計で評価する。		
到達目標	学内における実習と、実際に活動している博物館における実習を通じて、博物館学芸員として必要とされる業務に対する理解、必要とされる技術の習得を目指す。		
準備学習	自ら体験して体得するすることがすべての授業です。積極的に授業の課題に取り組むことがもっとも重要です。その心構えをしておいてください。		

受講者への要望

主に学外博物館の実習に備えた実習科目です。原則的に欠席は認められません。実習科目なので、変則的な授業が行われることがあります。かならず掲示を確認してください。
また、興味本位の履修は断ります。この科目の単位は卒業に必要な単位にはいかなる形でも算入されません。学芸員資格取得に必要な単位の大部分を取得しているか否かを確認したうえで、要件を満たしている履修希望者のみに最終的な履修登録を認めます。

講義の順序とポイント

1．学内実習ー考古系博物館の見学実習 1
2．学内実習ー考古系博物館の見学実習 2
3．学内実習ー美術系博物館の見学実習 1
4．学内実習ー美術系博物館の見学実習 2
5．学内実習ー展示・資料の保管の実務 1
6．学内実習ー展示・資料の保管の実務 2
7．学内実習ー陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習 1
8．学内実習ー陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習 2
9．学内実習 ー各種茶道具の取り扱い実習 1
10．学内実習ー各種茶道具の取り扱い実習 2
11．学内実習 ー館園実習に関する事前指導、注意点の把握
12．館園実習ー博物館における実務体験 1
13．館園実習ー博物館における実務体験 2
14．学内実習ー各自の博物館実習体験の報告と問題点の指摘並びに指導
15．学内実習ー館園実習経験による理解に基づいて、各自の理想の博物館像を構想して発表する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JP0068A01
科目名	職業指導Ⅰ（農業）【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance I		
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	職業指導Ⅰでは、教育政策に見られる進路指導・キャリア教育、職業の概念、職業指導の役割や課題、専門高校生の進路状況や進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携の現状などについて解説する。また、近年、フリーターやニートの著しい増加など、若者の職業離れが社会問題となっていることから、その原因や解決策等について意見交換することによる討議形式の授業も行う。		
教材（テキスト）	高等学校学習指導要領解説(特別活動)、自作資料		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、国立教育政策研究所生徒指導研究センター資料、厚生労働白書等		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点(30％)、授業中に課す小レポート(30％)、授業終了時の最終レポート(40％)。		
到達目標	職業指導の意義、専門高校生の進路状況や進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携等を理解するとともに、わが国における産業・就業構造の現状や専門教育の実態を考慮に入れた職業指導を行えるための力をつけることを目指す。		
準備学習	最近の産業や労働に関する新聞記事等を読んでおくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス
2．職業の概念
3．職業分類について
4．職業観・勤労観
5．職業指導の役割と課題
6．職業指導・進路指導の歴史
7．職業指導と進路指導の定義
8．高等学校における職業指導
9．高等学校学習指導要領（特別活動における進路指導）
10．職業適性検査
11．専門高校生の進路状況・進路意識
12．職業教育の現状と課題
13．わが国における学校教育・職業教育制度
14．専門高校における職業教育、専門高校と高等教育機関や産業界との連携
15．職業指導Ⅰのまとめ（総括と復習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0068B01
科目名	職業指導Ⅱ（農業）【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance Ⅱ		
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	職業指導Ⅱでは、職業指導・キャリア教育に関する教育行政や労働政策、わが国におけるキャリア教育や諸外国における職業・キャリア教育の現状と課題等について解説する。また、高等学校は、就職するにせよ、進学するにせよ、生徒を学校から社会へ導く重要な役割を持つ教育機関であるが、解決すべき課題もあることから、高等学校におけるキャリア教育の今後の在り方等について互いに意見交換する討議形式の授業も行う。		
教材（テキスト）	文部科学省「高等学校キャリア教育の手引」（文部科学省ホームページ）， 自作資料		
教材（参考文献）	国立教育政策研究所教育課程研究センター・生徒指導研究センター資料， 中央教育審議会答申資料		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点（30%）、授業中に課す小レポート（30%）、授業終了時の最終レポート（40%）。		
到達目標	学校におけるキャリア教育、諸外国における職業・キャリア教育の現状等を理解するとともに、労働関係法規等を考慮に入れた職業指導を行えるための力をつけることを目指す。		
準備学習	最近の産業や労働に関する新聞記事等を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。			
講義の順序とポイント			
1．職業指導Ⅰの復習 2．キャリア教育の定義と意義 3．キャリア教育の現状と課題 4．学校におけるキャリア教育の現状と課題(普通高校・総合高校) 5．学校におけるキャリア教育の現状と課題(専門高校) 6．職業指導・キャリア教育に関する教育行政 7．職業指導・キャリア教育の方法論 8．諸外国における職業・キャリア教育（アメリカ合衆国） 9．諸外国における職業・キャリア教育（ドイツ） 10．諸外国における職業・キャリア教育（イギリス） 11．諸外国における職業・キャリア教育（フランス） 12．職業指導・キャリア教育の評価について 13．労働関係法規 14．職業指導Ⅱのまとめ（総括と復習） 15．これからの高等学校教育や職業指導の在り方についての展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0069A01
科目名	農業科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	農業科教育法Ⅰでは，教育基本法、教育振興基本計画等に見られるわが国の教育政策全般に関わる内容、教育制度、職業教育政策の現状と課題について解説し、基本的な理解を図る。また、農業教育の変遷および現状の分析から，その特質を探るとともに，高等学校学習指導要領の意義や内容および農業高校における生徒の意欲・関心・態度を向上させるための授業のあり方やその方法など，当該教科の指導の基礎や背景について広い視野から総論的に考察し，当該教科についての多面的な理解の徹底とともに、教授能力の育成を図る。また、その時々の農業や教育に関する政策及び雑誌や新聞記事について紹介するとともに、農業や教育に関するテレビ番組などの映像資料も用いる。授業は講義を中心に進めるが，教師としての教授能力育成の観点から，これらの内容をテーマとした討議法による授業も予定している。		
教材（テキスト）	高等学校学習指導要領(総則、農業)、各講義で自作資料を配布する。		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点(30%)、授業中に課す小レポート(30%)、授業終了時のレポート(40%)。		
到達目標	高等学校学習指導要領等、中等農業教育に関する基礎的・基本的な事項を理解するとともに、農業の実態をも考慮に入れた視点から教授できる力量をつけることを目指す。		
準備学習	最近の農業や教育に関する新聞記事等を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。			
講義の順序とポイント			
1．わが国の教育制度 2．職業教育政策の現状と課題 3．明治以降における教育制度及び農業教育の歴史 4．農業教育の現状と課題 5．教育課程行政の現状と高等学校学習指導要領の意義 6．中央教育審議会答申の内容と高等学校学習指導要領の見方 7．高等学校学習指導要領（総則） 8．高等学校学習指導要領（農業） 9．高等学校学習指導要領（農業基礎科目） 10．高等学校学習指導要領（課題研究・総合実習） 11．高等学校学習指導要領（農業経営系科目） 12．高等学校学習指導要領（栽培・畜産系科目） 13．高等学校学習指導要領（生活系科目・他） 14．農業教科の特質 15．農業科教育法Ⅰのまとめ（総括と復習）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0069B01
科目名	農業科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	名取　一好	旧科目名称	
講義概要	農業科教育法Ⅱでは、農業科教育法Ⅰで学んだ内容を受け、学習指導要領、農業科目の教科書、ならびに農業に関する教材を基にして、プロジェクト学習法などの農業教科の学習指導法、指導計画や学習評価の目的とその方法について解説する。 授業は、農業科教育法Ⅰで解説した農業教科の学習指導要領を基に、学習指導計画、学習評価、教科書行政の解説を中心に行うが、その時々の農業や教育に関する政策及び雑誌や新聞記事についても紹介する。また、授業は講義を中心に進めるが、教師としての教授能力育成の観点から、農業高校の授業ビデオ等を用いて授業分析を行うとともに、最近の教育や農業の動向等をテーマ討議法による授業も予定している。		
教材（テキスト）	高等学校農業関係教科書、高等学校学習指導要領解説(総則、農業)、自作資料		
教材（参考文献）	中央教育審議会答申資料、その他、授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。また、適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内での小テスト等による平常点（30%）、授業中に課す小レポート（30%）、授業終了時の最終レポート（40%）。		
到達目標	農業教科の学習指導法、指導計画や学習評価の意義・目的・方法等について理解するとともに、指導計画案の作成、模擬授業等を通して、指導の実践的感覚および力量の形成を目指す。		
準備学習	最近の農業や教育に関する新聞記事等を読んでおくこと。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席し、自分の意見を臆せず述べることができるよう心がける。			
講義の順序とポイント			
1．農業科教育法Ⅰの復習 2．農業教科に関する学習指導法 3．学習指導計画の意義等 4．指導計画案の作成法及び注意点 5．指導計画案の作成及びそれに基づいた模擬授業 6．農業教科における評価規準 7．農業教科における学習評価の特性 8．学習評価の目的や方法 9．学習評価の具体的な事例解説 10．教科書の検定・供給制度 11．農業教科に関する教材研究 12．諸外国の教育制度・農業教育の現状 13．農業問題および教育問題等についての解説と討議 14．これからの高等学校教育と専門高校の在り方についての展望 15．農業科教育法Ⅱのまとめ（総括と復習）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0070001
科目名	図書館情報技術論 【司】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	コンピュータの基礎、図書館業務システムの理解、データベースの基礎・概要、検索エンジン、デジタルアーカイブ、クラウドコンピューティング等々図書館をめぐる情報技術を解説する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（40%）レポート（60%）		
到達目標	図書館業務にかかわる情報技術は、飛躍的に発展して来ている。その到達状況を理解し、また可能性についても把握しておくことが必要になっている。そして技術である以上、実際に使いこなせることが求められるため、演習も実施する。		
準備学習	インターネットでデジタル・アーカイブズに手軽に触れられるようになっているので、自らの関心分野に積極的に使用するように。データベース等の理解には数学的センスも必要なので予習復習が必要。		
受講者への要望			
それぞれが所属する学部、学科、専攻の学問分野に、学習したことを生かせるように取り組んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1.コンピュータとネットワークの基礎 2.情報技術と社会、地方公共団体の電子化 3.蔵書管理と貸出管理、情報技術活用の現状 4.蔵書検索と図書館間ネットワーク 5.図書館の業務システム 6.図書館からの情報発信、ホームページの組み立て 7.データベース概要 8.データベースの仕組み 9.検索エンジンの位置と可能性 10.検索エンジンの仕組み 11.電子化、電子資料の管理技術 12.コンピュータシステム管理概要 13.デジタルアーカイブの設計 14.デジタルアーカイブの仕組み 15.ソリューションと図書館			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0071001
科目名	博物館資料保存論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	千田　康治	旧科目名称	
講義概要	博物館の使命は資料（文化財）を適切に保存し、活用しながら次世代へと伝えることである。 保存の対象となる資料の材質・特性を知ると共に、温度・湿度・空気環境等の諸条件が資料を保存にどのような影響をあたえるかを学ぶ。そして資料の適切な保存に必要な博物館の建物や設備といったハード面と、資料の取り扱いなどのソフト面について知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	レジュメを適時配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業への積極性（６０％）　定期試験（４０％）		
到達目標	博物館施設における資料保存に必要な科学的知識や手法を習得することで、資料の保存に関する基礎的な能力を養う。		
準備学習	他の博物館・美術館等施設を見学する		
受講者への要望			
「百聞は一見に如かず」の言葉のとおり、自分の足で博物館や美術館をまわっていろいろ見て、感じてください。			
講義の順序とポイント			
第１回　博物館における資料保存の意義 第２回　資料の保存と科学１　温湿度管理① 第３回　資料の保存と科学２　温湿度管理② 第４回　資料の保存と科学３　温湿度管理③ 第５回　資料の保存と科学４　照明 第６回　資料の保存と科学５　空気環境 第７回　資料の保存と科学６　有害生物対策① 第８回　資料の保存と科学７　有害生物対策② 第９回　資料の保存と科学８　有害生物対策③ 第１０回　資料保存の実際１　文化財の取り扱い 第１１回　資料保存の実際２　防災① 第１２回　資料保存の実際３　防災②と博物館の施設・機能IV 第１３回　資料保存の実際４　防災③と博物館の施設・機能Ⅴ 第１４回　資料保存の実際５　修復① 第１５回　資料保存の実際６　修復②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JP0071002
科目名	博物館資料保存論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	博物館の最も根本的な使命に、収蔵品（文化財）を適切に保存し、後世に伝える責務がある。保存の対象となる資料にどのような種類のものがあり、それらに湿度・温度・環境の諸条件がどのような影響を及ぼすかを学ぶ。そのうえで、資料保存に関わる様々な側面、資料の適切な保存を行うための建物や設備などの施設面と、資料の取り扱いなどの行動面についての知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	特に指定しない		
教材（参考文献）	講義時に適宜紹介する		
教材（その他）	毎回、資料コピーを配布する		
評価方法	平常点（５０％）はノートなど毎回の授業における努力を見極めて評価する。残り５０％は合計３回提出を求める簡単な課題レポートで行う		
到達目標	博物館相当施設における資料保存に不可欠な知識・手法を習得すること		
準備学習	博物館相当施設を実際に訪れて、どのように資料が扱われているかを確認しておくこと		

受講者への要望

博物館学芸員資格や社会教育主事の資格の取得を目指すもののための講義であることを自覚して、真摯な姿勢・態度で受講することを望む。なお。この科目の単位は卒業に必要な単位にはいかなる形でも算入されないので、資格取得希望者以外は履修登録をしないこと。

講義の順序とポイント

１・　博物館における資料保存の意義
２・　資料の保存（収蔵庫）
３・　資料の保存（温湿度管理）
４・　資料の保存（光と照明）
５・　資料の保存（空気汚染）
６・　資料の保存（有害生物による被害）
７・　資料の保存（防災、火災・地震・水害）
８・　資料の取り扱い（資料の取り扱い１）
９・　資料の取り扱い（資料の取り扱い２）
１０・　資料の取り扱い（収蔵品の点検作業）
１１・　資料の取り扱い（梱包と輸送）
１２・　資料の取り扱い（修復）
１３・　資料保存と行政・法律
１４・　埋蔵文化財の保存
１５・　文化財保存の将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JP0072001
科目名	博物館展示論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
講義概要	博物館や資料館における展示は、　来館者、見学者にとって、様々な資料を知り理解し興味や関心を高める契機となるため、最も重要な要素といえる。 　この講義では、博物館や資料館での展示の歴史とその現状、展示理念と展示環境などに言及し、歴史・民俗・考古・美術工芸・彫刻の各分野の具体的展示手法を紹介する。あわせて、新しい展示技術にも触れながら、展示計画の作成、実施手順について講義し学芸員としての展示論の習得を図る。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	講義時に随時紹介する。		
教材（その他）	講義用資料コピー等を適時配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における学芸員として、展示理念と展示方法・技術、環境の理解と、展示計画・実施のノウハウの習得を目標とする		
準備学習	博物館や資料館における各分野の展示会に関心を持ち、積極的に見学参加し、展示の実際を知っておくこと。		
受講者への要望			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
講義の順序とポイント			
1　博物館・資料館における展示の歴史と現状について＜概説１＞ 2　博物館での展示理念について（各論１） 3　博物館での展示技法・技術について（各論２） 4　博物館での展示設備・環境について（各論３） 5　博物館・資料館における分野別展示について＜概説２＞ 6　博物館での民俗分野の展示について（各論１） 7　博物館での考古分野の展示について（各論２） 8　博物館での歴史分野の展示について（各論３） 9　博物館での美術工芸・彫刻の展示について（各論４） 10　博物館での新しい展示方法について－その１－（各論５） 11　博物館での新しい展示手法について－その２－（各論６） 12　博物館・資料館における展示計画と実施について＜概説３＞ 13　博物館での具体的展示計画の作成について（各論１） 14　博物館での具体的展示実施の手順について（各論２） 15　博物館・資料館における展示の課題と展望について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0072002
科目名	博物館展示論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	千田　康治	旧科目名称	
講義概要	博物館の主要な機能の一つである展示について、展示の歴史や様々な展示の形態を学ぶ。そして、博物館での展示活動の実際を、企画立案から展示作業、展示解説、展示の終了まで一連の流れの中で解説するとともに、展示の制作、演出手法、解説手法などの現場で必要とされる知識を学ぶ。		
教材（テキスト）	適時レジュメを配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（６０％）。　定期試験（４０％）		
到達目標	博物館での展示について、その歴史、方法、展示による教育活動、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。		
準備学習	美術館や博物館、ショールーム等の見学		

受講者への要望

美術館や博物館のみならず、店のショーウィンドウの飾り付け等、様々な展示や演出を日頃から注意して見てください。

講義の順序とポイント

第１回　博物館展示の意義
第２回　展示と展示論の歴史
第３回　展示の分類
第４回　博物館展示の実際１　事業展開の流れ
第５回　博物館展示の実際２　事前準備１
第６回　博物館展示の実際３　事前準備２
第７回　博物館展示の実際４　展示のプランニング１
第８回　博物館展示の実際５　展示のプランニング２
第９回　博物館展示の実際６　展示照明１
第１０回　博物館展示の実際７　展示照明２
第１１回　博物館展示の実際８　展示の工夫
第１２回　博物館展示の実際９　ポスター・図録の作成
第１３回　博物館展示の実際１０　キャプション・展示解説１
第１４回　博物館展示の実際１１　キャプション・展示解説２
第１５回　博物館展示と法律

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP0073001
科目名	教職実践演習 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育実習での校種や教科、受講者の課題などを考慮して６～８名程度のグループに分け授業を進める。前半は教育実習での経験をふまえ、「授業」「生徒理解」「学級経営と学校運営」の３つをテーマに学内での講義・講演、グループ討論、ロールプレイ、模擬授業などを行う。後半は、学校現場の参観・見学や児童・生徒と直接触れ合う機会をとおしてより実践的な資質能力を身につける。また、学校現場の今日的な課題について講義を聞く場を設け、その内容を踏まえて地域や保護者とのかかわり方、組織の一員として自覚などのテーマについてグループ討論を行う。		
教材（テキスト）	その都度指定する		
教材（参考文献）	その都度指示する。		
教材（その他）	その都度指示する。		
評価方法	各活動に対する参加状況や態度、グループ討論などでの発言などを評価するとともに、模擬授業、見学・参観、実習での相互評価や外部からの評価をふまえ総合的に判断する。		
到達目標	教員として最小限必要な資質能力を身につけるために、これまでの教職課程の他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて学んだことを実践的に統合することを目標とする。また、教科学習での指導力、生徒理解や学級経営の能力のみならず、組織の一員としての使命感や責任感、社会性や対人関係力（保護者や地域の関係者との人間関係の構築等）などを身につけるようにする。		
準備学習	「教育実習ノート」を整理しておく、「教職履修カルテ」に添って各自の課題を見つけておく。 最初の授業で各単元の履修内容を確認するための課題を出す。授業の内容について、予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。		

受講者への要望

教育実習を終えて、教職課程の最終段階であることを自覚し、積極的に取り組む姿勢を持ってほしい。

講義の順序とポイント

第１回 オリエンテーション　履修カルテの整理と教育実習の振り返り　（＊は合同）
受講生を３つのグループに分け、３人の担当教員がそれぞれを順に担当する
第２回 「授業１」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第３回 「授業２」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第４回 「生徒理解１」教育相談のための基礎演習（事例研究）
第５回 「生徒理解２」教育相談のための基礎演習（ロールプレイ）
第６回 「学級経営」　学級経営案作り　グループ討論
第７回 「学校運営」　教育目標や校務分掌についてグループ討論
第８回 講義　学校現場の今日的な問題について＊
第９回 「保護者や地域の関係者との人間関係の構築等」について　グループ討論＊
第１０回　学校現場などの参観・見学　その１
・ 日本語教室（外国人児童・生徒を対象とした教室）
・ 教育研究発表会への参加　　など。
第１１回　学校現場などの参観・見学　その２
・ 保育園、幼稚園
・ 福祉施設などの関連機関　など
第１２回 子どもや保護者と直接触れ合う実習　その１
・ サイエンスフェスタなどの地域の行事への参加
第１３回 子どもや保護者と直接触れ合う実習　その２
・ 放課後の補充指導や「学びサポーター」への参加
・ 宿泊学習や校外学習への協力
10～13までは、 それぞれの中から１つ以上（合計２つ以上）の参観・見学、実習を行う（３名の担当教員が分担し、引率と事前事後の指導を行う）

第１４回 模擬授業発表会　模擬授業と事後研究会　演習のまとめ　グループ討論＊
第１５回 総括　履修カルテの完成と相互評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP0073002
科目名	教職実践演習 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
講義概要	教育実習での校種や教科、受講者の課題などを考慮して６～８名程度のグループに分け授業を進める。前半は教育実習での経験をふまえ、「授業」「生徒理解」「学級経営と学校運営」の３つをテーマに学内での講義・講演、グループ討論、ロールプレイ、模擬授業などを行う。後半は、学校現場の参観・見学や児童・生徒と直接触れ合う機会をとおしてより実践的な資質能力を身につける。また、学校現場の今日的な課題について講義を聞く場を設け、その内容を踏まえて地域や保護者とのかかわり方、組織の一員として自覚などのテーマについてグループ討論を行う。		
教材（テキスト）	その都度指定する		
教材（参考文献）	その都度指示する。		
教材（その他）	その都度指示する。		
評価方法	各活動に対する参加状況や態度、グループ討論などでの発言などを評価するとともに、模擬授業、見学・参観、実習での相互評価や外部からの評価をふまえ総合的に判断する。		
到達目標	教員として最小限必要な資質能力を身につけるために、これまでの教職課程の他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて学んだことを実践的に統合することを目標とする。また、教科学習での指導力、生徒理解や学級経営の能力のみならず、組織の一員としての使命感や責任感、社会性や対人関係力（保護者や地域の関係者との人間関係の構築等）などを身につけるようにする。		
準備学習	「教育実習ノート」を整理しておく、「教職履修カルテ」に添って各自の課題を見つけておく。 最初の授業で各単元の履修内容を確認するための課題を出す。授業の内容について、予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。		

受講者への要望

教育実習を終えて、教職課程の最終段階であることを自覚し、積極的に取り組む姿勢を持ってほしい。

講義の順序とポイント

第１回 オリエンテーション　履修カルテの整理と教育実習の振り返り　（＊は合同）
受講生を３つのグループに分け、３人の担当教員がそれぞれを順に担当する
第２回 「授業１」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第３回 「授業２」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第４回 「生徒理解１」教育相談のための基礎演習（事例研究）
第５回 「生徒理解２」教育相談のための基礎演習（ロールプレイ）
第６回 「学級経営」　学級経営案作り　グループ討論
第７回 「学校運営」　教育目標や校務分掌についてグループ討論
第８回 講義　学校現場の今日的な問題について＊
第９回 「保護者や地域の関係者との人間関係の構築等」について　グループ討論＊
第１０回　学校現場などの参観・見学　その１
・ 日本語教室（外国人児童・生徒を対象とした教室）
・ 教育研究発表会への参加　　など。
第１１回　学校現場などの参観・見学　その２
・ 保育園、幼稚園
・ 福祉施設などの関連機関　など
第１２回 子どもや保護者と直接触れ合う実習　その１
・ サイエンスフェスタなどの地域の行事への参加
第１３回 子どもや保護者と直接触れ合う実習　その２
・ 放課後の補充指導や「学びサポーター」への参加
・ 宿泊学習や校外学習への協力
10～13までは、 それぞれの中から１つ以上（合計２つ以上）の参観・見学、実習を行う（３名の担当教員が分担し、引率と事前事後の指導を行う）

第１４回 模擬授業発表会　模擬授業と事後研究会　演習のまとめ　グループ討論＊
第１５回 総括　履修カルテの完成と相互評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	★★	★	★	★

年度	2017	授業コード	JP5042B01
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	法令やメディア上で「生涯学習」の言葉をしばしば目にするのには、その重要性の認識が改めて求められている事実とともに、実際にそれを実践していくことが強く奨励されている現状が反映されているといえるでしょう。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、地域の実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、生涯学習や地域社会とのかかわり方に関する、自らの考えを深めていく態度を養成することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯教育の実践とその方法、理論や現代社会の課題と諸実践との関連に関する基本的な知識を習得する。 ・その理解の上に立って自身を取り囲む種々の諸課題に対して、自らの関心に基づいた意見を表明したり、課題解決のための学習案を実際に提示したりできる態度・能力を養成する。		
準備学習	・新聞紙上に紹介されている生涯学習実践や社会教育施設、生涯学習関連施設の活動に目を配り、とくに自らの関心に近かった記事を切り取りファイリングするなど、生涯学習の実際へ日々関心を向けるようにしてください。また授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみるなど、調査・体験を積極的に行うようにしてください。 ・とくに出身地の社会教育施設については、訪問を行う中で活動の実際に触れ、配布されている資料を収集し事業の実態を把握しておくなど、授業開講中の継続的な調査を期待しています。 ・毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
２．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
３．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方①：人権尊重の実現を目指す生涯学習
４．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方②：個人化の進行と資格取得・キャリア形成をめぐる問題
５．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方③：貧困・格差の問題と職業能力開発
６．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方④：生涯学習と環境教育・ESD
７．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
８．問題解決のための生涯学習の取り組み②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習と学習環境の整備
９．問題解決のための生涯学習の取り組み③：社会的な格差、孤立の解消を目指す諸実践
１０．問題解決のための生涯学習の取り組み④：体験活動を支援する青少年教育施設の実践
１１．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館-CLC 事業の展開
１２．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
１３．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：文化都市、京都で実践されている多様な ESD・生涯学習の試み
１４．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都を代表する観光地を、ESD の観点から学習してみよう
１５．これまでの授業のふりかえりと生涯学習を実践することの意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JP7002501
科目名	保健体育科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
講義概要	「保健体育科教育法Ⅰ」は，保健体育科指導の基礎を学ぶ科目である。この講義では，「よい体育授業」とは何かを考えるとともに，中学校を中心とした学習指導要領（保健体育編）の理解や保健体育科教育の変遷，学習形態等の基礎的内容の修得をとおして，保健体育科の指導を行うに当たっての大まかなイメージをもつことができるようにする。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２００８）３６８円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、小テスト（80%）		
到達目標	１．自らが受けてきた体育授業を振り返り，「よい体育授業」のイメージをもつことができるようになる。 ２．保健体育科を取り巻く現状や指導に当たっての基礎的内容が理解できるようになる。 ３．中学校学習指導要領の構造や目標・内容が理解できるようになる。		
準備学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		

受講者への要望

４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨むこと。

講義の順序とポイント

１．はじめに
２．よい体育授業とは
３．保健体育科の指導をめぐる現状と課題
４．運動にともなう事故
５．保健体育科教育の授業を取り巻く制度的条件
６．保健体育科教育の変遷
７．学習指導要領改訂とそのポイント
８．中学校学習指導要領について(構造・目標を中心に)
９．中学校学習指導要領について(内容を中心に)
１０．身に付けさせたい技能
１１．教材・教具，学習指導
１２．学習形態，学習過程
１３．中学校の保健学習
１４．学習の振り返り
１５．まとめ、身に付けた力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	－	－	－

年度	2017	授業コード	JP7002601
科目名	保健体育科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
講義概要	「保健体育科教育法Ⅱ」は，「保健体育科教育法Ⅰ」を基礎に，中学校保健体育科で行う各領域の教材研究（授業づくり）の仕方を理解するとともに，指導を行うに当たっての具体的なイメージをもてるようにする。なお，授業では，各運動の授業づくりの具体的イメージをもつことができるよう，ビデオなどをできる限り活用する。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２００８）　３６８円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、授業内に複数回課す小レポート（50%）、学期末のレポート（30%）		
到達目標	１．効果的な教授技術など、授業づくりの基本的構造が理解できるようになる。 ２．各領域の教材研究（授業づくり）の仕方の具体的イメージを描くことができるようになる。		
準備学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		

受講者への要望

４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。

講義の順序とポイント

１．はじめに
２．授業づくりの構造
３．選択制授業の授業づくり
４．「Ａ体つくり運動」の教材研究（授業づくり）
５．「Ｂ器械運動」の教材研究（授業づくり）
６．「Ｃ陸上競技」の教材研究（授業づくり）
７．「Ｄ水泳」の教材研究（授業づくり）
８．「Ｅ球技」の教材研究（授業づくり）
９．「Ｆ武道」の教材研究（授業づくり）
１０．「Ｇダンス」の教材研究（授業づくり）
１１．「保健」の教材研究（授業づくり）
１２．集団行動と新スポーツテスト
１３．「時案」の作成方法
１４．レポート（「時案」）作成
１５．作成レポートの振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JP7002701
科目名	保健体育科教育法Ⅲ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
講義概要	「保健体育科教育法Ⅲ」は，保健体育科の指導方法の基礎を学ぶ科目である。この講義では，高等学校で教える中身の理解とともに，目標に準拠した評価や指導案の作成など，保健体育科の指導を行うに当たっての具体的なイメージがもてるようにする。		
教材（テキスト）	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２０１０） ４５５円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、小テスト（50%）、レポート（30%）		
到達目標	１．高等学校学習指導要領が理解できるようになる。 ２．指導案の作成方法が理解できるようになる。		
準備学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		

受講者への要望

４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。

講義の順序とポイント

１．はじめに
２．体育教師に期待されているもの
３．高等学校学習指導要領について（目標・内容を中心に）
４．高等学校学習指導要領について（身に付けさせたいことを中心に）
５．高等学校の保健学習
６．柔道の安全指導について
７．指導計画の作成
８．目標に準拠した評価（様々な学習評価）
９．目標に準拠した評価（観点別学習状況と評価規準）
１０．指導案の作成方法（体育）
１１．体育学習で身に付けさせたいこと（４観点）
１２．指導案の作成方法（保健）
１３．「保健」時案の作成
１４．求められる教師像とその実現に向けて
１５．まとめ、振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	－	★	－

年度	2017	授業コード	JP7002801
科目名	保健体育科教育法Ⅳ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
講義概要	「保健体育科教育法Ⅳ」は，保健体育科の指導方法の基礎を学ぶ科目である。この講義では，指導案の作成や模擬授業などを行い，保健体育科の実践的指導力を養うことができるようにする。		
教材（テキスト）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２００８） ３６８円 『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２０１０） ４５５円		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、小レポート（30%）、学期末のレポート（50%）。		
到達目標	１．身に付けさせたいことへ向けた指導案の作成ができるようになる。 ２．指導案に基づく実践的指導ができるようになる。 ３．授業を客観的に振り返り，改善することができるようになる。		
準備学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		
受講者への要望			
４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．はじめに ２．模擬授業の構想と指導案の検討 ３．指導案の検討（体つくり運動） ４．指導案の検討（器械運動） ５．指導案の検討（陸上競技） ６．指導案の検討（球技） ７．指導案の検討（武道 or ダンス） ８．指導案の検討（保健） ９．模擬授業（体つくり運動） １０．模擬授業（器械運動） １１．模擬授業（陸上競技） １２．模擬授業（球技） １３．模擬授業（武道 or ダンス） １４．模擬授業（保健） １５．まとめ、振り返り			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	JSJ040101
科目名	生涯スポーツ実技（ゴルフ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Golf)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JSJ040102
科目名	生涯スポーツ実技（ゴルフ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Golf)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3〜4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技 60%、レポート 20%、受講態度 20%		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。		
準備学習	前回までの技術の把握、ルール、マナーの確認、体調管理		
受講者への要望			
運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋（@500 円）が必要。授業内で用意できるので、持っていない学生は担当者に申し出ること。			
講義の順序とポイント			
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー）、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 ・コースラウンド（水無瀬コース）希望者（1 ラウンド 2150 円、が別途必要になります） 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する　・ショートアイアン（PW）のショット練習　・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習　・10〜50 ヤードのアプローチ練習　・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標　・ショートアイアンを正確に　・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ　・ロングアイアンの練習　・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習　・パテイング練習　・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン			

10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JSJ060201
科目名	生涯スポーツ実技（ソフトボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Softball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄA
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄB
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ060202
科目名	生涯スポーツ実技（ソフトボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Softball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	態度３０％・レポート３０％・技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむことができるためのスキルを習得する。自ら試合の企画・立案・運営ができるようにする。		
準備学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講者への要望

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄA
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃｽﾄB
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ070101
科目名	生涯スポーツ実技（テニス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Tennis)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供から高齢者まで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなか思い通りにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％、レポート２０％、受講態度２０％		
到達目標	１、シングルス・ダブルスのゲームが楽しめるようにする。 ２、練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 ３、社会人としていろいろな施設を利用して安全にテニスを楽しむようにする。		
準備学習	事前にテニスの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動に相応しい服装を準備すること。三国山オム二コートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストＡ 2. フィットネステストＢ　グリップ 3. グリップと面作り　ボレー練習、ボレーゲーム 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる)　ミニコートゲーム 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える)　ストロークゲーム 6. ボール出しによるグランドストローク 7. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 8. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 9. 簡単なダブルスゲーム 10. ダブルスのホーメーション(雁行陣営) 11. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 12. ダブルスゲーム 13. ダブルスゲーム 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ070102
科目名	生涯スポーツ実技（テニス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Tennis)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供から高齢者まで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなか思い通りにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	実技６０％、レポート２０％、受講態度２０％		
到達目標	１、シングルス・ダブルスのゲームが楽しめるようにする。 ２、練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 ３、社会人としていろいろな施設を利用して安全にテニスを楽しむようにする。		
準備学習	事前にテニスの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		
受講者への要望			
運動に相応しい服装を準備すること。三国山オム二コートで実施するため、テニスシューズが必要。			
講義の順序とポイント			
1. オリエンテーション、フィットネステストＡ 2. フィットネステストＢ　グリップ 3. グリップと面作り　ボレー練習、ボレーゲーム 4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる)　ミニコートゲーム 5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える)　ストロークゲーム 6. ボール出しによるグランドストローク 7. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える 8. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム 9. 簡単なダブルスゲーム 10. ダブルスのホーメーション(雁行陣営) 11. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム 12. ダブルスゲーム 13. ダブルスゲーム 14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト 15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ080101
科目名	生涯スポーツ実技(バスケットボール)	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Basketball)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JSJ080102
科目名	生涯スポーツ実技(バスケットボール)	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Basketball)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)70%、レポート点 30%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
準備学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講者への要望

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

講義の順序とポイント

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。

1. オリエンテーション、フィットネステスト A
2. コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3. コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4. コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5. 技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
   対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6. 技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7. グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

8.9.10. グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ

11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）

12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ

15. 最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	JSJ090803
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ090804
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ090805
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ090806
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ090807
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ090808
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バドミントンは華麗で過酷、かなり高い体力を必要とする種目である。しかし、表面的な様相は変わっても、遊びから発展したスポーツであるということはバドミントンの本質であり、初心者でも気軽に楽しむことができる。 また、慣れるに従い高度なテクニックを駆使して、十分楽しめるスポーツである。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート４０％、技術４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解し、スポーツを楽しむ事ができる為のスキルを獲得し、試合の企画・立案・運営を修得できるようにする。		
準備学習	スポーツ活動を実施する前の、ウォーミングアップやストレッチの方法を知っておくこと。スポーツを安全に実施できる知識や打撲・捻挫等のケガに対する応急処置を知っておくこと。ルールや基本スキルを事前に理解しておくこと。		

受講者への要望

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

講義の順序とポイント

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ100101
科目名	生涯スポーツ実技（バレーボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Volleyball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ100102
科目名	生涯スポーツ実技（バレーボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Volleyball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、健康の保持増進を目的とした運動を導入し、技術の向上だけではなく、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度２０％、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	バレーボールの特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全に関する知識を習得する。また、仲間とのコミュニケーション、健康、体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		

受講者への要望

実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。

講義の順序とポイント

1.オリエンテーション、フィットネステスト A
2.フィットネステスト B 、グループ編成
3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム
4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題
5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム
6.組織的な攻撃と防御　ゲーム
7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題
8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム
9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム
10.ゲームと審判法
11.ゲームと審判法
12.ゲームと審判法
13.ゲームと審判法
14.ゲームと審判法

15.ゲーム

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ110101
科目名	生涯スポーツ実技（フィットネス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Fitness)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ110102
科目名	生涯スポーツ実技（フィットネス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Fitness)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にプリントを配布。		
教材（その他）	特になし		
評価方法	平常点（50%）、トレーニング計画（20%）、レポート（30%） 評価は出席・意欲等を重視するとともに課題達成度等の総合評価とする。		
到達目標	この授業では、トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解するとともにトレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法も習得する。また、個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得する。		
準備学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講者への要望			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ150101
科目名	生涯スポーツ実技（柔道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Judo)		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
講義概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓）。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、有段者や柔道指導者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技）、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りや試合で実践する。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要な人は相談してください。		
教材（その他）	必要な人は相談してください。		
評価方法	授業内の技能チェック（50%）と知識チェック（50%）によって評価します。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。知識チェックの内容は、柔道の概要です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
準備学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講者への要望

１．柔道衣は最初の授業で貸出します（最後の授業で返却します）。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください）。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください）。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、柔道衣の貸出、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
２．柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
３．後ろ受け身、横受け身、前受け身
４．前回り受け身（立ち上がらない）、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる）、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め、膝車
８．送り襟絞め、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い（燕返し）
１０．三角絞、大外落とし
１１．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１２．腕挫十字固め、体落とし
１３．腕挫三角固め、釣り込み腰
１４．審判法・試合
１５．柔道衣の返却、技能チェック、知識チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JSJ150102
科目名	生涯スポーツ実技（柔道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Judo)		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
講義概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓）。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、有段者や柔道指導者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技）、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りや試合で実践する。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	必要な人は相談してください。		
教材（その他）	必要な人は相談してください。		
評価方法	授業内の技能チェック（50%）と知識チェック（50%）によって評価します。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。知識チェックの内容は、柔道の概要です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
準備学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講者への要望

１．柔道衣は最初の授業で貸出します（最後の授業で返却します）。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください）。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください）。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。

講義の順序とポイント

１．オリエンテーション、柔道衣の貸出、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
２．柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）
３．後ろ受け身、横受け身、前受け身
４．前回り受け身（立ち上がらない）、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる）、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め、膝車
８．送り襟絞め、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い（燕返し）
１０．三角絞、大外落とし
１１．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１２．腕挫十字固め、体落とし
１３．腕挫三角固め、釣り込み腰
１４．審判法・試合
１５．柔道衣の返却、技能チェック、知識チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2017	授業コード	JSJ160201
科目名	生涯スポーツ実技（卓球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Table Tennis)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	JSJ160202
科目名	生涯スポーツ実技（卓球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Table Tennis)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
講義概要	卓球は、安全で手軽であるため、老若男女を問わず親しまれ、生涯を通じて楽しめるスポーツとされている。　以前に「ピンポン」という名称で親しまれていたこともあり、感覚的に遊びのイメージを持たれることもあるが、本授業では、卓球の特性とルールやマナー、そして安全に楽しめるための知識等、技術向上とともに習得することを目的とする。 また、健康の維持増進を目的とした運動も導入し、技術の向上だけでなく、トータルバランスの充実した授業展開を目指します。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	必要時にはプリントを配布。		
教材（その他）	特になし。		
評価方法	具体的には、態度 20%、レポート 30%、技術 50%		
到達目標	卓球の特性やルールを理解し、スポーツを楽しむためのスキルと安全性に関する知識を習得する。 また、仲間とのコミュニケーション、健康体力の維持増進も目標とする。		
準備学習	ルール等の事前学習。		
受講者への要望			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。また、安全のためアクセサリー等ははずして出席すること。日々の健康管理については十分に留意すること。			
講義の順序とポイント			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	JSJ200101
科目名	生涯スポーツ実技（剣道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Kendo)		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心をもち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		
受講者への要望			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
講義の順序とポイント			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ200102
科目名	生涯スポーツ実技（剣道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Kendo)		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
講義概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（その他）	プリントを配布する。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
準備学習	日本の武道に関心をもち、剣道の技術書や武人に関する小説などを読み意欲を高め心の準備をしてください。		
受講者への要望			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
講義の順序とポイント			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	JSJ210101
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JSJ210102
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JSJ210103
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JSJ210104
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
講義概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。 自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高める。また、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を学びあい、実技指導・実践能力を高める。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力につなげる。できれば健康スポーツ理論の受講を進めます。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学ぼう。		
教材（テキスト）	適宜指示する		
教材（参考文献）	東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』東京大学出版会		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	レポート及び提出物		
到達目標	1．運動を楽しむ 2．グループで協力して、役割を果たせる。 3．運動を計画的に実施できる。 4．集団をまとめることができる。 5．準備、片付け、安全管理ができる		
準備学習	各グループで計画的に練習できるよう事前準備をしてください。 運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。		
受講者への要望			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方、ルールについての説明。 2．講義　グループ分けと役割分担　エアロビクスダンス 3．バドミントン 4．レクリエーション 5．バドミントン 6．レクリエーション 7．バスケットボール 8．卓球 9．バスケットボール 10．卓球 11．バレーボール 12．ローンボウルズ 13．バレーボール 14．ローンボウルズ 15．グループワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★★	★	★	−	−

年度	2017	授業コード	JSR051A01
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。 各方面の話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにする。 臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。代返は認めません。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 2．栄養摂取と運動 3．骨の病気、筋肉の病気 4．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(水田先生) 5．人体の解剖・画像解剖(水田先生) 6．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 7．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 8．生活習慣病としての発癌 9．大学生の健康知識 １０．運動療法の基礎 １１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 １２．スポーツ障害と画像診断 １３．運動負荷試験 １４．運動プログラムの管理 １５．健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の水田先生に講義をお願いしています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JSR051A02
科目名	健康スポーツ理論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	JSR051A03
科目名	健康スポーツ理論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	JSR051A04
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
講義概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。 各方面の話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにする。 臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（テキスト）	とくになし		
教材（参考文献）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教材（その他）	とくになし		
評価方法	課題レポートの評価を 60%、小テストなどを 40%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
準備学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。		
受講者への要望			
質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。 講義中は静粛に願います。代返は認めません。			
講義の順序とポイント			
1．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策 2．栄養摂取と運動 3．骨の病気、筋肉の病気 4．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(水田先生) 5．人体の解剖・画像解剖(水田先生) 6．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1 7．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2 8．生活習慣病としての発癌 9．大学生の健康知識 １０．運動療法の基礎 １１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法 １２．スポーツ障害と画像診断 １３．運動負荷試験 １４．運動プログラムの管理 １５．健康管理、まとめ 京都府立医科大学放射線科の水田先生に講義をお願いしています。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	JSR051A05
科目名	健康スポーツ理論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の３分の２が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約６割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで２位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。春学期にスポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学んでください。		
教材（テキスト）	プリント教材		
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ 健康運動実践指導者テキスト		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
準備学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを５点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
講義の順序とポイント			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労 １３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	JSR051B01
科目名	健康スポーツ理論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	生涯スポーツの理論Ｂ
講義概要	わが国に「体育」が誕生したのは，身体教育ということばを簡略化した明治 9 年である．フランス式の教育に範をとり，ロック（1632～1704），スペンサー（1820～1903）らの教育学から知育・徳育・体育を重要な教育目標と定め，体育についても早くからその特性について着目していた．さて、体育スポーツ･レクリエーションはどのようにわれわれの生活の中に溶け込んでいったのか？その歴史を探ろう。 　また、上記の理解の上にスポーツビジネスやスポーツマネジメントの新たな展開について学んでいく。スポーツの進化した現場簿ノウハウを共に学び、新たなスポーツに意義や意味づけについて考えよう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	授業内ミニレポート(40％)、定期試験（60％） 授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をします。		
到達目標	体育･スポーツ･レクリエーションの歴史を探り、市民目線で組織の成立・維持・発展について学ぶ。		
準備学習	スポーツの歴史について調べておくこと。毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
遅刻は許されません。ミニレポートの用紙は授業おわりに配ります。ミニテストを行う場合もあります。			
講義の順序とポイント			
1．　体育・スポーツ・レクリエーションの始まり 2．　中世の体育・スポーツ・レクリエーション 3．20 世紀の体育・スポーツ・レクリエーション 4．　スポーツ・レクリエーションの現状と課題 5．　スポーツ活動の意義と魅力 6．　スポーツ団体と組織 7．　スポーツ指導者の現状と課題 8．　２１世紀の地域スポーツ 9．　スポーツボランティア 10. 障がい者スポーツと組織 11. 地域総合型スポーツクラブ 12. スポーツ政策と行政 13. スポーツマーケティングの概念 14. スポーツビジネスの背景 15. 今後の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JSR051B02
科目名	健康スポーツ理論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	生涯スポーツの理論Ｂ
講義概要	わが国に「体育」が誕生したのは，身体教育ということばを簡略化した明治 9 年である．フランス式の教育に範をとり，ロック（1632～1704），スペンサー（1820～1903）らの教育学から知育・徳育・体育を重要な教育目標と定め，体育についても早くからその特性について着目していた．さて、体育スポーツ･レクリエーションはどのようにわれわれの生活の中に溶け込んでいったのか？その歴史を探ろう。 　また、上記の理解の上にスポーツビジネスやスポーツマネジメントの新たな展開について学んでいく。スポーツの進化した現場簿ノウハウを共に学び、新たなスポーツに意義や意味づけについて考えよう。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	適宜指示する		
教材（その他）	プリント教材及びビデオ		
評価方法	授業内ミニレポート(40％)、定期試験（60％） 授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をします。		
到達目標	体育･スポーツ･レクリエーションの歴史を探り、市民目線で組織の成立・維持・発展について学ぶ。		
準備学習	スポーツの歴史について調べておくこと。毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講者への要望			
遅刻は許されません。ミニレポートの用紙は授業おわりに配ります。ミニテストを行う場合もあります。			
講義の順序とポイント			
1．　体育・スポーツ・レクリエーションの始まり 2．　中世の体育・スポーツ・レクリエーション 3．20 世紀の体育・スポーツ・レクリエーション 4．スポーツ・レクリエーションの現状と課題 5．スポーツ活動の意義と魅力 6．スポーツ団体と組織 7．スポーツ指導者の現状と課題 8．２１世紀の地域スポーツ 9．スポーツボランティア 10. 障がい者スポーツと組織 11. 地域総合型スポーツクラブ 12. スポーツ政策と行政 13. スポーツマーケティングの概念 14. スポーツビジネスの背景 15. 今後の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	JSR052002
科目名	やさしい健康科学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	赤松　裕訓	旧科目名称	
講義概要	我が国の健康問題は、成人だけに限らず、小・中・高等学校等の学校教育における学習活動を通じて、生涯にわたって自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成していくことが求められています。さらに、増加の一途を辿る高齢者が、健康で長生きするためには、どのような生活を送ることが望ましいのでしょうか。 本科目では、健康状態の判定、身体活動量の評価、栄養学、心理学、生理学、発育・発達および老化について学習します。 さらに、運動プログラムの作成や指導上の注意点などについても言及し、幅広く健康運動についての知識を身につけてもらいます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	健康運動実践指導者テキスト：財団法人健康・体力づくり事業財団　南光堂　2008 健康と運動と食品：伏木亨編　朝倉書店　2006		
教材（その他）			
評価方法	定期試験(60%)および平常点(40%)によって評価します。 授業への意欲的な参加態度が認められない場合は平常点として認めません。 目先の授業単位よりも、将来の健康について意欲的に学びたいという学生を求めます。 卒業がかかっているので単位だけほしいというのは認めません。		
到達目標	運動の正しい知識は心身の健康づくり促進の基礎となり、増加の一途を辿る高齢者に対する健康の維持、成人の生活習慣病罹患率の低下、さらには、子どもたちの発達段階をふまえた健康教育にも十分に生かしてゆけるものです。本科目では、マスコミの雑多な情報に左右されることなく、正しい最新の知見を学習し、心身ともに健康な社会づくりに貢献できる人材を育てることを目的とします。		
準備学習	特に予習復習はありませんが、意欲的な学習態度を求めます。 授業内容を深く理解し、それを自身や家族の健康維持・増進に活かしてくれることを望みます。		
受講者への要望			
目先の授業単位よりも、将来の健康について意欲的に学びたいという学生を求めます。 卒業がかかっているので単位だけほしいというのは認めません。			
講義の順序とポイント			
講義形式で授業を進めますが、講義内容に関連した DVD 資料を用いた学習や参加型の心理学実験なども行います。 第 1 回 健康とは？～健康づくりをすすめる施策のあらまし～ 第 2 回 健康づくりの必要性、生活習慣病の予防 第 3 回 健康づくりのための身体活動量、体力水準の測定と評価 第 4 回 栄養の基礎 第 5 回 健康づくりのための食生活 第 6 回 運動と心の健康・ストレス 第 7 回 運動と心の健康・ストレスその 2 第 8 回 運動と心の健康に関する心理学実験 第 9 回 筋肉・レジスタンス運動の理論と実際 第 10 回 有酸素運動の理論と実際 第 11 回 自分への運動処方箋を作る 第 12 回 成長・老化と食生活との関係 第 13 回 飲酒・タバコ・薬物と健康 第 14 回 腰痛のしくみ 第 15 回 運動の重要性を中心にこれまでの講義内容を復習する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2017	授業コード	JSR053002
科目名	運動生理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	赤松　裕訓	旧科目名称	
講義概要	1 世紀も前に、ドイツの発生学者のウィルヘルム・ルーWilhelm Roux（1850-1924）は、「全ての器官は適度に使えば機能的にも形態的にも発達するが、使いすぎれば発達は損なわれ、使わなければ機能も形態も低下する」ことを述べた。簡潔に言えば「身体（筋肉）の機能は適度に使うと発達し、使わなければ萎縮（退化）し、過度に使えば障害を起こす」というものである。これはルーの法則と呼ばれ、生理学の基本法則の一つであり、現代のスポーツや体育のトレーニングにおいてもこの考え方が用いられている。すなわち、ヒトは生涯にわたって健康であるために、あるいはスポーツで強くなるためにも、適切な運動（トレーニング）が必要になる。 運動生理学では、運動することによってからだにどのような変化が生ずるのか、その現象と仕組みを学ぶ。この分野では今までに多くの業績が蓄積されているが、ここでは、健康づくりやスポーツトレーニングの基礎となる内容を、なるべく簡潔にわかりやすく解説・学習する。		
教材（テキスト）	勝田茂編集：第 4 版「入門運動生理学」　杏林書院		
教材（参考文献）	山路啓司・大築立志・田中宏暁編著：「スポーツ・運動生理学概説」　明和出版		
教材（その他）	授業中に資料を配付する。		
評価方法	定期試験(60%)および平常点(40%)によって評価する。 授業への意欲的な参加態度が認められない場合は平常点として認めない。 卒業がかかっているので単位だけほしいというのは認めない。		
到達目標	筋、循環、呼吸などのからだの機能と運動により変化する仕組みについて、その概要が理解できる。		
準備学習	講義終了時に次の範囲（教科書 p.**～p.**まで）を指定するので、必ず事前学習しておくこと。		
受講者への要望			
講義終了時に次の範囲（教科書 p.**～p.**まで）を指定するので、必ず事前学習しておくこと。 目先の授業単位よりも、体の生理について意欲的に学びたいという学生を求める。 卒業がかかっているので単位だけほしいというのは認めない。			
講義の順序とポイント			
1. はじめに　―運動生理学とはー 2. 筋収縮とエネルギー供給系 3. 筋繊維の種類とその特徴 4. 神経系の役割 5. 筋の収縮様式と筋力 6. 運動と循環 7. 運動と呼吸 8. 運動とホルモン 9. 運動と体温調節 10. 運動と栄養 11. 身体組成と肥満 12. 運動処方 13. 運動と生活習慣病 14. 老化に伴う身体機能の変化 15. まとめ：より健康に、より強くなるために			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2017	授業コード	JV0010003
科目名	コンピュータ・ネットワーク入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Computer Networks		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在、インターネットが社会の情報基盤となり、IT(情報技術)革命が進行している。ネットワークで何が可能であるか、何が最適であるか、どのようにコミュニケーション方法が変化していくかなどを考えることが非常に重要になっている。しかし、携帯電話などのメディアの表面的な技術進歩を追求しても本質を見失うだけである。ここ十数年の間に確立されたネットワークの基本的なスケルトンを理解し、それをもとにして現在を位置づけていくのが賢明のように思われる。この授業ではネットワーク技術の基本となる TCP/IP について、その構造と利用方法を理論と実践を通して学習する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	網野衛二　著：『かんたんネットワークのしくみ超入門』，技術評論社　１７８０円＋税		
教材（その他）	レジメプリントとホームページ		
評価方法	授業レポート(80%)、総合レポート(20%)で評価する。		
到達目標	インターネットの基本技術である TCP/IP を理論と実践により理解する。また，ネットワークの応用技術を TCP/IP プロトコル階層の考え方で理解する。		
準備学習	MS-Windows 7 のコマンドプロンプトの使用経験を積んでおくこと。 タッチタイピングができるようにしておくこと。		
受講者への要望			
コマンドライン操作(CUI)が基本となるので、Windows 環境(GUI)しか知らない場合、最初慣れるまで注意が必要である。授業の特性上、欠席すると以後の授業についていけなくなるので、留意して欲しい。　少し難しいテキストですが説明が完備していますので毎回最初の要約部分は最低目を通しておいてください。			
講義の順序とポイント			
講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。 1.受講ガイダンス・ネットワークとは 2.データはネットワークをどう流れるか(LAN 回線から Web サーバまでの流れ) 3.ネットワークモデルを知ろう(1) 4.ネットワークモデルを知ろう(2) 5.ネットワークモデルのプロトコル(1) 6.ネットワークモデルのプロトコル(2) 7.ネットワークモデルのプロトコル(3) 8.前半のまとめと演習 9.ネットワーク内のサーバの種類(1) 10.ネットワーク内のサーバの種類(2) 11.ネットワークの運用と管理(1) 12.ネットワークの運用と管理(2) 13 ネットワークのセキュリティ 14.ネットワークの広がり 15.後半のまとめと演習 講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 担当教員のホームページ に公開する。ホームページアドレスは授業の際に告知する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	JV0030001
科目名	パソコン応用A	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing A		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
講義概要	Excel の応用科目です。パソコン初心者向けの科目「パソコン入門」の内容をマスターしていることを前提にしています。ここでは、さまざまな関数の使い方、複合グラフや図形の作成、データの集計やテーブルの利用、ピボットテーブルやピボットグラフの作成など、Excel の応用的な機能の習得と効率よく作業を進めるテクニックを習得します。		
教材（テキスト）	富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円富士通オフィス機器(株)『よくわかる　Excel2010　応用』FOM 出版，2000 円		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	なし		
評価方法	演習状況等（45%）と、Excel 等によるレポート提出（55%）の総合評価とします。単位取得には 2 / 3 以上の出席が必要です。		
到達目標	表計算ソフトを使ってデータを分析・加工し、結果を適切かつ効果的に表現する能力を習得すること。		
準備学習	Excel の既習事項の復習とキーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。		

受講者への要望

パソコンの基本的な使い方(Word、Excel の基本操作)を習得していることを前提にしています。遅刻をしないこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないようにしてください。懇切丁寧に解説している教科書がありますので毎回授業前に学習内容の予習を心がけてください。

講義の順序とポイント

1　入門の復習
2　関数の利用　Ⅰ（１章）　順位付け、条件判断、データ検索
3　関数の利用　Ⅱ
4　関数の利用　Ⅲ
5　表作成の活用（２章）　条件付き書式、入力規則
6　表作成の活用　練習問題
7　グラフの活用（３章）　複合グラフ、グラフの編集、
8 グラフィックの利用（4 章）　図形の作成
9　グラフィックの活用　練習問題
10　複数ブックの操作とデータベースの活用（５・６章）　データの集計と統合、テーブルの利用
11　複数ブックの操作とデータベースの活用　練習問題
12　ピボットテーブルとピボットグラフ（７章）　ピボットテーブル・グラフの作成と編集
13　ピボットテーブルとピボットグラフ　練習問題
14　マクロ（８章）　マクロの作成と実行
15　マクロ　練習問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	JV0050001
科目名	パソコン応用Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
講義概要	●　プリゼンテーション作成の訓練を行う。Microsoft Office の Power Point を使用し、（１）作成方法に習熟すること、（２）実際に発表して注意点を学ぶこと、の２つを目指す。 ●　練習問題を多数用意しておくので、パソコンの初心者でも中級者でも区別なしに受講できる。 ●　毎回の練習問題に加え、２つの課題を消化しなければならない。（１）自分の出身地の紹介（例えば観光案内）の power point を作成して提出。（２）自由課題で power point を作成し、約４分間の発表を受講者全員の前で行う。 ●教職「情報」を希望する学生は、この授業（森田担当）を取らなければならない。		
教材（テキスト）	毎回、「京学なび」で、資料、練習問題、課題などを配布		
教材（参考文献）	よくわかる Microsoft Office Power Point 2010、応用 FOM 出版		
教材（その他）			
評価方法	毎回の練習問題と課題の作成結果を提出（４０％）、出身地紹介の power point 作成（２０％）、自由課題の power point の作成と発表（４０％）		
到達目標	power point 作成の技術的な手法を身につけること。 作成した power point を発表すること。		
準備学習	EXCEL と WORD は知っておいた方がよい。高校で習ってその後忘れた人は復習しておくこと。 予習：事前配布資料に練習問題と課題を示してあるので、見ておくこと。 復習：事前配布資料の最後に、課題（発展問題）を示しておくので、次回の授業までに課題を解いて、「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		
受講者への要望			
人によって習熟度が違うが、気にすることはない。初心者用、中級者用の練習問題を用意しておくので、各自のレベルに応じて進んでいけばよい。			
講義の順序とポイント			
１．プリゼンテーションの作成（導入部分） ２．プレースホルダーと文字（編集、配置） ３．同上 ４．図やオブジェクトの挿入・編集 ５．同上 ６．図形の作成と編集 ７．同上 ８．「出身地の紹介」の power point 作成 ９．同上 １０．特殊効果（アニメーション） １１．ビデオ、音声の入力 １２．その他のプリゼンテーション手法（prezi, PDF） １３．総合問題 １４．「自由課題」の power point 作成 １５．発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	JV0070002
科目名	パソコン応用C	単位数	1
科目名（英語表記）	Applied Computing C		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	データベースソフト(Access) を用いて、データベースの考え方およびデータベース活用方法を学習します。 コンピュータ利用の大きな目的の一つがデータ管理です。大量のデータを蓄積し、いろいろな条件を指定してデータを抽出する、これを実現するソフトウェアがデータベースです。例えば、学生名簿や成績もデータベースで管理されています。最近話題になっている個人情報の漏洩も、企業のデータベースから誰かが持ち出したものです。 本講義では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社のアクセス(Access)を用いて、データの「入力」、「保存」、「抽出」、「印刷」といったデータベースソフトの基本的な操作を理解しながら、データベースを活用できる能力を習得することを目的とします。 普段あまりなじみのないソフトですが、それだけに、習熟しておくと卒業後もいろいろと役に立ちます。		
教材（テキスト）	『できる Access 2016』インプレス ただし初回は不要です。初回の授業で説明しますので、その後購入してください。		
教材（参考文献）	なし。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	受講態度や取組姿勢など（50%）。課題（50%）。		
到達目標	Access を使ってデータベースを作成することができる。		
準備学習	本日の内容を教科書でしっかり復習しておくこと。また講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		
受講者への要望			
授業は教科書に沿って行うので、教科書は必ず授業に持参すること。			
講義の順序とポイント			
教科書に沿って実習を行います。途中何度か授業の復習として教科書とは別に課題を課します。 1. データベースとは 2. データの保存・・・テーブルとは(1) 3. データの保存・・・テーブルとは(2) 4. 課題 1 作成 5. データの抽出・・・クエリとは(1) 6. データの抽出・・・クエリとは(2) 7. 課題 2 作成 8. データの入力・・・フォームとは(1) 9. データの入力・・・フォームとは(2) 10. 課題 3 作成 11. データの印刷・・・レポートとは(1) 12. データの印刷・・・レポートとは(2) 13. リレーショナルデータベースについて(1) 14. リレーショナルデータベースについて(2) 15. 課題 4 作成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2017	授業コード	JV0280001
科目名	プログラミングＢⅡ	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming BⅡ		
担当者名	坂元　尚美	旧科目名称	
講義概要	現在のコンピュータプログラミングは、多くの人が互いに協力し合って行われている。そのため、協力関係を有効に機能させるための様々な教養もまた、純粋な技術的能力と同様に必要とされている。また、小学校へのプログラミング学習の導入が決定以降、小学生に対するプログラミング教育についても需要が拡大している。 そこで、本講義では、コンピュータや OS の種類にかかわりなく動作するプログラムの作成が可能な Java 言語を用いてコンピュータやプログラミングの基礎知識を学び、これらを踏まえて Java 言語の基本構文やオブジェクト指向プログラミングについて学習する。 また、ロボットプログラミングを用いて、小学生へのプログラミング教育法についての学習を行う。 それら技術・技術教育法に加えて、コンピュータにかかわる基礎的な教養について解説し、他者と協力して行う現代コンピュータプログラミングの基礎的な能力を養う。		
教材（テキスト）	ゼロからわかるＪａｖｅ超入門（改訂新版)佐々木整(著)　技術評論社 H8 マイコンによる組み込みプログラミング入門　ロボットで学ぶ C 言語　ヴィストン株式会社編　株式会社オーム社		
教材（参考文献）	（株）アンク著「Java の絵本 増補改訂版　Java が好きになる 9 つの扉」翔泳社 細川義洋著　「なぜ、システム開発は必ずモメるのか？　４９のトラブルから学ぶプロジェクト管理術」　日本実業出版社		
教材（その他）			
評価方法	プログラミングの技術の到達度（５０点)、課題への取り組み（２５点)、基礎教養への理解度（２５点）		
到達目標	１．Java の基礎を理解し、オブジェクト指向プログラミングの有効性を理解する ２．Beauto Builder2 を用いたロボットプログラミングの習得とその小学生教育へのおようについての理解 ３．教科書から自力で必要な情報を取得し、活用する ４．コンピュータに関係する基礎的な教養を身につけ、他人と協力してプログラミングをするための基礎的な能力を養う		
準備学習	安全保障貿易関連法における「居住者」「非居住者」の違いについて学習すること。 パソコン入門で習う程度の基本的なパソコン操作が確実にできること。 参考文献欄にあげた文献を学期中に読破すること。		

受講者への要望

安全保障関連法における「非居住者」に該当する学生については、初回授業で申し出てください。
Windows やワープロの操作に熟達し、OS やファイルの構成を最低限知っていることが望ましい。
前半では、基本的に教科書に従って講義を進めていくので、教科書は必ず準備すること。
授業時間内に、必要に応じて、上記の文献以外も教材として指定することがありますので、その場合は、半月以内に読破すること。

講義の順序とポイント

講義の順序は受講者のレベルや状況によって入れ替えますので、注意してください
第１回　　プログラミングにかかわる基礎知識
第２回　　Java の基本構造
第３回　　Java プログラムの基本構造
第４回　　変数と配列の構造と理解
第５回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（1）
第６回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（2）
第７回　　制御文と算術演算処理の構造と理解（3）
第８回　　プログラミング基礎知識確認
第９回　　ロボットプログラミング（１）
第１０回　ロボットプログラミング（２）
第１１回　ロボットプログラミングを活用した教育法（１）
第１２回　ロボットプログラミングを活用した教育法（２）
第１３回　オブジェクト指向プログラムの作成(1)
第１４回　オブジェクト指向プログラムの作成(1)

第１５回　オブジェクト指向プログラムの作成(2)
第１６回　オブジェクト指向プログラムの作成(3)
第１７回　クラスの継承とサブクラスの作成（1）
第１８回　クラスの継承とサブクラスの作成（2）
第１９回　オブジェクト指向プログラム確認
第２０回　コマンドライン入力とオブジェクトの作成
第２１回　エラー発生時の処理(1)
第２２回　エラー発生時の処理(2)
第２３回　コマンドライン入力とオブジェクト確認
第２４回　テキストファイル入出力の概要(1)
第２５回　情報理論
第２６回　テキストファイル入出力の概要(2)
第２７回　テキストファイル入出力の概要(3)
第２８回　テキストファイル入出力の概要(4)
第２９回　総合演習(1)
第３０回　Java にかかわる情報理論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	JV0290001
科目名	プログラミングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Programming C		
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
講義概要	WEB アプリケーションを開発するために作られた PHP（Hypertext Preprocessor）というプログラミング言語を使って、ホームページを作る演習を行います。 WEB アプリケーションとは、インターネットを使って利用できる様々なサービスを実行するアプリのことですが、PHP を使うと初心者でもこのようなアプリを簡単に開発できます。 いくつか簡単なホームページを作成することを通して、基本的なプログラムの書き方を理解し、最終的には自分の作りたいホームページを作ってみましょう。		
教材（テキスト）	オフィス加減著　『最初のキホンがやさしくわかる　絵で学ぶ PHP 入門』　アスキー・メディアワークス　１８００円		
教材（参考文献）	山田祥寛著　『１０日でおぼえる　PHP 入門教室（第４版)』　翔泳社　２５８０円		
教材（その他）			
評価方法	平常点（３０％）…受講態度等による。 課題到達度（７０％）…授業中に作成するプログラムの完成度と提出レポートにより評価する。		
到達目標	PHP を使って自分の作りたいホームページを作成することで、プログラミングの楽しさを知る。		
準備学習	毎講義終了時に、次回の講義内容と予習・復習すべき点を指示する。		

受講者への要望

授業に遅刻、欠席しないこと。どうしても欠席する場合も、連続して休まないように。

講義の順序とポイント

1　プログラムを書いてみよう（HTML の基本）
2　最初の PHP プログラム
3　PHP で計算してみよう
4　テキストボックスを使ってみよう
5　現在の日時を表示しよう
6　名簿を作ってみよう
7　繰り返してみよう１（for 文）
8　繰り返してみよう２（while 文と foreach 文）
9　名簿を詳しくしよう
１０　名簿で検索してみよう１（if 文）
１１　名簿で検索してみよう２（switch 文）
１２　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう１
１３　いろいろな形でデータを入力しよう
１４　入力されたデータを受け取ろう
１５　入力されたデータをチェックしよう１
１６　入力されたデータをチェックしよう２（正規表現）
１７　ファイルをつかってみよう
１８　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう２
１９　データベースを作ってみよう
２０　データベースの操作を理解しよう
２１　データベースのデータを編集しよう
２２　データベースのデータを検索しよう
２３　PHP でデータベースを操作しよう
２４　スケジュールを登録しよう
２５　スケジュールの一覧表示をしよう
２６　スケジュールを更新しよう
２７　ここまで覚えたことを使ってホームページを作ろう３
２８　自分の作りたいホームページを作ろう（設計）
２９　自分の作りたいホームページを作ろう（作成）

３０　自分の作りたいホームページを作ろう（改良）

＊　授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	JV0330A01
科目名	マルチメディア表現 s	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Expression (s)		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚しいものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚に訴える作品が作られています。従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ表現が必要になってきています。画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。		
教材（テキスト）	柘植ヒロポン / 加藤才智 / 吉田浩章 / 高橋としゆき　著『Photoshop レッスンブック CC2015～CS4 対応　9784802610025』ソシム，2200 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（45%）受講姿勢等と、各回の作業結果と，完成作品の機能性，デザイン性，システムとしての完成度（55%）の総 合評価とします。		
到達目標	Photoshop で，写真の加工や web のデザインなどが出来るようになること。		
準備学習	ホームページのデザイン，雑誌のデザインなど，デザイン全般を注意しておくこと。		
受講者への要望			
基本的な技術を積み重ねて創作していくので，各回の内容をよく復習しておくこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心が けてください。			
講義の順序とポイント			
1.Photoshop の基本・ペイントツールとパネルの操作 ２.文字ツール 3. 選択ツールの理解と実践 基本的な選択ツール 4. 選択範囲の加工・修正・保存 5.レイヤーの基本機能 6. レイヤーの応用・階層・スタイルの習得 7.シェイプ 8.自主制作 9. 写真を加工 フィルター機能のぼかし・色相・彩度・露光量の調整・塗りつぶし 10. 写真を加工 レタッチ・ハイダ名ミックレンジ画像・イラスト風加工 11.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る?：調整レイヤーのレベル補正・色相・彩度・レイヤースタイルのグラデーションオーバ ーレイ 12.フィルター機能を使ってゼロから作品を作る?：フィルタの雲模様・ブラシストローク・レイヤースタイルの組み合わせ 13.ブログデザインを作る 14.プログデザイン等の自主制作の立案・試行 15.プログデザイン等の自主制作の完成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2017	授業コード	JV0330B01
科目名	マルチメディア表現 f	単位数	2
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Expression (f)		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
講義概要	現在のメディアの世界で、コンピュータによる表現には目覚しいものがあります。文字情報だけでなく、視覚・聴覚に訴える作品が作られています。従来の広告・デザインなど特殊な分野だけではなく、一般のビジネスや教育の分野にもそのようなコンピュータ表現が必要になってきています。画像、音声、文字などを組み合わせ、作品制作を通して、メディア表現ができる能力獲得を目指します。		
教材（テキスト）	加藤才智，まつばら あつし 著 『Flash レッスンブック Flash CS6』ソシム　2012 年刊　2484 円		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（45%）出席姿勢等と、各回の作業結果と，完成作品の機能性，デザイン性，システムとしての完成度（55%）の総合評価とします。		
到達目標	Flash で，動きのあるホームページを作成すること。		
準備学習	WEB デザインのなかで，アニメーション関係のサイトを閲覧しておくこと。		

受講者への要望

基本的な技術を積み重ねて創作していくので，各回の内容をよく復習しておくこと。他の受講生の迷惑になる行為をしないように心がけてください。

講義の順序とポイント

1.Flash について
2．アニメーションの基本のキホン　モーショントゥイーン
３．モーションプリセット・モーショントゥイーンの応用
４.動くコンテンツを作る　ボタン　オープニングムービー
５．アニメーションのさまざまなテクニック　フレームアニメーション・マスク・３D 回転ツール
６．アニメーションのさまざまなテクニック　他のアプリケーションのデータの利用・テクニックの応用
７．　シーンを分けてストリーのある動画を作成
８．Actionscript の基本
９．サウンドとビデオの利用
１０．ムービーの活用
11.アクションスクリプトを利用して車の制御
12．アクションスクリプトを利用して写真のスライドの制作
13.Flash で一貫した Web サイトを制作
14.アニメーションの自主制作　　試行と立案
15.アニメーションの自主制作　　完成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2017	授業コード	T20085B01
科目名	マーケティングⅡ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing Ⅱ		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	現在の消費の多様化に対して進化する、戦略的マーケティングの考え方についての講座です。基本的なマーケティングを基礎として、その応用編かつ実践編になります。 大衆によるマス消費から、個人による消費対象の多様化、さらに社会の課題を共有するコミュニティによる消費行動の多様化に至る道を、事例を通して包括的に学びます。		
教材（テキスト）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第 4 版)』有斐閣アルマ　2000 円＋税		
教材（参考文献）	授業の進行とともに、参考文献を提示します		
教材（その他）	パワーポイントを授業時に配布		
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●マーケティングのダイナミクスを実感する ●マーケティングの最先端の課題を知り、それに応じて進化するマーケティングを学べる ●マーケティングを活用して「社会を変える」「社会を良くする」ことを考えられる企画頭になる		
準備学習	その時のホットトピックスを解説しますので、意見を言えるように、常に新聞や情報番組で社会で起きていることにアンテナを張っていてください。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 戦略的マーケティングとは
2. 企業の成長と事業戦略
3. 競争戦略
4. 消費者の進化
5. トレンドとヒット商品
6. モノからコトへ　サービスのマーケティング
7. 満足化のマーケティング
8. マイクロトレンド　小さいけれど社会を変える市場
9. スペンド・シフト　お金の使い方の変化
10. ソーシャル消費
11. キュレーション　消費者同士が盛り立てる市場
12. マイクロファイナンス　社会を変える投資的消費
13. メイカーズ・ムーブメント　プロシューマーと呼ばれる「作る消費者」
14. マーケティング 3.0　消費者が商品を通して社会をデザインする共創消費
15. 社会を変えるマーケティング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T20374001
科目名	現代アメリカ事情 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Current Topics in the U.S.A.		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後、アメリカ合衆国は日本にとって最も身近な存在の一つとなっています。しかし、今世紀に入り、9･11 同時多発テロ、イラク戦争勃発、トランプ大統領就任などの出来事があり、アメリカの実情は複雑なものと言えます。でもこのことは決して突発的なことではなく、宗教的、歴史的なものをはじめとしたアメリカの様々な背景があってのことです。本講義ではアメリカの家族、教育、宗教、経済、地域文化など様々な観点で現代アメリカをとらえていきます。		
教材（テキスト）	プリントを配布します。毎回授業後にコメントを書いてもらいますので、受講生は講義内容のメモを取ることができるようにしておいてください。		
教材（参考文献）	なし。授業中に指示します。		
教材（その他）	なし。		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー30%、学期末レポート 70%で評価。なお、欠席 6 回で失格とします。		
到達目標	アメリカの諸問題について関心をもち、様々な角度から問題点などを考察することができるようにします。		
準備学習	新聞やテレビなどを通じてアメリカでのさまざまな出来事に関心を持っておくと同時に、どうしてそのようなことが起こったのかを考察するように心がけてください。授業中でも講義で取り上げるテーマにあわせて説明します。		

受講者への要望

アメリカに対するイメージをあれこれ頭に思い浮かべてください。（もちろんみなさんが持つイメージは現状と違っていいです。）講義中にコメントや意見を言っていただくこともあります。（ちなみに「答え」ではないですから「正解」を出す必要はありません。）講義はしっかり聴いてメモをとるように心がけてください。

講義の順序とポイント

ここに講義の順序を記載します。もし授業中での学生のコメント、意見や議論が活発になれば、授業進行が変更になることも考えられます。

1. 授業の説明、アメリカ概説～自由の国アメリカ
2. 地域文化～中西部アメリカと西部アメリカ
3. 地域文化～東部アメリカと南部アメリカ
4. 人種問題～移民の国アメリカ
5. 人種問題～同一民族のコミュニティーは何のため？
6. 宗教問題～神への強い信仰心
7. 宗教問題～アメリカ人はオカルト好き？
8. ここまでのまとめ
9. アメリカの家族～夫婦関係は？いつ子どもは成人に？
10. アメリカの教育～教育現場でのいじめは？義務教育でも学校行かず？
11. 銃規制～何のための銃？
12. テロの脅威～９・１１の余波
13. 軍事問題～イラク戦争の意義は？
14. アメリカ企業のしくみ
15. まとめ、期末レポートの説明

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	T30196001
科目名	広告ビジネス論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Advertising Business Studies		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
講義概要	「説明」ではなく「説得」のビジネスとしての広告ビジネスへの理解を学びます。 広告メッセージの作り方を知るためのコンセプトづくりの技術、伝える相手（ターゲット）に有効に伝えるために徹底的にターゲットを研究する手法としてのセグメンテーション(細分化)とポジショニング、買ってもらうためのコミュニケーションから買い続けるためのコミュニケーションを提唱するブランド論、そしてインターネットが登場して以降のオムニチャネル対応など、広告の有効性と限界、その特性について学びます。 普段何気なく見ている広告の裏にも緻密な戦略や企画、アイデアがあることを知り、面白さを追求しただけに見える広告コミュニケーションにも単なる思い付きではなくビジネスとしての厳しい戦略性、コスト意識、リスクテイクを求められていることを学びます。		
教材（テキスト）	岸志津江・田中洋・島村和恵『現代広告論　新版』有斐閣アルマ 2,268 円		
教材（参考文献）	電通「日本の広告費」　電通ホームページ		
教材（その他）			
評価方法	小レポート(15%)、授業時の発言の積極性(15%)、期末レポート(70%)		
到達目標	●広告の裏にあるビジネスとしての広告業を理解する ●アイデアを提案するためのロジックが使えるようにする ●社会課題のソリューションとしての広告ビジネスの現状を理解する		
準備学習	テレビ広告を話題にすることが多いので、意識的にテレビ広告を見るようにしてください。 また、毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習をしてください。		

受講者への要望

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」を評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●ほぼ毎回、授業の最後に小レポートの提出を求めます。
●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

講義の順序とポイント

1. 広告コミュニケーションとは　広告の種類と機能
2. 広告ビジネスの流れ　オリエンから媒体計画まで
3. マーケティング調査
4. 広告戦略の構築
5. コンセプトと広告表現
6. 杉山登志の広告
7. テレビ広告表現分析 80 年代①
8. テレビ広告表現分析 80 年代②
9. テレビ広告表現分析 90 年代
10. テレビ広告分析 90 年代
11. インターネットと連動した広告
12. ビッグデータの時代
13. イベントのプロデュース
14. 広告ビジネスの課題
15.広告のための アイデア発想の手法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	T30509A01
科目名	フィールドワークゼミA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T30509B01
科目名	フィールドワークゼミB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T40027001
科目名	消費者法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
講義概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社） 日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社）		
教材（その他）	資料を京学なびにて配付する。各自講義までにプリントしておいて頂きたい。		
評価方法	講義の要所要所において行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	消費者とはどのような存在か、消費者問題とは何か、消費者問題にいかに対応するかを理解する。		
準備学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメを事前にプリントして一読しておくこと。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。		

受講者への要望

・平行して民法の講義も受講しておくこと。特に民法総則の知識があるのが望ましい。
・六法を必ず持参すること。

講義の順序とポイント

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法 1
   契約法の一般原則と消費者契約
   民法の契約ルールとその限界 1
5. 消費者契約と民事法 2
   民法の契約ルールとその限界 2
6. 消費者契約と民事法 3
   約款による取引
7. 消費者契約と民事法 4
   消費者契約法の内容 1
8. 消費者契約と民事法 5
   消費者契約法の内容 2
9. 消費者契約と民事法 6
   事業者の責任
10. 特定商取引法 1
   特定商取引法とは何か
   訪問販売 1
11. 特定商取引法 2
   訪問販売 2 ―クーリング・オフ
12. 特定商取引法 3
   マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法 4
   通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法 1

個別信用購入あっせんとクーリングオフ 15. 割賦販売法 2 個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50001001
科目名	ＣＭ表現論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Commercial Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	この科目は、教員による講義と、それをふまえ、受講者による広告や CM 表現の制作実習（学生がじっさいに広告表現案を作成し、発表する）を組み合わせて行う参加型の授業である。 日本は世界第二の広告大国であり、半世紀の歴史をもつ CM は、時代変化の波にさらされつつ成熟した表現文化を作っている。 限られたスペース・時間の枠内で視聴者に強い印象やインパクトを残す広告や CM 作品には必ず、マーケティングやコミュニケーション活動における何らかの課題解決に向けた送り手（企業、行政、団体、個人……）の強い意思とメッセージ（「誰に何を伝えたいのか！？」）が込められている。 マーケティング計画やコミュニケーション戦略の中での広告・CM 表現の制作の実際や、送り手の課題解決に適したさまざまな表現手法があることを知り、「戦略と表現」「メッセージとそのプレゼンテーション技法」のあり方について考え、受講生が自分なりの方法でそれらをデザインしていく手がかりを探す。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 中山幸雄・丸山顕・杉本健二・渡部秀人『CM プランナー入門』、電通、2007 年 山田奨治編『文化としてのテレビ・コマーシャル』世界思想社、2007 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内での広告制作課題（２回程度)、期末レポートないし広告作品の制作（60%）		
到達目標	広告・CM の制作プロセスと表現手法について知り、マーケティングや PR 活動における課題解決に向けたさまざまな戦略をどのようにメディア表現に落とし込むかを、実際の制作実習を通じて体験し、考える。		
準備学習	１）授業内で出される広告・CM 表現の制作課題を持ち帰り、各自がじっさいに広告や CM の企画や作品を作成し、授業で発表すること（＝授業時間外の作業が必要となる)。このため、前年度までに（あるいは並行して）「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などの制作実習科目を履修しておくことが必要である。 2）日頃、テレビやインターネット、印刷媒体などでさまざまな広告表現に意図的に接しておくこと。 3）さまざまな広告表現を受け手の立場で漫然と眺めるのではなく、作り手の立場に立って分析的にとらえる発想転換のトレーニングをしておくこと。		

受講者への要望

受講生は人間文化学部配当の「メディア表現実習」「映像制作実習」「デジタル映像編集実習」「デジタル出版編集実習」などで、映像制作、グラフィック制作などの基礎技術を習得しておくことが望ましい。コマーシャル、広告表現や、その制作や奥深さに好奇心を抱き、広告作品の制作に強い意欲を持つ人の受講を求めます。

講義の順序とポイント

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　広告・コマーシャルの基礎知識：さまざまな広告・CM 表現を見て、考える
第 3 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（1)：広告クリエイターの制作の実際を見る
第 4 回　広告・コマーシャルの制作プロセス（2)：広告事例にもとづき、制作プロセスを学ぶ
第 5 回　マーケティング戦略と広告表現：特定製品分野の CM 表現戦略（シャンプーなど）
第 6 回　CM 表現のイメージ構成手法（「反復」と「比較」など）
第 7 回　広告・CM 制作課題の発表（1）
第 8 回　CM クリエイターの手法研究（1)：佐藤雅彦
第 9 回　CM クリエイターの手法研究（2)：佐藤可士和
第 10 回　CM クリエイターの手法研究（3)：箭内道彦
第 11 回　CM クリエイターの手法研究（4)：堀井組と市川準
第 12 回　広告・CM 制作課題の発表（2）
第 13 回　CM 音楽の役割と効果：近年の秀作 CM 音楽
第 14 回　日本と世界の CM 作品
第 15 回　最終制作作品・レポートの発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50010001
科目名	アニメ制作実習 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Making Animations		
担当者名	有吉　末充	旧科目名称	
講義概要	本実習では、まず「なぜアニメは動くのか」の基本原理を理解することから始める。それに基づいて「動き」分解する練習を行い、動画用紙を使って各自動画を描き、その動画を撮影して、動きを描くコツをつかむ。基本的なアニメートの技術が習得できたところで、授業後半では、受講者の希望に応じて、絵(ドローイングアニメ)、立体物（粘土、人形など）を動かして短編アニメーションを制作する。機材の操作法、撮影のためのセッティングも学習する。テレビアニメのようなセル・アニメについては技法は紹介するが課題としての制作はしない。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。授業で必要なことはレジュメで配布する。		
教材（参考文献）	プレストン・ブレア著『アニメーション・イラスト入門』マール社、『アニメーションベーシックス』BNN、ほか必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）	過去の受講生の作品など参考作品を上映する。		
評価方法	実習参加態度 50%、課題作品 40%、授業への質問など 10%		
到達目標	基本的なアニメーションが自分で作れるようになる。		
準備学習	人物やものの動き方について興味を持って観察する習慣を身につけること。鉛筆で紙に絵を描く練習をしておくこと。いわゆる「アニメ絵」の描き方は練習する必要はない。		
受講者への要望			
自由な発想で「動き」を作り出していけるような想像力を身につけること。細かい作業に集中して取り組むので体調管理に気をつけること。			
講義の順序とポイント			
1 日目 1、オリエンテーション 2、アニメーションの原理 3、「動き」を分解する 4、平面アニメーションの制作法 5、動画制作練習と撮影テスト 2 日目 1、立体アニメーションの制作法(受講生の希望に応じてドローイングアニメを継続する場合もある） 2、立体物（粘土、人形）の制作 3、撮影機材の操作法 4、撮影のためのセッティング 5、立体アニメーションの制作練習 3 日目 1、自主作品（短編アニメ）制作 2、発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50011002
科目名	アニメ文化論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Anime Cultures		
担当者名	有吉　末充	旧科目名称	
講義概要	アニメーションとマンガは今や世界的な日本の文化となっている。本講座では、まずアニメーションの歴史と様々な技法を俯瞰した上で、日本のアニメーションの黎明期から現在までの発達史をたどりながら、日本のアニメーションの特徴を分析し、なぜアニメーションがここまで発達したのか、その文化的背景や、表現としての将来の可能性について検討する。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。		
教材（参考文献）	五味洋子『アニメーションの宝箱』ふゅーじょんぷろだくと。その他必要に応じて授業内で紹介する。		
教材（その他）	ビデオなどの副教材を使用		
評価方法	平常点（40%）出席状況等による（そのうち受講態度 30%、質問等授業参加度 10%。）小レポート（60%）		
到達目標	アニメに関する視野をひろげ、文化としてのアニメについて様々な角度から考察できる視点を獲得することを目的とする。		
準備学習	開講 1 週間前に https://allifrex02.wixsite.com/mysite 「レクチャー」に掲載のレジメを事前に読んで概要を把握しておくこと。疑問があれば質問できるようにしておくこと。		

受講者への要望

映像をたくさん見ることになるが、比較検討の材料とするので漫然と見ないように。私語は禁止。できれば授業中に紹介した作品のうち何本かは後で通しで観ることが望ましい。小レポートは必ず提出すること。

講義の順序とポイント

1、アニメーションとは何か
2、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（1）
3、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（2）
4、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（3）
5、アニメーションの発達史（セル・アニメを中心に）（4）
6、アニメーションの様々な技法（1）（平面的な技法）
7、アニメーションの様々な技法（2）（立体的な技法）
8、アニメーションの様々な技法（3）（ＣＧ、その他の技法）
9、日本のアニメーションの歴史（1）黎明期から政岡憲三へ
10、日本のアニメーションの歴史（2）東映動画の誕生とそのスタイルの成立
11、日本のアニメーションの歴史（3）テレビアニメの誕生と発展
12、日本のアニメーションの歴史（4）テレビアニメの発展・メカと戦闘
13、日本のアニメーションの歴史（5）テレビアニメの発展・アニメとヒロイン
14、日本のアニメーションの歴史（6）東映動画からジブリへ
15、日本アニメの現在から未来へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	★★	★★

年度	2017	授業コード	T50036A01
科目名	ジャーナリズム論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism A		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	ジャーナリズム論を学ぶ目的は現代社会の仕組みを知り、それらに対する健全な批判精神を養う点にあります。そのために日々、私たちの周りで起きている様々な出来事や社会事象を正確に理解し、その本質を見抜くことが不可欠で、そのような観点から新聞やテレビ、雑誌などの報道を仔細に検証します。そのことによって、より高度な社会常識が醸成されると同時に、マスコミに就職したい学生諸君にとっては入社試験対策の一助になると思います。それと併せて、メディアに限らず、一般企業に就職する際にも培われた社会常識は役立つと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズムーー岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々の授業で取り上げる「ニュース」について、各種新聞記事やデータ、さらに国内・海外のテレビ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	プロのジャーナリストでもある私のニュース解説や分析を聴いてもらいたいので、是非とも積極的、能動的に授業に出席して講義に耳を傾けてください。就職の際にもきっと役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点（30%）、授業内レポート（10%）、授業内に実施する行う「小テスト」2 回(計 60%)です。		
到達目標	ジャーナリストになることを希望する学生にとって、この授業がその基礎知識になることは言うに及ばず、社会人としての最低限の常識を養うという点において、就職する際にかなり役立つと思います。つまり、いま問題になっている社会事象を正確に理解し、それに対する的確な批判力を身に付けることが目標なわけで、是非ともそのような感度の高い情報人になってほしいと思います		
準備学習	授業では新聞やテレビで報道されているその時々のニュースを具体的に教材として取り上げ、そのことを通してジャーナリズム原論に迫るのが第一の目標です。そのために次の授業のために教科書や事前配布の資料を読み込んで予習をすることが肝要です。それに加えて、その時々のニュースを新聞や新聞社のウェブサイト、さらにテレビのニュースなどを通じてよく把握、理解しておいてほしいと思います。また、授業終了時に課題を出してその日の授業の復習をしてもらい、次回の授業で提出してもらいます。 1.「ジャーナリズムの社会的存在意義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「ネット時代のジャーナリズム」「知と情報の公共圏との論壇ジャーナリズム」の項を読んで概要を把握しておきてください。 2.「民主主義と国民の知る権利、報道の自由」については、教科書の「疑わしきは報道すべき」「知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」「社会の道標としてのジャーナリズム」の項を中心に予習しておいてください。 3.「マス・メディアにおけるニュースの定義」については、事前に配布した各種資料を熟読して理解を含めておくことと、教科書の第３章「ニュースの大衆化」「視聴者本位のニュース」（49 ページ～69 ページ）などを読んでおくこと。 4.「発表ジャーナリズムとメディア・スクラムの功罪」につては、配布した新聞記事と併せて、教科書の第８章「発表ジャーナリズムとメディア・スクラム」全体に目を通しておいてください。 5.「松本サリン事件と誤報」については、教科書の「松本サリン事件における集団誤報道」（170 ページ～174 ページ）と、そのうちの「犯人と疑われた河野義行」の項に関する新聞記事資料をよく読んでおいてください。 6.「坂本弁護士一家拉致殺害事件とオウム」については、教科書の「坂本事件と TBS の責任」（174 ページ～179 ページ）を読んで理解しておいてください。 7.「所沢ダイオキシン報道」にｔついては、教科書の「所沢ダイオキシン報道による風評被害と裁判」（185 ページ～196 ページ）をよく読んで、事実関係と専門用語の理解に努めてください。 8.「雑誌ジャーナリズムとプライバシー侵害報道」については、事前配布の名誉棄損裁判の判決資料と教科書「第９章」に掲載したプライバシー侵害判決例をチェックすると同時に、国民の知る権利と個人情報保護の法的な関係を予習しておいてください。 9.「週刊文春の出版禁止仮処分」については、教科書の「週刊文春をめぐる報道の自由とプライバシーの侵害」（202 ページ～221 ページ）を事前に読んで事実関係と法的意味をよく理解しておくこと。 １０.「東電女性社員殺人事件報道」については、配布資料に加えて教科書の「死者の尊厳を冒す東電女性社員殺人事件の暴露報道」（197 ページ～202 ページ）をよく読んで理解しておくこと。		

	１１.「実名、匿名報道」については、参考に事前配布した新聞記事と教科書の第１０章「メディアによる実名・匿名報道と個人情報」全体に目を通しておいてください。 １２.「週刊誌の実名報道と少年法」については、教科書の「神戸小学生連続殺傷事件」「週刊新潮の顔写真掲載」「インターネットによる少年の個人情報」などの項（222 ページ～229 ページ）を読んで事実関係を理解しておくこと。 １３.「個人情報保護法と取材報道の自由」については、事前配布の各種資料と教科書の「個人情報保護法によって大きな制約を受ける報道」（232 ページ～238 ページ）に記載されている実例について理解を深めておくこと。 １４.「警察権力による匿名発表」については、事前配布データと同時に教科書の「国民の知る権利を阻害する警察権力の匿名発表」（229 ページ～232 ページ）をよく読んで、警察発表になぜメディアが反発ｓｊひたのか予習しておいてください。 １５「ジャーナリストを目指すためには」については、教科書全体をもう一度目を通すとともに、第１２章「ジャーナリズムとアカデミズムは連携できるか」、その中でも「ジャーナリスト志望学生のニーズに合わない教育内容」や「大学院におけるプロフェッショナル研修」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」の項に記した予習と復習を確実に行ってください。講義者は３２年間のジャーナリスト経験のあるプロなので、ともかく授業に積極的に出席して、そのニュース分析や解説などに熱心に耳を傾けてほしい。それは、いわば新聞社におけるデスク会の再現のようなもので、そのような体験の積み重ねがジャーナリストとしての感性を養うことに繋がると思います。遅刻や私語は厳禁とします。私語が過ぎれば退出を求めることもあります。ともかく、常識や偏見にとらわれない自由な発想を育成したいと思っています。このジャーナリズム論を受講する学生諸君には、教科書が同一で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」（福永担当）を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

１　ジャーナリズム、メディア、ジャーナリストの社会的存在意義
２　民主主義の根幹としての「国民の知る権利」と取材・報道の自由
３　新聞・テレビなどマス・メディアにおける「ニュースの定義」とその時代的変容
４　発表ジャーナリズムとメディア・スクラム（集団的過熱取材）の罪
５　「松本サリン事件」におけるメディアの集団的「誤」報道
６　坂本弁護士一家を死に追いやった「TBS」の責任
７　「所沢ダイオキシン報道」に象徴される風評被害と司法の判断
８　社会を鋭くえぐる雑誌ジャーナリズムとそのプライバシー侵害報道
９　「週刊文春」のプライバシー報道とそれに対する出版禁止仮処分
１０　全国紙も報じた死者の尊厳を冒涜する「東電女性社員殺人事件」報道
１１　メディアによる「実名」「匿名」報道の意義と個人情報の保護
１２　週刊誌などの実名報道によって形骸化する「少年法」と人権侵害
１３　「個人情報保護法」によって制約を受ける取材の自由と報道の自由
１４　「国民の知る権利」を阻害する警察権力による匿名発表
１５　ジャーナリストを志す学生諸君のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	T50036B01
科目名	ジャーナリズム論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Journalism B		
担当者名	福永　勝也	旧科目名称	
講義概要	私たちが暮らしている現代社会は高度に情報化され、人々は膨大な情報の中で生活することを余儀なくされています。それらの情報の最大の発信者である新聞やテレビ、雑誌などマス・メディアの実態や、大衆に対するマス・コミュニケーション機能の仕組みを知ることは、「情報化社会」において必要不可欠といっても過言ではありません。また、インターネットや携帯電話の爆発的な普及など、新しいメディアの出現も無視できません。この授業では、このような視点でマスコミの現状や実態、取材から報道までのプロセス、さらには報道されたニュース解析や解説なども行います。マスコミ志望者はもちろんですが、日々報道されるニュースを“教材”として取り上げるので、一般企業の入社試験で出される「社会常識」対策としても大いに役立つかと思います。		
教材（テキスト）	『衰退するジャーナリズム――岐路に立つマス・メディアの諸相』（福永勝也著・ミネルヴァ書房）		
教材（参考文献）	その時々、話題になっている「ニュース」に関する新聞記事や各種データの配布、さらに国内・海外のニューズ映像を見てもらいます。		
教材（その他）			
評価方法	授業に積極的、能動的に出席して、プロのジャーナリストである私のニュース解説や分析を是非とも聴いて下さい。それは、必ずや就職の際に役立つと思います。評価は出席状況などを含む平常点(30%)、授業内レポート(10%)、授業内で実施する「小テスト」2 回（計 60％）です。		
到達目標	現代社会において問題化している事象を正確に理解し、それに対する客観的な判断力の養成を目標とする。つまり、一般常識や情報感覚を養うことになるが、マスコミ志望者にとっては、その希望がかなうようになってもらいたい。そのような目的意識を持ってメディアリテラシー力も醸成してもらいたいと思います。		
準備学習	授業ではジャーナリズム理論を学ぶのが第一の目標なので、教科書や事前配布資料の読み込みなどによる専門用語や事実関係の理解のための予習が欠かせません。それに加えて、この授業ではその時々のニュース報道を分析することも大事で、そのために新聞やテレビのニュース、さらにはメディアのウェブサイトへのアクセスによって、いま、世の中で何が起き、何が問題になっているのか、情報に敏感になっておいてください。また、講義終了時に宿題を出しますので、次回の授業時に復習の課題文を提出してもらいます。 １.「ジャーナリズムと商業主義」については、教科書の「はしがき」（ｉ～ｖ）と「新聞ジャーナリズムの存在価値」「利益追求と公益性」の項などを読んで予備知識を得ておいてください。 ２.「放送の自律性の危機」については、事前に配布した資料に加えて、教科書の「朝日新聞による NHK 番組改変報道」（129 ページ～139 ページ）をよく読んで予習しておいてください。 ３.「「政治報道とメディア」ついては、事前配布した椿報道局長発言問題の資料と教科書の「政治報道における不偏不党性と公平性」（139 ページ～152 ページ）の項を読んで事実関係を把握しておくこと。 ４.「メディアと戦争」については、教科書の第Ⅳ部「社会の道標としてのジャーナリズムに求められる課題」全体を読み、戦争報道においてメディアに何が課されているのかを理解しておいてください。 ５.「大本営発表」とイラク戦争」については、双方に関する新聞記事資料に加えて、教科書の「正義の戦争に仕立てる国際世論操作」の項（241 ページ～244 ページ）を予習しておいてください。 ６.「「見せる戦争と見せない戦争」については、軍当局による取材報道規制について言及している教科書の「見せる戦争、見せない戦争と発表ジャーナリズム」（244 ページ～247 ページ）を読んで理解しておくこと。 ７.「アル・ジャジーラの戦争」については、かつて「ＣＮＮの戦争」と形容された湾岸戦争との報道比較をした教科書の「アル・ジャジーラの戦争としてのイラク戦争報道」（254 ページ～262 ページ）を読んで、両者の相違を予習しておくこと。 ８.「ナショナリズムとアメリカ・メディア」については、事前配布資料と教科書の「ナショナリズムの鼓舞に利用された米国メディア」（262 ページ～264 ページ）を読んで予習しておいてください。 ９.「戦争の真実に肉薄するフリージャーナリスト」については、各種フリージャーナリストの関係資料と教科書の「パレスチナホテルで記者が死傷」「従軍記者」「フリーランス」の項を読んで予備知識を得ておいてください。 １０.「日本マス・メディアとイラク戦争」については、教科書の「戦場から撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”」（264 ページ～267 ページ）をよく読んで事実関係を把握しておくこと。 １１.「ジャーナリズムと知識人」については、事前配布の資料とともに教科書の「情報化社会における知の		

	大衆化と知識人の役割」（274 ページ～276 ページ）を読んで予習しておいてください。 １２.「「朝まで生テレビと知識人」については、同番組の常連出演者の名前や経歴に加えて、教科書の「朝まで生テレビに常連出演する知性の人々」（283 ページ～288 ページ）、その中でも「衆愚的なマスを意識した論点の単純化」の項をよく読んで理解しておいてください。 １３.「知と情報」の公共圏」については、中身がかなり難しいので、教科書の「論壇知識人」「論壇ジャーナリズム」「知のトライアングル」の項をよく読んで理解しておくこと。 １４.「ウォルター・リップマン」については、これも難解な理論が展開されているので教科書の「論議を呼ぶウォルター・リップマンの大衆論」、中でも彼が主張する「世論」「疑似環境」「軟弱な大衆」の項を重点的に読んで理解を深めておくこと。 15.「大学におけるジャーナリズム研究」については、教科書全体の主題であると同時に第１２章に集約されているので、のとりわけ同章後半の「ジャーナリスト養成教育」「大学院の在り方」「インターンシップ」「プロフェショナル研修」「米国大学との比較」の項をよく読んで予習しておいてください。

受講者への要望

マスコミ特有の専門用語を理解するためにも「学習準備」に記した予習や復習を確実に行ってください。私はプロのジャーナリストなので、ともかく能動的に出席して、日々のニュースをどのように分析するのかを体験して勉強してもらいたい。ジャーナリズムは社会事象に対する認識力と批判力が根本といえます。その意味で、世の中で一体、何が起きているのか、出来るだけ日々のニュース報道を自身の頭で考え、友人たちと議論するなど“情報感度”を磨いておいてください。授業中の私語、遅刻、早退などはほかの受講生の迷惑になるので退出を求めることもあります。ともかく、問題意識をもって社会に対する見識を磨いてください。それから、この科目を受講する学生諸君には、教科書が一緒で全学共通の関連科目「マスコミ論 A・B」を是非とも受講することを薦めます。

講義の順序とポイント

1　「衰退するジャーナリズム」を取り巻く商業主義的な諸現象
2　放送の自律性の危機ーー「NHK 番組改変」において政治権力の介入はあったのか
3　「政治報道」におけるメディアの不偏不党性と公正・公平性
4　メディアは本当に「戦争の真実」を伝えているのか
5　「大本営発表」とイラク戦争を「正義の戦争」に仕立てた国際世論操作
6　「見せる戦争」「見せない戦争」と当局による取材規制・発表ジャーナリズム
7　欧米メディア中心の「CNN の戦争」から「アル・ジャジーラの戦争」報道へ
8　当局によってナショナリズムの高揚に利用されたアメリカ・メディアの失態
9　戦争の真実に肉薄するフリージャーナリストたちの活躍と悲劇
１０　戦場から総撤退した日本マス・メディアの“軟弱ジャーナリズム”
１１　情報化社会におけるジャーナリズムと知識人の連携は可能か
１２　「朝まで生テレビ」（テレビ朝日）に常連出演する“知性の人々”
１３　「知と情報」の公共圏としての論壇ジャーナリズムの存在意義
１４　論議を呼ぶウォルター・リップマンの「大衆論」とジャーナリズム
１５　大学におけるジャーナリズム研究と不十分なジャーナリスト養成教育

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	T50044001
科目名	スタジオ放送実習 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Studio Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	「放送」は情報伝達手段、娯楽提供手段として、デジタル時代に益々その重要性を高めている。デジタル放送で多チャンネル、双方向、高画質、データ放送などのサービスが期待されるが、そこでは何より重要視されるのが”コンテンツ”の中身である。本実習では受講生で担当スタッフを編成し、メッセージ性のあるラジオ番組とニュースショー形式のテレビ番組の企画・構成、取材・撮影、編集などを行い、最終的に放送実施することで、「スタジオ放送」の技術と知識を習得する。 なお本実習は地域貢献のために、学生と地域とが協働し、まちづくりに役立つ発信を行うことをめざす授業でもある。		
教材（テキスト）	プリントを随時配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	本学マルチスタジオを使って、「ラジオ」と「テレビ」放送の基礎的な知識と技術を習得する。		
準備学習	日常的にラジオ、テレビ番組を制作者の視点で視聴すること。		

受講者への要望

放送（ラジオ、テレビ）と映像制作に関心があり、チーム作業ができること。実習時間外も使って行うこともある。少人数参加型の実習のため希望者多数の場合は選考を行うことがある。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

秋学期
①ラジオスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成
②ラジオ副調整室の音響機器操作
③ラジオ番組の企画・構成、選曲
④　　同
⑤ラジオ番組放送・リハーサル
⑥ラジオ番組放送・本番(校内放送ほか）実習ラジオ作品の審査と合評
⑦テレビスタジオの構造と機能について、放送スタッフ編成
⑧テレビスタジオの映像・音声機器操作
⑨「ニュースワイド」番組の企画・構成
⑩　　同
⑪～⑬「ニュースワイド」のニュース映像取材ニュース映像編集作業
⑭テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・リハーサル
⑮テレビスタジオ「ニュースワイド」放送・本番　（校内放送ほか)、実習テレビ作品の審査と合評

協働概要
・学生と市民との共同企画会議
・学生・市民による共同取材、制作

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2017	授業コード	T50045001
科目名	テレビ局番組制作実習 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical TV Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	本実習は、ＫＢＳ京都（京都放送）テレビが毎週月～金,午後 5 時 45 分～6 時に放送しているニュース情報番組「news フェイス」の学生スタッフとしてアシスタント、テロッパー、カメラマン助手など実際のニュース情報番組の制作などに携わりながら、テレビ番組の制作ノウハウを体験的に学ぶものである。 「news フェイス」は京都で起きた出来事や歳時記を中心に伝えるニュースと暮らしや生活に役立つ情報を届ける番組で、速報はもちろん、わかりやすく、的確に、伝えることをモットーにしている。 主な実習内容は 毎週１曜日午後 4 時～6 時半までの番組のスタッフとして参加。報道局のデスク、番組ディレクターの指示に従う。（お茶汲みやコピー、タクシーの手配など雑用も多く、社会体験を学ぶことにもなる） 準備等を含める時間としてテレビ局での実習時間は毎週１曜日午後 4 時から 6 時半までとなるが,場合によっては時間を超えることもある。（デスク・ディレクターの判断に委ねる） よって本実習は、上記内容に合わせて行うもので、拘束時間は通常の講義時間に合わせることは不可能であることを認識しておくことが必要。		
教材（テキスト）	報道で体験実習で学ぶ		
教材（参考文献）	現場の指示に従い、体験実習を得る。		
教材（その他）	現場責任者から指導等も受ける。		
評価方法	定期レポート及びテレビ局報道責任者の報告などによって評価する。		
到達目標	報道と番組制作の現場を知ることによって、見る側と作る側の視点から、メディアリテラシーを学ぶとともに時間の大切さ、番組作りにおけるチームワークの必要性などを体得する。		
準備学習	日頃から新聞、ニュース番組などメディアを通して、社会の出来事に高い関心を持つこと。		
受講者への要望			
定員は１名（面談で選考する） テレビ放送、報道・制作に強い意欲と関心を持っていること。 期間は４月から７月で、実習日は週１曜日(調整）のみとなる。 テレビ局の実習において迷惑行為はもちろん遅刻・欠席（余程の事情がない限り）をしてはならない。 交通費など諸費用は各自が持つこと。 保険等は大学と交わすこと。			
講義の順序とポイント			
春学期 ①　　実習ガイダンス（ＫＢＳ京都テレビ局見学兼） ②～⑭　　ＫＢＳ京都「news フェイス」ニュース情報番組実習 ⑮　　まとめ（実習成果発表）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2017	授業コード	T50047001
科目名	テレビ放送論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of TV-Broadcasting		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	
講義概要	テレビ放送のデジタル化は、視聴者に多種多用な番組の選択のチャンスを与えることを期待されているが、現実にはチャンネルの急激な増加に番組ソフトが追いつかず、視聴率競争激化の中で過去の人気映画と過激な報道、バラエティ番組が主流を占めるのではないかと危惧されている。現に、感動的なドキュメンタリーがある一方で、悲惨な戦争映像に胸を痛めている隣で不倫、離婚と大騒ぎする情報系番組、やらせ演出や集団的過熱取材の問題と今やテレビ放送は厳しい批判と選択の目にさらされている。本講義ではテレビ放送の特性と機能から、特に「報道番組」と「娯楽番組」が社会や人々に与えている様々な影響について、ＮＨＫと民間放送の番組から実証的に検証し、報道の娯楽化と娯楽の過激化がもたらす重大な危険性とその対応について学ぶ。また現役のメディア関係者も招き、業界の動き、取り組みなどを探っていく。 尚、近年その社会的影響力の大きさから注目を浴びているテレビコマーシャル映像についても、毎年 12 月頃に開催される「全日本ＣＭ大賞入賞作品」の鑑賞を通じて学ぶ。		
教材（テキスト）	教材プリントを随時配付する。		
教材（参考文献）	北川泰三著『新版・テレビ映像論』(2000 年版）比叡書房 ２５００円 NHK 放送研究と調査（NHK 出版） ビデオ教材を使用する		
教材（その他）	適宜プリントを配付する		
評価方法	平常点（３０％）出席状況等による。定期テスト（７０％）		
到達目標	多チャンネル化するテレビ放送の課題（視聴率の激化、報道の娯楽化、娯楽の過激化）とその対応について理解を深める。		
準備学習	日常的にテレビ放送に関心をもち、問題意識をもって視聴すること。		

受講者への要望

「ＡＣＣ全日本ＣＭ大賞入賞作品発表会」見学実習（12 月頃、於ＫＢＳホール）の入場料（300 円）が必要。ただし受け入れ態勢や参加人数によって判断する。

講義の順序とポイント

秋学期

1.テレビ放送の歴史とデジタル化の課題
2. テレビ放送の定義　　人間の拡張－マクルーハンの世界　媒体特性からみた優位性、映像化される放送の使命
3. テレビ放送の機能　　マスメディアの顕在的機能－報道から娯楽まで－
4. 報道番組の役割①　　情報伝達－真実の報道　その 1－
5. 報道番組の役割②　　情報伝達－真実の報道　その 2－
6. 報道番組の役割③　　情報伝達－真実の報道　その 3－
7. 報道番組の役割④　　環境監視－権力監視－
8. 報道番組の役割⑤　　世論形成－民意の代弁－
9. テレビ放送の潜在的機能①　　印象化－イメージ付け－
10.学外学習　全日本ＣＭフェスティバル入賞作品鑑賞会(但し開催状況による）
11. テレビ放送の潜在的機能②　　慢性化－感覚の麻痺－
12.テレビ放送の潜在的機能③　　娯楽化－衝撃の期待－
13.テレビ放送の潜在的機能④　　画一化－模倣と流行－
14.テレビ放送の潜在的機能⑤　　行動化－感性と理性の二極化－
15.今後の課題（ゲスト講演、ただし状況による）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50050001
科目名	デジタル出版論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Digital Publication		
担当者名	筑瀬　重喜	旧科目名称	
講義概要	出版の世界は激変しつつあります。その要因の一つはデジタル出版や電子出版です。従来の紙の本との関係をさぐることで、デジタル出版の将来を探求しましょう。 筑瀬は記者として新聞社に勤務しつつ、記事の出版にかかわったことと、デスクとしてネットでの新聞報道にかかわったことからメディアのデジタル化に関心を抱いてきた。そうした体験やデジタル出版の現場を見てきたことを踏まえて講演したい。		
教材（テキスト）	出版学会や朝日新聞にあった「電子メディア研究会」で交渉してきた湯浅俊彦・立命館大学教授の「電子出版学入門―出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ」(出版メディアパル)を教材としたい。		
教材（参考文献）	講義の内容をまとめたレジュメを毎回配布します。		
教材（その他）	研究を通じて集めたデータや動画を、パソコンのパワーポイントを使ってプロジェクターに示します。		
評価方法	講義で提供したデータはあくまで参考資料である。期待するのはデジタル出版を巡る受講者の考えやアイデアである。将来を見通す見解をどう得たのかを評価の基準にしたい。		
到達目標	デジタル出版には制約があり、期待されてきたほど有力にはなっていない。そこで見出される欠陥などをいかに克服するかの提案をしてもらいた。それを到達の目標のひとつにしたい。		
準備学習	特別な準備学習は必要ありません。参考文献については講義で指示します。		
受講者への要望			
デジタル出版の将来を支えるのは大学生のような若い世代です。これまでの紙の本の出版について学んでもらうとともに、様々なデジタル出版の試みを知ってもらい、デジタル出版への将来を描いてもらうことを望みます。			
講義の順序とポイント			
以下のような順で講義をいたします。 ①メディアとは何か：新聞記者として体験してきたメディアの現場を述べます。 ②出版の歴史：太古の時代から現在まで ③デジタルコンテンツとその特性：デジタル技術に関する基本情報 ④出版業界と電子出版(１) ⑤出版業界と電子出版(２) ⑥携帯電話と電子書籍：携帯電話の普及が電子書籍の普及の要因になった ⑦電子書籍を巡るプラットフォーム争い ⑧米国の電子書籍ビジネス ⑨日本の電子出版の現状(１) ⑩日本の電子出版の現状(２) ⑪電子出版の技術的側面 ⑫電子出版と著作権 ⑬電子出版と図書館 ⑭電子書籍と読書 ⑮電子出版の未来：講義の全体を振り返って将来を考える			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T50050002
科目名	デジタル出版論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Digital Publication		
担当者名	筑瀬　重喜	旧科目名称	
講義概要	出版の世界は激変しつつあります。その要因の一つはデジタル出版や電子出版です。従来の紙の本との関係をさぐることで、デジタル出版の将来を探求しましょう。 筑瀬は記者として新聞社に勤務しつつ、記事の出版にかかわったことと、デスクとしてネットでの新聞報道にかかわったことからメディアのデジタル化に関心を抱いてきた。そうした体験やデジタル出版の現場を見てきたことを踏まえて講演したい。		
教材（テキスト）	出版学会や朝日新聞にあった「電子メディア研究会」で交渉してきた湯浅俊彦・立命館大学教授の「電子出版学入門―出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ」(出版メディアパル)を教材としたい。		
教材（参考文献）	講義の内容をまとめたレジュメを毎回配布します。		
教材（その他）	研究を通じて集めたデータや動画を、パソコンのパワーポイントを使ってプロジェクターに示します。		
評価方法	講義で提供したデータはあくまで参考資料である。期待するのはデジタル出版を巡る受講者の考えやアイデアである。将来を見通す見解をどう得たのかを評価の基準にしたい。		
到達目標	デジタル出版には制約があり、期待されてきたほど有力にはなっていない。そこで見出される欠陥などをいかに克服するかの提案をしてもらいた。それを到達の目標のひとつにしたい。		
準備学習	特別な準備学習は必要ありません。参考文献については講義で指示します。		
受講者への要望			
デジタル出版の将来を支えるのは大学生のような若い世代です。これまでの紙の本の出版について学んでもらうとともに、様々なデジタル出版の試みを知ってもらい、デジタル出版への将来を描いてもらうことを望みます。			
講義の順序とポイント			
以下のような順で講義をいたします。 ①メディアとは何か：新聞記者として体験してきたメディアの現場を述べます。 ②出版の歴史：太古の時代から現在まで ③デジタルコンテンツとその特性：デジタル技術に関する基本情報 ④出版業界と電子出版(１) ⑤出版業界と電子出版(２) ⑥携帯電話と電子書籍：携帯電話の普及が電子書籍の普及の要因になった ⑦電子書籍を巡るプラットフォーム争い ⑧米国の電子書籍ビジネス ⑨日本の電子出版の現状(１) ⑩日本の電子出版の現状(２) ⑪電子出版の技術的側面 ⑫電子出版と著作権 ⑬電子出版と図書館 ⑭電子書籍と読書 ⑮電子出版の未来：講義の全体を振り返って将来を考える			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T50051A01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集 （９）タイムラインでのクリップ操作 （10）プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）			

（11）プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
（12）３ポイント編集とは
（13）課題映像制作①（出題）
（14）課題映像制作②（編集）
（15）課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50051A02
科目名	デジタル映像編集実習Ⅰ 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice I		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅰ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集の実習です。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、 カット編集を中心にした映像編集者に必要な基本スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の基本操作を確実にマスターし、 映像制作（クリエイター）に必要不可欠である「映像構成力」を学び、 編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、 課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、 独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイルの提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※最終課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの基本的な操作能力を身につける。 ・映像クリエイターとしての編集点の見極め方、カット編集のテクニックをマスターする。 ・「映像」「音」「時間」という映像編集における３つのエレメントを認識する。 ・モンタージュ理論など制作意図を持った映像構成を理解する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図でその映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の参考教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
本講義はパソコン教室ではありません。アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）を使用しますが、Windows などでＰＣの基本操作（マウス、キーボード、ファイルの扱いなど）を理解していることが必須です。			
講義の順序とポイント			
（１）使用教室(H21)のシステムオリエンテーション （２）映像制作基礎（編集のための基本知識） （３）アップルコンピュータ（Mac／OSＸ）の基本操作 （４）ＤＶビデオと Quicktime ファイルについて （５）ファイナルカットの基本と編集プロジェクトの作成 （６）タイムライン／キャンバスの操作 （７）ビューアでの操作 （８）上書き編集と挿入編集 （９）タイムラインでのクリップ操作 （10）プレゼンテーション映像制作①（編集作業／絵コンテ・ナレーション作成）			

（11）プレゼンテーション映像制作②（仮ナレーション収録／映像ファイル化）
（12）３ポイント編集とは
（13）課題映像制作①（出題）
（14）課題映像制作②（編集）
（15）課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50051B01
科目名	デジタル映像編集実習Ⅱ 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Digital Image Edit Practice Ⅱ		
担当者名	畠中　隆好	旧科目名称	デジタル編集実習Ⅱ
講義概要	ノンリニア映像編集ソフト（Finalcut Express HD）を使った映像編集実習の応用編です。 デジタル映像編集実習「Ｉ」を履修済み程度のスキルがあることを前提とした内容です。 映像編集がまったく初めての場合は、必ず「Ｉ」を先に受講してください。 映像ディレクター入門用のレッスンプログラム（米国製）を使いながら、デジタルエフェクトを中心に、より高度な映像編集スキルを身につけていきます。 編集ソフト（Finalcut Express HD）の応用操作を確実にマスターし、映像クリエイターに必要不可欠である「映像構成力」を学び、編集への理解を深めるといった実践的映像ディレクションを経験する内容です。 受講生には、個別の受講用アップルコンピュータが提供されます。 （imac OS X 10.6.6 Snow Leopard） このＰＣは講義時間以外でも自由に使えますので、課題制作以外にも、より深く映像編集を探求したい人は、独自の研究課題を進めることも可能です。是非、積極的に活用してください。		
教材（テキスト）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（参考文献）	なし。講義ごとに必要な資料レジュメを配布します。		
教材（その他）	必要な映像素材は、随時提供します。		
評価方法	・課題制作の映像ファイル提出を以て、評価対象とします(60%)。 ・作品内容の優劣は問いませんが講義済みの技術力をチェックします（20%)。 ・出席状況などの平常点を加算します（20%)。 ※課題作品の提出がない場合は一切評価しません。		
到達目標	・ノンリニア映像編集ソフトの総合的な操作能力を身につける。 ・映像構成上でのエフェクトの使い方やポイントをマスターする。 ・複数トラックを使った映像合成や音声ミックスのコツを理解する。 ・カラーバーやテロップ安全フレームなどＴＶ放送の基礎技術を把握する。		
準備学習	TV 番組、WEB 動画、映画作品など、日頃から接する映像メディアへの目線をただ眺めているのではなく、映像制作者がどのような意図で、その映像をこの場面で提示しているのか、それは効果的か否か。 そういったことを常に意識することにより「視聴者」から「制作者（クリエイター)」への意識変革が目覚めます。本講義の教材は日常生活の中に溢れています。 なお著しく作業進捗に遅延がある受講者は、次の講義までに終了させておくことを課する場合があります。		
受講者への要望			
講師よりのプレゼンテーションで講義は進みますが、自らオリジナル制作に取り組む映像ワークショップ実施も可能です。積極的に自由研究課題を提言してください。			
講義の順序とポイント			
（1）編集点微調整ツールの使用方法 （2）ビデオ・オーディオトランジションの適用 （3）ビデオトランジションの応用 （4）オーディオトラックでの作業 （5）ビデオフィルターの利用 （6）複数トラックを使った作業（映像合成の基本） （7）マルチオーディオでの調整（ＭＡ作業の体験） （8）モーションエフェクト①（ダイナミックモーション） （9）モーションエフェクト②（ワイヤーフレーム①） （10）モーションエフェクト③（ワイヤーフレーム②）			

（11）タイトルの挿入（カラーバー、文字テロップの基礎知識）
（12）映像ファイルの取り込み（ＤＶカメラなど）
（13）課題映像制作①（出題）
（14）課題映像制作②（編集）
（15）課題映像制作③（編集）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★★	★★	★★

年度	2017	授業コード	T50067001
科目名	プロジェクトワーク論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study of Project Work		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	なんらかの目標を達成するための「計画」を意味する「プロジェクト（project)」の語源は「pro＋ject＝前方（未来）に向かって投げかける」である。また、究極の“personal computer＝dynabook”プロジェクトの提唱者である Alan Kay は次のようにも語っている。“The best way to predict the future is to invent it.（未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことである）”。 本講義では、コミュニケーションの手段としての「メディア（media)」についてのこれまでのプロジェクトの実践例を検証するとともに、「プロジェクト」および「ワーク（work)」」を実践的に考察し、改めて、仕事とは、働くとは、なにかを考えることを試みる。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	最終レポート（100%)。		
到達目標	プロジェクトを、ワークを、そして、仕事を、働くを、考える／実践する。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む 。

＊「マルチメディア論」「情報ネットワーク論」「メディア表現実習」での内容等を前提に授業を展開していくので、それらの授業を受講していることが望ましい。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション
02　プロジェクトについて
03 プロジェクトの実例検証（1）
04　プロジェクトの実例検証（2）
05　プロジェクトの実例検証（3）
06　プロジェクトの実例検証（4）
07　プロジェクトの実例検証（5）
08　ワークについて（1）
09　ワークについて（2）
10　ワークについて（3）
11　ワークについて（4）
12　ワークについて（5）
13　プロジェクトワークについて（1）
14 プロジェクトワークについて（2）
15　プロジェクトワークについて（3）

※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意下さい。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	T50068001
科目名	ポップ・ミュージック論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study of Popular Music		
担当者名	岡崎　宏樹	旧科目名称	
講義概要	この講義では、ポピュラー音楽の表現と音楽ビジネスの構造を多角的な視点から考察します。 全体は３つで構成されます。第１部は、音楽プロデューサーが授業を担当し、音楽ビジネスの構造やメディア戦略について現場経験をふまえた解説をおこないます。第２部は、音楽制作の現場をフィールドワークすることで音楽分化のリアリティを体験的に学びます。第３部は、ポピュラー音楽における著名アーティストを社会学の観点から分析します。以上を通じてポピュラー音楽を成り立たせる経済・文化・社会的コンテクストについての理解を深めます。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	Ｋ・ニーガス『ポピュラー音楽理論入門』(水声社) ISBN:4891765208　(英米のポピュラー音楽研究の諸理論を概観できる) 東谷護（編)『ポピュラー音楽へのまなざし－－売る・読む・楽しむ』(勁草書房) ISBN:4326652802　(ポピュラー音楽研究の多様な視点を学ぶことができる) 井上俊（編)『現代文化を学ぶ人のために』 ISBN:4790716368　(音楽を含めた現代文化の多様な社会学的研究について知ることができる)		
教材（その他）			
評価方法	授業内ショートエッセイ：60%、授業への積極的な取り組み（発表)：10%、レポート：30%		
到達目標	ポピュラー音楽を理解するための視点と方法を習得し、音楽文化について理論的に説明できるようになる。		
準備学習	音楽関連の書籍や雑誌を精読すること。授業の前後に、関連する音楽作品をよく聴き、表現への理解を深めること。		
受講者への要望			
音楽制作の現場ないしライブハウスへのフィールドワークを実施する予定です。日程についてはアーティストのスケジュールと履修者の予定を考慮して調整します。(土日、京都・大阪を予定しています：交通費実費)			
講義の順序とポイント			
１．イントロダクション ２．音楽プロデューサーの仕事(1) ３．音楽プロデューサーの仕事(2) ４・ポピュラー音楽におけるメディア戦略：ポップスターをつくる ５．音楽ビジネスの構造（１)：ヒット曲をつくる ６．音楽ビジネスの構造（２)：スポンサーと広報 ７．音楽ビジネスの変容：歴史的分析 ８．音楽文化のフィールドワーク（１） ９．音楽文化のフィールドワーク（２） 10．フィールドワークの分析・考察 11．マイケル・ジャクソンを考察する（１)：表現のルーツに着目して 12．マイケル・ジャクソンを考察する（２)：ジラール供犠論の視点 13．ヒップ・ホップの誕生 14．日本語ロックの歴史：英米音楽の受容と創造 15．Ｊポップの現在			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50086001
科目名	マルチメディア論 【他】	単位数	4
科目名（英語表記）	The Study of Multi-Media Society		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	「メディア（media)」ということばは、一般に「人間がコミュニケーションするための手段」「人間の意思表現ならびに情報伝達を助け、助長する媒体」として用いられている。その歴史をさかのぼれば「声」や「文字」、いわゆる“技術”を介することによって「電信」「電話」「蓄音機」等を経て、今日の「デジタル」な時代に至る。デジタル技術は、原理的にあらゆるデータを「0/1」というビットに変換し、さまざまなメディアを統一的に扱うことを可能にした。そして、そのようなデジタル技術は社会の至る場面に登場しはじめ、私たちの社会生活をより豊かに、より便利にしてくれる。しかし、同時に、これまで想定されなかった新たな問題も生じてきている。 本講義では、まず、「文字」「映像」「電話」そして「コンピュータ」といった基本的なメディアの特徴をその歴史に焦点をあて概観し、新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションがどのように変容していったかを、その可能性を含めながら考えていく。そして、表現の世界や教育の現場等でのメディアの活用例をみるとともに、さまざまなメディアが錯綜することが予測される今後のメディア社会においての新たな問題等を具体的な事例をもとに検討し、「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー)」を考えていく。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	最終レポート（100％)。		
到達目標	「メディアでなにができるのか？（＝メディア・リテラシー)」を考える。		
準備学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講者への要望			
主体的に参加することを望む。			
講義の順序とポイント			
01　オリエンテーション 02　メディアとは《その 1》 03　文字メディア《その 1》 04　文字メディア《その 2》 05　映像メディア《その 1》 06　映像メディア《その 2》 07　音メディア《その 1》 08　音メディア《その 2》 09　コンピュータというメディア《その 1》 10　コンピュータというメディア《その 2》 11　コンピュータというメディア《その 3》 12　ラジオとテレビ《その 1》 13　ラジオとテレビ《その 2》 14　ゲームというメディア 15　電話というメディア 16　メディアとは《その 2》 17　intermission　メディア関連作品の上映他 18　社会とコンピュータ《その 1》			

19　メディアと表現《その 1》
20　メディアと表現《その 2》
21　社会とコンピュータ《その 2》
22　社会とコンピュータ《その 3》
23　社会とメディア《その 1》
24　メディアと表現《その 3》
25　メディアと表現《その 4》
26　メディアと表現《その 5》
27　社会とメディア《その 2》
28　メディアと教育《その 1》
29　メディアと教育《その 2》
30　メディアとは《その 3》

※毎回配布するレジュメ等はあくまでも講義の補助メディアであり、定期試験前にそれらを付け焼き刃的に頭につめこんだだけでは、容易に単位を取得することはできない授業（＝メディア）を展開する予定です。ただし、単に出席しさえすればなんとかなるというものでもありませんので、十分ご注意下さい。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	T50112001
科目名	映像制作実習 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Media-Product Making		
担当者名	近藤　晴夫	旧科目名称	メディア上級実習
講義概要	デジタル時代を迎えたテレビ放送では、高画質、データサービス、ネット配信などの技術革新が進んでいる一方で、コンテンツの質の向上も重要なテーマとなっている。「感動を伝える映像」とはどのようなものか。ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、スポーツ中継などあらゆるジャンルの番組の課題である。本実習では、映像作品制作を通じて企画・撮影・編集・ナレーション・効果音・音楽など様々な表現手法を学ぶ。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	放送機材を活用して直接指導し、プリントも随時配付する。		
教材（その他）	学生作成のビデオや指導ビデオを活用する		
評価方法	平常点(３０％）出席状況等による。実習及び作品評価点（７０％）		
到達目標	「感動を伝える映像作品」とはどのようなものか。撮影、編集などの映像表現手法を実体験で学ぶ。		
準備学習	日常的に優れた映像作品を制作者の視点で見ること。		

受講者への要望

放送、映像作品の制作に関心があり、チームプレーができること。編集面でほかの授業「デジタル映像編集実習」を同時に受講することが望ましい。

講義の順序とポイント

春学期
1. 映像制作ガイダンス①　企画－何が魅力の企画か－
2. 同　②　撮影－何をどのように撮影するか－ 編集－編集で表現が変わる－
3. 絵コンテを作ろう－　教習編－
4. 同　－　実習編－
5. 同
6. 同　作品選出
7. 撮影取材
8. 同
9. 同
10. 同
11 撮影映像を編集
12 同
13.ミックスダウン－ナレーション、ＢＧＭ音楽、テロップ－
14 同
15.実習番組の審査と合評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2017	授業コード	T50119001
科目名	メディア表現実習 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Practicum of Media Expression		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を、だれもが自由にさまざまなスタイルで活用するための基礎を学ぶ実習授業という形式の“メディア（＝コミュニケーションの場）”。 アナログからデジタルまでさまざまなメディアを活用し、“手を使って、からだを使って、そして、アタマを使って”、いろいろなものを制作。 ・文字／画像を“平面”に並べる、印刷する、製本をする →名刺をつくる／T シャツをつくる／写真集をつくる ・静止画／動画を“時間軸”で並べる、音楽を加える、CD/DVD に保存する →動くフォトアルバムをつくる／ムービーをつくる ／ライブビデオをつくる		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教材（その他）	必要に応じて、プリント・映像教材他。		
評価方法	課題提出（100%）。		
到達目標	コミュニケーションの手段・道具としての「メディア」を活用する。		
準備学習	各回の実習はすべて連関している。次回以降の予習として、授業後に各回の内容を自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む（面倒な課題かなり多し）。

※機材等の関係で履修者が限られています（定員 10 名） 。

講義の順序とポイント

01　オリエンテーション
02　名刺をつくる（1）
03　名刺をつくる（2）
04　T シャツをつくる（1）
05　T シャツをつくる（2）
06　T シャツをつくる（3）
07　T シャツをつくる（4）
08　動くフォトアルバムをつくる（1）
09　動くフォトアルバムをつくる（2）
10　動くフォトアルバムをつくる（3）
11　動くフォトアルバムをつくる（4）
12　写真集をつくる（1）
13　写真集をつくる（2）
14　写真集をつくる（3）
15　写真集をつくる（4）
16　ムービーつくる（1）
17　ムービーつくる（2）
18　ムービーつくる（3）
19　ムービーつくる（4）
20　ライブビデオをつくる（1）

21　ライブビデオをつくる（2）
22　ライブビデオをつくる（3）
23　個人作品制作（1）
24　個人作品制作（2）
25　個人作品制作（3）
26　個人作品制作（4）
27　個人作品制作（5）
28　個人作品制作（6）
29　DVD 制作（1）
30　DVD 制作（2）

※「集中して何かをつくる／考える（＝試行錯誤する)」という作業が苦手な人にとっては、苦痛な時間になるかもしれません

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★

年度	2017	授業コード	T50131002
科目名	情報サービス実習Ⅱ 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	作野　誠	旧科目名称	
講義概要	情報サービスの設計から、評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習・実習を通して、実践的な能力を養成する。		
教材（テキスト）	原田智子編改訂『情報サービス演習』樹村房、2016 今まど子・小山健司編著『図書館情報学基礎資料』樹村房、2016		
教材（参考文献）	大串夏身・齊藤誠一編『情報サービス論』理想社、2010 中西裕・金沢みどり・伊藤民雄『情報サービス論及び演習』学文社、2012 長澤雅男、石黒祐子『レファレンスブック選び方使い方』日本図書館協会、2013 市古みどり編著『資料検索入門』慶應義塾出版会、2014 健康情報サービス研修マーキンググループ『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス』日本医学図書館協会、2012 諏訪部直子・平紀子『解かりやすい医中誌Ｗｅｂ検索ガイド』日本医学図書館協会、2013 伊藤真理・上岡真紀子・松下鈞『情報検索講義』樹村房、2016		
教材（その他）	可能な限り京都学園学図書館のレファレンスコーナー等の資料を使って実習を行います。		
評価方法	予習・復習と授業への積極的な参加を条件に、授業への参加状況 50 点、レポート・課題 50 点を目安にし、総合的に評価します。		
到達目標	司書資格を取得するために、大学において履修する「図書館に関する科目」の規定を参考に、図書館における情報サービスの演習・実習をとおして、以下の 3 項目を達成することをこの授業の目標とする。 1.情報サービスの設計から、評価に至る各種業務の実践的な能力を養成する。 2.レファレンスサービスと情報検索サービスの実践的な能力を養成する。 3.積極的な発信型情報サービスの実践的な能力を養成する。		
準備学習	授業は、テキストに従って講義・演習形式で行ない、適宜、実習をします。テキストは、必ず全員求めてください。予習・復習に役立つように、『講義ノート』を配付します。ディスカッション等、授業参加の機会を創り、コミュニケーションを密にする工夫をします。授業中には、積極的な発言を求めます。参考文献は適宜、図書館で閲覧する等して、予習・復習に必要なもの、興味のあるものは購入してください。授業で学修したことを復習し、次回の授業範囲を予習しておいてください。その際、身近な図書館で、学修したことを実際に確認しておくようにしてもらいたい。		

受講者への要望

なるべく授業時間内に質問してください。
なにごとにも、積極的にはっきりと意思表示をしてください。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス・授業の進め方とこの科目の省令上の位置づけ
－生涯学び続け、主体的に考えることが出来る社会と公共図書館を考える－
2.情報サービスの設計と評価
3.情報サービス演習の準備と京都学園大学図書館見学
4.情報資源の探し方
5.ウェブページ、ウェブサイトの探し方
6.図書情報の探し方
7.雑誌および雑誌記事の探し方
8.新聞記事の探し方
9.言葉・事柄・統計の探し方
10.歴史・日時の探し方

11.地理・地名・地図の探し方
12.人物・企業・団体の探し方
13.法律・判例・特許の探し方
14.レファレンスコレクションの整備
15.まとめ　情報発信型サービスの構築と維持管理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50143001
科目名	映画撮影論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Making		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	日本の映画の歴史を、映画会社ごとに捉え、主たる作品、監督、俳優、スタッフから、作品の傾向、特徴などを具体的に振り返って、日本映画の知識、教養を細部から高めていく。希望者には夏季休暇中に稼働中の映画撮影所でのインターンシップ制度があり、プロの現場を経験することができる。		
教材（テキスト）	使わない。講義内容に沿った資料プリントを適時配布する。		
教材（参考文献）	資料プリントを適時配布する。		
教材（その他）	映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	日本映画全般の知識を高め、インターンシップで撮影所に勤務する際にも戸惑わないようにする。また、映画が時代を写す鏡であることを理解し、逆に映画を通して社会背景を推察する力を身につける。		
準備学習	講義終了時に次回の概要を示すので予習しておくこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で授業に臨んでほしい。また、講義で示した作品、監督、俳優等について復習し、視聴設備のある図書館等を積極的に利用し、実際に視聴してノートを採るなどして体験的理解を図ってほしい。

講義の順序とポイント

1. 授業内容の説明。講義意図と進め方について。
2. 日本の映画会社①
3. 日本の映画会社②
4. 日本の映画会社③
5. 日本の映画会社④
6. 日本の映画会社⑤
7. 日本映画の巨匠たち①
8. 日本映画の巨匠たち②
9. 映画技術の匠たち①
10. 映画技術の匠たち②
11. 時代を反映した俳優たち①
12. 時代を反映した俳優たち②
13. 京都映画の歴史①
14. 京都映画の歴史②
15. 撮影所の仕事について。まとめ。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2017	授業コード	T50148001
科目名	映像文化論 【他】	単位数	4
科目名（英語表記）	Theory of Video Culture		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
講義概要	文字であれ、音であれ、記録メディアの登場によって、メッセージは今だけのものではなくなった、過去を参照し、未来に思いを馳せることが可能となった。それとともに、映像メディアの出現で、自分の思いを他者に伝える、が、より具体的なことになった。そして、歴史を経ることによって、さまざまな表現手法が登場し、より高度なものに／より身近なものに、進化を続け、それらに伴い、新たな文化が生まれ、発展を続けている。また、かつて黎明期のスチルカメラマンが化学的知識を必要としたように、現代の映像に携わる者たちは、いわゆる映像の常識だけではなく、デジタルの作法も必須になってきた。 本講義では、映像メディアの歴史における代表的な作品等を鑑賞することによって、映像文化の歴史を概観し、その可能性や問題点等を考察していく。 今年度は、特定の映像作家の作品等を中心に講義を展開していく予定である。		
教材（テキスト）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリント、映像教材他。		
評価方法	各回の小レポートおよび最終レポートで総合的に評価する。		
到達目標	映像文化を代表する映像作品等を鑑賞し、検証することによって、映像文化についての理解を深める。		
準備学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講者への要望

主体的に参加することを望む。
本講義は通常の講義と異なり２講義連続である（作品等の上映により、休み時間が時間通りでない場合もある）。

講義の順序とポイント

01-02：オリエンテーション～映像を見る・読む・考える 01
03-04：映像を見る・読む・考える 02
05-06：映像を見る・読む・考える 03
07-08：映像を見る・読む・考える 04
09-10：映像を見る・読む・考える 05
11-12：映像を見る・読む・考える 06
13-14：映像を見る・読む・考える 07
15-16：映像を見る・読む・考える 08
17-18：映像を見る・読む・考える 09
19-20：映像を見る・読む・考える 10
21-22：映像を見る・読む・考える 11
23-24：映像を見る・読む・考える 12
25-26：映像を見る・読む・考える 13
27-28：映像を見る・読む・考える 14
29-30：映像を見る・読む・考える 15

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★

年度	2017	授業コード	T50178002
科目名	家族社会学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、理想像が共有されているように思われる。そして、その理想像からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる限定的なイメージであり、実態を概観すると、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態は、歴史的にも普遍的なものではなく、もはや多数派でもない。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介する		
教材（その他）	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
準備学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		
受講者への要望			
普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。			
講義の順序とポイント			
１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か ２　社会とともに変化する家族（１） ３　社会とともに変化する家族（２） ４　高度経済成長期の家族の特徴 ５　高度経済成長期から変化する家族 ６　子どもと家族（１） ７　子どもと家族（２） ８　家族と暴力（１） ９　家族と暴力（２） １０　現代家族のかかえる諸問題（１） １１　現代家族のかかえる諸問題（２） １２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１） １３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２） １４　多様化する家族（１） １５　多様化する家族（２） 上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50187A01
科目名	漢文学講読Ａ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Writing Study Reading A		
担当者名	野口　隆	旧科目名称	
講義概要	漢文学が日本文学史の中で占める割合は大きい。かつての日本人は漢籍の読解に心血をそそぎ、また李白や杜甫や白楽天の漢詩を愛唱した。近年では漢文を読む機会もめっきり減ってしまったが、しかしそれでも以下に挙げるような理由で、漢文を読むことの意義はなお少なくないと思われる。 その一。漢文を読む機会は減ったがしかし漢字・漢語となれば、これはいまも誰でも日常的に使うものである。漢文を学ぶことで、漢字・漢語に対する理解が深まるのは確実である。 その二。日本文化が中国古典から大きな影響を受けていることは無論だがそれだけでなく、日本古典そのものが漢文で書かれている場合がたいへん多い。したがって日本文学史を知るためにも漢文訓読は必修なのである。 その三。漢文を朗読することで、文章のリズムを身につけ自分でもよい文章が書けるようになると俗に言われている。 春学期は『論語』『史記』その他の散文作品を講読する。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	タイトルは指定しないが、漢和辞典は必携である。		
評価方法	毎回実際に訓読を実施し、その内容を課題として提出したものを平常点（50%）とする。期末試験（50%）も行う。		
到達目標	漢和辞典の引き方に習熟すること。そして返り点と送り仮名のある漢文であれば、漢和辞典を引いた上で訓読できるようになること。		
準備学習	中国の歴史や地理について簡単にまとめた資料等を入手しておくことが望ましい。提出された課題には朱を入れて返却するので、問題のある個所については自力で再考すること。		

受講者への要望

漢文講読の要諦は、ひたすら漢和辞典を引き続けることである。しかし漢和辞典というものは、国語辞典と異なり引くだけでも頭を使うので、その心がまえをしておいてもらいたい。またせっかく古風な教室を使うのだから、古風な漢文の読み方も復活したいと考えている。

講義の順序とポイント

1　漢文訓読の基礎
2　漢和辞典の使い方
3　『論語』
4　『孟子』
5　『韓非子』
6　『老子』『荘子』
7　『史記』本紀(1)
8　『史記』本紀(2)
9　『史記』世家
10　『史記』列伝(1)
11　『史記』列伝(2)
12　『三国志』
13　『世説新語』
14　『日本外史』(1)
15　『日本外史』(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50187B01
科目名	漢文学講読Ｂ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Writing Study Reading B		
担当者名	野口　隆	旧科目名称	
講義概要	漢文学が日本文学史の中で占める割合は大きい。かつての日本人は漢籍の読解に心血をそそぎ、また李白や杜甫や白楽天の漢詩を愛唱した。近年では漢文を読む機会もめっきり減ってしまったが、しかしそれでも以下に挙げるような理由で、漢文を読むことの意義はなお少なくないと思われる。 その一。漢文を読む機会は減ったがしかし漢字・漢語となれば、これはいまも誰でも日常的に使うものである。漢文を学ぶことで、漢字・漢語に対する理解が深まるのは確実である。 その二。日本文化が中国古典から大きな影響を受けていることは無論だがそれだけでなく、日本古典そのものが漢文で書かれている場合がたいへん多い。したがって日本文学史を知るためにも漢文訓読は必修なのである。 その三。漢文を朗読することで、文章のリズムを身につけ自分でもよい文章が書けるようになると俗に言われている。 秋学期は、漢文学の中でも特異な位置を占める漢詩を講読する。日本人の作品も採り上げる予定である。		
教材（テキスト）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	タイトルは指定しないが、漢和辞典は必携である。		
評価方法	毎回実際に訓読を実施し、その内容を課題として提出したものを平常点（50%）とする。期末試験（50%）も行う。		
到達目標	漢詩についての基本的な素養を身につけること。そしてその味わいのようなものを現代の日本語で再現できるようになること。		
準備学習	中国の歴史や地理について簡単にまとめた資料等を入手しておくことが望ましい。提出された課題には朱を入れて返却するので、問題のある個所については自力で再考すること。		

受講者への要望

漢詩を読むためには漢和辞典を引くことの他に、いわば「詩心」のようなものが求められる。担当者は、詩を訳す時には訳したあとも詩らしくなければならないというのが持論なので、それにつきあってもらいたい。またせっかく古風な教室を使うのだから、漢詩の暗唱のような古風な読み方も復活したいと考えている。

講義の順序とポイント

1　漢詩概論
2　『詩経』
3　『文選』古詩
4　阮籍・陶淵明
5　初唐の詩人たち
6　王維・孟浩然
7　李白
8　杜甫
9　白居易
10　中唐・晩唐の詩人たち
11　蘇軾
12　宋代の詩人たち
13　日本の漢詩人(1)
14　日本の漢詩人(2)
15　日本の漢詩人(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2017	授業コード	T50190A01
科目名	環境社会学Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology A		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題です。そして、現代社会において環境への関心はますます大きなものとなっています。 　環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは前者を中心に扱います。 社会学として環境問題をどのように捉えられるかを、具体的な事例と理論の両面から考えるために、境問題を歴史的に概観しながら、具体的事例と社会学の理論の両方を学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）			
評価方法	授業ごとに理解を確認します。それを含む平常点(50%)と、テスト(50%)から総合的に判断します。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、webなどで調べてください。		

受講者への要望

環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。
また、能動的にに学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでください。

講義の順序とポイント

1.　イントロダクション　　「自然」とは何　か
2.　人間社会と環境(1)　　「環境問題」の発見と近代社会
3.　人間社会と環境(2)　　環境社会学の成立と展開
4.　公害・差別・リスク(1)　公害問題・水俣病の被害と差別
5　公害・差別・リスク(2)　　被害構造論
6.　公害・差別・リスク(3)　受益圏・受苦圏
7.　公害・差別・リスク(4)　新潟水俣病と阿賀野川
8.　開発と資源(1)　　開発と地域社会
9.　開発と資源(2)　　リスク社会と住民投票
10. 開発と資源(3)　　自然エネルギーと風車
11.　地球環境問題(1)　　地球環境問題と地域
12. 地球環境問題(2)　　社会問題としての地球温暖化
13. 地球環境問題(3)　　開発と環境正義
14. 地域づくりと環境　　まちづくりの系譜
15.まとめ　　現代社会と環境

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	T50190B01
科目名	環境社会学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Sociology B		
担当者名	寺田　憲弘	旧科目名称	
講義概要	環境問題は自然科学的問題であるばかりではなく、人間の営みを反映させた社会的問題でもあります。そして、現代社会において「環境」の問題はますます大きく、身近なものとなっています。 環境社会学の対象は、大きくは二つにわけられます。すなわち、産業化、近代化の過程で生態環境、生活環境が劣悪化していく過程である社会問題としての環境問題（イッシュー型）と人々が日常生活を築く過程における環境とのかかわりに関する環境問題（コンテキスト型）です。 前者は、公害問題あるいは環境問題など社会問題化した環境と社会の関係を扱います。後者は普段の生活と周囲の自然環境との関わりを扱います。本講座にでは後者を中心に扱います。 人間社会にとっての脅威となる「環境」ではなく、人間に日々の糧や安らぎを与える存在としての自然環境との関係を事例を紹介しながら、社会学の理論も学んでもらいます。		
教材（テキスト）	『よくわかる環境社会学』鳥越皓之・帯谷博明 ミネルバ書房。授業においては、レジュメを配付します。		
教材（参考文献）	授業中に指示します。		
教材（その他）			
評価方法	毎回授業内容を確認します。それらを含む平常点(50%)と、、テスト(50%)から総合的に判断します。		
到達目標	社会学およびその近隣社会科学の概念・理論によって、環境問題を理解できるようになる。		
準備学習	授業は、社会学を中心とした理論と具体的事例からなります。次回の授業内容について、その授業で扱う理論と事例を紹介しますので、理論については、概論書、社会学事典等で調べて下さい。事例については、webなどで調べてください。		
受講者への要望			
環境問題に対する関心を少しくらいはもっていること。 また、能動的にに学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでください。			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクション　身近な自然、日本の森林 2.自然保護を考える(1)　自然保護制度 3.自然保護を考える(2)　エコ・ツーリズム 4.身近な自然を考える(1)　自然観 5.身近な自然を考える(2)　コモンズ 6.生活と水を考える(1)　生活環境主義 7.生活と水を考える(2)　近代と河川 8.農と食を考える(1)　「農」と「食」の変化 9.農と食を考える(2)　有機農業運動 10 ゴミ問題を考える(1)　コモンズの悲劇と社会的ジレンマ 11 ゴミ問題を考える(2)　リサイクルの取り組みとその課題 12.環境 NPO/市民活動を考える　社会運動として NPO 13.歴史的環境と景観を考える(1)　歴史的環境とは何か 14.歴史的環境と景観を考える(2)　観光まちづくり 15.まとめ　現代社会と環境			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50220A02
科目名	教育社会学Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Sociology A		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学ｓ
講義概要	教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつそれの要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを発する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。 本講義では超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端を紹介する。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	作田啓一『三次元の人間 ― 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして ― 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。		
準備学習	各自が最も生き生きとした実感をもつのはどんな時か、そのような実感と教育との関係について考えてみること。		

受講者への要望

出席した以上は、私語を慎んでほしい。

講義の順序とポイント

1. 社会化と超社会化(1)
2. 社会化と超社会化(2)
3. 自己境界の拡大と溶解(1)
4. 自己境界の拡大と溶解(2)
5. 自己境界の拡大と溶解(3)
6. 主体－客体関係の三類型(1)
7. 主体－客体関係の三類型(2)
8. 主体－客体関係の三類型(3)
9. 生命感について(1)
10. 生命感について(2)
11. 定着と生成(1)
12. 定着と生成(2)
13. 自己意識論(1)
14. 自己意識論(2)
15. 現代社会における教育の諸課題
16.定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50229001
科目名	現代オーストラリア事情 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Australian Society		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	地理的にアジアに位置しながらも、世界中から様々な文化が交じり合ってできた現代オーストラリア社会を勉強の的にし、上級読解、聴解スキルを伸ばします。毎週の集中したリーディング（テキスト、新聞、雑誌、インターネット）の他、映画・ドキュメンタリーを観たり、ポッドキャストを聴いたりできる総合的な講座です。オーストラリアで留学やワーキング・ホリデーなどを考えている学生にはもっとも必要な講義です。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内レポート 50% 課題２０%定期試験 30%		
到達目標	異文化理解はもちろん、集中したリーディング・リスニングによって読解力・聴解力を高めます。		
準備学習	海外の文化や社会に関心を持つことです。 オーストラリアの文化、ニュース、時事問題などを調べておけばいいでしょう。		

受講者への要望

授業に毎回出席すること。原則としてこの講座は日本語で行われますが、必要に応じて英語で資料を読むこともありますので辞書を持参することをすすめます。

講義の順序とポイント

1. 講義概要 オーストラリアの豆知識
2. 歴史
3. 先住民
4. 地理と名所
5. スポーツとスポーツ文化
6. 多文化社会
7. 自然
8. 芸術と文化意識
9. ジェンダーと社会
10. 教育制度と大学生活
11. 伝統と祭り
12. 国民性と価値観
13. 生活習慣
14. オーストラリアと日本
15. 課題や発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50233A01
科目名	現代映画論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Theory of Present Age A		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	映像の世紀だった 20 世紀を越え、またアナログからデジタルへの一大変革のときを越えて、映画というメディアは演劇、文学、美術、写真、音楽、その他あらゆる要素を内包した総合芸術として、また時代を明瞭に捉えた記録、証言としての意義、存在感をますます強めていっている。だが、その一方で、次々と消費されていく一過性の商品としてだけ見る傾向も強まってきている懸念もある。求められているのは、映画をしっかりと分析しその表現の本質を理解する力だと思う。本講義では、昨年から本年に公開された最新の作品を中心に、批評的視点からの分析を行い、作品から見えてくるものを考察していく。映画の内容、監督を始めとするスタッフ、キャストを知り、映画的教養を深めるとともに、現代という時代を捉える力も養っていく。		
教材（テキスト）	使わない。		
教材（参考文献）	使わない。		
教材（その他）	講師用意の映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	昨年及び本年公開の作品、さらに公開予定作を含めて、しっかりと分析、把握し、そこから映画全般の知識を高めていく。そして、それらの作品を通して、現代社会が抱える問題や時代傾向を認識できるようにする。		
準備学習	毎回、授業終了時に次回の内容を伝えるので予習しておくこと。		
受講者への要望			
能動的姿勢で授業に臨んでほしい。また、授業で採りあげた作品について、できるだけ実際に鑑賞し、体験的復習を実践してほしい。			
講義の順序とポイント			
1. はじめに。映画批評とはなにか。 2. 昨年の邦画代表作から見えてくるものはなにか。① 3. 昨年の邦画代表作から見えてくるものはなにか。② 4. 昨年の洋画代表作から見えてくるものはなにか。 5. 本年１～３月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。アカデミー賞作品を中心に① 6. 本年１～３月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。アカデミー賞作品を中心に② 7. 本年１～３月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。 8. 本年４～６月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。① 9. 本年４～６月期公開の洋画代表作から見えてくるものはなにか。② 10. 本年４～６月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。① 11. 本年４～６月期公開の邦画代表作から見えてくるものはなにか。② 12. 本年上半期の洋画の傾向について。 13. 本年上半期の邦画の傾向について。① 14. 本年上半期の邦画の傾向について。② 15. 本年上半期に鑑賞した映画のレポート作成。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2017	授業コード	T50233B01
科目名	現代映画論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Movie Theory of Present Age B		
担当者名	春岡　勇二	旧科目名称	
講義概要	春学期開講の「現代映画論Ａ」をさらに進めていく。本講師は評論家として一般公開以前に映画を鑑賞することが可能なので、授業を行う時点で公開中、もしくは近日公開の作品を採りあげ、資料を用いてスタッフ、キャスト、内容を把握し、批評的観点から作品の本質の理解を計り、現在公開作品としての意味や製作側の意図を考察していく。また、作品の芸術的意匠の理解も促し、芸術鑑賞眼、批評眼も養っていく。		
教材（テキスト）	使わない。		
教材（参考文献）	使わない。		
教材（その他）	講師用意の映像資料を活用する。		
評価方法	授業中の質問への回答など平常点（40%）。レポート（60%）。		
到達目標	本年公開の作品及び公開予定の作品を把握、分析し、そこから映画全般の知識を高めていく。そして、映画を通して現代社会が抱える問題を理解し、時代傾向を考察、認識できるようにする。		
準備学習	毎回、授業終了時に次回の内容を伝えるので予習しておくこと。		

受講者への要望

能動的姿勢で授業に臨んでほしい。また、授業で採りあげた作品について、できるだけ実際に鑑賞し、体験的復習を実践してほしい。

講義の順序とポイント

1. ７～８月期公開の邦画から見えてくるもの。①
2. ７～８月期公開の邦画から見えてくるもの。②
3. ７～８月期公開の洋画から見えてくるもの。①
4. ７～８月期公開の洋画から見えてくるもの。②
5. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。①
6. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。②
7. ９～１１月期公開の邦画から見えてくるもの。③
8. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。①
9. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。②
10. ９～１１月期公開の洋画から見えてくるもの。③
11. 本年公開の邦画の傾向について。
12. 本年公開の洋画の傾向について。
13. 本年公開の邦画の代表作はなにか。
14. 本年公開の洋画の代表作はなにか。
15. 本年公開作品についてのレポート作成。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	T50238A01
科目名	現代雑誌論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age A		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論ｓ
講義概要	書店またコンビニに並ぶ、さまざまな雑誌。いまや紙に印刷されたものではないデジタル・マガジンも登場して注目を集めている。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。それら歴史や背景を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	いまに至る日本の雑誌の歴史を理解。雑誌の可能性を知る。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		

受講者への要望

愛読誌を必ず作ろう！

講義の順序とポイント

1. 雑誌とは？
2. ネットには雑誌が取材編集した情報がいっぱい！
3. 出版産業の構造と規模／雑誌の形式・各部名称
4. 雑誌の歴史１　近代雑誌の始まり　MAGAZINE を「雑誌」と翻訳
5. 雑誌の歴史２　講談社、小学館など、大手出版社は人気雑誌を発行することで成長した
6. 雑誌の歴史３　雑誌ジャーナリズムと戦争
7. 雑誌の歴史４　テレビの登場が雑誌を活性化
8. 雑誌の歴史５　成熟する社会、多様化する価値観へ対応
9. 雑誌の歴史６　創刊ラッシュ
10. 雑誌の歴史７　読む雑誌→見る雑誌→行動を喚起する雑誌
11. 雑誌は細分化する　総合誌→専門誌
12. 雑誌はビジュアル化する
13. 雑誌には広告がいっぱい！
14 .フリーペーパー、デジタルマガジン…雑誌の進化は続く
15. 総括と復習（雑誌の歴史と特性）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50238B01
科目名	現代雑誌論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Magazine Theory of Present Age B		
担当者名	石原　基久	旧科目名称	現代雑誌論ｆ
講義概要	雑誌が、いかに作られているのか、他メディアと比較してどんな点で優れているのか、どう進化しようとしているのか……などを学ぶ。その種類も、ファッション、エンタテインメント、グルメ etc.日常的な生活レベルから、人文・社会、自然科学、芸術 etc.専門的な分野まで多種多様。若者の雑誌離れが声高に叫ばれる昨今だが、時代とともに柔軟に対応、次々とカタチを変えてきたパワーは健在だ。意識しないうちに、パソコンやスマホ、タブレット端末で雑誌ソースの情報に触れていることも数多い。作る現場、売る現場…関わるさまざまな人たちの創意工夫を知ることにより、多角的な視点から、今後の雑誌の果たすべき役割、可能性を考察していく。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイント等を活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点 60%。課題提出 40%。		
到達目標	これからの雑誌の可能性/未来像を見出す。		
準備学習	日々雑誌等メディアに関心を持ち親しんでおくこと。		
受講者への要望			
愛読誌を必ず作ろう！			
講義の順序とポイント			
1. 雑誌と出版界の現在 2. 雑誌づくりの現場１　企画が命～インパクトのある見出し！／どんな時代か？／誰に届ける？ 3. 雑誌づくりの現場２　編集作業の流れ 4. 雑誌づくりの現場３　デザイン／印刷 5. 雑誌のメディア特性１　他メディアとの比較 6. 雑誌のメディア特性２　セグメンテーション 7. 雑誌のメディア特性３　東京と地方 8. 販売収入と広告収入 9. エディトリアル・デザインの冒険 10. メディア規制との闘い 11. ゲリラ・ジャーナリズムこそ雑誌の使命！ 12. 雑誌の未来１　読者との絆 13. 雑誌の未来２　紙か？デジタルか？ 14. 雑誌の未来３　大きな変化とその可能性 15. 総括と復習（雑誌の未来と可能性）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50240001
科目名	現代社会論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories on Modern Society		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
講義概要	テーマ「ジェンダーで読み解く現代社会」 この社会の構成には、抜きがたく、ジェンダーが組み込まれている。 法的制度的には「男女平等社会」という前提があり、法の前の平等という理念が共有されているが、社会的実態や実相を直視し、鋭く分析していくならば、決して、「平等」という概念がそれほど単純なものではないということがわかる。 授業では、現代社会の様々な諸相を映し出し、表現してきた多様なメディアによる表現を取り上げ、分析を加えていくことで、幾重にも折りたたまれたジェンダー・バイアスやセクシュアリティの問題を抽出してゆく作業を試みる。 偏りのない分析視点を目指し、価値中立的な現状把握に基づきながら、どのような社会が望まれるのか、我々自身がどのような立場や姿勢で社会と向き合っていくのか、という課題に取り組みたい。		
教材（テキスト）	特定のテキストは使用しない。 授業の回ごとに、準備して閲覧、配布。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	授業のベースとして、資料を用意する。		
評価方法	授業内で、レポート提出を求め、平常点として４０点。 期末レポートを実施して、60 点とする。		
到達目標	めまぐるしく展開する現代社会において、自分自身が置かれている時代状況や立場をふまえて、課題に気づき、言語化し、表現する力をつける。		
準備学習	メディアの動きや表現など、予め、予告した場合は、指定されたメディアに接し、ある程度、予備情報を持って臨むこと。		

受講者への要望

授業で言及するテーマについて、新聞その他のメディアなどに、普段から、関心を持って接することを望みます。

講義の順序とポイント

1. 導入。授業の案内と、受講生へのアンケートで、関心領域などを問う。
2. メディア・リテラシー
3. ジェンダーについての概説
4. メディアによって表現されるジェンダー（1）
5. メディアによって表現されるジェンダー（2）
6, メディアによって表現されるジェンダー（3）
7. 現代社会におけるジェンダーの諸相の読解
8. 「男女平等」再考（1）
9. 「男女平等」再考（2）
10. 流通するセクシュアリティ概念（1）
11. 流通するセクシュアリティ概念（2）
12. ジェンダー／セクシュアリティの常識と実相
13. 正しい考え方とは何か（1）
14. 正しい考え方とは何か（2）
15. 現代社会の課題を見つめる

授業テーマの配列は、社会的トピックスによって、変更、入れ替えをすることがあります。
最前線のテーマに迫っていきたいと考えます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50256101
科目名	古文書学　Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅰ		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	古文書の写真コピーを使いながらその読解を行う。古文書の多様な形態に触れる中で、古文書学の基礎をマスターすることを目ざす。文書を読むことは、内容を把握することである以上、文字を読むだけではなく、それぞれの史料の性格や歴史的意義を考えてゆく。取りあげる古文書は比較的やさしいものから始め、順次、レベルの高い古文書へと進んでゆく。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）	・佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局） ・『演習　古文書選』（吉川弘文館）古代・中世編、様式編、荘園編上下など。 ・東京大学史料編纂所 HP のデータベース検索画面〈http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller〉に入ると「電子くずし字字典データベース」がある。これはくずし字の用例が非常に多いので、図書館架蔵の『くずし字事典』とともに、これを参考にして予習してくること。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	古代中世の古文書学の基礎を学び、古文書の読解とそれぞれの史料の歴史的背景や、史料批判の方法を学ぶ。		
準備学習	教材となる史料は事前に配付しておくので、十分に予習してほしい。		

受講者への要望

・古文書学の基礎をじっくり学ぶ機会にしたい。
・分からないことは恥ではない。何でも積極的に質問してほしい。分からないこと、疑問に思ったこと、これがすべての始まりだ。

講義の順序とポイント

1.古文書とは？
2.古文書習得の基礎
3.浄土寺文書の読解
4.浄土寺文書の読解
5.浄土寺文書の読解
6 鶴岡八幡宮文書の読解
7.鶴岡八幡宮文書の読解
8.鶴岡八幡宮文書の読解
9.東寺百合文書の読解
10.東寺百合文書の読解
11.東寺百合文書の読解
12.東寺百合文書の読解
13.東寺百合文書の読解
14.東寺百合文書の読解
15.東寺百合文書の読解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	T50256202
科目名	古文書学　Ⅱ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅱ		
担当者名	佐竹　朋子	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は、文書に基づいて社会の仕組みが整えられていた時代であった。すなわち、支配者層のみならず、庶民にいたるまでが日々文書を作成していた。 そこで、本講義では、江戸時代に作成された文書（古文書）を読み解きながら、江戸時代の社会の特質や、社会のあり様を考えていきたい。 具体的には、各回のテーマに即した古文書原本のコピーを紹介しながら、講義をおこなう。		
教材（テキスト）	授業で用いるテキストは、適宜配布する。		
教材（参考文献）	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、１９９３年） 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版、１９７０年） 日本歴史学会編『概説　古文書学　近世編』（吉川弘文館、１９８９年）		
教材（その他）			
評価方法	受講態度やレポート等による平常点（５０％）、定期テスト（５０％）。 レポートの提出時期や内容については、授業中に提示します。		
到達目標	①江戸時代の古文書について、武家・村・町など様々な社会集団において作成された文書の様式や種類、分類を学ぶ。 ②江戸時代に発給された文書を学ぶことを通して、行政（江戸幕府）と社会との関係を考える。 ③古文書の初歩的な解読方法を学ぶ。		
準備学習	予習方法 ・授業終了時に、次回の講義で用いる資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。 復習方法 ・授業で用いたテキストを、何度か読み上げたり、書き写していくことで理解を深め、解答を見ずとも答えられるようにしておくこと。		

受講者への要望

・能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
・遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して退出を求める。
・常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。

講義の順序とポイント

第１回：ガイダンス―史料と資料について―
第２回：近世社会と文書
第３回：紙の種類と形態
第４回：朝廷・公家関係文書　宣旨・口宣案
第５回：将軍関係　武家の知行
第６回：将軍関係　武家の知行
第７回：幕府関係　行政文書
第８回：幕府関係　行政文書
第９回：藩関係　　大名と領地
第１０回：藩関係　大名と領地
第１１回：村方文書　村の自治
第１２回：村方文書　村の自治
第１３回：町方文書　町の自治
第１４回：町方文書　町の自治
第１５回：全体のまとめ
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	T50259A01
科目名	口承文芸論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ａでは口承文芸の作品に親しむことからはじめ、作品分析の主要な方法論を理解することを目標にします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	作品分析の主要な方法論を理解すること。		
準備学習	次週に取り上げる作品は予め配布しておくので、熟読してくること。また授業で取り上げた分析方法をよりよく理解するために、関連文献を授業中に示すので、読んでおくこと。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
1.口承文芸的発想とはなにか。　（書くことと語ること・歌うことは果たして同じ次元なのか考えてみましょう） 2.神話学の系譜　（神話をどのように読むのか、これまでの様々なアプローチを概括します） 3.神話分析　民族学的アプローチ１　（まずは『金枝篇』から取り組んでみましょう） 4.神話分析　民族学的アプローチ２ 5.神話分析　心理学的アプローチ１　（ユング派の物語の読み方について考えてみましょう） 6.神話分析　心理学的アプローチ２ 7.神話分析　構造分析１　（レヴィ＝ストロースの分析する神話に触れてみましょう） 8.神話分析　構造分析２ 9.昔話研究（AT による昔話の分類） 10.昔話分析　系統論的アプローチ 11.昔話分析　構造分析１　（プロップの分析手法について検討してみましょう） 13.昔話分析　構造分析２　（ダンダスの分析手法について検討してみましょう） 14.日本神話の研究 15.日本昔話研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50259B01
科目名	口承文芸論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、これらは世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ｂでは口承文芸が、カミとヒトの、人と人のコミュニケーションであることに焦点をあて、関連する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析することを、目標とします。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析すること。		
準備学習	口承文芸の作品は長大なものが多いので、授業の前に熟読し、自分なりに筋立てを整理しておくこと。次週取り上げる作品は予め配布するか、文献を示します。		
受講者への要望			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
講義の順序とポイント			
１イントロダクション ２ヒトとヒトを超えるもの ３シャーマニズムと口承文芸１　（シャーマニズムと歌や語りは深い関係を持っています。） ４シャーマニズムと口承文芸２　（ユーラシア大陸のいくつかのシャーマニズム文化をとりあげます。） ５儀礼から語り物へ ６語り物 ７ヒトとヒトのコミュニケーション ８詩の始まりを民俗学的･文化人類学的に考える ９うたはひとつでいい １０変なコミュニケーション １１英雄叙事詩 １２ナラティブ構成法１　（長大な英雄叙事詩はどのように伝承されてきたのか、そのメカニズムについて考えます。） １３ナラティブ構成法２ １４口承文芸とポップカルチャー１　（「古くて新しい」について考えます。） １５口承文芸とポップカルチャー２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50262A01
科目名	広告広報論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions I		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体やNPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPOの広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書6　広告』プチグラパブリッシング、2006年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論Ⅰ」(基礎編)、「広告広報論Ⅱ」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ⅰ」、できれば「広告広報論Ⅱ」を履修した上で登録を行うこと。
３）CMや広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められよう。

講義の順序とポイント

第1回　開講にあたって
第2回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第3回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第4回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第5回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第6回　宣伝・広報の媒体（１)：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第7回　宣伝・広報の媒体（２)：放送メディア／印刷メディア
第8回　宣伝・広報の媒体（３)：インターネットほか
第9回　ブランド商品の誕生と広告
第10回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第11回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラCM等
第12回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類CM等
第13回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードルCM等
第14回　広告広報の課題／授業内レポート
第15回　今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50262B01
科目名	広告広報論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions II		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
講義概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	応用編：広告広報の実務と産業のあらましについて知り、広告業界やマーケティングや PR 活動の仕事について具体的なイメージを持てるようにする。		
準備学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）ひとつの広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講者への要望

１)「広告広報論Ⅰ」(基礎編)、「広告広報論Ⅱ」(応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論Ⅰ」、できれば「広告広報論Ⅱ」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、広告産業や広告取引の実態について理解し、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業では広告主や広告会社の立場から、さまざまな広告計画や広告表現を構想する仕事に具体的なイメージを持てるようになってほしい。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　広告産業と広告取引
第３回　広告会社の組織と業務（１）
第４回　広告会社の組織と業務（２）：CM ディレクターの仕事等
第５回　広告計画の策定と実施（１）市場競争と広告表現（ビール類）
第６回　広告計画の策定と実施（２）ブランドと広告表現・その１（コカ・コーラ）
第７回　広告計画の策定と実施（３）ブランドと広告表現・その２（ナイキ 1）
第８回　広告計画の策定と実施（４）ブランドと広告表現・その３（ナイキ 2）
第９回　広告計画の策定と実施（５）ブランドと広告表現・その４（ユニクロ）
第 10 回 広報・PR の基本概念と歴史（アメリカ・日本における PR の発展）
第 11 回 広報・PR の実務を知る
第 12 回 企業の社会的責任と広報・PR（1）
第 13 回 企業の社会的責任と広報・PR（2）映画鑑賞
第 14 回 授業内レポート
第 15 回 今後の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50270001
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	表現文化論
講義概要	作品表現は、作家の心的イメージや経験、予見が表現されたものであると同時に、社会の人々の経験や意識、願望が凝縮されたものでもある。それは、多くの人に作家自身の思考を広めるとともに、作品に触れる者には自己の心象風景との照合や同一視を起こさせ、新たな経験をもたらす。 社会のなかで「対話や共有の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内課題２回程度。提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	1）さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。 2）今後の社会でアートやデザインの方法を幅広い仕事の世界に活かしていく手立てを学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		

受講者への要望

メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　メディアとしての芸術・デザイン
第３回　コミュニケーションとしての作品表現（１）：さまざまなコミュニケーション・モデルと作品表現
第４回　コミュニケーションとしての作品表現（２）：アーティストとオーディエンス（観客・読者・ファン）
第５回　メディアが現実・経験をつくる：芸術社会学の見方／メディア表現のメカニズム
第６回　課題の発表とコメント（１）
第７回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B）
第８回　ポピュラーカルチャーとは何か（１）：「ブリコラージュ」としてのヒップホップ
第９回　ポピュラーカルチャーとは何か（２）：ゴスペル、ブルース、ジャズから現代の R&B へ
第 10 回　社会における相互行為を通じた感情の共有：「ノスタルジー」と作品表現
第 11 回　課題の発表とコメント（２）
第 12 回　社会の中のアート、デザイン（１）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究１
第 13 回　社会の中のアート、デザイン（２）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究２
第 14 回　社会の中のアート、デザイン（３）：アートやデザインの創造性やスキルを社会運営に活かす
第 15 回　最終課題の発表とコメント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	T50270002
科目名	表現文化論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	表現文化論
講義概要	作品表現は、作家の心的イメージや経験、予見が表現されたものであると同時に、社会の人々の経験や意識、願望が凝縮されたものでもある。それは、多くの人に作家自身の思考を広めるとともに、作品に触れる者には自己の心象風景との照合や同一視を起こさせ、新たな経験をもたらす。 社会のなかで「対話や共有の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教材（その他）	適宜プリントを配布、映像資料を多用する。		
評価方法	平常点（40%）：授業内課題２回程度。提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	1）さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。 2）今後の社会でアートやデザインの方法を幅広い仕事の世界に活かしていく手立てを学ぶ。		
準備学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		

受講者への要望

メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。

講義の順序とポイント

第１回　イントロダクション
第２回　メディアとしての芸術・デザイン
第３回　コミュニケーションとしての作品表現（１）：さまざまなコミュニケーション・モデルと作品表現
第４回　コミュニケーションとしての作品表現（２）：アーティストとオーディエンス（観客・読者・ファン）
第５回　メディアが現実・経験をつくる：芸術社会学の見方／メディア表現のメカニズム
第６回　課題の発表とコメント（１）
第７回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B）
第８回　ポピュラーカルチャーとは何か（１）：「ブリコラージュ」としてのヒップホップ
第９回　ポピュラーカルチャーとは何か（２）：ゴスペル、ブルース、ジャズから現代の R&B へ
第 10 回　社会における相互行為を通じた感情の共有：「ノスタルジー」と作品表現
第 11 回　課題の発表とコメント（２）
第 12 回　社会の中のアート、デザイン（１）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究１
第 13 回　社会の中のアート、デザイン（２）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究２
第 14 回　社会の中のアート、デザイン（３）：アートやデザインの創造性やスキルを社会運営に活かす
第 15 回　最終課題の発表とコメント

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	T50292101
科目名	社会意識論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 この「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、続く「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回、プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、様々な人文研究の考え方や方法を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		
受講者への要望			
授業の主役は、あなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、できれば「社会意識論 A」をとったうえで、さらに「社会意識論 B」も受講するつもりでいてください。ただし、必須ではなく、どちらか一方だけの履修でも結構です。			
講義の順序とポイント			
１・社会意識とは何か ２・意識と無意識について ３・無意識とその表現について ４・夢と願望 ５・願望と物語、その１ ６・願望と物語、その２ ７・神話・昔話の心理学的解釈、その１ ８・神話・昔話の心理学的解釈、その２ ９・個人発表、その１ 10・個人発表、その２ 11・個人発表、その３ 12・個人発表、その４ 13・願望・欲望について、再考 14・物語のなかの社会 15・物語のなかの人間と社会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50292201
科目名	社会意識論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Social Consciousness B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
講義概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じていろいろな「お話」を楽しんできたと思います。お話は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白いと感じられるのでしょうか。そこにはどんな夢や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、みなさんに自分の好きなお話を紹介してもらいます。そして、そのお話のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、そのお話のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探って行きます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文的研究の諸成果を幅広く紹介していき、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。 「社会意識論 A」では、とくに夢や神話や昔話といった古典的な物語の分析を中心とし、この「社会意識論 B」では、小説や漫画あるいは映画、ゲームなど、より現代的な物語を中心とします。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	なし		
教材（その他）	毎回プリントを配ります。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（40%）＋授業内小テスト（20 点）＋授業内での発表（40%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、様々な人文研究の考え方と方法を学びながら、身につけること。		
準備学習	毎回の授業で、前回の授業で伝えたテーマについて、小レポートないしプレゼンをおこなってもらうので、そのための準備をする。		
受講者への要望			
授業の主役はあなたです。授業に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。なお、「社会意識論 A」をとったうえで、この「社会意識論 B」を受講してください。ただし、必須ではなく、この「社会意識論 B」だけの受講でも結構です。			
講義の順序とポイント			
1・社会意識とは何か 2・社会構造と社会意識 3・物語のなかの社会意識 4・物語のなかの無意識的願望 5・社会構造と無意識的願望 6・願望・欲望とその表現、再考 7・物語の分析の方法と実例、その 1 8・物語の分析の方法と実例、その 2 9・個人発表、その 1 10・個人発表、その 2 11・個人発表、その 3 12・個人発表、その 4 13・改めて物語のなかの社会を考える 14・物語のなかの人間と社会、その 1 15・物語のなかの人間と社会、その 2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50311001
科目名	社会病理学 【他】	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Pathology		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
講義概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。 だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（テキスト）	使用しない		
教材（参考文献）	適宜紹介する		
教材（その他）	レジュメを配布する		
評価方法	基本的には課題レポート（50%）と試験（50%）による総合評価によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
準備学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		
受講者への要望			
社会学系科目の既習が望ましいが、未履修の学生はとりわけ継続的に講義に出席することが不可欠である。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。 当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。			
講義の順序とポイント			
1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など） 2.イデオロギーの磁場としての社会 3.社会病理学の方法論 4.『愛を乞う人』鑑賞 5.事例研究：児童虐待① 6.事例研究：児童虐待② 7.「家族愛」の発見 8.「近代家族」の形成			

9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.論文提出(＋検証テスト)
16.事例研究：「まなざしの地獄」
17.ラベリング論
18.グループワーク：いじめ問題
19.狂気①
20.狂気②
21.『17 歳のカルテ』鑑賞
22.【レポート課題指導】③
23.事例研究：自殺①
24.事例研究：自殺②
25.デュルケイム『自殺論』
26.自殺データから見る現代日本
27.若者の「労働」問題
28.若者の「貧困」問題
29.ディスカッション（『貧困のなかでおとなになる』より）
30.社会病理学から学べること、学べないこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50318A02
科目名	社会福祉論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんと考えたい。社会福祉論Ⅰでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	テキストはなし。 テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
教材（参考文献）	教材（参考文献） 「社会福祉学」　平岡公一他　有斐閣（2011）		
教材（その他）	その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、　出席を重視。		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。　現在、世間で起こっている社会福祉の問題を題材に取り上げ、授業を進めていきます。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　障がいを持って生きるということ
３　社会保障と社会福祉①
４　社会保障と社会福祉②
５　社会保障・社会福祉の動向
６　社会保障制度の諸問題①
７　社会保障制度の諸問題②
８　ゲストスピーカーの講義①
９　社会保障制度の諸問題③
１０ 社会保障制度の諸問題④
１１ ゲストスピーカーの講義②

１２　社会福祉制度の諸問題①
１３　社会福祉制度の諸問題②
１４　社会福祉制度の諸問題③
１５　社会福祉制度の諸問題④

※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50318B02
科目名	社会福祉論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
講義概要	人は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、生活の安定を図るとともに国民の最低生活を保障する公的な制度を社会保障制度という。また、社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障がい者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって、社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、多くの人にとっては、自分とはあまり関係のないものとしてとらえられがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などの問題により、社会保障や社会福祉は、次第に誰もが関わりを持つ普遍的な制度として国民に認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化より、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、機能していくかどうかが国民の最大の関心事になっているのは、間違いないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、ノーマライゼーション、バリアフリー、障害者運動及び自立生活の展開、虐待など、高齢者・障害者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ、学生の皆さんとともに考えたい。社会福祉論Ⅱでは２～３名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（テキスト）	テキストはなし。 テーマに合わせて、レジュメを配布する。ＤＶＤや新聞等も使用する。		
教材（参考文献）	「障害者福祉の世界」（第５版）　佐藤久夫・小澤温　有斐閣アルマ（2016 年） 「社会福祉記事ワークブック」　松井圭三・今井慶宗　大学教育出版（2016 年）		
教材（その他）	その他の参考文献については、その都度、紹介する。		
評価方法	授業内小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、　出席を重視。		
到達目標	１．社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 ２．社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 ３．社会福祉の事例や課題を通して社会を考える。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。		

受講者への要望

社会福祉は、政治や経済、社会の動きがダイレクトに反映される。新聞やテレビ、インターネットの情報により社会や世間ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてください。　現在、世間で起こっている社会福祉の問題を題材に取り上げ、授業を進めていきます。

講義の順序とポイント

１　オリエンテーション
２　障害者福祉の諸問題①　障害者差別
３　障害者福祉の諸問題②　障害者運動の展開
４　障害者福祉の諸問題③　バリアフリーとまちづくり
５　障害者福祉の諸問題④　障害者運動の到達点
６　障害者福祉の諸問題⑤　障害者の恋愛と性
７　障害者福祉の諸問題⑥　優性思想と強制不妊手術
８　ゲストスピーカーの講義①
９　障害者福祉の諸問題⑦　障害者の就労①
１０ 障害者福祉の諸問題⑧　障害者の就労②
１１ ゲストスピーカーの講義②
１２　高齢者福祉の諸問題①介護保険制度
１３　高齢者福祉の諸問題②介護問題
１４　高齢者福祉の諸問題③貧困

１５　高齢者福祉の諸問題④その他

※講義の内容を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T50321001
科目名	社会問題論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	人々の生活と心理に大きな影響を与える現代社会の諸側面、特にその問題点について講じる。個人の心理をよりよく理解するためには、その個人が生きている社会の実情･問題点を把握しておくことが必要である。この講義ではそれらについて講義する。 また、それらの理解に役立つので、その時々の時事問題についても解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代日本社会の問題について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2．経済的格差と貧困
3．子どもの貧困
4．母子家庭の経済的弱者性
5．非正規雇用
6．少子高齢化
7．医療制度
8．健康保険制度
9．財政
10．税制
11．食糧自給率
12．食品添加物
13．グローバリゼーション
14．監視社会・管理社会
15．現代社会についての考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50321002
科目名	社会問題論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	人々の生活と心理に大きな影響を与える現代社会の諸側面、特にその問題点について講じる。個人の心理をよりよく理解するためには、その個人が生きている社会の実情･問題点を把握しておくことが必要である。この講義ではそれらについて講義する。 また、それらの理解に役立つので、その時々の時事問題についても解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	現代日本社会の問題について理解する。		
準備学習	講義終了時に次回の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2．経済的格差と貧困
3．子どもの貧困
4．母子家庭の経済的弱者性
5．非正規雇用
6．少子高齢化
7．医療制度
8．健康保険制度
9．財政
10．税制
11．食糧自給率
12．食品添加物
13．グローバリゼーション
14．監視社会・管理社会
15．現代社会についての考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50330A02
科目名	宗教社会学Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion A		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、宗教社会学における宗教の基本的な捉え方である「世俗化」を踏まえつつ、近年一部の地域や階層でみられる「宗教復興」について考える。発展途上国においては、急速な近代化を達成するための社会統合の手段として、伝統宗教が利用されることが多い。しかし近年は、信仰の個人化が進む先進国においても、伝統宗教がマスメディアやソーシャルメディアを通して再発見され、現代の社会生活にも役立つような方法で、若者にも実践され始めている。本講義では、欧米や中東におけるキリスト教やイスラームの衰退と復興に言及しながらも、日本における神道や仏教の衰退と復興を中心に考察するつもりである。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房		
教材（その他）	『一冊でわかるイラストでわかる　図解宗教史』成美堂出版、2008 年。 ＮＨＫテレビの関連番組を録画したもの。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	伝統宗教が現代のグローバル社会において、どのように受け入れ直されているかを把握する。		
準備学習	日本史や世界史における宗教についての記述や現在の宗教に関わるニュースに目を通しておく。		

受講者への要望

すでに日本の生活習慣にも溶け込んでいる伝統宗教の教えや習慣に気づき、現代の社会生活にも役立てるために、どのように解釈し直し、どのような方法で実践すればよいかを考えてほしい。

講義の順序とポイント

１　春学期の目標と計画
２　「世俗化」と「宗教復興」
３　「軸の時代」における「世界宗教」の成立
４　イスラームの台頭
５　キリスト教の宗教改革と世俗化
６　上座仏教と大乗仏教
７　儒教と道教
８　日本の伝統宗教としての神道
９　国家神道の形成と衰退
１０　日本の伝統宗教としての大乗仏教
１１　檀家制度の成立と残骸
１２　民俗宗教の繁栄と衰退
１３　現代社会における仏教ブーム
１４　伝統宗教の社会的役割
１５　宗教伝統の再構成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50330B02
科目名	宗教社会学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
講義概要	本講義では、近代化と呼ばれる社会の変化ゆえの宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教が社会の変化に応じてその都度出現してきたことを明らかにする。第１に、日本の近代化の初期に「新宗教」の原型とみなされるような「教派神道」が、幕藩体制から立憲君主制への転換期に、どのように成立したのかを明らかにする。第２に、資本主義経済が民衆層にまで浸透する時期に、教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言した新宗教がどのように成立したかも明らかにする。その上で、現代社会において、「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が犯罪に踏み切る一方、自己の聖化を模索する「新霊性運動」が多種多様に展開していることを明らかにする。		
教材（テキスト）	とくに指定しない。		
教材（参考文献）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房		
教材（その他）	各教団の教義書やビデオを資料として利用。 現代の宗教現象についてのテレビ番組や新聞記事のコピーも資料として配布。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割)、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割)、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
準備学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講者への要望			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームに偏りのない関心をもち、事実に即して考え、言葉にする習慣をつけて欲しい。			
講義の順序とポイント			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における「教派神道」の出現 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　教祖崇拝の展開 ６　「生命主義的救済観」の形成 ７　新宗教の組織化 ８　明治大正期における宗教革新 ９　開祖と後継者の協力と葛藤 １０　新宗教と国民国家の緊張 １１　新宗教から「新新宗教」へ １２　「スピリチュアリティ」の追求 １３　「カルト」の台頭 １４　合理主義の復権 １５　私たちの宗教参加			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50333A01
科目名	宗教民俗学Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore I		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	本講義では、暮しの中にとけこみ、私達の生活習慣や思想の基盤となっている民間信仰について学んでいきます。民間信仰とは、神職や僧侶などの宗教者から離れ、民間のみで行われている宗教現象を指すといわれています。この民間信仰は、祭礼・年中行事、人生儀礼を主とし、生活の基盤となる生業や衣食住にも反映されています。 また、この民間信仰は、あらゆる宗教を吸収し、各地域の伝統文化に影響を与えながら独特な展開をみせます。その基礎となる組織として宮座や講が挙げら、これらの動向をみることにより該当地域の信仰形態の一端を知ることができます。しかし、そのためには各地域の歴史も知る必要性があります。この本講義では民間信仰の歴史も踏まえながら、日本人の宗教観、すなわち日本の民俗宗教について一緒に探っていければと思います。		
教材（テキスト）	特に指定はしません。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考文献）	宮家準『宗教民俗学への招待』（丸善ライブラリー） 宮家準『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫） 福田アジオほか編『日本民俗大辞典』（吉川弘文館） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教材（その他）	各講義のテーマに関する映像を用います。		
評価方法	平常点（講義中の態度含む）と最終講義のレポートを重視します。また、講義中に小テストも実施します。最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	受講者のゆかりのある地域の信仰、歴史、伝統文化に興味を持ち、自らの手で調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。これらを知ることは人生の糧となります。		
準備学習	今までで聞いたことのない用語や難解な事例が出てきます。分からない場合は記録し、自ら調べるという姿勢を望みます。また、各自が今まで見てきた、体験してきた事例は貴重な資料となりますので、まとめておくと役に立つでしょう。		
受講者への要望			
京都という町にある大学ですから、各神社や寺院に参拝、様々なお祭りをみる機会があります。また、古文書などの史料や文化財と触れることができる貴重な場所です。積極的に京都という地域を体験してください。			
講義の順序とポイント			
１、宗教民俗学とは何か ２、宗教の種類と民間宗教の研究方法 ３、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅰ（古代） ４、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅱ（中世） ５、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅲ（近世） ６、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅳ（近代） ７、民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅴ（現代） ８、神道と民俗宗教 ９、仏教と民俗宗教 １０、山岳信仰－修験道 １１、シャーマニズムの世界 １２、俗信の世界 １３、京都の民間信仰と研究者 １４、日本人の原風景－風土論 １５、まとめ－日本人と宗教			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50333B01
科目名	宗教民俗学Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore Ⅱ		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
講義概要	この講義では、日本固有の宗教である神道について学びます。「神道とは？」と尋ねられ、明快な回答はできるでしょうか。これは研究者の中でも難解な問題の一つです。神道は自然崇拝から派生したといわれ、日本人の生活の中の宗教として捉えられています。しかし、神道をどう捉えるのかと考えは、時代によって大きく変化しています。また、どの部分に焦点をあてるのかによってみえてくる姿も違い、場合によっては全く捉えどころのない宗教となります。そこで、本講義では、あらゆる学問がみる「神道とは何か？」ということを時間をかけてみていきます。		
教材（テキスト）	阪本是丸・石井研士編『プレステップ神道学』（弘文堂）。 プリント類は各回の講義のみ配布します。		
教材（参考文献）	『国史大辞典』（吉川弘文館） 宮地直一・佐伯有義監修『神道大辞典』（平凡社）（縮刷版：臨川書店） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 國學院大學日本文化研究所編『神道要語集』全五巻（國學院大學日本文化研究所） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教材（その他）	各講義のテーマに関した映像を用います。		
評価方法	平常点（講義中の態度含む）と最終講義のレポートを重視します。また、講義中に小テストも実施します。 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。平常点（６０％）、レポート（４０％）		
到達目標	宗教民俗学Ⅰと同様に、自らの手で神社や祭礼を調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。 そして、私達の遠祖の思いがこもった神道について考えてください。		
準備学習	できるだけ、神社に参拝に行く、お祭りを見るという体験をして下さい。 今は「観光」という目的で様々なメディアで「神道」、「神社」が伝えられることが多くなりました。 大きく変貌しようとするのか、伝統を維持するのか、自分の目で確認して下さい。		
受講者への要望			
京都には、朝廷とつながりのある神社、民衆が支える神社、神仏習合色の濃い神社、摩訶不思議な神社など色々あります。目の前に貴重な資料があります。直接、見て体験してください。			
講義の順序とポイント			
１、神道とは何か ２、神社とは何か ３、神道と神話－神代の時代－ ４、神道と歴史Ⅰ（古代） ５、神道と歴史Ⅱ（中世） ６、神道と歴史Ⅳ（近世） ７、神道と歴史Ⅴ（近代） ８、神道と歴史Ⅵ（現代） ９、神道と祭礼（春） １０、神道と祭礼（夏） １１、神道と祭礼（秋） １２、神道と祭礼（冬） １３、Japanologist たちがみた神道 １４、式年遷宮－継承のこころ １５、まとめ－日本人の宗教・神道			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T50337001
科目名	出版文化論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Publication and Culture		
担当者名	古川　保彦	旧科目名称	
講義概要	出版メディアの歴史を把握した上で、現代の出版文化を考察します。出版社・取次・書店という各プレイヤーの関係性、再販制・委託販売制といった取引上のしくみ、コンビニエンスストア・新古書店・オンライン書店・電子書籍の登場など読書を取り巻く環境の変化等、出版メディアの生産・流通・消費におけるさまざまな動向を紹介します。そして電子出版など新たな動向がこれからの社会をどのように変革していくのかをみなさんと共に考えます。		
教材（テキスト）	特に指定しない。そのつど、プリントを配布する。		
教材（参考文献）	川井良介編『出版メディア入門(第２版)』 （日本評論社）、 ISBN:978-4535586161		
教材（その他）	必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　レポート(70%)。 以上を総合的に評価する。		
到達目標	出版文化の歴史に関する基礎知識を習得し、出版コンテンツの未来を考える力を育成する。		
準備学習	受講者各自が関心を持って授業に臨むため、シラバスで各回のテーマを確認し、関連する資料について事前に図書館等で参照し、そのアウトラインをつかんでおくこと。 参考文献欄に挙げた文献及び授業で紹介する文献すべてを学期中に読破すること。		
受講者への要望			
新聞、雑誌、インターネットなどのメディアに目を通し、出版メディアの動向を意識的に把握してほしい。 遅刻・私語は厳に慎むこと。			
講義の順序とポイント			
1.メディアとは 2.出版メディアの概念と特性 3.出版メディアの歴史（１） 4.出版メディアの歴史（２） 5.書籍 6.雑誌 7.出版の電子化と電子書籍（１） 8.出版の電子化と電子書籍（２） 9.図書館と電子書籍 10.出版社 11.出版流通と販売 12.電子書籍と個人出版 13.表現自由と出版倫理 14.著作権と出版 15.読書と読者 （備考）授業計画は、進度等の都合により変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50340A01
科目名	書道（書写を含む）A 【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Calligraphy A (The Transcript is Include d)		
担当者名	西尾　利香	旧科目名称	
講義概要	楷書の基礎・基本およびそれに調和する仮名を重視した技法習得を中心とする。 書写の学習では、正しく整えて読みやすく書くことが重要である。本講では毛筆を中心に用い、半紙や画仙紙等に書写することで技法を習得し、その学習の成果を日常生活のさまざまな書写場面で生かしていくとともに、創作や鑑賞を加えることにより、創造的な理解力の基礎を育成することを目的とする。また楷書から他の書体へ段階的に移行できるよう、書写力の定着と応用をはかる。		
教材（テキスト）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、授業内自作作品発表、解説等による。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課す課題(25%)により評価する。		
到達目標	1. 現代社会における手書き文字の重要性を理解する。 2. 用具・用材の扱い、基本点画・用筆について理解し、実際に書ける能力を獲得する。 3. 書写の基本的な学習法を身につけ、意欲的に取り組む態度を養う。 4. 書写における実用性と芸術性を高めるために、創作を通し創造する喜びを体得する。 5. 書作品の鑑賞を通し、異文化の理解・交流を深める。		
準備学習	各講義終了時に次の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また講義の最初に前回授業内容に係る代表者による作品についての発表を課するので、準備をしておくこと。		

受講者への要望

1.書道は言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って講義に臨むこと。
2.墨を使用する実技科目である。汚れても支障のない服装で出席すること。
3.遅刻及び講義内容に関連しない私語は厳禁とする。
4.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。

講義の順序とポイント

1.はじめに一書写・書道の概要 Aー
2.楷書の特徴(硬筆)
3.楷書の基本点画
4.楷書の種類 1
5.楷書の種類 2
6.実用書
7.楷書に調和する仮名 1（ひらがな）
8.楷書に調和する仮名 2（カタカナ）
9. 季節の書 1
10.季節の書 2
11.漢字仮名交じりの書・創作 1
12.漢字仮名交じりの書・創作 2
13.漢字仮名交じりの書・創作 3
14.作品鑑賞法 A
15.まとめ(春学期に書いた作品を和装本として制作)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	T50340B01
科目名	書道（書写を含む）B 【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Calligraphy B (The Transcript is Include d)		
担当者名	西尾　利香	旧科目名称	
講義概要	行書の基礎・基本およびそれに調和する細字仮名を重視した技法習得を中心とする。 行書は楷書よりも速く書けるため、記録や伝達に活用できる優れた書体である。また仮名は今日の日常使用文字の過半を占める。しかしそのような実用的な面だけではなく、芸術表現のための要素が多く含まれている。本講では、毛筆を用い書写することで技法を習得し、その培った表現力を基礎に創作へと学習を拡大する。また書写・書道学習に広がりを持たせる上で、板書及び篆刻を加え、毛筆で書く表現とは別の実習を通してその効果を理解する。		
教材（テキスト）	なし、各講義で適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点(30%)、授業内自作作品発表、解説等による。授業中に課すプリント問題と作品(45%)、期末に課す課題(25%)により評価する。		
到達目標	1. 書体の特徴について理解を深め、鑑賞力の向上に努める。 2. 書写・書道の技法を習得し、積極的に活用して表現する態度・能力を養う。 3. 漢字・仮名の成立過程および字源について理解を深める。 4. 漢字と仮名の調和の方法について習熟し、日常生活の書表現の中に積極的に取り入れる態度を確立する。 5. 現代社会の目的・場面等に応じ、情報機器とは異なる手書きの必要性について考察する。		
準備学習	各講義終了時に次の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。また講義の最初に前回授業内容に係る代表者による作品についての発表を課するので、準備をしておくこと。		

受講者への要望

1.書道は言語表記であると同時に芸術表現の学習活動である。伝統を重視するとともに、創造意欲を持って講義に臨むこと。
2.墨を使用する実技科目である。汚れても支障のない服装で出席すること。
3.遅刻及び講義内容に関連しない私語は厳禁とする。
4.各講義で制作した作品およびプリントの提出を求める。

講義の順序とポイント

1.はじめに一書写・書道の概要 B一
2.行書の特徴(硬筆)
3.行書の基本点画
4.行書の創作
5.篆刻
6.仮名・細字の基本 1（平仮名）
7.仮名・細字の基本 2（連綿）
8.漢字仮名交じりの書・創作 1
9.漢字仮名交じりの書・創作 2
10.漢字仮名交じりの書・創作 3
11.季節の書・年賀状
12.季節の書・書初め
13.作品鑑賞法 B
14.板書技法
15.まとめ(秋学期に書いた作品を和装本として制作)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	T50416001
科目名	政治社会学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Political Sociology		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
講義概要	日本また世界を支配しているのは誰か？という問題について、これまでに提起されているいくつかの説を紹介する。この問題は社会全体また個々人の生活に重大な影響を持つ重要な問題であるが、問題として大きすぎることもあり、簡単には解答が得られない。この講義では、その解答に近づく手がかりを得ることとしたい。 なお、このテーマについて考える助けともなるので、毎回、その時々の政治や経済に関するニュースについても解説する。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	授業時に紹介する。		
教材（その他）	関連資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	日本社会の支配構造に関心をもつ。		
準備学習	講義終了時に次回の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講者への要望

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1．イントロダクション。トランプ米大統領の権力の背景
2．「支配」に関する古典的理論１．ウェーバー『支配の社会学』
3．「支配」に関する古典的理論２．ミルズ『パワーエリート』
4．『パワーエリート』つづき
　I　日本社会の支配構造
5．公的権力構造。国会と内閣の役割、総理・官房長官の権限
6．自民党の権力構造
7．官僚の役割
8．財界の意見・利益、政治家への影響力
9．利益団体。政権に影響力を持つ勢力
10．アメリカの影響。日米安保体制の役割
11．メディアの役割・立ち位置
　II　アメリカ社会の支配構造
12．産軍学複合体
13．金融資本
14．国際金融資本
15．「支配」について討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	T50420A01
科目名	生涯学習概論Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	生涯学習の考え方や思想は、社会教育行政に携わるための基本的な知識であるのはもちろんのこと、今日ではしばしばメディア上などの、様々な場面で耳にする言葉となっています。現代社会に生きるわれわれにとって必要とされるこの生涯学習とは、いったいどのようなものなのでしょうか。本科目では生涯学習の基本的な概念や理論を、行政組織や他の教育機関との関係、社会教育施設などの幅広い問題と関連づけながら解説することで、生涯学習の本質と意義の理解を目指します。また本科目では、とくに生涯学習の歴史と現状との関連という側面を重視し、その視点から現在推進されている具体的な生涯学習実践を眺めてみることで、生涯学習に関する今日的な課題を理解することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習、社会教育に関する基本的な知識を身につけ、その本質や現代的な意味、意義を理解する。 ・生涯学習について自身の考えを確立し、自らの知的生活へ具体的にそれを適用していく基本的な姿勢を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布し、同時に予習キーワードを伝達するので、次回の講義までに目を通し、キーワードを参考にしながらわからない箇所を自分で調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
２．イントロダクション：生涯学習とは何か
３．世界の生涯学習の理論①：アメリカにおける学習社会論
４．世界の生涯学習の理論②：OECD の提唱したリカレント教育
５．世界の生涯学習の理論③：ユネスコの提唱した生涯教育、生涯学習論
６．世界の生涯学習の理論④：多様な学習論、成人教育論の諸相
７．日本における生涯学習の展開と実践①：政策の推移と現状
８．日本における生涯学習の展開と実践②：地方自治体の生涯学習行政と地域の連携
９．日本における生涯学習の展開と実践③：青少年・若者を対象とした生涯学習の実践
１０．日本における生涯学習の展開と実践④：生涯スポーツの実践
１１．社会教育の展開と関連施設①：日本の社会教育の歴史
１２．社会教育の展開と関連施設②：図書館の機能と役割
１３．社会教育の展開と関連施設③：公民館の機能と役割
１４．社会教育の展開と関連施設④：博物館の機能と役割
１５．これまでの講義のふりかえりと今後の生涯学習の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50420A02
科目名	生涯学習概論Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	生涯学習の考え方や思想は、社会教育行政に携わるための基本的な知識であるのはもちろんのこと、今日ではしばしばメディア上などの、様々な場面で耳にする言葉となっています。現代社会に生きるわれわれにとって必要とされるこの生涯学習とは、いったいどのようなものなのでしょうか。本科目では生涯学習の基本的な概念や理論を、行政組織や他の教育機関との関係、社会教育施設などの幅広い問題と関連づけながら解説することで、生涯学習の本質と意義の理解を目指します。また本科目では、とくに生涯学習の歴史と現状との関連という側面を重視し、その視点から現在推進されている具体的な生涯学習実践を眺めてみることで、生涯学習に関する今日的な課題を理解することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習、社会教育に関する基本的な知識を身につけ、その本質や現代的な意味、意義を理解する。 ・生涯学習について自身の考えを確立し、自らの知的生活へ具体的にそれを適用していく基本的な姿勢を身につける。		
準備学習	毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布し、同時に予習キーワードを伝達するので、次回の講義までに目を通し、キーワードを参考にしながらわからない箇所を自分で調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
２．イントロダクション：生涯学習とは何か
３．世界の生涯学習の理論①：アメリカにおける学習社会論
４．世界の生涯学習の理論②：OECD の提唱したリカレント教育
５．世界の生涯学習の理論③：ユネスコの提唱した生涯教育、生涯学習論
６．世界の生涯学習の理論④：多様な学習論、成人教育論の諸相
７．日本における生涯学習の展開と実践①：政策の推移と現状
８．日本における生涯学習の展開と実践②：地方自治体の生涯学習行政と地域の連携
９．日本における生涯学習の展開と実践③：青少年・若者を対象とした生涯学習の実践
１０．日本における生涯学習の展開と実践④：生涯スポーツの実践
１１．社会教育の展開と関連施設①：日本の社会教育の歴史
１２．社会教育の展開と関連施設②：図書館の機能と役割
１３．社会教育の展開と関連施設③：公民館の機能と役割
１４．社会教育の展開と関連施設④：博物館の機能と役割
１５．これまでの講義のふりかえりと今後の生涯学習の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50420B01
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	法令やメディア上で「生涯学習」の言葉をしばしば目にするのには、その重要性の認識が改めて求められている事実とともに、実際にそれを実践していくことが強く奨励されている現状が反映されているといえるでしょう。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、地域の実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、生涯学習や地域社会とのかかわり方に関する、自らの考えを深めていく態度を養成することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯教育の実践とその方法、理論や現代社会の課題と諸実践との関連に関する基本的な知識を習得する。 ・その理解の上に立って自身を取り囲む種々の諸課題に対して、自らの関心に基づいた意見を表明したり、課題解決のための学習案を実際に提示したりできる態度・能力を養成する。		
準備学習	・新聞紙上に紹介されている生涯学習実践や社会教育施設、生涯学習関連施設の活動に目を配り、とくに自らの関心に近かった記事を切り取りファイリングするなど、生涯学習の実際へ日々関心を向けるようにしてください。また授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみるなど、調査・体験を積極的に行うようにしてください。 ・とくに出身地の社会教育施設については、訪問を行う中で活動の実際に触れ、配布されている資料を収集し事業の実態を把握しておくなど、授業開講中の継続的な調査を期待しています。 ・毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
3．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方①：人権尊重の実現を目指す生涯学習
4．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方②：個人化の進行と資格取得・キャリア形成をめぐる問題
5．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方③：貧困・格差の問題と職業能力開発
6．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方④：生涯学習と環境教育・ESD
7．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
8．問題解決のための生涯学習の取り組み②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習と学習環境の整備
9．問題解決のための生涯学習の取り組み③：社会的な格差、孤立の解消を目指す諸実践
10．問題解決のための生涯学習の取り組み④：体験活動を支援する青少年教育施設の実践
11．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館-CLC 事業の展開
12．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
13．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：文化都市、京都で実践されている多様な ESD・生涯学習の試み
14．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都を代表する観光地を、ESD の観点から学習してみよう
15．これまでの授業のふりかえりと生涯学習を実践することの意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50420B02
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
講義概要	法令やメディア上で「生涯学習」の言葉をしばしば目にするのには、その重要性の認識が改めて求められている事実とともに、実際にそれを実践していくことが強く奨励されている現状が反映されているといえるでしょう。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、地域の実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、生涯学習や地域社会とのかかわり方に関する、自らの考えを深めていく態度を養成することを目指します。		
教材（テキスト）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考文献）	授業中に適宜紹介します。		
教材（その他）	授業時に適宜、関係資料を配布します。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートや発言、発表等に関する平常点（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯教育の実践とその方法、理論や現代社会の課題と諸実践との関連に関する基本的な知識を習得する。 ・その理解の上に立って自身を取り囲む種々の諸課題に対して、自らの関心に基づいた意見を表明したり、課題解決のための学習案を実際に提示したりできる態度・能力を養成する。		
準備学習	・新聞紙上に紹介されている生涯学習実践や社会教育施設、生涯学習関連施設の活動に目を配り、とくに自らの関心に近かった記事を切り取りファイリングするなど、生涯学習の実際へ日々関心を向けるようにしてください。また授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみるなど、調査・体験を積極的に行うようにしてください。 ・とくに出身地の社会教育施設については、訪問を行う中で活動の実際に触れ、配布されている資料を収集し事業の実態を把握しておくなど、授業開講中の継続的な調査を期待しています。 ・毎回の講義終了時に次回の講義に関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講者への要望

・主として講義形式で授業を行いますが、そのなかで発言や発表を求める場面が多々あります。積極的な議論への参加と授業への能動的な態度を期待します。
・遅刻をしないことや私語を慎むなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象とすることがあります。

講義の順序とポイント

１．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
２．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
３．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方①：人権尊重の実現を目指す生涯学習
４．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方②：個人化の進行と資格取得・キャリア形成をめぐる問題
５．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方③：貧困・格差の問題と職業能力開発
６．現代社会の課題に対応する生涯学習の考え方④：生涯学習と環境教育・ESD
７．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
８．問題解決のための生涯学習の取り組み②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習と学習環境の整備
９．問題解決のための生涯学習の取り組み③：社会的な格差、孤立の解消を目指す諸実践
１０．問題解決のための生涯学習の取り組み④：体験活動を支援する青少年教育施設の実践
１１．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館-CLC 事業の展開
１２．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
１３．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：文化都市、京都で実践されている多様な ESD・生涯学習の試み
１４．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都を代表する観光地を、ESD の観点から学習してみよう
１５．これまでの授業のふりかえりと生涯学習を実践することの意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50447A01
科目名	地域文化論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Regional Theory A		
担当者名	鈴木　和正	旧科目名称	
講義概要	近代において、地域文化を牽引する役割を果たしたのは学校や教師であった。そのため、地域文化を理解するためには、「地域」と「教育」の関わりについて知る必要がある。学校教育という営みは、地域における社会構造や文化状況との関わりにおいて展開されており、そもそも地域とのつながりなくしては存在し得なかった。 この講義では、特に地域社会における学校や教師、子どもについて考えたい。具体的には教育史や歴史学、児童文化に関する研究成果をベースとして、近代における地域社会について考察していく。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。		
教材（参考文献）	高橋敏『近代史のなかの教育』岩波書店、1999 年。 大門正克『民衆の教育経験 ―農村と都市の子ども』青木書店、2000 年。		
教材（その他）	視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況による。レポート（50%）		
到達目標	「地域」と「教育」の関わりについて理解する。 地域社会において、学校や教師が果たした役割について理解する。		
準備学習	集中講義のため、講義期間前に課題を配布します。講義開始時に要点を口頭発表してもらうので、よく読んで授業に臨んでください。		

受講者への要望

他の教育学・民俗学関連の講義と併せて受講することが望ましい。
不明な点があれば積極的に質問すること。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス；「地域」と「教育」について考える
2，地域と教育１―「学制」発布と学校の誕生
3，地域と教育２―学校と習俗の葛藤
4，地域と教育３―教育勅語と御真影
5，地域と教育４―戦争と学校
6，地域のなかの集団１―青年団の誕生
7，地域のなかの集団２―青年団の活動
8，地域社会の子ども１―村の子ども像
9，地域社会の子ども２―都市の子ども像
１０，地域文化の発生１―阪神間モダニズムの形成
１１，地域文化の発生２―児童の村小学校の誕生
１２，地域文化の発生３―地域経済の衰退と私立小学校の閉鎖
１３，地域綴方教育史１―綴方教育の展開
１４，地域綴方教育史２―綴方教師の活動
１５，地域綴方教育史３―学級文集の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50447B01
科目名	地域文化論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture Regional Theory B		
担当者名	鈴木　和正	旧科目名称	
講義概要	近年の日本では、地域社会および地域に根差した文化、すなわち地域文化への関心が高まっている。戦前においても、大正新教育運動や郷土教育運動の影響を受けた学校では、地域への関心を高め、地域教材が活用された。1930 年代の地域社会は深刻な不況に見舞われ、学校教育は地域社会の経済更生運動の中に組み込まれていった。こうした社会状況の中で、大正新教育における児童中心主義も変質していったとされる。 この講義では、地域社会を中心として学校教育がどのように展開されたのかを考えたい。また、愛郷心の養成をねらいとする郷土教育や民俗学運動についても考えたい。その手段として、主に教育史や歴史学、民俗学の成果を参考にしたい。最終的には受講者が、教育史や歴史学、民俗学の成果を学びながら自身が生活する地域及び文化をより深く理解することを目的とする。		
教材（テキスト）	特定の教科書は使用しない。 授業で使用する資料は、その都度プリントで配付する。		
教材（参考文献）	中野光『大正自由教育の研究』黎明書房、1968 年。 鹿野政直『大正デモクラシーの底流』NHK ブックス、1973 年。 中野光『改訂増補 大正デモクラシーと教育』新評論、1990 年。 小国喜弘『民俗学運動と学校教育』東京大学出版会、2001 年。 外池智『昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究』NSK 出版、2004 年。 伊藤純郎『増補　郷土教育運動の研究』思文閣出版、2008 年。 中野光『学校改革の史的原像』黎明書房、2008 年。		
教材（その他）	視聴覚教材などを適宜使用する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況による。レポート（50%）		
到達目標	地域社会と教育運動の関わりについて理解する。 「大正新教育運動」や「郷土教育運動」について理解する。 地域や地域文化について考える力を養う。		
準備学習	最初の講義までに、上記で紹介した教材（参考文献）を読んで予習しておくこと。また講義開始時に前回の要点を口頭発表してもらうので、復習をしておくこと。		
受講者への要望			
前期の地域文化論Ａと併せて受講することが望ましい。 不明な点があれば積極的に質問すること。			
講義の順序とポイント			
１、ガイダンス―地域社会と教育運動について考える ２、大正デモクラシー期の地域社会１ ３、大正デモクラシー期の地域社会２ ４、近畿地方の大正新教育１―及川平治と分団式教育 ５、近畿地方の大正新教育２―木下竹次と合科学習 ６、中国地方の大正新教育１―岡山県倉敷町の新教育 ７、中国地方の大正新教育２―広島県西条町の新教育 ８、中国地方の大正新教育３―山口県山口市の新教育 ９、恐慌期の地域社会と学校―新教育運動の衰退と郷土教育 １０、郷土教育運動の展開１ １１、郷土教育運動の展開２ １２、郷土教育運動の展開３ １３、郷土教育運動の展開４ １４、民俗学運動と学校教育１			

１５、民俗学運動と学校教育２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50463A01
科目名	伝統文化実習 A（茶道） 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『茶道文化検定公式テキスト 3 級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考文献）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点 50%。授業中に課するレポート等 50%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶道を通して、幅広い総合芸術の様相の確認と異文化への理解。		
準備学習	テキストの予習、復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
茶の湯に関心のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．伝統文化総論 ２．日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．同上 ４．茶の湯入門 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．同上 １１．同上 １２．茶の湯の庭入門 １３．同上 １４．同上 １５．茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50463B01
科目名	伝統文化実習Ｂ（能楽）　【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。 平安神宮の薪能を見学に行きます。		
教材（テキスト）	プリント・ＣＤなどを配布		
教材（参考文献）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加度や熱意。練習の習熟度。最後の発表会参加は必須です。薪能見学のレポート。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
準備学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いておくこと 牛若丸（源義経）の話を読んでおくこと		

受講者への要望

初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。
不安な場合は担当者に相談してください。
授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、
「芸は盗むもの」といいます。
伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、
そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。
フィールドワークとして平安神宮の薪能の見学があります。
チケット代自己負担が千円程度かかります。
たびを持っていない人は、購入費千円程度を用意して下さい。

講義の順序とポイント

1　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム
2　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半）
3　復習
4　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半）
5　薪能見学の事前学習
6　薪能の見学（フィールドワーク）
7　謡　復習・仕舞の復習
8　謡「橋弁慶」弁慶と家来のやりとり　　仕舞「鶴亀」
9　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」
１０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」
１１　練習
１２　リハーサル
１３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ
14　　同上　第二グループ
１５　同上　第三グループ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★★	–	★	–	–

年度	2017	授業コード	T50465001
科目名	伝統文化実習Ｃ（やきもの） 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture C		
担当者名	佐々木　大和	旧科目名称	
講義概要	陶磁工芸には文字通り陶器と磁器がある。陶器工芸の作陶には、ろくろ成形と手びねり成形の二つがあるが、本講義では手びねり成形の楽茶碗の成形を行う。 なお、実習費の実費徴収（3,000 円程度）を授業内で行うので注意のこと。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	各種出版物		
教材（その他）			
評価方法	作品の出来の良し悪しではなく、製作過程の努力を評価対象とする。		
到達目標	鑑賞するだけでなく、実際に製作にたずさわることで、楽茶碗の理解に少しでも近づくこと		
準備学習	陶器と磁器の区別・茶道における茶碗の役割、位置付け・楽茶碗の歴史、特色などについて、基本的な知識を得ておくこと		
受講者への要望			
自分で積極的に書籍や美術館などで陶磁器、特に陶器についての知識を深めるように			
講義の順序とポイント			
1.陶磁器の歴史 2.粘土とは 3.粘土の準備 1 4.粘土の準備 2 5.土こね作業 1 6.土こね作業 2 7.成形の方法 8.回転台の使い方 9.成形作業 1 10.成形作業 2 11.釉の意味の役割 12.施釉作業 13.焼成の基本 14.焼成作業 15.評価			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	T50476A01
科目名	伝統文化論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
講義概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（テキスト）	『茶道文化検定公式テキスト 3 級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考文献）	『ここから学ぶ茶室と露地』飯島照仁著　淡交社(1,900 円＋税) 必要に応じてプリントを配布する。		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点 50%。授業中に課するレポート等 50%。		
到達目標	日本の伝統文化である茶道を通して、幅広い総合芸術の様相の確認と異文化への理解。		
準備学習	テキストの予習、復習とプリントの確認をする。		
受講者への要望			
茶の湯に関心のある学生。			
講義の順序とポイント			
１．伝統文化総論 ２．日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．同上 ４．茶の湯入門 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．同上 １１．同上 １２．茶の湯の庭入門 １３．同上 １４．同上 １５．茶の湯と異文化交流			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50476B01
科目名	伝統文化論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、１２月１０日（日）に行われる能の催しを見学する。		
教材（テキスト）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考文献）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト 能見学レポート		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
準備学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		

受講者への要望

毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。
能見学のチケット代が自己負担千円程度必要です。
１２月１０日（日）はフィールドワークなので午後の予定を空けておくこと。

講義の順序とポイント

1　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい
2　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る
3　「道成寺」後半を見る
4　能面のいろいろ
5　能「鉄輪」と『陰陽師』
6　能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼
7　フィールドワーク事前学習
8　フィールドワーク能の見学（12 月 10 日（日）午後）
　　（都合がつかない人は別の日の公演を代用します）
9　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇
１０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓
１１「松風」伊勢物語と能
１２　「海士」玉取り伝説と能
１３「邯鄲」中国の伝説と能
１４　「靱猿（うつぼざる）」の狂言

１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50478B01
科目名	都市文化史Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Culture History B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。近代都市が生み出した様々な文化のあり処に思いを致す時、都市伝説の語感による都市と、文化史を結びつけた都市文化史は、その複雑怪奇性といい、百鬼夜行性といい申し分のない括り方ではないだろうか。都市文化史 B では大衆と死の共同体という観点から都市文化史を考える。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。		
準備学習	各自関連文献を読んでおくのは重要である。毎回関連文献を提示するので、適時それに時間を割くように。		
受講者への要望			
一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。			
講義の順序とポイント			
（1）大衆と都市 （2）秋葉原と夢野久作 （3）バタイユ『青空』 （4）死の共同体 （5）神話としてのドン・ジュアン （6）ファウスト （7）死の時代 （8）虐殺・神話 （9）図像学の誕生 （10）アビ・ヴァールブルグ （11）ゴーレム （12）絵引 （13）街をあるく （14）異形異類 （15）再び江戸の大衆社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50496001
科目名	日本の文化と観光地を英語で 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Culture and Tourism in English		
担当者名	John Gatewood II	旧科目名称	
講義概要	We will learn how to Introduce Japanese Culture to the world.		
教材（テキスト）	Let'S Introduce Japanese Culture! 日本文化を世界に By Kinuyo Koikawa Kentaro Yamada David Farrell Motoko Yakushiji Eihosha		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	発表・宿題 20% スピーキングテスト 20% クイズやテスト 40% 最終試験 20%		
到達目標	1.Give the students vocabulary and grammar to design a basic guidebook 2.Help the students to become more familiar with giving directions 3.Construct different patterns for communicating in spoken/written English		
準備学習	Come to class ready to learn. This class will be slightly more difficult than other semesters, but work hard and you can do well!		

受講者への要望

授業に出席すること。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることを勧めます。

講義の順序とポイント

We will learn how to tell people about Japan in Emglish
1.Introduction - Book
2.Quiz - Book
3.Kyoto ? more info - Book
4. Culture point - Book (2)
5.Tea (1) - Book
6.T1 - Book (2)
7.T2? Arts (1) - Book Quiz
8.T3 - Book (2)
9.Guidebooks - Book (1)
10. writing (2)
11. ... in English Literature (1) - Book
12 ... in English Literature (2) - Book
13.Survey writing
14.Final reports/discussion
15.Surveys

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2017	授業コード	T50501A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史） Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) I		
担当者名	田中　智子	旧科目名称	
講義概要	この授業は、幕末（今から約１５０年前）から大正期（今から約１００年前）に至るまでの日本近代史のあゆみを、「女性の歴史」という視点から眺め直してみようという講義である。授業の前半では、各回のテーマにしたがって、法令や制度、運動などについて、これまでの研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていく。後半では、そのテーマに関わる実在の女性を一人取り上げ、その生涯と思想を追いかけたい。歴史学特殊講義（日本近現代史）前編、初級編と位置づける。		
教材（テキスト）	特定の教科書は用いない。		
教材（参考文献）	阿部恒久・佐藤恒久著『通史と史料　日本近現代女性史』（芙蓉書房出版、2000 年）。そのほか適宜授業中に紹介する。		
教材（その他）	毎回こちらで資料プリントを作成し配布する。		
評価方法	学期末に実施する定期試験（70%）、授業中に提出を課すコメントペーパーの内容など平常点（30%）。		
到達目標	「何となくそうだと思っていること（思わされていること）」を疑い、自らの考えを変えていける柔軟性と思考力とを身につける。		
準備学習	講義のなかで紹介する文献に目を通す。女性の日常が描かれた幕末・明治・大正期の小説を読む。「女性史」という視点から、日ごろ接するニュースを位置づけてみる。		
受講者への要望			
受講にあたり、知識の多い少ないは問わないが、高等学校までに使った「日本史」の教科書を座右に置き、目次と記述を読み直してみることを求めたい。			
講義の順序とポイント			
1　ガイダンス～　「日本史」のなかの「女性」 2　「文明開化」と風俗改良問題 3　女権獲得運動のおこり 4　女子教育の開始 5　資本主義下の女子労働 6　近代公娼制度の始まり 7　「家」制度と女性 8　日清・日露戦争と女性 9　「新しい女」の登場 10　女性の社会進出と「母性保護」論争 11　女性の政治的権利の要求 12　「性」をめぐる女性運動 13　「生活」をめぐる女性運動 14　帝国化する日本と女性 15　まとめの考察：1860 年代～1910 年代の女性			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	T50501B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史）II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) II		
担当者名	田中　智子	旧科目名称	
講義概要	この授業は、大正期（今から約１００年前）から高度経済成長期（今から約５０年前）に至るまでの日本近現代史のあゆみを、「女性の歴史」という視点から眺め直してみようという講義である。授業の前半では、各回のテーマにしたがって、法令や制度、運動などについて、これまでの研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていく。後半では、そのテーマに関わる実在の女性を一人取り上げ、その生涯と思想を追いかけたい。　歴史学特殊講義（日本近現代史）Ｉの続編・中級編と位置づける。		
教材（テキスト）	特定の教科書は用いない。		
教材（参考文献）	阿部恒久・佐藤恒久著『通史と史料　日本近現代女性史』(芙蓉書房出版、2000 年)。そのほか適宜授業中に紹介する。		
教材（その他）	毎回こちらで資料プリントを作成し配布する。		
評価方法	学期末に実施する定期試験（70%）、授業中に提出を課すコメントペーパーの内容など平常点（30%）。		
到達目標	自らの見解を、歴史との対話のなかであたらしく創造していけるような根気のよさと論理性を身につける。		
準備学習	講義のなかで紹介する文献に目を通す。女性の日常が描かれた昭和戦前期・戦中・戦後の小説を読む。「女性史」という視点から、日ごろ接するニュースを位置づけてみる。		

受講者への要望

受講にあたり、知識の多寡は問わないが、高等学校までに使った「日本史」の教科書を座右に置き、目次と記述を読み直してみることを求めたい。

講義の順序とポイント

1　　ガイダンス　～「近代」と「現代」
2　戦間期の女性をめぐる社会変化
3　昭和恐慌と女性をめぐる社会問題
4　戦争に協力する女性たち
5　戦時下の日常生活と女性
6　労働力・産む性としての戦時女性
7　戦地の女性たち
8　占領期の「性」をめぐる実態
9　女性参政権の実現
10　教育「民主化」政策と女性
11　戦後の労働問題と女性
12　「主婦論争」と「ウーマンリブ」
13　高度経済成長と女性のライフサイクル
14　「女性史」の誕生
15　まとめの考察　～「男女共同参画社会」の実態

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2017	授業コード	T50505A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）Ⅰ【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the Early Modern Age of Japan) I		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% レポート　50% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。授業中スマホで遊んでいるところを一度でもみかけたら単位はだしません。スマホ依存から脱却してください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　江戸時代の地震となまず絵 第３回　江戸時代の『源氏物語』 第４回　錦絵の生産と流通 第５回　江戸時代前期の出版関係法令 第６回　歌麿と幕府の出版統制 第７回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第８回　判じ絵を読み解く 第９回　出版文化と日用教養書 第 10 回　江戸時代の七夕文化 第 11 回　京都の通り名歌の歴史 第 12 回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第 13 回　江戸時代、書物文化の広がりと常識の形成 第 14 回　出版文化と伝説の広がり 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	T50505B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the early modern age of Japan) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% レポート　50% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の歴史の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人はお断りです。受講しないでください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　政治史；秀吉の平和 第３回　政治史；「惣無事令」はなかった！？ 第４回　政治史・史料論　前期幕藩制研究と史料批判 第５回　政治史：領主のとらえ方 第６回　史料論：災害と歴史学 第７回　史料論：ウソをつく古文書 第８回　法制史：江戸時代の出版法令 第９回　教育史：江戸時代における文字の役割 第 10 回　教育史：江戸時代の識字率は世界一！？ 第 11 回　民俗学：休日の歴史 第 12 回　民俗学：民俗学と歴史学 第 13 回　女性史：遊女へのまなざし 第 14 回　女性史：おっぱいの歴史 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	T50510A01
科目名	日本文学特殊講義Ａ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature A		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では日本の近代文学を学ぶ入り口として、広い意味での「歴史小説」、すなわち歴史上の事件や人物などを素材として構成された小説を中心に読んでいきます。主に取り扱うのは芥川龍之介、菊池寛、森鴎外の作品です。 授業ではまず、『高瀬舟』『羅生門』などといった高校までの「国語」の授業で取り扱うことも多い作品を、大学での「文学研究」において重要となる実証的な手法、すなわち本文や文脈の精査、素材や典拠の検討、他作品との比較、文化的背景の考察などを通して読み解き、作品への理解を深めます。また「歴史小説」についての評論などを読むことを通して、「(歴史) 小説」とは何か、「文学」とは何かという問題について考えます。		
教材（テキスト）	芥川龍之介『地獄変・邪宗門・好色・藪の中 他七篇』(岩波文庫、緑 70-2)。ほか、授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。ほか、映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(40%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（60%)。		
到達目標	・芥川龍之介、菊池寛、森鴎外についての知識を身につけ、作品への理解を深める ・「歴史小説」について理解する ・近代の文学作品を自分なりの視点から読み解けるようになる ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、次の授業までに必ず読んでおくこと。ミニッツペーパーやレポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

秋学期に実施される日本文学特殊講義 B・E と関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講すると理解がより深まるだろう。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.森鴎外『高瀬舟』①
3.森鴎外『高瀬舟』②
4.芥川龍之介『羅生門』
5.芥川『藪の中』.①―映画『羅生門』観賞
6.芥川『藪の中』②
7.芥川と菊池寛の歴史小説①―映画『地獄門』観賞
8.芥川と菊池寛の歴史小説②―菊池寛『袈裟の良人』 1
9.芥川と菊池寛の歴史小説③―菊池寛『袈裟の良人』 2
10.芥川と菊池寛の歴史小説④―芥川『袈裟と盛遠』
11.芥川と菊池寛の歴史小説⑤
12.芥川と菊池寛の歴史小説⑥
13.「歴史小説」について考える①
14.「歴史小説」について考える②・小テストの実施
15.授業内容の総括・小テスト解説
＊参加者の関心や理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	T50510B01
科目名	日本文学特殊講義Ｂ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature B		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では、おもに大正・昭和初期の文学を扱います。大正・昭和初期の文学史を学びつつ、この時代の代表的な作品や評論を読み解くことを通して、日本の近代文学と近代についての理解を深め、様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とします。特に重点を置くのは夏目漱石と谷崎潤一郎です。		
教材（テキスト）	授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(50%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（50%)。		
到達目標	・日本の近代文学に対する理解を深める ・取り上げる作家や作品についての知識を身につけ、理解を深める ・様々な視点から近代の文学作品を読み解く力を身に付ける ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。授業後のミニッツペーパー、レポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

春学期に実施される日本文学特殊講義Ａ、秋学期に実施される日本文学特殊講義Ｅと関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講することを推奨する。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.夏目漱石①―映画『こころ』観賞
3.夏目漱石②―漱石『こころ』を読む１
4.夏目漱石③―漱石『こころ』を読む２
5.自然主義と反自然主義の文学について
6.谷崎潤一郎①
7.谷崎潤一郎②
8.谷崎潤一郎③
9.白樺派の文学①―武者小路実篤
10.白樺派の文学②―志賀直哉
11.菊池寛・芥川龍之介の文学①
12.菊池寛・芥川龍之介の文学②
13.モダニズム文学・プロレタリア文学①
14.モダニズム文学・プロレタリア文学②
15.大正・昭和初期の日本文学史概括、小テストの実施と解説

＊参加者の関心や理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50510C01
科目名	日本文学特殊講義Ｃ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature C		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	出席・発言等の平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典文学と資料を読み解きながら、京都に実感的に親しむ。作品や史料を知識として知るだけでなく、自分の心でそれを鑑賞・考察する。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
準備学習	平安時代の文化と歴史について高校教科書程度の基礎知識を持っておくこと		

受講者への要望

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

講義の順序とポイント

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50510D01
科目名	日本文学特殊講義Ｄ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature D		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本の江戸時代の文化を中心に扱う。江戸時代、三都と言われたのは江戸・京・大坂であった。江戸前期に京・大坂を中心とする上方文化が栄え、後期は文化が東漸し江戸文化が栄える。この講義では、東西の文化を比較しつつ、江戸文化を紹介することによって、上方、特に京都文化を逆照射することを試みたい。武士・町人の人口割合も影響したといわれる当時の東西文化の特徴が、現代の当地気質にも及んでいることを考察したいと考える。 具体的には、浮世絵を文学の立場から読み解いてみることを試みたい。 北斎の『北斎漫画』や国芳の絵本を題材に、北斎に取りあげられユーモラスに描かれた 江戸時代の町の人々のくらしの様子を読み解き、 時には歴史上の英雄や妖怪などの 絵にまつわる日本と中国の多彩な物語を紹介していく。		
教材（テキスト）	『北斎漫画』『国芳の絵本』（岩崎美術社）の必要部分をプリントして配布する		
教材（参考文献）	『北斎漫画』１～５編、『国芳の絵本』一二、（岩崎美術社）		
教材（その他）			
評価方法	平常点５０％、発表またはレポート５０％		
到達目標	絵の出典はさまざまなので、 多様な資料に接することになる。		
準備学習	葛飾北斎について、展覧会などがあったら見に行ってほしい。		
受講者への要望			
毎回出席すること。 意見や感想を遠慮なく発言すること			
講義の順序とポイント			
１　江戸時代の絵画 ２　浮世絵師の勢力分布と画風 ３　葛飾北斎の画風の変遷 ４　『北斎漫画』の紹介 ５　『国芳の絵本』の紹介 ６～１２　各図の出典を考える １３　同じ画題がどのように絵師によって違ってえがかれているかを比較する １４　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（１） １５　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★

年度	2017	授業コード	T50510E01
科目名	日本文学特殊講義Ｅ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature E		
担当者名	白方　佳果	旧科目名称	
講義概要	この授業では、おもに明治時代の日本文学を扱います。明治時代の文学史を学びつつ、この時代の代表的な作品や評論を読み解くことを通して、日本の近代文学と明治時代についての理解を深め、様々な視点から文学作品を読み解く力を身に付けることを目標とします。特に重点を置くのは泉鏡花と夏目漱石です。		
教材（テキスト）	授業中に配付・指示する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを配付する。映像作品、パワーポイントを使用する。		
評価方法	授業内に実施する小テスト(50%)。授業中に指示するレポートと出席状況、ミニッツペーパー等による平常点（50%)。		
到達目標	・日本の近代文学に対する理解を深める ・取り上げる作家や作品についての知識を身につけ、理解を深める ・様々な視点から近代の文学作品を読み解く力を身に付ける ・近代文学を読む上で知っておくべき基礎的知識やツールについて理解する		
準備学習	授業中に指示する。事前学習を指示した作品は次の授業までに必ず読んでおくこと。		

受講者への要望

事前学習を指示したテキストは、授業までに必ず目を通しておくこと。ミニッツペーパーやレポート、小テストにおいては、自分なりの考えや感想を文章にすることが求められる。他者に分かりやすく伝えられるよう、自分の考えを整理しながら主体的に授業に取り組んでほしい。

春学期に実施される日本文学特殊講義Ａ、秋学期に実施される日本文学特殊講義Ｂと関連する内容である。必須ではないが、それらと併せて受講することを推奨する。

講義の順序とポイント

1.ガイダンス
2.明治初期の文学
3.森鴎外
4.「紅露の時代」の文学
5.樋口一葉①―樋口一葉の生涯と作品／『たけくらべ』
6.樋口一葉②
7.泉鏡花①―泉鏡花の生涯と作品１／映画『外科室』観賞
8.泉鏡花②―泉鏡花の生涯と作品２／舞台映像『湯島の境内』鑑賞
9.泉鏡花③
10.泉鏡花④
11.夏目漱石①―夏目漱石の生涯と作品
12.夏目漱石②―『夢十夜』
13.夏目漱石③
14.夏目漱石④
15.明治期の日本文学史概括、小テストの実施と解説

＊参加者の関心や理解状況等に応じて、授業の順序・内容は変更する場合がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50510G01
科目名	日本文学特殊講義Ｇ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature G		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
講義概要	授業は講義形式で行う。 鴨長明著『方丈記』を読む。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」で知られる『方丈記』は、源平争乱期を生きた作者が、人生の晩年に著した作品である。 そこに描かれているのは、震災・火事などの災害体験、それらを通して作者がたどりついた生き方である。 現代の我々が抱えるテーマと通ずる内容をはらんだ『方丈記』全体を通読する。 テキストを精読し、各自作品について思考し、教員の設定する問題について考察してみよう。 また、著者鴨長明の他の作品も併せ読み、『方丈記』を読む上で必要な周辺知識について学ぼう。		
教材（テキスト）	授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	授業内で適宜紹介する。		
教材（その他）			
評価方法	最終回授業で行う到達度テスト　40%　授業内レポート 40%　平常点（出席などによる）　20%		
到達目標	・鴨長明著『方丈記』を通読する。 ・『方丈記』の読解を中心に、古典文学作品の研究に必要な基礎的知識を身につける。		
準備学習	次回授業までに読んでおくべきテキストを提示するので授業前までに必読のこと。 また、到達度テスト前に授業の内容を復習すること。		
受講者への要望			
能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。			
講義の順序とポイント			
1　授業のすすめ方　はじめに　『方丈記』概説 2　鴨長明概説 3　『方丈記』を読む（1） 4　『方丈記』を読む（2） 5　『方丈記』を読む（3） 6　『方丈記』を読む（4） 7　『方丈記』を読む（5） 8　『方丈記』を読む（6） 9　『方丈記』を読む（7） 10　『方丈記』を読む（8） 11　『方丈記』と『発心集』（1） 12　『方丈記』と『発心集』（2） 13　『方丈記』と『無名抄』（1） 14　『方丈記』と『無名抄』（2） 15　授業のまとめ　到達度テスト			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50513A01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）Ⅰ【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) I		
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
講義概要	古代都市（首都）は日本の歴史の総体を直接に反映する。日本の古代都市の成立から、摂関・院政期の平安京の変貌までを解明する。日本の古代都市の成立は、７世紀末の都城・藤原京とされることが多い。古代都城・藤原京の意義と限界、平城京の特質と実態を解明し、さらに長岡京遷都の背景を説明する。ついで平安京遷都の経過を検証し、初期平安京の構造を理念と実際の両面から説明する。つぎに、西暦 1000 年前後の平安京の変貌を多面的に考察し、院政期の開発・再開発を都市住人と権門の両面から検討する。平城京・平安京の都市社会や住人に焦点をあて、西暦 1000 年前後の画期を強調する。文献史料のほか、近年は発掘調査の成果が顕著であるので、発掘調査のデータや絵画史料を活用する。		
教材（テキスト）	ない、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	木下正史・佐藤信編『飛鳥から藤原京へ』（古代の都１）吉川弘文館、２０１０年 田辺征夫・佐藤信編『平城京の時代』（古代の都２）吉川弘文館、２０１０年 西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年		
教材（その他）	発掘調査や絵画資料のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	日本の７世紀末から１２世紀までの正確で幅広い知識を獲得するとともに、発掘調査の成果や文献史料の原典から新しい情報を発見して歴史像を組み立て、また情報を外部に発信するための技術を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、参考文献の該当箇所を読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。復習課題から小テストを出題する。		
受講者への要望			
能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。			
講義の順序とポイント			
1　「古代」都市の成立と変遷 2　藤原京の成立過程 3　藤原京の意義と限界 4　平城京の特質 5　平城京の実態 6　長岡京遷都 7　平安京遷都 8　初期平安京の構造 9　初期平安京の貴族と住人 10　平安京の変貌と町屋の成立 11　摂関期の「随近の人」「近辺の人々」 12　摂関・院政期の町小路 13　院政期の白河・鳥羽・法住寺殿の開発 14　院政期の「在地の者」「在地の輩」 15　西暦 1000 年前後の画期と院政期以降の展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50513B01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) II		
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
講義概要	平安京・京都を中心に、日本の歴史を学習する。ＪＲ二条駅前の発掘調査で、九世紀後半の仮名墨書土器が大量に発見された。この地区は平安京右京三条一坊六町で、右大臣藤原良相の西三条第が所在する。藤原良相の西三条第は百花亭と呼称される。初期の仮名が大量に出土する背景を考察するため、右大臣藤原良相の西三条第（百花亭）・「男女」を検討する。「百花亭の詩」の典拠は白楽天である。良相は西三条第や内裏直廬で詩会を主宰し、貞観期を代表する文人が参加する。良相の「男女」では、長子常行と在原業平は確実に相知であり、直方・忠方は「才行」が確証される。西三条第は、十世紀中葉まで伝領が判明する。		
教材（テキスト）	ない、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考文献）	西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年 京都市埋蔵文化財研究所『平安京右京三条一坊六・七町跡－西三条第（百花亭）跡』2013 年 西山良平・鈴木久男・藤田勝也編著『平安京の地域形成』京都大学学術出版会、2016 年 参考ＵＲＬ：{ http://www.kyoto-arc.or.jp/}京都市埋蔵文化財研究所		
教材（その他）	発掘調査や遺物のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	京都・日本の歴史とその背景を具体的な素材を通して理解し、歴史的に思考する。また、歴史的な思考の根拠となる歴史資料・情報（文字資料、発掘調査など）を読み解き、外部に意見や情報を発信できる知識を身につける。		
準備学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、１週間前に参考文献の該当箇所を指示するので、読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。復習課題から小テストを出題する。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。

講義の順序とポイント

1　平安京の構造
2　平安京右京三条一坊六町の発掘と仮名墨書土器
3　右大臣藤原良相と西三条第（百花亭）
4　清和天皇の西三条第行幸
5　良相と文人１
6　良相と文人２
7　良相の「男女」ら
8　良相の「女」
9　良相の「長子」藤原常行
10　「長子」常行と在原業平
11　藤原常行と伊勢物語
12　良相の「男」藤原直方・忠方
13　百花亭の伝領と貞真親王
14　九世紀後半の西三条第
15　仮名墨書土器と国風文化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50523A01
科目名	日本語史Ａ 【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Language A		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	日本史で習ったあの文字は当時どう読まれていたのか？あの人はどのような言葉を話していたのか？ 日本語史で重要な文書・人物・事件等を取り上げ、言葉の問題として解明してゆきます。 例えば次のような問題を阿ｔ買います。時代で言えば、原始時代から室町時代までです。 「西暦 57 年に日本にもたらされた金印の文字「漢委奴国王」は、当時どう読まれたか？ 「カンノワノナノコクオウ」と習ったと思いますが、もらった側はそう読まなかったはうです。 「漢委奴国王」を「カンノワノナノコクオウ」と読むのは漢文訓読ですが、 当時漢文の訓読が存在した証拠はないのです。詳しくは授業でお話します。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に指示する		
教材（その他）			
評価方法	出席状況・授業参加状況などによる平常点 50％・学期末レポート 50％		
到達目標	日本語の歴史の基本的な知識を身につける。 日本語の歴史を多面的に考えることができるようになる。		
準備学習	いつでも日本史の基礎知識を確認できるよう、高校の教科書・図録を手元に置いておくこと		
受講者への要望			
積極的な質問・意見を期待します。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　授業の進め方 第 2～3 回　原始・古代 1（石器・縄文・弥生・古墳・飛鳥）の日本語･･･言葉のはじまり、卑弥呼等 第 4～7 回　古代 2（奈良・平安）の日本語･･･『万葉集』『土佐日記』『枕草子』『源氏物語』等 第 8～11 回　中世 1（鎌倉）の日本語･･･仏教語・『平家物語』『徒然草』等 第 12～15 回　中世 2（室町）の日本語･･･能狂言の言葉、キリスト教宣教師の言葉 ＊授業進度や参加者の希望により内容は適宜変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50523B01
科目名	日本語史Ｂ 【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Language B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
講義概要	日本史で習ったあの文字は当時どう読まれていたのか？あの人はどのような言葉を話していたのか？ 日本史で著名な文書・人物・事件等を取り上げ、言葉の問題として解明していきます。 例えば次のような問題を扱います。時代で言えば、江戸時代から現代までです。 「時代劇の言葉はその時代の言葉なのか？」 時代劇の言葉は、舞台が江戸時代初期でも幕末でも同じような言葉です。 しかし、江戸時代の始まり（1603 年）から終わり（1868 年）までは 300 年近くあります。 10 世代ほどにも及ぶ期間に言葉が変わらないはずはありませんし、 実際少なからず変化しています。「時代劇言葉」は架空の言葉なのです。 どのように変化したのか？なぜそれが分かるのか？ なぜ「時代劇言葉」が生まれたのか？そのルーツは？ 春学期の日本語史 A では、その前の時代を扱います。原始時代から室町時代までです。両方受講すると理解が深まりますが、どちらか一方の受講でも問題ありません。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）	授業中に指示する		
教材（その他）			
評価方法	授業への参加・質問などによる平常点 50％・学期末レポート 50％		
到達目標	日本語の歴史の基本的な知識を身につける。 日本語の歴史を多面的に考えることができるようになる。		
準備学習	いつでも日本史の基礎知識を確認できるよう、高校の教科書・図録を手元に置いておくこと		
受講者への要望			
積極的な質問・意見を期待します。			
講義の順序とポイント			
第 1 回　授業の進め方 第 2～6 回　江戸時代の日本語･･･（テーマ例）語り物の言葉等 第 7～11 回　近代（明治時代以降）の日本語･･･教科書・放送の言葉等 第 12～15 回　現代（戦後・平成）の日本語･･･方言・若者言葉等 ＊参加者の希望等により、適宜変更することがあります。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50529C01
科目名	日本語学特殊講義Ｃ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Language Study C		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
講義概要	「京ことば」を多角的に探究する講義である。 京都が舞台となるテレビや映画、アニメは多いが、それらで使われている京都の言葉に問題はないかを検証することから始める。 また、京都の言葉は長く日本の中央語であった。つまり、京都語の歴史はそのまま日本語の歴史と言ってよい。本講義では、その京都語の中央語性に鑑み、その音韻的・文法的・語彙的な変遷を詳しく見ていきたい。		
教材（テキスト）	こちらで用意する。		
教材（参考文献）	授業内で適宜紹介する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）と期末試験 or レポート（５０％）による総合評価。		
到達目標	京都語学（日本語学）の基礎知識を身につける。 京都の大学に通っていたことを将来示せるような京ことばについての知識を伝授する。		
準備学習	京都が舞台の番組、映画、小説などに触れておいてほしい。		

受講者への要望

授業中の私語は厳禁。

京都の人はもちろん、他府県出身の諸君にもどんどん受講してほしい。

京ことばと他の関西のことば、他の地方のことばとの比較などもする予定である。

講義の順序とポイント

1　ドラマ・映画・アニメの京ことば
2　京ことばリテラシー
3　京ことばの位置
4　中央語としての京都語の変遷
5　京都語の文法１
6　京都語の文法２
7　京都語の音韻
8　唇音退化
9　ハ行転呼音現象
10　仮名遣
11　アクセント１
12　アクセント２
13　現代の京ことば研究
14　標準語は存在するか
15　将来の京ことば像

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50539101
科目名	日本史研究入門　Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y Ⅰ		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
講義概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、また、史料解釈や研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。春学期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、秋学期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編という位置づけである。「日本史研究入門Ⅰ」では、とくに基礎的な知識を身につけ、調べる力を養うことに重点をおく予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加態度や講義内での課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解する。日本史の研究に必要なさまざまな事柄を自力で調べられるようになる。		
準備学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講者への要望			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．　ガイダンス ２．　日本史の基礎知識 ３．　日本史関係の辞書・文献① ４．　日本史関係の辞書・文献② ５．　日本史関係のデータベース等 ６．　図書館・博物館等 ７．　日本史の史料① ８．　日本史の史料② ９．　日本史の史料③ １０．日本史の史料④ １１．日本史の史料⑤ １２．日本史の研究分野① １３．日本史の研究分野② １４．総合的な課題にとりくむ １５．日本史の論文の作法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	T50539201
科目名	日本史研究入門　Ⅱ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y Ⅱ		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
講義概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、また、史料解釈や研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。春学期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、秋学期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編という位置づけである。「日本史研究入門Ⅱ」では、「日本史研究入門Ⅰ」で学んだ知識を活かしながら、史料を読み、関連事項を調べて、史料解釈の能力を養うことに重点をおく予定である。なお、史料は古代・中世史料が中心となる。		
教材（テキスト）	プリントを配布する。		
教材（参考文献）	必要に応じて指示する。		
教材（その他）			
評価方法	講義への参加態度や講義内での課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解し、日本史の研究に必要なさまざまな事柄を自力で調べられるようになる。史料読解の基礎力を身につける。		
準備学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講者への要望			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。			
講義の順序とポイント			
１．　ガイダンス ２．　史料読解の基礎① ３．　史料読解の基礎② ４．　史料読解の基礎③ ５．　古代史の研究と史料読解① ６．　古代史の研究と史料読解② ７．　古代史の研究と史料読解③ ８．　古代史の研究と史料読解④ ９．　中世史の研究と史料読解① １０．中世史の研究と史料読解② １１．中世史の研究と史料読解③ １２．中世史の研究と史料読解④ １３．近世史・近代史の研究と史料読解① １４．近世史・近代史の研究と史料読解② １５．日本史の論文の作法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2017	授業コード	T50544A01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）Ⅰ【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) I		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	近年の高校日本史の教科書では、中世を鎌倉幕府ではなく、院政時代から始めるものが増えている。学界の定説を反映させたものであるが、これは中世の始まりが 150 年早くなったというだけの話ではない。鎌倉幕府の成立よりも、院政時代の方が重要な歴史的画期であるということだ。それはまた、中世を武士・幕府・鎌倉新仏教で捉えてきた歴史像への批判であるし、鎌倉新仏教という概念の有効性すら否定されようとしている。日本中世は本当に武士の時代なのだろうか。鎌倉新仏教の時代なのか。 本講では、仏教・寺院を中心的素材としながら、日本の古代社会から中世社会への転換過程を検討する。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）	プリントを適宜配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	・日本の古代中世史についての最新の学説を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
準備学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講者への要望			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
講義の順序とポイント			
1.「鎌倉新仏教」概念の破綻 2.呪詛と祈祷 3.律令体制から王朝国家体制へ 4.宗教政策の転換 5.中世寺院への転換 6.寺院による文書偽造 7.末法思想の流布 8.民衆にとっての強訴とは？ 9.　顕密仏教の民衆的基盤 10.鎌倉初期の仏教改革 11.異端とその弾圧 12.禅律僧の時代 13.非人救済活動の二面性 14. 禅宗と朝廷・幕府 15.法然・親鸞の登場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50544B01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) II		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
講義概要	中世の歴史文化に関して、２つのテーマをとりあげる。第１は、中世の人々はなぜ宗教を信じていたのかという問題を、技術史的背景から考える、第２は外来文化である仏教がなぜナショナリズムと結びついたのかという問題を、神仏関係を素材に考察する。 ①中世は技術が進歩したという側面と、技術がまだまだ未熟であるという二つの側面をもつ。宗教は合理性を超越したものだが、しかし技術や知識が進歩してくると、宗教の内部に合理性を取り入れなければ社会の信頼を維持することができなくなる。他方、技術の未熟さ、人間の力の限界は、呪術や宗教への依存を不可避とする。これらを通して、中世仏教における合理と非合理との関係について考えたい。 ②仏教はもともと外来文化であるが、それが日本社会に定着するようになると、仏教が日本的なものとみなされ、仏教の繁栄が日本の卓越性を示すものとされた。そしてそれがモンゴル襲来を機に独善的な神国思想へと変容してゆく。外来文化がナショナルな感情と結びついていった原因について考えたい。		
教材（テキスト）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本中世の歴史文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
準備学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		

受講者への要望

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

講義の順序とポイント

1.中世は呪術からの解放の時代か？
2.肖像画と呪詛
3.護持僧
4.顕密仏教の合理性
5.治病と祈祷
6.万能でない神仏
7.古代・中世における神と仏
8.神仏同体論
9.賀茂社と神仏習合
10.伊勢神宮と仏教
11.神々と三国世界
12.辺土小国観の克服
13.中世神道と顕密仏教
14.神国思想と仏国思想
15.仏教の時代の終焉と世界地図

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50551A01
科目名	日本美術史Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。講義の性格上、プリントとＯＨＣ・ビデオを併用して、画像を多く見てもらう方法を取りたい。		
教材（テキスト）	特に用いない		
教材（参考文献）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教材（その他）	毎回、図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席回数が極端に少ない場合は、評価の対象としないので、注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特質を,絵画を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の絵画の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
授業中の私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには、退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．奈良時代以前 ２．平安時代の仏画 ３．平安時代の絵巻物 ４．鎌倉時代の肖像画と縁起絵巻 ５．室町時代の水墨画 ６．安土桃山時代の障屏画（狩野派ほか） ７．　　同　　上　　（長谷川派） ８．狩野派・土佐派 ９．琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50551B01
科目名	日本美術史Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。 以上のような日本の陶磁の特色に留意しつつ、現代にいたる日本の陶磁の歴史を、ＯＨＣとビデオを多用しながら概観したい。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教材（その他）	毎回図版プリントを配布する		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	日本の文化・芸術の特色を、陶磁を通じて理解できるようになることを目標とする。 各時代の陶磁の特色を理解することが前提となる。		
準備学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 必ず調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
１．縄文土器・弥生土器 ２．土師器・須恵器・奈良三彩 ３．初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．灰釉・緑釉 ６．荘園貿易の時代 ７．六古窯 ８．鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．安土桃山・江戸の輸入陶磁 １２．伊万里焼 １３．後期伊万里・鍋島 １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50561A01
科目名	日本文化史Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% 試験　50% ※試験は授業内容に関連する論述問題をだします		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお日本文化史Ｂの受講を予定している人は必ずこの講義を先に受講してください。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　江戸時代の地震となまず絵 第３回　江戸時代の流行病とはしか絵 第４回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第５回　幕末期諷刺錦絵と武鑑 第６回　幕末期商人・農民の情報収集活動 第７回　浮世絵の生産と流通 第８回　江戸時代の本の作り方 第９回　江戸時代前期の出版関係法令 第 10 回　江戸時代後期の出版統制とその対応 第 11 回　江戸時代の『源氏物語』 第 12 回　江戸時代の七夕文化 第 13 回　民俗学と文字文化 第 14 回　京都の通り名歌の歴史 第 15 回　江戸時代の出版文化			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	T50561B01
科目名	日本文化史Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural History of Japan B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
講義概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。今でも、日本各地の旧家には、江戸時代の書物が残っている家が多くあります。書物文化の隆盛の背景には、出版文化の隆盛、手習い教育の浸透といった動向が背景にありました。本講義では、そのような江戸時代の書物文化の特色を、出版物自体やそれを作る板元や作者、それを取り締まる幕府の法律などにも注目しながらみていき、書物を通して江戸時代という時代への理解を深めてもらいます。		
教材（テキスト）	使用しません。		
教材（参考文献）	その都度、指示します。		
教材（その他）	毎回、レジュメを配布します。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　50% 試験　50% ※試験は授業内容に関連する論述問題をだします		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を学ぶこと ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を学ぶこと		
準備学習	毎回のレジュメを熟読して復習をしてください。また講義を休んだ人は、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくようにしてください。		
受講者への要望			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお日本文化史Ａの受講を前提として授業を進めます。			
講義の順序とポイント			
第１回　ガイダンス 第２回　歌麿と幕府の出版統制 第３回　判じ絵を読み解く 第４回　出版文化と日用教養書 第５回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第６回　江戸時代、書物文化と近江八景 第７回　隠岐の長者村上家と京都 第８回　番付から読み解く歴史 第９回　双六から読み解く歴史 第 10 回　〈子供〉の誕生 第 11 回　江戸時代における文字の役割 第 12 回　江戸時代の教育 第 13 回　音読から黙読へ 第 14 回　江戸時代の識字率は世界一！？ 第 15 回　江戸時代の文字文化と手習教育			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2017	授業コード	T50564A01
科目名	日本文化論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
講義概要	『源氏物語』にみる日本文化の諸相		
教材（テキスト）	プリントを用意する		
教材（参考文献）	授業時に適宜紹介する		
教材（その他）			
評価方法	期末レポート点 50％と出席状況等の平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』に描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
準備学習	高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと		

受講者への要望

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

講義の順序とポイント

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――平安の都と政治１
3　「桐壷」巻――平安の都と政治２
4　「桐壷」巻――平安の都と政治３
5　「桐壷」巻――平安の都と政治４
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異１
8　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異２
9　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異３
10　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異４
11 番外編　平安京心霊スポット
12　「少女」巻――子供たちの成長１
13　「少女」巻――子供たちの成長２
14　「少女」巻――子供たちの成長３
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2017	授業コード	T50564B01
科目名	日本文化論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan Ⅱ		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
講義概要	日本文化論Ⅰで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（テキスト）	プリントを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートなどを総合して判断する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
準備学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講者への要望			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。			
講義の順序とポイント			
中世からの文化 １、茶道と文化 ２、茶道の歴史・小テスト ３、華道 ４、香道 ５、まとめと小テスト ６、能・狂言の紹介 ７、能楽 ８、狂言 ９、まとめと小テスト １０、中世までの庭園 １１、大名庭園 １２、茶庭 １３、まとめと小テスト １４、尾形光琳 １５、尾形光琳			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	T50613A01
科目名	文化遺産論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための大事な手助けとなる学問である。過去に日本のさまざまな分野に大きな影響を与えた中国の考古学的な状況を知ることもその大事な一部となる。この講義では中国の考古学的な通史に対する理解を身につけることを目的として、その歴史的発展を考えてゆく。		
教材（テキスト）	用いない		
教材（参考文献）	西江清高ほか『中国の考古学』（世界の考古学７、１９９９年、同成社）		
教材（その他）	毎回、教材プリントを配布する。授業はこのプリントに沿って行う。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	江戸時代以前において、日本の歴史・文化遺産に大きな影響を与えた中国の歴史・文化遺産を考古学的に理解できるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードを２・３提示するので、参考文献などを用いて、その基本的意味内容を調べておくこと。		
受講者への要望			
私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を求めることがある。			
講義の順序とポイント			
1.　中国の歴史の概説 2.　旧石器時代　　北京原人と周口店遺跡 3.　新石器時代１　　華北の彩陶文化の発達 4.　新石器時代２　　華中の河姆渡遺跡と稲作文化 5.　殷周時代１　　殷の城壁都市と王墓 6.　殷周時代２　　西周の周原遺跡と青銅器 7.　春秋戦国時代　　貨幣経済の発達 8.　秦漢時代１　　秦の始皇帝 9.　秦漢時代２　　前漢の都・長安と皇帝陵 10. 魏晋南北朝時代１　　魏晋の都城と城坊制都市 11. 魏晋南北朝時代２　　仏教の伝来と石窟寺院 12. 隋唐時代１　　国際都市・長安と陵墓の構造 13. 隋唐時代２　　唐三彩と大運河の物資輸送 14. シルクロードの考古学（中国の海外交流） 15. 明・清時代の故宮と皇帝陵（古代の都城・陵墓との比較）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50613B01
科目名	文化遺産論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
講義概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための手助けとなる。その基礎の上に今の日本がある。この講義では主に奈良時代以前の日本の政治・経済・文化の様相に対する理解を身につけることを目的として、日本の歴史的発展を考えてゆく。		
教材（テキスト）	特に指定しない。毎回、教材プリントを配布する。		
教材（参考文献）	「日本の古代遺跡」４（奈良飛鳥）、同７（奈良北部）（保育社刊、２００５年）		
教材（その他）			
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	古代において文字通り日本の中心であった奈良（大和の国）の時代的発展を考古学的に理解することを通して、我々日本人の現在の立ち位置を理解できるようになることを目標とする。		
準備学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードを２・３提示するので、参考文献などを用いて、その基本的意味内容を調べておくこと。		

受講者への要望

私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものは、他の学生の妨げとなるので退室を求める。

講義の順序とポイント

1. 大和（奈良）の歴史概説
2. 大和（奈良）の地理・交通路
3. 旧石器時代・縄文時代
4. 弥生時代・古墳時代前期
5. 古墳時代中期・後期
6. 古墳時代特論（纏向遺跡）
7. 飛鳥時代１ー　宮殿・苑池遺跡
8. 飛鳥時代２－　飛鳥寺・水落遺跡
9. 飛鳥時代３－　高松塚古墳・キトラ古墳
10. 飛鳥時代４－　飛鳥の石造物
11. 藤原京の時代
12. 奈良時代１ー平城京
13. 奈良時代２ー東大寺大仏の建立
14. 奈良時代３－正倉院宝物
15. 奈良時代４－シルクロードと遣唐使

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50619A01
科目名	文化社会学Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちは、たとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代に生きています。少子化がもたらす人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで、「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教など国内で出会う異文化を含みます。特に 2016 年以降、顕著になったグローバリズムと反グローバリズムの葛藤のなか、どうすれば異なる文化との共生とサバイバルが可能か考えていきます。		
教材（テキスト）	『改訂版　異文化論への招待ー＜違い＞とどう向き合う」か』黒木雅子　朱鷺書房　2014 毎回の授業でレジメを配布する		
教材（参考文献）			
教材（その他）	DVD などを使用します		
評価方法	平常点（授業内課題と出席状況による）40%, テスト 60%		
到達目標	日本で多文化状況とどう向き合うか		
準備学習	授業最後に準備学習を指定		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれないで、「他者」への想像力を養う			
講義の順序とポイント			
1, イントロダクション 2, 文化に気づく 3, 文化を身につけるー社会化 4, 社会化で身につけるステレオタイプ 5, アイデンティティという見えない文化 6, 「違い」がもたらす自文化変容 7, 日系アメリカ人のアイデンティティ変容 8,異文化コミュニケーションとは 9,異文化コミュニケーションー言語その 1 10, 異文化コミュニケーションー言語その 2 11, 異文化コミュニケーションー非言語 12, コミュニケーションに伴うノイズ 13, カルチャーショックー自国内でも起こる 14, 逆カルチャーショックと帰郷ショック 15, 「国際的」コミュニケーションとは			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50619B01
科目名	文化社会学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Culture B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
講義概要	私たちは、たとえ自分自身が移動しなくても、同じ肌の色、同じ言葉、同じ価値観や行動様式の人たちだけに囲まれて一生を送る事ができない時代に生きています。少子化がもたらす人口減少によって、身近かな家庭、学校、地域、会社などで、「違い」をもつ人たちとの共生が不可欠になったからです。本講義でとりあげる文化の「違い」とは、人種や民族だけではなく、地域や年齢、職業、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教など国内で出会う異文化を含みます。特に 2016 年以降、顕著になったグローバリズムと反グローバリズムの葛藤のなか、どうすれば異なる文化との共生とサバイバルが可能か考えていきます。		
教材（テキスト）	『改定版　異文化論への招待ー＜違い＞とどう向き合うか』黒木雅子　朱鷺書房 2014 毎回の授業内容はレジメとして配布		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（授業内課題と出席状況）：40%,、テスト:6０％		
到達目標	日本において多文化状況とどう向き合うか		
準備学習	授業最後に準備学習を指定		
受講者への要望			
常識や偏見にとらわれず、「他者」への想像力を。			
講義の順序とポイント			
1,イントロダクション 2, 所属集団と準拠集団 3, 格差社会と社会的資源 4, 誰もがマイノリティの時代 5, 人種とエスニシティ 6, 日本のなかのマイノリティ 7, 大学生のサブカルチャーショック 8, 単一民族神話と日本人論 9, ミックス・ルーツの「日本人」 10, DVD で見る日本の多文化 11,「違い」がもたらす排除 12, 2 つの「違い」とどう向き合うか 13, 異文化から多文化へ 14, クリスマスをめぐる論争ーアメリカとオランダ 15,　アメリカ多文化社会を鏡として			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	T50639A01
科目名	民俗学Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	日本の民俗学は江戸の国学を基とし、明治の近代国家形成期に、日本とは何か、われわれとは何者かという探求を重ねることによって始まりました。 本講義では、日本の民俗学の黎明期から現代にいたる先行研究のなかで、今後も読み継がれるであろう著作を、皆さんとともに、読み解いていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末考査および授業内提出物		
到達目標	民俗学の代表的な著作について理解する		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示します。		
受講者への要望			
講義で言及された文献は、自分でも読んでみましょう。			
講義の順序とポイント			
第１回　日本民俗学について 第２回　柳田国男 第３回　柳田国男 第４回　折口信夫 第５回　折口信夫 第６回　南方熊楠 第７回　南方熊楠 第８回　宮本常一 第９回　宮本常一 第１０回石田栄一郎 第１１回石田栄一郎 第１２回リクエスト（受講生の皆さんからリクエストがあった研究者を取り上げます） 第１３回リクエスト（受講生の皆さんからリクエストがあった研究者を取り上げます） 第１４回小松和彦 第１５回小松和彦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50639B01
科目名	民俗学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
講義概要	受講生の皆さんが、何気なく行っている日常の習慣や節目の行事に注目し、その由来や意味を考えることによって、日本文化とは何かを相対的に考えていきたい。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	学期末考査および授業内提出物		
到達目標	日本文化を相対的にとらえる視点を持つ。		
準備学習	授業中に紹介された文献をあらかじめ読んでおくこと。		

受講者への要望

生活の中の季節の行事や人生の節目の儀礼などにできるだけ参加してみましょう。

講義の順序とポイント

第１回　民俗文化についてⅠ
第２回　日本神話とその広がりⅠ
第３回　日本神話とその広がりⅡ
第４回　発酵食品Ⅰ
第５回　発酵食品Ⅱ
第６回　日本の祭Ⅰ
第７回　日本の祭Ⅱ
第８回　日本の葬式
第９回　アジアの葬式
第１０回　正月行事Ⅰ
第１１回　正月行事Ⅱ
第１２回　御田植え行事
第１３回　日本の昔話とその広がりⅠ
第１４回　日本の昔話とその広がりⅡ
第１５回　民俗文化についてⅡ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	T50655A01
科目名	妖怪文化論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 妖怪文化論 A では、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。		
教材（テキスト）	佐々木高弘著『怪異の風景学―妖怪文化の民俗地理』古今書院、2014 年		
教材（参考文献）	小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006 年		
教材（その他）	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 20%、学期末レポート 80%		
到達目標	妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。		
準備学習	講義ごとに提示する教科書の指定箇所を予習・復習した上で受講すること。		
受講者への要望			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる） 2　妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで 3　妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』 4　妖怪体験とことば：風景認識の三角形 5　妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クビナシウマ」と「首切れ馬」 6　集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団 7　頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ 8　妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査 9　『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し 10　怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚 11　現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』 12　廃墟と幽霊・怪異世界：18 世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行 13　現代の廃墟と近代化遺産：18 世紀後半と現代の比較 14　妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ 15　世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	T50655B01
科目名	妖怪文化論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
講義概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 　妖怪文化論Ｂでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。		
教材（テキスト）	小松和彦『妖怪文化論入門』角川ソフィア文庫		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	平常点（30%）出席状況等による。レポート（70%）		
到達目標	妖怪文化論という視点、位置を理解する。		
準備学習	テキストは事前に読んでおくこと。また各講義で参考文献を提示するので、読んで理解を深めるための学習に時間を割く必要がある。		
受講者への要望			
自ら本を読み、現場を歩いて下さい。			
講義の順序とポイント			
（1）イントロダクション I.絵を解読する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50658001
科目名	理論社会学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theoretical Sociology		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	
講義概要	理論とは諸概念を相互連関的に組み合わせたセットである。社会学もまた他の学問と同様、理論は命題のかたちを取る。命題はすべて「AはBである」という単純なかたちに還元できる。たとえば「社会は個人の総和以上のものである」というようなかたち。この例が示すように、社会学の命題には万人が満場一致で異論なく受け入れているようなものはない。しかし時の流れの中で今日まで論議されてきた命題は、万人の認める真理を表してはいないにせよ、それに相対的に近い円周の上にあると見てよかろう。このような観点から本講義ではいくつかの社会学的命題を選んで解説を試みる。これらの中には一般理論のほかに社会学の特定領域にかかわる理論や特定の歴史段階あるいは特定の文化にかかわる理論も含まれている。しかしこれらは一般理論につうじるものである限りにおいて選ばれた。なお、取り上げる命題の中には社会学からだけではなく、哲学、精神分析、心理学などの他の分野からも、社会学的命題への重要なかかわりがある限りにおいて選ばれている。解説を予定している命題は【講義の順序とポイント】に示す通りである。		
教材（テキスト）	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』ちくま学芸文庫		
教材（参考文献）	授業中に適宜指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業中に行う命題ごとの小テスト		
到達目標	社会学的思考方法に接し、理論のおもしろさとは何かをつかむことをめざす。		
準備学習	上記のテキストを手掛かりに、みずから興味のある社会学的命題をさがしてみること。		
受講者への要望			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
講義の順序とポイント			
1. 社会学的思考について 2. 預言の自己成就（R.K.マートン）① 3. 預言の自己成就（R.K.マートン）② 4. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）① 5. 欲望の模倣とモデル＝ライバル論（R.ジラール）② 6. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）① 7. 志向のくいちがいと羞恥（M.シェーラー）② 8. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）① 9. 閉じた社会と開いた社会（H.ベルクソン）② 10. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）① 11. 人格崇拝の成立（E.デュルケム）② 12. プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）① 13 プロテスタンティズムの倫理と資本主義（M.ウェーバー）②. 14. 自由からの逃走（E.フロム）① 15. 自由からの逃走（E.フロム）②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2017	授業コード	T50670001
科目名	歴史学概論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Science		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
講義概要	第二次世界大戦後の日本では、大塚史学をはじめ、近代と近代化を問う学問の一つとして、歴史学が盛んに研究された。そうした戦後歴史学は、フランスのアナール学派による社会史の試みなどによって大きな変貌を遂げ、現代では様々な歴史学が群生している観がある。この講義では、戦後歴史学を再考し、そうした現代歴史学の諸相を概観したい。		
教材（テキスト）	なし。		
教材（参考文献）	授業中に指示する。		
教材（その他）	適宜プリントを配布する。		
評価方法	定期試験６０％、授業内レポート４０％		
到達目標	戦後歴史学と現代歴史学の概要を理解することを目標とする。		
準備学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		

受講者への要望

授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。

講義の順序とポイント

１．戦後歴史学再考
２．大塚史学（１）
３．大塚史学（２）
４．現代歴史学の展開
５．アリエス　―　心性の歴史家（１）
６．アリエス　―　心性の歴史家（２）
７．アリエス　―　心性の歴史家（３）
８．フーコー　―　権力の系譜学（１）
９．フーコー　―　権力の系譜学（２）
１０．フーコー　―　権力の系譜学（３）
１１．ウォーラーステイン　―　世界システム論（１）
１２．ウォーラーステイン　―　世界システム論（２）
１３．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（１）
１４．ノースとトマス　―　ニュー・エコノミック・ヒストリー（２）
１５．史料読解入門

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50681A01
科目名	歴史地理学Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Ａでは、まず歴史地理学の学説史と方法論を概観する。学説史と方法論においては、特に空間認知の歴史地理に焦点を当てる。この方法論が歴史地理学において発展したのは、歴史時代の人間集団の地理的行動が、現代の私たちの価値体系では、理解できないからである。したがって、特定の時代の人間集団の空間認知を研究する必要性がある。また歴史地理学における野外調査の方法についても触れる。 特に歴史地理学Ａでは、古代の村落・都市・交通・政治に関する地理的行動、地理的空間に焦点を当て、具体的な事例に則して講義していく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	藤岡謙二郎編『新訂歴史地理』大明堂。		
教材（その他）	プリント配布、ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（20%）講義内レポート（80%）		
到達目標	歴史民俗学における歴史地理学の方法論、テーマの独自性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に配布する文献、古地図を熟読の上、講義中に出された課題を達成した上で講義に出席すること。		
受講者への要望			
講義内で3回出されるレポートを、現地調査や図書館での資料調査をした上で作成すること。			
講義の順序とポイント			
1　歴史地理学とは－資料・時代・研究領域 2　口頭伝承を地図化する、地籍図、条里地割 3　抽象的世界の歴史地理学的研究 4　江戸時代の文献を現代語訳し、一覧表を作成する 5　城下町絵図で江戸期の文献に登場する場所を探す 6　城下町絵図を現代地図に復原する 7　城下町の現状、観光資源、 8　文献と古地図を利用する 9　『旅と伝説』『亀岡市史』等の伝承の一覧表作成 10　２万５千、小字図で分布図を作成する 11　現代地図に小字を復原する、小字、条里と伝承の関係を考える 12　伝説の歴史地理学的フィールドワーク 13　平安京を地形図に復原する、御土居を復原する 14　古典に描かれた怪異を平安京に探る 15　平安京の怪異空間と神話			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T50681B01
科目名	歴史地理学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
講義概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Ｂでは、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学Ｂでは、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（テキスト）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考文献）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教材（その他）	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
準備学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		

受講者への要望

現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。

講義の順序とポイント

1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分
2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀
3　象徴化される生き物－オシリスの冥界：
4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩
5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星
6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語
7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景①
8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景②
9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水
10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈
11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理
12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ
13　日本の洪水神話－失われた伝承
14　平安京の神話空間－疫病の神の登場
15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2017	授業コード	T50703A02
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＡ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IA		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	本講義では，柳田国男の初期の業績から、民俗学の発生時に立ち戻って民俗学が目指した方向性を確認していきたい。。 すでに民俗学を学んでいる学生諸氏は、民俗学は過去を振り返るだけの学問ではないことは承知していると思う。過去を振り返りつつ、現代を考える学問が民俗学である。では、この民俗学はどのような思想的背景の中で生まれてきた学問なのだろうか。 民俗学を体系立てた柳田国男の、初期の業績を振り返りながら、そのことを考えていき、さらに「聞き取り調査」などの民俗学の方法論についても、なぜそのような方法を採るべきなのかを今一度根本から考えておきたい。最終的には、それらの方法論を使いつつ、自分の身の回りのあたりまえのモノ・コトに目を向け、自分自身を内省する視点を獲得することを達成目標とする。		
教材（テキスト）	テキストは使用しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。		
教材（参考文献）	宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫 『現代民俗学入門』佐野賢治他編(吉川弘文館)		
教材（その他）			
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点 15%　コメントカード 15%　期末レポート 70% レポートは、自らの民俗調査によるものを提出していただき、講義時に示した民俗学的見地が自分の問題としてとらえられているかどうかを評価する。 欠席は、５回までは認めるが、それ以上の欠席はレポート提出の資格がないものとする。		
到達目標	(1)民俗学の方法論を理解すると、自分が当たり前だと思っているモノ・コトが、地域あるいは世代が違えば当たり前ではないということに気づくことができる。そのことによって、異文化は外国に行かなくても存在することに思い至ることができる。 （2）そのことから、自分の文化を見つめ直すことができ、自らの足下を見直す視点を獲得でき、外国人に限らず、友人や親といった他人の文化を理解する姿勢も獲得できる。		
準備学習	講義中に扱う柳田国男の著作等に目を通してくることが望ましい。また、講義の後にそれらに目を通し、講義内容で指摘した点を確認すること。		

受講者への要望

普段から、自分の日常生活、すなわち、自分の部屋、毎日の通学路など身の回りの「あたりまえ」の世界に、新たな目を向けるよう心がけ、講義で指摘した視点を用いて自らの普段の暮らしを観察し、次週の講義に臨むこと。けの聞き流しにせず、時間をかけてじっくり考え、次週の講義に臨むこと。

講義の順序とポイント

第　１回　ガイダンス　…　授業の概要と進め方について説明する。
第　２回　現在学としての民俗学　…民俗学は「あたりまえ」を疑い、「あたりまえ」に目を向ける学問であることを知る。
第　３回　民俗学前史１　…　民俗学の生まれた背景（民俗学前史）を知ることから、民俗学の方向性を考える。
第１回目は、国学といにしえを見ようとする視点について講ずる。
第　４回　民俗学前史２　…　江戸時代の旅人の視点と、観察する視点について講ずる。
第　５回　民俗学前史３　…　ヨーロッパフォークロアの発生とその背景について講ずる。
第　６回　民俗採訪から見いだせる庶民の歴史　…愛知県『花祭り』のビデオから、祭に現れる歴史性を考える。
第　７回　柳田国男の生い立ちと思想的背景１
…　彼自身が述べるように、彼の個人的経験が柳田民俗学の成立に影響を及ぼしているので、その点について紹介する。
第　８回　柳田国男の生い立ちと思想的背景２ …　文学者としての柳田の側面、農政学者としての柳田の側面と民俗学の関係を考える。
第　９回　民俗学の方法１　…　柳田国男の初期の業績から、柳田民俗学が目指した方向を考える。
第１回は『時代ト農政』の中に語られる民俗学の方向性を考える
第１０回 民俗学の方法２　…　民俗調査とその記録について、『遠野物語』を手がかりにして考える。

第１１回　民俗学の方法３…　調査地で語られる言葉（民俗語彙）について、『後狩詞記』を手がかりにして考える。
第１２回　地域差と時代差１　…　各地のコトバから日本全体を見る視点を考える。
第１３回　地域差と時代差２　… 方言周圏論について考える
第１４回　民俗調査を考える　…　全国を視野に入れる調査法だけでなく、一地域を対象とする地域調査から見えてくる方向性について、考える。
第１５回　総括の解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T50703B02
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＢ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IB		
担当者名	浅野　久枝	旧科目名称	
講義概要	日本における一年の暮らしと行事		
教材（テキスト）	特になし		
教材（参考文献）	講義時に適宜提示する。		
教材（その他）	全国の事例を知るために映像資料を多用する。		
評価方法	毎回のコメントカードの内容と、期末レポートの内容で、講義内容を自分のものとして考えられるようになったかを評価する。		
到達目標	(1)日本国内には様々な環境に生きる人々がいることを知ることができる。 (2)様々な地域の中で、多様な民俗が保持されていることを知ることができる。 (3)文化の多様性を確認することで、自分の生き方も多様な可能性があることに気づくことができる。		
準備学習	日頃から自分の身近な生活に敏感になり、注目して、観察し、自分の視野を広げる努力をすること。		

受講者への要望

近年は都市的な生活、画一的な生活が当然のものとされているが、現在でも日本国内には様々な生活形態が存在している。自分の想像できない生活だとしても、それらに興味を持ち、文化の多様性を尊重する視点を獲得して頂きたい。

講義の順序とポイント

第１週．ガイダンス：授業の内容の概観と、進め方を確認する。
第２週．マクロな視点から見た日本の地域：
バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、
中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。
第３週．日本の地域（その 1）：雪国の暮らし
第４週．日本の地域（その 2）：南島の暮らし
第５週．日本の地域（その 3）：山村の暮らし
第６週．日本の地域（その 4）：漁村の暮らし
第７週．日本の地域（その 5）：湖岸の暮らし
第８週．日本の地域(その 6)：畑作民(焼き畑)の暮らし
第９週．日本の地域(その 7)：狩猟民の暮らし
第 10 週．日本の地域(その 8)：水田耕作民の暮らし
第 11 週．生業サイクルと四季の祭：冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、それぞれが持つ意味を考える。
第 12 週．冬から春の祭(予祝行事)：愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から
第 13 週．夏の祭(厄払い行事) と 盆：京都祇園会、やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなど
第 14 週．秋の祭(収穫感謝祭)：熊本県球磨地方の事例などから
第 15 週．総括：日本国内の様々な文化を確認する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2017	授業コード	T50705A01
科目名	歴史民俗学特殊講義ⅡA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore ⅡA		
担当者名	堤　邦彦	旧科目名称	
講義概要	ある特定の説話が時をこえて数世代にわたり語り伝えられることは、珍しくない。たとえば古代社会に発生した神話や伝説が今日の昔話、童話の世界に引き継がれているのはその一例といえるだろう。 ただし、だからといって、それらが時代の移り変わりとまったく無縁に存在していないことも事実である。古くから語り継がれた話は、つねに各時代のものの考え方や思想、価値観の影響を受け、さらには文芸の流行色などの大衆文化に左右されてきた。 以上の観点にもとづき、本年度は近世以降の怪異小説、芝居、絵画などに描かれた怪異談の流れをとりあげ、日本怪談が成立する文化基層となった仏教の役割について考えてみたい。日本人の霊魂観、冥府観や因果応報を怖れる観念は、いかにして生成したのか。これらの点を明らかにしながら、江戸から明治にかけて流行した怪談文芸の宗教・思想的な原風景を明らかにしていく。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	・堤邦彦『現代語で読む「江戸怪談」傑作選』（祥伝社、2008） ・高田衛『江戸の悪霊祓い師』（角川ソフィヤ文庫、2015）		
教材（その他）	特になし		
評価方法	小レポート３回：15％×３、最終レポート１回：40％、コミュニケーションペーパーなどの授業参加度：15％		
到達目標	（１）日本の怪異談を生み出す背景となった仏教思想や宗教民俗について理解を深める。 （２）現代の表現文化と古典の連続性を理解する。 （３）上記をことばで説明できる能力を身につける。		
準備学習	小レポート（3 回分）の作成などに週 4 時間の学習時間を要する。		

受講者への要望

説話・伝承史が対象とする領域は、文芸を中心として民俗、宗教、芸能、メディアなどの多分野におよぶ。ひとつの作品をさまざまな角度から読み解くので、途中欠席すると全体像がつかみにくくなる。休まず遅刻せず授業に集中して欲しい。

　また、講義中に使う専門用語やキーワードを予習し、小レポートにまとめて提出してもらう（月１回）。こうした学習をふまえて授業にのぞむことにより、皆さんの理解度は倍増するはずである。したがって指定された小レポートの提出期限を厳守するようにしていただきたい。

講義の順序とポイント

１．説話・伝承史の視点とは何か。
２．寺と怪談
　・『墓場の鬼太郎』のルーツ
　・京都の幽霊飴伝説
　・寺と葬送民俗
３．幽婚説話の伝統と現代・その１
　・一休伝説
　・子を産む幽霊
４．幽婚説話の伝統と現代・その２
　・ムカサリ絵馬の習俗
　・TV ドラマ『幽婚』より
　※小レポート①の提出と評価
５．死霊結婚説話のアジア的ひろがり
　・東アジアそして東南アジアへ
　・タイ映画『ナン・ナーク』の場合
６．東南アジアの仏教儀礼と妖怪変化
　・「ピイ（精霊）」のまつりと仏教

・山岳民族の霊魂観
7．仏教と江戸怪談
・因果、因縁を語るということ
・鈴木正三『因果物語』
・奥方の呪いと血筋の断絶
8．祟る女の系譜と女人蛇体
・道成寺の縁起とものがたり
・くちなわ道心の懺悔
※小レポート②の提出と評価
9．説教が怪談に変わるとき
・女と蛇と黒髪と
・鳥山石燕・妖怪絵本の世界
・杉浦日向子『百物語』の表現
10．幽霊画を供養するということ
・幽霊画は美術品か
・伝円山応挙の寺蔵幽霊画
・祭りと鎮魂の死者図像
11．累ヶ淵怪談の原風景
・浄土僧・祐天の法力と水辺の風土
・『死霊解脱物語聞書』の刊行
・累曼荼羅の絵解き
12．馬琴、京伝、南北から三遊亭円朝へ
・江戸小説、芝居の脚色
・人情咄の成立
※小レポート③の提出と評価
13.「累ヶ淵」の映像化
・昭和の怪談邦画
・歌舞伎の影響
14．中田秀夫『怪談』の映像表現・その１
・リングホラーとの共通点
・雪の日の因縁
・因果応報の現代的アレンジ
15．中田秀夫『怪談』の映像表現・その２
・逃げる男と祟る女の構図
・仏教説話から怪談へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T50705B01
科目名	歴史民俗学特殊講義ⅡＢ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore ⅡＢ		
担当者名	伊藤　悟	旧科目名称	
講義概要	本講義は映像制作の基礎編である。 身の回りの生活、風景、民俗を自分たちで撮影・編集する一連の映像制作プロセスを通して、思考ツールとしての映像を学ぶものである。 映像は社会にとって欠かせない表現媒体となって久しい。普段、私たちは誰かが作った映像を当たり前のように受け取っている。だが、いざ自分が映像を作る側に立ったとき、その表現の難しさを知り、そして試行錯誤のなかに新たな思考と表現の可能性を見出すだろう。 講義では学生自身が作品のテーマを決め、企画案を書き、さらに自ら撮影、編集、仕上げまでを手がけられるようにする。その経験のなかで映像の様々な可能性について考えたい。必要に応じて、参考映像を見せながら映像民俗学、映像人類学という専門分野について論ずる。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内提出物（映像作品）およびプレゼンテーション（制作者の解説）から評価する。		
到達目標	映像制作の一連のプロセスを理解し、さらに映像に秘められた表現や思考の可能性を自ら発見すること。		
準備学習	受講前に、テレビや映画を視聴しながら映像の表現方法について注意深く観察してほしい。 例えば、カメラの角度、色、光、空間、会話の速さ、そしてカットをつなげる「リズム」、音の処理、様々な「間」など。それらがどのように視聴者（自分）の感情や思考に働きかけているのか。そこにどんな意図がこめられているのか。		

受講者への要望

映像に関して、経験、未経験を問わない。
最終的に 5 分以内の作品を制作してもらう。そのため何を映像にしたいか、テーマをいくつか考えてきて欲しい。
周辺の自然、風景、感覚、友人、生活、信仰、民俗行事、あるいは物語の再現でもよい。
提出作品の技術的な完成度は問わない。
それよりも、映像で何をどのように表現するか、その試行錯誤をいかに作品に反映させられるか、その経験を発言することが重要であり、評価する。

講義の順序とポイント

●1 回目　基礎知識・映像表現の背景を学ぶ
1. 映像表現について講義
2. 映像作品の視聴
3. 撮影テーマの検討
●2 回目　撮影と編集の基本技術を習得する
4. 撮影練習
5. 上映会と討論
6. 企画案の提出
●3 回目　作品制作を実践する
7. 撮影
8. 編集
●4 回目　それぞれが作品を上映し、作品を解説し、表現の可能性について討論する
9. 上映会と討論
※ 開講日は土曜日・日曜日等を予定（詳細はおって指示する）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2017	授業コード	T50745A01
科目名	中国文学特殊講義Ａ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Chinese Literature A		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	劉?『文心雕龍』には「書記篇」があり、この頃には書簡文が文学ジャンルのひとつとして認識されるようになっていたことがわかる。本講義ではこの内容に沿って書簡文の文学としての性格・特徴について概説した上で、具体的作品を選読・解説する。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・文学・歴史・思想に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・文化などに興味を持って臨むこと。		

受講者への要望

能動的な姿勢で講義に出席すること。

講義の順序とポイント

１．講義内容の全体について、導入となる説明を行う
２．劉?『文心雕龍』「書記篇」（１）
３．劉?『文心雕龍』「書記篇」（２）
４．劉?『文心雕龍』「書記篇」（３）
５．漢以前の書簡文
６．魏晋南北朝の書簡文（１）
７．魏晋南北朝の書簡文（２）
８．魏晋南北朝の書簡文（３）
９．唐代の書簡文（１）
１０．唐代の書簡文（２）
１１．唐代の書簡文（３）
１２．宋代の書簡文
１３．明清の書簡文（１）
１４．明清の書簡文（２）
１５．名作鑑賞（振り返りと補足）

＊以上の内容は受講者の状況に合わせて変更の可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	T50745B01
科目名	中国文学特殊講義Ｂ　【町家】【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Chinese Literature B		
担当者名	山本　孝子	旧科目名称	
講義概要	唐・五代期に生産が繰り返されていた書儀を取り上げる。書儀とは、古人が手紙を書く際の参考に供するための模範文例集である。中国国内のみならず日本や朝鮮半島など周辺諸地域へも伝えられ、人びとは書儀を通して日常生活で役立てるための技能・知識を身につけていた。真似て実際に手紙を書くための実用書として、あるいは漢文や書を学ぶための教材のひとつとして、さまざまなかたちで受容され、実践・応用されていた。本講義では書儀を中心とする手紙の文学について概観する。		
教材（テキスト）	なし。適宜プリント等を配布する。		
教材（参考文献）	講義中に適宜指示する。		
教材（その他）	パワーポイントを適宜使用する。		
評価方法	平常点（出席や課題・授業への取り組み）30%、期末レポート 70%		
到達目標	外国の言語・文学・歴史・思想に興味を持ち、それらを学ぶことで異文化理解を深める。		
準備学習	中国の歴史・文化などに興味を持って臨むこと。		

受講者への要望

積極的に授業に参加すること。

講義の順序とポイント

１．講義内容の全体について、導入となる説明を行う
２．書儀とは（１）
３．書儀とは（２）
４．敦煌写本書儀（１）
５．敦煌写本書儀（２）
６．敦煌写本書儀（３）
７．敦煌写本書儀（４）
８．日本に伝えられた書儀（１）
９．日本に伝えられた書儀（２）
１０．朝鮮半島に伝えられた書儀（１）
１１．書儀と文学（１）
１２．書儀と文学（２）
１３．書儀と文学（３）
１４．書儀と文学（４）
１５．東アジア漢字文化圏における書儀の役割（振り返りと補足）

＊以上の内容は受講者の状況に合わせて変更の可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2017	授業コード	T50752001
科目名	国際社会と環境 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Society and Environment		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	環境問題の中には、地球温暖化のような国境を越える国際的な環境問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、温暖化問題が示すように、近年、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から環境問題を検討することは非常に重要である。 本授業では、いくつかの重要な国際的な環境問題（地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、黄砂、砂漠化、海洋汚染など）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な環境条約や環境制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの環境問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの環境問題についての最新の世界情勢についても解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。各講義で書き込み式授業ノートや資料を配布する。		
教材（参考文献）	① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版 （2008 年）（五訂版） ② 九里徳泰、平山明彦、左巻健男著『新訂 地球環境の教科書 10 講』東京書籍; 新訂版 （2014 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する		
評価方法	授業内パフォーマンス（25%）、レポートの提出（25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	地球規模での環境問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球環境問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング （できれば、あらかじめ①の参考書に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。）		

受講者への要望

講義の前に参考書を読んで準備し、講義に出席して内容を理解すること。

講義の順序とポイント

1. 地球環境問題とは
2. 地球温暖化 I
3. 地球温暖化 II
4. 地球温暖化III
5. オゾン層の破壊
6. 越境大気汚染問題（酸性雨）
7. 越境大気汚染問題（黄砂） I
8. 越境大気汚染問題（黄砂） II
9. 砂漠化問題 I
10. 砂漠化問題II
11. 海洋汚染問題 I
12. 海洋汚染問題II
13. 有害廃棄物の越境問題
14. 開発途上国等における環境問題
15. 地球環境問題の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50753001
科目名	国際社会と資源 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	International Society and Natural Resour ces		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
講義概要	環境問題と同様に、資源問題の中にも、海洋資源の減少のような国境を越える国際的な資源問題が多く存在する。こうした問題は、各国の国内政策だけで解決することは難しく、国際社会が共同して解決を図ることが必要である。また、資源問題においても、先進国と開発途上国との間の政治的・経済的問題はますます重要な問題になってきている。したがって、国際的な観点から資源問題を検討することは非常に重要である。 本授業では、いくつかの重要な国際的な資源問題（海洋資源の減少、森林の減少、生物多様性の減少、人口問題、食糧問題、水資源問題、化石資源問題、エネルギー資源問題、鉱物資源問題）を取り上げ、その現状や原因について明らかにする。また、問題解決のための国際的な資源条約や資源制度について検討する。さらに、日本社会が国際社会の一員として、これらの資源問題を解決するためには、どのような貢献をしていくべきかについて考察する。なお、授業では新聞記事などを紹介しながら、それぞれの資源問題についての最新の世界情勢についても解説する。		
教材（テキスト）	特に指定しない。各講義で書き込み式授業ノートや資料を配布する。		
教材（参考文献）	① 地球環境研究会編集『地球環境キーワード事典』中央法規出版 （2008 年）（五訂版） ② 石 弘之著『地球環境「危機」報告』有斐閣（2008 年）		
教材（その他）	教科書を補う資料等を適宜配布する 。		
評価方法	授業内パフォーマンス（25%）、レポートの提出（25%）、学期末試験（50%）		
到達目標	地球規模での資源問題の現状や原因を把握し、その解決のための国際社会の取り組みについて理解すること。また地球資源問題の解決のために、日本社会が国際社会の一員として、どのような貢献をなすべきかについて主張できるようになること。		
準備学習	参考書リーディング （授業の前に、次に取り上げる資源問題について、『地球環境キーワード事典』やインターネット等で大まかなことを予習しておくこと。）		

受講者への要望

教科書を指定していないので、講義への出席が大切です。講義には必ず出席して、配布資料を参照しながら内容を理解してください。

講義の順序とポイント

1. シラバスの説明・地球資源問題とは
2. 海洋資源の減少問題Ⅰ（概況）
3. 海洋資源の減少問題Ⅱ（タラ類）
4. 海洋資源の減少問題Ⅲ（マグロ）
5. 海洋資源の減少問題Ⅳ（クジラ）
6. 森林の減少問題Ⅰ
7. 森林の減少問題Ⅱ
8. 生物多様性の減少問題
9. 人口問題
10. 食糧問題
11. 水資源問題
12. 化石資源問題Ⅰ
13. 化石資源問題Ⅱ
14. エネルギー資源問題
15. 地球資源問題の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2017	授業コード	T50758001
科目名	英語フィールドワーク京都 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Kyoto Fieldwork in English		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
講義概要	京都に訪れる外国人観光客が増える中、日本の歴史、文化、風習などを英語で説明する機会も増えています。「五感で感じる京都」をテーマに、様々フィールドワークや体験を通して、京都のよさを英語で発表する実践講座です。		
教材（テキスト）	プリント教材を配布します。		
教材（参考文献）			
教材（その他）			
評価方法	授業内課題（20%） レポート（80%）		
到達目標	京都の歴史、風習、観光名所を基礎的な英語で口頭表現や文章を使って伝えるようになります。		
準備学習	日本文化の基礎知識を復習しておくこと。京都で調査やフィールドワークを行うべきところを考えておくといいです。		

受講者への要望

授業やフィールドワークに毎回出席、積極的に参加することが大切です。受講生各自の辞書、単語帳を持ってくることをすすめます。

講義の順序とポイント

1. 講座概要・フィールドワークの基礎
2. 京都の豆知識を英語で
3. 五感で京都を体験する・レポート計画
4. 手染め体験
5. 手染め発表・レポート
6. 聞香体験
7. 聞香発表・レポート
8. 和菓子作り体験
9. 和菓子作り発表・レポート
10. 京都の音体験
11. 京都の音発表・レポート
12. アンケート作り
13. アンケート実施・取材
14. ガイドブック作り
15. 最終発表・レポート

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2017	授業コード	T50772001
科目名	サムライ文化論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Samurai culture		
担当者名	中西 裕樹	旧科目名称	
講義概要	近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は海外からも注目されています。この「サムライ」と、歴史的存在である「侍」「士」には、共通する部分とそうではない部分があります。また、サムライは時代によって性格を変え、精神的活動を含む文化に自らを反映しました。 本講義では、平安時代に生まれたサムライの歴史を明治維新まで確認しながら、その精神ともされる「武士道」を考えます。また、各論として、民俗学・歴史地理学の視点からサムライの性格をとらえるとともに、象徴ともされる刀剣・甲冑・城郭の歴史とその背景を取り上げます。これらの作業を通じ、現代におけるサムライの意味を考えることを目的とします。		
教材（テキスト）	特になし。		
教材（参考文献）	適宜紹介します。		
教材（その他）	パワーポイントや映像、プリントなどを使用。		
評価方法	平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。		
到達目標	歴史学など様々な分野の研究成果をふまえ、現代をとらえる視点を養う。		
準備学習	日本史の知識が必要になるので、不明な点は質問や自主学習で補ってほしい。		
受講者への要望			
「サムライ」をキーワードとする文化や事象を自らで考え、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。			
講義の順序とポイント			
1 イントロダクション サムライ文化論のフィールド(中西裕樹) 2 現代のサムライ文化論(佐々木高弘) 3 民俗とサムライ文化論(堀田穣) 4 平安時代のサムライ 戦う貴種(中西裕樹) 5 鎌倉・室町時代のサムライ 支配者の姿(中西裕樹) 6 戦国時代のサムライ 新しい村々の侍(中西裕樹) 7 安土・桃山時代のサムライ 侍の下剋上(中西裕樹) 8 江戸時代のサムライ 職業の士と忠臣蔵(中西裕樹) 9 幕末のサムライ 迫る西洋と新選組と(中西裕樹) 10 明治～昭和と現代のサムライ 「武士道」とは(中西裕樹) 11 江戸時代のサラリーマンの日常(鍛治宏介) 12 刀剣・甲冑のサムライ文化論(中西裕樹) 13 城の歴史のサムライ文化論 日本の城郭史(中西裕樹) 14 城の歴史のサムライ文化論 京都にみる城郭(中西裕樹) 15 サムライの歴史とサムライ文化論(中西裕樹)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	－	－	★	－	★	★★

年度	2017	授業コード	T60006001
科目名	環境教育・富良野自然塾 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Furano Field		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
講義概要	大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」（講座協賛 三井住友銀行）の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。		
教材（テキスト）			
教材（参考文献）	・「愚者の質問」　倉本聰、林原博光 著　（日本経済新聞出版社　2010 年） ・「ヒトに問う」　倉本聰 著　（双葉社　2013 年）		
教材（その他）			
評価方法	事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等（７０％） レポート（３０％）		
到達目標	森林フィールドでの環境教育についての深い理解と体験（遊学）		
準備学習	参考文献欄に挙げた文献を読んでおいてください。		

受講者への要望

自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。
「富良野自然塾・倉本聰対談集　愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくと参考になります。

講義の順序とポイント

環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。 富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。

富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリの一滴」）：　山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなことして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/ 「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリの一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。

事前学習（キャンパスプラザ京都）：７月２８日（金）　１８：１０～（3時間）

現地実習（北海道・富良野自然塾）：９月１日（金）～3日（日）

事後学習（キャンパスプラザ京都）：９月8日（金）　１６：２０～（3時間）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2017	授業コード	T80000101
科目名	日本経済入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
講義概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放った．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる予定であったが、「世界経済のリスク」を考慮して見送られた．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（テキスト）	特に使用しない		
教材（参考文献）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教材（その他）	講義用レジュメを配付する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題を理解する		
準備学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		

受講者への要望

「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．

講義の順序とポイント

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）
8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2017	授業コード	T80000201
科目名	経営学総論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	長谷川　正	旧科目名称	
講義概要	欧米では「経営学」という名称は一般的には使われていない。わが国でいう「経営学」とは、欧米の経営経済学・経営社会学・経営心理学・経営工学の総体をさす。そしてそれぞれが別個の研究者によって研究が進められている。またそれぞれが独自の研究対象・研究方法・学問体系を持つ。したがって、わが国でも、「経営学」という名称よりも「経営諸学」という名称の方が正確なのである。「経営学」という名称は便宜的に使われているに過ぎない。 本講義では、この「経営諸学」の基本的な内容をできるだけ分かりやすく説明したい。これによって、経営学とはどのようなことを研究するのか、またどのような応用ができそうなのか、分かってもらえればよい。もともと経営学は難しいところがある。時には論者の主張が対立し、矛盾さえ感じることもある。このようなことも分かってもらえればよい。こうした中で、より重要で本質的なことを考える手立てとしてもらいたい。 より詳しく、より専門的には、これから経営学部が提供する諸講義・ゼミで深めていってもらいたい。		
教材（テキスト）	・教科書は使いませんが、毎回の講義用の資料は、ホームページ「http://hasegawa02.nukimi.com/」上にアップロードしておきます。 ・「長谷川正の研究室へようこそ」というトップページの中の「講義用資料」→「経営学総論」とページを進め、該当資料をダウンロードし、事前にプリントアウトし、目を通してから講義を聞いて下さい。 ・プリントにはパスワードがかかっています。パスワードは、第１回目の講義で言います。 ・プリントは虫食いの状態になっていますので、講義をしっかり聴いて穴埋めをして下さい。 ・上記ホームページは「お気に入り」に登録しておくと便利です。		
教材（参考文献）	一般的な「経営学総論」の参考書は第１回目の講義で言います。本によっては、『経営学原理』とか『経営学概論』とか「『経営学入門』とか単に『経営学』という書名になっています。書店で買い求めて、大学４年間で、最低２冊は頭に叩き込むようにして下さい。 各回の講義の参考書は、上記参考書にも載っていますが、それ以外はそのつど指示します。		
教材（その他）	・パワーポイントを使って、虫食い状態でない講義用資料に基づいて講義を進めます。 ・ビデオや新聞の切抜き等も使います。		
評価方法	ときどき行う小テスト　20% 期末試験　80%		
到達目標	経営学とはどういう学問かを理解し、そして経営学を深めていき、それを応用できるための基礎的な知識を習得すること。 経営学は、経営学部生に限らず現代人すべてにとって必須の学問である。		
準備学習	事前に講義用のプリントに目を通しておくこと。		
受講者への要望			
・私語は禁止とする。時々小テストをするので、熱心に聞いておくこと。 ・質問があれば、オフィスアワーを利用すること。			
講義の順序とポイント			
０１．大企業が世界を変えた、そしてそれは複雑である ０２．大企業の誕生 ０３．大企業の行きづまり ０４．日本の大企業 ０５．大企業の新たな歩み ０６．経営･企業･管理ーその概念 ０７．ドイツの経営学 ０８．アメリカの経営学 ０９．経営組織のいろいろ １０．経営戦略の基礎 １１．「選択と集中」と組織能力の戦略 １２．企業統治（コーポレート･ガバナンス）とは			

１３．企業の国際化と比較優位の理論 １４．あらためて、日本の企業とは １５．これからの日本の産業と経営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2017	授業コード	T85000104
科目名	チャレンジショップ入門Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	T85000105
科目名	チャレンジショップ入門Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	T85000204
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工 会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	T85000205
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工 会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	T85000206
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工 会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	－	－	－

年度	2017	授業コード	T85000601
科目名	女性企業家講座 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
講義概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師としてお迎えし、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただきます。どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることを目指します。 ※女子学生だけでなく、男子学生にも有益な講座です。		
教材（テキスト）	未定		
教材（参考文献）	未定		
教材（その他）	メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモしてください。		
評価方法	各回の講義内容についての感想文（100%）。		
到達目標	経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につける。 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得する。		
準備学習	各講師の所属されている会社のホームページなどを読み、予備知識をもって受講してください。		

受講者への要望

企業等から講師をお招きするため、遅刻、私語、居眠りは厳禁、マナーを守れない学生は退出を求めることがあります。
質疑応答のときには、積極的に質問してください。

講義の順序とポイント

1. ガイダンス
2. 女性企業家を取り巻く環境
3. （4 /25） 浦中 順子 氏
   花プラス株式会社 代表取締役社長
4. (5/9)　生駒 京子 氏
   株式会社　プロアシスト　代表取締役社長
5. （5/16）　いしい 佳子氏
   関西女性起業家研究会 、Office・苑　代表
6. まとめと予習
7. （5 /30） 松村 敦子氏
   有限会社アクティア　代表取締役
8. （6/6）　赤松 由里子氏
   赤松税務会計事務所　税理士・社会保険労務士
9. （6/13） 大奈氏
   Office Daina 代表　兼　ボイストレーナー・歌手
10. まとめと予習
11. (6/27) 西山 裕子　氏
    一般社団法人みんなの手　代表理事
12. (7/4)　未定
13. (7/11) 未定
14. (7/18)　未定
15. 女性企業家講座を通して学んだことの展望

講師の都合などにより変更になる可能性があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2017	授業コード	T86013902
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T86013903
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録
説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション

10 ディスプレイ
11 マーケティング
12 顧客管理
13 販売促進
14 計数管理
15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T86014004
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T86014005
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T86014102
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T86014103
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T86014202
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T86014203
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	T86014204
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
講義概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びの関心を高め、基礎的な知識の習得を行う。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、地域における大学の果たす役割のあり方などへの認識も行いたい。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応することのみならず、日々店舗経営における革新を図ること、などによる起業家精神の育成も併せて行う内容となっている。		
教材（テキスト）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考文献）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（その他）	必要に応じその都度紹介する。		
評価方法	平常点［販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢,など］70%、　レポート 30%。		
到達目標	チャレンジショップの経営を通じて、経営知識の習得および実践力の養成を行い、就職活動や社会においても活用できる構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを涵養する。		
準備学習	＊Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ＊チャレンジショップを取り巻く環境の変化、顧客のニーズや顧客満足に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 ＊指導教員から、あるいはチャレンジショップに参加している学生が集まる会議などにおいて、参加学生各人には、仕入れ先あるいは地域との折衝、販売促進、または新店舗などに関する課題が日々課される。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。		

受講者への要望

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画を行う。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ミーティング、視察、店舗飾り付け、販売、仕入れ先あるいは地域との協議といった活動を行うこともある。

講義の順序とポイント

店舗経営にあったっては、次に掲げるすべての知識が同時並行的に必要とされるものであるが、当該実習にあたって、特に留意し、理解すべき項目について記述する。

1　はじめに（本実習の概要）
2　店舗運営に関する各種マニュアル
3　販売における業務
4　マーチャンダイジング
5　商品計画
6　仕入計画
7　在庫管理
8　販売管理
9　ストアオペレーション
10 ディスプレイ

11 マーケティング 12 顧客管理 13 販売促進 14 計数管理 15 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2017	授業コード	TM0045A01
科目名	社会学入門Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	TM0045A02
科目名	社会学入門Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、身の回りの社会現象についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15，社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	TM0045B01
科目名	社会学入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10,（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11,（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12,（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13,（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14,（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15,社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2017	授業コード	TM0045B02
科目名	社会学入門Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
講義概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（テキスト）	なし		
教材（参考文献）	講義時に紹介する。		
教材（その他）	資料を配付する。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。出席状況等による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解し、現代の日本社会の社会学的な側面についての理解を深める。		
準備学習	講義終了時に次回の講義の資料を配付するので、次回までに読んでおくこと。また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講者への要望

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

講義の順序とポイント

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。
10，（マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11，（国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12，（近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13，（高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14，（社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15，社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★